モーセの五書

旧約聖書の初めから五冊目までを指す名称で、旧約聖書の中心的部分を占めています。ほかに「法律の書」とも呼ばれます。神様はイスラエル民族を選び、彼らをとおして、全世界に祝福をもたらすことを約束なさいました。具体的には、「法律」を授けて守るように教え、イスラエルが法律に背けば彼らを罰し、神様の国民としての任務を果たせるよう、教育されたのです。以上の経過を、この五書から知ることができます。

創世記
本書は、だれもが一度は思いめぐらす天地創造と人類の初めについて、科学用語を使わず、人が目で見るような、素朴なことばで記されています。　さらに、罪の起源や、その罪によって人々が滅ぶことのないようにと、神様が用意された計画について、説明されています。　また、アブラハムを先祖とするヘブル民族の始まりと、イサク、ヤコブからその息子たちの歴史に及び、エジプトに行ったヨセフの物語で終わっています。

一
１　まだ何もない時、神様は天と地をお造りになりました。　２地球はまだ形が定まらずやみにおおわれた氷の上を、さらに神様の霊がおおっていました。
３　「光よ、輝け」と神様が命じました。　すると光がさっと輝いたのです。　４５それを見て、神様は大いに満足し、光とやみとを区別しました。　しばらくのあいだ光はそのまま輝き続け、やがて、もう一度やみに閉ざされました。　神様は光を「昼」、やみを「夜」と名づけました。　昼と夜ができて、一日目は終わりです。
６　「ガスは上下に分かれ、空と海になれ」と、神様が命じました。７８そのとおり水蒸気が二つに分かれ、空ができました。　これで二日目も終わりです。
９１０「空の下の水は集まって海となり、かわいた地が現われよ。」　こう神様が命じると、そのとおりになりました。　神様はかわいた地を「陸地」、水の部分を「海」と名づけました。　そのできばえに満足すると、　１１１２神様はまた命じました。　「陸地には、あらゆる種類の草、種のある植物、実のなる木が生えよ。　それぞれの種から同じ種類の草や木が生えるようにするのだ。」　そのとおりになり、神様は心から満足なさいました。　１３三日目はこれで全部です。

１４１５神様の命令はさらに続きます。　「空に光が輝き、地を照らせ。その光で、昼と夜の区別、季節の変化、一日や一年の区切りをつけるのだ。」　そのとおりになりました。１６こうして、地を照らす太陽と月ができました。　太陽は月よりも大きく明るいので昼を、月は夜を受け持ちます。　この二つのほかにも、無数の星が造られました。１７神様はそれをみな空にちりばめ、地を照らさせたのです。　１８こうして昼と夜の分担を決め、光とやみとを区別し終えると、神様は満足なさいました。　１９ここまでが四日目の出来事です。
２０　神様はまた命じました。　「海は魚やその他の生き物であふれ、空はあらゆる種類の鳥でいっぱいになれ。」　２１２２神様は海に住む大きな哺乳動物をはじめ、あらゆる種類の魚と鳥を造りました。　みなすばらしいものばかりです。　神様はそれを見て、「海いっぱいにあふれるようになれ。　地をおおうまでに増えよ」と祝福なさいました。　２３五日目はこれで終わりです。
２４　次に神様は命じました。　「地は、家畜、爬虫類、野獣など、あらゆる種類の動物を生み出せ。」　そのとおりになりました。　２５神様が造った動物は、どれもこれも満足のいくものばかりでした。
２６　そして最後に、神様はこう言いました。　「さあ、人間を造ろう。　地と空と海のあらゆる生き物を支配させるために、われわれに最も近い、われわれに似た人間を造ろう。」
２７　このように、人間は、天地を造った神様に似た者として造られました。
神様はご自分に似せて人間を造り、
男と女とに造ったのです。
２８神様は人間を祝福なさいました。　「地に増え広がり、大地を支配せよ。　おまえたちは、魚と鳥とすべての動物の主人なのだ。　２９全地に生える種のある植物を見るがいい。　みなおまえたちのものだ。実のなる木もまたおまえたちに与えるから、好きなように食べるがいい。　３０また、動物や鳥にも、あらゆる草と植物をえさとして与える。」　３１神様はでき上がった世界を隅から隅まで見渡しましたが、どこから見ても非の打ちどころがありません。　こうして六日目も終わりました。
二
１　ついに全世界は完全にでき上がりました。　２何もかも造り終えると、神様は七日目には仕事を休み、　３この日を祝福して、聖なる日と定めました。　この日に天地創造の働きが完了したからです。
４　ところで、神様が全世界を造った時のいきさつは、次のとおりです。
５　初めのうち、地には穀物はおろか、一本の植物さえ生えていませんでした。　神様が雨を降らせなかったからです。　それに、土地を耕す人もいませんでした。　６しかし、地のあちこちから泉がわき出て、全地を潤していました。
７　やがて神様が人間を造る時がきました。　まず、地のちりで体を造り上げ、それにいのちの息を吹き込んだのです。　そこで人は、生きた人格をもつ者となりました。

８　それから神様は、東の方のエデンに園をつくり、そこに人を住まわせました。　９園には、あらゆる種類の美しい木が植えられています。　どれもこれも、おいしい実をつける木ばかりです。　園の中央には、「いのちの木」と、善悪を判断する力のつく「良心の木」とがありました。　１０さて、エデンの地からは一つの川が流れ出て園を潤し、それはやがて四つの流れに分かれるのでした。　１１１２その一つピション川は、ハビラ地方全域を蛇行していました。　その地方からは、純度の高い金と美しいブドラフ（香りのよい樹脂を出す木）や、しまめのうが採れます。　１３第二の川はギホンと呼ばれ、クシュの全域を流れる川です。　１４第三がティグリス川で、アシュルの町の東側を流れていました。　そして第四がユーフラテス川です。
１５　神様は、人をエデンの園の番人にし、その管理を任せました。１６１７ただし、一つだけきびしい注意がありました。「園の果物はどれでも食べてかまわない。　だが『良心の木』の実だけは絶対にいけない。　それを食べると、正しいこととまちがったこと、よいことと悪いことの区別について、自分勝手な判断を下すようになるからだ。そんなことになったら、必ず死ぬ。」
１８　ところで、神様はこう考えました。　「どうも人が一人でいるのはよくない。　彼を助ける者がいなくては。」　１９２０そこで、土からあらゆる種類の動物と鳥を造り、アダムのところへ連れて来て、名前をつけさせました。　それぞれみな、アダムがつけたとおりの名前をもらいましたが、アダムの助けになるようなものは見あたりません。２１そこでアダムをぐっすり眠らせ、その体から肋骨を一本取り出すことにしました。　取ったあとをきちんとふさぐと、　２２その骨で女を造り、彼のところへ連れて来ました。
２３　「ああ、これならぴったりです！」　アダムは思わず叫びました。　「まさに私の半身です。　そうだ、『男』から造ったのだから、『女』と呼ぶことにしますよ（一種の語呂合わせ。ヘブル語では男をイーシュ、女をイシャーと言う）。」　２４人が両親のもとを離れて妻と結ばれ、二人が一体となるのは、こうした背景があるからです。　２５ところで、この時にはまだ、二人とも裸でした。　それでも別に気まずい思いもせず、恥ずかしくもありませんでした。
三
１　さて、神様が造ったものの中で、蛇が一番ずる賢い動物でした。蛇は女に、ことば巧みに話をもちかけました。　「ほんとうにそのとおりなんですかねえ？　いえね、ほかでもない、園の果物はどれも食べちゃいけないって話ですよ。　なんでも神様は、これっぽっちも食べちゃいけないと言ったっていうじゃないですか。」
２３「そんなことないわ。　食べるのはちっともかまわないのよ。ただね、園の中央にある木の実だけは、食べちゃいけないの。　そればかりか、さわってもいけないんですって。　さもないと、死んでしまうって、神様がおっしゃったわ。」
４　「へえーっ、でも、そいつは嘘っぱちですぜ。　死ぬだなんて、でたらめもいいところだ。　５神様も意地が悪いね。　その実を食べたら、善と悪の見わけがつき、神様のよ

うになっちまうもんだから、脅しをかけるなんてさ。」
６　言われてみれば、そう思えないこともありません。　それに、その実はとてもきれいで、おいしそうなのです。「あれを食べたら、何でもよくわかるようになるんだわ。」　そう思いながら見ていると、もう矢も盾もたまらなくなり、とうとう実をもいで、食べてしまいました。　ちょうどそばにいたアダムにも分けてやり、いっしょに食べたのです。　７はっと気がついたら、二人とも裸ではありませんか。　急に恥ずかしくてたまらなくなりました。　何とかしなければなりません。　間に合わせに、いちじくの葉をつなぎ合わせ、腰の回りをおおいました。
８　その日の夕方のことです。　神様が園の中を歩いておられる気配がしたので、二人はあわてて木陰に隠れました。　９神様の呼ぶ声が聞こえます。　「アダム、なぜ隠れるのだ。」
１０　「神様がおいでになるのに裸だったからです。　こんな姿はお見せできません。」
１１　「なにっ、裸だということを、いったいだれが教えた？　さては、あれほど食べるなと言ったのに、あの木の実を食べたのだな。」
１２　「は、はい。　で、でも、神様が下さった女がくれたもんで、つい……。」
１３　そこで神様は女に尋ねました。　「いったいどうして、こんなことをしたのだね。」「蛇、蛇がいけないのです。　私はただ、だまされただけです。」
１４　それを聞いて、神様は蛇に言い渡しました。　「悪いやつめ、そんなことをした罰だ。　いいか、あらゆる家畜、野生の動物の中で、おまえだけがのろわれるのだ。　生きている間ちりの中をはいつくばうがいい。　１５以後おまえと女はかたき同士、おまえの子孫と女の子孫も同じだ。　女はおまえを恐れるだろう。　子孫同士も、互いに相手をこわがるようになる。　おまえは彼のかかとにかみついて傷を負わせるが、結局は彼に頭を踏み砕かれてしまうのだ。」
１６　次は女の番です。　「おまえは苦しみ抜いて子供を産む。　それでもなお、ひたすら夫の愛を求め、彼についていく。」
１７　最後はアダムです。「あれほど食べてはいけないと言ったのに、おまえは食べた。わたしよりも、妻の言うことを聞いたのだ。　そのため土地はのろわれる。　生きるためには、一生あくせく働かなければならない。　１８土地には、いばらとあざみが生え、おまえは野草を食べる。　１９死ぬまで汗水流して土地を耕し、働いて糧を得なければならない。　そしてついに死に、また土に帰る。　土から造られたのだから、また土に帰る。」
２０　アダムは妻をエバ〔「いのちを与える者」の意〕と呼びました。　彼女は全人類の母となるからです。　２１神様はアダムと妻エバに、動物の皮で作った服を着せました。
２２　それからこう考えました。　「人間は、われわれと同じように、善悪の区別がわかるようになってしまった。　この先、万一『いのちの木』にまで手を出し、永遠に生きるようにでもなったら大へんだ。」２３そうならないうちに、手を打たなければなりません。結局、人をエデンの園から永久に追放し、土地を耕させることに決めました。２４こうし

て人を追放すると、エデンの園の東に炎の剣を置き、力ある天使とともにいのちの木を守らせました。
四
１　そののち、アダムは妻エバと交わり、エバはカイン〔「私は得た」の意〕を産みました。この名がついたのは、エバが「神様のおかげでこの子ができたのだわ」と言ったからです。２続いてエバは、弟のアベルを産みました。
やがて、カインは農夫になり、アベルは羊飼いになりました。３収穫の時になると、カインは作物の中から神様に供え物をささげました。　４アベルは一番いい子羊の最上の肉を、自分で神様にささげました。　神様はアベルのささげ物を受け取りましたが、　５カインのは受け取りません。　カインはがっかりするやら腹が立つやらで顔をしかめました。
６　神様はそれを見とがめ、「なぜ腹を立てるのだ」と質しました。　「何が気に入らないで、そんなに腹を立て、しかめっ面をしているのだ。　７やるべき事をきちんとやってさえいれば、顔は喜びで輝くものだ。　もし、わたしの言うことが聞けないなら、気をつけるのだな。おまえを滅ぼそうと、罪が待ちかまえているぞ。　だが、その力を抑えることはできるはずだ。」
８　ある日、カインは、「野原へ行かないか」と弟をさそいました。　そして、野原で不意に襲いかかり、殺してしまったのです。
９　そのことがあってから、神様はカインに尋ねました。　「弟はどこにいる？　アベルはどうしたのだ。」
「そんなこと、なぜおれが知ってなきゃいけないんです？　弟の行く先をいつも見張れとでもおっしゃるんですか。」
１０　「おまえの弟の血が大地からわたしを呼んでいる。　全く大それたことをしでかしてくれたものだ。　１１弟の血で大地を汚すとは、なんということだ。　おまえはもう、ここには住めない。　追放だ。１２これからは、いくら汗水流して働いても、大地はおまえのために作物を実らせない。　この先おまえは放浪者となり、当てもなくさすらい歩くのだ。」
１３　「そんな罰は重すぎて、とても負いきれません。　１４農場からも追い出され、神様の前からも追っ払われて、放浪者に落ちぶれるなんて。　おれを見たら、どんなやつだって殺そうとするに決まってます。」
１５　「心配するな。　おまえを殺させたりはしない。　そんなことをしでかす者には、おまえの受けた罰の七倍の仕返しをしてやろう。」こう約束すると、神様はだれにも殺されないように、カインに一つのしるしをつけました。　１６こうして、カインは神様のもとを去り、エデンの東、ノデの地に住みついたのです。
１７　そのあと、カインの妻は男の子を産みました。　それがエノクです。　その時、カインは町を建てていたので、子供の名にちなんで、町の名もエノクとしました。
１８　エノクはイラデの父

イラデはメフヤエルの父
メフヤエルはメトシャエルの父
メトシャエルはレメクの父
１９　レメクにはアダとツィラという二人の妻がいました。　２０アダの子ヤバルは、初めて牧畜を手がけ、テント生活を始めました。　２１弟はユバルといい、最初の音楽家になりました。　竪琴と笛を作ったのは、この人です。　２２レメクのもう一人の妻ツィラには、トバル・カインが生まれました。　彼は最初の鍛冶屋になって、青銅や鉄の道具を作った人です。　トバル・カインにはナアマという妹もいました。
２３　ある日、レメクはアダとツィラに言いました。「おまえたち、よーく聞けよ。　身のほど知らずにわしを襲い、傷を負わせた若僧がいたのさ。　で、そいつを殺してやった。２４カインを殺す者は七倍もの罰を受けるんだったな。　だが、わしの場合はそんなもんじゃない。　あの若僧のかたきを討とうなんてやつは、七十七倍の罰を受けねばならんぞ。」
２５　さて、エバは男の子をもう一人産み、セツ〔「授けられた者」の意〕と名づけました。エバが言うように、「カインに殺された子の代わりに、神様がまた男の子を授けてくださった」のです。　２６セツは成人し、息子ができると、その子をエノシュと名づけました。このころから人々は、神様の名によって祈るようになったのです。
五
１　神様に似た者として初めに造られたアダムの子孫は、次のとおりです。　２神様はまず男と女を造り、彼らを祝福しました。　そして彼らを「人」と呼んだのです。
３‐５アダム――百三十歳で息子セツが生まれる。　セツは父親にそっくりだった。　セツが生まれてからさらに八百年生き、息子と娘に恵まれ、九百三十歳で没。
６‐８セツ――百五歳で息子エノシュが生まれる。　そのあと八百七年生き、息子と娘に恵まれ、九百十二歳で没。
９‐１１エノシュ――九十歳で息子ケナンが生まれる。　その後さらに八百十五年生き、息子と娘に恵まれ、九百五歳で没。
１２‐１４ケナン――七十歳で息子マハラルエルが生まれる。　その後さらに八百四十年生き、息子と娘に恵まれ、九百十歳で没。
１５‐１７マハラルエル――六十五歳で息子エレデが生まれる。　その後さらに八百三十年生き、息子と娘に恵まれ、八百九十五歳で没。
１８‐２０エレデ――百六十二歳で息子エノクが生まれる。　その後さらに八百年生き、息子と娘に恵まれ、九百六十二歳で没。
２１‐２４エノク――六十五歳で息子メトシェラが生まれる。　その後さらに三百年のあいだ敬虔な生活を送り、息子と娘に恵まれる。　三百六十五歳の時、信仰あつい人として惜しまれつつ姿を消す。　神様が彼を取り去られたのである。
２５‐２７メトシェラ――百八十七歳で息子レメクが生まれる。　その後さらに七百八十二年生き、息子と娘に恵まれ、九百六十九歳で没。

２８‐３１レメク――百八十二歳で息子ノア〔「休息」の意〕が生まれる。　「神様にのろわれたこの地を耕す仕事はつらいが、この子が休ませてくれるだろう」と考え、この名をつけたのである。　レメクはその後さらに五百九十五年生き、息子と娘に恵まれ、七百七十七歳で没。
３２　ノア――ノアは五百歳で息子が三人あった。　セム、ハム、ヤペテである。
六
１２さて地上では、人々がどんどん増えてきました。　その頃のことです。　霊の世界に住む者たちが、地上に住む美しい女を見そめ、それぞれ気に入った女を妻にしてしまったのです。　３その有様を見て、神様が言いました。　「わたしの霊が人間のために汚されるのを放っておけない。　人間はすっかり悪に染まっている。　反省して、正しい道に戻れるように百二十年の猶予を与えよう。」
４　ところで、霊の世界の悪い者たちが人間の女との間に子供をもうけていたころ、またその後も、地上にはネフィリムという巨人がいました。　彼らは大へんな勇士で、今でもたくさんの伝説にうたわれています。　５神様は、人間の悪が目もあてられないほどひどく、ますます悪くなっていく一方なのを知って、　６人間を造ったことを残念に思うのでした。　心がかきむしられるようなつらさです。
７　「せっかく造った人間だが、こうなった以上は一人残らず滅ぼすしかないな。　人間ばかりじゃない、動物もだ。　爬虫類も、それから鳥も。　いっそ何も造らなければよかったのだ。」　神様は悔やみました。
８　しかしノアは別でした。　彼だけは、神様に喜ばれる生き方をしていたのです。　ここでノアのことを話しましょう。　９１０そのころ地上に生きていた人のなかで、ただ一人ほんとうに正しい人が、ノアでした。　いつも、神様のおこころにかなう事をしようと心がけていたのです。　彼にはセム、ハム、ヤペテという三人の息子がいました。
１１　一方、世界はどうでしょう。　どこでも犯罪は増えるばかりで、とどまる所を知りません。　神様の目から見ると、この世界は芯まで腐りきっていました。
１２１３どうにも手のつけられない状態です。　人類全体が罪にまみれ、どんどん堕落していくのを見て、神様はノアに言いました。　「わたしは人類を滅ぼすことにした。　人間のおかげで世界中が犯罪で満ちあふれてしまった。　だから、一人残らず滅ぼそうと思う。　１４ただ、おまえだけは助けてやろう。　いいか、樹脂の多い木で船を造り、タールで防水を施すのだ。　船には甲板を張り、仕切りをつける。　１５全体の大きさは、長さ百五十メートル、幅二十五メートル、高さ十五メートルにする。　１６周囲には、屋根から五十センチ下がった所に天窓をつける。　中の甲板は上中下と三層にし、船腹には扉をつける。
１７　さて、よく聞くのだ。　わたしは世界に洪水を起こし、生き物を滅ぼす。　いのちの息のあるものは、みな死に絶える。　１８だが約束しよう。　おまえは、妻や息子夫婦といっしょに船に乗れば安全だ。　１９２０動物を一つがいずつ連れて入ることも忘れる

な。　洪水から守ってやるのだ。　いいか、あらゆる種類の鳥と動物と爬虫類を、一つがいずつだぞ。　２１それから食糧だが、おまえたちと動物が十分食べられるだけたくわえるのだ。」　２２ノアは、何もかも神様から命じられたとおりにしました。
七
１　とうとうその日がきました。　神様がノアに命じました。　「さあ、家族全員と船に入りなさい。　この地上で正しい人間と言えるのは、おまえだけだ。　２動物も一つがいずつ連れて入りなさい。　ただし、食用といけにえ用に、特別に選んだ動物は、それぞれ七つがいずつだ。　３ほかに、鳥も七つがいずつ入れなさい。　こうしておけば、洪水が終わってから、もう一度生き物が繁殖できる。　４あと一週間たつと、雨が降り始め、四十日のあいだ昼も夜も降り続く。　わたしが造った動物と鳥と爬虫類はみな死に絶えるだろう。」
５　ノアは、何もかも命じられたとおりにしました。　６洪水が襲ってきた時、彼は六百歳でした。　７水から逃れるため、彼は急いで妻と息子夫婦を連れ、船に乗り込みました。８９各種の動物もみないっしょです。　食用といけにえ用の動物も、そうでない動物も、それから鳥も爬虫類もです。　みな神様がノアに命じたとおり、雄と雌のつがいで乗り込みました。
１０‐１２一週間後、ノアが生まれて六百年と二か月十七日たった日のことです。　どしゃぶりの雨が降り始め、地下水までが勢いよく吹き出したではありませんか。　四十日のあいだ昼も夜も、そんな状態が続きました。　１３しかし、まさにその日に、ノアは妻と息子セム、ハム、ヤペテとその嫁たちを連れて、船に乗り込みました。　１４１５家畜と言わず野生のものと言わず、あらゆる種類の動物、爬虫類、鳥もいっしょでした。　１６神様の命令どおり、雄と雌のつがいで乗り込んだのです。　そのあと神様が扉を閉じ、もう心配はなくなりました。
１７　四十日のあいだ、水はすさまじい勢いで荒れ狂いました。　世界中がすっかり水でおおわれ、船は水に浮かびました。　１８みるみる水嵩が増していきますが、船は水に浮いているので安全です。　１９とうとう、世界中の高い山という山が、すべて水をかぶってしまいました。　２０いちばん高いいただきでさえ、水面から七メートルも下に沈んだほどです。　２１地上の生き物は、みな死に絶えました。　鳥、家畜と野生の動物、爬虫類、そして全人類が……。　２２かつて、かわいた地の上で生き、呼吸していたものは、絶滅したのです。　２３人間、動物、爬虫類、鳥といった地上の全生物が姿を消しました。神様が全滅させたのです。　かろうじて生き残ったのは、ノアといっしょに船に乗っていたものだけでした。　２４水は地上を百五十日の間おおいました。
八
１　船の中のノアと動物のことを、神様は決して忘れませんでした。　やがて神様が風を吹きつけると、水はしだいに引き始めました。　２地下水も止まり、滝のように降っていた雨足も、おさまってきたのです。３４水は少しずつ引き、降り始めてから百五十日目に、

とうとう船はアララテ山のいただきに止まりました。　５くる日もくる日も水位は下がり続け、三か月後には、ようやくほかの山々も姿を現わし始めました。
６　水が引き始めてから四十日目、ノアは天窓を開け、　７からすを放しました。　からすは、地面がかわくまであちこち飛び回っていました。　８しばらくして今度は鳩を放し、かわいた土地を捜させました。　９けれども鳩は下り立つ所が見つからず、ノアのもとへ帰って来ました。　水はまだ、かなり深かったのです。　ノアは腕を伸ばし、鳩を船の中に引き入れました。
１０　それから七日後、ノアはまた鳩を飛ばしてみました。　１１夕方ごろ戻ったのを見ると、オリーブの葉をくわえています。　それで水がそうとう引いたことがわかりました。
１２一週間してもう一度放ってみると、今度は、それきり戻りませんでした。
１３　そのあと、さらに二十九日たちました。　いよいよ扉を開け、外を見渡すと、水は引いています。　１４もうじきです。　しんぼう強く、さらに八週間待つうちに、とうとう地面はすっかりかわきました。１５１６神様のお許しも出ました。　「さあ、みんな外に出なさい。　１７動物も鳥も爬虫類もみな出してやりなさい。　それぞれ繁殖して、どんどん増えるようにするのだ。」　１８１９それを待っていたように、ノアと妻と息子夫婦、それに動物たちが、いっせいに外へ出、船はたちまち空っぽです。　みなそれぞれのグループごとに、一組ずつ船から出ました。
２０　ノアはそこに祭壇を築き、神様から特別に指定された動物や鳥を、いけにえとしてささげました。　２１神様はそのささげ物を喜び、こう心に誓われました。　「もう二度とこんなことはすまい。　人間は子供の時から悪い性質をもっていて、実際ひどく悪いことをするものだ。　しかしもう、大地をのろって生き物を全滅させるようなことは絶対にしない。　２２大地がある限り、春の種まきと秋の収穫、暑さと寒さ、冬と夏、昼と夜とが、年ごとにくり返されるだろう。」
九
１　神様は、ノアと息子たちを祝福なさいました。　子供がたくさんでき、全地に増え広がるようにと命じたのです。
２３「野獣と鳥と魚はみな、おまえたちを恐れるようになるだろう。　おまえたちは動物を治めるのだ。　穀物と野菜のほかに動物も食用としてかまわない。　４だが、いのちの源である血をすっかり抜き取ったあとでなければ、食べてはいけない。　５６殺人は禁止する。　人を殺した動物は生かしておくな。　同じように、殺人者も死刑だ。人殺しは、神に似せて造られた者を殺すことだからだ。　７さあ、子供をたくさん生みなさい。　どんどん増え広がって、世界を治めるのだ。」
８　それから、ノアと息子たちに約束なさいました。　９‐１１「おまえたちとおまえたちの子孫、それに生き残った鳥、家畜、野生の動物ぜんぶに、おごそかに誓う。　もう二度と洪水で世界を滅ぼしたりはしない。　１２その約束のしるしに、　１３虹を雲にかけよう。　この約束は、おまえたちと全世界に対し、この世の終わりまで効力をもつ。１４

雲が大地をおおう時、虹が雲の中に輝くだろう。　１５その時わたしは、いのちあるものを二度と洪水で滅ぼさないと、堅く約束したことを思い出そう。　１６１７雲間にかかる虹が、地上のすべての生き物に対する永遠の約束を思い出させるからだ。」
１８　ノアの三人の息子はセム、ハム、ヤペテといいました。　このうちハムがカナン人の先祖にあたります。　１９この三人から世界のあらゆる国民が出ているのです。
２０２１さて、ノアは農夫となり、ぶどうを栽培して、ぶどう酒をつくるようになりました。　ある日、彼はぐでんぐでんに酔っ払い、裸のままテントの中で寝込んでしまいました。　２２ところが、それをカナンの父ハムが見たのです。　彼はあわてて外に飛び出し、二人の兄に、父親が裸で寝ていると話しました。　２３話を聞いたセムとヤペテは父の服を取りに行きました。　その服を自分たちの肩にかけ、二人並んでうしろ向きのままそろそろテントに入りました。　そして、父親の裸を見ないように注意しながら、服をずり落とし、体にかけたのです。２４２５ノアは酔いがさめて起き上がると、とっさに何があったのか悟りました。　末息子のハムがしたことを知った時、彼はのろいのことばを吐きました。
「カナン人〔ハムの息子カナンから出た民族〕はのろわれよ。
セムとヤペテの奴隷になり下がれ。」
２６２７次にこう言いました。
「神様がセムを祝福なさいますように。
カナンは彼の奴隷となれ。
神様がヤペテを祝福し、
セムの繁栄にあずかる者としてくださいますように。
カナンは彼の奴隷となれ。」
２８２９ノアは、洪水のあとさらに三百五十年生き、九百五十歳で死にました。
一〇
１　ノアの三人の息子セム、ハム、ヤペテの家系は次のとおりです。以下は、洪水のあと三人に生まれた子供たちです。
２　ヤペテの子供は
ゴメル、マゴグ、マダイ、ヤワン、トバル、メシェク、ティラス。
３　ゴメルの子供は
アシュケナズ、リファテ、トガルマ。
４　ヤワンの子供は
エリシャ、タルシシュ、キティム、ドダニム。
５　この人たちの子孫は各地に散らばり、それぞれの国語をもつ海洋国をつくりました。
６　ハムの子供は
クシュ、ミツライム、プテ、カナン。
７　クシュの子供は

セバ、ハビラ、サブタ、ラマ、サブテカ。
ラマの子供は
シェバ、デダン。
８　クシュの子孫の一人に、ニムロデという人がいました。　最初の王になった人です。
９神様に祝福された強い狩猟家で、名が知れ渡っていました。　「神様に祝福された強い狩猟家ニムロデのような人」などという、ほめことばもはやったくらいです。　１０彼は帝国をシヌアルの地に建て、バベル、エレク、アカデ、カルネなどを中心に栄えました。
１１１２領土はやがてアッシリヤまで広がりました。　ニネベ、レホボテ・イル、ケラフ、ニネベとケラフの間にあるレセンなどは、みな彼が建てた町です。　特にレセンは、帝国の中でも重要な町でした。
１３１４ミツライムは、次の地域に住みついた人たちの先祖です。
ルデ、アナミム、レハビム、ナフトヒム、パテロス、
ペリシテ人が出たカスルヒム、カフトル。
１５‐１９カナンの長男はシドンで、ヘテも彼の子です。　カナンの子孫には次の国々があります。
エブス人、エモリ人、ギルガシ人、ヒビ人、アルキ人、シニ人、
アルワデ人、ツェマリ人、ハマテ人。
カナンの子孫は、やがてシドンからガザ地区のゲラルに至る一帯に進出し、さらにソドム、ゴモラ、アデマ、ツェボイム、そしてレシャの近くまで広がりました。
２０　以上がハムの子孫で、たくさんの国や地方に散らばり、たくさんの国語を話すようになりました。
２１　ヤペテの兄セムからはエベルが出ました。　２２セムのほかの子孫は次のとおりです。
エラム、アシュル、アルパクシャデ、ルデ、アラム。
２３アラムの子孫は
ウツ、フル、ゲテル、マシュ。
２４　アルパクシャデの息子はシェラフで、シェラフの息子がエベルでした。
２５　エベルには息子が二人生まれました。
ペレグ〔「分裂」の意〕とヨクタンです。　ペレグという名の由来は、
彼の時代に世界が分裂し、人々が散らされたからです。
２６‐３０ヨクタンの子孫は
アルモダデ、シェレフ、ハツァルマベテ、
エラフ、ハドラム、ウザル、ディクラ、
オバル、アビマエル、シェバ、オフィル、
ハビラ、ヨバブ。
ヨクタンの子孫はみな、メシャからセファルに至る東部の丘陵地帯に住みつきました。

３１　以上がセムの子孫です。　それぞれを政治区分、国語、地理的な位置などによって分けると、こうなります。
３２　以上の人々はみなノアの子孫で、彼らから洪水のあと何世代にもわたって、いろいろな国が発展してきたのです。
一一
１　そのころ、人類はみな同じことばを話していました。　２人口がしだいに増えると、人々は東の方に移って行きました。　こうしてバビロンの地に平原を見つけ、大ぜいの人がそこに住みついたのです。３４やがて大都市を建設しようという話が持ち上がりました。永遠に残る記念碑として、天にも届くような塔の神殿を造り、自分たちの力を見せてやろうというのです。
「こうやって一致団結すれば、あちこちに散らされる心配もなくなるというものだ。」　そう豪語すると、人々はよく焼いた堅いれんがをうずたかく積み上げ、アスファルトを集めてモルタル代わりにしました。
５　神様は降りて来て、人間どもが造っている町と塔をご覧になりました。　６「いやはや、なんということだ。　同じことばを使い、政治的にも一致して事にあたれば、人間はこれだけの事をやすやすとやり遂げてしまう。　この分だと、あとでどんな事をしでかすか、わかったものじゃない。　何でもやってのけるだろう。　７こうなったら地上へ降りて行って、彼らが違ったことばを話すようにしてしまおう。　そうすれば、互いに何を言っているかわからなくなる。」
８　こうして、神様は人間を世界の各地に散らしました。　もう都市建設はできません。９この都の名がバベル〔「混乱」の意〕と呼ばれたのは、このためです。　つまり、神様がたくさんの国語を与えて人間を混乱させ、各地に広く散らしたのが、このバベルの地だったのです。
１０１１さて、セムの家系に、アルパクシャデという人がいました。　洪水の二年後、セムが百歳のときに生まれた息子です。　セムはそのあとも五百年生き、大ぜいの息子、娘に恵まれました。
１２１３アルパクシャデは三十五歳のとき息子のシェラフをもうけ、そのあと四百三年生きたのですが、ほかにも息子と娘がたくさんいました。
１４１５シェラフは息子のエベルが生まれたとき三十歳でした。 そのあと四百三年生き、大ぜいの息子、娘に恵まれました。
１６１７エベルは息子のペレグが生まれたとき三十四歳で、そのあとも四百三十年生き、息子、娘が大ぜい生まれました。
１８１９ペレグは息子のレウが生まれたとき三十歳で、さらに二百九年生き、息子、娘が大ぜい生まれました。
２０２１レウはセルグが生まれたとき三十二歳で、その後も大ぜいの息子、娘に恵まれて、二百七年生き長らえました。

２２２３セルグは息子のナホルが生まれたとき三十歳で、その後も大ぜいの息子、娘に恵まれて、二百年生き長らえました。
２４２５ナホルは息子テラが生まれたとき二十九歳で、その後も百十九年生き、大ぜいの息子、娘に恵まれました。
２６　テラが七十歳のとき息子が三人いました。　アブラム、ナホル、ハランです。　２７ハランにはロトという息子ができました。　２８しかしハランは、若くして生まれ故郷のカルデヤのウルで死に、あとには父親のテラが残されました。
２９　一方アブラムは、腹違いの妹サライと結婚し、ナホルも、孤児となった姪のミルカを妻にしました。 ミルカにはイスカという兄弟がいましたが､二人ともハランの子です。
３０ところでサライは、子供ができない体質でした。　３１テラは息子のアブラムと嫁のサライ、ハランの息子で孫にあたるロトを連れて、カルデヤのウルを出発し、カナンの地へ向かいました。　しかし途中、カランの町に立ち寄ったまま、そこに住みついてしまったのです。　３２テラはそこで死にました。　二百五歳でした。
一二
１　父親が死んだ時、神様はアブラムに命じました。　「これから旅に出なさい。　親類縁者も国も捨てて出かけるのだ。　行く先はわたしが教えるから、ただ言われたとおりにすればよい。　２そうすれば､おまえを偉大な国民の父にしてやろう。 おまえを祝福し、おまえの名を広めて、だれ知らぬ者がないようにしてやろう。　おまえのおかげで、ほかの多くの者も祝福される。　３わたしは、おまえを祝福する者を祝福し、おまえをのろう者をのろう。　おまえによって、全世界が祝福されるのだ。」
４　アブラムは神様の命令どおり出発しました。　ロトもいっしょです。　その時アブラムは七十五歳でした。　５妻のサライと甥のロトのほか、カランで得た家畜や奴隷などを連れて旅をし、とうとうカナンに着きました。　６そのまま旅を続け、シェケムの近くまで来ると、モレの樫の木のそばで野営することにしました。　当時この地方には、カナン人が住んでいたのです。
７　さて神様はアブラムに現われ､「この地をおまえの子孫に与えよう」と約束なさいました。　アブラムが喜んだのは言うまでもありません。　神様とお会いした記念に、さっそくそこに祭壇を築きました。　８それからさらに南へ向かい、丘陵地帯に来ました。　西のベテルと東のアイにはさまれた地域です。　アブラムは野営をし、神様のために祭壇を築いて祈りました。　９そのあとまた、時々休みながら、ゆっくり南のネゲブへ旅を続けました。
１０　ちょうどそのころ、この地方一帯がひどいききんに見舞われたのです。　何とかしなければなりません。　ひとまずエジプトへ行き、難を逃れることにしました。　１１‐１３エジプトの国境に近づくと、彼は妻のサライに、人には私の妹だと言ってくれ、と頼みました｡「おまえはきれいだからな、エジプト人はきっと目をつけるだろう。　『たいした女だが、亭主がじゃまだ。　やつを殺して女を奪おう』と考えるかもしれない。　だが

な、妹ということにしておけば、おまえのことで私を大事にしてくれるだろう。　それで、無事に生きのびることができるじゃないか。」　１４エジプトへ着くと、案の定サライの美しさはうわさの的です。　１５宮殿の役人までが、王の前で彼女のことをほめそやしたので、王はとうとうサライを後宮に召し入れました。　１６おかげでアブラムは、王から羊、牛、ろば、男女の奴隷、らくだなど、たくさんの贈り物をもらいました。
１７　しかし、それで事はすみません。　王がサライを召し入れたために、神様は宮廷に、恐ろしい伝染病をはやらせたのです。　１８王はアブラムを呼びつけ、激しい非難をあびせました。　「いったい、なんということをしてくれたのだっ！　あれがおまえの妻だということを、どうして隠し立てしたのかっ！　１９妹だなどと嘘をつきおって。　妻がわしのものになるのを平気で見ていたとは、全くもってけしからん。　さあ、あの女を連れて、とっととこの国から出て行ってもらおう。」２０王は兵士にアブラムたちを護送させ、エジプトから追放しました。　アブラムの縁者は一人残らずです。　さいわい財産は没収されずにすみました。
一三
１２一行はエジプトを出て北へ向かい、ネゲブまで来ました。　アブラムと妻とロト、それに全財産という一行です。　アブラムは金持ちで、家畜と金銀をたくさん持っていました。　３４そこからさらに、北のベテルに向かい、やがて、ベテルとアイにはさまれた、前に野営したことのある所まで来ました。　この前のとき祭壇を築いた場所です。　アブラムは、もう一度ここで神様を礼拝しました。
５　ロトも、羊や牛をはじめ、大ぜいの使用人を持っていて、非常に裕福でした。　６ところで、たくさんの家畜の群れを持つアブラム家とロト家の両方が住むには、この土地は狭すぎます。　牧草地に比べて家畜の数が多すぎるのです。　７当然のこと、アブラムの羊飼いとロトの羊飼いとの間に、争いが起きました。　しかも、その地には、カナン人やペリジ人の部族も住んでおり、いつ襲われるかわからない、危険な状態だったのです。　８アブラムはロトと話し合うことにしました。　「なあ、ロト、お互いの使用人同士のけんかは、なんとしてもやめさせなきゃなるまい。　身内同士でけんかをしても始まらん。　伯父、甥の仲じゃないか。　これからも仲よくやっていくに、こしたことはない。　９で、こうしようと思うんだが、おまえの意見はどうだ。　まずおまえが、どこでも好きな所を選ぶのだ。　そして、私たちはここで別れる。　おまえが東の方が欲しければ、私はここへ残るし、ここがいいと言うなら、東へ移ることにしよう。」
１０　ロトは、ヨルダン川周辺の水に恵まれた肥沃な平野をじーっと見つめました。　まだソドムとゴモラの町が神様に滅ぼされる前だったので、そこは、まるでエデンの園のように見えました。　エジプトやツォアル近辺の美しい田園にも似ています。　１１ロトはその土地を選びました。　東部一帯に広がるヨルダン渓谷の地です。　彼は家畜と使用人を連れ、そこへ行くことにしました。　二人はこうして別れました。　１２アブラムはカナンの地に残り、ロトは平野に下って、ソドムの町の近くに住みついたのです。　１３た

だ困ったことに、この地方の住民はひどく質が悪く、神様に背くようなことばかりしていました。
１４　ロトが行ってしまうと、神様はアブラムに言いました。　「さあ、四方をぐるっと見渡しなさい。　目の届く限り、遠くまでよく見るのだ。　１５その土地をすべて、おまえとおまえの子孫に与えよう。　１６また、おまえの子孫をふやそう。　砂のように数えきれないほど大ぜいにな。１７どこへでも出かけて行って､やがておまえのものになる、この新しい土地をよく調べるのだ。」１８アブラムはヘブロンに近いマムレの樫の木の所に移り、そこでも、神様のために祭壇を築きました。
一四
１２折りも折り、この地方に戦争が起こりました。
シヌアルの王アムラフェル、
エラサルの王アルヨク、
エラムの王ケドルラオメル、
ゴイムの王ティデアルの同盟軍が、
ソドムの王ベラ、
ゴモラの王ビルシャ、
アデマの王シヌアブ、
ツェボイムの王シェムエベル、
のちにツォアルと呼ばれたベラの王の連合軍と戦ったのです。
３　ソドム、ゴモラ、アデマ、ツェボイム、ベラの王たちは、今は塩の海と言われるシディムの谷に全軍を集めました。　４この五人の王は、十二年間ケドルラオメル王に支配されていたのですが、十三年目に反乱を起こしたのです。
５６一年後、ケドルラオメル王の率いる同盟軍が討伐にのり出し、むごたらしい戦いが始まりました。　同盟軍は、
アシュテロテ・カルナイムのレファイム人、
ハムのズジム人、
キルヤタイムの平原にいたエミム人、
セイルの山のホリ人を打ち破り、その勢いをかって、砂漠との境にあるエル・パランまで進軍しました。
７そこから引き返し、今のカデシュにあたるエン・ミシュパテでアマレク人を破り、さらにハツァツォン・タマルのエモリ人をも負かしました。
８９ソドム、ゴモラ、アデマ、ツェボイム、ベラ〔ツォアル〕の連合軍は、ケドルラオメル王の同盟軍に塩の海で戦いをいどんだのですが､敗れてしまいました。１０そのころ、谷にはアスファルトの穴がいっぱいありました。　退却する時、ソドムの王とゴモラの王はその穴に落ち、残りは山へ逃げ込みました。　１１同盟軍は勝利の余勢をかってソドムとゴモラを略奪し､町中の財産と食糧を洗いざらい奪って､ようようと引き揚げたのです。

１２その時アブラムの甥ロトもソドムに住んでいたので、捕虜にされ、全財産を奪われました。　１３一人の男がうまく逃げ出し、ヘブル人のアブラムのところへ駆け込み、一部始終を報告しました。　アブラムはそのころ、エモリ人マムレの所有地にある樫の木立の中に野営していたのです。　マムレは、アブラムと同盟を結んでいたエシュコルとアネルの兄弟でした。
１４　ロトが捕虜にされたことを聞くと、アブラムは総勢三百十八人の、家の子郎党を引き連れ、引き揚げる同盟軍をダンまで追いかけました。　１５そしてその夜、奇襲作戦をしかけたのです。　作戦はまんまと成功し、敗走する軍隊をダマスコの北、ホバまで追いました。　１６略奪された物はぜんぶ取り返しました。　親類のロトとその全財産、それに捕虜になっていた人々です。
１７　ケドルラオメル王を打ち破り、現在の「王の谷」にあたるシャベの谷まで引き揚げると、ソドムの王がアブラムを出迎えました。　１８またシャレム〔エルサレム〕の王、いと高き天の神様の祭司メルキゼデクも、パンとぶどう酒を持って来ました。　１９２０その時、メルキゼデクはアブラムを祝福したのです。
「全宇宙を造られた、いと高き神様の祝福が、
アブラムよ、あなたにあるように。
あなたを敵に勝たせてくださった神様が、あがめられるように。」
アブラムはメルキゼデクに戦利品の十分の一を贈りました。
２１　ところがソドムの王は､戦利品をもらうことを辞退しました｡「捕虜にされていた国民を返してくださるだけで十分です。　町から盗まれた物は、どうぞそのままお手もとに置いてください。」
２２　しかしアブラムは、きっぱり答えました。　「私はいと高き神、世界を造られた神様に堅く誓いました。　２３ですから、ひも一本いただくわけにはまいりません。　『アブラムは私が物をやったから豊かになった』などと言われたくないのです。　２４ただ、追跡に加わった私の手の者が食べた分までは、お返ししませんが。　それ以外は、いっさいいただけません。　戦利品の分け前は、私と同盟を結んでいたアネル、エシュコル、マムレにやってください。」
一五
１　そののち神様は､幻の中でアブラムに現われ､こう語りかけました。「アブラムよ、心配することはない。　わたしがおまえを守り、大いに祝福してやろう。」
２３「ああ神様、私に息子がないのはご存じでしょう。　それでは、どんなに祝福していただいても、何の役にも立ちません。　息子がいなければ、全財産は一族のだれかほかの者が相続するのです。」
４　「いや、そんなことはない。　ほかの者がおまえの跡継ぎになることは決してない。おまえの財産を相続する息子が必ず生まれるのだ。」
５　それから神様はアブラムを外へ連れ出し、満天の星空の下に立たせました。　「空を

見なさい。　あの星をぜんぶ数えられるか？　おまえの子孫はちょうどあの星のようになる。　とても数えきれないほど大ぜいにな。」　６アブラムは神様を信じました。　神様はその信仰を認め、アブラムを正しい者とみなしました。
７　「カルデヤのウルの町からおまえを導き出したのは、このわたしだ。　それは、この土地を永遠におまえのものとするためだ。」
８　「神様、できれば、その確かな証拠を見せていただけるとうれしいのですが。」　９すると、次のようにせよと言われました。　それぞれ三歳の雌牛と雌やぎと雄羊、それに山鳩とそのひなを連れて来て、　１０殺し、真ん中から引き裂いて二つに分けよ、というのです。　ただし、鳥は裂いてはいけない、と注意されました。　１１アブラムは言われたとおりにしました。　そして、はげたかが死体の上に舞い下りて来そうになると、追い払うのでした。
１２　やがて夕方になり、日が西に沈みかかります。　アブラムは眠くて、どうにも我慢できなくなりました。　何か恐ろしいことが起きる前兆のような、深いやみが忍び寄ってきたのです。
１３　その時、神様の声がしました。　「おまえの子孫は四百年のあいだ外国で奴隷にされ、苦しめられるだろう。　１４だが、その国をわたしは罰する。　そしてついには、あり余るほどの富を携えて、彼らはその国から脱出することになるのだ。　１５おまえは天寿を全うし、安らかにこの世を去るだろう。　１６四世代ののち、彼らはこの地に帰る。今ここに住んでいるエモリ人の国々の悪行は、まだ大したことはない。　だがその時がきたら、きびしい刑罰を受けるのだ。」
１７　もう日はすっかり沈み、あたりは真っ暗です。　見ると、煙のたち込めるかまどと燃えるたいまつが現われ、二つに引き裂かれた動物と鳥の死体の間を通り抜けたのです。
１８こうしてその日、神様はアブラムと契約を結ばれました。　「わたしはこの地をおまえの子孫に与える。　ワディ・エル・アリシュ〔エジプト川〕からユーフラテス川に至る地だ。
１９‐２１また、ケニ人、ケナズ人、カデモニ人、ヘテ人、ペリジ人、レファイム人、エモリ人、カナン人、ギルガシ人、エブス人の国々をも与えよう。」
一六
１　神様の約束にもかかわらず、サライとアブラムには、なかなか子供ができません。　そこでサライは、ハガルというエジプト人の召使を、　２３アブラムのそばめにしました。「神様は、いつまでたっても子供を授けてくださらないわ。　こうなったら、あなたが私の召使といっしょになるしかないと思うの。　それで、もし子供が生まれたら、私の子ということにしてくださいな。」
こう言われて、アブラムも同意しました。　カナンの地に来てから、かれこれ十年たっていました。　４アブラムはハガルといっしょになり、やがて彼女は妊娠しました。　ところが、そのことがわかると、とたんに傲慢になり、女主人のサライに横柄な態度をとるよ

うになったのです。
５　サライはアブラムに食ってかかりました。　「みんなあなたが悪いんですよ。　召使ふぜいにまでばかにされちゃ、私の立場がないわ。いったいだれのおかげで、あなたといっしょになれたと思ってるのかしら。　元はと言えば、あなたのせいよ。　こうなったら、どちらの言い分が正しいか、神様に決めていただきましょう。」
６　「まあまあ、そこまでしなくても、あの娘はおまえの好きなように罰したらいいじゃないか。」　それならと、サライはハガルを気のすむまでいじめ抜きました。　もうとても我慢できません。　ハガルは逃げ出しました。　７ようやく、シュルへ通じる道路わきにある砂漠の泉のそばまでたどり着いた時、神様の使いが彼女を見つけました。
８　「サライの召使ハガルよ、どこから来て、これからどこへ行くつもりなのだ。」
「女主人のところから逃げ出して来たのです。」
９－１２「それはいけない。　戻って、務めをきちんと果たしなさい。心配はいらない。おまえの子孫は大きな国になるのだ。　今、おまえのお腹には子供がいるね。　男の子が生まれるから、イシュマエル〔「神は聞いてくださる」の意〕と名づけなさい。　神様はおまえの苦しみを聞き届けられたからだ。　息子は野生のろばのように荒々しく、思うままに振る舞う暴れ者となるだろう。　すべての人を敵に回し、ほかの人たちも彼に敵意をいだく。　彼はまた、親族の者とも敵対するだろう。」
１３　そののちハガルは、神様のことを「私を顧みてくださる神様」と呼ぶようになりました。　彼女に現われたのは、実は神様ご自身だったのです。　「私は神様を見たのに死にもせず、こうして、そのことを人に話すこともできるわ」と、彼女は言いました。
１４　のちにその井戸は、「私を顧みてくださる生けるお方の井戸」と名がつきました。それはカデシュとベレデの間にあります。
１５　やがて、ハガルはアブラムの子供を産み、アブラムはその子をイシュマエルと名づけました。　１６その時、アブラムは八十六歳でした。
一七
１　アブラムが九十九歳になった時、神様が彼に現われました。「わたしは全能の神である。わたしの命令に従って正しく生きなさい。　２－４わたしはおまえと契約を結ぶ。　おまえが大きな国民になることを保証する契約だ。　事実、おまえは一つの国民だけでなく、たくさんの国の先祖となるのだ。」　神様が話すのを、アブラムは地にひれ伏し、顔をすりつけんばかりにして聞いていました。
５　「もう一つある。　わたしはおまえの名前を変えようと思う。これからは『アブラム』〔「地位の高い父」の意〕ではなく、『アブラハム』〔「国々の父」の意〕と名のりなさい。実際そうなるからだ。宣言してもかまわない。　６子孫を数えきれないほどふやそう。　たくさんの国ができることだろう。　おまえの子孫からは王も出る。　７８この契約を、わたしは何世代にもわたって永遠に守り続ける。　おまえだけでなく、おまえの子孫との間の契約でもあるからだ。　わたしがおまえの神となり、また、おまえの子孫の神となると

いう契約なのだ。 このカナンの全土は永久におまえとおまえの子孫のものだ。 そして、わたしがおまえたちの神となる。
９１０おまえは契約の条件を忠実に守らなければならない。　おまえもおまえの子孫も一人残らずだ。 その条件というのは、男はみな割礼を受けるということだ。 １１つまり、生殖器の包皮を切り取る。　これが、おまえたちがこの契約を受け入れたしるしとなる。
１２男の子はみな、生まれて八日目に割礼を受けなければならない。　おまえの家の子だけでなく、外国人の奴隷も、男はみな受ける。　この条件は永遠に変わらない。　おまえの子孫全員に適用すべきものだ。　１３例外は一人も認められない。　割礼は、おまえたちの体そのものが、永遠の契約にあずかっていることのしるしだからだ。　１４これを拒否する者はだれでも、部族の一員とはみなされないことになる。　わたしの契約を無視した罰だ。」
１５　神様はさらに続けました。　「おまえの妻サライだが、これからは『サライ』ではなく、『サラ』〔「王女」の意〕にしなさい。　１６わたしは彼女を祝福する。　彼女はおまえの息子を産むだろう。　すばらしい祝福を与えて、彼女を国々の母とする。　おまえの子孫からは大ぜいの王が出ることだろう。」
１７　これを聞いたアブラハムは、地にひれ伏して神様を礼拝しました。　しかし、とても信じられないことなので、心の中では笑っていました。　「この私が父親になるんだって？　百歳の老いぼれが？　それにサラだってもう九十だ。　赤ん坊なんかできるはずがない。」
１８　アブラハムは神様に申し上げました。　「それはありがたいことです。　どうぞ、イシュマエルを祝福してくださいますように。」
１９　「いいや、わたしはそうは言っていない。　サラが、おまえの息子を産むのだ。　その子をイサク〔「笑い声」の意〕と名づけなさい。わたしは永遠の契約を、彼と彼の子孫との間に結ぶ。　２０イシュマエルのことはわかった。　あの子も祝福しよう。　願いどおり彼の子孫をふやし、大きな国にする。　十二人の王子が彼の子孫から出る。２１しかし、契約を結ぶのはイサクとだ。　来年の今ごろ、サラはイサクを産む。」
２２　こう言い終えると、神様は、アブラハムのもとを去りました。２３その日アブラハムは、直ちに息子イシュマエルをはじめ男性全員を集めました。　彼の家で生まれた者も外部から買い入れた者もみんなです。　そして、神様から命じられたとおり、一人残らず生殖器の包皮を切り取る儀式を行ないました。 ２４－２７その時アブラハムは九十九歳、イシュマエルは十三歳でした。 二人とも同じ日に割礼を受けました。 家の中の男性は、そこで生まれた者も奴隷として買い取られた者も、一人残らず同じように割礼を受けました。
一八
１　アブラハムがマムレの樫の木のそばにテントを張っていた時、神様は再び彼に現われました。　そのいきさつは次のとおりです。　夏のある暑い日の午後でした。　アブラハ

ムはテントの入口に座っていました。 ２ふと目を上げると、三人の男がこちらに来ます。すぐさま立ち上がり、走って行って、喜んで出迎えました。
３４「まあまあ、そんなに先を急がないで、どうぞごゆっくり。　この木陰で少しお休みください。　水をお持ちしますから、足を洗ってさっぱりなさるといいですな。　５何もありませんが、食事でもいかがですか。　元気がつきますよ。　しばらく休んで、それから旅を続けられたらよろしいでしょう。」
「ありがとう。　おことばに甘えて、おっしゃるとおりにさせていただきましょう。」
６　アブラハムはさっそく、テントの中のサラのところへ駆け戻りました。「さあさあ、大急ぎでパンケーキを作ってくれ。 いちばん上等の粉でな。 お客さんが三人お見えだ。」７次は家畜のところです。　走って行って、群れの中から太った子牛を選ぶと、召使に急いで料理するよう言いつけました。　８まもなく、チーズとミルクと子牛のあぶり肉が運ばれ、食卓が整えられました。　客が食事をしている間、アブラハムはそばの木の下に立っていました。
９　「ところで、奥さんはどちらに？」と三人が尋ねるので、「テントの中です」と答えました。
１０　三人のうちの一人、神様が言いました。　「来年の今ごろわたしがまた来る時、おまえとサラの間に、男の子が生まれているだろう。」　サラはうしろのテントの入口で一部始終を聞いていました。 １１この時にはアブラハムもサラもすっかり年をとり、サラは、子供ができる時期はとうの昔に過ぎていたのです。
１２　あまりばかばかしくて、サラは笑いをかみ殺すのがやっとでした。　「私みたいなおばあさんが、赤ん坊を産むだなんて」と、彼女は自分をあざけるようにつぶやきました。「それにあの人だってもう年だし……。」
１３　神様はそれを聞きとがめ、アブラハムに言いました。　「なぜサラは笑ったのか。なぜ『私みたいなおばあさんは赤ん坊なんか産めない』などとつぶやくのか。　１４神にできない事は何もない。　おまえに言ったとおり、来年の今ごろまた来る時には、必ずサラに子供が生まれるようにしよう。」
１５　サラはあわてて否定しました。 「笑っただなんて、とんでもございません。」　どうなることか、こわくてたまりません。　必死の思いでごまかしましたが、神様はちゃんとご存じでした。
１６　このあと三人は腰を上げ、ソドムに向かいました。 アブラハムは見送りかたがた、途中までいっしょに歩いて行きました。
１７　その時、神様は考えました。　「わたしの計画を、アブラハムに隠しておいて、いいだろうか。　１８アブラハムの子孫は大きな国になるのだし、世界中の国々が彼のおかげで祝福を受ける。　１９それに、わたしがこの男を選んで、神を敬う、正しく善良な者たちを起こそうとしたのだ。　約束は守らなければならない。」
２０　そこで神様は、アブラハムに打ち明けました。　「ソドムとゴモラの住民が、すっ

かり悪に染まってしまったそうだ。　ずいぶんひどい事をしているという。　２１今、その知らせが本当かどうか調べに行くところなのだ。　向こうに着けば、何もかもはっきりわかるだろう。」２２２３ほかの二人は、そのままソドムへ向かいましたが、神様はしばらくの間、アブラハムといっしょにあとに残りました。　アブラハムは恐る恐る神様に近づきました。　「ちょっとお伺いしてよろしいでしょうか。　神様は正しい人も悪人も同じように殺してしまうおつもりですか。　２４もしあの町に正しい人が五十人いたとしても、それでも町を滅ぼされますか。　その人たちのために町を救おうとはなさらないのですか。２５だとしたら、正義はどこにあるのでしょう。　悪人も正しい人もいっしょに殺してしまうなんてことを、神様がなさるはずはありません。　もしも、もしもそんなことをしたら、正しい人も悪人も全く同じ取り扱いをすることになってしまいます。　決してそんなことはなさらないでしょうね。　全地をさばかれるお方は、公平でなければならないのですから。」
２６　「わかった。　正しい人が五十人見つかったら、彼らのために町全体を救うことにしよう。」
２７　「ありがとうございます。　ですが、あともう少しお伺いしてよろしいでしょうか。こう申し上げる私自身が、ちりや灰にすぎない者だということは、よく承知しております。２８しかし、もし正しい人が四十五人しかいない時はどうでしょう。　五人足りないだけで、町を滅ぼされますか。」
「四十五人いれば滅ぼすまい。」
２９　「では、四十人しかいなかったら？」
「四十人でも。」
３０　「どうぞお怒りにならないでください。　あえてお聞きするのです。　三十人ではいかがでしょう。」
「やはり滅ぼすまい。」
３１　「私の気持ちを察して、もう少し続けさせてください。　もし二十人だけでしたら？」
「よろしい。　その二十人のために滅ぼさない。」
３２　「神様、お怒りにならないでください。　もうひと言だけ、これが最後です。　もしも、たった十人だったら、いかがでしょう。」
「もうよい。　その場合も、その十人のために町を滅ぼすまい。」
３３　神様はアブラハムと話し終えると、先を急ぐように行ってしまわれました。　アブラハムはテントに帰りました。
一九
１　その日の夕方、二人の御使いがソドムの町の入口へやって来ました。　ちょうどそこに、ロトが座っていました。　ロトは二人を見ると立ち上がって出迎え、あいさつしました。
２　「どうぞ私の家にお泊まりください。　あすの朝、お好きな時間にお発ちになればよ

ろしいでしょう。」
「いいえ、けっこうです。　一晩くらいこの広場で休みますから。」
３　けれども､ロトはあとへ引きません。 とうとう二人はロトの家について行きました。 彼は客のためにイースト菌を入れない焼きたてのパンを出し､ごちそうを並べました。 食事が終わり、　４床の用意にかかろうとしていると、町中の男たちが、若者から年寄りまで、ぐるりと家を取り囲み、　５大声でわめき散らしました。　「やいやい、あの二人を外に出せっ。　うーんとかわいがってやるぜっ。」
６　ロトは連中をなだめようと外へ出、うしろの戸を閉めました。７「お願いだ。　乱暴はやめてくれ。　８うちには結婚前の娘が二人いるから、好きなようにしてかまわない。 だがな、客人に手出しをすることだけは、やめてくれないか。　私が責任をもってお泊めしたんだから。」
９　「うるせえ、引っ込んでろっ！」　暴徒どもは口々に叫びました。　「だいたい自分を何様だと思ってやがるんだ。　お情けでこの町に住ませてもらってるのに、おれたちに命令しようってのか？　こうなったら、あの二人のことなんかどうでもいいぜ。　それより、おまえの生意気な面の皮をひっぱがしてやらあ」と言うが早いか、連中はどっとロトに飛びかかり、戸をこわし始めました。
１０　絶体絶命です。　ところが、もうだめだと思った時、客の二人がさっと腕を伸ばしてロトをつかみ、家の中に引きずり込むと、がっちり戸にかんぬきをかけてしまったのです。　１１そして男たちの目をしばらく見えなくしたので、戸がどこにあるのかわからなくなってしまいました。
１２　客というのは、実は神様の使いだったのです。　二人はロトに言いました。　「ところで、この町に親戚がありますか。　家族の皆さんも、それからもし親戚があれば、その人たちもみな、ここから逃げなさい。　１３われわれは今から町を滅ぼします。　ここの腐敗した有様は天にまで知れ渡り、神様が、『そんな町は滅ぼせ』と言われたのです。」
１４　ロトは急いで表へ飛び出し、娘のいいなずけのところへ駆けつけました。　「すぐ町から出るんだ。　神様がこの町、この町を滅ぼそうとしておられる！」　ところが若者たちには、ロトが気が狂ってしまったとしか思えません。　あっけにとられて彼を見つめるだけでした。
１５　翌朝、夜が明けるころ、御使いたちはしきりにロトをせかせます。　「さあさあ、ぐずぐずしないで。　奥さんと、ここにいる二人の娘さんを連れて、今のうちに逃げるのです。　大急ぎですよ。　さもないと町もろとも滅ぼされてしまいます。」
１６　それでもまだ、ロトがぐずぐずしているので、御使いはロト夫婦と二人の娘の手を取り、町の外の安全な場所へせきたてました。　神様はほんとうに思いやりのある方だからです。
１７　「いのちが惜しかったら一目散に逃げなさい。　絶対うしろを振り返ってはいけません。　山の中へ逃れるのです。　いつまでもこの低地にいると、死んでしまいますよ。」

１８‐２０「どうぞ、そんなことになりませんように。　これほどまでして、いのちを助けてくださるご親切には、お礼の申しようもございません。　そのついでと言っては何ですが、山の中ではなく、あそこに見える、小さな村に逃げ込んではいけないでしょうか。山の中では、どんな危険な目に会うかわかりません。　けれども、あの村ならそんなに遠くないし……、それにほんの小さな村ではありませんか。　お願いです。　あそこへ行かせてください。　どんなに小さい村か、見ておわかりでしょう。　あそこなら、私どもも助かります。」
２１　「よろしい。　言うとおりにしてあげましょう。　あの小さな村は滅ぼさないことにします。　２２だが急ぐのですよ。　急がなければだめですよ。　あなたが向こうに着くまで、私は何もしないから。」この時から、その村はツォアルと呼ばれるようになりました。　「小さな村」という意味です。
２３　ロトが村に着くと、ちょうど太陽がのぼったところでした。　２４その時、天から、火と燃えるタールが、ソドムとゴモラの上に雨あられと降りかかりました。　２５そして、平野に点在するほかの町や村といっしょに、ソドムとゴモラをすっかり焼き尽くしてしまったのです。　人間も植物も動物も、いのちあるものはみな死に絶えました。　２６ロトの妻も、夫のあとからついて行ったのですが、警告に背いてうしろを振り返ったので、塩の柱になってしまいました。
２７　その日、アブラハムは早く起きて、神様と話をした場所に急ぎました。　２８ソドムとゴモラのあった平野を見渡すと、まるでかまどのように熱気がたちこめ、煙の柱が町のあちこちに立っているのが見えます。　２９しかし神様は、アブラハムの願いを聞き入れ、ロトのいのちを救ってくださいました。　町をおおい尽くした死の災いから、彼を救い出してくださったのです。
３０　のちにロトはツォアルの人々を恐れて山へ逃げ、二人の娘といっしょにほら穴で暮らしました。　３１そんなある日、姉が妹に言いました。　「このあたりには男の人がいないし、お父さんも私たちを結婚させることなんかできないわ。　それにお父さんだってすぐ年をとって、子供をつくれなくなってしまうのよ。　３２だから、お父さんをぶどう酒で酔いつぶして、いっしょに寝ましょうよ。　うちの家系が絶えないようにするには、そうするしかないわ。」　３３相談がまとまり、二人はその夜、父親に酒を飲ませ、まず姉が父親のところに行きました。　しかしロトは、娘と寝たことはおろか、何一つ覚えていませんでした。
３４　あくる朝、彼女は妹に言いました。　「ゆうべお父さんと寝たわ。　今夜また、お酒を飲ませましょう。　今度はあなたの番よ。」　３５二人はその夜もまた父親に酒を飲ませ、妹が父親といっしょに寝ました。　前の晩と同じように、父親は、娘がそばに来たことなど全く気がつきませんでした。　３６こうして、娘は二人とも父親の子供を宿したのです。　３７姉の子供はモアブと名づけられ、モアブ人の先祖となりました。　３８妹の子供はベン・アミで、アモン人の先祖です。

二〇
１　さて、アブラハムは南のネゲブの地へ移り、カデシュとシュルの間に住みました。　ゲラルの町にいた時、　２彼はサラを妹だと言ったので、アビメレク王は彼女を王宮に召し入れました。
３　ところがその夜、神様が夢で王に現われました。　「おまえは夫のある女を召し入れた。　いのちはないものと思え。」
４　しかしアビメレクは、まだ彼女と床を共にしてはいませんでした。「神様、それはとんだぬれ衣です。　５妹だと言ったのは、あの男のほうですよ。　それに彼女自身も、『ええ、彼は兄です』と言ったんです。　私にはやましい気持ちなどみじんもありませんでした。」
６　「それはよくわかっている。　だから、おまえが罪を犯さないようにしてやったのだ。彼女に指一本ふれさせないように、わたしが仕向けたのだ。　７さあ、彼女を夫のもとに返しなさい。　彼は預言者だから、おまえのために祈ってくれるだろう。　そうすればおまえは助かる。　だが、彼女を返さなければ、おまえも家族の者も、いのちはないぞ。」
８　翌朝、王は早々と起き、宮殿で働く人々全員を集めました。　王から事のいきさつを聞いた人々はみな、恐ろしさに震え上がりました。
９１０このあと、王はアブラハムを呼びつけました。　「いったいなんということをしてくれたのか。　こんな仕打ちを受ける覚えはさらさらありませんぞ。　もう少しで、私も国も、たいへんな罪を犯すところだった。　全く、あなたがこんなことをするとは……。どうして、こんなひどいことを考えついたのか？」
１１１２アブラハムは答えました。　「実を言いますと、てっきりこの町は神様を恐れない町だと思ったのです。『きっと、私を殺して妻を奪うだろう。』　そう思いました。　それに、あれが妹だというのはまんざら嘘でもありません。　腹違いの妹なのです。　私たちは兄弟で結婚したのです。　１３そんなわけで、神様の命令で故郷を発つ時、あれに『これからどこへ行っても、おまえは私の妹だということにしてほしい』と頼んでおいたのです。」
１４　アビメレク王は、羊と牛と男女の奴隷をアブラハムに与え、妻のサラを返しました。
１５　「さあ、私の国をご覧なさい。　どこが気に入りましたかな。　どこでもお好きな所に住んでかまいませんぞ。」　王はアブラハムにこう言うと、　１６サラの方を向いて続けました。　「あなたの『お兄さん』に、弁償金として銀貨一千枚を差し上げることにしよう。　それで万事まるく収めてもらえないだろうか。　こういうことは、きちんと片をつけておきたいのでね。」
１７　アブラハムは神様に、王と王妃をはじめ、一族のすべての女性の病いが治るようにと祈ったので、彼女たちはまた子供ができるようになりました。　１８というのは、アビメレクがアブラハムの妻を召し入れた罰で、みな子供ができないようにされていたのです。
二一
１２さて神様は、約束どおりのことをなさいました。　サラに子供ができて、年老いたア

ブラハムの息子を産んだのです。　その時期も、神様が言われたとおりでした。　３アブラハムはその子をイサク〔「笑い声」の意〕と名づけました。　４５そして、生まれて八日目に、神様から命じられたとおり、割礼を受けさせました。　この時、アブラハムは百歳でした。
６　サラは大喜びです。　「神様のおかげで、私もようやく笑えるようになったわ。　私に赤ちゃんができたと知ったら、皆さんがいっしょに喜んでくれるでしょうよ。　７まるで夢のようだわ。　年老いた主人のために、赤ちゃんを産んだのですもの。」
８　子供は日を追って大きくなり、やがて乳離れする時になりました。アブラハムはうれしくてたまりません。　子供の成長を祝ってパーティーを開きました。　９ところが、エジプト人の女ハガルが産んだイシュマエルが､弟イサクをからかい半分にいじめたのです。それを目ざとく見つけたサラは、　１０アブラハムにせがみました。　「ねえ、あなた、あの女奴隷と子供を追い払ってくださいな。　跡継ぎはイサクに決まってるし、あの子に財産の分け前をやるなんて、私は絶対いやですわ。」
１１　アブラハムは困り果てました。　なんと言っても、イシュマエルだって自分の子供なのです。
１２　しかし神様は、アブラハムを力づけました。　「あの子と女奴隷のことは、あまり心配してはいけない。　サラの言うとおりにしなさい。　わたしの約束はまちがいなくイサクによって成就するのだ。１３だが、ハガルの子もおまえの息子だ。　必ずその子孫の国を大きくしてやろう。」
１４　翌朝、アブラハムは早く起きました。　さっそく旅行用の弁当を用意し、水を入れた袋をハガルに背負わせると、息子といっしょに送り出しました。　二人はベエル・シェバの荒野まで来ましたが、どこといって行く先はありません。　ただあてもなくさまようばかりです。１５やがて水も底をつきました。　もう絶望です。　彼女は子供を灌木の下に置き、　１６自分は百メートルほど離れた所に座りました。「とても、あの子が死ぬのを見ていられないわ。」　そう言うと、わっと泣きくずれました。
１７　その時、天から神様の使いの声が響きました。　神様が子供の泣き声を聞きつけたのです。　「ハガルよ、どうしたのだ。　何も恐れることはないのだよ。　あそこで泣いているあの子の声を、神様はちゃんと聞いてくださった。　１８さあ早く行って子供をしっかり抱きしめ､慰めてやりなさい。 必ずあの子の子孫を大きな国にすると約束しよう。」
１９　こう言われて､はっと気がついてみると､なんと井戸があるではありませんか。 大喜びで水を袋の口までいっぱいにし、子供にも飲ませました。　２０２１神様に祝福されて､少年はパランの荒野でたくましく成長し､やがて弓矢の達人になりました。 そして、母親がエジプトから迎えた娘と結婚しました。
２２　この頃のことです。　アビメレク王と軍の司令官ピコルとが、アブラハムのところへ来て言いました。　「あなたは何をしても神様に守られておいでだ。　それは、だれが見てもはっきりしていますな。２３そこで、折り入ってお願いしたい。　私や息子、孫た

ちをだましたりせず、今後もわが国と友好関係を保っていくことを、神様の名にかけて誓ってくれないだろうか。　あなたにはこれまで、ずいぶんよくしてきたはずだが。」
２４　「いいですとも、誓いましょう。」　２５しかし、その時アブラハムは、王の召使がアブラハムの召使を脅して井戸を奪い取ったことで、不服を申し立てました。
２６　「はて、それは初耳ですな。　いったいだれが、そんなことを……。その時すぐ言ってくだされればよかったのに。」
２７　こうして契約を結ぶことになり､アブラハムはそのしるしに､羊と牛を王に与えて、いけにえとしました。
２８２９ところが､彼が雌の子羊を七頭別にとっておいたのを見て､王は尋ねました。「これは、どういうわけかね。」
３０　「実は、この子羊は王様への贈り物です。　これで、この井戸が私のものだということを、はっきりさせようと思いまして。」
３１　そののち、この井戸はベエル・シェバ〔「誓いの井戸」の意〕と呼ばれるようになりました。　王とアブラハムが、そこで契約を結んだからです。　３２そのあと、王と司令官ピコルは、国へ帰りました。　３３アブラハムは井戸のそばに柳を一本植え、そこで神様に祈りました。永遠の神様に〔契約の証人となっていただくため〕です。　３４こうしてアブラハムは、ペリシテ人の国に長いあいだ住むことになりました。
二二
１　しばらくすると、神様はアブラハムの信仰と従順をテストなさいました。
「アブラハム。」
「はい、神様。」
２　「ひとり息子を連れてモリヤへ行きなさい。　そうだ、愛するイサクを連れて行くのだ。 そしてわたしが指定する山の上で､完全に焼き尽くすいけにえとしてささげなさい。」
３　アブラハムは明くる朝はやく起きると、祭壇で燃やすたき木を割り、ろばに鞍をつけて出かけました。　息子イサクと若い召使二人もいっしょです。　４三日目、指定された場所が遠くに見える所まで来ました。
５　「おまえたち二人はろばと、ここで待っていなさい。　わしと息子はあそこへ行き、神様を礼拝してすぐ戻る」と、アブラハムは召使に言いつけました。
６　アブラハムは、完全に焼き尽くすいけにえ用のたき木をイサクに背負わせ、自分は刀と火打ち石を持ちました。　二人はいっしょに歩いて行きました。
７　「お父さん、たき木もあるし、火打ち石もあるけれど、いけにえにする子羊はどこ？」
８　「だいじょうぶ、神様がちゃんと用意してくださるよ。」　二人はどんどん先へ進みます。
９　やがて、命じられた場所に着きました。　アブラハムはさっそく祭壇を築き、たき木を並べました。　あとは火をつけるばかりです。いよいよイサクをささげる時がきたのです。　イサクを縛り上げ、祭壇のたき木の上に横たえました。　１０１１アブラハムは刀

をぎゅっと握りしめ、その手を頭上高く振りかざします。　息子の心臓めがけて刀を振り下ろそうとした、その時です。　神様の使いの声が天から響きました。
「アブラハム！　アブラハム！」
「はい、神様。」
１２　「刀を置け。　その子に手をかけてはならない。　もうわかった。おまえが何よりも神をたいせつに思っていることが、よくわかった。最愛の息子でさえ、ささげようとしたのだから。」
１３　こう言われてふと見ると、雄羊が一頭、木の枝に角を引っかけ、もがいているではありませんか。　「これこそ神様が用意してくださったいけにえだ。」　そう思ったアブラハムは、羊をつかまえ、息子の代わりに、完全に焼き尽くすいけにえとしてささげました。
１４この事があってから、アブラハムはそこをアドナイ・イルエ〔「神様は用意してくださる」の意〕と呼びました。　現在でも、そう呼ばれています。
１５　このあと、神様の使いがもう一度、天から呼びかけました。　１６「おまえはよくわたしの言うことを聞いた。　愛する息子をさえ、わたしにささげようとしたのだ。　神としてわたしは誓う。　１７とても信じられないほどにおまえを祝福し、おまえの子孫をふやそう。　空の星、海辺の砂のように、数えきれないほど大ぜいにな。　おまえの子孫は敵を征服し、　１８世界中の国々に祝福をもたらす。　それはみな、おまえがわたしの言うことを聞いたからだ。」
１９　こうして二人は召使のところへ戻り、ベエル・シェバにあるわが家へ向かいました。
２０－２３このあと、兄弟ナホルの妻ミルカにも子供が八人できたという便りが、アブラハムに届きました。　子供たちの名前は次のとおりです。
長男ウツ
次男ブズ
アラムの父ケムエル
ケセデ、ハゾ、ピルダシュ、イデラフ
それに、リベカの父ベトエル
２４　ナホルにはまた、レウマというそばめの子が四人いました。
テバフ、ガハム、タハシュ、マアカです。
二三
１２さて、サラはカナンの地、ヘブロンにいた時、百二十七歳で死にました。　アブラハムが泣き悲しんだことは言うまでもありません。３思うさま男泣きに泣くと、やがて静かに立ち上がり、妻のなきがらを前に、居合わせたヘテ人に頼みました。
４　「ご存じのように、私はこの国ではよそ者です。　家内が死んでも、いったいどこに葬ったらよいのか……。　ほんのちょっとでけっこうですから、墓地にする土地を売っていただくわけにはまいりませんか。」
５６「どうぞ、どうぞ、遠慮はいりませんよ。　この辺でいちばん上等の墓地を選んでく

ださい。　あなたは信仰心のあつい、ご立派な方だ。　その奥様を葬るお役に立てるなら、私たちにとっても名誉というものです。」
７　なんというありがたい申し出でしょう。　アブラハムは深々と頭を下げました。　８「ご親切に言ってくださり、お礼の申しようもありません。　おことばに甘えて、もしよろしかったら、ツォハルの息子さんのエフロンに、お口添え願えないでしょうか。　９あの人の畑のはずれにある、マクペラのほら穴を売っていただきたいのです。もちろん、相場どおりの代金をお払いします。　そうすれば、家代々の墓地ができます。」
１０　うまいぐあいに、エフロンもそこに居合わせました。アブラハムの願いを聞くと、彼はさっと立ち上がり、一同の前で言いました。　町中の人々の前で、はっきり申し出たのです。　１１「わかりました。　あのほら穴と畑地は、ただで差し上げましょう。　さあ、みんなも聞いただろう。　お金はけっこうです。　ご自由に奥様を葬ってください。」
１２　アブラハムはもう一度人々におじぎをし、１３一同の前でエフロンに答えました。「ただだなんて、それはいけませんよ。　ぜひ売ってください。　代金は耳をそろえてお払いします。　埋葬はそれからにさせてください。」
１４１５「そんなにおっしゃるなら……、ざっと見積もって銀貨四百枚ほどの値打はあると思いますが。　ま、そのくらいの金額なら、友だち同士の間じゃ、どうってこともないでしょう。　それでよろしければ、どうぞ奥様を葬ってください。」
１６　アブラハムは言い値どおり、銀貨四百枚を払いました。それが当時の相場でした。
１７１８これでもう、マムレに近いマクペラにあったエフロンの畑地とそのはずれのほら穴は、アブラハムのものです。もちろん、そこに生えている木も全部です。　町の門で、ヘテ人の証人を前に正式に契約を交わし、アブラハムの財産と認められたのです。１９２０こうして、その土地の所有権はヘテ人からアブラハムに移り、彼はその墓地にサラを葬りました。
二四
１　アブラハムは神様の祝福を一身に集め、何不自由なく暮らしていましたが、もうかなりの老人になりました。　２そんなある日、アブラハムは家を管理させていた最年長の召使に言いました。
３　「天と地を治める神様にかけて誓ってくれ。　わしの息子はカナン人の娘と結婚させてはならん。　４わしの故郷に住む親類のところへ行き、嫁を見つけて来てくれないか。」
５　「そうおっしゃいましても、なにせ、あまりにも遠い所でございます。　ここまで嫁に来ようという娘さんが、いますかどうか……。もし見つからなかったら、どういたしましょう。　イサク様をあちらへお連れ申して、ご親類の方たちといっしょに住むようにいたしましょうか。」
６　「いいや、だめだ。　どんなことがあっても、それだけはできない。　７天の神様から、わしはご命令を受けたのだ。　あの土地と親族から離れるようにとな。　それに、わしと子孫にこの土地を与えるというお約束もある。　そう言われる以上、神様が御使いを

遣わし、どうすればよいか教えてくださるはずだ。　息子の嫁はきっと見つかる。　８だが、どうしてもうまくいかない場合は……、しかたがない、その時は一人で帰って来なさい。　ただ、どんなことがあっても、息子をあそこへ連れて行くことだけはいかん。」
９　召使は、指示どおりにすると誓いました。　１０さっそく、旅行の準備にかからなければなりません。　まず、らくだを十頭選びました。贈り物には、それぞれ最上の物を幾つかより分けました。　それを全部らくだに積み終わると、一行はナホルの住むイラクへ向かったのです。　１１いよいよ目的地に着くという時、アブラハムの召使は、町はずれの泉のそばにらくだを座らせました。　ちょうど夕方で、女たちが水くみに来るところでした。
１２　彼は祈りました。　「主人の信じる神様、どうぞ主人アブラハムに恵みをお与えください。　また、私がこの旅の目的を首尾よく果たせますよう、お助けください。　１３いま私は、この泉のかたわらで、娘たちが水をくみに来るのを待っています。　１４そこで、こうしていただけないでしょうか。　娘さんに水をくださいと頼むつもりですが、その時もし、『ええ、どうぞ。　らくだにも飲ませましょうね』と言ってくれたら、その娘さんこそイサク様の妻となるべき女だ、ということにしてください。　そうすれば、神様のお恵みを知ることができます。」
１５１６このように祈っていると、リベカという美しい娘が水がめを肩にのせ、泉のほとりへやって来ました。　そして、水がめに水をいっぱい入れました。　彼女の父親はベトエルと言い、アブラハムの兄弟ナホルと妻ミルカの息子でした。　１７アブラハムの召使はさっそく走り寄り、水を飲ませてくれと頼みました。
１８　「どうぞ、どうぞ」と、彼女はすぐに水がめを下ろしましたが、彼が飲み終わるのを見はからって、　１９こう言いました。　「そうそう、らくだにもたっぷり飲ませてあげましょうね。」
２０　彼女は水を水槽にあけると、また小走りでくみに行き、　２１らくだに飲ませるのでした。　召使は無言のまま、じっと彼女のかいがいしい仕事ぶりを見守っています。　はたして彼女が捜していた女なのかどうか、見きわめなければなりません。　２２そこで、らくだが水を飲み終わる頃合に、七グラムの金のイヤリングと百四十グラムの金の腕輪を二つ、彼女に与えました。
２３　「つかぬことを伺いますが、お父様のお名前は何とおっしゃるのですか。　それに、できれば、今夜お宅に泊めていただくわけには、まいりませんでしょうか。」
２４　「父はベトエルですの。　ナホルとミルカの息子です。　もちろん、ご遠慮はいりませんわ。　どうぞお泊まりください。　２５らくだのためのわらや餌も十分ありますし、お客様用のお部屋もございます。」
２６　老召使は立ったまま頭を垂れ、その場で神様を礼拝しました。２７「主人アブラハムの信じる神様、ありがとうございます。　なんというお恵みでしょう。　主人への約束を、こんなにもすばらしい方法でかなえてくださるとは。　全く、主人の親類の方にいき

なり会えるとは、思ってもみませんでした。　何もかも神様のお引き合わせです。ほんとうにありがとうございます。」
２８　一方、娘は家へ駆け戻り、家族に客のことを話しました。　２９３０話を聞いた兄のラバンは、イヤリングと腕輪を見ると、大急ぎで泉に駆けつけました。　老人はまだそこにいて、らくだのそばに立っています。　３１「ここにおいででしたか。　お話は伺いましたよ。　これも、神様の特別のおぼし召しに違いありません。　さあさあ、こんな町はずれに立っていないで、どうぞ家へおいでください。　部屋はお越しを待つばかりになっていますし、らくだを休ませる場所もあります。」
３２　勧めに従い、老人はラバンについて行きました。　ラバンはらくだにわらと餌を与え、供の者たちにも足を洗う水を出しました。　３３やがて夕食の時間になりました。　いよいよ話を切り出す時です。「お食事をいただく前に、ぜひともお聞き願いたいことがあります。　どういうわけで私がここにまいったか、その用向きをお話ししなければなりません。」
「かまいませんとも、そのご用向きとやらを伺いましょう」と、ラバンが促します。
３４　「実は、私の主人はアブラハムと申しまして、　３５神様に特別目をかけていただいております。　土地の人々からも大いに尊敬される立派な人です。　家畜も多く、金銀をはじめ、ばく大な財産もあります。　奴隷も大ぜいかかえ、らくだやろばもたくさんいます。
３６　奥様は大へん年をとってからお子さんに恵まれまして、主人は全財産をこの息子さんに譲りました。　３７ところで、主人が申しますには、そのイサク様を土地の女と結婚させてはならない、というのでございます。　３８どうしてもこの遠い国まで来て、ご兄弟の家族の中から花嫁を連れ帰れと、それはもう、きびしいご命令で……。　３９私は万一の時を考えまして、『もしいっしょに来るという娘さんが見つからなかったらどういたしましょう』と尋ねました。　４０すると主人は、そんな心配はいらない、と申します。『いや、必ず見つかる。　これまでわしは神様のおこころに背いたことはない。　大丈夫、神様が御使いを遣わして、必ずうまくいくようにしてくださる。　だから、わしの親類から嫁を見つけて来い。　４１必ずそうすると誓ってもらうぞ。　それでも万一、娘さんをこんな遠くにはよこせない、と断わられたら、その時はしかたがない。　そのまま帰って来てもいい』とまあ、そう申すのでございます。
４２　そんなわけでして、きょうの午後、泉にたどり着いた時、私はこう祈りました。『主人アブラハムの神様、もしも私が使命を無事はたせるようにお助けくださるのでしたら、どうぞこのようにしてください。　４３ちょうど泉のそばにおりますから、水をくみに来る娘さんに、「水を飲ませてください」と頼みましょう。　４４そして、もし娘さんが、「ええ、どうぞ。　らくだにも飲ませましょうね」と答えたら、その娘さんこそ、神様が若だんな様の嫁として選んだ女だ、ということにしてください。』
４５　こうお祈りしている最中に、リベカさんがいらしたのです。　水がめを肩にのせ、

泉に降りると、口までいっぱいに水をくんでいらしたので、『すみませんが、水を飲ませてください』とお願いしました。４６うれしいことに、リベカさんはすぐ水がめを下ろして、飲ませてくださるじゃありませんか。　そればかりじゃありません。　『そうそう、らくだにもたっぷり飲ませましょうね』と言って、そのとおりなさったのです。　４７はやる気持ちをぐっと抑え、私は尋ねました。『失礼ですが、どちらのご家族で？』『ナホル家の者ですの。　父はベトエルといい、ナホルとミルカの息子ですわ』とおっしゃるのを聞いて、もうまちがいないと思いました。　それでさっそく、イヤリングと腕輪を差し上げたわけです。　４８そして頭を垂れ、主人アブラハムの神様のすばらしいお引き合わせに、心からお礼を申し上げました。こんなにも早く、主人のご兄弟と縁続きの娘さんにお会いできるとは、思いもよらなかったものですから……。　４９とまあ、こういうわけなのです。 いかがなものでしょう。 率直にお気持ちをおっしゃっていただけないでしょうか。主人の願いをお聞き届けいただければ、願ってもないことです。　いずれにしましても、ご返事をいただかないことには、どうしようもありません。」
５０　ラバンとベトエルは答えました。　「確かに、神様のお引き合わせに違いありませんな。　とすれば、お断わりするわけにもまいりますまい。　５１どうぞ娘を連れて行ってください。　神様のおぼし召しどおり、ご主人の息子さんの嫁にしてください。」
５２　この答えを聞くと、アブラハムの召使はひざまずいて神様を礼拝しました。　５３それから、純金や純銀の台にはめ込んだ宝石や美しい衣装を取り出して、リベカに与え、母親と兄にも、たくさんのすばらしい贈り物をしたのです。　５４やっと一段落ついたところで夕食をとり、その晩、老召使は供の者たちといっしょに泊まりました。　そして明くる朝はやく、彼は言いました。　「どうもお世話になりました。そうゆっくりもできませんので、主人のところへ帰らせていただきたいのですが。」
５５ 「それはまた急なお話で……。 せめて十日かそこらはよろしいではありませんか。リベカもいろいろ準備があることですし。　これから先、もう会えないかもしれません。ゆっくり名残を惜しんでからにしていただくわけには、まいりますまいか。」 母親と兄は、なんとか引き止めようというのです。
５６　しかし召使は承知しません。　「おことばを返すようですが、やはり帰らせてください。　神様のおかげで用向きも無事はたせたことですし、一刻も早く主人に報告したいのです。」
５７　「そうおっしゃられると、無理も言えませんが……。　ではこうしたらどうでしょう。　あの子を呼んで本人の気持ちを直接聞きましょう。」
５８　二人はリベカを呼び、尋ねました。　「どうだね、今すぐこの方といっしょに行くかね。　それとも？」
「はい、まいります。」
５９　本人が承知した以上、断わる理由もありません。　小さい時からの乳母をつけて送り出すことにしました。　６０別れる時、彼らはリベカを祝福しました。

「妹よ、
数えきれぬほど多くの国民の
母となるように。
おまえの子孫が
すべての敵に打ち勝つように。」
６１こうしてリベカと小間使いの少女たちは、らくだに乗り、老召使といっしょに出発しました。
６２　一方、この時イサクはネゲブに住んでいましたが、ちょうどベエル・ラハイ・ロイから帰って来たところでした。　６３夕暮れ、野原を散歩しながら物思いにふけっていた時です。　ふと目を上げると、らくだの一行が来るのが見えます。　６４リベカも彼に気づき、すぐにらくだから降りました。
６５　「あそこにいらっしゃる方はどなたですの？　私たちを迎えにいらしたのかしら。」「おお、あれは若だんな様でございますよ。」　そう言われて、彼女はあわててベールをかけました。　６６老召使はイサクに一部始終を話しました。
６７　イサクはリベカを、母親が使っていたテントに連れて来ました。こうして二人は結婚し、イサクは妻を心から愛しました。　母親を亡くした悲しみも、妻を得たことで大いに慰められたのでした。
二五
１２さて、アブラハムは再婚しました。　ケトラというのが新しい奥さんの名で、子供も何人か生まれました。
ジムラン、ヨクシャン、メダン、ミデヤン、
イシュバク、シュアハです。
３ヨクシャンには、シェバとデダンという二人の息子ができました。デダンの子孫は、のちにアシュル人、レトシム人、レウミム人となりました。　４ミデヤンの子はエファ、エフェル、エノク、アビダ、エルダアです。
５　アブラハムは全財産をイサクに譲りました。　６しかし、そばめの子供たちを放っておいたわけではありません。　それぞれに贈り物を与えて東の国へ行かせ、イサクから遠く引き離したのです。　７８アブラハムの老後はしあわせでした。　天寿を全うし、百七十五歳で死にました。　９１０息子イサクとイシュマエルが、マムレに近いマクペラのほら穴に葬りました。　アブラハムがヘテ人ツォハルの息子エフロンから買い求めた、あの土地、アブラハムの妻サラを葬った所です。
１１　アブラハムの死後、神様の祝福はイサクに向けられました。　イサクはネゲブのベエル・ラハイ・ロイの近くに移りました。
１２－１５サラの女奴隷だったエジプト人ハガルとアブラハムとの子イシュマエルにも、子供ができました。　生まれた順に名前をあげると、次のとおりです。
ネバヨテ、ケダル、アデベエル

ミブサム、ミシュマ、ドマ
マサ、ハダデ、テマ
エトル、ナフィシュ、ケデマ
１６この十二人は十二部族の先祖となり、各部族には、めいめいの名がつけられました。
１７イシュマエルは百三十七歳で死に、先に死んだ者の仲間入りをしました。　１８イシュマエルの子供たちは、東はハビラから、西はエジプトとの国境を北東のアッシリヤ方面に少し行ったシュルに至る地域に住み、兄弟同士で戦争に明け暮れていました。
１９　イサクの子供たちはどうでしょう。　２０イサクが、パダン・アラムに住むアラム人ベトエルの娘で、ラバンの妹リベカと結婚したのは、四十歳の時でした。　２１イサクは、リベカに子供ができるようにと、神様に祈りました。　結婚して何年もたつのに、なかなか子供ができなかったからです。　ようやく彼女は妊娠しました。　２２ところが、まるで二人の子供がお腹の中でけんかしているような痛さなのです。
「とてもつらくて、我慢できないわ」と、リベカはこぼしました。あまりの痛さに、どうなることかと心配で、神様に祈ったほどです。
２３　神様の答えはこうでした。「おまえのお腹にいる二人の子供は、二つの国となり、互いにライバルとなる。　そして一方がより強くなり、兄は弟に仕える。」
２４　言われたとおり、ふたごが生まれました。　２５最初の子は体中が赤い毛でおおわれ、まるで毛皮を着ているみたいだったので、エサウ〔「毛」の意〕と名づけました。　２６次に生まれた弟はエサウのかかとをつかんでいました。　そこでヤコブ〔「つかむ人」の意〕と呼ばれました。　ふたごが生まれた時、イサクは六十歳でした。
２７　やがて子供たちは成長し、エサウは腕のいい猟師となりましたが、ヤコブのほうは穏やかな性格で、家にいるのが好きでした。　２８イサクのお気に入りはエサウです。　鹿の肉をよく持って来たからです。リベカはヤコブのほうをかわいがりました。
２９　ある日ヤコブがシチューを作っていると、エサウが疲れきった様子で猟から帰って来ました。
３０　「あーあ、腹ぺこで死にそうだ。　その赤いやつを一口くれよ。」このことから、エサウは「エドム」〔「赤い物」の意〕とあだ名されるようになりました。
３１　「ああ、いいよ。　兄さんの持ってる長男の権利と引き換えならな。」
３２　「今にも飢え死にしそうなんだぜ。　長男の権利なんか何の役に立つんだい。」
３３　「そんなら兄さん、その権利をぼくに譲るって、神様の前で誓ってくれよ。」
言われたとおりエサウは誓い、長男の権利を弟に売り渡しました。３４わずかばかりのパンと豆のシチューと引き換えにです。　エサウはお腹いっぱい食べることしか頭にありません。　長男の権利のことなど、軽べつしていたのです。
二六
１　ところで、そのころ、国中がひどいききんに見舞われました。　アブラハムの時代にあったのと同じような、大ききんです。　それでイサクは、ペリシテ人の王アビメレクが

住むゲラルの町に移りました。
２　神様はそこでイサクに現われました。　「エジプトへ行ってはいけない。　３この国にとどまりなさい。　わたしがついているから心配はない。　おまえを祝福しよう。　おまえの父アブラハムに約束したとおり、この地をおまえとおまえの子孫に与えよう。　４おまえの子孫を空の星のようにふやし、この地を全部与える。　彼らは世界中の国々の祝福のもととなる。　５それもみな、アブラハムがわたしの命令とおきてに従ったからだ。」
６　イサクはゲラルに滞在することにしました。　７それはいいのですが、リベカはどうしたものでしょう。　町の男たちに何と説明したらいいでしょう。　思案のあげく、「あれは妹ですよ」と言うことにしました。　もし妻だと言えば、だれかが彼女に目をつけ、手に入れたいと思った時、自分が殺されるかもしれません。　それほどリベカは美しかったのです。　８それからしばらくしてのことです。　ペリシテ人の王アビメレクは、たまたま、イサクがリベカを愛撫しているのを、窓越しに見てしまいました。
９　アビメレク王はすぐさまイサクを呼びつけました。「あの女はおまえの妻だな。　なぜ妹だなどと嘘をついたっ！」
「いのちが惜しかったのです。　だれかが私を殺して妻を奪おうとするんじゃないかと、心配で心配で……。」
１０　「全く、よくもあんな嘘がつけたものだ。　もしだれかが暴行を加えでもしたら、どうするつもりだったのか。　そうなったら、さばかれるのはわれわれのほうだからな。」
１１そこでアビメレク王は布告を出しました。　「この者とその妻とに危害を加える者は死刑に処す。」
１２　その年、イサクの畑は大豊作でした。　まいた種の百倍も収穫があったのです。　まさに神様の祝福のおかげです。　１３それからは裕福になる一方で、たちまち大金持ちになりました。　１４羊や山羊のおびただしい群れ、ばく大な数の牛、そして大ぜいの召使……、全部イサクのものです。　ペリシテ人はおもしろくありません。　１５それで、いやがらせに、彼の井戸を片っぱしから埋めてしまいました。　彼の父アブラハムの使用人たちが掘った井戸ぜんぶをです。
１６　アビメレク王はイサクに、国から立ち去ってほしいと頼みました。「どこかよその土地に行ってくれないか。　あなたは大へんな金持ちだ。　今ではもう、われわれなど歯が立たないほどの力を持っている。」
１７　イサクは町を引き払い、ゲラルの谷間に住みつきました。　１８そして父アブラハムの井戸、父の死後ペリシテ人が埋めてしまったあの井戸を、もう一度ほりました。　井戸の名前も、父親が以前つけたのと同じにしました。　１９イサクの羊飼いたちも、ゲラルに新しい井戸を一つ掘り、勢いよく水があふれる泉を発見しました。
２０　すると、土地の羊飼いたちが来て、自分たちのものだと主張しました。　「ここはおれたちの土地だ。　だから井戸もおれたちのものさ」と、イサクの羊飼いたちに言いがかりをつけたのです。　イサクはその井戸を、「エセク」〔「言い争いの井戸」の意〕と名

づけました。　２１イサクの羊飼いたちは別の井戸を掘りましたが、その井戸の所有権をめぐって、またまた争いが起きました。　しかたがありません。　それを「シテナ」〔「怒りの井戸」の意〕と名づけ、　２２あきらめて、また新しいのを掘りました。　土地の人たちも、今度ばかりは文句のつけようがありません。　そこで「レホボテ」〔「広々とした場所の井戸」の意〕と名づけ、こう言いました。　「とうとう神様は、広々とした場所を与えてくださった。　もう大丈夫だ。　これからはうまくいくぞ。」
２３　さて、イサクがベエル・シェバに行った時のことです。　２４その夜、神様が現われました。　「わたしはおまえの父アブラハムの神である。　恐れてはいけない。　わたしはおまえと共にいておまえを祝福する。　子孫をふやし、大きな国にしよう。　わたしに聞き従ったアブラハムへの約束どおりにな。」　２５イサクは祭壇を築き、神様を礼拝しました。　そして、そこに住むことにしたので、使用人たちは井戸を掘りました。
２６　ある日、イサクのところにゲラルから客が来ました。　アビメレク王が、顧問のアフザテと軍の司令官ピコルとを連れて来たのです。
２７　「どういうご用向きですか。　ま、あまりいい話じゃないでしょうがね。　なにしろ、あんなひどい仕打ちをして、私を追っ払ったのですからな。」
２８　「まあ、そうおっしゃらず……。　いや、ほかでもありませんがね、あなたは実に恵まれた人だ。　神様に祝福されていることがよくわかりますよ。　それで、お互い条約を結んだらどうかと思ったわけです。　２９私たちに危害を加えないと約束してください。私たちも今まで、あなたに危害を加えなかったのですからな。　むしろ好意的にやってきたつもりだが。　あの時だって、武力をふるったわけでなし、納得ずくで国を出てもらったことだし……。　それはそれとして、私たちも神様の名によってあなたを祝福しますよ。」
３０　そこでイサクは、ごちそうを作って一行をもてなしました。　食事を共にするのは、条約を結ぶ準備でもあったのです。　３１明くる朝起きるとすぐ、彼らは不可侵条約を結び、厳粛な誓いを交わしました。こうして一行は、イサクに見送られて国へ帰りました。
３２　ちょうどその日、イサクの使用人たちが来て、「ようやく水が出ました」と報告しました。　井戸を掘っているところだったのです。３３そこでイサクは、その井戸を「シブア」〔「誓いの井戸」の意〕と名づけました。　そこにできた町も「ベエル・シェバ」〔「誓い」の意〕と呼ばれることになり、今でもその名が通用しています。
３４　ところで、話は飛びますが、エサウは四十歳でヘテ人ベエリの娘エフディテと結婚し、またヘテ人エロンの娘バセマテも妻にしました。３５この結婚は、両親のイサクとリベカには悩みの種でした。
二七
１　イサクは年をとり、目がほとんど見えなくなりました。　そんなある日、長男のエサウを呼んだのです。
「エサウかい？」
「はい。　何ですか、お父さん。」

２‐４「わしももう年だ。　いつお迎えが来るかわからない。　これから鹿を捕って来てくれないか。　わしの好きな鹿肉料理、知ってるな。　あの、実にうまい、何とも言えない味のやつだ。　あれを作って持って来てくれ。　死ぬ前に、長男のおまえを祝福したいのだ。」
５　ところが、二人の話をリベカが盗み聞きしていたのです。　６７エサウが鹿を捕りに出かけてしまうと、彼女はヤコブを呼び、一部始終を話しました。
８‐１０「さあ、言うとおりにするんですよ。 群れの中から子やぎを二頭引いておいで。 お父さんの好きな料理を作らなくっちゃね。　それをお父さんのところへ持ってお行き。 食べ終わったら、お父さんは亡くなる前に、エサウではなく、おまえを祝福してくださるよ。」
１１１２「だけどお母さん、そんなに簡単にだませやしませんよ。　第一、兄さんは毛深いのに、ぼくの肌はこんなにすべすべだ。　お父さんがさわったら、すぐばれてしまう。 そのあげく、お父さんはばかにされたと思って、祝福するどころか、のろうに決まってますよ。」
１３　「もしそんなことになったら、私が代わりにのろいを受けます。今は言うとおりにすればいいのよ。　さあ、何をぐずぐずしてるの。早く山羊を引いておいで。」
１４　ヤコブは言われたとおりにしました。　連れて来た子やぎで、リベカは夫の好物の料理を作りました。　１５それから、家の中に置いてあったエサウのいちばん良い服を出して、ヤコブに着せました。　１６また、山羊の毛皮で手袋を作って渡し、首の回りにも毛皮を巻きました。１７あとは、おいしそうなにおいのしている肉と焼き立てのパンを渡して、準備完了です。　１８ヤコブは内心びくびくしながら、皿を持って父親の寝室に入りました。
「お父さん。」
「何だね。　その声はエサウかい？　それともヤコブかい？」
１９　「長男のエサウですよ。　お父さんのおっしゃるとおりにしました。　ほら、お父さんが食べたがってたおいしい鹿の肉ですよ。　床の上に座って食べてください。　そのあとで、ぼくを祝福してください。」
２０　「そりゃあまた、ずいぶん早く鹿をつかまえたもんだな。」
「ええ、神様がすぐ見つかるようにしてくださったんですよ。」
２１　「それはそうと、ちょっとこっちへおいで。　ほんとうにエサウかどうか、さわって確かめるからな。」
２２　そばへ行ったヤコブを、イサクは手でなで回しながら、ひとり言のようにつぶやきます。
「声はヤコブそっくりだが、この手はどう考えてもエサウの手だ。」
２３　まんまと計略にひっかかりました。　もう祝福はこっちのものです。
２４　「おまえ、ほんとうにエサウかい？」

「ええ、もちろんですとも。」
２５　「じゃあ鹿の肉を持っておいで。　それを食べて、心からおまえを祝福しよう。」
ヤコブが料理を持って来ると、イサクは喜んで食べ、いっしょに持って来たぶどう酒も飲みます。
２６　「さあここへ来て、わしにキスしてくれ。」
２７‐２９ヤコブは父のそばへ行き、頬にキスをします。　イサクは息子の服のにおいをかぎ、ついにエサウだと思い込むのです。
「わが子の体は､神様の恵みをたっぷりいただいた大地と野原の快いにおいでいっぱいだ。神様がいつも十分な雨を降らせ、豊かな収穫と新しいぶどう酒を与えてくださいますように。　たくさんの国がおまえの奴隷となるだろう。　おまえは兄弟たちの主人となる。　親類中がおまえに腰をかがめ、頭を下げる。　おまえをのろう者はみなのろわれ、おまえを祝福する者はすべて祝福される。」
３０　イサクがヤコブを祝福し、ヤコブがまさに部屋を出ようとした時、エサウが狩りから戻りました。　３１彼もまた父の好物の料理を用意し、急いで持って来たのです。
「さあさあ､お父さん､鹿の肉を持って来ましたよ。　起き上がって食べてください。　そのあとで、約束どおりぼくを祝福してください。」
３２　「何だと、おまえはいったいだれだ。」
「いやだなあ、ぼくですよ。　長男のエサウですよ。」
３３　なんということでしょう。　イサクは見る間にぶるぶる震えだしました。
「じゃあ、ついさっき鹿の肉を持って来たのはだれだったのだ。わしはそれを食べて、その男を祝福してしまった。　いったん祝福した以上、今さら取り消すことはできない。」
３４　あまりのショックに、エサウは気が動転してしまいました。　わあわあ泣きわめくばかりです。
「そんな、ひどいですよ、お父さん。　ぼくを、ぼくを祝福してください。　ね、後生だから。」
３５　「かわいそうだが、聞いてやれないな。　おまえの弟がわしをだましたのだ。　そして、おまえの祝福を奪ってしまった。」
３６　「ふん、ヤコブのやつめ、全く名前どおりだぜ。　『だます者』〔ヤコブという名には、この意味もある〕とは、よく言ったもんだ。　やつは長男の権利も奪った。　それじゃ足りず、今度は祝福を盗んだってわけか。　お父さん、念のため聞きますが、祝福し残したことは、一つもないんですか。」
３７　「すまんが、わしはあれを、おまえの主人にしてしまった。　おまえばかりじゃない。　ほかの親類の者もみな、あれの召使になるようにと祈った。　穀物やぶどう酒が豊かに与えられるとも保証してしまったし……、ほかにいったい何が残っているというのだ。」
３８　「それじゃあ、ぼくにはもう何も祝福が残っていないとおっしゃるのですか。　あ

んまりだ、お父さん。　何とかならないんですか。　ねえ、ぼくも祝福してくださいよ。」イサクは何と言ってよいかわかりません。　エサウは泣き続けます。
３９４０「おまえは一生苦労が絶えないだろう。　自分の道を剣で切り開いていかなければならないからな。　しばらくは弟に仕えるが、結局はたもとを分かち、自由になるだろう。」
４１　このことがあってから、エサウは、ヤコブの仕打ちを根に持つようになりました。「おやじも長いことはない。　そうなったら見てろ、ヤコブのやつ、必ず殺してやるからなっ！」　４２ところが、このたくらみは感づかれてしまったのです。　直ちに、リベカのところにその報告がきました。　リベカは急いでヤコブを呼びにやり、エサウがいのちをねらっていることを教えました。
４３　「いいね、カランのラバン伯父さんのところへ逃げるんだよ。　４４ほとぼりが冷めるまで、しばらくやっかいになるといいよ。　４５そのうち兄さんも、おまえのしたことを忘れるでしょう。　そうなったら知らせるからね。　一日のうちに息子を二人とも失うなんて、とても耐えられないわ。」
４６　そして、夫のイサクにうまく話を持ちかけました。　「このあたりの女には我慢なりませんの。　もう見るのもうんざり。　ヤコブがこの土地の娘と結婚するくらいなら、死んだほうがましですわ。」
二八
１　そこで、イサクはヤコブを呼び寄せ、祝福して言いました。　２「おまえはカナン人の女と結婚してはいけないよ。　パダン・アラムに、ベトエルといってな、おまえのおじいさんの家がある。　そこへすぐ行きなさい。　ラバン伯父さんのところの娘と結婚するのだ。　３全能の神様がおまえを祝福し、たくさんの子供を授けてくださるように。　たくさんの部族を持つ大きな国にしてくださるように。　４おじいさんのアブラハムに約束されたすばらしい祝福が、おまえと子孫に受け継がれるように。　わしらは今ここでは外国人だが、おまえの代にこの地を手に入れることができるように祈る。　神様がおじいさんに約束されたようにな。」
５　こうしてイサクは、ヤコブをパダン・アラムのラバンのもとへやりました。　アラム人ベトエルの息子ラバンは、リベカの兄で、ヤコブには伯父にあたります。
６‐８エサウは、父親が土地の女を快く思っていないこと、そして両親が、ヤコブを祝福したうえでパダン・アラムへやったことを知りました。　ヤコブの結婚相手をカナン人の女からではなく、パダン・アラムで見つけるためでした。　ヤコブも両親の言いつけどおり出発したというのです。　９それでエサウは、イシュマエル伯父の家へ行き、今いる妻のほかに、さらに妻をめとりました。 その人は、アブラハムの息子イシュマエルの娘で、ネバヨテの妹マハラテでした。
１０　さて、ヤコブはベエル・シェバを出発し、カランへ向かいました。１１とある所まで来ると、日はとっぷり暮れ、野営しなければなりません。　あたりに転がっている石を

枕に、ごろっと横になりました。１２その晩のことです。　不思議な夢を見ました。　天までも届く階段がそびえ、神様の使いが上ったり降りたりしているのです。
１３　ふと見ると、神様がそばに立っておられます。　「わたしは神、アブラハムの神、おまえの父イサクの神である。 おまえがいま寝ている土地はおまえのものだ。 それを、おまえとおまえの子孫に与えよう。　１４子孫は地のちりのように多くなり、東西南北、あらゆる方角へ増え広がり、この地全体に住みつくだろう。　おまえとおまえの子孫によって、世界中の国々が祝福される。　１５おまえがどこへ行こうと、わたしはいつも共にいて、おまえを助ける。　無事この地に帰れるように、必ず守ってやる。　約束のものを全部わたすまで、いつでも共にいてやろう。」
１６１７そこで目が覚めました。　「神様はここにもおられる。　知らないうちに神様の家に入り込んでいたのだ。　ここは恐れ多くも天国への入口なのだ。」　ヤコブはこわくなって思わず叫びました。　１８明くる朝はやく起き、枕にした石を立てて記念の柱とし、オリーブ油を注ぎかけました。　１９そして、そこをベテル〔「神様の家」の意〕と名づけました。　そのあたりは以前、ルズと呼ばれていたのです。
２０　ヤコブは神様に誓いました。　「神様、もし神様がこの旅行でわたしを助け、守ってくださり、衣食にも不自由させず、　２１無事に父の家に帰してくださるなら、神様を私の神といたします。　２２この記念の柱を礼拝の場所とし、神様からいただいた物の十分の一は、きちんとお返しいたします。」
二九
１　ヤコブはさらに旅を続け、とうとう東の国へ着きました。　２そこは広々した野原です。　井戸のそばに羊の群れが三組寝そべっています。　井戸の口には重い石のふたがかぶせてあります。　３群れが全部そこに集まるまで石のふたははずさないのが、この地方の習慣でした。　水をやったあとは、また元どおり石でふたをしておきます。　４ヤコブは羊飼いたちに近づき、どこに住んでいるか尋ねました。
「カランだよ。」
５　「では、ナホルの孫でラバンという人をご存じでは？」
「ラバンだって？　ああ、よく知ってるよ。」
６　「そうですか。　で、その方はお元気ですか。」
「元気だとも。　何もかもうまくいってるしね。　ああ、ちょうどよかった。　ほら、あそこに羊を連れて来る娘、あれがお嬢さんのラケルだ。」
７　「いやー、助かりました。　ところで余計なことかもしれませんが、羊に早く水をやって、草のある所へすぐ帰してやらなくていいんですか。　こんなに早く草を食べさせるのをやめたら、腹をすかせませんかね。」
８　「羊や羊飼いがみな集まるまで、ふたは取らない決まりでね。それまで水はおあずけというわけですよ。」
９　話をしている間に、ラケルが父の羊を連れて来ました。　彼女は羊飼いなのです。　１

０彼女が伯父の娘で、従姉妹にあたり、羊はその伯父のものだとわかったので、ヤコブは井戸へ行き、石のふたをはずし、羊に水を飲ませました。　１１それから、ラケルにキスしました。あまりうれしくて気持ちが高ぶり、とうとう泣きだしたほどです。１２１３そして、自分は彼女の叔母リベカの息子で、彼女には父方の従兄弟にあたる、と説明したのです。　ラケルはすぐ家へ駆け戻り、父親に報告しました。　ヤコブが来たのです。　すぐ迎えに行かなければなりません。　ラバンは取る物も取りあえず駆けつけ、大歓迎で家へ案内しました。　ヤコブは伯父に、今までのことをいろいろ語り、話は尽きません。
１４　「いやー、うれしいなあ。　甥のおまえがはるばるやって来てくれたんだからな。」ラバンも喜びを隠せません。
ヤコブが来てから、かれこれ一か月が過ぎたある日のこと、　１５ラバンが言いました。「甥だからって、ただで働いてくれることはないよ。　遠慮するな。　給料はどのくらいほしいかね。」　１６ところで、ラバンには二人の娘がありました。　姉がレア、妹がラケルです。１７レアは弱々しい目をしていましたが、ラケルのほうはスタイルもよく、なかなかの美人でした。　１８そんなわけで､ヤコブはラケルが好きになってしまったのです。そこでラバンに言いました。　「もしラケルさんを妻にいただけるなら、七年間ただで働きます。」
１９　「いいだろう。　一族以外の者と結婚させるより､おまえにやるほうがいいからな。」
２０　ヤコブは、ラケルと結婚したい一心で、七年間けんめいに働きました。　心から深く愛していたので、七年などあっという間でした。２１ついに、結婚できる時がきました。「さあ、やることはみなやりましたよ。　約束どおりラケルをください。　彼女といっしょにさせてください。」
２２　ラバンは村中の人を招いて大そうな祝宴を開き、ヤコブと喜び合いました。　２３ところがその夜、暗いのをさいわい、ラバンはレアをヤコブのところに連れて行ったのです。　ヤコブはそんなこととは露知らず、レアといっしょに寝ました。　２４ラバンはレアに、奴隷の少女ジルパを召使として付けてやりました。　２５朝になりました。　ヤコブは目を覚まして隣を見ると、レアがいるではありませんか。　びっくり仰天してしまいました。
憤まんやる方ありません。　ラバンのところへ行き、食ってかかりました。　「なんてひどいことをするんですかっ！　ラケルと結婚したいばっかりに、ぼくは七年も骨身を惜しまず働いたんですよ。　そのぼくをだますなんて、いったい全体どういうことなんです、ええっ！」
２６　「まあまあ、気を落ち着けて。　悪かったが、私たちのところじゃ、姉より先に妹を嫁にやることはしないのだよ。　２７一週間このままで我慢してくれたら、ラケルもやろう。　ただし、もう七年間ここで働いてもらうということにしてな。」　こううまく言い抜けられては、しかたありません。
２８　ヤコブはさらに七年働くことにしました。　それでやっと、ラケルと結婚できたの

です。　２９ラケルは奴隷の少女ビルハを召使として連れて来ました。　３０ヤコブはラケルと床を共にしました。　やはり、レアよりも彼女のほうを愛していました。　そのため、あと七年も余計に、ラバンのもとで働くはめになったのです。
３１　ヤコブがレアに冷たくするので、神様は彼女に子供を授けてくださいました。　ラケルには子供はありません。　３２最初の子は男の子でした。　名前はルベン〔「私の息子を見てください」の意〕です。　レアが、「神様は私の苦しみをわかってくださったわ。　子供ができたんだから、あの人もきっと私を愛してくれるでしょう」と言ったからです。３３次の子も男の子でした。　名前はシメオン〔「神様は聞いてくださった」の意〕と言います。　彼女が、「神様は私が愛されていないと知って、子供をもう一人与えてくださったのだわ」と言ったからです。　３４三人目の子供ができました。　今度も男の子です。　名前はレビ〔「結びつく」の意〕とつけました。　彼女が、「三人も男の子を産んだのだから、今度こそ愛してもらえるに違いないわ」と言ったからです。　３５また子供ができました。男の子です。　名前はユダ〔「ほめたたえる」の意〕としました。　それは彼女が、「今こそ神様をほめたたえましょう」と言ったからです。　そのあと、彼女には子供ができませんでした。
三〇
１　一方、ラケルは子供ができないので、姉に嫉妬するようになりました。　そしてとうとう、「ねえ、なんとかしてくださいな。　私も子供が欲しいのよ。　でないと、死んでしまいそうだわ」と、ヤコブに泣きついたのです。
２　ヤコブはすっかり腹を立てました。　「何だって？　おれは神様じゃないぞ。　おまえに子供ができないのは、神様がそうしておられるからだろう。」
３　「そう、じゃあ召使のビルハと寝てください。　あの子にあなたの子供ができたら、私の子供にするわ。」　４こうして、ヤコブはビルハをそばめとしました。　５やがてビルハは男の子を産みました。６ラケルは、「神様は正義を行なってくださったわ。　願いどおり息子を下さったのですもの」と言って、その子をダン〔「正義」の意〕と名づけました。７ラケルの召使ビルハは、二人目の男の子を産みました。　８ラケルは、「死に物狂いの争いだったけど、とうとう姉さんに勝ったわ」と言って、その子をナフタリ〔「争い」の意〕と名づけました。
９　一方レアは、もう子供が産めなくなったので、召使のジルパをヤコブのそばめにしました。　１０１１やがて、ジルパは男の子を産み、レアはその子をガド〔「運が開ける」の意〕と名づけました。
１２　ジルパはまた男の子を産み、　１３レアは、「私はしあわせ者だわ。ほかの女たちもきっとそう思うでしょうね」と言って、その子にアシェル〔「幸福」の意〕という名をつけました。
１４　さて、麦の取り入れが始まったある日のこと、ルベンが野原で恋なすび〔果実に強い麻酔性のある薬用植物で、食べるとみごもると信じられていた〕を見つけ、母親のとこ

ろへ持って来ました。　ラケルは黙っていられません。　レアに、少し分けてくれるよう頼みました。
１５　それには、レアも腹を立てました。　「夫を盗んだだけじゃ不足なの？　息子が見つけて来た恋なすびまで取り上げるなんて、あんまりじゃない。」
ラケルは複雑な気持ちです。　「なら、こうしましょうよ。　恋なすびをくれれば、今夜あの人といっしょに寝てもいいわ。」
１６　夕方、畑から戻ったヤコブを、レアが出迎えました。　「今夜は私のところへ来てくださいね。 ルベンが見つけた恋なすびをラケルにやった交換条件ですから。」 彼はそうしました。　１７神様はレアの祈りに答え、五人目の男の子を授けてくださいました。
１８彼女は、「夫に女奴隷を与えたので、神様が報いてくださったのだわ」と大喜びです。そこで、その子の名前はイッサカル〔「報酬」の意〕となりました。　１９その後また、六人目の男の子が生まれました。　２０名前はゼブルン〔「贈り物」の意〕にしました。　彼女が、「神様はあの人がいちばん喜ぶ贈り物をくださったわ。 六人も男の子を産んだのですもの、今度こそ、あの人も私をたいせつにしてくれるでしょう」と言ったからです。　２１そのあと、今度は女の子が生まれました。　名前はディナです。
２２　神様はラケルを忘れたわけではありません。 ラケルの苦しみを見て、祈りに答え、男の子をお与えになりました。　２３２４男の子が生まれた時、彼女は、「神様は私の恥をすすいでくださったわ」と言い、ヨセフ〔「もう一人、子供が授かるように」の意〕と名づけました。　「男の子をもう一人授けてください」と願ったからです。
２５　ヨセフが生まれてしばらくすると、ヤコブは出し抜けにラバンに言いました。「そろそろ国へ帰りたいんですがね。　２６もちろん妻と子供たちもいっしょです。　どんなものでしょう。　それだけのことはしたつもりですよ。　こんなに長い間、お義父さんのために身を粉にして働いたんですからね。」
２７　「そんなこと言わず、ここにいてくれないか。　実はな、占い師に見てもらったんだ。　そしたら、わしがこんなに恵まれてるのは、全部おまえのおかげだと言うじゃないか。　２８給料が不足なら、上げてやってもいいぞ。　いくら欲しい？　ここにいてくれるなら、喜んで出そうじゃないか。」
２９　「ご承知のように、私は長年お義父さんのために忠実に働きました。　それで、ここの家畜がこんなに増えたんです。　３０私が来たばかりの時は、財産と言ってもほんの少ししかなかったのに、今は大したものじゃないですか。　それというのも、神様が、私のすることは何もかも祝福してくださったからですよ。　それなのに、当の私はどうでしょう。　いつまでたっても財産なんかできやしません。」
３１３２「で？　いくら欲しいのかね。」
「条件は一つだけです。　それさえのんでもらえれば、また喜んで働きますよ。　きょう、お義父さんの群れの番をしますが、まだらや、ぶちのある山羊と、黒い羊は、ぜんぶ別にしますから、それを私に下さい。　３３あとで、もし私の群れの中に白い山羊や羊が一匹

でもいれば、お義父さんのものを盗んだことになる、というわけです。」
３４　「いいだろう。　おまえの言うとおりにしよう。」
３５３６さっそく、ラバンは外に出て、ヤコブのために家畜の群れを分けました。　雄でも雌でも、ぶちや、しまのある山羊、つまり黒の中に少しでも白い部分のある山羊と、黒い羊ばかりの群れができました。　それがヤコブのものです。　ラバンはヤコブの息子たちにその群れを飼わせることにして、三日ほどかかる所へ連れて行かせました。　ヤコブはあとに残って、ラバンの群れの世話です。　３７彼はまず、ポプラ、アーモンド、プラタナスの若枝を切り、皮をむいて白い肌を出しました。　３８それを、群れが水を飲みに来たとき自然に見えるように、水飲み場のそばに置きました。　家畜は水を飲みに来たとき交尾するので、　３９４０そうしておくと、白いすじのある枝を見ながら交尾することになります。　その結果、ぶちや、すじのある子が生まれるのです。　それはみな、ヤコブのものになりました。　次に、ラバンの群れから雌羊を取り出し、自分の黒い雄羊とだけ交尾させるようにしました。　ヤコブの群れは増える一方です。　４１そればかりではありません。　彼は、力の強そうなのが交尾している時は、皮をむいた枝をそばに置き、４２弱そうなのが来た時は、置かないようにしたのです。　それで、あまり丈夫でない子羊はラバンのものとなり、丈夫なのはヤコブのものとなりました。　４３当然、ヤコブの群れはどんどん増え、彼は今や大金持ちです。　召使も大ぜいかかえ、らくだやろばも増えました。
三一
１　しかし、そのまますむわけはありません。　ラバンの息子たちが不平を言いだしたのです。　「あいつの財産は、元はと言えば家のおやじのものじゃないか。　おやじが犠牲になって、あいつを金持ちにしたようなものだ。」　２そうこうしているうちに、ラバンの態度も変によそよそしくなってきました。
３　神様がヤコブに国へ帰れと命じたのは、その時です。　「おまえの先祖の国、親族のところへ帰りなさい。　わたしがついているから心配はいらない。」
４　ヤコブはラケルとレアに使いをやり、自分がいま群れを飼っている所まで来るように言いました。　５そこで相談するためです。
「お義父さんの様子が近ごろどうも変なのだ。　だが心配することはないぞ。　きょう、ご先祖の神様のお告げがあったのだ。　６おまえたちも知っているように、私はお義父さんのために、今まで一生けんめい働いてきた。　７ところが、お義父さんのほうじゃ、私のことなどちっとも考えてくれない。　給料のことだって、何度も何度も約束を破ったしな。　これまで無事にやってこれたのは、ひとえに神様が助けてくださったおかげだと思うよ。　８ぶちの群れを私にくれると言えば、ぶちの子ばかり生まれた。　それを見て気が変わり、しまのついているのを取れと言うと、生まれる羊は全部しまがついていた。　９ま、お義父さんには気の毒だったが、こういうふうに、神様が私を豊かにしてくださったのだ。

１０　あれは、家畜の群れが交尾する時期だったな。　夢を見たんだ。その中で交尾している雄やぎは、しま、ぶち、まだらのものばかりだった。　１１それから、神様の使いが言われたのだ。　１２しまや、ぶちのある雄やぎを白い雌といっしょにさせろ、とな。　続いてこうも言われた。『ラバンがおまえにどんな仕打ちをしたか全部わかっている。　１３わたしはおまえとベテルで出会った神だ。　そこでおまえは柱に油を注ぎ、わたしに仕えると約束した。　さあ今この国を出て、生まれ故郷へ帰りなさい。』」
１４　ラケルとレアは答えました。　「私たちのことなら心配なさらないで。　どうせここにいたって、自分のものなんかありませんもの。お父さんの財産だって分けてもらえないでしょうよ。　１５これじゃあまるで、外国人の女と変わりないわ。　言ってみれば、お父さんは私たちを売ったのよ。　あげくの果ては、売ってもうけたお金を、すっかり使い果たしてしまったというわけね。　１６神様がお父さんから取り上げ、あなたに下さった財産は、法律的にはもともと私たちのものですもの。　どうぞ神様のご命令どおりにしてくださいな。　遠慮はいりませんわ。」
１７‐２０それで、ある日、ラバンが野原で羊の毛を刈っていた時、ヤコブは妻と子供たちをらくだに乗せ、黙って出発してしまいました。　その時、ラケルは、どさくさにまぎれて父親の守り神を盗み出しました。　一行の先頭は、パダン・アラムで手に入れた、羊、山羊など家畜の群れです。　そのほか全財産を持って、カナンの地にいる父イサクのもとへ帰ろうというのです。　２１こうして、逃げるようにしてユーフラテス川を越え、ギルアデの地へ向かいました。　２２ラバンがそのことを知ったのは、三日後でした。　２３あわてて数名の男を連れ、あとを追いました。　七日後、ようやく追いついた時は、ギルアデの山地まで来ていました。　２４その夜のことです。　神様が夢の中でラバンに現われました。
「ヤコブにものを言う時は気をつけなさい。　かってに祝福したり、のろったりしてはいけない。」　２５ヤコブが山地で野営していた時、ラバンはようやく追いつき、自分たちもテントを張りました。
２６　「こそこそ逃げ出すとは、いったいどういうことだね。　それも、わしの娘たちまでこんなふうに追い立てるようにして。　それとも何かね、娘を戦争で奪った捕虜だとでも思っているのか。」　ラバンはヤコブをなじりました。　２７「別れの歌でもうたって名残を惜しみ、快く送り出すこともできたのに……。　２８孫たちに別れのキスさえさせてくれない。　これじゃ、あんまりひどすぎる。　こんなやり方はないぞ。　２９そうしようと思えば、お返しにおまえを痛めつけることだってできるんだ。　だがな、ゆうべ、おまえの父親の神様のお告げがあった。　『ヤコブにあまりつらく当たってはいけない』と言われるんだ。　しかたがない。　今度ばかりは大目に見てやろう。　３０それにしても合点がいかないんだが、いくら故郷に早く帰りたかったとしても、わしの守り神を盗むことはないだろうが、ええっ！」
３１　「黙って家を出たのは、そうしないと、力ずくでも妻を奪い取られるんじゃないか

と、心配でたまらなかったからですよ。　３２しかし、お義父さんの守り神のことなど、全く身に覚えがありませんね。　もし盗んだやつがいたら、ただではおきませんよ。　リンチにかけてやります。　ほかにも、何か一つでも盗品が見つかったら……、皆の前で誓いますが、その場でお返ししますよ。」　ヤコブは、ラケルが守り神を盗んだことを知らなかったのです。
３３　ラバンは、まずヤコブのテントから、そこら中を捜し始めました。が、何もありません。　そのあと、レアのテント、そばめたちの二つのテントと捜し回っても、やはり影も形もありません。　とうとうラケルのテントを調べる番になりました。　３４盗んだ張本人ラケルのテントです。　彼女はそれをらくだの鞍の下に押し入れ、その上に座りました。　これでは、いくらしらみつぶしに捜し回っても、見つかるはずがありません。
３５　「お父さん、座ったままで失礼させていただきますわ。　いま女の月のもので立てないんです。」　ラケルはすまして弁解しました。
３６３７何も出なかったので、ヤコブは腹を立てました。　「どうでした。何か一つでも見つかりましたかね？　全くぬれ衣もいいとこですよ。まるで私が犯人だと言わんばかりに追いかけて来て、そこいら中を捜し回ったりして。　さあ、見せていただきましょう。盗んだ物はどこにありますか。　みんなの目の前に並べてください。　本当にお義父さんのものかどうか、とくと調べてもらいましょう。　３８この二十年間というもの、私はお義父さんのために働き通しでした。　雌羊や雌やぎの世話に明け暮れ、丈夫な子がたくさん生まれるようにしました。　それでも、自分が食べるためには、雄羊一匹だって、お義父さんのものに手をつけたことはありません。　３９野獣に襲われて殺された時、証拠の死がいを見せ、数が減ったのを大目に見てください、などと頼んだことがありますか。　もちろんありません。　私が自分で弁償したんです。　私の責任であろうがなかろうが、家畜を盗まれた時は、必ず私が弁償しなければならなかった。　４０昼は焼けつくような日ざしの中で、夜は夜で寒さに震えて眠ることもできないままに、働きました。　４１この二十年間、ずーっとですよ。　十四年間は二人の娘さんをいただくため、六年間はあなたの群れの世話をして自分の群れを手に入れるため！　おまけに、給料は十回も減らされたんですからね。　４２実際、祖父アブラハムや父イサクが信じる、すばらしい神様の恵みがなかったら、一文なしで追い出されていたことでしょうよ。　幸い、神様は何もかもご存じだった。　あなたのひどい仕打ちも、私が一生懸命に働いたことも見ておられた。　それでゆうべ、あなたに現われなさったのです。」
４３　「ここにいるのはわしの娘だし、子供たちはみな孫だ。　家畜の群れにおまえの持ち物いっさいがっさい、わしのものと言っていいくらいだ。　自分の娘や孫のためにならないことなど、どうしてできよう。　４４さあ、和平条約を結ぼう。　これからは、お互いその条約をしっかり守っていこうじゃないか。」
４５　そのしるしがいります。　ヤコブは石を一つ立て、記念碑にしました。　４６また、召使に石を集めさせ、塚を築きました。　そのそばで、ヤコブとラバンはいっしょに食事

をしました。　４７４８それで塚の名は、「証拠の塚」となりました。　ラバンの国のことばでは「エガル・サハドタ」、ヤコブの国のことばでは「ガルエデ」です。
また、「これからは、どちらかが境界線を越えたら、この石塚が証拠となるだろう」とラバンが言ったので、　４９ミツパ〔「見張りの塔」の意〕とも呼ばれました。　ラバンが言ったのはこうです。　「お互い遠く離れていても、この約束を守れるように、神様が見張ってくださる。　５０もしわしの娘たちにつらく当たったり、ほかの女と結婚したりするなら、神様はお見のがしになるまい。　５１５２お互いこの線を越えて攻撃をしかけたりしないよう、誓いを立てよう。　この塚は誓いの証人だ。　５３もしどちらかが誓いを破ったら、アブラハムとナホルの神様、そのご先祖の神様に訴えよう。　その者は滅ぼされる。」
そこでヤコブは、父親イサクの信じる偉大な神様の前で、境界線を尊重すると堅く約束しました。　５４そして、山の上で神様にも誓いを立て、一同といっしょに食事をしてから、そのまま夜を過ごしました。　５５翌朝はいよいよ別れなければなりません。 ラバンは、早々と起きて娘たちと孫たちに別れのキスをし、祝福すると、家へ帰って行きました。
三二
１　ヤコブの一行は旅を続けました。　すると神様の使いたちが現われたのです。　２ヤコブはその姿を見ると、「神様はここにおられる」と叫び、そこを「神の領地」と名づけました。
３　さてヤコブは、セイルの地エドムにいる兄のエサウに使いをやり、こう言わせました。
４「兄さん、おひさしぶりです。　ヤコブです。長いことごぶさたしましたが、お変わりありませんか。　私は最近までラバン伯父さんのもとに身を寄せていました。　５ようやく、牛やろばや羊や奴隷を持てるようになったので、帰国することにしたのです。　だれよりもまず兄さんに、そのことをお知らせいたします。どうか快く迎えてくださいますように。」
６　使いが戻りました。　エサウは四百人の手勢を引き連れて、出迎えに来る途中だということです。　７恐れていたとおりです。　なんとか手を打たなければなりません。　ヤコブは気が動転しながらも、窮余の一策を練りました。 一行を二つに分けるのです。 家畜の群れや、らくだも全部です。　８「もしエサウが一方に攻撃をしかけても、もう一方はなんとか助かるだろう」というわけです。
９　やるだけのことはしました。　あとは神様に祈るだけです。「祖父アブラハムも信じ、父イサクもお従いする神様、国へ帰れと私に命じ、必ず祝福すると約束してくださった神様、　１０神様はいつもお約束どおり、私によくしてくださいました。　そんな資格は私には全くないのにです。　家を出た時、私は杖しか持っていませんでした。しかし、今は違います。　あの二つに分けた財産はみな、私のものです。　１１神様、どうかお助けください。　兄はどんな手荒なことをするかわかりません。　私たち一家を皆殺しにするかもしれないのです。考えただけでもぞっとします。　１２お約束では、私を祝福し、子孫を海辺の砂のように多くしてくださる、ということでした。　今そのお約束を思い出して

ください。」
１３‐１５その夜はそこに泊まり、兄エサウへの贈り物を用意しました。
雌やぎ二百頭
雄やぎ二十頭
雌羊二百頭
雄羊二十頭
乳らくだ三十頭とその子
雌牛四十頭
雄牛十頭
雌ろば二十頭
雄ろば十頭
１６ヤコブは召使たちに、ひと足先に群れを追って行くように指示しました。　また、それぞれの群れの間に距離を置くようにも言いました。１７先頭の群れを追う男たちには、特に念を押しておかなければなりません。　兄エサウと出会ったら、きっと「どこへ行くのか。　主人はだれで、この家畜はだれのものだ」と聞かれるだろうから、　１８「エサウ様ですね。　これはみな、あなた様の召使ヤコブのもので、ご主人のあなた様に差し上げる贈り物でございます。　ヤコブもすぐあとからまいります」と答えるように、と言い含めました。
１９　あとに続くグループにも同じようにし、同じことを言うよう指示しました。　２０顔を合わせる前にまず贈り物をして、なんとかエサウをなだめようというのです。　「こうすれば、いくら兄さんでも手荒なことはしないだろう。」　２１もう贈り物は持って行かせたし、その夜はテントで寝ることにしました。
２２‐２４しかし、やはり心配でなかなか眠れません。 まだ夜中だというのに起き出し、二人の妻と二人のそばめ、それに十一人の子供を起こしました。　家族を連れてヨルダン川を越え、無事にヤボクの渡しを渡り終えるのを見届けると、もう一度テントに戻りました。　もう全く一人きりです。　と、そこへ一人の人が現われたではありませんか。　二人は明け方まで格闘を続けました。　２５なかなか勝負がつきません。　その人はとうとう、ヤコブの腰を打って関節をはずしてしまいました。
２６　「もう行かせてくれ。　じきに夜が明ける。」　その人が頼みました。
しかしヤコブは、はあはあ息をはずませながら答えました。
「私を祝福してくださるまでは絶対に離しません。」
２７　「おまえの名前は何というのか。」
「ヤコブと申します。」
２８　「いや、もうヤコブではない。　神と戦い、強さを示したのだから、イスラエルと変えるがいい。　これからは人と戦っても勝つだろう。」
２９　「よろしければ、お名前をお聞かせください。」

「いや、それはできない。」　そう答えると、その人はその場でヤコブを祝福しました。
３０　ヤコブはそこをペヌエル〔「神様の顔」の意〕と名づけました。　彼が、「神様とじきじきお会いしたのに、死なずにすんだ」と言ったからです。　３１さあ、出発です。　日ものぼりました。　しかし、腰の関節がはずれていたので、足を引きずらなければなりませんでした。３２イスラエル人が今でも腰の肉を食べないのは、このためです。
三三
１２やがて、向こうから、エサウが四百人の手勢を引き連れて来るのが見えました。　ヤコブは、今度は家族を幾つかのグループに分けました。　二人のそばめとその子供たちは先頭に、レアとその子供たちが次、そしてラケルとヨセフを最後というふうにです。　３そして自分は、いちばん先頭に立ちました。　距離はどんどん縮まります。　ヤコブは、立ち止まっては深々と頭を下げ、またちょっと行ってはおじぎをするというぐあいに、七度もくり返しました。　４それを見たエサウは走り寄って出迎え、弟をぎゅっと抱きしめると、愛情を込めてキスをしました。　感激のあまり、二人は涙にくれるばかりです。
５　エサウは女と子供たちを見て尋ねました。　「あの連れの者たちは？」
「私の子供です。」　６まず二人のそばめが子供たちといっしょに進み出て、ていねいにおじぎをしました。　７次にレアと子供たち、最後にラケルとヨセフが、あいさつしました。
８　「ここへ来る途中、たくさんの家畜の群れを見たが、あれは何だ。」
「私からの贈り物です。　ほんの心ばかりのものですが、ごあいさつ代わりに……。」
９　「わっはっは、ヤコブ、おれは家畜なら十分持ってるよ。　わざわざ贈り物をくれなくったってな。」
１０　「そんなことを言わず、受け取ってください。　兄さんのにこやかな笑顔を見てほっとしましたよ。　ほんとうを言うと、兄さんに会うのがこわかったんです。　神様の前に出る時のようにね。　１１遠慮するなんて水くさいですよ。　気持ちよく納めてください。　神様のおかげで、私もちょっとは財産を持てる身になったのですから。」　ヤコブが言いはるので、とうとうエサウは贈り物を受け取りました。
１２　「さあ、そろそろ出かけよう。　道案内はおれたちが引き受けるぞ。」
１３　「ありがとう、兄さん。　でもせっかくですが、ご覧のとおり、小さな子供や生まれたばかりの家畜もいることですからね……、あまり急がせたら、群れは死んでしまうでしょう。　１４そんなわけですから、兄さんは先に行ってくださいよ。　私たちはあとからゆっくり行きます。　セイルでまたお目にかかりましょう。」
１５　「ま、いいだろう。　それじゃあ、手伝いに何人か残していくから、道案内にでも使ってくれ。」
「それには及びませんよ。　私たちだけでもなんとかなります。ここはひとつ、私の言うとおりにしてください。」
１６　エサウはその日、セイルに向けて出発しました。　１７一方ヤコブの一家はスコテまで行くとテントを張り、家畜の群れには囲いを作りました。　そこがスコテ〔「小屋」の

意〕と呼ばれるのはそのためです。１８それから、無事カナンのシェケムに到着し、町の外にテントを張りました。　１９その土地を、ヤコブはシェケムの父ハモルの家から銀貨百枚で買い取り、　２０そこに祭壇を築いて、エル・エロヘ・イスラエル〔「イスラエルの神様のための祭壇」の意〕と名づけました。
三四
１　ある日、レアの娘ディナは、近所の娘たちのところへ遊びに出かけました。　２ところが、ヒビ人の部族長ハモルの息子シェケムは、ひと目見て彼女が好きになり、むりやり自分のものにしてしまいました。　３恋心は募る一方です。　なんとか彼女の愛を得ようと、手を尽くすのでした。
４　まず父親に頼みました。　「あの娘といっしょになりたいんだ。結婚できるように話をまとめてください。」
５　事のいきさつはヤコブの耳にも入りましたが、その時、息子たちはみな群れの番をしに出かけていました。　ヤコブは、彼らが戻るまで、そのままにしておくことにしました。
６７ところが、シェケムの父ハモルのほうから、わざわざ出向いて来たのです。　ちょうどそこへ、ヤコブの息子たちも戻って来ました。　彼らは話を聞いて、びっくりするやら、腹が立つやらで、どうにも気持ちがおさまりません。もちろん黙って見のがすわけにはいきません。　こうなったら、妹ひとりの問題ではなく、家族全体に対する辱しめだといきり立ちました。
８　ハモルの申し出はこうです。　「今度のことは、いいかげんな気持ちからじゃありません。　息子はほんとうにお宅の娘さんが好きなのですよ。　妻にいただきたいと心から願っております。　いかがなものでしょう。　二人の結婚をお許し願えないでしょうか。
９１０皆さんが私どもの土地に住み、お近づきになってくださったら幸いです。娘さんを嫁にいただければ、私どもの娘もお宅の若い人たちに差し上げましょう。　どこでもお好きな所に住んでください。　商売をなさってもけっこうです。　きっともうかりますよ。」
１１１２シェケムも、愛するディナの父親と兄弟たちに頼みました。「お願いです。　どうぞディナさんをぼくに下さい。　お望みのものは何でも差し上げます。　贈り物でもお金でも。　ですから、どうぞ結婚させてください。」
１３　兄たちは、シェケムとハモルをだます計画を考えました。　シェケムが妹にひどい仕打ちをした仕返しをしようというのです。　１４「ちょっと待ってくださいよ。　それはできない相談だな。　あなたたちは割礼（男子が生まれて八日目にその生殖器の包皮を切り取る儀式）を受けていないからね、そういう人と妹を結婚させるのは一家の恥ですよ。
１５もっとも、あなたたちが一人残らず割礼を受けるというなら、話は別ですがね。　１６そうすれば、われわれもあなたたちの部族から嫁をもらうし、お互い親戚同士になれるというわけです。　１７いやなら、しかたありません。　妹を連れてここから出て行きましょう。」
１８１９ハモルとシェケムは喜んで提案を受け入れ、すぐさま言われたとおりにすること

にしました。　シェケムはディナを深く愛していたので、この計画を町のほかの男たちに勧めるのは、少しも苦ではありませんでした。　それに、彼は人気があり、町の人たちから尊敬されていたのです。　２０ハモルとシェケムは町の議会で提案しました。
２１「あの人たちは味方だ。　ここに住んでもらって、自由に商売してもらおうじゃないか。　土地は十分あるから心配ない。　彼らと親戚になったら、大いに有利だと思う。　２２ただ、そのためには一つだけ条件がある。　男はみな、彼らと同じように割礼を受けなければならないというんだ。　２３簡単なことじゃないか。　ただそれだけで彼らのものは全部われわれのものになり、この土地も豊かになる。　どうだみんな、あの人たちがここに住めるように、この提案に賛成してくれないか。」
２４　全員が賛成し、割礼を受けました。　２５ところが、それから三日後、傷がまだ治りきらず、少しでも動けば痛くてたまらないころ、ディナの兄シメオンとレビが、剣を振りかざして町に攻め込んで来たのです。　何の反撃もできません。　一人残らず殺されてしまいました。２６ハモルもシェケムも殺されました。　二人はディナをシェケムの家から取り返し、テントに連れ帰りました。　２７そのあと、ヤコブの息子が全員で町を略奪しました。　妹がそこで辱しめられたからです。２８町の中にある物も外にある物も、羊と言わず、牛と言わず、ろばと言わず何もかも奪い、　２９女子供は捕虜にし、全財産を取り上げてしまいました。
３０　そのやり方のひどさにヤコブはあきれ、レビとシメオンを責めました。　「おまえたちのおかげで、わしはすっかり憎まれ者になってしまった。　付近に住むカナン人やペリジ人は、わしのことを、さぞかし血も涙もないやつだと噂するだろう。　こんな小人数じゃ、連中に攻められたらひとたまりもない。」
３１　「じゃあお父さんは、妹が売春婦のように扱われてもかまわないんですか？」　二人も負けずにやり返します。
三五
１　さて、神様がヤコブに命じました。　「ベテルへ行って、そこに住みなさい。　祭壇を築くのも忘れないように。　兄エサウのもとを逃げ出した時、あそこで会った神を礼拝するのだ。」
２　ヤコブは一族の者みんなに、手もとにある偶像を捨て、身を洗いきよめて新しい服を着るよう命じました。　３そして、一同に言い渡しました。　「これからベテルへ行く。これまで、どんなに苦しかった時も祈りに答えてくださった神様、旅の間、いつも共にいて守ってくださった神様のために、そこで祭壇を築くことにしたのだ。」
４　一同は、持っていた偶像とかイヤリングなどをヤコブに渡したので、彼は全部ひとまとめにして、シェケムのそばの樫の木の下に埋めました。　５さあ、出発です。　神様が行く先々の町の住民を恐れさせたので、旅の間だれからも攻撃されずにすみました。　６ついにカナンのルズ〔別名ベテル〕に着きました。　７ヤコブはそこに祭壇を築き、「ベテルでお会いした神様の祭壇」と名づけました。　エサウのもとから逃げるとき神様と会っ

たのが、このベテルだったからです。
８　まもなく、リベカの年老いた乳母デボラが死に、ベテルのふもとの谷にあった樫の木の下に葬られました。　その木はのちに、「嘆きの樫の木」と呼ばれるようになりました。
９　こうして、はるばるパダン・アラムからベテルまで戻ったヤコブに、神様は再び現われ、祝福なさいました。　１０「おまえの名はこれからヤコブ〔「つかむ者」の意〕ではなく、イスラエル〔「神に勝つ者」の意〕とするがいい。　１１わたしは全能の神だ。」　また、こうも約束なさいました。　「おまえに子供をたくさん与え、子孫をふやそう。　彼らは大きな国となり､たくさんの国が分かれ出る。 おまえの子孫から何人もの王が出る。
１２わたしがアブラハムとイサクに与えた土地はみな、おまえとおまえの子孫のものだ。」
１３１４そのあとヤコブは、神様が現われた場所に石の柱を立て、神様へのささげ物として柱にぶどう酒を注ぎ、オリーブ油を塗りました。１５このことがあってから、ヤコブはそこをベテル〔「神様の家」の意〕と呼ぶようになりました。
１６　やがてベテルを出発したヤコブの一族は、エフラテ〔ベツレヘム〕へと旅を続けました。　ところが､目的地まではまだかなりあるというのに､ラケルが産気づいたのです。
１７たいへんな難産でした。　気をもみながら待つうち、ようやく助産婦の叫び声が聞こえました。１８「よかったわね。　また男のお子さんですよ。」　難産で息も絶え絶えのラケルは、最後の息の下から、その子を「ベン・オニ」〔「私の悲しみの子」の意〕と呼びました。　しかし父親は、「ベニヤミン」〔「私の右手の子」の意〕と名づけました。
１９　ラケルは死に、エフラテへ向かう道のそばに葬られました。　２０その墓石は、今でも残っています。
２１　イスラエルは旅を続け、エデルの塔を越えた所にテントを張りました。　２２そこにいた時、ルベンが父親のそばめビルハと寝たのです。そのことはイスラエルの耳にも入りました。
ところで、ヤコブの十二人の息子は次のとおりです。
２３　レアの子は
長男ルベン
シメオン、レビ、ユダ、イッサカル、ゼブルン。
２４　ラケルの子は
ヨセフ、ベニヤミン。
２５　ラケルの召使ビルハの子は
ダン、ナフタリ。
２６　レアの召使ジルパの子は
ガド、アシェル。
みなパダン・アラムで生まれた息子です。
２７　こうして、ヤコブはようやく、今はヘブロンと呼ばれるキルヤテ・アルバのマムレにいた、父親イサクのところへ帰りました。　昔アブラハムも住んだことのある所です。

２８２９その後まもなく、イサクは天寿を全うして百八十歳で死にました。　エサウとヤコブは二人で父親を葬りました。
三六
１　エサウ、別名エドムの子孫は次のとおりです。
２３エサウには妻が三人いました。　三人ともカナン人です。
アダ〔ヘテ人エロンの娘〕
オホリバマ〔アナの娘、ヒビ人ツィブオンの孫娘〕
バセマテ〔イシュマエルの娘でネバヨテの妹、エサウにはいとこにあたる〕
４　アダとの間にはエリファズという息子がいました。　バセマテにはレウエルという息子が生まれました。
５　オホリバマにはエウシュ、ヤラム、コラという三人の息子が生まれました。　以上はみな、カナンの地でエサウに生まれた息子です。
６‐８それからエサウは、妻子、召使、家畜の群れなど、カナンの地で手に入れた全財産を携え、セイルの山地に移りました。　ヤコブといっしょでは、家畜の数に比べ土地が狭すぎたからです。
９　セイルの山地へ移ってからは、エドム人として次の人々が生まれました。
１０‐１２アダの息子エリファズの子は
テマン、オマル、ツェフォ、ガタム、ケナズ、そして、エリファズのそばめティムナが産んだアマレクです。
１３１４もう一人の妻バセマテにも孫ができました。　息子レウエルの子で、
ナハテ、ゼラフ、シャマ、ミザです。
オホリバマには孫はありません。
１５１６エサウの孫はそれぞれの部族の長となりました。　次のとおりです。
テマン部族
オマル部族
ツェフォ部族
ケナズ部族
コラ部族
ガタム部族
アマレク部族
以上は、エサウの長男エリファズの子孫です。
１７　エサウとバセマテがカナンに住んでいたとき生まれたレウエルからは、次の部族が出ました。
ナハテ部族
ゼラフ部族
シャマ部族

ミザ部族
１８１９アナの娘オホリバマにできた息子たちからは、次の部族が出ました。
エウシュ部族
ヤラム部族
コラ部族
２０２１もともとセイルの山地に住んでいたホリ人セイルから出た部族は、次のとおりです。
ロタン部族
ショバル部族
ツィブオン部族
アナ部族
ディション部族
エツェル部族
ディシャン部族
２２　セイルの息子ロタンの子はホリとヘマムです。　ロタンにはティムナという妹がいました。
２３　ショバルの子
アルワン、マナハテ、エバル、シェフォ、オナム
２４　ツィブオンの子
アヤ、アナ〔父親のろばに草を食べさせていた時、荒れ地で温泉を発見した少年〕
２５　アナの子
ディション、オホリバマ
２６　ディションの子
ヘムダン、エシュバン、イテラン、ケラン
２７　エツェルの子
ビルハン、ザアワン、アカン
２８‐３０ディシャンの子
ウツ、アラン
３１‐３９エドムの歴代の王は次のとおりです。　当時イスラエルには、まだ王がいませんでした。
エドムのディヌハバ出身のベラ王〔ベオルの息子〕
続いてボツラ出身のヨバブ王〔ゼラフの息子〕
続いてテマン人の出のフシャム王
続いてハダデ王〔ベダデの息子。　ミデヤン人がモアブを侵略した際、これを撃退した指導者。　出身地はアビテ〕
続いてマスレカ出身のサムラ王

続いて川のそばのレホボテ出身のサウル王
続いてバアル・ハナン王〔アクボルの息子〕
続いてパウ出身のハダル王
ハダル王の妻はマテレデの娘でメヘタブエルと言い、メ・ザハブの孫娘にあたります。
４０－４３エサウの氏族は次のとおりです。
ティムナ氏族
アルワ氏族
エテテ氏族
オホリバマ氏族
エラ氏族
ピノン氏族
ケナズ氏族
テマン氏族
ミブツァル氏族
マグディエル氏族
イラム氏族
これらの氏族の名はまた、それぞれが住んでいた土地の名ともなりました。　以上がエサウの子孫エドム人です。
三七
１　ヤコブはまた、カナンの地に住むことになりました。　かつて父イサクが住んでいた所です。
２　この時、息子のヨセフは十七歳になっていました。　腹違いの兄である、ビルハやジルパの息子たちといっしょに、父親の羊の群れの番をするのが、ヨセフの仕事でした。　そんな時、兄たちが何か悪いことをすると、ヨセフはいちいち父親に知らせるのでした。　３イスラエルはヨセフを、どの息子よりもかわいがっていました。　年をとってからの子だからです。　それで、飾りつきの特別製の服を作ってやりました。　４こう、あからさまにえこひいきされては、兄たちもおもしろくありません。　ヨセフが憎らしくて、やさしいことばなどかけられないのです。　５そんなある晩、ヨセフは夢を見ました。その話をさっそく事細かに話したものですからたまりません。　ますます兄たちにきらわれてしまいました。
６　「あのね、ぼく、こんな夢を見たんだ。」　得意げに、ヨセフは言いました。　７「みんなが畑で束をたばねていたんだ。　そしたらぼくの束が、いきなりすっくと立ち上がった。　それからどうなったと思う？　兄さんたちの束が回りに集まって来て、ぼくの束におじぎをするんだ。」
８　「じゃあ何かい、おまえがおれたちの主人になるとでもいうのかい？」　兄たちはせせら笑いました。　「いつものことだが、なんて生意気なやつだ。　だいいち、あの夢が

気にくわない。」　そう思うと、ますます憎らしくなるばかりです。
９　ヨセフはまた夢を見て、兄たちに話しました。「この前また夢を見たんだけどさ、太陽と月と十一の星が、ぼくにおじぎしたんだぜ。」　１０今度は父親にも話をしました。　父親はさすがに彼をしかりとばしました。「いったいどういうことかね。 母さんと兄さんたちだけでなく、わしまでが、おまえにおじぎをするのかね？」　１１兄たちはくやしくてたまりません。　しかし、父親はいったいどういう意味なのかと、あれこれ考えあぐねるのでした。
１２　ある日のこと、兄たちはシェケムへ出かけました。　羊の群れに草を食べさせるのです。　１３１４数日後、イスラエルはヨセフを呼び寄せて言いました。「兄さんたちはシェケムで羊に草を食べさせている。 ちょっと行って、ちゃんと仕事をしているかどうか、家畜の状態はどうか調べてくれないか。　わかったら、戻って報告してくれ。」
「わかりました、お父さん。」　ヨセフはさっそくヘブロン谷の家を出て、シェケムへ向かいました。　１５ところが、なかなか兄たちが見つかりません。　野原のあたりをうろうろしていると、一人の人に呼び止められました。
「おまえさん、だれを捜してるのかね。」
１６　「兄と羊の群れです。　見かけませんでしたか？」
１７　「ああ、あの人たちか。　だったら、ここにはもういないよ。確かドタンに行くとか言ってたな。」　ヨセフはドタンまであとを追って行き、ようやく彼らを見つけました。
１８兄たちも、まだ遠くにいるうちから、いち早く彼の姿を認めました。　ヨセフが一人でやって来る。　またとないチャンスです。　そこで、大へんな相談を始めました。　殺してしまおうというのです。
１９２０「あの大ぼらふきが来るぞ。 あんなやつ、殺して井戸に投げ込んじまおう。 おやじには獣に食われたとでも言えばいい。　例のすばらしい夢がどうなるか見たいもんだ。」
２１２２けれども、ルベンはヨセフを助けたかったので、異議を唱えました。「殺すこともないじゃないか。　血を流すのはよくないぜ。　生きたまま井戸に投げ込んどけば、おれたちが手を下さなくても自然に死ぬさ。」　こうしておけば、あとで井戸から出し、父のもとに帰してやれます。　２３そこへヨセフが来ました。　彼らは、やにわに弟の派手な飾りつきの上着をはぎ取り、　２４空っぽの井戸に投げ込みました。２５それから、腰をおろして夕食にしたのですが、ふと気がつくと、遠くから、らくだの一隊がやって来るところです。　おそらく樹脂や香料、薬草類をギルアデからエジプトに運ぶ、イシュマエル人の隊商でしょう。
２６２７「おい、見ろよ。」　ユダが叫びました。　「イシュマエル人が来るぞ。　ヨセフのやつを売り飛ばすってのはどうだい。　殺すのは、何てったって気持ちのいいもんじゃない。　自分たちの手で殺したりすれば、あとでいやな思いをするだろうよ。　虫の好かないやつだけど、やっぱり弟なんだからな。」　みな賛成です。　２８そこで隊商がそばま

で来ると、ヨセフを井戸から引っ張り上げ、銀貨二十枚で売り飛ばしました。　かわいそうに、ヨセフはエジプトへ連れて行かれるのです。２９〔このとき居合わせなかった〕ルベンは、こんなことになっていようとは夢にも思いません。　しばらくして戻ると、ヨセフを井戸から出そうとしました。　ところが、ヨセフの影も形もありません。　どうしたらいいのでしょう。　あまりのことに服を引き裂き、嘆くばかりです。
３０ 「あの子がいなくなってしまった。 いったいどこへ捜しに行ったらいいのだ。」 ルベンは泣いて訴えるのでした。　３１さて、兄弟たちは山羊を殺し、その血をヨセフの上着に振りかけました。　３２それを何くわぬ顔で父親のところへ持って行き、だれのものか調べてほしいと頼みました。
「これを野原で見つけたんです。　ヨセフの上着みたいですが、違いますか。」　３３ひと目見れば、だれのものかはわかります。
父親はすすり上げながら言いました。 「ああ、まちがいない。　ヨセフの上着だよ。　あの子は野獣に食われてしまったんだ。　ずたずたにかみ裂かれてな……。」
３４　イスラエルは胸もつぶれる思いで服を引き裂き、麻布を着て、何週間ものあいだ息子の死を嘆き悲しむのでした。　３５家族みんなが慰めようとしても、耳を貸そうともしません。
「あの子は死んでしまった。 何もかもおしまいだ。 わしもこのまま死んでしまいたい。」 そう言っては、泣いてばかりいるのです。
３６　一方、エジプトに着いた隊商は、ヨセフをエジプト王に仕える役人ポティファルに売りました。　ポティファルは親衛隊の隊長で、刑執行の責任者でした。
三八
１　そのころ、ユダは家を出てアドラムに移り、ヒラという男といっしょに住むことになりました。　２そこでカナン人シュアの娘を見そめ、結婚したのです。　３‐５彼らはケジブに住み、エル、オナン、シェラという三人の息子をもうけました。　子供たちの名前は母親がつけたものです。　ただし、エルは別で、父親がつけました。
６　長男エルが成人すると、ユダはタマルという娘と結婚させました。　７ところが、エルはひねくれ者で神様の怒りを買い、いのちを落としてしまったのです。
８　ユダは弟のオナンに言いました。 「おまえはタマルと結婚しなければいけない。　それが、兄に先立たれた弟の義務なんだ。　そうして子供ができたら、兄の跡を継がせるのだ。」
９　しかしオナンは、自分の子として育てられないような子供なら、いらないと思いました。　それで、結婚はしましたが、いっしょに寝る時はいつも、子供ができないようにベッドの上に射精してしまうのです。　兄のものになる子供を産ませたくなかったのです。
１０神様がそんなことをお赦しになるはずはありません。　結局、彼もいのちを落としてしまいました。　１１もうお手上げです。　ユダは嫁のタマルに、しばらく実家へ帰ることを勧めました。　末息子のシェラが結婚できる年齢になったら必ず呼び戻す、という条

件で、ひとまず両親のもとへ帰したのです。　しかし、それは表向きで、ほんとうはシェラと結婚させる気はありませんでした。　この子まで、二人の兄と同じように、神様に殺されてはたまりません。　タマルは、言われたとおり両親のもとへ帰りました。
１２　何年かして、ユダの妻が死にました。　喪の期間が過ぎると、ユダは友だちのアドラム人ヒラと、ティムナへ行って羊の毛を刈る仕事を監督することにしました。　１３ある人がタマルに、そのことを教えました。　１４シェラはもう大人なのに、彼と結婚させてもらえないことを、タマルはこの時すでに感づいていました。　そこで、未亡人の服を脱ぎ、ベールをかぶって、エナイムの村の入口の道路ぎわに座りました。　エナイムはティムナへ行く途中にあります。　１５ユダはそこを通りかかった時、彼女を売春婦だと思ってしまいました。　顔をベールで隠していたので、わからなかったのです。　１６彼は足を止め、いっしょに寝ようと誘いました。　もちろん、義理の娘だとは夢にも思いません。
「いくらで？」
１７　「子やぎ一頭ではどうだ？　あとできっと送ってやるから。」
「送ってくれるったって、確かな保証がなきゃだめよ。」
１８　「それはもっともだ。　で、何が欲しいかね。」
「そうね、印章と杖がいいわ。」　ユダは言われたとおりの品物を渡しました。　タマルは彼を家に引き入れ、一夜を共にしました。そして子供ができましたが、　１９そのあとはまた、いつものように未亡人の服を身につけました。　２０ユダは友だちのアドラム人ヒラに子やぎを届けてもらおうとしました。　そして、預けた品を取り戻すのです。　ところが、いくら捜しても、それらしい女は見つかりません。
２１　ヒラは町の男たちの間を尋ねて回りました。　「ちょっとお尋ねしますが、村の入口の道ばたで客を取っていた女は、どこに住んでいるのでしょう。」
「さあね、この辺じゃ、そんな女がいるという話は聞いたこともないね。」　同じ答えが返ってくるばかりです。　２２しかたありません。　ユダのところへ帰り、八方手を尽くして捜したが、女は見つからず、だれも心あたりのある者はいなかった、と伝えました。
２３　「それじゃあ、しかたがないな。　あの品物は女にやったと思えばいい。　できるだけのことはしたんだ。 またあそこへ戻ったりすれば､町中のいい笑い者になるだけだ。」ユダもあきらめるしかありません。　２４さて、それから三か月ほどしたある日、義理の娘タマルに子供ができたという報告が届きました。　未亡人の身でいながら、ふしだらなことをしたに違いないというのです。
「けしからん。　ここへ連れて来て焼き殺してしまえ。」　ユダはかんかんになって叫びました。
２５　人々はタマルの家へ押しかけ、外へ引きずり出そうとしました。　このままでは殺されてしまいます。　彼女は急いで義父にことづけを頼みました。　「この印章と杖の持ち主が、生まれて来る子供の父親です。　だれのものか、おわかりですね。」

２６　ユダはひと目見て驚きました。　なんと自分がやった品物ではありませんか。「私が悪かった。　タマルを責めるわけにはいかない。こうなったのもみな、私が息子のシェラと結婚させると約束しながら、それを守らなかったからだ。」　しかしユダは、彼女と結婚しませんでした。
２７　月が満ちて、タマルはふたごの男の子を産みました。　２８生まれる時、助産婦は、最初に手を出した子の腕の回りに赤い糸を結びました。　２９ところが、その子は手を引っ込めてしまい、もう一人のほうが先に生まれたのです。　「おやまあ、この子ったら、先に飛び出したりして」と、思わず助産婦は叫びました。　それで、その子の名はペレツ〔「飛び出して来た者」の意〕となりました。　３０そのあとすぐ、腕に赤い糸をつけた子供が生まれました。　彼はゼラフと名づけられました。
三九
１　さて、イシュマエル人の隊商に売り飛ばされたヨセフに、話を戻しましょう。　彼はエジプトに着くと、エジプト王に仕える役人の一人、ポティファルに買い取られました。このポティファルという人は、親衛隊の隊長で、刑執行の責任者でした。　２ヨセフは主人の家の仕事をさせられましたが、いつも神様が助けてくださるので、何をしてもうまくいくのでした。　３ポティファルの目にも、神様がヨセフに特別よくしておられることは明らかでした。　４おかげで、ヨセフは主人の気に入り、家の管理、財政を任されるようになりました。５すると、どうでしょう。　神様がヨセフによくなさるので、ポティファルの家も祝福され、仕事は万事スムーズに運び、収穫も、羊の群れも増える一方でした。６喜んだポティファルは、全財産の管理をヨセフに任せることにしました。　ヨセフさえいれば、何の心配もありません。　といっても、自分が何を食べるかまで、ヨセフに決めさせたわけではありませんが……。　ところで、ヨセフはたいへんハンサムな青年でした。
７　そのころ、困ったことが持ち上がりました。　事もあろうに、ポティファルの妻がヨセフに目をつけたのです。　いっしょに寝ようと、うるさく誘いかけます。
８　しかし、ヨセフは耳も貸しません。　「だんな様は家のこといっさいを私にお任せになりました。　９家では、私のすることに、決して口出ししたり、指図したりなさいません。　何もかも私の自由にさせてくださいます。　ただ奥様だけは別ですが……。　これほどまでにしていただいて、どうして、そんな大それたことができましょう。　だんな様ばかりか、神様にまで背くことなんかできません。」
１０　ところが、彼女はあきらめません。　毎日毎日しつこく言い寄り、ヨセフが相手にしないと、なんとか彼の気を引こうとやっきになるのでした。　１１そんなある日のこと、ヨセフは家で仕事をしていました。　たまたま回りにはだれもいません。　この時とばかり彼女がやって来て、ヨセフの袖をつかみました。　１２１３「ねえ、ちょっと私の部屋に来てくださらない？」　とんでもないと、その手を振り払って逃げようとしたとたん、上着が脱げてしまいました。　ヨセフはそのまま家の外へ逃げ出しました。　そのうしろ姿を、残された上着を手にしたまま、彼女はじっと見つめていましたが、　１４１５とつ

ぜん叫び声をあげました。　何事が起こったのかと、男たちが駆けつけると、彼女がヒステリックに泣いています。　「うちの人があんなヘブル人（イスラエル人）の奴隷なんか連れて来るからいけないのよ。　おかげで危ない目に会うところだったわ。　とてもひどいことをしようとするんですもの。　私、大声で叫んでやったわ。　そうしたら、あわてて上着を置いたまま逃げ出したのよ。」
１６　彼女は上着を手もとに置き、その夜、夫が家に帰ると、　１７昼間の出来事を話しました。
「うちで仕事をさせていらっしゃる、あのヘブル人の奴隷ですけどね、きょう私にひどいことをしようとしたんですのよ。　１８大声をあげたから助かったものの、でなかったら、どうなったかわかりませんわ。　あの男ったら、あわてて上着を残したまま逃げ出したりして……。　これがその上着よ。」
１９　夫がかんかんに腹を立てたのは、言うまでもありません。　２０真相をよく調べもせず、すぐさまヨセフを捕らえ、牢に放り込んでしまいました。　王の囚人が入れられる牢です。　２１しかし、神様は牢の中でさえヨセフとともにいて、何かにつけてよくなさるのでした。それで、ヨセフは看守長のお気に入りになりました。　２２この男なら大丈夫と見抜いた看守長は、やがて、牢内の管理をいっさいヨセフに任せることにしました。囚人全員のめんどうをヨセフが見るのです。　２３それからというもの、看守長は何の心配もなくなりました。　万事ヨセフが取り仕切ったからです。　神様がついておられるので、何もかもスムーズに事が運ぶのでした。
四〇
１－３その後しばらくして、王宮のコック長とぶどう酒の毒味役とが、王のきげんをそこね、牢に入れられました。　親衛隊の隊長で刑執行の責任者ポティファルの邸内にあった牢、ヨセフが入っている、あの牢です。　４しばらくの間、二人はそこに閉じ込められていました。ポティファルはヨセフに、彼らの世話をするよう命じました。　５ある夜、二人は夢を見ました。　６翌朝ヨセフが行くと、二人とも元気がなく、うなだれています。
７　「どうなさったのです。　何か心配事でも？」
８　「実はゆうべ二人とも夢を見てね、その意味がさっぱりわからず、困っていたんだ。」
「夢を解釈するのは神様です。　で、どんな夢です？　よろしければお聞かせください。」
９１０ぶどう酒の毒味役が、初めに口を切りました。　「私の夢はこうなんだ。　ぶどうの木があって、見ると枝が三本ある。　それにつぼみができ、花が咲き、実がなった。　１１私は片手に王様のワイングラスを持っていたので、その中にぶどうの汁を絞り出し、王様にささげると、それを飲んでくださった、というんだがね。」
１２　「その夢の意味はこうですよ。　ぶどうの三本の枝は三日間ということです。　１３三日したら、王様はあなたを牢から出し、前と同じ、ぶどう酒の毒味役に取り立ててくださいますよ。　１４その時は、私のこともよろしくお願いします。　また王様のお気に入りの地位に戻るのですから、じきじきに私のあわれな身の上を話し、ここから出られる

ようお口添えください。　１５私はもともとヘブル人ですが、誘拐されてここへ来たのです。　そして、無実の罪で、牢に入れられてしまったのです。」
１６　最初の夢の解き明かしがよかったので、コック長は、わくわくしながら自分の夢を話しだしました。
「わたしの夢では、頭にパンかごを三つ載せていた。　１７いちばん上のかごは、王様の召し上がるパンやケーキ類でいっぱいだった。　ところがどうだろう。　鳥が来て、片っぱしから食べてしまったんだ。」
１８１９「三つのかごは、やはり三日間のことですよ。　ただ、あとがいけません。　三日後、あなたは死刑になります。　枝につるされ、鳥に肉をついばまれるのです。」
２０　三日後は王の誕生日でした。　それで、王宮の役人や使用人たちをみな招いて、宴会が開かれました。　そのとき王が使いをやって、ぶどう酒の毒味役とコック長を呼んだので、二人は牢から出され、王のところへ連れて来られました。　２１王は、毒味役を前と同じ仕事に戻したのですが、　２２コック長のほうは死刑にして柱につるせ、と命じました。　ヨセフの言ったとおりです。　２３ところが、毒味役はあまりうれしくて、ヨセフのことなどすっかり忘れ、王に口添えするどころではありませんでした。
四一
１　それから二年後のある夜、今度は王が夢を見ました。　ナイル川のほとりに立っていると、　２とつぜん川から丸々と太った雌牛が七頭出て来て、あたりの草を食べ始めるのです。　３次に、また別の雌牛が七頭出て来ます。　骨と皮ばかりで、あばら骨が浮いて見えるような牛ばかりです。　それが、歩いて行って太った牛の隣に立ったかと思うと、４その太った牛を食べてしまったのです。　そこで目が覚めました。
５　やがて、またうとうと寝入ると、別の夢を見ました。　今度は、一本の茎に穀物の穂が七つ出て来るのです。　一つ一つはみな形も良く、実がいっぱいに詰まっています。　６ところが突然、同じ茎にまた別の穂が七つ現われました。　どれもこれも熱い東風にやられてちりちりに焼け、実がはいっていません。　７なんと、このしなびた穂が、実のたっぷりはいった形の良い七つの穂を、のみ込んでしまったのです。　そこでまた目が覚めました。　ぜんぶ夢だったのです。８夜が明けると、王はあれこれ考えましたが、考えれば考えるほど､夢のことが気になってしかたありません。 国中の魔術師や学者を呼び集め、夢の意味を説明させようとしました。　しかし、だれにも何のことかわかりません。　９その時、王の毒味役が口をはさみました。
「実は、うっかりしておりましたが、とうに申し上げておかなければならないことがあったのです。　１０いつでしたか、王様がお怒りになって、私とコック長とが、親衛隊長の屋敷内の牢に入れられたことがございました。　１１ある夜、私どもは夢を見たのです。
１２その夢を、隊長の奴隷だったあるヘブル人の青年に話しましたところ、夢の意味をちゃんと説明してくれました。　１３そして何もかも、そのとおりになりました。　私はお赦しを得てお毒味役に復帰できましたし、コック長は死刑にされ、柱につるされてしまい

ました。」
１４　これは耳寄りな話です。　王はすぐさまヨセフを呼びにやりました。　さっそく地下牢から呼び出されたヨセフは、急いでひげをそり、服を着替えて王の前に出ました。
１５　「わしはゆうべ夢を見たのだが、それがどういう意味か、ここにおる連中は一人もわからん。　話によると、おまえはそういう事にくわしいそうだな。　わざわざ呼び寄せたのはほかでもない、その夢の意味を説明してもらいたいのだ。」
１６「私が自分の力でそうするわけではございません。 神様が教えてくださるのです。」
１７　そこで、王は夢の話をしました。　「わしはナイル川のほとりに立っていた。　１８すると、とつぜん川から丸々と太った健康そうな雌牛が七頭出て来て、川岸のあたりの草を食べ始めた。　１９ところが、別の雌牛が七頭また川から出て来た。　やせて骨が浮いて見えるようなやつばかりだ。　全く、あんなやせこけた牛は、エジプト中どこを捜してもいないだろう。　２０ところが、そのやせた牛が、最初の太った牛をぺろっとたいらげてしまった。　２１それなのに、まだやせたままなのだ。　そのとき目が覚めた。
２２　しばらくして、もう一つ夢を見た。　今度は一本の茎に七つの穂が出て来たのだ。たっぷり実のはいった穂ばかりだった。　２３そのあと同じ茎から、やせた実のない穂が七つ出て来た。　２４そしてやせた穂が、実のはいったやつをのみ込んでしまった。　この話を魔術師どもにしたのだが、満足に説明できる者は一人もおらん。」
２５　「夢は二つとも同じ意味でございます。　神様が、これからエジプトでなさろうとしていることを、お告げになったのです。　２６七頭の太った雌牛と、実のよくはいった七つの穂はどちらも、これから七年のあいだ豊作が続くということです。　２７七頭のやせた雌牛と七つのしおれた実のない穂は、その七年間の豊作のあと、七年間ききんが続くことを表わしています。
２８　神様は、今からしようとしておられることを、そのように王様に示されたのです。２９これから七年間は、エジプトの国中が豊かな繁栄を楽しむ時となりましょう。　３０しかしそのあと、七年間のききんに見舞われます。　以前の繁栄がすっかり忘れられ、あとかたもなくなるほどの大ききんです。　国土はすっかり荒れ果て、　３１あまりのひどさに、豊作の年があったことなど、信じられなくなるでしょう。３２同じ夢を二度ご覧になったのは、今お話ししたことが間違いなく起こる証拠です。　神様がそうお決めになったからには、すぐ夢のとおりになります。　３３あまり猶予はありません。　さっそくエジプト一の人材を捜して、国全体の農業計画を管理させたらよろしいかと存じます。　３４３５エジプトを五つの管轄区に分けます。　七年間は各地区の役人に命じて、余った穀物を王様の倉庫へ納めさせたらいかがでしょう。　３６そうすれば、大ききんになっても困りません。　でないと、国中が災害にやられて、とんでもないことになるでしょう。」
３７　ヨセフの提言に、王もお付の者たちもうなずきました。　３８では、この仕事の責任者をだれにしたらよいでしょう。　一同が相談を始めると、王が言いました。　「ヨセフがよい。 彼は神様の特別の力をいただいておる。 まさにうってつけではないか。」 ３

９そして、ヨセフの方に向き直り、こう続けました。　「夢の意味を神様がおまえにお示しになったからには、おまえがわが国でいちばんの知恵者に違いない。　４０したがってわしは今、おまえをこの仕事全体の責任者に任命する。　何でもおまえの命令どおりすることにしよう。　この国でおまえの上に立つ者は、わしだけだ。」
４１４２王は自分の印の入った指輪を、権威のしるしとしてヨセフの指にはめ、美しい服を着せて、首には王様用の金のペンダントをかけてやりました。　「おまえをエジプトの総理大臣に任命する。　王の私がそう宣言する。」
４３　王はまた、国で第二の地位にあることを示す車を、ヨセフに与えました。　ヨセフがどこかへ出かける時は、必ずだれかが、「総理大臣閣下のお通りーっ！」と叫ぶのです。
４４王はヨセフに言いました。　「エジプトの王であるわしが誓う。　わが国を治める全責任をおまえにゆだねる。」
４５　王はまた、ヨセフにエジプト名を与えました。　「生死をつかさどる神様のような権力を持つ者」という意味の名です。　また、ヘリオポリスの祭司〔当時の有力な宗教的・政治的指導者〕ポティ・フェラの娘アセナテを、妻として与えました。　たちまち、ヨセフの名はエジプト中に知れ渡りました。　４６この時、彼は弱冠三十歳でした。　王の前から下がると、さっそく国中の巡察を始めました。
４７　ヨセフの言ったとおり、初めの七年間はどこでも豊作でした。４８その間にヨセフは、収穫の一部を国が買い上げ、近くの町々にたくわえるようにしました。　４９七年たつと、倉庫はあふれ出るほどいっぱいになり、いったいどのくらいあるか見当もつきません。
５０　ヘリオポリスの太陽神レーの祭司ポティ・フェラの娘アセナテは、男の子を二人産みました。　ききんが来る前のことです。　５１ヨセフは長男をマナセ〔「忘れさせてくださった」の意〕と名づけました。　自分の青年時代のいろいろな苦しみや、父の家から離れた悲しみなどを忘れるほどに、神様がよくしてくださったからです。　５２次男はエフライム〔「豊かな実り」の意〕としました。　「以前は奴隷だったこの国で、神様は私を豊かにしてくださった」と、彼が言ったからです。
５３　こうしてついに、七年の豊作は終わりました。　５４そのあと、予告どおり、七年間のききんが始まりました。　近隣の国々でもひどい不作でした。　しかし心配はいりません。　エジプト中の倉庫にはたっぷり穀物がたくわえてあります。　５５飢える人が出始めました。王のもとには、食物を求める人たちが、ひっきりなしにやって来ます。　すると、王は決まって、「総理大臣の指示どおりにするのだ」と命じ、ヨセフのところへ行かせるのです。
５６５７ききんはますますひどくなり、全世界をおおい尽くす勢いです。　ヨセフは倉庫を開け、穀物をエジプト人に売ることにしました。　また、ほかの国々から、ぞくぞくと買い出しに来る人々にも売りました。

１　ところで、ヤコブの一家はそのころどうしていたでしょう。　やはり食べるに事欠く毎日でした。　話によると、エジプトへ行けば穀物が手に入るということです。　ヤコブは息子たちに言いました。「みんな、つっ立ったまま顔を見合わせてたって、しかたがないぞ。２エジプトへ行けば穀物があるという噂だ。　さあ、ぐずぐずしている暇はない。　すぐ買い出しに行ってくれ。　このままじゃみな飢え死にだ。」
３　ヨセフの十人の兄は、こうして、エジプトへ穀物を買いに行くことになりました。　４しかしヤコブは、ヨセフの弟ベニヤミンだけは、どうしても行かせませんでした。　〔ヨセフの時のように〕ベニヤミンの身にも何か悪いことが起こるといけない、と思ったのです。　５買い出しに行ったのは、イスラエルの息子たちばかりではありません。　ほかの国からも、大ぜいの人がエジプトへ行きました。　カナンのききんは、どこにも劣らないくらいひどかったのです。　６兄たちは、エジプトの総理大臣で、穀物を売る責任者のところへ出かけました。　まさかその人が弟のヨセフだとは思いもよりません。　顔を地につけんばかりに深々と頭を下げました。　７ヨセフはひと目で兄たちだとわかりましたが、わざとそ知らぬふりをし、きびしく問いただしました。
「おまえたちはどこから来たのか。」
「カナンの国からまいりました。　穀物を少し分けていただきたいと思いまして……。」
８９兄たちはまだ気づきません。　ヨセフはふっと少年時代の夢を思い出し、荒々しく問い詰めました。　「おまえたちはスパイに違いない。　わが国がききんでどんなに苦しんでいるか、調べに来たのだろう。」
１０　「とんでもございません。　ほんとうに食糧を買いにまいっただけでございます。
１１私どもはみな兄弟で、まっとうな人間です。スパイだなんてめっそうもありません。」
１２　「いーや、スパイだ。　そうに決まっている。　われわれがどのくらい弱ったか見に来たのだ。」
１３　「恐れながら申し上げます。　私どもは十二人兄弟で、父親はカナンの地におります。　末の弟は父のところに残りました。　もう一人は死んでしまいましたが……。」
１４　「それがどうしたっ！　何の関係もないではないか。　やはりスパイに違いない。
１５もしおまえたちの言うとおりなら、その末の弟を連れて来い。　それまではエジプトから一歩たりとも出ることは許さん。　１６だれか一人が出かけて、弟を連れて来い。　あとの者は全員、牢の中で待つがいい。　そうすれば、おまえたちの申し立てがほんとうかどうかわかる。　もし弟がいなければ、おまえたちは間違いなくスパイだ。」
１７　ヨセフは一同を三日のあいだ牢に入れておきました。
１８　三日目にヨセフは言いました。　「私は神様を恐れる人間だ。　もしおまえたちが潔白なら、それを証明する機会を与えてやろう。　１９一応おまえたちの申し立てを信じる。　一人だけここに残れば、あとの者は穀物を持って帰ってよい。　２０ただし、末の弟を連れて来るのだ。　おまえたちが正直かどうか、確かめなければならないからな。　うそでないとわかれば、いのちは助けよう。」　一同は言われたとおりにすることにしました。

２１　彼らは互いに言いました。　「昔、ヨセフにひどいことをしたからなあ。　こんなことになったのも、罰があたったんだ。　あいつはこわがって必死で助けを求めたっけなあ。　なのにおれたちは、まるで知らん顔をして、耳を貸そうともしなかった。」
２２　ルベンが口を開きました。　「だからやめろと言ったんだ。　それをおまえたちときたら、てんで聞こうともしなかった。　おかげで今は、自分が死ぬはめになったというわけだ。」
２３　もちろん彼らは、そばに立っているエジプトの総理大臣がヨセフで、話がつつ抜けになっているとは夢にも思いません。　それまで通訳つきで話をしていたからです。　２４ヨセフはとてもいたたまれません。　部屋を出て一人きりになれる場所を捜し、そこで泣きました。　ひとしきり泣くと、また戻り、シメオンを選んで、みんなの見ている前で縛り上げました。　２５それから召使たちに、一同の袋に穀物をいっぱい詰めさせ、支払った代金を袋の口のところにこっそり戻しておくよう指示しました。　そのうえ旅行に必要な食糧までとりそろえさせたのです。　２６一同はろばに穀物を背負わせ、帰途につきました。　２７その夜、一人がろばに餌をやろうと穀物の袋を開けてびっくり。口のところに、払ったはずの代金があるではありませんか。
２８　「いったいどうなってるんだ？　おれの袋に金が入ってるぞ。」一同は震え上がりました。　「きっと神様がこうなさったんだ。　だがどういう意味なんだろう。」　２９やがて、彼らはカナンの地の父ヤコブのもとへ帰り、一部始終を報告しました。
３０　「総理大臣というのがとても恐ろしい人でね、われわれがスパイだと言ってきかないのです。　３１『とんでもありません。　私どもはまじめな人間で、スパイなんかじゃありません。　３２全部で十二人兄弟ですが、一人は死に、末の弟はカナンの地で父といっしょにいます。』　３３こう説明すると、その人は言うんです。　『うそをついているかどうか調べなきゃならん。　一人だけここに残り、あとは穀物を持って家へ帰るがよかろう。　３４ただし、末の弟を連れて来なければならんぞ。　そうすれば、おまえたちがスパイかそれとも正直な人間かがわかる。　おまえたちの言ったとおりなら、人質も返してやるし、何度でも穀物を買いに来てよろしい』とね。」
３５　彼らが袋の中味をあけようとすると、みんなの袋の口に、代金がそっくりそのまま入っています。　だれもかれも背すじがぞっとしました。　父親も同じです。
３６　しばらくしてヤコブが叫びました。　「おまえたちのおかげで、わしは子供をなくしてしまった。　ヨセフは出かけたまま戻らず、シメオンも捕らわれてしまった。　今度はベニヤミンも連れて行きたいだと？　わしをどれだけ苦しめれば気がすむのだ！」
３７　その時ルベンが言いました。　「お父さん、もしベニヤミンが戻らなかったら、私の二人の子供を殺してかまいません。　責任は私が負います。　必ずベニヤミンを連れて帰ります。」
３８　しかし、ヤコブは聞き入れません。　「あの子は絶対エジプトへはやらない。　兄のヨセフはすでに死に、同じ母親の子はあれしかいない。　あの子に万一のことでもあれ

ば、わしも死ぬ。」
四三
１　しかし、ききんはひどくなる一方です。　国中をおおい尽くし、少しも衰えを見せません。　２エジプトから買って来た穀物も底をつきました。　「ご苦労だが、また買い出しに行ってもらわなければならないな。」　父親は息子たちに言いました。
３－５しかし、ユダが口をはさみました。　「忘れたんですか、お父さん。　『弟といっしょでなければ来てはならない』ってあの人が言ったのは、決してただの脅しじゃないですよ。　ベニヤミンがいっしょでなきゃ、あそこへは行けません。」
６　「ああ、なぜおまえたちは、弟がもう一人いるなどと言ってしまったのだ。　わしをこんな目に会わせおって。」
７　「あの人が家族のことを根掘り葉掘り聞くので、しかたがなかったのです。　お父さんが元気かどうか知りたがっていたし、ほかに弟がいないのかって尋ねるものだから、『いる』と答えたんです。　『その弟を連れて来るように』なんて言われようとは、夢にも思わなかったですからね。」　みんな口々に弁解します。
８　その時ユダが言いました。　「ベニヤミンを連れて行かせてください。　お願いしますよ。　今、すぐ出かけなきゃ、家族みんな飢え死にだ。　私たちばかりか、お父さんや子供たちまで……。　９弟の安全は私が保証します。　万一の事があったら責任をとります。　１０初めから、お願いしたとおりにしてくだされば、今ごろはもう、穀物を持ってエジプトから帰っているはずですよ。」
１１　とうとうイスラエルも折れました。　「どうしても連れて行くのなら、せめてこうしてくれ。　ろばにこの国の最良の産物を積むんだ。　その総理大臣とやらへの贈り物にな。　香油、はち蜜、香料、没薬、くるみ、アーモンドなどを持って行くといい。　１２金は代金の二倍を持って行けよ。　このまえ袋の口にあった分も、持って行って返せ。あれはきっと、何かのまちがいだったのだろう。　１３さあ、弟を連れて行きなさい。　１４その人の前に立つ時、全能の神様が守ってくださり、シメオンが自由にされ、ベニヤミンも無事に帰れますように。もしこの二人が死ぬことにでもなったら……、ま、それもしかたあるまい。　ただじっと耐えるだけだ。」
１５　彼らは贈り物と二倍の代金を持って、エジプトのヨセフのもとへ出かけました。　１６今度はベニヤミンもいっしょです。　ヨセフはそれを見ると、家の執事に命じました。「この人たちは昼食を私といっしょにする。　家へお連れして、盛大な宴会の用意をしなさい。」１７執事は言われたとおり、一同をヨセフの屋敷へ案内しました。　１８びっくりしたのは兄弟たちです。　まさか、ヨセフの屋敷へ連れて行かれようとは思ってもみませんでしたから、どうなることかと心配でなりません。
思いあたることを、お互いにひそひそ話し合うばかりです。「こりゃあきっと、袋に返してあったあの金のせいだぞ。　あの金を盗んだとでも言うつもりだろう。　言いがかりをつけてわれわれを捕まえ、奴隷にしようってのさ。　ろばから何から、ぜんぶ取り上げる魂

胆だな。」
１９　そうこうするうち屋敷の入口に着きました。　ぐずぐずできません。　一同はすぐ執事のところへ行きました。　２０「あのー、お話があるのですが。　このまえ食糧を買いにこちらへまいりまして、　２１帰る途中、ある所で夜を過ごしたのです。　ところが、袋を開けると、代金としてお払いしたはずの金が入っておりました。　これがその代金です。　お返ししようと持ってまいりました。　２２今回の分は、別にちゃんと用意してあります。　あれ以来、どうしてこれが袋の中にまぎれ込んでしまったのかと、皆で首をひねっておりました。」
２３　「ご心配には及びません。　代金は確かにいただきましたよ。きっと、あなたがたの神様、つまりあなたがたのご先祖の神様が、入れておかれたのでしょう。　不思議なこともあるものですね。」
こう言うと、執事はシメオンを釈放し、兄弟たちのところへ連れて来ました。　２４一同は屋敷に招き入れられ、足を洗う水を与えられました。　ろばも餌をもらいました。　２５お昼にはヨセフが来るということです。　一同はすぐ贈り物を渡せるよう、抜かりなく用意しました。　なんでも、昼食をいっしょにするらしいのです。　２６ヨセフが戻りました。　一同はていねいにおじぎをし、贈り物を差し出しました。
２７　ヨセフは皆にその後のことを尋ねました。　「で、おまえたちの父親はどうしているかね。　この前もちょっと聞いたが、まだ達者かな？」
２８　「はい、おかげさまで元気でおります。」　そう言って、もう一度おじぎをしました。
２９　ヨセフは弟ベニヤミンの顔をじっと見つめました。「これが末の弟か。　そうか、この子がなあ。　どうだ、疲れてはいないか？　神様がおまえに目をかけてくださるように。」　３０ここまで言うのがやっとでした。あまりのなつかしさに胸がいっぱいになり、涙がこみ上げてきたのです。　あわてて部屋を出て寝室に駆け込み、思いきり泣きました。
３１泣くだけ泣くと、顔を洗い、何くわぬ顔で一同のところへ戻り、感情を押し殺して、「さあ食事にしよう」と言いました。
３２　ヨセフは自分のテーブルで食事をし、兄弟たちは別のテーブルです。　またもう一つのテーブルには、エジプト人が座りました。　エジプト人はヘブル人（イスラエル人）を見くだして、いっしょに食事をしないのです。　３３ヨセフは一人一人に、どこへ座るか指示しました。いちばん上の兄から始まって末の弟まで、きちんと年の順になっています。　皆はびっくりしました。　３４料理は主人のヨセフのテーブルから給仕されました。ベニヤミンは特別たくさんもらいました。ほかの兄弟の五倍はあります。　冗談を飛ばし合い、ぶどう酒をくみ交わし、とても楽しい食事でした。
四四
１　いつまでもそうしてはいられません。　そろそろ出発の準備にかかる時です。　ヨセフは執事に、それぞれの袋に穀物を詰められるだけ詰めるよう命じました。　そのうえ袋の口には、また代金を戻しておいたのです。　２ベニヤミンの袋には、代金のほかにヨセ

フの銀の杯も忍ばせました。　３兄弟たちは朝はやく起き、荷物を積んだろばを連れて出発しました。
４　一行が町を出るころを見はからって、ヨセフは執事に命じました。　「あの者たちのあとを追って捕まえろ。　そして、あれほど親切にもてなしたのに、なぜひどいことをするのか、と問いつめるのだ。５『主人の銀の杯を盗むとはいったい何事か。　あれは占い用でたいせつな物だ。　恩知らずもはなはだしい！』とな。」　６執事は一行に追いつき、そのとおりなじりました。
７　彼らも黙ってはいません。　「ばかばかしい！　ひどいじゃありませんか。　とんでもない言いがかりですよ！　われわれを何と思っているのですか。８この前の金だって、ちゃんと返しに来たんですよ。　ご主人の家から銀や金を盗むはずがないじゃありませんか。９もしその杯が見つかったら、遠慮はいりません。　犯人はどうぞ死刑にしてください。　ほかの者も、一生涯ご主人の奴隷になりましょう。」
１０　「それはけっこう。　だがそれまでしなくても、盗みの張本人だけ奴隷になればすむことだ。　ほかの者は帰ってよい。」
１１　すぐさま袋をろばの背から下ろし、一つ一つ開けさせて、　１２調べ始めました。いちばん上の兄の袋から始めて、だんだん末の弟まで調べていきます。　とうとうベニヤミンの番になりました。　口を開けると、どうでしょう。　信じられないことですが、杯が入っているのです。　１３一瞬、目の前が真っ暗になりました。　もうだめです。皆は絶望のあまり服を引き裂きました。　ろばにまた荷物を載せ、とぼとぼ引き返すよりしかたありません。　１４ユダと兄弟たちが戻ると、ヨセフはまだ家にいました。　一同は地面にひれ伏しました。
１５　「いったいどういう了見だっ！　盗みをすれば、すぐわかるのだぞ。」
１６　ユダが恐る恐る答えました。「ああ、どう申し上げたらよろしいのでしょう。　申し開きもできません。　私どもは無実でございます。　ですが、どうすれば、それをわかっていただけますでしょう。　きっと神様が私どもを罰しておられるのです。　いくらなんでも、弟一人をおいて行くわけにはまいりません。兄弟みんなで戻ってまいりました。どうぞ私どもを奴隷にしてください。」
１７　「それは許さん。　杯を盗んだ者だけが奴隷になればよい。　ほかの者は国の父のもとへ帰れ。」
１８　その時、ユダが一歩前に進み出ました。「恐れながら、ひと言だけ申し上げます。なにとぞごしんぼうを……。　閣下は王様と同じように、今すぐにでも私を処刑することができるお方だということは、よく承知しております。
１９　この前の時、父親や弟がいるかとのお尋ねでしたので、　２０私どもは正直に申し上げました。　『はい、おかげさまで父は健在です。　それから年寄り子の弟がいます。末の弟です。　その上にもう一人、母親が同じ兄もいたのですが、ずっと前に死んで、この子だけが残りました。　そんなわけで、父はもう、目に入れても痛くないほど、かわい

がっておるのです。』　２１それを聞いて閣下は、『ぜひその子に会いたい。　ここへ連れて来るように』とおっしゃいました。　２２私たちは困って、『あの子は父親のもとを離れることはできません。　そんなことをしたら、まるで父のいのちを縮めるようなものです』と申し上げましたが、　２３お聞き入れにならず、『いや、ならん。　その末の弟を連れて来なければ、二度とここへは来るな』と言われたのです。　２４私どもは戻って、そのとおり父に申しました。　２５今度、『またエジプトへ買い出しに行ってくれ』、と言われた時も、　２６『弟もいっしょにやってください。　でなければ行けません』と頼みました。
２７　すると、父はこう申すのです。　『おまえたちも知っているとおり、ラケルの息子は二人いた。　２８だが兄のほうは、ある日でかけたっきり帰って来ない。　野獣にでもかみ殺されたに違いない。　あの時が最後の見収めだったのだ。　２９それなのに、今度は、たった一人残った弟まで取り上げようというのか。　万が一にもあれの身に何か起こったら、わしは悲しみのあまり死んでしまう。』　３０そこへ今度の出来事です。　もし弟を連れ帰らなければ、どうなるでしょう。　父は決して大げさに申しておるのではありません。　３１弟が戻らないと知ったら、ほんとうに死んでしまいます。　老い先みじかい父を悲しませるにはしのびません。　父が死んだら、責任は私どもにあるのです。　３２私は、必ず弟を守ると父に約束しました。　『万一の事があったら責任をとります』とも言いました。　３３そこでお願いがございます。　弟の代わりに私が奴隷になりますから、弟はほかの者といっしょに帰してください。　３４弟を連れずに、どうしておめおめ父のもとへ帰れましょう。　嘆き悲しむとわかっているのですから。」
四五
１　ヨセフはもうこれ以上がまんできませんでした。　「みんな下がっていろ！」　大声でお付の者に命じました。　あとには、兄弟たちとヨセフだけが残りました。　２そのとたん、こらえきれなくなって、あたりはばからず男泣きに泣きだしました。　泣き声は屋敷中に聞こえ、その知らせがすぐ王の宮殿にまで伝えられるほどでした。
３　「兄さん、ヨセフですよ。　ほら、よく見てください。　お父さんは元気ですか。」　びっくりしたのは兄弟たちです。　あっけにとられて、口をきくこともできません。
４　「さあさあ、そんな所にいないで、ここへ来てください。」　そう言われて、一同はそばへ寄りました。　「お忘れですか。　ヨセフですよ。　あの、エジプトへ売られた弟ですよ。　５だけど、そのことで自分を責めないでください。　何もかも神様のお取りはからいだったのです。　私がここへ来るようにしたのも、ほんとうは兄さんたちでなく神様なのです。　こんなふうに兄さんたちを助けることができるようにしてくださった。　６もうこれで丸二年もききんが続きましたが、まだまだ収まりませんよ。　あと五年はこのままです。　その間は、種まきもできないし、収穫もありません。　７それでも私たち一族が滅びず、やがて大きな国になることができるように、神様が私をここに遣わされたのです。　８そうです。　決して兄さんたちのせいではありません。　神様のお導きです。
神様は私を王の顧問にし、この国の総理大臣にしてくださいました。

９　さあ、急いでお父さんのところへ帰り、伝えてください。　『ヨセフは無事で、こう申しております。　「神様が私をエジプトの総理大臣にしてくださいました。　すぐこちらへ来てください。　１０ゴシェンの地に住んでいただきます。　子供や孫を引き連れ、家畜をはじめ全財産を持って来てください。　そうすれば、また近くに住むことができます。　１１１２いっさいの面倒は私が見ます。　まだききんは五年も続くのですから、もしエジプトに来なければ、一族は飢え死にするしかありません。」』　私にお任せください。　約束しますよ。　兄さんたちが証人です。　それにベニヤミンもな。　１３とにかくお父さんに、そう話してください。　私がエジプトでどんな権力を持っているか、何でも命令ひとつで思いどおりにできるのだということを、伝えてください。　お願いですよ。　早くお父さんの顔が見たいんです。」
１４　こう言うと、ヨセフはベニヤミンを抱きしめて涙にくれるのでした。　ベニヤミンも泣きました。　１５彼はほかの兄弟一人一人にも同じようにしました。　その時になって、ようやくみんなは口がきけるようになりました。　１６やがて王にも、「ヨセフ様のご兄弟がエジプトに来られたそうでございます」と知らされました。　王も役人たちも大喜びです。
１７　王はヨセフに言いました。　「兄さんたちに伝えてくれ。　荷物を家畜につけて早くカナンの家へ帰り、　１８改めてお父上と家族ともどもエジプトへ来るようにとな。　ぜひエジプトに住んでもらわねばならん。　『王がエジプト中で最良の土地を用意いたします。　その土地の豊かな収穫で生活してください』と伝えるのだ。　１９兄さんたちには、エジプトから荷馬車を持って行ってもらおう。　女、子供やご老体のお父上をお連れするのに役立つだろう。　２０財産の心配はいらない。　エジプトの最良の土地が手に入るのだから、置いて来ても惜しくはないだろう。」
２１　ヨセフは命じられたとおり、荷馬車と旅行に必要な食糧をすべて兄たちに与えました。　２２一人一人に新しい服を渡し、ベニヤミンには特に五着も渡したうえに、銀貨三百枚を与えました。　２３父親には、エジプトの珍しい産物をろば十頭分と、穀物や旅行中の食糧を雌ろば十頭分、贈り物としました。　２４これで、すっかり準備は整ったわけです。
「途中でけんかなどしないでくださいよ。」　別れぎわに釘をさすのも忘れません。　２５こうして一行は出発し、カナンの、父ヤコブのもとへ帰りました。
２６　「ヨセフが、ヨセフが生きてますよ、お父さん！　それも驚いたじゃありませんか、エジプトの総理大臣なんですからね！」　真っ先に父のところへ飛んで行き、勢い込んで知らせたのに、ヤコブはうれしそうな顔ひとつしません。　今さらそんなことが、どうして信じられましょう。　２７ところが、話を聞くと、どうもほんとうらしいのです。　ヨセフのことづけも聞きました。　それに、エジプトへ迎えるために送ってよこした荷馬車も、ちゃんとあります。　夢ではないのです。　そう思うと急に元気が出ました。
２８　「ほんとうだ。　まちがいない。　ヨセフは生きている。　わしは行くぞ。　死ぬ

前にどうしてもひと目会いたい。」
四六
１　イスラエルは全財産を持って出発し、ベエル・シェバまで来ると、そこで父イサクの信じる神様に、いけにえをささげました。　２やがて夜になりました。　幻の中で神様の語りかける声が聞こえます。
「ヤコブ、ヤコブ。」
「はい。」
３４「わたしは神、おまえの父の神だ。　エジプトへ行くのを恐れてはならない。　大きな国になるよう、おまえを守ってやろう。　わたしもいっしょにエジプトへ下り、時がきたら、おまえの子孫を再びここへ連れ帰る。　おまえはエジプトで、ヨセフに看取られながら死ぬだろう。」
５　いよいよベエル・シェバを発つのです。　息子たちはヤコブを、エジプト王からもらった荷馬車に乗せました。　女子供もいっしょです。　６家畜と、カナンの地で手に入れた全財産も持って行きました。　ヤコブをはじめ、　７息子、娘、孫と一族こぞってエジプトへ移ったのです。
８‐１４ヤコブといっしょにエジプトへ行った息子と孫は、次のとおりです。
長男ルベンとその息子エノク、パル、ヘツロン、カルミ
シメオンとその息子エムエル、ヤミン、オハデ、ヤキン、ツォハル、それから、カナン人の母親をもつサウル
レビとその息子ゲルション、ケハテ、メラリ
ユダとその息子エル、オナン、シェラ、ペレツ、ゼラフ〔エルとオナンはエジプトへ行く前にカナンで没〕
ペレツの息子ヘツロンとハムル
イッサカルとその息子トラ、プワ、ヨブ、シムロン
ゼブルンとその息子セレデ、エロン、ヤフレエル
１５以上は、パダン・アラムでヤコブとレアの間にできた息子とその孫で、娘ディナを除いて総勢三十三人でした。
１６１７このほかに、
ガドとその息子ツィフヨン、ハギ、シュニ、エツボン、エリ、アロディ、アルエリ
アシェルとその息子イムナ、イシュワ、イシュビ、ベリア、妹セラフ
ベリアの息子ヘベル、マルキエル
１８以上十六人は、父ラバンがレアに与えた奴隷ジルパとヤコブの間にできた息子と孫です。
１９‐２２一族には、ヤコブとラケルにできた息子と孫、合わせて十四名も含まれます。
ヨセフとベニヤミン
エジプトで生まれたヨセフの息子はマナセとエフライム〔母親はヘリオポリスの祭司ポテ

ィ・フェラの娘アセナテ〕
ベニヤミンの息子はベラ、ベケル、アシュベル、ゲラ、ナアマン、エヒ、ロシュ、ムピム、フピム、アルデ
２３‐２５さらに、父ラバンがラケルに与えた奴隷ビルハとヤコブの間にできた息子と孫、合わせて七人も含まれています。
ダンとその息子フシム
ナフタリとその息子ヤフツェエル、グニ、エツェル、シレム
２６　エジプトへ下ったヤコブの子孫は、女を除いて総勢六十六名でした。　２７ヨセフの二人の息子を数に入れると、エジプトでのヤコブの一族は七十名になります。
２８　ヤコブはユダを先にやり、まもなくゴシェンに到着すると、ヨセフに伝えました。やがて、一行はゴシェンに着きました。　２９ヨセフは馬車で駆けつけ、父親を出迎えました。　二人はしっかり抱き合ってただ泣くばかりです。
３０　「こうしておまえの顔を見られるとは、夢にも思わなかったよ。無事でほんとうによかった……。　もう思い残すことはない。　これで安心して死ねる。」　イスラエルは涙ながらに言いました。
３１　ヨセフも一同に言いました。　「これから王のところへあがります。　一族の者がカナンから到着した、と報告しなければなりませんから。　３２その時、『一族の者はみな羊飼いで、羊や牛の群れを連れ、全財産を携えてまいりました』と申し上げておきます。
３３あとで王のお召しがあり、職業は何かと聞かれたら、　３４『先祖代々の羊飼いで、私どもも若い時からずっと羊を飼っております』と答えてください。 そう申し上げれば、このゴシェンの地に住まわせてもらえるでしょう。　エジプト人は羊飼いを軽べつし、きらってますからね、いっしょには住まないんです。」
四七
１　ヨセフはさっそく、王宮へ報告に出かけました。
「父が一族を連れてカナンからまいりました。 羊や牛の群れ、財産もいっしょです。　お許し願えれば、ゴシェンの地に住みたいと申しております。」
２　そう言うと、同行した兄弟五人を王に紹介しました。
３　「して、おまえたちの職業は？」
「先祖代々、ずっと羊飼いでございます。　４このたびは、ありがたいおことばに甘え、お国に住まわせていただこうと、失礼も顧みずやってまいりました。　カナンは不作続きで、もう牧草がございません。　そのひどさと言ったら大へんなもので……。　どうか、ゴシェンの地に住む許可をお与えください。」
５６王はヨセフに言いました。　「ご一族の皆さんには、どこでも好きな所に住んでいただこう。 万事おまえに任せる。 エジプトのいちばん良い土地を見つけてあげたらいい。まあ、ゴシェンの地などはうってつけかもしれんな。　もし兄弟に有能な者がおれば、遠慮はいらん。　わしの家畜の管理責任者に取り立てるがよいぞ。」

７　次にヨセフは、父ヤコブを王に引き合わせました。　ヤコブはていねいにあいさつしました。
８　「これはこれは、ヨセフの父上、だいぶお年のようだが、幾つにおなりかな？」
９「おかげさまで百三十になります。 苦労が多く、こんなに老いぼれてしまいました。先祖には、もっともっと長生きした者も大ぜいおります。」　１０こう言って、もう一度あいさつすると、ヤコブは王の前を下がりました。
１１　ヨセフは王の命令どおり、一族にエジプトでも最上のラメセスの地を割り当てました。　１２それぞれの家族数に応じて、食物も与えました。　１３そうしている間も、ききんはますますひどくなり、カナンばかりか、エジプトでも飢える人がたくさん出てきたのです。　１４ヨセフはどんどん穀物を売り、エジプトとカナンに出回っていた金を、ほとんど全部と言っていいくらい吸い上げてしまいました。　王の金庫には金がうなるほどたまる一方です。 １５すっからかんになった人々は､ヨセフに泣きつくしかありません。「穀物を売っていただこうにも、財布は空っぽです。　かといってこのままじゃ、飢え死にするしかありません。　後生ですから、食べ物をお恵みください。」
１６　「わかった。　それなら家畜を差し出すがいい。　引き換えに食糧をやろう。」
１７　背に腹はかえられません。　人々は食べ物を買うために、家畜を連れて来ました。まもなく、エジプト中の馬、羊、牛、ろばが王のものになりました。
１８　翌年になると､人々はまたやって来ました。 「もう金はおろか､家畜もいません。全部あなた様に差し上げました。　残っているものと言えば、自分の体と土地しかありません。　１９このままじゃ、死ぬのを待つだけです。　どうぞ、私どもと土地を買ってください。王様の農奴となりますから、食糧と引き換えにしてください。　そうすれば、なんとか生きのびられるし、土地を耕すことだってできますから。」
２０　ヨセフはエジプト中の土地を買い上げました。　エジプト人がみな自分の土地を手放さなければならないほど、ききんはひどかったのです。　土地はぜんぶ、王のものになり、　２１国民もみな王の農奴になりました。　２２王が買い取らなかったのは祭司の土地だけです。祭司は王から食糧をあてがわれていたので、土地を売る必要がなかったのです。
２３　ヨセフは人々に言いました。　「今からは、おまえたちもおまえたちの土地も王様のものだ。　さあ、種を渡すから、行ってまくがいい。　２４収穫の五分の一は王様に差し出すのだぞ。　おまえたちの取り分は五分の四だ。　それを、翌年まく種や家族の食糧にするのだ。」
２５　「おかげさまで助かります。　喜んで王様の奴隷になりましょう。」
２６　ヨセフは法律をつくり､国中に公布しました。 祭司が所有する土地の産物以外は、全収穫の二十パーセントを王が徴収するというものです。　この法律は今でも効力を持っています。
２７　さてイスラエルは、エジプトのゴシェンの地に住みつきました。　そこで大いに繁

栄し、人口も急激に増え続ける気配です。　２８ヤコブは、エジプトに着いてから十七年目に死にました。　百四十七歳でした。　２９いよいよ死期が迫った時、ヤコブは息子のヨセフを呼んで言いました。「最後の願いだ。　必ず守ると堅く誓ってくれ。　いいな、決してわしをエジプトに葬ってはならんぞ。　３０わしが死んだらエジプトから運び出し、ご先祖のかたわらに葬ってくれ。」　ヨセフが、約束しますよと答えると、　３１重ねて言うのです。「いや、必ずそうすると誓わなければいけない。」　それでヨセフは誓いました。　ヤコブは横になったままおじぎしましたが、やがてそのまま病床につく身となりました。
四八
１　そんなある日、父親の容態が悪化したという知らせが届いたので、ヨセフはマナセとエフライムを連れて父を見舞いました。　２ヨセフが来たとあっては寝てもいられません。ヤコブは力をふりしぼって起き上がり、彼を迎えました。
３　「全能の神様がカナンの地ルズでわしに現われ、祝福してくださった時のことは、今でもはっきり覚えている。　４あのとき神様は、『わたしはおまえを大きな国とし、カナンの地を永遠におまえと子孫とに与えよう』と約束なさったのじゃ。　５それはそうと、わしがここへ来る前に生まれたおまえの息子らのことだが、エフライムとマナセ、あの二人をわしは養子にしようと思うが、どうだ？　ルベンやシメオンと同じように、あの二人にもわしの遺産を相続させたくてな。　６なにも、おまえの息子をみんなわしのものにするとは言わん。　ほかの子が生まれたら、その子におまえの跡を継がせればいいだろうが。７おまえの母さんのラケルは、パダン・アラムから帰る途中、エフラテの近くで死んだ……二人の子供を残してな。　それでわしは泣く泣く、ベツレヘムへ行く道のかたわらに葬ったのじゃ。」　８この時イスラエルは、二人の少年に気づきました。「もしや、この二人が？」
９　「そうです。　神様が、エジプトで私に恵んでくださった息子です。」
「そうか、そうか。　ちょうどよかった。　わしのそばに連れて来い。　祝福してやろう。」
１０　イスラエルは年老いて目がほとんど見えません。　ヨセフが少年たちをそばに連れて行くと、二人をぎゅっと抱きしめてキスしました。
１１　「わしはな、おまえの顔を二度と見ることはあるまいとあきらめておったのじゃ。それがどうだ。　こうして、かわいい孫の顔まで見られるとはなあ……。」　イスラエルはしみじみ言いました。
１２１３ヨセフはもう一度、二人の手をとり、ていねいにおじぎをしてから、二人を祖父の前に進ませました。　イスラエルから見て、エフライムが左側、マナセが右側です。　１４ところが頭に手を置く時、イスラエルは伸ばした手をわざと交差させました。　右手を弟エフライムの頭に、左手を兄マナセの頭に置いたのです。
１５　「祖父アブラハム、父イサクの神様。　羊飼いのように、私を生涯守ってくださった神様。　１６どうぞこの子供たちを大いに祝福してください。　神様は私をあらゆる危

険から守ってくださいました。この子供たちが、私やアブラハム、イサクの名を汚すことなく、一族の名をあげてくれますように。　彼らが大きな国となりますように。」　こう言って、イスラエルはヨセフを祝福しました。
１７　しかし、父が右手をエフライムの頭に置いたのが、ヨセフにはおもしろくありません。　それで、わざわざ父の手をとり、マナセの頭にのせようとしました。
１８　「違いますよ、お父さん。　手の置き方が反対です。　こっちが長男です。　右手はこの子に置いてください。」
１９　「いや、ちゃんとわかっている。　マナセも大きな国になる。　だが弟のほうがもっと強くなるのだ。」
２０　ヤコブはその日、二人の少年に次のような祝福を与えました。「イスラエル人は互いに祝福し合う時、これからは、『神様があなたがたを、エフライムとマナセのように栄えさせてくださいますように』と言うだろう。」　この時も、エフライムの名をマナセの前にしています。
２１　そのあとイスラエルは、またヨセフに言いました。「わしはもう長くはない。　だがおまえには神様がついておられる。きっともう一度、先祖の国カナンへ帰れるだろう。
２２その時のために、シェケムの地をおまえにやろう。　あれは、わしがエモリ人から苦労して戦い取った土地だ。　ほかのだれにもやらん。　おまえのものだ。」
四九
１　いよいよ最期の時がきたようです。　ヤコブは息子たちをみな呼び寄せました。「いいか、みんな、わしの回りに集まるんだ。　一人一人の将来がどうなるか教えよう。　２おまえたちはみな、わしの息子だ。　これから言うことをよーく注意して聞くのだぞ。
３　長男のルベン、おまえはわしがまだ若く、血気盛んなころ生まれた子だ。　長男として、あらゆる点で兄弟の上に立ってもいいはずだった。　４だが実際は、海の荒波のような無法者だ。　長男の資格はない。　義理の母と関係するとは何事だ。　わしの顔に泥を塗った報いを受けるがいい。
５　シメオンとレビは似た者同士だ。　乱暴で手がつけられん。　６くれぐれもこの二人には近づくな。　その悪だくみに加担するな。　彼らは怒りにまかせて人を殺し、おもしろ半分に牛を傷つけた。　７彼らの怒りにのろいあれ。激しく残虐な怒りにのろいあれ。二人の子孫は、イスラエルの各地に散らしてしまおう。
８　ユダよ。　兄弟はおまえをたたえる。　おまえは敵を滅ぼし、兄弟はみなおまえにひざまずく。　９ユダは、獲物をたいらげ、丸々と太った若いライオンだ。　何ものをも恐れず、ゆうゆうと寝そべっている。　だれも、これを起こすことはできない。　あえてそんな危険を冒す者はいない。　１０その王位はシロが来る時まで続く。　人々がみなシロに従うその時まで、ユダは安泰だ。　１１彼は大いに栄え、ろばをえり抜きのぶどうの木につなぎ、服をぶどう酒で洗う。　１２その目はぶどう酒より黒く、その歯はミルクより白い。

１３　ゼブルンは海のそばに住む。　港は船でにぎわい、境界線はシドンにまで及ぶ。
１４　イッサカルはたくましいろばだ。　鞍袋の間にうずくまって休む。　１５美しい田園、住みよい土地を見た時、彼は肩に食い込む重い荷をもいとわず、人に仕えることをも辞さない。
１６　ダンはほかの部族と同じように､自分の部族を治める。 １７その数は少なくても、小道をはい回る蛇のように、馬のかかとにかみつき、乗り手を落とす。　１８神様の救いは確実だ。
１９　ガドは強盗の一団に襲われる。　だが奪い取るのはガドのほうで、敵をさんざんに追い散らす。
２０　アシェルは実り豊かな地を耕す。　その産物は王の食卓にものぼる。
２１　ナフタリは解き放たれた鹿で、かわいらしい子鹿を生む。
２２　ヨセフは泉のそばの実り豊かな木だ。　その枝は伸びて垣根をおおう。　２３一度は､迫害する者に矢を射込まれ､ひどい手傷を負った。　２４だが､力あるヤコブの神様､イスラエルを守る羊飼い、また岩である方のおかげで、みごと敵を打ち負かした。　２５先祖代々お頼りしてきた全能の神様が、天の恵みと地の恵みをもって、おまえを祝福なさるように。　大ぜいの子孫に恵まれ、　２６山々には穀物と花が満ち、永遠に変わらない祝福があるように。　これが、かつて兄たちから追放されたヨセフの受ける祝福だ。
２７　ベニヤミンはほえたける狼だ。　明け方には敵を食い荒らし、夕べには戦利品を分け合う。」　２８こうして、十二人の息子全員に祝福を与えたのです。
２９３０それから、こうつけ加えました。　「わしはじき死ぬ。　そうしたら、カナンの地に葬ってくれ。 マムレに面した､マクペラの野にあるほら穴を知っているだろう。 おまえたちのひいおじいさんのアブラハムが、墓地にしようと、ヘテ人エフロンから買ったあの土地だ。　３１それ以来、代々一族の墓として使われてきた。　わしもレアをそこに葬った。　３２いいな。　必ずあそこへ葬ってくれよ。」　３３もう思い残すことはありません。　安心して床につくと、息を引き取りました。
五〇
１　ヨセフは父に取りすがり、泣く泣く最後の別れをしました。　２しかし、いつまでも嘆き悲しんでばかりはいられません。　遺体をミイラにするよう医者に命じました。　３それだけで、たっぷり四十日はかかります。　そのうえエジプトの国をあげて、七十日の喪に服したのです。　４喪が明けると、ヨセフは王のお付の者を訪ねました。王に口添えしてもらおうというのです。
５　「陛下にお伝えください。　亡父のたっての願いで、遺体を、どうしてもカナンの地へ葬りに行かなければなりません。　どうぞ出かけるお許しをください。　埋葬がすみしだい、すぐ帰ってまいります。」
６　王は同意しました。　「いいだろう。　お父上との約束を心おきなく果たすがよい。」
７　いよいよ出発です。 王の顧問をはじめ､エジプト中の高官たちも同行しました。 ８

もちろん、ヨセフの兄弟とその家族も全員いっしょです。　ただ、子供たちと家畜はあとに残りました。　９そういうわけで、一行はたいへんな行列になりました。　たくさんの戦車と騎兵が護衛にあたる大部隊です。
１０　やがてヨルダン川を越え、アタデ〔「木いちごの打ち場」の意〕まで来ました。　ひとまずそこで、盛大な葬式を行なうことにしました。七日間、ヨセフの父の死を嘆き悲しむのです。　１１土地のカナン人は、それからその場所を、アベル・ミツライム〔「エジプト人の嘆き」の意〕と呼ぶようになりました。　葬式の有様を見て、「あのエジプト人たちには、この葬式はよっぽど悲しいものなんだなあ」と言い合ったからです。　１２１３こうしてイスラエルの息子たちは、父親の命令どおりにしました。　遺体をカナンの地へ運び、マクペラのほら穴に葬ったのです。　マムレの近くで、アブラハムがヘテ人エフロンから買った畑の中のほら穴です。
１４　そのあとヨセフは、兄弟や、葬儀のために同行した人たち全員と、エジプトへ帰りました。　１５ところが兄たちは、急に心配になってきました。　父親が死んでしまった今、どんな仕返しをされるかわかりません。
「ヨセフにはずいぶんひどいことをしたからな。　今度こそ仕返しされるかもしれないぞ。」　１６１７そこで、ヨセフに手紙を出しました。　「実は、父さんが死ぬ前に、言い残したことがあるのです。　われわれとあなたの仲を心配して、過ぎたことは水に流すよう言ってくれ、それだけが気がかりだ、ともらしていました。　われわれはあなたの父の神様に仕えるしもべです。　どうぞ、昔のことは赦してください。」　ヨセフは手紙を読むと激しく泣きました。
１８　兄たちも気が気ではなく、わざわざ出向いて来ました。　「手紙でも申し上げたとおり、われわれはあなたの奴隷です。」　そろってヨセフの前にひれ伏し、恐る恐る言いました。
１９　ところが、ヨセフの返事は意外でした。　「そんなにこわがらないでくださいよ、兄さん。　私だって神様じゃないんですから、さばくの罰するのと大それたことなんかできません。　２０そりゃあ、あの時は、ずいぶんひどいことをするもんだって思いましたよ。　でも、そのおかげで、家族みんなが助かったじゃありませんか。　悪意から出たことでも、神様はちゃんと良いことに役立てられるんです。　私のような者が今日あるのもみな、神様の深いお考えがあってのことだったのです。　たくさんの人のいのちを救うためなんです。　２１だから、心配なんかしないでください。　兄弟じゃありませんか。　今後のことは万事お任せください。　悪いようにはしませんよ。」　なんというやさしいことばでしょう。　もう心配はありません。
２２　こうして、ヨセフと兄弟の一族は、そのままずっとエジプトに住みつきました。　ヨセフは死んだとき百十歳でした。　２３長生きしたので、エフライムの子供たちばかりか、マナセの子マキルの子供たちの顔も見ることができました。　かわいい曾孫たちが、よく彼の足もとで遊んでいたものです。

２４　ヨセフは兄弟たちに遺言しました。　「もうじき私は死にます。　けれどもイスラエル人は、このままでは終わりません。　必ずカナンへ帰れます。　神様が、アブラハム、イサク、ヤコブの子孫に与えると約束した土地に、連れ帰ってくださるのです。」　２５このあと兄弟たちに、カナンへ帰るあかつきには、自分の遺体を必ず運び帰るように、と誓わせました。　２６こうして、ヨセフは百十歳で死にました。　人人は遺体をミイラにし、棺に納めてエジプトに安置しました。

▪

出エジプト記
神様は、すぐれた指導者モーセに、エジプトの奴隷となっているイスラエル人を解放する使命をお与えになりました。　そのモーセをとおして、神様の命令に従おうとしないエジプト王に、神様は十種類の災害をもたらしたのです。　過越の祭りは、最後の災害の時に制定され、その後イスラエルでは、神様が民を解放してくださったことを記念するものとなりました。　人々は紅海を渡り、シナイ山に着き、そこで、神様から十戒や神の天幕の設計図を授かり、神の国民とされました。

一
１‐４家族を連れ、ヤコブといっしょにエジプトへ行ったヤコブの息子たちの名前は、次のとおりです。
ルベン、シメオン、レビ、ユダ
イッサカル、ゼブルン、ベニヤミン
ダン、ナフタリ、ガド、アシェル
５　一行は総勢七十名でした。　ヨセフは皆より先にエジプトへ行っていたので、この数には入りません。　６やがて、ヨセフも兄弟たちも死に、新しい世代になりました。　７彼らは子宝に恵まれ、人口は増える一方です。　あまりの急激な増加に、ゴシェンの地はイスラエル人であふれ、一つの国と言ってもいいほどの勢力にふくれ上がりました。
８　やがて、新しい王がエジプトの王座につきました。　ヨセフの子孫に何の義理も感じない王です。
９　王は国民に言いました。　「このままイスラエル人どもを放っておくと危険だ。　あまりに数が多すぎる。　１０なんとか、やつらの力を食い止めなければならん。　戦争にでもなり、やつらが敵方についたら、それこそ大へんだ。　われわれに戦いをいどみ、なんなくこの国から逃げてしまうだろう。」
１１　そこで、イスラエル人を奴隷にしてしまおうということになりました。　きびしい監督を立て、重労働につかせるのです。　こうして建てられたのが、倉庫の町ピトムとラメセスです。　１２ところが、いくらこき使い、締めつけをきびしくしても、いっこうに効果はありません。　むしろ、前より激しい勢いで人が増え続けるのです。　エジプト人は警戒して、　１３１４ますますつらい仕事を押しつけました。畑で長時間の重労働をさせたうえに、粘土でれんがを作る激しい仕事もさせる、というぐあいです。
１５１６これほどにしても、まだ効き目がありません。　とうとう王は、シフラとプアというヘブル人（イスラエル人）の助産婦に、ひそかに命じました。　ヘブル人の男の子は生まれたらすぐ殺し、女の子だけを生かしておくようにというのです。　１７ところが、助産婦たちは神様を恐れていたので、王の命令に従わず、男の子も生かしておきました。
１８　王は二人を呼びつけ、問い詰めました。　「おまえたちは男の子を生かしておくそ

うだな。　なぜわしの命令に背いたっ！」
１９　「陛下はご存じないでしょうが、ヘブルの女はとても丈夫で、簡単に赤ん坊を産んでしまうのです。　私たちが駆けつけた時には、もう生まれてしまっているのでございます。　エジプトの女と違って出産に手間取らないものですから。」
２０　神様は助産婦たちによくされたので、イスラエル人はさらに増え続け、強大な国民になりました。　２１神様を恐れ敬う助産婦たちも、子供に恵まれました。　２２そこで、王は全国民に、「以後、ヘブル人の赤ん坊は、女の子だけを残して、男の子はみなナイル川に投げ込め」と命じたのです。
二
１２そのころ、あるヘブル人の若い男女が結婚しました。　二人ともレビ部族の出身でした。　やがて、二人の間に男の子が生まれました。　玉のようにかわいらしい赤ん坊です。どうして、川へなど投げ込めましょう。　母親は三か月のあいだ家に隠しておきました。３もうそれ以上は隠しきれません。　彼女はパピルス製のかごにタールを塗って防水し、赤ん坊を入れると、ナイル川のほとりの葦のしげみに、そっと置きました。　４その子の姉が遠くから、弟がどうなるのか見守っていました。
５　さて、それから何が起こったでしょう。　王女が、ちょうどそのとき川へ水浴びに来たのです。　侍女たちを従えて岸を歩いていると、葦の間に小さなかごがあります。　何だろうと思って侍女をやり、それを引いて来させました。　６開けてみて驚きました。　中で赤ん坊が泣いているではありませんか。　「まあ、かわいそうに！　きっとヘブル人の赤ちゃんだわ。」　王女は思わず叫びました。
７　それを見ていた姉が、この時とばかり王女のそばへ駆け寄りました。　「王女様、その赤ちゃん、お育てになりますか？　だったら、お乳をあげる女がいりますよね。　だれかヘブル人の女の人を捜して来ましょうか？」
８　「よく気のつく子だね。　そうしておくれ。」　王女の返事を聞いて、少女はうれしくてたまりません。　家へ飛んで帰り、母親を呼んで来ました。
９　「お礼は十分しますから、この子を連れて行って、私の子として育ててください。」　王女は子供の実の母親とも知らず頼みました。　もう何の遠慮もいりません。　彼女は子供を抱いて家へ帰りました。
１０　やがて、その子は大きくなり、養子として正式に、王女のやしきへ引き取られました。　王女は彼をモーセ〔「引き出す」の意〕と名づけました。　水の中から引き出した子供だからです。
１１　それから何年かたちました。　モーセはりっぱに成長し、一人前の大人になっていました。　ある日、彼は同胞のヘブル人を訪ねようと外出したのです。　ところが、目にしたのは、あまりにもひどい有様でした。　初めて同胞の苦しみを知ったモーセの血は騒ぎました。　ちょうどその時、エジプト人がヘブル人を地べたになぐり倒しているところへ、出くわしたのです。　自分と同じヘブル人がやられている。　そう思うと見過ごせま

せん。　１２急いであたりを見回し、だれも見ていないのを確かめると、そのエジプト人を殺し、死体を砂の中に隠しました。
１３　次の日もまた､ヘブル人を訪ねましたが､今度はヘブル人同士でけんかしています。「同じヘブル人なのに仲間をなぐるとは、いったいどういうつもりだ。」　モーセは悪いほうの男を責めました。
１４　男も負けてはいません。　「ふん、いらぬおせっかいよ。　だいたい、そういうおまえこそ何者だい。　まるで王様か裁判官みたいな口をきくじゃないか。　きのうのエジプト人だけじゃ足りず、おれまで殺そうってのかい。」　あんなに用心したのに、きのうの事がばれているのです。　モーセは非常に不安になりました。　１５そして心配したとおり、エジプト人殺害の話は、王の耳にも達したのです。　王は、「直ちにモーセを逮捕し、処刑せよ」と命じました。　絶体絶命です。　モーセはミデヤン（アラビヤ半島の北西部、アカバ湾沿岸）の地へ逃げることにしました。　こうして、とある井戸のかたわらに座っていると、　１６ミデヤンの祭司の娘が七人、水くみにやって来ました。父親の羊の群れに飲ませるのです。　ところが、いよいよ水おけに水をくみ始めると、　１７あとから来た羊飼いたちが、娘たちを追い払いにかかるではありませんか。　そこで、モーセは彼女らに手を貸し、群れに水を飲ませました。
１８　家へ戻った娘たちに、父親のレウエルが尋ねました。　「おや、きょうはばかに早いじゃないか。　どうしたんだね。」
１９　「いつものように羊飼いたちがじゃましようとしたら、あるエジプト人が助けてくれたの。　羊飼いを追い払って、羊に飲ませる水までくんでくれたんです。」
２０　「ほほう、親切な人だな。　で、その人はどこにいる？　ちゃんとお連れしたんだろうね。　さ、早く入っていただいて、お食事を差し上げなさい。」
２１　レウエルにいっしょに住んでほしいと言われ、モーセも申し出を受け入れることにしました。　レウエルは娘の一人チッポラを妻として与えました。　２２やがて子供が生まれ、ゲルショム〔「外国人」の意〕と名づけました。　モーセが、「私はこの国では外国人だ」と言ったからです。
２３　何年かして、エジプトの王が死にました。　しかし、イスラエル人は楽になりません。　相変わらず奴隷としてこき使われ、うめき苦しんでいました。　あまりの苦しみに耐えかね、泣く泣く神様に助けを求めるのでした。　その悲痛な叫びは天まで届き、　２４神様は、〔子孫をカナンの地に連れ戻すという〕アブラハム、イサク、ヤコブへの約束を思い出されたのです。　２５神様は天から一部始終をご覧になり、イスラエル人を救い出す時がいよいよきたと考えました。
三
１　ある日モーセは、ミデヤンの祭司、しゅうとイテロ〔別名レウエル〕の羊の群れを番していました。　砂漠のはずれにある神の山ホレブ（シナイ山）に近い所です。　２突然、柴の燃える炎の中に、神様の使いが現われました。　よく見ると、柴には火がついている

のに、いつまでも燃えています。　３４「いったい、どういうことだろう。」　不思議に思いながら、そばへ近寄りました。　その時です。　神様が呼びかけました。
「モーセ、モーセ！」
「は、はい。　どなたでしょう。」
５　「それ以上近寄るな！　くつを脱げ。　おまえが立っている所は聖なる地だ。　６わたしはおまえの先祖の神、アブラハム、イサク、ヤコブの神だ。」　モーセはあわてて顔をおおいました。　神様を見るなど、とても恐れ多いことです。
７　神様は続けました。　「わたしの国民が、エジプトで非常な苦しみをなめているのを見た。　無慈悲な監督のむちを取りのけてほしい、と叫んでいるのを聞いた。　８彼らをエジプト人の手から救い出そうと思う。　エジプトから助け出し、『乳と蜜の流れる』国、広々とした美しい国へ連れて行こう。　今、カナン人、ヘテ人、エモリ人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人が住んでいる地だ。　９今こそイスラエル人の嘆きがよくわかった。　つらい仕事に明け暮れ、エジプト人にこき使われている。　１０そこで、おまえをエジプト王のもとへ遣わそうと思う。　わたしの国民をエジプトから助け出すのだ。　王にそう言ってやれ。」
１１　「そんな大それた仕事など、とても私には。」　モーセは思わず叫びました。
１２　「心配するな。　わたしがついている。　おまえを遣わしたのがわたしだという証拠に、必ずおまえといっしょにいよう。　人々を無事エジプトから助け出したら、この山の上で、神を礼拝しなければならない。」
１３　「ですが神様、イスラエル人のところへ行って、先祖の神様に遣わされて来たと言ったら、きっとこう聞かれます。　『なに、先祖の神様だと？　いったい何という名の神様だ。』　その時どう説明したらよいのでしょう。」
１４　「わたしは『生ける神、創造者』だ。　『「わたしはある」（イスラエルの神の名、主のもともとの意味）という方に遣わされた』と言えばよい。　１５そうだ、『あなたがたの先祖アブラハム、イサク、ヤコブの神、主が私を遣わした』と言いなさい。　これが永遠に変わらないわたしの名だ。」
１６　神様はまた、モーセに命じました。　「イスラエルの長老全員を呼び集めなさい。そして神が燃える柴の中に現われ、こう言ったと伝えるのだ。　『わたしの国民イスラエルがエジプトでどんなに苦しんでいるかを、この目で見た。　１７しかしもう、そんな屈辱を味わうことも、つらい労働をしいられることもない。　わたしが必ず救い出す。　そして、今、カナン人、ヘテ人、エモリ人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人が住んでいる、「乳と蜜の流れる」国へ連れて行く。』　１８長老たちはおまえの言うことを聞くだろうから、いっしょにエジプト王のところへ行き、こう言うのだ。　『ヘブル人の信じる神様のお告げがありました。　砂漠を三日ほど行った所で、神様にいけにえをささげるようにとのことです。　どうぞ出かける許可を下さい。』
１９　だが王も一筋なわではいかないだろう。　それは目に見えている。　２０だからわ

たしが、いやおうなしに承知するようにしてやろう。　奇蹟を起こしてエジプトを懲らしめるのだ。　そのあとで、ようやく行かせることになるだろう。　２１その時には、エジプト人から贈り物をたっぷりもらえるようにしてやろう。　何も持たずにエジプトを出ることは、決してない。　２２女はみな、エジプト人の主人の妻や隣人から、金、銀、宝石、美しい服を求めるだろう。　息子や娘たちに、エジプトの最良の服を着せるのだ。」

四

１　しかし、モーセは反論しました。「あの人たちは私を信じてくれないでしょう。　私の言うことなんか聞くはずがありません。『神様がおまえに現われたって？　うそもたいがいにしろ』と言うに決まっています。」

２　「いま手にしているのは何かね。」

「羊飼いの杖です。」

３　「地面に投げてみなさい。」　そう言われて杖を投げると、どうでしょう。　たちまち蛇に変わったではありませんか。　モーセはびっくりして、あとずさりしました。

４　すかさず神様が命じます。「しっぽをつかまえろ。」　言われたとおりにすると、蛇は手の中で、また杖に戻るのでした。

５　「みなの前で、今と同じことをして見せるのだ。　そうすれば、おまえを信じるだろう。　そして、先祖アブラハム、イサク、ヤコブの神が、ほんとうにおまえに現われた、と納得するだろう。　６今度は手をふところへ入れなさい。」　また言われたとおりにして手を出すと、なんとらい病にかかり、雪のように白くなっているのです。７「もう一度ふところへ入れなさい。」　そうすると、不思議なことに、らい病はすっかり治っていました。

８　「たとい最初の奇蹟を信じなくても、二番目の奇蹟は信じるだろう。　９それでもまだ信じなかったら、ナイル川の水をくんで地面に注ぎなさい。　水は血に変わるだろう。」

１０　しかし、モーセはなおも食いさがりました。「神様、私はとても口べたです。　うまく話ができたためしがありません。　こうしてお話ししていても、思うように物が言えません。　すぐどもってしまうのです。」

１１　「人間の口を造るのはだれかね。　神であるわたしではないか。　人が話せたり話せなかったり、目が見えたり見えなかったり、耳が聞こえたり聞こえなかったりするのは、だれの力によることだ？　１２さあ、ぐずぐず言わず、わたしの言うとおりにしなさい。ちゃんと話せるように助けてやるし、何を話すかも教えよう。」

１３　それでも、モーセは渋っています。　「神様お願いです。　だれかほかの人をやってください。」

１４神様はとうとう腹を立てました。　「もうよい。　おまえの兄アロンは話すのがじょうずだ。　ちょうど今、おまえを捜しに来る。おまえを見つけたら大喜びするだろう。　１５わたしが言うことを彼に教え、代わりに話してもらうがいい。　二人ともうまく話せるようにわたしが助け、しなければならないことはみな教える。　１６彼はおまえの代わりに語る。　おまえはわたしの代わりに、言うべきことを彼に告げるのだ。　１７例の奇蹟

を行なうために、杖を持って行くのを忘れるな。」
１８　モーセは家へ帰り、義父のイテロに相談しました。　「お許しがいただければ、エジプトへ帰って親類を訪ねたいんですが……。　まだ生きているかどうかさえ、わからないのです。」
「遠慮はいらんよ。　行っておいで。」　イテロは快く承知しました。
１９　いよいよミデヤンの地を出発するという時、神様はモーセに告げました。　「エジプトへ帰るのを恐れてはならない。　おまえを殺そうとしていた者たちは、みな死んだ。」
２０　モーセは妻と息子たちをろばに乗せ、エジプトへ帰りました。手には例の神様の杖をしっかりと握りしめて……。
２１　神様はモーセに命じました。　「エジプトへ帰ったら、王のところへ行き、教えたとおり奇蹟を行ないなさい。　だが王は強情を張る。　わたしがそうさせるのだ。　それで、すぐにはイスラエル人の出国を認めないだろう。　２２その時はこう言ってやりなさい。　『「イスラエルはわたしの長男だ。　２３彼らがエジプトを出てわたしを礼拝できるようにせよと、わたしはおまえに命じた。　ところがおまえは拒否する。　その罰に、おまえの長男を殺す」と、神様は言われます。』」
２４　旅の途中、ある所で一夜を過ごすことになりました。　そのとき不意に神様が現われ、今にもモーセを殺そうとなさるのです。　２５２６妻のチッポラはあわてて火打ち石用のナイフをつかみ、息子の性器の前の皮を切り、それをモーセの両足につけました。　それから、いやでたまらないというふうに、「なんてことでしょう。　あなた血まみれよ」と言いました。
それでやっと神様は、モーセに手をかけるのをやめました。
２７　ところで神様はアロンにも、「荒野へ行ってモーセに会いなさい」と命じました。アロンは神の山ホレブまで出かけ、モーセと会い、再会を喜び合ったのです。　２８神様が二人に、これから何をし、何を語るよう命じたのか、モーセはアロンに伝えました。　もちろん、エジプト王の前で行なわなければならない奇蹟のことも話しました。
２９　モーセとアロンはエジプトへ帰り、イスラエル人の長老たちを集めて会議を開きました。　３０アロンは、神様がモーセに語ったことを皆に話し、モーセは、皆の目の前で例の奇蹟を行ないました。　３１こんな不思議なことは神様にしかできません。　長老たちは二人の話を信じました。　神様がじきじき人々の苦しみをご覧になり、救い出そうとしておられるというのです。　一同は大喜びです。　その場にひざまずいて神様を礼拝しました。
五
１　長老たちとの話がすむと、二人は王に会いに行きました。　「私どもはイスラエルの神、主のお告げを持ってまいりました。　『わたしの国民を行かせよ。　荒野で聖なる祝宴を張り、わたしを礼拝させるのだ』とのことです。」
２　「ふん、そうか。　だがな、どうしてこのわしが、主とやらの言うことを聞いて、イ

スラエル人どもを行かせなければならんのだ。　だいたい主とは何者だ。　聞いたこともないぞ。　いちいち、そんなお告げなどに取り合っておれん。　イスラエル人どもは絶対に行かせん。」　王はきげんをそこねたようです。
３　しかし、アロンとモーセも引き下がってはいません。　「ヘブル人の神様が私どもに現われたのです。　私どもは荒野を三日行った所で、主にいけにえをささげなければなりません。　もし神様に従わなければ、病気で死ぬか、さもなくば剣で殺されるかです。」
４５「ええい、いいかげんにしろっ！　自分を何様だと思っているのだ。　イスラエル人どもは、それでなくとも仕事が山ほどある。　その仕事を放り出させるつもりか。　余計なことに口出しするな。」　王はどなりつけました。　６その日、王は腹立ちまぎれに、イスラエル人を使う監督と配下の人夫がしらたちに、命令を出しました。　７８「以後れんが作り用のわらを与えてはならん。　しかも生産割り当ては一個たりとも減らすな。　荒野へ行って自分たちの神にいけにえをささげたい、などとぬかすのは、暇をもて余しているからだ。　９どんどん仕事をさせろ。　へとへとになるまでこき使え。　モーセやアロンのうそっぱちなどを聞いていると、どんな目に会うか、思い知らせてやるのだ。」
１０１１監督と人夫がしらは、さっそく全員に伝えました。　「王様の命令によって、これからはわらを渡さないことになった。　自分で捜せ。　ただし、れんがは前と同じだけ作るのだぞ。」　１２たいへんなことになりました。　人々はあちこちに出かけて行って、必死でわらを集めるのでした。
１３　それでも、監督は容赦しません。「一日分の仕事は前と同じにちゃんとやれ。　言いわけは許さんぞ」ときびしく要求します。　１４そして、イスラエル人の人夫がしらに、むちを振うのでした。　「きのうの割り当て分をちゃんと作らなかったな。　きょうも数が足りん。　怠け者めが。　命令どおりせっせと働け。」　とても無理なことをわめき散らすのです。
１５　人夫がしらたちは思いあまって、王のところへ嘆願に行きました。「陛下、お願いでございます。　こんなひどい仕打ちは、もうやめさせてください。　１６わら一本もらわず、前と同じ数のれんがを作るのは、無理な相談です。　私どもが悪いわけでもないのに、しょっちゅう打たれるのでは、かないません。　だいたい、こんな理屈に合わない仕事をさせる監督が悪いのでございます。」
１７　ところが、王は取り合いません。　「いいや、おまえたちは暇すぎるのだ。　そうでなければ、『主にいけにえをささげに行かせてほしい』などとぬかすはずがない。　１８さあ、とっとと仕事に戻れ。わらは一本も渡さん。　れんがの割り当ても減らさん。　今までどおり、きちんと持って来い。」
１９　もう、どうにもなりません。　人夫がしらたちは頭をかかえ込みました。　２０途方にくれて外へ出ると、モーセとアロンが待っていました。　二人の姿を見ると、　２１無性に腹が立ちます。　思いっきりののしるのでした。　「王やエジプト人から、こんなひどい仕打ちを受けることになったのも、元はと言えばおまえたちのせいだ。　まるで、

おれたちを殺すいい口実を与えたようなものさ。　二人とも神様のさばきを受けるがいい。」
２２　モーセも気持ちがおさまりません。 神様のもとに帰って抗議しました。 「神様、どうしてご自分の国民に、こんなひどい取り扱いをなさるのですか。　私が来たのは、いったい何のためでしょう。２３神様の命令を王に伝えてからというもの、事態はよくなるどころか、ますます悪くなるばかりです。　それなのに神様は、いっこうに救いの手を差し伸べてくださらないではありませんか。」
六
１　「わたしがしようとしていることは、そのうちわかる。　王はどうにもならなくなってから、ようやくわたしの国民を行かせるだろう。　その時には、行くのを許すというより、むしろ、国から追い出さないわけにはいかなくなるのだ。　２３わたしはアブラハム、イサク、ヤコブに現われた全能の神、主である。　もっとも、彼らには主という名を教えたことはないが……。　４わたしは彼らと聖なる契約を結んだ。　彼らと子孫とに、彼らが当時すんでいたカナンの地を与えると約束したのだ。　５今こそ、イスラエル人がエジプト人の奴隷になってうめき苦しんでいるのが、よくわかった。　そして、昔の約束を思い出した。
６　だから人々に、神が必ず救い出すと言ってやれ。　見てるがいい、わたしは大きな力をふるい、奇蹟を行なう。　彼らの奴隷の鎖を解き放ち、自由にする。　７彼らは名実ともにわたしの国民となり、わたしは彼らの神となる。　彼らは、エジプトから救い出したのがわたしであることを知る。　８９アブラハム、イサク、ヤコブに与えると約束した地に、わたしは彼らを連れて行く。　その地はわたしの国民のものとなる。」
モーセは、神様から聞いたとおり人々に伝えました。　しかし、もうだれも、耳を傾けようとはしません。　彼の言うことを聞いてひどい目に会ったために、すっかり気落ちしていたのです。
１０１１神様はまた、モーセに語りかけました。　「さあもう一度、王のもとへ行き、イスラエル人を行かせるように言いなさい。」
１２　しかし、モーセは素直に従えません。　「神様、同胞のイスラエル人でさえ、もう私の言うことを聞こうとしないのです。　まして、王が聞いてくれるはずがありません。それに第一、私は口べたなんです。」
１３　神様はモーセとアロンに、再び命じました。　イスラエルの人々と王にもう一度話し、イスラエル人の出国を要求しなさいというのです。
１４　イスラエルの各部族の長は次のとおりです。
イスラエルの長男ルベンの息子
エノク、パル
ヘツロン、カルミ
１５　シメオン部族の長

エムエル、ヤミン、オハデ
ヤキン、ツォハル
サウル〔母親はカナン人〕
１６　レビ部族の家系
レビの息子ゲルション、ケハテ、メラリ
レビは百三十七歳で没。
１７　ゲルションの息子
リブニ、シムイの氏族
１８　ケハテの息子
アムラム、イツハル
ヘブロン、ウジエル
ケハテは百三十三歳で没。
１９　メラリの息子
マフリ、ムシ
以上がレビの一族の家系です。
２０　アムラムは父親の妹ヨケベデと結婚しました。　その息子がアロンとモーセです。
アムラムは百三十七歳で没。
２１　イツハルの息子
コラ、ネフェグ、ジクリ
２２　ウジエルの息子
ミシャエル、エルツァファン、シテリ
２３　アロンは、アミナダブの娘でナフションの妹エリシェバと結婚しました。　彼らの
息子
ナダブ、アビフ
エルアザル、イタマル
２４　コラの息子
アシル、エルカナ、アビアサフ
これがコラの一族です。
２５　アロンの息子エルアザルは、プティエルの娘と結婚しました。その息子の一人がピネハスです。　以上、レビ部族の長とその氏族に属する家族の名をあげました。
２６　このリストにあるアロンとモーセが、「イスラエル人を一人残らずエジプトから救い出せ」と、神様から命令を受けた、あの二人です。　２７彼らが王のところへ行き、イスラエル人をエジプトから去らせるように要求したのです。　２８２９二人はまた、「わたしが主である。　行って、わたしの言うことを王に伝えよ」という命令も受けました。
３０　その時、「私にはできません。　口べたなのです。　どうして王が、私などの言うことを聞くでしょう」と答えたのが、このモーセです。

七
１　それから、神様はモーセに言いました。　「おまえをわたしの使者として、エジプト王のもとへ遣わす。　兄アロンがおまえの代わりに話す。　２おまえはわたしから聞いたとおりをアロンに話し、それを王に伝えてもらえばよい。　イスラエル人をエジプトから行かせるように要求するのだ。　３王は簡単には承知しないので、わたしはエジプトで数々の奇蹟を行なう。　４それでも、王はなかなか言うことを聞かないだろう。　そこで最後に、大きな災いを送って徹底的に打ちのめし、そのあとで、わたしの国民を救い出す。　５その力を目のあたりにする時、エジプト人は、わたしがほんとうに神であることを思い知るだろう。」
６　モーセとアロンは、神様の命令どおりにしました。　７王と対決した時、モーセは八十歳、アロンは八十三歳でした。
８　神様はモーセとアロンに言いました。　9「神から遣わされた証拠に奇蹟を見せろと、王は要求するだろう。　その時、アロンはこの杖を投げるのだ。　あっという間に蛇に変わる。」
１０　モーセとアロンは王宮に出かけて行って王と面会し、奇蹟を行ないました。　神様に教えられたとおり、王をはじめ居並ぶお付きの者たちの目の前で、アロンが杖を投げると、たちまち蛇になったのです。　１１王も負けてはいません。　さっそく、魔術を行なう呪術師を呼び寄せました。　彼らも魔法で同じようなことをしました。　１２彼らの杖も蛇になったのです。　しかしその蛇は、アロンの蛇にのまれてしまいました。　１３それでも王は、頑としてモーセの言うことを聞こうとしません。　１４神様が指摘なさったとおりです。　王は強情で、イスラエル人の出国はあくまで許さないだろうと言われたのです。
１５　しかし、神様は命じます。　「がっかりしてはいけない。　朝になったら、また王のところへ行きなさい。　王は川へ水浴びに行くから、あの杖、このまえ蛇に変わった杖を持って、岸で待っているのだ。　１６会ったら、こう言いなさい。　『ヘブル人の神、主が私を遣わしました。 荒野で神を礼拝できるように民を行かせなさい。 このまえは、私の言うことを聞こうともしなかった。　１７「今度こそ、わたしが神であることを必ず思い知ろう。　モーセに杖でナイル川の水を打てと命じたからだ。　川は血に変わるだろう。　１８魚は死に、水は臭くなり、エジプト人は水を飲めなくなってしまう」と、主は言われます。』」
１９　命令はさらに続きます。　「エジプト中のあらゆる水を杖で指すよう、アロンに言いなさい。　川、運河、沼地、池から、家の中の鉢や水差しにくんだ水まで、みな血に変わってしまう。」
２０　そこで、モーセとアロンは命じられたとおりにしました。　王と役人たちの見守る中を、アロンが杖でナイル川の水面を打ちました。　と、どうでしょう。　みるみる真っ赤な血に変わったのです。　２１魚は死に、水は臭くなって、とても飲めたものではあり

ません。　国中どこを見ても、血でいっぱいです。　２２しかしエジプトの魔術師たちも、秘術を用いて水を血に変えてみせました。　それで、王は相変わらず強情を張り、モーセとアロンには耳を貸そうともしません。　やはり神様が予告なさったとおりです。　２３王は何事もなかったように平然と宮殿へ帰りました。　２４エジプト人は飲み水を手に入れるため、川岸に沿って井戸を掘りました。　川の水が飲めなかったからです。
２５　さて次の週のことです。
八
１　神様はモーセに命じました。　「もう一度、王のところへ警告に行きなさい。　『主は、「わたしの国民が行ってわたしを礼拝するのを邪魔してはならない。　２もし行かせないなら、かえるの大群を発生させて国の端から端まで、かえるだらけにする。　３４ナイル川には、かえるがあふれ、家の中まで跳び込んで来る。　家中、寝室もベッドも、かえるで足の踏み場もなくなる。　かまどや粉をこねる鉢にまで入り込む。　エジプト中がかえるで埋まるだろう」と言われます。』」
５　そして、こう続けました。　「杖をエジプト中の川や水たまりに向けるよう、アロンに命じなさい。　この国は隅から隅までかえるだらけになる。」　６アロンが言われたとおりにすると、国中かえるでいっぱいになりました。　７魔術師たちも手をこまぬいてはいません。　秘術を使って、同じようにかえるを出しました。
８　困り果てた王は、モーセとアロンを呼びつけました。　「かえるを何とかしてくれ。もうたくさんだ。　おまえたちの神に頼んでくれ。　かえるさえいなくなったら、おまえたちをこの国から出してやろう。　神でも主でも、好きなように拝むがよかろう。」
９　「ありがたいことです。　で？　いつ出発できましょう。　その日が決まりしだい、さっそく祈ります。　お望みの時に、かえるは一匹残らず死にます。　ナイル川のかえるは別ですが……。」
１０　「よしわかった。　あすにしろ。」
「けっこうです。　おっしゃるとおりにしましょう。　その時、私たちの神、主のような方はほかにいないことが、よくおわかりになるでしょう。　１１川にいるかえるのほかは、みな死にます。」
１２　モーセとアロンは王の前を下がりました。　モーセがかえるのことを神様にお願いすると、　１３王に約束したとおりになりました。国中、田舎と言わず町と言わず、家の中までも、かえるの死骸でいっぱいです。　１４あちこちに山と積み上げられた死骸から、吐き気をもよおすような悪臭がぷんぷん臭ってきます。　１５ところが、かえるが死んでしまうと、王はまた強情を張りだしたのです。　約束をやぶって、イスラエル人を行かせないことにしてしまいました。　神様が予告なさったとおりです。
１６　神様はまた、モーセに命じました。　「地面のちりを杖で打つよう、アロンに命じなさい。　エジプト中のちりは、ぶよになる。」　１７二人は命じられたとおりにしました。すると、ぶよが大発生し、エジプト人と家畜全部にたかりました。　１８魔術師たちも同

じことをしようとしましたが、今度はみごと失敗してしまいました。
１９　「これはまさしく神様のしわざです。」　魔術師たちは王に叫びました。　しかし、王はますます頑固になるばかりで、少しも耳を傾けようとしません。　全く神様が予告なさったとおりです。
２０　次に神様はモーセに命じました。　「あすの朝はやく起きなさい。　王が水浴びに川へ来るから、その時こう言いなさい。　『主は、「わたしの国民が礼拝しに行くのを許しなさい。　２１もし許さないなら、エジプト中にあぶの大群を発生させる。　家々はあぶだらけになり、地面もあぶで見えなくなる。　２２しかし、イスラエル人が住むゴシェンの地には、そういうことはない。　あぶなど一匹も出ない。　こうして、わたしが全地を支配する神であることがわかる。　２３おまえの国民とわたしの国民とを、はっきり区別するのだ。　これらのことはみな、あす起こる」と言われます。』」
２４　神様は言われたとおりになさったので、王の宮殿にもエジプト中のどの家にも、恐ろしいあぶの大群が現われました。
２５　あわてたのは王です。　急いでモーセとアロンを呼びつけました。　「わかった、わかった。　おまえたちの好きにするがいい。　自分の神にいけにえをささげるのもよかろう。　ただし、この国の中でだ。　荒野へ出かけることは許さん。」
２６　「おことばを返すようですが、それはまずいのです。　私たちがささげるいけにえは、エジプトでは大へんきらわれているものです。そんな所でいけにえをささげたら、私たちのほうが殺されかねません。　２７神様の命令どおり、三日ほど旅をして、荒野でいけにえをささげなければなりません。」
２８　「そんなに言うなら好きにしろ。　ただ、あまり遠くへ行ってはならん。　それよりも、急いで神様に祈ってくれ。」
２９　「わかりました。　あぶの大群がいなくなるよう、神様にお願いしましょう。　ですが陛下、また気が変わって約束を破るようなまねは、二度となさらないでください。」
３０　モーセは王の前から退き、あぶをいなくしてくださいと神様に願いました。　３１３２願いはかないました。　あれほどのあぶの大群もすっかり姿を消し、どこにも見えなくなったのです。　ところが、心配がなくなると、王はまたまた強情になり、イスラエル人を行かせようとはしませんでした。
九
１　神様はまた、モーセに命じました。　「王のところへ戻りなさい。　きっぱりこう言うのだ。　『ヘブル人の神、主が要求する。　神の国民が行っていけにえをささげることを許しなさい。　２もし拒否したら、　３恐ろしい伝染病をはやらせよう。　馬やろば、らくだ、羊の群れ、牛の群れなど、家畜は全滅する。　４ただし、死ぬのはエジプト人の家畜だけだ。　イスラエル人の牛や羊の群れは、何一つ被害を受けない。』」
５　神様は、翌日すぐに伝染病がはやりだすと宣告なさいましたが、　６実際そのとおりになりました。　明くる朝、エジプト人の家畜は、ばたばた倒れ始めたのです。　しかし、

イスラエル人の家畜は病気にさえなりません。　７王はわざわざ使いをやり、イスラエル人の家畜が一頭も死なないというのは本当かどうか、調べさせました。　そのとおり間違いありません。　それでも、やはり王の気持ちは少しも変わらず、イスラエル人を行かせようとはしませんでした。
８　そこで、神様はモーセとアロンに命じました。　「かまどからすすを取り出し、王の目の前で、モーセがそれを空にまき散らしなさい。　９それは細かなちりとなってエジプト中に散らばり、人と動物の区別なくどこにでもつき、できもののもととなる。」
１０　二人はすすを取って王のところへ行き、目の前で、モーセが空に向かってまきました。　すると、エジプト中の人間と動物につき、できものができるのでした。　１１魔術師たちもできものだらけになり、モーセの前に出られません。　１２しかし、神様は王が強情を張るままにさせたので、王は神様の命令に従おうとはしませんでした。　神様がモーセに予告なさったとおりです。
１３　それから、神様はモーセに命じました。　「朝はやく起きて王の前に立ち、こう言いなさい。　『ヘブル人の神、主は次のように言われます。「わたしの国民を行かせ、わたしを礼拝させなさい。　１４今度は、おまえをはじめ、おまえの家来そしてエジプト中の人間が、骨身にこたえるような災害を起こす。　この世界にわたし以外に神がいないことを教えるためだ。　１５これまでも、おまえたちを滅ぼそうと思えば滅ぼせた。　１６そうしなかったのは、わたしの力を、おまえと全世界にはっきり示したかったからだ。　１７それなのにおまえは、わたしに対抗できるとうぬぼれている。　それで、わたしの国民を行かせないと強情を張っているわけだ。　１８それもいいだろう。　だが、あすの今ごろ、わたしはこの国全体に雹を降らせる。　エジプトの国が始まってからこのかた、だれも経験したことがないような雹だ。１９急げ。　家畜を早く小屋へ入れたほうがいい。　野原にいるものは、人間も動物もみな、雹に打たれて死ぬ。」』」
２０　エジプト人の中には、この警告を聞いて恐れ、家畜や奴隷を家に入れた人もいました。　２１しかし、神様の言うことなど何とも思わない人たちは、雹ぐらい何だとうそぶいていました。
２２　神様はモーセに命じました。　「天を指さしなさい。　すると、雹がエジプト全土に降る。　人間、動物、木、ありとあらゆるものの上に降る。」
２３　モーセが杖を天に向けて伸ばすと、たちまち雷が鳴り、いなずまが走り、激しい雹が降りだしました。　２４その恐ろしさは、とてもことばでは表現できないくらいです。エジプトの歴史上、これほど激しい嵐はありませんでした。　２５エジプトはいっぺんに荒廃してしまいました。　野原にいたものは、人間と動物の区別なく死に絶え、木々は無残に裂かれ、作物もだいなしです。　２６その日、エジプト中で、雹が降らなかったのは、イスラエル人が住むゴシェンの地だけでした。
２７　もう、どうにもなりません。　王はモーセとアロンを呼びにやりました。　「わしが間違っていた。　主の言われるとおりだ。　わしも国民も悪いことをした。　２８この

恐ろしい雷と雹を何とかしてくれ。　早くやむよう、主に願ってくれ。　すぐにでも、おまえたちを立ち去らせることにする。」
２９　「けっこうです。　町を出たらすぐ、私は両手を主に差し伸べて祈りましょう。　雷と雹は必ずやみます。　主は地を支配しておられるのです。　陛下はそれをご覧になります。　３０しかし、それでもなお、主の命令には従わないでしょう。　お役人方も同じです。」　３１この時すでに、亜麻と大麦は全滅でした。　大麦は穂を出し、亜麻も、つぼみをつけていたからです。　３２小麦とスペルト小麦は助かりました。　まだ穂が出ていなかったのです。
３３　モーセは王の前から退き、町の外に出て両手を高く天に伸べました。　すると、どうでしょう。　雷と雹はピタリとやみ、雨もすっかりあがったのです。　３４これでひと安心です。　王と役人たちは、またまた強情を張りだしました。　今度も約束は反古です。　３５王は、イスラエル人の出国を許さないことにしてしまいました。　神様が予告なさったとおりです。
一〇
１　神様はモーセに命じました。　「また王のところへ行って要求しなさい。　しかし承知しないだろう。　わたしがそうさせるのだ。奇蹟をもっとたくさん行なって、わたしの力を見せてやるためだ。　２わたしがエジプトでどんなすばらしいことをしたか、子供や孫たちに語り伝えなさい。　わたしがどのようにエジプト人を負かし、主であることをおまえたちに示したか、代々語り伝えるのだ。」
３　モーセとアロンはもう一度、王との会見を申し入れました。「ヘブル人の神、主が言われます。　『いつまでおまえは、わたしの言うことに逆らうのだ。　わたしの国民がわたしを礼拝できるよう、行かせなさい。　４５もし行かせないなら、明日いなごの大群を送る。　国中がいなごでおおわれ、地面を見ることさえできなくなる。　雹の害をまぬがれた作物も、今度ばかりは助からない。　６宮殿も役人たちの家も、エジプト中の家という家が、全部いなごだらけになる。　エジプトの歴史上、だれも体験したことのない災害になるだろう。』」　そう言いきると、モーセは胸を張って王の前を下がりました。
７　心配になった宮廷の役人たちは、王に願い出ました。　「私どもを滅ぼすおつもりですか。　それでなくとも、エジプトは雹にやられて、すっかり荒れ果ててしまいました。　もうたくさんです。　どうぞ、連中が行きたいと言うなら、行かせてください。　主とかいう神様でも何でも、好きなように礼拝させてやってください。」
８　モーセとアロンは、王のもとに呼び戻されました。　「おまえたちの言い分はわかった。　出かけて、おまえたちの神、主に仕えるがよかろう。　だが行きたがっているのは、実際のところだれとだれか。」
９　「若い者も年寄りもみなです。　息子、娘、羊や牛の群れも、ぜんぶ連れて行きます。」モーセが答えました。　「一家をあげて、この聖なる巡礼に参加するのです。」
１０　「なんだと？　神かけて、子供たちを連れて行くことは許さん。　おまえたちの計

略は見えすいている。　１１全員行くなど、いや決して許さん。　大人の、しかも男だけが出かければすむことだ。　もともとそういう話じゃなかったのか。」　二人は王の前から早々に追い払われました。
１２　神様はモーセに命じました。　「手をエジプトの国に差し伸べなさい。　いなごが出て来て国中をおおい、雹の害をまぬがれた物を食い尽くしてしまう。」
１３　モーセが杖を上げると、神様はまるまる一昼夜、東風を吹かせました。　やがて朝になり、東風に乗っていなごの大群が押し寄せました。　１４いなごはエジプトを端から端まで埋め尽くしました。　エジプトの歴史上、これほどひどいいなごの害は一度もなかったし、これからも二度とないだろうと思われるほどでした。　１５いなごは地面をおおい尽くし、太陽の光も、その大群にさえぎられて薄暗くなったほどです。　雹の害を免れた作物は全部いなごに食べられてしまいました。　緑の物は何一つ残りません。　エジプト中の木や草が、食い尽くされてしまったのです。
１６　あわてたのは王です。　急いで使いをやり、モーセとアロンを呼んで言いました。「おまえたちの神、主とおまえたちとに悪いことをした。　すまなかった。　１７もう一度だけ、わしの罪を赦してほしい。　主に祈ってくれ。　このままでは死んでしまう。　今度こそ約束を守るから。」
１８　モーセは王のもとを辞し、神様に願いました。　１９すると、強い西風が吹きだし、いなごを紅海まで運び去ったのです。 エジプトには、いなごは一匹もいなくなりました。２０しかし神様は、また王を強情にしたので、今度もやはり、イスラエル人を行かせようとはしません。
２１　神様はモーセに命じました。　「両手を天に向けて伸ばしなさい。　暗やみがエジプトをおおい、光は一筋もささなくなる。」 ２２モーセは言われたとおりにしました。 すると、エジプトは三日間、墨を流したような暗やみにおおわれてしまいました。　２３あまりの暗さに、身動きさえできません。 ただ一個所だけ光のさしている所がありました。イスラエル人がいた所です。
２４　王はまたまたモーセを呼びつけました。　「早く出て行ってくれ。　行って主を礼拝するがいい。　ただし、羊と牛の群れは置いて行け。　こうなったら、子供たちは連れて行ってかまわん。」
２５　「おことばを返すようですが、それでは承知いたしかねます。　私たちの神、主にいけにえと完全に焼き尽くすいけにえをささげるために、羊や牛の群れを連れて行かなければならないのです。　２６一頭でも残して行くわけにはまいりません。　神様には動物のいけにえをささげなければならず、向こうへ着くまでは、神様がどの動物をお選びになるかわかりません。　ですから、ぜんぶ連れて行きます。」
２７　これを聞いて、王はまた意地を張りだしました。 神様がそうなさったのです。「そんな勝手を言うなら、行かせてやるものか」と王は思いました。
２８　「ええい、下がれっ！　おまえの顔など二度と見たくもない。」王はモーセをどなり

つけました。　「よーく覚えておけ。　今度わしの前に姿を現わしたら死刑だ。」
２９　「けっこうです。　私も二度とお目にはかかりますまい。」　モーセは答えました。
一一
１とうとう神様はモーセに命じました。　「いよいよ、これが最後だ。　王とエジプト人どもを徹底的に打ちのめすのだ。　そのあと、王はようやく、おまえたちの出発を認めるだろう。　いや、むしろ早く出て行かせたくて追い立てる、と言ったほうが正確だ。　２その時は遠慮はいらない。　エジプト人の隣人に、金や銀の高価な飾り物を要求するのだ。今からその心備えをしておくよう、イスラエル人全員に言いなさい。」
３　これは、エジプト人がイスラエル人に好意を示すよう、神様が計らってくださるからです。　モーセも、エジプトでは偉大な人物として知られ、王の役人やエジプト国民に尊敬されていました。
４　さて、モーセは王に宣言しました。　「主はこう言われます。『真夜中ごろ、わたしはエジプトを通り過ぎる。　５その時、上は王位を継承する王子から下は奴隷の長男に至るまで、エジプト中の家々の長男はみな死ぬ。　家畜の初子も同じだ。　６死を嘆く声が国中に響き渡るだろう。　いまだかつてなかったような、また、これからも二度とないような苦悩に満ちた嘆きだ。
７　しかしイスラエル人には、犬がきばをむくことさえない。　家畜も一頭たりとも死なない。　こうして、エジプト人とイスラエル人とは、はっきり区別されるのだ。』　８ここにおられるお役人方は、そのとき私のところへ駆けつけ、拝むようにして、『どうか、どうか、今すぐ出て行ってください。　イスラエル人は一人残らず連れて、出て行ってください』と頼むでしょう。　そうなったら出て行きましょう。」　モーセの顔は怒りで真っ赤です。　言うだけ言うと、モーセはさっさと宮殿を出ました。
９　モーセは、前もって神様にこう言われていたのです。　「王は言うことを聞かないだろう。　おかげで、大きな奇蹟を行ない、わたしの力を十分示すことができる。」　１０モーセとアロンが、数々の奇蹟を王の目の前で行なったにもかかわらず、そういうわけで、神様は王が強情を張るままにしておかれたのです。　それで、王はイスラエル人の出国を、なかなか許そうとはしなかったのです。
一二
１　さて、神様はモーセとアロンに命じました。　２「これからは今月がユダヤの一月（太陽暦の三月中旬から四月中旬）、暦の中で一番たいせつな月となる。　３４そこで、イスラエル人全員にこう布告しなさい。　毎年この月の十日に、家族ごとに子羊を一頭用意しなければならない。　家族が小人数の時は、近所の小人数の家族と分け合ってもよい。　家族の人数によってどうするか決めるのだ。　５用意するのは羊か山羊の一歳の雄で、傷のないものでなければならない。
６　まず、この月の十四日の夕方に子羊を殺す。　７次に、その血を家々の戸口の両わきの柱とかもいに塗る。　血は、その家で食べる子羊のものを使うこと。　８その夜は家族

全員で、丸焼きにした子羊の肉を、イースト菌抜きのパン、苦味のある野草といっしょに食べなければならない。 ９肉は生で食べたり煮たりするのではなく､必ず焼くこと。 頭、足、心臓、肝臓もつけたまま丸焼きにするのだ。 １０どの部分でも、翌日まで残しておいてはならない。 夜のうちに食べきれなかったら、残りは焼いてしまえ。
１１ 長い旅に備えて旅仕度のまま食べるように。 靴をはき、杖を持ったまま急いで食べる。 以後これを『主の過越の祭り』と呼ぶのだ。 １２今夜わたしがエジプトを通り過ぎ、国中の家々の長男と家畜の初子とを殺し、エジプトの神々にさばきを下すからだ。わたしは主である。 １３戸口の柱に塗った血は、わたしに従うという証拠だ。 エジプトの地を打つ時も、血が塗ってある家は過ぎ越す。 その家の子供は安全だ。
１４ この夜の重大な出来事を忘れないために、毎年、記念の祭りを祝わなければならない。 これは永遠に変わらない決まりだ。 １５祭りの期間は七日間、その間はイースト菌抜きのパンしか食べてはならない。 この規則を破る者は、だれであろうとイスラエルから除名される。 １６祭りの一日目と七日目に、全イスラエル人のために特別な集会を開く。 その日は、食事の準備以外はどんな労働もしてはならない。
１７ この『種なしパンの祭り』を毎年行ない、いつも今日という日を、わたしがおまえたちをエジプトから救い出した日として記念せよ。子々孫々、この日を例祭としなければならない。 これは法律だ。１８この月の十四日の夕方から二十一日の夕方まで、イースト菌抜きのパンしか食べてはならない。 １９この七日間、イーストの一かけらも家にあってはならない。 その間にイースト菌の入ったものを食べた者はだれでも、イスラエル人の社会から追放される。 同じ規則は、いっしょに住んでいる外国人にも適用される。イスラエルに生まれた者と全く同じである。 ２０もう一度くり返す。 この期間中はイースト菌を使ったものを食べてはならない。 どこにいても、イースト菌を入れないパンだけを食事に出しなさい。」
２１ モーセは、イスラエルの長老全員を呼び集めて言いました。 「さあ、群れの中から子羊を取って来なさい。 一家族に一頭、小人数の場合は数家族に一頭ずつだ。 そして､神様があなたがたを手にかけないで過ぎ越してくださるように､その羊を殺しなさい。２２その血を鉢に入れ、ヒソプの枝を取って血に浸し、かもいと両側の柱に塗りなさい。夜の間はだれも外に出てはならない。
２３ 神様は、エジプトの国中を巡ってエジプト人を打たれる。 けれども、かもいと両側の柱とに血がついている家は過ぎ越し、『死の使い』が入って長男を殺さないよう、守ってくださる。 ２４これは、あなたがたばかりか、子々孫々に至るまで、永遠に変わらない法律だということを忘れるな。 ２５神様の約束の国に入ったら、この過越の祭りを祝いなさい。 ２６そのとき子供たちが、『なんでこの祭りをするの。 どういう意味なの』と尋ねるだろう。 ２７そうしたらこう答えなさい。 『神様が私たちを過ぎ越してくださったことを記念する祭りだよ。 エジプト人は殺されたが､イスラエル人は無事だった。神様は私たちを滅ぼしに、家へ入ったりはなさらなかったのだよ。』」 人々はみな深々と

頭を下げ、神様を礼拝しました。
２８　イスラエル人は、モーセとアロンの指示どおりにしました。　２９その夜です。　真夜中ごろ、王の世継ぎから地下牢に閉じ込められている捕虜の長男に至るまで、エジプト人の家の長男は一人残らず、神様の手にかかって死にました。　家畜の初子もです。　３０王や役人たちをはじめ、エジプト中の人々が、夜中だというのに起きだし、国中に悲鳴が響き渡りました。　死人の出ない家は一軒もなかったからです。
３１　王は、その夜のうちに、モーセとアロンを呼びつけました。「もうたくさんだ。　早く出て行ってくれ。　一人残らず、今すぐ出て行けっ！　主だろうが何だろうが、好きなように礼拝しろ。　３２羊も牛もみんな連れて、早く行ってしまえ！　だが、出かける前にわしを祝福して行けよ。」　３３エジプト人は、「このままじゃ、われわれまで死んでしまう」と言い、できるだけ早く国から出てもらおうと、イスラエル人をせかせました。
３４　ぐずぐずできません。　イスラエル人はみな、イースト菌の入っていないパン生地を鉢に入れ、衣類で包んでかつぎました。　３５それから、モーセに言われたとおり、エジプト人から金や銀の飾り物と衣服を求めたのです。　３６神様のおかげで、エジプト人は親切にしてくれました。　欲しい物は何でも、財産をはたいてまで譲ってくれるほどでした。
３７　その夜のうちにラメセスを出発し、スコテに向かいました。　女、子供は別として、六十万もの人が旅に出たのです。　３８一行の中には、いろいろな国の人たちがいました。羊や牛の群れもいっしょです。　まさに家畜の大脱出です。　３９食事には、持って来たイースト菌抜きのパン生地で、パンを焼きました。　あまりあわただしくて、パンがふくれるまで待っている暇がなかったからです。
４０４１ヤコブの息子たちとその子孫は、結局エジプトに四百三十年のあいだ滞在したことになります。　エジプトを出発したのは、四百三十年目のちょうど最後の日でした。　４２この夜は、神様がイスラエル人をエジプトから連れ出すために、特に選ばれた夜です。毎年その日が、神様の救いを記念する祭りの日となったのは、そういう事情があるのです。
４３　ところで、神様はモーセとアロンに命じました。　「過越の祭りについて次のように定める。　外国人は過越の子羊を食べてはならない。　４４しかし買い取られた奴隷は、割礼（男子が生まれて八日目にその生殖器の包皮を切り取る儀式）を受けてさえいれば、食べてかまわない。　４５雇い人や、たまたま訪問中の外国人は、食べてはならない。　４６子羊を食べる者はみな、家に集まっていっしょに食べる。　決して家の外へ持ち出してはならない。　骨一本も折ってはならない。　４７イスラエル人は全員、この記念行事を守らなければならないのだ。
４８　いっしょに住む外国人で、過越の祭りを共に祝いたいと願う者は、男ならみな割礼を受けさせなさい。　そのうえでなら、いっしょに祭りをしてもよい。　その時は、イスラエルに生まれた者と同じに扱いなさい。　だが割礼を受けていない者は、決して子羊を食べてはならない。　４９イスラエルに生まれた者にも、いっしょに住む外国人にも、同

じ法律が適用される。」
５０　イスラエル人は、神様がモーセとアロンに命じたことはみな守りました。　５１その日、神様はエジプトからイスラエル人を救い出したのです。　幾つものグループが、続々と国境を越えて行きました。
一三
１２さて、神様がモーセに与えた指示はこうです。　「イスラエル人の長男と家畜の初子とは、みなわたしにささげなさい。　わたしのものなのだから。」
３　モーセは人々に言いました。　「この日こそ、永遠に記念すべき日、エジプトの奴隷の鎖から解放された日だ。 神様がすばらしい奇蹟を起こして救い出してくださったのを、忘れないようにしよう。だから、毎年この出来事を記念して祭りを祝う時には、イースト菌を使ってはならない。　４５毎年、一月半ば（太陽暦の三月末）のこの日を、エジプト脱出の記念日としよう。　きょうから、神様があなたがたを、カナン人、ヘテ人、エモリ人、ヒビ人、エブス人の国、つまり先祖たちに約束された、『乳と蜜の流れる』国へ導いてくださるのだ。　６７七日間は、イースト菌抜きのパンしか食べてはならない。　イスラエル国内ではどこでも、家の中にイーストがあってはならない。　そして、七日目に神様のための祭りを盛大に祝う。
８　毎年その祭りのたびに、子供たちに祝いの意味を説明しなさい。　エジプトを脱出する時、神様がどんなすばらしいことをしてくださったかを記念する祭りだからだ。　９毎年この一週間を記念することによって、自分たちが神様の特別な国民であることを確認する。　言ってみれば、神様のものだというしるしに、神様があなたがたの手や額に焼き印を押すようなものだ。
１０　それで、この出来事を毎年一月半ばに祝わなければならない。　１１神様がずっと昔、先祖たちに約束した地、今カナン人が住んでいる地に導いてくださったあかつきには、１２どの家の長男も、どの家畜の初子も、それが雄であれば、みな神様のものだということを忘れてはならない。　みな神様にささげなさい。　１３ろばの初子の場合は、身代わりに子羊や子やぎをささげることができる。　つまり、神様から買い戻すのだ。　そうしない場合は、ろばは殺す。　しかし人間の場合、長男は必ず買い戻さなければならない。
１４　子供たちが、『これはどういう意味？』と聞いたら、こう教えなさい。　『神様がすばらしい奇蹟を行なって、私たちを奴隷生活から救い出してくださったのだよ。　１５エジプト王はなかなか行かせてくれなかった。　それで神様はエジプト中の家の長男と家畜の初子をみな殺した。　だから私たちもこうして、最初の男の子は家畜も含めて、すべて神様にささげるのだよ。　ただ人間の場合は、いけにえにするわけにいかないので、必ず買い戻すがね。』　１６もう一度言う。　この祭りを守ることによって、あなたがたが神様の国民であることがはっきりする。　神様の焼き印が額に押されるのと全く同じことだ。祭りを守ることによって、神様の偉大な力でエジプトから救い出された思い出を、新たにするのだ。」

１７１８こうしてついに、王はイスラエル人を行かせることになったのです。
さて、エジプトから約束の地へ行くには、ペリシテ人の地を通るのがいちばん近道でしたが、神様は別の道を通るようになさいました。　道中ずっとペリシテ人と戦うのは、つらいことです。　エジプトを出るとき一応武装はしていましたが、人々はがっかりして、またエジプトへ帰ってしまうかもしれません。　そこで紅海を通る荒野の道へ行かせたのです。
１９　モーセはヨセフの遺骨を持って出ました。　神様のお力によってエジプトから救い出される時には必ず持って行くようにと、ヨセフが神様の前で、イスラエル（ヤコブ）の息子たちに約束させたからです。　この日がくることを、ヨセフは確信していたのです。
２０　一行はスコテを出たあと、荒野のはずれにあるエタムに野営しました。　２１神様の計らいで、昼間は雲の柱、夜は火の柱が現われ、進む道をはっきり示してくれます。　おかげで、昼でも夜でも旅を続けることができました。　２２この雲と火は、その後ずっと、見えなくなることはありませんでした。
一四
１　神様はモーセに命じました。　２「引き返して、ミグドルと海との間、バアル・ツェフォンに面したピ・ハヒロテへ向かいなさい。　そこの岸辺にテントを張るのだ。　３エジプト王はきっと、『イスラエル人どもは砂漠と海の間で立ち往生しているに違いない』と考えるだろう。　４そして、またもや片意地を張り、あとを追いかけて来る。　すべてわたしの思うつぼだ。 王とその軍隊に、いやと言うほどわたしの力と栄光を見せてやろう。エジプト人も今度こそ、わたしが神であることを認めないわけにはいくまい。」
一行は神様から命じられた場所に野営しました。
５　三日たってもイスラエル人はエジプトへは戻らず、そのまま逃げ出すつもりらしい、という知らせが届くと、王と家来たちはまた気が大きくなりました。　「あの奴隷どもをみな逃がすとは、なんというばかなことをしてしまったのだ。」　６このまま放っておく手はありません。　王は戦車に跳び乗り、先頭に立って追跡隊の指揮をとりました。　７あとには、エジプト戦車隊の精鋭六百と将校の戦車が続きます。　８こうして追跡が始まりました。　みすみすエジプトの富を持って行かせるのは、なんとしてもしゃくにさわります。　９馬、戦車、騎手と、王の全機動部隊が追跡作戦に駆り出されました。　エジプト軍は、イスラエル人がバアル・ツェフォンの手前、ピ・ハヒロテの岸辺に野営していたとき追いつきました。
１０　イスラエル人が見ていると、はるかかなたからエジプト軍がやって来ます。　それがだんだんスピードを増して近づいて来るのです。　人々はすっかり震え上がり、神様に助けを求めました。
１１　そして、モーセには泣き事を言うのでした。　「エジプトには墓が足りないから、こんな砂漠まで連れ出して、死なせようというんですか。　これじゃ、何のためにエジプトから逃げ出したかわかりませんよ。　１２だいたい初めからおかしいと思った。　だか

らあの時も、このまま放っておいてくれって言ったんだ。　荒野で死ぬくらいなら、エジプトで奴隷になってたほうがまだましだ。」
１３　しかし、モーセは言いました。　「みんな、こわがってはいけない。　今いる場所にしっかり腰をすえて、きょう神様がすばらしい方法で救ってくださるのを、よく見ようじゃないか。　あのエジプト人を見るのも、きょうが最後だ。　１４神様が代わりに戦ってくださる。　だから、みんなは指一本、動かす必要がないのだ。」
１５　神様はモーセに命じました。　「さあ祈るのはそれくらいにして、人々を前進させなさい。　１６杖を海の上に差し伸べると、水が分かれて道ができる。　そのかわいた土の上を歩いて渡りなさい。　１７わたしはエジプト人に意地を張らせ、彼らにあとを追わせる。　だがその時、王と全軍勢、戦車や騎手たちをわたしは滅ぼす。　わたしは大いにたたえられるだろう。　１８そして全エジプトは、わたしが神であることを知る。」
１９　その時、いつも人々の前を進んでいた神様の使いがうしろに移ったので、雲の柱もうしろになりました。　２０ちょうど、イスラエル人とエジプト軍の間に立ちふさがるような格好です。　真っ黒な雲が垂れこめたからたまりません。　あたりは夜のように暗くなり、エジプト人には、イスラエル人が見えなくなってしまったのです。
２１　モーセが杖を海に差し伸べると、神様は海の中に道をおつくりになりました。　両側には水の壁がそそり立ち、強い東風が一晩じゅう吹きつけて、海の底にかわいた地が現われたのです。　２２イスラエル人は、そのかわいた道を進みました。　２３エジプト軍もあとを追い、どっと海の底へなだれ込みました。　王の馬、戦車、騎手ぜんぶです。　２４明け方､神様は火と雲の柱の間からエジプトの軍勢をご覧になり､攪乱戦術に出ました。２５車輪がはずれて､戦車は海の真ん中で､動きが取れなくなってしまったのです。「逃げろっ！　ぐずぐずするなっ。　とてもかなわん。　やつらには神様がついてるぞ。」　あちこちから叫び声があがります。
２６　イスラエル人がみな無事に渡り終えたのを確かめると､神様はモーセに命じました。「もう一度、手を海の上に差し伸べなさい。　そうすれば水が戻って、エジプト軍の戦車と騎手におおいかぶさるだろう。」　２７モーセはそのとおりにしました。　たちまち水の壁はくずれ、海は元どおりになりました。　何事もなかったように、朝日を受けて波がきらきら輝いています。　エジプト軍は逃げようとしましたが、神様がおぼれさせてしまいました。　２８ついさっきまで道だった所も、エジプト軍の戦車も騎手も、みな海の底に沈みました。　あとを追って海に入ったエジプト軍の中で、いのちが助かった者は、ただの一人もありませんでした。
２９　実にイスラエル人は、両側に水の壁がそそり立つ中を歩いて、海の底のかわいた地を渡ったのです。　３０こうして神様は、その日、イスラエル人をエジプト軍の手から救い出されました。　イスラエル人は岸に流れついたエジプト人の死体を見ました。　３１神様はなんという大きな奇蹟を起こし、助けてくださったのでしょう。　人々はあまりの恐ろしさに、身の引きしまる思いでした。　そして、神様とそのしもべモーセとを信じま

した。
一五
１　その時モーセとイスラエル人は、神様をたたえる歌をうたいました。
「主の勝利をたたえ、心から喜び歌おう。
主は馬も人も、海に投げ込んだ。
２　主は私の力、私の歌、私の救いだ。
私は、私の神、主をたたえよう。
先祖の神、主をあがめよう。
３　主は兵。
まことに主と呼ぶにふさわしい。
４　主はエジプト王の戦車と軍勢を滅ぼした。
えり抜きの将校もおぼれ死んだ。
５　水にのまれ
石のように海の底へ沈んだ。
６　おお、主の右手は力と栄光に満ち
敵をみじんに打ち砕く。
７　その輝かしい御力によって
主は立ち向かう敵をすべて滅ぼした。
主の怒りの火は激しく、
彼らはわらのように燃え尽きた。
８　主が息を吹きかけると、
水は真っ二つに分かれた！
水は壁となってそそり立ち
海を二つに分けた。
９　敵は言った。
『あとを追え。　やつらを滅ぼせ。
剣のえじきにし、戦利品を分け合おう。』
１０　だが、それもつかの間、
風が巻き上がり、海が彼らをのんだ。
彼らは大海に沈んだ、まるで鉛のように。
１１　主のような神がほかにいるだろうか。
主のようにすばらしく、聖なる方がほかにいるだろうか。
奇蹟を行なわれる主のように
たたえられ、恐れられる神がほかにいるだろうか。
１２　主が手を伸ばすと、大地は彼らをのみ込んだ。
１３　自ら買い取った国民を、主は導いてくださった。

聖なる地にやさしく導いてくださった。
１４　国々はこの話を聞いておののく。
ペリシテ人は恐れ、
１５　エドムの王たちは驚きまどい、
モアブの君たちは震え上がり、
カナン人は恐怖のとりことなった。
１６　だれもが驚き恐れた。
主の大きな力を恐れ、
敵もわれわれを襲わない。
主が買い取った国民は
何の心配もなく外国人の間を通る。
１７　主はその国民を導き、神の山に植えてくださる。
恐れ多くも、主ご自身の地
われわれのために備えてくださった聖なる地に。
１８　主は永遠に世界を治める。」
１９　エジプト王の馬と騎手と戦車は、海の中を進もうとしました。　しかしその時、水の壁はくずれ、彼らの頭上におおいかぶさったのです。　そしてイスラエル人は、かわいた地を渡りました。
２０　この時、アロンの姉で女預言者のミリヤムが、タンバリンを手に、女たちの先頭に立って踊り始めました。
２１　ミリヤムは歌いました。
「主の勝利をたたえ、心から喜び歌おう。
主は馬も人も海に投げ込んだ。」
２２　このあとモーセは人々を率いて、紅海からさらにシュルの荒野へ出ました。　三日間、水のない日が続きました。　２３やっとマラに着きましたが、水はあるものの、苦くてとても飲めません。　それで、マラ〔「苦い」の意〕という名がついたのです。
２４　人々はモーセに不平を言いました。　「何とかしてくれ。　のどが渇いて死にそうだ。　このままじゃ、いよいよ最期だな。」
２５　モーセは神様に助けを求めました。　すると、神様は一本の木を示し、それを水に投げ入れなさいと命じるのです。　そのとおりにすると、水は甘くなりました。
このマラで、神様は、人々がどれだけ献身的にご自分に仕えるかを試そうと、次のような条件を出しました。　２６「もしもおまえたちがわたしに従い、正しいことを行なうなら、エジプト人を悩ませた病気で苦しまなくてすむようにしよう。　わたしはおまえたちの病を治す主だ。」　２７一行は、やがてエリムに着きました。　そこには泉が十二と、なつめやしの木が七十本ありました。　その泉のそばで、人人は野営しました。

１　さて、一行はエリムを発ち、エリムとシナイ山との間に広がるシンの荒野へ向かいました。　荒野に着いたのは、エジプトを出た翌月の十五日（ユダヤ暦による）でした。　２そこでも人々は、モーセとアロンに非難をあびせました。
３　「あーあ、エジプトにいればよかったなあ。　あのまま神様に殺されたほうがまだましだった。　少なくとも食べ物はたっぷりあったんだ。　なのに、あんたがたはこんな荒野へ連れ出した。　きっと、ここでみんなを飢え死にさせるつもりなんだ。」
４　神様はモーセに命じました。　「天から食べ物を雨のように降らせよう。　毎日みんな外へ出て、必要なだけ集めればよい。　これは、わたしの言いつけを守るかどうかを見るテストにもなる。　５ただ六日目だけは、ふだんの二倍集めさせなさい。」
６　モーセとアロンは、人々を全員呼び集めて言いました。　「あなたがたをエジプトから救い出したのは神様だったということが、きょうの夕方にはわかる。　７－９そして朝になったら、神様のすばらしさをもっとよく見ることになるだろう。　神様に不平を言ったのを、神様はちゃんと聞いておられたのだ。　われわれに文句を言っていたつもりだろうが、ほんとうはそうじゃない。　われわれなど、全く取るに足りない人間だからな。　神様は夕方には肉を、朝にはパンを下さると約束なさった。　さあ神様の前へ出て、どうお答えになるか聞くがいい。」
１０　そして、アロンが一同を呼び集めると、今まで人々を先導してきた雲の間から、突然、神様の恐るべき栄光が荒野に輝き渡りました。
１１１２神様はモーセに命じました。　「皆の不平は確かに聞いた。　わたしの返事はこうだ。　『夕方には肉を、朝にはパンを欲しいだけ食べさせよう。　これによって、わたしがおまえたちの神、主であることを知れ。』」
１３　その夕方、おびただしい数のうずらが飛んで来て、野営地中うずらだらけになりました。　明くる朝、テントの回りの砂漠に露が降り、　１４露が消えると、あとには霜のような小さな薄片が残りました。　１５人人はそれを見て、「いったいこれは何だ？」と口々に言い合うのでした。
そこで、モーセが説明しました。　「これが神様の下さった食べ物だ。　１６みんな一人につき三・六リットルの割で、家族に必要なだけ集めなさい。」
１７　人々は外へ出てそれを集めました。　１８集めたものを三・六リットルますで量ると、ちょうど一人当たり三・六リットルずつあって、皆に十分行き渡りました。　たくさん集めた者も余さず、少ししか集めなかった者も足りないことはないのです。　どの家族にも、ちょうど必要なだけありました。
１９　「翌日まで残しておいてはいけない。」　モーセはきつく注意しました。
２０　ところが中には、やはり言うことを聞かない者もいて、明くる朝まで残しておくのでした。　けれどもそういうパンは朝になると、虫がついて、ひどいにおいがしています。モーセは、言いつけを守らない者をしかりつけました。　２１こうして人々は毎朝、それぞれ家族の人数に応じて必要なだけ集めました。　日がのぼって日ざしがだんだん強くな

ると、それは溶けて消えてしまうのです。　２２六日目には、ふだんの二倍集めました。七・二リットルずつです。　どうして、六日目だけ二倍なのでしょう。　指導者たちは不思議に思い、モーセにわけを尋ねました。
２３　モーセはこう説明しました。　「神様が、その翌日を特別な休息の日と定められたからだ。　その日は一日、神様のことだけを考えて過ごし、日常の仕事はいっさい休まなければならない。　だから、きょうのうちに、あすの分まで料理しておきなさい。」　２４今度は、次の朝になっても、虫もつかず、悪いにおいもなく、少しもいたんでいませんでした。　２５モーセは言いました。　「きょうは、きのうの残りを食べなさい。　神様の安息日だから、きょう外に出ても何もない。　２６集められるのは六日間だけだ。　七日目は安息日で、何も見つけることはできない。」
２７　ある人はそう言われたにもかかわらず､安息日に食べ物を集めに出かけました。 しかし、やはり何も見つかりませんでした。
２８２９神様はあきれてモーセに告げました。　「いつになったら、この民は言うことを聞くのか。　六日目にいつもの二倍を与えるのは、二日分の量が十分あるようにということなのが、わからないのか。　七日目は休息の日としてわたしが与えたのだから、テントの中にいて、食べ物を取りになど外へ出たりしないようにしなさい。」　３０そこで、人々は七日目に休みました。
３１　この食べ物はのちに、「マナ」〔「これはいったい何だろう」の意〕と呼ばれるようになりました。　コエンドロの種のように白く、平べったくて、はち蜜入りのパンのような味がします。
３２　モーセはさらに、次のような神様からの指示をみなに伝えました。　記念としてマナを三・六リットル取っておき、神様がエジプト脱出の時、荒野でどういうパンを与えてくださったか､のちの時代の人たちが見れるようにするのです。　３３モーセはアロンに、容器を持って来て三･六リットル分のマナを入れ､それを神様の前の聖なる場所に納めて、何代も保存するよう命じました。　３４アロンはそのとおりにしました。　すべて神様が命じたとおりです。　やがてそれは、神の天幕のあかしの箱（契約の箱）に納められることになります。
３５　こうしてイスラエル人は、カナンの地に着くまで四十年間、ずっとマナを食べ続けました。　カナンに入ってからは、その地の作物がありました。　３６マナを量るのに使ったのは、だいたい三・六リットル入りのますです。
一七
１　さて、神様の命令に従って、人々はシンの荒野をあとにし、無事レフィディムへ旅を続けました。　ところが着いてみると、また水がありません。
２　またもや、人々の不満が爆発しました。　「水はどこだ？　水をくれーっ！」　人々はわめきます。
「静かにっ。　いいかげんにしろ。　いったいどこまで神様が忍耐してくださると思って

るんだ。」　モーセはしかりつけました。
３　しかし、のどの渇きに苦しむ人々には、いっこうに効き目がありません。　「なんだと？　おまえこそ、なぜおれたちをエジプトから連れ出したんだ！　子供たちや家畜もいっしょにこんな所まで連れて来て、あげくの果てに殺そうなんて、ひどいじゃないか。」
４　モーセは神様に願いました。　「どうしたらよろしいのでしょう。　今にも私に石を投げつけて殺しかねない有様です。」
５６「長老たちを引き連れ、おまえが先頭に立ってホレブ山（シナイ山）まで人々を導きなさい。　わたしはそこの岩のところでおまえに会う。　岩をおまえの杖、ナイル川を打ったあの杖で打ちなさい。　すると水があふれ出て、みなに十分行き渡るだろう。」　言われたとおりにすると、水が吹き出しました。　７モーセはその場所を、マサ〔「神様を試みる」の意〕と名づけました。　時には、メリバ〔「議論」あるいは「争い」の意〕と呼ぶこともあります。　というのは、この場所で人々が、「神様はわれわれを助けてくれるのか、どうなのか」と神様と言い争い、神様が自分たちを殺すかどうか試みたからです。
８　ところで、アマレクの戦士たちがイスラエル人に戦いをいどもうと、レフィディムへやって来ました。　９モーセはヨシュアに、アマレク軍と戦うために人々を召集するよう命じました。
「私はあした、神様の杖を持って丘に立つ。」　モーセはきっぱり言いました。
１０　ヨシュアとその部下は、アマレク軍と戦うために出て行きました。　一方、モーセとアロンとフルは丘に登りました。　１１モーセが手に持った杖を差し伸べている間は、イスラエル軍が勝ち続けるのですが、腕を下げるとアマレク軍が優勢になります。　１２モーセの腕はしびれて、とうとう棒のようになってしまいました。　もうこれ以上、杖を持っていることができません。　アロンとフルは、石を転がして来てモーセを座らせ、両側に立って、日が暮れるまで二人がかりで腕を支え続けました。　１３こうして、ヨシュアの率いるイスラエル軍は、アマレク軍をみごと打ち破ったのです。
１４　神様はモーセに命じました。「このことを書き記して永遠に残る記録としなさい。いつまでも忘れないようにするのだ。　またヨシュアに、アマレク人はわたしが完全に滅ぼし、記憶にさえ残らないようにする、と伝えなさい。」　１５１６モーセは祭壇を築き、それをアドナイ・ニシ〔「神様は私の旗」の意〕と呼びました。
モーセは言いました。　「神様の旗を掲げなさい。　こののち何代にもわたり、神様がアマレク人と戦ってくださる。」
一八
１　やがて、モーセのしゅうと、ミデヤンの祭司イテロのもとに知らせが届きました。　神様がご自分の国民とモーセのために、どんなにすばらしいことをなさったか、どのようにしてイスラエル人をエジプトから助け出されたか、知らされたのです。
２　イテロはモーセの妻チッポラを連れ、モーセのところへ来ました。　妻は実家に帰してあったのです。　３４二人の息子もいっしょでした。　ゲルショム〔「外国人」の意〕と

エリエゼル〔「神様は私の助け」の意〕です。　こういう名がついたのは、上の子が生まれた時、モーセは、「私は外国をさまよう放浪者だ」と言い、次の子の時は、「ご先祖の神様は私を、エジプト王の剣から助け出してくださった」と言ったからです。　５６一行が来たのは、ちょうど人々がシナイ山のふもとで野営していた時でした。
「わしだ、イテロだよ。　チッポラと孫たちを連れて、会いに来たぞ。」
７　イテロがそう伝えさせると、モーセは大喜びで迎えに出、心からのあいさつを交わしました。　さっそくその後の消息を尋ね合い、それからモーセのテントに入って、心ゆくまで語り合うのでした。　積もる話に、時のたつのも忘れるほどです。　８モーセはイテロに、今までのことをくわしく話しました。　イスラエル人を救うために、エジプトの王と国民に神様が何をしてくださったか、ここまで来る途中どんな問題が起こり、神様がそれをどのように解決してくださったか、くわしく話したのです。　９イテロは、神様がイスラエル人を心にかけ、エジプトから助け出してくださったことで大喜びです。
１０　「神様はすばらしい。　ほんとうにあなたがたをエジプトと王の圧制から救ってくださったんだ。　イスラエル人を助けてくださったんだ。　１１わしらの信じる神様のように偉大な方は、ほかにいない。　今度こそ、それがよくわかったよ。　なにしろ、あの傲慢で残忍なエジプト人から、ご自分の国民を救い出したんだからな。」
１２　イテロは神様にいけにえをささげました。　そのあと、アロンやイスラエルの指導者たちも会いに来て、みんなでいっしょに食事をし、神様の恵みを感謝し合いました。
１３　翌日、モーセはいつものように座って、朝から夕方まで人々の不平を聞き、訴えを裁いていました。
１４　全く息つく暇もありません。 あまりの忙しさに驚いたイテロが聞きました。「一日中こんなに大ぜいの人が､助言してもらおうとここにやって来るんだろう？　どうして、この山のような仕事を一人きりで片づけようとするのかね。」
１５１６「それはですね、難しい問題があると、みな私のところへ来て神様の判断を仰ぐんです。　判事は私です。　どちらが正しいか、どちらが間違っているかを決めたり、神様が求める生き方はどういうものかを教えたりします。　私がみんなのために神様の法律を実際の情況に当てはめて適用するわけです。」
１７　「うーん、よくないな。　１８こんなやり方を続けていたら、おまえのほうがまいってしまうよ。　もしおまえが倒れたら、みんなはどうなるかね？　何もかも一人で片づけるには､少し荷が勝ちすぎるんじゃないか。 １９２０余計なおせっかいかもしれんが、わしの意見を聞いてもらえまいか。 神様のお助けがなければどうにもならんが……。 おまえはこの人たちの、顧問弁護士になったらいいと思うが、どうだろう。　人々を代表して神様の前に立つということだな。　彼らの問題を神様のもとへ持って行って決定していただき、その決定を伝える。　人々に神の法律を教え、正しい生活を送る原則を示すというわけだ。
２１　ほかに有能な、信心深い、わいろなど取らない正直な人物を捜し、問題の処理にあ

たらせたらどうだ。　千人につき一人そういう指導者を選び、その下に十人の責任者を置く。　それぞれが百人のめんどうを見るというわけだ。　さらにその下に、五十人の問題を処理する者を二人ずつ置き、その二人がまた、十人の相談相手になる者を五人ずつ受け持つ。　２２これらの人たちがいつでも問題の処理にあたって、正しく職務を果たせるようにする。 特に重要な問題とか難しい問題は､おまえのところへ直接持って来させるが、小さな問題は彼らに任せる。　こうやって、少しずつ責任を分担すれば、おまえも少しは楽になれるというものだ。　２３どうだ、わしの言うとおりにしてみんか。　神様も、きっと賛成してくださると思うがな。　こうすれば、どんな大へんな仕事もやり抜けるだろう。　野営地の中も平穏無事になるしな。」
２４　モーセは、イテロの提案を受け入れることにしました。　２５すべてのイスラエル人の中から有能な人物を選び、人々の指導者に任命しました。　千人、百人、五十人、十人、それぞれのグループごとに指導者を置いたのです。　２６この人たちは、問題が起こればすぐ解決して、正しい判決を下すことができるようになっていました。　難しい問題はモーセのところへ持って来ますが、小さな問題は自分たちだけで裁きました。
２７　それから間もなく、しゅうとのイテロはモーセに別れを告げ、国へ帰りました。
一九
１　エジプトを出てから三か月後、イスラエル人はシナイ半島に入りました。　２３レフィディムの野営地をたたみ､シナイ山のふもとに来て､そこにテントを張ったのです。 モーセは神様に会うため、ごつごつした岩山に登りました。　すると、どこからともなく、神様の呼ぶ声が聞こえました。
「モーセ、人々にこう言いなさい。　４『おまえたちはわたしがエジプト人に何をしたか見た。　わしの翼に乗せるようにして、おまえたちをわたしのところへ連れて来たのを見た。　５もしわたしに従い、契約を守るなら、おまえたちは地上のあらゆる国々の中にあって、わたしの大切な国民となる。　全世界はわたしのものだからだ。　６おまえたちは神に仕える祭司の国、聖なる国民となる。』」
７　モーセは山から帰ると指導者たちを呼び集め、神様のおことばを伝えました。
８　「神様がせよと言われることは、必ずそのとおり行ないます。」　一同は口をそろえて答えました。
９　モーセがそのことばを伝えると､神様はモーセに命じました。「わたしは厚い雲の中からおまえと会おう。 おまえと話す時､皆もわたしの声を自分の耳で聞けるようにしよう。そうすれば、彼らはいつもおまえを信じるだろう。　１０さあ、山を降りなさい。　わたしが行ってもいいように、人々に準備をさせなさい。　今日と明日、特別に身をきよめ、衣服を洗うように言いなさい。　１１あさって、わたしは人々がみな見守る中で、シナイ山に降りる。　１２まちがってそこへ足を入れたりしないよう、周囲に境界線を引きなさい。　そしてこう言うのだ。　『気をつけなさい。　山へ登ってはならない。　境界線に触れるだけでもいけない。 万一そんなことをしたら命はないものと思え。 １３いいか、

決して手を触れるな。　さもないと、人であろうと動物であろうと、石で打ち殺されるか、刺し殺されるかだ。』　雄羊の角笛が長く響き渡るのを聞くまで、山へは絶対近づかないように。　角笛が鳴ったら山へ登ってかまわない。」
１４　モーセは山を降り、人々のところへ帰ると、さっそく身をきよめ、衣服を洗うように言いました。
１５　「二日後に神様がおいでになるから、準備をしなさい。　夫婦生活も慎むように。」
１６　いよいよ三日目です。　朝から恐ろしい嵐になりました。　雷は耳をつんざき、いなずまは宙を走ります。　厚い雲が重く山に垂れこめ、雄羊の角笛のような大きな音が長く響き渡りました。　あまりの恐ろしさに、人々はみな震え上がりました。　１７神様をお迎えしなければなりません。　モーセは人々をうながして野営地を出、全員が山のふもとに立ちました。　１８見ると、シナイ山全体が煙に包まれています。　神様が山の上に、火となって下られたのです。　煙は、まるで炉に燃えさかる火のように空に渦を巻き、山全体が強い地震で揺れ動きました。　１９ラッパのような響きがますます大きくなる中で、モーセが語り、神様の答える声は天地にとどろき渡るのでした。　２０こうして、神様はシナイ山の頂上に下り、モーセをお召しになりました。　モーセは神様のみもとへ登って行きました。
２１　しかし、神様はモーセに注意なさいました。　「今すぐ降りて、決して境界線を越えないようにと警告して来なさい。　神を見ようなどという気を起こして、ここへ来るといけないから。　そんなことをしたら命はない。　２２祭司でさえ、務めをする時は神に滅ぼされないよう身をきよめるのだ。」
２３　「だれ一人、山へ登って来る者はありません。　神様のきびしいご命令を、みな聞いております。　神様は山の回りに境界線を引けとおっしゃいました。　神様の場所だから人が入ってはならないと宣言するよう、お命じになったではありませんか。」
２４　「とにかく、今は山を降りなさい。　今度はアロンを連れて来るのだ。　だが、たとい祭司であろうとだれであろうと、境界線を越すことは断じて許さん。　そんな不届き者はわたしが滅ぼす。」
２５　モーセは山を降りて人々のところへ行き、神様のお語りになったことを告げました。
二〇
１　さて、神様は次のような戒めを公布しました。
２　「わたしは、あなたをエジプトでの奴隷生活から救い出した、あなたの神、主だ。
３　わたしのほかは、どんな神も拝んではならない。
４　決して偶像を作ってはならない。　鳥だろうが、動物だろうが、魚だろうが、どんな像も作ってはならない。　５拝んでもいけない。　どんな方法で礼拝してもいけない。　あなたの神はこのわたしだけだ。　わたしは嫉妬深いから、わたしとほかの『神』を同時に愛することは許さない。
わたしの罰は、わたしを憎む者の子供、孫、曾孫までも及ぶ。６しかし、わたしを愛し、

わたしの命令を守る者には、千代のちまでも恵みを与えよう。
７　果たすつもりもないのに、やたらにわたしの名を使って誓ってはならない。　そんなことをしたら必ず罰せられる。
８　安息日を特別の日として守りなさい。 ９仕事はみな六日のうちにすませなさい。 １０七日目は神の休息の日だから、その日は一日、人も家畜も仕事をしてはならない。　外国人も、あなたといっしょに住んでいる限り、この法律を守る義務がある。　１１わたしが六日の間に天と地と海と、その中のいっさいのものを造り、七日目に休んだからだ。 わたしは安息日を祝福し、特別な日と定めた。
１２　両親を尊敬しなさい。　そうすれば、主であるわたしが与える国で、しあわせな一生を送ることができる。
１３　人を殺してはならない。
１４　姦淫してはならない。
１５　盗んではならない。
１６　うそをついてはならない。
１７　人の家をうらやんではならない。 人の妻に欲情を燃やしたり、使用人、牛、ろば、そのほか何でも、人の持ち物を欲しがったり、持ち主をねたんだりしてはならない。」
１８　人々はみな、山にいなずまがひらめき、煙が立ちこめるのを見ました。　また、雷と恐ろしいラッパの音が鳴り続けるのも聞きました。　だれもが遠く離れて立ち、恐ろしさに身を震わすばかりです。
１９　人々はモーセに言いました。　「神様がどんなことをおっしゃったか教えてください。　言われたとおり従います。　ただ、神様が直接お話しにならないようにしてください。　そんなことになったら命はありません。」
２０　「心配はいらない。　神様がおいでになったのは、恐るべきお力をあなたがたに示すためだ。　神様の力を知れば、これからは罪を犯すことを恐れるようになるだろう。」
２１　民が遠く離れて立ち尽くしている中を、モーセは神様のおられる濃い暗やみの中に入って行きました。
２２　神様はモーセに、神の代弁者として人々に語るよう命じました。　「わたしは天からおまえに呼びかけ、わたしの気持ちを知らせた。　おまえはその証人である。　２３金や銀、そのほかの偶像を作ったり拝んだりしてはならないことを忘れるな。
２４　わたしの祭壇は簡素な土の祭壇でなければならない。　羊と牛の完全に焼き尽くすいけにえとか和解のいけにえなどを、その上でささげなさい。　祭壇はわたしが命じる場所にだけ築けばよい。　そこで、わたしはおまえたちを祝福する。　２５石を使うのはさしつかえないが、切り石はいけない。　道具を使って、石をけずったり刻んだりしないようにしなさい。　そんな石はわたしの祭壇にふさわしくない。　２６祭壇には階段をつけない。　服の間からおまえの裸が見えたりするといけないからだ。
二一

１　ほかに守らなければならない法律には、次のようなものがある。
２　ヘブル人（イスラエル人）の奴隷を買った時は、六年のあいだ仕事をさせたあと、七年目には無償で自由にしなければならない。
３　奴隷になったとき独身で、のちに結婚した男の場合は、男だけが自由にされる。　奴隷になる前に結婚していたなら、妻もいっしょに自由にされる。　４しかし、主人が妻を与え、息子や娘が生まれたのであれば、妻と子供たちは主人のものだから、自由の身になるのは夫だけだ。
５　しかし、もし彼が、『自由になるより、ご主人様や妻子といっしょにいたいのです』とはっきり宣言するなら、　６主人は彼を裁判官のもとへ連れて行き、公に彼の耳をきりで刺し通さなければならない。　そのあと彼は一生奴隷となる。
７　娘を奴隷に売る場合は、六年たっても、男奴隷のように自由を与えてはならない。　８主人は、その女が気に入らなくなったら、必ず彼女を買い戻せるようにしてやらなければならない。　しかし、外国人に売り飛ばす権利はない。　いったんは結婚しておきながら、用ずみだということで彼女を傷つけたからである。　９ヘブル人の女奴隷と息子を婚約させたなら、もはやその女を奴隷として扱ってはならない。　娘と同じに考えるべきである。
１０自分が女奴隷と結婚し、そののち別の妻を迎えた時は、彼女への食べ物や衣類の割り当てを減らしてはならないし、夫婦の営みをおろそかにしてもいけない。　１１この三つの点で少しでも主人に落度があれば、女は一円も支払わず自由に家を出てかまわない。
１２　人を強く打って死なせた時は、打った者は死刑だ。　１３しかし、殺意がなく、たまたま事故でそうなった時は、むしろ、わたしがそうしたと言ってもいいくらいなのだから、わたしが安全な逃げ場所を指定する。　そこへ逃げ込めばいのちは助かる。　１４しかし殺意を持って計画的に人を殺した者は、たといわたしの祭壇から引きずり降ろしてでも、死刑にしなさい。
１５　両親を打つ者は死刑だ。
１６　誘拐犯は死刑だ。　人質を手もとに置いている時に逮捕された場合でも、すでに奴隷として売り飛ばした場合でも同じだ。
１７　両親に悪口を言ったりのろったりする者は死刑だ。
１８　二人の男がけんかをし、一人が石か拳で相手を打って傷つけ、そのために、一命はとりとめたものの床につかなければならないという場合、　１９たとい、少々不自由であっても歩けるまでに回復した時は、打った男は無罪となる。　ただし、完全に傷が治るまで、いっさいの損害の弁償をし、治療費は全額払わなければならない。
２０　人が、男奴隷であろうと女奴隷であろうと、奴隷を打って死なせたなら、必ず罰せられる。　２１ただし、奴隷が一日、二日の間に死ななければ、その時は罰せられない。奴隷はその人の所有物だからである。
２２　二人の男が争っていた時に妊娠中の女性を傷つけ、そのために、母親は助かったものの流産をした場合、彼女を傷つけた男は、裁判官が認める範囲内で、女の夫が要求する

だけの罰金を支払わなければならない。　２３しかし、傷のために母親まで死ぬようなことにでもなれば、男は死刑だ。
２４　もし女の目が傷ついたら、償いとして男の目を傷つけ、歯が折れたら歯を折る。　手には手を、足には足を、　２５やけどにはやけどを、傷には傷を、むちにはむちを、である。
２６　人が、男奴隷であれ女奴隷であれ、奴隷の目を打ち、そのために目が見えなくなってしまったら、奴隷は目の償いとして自由にされる。　２７人が奴隷の歯を折ったら、その歯の償いとして彼を自由にしなければならない。
２８　牛が男または女を突いて死なせたなら、牛は石で打ち殺す。　その肉は食べてはならない。　しかし、牛の持ち主は罰せられない。２９ただし、その牛が人間を突くくせがあるとわかっていた場合、そして、持ち主がそのことを知っていながら、なお管理を十分にしていなかったのであれば、その時は牛は石で殺され、持ち主も死刑となる。　３０しかし、被害者の身内の者が願うなら、補償金を取って釈放することもできる。　金額は裁判官が決める。
３１　牛が少年あるいは少女を突いた場合も、同じ法律が適用される。　３２しかし、男であれ女であれ奴隷を突いた場合は、奴隷の主人に銀貨三十枚を支払い、牛は石で打ち殺す。
３３　人が井戸を掘り、ふたをしなかったために、牛やろばが落ちた時は、　３４井戸の持ち主は家畜の持ち主に、損害の全額を弁償しなければならない。　ただし、死んだ家畜は井戸の持ち主のものになる。
３５　牛がほかの人の牛を傷つけて死なせた時は、生きているほうの牛を売り、その代金と死んだ牛を、双方の持ち主が半分ずつ分ける。　３６しかし、もともと突くくせがあるとわかっていたのに、牛の所有者が管理を十分していなかったのであれば、代金を分け合うことはしない。　生きている牛の所有者が全額を弁償しなければならない。　ただし、死んだ牛は彼のものになる。
二二
１　人が牛か羊を盗み、それを殺したり売り飛ばしたりしたなら、五倍の罰金を払わなければならない。　盗んだ牛一頭につき五頭分を弁償する。　羊の場合は四倍にし、盗んだ羊一頭につき四頭分を返す。
２　どろぼうが家に押し込むところを捕まえて殺しても、殺した者は無罪である。　３ただし、昼間であれば殺人と見なされ、有罪となる。
どろぼうをして捕まった時は、損害を全額弁償しなければならない。　できなければ、奴隷に身を売ってでも弁償する。
４　牛、ろば、羊、そのほか何でも盗みの現行犯として捕まったなら、賠償金は二倍になる。
５　放した家畜が人のぶどう畑に侵入したり、わざと人の畑に家畜を放して作物を食べさ

せたりした場合は、損害の全額を弁償しなければならない。　畑の持ち主に、最良の収穫に見合う分を支払う。
６　野焼きの最中に火が燃え広がって人の畑に燃え移り、刈り穂や穀物を焼いた時は、火をつけた者は損害の全額を弁償しなければならない。
７　人にあずけた金や物が盗まれた場合、どろぼうが捕まれば、犯人が損害の倍額を支払う。　８犯人が捕まらない時は、貴重品をあずかった者は神の前で裁判を受け、自分が盗んだのでないことをはっきりさせなければならない。
９　牛、ろば、羊、衣類、そのほか何でも紛失した場合、持ち主がほかの人に疑いをかけ、しかも、相手がそれを否認する時は、双方が神の前で裁判を受ける。　神に有罪と宣告された者は、損害の倍額を支払わなければならない。
１０　ろば、牛、羊、そのほかどんな動物でも、人にあずけ、死ぬか傷つくか盗まれるかした場合、そして、実際にどうであったかを報告する目撃者がいない時は、　１１あずかった者は、自分が盗んだのではないことを神に誓わなければならない。　持ち主がその言い分を受け入れれば、弁償の必要はない。　１２しかし、その家畜が確かに盗まれたのであれば、あずかっていた者は持ち主に弁償しなければならない。　１３また、野獣に襲われたのであれば、証拠として、食い荒らされた死体を持って来なければならない。　この場合は弁償の必要はない。
１４　人から家畜を借り、それが傷つくか死ぬかして、しかも、持ち主がその場に居合わせなかった時は、借りた者が弁償しなければならない。　１５しかし、持ち主が居合わせた場合は弁償の必要はない。　ただし、賃借りの物については、借り賃はきちんと払わなければならない。
１６　だれとも婚約していない女性を誘惑し、彼女と関係を結んだ者は、しきたりどおりの結納金を支払って、彼女を妻にしなければならない。　１７しかし、父親が結婚に反対の場合は慰謝料を払う。
１８　女呪術師は死刑だ。
１９　動物と性的関係を持つ者は死刑だ。
２０　主以外の神々にいけにえをささげる者は死刑だ。
２１　外国人を迫害してはならない。　自分自身がエジプトで外国人だったことを忘れるな。
２２　未亡人や孤児につらく当たってはならない。　２３少しでもそんなことがあれば、彼らはわたしに助けを求めるだろうし、わたしは必ず彼らを助ける。　２４わたしの怒りは燃え上がり、剣でおまえたちを殺す。　おまえたちの妻が未亡人に、子供が孤児になる。
２５　困っている仲間のヘブル人（イスラエル人）に金を貸す場合、利息を取る普通の取り引きをしてはならない。　２６服を借金のかたに取ったら、夕方には返さなければならない。　２７おそらくそれが、彼の体を暖める唯一の物だからである。　着る物もなくて、どうして眠ることができるだろう。　もし返さなければ、彼はわたしに助けを求めるだろ

う。　わたしは願いを聞き、彼を助ける。　わたしは情け深いからである。
２８　神を冒涜してはならない。　国の指導者である裁判官や支配者をのろってはならない。
２９　収穫物やぶどう酒のささげ物、また長男を買い戻す金をささげるのに、ぐずぐずしてはならない。
３０　牛と羊の初子は七日のあいだ母親といっしょにおき、八日目にささげなさい。
３１　おまえたち自身が聖なるもの、わたしの特別な国民だから、野獣に殺された動物は食べてはならない。　死体はそのままにして、犬に食べさせなさい。
二三
１　根も葉もないうわさを流してはならない。　証言台で偽証をし、悪人を助けることがないようにしなさい。
２３多数の力に押し流されて、悪事に加担してはならない。　証言台に立つ時、その場のふんい気に左右され、不当な証言をしてはならない。　また、ただ貧しいというだけで人に同情し、証言をゆがめたりしてもいけない。
４　敵の牛やろばが道に迷っているのを見たら、敵のもとへ送り返しなさい。　５もし敵のろばが重荷に押しつぶされてうめいていたら､そのまま見過ごしにしてはならない。 力を貸してろばを立たせてやりなさい。
６　正義を曲げ、貧しい人に不利になる裁判をしてはならない。
７　絶対に、うその非難をあびせてはならない。　無実の者が死刑になるようなことがあってはならない。　そんなことは決して許さない。
８　わいろを取ってはならない。　わいろは人の目をくらませ、判断を誤らせるからである。　わいろは正しい人の申し立てをゆがめる。
９　外国人を迫害してはならない。　外国に住む心細さはよく知っているはずだ。　エジプトでの体験を思い出すがいい。
１０　六年のあいだ種をまき、収穫をあげなさい。　１１七年目は土地を休ませ、貧しい者が自然に生えた物を刈り取れるようにする。　あとは、野獣が自由に食べられるように残しておきなさい。　この規則はぶどう畑とオリーブ畑にも当てはまる。
１２　六日間だけ働いて七日目は休みなさい。　牛やろばを休ませ、奴隷や客も含め、家族全員に休息をとらせるためである。
１３　これらの戒めを必ずぜんぶ守らなければならない。　特に忘れてならないことは、ほかの神々の名を決して唱えてはならないことだ。
１４　毎年守る祭りが三つある。
１５　最初は種なしパンの祭りである。　すでに命じておいたように、七日間イースト菌抜きのパンを食べる。　この祭りは三月（ユダヤ暦では一月）、つまり、エジプト脱出の時期に毎年行なう。　この時はささげ物を持って来る。　１６次に､刈り入れの祭りがある。この時は最初の収穫物を持って来なければならない。　最後に、収穫期の終わりに収穫の

祭りがくる。　１７毎年この三回、イスラエル人はみな神の前に出なければならない。
１８　いけにえの血は、イースト菌を入れたパンといっしょに供えてはならない。　いけにえの脂肪を翌朝までそのまま残しておいてはならない。
１９　刈り入れの時、最初の収穫の最良の物を持って来なさい。　それはあなたの神、主にささげなければならない。
子やぎを母親の乳で煮てはならない。
２０　わたしは約束の地へ無事おまえたちを連れて行くため、使いを送る。　２１彼を敬い、その教えにはすべて従いなさい。　反逆してはならない。　おまえたちの罪を、彼は赦さないからだ。　この使いはわたしの名において行動する。　２２しかし、注意深く彼に従い、あらゆる戒めを守るならば、おまえたちの敵はわたしの敵となる。　２３わたしの使いが先立って、おまえたちをエモリ人、ヘテ人、ペリジ人、カナン人、ヒビ人、エブス人の国へ導き、そこに住まわせる。　その国国を、わたしはおまえたちの目の前で滅ぼす。
２４　こういった国々の偶像を拝んではならない。　どんなことがあっても、そんな神々にいけにえをささげてはならない。　異教徒の悪い習慣に染まらず、むしろ、完全に彼らを征服し、その汚れた偶像を破壊しなければならない。
２５　おまえたちの神、主にだけ仕えなければならない。　そうすれば、わたしはおまえたちを祝福して食べ物と水を与え、あらゆる病気をなくす。　２６流産もなくなるし、子供を産めない女性もいなくなる。　おのおのが充実した人生を送ることができるようにする。
２７　わたしは、これから征服する地の人々に恐れをいだかせる。　彼らはおまえたちの前から逃げ去る。　２８わたしはまた、ヒビ人、カナン人、ヘテ人を追い払うために、くまばちを送る。　２９ただ、一年のうちに全土を占領させることはしない。　そんなことをしたら、土地が荒れほうだいになり、野獣が増えすぎて手に負えなくなってしまう。　３０だから、人口が増え、国中に住みつくようになるまで、少しずつ追い払う。　３１国の境界線も広げよう。　紅海からペリシテの海岸まで、南の砂漠からユーフラテス川までとする。　おまえたちをその地の住民に勝たせるので、彼らを追い出すことになる。
３２　彼らといっさい契約を結んではならない。　彼らの神々とかかわり合ってはならない。　３３彼らをイスラエルに住ませてはならない。　さもないと、偽りの神々を拝む彼らの罪に染まってしまう。　それは、おまえたちにとって災い以外の何ものでもない。」
二四
１　神様はモーセに命じました。　「アロン、ナダブ、アビフをはじめ、イスラエルの長老たち七十人といっしょに、ここへ登って来なさい。　ただしほかの者は、みな遠くから礼拝するように。　２おまえはそばに来てかまわない。　忘れるな。　一般の民はだれも山に登ることは許されない。」
３　モーセが、神様から与えられた法律と戒めを伝えると、人々は声を合わせて答えまし

た。　「すべて言われたとおりにいたします。」
４　モーセは法律を書き記しました。　明くる朝はやく、山のふもとに祭壇を築き、その回りに十二本の柱を立てました。　イスラエルの十二部族を表わすためです。　５それから数名の青年を送り、完全に焼き尽くすいけにえと和解のいけにえを、神様にささげさせました。　６モーセはいけにえの血を半分取って鉢に入れ、残りの半分は祭壇に注ぎました。
７　彼は自分が書いた契約書を読みあげました。　それには、神様の指示や法律が書いてあります。　「この戒めを一つ残らず守ることを約束します。」　人々はまた誓いました。
８　モーセは人々に鉢の血を振りかけました。「神様はこの法律を与えることによって、あなたがたと契約を結ばれた。　この血が契約の証印だ。」
９　モーセ、アロン、ナダブ、アビフ、それにイスラエルの長老七十人の一行は、山へ登りました。　１０彼らはイスラエルの神様を見たのです。　その足もとは、サファイヤを敷きつめたように青く輝き、澄みきった空を思わせました。
１１　長老たちは神様を見たのに死にません。　そればかりか、主の前でいっしょに食事をしたのです。
１２　神様はモーセに命じました。　「山へ登り、わたしのところへ来なさい。　わたしが石に記した法律と戒めをおまえに与えよう。　山で待ちなさい。　おまえはその法律から人々を教えることができる。」　１３モーセと助手のヨシュアは、神の山へ登りました。
１４　モーセは長老たちに言いました。「われわれが戻るまで、ここで待ちなさい。　留守中に何か問題が起こったら、アロンとフルに相談すればいい。」
１５　そう言うと、モーセは山へ登り、頂上をおおう雲の中に姿を消しました。　１６神様の栄光がシナイ山を包み、雲は六日のあいだ山をすっぽり隠しました。　七日目に神様は雲の間からモーセに呼びかけました。　１７一方、ふもとにいた人々は恐ろしい光景を見ました。　山の頂上に神様の栄光が現われたのです。　まるで燃えさかる火のようでした。　１８モーセは雲に包まれた山頂に姿を消し、四十日四十夜そこにこもりました。
二五
１‐７神様はモーセに命じました。　「人々に布告を出しなさい。　だれでも望むままにささげ物をわたしのところへ持って来てよろしい。　ささげ物は次のリストから選びなさい。
金、銀、青銅、青のより糸、紫のより糸、深紅のより糸
上質のリンネル、山羊の毛、赤く染めた雄羊のなめし皮
じゅごん（海に住む哺乳動物）の皮、アカシヤ材
ともしび用のオリーブ油、注ぎの油と香に使う香料
しまめのう、エポデと胸当てにはめる宝石類
８わたしがイスラエルに住めるよう、聖なる住まいを作ってほしい。
９　住まいは天幕にすること。 その設計図と必要な器具の細かい寸法は、次のとおりだ。

１０　アカシヤ材を使って長さ百二十五センチ、幅七十五センチ、高さ七十五センチの箱を作りなさい。　１１内側にも外側にも純金を張り、周囲に金の縁飾りをつける。　１２金の環を四つ作り、箱の下の四すみにつける。　片側に二個ずつだ。　１３１４アカシヤ材で棒を作って金をかぶせ、箱の両側につけた金の環に通してかつげるようにする。　１５棒は取りはずさず、差し込んだままにしておかなければならない。　１６わたしが与える十戒を記した石板を、その箱に納めなさい。
１７　また、純金のふたを作りなさい。　長さ百二十五センチ、幅七十五センチにする。これは罪を赦す神の恵みの座である。　１８次にふたの両端に、天使の像をつちで打ち出して作る。　１９それは恵みの座の一部分で、その両端になる。　２０ケルビム、つまりその天使は、互いに向かい合って恵みの座を見下ろし、翼が金のふたをおおうようにしなければならない。　２１ふたができたら箱にかぶせる。 箱には十戒の石板を納めなさい。　２２わたしはそこでおまえに会い､ケルビムにはさまれた恵みの座からおまえと語る。 箱にはわたしの契約の法律を納める。　わたしはそこから、イスラエルの人々への命令をおまえに伝える。
２３　次に、長さ一メートル、幅五十センチ、高さ七十五センチのテーブルをアカシヤ材で作りなさい。　２４それに純金を張り、周囲に金の縁飾りをつける。　２５テーブルの上部に八センチ幅のわくをつけ、その周囲にぐるりと金の縁飾りをつける。　２６２７金の環を四つ作り、それを四本の足の上部に、外側へ向けてつける。　テーブルを運ぶ棒を通すためだ。　２８棒はアカシヤ材で作り、金をかぶせる。　２９金で皿、スプーン、水差し、細口びんなどを作り、　３０テーブルの上には、わたしのために特別なパンをいつも供えなさい。
３１　純金のかたまりをつちで打って燭台を作りなさい。　燭台は台座と支柱からなり、ともしび皿と飾りの花びらをつける。　３２３３真ん中の支柱の両側から三本ずつ枝を出し、それぞれの枝は三つのアーモンドの花で飾る。　３４３５真ん中の支柱は四つの花で飾る。　三対になっている枝の間に一つずつ、その上に一つ、その下に一つ、計四つの花をつける。　３６飾りと枝と支柱はみな、一かたまりの純金を打って作る。　３７それに七つのともしび皿を作り、あかりが前を照らすように置く。　３８芯切りばさみと芯取り皿も純金で作る。　３９燭台とその付属品のために、およそ五十キログラムの純金が必要であろう。
４０　作る物はみな、この山の上でわたしが指示する型どおりに、きちんと作らなければならない。
二六
１２上等のより糸で織ったリンネル十枚をつなぎ合わせ、神の天幕を作りなさい。　布はそれぞれ長さ十四メートル、幅二メートルとする。　青と紫と深紅のより糸を使い、全体にケルビム（天使の像）を織り出す。　３五枚ずつへりとへりをつなぎ合わせて、大きな布を二枚作り、天幕の両側面とする。　４５この二枚の端と端をつなぎ合わせるために、

へりにループをつける。　それぞれのへりに対になるよう五十ずつのループを作る。　６ほかにループをつなぐ五十個の留め金を金で作る。　こうして神の住まいである天幕を一つに組み立てる。
７８屋根の部分には山羊の毛皮の防水布をかぶせる。　それぞれ長さ十五メートル、幅二メートルのものを十一枚用意する。　９このうち五枚をつなぎ合わせて幅広の幕にし、残りの六枚も、つないで一枚の幕にする。　長いほうの六枚目にあたる部分は、上から垂らして､聖なる天幕の正面で折り重ねる。　１０１１この二枚の幕をつなぎ合わせるために、それぞれのへりに五十個のループを作り､五十個の青銅の留め金を使って一枚にする。　１２天幕のうしろは、屋根をおおう幕が五十センチ垂れ下がり、　１３また、正面にも五十センチ垂れ下がる。　１４この防水布の上に、赤く染めた雄羊のなめし皮を敷き、その上にじゅごん（海に住む哺乳動物）の皮をかける。　これで屋根が完成する。
１５１６聖なる天幕のわく組みをアカシヤ材で作りなさい。　それぞれ長さ五メートル、幅七十五センチの板を、まっすぐ立てて組み合わせる。　１７側面にほぞを二つ作り、隣の板をはめ込む。　１８１９こうして二十枚つなぎ合わせたものが、聖なる天幕の南側になる。　それぞれの板は銀の土台二個にはめ込む。　板一枚につき二個ずつ、計四十個の銀の土台が必要となる。　２０北側にも同じような板が二十枚、　２１それぞれに二個ずつ、計四十個の銀の土台を使う。　２２西側には六枚の板、　２３そして両すみに二枚の板を使う。　２４すみの板は下を重ね、上を環でつなぎ合わせる。　２５それで結局、西側には板が八枚、銀の土台がそれぞれに二個ずつで、計十六個あることになる。
２６２７アカシヤ材で横木を作り､わく組み全体に張り渡しなさい。 両側面に五本ずつ、さらに西に面するうしろ側に五本、　２８わくの真ん中になる中央の横木は、端から端まで通す。　２９板に金をかぶせ、横木を通すために金の環を作る。　横木にも金をかぶせる。　３０この天幕を、わたしが山で指示したとおりに建てなさい。
３１　〔天幕の内側には〕、青と紫と深紅の上等のより糸とリンネルで垂れ幕を作り、それにケルビムを織り出しなさい。　３２これをアカシヤ材の四本の柱の上から、金のかぎ四つを使って垂らす。　柱には金をかぶせ、それぞれ銀の土台に立てる。　３３幕はかぎから垂らし、その奥に箱を置きなさい。　箱には神の法律を記した石板が納めてある。この幕が聖所と最も神聖な至聖所とを分ける。
３４　至聖所の箱には金のふたをし､『恵みの座』をしつらえなさい。　３５幕の外の聖所に、テーブルと燭台を向かい合わせに置く。　燭台は南側、テーブルは北側である。
３６　聖なる天幕の入口にかける垂れ幕を、もう一枚作りなさい。　青と紫と深紅の上等のより糸とリンネルで作り、精巧な刺しゅうを施す。　３７その幕を五本のアカシヤ材の柱から、金のかぎを使って垂らす。　柱には金をかぶせ、青銅の土台に立てる。
二七
１　アカシヤ材で祭壇を作りなさい。　一辺が二メートル半の正方形で、高さは一メートル半にする。　２四すみに角をしっかり取りつけ、全体に青銅をかぶせる。　３灰を取る

つぼ、十能、鉢、肉刺し、火皿も、みな青銅で作る。　４青銅の格子を作り、四すみに青銅の環をつける。　５炉の半ばほどの高さの所に棧を作り、そこに格子を取りつける。　６祭壇を移動させるために、青銅をかぶせたアカシヤ材の棒を作る。　７祭壇の両側面に環をつけ、その中に棒を通して運ぶのだ。　８祭壇は板で作り、中をがらんどうにする。　何から何まで、山の上で指示したとおりに作りなさい。
９１０次に天幕の庭を造る。　上等のより糸で織ったリンネルで幕を作り、庭を囲む。　南側には五十メートルにわたって幕を張り、二十個の青銅の土台にはめ込んだ二十本の柱で支える。　柱に取りつけた銀のかぎに銀の環をかけ、幕を垂らすのだ。　１１北側も同じようにする。　青銅の土台に二十本の柱をはめ込み、銀のかぎと環で五十メートルの幕を張る。　１２西側は土台十個に柱十本、幕は幅二十五メートルとする。　１３東側も同じく二十五メートルである。　１４１５ただし、中央に入口があり、その両側に七メートル半ずつ幕を張る。　三個の土台にはめ込んだ三本の柱が、それを支える。
１６　庭の入口は幅十メートルの幕をかける。　青と紫と深紅の上等のより糸とリンネルで作った、美しい刺しゅう入りの幕である。　幕は、四個の土台にはめ込んだ四本の柱に取りつける。　１７庭の回りの柱はぜんぶ銀の環をつけ、銀のかぎを使う。　柱は青銅の土台にしっかりはめ込んでおく。　１８こうして庭全体は長さ五十メートル、幅二十五メートルになる。　周囲の幕は上等のより糸で織ったリンネル製で、高さ二メートル半の仕切りとなる。
１９　天幕での仕事に使う道具類、それを壁からつるすための釘や庭のくいなど、すべて青銅で作る。
２０　人々に命じて、天幕のともしび用の純粋なオリーブ油を持って来させなさい。　天幕の中では、四六時中ともしびを燃やし続けなければならない。　２１アロンとその息子たちは、この永遠の炎を聖なる天幕の中、垂れ幕の外側に置き、昼も夜も消えることがないように、神の前で番をする。　これはイスラエルの永遠のおきてである。
二八
１　おまえの兄アロンとその息子ナダブ、アビフ、エルアザル、イタマルを特別に選び出して祭司に任命し、わたしに仕えさせなさい。　２そして神のために特別にきよくされた者だというしるしに、アロンのために特製の服を作りなさい。　見た目にも美しく、祭司としての威厳を示す服を作るのだ。　３そのための特別な才能を、わたしはある者たちに与えた。　彼らに、アロンがほかの者とは違うことを示す服を作らせなさい。　祭司としてわたしに仕えることができるようにするのだ。　４祭司が着る服は、胸当て、エポデ（ひざ下までの、そでなし上着）、青い上着、市松もようの長服、ターバン、飾り帯である。このほかアロンの息子たちのためにも、特製の服を作る。
５６エポデは、最も優秀な技術者に、金と青と紫と深紅の上等のより糸で織ったリンネルで作らせなさい。　７これに二枚の肩当てをつけ、両端を留める。　８同じ生地、金と青と紫と深紅の上等のより糸で織ったリンネルで、あや織りの帯を作る。　９二個のしまめ

のうに､イスラエルの十二部族の名を彫りなさい。　１０それぞれに六つずつの名を彫り、全部族の名が誕生順になるようにする。　１１名前を彫る時は、印を作る技術を用いる。その二つの石を金の台にはめ、　１２エポデの肩に縫いつけて、イスラエル国民を記念する石とする。　アロンは神の前に出る時、いつも全部族の名を身につけ、絶えずそのことが頭から離れないようにする。　１３１４また、純金をよって二本の鎖を作り、エポデの肩のところで金の留め金につける。
１５　次に、最もすぐれた技術を用いて、神の託宣を聞くために用いる胸当てを作りなさい。　エポデと同じく、金と青と紫と深紅の上等のより糸で織ったリンネルを使う。　１６大きさは二十五センチ四方で、二つに折って袋状にする。　１７それに石を四列に取りつける。　最初の列はルビー、トパーズ、エメラルド。　１８二列目はトルコ玉、サファイヤ、ダイヤモンド。　１９三列目はヒヤシンス石、めのう、紫水晶。　２０四列目は緑柱石、しまめのう、碧玉。　これらはみな金の台にはめる。　２１それぞれの石はイスラエルの部族を表わし、その部族の名を、印と同じように彫りつけなければならない。
２２‐２４二本の純金をよって鎖を作り､胸当ての縁をエポデにつなぎ合わせなさい。　それぞれの鎖の一端は、胸当ての上辺の外側につけた金の環に結びつける。　２５もう一端は、エポデの両肩に取りつけたしまめのうの台に、外向きに結びつける。　２６次に金の環をもう二個作り、胸当ての下のへり、内側の二個所に取りつける。　２７また、もう二つ金の環を作り、エポデの肩当てのすその外側、帯を締める位置につける。　２８胸当ての下とエポデのすそにある環とを青いひもで結び、胸当てとエポデを、ずれないようにしっかりつなぐ。　２９こうしてアロンは、聖所へ入る時はいつでも、胸当てに十二部族の名をつけていることになる。　神がイスラエルのことを絶えず心にかけ、託宣を下すようにするのである。　３０３１胸当てのポケットにウリムとトンミム〔神意をうかがう一種のくじ〕を入れ、アロンが神の前に出る時はいつも、胸の上にあるようにしなさい。　アロンは神の前にいる時、いつでも神託を胸に入れていることになる。
エポデの下に着る服は、青い布で作らなければならない。　３２それに頭を通す口をあける。　口の回りには織った縁をつけ、ほつれないようにする。　ちょうど、よろいの首回りのようにする。　３３３４青服のすそのへりには、青と紫と深紅のより糸でざくろを作ってつけ、ざくろとざくろの間に金の鈴をつける。　３５アロンは務めのために神の前に出る時はいつでも、これを身につけなければならない。　聖所の神の前に出入りするたびに、鈴が鳴るようにする。　そうすれば死ななくてすむだろう。
３６　次に､純金のプレートを作り､ちょうど刻印を彫るように､『神のために特別に選ばれた者』と彫りなさい。　３７３８このプレートは、青いひもでアロンのターバンの正面につける。　アロンはそれを額につけ、イスラエル国民のささげ物のことで何か過ちがあれば、その罪を負う。　神の前に出る時いつも、それを額につけなければならない。　こうして、人々は神に受け入れられ、罪を赦される。
３９　上等のより糸で市松もように織ったリンネルを使って､アロンの長服を作りなさい。

ターバンも同じ布で作る。　そのほかに刺しゅうをした帯も作る。
４０　アロンの息子たちには、上着と帯を作り、また、名誉と威厳を与えるためのターバンを作りなさい。　４１アロンと息子たちにこれらの服を着せ､頭にオリーブ油を塗って、祭司に任命しなさい。　わたしに仕える者として特別に選び、きよめるのだ。　４２また体にじかにつける下着を､リンネルで作りなさい。　これは腰からももまでをおおう。　４３アロンと息子たちが天幕に入ったり、聖所の祭壇に近づいたりする時はいつでも、この下着をつけなければならない。　さもなければ有罪とされ、死ぬことになるだろう。　これは、アロンと息子たちが守る永遠のおきてである。
二九
１　アロンと息子たちを祭司に任命するために、次の儀式を行ないなさい。　若い雄牛一頭と傷のない雄羊二頭を用意する。　２また、イースト菌抜きのパン、油を混ぜた輪型のパン、イースト菌抜きのせんべい状のパンに油を塗ったものを準備する。　パンは精製した小麦粉で作らなければならない。　３４パンをかごに入れ、若い雄牛一頭、雄羊二頭といっしょに、神の天幕の入口に持って来る。
入口のところでアロンと息子たちに沐浴させる。　５次に、アロンに上着をきせ、長服、エポデ、胸当て、帯をつけさせ、　６頭には金のプレートつきのターバンをかぶせる。　７次に、注ぎの油を頭に注ぐ。　８さらに、彼の息子たちにも上着をきせ、　９織って作った帯をつけさせ、頭に帽子をかぶせる。　この儀式がすめば、彼らは永遠に祭司となる。こうして、アロンと息子たちを特別に選び、きよめなければならない。
１０　まず、おまえが若い雄牛を天幕に引いて来る。　アロンと息子たちは手を牛の頭に置き、　１１おまえが天幕の入口､神の前でそれを殺す。　１２血は指で祭壇の角に塗り、残りは祭壇の土台に注ぐ。　１３内臓をおおう脂肪ぜんぶ、胆のうと二つの腎臓と、それらを包む脂肪を、祭壇の上で焼きなさい。　１４死体は皮や汚物ごと野営地の外へ持って行き、罪が赦されるためのいけにえとして焼かなければならない。
１５１６次に、雄羊の一頭を引いて来る。　アロンと息子たちがその頭に手を置いたら、おまえがこれを殺し、その血を集めて祭壇に振りかける。　１７死体を切り開いて内臓を取り出し、足を切り取る。　それらをきれいに洗い、頭や体のほかの部分といっしょに置きなさい。　１８こうして、羊をぜんぶ祭壇の上で焼く。　それは神にささげる完全に焼き尽くすいけにえで、大いに神に喜ばれるものである。
１９２０もう一頭の雄羊も殺す。　その前に、アロンと息子たちは手を羊の頭に置かなければならない。　おまえは血を集めて、その一部分を、アロンと息子たちの右の耳たぶと手足の右親指につけ、残りは祭壇に振りかける。　２１続いて祭壇の上の血を取り、注ぎの油といっしょに、アロンと息子たち、また彼らの服に振りかける。　このようにして彼らとその服を、神のために特別に選ばれたものとしてきよめなければならない。
２２　次に、雄羊の脂肪を取る。　あぶら尾、内臓をおおう脂肪、さらに胆のうと二つの腎臓、それらの回りの脂肪、右のももである。　これは、アロンと息子たちを祭司に任命

する雄羊だからである。　２３さらにパン一個、油を混ぜた輪型のパン一個、せんべい一枚を、神の前に置かれたイースト菌抜きのパンのかごから取る。　２４これらをアロンと息子たちの手に載せる。　彼らは神にささげ物をする手つきをする。　２５そのあと、もう一度それらを受け取り、神への香ばしい完全に焼き尽くすいけにえとして、祭壇の上で焼く。　２６それから、アロンの任職の雄羊の胸を取り、ささげ物をする手つきで神の前に揺り動かす。　それは自分のものにしてかまわない。
２７２８雄羊の胸とももは､アロンと息子たちに与えなさい。 イスラエル人はいつでも、和解のための感謝のいけにえのうち、胸とももは神へのささげ物として、アロンと息子たちに与えなければならない。
２９　アロンの神聖な服は､跡を継ぐ息子たちのために取っておかなければならない。 こののち何代にもわたり、大祭司の油注ぎの儀式に用いるのだ。　３０アロンの次の大祭司がだれであろうと、その者は天幕と聖所で務めを始める前に、七日間この服を着なければならない。
３１　祭司の任命式にささげた雄羊の肉を、神聖な場所で煮なさい。　３２アロンと息子たちはその肉とかごの中のパンとを、天幕の入口で食べなければならない。　３３彼らだけが、彼らの罪を赦し、祭司として特別に選び任命する儀式に用いた、これらのものを食べる。　一般の人たちは食べてはならない。　これらは特別にきよめられたものだからである。　３４肉やパンが翌日まで残ったら焼き捨てなさい。　食べてはならない。　それは聖なるものである。
３５　このようにして､アロンと息子たちを祭司に任じなさい。 任命式は七日間つづく。
３６毎日､罪が赦されるためのいけにえとして､若い雄牛を一頭ささげなければならない。祭壇の汚れを払うためにも、罪が赦されるためのいけにえをささげなさい。　さらに、その上にオリーブ油を注いできよめる。　３７七日のあいだ毎日それを続け、神のための祭壇として特別にきよめなさい。　そのあと、祭壇は最も神聖なものとなり、それに触れるものは何でも、神のために選び分かたれ、きよめられたものとなる。
３８　毎日､祭壇に一歳の雄羊を二頭ささげなさい。　３９朝に一頭､夕方に一頭である。
４０朝の雄羊をささげる時には、上等の小麦粉三・六リットルとオリーブ油一リットル半を混ぜたものを、いっしょにささげ、また、一リットル半のぶどう酒を注ぎの供え物にしなさい。　４１もう一頭の雄羊は夕方、朝と同じ小麦粉のささげ物とぶどう酒の注ぎの供え物といっしょにささげる。　これは神への香ばしい完全に焼き尽くすいけにえである。
４２　このささげ物は、一日でも絶やしてはならない。　毎日、天幕の入口、神の前でささげる。　そこでわたしはおまえに会い、おまえと語る。　４３また、そこでイスラエル国民と会う。　天幕はわたしの栄光によってきよめられる。　４４天幕と祭壇、また、わたしに仕える祭司、アロンとその息子たちは、わたしがきよめる。　４５わたしはイスラエル国民とともに住み、彼らの神となる。　４６彼らは、わたしが彼らの神、主であることを知らなければならない。　彼らといっしょに住めるようにと、わたしは彼らをエジプ

トから助け出したのだ。　わたしは彼らの神、主である。
三〇
１　香をたく小さな祭壇をアカシヤ材で作りなさい。　２一辺が五十センチの正方形で、高さは一メートルとする。　祭壇には角を彫りつけなさい。　別に作ってあとから接着するのではなく、初めから祭壇の一部として作る。　３香の祭壇の上と側面と角は純金をかぶせ､周囲はぐるりと金の縁飾りをつける。４両側面の縁飾りの下に金の環を二つつけ、祭壇を運ぶ棒を通すようにする。　５棒はアカシヤ材で作り、金をかぶせる。　６この香の祭壇は聖所の垂れ幕のすぐ外側に置きなさい。　十戒を納めてある箱のふた、つまり恵みの座の近くに置くのだ。　わたしはおまえとそこで会う。
７　アロンは毎朝ともしびの芯を切る時、香の祭壇の上で、香りの高い香をたかなければならない。　８また夕方、明かりをともす時にも、神の前で香をたかなければならない。これは代々守るべきことである。　９この祭壇の上では、公に認められていない香をたいてはならない。　完全に焼き尽くすいけにえ、穀物のささげ物、飲み物のささげ物をささげてはならない。
１０　年に一度、アロンは罪が赦されるため、いけにえの血を香の祭壇の角に塗り、壇をきよめなさい。　これは毎年必ず行ない、代々続けなければならない。　神の最も神聖な香の祭壇だからである。」
１１１２神様はさらにモーセに命じました。　「イスラエル国民の人口調査をする時はいつでも、登録される成年男子はみな、金を納めて自分自身を買い取らなければならない。人口調査によって、国民に災いが起きないようにするためである。　１３金額は百五十円とする。　１４満二十歳以上の者はみな、このささげ物をしなければならない。　１５金持ちもそれ以上ささげてはならないし、貧しい者もそれ以下であってはならない。　自分自身を買い取るために神にささげるものだからである。　１６この献金は神の天幕の用にあてる。　それは、イスラエル国民をわたしが心にかけ、買い取るためである。」
１７１８神様はまた、モーセに命じました。　「青銅の洗い鉢を作り、青銅の台をつけなさい。　それを天幕と祭壇の間に置き、水をいっぱいにする。　１９アロンと息子たちは手と足をそこで洗う。　２０天幕に入り、わたしの前に立つ時、あるいは、わたしの前でいけにえを焼くために祭壇へ近づく時、その前に、いつも手足を洗わなければならない。さもなければ死ぬ。　２１これは、アロンとその子孫に代々伝えなければならないおきてである。」
２２２３神様はモーセに命じて、最上の香料を集めさせました。　純粋な没薬八キログラム、シナモンとにおいしょうぶが、それぞれ半分の量、　２４桂枝が没薬と同じ量、オリーブ油が六リットル集まりました。　２５そこで神様は、熟練した香料作りに、これらの材料を使って聖なる注ぎ油を作らせるよう命じました。
２６２７また、次のように言いました。　「天幕と、十戒の箱と、供えのパンのテーブルおよびその付属品すべてと、燭台およびその付属品と、香の祭壇とに、この油を注ぎなさ

い。　２８完全に焼き尽くすいけにえをささげる祭壇とその器具ぜんぶ、また、洗い鉢とその台にも同じようにしなさい。　２９それらを、特別に選ばれたものとしてきよめるためである。　それらに触れるものは何でもきよくなる。　３０アロンと息子たちにもこの油を塗り、祭司としてわたしに奉仕できるようにきよめなさい。　３１人々にはこう言うのだ。『これは神の聖なる注ぎ油としなければならない。　３２決して一般の者に注いではならない。　自分でかってに作ってはならない。　聖なるものだから厳重に取り扱わなければならない。　３３このような香料を作ったりする者、また、それを祭司でない者に注ぐ者はだれであれ、みな共同体から除名されなければならない。』」
３４　香について神様がモーセに与えた指示は、次のとおりです。「香料として、ナタフ香、シェヘレテ香、ヘルベナ香、純粋な乳香を同量ずつ用意し、　３５香料作りの普通の技術で、それに塩を混ぜ、純粋で聖なる香にしなければならない。　３６その一部分は細かく砕き、天幕の中の、わたしがおまえに会う箱の前に置きなさい。　この香は最も神聖なものである。　３７自分のためにそれを作ってはならない。　特別に神のためのものだからである。　神聖なものとして取り扱わなければならない。　３８自分のためにそれを作る者は、除名されなければならない。」
三一
１２神様はまた、モーセに告げました。　「わたしはユダ部族のウリの息子で、フルの孫にあたるベツァルエルを選んだ。　３彼に神の霊を満たし、神の天幕とその中にある物いっさいを作るのに必要な、知恵と才能と技術を与えた。　４彼は、金、銀、青銅の細工を美しくデザインすることができる。　５また宝石の細工にも、木の彫刻にも熟練した腕を持っている。
６　助手には、ダン部族のアヒサマクの息子オホリアブを任命した。　さらにまた、優秀な技術者たちにも特別な力を与え、わたしの指示どおりの物を作れるようにした。　７天幕、十戒の箱とそのふたの恵みの座、天幕の中のあらゆる造作、　８供えのパンのテーブルとその付属品、純金の燭台とその付属品、香の祭壇、　９完全に焼き尽くすいけにえの祭壇とその器具類、洗い鉢とその台、　１０祭司アロンの神聖な服、彼の息子たちが祭司として奉仕するとき着る服、　１１注ぎの油、聖所でたく香りのよい香である。　彼らは何もかも、わたしがおまえに与えた指示どおりに作らなければならない。」
１２１３神様はさらに、次の命令も与えました。　「人々に、安息日は休むよう言いなさい。　安息日は、おまえとわたしの間の契約を永遠に思い出させるものである。　わたしが神であり、おまえたちを聖なる国民とする者であることを、安息日は思い出させてくれる。　１４１５だから、神聖な日として安息日には休みなさい。　この命令に従わない者はだれであれ死刑だ。　この日仕事をする者はみな死刑だ。　六日の間だけ働きなさい。七日目は神の聖なる日、特別な休息の日である。　１６この法律は、イスラエル国民が永遠に守るべき契約であり義務である。　１７安息日はわたしとイスラエルとの契約の、永遠のシンボルである。　六日の間わたしは天と地を造り、七日目に休んだからである。」

１８　こうして神様は、シナイ山でモーセと話し終え、二枚の石板を与えました。　その板には、神の指で書かれた十戒が記されていました。
三二
１　モーセがなかなか降りて来ないので、人々は気がかりになり、アロンのところへ文句を言いに行きました。　「おれたちのために神様を作ってくれ。　その神様のお告げに従おう。　エジプトからここまでおれたちを連れて来たモーセは、姿を消してしまったじゃないか。　きっと何かあったに違いないんだ。」
２３「それなら、金のイヤリングをよこしなさい。」　アロンは答えました。
そこで、男も女も子供たちまで、みな言われたとおりにしました。　４アロンはその金を火で溶かし、鋳型に入れ、道具を使って子牛の形に作りました。　「イスラエルばんざーいっ。　これこそ、われわれをエジプトから連れ出した神様だ。」　人々は大喜びで叫びました。
５アロンは民が有頂天になっているのを見ると、子牛の前に祭壇を築いて布告しました。
「あすは神様のために盛大な祝いをしよう。」
６　人々は明くる朝はやく起き、子牛の像に、完全に焼き尽くすいけにえと和解のいけにえとをささげました。　そのあとが大へんです。　あたりに座り込んで食べたり飲んだりするかと思えば、立って踊りだす者も出るしまつです。　とんだ乱痴気さわぎになってしまいました。
７　それを知った神様は、モーセに命じました。　「大急ぎで山を降りなさい。　おまえがエジプトから連れ出した連中が、かってなことを始めた。　ひどくて目もあてられん。
８わたしのおきてをもう捨ててしまった。　子牛の像を作って礼拝し、いけにえまでささげ、『これこそ、イスラエル人をエジプトから連れ出した神だ』などと言っている。」
９　神様はさらに続けます。　「イスラエル人がどんなに強情で恩知らずの国民か、よくわかった。　１０もう容赦はできん。　こうなったら皆殺しだ。　邪魔だてはするな。　モーセよ、連中の代わりに、おまえを大きな国にしよう。」
１１　しかし、モーセは必死でお願いしました。　「神様、御みずからあれほど大きなお力を示し、すばらしい奇蹟をもって、ご自分の国民をエジプトから救い出されたのではありませんか。　その国民に、なぜそのようにお怒りになるのでしょう。　１２そんなことをなさったら、エジプト人は何と言うでしょう。　『ふん、イスラエルの神は連中をだまして山へ連れ出したんだ。　その証拠に、見ろよ、やつらは一人残らず殺されちまった』とあざけるかもしれません。　どうぞ怒りをおさめてください。　そんな恐ろしいさばきは、思いとどまってください。　１３神のしもべアブラハム、イサク、イスラエル（ヤコブ）に約束されたことを、思い出していただきたいのです。　『おまえの子孫を空の星のようにふやそう。　約束の地をすべておまえの子孫に与え、永遠に受け継がせよう。』　こう誓われたではありませんか。」
１４　そこで、神様も思い直し、人々のいのちを助けることにしました。　１５モーセは

山を降りました。　手には、十戒を両面に記した二枚の石板を持っています。　１６神様がみずから戒めをその板に記したのです。
１７　やがて、ふもとの方から人々の叫び声が聞こえてきます。　ヨシュアはモーセに言いました。　「まるで戦争でもしているような騒ぎですね。」
１８　「いや、あれは勝利の叫びでもないし、敗北のうめきでもない。　歌って騒いでいるのだ。」
１９　野営地に近づくと、子牛の偶像と踊り狂っている人々の姿が目にはいりました。　それを見たモーセは、むらむらと怒りがこみ上げ、思わず石板を地面に投げつけました。　それは山のふもとで、木端微塵に砕けました。　２０彼はやにわに子牛の像をつかみ、火にくべて溶かし、冷えると、今度は粉にして水にまき散らし、人々にむりやり飲ませました。
２１　それからアロンに向き直り、きびしく問い詰めました。　「いったい何があったんです？　ただ事じゃありませんよ。　兄さんも兄さんだ。　いっしょになってこんな恐ろしい罪を犯すなんて、どういうつもりなんです？」
２２　「まあ、そんなに興奮しないでくれ。　おまえも知ってるだろう。　あいつらときたら、ひどいやつばかりだ。　２３『おれたちを導く神様を作ってくれ。　エジプトからおれたちを連れ出したモーセのやつは、きっとどうかなっちまったんだ』と詰め寄ってな。
２４それで、『金のイヤリングを持って来い』と言ってやったんだ。　するとどうだ。　みんな持って来るじゃないか。　それを火に投げ込んだらこの子牛が出て来た、というわけだ。」
２５　アロンにはまるで反省の色がありません。　人々がみだらな行為にふけるのを、黙って見ているばかりです。　これでは敵の物笑いもいいところです。　２６堪忍袋の緒が切れたモーセは、野営地の入口に立って叫びました。　「神様につく者、私と行動を共にする者は、ここに集まれっ。」　すると、レビ部族が全員集まりました。
２７　モーセはその面々に命じました。　「イスラエルの神、主が言われる。　『剣を持って野営地中を駆け巡り、兄弟だろうが、友だちだろうが、知り合いだろうが、皆殺しにしろ。』」　２８彼らは命令どおりにしました。　その日、約三千人の男が死にました。
２９　モーセはレビ部族に言いました。「きょう、あなたがたはりっぱに神様に仕えた。息子や兄弟を殺してでも、神様に従った。　きっとすばらしい祝福があるだろう。」
３０翌日、モーセは人々に言いました。　「おまえたちは大きな罪を犯した。　それで、もう一度山へ登り、神様にお願いしようと思う。　おまえたちの罪を赦していただけるかもしれない。」
３１　モーセは神様のところへ帰って言いました。　「神様、あの連中は大きな罪を犯しました。　金で偶像を作ったのです。　３２けれども、あえてお願いします。　どうか罪を赦してやってください。　もし、どうしてもだめだと言われるのなら、神様が記しておられる書物から、私の名前を消してください。」
３３　「わたしに罪を犯した者はみな、わたしの書物から名前を消される。　３４今は黙

って行きなさい。　わたしが話しておいた地に人々を導くのだ。　わたしの使いが必ずおまえの前を行くようにする。　だが、今度のことは見のがすわけにはいかない。　人々の罪は罰する。」
３５　おことばどおり神様は、人々がアロンの子牛を礼拝した罰として、大きな災いを下されました。
三三
１　神様はモーセに命じました。　「おまえはこの国民をエジプトから連れ出した。　彼らを、わたしがアブラハム、イサク、ヤコブに約束した地へ導きなさい。　『この地をおまえの子孫に与えよう』と約束したからだ。　２ひと足先に神の使いをやり、カナン人、エモリ人、ヘテ人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人を追い払わせよう。　３その地は『乳と蜜の流れる』国だ。　しかしわたしは、いっしょに行かない。　おまえたちが手に負えない強情者だからだ。　いっしょに行けば、途中でおまえたちを滅ぼしたくなるかもしれない。」
４　人々はきびしいことばに、胸もつぶれる思いでした。　あまり悲しくて、身につけていた宝石や飾りを、ぜんぶ取ってしまったほどです。
５　それは、彼らにこう伝えるよう、神様がモーセに命じておいたからです。　「おまえたちは、わがままで強情な国民だ。　たとい一瞬でもわたしがいっしょにいたら、おまえたちを地上から消し去ってしまうだろう。　おまえたちの処分がはっきり決まるまでは、宝石や飾りはぜんぶ取ってしまえ。」　６それ以後､人々は宝石を身につけなくなりました。
７　モーセはいつも、神様とお会いする聖なる天幕を、野営地から遠く離れた所に張りました。　神様に何かうかがいを立てたいと思う人は、みなそこまで行くのです。
８　モーセが天幕へ行く時はいつでも、人々はみなそれぞれのテントの入口に立ち、彼が中へ入るまで見送るのでした。　９中へ入ると雲の柱が降りて来て、神様がモーセと話している間中、入口に雲がかかるのです。　１０人々はみなそれぞれのテントの入口で、雲の柱に向かって深くおじぎをし、礼拝します。　１１天幕の中では、まるで友だち同士のように、神様が親しくモーセとお語りになります。　そのあと、モーセは野営地に帰るのですが、彼の助手、ヌンの子ヨシュアはそのまま天幕に残ります。
１２　モーセは天幕の中で、神様に言いました。　「神様は私に、『人々
を約束の地へ連れて行け』と、いつもおっしゃいます。　けれども、どなたが私といっしょに行ってくださるのか、まだ教えてくださいません。　神様は、もったいなくも私を友だちのように扱ってくださいます。　また、おこころにかなった者だとも言ってくださいました。　１３もしそれが本当なら、どうぞ私の歩むべき道をはっきり示してください。そうすれば神様を理解できるようになり､おこころにかなった生活が送れるでしょう。　この国民が神様ご自身のものであることを、忘れないでください。」
１４　「わかった。　安心しなさい。　わたしがいっしょに行く。　失敗のないようにおまえを守ろう。」

１５　「神様がごいっしょでなければ、この場所から一歩でも動くのを許さないでください。　１６神様が共にいてくださらなければ、私とこの国民がおこころにかなっていること、また、地上の他の国民とは違うことが、どうしてわかりましょう。」
１７　「いいだろう。　おまえの言うとおりにしよう。　確かにわたしはおまえに目をかけている。　おまえは友だちも同然だからな。」
１８　それからモーセは、神様の栄光を見せてほしいと願いました。
１９　神様は答えました。　「わたしが与えるあらゆる良いものを、おまえに見せよう。また、わたしの名によってはっきり宣言しよう。　わたしは、自分がそうしようと思った者に心から同情し、恵みを与える。　２０しかし、おまえはわたしの顔の栄光を見てはならない。　わたしを見た者はいのちがない。　２１だから、そばの岩の上に立ちなさい。２２わたしの栄光がいま通り過ぎる。　おまえを岩の裂け目に入れ、わたしが通り過ぎるまで、手でおまえをおおう。　２３わたしが手を取ると、おまえはわたしの背を見る。　しかし顔を見ることは決してできない。」
三四
１　神様はモーセに命じました。　「最初のと同じような石板を二枚用意しなさい。　おまえが割った板に書いたのと同じ戒めを、もう一度その板に書こう。　２朝になったら、準備を整えシナイ山に登りなさい。　頂上でわたしと会うのだ。　３だれもいっしょに来てはならない。　山のどこにも人がいてはならない。　羊や牛の群れも、山の近くでは放牧しないようにしなさい。」
４　モーセは最初のと同じような石板を二枚用意し、東の空が白むころ、神様の命令どおりシナイ山に登りました。　二枚の石板を両手にかかえています。
５６神様は雲の柱となって天から下り、モーセのそばに立ちました。　それから彼の前を通り過ぎ、ご自分の名によって宣言しました。「わたしは主である。　思いやりにあふれた恵み深い神である。　だから簡単には怒らない。　愛と真実こそ、わたしの身上なのだ。７わたしは人々の罪を赦し、千代にもわたって彼らを愛し通す。　しかしまた、はっきり有罪と決まった者を甘やかすこともしない。　父親の犯した罪のために、息子や孫ばかりか、さらにのちの世代の者をも罰する。」
８それを聞いて、モーセは思わず神様の前にひざまずき、礼拝しました。　９「神様、ほんとうに私がおこころにかなっているのでしたら、どうぞ私どもといっしょに、約束の国まで行ってください。　彼らは確かに頑固でわがままな国民には違いありません。　けれどもお願いです。　どうぞその罪をお赦しください。　神様の国民として受け入れてください。」
１０　「いいだろう。　おまえと契約を結ぼう。　古今東西、見たことも聞いたこともない奇蹟を行なおう。　イスラエル人はみな、神の力を目のあたりにするのだ。　おまえによって、わたしは恐るべき力を示す。　１１契約の相手としてのおまえの義務は、わたしの戒めをすべて守ることだ。　そうすれば、おまえの前からエモリ人、カナン人、ヘテ人、

ペリジ人、ヒビ人、エブス人を追い払う。
１２　目ざす約束の国へ着いたら、そこの住民と決して妥協しないよう、くれぐれも気をつけなさい。　いったん妥協すれば、知らず知らずのうちに、彼らの悪習に染まってしまうからだ。　１３むしろ、異教の祭壇や礼拝用の石柱などはこわしてしまいなさい。　汚らわしい偶像も切り倒しなさい。　１４わたし以外には、どんな神々も拝んではならない。わたしは絶対の忠誠と、心からの献身を求める神である。
１５　その地の住民と、どんな条約も結んではならない。　彼らは、信仰の面では売春婦と同じだ。　偶像の神々にいけにえをささげることによって姦淫を行ない、わたしに反逆する。　万一彼らと親しくなり、いっしょに行って偶像を拝もうと言われたら、その誘惑に負けてしまうだろう。　１６そして、他の神々を拝む娘たちを、息子の嫁に迎えるだろう。　すると、息子たちは妻の信じる神々を拝み、姦淫を行ない、わたしに反逆することになる。　１７だから、偶像とはいっさい関係を持たないようにしなければならないのだ。
１８　種なしパンの祭りを七日間、必ず祝わなければならない。　毎年三月（ユダヤ暦では一月）の決まった時に、教えておいたとおりに祭りを守りなさい。　それは、おまえたちがエジプトを出た月だ。
１９　牛、羊、何でも最初に生まれた雄は、わたしのものだ。　２０ろばの初子は代わりに羊をささげて買い戻せる。　買い戻さないと決めたら、首を折る。　しかし人間の場合、長男はみな買い戻さなければならない。　ささげ物を持たずにわたしの前に出てはならない。
２１　忙しい耕作期や収穫期でも、六日間だけ働いて七日目は休みなさい。
２２　次の祭りを毎年祝うことを忘れてはならない。　小麦の最初の収穫を祝う七週の祭り、それに収穫の祭りである。　２３年に三度、祭りの時にはイスラエルの男子はみな、わたしの前に出なければならない。　２４男子全員が神の前に出るこの時は、だれもイスラエルに攻撃をしかけない。　そのような国はわたしが追い払い、イスラエルの国境を広げる。
２５　わたしへのささげ物といっしょに、イースト菌を入れたパンを使ってはならない。過越の子羊の肉は、どの部分でも翌朝まで取っておいてはならない。　２６毎年の最初の収穫から、いちばん良い物を神の天幕に持って来なければならない。　子やぎを母親の乳で煮てはならない。」
２７　また、神様はモーセに命じました。「わたしが示した法律を書き記しなさい。　この法律が、おまえとイスラエルに対するわたしの契約の条件だ。」
２８　モーセは山で四十日四十夜、神様とともにいました。　その間は、食べることも飲むこともしませんでした。　この時、契約の十戒を石板に記したのです。　２９モーセは二枚の石板をかかえて山を降りました。　それまで神様といっしょだったために、モーセの顔は輝いていましたが、自分では気がつきませんでした。　３０彼の顔の輝きを見て、アロンをはじめ人々は、そばに来るのを恐れました。

３１　モーセに呼ばれ、やっとアロンと指導者たちは来て、彼と話しました。　３２そのあと、今度は人々が全員集まったので、モーセは山で神様から与えられた戒めを伝えました。　３３話し終わると、モーセは顔にベールをかけました。　３４しかし、神様と話すために天幕へ入る時はいつでもベールを取り､外へ出るまでそのままにしていました。 そして、神様から示されたことは何でも人々に伝えました。　３５外に出て来る彼の顔を見ると光り輝いています。　そこでまた、彼は神様と語るために天幕へ入るまで、ベールをつけるのでした。
三五
１　さてモーセは、全国民を呼び集めて言いました。　「あなたがたが守らなければならない神のおきては、次のとおりだ。
２　六日間だけ働きなさい。　七日目は神様を礼拝する神聖な日、休息の日である。　この日に働く者はだれでも死刑だ。　３家の中で火をおこすことさえ許されない。」
４　モーセはまた、一同に言いました。　「神様は次のことをお命じになった。　５‐９ささげ物をしたい者はだれでも、これらのささげ物を神様のもとへ持って来てよろしい。
金、銀、青銅
青のより糸、紫のより糸、深紅のより糸、上質のリンネル、山羊の毛
赤く染めた雄羊のなめし皮、特別な処理を施したじゅごん（海に住む哺乳動物）の皮
アカシヤ材
ともしび用のオリーブ油
注ぎの油と香に使う香料
エポデや胸当てにはめる、しまめのうと宝石類
１０‐１９特別な才能に恵まれた熟練した技術者は、みな集まりなさい。　そして、神様が命じたとおりの物を作りなさい。
天幕とおおい、留め金、わく組み、横木、柱、土台
十戒の箱とかつぎ棒
恵みの座
聖所を囲む幕
テーブルとかつぎ棒と器具類いっさい
供えのパン
燭台、ともしび皿と灯油
香の祭壇とかつぎ棒
注ぎの油と香りの高い香
天幕の入口用の垂れ幕
完全に焼き尽くすいけにえをささげる祭壇
祭壇の青銅製の格子とかつぎ棒、器具類
洗い鉢とその台

庭の周囲を仕切る引き幕
柱と土台
庭の入口用の幕
天幕用の釘、庭用の釘とひも
祭司が聖所で務めをする時に着る服
祭司アロンと息子たちが着る聖なる服。」
２０　人々はみな、ささげ物を用意するため各自のテントへ戻りました。　２１心に感じた人たちは、天幕や必要な器具類、聖なる服を作るための材料を、ささげ物として持って来ました。　２２男も女もです。　みな喜んでささげる人ばかりです。　ある者は金や宝石でできたイヤリング、指輪、ネックレスなど、あらゆる種類の金製品を持って来ました。
２３ほかの者は青、紫、深紅のより糸、上質のリンネル、山羊の毛、赤く染めた雄羊のなめし皮、特別に処理したじゅごんの皮などを持って来ました。　２４銀や青銅を持って来た者もいます。　ある人は建築に必要なアカシヤ材をささげました。
２５　縫うことと紡ぐことがじょうずな婦人たちは、青、紫、深紅のより糸や、上質のリンネルを持って来ました。　２６ほかの婦人たちは、腕によりをかけて山羊の毛を紡ぎ、布を織りました。　２７指導者たちはまた、エポデや胸当てに使うしまめのうとか、　２８ともしび用や、注ぎの油や香り高い香を調合するための、香料やオリーブ油を持って来ました。　２９こうして、神様がモーセに命じた仕事に少しでも役に立ちたいと願った人たちはみな、心からのささげ物をモーセのところへ持って来たのです。
３０３１モーセは彼らに言いました。　「神様はユダ部族のウリの息子で、フルの孫にあたるベツァルエルを、特別にこの仕事の総監督に任じられた。　３２彼は金や銀や青銅の細工にたけ、　３３宝石を切ったり磨いたりすることもうまい。　美しい彫刻もお手のものだ。　全く必要な技術はぜんぶ身につけている。　３４また、ほかの人に教えるのもじょうずだ。 ダン部族のアヒサマクの息子オホリアブも、同じような才能に恵まれている。
３５神様はこの二人に特別な才能を与え、宝石細工人、建築師にしてくださった。　そればかりか、リンネルに青、紫、深紅の糸で美しい刺しゅうもできるし、織物もじょうずだ。
これからの仕事に必要なあらゆる技術にひいでている。
三六
１２ほかにも、才能に恵まれた技術者がたくさんいる。　二人を中心にみんなで力を合わせ、調度品を作り上げてくれ。」　ベツァルエルとオホリアブをはじめ、この仕事に参加すべきだと自分で思った人たち全員に、モーセは仕事を始めるよう命じました。 ３そして、人々がささげた材料を渡しました。　ところがそのあとも、新しい材料が毎朝とどけられます。
４－７もうとても、現場ではさばききれません。　みな仕事を中断し、モーセにじきじき実情を報告しました。　「材料があんまりたくさん集まりすぎて、使いきれないくらいです。」　それではと、モーセは野営地中に、これ以上ささげ物をする必要はないと伝えさせ

ました。　おかげでようやく、人々は持って来るのをやめたのです。
８９腕のいい織物師たちが、まず上等の細いより糸で織ったリンネルで幕を十枚作り、青、紫、深紅のより糸でケルビム（天使の像）を織り出しました。　幕の大きさは長さが十四メートル、幅が二メートルです。　１０これを五枚ずつつなぎ合わせ、長い布を二枚作りました。１１１２次に、それぞれの端に青いひもでループを五十ずつ作り、対になるようにしました。　１３ループをつなぎ合わせる留め金を五十個作り、二枚の長い布を一枚にして、天幕ができあがりました。
１４１５布の上には、二番目のおおいとして、山羊の毛皮で作った十一枚の幕を使いました。　それぞれ長さ十五メートル、幅二メートルのものです。　１６ベツァルエルはこの五枚をつなぎ合わせて一枚の長い幕とし、残りの六枚も別の長い幕としました。　１７次に、それぞれのへりに沿ってループを五十ずつ作り、　１８五十個の小さな青銅の留め金でつなぎ、二枚の幕をぴったりつなぎ合わせました。
１９　屋根の外側にかぶせるおおいは、赤く染めた雄羊のなめし皮とじゅごん（海に住む哺乳動物）の皮で作りました。
２０　天幕の側面にするために、まっすぐ立ったわく組みをアカシヤ材で作りました。２１一枚の板は高さ五メートル、幅七十五センチです。　２２それぞれの板には二個のほぞをつけて、隣の板にはめ込みます。　２３　南側に板が二十枚、　２４下の部分は銀の土台四十個にさし込みます。　一枚の板に二個ずつの土台とほぞを使って、しっかり固定したのです。　２５２６北側にも板が二十枚、それぞれに二個ずつ、全部で四十個の銀の土台を作りました。　２７西側、つまり天幕のうしろ側は板六枚と、　２８両すみに一枚ずつの板を置きました。　２９この二枚はそれぞれ下を重ね、上を環でつなぎます。　３０ですから西側には、全部で板が八枚、それぞれの下に二個ずつ、計十六個の銀の土台があったことになります。
３１３２次にベツァルエルは、わく組みの板をしっかりつなぎ合わせるために、アカシヤ材で横木を作りました。　天幕の三方に五本ずつの横木です。　３３五本のうち真ん中の横木は、板のほぼ中央を端から端まで通っています。　３４板と横木にはすべて金をかぶせ、木を通す環は純金でした。
３５　天幕内を仕切る垂れ幕は、青、紫、深紅のより糸でリンネルを織り、ケルビムを織り出しました。　３６幕は、アカシヤ材の四本の柱に金のかぎを四つ取りつけ、そこから垂らしました。　柱には金をかぶせ、四個の銀の土台にはめ込んであります。
３７　次に天幕の入口用のカーテンを作りました。　目のつんだリンネルに青、紫、深紅の刺しゅうをしたものです。　３８カーテンは五個のかぎで取りつけ、柱の頭部と環に金をかぶせました。　土台は青銅で五個作りました。
三七
１　次に、ベツァルエルは十戒の箱を作りました。　アカシヤ材で作り、長さ百二十五センチ、幅七十五センチ、高さ七十五センチに仕上げました。　２内側にも外側にも純金を

張り、周囲に金の縁飾りを巡らしました。　３片側に二つずつ並ぶよう、四すみに金の環を四個つけました。　４アカシヤ材でかつぎ棒を作って金をかぶせ、　５箱の側面の環に通します。　その棒をかついで箱を運ぶのです。
６　それから、純金で箱のふたを作りました。　これは『恵みの座』と呼ばれます。　長さ百二十五センチ、幅七十五センチです。　７両端に、金でケルビム（天使）の像を二つ打ち出しました。　８ケルビムはふたの一部分で、切り離すことはできません。　９ケルビムは互いに顔を見合わせ、伸ばした翼が恵みの座におおいかぶさって、それを見下ろす形にしました。
１０　次はテーブルです。　やはりアカシヤ材で、長さ一メートル、幅五十センチ、高さ七十五センチです。　１１それに純金を張り、ぐるりと金の縁飾りをつけました。　１２周囲に八センチ幅のわくをつけ、それに沿って金の縁飾りをつけたのです。　１３次に金の環を四つ作り、四本の足の、　１４１５縁飾りに近いところへつけ、アカシヤ材に金をかぶせたかつぎ棒を通すようにしました。　１６また、純金で鉢、水差し、皿、びんを作り、テーブルの上に置きました。
１７　純金を打ち出して燭台を作りました。　台座、支柱、ともしび皿、アーモンドの花飾りが、ぜんぶ一体となるようにしたのです。　１８燭台の支柱には、両側から三本ずつ、計六本の枝が出るようにしました。　１９それぞれの枝は三つの花で飾りました。　２０２１支柱にも同じようにアーモンドの花飾りをつけました。　三対の枝の間に二つ、下と上に二つ、合計四つです。　２２飾りと枝はみな、一かたまりの純金を打ち出して作りました。　２３２４枝の先に七つのともしび皿をつけ、芯切りばさみと灰皿とを純金で作りました。　燭台全体は五十キログラムの重さがあり、すべて純金です。
２５　香の祭壇はアカシヤ材で作りました。　五十センチ四方の正方形で、高さは一メートルです。　すみに、壇の一部として角を彫りつけました。　２６全体に純金をかぶせ、へりには金の縁飾りをつけました。　２７壇の両側面、縁飾りの少し下に金の環を二個つけ、かつぎ棒を通しました。　２８かつぎ棒はアカシヤ材で、金をかぶせてあります。
２９　次に、香りのよい香料を使って、聖なる油を調合しました。　祭司に注ぐ油や、純粋な香として用いる油です。　調合には高度の技術がいりました。
三八
１　完全に焼き尽くすいけにえの祭壇も、アカシヤ材で作りました。　上部は二・五メートル四方の正方形、高さは一・五メートルです。　２四すみに、他の部分と切れ目なく続くよう、四本の角をつけました。　祭壇には青銅を張り、　３祭壇で使うつぼ、十能、鉢、肉刺し、火皿などの器具類も青銅で作りました。　４次に、炉の半ばあたりに棧を張り、そこに青銅の格子を置きました。　５環を四つ作り、格子の四すみのところでかつぎ棒を通せるようにしました。　６かつぎ棒はアカシヤ材で、青銅をかぶせてあります。　７祭壇の側面につけた環に、その棒を通します。　祭壇の側面は板で、中はがらんどうでした。
８　天幕の入口で奉仕していた女たちが、青銅の鏡を寄付したので、それを使って青銅の

洗い鉢とその台を作りました。
９　次は庭です。　南側は五十メートルで、細い上等のより糸を織って幕を作り、それを張り巡らしたのです。　１０幕を垂らす柱を二十本立てました。　土台は青銅で、柱には銀のかぎと環をつけました。　１１北側にも五十メートルの幕を張り、青銅の柱二十本とその土台、銀のかぎと環があります。　１２西側は二十五メートルで、十本の柱と土台で幕を支えました。　柱には、やはり銀のかぎと環がついています。　１３東側も二十五メートルです。
１４１５入口の両側には、幅七メートル半の幕を垂らし、それぞれ三個の土台に立てた三本の柱で支えました。　１６庭の仕切りとして巡らした幕は、どれも細い上等のより糸で織ったものです。　１７柱はみな青銅の土台にはめ込み、かぎと環は銀です。　柱の頭部には銀をかぶせ、幕を垂らす環は純銀でした。
１８　庭の入口に垂らすカーテンは上質のリンネルで作り、青、紫、深紅のより糸で美しい刺しゅうをしました。
幕の幅は十メートル、高さは二メートル半で、庭の仕切りとした他の幕と同じ高さです。
１９幕は四本の柱と四個の青銅の土台、銀のかぎと環で支えました。　柱の頭部も銀でした。
２０　天幕と庭を作るのに用いた釘は、すべて青銅です。
２１　これが、箱を納める天幕の建設工事の諸工程です。　天幕ができ上がり、ようやくレビ部族が仕事につけるようになりました。　いっさいの工事は、モーセが立てた計画どおり行なわれ、祭司アロンの息子イタマルが監督しました。　２２ユダ部族のウリの息子で、フルの孫にあたるベツァルエルが、技術面での責任者となり、　２３ダン部族のアヒサマクの息子オホリアブが、助手を務めました。　彼も熟練した職人で、彫刻、設計、色とりどりの刺しゅうをするのに、すばらしい腕を発揮しました。
２４　人々がささげ、天幕建設に使った金は千四百キログラムに達しました。
２５２６銀は四千二百五十キログラム使われました。　これは、人口調査の時に登録する二十歳以上の人から取り立てた、百五十円の人頭税でまかなわれました。　登録したのは、計六十万三千五百五十人です。　２７聖所の壁となるわく組みの土台と、垂れ幕を支える柱の土台には、一個につき四十二キログラム、計四千二百キログラムの銀が必要でした。
２８残った銀は柱頭にかぶせたり、環やかぎを作るために使いました。
２９　青銅は三千三百六十五キログラムささげられ、　３０３１次のような物を作るのに使われました。　天幕の入口に立てる柱の土台、祭壇、格子、祭壇に付属する器具類、庭を仕切る引き幕を支える柱の土台、天幕と庭の釘などです。
三九
１　次に、青、紫、深紅のより糸で、祭司用の美しい服を作りました。　聖所で務めをする時に着る服です。　同じ生地で、アロンの聖なる服も作りました。　すべて、神様がモーセに命じたとおりです。　２エポデ（ひざ下までの、そでなし上着）も、同じ上質のリ

ンネルと、金、青、紫、深紅のより糸で作りました。　３ベツァルエルは金の板を薄く延ばし、細く切って金糸を作りました。　それを青、紫、深紅の糸により込み、布に織ると、実に精巧な美しい布ができ上がりました。
４５エポデには肩当てをつけ、両端を留めるようにしました。　上に締める帯も織りました。　生地はエポデと同じく、金、青、紫、深紅の細いより糸を織り込んだリンネルで、たいへん美しいものでした。　神様がモーセに指示したとおりです。　６７二個のしまめのうを金の台にはめ、エポデの肩当てに縫いつけましたが、石の上には、イニシアルのようにイスラエルの全部族の名を彫りました。　この石を見て、神様がイスラエル国民を絶えず思い起こせるようにしたのです。　すべて神様がモーセに指示したとおりです。
８　胸当てもエポデと同じように、金、青、紫、深紅のより糸で織った上質のリンネルで、美しく作りました。　９これは二十五センチ四方の布で、二つに折って袋状にしました。
１０そこには宝石を四列に並べました。　最初の列はルビー、トパーズ、エメラルド。　１１二列目はトルコ玉、サファイヤ、ダイヤモンド。　１２三列目はヒヤシンス石、めのう、紫水晶。　１３四列目は緑柱石、しまめのう、碧玉。　これらはみな金の台にはめました。
１４石には、イスラエルの十二部族の名を、印と同じように彫りつけました。
１５‐１８胸当てをエポデに結びつけるために、エポデの肩当てに金の環をつけました。この環と、胸当ての上すみの金の留め金とを金の鎖でつなぐのです。　１９また、胸当ての下のへり、ちょうどエポデと接する所の内側にも、金の環を二個つけました。　２０別の金の環を、エポデの肩当ての下部につけました。　エポデの上から、美しく織った帯を締めるあたりです。　２１胸当ての環とエポデの環とを青いひもでしばり、胸当てを、帯の上にしっかり結びつけました。
何もかも神様の命令どおりです。
２２　エポデの下に着る服は青糸で織りました。　２３真ん中に、ちょうどよろいの首の部分のように頭を通す穴をあけ、ほつれないようにかがりました。　２４長服のすそには、ざくろをつけました。　これは、青と紫と深紅のより糸で作ったものです。　２５２６ざくろとざくろの間には、純金の鈴もつけました。　服のすそに鈴とざくろが交互に並ぶわけです。　この長服は、アロンが祭司の務めをする時に着ます。　神様がモーセにそう命じたのです。
２７　細いより糸で織ったリンネルで、アロンと息子たちのために上着を作りました。　２８２９美しいターバン、帽子、下着もみな、同じ布で作り、帯には青、紫、深紅の糸で美しい刺しゅうをしました。　神様がモーセに命じたとおりです。　３０最後に、ターバンの正面につける聖なるプレートを純金で作りました。　その上には、「神のために特別に選ばれた者」ということばを彫り、　３１青いひもでターバンに結びつけました。　神様が教えたとおりです。
３２　こうしてついに、神様がモーセに指示したいっさいの工事が終わり、神の天幕が完成しました。

３３‐４０そこで工事担当者は、でき上がった天幕と付属品を全部、モーセのところへ運んで来ました。
調度品、留め金、わく組みの板、横木
柱、土台、屋根と側面用の赤く染めた雄羊のなめし皮、特別になめしたじゅごん（海に住む哺乳動物）の皮、仕切りの垂れ幕、十戒を納めた箱
かつぎ棒
恵みの座
供えのパンのテーブルと付属品
供えのパン
純金の燭台とともしび皿、付属品、油
金の香の祭壇
注ぎの油
香りの高い香
天幕の入口用のカーテン
青銅の祭壇
青銅の格子
かつぎ棒と付属品
洗い鉢とその台
庭を仕切る引き幕とそれを支える柱
柱の土台と庭の入口に下げる幕
ひも類と釘
天幕で使うあらゆる用具類
４１　そのほか美しく仕立てた祭司用の服も、モーセに点検してもらいました。　祭司が聖所で務めをする時に着る服、つまり大祭司アロンの聖なる服と、彼の息子たちが公式に着る衣装などです。
４２　このようにしてイスラエル国民は、神様がモーセに指示したことを、全部、そのとおり行ないました。　４３モーセはでき上がった物を一つ残らず点検し、祝福しました。何もかも神様の指示どおりにできていたからです。
四〇
１　さて、神様はモーセに命じました。　２「一月一日（ユダヤ暦による。　太陽暦では三月中旬）に、神の天幕を組み立てなさい。　３十戒を納めた箱を天幕に安置する。　至聖所に箱を置き、その前には仕切りの垂れ幕をしつらえるのだ。　４次に、供えのパンのテーブルを運び入れ、その上に用具類を並べる。　燭台を持って来て、ともしび皿を載せる。
５　箱の前には金の香の祭壇を置き、天幕の入口にカーテンを垂らす。　６入口の前に、完全に焼き尽くすいけにえ用の祭壇を置く。　７天幕と祭壇との間に洗い鉢を置き、水を

満たす。　８それがすんだら、天幕の回りに庭を造り、庭の入口にはカーテンを垂らす。
９　組み立てが終わったら、注ぎの油を天幕とその中にある物ぜんぶに注ぎなさい。　いろいろな用具類、すべての調度品にも注いで、それらをきよめる。　１０完全に焼き尽くすいけにえ用の祭壇とその用具類も、同じようにする。　これで、祭壇は最も神聖なものとなる。１１洗い鉢とその台も同様だ。
１２　次に、アロンと息子たちを天幕の入口に連れて来て沐浴させ、１３アロンに聖なる服を着せて油を注ぎなさい。　祭司としてわたしに仕えることができるように、彼をきよめるのだ。　１４次に、彼の息子たちを連れて来て祭司の服を着せ、　１５父親と同じように彼らにも油を注ぎ、祭司とする。　その油注ぎは何代にもわたり、永遠に続く。　息子たちも、またその息子たちも、永遠にわたしの祭司となるからだ。」
１６　そこでモーセは、神様に命じられたことをすべて実行に移しました。　１７二年目の正月の一日に、天幕が組み立てられました。　１８モーセはまず、わく組みの板を土台にはめ込み、横木をつけました。　１９それから、屋根のおおいをかけ、さらに幕を重ねました。　すべて神様に命じられたとおりです。
２０　箱の中に十戒を刻んだ二枚の石板を入れ、環にかつぎ棒を通しました。　箱の上には、恵みの座と呼ばれる金のふたを載せました。２１それから、箱を天幕に入れ、仕切りの垂れ幕をかけました。　すべて神様に命じられたとおりです。
２２　次に、供えのパンのテーブルを垂れ幕の外の北側に置き、　２３供えのパンを神様に供えました。　すべて神様に命じられたとおりです。
２４　天幕の南側、テーブルの反対側に燭台を置きました。　２５次に、指示されたとおり、神様の前にともしび皿を整えました。　２６それから、垂れ幕のすぐ前に金の香の祭壇を置き、　２７香りの高い香料で作った香をたきました。　すべて神様に命じられたとおりです。
２８　天幕の入口にはカーテンを取りつけました。　２９そして、外へ出た所に完全に焼き尽くすいけにえ用の祭壇を置き、その上でいけにえと穀物のささげ物をささげました。すべて神様に命じられたとおりです。
３０　次は洗い鉢です。　天幕と祭壇の間に置き、水を満たしました。　祭司たちがその水で手足を洗えるようにしたのです。　３１モーセとアロンとアロンの息子たちは、そこで手足を洗いました。　３２天幕へ入るために祭壇のところを通って行く時はいつも、そこで立ち止まり、手足を洗うのです。　すべて神様に命じられたとおりです。
３３　それから、天幕と祭壇を囲む庭を造りました。　庭の入口にもカーテンを垂らしました。　こうしてついに、モーセはいっさいの仕事を終わったのです。
３４　すると、雲が天幕にかかり、神様の栄光が輝きわたりました。３５あまりの神々しさに、モーセは中へ入れませんでした。　３６雲が天幕から離れて動きだした時、イスラエル人はそのあとに従って旅をしました。　３７雲が動くのをやめると一行もそこに止まり、雲が動きだすまでじっと待つのです。　３８昼間は雲が天幕にかかり、夜は雲の中に

赤々と火が輝き、人々はみなその有様を見ました。
これは旅の間ずっと絶えることがありませんでした。
▪

礼拝規定（レビ記）
イスラエルには、祭司の働きをするレビ部族がいました。　本書は、彼らのためのハンドブックとして書かれたものです。　ここには、イスラエル人の生活を律する規則、いけにえや礼拝に関する具体的な諸規則などが定められています。　主要ないけにえのささげ方とともに、いけにえの儀式および主な祭りや祝日についても記されています。

一
１　さて神様は、天幕からモーセにお語りになりました。　２３イスラエル国民に次のような指示を与えよ、と命じたのです。　「神にいけにえをささげる時は、牛でも羊でも、自分の群れのものを使いなさい。
雄牛を完全に焼き尽くすいけにえとしてささげる時は、体に傷のないものでなければならない。　まず、いけにえ用の動物を天幕の入口へ引いて来る。　そこで、祭司がそのささげ物を受け取ってくれる。　４いけにえをささげる人は、その動物の頭に手を置く。　そうすることで、身代わりのいけにえと認められるのだ。　本人が自分の罪の刑罰として死ぬ代わりに、その動物が死ぬことを、わたしは認めよう。　５わたしの前で、自ら手を下していけにえを殺しなさい。　祭司であるアロンの息子たちが、その血をわたしにささげる。　天幕の入口で、祭壇の回りに血を振りかけるのだ。　６７続いて、皮をはいで四肢に分け、祭司が祭壇に火を置き、たきぎを並べ、　８ばらした部分と頭と脂肪を載せる。９その時、内臓と足は、いけにえをささげる本人がきれいに洗う。　祭司はそれをみな祭壇の上で焼く。　これが、わたしの大好きな完全に焼き尽くすいけにえだ。
１０　完全に焼き尽くすいけにえにする動物は、羊か山羊の傷のない雄でなければならない。　１１いけにえをささげる人は、祭壇の北側で、わたしの前でそれを殺す。　祭司であるアロンの息子たちが、その血を祭壇の回りに振りかける。　１２その人は死体を四肢に分け、祭司はそれを頭や脂肪といっしょに祭壇のたきぎに載せる。　１３その前に、内臓と足は、いけにえをささげる本人が水で洗う。　祭司は神へのささげ物として、それをみな祭壇で焼く。　完全に焼き尽くすいけにえは、わたしの大好物だ。
１４　動物でなく鳥を使う場合は、山鳩か家鳩のひなのどちらかにしなさい。　１５‐１７祭司はそれを祭壇へ持って行き、首をひねり、血は祭壇の横に絞り出す。　餌袋と羽毛は祭壇の東側の灰捨て場に捨てる。このあと、翼をつかんで引き裂くが、ばらばらにしてはならない。それを祭壇で焼く。　わたしはこのいけにえが大好きだ。
二
１　穀物の供え物をする時は、上等の小麦粉にオリーブ油を注ぎ、香料を加えなさい。　２そのうちの一つかみを、祭司のところへ持って行き、焼いてもらう。　わたしはその香りが大好きだ。　３残った粉は、アロンと息子たちの食物となるが、それも神聖な完全に焼き尽くすいけにえと見なされる。

４　オーブンで焼いたパンをささげる時は、細かくひいた粉にオリーブ油を混ぜて焼きなさい。　イースト菌を入れてはならない。　オリーブ油を塗った、イースト菌の入らないせんべいも、ささげ物に使える。　５菓子用の鉄板で焼いたものをささげる時は、細かくひいた粉をオリーブ油でこねて作りなさい。　イースト菌を入れてはならない。　６でき上がったものを細かくちぎって油をかける。　これが穀物の供え物の形式だ。　７なべで作る場合も、細かくひいた粉をオリーブ油でこねて作る。
８　こうして用意ができたら、祭司のところへ持って行き、祭壇で神にささげてもらう。
９　祭司が焼くのはその一部だけだが、わたしは全部をささげ物と認める。　１０残りは祭司が取ってかまわない。　しかし、それは全部、神への神聖なささげ物と見なされる。
１１　粉で作るささげ物は、イースト菌を使ってはならない。　神へのささげ物には、イースト菌やはち蜜の使用は許されない。　１２最初の収穫を感謝するささげ物の場合はかまわないが、完全に焼き尽くすいけにえには使えない。
１３　ささげ物はすべて塩で味をつける。　塩〔契約が真実であることを象徴的に表わすのに使われた〕は神の契約を思い出させるものだからだ。
１４　最初の収穫をささげる時は、新穀を砕くか焼くかしてささげなさい。　１５それにオリーブ油と香料を加える。　穀物の供え物だからだ。　１６祭司は神の前で、オリーブ油と香料を混ぜたささげ物を一つかみ、全部の代わりに焼く。
三
１　感謝のいけにえの場合は、雄牛でも雌牛でも差しつかえない。　ただし、神にささげるのだから、どこにも傷のないものでなければならない。　２いけにえをささげる人は、神の天幕の入口で牛の頭に手を置き、殺す。　祭司がその血を祭壇の回りに振りかける。
３－５次に内臓をおおう脂肪、二つの腎臓とその上をおおう腰の脂肪、胆のうを神の前で焼く。　わたしはそのいけにえが大好きだ。
６　感謝のいけにえに羊か山羊を使う時は、傷のないものであれば、雄でも雌でもかまわない。
７８羊の場合は、天幕の入口で羊の頭に手を置き、殺す。　祭司は血を祭壇の回りに振りかけ、　９－１１背骨に沿って取り除いた脂肪、内臓をおおう脂肪、二つの腎臓とその上をおおう腰の脂肪、胆のうを、完全に焼き尽くすいけにえとしてささげる。
１２　ささげ物として山羊を引いて来たら、　１３天幕の入口でその頭に手を置き、殺す。祭司は血を祭壇の回りに振りかけ、　１４－１６完全に焼き尽くすいけにえとして、内臓をおおう脂肪、二つの腎臓とその上をおおう腰の脂肪、胆のうを祭壇にささげる。　このいけにえはわたしの大好物だ。　脂肪は全部わたしのものだから、　１７脂肪も血も食べてはならない。　これはイスラエルの永遠の法律だ。」
四
１　神様はさらに、次のような指示をモーセに与えました。
２　「人々に言いなさい。　あやまって戒めを破った場合は、次のように処理する。　３

大祭司があやまって罪を犯し、人々に悪影響を及ぼした場合は、罪が赦されるためのいけにえとして、傷のない若い雄牛をささげなければならない。　４神の天幕の入口に引いて来て雄牛の頭に手を置き、神の前で殺す。　５大祭司は血を持って天幕に入り、　６指を浸し、奥の至聖所へ通じる道をふさぐ垂れ幕の前に、七回ふりかける。　７次に、天幕の中の神の前にある香の祭壇の角に血を塗る。　残った血は、天幕の入口にある完全に焼き尽くすいけにえ用の祭壇の土台に注ぎかける。　８‐１０内臓をおおう脂肪、二つの腎臓とその上をおおう腰の脂肪、胆のうを祭壇で焼く。　感謝のいけにえとしてささげる雄牛や雌牛の場合と同じだ。　１１１２皮、肉、頭、足、内臓、腸など残りの部分は、野営地の外の特別にきよめられた場所、祭壇の灰捨て場で焼く。
１３　国家としてあやまって罪を犯し、してはならない事をした場合は、全国民が有罪となる。　１４罪に気づきしだい、罪が赦されるためのいけにえとして、若い雄牛を天幕の入口に引いて来なさい。　１５指導者たちが代表して、神の前で雄牛の頭に手を置き、殺す。　１６大祭司は血を天幕の中へ持って行き、　１７指を浸し、神の前で垂れ幕の前に七回ふりかける。　１８次に、天幕にある香の祭壇の角に血を塗る。　残りの血は、天幕の入口にある完全に焼き尽くすいけにえ用の祭壇の土台に注ぎかける。　１９いけにえの脂肪はすべて取り除き、祭壇で焼く。　２０自分の罪のためのいけにえの時と同じようにするのだ。　こうして、祭司は国家の罪を償う。　これではじめて、全国民が赦されるのだ。　２１最後に祭司は、いけにえの死体を野営地の外へ運び出し、個人の罪のためのいけにえと同じように焼く。
２２　指導者のだれかがあやまって罪を犯し、神の法律に背いた場合は、　２３罪に気づきしだい、傷のない雄やぎをいけにえとして引いて来なさい。　２４完全に焼き尽くすいけにえをささげる場所で、その頭に手を置いて殺し、神にささげる。　これは指導者の罪が赦されるためのいけにえだ。２５祭司はそのいけにえの血を祭壇の角に指で塗りつけ、残りは祭壇の土台に注ぎかける。　２６感謝のいけにえと同じように、脂肪はすべて祭壇で焼く。　こうして、祭司は指導者の罪を償い、彼は赦される。
２７　一般人も、あやまって罪を犯せば、有罪だ。　２８それに気づいたらすぐ、罪の償いとして傷のない雌やぎを引いて来なさい。　２９完全に焼き尽くすいけにえを殺す場所で、いけにえの頭に手を置いて殺す。　３０祭司は指に血をつけ、完全に焼き尽くすいけにえ用の祭壇の角に塗る。　残りの血は祭壇の土台に注ぎかける。　３１感謝のいけにえの場合と同じように、脂肪はすべて取り除き、祭司が祭壇で焼く。　わたしはそれが大好きだ。　このように、祭司は罪の償いをし、罪を犯した者は赦される。
３２　罪が赦されるためのいけにえに子羊を引いて来る時は、傷のない雌でなければならない。　３３完全に焼き尽くすいけにえを殺す場所に連れて来て、頭に手を置き、罪が赦されるためのいけにえとして殺す。　３４祭司は指に血をつけ、祭壇の角に塗り、残りの血は土台に注ぎかける。　３５脂肪は感謝のいけにえの羊と同じようにする。　火で焼いて神にささげる他のいけにえと同じように､祭壇で焼くのだ。 こうして祭司が償いをし、

罪は赦される。
五
１　ある犯罪について何かの事実を知っていながら、証言を拒否すれば、有罪となる。
２　野生でも家畜でも、食用にすることを禁じられている動物とか昆虫の死体など、礼拝規則で汚れたものと見なされるものにさわったら、気づかずにした場合でも有罪となる。
３何であれ人の排泄物にさわったら、たといその時は気づかなくても、あとで気づいた時に有罪となる。
４　良くも悪くも、軽々しく誓いを立て、あとでばか気たことをしたと気づいた時には、有罪となる。
５　以上のどの場合も、罪を告白し、　６雌の羊か山羊を、罪を償ういけにえとしてささげなさい。　祭司は罪の償いをし、その者は赦される。
７　貧しくて羊をささげる余裕がない時は、山鳩か家鳩のひなを二羽ささげなさい。　一羽を罪が赦されるためのいけにえに、もう一羽を完全に焼き尽くすいけにえとするのだ。８祭司は、初めに手渡されたほうを、罪が赦されるためのいけにえとし、その首をひねる。ただし、切り落としてはならない。　９次に、血を祭壇の側面に振りかけ、残りは土台のところに絞り出す。　これは罪が赦されるためのいけにえだ。　１０もう一羽は、完全に焼き尽くすいけにえの決まりどおりにささげる。　こうして、祭司は罪の償いをし、その者は赦される。
１１　貧しくて、山鳩や家鳩のひなさえささげられない時は、細かくひいた小麦粉三・六リットルを持って来なさい。　オリーブ油を混ぜたり、香料をかけたりしてはならない。罪が赦されるためのいけにえだからだ。　１２それを祭司のところへ持って行き、全部の代わりに、そのうちの一つかみを祭壇で焼いてもらう。　火で焼く他のささげ物の場合と同じだ。　これが、罪が赦されるためのいけにえとなる。　１３　こうして、祭司は罪の償いをし、その者は赦される。　残りの粉は穀物のささげ物と同じように、祭司のものとなる。」
１４　神様はモーセに命じました。　１５「不実なことを行ない、あやまって神聖なものを汚した時は、その罪を償うのに見合ういけにえとして、傷のない雄羊を一頭ささげなさい。　１６そのほかに、自分の汚した神聖なものや、ささげるのを怠った十分の一のささげ物の償いをしなければならない。　罰金は与えた損害額の二割増しだ。　祭司にそれを支払う。　祭司は罪を償ういけにえの雄羊で償いをし、その者は赦される。
１７１８神の法律のどれかに違反すれば、たとい気づかずにしたことでも、罪になる。　その時は、犯した罪に見合ういけにえをささげなければならない。　これは罪を償ういけにえで、傷のない雄羊を一頭ささげる。　祭司は雄羊一頭でその者の罪の償いをする。　何であれ、知らずに犯した罪は、これで赦される。　１９罪を犯し、神に有罪と見なされた者は、このように罪を償ういけにえをささげなければならない。」
六

１　神様はモーセに命じました。　２３「借り物やあずかり物、担保の品などを返さなかったり、盗んだり、脅し取ったり、落とし物を見つけながら、取った覚えはないとしらばくれるなどして、神に罪を犯した時は、　４５その事実がはっきりした日に、取ったものを相手に返し、ほかに二十パーセントの罰金を支払いなさい。　また、神の天幕に罪を償ういけにえを引いて来なさい。　６その罪に見合ういけにえは、傷のない雄羊一頭だ。　それを祭司のところへ引いて来る。　７　祭司は神の前で罪の償いをし、その者は赦される。」
８　神様はモーセに命じました。　９「アロンと息子たちに、完全に焼き尽くすいけにえについての決まりを示しなさい。
完全に焼き尽くすいけにえは、祭壇の上で一晩じゅう焼き続ける。　１０翌朝、祭司はリンネルの下着と上着をつけ、その灰をすっかり集め、祭壇のそばに置く。　１１このあと着替えをし、灰を野営地の外の特別にきよめられた場所に運ぶ。　１２祭壇の火はいつも燃やし続け、消してはならない。　祭司は毎朝たきぎをくべ、毎日ささげる完全に焼き尽くすいけにえを供え、和解のいけにえの脂肪を焼く。　１３祭壇の火は絶やしてはならない。
１４　穀物の供え物の決まりは次のとおりだ。
アロンの息子である祭司は、祭壇の前に立ち、供え物を神の前にささげる。　１５細かくひいた粉を一つかみ、オリーブ油と香料を入れてこね、全部の代わりに祭壇で焼くのだ。わたしは喜んでそれを受けよう。　１６残りはアロンと息子たちの食物となる。　天幕の庭で、イースト菌を入れずに焼いて食べなさい。　１７念を押すが、焼く時は絶対にイースト菌を入れてはならない。　火で焼くささげ物のうち、この分は祭司に与える。　しかし、罪が赦されるためのいけにえや、罪を償ういけにえの場合と同じく、ささげられた全部がきよいのだ。　１８アロンの家系で祭司を務める者は、子々孫々に至るまで、これを食べることができる。　火で焼く神へのささげ物は、祭司だけが食べられるのだ。」
１９２０神様はモーセに命じました。　「アロンと息子たちが油を注がれ、祭司の務めにつく日には、日々の穀物の供え物をささげなさい。　細かくひいた上等の小麦粉三・六リットルを、朝と夕方に半分ずつ、　２１　オリーブ油でこね、鉄板で焼いてささげる。　わたしはそれが大好きだ。　２２２３祭司の息子は父の跡を継ぐ場合、油を注がれる任命式の日に、これと同じささげ物をする。　この法律は永遠に変わらない。　このささげ物は全部を神の前で焼く。　ほんの一口でも食べてはならない。」
２４　神様はモーセに命じました。　２５「次は、罪が赦されるためのいけにえについて、祭司が知っていなければならない決まりだ。
このいけにえは最もきよいものだから、完全に焼き尽くすいけにえを殺す場所で、神の前で殺す。　２６いけにえの儀式を行なう祭司は、天幕の庭でそれを食べる。　２７特別に選ばれ、きよくされた者、祭司だけしか、その肉にさわれない。　そのとき衣服に血がかかったら、聖所内で洗いきよめる。　２８煮沸するのに使った容器は、土器ならこわし、青銅製ならきれいに磨き上げ、よくすすぐ。　２９祭司は全員このささげ物を食べてかま

わないが、それ以外の者は絶対にいけない。　最もきよいものだからだ。　３０ただし、聖所で罪の償いをするためにささげたいけにえで、血を天幕の中へ持って行くものは、祭司といえども食べてはならない。　その死体は、神の前で完全に焼き尽くすのだ。
七
１　罪を償う最もきよいいけにえについての決まりは、次のとおりだ。
２　いけにえの動物は、完全に焼き尽くすいけにえと同じ場所で殺し、血は祭壇の回りに振りかける。　３祭司は脂肪をぜんぶ祭壇にささげる。　背骨に沿ってついている脂肪、内臓をおおう脂肪、　４二つの腎臓、腰のあたりの脂肪、胆のうなどをより分けて、いけにえとするのだ。　５それを、罪を償ういけにえとして祭壇で焼く。　６祭司はその肉を食べてかまわないが、食べる場所は神聖な場所に限る。　最もきよいいけにえだからだ。
７　罪が赦されるためのいけにえ、罪を償ういけにえ、どちらの場合も、動物の死体は儀式を行なう祭司の食物となる。８完全に焼き尽くすいけにえの場合は､皮が与えられる。９神への穀物の供え物をささげる祭司は、儀式に使った残りをぜんぶ与えられる。　この規則は､供え物をオーブンや鉄板で焼く場合も､なべで料理する場合も変わりはない。　１０ほかの穀物の供え物も、油を混ぜたものであれ乾いたものであれ、すべてアロンの息子である祭司のものとなる。
１１　次は、特別な和解のいけにえとしてささげるいけにえについての決まりだ。
１２　それが感謝のささげ物なら、いけにえのほかにイースト菌抜きの輪型のパン、オリーブ油を塗ったせんべい、小麦粉をオリーブ油でこねて作ったパン、　１３さらに、イースト菌を入れた輪型のパンを添える。　１４このうち一部を、儀式どおり祭壇の前で揺り動かしてささげる。　それは、いけにえの血を振りかける祭司のものとなる。　１５感謝を表わす和解のいけにえとして神にささげた動物の肉は、その日のうちに食べる。　翌日まで残しておいてはならない。
１６　感謝のいけにえでなく、誓願や進んでささげるささげ物の場合は、その日に食べきれなければ、翌日まで残しておいてかまわない。　１７１８ただし、三日目まで残った分は焼き捨てなさい。　三日目に食べても、わたしはそのいけにえを受け入れない。　いけにえとしての価値がなくなるからだ。　せっかくのいけにえも無効となり、肉を食べた祭司は罪を犯したことになる。　それは神にとって汚れたものだからだ。　食べた者は罪の償いをしなければならない。
１９　礼拝規則で汚れていると見なされるものに触れた肉は、食べてはならない。　焼き捨ててしまいなさい。　食用にする肉は、礼拝規則できよいと見なされる者だけが食べられる。２０祭司が汚れていると見なされながら､かまわず感謝のいけにえを食べるなら、もはやイスラエル国民ではない。　神聖なものを汚したからだ。　２１だれでも､人であれ動物であれ、礼拝規則で汚れていると見なされるものに触れたのに、かまわず和解のいけにえを食べるなら、イスラエル国民とは見なされない。　神聖なものを汚したからだ。」
２２　神様はモーセに命じました。　２３「イスラエル人は牛、羊、山羊の脂肪を食べて

はならない。　２４死んだり野獣に裂き殺されたりした動物の脂肪は、何に使ってもかまわないが、食べることはできない。　２５火で焼くささげ物の脂肪を食べる者は、イスラエル国民とは見なされない。
２６２７国のどこであろうと、鳥や動物の血を食べてはならない。　食べればイスラエル国民とは見なされない。」
２８　神様はモーセに命じました。　２９「人々に命じなさい。　神への感謝のいけにえは、本人が手ずからささげなければならない。　３０脂肪と胸の部分を持って来て祭壇の前で揺り動かし、神にささげるのだ。　３１脂肪は祭司が祭壇で焼き、胸はアロンと息子たちのものになる。　３２３３　右のももは、いけにえの儀式を行なう祭司がもらう。　３４胸とももは、国民から祭司への贈り物と決めたからだ。　祭司はいつも、いけにえのこの部分をもらう。　３５つまり報酬なのだ。　火で焼くいけにえのこの部分は、神に仕える祭司、アロンと息子たちのものとなる。　３６このことは、わたしが彼らに油を注いで祭司に任命する日から、必ず守らなければならない。　子々孫々に至るまで変わらない彼らの権利だ。」
３７　以上が、完全に焼き尽くすいけにえ、穀物の供え物、罪が赦されるためのいけにえ、罪を償ういけにえ、祭司任命式のいけにえ、和解のいけにえについての決まりです。　３８シナイの荒野で神様がモーセに教えた、いけにえのささげ方です。
八
１‐３神様はモーセに命じました。　「アロンと息子たちを神の天幕の入口に連れて来なさい。　装束、注ぎの油、罪が赦されるためのいけにえ用の若い雄牛一頭、雄羊二頭、イースト菌抜きのパンが入ったかごを用意し、全国民を集めなさい。」
４５天幕の入口に集まった全員に、モーセは語りかけました。　「これからすることは神様のご命令だ。」
６　こう言うと、アロンと息子たちを呼び寄せ、彼らの体を水で洗い、　７アロンには特製の上着、飾り帯、青地の長い式服を着せ、美しく織った帯でエポデをつけさせました。
８次は胸当てです。　その袋にはウリムとトンミム〔神意をうかがう一種のくじ〕を入れました。　９ターバンをかぶらせ、神様に特別に選ばれた者であることを表わす金のプレートを、正面につけさせました。　神様に命じられたとおりです。
１０　それから注ぎの油を手に取り、天幕とその中の用具ぜんぶに振りかけ、神聖なものとしてきよめました。　１１祭壇には特別に七回、その用具や、洗い鉢と台にも振りかけて、きよめました。　１２最後はアロンです。　頭に油を注ぎ、特別に選ばれた神の祭司に任命しました。　１３それが終わると、今度はアロンの息子たちに式服を着せ、帯を締めさせ、ターバンをかぶらせました。　神様に命じられたとおりです。
１４　いよいよいけにえをささげる時です。　モーセは、罪が赦されるためのいけにえ用の若い雄牛を、引いて来ました。　アロンと息子たちはその頭に手を置き、　１５１６モーセが牛を殺しました。　モーセはその血を指につけ、祭壇の四本の角に塗って祭壇をき

よめ、残りの血は祭壇の土台に注ぎました。　こうして、祭壇を神聖なものとし、きよい儀式に使えるようにしたのです。　次に、内臓をおおう脂肪、胆のう、二つの腎臓とその脂肪を祭壇で焼きました。　１７いけにえの死体は、皮も肉も糞も、野営地の外で焼き捨てました。　神様に命じられたとおりです。
１８　次にモーセは、完全に焼き尽くすいけにえとして雄羊をささげました。　アロンと息子たちがその頭に手を置き、　１９モーセが殺して血を祭壇の回りに振りかけました。
２０死体は四肢に切り分け、まず頭と脂肪をいっしょに焼きます。　２１内臓と足は水洗いし、祭壇で焼きます。　こうして全部を神様の前で焼き尽くすのです。　これが、神様の大好きな完全に焼き尽くすいけにえです。　モーセは、何もかも神様の命令どおりきちんと行ないました。
２２　それからモーセは、もう一頭の任命式用の雄羊を引いて来ました。　まず、アロンと息子たちがその頭に手を置きます。　２３モーセは雄羊を殺し、その血をアロンの右の耳たぶと手足の右の親指に塗ります。　２４続いて、アロンの息子たちにも同じようにします。　残りの血は祭壇の回りに振りかけました。
２５　次に、背骨に沿ってついている脂肪と内臓をおおう脂肪、胆のう、二つの腎臓とその脂肪、右のももなどを取りました。　２６その上に、神様の前のかごから、イースト菌抜きのパンと、油を入れて焼いたパンを一個ずつ、それに、オリーブ油を塗ったせんべい一枚を取り出して載せました。　２７それを全部、アロンと息子たちの手に載せ、祭壇の前で揺り動かして神様にささげさせたのです。　２８モーセはそれをもう一度もらい受け、完全に焼き尽くすいけにえといっしょに、祭壇で焼きました。　これが祭司任命のいけにえで、神様の大好きなささげ物です。　２９このあとモーセは、胸の部分を祭壇の前で揺り動かして神様にささげました。　これはモーセがもらう分です。　すべて神様に命じられたとおりです。
３０　続いてモーセは、注ぎの油と祭壇に振りかけた血を取り、アロンとその衣服、息子たちとその衣服に振りかけました。　アロンと息子たち、およびその衣服を、神様の用にささげるためです。
３１　モーセは、アロンと息子たちとに言いました。　「教えたとおり、天幕の入口で肉を煮て、任命式用のかごに入っているパンといっしょに食べなさい。　３２残った肉やパンは焼き捨てなさい。」
３３　また、七日間は天幕の入口を離れないようにと命じました。　祭司の任命には七日を要するからです。　３４さらにモーセは、その日の儀式はすべて、神様が命じたとおりだと言いました。　３５そして最後にもう一度、七日間は昼も夜も天幕の入口を離れてはならないこと、もし離れたら必ず死ぬと言われたことを告げました。
３６　アロンと息子たちは、神様がモーセに命じたことをみな行ないました。
九
１　〔任命式の〕八日目に、モーセは、アロン、その息子たち、イスラエルの指導者たち

を集め、　２アロンに、雄牛一頭を罪が赦されるためのいけにえとして、傷のない雄羊を完全に焼き尽くすいけにえとして、神様にささげるよう命じました。
３　「人々に、罪が赦されるためのいけにえ用に雄やぎを、完全に焼き尽くすいけにえ用に傷のない一歳の子牛と子羊を、用意させなさい。　４また、雄牛と雄羊を和解のいけにえ用に、オリーブ油でこねた小麦粉を穀物の供え物用に、持って来させなさい。　きょう、神様が現われるからだ。」
５　人々は命じられたとおりのものを天幕の入口へ持って来て、神様の前に立ちました。
６　「神様のお指図に従えば、必ずその御栄光をあおげるのだ。」
７　きっぱりこう言うと、モーセはアロンに、祭壇に進み出て、罪が赦されるためのいけにえと、完全に焼き尽くすいけにえをささげ、まず自分の罪の償いをし、次に全国民の罪の償いをするよう命じました。 神様が命じたとおりです。 ８アロンは祭壇に進み出て、自分の罪が赦されるためのいけにえとして、子牛を殺しました。　９息子たちがその血を手にすくうと、アロンはそれに指を浸し、祭壇の角に塗り、残りは祭壇の土台に注ぎました。　１０そして神様の命令どおり、祭壇でいけにえの脂肪、腎臓、胆のうを焼きました。
１１ただし、肉と皮は野営地の外で焼き捨てました。
１２　次に完全に焼き尽くすいけにえを殺し、息子たちがその血をすくいました。　それをアロンが祭壇の回りに振りかけるのです。 １３続いて息子たちは死体をばらばらにし、頭といっしょにアロンのところへ持って来ました。　アロンはそれを一つ残らず祭壇で焼きました。　１４内臓と足もきれいに洗い、完全に焼き尽くすいけにえとして、祭壇で焼きました。
１５　次は全国民のささげ物の番です。　自分の時と同じ要領で、罪が赦されるためのいけにえとして、山羊をささげました。　１６さらに、神様の指示どおり、完全に焼き尽くすいけにえもささげました。
１７　穀物の供え物がそれに続きます。　全部の中から一つかみを取り、朝ごとのささげ物とは別に、祭壇で焼いてささげました。
１８　次に雄牛と雄羊を殺しました。　全国民のための和解のいけにえです。　アロンの息子たちがその血をアロンのところへ持って行き、アロンは祭壇の回りに振りかけました。
１９続いて、背骨に沿ってある脂肪と内臓をおおう脂肪、腎臓と胆のうを取り出しました。
２０脂肪はいけにえの胸に載せ、祭壇で焼きました。　２１ただし胸と右ももは、モーセが命じたとおり、神様の前でゆっくり揺り動かしてささげました。
２２　それから一同に向かって両手をあげ、彼らを祝福し、罪が赦されるためのいけにえ、完全に焼き尽くすいけにえ、和解のいけにえをささげて、祭壇から降りました。　２３今度はモーセとアロンがそろって天幕へ入ります。　やがて出て来た二人が一同を祝福すると、なんと一同が見ている前で神様の栄光が現われたのです。　２４そのとき神様の火が下り、祭壇のいけにえと脂肪を焼き尽くしました。　一同は、ただもう驚くばかりです。みな大声をあげ、神様の前にひれ伏しました。

一〇
１　さて、アロンの息子ナダブとアビフは、自分の火皿に神聖でない火をもり、香をくべ、神様の前にささげました。　こんなことは神様の命令に反することです。　２たちまち神様の前から火が吹き出し、二人を焼き殺してしまいました。
３　「『わたしに近づく者によってわたしの聖さを現わし、すべての人々の前で栄光を現わす』と神様が言われたのは、こういうことなのだ。」　モーセの説明に、アロンはただ黙ってうなだれるだけでした。
４　モーセはぐずぐずしていません。　ウジエルの子で、アロンのいとこにあたるミシャエルとエルツァファンとを呼び、「死体を神の天幕の前から野営地の外へ運び出せ」と命じました。
５　二人は言われたとおり、長服のままの死体を外へ運びました。
６　それからモーセは、アロンと残る二人の息子エルアザルとイタマルに言いました。「気をしっかり持て。　このことを悲しんではいけない。　髪を乱したり、服を引き裂いたりして嘆くなど、もってのほかだ。　そんなことをしたら、おまえたちまで神様に殺されてしまう。　そうなれば、神様の怒りは全国民に下るだろう。　ほかの者が、神様の下された恐るべき火のことで、ナダブとアビフのために嘆き悲しむのはかまわない。　７だが、おまえたちはだめだ。　たとい家族の者が神様の罰を受けて死んだ時でも、天幕を離れてはならない。特別に神様の油を注がれた者だからだ。」　彼らは命令どおりにしました。
８９今度は、神様はアロンに命じました。　「天幕に入る時は、ぶどう酒や強い酒を飲んではならない。　さもないと死ぬ。　おまえだけではない。　息子たちも同じだ。　このおきては、末代までも守らなければならない。　１０人々に代わって正しい判断を下すことが、おまえたちの務めだからだ。　神聖なものと俗なもの、きよいものと汚れたものの区別を示し、　１１わたしがモーセに与えた法律を教えなさい。」
１２　このあとモーセは、アロンとエルアザル、イタマルの三人に言いました。　「祭壇で焼いて神様にささげる穀物の供え物は、必ずイースト菌の入らないものとし、一つかみだけささげる。　残りは祭壇のそばで食べなさい。　ささげ物は最も神聖なものだから、１３聖所の神聖な場所で食べなければならない。　それは、火で焼くささげ物のうち、あなたがたの取り分だ。　そう神様から命じられた。　１４ただし、揺り動かしてささげる胸ともものは、聖所でなくとも、きよい場所ならどこで食べてもかまわない。　家族全員が食べられるものだ。　人々がささげる和解のいけにえのうち、これだけはあなたがたがもらえる。
１５　脂肪を焼く時、人々は取り分けてあるももと胸を、神様の前で揺り動かしてささげる。　そのあとで、あなたと家族がもらう。　神様がそうお命じになったのだ。」
１６　こう言うと、モーセは罪が赦されるためのいけにえ用の山羊を捜しましたが、どこにも見つかりません。　すでに焼いてしまったのです。　このことで、モーセはエルアザルとイタマルとをしかりつけました。

１７　「なぜ罪が赦されるためのいけにえを聖所で食べなかった。　それは最も神聖なもので、全国民の罪悪を取り除くために、神様の前でその償いをさせようと、神様が下さったものじゃないか。　１８その血は聖所の中へ持って行かなかった。　だから、そこで食べなければならない。　ちゃんとそう言っておいたはずだぞ。」
１９　その時、アロンが中へ割って入りました。　「まあまあ、そんなにまで言わなくても……。　確かに二人は、罪が赦されるためのいけにえと完全に焼き尽くすいけにえをささげた。　だが、こんな日にいけにえの肉を食べても、神様はお喜びにならないだろう。」
２０言われてみればもっともです。　モーセも納得しました。
一一
１　さて神様は、モーセとアロンに命じました。
２３「人々に言いなさい。　食用にできる動物は、ひづめが分かれ、反芻するものだけだ。
４‐７ただし、らくだ、岩だぬき、野うさぎは食べてはならない。　反芻はするが、ひづめが分かれていないからだ。　ひづめは分かれているが、反芻しない豚もだめだ。　８これらは肉を食べることはおろか、死体にさわってもいけない。　絶対食用にできない動物だ。
９　魚は、ひれとうろこがあるものなら、海のものであれ川のものであれ食べてよい。　１０ただし、それ以外の水中動物は、絶対に食べてはならない。　１１肉を食べてもいけないし、死体にさわってもいけない。　１２くどいようだが、ひれとうろこのない水中動物は食べられない。
１３‐１９鳥の中では、次のものは食べてはならない。
はげわし、はげたか、みさご
はやぶさの類全部、とび
からすの類全部、だちょう
よたか、かもめ
たかの類全部、ふくろう
鵜、みみずく
白ふくろう
ペリカン
野がん、こうのとり
さぎの類全部
やつがしら、こうもり
２０　飛ぶもので、四つ足のものは食べてはならない。　２１２２ただし、跳びはねるもの、いなごなどの類は別だ。　いなご、ばった、大いなご、小いなごなどは食べてかまわない。　２３それ以外に飛ぶもので、四つ足のものは食べてはならない。
２４　その死体にさわるだけで、夕方まで汚れる。　２５死体を運んだ者はすぐ衣服を洗いなさい。　礼拝規則で汚れた者と見なされ、夕方まで身を慎まなければならない。

２６　ひづめが完全に分かれていない動物や、反芻しない動物にさわる者は、汚れる。　２７足の裏のふくらんでいる動物は食べられない。　死体にさわるだけで夕方まで汚れる。２８死体を運ぶ者は衣服を洗わなければならない。　夕方まで、礼拝規則で汚れた者と見なされる。　禁じられたことをするからだ。
２９３０人の足もとや地面をはい回ったりする動物のうち、次のものは汚れている。
もぐら、とびねずみ
大とかげ類、やもり
わに、とかげ
すなとかげ、カメレオン
３１これらの死体にさわれば、夕方まで汚れる。　３２死体が何かの上に落ちた場合は、木の容器であれ、衣服であれ、敷物であれ、袋であれ、みな汚れる。　それにさわった物は何でも、水につけなさい。　夕方まで汚れるからだ。　そのあとは、また使ってもかまわない。　３３土の容器の中に落ちた場合は、中の物は何でも汚れる。　容器は砕いてしまいなさい。　３４汚れた容器の水がかかった食べ物はぜんぶ汚れる。　汚れた容器に入っている飲み物も汚れる。
３５　先の動物の死体が触れたかまどや炉は汚れたものだから、こわしてしまいなさい。３６死体が泉とか水ために落ちた場合は、水は汚れない。　ただし、死体を引き上げる者は汚れる。　３７死体が畑にまく種に触れても、種は汚れない。　３８ただし、ぬれた種の上に落ちた場合は汚れる。
３９　食用にできる動物が病死した場合は、その死体にさわれば夕方まで汚れる。　４０その肉を食べたり死体を運んだりした者は、衣服を洗いなさい。 夕方まで汚れるからだ。４１４２地面をはう動物は食べてはならない。　爬虫類のうち、腹ではうもの、足のあるものも含まれる。　たくさんの足ではうものも、食べてはならない。　汚れたものだからだ。　４３それにさわって自分を汚してはならない。
４４　わたしはおまえたちの神だ。　以上のものについて身をきよく保ちなさい。　わたしは聖なる者だから、おまえたちも聖なる者になりなさい。　地をはいずり回るものにさわって身を汚さないことだ。　４５　わたしは、おまえたちの神となるために、おまえたちをエジプトから救い出した。　だから、わたしが聖なる者であるように、おまえたちも聖なる者にならなければならない。」　４６以上は、動物、鳥、水中に住む動物、地をはう動物についての法律です。　４７この決まりによって、地上の動物の中で、礼拝規則上どれがきよく、食べてかまわないものか、どれが汚れていて、食べてはならないものかの区別ができるのです。
一二
１　神様はモーセに、人々に次のような指示を与えるように、と命じました。
２　「男の子が生まれた時は、母親は七日間汚れる。　月のものの時と同じだ。　３八日目にその子に割礼（生殖器の包皮を切り取る儀式）を施しなさい。　４さらに三十三日間

は、汚れをきよめる期間だから、神聖なものにさわったり、神の天幕に入ったりしてはならない。
５　女の子の時は、汚れは二週間つづく。　その期間中、月のものの時と同じ制約を受ける。　さらに、汚れをきよめるのに六十六日かかる。
６　きよめの期間が終わったら、男の子の場合も女の子の場合も、次のとおり、いけにえをささげなさい。　一歳の子羊一頭を完全に焼き尽くすいけにえに、家鳩のひなか山鳩一羽を罪が赦されるためのいけにえにする。
それを神の天幕の入口の祭司のところへ持って来る。　７祭司はいけにえを神にささげ、罪の償いをしてくれる。　こうして、彼女は出産の時の出血の汚れから、きよめられるのだ。
産後のきよめは、このようにする。　８ただし、貧しくて子羊を用意できない時は、山鳩か家鳩のひな二羽でもかまわない。　一羽を完全に焼き尽くすいけにえ、もう一羽を罪が赦されるためのいけにえとしなさい。　祭司はそれで罪の償いをしてくれる。　これで、ふたたび礼拝規則上きよい者となるのだ。」
一三
１２神様はモーセとアロンに命じました。　「皮膚に、はれもの、かさぶた、できもの、吹き出物が出て、皮膚が透明状になった時は、らい病の疑いがある。　祭司アロンか、その息子のところへ患者を連れて行き、　３患部を見てもらいなさい。　患部の毛が白くなり、患部が皮膚の下まで及んでいるようなら、らい病だ。　祭司はらい病だと宣告しなければならない。
４　ただし、白い患部が皮膚の下までは及んでいないようで、毛も白く変わっていないなら、患者を七日のあいだ隔離する。　５七日目にもう一度診察する。　患部がそのまま広がっていないなら、さらに七日のあいだ隔離する。　６七日目にまた診察し、患部がよくなり、広がっていないなら、治ったと宣告する。　ただの皮膚病にすぎなかったのだから、患者は衣服を洗うだけで、元どおりの生活に戻れる。　７　もし、診察してもらったあとで患部が広がったら、もう一度、祭司のところへ行かなければならない。　８診察の結果、患部が広がっているなら、祭司はらい病だと宣告する。
９１０らい病の疑いのある患者は、必ず祭司のところへ連れて来る。　祭司は皮膚に白いはれものがあるか、患部の毛は白いか、はれものがひどくただれているか、などを調べる。
１１そのような症状がはっきり見えたら、慢性のらい病だ。　祭司は患者に、らい病だと宣告しなければならない。　患者は検査を続けるために隔離される必要はない。　明らかに病気だからだ。　１２らい病が、足の先から頭のてっぺんまで広がっているのがわかったら、　１３祭司は患者に、病気は治ったと宣告する。　全身が白くなっているので治ったのだ。　１４１５ただし、一個所でも、ただれたままの赤肌が残っているなら、らい病だと宣告される。　赤肌がその証拠だ。　１６１７それがあとで白く変わったら、祭司に診察してもらう。　患部が完全に白く変わっていたら、祭司は治ったと宣告する。

１８　できものが治っても、　１９白くはれ上がっていたり、赤みがかって白く光っていたりしたら、祭司の診察を受けなければならない。　２０　祭司は調べて、できものが皮膚の下まで及んで見えたり、患部の毛が白くなっていたりしたら、らい病だと宣告する。できものの痕がらい病にかかったからだ。　２１ただし、患部の毛が白くなっておらず、患部が皮膚の下まで及んでいないように見え、色も灰色なら、患者を七日のあいだ隔離する。　２２その期間に患部が広がれば、らい病だと宣告する。　２３患部がひどくもならず、広がってもいないなら、できものの痕にすぎないから、祭司は治ったと宣告する。
２４　やけどの個所が赤みがかった白か、ただ白く光っている場合は、必ず祭司が診察する。　２５光った患部の毛が白くなり、ただれが皮膚の下まで及んでいるようなら、やけどの個所がらい病にかかったのだ。　祭司は患者をらい病だと宣告する。　２６祭司が見て、患部の毛も白くなく、ただれも皮膚の下まで及んでおらず、治りかけているようなら、患者を七日のあいだ隔離する。　２７七日目にもう一度診察し、患部が広がっていたら、らい病だと宣告する。　２８患部が転移したり広がったりせず､治りかけているようなら、やけどの痕にすぎない。　祭司はらい病ではないと宣告する。
２９３０男でも女でも、頭かあごに、はれものがあったら、祭司が診察する。　患部が皮膚の下まで及んでいるように見え、黄色い毛が見つかったら、らい病だと宣告する。　３１ただし、祭司の診断では患部は皮膚だけにとどまり、しかも黒い毛がないなら、患者を七日のあいだ隔離する。　３２七日目にもう一度診察するのだ。　それで患部が広がりもせず、黄色い毛も見つからず、患部も皮膚の下まで及んでいないようなら、　３３患部の毛は残し、回りの毛を全部そり落とす。　こうしてさらに一週間だけ隔離する。　３４七日目にまた診察して、患部が広がりもせず、皮膚の下まで及んでもいないようなら、治ったと宣告する。　患者は衣服を洗えば、いつでも帰してもらえる。　３５ただし、あとで患部が広がり始めたら、　３６祭司はその患者を再び診察しなければならない。　確かに広がっていれば、黄色い毛を調べるまでもなく、らい病だと宣告する。　３７特に広がっているわけでもなく､患部に黒い毛が生えているなら､治ったのであり､らい病ではない。祭司は治ったと宣告する。
３８　男でも女でも、皮膚に透明状の部分はあるが、　３９それが鈍い白色で、だんだん消えていくなら、ただの皮膚病だ。
４０　髪の毛が抜け、はげができたからと言っても、らい病の決め手にはならない。　４１前の毛が抜けても、ただのはげで、らい病ではない。　４２ただし、はげた個所に赤みがかった白い部分があれば、らい病の疑いがある。　４３その場合は祭司が診察し、らい病のような、赤みがかった白いはれものがあれば、　４４らい病だと宣告しなければならない。
４５　らい病だと診断された者は､衣服を引き裂き､髪をぼさぼさに乱し､口をおおって､『らい病患者だ。　らい病患者だ』と叫んで歩かなければならない。　４６病気の間は汚れた者と見なされ、野営地の外で暮らす。

４７－４９毛やリンネルの衣服や織物、皮や皮細工の物に緑あるいは赤みがかった斑点ができ、らい病の疑いがある場合は、祭司に見せなさい。　５０祭司はそれを七日のあいだ隔離しておき、　５１七日目に取り出して調べる。　もし斑点が広がっていれば、伝染性のらい病だ。　５２らい病が発生した物は、衣服でも織物でもリンネルや毛のおおいでも皮製品でも、焼き捨てなければならない。　伝染するといけないからだ。
５３　七日目に調べて、斑点が広がっていなければ、　５４問題の物を洗い、さらに七日間そのままにしておくよう命じる。　５５そのあとも斑点の色が元のままなら、広がっていなくても確かにらい病だから、焼き捨てなさい。　その物は完全に汚染されている。　５６洗ったあと、斑点が消えたら、布でも皮製品でも、その部分を切り取る。　５７それでもなお斑点が現われる時は、らい病だから焼き捨てなさい。　５８洗っただけで、斑点がすっかり消えれば、もう一度洗い直してから前のように使える。」
５９　以上は、皮や布製の衣服などにらい病が発生した場合の決まりです。　このようにして、らい病かどうかの判断を下すのです。
一四
１２神様はまた、モーセに、らい病が治った人をどうするか指示なさいました。
３　「まず、祭司が野営地を出て、患者を診察する。　確かにらい病が治っていたら、　４食用にできる鳥を生きたままで二羽、杉の木、赤い糸、ヒソプの枝を持って来させる。　治った者のきよめの儀式をするのだ。　５祭司は、二羽のうち一羽を土器に入れた湧き水の上で殺すよう命じる。　６生きているほうの鳥を、杉の木、赤い糸、ヒソプの枝といっしょにその血につける。　７次にらい病が治った者にその血を七度ふりかけ、病気は治ったと宣告する。　そのあと、生きているほうの鳥を野に放す。
８　治った者は衣服を洗い、毛を全部そり落とし、体を洗う。　こうしてから、野営地に戻り、普通の生活をする。　ただし初めの七日間は、テントに入ってはならない。　９七日目にもう一度、髪も、ひげも、まゆも全部そり落とし、衣服と体を洗う。　これで、完全にらい病が治ったと宣告されるのだ。
１０　翌日、傷のない雄の子羊二頭と、傷のない一歳の雌の子羊一頭、細かくひいた上等の小麦粉十・八リットルをオリーブ油でこねたもの、オリーブ油半リットルを持って来る。
１１診察する祭司は、患者とささげ物を神の天幕の入口へ連れて来る。　１２まず、雄の子羊一頭とオリーブ油半リットルをささげ、祭壇の前で揺り動かして罪を償ういけにえとしなさい。　１３天幕の、完全に焼き尽くすいけにえや、罪が赦されるためのいけにえを殺す場所で、その子羊を殺すのだ。　このいけにえは、罪が赦されるためのいけにえと同じく、最も聖なるささげ物で、祭司の食物となる。　１４祭司はその血を取り、きよめられる者の右の耳たぶと手足の右親指に塗る。
１５　それからオリーブ油を左のてのひらに注ぎ、　１６右手の指で、神の前に七回ふりかける。　１７手に残った油は、患者の右の耳たぶと手足の右親指に塗る。　つまり、罪を償ういけにえの血の上に塗ることになる。　１８まだ残った油は、最後に患者の頭に注

ぐ。　こうして、祭司は神の前で、その患者の罪を償うのだ。
１９　このあと、罪が赦されるためのいけにえをささげ、もう一度、らい病が治った患者の罪を償う儀式を行なう。　それがすんだら、完全に焼き尽くすいけにえを殺し、　２０祭壇に穀物の供え物といっしょにささげる。　これらの儀式が全部すんではじめて、その患者はきよくなったと宣告されるのだ。
２１　貧しくて子羊を二頭ささげられない時は、罪を償ういけにえに雄の子羊を一頭ささげなさい。　それを祭壇の前で揺り動かして、罪を償う儀式をするのだ。　ほかに、三・六リットルの上等の小麦粉をオリーブ油でこねたものを、穀物の供え物とし、半リットルのオリーブ油を添える。
２２　また、山鳩か家鳩のひなを二羽持って来る。　どちらでも手に入るほうでかまわない。　一羽を罪が赦されるためのいけにえに、もう一羽を完全に焼き尽くすいけにえにする。　２３この場合も子羊と同じように、八日目に天幕の入口にいる祭司のところへ持って来る。　神の前で、きよめの儀式を行なうためだ。　２４祭司は子羊と半リットルの油を、罪を償ういけにえとし、祭壇の前で揺り動かしてささげる。　２５子羊を殺し、その血を、きよめの儀式にあずかる者の右の耳たぶと手足の右親指に塗る。
２６　次に、オリーブ油を左のてのひらに注ぎ、　２７神の前に右手の指で七回ふりかける。　２８続いて、患者の右の耳たぶと右手足の親指に塗る。　罪を償ういけにえの血と同じ場所につけるのだ。　２９残りの油はきよめにあずかる患者の頭に注ぎかけ、神の前でその者の罪を償う。
３０　それから患者は、山鳩か家鳩のひな二羽をささげる。　どちらでも手に入るほうでかまわない。　３１一羽を罪が赦されるためのいけにえ、もう一羽を完全に焼き尽くすいけにえとし、穀物の供え物といっしょにささげる。　こうして、祭司は神の前で、その患者のために罪の償いをするのだ。」
３２　以上は、らい病が治っても、きよめの儀式に普通のささげ物ができない者についての法律です。
３３３４続いて神様は、モーセとアロンに命じました。「約束のカナンの国へ着いたら、ある家にらい病が発生するだろう。　３５その時は、家の持ち主に、『家にらい病が発生したようです』と報告させなさい。
３６　報告を受けた祭司は、検査の前に必ず家を空にするよう命じる。　さもないと、祭司がその家にらい病が発生したと宣告する時、家財道具までぜんぶ汚染されたことになってしまうからだ。　３７３８家の壁に、緑あるいは赤みがかったしまがあり、表面だけでなく中まで及んでいるようだったら、七日間その家を閉鎖する。　３９七日目にもう一度調べ、しまが壁に広がっていたら、　４０その部分を取りこわすよう命じる。　取り除いた石は町の外の汚れた場所に捨てる。　４１それから壁の内側をすっかり削り落とし、町の外の汚れた場所に捨てる。　４２代わりに新しい石を入れ、新しいモルタルを塗る。
４３　それでも、また、しまが現われたら、　４４祭司が確かめる。　しまが広がってい

るのがはっきりすれば、らい病にまちがいない。　その家は汚れている。　４５すぐ取りこわさせなさい。　石も材木もモルタルも全部、町の外の汚れた場所に運び出す。　４６閉鎖中の家に入った者は､夕方まで汚れる。　４７その家で休んだり食事したりした者は、衣服を洗わなければならない。
４８　祭司がもう一度見に来た時、塗り替えた壁にしまが広がっていなければ、その家はきよめられ、らい病は去ったと宣告する。　４９そして、二羽の鳥、杉の木、赤い糸、ヒソプの枝で、きよめの儀式を行なう。　５０祭司は、土器に入れた湧き水の上で鳥の一羽を殺し、　５１５２その血の中へ生きている鳥を、杉の木、ヒソプの枝、赤い糸といっしょに浸し､七回その家に振りかける。　これで家はきよくなる。　５３それが終わったら、生きている鳥を町の外の野に放す。　こうしてその家をきよめ、また住めるようにするのだ｡」
５４　以上が、らい病にかかった場所についての法律です。　５５すなわち、衣服、家、５６皮膚のはれもの、やけどの痕、透明状の斑点などに関するものです。　５７この法律に照らし合わせて、ほんとうにらい病かどうかがわかるのです。
一五
１２神様はモーセとアロンに、さらに次のような指示を人々に与えるよう命じました。「だれでも陰部から漏出があれば、礼拝規則で汚れた者と見なされる。　３実際に漏出がある時だけでなく、漏出がない時も、その間は汚れた者となる。　４寝床や座る物もみな汚れる。　５患者の寝床にさわるだけで、礼拝規則上は夕方まで汚れた者となる。　そうなれば、衣服と体を洗わなければならない。　６汚れた者の座った物に座る者も、礼拝規則上は夕方まで汚れた者となる。　やはり､衣服と体を洗わなければならない。　７また、患者の病気の個所にさわった場合も､同じことだ。　８患者につばをかけられただけでも、夕方まで汚れた者となり、衣服と体を洗わなければならない。　９患者の乗った鞍は汚れる。　１０何でも患者が座った物にさわったり、それを運んだりした者は、夕方まで汚れた者となり、衣服と体を洗わなければならない。　１１患者が手を洗わずに人にさわったら、さわられた者は衣服と体を洗わなければならない。　夕方までは汚れた者と見なされる。１２汚れた者がさわった土器は、全部こわしなさい。　木の容器は水できれいに洗えばよい。
１３　漏出が止まったら、七日間きよめの儀式を行ないなさい。　衣服を洗い、流水で体を洗うのだ。　１４八日目に、神の天幕の入口に、山鳩か家鳩のひな二羽を持って来て、祭司に渡す。　１５祭司はそこでいけにえをささげる。　一羽を罪が赦されるためのいけにえに、もう一羽を完全に焼き尽くすいけにえにする。　こうして、祭司は、漏出を病んだ患者のために、罪の償いをするのだ。
１６　精液を漏らした時は全身を洗うこと。　本人は夕方まで汚れた者となる。　１７精液のついた衣服や皮も、夕方まで汚れたものとなり、洗わなければならない。　１８性行為のあとは、男も女も体を洗わなければならない。　二人とも翌日の夕方まで、礼拝規則

で汚れた者と見なされる。
１９　女が月のものがある時は、七日間は礼拝規則上は汚れた者となる。　その期間に女にさわる者はだれでも、夕方まで汚れる。　２０その期間に女の寝る床や座る物は汚れる。
２１‐２３女の寝床や座った物にさわる者も、衣服と体を洗わなければならない。　礼拝規則上は夕方まで汚れた者となるからだ。　２４この期間に女と性行為をする者は、礼拝規則で七日間汚れた者となる。　彼の寝床も汚れる。
２５　月のものが、普通の期間を過ぎても止まらないか、不定期にあった場合にも、同じ規則を適用する。　２６その期間に寝た床は、普通の月のものの場合と同様に汚れる。　座った物も同じだ。　２７その女の寝床や座った物にさわる者は、夕方まで汚れる。　衣服と体を洗いなさい。　２８月のものが止まって七日たったら、汚れはきよまる。
２９　八日目に、山鳩か家鳩のひな二羽を、天幕の入口の祭司のところへ持って来なさい。
３０祭司は一羽を罪が赦されるためのいけにえに、もう一羽を完全に焼き尽くすいけにえにする。　月のものの汚れのために、神の前でその女の罪の償いをするのだ。　３１こうして、人々を汚れからきよめる。　彼らの間に建てられたわたしの天幕を汚し、死刑とならないようにするためだ。」
３２３３以上は、陰部に漏出の病気をもつ者や、精液を漏らした者、月のものの期間中の女、その期間中の女と性行為を行なった者についての法律です。
一六
１２アロンの二人の息子が神様の前で死んだあと、神様はモーセに命じました。　「兄アロンによく言っておけ。　十戒の箱が安置され、恵みの座とされている垂れ幕のうしろの聖所には、好き勝手に入ってはならない。　入れば死刑だ。　恵みの座にかかる雲は、わたしが現われる場所だからだ。
３　そこに入る時の条件は、次のとおりだ。　若い雄牛を罪が赦されるためのいけにえ用に、雄羊を完全に焼き尽くすいけにえ用に、持って来なさい。　４体を洗い、神聖なリンネルの長服、下着、帯、ターバンを必ず身につける。　５人々は罪が赦されるためのいけにえとして雄やぎ二頭、完全に焼き尽くすいけにえとして雄羊一頭を、アロンのところへ持って来る。　６アロンはまず、自分のために、罪が赦されるためのいけにえとして若い雄牛をささげ、自分と家族の罪の償いをする。　７続いて、天幕の入口の神の前に、山羊二頭を引いて来て、　８くじを引き、神のものになるほうと、全国民の罪の身代わりに荒野へ放つほうを決める。　９神のものと決まったほうを、罪が赦されるためのいけにえとする。　１０もう一頭は、生かしたままで神の前に置く。　罪を償う儀式を行なったら、全国民の罪の身代わりとして荒野へ放つ。
１１　自分と家族の罪が赦されるために、若い雄牛をいけにえとしたあと、　１２アロンは神の祭壇から炭火を火皿いっぱい取り、細かく砕いた香り高い香を両手いっぱいつかんで、垂れ幕の中に入る。　１３そこで炭火に香をくべ、神の前でたく。　香の煙が十戒の箱の上の恵みの座を包むようにするのだ。　こうすればアロンは死なない。　１４次に、

若い雄牛の血を持ってもう一度中へ入り、指につけて恵みの座の東側に振りかけ、前面にも七回ふりかける。
１５　それが終わったら、出て行って、全国民の罪が赦されるためのいけにえ用の山羊を殺し、その血を垂れ幕の中へ持って入り、恵みの座とその前面に振りかける。　若い雄牛の時と同じだ。　１６このようにして、アロンは聖所の汚れをきよめる。　聖所が人々の罪で汚されたからだ。　神の天幕は人々のただ中にあって、汚れに囲まれている。　１７アロンが聖所へ入って罪の償いをする時は、だれひとり天幕に入ってはならない。　自分と家族と全イスラエル人のために罪の償いをして、出て来るまでだ。　１８それがすんだら、神の前にある祭壇の汚れをきよめる。　若い雄牛と山羊の血を祭壇の角に塗る。　１９また、指に血をつけて祭壇に七回ふりかける。　こうして、祭壇を全イスラエル人の罪からきよめ、神聖なものとするのだ。
２０　聖所と天幕全体と祭壇をきよめる儀式が終わったら、アロンはもう一頭の生きている山羊を引いて来て、　２１その頭に両手を置き、全国民の犯した罪をすべて告白する。すべての罪を山羊の頭にのせ、特別その仕事に任じられた者が荒野に放つのだ。　２２山羊は人々のすべての罪を背負ったまま、無人の地へ引いて行かれ、荒野に放たれる。
２３　それからアロンは、また天幕へ入り、垂れ幕の中へ入る時に着たリンネルの装束を脱ぐ。　服はそこへ置いたままにして、　２４神聖な場所で体を洗い、大祭司のいつもの服に着替えたら、外へ出る。　自分と全国民のために、完全に焼き尽くすいけにえをささげ、罪の償いをするのだ。　２５罪が赦されるためのいけにえの脂肪も祭壇で焼く。
２６　山羊を荒野へ引いて行った者は、衣服と体を洗ってから野営地に戻る。　２７罪が赦されるためのいけにえにした若い雄牛と山羊の死体は、アロンが聖所内で罪の償いの儀式に使った血は別として、野営地の外へ運び出し、皮も内臓もみな焼き捨てる。　２８焼く係りの者は、あとで衣服と体を洗い、野営地へ戻る。
２９３０これから命じることは、永遠に守るべき法律だ。　毎年九月二十四日（ユダヤ暦では七月十日）は何の仕事もせず、謙虚に自分を反省する日としなさい。　イスラエル人も共に住む外国人も、区別はない。　この日は、すべての罪を赦し、神の目から見てきよい者と認める、罪の償いの日だからだ。　３１完全な休息の日として、身も心も静め、謙そんな思いで一日を過ごしなさい。　これは永遠の法律だ。　３２アロンの死後も、彼の後継者として油を注がれる大祭司が、代々この儀式を執り行なう。　神聖なリンネルの装束を身につけ、　３３聖所、天幕、祭壇、祭司、全国民の汚れをきよめ、罪の償いをするのだ。　３４くどいようだが、これはイスラエルの永遠の法律だ。　全イスラエルの罪が赦されるため、年に一度償いの儀式をするのだ。」
３５　アロンは、すべて神様がモーセに指示なさったとおり行ないました。
一七
１２神様はまた、アロンと祭司のための教え、全イスラエル人のための教えを、モーセに示しました。

３４「雄牛、子羊、山羊を神の天幕以外の場所でいけにえとしてささげる者は、殺害の罪に問われ、国から追放される。　５この法律の目的は、野外でいけにえをささげることを禁止し、いけにえはすべて天幕の入口の祭司のところへ持って来させ、そこで、脂肪を焼き、わたしの大好きな香りを放つようにさせるためだ。　６こうしなければ、祭司は、天幕の入口にある神の祭壇に血を振りかけることができない。　また、わたしの大好きな香りを放つように、脂肪を焼くこともできない。　７そればかりか、イスラエル人が野外で悪霊にいけにえをささげるのを、防ぐこともできない。　これは彼らにとって、守るべき永遠のおきてである。　８９くり返すが、イスラエル人であろうと、共に住む外国人であろうと、完全に焼き尽くすいけにえや他のいけにえを、天幕の入口以外の場所でささげる者は、追放される。

１０　また、イスラエル人であろうと、共に住む外国人であろうと、どんな形にせよ、血を食べる者には、わたしは顔をそむけ、イスラエルから追放する。　１１血はいのちそのもの、また罪を償い、たましいを救う代償として、祭壇に振りかけるものだからだ。　１２イスラエル人も共に住む外国人も、血を食べてはならない、と命じたのは、このためだ。

１３イスラエル人でも共に住む外国人でも、猟に出かけ、食用にできる動物や鳥を殺した場合は、血を絞り出し、土をかぶせておかなければならない。　１４血はいのちだからだ。動物でも鳥でも、いのちは血にあるのだから、血を食べてはならない。　血を食べる者は追放だ。

１５　自然に死ぬか、野獣に裂き殺されるかした動物を食べるなら、ユダヤ人でも外国人でも、衣服と体を洗わなければならない。　夕方まで汚れた者となるからだ。　そのあとでは、彼はきよい者とみなされる。　１６この決まりどおりにしなければ、あとでどんな罰を受けようと、すべて本人の責任だ。」

一八

１２神様はモーセに、次のことを人々に教えるよう命じました。

「わたしはおまえたちの神、主だ。　３だから、異教徒のまねをしてはならない。　長いあいだ住んでいた異教の地エジプトや、これから行こうとするカナンの人々のように、振る舞ってはならない。　４５わたしの法律だけに従いなさい。　細かな点に至るまで、きちんと守るのだ。　わたしはおまえたちの神だからだ。　だれでも、わたしの法律に従うなら生きる。　わたしは主だ。

６　近親者と結婚してはならない。　わたしは神だからだ。　７娘が父と結婚したり、息子が母と結婚したりしてはならない。　８父の妻（継母）と結婚してはならない。　９実の姉妹でも片親の違う姉妹でも、姉妹とは結婚してはならない。　同じ家で生まれても、ほかの家で生まれても変わりはない。

１０　娘の娘であれ、息子の娘であれ、孫娘と結婚してはならない。　近親者だからだ。

１１腹違いの妹とも、　１２父方のおばとも結婚してはならない。　父の近親者だからだ。

１３母方のおばとも結婚してはならない。　母の近親者だからだ。　１４父方のおじの妻

である義理のおばとも結婚してはならない。
１５　嫁である義理の娘とも結婚してはならない。　１６兄弟の妻もいけない。　兄弟のものだからだ。　１７女とその娘、あるいはその孫娘の両方を妻にしてはならない。　近親者だからだ。　そんなことは恐るべき悪だ。　１８姉妹を同時に妻にしてはならない。嫉妬にかられ、争うようになるからだ。　妻が死んで、その姉妹と結婚することはかまわない。
１９　月のものの期間中の女と、性行為をしてはならない。　２０人の妻と関係して身を汚してはならない。
２１　子供を異教の神モレクにささげ、焼き殺してはならない。　わたしの名を決して汚してはならない。　わたしはおまえたちの神だからだ。
２２　同性愛は絶対に許されない。　それは恐るべき罪だ。　２３男も女も、動物と性行為をして身を汚してはならない。　恐るべき変態行為だからだ。
２４　このようなことをして身を汚してはならない。　それは異教徒のすることだ。　彼らがそんなことをしているからこそ、わたしはおまえたちの目ざす国から、彼らを追い出すのだ。　２５国全体がその種の行為で汚れ果てている。　もう放っておけない。　そこの住民を罰し、国から追い出してやる。　２６おまえたちはわたしの法律や定めをしっかり守るのだ。　このような恐るべきことを行なってはならない。　この法律は、イスラエル人にも共に住む外国人にも当てはまる。
２７　確かに、これから行こうとしている国の住民は、このような憎むべきことをくり返し、国中を汚した。　２８そのまねをしてはならない。　さもないと、彼らばかりか、おまえたちまで追い出すことになる。　２９３０　こんな恐るべきことを行なう者は、だれでも、追放だ。　だからどんなことがあっても、わたしの法律に従いなさい。　くれぐれも、こんな身の毛もよだつような習慣に染まってはならない。　これから行く国で、こんな悪い生活を送り、身を汚してはならない。　わたしはおまえたちの神だからだ。」
一九
１２神様はモーセに､次のことを人々に教えるよう命じました。｢おまえたちの神であるわたしが聖なる者なのだから、おまえたちも聖なる者となりなさい。　３親を尊敬し、安息日の定めを守りなさい。 わたしはおまえたちの神だからだ。 ４神々の偶像を作ったり、拝んだりしてはならない。　わたしがおまえたちの神だ。
５　和解のいけにえをささげる時は、決まりどおり正しくささげなければならない。　６その肉は、ささげた日か遅くとも翌日には食べなさい。　三日目になってまだ残っている分は、必ず焼き捨てることだ。　７三日目に食べても、わたしは不快に思うだけで受け入れはしない。
８それればかりか、食べた本人は、神の神聖さを汚したのだから有罪だ。　罰としてイスラエルから追放される。
９　刈り入れの時は、畑のすみずみまで刈り取ってはならない。　地面に落ちた穂を拾い

集めてもいけない。　１０ぶどう畑の場合も同じで、実をすっかりもぎ取ったり、地面に落ちた実を拾ったりしてはならない。　貧しい者や外国人が取れるように、残しておきなさい。　わたしはおまえたちの神だからだ。
１１　盗んだり、うそをついたり、だまし取ったりしてはならない。１２神の名にかけて偽って誓ってはならない。　それは神の名をひどく傷つける。　わたしは神だ。
１３　人を虐待したり、略奪したりしてはならない。　使用人にはきちんと給料を払いなさい。　支払いを翌朝まで延ばしてはならない。
１４　耳の聞こえない人をのろったり、目の見えない人をわざとつまずかせたりしてはならない。　神を恐れなさい。　わたしが神だ。
１５　裁判官は、判決を下す時はいつも、公平で正しくなければならない。　被告が金持ちか貧しいかで、左右されてはならない。　いつも絶対公正でなければならないのだ。
１６　うわさ話をして回ってはならない。　ありもしないことで人を訴え、罪に陥れてはならない。　わたしは神だからだ。
１７　兄弟を憎んではならない。　罪を犯した者は戒めなさい。　放っておいてはいけない。　さもないと、同罪と見なされる。　１８復讐しようと思ってはならない。　人を恨んではならない。 むしろ、自分を愛するように人を愛しなさい。 わたしは神だからだ。
１９　わたしの法律を守りなさい。　種類の違った家畜を交配させてはならない。　畑に二種類の種をまいてはならない。　毛と亜麻の混紡の服を着てはならない。
２０　婚約している女奴隷を誘惑した場合は、二人とも裁判を受けるが、死刑にはならない。　女が自由の身でないからだ。　２１誘惑した男は、罪を償ういけにえを神の天幕の入口に持って来る。 いけにえは雄羊でなければならない。 ２２祭司は雄羊をささげて、その男が犯した罪の償いをする。　そうすれば赦される。
２３　約束の国へ入って果樹を植えたら、何の木でも三年は実を食べてはならない。　礼拝規則で汚れたものと見なされるからだ。　２４四年目に、全収穫をささげ、神の恵みをたたえる供え物としなさい。　２５五年目からは、収穫はおまえたちのものとなる。　わたしは神だ。
２６　血抜きしていない肉を食べてはならない。　占いや魔法を使ってはならない。
２７　こめかみの毛をそったり、ひげの両端を刈り込んだりしてはならない。　それは異教徒のすることだ。　２８葬儀の時に死者を悼んで自分の体に傷をつけたり、入れ墨をしたりしてはならない。　わたしは神だ。
２９　娘に売春をさせて身を汚させてはならない。　恐ろしい悪が国中にはびこらないように、こう警告しておくのだ。
３０　安息日の定めを守り､神の天幕を神聖な場所として重んじなさい。 わたしは神だ。
３１　霊媒や口寄せに頼って心を惑わせてはならない。　わたしが神だからだ。
３２　神を恐れなさい。　老人には一目おき、尊敬をはらいなさい。わたしは神だ。
３３　イスラエル国内に住む外国人の弱みにつけ込んだり、虐待したりしてはならない。

３４国民と同様に扱い、自分を愛するように愛しなさい。　自分たちもエジプトでは外国人だったことを、忘れてはならない。　わたしは神だ。
３５３６判断は公平で正しくなければならない。　正確なはかりを用いなさい。　長さでも重さでも量でも、正しくはかりなさい。　わたしは、おまえたちをエジプトから救い出した、おまえたちの神だからだ。３７わたしの命令や布告は、どれも注意深く守りなさい。わたしは主だ。」
二〇
１２神様はイスラエル国民のために、さらに次のような指示をモーセに与えました。
「イスラエル人でも共に住む外国人でも、わが子を異教の神モレクのいけにえとする者は、必ず同胞の手で石打ちの刑に処せられる。　３わたしも、その者に顔をそむけ、イスラエルから断つ。　わが子をモレクにささげるようなことをしたからだ。　そんなことをされたら、わたしの名は汚れ、もう神の天幕に住めなくなる。　４たとい全国民がそのことに目をつぶり、処刑を拒んでも、　５わたしは決して赦さない。　本人ばかりか家族にまで顔をそむけ、わたし以外の神々を拝んだ者は、みな滅ぼす。
６　わたしの代わりに霊媒や口寄せなどに頼る者にも、わたしは顔をそむけ、イスラエルから断つ。　７だから、自分をきよめ、聖なる者になりなさい。　わたしはおまえたちの神だ。　８わたしの戒めには、すべて従わなければならない。　わたしはおまえたちを聖なる者とする主だからだ。
９　親をのろう者は必ず死刑になる。　それが当然の報いだ。
１０　人妻と姦淫を犯せば、男も女も共に死刑だ。　１１父の妻（継母）と関係する者は、父をはずかしめるのだ。　当然の報いとして、男も女も死刑になる。　１２義理の娘と関係すれば、二人とも死刑だ。　互いの責任で道ならぬことをし、この結果を招いたのだ。
１３同性愛にふける者も、二人とも死刑になる。　自業自得だ。　１４娘と母親の両方と関係するのは、特にひどい罪だ。　三人とも火あぶりにし、悪をぬぐい去りなさい。
１５　動物と性行為を行なう者は死刑にし、動物も殺してしまいなさい。　１６女の場合も同じことだ。　女も動物も殺しなさい。　当然の報いだから、しかたがない。
１７　たとい片親が違っても自分の姉妹と関係するのは、恥ずべき行為だ。　二人とも公にイスラエルから追放される。　それだけの罪を犯したのだ。　１８月のものの期間中の女と関係すれば、二人とも追放される。　女の身の汚れを人前にさらしたからだ。
１９　父方でも母方でも、おばと関係してはならない。　近親者だからだ。　この戒めを破った者は、必ず罰を受ける。　２０おばと関係する者は、おじのものを奪うのだ。　二人は当然の刑罰を受け、子を残さずに死ぬ。　２１兄弟の妻と結婚するのは、みだらなことだ。　兄弟のものを奪うからだ。　そんなことをしたら、子供は生まれない。
２２　わたしのすべての法律と定めに従わなければならない。 きちんと守りさえすれば、新しく住む国から放り出されることはないだろう。　２３これから追い出す国々の習慣に従ってはならない。　連中は、わたしがしてはならないと警告したことを、何もかも平気

な顔でやってのける。　わたしはそんな連中が大きらいだ。　２４約束どおりおまえたちにあの国々を与えよう。　『乳と蜜の流れる』国だ。　おまえたちは、ほかのどんな国民とも違う。　わたしが特別に選び、おまえたちの神となったからだ。
２５　だから鳥でも動物でも、わたしの命令どおり、食べられるものと、そうでないものをはっきり区別しなさい。　どんなにたくさんいても、だめなものは食べてはならない。食べ物のことで身を汚し、わたしに嫌われないようにしなさい。　２６おまえたちの神であるわたしが聖なる者だから、おまえたちも聖なる者となりなさい。　おまえたちは、ほかの国民とは違う。　特別に選び出してわたしの国民としたからだ。
２７　霊媒や口寄せを行なう者は、男だろうが女だろうが、石で打ち殺される。　それが当然の報いだ。」
二一
１　神様はモーセに命じました。　「縁者に不幸があった場合も、死人にさわって身を汚してはならないと、祭司に命じなさい。　２３ただし、両親、息子、娘、兄弟、めんどうを見ている未婚の姉妹といった近親者の場合は、例外だ。　４祭司は全国民の指導者だから、特に身をきよく保ちなさい。　ただ縁者だからというので、一般の人と同じに振る舞い、身を汚してはならない。
５　祭司は髪やひげをそってはならない。　異教徒がするように、体を傷つけてはならない。　６神の前に聖なる者となるのだ。　神の名を冒涜してはならない。　さもないと、火で焼く食物の供え物を神にささげる資格が、なくなってしまう。　７また、売春婦や離婚歴のある女と結婚することも、許されない。　祭司は神のもので、聖なる者だからだ。８神へのいけにえをささげるために特に選ばれた祭司を、聖なる者としなさい。　おまえたちを選び、きよい者とするわたしが、聖なる者だからだ。　９祭司の娘でありながら売春婦になる者は、自分ばかりか父親のきよさまで汚すのだから、火あぶりの刑に処しなさい。
１０　大祭司として特別に油を注がれた者は、特別な装束を身につける。　どんなに悲しい時も、髪を乱したり、衣服を引き裂いたりしてはならない。　１１たとい親でも、死体に近づいてはならない。　１２務めの間は聖所を離れてはならない。　普通の家のように、やたらに出入りしてはならない。　特別に神聖な務めを果たす者として、神から任命されているからだ。　わたしは神だ。　１３‐１５大祭司は同族の、しかも処女を妻にしなければならない。　未亡人や離婚歴のある女、売春婦と結婚してはならない。　大祭司の家系に一般人の血が混じってはならない。　わたしが彼を特別に選び、きよい者としたからだ。」
１６１７神様はまた、モーセに命じました。　「アロンに言いなさい。代々の子孫のうち体に欠陥のある者は、神にいけにえをささげてはならない。　１８目の見えない者、足の悪い者、鼻の欠けた者や手足の短すぎたり長すぎたりする者、　１９手足の折れた者、　２０背中の曲がった者、小人、目に欠陥のある者、吹き出物や疥癬ができている者、睾丸の

つぶれた者などだ。　２１たとい、アロンの子孫でも体に欠陥があれば、火で焼くいけにえを神にささげることはできない。　２２ただし､いけにえのうち祭司の食物になる分は、聖なるものでも最も聖なるものでも、普通にあてがわれる。　２３だが、垂れ幕の中へ入ったり、祭壇に近づいたりしてはならない。　体に欠陥があるからだ。　そんなことをしたら、神の聖所を汚すことになる。　そこを神聖な所とするのは神だからだ｡」
２４　モーセはこれらのことを、アロンと息子たち、およびイスラエル全国民に指示しました。
二二
１２神はモーセに命じました。　「アロンと息子たちに、ささげ物を不用意に扱って、わたしの名を汚さないように教えなさい。　わたしは神だからだ。　３今から永遠に、祭司が礼拝規則上は汚れたまま、人々の持って来た動物をいけにえにしたり、供え物を扱ったりするなら、その者は祭司職を解任される。　わたしは神だからだ。
４　らい病にかかったり、漏出のある祭司は、完全に治るまで聖なるものを食べてはならない。　死体にさわった者､精液を漏らした者、　５爬虫類など汚れた動物にさわった者、あるいは､何らかの理由で礼拝規則上けがれたものにさわった者は、　６夕方まで汚れる。夕方、体を洗うまでは、聖なるものを食べてはならない。　７日が沈めば汚れはきよまるから､そのあとは食べてもかまわない。　それは祭司のいのちの糧だからだ。　８祭司は、自然に死ぬか、野獣に裂き殺されるかした動物を、食べてはならない。　身を汚すことになるからだ。わたしは神だ。　９これらの指示を注意深く守るよう警告しなさい。この定めを破ったら、祭司は死刑だ。　わたしはおまえたちを選び、きよい者とする神だ。
１０　祭司でない者は、聖なるいけにえを食べてはならない。　祭司の家の同居人や使用人であっても、口にはできない。　１１ただし、祭司が自分の金で買った奴隷は、食べてもかまわない。　その家に生まれた奴隷の子も同じだ。　１２祭司の娘がほかの部族の者と結婚した時は、聖なるものを食べてはならない。　１３ただし、未亡人となるか離婚するかして、めんどうを見てくれる息子もなく、実家に戻った場合は、また食べることができる。
１４　知らずに聖なるいけにえを食べた者は、食べた量の二割増しを祭司に返しなさい。　１５人々が持って来た聖なるいけにえは、神へのささげ物だから、一般の人が食べて汚してはならないのだ。　１６この法律を破れば、有罪であることはもちろん、非常に危険な状態に陥る。　聖なるささげ物を食べたからだ。　わたしはささげ物を特別にきよくする神だ｡」
１７１８続いて神様は、モーセに命じました。　「アロンと息子たち、および全国民に命じなさい。　イスラエル人、あるいは共に住む外国人が、完全に焼き尽くすいけにえを神にささげる時は､誓願のためのものであっても､自分から進んでささげるものであっても、１９傷のない雄でなければならない。　それも若い牛か羊、あるいは山羊に限る。　２０傷のあるものはいっさいだめだ。　わたしはそんなものは受け取らない。

２１　和解のいけにえの場合も、誓願のためのもの、自分から進んでささげるものの別なく、牛や羊は傷のあるものをささげてはならない。わたしはそんなものは受け取らない。２２目が見えなかったり、骨折していたり、かたわだったり、うみが出ていたり、湿疹や皮膚病にかかったりしているものは、ささげてはならない。　神の祭壇にささげる完全に焼き尽くすいけにえに、ふさわしくないからだ。　２３神にささげた若い牛か羊の体の一部が、伸びすぎていたり、欠陥があったりしたら、自分から進んでするささげ物にはできるが、誓願のためにささげてはならない。　２４どんな傷でも睾丸の傷ついた動物は、つぶれていようが、切り取られていようが、神にささげてはならない。　２５イスラエル人だけでなく、共に住む外国人も同じ制限を受ける。　わたしは、傷のある動物は、いけにえとして受け取らないからだ。」
２６２７続いて神様は、モーセに命じました。　「牛か羊か山羊が生まれたら、七日間は母親のそばにおきなさい。　八日以上たてば、火で焼くささげ物として神にささげることができる。　２８牛でも羊でも、母親と子を同じ日に殺してはならない。　２９３０感謝のいけにえをささげる時は、決まりどおり正しくささげなければならない。　翌日まで残さず、その日のうちにいけにえの肉を食べなさい。　わたしは神だ。
３１　すべての命令に従いなさい。　わたしは神だからだ。　３２３３わたしをいいかげんに扱ってはならない。　心から尊敬し、あがめなさい。　おまえたちを聖なる者とし、エジプトから救い出して自分の国民としたのは、神であるこのわたしだ。」
二三
１２神様はモーセに命じました。　「主の祭りを毎年かかさず守るよう、人々に言いなさい。　その時には全国民が集まり、わたしを礼拝するのだ。　３この祭りは安息日とは別のものだ。　毎週七日目は仕事を休み、集まるのは礼拝のためだけで、あとは家で静かに過ごす。　この安息日は、どこにいても守らなければならない。　４毎年行なう聖なる祭りには、次のようなものがある。
５　まず過越の祭り。　これは三月末（ユダヤ暦では一月十四日）に祝う。
６　次は種なしパンの祭り。　この祭りは過越の祭りの翌日から一週間、イースト菌を入れないパンを食べて祝う。　７初日には、ふだんの仕事はすべて休み、礼拝に集まる。　８七日目も同じだ。　そのあいだ毎日、火で焼くささげ物を神にささげる。
９－１１刈り入れの祭り。 わたしが与える国で最初の収穫をあげたら､安息日の翌日に、そのうちの一束を祭司のところへ持って来なさい。　祭司は、神の前でその束を揺り動かしてささげる。　わたしはそれを受け取ろう。　１２同じ日に、完全に焼き尽くすいけにえとして、一歳の傷のない雄の子羊をささげなさい。　１３穀物の供え物も、いっしょにささげる。　細かくひいた上等の小麦粉七・二リットルをオリーブ油でこね、火で焼くささげ物とするのだ。　わたしはそれが大好きだ。また、ぶどう酒一リットル半を、飲み物の供え物としてささげなさい。１４最初の収穫をささげ終えないうちは、どんな収穫物も食べてはならない。　新麦も、パンも、炒り麦も、食べてはならない。　これはイスラエ

ルの永遠の法律だ。
１５１６七週の祭り。　最初の収穫をささげてから五十日目に、その後の収穫の中から、新しい穀物の供え物を神に持って来る。　１７家で焼いたパンを二つ、神の前で揺り動かしてささげるのだ。　パンは、七・二リットルの小麦粉にイースト菌を入れて焼く。　これは収穫物の見本としてささげるのだ。　１８パンとぶどう酒といっしょに、傷のない一歳の子羊七頭と若い雄牛一頭、雄羊二頭を、完全に焼き尽くすいけにえとして、神にささげる。　全部を火で焼いてささげるのだ。　それがわたしの大好物だ。　１９ほかに、罪が赦されるためのいけにえに雄やぎ一頭を、和解のいけにえに一歳の雄の子羊二頭をささげる。
２０　収穫物の見本としてささげたパンといっしょに、祭司はこれらのいけにえを揺り動かして、神にささげる。　２１その日は全国民が礼拝に集まる。　どんな仕事もしてはならない。　これは永遠の法律だ。　２２刈り入れの時は、畑のすみずみまで刈り取ってはならない。　落ち穂を拾ってもいけない。　貧しい人や土地を持たない寄留の外国人のために、残しておきなさい。　わたしはおまえたちの神だ。
２３２４ラッパの祭り。　九月十五日（ユダヤ暦では七月一日）は、全国民が礼拝に集まる聖なる記念日だ。　ラッパを高らかに吹き鳴らして、その時を告げなさい。　２５その日は一日、どんな仕事もしてはならない。ただ、火で焼くいけにえを神にささげなさい。
２６２７全国民の罪を償う日はその九日後だ。　全国民が神の前に集まり、めいめいの犯した罪を悔い、火で焼くいけにえをささげる。　２８その日は、どんな仕事もしてはならない。　神の前で罪の償いをする特別な日だからだ。　２９その日一日、罪を悔い改めて過ごさないような者は、イスラエルから追放され、　３０３１その日に仕事をするような者は、死刑になる。　これはイスラエルの永遠の法律だ。　３２その日は神聖な安息日だから、神の前で謙そんに罪を悔い改めなさい。　前日の夕方から、当日の夕方までまる一日、身を慎んで過ごすのだ。
３３３４仮庵の祭り。さらに五日後の九月二十九日（ユダヤ暦では七月十五日）からは、神の前に七日間の仮庵の祭りを祝う。　３５初日は全国民が仕事を休み、聖なる集会を開く。　３６祭りの七日間は毎日、火で焼くいけにえを神にささげる。　八日目にもう一度、全国民の聖なる集会を開く。　その日も火で焼くささげ物をささげる。　仕事はすべて休み、楽しく祝うのだ。
３７　以上が毎年祝う祭りだ。　その時は、全国民が聖なる集会を開き、火で焼くいけにえをささげる。　３８この祭りは毎週の安息日とは別だ。　いけにえも、ふだんのものや誓願のためのものとは別のものをささげる。
３９　収穫の終わる時期にあたる九月二十九日から、神の前で、この七日間の祭りを祝う。祭りの初日と最終日は神聖な休息の日だ。　４０初日に、実のついた果物の木の大枝と、なつめやしの木の葉、川べりにある柳などの葉の茂った大枝を持って来て〔仮小屋を作り〕、神の前で七日間、共に喜び合う。　４１この祭りを祝うことは永遠の法律だ。４２イスラ

エルで生まれた者はみな、この七日間を仮小屋で過ごす。　４３わたしがエジプトからおまえたちを救い出し、仮小屋に住ませたことを、永遠に忘れないためだ。　わたしはおまえたちの神だ。」
４４　モーセは人々に、これらの祭りを毎年かかさず守るよう教えました。
二四
１－４神様はモーセに命じました。　「至聖所を仕切る垂れ幕の外側に置いた純金の燭台に、絶えず火をともしておくために、純粋なオリーブ油を持って来るよう、人々に命じなさい。　毎日、朝と夕方の二回、アロンは新しい油をたし、芯を調節する。　その火は神の前に永遠にともし続けるのだ。
５－８安息日ごとに、大祭司は神の前にある金のテーブルに、輪型のパン十二個を二列に並べる。　パンは細かくひいた小麦粉を、一個につき七・二リットルずつ使って焼き、純粋な香料を振りかける。　これは、わたしがイスラエルと結んだ永遠の契約を記念するささげ物だ。　９パンはアロンと息子たちが、指定された場所で食べる。　神の永遠の法律に基づいてささげる、火で焼くささげ物で、最も神聖なものだからだ。」
１０　さてある日、母親がイスラエル人で父親はエジプト人という男と、イスラエル人の男が、野営地でけんかをしました。　１１その最中、エジプト人の息子のほうが、神様をのろうことばを吐いたのです。　さあ、ただではすみません。　モーセのところへ連れて来られ、裁判を受けることになりました。ところで、その人の母親はシュロミテといい、ダン部族のディブリの娘です。　１２神様はどんな判決をお下しになるのでしょう。　それまでひとまず、牢に入れておくことにしました。
１３１４神様の指示はこうでした。　「その者を野営地の外へ引き出し、のろいのことばを聞いた者全員が、その者の頭に手を置く。　それから、全員で石打ちの刑にするのだ。
１５１６これだけは、はっきりさせておけ。　神をのろう者は必ず罰を受ける。　それも死刑だ。　全員で石打ちにする。　神の名を冒涜する者は、イスラエル人であれ外国人であれ、この法律を適用し、死刑にする。
１７　殺人犯もすべて死刑だ。１８他人の動物を殺した者は、弁償しなければならない。
１９人を傷つけた者は、刑罰として同じ傷を負わされる。　２０骨折には骨折、目には目、歯には歯だ。　人にしたとおり自分にも返ってくるのだ。
２１　もう一度言う。　動物を殺せば弁償しなければならず、人を殺せば死刑だ。　２２イスラエル人も外国人も区別はない。　わたしはおまえたちの神だからだ。」
２３　人々は神様の命令どおり、その者を野営地の外へ引き出し、石打ちの刑にしました。
二五
１２モーセがまだシナイ山にいる間に、神様は次のような人々への指示をお与えになりました。
「わたしが与える国へ着いたら、七年に一度は土地を休ませなさい。　３六年間は畑に種をまき、ぶどう園の手入れをして、収穫をあげるがいい。　４ただし、七年目は休耕にし、

土地を神の前に休ませることだ。　種をまいたり、ぶどう園の手入れをしたりしてはならない。　５手入れもしないのに自然に生えた実やぶどうを収穫するのも、許されない。　土地を休ませる年だからだ。　６７その年に育った実は収穫はできないが、入り用の分だけなら、だれが取ってもかまわない。　おまえたちはもちろん、使用人、奴隷、イスラエル国内に住む外国人も同じだ。　家畜や野獣にも、自由に食べさせなさい。
８　さらに五十年目を特別な年とする。　９その年の全国民の罪を償う日に、ラッパを国中に高く鳴り響かせなさい。　１０五十年目は聖なる負債免除の年だ。 負債のある者は、公私の別なく負債をすべて棒引きにされる。　また人手に渡った財産も戻ってくる。
１１　種まきもせず、刈り入れもしないですむ。　なんと恵まれた年か。　１２聖なる五十年祭だ。　その年は、野に自然に育ったものを食べる。
１３五十年祭の年には、だれもが元の財産を取り戻す。　売ったものでも、また自分のものになるのだ。　１４‐１６だから、それまでの四十九年間に土地を売買する場合は、五十年祭までの年数によって、公正な値段をつけなさい。　残りの年数が長ければ、値段は高くなり、短ければ安くなる。　つまり、土地を返すまで何回収穫できるかによって、値段が決まるのだ。
１７１８神を恐れなさい。　不当に高い値段をつけてはならない。　わたしは神だ。　約束の国で安全に暮らしたければ、わたしの法律に従いなさい。　１９そうすれば豊作に恵まれ、何不自由なく安全に暮らせる。　２０『七年目は作物をつくれないのなら、いったい何を食べたらいいのだ』と言うのか。　２１２２心配はいらない。　六年目を豊作にし、たっぷり三年分の収穫をあげさせよう。　２３土地はわたしのものだから、それを永久に売り渡してはならない。　おまえたちは小作人にすぎないのだ。
２４　土地を売る時は、いつでも買い戻せることを条件にしなければならない。　２５生活に困り、土地を手放さなければならなくなった時は、近親者が買い戻してかまわない。
２６２７そのとき買い戻す者がいなくても、金ができしだい、売った本人が、五十年祭までの収穫の回数に見合う値段で、いつでも買い戻せる。　買い主は代金を受け取り、土地を返さなければならない。　２８元の持ち主が買い戻せない時は、五十年祭まで買い主のものとなる。　五十年祭になったら返すことは当然だ。
２９　町中にある家を売る場合は、一年間は買い戻す権利がある。　３０一年以内に買い戻せない時は、永久に新しい所有者のものとなる。　五十年祭の時にも返す必要はない。
３１城壁で囲まれていない村にある家は、畑地と同じように、いつでも買い戻すことができ、五十年祭の時には元の持ち主に返される。
３２　ただし、レビ人の家の場合は例外だ。　城壁に囲まれた町にある場合も、いつでも買い戻せるし、　３３五十年祭には元の持ち主に返さなければならない。　レビ人はほかの部族のように農地はもらえず、それぞれの町にある家と、その回りの畑しか持っていないからだ。　３４レビ人は、町の周囲の公用地を売ってはならない。　そこは彼らの永遠の所有地で、他のだれのものでもないからだ。

３５　兄弟が生活に困ったら、助ける責任がある。　客として家に招き、　３６いっしょに住まわせなさい。　神を恐れるのだ。　金を貸すなら無利子で貸しなさい。　３７決して利息を取ってはならない。　必要なものはみな買い与えなさい。　困っている人を出汁に、もうけようとしてはならない。　３８わたしがおまえたちを、エジプトから救い出してカナンの国を与え、おまえたちの神となったからだ。
３９　同胞のイスラエル人が生活に困って身売りしても、普通の奴隷のように扱ってはならない。　４０使用人か客のように扱いなさい。　その者が仕えるのは五十年祭までだ。４１その時がくれば、子供たちといっしょに家族のところへ戻り、財産も取り戻せる。　４２わたしは、おまえたちをエジプトから救い出した神であり、おまえたちはみな、わたしのしもべだ。　普通の奴隷のように売られることも、　４３手荒く扱われることもない。神を恐れなさい。
４４　イスラエル周辺に住む外国人なら、奴隷として買ってもかまわない。　４５また、イスラエル生まれの外国人の子も、奴隷として買える。　４６生涯奴隷として使い、子孫に譲り渡してかまわない。　ただし、同胞のイスラエル人は、そのように扱ってはならない。
４７　生活に困ったイスラエル人が、国内に住む金持ちの外国人やその家族に身売りした場合は、　４８４９兄弟か、おじか、いとこ、あるいは、親せきの者ならだれにでも、買い戻してもらえる。　金ができれば、自分で自分を買い戻すこともできる。　５０自由の身となる代価は、五十年祭までの残りの年数によって決める。　５１まだだいぶ間がある時は、身売りした時に受け取った額を払いなさい。　５２何年もたって、五十年祭まで残り少なくなっている場合は、それに見合うだけ払えばよい。　５３イスラエル人が外国人に身売りした場合、買った外国人は、奴隷だからといってこき使ってはならない。　普通の使用人として扱いなさい。　５４たとい買い戻せない場合でも、五十年祭がくれば、子供たちといっしょに自由の身となる。　５５イスラエル人は、この手でエジプトから救い出した、わたしのしもべだからだ。　わたしはおまえたちの神だ。
二六
１　偶像を作ってはならない。　彫像だろうが、石像だろうが、オベリスクだろうが、偶像を拝んではならない。　わたしがおまえたちの神だからだ。　２安息日の定めを守り、神の天幕を重んじなさい。わたしは主だ。
３　わたしのすべての命令に従うなら、　４５季節ごとに、きちんと雨を降らせ、豊作をもたらす。　麦の脱穀はぶどうの時期までかかり、ぶどうの取り入れは次の種まきの時まで続く。　何不自由なく安心して暮らせるだろう。　６少しの心配もない平和な毎日を送れるのだ。　危険な野獣はわたしが追い払おう。　戦争で国土を荒らされることもない。７おまえたちは敵を追い払い、さんざんに打ちのめす。　８五人で百人を、百人で一万人を追い散らし、敵の息の根を完全に止める。　９わたしは契約どおり、おまえたちをふやし、心にかける。　１０刈り入れ時がきても、まだ前の収穫が残っていて困るほどだろう。

１１わたしはおまえたちと共に住む。　おまえたちを軽べつしたりはしない。１２親しく共に歩み、おまえたちの神となる。　おまえたちはわたしの国民となるのだ。　１３わたしがおまえたちをエジプトから救い出し、奴隷の鎖を断ち切ったのだ。　だから、胸を張って堂々と歩きなさい。
１４　ただし、わたしの言うことを聞かず、従おうともせず、　１５法律を無視するなら、１６おまえたちを罰する。テロやパニックが突発し、結核や熱病が猛威をふるうだろう。目は衰え、生きる気力もなくなる。　種をまいても、収穫はぜんぶ敵が横取りする。　１７わたしの知ったことではない。　敵に追い散らされても助けはしない。　おまえたちは憎しみに燃えた敵に支配され、追いかけられもしないのに、逃げ出す。
１８　それでもなお従わないなら、七倍の罰を加える。　１９自分の力に頼ろうとする思い上がりを、木端微塵に砕いてやる。　思い知るがいい。　天は鉄のように、地は青銅のようになり、一滴の雨も降らず作物も実らない。　２０いくら耕し、手入れをしても、むだだ。　収穫は全くない。
２１　それでもなお従わず、言うことを聞かないなら、さらに七倍の災害で苦しめる。　２２野獣を放って、子供たちや家畜を殺し、人口を減らす。　こうして、イスラエルは荒れ果てるのだ。
２３　それでもなお行ないを改めず、反抗し続けるなら、　２４わたしも黙ってはいない。その罪の重さを、いやと言うほど思い知らせる。　この手で、七倍も強く打ちのめしてやる。　２５契約違反は戦争で罰する。　町に逃げ込んでもだめだ。　町中に伝染病がはやり、結局は敵に征服されてしまう。　２６食べ物は底をつき、十家族分のパンを焼くのに、一つかまどで間に合うほどになる。　配給はわずかで、とうてい腹を満たすことはできない。
２７　それでもなお聞き従わないなら、　２８もう容赦はしない。　七倍も重い罰を加えてやる。　２９事もあろうに、わが子まで食べるほどに飢えさせる。　３０おまえたちが偶像を拝む、山の祭壇を打ちこわし、香の祭壇を切り倒す。　偶像に混じって、おまえたちの死体がごろごろ転がり、腐れ果てていくのを黙って眺めよう。　おまえたちが大きらいになる。　３１町々を廃墟にし、礼拝所は打ちこわす。　ささげ物でなだめようとしても、ふだんは大好きな香りさえ、嗅ぐ気もしない。　３２国はすっかり荒れ果て、代わって住みついた敵でさえ、あまりのひどさに驚き恐れるだろう。
３３　おまえたちは散り散りに外国へ逃げ、そこでも行く先々で戦いに敗れる。　国はすっかり荒れ果て、町々は廃墟と化す。　３４３５こうして、ようやく土地を休ませることができる。　おまえたちが利用できるだけ利用し尽くした土地を、敵の捕虜となっている間、ずっと休ませよう。　そうだ。　ゆっくり土地を休ませよう。　おまえたちが住んでいた時、七年ごとに一年の休みを与えなかった分を、まとめて取り戻すのだ。
３６　生き残った者は、捕虜や奴隷として遠い国へ連れて行かれる。　外国でおびえながら暮らすのだ。　風に舞う木の葉の音にもおびえ、剣で追い立てられるように逃げ惑う。

追いかけられもしないのに倒れる。　３７戦いで弱気を起こし、敵前を逃げ惑うように、追いかけられもしないのに、力なく恐怖におののく。　３８あげくの果ては敵地であえない最期を遂げる。　３９運よく生き残った者も、自分と先祖たちの犯した罪の重さに耐えきれず、見る影もなくやつれ果てるのだ。　４０４１しかし最後には、自分たちの裏切りを認める。　苦しい思いをするのも、元はと言えば、わたしに反抗したからだ。　それで、わたしも黙ってはおらず、敵の手に渡した。　だが、悪かったと反省し、素直に罰を受けるなら、　４２アブラハム、イサク、ヤコブと結んだ契約を思い出し、荒れ果てたイスラエルを、もう一度心に留めよう。　４３その間に国土は十分に地力を回復する。　一方、国民は神の法律を犯し、定めを軽んじた罰を素直に受ける気になる。　４４彼らの行状はひどかったが、わたしはちゃんと契約を守り、完全に滅ぼすことはしなかった。　わたしは彼らの神だからだ。　４５わたしは彼らの先祖と結んだ契約を思い出す。　彼らの神となるという契約だ。　周囲の国々が驚き見守る中で、彼らの先祖をエジプトから救い出したのは、このわたしだ。　わたしは彼らの神だ。」
４６　以上は、シナイ山で神様がモーセに語った、イスラエル国民の守るべき法律、定め、指示です。
二七
１２神様はまた、モーセに命じました。　「人々に言いなさい。　神に身をささげるという特別な誓願を立てる者は、その代価として次の額を納める。　３４二十歳から六十歳までの男子は七千五百円、女子は四千五百円。　５五歳から二十歳までの少年は三千円、少女は千五百円。　６一か月から五歳までの男児は七百五十円、女児は四百五十円。　７六十歳以上の男子は二千二百五十円、女子は千五百円。　８ただし、貧しくて全額を払いきれない者は、祭司に申し出ること。　事情を話し合ったうえで、祭司が決めた額を払えばよい。
９　神に動物のいけにえをささげると誓ったら、そのとおりにしなければならない。　１０一たん誓った以上、やたらに変えないことだ。　良いものを悪いものに替えることはもちろん、悪いものを良いものに替えるのもいけない。　そんなことをしたら、両方とも神のものになる。　１１１２ささげたのが、いけにえにできない動物の場合、持ち主は祭司に申し出て適当な値をつけてもらい、その金額を代わりに支払う。　１３いけにえにできる動物の場合でも、買い戻したい時は、祭司がつけた値の二割増しを支払えばよい。
１４１５家を神にささげたが買い戻したくなった時は、祭司が評価した額の二割増しを支払いなさい。　そうすれば、また自分のものになる。
１６　畑の一部を神にささげる時は、まく種の量で評価する。　大麦の種三百六十リットルをまける広さの土地は、七千五百円だ。　１７五十年祭の時に畑をささげる場合は、評価額の全額を支払う。　１８五十年祭以後は、次の五十年祭まであと何年あるかによって決める。　１９買い戻したい時は、祭司が決めた評価額の二割増しを支払う。　それでまた、自分のものになる。　２０ただし買い戻さないと決めるか、すでに人手に渡っている

場合は、もう取り戻せない。　２１その畑は五十年祭の時に、神にささげられた土地として祭司のものになる。
２２　もともとの所有地でない買った土地を、神にささげる場合は、２３祭司が決めた五十年祭までの評価額を直ちに支払わなければならない。　２４五十年祭の時には、土地は元の持ち主に戻る。　２５代金はすべて通貨で支払う。
２６　牛や羊の初子をささげてはならない。　初めから神のものだからだ。　２７いけにえにできない動物の初子の場合は、祭司の評価額の二割増しを支払う。　持ち主に買い戻すつもりがないなら、祭司はほかの者に売ってかまわない。　２８しかし、人であれ、動物であれ、畑であれ、神に完全にささげたものは、売ることも買い戻すこともできない。それは神のもので、最も神聖なものだからだ。　２９法廷で死刑を宣告された者は、代わりに罰金を支払ってすますことはできない。　必ず死刑となる。
３０　穀物でも果実でも、農産物の十分の一は神のもので、神聖なものだ。　３１十分の一の穀物や果実を買い戻したい時は、評価額の二割増しを支払わなければならない。　３２牛であれ羊であれ、家畜はすべて十頭ずつ数え、十頭目が神のものとなる。　３３質の良し悪しで選んではならない。　取り替えてもいけない。　取り替えた場合は、両方とも神のものになる。　もちろん買い戻すこともできない。」
３４　以上は、シナイ山で神様がモーセに語った、イスラエル国民への命令です。
▪

イスラエル放浪記（民数記）
本書は、シナイ山からカナンの国境までイスラエルが旅したことと、約束の国に入るための準備について書かれています。　イスラエルの罪と不信仰のために、すぐにはカナンの国を相続できず、四十年間、荒野をさまよう姿が印象的です。　四十年たって、イスラエルはようやく、カナンへの道に引き返しました。　今度こそ、神様の命令に従う用意ができたのです。　ヨルダン川の東側で幾つかの重要な戦いに勝ってから、イスラエルはその約束の地に入ることになりました。

一
１　エジプトを出てから二年目の四月十五日、イスラエルの人々がシナイ半島で野営していた時のことです。　神の天幕（神様に会うための場所）の中にいたモーセに、神様がこう命じました。
２－１５「部族、家族ごとに、戦いに出られる二十歳以上の男の人数を調べなさい。　あなたとアロンが指図し、それぞれの部族長に調べさせるのだ。」
部族名部族長
ルベンシェデウルの子エリツル
シメオンツリシャダイの子シェルミエル
ユダアミナダブの子ナフション
イッサカルツアルの子ネタヌエル
ゼブルンヘロンの子エリアブ
ヨセフの子エフライムアミフデの子エリシャマ
ヨセフの子マナセペダツルの子ガムリエル
ベニヤミンギデオニの子アビダン
ダンアミシャダイの子アヒエゼル
アシェルオクランの子パグイエル
ガドデウエルの子エルヤサフ
ナフタリエナンの子アヒラ
１６以上が選ばれた部族長です。
１７－１９その日、モーセとアロンと部族長たちは、命令どおり、部族、家族ごとに、二十歳以上の男を全員集めて登録させました。　２０－４６最終の集計は次のとおりです。
部族
ルベン〔ヤコブの長男〕四六、五〇〇人
シメオン五九、三〇〇人
ガド四五、六五〇人
ユダ七四、六〇〇人
イッサカル五四、四〇〇人

ゼブルン五七、四〇〇人
エフライム〔ヨセフの子〕四〇、五〇〇人
マナセ〔ヨセフの子〕三二、二〇〇人
ベニヤミン三五、四〇〇人
ダン六二、七〇〇人
アシェル四一、五〇〇人
ナフタリ五三、四〇〇人
計六〇三、五五〇人
４７　この数に、レビ部族は含まれていません。　４８４９神様がモーセに、次のように言われたからです。　「レビ部族の者は兵役を免除し、人数も調べるな。　５０彼らには神の天幕を運び、管理する仕事があるからだ。　天幕の近くに住み、　５１よそへ移る時はいつでも、天幕を解体し、また組み立てる。　ほかの者が手を出してはいけない。　天幕にさわるだけでも死刑だ。　５２各部族は、部族ごとに集まって野営し、目じるしにそれぞれの旗を立てなさい。　５３レビ部族は天幕の回りにテントを張る。　彼らがわたしとおまえたちの間に入り、おまえたちが罪を犯した時、わたしの怒りに触れないですむためだ。」
５４　人々は、何もかも神様がモーセに命じたとおりにしました。
二
１２神様はさらに、モーセとアロンに命じました。「野営地の真ん中に神の天幕を張り、距離をおいて各部族はその回りに、部族ごとに旗を立てて野営しなさい。」　３‐３１こうして、各部族の位置は次のように決まりました。
部族部族長位置人数
ユダアミナダブの子天幕の東側七四、六〇〇
ナフション
イッサカル　ツアルの子ユダの隣五四、四〇〇
ネタヌエル
ゼブルンヘロンの子イッサカルの隣　五七、四〇〇
エリアブ
ユダ側の三部族の合計は、十八万六千四百人です。　このグループは、人々が別の所へ移る時、先頭に進みます。
ルベンシェデウルの子天幕の南側四六、五〇〇
エリツル
シメオンツリシャダイの子　ルベンの隣五九、三〇〇
シェルミエル
ガドデウエルの子シメオンの隣四五、六五〇
エルヤサフ

ルベン側の三部族の合計は、十五万一千四百五十人です。　このグループは、別の所に移る時、二番目に進みます。
次に続くのは、野営地の中央を占める神の天幕とレビ部族です。移る時も野営地にいる時と同じように、各部族はそれぞれの旗のもとに、いっしょにいなければなりません。
エフライム　アミフデの子天幕の西側四〇、五〇〇
エリシャマ
マナセペダツルの子エフライムの隣　三二、二〇〇
ガムリエル
ベニヤミン　ギデオニの子マナセの隣三五、四〇〇
アビダン
エフライム側の人数は十万八千百人で、行進の三番目に進むのです。
ダンアミシャダイの子　天幕の北側六二、七〇〇
アヒエゼル
アシェルオクランの子ダンの隣四一、五〇〇
パグイエル
ナフタリエナンの子アシェルの隣五三、四〇〇
アヒラ
ダン側の人数は、十五万七千六百人です。　彼らは別の所へ移る時、最後に進みます。　３２イスラエル軍の総勢は、六十万三千五百五十人でした。　３３この中に、神様の命令で兵役が免除されたレビ部族は、含まれていません。　３４こうして人々は、神様がモーセに命じたとおりの場所に、部族ごとに旗を立て、テントを張り、行進しました。
三
１　さて、シナイ山で神様がモーセにお語りになった時、　２アロンには息子が四人いました。　長男ナダブ、次男アビフ、三男エルアザル、四男イタマルです。　３四人とも祭司でした。　神の天幕で仕えるために特別に選ばれ、任命されたのです。　４ところが、ナダブとアビフはシナイの荒野にいた時、神の天幕で規則に違反して香をたいたため、罰があたって死んでしまいました。　二人には子供がなかったので、アロンを助けて祭司の仕事をするのは、エルアザルとイタマルだけになりました。
５　そのあと、神様はモーセに命じました。　６「レビ部族を集め、アロンの仕事を手伝わせなさい。　７－９彼らはアロンのもとで、全国民に代わって神の天幕の仕事をするのだ。　おもに天幕の用具の管理や修理をする。　１０祭司の仕事をするのは、アロンとその息子たちだけで、余計な手出しをする者はみな死刑だ。」
１１１２さらに、神様は命じました。　「レビ部族を、イスラエル人の長男全員の身代わりとする。　１３だから、レビ部族はわたしのものとなる。　エジプト人の長男を皆殺しにした日、イスラエル人の長男は家畜の子をも含めて、一人残らずわたしのものとしたように、長男はみなわたしのものだ。　すべてのものを造ったのは、神であるこのわたしだ

からだ。」
１４１５神様はまた、シナイ半島でモーセに命じました。　「レビ部族で生後一か月以上の男の数を、氏族ごとに調べなさい。」　１６‐２４モーセはそのとおりにしました。
レビの息子　孫の一族　人数家長野営地
ゲルション　リブニ七、五〇〇ラエルの子天幕の　シムイエルヤサフ西側
２５‐３０仕事
この二家族は、神の天幕を管理します。　そのおおい、入口のカーテン、さらに庭の柵のカーテン、天幕と祭壇を囲む庭の入口のカーテン、それに、天幕を結び合わせる綱の管理です。
レビの息子　孫の一族　人数家長野営地
ケハテアムラム　八、六〇〇ウジエルの子天幕の　イツハルエリツァファン　南側
ヘブロン
ウジエル
３１‐３５仕事
以上の四家族の仕事は、契約の箱（十戒を記した石板などを納めた箱）、テーブル、燭台、祭壇と神の天幕の中で使ういろいろな用具､おおいなどの管理と修理です。 この仕事は、アロンの息子エルアザルが責任者として、レビ部族の家長たちを監督しました。
レビの息子　孫の一族　人数家長野営地
メラリマフリ六、二〇〇アビハイルの子　天幕の
ムシツリエル北側
３６３７仕事
以上の二家族の仕事は、神の天幕の骨組みに必要な柱、土台、付属の部品類と、庭の回りの柱、その土台、釘、綱などの管理です。
３８　モーセと､アロンとその息子たちは､テントをいつも神の天幕の東側に張りました。彼らはイスラエルの人々の代わりに、天幕で仕事をするのです。　祭司でもレビ部族でもない者が、一歩でも天幕に入ったら、その者は死刑です。
３９　神様の命令によって、モーセとアロンが登録した生後一か月以上のレビ部族の男の数は、二万二千でした。
４０　そのあとまた、神様はモーセに命じました。　「イスラエル人で生後一か月以上の長男の数を調べなさい。　４１イスラエル人の長男の代わりに、レビ部族をわたしのものとする。　わたしはあなたがたの神だからだ。　同じように、家畜の初子の代わりに、レビ部族の家畜をわたしのものとする。」
４２　モーセは神様の命令どおり、イスラエル人の長男の数を調べました。　４３その結果、二万二千二百七十三名いることがわかりました。
４４　そこで、神様は命じました。　４５「イスラエル人の長男全員の代わりにレビ部族を、家畜の初子の代わりにレビ部族の家畜を、わたしにささげなさい。　わたしはあなた

がたの神なのだから、レビ部族はわたしのものだ。　４６ところで、二百七十三人分レビ部族の数が足りないから､その分は金でささげなさい。　４７４８一人につき千五百円を、アロンとその息子たちに支払うのだ。」
４９　モーセは二百七十三名から代金を受け取りました。　〔他の者は、レビ部族が身代わりになったので､金を払う必要はありません。〕　５０全部で四十万九千五百円でしたが、５１それを命令どおり、アロンとその息子たちに渡しました。
四
１‐３神様はモーセとアロンに命じました。　「レビ部族の中のケハテ氏族で、神の天幕で働ける三十歳から五十歳までの男の数を調べなさい。　４彼らは、次のような最も神聖な仕事をする。
５　おまえたちが別の場所へ移る時は、まずアロンとその息子たちが神の天幕に入り、仕切りのカーテンをはずして、それで契約の箱を包む。　６それをさらに、じゅごん（海に住む哺乳動物）の皮と青い布で包み、最後に、かつげるように棒を環に通す。
７　次に、毎日そなえるパンを置くテーブルに青い布を広げ､その上に皿、スプーン、椀、コップ、パンを置く。　８それに赤い布とじゅごんの皮のおおいをかけ、最後に、テーブルに棒を通す。
９１０燭台、ともしび皿、芯切りばさみ、皿、オリーブ油のつぼを青い布とじゅごんの皮で包み、それをかつぐための台に載せる。
１１それから、金の祭壇を青い布とじゅごんの皮で包み、祭壇に棒を通す。　１２残りの用具はみな青い布とじゅごんの皮で包んでから、台に載せる。
１３　祭壇は灰を取り除いて、紫の布でおおい、　１４祭壇で使う火皿、肉刺し、シャベル、鉢や、その他の容器はみなその上に置き、じゅごんの皮でおおう。　こうして、最後に棒を通すのだ。　１５別の場所に移る時はいつでも、アロンとその息子たちが聖所と用具をみな包み終えたら、ケハテ氏族がそれを運ぶ。　しかし彼らは、神聖な道具にさわることはできない。　ちょっとでもさわれば死刑だ。　以上がケハテ氏族の仕事だ。
１６　アロンの息子エルアザルが、明かり用の油、香り高い香、毎日の穀物の供え物、注ぎの油を管理する。　つまり、天幕全体とその中のすべての物を、責任をもって管理するのだ。」
１７‐１９それから、神様はモーセとアロンに命じました。　「くれぐれも、ケハテ氏族が全滅しないように注意しなさい。　彼らは最も神聖なものを運ぶのだから、少しでもさわって死刑になったりしないように、気をつけるのだ。　アロンとその息子たちがいっしょにいて、だれが何を運ぶかを指図しなさい。　２０うっかり聖所に入り、神聖なものを見でもしたら、死刑になってしまうからだ。」
２１‐２３神様はモーセに命じました。　「レビ部族のゲルション氏族で、神の天幕で働ける､三十歳から五十歳までの男の数を調べなさい。　２４彼らは次のような仕事をする。
２５　天幕のカーテン､天幕とおおい､じゅごんの皮の屋根と天幕の入口のカーテン、　２

６さらに、庭の柵にかけるカーテン、天幕と祭壇を囲む庭の入口のカーテンを運ぶのだ。綱と付属品類もぜんぶ運ぶ。これらの神聖な用具を運ぶのが彼らの仕事だ。　２７アロンかその息子なら、自由にゲルション氏族の者に指図できるが、　２８直接彼らを監督するのは、アロンの息子イタマルだ。
２９　レビ部族のメラリ氏族で、神の天幕で奉仕できる、三十歳から五十歳までの男の数を調べなさい。　３０３１彼らは神の天幕をよそへ移す時、天幕の骨組み、横木、土台、３２庭の柵の骨組み、その土台、釘、細いひもなど、それを使ったり直したりするのに必要な物をぜんぶ運ぶ。
だれが何を運ぶか、はっきり指図しなさい。　３３メラリ氏族もイタマルが監督する。」
３４　そこで、モーセとアロンをはじめとする指導者たちは、ケハテ氏族で、　３５神の天幕の仕事ができる、三十歳から五十歳までの男の数を調べました。　３６全部で二千七百五十人でした。　３７すべて、神様に命じられたとおりに行ないました。　３８‐４１同様に、ゲルション氏族は二千六百三十人、４２‐４５メラリ氏族は三千二百人でした。
４６‐４８こうして、神の天幕を運んだり、奉仕したりできる三十歳から五十歳までのレビ部族は、全部で八千五百八十人であることがわかりました。　４９この調査は、神様の命令どおりに行なったものです。
五
１２神様はさらに、モーセに命じました。　「らい病人、傷口のふさがらないけが人、死体にさわって汚れた者は、野営地から追放するように言いなさい。　３野営地が汚れないように、そんな者は、男でも女でも遠ざけなさい。　わたしがおまえたちの中に住んでいるからだ。」　４このことも、命令どおりに行なわれました。
５６それから、神様はまた命じました。　「男だろうが女だろうが、神に対して不誠実であったり、だれでも人に悪を行なう者は、　７罪を告白し、総額を弁償しなければならない。　さらに、盗んだ全額の二割増しを、被害者に返さなければならない。　８被害者が死に、近親者もいない場合は、罪を償うためにささげる子羊といっしょに、その金は神のものであり、祭司に差し出す。　９１０イスラエルの人々がわたしにささげる物は、みな祭司のものとなる。」
１１１２また神様は、こうも命じました。「人々に言いなさい。　人妻が姦通したのに、１３現場をおさえることができず、証拠もなく、証人もいない場合、　１４また、夫が嫉妬のあまり妻を疑った場合、　１５彼女を祭司のところへ連れて行きなさい。　その時、油や香料を混ぜない大麦の粉を三・六リットル持って行きなさい。　それは、彼女が白か黒かをはっきりさせるためにささげる、疑いの供え物だ。
１６　祭司は彼女を、神の前に連れて行きなさい。　１７それから、土の器にきよい水をとり、それに、神の天幕の床のちりを混ぜる。　１８さらに女の髪をほどかせ、夫の疑いが正しいかどうかを決めるために、女の手に疑いの供え物を載せる。　そして、のろいをかける苦い水の入った水がめを持って、女の前に立ち、　１９女に身の潔白を誓わせてか

ら、こう言うのだ。『夫以外の男と寝たことがなければ、この水を飲んでも何ともない。２０だが、もし姦通したのであれば、　２１２２おまえは神様にのろわれる。　その証拠に、ももは腐り、腹はふくれ上がるだろう。』　そのとき女は、『それでもかまいません』と答える。２３祭司はのろいのことばを書きつけ、苦い水の中に洗い落とす。２４〔有罪ならば〕、祭司が女にその水を飲ませると、腹の中で苦くなる。
２５　そのあと、女の手から疑いの供え物を取り、神にささげるしぐさをし、祭壇に持って行きなさい。　２６それを一つかみ祭壇の上で焼き、女に水を飲めと命じる。　２７女が姦通して汚れていれば、水は腹の中で苦くなり、腹はふくれ、ももは腐りだす。　こうして、のろわれたことがはっきりするのだ。　２８しかし潔白であれば、害も受けず、まもなく子を宿すようになる。
２９　これは嫉妬についての法律だ。　妻が姦通した場合、　３０または夫が嫉妬して妻を疑った場合に、彼女をわたしの前に連れて来て、法律どおり祭司にさばいてもらうのだ。３１その結果、彼女が恐ろしい病気にかかっても、もともと自分が悪いのだから、夫はさばかれない。」
六
１２神様はさらに、イスラエルの人々が守る規則を、モーセに示しました。　「男でも女でも、ナジル人になると誓って、特別にわたしに身をささげる時は、　３４その間、強い酒、ぶどう酒、グレープジュースを飲んでも、ぶどうと干しぶどうを食べてもいけない。ぶどうから採れるものは、種や皮でも、いっさい食べないようにしなさい。
５　その間は髪を切ってもいけない。　きよい者としてわたしに身をささげているのだから、髪は伸びるままにしておきなさい。
６７誓いの期間中は死体に近づいてはいけない。　たとい、親、兄弟、姉妹でもいけない。８その間はきよい者として、わたしに身をささげているからだ。　９偶然だれかが死ぬところに居合わせて汚れてしまった場合は、七日後に頭をそれば、汚れはきよめられる。　１０そして八日目に、山鳩か若い鳩を二羽、神の天幕の入口にいる祭司のところへ持って来なさい。　１１祭司は、一羽を罪が赦されるためのいけにえ、もう一羽を完全に焼き尽くすいけにえとしてささげ、汚れをきよめる儀式をしなければならない。　こうしてから、誓いをし直し、もう一度髪を伸ばす。　１２それ以前の期間は無効だから、あらためて誓いを立て、初めからやり直すのだ。　罪を償ういけにえとして、一歳の雄の子羊を引いて来なさい。
１３　わたしに身をささげると誓った期間が終わったら、神の天幕の入口に行き、　１４傷のない一歳の子羊を、完全に焼き尽くすいけにえとしてささげなさい。　また、罪が赦されるためのいけにえとして傷のない一歳の雌の子羊を、和解のいけにえとして傷のない雄羊をささげる。　１５さらに、イースト菌抜きのパン一かご、オリーブ油と上等の小麦粉で作ったドーナツ型のパン、油を塗ったせんべいなどの、穀物の供え物を、飲み物の供え物といっしょにささげる。　１６祭司はこれをみな神の前にささげる。　初めに、罪が

赦されるためのいけにえと、完全に焼き尽くすいけにえ、　１７次に、和解のいけにえの雄羊とイースト菌抜きのパン一かごとをいっしょにささげ、最後に穀物と飲み物の供え物をささげる。
１８　それから、神の天幕の入口で、誓いのしるしの長い髪を剃りなさい。　剃った髪は和解のいけにえの火にくべる。　１９頭を剃り終わったら、祭司は焼いた子羊の肩とイースト菌抜きのドーナツ型のパン一個、せんべい一枚を、その人の手に載せる。　２０そして、いけにえであることを示すために、わたしの前で、それをささげるしぐさをする。それは、みなきよいもので、わたしの前でそのしぐさをした胸の肉、肩の肉とともに祭司のものとなる。　こうしてはじめてナジル人の誓いが解け、ぶどう酒を飲めるようになるのだ。
２１　以上が、ナジル人として身をささげる期間が終わった時にささげるいけにえについての規則だ。　ナジル人になる誓いをした時に、規定以外の物もささげると約束した場合は、それを持って来なければならない。」
２２２３さて、神様はモーセに命じました。　「アロンとその息子たちに人々を祝福させなさい。　２４－２６『どうか、神様があなたがたを祝福し、守られるように。　あなたがたを喜んでくださるように。　やさしく親切にし、平安を与えてくださいますように』と。　２７このように、アロンとその息子たちが祈るなら、わたしも人々を祝福しよう。」
七
１　モーセは神の天幕を建て終わった日に、天幕の各部分に油を注いできよめの儀式をしました。　祭壇とその用具も同じようにしました。２それから、人口調査をした部族長たちがささげ物を持って来ました。　３おおいをかけた六台の荷車を、それぞれ二頭の雄牛に引かせて来たので、二人に車一台、一人に雄牛一頭の割でした。　それを、天幕の前で神様にささげました。
４５すると神様は、「そのささげ物を受け取りなさい。　荷車も天幕の仕事に必要だから、レビ部族に渡しなさい」と、モーセに命じました。
６　モーセは言われたとおり、荷車と雄牛をレビ部族に渡しました。７ゲルション氏族には荷車二台と雄牛四頭、　８アロンの息子イタマルの監督のもとにあるメラリ氏族には、荷車四台と雄牛八頭です。　９ケハテ氏族には何も渡しませんでした。　彼らは、天幕の用具をかつぐことになっていたからです。
１０　部族長たちはまた、祭壇に油を注ぐ日には、ささげ物を持って来て祭壇の前に供えました。　１１神様はモーセに命じました。　「祭壇のささげ物は、一日に一人の割で持って来させなさい。」
１２　一日目は、ユダ部族のアミナダブの息子ナフションの番です。　１３彼は、重さ一キログラムの銀の皿と約五百グラムの銀の鉢に、穀物の供え物として、油でこねた上等の小麦粉を山盛りにして来ました。　１４香を入れた百七十グラムほどの金の小箱もありました。　１５さらに、完全に焼き尽くすいけにえとして若い雄牛一頭、雄羊一頭、一歳の

雄の子羊一頭、　１６罪が赦されるためのいけにえとして雄やぎ一頭、１７和解のいけにえとして雄牛二頭、雄羊五頭、雄やぎ五頭、一歳の雄の子羊五頭を引いて来ました。
１８‐２３翌日は、イッサカルの部族長でツアルの息子ネタヌエルの番です。　彼は、前日のナフションと全く同じ物をささげました。
２４‐２９三日目は、ゼブルンの部族長でヘロンの息子エリアブが、前の二人と全く同じ物をささげました。
３０‐３５四日目は、ルベンの部族長、シェデウルの息子エリツルで、これも全く同じ物でした。
３６‐４１五日目は、シメオンの部族長でツリシャダイの息子シェルミエルが、同じ物を持って来ました。
４２‐４７翌日は、ガドの部族長、デウエルの息子エルヤサフですが、これも全く同じでした。
４８‐５３七日目は、エフライムの部族長でアミフデの子エリシャマが、やはり同じ物をささげました。
５４‐５９八日目もまた、マナセの部族長でペダツルの息子ガムリエルが、同じ物を持って来ました。
６０‐６５九日目も、ベニヤミンの部族長でギデオニの息子アビダンが、同じ物を持って来ました。
６６‐７１アミシャダイの息子アヒエゼルは十日目にあたりました。　彼はダンの部族長ですが、ささげ物は前の九人と同じでした。
７２‐７７十一日目にあたった、アシェルの部族長でオクランの息子パグイエルも、やはり同じ物をささげました。
７８‐８３十二日目は、ナフタリの部族長でエナンの息子アヒラの番ですが、これもまた、他の者と全く同じでした。
８４‐８６このように、祭壇に油を注ぐ日に、まず部族長たちがささげ物をして、祭壇を神様に奉納したのです。　ささげ物の総計は次のとおりです。
重さ約一キログラムの銀の皿十二枚
重さ約五百グラムの銀の鉢十二個
（全部で、重さにして約十八キログラム）
重さ約百十二グラムの金の小箱十二個
（全部で、重さにして約千五百グラム）
８７　完全に焼き尽くすいけにえとして持って来た物
雄牛十二頭、雄羊十二頭、一歳の雄の子羊十二頭
（いっしょにささげる穀物の供え物）
罪が赦されるためのいけにえとして持って来た物
雄やぎ十二頭

８８　和解のいけにえとして持って来た物
若い雄牛二十四頭、雄羊六十頭、雄やぎ六十頭、一歳の雄の子羊六十頭
８９　モーセが神様と話すために神の天幕に入って行くと､神様の恵みを示す場所である､契約の箱の上の二つのケルビム（天使を象徴する像）の間から､神様の声が聞こえました。
八
１　神様はモーセに命じました。　２「燭台の七つのともしび皿に火をつける時は、前を明るくするように、アロンに言いなさい。」
３　アロンはそのとおりにしました。　４燭台は、台座の飾りも枝のように分かれた部分も、みな金箔でおおってあります。　すべて、神様がモーセに示した設計図どおり作ったものです。
５６続いて神様は命じました。　「レビ部族を他の部族から分けなさい。　彼らを特別にきよめるのだ。　７まず､きよめの水を注ぎかけて全身を剃り､衣服と体を洗わせる。　８次に､若い雄牛一頭と穀物の供え物として油でこねた上等の小麦粉を持って来させる。　それに、自分の罪が赦されるためのいけにえとして別の若い雄牛一頭を持って来る。　９そして、みんなが見ている前で、レビ部族を神の天幕の入口のところに連れて来る。　１０次に部族長たちがレビ部族の頭に手を置く。　１１このようにして、アロンはイスラエル国民全員のささげ物として、レビ部族をわたしにささげるのだ。　彼らは全国民に代わって、わたしに仕える。
１２　次に、レビ部族の代表が若い雄牛に手を置いて、それをささげる。一頭は罪が赦されるためのいけにえ、もう一頭は完全に焼き尽くすいけにえで、レビ部族の罪の償いのためにささげるのだ。　１３それから、ささげ物を祭司の前に置くように、レビ部族をアロンとその息子たちの前に立たせなさい。　１４国民の中でも特別に、レビ部族がわたしのものとなるのだ。　１５こうして彼らをきよめ、わたしにささげてから、神の天幕の仕事をさせなさい。
１６　レビ部族は、国民の中から特別にわたしのものとされたのだ。　わたしは、イスラエル人の長男全員の代わりに、レビ部族をもらう。　レビ部族はその身代わりだ。　１７イスラエルでは、人も動物も初めに生まれたものは、わたしのものだからだ。　エジプト人の長男を皆殺しにしたあの夜、わたしはイスラエル人の長男や家畜の初子をきよめ、わたしのものとした。　１８だから、イスラエル人の長男全員の代わりに、レビ部族をもらうのだ。　１９彼らにアロンとその息子たちの手伝いをさせよう。　イスラエル国民の代わりに、天幕でわたしに仕えさせよう。　いけにえをささげ、人々の罪を償わせるのだ。そうすれば、一般の人がうっかり天幕に入って、罰があたることもないだろう。」
２０　モーセとアロンとイスラエル国民は、神様の命令どおり、注意深くレビ部族をささげました。　２１レビ部族は体と衣服を洗いきよめ、アロンは彼らを神様にささげる儀式を行ない、次にきよめる儀式も行ないました。　２２それがぜんぶ終わって、レビ部族はアロンとその息子たちを助けるために、神の天幕の仕事についたのです。　何もかも、神

様がモーセに命じたとおりでした。
２３２４神様はまた、モーセに命じました。　「レビ部族は二十五歳になったら奉仕を始め、五十歳で引退する。　２５２６引退後も天幕での細々した仕事はできるが、普通の責任ある務めはできない。」
九
１　イスラエル人がエジプトを出てから二年目の三月に、神様はシナイ半島でモーセに命じました。
２３「国民はみな、毎年三月二十八日（ユダヤ暦の一月十四日）に過越の祭りをしなければならない。　祭りは夕方から始める。　すべてわたしの言うとおりに行なうのだ。」
４５そこでモーセは、その場所で、三月二十八日の夕方から過越の祭りを始めるようにと言いました。　神様が命じたとおりです。　６７ところが、まずいことが起きました。　何人かの人が葬式の席で死体にさわり、身を汚したのです。　そのままでは過越の子羊は食べられません。　その人たちはモーセとアロンのところに来て、事情を説明しました。「死体にさわって汚れたので、神様の命令どおり、いけにえをささげることができません。　いったいどうしたらいいでしょう。」
８　モーセが、「神様にうかがってみましょう」と言って祈ると、　９神様はこうお答えになりました。
１０　「今後、だれでも、過越の祭りの時に死体にさわって体を汚したり、旅行中だったりして祭りが守れない時は、一か月後に守ればよい。１１四月二十八日の夕方に始めるのだ。　その時、子羊とイースト菌抜きのパンと苦菜を食べなさい。　１２翌朝まで残しておいてはいけない。　子羊の骨は一本も折ってはいけない。　すべて決まりどおりに行ないなさい。
１３　体を汚したわけでもなく、旅行中でもないのに過越の祭りを祝わないような者は、追放しなさい。　１４もし、いっしょに住んでいる外国人が、祭りを祝いたいと言ったら、やはり決まりどおりにやらせなさい。　これはだれもが守る決まりなのだ。」
１５　神の天幕ができた日、天幕はすっぽり雲におおわれました。　夕方になると雲は火のように赤くなり、夜通しあかあかと輝いていました。　１６いつも、昼間は雲、夜は火のようなものが天幕をおおったのです。　１７雲が上ると人々も移動し、雲がとどまると、そこで野営しました。　１８全く神様の命令どおりに旅をしたのです。　神様の命令で雲がとどまっている間は、人々もとどまりました。　１９雲が長い間とどまる時は、人々も長くとどまり、二、三日の時は、やはり二、三日とどまるといったぐあいでした。　何もかも神様の命令どおりにしたのです。　２０２１時には、真っ赤な雲が夜の間だけとどまり、翌朝には動きだすこともあります。　昼だろうが夜だろうが、雲が動くと、人々は急いでテントをたたみ、雲について行きました。　２２二日でも、一か月でも、一年でも、雲がとどまっている間は人々もとどまり、雲が動くと人々も移動したのです。　２３野営をするのも旅をするのも、みな神様の命令ひとつでした。　人々は、神様がモーセに命じ

たことは、何でもそのとおりにしました。
一〇
１２さて、神様はモーセに命じました。　「集合と出発の合図用に、銀でラッパを二本作りなさい。　３二本のラッパが長く鳴ったら、人々が神の天幕の入口に集まる合図、　４一本の時は、部族長があなたのところに集まる合図としなさい。
５‐７集合と出発の合図は吹き方で区別する。　短く鳴ったら、まず天幕の東側に野営している部族が出発し、次の合図で、南側の部族というふうに出発しなさい。　８ラッパを吹けるのは祭司だけだ。　この決まりは永遠に守らなければならない。
９　約束の国に着いてから敵と戦う場合、これで非常ラッパを鳴らせば、おまえたちを助けてやろう。　１０また、毎年行なう祭りの時や、完全に焼き尽くすいけにえや、和解のいけにえをささげる月初めの祝いの日にも､ラッパを吹き鳴らしなさい。 それを聞いて、おまえたちとの約束を思い出す。 わたしはおまえたちの神､主(イスラエルの神様の名。特に、契約における主の意）だからだ。」
１１　イスラエル人がエジプトを出てから二年目の五月四日に、雲は神の天幕を離れました。　１２人々はシナイの荒野をあとにし、雲についてパランの荒野に来ました。　１３神様がモーセに命じた規則どおりに旅するのは、これが初めてでした。
１４　行列の先頭はユダ部族で、旗を立て、アミナダブの息子ナフションが率いました。
１５そのあとに続くのは、ツアルの息子ネタヌエルが率いるイッサカル部族と、　１６ヘロンの息子エリアブが率いるゼブルン部族です。
１７　続いて、レビ部族のうちのゲルション氏族とメラリ氏族が、解体した天幕をかついで進みます。　１８そのうしろに、旗を先頭に、シェデウルの息子エリツルが率いるルベン部族、　１９ツリシャダイの息子シェルミエルが率いるシメオン部族、　２０デウエルの息子エルヤサフが率いるガド部族と続きます。
２１　次は、聖所で使う用具を運ぶケハテ氏族です。　こうすれば、彼らが着くまでに天幕を組み立てておけるのです。　２２そのあとに、アミフデの息子エリシャマが率いるエフライム部族、　２３ペダツルの息子ガムリエルが率いるマナセ部族、　２４ギデオニの息子アビダンが率いるベニヤミン部族が､それぞれの旗を立てて続きます。 ２５最後に、それぞれの旗を先頭に、アミシャダイの息子アヒエゼルが率いるダン部族、　２６オクランの息子パグイエルが率いるアシェル部族、　２７それに、エナンの息子アヒラが率いるナフタリ部族が進みます。　２８これが、旅をする時の各部族の順番です。
２９　ある日モーセは、ミデヤン人レウエルの息子で、義理の兄弟にあたるホバブに言いました。　「いよいよ約束の国へ出発します。　どうです、いっしょに来ませんか。　決して悪いようにはしませんよ。神様のすばらしい約束があるのだから、何も心配はいりません。」
３０　「せっかくだが、国の家族のもとに帰らなければ……。」
３１　「そう言わず、どうかいっしょに来てください。　荒野の道にくわしい人がいてく

れると、ほんとに助かるんです。　３２神様が下さるものは何でもお分けしますよ。」
３３　一行は、シナイ山を出発してから三日間、旅を続けました。　神の契約の箱が先頭です。　そうやって、休む場所を捜すのです。　３４出発したのは昼間で、雲が一行の前に進みました。　３５契約の箱がかつぎ上げられる瞬間､モーセは大声で祈りました。「神様､立ち上がってくださいっ。　敵をみな、さんざんに追い散らしてください。」　３６　また､休むために箱が下ろされる時は､「ああ神様っ。　イスラエル全国民のところにお戻りください」と祈りました。
一一
１　まもなく、人々はそんな生活にいや気がさし、不平を言い始めました。　それを聞いて神様は非常に怒り､火で野営地の端のほうを焼き払おうとなさいました。　２驚いた人々が、「た､たいへんだーっ！　なんとかしてくれーっ！」とわめいたので､モーセが祈ると、火はやっと消えました。　３その事件があってから、そこは「燃える地」と呼ばれるようになりました。　そこで、神様が人々を焼き滅ぼそうとされたからです。
４５それが一段落すると、今度はいっしょに来たエジプト人が、食べ物のことで文句を言いだしました。　おまけに一部のイスラエル人までが、いっしょになって不満をぶちまけたのです。　「あーあ、ひと口でもいいから肉が食べたい。　エジプトの魚はうまかったなあ。　それに、きゅうり、すいか、にら、玉ねぎ、にんにく、思い出すだけでもよだれが出そうだ。　６なのに今はどうだ。　毎日毎日こんなマナばっかりじゃ、力もつきゃーしない。」
７　マナはコエンドロの種ぐらいで、白っぽい樹脂のような色をしていました。　８それを拾い集め、つぶして粉にするか、臼でつくかしてから、蒸してパンを作るのです。　味は油で揚げたパンのようです。　９マナは夜の間に露といっしょに降りました。
１０　人々がそれぞれのテントの入口に集まって泣くのを聞くと、神様はまた腹を立てました。　モーセもいい気はしません。
１１　とうとう神様にぐちをこぼしました。　「なぜ、こんな手のかかる連中のめんどうを見させて、私をお苦しめになるのですか。　１２どうして、親子でも何でもないのに、こんな赤ん坊みたいな連中を、約束の国まで連れて行かなければならないのですか。　１３『肉が欲しい』と泣きつかれても、買う所もありません。　１４私ひとりでは手に負えません。　荷が重すぎます。　１５これからも同じようになさるのでしたら、もうまっぴらです。　いっそ、今すぐ私を殺してください。」
１６　神様は答えました。　「指導者を七十人選び、神の天幕へ連れて来て、あなたといっしょに立たせなさい。　１７わたしはそこであなたと話し、あなたの仕事を手伝えるように、彼らにもあなたと同じ霊の力を与えよう。
１８　それから、人々には身をきよめておくように言いなさい。　あす、肉が食べられると言ってやるのだ。　『おまえたちが、泣くほどエジプトに残してきたものを恋しがり、不平を言うのを、神様はお聞きになった。　望みどおり肉を下さるそうだ。　１９２０そ

れも、一日や二日じゃない。　五日、十日、二十日、いやそれ以上だ。　まる一か月も食べ続け、もう、うんざりだと音をあげるだろう。　神様がいっしょにおられるのに見向きもせず、泣いてエジプトを恋しがった罰だ。』」
２１　「ですが、神様、女や子供を除いても六十万人はおります。　その全員に一か月分の肉とは！　２２羊と牛を全部殺しても足りません。魚を一匹残らず捕りでもしないことには、とてもそれだけの肉は手に入りません。」
２３　「黙れっ！　いつからわたしはそんなに弱くなったのか。　わたしの言うことが本当かどうか、今にわかる。」
２４　モーセは神の天幕を出て、人々に神様の約束を伝えました。　それから七十人の長老を集め、天幕の回りに立たせました。　２５と、どうでしょう。　神様が雲に身を隠して降りて来られ、モーセと話をなさったではありませんか。　神様は、モーセに与えた霊の力を長老たちにも与えました。　すると、しばらくの間ですが、彼らはみな預言をしたのです。
２６　ところが、エルダデとメダデの二人はそのとき野営地内に残っていたのに、他の長老たちと同じように預言し始めました。　２７そのことを、一人の若者が走って伝えに来ると、２８モーセが助手に選んだヌンの息子ヨシュアが、「そんなことはやめさせてください」と抗議しました。
２９　「おまえは二人のことをねたんでいるようだね。　だが、私は、イスラエル人がみな神様の霊をいただき、預言者になってくれたらどんなにいいかと思っているのだ。」　３０こう答えると、モーセは長老たちといっしょに野営地に帰りました。
３１　さて次の日、神様が風を起こすと、それにのって海の向こうからうずらが飛んで来て、野営地の回りに落ちました。　どちらへ行っても、一日の道のりの所はうずらだらけです。　それも一メートルほどの高さに、びっしり敷き詰めたようになっているのです。３２人々はその日一日では足りず、夜も、そして翌日も、うずらを捕らえては殺しました。いちばん少ない者でも、山のように集めたほどです。　それを野営地中に広げて干しました。　３３ところが、その肉を食べ始めると神様の罰が下り、伝染病にかかって大ぜいの者が死にました。３４それから、そこは、「欲望の墓場」と呼ばれるようになりました。肉を欲しがり、エジプトでの生活を恋しがった人々を埋葬したからです。　３５このあと、人々はハツェロテまで行き、しばらく滞在しました。
一二
１　ある日、ミリヤムとアロンは、妻がクシュ人だということで、モーセを非難しました。２「神様の命令を伝えるのはモーセだけじゃない。　私たちだって、ちゃんと神様と話ができるんだ。」
３４このことを聞かれた神様は、さっそく、モーセとアロンとミリヤムを天幕に呼びつけました。　「三人ともここに来なさい」と言われるままに、神様の前に出ました。　モーセはだれよりも謙そんな人でした。

５　それから､神様は雲に身を隠して降りて来られ､神の天幕の入口に立って命じました。「アロンとミリヤム、前に出なさい。」　二人は言われたとおりにしました。　６「わたしは預言者には幻や夢の中で話をするが、　７８モーセは特別だ。　彼はいつでもわたしと会って、直接話ができる。　わたしの姿も見ることができる。　それなのになぜ、恐れもなく彼を非難するのかっ！」
９　激しく二人をしかりつけ、神様は立ち去りました。　１０そして、雲が天幕を離れると、どうでしょう。　そのとたんミリヤムはらい病にかかり、みるみる肌が白くなったではありませんか。　１１それを見たアロンは、必死で叫びました。　「ああ、モーセ、赦してくれっ！あんなばかなことを言って悪かった。　１２ミリヤムを、肉が腐りかかった死産の子のようにしないでくれ。」
１３　モーセは祈りました。　「神様っ！　どうか、どうか姉を治してやってください。」
１４　しかし、神様は答えました。　「父親が娘の顔につばきをしてさえ、娘は七日間汚れるではないか。　ミリヤムを野営地の外に出しなさい。　七日たったら、連れ戻してもよい。」
１５　ミリヤムは野営地から出されました。　こうして一週間、人々は彼女が戻るまで旅に出ませんでした。　１６そのあとハツェロテを去り、パランの荒野に野営することになりました。
一三
１　神様はモーセに命じました。　２「いずれはおまえたちのものになるカナンの国に、まずスパイを送り込みなさい。　各部族から一名ずつ選ぶのだ。」
３‐１５この時、一行はパランの荒野に野営していました。　モーセは神様の命じたとおり、十二人のスパイを選びました。
ルベン部族からザクルの息子シャムア
シメオン部族からホリの息子シャファテ
ユダ部族からエフネの息子カレブ
イッサカル部族からヨセフの息子イグアル
エフライム部族からヌンの息子ホセア
ベニヤミン部族からラフの息子パルティ
ゼブルン部族からソディの息子ガディエル
ヨセフ部族〔実際はマナセ部族〕からスシの息子ガディ
ダン部族からゲマリの息子アミエル
アシェル部族からミカエルの息子セトル
ナフタリ部族からボフシの息子ナフビ
ガド部族からマキの息子ゲウエル
１６　モーセがホセアの名をヨシュアと変えたのは、この時です。
１７　彼らを送り出す時、モーセはこう指図しました。　「北へ進み、ネゲブの山地に入

り、　１８カナンがどんな国か探って来なさい。　住民は強いか弱いか、多いか少ないか、　１９土地は肥えているかどうか、どんな町があるか、ただの村か、それとも城壁のある町なのか、　２０繁栄しているか、貧しいか、木は多いかなどを探って来るのだ。　恐れてはいけない。　試しに、その土地のくだものを取って来なさい。」　ちょうど、ぶどうの初物が熟す季節だったのです。
２１　彼らは、南はツィンの荒野から北はハマテに近いレホブまで、探りました。　２２北へ進み、まずネゲブを通り、ヘブロンに着きました。そこには、アナクの子孫のアヒマン族、シェシャイ族、タルマイ族が住んでいました。　ヘブロンは、エジプトのタニスより七年も前に建てられた、非常に古い町です。　２３それから、現在のエシュコルの谷に来て、ぶどうを一ふさ切り取りました。　とても大きなふさで、棒に通して二人でかつぐほどです。　ざくろやいちじくの実も幾つか取りました。　２４その時から、イスラエル人は、そこをエシュコル〔「一ふさのぶどう」の意〕の谷と呼ぶようになりました。　そこでぶどうを一ふさ切り取ったからです。
２５　彼らは、四十日の間カナンの国を探り、　２６パランの荒野のカデシュに戻ると、モーセ、アロンをはじめ、イスラエル人全員にさっそく報告し、持ち帰ったくだものを見せました。
２７　報告は次のとおりです。　「ただいま戻りました。　カナンは実にすばらしい国です。　まさに『乳と蜜が流れる』国です。　その証拠に、持ち帰ったくだものをご覧ください。　２８しかし残念なことに、住民は強く、町々は非常に大きく、城壁を巡らしてあります。　おまけに、アナクの子孫の巨人族がいるのです。　２９南にはアマレク人、山地にはヘテ人、エブス人、エモリ人、地中海沿岸とヨルダン川流域には、カナン人が住んでいます。」
３０　この報告に、人々はざわつきました。　しかしカレブは、モーセの前で皆を静めると、きっぱり言いました。　「すぐ攻め上ってカナンを占領しよう。　大丈夫、やれば必ずできる。」
３１　「むちゃ言うな。　あんな強い相手じゃ、かないっこない。　とても歯など立つものか。」　スパイに行った他の者は大反対です。
３２　結局、ほとんどの者はあまり乗り気ではありませんでした。「国中に兵士がおり、人々はたくましい体格をしています。　３３昔の巨人の子孫アナク人もいます。　彼らと比べたら、私たちなど虫けら同然です。」
一四
１　それを聞いた人々は、大声でわめき、夜通し泣き続けました。　２３　やがて、泣き声は、モーセとアロンへの痛烈な非難の声に変わりました。
「なんてことだ。　こんなことなら、エジプトで死んでたほうがよかった。　あんな国に行くくらいなら、この荒野で死んだほうがまだましだ。　神様はおれたちを殺すつもりなんだ。　そうなったら、妻や子は奴隷にされてしまう。　こんな所はさっさと逃げ出して、

エジプトへ帰ろう。」　４この声は野営地中に広まり、「エジプトに連れ戻してくれる指導者を立てよう」と、人々は叫ぶのでした。
５　モーセとアロンは、人々の前で顔を地につけて、ひたすら神様に祈りました。　６スパイに加わったヌンの息子ヨシュアとエフネの息子カレブは、人々のあまりの情けなさに着物を引き裂き、　７こう訴えました。　「目の前にあるのはすばらしい国だ。　８それに神様が味方だ。　私たちを安全に導き、必ずその国を下さる。　『乳と蜜が流れる』、すばらしい国を下さるのだ。　９神様に背くのはやめよう。人間なんか恐れるな。　神様がいっしょにおられる。　だれも神様にはかなわない。　だから、恐れることはないのだっ。」
１０１１ところが人々は、二人の言うことを聞こうともせず、かえって石で打ち殺そうとしたのです。　その時、神様の栄光が現われ、神様の声が響きました。　「モーセよ、この者たちはいつまでわたしをばかにするのか。　あれだけの奇蹟を見ても、まだわたしを信じないのか。１２もう彼らには見切りをつけた。　伝染病で滅ぼしてしまおう。　代わりにあなたから、もっと強く、もっと偉大な国民を起こそう。」
１３　しかしモーセは、必死の思いで神様に頼みました。　「ですが神様、このことを聞いたら、エジプト人は何と言うでしょう。　私たちが助け出された時、彼らは神様の力をいやと言うほど思い知ったはずです。１４そのことは、すでにこの地の住民にも知れ渡り、彼らは、神様が私たちとともにいて、親しくしておられることを知っているのです。　昼も夜も私たちを導き守る雲の柱、火の柱が見えないはずはありません。　１５今イスラエル国民を一人残らず滅ぼそうものなら、どうなるでしょう。　神様のすばらしさを耳にしていた人々は、これ幸い、１６『なんだ、あの神は。　荒野でイスラエル人どもを養うこともできず、結局は殺してしまった。　約束の地へ連れて行く力など、初めからなかったのさ』と、ばかにするに違いありません。
１７１８お願いです。　どうかお力を示してください。　どうか堪えてください。　以前と変わらず私たちを愛し、罪を赦してください。　確かに神様は、『罪は必ず罰する。　父親の罪を三、四代にわたるまで罰する』と言われました。　１９しかし、あえてお願いします。　私たちをお赦しくださいっ。　エジプトを出てから今日まで、いつも赦してくださったように、今も変わらず私たちを愛してください。」
２０‐２３「それほど言うなら赦そう。　だが、これだけは言っておく。　エジプトでもこの荒野でも、すばらしい奇蹟を見ながら、十度も強情を張り、わたしを信ぜず、従おうともしなかった者たちは、決して約束の国を見ることはできない。　その栄光が全地に満ちている神であるわたしがこう言う以上、絶対に確かだ。　２４ただ、カレブは違う。彼はいつもわたしを信じ、従い通した。　彼はカナンに入り、子孫たちにその地を残す。　２５だが、おまえたちは今、アマレク人や渓谷地帯に住むカナン人を恐れているので、ひとまず引き返せ。　あすからは紅海に向かうのだ。」
２６２７このあと神様は、特にモーセとアロンだけに語りました。　「このひねくれた国民は、いつになったら不平を言わなくなるのだろう。もううんざりだ。　２８彼らに言っ

てやれ。　『神様はおまえたちが何よりも恐れていることをなさる。　２９おまえたちはみな、この荒野で死ぬのだ。　二十歳以上の者で神様に不平を言った者は、一人も約束の国へ入れない。　３０ただし、エフネの息子カレブと、ヌンの息子ヨシュアは別だ。
３１　おまえたちは、子供が奴隷にされると言ったな。　しかし神様は、彼らを守り、おまえたちがさんざん文句を言ったカナンの国を与えるのだ。　３２おまえたちの死体は、この荒野に捨てられる。　３３最後の一人が死ぬまで、おまえたちの子らはあてもなく四十年もさまよい歩く。　それもみな、神様を信じなかった罰だ。
３４３５スパイが四十日間カナンの国にいたように、一日一年の割で四十年間、荒野にいて罪を償わなければならない。　神様に背けばどうなるか、よーく思い知るがいい。　謀反人どもは一人残らずこの荒野で死ぬと、神様が言われるのだ。』」
３６－３８このことがあってから、人々を不安にし、神様に背くようにそそのかした十人のスパイが、まず神様に罰せられて死にました。　生き残ったのはヨシュアとカレブの二人だけでした。　３９モーセが神様の言われたことを告げると、野営地中が深い悲しみにおおわれました。
４０　翌朝はやく、人々は約束の国に向かって出発しようとしました。
「私たちが悪かった。　これからは神様の約束を信じて進もう。」
４１　「もう遅い。　荒野へ行けと言われる神様の命令に背くつもりか。４２かってに進んだら、敵にやられるだけだ。　神様はもういっしょにはおられないのだぞ。　４３あそこには、アマレク人やカナン人がいるのを忘れたのか。　おまえたちが神様を見捨てたから、今度は神様がおまえたちをお見捨てになる番だ。」　モーセが止めるのも聞かず、４４人々はどんどん山地に向かって進みました。　契約の箱もモーセも、野営地にとどまっているのにです。　４５案の定、山地に住んでいたアマレク人やカナン人が襲いかかり、人々はやっとの思いでホルマまで逃げて来ました。
一五
１２神様はモーセに命じて、人々にこう言わせました。　「おまえたちの子供が、わたしの与える地についに住みつき、　３－５わたしを喜ばせるために、完全に焼き尽くすいけにえをはじめ、火で焼くいけにえをささげる場合は、次のようにしなさい。　いけにえは羊か山羊、あるいは牛にし、普通のものも、誓願を果たすためのものも、自分から進んでささげるものも、年ごとの祭りの時にささげるものも、それぞれ穀物の供え物、飲み物の供え物といっしょにささげなさい。　子羊をささげる時は、一・五リットルの油で混ぜた上等の小麦粉三・六リットルを、一・五リットルのぶどう酒といっしょにささげる。
６　雄羊の時は、二リットルの油で混ぜた上等の小麦粉七・二リットルに、　７ぶどう酒が二リットルだ。　これが、わたしの好きな良い香りを放つのだ。
８－１０若い牛の時は、三リットルの油で混ぜた上等の小麦粉十・八リットルとぶどう酒三リットル。　これを火で焼くと、とても良い香りがする。
１１１２以上が牛、雄羊、子羊、子やぎのいけにえといっしょにささげる物についての決

まりだ。　１３１４火で焼くささげ物をしてわたしを喜ばせようと思う者は、イスラエル人でも、いっしょに住んでいる外国人でも、みなこの決まりを守らなければならない。　１５１６法律はだれに対しても同じだ。 このことは永遠に変わらない。 わたしの前では、すべての人が平等だからだ。　すべての人が同じ法律を守らなければならない。」
１７１８この時、神様はさらにモーセに命じました。　「人々にこう教えなさい。　『約束の国に着いたら、　１９‐２１毎年、収穫の一部を神様にささげなさい。　ささげる時はこうする。　小麦の初物の粗びき粉でパンを焼き、それを祭壇の前で前後に揺り動かすのだ。　これが小麦粉のささげ方で、代々このように行なわなければならない。
２２　うっかりして、私が教えた神様の規則を守らなかったり、　２３２４神様が命じられた日から、将来にわたって、命令を一つでも守らなかった場合、失敗をすなおに認め、国民が無知ゆえに守らなかったのなら、完全に焼き尽くすいけにえとして若い雄牛を一頭ささげなさい。　神様はその香りを喜ばれるからだ。　また、いつもの穀物の供え物、飲み物の供え物といっしょに、罪が赦されるためのいけにえとして、雄の山羊を一頭ささげなさい。　２５それから、祭司が全国民の罪を償う儀式をすれば、罪は赦される。　この場合は、まちがって罪を犯したのだから、神様に、火で焼くいけにえと罪が赦されるためのいけにえをささげることによって、償うことができる。　２６国民全体の罪は、いっしょに住んでいる外国人も含めて、このようにして赦されるのだ。
２７　個人が、わざとでなく罪を犯した場合は、一歳の雌やぎを一頭、罪が赦されるためのいけにえとしてささげなさい。　２８祭司はその者が赦されるように、罪を償う儀式をする。　２９いっしょに住んでいる外国人の場合も同じだ。
３０　しかし、イスラエル人でも外国人でも、わざと法律を破る者は、神様を冒涜するのだから死刑だ。　３１神様の命令をばかにし、わざと法律を破った罰だ。』」
３２　人々が荒野にいたある日のことです。　安息日にたきぎを集めたのが見つかって、３３一人の男が逮捕されました。　男は、モーセとアロン、それに他の指導者たちの前に連れて来られましたが、　３４どうさばいたらよいかわかりません。　ひとまず監禁しておくことになりました。
３５　やがて、神様はモーセに命じました。　「あの男は死刑だ。　野営地の外で、全員が石を投げつけて殺せ。」
３６　そこで人々は、男を野営地の外へ引いて行き、命じられたとおりに処刑しました。
３７３８神様はまた、モーセに命じました。　「人々にこう言いなさい。『着物のすその四すみに青いひもでふさをつけなさい。　これからは代々そうするのだ。　３９そのふさを見るたびに、神様の命令を思い出すためだ。　もう以前のように、自分勝手にやりたいことをやり、他の神々に仕えてはいけない。　神様の法律をしっかり守りなさい。　４０そのふさは、イスラエルの神様だけに従っていかなければならないことを、思い出させてくれるだろう。　４１あなたがたをエジプトから助け出したのは、このお方だ。　だから、このお方があなたがたの神様なのだ。』」

一六

１　ある日のこと、レビの曾孫で、ケハテの孫にあたる、イツハルの息子コラは、ルベン部族のエリアブの息子ダタンとアビラム、それにペレテの息子オンとともに、　２人々をそそのかし、モーセに逆らわせました。　なんとその仲間には、だれもがよく知っている二百五十人の指導者もいたのです。

３　彼らは、モーセとアロンのところに来て、文句を並べ立てました。「でしゃばるのもいいかげんにしてほしい。　お二人の説教はもうたくさんだ。　たいした人物でもないくせに。　おれたちだって、神様に選ばれた者じゃないか。　神様はおれたちみんなの神様だ。　お二人だけが特別に偉いのだろうか。　そんなに威張りくさる権利がどこにあるんだっ。」

４　これを聞くと、モーセは地にひれ伏しました。　５それから、コラとその仲間にきっぱり言いました。　「あしたの朝、神様は、だれが神様の選んだ正しい指導者か、だれが聖く、だれが祭司かを、はっきりさせてくださる。　６７あした香炉を持って来て、神様にささげる香をたけ。　そうすれば、神様がだれをお選びになったかわかるはずだ。　おまえたちはレビ部族だが、おまえたちこそでしゃばりだっ。」

８９さらに、モーセはコラに言いました。　「神様がおまえを特別に選び、おそばで天幕の仕事をさせ、人々の前で奉仕させてくださるだけでは、不足なのか。　１０この仕事ができるのはレビ部族だけだというのに、それでも不満なのか。　だから、祭司になりたいのだろうな。１１１２そうだ、祭司になりたいばかりに、神様に背いているのだ。　アロンに不平ばかり並べるが、いったい彼が何をしたというのだ。」　モーセは続けて、エリアブの息子ダタンとアビラムを呼びつけましたが、二人は来ようともしません。

１３　そのうえ、モーセの口まねをして言い返したのです。　「あんたこそ、美しいエジプトからおれたちを連れ出して、こんなひどい荒野でのたれ死にさせるだけじゃ、不足なんですかい。　それだけじゃ不満で、王様にでもなろうというんですかい。　とんでもないこった。１４あんたは約束の国とかいうけっこうな所に、ちっとも連れてってくれないじゃないか。　畑やぶどう畑をくれるって？　笑わせるな。　もうだまされないぞ。　来いと言ったって行くもんかっ！」

１５　モーセはかんかんになり、神様にお願いしました。　「あの連中のいけにえをつっ返してやってください。　これまで、ろば一頭とり上げたこともなく、彼らを傷つけたこともないのに、あんないいがかりをつけているのです。」

１６　それから、コラに言いました。　「あした、仲間全員と神様の前に来い。　アロンも来る。　１７香を入れた香炉を忘れるな。　一人一個ずつ、二百五十個用意するのだ。　アロンも自分のを持って来る。」

１８　彼らはそのとおりにしました。　香炉を持ち、火をつけ、モーセとアロンといっしょに、神様の天幕の入口に立ちました。　１９事の成り行きを見届けようと、全国民が集まっています。　コラは彼らをけしかけ､モーセとアロンに逆らわせようとしました。　と、その時です。　さっとあたりが明るくなり、　２０神様の声が響きました。　２１「モー

セとアロン、この連中から離れろ。　わたしは今すぐ彼らを滅ぼす。」
２２　しかしモーセとアロンは、神様の前にひれ伏して願いました。　「ああ、神様。　世界にただ一人の神様。　たった一人の罪のために、すべての人を罰するのですか。」
２３２４すると神様は、モーセに答えました。　「わかった。　それなら、人々にコラとダタンとアビラムのテントから離れるように言え。」
２５　モーセはダタンとアビラムのテントに走って行きました。　二百五十人の指導者もいっしょです。　２６モーセは叫びました。　「急いでそのテントを離れろ。　連中の持ち物にさわるな。　さもないと、仲間ということで殺されてしまうぞ。」
２７　驚いた人々は、コラとダタンとアビラムのテントから離れました。ダタンとアビラムは、妻や子供たちを連れてテントを出、入口に立ちました。
２８　モーセは宣言します。　「これから起こることを見れば、神様が私を遣わされたことが、はっきりわかるだろう。　私はこれまで、自分の考えでやってきたのではない。　２９いいか、もしこの者たちがありきたりの事故や病気で死んだら、うそをついたのは私のほうだ。　３０　しかし、神様が奇蹟を起こして地面を裂き、彼らをテントもろともものみ込み、生きたまま地獄に落とされたら、神様を冒涜したのは、彼らのほうだ。」
３１　こう言い終わるか終わらないうちに、なんとコラたちの足もとの地面がぱっくり裂け、　３２いっしょにいた家族、友人を、テントもろとも、のみ込んでしまったではありませんか。　３３彼らは一人残らず、生きたまま地獄に落ち、地の底に閉じ込められたのです。　３４人々はみな、彼らの苦しみ叫ぶ声を聞いて、もしかしたら自分たちも……と心配になり、あちこち逃げ惑いました。　３５その時、天から火が下り、香をささげていた二百五十人を焼き殺しました。
３６３７神様はモーセに命じました。　「祭司アロンの息子エルアザルに、香炉を火の中から取り出させなさい。　その香炉はわたしにささげられた神聖なものだからだ。　３８また、罪を犯して死んだ者たちの香炉から、火のついた香を取り出してまき散らすように言いなさい。　次に香炉を打ちたたいて一枚の板に延ばし、それで祭壇をおおいなさい。この香炉は、わたしの前で使ったから神聖なのだ。　こうしておけば、祭壇のおおいを見るたびに、このいやな出来事を思い出すだろう。」
３９　祭司エルアザルは、命じられたとおり二百五十個の青銅の香炉で、祭壇におおいをかけました。　４０アロンの子孫でない者はだれも、神様の前で香をたいてはならないこと、これを破ればコラと同じ目を見ることを、思い出させるためでした。　すべて神様がモーセに命じたとおりです。
４１　ところが、翌朝になると、もう人々はみな、モーセとアロンに不平を言いだす始末です。　「あんたたちは神様の国民を殺してしまったんだぞ。」
４２　不平のうずはたちまち広がり、険悪なふんい気になってきました。と、突然、雲がわき起こり、人々が振り返って神の天幕を見ると、どうでしょう。　目もくらむばかりに輝いています。　４３４４モーセとアロンが天幕の入口に立つと、神様はモーセに命じま

した。
４５　「人々から離れろ。　今すぐ彼らを滅ぼす。」　それを聞いて、モーセとアロンは神様の前にひれ伏しました。
４６　モーセはアロンに言いました。「急いで香炉を持って来て、祭壇の火で香をたき、すぐ人々のところへ行って、神様のお赦しを願ってくれ。　早くしないと手遅れになる。見ろ。　もう罰があたって病気で倒れた者もいるぞ。」
４７　アロンは言われたとおり、人々のところへ走って行きました。　すでに伝染病がはやりだしていたので、急いで香をたき、神様の赦しを願いました。　４８アロンが死者と生きている者の間に立っていると、やっと伝染病はおさまりましたが、　４９死者はすでに一万四千七百人にも達していたのです。　前日のコラの事件で死んだ者は別です。　５０伝染病がおさまると、アロンは神の天幕の入口にいたモーセのところへ戻りました。
一七
１‐３それから、神様はモーセに命じました。　「部族長たちに、自分の名を彫った杖を持って来させなさい。　アロンの名はレビ部族の杖に彫る。　４十二本の杖を神の天幕の契約の箱の前、わたしがあなたと会う場所に置きなさい。　５この杖で、わたしがだれを選ぶかを決めよう。　わたしの選んだ者の杖は芽を出すのだ。　これだけはっきりさせれば、彼らも不平は言わなくなるだろう。」
６　十二人の部族長は、それぞれモーセのところに杖を持って来ました。　もちろん、アロンのも入っています。　７モーセは、天幕の奥の神様の前にそれを置きました。　８翌日そこへ行ってみると、レビ部族を代表するアロンの杖が芽を出し、花が咲き、アーモンドの実がなっているではありませんか。
９　それを持って来て見せると、人々はあっけにとられ、ただ見つめるばかりです。　それでも、部族長たちは気を取り直し、自分の杖を引き取りました。　１０「アロンの杖を、この事件の苦い思い出として、いつまでも契約の箱のそばに置きなさい。　アロンの権威を疑う者がまた出たら、それを見せてやるのだ。　この杖はこれからも、いろいろな災難を防いでくれるだろう。」神様がこう命じたので、１１モーセはそのとおりにしました。
１２１３ところが人々は、それでもこりずに不平を言うのでした。　「これじゃあ、みんな死んだも同然だ。　神の天幕に近づくだけで死ぬんじゃ、だれも助かりっこないじゃないか。」
一八
１　神様は、今度はアロンに命じました。　「あなたとあなたの一族は、どんな事情があっても、聖所が汚されたら責任を負わなければならない。　祭司の仕事で失敗した時も同じだ。　２３同族のレビ部族にも手伝わせるが、神の天幕での神聖な務めは、あなたの一族しかできない。　他のレビ部族の者が祭壇の神聖な用具にさわらないように、注意しなさい。　気をつけないと、彼らもあなたも、罰があたって死んでしまう。　４レビ部族でない者には、絶対に手伝わせてはいけない。　５聖所や祭壇で奉仕するのは祭司だけだ。

このとおりにすれば、わたしの決めた法律を破ることも、そのためにわたしが人々に罰を下すこともなくなる。　６くどいようだが、同族のレビ部族に神の天幕での仕事を手伝わせよう。　彼らはわたしからの贈り物だ。　７しかし、祭壇や聖所のカーテンの内側での仕事や、神聖な務めはすべて、祭司であるあなたとあなたの息子たちが行なう。　あなたがただけが、特別に祭司として選ばれたからだ。　他の者で、いらぬ手出しをする者は、必ず死ぬ。」
８　神様は続けてアロンに指図しました。　「わたしにささげられた物はみな、祭司に与える。　イスラエル人のすべての聖なるささげ物はみな、あなたとあなたの息子たちのものとなる。　これは永遠の定めだ。　９穀物の供え物、罪が赦されるためのいけにえ、それに罪を償ういけにえも、祭壇で焼いてわたしにささげる一部を除いては、全部あなたがたのものだ。　これは最も神聖なものだから、　１０最も神聖な場所で食べなければならない。　しかも、食べることができるのは男だけだ。　１１イスラエル人の奉納物はみな、あなたと家族全員に与えよう。　男でも女でも法律どおり身をきよく保っていさえすれば、だれでも食べられる。
１２　初物としてささげられる、最良のオリーブ油、ぶどう酒、穀物、１３他の収穫物もみな、あなたがたのものだ。　法律どおり身をきよく保っていさえすれば、家族はそれを食べてよい。　１４１５わたしに無条件にささげられた物はみな、あなたがたのものだからだ。　イスラエル人の長男も、家畜の初子もみな、あなたがたのものだ。　１６しかし、長男や食べてはいけない家畜の初子の場合は、代わりに金でもらいなさい。　一人あるいは一匹につき七百五十円を、生後一か月したら持って来させるのだ。
１７　ただし、牛、羊、山羊の初子は、わたしにいけにえとしてささげなさい。　その血を祭壇に振りかけ、脂肪を火で焼くささげ物とする。わたしはそれが大好きだからだ。　１８肉はあなたがたが取ってかまわない。　祭壇で揺り動かしてささげる胸や右のももの肉もそうだ。　１９人々が持って来る奉納物はみな、あなたに与える。　それを家族全員の食物としなさい。　これは、わたしがあなたとあなたの子孫に対して結ぶ、永遠の契約だ。
２０　祭司は相続地もなく、他の収入もない。　必要な物はみな、わたしが与えるからだ。
２１同族のレビ部族には、神の天幕での仕事の報酬として、イスラエル中からささげられる十分の一のささげ物を与えよう。　２２これからは、祭司、レビ部族以外の者は、だれも聖所に入ってはならない。　もし入ったら、罪を犯した罰として死ぬ。　２３聖所で働けるのはレビ部族だけだ。　その彼らも、まちがったことをすれば罰せられる。　これは永遠の定めだ。　レビ部族には相続地が与えられない。　２４その代わり、イスラエルの奉納物である十分の一のささげ物を与えよう。　レビ部族が相続する財産はそれだけで、他に相続地をもらうことはできない。」
２５２６神様はまた、モーセに命じました。　「レビ部族には、もらう物の十分の一を、わたしに奉納物としてささげるよう命じなさい。　２７それをレビ部族の財産の十分の一とみなし、穀物の初物やぶどう酒の代わりに受け取ろう。　２８２９その場合、人々から

受け取る十分の一のささげ物の中でも、いちばん良い物を選び、祭司アロンに与える。　３０それは穀物の粉やぶどう酒の代わりだ。　３１アロンとその家族は、ささげた物の残りを、家でもどこででも食べてかまわない。　神の天幕で仕事をした報酬だからだ。　３２レビ部族は、もらった物の十分の一、それもいちばん良い物を祭司にささげるなら、十分の一のささげ物を食べても罪にはならない。　しかし、それは人々の神聖なささげ物だから、特に大事に扱いなさい。　注意しないと、罰があたって死んでしまう。」
一九
１‐３神様はモーセとアロンに命じました。　「さらに、わたしが定めた別の法律を教えよう。　傷もなく一度も仕事をしたことのない、赤い雌牛を一頭引いて来させなさい。　それを祭司エルアザルに渡し、野営地の外に引いて行き、彼の目の前で殺せ。　４エルアザルは牛の血を指で取り、神の天幕の正面に七度まく。　５そのあと、彼の目の前でその雌牛を焼け。　皮も肉も血も糞も、みな焼け。　６その火の中へ、エルアザルが杉の木とヒソプの枝と赤い糸とを投げ込む。
７　それがすんだら、着物と体を洗いきよめる。　これでもう野営地に戻れるが、夕方までは汚れたままだ。　８雌牛を焼いた者も着物と体を洗いきよめるが、同じように夕方まで汚れたままだ。　９それから、汚れていない者が灰を集め、野営地の外のきよめられた場所に置いて保存する。　その灰で、人々の汚れをきよめる儀式に使う水をつくるのだ。
１０灰を集めた者も着物と体を洗いきよめるが、夕方までは、やはり汚れたままだ。　イスラエルの人々も、いっしょに住んでいる外国人もみな、永遠にこの法律を守らなければならない。
１１　人の死体にさわったら、だれでも七日間は汚れる。　１２三日目と七日目に、赤い雌牛の灰を入れた水で体を洗えばきよめられるが、三日目にこの儀式をしないと、七日たっても、まだ汚れたままだ。　１３死体にさわったのに、決まりどおり体を洗いきよめないのは、神の天幕を汚すのと同じことだ。　そんな不届き者は追放しなさい。　きよめの水をかけなかったので、まだ汚れたままだからだ。
１４　テントの中で人が死んだ場合は、次のようになる。　そのテントに入る者も、そのとき中にいた者もみな、七日間は汚れる。　１５人だけでなく、中にあるふたのない入れ物も汚れる。
１６　また、戦争その他の理由で死んだ者の死体に野外で触れた者、骨や墓にさわった者も、七日間けがれる。　１７それをきよめるには、まず汚れをきよめる赤い雌牛の灰を器に入れ、わき水を加える。　１８それから、汚れていない者がヒソプの枝をその水に浸し、テントと中にある水さしや皿、中にいて汚れた者などに振りかける。　また骨や、殺されるかその他の理由で死んだ者の死体や、墓にさわった者にも振りかける。　１９三日目と七日目に、このようにする。　それから、本人が着物と体を洗いきよめる。　そうすれば、七日目の夕方には汚れからきよめられるのだ。
２０　身が汚れたのにきよめようとしない者は、神の聖所を汚したのだから追放される。

彼はきよめる水を体にかけなかったので、汚れたままだ。　２１この法律は永遠に変わらない。　水を注ぎかける者も、あとで着物を洗いきよめる。　水に触れた者はだれでも、その日の夕方まで汚れるのだ。　２２また、汚れた者がさわるものもみな、夕方まで汚れる。」
二〇
１　さて、人々は三月にツィンの荒野に着き、カデシュで野営することになりました。 その間に、ミリヤムが死んだので葬りました。２ところが、そこには飲み水が十分ありません。　またまた不満が爆発しました。　モーセとアロンをつるし上げようと、人々がぞくぞく詰めかけ、　３抗議の集会を開きました。
「あのとき神様に殺された者たちといっしょに、死んじまえばよかった。　４あんたたちの魂胆はわかってるぜ。　わざとこの荒野におれたちを連れ出し、家畜もろとも皆殺しにしようってんだろう。５何の恨みがあって、おれたちをエジプトからこんなひどい所に連れて来たんだ。　すばらしい土地があるとかぬかしてたが、いったいどこだい。　いちじくやぶどうやざくろが山ほど採れるって？　へん、笑わせるな。　飲み水もないじゃないか！」
６　モーセとアロンは神の天幕の入口に引き返し、神様の前にひれ伏しました。 すると、どうでしょう。　神様の栄光が輝き渡ったのです。
７　神様はモーセに命じました。　８「アロンの杖を取り、二人で人々を集めなさい。　みんなの目の前で、向こうにある岩に『水を出せ』と命じるのだ。　その水を、みんなにも家畜にも欲しいだけ飲ませなさい。」
９　モーセは指図どおりにしました。 聖所の奥の神様の前に置いてあった杖を取り、 １０アロンと二人で岩の前に人々を集めたのです。「さあ、わからず屋ども。　この岩から水を出してやるから、ありがたく思え。」
１１　そう言うと、モーセは杖を振り上げ、岩を二回たたきました。と、どうでしょう。水がどんどんわき出るではありませんか。　人も家畜も、大喜びでその水を飲みました。
１２　ところが神様は、モーセとアロンをしかりつけました。　「おまえたちはわたしを信じなかった。　岩に命じろと言ったのに、杖でたたくとは何事だ。　わたしに恥をかかせたのだから、二人とも約束の国には入れないと思え。」
１３　そこで、この場所は、メリバ〔「反逆の水」の意〕と名づけられました。　人々が神様に背いて争ったからです。　この事件によっても、神様はご自分の力ときよさをお示しになりました。
１４１５カデシュにいる間に、モーセはエドムの王のところへ使いを出しました。　「王様、私どもはお身内も同然でございます。　私どもの先祖ヤコブは、あなた様のご先祖エサウ様の弟でした。 ご存じのように、私どもはずいぶん悲しい思いをしてまいりました。事情があってエジプトへ行きましたが、長く住んでいるうちに奴隷にされてしまったのです。　１６あまりの苦しさに、神様に助けを求めたほどです。　そして、やっと念願がか

ないました。　神様が一人の御使いを遣わし、私どもをエジプトから連れ出してくださったのです。　いま私どもは、お国との境にあるカデシュに野営しております。　１７どうぞ、お国を通らせてください。　畑やぶどう園は荒らさないように、十分気をつけます。　井戸の水も飲みません。　国境を越えるまでは、ただまっすぐ街道を進み、決してわき道にそれたりはいたしません。」
１８　しかし王は、すげなく突っぱねました。　「だめだ、許可できん。　わが国に一歩でも踏み込んだら、軍隊を出動させるぞ。」
１９　「そうおっしゃらず、何とかお許し願えないでしょうか。　街道からは絶対にそれませんし、水も飲みません。　どうしても飲ませていただかなければならない時は、きちんと代金をお払いします。　ただ通らせていただければよいのです。　決して他意はございません。」
２０　「だめと言ったらだめだ。」 王はあくまでも聞き入れません。 そして警告どおり、大軍をくり出して国境の守りをがっちり固めました。　２１２２これではどうにもなりません。　人々は引き返し、カデシュからホル山へ移りました。
２３　エドムとの国境で、神様はモーセとアロンに命じました。　２４「アロンはもうじき死ぬ。　約束の国へ入ることはできない。　あなたがた二人がメリバの水のことで、わたしの指図に従わなかったからだ。　２５さあ、アロンとその息子エルアザルを連れてホル山に登りなさい。　２６そこで、アロンの祭司の服を脱がせ、息子エルアザルに着せるのだ。　アロンはそこで死ぬ。」
２７　モーセは神様の命令どおりにしました。　人々に見送られて、三人はホル山へ登りました。　２８いよいよ頂上です。　モーセはアロンの服を脱がせ、息子エルアザルに着せました。　アロンはそのままそこで死に、モーセとエルアザルは山を降りました。　２９やはりアロンは死んだのです。　それを聞くと、今さらのように悲しくなり、人々は三十日のあいだ泣き暮らしました。
二一
１人々は、先のスパイの一行と同じ道を通り、アラデの近くに来ました。　それを知ったアラデの王は、イスラエル人を攻撃し、何人かを捕虜にしたのです。　２人々は、「アラデの国を征服させてください。　そうしたら、国中の町を必ず全滅させます」と、神様に誓いました。　３願いは聞かれ、彼らは人も町も全滅させました。　そこをホルマ〔「全滅」の意〕と呼ぶようになったのは、この時からです。
４　このあと人々はホル山に帰り、そこから南へ行き、エドムの国をぐるっと回って、紅海へ通じる道に出ました。　ところが、途中で我慢できなくなり、　５神様にぶつぶつ文句を言い始めたのです。　不平不満はモーセに集中しました。　「何の恨みがあって、おれたちをエジプトから連れ出し、こんな荒野で飢え死にさせるんだい。　食べ物も飲み物もありゃしない。　あんなまずいマナはもうたくさんだ。」
６　これには神様も腹を立て、罰として、毒蛇にかませることにしました。　そのために、

大ぜいの人が死んだのです。
７　人々は困り果て、モーセに泣きつきました。　「赦してください。　私たちがまちがっていました。　神様やあなたのおっしゃるとおりにしていればよかったのです。　お願いですから、毒蛇がいなくなるよう、神様に祈ってください。」　モーセは祈りました。
８　神様の答えはこうでした。　「銅で毒蛇の複製を作り、竿の先につけなさい。　かまれた者で、わたしの言うとおり素直にそれを見上げる者は、助けてやろう。」
９　モーセはさっそく複製を作りました。　かまれた者で、その複製を見上げた者は、一人残らず治りました。
１０　このあと、一行はオボテに行き、そこで野営しました。　１１そこからさらに、モアブに近い荒野にあるイエ・ハアバリム、　１２ゼレデの谷へと進み、そこに野営しました。　１３それから、モアブとエモリとの国境沿いを流れるアルノン川の向こう側に移りました。　１４アルノン川のことは、『神様の戦いの書』に、ワヘブの町を通り、　１５モアブとエモリの国境を流れている、と記されています。
１６　次に行ったのはベエル〔「井戸」の意〕です。　ここでは、神様がモーセに「水をやるから、皆を集めなさい」と命じたのです。　１７１８その時のことは、次のような歌になっています。
「水よ、どんどんわき上がれ。
喜びの歌をうたおう。
おお、すばらしい井戸。
指導者たちが
杖とシャベルで掘った井戸。」
一行は、そこで荒野を離れ、マタナ、　１９ナハリエル、バモテを通って、　２０モアブ平原の谷まで行きました。　そこはピスガ山のふもとで、山頂からは荒野がはるかに見渡せます。　２１人々は、エモリ人の王シホンに使者を送りました。
２２　「どうか、王様の国を通らせてください。　国境を越えるまでは、決して街道からそれたりいたしません。　畑を踏み荒らしたり、ぶどう園に入ったり、水を飲んだりもいたしません。」
２３　しかし、王は承知しません。　それどころか軍隊を集め、わざわざ荒野に出て、ヤハツで戦いをしかけたのです。　２４ところが王は戦死し、勝ったのはイスラエル人のほうでした。　結局、アルノン川から、北はヤボク川、東はアモンとの国境までを占領しました。　アモンとの国境は地形が険しく、それ以上は進めなかったのです。
２５２６こうして、人々はエモリ人の国を占領し、そこに住みつきました。　シホン王が治めていた時は首都だったヘシュボンも、今はイスラエル人のものです。　シホン王は以前にモアブを治めていた王を負かし、アルノン川までの全土を占領していました。　２７－３０昔の詩人が歌っているとおりです。
「シホン王の都、

ヘシュボンに来なさい。
岩のように堅い都に。
王は炎のような勢いで
モアブの町アルに攻め上り、
完全に滅ぼしてしまった。
アルノン川の高地にそびえる
あのアルを。
気の毒なモアブ、
ケモシュの神を拝む人たち、
とうとう最期がきたのだ。
息子は外国へ逃げ、
娘はエモリ人の王シホンに捕らえられた。
しかし、今やわれわれが彼らの子孫を滅ぼした。
ヘシュボンからディボンに至るまで、
メデバの近くのノファフまで。
３１３２エモリ人の国にいる間に、モーセはヤゼルのあたりにスパイを送り込みました。　よく調べてから攻めようというのです。　そして、とうとう町々を占領し、エモリ人を追い出しました。　３３次の目標はバシャンの都です。　バシャンの王オグはこれに対抗し、エデレイに兵を集めました。　３４「恐れるな。　勝敗はもう決まっている。　ヘシュボンでシホン王と戦ったように、オグ王と戦いなさい。」　神様はモーセを励ましました。　３５そのとおり、イスラエルは勝利を収めたのです。　オグ王とその王子たちから部下に至るまで、皆殺しでした。こうして、バシャンもイスラエル人のものとなりました。
二二
１さて、人々はモアブの平原に移り、ヨルダン川の東側、ちょうどエリコの町の反対側あたりに野営しました。　２３ツィポルの息子でモアブの王バラクは、イスラエル人の数があまりにも多く、エモリ人がひどい目に会ったことを知ると、恐ろしくなりました。　国民もこわがっています。　４ぐずぐずしてはいられません。　すぐ、近隣のミデヤン人の指導者たちに相談しました。
「いったいどうしたらいいんだ。　あの暴徒どもは、まるで牛が草を食い尽くすみたいに、回りの者を全滅させる。　このままじゃ絶対に助からん。」
５６相談の結果、ベオルの息子バラムを呼び寄せることになりました。　彼は、ユーフラテス川に近い、王の故郷ペトルに住んでいます。　「バラムが来ればなんとかなる。」　そう望みをかけて、王は使いをやりました。
使いの者は王のことづてを伝えました。　「イスラエル人とかいう暴徒どもが、エジプトからやって来て、国中が大騒ぎだ。　なにしろ連中は、まるで世界中を征服しそうな勢いだから、手のつけようがない。　それが、今にもわが国に攻め込んで来そうなのだ。　す

ぐ､連中をのろいに来てもらえないだろうか。　そうすれば､難なくやつらを追い出せる。やつらは強すぎて、このままではとてもかなわない。　おまえが祝福する者は祝福され、おまえがのろう者は必ず破滅するということだから、ぜひ頼みを聞いてくれないか。」
７　使いの一行は、モアブとミデヤンの最高指導者でした。　彼らは金を持って行き、大急ぎで用件を伝えました。
８　「今夜はここにお泊まりください。　あすの朝、神様がお示しになったことをお伝えしましょう」とバラムが言うので、一行はそうすることにしました。
９　その晩、神様はバラムに現われ、「この者たちはいったい何者だ」とお尋ねになりました。
１０「モアブの王バラクの使いの者でございます。１１暴徒どもがエジプトから来て、国境に迫っているから、すぐ連中をのろいに来てくれ、というのです。　戦いに勝ちたがっているのです。」
１２　「行ってはならない。　頼みを聞いてのろってはいけない。　わたしは彼らを祝福しているのだ。」
１３　翌朝、バラムは言いました。　「申しわけありませんが、お帰りください。　神様は行ってはいけないと言われました。」
１４　使いの者たちは、すごすご王のもとへ戻り、断わられたことを伝えました。　１５しかし、王はあきらめません。　もう一度、より位の高い者たちを、前よりも大ぜい送りました。　１６１７一行が持って行った親書には、こうありました。
「ぜひともおいでください。　おいでいただければ、手厚くおもてなしし、お望みのものは何でも差し上げましょう。　どうか、イスラエル人どもをのろいに来てください。」
１８　バラムはなかなか承知しません。　「たとい、金銀で飾り立てた宮殿を下さると言われても、神様の命令には逆らえません。　１９しかしまあ、この前とは別のお告げがあるかもしれませんから、今夜はここにお泊まりください。」
２０　その夜、神様はバラムに命じました。　「彼らといっしょに行ってもよい。　だがいいか、わたしが命じることだけをするのだ。」
２１　翌朝、バラムはろばに鞍をつけ、モアブの指導者たちと出かけました。　２２２３ところが、バラムが神様の命じられたとおりにしなかったので、神様は腹を立て、途中で殺してしまおうと御使いを送ったのです。　そうとは知らないバラムは、供の者二人と先を急いでいました。　と、突然、バラムのろばの前に、抜き身の剣を下げた神様の使いが、立ちはだかったではありませんか。　驚いたろばは急に駆けだし、道ばたの畑に入り込んでしまいました。 バラムはわけがわかりません。 あわてて鞭をあて、道に戻しました。
２４神様の使いは、今度はぶどう園の石垣の間の道に立っていました。　２５その姿を見るなり、ろばは身をもがき、体をぎゅっと石垣に押しつけたので、バラムは足をはさまれてしまいました。　おこったバラムは、また鞭をあてました。　２６すると、神様の使いは先に行って、道幅の狭い所に立ちふさがりました。　これでは、どうにも通りようがあ

りません。２７ろばは道にうずくまってしまいました。　バラムはとうとう頭にきて、ろばをひっぱたきました。
２８　このとき急に、ろばが口をききました。　神様がそうなさったのです。　「どうして三度もぶつんですか。」
２９　「おれをばかにしたからだ。　剣があれば、切り殺してやるところだ。」
３０　「でも、これまでに、私が一度でもこんなことをしたでしょうか。」
「いや、ない。」
３１　その時バラムの心の目が開き、剣を抜いて行く手に立ちはだかっている神様の使いが見えました。　バラムはびっくりして、その方の前にひれ伏しました。
３２　「なぜ、ろばを三度もぶったのか。　おまえが破滅の道を進んでいるので、止めに来てやったのだ。　３３ろばはわたしを見て、三度ともしりごみした。　そうでもしなかったら、今ごろは、ろばは助かっても、おまえの命はなかったのだぞ。」
３４　「私がまちがっておりました。　お赦しください。　神様のお使いがおいでになろうとは、気がつきませんでした。　これ以上進むなと申されるなら、引き返します。」
３５　「いや、このまま行け。　ただし、わたしが命じることだけを言うのだ。」
バラムは一行と旅を続けました。　３６バラク王は、バラムが途中まで来ていると聞いて待ちきれず、わざわざ国境のアルノン川まで迎えに出ました。
３７　「なぜ、こんなに遅くなったのかね。　絶対に悪いようにはしないと約束したのに、信じてくれなかったのか。」
３８　「王様、おおせに従い、参るにはまいりましたが、残念ながら、神様が命じることしか言えません。　申し上げることはそれだけです。」　３９バラムは、王といっしょにキルヤテ・フツォテに行きました。４０王はそこで、牛と羊をいけにえとしてささげ、バラムや使いの者たちにも、いけにえ用の動物を与えました。　４１翌朝、王はバラムをバモテ・バアル山の頂上に連れて行きました。　そこから見下ろすと、大ぜいのイスラエル人が集まっているのが見えます。
二三
１　バラムは王に言いました。　「ここに、祭壇を七つ築き、若い雄牛と若い雄羊を七頭ずつ用意していただきましょう。」
２　王は指図どおり、雄牛と雄羊を一頭ずつ、それぞれの祭壇の上でいけにえとしてささげました。
３４「ここでお待ちください。　神様が何と言われるか聞いてまいりましょう。」　こう言うと、バラムは木も生えていない山の頂上に登って行きました。　そこへ神様が現われたので、バラムは言いました。　「七つの祭壇を用意し、それぞれに若い雄牛と雄羊を一頭ずつ、いけにえとしておささげいたしました。」　５神様は王に伝えることを教えました。
６　戻ってみると、王はモアブの指導者全員とともに、完全に焼き尽くすいけにえのそばに立っています。　７－１０バラムは言いました。

「王様、あなた様は私を
東のアラムの国から呼び寄せ、
『イスラエル人どもをのろい、
全滅させてくれ』
とお頼みになりました。
ああ、しかし、
神様がのろわないのに、
どうしてのろえましょう。
神様が滅ぼすと言われないのに、
どうして滅びると言えましょう。
山のいただきから眺め、
丘の上からよく見ると、
イスラエル人はどの国民とも違います。
あんな国民は見たこともありません。
まるで海辺の砂のように大ぜいで、
とても数えきれません。
死ぬ時は、私もイスラエル人のように
しあわせに死にたいものです。」
１１　「なんだと！　敵をのろってくれとは頼んだが、祝福しろと言った覚えはないぞ。」
１２　「何と言われましても、神様が言えとおっしゃること以外は申し上げられません。」
１３　「そうか、じゃあこっちへ来い。　やつらがほんの一部しか見えない所へな。　そのくらいの数なら、のろってもかまわないだろうが。」
１４　王はバラムをピスガ山の頂上のセデ・ツォフィムの原に連れて行き、そこに祭壇を七つ築き、それぞれに若い雄牛と雄羊を一頭ずついけにえとしてささげました。
１５　バラムは王に言いました。　「神様にお会いして来る間、祭壇のそばに立っていてください。」　１６神様はバラムに現われ、何を言ったらよいかを教えました。　１７バラムはさっそく王や指導者たちのところへ戻りました。　そばには、完全に焼き尽くすいけにえがあります。
王はじれったくてしかたありません。　じりじりしながら尋ねました。　「それでどうなんだ。　えーい、神様は何と言われたんだ！」
１８－２４バラムはきっぱり答えました。
「よろしいですか、ツィポル殿のご子息であられる王様。
お聞きもらしになりませんように、
よくお聞きください。
神様は人間と違って、うそなどおつきになりません。
神様が約束を実行なさらなかったことがあるでしょうか。

その神様が、『祝福しなさい』とお命じになったのです。
神様の祝福を変えることはできません。
イスラエル人に悪いところはないのだから、
災いに会うこともありません。
神様が彼らとともにおられ、
イスラエル人は彼らの王をたたえています。
神様は彼らをエジプトから連れ出しました。
神様はイスラエルのために野牛のように戦います。
イスラエルには、のろいも魔術も通じません。
　　『イスラエルの神様は、なんと不思議なことをなさるのだ』と
だれもが言うでしょう。
彼らはライオンのように立ち上がり、
獲物を食い尽くし、その血を吸い尽くすまで
休もうとはしません。」
２５　「えーい、もうやめろっ！　のろわないなら、せめて祝福することだけはやめてくれ！」　王はこらえきれずに叫びました。
２６　「王様、私は、神様がお告げになったことだけをお伝えすると、前に申し上げたではありませんか。」
２７　「それなら、また別の場所へ連れて行ってやろう。　そこからなら、やつらをのろってもいいと、神様は言われるかもしれない。」
２８　王はバラムを、荒野を見下ろすペオル山の頂上に連れて行きました。　２９バラムが、「祭壇を七つ築き、若い雄牛と雄羊を七頭ずついけにえにしてください」と頼むと、　３０王は言われたとおり、それぞれの祭壇に一頭ずつ、雄牛と雄羊をささげました。
二四
１　バラムはもう、神様がイスラエル人を祝福なさることがよくわかっていたので、これまでのように、わざわざ神様にお会いしようとはしませんでした。　その代わり、すぐさまイスラエル人の野営地を眺めに行きました。　２見ると、部族ごとに一まとまりになったテントの列が、平原を横切って、はるかかなたまで延びているではありませんか。
その時、神様の霊がバラムに下り、　３－９こう預言しました。
「ベオルの息子バラムが知っていることは、こうです。
私は目のよく見える者です。
私は神様のおことばを聞き、
全能の神様がお見せくださったものを見ました。
神様の前にひれ伏すと、
それまで見えなかったものが見えるようになりました。
ああ、イスラエルはやがて繁栄し、

大いに祝福されます。
緑におおわれた谷間のように、家々は建ち並び、
川辺の豊かな果樹園のように、
神様が植えたかぐわしいアロエのように、
川のそばに植えた杉の木のように、水を吸って大きくなり、
どんどん領地を広げていくでしょう。
彼らの王はアガグよりも偉大で、
人々は口々にイスラエルのすばらしさをほめるでしょう。
神様は彼らをエジプトから連れ出されました。
イスラエルは野牛のように強く、
敵対する国々を全滅させるでしょう。
敵をさんざん打ち負かし、
矢を雨あられと射かけるでしょう。
ライオンのようにうずくまり、
眠っているイスラエル。
その目を覚まさせたら大へんです。
だから、イスラエルを祝福する人はしあわせになり、
のろう人は不幸になるでしょう。」
１０　もう我慢できません。　あまりのことに、王はもうれつに腹を立てました。　顔は真っ青です。　怒りに身を震わせ、もうたくさんだとばかりに、どなりつけました。　「いいかげんにしろっ！　おまえを呼んだのは、やつらをのろってもらうためだ。　それがどうだ。口を開けば祝福ばかりしおって。　それも一度や二度じゃない。　三度、三度もだぞ。　１１もういい、とっとと国へ帰れ。　手厚くもてなすつもりだったが、神様がじゃまするんじゃどうにもならん。」
１２１３「王様、あのとき使いの方に、『たとい、金銀で飾り立てた宮殿をいただいても、神様のおことばに背けません。　かってに自分の考えを言うわけにはまいりません。　ただ神様の言われることだけを申し上げましょう』と、はっきり念を押したはずです。　１４おっしゃるとおり、帰らせていただきます。　しかしその前に、お国がこれからどんな目に会うか申し上げましょう。」
１５‐１９バラムは王に預言しました。
「ベオルの息子バラムが知っていることは、こうです。
私は目のよく見える者です。
私は神様のおことばを聞き、そのお考えを知り、
そのなさることを見ました。
神様の前にひれ伏すと、目が見えるようになり、
イスラエルの将来が見通せたのです。

いつか、ずっと先のことですが、
イスラエルから一つの星が輝き出ます。
一人の王が起こり、モアブ人を打ち破り、
セツの子孫を滅ぼすのです。
エドムとセイルの全土は、イスラエルのものとなります。
イスラエルは向かうところ敵なく、
その全地を治め、町々を全滅させます。」
２０　このあとバラムは、アマレク人の住む地方を見渡して預言しました。
「これまで最も強い国だったアマレク。
そのアマレクもやがて滅びるのです。」
２１２２次に、ケニ人の国を見渡して言いました。
「ケニ人の国は土台がしっかりし、
回りを岩山に囲まれて安全です。
しかしこの国も、いつかは滅びます。
アッシリヤの王がどっと攻め寄せ、
国民を捕らえ、外国へ連れ去るのです。」
２３２４最後にバラムは、こう締めくくりました。
「神様がこのとおりになさったら、
だれひとり生き残れません。
力を誇ったエベルやアッシリヤも
キプロスから攻め上る船団に手を焼き、
ついには、ひとたまりもなく滅びます。」
２５　預言し終えると、バラムはさっさと国へ帰り、バラク王も自分のところへ帰りました。
二五
１　さて、イスラエルの人々がモアブのシティムに野営していた時のことです。　青年たちの何人かが、土地の娘とふしだらなことをし始めました。　２モアブ人の信じる神々にいけにえをささげる儀式に参列するよう、そそのかされたのです。　やがて青年たちは、宴会につらなるばかりか、本当の神様でない偶像を拝むようになりました。３そのうえ、イスラエル人が、ペオル山で、進んでモアブの神バアルを拝むほどになったのです。　神様がもうれつに腹を立てたのは、言うまでもありません。
４　そこで、神様はモーセにきびしく命じました。
「部族長全員を死刑にせよ。　白日のもとで、わたしの前にさらし者とするのだ。　そうすれば、おまえたちを赦してやろう。」
５　モーセは、バアルを拝んだ者を一人残らず死刑にするよう、裁判官に命令しました。
６　ところが、人々が神の天幕の入口に集まって泣いているところへ、ずうずうしくも、

一人の男がミデヤン人の娘を連れて来ました。　それも、モーセをはじめ国民全員の目の前にです。　７エルアザルの息子で、祭司アロンの孫にあたるピネハスは、それを見るなり槍を取り、　８男のあとを追いました。　テントの中に駆け込むと、二人は奥で寝ています。　間髪を入れず槍で突き刺しました。　槍は男の背を抜け、女の腹をも刺し貫きました。 これで神様の罰はやみましたが、 ９すでに二万四千もの人が死んだあとでした。
１０１１このことがあってから、神様はモーセに告げました。　「エルアザルの息子で、祭司アロンの孫にあたるピネハスは見上げたものだ。　わたしの顔を立てようと、悪事に目をつぶらず、手加減もしなかった。　それでわたしの気もすんだから、罰を下すのはやめたのだ。　１２１３そのほうびに彼に約束しよう。　あんなにもわたしのことを思ってくれ、勇気を出して人々のいのちを救ったからだ。　彼の子孫は永遠に祭司の職につくだろう。」
１４　ところで、ミデヤン人の娘といっしょに殺された男はジムリといって、シメオンの部族長サルの息子でした。　１５女のほうはミデヤン人の王子ツルの娘で、コズビといいました。
１６１７神様はモーセに命じました。　「ミデヤン人を滅ぼしなさい。１８向こうも、あなたがたを滅ぼそうと策略をめぐらしているからだ。バアルを拝ませて道を誤らせようとしている。　コズビの事件がいい例だ。」
二六
１　罰がやんだあと、神様は、モーセとアロンの息子エルアザルとに命じました。　２「部族ごと、氏族ごとに、二十歳以上の男の数を調べなさい。　戦いに出られる者が何人いるか確かめるのだ。」
３４そこで二人は、部族長全員に調査を命じました。　ちょうど、ヨルダン川の東側、エリコの向かいあたりにある、モアブ平原に野営している時でした。
５－１１ルベン部族――四万三千七百三十人
ルベンはヤコブの長男です。　この部族は、さらに四つの氏族に分かれます。　その先祖はみなルベンの息子です。
エノク氏族
パル氏族
　パルの息子の一人エリアブから、ネムエル一族、アビラム一族、ダタン一族が出ました。このダタンとアビラムは、コラと手を組んでモーセとアロンに逆らい、神様に盾を突いた謀反人です。　彼らにはたちまち天罰が下りました。　地面が裂けて、まっさかさまに落ち込んでしまったのです。　その日はまた、全国民への見せしめとして、彼らの誘いにのった二百五十人の者も、神様に焼き殺されました。
ヘツロン氏族
カルミ氏族
１２－１４シメオン部族――二万二千二百人

この部族には、シメオンの息子が起こした五つの氏族があります。
ネムエル氏族
ヤミン氏族
ヤキン氏族
ゼラフ氏族
サウル氏族
１５‐１８ガド部族――四万五百人
この部族に含まれる氏族は七つで、みなガドの息子から出たものです。
ツェフォン氏族
ハギ氏族
シュニ氏族
オズニ氏族
エリ氏族
アロデ氏族
アルエリ氏族
１９‐２２ユダ部族――七万六千五百人
この部族に属する氏族は、ユダの息子の名を受け継いでいますが、カナンで死んだエルとオナンは含まれません。
シェラ氏族
ペレツ氏族
ゼラフ氏族
この調査には、さらにペレツから出た一族も含まれていました。
ヘツロン一族
ハムル一族
２３‐２５イッサカル部族――六万四千三百人
この部族には四つの氏族があり、それぞれイッサカルの息子の名を受け継いでいます。
トラ氏族
プワ氏族
ヤシュブ氏族
シムロン氏族
２６２７ゼブルン部族――六万五百人
この部族の氏族はゼブルンの息子が起こしたもので、次の三つです。
セレデ氏族
エロン氏族
ヤフレエル氏族
２８‐３７ヨセフ部族――エフライム部族――三万二千五百人

――マナセ部族――五万二千七百人
マナセ部族には、先祖マキルの名を継いだマキル氏族があります。
マキルからは、さらにギルアデ一族が出ました。
ギルアデ一族は次のとおりです。
イエゼルの一家
ヘレクの一家
アスリエルの一家
シェケムの一家
シェミダの一家
ヘフェルの一家
ヘフェルの息子ツェロフハデには息子がなかったので、娘の名をあげておきます。
マフラ、ノア、ホグラ、ミルカ、ティルツァ
エフライムの部族で登録された三万二千五百人の中には､次のような氏族があります。 みなエフライムの息子の名を受け継いだものです。
シュテラフ氏族
　シュテラフ氏族からは、その息子エランの名をとったエラン一族が出ました。
ベケル氏族
タハン氏族
３８‐４１ベニヤミン部族――四万五千六百人
この部族では、ベニヤミンの息子が氏族を起こしました。
ベラ氏族
ベラの息子たちが起こした一族は次のとおりです。
アルデ一族
ナアマン一族
アシュベル氏族
アヒラム氏族
シェフファム氏族
フファム氏族
４２４３ダン部族――六万四千四百人
この部族には、ダンの息子シュハムが起こしたシュハム氏族があります。
４４‐４７アシェル部族――五万三千四百人
この部族では、アシェルの息子が次にあげる氏族を起こしました。
イムナ氏族
イシュビ氏族
ベリア氏族
ベリアの息子が起こした一族は、次の二つです。

ヘベル一族
マルキエル一族
アシェルにも、セラフという名の娘がいました。
４８‐５０ナフタリ部族――四万五千四百人
この部族は四つの氏族に分かれます。　それぞれナフタリの息子が起こしたものです。
ヤフツェエル氏族
グニ氏族
エツェル氏族
シレム氏族
５１　以上、戦いに出られる者の数は、全部で六十万一千七百三十人でした。
５２５３調査の結果がわかると、神様はモーセに命じました。　「調べた人数の割合で、各部族に土地を割り当てなさい。　５４人数の多い部族には広い土地を、少ない部族には狭い土地を与えるのだ。
５５５６大きい部族の代表には広い土地が当たるくじを、小さい部族の代表には狭い土地が当たるくじを引かせなさい。
５７　さて、人口調査で登録されたレビ部族の中の氏族は、次の三つです。
ゲルション氏族
ケハテ氏族
メラリ氏族
５８５９レビ部族に含まれる一族は、次のとおりです。
　リブニ一族、ヘブロン一族、マフリ一族、ムシ一族、コラ一族
レビには、エジプトでヨケベデという娘が生まれました。　この娘がのちに、ケハテの息子アムラムの妻になったのです。　こうして、アロン、モーセ、ミリヤムが生まれました。
６０アロンの息子は、ナダブ、アビフ、エルアザル、イタマルの四人です。　６１しかしナダブとアビフは、規則に反して神様の前で火をたいたために死にました。
６２　今回の調査では、レビ部族の生後一か月以上の男の数は、全部で二万三千人でした。レビ部族はイスラエルの総人口には含まれません。　彼らには土地が与えられないからです。　６３以上が、ヨルダン川の東、エリコの向かいあたりにあるモアブ平原で、モーセとエルアザルが行なった人口調査の結果です。　６４６５シナイの荒野での調査で登録された者は、今回の調査には一人も含まれていません。　当時の大人はみな、神様が言われたとおり、荒野で死んでしまったのです。　ただ、エフネの息子カレブと、ヌンの息子ヨシュアは別でした。
二七
１２そんなある日のことです。　ツェロフハデの娘マフラ、ノア、ホグラ、ミルカ、ティルツァの五人が、神の天幕の入口に来て、モーセ、エルアザル、部族長をはじめ、そこに居合わせた者たちに願い出ました。　この娘たちは、ヨセフの息子マナセの部族の者で、

先祖はマナセの息子マキルでした。　彼女たちの曾祖父ギルアデは、マナセの孫にあたります。　父親のツェロフハデはヘフェルの息子で、ギルアデには孫になります。
３４「皆さん、父は荒野で死にました。　別にコラの謀反に加わったわけではありませんが、とにかく死んだのです。　ただ困ったことに、父には跡取り息子がありませんでした。でも、だからといって、父の家系を絶やしたくはありません。　私たちは女ですが、伯父たちと同じように、土地を割り当てていただけないでしょうか。」
５　モーセはこの訴えをどう扱ったらよいか、神様に尋ねました。
６７神様の答えはこうでした。　「ツェロフハデの娘たちの言うとおりだ。　土地をやりなさい。　父親が生きていたらもらうはずの土地を、分けてやるのだ。　８こんな時のために、次の法律をつくりなさい。　息子のない人が死んだら、遺産は娘が相続してかまわない。９もし娘もいなければ兄弟に、　１０兄弟もいなければ伯父に、　１１伯父もいなければ、いちばん近い親せきの者に相続させなさい。」
１２　ある日、神様はモーセに命じました。　「アバリム山に登り、川向こうの、わたしが与えると約束した土地を見渡しなさい。　１３そのあとで、あなたは兄のアロンと同じように死ぬ。１４二人とも、ツィンの荒野で、わたしの指図に従わなかったからだ。人々が水が欲しいと騒いだ時、わたしは岩に命じて水を出させろと言ったのに、そのとおりにしなかった。　おかげで、わたしのすばらしさを十分に示せなかったのだ。」　神様が言われたのは、ツィンの荒野にあるカデシュでの、メリバ〔「争いの場」の意〕の水の事件のことです。
１５　モーセは神様に申し上げました。　１６「すべての人間の心を支配なさる神様、死ぬ前にお願いがあります。　私が死んだら、だれが国民を指導するのでしょう。　１７戦いを指揮し、国民を守る指導者を選んでください。　どうか、神様が特別に目をかけてくださるこの国民を、飼い主のない羊のようにしないでください。」
１８　「では、ヌンの息子ヨシュアを呼びに行きなさい。　ヨシュアは神の知恵と力を持っている。　１９彼を祭司エルアザルのところへ連れて行き、全国民の前で指導者に任命しなさい。　２０あなたの権威を正式に譲り渡し、全国民が彼に従うようにするのだ。　２１わたしの指図が必要になったら、彼は祭司エルアザルに相談する。　エルアザルがウリム（神意をうかがう一種のくじ）を使って聞けば、わたしは答えよう。　それを、エルアザルはヨシュアと国民に知らせる。　このようにして、わたしはこれからもイスラエルを指導する。」
２２　モーセは言われたとおり、ヨシュアを祭司エルアザルのところへ連れて行きました。そして全国民の前で、　２３ヨシュアの頭に手を置き、新しい指導者に任命しました。
二八
１２神様はまた、モーセに命じました。　「人々にこう教えなさい。　祭壇で焼いてささげるいけにえは、わたしの食物だ。　わたしはそれを楽しみにしている。　だから、毎日きちんと、わたしが教えたとおりにささげなさい。

３　火で焼くいけにえには、傷のない一歳の雄の子羊を使う。　毎日二頭ずつ、完全に焼き尽くすいけにえをささげる。　４朝に一頭、夕方に一頭だ。　５それといっしょに、細かくひいた粉三・六リットルに一・五リットルの油を混ぜ合わせたものを、穀物の供え物としてささげる。　６シナイ山で定めたとおりだ。　良い香りのする、火で焼くささげ物として、毎日きちんとささげなければならない。　７そのほかに、子羊一頭につき一・五リットルの強いぶどう酒を、飲み物の供え物としてささげ、聖所のわたしの前で注ぐ。　８夕方には、もう一頭を、穀物の供え物、飲み物の供え物といっしょにささげる。　それもまた、良い香りのする、火で焼くささげ物なのだ。
９１０安息日には、いつものささげ物のほかに、傷のない一歳の雄羊を二頭ささげる。　上等の小麦粉七・二リットルに油を混ぜた穀物の供え物と、ふだんと同じ飲み物の供え物を、いっしょにささげるのだ。
１１　さらに、毎月一日（ユダヤ暦による）には、完全に焼き尽くすいけにえを特別にささげる。　傷のない若い雄牛二頭、雄羊一頭、一歳の雄の子羊七頭だ。　１２雄牛一頭につき、細かくひいた粉十・八リットルに油を混ぜた、穀物の供え物をささげる。　雄羊には、これも細かくひいた粉七・二リットルに油を混ぜたもの、　１３子羊なら、同じような粉三・六リットルに油を混ぜたものをささげる。　これは、わたしの大好きな火で焼くいけにえだ。　１４このほかに、それぞれのいけにえに飲み物の供え物をつける。　雄牛一頭につきぶどう酒三リットル、雄羊には二リットル、子羊には一・五リットル。　以上が、月ごとにささげる完全に焼き尽くすいけにえの決まりだ。
１５　一日にはまた、罪が赦されるためのいけにえとして、雄やぎを一頭ささげる。　毎日ささげるいけにえや飲み物の供え物のほかに、これをささげるのだ。
１６　毎年一月十四日（ユダヤ暦による。　太陽暦では三月末）に過越の祭りを祝いなさい〔これは、イスラエル人がエジプトを脱出する時、エジプト人の長男を皆殺しにするために来た神様の使いが、イスラエル人の長男は見のがしてくれたことを感謝し、記念する祭り〕。　１７翌日から一週間は、盛大な祭りを祝う。　この間は、イースト菌入りのパンは食べられない。　１８最初の日には、全国民が仕事を休み、わたしの前で聖なる集会を開く。　１９その時、傷のない若い雄牛二頭、雄羊一頭、一歳の雄の子羊七頭を、完全に焼き尽くすいけにえとしてささげなさい。　２０２１それに穀物の供え物として上等の粉に油を混ぜたものを、雄牛一頭につき十・八リットル、雄羊には七・二リットル、子羊には三・六リットルずつささげる。　２２また、罪を赦してもらうために、雄やぎ一頭を、罪が赦されるためのいけにえとしてささげなさい。　２３毎日するささげ物のほかに、以上のささげ物をしなければならない。２４祭りのあいだ中、毎日、同じいけにえをささげる。　わたしはそのいけにえが大好きだ。　２５そして七日目にはまた、全国民が仕事を休み、神聖な集会を開くのだ。
２６　七週の祭り〔のちのペンテコステの祭り〕とも言われる刈り入れの祭りの日には、収穫を祝う神聖な集会を開きなさい。　その日には、どんな仕事も休み、穀物の供え物と

して初物をささげる。　２７また、わたしが何よりも好きな完全に焼き尽くすいけにえを、特別にささげなさい。　若い雄牛二頭、雄羊一頭、一歳の雄の子羊七頭だ。　２８２９それに、油を混ぜた上等の粉を穀物の供え物として、雄牛一頭につき十・八リットル、雄羊には七・二リットル、子羊には三・六リットルずつつける。　３０また、罪が赦されるために、雄やぎを一頭ささげる。　３１　この特別ないけにえは、いつもの完全に焼き尽くすいけにえ、穀物の供え物、飲み物の供え物のほかにささげる。　いけにえにする動物は、必ず傷のないものでなければならない。
二九
１　毎年九月十五日〔ユダヤ暦では七月一日〕は祝日とし、ラッパを吹き鳴らしなさい。その日は全国民が仕事を休み、神聖な集会を開く。２そして、傷のない若い雄牛一頭、雄羊一頭、一歳の雄の子羊七頭を、完全に焼き尽くすいけにえとしてささげる。　わたしはこのいけにえが大好きだから、喜んで受け取ろう。　３４それにつける穀物の供え物は、油を混ぜた上等の粉が、雄牛には十・八リットル、雄羊には七・二リットル、子羊には一頭につき三・六リットルの割合だ。　５そのほかに、罪を赦してもらうため、雄やぎを一頭、罪が赦されるためのいけにえとしてささげる。　６これは、新月ごとの完全に焼き尽くすいけにえ、毎日の完全に焼き尽くすいけにえ、穀物の供え物、飲み物の供え物のほかに特別にささげる物で、すべて法律に決められているとおりだ。
７　十日後の二十五日に、もう一度、全国民が集まって神聖な集会を開く。　その日は、どんな仕事も休み、身を慎んで静かに過ごさなければならない。　８その日はまた、わたしの大好きな完全に焼き尽くすいけにえとして、傷のない若い雄牛一頭、雄羊一頭、一歳の雄の子羊七頭をささげる。　９１０それといっしょに、上等の粉に油を混ぜた穀物の供え物をする。　雄牛には十・八リットル、雄羊には七・二リットル、子羊には一頭につき三・六リットルの割合だ。　１１そのほかに、罪が赦されるためのいけにえとして、雄やぎを一頭ささげる。これは、毎年九月二十五日の赦しの日にささげる、罪が赦されるためのいけにえとは別だ。　また、毎日の完全に焼き尽くすいけにえ、穀物の供え物、飲み物の供え物とも別なのだ。
１２　さらに五日後の三十日にも、国中が仕事を休み、神聖な集会を開く。　その日から一週間、わたしのために祭りをするのだ。　１３まず最初の日は、わたしの好きな完全に焼き尽くすいけにえとして、傷のない若い雄牛十三頭、雄羊二頭、一歳の雄の子羊十四頭をささげなさい。　１４それといっしょに、穀物の供え物をする。　油を混ぜた小麦粉を、一頭につき、雄牛の場合は十・八リットル、雄羊には七・二リットル、　１５子羊には三・六リットルささげる。　１６毎日のいけにえや供え物のほかに、さらに雄やぎ一頭を、罪が赦されるためのいけにえとして、ささげなければならない。
１７　祭りの二日目には、傷のない若い雄牛十二頭、雄羊二頭、一歳の雄の子羊十四頭をいけにえにする。　１８それといっしょに、いつもと同じ割合で、穀物と飲み物の供え物をそれぞれささげる。　１９このほかに、雄やぎ一頭を、毎日のいけにえや供え物とは別

に、罪が赦されるためのいけにえとしてささげる。
２０　三日目には、傷のない若い雄牛十一頭、雄羊二頭、一歳の雄の子羊十四頭をささげる。　２１それぞれといっしょに、いつものとおりの割合で、穀物と飲み物の供え物をする。　２２そのほか、毎日のいけにえや供え物とは別に、雄やぎ一頭を、罪が赦されるためのいけにえとしてささげる。
２３２４四日目には、傷のない若い雄牛十頭、雄羊二頭、一歳の雄の子羊十四頭を、穀物と飲み物の供え物といっしょにささげる。　２５また雄やぎ一頭を、毎日のいけにえや供え物とは別に、罪が赦されるためのいけにえとしてささげる。
２６２７五日目には、傷のない若い雄牛九頭、雄羊二頭、一歳の雄の子羊十四頭を、いつもと同じ、穀物と飲み物の供え物をつけてささげる。２８ほかに、罪が赦されるためのいけにえとして、毎日のいけにえや供え物とは別に、雄やぎを一頭ささげる。
２９３０六日目には、傷のない若い雄牛八頭、雄羊二頭、一歳の雄の子羊十四頭を、いつもと同じ、穀物と飲み物の供え物をつけてささげる。　３１さらに雄やぎ一頭を、毎日のいけにえや供え物とは別に、罪が赦されるためのいけにえとしてささげる。
３２３３七日目にも、やはり傷のない若い雄牛七頭、雄羊二頭、一歳の雄の子羊十四頭を、いつもと同じ、穀物と飲み物の供え物をつけてささげる。　３４また罪が赦されるためのいけにえとして、毎日のいけにえや供え物とは別に、雄やぎを一頭ささげる。
３５　八日目には国中が仕事を休み、神聖な集会を開く。　３６３７そして、わたしの大好きな完全に焼き尽くすいけにえをささげるのだ。　傷のない若い雄牛一頭、雄羊一頭、一歳の雄の子羊七頭を、いつもと同じ割合の、穀物と飲み物の供え物をつけてささげる。
３８そのほかに、罪が赦されるためのいけにえとして、毎日のいけにえや供え物とは別に、雄やぎを一頭ささげる。　３９祭りの時はいつも、以上のようなささげ物をしなければならない。　これは、誓願を立てるか自発的に約束するかしてささげる、完全に焼き尽くすいけにえ、穀物の供え物、飲み物の供え物、あるいは和解のためのいけにえとは、別のものだ。」
４０　モーセはこの命令を、一つ残らず人々に伝えました。
三〇
１２さてモーセは、部族長を集めて言いました。「神様に誓ったことは必ず守りなさい。何かをする、あるいはやめると誓ったら、そのとおり実行しなければなりません。　神様がそう命じておられるのです。
３４ただ、結婚前でまだ父親のやっかいになっている女性の場合は、少し違います。　そういう女性が誓いを立て、違反したら罰せられてもかまわないと言った場合は、父親の同意がいるのです。　そのことを聞いて、父親が何も言わなければ、誓いはそのまま有効です。　５しかし、父親が認めなかったり、罰が重すぎると考えた時は、それだけで無効になります。　ただし、そのことを聞いた日のうちに、はっきり『認めない』と言わなければなりません。　父親が認めなかったのだから、娘は誓いを果たさなくても罰せられませ

ん。
６　娘がよく考えもしないで誓いを立て、そのあと結婚した場合は、どうでしょう。　７夫がそのことを聞いた日に何も言わなければ、誓いはそのまま有効です。　８しかし、夫が『認めない』と言えば無効になります。　妻は、誓いを果たさなくても罰せられません。
９　未亡人や離婚した女性の場合は、自分で立てた誓いは果たさなければなりません。
１０　結婚して、夫といっしょに暮らしている時に誓いを立てた女性の場合は、　１１夫がそれを聞いて何も言わなければ、誓いは有効です。１２しかし、聞いた日のうちに『認めない』と言えば無効です。　そして、妻も罰せられません。　１３夫は妻の立てた誓いを認めることも､無効にすることもできますが、１４その日のうちに何も言わなければ､同意したことになります。　１５あとになって『誓いを認めない』と言っても、だめです。そればかりか、妻が受けるはずの罰を、代わりに受けなければなりません。」
１６　以上が、誓いを立てる場合、夫と妻、父親と結婚前の娘がどういう関係にあるかをはっきりさせた、神様の命令です。
三一
１　それからまた、神様はモーセに命じました。　２「ミデヤン人に仕返しをしなさい。ほんとうの神でない偶像を拝めとそそのかした罰だ。　それがすんだら、あなたは死ぬ。」
３　そこで、モーセは人々に言いました。　「さあ、神様の命令だ。　武器を取って、ミデヤン人どもと戦え。　４５各部族から千人ずつ兵を出すのだ。」　直ちにこのとおりにされ、一万二千人が戦場に送られました。　６祭司エルアザルの息子ピネハスもいっしょです。　進軍ラッパを鳴らし、聖なる器を持っていく役だからです。　７戦いは大勝利でした。　敵方の男は皆殺しで、　８ミデヤン人の五人の王、エビ、レケム、ツル、フル、レバも、あえない最期を遂げました。　あのベオルの息子バラムも、この戦いで死にました。
９‐１１イスラエル軍は女と子供を全員捕虜にし、牛や羊のほか、いろいろな戦利品を奪い、町や村を一つ残らず焼き払いました。　１２１３捕虜を引っ立て、戦利品を山ほどかかえて、意気揚々と引き揚げて来た一行を、モーセや祭司エルアザルをはじめ、指導者たちが迎えました。　その時、人々はまだヨルダン川の東側で、エリコの向かいあたりにあるモアブ平原に、野営していたのです。　１４ところが、モーセは一行を見るなり、将校や指揮官をしかりつけたではありませんか。
１５　「なぜ女たちを生かしておいたのかっ。　１６あのバラムの勧めに従って、ペオル山で偶像を拝めとそそのかしたのは、この連中だぞ。　おかげで、大ぜいの者が伝染病にかかって死んだ。　１７男の子と、男と寝たことのある女は生かしておくな。　１８女の子だけは助け､めいめいが引き取ってもかまわない。　１９ところで､殺害に加わった者､死体にさわった者はみな、七日間は野営地に入ってはならない。　そして三日目と七日目に、自分と捕虜の身をきよめるのだ。　２０また衣服、皮や山羊の毛や木で作った物なども全部きよめるのを忘れるな。」
２１　祭司エルアザルも兵士たちに言いました。　「神様がモーセに命じたのは、こうい

うことだ。　２２金、銀、青銅、鉄、すず、鉛など、燃えない物はみな、　２３火で焼ききよめ、それからきよめの水できよめる。　燃える物は水できよめるだけでかまわない。２４そして七日目に、衣服を洗い、身をきよめてから、野営地に戻りなさい。」
２５　神様はモーセに命じました。　２６「祭司エルアザルや部族長たちといっしょに、捕虜、家畜、戦利品の数を表にまとめなさい。　２７それを、兵士と国民とに半分ずつ分けるのだ。　２８兵士はその中から、捕虜、牛、ろば、羊の五百分の一を、税として差し出さなければならない。　それはわたしの取り分だからだ。　２９祭司エルアザルがそれを受け取り、神への奉納物としてささげる。　３０また国民も同じように、分け前の捕虜や家畜のそれぞれ二パーセントを、税として納めなければならない。　それはわたしの取り分だから、天幕で働くレビ部族に与えるのだ。」
３１　そこでモーセと祭司エルアザルは、命じられたとおりにしました。３２－３５宝石、衣服などを除いた戦利品の総計は、羊六十七万五千頭、牛七万二千頭、ろば六万一千頭、少女三万二千人でした。
３６－４０この半分が兵士の分け前です。
羊三十三万七千五百頭〔うち神様にささげたのは六百七十五頭〕
牛三万六千頭〔うち神様にささげたのは七十二頭〕
ろば三万五百頭〔うち神様にささげたのは六十一頭〕
少女一万六千人〔うちレビ部族に与えられたのは三十二人〕
４１　命令どおり、神様の取り分はみな税として、祭司エルアザルが受け取りました。
４２－４６兵士の分とは別に、国民も全く同じだけの分け前がもらえます。４７神様の命令どおり、その二パーセントはレビ部族のものになります。
４８４９その時、将校や指揮官たちが、モーセに申し出ました。　「兵士の数を調べたところ、出兵した者は全員無事に戻ってまいりました。　５０そこで、戦利品の中から、金製の腕飾り、腕輪、くるぶしの飾り輪、指輪、イヤリング、ネックレスなどをささげて、感謝の気持ちを表わしたいのです。　どうかこれをお納めください。　全員のいのちが守られたお礼でございます。」
５１５２モーセと祭司エルアザルは、ささげ物を受け取りましたが、全部で九千万円以上にもなりました。　５３このほかにも、兵士たちはそれぞれ戦利品を持っているのです。
５４ささげ物は、神の天幕に運び、戦勝の記念品として、たいせつに保存することになりました。
三二
１　さて、イスラエルの中でもルベン部族とガド部族は、羊をたくさん持っていました。その羊を飼うには、今いるヤゼルやギルアデの地域が最適です。　２そこで、モーセと祭司エルアザル、部族長たちに願い出ました。　３４「神様は私たちに味方して、このあたりのアタロテ、ディボン、ヤゼル、ニムラ、ヘシュボン、エルアレ、セバム、ネボ、ベオンの住民をみな滅ぼされました。　ここはもともと、羊を飼うには理想的な所です。　５

ヨルダン川の向こう側の土地はいりませんから、ここを私たちにください。」
６　モーセは答えました。　「ほかの者が向こう側へ渡って、これからも戦いを続けるのに、ここに残りたいと言うのか。　７神様が下さる国へ進んで行こうとする、他の部族の意気をくじくつもりか。　８それじゃあ、先祖たちとちっとも変わらないぞ。　四十年前、カデシュ・バルネアからスパイを送り込んでカナンの地を探らせた時、　９エシュコルの谷から戻って来た連中は、何と言ったか。　あきれたことに、約束の国へは上って行かないほうがいいと言いはって、みんなの意気をくじいたのだ。　１０１１もちろん、神様はもうれつに腹を立て、『エジプトから助け出された者のうち、二十歳以上の者にはだれ一人、アブラハム、イサク、ヤコブに与えると誓った国は見せない』と断言なさった。　神様のお考えに従おうとしなかったからだ。　１２しかし、ケナズ一族のエフネの息子カレブとヌンの息子ヨシュアは違う。　神様の言われるとおり、あくまでも約束の国へ行こうと、熱心に勧めたのだ。
１３　神様に背いた者がみな死んでしまうまで、四十年もの間、私たちは荒野をさまよい歩いた。　１４ああ、それなのに、やっぱり血は争えない。　また同じことをくり返すとは、なんてことだ。　しかも、今は前の時より人数も多い。　神様はもっともっと激しくお怒りになるだろう。　１５またしても神様に背いたら、これからもずっと、荒野をさまよわなければならない。　おまえたちのせいで皆が苦しみ、死ぬはめになったら、どうするつもりだ。」
１６　「とんでもない。　私たちはただ、羊を飼えるように柵を作り、子供たちのために町を建ててやりたいだけです。　１７ここに残るつもりは全くありません。　ちゃんと武装し、皆の先頭に立ってカナンに攻め入ります。　ただその前に、残る家族が安全に住めるように、城壁で囲まれた町を建てさせてもらいたいのです。　１８他の部族がそれぞれ相続地を手に入れるまでは、決して戻って来ません。　１９ヨルダン川のこちら側の土地さえいただければ、それでけっこうです。」
２０　「よくわかった。　いま言ったとおり、ちゃんと武装し、　２１神様が敵を追い払うまで、ヨルダン川の向こう側で戦いに加わるなら、　２２征服し終えしだい戻ってよい。それで神様と他の部族に対する責任は果たしたのだ。　神様はヨルダン川のこちら側の土地を下さるだろう。　２３しかし、約束を破ったら、神様に罪を犯すのだから、必ず罰せられるぞ。　２４さあ、言ったとおり町を建て、羊を飼う柵を作りなさい。」
２５　「何もかもご命令どおりにいたします。　２６子供、妻、羊、牛は、このギルアデの町に残りますが、　２７兵役についている者は全員、おっしゃるとおり神様のために戦います。」
２８　モーセはこれを承知し、エルアザル、ヨシュア、部族長たちに言いました。　２９「ガド部族とルベン部族のうち兵役についている者が、いっしょにヨルダン川を渡り、神様のために戦う。　だから征服し終えたら、このギルアデの土地を与えてやりなさい。　３０しかし、いっしょに行こうとしなかったら、あなたがたと同じように、カナンの国の一

部をやればいい。　それで我慢させるのだ。」
３１　これに答えるように、ガド部族とルベン部族の者は、口をそろえて誓いました。「神様の命令どおりにいたします。　３２完全武装して神様に従い、カナンの国へまいります。ただ土地だけは、ヨルダン川のこちら側の土地をいただきたいのです。」
３３　そこでモーセは、エモリ人の王シホンとバシャンの王オグの領土をみな、ガド部族とルベン部族、それにヨセフの息子マナセの半部族に割り当てました。
３４－３６さて、ガド部族が建てたのは次の町です。
ディボン、アタロテ、アロエル、アテロテ・ショファン
ヤゼル、ヨグボハ、ベテ・ニムラ、ベテ・ハラン
以上はみな、城壁を巡らし、羊を飼う柵のある町です。
３７３８ルベン部族が建てた町は次のとおりです。
ヘシュボン、エルアレ、キルヤタイム、ネボ
バアル・メオン、シブマ
この中の幾つかは、再建した時に名前を変えました。
３９　一方、マナセ部族のうちのマキル氏族が、ギルアデを征服し、エモリ人を追い出したので、　４０モーセはそこを彼らに与えました。４１また、やはりマナセ部族であるヤイル氏族は、ギルアデの村を幾つも占領し、ハボテ・ヤイルと名前を変えました。　４２さらに、ノバフという男がケナテと周辺の村を攻め落とし、自分の名にちなんで、その地域をノバフと名づけました。
三三
１　以下は、イスラエルの人々が、モーセとアロンに導かれてエジプトを出てからの、旅の記録です。　２モーセは神様の命令どおり、旅の経過を記しておいたのです。　３４過越の祭りの晩の翌日、三月二十九日（ユダヤ暦の一月十五日）に、エジプトの町ラメセスを出発しました。　エジプト人は、前の晩、神様に殺された長男たちの埋葬に忙しく、手が出せません。　そんな彼らをしり目に、人々はさっさと出発しました。　前の晩、イスラエルの神様は、エジプトのすべての神々を完全に打ち負かしたのです。
５－７ラメセスを出てから、スコテ、荒野の端にあるエタム、ミグドル山のふもとのバアル・ツェフォンに近いピ・ハヒロテと、野営を続けました。　８そこから紅海の真ん中を通り、三日間エタムの荒野を進んで、マラに野営しました。
９　マラの次はエリムです。　そこには、泉が十二もあり、なつめやしの木が七十本も茂っていたので、しばらくとどまりました。
１０１１エリムを発ってからは、紅海のほとりとシンの荒野に野営しました。
１２－１４次に、ドフカ、アルシュと進んで、レフィディムへ行きましたが、そこには飲み水がありませんでした。
１５－３７レフィディムからシナイの荒野に向かい、さらにキブロテ・ハタアワまで行きました。

このあと、ハツェロテ、リテマ、リモン・ペレツ、リブナ、リサ、ケヘラタ、シェフェル山、ハラダ、マクヘロテ、タハテ、テラ、ミテカ、ハシュモナ、モセロテ、ベネ・ヤアカン、ホル・ハギデガデ、ヨテバタ、アブロナ、エツヨン・ゲベル、ツィンの荒野のカデシュ、エドムの国境にそびえるホル山へと旅を続けました。
３８３９そこまで来た時、祭司アロンは神様の命令でホル山に登り、山の上で息を引き取りました。　ちょうど、エジプトを出てから四十年目の七月十五日のことです。　アロンは百二十三歳でした。
４０　カナン人で、ネゲブに住むアラデの王が、イスラエル人のことを耳にしたのは、この時です。　なんとカナンの国を目ざして、イスラエル人が進んで来るというのです。　４１－４４王は戦いをいどみましたが、結局はイスラエルが勝ちました。　このあとホル山を出発し、ツァルモナ、プノン、オボテ、モアブの国境イエ・ハアバリムと野営を重ね、４５－４７さらにディボン・ガド、アルモン・ディブラタイム、ネボ山に近いアバリムの山地と進み、　４８ついに、ヨルダン川の東に広がるモアブ平原まで来たのです。　ちょうどエリコの向かいあたりです。　４９そこにいる間は、ヨルダン川に沿って、ベテ・ハエシモテからアベル・ハシティムまでの、いろいろな場所に野営しました。
５０５１その平原で、神様はモーセに、人々への命令を伝えました。「ヨルダン川を渡ってカナンの国へ入ったら、　５２住民を一人残らず追い出し、偶像をみな破壊しなければならない。　石像も、鋳像も、丘の上にある野天の礼拝所もみなだ。　５３わたしが与えたのだから遠慮はいらない。　自分の国にして、どんどん住みつきなさい。　５４土地は部族の大きさに合わせて分ける。　広い土地は大きい部族の間で、狭い土地は小さい部族の間で、くじ引きするのだ。　５５言うとおりに住民を追い払わないと、あとで問題が起こる。　残った者たちが、目に入ったごみや、わき腹にささったとげのように、絶えず悩みの種となる。　５６そればかりではない。　彼らを滅ぼそうとしたように、今度はわたしがおまえたちを滅ぼすだろう。」
三四
１２神様はまた、人々への命令をモーセに伝えました。　「カナンの国へ入ったら、イスラエルの国境は次のようになる。　３４南はエドムに接するツィンの荒野までで、その国境線は、死海からアクラビム峠を通ってツィンに向かう。　最南端はカデシュ・バルネアで、そこからハツァル・アダル、アツモンと進み、　５エジプト川に沿って地中海に至る。
６　西は地中海の海岸線が国境だ。
７－９北は、地中海から東に向かって延び、ホル山、レボ・ハマテ、ツェダデ、ジフロン、ハツァル・エナンを結ぶ線が国境になる。
１０－１２東の国境線は、ハツァル・エナンからシェファムを通って、アインの東方のリブラまで南に下る。　そこからは大きく半円を描き、初めは南へ、それから西へ進み、ガリラヤ湖の南端をかすめてヨルダン川を下り、死海に至る。
１３　これがイスラエルの全土だ。　これを九部族と半部族とで、くじを引いて分ける。

１４１５ルベン部族とガド部族とマナセの半部族は、ヨルダン川の東側、エリコの向かいにあたる土地をもらうことに決まっている。」
１６‐２８さらに神様は命じました。　「土地を分ける時は、祭司エルアザル、ヌンの息子ヨシュア、それに各部族の代表に監督させなさい。代表者は次のとおりだ。
ユダ部族エフネの息子カレブ
シメオン部族アミフデの息子サムエル
ベニヤミン部族キスロンの息子エリダデ
ダン部族ヨグリの息子ブキ
マナセ部族エフォデの息子ハニエル
エフライム部族シフタンの息子ケムエル
ゼブルン部族パルナクの息子エリツァファン
イッサカル部族アザンの息子パルティエル
アシェル部族シェロミの息子アヒフデ
ナフタリ部族アミフデの息子ペダフェル
２９以上が、各部族に土地を割り当てる時の責任者だ。」
三五
１　次の命令も、ヨルダン川のほとりにあるモアブ平原に野営している時、神様がモーセに伝えたものです。
２　「それぞれの所有地から、幾つかの町と放牧地をレビ部族に与えるよう、人々に命じなさい。　３彼らにも住む場所と、牛や羊など家畜を飼う土地がいるからだ。　４町の回り五百メートルの範囲を放牧地としなさい。　５そうすれば、町の中心から境界線までの距離は、東西南北とも千メートルということになる。
６　レビ部族に与える町は、あやまって人を殺した者が逃げ込める、避難用の六つの町のほかに、四十二だ。　７全部で四十八の町を、放牧地も含めて与えることになる。　８町は、大きい部族からは多く、小さい部族からは少しというふうに、全国各地から選ぶ。」
９１０次もまた、神様からモーセへの命令です。　「カナンの国へ入ったら、　１１避難用の町を幾つか指定するように、言っておきなさい。　あやまって人を殺した者がそこへ逃げ込むためだ。　１２そうすれば、被害者の家族もやたらに復讐できない。　裁判で有罪と決まるまでは、たとい人殺しでも死刑にはできない。　１３１４そのような町をカナンに三つ、ヨルダン川の東側に三つ、全部で六つ選びなさい。　１５イスラエル人だけでなく、外国人や旅行者でも、あやまって人を殺した時はいつでも、この町に逃げ込んでかまわない。
１６　しかし、鉄製の器具で人を打ち殺した時は明らかに殺人罪で、犯人は死刑だ。　１７大きな石を使った場合も、殺人罪で死刑。　１８たとい木製でも武器を使ったら、やはり殺人罪とみなされる。　１９被害者の復讐をしたければ、自分で手を下してもかまわない。　犯人に出会ったら殺してもよい。　２０憎しみに燃えて物を投げつけたり、待ち伏

せして襲いかかったり、　２１怒りに狂ってなぐりつけたりして人を殺した場合は、明らかに殺人罪だから、犯人をリンチにかけてもかまわない。
２２２３しかし、過失の場合はそうではない。　わざと物を投げたのでも、怒って石を投げたのでもなく、投げた本人が人に当てようなどとは夢にも考えず、敵をやっつけようと思ったわけでもないのに、たまたまそれに当たって人が死んだ場合は、　２４事故かどうかよく調べなさい。　その結果によって、加害者を復讐者に引き渡すかどうかを決めるのだ。　２５事故だとはっきりしたら、加害者を保護しなければならない。　その時の大祭司が死ぬまで、彼は避難用の町に住むことになる。
２６　ただし、彼がかってに町を出、　２７町の外で復讐者に殺された時は別だ。　それは殺人罪にはならない。　２８大祭司が死ぬまで町の中にいなければならないのに、かってに町を出たからだ。　大祭司が死んだら、いつでも国へ帰れる。　２９この法律は永遠に変わらない。
３０　殺人犯はみな死刑だが、証人が二人以上いる場合に限る。　一人だけでは死刑にできない。　３１殺人罪には保釈金は通用しない。　犯人は必ず死刑だ。　３２また、大祭司が死ぬ前に、家へ帰りたいと保釈金を積んでも、避難用の町から出ることはできない。
３３こうして、土地が汚れるのを防ぐのだ。　殺人で流された血は土地を汚す。　それをきよめるには、殺人犯を死刑にするしかない。　３４これから行く国は、わたしもいっしょに住むのだから、こんなことで汚したりしないよう、くれぐれも注意しなさい。」
三六
１２ヨセフの息子の一人、マナセの部族から出たマキル氏族に、ギルアデという一族がありました。　その代表者が、モーセとイスラエルの指導者たちに訴え出ました。　「神様は私たちに、領地をくじ引きで分けるようにとお命じになりました。　実は、そのことでちょっと気になることがありまして……。　親類のツェロフハデの相続地の件ですが、確か娘たちに土地を分けるようにとのことでしたね。　３しかし、どうしたものでしょう。もし彼女たちが他の部族の者と結婚したら、土地までその部族のものになり、その分だけ、ギルアデ一族の土地は減ってしまいます。　４そうなったら、負債免除の年がきても戻りません。」
５　そこでモーセは、この問題をはっきりさせるため、神様の命令を伝えました。　「ギルアデ一族の訴えはもっともだ。　６だから、ツェロフハデの娘の件はこうしなさい。　彼女たちは同族の者と結婚すればいいのだ。　７それなら、土地が他の部族に移ることもない。相続地はいつまでも、最初にくじで決めたとおりのままにしておかなければならない。
８どの部族でも、娘が相続人となる場合は、必ず同族の者と結婚しなさい。　９こうすれば、相続地が他の部族のものになる心配はない。」
１０　ツェロフハデの娘たちは、神様の命令どおりにしました。　１１１２マフラ、ティルツァ、ホグラ、ミルカ、ノアの五人は、ヨセフの息子マナセの部族の者と結婚したので、相続地はそのまま残ったのです。

１３　以上は、ヨルダン川のほとり、エリコの向かい側にあるモアブ平原で、イスラエルの人々が野営していた時、神様がモーセを間に立て、人々に伝えた命令と法律です。
▪

モーセの最後の説教（申命記）
カナン入国を前に、モアブ平原でなされたモーセの一連の演説や、種々の規則、およびモーセの後継者ヨシュアの任命などについて語られています。　モーセは演説の中で、その時までに起こった事件を要約し、人々に信仰と従順の道を歩むよう訓戒し、神様が与えた任務にイスラエルが再献身するよう呼びかけています。　ヨシュアの任命およびモーセの死とともに、古い秩序は終わり、イスラエルの運命は次代の人々の手に移ります。

一
１‐５この書は、モーセがヨルダン川の東、モアブ平原のアラバ渓谷で演説した時の記録です。　当時、イスラエルの人々はそこに野営していたのですが、付近には、スフ、パラン、トフェル、ラバン、ハツェロテ、ディ・ザハブなどの町がありました。　この演説が行なわれたのは、ホレブ山（シナイ山）を出発してから四十年目の二月十五日でした。　ところで、ホレブ山のふもとからカデシュ・バルネア〔約束の地パレスチナの南端〕までは、セイル山を通れば、普通なら歩いても十一日ほどで来られます。　それはさておき、この時にはすでに、ヘシュボンでエモリ人の王シホンを、エデレイに近いアシュタロテでバシャンの王オグを打ち破ったあとでした。　ここへたどり着くまでの間、神様はいろいろな法律をモーセをとおして伝えましたが、それを全部まとめて、もう一度、モーセが説明しなおしたのです。
６　「皆さん、今からちょうど四十年前、神様がホレブ山でこう言われたのを覚えていますか。『もうこれ以上、ここにいる必要はない。　７出発しなさい。　エモリ人の山地、アラバ渓谷、ネゲブ、カナンとレバノンの全土、つまり地中海からユーフラテス川までの全地域を占領するのだ。　８わたしが与えると言うのだから遠慮はいらない。　どんどん入って行きなさい。　そこが、昔おまえたちの先祖アブラハム、イサク、ヤコブおよびその子孫に、いつか必ず与えると約束した国だからだ。』
９　あの時、私は皆さんにこう訴えました。　『私一人じゃ、これから先、とても全員のめんどうを見きれない。　どうしても助手がいる。１０神様があなたがたを、星の数ほどにふやしてくださったからだ。　１１それどころか、お約束どおり今の千倍にもしてくださるそうだ。　１２こんなに大ぜいじゃ、もめ事や問題もたくさん起こる。　とても一人ではさばけない。　１３そこでお願いだが、各部族から、人生経験が豊かで知恵もあり、もの事のよくわかる者を選んでくれないか。　その者たちを指導者に任命しよう。』
１４　みんなが賛成してくれたので、　１５私は彼らを助手に任命しました。　いちばん上を千人の者を指導する長とし、その下にそれぞれ百人、五十人、十人の者の世話をする長を置いたのです。　彼らはめいめい、自分の管理のもとにある人々のもめ事を解決したり、いろいろ必要な世話をしたりすることになりました。　１６当然ですが、いつでも、だれに対しても、たとい外国人でも、決して差別をせず、あくまで正しく振る舞うように言っておきました。　１７『決定を下す時、金持ちの肩をもってはいけない。　身分の高

い者も低い者も同じように正しく扱いなさい。　神様の代わりにさばくのだから、人の不平不満を恐れることはない。　手に負えない事件は、私のところに持って来れば処理してやろう。』　１８あの時には、ほかにもいろいろ指図しました。
１９‐２１それからホレブ山を発って、恐ろしく果てしもない荒野を旅し、神様のお守りのもとにエモリ人の山地に着きました。 そしてついに、約束の国との境にあるカデシュ・バルネアまで行ったのです。 あそこで私は、『神様がこの国を下さったのだから、ご命令どおり前進して占領しなさい。　恐れたり疑ったりしてはいけない』と告げました。
２２　これに対してみんなは、『まずスパイを送り込もう。 いちばん攻めやすい町から占領したほうがいい』と提案したのです。
２３　もっともなので、各部族から一名ずつ、全部で十二名のスパイを選びました。　２４２５彼らは山地に潜入し、エシュコルの谷まで行くと、その地のくだものを持ち帰りました。　それを見て、神様の下さった地が実に良い地であることが、はっきりわかりました。　２６ところが、みんなは神様の命令に逆らい、前進したくないと言いだしたのです。
２７　そして、テントの中でぶつぶつ不平を言いました。　『神様はきっと、私たちがおきらいなんだ。　だから、わざわざエジプトから連れ出し、エモリ人の手にかけて殺そうとしておられるんだ。　２８どうしよう。　スパイの報告じゃ、やつらは背が高く、力もあり、町の城壁はおっそろしく高いっていうじゃないか。　おまけに、アナク人の子孫の巨人を見たとも言ってた。　考えただけでもぞっとする。』
２９　そこで私は反論しました。　『恐れることはない。　３０神様が先頭に立って戦ってくださる。　エジプトでは力強い奇蹟を行ない、３１そのあともずっと、まるで父親のように気を配り、荒野の旅を安全に守ってくださったことを忘れたのか。』　３２３３しかし、何を言ってもむだでした。
それまでいつも共にいて、野営するのに最適の場所を選び、夜は火の柱、昼は雲の柱で、進む道を教えてくださった神様を、彼らは信じようとしなかったのです。
３４３５これには神様も腹を立てました。　おかげで、当時おとなだった者は一人も約束の国へ入れなくなりました。　３６ただ、エフネの息子カレブは別です。　神様の命令に完全に従い通したほうびに、自らスパイとして潜入した地の一部を、相続地としてもらえるのです。
３７　不信仰な者たちのために、私でさえ神様の怒りを買い、こう言い渡されました。『おまえは約束の国へ入れない。　３８代わりに、おまえの助手ヌンの息子ヨシュアが指導者となるのだ。　その準備ができるように励ましてやりなさい。　３９国は、荒野で死ぬ者の子供たちに与えよう。　４０決して、おまえたちのものにはならない。　だから、回れ右をして荒野の道を紅海の方へ戻りなさい。』
４１　すると今度は、あわてて罪を告白しだしたのです。　『お赦しください。　私たちが悪かったのです。　ご命令どおり、その国に攻め入ります。』　そう言うと、簡単に全地を征服できるとでも思ったのでしょうか、あたふたと武装し始めました。

４２　それでも神様は、きっぱり言われました。　『やめさせなさい。　わたしがいっしょに行かないのにむちゃをしたら、ひどい目に会うだけだ。』
４３　その警告を聞き入れず、彼らはまたもや神様の命令に背いて、山地に攻め上ったのです。　４４案の定、結果はさんざんでした。　エモリ人の迎え撃ちに会い、あべこべにセイルからホルマのあたりまで激しく追撃されたのです。　４５逃げのびた者たちは神様に泣きつきましたが、お聞き入れにはなりません。　４６しかたなく、長いことカデシュにとどまりました。
二
１　そのあと、神様の命令どおり、荒野を通って紅海の方に戻りました。　こうして、長いことセイル山のあたりをさまよったあげく、２やっと神様のおことばをいただいたのです。
３　『ここにはもう、とどまらなくてよい。　北へ行きなさい。　４これからエドム人の国を通る、と皆に知らせなさい。　エドム人は、ヤコブの兄でセイルに住みついたエサウの子孫にあたり、おまえたちとは同族だが、ひどく神経をとがらせているから、くれぐれも注意が必要だ。　５まちがっても戦いをしかけてはいけない。　セイルの山地はみな、わたしが永遠の領地として彼らに与えたからだ。　ほんの一部でも、おまえたちに与えるつもりはない。　６食糧や水がいる時は、金を払って買いなさい。　７全くこの四十年間、わたしが守り、祝福してやったからこそ、おまえたちは果てしもない荒野をさまよいながら、何不自由なく過ごせたのだ。』
８　そこで私たちは、同族のエドム人が住むセイルをあとにし、南のエラテ、エツヨン・ゲベルに至るアラバ街道を横切って北へ向かい、モアブの荒野へと旅を続けました。
９　すると神様は、『モアブも攻撃してはいけない。　そこはロトの子孫のものだ。　おまえたちに与えるつもりはない』と警告なさったのです。
１０――モアブには以前、アナクの巨人と同じように背の高いエミム人が、大ぜい住んでいました。　１１エミム人もアナク人と同じように、レファイム人だと考えられていたのですが、モアブ人は彼らをエミム人と呼んだのです。　１２それより以前、セイル地方にはホリ人が住んでいましたが、追い出され、エサウの子孫のエドム人が代わって住みつきました。　ちょうど、イスラエル人がカナン人を追い出し、その地に住みついたようにです。――
１３　『さあ、ゼレデ川を渡りなさい』と神様に命じられ、私たちは従いました。
１４１５こうしてみると、カデシュに着いてからゼレデ川を渡るまで、実に三十八年もかかったことになります。　それというのも、三十八年前、すでに成人し、戦いに出られるようになっていた者が死に絶えるまでそうはならないと、神様が誓われたからです。　おことばどおり、彼らは全員、罪の報いを受けました。　１６１７こうして、待ちに待った神様のおことばがありました。
１８　『きょう、モアブの領土、アルを通って、　１９アモン人の国へ入りなさい。　た

だし、そこはロトの子孫のもので、おまえたちに与えるつもりはないから、戦いをしかけてはいけない。』
２０――その地にも以前、アモン人がザムズミム人と呼んだレファイム人が住んでいました。　２１アナク人のように背が高く強大な氏族でしたが､アモン人に侵略されたのです。神様が彼らを滅ぼしたので、アモン人が代わって住みつきました。　２２同じように神様は､今セイル山に住むエサウの子孫に味方し､先に住んでいたホリ人を滅ぼしました。　２３ガザにまで及ぶ地方の村々に散在していたアビム人をカフトル人が侵略し、滅ぼした時も同じです。――
２４　続けて、神様はお語りになりました。　『アルノン川を渡り、ヘシュボンの王、エモリ人シホンの国を攻め取りなさい。　２５きょうから、天下のあらゆる国民はおまえたちを恐れ、おまえたちが来ると聞いただけで震え上がるだろう。　わたしが彼らをこわがらせるからだ。』
２６　そこでまず、ケデモテの荒野からヘシュボンの王シホンに使者を送り、和平を申し入れました。　２７『お国を通らせてください。　わき道にそれたり、畑に入ったりはせず、ただ街道をまっすぐ進みます。　２８途中で食糧を盗んだりもしません。　食糧や水を分けてもらったら、代金をきちんとお払いします。　ただ通らせていただくだけでけっこうです。　２９セイルのエドム人や、アルを首都としているモアブ人は、国を通らせてくれました。　私どもは、ヨルダン川を渡り、神様が下さると言われた国へ行く途中なのです。』
３０　ところが王は断わりました。　いま見るとおり、王をあなたがたの手で滅ぼさせようと、神様がわざと強情を張らせたのです。
３１　そのあと､神様は私に、『さあ､シホン王の国をやろう。 遠慮なく占領するがいい。そこは永遠にイスラエルのものだ』と約束なさいました。
３２　シホン王は宣戦を布告し、ヤハツに軍隊を集めました。　３３３４しかし神様のお助けで、私たちは彼を負かしました。　町という町はすべて占領し、男も女も赤ん坊さえも皆殺しです。　３５３６家畜以外､生き残った者はありません。 家畜は分捕り物とし、ほかにも戦利品を略奪して、意気揚々ひき揚げました。　アルノン渓谷のアロエルやその他の町々をはじめ、ギルアデまでの全地を占領したのです。　なにしろ神様が下さったのですから、戦うところ敵なしです。　３７ただし、アモン人の国、ヤボク川、山地の町々など、神様のお許しがない所には近づきませんでした。
三
１２次に行ったのは、バシャンの王オグの国です。　ここでもまた、王は直ちに軍隊をくり出し、エデレイで戦いをしかけて来ました。しかし、少しも恐れることはありませんでした。　神様が､『この国も国民も、おまえたちのものだ。　ヘシュボンのエモリ人の王シホンと同じ目に会わせてやるがいい』と励ましてくださったからです。３そのとおり、私たちは神様に助けられて、彼らを皆殺しにし、　４バシャンのアルゴブ地域にある六十の

町を占領しました。　５どの町も､高い城壁とがっちりした門で守りを固めてありました。　ほかに、城壁のない町も奪いました。　６ヘシュボンの王シホンの国と同じように、バシャンの国を全滅させ、男も女も子供も、一人残らず殺したのです。　７ただし、家畜と戦利品は分捕り物としました。
８　こうして、エモリ人の二人の王を滅ぼし、ヨルダン川の東側に広がる、アルノン渓谷からヘルモン山までの全地域を占領したのです。　９――ところで、ヘルモン山のことをシドン人はシルヨンと呼び、エモリ人はセニルと呼んでいました。――　１０高原にあるすべての町、ギルアデの全土、サルカからエデレイまでのバシャンの町々は、私たちのものになりました。
１１――バシャンの王オグは、レファイム巨人の最後の生き残りでした。　彼が使ったベッドがアモン人の町ラバの博物館に保存されていますが、鉄製で、長さがなんと四メートル半、幅は二メートルもあります。――
１２　さて、征服した国は、ルベン部族、ガド部族、マナセの半部族に与えました。　ルベン部族とガド部族には、アルノン川のアロエルのほかギルアデの山地の半分と町々を、　１３マナセの半部族には、ギルアデの山地の残り半分とオグ王の国のアルゴブ地域全部です。――バシャンはレファイムの国と呼ばれることもあります。――　１４マナセ部族から出たヤイル氏族は、ゲシュル人とマアカ人の国境までのアルゴブ地域全体を取り、氏族の名にちなんで、現在のようにハボテ・ヤイル〔｢ヤイルの村」の意〕と変えました。　１５ギルアデはマキル氏族のものになりました。　１６ルベン部族とガド部族に与えられたのは、ギルアデからアルノン渓谷の中ほどまで、北はアモン人との国境ヤボク川までの地域、　１７それに、アラバ〔荒れ地〕です。　つまり、西の境をヨルダン川に接し、キネレテの海からピスガ山、塩の海〔別名アラバの海〕までの地域です。
１８　そのとき私は、これらの三部族に注意しました。　神様は確かにその土地を下さるが、兵士たちはみな武装し、ほかの部族の先頭に立ってヨルダン川を渡り、神様の約束の国を占領するまで、そこに住みつくことはできない、と。
１９２０『ただし、女、子供はここに住んでもよい。　家畜の世話をしながら、戦いに出た者の帰りを待つのだ。　ヨルダン川の向こう側にある約束の国を征服し、ほかの部族の土地を確保したら、自分たちのところへ帰ってかまわない。』
２１　ヨシュアには、こう命じました。　『いいか、神様があの二人の王になさったことを、よく見たな。　同じことを、ヨルダン川の向こう側のすべての国にもするのだ。　２２神様が戦ってくださるから、敵を恐れるな。』
２３‐２５そして､神様に必死でお願いしました。　『ああ､神様､お願いでございます。どうか、ヨルダン川の向こうに広がるお約束の国へ行かせてください。　あのなだらかな山地、豊かな土地、そしてレバノンに行きたいのです。　これまでもすばらしい奇蹟や偉大な御力を見せていただきましたが、最後までその結果を見届けさせてください。　あんなすばらしいことのできるお方は、神様のほかにはいません。』

２６　しかし神様は、どうしてもお聞き届けにはなりませんでした。こんなお怒りをこうむったのも、元はと言えば、あなたがたのせいです。　『もう、そのことは言うな。　２７ただ、ピスガ山の頂上からなら四方をぐるっと見渡せるから、登って約束の国を眺めるがいい。　だがヨルダン川を越えることは、断じて許さん。　２８代わりにヨシュアを任命するのだ。　人々を率いて約束の国に入るのは彼だから、何かと励ましてやれ。』
２９　それで、私たちはベテ・ペオルの近くの谷間にとどまっていました。
四
１　ところで皆さん、生きて神様の約束の国に入り、自分のものにしようと思うなら、これから教える法律を注意深く聞き、そのとおり守りなさい。　２ほかの法律を加えたり、ある部分をかってに削ったりしてはいけない。　神様の法律なのだから、何も言わず、黙って従うのだ。　３神様が偶像バアル・ペオルになさったことは見たでしょう。　そんな偽りの神を拝んだ者はみな、罰があたって死んでしまった。　４しかし、神様に忠実だった者たちは、今もまだ元気だ。
５　いいですか、これから住みつく国へ行ったら、この法律をきちんと守りなさい。　これは神様からじきじきに示された法律で、あなたがたに伝えるようにと言われたのです。６これを守れば、知恵のある賢明な国民だと評判になるでしょう。　回りの国々がこの法律を知ったら、『イスラエル人ほど賢明で、物のわかった国民はいない』と驚くに違いありません。　７どんな国でも、呼べば必ずそばにいてくださる、私たちの神様のような神を信じている国はありません。　８どんなに偉大な国でも、きょう私が教えるような正しい法律をもつ国はありません。
９　気をつけなさい。　まちがっても神様がしてくださったことを忘れてはいけません。これから先もずっと、神様のなさった奇蹟を思い出しなさい。　子供にも孫にも、すばらしい奇蹟のことを話してやりなさい。　１０特に、ホレブ山（シナイ山）で神様の前に立った日のことは大事です。　あの時、神様は私にこう言われました。　『人々を集めなさい。　わたしを大切にし、わたしの法律を子供たちに教えられるように、まずわたしが、彼らを教えよう。』　１１あなたがたはふもとに立っていましたが、山には黒雲がたれこめ真っ暗で、赤々と火に包まれ、炎は天をこがしていました。　１２その時、炎の中から神様の声が聞こえたのです。　お姿は全く見えません。　１３こうして神様は、守るべき法律として十戒をお示しになりました。　それは二枚の石板に記されました。　１４そして私は確かに、それをあなたがたに与えるようにと命じられたのです。　約束の国へ行ったら、そのとおり守らなければなりません。
１５　気をつけなさい。　あの日ホレブ山で炎の中からお語りになった時、神様の姿は見えなかったのです。　１６１７ですから、神様の像を作ってはいけません。　そんなことをしたら、正しい信仰をなくしてしまいます。　どんな像も作ってはいけません。　男だろうが女だろうが、あるいは動物、鳥、　１８地をはう小さな動物、魚だろうが、絶対にいけません。　１９また、太陽、月、星などを拝むのもよくありません。　外国人は大目

に見られても、あなたがたはそうはいきません。　２０何といっても、あの牢獄のようなエジプトから救い出し、特別な国民として宝物のように大切に守ってくださるのは、この神様だからです。　今こうしていられるのも、みな神様のおかげです。　２１２２しかし、まずいこともありました。　あなたがたのことで私は神様の怒りを買い、ヨルダン川を渡って約束の地へ行けなくなったのです。　あなたがたは、あのすばらしい地をいただくことができます。　しかし私は、ヨルダン川のこちら側で死ななければなりません。　２３神様が結んでくださった契約をあなたがたのほうから破らないよう、くれぐれも注意しなさい。　どんなものでも、神様がいけないと言われた偶像を作るのは契約違反です。　２４神様は背く者を激しく憎み、焼き尽くす火のように徹底的に罰するお方だからです。
２５　将来、あの国に住みつき、子供や孫が生まれてから、正しい信仰を捨て、偶像を作りでもしたら、神様はきっとお怒りになります。２６すぐさま滅ぼされるのがおちです。もうすぐヨルダン川を渡り、あの国を征服しますが、なにほども住まないうちに、全滅させられてしまうでしょう。　２７生き残るのはほんの一にぎりで、その者たちも国々に散らされます。　２８やがてその国々で、見ることも、聞くことも、食べることも、かぐこともできない木や石の偶像を拝むようになるのです。
２９　しかしあなたがたは、もう一度、神様を慕い求めるようになります。　心からせつに慕い求めれば、神様は必ず見いだせます。　３０苦しい時を過ごしたあと、ついに神様のもとへ返り、その教えに従うようになるのです。　３１神様は思いやりのあるお方だから、あなたがたをすげなく見捨てたり、滅ぼしたりはなさいません。　ご先祖への約束は必ず果たしてくださいます。
３２　神様が地上に人間をお造りになって以来、このような事があったかどうか、くまなく調べてみなさい。　３３全国民が、恐れ多くも炎の中から語られる神様の声を聞き、それでもなお生き長らえている国民が、ほかにいるでしょうか。　３４あるいは、恐ろしい伝染病や目をみはるような奇蹟を起こし、激しい戦いに勝って国々を恐れさせ、奴隷となった国民を救い出した神が、ほかにいますか。　私たちの神様は、まさにそのとおりのことを、エジプトで、あなたがたの目の前でなさったのです。　３５ご自分こそほんとうの神であり、ほかに神はいないことをわからせるためです。　３６天からの声、地に燃え上がる巨大な火の柱、炎の中から語られる神様の声、何もかも驚くことばかりでした。
３７　神様はご先祖に特に目をかけ、その子孫を祝福しようとお決めになりました。　だからこそ、あのようなすばらしい奇蹟を行ない、あなたがたをエジプトから救い出されたのです。　３８そればかりではありません。　あなたがたよりはるかに強い国民を追い出し、現在のように、その国々をあなたがたのものとしてくださいました。　３９だから、これだけは忘れないようにしなさい。 天にも地にも、この神様のほかに神はないのだと。
４０神様が下さる国で子々孫々しあわせに暮らしたかったら、きょう私が与える法律を守りなさい。」
４１　このあとモーセは、ヨルダン川の東側にある三つの町を特別に選んでおくように、

と命じました。　４２過って人を殺した者が逃げ込むためです。　４３町は、ルベン部族の領地からは荒野の高地にあるベツェル、ガド部族の領地からはギルアデにあるラモテ、マナセ部族の領地からはバシャンにあるゴランが選ばれました。
４４‐４６次に記すのは、イスラエルの人々がエジプトを出て、ヨルダン川の東側、ベテ・ペオルの町の近くに野営していた時、モーセが語った法律です。　ここは以前エモリ人の領地で、首都をヘシュボンにおき、シホン王が治めていましたが、モーセとイスラエルに滅ぼされたのです。　４７イスラエルはさらに、ヨルダン川の東側に勢力を張る、もう一人のエモリ人の王オグを滅ぼし、バシャンを征服しました。　４８こうして、アルノン渓谷沿いの町アロエルからシーオン山、またの名をヘルモン山に至る全地域、４９つまり、ヨルダン川の東側全域と、その南に広がるアラバの全域、ピスガ山の傾斜地のふもとにある塩の海までを征服したのです。
五
１　モーセはなおも語り続けました。「さあ、神様が命じる法律をよく聞きなさい。　それを正しく理解し、きちんと守るのだ。
２３いいですか、神様はホレブ山（シナイ山）で、あなたがたと契約を結ばれました。　ご先祖とではなく、今ここにいるあなたがたとです。　４あのとき神様は、炎の中からじきじきにお語りになりました。　５あまりのことにあなたがたは震え上がり、だれ一人、山に登って神様のところへ行こうとしないので、私が行って神様のおことばを聞き、それをあなたがたに伝えたのです。　その法律はこうでした。
６　『わたしは、エジプトでの奴隷生活からあなたがたを救い出した、あなたがたの神、主だ。
７　わたしのほかは、どんな神も拝んではならない。
８　決して偶像を作ってはならない。　鳥だろうが、動物だろうが、魚だろうが、どんな像も作ってはならない。９１０拝んでもいけない。どんな方法で礼拝してもいけない。あなたがたの神は、このわたしだけだ。　わたしは嫉妬深いから、わたしを憎む者を三代、四代のちの子孫に至るまでのろい続ける。　しかし、わたしを愛し、わたしの命令を守る者には、千代のちまでも恵みを与えよう。
１１　果たすつもりもないのに、やたらにわたしの名を使って誓ってはならない。　そんなことをしたら必ず罰せられる。
１２　安息日を特別の日として守りなさい。　これは命令だ。　１３仕事はみな六日のうちにすませなさい。　１４七日目は神の休みの日だから、その日は一日、人も家畜も仕事をしてはならない。　外国人でも、いっしょに住んでいる限り、この法律を守る義務がある。　すべての人が休むのだ。　１５安息日を守るのは、エジプトで奴隷にされていたあなたがたを、主であるわたしがすばらしい奇蹟を起こして救い出したことを、忘れないためだ。
１６　両親を尊敬しなさい。　そうすれば、主であるわたしが与える国で、何不自由なく、

長くしあわせな一生を送ることができる。　これは神の命令だ。
１７　人を殺してはならない。
１８　姦淫してはならない。
１９　盗んではならない。
２０　うそをついてはならない。
２１　人の妻に欲情を燃やしたり、家、土地、使用人、牛、ろば、そのほか何でも、人の持ち物を欲しがったり、持ち主をねたんだりしてはならない。』
２２　この法律は、暗雲たれこめるシナイ山で、神様が炎の中からあなたがた一人一人にお与えになったのです。　神様はそれを二枚の石板に記し、私に下さいました。　２３ところが、あなたがたはどうしたでしょう。　暗やみにとどろく御声を聞き、山頂に燃え上がる無気味な火を見ると、恐ろしさのあまり震え上がったではありませんか。　部族長たちはわたしのところへ駆けつけ、２４必死に訴えました。『神様がどんなにすばらしいお方か、よくわかりました。　なにしろ、炎の中からお語りになるんですから。　しかも、その御声を聞いても、私たちはこうして生きています。　２５ですが、もう一度こんなことがあったら、その時は助かりっこありません。　恐ろしい火で焼き殺されてしまうでしょう。２６２７炎の中から語られる神様の声を聞いたら、ただじゃすみっこありません。お願いですから、あなたが代表で聞きに行ってください。　どんなことを言われても、そのとおりにいたします。』
２８　神様はそれを聞き、こう言われました。　『皆の気持ちはわかった。　願いどおりにしよう。　２９わたしの命じるとおりにすると言うが、いつもそのような心がけでいてくれたら、どんなにうれしいだろう。　そうすれば、彼らばかりか、子々孫々に至るまで、何の心配もなくしあわせに暮らせる。　３０さあ、帰って、めいめいのテントへ戻るように言いなさい。　３１そのあとでもう一度、わたしのところへ来て命令を聞き、人々に伝えなさい。　わたしが与える国で、それをみな守るのだ。』」
３２　そこでモーセは、人々に命じました。　「神様の戒めをすべて守りなさい。　どんな細かな点もきちんと守りなさい。　何もかも、神様が定めたとおりに行なうのです。　３３そうしてはじめて、約束の国へ入ってから末長くしあわせに暮らせます。
六
１　もうすぐ約束の国へ入りますが、そこに住みついたら、すべての戒めを守りなさい。神様がそう命じておられるのです。　２というのも、あなたがたが子々孫々に至るまで神様をたいせつにし、生涯その命令を忠実に守ってほしいからです。　そうすれば、いつまでもしあわせに暮らせます。　３だから、少しも聞きもらさないよう気をつけ、一つ一つの戒めを注意深く守りなさい。　こうしてすべてがうまくいき、子供にも恵まれます。　命令に従いさえすれば、神様がご先祖に約束されたとおり、『乳と蜜の流れる』すばらしい地で、大国になることもできるのです。
４　いいですか、私たちの神様は主お一人です。　５だから、心を尽くし、たましいを尽

くし、力を尽くして神様を愛しなさい。　６きょう与える戒めを、一時も忘れてはいけません。　７子供たちにも、しっかり覚えさせなさい。　家にいる時、外を歩いている時、寝る前、朝起きた時、いつでもまず第一に暗唱させるのです。　８決して忘れないように、指に結び、額につけ、　９家の門柱に記しなさい。
１０‐１２神様がご先祖アブラハム、イサク、ヤコブに約束された国を下さったあかつきには、そこにある良い物はみな、あなたがたのものになります。　町、井戸、ぶどう園、オリーブ畑と、自分でつくったわけではないのに、何もかも手に入れるのです。　しかし、いくら豊かになり、何不自由なく食べられるようになっても、神様を忘れてはいけません。あのエジプトでのみじめな奴隷生活から救い出してくださったのは神様です。　１３満ち足りた時にこそ、神様をたいせつにし、心からお仕えしなさい。　また、神様以外の名にかけて誓わないよう気をつけなさい。
１４　外国の神々を拝んではいけません。　１５あなたがたと共におられる神様は嫉妬深いお方ですから、たいへんなことになります。　たちまち腹を立て、あなたがたを一人残らず殺してしまうかもしれません。　１６マサでは不平をこぼし、お怒りを買いましたが、なんとかお赦しをいただくことができました。　もう二度と、神様を試みてはいけません。
１７神様の命令には、どんなことでも進んで従いなさい。　１８でなければ、神様は決して、「よし」とは言ってくださいません。　事がうまくいき、約束の国を占領できるかどうかは、心から神様にお従いするかどうかにかかっているのです。　１９神様の助けさえあれば、敵を追い出すことぐらい、わけはありません。
２０　いつか息子たちが、『どうして神様は、この法律を下さったのですか』と聞くようになったら、　２１２２答えてやりなさい。　『私たちイスラエル人は昔、エジプト王の奴隷だった。　その私たちを、神様はとても考えられないような奇蹟を起こし、助けてくださったのだ。　その御力のすばらしさに、王をはじめエジプト中の人々が驚き、震え上がるのを、この目ではっきり見たのだよ。　２３こんなにまでして助けてくださったのも、ご先祖への約束どおり、この国を下さるためだった。　２４だからこそ神様は、この法律を守り、神様をたいせつにするようにとお命じになったのだ。　そうすれば、これから先もずっと神様のお守りがある。　２５神様の法律に従ってさえいれば、何もかもうまくいくのだよ。』
七
１　もうじき約束の国へ行きますが、神様がついておられるので心配はありません。　あなたがたなど問題にならないほど大きな強い国も、神様には歯が立ちません。　ヘテ人の国をはじめ、ギルガシ人、エモリ人、カナン人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人の国々は、七つとも神様に滅ぼされます。　２神様がそう考えておられるのだから、徹底的に戦いなさい。　へたな取り引きをしたり、あわれみをかけたりせず、敵を一掃するのです。　３ましてや、彼らとの結婚などもってのほかです。　息子や娘たちとも結婚させてはいけません。　４やたらに外国人と結婚させたら、それをいいことに、外国の神々を拝むように

なるかもしれないからです。　そんなことになったら取り返しがつきません。　神様の怒りを買って、あなたがたまで滅ぼされてしまいます。
５　むしろ、異教の祭壇やオベリスクは片っぱしからたたきこわし、神々の偶像も切り倒して焼き払いなさい。　６あなたがたは、神様にささげられたきよい国民だからです。　地上のあらゆる国民の中から特別に選ばれ、神様のものとされたのです。　７こんなに目をかけられたのはなぜでしょう。　ほかのどの国よりも大国だからでしょうか。　とんでもない。　それどころか、世界中で一番ちっぽけな国です。　８にもかかわらず、神様はあなたがたを愛し、ご先祖への約束を果たされます。　ただそのためにこそ、驚くべき御力ですばらしい奇蹟を行ない、エジプトの奴隷だったあなたがたを助け出してくださったのです。
９　このように神様は忠実なお方なので、約束したことは千代のちの子孫にまでも守り通し、神様を愛し、命令を守る者に、いつもよくしてくださいます。　１０しかし、神様を憎む者はそうはいきません。　みんなの見ている前でひとりひとり罰せられ、死刑にされます。　１１だから、きょう命じる戒めをみな守りなさい。　１２素直に従えば、神様も、ご先祖と結んだ思いやりあふれる契約をお守りになります。　１３あなたがたを愛し、何事もうまくいかせ、大国にしてくださるのです。　約束の国へ着いたら、あなたがたは裕福になります。　家畜はどんどん増え、土地も肥えているので、小麦、ぶどう、オリーブが豊かに実ります。　１４世界中のどの国よりも祝福されることまちがいなしです。　一人として子供に恵まれない者はなく、家畜も次々と子を産みます。　１５すべての病気はなくなり、エジプトでよく悩まされた伝染病もなくなります。　反対に、敵が伝染病に苦しめられることでしょう。
１６　念を押しますが、神様が滅ぼせと言われた国は、みな滅ぼさなければなりません。決してあわれみをかけてはいけません。　その国の神々を拝んでもいけません。　そんなことをしたら悲惨な結果を招くだけです。　１７時には、『自分たちより強い国を征服できるだろうか』と心配になるかもしれません。　１８しかし、恐れることはありません。　そんな時は、神様がエジプトの王と国になさったことを思い出しなさい。　１９あの、エジプト中を巻き込んだ恐怖、すばらしい奇蹟、とても考えられないような不思議な出来事を、よもや忘れてはいないでしょう。　あれだけのことをして、あなたがたをエジプトから助け出された神様に、できないことはありません。　あなたがたの親は自分の目でそれを見ました。　だったら、今あなたがたが恐れている国に対しても、神様は同じようになさるはずです。　２０そればかりか、あなたがたの目を逃れる者をも、くまばちをけしかけて追い払われるのです。
２１　偉大な、恐るべき力を持った神様がついておられるのだから、恐れることはありません。　２２神様は敵を、一度に全部ではなく、少しずつ、だんだんに追い払われます。さもないと、急に野獣が増えて危険です。　２３あせらず、しかも着実に国を攻め取りなさい。　２４神様がその国の王を負かすのです。　彼の名が二度と思い出されないように

完全に滅ぼしなさい。　だれ一人、あなたがたに刃向かえる者はありません。
２５　偶像は焼き払いなさい。　それにかぶせてある金や銀に手をつけてはいけません。　神様は偶像が大きらいなので、そんなものを取ったら、自分が罠にかかるだけです。　２６偶像を家に持ち込むなど、もってのほかです。　そんなことをしたが最後、罰があたって死んでしまいます。　のろわれた偶像は心底から憎みなさい。
八
１　私がきょう命じることをみな守りなさい。　そうすれば生き長らえ、人口も増え、約束の国を占領することもできます。　２いいですか、神様は四十年のあいだ荒野の旅を続けさせ、あなたがたが謙そんになり、神様の命令にどうこたえるようになるか、はたして心から従うようになるかどうか試されたのです。　３ひもじい思いをさせたのも、謙そんを学ばせるためでした。　なぜなら、そのあとで、マナという見たこともない食べ物を下さり、人はただパンだけで生きるのではなく、神様の命令を守ることによって真に生きるのだということを教えてくださったからです。　４思えばこの四十年間、衣服も古びず、足もはれませんでした。　５神様があなたがたを懲らしめるのは、ちょうど親が子供のためを思って懲らしめるのと同じなのです。
６　神様の法律を守りなさい。　神様を恐れ、命じられるとおりに歩みなさい。　７神様は、小川や池や泉、谷や丘のあるすばらしい国へ導いてくださるからです。　８そこは、小麦、大麦、ぶどう、いちじく、ざくろ、オリーブ、はち蜜が山ほど採れ、　９何不自由なく暮らせます。　鉄は地に石のようにたくさんあり、丘の至る所からは銅が採れます。　１０そこで恵まれた生活ができるようになったら、すばらしい国を下さった神様に感謝しなさい。
１１　しかし油断は禁物です。　何の心配もないからといって気が大きくなりすぎ、神様を忘れ、命令に背くようになってはいけません。１２－１４家を持ち、羊や牛も増え、財産ができ、何もかもうまくいって満ち足りるようになった時こそ、危ないのです。　気をつけないと、神様のおかげでそうなったのに、思い上がり、エジプトでの奴隷生活から救い出されたことなど、忘れてしまうでしょう。　１５蛇やさそりの住むあの広く恐ろしい荒野、暑くかわききった荒野を無事に旅できたのは、神様のおかげです。　その神様を忘れていいでしょうか。　岩から水を出し、　１６〔パンに似ているけれど〕それまで見たこともないマナを下さったのも神様です。　こうして、あなたがたに謙そんを学ばせ、信仰を強め、ほんとうのしあわせを与えようとなさったのです。　１７あんなやり方をなさったのには訳があります。　ああでもしなければ、あなたがたは自分の力で豊かになったと思い込むでしょう。　１８しかし、豊かにしてくださるのは神様です。　ご先祖との約束を果たすためにこうなさるのだということを、よく自分に言い聞かせなさい。
１９　万が一にも神様を忘れ、ほかの神々を拝み、悪の道に迷い込んだりすれば、必ず滅ぼされます。　２０神様にのろわれ､滅びの道をたどった国々と同じ運命をたどるのです。　神様に従わなければ、あなたがたといえども容赦はありません。

九
１２さあ、よく聞きなさい。　きょう、あなたがたはヨルダン川を渡り、川向こうの国々を征服します。　どの国も大国で、あなたがたより強いのです。　町々は高い城壁で守りを固めています。　おまけに、無敵の巨人と恐れられるアナク人もいます。　３しかし神様がおられる以上、心配はありません。　いつもあなたがたの先頭に立ち、火のような勢いで敵を滅ぼしてくださるでしょう。　だから、すぐさま国国に攻め入り、占領しなさい。
４　しかし思い違いをしないように。　神様があなたがたを助けるのは、あなたがたが正しいからではなく、ほかの国々が悪いからです。　５決して、あなたがたが立派で正しいから、ほかの国々を滅ぼすのではありません。　ただ、ほかの国々が悪いからであり、ご先祖アブラハム、イサク、ヤコブに、そうすると約束されたからなのです。６くどいようですが、神様があのすばらしい国を下さるのは、あなたがたが正しいからではありません。それどころか、あなたがたはひねくれ者の強情な国民です。
７　大体あなたがたは、エジプトを出てから今まで、神様を怒らせ通しだったではありませんか。　いつも神様に逆らい続けてきたのを忘れたとは言わせません。
８　ホレブ山（シナイ山）ではどうでしたか。　あまり神様を怒らせたので、すんでのところで殺されそうになりました。　９あのとき私は、神様があなたがたと結ばれる契約の板を受け取りに、山へ登っていました。　私は飲まず食わずで四十日間も待ちました。　１０１１そして、やっといただいたのです。　そこには、人々が見守る中で、神様が真っ赤に燃え立つ山の炎の中からお命じになった戒めが記してありました。　１２その板を下さるとすぐ、神様は急いで山を降りるようにとせかせました。　エジプトから助け出した国民が早くも堕落し、神様の戒めを破って鋳物の偶像を作ったからです。
１３１４あまりのことに神様の怒りが爆発しました。　『なんということだ。　こんなに強情でひねくれた国民は生かしておけない。　止めてもむだだ。　一人残らず滅ぼそう。その代わり、おまえの子孫を強い国民に育ててやろう。　彼らより、もっともっと強く偉大な国民にな。』
１５　私は石板をしっかりかかえ、燃える山を一目散に駆け降りました。　１６その私の目に真っ先に映ったのは、いまわしい子牛の像でした。よりにもよって、これほどひどい罪を犯し、こんなにも早く神様を捨てるとは何てことだ！　１７私は腹立ちまぎれに、石板を振りかざし、力まかせに地面にたたきつけました。　石板はあなたがたの目の前で、木端微塵に砕け散りました。　１８しかたがありません。　私はもう一度、飲まず食わずで四十日間、神様の前にひれ伏しました。 あなたがたが神様のいちばん嫌いなことをし、お怒りを買ってしまったからです。　１９そのあいだ中、あなたがたのことで頭がいっぱいでした。　なにしろ、神様はすぐにでもあなたがたを滅ぼしかねないけんまくだったのです。　しかしあの時もまた、神様は私の祈りを聞いてくださいました。　２０いちばん危なかったのはアロンです。　彼のしたことに、神様はもうれつに腹を立てておられたので、一心にお赦しを願いました。　こうしてようやく、アロンのいのちは助かったのです。

２１最後に私は、あのいまわしい子牛の像をしまつしました。　まず火で焼き、粉々に打ち砕き、山を下る流れに投げ捨てました。
２２　数え上げればきりがありませんが、タブエラでも、マサでも、キブロテ・ハタアワでも、あなたがたは神様を怒らせました。　２３カデシュ・バルネアでは、約束の国へ入れと命じられたにもかかわらず、こわがるばかりで少しも言うことを聞きませんでした。神様が助けてくださると励ましてもだめでした。　恐ろしさのあまり、とうとう神様の命令に逆らったのです。　２４全く、あなたがたを知ってからというもの、神様に逆らわなかった時はないと言っていいくらいです。　２５あまりのひどさに、神様はあなたがたを皆殺しにしようとされました。　そのとき私は、四十日のあいだ昼も夜も神様の前にひれ伏して祈りました。
２６　『どうか神様、特別に目をかけてくださった国民を滅ぼさないでください。　この国民は、驚くべき御力によってエジプトから救い出された、たいせつな財産ではありませんか。　２７今度のことは、どうかお見のがしください。　神様に忠実にお従いしたご先祖のアブラハム、イサク、ヤコブへの約束に免じて、彼らの強情でひねくれた心をお赦しください。　２８それに、もし彼らを滅ぼしたりすれば、エジプト人たちは、それ見たことかと悪口を言うでしょう。　「へん、何てざまだ。　イスラエルの神はどうにも約束の国へ連れて行けなくなって、荒野でやつらを殺しちまったぞ。　それともやつらが嫌いだったから、初めからそのつもりで連れ出したのかもしれないな。」　２９神様、お忘れにならないでください。　彼らは神様のたいせつな財産、すばらしい御力によってエジプトから助け出された国民なのです。』
一〇
１　そのとき神様は、前と同じような石板を二枚切り出し、それを入れる木の箱を作ってから、もう一度登って来るようにとお命じになりました。　２私が砕いてしまった前の板にあったのと同じ戒めを新しい板に記し、箱に納めておけるようにというのです。　３私はさっそくアカシヤの木で箱を作り、石板を二枚切り出すと、それを持って神様のところへ登って行きました。　４すると神様は、前と同じように石板に十戒を記してくださいました。　それは、あなたがたが真っ赤に燃える山を見上げる中で、炎の中から命じられたのと同じ戒めです。　板をいただくと、　５私は山を降り、二枚とも箱に納めました。　神様の命令どおり、それは今でも箱の中にあります。
６　さて、話は飛びますが、私たちはベネ・ヤアカンのベエロテからモセラに向かいました。　そこでアロンが死に、葬られたので、息子エルアザルが二代目の祭司に任じられました。
７　そのあとグデゴデに行き、さらに、渓流の流れる水の豊かな地ヨテバタに向かいました。　８神様がレビ部族に今のような特別な務めをお与えになったのは、その時です。　つまり、十戒を入れた箱をかつぎ、神様のための仕事をし、神様の名によって祝福するのです。９このように、神様ご自身がレビ部族の財産なので、彼らは、ほかの部族のように約

束の国で相続地をもらうことはできません。
１０　ところで前にも言ったとおり、一回目と同じく二回目も、私は四十日のあいだ山にとどまり、昼も夜も神様の前で祈りました。　ついに、神様は私の願いを聞き入れ、あなたがたは滅ぼされずにすんだのです。
１１　そのとき神様は、『さあ、立って人々の先頭に進み、約束の国へ行きなさい。　そこを占領する時がきたのだ』と、私にお命じになりました。
１２１３いいですか、よく聞きなさい。　神様がお求めになるのは次のことだけです。　神様のおことばに注意深く耳を傾けること、きょう私が与えた戒めを守ること、神様を愛すること、心を尽くし、たましいを尽くして神様を礼拝することです。　１４天も地も、神様のものです。　１５今のように特別目をかけていただけるのは、ただ神様がご先祖を愛されたからです。　１６だから、いつまでも強情を張らず、心を入れ替えなさい。
１７　あなたがたの信じる神様は、神の中の神、主の中の主です。　偉大な力あるお方、えこひいきもしなければ、わいろを取ることもなさいません。　１８みなしごや未亡人のために正しい裁判をし、外国人をも差別せず、食べ物や衣服をお与えになります。　１９だからあなたがたも、いっしょにいる外国人に親切にしなさい。　エジプトでは、あなたがたも外国人だったではありませんか。　２０ただ神様だけを恐れ、礼拝し、頼りなさい。神様の名前以外のものにかけて誓ってはいけません。　２１何といっても、神様はほめたたえるべきお方です。　あなたがたも見てきたとおり、あんなにすばらしい奇蹟を行なわれる方はいません。　２２なにしろ、ご先祖がエジプトへ行った時は七十人だったのに、今では星の数ほどにもふやしてくださったのです。
一一
１　神様を愛し、すべての命令に従いなさい。　２いいですか、私は子供たちにではなく、一人前の大人たちに話しているのです。　子供たちはまだ、神様に罰せられたことも、その偉大さや恐ろしいまでの御力を見たこともありません。　３もちろん、エジプトの国や王になさった奇蹟も見てはいません。　４エジプト軍がイスラエル人を追って来た時、神様が馬や戦車もろとも紅海の底に沈めてしまったことも見ていません。　それからというもの、エジプト人はあなたがたに手出しができなくなりました。　５そのあとも、ここに来るまでの長い道中、荒野をさまようあなたがたを、神様が守り続けてこられたことも知りません。　６また、エリアブの息子で、ルベンの孫にあたるダタンとアビラムが謀反を起こしたこと、そのためにイスラエル人全員の目の前で、彼らも家族も一人残らず、テントもろとも地にのみ込まれてしまったことも見ていません。
７　しかし、あなたがたは違う。　あの目をみはるような奇蹟を確かに見たのだ。　８だから、きょう与える戒めをどんなに注意深く守らなければならないか、よくわかるはずだ。そうしてはじめて、いま目の前にしている国を占領できるのです。　９戒めを守れば、ご先祖いらい約束されてきた国で、いつまでもしあわせに過ごせます。　そこは、『乳と蜜の流れる』すばらしい国なのです。　１０エジプトのように灌漑する必要もありません。　１

１雨に恵まれ、丘や渓谷もある変化に富んだ地だからです。　１２神様はあなたがたのことをいつも心にかけ、絶えずその地を見守ってくださいます。
１３　きょう与えるすべての戒めを注意深く守り、心を尽くし、たましいを尽くして神様を愛するなら、　１４春と秋に必ず雨を降らせ、穀物も、ぶどう酒用のぶどうも、油を採るオリーブも豊かに実らせてくださいます。　１５家畜には青々とした牧草地を、あなたがたには十分な食糧を下さるのです。
１６　しかし、油断は禁物です。　いい気になりすぎて神様を忘れ、外国の神々を拝んだりしないように、くれぐれも気をつけなさい。　１７万一そんなことをしたら、神様は激しくお怒りになり、雨を一滴も降らせないでしょう。　収穫がなければ、神様が下さった良い地にいながら、みすみす飢え死にすることになります。　１８そうなりたくなかったら、戒めをしっかり頭にたたき込みなさい。　手に結び、額に張りつけるくらいにして絶えず思い出し、従いなさい。　１９子供たちにも教えなさい。　家に座っている時も、外を歩いている時も、寝る時も、朝食の前にも話して聞かせなさい。　２０家の門と戸に書き記しなさい。　２１そうすれば、天地の続く限り、約束の国で子々孫々しあわせに暮らせます。
２２　私が与えた戒めをみな注意深く守り、神様を愛し、神様に頼って歩めば、　２３どんなに大きく強い国民でも､神様が必ず追い出してくださいます。２４行く所どこでも、あなたがたの土地になるのです。　南はネゲブから北はレバノンまで、東と西はそれぞれユーフラテス川と地中海までです。　２５だれ一人､たち打ちできる者はありません。　神様はお約束どおり、行く先々で敵に恐れと不安をいだかせるからです。
２６　神様の祝福を選ぶかのろいを選ぶか、今はっきり決めなさい。２７私が与える神様の戒めに従えば祝福されます。　２８しかし、それを拒否し、外国の神々を拝んだりすれば、のろわれます。　２９神様が約束の国を下さったら、ゲリジム山から祝福を、エバル山からのろいを宣言しなさい。　３０どちらも、カナン人が住むヨルダン川の西側の地域にある山で、ギルガルに近く、モレの樫の木のある荒野にそびえています。　３１あなたがたは、これからヨルダン川を渡り、神様が下さる国に入るのです。　３２だから、きょう私が与えるすべての法律を守りなさい。
一二
１　ご先祖の神様、主が永遠にあなたがたのものとしてくださった国で守るべき法律は、次のとおりです。
２　外国人の作った祭壇は、見つけしだいこわすこと。　高い山の上にあっても、丘の上にあっても、木の下にあっても、すべてこわすのです。　３祭壇もオベリスクも粉々に砕き、みだらな偶像は焼き払い、鋳像はこわしなさい。　二度と思い出さないように、跡形もなく破壊し尽くすのです。
４５外国人のように、どこででもおかまいなしに神様にいけにえをささげないこと。　そのための聖所は、神様がお選びになる場所に建てなさい。　６完全に焼き尽くすいけにえ

をはじめ、神様にささげるいけにえはみな、そこへ持って来るのです。　十分の一のささげ物、祭壇の前で揺り動かしてささげるささげ物、誓いを果たすためのささげ物、進んでささげるささげ物、羊や牛の初子のささげ物などすべてです。　７そこで家族といっしょに神様の恵みを感謝し、お祝いに神様の前で楽しく食事しなさい。
８　今までは、それぞれが正しいと思うようにやってきましたが、これからは、そうはいきません。　９ただし、約束の国に落ち着いてからの話です。　１０ヨルダン川を渡り、約束の国に住みつき、敵に攻められる心配もなく安心して暮らせるようになったら、　１１神様がご自分の家としてお選びになった聖所に、完全に焼き尽くすいけにえや、ほかのいけにえを持って行かなければなりません。　１２聖所の神様の前で、子供たちや使用人たちといっしょに祝いなさい。　祝いには、同じ町に住む領地を持たないレビ人も、忘れずに招きなさい。
１３　完全に焼き尽くすいけにえを、かってに好きな場所でささげてはいけません。　１４神様がお選びになる場所でだけささげなさい。　神様は、一つの部族に与える領地から一個所を選ばれます。　いけにえやささげ物は、ただそこにだけ持って行きなさい。　１５しかし食用にする場合は、今、鹿やかもしかの肉を取っているように、どこで動物を殺してもかまいません。　神様のお恵みなのだから、好きなだけ、何回でも食べてかまわないし、礼拝規則で汚れた者とみなされる者が食べても、いっこうにかまいません。　１６ただし、血は決して食べないことです。　一滴残らず、水のように地面にしぼり出してしまいなさい。
１７　ささげ物は家で食べないこと。　穀物や新しいぶどう酒やオリーブ油の十分の一の供え物、羊や牛の初子、誓いのささげ物、祭壇で揺り動かしてささげるささげ物などです。１８これはみな、神様がお選びになるただ一つの聖所に持って来て、神様の前で、家族やレビ人といっしょに食べなさい。　神様のお恵みを、皆で感謝するのです。１９その時、レビ人を招くのを忘れないように。　一生の間、何でもレビ人と分け合いなさい。
２０‐２３やがて国が大きくなり、聖所から遠く離れた所に住むようになったら、今、鹿やかもしかにしているように、羊や牛をそれぞれの牧場でつぶしてかまいません。　礼拝規則で汚れた者とみなされる者も食べてかまいません。　ただし血は例外です。　血はいのちであり、いのちを食べてはいけないからです。　２４２５血は地面にしぼり出しなさい。　そうすればすべてがうまくいき、子々孫々しあわせに暮らせます。　２６２７誓いのささげ物や完全に焼き尽くすいけにえなど、神様へのささげ物は、聖所に持って来なければなりません。 神様の祭壇の上でいけにえとするのです。 こうして血は祭壇に注ぎ、肉は食べなさい。
２８　以上の戒めに注意深く従いなさい。　神様の目にかなうことを行なえば、この先もずっと、すべてがうまくいくのです。　２９神様が国々を滅ぼされ、あなたがたがそこに住みつくようになっても、３０そこの神々を拝むようなまねは、まちがってもしてはいけません。『どんなふうに拝めばいいのですか』などと言って、のこのこ拝みに行ってはいけ

ません。　３１それは、ほかでもない、神様を侮辱することです。　それらの国々は宗教に名を借りて、神様の大きらいな忌まわしい事をやってきました。　子供を神々のいけにえにささげ、火で焼き殺しさえしたのです。　３２そんな恐ろしいことをしないように、私が与えるすべての戒めに従いなさい。　かってにつけ加えたり、削ったりしてはいけません。
一三
１　自分は預言者だとか、夢で未来を占えるとか言う者には、気をつけなさい。　２ぴったり言いあてたからといって、うっかり信じてはいけません。どんなに占いが上手でも、『外国の神々を拝もう』などと誘惑する者の言うことを聞いてはいけません。３神様は、あなたがたが心とたましいを尽くして神様を愛しているかどうかを、試しておられるのです。　４決して、ほかの神々を拝んではいけません。神様の命令にだけ従い、神様だけを頼りなさい。
５　あなたがたを惑わすような預言者は死刑です。　エジプトの奴隷生活から助け出してくださった神様に背かせようとする、危険分子だからです。　悪い考えがはびこらないように、そんな連中は処罰しなさい。　６７ひそかにあなたがたをそそのかして、外国の神々を拝ませようとする者には、近い親類や親しい友人、あるいは血を分けた兄弟、愛する妻や子であっても、　８決して同意してはいけません。その話を聞くことも、同情することもなりません。　まして、罪を見のがしたり、かばいだてするなど、もってのほかです。９そんな者は一人残らず死刑です。　まず身内の者が手を下し、次に全員が手を下しなさい。　１０エジプトの奴隷生活から助け出してくださった神様に背かせようとしたのですから、石を投げつけて殺しなさい。　１１そうすれば、その事件を知っただれもが、自分たちの中に恐ろしい悪の根があることに気づき、二度と同じ罪を犯さないでしょう。
１２‐１４イスラエルの町のどこかで、外国の神々を拝むようにそそのかす者がいると聞いたら、まず、うわさが本当かどうか確かめなさい。　事実そのとおりで、そんな恐ろしいことが神様の下さった町で起こっていることがはっきりしたら、　１５その町を攻め、住民も家畜も皆殺しにしなさい。　１６戦利品は道に積み上げて燃やし、町にも火を放って、神様への完全に焼き尽くすいけにえとしなさい。　そこは永遠の廃墟となり、再建されることはありません。　１７まちがっても、戦利品を持ち帰ってはいけません。　何もかも焼き尽くすことによって、神様は激しい怒りを静め、もう一度あなたがたに目をかけ、ご先祖への約束どおり、大国にしてくださいます。　１８ただ神様に従順に従い、きょう私が与える戒めを守り、神様の目にかなう正しいことを行なえば、必ずそうなるのです。
一四
１　あなたがたは神様の国民だから、〔外国人が偶像を拝む時するように〕体を傷つけたり、葬式の時に額をそったりしてはいけません。　２あなたがたは特別な国民なのです。　神様が地上のどの国民よりも、あなたがたをご自分のものとしてお選びになったからです。
３‐５礼拝規則で汚れたものとみなされる動物を、食べてはいけません。食べていい動物

は次のとおりです。
牛、羊、山羊
鹿、かもしか、のろじか
野やぎ、くじか
大鹿、野羊
６　ひづめが分かれていて反芻する動物は、食べてかまいません。７それ以外のものはだめです。　らくだ、野うさぎ、岩だぬきなどは反芻しますが、ひづめが分かれていないので食べられません。　８その反対に、豚はひづめが分かれていますが、反芻しないので、やはりだめです。　このような動物は死体にも触れてはいけません。
９　水中の動物では、ひれとうろこのあるものは食べてかまいません。　１０それ以外はみな汚れたものです。
１１－１８鳥は、次のものを除いて、ぜんぶ食べられます。
はげわし、はげたか
黒はげたか、黒とび
はやぶさ、とびの類
からすの類全部
だちょう、よたか
かもめ、たかの類
ふくろう、みみずく
白ふくろう、ペリカン
野がん、鵜
こうのとり、さぎの類
やつがしら、こうもり
１９２０例外はありますが、羽のある昆虫類は汚れたもので、食べてはいけません。
２１　自然に死んだものは食べてはいけません。 ただ､いっしょにいる外国人は別です。その肉を彼らにやっても、売ってもかまいません。　しかしあなたがたは、神様にとってきよい者とされているのだから、食べてはいけません。
子やぎをその母の乳で煮てはいけません。
２２　毎年、収穫の十分の一をささげなさい。　２３それを、神様が聖所としてお選びになった場所へ持って行き、いっしょに食べなさい。穀物、新しいぶどう酒、オリーブ油、牛や羊の初子などの十分の一です。　こうして、いつも神様を第一にして生きることを学ぶのです。　２４聖所が遠すぎてささげ物を持って行けない時は、　２５それを売った代金を持って行きなさい。　２６着いてから、その金で牛と羊を一頭ずつ、ぶどう酒や強い酒など、何でも欲しい物を買い、家族といっしょに神様の前で楽しく食事し、祝い合いなさい。
２７　同じ町に住むレビ人にも、忘れずにその一部を分け与えなさい。　レビ人は土地も

なければ、収穫もないからです。
２８　三年ごとに、その年の十分の一のささげ物を、それぞれの地域の福祉事業に使いなさい。　２９財産のないレビ人や外国人、町に住む未亡人やみなしごに与えるのです。　だれもがお腹いっぱい食べられるように助け合えば、神様は、万事がうまくいくように祝福してくださいます。
一五
１　また七年目ごとに、イスラエル人の負債はみな、帳消しにしなさい。　２貸し主は借用証書に、『返済ずみ』と書き込まなければなりません。　それ以上返済の必要はないと、神様が決められたからです。　３ただし外国人には、この決まりは適用されません。　４５このやり方を守れば、貧しい者はいなくなります。　そして、約束の国で祝福されることまちがいなしです。　ただ、きょう私が与える神様の戒めに注意深く従えば、の話です。６それさえ守れば、神様は約束どおり祝福してくださいます。　多くの国に金を貸すことはあっても借りることはなく、多くの国を支配することはあっても、支配されることはありません。
７　神様が下さる国に着いてから貧しい者がいたら、その人に冷たくしてはいけません。８必要な物は何でも貸してやりなさい。　９もうじき負債免除の年だからと貸すのを断わるなど、もってのほかです。　その人がほかにどうしようもなく、神様に泣きついたら、言い逃れはできません。　悪いのは明らかにあなたです。　１０未練がましくぐちをこぼさず、何でも快く貸しなさい。　そうすれば、神様は仕事をうまくいかせ、ますます豊かにしてくださいます。　１１貧しい人はいつでもいるから、この戒めはどうしても必要です。　くどいようですが、貧しい人には進んで貸しなさい。
１２　ヘブル人（イスラエル人）の奴隷を買ったら、男でも女でも、七年目には自由にしてやりなさい。　１３といっても、手ぶらで帰してはいけません。　１４必ず、羊の群れと収穫したオリーブやぶどうの中から、十分な餞別を持たせなさい。　神様の恵みを分け合うのです。　１５エジプトで奴隷だったあなたがたを、神様は助け出してくださいました。　そのことを決して忘れないように、きょう私はこの戒めを与えたのです。
１６　しかし奴隷のほうで、『自由になりたくありません。　ご主人様が大好きですから、どうぞ、いつまでもおそばに置いてください』と言ったら、　１７その者の耳を、きりで戸に刺し通しなさい。　そうすれば、永久にあなたの奴隷となります。　女奴隷の場合も同じです。　１８一方、自由になりたいと言う者は、気持ちよく解放しなさい。　六年ものあいだ使用人の賃金の半分以下の費用で働いてくれたからです。　奴隷を自由にすることで、神様はあなたがたのすることを、いっそう栄えさせてくださいます。
１９　羊や牛の雄の初子は神様のために取っておきなさい。　牛の初子を働かせたり、羊や山羊の初子の毛を刈ったりしてはいけません。２０その代わり、毎年、聖所で、家族といっしょに神様の前でそれを食べなさい。　２１ただし、びっこだったり、目が見えなかったりして欠陥のあるものは、いけにえにできません。　２２家で食用にしなさい。　礼

拝規則で汚れた者とみなされる者でも、鹿やかもしかの肉と同じように、その肉を食べてかまいません。　２３ただし血は食べず、水のように地面にしぼり出しなさい。
一六
１　三月（ユダヤ暦では一月）には必ず、過越の祭りを祝いなさい。　神様が、夜、エジプトから助け出してくださった月だからです。　２過越のいけにえには、子羊と雄牛を聖所で神様にささげなさい。３それを､イースト菌を入れないパンといっしょに食べます。エジプトから逃げ出す時に食べたパンをしのんで、七日間イースト菌を入れないパンを食べるのです。　エジプトを発つ時には、パンをふくらませる暇もありませんでした。　生涯、あの日のことを忘れないようにしなさい。　４七日間は、ほんの少しのイースト菌も家に置いてはならず、過越の子羊の肉は翌朝まで残してはなりません。
５　過越のいけにえは家では食べられません。　６神様が聖所としてお選びになった場所で食べなさい。　毎年その日がきたら、夕方、日の沈むころに聖所でいけにえをささげるのです。　７子羊を調理して食べ、翌朝、家に帰りなさい。　８続く六日間は、イースト菌の入ったパンを食べてはいけません。　七日目には、それぞれの町から集まり、神様の前で共に静かに過ごしなさい。　その日一日、どんな仕事もしてはいけません。
９　取り入れが始まって七週間目に、　１０神様の前で七週の祭りを祝います。　その時には、神様が収穫させてくださった量に応じて、それぞれ、進んでささげるささげ物をしなさい。　１１こうして、家族をはじめ家中の者が、神様の前でいっしょに喜び合うのです。　この祝いには、同じ町に住むレビ人、外国人、未亡人、みなしごも招待しなさい。
１２エジプトで奴隷だったことを忘れないように、必ずこのとおりにしなければなりません。
１３　取り入れも終わり、穀物を脱穀し、ぶどうをしぼり終えたころ、七日のあいだ仮庵の祭り（荒野でのテント生活を記念して、祭りのあいだ小屋に住むことから名づけられた）を祝いなさい。　１４家族も使用人もみな、いっしょに楽しく過ごします。　同じ町に住むレビ人、外国人、みなしご、未亡人も忘れずに招待しなさい。
１５　この祭りは聖所で祝います。　収穫を感謝し、神様の数々の祝福を心から喜び合うのです。
１６　イスラエルの男子はみな、年に三度、種なしパンの祭り、七週の祭り、仮庵の祭りの時、聖所に集まり、神様の前に出なければなりません。
そのたびに神様へのささげ物を持って来なさい。　１７神様の祝福に応じて、ささげられるだけささげるのです。
１８　神様が下さるすべての町々に、裁判官と行政官を任命しなさい。　国の各地で正義が行なわれるためです。　１９金持ちの肩をもって正義を曲げたり、わいろを取ったりしてはいけません。　知恵ある人も､欲に目がくらむと正しい判断ができなくなります。　２０至る所で正義が行なわれなければなりません。　でなければ、神様が下さる国で成功を収めることはできません。

２１　神様の祭壇のほかは、たといどんな事情があろうとも、いまわしい偶像を立ててはいけません。　２２オベリスクも同じです。　神様はそのどちらも大きらいなのです。
十七
１　病気とか欠陥のある牛や羊は、神様へのいけにえにはできません。　そんなものをささげるのは、神様を辱しめることです。
２３どこででも、だれでも、神様との契約を破り、私が堅く禁じたにもかかわらず、ほかの神々、太陽、月、星などを拝んでいる者がいると聞いたら、　４まず、うわさが事実かどうかよく調べなさい。　事実であれば、　５男だろうが女だろうが、町の外に連れ出し、石を投げつけて殺しなさい。　６ただし死刑にする場合は、一人の証言では不十分です。必ず二人か三人の証言を聞きなさい。　７死刑と決まったら、はじめに証人が石を投げつけ、続いて全員が手を下します。　こうして、悪の根を断ち切るのです。
８　判断の難しい事件、例えば証拠が不十分な殺人事件、人権侵害の問題などの場合は、神様の聖所に行き、　９レビ人の祭司か、その時の主任判事に上告しなさい。　彼らが判決を下します。　１０その判決に不服を申し立てることはできません。　おとなしく判決に従いなさい。　１１そのとおり、完全に実行するのです。　１２神様がお選びになった祭司や裁判官の判決に従わなければ死刑です。　そのような罪人は、イスラエルから除き去らなければなりません。　１３きびしい罰を加えるのは、法廷を侮辱してはならないことを教えるためです。
１４　神様が下さる国を占領し、住みついて、ほかの国のように王が必要になった時は、　１５必ず神様がお選びになる者を王としなさい。外国人は絶対に王になれません。　１６王は自分のために大きな馬屋を建てたり、馬を買いにエジプトへ部下をやったりしてはいけません。　神様が、『二度とエジプトへ帰ってはならない』と言われたからです。　１７大ぜいの妻をもってはいけません。　神様よりも妻のほうに心を奪われる危険があるからです。　ばく大な財産をつくるのもよくありません。
１８　戴冠式を終え、王位についたら、レビ人の祭司が保管している書から、この法律を書き写しなさい。　１９それをいつも手もとに置き、一生のあいだ毎日読みなさい。　そうすれば、神様のすべての戒めを守ることによって、神様をたいせつにすることを学ぶでしょう。　２０毎日、規則的に読み続けていけば、自分は国民より偉いのだと思い上がったり、ほんのわずかでも神様の法律からそれたりしません。　長いあいだ立派に国を治め、王位は何代のちまでも、子孫に受け継がれます。
一八
１　祭司とレビ部族は、ほかの部族と違って土地がもらえません。彼らは、祭壇にささげられるいけにえやささげ物で、生計を立てるのです。　２神様のものはみないただけるのですから、相続地をもらう必要はありません。　何もかも神様の約束のとおりです。　３いけにえにする牛や羊の肩、頬、胃は、祭司に与えなさい。　４祭司はそのほかに、収穫を感謝するしるしとして神様にささげる穀物の初物、新しいぶどう酒、オリーブ油、羊の

毛の初物などももらえます。　５神様はすべての部族の中からレビ部族を、代々神様に仕える者としてお選びになったからです。
６７レビ人はイスラエルのどこに住んでいようと､いつでも聖所に来てかまいません。 そこで定期的に仕えているほかのレビ人と全く同様に､神様の御名によって仕事ができます。８そして同じように、いけにえやささげ物の分配も受けます。　貧しいからではなく、受ける権利があるからです。
９　約束の国に着いたら、そこの住民のいまわしい習慣に染まらないよう、くれぐれも注意しなさい。 １０１１自分の子供を異教の神々へのいけにえとして焼き殺すような者は、死刑です。　そのほか、魔術師、占い師、まじない師、蛇使い、霊媒師、魔法使い、口寄せも赦されません。　１２こんなことをする者は、神様にきらわれ愛想をつかされます。ほかの国が滅ぼされるのもそのためです。　１３だからあなたがたは、神様に非難されないように歩みなさい。　１４これから追い払う国々はみな、このような悪いことを行ないますが、絶対にまねをしてはいけません。
１５　代わりに神様は、イスラエル人の中から私のような預言者を起こされます。　その預言者の言うことを聞きなさい。　１６これはあなたがたが願ったことです。　あれはホレブ山（シナイ山）のふもとでした。　あの時あなたがたは、『恐ろしくて生きた心地もしません。　もう二度と神様の恐ろしい声を聞かなくてすむように、山をこがす火を見なくてすむようにしてください』と泣きつきました。
１７　神様は願いを聞き、私に言われました。　『よろしい、言うとおりにしよう。　１８イスラエル人の中から、あなたのような預言者を立てよう。　わたしが言いたいことはみな、その者に語らせる。　１９その者の言うことを聞かない不届き者は、わたしの教えをいいかげんに扱ったのだから、わたしが罰しよう。　２０しかし預言者のほうが、自分の考えをわたしの教えのように見せかけて語ったり、ほかの神々の教えを語ったりした時は、その預言者が死刑になるのだ。』　２１では、神様の教えかそうでないか、どうしたらわかるでしょう。　２２預言どおりのことが起こらなければ、それはうそです。　ただのでっち上げです。　そんな預言者を恐れることはありません。
一九
１　神様が、あなたがたのものになる国々をぜんぶ滅ぼし、その町々に住むようになったら、　２３避難用の町を三つ確保しなさい。　過って人を殺した者が安全に逃げ込めるようにするのです。　国を三つに区分し、各地域に一つずつ避難用の町を設けます。　町に通じる道はよく補修しておきなさい。
４　町を設けるのは、次のような場合のためです。　５二人の人が森へ木を切りに行ったとします。　ところが、一人が木を切ろうと斧を振り上げたとたん、刃が柄から抜け、相手に当たり、運悪くその人は死んでしまいました。　そういう場合、避難用の町に逃げ込んで身を守るのです。　６７だれも復讐はできません。　どこに住んでいても、必ず三つの町の一つには逃げ込めるように、よく考えて町を選びなさい。　でないと、町まで行か

ないうちに怒りに燃えた復讐者に追いつかれ、殺されるかもしれません。　過って殺しただけでは死刑にはなりません。
８　ご先祖への約束どおり、神様が領土を広げ、約束の国を全部くださったら、　９避難用の町をさらに三つふやしなさい。　もっとも、それには、きょう私が与える戒めをみな守り、神様を愛し、神様の言われるとおりに歩まなければなりません。　１０避難用の町が十分にあれば、罪のない者が殺されることもなく、不法なリンチが行なわれた責任をとることもなくなります。
１１　しかし、以前から憎んでいた相手を待ち伏せて殺した時は、避難用の町に逃げ込んでもむだです。　１２犯人の出身地にあたる町の長老が連れ戻し、被害者の復讐をする者に殺させなさい。　１３容赦はいりません。　イスラエルから人殺しを除き去りなさい。そうしてはじめて、万事が順調にいくのです。
１４　神様の下さる国へ着いたら、かってに境界線を動かして人の土地を盗んではいけません。
１５　たった一人の証言で、人を有罪にしてはいけません。　証人は、少なくとも二人、できることなら三人いればもっといいのです。　１６無実の人をつかまえて、罪を犯す現場を見たと偽証する者がいたら、１７その者と訴えられた者とを二人とも、そのとき任務についている祭司と裁判官のところへ連れて行きなさい。　１８裁判官がよく調べた結果、偽証であることがはっきりしたら、　１９訴えられた者が受けるはずだった刑を、反対に偽証人が受けることになります。　こうして悪の根を取り除きなさい。　２０それがいい見せしめとなり、だれも偽証しなくなるでしょう。　２１だから容赦はいりません。　みな自分の罪に見合う刑罰を受けるのです。　いのちの代わりにはいのち、目の代わりには目、歯の代わりには歯、手の代わりには手、足の代わりには足で償うのです。
二〇
１　戦いに行き、はるかに強い大軍を目の前にしても、馬や戦車の数に恐れをなしてはいけません。　エジプトから安全に助け出してくださった神様がついておられます。　２戦う前に、祭司はイスラエル全軍に宣言しなさい。
３　『皆よく聞け。　きょうの戦いを恐れてはならない。　４神様が味方だ。　神様が戦われるからには、勝利はまちがいなくわれわれのものだ。』
５　続いて司令官が質しなさい。　『家を建てたばかりで、まだ神様におささげしていない者はいないか。　戦死でもして、ほかの者がその家を神様にささげることになったらまずい。　すぐ家へ帰れ。６ぶどうの木を植えて、まだその実を食べていない者はどうか。戦死でもして、ほかの者に食べられてはまずい。　すぐ家へ帰れ。　７婚約したばかりの者はいないか。　戦死でもしたら、ほかの者がその娘と結婚することになる。　今すぐ家へ帰り、結婚しろ。　８怖じ気づいている者はいないか。　そんなやつがいたら、全体の士気に影響する。　さっさと家へ帰れ。』　９こう言い終わったら、司令官は戦いの指揮官の名を告げます。

１０　戦いをいどむ町に近づいたら、まず降伏を勧めなさい。　１１その町が降伏して門を開けた場合、住民は全員奴隷にしなさい。　１２降伏をこばみ、あくまで戦うというのなら、包囲攻撃をかけます。　１３そして神様がその町を下さったら、男は皆殺しにしなさい。　１４ただし、女、子供、家畜、戦利品は自分たちのものにしてかまいません。　１５これは、遠くの町々を攻める時の方法です。　約束の国の中では通用しません。
１６　約束の国の中の町々では、住民は皆殺しにしなさい。　１７ヘテ人、エモリ人、カナン人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人を全滅させるのです。　これは神様の命令です。　１８こうしないと、その地の住民があなたがたを惑わして、偶像礼拝をさせるかもしれません。　吐き気をもよおすような忌まわしい習慣に染まり、神様にひどい罪を犯したら、取り返しがつきません。
１９　町を包囲攻撃する時は、くだものの木を全滅させないようにしなさい。　好きなだけ食べてかまいませんが、木を切り倒してはいけません。　木は敵ではないのです。　２０食用にならない木は切り倒して、包囲攻撃用のはしご、移動やぐら、破城槌などを作りなさい。
二一
１　約束の国に着いてから殺人事件があり、被害者は町の外で発見されたのに、現場を目撃した者がいない場合は、次のようにしなさい。　２まず、長老と裁判官が、死体から最も近い町はどこか調べます。３どこかわかったら、その町の長老が、まだ仕事をしたことのない雌の子牛を引いて、　４渓流の流れる開墾されていない谷間へ行き、そこで子牛の首を折ります。
５　それから祭司が進み出ます。　神様は、聖所の仕事や人々を祝福することばかりでなく、訴訟があったり事件が起きたりした時に判決を下すためにも、祭司を選ばれたのです。６そこで、町の長老たちは子牛の上で手を洗いきよめ、きっぱり宣言します。　７『被害者に手をかけたのは私たちではありません。　私たちが全く知らないうちに事件は起きたのです。　８神様、どうぞお赦しください。　私たちは神様が買い取られた国民です。　その私たちに、罪のない者を殺した罪を負わせないでください。』　９こうして、神様の指図どおりに罪悪を取り除きなさい。
１０　神様のおかげで戦いに勝ち、捕虜を連れて引き揚げる時、　１１その中に、妻にしたいような美しい娘を見つけたら、　１２家へ連れ帰りなさい。　娘は髪をそり、つめを切り、　１３すっかり着替えをし、捕虜になったとき身につけていた物を全部はずして、あなたの家で、両親のために一か月のあいだ喪に服します。　そのあと結婚しなさい。　１４彼女が好きでなくなったら、自由の身にして去らせなさい。　恥をかかせたのですから、売り払ったり、奴隷のように扱ったりしてはいけません。
１５　妻が二人あり、どちらにも子供がある場合、長男の母親はきらいで、　１６次男の母親のほうを愛しているからといって、次男に財産を余計やることはできません。　１７きらわれている母親の子でも、父親には初めての子であり、長男の権利を持っているのだ

から、習慣どおり、兄に弟の二倍の財産を与えなければなりません。
１８　いくら懲らしめても親の言うことを聞かない、強情で反抗的な息子は、　１９町の長老のところへ連れて行きなさい。　２０『息子は強情っ張りのうえに反抗的で、とても手に負えません。　親の言うことなどそっちのけで、大酒ばかり食らい、遊び暮らしています』と訴えるのです。　２１そのあと、町の者が息子に石を投げつけて殺します。二度と若者たちがそんな親不孝をしないように、今後の見せしめとするのです。
２２　人が死刑にあたる罪を犯し、殺され、木にさらされる場合は、２３次の日までそのままにしてはいけません。　その日のうちに埋葬しなさい。　木にさらされた者は、神様にのろわれた者だからです。そんなことで、神様が下さる国を汚してはいけません。
二二
１　迷い牛や羊を見つけたら､そ知らぬふりをせず､持ち主のところへ連れて行きなさい。
２持ち主がわからない時は、自分のところであずかり、持ち主が捜しに来たら返してやりなさい。　３このほか、ろば、衣服など、見つけた物は何でも同じです。　持ち主がわかるまで大事にあずかりなさい。
４　足をすべらせて荷の下敷きになった牛やろばを立たせようとしている人を見たら、黙って素通りしてはいけません。　すぐ行って手を貸しなさい。
５　女が男の格好をし、男が女の格好をしてはいけません。　神様はそんなことが大きらいです。
６　鳥の巣が地面や、木の上にあるのを見つけた場合、ひなや卵が母鳥といっしょだったら､みんないっしょに取ってはいけません。　７母鳥は逃がして､ひなだけを取りなさい。そうすれば、あなたがたもしあわせに暮らせます。
８　家を新築する時は、人が落ちないように屋上に手すりをつけなさい。　そうしておけば、万一だれかが落ちても、家や持ち主には責任がありません。
９　ふどう園にはほかの種をまいてはいけません。　そんなことをしたら、どちらの実も祭司に没収されます。
１０　牛とろばを組にして耕してはいけません。
１１　羊毛と亜麻というふうに、二種の糸で織った衣服を着てはいけません。
１２　（神様の命令を思い出すために）、外套の四すみにふさを縫いつけなさい。
１３１４結婚してから､夫が､結婚前にほかの男と関係があったと妻に言いがかりをつけ、『妻は処女ではなかった』と訴えたら、　１５娘の両親は町の裁判官に、娘が処女であった証拠を持って行きなさい。
１６‐１８まず父親が裁判官に､『この男に娘を嫁がせましたが､今になって､とんでもない言いがかりをつけるのです。　娘が処女でなかったと言っていますが、でたらめもいいとこです。　ご覧ください。　ちゃんと証拠があります』と言い、裁判官の目の前に衣服を広げなさい。　裁判官は夫をむち打ちの刑にし、　１９罰金三万円を娘の父親に払わせなさい。　イスラエル人の処女に言いがかりをつけ、恥をかかせた罰です。　彼は生涯、

妻を離縁することができません。　２０しかし、夫の訴えどおり、妻が処女でなかったことがはっきりしたら、　２１裁判官は彼女を父親の家の入口のところに連れ出し、町の者が石を投げつけて殺しなさい。　両親のもとにいながら売春婦まがいのひどい罪を犯し、イスラエルの名を汚したからです。　このような罪悪は除き去らなければなりません。
２２　姦通罪を犯し、見つかった場合、男も相手の人妻も二人とも死刑です。　こうして、イスラエルから罪悪を除き去りなさい。　２３２４婚約中の娘が町の城壁内で暴行された場合、娘も犯人も二人とも町の外に連れ出し、石で打ち殺しなさい。　娘は助けを叫び求めず、男は他人の婚約者を奪ったからです。　２５－２７罪悪は除き去らなければなりません。　ただし事件が起きたのが町の外であれば、死刑になるのは男だけです。　娘は殺人事件の被害者同様に罪はありません。　叫び声をあげたのに、町から遠かったのでだれも助けに来なかったと見なすのです。　２８２９婚約前の娘に暴行し、捕まった場合は、父親に罰金一万五千円を払い、娘と結婚しなければなりません。　絶対に離婚はできません。　３０義理の母は父親の妻なのですから、父親が死んでからも関係を持ってはいけません。
二三
１睾丸のつぶれた者、陰茎を切り取られた者は、聖所に入れません。　２私生児とその十代あとまでの子孫も、聖所には入れません。
３　アモン人とモアブ人は十代目の子孫でも、絶対に聖所へは入れません。　４彼らはあなたがたがエジプトを出て来た時、食べ物も水もくれなかったからです。　ただ歓迎しないばかりか、わざわざメソポタミヤのペトルからベオルの息子バラムを雇い、あなたがたをのろわせようとさえしました。　５しかし神様は、バラムの言うことに耳を貸さず、のろうどころか祝福するようにされました。　あなたがたを愛しておられるからです。　６生涯、どんな方法ででも、アモン人やモアブ人を助けてはいけません。　７ただし、エドム人やエジプト人は見下さないように。　エドム人は兄弟、エジプト人はかつて生活を共にした人たちだからです。　８あなたがたといっしょに来たエジプト人の孫は、聖所に入ってかまいません。
９１０戦争中は、陣営内の男子は身をきよく保たなければなりません。　夜、射精して身を汚した者は陣営を出て、　１１夕方まで外にいなければなりません。　日が暮れたら、体を洗い陣営に戻ります。　１２用を足す時は陣営の外に出なさい。　１３武器とくわを持って行き、穴を掘って用を足したら、きれいに土をかけます。　１４陣営内はいつもきよくしておくのです。　神様がその中を歩まれるとき見苦しい物があったら、いやな思いをなさるでしょう。　せっかくあなたがたを守り、敵を負かそうとしておられたのに、そんなことで愛想をつかされたら、元も子もありません。
１５１６逃げて来た奴隷を、むりやり主人のところへ連れ戻してはいけません。　決して意地悪をせず、どこでも好きな所に住まわせなさい。　１７１８イスラエルの女子は神殿娼婦になってはいけません。　男子も、神殿男娼になってはいけません。　そんなことで

もうけた物を神様にささげてはいけません。　神様はそんな汚らわしいことは大きらいです。
１９　イスラエル人には、利息を取って物を貸してはいけません。　金、食物、そのほか、どんなものについてもです。　２０外国人ならかまいませんが､イスラエル人はだめです。兄弟であるイスラエル人から利息を取ったりしたら、約束の国へ着いても、神様に祝福されません。
２１　神様に誓いを立てたら、すぐ実行しなさい。　どんなことでも、ぐずぐずあとに延ばしてはいけません。　誓いを破るのは罪です。２２誓いを取り消せば、罪にはなりません。　２３誓った以上、そのとおり実行するよう気をつけなさい。　自分から神様に誓ったのですから、責任はとりなさい。
２４　人のぶどう園に入って好きなだけ食べるのはかまいませんが、持ち帰ってはいけません。　２５麦畑でも同じです。　そこで食べる分だけ手で摘むのはかまいませんが、かまで刈り取ってはいけません。
二四
１　妻のことで何か気に入らないことがあったら、離縁状を渡して去らせなさい。　２彼女が再婚し、　３その夫からも離縁されるか、あるいは死別した場合、　４前の夫は彼女と再婚できません。　彼女は汚されているからです。　そんなことをしたら、神様が下さる国に罪を持ち込むことになります。
５　新婚の男子は兵役やその他の務めを免除されます。　一年間は家にいて、新婚生活を思うぞんぶん楽しむのです。
６　ひき臼を担保に取るのは違法です。　粉がひけなくなったら、毎日の食事もできません。　７同胞のイスラエル人をさらって奴隷にしたり売り飛ばしたりする者は､死刑です。そのような罪悪は除き去りなさい。
８　らい病の場合は、何でも祭司の言うとおりにしなさい。　どうすればよいかは、すべて祭司に教えてあります。　９エジプトからの道中、神様がミリヤムになさったことを思い出しなさい。
１０　物を貸す時は、担保の品を取りに、相手の家にずかずか入り込んではいけません。１１相手が持って来るのを外で待ちなさい。　１２１３貧しくて外套しか出せない人には、夜の間はそれを返してやりなさい。　あなたがそれを掛けて寝てはいけません。　返してもらった人は、これで寒さをしのげると感謝するでしょう。　神様はあなたの正しい行ないをちゃんと認めてくださいます。
１４１５貧しい使用人をこき使ってはいけません。　イスラエル人でも町に住む外国人でも同じです。　日が暮れないうちに、その日の給料を払いなさい。　貧しい人はすぐにでも金がいるのです。 あまりひどい扱いをすると､その人は神様に訴えるかもしれません。そうなったらあなたは有罪です。
１６　父親は子供の罪で死刑になることはなく、子供も父親の罪で死刑になることはあり

ません。　人が死刑になるのは自分の罪のためです。
１７　移住者やみなしごを正しく扱いなさい。　借金のかたに未亡人の外套を取り立ててはいけません。　１８あなたがたも、エジプトでは奴隷だったではありませんか。　神様が助けてくださったから、今はこうしていられるのです。 そのことを忘れないためにも、気の毒な人には親切にしなさい。　１９刈り入れをし、畑にひと束おき忘れて来たら、わざわざ取りに戻らず、移住者やみなしご、未亡人のために残しておきなさい。　そうすれば、神様は何もかもうまくいくようにしてくださいます。　２０オリーブの実を打ち落とす時も同じです。　あとでもう一度、残りを打ち落としに行ってはいけません。　移住者やみなしご、未亡人のために残しておきなさい。　２１ぶどう園のぶどうもそうです。　落ちた実を拾い集めたりせず、貧しい人のために残しておきなさい。　２２エジプトで奴隷だったことをくれぐれも忘れないように。　以上のことを命じるのも、そのためです。
二五
１－３裁判でむち打ちの刑と決まったら、裁判官は自分の前に罪人を伏させ、罪の程度に応じて、それぞれ適当な回数だけ打ちなさい。　ただし最高は四十回で、それ以上は絶対に打ってはいけません。 あまりにきびしい刑を科して、同胞を不当に扱わないためです。
４　脱穀をしている牛に口かせをはめてはいけません。
５　息子がないまま死んだ人の妻は、夫に兄弟がいる場合、ほかの者と再婚はできません。必ず夫の兄弟と結婚するのです。　６そして、二人の間にできた長男に前の夫の名を継がせ、その家が絶えないようにしなさい。　７兄弟が結婚したがらず、義務を果たさない時は、町の長老に、『夫の兄弟は夫の名を残すために私と結婚してくれません』と訴え出なさい。　８長老はその男を呼び、話し合います。　それでも頑として承知しないなら、　９長老の見ている前でその男に近寄り、くつを脱がせ、顔につばして言ってやりなさい。『兄弟の家を立てないような人は、こうなるのよ。』　１０そのあと彼の家は、『くつを脱がされた者の家』と呼ばれます。
１１　二人の男がけんかをし、一方の男の妻が夫を助けようとして相手の男の急所をつかんだ時は、　１２容赦なく女の手を切り落としなさい。
１３－１５取り引きには正確なはかりを使い、正直に量りなさい。　そうすれば、神様が下さる国でいつまでもしあわせに暮らせます。　１６目盛りをごまかす者は神様にきらわれます。
１７　エジプトからの道中でのアマレク人の仕打ちを、決して忘れないようにしなさい。１８神様を恐れず戦いをいどみ、ひきょうにも、疲れ果て列のずっとうしろに離れた者に襲いかかったのです。　１９神様が約束の国で敵をみな破り、安心して住めるようになったら、アマレク人を皆殺しにし、その名を完全に葬り去りなさい。　どんなことがあっても必ずそうするのです。
二六
１　約束の国を征服し終え、住みつくようになったら、　２３聖所で、毎年の収穫の初物

を神様にささげなければなりません。　かごに入れたささげ物を、そのとき任務についている祭司に渡し、『これは、神様がご先祖に約束された国へ連れて来てくださったことへの、感謝のしるしです』と言いなさい。　４祭司はかごを受け取り、祭壇の前に置きます。　５それからあなたが、神様の前でこう言います。　『私の先祖は、エジプトへ避難したアラム人の移住者です。　初めは小人数でしたが、エジプトにいる間に、大きな強い国民となりました。６－８そのためにひどい虐待を受け、神様のお助けを必死に求めたのです。　その叫びを聞き、苦しみあえいでいるさまをご覧になった神様は、力強い奇蹟を起こし、エジプトから救い出してくださいました。エジプト人の目の前で、目をみはるような恐ろしい奇蹟を次々と起こし、　９ついに私たちを、この「乳と蜜の流れる」国に連れて来てくださったのです。　１０神様、ご覧ください。　この土地から取れた初物でございます。』次に、神様の前にそれを供え、礼拝します。１１そのあと、神様のお恵みを感謝してごちそうを食べます。　家族はもちろんのこと、レビ人やイスラエルに住む外国人といっしょに祝うのです。
１２　三年ごとに、特別な十分の一のささげ物をします。　その年は十分の一のささげ物をみな、レビ人、外国人移住者、みなしご、未亡人に分け与え、彼らの必要を満たしてやるのです。　１３そうして、神様の前で言いなさい。　『ご命令どおり、十分の一のささげ物をみな、レビ人や外国人移住者、みなしご、未亡人に与えました。　すべて決まりどおりに行ない、忘れたことは一つもありません。　１４喪中など、礼拝規則で汚れていると見なされる時は、十分の一のささげ物にさわりませんでした。　また、そのうちほんの少しでも死人に供えたことはありません。　いつも神様にお従いし、ご命令はすべて守りました。　１５どうか、天の聖所からご覧になり、お約束どおり私たちに下さった国を祝福し、「乳と蜜の流れる」国にしてください。』
１６　きょう神様がお与えになる、すべての戒めと法令に心から従いなさい。　１７あなたがたはきょう、イスラエルの主こそほんとうの神様であり、これからは主に従い、その法律、法令を守り、命令に従いますと断言しました。　１８そこで神様は、こう宣言なさいました。　『約束どおり、おまえたちはわたしの国民だ。　これからはすべて、わたしの法律どおりに行なえ。』　１９そうすれば、あなたがたは他のどの国よりもすばらしい国となり、称賛の的となります。　ただし、それには、神様が命じるとおり、聖なる国民とならなければなりません。」
二七
１　それから、モーセとイスラエルの長老たちは、次のような指示を与え、そのとおり行なうよう命じました。
２－４「ヨルダン川を渡り、約束の国、『乳と蜜の流れる』地に入ったら、川底から丸い石を取り、川向こうのエバル山に記念碑を建てなさい。　石の表面には石灰を塗り、神様の法律を書き記すのだ。　５６またそこに、神様の祭壇も築きなさい。　自然のままの丸い石を積み重ね、その上で、完全に焼き尽くすいけにえを神様にささげる。　７さらに和解

のいけにえもささげ、神様の前で祝宴を開いて、楽しく過ごしなさい。　８もう一度言うが、記念碑には全部の法律を書き記すのだ。」
９　それから、モーセとレビ人の祭司たちとは、イスラエルの全国民に呼びかけました。「みんな、よく聞け。　きょう、あなたがたは神様の国民となった。　１０だからきょうから、すべての命令に従いなさい。」
１１　同じ日に、モーセは命じました。
１２　「約束の国に入ったら、シメオン、レビ、ユダ、イッサカル、ヨセフ、ベニヤミンの各部族は、ゲリジム山に立って祝福を告げ、　１３ルベン、ガド、アシェル、ゼブルン、ダン、ナフタリの各部族は、エバル山に立ってのろいを告げなさい。　１４それから、レビ人が両者の間に立ち、全国民に向かって叫びます。
１５　『たとい隠れてでも、彫像や鋳像を作り、拝む者は、神様にのろわれる。　神様は人間が作った神々が大きらいだからだ。』　国民はみな、『アーメン』（「そのとおりです」「そうしてください」の意）と答えなさい。
１６　『親を侮辱する者はのろわれる。』　国民はみな、『アーメン』と答えなさい。
１７　『隣の土地との境界線を移す者はのろわれる。』　国民はみな、『アーメン』と答えなさい。
１８　『盲人をだます者はのろわれる。』　国民はみな、『アーメン』と答えなさい。
１９　『外国人、みなしご、未亡人などに不正を働く者はのろわれる。』　国民はみな、『アーメン』と答えなさい。
２０　『義理の母と姦通する者はのろわれる。　彼女は父親のものだからだ。』　国民はみな、『アーメン』と答えなさい。
２１　『獣姦をする者はのろわれる。』　国民はみな、『アーメン』と答えなさい。
２２　『異父姉妹であれ異母姉妹であれ、自分の姉妹と姦通する者はのろわれる。』　国民はみな、『アーメン』と答えなさい。
２３　『たとい父親が死んでからでも、義理の母親と姦通する者はのろわれる。』　国民はみな、『アーメン』と答えなさい。
２４　『ひそかに殺人を犯す者はのろわれる。』　国民はみな、『アーメン』と答えなさい。
２５　『報酬をもらって、罪もない人を殺す者はのろわれる。』　国民はみな、『アーメン』と答えなさい。
２６　『この法律を守らない者はのろわれる。』　国民はみな、『アーメン』と答えなさい。
二八
１　神様の戒め、きょう与えるこの戒めに完全に従えば、神様はあなたがたを、世界中で一番すばらしい国民とし、　２－６次のような祝福をお与えになります。
町の中でも外でも祝福され、子宝にも恵まれます。　作物は豊かに実り、羊や牛もどんどん増え、くだものとパンには事欠きません。　よそから帰って来る時も出かける時も、必ず祝福されます。

７　神様は敵を蹴散らされます。　束になってかかっても、くもの子を散らすように逃げ帰るのがおちです。　８約束の国に着いたら、神様は良い収穫をあげ、丈夫な牛が生まれ、何もかもがうまくいくように守ってくださいます。　９神様に従い、神様の道に歩むなら、あなたがたは、神様にささげられた聖なる国民としていただけるのです。　１０世界中の国々は、あなたがたが神様のものであることを知り、恐れるでしょう。
１１　神様は約束どおり、子宝を恵み、家畜や作物の実りに至るまで祝福してくださいます。　１２天の雨の倉を開き、豊かな収穫をもたらす雨を季節ごとに降らせてくださるのです。　すべてが順調にいくので、あなたがたは栄え、多くの国に貸し与えるようにはなっても、借りることはありません。　１３きょう与える神様の戒めに従いさえすれば、どこよりもすばらしい国となり、いつも優位に立てるのです。　１４ただし、それはみな、私が与える法律をきちんと守るかどうかにかかっています。　だから、絶対にほかの神々を拝んではいけません。
１５‐１９もし神様の言われることを聞かず、きょう与える法律を守らないなら、必ずのろわれます。
町の中でも外でものろわれ、くだものやパンに不自由します。子供は授からず、作物の実りも乏しく、牛や羊まで減る一方です。帰って来る時も出かける時も、良くないことばかり起きます。
２０　神様が自らのろいをお下しになるからです。　何もかもが混乱し、やることなすこと失敗ばかり、そして最後には滅ぼされます。　それもこれも、神様を捨てた罰です。　２１これから占領する国で、神様は伝染病をはやらせ、難なくあなたがたを滅ぼしてしまわれます。　２２結核、熱病、伝染病、ペストの流行、戦争、さらに黒穂病による作物の立ち枯れと、きりがありません。　こんな惨事が続いたら、たちまち全滅です。
２３　天は青銅のように堅く閉じて雨を降らせず、地は鉄のように堅くしまり、作物を実らせません。　２４国中が干上がり、ほこりと化し、もうれつな砂嵐が荒れ狂って、生き残る者は一人もありません。
２５　神様から見捨てられるので、勢い込んで戦いに出かけても、たちまち陣容はくずれ、敵前をみじめに敗走するでしょう。　そうなったら、国々のいいように、もてあそばれるだけです。　２６戦死者の死体が鳥や野獣のえじきとなっても、追い払う者さえいません。
２７　また神様は、エジプトの皮膚病にかからせます。　できもの、腫瘍、壊血病、疥癬に苦しめられ、治す薬もありません。　２８恐ろしさのあまり気が転倒し、何が何だかわからなくなり、パニック状態に陥ります。　２９盲人が暗やみで手探りするように、真っ昼間、明るい所でも手探りしなければ歩けません。　何をやってもうまくいかず、痛めつけられ、略奪されるばかりなのに、だれも助けてくれません。
３０　婚約者は奪われ、自分が建てた家には他人が住み、自分が育てたぶどう園の実を他人が食べるようになります。　３１自分の牛が目の前で殺されても、その肉の一片さえもらえません。　目の前でろばが連れ去られても、黙って見ているだけで、取り返すことは

できません。　羊がみな敵に奪われても、だれも守ってくれないのです。　３２目の前で、息子や娘が奴隷に売られます。　いくらかわいそうだと思っても、助けることはできません。　３３名前さえ聞いたこともない国民が、あなたがたが汗水流して育てた作物を食べ、あなたがたを痛めつけます。３４見ることすべてが悲しいことばかりで、心痛のあまり気が変になります。　３５おまけに神様は、あなたがたをつま先から頭のてっぺんまで、できものだらけにされるでしょう。

３６　神様は、あなたがたも王も国外追放にし、ご先祖もだれも知らなかった国へ追いやります。　そこでは、木や石の神々を拝むしかありません。　３７こうして神様に追い払われ、国々の恐怖の的、ことわざの種、笑い草となるのです。

３８　いくら種をまいても、いなごが食べてしまうので、収穫はわずかです。　３９ぶどう園をつくり、せっせと手入れしても、虫に食い荒らされ、実を食べることもぶどう酒を飲むこともできません。　４０オリーブの木はどこにでもありますが、実が熟さないうちに落ちてしまうので、体に塗るほどのオリーブ油さえ採れません。　４１息子や娘はあっという間に連れ去られ、奴隷になります。　４２いなごは、木と言わずぶどうと言わず、食い尽くします。　４３いっしょに住む外国人がますます金持ちになっていく中で、あなたがたはますます貧しくなるばかりです。　４４物を貸すのは彼らで、あなたがたではありません。　外国人のほうが恵まれ、あなたがたより優位に立ちます。

４５　神様の言われることを聞かないと、これらののろいが次々に降りかかり、ついには滅ぼされます。　どこにも逃げ場はありません。４６これらのことはみな、あなたがたと子孫への警告なのです。　４７４８何の不自由もなくしていただきながら、神様をほめたたえようとしなければ、敵の奴隷にされます。　敵に攻められ、飢え渇き、着る物もなく、あらゆる不自由を忍ばなければなりません。　絶対にはずせない鉄のくびきをはめられ、最後には全滅するのです。

４９　神様は遠く離れた国を立ち上がらせ、わしが飛びかかるように、あなたがたを襲わせます。 聞いたこともないことばを話し、 ５０子供だろうが老人だろうが容赦しない、どう猛で怒りに燃えた国民です。５１家畜も農産物も何もかも食い尽くされ、イスラエルでは、麦も新しいぶどう酒もオリーブ油も底をつき、牛や羊もいなくなります。　５２町町は包囲され、頼みの、高い城壁もついにくずれ落ちる日がきます。５３激しい包囲攻撃の中で、わが子の肉さえ食べるほどの食糧難にみまわれるのです。　５４ふだんはやさしい人でさえ、兄弟や妻はおろか子供にまで、むごい仕打ちをします。　５５町の中には食べる物が何もなくなり、飢えをしのぐためにわが子の肉を食べるばかりか、それを一人占めにしようとする者さえ出るでしょう。　５６５７足を地面につけようともしないほど上品でやさしい婦人が、愛する夫や子供たちと物を分け合うのをいやがり、後産や自分の産んだ赤ん坊を彼らに見せず、一人で食べてしまいます。　敵の包囲攻撃のために町中が恐ろしいききんに陥り、死ぬほど苦しい目を見るからです。

５８５９この書にあるすべての法律に従わず、神様の輝かしく恐るべき御名をあがめよう

としないなら、あなたがたも子孫も、絶えず伝染病に苦しめられるでしょう。　６０あの恐ろしいエジプトの病気を、神様がはやらせるからです。　伝染病は国中に広がります。６１それだけではありません。　神様は、この書にも書いてない、ありとあらゆる伝染病、災いを下し、ついには、あなたがたを全滅させるでしょう。６２星の数ほどいるあなたがたも、ほんの一にぎりが生き残るだけです。　神様の命令に従わなければ、必ずこのとおりになります。
６３　かつて神様があなたがたのためにすばらしい奇蹟を行ない、人数をふやすことを喜んだように、その時には、あなたがたを滅ぼすことを喜ばれるでしょう。　一人もイスラエルに残れません。　６４世界の果てから果てまで追い散らされます。　そこで、あなたがたもご先祖も知らなかった、木や石でできた外国の神々を拝むのです。　６５一時も安心できず、不安と絶望に打ちのめされ、悲しみと恐れのあまり体はやせ衰えてしまうでしょう。　６６しじゅう死の危険にさらされ、昼も夜も、恐ろしさのあまり生きた心地もしません。 明日のいのちさえわからないのです。 ６７朝がくると、『夜になればいいのに』と言い、夜になればなったで、『朝がくればいいのに』とため息をつきます。　そう言わずにはいられないほど、恐ろしいことばかり起こるのです。　６８もう行くこともないと言われたエジプトへ、神様は舟で連れ帰ります。　そこで自分を奴隷として敵に身売りしようとしても、買ってくれる者もいません。」
二九
１　神様がホレブ山（シナイ山）でイスラエル人と結ばれた契約を、モーセがもう一度語ったのは、モアブ平原でした。　２３モーセは全国民を集めて言いました。
「皆さんは、神様がエジプトで王と国民に下された大きな災害と、力強い奇蹟とを目のあたりに見ました。　４それなのに、今までまるでわかっていなかったのです。　物を見る目も、素直に聞く耳もありませんでした。　５荒野を放浪した四十年間を振り返ってみなさい。　その間、衣服は古びず、はき物もすり切れなかったではありませんか。６神様は、あなたがたが定住して、パンをつくる麦を植えたり、ぶどう酒や強い酒をつくるぶどうを育てたりするのをお許しになりませんでした。　それは、あなたがたの世話をしてきたのは他ならぬ神様であることを、わからせるためです。
７　ここへ来た時、ヘシュボンの王シホンとバシャンの王オグが戦いをしかけました。 私たちは二人を打ち破り、　８その領地を、ルベン部族とガド部族とマナセの半部族に与えました。　９ですから、この契約を守りなさい。　守りさえすれば、何もかもうまくいくのです。１０部族長も、国民も、裁判官も、行政官もみな、きょう神様の前に立っています。　１１妻子も、移住の外国人も、たきぎを割り、水をくむ下働きの者までも含め全員です。　１２きょう、ここに立っているのは、神様と契約を結ぶためです。　１３ご先祖アブラハム、イサク、ヤコブに約束されたとおり、きょう神様は、あなたがたを神様の国民とし、自らあなたがたの神となるおつもりなのです。　１４１５この契約は、きょう神様の前に立っている者とだけでなく、イスラエルの子孫全員と結ばれます。

１６　エジプトでどんなみじめな生活をしたか、そこを出てからは、敵の領地を通りながら、いかに安全に過ごしてきたか、今さら言うまでもありません。　１７木、石、銀、金でできた異教の偶像も、いやと言うほど見ました。　１８あなたがたの中に、個人だろうが、家族だろうが、部族だろうが、神様に背を向け、外国の神々を拝みたいと言いだす者が出たら、気をつけなさい。　それは、渋い、毒のある実しか結ばない根を植えるのと同じです。
１９　このののろいのことばを聞きながら、『何と言われたって、やりたいようにやるだけさ。大丈夫、絶対にうまくいくさ』などと、呑気にかまえてはいけません。　２０神様は決してお赦しになりません。裏切り者は激しいねたみと怒りを買うだけです。　この書に書かれたすべてののろいが降りかかり、地上から永遠に忘れ去られてしまうでしょう。　２１神様はその者をイスラエルの全部族から除外し、契約の違反者に下ることになっている、すべてののろいを下されるのです。　２２その結果、子孫たちや遠くから来た外国人が、ひどい災害や伝染病のつめ跡をまざまざと見るでしょう。　２３全土が塩分を含んだアルカリ性の荒れ地となり、種もまけず収穫もなく、一本の草木も生えません。　まるで、神様の怒りによって滅ぼされたソドム、ゴモラ、アデマ、ツェボイムのようになってしまいます。
２４　『こんなひどいことをなさるとは、いったいどういう訳ですか。　それも、特別に目をかけていた国に……。　なぜ神様は、これほどまでお怒りになったのですか』と、国々の民は不思議がるでしょう。
２５　答えはこうです。　『彼らのご先祖の神様が昔、彼らをエジプトから助け出し、特別な契約を結ばれたのに、彼らのほうからその契約を破った罰です。　２６神様がはっきり禁止されたのに、ほかの神々を拝んだのです。　２７それで神様は激しく怒り、前もって警告してあったすべてののろいを下されました。　２８彼らを一人残らずこの国から追い出し、情け容赦なく外国へ追いやったのです。　彼らは今もまだ故国に帰れず、外国に住んでいます。』
２９　神様はすべてのことをお示しになったわけではありません。　確かに、神様だけがご存じの秘密もあります。　しかし、はっきり示されたことには、私たちも子孫も永遠に従わなければなりません。
三〇
１　これらのことがみな起こり、外国へ追いやられても、絶望してはいけません。　その時にはもう一度、この祝福とのろいのことをよく考えなさい。　２そして神様のもとへ帰りたくなったら、きょう私が与える戒めに、あなたがたも子供たちも心から従いなさい。３そうすれば、神様は、囚われの身から救い出してくださいます。　あなたがたをかわいそうに思い、いったんは散り散りに追いやった国々から集めてくださるのです。　４５たとい地の果てにいようと、心配はいりません。　神様は必ず見つけ出し、ご先祖の国へ連れ戻します。　そして国を取り戻したら、ご先祖たちの時よりも、もっともっと祝福され、

よくしていただけるでしょう。　６あなたがたも、子供たちも、孫たちも、みな神様に心をきよめていただき、心から神様を愛するようになり、イスラエルは生き返るのです。
７８神様のもとに帰り、きょう私が命じる戒めをすべて守るなら、神様はのろいを取り去り、それをそっくりそのまま、あなたがたを憎み、迫害する敵に下します。　９反対に、あなたがたのすることは何でもうまくいきます。 子供にも恵まれ､家畜はどんどん増え、すばらしい収穫をあげるでしょう。　かつてのご先祖のように、あなたがたも神様のお気に召すからです。　１０この法典にある戒めを守り、心の底から回心して神様のもとに帰れば、神様は必ず喜ばれます。　１１戒めを守るのは決して無理なことではありません。
１２この法律は手の届かない天にあるわけではないからです。　聞こうにも聞こえず、守ろうにも守れず、かといって、地上に届けてくれる者もいないと、途方にくれることはありません。　１３また、だれも伝えてくれないほど遠い海のかなたにあるわけでもありません。　１４むしろ、いつでも守れるように、すぐ近くに、あなたの口、あなたの心にあるのです。　それを覚え、絶えず暗唱していればいいのです。
１５　いいですか、これは生きるか死ぬかの問題です。　神様に従って生きるか、従わないで死ぬかの、どちらかしかありません。　１６私はきょう､神様を愛し、その道に従い、法律を守るようにと命じました。そのとおりにすれば生きることができます。　神様はあなたがたと､もうすぐあなたがたのものになる国を祝福し､大国としてくださるでしょう。
１７しかし、神様から心が離れ、その教えに耳も傾けず、外国の神々を拝んだりすれば、
１８今はっきり断言しますが、必ず滅びます。　あなたがたのものになる国で、いつまでもしあわせに暮らすことはできません。
１９　さあ、天と地が証人です。　どちらを選びますか。　生きることですか、それとも死ぬことですか。　祝福ですか、それとものろいですか。　もちろん、あなたがたのためにも子孫のためにも､生きるほうを選ぶべきです。　２０神様はあなたがたのいのちです。
神様を愛し、信頼し、ご命令に従いなさい。　そうすれば、ご先祖アブラハム、イサク、ヤコブに約束された国で安心して暮らせます。」
三一
１２モーセはさらにことばを続けました。　「私はすでに百二十歳です。　これ以上あなたがたを指導することはできません。　それに、ヨルダン川を渡ってはならないと、神様から言われています。　３これからは、神様が自らあなたがたを導き、川向こうの国々を滅ぼされます。 そこを征服するための新しい司令官は､神様の命令どおりヨシュアです。
４エモリ人の王シホンやオグと戦った時のことは忘れていませんね。　神様はその国々にも同じようにされます。 ５完全にあなたがたの自由になるようにしてくださいますから、命令どおり、必ず全滅させなさい。　６心を強く持ち、勇敢に戦いなさい。　恐れてはいけません。　神様が味方です。　神様は絶対に、裏切ったり、途中で見捨てたりはなさいません。」
７　ここで、モーセはヨシュアを呼び、イスラエル全国民の前で命じました。　「心を強

く持ち、勇敢に振る舞いなさい。　神様の約束の国へ国民を導き入れる務めを与えよう。そこを征服するのを見届けなさい。　８神様が味方だから、恐れてはならない。　神様はいつも先頭に立ち、途中で見放すことも、見捨てることもなさらないのだ。」
９　それから、モーセは以上の法律を書き記し、十戒の入った箱をかつぐレビ人の祭司と、長老とに渡しました。　１０１１この法律は、七年目ごとの負債免除の年の仮庵の祭りに、全国民が聖所の神様の前に集まったとき読み聞かせるのです。
１２　そのことについて、神様はこう命じました。　「男も、女も、子供も、いっしょに住む外国人も全員集めて、神の法律を読み聞かせなさい。　どのように生きることをわたしが望んでいるかを学ばせるのだ。　こうして、わたしを大切にし、忠実に法律を守ることをくり返し教えれば、　１３今この法律を知らない子供たちも、約束の国に住む間、いつもそのことを学べるだろう。」
１４　このあとモーセに、「いよいよおまえの最期の時がきた。 これからのことを指示するから、ヨシュアを神の天幕に来させなさい」と命じました。　二人は命じられたとおり、神様の前に立ちました。
１５　すると、天幕の入口に大きな雲が現われ、その中から神様の声がしました。　１６「モーセよ、おまえは死に、先祖の仲間に加えられる。　そのあとこの国民は、約束の国で外国の神々を拝むようになる。　わたしのことなどすっかり忘れ、平気で契約を破るだろう。　１７そうなれば、黙っているわけにはいかない。　容赦なく彼らを見捨て、顔をそむけてやろう。　次々と恐ろしい目に会い、もうだめだという時、ようやく彼らは気がつき、『神様はもう私たちの味方じゃないのだ』と言うだろうが、手遅れだ。　１８あれほど禁じたのに外国の神々を拝む者には、わたしもきっぱり背を向けるだけだ。
１９　その警告のために、次の歌を書き記しなさい。　２０先祖に約束した『乳と蜜の流れる』国で、何もかもうまくいき、ぜいたくに慣れてくると、彼らはわたしをばかにし、平気で契約を破り、外国の神々を拝むようになるからだ。　２１そしてついに、大きな災いがみまうのだ。　その時、代々歌い続けられたこの歌を聞き、どうしてそんなことが起こったか思い知るだろう。　この国民がどんな国民か、約束の国に入る前から、わたしはちゃんと知っている。」
２２　その日モーセは、歌を書き記し、イスラエルの国民に教えました。　２３それからヌンの息子ヨシュアに、強く、勇敢な者となれと命じました。　「神様の約束の国へイスラエルの国民を導き入れなさい。　神様は『わたしがついている』と言われたではないか。」
２４　モーセはすべての法律を書き終えると、　２５十戒の入った箱をかつぐレビ人に、２６この法典を箱のそばに置き、国民への厳粛な警告とするよう指示しました。
２７　「全くあなたがたは反抗的で強情だ。　こうして私がいっしょにいてさえ神様に反抗するのだから、私が死んだら、どうなることやらわかったものじゃない。　２８さあ、部族の長老、高官を全員集めなさい。　天と地とを証人に立て、言っておきたいことがあるのだ。　２９私の死後、あなたがたはきっと堕落し、神様の命令に背くだろう。　神様

を怒らせるような悪いことをし、その報いで、結局は破滅を招くのだ。」
３０　それでモーセは、イスラエルの全国民に聞こえるように、次の歌を初めから終わりまで大声でうたいました。
三二
１　「天よ、地よ、
じっと耳をすませ、
私のことばを聞いてくれ。
２　小糠雨や露のように静かに、
若草をぬらす雨のように心地よく、
山腹を走る夕立のように激しく、
私のことばは下る。
３　さあ、神様の偉大さを告げよう。
この上なくすばらしいお方。
４　岩のように堅く、
なさることはみな、完全で正しく、
何事にも公平で忠実なお方。
神様はいつも完全に潔白だ。
５　しかし、イスラエルは堕落し、
罪に汚れてしまった。
強情で曲がったことばかりする。
もはや神様の国民ではない。
６　これが神様への恩返しか。
ばかな国民よ。
神様は父親ではなかったか。
おまえの生みの親ではなかったか。
おまえを強く育て上げた方ではなかったか。
７　昔を思い出せ。
父や老人に聞けば
すべてがはっきりするだろう。
８　世界を造られた時、
神様は天使を遣わし、
国々を監督させた。
９　だが、イスラエルは特別だ。
神様ご自身のものだからだ。
１０　獣の遠ぼえの聞こえる
寂しい荒野を行く時、

神様はまるで自分の目のように
イスラエルを守られた。
１１　わしが翼を広げ
ひなを乗せて飛ぶように、
神様はその国民を
翼に乗せて運ばれる。
１２　神様だけがイスラエルを指導し、
国民も外国の神々を知らずにいた時は、
１３　丘は豊かな実りを約束し、
ゆるやかに起伏する畑は肥えていた。
岩からはち蜜が、
石地からオリーブ油が採れた。
１４　そのほかにも、
乳と肉
バシャンの極上の雄羊と雄やぎ
最良の小麦
あわ立つぶどう酒と、
何でも欲しいだけあった。
１５　イスラエルはじきに満腹し、
丸々と太った。
ぜいたくに慣れて威張りだし、
すげなく神様を捨てた。
救いの岩に肩をすくめてみせた。
１６　イスラエルは外国の神々のあとを追い、
神様の激しい怒りと恨みを買った。
１７　事もあろうに、
外国の神々
それまで拝んだこともない神々に
いけにえをささげたのだ。
１８　生みの親である岩をけとばし、
いのちを与えてくれた神様を忘れるとは。
１９　神様はそれを見て憎しみに燃えた。
自分の息子、娘たちに侮辱されたからだ。
２０　とうとう神様は言われた。
『強情で不信仰な連中など
もう知るものか。

どんなことになるか見ているがいい。
２１　恨みを買ってでも
まやかし物の偶像を拝みたいのか。
だったらお返しをしてやろう。
おまえたちを捨て、無知な異教の諸国民に救いを与えてやるから、
さんざん恨み事を言うがいい。
２２　怒りの炎は燃え上がり、
地とその産物を焼き尽くし、
山々をなめ尽くす。
２３　息つく間もなく災いを下し、
次々と矢を放ち、射倒そう。
２４　飢えと熱病と不治の病で
痛めつけてもかまわない。
容赦なく滅ぼしてやるのだ。
野獣が彼らを八つ裂きにし、
毒蛇は獲物を求めて地をはい回る。
２５　外には敵の剣、
内には伝染病。
老人も、若者も、乳飲み子さえも逃れられない。
２６　あげくの果ては、
遠い国へ散り散りに追いやろう。
彼らがいたことさえ忘れさせるために。
２７　だが、ちょっと待て。
それでは敵の思うつぼだ。
「われわれがイスラエルを滅ぼした。
神様なんかじゃない」と大口をたたかせることになる。』
２８　イスラエルはまぬけな国、
大ばか者の、わからず屋だ。
２９　ああ、少しでも知恵があり、
物わかりがよかったら、
自分の末路を見きわめることもできたろうに。
３０　彼らの岩である神様が見捨てず、
滅ぼそうとされなかったら、
一人の敵が千人を追い散らし、
二人が万人を敗走させることもなかったろうに。
３１　この岩にまさる岩はどこにもない。

敵も、神々への祈りがむなしいことを知っている。
３２　彼らの行ないは
ソドム、ゴモラの人たちと同じで、
苦々しい毒がある。
３３　彼らの飲むぶどう酒はまむしの毒液だ。
３４　『だがイスラエルは
わたしの取っておきの国民、
倉に納めた宝だ。
３５　復讐はわたしの務め、
イスラエルの敵には罰を下す。
判決はすでに下った。』
３６　神様はイスラエルをさばき、
彼らの失敗をやさしくかばわれる。
奴隷も自由の者も
力が衰えていくのを見て、
３７　こう言われる。
『ほかの神々はどこへ行った。
頼みの岩はどうしたのだ。
３８　あぶら身やぶどう酒をささげた神々はどうなったのか。
さあ、神々を奮い立たせ、助けてもらうがいい。
３９　どうだ、思い知ったか。
ほんとうの神はわたし一人なのだ。
殺すも生かすも、
傷つけるも治すも、
思いのまま。
わたしの手から救い出せる者はいない。
４０４１手を天に差し伸べ、
わたしの存在をかけて誓おう。
きらめく剣をとぎすまし、
敵に刑罰を下す。
４２　矢は血に酔いしれ、
剣は肉と血をむさぼる。
刺し殺され、捕らわれた者の肉と血を。
敵の頭は血にまみれる。』
４３　異教の国民よ、
神様の国民をたたえよ。

神様は彼らのかたきを討ち、
御国と民をきよめられたからだ。」
４４４５モーセはヨシュアとともにこの歌をうたい終えると、　４６人々に命じました。「きょう与えた法律をみな心に留め、子供たちに教えなさい。４７この法律は、ただ意味もなくことばを並べてあるのではありません。　あなたがたの命そのものです。　この法律を守れば、ヨルダン川の向こうの、これから占領する国で、いつまでも、何不自由なく暮らせるのです。」
４８　同じ日、神様はモーセに語られました。　４９「エリコに向かい合った、モアブのアバリム高地にあるネボ山に登れ。　頂上から、わたしがイスラエル人に与えるカナンの国を見渡すのだ。　５０兄のアロンがホル山で死に、先祖の仲間入りをしたように、おまえもその国を見たら、先祖の仲間入りをしなければならない。　５１ツィンの荒野のメリバテ・カデシュの泉でしたことの報いだ。　あの時おまえは、人々の目の前でわたしを侮辱した。　５２だから、約束の国を目の前にしながら、入って行くことはできないのだ。」
三三
１　次にあげるのは、神様に立てられた忠実な指導者モーセが、死を目前にしてイスラエルの人々を祝福した時のことばです。
２　「神様はシナイ山でわれわれのところに来られ、
セイル山からご自身を現わし、
無数の御使いに囲まれ
パラン山から光を放たれました。
その右手には炎が燃えさかっていました。
３　ああ神様は、どんなに深く御民を愛しておられることか。
聖徒は御腕にしっかりと抱かれています。
神様、彼らは御跡に従い、
御教えを受けました。
４　私が与えた法律は
何よりも大切な宝です。
５　神様は部族の指導者たちに選ばれ、
エルサレムで王となられました。
６　ルベン部族はいつまでも滅びず、
その数も増すように。」
７　ユダ部族への祝福のことば。
「神様、ユダ部族の叫びをお聞きください。
決して彼らをイスラエルから切り離さず、
彼らの敵と戦ってください。」
８　レビ部族への祝福のことば。

「ウリムとトンミム（神意をうかがう一種のくじ）を
敬虔なレビ部族にお与えください。
マサとメリバでの試練の時にも、
９　レビ部族は御教えに従いました。
大ぜいの悪人を殺し、
自分の子供、兄弟、
両親でさえも
容赦しませんでした。
１０　レビ部族はイスラエルに
神様の法律を教えます。
また、香をたく祭壇や
完全に焼き尽くすいけにえをささげる祭壇で、
神様のご用に励みます。
１１　神様、レビ部族を栄えさせてください。
彼らの働きを認め、
彼らに敵対する者を打ち砕き、
二度と立てないようにしてください。」
１２　ベニヤミン部族への祝福のことば。
「神様に愛され、
みそばで安らかに住む者よ。
神様はやさしく見守り、
どんな害も受けさせません。」
１３　ヨセフ部族への祝福のことば。
「その所有地は神様に祝福され、
天と地の最良の物に恵まれるように。
１４　作物は太陽の恵みによって育ち、
月を追うごとに実りを増し、
１５　永遠の山と丘が
最良の産物におおわれるように。
１６　地とそこに満ちるもろもろの物、
燃える柴の中に現われる神様の恵み、
そのすべてが、兄弟の中の王子
ヨセフにあるように。
１７　ヨセフの力と威厳は若い雄牛のようです。
頭には野牛の角をいただき、
すべての国々を突き倒します。

これがエフライムへの祝福、
これがマナセへの祝福です。」
１８　ゼブルン部族への祝福のことば。
「喜べ、ゼブルン、野の人よ。
喜べ、イッサカル、家を愛する人よ。
１９　彼らは人々を集め、
共にいけにえをささげて喜びます。
海の富、砂に隠れた宝をも
自分のものにするからです。」
２０　ガド部族への祝福のことば。
「ガドに手を貸す方に祝福があるように。
ガドはライオンのように伏し、
腕力は強く、不敵な面魂が売り物です。
２１　彼は最良の土地を見つけました。
指導者となる者の土地です。
こうして人々の先頭に立ち、
イスラエルのために神様の刑罰を下すのです。」
２２　ダン部族への祝福のことば。
「ダンはライオンの子、
バシャンから躍り出ます。」
２３　ナフタリ部族への祝福のことば。
「神様の祝福はみなあなたのもの、
何一つ不自由はしません。
ガリラヤ湖の西と南に広がる土地、
それがあなたのふるさとです。」
２４　アシェル部族への祝福のことば。
「アシェルは兄弟のだれよりも
愛されている息子。
神様の怒りを静めるオリーブ油に足をひたし、
２５　鉄と青銅の頑丈なかんぬきに守られ、
生きる限り
力にあふれているように。
２６　エルサレムの神様のような神は
ほかにありません。
神様はあなたを助けようと
恐れ多くも天から下られます。

２７　永遠の神様があなたの避難所。
永遠の御手があなたを支え、
敵を追い散らし、
『滅ぼせ』と命じます。
２８　しかし、イスラエルは平和です。
穀物とぶどう酒はあふれ、
雨は静かに、しかも絶え間なく、地を潤します。
２９　しあわせなイスラエル。
これほど神様に祝福されるとは。
神様に助けられた国がほかにあるでしょうか。
神様はあなたを守る盾、
あなたを助ける剣です。
敵はあなたの前で小さくなり、
あなたは難なくその背中を踏みつけます。」
三四
１　モーセはモアブ平原から、エリコの向かいにあるネボ山に登り、ピスガのいただきに立ちました。　神様に示されるままに約束の国を眺めると、ギルアデのずっと向こう、はるかかなたのダンまで見渡せます。
２　北から、ナフタリの領地、エフライムとマナセの領地、ユダの領地と続き、西は地中海まで広がっています。　３ネゲブ、ヨルダン渓谷、なつめやしの町エリコ、それにツォアルも見えます。
４　「これが約束の国、いつか子孫にこの地を与えると、アブラハム、イサク、ヤコブに約束した国だ。　おまえは今ようやくその国を見た。　しかし、入ることは絶対に許さない」と、神様はきっぱり言われました。
５　モーセは生涯、神様に忠実に仕え、神様が言われたとおり、モアブの国で死にました。６神様はモアブのベテ・ペオルの近くの谷にモーセを葬りましたが、場所ははっきりしていません。
７　モーセは百二十歳の高齢で死んだのに、まだ視力は完全で、体力も若者のようでした。８イスラエル人は三十日間、モアブ平原で喪に服しました。
９　ヌンの息子ヨシュアは、知恵のある立派な指導者でした。　モーセがかつて、彼の頭に手を置いて任命したからです。　そこで、人々はヨシュアの指導に従い、神様がモーセに与えた戒めをそのとおり守りました。
１０　ところで、モーセのような預言者はもう二度と現われませんでした。 実に神様は、面と向かってモーセと話されたのです。　１１１２そのご命令どおり、モーセは目をみはるような奇蹟を行ないました。あれほどの奇蹟は、その後なされたためしがありません。エジプトでは王と宮廷の人々の目の前で、荒野ではイスラエル人の見ている前で、恐るべ

き奇蹟を行なったのです。

▪

イスラエルの歴史

舞台はいよいよ約束の国に移り、そこでくり広げられるイスラエル興亡のさまが描かれます。先住民を追い出し、約束の地を各部族に割り当てて定住したイスラエルには、危機の時には適切な指導者が現われ、民族を滅びから救いました。やがて王が立てられ、国として栄えたのち、宗教が混乱し、国政も乱れ、ついにはバビロンに捕囚となり、国家としての形さえ失ってしまいました。バビロンからの解放後、エルサレムに帰ったイスラエルは、城壁造りや神殿建設に力を注ぎました。

カナン征服記　上（ヨシュア記）
モーセの死後、国家の指導権はヨシュアに移りました。　イスラエルがその地を征服する全期間を通じて、ヨシュアは信仰的にもすぐれた総指揮官でした。　モアブ平原でヨシュアに訓練されたイスラエル軍がヨルダン川を渡ると、戦いが始まったのです。　大きな三つの戦争があり、それぞれの戦いに勝ったのち、約束の地はイスラエルの各部族に分割されました。　使命を終えたヨシュアは、人々を訓戒し、平和のうちに死んでいきました。

一
１　神様に忠実に従ったモーセが死ぬと、その従者で、ヌンの息子ヨシュアに、神様は命じました。
２　「よいか。　わたしのしもべモーセは死んだ。　〔おまえこそ次のイスラエルを担う新しい指導者だ。〕　さあ、人々を率いてヨルダン川を渡り、約束の地へ行け。　３モーセに約束したとおりのことを、おまえにも約束しよう。『おまえたちの行く所はどこでも、イスラエルの領地となる。　４南はネゲブの砂漠から北はレバノン山脈まで達し、西は地中海から東はユーフラテス川まで至り、ヘテ人の全領地も含まれる。』　５一生の間、おまえに手向かう者などいない。　わたしが、モーセと共に歩んだように、おまえとも共に歩むからだ。決して見放したり、期待を裏切って見捨てたりはしない。
６　雄々しく立ち、勇気を出せ。　りっぱな指導者になるのだ。　わたしが先祖に与えると約束した地を全部、占領するのだ。　７しっかりと男らしく勇気を出せ。　モーセが命じた法律を、きちんと守るのだ。　一つ残らず守れば、何もかもうまくいく。　８人々に、

法律をいつも思い出させよ。　まずおまえが、昼も夜も法律を忘れず、それを完全に守るよう心がけることだ。　模範を示し、どんなことでも、法律どおりきちんと行なうのだ。成功するもしないも、すべてその一点にかかっている。　９さあ、男らしく勇気を出せ。恐れや迷いを蹴散らせ。　いいか、どこへ行っても、おまえの神であるわたしが、ついているのだ。」
１０１１ヨシュアはイスラエルの指導者たちを集め、みんなにヨルダン川を渡る準備をさせるよう命じました。　そして、きっぱり言ったのです。　「三日以内に、われわれはヨルダン川を渡る。　神様が下さる地を占領し、そこに住むのだ。」
１２１３それから､ルベン部族とガド部族､およびマナセの半部族の部族長たちを召集し､彼らがモーセと取りかわした協定を思い出させました。 その協定とは､こうでした。「神様は、ヨルダン川の東側のこの地を、あなたがたの安住の地としてお与えになった。　１４だから、妻子と家畜はここに落ち着いてよい。　ただし、完全武装した軍隊は、他の部族よりも先にヨルダン川を渡り、川の西側の約束された領地を占領するために、手を貸すこと。　１５他の部族がその地を完全に征服するまで、共に行動すること。　その任務を果たしてはじめて、ヨルダン川の東側の地に落ち着くこと。」
１６　部族長たちは、この協定を心から受け入れました。　そして、ヨシュアを総指揮官とし、その命令に従うことを堅く誓いました。
１７１８「私どもは、モーセに従ったと同様、あなたに従います。　神様が、モーセと共におられたように、あなたにも伴われますように。ご命令に逆らう者は、だれであろうと死刑です。　どうぞ遠慮なく、断固とした態度でびしびしやってください。」
二
１　さてヨシュアは、シティムの野営地から対岸へ、二人のスパイを送り込むことにしました。　任務は、特にエリコの様子を調べることでした。　二人は売春婦ラハブの宿に着きました。 そこで夜を過ごす計画だったのです。　２ところがエリコの王に、「イスラエル人のスパイらしい、あやしい二人組が、今晩、町に忍び込みました」と通報する者があったのです。　３王はさっそく、憲兵隊をラハブの家に差し向け、二人の引き渡しを要求しました。
「あいつらはスパイだぞ。　イスラエルの隊長が送り込んだのだ。どうすりゃわしらをやっつけられるか、探りに来たんだ。」
４　しかしラハブは、二人をかくまったまま、憲兵隊長に答えました。「ああ、あの人たちならとっくに帰りましたよ。　ここにいたんだけどねえ。　そりゃ、まさかスパイだなんて、思いもよらないもの。５町の門が閉まるころ、夕やみにまぎれて町から出て行ったみたいよ。　行き先までは知らないけど、急いで追いかけりゃ、捕まえられるかもしれませんよ。」
６　ところが実際は、二人を屋上へ連れて行き、乾燥させるために積み上げた亜麻の中に隠していたのです。　７そうとは知らず、憲兵隊員は、二人のあとを追って、道中くまな

く捜しながら、ヨルダン川まで下って行きました。　その間に、町の門は堅く閉ざされたのです。　８ラハブは、二人がまだ寝ないうちに、屋上へ来て言いました。
９　「あんたたちの神様が、この地をあんたたちのものにしようとしていることは、よくわかってるのよ。　みんなこわがってるわ。　イスラエルと聞いただけで震え上がるほどにね。　１０だって、イスラエルの人たちがエジプトを出た時、神様が紅海に、道をつけられたっていうじゃない。　それに、ヨルダン川の東側にいたエモリ人の王様を二人、あのシホン王とオグ王をどんな目に会わせたかも、みんな聞いてるわ。　何でもあそこを廃墟にし、住民は皆殺しですって？　１１そんなことを聞いたら、こわがらないほうが変よ。戦う勇気なんか、ふっ飛んじゃうわ。　あんたたちの神様はただの神様じゃないわね。きっと、天地を支配なさるありがたいお方に違いないわ。　１２１３だから、お願いよ。　一つだけ聞いてほしいの。　エリコを占領する時、いのちだけは助けてもらえないかしら。両親や、兄弟、それにその家族もね。　そのことを、あんたたちの神様の聖なる御名にかけて、誓ってくださいな。　あんたたちを助けてあげたんだもの、これくらいのことは聞いてくれたっていいでしょ。」
１４　二人はうなずきました。　「われわれのことをしゃべらなければ、あんたも家族も傷一つ負わんよ。　いのちにかけても、あんたを守ってやる。」　１５ラハブの家は町の城壁の上にあったので、二人は綱で窓からつり降ろしてもらいました。
１６　ラハブは二人に注意しました。　「山へお逃げよ。　あんたたちを捜してる連中が引き返して来るまで、まる三日間、隠れていればいいわ。　それから、お帰りなさい。」
１７１８二人は別れぎわにこう言い残しました。　「いいかい。　このひもを窓から垂らすんだ。　そして、ご両親や兄弟など身内の人はみな、この家でいっしょにいるんだ。　そうでなければ、何が起きても責任はもてないよ。　１９一歩でもこの家から外へ出たら、保証しないよ。しかし、この家にいるかぎり、一人だって殺されたり、傷ついたりはしない。　はっきり約束しよう。　２０ただし、もしあんたが裏切れば、誓いは無効だ。　いいね。」
２１　「そのとおりにするわ。」　こうしてラハブは、窓から赤いひもを垂らしたままにしておきました。　２２二人のスパイは山へ逃げ、三日間ひそんでいました。　結局、追手は、道中くまなく捜し回りましたが、ついに見つけることができず、すごすごと町へ引き揚げました。２３そののち、二人は山を降り、ヨルダン川を渡り、ヨシュアのもとへ帰って、一部始終を報告しました。
２４　「神様は、あの地を全部、われわれに下さいます。　まちがいありません。　住民はみな、われわれを死ぬほど恐れているのです。」
三
１　翌朝はやく、ヨシュアに率いられたイスラエル人は、シティムを出発し、夕方にはヨルダン川の岸に着きました。　川を渡る前に、そこで幾日か野営したのです。
２－４三日目に、指導者たちは野営地を巡って、次のような命令を伝えました。　「神の

箱〔契約の箱〕をかついでいる祭司たちの姿が見えたら、あとに従いなさい。　これから行く所は見知らぬ地だから、祭司が先導するのです。　ただし、箱との間は、約一キロの距離を保ちなさい。　それより近づいてはなりません。」
５　それから、ヨシュアは人々に、各自、身をきよめる儀式を行なえと命じ、「あす、神様が偉大な奇蹟を行なわれるからだ」と宣言しました。
６　翌朝、ヨシュアは祭司たちに命じました。　「神の箱をかつぎ、先頭に立って川を渡りなさい。」　言われたとおり、祭司たちは出発しました。
７　神様はヨシュアに、「きょう、おまえに大きな栄誉を授けよう。わたしがモーセと共にいたように、おまえと共にいることを、イスラエルの人々に知らせるためだ。　８箱をかつぐ祭司たちには、水ぎわに来たら水の中に立つよう命じなさい」とお語りになりました。
９　ヨシュアは人々を召集し、こう話しました。　「さあ、よく聞きなさい。　神様のおことばを告げよう。　１０生ける神様があなたがたのうちにおられ、カナン人、ヘテ人、ヒビ人、ペリジ人、ギルガシ人、エモリ人、エブス人など、やがて占領する地の全住民を必ず追い払ってくださるということが、きょう、はっきりわかるでしょう。　１１いいですか。　全地の支配者である神様の箱が、先頭に立って、ヨルダン川を渡ろうとしているのです。
１２　今、各部族から一人ずつ、特別な務めにつく十二人を選びなさい。１３１４箱をかつぐ祭司たちの足が川に入った瞬間、流れはダムでせき止められたように、止まるだろう。まるで見えない壁にはばまれたように、水は盛り上がるはずだ。」　１５ちょうど刈り入れの季節を迎えたヨルダン川は、岸いっぱいに水をたたえていました。　人々が川を渡ろうと出発し、箱をかつぐ祭司たちが足を入れた瞬間、　１６はるか上流のツァレタン付近の町アダムで、水はダムにせき止められたように、盛り上がり始めたではありませんか。　ですから、その地点より下の水は塩の海（死海）に注いでしまって、ついに川床がむき出しになりました。　こうして人々はみな、エリコの町に近い所を渡ったのです。　１７箱をかつぐ祭司たちは、川の真ん中のかわいた地面に立ち、全員が渡り終えるまで待っていました。
四
１　人々が無事に渡り終えた時、神様はヨシュアにお語りになりました。
２３「特別な任務のために、各部族から一人ずつ選ばれた十二人に命じて、ヨルダン川の真ん中の、祭司が立っている地点から、一つずつ石を拾わせなさい。　その十二の石を集めて、今夜、野営する地に、記念碑として積み上げるのだ。」
４　ヨシュアは十二人を呼び出し、　５こう命じました。　「あの箱のある、川の真ん中に行き、一つずつ石をかついで来なさい。　つまり、十二部族にそれぞれ一つずつ、全部で十二だ。 それぞれの石は十二部族を象徴する。 ６その十二の石で記念碑を建てよう。そうすれば、将来、子供たちに『これは何の記念碑ですか』と尋ねられて、　７『ヨルダン川を神の箱が渡った時、水がせき止められたことを忘れないためだよ』と話して聞かせ

ることができる。　この記念碑は、その途方もない奇蹟を、イスラエル人が永久に忘れないためのものなのだ。」
８　十二人はヨシュアの命令に従い、川の真ん中から十二の石を拾いました。　各部族のために一つずつです。　まさに、神様がヨシュアに命じたとおりです。　彼らは石を野営地まで運び、記念碑として建てました。　９ヨシュアはまた、川の真ん中の祭司たちが立っていた場所にも、十二の石で、記念碑を築きました。　それは、今もそこに建っています。　１０箱をかついでいた祭司たちは、モーセからヨシュアに与えられた神様の命令がことごとく成し遂げられるまで、川の真ん中に立ち尽くしていました。　その間に、人々は急いで川床を渡ったのです。　１１全員が渡り終えると、みんなの見守る中で、箱をかついだ祭司たちが、川から上がって先頭に立ちました。
１２１３モーセの命令どおり完全武装した、ルベン部族とガド部族、それにマナセの半部族からなる四万の軍勢は、一隊となって、神様のために戦う他部族の先頭に立ち、エリコの平原めざして進みました。
１４　その日は、ヨシュアにとって生涯忘れることのできない日となりました。　神様はイスラエル人全員の目の前で、ヨシュアに大きな栄誉をお与えになったのです。 人々は、モーセを敬ったと同じように、ヨシュアを心から敬いました。 １５１６ヨシュアこそが、神様の命を受けて、箱をかつぐ祭司たちに命令を下した人だったからです。
「川から上がりなさい」と祭司たちに命じるよう、神様はヨシュアを促しました。
１７　ヨシュアがそのとおりに命じ、　１８祭司たちが川床から上がって来ると、どうでしょう。　たちまち、水は元どおりに流れ込み、岸いっぱいにあふれました。　１９この奇蹟が起こったのは三月二十四日のことです。　この日、全イスラエルはヨルダン川を渡り、エリコの町の東方にあるギルガルに野営しました。　２０このギルガルに、ヨルダン川から運んだ十二の石を積み上げ、記念碑を建てたのです。
２１　その時ヨシュアは、この記念碑の意味について説明しました。「いつの日か、子供たちが、『なぜここに、こんな石が置いてあるの。これ、どういう意味なの』と尋ねる時がくるだろう。　２２その時には、この十二の石は、イスラエル人がヨルダン川のかわいた土の上を渡った、あのすばらしい奇蹟の記念碑なのだと教えてやりなさい。　２３さらに、その時どのようにして神様が、われわれの目の前で川の水をからし、全員が渡り終えるまでかわいたままにしておかれたかを、教えなさい。　それはまさに、四十年前の紅海での出来事と同じです。２４神様がこうなさったのは、全世界の国民が、イスラエルの神である主こそ、力ある唯一の神様であると悟り、さらに、あなたがたがみな、この神様をいつも礼拝するようになるためです。」
五
１　ヨルダン川の西側の諸国民、エモリ人および地中海沿岸に住むカナン人の王はみな、神様がヨルダン川の水をからしたので、イスラエル人が川を渡って来たと聞いて、すっかり意気消沈し、恐怖におののきました。

２３その時、神様はヨシュアに、日を定めて、イスラエルの男子全員に割礼（男子が生まれて八日目にその生殖器の包皮を切り取る儀式）を施せ、と命じました。　この儀式が行なわれたのは、イスラエルの歴史上、二度目のことです。　神様は、このために火打ち石でナイフを作るよう、指示なさいました。　この時の場所は「包皮の丘」と呼ばれています。４５二度目の割礼の儀式を行なった理由はこうです。　イスラエルがエジプトを出た時、兵役につける年齢の男子は、すべて割礼を受けていました。　しかしその世代の人々はみな、荒野を旅する間に死んでしまい、そののち生まれた子供たちは、だれひとり割礼を受けていなかったのです。　６人々は、四十年も荒野を行きつ戻りつ旅して回り、とうとう、エジプトを出たとき兵役につける年齢にあった男子は、みな死に絶えたわけです。つまり、彼らは神様に従わなかったので、約束されていた「乳と蜜の流れる」地に入らせはしない、と言われたのです。　７ですから今、ヨシュアは彼らに代わって兵役についた息子たちに、割礼を施したのです。
８９神様はヨシュアにお語りになりました。　「きょう、わたしは、割礼を受けていないという恥を、おまえたちから取り除いた。」　それで、この出来事のあった場所はギルガル〔「終わらせる」の意〕と呼ばれ、現在でもそう呼ばれています。　この儀式ののちも、人々はみな傷が治るまで、野営地にとどまっていました。
１０　エリコの平原にあるギルガルに滞在中も、イスラエル人は三月二十八日（ユダヤ暦では一月十四日）の夕方になると、過越の儀式を守りました。　１１１２そして翌日、自分たちの占領下にある畑から収穫したものを食べ、イースト菌を入れないパンを焼いたりしました。　すると、次の日からマナは降らなくなり、二度とマナを見ることはありませんでした。　それ以来、人々はカナンの地の産物を食べるようになりました。
１３　さて、ヨシュアがエリコの町を見上げていた時、一人の人が目の前に現われました。その人は抜き身の剣を手にしていました。 ヨシュアは歩み寄り、「味方か、それとも敵か」と問いただしました。
１４　すると、「わたしは神様の軍勢の最高司令官だ」という答えが返ってきたのです。その声を聞くと、ヨシュアは地にひれ伏して拝み、「どうぞご命令を」と申し上げました。
１５　その最高司令官なるお方は、「くつを脱げ。　ここは聖なる地だ」と命じました。 ヨシュアはそのことばに従いました。
六
１　さて、エリコの城門は堅く閉ざされていました。　だれもがイスラエル人を恐れていたからで、人っ子ひとり出入りできないほどでした。
２　ところが、神様はヨシュアにこう命じたのです。　「おまえたちは、もう勝ったも同然だ。　町も人も、みなおまえたちのものだ。３４六日間、全軍を率いて、日に一度、町の周囲を回れ。　そのあとに、ラッパを手にした七人の祭司、神の箱と続く。　七日目には七度回り、祭司がラッパを吹き鳴らす。　５祭司がラッパをひときわ高く、長く吹き鳴らしたら、全員、大声でときの声をあげよ。　町の城壁はくずれ落ちるだろう。　その時、

四方八方から町へ攻め込むのだ。」
６‐９ヨシュアは祭司たちを召集し、指示を与えました。　すなわち、武装した人々が行進の先頭に立ち、そのあとに七人の祭司がラッパを吹き鳴らしながら続くこと、そのうしろを神の箱をかつぐ祭司が進み、さらに、護衛兵がしんがりを務めること、などです。
１０　ヨシュアは命じました。　「ラッパの音以外、音を出すな。　ひと言も発してはならない。　私が『ときの声をあげよ』と言ったら、いっせいに大声で叫べ。」
１１　その日、神の箱は一度だけ、町の周囲を回りました。　人々は野営地に帰り、夜を過ごしました。　１２‐１４翌朝、夜明けとともに、もう一度町の周囲を回り、野営地に戻りました。　こうして六日間が、同じように過ぎたのです。　１５七日目、夜の白むころ、またも人々は立ち上がりましたが、この日は一度ではなく、七度回りました。　１６七度目に、祭司たちが高らかに、長くラッパを吹き鳴らすと、ヨシュアは大声で叫びました。　「ときの声をあげよ！　神様はこの町をわれわれに下さったのだ！　１７住民は皆殺しだ。　だが売春婦のラハブと、その家の中の者たちは助けてやれ。　ラハブはわれわれのスパイをかくまってくれたのだ。　１８戦利品には手を出すな。　すべて破壊しろ。　もしこれに背けば、災いがイスラエル全体を襲うだろう。　１９ただし、金、銀、および青銅や鉄の器具は、みな神様のために特別にきよくされたものだから、取れ。」
２０　祭司の吹き鳴らすラッパの音を聞くと、人々はあらん限りの大声を出して、いっせいにときの声をあげました。　と、どうでしょう。突然、城壁がくずれ落ちたではありませんか。　それーっとばかり、四方八方から攻め込み、たちまち町を占領しました。　２１町中のものは全部、男も女も、老いも若きも、また牛、羊、ろばも、皆殺しです。
２２　それからヨシュアは、例の二人のスパイに命じました。　「約束を守るんだ。　すぐ行って、ラハブと身内の者を助け出せ。」
２３　その若者たちは、ラハブを見つけて助け出しました。　もちろん、彼女の両親、兄弟、いっしょにいた親せきの者もです。　彼らは、イスラエルの野営地の外で生活することになりました。　２４その間イスラエル人は、町とその中のすべてを焼き払いました。　ただし、金、銀、および青銅や鉄の器具は別で、神様のものとして取っておきました。　２５こうしてヨシュアは、売春婦ラハブとその家に共にいた身内の者とを、救ったのです。　今もなお、その一族はイスラエル人の中に住んでいます。　それというのも、ヨシュアがエリコ偵察のために送り込んだスパイを、ラハブがかくまってくれたからです。
２６　ヨシュアは、エリコを再建しようとする者には恐ろしい災いが下る、と宣言しました。　その土台を築く者は長男を殺され、その門を建てる者は末息子を失うというのです。
２７　神様が共に歩まれたので、ヨシュアの名はあまねく知れ渡りました。
七
１　しかしイスラエル人の中に、罪がひそんでいたのです。　神様のものとするもの以外はすべて滅ぼせ、というヨシュアの命令が、実は守られていなかったのです。　ユダ部族のカルミの子で、祖父はザブディ、曾祖父がゼラフであるアカンが、戦利品の一部をふと

ころに入れていました。　そのために、神様の激しい怒りが、イスラエル人全員に下ったのです。
２　エリコ陥落後すぐに、ヨシュアはまた、ベテル東方の町アイに、数人のスパイを送り込みました。
３　彼らは戻って報告しました。　「小さな町ですから、二、三千人もいれば十分です。すぐに占領できるでしょう。　全員で攻めるまでもありません。」
４　そこで、およそ三千の兵がアイに送り込まれました。　ところがどうでしょう。　彼らはさんざん痛めつけられたのです。　５三十六人が攻撃中に殺された上、大ぜいがアイの住民に石切り場まで追われ、次々に倒れました。　イスラエル軍は、この敗北ですっかりおびえてしまいました。　６ヨシュアと長老たちは心を痛め、衣服を裂き、頭にちりをかぶって、夕方まで神の箱の前にひれ伏しました。
７　ヨシュアは神様に叫びました。　「ああ神様。　エモリ人の手によって私たちを滅ぼすおつもりなら、どうして、ヨルダン川を渡らせてくださったのですか。　どうして、すでに得ていたもので、満足させてくださらなかったのですか。　こんなことになるくらいなら、ヨルダン川の東側にとどまっていればよかったのです。　８ああ神様。敵に背を見せてしまった今となっては、どうすることもできません。９カナン人や近隣の民族がこれを聞けば、攻めて来るに決まっています。　もはや全滅です。　そうなれば、神様の大いなる御名の栄誉はどうなるのでしょう。」
１０１１しかし、神様はお答えになりました。　「顔を上げて、立て。イスラエルは罪を犯したのだ。　わたしの命令に背いて、取ってはならないと命じた戦利品を盗んだのだ。盗んだだけではない。　偽って、自分の持ち物の中に隠しているのだ。　１２だから、おまえたちは敗れた。　これで、敗北の原因がわかったろう。　今では、イスラエルのほうが滅ぼされる運命にある。　その罪が完全に取り除かれなければ、もう、おまえとは共に歩まない。
１３　立て。　みなにこう告げよ。　『各自、あすに備えて、きよめの儀式を行なえ。　イスラエルの神様である主がこう言われるからだ。だれかが神様のものを盗んだ。　この罪を処分するまで、敵を破ることはできない。　１４明朝、あなたがたは部族ごとに進み出なさい。神様が犯人のいる部族を摘発なさるだろう。　その部族は氏族に分かれて進み出なさい。　神様が犯人の属する氏族を示してくださるだろう。　次に、その氏族は家族ごとに進み出なさい。　そして、犯人を含む家族はみな、一人ずつ前へ出るのだ。　１５神様のものを盗んだ者は、全財産もろとも、火で焼かれるがいい。　神の契約を破って、全イスラエルに災難をもたらしたからだ。』」
１６　翌朝はやく、ヨシュアは神様の前に、イスラエルの各部族を連れ出しました。　すると、ユダ部族に犯人がいることがわかったのです。１７ついでユダの各氏族を進み出させると、ゼラフの氏族だとわかりました。　今度は、家族に分かれて神様の前に進み出たところ、ザブディの家族だということになりました。　１８ザブディ家の男子が一人ずつ

連れ出されると、ついに、犯人はザブディの孫アカンであると判明したのです。
１９　ヨシュアはアカンにただしました。　「よいか。　イスラエルの神様に栄光を帰すのだ。　ほんとうのことを白状しろ。　さあ、何をしたか、包み隠さず話せ。」
２０　「私はイスラエルの神様に対して、取り返しのつかない罪を犯しました。　２１ちょっと見たら、バビロン産の美しい外套と、金の延べ棒と、銀とがあったんです。　銀は六万円もするだろうし、金のほうは十五万円の値打があると思いました。　すると、矢も盾もたまらず欲しくなりました。　それで、そいつを自分のテントの下に埋めたんです。銀はいちばん深い所に隠しました。」
２２　さっそく人をやって、戦利品を捜させました。　テントへ駆けつけた面々は、アカンの供述どおり、隠してあった盗品を掘り出し、さらに深い所からは銀を見つけました。２３それらはすべてヨシュアのもとへ運ばれ、神様の前に並べられました。　２４ヨシュアは全イスラエル人と共に、アカンをアコルの谷まで連れ出しました。　もちろん、盗んだ銀、外套、金の延べ棒、それに息子、娘、牛、ろば、羊、テントなど、全財産もいっしょです。
２５　ヨシュアはアカンに言い渡しました。　「どうして、われわれにこんな災難を招くようなことをしでかしたのだ。　今度は、神様がおまえをひどい目に会わせる番だ。」
人々は彼とその家族を石で打ち殺し、死体を焼き、　２６その上に石を高く積み上げました。　その石塚は現在も残っており、谷は、今もなおアコル〔災い〕の谷と呼ばれています。　こうして、ようやく神様の激しい怒りはおさまったのです。
八
１　それから、神様はヨシュアに命じました。　「恐れるな。　勇気を出せ。　全軍を率いて、アイを攻撃せよ。　勝利は目前だ。　わたしは、アイの王と全住民をおまえの手に渡した。　２エリコとその王にしたとおり、アイとその王にもせよ。　ただし、今回は奪い取ったものや家畜を自分たちの戦利品としてもよい。　町の後方には伏兵を置け。」
３４本隊がアイに向かう前に、ヨシュアは三万の精兵をひそかに派遣し、いつでも行動を起こせるよう、アイの後方の、そう遠くない場所に、伏兵として忍ばせました。
５　ヨシュアはこう説明しました。　「さて、作戦だが、まず本隊が攻撃をしかける。　アイの連中は前回同様、町から出て戦うだろう。　すると、こっちは逃げる。　６連中が追いかけて来る。　町は空っぽになるというわけだ。　彼らは『イスラエル軍がまた逃げて行くぞ。この前のとおりじゃないか』と言うに決まっているからな。　７そうしたら、隠れていたおまえたちが飛び出し、町に攻め入るのだ。　神様は町をおまえたちの手に渡してくださる。　８ご命令どおり、火をかけろ。　いいな。」
９　こうして三万の精兵は、夜中に本隊を離れ、アイの西端とベテルとの中間の地点に隠れました。　もちろん、ヨシュアの率いる本隊は、エリコの野営地にとどまって夜を過ごしたのです。　１０翌朝はやく、ヨシュアは将兵を起こし、長老たちを伴ってアイを目ざし、　１１－１３アイの北にある谷を前にして陣を敷きました。　その夜、ヨシュアはさ

らに五千の兵を選んで、町の西方に隠れている別働隊に合流させ、自分は、その谷で夜を過ごしました。
１４　アイの王は、イスラエル軍が谷を渡って来るのを見ると、翌朝はやく、アラバの平原で迎え撃とうと町を出ました。　もちろん、町の後方に伏兵がいるなどとは、夢にも思いません。　１５ヨシュアの率いるイスラエル軍は、さんざん痛めつけられたように見せかけ、いっせいに荒野へ退却しました。　１６すると、町中の兵士が追跡に駆り出されたのです。　案の定、町は無防備になりました。　１７アイからもベテルからも、兵士は一人もいなくなり、町の門も開け放されたままです。
１８　その時、神様はヨシュアに命じました。　「手にしている投げ槍を、アイの方に差し伸べよ。　わたしがアイをおまえの手に渡すからだ。」　言われたとおりにすると、　１９その合図を待っていた伏兵が、いっせいに飛び出して町になだれ込み、火をつけたのです。　２０２１アイの人々が振り返ると、町から上る煙が空いっぱいにたちこめているではありませんか。　彼らは逃げ場を失いました。　ヨシュアとその全軍は、煙を見て、伏兵が町に侵入したことを知りました。　それで、追いかけて来た人々に向き直り、反撃に出ました。　２２町に侵入したイスラエル軍も出て来て、背後から敵に襲いかかります。このようにアイの人々は罠にはまり、全滅しました。　生き残ったり、逃れたりした者は、一人もいません。　２３ただ、アイの王だけは捕虜とされ、ヨシュアのもとに連れて来られました。
２４　イスラエル軍は、町から出て来たアイの全軍を殺してしまうと、町へ取って返し、残っていた人々を次々に殺しました。　２５こうして、アイの全住民、一万二千人のいのちが、その日のうちに露と消えたのです。　２６ヨシュアは、最後の一人にとどめが刺されるまで、投げ槍をアイの方に差し伸べたままでいました。　２７ただし、家畜と分捕り品はそのまま残しておきました。　それはイスラエル軍のものだったからです。　あらかじめ、神様がヨシュアに、そうしてもよいと告げておかれたのです。　２８アイは荒れ果てた瓦礫の山と化し、現在に至っています。
２９　ヨシュアは、アイの王を夕方まで木に吊るしてさらしものとし、日が沈むと死体を降ろし、町の門の正面に投げ捨てました。　その上に石を山と積み上げたのですが、それは今も見ることができます。
３０　ついでヨシュアは、イスラエルの神様である主のために、エバル山に祭壇を築きました。　３１モーセの法律で命じているとおりにしたのです。　神様はエバル山について、「わたしのために、のみを当てたことのない石で祭壇を築け」と命じていたのです。　祭壇が築かれると、祭司たちはその上に、完全に焼き尽くすいけにえと和解のいけにえをささげました。　３２またヨシュアは、人々が見守る中で、祭壇の石に十戒を刻みつけました。
３３　それから、長老、将校、裁判官、在留外国人をも含むイスラエル人全員は、二組みに分けられ、一方はゲリジム山のふもとに、もう一方はエバル山のふもとに立ちました。

両者の真ん中には、神の箱をかつぐ祭司たちが、全員を祝福しようと待ちかまえていました。　以上はすべて、先にモーセが命じたとおりに行なわれたのです。　３４ヨシュアは、モーセが神様の法律の書に記した祝福とのろいのことばを、ことごとく読み上げました。
３５モーセの与えたすべての戒めが、女や子供、それにイスラエル人の中で暮らす外国人をも含む全会衆の前で、読み上げられたのです。
九
１２さて、エリコでの出来事を耳にした周辺の王たちは、さっそく連合し、ヨシュアとイスラエル軍に全力をあげて対抗しようとしました。それは、ヨルダン川西域で、北はレバノン山脈までの地中海沿岸に住む、ヘテ人、エモリ人、カナン人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人の王たちのことです。
３－５しかしギブオンの住民は、エリコとアイでの一部始終を聞いて、なんとか生きのびようと策略をめぐらし、使者をヨシュアのもとへ送りました。　使者の一行は、いかにも遠い国から旅して来たかのように、ぼろぼろの服を着て、繕ったくつをはき、風雪にさらされた袋と、つぎはぎだらけのぶどう酒の皮袋と、かび臭いかさかさのパンを、ろばに積んでいました。　６一行はギルガルのイスラエルの陣営に着くと、ヨシュアと人々に、こう言ったのです。　「私どもは、友好条約を結んでいただきたくて、遠い国からまいりました。」
７　人々は、このヒビ人たちに答えました。　「おまえたちがこの近くに住んでいないという確証はないぞ。　このあたりの住民は滅ぼせと、神様から命じられている以上、条約を結ぶわけにはいかない。」
８　「私どもを奴隷にしてくださってもけっこうです。」
「それにしても、おまえたちはいったい何者だ。　どこから来たのか。」　ヨシュアは尋ねました。
９　「私どもは遠い国からまいりました。　あなた様の神様の偉大なお力と、エジプトでなさったすべてのことは存じております。　１０それに、あなた様がエモリ人の二人の王、あのヘシュボンの王シホンとバシャンの王オグとを、どんな目に会わせなさったかも、よく存じております。　１１それで、私どもの長老や住民が申しますには、『さあ、長旅の用意をして、イスラエルの人々を訪ねてほしい。　そして、奴隷になると申し上げて、和平を求めてくるように』といった具合なのです。　１２このパンなど、出発した時には焼き立てのほかほかでしたが、今はご覧のとおり、かさかさにひからびて、かび臭くなっております。　１３このぶどう酒の皮袋も新品でしたが、今は古びて、ひびが入っておりますし、着物もくつも、難儀な長旅で、すっかりぼろぼろになってしまいました。」
１４１５このことばに、ヨシュアもほかの指導者たちも、ついにその一行を信用し、神様の指示を仰ぐこともせず、友好条約を結んでしまったのです。　そして、指導者たちは厳粛な誓いを立て、協定を批准しました。
１６　それから三日して、事実が明らかになりました。　この人々が近くの者だというの

です。　１７イスラエル軍は直ちに調査を開始し、三日目に彼らの町々に踏み込みました。その町の名は、ギブオン、ケフィラ、ベエロテ、キルヤテ・エアリムです。　１８しかし、町は無傷でした。　イスラエルの指導者たちが、先に神様にかけて誓っていたからです。しかし、おさまらないのは一般のイスラエル人です。友好条約を結んだことで、指導者の面々に食ってかかりました。
１９　指導者たちも必死です。　「われわれはイスラエルの神様の前で、彼らに手を下さない、と誓ってしまったのだ。　だから、手出しはしないでくれ。　２０どうしても、生かしてやらなければならないのだ。もし誓いを破れば、神様の怒りが下る。」
２１　こういうわけで、そこの住民は、イスラエル人の奴隷として、たきぎを割ったり、水をくんだりして暮らすことになったのです。
２２　ヨシュアは彼らの責任者たちを呼んで、問いただしました。「おまえたちは、われわれの近くに住んでいながら、なぜ、遠い国から来たなどと、だますようなまねをしたのか。２３今、のろいが降りかかるぞ。　こののちいつまでも、われわれの奴隷となり、神様に仕えて、たきぎを割り、水をくむのだ。」
２４　「私どもがあんなことをしでかしましたのは、イスラエルの神様が忠実なしもべモーセ様に、『この全土を征服し、住民を皆殺しにしろ』とお命じになったことを、はっきり存じていたからでございます。殺されるのがこわかったのです。　お赦しください。　２５どうぞ、思いどおりになさってください。　どのようにでも、お気のすむように。」
２６　そこでヨシュアは、彼らを殺すことを禁じました。　２７彼らはイスラエル人のため、また、やがて神様の指示なさる場所に築かれる祭壇のために、たきぎを割り、水をくむ者となりました。　この習わしは、今も続いています。
一〇
１　エルサレムの王アドニ・ツェデクは、ヨシュアがエリコ同様アイを占領し、破壊し、その王を殺害したことや、ギブオンの住民がイスラエルと和平交渉を行ない、同盟を結んだことなどを聞いて、　２ひとかたならず驚きました。　それは、ギブオンが実質的には王国の都のようで、アイよりも大きく、住民は非常な勇士として聞こえていたからです。
３そこで王は、次の諸王に使者を送りました。
ヘブロンの王ホハム
ヤルムテの王ピルアム
ラキシュの王ヤフィア
エグロンの王デビル
４　そして、こう言わせたのです。　「さあ、ギブオンを滅ぼすために手を貸してくれ。やつらはヨシュアやイスラエル人どもと和を講じたからだ。」
５　この五人のエモリ人の王は、連合軍を編成してギブオンを攻撃しました。　６ギブオンの人々は急いで、ギルガルにいるヨシュアのもとへ伝令を走らせました。
「しもべどもをお助けください。　少しでも早く援軍を出してください。　山地のエモリ

人の王たちが、連合して攻めて来ます。」
７　そこでヨシュアは、イスラエル軍を率いてギルガルを立ち、救援に向かいました。
８　神様はヨシュアにお語りになりました。　「恐れることはない。すでに打ち負かしたも同然だ。　彼らを滅ぼすため、おまえの手に渡した。　一人としておまえに立ち向かえる者はいない。」
９　ヨシュアはギルガルから夜通し行軍して、敵の連合軍に不意打ちをかけました。　１０神様が敵を大混乱に陥れたので、イスラエル軍はギブオンで大ぜい殺し、逃げる者を、ベテ・ホロンとアゼカとマケダまで追って倒しました。　１１敵がベテ・ホロンの丘を下って敗走する時､神様はアゼカへ至る道に大粒の雹を降らし続け､滅ぼしてしまいました。事実、イスラエル軍が剣で殺した者よりも、雹に打たれて死んだ者のほうが多かったのです。
１２　イスラエル軍が敵を追いつめ、さんざん悩ましていた時のことです。　ヨシュアは大声で祈りました。　「太陽よ、ギブオンの上にとどまれ。　月よ、アヤロンの谷から動くな。」
１３　すると、太陽も月も、イスラエル軍が敵を全滅させるまで、じっとしていたではありませんか。　この出来事は『ヤシャルの書』にくわしく記されています。　太陽は、二十四時間ほど、天にとどまっていました。　１４こんなことは、あとにも先にもありません。　この日、神様は一人の人の祈りを聞き入れ、太陽と月の動きをとどめてくださったのです。　結局、神様がイスラエルのために戦ってくださったというわけです。　１５そののち、ヨシュアとイスラエル軍は、ギルガルの陣営に引き揚げました。
１６　例の五人の王は戦いの最中に逃げ出し､マケダのほら穴に身を潜めていました。１７その王たちが見つかったという知らせを受けたヨシュアは、　１８ほら穴の入口を大きな石でふさぎ、番兵を立てて、中を見張るよう命じました。
１９　次に、その番兵を除く全軍に命じました。　「敵をどんどん追いつめ、しんがりから切って捨てよ。 みすみす生かして帰らせてはならん。 神様は敵を全滅させるために、力を貸してくださるからだ。」
２０　ヨシュアとイスラエル軍は、追撃の手を少しもゆるめず、五人の王の連合軍を皆殺しにしました。　ただ、ほんの一にぎりが生き残って、命からがら自分たちの町へ逃げ込んだということです。　２１一方イスラエル軍は、一人の兵士も失うことなく、マケダの陣営へと引き揚げたのです。　このことがあってから、あえてイスラエルに攻撃をしかけようとする者は、いなくなりました。
２２２３さてヨシュアは､部下に命じて､ほら穴の入口から石を取り除かせ､エルサレム､ヘブロン、ヤルムテ、ラキシュ、エグロンの五人の王を連れて来させました。　２４そして、イスラエル軍の指揮官たちに、王たちの首に足をかけるよう命じ、　２５こう言いました。　「恐れたり、失望したりするな。　雄々しく立ち、勇気を出せ。　神様は、すべての敵に、このようになさるからだ。」

２６　そうしてから、剣で五人の王を次々に突き刺し、死体を五本の木にかけて、夕方までさらしておいたのです。
２７　日が沈むころ、死体を木から降ろさせ、例のほら穴に投げ込めと命じました。　入口には石を山のように積み上げました。　その石の山は今も残っています。
２８　その同じ日に、ヨシュアはマケダの町を占領し、王と全住民を殺しました。　２９次に、イスラエル軍はリブナへ向かいました。　３０そこでも、神様が町と王をイスラエルの手に渡してくださったのです。ですから、エリコでと同様、最後の一人に至るまで、とどめが刺されました。
３１　イスラエル軍は、リブナの次はラキシュを目ざし、攻撃をしかけました。　３２二日目に、神様は町をイスラエルの手に渡してくださり、ここでも、リブナ同様、全住民が殺されました。
３３　ラキシュ攻撃のさなか、ゲゼルの王ホラムが、ラキシュ防衛の援軍を率いてやって来ました。　しかし、ヨシュアの配下はホラムを倒し、軍を全滅させたのです。
３４３５次いでイスラエル軍は、たった一日でエグロンを占領し、ラキシュ同様、皆殺しにしてしまいました。　３６そのあと、ヘブロンへ進軍し、　３７町と周囲の村々を片っぱしから占領し、全住民を殺しました。３８それからデビルに引き返し、　３９そこと周囲の村々をまたたく間に占領しました。　リブナ同様、全住民を殺したことは、言うまでもありません。
４０　こうして、ヨシュアが率いるイスラエル軍は、山地、ネゲブ、低地、および山の斜面の国々と王とを征服したのです。　イスラエルの神様が命じたとおり、その地に住む者を一人残らず滅ぼしました。４１カデシュ・バルネアからガザまで、またゴシェンからギブオンまで、その地の住民を打ち倒したのです。　４２この輝かしい成果はすべて、たった一度の軍事行動であげたものです。　イスラエルの神様が、人々のために戦ってくださったからです。　４３そののちヨシュアは、軍を率いて、ギルガルの陣営に引き揚げました。
一一
１－３ハツォルの王ヤビンは、これらの出来事を聞いて、さっそく次の諸王に使者を立てました。
マドンの王ヨバブ
シムロンの王
アクシャフの王
北方の山地の諸王
キネレテの南、アラバの諸王
低地の諸王
西方のドルの高地にいる諸王
東西のカナンの諸王

エモリ人の諸王
ヘテ人の諸王
ペリジ人の諸王
山地のエブス人の諸王
ミツパにあるヘルモン山麓の町々に住むヒビ人の諸王
４　王たちはみな､呼びかけに応じて兵を動員し､打倒イスラエルを掲げて結集しました。連合軍は、おびただしい馬と戦車をくり出し、５メロムの泉の周辺を見渡すかぎり埋め尽くす陣を、敷いたのです。
６　しかし、神様はヨシュアにお語りになりました。　「恐れるな。あすの今ごろには、彼らはみな死に果てている。　敵の馬のうしろ足の腱を切り、戦車を焼き払え。」　７ヨシュアの率いる軍勢は、突然メロムの泉に現われ、連合軍に襲いかかりました。　８神様が大軍をことごとく渡してくださったので、イスラエル軍は、大シドンおよび、通称「塩の穴」と呼ばれた場所まで、また東はミツパの谷まで、追い撃ちをかけました。　この戦いで生き残った敵軍は一人もいません。　９ヨシュアとその軍隊は、神様の命令どおり、馬のうしろ足の腱を切り、戦車を次々に焼き払いました。
１０　帰途、ヨシュアはハツォルを占領し、王を打ち殺しました。　ハツォルは以前、この連合王国の首都だったのです。　１１住民はみな殺され、町は炎上しました。
１２　ヨシュアは、王たちのほかのすべての町を攻撃し、全滅させました。　先にモーセが命じたとおり、住民は全員殺しました。　１３ただし、丘の上に建つ町々で焼き払ったのは、ハツォルだけでした。　１４破壊された町々から奪い取ったものと家畜はすべて、イスラエル人のものとなりました。　しかし、住民はすべて殺されたのです。　１５そうするよう、神様が、忠実なしもべモーセに命じておかれたからです。モーセはこの命令をヨシュアに伝え、ヨシュアはそのとおり実行しました。　ヨシュアは、神様がモーセに与えた指示にことごとく従い、一つも違反しませんでした。
１６　こうしてヨシュアは、山地、ネゲブ、ゴシェンの地、低地、アラバ、イスラエルの山地と低地を占領しました。　１７イスラエルの領地は､今やセイルに近いハラク山から､ヘルモン山麓のレバノンの谷にあるバアル・ガドに至る全域に及んだのです。　ヨシュアはまた、この範囲内に住むすべての王を殺しました。　１８このための戦いは、長い間かかりました。　１９ギブオンのヒビ人を除いて､友好条約を結んだ町は一つもありません。ほかの町は、片っぱしから全滅させられました。　２０それは、神様が敵の王たちに、イスラエルと和を講じるより対抗する道を選ばせたからです。　それで敵は、神様がモーセに命じたとおり、無残にも殺されることになったのです。
２１　この戦いの間にヨシュアは、ヘブロン、デビル、アナブ、ユダやイスラエルの山地に住む巨人族、アナクの子孫を捜し出し、町もろとも全滅させました。　２２それで、イスラエルの地から、巨人族は絶えましたが、それでもガザ、ガテ、アシュドデには、少数の生き残りがいました。

２３　こうしてヨシュアは、神様がモーセに告げた全地を、完全に掌握したのです。　ヨシュアは、この地を相続地として与えるため、部族ごとに割り当てました。　ついに戦争はやみ、この地に平和が戻ったのです。

一二

１　ヨルダン川の東側でイスラエルに滅ぼされた町々の王は、次のとおりです。　この地域は、アルノン川の谷からヘルモン山に達する全域に及び、東方の荒れ地の町々も含みます。

２　ヘシュボンに住んでいたエモリ人の王シホン。　その国は、アルノン渓谷の縁にあるアロエルから、アルノン川の中央部、さらにアモン人との境界線であるヤボク川まで及んでいました。　つまり、ヤボク川の北にも広がる現在のギルアデ地域の、半分を含んでいたことになります。　３シホンはまた、ヨルダン渓谷を、北はガリラヤ湖の西岸まで、南は塩の海（死海）とピスガ山の斜面まで支配していました。

４　アシュタロテとエデレイに住み、レファイムの最後の生き残りであったバシャンの王オグ。　５彼の領地は、北はヘルモン山、東はバシャン山中のサルカに達し、西はゲシュル人とマアカ人との境界線まで及んでいました。　その国は、さらに南に伸びてギルアデの北半分を含み、ヘシュボンの王シホンの国と境を接していました。　６モーセとイスラエル人は、彼らを滅ぼし、この地はモーセによって、ルベン部族、ガド部族、マナセの半部族に分け与えられたのです。

７　ヨルダン川の西側でヨシュアとイスラエル軍に滅ぼされた王たちは、次のとおりです。レバノン渓谷にあるバアル・ガドと、セイル山西方のハラク山との間にあるこの地は、ヨシュアの手で､イスラエルの他の諸部族に割り当てられました。　８‐２４この地域には、山地、低地、アラバ、山の斜面、ユダの荒野、ネゲブが含まれていました。そこに住んでいたのは、ヘテ人、エモリ人、カナン人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人です。

エリコの王

ベテルのそばのアイの王

エルサレムの王

ヘブロンの王

ヤルムテの王

ラキシュの王

エグロンの王

ゲゼルの王

デビルの王

ゲデルの王

ホルマの王

アラデの王

リブナの王

アドラムの王
マケダの王
ベテルの王
タプアハの王
ヘフェルの王
アフェクの王
シャロンの王
マドンの王
ハツォルの王
シムロン・メロンの王
アクシャフの王
タナクの王
メギドの王
ケデシュの王
カルメルのヨクネアムの王
高地の町にいるドルの王
ギルガルのゴイムの王
ティルツァの王
合計、三十一人の王とその町々が滅ぼされたのです。
一三
１　老人となったヨシュアに、神様は声をおかけになりました。「おまえは年老いたが、まだまだ占領しなければならない国は多いぞ。２‐７よいか、その地は次のとおりだ。
ペリシテ人の全地域
ゲシュル人の地
エジプト川からエクロンの南の境に至る、カナン人の地域
ペリシテ人の五つの町
ガザ
アシュドデ
アシュケロン
ガテ
エクロン
南のアビム人の地
　北のカナン人の全地域、つまり、シドン人の領地メアラから、北はエモリ人との国境の町アフェクに至る地域
　海岸地帯のゲバル人の地と、南はヘルモン山麓のバアル・ガドから、北はレボ・ハマテに至る、レバノンの山地全域

シドンの全地を含む、レバノンからミスレフォテ・マイムに至る山地全域
わたしは、これらの地域の住民を、イスラエル人の前から一掃しよう。そうしたら、この地域を、わたしの命令どおり、九つの部族とマナセの半部族とに分配すればよい。」
８　マナセの残りの半部族と、ルベン、ガドの各部族は、すでに、ヨルダン川の東側に相続地を与えられていました。　モーセがあらかじめ割り当てておいたからです。　９彼らの土地は、アルノン渓谷の縁にあるアロエルから、その谷の中にある町を通ってディボンに至る、メデバの台地までです。　１０その地域には、ヘシュボンを統治し、アモン人との境にまで手を広げていた、エモリ人の王シホンのすべての町が含まれていました。　１１また、ギルアデ、ゲシュル人およびマアカ人の領地、ヘルモン山全域、サルカの町のあるバシャン、　１２それに、アシュタロテとエデレイを治めていたバシャンの王オグの全領地が含まれていました。　オグはレファイム族の最後の生き残りでした。彼らはモーセに攻められ、追い払われたからです。　１３なお、イスラエル人はゲシュル人とマアカ人を追放しなかったので、彼らは今も、イスラエル人といっしょに住んでいます。
１４　土地の割り当て
レビ部族の相続地
モーセはレビ部族にだけ土地を割り当てませんでした。　その代わり、彼らは神様へのささげ物を受けることができたのです。
１５　ルベン部族の相続地
領地の広さが人口に比例するよう、モーセはルベン部族に、　１６アルノン渓谷の縁に位置するアロエルから、その谷にある町を通って、メデバの台地周辺に及ぶ地域を割り当てました。　１７そこには、ヘシュボンおよび他の台地の町々、ディボン、バモテ・バアル、ベテ・バアル・メオン、　１８ヤハツ、ケデモテ、メファアテ、　１９キルヤタイム、シブマ、谷を見下ろす山にあるツェレテ・ハシャハル、　２０ベテ・ペオル、ベテ・ハエシモテと、ピスガ山の斜面が含まれていました。
２１　ルベンの領地は、さらに台地の町々とシホンの王国をも含んでいました。　シホン王はかつてヘシュボンに住んでいましたが､モーセの手にかかって､ミデヤンの他の君主、エビ、レケム、ツル、フル、レバともども打ち殺されてしまいました。　２２このほか、ベオルの息子で魔術師のバラムも、イスラエル人に殺されたのでした。　２３ヨルダン川は、ルベン部族の西の境界です。
２４　ガド部族の相続地
モーセはガド部族に、その人口に見合った土地を割り当てました。２５その領地は、ヤゼル、ギルアデのすべての町、ラバに近いアロエルまでの、アモン人の地の半分を含んでいました。　２６つまり、ヘシュボンからラマテ・ハミツパおよびベトニムまで、マハナイムからデビルの境界まで広がっていました。　２７２８谷には、ベテ・ハラム、ベテ・ニムラ、スコテ、ツァフォン、シホン王の国の残りの部分がありました。　北はガリラヤ湖に達するヨルダン川が、西の境界でした。　彼らの地はヨルダン川の東にあったのです。

２９　マナセの半部族の相続地
モーセは、マナセの半部族に、その必要に応じて以下の地域を割り当てました。　３０その領地は、マハナイム以北で、バシャンの全域、かつてのオグの王国、バシャンにあるヤイルの六十の町を含む地域でした。　３１ギルアデの半分とオグの王国の町アシュタロテとエデレイは、マナセの息子マキルの氏族の半分に与えられました。
３２　モーセは、かつてイスラエル人がエリコのかなた、ヨルダン川の東で野営したとき、その地をこのように分配したのです。　３３ただし、レビ部族には土地を与えませんでした。　あらかじめ申し渡されていたとおり、神様ご自身が相続地だったからです。　神様こそ彼らの必要をすべて満たしてくださるのです。
一四
１２占領したカナンの地は、イスラエルの残りの九部族と半部族とに割り当てられました。どの地域をどの部族に割り当てるかを決めるのに、神様の前でさいころが投げられました。そうするように、神様が指示なさったからです。　祭司エルアザルとヨシュア、それに各部族の部族長が立ち会いました。
３４他の二部族と半部族とには、モーセがヨルダン川の東側の土地をすでに割り当ててありました。　ヨセフ部族は、マナセとエフライムの二部族に分かれていました。　レビ部族には、居住地となる町々と家畜のための放牧地を除いては、土地の割り当ては全くありませんでした。　５こうして、神様がモーセに指示したとおり、土地の分配は厳正に行なわれたのです。
６　カレブに与えられた地
ユダ部族から、カレブに率いられた一団が、ギルガルにいるヨシュアのもとへ来ました。カレブはヨシュアの前で尋ねました。
「昔、カデシュ・バルネアで、わしら二人のことで、神様がモーセに仰せられたことを、よもやお忘れではありますまいな。　７当時、わしは四十歳じゃった。　モーセはカナンの地を偵察させるため、わしらをカデシュ・バルネアからスパイとして送り出した。　わしは、実状をありのままに報告したが、　８いっしょに行った仲間はそうではなかった。皆を震え上がらせるようなことを言うて、約束の地に踏み入る勇気をくじいてしもうた。だがわしは、ずっと神様に従い続けてまいりましたぞ。　９モーセはわしに、『おまえが足を踏み入れたカナンの地区は、永久に、子々孫々おまえのものとなる』と約束してくれましたのじゃ。
１０　ご覧のとおり、あれから今まで、荒野をさまようた四十五年間も、神様はわしを生かしておいてくださり、もう八十五歳となりました。１１あの旅の空で、モーセがスパイを命じてくれた時と比べて、ちいとも弱ってなんぞおりませんわい。　今でもちゃんと旅もできれば、戦うことだってできますぞ。　１２ですからどうか、神様が約束してくだされたこの丘陵地を、わしにくだされ。　覚えておいでかな、わしらがスパイだったころ、城壁を巡らした大きな町々にアナク人が住んでいるのを、この目で見ましたわい。 だが、

神様が共におってくださるなら、やつらを追い払うことなどたやすいと思うとります。」
１３１４ヨシュアはカレブを祝福し､末代までの相続地としてヘブロンを与えました。 カレブがイスラエルの神様である主に従い通したからです。　１５それ以前には、そこは、アナク人の英雄にちなんでキルヤテ・アルバと呼ばれていました。
こうして、イスラエル人が再びこの地の政情を安定させたあとは、住民からの抵抗もすっかり影をひそめました。
一五
１　くじによるユダ部族の相続地
ユダの南の境界線は、エドムの北の境から始まってツィンの荒野を通り、ネゲブの北端にまで達します。　２‐４もっとくわしく記すと、この境界線は、塩の海（死海）の南の入り江から始まり、アクラビム丘陵地帯の南を走る道路に沿って、ツィンの荒野からカデシュ・バルネアの南にあるヘツロンへ延び、さらにカルカとアツモンを通り、ついにエジプト川に出て、地中海に達するのです。
５　東の境界線は、塩の海の西岸沿いにヨルダン川の河口までです。
北の境界線は､ヨルダン川が塩の海に注ぐ河口の入り江から始まり､　６ベテ･ホグラと､ベテ・ハアラバの北方を経て、ルベンの子ボハンの石に至ります。　７その地点からは､アコルの谷を通ってデビルに進みます。 デビルで､ギルガル方面へ北西に曲がりますが､ギルガルは、その谷の南斜面、アドミム一帯の反対側にあたります。ギルガルより先は、エン・シェメシュの泉とエン・ロゲルに達します。８この境界線は、そののちベン・ヒノムの谷を通り、エルサレムの町であるエブスの南側に沿って進み、それから西に向かい、ヒノムの谷とレファイムの谷の北端をも見下ろす、山のいただきに達します。９続いて、その山頂からメ・ネフトアハの泉へ延び、さらにエフロン山の町々に達し、そこからキルヤテ･エアリムとも呼ばれるバアラの周辺を北に迂回します。　１０１１続いて境界線は､バアラから西に回ってセイル山に至り、エアリム山の北斜面にあるケサロンの町を経て、ベテ・シェメシュに下ります。　そこで再び北西に向きを変え、ティムナの南を通って、エクロンの北側にある山の斜面に出ます。　そこで左に折れ、シカロンの南とバアラ山を通ります。　そこから再び北に向かい、ヤブネエルを通って、最後は地中海に達するのです。
１２　地中海の海岸線が西の境界線です。
１３　カレブに与えられた地
神様はヨシュアに、ユダの領地の一部をエフネの息子カレブに割り当てるよう、指示なさいました。　それでカレブは、アナクの父親にちなんだ名前の町キルヤテ・アルバ、すなわちヘブロンを与えられたのです。　１４カレブは、アナクの三人の息子、シェシャイ、アヒマン、タルマイの子孫を追い払い、　１５次いで､元はキルヤテ･セフェルといった､デビルの住民と一戦を交えました。
１６　時にカレブは､「キルヤテ･セフェルを攻め取った者には､娘のアクサを妻としてつ

かわそう」と宣言しました。　１７ケナズの息子で、カレブの甥にあたるオテニエルがその町を征服したので、アクサはオテニエルの妻となりました。　１８１９嫁入りの際、オテニエルはアクサをけしかけ、結婚祝いにもっと畑をくれるよう父親に願わせました。この件について父親と話そうと、彼女はろばから降りました。
「どうした。　わしにしてやれることがあれば、何でもお言い。」
「お祝いにもっといただきたいものがあるの。　先に下さった土地は荒れ地ですもの、泉も分けてほしいわ。」　それでカレブは、上の泉と下の泉も与えることにしたのです。
２０　ユダ部族に割り当てられた地は、次のとおりです。
２１－３２ネゲブにあるエドムの国境に面したユダの町々
カブツェエル、エデル、ヤグル、キナ、ディモナ、アデアダ
ケデシュ、ハツォル、イテナン、ジフ、テレム、ベアロテ
ハツォル・ハダタ、ケリヨテ・ヘツロンすなわちハツォル
アマム、シェマ、モラダ、ハツァル・ガダ、ヘシュモン
ベテ・ペレテ、ハツァル・シュアル、ベエル・シェバ
ビズヨテヤ、バアラ、イイム、エツェム、エルトラデ
ケシル、ホルマ、ツィケラグ、マデマナ、サヌサナ
レバオテ、シルヒム、アイン、リモン
全部で、二十九の町と周辺の村々を含んでいます。
３３－３６低地にあった次の町々も、ユダに与えられました。
エシュタオル、ツォルア、アシュナ、ザノアハ
エン・ガニム、タプアハ、エナム、ヤルムテ、アドラム
ソコ、アゼカ、シャアライム、アディタイム
ゲデラ、ゲデロタイム
全部で、十四の町と周辺の村々を含んでいます。
３７－４４ユダ部族は、このほか二十五の町と、それに属する村々をも相続しました。
ツェナン、ハダシャ、ミグダル・ガド、ディルアン
ミツパ、ヨクテエル、ラキシュ、ボツカテ、エグロン
カボン、ラフマス、キテリシュ、ゲデロテ、ベテ・ダゴン
ナアマ、マケダ、リブナ、エテル、アシャン、エフタ
アシュナ、ネツィブ、ケイラ、アクジブ、マレシャ
４５　ユダ部族の領地は、エクロンの町々と村々の全部をも含んでいました。　４６その境界線は、エクロンから地中海にまで達し、アシュドデの境界付近の町々と周辺の村々、４７アシュドデの町と周辺の村々、エジプト川に至るまでのガザと周辺の村々、さらに、南はエジプト川の河口から北はツロに至るまでの、地中海沿岸全域をも含んでいました。
４８－６２ユダはさらに、山地の四十四の町と周辺の村々をも相続しました。
シャミル、ヤティル、ソコ、ダナ

キルヤテ・サナすなわちデビル、アナブ
エシュテモア、アニム、ゴシェン、ホロン、ギロ
アラブ、ドマ、エシュアン、ヤニム、ベテ・タプアハ
アフェカ、フムタ、キルヤテ・アルバすなわちヘブロン
ツィオル、マオン、カルメル、ジフ、ユタ、イズレエル
ヨクデアム、ザノアハ、カイン、ギブア、ティムナ
ハルフル、ベテ・ツル、ゲドル、マアラテ、ベテ・アノテ
エルテコン、キルヤテ・バアルすなわちキルヤテ・エアリム
ラバ、ベテ・ハアラバ、ミディン、セカカ、ニブシャン
塩の町、エン・ゲディ
６３　しかしユダ部族は、エルサレムに住んでいたエブス人を追い出すことができませんでした。　それでエブス人は、今もなおユダの人々と共に生活しているのです。
一六
１‐４ヨセフ部族〔エフライムと、マナセの半部族〕の南の境界線
この境界線は、エリコ付近のヨルダン川から荒野を通り、ベテルの山地へと延びます。　ベテルからルズに、それからアルキ人の領地アタロテへと進みます。　次に西に向かって、下ベテ・ホロンに近いヤフレテ人との境界に下り、さらにゲゼルに出て、地中海に行き着くのです。
５６エフライム部族の相続地
その東の境界線は、アテロテ・アダルから始まり、上ベテ・ホロンを通って地中海に達します。　北の境界線は、地中海から東方へとミクメタテを通り、さらに東進してタアナテ・シロとヤノアハを通ります。　７ヤノアハから南に回ってアタロテとナアラに下り、エリコを経てヨルダン川で終わるのです。　８北の境界線の西半分は、タプアハからカナ川に沿って進み、終わりは地中海に達します。　９なお、エフライム部族には、マナセの半部族の領地内の町々も一部与えられました。　１０ゲゼルに住むカナン人は追い払われなかったので、今も奴隷として、エフライムの人々の中で生活しています。
一七
１　ヨセフの長男マナセの半部族の相続地
マナセの長男で、ギルアデの父マキルの氏族は、〔ヨルダン川東岸の〕ギルアデとバシャンの地を、すでに与えられていました。　彼らが勇敢な戦士だったからです。　２それで、ヨルダン川の西側の地は、アビエゼル、ヘレク、アスリエル、シェケム、シェミダ、ヘフェルの各氏族に割り当てられることになりました。
３　ところが、ギルアデの孫、マキルの曾孫、マナセの玄孫にあたる、ヘフェルの息子ツェロフハデには、息子がいなかったのです。　その代わり、マフラ、ノア、ホグラ、ミルカ、ティルツァという五人の娘がいました。　４娘たちは、祭司エルアザル、ヨシュア、およびイスラエルの指導者たちの前に進み出て、次のように申し立てました。

「神様がモーセ様におっしゃったことによれば、私どももこの部族の男の方々と同様、土地を相続できると存じますが。」
５６その結果、神様がモーセによって与えた命令どおり、五人の娘は、五人の大伯父と並んで相続地を受けました。　結局マナセの相続地の全体は、ヨルダン川の東岸のギルアデとバシャンのほかに、十の地区となりました。
７　マナセ部族の北の境界線は、アシェルの境界から南下して、シェケム東方のミクメタテに達します。　この境界線は、さらに南進し、ミクメタテからエン・タプアハに至るのです。　８タプアハの地はマナセのものでしたが、境界線上のタプアハの町はエフライム部族に属していました。　９境界線は、そこからカナ川の北岸に沿って下り、地中海に達しました。　川の南にある町々は、マナセの領地にありながら、エフライム部族のものでした。　１０川の南側、西は地中海に至るまでの地域は、エフライム部族に割り当てられました。　川の北側の、地中海の東岸地域は、マナセ領となりました。　マナセは、北はアシェルの領地と、東はイッサカルの領地とそれぞれ境を接しました。
１１　マナセの半部族にはまた、イッサカルとアシェルの領地内の次の町も与えられました。　ベテ・シェアン、イブレアム、ドル、エン・ドル、タナク、メギドとその周辺の村々です。　１２しかし、マナセの子孫はこれらの町の住民を一掃できなかったので、カナン人が残っていました。　１３ところが、やがてイスラエル人は勢力を増し、カナン人を奴隷として酷使するようになったのです。
１４　そののちヨセフの二部族がヨシュアのもとへ来て、こう問いただしました。　「神様がわれわれをこんなにも大世帯にしてくださったのに、なぜ一つの割り当て地しかくださらないのですか。」
１５　「もしエフライムの山地が狭いのなら、こうしたらよかろう。その気があればの話だがな。　ペリジ人やレファイム人が住んでいる森林地帯を切り開くのだ。」
１６－１８「あそこならありがたい。」　なにしろ、ベテ・シェアンの回りの低地やイズレエルの谷のような所には、鉄の戦車を備えた、なかなか手強いカナン人がおりますからな。」
「ではまず、山地の森林地帯を手に入れることだな。　君たちはこんなに数も多く、力も強い部族だから、きっとあそこを切り開いて住みつけるだろう。　それにだ、いかに相手が手強く、鉄の戦車を持っておろうと、谷からカナン人を追い出すことだって不可能じゃない。」
一八
１２この地を征服して、といっても、まだ七つの部族は、神様が与えてくださるという地を征服したわけではありませんでしたが、イスラエルの全会衆はシロに集まり、神の天幕を建てました。
３　そこで、ヨシュアは質しました。　「いつまでためらっておるのだ。　神様が与えてくださる地の先住民を滅ぼしに行かないのか。　４さあ、各部族から三人ずつ選びなさい。その者たちに、まだ征服していない地を偵察させ、広さや分配方法について報告させよう。

その情報に基づいて、土地を割り当てることにしたい。　５６偵察して来た者は、七区分に色分けした地図を作れ。　わしが、神意を伺うさいころを投げて、それぞれの地区をどの部族に割り当てればよいかを決めよう。　７ただし、よく覚えておけ、レビ人はどの土地も受けてはならない。　彼らは神様に仕える祭司であり、そのこと自体、すばらしい相続なのだ。　言うまでもないが、ガドとルベンの各部族およびマナセの半部族にも割り当てはない。　すでにヨルダン川の東側に、モーセが約束した安住の地を得たからだ。」
８　さてスパイたちは、地図を作ってヨシュアに報告書を出すために出かけて行きました。神様は、さいころを投げさせて、各区分をそれぞれの部族に割り当てることにしたのです。
９スパイたちは、命じられたとおり、調べ上げた全地域を七区分し、それぞれに町の名を記入して、シロの野営地にいるヨシュアのもとに戻りました。　１０そこで神様は、シロの天幕の中で、くじによる土地の割り当てを、ヨシュアに指示なさったのです。
１１　ベニヤミン部族の相続地
ベニヤミン部族の各氏族に与えられた地域は、先にユダとヨセフの各部族が得た領地の間にありました。
１２　北の境界線は、ヨルダン川から始まり、エリコの北に出て、山地を西に進み、ベテ・アベンの荒野を通ります。　１３そこからベテルとも呼ばれるルズに向かって南下し、下ベテ・ホロンの南の山地にあるアテロテ・アダルに至ります。　１４そこで境界線は南に回り、ベテ・ホロン付近の山を通って、ユダ部族の町キルヤテ・バアルすなわちキルヤテ・エアリムで終わるのです。　これが西の境界線です。
１５　南の境界線は、キルヤテ・バアルの端から、エフロン山を越えてメ・ネフトアハの泉に至り、　１６レファイムの谷の北にあたるベン・ヒノムの谷を見下ろす山のすそに下ります。　そこからヒノムの谷を越え、エブス人の住むエルサレムの町の南を通り、エン・ロゲルに下ります。　１７エン・ロゲルから北東に向きを変え、エン・シェメシュに出、さらにアドミムの坂に対しているゲリロテに出ます。　それからルベンの息子ボハンの石に下り、　１８アラバの北端に沿って進みます。　境界線はさらにアラバに下り、　１９ベテ・ホグラの南を通り、塩の海（死海）の北の入り江で終わるのです。　入り江はヨルダン川の南端にあたります。
２０　東の境界線はヨルダン川です。　これがベニヤミン部族の割り当て地です。　２１－２８ベニヤミン部族の相続地には、次の二十六の町が含まれていました。
エリコ、ベテ・ホグラ、エメク・ケツィツ
ベテ・ハアラバ、ツェマライム、ベテル、アビム
パラ、オフラ、ケファル・ハアモナ、オフニ、ゲバ
ギブオン、ラマ、ベエロテ、ミツパ、ケフィラ
モツァ、レケム、イルペエル、タルアラ、ツェラ
エレフ、エブス、別名エルサレム
ギブア、キルヤテ・エアリム

これらの町とその周辺の村々がすべて、ベニヤミン部族に与えられたのです。
一九
１　シメオン部族の相続地
シメオン部族は次の相続地を受けましたが、それは、先にユダ部族に割り当てられた地に含まれていたものです。　２‐７彼らの相続地は、以下の十七の町とその周辺の村々を含んでいました。
ベエル・シェバ、シェバ、モラダ、ハツァル・シュアル
バラ、エツェム、エルトラデ、ベトル、ホルマ
ツィケラグ、ベテ・マルカボテ、ハツァル・スサ
ベテ・レバオテ、シャルヘン、エン・リモン
エテル、アシャン
８ネゲブにあるラマとしても知られていたバアラテ・ベエルのような南の町も、シメオン部族のものとされました。　９こうしてシメオンの相続地は、先にユダに与えられた地の一部を取りました。　ユダに割り当てられた地域が広すぎたからです。
１０　ゼブルン部族の相続地
三番目に領地を割り当てられたのは、ゼブルン部族です。　その境界線はサリデの南側から始まります。　１１そこから西に回り、マルアラからダベシェテを通って、ヨクネアムの東を流れる川まで達します。　１２次に東へ向きを変え、キスロテ・タボルの境界に至り、そこからダベラテとヤフィアに出ます。　１３それから東のガテ・ヘフェル、エテ・カツィン、リモンに進み、ネアの方へ曲がります。　１４北の境界線は、ハナトンを通り、エフタ・エルの谷で終わっています。　１５１６この地域の町々には、すでにあげた町のほか、カタテ、ナハラル、シムロン、イデアラ、ベツレヘムなどの町と、その周辺の村々が含まれていました。　町は全部で十二です。
１７‐２３イッサカル部族の相続地
四番目に土地を割り当てられたのは、イッサカル部族です。　その境界内には、次の町が含まれています。
イズレエル、ケスロテ、シュネム、ハファライム
シオン、アナハラテ、ラビテ、キシュヨン、エベツ
レメテ、エン・ガニム、エン・ハダ、ベテ・パツェツ
タボル、シャハツィマ、ベテ・シェメシュ
これら十六の町には、周辺の村々も含まれます。　イッサカルの境界線はヨルダン川で終わります。
２４‐２６アシェル部族の相続地
五番目に土地を割り当てられたのは、アシェル部族です。　その境界内には、次の町が含まれていました。
ヘルカテ、ハリ、ベテン、アクシャフ

アラメレク、アムアデ、ミシュアル
境界線は、西のカルメルから始まってシホル・リブナテに至り、　２７東のベテ・ダゴンに向きを変え、エフタ・エルの谷にあるゼブルンまで進み、ベテ・ハエメクの北を通ってネイエルに達します。　次にカブルの東を通り、　２８エブロン、レホブ、ハモン、カナを経て、大シドンに至るのです。　２９それから境界線はラマに向かい、要塞の町ツロを経て、ホサのあたりで地中海に達します。　その領地には、マハレブ、アクジブ、　３０３１アコ、アフェク、レホブなど、合計二十二の町と周辺の村々が含まれていました。
３２　ナフタリ部族の相続地
六番目に土地を割り当てられたのは、ナフタリ部族です。　３３その境界線は、ヘレフとツァアナニムの樫の木から始まり、アダミ・ハネケブ、ヤブネエル、ラクムを通って、ヨルダン川で終わります。３４西の境界線は、ヘレフの近くからアズノテ・タボルを通過し、フコクに出ます。　南はゼブルンと、西はアシェルと境を接し、東の境界線はヨルダン川です。　３５－３９領地内の城壁を巡らした町は、次のとおりです。
ツィディム、ツェル、ハマテ、ラカテ、キネレテ
アダマ、ラマ、ハツォル、ケデシュ、エデレイ
エン・ハツォル、イルオン、ミグダル・エル
ホレム、ベテ・アナテ、ベテ・シェメシュ
ナフタリの領地内の町は合計十九で、周辺の村々も含まれます。
４０　ダン部族の相続地
最後に土地を割り当てられたのは、ダン部族です。　４１－４６その地域には、次の町がありました。
ツォルア、エシュタオル、イル・シェメシュ
シャアラビン、アヤロン、イテラ、エロン、ティムナ
エクロン、エルテケ、ギベトン、バアラテ、エフデ
ベネ・ベラク、ガテ・リモン、メ・ハヤルコン
ラコン、ヨッパの近くの地
４７４８しかし、その中には征服できない地域もあったので、ダン部族はレシェムの町を占領し、住民を殺して住みつきました。　そして町の名を、先祖にちなんで「ダン」と呼ぶことにしたのです。
４９　こうして、全地が明確な境界線のもとに、各部族に分配されました。　さらに、特別な地域がヨシュアのものとされました。　５０神様が、ヨシュアには望みどおりの町を与えよう、と言っておられたからです。　ヨシュアはエフライム山中のティムナテ・セラフを選び、町を再建して住みつきました。
５１　この部族間の土地分配をめぐる神聖なくじ引きには、祭司エルアザル、ヨシュア、各部族の部族長が立ち会いました。　これらは、神様の見守りのうちに、シロにある神の天幕の入口で行なわれたのです。

二〇
１　神様はヨシュアに命じました。　２「モーセに指示しておいたことだが、避難用の町を設けるように言え。　３知らずに人を殺してしまった場合、その町に逃げ込み、被害者の身内の復讐を逃れるためである。　４過って人を殺した者は、町へ着いたら、町の議員に会って事情を説明しなさい。　彼らは迎え入れ、町で暮らせるように、一区画を与えてくれる。　５たとい、被害者の身内が復讐しようと追いかけて来ても、偶発事故だったのだから、無実の殺人者を引き渡してはならない。　６不覚にも人を殺してしまった者は、正式の裁判まで、あるいは、事故当時の大祭司が死ぬまでは、そこで暮らさなければならない。　ただし、その後は自分の町や家に帰ることは自由である。」
７　避難用の町として選ばれたのは、ナフタリの山地にあるガリラヤのケデシュ、エフライムの山地にあるシェケム、ユダの山地にあるキルヤテ・アルバすなわちヘブロンです。８神様はまた、エリコ付近のヨルダン川の東側にも、同じ目的で三つの町を設けるよう命じました。　ルベン部族の荒野にあるベツェル、ガド部族の領地ギルアデのラモテ、マナセの半部族の領地バシャンのゴランです。　９避難用の町は、イスラエル人だけでなく、イスラエル内に住む外国人にも適用されました。　だれであろうと、過って人を殺した者は、正当な裁判を受けるために、そこへ逃げ込むことができ、復讐の犠牲になることはなかったのです。
二一
１　さて、レビ部族の指導者たちはシロに出向いて来て、祭司エルアザルやヨシュア、および他部族の部族長に相談を持ちかけました。
２　その申し出は、「神様がモーセによって指示なさったことだが、われわれにも、住む家と家畜用の放牧地とを確保してもらいたい」というものでした。
３　そこで、征服したばかりの幾つかの町が、放牧地も含めて、レビ人に与えられることになりました。　４町は十三でしたが、初めユダ、シメオン、ベニヤミンの各部族に割り当てられたものです。　これらの町は、レビ部族の中でも、アロンの子孫である、ケハテ氏族の祭司たちに与えられました。　５このほかのケハテの諸氏族には、エフライム、ダン、マナセの半部族の各領地から、十の町が与えられました。　６同様にゲルション氏族は、神聖なくじによって、バシャンにある十三の町を譲り受けました。　その町は、初めイッサカル、アシェル、ナフタリの各部族、それにマナセの半部族に与えられたものでした。　７メラリ氏族は、ルベン、ガド、ゼブルンの各部族から、十二の町を譲り受けました。　８モーセへの神様のご命令どおり、これらの町と放牧地は、神意を告げるさいころを投げることによって、レビ人に割り当てられたのです。
９‐１６最初に割り当てを受けたのは、祭司、つまりレビ人のうちでも、ケハテ氏族の中のアロンの子孫でした。　その領地の内訳を見ると、ユダとシメオンの部族から、次にあげる九つの町が、周囲の放牧地とともに与えられたのでした。
まず、ユダの山地内の、避難用の町でもあるヘブロン。　別名を、アナクの父アルバの名

にちなんで、キルヤテ・アルバとも言います。　ただし、町の畑と周辺の村々は、エフネの子カレブのものです。　ほかに、
リブナ、ヤティル、エシュテモア、ホロン
デビル、アイン、ユタ、ベテ・シェメシュ
１７１８また、次にあげる四つの町と放牧地が、ベニヤミン部族から譲られました。
ギブオン、ゲバ、アナトテ、アルモン
１９以上の合計十三の町が、アロンの子孫である祭司に与えられたのです。
２０‐２２ケハテの他の諸氏族は、エフライム部族から、次の四つの町と放牧地を譲り受けました。
避難用の町シェケム、ゲゼル
キブツァイム、ベテ・ホロン
２３２４ダン部族からは、次にあげる四つの町と放牧地が譲られました。
エルテケ、ギベトン、アヤロン、ガテ・リモン
２５　マナセの半部族は、タナク、ガテ・リモンの町と周囲の放牧地を譲りました。　２６以上、ケハテの他の諸氏族が受けた町と放牧地の数は、全部で十にのぼります。
２７　レビ人に属するゲルション氏族は、マナセの半部族から、次の二つの町と放牧地を譲り受けました。
バシャンにある避難用の町ゴラン、ベエシュテラ
２８２９イッサカル部族は、次の四つの町と放牧地を譲りました。
キシュヨン、ダベラテ、ヤルムテ、エン・ガニム
３０３１アシェル部族は、次の四つの町と放牧地を譲りました。
ミシュアル、アブドン、ヘルカテ、レホブ
３２　ナフタリ部族は、次の三つの町と放牧地を譲りました。
ガリラヤにある避難用の町ケデシュ、ハモテ・ドル、カルタン
３３　こうして、合計十三の町と放牧地が、ゲルション氏族の所有となったのです。
３４３５レビ人のもう一つの氏族であるメラリ氏族には、ゼブルン部族から、次の四つの町と放牧地が譲られました。
ヨクネアム、カルタ、ディムナ、ナハラル
３６３７ルベン部族は、次の四つの町と放牧地を譲りました。
ベツェル、ヤハツ、ケデモテ、メファアテ
３８３９ガド部族は、次にあげる四つの町と放牧地を譲りました。
避難用の町ラモテ、マハナイム、ヘシュボン、ヤゼル
４０　これでメラリ氏族は、合計十二の町を与えられたことになります。
４１４２レビ人に与えられた町と放牧地の数は、全部で四十八です。
４３　このようにして神様は、イスラエルの先祖に約束した地を、全部お与えになりました。　人々はその地を占領し、住みついたのです。４４約束どおり、平和が訪れました。

立ち向かって来る敵は一人もいませんでした。　敵という敵はすべて、神様の助けによって滅ぼし尽くしたからです。　４５神様がイスラエルに約束なさった良いことはすべて、完全に実現したのです。
二二
１　さてヨシュアは、ルベンとガドの各部族、マナセの半部族からなる一隊を召集し、　２３こう語りかけました。
「みんな、よく神様のしもべモーセの命令を守ってくれたな。また、私が語った神様のご命令も、ことごとく守ってくれた。　戦闘がこんなに長引いたにもかかわらず、仲間の部族を見捨てず、よく戦ってくれた。　４今われわれは、神様のお約束どおり、勝利と安息を手に入れたのだ。　さあ今こそ、モーセが与えた、あのヨルダン川の向こうの地へ帰るがよい。　５これからも、モーセが命じた戒めを守り続けてくれ。　いのちの限り、神様を愛し、その命令に従え。　神様にすがり、熱心にお仕えするのだ。」
６　ヨシュアは彼らを祝福し、各自の領地へ帰らせました。　７８マナセ部族の場合は、その半分に、モーセがバシャンの地を割り当ててありましたが、他の半分は、ヨルダン川の西側の土地を与えられました。　ヨシュアはこの一隊を送り出すにあたり、祝福し、彼らが得たばく大な富、すなわち家畜、金、銀、青銅、鉄、衣服などの戦利品を持たせてやり、帰ったら親族ともども分け合うようにと指示しました。
９　それで、ルベンとガドとマナセの半部族の一隊は、カナンの地のシロでイスラエル軍に別れを告げ、ヨルダン川を渡って本拠地であるギルアデの地へ向かいました。　１０ところが、ヨルダン川を渡る寸前、まだカナンの地にいた時のこと、彼らは、だれの目にもとまるほど大きな、祭壇をかたどった記念碑を建てたのです。
１１　このことを伝え聞いた他のイスラエル人は、　１２シロに全軍を集結し、一戦を交える構えを見せました。　１３しかし、何はともあれ、まず祭司エルアザルの子ピネハスを団長とする代表団を、送ることにしたのです。　一行はヨルダン川を渡り、ルベン、ガド、マナセの各部族と話し合うことにしました。　１４この代表団には、十部族の部族長の家系から一名ずつ、十人が加わっていました。　１５ギルアデに着いた一行は、こう問いただしました。
１６　「神様の国民であるわれわれは、なぜ、君たちがイスラエルの神様に罪を犯すようなまねをしたのか、ぜひとも知りたい。　なぜ、神様から離れ、反逆のしるしである祭壇なんかを築いたのだ。　１７１８われわれがペオルで犯した罪を覚えているかね。　そのために、あれほど大きな災いが下ったというのに、まだあの罪はぬぐい去られていなかったというわけか。　あんなことなど問題ではないと言うつもりか。それで、また反抗するのか。　わかっているだろうな。　君たちがきょう、神様に反逆すれば、あす、われわれ全員に神様の怒りは燃え上がるのだぞ。　１９この地が汚れているので祭壇が必要だというのなら、ヨルダン川西岸の、神の天幕のある地に来るがよい。　われわれの土地を君たちと共有にしてもかまわないのだ。　神様の祭壇はただ一つだ。　ほかに祭壇を築いて、

神様に反逆するようなまねはやめてくれ。　２０よもや忘れてはいまいな。　ゼラフの子アカンのことだ。　彼ひとりが罪を犯したために、全国民がきびしく罰せられたではないか。」
２１　こう言われて、ルベンとガドとマナセの半部族の人々は、次のように弁明しました。
２２２３「神の神、主に誓って申し上げます。　私どもは、反逆するつもりで祭壇を築いたのではございません。　神様はご存じです。　皆さんにもわかってほしいのです。　完全に焼き尽くすいけにえや、穀物の供え物や、和解のいけにえをささげるために、祭壇を築いたのではありません。　もしそうなら、幾重にも神様にのろわれますように。２４２５実は、神様を愛すればこそ、このようにしたのです。　それに、将来、私どもの子供が皆さんの子供から、こう言われはしないかと心配だったのです。『どんな権利があって、おまえらはイスラエルの神様を礼拝するんだ。　おまえらとぼくらは別々なんだ。　神様がちゃんと、ヨルダン川という境界を置いていらっしゃるじゃないか。おまえらなんか神様の国民じゃない。』　実際、息子の代になってみれば、神様を礼拝するのをはばまれるかもしれませんからな。　２６２７ですから、私どもも完全に焼き尽くすいけにえや和解のいけにえ、その他のいけにえをささげて神様を礼拝できることを、私どもと皆さんとの子供に示す記念碑として、あの祭壇を築いたわけです。　そうすれば、私どもの子供が、『おまえらなんか神様の国民じゃない』と仲間はずれにされることもないでしょう。　２８たといそう言われても、胸を張って答えることができます。　『ぼくらの先祖が、神様の祭壇の型にならって作った、この祭壇を見てくれ。　これは完全に焼き尽くすいけにえや、その他のいけにえをささげるつもりのものじゃない。ただ、ぼくらと君たちが、共に神様と結び合わされた者同士であることのしるしなのだ。』　２９完全に焼き尽くすいけにえや穀物の供え物、その他のいけにえをささげる祭壇を築いて、神様から離れたり、反逆したりするなんて、とんでもない。　ありえないことですよ。　いけにえをささげる祭壇は、神の天幕の前にある祭壇だけなのですから。」
３０　祭司ピネハスと随員は、ルベン、ガド、マナセの各部族から事情を聞いて、すっかり安心しました。
３１　ピネハスはこう宣言しました。　「本日、われわれの真ん中には神様がおられることが明らかになった。　なぜなら、諸君は、こちらが懸念したような、神様への罪を犯してはおらんからな。　いやむしろ、われわれを滅びから救ってくれたのだ。」
３２　ピネハスと十人の代表は、帰って一部始終を報告しました。　３３イスラエル人はみな大喜びし、神様をほめたたえ、二度と、ルベンやガドの部族と戦おうとは言わなくなりました。　３４一方、ルベンとガドの人々は例の祭壇を、「私たちにとっても彼らにとっても、主が神様であることの証拠だ」と言って、「あかしの祭壇」と名づけました。
二三
１　神様がイスラエルを敵から守り、勝利をお与えになってから、かなりの年月が過ぎ、ヨシュアも老人になりました。　２彼はイスラエルの指導者である長老、裁判官、将校を

呼び、次のように演説しました。　「わしも、もう年をとった。　３諸君は、わしの生涯を通じて、神様が、諸君のためにどれほどの事をしてくださったか、つぶさに見てきたはずだ。　敵と戦い、この地を分け与えてくださったのも、神様ご自身だ。　４５ご覧のとおり、わしは、すでに征服した国々だけでなく、まだ征服していない国々をも、各部族に分配した。　ヨルダン川から地中海に至る全地域は、あなたがたのものだ。　神様が必ず、現在そこに住んでいる人々を一掃し、約束どおり、あなたがたが住めるようにしてくださるからだ。
６　ただ、モーセの法律に記された戒めだけは、一つ残らず守れ。少しでも違反してはならない。　７この地になお残っている異教の民とは、断じて交わるな。　その神々の名を口にしてもいけない。　まして、神々によって誓ったり、礼拝したりすることなど、もってのほかだ。　８ただ、今まで同様、神様にのみ従え。　９神様が、目の前の強大な国を次々と追っ払ってくださった以上、もうだれ一人、立ち向かう者はいない。　１０諸君の一人一人は、千人を向こうに回して戦うことができる。　神様が、約束どおり、諸君に味方して戦ってくださるからだ。　１１どうか心して､いつまでも神様を愛し続けてほしい。
１２　もし神様を愛さず、周辺の民族と結婚したりするなら、　１３しかと覚えておくがいい。　神様は､その住民をこの地から追い出すのを中止なさるだろう。　それどころか、彼らの存在は諸君にとって罠となり､落とし穴となるだろう。　また､わき腹を打つむち、目を刺すとげとなるだろう。　そしてついには、あなたがたのほうが、神様の与えてくださったこの良い地から、消え失せることになるのだ。
１４　まもなくわしは、世の人々の例にならい、死んでいくだろう。
よくわかってくれていると思うが、よいな、神様のお約束は、すべて実現したのだ。　１５１６だがな、神様は、約束どおり良いものを与えてくださったと同じ確実さで、諸君が神様に従わない場合には、災いを下されることを知ってほしいのだ。　ほかの神々を拝んだりすれば、この地から抹殺されることになるぞ。　神様の怒りが燃え上がれば、たちどころに滅ぼされてしまうのだ。」
二四
１　次にヨシュアは、イスラエル人全員を、指導者である長老、将校、裁判官とともに、シェケムに召集しました。　全会衆が、神様の前に立たされたのです。
２　そこでヨシュアは、次のように演説しました。　「よいか、イスラエルの神様は、こうお告げになった。　『もともとおまえたちの先祖は、アブラハムやナホルの父テラをはじめとして、ユーフラテス川の東に住み、ほかの神々を礼拝していた。　３だが、わたしはおまえたちの父祖アブラハムを、ユーフラテス川の向こうから連れ出し、カナンの地に導き入れ、その子イサクから多くの子孫が生まれるようにした。　４イサクが授かった息子は、エサウとヤコブだ。　エサウには、セイル山周辺の地域を与えたが、ヤコブとその子供たちは、エジプトへ下って行った。
５　そののち、わたしはモーセとアロンを遣わし、エジプトに大災害を下した。　そうし

て、エジプトからわたしの国民を解放しようと連れ出したのだ。　６ところが、紅海まで来た時、エジプト人が戦車と騎兵で追いかけて来るではないか。　７その時、イスラエル人が助けを叫び求めたので、わたしはイスラエル人とエジプト人との間に暗やみを置き、海を彼らに襲いかからせて、おぼれ死にさせた。　おまえたちはこの出来事を、その目でしかと見たはずだ。　以後、イスラエル人は長いあいだ荒野で暮らした。
８　そして、ついにわたしは、ヨルダン川の東側、エモリ人の住む地に、おまえたちを連れて行ったのだ。　エモリ人は抵抗したが、わたしは彼らを滅ぼし、その地をおまえたちに与えた。　９ついで、モアブの王バラクがイスラエルに宣戦布告をした。　バラクは、ベオルの子バラムを呼び、おまえたちに呪いをかけようとたくらんだ。　１０だが、わたしはバラムの願いなど聞く耳を持たず、かえって、おまえたちを祝福させた。　こうしてイスラエルは、バラクの陰謀から救われたのだ。
１１　次にいよいよ、おまえたちはヨルダン川を渡ってエリコまで来た。エリコの住民は対抗して戦った。　ほかにも、ペリジ人、カナン人、ヘテ人、ギルガシ人、ヒビ人、エブス人が同じように応戦してきた。だが、入れ替わり立ち替わり立ち向かって来る敵を、わたしは全滅させた。　１２また、おまえたちの目の前でくまばちを送り、エモリ人の二人の王とその国民を追い散らしたこともあった。　勝利をもたらしたのは、剣でも弓でもなかったのだ。　１３わたしはおまえたちに、手に入れるために自ら労したわけでもない地と、自ら建てたわけでもない町々とを与えた。　そうだ、いま住んでいるその町だ。　食料としては、おまえたちの手では植えもしなかったぶどう畑とオリーブ畑を、備えてやった。』
１４　まさに、おことばのとおりだ。　かくなる上は、神様を恐れかしこみ、誠心誠意、お仕えしようではないか。　ユーフラテス川の向こうやエジプトで、先祖が拝んでいたような偶像とは、きっぱり縁を切れ。　ただ神様に仕え、神様を礼拝せよ。　１５もし神様に従いたくなければ、たった今、だれに従うかを決めるがいい。　ユーフラテス川の向こうで先祖が拝んでいた神々であろうが、この地に住むエモリ人の神々であろうが、好きに選べ。　だが、わしとわしの家族とは、あくまで神様に仕えるぞ。」
１６　「私どもが神様を捨てて、ほかの神々を拝むなんてとんでもない。ありえないことです。　１７神様は、エジプトで奴隷だった先祖を、救い出してくださったお方ではありませんか。　そして、荒野を旅する間にも、イスラエル人の目の前で、数々のすばらしい奇蹟を見せてくださった神様です。　また、敵地を進む私どもを、いつも守ってくださいました。　１８エモリ人をはじめ、この地の全住民を追い出してくださったのも、神様ではありませんか。　そうです。　もちろん、私どもも神様に従う道を選びます。　私どもにとって、神様は主お一人だけなのですから。」
１９　「いや、あなたがたに神様を礼拝できるはずがない。　神様は聖なるお方であるばかりか、ねたむお方なのだぞ。　だから、あなたがたの反逆や罪を決してお見のがしにならない。　２０もし神様を捨てて、ほかの神々を拝むようなことでもあれば、たといこう

して長いあいだ心にかけていただいたあなたがたでも、手かげんはなさらないのだ。」
２１　しかし、民は断言しました。　「私どもは神様に従います。」
２２　「諸君、いま言ったことを忘れないだろうな。　諸君は神様に従う道を選んだのだぞ。」
「はい、私どもが証人です。」
２３　「よろしい。　では、今あなたがたのうちにあるすべての偶像を葬りなさい。　そして、イスラエルの神様に従いなさい。」
２４　「はい。　神様お一人を礼拝し、ひたすらお従いいたします。」
２５　ヨシュアはその日、シェケムで人々と契約を結びました。　こうしてイスラエル人は、永遠の契約を神様と結んだのです。　２６ヨシュアは、人々の応答を神様のおきての書に記し、その記念として大きな石を取り、神の天幕のそばにある樫の木のところまで、転がして来ました。
２７　それから、人々を見渡して言いました。　「この石は、神様がお語りになったことをすべて聞いた。　もしあなたがたが自分たちのことばに背くなら、この石が証人として罪を告発することになるのだ。」
２８　このあとヨシュアは、各部族をそれぞれ割り当てた地区へ送り出したのです。
２９　こののち間もなくして、ヨシュアは百十歳で世を去りました。３０遺体は、エフライムの山地、ガアシュ山の北側のティムナテ・セラフにある、彼の所有地に葬られました。
３１　イスラエル人は、ヨシュアの存命中、神様に従い続けました。その態度は、イスラエルのために行なわれた、神様の驚くべき奇蹟を目撃した長老たちが生きている間は、変わりませんでした。
３２　エジプトを出る時、忘れずに携えて来たヨセフの遺骨は、シェケムに葬られました。そこは、以前ヤコブが、ハモルの子から銀貨百枚で買い取った土地の一画でした。　この地は、ヨセフ部族に割り当てられた地域内にありました。
３３　さて、アロンの息子エルアザルも世を去りました。　彼は、エフライム山中の、息子ピネハスの所有する町ギブアに葬られました。
▪

カナン征服記　下（士師記）

本書は、カナン征服後の数百年間のことを記しています。　その時代に、人々は、士師とか救国者とか呼ばれる指導者に従っていました。指導者たちの主な任務は、軍事的なことで、敵を国から追い出すことでした。　イスラエルの歴史上、この時期は悲劇のくり返しで、神様に反逆すると間もなく外国軍が侵入するという形で、神様のさばきがあったのです。　イスラエルの人々は、そのつど神様に助けを叫び求め、士師が彼らを救うために遣わされました。　本書には、こうしたくり返しが何回も見られます。　残念なことに人々は、神様に反逆することが明らかに災いへの道だということを、なかなか悟りませんでした。

一

１　ヨシュアの死後、イスラエル国民は神様から指示を仰ごうとしました。
「カナン人と戦うには、まずどの部族が出陣すればよいのでしょうか。」
２　「ユダ部族だ。　彼らに、輝かしい勝利を約束しよう。」
３　ところが、ユダ部族の指導者たちは、シメオン部族に加勢を求めたのです。　「われわれの割り当て地に住むやつらを追っ払うのに、力を貸してほしい。　その代わり、君らが戦う時には必ず応援するよ。」　そんなわけで、シメオンとユダの軍隊は、合流して出陣したのです。　４－６神様のお助けによるのでしょう、彼らはカナン人とペリジ人を打ち破ることができました。 このベゼクでの戦闘で､なんと一万人もの敵が殺されたのです。アドニ・ベゼク王は逃げ出したものの、すぐ捕らえられ、手足の親指を切り取られてしまいました。
７　「わしもこうやって、七十人もの王の親指を切り取り、わしの食卓から落ちるパンくずを食べさせたものだが、いま神様は、そのつけを回してこられたというわけだ」と、王は嘆きました。　王はエルサレムへ連れて行かれ、そこで息を引き取りました。
８　ユダ部族はエルサレムを占領し、住民を殺し、町に火をかけました。　９そののちユダの軍隊は、低地に住むカナン人を攻めたばかりか、山地やネゲブのカナン人とも戦いました。　１０また、以前キルヤテ・アルバと呼ばれたヘブロンにいるカナン人めがけて攻撃を開始し、シェシャイ、アヒマン、タルマイなどの町を滅ぼしました。　１１そのあと、デビルを攻撃しました。　デビルは、以前キルヤテ・セフェルと呼ばれていました。
１２　「だれか、率先してデビルを攻撃する者はおらんのか。　占領した者には、娘アクサを妻として与えるぞ」と、カレブは全軍に呼びかけました。
１３　カレブの弟ケナズの息子、オテニエルが、先陣を志願してデビルを占領し、アクサを花嫁に迎えました。　１４二人が新家庭を築くために巣立つ時、アクサは夫にそそのかされ、贈り物としてもっと土地をくれるよう、父にねだることにしました。　彼女が、ろばから降りると、カレブは尋ねました。
「どうした。　何か欲しいものでもあるのか。」

１５　「ネゲブの地は十分にいただいたのですけれど、できれば、泉もいただきたいの。」そこでカレブは、上の泉と下の泉を与えました。
１６　ユダ部族が、アラデの南方、ネゲブの荒野の新天地に移った時、モーセの義父の子孫であるケニ族の人々も同行しました。　彼らは、「なつめやしの町」と呼ばれたエリコを離れ、以後ずっといっしょに生活しました。　１７そののちユダ軍はシメオン軍の加勢を得て、ツェファテの町に住むカナン人と戦い、絶滅させました。　今でも、その町はホルマ〔「絶滅」の意〕と呼ばれています。　１８ユダ軍はさらに、ガザ、アシュケロン、エクロンの町々と周辺の村々を手中に収めました。１９神様が助けてくださったので、山地一帯の住民を全滅させることができたのです。　ただし、谷の住民は鉄の戦車を持っていたので、征服できませんでした。
２０　ヘブロンの町は、神様のお約束どおりカレブの手に落ちました。カレブは、そこに住むアナクの三人の息子を追い出しました。
２１　ベニヤミン部族は、エルサレムに住むエブス人を根絶やしにできませんでした。　それでエブス人は、今でもイスラエル人といっしょに住んでいます。
２２２３ヨセフ部族も、ベテルの町を襲撃しました。　ベテルは以前ルズと呼ばれた町です。　神様はヨセフ部族とともにおられました。　まず、スパイが派遣されました。　２４彼らは町から出て来た男を捕まえ、町の城壁の出入口を教えてくれたら、家族のいのちも助けてやると持ちかけたのです。　２５案の定、男は町に入る方法をしゃべりました。おかげで、ヨセフ部族は町に攻め込み、全住民を滅ぼすことができたのです。　もちろん、その男と家族だけは助かりました。　２６のちに、その男はヘテ人の地に町を建て、ルズと名づけました。　今でも知られているとおりです。
２７　マナセ部族は、ベテ・シェアン、タナク、ドル、イブレアム、メギドとその周辺の町々の住民を追い出すことに失敗しました。　それでカナン人は、その地にとどまり続けたのです。　２８のちにイスラエルは強大になりましたが、カナン人を奴隷として働かせることはあっても、追い出しはしませんでした。　２９ゲゼルに住むカナン人についても、同じです。　今もなお、エフライム部族に混じって生活しています。
３０　ゼブルン部族も、キテロンとナハラルの住民を滅ぼすには至らず、奴隷として働かせました。　３１３２アシェル部族は、アコ、シドン、マハレブ、アクジブ、ヘルバ、アフェク、レホブの住民を追い出しませんでした。　それでイスラエル人は、今なお、原住民であるカナン人といっしょに住んでいるのです。　３３ナフタリ部族は、ベテ・シェメシュとベテ・アナテの住民を追い出しませんでした。　彼らは奴隷として、イスラエル人に混じって暮らし続けました。
３４　ダン部族の場合は、エモリ人に圧倒されて山地へ追いやられ、谷に降りることができませんでした。　３５しかし、のちにエモリ人は、ヘレス山、アヤロン、シャアルビムへと散在するにつれ、ヨセフ部族に征服されてしまい、奴隷として働かされることになりました。　３６エモリ人との境界線は、アクラビムの丘陵地帯から始まり、セラと呼ばれ

る地点を通り、そこから上の方に延びています。
二
１　ある日、神様の使いがギルガルから上って来て、ボキムに到着し、イスラエル国民にこう告げました。　「わたしはおまえたちを、先祖との約束に従って、エジプトからこの地へ連れて来た。　また、おまえたちと結んだ契約を決して破らないと宣言した。　２ただし、それには条件があったはずだ。　この地の先住民と友好条約を結んではならないという条件だ。　この地の異教の祭壇を取りこわせと命じたではないか。にもかかわらず、なぜ従わなかったのか。　３おまえたちが契約を破った以上、もはや無効だ。　もう、おまえたちの地に住む諸国民を滅ぼすとは約束しかねる。　それどころか、あの人々はおまえたちの悩みの種となり、彼らの神々は常に誘惑の罠となるだろう。」
４　御使いが語り終えると、人々はせきを切ったように泣きだしました。　５それでこの地は、ボキム〔「人々が泣いた場所」の意〕と呼ばれるようになったのです。　人々は神様にいけにえをささげました。
６　ヨシュアがイスラエルの全軍を解散させると、各部族はそれぞれ新しい領地めざして移動し、各自の所有地を手に入れました。　７‐９神の人ヨシュアは百十歳で世を去り、エフライム山中、ガアシュ山の北にあるティムナテ・ヘレスの自分の領地に葬られました。ヨシュアが生きている間、人々は神様に忠実でした。　その死後も、神様がイスラエルになさった、驚くべき奇蹟を目撃した長老たちの存命中は、その態度に変わりはなかったのです。
１０　ところが、ヨシュアと同世代の人々がみな世を去ると、あとの世代は神様を礼拝せず、神様がイスラエルのためになさった力強い奇蹟さえ、意に介さなくなったのです。　１１彼らは、神様が断固として禁じたことを次から次へと犯していきました。　もちろん、異教の神々を拝むことも平気でした。　１２‐１４イスラエル人をエジプトから連れ出してくださったお方、先祖が心から礼拝してきた神様を捨ててしまったのです。　そのあげく、近隣諸国の偶像にぬかずいて拝む有様でした。　神様の怒りは、全イスラエルに対して燃え上がりました。　神様に背を向け、バアルやアシュタロテのような偶像を拝むイスラエルを、神様は敵のなすがままに任せたのです。
１５　今や、イスラエル国民が敵と戦おうと進軍しても、神様が行く手をはばみます。　こうなることは、前もって神様が警告し、はっきり誓っていたのです。　それでもなお、かつてない苦境に立たされた人人を、　１６敵の手から救い出すために、神様は士師（王国設立までの、軍事的・政治的指導者）を起こされたのです。　１７しかし、その士師にさえ耳を貸そうとせず、人々はほかの神々を拝んで、神様への誠実を踏みにじったのです。なんと早く、先祖が歩んだ信仰の道から離れてしまったことでしょう。　それは、神様の戒めに従うことを拒んだからです。　１８どの士師も、生涯を通して、イスラエル国民を敵の手から救い出しました。　苦しみに押しつぶされそうな人々のうめきを聞き、神様があわれんでくださったからです。　こうして神様は、士師の在世中はイスラエルを助けて

くださいました。　１９しかし、士師が死ぬと、人々はたちまち正しい道を捨て、先祖よりもいっそう堕落したのです。　強情を張り、異教の神々に祈りをささげるわ、地にひれ伏して礼拝するわで､周辺諸国の悪習慣に再び染まり､抜け出ることができませんでした。
２０　神様は再びイスラエルをお怒りになりました。　「この国民は、わたしが先祖と結んだ契約を踏みにじった。　２１だから、ヨシュアが死んだ時まだ征服していなかった国民を、これ以上追い出すのはやめよう。　２２むしろ彼らを用いて、イスラエル人がほんとうに先祖にならって、わたしに従うかどうか試すことにしよう。」
２３　このように神様は、これらの国民を滅ぼすことを許さず、この地から追い出さずに残しておかれたのです。
三
１‐３カナンで戦ったことのない、イスラエルの新しい世代を試すために、神様がこの地に残した国民をあげましょう。　神様はイスラエルの若者に、敵を征服することによって信仰と従順を学ぶ機会を、与えようとなさったのです。
ペリシテ人の五つの町
カナン人
シドン人
バアル・ヘルモン山からレボ・ハマテまでのレバノン山系に住む
ヒビ人
４これらの国民は､新しい世代への試金石となりました。 モーセが与えた神様の戒めに、新しい世代が従うかどうかが、はっきりするからです。
５　それでイスラエル人は、カナン人、ヘテ人、ヒビ人、ペリジ人、エモリ人、エブス人に混じって生活しました。　６ところが、異民族を滅ぼすどころか、イスラエルの若者は彼らの娘を妻にめとり、イスラエルの娘は彼らの息子に嫁いだのです。　やがてイスラエルは、異教の神々を拝むようになりました。　７このように、神様に対してさんざん悪事を重ねました。　それは、神様を裏切って、バアルやアシェラなどの偶像を拝んだからです。
８　ついに、神様の怒りは、めらめらと燃え上がりました。　イスラエルはメソポタミヤの王クシャン･リシュアタイムに征服され､八年間その支配に服することになったのです。
９しかし、神様に叫び求めると、神様は救いの手を差し伸べ、カレブの甥オテニエルを遣わしてくださいました。　１０神の御霊が彼を支配していたので、彼はイスラエルの改革と粛清を断行しました。　その結果、オテニエルの率いるイスラエル軍がクシャン・リシュアタイム王の軍勢と対戦した時、神様はイスラエルに加勢し、完全な勝利を収めさせてくださったのです。
１１　こうして、オテニエルが治めた四十年の間は、平和が続きました。ところが彼が世を去ると、　１２イスラエル国民は再び罪を犯すようになったのです。　すると神様は、モアブの王エグロンに加勢し、イスラエルの一部を占領させました。　１３エグロン王と

同盟を結んだのは、アモン人とアマレク人でした。　同盟軍はイスラエルを破り、「なつめやしの町」と呼ばれたエリコを手に入れました。　１４こうして向こう十八年の間、イスラエル国民はエグロン王の圧政に苦しむことになったのです。
１５　そのとき神様に叫び求めると、神様は、ベニヤミン人ゲラの息子で左ききのエフデを、救助者としてお立てになりました。　エフデは、モアブの都に年貢を届ける務めに任じられていました。　１６彼は出発を前にして、長さ五十センチの両刃の短剣を作り、右ももに皮ひもでくくりつけて服の下に隠したのです。　１７‐１９エグロン王は大へん太っていました。　貢物を渡すと、エフデは帰路につきました。　ところが、町を出てギルガルの石切り場まで来た時、同行の者を先に帰し、一人で王のもとへ戻ったのです。
エフデは申しました。　「陛下、内々に申し上げたいことがございます。」
王はさっそく、お付きの者たちに座をはずさせました。　これで二人きりです。　２０涼しい屋上の間に座っている王に歩み寄りながら、エフデは、「実は、神様のお告げがございまして」と言いました。
王は、お告げを受けようと立ち上がりました。　２１すかさずエフデは左手を伸ばし、隠し持った短剣を抜き放ちざま、王のどてっ腹めがけて、ぐさりと突き刺したのです。　２２２３短剣が柄までくい込んで腹わたが流れ出し、脂肪が刃をふさいでしまいました。　すばやくエフデは戸に錠をかけ、抜け道の階段づたいに逃げました。
２４　戻って来た家来は、戸に錠がかかっているので、用を足しておられるのだろうと思い、しばらく待っていました。　２５ところが、いつまで待っても王は現われません。　心配になって開けてみると、なんと、王は床に倒れて死んでいるではありませんか。
２６　その間にエフデは、石切り場を駆け抜けてセイラへ逃げました。２７そして、エフライムの山地にたどり着くと、ラッパを吹き鳴らして兵を集め、全軍を指揮下に置いたのです。
２８　「おれに続け。　神様はモアブに勝たせてくださるぞ。」　エフデは全軍に呼びかけました。
エフデは進軍し、モアブに通じるヨルダン川の渡し場を押さえて、人っ子ひとり渡らせないようにしました。　２９それからモアブを襲い、屈強の勇士、約一万人を皆殺しにし、一人も逃しませんでした。　３０モアブはその日のうちに征服され、イスラエルには、八十年間も平和が続いたのです。
３１　エフデの次に士師になったのは、アナテの息子シャムガルでした。彼は牛の突き棒で、ペリシテ人を一度に六百人も殺し、イスラエルを災いから救いました。
四
１　エフデが世を去ると、イスラエル国民はまた、性懲りもなく悪を重ねました。　２３それで神様は、ハツォルにいたカナン人の王ヤビンに、イスラエルを征服させたのです。王の軍の最高司令官はシセラで、ハロシェテ・ハゴイムに住んでいました。　彼は鉄の戦車九百台をかかえ、二十年間イスラエル人を悩まし続けたのです。　ついにイスラエル人

は、神様の助けを求めました。
４　当時イスラエルの指導者で、国民を神様に立ち返らせる責任を負っていたのは、ラピドテの妻、女預言者デボラでした。　５彼女は、エフライム山中のラマとベテルの間にある「デボラのなつめやしの木」と呼ばれる場所に、法廷を設けていました。　人々はそこへ来て、争い事を解決したのです。
６　ある日デボラは、ナフタリの地のケデシュに住むアビノアムの息子バラクを呼び寄せ、こう言い渡しました。　「イスラエルの神様がおまえに、ナフタリとゼブルンの両部族から一万人を動員しろとおっしゃるんだよ。　その一万の兵を率いて、タボル山へお行き。　７もちろん戦う相手は、ヤビン王の軍勢、シセラ将軍の指揮のもと戦車を擁する大軍だよ。　だけど神様は、『敵をキション川に引き寄せるから、そこで打ち破れ』とおっしゃるんだよ。」
８　「わかりました。　ご命令のとおりにしましょう。　しかし、あなたにもごいっしょ願いたいですな。」
９　「いいでしょう。　いっしょに行きましょう。　ただし、今のうちに言っておきますが、シセラを倒す栄誉は、おまえではなく、一人の女が受けることになりますよ。」　こう言って、デボラはバラクとともにケデシュへ向かいました。
１０　バラクが、ゼブルンとナフタリの人々から義勇兵を募ると、一万人がケデシュに結集しました。　デボラもいっしょです。　１１さて、モーセの義兄弟ホバブの子孫のケニ人でヘベルという人が、氏族の者から離れて、ケデシュ近郊のツァアナニムの樫の木の近くに住んでいました。　１２シセラ将軍は、バラクの率いるイスラエル軍がタボル山に陣を敷いた、との知らせを受けて、　１３鉄の戦車を九百台も備えた全軍を動員し、ハロシェテ・ハゴイムからキション川へと進みました。
１４　その時、デボラはバラクに言いました。　「さあ、今こそ攻撃のチャンスよ。　神様が先頭に立っておられます。　もうシセラのいのちは、いただいたも同然よ。」
そこでバラクは、一万人を率いてタボル山を下り、戦いに臨みました。　１５神様が兵も戦車隊もパニック状態に陥れたので、敵は総くずれとなり、シセラは戦車から飛び降り、走って逃げ出すしまつでした。　１６バラクの軍隊は、敵兵と戦車をハロシェテ・ハゴイムまで追いつめ、ついに全滅させました。　一人も生き残った者はいません。　１７ところがシセラだけは、ケニ人ヘベルの妻ヤエルのテントに逃げ込みました。　ハツォルの王ヤビンとヘベルの氏族との間には、相互援助協定が結ばれていたからです。
１８　ヤエルはシセラを迎えに出て、「まあ、シセラ様、どうぞ、お入りくださいませ。　ここならもう安心、ご心配には及びませんわ」と言いました。　そしてテントに入ったシセラに、毛布をかけて休ませました。
１９　シセラは、「頼む、水をくれないか。　のどがからからだ」と訴えました。　ヤエルは牛乳を与え、また毛布をかけてやりました。
２０　シセラは、「お願いだ、テントの入口で見張っていてくれ。　もし、だれかがわしを

捜しに来ても、『ここにはいない』と追っ払ってくれ」と頼みました。
２１　ところがヤエルは、先のとがったテントの杭と槌を手に取るや、眠っているシセラに忍び寄り、こめかみ目がけて打ち込んだのです。杭は地面をも刺し通し、シセラの息の根を止めました。　彼は、疲労困憊のあまり眠りこけていたからです。
２２　バラクがシセラを捜して追って来た時、ヤエルは迎えに出て、「どうぞこちらへ。あなた様がお捜しの方をお目にかけますわ」と言いました。
案内されるままに中へ入ると、杭がこめかみに突き刺さったまま死んでいる、シセラの姿が目に入りました。　２３こうして、その日のうちに、神様はカナンの王ヤビンの軍勢を打ち破らせてくださいました。　２４そのとき以来、イスラエルはますます強大になってヤビン王を圧するようになり、ついに、ヤビンとその国民を完全に滅ぼしてしまいました。
五
１　デボラとバラクは、この大勝利をたたえて歌いました。
２　「神様をほめたたえよ。
イスラエルの指導者が雄々しく先頭を行くと、
国民は喜んで従った。
そうだ、神様をほめたたえよ。
３　王よ、君主よ、耳を傾けよ。
イスラエルの神様にささげる
私の歌声に。
４　神様がセイルからわれわれを導き出し、
エドムの平原を進まれた時、
地は震え、
天は雨を降らせた。
５　イスラエルの神様の御前では、
シナイ山さえ揺れ動いた。
６　シャムガルの日、ヤエルの日、
街道は荒れ果て、
旅人は細いわき道を通った。
７　デボラがイスラエルの母となるまでは、
イスラエルの人口は減り続けた。
８　イスラエルが新しい神々を選んだ時、
すべてが衰えた。
いったい、どこのだれが
盾や槍を持たせてくれるというのか。
イスラエルの兵四万のうちに
武器は消えた。

９　喜んで自らをささげようとする
イスラエルの指導者たちの姿に、
どれほど私は喜んだことか。
神様をほめたたえよ。
１０　全イスラエルよ、貧しい者も富む者も
賛美の列に加われ。
さあ、白いろばに乗り、豪華な敷物に座る者も、
歩くほかない貧しい者も。
１１　村の楽隊は
井戸の回りに集まり、
神様の勝利を歌う。
くり返しくり返し、
神様がどれほど、農民の軍隊イスラエルを
お助けくださったかを。
神様の国民は、城門を通って行進した。
１２　目を覚ませ、デボラ。
高らかに歌え。
起きよ、バラク。
アビノアムの息子よ、とりこを引き連れて進め。
１３１４生き残った者は堂々と
タボル山から降りて来た。
神様の国民は、大敵を向こうに回して
降りて来た。
エフライムから、ベニヤミンから
マキルから、ゼブルンからやって来た。
１５　イッサカルの指導者は
デボラやバラクともども
谷へと下った。
谷を突進することが、神様のご命令だから。
ルベン部族は出て行かなかった。
１６　なぜ、おまえは牧場の柵内の家に座し、
羊飼いの笛をもてあそんでいたのか。
そうだ。　ルベン部族は落ち着きを失っている。
１７　なぜ、ギルアデはヨルダン川の向こうでとどまったのか。
なぜ、ダンは舟から下りて来なかったのか。
なぜ、アシェルは海辺に座り込み、

波止場でのんきにかまえていたのか。
１８　しかし、ゼブルンとナフタリの両部族は
いのちを賭して戦場におもむいた。
１９　カナンの諸王は
メギドの泉のほとりタナクで抗戦したが、
勝利は得られなかった。
２０　天の星さえも
シセラと戦った。
２１　キションの逆巻く流れが
彼らを押し流したのだ。
わが心よ、勇ましく進め。
２２　聞け、敵軍のひづめが
地を踏み鳴らす音を。
見よ、軍馬が跳ね回る姿を。
２３　だが、神様の使いは
メロズの町にのろいをかけた。
『その住民を激しくのろえ。
神様の国民を助けにも来ず、
敵と戦いもしなかった者らめ』と。
２４　祝福あれ、
ケニ人ヘベルの妻、ヤエルに。
テントに住む女のうち
彼女ほど祝福された者はない。
２５　水を求めるシセラに
ヤエルは見事なカップで牛乳を勧めた。
２６　テントの杭と職人の槌とを手に取るや、
シセラのこめかみを刺し通し、
その頭を砕いた。
杭が頭を刺し通すまで打ち続けた。
２７　ついにシセラは
ヤエルの足もとに倒れて死んだ。
２８　シセラの母は、窓から外を眺めながら、
息子の帰りを待っていた。
『なぜ、あの子の戦車はなかなか戻らないのか。
なぜ、あの車の音が聞こえないのか。』
２９　女官たちは答え、母もくり返した。

３０　『戦利品が多くて
分配に手間取るのでしょう。
勇士はおのおの、一人か二人の娘をあてがわれ、
シセラ様は豪華な織物を手にし、
贈り物をどっさり携え、
お帰りになるでしょう。』
３１　神様、敵をみな
シセラのように滅ぼしてください。
神様を愛する者を
太陽のように輝かせてください。」
そののち、イスラエルには四十年間、平和が続きました。
六
１　やがてイスラエル国民は、またもや、ほかの神々を拝み始めました。　それで神様は、敵を起こして懲らしめようとなさったのです。この時は、ミデヤン人に七年間くるしめられることになりました。　２ミデヤン人はとても残忍だったので、イスラエル人は山に難を避け、洞窟やほら穴に身を隠しました。　３４イスラエル人が種をまくと、ミデヤン人やアマレク人をはじめ、近隣の国から略奪者が来て、農作物を荒らし、ガザに至るまで各地を荒らし回り、食糧をぜんぶ奪ってしまうのです。　羊、牛、ろばもいなくなりました。５敵の大軍は、おびただしい数のらくだの群れを連れて来て、その地を荒らし尽くすまで動こうとしないのです。　６７イスラエルは、ミデヤン人のために丸裸にされてしまいました。　ついに、たまりかねた人々は、またも神様に、助けてくださいと叫んだのです。
８　神様は、一人の預言者を遣わし、その口をとおしてお答えになりました。　「イスラエルの神様は、あなたがたをエジプトでの奴隷生活から救い出してくださった。　９また、エジプト人およびいっさいの残忍な者たちの手から助け出し、敵を一掃して、この地を与えてくださったのだ。　１０その神様が、『わたしは、おまえたちの神である主だ。　よいか、ぐるりを取り囲むエモリ人の神々を拝んではならぬぞ』とお命じになったではないか。それなのに、あなたがたは聞き従わなかった。」
１１　ある日、神様の使いが現われ、アビエゼル人ヨアシュの農地内にある、オフラの樫の木の下に座っていました。　ヨアシュの息子ギデオンは、酒ぶね〔ぶどうを絞ってぶどう酒をつくる穴〕の底で、小麦を打っていました。　ミデヤン人から身を隠していたのです。
１２　御使いはギデオンの前に立ち、「勇士よ、神様はおまえと共におられる」と告げました。
１３　ギデオンは答えました。　「初めてお目にかかりますね……。　どうか教えてくれませんか。　神様が共におられるのなら、なぜ、こんなことが次から次へと起こるんですか。　ご先祖から聞かされましたよ。　神様がエジプトから連れ出してくださる時、もの

すごい奇蹟をいっぱい行なわれたとね。　なのに、今はどうです。　そんな奇蹟のかけらもないじゃありませんか。　もう神様は私たちを見捨てて、ミデヤン人にしたい放題をさせ、踏みつけるに任されるんだ。」
１４　すると神様は、ギデオンに向き直って命じました。　「わたしがおまえを強くしよう。　行け、イスラエルをミデヤン人から救い出すのだ。　わたしがおまえを遣わすのだ。」
１５　「神様、めっそうもありません。　イスラエルを救うなんて、とてもできっこありません。　私の家は、マナセ部族の中でもいちばん貧乏だし、それに私は、家でいちばん年下なんです。」
１６　「よいか。　神であるわたしがついているんだ。　だからおまえは、たちどころにミデヤンの大軍を打ち破れる。」
１７　「もしそれがほんとうなら、その証拠に奇蹟を見せてください。　いま語りかけてくださっているあなたが本当の神様であると、証明してほしいんです。　１８ちょっと待っていてくださいませんか。　贈り物を差し上げたいので……。」
「よかろう。　おまえが戻るまで待っていよう。」
１９　ギデオンは大急ぎで家に駆け込み、子やぎを一匹焼き上げ、三十六リットルの粉でイースト菌抜きのパンをこしらえました。　次いで肉をかごに詰め、スープをなべに入れて、樫の木の下にいる御使いのところへ運んで来て、差し出しました。
２０　御使いはギデオンに命じました。　「肉とパンをあそこの岩の上に置いて、スープをかけてみなさい。」
言われたとおりにすると、　２１御使いは手にしていた杖で、肉とパンにさわりました。　するとどうでしょう。　たちまち岩から火が燃え上がり、肉とパンを焼き尽くしてしまったではありませんか！　その瞬間、御使いの姿は見えなくなりました。
２２　ギデオンは、ほんとうに神様の使いであったと知って、思わず叫びました。　「ああ、神様！　面と向かって御使いを見てしまいました。」
２３　「大丈夫だ、心配しなくていい。　死にはしない。」　神様はきっぱりお答えになりました。
２４　ギデオンはそこに祭壇を築き、「主との平和の祭壇」と名づけました。　この祭壇は今も、アビエゼル人の地、オフラにあります。　２５その夜、神様はギデオンに命じて、父親のいちばん上等の雄牛を、父親のものであるバアルの祭壇のところへ引いて行かせ、祭壇を引き倒させた上、そばの女神アシェラの木像をも切り倒させました。
２６　「さあ、わたしのために、祭壇を築き直せ。　その高い所に注意深く石を積むのだ。次に、さっきの雄牛を完全に焼き尽くすいけにえとして祭壇にささげ、こわした木像をくべて火をたけ。」
２７　そこでギデオンは、十人の使用人を駆り出して、命じられたとおりにしました。　ただ、家族や町の人々の目をはばかって、夜中に断行したのです。　もし見つかれば、どんな目に会うかわかっていたからです。　２８翌朝はやく、町がにぎわい始めるころ、だれ

かが、バアルの祭壇が取り払われ、そばのアシェラの偶像もこわされて、代わりに新しい祭壇が築かれ、雄牛のいけにえがささげられているのを見つけました。
２９　「いったい、どこのどいつがやったんだ。」　人々は調べ回り、ついに、ヨアシュの息子ギデオンのしわざだと突き止めました。
３０　人々はヨアシュをどなりつけました。　「息子を出せ！　あんなやつは殺してしまえ！　よくもバアル様の祭壇をめちゃめちゃにして、おまけにアシェラ様の像までこわしてくれたな。」
３１　しかしヨアシュも、たけり狂う人々を前にして、負けてはいません。　「バアル様もなんだな。　おまえさんたちに助けてもらわなきゃならんのかい。　なんとだらしのない神様だ。　おまえさんたちはこんな情けないバアル様のために、いのちを投げ出そうってわけかね。もしほんとうの神様ならな、ご自分の祭壇をこわしたやつなんぞ、さっさとやっつけておしまいになればいいじゃないか。」
３２　この時からギデオンは、「エルバアル」とあだ名されるようになりました。　「バアルは自分の面倒ぐらい見るがよい」という意味です。
３３　それからしばらくして、ミデヤン人、アマレク人、その他の近隣諸国は、連合してイスラエルに対抗しようと兵をあげました。　その軍勢はヨルダン川を渡り、イズレエルの谷に陣を敷いたのです。　３４すると、神の霊がギデオンをとらえたので、ギデオンが召集ラッパを吹き鳴らすと、アビエゼルの男どもが結集しました。　３５マナセ、アシェル、ゼブルン、ナフタリにも使者を送り、戦士を募ると、どこもかしこもみな応じてくれました。
３６　ギデオンは神様に願い出ました。　「お約束どおり、イスラエルを救うために私を立ててくださるおつもりなら、　３７証拠を見せていただきたいのです。　今夜、打ち場に羊の毛を置いておきます。　もし明日の朝、羊の毛だけが露でしめり、土がかわいているなら、神様がついていてくださるんだと確信できるんですが。」
３８　すると、そのとおりのことが起こったのです。　明くる朝はやく起きて羊の毛をしぼると、鉢いっぱいの水がしたたり落ちたのです。
３９　ギデオンはまた神様に申し上げました。「どうか、お怒りにならないでください。もう一度だけ試させていただきたいのです。　今度は反対に、羊の毛だけをかわかして、地面全体をしめらせてください。」
４０　神様はギデオンの願いどおりにしてくださいました。　その夜、羊の毛はかわいたままで、地面は露でおおわれたのです。
七
１　エルバアル、すなわちギデオンの率いる軍勢は、朝はやく出立し、ハロデの泉まで進みました。　ミデヤンの連合軍はその北の方、モレの山沿いの谷に陣を敷いていました。
２　その時、神様はギデオンにこうお告げになったのです。　「兵が多すぎるぞ！　このままでミデヤンと戦わせるわけにはいかんな。　イスラエル国民が自力で勝ったつもりに

なって、わたしに傲慢な態度をとるかもしれんからな。　３臆病風に吹かれている者など、さっさと家に帰してしまえ。」
すると、二万二千人が去り、戦闘意欲のある者一万人だけが残りました。
４　しかしなお神様は、「まだ多すぎるぞ！　全員を泉に連れて下れ。 だれがおまえと共に行くべきで、だれが行くべきでないか、はっきり示してやろう」と言われたのです。
５６ギデオンは一同を水辺に集合させました。 すると神様の声がして、「水の飲み方で全員を二組に分けよ。　最初の組には、手で水をすくい、口にあてて犬のようになめる者どもを組み入れ、第二の組には、かがみ込んで、口を水につけて飲む者どもを振り分けよ。」
手で水をすくって飲んだのは、三百人だけでした。　ほかの者はみな、口を水につけて飲んだのです。
７　神様はきっぱり言われました。　「わたしは、最初の組の三百人でミデヤン人を征服しよう。　残りはみな家へ帰らせるがよい。」
８９そこでギデオンは、兵の持っているつぼとラッパを供出させてから、三百人だけを残し、あとは全員帰宅させました。
さて、ミデヤン人の陣営は眼下に見下ろす谷にありました。　その夜のこと、神様はギデオンに命じました。　「起きろ！　全軍を率いてミデヤンの陣地に突っ込め！　必ず勝つぞ。　１０それでも心配なら、配下のプラを連れて敵陣へ行き、　１１いったい敵陣ではどんな話が交わされているか、自分の耳で確かめるがよかろう。　きっと勇気百倍して攻撃に出られるはずだ。」
ギデオンはプラを連れ、やみにまぎれて敵の前哨基地にもぐり込みました。　１２１３ミデヤン人、アマレク人、そのほか東方諸国の兵士が、いなごのように谷に群がっていました。　まさに浜辺の砂のようでした。　その上、おびただしい数のらくだがいます。　テントの一つにまではって行くと、悪夢から覚めた男が、ちょうどその恐ろしさを仲間に話しているところでした。
「全くいやな夢を見たよ。　どでかい大麦のパンのかたまりがな、この陣地めがけて転がり落ちて来るのさ。　そいでな、テントをぺしゃんこにしちまうんだ。」
１４　「そりゃ、こうに違いないぜ。　イスラエル軍にヨアシュの息子のギデオンってのがいてな、そいつがわれわれ連合軍を全滅させようとしてるんだ。」
１５　これを聞いたギデオンは、その場に突っ立ったまま、神様を礼拝する以外にありませんでした。　すぐさまイスラエルの陣営に取って返し、こう叫びました。　「集まれ！　神様はわれわれの手にミデヤンの大軍を渡してくださるぞ！」
１６　彼は三百人を三隊に分け、めいめいにラッパとつぼを持たせました。　つぼには、たいまつが隠してありました。　１７次は作戦の説明です。
「いいか。　敵の最前線に着いたら、私がするとおりにしろ。　１８私と私の部隊の者がラッパを吹いたら、ほかの部隊の者も敵陣をぐるりと取り囲んで、いっせいにラッパを吹き鳴らせ。　そして、『神様のため、ギデオンのために戦うぞ』と叫ぶのだ。」

１９２０ギデオンの率いる百人が、ミデヤン軍の前線に忍び込んだ時は真夜中で、ちょうど歩哨の交替がすんだところでした。
この時とばかり、彼らはラッパを吹き鳴らし、つぼを打ち砕きました。　暗やみの中で、たいまつがぱっと燃え上がります。　もちろん、ほかの二百人も同じようにしました。　右手に持ったラッパを吹き鳴らし、左手にたいまつを掲げながら、大声で叫んだのです。「神様のため、ギデオンのために戦うぞ。」
２１　敵の大軍は大混乱に陥り、右往左往し、悲鳴をあげて逃げ出しました。　イスラエル軍は、ただ立って見守るだけでよかったのです。　２２大混乱の中で、神様は片っぱしから同士打ちをさせたので、まさに修羅場と化してしまいました。　生きのびた連中は、やみにまぎれてツェレラ近くのベテ・ハシタや、タバテに近いアベル・メホラの境界まで逃げて行きました。
２３　ギデオンは、ナフタリ、アシェル、マナセの軍隊を呼び寄せ、逃走中のミデヤン軍を追撃して滅ぼせと命じました。　２４また、エフライムの山地全域に使者を送り、ベテ・バラにあるヨルダン川の渡し場を押さえる手配をさせました。　ミデヤン軍の退路を閉ざそうというのです。　２５ミデヤン軍の二人の将軍、オレブとゼエブが捕まりました。　オレブは、今ではオレブと呼ばれるようになった岩の上で殺され、ゼエブも、今はゼエブと呼ばれる酒ぶねの中で殺されました。　こうしてイスラエル軍は、ヨルダン川の西側にいたギデオンのもとへ、二人の首を届けました。
八
１　ところが、エフライム部族の指導者たちは、激しくギデオンに詰め寄りました。
「ミデヤン人との初陣を飾る際、なぜわれわれに声をかけてくれなかったんだね。」
２３「あなたがたには、神様がちゃんと、ミデヤンの将軍オレブとゼエブを、捕らえさせてくださったじゃないですか。　それに比べたら私のしたことなんか！　この戦いの最後を飾ったのは、あなたがたですよ。　そのほうが、戦いをしかけるよりも大仕事だったじゃありませんか。」　ギデオンの答えに、彼らはようやく納得しました。
４　さて、ギデオンと三百人の兵士はヨルダン川を渡りました。　かなり疲れていましたが、追撃の手はゆるめません。　５ギデオンは、スコテの人々に食べ物をくれるよう頼みました。　「われわれは、ミデヤン人の王ゼバフとツァルムナを追いかけているが、くたくたな上に腹ぺこなんだ。」
６　ところが、スコテの指導者たちからは冷淡な返事が戻ってきただけです。　「まだゼバフとツァルムナを捕らえたわけじゃないんだろう。　食べ物を恵んだのに負けられでもしたら大へんだ。　あいつらはここへ来て、わしらを殺すに違いないからな。」
７　そこでギデオンは、こう警告しました。　「神様が二人を捕らえさせてくださったあかつきには、戻って来て、野のいばらやとげで、おまえたちの肉を引き裂いてくれるわ。」
８　それからペヌエルに上り、食糧を求めたところ、また同じ返事です。　９そこで、ペヌエルの人々にも警告しました。　「この戦いに決着がついたら、戻って来て、このやぐ

らをたたきこわしてやるからな。」
　１０　そのころゼバフ王とツァルムナ王は、残りの兵一万五千を率いてカルコルにたてこもっていました。　とにかくこれが、連合軍で生き残ったすべてでした。　十二万人がすでに殺されていたのです。　１１ギデオンは、ノバフとヨグボハの東にある隊商路を迂回して、ミデヤンの陣営を急襲しました。　１２二人の王が逃げ出すと、ギデオンは追いかけて捕らえたので、敵軍は総くずれとなりました。　１３戦いがすんで、ギデオンはヘレスの坂道を帰路につきました。　１４この時、スコテから一人の若者を捕らえて来て、町の政治的・宗教的指導者七十七名の名前をあげさせたのです。
１５　次に、ギデオンはスコテに取って返し、こう言いました。　「よくも、ゼバフ王やツァルムナ王を捕らえられっこないとあざけってくれたな。　おまけに、疲れて空腹をかかえたわれわれに、パン一つくれなかった。　よく見ろ。　こいつらがゼバフとツァルムナだ。」
１６　ギデオンは町の重要人物を捕らえ、野生のいばらやとげでひっかいて殺しました。
１７またペヌエルにも赴き、町のやぐらをたたきこわし、男子全員を殺したのです。
１８　それからギデオンは、ゼバフ王とツァルムナ王に問いただしました。　「おまえたちがタボル山で殺した者たちは、だれに似ていたか。」
「あなたと同じような服を着ていました。　まるで王子のようで……。」
１９　「ああ、私の兄弟に違いない。　誓ってもいい。　彼らを殺さずにいてくれたら、おまえたちを助けてやるのに。」
２０　ギデオンは長男エテルに、二人を殺せと命じました。　しかし、エテルはまだ少年だったので、恐ろしくて剣を抜くことができません。
２１　ゼバフとツァルムナはギデオンに頼みました。　「あなたが手を下してください。わしらも、あなたのような大人に殺されたほうがいい。」　そこで、ギデオンがとどめを刺し、二人のらくだの首から飾りをはずしました。
２２　その時、イスラエルの人々は叫びました。「ばんざーい。　あなた様もご子息も、子々孫々に至るまで、われわれを治めてください。なにしろ、ミデヤン人からお救いくださったのですから。」
２３２４しかし、ギデオンの答えはこうでした。　「私は王になる気はない。　息子も同じだ。　神様こそあなたがたの王だ。　そこで、ひとつ聞き入れてほしいことがあるんだが、敵から分捕ったイヤリングを、全部もらえないだろうか。」　ミデヤン軍はイシュマエル人だったので、みんな金のイヤリングをつけていたのです。
２５　「どうぞ、どうぞ」と彼らは答え、布を広げると、一人一人、分捕り物のイヤリングを投げ込みました。　２６全部で時価七百五十万円にも相当しました。　同時に投げ込まれた三日月形の飾り、垂れ飾り、王衣、らくだの首飾りなどは別にしてもです。　２７ギデオンはその金で、エポデ〔そでなしの上着。　普通は祭司が着るが、ここでは金の装飾がついて重く、壁にかけた〕を作り、自分の町オフラに置きました。　ところが、イス

ラエル人がだれもかれもそれを拝むようになり、これは、ギデオンとその一族が犯した悪行となったのです。
２８　以上が、ミデヤン人がイスラエル人に屈服するに至った経過です。ミデヤン人は二度と立ち直れず、ギデオンが生きている四十年間は、イスラエルに平和が続きました。　２９ギデオンは家に帰りました。　３０彼には息子が七十人もいました。　妻が大ぜいいたからです。　３１また、シェケムに内妻が一人おり、アビメレクという男の子がいました。３２年老いたギデオンはついに世を去り、アビエゼル人の地オフラにある、父ヨアシュの墓に葬られました。
３３　ギデオン亡きあと、イスラエル人はたちまちバアルやバアル・ベリテの偶像崇拝に陥りました。　３４もう、周囲のすべての敵から救い出してくださった神様を、心に留めようとはしなかったのです。　３５ギデオンの数々の功績をも忘れ、その一族を手厚く待遇することも怠りました。
九
１　ある日、ギデオンの息子アビメレクは、シェケムに住む母方のおじを訪ねて頼みました。
２　「シェケムのお偉方のところへ行って、話していただけませんか。ギデオンの七十人の息子に支配されるのがよいか、それとも、ほかでもない、皆さんの身内の私に支配されるのがよいか、尋ねてほしいのです。」
３　おじたちは町の指導者を訪ね、アビメレクの考えを伝えて相談しました。　すると、母親がこの町の者だということで、彼らはアビメレクを受け入れたのです。　４事が決まると、彼らはバアル・ベリテの偶像へのさい銭を、仕度金としてアビメレクに渡しました。その金で彼はさっそく、言いなりになるごろつき連中を雇いました。　５そして、一行を率いてオフラにある父の家へ行き、そこの石の上で、腹違いの兄弟七十人を殺してしまったのです。　ただし、最年少のヨタムだけは難を避けて隠れていました。　６シェケムとベテ・ミロの住民は、シェケムの要塞のそばにある樫の木の下に集まって相談し、アビメレクをイスラエルの王にまつり上げました。
７　これを知ってヨタムは、ゲリジム山の頂上に立ち、シェケムの人人に大声で叫びました。　「皆さん。　神様に祝福されたかったら、私の言い分を聞いてくれ。　８昔、木々が王様を選ぶことにした。　最初に、オリーブの木に王様になってくれと頼んだが、　９断わられてしまった。
『わしゃ､神様と人とを祝福するためのオリーブ油をつくり出すのが楽しいんじゃよ。 ただ木々の上にそよいでいるだけなんて、まっぴらだ。』
１０　それで、いちじくの木に、『あなたこそわれわれの王様です』と言った。
１１　だが、いちじくの木も断わった。　『甘い実をならすのをやめてまで、ほかの木の上に頭をもたげようとは思わないよ。』
１２　それで、ぶどうの木に、『どうか私どもを治めてください』と頼み込んだ。

１３　もちろん、ぶどうの木も断わった。　『私は神様と人とを楽しませるぶどう酒をつくり出すのをやめてまで、ほかの木より偉くなろうなんて思いません。』
１４　そこでとうとう、いばらに、『あんたが王様になってくれないか』と懇願した。
１５　いばらは答えた。　『ほんとうにそう思うのなら、おいらの陰のもとに身を低くしてもらおうじゃないか。　それがいやなら、おいらから火が燃え上がって、レバノンの大杉まで焼き尽くしてしまうからな。』
１６　さあ、はっきりしてもらおう。　アビメレクを王にしたことは正しいことだったかどうか。　それが、ギデオンとその子孫全員を正しく扱ったことになるかどうか。　１７私の父はおまえたちのために戦い、いのちがけでミデヤン人から救い出したのだ。　１８それなのに、なんだ。　父に反逆し、息子七十人を石の上で殺すようなまねをした。　その上、女奴隷の子アビメレクを、身内だというだけで、王にした。１９これが、ギデオンとその子孫とに対する正しい態度であるなら、おまえたちもアビメレクも、末長く幸福に暮らせるだろう。　２０だが、もし正しいものでないなら、アビメレクはシェケムやベテ・ミロの住民と、お互いを滅ぼし合うことになるだろう。」
２１　そののちヨタムは、アビメレクを恐れてベエルに逃げ、そこに住みつきました。　２２２３三年が過ぎたころ、神様がアビメレク王とシェケムの住民との間にもめ事を起こしたので、シェケムの住民は、アビメレクに反旗をひるがえすに至りました。　２４引き続いて起こった事件の結果、アビメレクと、ギデオンの七十人の息子殺害に加担した者たちとに、その殺人罪に対する当然の罰が下ることになったのです。２５シェケムの人々は、峠の小道のわきに、アビメレクを待ち伏せる者を潜ませました。　ところが、その者たちは、手あたりしだいに通行人から略奪するしまつでした。　この陰謀をアビメレクに告げる者がありました。　２６当時、エベデの息子ガアルが兄弟といっしょにシェケムへ移住し、町の要職についていました。　２７その年の収穫祭が、シェケムの神の宮で催されていた時のことです。　ぶどう酒の酔いが回ると、人々は口々にアビメレクの悪口を言い始めたのです。
２８　ガアルはわめきました。　「アビメレクが何だってんだ。　どうしてあいつが王にならなきゃならんのだ。　あんな野郎にへいこら言ってられるかよ。　やつも仲間のゼブルも、おれたちの家来にしてやるからな。　くたばれ、アビメレクめ！　２９おれ様を王様にしてみな。あっという間に、あんなやつ、やっつけてみせらあ。　やい、アビメレク！　せいぜい強いのを集めて、出て来い！　いつでも相手になってやるぞ。」
３０　町長のゼブルはガアルの暴言を聞くと、怒りに震えました。　３１さっそくアルマにいるアビメレクに使者を立て、こう言わせたのです。「エベデの息子ガアルが、身内の者といっしょにシェケムへ来て住みついております。　やつらは今、町中をあなたに背かせようとやっきですぞ。　３２夜のうちに兵を率いて野原へ行き、隠れていてください。３３朝はやく、日がのぼるころ、町に突入するがよろしい。　ガアルとその一味が手向かって来たら、それこそ、思いどおりにやっつけてやれますよ。」

３４　アビメレクとその一隊は夜中に進軍し、四隊に分かれて、シェケムの町を取り囲みました。　３５翌朝、ガアルが地区役員と話し合うために町の門のところに座った時、アビメレクと家来たちは、いっせいに進撃を開始しました。
３６　それを見たガアルは、ゼブルに叫びました。「見ろ、あの山を。大ぜい駆け降りて来るぞ！」
「とんでもない！　山の影が人のように見えるだけですよ。」
３７　「なに、おれの目がふし穴だって言うのか。　よーく見ろ！　確かに人がこっちへ来るんだ。　ほれ！　ほかの一組はメオヌニムの樫の木の方から来るぞ！」
３８　するとゼブルは、向き直り、勝ち誇って言いました。　「あれほど大口をたたいたのは、どこのどなたでしたかな。　『アビメレクがどうした！　なんであんなやつを王にした！』とわめいたのは、どなた様でしたかね。　あんたが見くびってののしった連中が、町を取り囲んだじゃありませんか。　さあ、さっさと戦ったらどうです。」
３９　ガアルはシェケムの人々を率いて、アビメレクと一戦を交えました。　４０しかし、たちまち打ち負かされ、負傷者が続出して、町の門のところまでいっぱいに倒れているしまつでした。　４１アビメレクは引き続きアルマに住み、ゼブルはガアルとその一族を追い出し、二度と入り込めないようにしました。
４２　翌日、シェケムの人々は再起をはかって戦いに打って出ました。ところが、そのことをアビメレクに通報する者があったので、　４３彼は兵を三隊に分け、野原で待ち伏せました。　そして、人々が勇んで出て来たところを、飛び出して襲いかかったのです。　４４アビメレクとその一隊は、人々が引き返せないように、町の門を急襲して占拠し、ほかの二隊は野で人々を切り倒しました。　４５戦闘は一日中続き、ついにアビメレクは町を占領し、住民を殺し、町を破壊してしまいました。　４６これを見て、近くのミグダルの町の住民は、バアル・ベリテの宮に続くとりでに逃げ込みました。
４７４８このことを聞いたアビメレクは、兵を率いてツァルモン山に登り、斧で木の枝を切り、束ねて背負うと、「おれのやるようにやれ」と一同に命じました。　４９こう言われて、家来はめいめい、急いで枝を切って束ね、かついでとりでの町に引き返しました。　そしてアビメレクのするとおり、たきぎをとりでの回りに積み上げ、火をつけたのです。　それで、とりでの中にいた約千人の男女が焼け死んでしまいました。
５０　次にアビメレクは、テベツの町を攻撃し、占領しました。　５１しかし、町にはとりでがあったので、住民はみなそこに逃げ込みました。人々はバリケードを築いて立てこもり、屋根に見張りを立てました。５２ところが、アビメレクがとりでを焼き打ちにしようと近づいた時、５３屋根の上にいた一人の女が石臼を投げたのです。　それがアビメレクの頭上に落ち、頭蓋骨を打ち砕いてしまいました。
５４　「殺してくれ！」　アビメレクはよろい持ちの若者に向かってうめきました。　「女の手にかかったなんて言われてたまるか。」
もう、どうにもなりません。　その若者は剣で刺し通しました。これがアビメレクの最期

でした。　５５家来たちは、アビメレクが死んだのを見て散り散りになり、家へ帰ってしまいました。　５６５７こうして神様は、ギデオンの七十人の息子殺害の罪を、アビメレクとシェケムの人々に報いたのです。　同時に、ギデオンの息子ヨタムののろいも実現したことになります。
一〇
１　アビメレクの死後、イスラエルの士師として立てられたのは、ドドの孫、プワの息子トラです。　この人はイッサカル部族の出身で、エフライムの山地にあるシャミルの町に住んでいました。　２彼は二十三年間、士師としてイスラエルを治めました。　３彼が世を去ってシャミルに葬られると、ギルアデ出身のヤイルが後継者となり、二十二年間イスラエルを治めました。　４ヤイルの三十人の息子は、三十頭のろばを乗り回し、ギルアデにある三十の町を所有していました。それは今でも、「ヤイルの町」と呼ばれています。　５ヤイルは死後、カモンに葬られました。
６　するとまたもや、イスラエル国民は神様から離れ、バアルやアシュタロテといった異教の神々を拝み、シリヤ、シドン、モアブ、アモン、ペリシテの神々に仕えるようになりました。　それればかりか、神様を礼拝することなど、きれいさっぱりやめてしまったのです。　７８このことが、神様の怒りを引き起こさないはずはありません。　神様は直ちに、ペリシテ人とアモン人を動かして、イスラエル人を悩ませたのです。　この両軍は、ヨルダン川の東にあるエモリ人の地ギルアデに攻め入り、　９さらにユダ、ベニヤミン、エフライムにまで攻撃の手を伸ばしました。　アモン人がヨルダン川を渡り、イスラエルに踏み込んだのです。　攻撃は十八年間も続きました。　１０ついにイスラエル人はたまりかね、神様に救いを求めました。
「私たちはとんでもない罪を犯しました。　自分たちの神様を捨てて、偶像を拝んでおりました」と、罪を告白したのです。
１１１２神様のお答えはこうでした。　「わたしは、エジプト人、エモリ人、アモン人、ペリシテ人、シドン人、アマレク人、マオン人からおまえたちを救ってやったではないか。これまでいつだって、叫び求めてくれれば救い出してやったはずだ。　１３それなのに、おまえたちはわたしを捨て、性懲りもなくほかの神々を拝んでいる。　勝手にするがいい。もう助けてやらん。　１４行って、新しく選んだ神々にでも助けてもらえ。」
１５　それでも人々は、神様に助けを求め続けました。　「私たちが悪うございました。どうぞ存分に罰してください。　ただ、もう一度だけ敵の手から救い出していただきたいのです。」
１６　彼らは外国の神々を取り除き、ひたすら神様を礼拝しました。　それで神様も、かわいそうにお思いになったのです。　１７そのころアモン人の軍がギルアデに集結し、ミツパに陣を敷いたイスラエル軍を攻撃しようとしていました。
１８　途方にくれたギルアデの指導者たちは、「いったいだれが、わしらの軍を率いてアモン人と戦ってくれるのか。　その役を買って出る者こそ、わしらの王だ」と話し合ってい

ました。
一一
１２さて、エフタはギルアデ出身の勇士でしたが、母親は遊女の身でした。　父ギルアデには、正妻の産んだ数人の息子がいました。　息子たちは成長すると、腹違いの兄弟エフタを、ギルアデから追い出してしまったのです。
「遊女の子に、おやじの財産などこれっぽちもやるわけにはいかん」というわけです。
３　エフタは父の家を飛び出し、トブの地に移り住みました。　まもなく、そこで不平分子の一団を従えるようになり、盗みを働いて日を送っていました。　４そんな時、アモン人がイスラエルに宣戦布告をしてきたのです。　５ギルアデの要人たちはエフタを呼びにやり、　６指揮官としてアモン人と戦ってくれと頼み込みました。
７　しかし、エフタは冷ややかに答えるばかりです。　「私を憎むあまりに父の家から追い出しておきながら、どうして、ここへおいでになったんです。　今さら困ったからって、よくも来られたもんですな。」
８　「どうしてもあんたに帰ってもらいたいんだ。　もし総指揮官としてアモン軍と戦ってくれたら、ギルアデの王になってもらうよ。」
９　「ほんとうかね。　とても信じられないな。」
１０　「神かけて誓うよ。」
１１　こう言われて、エフタも気を変え、彼らの願いどおり総指揮官となり、王になりました。　この契約は、人々がミツパに集まった時、神様の前で結ばれたのです。　１２エフタはアモン人の王に使者を送り、イスラエル攻撃の理由を尋ねました。　１３すると、「そこはもともとアモン人の土地だったのだ」という返事です。　王の言い分では、エジプトから移って来たイスラエルが、アルノン川からヤボク川、ヨルダン川に至るアモン人の全領地を奪い取ってしまった、というのです。
「すみやかに、わしらの土地を返してくれ」と、王は要求してきました。
１４１５エフタは答えました。　「イスラエルはその土地を奪ったのではない。　１６真相はこうだ。 イスラエル人がエジプトを出て紅海を渡り、旅を続けてカデシュに来た時、１７エドムの王に使者を送り、その領地を通過する許可を求めた。　しかし、聞き入れてもらえなかったのだ。　モアブの王にも同様の許可を求めたが、やはり断わられ、やむなくカデシュにとどまった。
１８　それでも、とうとうイスラエルは荒野に出て、エドムとモアブの地を迂回し、その東の境に沿って旅を続け、モアブの境界線であるアルノン川の向こうに着いた。 ただし、モアブの領地には決して入らなかった。　１９それからイスラエルは、ヘシュボンに住むエモリ人の王シホンに使者を送り、目的地に行くため領地内を通らせてほしいと頼んだ。
２０しかし王はイスラエルを信用せず、ヤハツに兵を集結させ、攻撃をしかけて来た。　２１２２しかしイスラエルの神様は、われわれに力を貸し、王とその国民を打ち破ってくださった。　それでイスラエルは、アルノン川からヤボク川までと、荒野からヨルダン川ま

での、エモリ人の全地を手中に収めたわけだ。
２３　このように、この土地をエモリ人から取り上げてイスラエルに与えてくださったのは、われわれの神様なのだ。　それなのにどうして、返さなければならないのか。　２４そちらはそちらで、自分らの神ケモシュが与えてくれるものを、しっかり守ればいいだろう。　われわれは、神様が下さったものを大事にしたいのだ。　２５いったいぜんたい、何様のつもりでいるんだね。　モアブの王バラクより偉いつもりか。バラクはイスラエルに打ち負かされたあと、土地を取り返そうとしたかね。　もちろん、しやしない。　２６今さら三百年も昔のことをとやかく問題にして、どうなる。　イスラエルは三百年もここに住み、ヘシュボンからアロエルに至る一帯へ、またアルノン川沿岸の全域へと広がっていったのだ。　その気があるなら、どうして、もっと早く取り戻そうとしなかったのか。
２７こちらは何も悪いことをした覚えはないぞ。　それなのに、そちらが勝手に戦いをいどんで、悪事を働こうとしている。　しかしもうじき、どちらが正しいか、神様がはっきりさせてくださるさ。」
２８　アモン人の王は、エフタのことばに全く耳を貸しませんでした。
２９　その時、神の霊がエフタに下りました。　エフタは兵を率いてギルアデとマナセの地を通り、ギルアデのミツパからアモン軍を攻撃しました。　３０３１一方、エフタはこう神様に誓ったのです。　「もし神様のお助けによってアモン人を征服でき、無事に帰還させていただけるなら、私の家から最初に迎えに出た者を、完全に焼き尽くすいけにえとしておささげいたします。」
３２　エフタは兵を率いてアモン人と戦い、勝利を収めました。　３３そして、アロエルからミニテにかけての二十の町と、アベル・ケラミムに至るまで、くまなくアモン人を虐殺して回りました。　ついにアモン人は、イスラエルに屈服したのです。
３４　エフタが戻ると、彼のひとり娘が、大喜びでタンバリンを鳴らし、踊りながら、駆けよって来たではありませんか。　３５娘を見て、エフタは胸を引き裂かれる思いで着物を引きちぎり、叫びました。
「ああ、なんでこんなむごいことに！　いったん神様に誓いを立てたからには、もう取り消すわけにはいかないんだが……。」
３６　「お父様、どうか神様にお誓いになったとおりになさってください。　神様は敵のアモン人をやっつけて、こんなすばらしい勝利をもたらしてくださったのですもの。　３７ただ、二か月の間、私を女友だちと山に行かせ、さまよい歩かせてください。　結婚もしないで終わることを泣き悲しみたいの。」
３８　「ああ、ああ。　行くがいい。」
そこで彼女は、自らの運命を友だちと共に嘆きながら、二か月間さまよったのです。　３９二か月が過ぎて戻った娘を、エフタは誓願どおり神様にささげました。　娘はついに結婚しなかったことになります。　〔ただし、いけにえとして実際に殺されたのか、処女のままで神様に生涯をささげたのかは、不明です。〕　このあちイスラエルでは、次のような

慣習ができました。　４０毎年四日間、若い娘たちは出て行って、エフタの娘のために嘆き悲しむのです。
一二
１　さて、エフライム部族はツァフォンに兵を集め、エフタにこう言い送りました。「アモン人と戦う時、なぜわれわれに援軍を求めなかったんだ。　おまえの家なんぞ、おまえもろとも焼き払ってやるからな。」
２　「あなたがたには召集をかけましたよ。　しかし、駆けつけてはくれなかったじゃないですか。　助けてほしかった時に助けてくれなかったのですよ。　３ですから、あなたがたを当てにせず、いのちがけで戦ったんです。　幸い、神様が助けてくださり、敵を破ることができました。　それなのに何だって、戦いをしかけてくるんですか。」
４　エフタは、エフライム部族が「ギルアデの連中は、どこの馬の骨かわからん。　人間のくずだ」と侮辱するのに激怒し、兵を集めてエフライム軍を攻撃しました。　５そして、エフライム軍の背後にあるヨルダン川の渡し場を占領したのです。　逃げて来る者が川を渡ろうとすると、ギルアデ人の見張りが尋問しました。
「おまえはエフライムの者じゃないのか」と聞き、「違う」という答えが返ってくると、　６「『シボレテ』と言ってみろ」と命じるのです。　もし「シボレテ」と正しく発音できず、「スィボレテ」と発音すれば、引っ立てて行って殺します。　こうして、ここで四万二千人のエフライム人が死んだのです。
７　エフタは六年間、イスラエルの士師の座にありました。　彼は世を去ると、ギルアデの町に葬られました。
８　エフタの次に士師となったのは、ベツレヘムに住んでいたイブツァンです。　９１０彼には息子と娘が三十人ずついました。　彼は娘を自分の氏族以外の者に嫁がせ、息子たちにはよそから三十人の嫁を迎えました。　彼は世を去るまでの七年間イスラエルをさばき、ベツレヘムに葬られました。
１１１２次に士師となったのは、ゼブルン部族のエロンです。　彼は十年間イスラエルをさばき、ゼブルンのアヤロンに葬られました。
１３　そのあとを継いだのは、ピルアトン人ヒレルの息子アブドンです。１４彼には四十人の息子と三十人の孫がおり、彼らは七十頭のろばを乗り回していました。　アブドンが士師であった期間は、八年です。　１５死後、アマレク人の山地にあるエフライムのピルアトンに葬られました。
一三
１　イスラエル人はまたもや、ほかの神々を拝む罪を犯しました。　それで神様は、イスラエルをペリシテ人が征服するにまかせたので、四十年間もその支配下に置かれることになりました。　２３ある日のこと、神様の使いが、ツォルアに住む、ダン部族のマノアの妻に現われました。　彼女は子宝に恵まれない女でしたが、御使いはこう告げたのです。
「おまえには長いこと子供ができなかったが、まもなくみごもり、男の子を産む。　４い

いかね、ぶどう酒や強い酒を飲んではいけないよ。　それに、おきてで禁じられている食べ物も口にしないように。　５生まれて来る子の頭には、かみそりを当ててはならない。その子は、神様に仕えるナジル人として、生まれた時から特別にきよめられているんだ。やがてその子は、イスラエルをペリシテ人から救い出すことになるだろう。」
６　マノアの妻は夫のもとへ駆けつけ､一部始終を話しました。「神様からのお使いが来られたの。　きっと天使様に違いないわ。　あまり神々しくて、まともに見ることもできなかったわ。　どちらからいらしたのか、お尋ねもできなかったし、その方も名をお告げにならないのよ。　７でも、こうおっしゃったわ。　『おまえは男の子を産む』って。　そして、ぶどう酒や強い酒を飲んではいけないし、おきてで禁じられている食べ物も口にしてはいけない。　その子は、生涯、神様にささげられたナジル人だから、とおっしゃいましたの。」
８　それを聞いて、マノアは祈りました。　「ああ、神様、どうかそのお方をもう一度、私たちのもとへお送りください。　生まれて来る子にどうしてやればよいのか、もっとお指図を賜わりたいのです。」９祈りは聞かれ、神様の使いはもう一度、マノアの妻のもとに遣わされたのです。　この時も､彼女は一人だけで畑におり､夫は居合わせませんでした。
１０彼女は急いで夫を捜しに行き、「あの方がまた、おいでになったわ」と告げました。
１１　マノアは妻といっしょに大急ぎで駆けつけました。　「あなた様は、いつか妻にお語りくださったお方でしょうか。」
「そうです。」
１２　「男の子が生まれたら、どのように育てたらよいか、お指図をいただきとうございます。」
１３１４「おまえの妻に命じておいたことを、きちんと守ればよろしい。彼女は、ぶどうも干しぶどうも食べてはならない。　ぶどう酒も強い酒も口にせず、おきてで禁じられている物も食べないことだ。」
１５　「少しお待ちいただけますか。　何かお召し上がり物を用意いたします。」
１６　「いるのはよいが、何も食べるわけにはいかない。　だが、たってとあらば、神様にささげるいけにえを持って来るがよい。」 マノアは､その方が神様の使いであることに､まだ気づいていなかったのです。
１７　マノアはその方の名前を尋ねました。　「と申しますのも、おことばどおり男の子が生まれた時、あなた様の預言が的中したと、みんなに知らせとうございますからね。」
１８　「なぜ名前など尋ねるのだ。　それは秘密だ。」
１９　マノアは子やぎと穀物の供え物を手にし、神様へのいけにえとしてささげました。すると御使いは、とても不思議なことをして見せたのです。　２０祭壇から天に立ちのぼる炎をマノア夫妻が見ていると、なんと、その炎の中を御使いがのぼって行くではありませんか。　二人は思わず地にひれ伏しました。　２１これが、二人がそのお方を見た最後でした。　この時はじめて、マノアはその方が神様の使いであることを悟ったのです。

２２　マノアは叫びました。　「わしらは助からん。　神様を見てしまったんだからな。」
２３　しかし、妻は答えました。　「もし神様が私たちの命を取るおつもりなら、どうして完全に焼き尽くすいけにえをお受けくださったんでしょう。　それに、このように私たちの前に現われてくださったり、不思議なことを予告なさったり、先ほどみたいな奇蹟を見せてくださったりするはずもありませんわ。」
２４　さて、男の子が生まれると、サムソンという名がつけられました。その子は神様に祝福されて、すくすくと育ちました。　２５成人したサムソンが、ツォルアとエシュタオルの町との中間点にあるダン部族の練兵場を訪れるたびに、神の霊は、彼を奮起させるべく働きかけ始めたのです。
一四
１　ティムナへ行ったある日のこと、サムソンはペリシテ人の娘が好きになりました。　２家へ帰ると、さっそく両親に、その娘と結婚させてくれと頼みました。　３もちろん、両親は大反対です。
「どうして、ユダヤ人の娘と結婚しないんだ。　ほんとうの神様を知らないペリシテ人を妻にする必要があるのかね。 イスラエル中捜しても、おまえが結婚したい相手はいない、と言うのかね。」
「ぼくが結婚したいのは、あの人だけなんです。　どうか嫁にもらってください。」
４　両親は、まさか背後で神様がこうなるようにあやつっておられるとは、気がつきません。　神様は、当時イスラエルを支配していたペリシテ人を、計略にかけようとしておられたのです。
５　サムソンと両親がティムナへ行くと、町はずれのぶどう畑で、一頭の若いライオンがサムソンに襲いかかりました。 ６その瞬間、神の霊が激しい力をサムソンに注ぎました。サムソンは武器を持っていませんでしたが、素手でライオンのあごをつかむと、真っ二つに引き裂いてしまいました。　まるで子やぎを引き裂くように、難なくやってのけたのです。　しかし、このことは両親には黙っていました。７ティムナに着くとさっそく、サムソンはその娘と語り合い、ますます気に入って、結婚の約束を交わしました。
８　結婚式のためにまた出かけて来たサムソンは、途中ライオンの死骸のことが気になり、その場所へ立ち寄ってみました。　すると、死骸に蜜ばちが群がり、蜜がしたたっているではありませんか。　９彼は蜜をかき集め、歩きながら食べました。　また、両親にも食べさせたのです。　しかし、どこで手に入れたかは教えませんでした。
１０１１父親が結婚の手はず万端を整えてくれると、サムソンはしきたりどおり村の若者三十人を招き、祝宴を催しました。 １２サムソンがなぞ解きをしないかと持ちかけると、皆は乗り気になりました。
「もし君たちが、七日間の祝宴中に私のなぞを解いたら、白生地の着物三十着と柄もの三十着を差し出そう。　１３だが、もし解けなかったら、同じものをもらうぞ。」
「よかろう。　言ってみろよ。」

１４　「食らうやつから食い物が出、強いやつから甘い物が出た。」　三日たちましたが、まだ解けません。
１５　四日目に、一同はサムソンの新妻のもとへ来て、こう持ちかけました。　「だんなから答えを聞き出してくれよ。　いやだと言うなら、おまえもおまえのおやじの家も焼き払ってやるからな。　おれたちゃなにも、丸裸にされるために呼ばれたわけじゃねえ。」
１６　そうまで言われては、夫に泣きすがるほかありません。　「いったい、あなたは私を愛してくださってるの。　村の人たちになぞをかけておいて、私には種明かしをしてくださらないんですもの……。」
「実は、両親にも教えてないんだよ。　おまえにだって話せんよ。」
１７　そう言われても、彼女は残りの祝宴のあいだ中サムソンのそばで涙にくれ、とりすがりました。　ついに七日目、彼はとうとう種明かしをしてしまったのです。　彼女がそれを例の若者たちに教えたことは、言うまでもありません。　１８七日目の日没前、彼らはサムソンに答えました。
「はち蜜よりも甘い物は何か。　ライオンよりも強いものは何か。」
サムソンは憤然として言い返しました。　「私の若い雌牛で耕さなかったら、このなぞは解けなかっただろう。」
１９　その時、神の霊がサムソンに下りました。　彼はアシュケロンの町へ行き、三十人を殺して着物を奪い、なぞを解いた若者たちにくれてやりました。　おさまらないのはサムソンです。　腹立ちまぎれに、妻を放っておいて、両親の家へ帰ってしまいました。　２０すると妻のほうでも、サムソンとの結婚式に立ち合ってくれた仲間と結婚してしまったのです。
一五
１　やがて、小麦の刈り入れの季節になりました。　サムソンは子やぎ一頭を妻への贈り物として持参し、結婚生活を続けようとしました。ところが、父親は娘の部屋に入れてくれません。
２　「てっきり、娘はあんたにきらわれたと思いましてな、あんたの介添えにやってしまいましたんじゃ。　どうです、妹のほうがあれより美人ですぞ。　代わりに妹をもらってやってくれませんかな。」
３　サムソンはかんかんに腹を立てました。　「いいか、これから先なにが起ころうと、おれの知ったことじゃないぞ。」
４　彼は出て行き、きつねを三百匹とらえ、二匹ずつしっぽを結び合わせ、結び目にたいまつをくくりつけました。　５そしてたいまつに火をつけると、いっせいにペリシテ人の畑に放ったのです。 たちまち麦が燃え上がり、山積みにしたりしてある麦束に燃え移り、オリーブ畑まで丸焼けにしてしまったのです。
６　「いったい、だれのしわざだ。」　ペリシテ人は頭にきました。
「サムソンだ。　あいつの義理のおやじが娘をほかの男にやっちまったからな。」　それに

違いないということで、その娘と父親とを捕らえ、焼き殺してしまったのです。
７　これを知ったサムソンは、きっぱり言い放ちました。　「よーし、見ておれ。　かたきは取ってやるぞ！」　８激しい怒りに燃えて彼らを攻め、多数のペリシテ人を打ち殺したあと、彼はエタムの岩にあるほら穴で暮らしました。　９そうこうするうち、ペリシテ人がユダに大軍を差し向け、レヒに攻め入ったのです。
１０　「なぜここに攻めて来たんだ」と、ユダの人々は尋ねました。
「サムソンをとっ捕まえるためだ。　あいつにお返ししてやるのさ。」
１１　そこでユダから三千人が、サムソンを捕らえにエタムの岩のほら穴へ向かいました。
「何ということをしてくれたんだ。　ペリシテ人は、わしらの支配者じゃないか。」
「あいつらが私にしたとおり、お返ししただけさ。」
１２１３「わしらはおまえを捕まえ、ペリシテ人に引き渡そうとやって来たんだ。」
「わかった。　ただし、殺さないと約束してくれよ。」
「もちろんだ。」
こうしてサムソンは、二本の新しい綱で縛り上げられ、引っ立てられました。　１４一行がサムソンを捕らえてレヒに着くと、ペリシテ人は歓声をあげました。　神様の力がサムソンに注がれたのは、その時です。　綱は、まるで糸のようにぷっつり切れ、手首から落ちたではありませんか。　１５すかさずサムソンは、そこに転がっていたろばのあご骨を拾い上げ、あっという間に、千人のペリシテ人をなぎ倒してしまいました。　１６１７彼はろばのあご骨をぽいと投げ捨てると、こう感慨をもらしたのです。
「ろばのあご骨で
山また山。
ろばのあご骨で
千人の屍。」
以来そこは、ラマテ・レヒ〔あご骨の丘〕と呼ばれています。
１８　折りからひどくのどが渇いたので、サムソンは神様に祈りました。「神様はこの私にめざましい働きをさせ、きょうイスラエルをお救いくださいました。　ところが、私はのどが渇いて死にそうです。　こんなことで異教徒の手に落ちていいものでしょうか。」　１９すると神様は、そばのくぼ地から、水をほとばしり出させてくださったのです。水を飲んですっかり元気を取り戻したサムソンは、そこをエン・ハコレ〔祈りの人の泉〕と名づけました。　その泉は今もあります。
２０　サムソンは、こののち二十年間イスラエルの士師でしたが、なおこの地はペリシテ人の支配下にありました。
一六
１　ある日、サムソンはペリシテ人の町ガザへ行き、一人の娼婦と夜を過ごしました。　２たちまち、「サムソンを見かけた」という噂が広まり、警備体制が敷かれました。　町の人も大ぜい、彼の帰りぎわを押さえようと、町の門で夜通し待ち伏せました。

「明け方になったら、見つけ出して殺してしまおう」と思っていたのです。
３　真夜中まで女と過ごしたサムソンは、そのあと町の門まで行き、門を二本の門柱もろとも引き抜くと、高々とかつぎ上げ、ヘブロンの向こう側にある山のいただきまで運んで行ったのです。
４　そののちサムソンは、ソレクの谷に住むデリラという女を愛するようになりました。５ペリシテ人の五人の領主がじきじき彼女を訪ね、「サムソンの力の秘密を探ってくれないか。　どうしたら、あいつを鎖で縛り上げてやれるか、ぜひとも知りたいのだ」と頼みました。
それも、ただではありません。　「この仕事を引き受けてくれたら、めいめいが三十万円ずつ出そう」と約束したのです。
６　デリラはサムソンに、力の秘密を打ち明けてほしいと頼みました。「ねえサムソン、どうしてそんなに強いの。　教えてちょうだい。　あんたを捕まえるなんて、できっこないわね。」
７　「そうだな。　真新しい七本の弓弦で縛られでもすれば、おれも人並の力しか出せまいな。」
８　例の領主たちは、さっそく七本の弓弦を持って来ました。　デリラは眠っているサムソンを縛り上げ、　９隣室には幾人かを潜ませておいて、大声で叫んだのです。
「サムソン！　ペリシテ人が来たわ！」
するとどうでしょう。　サムソンは、弓弦を木綿糸のように断ち切ってしまったのです。こうして彼の力の秘密は、だれにも知られずじまいでした。
１０　するとまた、デリラはサムソンにからみました。「あたしをからかったのね。　うそつき。　ねえ、どうしたらあんたを縛り上げることができるのか、教えてちょうだい。」
１１　「わかったよ。　まだ使ったことのない新しい綱で縛ってみろ。普通の人と同じぐらいの力しか出せないよ。」
１２　それでデリラは、サムソンが眠ったころを見はからって新しい綱を取り出し、縛り上げました。　前と同じように隣室に幾人かを潜ませ、またも大声で叫んだのです。
「サムソン！　ペリシテ人が捕まえに来たわ！」
ところがサムソンは、まるでくもの巣でも払うように、綱を腕からはずしてしまったではありませんか。
１３　「また、あたしをばかにして、とんでもないでたらめをおっしゃったのね。　ねえ、お願い。　ほんとうのことを教えて。　どうしたらあんたを縛り上げることができるのよ。」
「ああ、わかったよ。　おれの髪をおまえの機に織り込んでみるんだな……。」
１４　デリラはサムソンが眠ったのを確かめ、言われたとおり、彼の髪の毛を機に織り込み、悲鳴をあげてみせました。　「ペリシテ人よ！サムソン！」　サムソンは目を覚ますと、髪をぐいと引っぱり、機をこわしてしまいました。
１５　デリラは泣き出しそうな声で言いました。　「よくも、愛してるなんておっしゃれ

るわね。　ちっとも私を信用してくださらないくせに。　もう三度もだまされたわ。　それでもまだ、力の秘密を教えてはくださらないのね。」
１６１７寝ても覚めてもせがみ続けるので、うるさくてたまりません。　サムソンはついに秘密を打ち明けました。
「実はな、おれの頭にはかみそりが当てられたことがないんだよ。おれは、生まれる前から神様にささげられたナジル人だからな。　もし髪がそり落とされたら、おれの力もおしまいさ。　ほかの人と同じになるよ。」
１８　ついにほんとうのことを白状させたのです。　デリラはさっそく、ペリシテ人の五人の領主を呼びにやりました。
「もう一度お越しください。　今度こそまちがいありませんわ。」
彼らは約束の金を用意してやって来ました。 １９彼女はひざ枕でサムソンを眠らせると、床屋を呼び、髪をそり落とさせました。　念のためサムソンをこづいてみると、確かに彼の力はなくなっているようです。
２０　もう大丈夫と､悲鳴をあげました。「ペリシテ人が捕まえに来たわ！　サムソン！」サムソンは目を覚まし、「なあに、いつもの調子で片づけよう。　一ゆすりすりゃ、思いのままさ」と考えました。神様が自分から去られたことに、気づいていなかったのです。　２１ペリシテ人は彼を捕まえると、目をえぐり出し、ガザへ連れて行きました。　そこで青銅の足かせをはめて牢に入れ、臼を引かせたのです。２２しかしその間にも、サムソンの髪は少しずつ伸びていました。
２３２４ペリシテ人の領主たちは、サムソン逮捕を祝う盛大な祭りを催しました。　人々は彼らの神ダゴンにいけにえをささげ、熱狂的に賛美しました。
獄中のサムソンを満足げに眺めながら、「われわれの神様は､宿敵サムソンを引き渡してくださった。　わしらの同胞を大ぜい殺した元凶が、今はあのざまだ」と叫びました。　２５２６いいかげん酔いが回ったころです。　「サムソンを連れ出せ！　見せ物にして楽しもうじゃないか」という声があがったのです。
サムソンは牢から連れ出され、神殿の中央の大屋根を支える二本の柱の間に立たされました。　サムソンは手を引いている若者に頼みました。　「両手を二本の柱にすがらせてくれ。　寄りかかって休みたいんだ。」
２７　この時、神殿は立錐の余地もないほど、人で埋め尽くされていました。　五人の領主も臨席しており、バルコニーにも三千人の男女がひしめいて、サムソンの様子をおもしろ半分に見守っていたのです。
２８　サムソンは神様に祈りました。　「ああ、神様、どうかもう一度、私のことを思い出してください。　いま一度、力をお与えください。えぐられた二つの目のためにも、報復させてください。」
２９　祈り終わると、全力を振り絞って柱を押しました。
３０　最後に彼は、「ペリシテ人もろとも死なせてください」と祈りました。

すると神殿は、領主たちをはじめ、居合わせた全員の上にくずれ落ちたのです。　なんと、サムソンが死ぬ時に殺した者の数は、生きている間に殺した数より多かったのです。　３１その後、サムソンの兄弟や身内が来て遺体を引き取り、郷里に運んで、ツォルアとエシュタオルとの間にある、父マノアの墓に葬りました。　サムソンがイスラエルをさばいたのは二十年間でした。
一七
１　エフライムの山地に、ミカという名の人が住んでいました。
２　ある日、彼は母親に言いました。　「盗まれたと思って、お母さんがしきりに呪っておられた三十万円のことだけど、実はあれ、私が盗んだんです。」
すると母親は、「よく正直に話してくれたね。　神様が祝福してくださるよ」と答えたのです。　３ミカはその金を母親に返しました。
「おまえの名誉のためにも、このお金を神様にささげるよ。　これでおまえのために彫像を作り、銀を張ってもらおうね。」
４５母親は六万円を銀細工人に渡し、彫像を作らせました。　彫像は、屋敷内にあるミカの聖堂に安置されました。　ミカはたくさんの偶像を集めており、エポデとテラフィムもちゃんとそろえて、息子の一人を祭司に任命していたほどです。　６当時イスラエルには王がなく、各人各様、思いのままに、正しいと思うことを行なっていたのです。
７８ある日、ユダのベツレヘム出身の若い祭司が、安住の地を求めてエフライム地方へやって来ました。　道中、彼はふとミカの家の前で立ち止まったのです。
９　ミカは、「どちらからお越しですか」と尋ねました。
「ユダのベツレヘムからまいった祭司です。　どこか住むのによい所はないものかと、旅しております。」
１０１１「よろしければ、ここにおとどまりください。　私どもの祭司になっていただきたいのです。　毎年、銀貨十枚と新しい衣服ひとそろい、それに生活費いっさいを面倒みて差し上げますよ。」　若者は同意し、ミカの息子同様になりました。　１２ミカはおかかえ祭司を得たのです。
１３　「私は今、神様からほんとうに祝福していただいた。　正真正銘の祭司がいるんだ。」彼は感激して言いました。
一八
１　こうした話でもわかるように、そのころイスラエルには王がいませんでした。　さて、ダン部族は自分たちの相続地を得ようとしていました。　まだ、割り当て地を攻め取っていなかったからです。　２そこで、ツォルアとエシュタオルの町から勇士五人を選び、定住しようとする地を偵察させました。　エフライムの山地に着いた五人は、ミカの家に宿をとりました。　３そして、レビ人なまりの若者に気づき、かたわらに呼んで尋ねたのです。　「ここで何をしてるんですか。　なんでこんな所にいるんです？」　４若者はミカとの取り決めについて話し、ミカの私的な祭司であることを告げました。

５　「そうですか。　それなら、わしらの旅が成功するかどうか、ひとつ神様にうかがってくれませんか。」
６　「いいでしょう。　……これはこれは、首尾は上々ですな。　神様は皆さんを、おこころにかけていらっしゃいますよ。」
７　やがて五人は、ライシュの町に入り込みました。　そして、住民がみな安穏と暮らしているのに気づきました。 生活ぶりもフェニキヤ人らしく、たいそう裕福なものでした。 この辺では、脅威を感じるほどの強い部族もなかったので、無防備同然で、安心しきっていました。　その上、シドンにいる同族とも遠く離れ、近隣の村々ともほとんど交渉を断っていたのです。　８偵察に来た五人は、ツォルアとエシュタオルへ帰りました。
待ち受けていた人々は尋ねました。　「どうだった、向こうの様子は？」
９１０「ぜひ攻め上ろう。　見た限りでは申し分ない所だ。　広々として、よく肥えているし、まさにパラダイスだよ。　それに、全く無防備だしね。　さあ、出かけよう。　神様があの地を与えてくださったのだ。」
１１　そこで、ダン部族の兵六百人が、ツォルアとエシュタオルからくり出しました。　１２第一夜は、ユダのキルヤテ・エアリムの西側で過ごしました。　そこは今も、マハネ・ダン〔ダンの陣営〕と呼ばれています。　１３そこからエフライムの山地へと、進軍を続けたのです。
ミカの家に差しかかった時、　１４先の偵察隊の五人が言いました。「この家には、エポデやテラフィム、それに彫像をたくさん安置した聖堂があるんだ。　となると、われわれのなすべきことも明白だな。」
１５１６五人は残りの兵を門外に立たせたまま、邸内に入りました。　まず、あの若い祭司にあいさつすると、　１７五人は聖堂に踏み込み、彫像やエポデやテラフィムを持ち出そうとしました。
１８　「何をするんだ」と、若い祭司は詰め寄りました。
１９　「どうか、おとなしく私どもと共においでください。　われわれ全員の祭司におなりなさい。　あなただって、一軒の家でたった一人に仕えるより、部族全体の祭司になるほうがよいのじゃありませんか。」
２０　祭司は喜んで誘いに応じ、エポデやテラフィム、それに彫像を持ち去りました。　２１一行はそこを引き揚げ、子供、家畜、家財などを隊列の先頭に立て、先を進みました。
２２ミカの家からかなり離れたころ、ミカと近所の人々が追いかけて来て、　２３大声で叫びました。
「待て！」
「いったいどうなさるおつもりですか。　ずいぶんものものしいですな。」
２４　「『どうなさるおつもりか』とは、しらじらしい！　私の神々から祭司まで、いっさいがっさい持ち出しておきながら。　うちは空っぽになったじゃないか！」
２５　「ねえ、だんな。　もっと気をつけてものを言ってほしいね。　でないと、腹を立

てた連中が、あんたがたを皆殺しにしかねませんよ。」
２６　こう言い捨てると、ダンの人々は去って行きました。　相手が大ぜいすぎて手出しがかなわぬと悟ったミカは、すごすご家へ引き返しました。
２７　一方ダンの人々は、ミカの作った彫像と祭司を伴い、ライシュの町に着きました。町は全く無防備だったので、住民を皆殺しにし、町を焼き払ってしまいました。　２８だれ一人、住民を助ける者はいません。　シドンから遠く離れていた上、周囲の町とも同盟を結んでおらず、だれとも交渉がなかったからです。　町はベテ・レホブに近い谷にありました。　ダン部族は町を再建し、住みつきました。　２９町の名も「ダン」と改めました。　彼らの先祖で、イスラエルの息子の一人ダンの名にちなんだのです。　もともとの名はライシュでした。
３０　ダンの人々は自分たちのために彫像を立て、ゲルショムの息子で、モーセの孫にあたるヨナタンとその息子たちとを、祭司に任命しました。　この家系は、町が敵に完全に征服されるまで、代々祭司を務めました。　３１こうして、神様の宮がシロにあったあいだ中、ダン部族はミカの彫像を拝んでいたのです。
一九
１　イスラエルにまだ王がいなかったころ、あるレビ人がエフライムの山奥に住んでいました。　その人は、ユダのベツレヘムから娘を一人そばめとして連れ帰ったのです。　２ところが彼女はその人に腹を立て、ベツレヘムの実家へ逃げ帰り、四か月も腰をすえていました。３そこで夫は従者を一人伴い、妻を乗せるろばをもう一頭余分に連れて、なんとか連れ戻そうと会いに出かけたのです。　彼女は、訪ねて来た夫を招き入れ、父親に引き合わせました。　父親も歓待してくれます。　４勧められるまま三日間滞在し、うちとけて、楽しい時を過ごしたのです。
５　四日目の朝はやく、出立しようと腰をあげると、父親は、朝食をすませてからにするよう熱心に勧めます。　６そうこうするうち、たいそう楽しかったのか、父親は、もう一晩泊まってくれとしきりに頼むのです。　７初めはなかなか承知しませんでしたが、しゅうとがあまりに頼むので断わりきれません。　ついに泊まることにしました。８翌朝、二人が早く起きると、またも父親が、「夕方までおってくだされ。 日暮れ前にお発ちなさい」と、拝み倒さんばかりに言うのです。　二人はこの日も、ごちそう攻めにあいました。
９　午後になって、娘夫婦と従者は出立の用意をしました。　すると、しゅうとが口をはさみました。　「ほれ、もう日も暮れかかったよ。今晩だけ泊まってお行き。　楽しい最後の晩を過ごそうじゃないか。あすの朝はやく発てばいいだろう。」
１０　しかし、今度ばかりは耳を貸さず、彼らは出立したのです。　一行は日暮れまでに、エブスとも呼ばれたエルサレムの近くまで来ました。
１１　従者が主人に申しました。　「日が暮れかかっておりますので、これ以上旅を続けるわけにはまいりません。　今夜はここで泊まってはいかがでしょう。」
１２１３「いや、だめだ。　イスラエル人のいない異教徒の町だからな。ギブアか、でき

ればラマまで行こう。」
１４　一行は旅を続けました。　ベニヤミン部族の村ギブアまで来た時、ちょうど日が沈みました。　１５ここで泊まろうと、町へ入って行きましたが、だれも招き入れてくれません。　しかたなく町の広場で野宿することにしました。　１６ちょうどそこへ、野良仕事を終えた老人が通りかかりました。　ここはベニヤミンの領地でしたが、この老人はもともとエフライムの山地出身で、今はギブアに住んでいたのです。１７広場に野宿している旅人に目を留めた老人は、「どちらからお越しかな。　どこまで行かれるのじゃ」と尋ねました。
１８　「ユダのベツレヘムから戻る途中でございます。　シロからそう遠くないエフライムの山奥に住んでおります。　今夜は、どこの家にも泊めていただけませんでね。　１９もっとも、ろばの餌も私どもの食糧やぶどう酒も、たくさん持ってはいますが。」
２０　「お気づかいは無用ですぞ。　わしの家にお泊まりなされ。　こんな所に野宿してはいかん。　えらくぶっそうでな。」
２１　老人は一行を自宅に案内しました。　ろばにたっぷり秣をやったあと、共に食卓を囲みました。　２２夕食の席がしだいにはなやいできた時､変質者の一団が家を取り囲み、戸をたたき始めたのです。　連中は大声で、「おまえんとこに泊まった男を出せ。　いっちょ、もんでやろうじゃないか」とどなります。　２３老人は外へ出て、彼らと話し合いました。
「そんな卑劣なまねはよしなされ。　あの方はわしの客人だ。　２４代わりに、わしのところの生娘と客人の奥さんを差し出すが、どうだ。　いま二人を連れて来るから、お好きなようになさるがいい。　ただし、客人には指一本ふれてくれるな。」
２５　それでも耳を貸そうとしません。　すると、その女の夫は、彼女を外の連中のところへ放り出してしまいました。　彼らは夜通し代わる代わる彼女をはずかしめ、夜が明けるころようやく解放したのです。２６彼女は、明るくなるまで戸口に倒れたままでした。
２７旅立とうとして夫が戸を開けると､手を敷居にかけたまま､妻が入口に倒れています。
２８　「さあ、立て。　出かけるぞ。」
声をかけましたが、何の返事もありません。　すでに死んでいたのです。　彼は死体をろばに乗せ、家まで運びました。　２９家に着くと、ナイフで死体を十二に切り分け、一つずつイスラエルの各部族に送りました。　３０それを見た全国民は、ベニヤミンの人々の野蛮な行為に騒然とし、口々に言いました。
「エジプトを出て以来、こんな不祥事があっただろうか。　この事件を見過ごすわけにはいかん。」
二〇
１２そこで全イスラエルは、ミツパへ指導者たちと兵四十万を差し向けました。　神様の前に心を一つにして集結したのです。　ダンからベエル・シェバに至る全国各地はもとより、ヨルダン川の東側のギルアデからも、ぞくぞく集まって来ました。　３イスラエル軍

がミツパに集結したという知らせは、まもなくベニヤミン領内に伝わりました。イスラエルの指導者たちは殺された女の夫を呼んで、事の真相を話すよう求めました。
４　「私どもは、夕方ベニヤミン領内のギブアに着き、ある家に泊まったのでございます。５ところがその夜、ギブアの者どもが家を取り囲み、私を殺そうとしたのです。　一味は妻に暴行を加え、無残にも殺してしまいました。　６私は妻の死体を十二に切り分け、イスラエルの全地に送りつけました。　それというのも、やつらの仕打ちがあまりにむごかったからです。　７さあ、皆さん、どうか腹蔵のないご意見をお聞かせください。」
８‐１０異口同音に答えが返ってきました。　「ギブアの村に報復するまでは、一人たりとも家へ帰らないぞ。　全軍の十分の一をくじで選び分け、食糧補給にあたらせよう。　残りは結集して、こんな破廉恥なまねをしたギブアを滅ぼそう。」
１１　イスラエル全国民は、そのために一丸となったのです。
１２　さっそくベニヤミン部族に使者を立て、要求を突きつけました。「おまえたちは、あのいまわしい事件を知っているのか。　１３あんな悪事を働いた連中を渡せ。　連中を処刑して、イスラエルの悪を除き去るのだ。」　ところが、ベニヤミンの人々は耳を貸そうともしません。１４１５それどころか、二万六千の兵をギブアに集結させ、地元ギブアから募った七百人と合流し、イスラエル軍に対抗する構えを見せたのです。　１６ベニヤミン軍には、左ききの石投げの名手が七百人いました。　その腕まえは大したもので、一本の毛でも、決して的をはずさないほどでした。　１７ベニヤミンを除くイスラエル軍は、総勢四十万人にのぼりました。
１８　戦いを前にして、まずイスラエル軍は、ベテルで神様にうかがいを立てました。「ベニヤミンと一戦交えるのに、どの部族が先陣を承るべきでしょうか。」
神様は、「ユダが先頭に立て」とお答えになりました。
１９２０そこで全軍は、翌朝はやく、ベニヤミンを攻撃するためギブアへ向かいました。
２１しかし、ギブアを守っていたベニヤミン軍は不意に襲いかかり、その日のうちに二万二千のイスラエル人を殺したのです。　２２‐２４イスラエル軍は神様の前で夕方まで泣き続け、再びうかがいを立てました。　「私どもは、同胞ベニヤミンとまだ戦うべきでしょうか。」
「戦え」という答えが返ってきました。　イスラエル人は奮い立ち、翌日も、同じ場所で戦おうと出陣しました。　２５ところがこの日も、剣の使い手一万八千人を失うはめになったのです。
２６　そこで、イスラエル全軍はベテルに上り、神様の前に泣き伏して夕方まで断食し、完全に焼き尽くすいけにえと和解のいけにえをささげました。　２７２８当時、神の箱はベテルにあったのです。　アロンの孫で、エルアザルの息子ピネハスが祭司でした。
人々は神様に尋ねました。　「また出陣して、兄弟ベニヤミンと戦うべきでしょうか。　それとも、やめるべきでしょうか。」
神様は、「行け。　あす、おまえたちはベニヤミンを打ち破ることができる」とお答えにな

りました。
２９　そこで、イスラエル軍はギブア周辺に伏兵を潜ませ、　３０三日目に攻撃に移り、いつものような陣形をとりました。 ３１ベニヤミン軍が迎え撃とうと町から出てくると、退却すると見せかけ、町からおびき出したのです。　ベニヤミン軍は前回同様、ベテルとギブアを結ぶ路上でイスラエルを撃破し、たちまち三十人を血祭りにあげました。
３２　ベニヤミン軍は、「勝ったぞ」と叫びました。　ところが、実はそれがイスラエル軍の作戦だったのです。 初めから、わざと逃げてベニヤミン軍をおびき出す手はずでした。
３３本隊はバアル・タマルまで来た時、一転して反撃に移り、ゲバの西に隠れていた伏兵一万も飛び出しました。　３４伏兵は、まだ危険に気づいていない、ベニヤミン軍のしんがりを襲いました。　３５‐３９神様が助けてくださったので、イスラエル軍はベニヤミン軍を打ち破ることができたのです。　その日、ベニヤミン軍は二万五千百人を失い、生き残りの兵はわずかでした。
戦況をまとめると、こうなります。
イスラエル軍本隊は、伏兵に十分な作戦行動の機会を与えるため、わざとベニヤミン軍の前から退却したのです。　ベニヤミン軍は、イスラエル人を三十人ほど打ち殺した時、前回同様の大勝利を確信しました。　しかし、そのとき伏兵がギブアに突入し、村にいた全員を殺し、火を放ちました。　その煙を合図に、イスラエル軍は反撃に転じ、いっせいに攻撃を開始したのです。　４０４１ベニヤミン軍は、うしろを振り返ってびっくりしました。　町が炎に包まれているのを見て、危険が身に迫るのを感じたからです。　４２彼らは荒野へ逃げようとしました。　しかし、イスラエル軍は追跡し、伏兵の一隊も駆けつけて、背後からベニヤミン軍を打ち殺しました。　４３そして、包囲しながらギブアの東方へと追いつめ、その大半を殺しました。　４４その日、一万八千のベニヤミン軍兵士が死んだのです。　４５生き残った兵は荒野へ逃げ、リモンの岩に向かいましたが、その途中で五千人が殺され、さらにギデオム付近で二千人が倒されました。
４６４７こうしてベニヤミン部族は、一日で二万五千の勇士を失ったのです。　リモンの岩へ逃げのびたのは、たった六百人で、四か月間そこにこもっていました。　４８その後イスラエル軍は引き返し、ベニヤミンに属するものは、男も女も子供も家畜も皆殺しにし、町々村々を片っぱしから焼き払ってしまいました。
二一
１　イスラエルの指導者たちは、ミツパで、娘をベニヤミン部族へは嫁がせない、という誓いを立てました。　２そして今、ベテルに集まり、神様の前に座して、夕方までさめざめと泣き悲しんだのです。
３　彼らは大声で神様に呼ばわりました。　「イスラエルの神様、主よ、なぜこんなことが起こったのでしょう。　今われわれは、一つの部族を失いました。」
４　翌朝、一同は早く起き出し、祭壇を築き、完全に焼き尽くすいけにえと和解のいけにえをささげました。　５さて、人々は、こんな疑問を持ち始めました。　「ミツパで神様

の前に集まった時、まさかイスラエルの部族で欠席した者はいなかったろうな。」　それというのも、あの時、「出席を拒む者は必ず殺される」というきびしい誓いを立てていたからです。　６とにかく全イスラエルにとって、ベニヤミン部族を失ったことは、あまりに深い悲しみでした。
「ああ、もうなくなるんだ、なくなるんだ。」　口を開けば、そのことばかりです。　「れっきとしたイスラエルの部族の一つが切り捨てられ、消えていくんだ。　７あの生き残った一にぎりの者に、どうやって妻をめとらせたものだろう。　わしらは神様に、娘を嫁がせないと誓ってしまった。」
８９その時、ミツパへの集結を拒んだ者を殺すという誓いに、再び思いが及んだのです。すると、ヤベシュ・ギルアデからは、だれも出ていなかったことがわかりました。　１０-１２そこで精兵一万二千を送って、そこの住民を滅ぼすことにしたのです。　すべての男子、既婚の女子、子供らの血が流されました。　ただし、適齢期の若い処女だけは助けました。　その数は四百人で、全員シロの陣営へ連れて行きました。
１３　それから、リモンの岩にこもるベニヤミンの少数の生存者に、和解の使節を送りました。　１４四百人の処女が妻として与えられ、めいめい家へ戻りました。　ただし、全員に嫁がせるには、四百人では足りません。　１５この時代は、イスラエルにとって悲しみに満ちた時期でした。　神様がイスラエルの部族のあいだを引き裂いたからです。
１６　指導者たちは思案にくれました。　「あの残りの者に妻をめとらせるには、どうしたらよかろう。　ベニヤミンの女は残らず死んでしまったことだし……。　１７しかし、なんとしても妻をあてがってやらなければ、イスラエルの一つの部族が、永遠に絶えてしまう。　１８かといって、わしらの娘をやるわけにはいかん。　厳粛な誓いを立てた以上、破った者は神様からのろわれるに違いない。」
１９　そのとき不意に、だれかが、毎年シロの畑で催される祭りのことを思いついたのです。　シロの町は、レボナとベテルとの間、ベテルからシェケムへ至る道の東側にありました。
２０　そこで指導者たちは、妻を求めているベニヤミンの男たちにこう指示しました。「さあ、行って、ぶどう畑に隠れていなさい。　２１シロの娘たちが踊りに出て来たら、飛び出して、めいめい娘をかっさらい、連れ帰って妻にしなさい。　２２娘の父親や兄弟が抗議してきたら、こう言ってやろう。　『どうか、わかってくれ。　わしらに免じて、娘さんを彼らに嫁がせてやってくれ。　ヤベシュ・ギルアデを滅ぼしても、彼ら全員に妻をもたせてやれなかった。　こうでもしなければ、あなたがたも罪を犯さず、しかも娘さんを彼らにやることはできないわけだから。』」
２３　ベニヤミンの男たちは、言われたとおりにやってのけました。　祭りに出て来た娘をかっさらい、領地に連れ帰ったのです。　彼らは町を再建して住みつきました。　２４こうしてイスラエルの人々は、それぞれの相続地へと戻りました。
２５　当時のイスラエルには王がなく、各人が正しいと思うことを気ままに行なっていた

のです。

▪

ルツ記
本書は、混乱した士師時代のもう一つの面を描いています。　イスラエルの罪のために起こった血なまぐさい戦いを離れて、ほっとひと息つける書です。　ルツというのは、不運な義母ナオミに、どこまでもついてゆく決心をした婦人の名前です。　神様は、彼女に夫ボアズと子供を与え、ナオミには孫を与えるという形で、二人をしあわせにしました。　この家族から、やがてダビデ王が出るのです。

一
１２ずっと昔、士師（王国設立までの軍事的・政治的指導者）がイスラエルを治めていた頃のことです。　イスラエルを大ききんが襲いました。　そのため、ベツレヘム出身のエリメレクは、家族ともどもモアブに移り住んだのです。　妻の名はナオミといい、二人の間にはマフロンとキルヨンという息子がいました。　３ところが、モアブで暮らしている間にエリメレクは死に、ナオミと二人の息子があとに残されたのです。
４５やがて二人は、モアブの娘と結婚しました。　マフロンの妻はルツ、キルヨンの妻はオルパといいました。　ところが、イスラエルを出てから十年が過ぎ、二人の息子も死にました。　ナオミは夫ばかりか息子にまで先立たれ、とうとう一人ぼっちになりました。
６７しかたなく、二人の嫁を連れてイスラエルへ帰ろうと決心したのです。それというのも、故郷は神様のおかげで、再び大豊作に恵まれたと伝え聞いたからでした。
８　しかし、帰郷の途について間もなく、ナオミは考えを変え、二人にこう言い聞かせました。　「ねえ、あんたたち、私について来るより実家へお帰り。　息子たちや私によくしてくれてほんとにありがとう。　９いい再婚の相手が見つかるようにお祈りしてますよ。」　ナオミが別れの口づけをすると、二人はわっと泣きくずれ、涙ながらにすがりつきました。
１０　「そんなことおっしゃらないで、お願いですから、お義母様といっしょに行かせてください。」
１１　しかしナオミは、首を横に振るばかりです。　「いいえ、いけません。　お里へ帰ったほうがしあわせですよ。　もうあたしには、あんたたちの夫になれるような息子がいないんだからね〔当時、夫に先立たれた嫁は、前夫の弟と結婚することになっていた〕。　１２さあ、里へお帰り。　私は今さら再婚できる年でもないし、かりに再婚して、今夜にでも身ごもって息子を産んだとしても、　１３その子が大人になるまで待てるもんじゃありませんよ。　そうでしょう。　もうあたしを苦しめないでちょうだい。　あんたたちにつらい思いをさせたことで、もうじゅうぶん神様から罰を受けたつもりですよ。」
１４　二人はまた、声をあげて泣きました。　それからオルパは、泣く泣くしゅうとめに別れの口づけをし、郷里へ帰って行きました。　しかしルツは、何としてもナオミのそばから離れようとしません。
１５　「ほら、オルパは里へ帰って行ったじゃないの。　あんたもそうおし。」

１６　「お願い、お義母さん、あたしを放り出さないで。　お伴させていただきたいんです。　お義母さんといっしょに暮らしたいんです。お嫁に来た以上、あたしもイスラエル人です。　イスラエルの神様はあたしの神様です。　１７どうかいつまでも、おそばにおいてください。　あたしたちを引き離すものは死だけですわ。　もしおそばを離れでもしたら、神様が、どんなにでも罰してくださいますように。」
１８　ナオミは、ルツの決心が堅く、これ以上説得してもむだだと知ると、もう何も言いませんでした。　１９こうして二人はベツレヘムへ帰り着き、村中がそのことでわき立ちました。
女たちは、「まあ、ほんとうにナオミさんかい」と大騒ぎです。
２０　しかし、ナオミはこう答えました。　「お願いだから、ナオミなんて呼ばないで。マラって呼んでちょうだい〔ナオミは『心地よい』、マラは『つらい』の意〕。　だって全能の神様に、ずいぶんつらい目を見させられたんだもの。　２１あんなに意気揚々と出て行ったのに、無一文で連れ戻されたってわけよ。　神様に見捨てられてこんなに禍をこうむったあたしを、どうしてナオミなんて呼ぶの！」
２２　二人がモアブからベツレヘムへ帰り着いたのは、ちょうど大麦の刈り入れが始まったころでした。
二
１　ところでナオミには、ベツレヘムに住む、ボアズという名の大金持ちの親戚がありました。
２　ある日、ルツはナオミに申し出ました。　「ねえ、お義母さん、どなたか親切な方の畑で、刈る人たちのあとについて落ち穂を拾わせてもらおうと思うのよ……。」
「すまないね、そうしてくれるかい。」
３　そこでルツは出かけて行き、落ち穂を集めたのですが、なんと、その畑はボアズの畑だったのです。
４５ルツがまだ畑にいるうちに、ボアズがベツレヘムの町から来ました。　雇い人たちとひと通りあいさつをすませると、ボアズは監督役の者に尋ねました。　「あそこにいるのは、どこの娘さんかね。」
６　「あれは、ナオミといっしょにモアブからまいった娘でございます。　７落ち穂を拾わせてくれって、今朝から来ましてね。　とにかく、ああやってずっと、木陰で休みもせず、立ち働いてるんでさあ。」
８９ボアズはルツのそばに歩み寄り、ことばをかけました。　「こんにちは。　精が出るね。　いいかい、いつもわしのところで落ち穂を拾いなさい。　ほかの畑に行こうなんて考えなくていいんだよ。　女子衆のあとに、しっかりついてお行き。　若い者にも、あんたのじゃまはせんように、と注意しておいたからな。　のどが渇いたら、あそこで好きなだけ水を飲むがいい。」
１０１１ルツはありがたくて、何と言ったらよいかわかりません。　「どうして、私みた

いな者に、そんなに親切にしてくださるのですか。よそ者ですのに。」
「もちろん、知っているよ。　それにあんたがご主人を亡くしてからも、しゅうとめのために一生けんめい尽くしたことや、生まれ故郷を離れて、見知らぬ国まで来たことも、何もかもな。　１２どうかイスラエルの神様が、その翼の下に避け所を求めてやって来たあんたを祝福してくださるように。」
１３　「ほんとうに、もったいのうございます。　使用人でもございませんのに、こんなにも親切にしていただいて……。」
１４　昼食の時、ボアズはルツに、「さあ、いっしょにお食べ」と声をかけました。
ルツが、刈り取る人たちと並んで腰をおろすと、ボアズは、食べきれないほどの食べ物を取り分けてくれました。　１５そして、再び落ち穂拾いに立とうとすると、若者たちにこう命じてくれるのでした。「くれぐれも、あの女のじゃまはせんようにな。　束の間でも落ち穂を拾わせてやりなさい。　１６そしてもっと拾いやすいように、わざと大麦の穂を抜き落としておくがいい。　つべこべ言ってはならんぞ。」　１７こうしてルツは、一日中、そこで落ち穂を拾い集めました。　夕方になって、集めた大麦の穂を打ってみると、なんと三十六リットルの升に一杯分もあります。　１８それを抱えて町へ戻り、しゅうとめに見せました。　また、昼食の残りも差し出しました。
１９　「おやまあ、ずい分たくさんだこと！」　ナオミは思わず声をあげました。　「いったい、どこで拾って来たの。　こんなに親切にしてくださった方のために、心から神様に感謝しましょう。」　ルツはしゅうとめに、ボアズの畑に行ったことなど一部始終を話して聞かせました。
２０　それを聞いて、ナオミはまたびっくり。「あの方ですって！　神様、ありがとうございます。　神様のお恵みは、あんたが夫を亡くした時に終わったんじゃなかったわ。　ずっとお恵みは注がれていたんだねえ。　だって、その方はいちばん近い親戚の一人なんだもの。」
２１　「まあ、そうですの。　あの方は、刈り入れがぜんぶ終わるまで、毎日、落ち穂を拾い集めていいっておっしゃったわ。」
２２　「そりゃよかったこと。　それじゃおことばに甘えて、刈り入れの間中ずっと、あの方のところで若い女たちといっしょにお世話になりなさい。　ほかの畑に行くよりずっと安心よ。」
２３　こうしてルツは、大麦と小麦の刈り入れが終わるまで落ち穂を拾い続けました。
三
１　ある日、ナオミはルツに話しかけました。「ねえ、ルツや。　そろそろあんたも良いお婿さんを見つけて、しあわせにならなきゃね。２実はね、これはと思っている人があるの。あのボアズさんよ！　あの方はとっても親切にしてくださったし、近い親戚でもあるしね。たまたま耳にしたんだけど、今夜、あの方は打ち場で大麦をふるい分けるって話よ。　３さあ、言うとおりにしておくれ。　体を洗って香水をつけ、きれいな服を着て、打ち場へ

お行き。　ただし、あの方が夕食をすますまでは気づかれないようにね。　４あの方がお休みになる場所をちゃんと見届けてから、そおっと入って行き、足もとのおおいをまくって横になりなさい。　あとは、あの方が教えてくださるよ。結婚についてどうすべきかはね。」
５　「わかりました。　おっしゃるとおりにしますわ。」
６７ルツはしゅうとめに教えられたとおり、その夜、打ち場に出かけて行きました。　ボアズは食事をすますと、すっかり上機嫌で、積み重ねてある麦のそばにごろっと横になり眠ってしまいました。　この時とばかり、ルツはそっと忍び寄り、ボアズの足もとのおおいをまくって横になりました。　８真夜中に目を覚ましたボアズは、びっくりして跳び起きました。　なんと、足もとに女が寝ているではありませんか。
９　「そこにいるのは、だれだっ！」
「ルツでございます。　どうぞ、神様のおきてに従って私を妻にしてください。　あなた様はその権利がおありですわ。」
１０　「あんたのようにすばらしい女を下さった神様に感謝しよう。　こんなにまでしてナオミに仕えてくれているとはなあ。まだまだ若いのだから、金のあるなしは別にして、若い男に心をひかれても、不思議じゃない。　なのに、そんな気持ちは二の次にして、〔わしと結婚してナオミのために世継ぎを残そうというんだね〕。　１１ルツさん、何も心配はいらないよ。　望みどおりにしてあげよう。　あんたがすばらしい女だってことは、だれもが知ってるんだからね。　１２ただ、一つだけ問題がある。　確かにわしは近い親戚には違いないが、もっと近い親戚もいるからな。　１３とにかく今夜はここで休みなさい。朝になったら、その人と話をつけることにしよう。　もしその人があんたを妻に迎えるというなら、それもよかろう。　義務を果たさせるまでだ。　だが、もし断わったら、わしが結婚しよう。　今ここで、はっきり神様に誓うよ。　だから安心して、朝までここでお休み。」
１４　こうして、ルツは言われたとおりボアズの足もとに寝ましたが、夜明け前に起き上がりました。　ボアズが、「この打ち場に来たことをだれにも知られないように」と注意したからです。
１５‐１８「肩かけを持っておいで。」　ボアズはそう言うと、大麦を二十一リットルほどその中へ入れ、しゅうとめへのみやげにと背負わせてくれました。　こうしてルツは町へ帰りました。
帰宅すると、ナオミが「どうだったね」と尋ねます。　聞かれるままに一部始終を話し、ボアズからことづかった大麦を手渡しました。そして、「何も持たずに帰ってはいけないよ」と言ったボアズのことばも、忘れずに伝えました。
ナオミはうなずきました。　「そう、じゃあどうなるか、何か知らせがあるまでおとなしくしていましょう。　ボアズさんのことですもの、決着がつくよう、最善を尽くしてくださるわ。　きっと、きょう中にもめどをつけてくださいますよ。」

四
１　さて、ボアズはさっそく広場に出かけ、目ざす相手を見つけました。
「すみません。　ちょっと折り入ってお話ししたいことがあるんですが、いいですか。」
二人は並んで腰をおろしました。　２それからボアズは、町の指導者十人を招き、証人になってくれるように頼みました。
３　万事てはずが整うと、ボアズは話を切り出しました。　「モアブから帰って来たナオミのことは、ご存じですな。　実は、あの人がわしらの身内のエリメレクの畑を売りたいと言っている。　４そのことをお耳に入れるべきだと思ったんでね。　ここに証人の方々もおられることだし……、よかったら、買ってください。　いかがです？　はっきりしたお返事がいただきたいですな。　もしおいやなら、わしが買いましょう。　一番にそれを買い取る権利は、あなたにあるんですからな。　わしはその次というわけです。」
「いいだろう。　買うことにしよう。」
５　「ところで、ナオミから畑を買い取るとすると、ルツをも妻に迎えてもらわなければなりません。　ルツは子供をもうけ、その地を相続させて、亡き夫の名を残さなければなりませんからな。」
６　「そんなことなら、おりるよ。　生まれてくる子にまで財産を分けてやるなんて、そりゃ困る。　あんたが買ってくれ。」
７　当時イスラエルでは、人が買い戻しの権利を譲る時は、くつを脱いで相手に渡す習慣がありました。　こうして、すべての取り引きが公認されるわけです。　８その人はボアズに「あんたに譲るよ」と言って、くつを脱ぎました。
９　ボアズは、同席の証人や取り巻きの人々に向かって言いました。「では皆さん。　きょう、私がナオミから、エリメレクおよびキルヨンやマフロンの全財産を買い取ったことを、お認めいただけますな。１０また、マフロンの未亡人でモアブ人のルツをも、妻として譲り受けることになります。　ルツの産む子供は亡くなった夫の家名を継ぐことができるのです。　このことの証人になっていただけますな。」
１１　すると、その場に居合わせた人々は、証人とともに答えました。「喜んで証人となりましょう。　どうか神様が、あなたが迎えなさる婦人に、イスラエル国民の母ラケルとレアのように、子供を大ぜいお授けくださるように。　またあなたも、ベツレヘムで大いに栄えなさるように。　１２その昔、神様はわれらの先祖ペレツを、タマルをとおしてユダにお与えくださいました。 同じように、あなたもこの若い婦人をとおして子供を授かり、末長く繁栄されますように。」
１３　こうしてボアズはルツと結婚し、まもなく彼女は男の子を授かりました。
１４　女たちはナオミに言いました。　「よかったわね。　神様がこんなにかわいいお孫さんを授けてくださるなんて。　きっと有名におなりだわ。　将来が楽しみね。　１５おかげで、あんたは若返り、老後の心配もありゃしない。　なにしろ、あんなに母親思いのお嫁さんから生まれた子供なんだもの。　全くあの女には、息子が七人そろってもかなわ

ないわよ。」
１６１７ナオミはその赤ん坊を手塩にかけて育てました。 近所の女たちは、「ご覧なさいよ。　あのナオミさんに、また男の子が授かったんですってよ」と口々に言いました。
皆はその子にオベデという名をつけました。　オベデはエッサイの父で、ダビデ王の祖父となった人です。
１８－２２先祖ペレツから始まるボアズの家系は次のとおりです。
ペレツ、ヘツロン、ラム、アミナダブ、ナフション
サルモン、ボアズ、オベデ、エッサイ、ダビデ
▪

王国成立記　上（サムエル記Ｉ.）
本書は、好戦的な隣国ペリシテによってイスラエルが圧迫されることで始まり、初期の二人の指導者、サムエルとサウルについて記されています。　サムエルは宗教的指導者であり、サウルは最後には王となりました。　サウルは初めは勝利を収めますが、のちには道徳的堕落のために悲劇的な最期を遂げます。　そして、サウルの堕落をかき消すかのように、彼の後継者となる青年ダビデが登場します。

一
１　これは、エフライムの山地のラマタイム・ツォフィムに住んでいた、エフライム人エルカナの物語です。
エルカナの父はエロハム、
エロハムの父はエリフ、
エリフの父はトフ、
トフの父はツフといいました。
２　エルカナには、ハンナとペニンナという二人の妻があり、ペニンナには何人もの子供があったのに、ハンナは子宝に恵まれませんでした。
３　エルカナの一家は、例年シロにある神の宮へ出かけ、天地の主である神様を礼拝しては、いけにえをささげていました。　当時の祭司は、エリの二人の息子ホフニとピネハスでした。　４いけにえをささげ終えると、エルカナは、ペニンナと子供たち一人一人に贈り物をやり、盛大に祝いました。　５彼はだれよりもハンナを愛してはいましたが、一人分の贈り物しか与えるわけにはいきませんでした。　神様が彼女の胎を閉ざしておられたので、贈り物をしようにも子供がいなかったからです。　６さらにやっかいなことには、ペニンナが、ハンナに子がないことをあれこれ意地悪く言い始めたのです。　７毎年、シロに来ると必ずそうなのです。　ペニンナはハンナをあざけり、笑い者にしたのです。　そのためハンナは、泣いてばかりいて、食事ものどを通らない有様でした。
８　「ハンナ、どうした？」　エルカナは心配顔でのぞき込みました。「なぜ、食べないんだ。　子供がないからって、そんなにやきもきすることないじゃないか。　十人の息子よりも、私のほうが良くはないかね。」
９　シロ滞在中のある夜のこと、夕食後、ハンナは宮の方へ行きました。　祭司エリが、いつものように入口のわきの席に座っていました。１０ハンナは悲しみのあまり、神様に祈りながら、激しくむせび泣きました。
１１　そして、次のような誓願を立てたのです。　「天地の主よ。　もしあなた様が、私の悲しみに目を留めてくださり、この祈りに答えて男の子を授けてくださいますなら、その子をきっとおささげいたします。　一生あなた様に従う者となるしるしに、その子の髪の毛を切らないことにいたします。」
１２１３エリは、ハンナのくちびるが動くのに、声が聞こえないので、酔っているのでは

ないかと思いました。
１４　「酔っ払っているんだろう。　早くさましなさい。」
１５１６「とんでもございません、祭司様。　酔ってなんぞおりません。ただ、あんまり悲しいので、胸のうちを洗いざらい神様に申し上げていたのです。　どうか、酔いどれ女だなどとお思いにならないでください。」
１７　「そうか、よしよし。　元気を出しなされ。　どんなことかは知らんが、イスラエルの神様が、あんたの切なる願いをかなえてくださるようにな。」
１８　「ありがとうございます、祭司様。」　ハンナは晴れやかな顔で戻って来ると、食事をして元気になりました。
１９２０翌朝、一家はこぞって早起きし、宮へ行ってもう一度神様を礼拝し、ラマへと帰ったのです。　エルカナはハンナと床を共にしました。すると、神様はハンナの願いを聞いてくださったのです。　やがて男の子が生まれました。　ハンナは「あれほど神様に願った子供よ」と言って、サムエル〔「神様にお願いした」の意〕という名をつけました。
２１２２翌年、エルカナはペニンナとその子供たちだけを連れて、シロへ年中行事のお参りに出かけました。　ハンナが、「この子が乳離れしてからにしてくださいな。　この子は宮にお預けするつもりなんですの」と、同行を取りやめたからです。
２３　エルカナはうなずきました。　「いいだろう。　おまえが一番いいと思うとおりにしなさい。　ただ、神様のおこころにかなうことがなされるように。」
ハンナは、赤ん坊が乳離れするまで家で育てました。　２４そののち、ハンナとエルカナは、まだ幼いその子をシロへ連れて行ったのです。　同時に、いけにえとして三歳の雄牛一頭、小麦粉三十六リットル、皮袋入りのぶどう酒をも携えて行きました。　２５いけにえをささげ終えると、二人はその子をエリのところへ連れて行きました。
２６　ハンナが申し出ました。　「祭司様。　私のことを覚えておいででしょうか。　かつて、ここで神様に祈った女でございます。　２７子供を授けてくださいと、おすがりしたのです。　神様は願いをかなえてくださいました。　２８ですから今、この子を生涯、神様におささげしたいのです。」　こうしてハンナは、神様に仕える者とするため、その子を預けたのです。
二
１　ハンナは祈りました。
「ああ、うれしゅうございます、神様。
こんなにも祝福していただいて。
私は敵にはっきり答えてやれます。
神様が悩みを取り去ってくださいましたから。
喜びでいっぱいです。
２　神様ほど聖なる方はありません。
あなた様のほかに神はないのです。

私たちの神様ほどの大岩はありません。
３　ゆめゆめ思い上がった、横柄な態度は禁物です。
神様は何もかもご存じで、
すべての行為をおさばきになるのです。
４　力を誇った者が弱くなり、
弱かった者が今や強くなっています。
５　満ち足りていた者が今は飢え、
飢えていた者が満ち足りています。
不妊の女が今は七人の子持ちとなり、
多産の女がもう子供は産めません。
６　神様は殺し、
神様はいのちをお与えになります。
７　ある人々を貧しくし、
また、ある人々を裕福になさいます。
ある者を倒し、
また、ある者を立ち上がらせてくださいます。
８　貧しい者をちりの中から、
そうです、灰の山から引き上げ、
まるで王族のように取り扱い、
栄光の座につかせてくださいます。
この世はすべて神様のものなのですから。
この世界を秩序立てたのは神様です。
９　神様は信仰者を守ってくださいます。
しかし、悪者は暗やみに葬り去られます。
だれも自力でははい上がれません。
１０　神様に手向かう者は打ちのめされます。
天からその人めがけて雷鳴がとどろくのです。
神様は地上をくまなくさばき、
ご自分が特別に選んだ王にずば抜けた力を授け、
油注がれた者にすばらしい栄誉をお与えになるのです。」
１１　エルカナとハンナは、サムエルを残してラマへ帰りました。　幼いサムエルは神様に仕える者となり、祭司エリを助けました。
１２　ところで、エリの息子たちは、神様をないがしろにする、ならず者でした。　１３１４いけにえをささげている人を見ると、必ず召使を一人やるのです。　そして、いけにえの動物の肉が煮えていると、その召使が三つ又の肉刺しを大なべの中に突き刺し、この分はみなエリの息子のものだと宣告したのです。　彼らは、いけにえをささげて神様を礼

拝する、シロ詣でのイスラエル人相手に、だれかれの区別なく、こんな態度をとっていました。　１５時には、祭壇で脂肪を焼く儀式が行なわれないうちから、例の召使をやって、生の肉をよこせと言うことがありました。　焼き肉にして食べるためです。
１６　いけにえをささげている人が、「いくらでもお取りになってけっこうです。 しかし、まず〔おきてどおり〕脂肪をすっかり焼いてしまわなければなりません」と答えると、使いの者はこう言い返すのでした。
「いや、たった今ほしいんだ。　つべこべ言うなら、腕ずくでももらうぞ。」
１７　こんなふうに、この若い連中は、神様の前に非常に大きな罪を犯したのです。　人々が神様にささげた物を踏みにじるようなまねをしたからです。
１８　サムエルはまだほんの子供でしたが、いっぱしの祭司のように小さなリンネルの服を着て、神様に仕えていました。　１９毎年、母親が小さな上着をこしらえ、持って来てくれたのです。　夫とともに、いけにえをささげにやって来る時のことです。　２０エルカナとハンナが家路につこうとすると、エリは、二人を祝福し、神様にささげた子の代わりに、もっと子供が授かるよう、神様に願い求めてくれました。２１それで神様はハンナに、三人の息子と二人の娘を授けたのです。一方、神様に仕えながら、サムエル少年はますます成長していきました。
２２　エリは、すでに非常な高齢に達していましたが、身辺の出来事については、よくわきまえていました。　例えば、息子たちが神の天幕の入口で仕えている女たちを誘惑したことも、ちゃんと知っていたのです。
２３－２５エリは息子たちを呼びつけて注意しました。　「わしは神様の国民から、身の毛もよだつような、おまえたちの悪行について、さんざん聞かされた。　よくも神様の国民を罪に惑わすようなことをしてくれたもんだな。　通りいっぺんの罪でもきびしい罰が下るのに、おまえらの神様に対する罪には、どれほど重い罰が下るか知れたものではないぞ。」　ところが息子たちは、耳を貸そうともしません。　それというのも、神様がすでに、この二人を殺そうとしておられたからなのです。
２６　一方、サムエル少年は、背丈の面でも、人から愛される点でも、めざましい成長を遂げました。　神様に愛されたことは言うまでもありません。
２７　ある日、一人の預言者が来て、エリに神様のお告げを伝えました。「イスラエル国民がエジプトで奴隷だった時、わたしははっきり力を示したではないか。　２８そして、並み居る兄弟同胞の中からおまえの先祖レビを選んで、祭司としたのではなかったか。　その務めは、わたしの祭壇でいけにえをささげ、香をたき、祭司の衣服を着けて仕えることだった。　わたしは、おまえたち祭司にも、いけにえのささげ物をあてがってやったではないか。　２９それなのに、どうして、ささげ物を一人占めしようとするのか。　わたしよりも息子のほうが大事なのか。　よくも親子して、ささげ物の特上品で肥え太ったものだ。
３０　それゆえ、イスラエルの神であるわたしは、こう宣言する。　レビ部族の一門であ

るおまえの家系が常に祭司となる、と約束したのは確かだが、今や、それがいつまでも続くと考えたりしたら、大まちがいだぞ。　わたしは、敬ってくれる者だけを重んじる。　わたしを軽視する者は、こちらでも軽視しよう。　３１よいか、おまえの家系は断絶するのだ。　これ以上、祭司を務めるには及ばん。　家族全員、寿命を全うせずに死ぬのだ。　年老いる者など一人もいない。　３２おまえらは、わたしが国民に授ける繁栄をうらやむだろう。　おまえの一族は苦難と窮乏に陥る。　だれ一人、長生きできない。　３３かろうじて生き残った者も、悲嘆にくれて日を過ごす。　子供たちは、剣によって殺されるのだ。３４わたしのことばに偽りがないことを見せてやろうか。　そうだ、二人の息子ホフニとピネハスは、同じ日に死ぬことになる。
３５　代わりに、一人の忠実な祭司を起こすつもりだ。　彼はわたしに仕え、わたしが告げるとおり正しく行なうだろう。　その子孫を末代まで祝福し、その一族を王の前に永遠の祭司とする。　３６だから、おまえの子孫はみな、彼に頭を下げ、金と食物を乞うに至るのだ。　彼らはこう言ってすがるだろう。　『どうか、祭司のどんな仕事でもさせてください。　なんとか食いつないでいきたいのです』とな。」
三
１　サムエル少年は、エリを助けて、神様に仕えていました。　そのころは、めったに神様からお声がかかることはありませんでした。２３ある夜のことです。　年老いて目もかすんだエリが床に入り、サムエルも神の契約の箱を安置した宮で寝込んだころ、　４５神様が、「サムエル！　サムエル！」とお呼びになりました。
サムエルは「はい」と答えました。　「どうしたんだろう」と思って飛び起きると、エリのもとへ走って行き、「サムエルです。　何かご用ですか」と尋ねました。
エリはけげんそうに、「呼んだりせんぞ。　さあ、戻ってお休み」と答えます。　そのとおりにすると、　６神様はまたも、「サムエル！」とお呼びになったのです。　サムエルはまた飛び起きて、エリのもとへ駆けつけました。
「はい。　何かご用でしょうか。」
「いいや、呼んだりせんぞ。　いいから、帰ってお休み。」
７　サムエルは今まで、神様からおことばをいただいたことがなかったのです。　８ですから、三度目に呼ばれた時も、またエリのもとへ駆けつけたのです。
「はい。　ご用でしょうか。」
この時、エリには、少年にお語りになったのは神様だとひらめいたのです。　９そこで、こう言い聞かせました。　「さあ、もう一度お休み。　今度呼ばれたら、『はい、神様。　私は聞いております』と申し上げるのだよ。」　サムエルは寝床に引き返しました。
１０　すると、神様が来て、さっきのように、「サムエル！　サムエル！」とお呼びになりました。
そこでサムエルは、「はい。　聞いております」と申し上げたのです。
１１　神様はサムエルに告げました。「わたしは、イスラエルに衝撃を与えるつもりだ。

１２エリに警告しておいた恐ろしいことが、ぜんぶ現実となるだろう。　１３エリの一族は永遠にさばかれる、と警告しておいたはずだ。　息子どもの神を冒涜する行為を、エリは手をこまぬいて見ていたからだ。　１４わたしは誓う。　エリと息子の罪は、いけにえやささげ物をいくら積もうと、決して赦されはしない。」
１５　サムエルは朝まで床につき、それから、いつものように宮のとびらを開けました。　サムエルは、神様のお告げをエリに話したものか、ためらい恐れました。　１６１７ところが、エリのほうからサムエルを呼んだのです。
「サムエルや。　神様は何とお告げになったかな。　包み隠さず話してくれ。　小指の先ほどでも隠してはいけないよ。　そんなことをしたら、神様がきつく罰してくださるように。」
１８　サムエルは、神様から告げられたとおりを洗いざらい打ち明けました。
「神様のみこころじゃよ。　どうか、神様が最善と思われることがなるように」と、エリは答えました。
１９　サムエルは成長し、神様が常に彼とともにおられました。　人々は、サムエルのことばに真剣に耳を傾けました。　２０こうして、北はダンから南はベエル・シェバに至るイスラエル全土に、サムエルが預言者になったことが知れ渡ったのです。　２１－四１ついで神様は、シロの宮で、サムエルに声をおかけになりました。　サムエルは神様のことばを、イスラエルの全国民に伝えたのです。
四
１　当時、イスラエルはペリシテ人と戦っていました。　イスラエル軍はエベン・エゼルの近くに陣を敷き、ペリシテ軍はアフェクまで進出していました。　２ペリシテ軍はイスラエル軍を撃破し、約四千人を殺しました。　３戦いが終わって、陣営に戻ったイスラエル軍では、さっそく指導者たちが、なぜ神様がイスラエルを痛めつけるに至ったかを、論じ合いました。
「神の箱を、シロから運んで来ようじゃないか。　それをかついで出陣すれば、神様が共にいて、必ず敵の手からお守りくださるだろう。」
４　話がまとまると、ケルビム（天使を象徴する像）の上に座しておられる、天地の主なる神様の契約の箱を、迎えにやらせました。　エリの息子ホフニとピネハスも、戦場までついて来ました。　５神の箱が着いた時、イスラエル軍からは思わず大歓声があがり、その響きは地をも揺るがさんばかりでした。
６　ペリシテ人は、「いったい、どうしたんだろう。　やつら何を喜んでいるんだ？」と不思議がりました。
そして、神の箱が着いたからだと知らされて、　７すっかりうろたえてしまいました。
「やつらが神様を呼んだって？　こいつは大へんなことになったぞ。　こんなことは初めてだ。　８いったいだれが、あのイスラエルの力に満ち満ちた神から、救い出してくれるだろう。　あの神は、イスラエル人が荒野をさまよっている間も、ありとあらゆる災害を

もたらしてエジプト人を滅ぼした神じゃないか。　９さあ、みんな、今までになく気を引きしめて戦おうぜ。　さもないと、以前われわれの奴隷だったやつらに、今度は奴隷にされてしまうぞ。」
１０　こうしてペリシテ人は、総力をあげて戦ったので、またもイスラエルは敗れてしまいました。　その日のうちに、ひどい伝染病が発生し、三万人が死に、生存者はほうほうのていで、めいめいのテントへ逃げ帰りました。　１１おまけに神の箱まで奪われ、ホフニとピネハスも殺されたのです。
１２　同じ日、一人のベニヤミン人が戦場から駆けつけ、シロにたどり着きました。　何か悲しいことがあったのでしょう。　男の服は裂け、頭には土をかぶっています。　１３エリは道のそばに設けた席で、戦況報告を今か今かと待っていました。　というのも、神の箱のことが心配だったからです。　到着した前線からの使者が町中に一部始終を知らせると、人々はこぞって泣き叫びました。
１４　「この騒ぎは、いったい何じゃ」と、エリはいぶかりました。その時、例の使者がエリのもとへ駆けつけ、すべてを報告したのです。１５エリは九十八歳で、目も見えなくなっていました。
１６　「たった今、戦場から戻りました。　きょう、戦場を発って来たのです。　１７わが軍はさんざん痛めつけられ、幾千もの兵を失いました。　ホフニ様とピネハス様もご討ち死に……。　それに、神の箱まで奪われてしまったのです。」
１８　神の箱のことを聞いたとたん、エリはその席から門のわきに仰向けに倒れ、首の骨を折って死んでしまいました。　年老いていた上に、太っていたからです。　エリは四十年間、イスラエルをさばいたことになります。
１９　さて、エリの嫁にあたるピネハスの妻は、出産間近でしたが、神の箱が奪われ、夫としゅうとが死んだという知らせを聞いて、急に陣痛にみまわれました。　２０瀕死の彼女に、世話役の女たちが、「気をお確かに。　お産は軽くて、男の子ですよ」と励ましました。　しかし、彼女には答える気力もありません。　２１２２しばらくして、力なくつぶやきました。　「名前は『イ・カボデ』よ。　イスラエルから栄光が去ったから。」　イ・カボデは「栄光が去る」という意味です。神の箱を奪われ、夫としゅうととを亡くしたので、彼女はそう名づけたのです。
五
１２ペリシテ人は奪い取った神の箱を、エベン･エゼルの戦場からアシュドデの町へ移し、偶像ダゴンの宮に運び込みました。　３ところが、翌朝、人々が見物に来ると、どうでしょう。　ダゴンが神の箱の前で、うつぶせに倒れているではありませんか。　人々はあわてて、元どおりの場所に安置しました。　４ところが、次の日も同じことが起こったのです。　ダゴンの像は神の箱の前に、うつぶせに倒れていたのです。　しかも、今度は胴体だけで、頭と両手は切り取られ、戸口のあたりに散らばっています。　５そういうわけで、ダゴンの祭司も参拝者も、今日に至るまで、アシュドデにあるダゴンの宮の敷居を踏んだ

ことがありません。
６　そのうえ神様は、アシュドデと周囲の村々の住民をはれ物で悩ませ、滅ぼしにかかりました。　７この出来事に、人々はわめき始めたのです。　「これ以上、イスラエルの神の箱をここに置いてはいかん。ダゴンの神様もろとも、みんなおだぶつだぞ。」
８　ペリシテ人の五つの町の指導者が召集され、神の箱をどうしたものか協議しました。その結果、ガテに移すことになりました。　９ところが、移せば移したで、今度はガテの町の人々が、老若を問わず、はれ物によって滅ぼされそうになったのです。　町はパニック状態に陥りました。　１０そこで人々は、その箱をエクロンに送りました。　箱を見たエクロンの人々は、「イスラエルの神の箱を持って来たりして、ガテの連中はわしらまで殺す気か」と叫びだしたのです。
１１　そこでもう一度、指導者を召集し、町が全滅しないように、神の箱をイスラエルに戻してくれ、と懇願しました。　はれ物の災難が広がり、町はどこもかしこも死の恐怖におびえていたからです。　１２いのちだけは助かった者もひどいはれ物に悩まされ、至る所で悲鳴が聞こえました。
六
１　神の箱は、まるまる七か月、ペリシテの野原に放り出されたままでした。　２ペリシテ人は祭司や占い師らを呼び寄せ、こう尋ねました。「この箱を、どうしたもんだろう。これだけをイスラエルに送り返すわけにもいかないし、かといって、どんな贈り物を添えたらよいものやら……。」
３　「もちろん、贈り物は必要です。　はれ物の災いをおさめるには、罪を償ういけにえを贈るべきです。　それでもおさまらなければ、原因はほかにあるのです。」
４５「罪を償ういけにえとは、どんなものでしょうか。」
「災いを招いたはれ物をかたどって、金で五つの模型を作り、また、全国、つまり、五つの町と近隣の村々をくまなく荒らし回ったねずみをかたどって、金で五つの像を作りなさい。　これだけをちゃんと贈り、イスラエルの神をほめたたえれば、おそらく、あなたがたや神々の悩みの種も消えるでしょう。　６かつてのエジプト人やその王のように強情を張ったり、逆らったりしてはいけません。　あくまでもイスラエルを去らせまいとしたおかげで、彼らが神から、どれほど恐ろしい災害を受けて痛めつけられたことか。　７だから、さあ、新しい荷車を一台仕立て、それに子牛を産み落としたばかりの雌牛、つまり、まだくびきをつけられたことのない雌牛を二頭つなぎなさい。残された子牛は牛小屋に閉じ込めておくように。　８箱をその荷車に載せ、ねずみやはれ物にかたどった金の像を詰めた箱もいっしょに置きなさい。　そして、雌牛の思いのままに引かせるのです。　９もし国境を過ぎてベテ・シェメシュの方へ向かうなら、この大災害を下したのはイスラエルの神だと、はっきりするでしょう。　しかし、そちらへは行かず、〔子牛のいる牛小屋へ戻るなら〕、あれは偶然の出来事で、イスラエルの神とは全く関係ありません。」
１０　人々は言われたとおりにしました。　子牛を産んだばかりの二頭の雌牛を車につな

ぎ、子牛を牛小屋に閉じ込めました。　１１ついで、神の箱と、金で作ったねずみやはれ物の模型を詰めた箱とを積み込みました。　１２果たせるかな、雌牛はうれしそうに鳴きながら、ベテ・シェメシュへの道をまっしぐらに突き進んだのです。　ペリシテ人の指導者たちは、ベテ・シェメシュの国境までついて行きました。　１３一方、ベテ・シェメシュの人々は、谷間で小麦の刈り入れをしていましたが、神の箱が来るのを見て、喜びのあまり飛び上がりました。
１４　荷車はヨシュアという人の畑にさしかかり､大きな岩のそばで止まりました。 人々は、荷車を割ってたきぎとし、雌牛を殺して、完全に焼き尽くすいけにえを神様にささげました。　１５レビ部族の何人かが、車から神の箱と、ねずみやはれ物にかたどった金の像を入れた箱とを降ろし、岩の上に置きました。　その日、ベテ・シェメシュの人々によって、多くの完全に焼き尽くすいけにえや供え物が、神様にささげられたのです。
１６　ペリシテ人の五人の指導者は、しばらくそれを見守ってから、その日のうちにエクロンへ引き返しました。　１７神様に罪を償ういけにえとして送られた五つのはれ物の金の模型は、五つの町、アシュドデ、ガザ、アシュケロン、ガテ、エクロンの指導者たちからの贈り物でした。　１８また、金のねずみの像は、五つの町の属領である要塞の町々や地方の村々など、他のすべてのペリシテ人の町からの、イスラエルの神様をなだめる贈り物でした。　なお､ベテ・シェメシュの大きな岩は、今でもヨシュアの畑にあります。　１９ところが神様は、ベテ・シェメシュの人々を大ぜい打ち殺してしまったのです。　人々が箱をのぞいたからです。　あまりにも多くの者が殺されたのを見て、人々は悲しみにうちひしがれました。
２０　彼らはこう叫びました。　「これほどきよい神様の前に、だれがまともに出られよう。　箱を、どこへ移したらよいものか｡」
２１　そこで、キルヤテ・エアリムの住民に使者を立て、ペリシテ人が神の箱を返して来たことを知らせました。　「さあ、早く持って行ってください」と嘆願したのです。
七
１　キルヤテ・エアリムの人々は来て、神の箱を、丘の中腹にあるアビナダブの家に運び込みました。　そして、アビナダブの息子エルアザルに管理を任せました。　２箱は二十年間も、そこに置かれたままでした。　その間、イスラエル全体がすっぽり悲しみに包まれていたのです。　まるで神様から見放されたように思われたからです。
３　その時、サムエルがイスラエル全国民に言いました。　「心から神様のもとに帰りたいのなら、外国の神々やアシュタロテの偶像を取り除きなさい。　神様お一人に従う決心をしなさい。　そうすれば、ペリシテ人の手から救い出していただけます｡」
４　そこで人々は、バアルやアシュタロテの偶像を取りこわし、神様だけを礼拝するようになりました。
５　それを見て、サムエルは命じました。　「全員、ミツパに集合せよ。　あなたがたのために神様に祈ろう｡」

６　人々はミツパに集結し、井戸からくんだ水を神様の前で注ぐという、一大儀式を執り行ないました。　また、自らの罪を悔いて、まる一日断食しました。　こうして、サムエルはミツパで、イスラエルをさばいたのです。
７　ペリシテ人の指導者たちは、ミツパに大群衆が集結したことを知り、兵を動員して攻め寄せました。　ペリシテ軍が近づいて来たと聞いて、イスラエル人は恐れおののくしまつです。
８　「どうぞ、お救いくださるよう、神様に願ってください。」　とうとう、サムエルに泣きつきました。
９　そこでサムエルは、乳離れ前の子羊一頭を取り、完全に焼き尽くすいけにえとして神様にささげ、イスラエルを助けてくださるよう祈りました。　祈りは答えられたのです。
１０ちょうどサムエルがいけにえをささげていた時、ペリシテ人が攻めて来ました。　ところが神様は、天から大きな雷鳴をとどろかせ、彼らを大混乱に陥らせてくださったのです。　敵はたちまち総くずれです。　イスラエル人はなお、　１１ミツパからベテ・カルまで追い打ちをかけ、道々、完全に敵を滅ぼしました。　１２この時サムエルは、一つの石をミツパとシェンの間にすえ、エベン・エゼルと名づけました。　「助けの石」という意味です。　彼が、「まさしくここまで、神様がお助けくださった」と宣言したからです。
１３こうしてペリシテ人は制圧され、二度とイスラエルを襲撃したりしませんでした。 サムエルが生きている間、神様がペリシテ人を見張っておられたからです。　１４ペリシテ人の占領下にあった、エクロンからガテに至るイスラエルの町々は、晴れてイスラエルに返還されました。　イスラエル軍が奪い返したのです。　ところで、当時、イスラエル人とエモリ人とは友好関係にありました。
１５　サムエルは生涯、イスラエルをさばきました。　１６年ごとに巡回法廷を開き、最初はベテルに、次はギルガルに、その次はミツパにというように回ったのです。　どの町ででも、そのあたりの地域から、係争中の問題がサムエルのもとに持ち込まれました。　１７それからサムエルは、生家のあるラマへ戻り、そこでも種々の訴えを聞きました。またラマに、神様のために祭壇を築きました。
八
１　やがて、年老いたサムエルは隠退し、イスラエルをさばく仕事を息子たちに譲りました。　２長男ヨエルと次男アビヤは、ベエル・シェバで法廷を開きました。　３ところが彼らには、父のような高潔さが欠けていたのです。　金に目がくらんで、わいろを取り、公平であるべき裁判を曲げてしまいました。　４とうとうイスラエルの指導者たちがラマに集まり、この件でサムエルと話し合いました。　５彼らは、サムエルの隠退後、息子たちの行為が思わしくなく、物事に支障をきたしている事情を説明しました。　そして、こう願ったのです。
「どの国にも王様がいます。　私たちにも王様を立ててください。」
６　サムエルはすっかり動揺してしまい、神様の前に出てうかがいを立てました。

７　神様の答えはこうでした。　「言うとおりにしてやるがよい。彼らは、おまえではなく、ほかでもない、このわたしを退けたのだ。もう、わたしに王であってもらいたくないのだ。　８エジプトから連れ出して以来、今までずっと、彼らはいつもわたしを捨て、ほかの神々のあとを追ってばかりいた。　まさにそれと同じことを、今しようとしているのだ。　９願うとおりにしてやるがよい。　ただし、王を立てることがどういうことか、よくよく警告しておいてくれ。」
１０　サムエルは神様のおことばをそっくり伝えました。
１１　「あなたがたの言うとおり王を立てれば、息子は王の軍隊に取られ、王の戦車の前を走ることになりかねませんぞ。　１２中には、戦場に追いやられる者も出るだろう。　そして、残りの者はみな、奴隷のように働かされる。　よいかな、王家の領地を耕し、刈り入れにも無報酬で駆り出され、武器や戦車の部品作りにも動員されるのじゃ。１３王はな、娘も取り上げなさるぞ。　料理をこしらえたり、パンを焼いたり、香料を作ったりと、有無を言わせずこき使う。　１４それにな、ぶどう畑やオリーブ畑のうち、いちばん良い場所を王家の所領に差し出さねばならん。　１５収穫の十分の一は、年貢として、王の直参がたへ納めねばならん。　１６奴隷や屈強の若者、それに家畜まで、王の私用のために駆り出される。　１７羊の群れも十分の一を要求されるし、結局、自分たちが奴隷となるわけだぞ。　１８王を立ててほしいと言ったばっかりに、あとでほえ面かいても、神様は助けてくださらんからな。」
１９　それでも人々は、警告に耳を貸そうとしません。
「かまいませんとも、王様は欲しいのです。　２０よその国々と同じになりたいのです。王様が私たちを治め、戦いを指揮してくださるでしょう。」
２１　サムエルは人々の反応ぶりを神様に告げました。　２２神様はまたも、「言うとおりにしてやれ。　王を立ててやるがよい」とお答えになりました。
ついにサムエルも承知し、人々を家に帰らせました。
九
１　ベニヤミン部族に、キシュという金持ちの有力者がいました。その人の父親はアビエル、アビエルの父はツェロル、ツェロルの父はベコラテ、ベコラテの父はアフィアハでした。　２キシュの息子サウルは、国中で一番の美青年でした。　しかも、だれよりも肩から上だけ背が高く、すらっとしていたのです。
３　ある日、キシュのろばが迷い出てしまいました。　そこでキシュは、サウルに若者を一人つけて捜しにやったのです。　４二人はエフライムの山地、シャリシャ地方、シャアリム地域、それからベニヤミンの全地をくまなく捜し回りました。　しかし、ついにろばは見つかりません。　５ツフの地まで捜したあと、サウルは召使の若者に言いました。「もう帰ろう。　こうなったら、おやじはろばより、おれたちのことを心配するよ。」
６　「若だんな様、名案がありますよ。　この町には神の人がおいでです。　だれからも厚い尊敬を集めているお方なんです。　そのお告げが、またぴたりと当たるそうでして…

…。　今から、お訪ねしてみましょう。　ろばがどこにいるか、きっと教えてくださいますよ。」
７　「それにしても、みやげの品が何もないな。　食べ物も尽きたしね。　何を贈ったらいいだろう。」
８　「ご心配なく。　私が少しばかりお金を持っています。　それを差し上げて、ご指示を仰いではいかがでしょう。」
９‐１１「よし、そうしよう。」
話がまとまり､二人は預言者の住む町へ向かいました。 町へ通じる坂道を登って行くと、水くみに来た若い娘たちに出会いました。　そこで､「この町に先見者がおられますか」と尋ねました。　当時、預言者は先見者と呼ばれていました。　今なら「預言者のところへ行って聞こう」と言うところを､「先見者のところへ行って聞こう」と言っていたのです。
１２１３「ええ。　この道をちょっと行った所にいらっしゃいますわ。町の門のすぐ内側です。　ちょうど旅からお戻りになったところで、人々のために丘の上でいけにえをささげようとしておられます。さあ、お急ぎになったほうがいいわ。　せっかくお訪ねになっても、丘へ行かれたあとでは仕方ありませんもの。　あのお方がおいでになって、いけにえを祝福されたあとでないと、客人は食事ができませんの。」
１４　二人は町へ急ぎました。　門にさしかかった時、丘に登ろうとやって来たサムエルに出会ったのです。　１５神様は前日、サムエルにこう告げておられました。
１６　「あすの今ごろ、ベニヤミン出身の者をおまえのところへ遣わそう。　その者に油を注いで、わたしの国民の上に立つ者としなさい。彼はイスラエルをペリシテ人から救い出すだろう。　わたしが彼らを顧みてあわれに思い、その叫びを聞いたからだ。」
１７　サムエルがひと目サウルを見た時､「これが､おまえに告げた者だ。　イスラエルを治めるべき者だ」と、神様の声が聞こえました。
１８　ちょうどその時、サウルはサムエルに近づいて､「先見者のお宅はどちらでしょうか」と尋ねました。
１９　「わしが、そうじゃよ。　さあ、先に立って、あの丘へ登りなされ。　いっしょに食事をしよう。　明朝､あなたが知りたいことを説き明かしてから､お見送りしよう。　２０三日前に消えたろばのことは、心配ご無用。　もう見つかっておる。　ともかく、今やイスラエルの富はすべて、あなたの手中にあるのじゃ。」
２１　「何ですって！　私はイスラエルの中でも最も小さいベニヤミン部族の者で、私の家は、その中でも取るに足りない存在です。　冗談はおよしください。」
２２　サムエルはサウルと連れの召使を広間に案内し、上座につかせて、すでに招かれていた三十人のどの客よりも、うやうやしくもてなしました。　２３コック長に命じて、取っておきの特上肉を持って来させたのです。　２４コック長は、命じられたとおり、それをサウルの前に差し出しました。
サムエルは勧めました。　「さあ、どんどん召し上がってくだされ。　これは、この方々

を招く前から、あなたのために取っておいたものですぞ。」
サウルはサムエルとともに食事をしました。　２５もてなしがすみ、一同が町に戻ると、サムエルはサウルを屋上に案内し、そこで話し合いました。　２６２７翌朝、夜が明けると、サムエルはサウルを呼びにやりました。　「起きなされ。　出立の時間ですぞ。」
サウルが起きると、サムエルは町はずれまで送ってくれました。町の城壁まで来ると、サムエルはサウルに､召使を先に行かせるよう指示しました。 そうして、｢わしは神様から、あなたのことで特別のおことばを託されておるのじゃ」と告げたのです。
一〇
１　サムエルはオリーブ油の入ったつぼを取り、サウルの頭に注ぎかけ、口づけしてから言いました。
「なぜ、こんなことをしたか、おわかりかな。　神様があなたを、ご自身の国民イスラエルの王に任命なさったからなのじゃ。　２今わしと別れたら、あなたは、ベニヤミン領内のツェルツァフにあるラケルの墓のそばで、二人の人に出会うだろう。　その二人は、ろばがとっくに見つかったと伝えるはずじゃ。 また､お父上があなたのことを､『いったい、どこへ行ってしまったんだ』と心配している様子をも、知らせてくれる。　３それから、さらにタボルの樫の木のところまで行くと、三人の人に出会う。　神様を礼拝するため、ベテルの祭壇に向かう人たちだ。　一人は子やぎ三頭を携え、一人はパンを三つ、他の一人はぶどう酒の皮袋一袋を持っているはずじゃ。　４彼らはあなたにあいさつして、パンを二つくれる。　それを受け取りなされ。　５そのあと、あなたは、あの『神の丘』として名高いギブア・エロヒムに行くことになる。　ペリシテ人の守備隊がおる所じゃ。　そこへ着くと、預言者の一団が、琴、タンバリン、笛、竪琴を鳴らし、預言をしながら、丘を降りて来るのに出会う。
６　その時、神の御霊が激しく下り、あなたも共に預言を始める。すると、全く別人になったように感じ、またそう振る舞うに違いない。７その時から、自分の思うとおり、その時その時の情況に応じて、いちばん良いと思われることをすればよろしい。　神様が導いてくださるからじゃ。　８それから、ギルガルへ行き、七日間、わしを待ちなされ。　完全に焼き尽くすいけにえと和解のいけにえをささげるために、わしもまいるでな。　今後なすべきことは、そのとき教えることにしよう。」
９　サウルはサムエルのもとを辞して進んで行くうち、神様から新しい心を与えられました。　そしてサムエルの預言はすべて、その日のうちに現実となったのです。　１０サウルと召使が神の丘に着くと、果たせるかな、預言者の一団が近づいて来るのに出会いました。　神の御霊がサウルに下ると、彼も預言を始めたのです。
１１　そのことを聞いたサウルの友人たちは､｢どうしたんだ。 あのサウルが預言者だって？」とびっくりしました。　１２居合わせた近所の人も、「父親もあんなふうだったかい」とささやきました。　そういうわけで､｢サウルも預言者なのか」ということばが、ことわざのようになったのです。

１３　サウルは預言を終えると、丘の祭壇へと登って行きました。
１４　おじが、「いったい、どこへ行っていたんだ」と聞きました。
「ろばを捜し回ってたんですが、見つからないので、サムエル様のところへ、ろばの居場所をうかがいに行ったんです。」
１５　「おや、そうかい。　それで何と？」
１６　「ろばはもう見つかった、とおっしゃいました。」　ただし、自分が王として油を注がれたことは、黙っていました。
１７　さて、サムエルは全イスラエルをミツパに召集し、　１８１９イスラエルの神様のことばを伝えました。　「わたしはおまえたちをエジプトから連れ出し、エジプト人、および、害をもたらすすべての国民の手から、救い出してやった。　ところがどうだ。　こうまで尽くしてやったわたしを退け、『それより、王様が欲しいのです！』と叫びおる。　よろしい。　さあ、部族ごとに、また家族ごとに、わたしの前に出るがよい。」
２０　サムエルは、神様の前に部族の指導者を整列させました。　聖なるくじで、まず、ベニヤミン部族が選ばれました。　２１ベニヤミン部族を、氏族ごとに神様の前に出させたところ、マテリの氏族が選ばれました。　こうしてついに、キシュの子サウルを選び出したのです。ところが、どこを捜しても、サウルの姿は見あたりません。
２２　人々は神様に、「いったいサウルは、どこへ行ったんでしょう。　ここに来ているのですか」と尋ねました。
神様は、「見なさい。　荷物の陰に隠れている」とお答えになりました。
２３　人々はさっそく、彼を連れ出しました。　サウルが立つと、だれよりも肩から上だけ高いのが目立ちます。
２４　サムエルは全国民の前で宣言しました。　「この人こそ、神様が王としてお選びくださった人だ。　イスラエル中を捜しても、この人の右に出る者はおらんぞ！」
「王様、ばんざーいっ！」　期せずして喜びの叫びがあがりました。
２５　サムエルは全国民に、王の権利と義務について語りました。　なお、それを文書にして、神様の前の特別な場所に納めました。　こうしてのち、人々を家に帰したのです。
２６　サウルもまた、ギブアの自宅に戻りました。　この時、神様によって感動させられた一群の人々もついて来て、家来となったのです。２７ところが、中には飲んだくれやごろつき連中もいて、「あいつがおれたちを守れるもんか」と悪態をつくしまつです。　連中はサウルを軽べつし、贈り物などしようともしなかったのです。　しかしサウルは、何も言いませんでした。
一一
１　さて、ナハシュがアモン人の軍隊を率いて、イスラエル人の町ヤベシュ・ギルアデに迫りました。　ヤベシュの人々は講和を求め、「どうか、お助けください。　あなたがたにお仕えしますから」とすがりました。
２　ナハシュの答えは情け容赦のないものでした。　「よーし、わかった。　ただし、一

つ条件がある。　全イスラエルへのみせしめに、おまえたち一人一人の右目をえぐり取らせてもらおう。」
３　なんということでしょう。 ヤベシュの長老たちは困りました。「七日間の猶予を下さい。　その間に、だれも助けに来てくれる者が見あたらなければ、お申し出に従うまでです。」
４　使者がサウルの住むギブアの町に駆けつけ、苦境を訴えると、だれもかれも声をあげて泣きだしました。
５　そこへ、畑を耕しに行っていたサウルが戻って来て、「いったい、どうしたんだ。　なぜ、みんな泣いているのか」と尋ねました。
人々はヤベシュからの知らせを伝えました。　６その時、神様の霊が激しくサウルに下ったのです。　サウルは満身を怒りに震わせ、７二頭の雄牛をつかまえるや、それを切り裂き、使者に託して、イスラエル中に送りました。
そして、「サウルとサムエルに従って戦うことを拒む者の雄牛は、こんな具合にされるぞ」と言い送りました。　神様が人々にサウルの怒りを恐れさせたのでしょう、皆、いっせいに集まって来たのです。８ベゼクでその数を調べると、イスラエルから三十万人、さらにユダから三万人が加わっていることがわかりました。
９　そこでサウルは、使者をヤベシュ・ギルアデに送り帰し、「あすの昼過ぎまでには、助けに行くぞ」と告げさせたのです。　この知らせに、どれほど町中が喜びにわき立ったことか！
１０　ヤベシュの人々は、敵にこう通告しました。　「降伏いたします。あす、あなたがたのところへまいりますから、どうぞお気のすむようになさってください。」
１１　翌朝はやく、サウルはヤベシュ・ギルアデに駆けつけ、全軍を三隊に分けて、アモン人を急襲し、午前中にほとんど全員を打ち殺してしまいました。　残った者たちも散り散りばらばらになり、二人の者が共に残ることさえありませんでした。
１２　その時、人々はサムエルに言いました。　「サウルなんかわれわれの王じゃない、などとほざいた連中は、どこでしょうか。　引っぱり出してください。　息の根を止めてやります。」
１３　しかし、サウルは答えました。　「きょうはだめだ。　この日、神様はイスラエルを救ってくださったのだから、だれをも殺してはならん。」
１４　続いて、サムエルが呼びかけました。　「さあ、みんなギルガルへ行こう。　サウルがわれわれの王であることを、改めて確認するのだ。」
１５　人々はこぞってギルガルへ行き、神様の前で厳粛な儀式を執り行ない、サウルを王としました。　それから神様に和解のいけにえをささげ、ともども喜び合ったのです。
一二
１　サムエルは、再び人々に語りかけました。
「さあ、どうだ、願いどおり王を立てたぞ。　２わしは息子をさしおいて、この人を選ん

だ。　わしは若いころから公の務めについてきたが、今や、白髪頭の老人にすぎない。　３今わしは、神様の前に、神様が油を注がれた王の前に立っている。　さあ、言い分があるなら言ってくれ。　わしがだれかの牛やろばを盗んだりしたか。　みんなをだましたり、苦しめたりしたことがあるか。　それとも、わいろを取ったことがあるか。　もしそんな事実があったら、言ってくれ。　何かまちがいをしでかしていたなら、償いたいのだ。」
４　「とんでもない。　あなた様からだまし取られたり、苦しめられたりした覚えなど、これっぽちもございません。　それに、あなた様は、わいろなどとは全く無関係なお方です。」
５　「では、わしがあなたがたに対して潔白であることについて、神様ご自身と、神様が油を注がれた王とが、証人となってくださることになるぞ。」
「はい、そのとおりです。」
６　サムエルは厳粛に語りだしました。　「モーセとアロンをお立てになったのは、神様ご自身であった。　この神様が、ご先祖をエジプトから導き出してくださったのだ。
７　さあ、神様の前に、静かに立ちなさい。　ご先祖の時代からこのかた、神様があなたがたに対して、どれほどすばらしいわざを行なってくださったか、何もかも思い出させてやろう。
８　さて、エジプト抑留中のイスラエル人が叫び求めた時、神様はモーセとアロンを遣わし、われわれをこの地へと導いてくださった。　９ところが、だれもみな、すぐに神様を忘れてしまった。　それで、ハツォル王の率いる軍隊の将シセラの手に落ちたり、ペリシテ人やモアブの王に征服されたりするのを、神様は放っておかれた。
１０　そうなると、人々はもう一度、神様に叫び求めたのだ。　神様を捨て、バアルやアシュタロテなどの偶像を拝んだ罪も告白した。 そして、『もし敵の手から救い出していただけるなら、神様だけを礼拝いたします』と泣きすがった。　１１それで神様は、ギデオン、バラク、エフタ、サムエルを遣わして救い出し、安全な生活を取り戻してくださったのだ。
１２　ところが、あなたがたときたら、アモン人の王ナハシュをこわがって、自分たちを治める王が欲しい、と言いだした。　実は、神様こそ、すでにあなたがたの王であったのにな。　神様はこれまでもずっと、あなたがたを支配してこられたのだ。　１３さあ、この人があなたがたの選んだ王だ。 よく見ておくがいい。 これで願いはかなったわけだ。
１４　そこでだな、あなたがたが神様を恐れかしこみ、命令にも従い、反抗的態度を捨てるなら、そして、王ともども神様に仕える道を歩むなら、すべては順調に運ぶだろう。　１５しかし、もし命令に逆らい、神様を無視するような態度をとるなら、神様のさばきが下り、ご先祖の二の舞を演ずることになるだろう。
１６　さあ、神様のすばらしい奇蹟をしっかり見届けるがいい。　１７小麦を刈り取るこの時期に雨が降ったりしないのは、周知の事実だ。しかし、わしは神様に祈って、きょう、雷と雨を送っていただこう。そうすれば、王を欲しがったりするのが、どれほど愚劣なこ

とだったか、思い知るだろう。」
１８　サムエルが呼び求めると、神様は雷と雨を起こされました。人々はみな驚き、震え上がりました。
１９　彼らはサムエルにとりすがりました。　「ああ、いのちだけはお助けくださいと、神様に祈ってください。　王が欲しいと言って、今までの罪にまた罪を重ねてしまいました。」
２０　サムエルは気を取り直すようにとなだめました。　「こわがることはない。　過ちを犯したのは事実だ。　しかし、問題はこれからだ。熱心に神様を礼拝し、決して背いたりするな。　２１ほかの神々が助けてくれるわけがないのだ。　２２神様は、ご自分の国民を捨てて、自らの偉大なお名前を汚すようなまねはなさらない。 神様はあなたがたを、特別な国民として選んでくださったのではないか。　そうすることが、神様のご意志だったのだ。
２３　わしも、あなたがたのために祈るのをやめたりしない。　そんなことをすれば、神様に罪を犯すことになるからな。 今後とも、良いこと正しいことを教え続けるつもりだ。
２４　神様に信頼し、心から礼拝をささげるがよい。　神様が行なってくださったすばらしいわざを、一つ残らず心に留めなさい。　２５しかしだ、もしこのまま罪を犯し続けるなら、王といっしょに滅ぼされることになるんだぞ。」
一三
１　さて、サウルが王位についてから、一年が過ぎました。　サウルは治世の二年目に、２三千人の精兵を選びました。　このうち二千はサウルとともにミクマスとベテルの山地にこもり、残りの千はサウルの息子ヨナタンに統率されて、ベニヤミン領のギブアにとどまりました。　その他の者は自宅待機です。　３４そののち、ヨナタンは、ゲバに駐屯していたペリシテ人の守備隊を攻撃し、撃滅してしまいました。　このニュースは、たちまちペリシテの領土中に広がりました。サウルは全イスラエルに戦闘準備の号令を出し、ペリシテ人の守備隊を滅ぼしたことで、ペリシテ人の大きな反発を買った事情を訴えたのです。　イスラエルの全軍が、再びギルガルに召集されました。　５ペリシテ側も兵力を増強し、戦車三千、騎兵六千、それに浜辺の砂のようにひしめく兵士たちを集結させました。そして、ベテ・アベンの東にあるミクマスに陣を敷いたのです。
６　イスラエル人は敵のおびただしい軍勢を見るなり、すっかり度肝を抜かれてしまい、先を争って、ほら穴や茂みの中、岩の裂け目、それに地下の墓所や水ためにさえ、隠れようとしました。　７中には、ヨルダン川を渡って、ガドやギルアデ地方まで逃げのびようとする者も出ました。 その間、サウルはギルガルにとどまっていましたが、従者たちは、どうなることかと恐怖に震えている始末でした。　８サムエルはサウルに、自分が行くまで七日のあいだ待つようにと言い送っていました。　ところが、七日たってもサムエルは現われません。　サウルの軍隊は急に動揺し、統制がとれなくなりそうな形勢です。９困ったサウルは、自分で完全に焼き尽くすいけにえと和解のいけにえをささげようと決心し

ました。　１０こうして、サウルがちょうどいけにえをささげた直後、サムエルが姿を現わしたのです。　サウルが迎えに出て祝福を受けようとすると、　１１サムエルは、「いったい何をしでかしたのじゃ」と問い詰めました。
「兵士たちは逃げ出そうとしておりましたし､あなた様も約束どおりおいでになりません。ペリシテ人は、今にも飛びかからんばかりにミクマスで構えています。　１２敵はすぐにも進撃を開始してくるでしょう。　なのに、まだ神様に助けを請うていません。　とてもあなた様を待ちきれません。　それでやむなく、自分でいけにえをささげてしまったのです。」
１３　「な、なんと愚かなことを！」　サムエルは思わず叫びました。「よくも神様の命令を踏みにじったものだ……。　神様はあなたの家系を、子々孫々まで、永遠にイスラエルの王に定めておられたのに。１４だが、もはやあなたの王家も終わりだ。　神様が望んでおられるのは、ご自分に従う者なのだ。　すでに、おこころにかなう人を見つけて、王としてお立てになった。　それというのも、あなたがご命令に背いたからだ。」
１５　サムエルはギルガルを発って、ベニヤミン領内にあるギブアへ上って行きました。一方、サウルは自分の指揮下にある兵を数えてみました。　なんと、たった六百人しか残っていません。　１６サウルとヨナタンと六百の兵は、ベニヤミンの地のゲバに駐屯し、ペリシテ人はミクマスに腰をすえていました。　１７やがて三つの侵略部隊が、ペリシテ人の陣営からくり出されました。　一隊はシュアルの地にあるオフラに向かい、１８もう一隊はベテ・ホロンに向かい、第三の隊は荒野に接するツェボイムの谷を見下ろす境界へと進軍したのです。
１９　当時、イスラエルには、どこにも鍛冶屋がありませんでした。イスラエル人が剣や槍を作ることを恐れたペリシテ人が、鍛冶屋の存在を許さなかったからです。　２０そこで、イスラエル人がすき、くわ、斧、かまなどをとぎたい場合は、ペリシテ人の鍛冶屋を訪ねなければなりませんでした。　２１とぎ料は、次のとおりでした。
すき二百円
くわ二百円
斧百円
かま百円
突き棒百円
２２　そういうわけで、このイスラエル全軍の中で、剣や槍を持っているのはサウルとヨナタンだけ、という有様だったのです。　２３そうこうするうち、ミクマスへ通じる山道は、ペリシテ軍の一隊の手で厳重に封鎖されてしまいました。
一四
１　一日かそこら過ぎたころでしょうか､王子ヨナタンは側近の若者に言いました。「さあ、ついて来い。　谷を渡って、ペリシテ人の駐屯地に乗り込もうじゃないか。」　このことは、父サウルには内緒でした。

２　サウルと六百の兵は、ギブア郊外の、ミグロンのざくろの木付近に陣を敷いていました。　３その中には、祭司アヒヤもいました。アヒヤはイ・カボデの兄弟アヒトブの息子で、アヒトブは、シロで神様の祭司を務めたエリの息子ピネハスの孫にあたります。
ヨナタンが出かけたことは、だれひとり知りませんでした。　４ペリシテ人の陣地へ行くには、二つの切り立った岩の間の、狭い道を通らなければなりませんでした。　二つの岩は、ボツェツとセネと名づけられていました。　５北側の岩はミクマスに面し、南側の岩はゲバに面していました。
６　ヨナタンは従者に言いました。　「さあ、あの神様を知らない連中を攻めよう。　神様が奇蹟を行なってくださるに違いない。　神様を知らない軍隊の力など、どれほど大きかろうと、神様には物の数じゃない。」
７　「そうですとも。　おこころのままにお進みください。　お供させていただきます。」
８　「そうか。　じゃあ、こうしよう。　９われわれが敵の目にとまった時、『じっとしていろ。　動くと殺すぞ！』と言われたら、そこに立ち止まって、やつらを待とう。　１０もし『さあ、来い！』と言われたら、そのとおりにするのだ。　それこそ、やつらを打ち負かしてくださるという、神様の合図だからな。」
１１　ペリシテ人は近づいて来る二人の姿を見かけると、「見ろ！　イスラエル人が穴からはい出て来るぞ！」と叫びました。　１２そしてヨナタンに、「さあ、ここまで来い。　痛い目に会わせてやるぞ！」と大声で呼びかけたではありませんか。
ヨナタンはそばの若者に叫びました。　「さあ、あとから登って来い。　神様が私たちを助けて、勝利をもたらしてくださるぞ！」
１３　二人は手とひざでよじ登りました。　ペリシテ人がしりごみするところを、ヨナタンと若者は右に左に切り倒しました。　１４このとき殺されたのは約二十人で、一くびきの牛が半日で耕す広さの所に死体が散乱しました。　１５不意をつかれて、ペリシテ軍の全陣営、とりわけ先の侵略部隊は、パニック状態に陥りました。　大地震にでもみまわれたように、恐怖はつのる一方でした。
１６　ギブアにいるサウルの陣営では、見張りの番兵が思いがけない光景を目のあたりにしました。　ペリシテ人の大軍が、うろたえて右往左往し始めたのです。
１７　サウルは、「だれかここから消えた者がいるか調べろ」と命じました。　調べると、ヨナタンと側近の若者がいません。　１８サウルはアヒヤに、「神の箱を持って来い」と叫びました。　そのころ、この箱はイスラエル国民の間にあったからです。　１９ところが、サウルが祭司と話している間に、ペリシテ人の陣営の騒ぎは、ますます大きくなります。サウルは、「早くしろ！　いったい神様は、何と言っておられるのだ」とせき立てました。
２０　サウルと六百の兵は、大急ぎで戦場に駆けつけました。　すると、どうでしょう。ペリシテ人が同士打ちをしており、どこもかしこも収拾がつかない有様です。　２１それまでペリシテ軍に徴兵されていたイスラエル人も、寝返ってイスラエル側につきました。
２２ついには、山地に隠れていた者まで、ペリシテ人が逃げ出すのを見て、追撃に加わり

ました。　２３こうして、この日、神様はイスラエルを救ってくださったのです。　もっとも、戦闘はベテ・アベンに場所を移して、まだ続いていました。
２４２５ところで、サウルはこう命じていました。　「夕方まで、すなわち、私が完全に敵に復讐するまで、何も口にするな。　もし食べる者があれば、のろわれる。」　それで、森に入ると地面に蜜ばちの巣があったのに、人々は目もくれず、まる一日、何も食べなかったのです。　２６サウルののろいを恐れていたからです。　２７ところが、ヨナタンは父の命令を知りません。　手にしていた杖を巣にちょっと浸して、なめてみました。　すると、体中に力がわいてきたのです。　２８その時、だれかが耳打ちしました。　「お父上は、きょう、食物を口にする者にのろいをおかけになったのですよ。　ですから、みんなへとへとに疲れているんです。」
２９　「そりゃ無茶だ！」　ヨナタンは思わず叫びました。　「そんな命令は、みんなを苦しめるだけじゃないか。　この蜜をちょっぴりなめただけで、私は元気になった。　３０もしわが軍が、敵陣で見つけた食糧を自由に食べてよいことになっていたら、もっと大ぜいペリシテ人を殺せたろうに。」
３１　一日中すきっ腹をかかえ、彼らは、ミクマスからアヤロンにかけて、ペリシテ人を追いかけ、殺したのです。　みな、ぐったりしていました。　３２夕方になると、人々は戦利品に飛びつき、羊、牛、子牛などを殺し、血のしたたる肉に食いつきました。　３３だれかがこの様子をサウルに告げ、血がついたまま食べて神様に罪を犯した、と非難しました。
「けしからん。」　サウルは腹を立て、こう申し渡しました。「大きな石を転がして来い。３４そして、隊中ふれ回り、牛や羊を連れて来て殺し、血を絞り出すよう命じるのだ。　血のついたまま食べて、神様に罪を犯してはならん。」　人々は言われたとおりにしました。
３５　そしてサウルは、神様のために祭壇を築いたのです。　彼が祭壇を築いたのは、これが最初でした。
３６　それからサウルは、「さあ、夜通しペリシテ人を追い詰めて、最後の一人まで、滅ぼしてしまおうじゃないか」と気勢をあげました。
従者たちは、「それはいいですな。　お考えどおりにいたしましょう」と答えました。
ところが祭司が、「まず、神様におうかがいを立ててから……」と口をはさんだのです。
３７　そこでサウルは、「ペリシテ人を追うべきでしょうか。 敵を打ち負かすのをお助けいただけますか」と、神様の前に答えを請いました。　しかし、夜が明けても、何の返事もありません。
３８　そこで指導者たちを集め、「何かまずいことがあったんだ。　本日ただ今、どんな罪が犯されたのか、はっきりさせる必要がある。３９イスラエルを救ってくださった神様の御名にかけて誓う。　罪を犯した者は即刻死刑だ。　たとい息子ヨナタンであろうとな。」しかし、だれも真相を語ろうとしません。
４０　そこでサウルが、「ヨナタンと私はこちらに、おまえたちはみなあちらにと、両側に

分かれて立ってみよう」と提案し、一同はそれに応じました。
４１　サウルは祈りました。　「ああ、イスラエルの神様、なぜ、私の問いにお答えいただけなかったのでしょう。　何か責められるべき点があるのでしょうか。　ヨナタンか私に罪があるのですか。　それとも、ほかの者が悪いのですか。　神様、罪を犯したのはだれか、はっきりお示しください。」　こうして、聖なるくじを引くと、ヨナタンとサウルの側に当たりました。　これで、ほかの者は無罪です。
４２　サウルは続けて、「私とヨナタンとでくじを引こう」と言いました。　その結果は……、もちろんヨナタンが有罪です。
４３　サウルはヨナタンに詰め寄りました。　「何をしでかしたのだ、白状しろ。」
「ちょっと蜜をなめたんです。　杖の先につけて、ほんの少し。でも、私は死ななければなりません。」
４４　「そうだ、ヨナタン。　おまえは死ななければならない。　もしこの罰から逃れようとでもしようものなら、神様が私を、死ぬまで打ちたたいてくださるように。」
４５　ところが、ほかの人々は納得しません。　「きょうイスラエルを救ったのは、ヨナタン様です。　そのお方のいのちが奪われるなんて、とんでもありません！　神様にかけて誓います。　あの方の髪の毛一本も失われてなるものですか。　きょうの目ざましいお働きは、神様に用いられている証拠ではありませんか。」　こうして、人々がヨナタンを救ったのです。
４６　サウルは全軍を呼び戻したので、ペリシテ人は引き揚げて行きました。　４７ところで、サウルはイスラエルの王位についてからこのかた、周囲のあらゆる敵、モアブ、アモン人、エドム、ツォバの王たちからペリシテ人に至るまで、軍隊を差し向けて戦いました。　そして、至る所で勝利を収めたのです。　４８彼は大胆に行動し、アマレク人を征服しました。　サウルのおかげで、イスラエルはすべての侵略者の手から救われました。
４９　さて、サウルには、ヨナタン、イシュビ、マルキ・シュアという三人の息子と、メラブ、ミカルという二人の娘がありました。　５０５１妻はアヒノアムといい、アヒマアツの娘でした。　軍の最高司令官はおじネルの息子で、いとこにあたるアブネルでした。アブネルの父ネルとサウルの父キシュとは兄弟で、二人ともアビエルの子というわけです。
５２　イスラエル人は、サウルの在世中、絶えずペリシテ人と戦い続けました。　サウルは勇気ある屈強の若者を見つけると、片っぱしから軍隊に入れました。
一五
１　ある日、サムエルがサウルに言いました。「わしはあなたをイスラエルの王にした。神様がそうせよとおっしゃったからじゃ。いま確かに、あなたは神様に従っておいでだ。２ところで、神様はこう命じておられる。　『アマレク人に罰を下そう。　エジプトから脱出したイスラエル人が領地内を通るのを、拒否したからだ。　３さあ、攻め上って、アマレク人を一人残らず滅ぼしてしまえ。　男も女も、子供も赤ん坊も、牛も羊も、らくだもろばも徹底的にだ。』」

４　サウルは兵をテライムに集結させました。　兵力は二十万で、それにユダの兵一万が加わりました。　５そして、アマレク人の町へ行き、谷に陣を敷きました。　６サウルはケニ人に使者を立て、アマレク人と運命を共にしたくなければ彼らの中から出て行け、と警告しました。　イスラエル人がエジプトから脱出した時、ケニ人は親切にしてくれたからです。　ケニ人はさっそく荷物をまとめ、アマレク人の中から出て行きました。
７　そののちサウルは、ハビラからエジプトの東方、シュルに至る道で、アマレク人を打ち殺しました。　８王アガグを捕虜にしたほかは、一人残らず殺しました。　９ところが、サウルとその国民は、羊や牛の最上のもの、子羊のまるまる太ったものを、取り分けておいたのです。　どれもこれも、とても気に入ったからです。　あまり値打のない、つまらないものだけを殺したのです。　１０その時、神様はサムエルに語りかけました。
１１　「サウルを王にしたのが残念だ。　二度までもわたしに逆らった。」
サムエルは、そのことばに激しく動揺し、夜通し神様に叫び続けました。　１２翌朝はやく、サウルに会いに出かけようとした時、「サウル王はカルメル山へ行って自分のために記念碑を建て、それからギルガルへ引き返しました」と告げる者がありました。　１３ようやくサムエルが捜しあてると、サウルは上きげんであいさつしてきたのです。
「これは、ようこそ。　ご安心ください。　神様の命令はすべて守りました。」
１４　「なに、では、この耳に聞こえてくる、メエメエ、モウモウという鳴き声は、いったい何じゃ。」
１５　「わが軍としましては、羊や牛の一級品を殺してしまうのはもったいないと考えまして、あなた様の神様にささげるつもりで、連れて来たのです。　ほかのものはいっさい灰と化しました。」
１６　「黙れっ！　昨夜、神様がどうおっしゃったか教えてやろう！」
「何とおっしゃったんです？」
１７　「自分では取るに足りない者のつもりかもしれんがな、いやしくも、神様からイスラエルの王に任命されたのではないか。　１８神様に何と命じられたか、忘れはしまい。『さあ、罪人アマレクの何もかもを滅ぼし尽くせ』と言われたのではなかったか。　１９なのに、どうして従わなかったのだ。　なぜ、戦利品に飛びついたりして、神様の言いつけに背いたのだ。」
２０　「私としては、お従いしたつもりなんです。　命令どおりにいたしました。　アガグ王は連れて来ましたが、ほかのアマレク人は全員殺しました。　２１たまたま羊や牛や戦利品の最上のものを取り分けて、神様にいけにえとしてささげようとしたのは、国民が言いだしたことなんです。」
２２　「神様は、いくら完全に焼き尽くすいけにえやその他のいけにえをささげたって、おまえが従順でなければ、ちっともお喜びになりはせん。　従順は、いけにえよりはるかに尊い。　神様は、おまえが雄羊の脂肪をささげるよりも、お声に耳を傾けるほうをお喜びになる。２３反逆は占いの罪と等しく、不従順は偶像礼拝と等しい罪なのじゃ。もはや、

神様のおことばを無視したからには、神様もおまえを王座から引きずり下ろされることだろう。」
２４　「私は罪を犯しました。　仰せのとおり、あなたのお指図にも神様のご命令にも背きました。　国民を恐れて、言うなりにしたのです。２５どうか、この罪をお赦しください。　神様を礼拝するため、いっしょに行ってください。」
２６　「いまさら、むだなことじゃ！　ご命令を退けたおまえを、神様もイスラエルの王位から退けられたのだ。」
２７　こう答えて引き返そうとするサムエルに、サウルはとりすがり、そのはずみにサムエルの上着を破ってしまいました。
２８　サムエルはサウルに言いました。　「よく見るがよい。　神様は、きょう、おまえからイスラエルの王国を取り上げて、もっとすぐれた人物にお渡しになったのだ。　２９イスラエルの栄光そのものであるお方のことばに偽りはなく、心変わりもありえないぞ。」
３０　それでも、サウルはとりすがりました。　「私がまちがっていました。　しかし、どうか今、国民と指導者たちとの前で、私の面目をつぶさないでください。　どうか、いっしょに行って、あなたの神様を礼拝させてください。」
３１　あまりの熱心さに、サムエルもついに折れ、いっしょに出かけました。　３２そして、「アガグ王を連れて来なさい」と命じました。　アガグはいそいそと現われました。「最悪の事態は免れた。　きっと助けてもらえるだろう」と思ったからです。　３３しかし、サムエルは冷たく言い渡しました。　「おまえの剣は実に多くの母親から息子を奪った。　今度は、おまえの母親が子を失う番だ。」　こうしてサムエルは、ギルガルで神様の前に、アガグをずたずたに切り捨てたのです。　３４そののち、サムエルはラマの自宅へ戻り、サウルもギブアに引き返しました。　３５この二人は、もう二度と顔を合わせることがありませんでした。 しかし､サムエルはサウルのことをいつも気に病んでいました。神様も、サウルをイスラエルの王としたことを後悔なさいました。
一六
１　ついに、神様からサムエルにお声がかかりました。　「いつまでサウルのことでくよくよしているのか。　もうわたしは､彼をイスラエルの王位から退けてしまったのだ。　さあ、つぼにいっぱいオリーブ油を満たして、ベツレヘムへ行き、エッサイという人を捜しなさい。その息子の一人を新しい王に選んだのだ。」
２　しかしサムエルは､「めっそうもありません！　そんなことがサウルの耳に入ったら､それこそ殺されます」と申し立てました。
神様はお答えになりました。　「雌の子牛を一頭とり､『神様にいけにえをささげに行きます』と言えばよい。　３そして、いけにえをささげる時に、エッサイを呼ぶのだ。　どの息子に油を注いだらよいかは、そのとき指示しよう。」
４　サムエルはお告げのとおり事を運びました。　ベツレヘムでは、町の長老たちが恐る恐る彼を出迎えました。

「これは、これは、わざわざお越しになりましたのは、何か変わったことでも？」
５　「いや、心配はご無用。　神様にいけにえをささげに来たまでじゃ。　いけにえをささげるため、身をきよめて、ついて来なされ。」
サムエルはエッサイと息子たちに聖めの儀式を行ない、彼らも招きました。　６彼らが来た時、サムエルはそのうちの一人、エリアブをひと目見るなり、「この人こそ、神様がお選びになった人に違いない」と思いました。
７　しかし、神様はおっしゃいました。　「容貌や背の高さで判断してはいけない。　彼ではない。　わたしの選び方は、おまえの選び方とは違う。　人は外見によって判断するが、わたしは心と思いを見るのだ。」
８　次はアビナダブが呼ばれ、サムエルの前に進み出ました。　しかし神様は、「彼も適任ではない」と断言なさるのです。
９　続いてシャマが呼ばれましたが、神様からは、「これもわたしの目にかなわない」という返事しかありません。　同様にして、エッサイの七人の息子が、サムエルの前に立たされましたが、みんな神様から退けられたのです。
１０１１サムエルはエッサイに念を押しました。　「どうも神様は、この息子さんたちのだれをも選んでおられないらしい。　もうほかに息子さんはいないのかね。」
「いいえ、まだ一番下のがおります。　今、牧場で羊の番をしておりますが。」
「すぐ呼びにやってくれ。　その子が戻るまで、食事はお預けだ。」
１２　エッサイはすぐに迎えにやりました。　美しい容貌をした、紅顔の少年で、きれいな目を輝かせていました。　その時、「この者だ。彼に油を注げ」と、神様の声がしました。
１３　ダビデは兄弟たちの真ん中に立っていました。　サムエルは持って来たオリーブ油を取り、ダビデの頭に注ぎかけました。　すると、神の霊がダビデに下り、その日から、偉大な力を身に受けたのです。　こののち、サムエルはラマへ帰りました。
１４　一方、神の霊はサウルから離れ去りました。　代わりに、神様が悩みの霊を送り込んだので、彼はいつも気がめいり、物におびえるようになったのです。　１５１６家来の中には、いろいろ治療法を進言する者もありました。
「悩みの霊に苦しめられる時には、竪琴の音色が一番です。　うまい者を捜してまいりましょう。　美しい調べが心を静めてくれます。きっと晴れ晴れとしたご気分におなりでしょう。」
１７　「よかろう。　さっそく弾き手を見つけてまいれ。」
１８　その時、家来の一人が申し出ました。　「ベツレヘムにいい若者がおります。　エッサイという者の息子ですが、竪琴を弾かせたら、そりゃあもう天下一品です。　りっぱな若者で、勇敢ですし、ちゃんと分別もございます。　その上すばらしいことに、その子には神様がついておられるのです。」
１９　サウルは乗り気になり、使いをエッサイのもとへ送って、「おまえの息子で、羊飼いをしておるとかいうダビデをよこしてくれ」と頼みました。　２０エッサイは要請に応じ、

ダビデばかりか、子やぎ一頭と、パンやぶどう酒を積んだろば一頭とを献上しました。　２１ダビデをひと目見たとたん、サウルは感嘆の声をもらし、たいそう気に入った様子でした。　こうしてダビデは、サウルのそば近くに取り立てられたのです。
２２　サウルはエッサイあてに、ダビデが気に入ったので、手もとに置きたい旨を書き送りました。
２３　神様からの悩みの霊がサウルを責めさいなむ時、ダビデが竪琴を弾くと、霊は離れ、サウルも気分がよくなるのでした。
一七
１　ところで、ペリシテ人は軍隊を召集して戦いをしかけ、ユダのソコとアゼカとの間にあるエフェス・ダミムに陣を敷きました。　２サウルは応戦するため、エラの谷に兵力を増強しました。　３こうしてペリシテ人とイスラエル人は、谷を隔てた丘の上で、にらみ合ったのです。
４‐７その時、ゴリヤテというガテ出身のペリシテ一の豪傑が、陣営から出て来て、イスラエル軍に向き直りました。　身長が三メートル以上もある巨人で、青銅のかぶとをかぶり、百キロもあるよろいに身を固め、青銅のすね当てを着け、十二キロもある鉄の穂先のついた、太い青銅の投げ槍を持っていました。　盾持ちが、大きな盾をかかえて先に立って歩いていました。
８　仁王立ちのゴリヤテは、イスラエルの陣営に響き渡るように、大声で叫びました。「よく、こうも大ぜいそろえたもんだな。　おれはペリシテ人の代表だ。　おまえらも代表を一人選んで一騎打ちをし、それで勝負をつけようじゃないか。　９もし、おまえらの代表の手にかかっておれ様が倒れでもすりゃあ、おれたちは奴隷になるさ。　だがな、このおれ様が勝ちゃあ、おまえらが奴隷になるんだ。　１０さあ、どうした。　イスラエル軍には人がいないのか。　おれと戦う勇気のあるやつは出て来い。」
１１　サウルとイスラエル軍は、これを聞いてすっかり取り乱し、震え上がってしまいました。　１２ところで、ダビデには七人の兄がいました。　ダビデは、ユダのベツレヘムに住む、エフラテ人エッサイ老人の息子でした。　１３三人の長兄、エリアブとアビナダブとシャマは、この戦いに義勇兵として従軍していたのです。　１４１５末っ子のダビデは、サウルの身辺の警護にあたりながら、時々ベツレヘムへ帰り、父の羊を飼う仕事を手伝っていました。　１６ところで、例の巨人は、四十日間、毎日、朝と夕の二回、イスラエル軍の前に姿を現わし、これ見よがしにのし歩いてみせるのでした。
１７　ある日、エッサイはダビデに言いつけました。　「さあ、この炒り麦一枡と、パン十個を、兄さんたちに届けてくれないか。　１８このチーズは隊長さんに差し上げてな、あの子たちの様子を見て来ておくれ。　手紙をことづかるのも忘れんようにな。」
１９　サウルとイスラエル軍は、エラの谷に陣を敷いていました。
２０　そこでダビデは、翌朝はやく、羊を他の羊飼いに任せ、贈り物をかかえて出立しました。　陣営のはずれまで来ると、ちょうどイスラエル軍は、ときの声をあげて戦場へ向

かうところでした。　２１やがて、敵味方、互いににらみ合う態勢となりました。　２２ダビデは持って来た包みを荷物係りに預け、兄たちに会うため陣地へ駆けだしました。２３兄たちと話をしながらふと見ると、敵陣から大男が出て来ます。例のゴリヤテです。　彼はいつものように、ふてぶてしく挑戦してきました。　２４イスラエル軍は、ゴリヤテを見ると、おじ気づいて後ずさりを始めるしまつです。
２５　「あの大男を見ろよ。　イスラエル全軍をなめていやがる。　あいつを倒した者には、王様からしこたまごほうびがいただけるんだとよ。　なんでも、王女様の婿にしてもらえる上、一族はみな税を免除されるそうだぜ。」
２６　ダビデは、ほんとうの話かどうか、そばに立っている人たちに確かめようとしました。　「あのペリシテ人を倒して、イスラエルへの悪口雑言をやめさせれば、何かいただけるのでしょうか。　全く、生ける神様の軍勢に公然と逆らうなんて！　いったい、あの、神様を知らないペリシテ人は何者ですか。」　２７答えは先ほどと変わりません。
２８　ところが、長兄エリアブは、ダビデがそんな話に首を突っ込んでいるのを聞いて、腹を立てました。
「いったい、ここへ来て、何しようっていうんだ。　羊の世話はどうした。　とんでもないうぬぼれ屋の餓鬼め。　いくさ見たさに、のこのこやって来たんだろう。」
２９「ぼくが､何をしたっていうんです？　ただちょっと尋ねただけじゃありませんか。」
３０　ダビデは、ほかの人のところへ行って、次々に同じ質問をして回りました。　だれからも同じような答えが返ってきます。　３１そのうち、ダビデのことばの裏にある意図をくんだだれかが、そのことをサウル王に告げたので、王はダビデを呼びにやりました。
３２　ダビデはきっぱり言いました。「こんなこと、ご心配には及びません。　ぼくが、あのペリシテ人を片づけます。」
３３　「冗談言うな！　おまえみたいな小僧が、どうしてあんな大男と渡り合えるんだ。まだ子供じゃないか。　あいつは小さい時から鍛えた戦士なんだぞ！」
３４　「ぼくは父の羊を飼っているんですが、ライオンや熊が現われて、群れの子羊を奪って行くことがよくあります。　３５そんな時、ぼくは棒を持って追いかけ、その口から子羊を助け出すんです。　もしそいつらが襲いかかって来たら、あごひげをつかんで、たたきのめしてやるんです。　３６ライオンも熊も、こうしてやっつけてきました。　あの、神様を知らないペリシテ人だって、同じ目に会わせてやります。　生ける神様の軍勢をあなどったやつですから。　３７ライオンや熊の爪や歯から救い出してくださった神様は、あのペリシテ人の手からも、ぼくを救い出してくださるに違いないんです！」
サウルは、ついに首をたてに振りました。　「よし、行け。　神様がついておられるように。」
３８３９サウルは、自分の青銅のかぶととよろいをダビデに与えました。ダビデはそれをまとい、剣を着け、試しに一、二歩、歩いてみました。　そんなものを身に着けたことがなかったからです。　「これじゃ、身動きがとれません。」　たちまち彼は悲鳴をあげ、脱

いでしまいました。４０それから、川からなめらかな石を五つ拾って来ると、羊飼いが使う袋に入れました。　そして、羊飼いの杖と石投げだけを持って、ゴリヤテに向かって行ったのです。　４１４２ゴリヤテは盾持ちを先に立て、ゆっくり近づいて来ましたが、紅顔の美少年だとわかると、ふふんと鼻で笑い、どなり散らしました。
４３　「杖なんか持って来やがって、おれ様を犬っころ扱いする気かっ。」彼は自分の神々の名をあげてダビデをのろい、　４４「さあ、来い。　おまえの肉を鳥や獣にくれてやるわい！」と叫びました。
４５　ダビデも負けてはいません。　「おまえは剣と槍で立ち向かって来るが、ぼくは天地の主であり、おまえがばかにしたイスラエルの神様のお名前によって立ち向かうのだ。４６きょう、神様がおまえを打ち負かしてくださる。　おまえの息の根を止め、首をはねてやるからな。　そして、おまえらのしかばねを鳥や獣にくれてやる。　こうして全世界は、イスラエルに神様がおられることを知るんだ。　４７そしてイスラエルは、神様が武器に頼らずにご計画を実現なさるってことを学ぶんだ。　つまり、神様の事業は人間の手だてとは無関係だってことをな。　神様はおまえたちを、われわれの手に渡してくださったのだ。」
４８４９近づいて来るゴリヤテめがけて、ダビデは駆け寄りました。　そして、袋から石を一つ取り出すと、石投げでそれを放ちました。　石は、ゴリヤテの額にみごと命中！　がっちり額にくい込み、巨体は揺らいで、どさりと倒れました。　５０５１ダビデは石投げと石一つで、このペリシテ人の大男をしとめたのです。　剣を持っていなかったダビデは、走り寄ってゴリヤテの剣を抜き放ち、それでとどめを刺して、首をはねました。　さあ、たいへんです。　自分たちのヒーローがやられてしまったのです。　ペリシテ人はしっぽを巻いて逃げ出しました。
５２　イスラエル軍は、どっと勝ちどきをあげると、あとを追いかけ、ガテとエクロンの門まで追跡しました。　シャアライムへ至る道のここかしこに、ペリシテ人の死者や負傷者があふれました。　５３イスラエル軍は引き返して、もぬけの殻のペリシテ人の陣営を略奪して回りました。
５４　ダビデはゴリヤテの首を持ってエルサレムへ行き、ゴリヤテが着けていた武具を自分のテントに保管しました。
５５　サウル王は、ダビデがゴリヤテと戦うために出て行くのを見た時、司令官のアブネルに耳打ちしました。　「アブネル。　あの若者は、どんな家系の出かね。」
「それが陛下、全くわからないんでございます。」
５６　「そうか、では、さっそく調べてくれ。」
５７　ダビデがゴリヤテを倒して来ると、アブネルはペリシテ人の首をかかえたままのダビデを、王の前へ連れて来ました。
５８　「あっぱれ、あっぱれ。　ところで、おまえの父親はどういう者かね。」　王は尋ねました。

「父はエッサイと申して、ベツレヘムに住んでおります。」
一八
１‐３王が一とおりの質問を終えたあと、ダビデは王子ヨナタンに紹介されました。　二人はすぐに仲良くなり、深い友情で結ばれました。ヨナタンはダビデを義兄弟にすると誓い、　４自分の上着、よろいかぶと、剣、弓、帯を与えて、盟約を結んだのです。
王は、今やダビデをエルサレムにとどめ、もはや家に帰そうとはしませんでした。　５ダビデは王の特別補佐官として、いつも任務を完全に果たしました。　それでとうとう、軍の指揮官に任命されたのです。　この人事は、軍部からも一般からも、大いに喜ばれました。　６ところで、ダビデがゴリヤテを倒したあと、勝ち誇ったイスラエル軍が意気揚々と引き揚げて来た時、ちょっとしたことが起こったのです。　あらゆる町々から沿道にくり出した女たちが、サウル王を歓迎し、タンバリンやシンバルを鳴らして、歌いながら喜び踊りました。
７　ところが、女たちが歌ったのはこんな歌でした。「サウルは千人を殺し、ダビデは一万人を殺した！」
８　これを聞いて、王が腹を立てないはずはありません。「何だと。ダビデは一万人で、このわしは千人ぽっちなのか。　まさか、あいつを王にまつり上げる気じゃなかろうな。」
９　この時から、王の目は、ねたみを帯びてダビデに注がれるようになりました。　１０事実、翌日から、神様に遣わされた悩みの霊がサウル王に襲いかかりました。　すると、まるで狂人のようにわめき始めたのです。　そんな王の心を静めようと、ダビデはいつものとおり竪琴をかなでました。　ところが王は、もてあそんでいた槍を、　１１１２いきなり、ダビデめがけて投げつけたではありませんか。　ダビデを壁に突き刺そうというのです。　しかし、さっと身をかわしたダビデは、危うく難を逃れました。　一度ならず二度も、そんなことがあったのです。　それほど王はダビデを恐れ、激しい嫉妬にかられていました。これもみな、神様がサウル王を離れて、ダビデとともにおられたからです。　１３とうとう王は、ダビデを自分の前から退けることにし、職務も千人隊の長にまで格下げしました。　しかし王の心配をよそに、ダビデはますます人々の注目を集めるようになったのです。
１４　ダビデのやることなすことは、みな成功しました。　神様がともにおられたからです。　１５１６サウル王はますますダビデを恐れるようになりました。　イスラエルとユダの人々はみな、ダビデを支持しました。ダビデが国民の側に立って行動したからです。
１７　ある日、王はダビデを呼んで言いました。　「わしはおまえに、長女のメラブをやってもよいと思っておる。　そのためにまず、神様の戦いを勇敢に戦い、真の勇士である証拠を見せてくれ。」　王は内心、「ダビデをペリシテ人との戦いに行かせ、敵の手で殺してしまおう。　わしの手を汚すまでもない」と考えたのです。
１８　ダビデは答えました。　「私のような者が王家の婿になるなど、とんでもございません。　父の家系は取るに足りません。」

１９　ところが、いよいよ結婚という段になると、王は娘メラブをメホラ人のアデリエルと結婚させてしまいました。　２０そうこうするうち、別の娘ミカルが、ダビデを恋するようになったのです。　それを知って喜んだのは王でした。
２１　「しめしめ。　あいつをペリシテ人の手で殺す機会が、また巡って来たわい」とほくそ笑みました。　さっそくダビデを呼びつけると、「今度こそ婿になってくれ。　末の娘をやろう」と言いました。
２２　一方サウル王は、ダビデにこう勧めるよう、家来たちにひそかに命じました。　「陛下はあなたを大そうお気に入りですよ。　わしらもみな、あなたを慕っております。　お申し出を受けて、婿になられたらいいじゃありませんか。」
２３　ダビデは答えました。　「私のように名もない家の貧しい者は、逆立ちしたって、王女様を妻に迎えられるほどの仕度金は用意できませんよ。」
２４　家来たちがこのことを報告すると、　２５王は答えました。　「ダビデに伝えてくれ。　わしが望んでおる仕度金は、ペリシテ人を百人殺して来ることだ。　敵に復讐してくれることこそ、わしの望みだ、とな。」　しかし、王の本心は、ペリシテ人との戦いでダビデが戦死するのを期待していたのです。
２６　ダビデはこの申し出に喜びました。　そこで、期限がくる前に、２７部下を率いて出陣し、ペリシテ人二百人を殺して、その包皮を王に差し出したのです。　これでは、ミカルを与えないわけにはいきません。
２８　王は、神様がダビデとともにおられること、また、ダビデがどれほど民衆の信望を集めているかを、いやと言うほど思い知らされ、２９ますますダビデを恐れるようになりました。　それで、以前にも増して、激しくダビデを憎むようになったのです。　３０ペリシテ軍の攻撃を受けるたびに、ダビデは並み居るサウル王の部将たちをしり目に、はなばなしい戦果をあげました。　ダビデの名声は国中に広がっていったのです。
一九
１　ついにサウル王は、側近や息子のヨナタンにまで、ダビデ暗殺をそそのかすようになりました。　しかしヨナタンは、ダビデと深い友情で結ばれていたので、　２父のたくらみをダビデに知らせました。「あすの朝、野原に隠れ場所を見つけ、潜んでいてくれたまえ。３おやじをそこまで連れ出すから。　そこで、君のことについて話をする。何かわかったら、さっそく知らせるよ。」
４　翌朝、ヨナタンは父と話し合い、ダビデの正しさを力説し、敵視しないでくれと頼みました。
「ダビデは、一つも害をもたらしたりしていませんよ。　それどころか、いつも精一杯、助けてくれました。　５彼が命がけでゴリヤテを倒した時のことを、お忘れになったんですか。　その結果、神様がイスラエルに大勝利をもたらしてくださったのではありませんか。あの時、父上はほんとうにお喜びになりました。　それなのに、なぜ今になって、罪もない者を殺害しようとなさるんです？　そんなことをする理由など少しも見あたりませ

ん。」
６　ついにサウル王もうなずき、「神様が生きておられる限り、ダビデは殺さない」と誓いました。
７　あとで、ヨナタンはダビデを呼び、そのいきさつを話しました。　そしてダビデを王のところへ連れて行くと、すべてが元どおり平穏に取り計られるようになりました。　８まもなくして戦いが始まりましたが、ダビデは兵を率いてペリシテ人と戦い、多数を討ち取りました。ペリシテの全軍は旗を巻いて遁走したのです。
９１０ところが、ある日のことです。　サウル王は家で腰かけ、ダビデのかなでる竪琴に耳を傾けていました。　と、その時、急に、神様から遣わされた悩みの霊が王を襲ったのです。　あっという間もなく、王は手にしていた槍をダビデに投げつけ、刺し殺そうとしました。ダビデはとっさに身をかわし、夜になるのを待って逃げ出しました。槍は壁の横木に突き刺さったままでした。　１１王は兵をやってダビデの家を見張らせました。　朝になって出て来るところをねらって、殺そうというのです。
ミカルはダビデに危険を知らせました。　「逃げるなら、今夜のうちですわ。　朝になったら殺されてしまいます。」
１２　ミカルはダビデを助けたい一心で、窓から地面につり降ろしてやりました。　１３そして、代わりに偶像を寝床に入れ、すっぽり毛布をかけました。　頭は山羊の毛で編んだものを枕にのせました。　１４そこへ、ダビデを捕らえて王のもとへ連行しようと、兵隊たちが踏み込んで来ました。　ミカルは、ダビデは病気で、ベッドから動かせないと告げたのですが、　１５王は、ベッドごとでも連れて来るように命じました。　そのまま殺してしまうつもりだったのです。　１６しかし、運び出そうとした時、偶像であることがばれてしまいました。
１７　サウルはミカルに質しました。　「なぜ、わしをだまして、やつを逃がしたのか。」
「しようがありませんわ。　こうしなければ殺すと、あの人に脅されたんですもの。」
１８　ダビデはラマまで逃げのび、サムエルに会って、サウル王の仕打ちを洗いざらい訴えました。　サムエルはダビデを連れてナヨテに行き、そこでいっしょに住むことにしました。　１９ところが、ダビデがラマのナヨテにいるという報告を受けると、　２０王はダビデを捕らえようと、さっそく兵を差し向けました。　しかし、一行がナヨテに来て、預言をしていたサムエルはじめ預言者の一団を見た時、なんと神の御霊が彼らにも下り、預言を始めたのです。　２１この知らせに、王はほかの兵を遣わしましたが、その一行もまた、預言に加わったのです。　同じことが三度も起こりました。　２２こうなったらと、今度は王自身がラマへ出向き、セクにある大きな井戸まで来ました。
王は、「サムエルとダビデはどこだ」と尋ねました。
尋ねられた人は、「ナヨテにいらっしゃるそうですよ」と答えました。　２３ところが、ナヨテへ向かう途中のこと、神の御霊が下り、王も預言を始めたではありませんか。　２４王は着物を脱ぎ、一昼夜、裸のまま地面に横たわり、サムエルの預言者たちとともに預言

していました。　家来たちは、ただもう目をみはるばかりでした。
思わず、「サウル王も預言者の一人なのか」と口走る者もいました。
二〇
１　今や、ラマのナヨテも危険です。　ダビデは逃げ出し、ヨナタンに会いに来ました。　ダビデは言いました。　「私が何をしたというのだろう。　なぜ、お父上は私なんかの命を、つけねらわれるのだろう。」
２　「そんなばかな！　おやじが、そんなことをたくらんでいるはずがない。　どんなささいなことでも、自分の考えを私に話してくれるんだよ。　まして、こんなことを隠し立てするはずがないじゃないか。ありえないことだよ。」
３　「そうは言うけれど、君が知らないだけだよ。　お父上は、私たちが親友だってことも、よく知っておられる。　だから、『ダビデを殺すことは、ヨナタンには黙っておこう。悲しませるといけないから』と思っておられるに違いない。　ほんとうに、私は死と背中合わせなんだ。　神様と、君の命にかけて誓うよ。」
４「何か、してあげられることがあるかい。　遠慮なく言ってくれ。」
５　「あすから新月の祝いが始まるね。　これまではいつも、私はこの祝いの席にお父上と同席してきた。　しかし、あすは野原に隠れ、三日目の夕方まで潜んでいるつもりだ。６もしお父上が、私のことをお尋ねになったら、こう言ってくれないか。　『ベツレヘムの実家へ行きたいと願い出たので帰しました。 年一回、一族全員が集まるんだそうです。』７もしお父上が、『そうか』とうなずかれるなら、私は取り越し苦労をしていたことになる。しかし、もしご立腹になるなら、私を殺すおつもりだろう。　８義兄弟の契りを結んだ者として、どうか、このことを引き受けてくれ。　もし私がお父上に罪を犯したのであれば、君の手で私を殺してかまわない。　しかし、私を裏切ってお父上の手に引き渡すようなまねだけは、しないでくれ。」
９　「そんなことするわけがないよ！　おやじが君をねらっているとわかったら、君に黙ってなんぞいるもんか。」
１０　「お父上が腹を立てておられるかどうか、どんな方法で知らせてくれますか。」
１１　「そうだな、いっしょに野原へ出てみよう。」　二人は連れ立って出かけました。
１２　ヨナタンはダビデに言いました。　「イスラエルの神様にかけて約束するよ。　あすの今ごろ、遅くともあさっての今ごろには、君のことを話してみよう。　そうして、おやじの気持ちを、さっそく知らせる。　１３もしおやじが腹を立て、君の命をねらっているとわかったら、必ず知らせるよ。　もし知らせずに、君の逃亡を妨げるようなことがあれば、神様に殺されたってかまわない。　かつて神様がおやじとともにおられたように、君とともにおられるように。　１４お願いだ。私が生きている限り、神様の愛と親切を示してくれ。　１５いや、神様が君の敵を一掃されたあとも変わりなく、私の子供たちにまで、神様の愛と親切を示してくれたまえ。」
１６　こうしてヨナタンは、ダビデの家と契約を結びました。　ダビデも、もしこの約束

を破るなら、末代に至るまで恐ろしい罰を受けてもよいと証言して、誓いました。　１７ダビデを深く愛していたヨナタンは、もう一度誓いました。　ヨナタンはわが身同様にダビデを愛していたのです。
１８　ヨナタンは言いました。　「さて、あす、皆は君の席があいているのを気にかけるだろう。　１９あさってになれば、騒ぎだすに違いない。　だから、こうしよう。　前に隠れたことのあるあの石塚のそばにいてくれ。　２０私はその石塚を的にして、正面から三本の矢を放つことにする。　２１それから、少年に矢を拾いにやらせる。　その時もし、『それ、矢はこちら側にあるぞ』と言うのが聞こえたら、すべてが順調で、何も心配ない、ということだと思ってほしい。　２２しかし、『もっと先だ。　矢はおまえの向こうだぞ』と言ったら、即刻、立ち去れという意味だ。　２３どうか神様が、私たち二人に約束を守らせてくださるように。　神様がこの約束の証人だ。」
２４２５ダビデは野原に身を潜めました。
新月の祝いが始まると、王は食事のために、いつもどおり壁を背にして席に着きました。　ヨナタンはその向かい側、アブネルは王の隣に着席しましたが、ダビデの席はあいたままです。　２６その日、王は何も言いませんでした。　「何か思わぬことで身が汚れ、儀式に出るのを遠慮したんだろう。　そうだ、きっとそうに違いない」と思ったからです。　２７しかし、翌日もダビデの席はあいていました。　そこで、ヨナタンに尋ねました。　「なぜダビデは、きのうもきょうも、会食に来ないのだ。」
２８２９「家族に祝い事があるからベツレヘムに行かせてほしい、と願い出たんです。　兄弟からも、ぜひにという要請がありまして、私が許可して行かせました。」
３０　王は怒りで真っ赤になり、わめき散らしました。　「この罰あたりめっ！　どこの馬の骨かもわからんやつの息子に、王座をくれてやるつもりか。　自分ばかりか母親の顔にまで泥を塗りおって！　このわしをごまかせるとでも思っているのか。　３１あいつが生きている限り、おまえは王になれんのだぞ。　さあ、あれを連れ戻して来い。　ぶっ殺してやる！」
３２　ヨナタンも負けてはいません。　「ダビデが何をしたというんです。　どうして、殺さなければならないんですか。」
３３　するとサウルは、ヨナタンめがけて槍を投げつけ、殺そうとしました。　これでついにヨナタンも、父がほんとうにダビデを殺そうとしていることを悟ったのです。　３４ヨナタンは怒りに震えて食卓から立ち去り、その日は何も食べませんでした。　ダビデに対する父の破廉恥とも思える行為のために、ひどく傷ついたからです。
３５　翌朝、打ち合わせどおり、ヨナタンは矢を拾わせる少年を連れて、野原へ出かけました。
３６　「さあ、走って行って、私の射る矢を見つけて来い」と言うと、少年は駆けだし、ヨナタンはその向こうに矢を放ちました。　３７少年が矢の届いた地点に近づくと、ヨナタンは大声で叫びました。　「矢はもっと向こうだ。　３８急げ、早くしろ。　ぐずぐず

するな。」　少年は急いで矢を拾うと、主人のもとへ駆け戻りました。　３９もちろん、少年には、ヨナタンのことばの真意などわかろうはずもありません。ヨナタンとダビデだけが、その意味を知っていたのです。　４０ヨナタンは弓矢を少年に渡し、それを持って町へ帰るよう命じました。
４１　少年が行ってしまうと、ダビデは隠れていた野原の南端から姿を現わしました。　あまりのことに、二人は手を取り合って悲しむばかりです。　涙が二人の頬をぬらしました。ダビデは、涙もかれ果てるまで、大声で泣き続けます。　４２ついにヨナタンが口を切りました。「元気を出してくれ。　私たちは、子供たちの分まで、永遠に神様の御手にゆだね合った仲じゃないか。」　こうして二人は別れました。ダビデは去って行き、ヨナタンは町へ帰りました。
二一
１　ダビデは祭司アヒメレクに会うため、ノブの町へ行きました。アヒメレクはダビデを見ると、ただならぬものを感じて尋ねました。
「どうして、お一人で？　お供はだれもおらんのですか。」
２　「陛下の密使として来たんです。　私がここにいることは、だれにも秘密です。　供の者とは、あとで落ち合う手はずになっています。　３ところで、何か食べる物はないでしょうか。　パン五つでも、何かほかの物でもいいんですが、いただけましたら……。」
４「それが、あいにく普通のパンを切らしておりましてね。　あるのは供え物のパンだけですよ。　もしお供の若者たちが女と寝たりしていなければ、それを差し上げてもかまわんのですがね……。」
５「ご心配なく。　遠征中は、むちゃなまねはさせていませんから。普通の旅でも、身を慎むことになっているんです。　まして、今回のような場合は、なおさらですよ。」
６　そこで祭司は、ほかに食べ物がなかったので、供え物のパンをダビデに恵んでやりました。　神の天幕の中に供えてあったパンです。　ちょうどその日、できたての新しいパンと置き替えたばかりでした。
７　たまたま、その時、サウル王の家畜の管理をしているエドム人ドエグが、きよめの儀式のために、そこにいました。
８　ダビデはアヒメレクに、槍か剣はないかと尋ねました。　「実は、あまりにも急を要するご命令だったもんですから、取るものも取りあえず、大急ぎで出かけて来たんですよ。武器も持って来なかったしまつです。」
９　「それはお困りでしょう。　実は、あなた様がエラの谷で打ち殺した、あのペリシテ人ゴリヤテの剣があるんですよ。　布に包んで押し入れにしまってあります。　武器といえばそれだけですが、よろしかったら、お持ちください。」
「それはありがたい。　ぜひ、いただこう。」
１０　ダビデは急いでいました。 サウル王の追跡の手が伸びているかもしれません。 早くガテの王アキシュのもとにたどり着きたかったのです。　１１ところが、アキシュの家

来たちは、ダビデの出現を喜ばないふうで、「あの人はイスラエルの最高首脳ではないか」とうわさしていました。
「いやあ、確かにそうだ。　だれもが踊りながら、『サウル王が殺したのは千人で、ダビデが殺したのは一万人』とか歌って、ほめそやした人に違いないぞ。」
１２　ダビデはこんな話をもれ聞いて、アキシュ王が自分をどう扱うかわからないと心配になりました。　１３それで、気違いのふりをすることにしたのです。　戸をかきむしってみたり、ひげによだれをたらしたりしたものですから、　１４１５アキシュ王はたまりかね、家来たちに言いました。
「よくも、こんな気違いを連れて来たもんだな。　こんなやつなら、この辺りにもうようよしとるぞ。　何を好きこのんで、歓待せにゃならんのだ。」
二二
１　ダビデはガテを去り、アドラムのほら穴へ逃げのびました。　そうこうするうち、そこに兄弟や身内の者が、おいおい集まって来たのです。　２そのほか、問題や借金をかかえた者、不満をいだいている連中などが集まって来たので、たちまちダビデは、約四百人の子分を持つ頭領となってしまいました。
３　ダビデはこのあとモアブのミツパへ行き、モアブ王に、事態がはっきりするまで両親を保護してもらえないかと頼みました。　４それで両親は、ダビデがほら穴に陣取っていた間、ずっとモアブ王のもとにいたのです。
５　ある日のこと、預言者ガドがダビデに、ほら穴を出てユダへ帰るようにとの、神様のお告げを伝えました。　そこでダビデは、ハレテの森へ移ったのです。　６ダビデがユダに戻ったという知らせは、やがてサウル王に届きました。　ちょうどその時、サウル王はギブアの柳の木の下で、槍をもてあそびながら座っていたところでした。　ぐるりには家来が並んでいました。
７　その知らせを聞いた時、王は声を上ずらせて言いました。「ベニヤミンの者たちよ、よく聞け！　ダビデはおまえたちに畑やぶどう畑をくれ、軍隊の指揮官に取り立ててやるとでも約束したか。　８なのにどうして、おまえたちはわしを欺いた？　だれ一人、わしの息子がダビデに通じていることを、話してくれなかったではないか。　わしのために悲しんでくれる者もおらん。　考えてもみてくれ。　息子が、ダビデがわしを殺しに来るのを助けておるのだ。」
９１０その時、家来の中に同席していたエドム人ドエグが口を開きました。　「私がノブにおりました時、ダビデが祭司アヒメレクと話しているのを見かけました。　アヒメレクは、ダビデのために神様におうかがいを立て、その上、パンとペリシテ人ゴリヤテの剣を与えたのでございます。」
１１１２王は、直ちに、アヒメレクとその全家族、それにノブにいる祭司全員を呼び寄せました。　一同がそろうと、激しい口調でアヒメレクを責めました。　「よく聞け、アヒトブの息子めっ！」

「何でございましょう。」　アヒメレクはびくびくしながら答えました。
１３　「おまえはダビデとぐるになって、このわしに盾つく気か。　どうして、ダビデにパンと剣を与えたり、神様におうかがいを立ててやったりしたんだ。　あいつをたきつけて謀反を起こさせ、わしを攻めさせるつもりだったんだな。」
１４　「とんでもございません。　陛下のご家来方の中でも、婿殿のダビデ様ほど忠義なお方は、ほかにございますまい。　ダビデ様は陛下の護衛隊長であり、王室で最も尊敬を集めているお方ではございませんか。　１５私があの方のために神様におうかがいを立てましたのも、今に始まったことではございません。　このことで私や一族の者が責めを受けますのは、合点がまいりません。　陛下に対する陰謀などとは、全く寝耳に水でございます。」
１６　「アヒメレクめ、一族もろとも命はないものと思え！」　１７そう言うと、王は護衛兵に命じました。「祭司どもをたたっ切れ！　こいつらはダビデと共謀したのだ。　ダビデがわしのもとから逃げ出したのを知りながら、知らせて来ようともしなかったやつらだ。」
しかし護衛兵は、祭司を手にかけるのがこわくて、命令を聞きません。
１８　それで王はドエグに、「おまえがやれ」と命じました。
ドエグは彼らに飛びかかり、全部で八十五人の祭司を血祭りにあげました。　みな祭司の服を着たままでした。　１９次にドエグは、祭司の町ノブへ行き、殺された祭司の家族まで、男も女も、子供も赤ん坊も、牛もろばも羊も、残らず殺してしまいました。　２０ところが、アヒメレクの息子エブヤタルだけは、幸い難を免れて、ダビデのところへ逃げのびたのです。
２１　エブヤタルは、王のしたことをダビデに告げました。　２２ダビデは声を上ずらせて言いました。　「そうだったのか！　あそこでドエグを見かけた時、こいつが王に告げ口するだろう、とにらんではいたのです。　それにしても、私がご一族の死を招いたようなものです。　２３どうか、ここでいっしょに暮らしてください。　命にかけても、お守りします。　あなたに降りかかる害は、わが身に降りかかったも同然ですから。」
二三
１　ある日、ペリシテ人がケイラの打穀場を襲ったという知らせが、ダビデに届きました。
２　ダビデは、「ペリシテ人を攻めに行くべきでしょうか」と、神様にうかがいを立てました。
「よし、ケイラを救いに行け」とのお答えです。
３　ところが、配下の者は、「ユダにいてもこわいくらいですのに、とてもケイラまで行って、ペリシテ全軍を向こうに回す勇気などありません」と反対します。
４　もう一度、神様にうかがいを立てたところ、再びお答えがありました。　「ケイラに行け。　わたしが助けてペリシテ人を征服させよう。」
５　一行はケイラに急行し、ペリシテ人を殺して家畜を没収しました。こうして、ケイラ

の住民は救い出されたのです。　６祭司エブヤタルもダビデとともにケイラへ行き、神様からお告げを受けるために、エポデを携えて行きました。　７まもなく、ケイラにダビデが現われたことは、サウル王の耳にも入りました。
「チャンスだ！　今度こそ、ひっ捕らえてやるぞ。　神様がわしの手に、あいつを渡してくださったのだ。　城壁に囲まれた町の中に飛び込んでくれた、というわけだ。」
８　王は全軍を率いてケイラに進軍し、ダビデとその一党を包囲しようとしました。　９王の魂胆を見抜いていたダビデは、祭司エブヤタルにエポデを持って来させ、どうしたらよいか、神様にうかがわせました。
１０　ダビデは尋ねました。　「イスラエルの神様。　サウル王が襲って来て、ケイラを滅ぼすそうです。　私がここにいるからです。　１１ケイラの人々は私を引き渡すでしょうか。　また、王が攻めて来るという知らせは本当でしょうか。　イスラエルの神様。　どうか、お教えください。」
「攻めて来る。」
１２　「では、ケイラの人々は、サウル王のために私を裏切るでしょうか。」
「そのとおり。　彼らは裏切る。」
１３　そこで、ダビデとその配下の約六百人は、ケイラを抜け出し、片田舎をさまよいました。　ダビデ脱出の報が届くと、王はケイラ攻略を断念しました。　１４１５今やダビデは、ジフの山地の荒野にあるほら穴に住む身となったのです。　ある日のこと、ダビデはホレシュの近くで、サウル王が自分を捜し出して殺そうとジフに向かっている、という報告を受けました。　王は、くる日もくる日もダビデを捜し回っていましたが、神様が、見つからないようにダビデを守ってくださったのです。
１６　王子ヨナタンもダビデを捜していましたが、ホレシュでやっと再会し、神様は真実な方だからと、ダビデを力づけました。
１７　「心配するなよ。　おやじは君を見つけ出せっこないから。　君こそイスラエルの王になる人だ。　私は君の次に立つことになるだろう。　おやじにも、そのことはよくわかっているはずなんだ。」　１８二人は友情を新たに確かめ合い、ダビデはホレシュにとどまり、ヨナタンは帰途につきました。
１９　ところが案の定、ジフの人々はギブアにいる王のもとへ出向き、ダビデを欺いたのです。
「私どもは、ダビデがどこに隠れているか知っております。　荒野の南部、ハキラの丘にあるホレシュのほら穴です。　２０陛下、さあ、お越しください。　長年のご念願がかないますよう、私どもの手でダビデを捕らえ、差し出してご覧にいれましょう。」
２１　「うーむ、それはでかした。　わしに情けをかけてくれる者が、ついに現われたぞ。　２２念には念を入れて、あいつが潜んでいる場所と、だれがそれを見たかを、確認してくれ。　なにしろ、あいつは悪賢いからな。　２３隠れ家を確かめしだい、戻って来て、くわしく報告してくれ。　即刻わしも行こう。　とにかく、この地域にいるとわかれば、草

の根を分けても捜し出すぞ。」
２４２５ジフの人々は帰途につきました。　一方ダビデは、サウル王がジフに向かっていると聞くと、手下を引き連れ、さらに南下して、マオンの荒野に難を避けました。　しかし王は、そこまでも追って来たのです。　２６王とダビデは、今や山を隔てて相対しました。　王とその一行が近づくと、ダビデはうまくそれを避けて退きました。　しかし、まもなくその必要もなくなったのです。　２７ちょうどその時、ペリシテ人がまたもイスラエルに攻め入った、という知らせが届き、　２８王はダビデを追うのを断念して、ペリシテ人と戦うために引き返したからです。　このこと以来、ダビデが陣を敷いていた場所は「逃れの岩」と呼ばれるようになりました。　２９ダビデは次に、エン・ゲディのほら穴に住みました。
二四
１　ペリシテ人との戦いから戻ったサウル王は､ダビデがエン･ゲディの荒野に向かった、と知らされました。　２そこで三千の兵をよりすぐり、野生の山羊のたむろするエエリムの岩のあたりで､ダビデを捜し回ったのです。 ３羊の群れの囲いに沿った道まで来た時、王は用を足そうと、とあるほら穴へ入って行きました。　ところが、驚くなかれ、そのほら穴こそ、ダビデとその手下の隠れ家だったのです。
４　手下の者は､「絶好のチャンスです！　神様は､『わたしはサウルをおまえの手に渡す。思いどおりにせよ』とおっしゃったではありませんか。　いよいよ、その時がきたのです」とささやきました。そこでダビデは、はうように進み、王の上着のすそを、そっと切り取りました。　５ところが、そのことで彼の良心は痛みだしたのです。
６　「ああ、なんてことをしてしまったんだ。　とにもかくにも、神様が王としてお選びになった人に手を下すなんて、大それたことではないか。」
７８このダビデのことばには、皆にサウル殺害を思いとどまらせるに十分な説得力がありました。
王がほら穴から立ち去ると､ダビデも背後からついて行き､「陛下！」と大声で呼びかけました。　王が振り向くと、目の前で、ダビデが地にひれ伏しているではありませんか。
９１０「陛下はなぜ、私が謀反を企てている、などという人のことばに耳をお貸しになるのですか。　たった今、それが根も葉もないことだとおわかりになったはずです。　先ほどのほら穴の中で、神様は、陛下が私に背を見せるようにしてくださったのです。　配下の者は、陛下のお命をちょうだいするようにと勧めました。　しかし私は、それをさえぎったのです。　『陛下に危害を加えてはならない。　この方は、神様がお選びになった王なのだから』と。　１１さあ、これをよくご覧ください。　陛下の上着のすそでございます。　私はこれを切り取りはいたしましたが、お命には手をかけませんでした。　これでもまだ、私が陛下をねらっているとお思いでしょうか。　たとい陛下が私の命をつけねらわれましょうとも、私は謀反の罪など犯してはいないことを、どうかわかっていただきたいのです。

１２　私どもの間のことは、神様がおさばきくださいましょう。　もし陛下が私を殺そうとなさるなら、神様の御手が御身に下ります。　私は決して、自ら陛下に手を下したりいたしません。　１３『悪は悪人のすること』という、ことわざがございます。　たとい陛下が悪いとしましても、私は手を下すようなまねはいたしません。　１４いったいイスラエルの王は、だれを捕まえるおつもりなのですか。　なぜ、息絶えた犬や一匹の蚤にすぎない者を追いかけ回して、時間をむだになさるのですか。　１５どうか神様が、どちらが正しいかをさばき、罪を犯した者を罰してくださいますように。　神様が私を弁護してくださり、陛下の手から救い出してくださいますように。」
１６　「ああダビデよ。　ほんとにおまえはダビデなのか。」　王は声をあげて泣きだしました。　１７「おまえのほうが正しい。　わしの悪行に善をもって報いてくれた。　１８そうだ。　きょう、おまえはなんと深い情けをかけてくれたことか。　神様がわしをおまえの手に渡されたのに、助けてくれたのだ。　１９敵を手中に収めながら逃がしてくれる者が、この世にいるだろうか。　きょうのこの情けに、神様が十分報いてくださるように。
２０これで、よくわかった。　おまえは必ず王になる人物だ。　イスラエルはおまえが治めるべきなのだ。　２１さあ、神様にかけて誓ってくれ。　そうなっても、私の家族を殺さず、家系も絶やさんとな。」
２２　ダビデはそのとおり約束しました。　サウルは帰途につき、ダビデは手下を従えてほら穴に戻りました。
二五
１　その後まもなく、サムエルが世を去りました。　全イスラエルが葬儀に集まり、ラマにある一族の地所の一角に葬りました。
一方、ダビデはパランの荒野に下って行きました。　２ところで、カルメル村の近くにマオン出身の裕福な人がいて、大きな牧場を持っていました。　羊三千頭、山羊千頭がいましたが、ちょうどそのころ、羊の毛の刈り取りが行なわれていたのです。　３牧場主の名はナバルといい、妻はアビガイルという名で才色兼備の誉れ高い婦人でした。ところが、夫のほうは、カレブの子孫なのですが、けちで頑固で、行状もよくないときています。
４　さて、ナバルが羊毛の刈り取りの最中だと聞いたダビデは、　５若者を十人カルメルにやり、こう言わせました。　６「神様の祝福があなたとご一家に注がれ、ますます富を増し加えてくださいますように。７あなたが羊と山羊の毛を刈っておられる、とうかがいました。　以前お宅の羊飼いたちとともに居合わせたことがありますが、私どもは害を加えたりしたことはありません。　また、カルメル滞在中も、盗みを働いた覚えはありません。　８お宅の若い衆にお聞きください。　それが本当かうそか、話してくれましょう。
さて私は今、わずかばかり無心したく、家来を遣わした次第です。　ちょうどおめでたい日でもあり、お手もとにある物を、少しばかり恵んではいただけますまいか。」
９　若者たちはダビデのことばを伝え、ナバルの返事を待ちました。
１０　ところが、ナバルからはこんな答えが返ってきました。　「ダビデだと？　やつが

どうした。　エッサイの息子だか何だか知らんが、いったい何様のつもりでいやがるんだ。　このごろは、主人のもとから逃げ出す奴隷がわんさといる。　１１どこの馬の骨だかわからんやつらに、わしのパンや水や、それに刈り取りの祝いのために殺したこの肉を、どうして、くれてやらにゃならんのだ。」
１２　使いの者は帰って、ナバルが言ったとおり報告しました。
１３　するとダビデは、「みんな剣を取れ！」と命じ、自分も剣を身につけ始めました。　四百人がダビデとともに出立し、あとの二百人は持ち物を守るために残りました。
１４　そうこうしている間のことです。　ナバルの下僕の一人が、アビガイルに一部始終を知らせたのです。　「ダビデ様がだんな様に、荒野から使者を立て、あいさつしてこられましたのに、だんな様ときたら、さんざんその方々を侮辱したり、なじったりなさったんです。１５１６ダビデ様に仕える人たちは、とても私どもによくしてくれまして、こちらが迷惑したことなど一度もございませんでした。　実際、あの方々が、昼も夜も、城壁のようになって、私どもと羊を守ってくださったのです。　おかげで、いっしょにおりました間中、何も盗まれずにすみました。　１７さあ早く、ここは、しかとお考えください。　このままでは、だんな様ばかりか、ご一家がひどい目に会うに決まっております。　だんな様はあのとおり頑固なお方ですから、だれもおいさめできないのです。」
１８　アビガイルは大急ぎで、パン二百個、ぶどう酒の皮袋二つ、調理した羊五頭分、炒り麦六十リットル、干しぶどうの菓子百個、干しいちじくの菓子二百個を取りそろえて、ろばに積み込みました。
１９　そして、若者たちに命じました。　「さあ先にお行き。　私はあとからついて行くから。」　もちろん、夫には何も告げませんでした。２０こうして、ろばで山道を下って行ったところ、ばったり、こちらに向かって来るダビデに出くわしたのです。
２１　ダビデは道々、こう思っていたところでした。　「あいつのために、どれほど尽くしてやったことか。　荒野で、わしらが羊の群れを守ってやったおかげで、一頭も失わず、盗まれもしなかったんじゃないか。　なのに、恩を仇で返しやがった。　あれほど苦労して得たものが侮辱だけだったとはな。　２２あすの朝までに、あの家の者どもは皆殺しだ。　もし一人でも生き残りがいたら、神様にこの身をのろわれてもかまわん。」
２３　アビガイルはダビデを見るや、さっとろばから降り、その前に深々と頭を下げました。
２４　「ご主人様。　この度のことにつきましては、私がすべて非難をお受けする覚悟でございます。　どうぞ、私の申し上げることを、お聞きくださいませ。　２５ナバルは融通のきかないがさつ者でございます。　どうぞ、あの人の申しましたことなど、お気になさらないでください。　名前のとおり、愚か者なのです。　ところで、私は、お使いの方々とはお会いしておりません。　２６ご主人様。　神様はあなた様が血を流しに行くのをやめさせ、復讐を思いとどまらせてくださいましたので、神様にかけて、また、ご主人様の命にかけて、お祈りいたします。　あなた様に刃向かう者はすべて、ナバルと同じように、

のろわれますように！　２７実は、皆様方のために、贈り物を用意してまいりました。　２８厚かましくもこうしてまかり出ましたことを、どうぞお赦しくださいませ。　神様は必ず、あなた様の子々孫々にまで及ぶ永遠の王国を建てて、お報いなさることでございましょう。　あなた様は、神様のために戦っておられるのですもの。　ですから、一生、決して道を踏みはずしたりなさいませんわ。　２９たとい、命をつけねらわれましても、まるで神様の守り袋の中にかくまわれているように、いつも安全に守られていらっしゃいます。反対に、敵の命は、石投げの石のように、飛んで消えてしまうでしょう。　３０３１神様がすばらしい約束をことごとく成し遂げて、あなた様がイスラエルの王に任ぜられました時、ご自分の判断で人を殺したりしたような覚えがあってはなりませんわ。　神様がこれらのすばらしいわざを成し遂げられたあかつきには、どうか、この私のことを思い出していただきとうございます。」
３２　「きょう、あなたを私に会わせるためによこしてくださった、イスラエルの神様に感謝しよう。　３３全くりっぱな良識を備えた人だ。私を人殺しの罪から守り、自分の手で復讐しようとしていたのを思いとどまらせてくれて、ありがとう。　３４あなたに害を加えるのをとどめてくださった、イスラエルの神様にかけて誓うが、もしあなたが来てくれなかったら、ナバル家の者は一人残らず、あすの朝までに息の根を止められていたことだろう。」
３５　ダビデはアビガイルの贈り物を受け取り、夫を殺したりしないから、安心して家へ帰るように言いました。　３６アビガイルが帰宅すると、ナバルはどんちゃん騒ぎの真っ最中でした。　ぐでんぐでんに酔っていたので、翌朝まで、ダビデに会ったことについては、ひと言も話しませんでした。　３７３８朝になって、酔いもさめたナバルにきのうのことを話すと、彼は卒倒し、十日間というもの意識不明のまま寝込み、ついに息絶えたのです。　神様がいのちを取り去ったからです。
３９　ナバルの死を知らされたダビデは、「神様はすばらしい。　私には手を下させず、ご自分で報復してくださった。　ナバルは当然の罰を受けたのだ」と言いました。
ダビデは即刻、アビガイルに使者を遣わし、自分の妻になるように申し入れたのです。　４０使者がカルメルに着いて、その旨を伝えると、　４１彼女はためらうことなく申し出に応じました。　４２さっそく仕たくを整えると、五人の侍女を従えて、ろばに乗り、使者について行きました。　こうして彼女は、ダビデの妻となったのです。
４３　ダビデは、イズレエル出身のアヒノアムをも妻にしていました。　４４一方サウル王は、ダビデの妻である娘ミカルを、ライシュの息子で、パルティというガリム出身の男と、むりやり結婚させていたのです。
二六
１　ところで、ジフの人々はギブアにいるサウル王に、ダビデが荒野に舞い戻り、ハキラの丘に隠れていると知らせました。　２王は三千の精兵を率いて、ダビデ討伐に出かけました。　３４そして、ダビデが潜んでいる荒野のはずれにある道のかたわらに陣を張った

のです。サウル到来を知ったダビデは、スパイを送って、王の動静を探らせました。
５－７ある夜、ダビデは王の陣営にもぐり込み、様子を見て回りました。　サウル王とアブネル将軍は、ぐっすり眠りこけている兵士たちに囲まれて寝入っていました。
ダビデは、ヘテ人アヒメレクと、ツェルヤの息子で、ヨアブとは兄弟のアビシャイとに、「だれか私といっしょに行くのを志願せんか」と尋ねました。
アビシャイが、「お供いたします」と進み出ました。　そこでダビデとアビシャイは、サウル王の陣営に行き､眠っている王を見つけました。 枕もとには槍が突き刺してあります。
８　アビシャイはダビデの耳もとでささやきました。　「きょうこそ、神様はまちがいなく､敵を討ち取らせてくださいます。　どうか､あの槍で王を刺し殺させてください。　ひと突きでしとめてご覧にいれます｡」
９　ダビデはそれを制しました。　「殺してはならん。　神様がお選びになった王に手を下して、罪を犯してはならんのだ。　１０神様が、いつの日か必ず、王をお打ちになるだろう。　年老いて死ぬか、戦場で倒れるかしてな。　１１しかし、神様が王としてお選びになった人を、この手で殺すわけにはいかない。　今はあの槍と水差しを取って行くだけにしよう｡」
１２　こうしてダビデは、槍と水差しを取り、陣営を出て行きました。二人を見た者も目を覚ました者もありませんでした。　神様がぐっすり眠らせてくださっていたからです。
１３二人は陣営を見下ろす山に登りました。　そこはもう安全圏です。
１４　ダビデは、アブネルやサウル王に大声で呼ばわりました。
「アブネル、目を覚ませ！」
「だ、だれだ？」
１５　「よおー、アブネル。　たいしたもんだよ、おまえってやつは。イスラエル中捜したって､おまえほどおめでたいやつはおらんぞ。 主君と仰ぐ王様の警護はどうした。 王様を殺そうと、忍び込んだやつがいるというのにな！　１６全くけしからんじゃないか。神様にかけて言うが、おまえみたいな間抜けは死ねばいいんだ。　王様の枕もとにあった槍と水差しは、どうした。　よーく見てみろ！」
１７１８サウル王は、これがダビデの声だとわかると、「ああ、ダビデ。その声は、おまえか」と尋ねました。
「はい、陛下、さようでございます。　なぜ陛下は、私を追い回すのですか。　私が何をいたしましたか。　どんな罪があるとおっしゃるのでしょう。　１９もし神様が、陛下を私に敵対させようと図っておられるのなら、神様に陛下の和解のいけにえを受け入れていただきましょう。　しかし、これが人間の計略にすぎないのであれば、その人は神様にのろわれるでしょう。　陛下は私を追い払って、神様の国民とともにおられないようにし、異教の神々を押しつけようとなさったからです。　２０どうして、神様の前から遠く離され、異国の地に骨を埋めなければならないのでしょうか。　イスラエルの王ともあろうお方が、たかが、しゃこのような私をねらって、山の中まで駆けずり回られるとは｡」

２１　「わしがばかだった。　ああダビデ、帰って来い。　もう、おまえを殺そうとはせんぞ。　おまえはきょうも、わしを助けてくれたのだ。　あさはかだった。　ほんとうに、とんでもない間違いをしでかしてしまった。」
２２　「ここに陛下の槍がございます。　若者の一人を、取りに来させてください。　２３神様は、良いことを行なう者に、また真実を貫く者に、正しく報いてくださいます。　神様は陛下のおいのちを、手の届くところに置いてくださいましたが、私は手出しいたしませんでした。２４きょう、私がおいのちをお救いしたように、神様は、私をお救いくださるでしょう。　すべての苦しみから助け出してくださるはずです。」
２５　「わが子ダビデよ、おまえに祝福があるように。　おまえは必ず英雄的な働きをして、偉大な勝利者となるだろう。」
こうしてダビデは去って行き、サウル王は家路につきました。
二七
１　しかし、ダビデは心中、こう考えていました。　「いつか、王は私を捕らえようとやって来るに違いない。　そうだ、ペリシテ人の中にまぎれ込んで、運だめしをしてみよう。そしてついに王が追跡をあきらめてくれれば、何も心配はなくなるのだ。」
２３ダビデは六百人の手下とその家族を引き連れ、アキシュ王を頼って、ガテに移り住みました。　ダビデの二人の妻、イズレエル人アヒノアムと、ナバルの未亡人であったカルメル人アビガイルもいっしょでした。　４ダビデがガテに逃げたという知らせを聞くと、サウル王はダビデ追跡をやめました。
５　ある日のこと、ダビデはアキシュに願い出ました。　「陛下、もしお許しいただけますなら、このような都にではなく、もっと田舎の町に住まわせていただきたいのですが。」
６　そこでアキシュは、ツィケラグをダビデに与えました。　それでこの町は、今もユダの王様のものとなっています。　７ダビデの一行がペリシテ人の中で暮らしたのは、一年四か月でした。　８彼らは、もっぱらゲシュル人、ゲゼル人、アマレク人を襲って過ごしました。　その人々は、昔から、エジプトに通じる道沿いの、シュルの近くに住んでいたのです。　９襲った村々には、生存者は一人もありませんでした。　彼らは、羊、牛、ろば、らくだ、それに着物などを奪って引き揚げました。
１０　アキシュが、「きょうは、どこを襲ったのかね」と尋ねると、ダビデは、ユダの南部とか、エラフメエルの人々やケニ人を相手に戦ったとか答えていました。
１１　とにかく、生き残ってガテまで来る者は一人もなかったわけですから、実際にどこを襲ったのか、その真相は明らかになりようがなかったのでした。　ペリシテ人の中にまぎれ込んで暮らしている間、ダビデはこんなことをくり返していました。　１２アキシュはダビデを信用し、今ではイスラエル人はダビデをひどく憎んでいるに違いない、と思い込んでしまいました。　そして、「ダビデはいつまでもここにいて、仕えてくれるだろう」と思ったのです。
二八

１　そのころ、ペリシテ人はイスラエルと戦争を始めようとして、軍隊を召集しました。　アキシュ王はダビデとその部下に、「いっしょに出陣してくれ」と頼みました。
２　ダビデは二つ返事で承知しました。「いいですとも。　仰せのとおりにいたします。」
「やってくれるか。　君には、わしの護衛を受け持ってもらおう。」
３　同じころ、イスラエルではサムエルが死んで、国中が喪に服していました。　遺体は故郷の町ラマに葬られました。　またサウル王は、イスラエルから霊媒や口寄せを追放していました。
４　さて、ペリシテ人はシュネムに、サウル王の率いるイスラエル軍はギルボアに、それぞれ陣を構えました。　５６サウル王はペリシテ人の大軍を見て、恐ろしさのあまり半狂乱となり、どうすべきか、神様にうかがいを立てました。　しかし神様は、夢によってもウリム〔神意をうかがう一種のくじ〕によっても、また預言者によっても、答えてはくださらなかったのです。　７８やむなく、家来に、霊媒を捜し出してくるよう命じました。　どうしても、うかがいを立てたかったからです。　エン・ドルに一人の霊媒がいることがわかりました。　サウルは王衣を脱ぎ、ふつうの身なりに着替えて、家来を二人だけ連れ、夜、その女の家に出向きました。
「死んだ人間と話したいんだが、その人の霊を呼び出してくれんか。」
９　「私を殺すつもりかい。　知ってるだろう、王様が霊媒や口寄せを、片っぱしから追放なさったことをさ。　きっと、あんたら、私を探りに来たんだね。」
１０　そこでサウル王は、裏切るようなことは絶対にしない、と厳粛な誓いを立てました。
１１　とうとう女も承知しました。　「わかったよ、いったいだれを呼び出しゃいいんだい。」
「サムエルを呼び出してくれ。」
１２　霊媒の女はサムエルの姿を見たとたん、大声で叫びました。
「よくもだましてくれたね。　あんたはサウル王じゃないか。」
１３　「びっくりしないでくれ。　さあ、何が見えるんだ。」
「亡霊のような方が地から上って来ます。」
１４　「どんな様子だ。」
「外套をまとった老人です。」
サムエルです。　サウル王はその前にひれ伏しました。
１５　サムエルは尋ねました。「どうして、わしを呼び出したりして、わずらわすのか。」
「私はもう、途方にくれてしまったのです。　ペリシテ人が攻めて来るのに、神様は私をお見捨てになり、預言者によっても、夢によっても、答えてはくださいません。　思いあぐねて、あなた様をお呼びしたのです。」
１６　「神様がおまえから離れ、敵となってしまわれたのに、なぜ、わしになんぞ尋ねるのじゃ。　１７神様は、予告どおりのことをなさったまでですぞ。　おまえから王位を取り去り、ライバルのダビデにお与えになった。　１８こうなったのもみな、おまえがあの

時、アマレクに激しい怒りを向けておられた神様のご命令を、踏みにじったからだ。　１９よいか、事はそればかりではすまんぞ。　あす、イスラエル全軍は総くずれとなり、ペリシテ人の手で滅ぼされてしまうだろう。　おまえも息子たちも、わしといっしょになるじゃろう。」
２０　サウルは地面に棒のように倒れてしまいました。　サムエルのことばを聞いて、恐怖のあまり卒倒したのです。　それに、まる一日何も口にしていないこともありました。
２１女はサウルが錯乱しているのを見て言いました。「王様。　私は、命がけでご命令に従ったんです。　２２今度は、こっちの言うとおりにしてください。　食べる物を差し上げますから、それで元気を取り戻してお帰りください。」
２３　王は首を横に振りました。　しかし、供の者たちもいっしょになって、しきりに勧めたので、ついに折れ、起き上がって、床に座りました。　２４その家には、太った子牛がいました。　女は急いで子牛を料理し、小麦粉をこねてイースト菌抜きのパンを焼きました。　２５料理が運ばれると、一同は食事をし、夜のうちに立ち去ったのです。
二九
１　さて、ペリシテ軍はアフェクに集結し、イスラエル軍はイズレエルにある泉のほとりに陣を張りました。　２ペリシテ軍の隊長たちは大隊や中隊を率いて進軍し、ダビデとその配下はアキシュ王を守ってしんがりを務めました。
３　ところが指揮官たちは、「このイスラエル人どもは、いったいどうしたんです」と質し始めたのです。
するとアキシュ王は、「イスラエルの王サウルの家来、ダビデじゃよ。　わしのもとに落ちのびて、一、二年になるが、きょうまで、一つもやましい点がなかったぞ」となだめ役に回りました。
４　しかし、指揮官たちは腹を立てるばかりです。「追い返してください！　やつらがいっしょに戦うはずはありませんよ。　ま、せいぜい裏切られるのが落ちです。　戦場で寝返ってみなさい。　それこそ、主君と仲直りする絶好のチャンスですよ。　５イスラエルの女が踊りながら、『サウル王は千人を殺し、ダビデは一万人を殺した！』と歌ったのは、この人のことなんですから。」
６　とうとうアキシュは、ダビデたちを呼んで、こう言い渡さなければなりませんでした。
「神様に誓って言うが、おまえたちは、わしがこれまで会った中でも、ことにすぐれた面々じゃ。　ぜひ行動を共にしてもらいたかったが、あの指揮官どもが、うんと言わんのじゃ。
７連中を刺激してはまずい。　ここは穏やかに引き返してくれんか。」
８　「いったい私どもが何をしたでしょう。　引き返せとはあんまりです。　どうして、陛下の敵と戦わせていただけないんでしょうか。」
９　しかし、アキシュ王は首を振りました。　「わしが知る限り、おまえは神様の使いみたいに完璧だ。　だがな、あの指揮官どもは、いっしょに戦場に臨むのを恐れておるのだ。
１０あすの朝、早く起きて、夜明けとともに出立してくれ。」

１１　しかたありません。 ダビデは一隊を率いてペリシテ人の地へ帰りました。 一方、ペリシテ軍はイズレエルへと進軍しました。
三〇
１　三日後、ダビデたちがツィケラグの町に帰り着いてみると、どうでしょう。　アマレク人が町を襲って焼き払い、　２女や子供をみな連れ去ったあとだったのです。　３一行は、町の焼け跡を見て、家族の身に起こったことを知り、　４声がかれ果てるまで大声で泣きました。　５ダビデの二人の妻、アヒノアムとアビガイルも連れ去られました。　６ダビデの悩みも一方ではありません。　もっと悪いことに、子供たちの身を案じて悲しむあまり、ダビデを殺そうとする動きさえ出始めたのです。　しかし、ダビデは神様から力づけられました。
７　ダビデは、祭司エブヤタルにエポデを持って来させました。
８　神様にうかがいを立てようというのです。　「やつらを追うべきでしょうか。　追いつけましょうか。」
神様はお答えになりました。 「よし、追いかけよ。　奪われたもの全部を取り返すのだ。」
９１０ダビデはそれっとばかり、六百人を率いて、アマレク人を追撃しました。　ベソル川まで来た時、二百人の者は疲れきって渡ることができず、四百人だけが前進しました。
１１１２追撃の途中、野原で一人のエジプト人の若者に出くわしました。　さっそくダビデの前に連れて行くと、三日三晩、何も口にしていないというのです。　そこで、干しいちじくと、干しぶどう二ふさ、それに水を少し与えると、すぐに元気になりました。
１３　ダビデは、「何者だ。　どこから来たのか」と尋ねました。
「エジプト人で、アマレク人の召使でした。　ところが病気になったものですから、三日前に、主人が置き去りにして行ったのです。１４私どもはネゲブのケレテ人を襲って帰る途中、ユダの南部とカレブの地をも襲い、ツィケラグを焼き払いました。」
１５　「アマレク人がどこへ行ったか、案内してくれるか。」
「いのちを助けてくれますか。　主人に渡したりしませんか。もし、神様にかけて誓っていただけるなら、案内いたしましょう。」
１６　こうしてその若者は、ダビデ一行をアマレク人の陣営に案内しました。　彼らはあたり一面に散らばって、食べたり飲んだり踊ったり、どんちゃん騒ぎの真っ最中でした。ペリシテ人やユダの人々から、戦利品を山ほど手に入れたからです。　１７ダビデと手下の者はその中に突入し、晩から翌日の夕方までかかって、敵を打ち殺しました。らくだに乗って逃げた四百人の若者のほかは、一人も取り逃がしませんでした。　１８１９アマレク人に奪われたものは残らず取り戻しました。だれもかれも家族を救い出し、持ち物をぜんぶ取り返したのです。もちろん、ダビデの二人の妻も救い出されました。　２０一隊は羊や牛の群れを駆り集め、群れを先導して行きました。　皆はダビデに、「これは全部、あなた様のものでございます。　あなた様のご功績ですから」と言いました。
２１　さて、二百人が極度の疲労のため前進を断念した、例のベソル川まで来ると、ダビ

デは喜んでその人々の歓迎にこたえました。　２２ところが、家来の中には意地の悪い者もいて、口々にこう言い始めたのです。　「連中はいっしょに行かなかったのだから、戦利品の分け前をやることはない。　妻子だけ返してやって、帰らせよう。」
２３　しかし、ダビデはさとしました。　「おまえたち、それはいけない。　神様が守り助けてくださったおかげで、敵を打ち破れたんじゃないか。　２４そんなことを言って、いったいだれが納得すると思っているんだ。戦いに行く者も、銃後の守りを固める者も、平等に分け合おうじゃないか。」
２５　以来、ダビデはこのことを全イスラエルの規律としましたが、今もそのとおり行なわれています。
２６　ダビデはツィケラグに帰ると、ユダの長老たちに戦利品の一部を送り、「これは、神様の敵から奪い取ったもので、皆さんへの贈り物です」と書き添えました。　２７－３１贈り物が届けられたのは、ダビデたちが立ち寄ったことのある、次の町々の長老たちです。
ベテル、ネゲブのラモテ、ヤティル、アロエル、シフモテ
エシュテモア、ラカル、エラフメエル人の町々
ケニ人の町々、ホルマ、ボル・アシャン、アタク、ヘブロン
三一
１　その間に、ペリシテ人はイスラエル人と戦いを始めました。　イスラエル軍はあえなく敗走し、ギルボア山で大多数が戦死しました。
２ペリシテ軍はサウル王を追い詰め、息子のヨナタン、アビナダブ、マルキ・シュアを殺しました。
３４なお、射手たちはサウル王をねらい打ちにし、ついに致命傷を負わせました。　王は苦しい息の下から、よろい持ちの護衛兵に言いました。　「あの、神様を知らぬペリシテ人に捕らえられて恥辱を受けるより、いっそ、おまえの剣で殺してくれ。」　しかし、よろい持ちが恐れてためらっていると、王は自分の剣を取り、その切っ先の上にうつ伏せに倒れ、壮烈な最期を遂げてしまいました。　５王の死を見届けると、よろい持ちも、自ら剣の上にうつ伏せに倒れ、殉死しました。　６こうして、同じ日のうちに、王と三人の息子、よろい持ち、それに兵士たちが、次々に死んだのです。
７　谷の向かい側やヨルダン川の対岸にいたイスラエル人は、味方の兵士たちが逃げ出し、王とその息子たちが死んだことを聞くと、町々を捨てて逃げ去りました。　それで、その町々にはペリシテ人が住むようになったのです。
８　翌日、ペリシテ人は死者たちの遺品をはぎ取りに来て、ギルボア山で倒れた、サウル王と三人の息子の遺体を発見しました。　９彼らは王の首を切り、武具をはぎ取りました。そして、国中の偶像と国民とに、サウル王を討ち取ったという朗報を伝えました。
１０　サウル王の武具はアシュタロテの宮に奉納され、しかばねはベテ・シャンの城壁にさらされました。
１１　ヤベシュ・ギルアデの住民は、このペリシテ人の仕打ちを聞くと、　１２さっそく

勇士をよりすぐって、夜通し、ベテ・シャンめざして進軍させました。　彼らはサウル王とその息子たちの死体を城壁から降ろし、ヤベシュに運んで火葬にしたのです。　１３そのお骨はヤベシュにある柳の木の根もとに葬られ、人々は七日のあいだ断食して、喪に服しました。

▪

王国成立記　下（サムエル記Ⅱ）
本書は、大部分が、およそ四十年にわたるダビデの統治について記されています。　ダビデ王の即位に始まり、王位を主張する他の人々に対して確固とした地位を築いていくさまや、エルサレムに首都を移し、契約の箱を運び込み、ついにはペリシテ人を打ち破ることなどが、主な内容です。　息子アブシャロムにまつわる家族の問題や、バテ・シェバとの姦淫という個人的な問題を含めて、ダビデの生涯の暗い面についても、くわしく描かれています。

一
１２サウルは死に、ダビデはアマレク人を打ち破って、ツィケラグに引き揚げて来ました。その三日後、イスラエル軍から一人の男がやって来ました。　男は、破れた服をまとい、頭にちりをかぶっていて、ひと目で喪中にあるとわかります。 彼はダビデの前に出ると、深い敬意を表わして地にひれ伏したのです。
３　「どこから来たのだ。」
「イスラエルの陣営からまいりました。」
４　「何かあったのか。　戦いの様子はどうなんだ。」　ダビデは急き込んで尋ねました。
「イスラエル全軍は散り散りです。　何千という兵士が死に、また負傷して、野原に倒れています。　サウル王も、ヨナタン王子も殺されました。」
５　「王とヨナタンが死んだって！　どうしてわかったのだ。」
６　「私はギルボア山におりましたが、槍にすがってようやく立っている王様めがけて、敵の戦車が突き進むのを見たのです。　７王様は私を見るなり、こっちへ来いと叫ばれました。　急いでおそばに駆け寄りますと、
８　『おまえはだれか』とお尋ねになります。
『アマレク人でございます』とお答えしましたところ、
９ 『さあ、わしを殺せ。 この苦しみから救ってくれ。 虫の息で生き長らえるなんて、まっぴらだ』とおっしゃるのです。
１０　そこで私は、もう時間の問題だ、と察したものですから、あの方を殺しました。　あの方の王冠と腕輪の一つを持ってまいりました。」
１１　この知らせを聞いて、ダビデと家来たちは悲しみのあまり、めいめい衣服を引き裂きました。　１２彼らは、死んだサウル王とその子ヨナタン、それに、神様の国民と、その日いのちを落としたイスラエル人のために喪に服し、泣きながら、まる一日断食したのです。
１３　ダビデは、王の死を告げた若者に言いました。
「おまえはどこの者だ。」
「アマレク人でございます。」
１４　「どうして、神様に選ばれた王を手にかけた」と、ダビデは詰め寄りました。

１５　そして配下の若者の一人に、「こいつを殺せ！」と命じたのです。　若者は剣を振りかざして走り寄り、そのアマレク人の首を打ち落としました。
１６　ダビデは言いました。　「自業自得だ。　自分の口で、神様がお立てになった王を殺した、と証言しおったのだからな。」
１７１８ダビデは、サウル王とヨナタンにささげる哀悼の歌を作り、のちに、これがイスラエル中で歌い継がれるように、と指示しました。『英雄詩』に載ったその詩を、次に紹介しましょう。
１９　「ああ、イスラエル。
おまえの誇りと喜びは、しかばねとなって丘に横たわる。
大いなる英雄たちは倒れた。
２０　ペリシテ人には告げるな。　喜ばせてなるものか。
ガテとアシュケロンの町にも極秘だ。
神様を知らない連中を勝ち誇らせてなるものか。
２１　ギルボアの山よ、
露も降りるな。　雨も降るな。
いけにえのささげられた野にも。
偉大なサウル王が倒れた地だから。
ああ、その盾は油も塗られず打ち捨てられた。
２２　最強の敵を打ち殺したサウル王とヨナタンは
空手で戦場から引き揚げたりはしなかった。
２３　ああ、サウルもヨナタンもどれほど愛され、
どれほどすぐれた人物であったことか。
生死を共にした彼ら。
鷲よりも速く、ライオンよりも強かった。
２４　さあ、イスラエルの女よ、サウル王のために泣け。
王はおまえたちを惜しげもなく着飾らせ、
金の飾りをまとわせてくれた。
２５　その偉大な英雄が、戦いの最中に倒れたのだ。
ヨナタンは山の上で殺された。
２６　わが兄弟ヨナタン。
おまえのために、どれほど涙を流したことか。
おまえをどれほど愛していたことか！
おまえの私への愛は、女の愛も及ばなかった！
２７　ああ、勇士たちは倒れ、
武器は奪い去られた。」
二

１　その後、ダビデは神様に、「ユダに戻るべきでしょうか」と、うかがいを立てました。すると、「そうせよ」とのお答えです。
「どの町へ行けばよろしいでしょうか。」
「ヘブロンへ。」
２３そこで、ダビデと二人の妻、および家来とその家族全員は、そろってヘブロンに移りました。　二人の妻というのはイズレエル出身のアヒノアムと、カルメル出身のナバルの未亡人アビガイルでした。４すると、ユダの指導者たちが集まって、ダビデをユダの王にしました。
ダビデは、ヤベシュ・ギルアデの人々がサウル王を葬ったと聞いて、　５さっそく使者を立てました。　「主君に忠誠を尽くし、丁重に葬ってくれたあなたがたに、神様の豊かな祝福があるように。　６どうか、神様が真実をもって報いてくださり、その恵みと愛を表わしてくださるように！　私からも礼を言おう。　感謝のしるしに、できるだけのことをしよう。　７そこでお願いだが、サウル王亡き今、私のもとで、忠実でりっぱな兵士として励んでくれまいか。　私を王に立ててくれたユダ部族のようであってほしいのだ。」
８　さて、サウルの最高司令官であったアブネルは、サウルの息子イシュ・ボシェテを王位につかせようと、マハナイムに移り住んでいました。　９その支配は、ギルアデ、アシュル、イズレエルをはじめ、エフライムやベニヤミンの部族、その他の全イスラエルに及んでいました。　１０１１イシュ・ボシェテは四十歳で王位につき、二年間、マハナイムで治めました。　一方ダビデは、ユダの王として、七年半にわたり、ヘブロンで君臨していたのです。
１２　ある日、アブネル将軍は、イシュ・ボシェテの軍隊の一部を率いて、マハナイムからギブオンに向かっていました。　１３一方、ツェルヤの息子、ヨアブ将軍も、ダビデの一隊を率いてギブオンに出向きました。　両者はギブオンの池のほとりで出会い、池をはさんで向かい合ったのです。　１４アブネルはヨアブに提案しました。　「若い者同士で、剣の腕を競わせようではないか。」
ヨアブも異存はありません。　１５さっそく十二人ずつの兵士が選ばれ、死闘を演じることになりました。　１６互いが敵の髪の毛をつかんでは、相手のわき腹に剣を突き刺し、結局、全員が死んだのです。　以来、ここはヘルカテ・ハツリム〔剣が原〕と呼ばれるようになりました。
１７　これが口火となって両軍は戦闘状態に陥り、その日のうちに、アブネルとイスラエル軍は、ヨアブの率いるダビデ軍の手でさんざんな目に会いました。　１８ヨアブの兄弟アビシャイとアサエルも、戦いに参加していました。　かもしかのように素早く駆けるアサエルが、　１９逃げるアブネルを追いかけました。　ほかのものには目もくれず、ひとり逃げるアブネルを、一心不乱に追い続けました。
２０　アブネルは振り向きざま、追いかけて来る敵を見て、「アサエルではないか」と呼びかけました。

「そうだ。」
２１　「ほかのやつを追え！」と、いくらアブネルが言っても、アサエルは耳を貸さず、なおも追撃の手をゆるめません。
２２　もう一度、アブネルは叫びました。　「あっちへ行け。　もしおまえを殺すことにでもなれば、おまえの兄ヨアブに顔向けができんわい！」
２３　それでも、向きを変えようとしません。　とうとうアブネルは、槍の石突きをアサエルの下腹部に突き刺しました。　なんと、槍は背中まで刺し貫いたではありませんか。アサエルはばったり倒れ、息絶えました。　彼が死んでいる有様を見た者はみな、かたずを呑んで見守りました。
２４　今や、ヨアブとアビシャイがアブネルを追う番です。　ギブオンの荒野の道沿いにあるギアハの近くのアマの丘まで来た時、ちょうど太陽が沈み始めました。　２５ベニヤミン部族から召集されたアブネルの一隊は、丘の上で隊を整えていました。　２６アブネルは、ふもとのヨアブに向かって叫びました。　「いつまでも殺し合いを続けてはいられん。　いつになったら、同胞同士で争うのをやめさせるつもりだ。」
２７　ヨアブは答えました。　「神様に誓うが、もしおまえがそう言ってくれなければ、われわれはみな、あすの朝まで引き返しはしなかっただろう。」　２８ヨアブがラッパを吹くと、兵士たちはイスラエル軍の追跡をぴたっとやめました。
２９　その夜、アブネルと兵士たちは、ヨルダン渓谷づたいに退却し、ヨルダン川を渡り、翌朝まで歩き続けて、ようやくマハナイムに帰り着きました。　３０ヨアブの一隊も、それぞれ帰りました。　死傷者を数えてみると、欠けたのは兵士十九人とアサエルだけでした。　３１一方、全員がベニヤミン部族であったアブネル側では、戦死者は三百六十人にのぼりました。　３２ヨアブの一隊は、アサエルの死体をベツレヘムへ運び、父親のかたわらに葬りました。　それから夜通し歩いて、夜明けごろ、ヘブロンに着いたのです。
三
１　これが、サウル家とダビデ家との長い戦いの始まりでした。　ダビデがますます権力を増していくのに反して、サウル王家は衰えていきました。
２　ダビデは、ヘブロン生活の間に、息子を数人もうけました。　長男のアムノンは、妻アヒノアムから生まれました。　３次男のキルアブは、カルメル人ナバルの未亡人だったアビガイルから生まれました。　三男アブシャロムの母親は、ゲシュルの王タルマイの娘マアカでした。４四男アドニヤはハギテから、五男シェファテヤはアビタルから、５六男のイテレアムはエグラから生まれました。
６　戦争状態の中、アブネルはサウル家で、押しも押されぬ政治的指導者にのし上がっていきました。　７その地位を利用して、サウル王のそばめの一人だったリツパという娘と、関係をもつようにもなりました。　そのことでイシュ・ボシェテから責められると、　８アブネルはひどく腹を立てました。
「たかがこれくらいのことで、文句を言われなきゃならんユダの犬なんですかね。　だれ

のおかげで、ダビデに売り渡されずにすんだんです？　あなたのため、お父上のため、どれほど、この私が尽くしてきたことか。　それがどうです。　あの女のことで難くせをつけて、恩を仇で返すおつもりとは……。　９１０覚えておいてください。　神様のお告げどおり、ダンからベエル・シェバに至る全王国を、あなたから取り上げて、ダビデにやりますよ。　もしできなかったら、この首を差し上げましょう。」
１１　イシュ・ボシェテは返すことばもありません。　アブネルを恐れたからです。
１２　アブネルはダビデに使者を立て、次の件を申し入れました。　イスラエル王国を引き渡すのと交換に、自分を、イスラエルとユダの連合軍の最高司令官にしてほしいというのです。
１３　ダビデは答えました。　「よかろう。　ただし、わしの妻である、サウル王の娘ミカルを連れて来い。　それが条件だ。」　１４それからダビデは、使者を立て、イシュ・ボシェテに申し入れました。　「私の妻ミカルを返してください。　ペリシテ人百人のいのちと引き替えにめとった妻です。」
１５　それでイシュ・ボシェテは、ミカルをその夫、ライシュの子パルティエルから取り返しました。　１６パルティエルはバフリムまで、泣き泣きあとを追って来ましたが、アブネルに「もう帰れ」と言われて、すごすご引き返して行きました。
１７　その間、アブネルはイスラエルの指導者たちと協議し、一同が長年ダビデの支配を望んでいたことを、確かめました。
１８　「今こそ、時がきたのだ！　神様が、『わたしはダビデによって、わたしの国民をペリシテ人から、また、すべての敵から救い出そう』とおっしゃったではないか。」　アブネルはきっぱり宣言しました。
１９　アブネルはまた、ベニヤミン部族の指導者たちとも話し合いました。　それからヘブロンへ行き、イスラエルおよびベニヤミンの人々との会見の経過を、ダビデに報告したのです。　２０二十人の部下を率いたアブネルを､ダビデは祝宴を張ってもてなしました。
２１　アブネルはダビデのもとを辞する時、こう約束しました。　「帰りしだい、全イスラエルを召集いたします。　多年のお望みがかないますぞ。　全国民はきっと、あなた様を王に選ぶでしょうからな。」ダビデはアブネルを無事に送り出したのです。
２２　ちょうど入れ違いに､ヨアブとダビデ軍の兵士たちが､戦利品をどっさりかかえて、奇襲攻撃から戻って来ました。　２３ダビデ王のもとを訪れたアブネルとの話し合いが、極めて友好的だったと聞くと、　２４２５ヨアブは王のもとへ飛んで行きました。　「あんまりではございませんか。　アブネルをむざむざお帰しになるなど、もってのほかですよ。　あいつの魂胆はご存じでしょう。　われわれを攻めるために、動静を探りに来たに決まっております！」
２６　ヨアブは直ちにアブネルを追わせ、連れ戻すようにと命じたのです。　追手はシラの井戸あたりで追いつき、いっしょに引き返しました。　ただし、ダビデはこのことを知りませんでした。　２７ヘブロンに着いたアブネルを、ヨアブは個人的な話があるように

見せかけて、町の門のわきへ呼び出しました。　ところが、やにわに短剣を抜き、アブネルを刺し殺してしまったのです。　こうして弟アサエルの仇を報いました。
２８　この一件を知らされたダビデは、はっきり言い切りました。「わしは神様に誓う。わしも国民も、このアブネル殺しの罪には全く関与しておらん。　２９その責任は、ヨアブとその一家に降りかかるのだ。　ヨアブの家は子々孫々、癌やらい病にむしばまれ、不妊の者、飢え死にする者、剣に倒れる者が絶えないだろう。」
３０　ヨアブとその兄弟アビシャイがアブネルを殺したのは、ギブオンの戦いで殺された、弟アサエルの仇を討つためでした。
３１　ダビデは、ヨアブおよび彼とともにいた全員に布告しました。「アブネルのために嘆き悲しみ、喪に服すのだ。」　ダビデ王は墓地まで棺につき添いました。　３２こうして、アブネルはヘブロンに葬られたのです。　王も国民もみな、墓のそばでおいおい泣きました。
３３３４「アブネル、どうして、ばかみたいな死にかたをしたのだ。」　ダビデは嘆き悲しみました。
「おまえの手は縛られず、
足もつながれなかったのに、
おまえは暗殺された、
悪い計略のいけにえとして。」
国民はまた、アブネルのために泣きました。　３５３６その葬式の日、ダビデは、夕食を少しでも食べるよう、しきりに勧められましたが、頑として聞き入れず、日没までは食を断つと誓ったのです。　このことばかりでなく、ダビデのすることなすことはすべて、人々を満足させました。　３７ダビデの行ないをつぶさに見た、ユダとイスラエルの全国民は、アブネルの死の責任がダビデにないことを認めたのです。
３８　ダビデは国民に言いました。　「きょう、イスラエルで、一人の偉大な指導者、偉大な人物が倒れた。　３９私は神様に選ばれた王だが、ツェルヤのこの二人の息子に、何もできない。　どうか神様が、こんなことをした悪者どもに報いてくださるように。」
四
１　イシュ・ボシェテ王は、アブネルがヘブロンで殺されたと聞くと、恐れのあまり腰を抜かしてしまいました。　国民の動揺も一方ではありません。　２３この時に乗じてイスラエル軍の指揮権を握ったのは、王の略奪隊を牛耳っていたバアナとレカブの兄弟でした。二人は、ベニヤミンのベエロテ出身のリモンの息子でした。　ベエロテの人々は、ギタイムに逃げて、今もそこに住んでいますが、なおベニヤミン人とみなされていたのです。
４　さて、サウル王には、メフィボシェテという孫がいました。　ヨナタン王子の息子で、足の不自由な子供でした。　王とヨナタンがイズレエルの戦いで倒れた時、彼は五歳でした。　悲報が都にもたらされた際、乳母が彼を抱いて逃げたのですが、あわてて走るうちに、つまずいて倒れ、子供を落としてしまったのです。　おかげで、彼はびっこになった

のです。
５　レカブとバアナは、ある昼下がり、イシュ・ボシェテ王の住まいを訪れました。　王はちょうど、昼寝の最中でした。　６７二人は小麦の袋を取りに行くふりをして台所に近づき、こっそり王の寝室に忍び込みました。　そして、まんまと王を殺し、首をはねたのです。その首をかかえて、一晩中、荒野をひた走りに走って逃げ、　８ついにヘブロンへたどり着き、ダビデに差し出したのです。
「しかとご覧ください！　おいのちをねらっていた敵、サウルのせがれイシュ・ボシェテの首でございます。　きょう、神様は、王様のために、サウルとその全家族に復讐してくださったのでございます。」
９　ところが、ダビデはこう答えたのです。　「わしをあらゆる敵から救い出してくださった神様に誓う。　１０前にも、わしが喜ぶに違いないと思って、『サウルが死んだ』と告げに来た者がいたが、わしはそいつを手討ちにした。　それが、その『吉報』とやらに報いる答えだった。　１１まして、あの何の罪もない人を、家の中で、しかも寝床で殺すような不ていのやからを放っておけるものか。　二人とも無事に帰れるとでも思っているのか。」
１２　ダビデは若者たちに、二人を殺すよう命じました。　その死体は、手足を切り離され、ヘブロンの池のほとりで木にさらされました。　ただし、イシュ・ボシェテの首は、ヘブロンにあるアブネルの墓に運ばれ、埋葬されました。
五
１　イスラエルの全部族の代表者たちは、ヘブロンにいるダビデのもとへ来て、忠誠を誓いました。
「私どもは、あなた様の血を分けた兄弟でございます。　２サウルが王であった時にも、ほんとうの指導者は、あなた様でした。　神様は、あなた様こそイスラエルの指導者だ、とおっしゃっておいでです。」
３　ダビデは、ヘブロンに集まったイスラエルの指導者たちと、神様の前で契約を結びました。　彼らはダビデを、イスラエルの王座に迎えたのです。　４５ダビデはすでに、三十歳の時から七年間、ユダの王として君臨していました。　こののちエルサレムで三十三年間、イスラエルとユダの全土を治めることになったのです。　ダビデが王位にあったのは、合わせて四十年になります。
６　さて、ダビデは兵を率いてエルサレムへ向かい、そこに入り込んでいたエブス人と戦いました。
彼らは豪語しました。　「おまえなんかに攻め入られてたまるか。　おまえなど盲人や足なえにだって、簡単につまみ出せるわ！」　彼らは、安心しきっていたのです。　７ところが、ダビデ軍はエブス人を打ち負かし、現在ダビデの町と呼ばれている、シオンの要害を占領したのです。
８　町を守る者たちの暴言を耳にしたダビデは、水くみの地下道をくぐって町に攻め上り、

あの『ちんば』や『めくら』のエブス人を滅ぼせ。　憎いやつらだ」と命じました。　このことから、「盲人や足なえは宮に入ってはならない」と言われるようになったのです。
９　ダビデは、シオンの要害をダビデの町と呼び、本拠地に定めました。　ついで町の旧ミロ地区から北側に、現在のエルサレムの中心部に向かって、城壁を築いたのです。　１０ダビデの勢力はますます強大になりました。　天地を支配なさる神様が共におられたからです。
１１　ツロの王ヒラムからは、ダビデ王の宮殿建設のために、上等の木材、大工、石工が送られて来ました。　１２今やダビデは、神様が自分を王位につかせ、豊かな王国としてくださったわけを、はっきり知ったのです。　それは、神様がイスラエル国民を選び出し、特別な恵みを注ごうとされたからでした。
１３　ヘブロンからエルサレムへ移ってからも、ダビデはさらに妻やそばめを迎え入れ、次々と息子や娘をもうけました。　１４‐１６エルサレムで生まれた子供は、次のとおりです。
シャムア、ショバブ、ナタン
ソロモン、イブハル、エリシュア
ネフェグ、ヤフィア、エリシャマ
エルヤダ、エリフェレテ
１７　ペリシテ人は、ダビデがイスラエル王になったと聞くと、なんとか彼を捕らえようとしました。　しかし、ペリシテ人来襲の報が伝わると、ダビデは直ちに要害に立てこもったのです。　１８ペリシテ人は、レファイムの谷間一帯に隊を配置しました。
１９　「打って出て、戦うべきでしょうか。　勝てるでしょうか。」　ダビデは神様にうかがいました。
「よし、打って出ろ。　ペリシテ人をおまえの手に渡そう」というお答えです。
２０　ダビデは勇んで出陣し、バアル・ペラツィムで戦い、みごと敵を打ち破りました。
「神様のおかげだ！　神様は押し寄せる洪水のように、敵をひと飲みになさった。」　こうダビデが叫んだので、そこは、バアル・ペラツィム〔決壊〕と呼ばれるようになったのです。　２１その時、ダビデ軍は、ペリシテ人が置き去りにした多くの偶像を、運んでは投げ捨てました。　２２ところが、ペリシテ人はまたもや反撃に出、レファイムの谷間に陣を敷いたのです。
２３　ダビデは、どうすべきか神様にうかがいを立てました。　答えはこうです。　「正面から攻めるな。　敵の背後に回り、バルサム樹の林から出て来い。　２４バルサム樹の林の上から行進の足音が聞こえたら、いざ出陣だ！　それは、わたしが道を備え、必ず敵を滅ぼすという合図なのだ。」
２５　ダビデは命令どおりに従いました。　それで、ゲバからゲゼルに至る道で、ペリシテ人を倒したのです。
六

１２このあと、ダビデはえり抜きの兵三万を率いて、ユダのバアラへ出かけました。　ケルビム（天使を象徴する像）の上に座しておられる、天地の主なる神様の契約の箱を、持ち帰るためです。　３箱は真新しい牛車に載せられ、丘の中腹にあるアビナダブの家から運び出されました。　御者は、アビナダブの息子ウザとアフヨでした。　４アフヨが先導を務め、　５ダビデをはじめイスラエルの指導者たちが、あとに続きました。　一行は喜びのあまり、木の枝を振りかざし、神様の前で、竪琴、琴、タンバリン、カスタネット、シンバルなど、ありとあらゆる楽器を鳴らして、思いっきり踊りました。
６　ところが、ナコンの打ち場まで来た時、牛がつまずいたのです。　ウザはあわてて手を伸ばし、箱を押さえようとしました。　７とたんに、神様の怒りがウザに向かって燃え上がったのです。　箱にさわったため、ウザは神様に打たれ、箱のそばで息絶えました。
８この神様の仕打ちにダビデは憤慨し、そこをペレツ・ウザ〔ウザに怒りが臨んだ地〕と呼びました。　今でもそう呼ばれています。
９　ダビデはすっかりこわくなり、「とても箱をお移し申せません」と言いました。　１０急きょ、神の箱をダビデの町へ移すことは中止し、ガテ出身のオベデ・エドムの家に預けることにしたのです。　１１箱は、三か月間オベデ・エドムの家に置かれました。　おかげで、彼の家は祝福されました。
１２　それを聞いたダビデは、盛大に祝って、神の箱をダビデの町へ運ぶことにしました。
１３箱をかつぐ者たちは、六歩進むと、しばらく立ち止まりました。　ダビデが、太った牛と子羊をいけにえにささげたからです。　１４ダビデは神様の前で、力の限り踊りました。　この時は祭司の服をまとっていました。　１５イスラエルは歓声をあげ、ラッパを吹き鳴らして、神の箱をダビデの町に運び入れたのです。
１６　行列が町に入って来るのを、サウルの娘ミカルは窓から眺めていました。 そして、神様の前で跳ねたり踊ったりしているダビデを見て、軽べつの気持ちがわいてきたのです。
１７　神の箱は、ダビデが用意しておいた天幕に安置されました。　ダビデは神様に、完全に焼き尽くすいけにえと和解のいけにえをささげました。　１８それから、天地を支配なさる神様の名によって国民を祝福し、　１９だれかれの別なく、男にも女にもパン一個、ぶどう酒、干しぶどうの菓子一個をふるまいました。　それが終わると、みな家に引き揚げ、　２０ダビデも、家族を祝福するために戻って行きました。
ところが、迎えに出たミカルは、皮肉たっぷりにこう言ったのです。
「きょうは、なんとまあご立派な王様ぶりでしたこと！　道の真ん中、それも、女たちの前で裸におなりになるなんて！」
２１　「わしはな、おまえの父やその一族にまさって、神様の国民イスラエルの指導者として、選んでいただいた。　その神様の前で、踊ったのだ。　神様に喜びを表わすためなら、たとい気違い呼ばわりされようとかまわん。　２２いや、ばかと思われてもよいのだ。おまえの言う女たちは、きっとわかって敬ってくれるさ。」
２３　結局ミカルは、生涯、子宝に恵まれませんでした。

七
１　神様が、ついにこの地に平和をもたらし、もはや周囲の国々と戦わなくてもよい日がきました。　２この時、ダビデは預言者ナタンを呼んで言いました。　「見てくれ！　わしはこんな立派な家に住んでおるのに、神の箱は天幕に置かれたままだ！」
３　「どうぞ、お考えのままになさってください。　神様が陛下とともにおられるのですから。」
４　ところが、その夜のことです。　神様はナタンにこう命じました。　５「わたしのしもべダビデに、そんなことをする必要はない、と言え。６わたしは神殿には住まない。　イスラエル人をエジプトから連れ出した日以来、わたしの家はずっと天幕だった。　７そのことで、イスラエルの指導者に不平をもらしたことは一度もない。　『どうして立派な神殿を建ててくれないのか』と言った覚えもない。
８　さあ、わたしのことばをダビデに告げよ。　『わたしは、牧場で羊を飼う、ただの牧童にすぎなかったおまえを、わたしの国民イスラエルの指導者としたのだ。　９どこへでも、おまえとともに行き、敵を滅ぼしてやった。　また、その名声をいっそう高めてやった。　おまえは、世界でも指折りの著名人となるだろう。　１０１１ここが、イスラエル人の母国だ。　もう二度と、この地を離れることはない。　ここは、わたしの国民の地だ。あの士師たち（王国設立までの軍事的・政治的指導者）が治めた時代のように、わたしを知らない外国人に圧迫されることもない。　もう、戦いをいどんでくる者もいない。　おまえの子孫は、代々この地を治めるだろう。　１２おまえが世を去っても、息子の一人を王座につかせ、王国を強固にしてやろう。　１３その者が、わたしのために神殿を建てる。王国は永遠に続き、　１４わたしが父となり、彼は息子となる。　もし彼が罪を犯せば、外国人を用いて罰する。　１５ただし、先王のサウルにしたように、愛と恵みを取り去ったりはしない。　１６おまえの家系は、永遠にわたしの王国を治める。』」
１７　ナタンはダビデのところへ戻り、神様のお告げをそのまま伝えました。
１８　するとダビデは、神の天幕へ入って神様の前に座り、こう祈りました。　「神様！私のように取るに足りない者に、どうして、これほどまでの祝福を下さったのでしょう。１９そして今、これまでの祝福に加えて、私の王朝が永遠に続く、と約束してくださいました。神様の寛大さは、人間の標準をはるかに越えています。　２０この上、何を申し上げることができましょう。　私がどんな人間か、すべてご存じです。　２１神様はお約束を果たし、なお、おこころのままに、これらすべてを行なってくださいます。　２２なんと偉大なお方でしょう。　神様のような方は、ほかに存じません。　ほかに神様などいないのです。　２３地上のどこを捜しても、イスラエルほど祝福を受けた国はございません。神様は、栄光を現わすために、特に選んだ国民を助け出してくださったのです。　エジプトとその神々を滅ぼすためには、大いなる奇蹟も行なってくださいました。　２４神様はイスラエルを、永遠にご自分の国民として選び出し、私たちの神となられたのです。
２５　神様、このしもべとその家へのお約束を、果たしてください。２６どうか、イスラ

エルを神様の国民として確立してくださる時、また、ダビデ王朝を御前に堅くお立てになる時、永遠に神様のお名前があがめられますように。　２７天地の支配者、イスラエルの神様！　永遠に続く王朝の初代の王として、しもべをはっきりお立てくださいました。　そのおかげで、大胆にも、お受けしますと祈ることができるのです。　２８あなた様こそ神であられ、おことばには嘘がありません。　私のような者に、これほどすばらしいことを約束してくださった神様。　２９どうぞ、おことばどおり、事を運んでください。　このしもべとその家を、いつまでも祝福してください。　この王朝が、神様の前に、いつまでも長らえますように。　神様、それがお約束なのですから。」
八
１　そののち、ダビデはペリシテ人のメテグ・ハアマを征服して、敵の高慢の鼻をへし折り、完全に屈服させました。　２また、モアブの地をも襲いました。　その時は、捕虜を幾列にも並ばせ、地面に伏させました。　それをなわで測り、各列の三分の二の者を殺し、残り三分の一を助けたのです。　助かった者はダビデのしもべとなり、毎年、必ず貢物を納めることになりました。
３　ダビデはまた、ユーフラテス川での戦いで、レホブの子、ツォバの王ハダデエゼルの軍勢を打ち破りました。　ハダデエゼルは、勢力を挽回しようと攻めて来たのです。　４ダビデは騎兵千七百と歩兵二万を縛り上げ、さらに、百頭だけ残して、戦車用の馬の足の筋をぜんぶ切ってしまいました。　５また、敵の援軍としてダマスコから来たシリヤ人二万二千を、打ち倒しました。　６こうして、ダマスコに守備隊を置くことになったのです。シリヤ人はダビデに服従し、毎年、貢物を納めるようになりました。　このように、神様は、ダビデの行く先々どこででも、勝利をもたらしてくださったのです。　７ダビデは、ハダデエゼルの部下が持っていた金の盾を奪い、エルサレムに持ち帰りました。　８また、ハダデエゼルの町ベタフとベロタイから奪った、大量の青銅も持ち帰りました。
９　ハマテの王トイは、ダビデがハダデエゼルの軍勢を打ち破り、大勝利を収めたことを聞くと、　１０息子ヨラムを使者に立て、お祝いのことばを伝えました。　ハダデエゼルとトイとは、敵対関係にあったのです。　ヨラムはダビデに、金・銀・青銅の器を贈りました。　１１１２ダビデは、それを全部、シリヤ、モアブ、アモン、ペリシテ人、アマレク、ハダデエゼル王から奪い取った金銀とともに、神様にささげました。
１３　ダビデの名声はいよいよ高まりました。　ダビデは帰還すると、塩の谷でエドム人一万八千を打ち滅ぼし、　１４エドム中に兵を駐屯させました。　エドム人はみな、イスラエルに貢をささげるしもべとなったわけです。　これもまた、神様が、行く先々で勝利を与えてくださったことの、一例です。
１５　ダビデは公正にイスラエルを治め、だれに対しても公平でした。　１６軍の総司令官はツェルヤの息子ヨアブ、国務長官はアヒルデの息子ヨシャパテでした。　１７アヒトブの息子ツァドクとエブヤタルの息子アヒメレクは祭司、セラヤは王の侍従長、　１８エホヤダの子ベナヤは護衛隊長、ダビデの息子たちは側近を務めました。

九
１　ある日のこと、ダビデは、サウルの家系にまだ生き残っている者がいないか、気になり始めました。　もしいれば、情けをかけてやりたいと思ったのです。　ヨナタンとの約束があったからです。　２かつてサウル王に仕えたツィバという男のことを耳にすると、さっそく召して尋ねました。
「ツィバとはおまえか。」
「さようでございます。」
３　「サウル王の血筋で、だれか生き残った者はおらぬか。　いれば、その者を手厚くもてなし、神様に立てた誓いを果たしたいのじゃが。」
「恐れながら陛下、ヨナタン様のお子で、足の不自由な方がご存命でございます。」
４　「して、その子は、どこにおる。」
「ただ今、ロ・デバルのマキルの屋敷においでです。」
５６そこでダビデ王は、ヨナタンの息子で、サウルの孫にあたる、メフィボシェテを迎えにやりました。　メフィボシェテは恐る恐るやって来て、ダビデの前にうやうやしくひれ伏しました。
７　そんな彼に、ダビデはやさしく声をかけてやりました。　「心配には及びませんぞ。来てもらったのは、ほかでもない。 父君ヨナタンとの誓いを果たしたいと思いましてな。お力になりたいのだ。　あなたの祖父、サウル王の土地はぜんぶ返そう。　よかったら、この宮殿で暮らしなされ。」
８　メフィボシェテは王の前に深々と頭をたれ、「死んだ犬も同然の私に、なんというご親切を！」と思わず叫びました。
９　王は例のツィバを召し出し、こう申し渡しました。　「よいか、サウル王とその家のものはみな、主君の孫に返したぞ。　１０１１おまえは息子や召使たちとともに、地を耕し、彼の家族のために食糧を作れ。　ただし、彼はここで、わしといっしょに暮らす。」
ツィバには、息子が十五人と召使が二十人いました。 そこで、「承知いたしました、陛下。ご命令のとおりにいたします」と答えました。
以来、メフィボシェテは、ダビデ王の息子同様に扱われ、いつも王といっしょに食事をしました。　１２メフィボシェテには、ミカという幼い息子がいました。　ツィバの家の者はみな、メフィボシェテの家来になりましたが、　１３メフィボシェテはエルサレムに移って、ダビデの宮殿で暮らしました。　彼は両足とも不自由でした。
一〇
１　しばらくして、アモン人の王が死に、王子ハヌンが王位につきました。
２　ダビデは、「彼の父ナハシュには、常々、誠意と親切を尽くしてもらった。　わしも新しい王に敬意を表わそう」と、父親を亡くしたハヌンに悔やみを述べるため、使者を遣わしたのです。
３　ところが、ハヌンの家来たちは、主君にこう取り次ぎました。「この使いの者どもは、

亡きお父君を敬って、ここに来たのではございません。　ダビデの魂胆は見えすいております。　この町を攻める手始めに、まずスパイを送り込んだのです。」
４　そこでハヌンは、使者を取り抑え、ひげを半分そり落とし、服を腰のあたりから切り取り、下半身を裸のままで追い返したのです。５それを知ったダビデは、ひげが伸びそろうまでエリコにとどまるよう、一行に命じました。　ひげをそり落とされたことを、彼らが深く恥じていたからです。
６　アモンの人々は、このことがダビデを激怒させたことを知るや、レホブとツォバの地からシリヤの歩兵二万、マアカ王から兵士一千、トブの地から兵士一万二千を、それぞれ雇い入れました。　７８ダビデも黙ってはいません。　ヨアブをはじめ全イスラエル軍を差し向け、彼らを攻撃したのです。　アモン人は町の門の守備にあたり、ツォバとレホブから来たシリヤ人、およびトブとマアカからの雇い兵が野に出て戦いました。　９これでは、ふた手に分かれて戦わざるをえません。　ヨアブは特に精兵をよりすぐって、自らの配下に置き、野に出てシリヤ人と戦う備えを固めました。　１０残りの手勢は兄弟アビシャイの指揮に任せて、町の攻撃へと向かわせたのです。
１１　ヨアブはアビシャイに指示しました。　「もしシリヤ人を向こうに回して、わしらだけで戦えないようなら、助けに来てくれ。　反対に、アモン人がおまえらの手に負えないようなら、こちらが加勢しよう。　１２勇気を出せ！　われわれの肩には同胞のいのちと、神様の町々の安全がかかっている。　がんばるんだ。　必ず神様のおこころのとおりになるのだからな！」
１３　ヨアブの隊が攻撃をしかけると、シリヤ軍はくずれ始めました。１４彼らが敗走するのを見て、アモン人も逃げ出し、町にこもってしまいました。　それで、ヨアブは攻撃を中止し、エルサレムへ引き揚げました。　１５１６シリヤ人は、このままではとてもイスラエル軍に手が出せないと知り、再び兵力の結集を計りました。　そしてハダデエゼルは、ユーフラテス川の向こうから呼び集めたシリヤ人を、味方に引き入れたのです。　この大軍は、ハダデエゼル軍の総司令官ショバクに率いられて、ヘラムに着きました。
１７　ダビデはこの報告を受けると､自らイスラエル軍を率いて､ヘラムに向かいました。しかし、攻撃をしかけて来たシリヤ軍は、　１８再び敗走のうき目を見たのです。　この戦いで、シリヤ軍は戦車兵七百と騎兵四万を失い、将軍ショバクも戦死しました。　１９ハダデエゼルの連合軍は、シリヤ軍の敗北を見て、ダビデに降伏し、その臣下となりました。　これにこりたシリヤ人は、二度とアモン人を助けようとはしませんでした。
一一
１　翌年の春のことです。　再び戦いが始まり、ダビデは、ヨアブの率いるイスラエル軍を送り込んで、アモン人壊滅を計りました。　イスラエル軍はたちまちラバの町を包囲しましたが、ダビデ自身はエルサレムにとどまっていました。
２　ある夕暮れのことです。　寝つかれないままに、ダビデは宮殿の屋上をぶらついていました。　ふと町の方を見やると、入浴中の美しい婦人が目にとまったのです。　３さっ

そく人をやり、その女のことを探らせました。　そして、エリアムの娘、ウリヤの妻バテ・シェバであることを突き止めたのです。　４ダビデは女を召し入れました。　忍んで来た彼女と、一夜を共にしたのです。　彼女はちょうど、月経後のきよめの儀式を終えたところでした。　こうして彼女は家に帰りました。　５しかし、このことで妊娠したことを知ると、人をやってダビデに知らせました。
６　何とかしなければなりません。 ダビデは急いでヨアブに伝令を送り、「ヘテ人ウリヤを帰還させよ」と命じました。　７戻ったウリヤに、ダビデは、ヨアブや兵士の様子、戦況などを尋ねました。　８そして、家へ帰ってゆっくり骨休めをせよ、と勧めてやったのです。みやげの品も持たせました。　９ところが、ウリヤは自宅に戻らず、王の家来たちとともに、宮殿の門のそばで夜を過ごしたのです。
１０　ダビデはそれを知ると、さっそく呼んで尋ねました。 「いったい、どうしたのだ。長く家から離れていたというのに、なぜ、昨夜は細君のもとへ戻らなかったのだ。」
１１　「恐れながら陛下、神の箱も、総司令官も、その配下の方々も、みな戦場で野宿しておられます。　それなのに、どうして私だけが家に帰って飲み食いし、妻と寝たりできましょう。 誓って申し上げます。 そんな罪深いことをいたす気は、毛頭ございません。」
１２　「よかろう。　では今夜も、ここにとどまるがよい。　あすは軍務に戻ってもらうから。」
こうして、ウリヤは宮殿から離れませんでした。　１３ダビデは彼を食事に招き、酒をすすめて酔わせました。　しかし何としても、彼は自宅に帰ろうとはせず、その夜もまた、宮殿の門のわきで寝たのです。
１４　翌朝、ついにダビデはヨアブあてに手紙をしたため、それをウリヤに持たせました。
１５その書面で、ウリヤを激戦地の最前線に送り、彼だけ残して引き揚げ、戦死させるように、と指示したのです。　１６ヨアブはウリヤを、包囲中の町の最前線に送り込みました。　町を守っているのは、敵の中でもえり抜きの兵ぞろいだと知っていたからです。１７案の定、ウリヤは数人のイスラエル兵士とともに戦死しました。
１８　ヨアブは戦況報告をダビデに送る際、 １９‐２１使いの者にこう言い含めました。
「もし陛下がお怒りになって、『なぜ、そんなに町に近づいた。　城壁の上から敵が射かけてくるのを、考えに入れなかったのか。　アビメレクはテベツで、城壁の上から女が投げ落としたひき臼で、いのちを落としたんだぞ』とおっしゃったならな、『ウリヤも戦死いたしました』と申し上げるがよい。」
２２　使者はエルサレムに着くと、ダビデに報告しました。
２３　「敵は攻撃をしかけてまいりました。　こちらも応戦し、敵を町の門のところまで追い詰めました時、　２４城壁の上から、矢を射かけてまいったのでございます。　おかげで、味方の数人が殺され、ヘテ人ウリヤも戦死いたしました。」
２５　それを聞いてダビデは言いました。　「よし、わかった。　ヨアブには、落胆するなと伝えてくれ。　剣はもろ刃の剣だ！　今度こそ慎重に攻めて、町を占領せよ。　成功

を祈る、と伝えてくれ。」
２６　バテ・シェバは夫が戦死したことを知り、喪に服しました。　２７喪が明けると、ダビデは彼女を妻として宮殿に迎え、男の子をもうけたのです。　しかし神様は、ダビデがしたことに非常に立腹なさいました。
一二
１２神様は預言者ナタンを遣わし、ダビデにこんな話を聞かせました。
「ある町に二人の人がおりました。　一人は大金持ちで、たくさん羊や山羊を持っていました。　３もう一人はとても貧乏で、財産といえば、苦労してやっと手に入れた、雌の子羊一頭だけでした。　その子羊を、子供たちも大そうかわいがり、食事の時など、彼は自分の皿やコップにまで口をつけさせるほどでした。　まるで実の娘みたいに、しっかり腕に抱いて寝るのでした。　４そんなある日、金持ちのほうに客が一人ありました。　ところが、客をもてなすのに、自分の群れの子羊を使うのは惜しいとばかり、貧しい男の雌の子羊を取り上げ、それを焼いてふるまったのです。」
５　ここまで聞くと、ダビデはかんかんに腹を立てました。「生ける神様に誓うぞ。　そんなことをする奴は死刑だ！　６償いもさせろ。　貧しい男に子羊四頭を返すのだ。　なにしろ、盗んだだけでなく、そいつには、まるであわれみの心というものがないんだからな。」
７　すると、ナタンはダビデに言いました。　「陛下です。　陛下こそ、その大金持ちなのです！　イスラエルの神様は、こう仰せられます。　『わたしはおまえをイスラエルの王とし、サウルの迫害から救い出してやった。　８そして、サウルの宮殿や妻たち、イスラエルとユダの王国も与えてやったではないか。　なお足りないというなら、もっともっと多くのものを与えてやっただろう。　９それなのに、どうして、わたしのおきてをないがしろにして、こんな恐ろしい罪を犯したのか。　おまえはウリヤを殺し、その妻を奪ったのだ。　１０よいか、これからは殺害の恐怖が常におまえの家を脅かす。　ウリヤの妻を奪って、わたしの顔につばするようなまねをしたからだ。　１１はっきり言っておく。このしわざの報いで、おまえは家族の者から背かれる。　また、妻たちはほかの者に取られる。　男たちが白昼公然と、彼女たちのところに入って寝るだろう。　１２おまえは人目を忍んで事を行なったが、わたしは全イスラエルの目の前で、おまえをこんな目に会わせよう。』」
１３　「私は神様に罪を犯しました」と、ダビデはナタンに告白しました。
ナタンは答えました。　「そのとおりだ。　しかし、神様はその罪を赦してくださった。だから、罰を受けて死ぬことはない。　１４ただし、神に敵する者たちに、神様をあなどる絶好の機会を与えたので、生まれてくる子供は死ぬ。」
１５　こののち、ナタンは家へ戻りました。　神様は、バテ・シェバが産んだ子を、重い病気にかからせました。　１６ダビデはその子が助かるように祈り求め、断食して、一晩中、神様の前で地にひれ伏していました。　１７国の指導者たちは、身を起こして、いっ

しょに食事をとるよう、しきりに頼みましたが、頑として聞き入れません。　１８七日目に、赤ん坊はとうとう息を引き取りました。　側近の者は、そのことをダビデに告げるのをためらいました。
「陛下は、あのお子が病気になったことで、あんなにおこころを乱された。　亡くなったと聞いたら、いったいどうなさるだろう」と心配したのです。
１９　しかしダビデは、ひそひそ話し合っている彼らの様子から、何が起こったかを悟りました。
「赤ん坊は死んだのか。」
「はい、お亡くなりになりました。」　２０すると、ダビデは身を起こし、体を洗い、髪をとかし、服を着替え、神の天幕に入って、神様を礼拝したのです。　それから宮殿に帰って、食事をしました。　２１これには、家来のほうが、あっけにとられました。
「陛下のなさりようはどうも解せません。　お子様が生きておいでの間は、泣いて断食までなさいましたのに、亡くなられたとたん、嘆きもなさらず、食事までなさるとは……。」
２２　「子供が生きておる間は、断食をして泣いた。　『もしかしたら、神様があわれんで、回復させてくださるかもしれない』と思ったからだ。　２３しかし、死んでしまった今、断食して何になる。　もう、あの子を呼び戻せはしない。　わしがあの子のところへ行くことはできても、あの子はここへは戻って来ないのだ。」
２４　ダビデはバテ・シェバを慰めました。　彼女は、またみごもり、やがて男の子を産みました。　その子はソロモンと名づけられました。　その子を愛した神様は、　２５預言者ナタンを遣わして、祝福のことばを贈りました。　ダビデは神様のお気持ちにこたえて、赤ん坊をエディデヤ〔「神に愛された者」の意〕という愛称で呼ぶことにしたのです。
２６２７そうこうするうち、ヨアブの率いるイスラエル軍は、アモン人の首都ラバを完全に包囲しました。　ヨアブはダビデに伝令を送りました。　「ラバとその美しい港は、もうわれわれのものです。　２８どうか、残りの部隊を率いて、総仕上げをなさってください。　この勝利の栄冠を、私ではなく、陛下がお受けになりますように。」
２９３０そこでダビデは、残りの部隊を引き連れてラバへ乗り込み、町を占領しました。目をみはるばかりのおびただしい戦利品が、エルサレムへ運び込まれました。　ダビデはラバの王の冠を取り、自らの頭上に戴きました。　冠は宝玉をちりばめた金製のもので、時価にして何億円という宝物でした。　３１ダビデはまた、町の住民を奴隷として連れて来て、のこぎり、つるはし、斧などを使う労働につかせ、れんが作りの仕事をさせました。ラバだけでなく、アモン人の町すべてを、同様に扱いました。　こうして、ダビデとイスラエル軍はエルサレムに帰還したのです。
一三
１　ダビデの息子の一人、アブシャロム王子には、タマルという美しい妹がいました。　ところが、タマルの異母兄にあたるアムノン王子が、彼女に深く思いを寄せるようになったのです。　２アムノンはタマルへの恋に苦しみ、床についてしまいました。　未婚の娘と

若者とは厳格に隔てられていて、話しかける機会さえなかったからです。３ところで、アムノンには、悪賢い友人が一人いました。　ダビデの兄シムアの息子で、いとこにあたるヨナダブです。
４　ある日、ヨナダブはアムノンに尋ねました。　「何か心配事でもあるのかい。　どうして、王子ともあろう者が、日に日に、それほどやつれていくんだね。」
アムノンは打ち明けました。　「ぼくは異母妹のタマルを愛してしまった。」
５　「なんだ、そうか。　じゃあ、よい方法を教えてやろう。　床に戻って、仮病を使うんだ。　父君ダビデ王が見舞いに来られたら、タマルをよこして、食事を作らせてくださいと頼めよ。　タマルのこしらえたものを食べればきっとよくなる、と申し上げるんだ。」
ヨナダブはこう入れ知恵しました。
６　アムノンは言われたとおりにしました。 王が見舞いに来ると、「妹タマルをよこして、食事を用意させてください」とだけ願い出たのです。　７ダビデはうなずき、タマルに、アムノンの住まいへ行き、何か手料理をごちそうしてやってくれ、と頼んだのです。　８タマルはアムノンの寝室を訪れました。　アムノンは、タマルが粉をこねてパンを作る姿を、じっと見つめていました。　タマルはアムノンのために、特においしいパンを焼き上げたのです。　９ところが、それをお盆に載せてアムノンの前に差し出しても、口に入れようとしません。
アムノンは召使に、「みんな、下がってくれ」と命じたので、一同は部屋から出て行きました。
１０　すると、彼はタマルに言ったのです。　「もう一度、そのパンをこっちに運んで来て、食べさせてくれないか。」　タマルは言われるままに、そばへ行きました。　１１ところが、目の前に立ったタマルに、アムノンは、「さあ、タマル。　おまえはぼくのものだ」と詰め寄ったのです。
１２　彼女はびっくりして叫びました。 「おやめになって、ね、こんなばかなこと。　お兄様！　いけないわ。 イスラエルでは、それがどれほど重い罪か、ご存じでしょう。　１３こんな辱しめを受けたら、私、どこにも顔出しできません。　お兄様だって、国中の笑い者になりますわ。　どうしてもというのなら、今すぐにでも、お父様に申し出てちょうだい。　きっと二人の結婚を許してくださるわ。」
１４　しかし、アムノンは耳を貸そうともせず、むりやり、タマルを自分のものにしてしまったのです。　１５すると、突然、彼の愛は憎しみに変わりました。　それは、先にいだいた愛よりも激しいものでした。
「さっさと出て行け！」　アムノンはどなりました。
１６　タマルも必死です。　「とんでもない！　今、私を追い出したりなさったら、たった今のお振る舞いより、もっと大きな罪を犯すことになるのよ。」
しかしアムノンは、聞く耳を持たなかったのです。　１７１８召使を呼ぶと、「この女を追い出し、戸を閉めてくれ」と命じました。

タマルは放り出されてしまいました。　当時、未婚の王女は、みな袖のある長服を着ていましたが、　１９こうなった今、彼女は、その服を裂き、頭に灰をかぶり、手を頭に置いて、泣きながら帰って行きました。
２０　タマルの実の兄アブシャロムは、妹に問いただしました。　「アムノンがおまえを辱しめたって？　それはほんとうか。　とにかく取り乱すな。　身内でのことだからな、何も心配することはないぞ！」
タマルは兄アブシャロムの住まいで、ひっそり暮らしていました。
２１－２４王はこの一件を耳にし、烈火のごとく怒りました。　しかしアブシャロムは、このことについては、アムノンに何も言いませんでした。その実、心の中では、妹を辱しめたアムノンに、煮えくり返るような怒りを覚えていたのです。　二年が過ぎました。　アブシャロムの羊の毛の刈り取りが、エフライムのバアル・ハツォルで行なわれた時、彼は父と兄弟全員を、刈り取りを祝う宴に招くことにしました。
２５　王は答えました。　「いや、アブシャロム。　わしらがみな押しかけたら、おまえに負担がかかりすぎるぞ。」
アブシャロムがどんなに勧めても、ダビデは、気持ちだけをありがたく受け取ると言って、断わりました。
２６　「父上においでいただけないのでしたら、名代として、アムノンをよこしてくださいませんか。」
「なに、アムノンだと？　またどうして、あれを。」
２７　いくら問いただしても、アブシャロムが熱心に頼むので、ついにダビデも承知し、アムノンも含めて、王子全員の顔がそろうことになりました。
２８　アブシャロムは従者たちに命じました。　「アムノンが酔うまで待つんだ。　私が合図したら、やつを殺せ！　恐れるな。　私の命令なんだ。　勇気を出して、やり遂げてくれ！」
２９３０こうして、アブシャロムの従者の手で、アムノンは殺されたのです。　びっくりしたのは、ほかの王子たちです。　めいめいのらばに飛び乗って逃げ帰りました。　彼らがまだエルサレムへ帰り着かないうちに、次のような知らせが、ダビデのもとへ届きました。　「アブシャロム様が王子様方を皆殺しになさいました。　生き残った方は一人もありません！」
３１　王はびっくりして立ち上がり、服を裂き、地にひれ伏すように、その場に倒れ込みました。　側近も、恐れと悲しみに包まれて服を裂きました。
３２３３ところが、そこへ王の兄シムアの子ヨナダブが駆けつけて、真相を伝えました。「違います。　王子様方がみな殺されたのではありません！　殺されたのはアムノン王子だけです。　アブシャロム様は、タマル様のことがあった日から、ずっとこの機会をねらっていたのでしょう。　王子様方みなではありません。　アムノン王子だけです。」
３４　アブシャロムが逃げたことは、言うまでもありません。　一方、エルサレムの城壁

の上の歩哨は、山沿いの道から町へ向かって来る一群の人々を見たのです。
３５　ヨナダブは王に言いました。　「ご覧ください！　王子様方がおいでになります！　たったいま申し上げたとおりです。」
３６　一行はすぐに到着し、声をあげて泣きだしました。　王も家臣も共に泣きました。
３７－３９アブシャロムは、アミフデの子であるゲシュルの王タルマイのもとに落ちのび、三年間とどまっていました。　一方ダビデは、アムノンの死については今はもうあきらめがついたので、アブシャロムに会いたいと思っていました。
一四
１　ヨアブ将軍は、アブシャロムに会いたがっている王の気持ちを察しました。　２３そこで、知恵者として評判の高いテコアの女を呼び寄せ、王に会ってくれないか、と頼みました。　そして、どういうふうにして会えばいいかを指示したのです。
「喪中の女を装うのだ。　喪服をまとい、髪を振り乱し、長いこと深い悲しみに打ちひしがれてきたふりをするのだ。」
４　女は王の前に出ると、床にひれ伏して哀願しました。　「王様！　どうぞ、お助けくださいまし！」
５６「いったい、どうしたのだ。」
「私はやもめ女でございます。　息子が二人おりましたが、それが野原でけんかをしたのです。　だれも仲裁に入ってくれませんで、片方が殺されてしまいました。　７すると、親せき中の者が寄ってたかって、残った息子を引き渡せと申すんでございます。　兄弟を殺したような奴は生かしておけないと言うんです。　でも、そんなことになれば、跡継ぎが絶えてしまいます。　夫の名も、この地上から消え去ってしまいます。」
８　「わかった。　任せておけ。　だれもおまえの息子に手出しできんように、取り計らってやるぞ。」
９　「ありがとうございます、陛下。　こうしてお助けくださったことで、もし陛下が責めをお受けになるようなことがございましたら、みな私の責任でございます。」
１０　「そんな心配はいらん。　つべこべ言う者がおれば、わしのもとへ連れて来い。　二度と文句が言えんようにしてやる。」
１１　「どうか、神かけて、お誓いくださいまし。　息子には指一本ふれさせやしない、と。　これ以上、血を見るのはたまりません。」
「神かけて誓おう。　おまえの息子の髪の毛一本もそこなわれはせんとな。」
１２　「どうぞ、もう一つだけ、お願いを聞いてくださいまし。」
「かまわぬ。　申すがよい。」
１３　「陛下、どうして、私にお約束くださったことを、神様の国民ぜんぶに、当てはめてくださらないのですか。　ただ今のような裁きをつけてくださった以上、陛下はご自分を有罪となさったのでございます。　と申し上げますのも、追放されたご子息様のお戻りを、拒んでおられるからでございます。　１４私どもはみな、いつかは死ななければなり

ません。　人のいのちは、地面にこぼれた水のようなもので、二度と集めることはできません。　もし陛下が、追放中のご子息様をお迎えになる道を講じなさいますなら、神様の末長い祝福がございますでしょう。　１５１６このはしためが、息子のことでお願いに上がりましたのも、私と息子のいのちが、脅かされていたからでございます。　私は、『きっと王様は、訴えを聞き入れ、私どもをイスラエルから消し去ろうとしている者の手から、助け出してくださるだろう。　１７そして、安らかな生活を取り戻させてくださるだろう』と思ったのです。陛下は神様の使いのようなお方で、善悪を正しくお裁きになれると存じております。　どうぞ、神様が陛下とともにおられますように。」
１８　「一つだけ尋ねるが、よいか？」
「どうぞ、おっしゃってください。」
１９　「おまえを差し向けたのは、ヨアブではないか。」
「陛下。　こうなれば、隠しようがございません。　仰せのとおり、ヨアブ様が私を遣わし、どう申せばよいかまで指示してくださいました。　２０なんとか事態をよくしようと、あの方の取り計らわれたことです。　陛下は神様の使いのように賢くあられ、また、この地上のすべての事をご存じでいらっしゃいます。」
２１　そこで王は、ヨアブを呼び寄せ、「わかった。　行って、アブシャロムを連れ戻してまいれ」と命じたのです。
２２　ヨアブは王の前にひれ伏し、祝福のことばを述べました。　「今ようやく、陛下が私に情けをかけていてくださるとわかりました。　この願いをお聞き入れくださったからです。」
２３　ヨアブはゲシュルに馳せ参じ、アブシャロムをエルサレムに連れ帰りました。
２４　王は、「あれの住まいに連れて行け。　ここに来させるには及ばん。　会いたくないのだ」と申し渡しました。
２５　ところで、イスラエル中を捜しても、アブシャロムほど、男らしくて顔立ちのよい人物はいませんでした。 また彼ほど､そのことでほめそやされた者もいなかったのです。 ２６彼は年に一回、髪を刈りました。　髪の重さが一キロ半以上にもなり､そのままでは、歩くのさえ難しくなるからでした。　２７彼は息子三人と娘一人の子持ちで、娘の名はタマルといい、たいへんな美少女でした。
２８　アブシャロムは、二年間エルサレムにいながら、王には一度も会えませんでした。 ２９そこで、ヨアブに仲立ちを頼もうとしましたが、ヨアブは来ようとしません。　二度も呼びにやりましたが、それでも来ません。
３０　しびれをきらしたアブシャロムは、家来に「私の畑と隣り合わせのヨアブの畑へ行き、大麦に火をつけろ」と命じました。　彼らはそのとおりにしました。
３１　驚いたのはヨアブです。　飛んで来て、「なぜ、お宅の家来どもは、うちの畑を焼いたりするのです」と抗議しました。
３２　「実は頼みたいことがあるのだ。　父上に尋ねてくれないか。会う気がないなら、

どうして、私をゲシュルから呼び戻したのか、とな。　こんなことなら、あそこにいたほうがましだった。　とにかく、父上にお会いしたい。　その上で、もし父上から殺人罪に問われるなら、死刑にでも甘んじる覚悟はできている。」
３３　ヨアブは、アブシャロムのことばを王に伝えました。　そのかいあって、ついに王も、アブシャロムを呼び寄せたのです。　アブシャロムは王の前に出ると、ひれ伏しました。　その彼に、ダビデは口づけしました。
一五
１　このあとアブシャロムは､みごとな戦車とそれを引く馬を買い入れました。 さらに、自分を先導する五十人の馬丁を雇いました。２彼は、毎朝はやく起き、町の門へ出かけました。　王のところへ訴えを持ち込む者を見つけると、そのつど呼び止めて、さも関心があるように、訴えを聞くのです。
３　だれに対しても、こんなふうに気をそそるのでした。　「この件じゃあ、君のほうが正しいようだねえ。　しかし、気の毒だが、王の側には、こういう訴えに耳を貸してくれる者はいないだろうな。　４私が裁判官だったらなあ。　訴えのある人はみな、私のところへ来れるし、もちろん、公平な裁判もできるんだが……。」
５　アブシャロムはまた、だれか頭を下げてあいさつする者がいると、決してそのままやり過ごさず、素早く手を差し伸べて握りしめるのでした。　６こうして、アブシャロムは巧みにイスラエル中の人心をとらえていったのです。
７８それから四年後、アブシャロムは王に願い出ました。　「神様にいけにえをささげるため、ヘブロンへ行かせてください。　ゲシュルにおりました時、『もしエルサレムにお帰しくださいますなら､いけにえをささげて感謝いたします』と、誓願を立てていたのです。それを果たしたいのです。」
９　王は、「よかろう。　誓願を果たしに行くがよい」と許可しました。
アブシャロムはヘブロンへ発ちました。　１０ところが、ヘブロン滞在中に、イスラエル各地に密使を送り、王への反逆をそそのかしたのです。　密書には、こう書かれていました。　「ラッパが吹き鳴らされたら、アブシャロムがヘブロンで王になったのだ、とご承知ください。」　１１アブシャロムは､エルサレムを出る時､客として二百人の者を招待し、同伴して来ていました。　もちろん、彼らはアブシャロムのもくろみなど、全く知らなかったのです。　１２アブシャロムは、いけにえをささげている間に、ダビデの顧問の一人で、ギロに住むアヒトフェルを呼び寄せました。　アヒトフェルは、増え広がる他の賛同者同様、アブシャロムを支持すると断言しました。　それで、この謀反は非常に大がかりなものになりました。
１３　エルサレムのダビデ王のもとには､すぐに急使が送られました｡「全イスラエルがアブシャロムになびいて、謀反を企てています！」
１４　ダビデは即座に命じました。　「では、すぐに逃げのびるのだ。　早くしないと、手遅れになるぞ！　アブシャロムが来る前に町から抜け出せば、われわれもエルサレムの

町も助かるだろう。」
１５　側近たちは、「私どもは陛下にお従いします。　お考えどおりになさってください」と答えました。
１６　王とその家族は、即刻、宮殿から落ちのびました。　宮殿には、留守番として十人の若いそばめを残しただけでした。　１７１８ダビデは町はずれでひと息つき、その間に、あとから従って、ガテからついて来た六百人のガテ人と、ケレテ人、ペレテ人の一群を、先導役として前に進ませるようにしました。
１９２０ところが、だしぬけに、王はガテ人六百人の隊長イタイに、こう言いだしたのです。　「どうして、わしらと行動を共にするのだ。部下を連れてエルサレムのあの王のもとにいるほうがよいぞ。　なにしろ、君らは亡命中の外国人で、イスラエルには寄留しているだけなのだからな。　しかも、きのう来たばかりだというじゃないか。　なのに、きょう、行く先さだめぬ放浪の旅に誘い出すには忍びん。　部下を連れて戻るがよい。　神様の恵みがあるよう祈っておるぞ。」
２１　「神様に誓って申し上げます。　また、陛下のおいのちにかけても誓います。　陛下が行かれる所どこであろうと、どんなことが起ころうと、いのちがけで、ついてまいります。」
２２　「わかった。　そうまで言うなら、ついて来てくれ」
それでイタイは、六百人とその家族を引き連れて行軍しました。
２３　王と従者たちがキデロン川を渡り、荒野へ落ちのびて行く時、町中が深い悲しみに包まれました。　２４レビ人とともに神の契約の箱をかついでいた、エブヤタルとツァドクは、全員が通り過ぎるまで、箱を道ばたに下ろしました。　２５２６それから、ダビデの指示に従って、ツァドクは契約の箱を都に戻しました。　その時、ダビデはこう宣言したのです。　「もし神様がよしとされるなら、私をもう一度連れ戻し、神の箱とその天幕を見させてくださるでしょう。　また、たとい神様から見放されるのであっても、どうか、神様が最善と思われることをしてくださいますように。」
２７　さらに、ツァドクにこう言いました。　「よいか、わしに考えがある。　おまえの息子アヒマアツとエブヤタルの息子ヨナタンを伴って、急いで都に引き返せ。　２８わしはヨルダン川の浅瀬で、知らせを待っている。　荒野に身を隠す前に、エルサレムの様子を知りたいのだ。」
２９　ツァドクとエブヤタルは、神の箱をエルサレムに持ち帰り、そこにとどまりました。
３０　ダビデはオリーブ山への道を登りました。　頭をおおい、はだしで、泣きながら、悲しみを表わしたのです。　ダビデに従う人々も、頭をおおい、泣き声をあげて山を登りました。　３１かつて自分の顧問であったアヒトフェルが、事もあろうにアブシャロムに肩入れしている、という情報を得た時、ダビデは、「神様。　どうか、アヒトフェルがアブシャロムに愚かな助言をするよう、導いてください！」と祈りました。　３２人々が神様を礼拝した、オリーブ山の頂上まで登りつめた時、ダビデはアルキ人フシャイに出会いま

した。　彼は服を裂き、頭に土をかぶって、ダビデの到着を心待ちにしていたのです。
３３３４しかし、ダビデはフシャイに言いました。「おまえがいっしょに来てくれても、重荷になるだけなのだ。　エルサレムに帰って、アブシャロムに、『私は、これまでお父上の相談役として仕えてまいりました。　これからは、あなた様にお仕えしとうございます』と言ってくれ。　そうすれば、アヒトフェルの助言に反対して、それをぶちこわすことができる。　３５３６祭司のツァドクとエブヤタルも、エルサレムにいる。　わしを捕らえようとする計画があったら、彼らに知らせてくれ。　そうすれば、二人の息子たちアヒマアツとヨナタンが、わしのもとに、事の成り行きを知らせてくれることになっておる。」
３７　それで、ダビデの友フシャイはエルサレムに帰りました。　ちょうど同じころ、アブシャロムもエルサレムに着いたのです。
一六
１　ダビデが山の頂上から少し下った時､メフィボシェテ家の執事ともいうべきツィバが、ようやく追いつきました。　二頭のろばに、パン二百個、干しぶどう百ふさ、ぶどう百ふさ、それにぶどう酒一たるを積んでいます。
２　王は、「いったい何のためだ」と尋ねました。
「ろばは、ご家族のお乗り物にと存じまして。　パンと夏のくだものは、若いご家来衆に召し上がっていただき、ぶどう酒は、荒野で弱った方々に、飲んでいただきとうございます。」
３　「メフィボシェテはどこにおる。」
「エルサレムに残っております。　あの方は、『今こそ、王になれる！　きょうこそ、祖父サウルの王国を取り戻すのだ』と申しておりました。」
４　「それがかなったら、メフィボシェテのものを全部、おまえにやるぞ。」
「ありがとうございます、陛下。　心からお礼申し上げます。」
５　ダビデの一行がバフリムの村を通り過ぎると、一人の男がのろいのことばをあびせながら、出て来ました。　男はゲラの息子シムイで、サウル一族の者でした。　６彼は王と側近、さらに護衛の勇士のだれ彼かまわず、石を投げつけました。
７８「出て行けっ！　この人殺し！　悪党め！」　この時とばかり、ダビデをののしります。　「よくも、サウル王とその家族を殺してくれたな。　ざまあ見ろ。　罰があたったのだ！　王位を盗んだおまえが、今は、息子のアブシャロムに王座を奪われた。　これが神様のおぼしめしというもんだ！　今度は、おまえが同じ手口で殺されるんだ！」
９　あまりのひどさに、アビシャイが申し出ました。　「あの犬畜生に、陛下をのろわせておいてよいものでしょうか。　あいつの首をはねさせてください！」
１０　「ならぬ！　神様が彼にのろわせておられるのだ。　どうして、はばめよう。　１１実の息子がわしを殺そうとしておるのだぞ。　このベニヤミン人は、のろっているだけではないか。　放っておけ。　神様がそうさせておられるのだから。　１２おそらく神様は、不当な扱いだとご承知の上で、それに甘んじる私に、あののろいに代えて祝福を下さ

るだろう。」
１３　一行がなおも進んで行くと、シムイも丘の中腹をダビデと平行して歩き、のろったり、石を投げたり、ちりをばらまいたりしました。　１４王も従者も全員、くたくたに疲れていました。　それで一行はしばらく休息することにしました。
１５　その間に、アブシャロムとその仲間は、エルサレム入城を果たしました。　アヒトフェルもいっしょです。　１６ダビデの友、アルキ人フシャイも、エルサレムに戻ると、直ちにアブシャロムに謁見を求めました。
フシャイは、「王様、ばんざい！　王様、ばんざい！」と叫んだのです。
１７　アブシャロムは尋ねました。　「これが、父ダビデに対する態度か。　どうして、父といっしょに行かなかったのだ。」
１８　「私はただ、神様とイスラエル国民によって選ばれたお方に、仕えたいのです。　１９かつてはお父上でしたが、これからは、あなた様にお仕えいたします。」
２０　話が決まると、アブシャロムはアヒトフェルに、「さて、これからどうしたものか」と意見を求めました。
２１　アヒトフェルはこう進言しました。「お父上が宮殿の留守番にと残しておかれた、そばめたちがおりますな。　まず、その女たちを訪ねて、いっしょに寝なさるがよろしい。それくらい父君を侮辱すれば、全国民は、もう、あなた様と父君の仲は致命的で、和解の余地はない、と察するでありましょう。　さすれば、いっそう国民は、あなた様のもとに一致団結するというわけですわい。」
２２　そこで、宮殿の屋上に、だれの目にもそれとわかるテントが張られました。　アブシャロムはそこへ入って、父のそばめたちと寝たのです。　２３アブシャロムは、かつてダビデがそうしたように、アヒトフェルのことばには何でも従いました。　アヒトフェルが語ることはすべて、神様の口から直接さずけられた知恵のように思われたからです。
一七
１　「さて」と、アヒトフェルはことばを続けました。　「私に一万二千の兵を任せてくだされ。　今夜にも、王の追跡に出かけましょう。　２３疲れて気弱になっているところを襲うのです。　一味は大混乱に陥り、われ先にと逃げ出すでしょう。　その中で、王だけを殺します。 あとの連中は生かしておいて、あなた様のもとに連れてまいりましょう。」
４　アブシャロムとイスラエルの全長老は、その計画に賛成しました。　５ところが、アブシャロムは、「アルキ人フシャイの意見も聞いてみよう」と言いだしたのです。
６　フシャイが姿を見せると、一応アヒトフェルの考えを披露したあとで、こう尋ねました。
「おまえの意見はどうか。　アヒトフェルの言うとおりにすべきだろうか。　もし反対なら、はっきり言ってくれ。」
７　「恐れながら申し上げます。　この度のアヒトフェル殿のお考えには、賛成いたしかねますな。　８ご承知のように、お父君とその部下たちは、りっぱな勇士でございます。

今は、子熊を奪われた母熊のように、気が立っておいででしょう。　そればかりか、戦いに慣れておられるお父君は、兵卒とともに夜を過ごしたりはなさいますまい。９必ず、どこかのほら穴にでも、隠れておいでのはずです。　もしそのお父君が襲いかかり、こちらの幾人かが切り倒されでもしたら、兵が混乱し、口々に『味方がやられたぞ』と叫びだすでしょう。　１０そうなると、どんなに勇敢な者でも、たといライオンのように強い勇士でも、ひるむでしょうな。　なにしろ、イスラエルの者はみな、お父君が偉大な勇者であり、その兵士たちも武勇にすぐれている、と知っておりますからな。
１１　むしろ、こうしてはいかがかと考えます。　まず、北はダンから南はベエル・シェバに至るまでの、イスラエル全国から兵を集め、強力な軍隊をおつくりになることです。その大軍を率いて、自ら出陣なさるのがよろしかろうと存じます。　１２そして、お父君を見つけしだい、全軍もろとも一気に滅ぼすのです。　一人も生かしておいてはなりません。　１３もしどこかの町へ逃げ込んだら、全軍をその町に差し向け、城壁に綱をかけて近くの谷まで引いて行くよう、お命じなさい。　そこには、一かけらの石も残りますまい。」
１４　アブシャロムをはじめ人々はみな、「フシャイの意見のほうが、アヒトフェルの考えよりすぐれている」と思いました。　実は、これはみな、アブシャロムを痛めつけようという、神様の意図によることでした。　実際には、退けられたアヒトフェルの進言のほうが、ずっと上策だったのです。　１５フシャイは祭司のツァドクとエブヤタルに、アヒトフェルの思惑と、対案として出した自分の意見を説明しました。
１６　「急げ！　ご一行を見つけしだい、今夜はヨルダン川の浅瀬にはとどまらず、直ちに向こう岸へ渡って、荒野へ逃げのびなさるように、と勧めてくれ。　さもなくば、陛下も、供の者も、皆殺しにされるだろう。」
１７　ヨナタンとアヒマアツは、エルサレムにいては人目につくので、エン・ロゲルに潜んでいました。　ダビデ王に伝える情報は、召使女の手で、二人に届けられる手はずになっていました。　１８ところが、一人の少年が、エン・ロゲルからダビデのもとに向かう二人を見つけ、アブシャロムに告げたのです。　その間に、二人はバフリムまで逃げ、ある人のおかげで、裏庭の井戸の中にかくまってもらいました。　１９家の奥さんは、井戸に布をかぶせ、いかにも日に干しているふうに、麦をばらまいてくれました。　だれ一人、その下に人が隠れていようとは思いませんでした。
２０　アブシャロムの家来がその家に来て、「アヒマアツとヨナタンを見なかったか」と尋ねました。　奥さんは、「川を渡って行きましたよ」と答えました。　追手は、やっきになって捜し回りましたが、もちろん見つけることはできません。　すごすごとエルサレムに引き揚げました。　２１しばらくして、井戸からはい出した二人は、ダビデ王のもとへと急ぎました。　彼らは、「さあ、お急ぎください。　今夜中にヨルダン川を渡るのです！」と勧めました。　そして、王を捕らえて殺そうという、アヒトフェルの策略を報告しました。　２２そこで王と供の者はみな、夜のうちにヨルダン川を渡り、夜明けまでには、全員が向こう岸に着きました。

２３　一方アヒトフェルは、アブシャロムに進言を退けられたことで、すっかり面目を失い、ろばに乗り、郷里へ帰ってしまいました。　そして身辺の整理をすると、首をくくって自殺したのです。　遺体は父の墓のかたわらに葬られました。
２４　ダビデは、まもなくマハナイムに着きました。　その間に、アブシャロムはイスラエル全軍を召集し、兵を率いてヨルダン川を渡って来ました。　２５ヨアブに代わる総司令官には、アマサが任命されました。　アマサはヨアブのまたいとこです。　すなわち、父はイシュマエル人イテラで、母のアビガルは、ヨアブの母ツェルヤの妹ナハシュの娘でした。　２６アブシャロムとイスラエル軍は、ギルアデに陣を敷きました。
２７　マハナイムに着いたダビデをあたたかく迎えたのは、アモン人で、ラバ出身のナハシュの息子ショビと、ロ・デバル出身のアミエルの息子マキル、それに、ログリム出身のギルアデ人バルジライでした。２８２９彼らはダビデ一行のために、寝るためのマット、調理用の土鍋や皿、小麦、大麦、炒り麦、そら豆、レンズ豆、はち蜜、バター、チーズなどを持って来てくれたのです。　彼らは、「荒野をずっと旅して来られて、さぞお疲れでしょう。　お腹もすいて、のども渇いておられましょう」とねぎらいました。
一八
１　さて、ダビデは軍隊を再編成し、連隊長や中隊長を任命しました。　２全軍を三隊に分け、ヨアブと、その兄弟で同じくツェルヤの息子アビシャイと、ガテ人イタイに、それぞれ指揮させました。　王は、自ら陣頭に立ちたいと考えていましたが、家来たちの猛反対に会いました。
３　「それは断じてなりません。　私どもが逃げ出そうと、半数が死のうと、彼らには、どうでもよいことなのです。　目あては陛下お一人なのですから。　陛下は、私どもの一万人にもあたるお方です。ですから、今は、この町においでになって、必要な時に助け舟を出してくだされればよろしいのです。」
４　ついに王も、「わかった。　言うとおりにしよう」とうなずきました。　王は町の門に立って、全軍が出陣するのを見送りました。
５　王はヨアブ、アビシャイ、イタイに、「わしに免じて、あの若いアブシャロムには、手ごころを加えてやってくれ」と命じました。全兵士は、王が指揮官たちにそう命じるのを聞いていました。
６　こうして、戦いはエフライムの森で始まったのです。　７イスラエル軍はダビデ軍に撃退され、ばたばたと兵士が倒れて、その日のうちに、なんと二万人がいのちを落としました。　８戦いはこの地方一帯に広がり、殺された者よりも、森で行方不明になった者のほうが、はるかに多い有様でした。　９戦いの最中、アブシャロムは幾人かのダビデ軍兵士に出くわしました。　らばに乗って逃げていたアブシャロムは、大きな樫の木の枝がおおいかぶさる下を通り抜ける時、髪を枝に引っかけてしまいました。　らばはそのまま行ってしまい、アブシャロムだけが宙づりになったのです。　１０ダビデの家来の一人がそれを見て、ヨアブに知らせました。

１１　ヨアブは、「な、なんだと！　やつを見つけしだい、どうして殺さなかったのだ。 たんまり褒美を取らせ、将校にでも取り立ててやったのに」と、詰め寄りました。
１２　「どれほどご褒美がいただけましょうとも、そんなことはごめんです。　私どもはみな、陛下が指揮官のお三方に『わしに免じて、若いアブシャロムに手を下すのだけはやめてくれ』とお頼みになったのを、聞いたんですから。　１３それに、もし私が命令に背いて王子様を殺したとして、その張本人が陛下に知れた場合、将軍、あなた様が真っ先に、私を非難なさるんじゃありませんか。」
１４　「たわ事を言うな！」　こう言い捨てると、ヨアブは三本の槍を取り、宙づりになったままで息も絶え絶えの、アブシャロムの心臓を突き刺しました。　１５ヨアブ直属の若いよろい持ち十人も、アブシャロムを取り巻き、とどめを刺しました。　１６ヨアブはラッパを吹き鳴らし、イスラエル軍追撃をやめて、兵を引き揚げました。　１７一行はアブシャロムの死体を森の深い穴に投げ込み、石を山のように積み上げました。　イスラエル軍兵士は、てんでに家へ逃げ帰りました。
１８　生前アブシャロムは、王の谷に自分の記念碑を建てていました。　「私には跡取りの息子がいないから」と述懐していたそうです。　彼が「アブシャロムの記念碑」と名づけたそれは、今も残っています。
１９　ツァドクの子アヒマアツが申し出ました。「この吉報を陛下にお伝えする役目を、ぜひとも私に仰せつけください。　神様が敵アブシャロムの手から救い出してくださったのですから。」
２０　「いかんいかん。　王子が死んだことなど、良い知らせとは言えん。　おまえには、また別の機会に働いてもらうよ。」
２１　こう言うと、ヨアブは一人のクシュ人に命じました。　「さあ、行ってくれ。　見たとおりを陛下にお知らせするのだ。」　男はヨアブに一礼すると、すぐ走りだしました。
２２　それでも、アヒマアツはあきらめません。　「どうか、私も行かせてください」と、必死にヨアブにすがります。
「困ったやつだな。　今は、おまえの出る幕じゃないんだ。　もう何もお知らせすることはないぞ。」
２３　「わかっております。　でも、とにかく行かせてほしいんです。」
あまりの熱心さに、ついにヨアブも、「まあ、いいさ。　そんなに行きたきゃ、行け」と折れました。　するとアヒマアツは、平原を通り抜けて近回りをし、例のクシュ人よりも先に着いたのです。　２４ダビデは町の門のところに腰かけていました。　見張りが城壁のてっぺんのやぐらに上ると、ただ一人で駆けて来る男の姿が、目に入りました。
２５　このことを大声で告げると、ダビデは「一人か。　なら、きっと良い知らせだ」と叫びました。
しかし、第一の使者のあとから、少し間をおいて、　２６もう一人の男が走って来るのを、見張りは確認したのです。　「もう一人、やってまいります。」　彼は大声で叫びました。

「うん、それも吉報に違いない。」　王はうなずきました。
２７　「最初に来るのは、ツァドクの息子アヒマアツのようです。」
「あれはいいやつだ。　悪い知らせなど持って来るはずがない。」
２８　アヒマアツは、「万事首尾よくまいりました！」と叫ぶと、王の前にひれ伏し、さらにことばを続けました。「神様はすばらしいお方です。　陛下をお守りくださいました。反逆者どもは一網打尽でございます。」
２９　「そ、それで、アブシャロムはどうした。　無事なのか。」
「ヨアブ将軍からこの使いをことづかりました際、何か騒ぎがあったようで、叫び声を耳にいたしましたが、くわしいことは存じません。」
３０　「よかろう。　ここで待っておれ。」
アヒマアツは、わきに退きました。
３１　するとクシュ人が到着し、「陛下、吉報でございます！　本日、神様は、すべての謀反人どもから陛下をお救いくださいました」と報告しました。
３２　「それで無事なのか、せがれは、アブシャロムは。」
「陛下に敵する者には、あの方はよい見せしめとなりました！」
３３　なんということでしょう。　王の目から涙があふれました。　彼は門の上の部屋に上り、泣き叫んだのです。　「ああ、せがれや、アブシャロムや、わしの子、アブシャロムや！　こんなことなら、わしが代わって死ねばよかった！　ああ、アブシャロム、わしのせがれ、ああ！」
一九
１　王がアブシャロムのために悲嘆にくれている、という情報が、やがてヨアブのもとにも届きました。　２王が息子のために嘆き悲しんでいると知って、その日の勝利の喜びはどこへやら、深い悲しみに包まれてしまいました。　３全軍は、まるで負け戦のように、すごすごと町へ引き揚げました。
４　王は手で顔をおおい、「ああ、アブシャロム！　ああ、アブシャロム、せがれや、せがれや！」と泣き叫んでいます。
５　ヨアブは王の部屋を訪ね、こう申し上げました。　「私どもは、きょう、陛下のおいのちをはじめ、王子様や王女様、奥方様や側室方のおいのちをお救い申し上げました。　それなのに、陛下は嘆き悲しんでおられるばかりで、まるで私どもが悪いことでもしたかのようです。　全く恥をかかされましたよ。　６陛下は、ご自分を憎む者を愛し、ご自分を愛する者を憎んでおられるようですな。　私どもなどは、どうなってもよろしいんでしょう。　はっきりわかりました。　もしアブシャロム様が生き残り、私どもがみな死にましたら、さぞかし満足なさったことでしょう。　７さあ、今、外に出て、兵士に勝利を祝ってやってください。　神様に誓って申し上げます。　そうなさいませんなら、今夜、全員が陛下から離れていくでしょう。　それこそ、ご生涯で最悪の事態となりますぞ。」
８－１０そこで王は出て行き、町の門のところに座りました。　このことが町中に知れ渡

ると、人々は続々と王のもとへ詰めかけました。
一方、イスラエルのここかしこで、論議がふっとうしていました。　「どうして、ダビデ王にお帰りいただく話をせんのか。　ダビデ王はわしらを、宿敵ペリシテ人から救い出してくださったお方だぞ。　せっかく王に仕立て上げたアブシャロム様は、ダビデ王を追って野に出たが、あえなく戦死なさった。　さあ、拝み倒してでも、ダビデ王に帰っていただき、もう一度、位についていただこうじゃないか。」　どこでも、こんな話で持ちきりでした。
１１１２そこでダビデは、祭司のツァドクとエブヤタルを使いに出し、ユダの長老たちにこう伝えさせました。　「どうして、王の復位を最後までためらうのか。　国民はすっかりその気でいるぞ。　ぐずぐずしているのは君たちだけだ。　もともと、君たちはわしの兄弟、同族、まさに骨肉そのものではないか！」
１３　また、アマサにも伝えました。「甥のおまえに、決して悪いようにはせんぞ。　ヨアブを退けても、おまえを最高司令官にしてやる。　もしこれが嘘なら、神様に殺されたってかまわん。」　１４そこでアマサは、ユダの指導者たちを説得しました。　一同は説得に応じ、口をそろえて王に、「どうぞ、ご家来衆ともども、お戻りください」と頼んできました。
１５　いよいよ、エルサレムめざして出発です。　ヨルダン川にさしかかると、まるでユダ中の人々が、王をギルガルまで出迎えたかのような人出で、川越しを手伝おうとしました。　１６ベニヤミン人ゲラの息子で、バフリム出身のシムイも、王を迎えようと駆けつけました。１７彼のあとには、ベニヤミン部族の人々が千人ほどついて来ていましたが、その中に、かつてサウル王に仕えたツィバとその十五人の息子、二十人の家来などもいました。　一行は王の来る前にヨルダン川に着こうと、息せき切って来たのです。　１８彼らは王の一家と兵たちを渡し舟に乗せ、一生懸命その川越しを手伝いました。
王が渡り終えた時、シムイは前にひれ伏し、すがるように弁解しました。　１９「陛下、何とぞお赦しください。　エルサレムから落ちのびられた陛下に、取り返しもつかないほどの悪いことをしてしまいましたが、どうか、水に流してください。　２０大それた罪を犯してしまったと、重々反省しております。　それで、きょう、ヨセフ部族の中でも、一番乗りして陛下をお迎えに上がろうと存じまして……。」２１　アビシャイがさえぎりました。　「こいつめ。　打ち首に決まっておるわ！　神様に選ばれた王をのろったんだからな。」
２２　ダビデはそれをとどめました。　「そんなことばは控えろ！　きょうは処罰の日ではなく、祝宴の日だ！　わしがもう一度、イスラエルの王に返り咲けたのだからな！」
２３　それからシムイに、「おまえの命を取ろうとは思わんぞ」と誓ってやりました。
２４２５ところで、サウルの孫メフィボシェテが、王を迎えようとエルサレムからやって来ました。　彼は王がエルサレムを逃れた日以来、足も着物も洗わず、ひげもそらずに過ごしていたのです。

王は、「メフィボシェテ、どうしていっしょに来てくれなかったのだ」と尋ねました。
２６　「陛下、あのツィバが欺いたのでございます。　私はツィバに、『王について行きたい。　ろばに鞍を置け』と命じました。　ご承知のように、足が思うようになりませんもので。　２７ところがツィバは、同行を拒んでいるかのように、私のことを陛下に中傷したのでございます。　しかし、陛下は神様の使いのようなお方です。　おこころのままにご処置ください。　２８私も親族もみな、死刑宣告を受けて当然の身でございましたのに、陛下はこの私めに、陛下の食卓で食事する栄誉をお与えくださいました。　この上、何を申し上げることがございましょう。」
２９　「わかった。　ではこうするとしよう。　おまえとツィバとで、領地を二分するがよい。」
３０　「どうぞ、全部ツィバにやってください。　陛下に無事お戻りいただけただけで、本望でございます。」
３１３２王とその軍隊がマハナイムに寄留していた時、一行の面倒を見てくれたバルジライが、ヨルダン川を渡る王の案内を務めようと、ログリムからやって来ました。　かれこれ八十歳になろうという老人でしたが、非常に裕福に暮らしていました。
３３　王はバルジライに請いました。　「いっしょに来て、エルサレムで暮らさんかね。ぜひお世話したいと思うのだが。」
３４　「とんでもございません。　わしゃもう、あまりにも年をとりすぎておりますわい。３５八十にもなっては、余命いくばくもございません。　ごちそうやぶどう酒の味も、わからんようになっとります。　余興も楽しゅうはございません。　足手まといになるばかりでございます。　３６ただ、ごいっしょに川を渡らせていただければと思いましてな。これほど名誉なことは、ございますまい。　３７そうしたら戻りますわい。　両親の墓のある故郷で死にとう存じます。　で、ここに控えておりますのがキムハムと申しますが、これにお供をさせていただけませんかな。　どうか、わしの代わりに面倒を見ていただきとう存じます。」
３８　「それはいい。　キムハムとやらを連れてまいろう。　ご恩返しのつもりで世話させていただきますぞ。」
３９　こうして、全員が王とともにヨルダン川を渡り終えました。　ダビデから祝福の口づけを受けると、バルジライは家路につきました。　４０王はキムハムを伴って、ギルガルへ向かいました。　ユダの大多数とイスラエルの約半数が、ギルガルで王を出迎えました。　４１ところが、イスラエルの人々は、ユダの人々だけが王とその家族の川越しに立ち会ったことに腹を立て、王に抗議したのです。
４２　ユダの人々は答えました。　「どうして、そんなにこだわるのだ。　王はわしらの部族のご出身だぞ。　何も文句を言われる筋合いはない。いったい王がどうされたっていうんだ。　特別、わしらを養ってくださったわけでなく、贈り物をくださったわけでもないのだ。」

４３　しかし、イスラエルの人々はおさまりません。　「イスラエルには十部族もあるんだぞ。　つまり、おまえたちの十倍も、王に対しては権利があるんだ。　それなのに、どうして、わしら全員を呼んでくれなかったのだ。　そもそも、今度の王位返り咲きを言いだしたのは、わしらだぞ。　わかっているだろうな。」
こうして議論がふっとうし、ユダ側も激しく応酬しました。
二〇
１　その時、ベニヤミン人ビクリの息子でシェバというならず者が、ラッパを吹き鳴らし、大声でわめき始めました。　「ダビデなんかくそ食らえだ。　さあ、みんな行こう！　こんな所でぐずぐずするな！　ダビデなんか王じゃねえよ！」
２　すると、ユダとベニヤミン以外のイスラエル人はみな、ダビデから離れ、シェバのあとを追ったのです！　ユダの人々は王のもとにいて、ヨルダン川からエルサレムまでの全道程を従って行きました。３殿に着くと、王はさっそく、留守を守らせていた十人のそばめを別棟に移し、軟禁させました。　女たちの生活は保証されていましたが、王が通うことは、二度とありませんでした。　女たちは死ぬまで、未亡人同様に暮らしたのです。
４　それから、王はアマサに、三日以内にユダの軍隊を召集し、結果を報告せよ、と命じました。　５アマサはユダの兵士を動員するために出て行きましたが、約束の三日間でそれを果たすことができませんでした。
６　それで、ダビデはアビシャイに指令しました。「あのシェバのやつを放っておくと、アブシャロムより手に負えなくなるぞ。　急げ。　警護の兵を連れて追いかけるんだ。　わしらの手の届かない、城壁のある町に逃げ込まれたら、どうしようもないぞ。」
７　アビシャイはヨアブとともに、ヨアブ配下の精兵とダビデ王直属の護衛兵を率いて、シェバを追いました。　８－１０ところが、ギブオンにある大きな石のところまで来た時、アマサとばったり出くわしたのです。　軍服を着ていたヨアブは、短剣をわきに差していました。彼はあいさつするように駆け寄りながら、そっと短剣のさやを払ったのです。「やあ、元気かね」と、ヨアブは口づけせんばかりに、右手でアマサのあごひげをつかみ、引き寄せました。　アマサは、ヨアブが左手に短剣を隠し持っているとは知りません。　と、その時、ヨアブはアマサの下腹を、ぐさっと突き刺したのです。　はらわたが地面に流れ出ました。　このひと突きで十分でした。　アマサは死んだのです。　ヨアブと兄弟アビシャイは、倒れたアマサを置き去りにして、シェバを追跡しました。
１１　ヨアブ配下の若い将校が、アマサの従者に叫びました。　「ダビデ王に味方するなら、ヨアブ様について来るんだな！」
１２　血まみれのアマサは、道の真ん中に転がっていました。　やじうまが大ぜい集まって来たので、将校たちは死体を野原へ運び、着物をかけました。　１３死体を片づけると、みんなはシェバを捕らえようと、ヨアブのあとを追いました。
１４　一方、シェバはイスラエル全土を駆け抜けて、ベテ・マアカにあるアベルの町へ行き、自分が属するビクリ氏族に、総決起を呼びかけていました。　１５しかし、追いつい

たヨアブ軍は町を包囲し、城壁に向かってとりでを築きました。　城壁を打ちこわそうというのです。
１６　その時、町の中から、一人の賢明な女が呼びかけました。　「もし、ヨアブ様、ちょっとここまでおいでくださいまし。　お話し申し上げたいことがございます。」
１７　ヨアブが近づいて行くと、女は、「ヨアブ様ですね」と念を押しました。
「いかにも、わしがヨアブだ。」
１８　「実は、昔から『物事に決着をつけたければ、アベルの人に聞け』と申すんでございます。　いつも、私どものお勧めすることが、理にかなっているようでございましてね。
１９私どもの町は、昔から平和を愛し、イスラエルに忠誠を尽くしてまいりました。　今、この町を攻めるおつもりですとか。　どうして、この神様の町を滅ぼそうとなさるんですか。」
２０　「そんなつもりでは決してないのだ。　２１わしらの目あては、エフライム山地出身のシェバという男だけでな。　そいつはダビデ王に背いたのだ。　やつさえ引き渡してもらえれば、何の手出しもせずに引き揚げるさ。」
「かしこまりました。　その男の首を、城壁の上から投げ落としてご覧に入れましょう。」
２２　女はさっそく、賢明にも、この考えどおり住民を動かしました。人々はシェバの首をはね、ヨアブのところに投げ落としたのです。ヨアブはラッパを吹き鳴らして兵を呼び戻し、エルサレムの王のもとへ引き揚げました。
２３　ところで、ヨアブはイスラエル軍の最高司令官、ベナヤは王の護衛長でした。　２４アドラムは労務長官、ヨシャパテは史書編纂者、２５シェワは書記、ツァドクとエブヤタルは祭司長でした。　２６ヤイル人イラは王直属の祭司でした。
二一
１　ダビデの治世に、大ききんが三年も続きました。　そのため、ダビデは特別に時間をかけて祈りました。　神様からのお答えはこうです。　「ききんの原因は、サウルとその一族の罪にある。　彼らがギブオン人を殺したからだ。」
２　そこで、ギブオン人を呼び寄せました。　ギブオン人はエモリ人の末裔で、イスラエルには属していませんでした。　もともと、イスラエル人は、彼らを殺さないという誓約を立てていたのです。　にもかかわらず、サウルは熱烈な愛国心から、彼らの一掃を図ったのでした。
３　ダビデは尋ねました。　「あの罪を償いたいのじゃ。　そして君らには、わしらのために神様の祝福をとりなしてもらいたい。　それには、いったい、どうすればいいかな。」
４　「なるほど。　しかし、金でけりのつく問題ではありますまい。　それに、私どもとしても、復讐のためにイスラエル人を殺すようなまねも、したくありませんし。」
「では、どうすればいいのか。　遠慮なく言ってくれ。　そのとおりにしたいのじゃ。」
５６「では申し上げます。　血まなこになって私どもを絶滅しようとしたサウルの子、七人をお渡しください。　そいつらを、サウル王の町ギブアで、神様の前にさらしたいと存

じます。」
「わかった。　そうするとしよう。」
７　ダビデは、サウルの孫、ヨナタンの息子メフィボシェテのいのちは助けました。　ヨナタンとの間に誓いを立てていたからです。　８結局、ギブオン人に引き渡したのは、サウルのそばめリツパの息子アルモニとメフィボシェテの二人と、アデリエルの妻となった、サウルの娘メラブが産んだ五人でした。　９ギブオンの人々は、七人を山で刺し殺し、神様の前にさらし者にしました。　処刑が行なわれたのは、大麦の刈り入れの始まるころでした。
１０　処刑された二人の息子の母リツパは、岩の上に荒布を敷き、刈り入れの期間中ずっと〔四月から十月までの六か月間〕、そこに座っていました。　昼は昼で、はげたかが死体をついばむことがないように、夜は夜で、死体を食い荒らす野獣から守るため、見張っていたのです。１１リツパのこの姿に心を打たれたダビデは、　１２‐１４その者たちの骨をサウルの父キシュの墓に葬るよう、取り計らいました。　同時に、ヤベシュ・ギルアデから、サウルとヨナタンの骨を持って来ました。ギルボア山の戦いで倒れたサウルとヨナタンを、ペリシテ人がベテ・シャンの広場でさらし者にした時、あとでその遺体を盗み出したのが、ヤベシュ・ギルアデの人々でした。　二人の骨はダビデのもとへ運ばれ、葬られました。　その時、神様はついに祈りを聞いて、ききんを終わらせてくださったのです。
１５　ある日、ペリシテ人が戦いをしかけて来たので、ダビデは家来を率いて応戦しました。　しかし、激しい戦闘に、ダビデは弱り果ててしまったのです。　１６その時、穂先の重さだけでも五キロは下らない槍をかつぎ、新しいよろいを着たイシュビ・ベノブという大男が、ダビデを殺そうと近づいて来ました。　１７しかし、ツェルヤの子アビシャイがダビデを助け、そのペリシテ人を打ち殺してしまいました。こんなことがあってから、家来たちは口々に勧めました。　「陛下、二度と戦いにはお出になりませんように。　イスラエルのともしびを吹き消すような危険は冒せません。」
１８　そののち、ゴブでのペリシテ人との戦いでは、フシャ人シベカイが、もう一人の大男サフを討ち取りました。　１９同じ場所での別の戦いで、エルハナンは、ガテ人ゴリヤテの兄弟ラフミを倒しました。　ラフミの槍の柄は、はた織機の巻き棒のように太いものでした。　２０２１また、ガテでペリシテ人とイスラエル人とが戦った時、両手足が六本指の大男が、イスラエルを嘲ったことがありました。　するとその男を、ダビデの甥にあたる、ダビデの兄弟シムアの息子ヨナタンが倒しました。　２２以上の四人はガテの巨人族の子孫で、ダビデの家来の手にかかって殺されたのです。
二二
１　神様が、サウルや他のあらゆる敵から救い出してくださった時、ダビデは神様にこう歌いました。
２　「神様は私の岩、
私のとりでで、救い主。

３　私は神様のうちに隠れよう。
神様こそ私の岩、隠れ家、
私の盾、救い、
避難場所となる高い塔。
すべての敵から救い出してくださった
救い主に感謝しよう。
４　私はこのお方にすがろう。
神様には賛美がふさわしい。
すべての敵から救い出してくださるお方だからだ。
５　死の波が私を囲み、
悪の洪水が襲いかかった。
６　罠にかかった私は
死と地獄でがんじがらめ。
７　苦しみの中で神様を呼び求めると、
神様は神殿でその叫びを聞かれた。
叫びがお耳に達したのだ。
８　すると、地が揺れ動いた。
天の基もおののき震える。
神様のお怒りのせいだ。
９　噴煙がその鼻から立ちのぼり、
火が口からほとばしり出て
あらゆるものをなめ尽くし、
全世界を火だるまにした。
１０　神様は天を押し曲げて、地に降り立たれ、
黒雲に乗って進まれた。
１１　神様は栄光の御使いの背に乗り、
風の翼に乗って来られた。
１２　暗やみが神様を取り囲み、
厚い雲がたれ込めても、
１３　地は神様の輝きで、まばゆいばかりにきらめいた。
１４　神様は天から雷鳴をとどろかせ、
すべての神々にまさるお方の雄叫びが響き渡った。
１５　神様はいなずまの矢を放って
敵をかき乱された。
１６　その息吹によって
海は真っ二つに裂け、

海の底が現われた。
１７　神様は御手を伸べて
大水の中から救い上げてくださった。
１８　強敵から、
憎む者から、
とても太刀打ちできない者の手から、
神様は救い出してくださった。
１９　災いの日に、
やつらは襲いかかって来た。
しかし、救い主が私の味方だ。
２０　神様は私を救い出し、鎖をといてくださった。
私を喜びとされたからだ。
２１　私が正しかったから、手を汚さなかったから、
報いてくださったのだ。
２２　私は神様から離れなかった。
２３　神様のおきてを心に刻み、
ひたすら守り通した。
２４　神様への完全な従順と
罪との訣別。
２５　それが
豊かな報いにつながった。
神様は私のきよさをご存じだ。
２６　恵み深い者には恵み深く、
非の打ちどころのない者には
非の打ちどころなく現われてくださる神様。
２７　きよい者には
ご自身のきよさを示し、
汚れた者には滅びをもたらされる神様。
２８　神様は悩みのうちにある者を救い、
高慢な者の鼻をへし折られる。
神様の目は一挙一動を見のがさないのだ。
２９　神様は私のともしび。
目の前の暗やみを照らし出される。
３０　神様の力を受けて、私は敵を破り、
神様の勢いを借りて城壁を飛び越える。
３１　神様の道は完全、

神様のことばは真実。
神様は、すべて身を寄せる者の盾。
３２　神様をおいて神はなく、
救い主もない。
３３　神様こそ強固なとりで。
そこでは安全に守られる。
３４　神様は岩場に立つ山羊のように
正しい者の歩みをしっかり支えてくださる。
３５　戦いのために私を鍛え、
青銅の弓を引く力を養ってくださる。
３６　神様の救いの盾は私のものとなり、
神様の慈愛は私を強くする。
３７　足を踏みはずしたりしないよう
神様は私の歩幅を広げてくださった。
３８　私は敵を追って滅ぼし、
全滅させるまで手をゆるめなかった。
３９　手ひどくやられた彼らは
二度と立ち上がれず、
私の足もとにうずくまる。
４０　神様は戦う力を私に与え、
すべての敵を
征服させてくださった。
４１　また、しっぽをまいて逃げまどう敵を
私は残らず滅ぼした。
４２　呼べど叫べど、彼らを助ける者はない。
神様に叫び求めても、
何の答えもなかった。
４３　私は彼らをちりのように払いのけ、
道ばたのどろを落とすように
粉々に蹴散らした。
４４　神様は反逆からも
守ってくださった。
また、諸国民のかしらとしてのゆるぎない地位を
保たせてくださった。
外国人も私に仕えるようになる。
４５　私の権勢を耳にした外国人は

たちまち従って来る。
４６　まるで何かにつかれたように
震えおののきながら、
隠れ家から出て来る。
４７　神様は生きておられる。
すばらしい岩。
私の救いの岩、神様をほめたたえよ。
４８　敵を滅ぼしてくださる
神様をほめたたえよ。
４９　敵から助け出してくださる
神様をほめたたえよ。
そうだ、彼らの手の届かない所で私は無事守られ、
彼らの暴虐からも救われている。
５０　神様、どうして国々の中で
感謝しないでおられましょう。
お名前をほめ歌わずにおられましょう。
５１　神様はすばらしい救いを王に示し、
油注がれたダビデと、その子孫とに
あわれみをかけてくださる。
とこしえまでも！」
二三
１　これは、ダビデの最後のことばです。
エッサイの子ダビデが語る。
ダビデとは、神様からすばらしい勝利と祝福を授けられた者。
ダビデとは、ヤコブの神様から油を注がれた者。
ダビデとは、イスラエルの麗しい詩人。
２「神様の霊は私をとおして語られた。
神様のことばは私の舌にあった。
３　イスラエルの岩である方のおことば。
『正しく治める者、
神を恐れて治める者が来る。
４　その人は、朝の光のよう、
雲一つない朝焼けのよう、
地に萌え出た若草に降り注ぐ
雨上がりの陽光のようだ。』
５　まことに、神様がわが家系をお選びくださった！

神様は永遠の契約を、私と結んでくださった。
その約束はゆるがず、最後まで守られる。
神様は常に、私の安全と成功を
心にかけてくださる。
６　しかし、神様に背を向ける者は、
いばらのように投げ捨てられる。
それは、手に取る者を傷つけるからだ。
７　切り捨てるにも完全武装が必要ないばらよ。
火で焼かれるしかないものよ。」
８　ダビデ軍で最強の英雄三人の名をあげてみましょう。　筆頭はハクモニの息子ヤショブアムで、一度の戦いで八百人も殺した実績の持ち主です。
９　次は、ドドの息子でアホアハ人のエルアザルです。　彼も三勇士の一人で、ほかの者が逃げ出した時も、ダビデとともに踏みとどまって、ペリシテ人と戦いました。　１０彼は次々にペリシテ人を打ち殺し、ついに手が疲れて、剣を握ることもできないほどになりました。　神様は輝かしい勝利をお授けになりました。　残りの兵士が引き返して来た時には、もう戦利品を集めるばかりになっていたのです。
１１１２三人目は、ハラル出身のアゲの息子シャマです。　ペリシテ人が攻めて来た時、部下は彼を放って逃げ出しましたが、ただ一人レンズ豆畑の真ん中に踏みとどまって、敵を打ち倒したのです。　こうして、神様は大勝利をもたらしてくださいました。
１３　ダビデがアドラムのほら穴に潜み、攻め寄せるペリシテ人がレファイムの谷に陣取っていた時のことです。　ちょうど刈り入れのころ、イスラエル軍えり抜きの三十人の中から、この三人が、ダビデのもとに訪ねて来たのです。　１４当時、ダビデは要害に立てこもっていました。　ペリシテ人の略奪隊がベツレヘムのあたり一帯を占領していたからです。
１５　そんなダビデの口をついて出るのは、いつも、「ああ、のどが渇いた。　ベツレヘムの井戸のうまい水が飲みたいなあ」ということばでした。　その井戸は町の門のわきにありました。
１６　そこで三人の勇士は、ペリシテ人の陣営を突き破って井戸へ行き、くんで来た水を、ダビデに差し出したのです。　しかしダビデは、とてもその水を飲む気にはなれませんでした。　その代わり、神様の前に注ぎかけたのです。
１７　ダビデは叫びました。　「神様！　どうしてこの水を飲めましょう。　いのちをかけた人々の血でございますから。」
１８１９この三人のほかに、ツェルヤの息子ヨアブの兄弟アビシャイも、非常に評判の高い人物でした。　彼は単身三百人の敵を相手にし、切り殺したのです。　武勲により、例の三勇士の一人ではなかったにもかかわらず、彼らに負けないほどの名声を得ました。 もっとも、彼は、あの三十人のイスラエル軍の幹部将校の中では最も評判が高く、主導権を

にぎっていた人物です。
２０　このほか、エホヤダの息子でベナヤという、カブツェエル出身の勇士もいました。ベナヤは、モアブの英雄二人を倒しました。　またある時、つるつるの雪道にもかかわらず、ほら穴に下りて行き、中にいたライオンを殺しました。　２１ある時などは、杖一本で、槍を手にしたエジプト人戦士に立ち向かって、倒しました。　相手の手から槍をもぎ取って、突き殺したのです。　２２これらの手柄で、ベナヤは三勇士のように有名になりました。　２３彼は、あの三十人の中で非常に評判の高い一人でしたが、三勇士には及びませんでした。　ダビデは彼を、護衛長に任命しました。
２４‐３９ヨアブの兄弟アサエルも、あの三十人の一人でした。　そのほかの顔ぶれは次のとおりです。
ベツレヘム出身で、ドドの息子エルハナン
ハロデ出身のシャマ
ハロデ出身のエリカ
ペレテ出身のヘレツ
テコア出身で、イケシュの息子イラ
アナトテ出身のアビエゼル
フシャ出身のメブナイ
アホアハ出身のツァルモン
ネトファ出身のマフライ
ネトファ出身で、バアナの息子ヘレブ
ギブア出身で、ベニヤミン部族リバイの息子イタイ
ピルアトン出身のベナヤ
ガアシュの谷出身のヒダイ
アラバ出身のアビ・アルボン
バルフム出身のアズマベテ
シャアルビム出身のエルヤフバ
ヤシェンの息子たち
ヨナタン
ハラル出身のシャマ
アラル出身で、シャラルの息子アヒアム
マアカ出身で、アハスバイの息子エリフェレテ
ギロ出身で、アヒトフェルの息子エリアム
カルメル出身のヘツライ
アラブ出身のパアライ
ツォバ出身で、ナタンの息子イグアル
ガド出身のバニ

アモン出身のツェレク
ツェルヤの息子ヨアブのよろい持ちで、ベエロテ出身のナフライ
エテル出身のイラ
エテル出身のガレブ
ヘテ人ウリヤ
以上合わせて三十七人です。
二四
１　ところで､神様が再びイスラエルに怒りを燃やすようなことが持ち上がりました。 ダビデはどうしたことか、人口調査をして国民をわずらわそう、という思いにかられたのです。
２　王は軍隊の最高司令官ヨアブに命じました。　「わが国の北から南までくまなく、全人口を登録させるのだ。　どれほどの国民をかかえているか知りたいのでな。」
３　ヨアブはびっくりしました。　「どうか、神様が、陛下の長らえます間に、現在の人口の百倍にもふやしてくださいますように！　しかし、陛下がわざわざ、国勢を誇示なさるには及ばないと存じますが。」
４　しかし、ヨアブの忠告も、王のたっての願いには勝てず、ヨアブをはじめとする将校たちは､国の人口調査に出かけることになりました。　５一行はまず､ヨルダン川を渡り、ガドの谷の真ん中にある町の南方、ヤウゼルに近いアロエルに野営しました。　６それからタフティム・ホデシの地とギルアデを巡り、さらにダン・ヤアンに進んで、シドンの方に回りました。　７その後ツロの要塞に行き、ヒビ人やカナン人の町をすべて行き巡り、ユダの南に広がるネゲブを、ベエル・シェバまで下りました。　８こうして、九か月と二十日かかって、全国を行き巡り、この任務を終えたのです。　９ヨアブは、国民の登録人数を王に報告しました。　その結果、徴兵人口は、イスラエルで八十万、ユダで五十万とわかりました。
１０　ところが、人口調査を終えたあと、ダビデの良心は痛み始めたのです。　彼は神様に祈りました。　「とんでもない過ちを犯してしまいました。　どうか、私の愚かな振る舞いをお見のがしください。」１１　翌朝､神様のお告げが､預言者ガドにありました。 ガドは、ダビデと神様との間を取り次いでいた人物です。
神様はガドにお語りになりました。　１２「ダビデに告げよ。　私が示す三つのうち一つを選べとな。」
１３　ガドはダビデのもとへ行き、こう尋ねました。　「七年間にわたる全国的なききんがよいか、三か月間、敵の前を逃げ回るのがよいか、三日間、伝染病にみまわれるのがよいか､一つを選んでください。よくお考えになって､神様にどうお答え申し上げるべきか、ご指示ください。」
１４　ダビデは答えました。 「こんな決断を下さなければならんとは､実につらい。　だが､人の手に陥るよりは神様の手に陥るほうがましだ。 神様のあわれみは大きいからな。」

１５　すると神様は、その朝から、イスラエルに伝染病をはやらせました。　災いは三日間にわたりました。　そのため、国中で七万もの死者が出ました。　１６死の使いがエルサレムに災いの手を伸ばそうとした時です。　神様は事態をあわれんで、中止するようお命じになりました。　ちょうど御使いは、エブス人アラウナの打ち場のわきに立っていました。
１７　この時、ダビデはその御使いに目を留め、神様にこうおすがりしました。　「お願いです。　罪を犯したのは、この私だけなんです。　国民に罪はございません。　どうか、お怒りを、私と私ども一家にだけお向けください。」
１８　その日、ダビデのもとに来たガドは、「エブス人アラウナの打ち場に行き、そこに神様の祭壇を築きなさい」と言いました。　１９ダビデは、命じられたとおり出かけました。２０アラウナは、王と家来の一行が近づいて来るのを見て駆け寄り、顔を地面にこすりつけんばかりにひれ伏しました。
２１　「陛下、またどうして、こちらにお越しくださったのでございましょう。」
「おまえの打ち場を買い取り、神様の祭壇を築きたいと思うてな。そうすれば、この災いも終わらせていただけよう。」
２２　「陛下、どうぞ、何でもご随意にお使いください。　完全に焼き尽くすいけにえ用の牛もおりますし、祭壇のたきぎ代わりに、どうぞ、打穀機や牛のくびきを燃やしてください。　２３何でもご用立ていただきとう存じます。　どうか神様が、陛下のささげなさるいけにえを、お受け入れくださいますように。」
２４　「いやいや、ただで受け取るわけにはいかん。　ぜひ、売ってもらいたい。　神様に、何の犠牲もはらわず、完全に焼き尽くすいけにえをささげたりはできんのでな。」
こう言って、ダビデは打ち場と牛とを買い取りました。　２５そして、神様のために祭壇を築き、完全に焼き尽くすいけにえと、和解のいけにえとをささげたのです。　神様はダビデの祈りを聞き、病気の流行をぴたりと止めてくださいました。
▪

王国衰亡記　上（列王記Ｉ）
本書は、ダビデの死で始まり、神殿建設を含むソロモンの治世を描いています。　さらに、国が北王国イスラエルと南王国ユダに分裂したことに触れ、エリヤとイスラエル王アハブとの華々しい闘いで終わっています。　エリヤとアハブの争いは、神様が人間生活に直接介入し、人間に関心をはらっておられることを教えるとともに、社会悪が国民の霊的生活に悲惨な結果をまねくことを物語っています。

一
１　晩年のダビデ王は寝たきりになりました。　毛布を何枚かけても、体が暖まらないのです。
２　そこで、側近の者が提案しました。　「若い娘を、お世話役のそばめとしてはいかがでしょう。　添い寝をさせて、お体を暖めさせるのです。」
３４さっそく、国中くまなく捜して、いちばん美しい娘を見つけ出すことになりました。ついにシュネム出身のアビシャグが選ばれ、王のもとへ連れて来られました。　王を暖めるため、その腕に抱かれて寝ることになったのです。　しかし、肉体関係はありませんでした。
５　そのころ、ハギテの子であるアドニヤは、自分こそ老いた父に代わって王位につくべきだと考えて、戦車を買い集め、騎兵を雇い、彼の前を走る五十人の近衛兵をそろえました。　６ところで、父のダビデ王は、これまで一度も、彼をたしなめたことがありませんでした。　彼はアブシャロムのすぐ下の弟で、とてもハンサムでした。　７ヨアブ将軍と祭司エブヤタルに思惑を打ち明けると、二人とも賛成です。　８しかし、祭司ツァドク、ベナヤ、預言者ナタン、シムイ、レイ、ダビデ軍の勇士たちは、あくまでも王に忠誠を尽くし、アドニヤに味方するようなことはしませんでした。
９　アドニヤはエン・ロゲルへ行き、蛇の石のそばで、羊、牛、太った子やぎをいけにえとしてささげました。　それから、即位式の立会人として、兄弟とユダの政府高官を全員招きました。　１０ただし、預言者ナタン、ベナヤ、王の勇士たち、それに、兄弟のうち、弟ソロモンだけは招きませんでした。
１１　預言者ナタンは、ソロモンの母バテ・シェバに会い、こう勧めました。　「ハギテの子アドニヤが王になり、しかも、陛下が少しもお気づきでないことを、ご存じですか。１２ご自身と、ご子息ソロモン様の無事を願われるなら、これから申し上げるとおりになさってください。　１３すぐ陛下のところへ行って、『陛下は私に、ソロモンが次の王になる、とお約束になったではありませんか。　それなのに、なぜ、アドニヤが王になっているのでしょう』と申し上げるのです。１４お話の最中に、私もまいり、訴えが事実であることを、王に確認しましょう。」
１５　バテ・シェバは、言われたとおり王の寝室へ行きました。　王は非常に年老い、アビシャグが身の回りの世話をしていました。　１６バテ・シェバがていねいにおじぎをす

ると、
王は、「何の用か」と尋ねました。
１７　「陛下に申し上げます。　陛下は、神様に誓って、わが子ソロモンが次の王になる、とおっしゃいました。　１８それなのに、アドニヤが新しい王になっています。　しかも、陛下はそれをご存じありません。　１９アドニヤは即位を祝って、牛や太った山羊やたくさんの羊をいけにえとしてささげ、陛下のお子様方ぜんぶと祭司エブヤタル、それにヨアブ将軍を招きました。　ただし、ソロモンだけは招かれませんでした。　２０今、イスラエル中の人が、アドニヤが後継者として選ばれるかどうか、陛下の決定を待っております。２１陛下がはっきり決着をつけてくださらないと、ソロモンも私も、陛下がお亡くなりになったとたん、謀反人として捕らえられ、処刑されるに決まっております。」
２２２３彼女が話しているうちに、側近の者が来て、「預言者ナタン様がお目どおりを願い出ています」と伝えました。
ナタンは王の前に出ると、うやうやしく一礼し、　２４話を切り出しました。　「陛下、陛下はアドニヤ様を、後継者にお選びになったのでしょうか。　２５実はきょう、あの方は即位を祝って、牛や太った山羊やたくさんの羊をいけにえとしてささげ、陛下のお子様方を祝賀会に招いたのです。　ヨアブ将軍と祭司エブヤタルも招かれました。　一同はあの方の前で飲み食いし、『アドニヤ王、ばんざい！』と叫んだということです。　２６しかし、祭司ツァドク、ベナヤ、ソロモン王子、それに私だけは招かれませんでした。　２７これは、陛下がご承知の上でなされたことでしょうか。　陛下はまだ、お子様のうちどなたを次の王にするか、仰せではございませんが。」
２８　王は、「バテ・シェバをここへ」と命じました。　中座していた彼女は戻って来て、王の前に立ちました。
２９　王は誓いました。　「わしをあらゆる危険から助け出してくださった神様は生きておられる。　３０いつかイスラエルの神様の前でおまえに誓ったとおり、きょう、おまえの子ソロモンを王とし、わしの王座につかせる。」
３１　バテ・シェバは、もう一度うやうやしくおじぎをすると、感きわまって叫びました。「ありがとうございます、陛下。　どうか、末長くおすこやかに！」
３２　「祭司ツァドクと預言者ナタン、それにベナヤをここへ。」　王は続けて命じました。三人が前に出ると、　３３王はこう指示しました。　「ソロモンとわしの家来とをギホンへ連れて行け。　ソロモンはわしの雌らばに乗せてな。　３４祭司ツァドクと預言者ナタンは、そこでソロモンに油を注ぎ、イスラエルの王とするのだ。　それからラッパを吹き鳴らし、『ソロモン王、ばんざい！』と叫べ。　３５ソロモンが戻りしだい、新しい王として王座につけよう。　わしはソロモンを、イスラエルとユダの王に任命する。」
３６　ベナヤは答えました。　「アーメン！　神様をほめたたえます。　３７神様が陛下とともにおられたように、ソロモン様ともおられますように。　ソロモン王を、陛下以上に偉大な王としてくださいますように！」

３８　こうして、祭司ツァドク、預言者ナタン、ベナヤ、王の家来たちは、ソロモンを王の雌らばに乗せ、ギホンへ行きました。　３９ギホンに着くと、ツァドクは天幕から神聖な油を取り出し、ソロモンの頭に注ぎかけました。　ラッパが吹き鳴らされ、人々はみな、「ソロモン王、ばんざーい！」と叫びました。
４０　それから、一同はソロモンの供をしてエルサレムへ帰りましたが、道中は喜び祝う歌声で、それはそれはにぎやかでした。　４１アドニヤと招待客は、ちょうど食事を終えたところでした。　何やら外が騒々しいようです。
ヨアブはいぶかしげに尋ねました。　「いったい何事だ。　何の騒ぎだ。」
４２　そのことばが終わらないうちに、祭司エブヤタルの子ヨナタンが駆け込んで来たので、アドニヤが言いました。
「入れ。　おまえは勇敢な者だから、良い知らせを持って来たに違いない。」
４３　「ダビデ王は、ソロモン様が王だと発表しました！　４４４５しかも、ソロモン様をご自分の雌らばに乗せ、ギホンへ行かせたのです。　祭司ツァドク、預言者ナタン、それにベナヤが同行し、王の護衛隊が警護にあたりました。　ツァドクとナタンは、ソロモン様の頭に油を注いで、新しい王にしました。　一行が戻ったので、町中が喜びにわきかえっています。　あの騒がしい物音をお聞きください。　４６４７ソロモン様はすでに王座におつきです。　国民はこぞってダビデ王に、『どうか神様が、親しく陛下を祝福してくださった以上に、ソロモン様を祝福してくださいますように。　ソロモン王を、陛下以上に栄えさせてくださいますように！』とお祝いを申し上げています。　王は床についたまま、人々の祝福のことばを受けておいでです。　４８しかも、『わしが生きているうちに、息子の一人を選んで、王座につけてくださったイスラエルの神様を、心からほめたたえます』と言っておられるとか。」
４９５０これを聞いて、アドニヤと招待客はびっくり仰天です。　この先どうなるか、わかったものではありません。　恐ろしくなって逃げ出しました。　アドニヤは神の天幕に駆け込み、祭壇の角にしがみつきました。　５１アドニヤが聖所に入って、いのち乞いをしていることが報告されると、　５２ソロモンは言いました。　「礼儀正しく振る舞うなら、危害は加えまい。　しかし、そうでなければ、いのちはない。」　５３ソロモン王はアドニヤを呼びにやり、祭壇から下ろさせました。彼が来てうやうやしくおじぎをすると、あっさり赦し、「家へ帰るがよい」と言っただけでした。
二
１　死期が近いと悟ったダビデ王は、息子ソロモンに次のように言い含めました。
２　「わしはもうすぐ、だれもが行くべき所へ行く。　たくましい、りっぱな後継者になってくれよ。　おまえを信じておるからな。　３神様の教えを守り、いつも神様にお従いするのだ。　モーセの法律にある戒めの一つ一つを守れ。　そうすれば、どんなことをしても、どこへ行っても、祝福される。　４また、正しく歩み、神様に忠誠を尽くすなら、必ず子孫のだれかがイスラエルの王となり、ダビデ王朝は絶えないという約束を、神様は

果たしてくださる。
５　さあ、よく聞け。　おまえは、ヨアブがわしの二人の将軍、アブネルとアマサを殺したことを知っているだろう。　戦いの最中で、しかたなくそうしたと言っておるが、実は平和な時に起こっているのだ。　６おまえはりこう者だから、どうしたらいいかわかるだろう。　彼を安らかに死なせてはならん。　７しかし、ギルアデ人バルジライの子らには親切にし、いつも王の食卓で食事をさせてやれ。　彼らは、わしがおまえの兄アブシャロムから逃げた時、親身に世話をしてくれたからな。　８また、バフリム出身のベニヤミン人、ゲラの子シムイのことを覚えているだろう。　わしがマハナイムに落ちのびた時、わしを激しくのろいおった男だ。　それでも、わしを迎えにヨルダン川まで下って来たものだから、いのちだけは助ける、と約束してやった。　９だがな、そんな約束はおまえにかかわりのないことだ。　おまえなら、どうすれば奴を血祭りにあげられるか、わかるだろう。」
１０　こうしてダビデは死に、エルサレムに葬られました。　１１彼は四十年間イスラエルを治めましたが、そのうち七年はヘブロンに、あとの三十三年はエルサレムの宮殿にいました。　１２ソロモンが父ダビデに代わって王となり、王国はますます栄えたのです。
１３　ある日、ハギテの子アドニヤが、王母バテ・シェバに目どおりを願い出ました。
「私を困らせるために、おいでになったのですか」と、バテ・シェバは尋ねました。
「とんでもありません。　１４実は、折り入って、お願いがあるのです。」
「いったい何でしょう。」
１５　「私にとって、今まで何もかもうまくいっていました。 王国は私のものでしたし、だれもが、次の王になるのは私だと思っていました。　ところが形勢は逆転し、すべては弟のものとなりました。　そうなることを、神様が望んでおられたからです。　１６そこで今、ほんのちょっとしたことをお願いしたいのです。　どうか、お聞き届けください。」
「それはまた、どんな願いですか。」
１７　「どうか、ソロモン王にお願いしてください。　あなた様のお口添えがあれば、王は何でもかなえてくださるはずです。 実は、シュネム人アビシャグを妻に欲しいのです。」
１８　「わかりました。　お願いしてみましょう。」
１９　そこでバテ・シェバは、ソロモン王に頼みに出かけました。　王は彼女が入って行くと、王座から立ち上がり、深く一礼しました。それから、自分の右に席を設けるように命じ、彼女をそこに座らせました。
２０　「ちょっとしたお願いがあります。　ぜひ、聞き届けてください。」
「母上、どんなことでしょう。　何なりとうかがいましょう。」
２１　「あなたの兄アドニヤとアビシャグの結婚を許してほしいのです。」
２２　「何ですって？　気でも狂われたのですか。　アビシャグをアドニヤに与えるなんて、王国を与えたも同然じゃありませんか。　彼は私の兄ですよ。 そんなことをしたら、彼は祭司エブヤタルやヨアブ将軍と組んで、私を出し抜くに決まっています。」　２３２４

王は激しく怒りました。「反逆を企てたアドニヤをこの日のうちにしまつしなかったら、神様が私を打ち殺してくださるように！　父上の王座を私に与え、約束どおり王国を確立してくださった神様にかけて、このことを誓っておく。」
２５　王から、アドニヤを処刑する役を仰せつかったベナヤは、剣でアドニヤを殺しました。
２６　それから王は、祭司エブヤタルに命じました。　「アナトテの実家へ帰れ。　おまえも殺されて当然だが、今は、そうしたくない。父が王位にあった時、おまえはいつも神の箱をかつぎ、父と苦難を共にしてきたからだ。」
２７　エブヤタルは祭司職から追放されました。　シロでエリの子孫に下った神様の宣告が、こうして実現したのです。
２８　アブシャロムの反乱には加わりませんでしたが、アドニヤの反乱には手を貸したヨアブは、アドニヤが殺されたと聞くと、神の天幕に逃げ込み、祭壇の角にしがみつきました。　２９報告を受けた王は、ベナヤにヨアブの処刑を命じたのです。
３０　ベナヤは天幕に入り、「陛下が、出て来るようにと仰せだ！」と声をかけました。
ヨアブは、「いやだ。　ここで死なせてくれ」と応じません。
ベナヤは帰って、王に指示を仰ぎました。
３１　「では、彼が言うとおりにせよ。　祭壇のそばでヨアブを殺し、葬るがよい。　こうして、ヨアブの殺人の罪を、私と父の家から取り除くのだ。　３２彼よりりっぱな二人の人を殺した責任は、すべて彼にある。　父上は、イスラエルの最高司令官アブネルと、ユダの最高司令官アマサの死には､全くかかわりがなかった。　３３ヨアブとその子孫は、この殺人の罪を永久に負わなければならない。　どうか神様が、ダビデとその子孫には、この二人の死について全く責任がないことを、明らかにしてくださるように。」
３４　ベナヤは天幕へ引き返してヨアブを殺し、荒野にある彼の家の近くに葬りました。
３５　王はベナヤを最高司令官に任命し、また、ツァドクをエブヤタルに代わる祭司としました。
３６３７さらに、シムイを呼び寄せて、こう申し渡しました。　「このエルサレムに家を建てて住み、町の外へは一歩も出るな。　町を出てキデロン川を渡ったら、いのちはないものと思え。　それでおまえが死んでも、責任は負わんぞ。」
３８　「よくわかりました。　おっしゃるとおりにいたします。」　シムイは、言われたとおりエルサレムに住みつきました。
３９　ところが、それから三年後、シムイの奴隷が二人、ガテの王アキシュのもとへ逃亡したのです。　そのことを聞くと、　４０シムイはすぐろばに鞍をつけ、アキシュ王に会おうと、ガテへ向かいました。奴隷は見つかり、エルサレムへ連れ戻されました。
４１　シムイがエルサレムを離れてガテへ行き、また戻って来たことは、ソロモン王の耳にも入りました。　４２そこで、さっそくシムイを呼び出し、問いただしました。　「神様にかけて、エルサレムを離れるな、さもないと死ぬことになる、と言っておいたはずだ

ぞ。　あの時おまえは、『よくわかりました。　そのとおりにいたします』と答えたな。　４３それなのに、なぜ命令に背いた。　４４父上にどんな悪事を働いたか、よもや忘れはしまい。　神様がおまえに復讐してくださるように。４５しかし、この私をぞんぶんに祝福し、またダビデの子孫を、いつもこの王座につけてくださるように。」
４６　ベナヤは王の命令で、シムイを連れ出して殺しました。
こうして、ソロモンの支配は不動のものとなったのです。
三
１　ソロモン王はエジプト王と同盟を結び、その娘と結婚しました。　彼女をエルサレムに連れて来て、宮殿と神殿と町の城壁を建て終わるまで、ダビデの町に住まわせました。
２　そのころ、まだ神殿がなかったので、イスラエル国民は、丘の上の祭壇でいけにえをささげていました。
３　王は神様を愛し、父ダビデの指示どおりに生活していましたが、一つだけ、いぜんとして丘の上でいけにえをささげ、香をたいているのが、彼の落度でした。　４ギブオンの丘の祭壇が最も有名で、王はそこへ出かけ、千頭もの、完全に焼き尽くすいけにえをささげたのです。　５するとその夜、神様が夢のうちに現われ、「何なりと望むものを求めよ。与えてやろう」とお語りになりました。
６　ソロモンはこう答えたのです。「神様は父に、とてもよくしてくださいました。　それと申しますのも、父が正直で、いつも神様に忠誠を尽くし、心からご命令にお従いしたからです。　神様はまた、王位を継ぐ子を授けるという祝福を、父にお与えになりました。７ああ、神様。　神様は、父に代わって、この私を王としてくださいました。　ところが、私は右も左もわきまえない、小さな子供と同じです。　８しかも、神様が自らお選びになった国民の指導者として立てられました。　この国民はあまりにも多くて、とても数えきれません。　９どうか、国民を正しく治め、善悪をはっきり見分けるために、すぐれた判断力をお与えください。　いったいだれが、自分の力でこれほどの重い責任を果たせるでしょう。」
１０　ソロモンが知恵を願い求めたので、神様はことのほかお喜びになりました。　１１そこで、こうお答えになったのです。　「おまえは国民を正しく治める知恵を求めて、長生きすることや財産、または敵に勝つことを願わなかった。　１２だから、望んだものを与えよう。　それも、ずば抜けた知恵を。　１３また、望まなかった財産と名誉も授けよう。　おまえが生きている間、財産と名声でおまえにかなう者は、だれもいないだろう。１４それだけでなく、おまえの父ダビデのように、わたしの教えを守り、わたしに従うなら、うんと長生きさせる。」
１５　ここで、はっと目が覚めました。　今までのことは夢だったのです。　ソロモンはエルサレムに帰ると、さっそく神の天幕に入って契約の箱の前に立ち、完全に焼き尽くすいけにえと和解のいけにえをささげました。　そして役人たちを招き、盛大な祝宴を開いたのです。

１６　それからしばらくして、二人の売春婦が、もめ事を解決してもらおうと、王のところへやって来ました。
１７１８一人がこう訴えました。　「王様、私たちは二人で同じ屋根の下に暮らしています。　最近、私は子供を産みました。　三日後に、この女も産みました。　１９ところが、夜中に、この女の子供は死んだのです。　寝ているうちに、この女が子供の上になり、窒息させたのです。　２０するとこの女は、私の子を取って自分のそばに寝かせ、死んだ子を私の腕に抱かせたのです。　２１朝、お乳を飲ませようとすると、子供は死んでいるではありませんか！　しかも、明るくなってからよく見ると、私の子ではありません。」
２２　もう一人の女が口をはさみました。　「とんでもない。　死んだのは、まちがいなくこの女の子で、生きているほうが私の子です。」
「違うわ。　死んだ赤ちゃんがあんたので、生きているのが私のよ。」　先の女も、負けずに言い返します。　二人は王の前で言い争ったのです。
２３　そこで、王が中に入りました。　「おまえたちは二人とも、生きているのが自分の子で、死んだのは相手の子だと言いはっている。２４２５だれか、刀を持って来い。」　刀を受け取った王は、こう言いました。　「生きている赤ん坊を真っ二つにして、半分ずつ分けてやれ。」
２６　すると、生きている子供のほんとうの母親は、その子を目に入れても痛くないほどかわいがっていたので、大声で叫びました。　「王様、おやめください！　だったら、いっそ子供をあの女にやってください。　どうか、殺さないでください！」
ところがもう一人は、平気な顔で言い放ちました。　「けっこうですわ。　真っ二つにでも何でもして、私のものでも、この女のものでもないようにしてください。」
２７　これを聞いた王は、きっぱり申し渡しました。　「子供を、殺さないでくれと頼んだ女に渡せ。　その女こそ実の母親だ。」
２８　この名裁判のことは、たちまち国中に知れ渡りました。　国民はみな、神様がソロモンに、すばらしい知恵をお与えになったことを知って、厳粛な思いに打たれたのです。
四
１‐６以下はソロモン王の閣僚名簿です。
ツァドクの子アザルヤは祭司
シシャの子のエリホレフとアヒヤは書記
アヒルデの子ヨシャパテは記録作成と古文書保管の長官
エホヤダの子ベナヤは軍の最高司令官
ツァドクとエブヤタルは祭司
ナタンの子アザルヤは国務長官
ナタンの子ザブデは宮廷付き祭司で、王の相談役
アヒシャルは宮内長官
アブダの子アドニラムは労務長官

７　そのほか､ソロモンの宮廷には､各部族から一人ずつ選ばれた十二人の調達官がいて､各人が一年に一か月ずつ、王家のために交替で食糧の調達にあたりました。
８‐１９その十二人の名は次のとおりです。
エフライムの山地を受け持つ、ベン・フル
マカツ、シャアルビム、ベテ・シェメシュ、エロン・ベテ・ハナンを受け持つ、ベン・デケル
ソコとヘフェルの全地とを含むアルボテを受け持つ、ベン・ヘセデ
ソロモン王の娘タファテの夫で、ドルの高地を受け持つ、ベン・アビナダブ
タナク、メギド、イズレエルの下手にあるツァレタンに近いベテ・シェアンの全土、ベテ・シェアンからアベル・メホラを越えてヨクモアムまでの全地域を受け持つ、アヒルデの子のバアナ
ギルアデにある、マナセの子ヤイルの村落を含むラモテ・ギルアデと、青銅の門のある城壁に囲まれた六十の町を含む、バシャンのアルゴブ地方を受け持つ、ベン・ゲベル
マハナイムを受け持つ、イドの子アヒナダブ
これも、ソロモン王の娘バセマテの夫で、ナフタリを受け持つアヒマアツ
アシェルとベアロテを受け持つフシャイの子バアナ
イッサカルを受け持つパルアハの子ヨシャパテ
ベニヤミンを受け持つエラの子シムイ
エモリ人のシホン王とバシャンのオグ王との領地を含む、ギルアデを受け持つ、ウリの子ゲベル
なお、この上に長官がいて、仕事を監督していました。
２０　そのころ、イスラエルとユダは人口も増え、生活にもゆとりのある裕福な国となっていました。　２１ソロモン王は、ユーフラテス川からペリシテ人の地、さらにエジプトの国境までの地を支配しました。　この範囲に住む人々は、ソロモン王に貢を納め、王が生きている間中服従したのです。
２２　王宮の一日分の食糧は、小麦粉一万八百リットル、大麦粉二万一千六百リットル、２３牛舎で太らせた牛十頭、放牧地で太らせた牛二十頭、羊百頭でした。　そのほか、時に応じて、雄鹿、かもしか、子鹿、肥えた鳥などが調理されました。
２４　ソロモン王の支配は、ティフサフからガザに至る、ユーフラテス川の西の国々ぜんぶに及びました。　しかも、この地方全体が平和でした。
２５　王の在世中、ユダとイスラエルの全国民は平和に暮らし、だれもが庭つきの家に住みました。
２６　王は、戦車を引く馬四万頭と、騎兵一万二千人を手に入れました。　２７毎月、調達官たちは、王や宮廷用の食糧、　２８王室の馬用の大麦とわらを調達したのです。
２９　神様はソロモン王に、すばらしい知恵と理解力、それに、どんなことにも興味を示す心をお与えになりました。　３０事実､王の知恵は､エジプト以東のどんな学者よりも､

はるかにまさっていたのです。３１王は、エズラフ人エタン、ヘマン、カルコル、マホルの子ダルダよりも知恵があったので､その名声は周囲のすべての国々に広がりました。 ３２王は三千の格言と、一千五首の歌を作りました。　３３また、動物、鳥、蛇、魚、それに、大はレバノン杉から、小は石垣の割れ目に生えるヒソプに至る植物に関心を示す、博物学者でした。　３４それで多くの王が、ソロモン王の助言を聞こうと、使者を送ったのです。
五
１　ツロの王ヒラムは、かねてから大のダビデ崇拝者でした。　それで、ダビデの子ソロモンがイスラエルの新しい王になったと聞くと､さっそくお祝いの使者を立てました。 ２３ソロモン王は答礼の使者を送り、自分が建てたいと願っている神殿についての計画を打ち明けました。 ヒラム王に､父ダビデは打ち続く戦争のため神殿を建てることができず、神様が平和をお与えになるのをひたすら待ち望んでいた、と説明したのです。
４　そして、こう頼みました。　「ようやく今、神様は、イスラエル全土に平和をお与えになりました。　もう国内にも、国外にも、敵はいません。　５ですから、神様のために神殿を建てる計画を進めています。　神様が父に告げたとおりに、しなければならないからです。　神様は父に、『わたしが王座につかせるおまえの子が､わたしのために神殿を建てる』と告げたのです。　６どうか、この計画に力を貸してください。　きこりをやり、レバノンの山から杉を切り出させてください。　私の部下もいっしょに働かせましょう。そちらの労働者には、お望みどおりの賃金を払います。　ご存じのように、イスラエルには、お国のような腕ききのきこりはいないのです。」
７　ヒラム王は、申し出を受けて、たいそう喜びました。　「あのダビデ王に、おびただしいイスラエル民族を治める、知恵に満ちた息子を授けられた神様は、ほんとうにすばらしいお方だ！」　８快く承知する旨をソロモンに伝えたことは、言うまでもありません。「お申し出のこと、よくわかりました。　材木のことなら、お任せください。　レバノン杉でも、糸杉でも、ご用立ていたします。　９私の部下が、レバノンの山から切り出した丸太を地中海まで運び、それをいかだに組み、海岸づたいに、ご指定の場所まで運ぶようにします。　それからいかだを解き、材木をお渡しいたしましょう。　代金は食糧で払ってください。」
１０　こうしてヒラム王は、ソロモン王のために、レバノン杉と糸杉の木材を必要なだけ用立てました。　１１そのお返しとして、ソロモンはヒラムに、宮廷用の食糧として、毎年、小麦七百二十万リットル、上質のオリーブ油七千二百リットルを送りました。　１２このように、神様は約束どおり、ソロモンに特別すぐれた知恵をお与えになったので、ヒラムとソロモンは平和協定を結びました。
１３　ソロモンはイスラエル中から三万の労働者を集め、 １４一万人ずつ一か月交替で、レバノンへ行かせました。　それで彼らは、三か月のうち一か月はレバノンに、二か月は家にいたのです。　この仕事の監督にあたったのは、労務長官アドニラムでした。　１５

ソロモンは、さらに、荷を運ぶ者七万と、山で石を切り出す者八万を集めました。　１６現場監督の数は三千三百人です。　１７石工たちは､神殿の土台用の大きな石を切り出す、工賃の高い仕事をしました。　１８ゲバルから来た人々は、ソロモンとヒラムの送った建築技師を助けて、材木から板を作ったり、神殿用の石材を用意したりしました。
六
１　ソロモン王が神殿の建設にかかったのは、即位後四年目の春のことでした。　イスラエル国民が、奴隷になっていたエジプトを出てから、四百八十年後のことです。　２神殿は、長さ三十メートル、幅十メートル、高さ十五メートルでした。　３正面の玄関は、幅十メートル、長さ五メートルで、　４全体に狭い窓を取りつけました。
５　神殿の両側の長さいっぱいに、外の壁に面して脇部屋が作られました。　６この脇部屋は三階建てで、一階の幅は二メートル半、二階は三メートル、三階は三メートル半ありました。　神殿の壁の外側に段を作り、その上に梁を置いて、脇部屋と神殿をつなぎました。　こうして、梁を神殿の壁に差し込まないようにしたのです。
７　神殿を建てるのに使った石は、石切り場で仕上げたものばかりでした。　そのため、建築現場では、工事中も槌や斧、そのほかの道具の音はいっさい聞こえなかったのです。
８　脇部屋の一階に通じる入口は、神殿の右側にありました。　二階に上るらせん階段があり、さらに、二階から三階に上るようになっていました。　９神殿の完成が近づくと、王は、梁や柱はもちろんのこと、内部を杉材でおおって仕上げました。　１０先ほど説明したように、神殿の両側に脇部屋がありましたが、それは杉材で神殿の壁に固定してありました。　脇部屋の各階の高さは二メートル半です。
１１１２神様は建築中の神殿について、次のようにお語りになりました。　「わたしが言うとおりにし、わたしの命令を忠実に守るなら、おまえの父ダビデに約束したことを実行しよう。　１３わたしはイスラエル国民とともに住み、決して彼らを捨てない。」
１４　ついに、神殿が完成しました。　１５神殿の内部は、床から天井まで、レバノン杉の板を張り巡らし、床には糸杉の厚板を使いました。　１６神殿のいちばん奥にある長さ十メートルの部屋は、至聖所と呼ばれます。　この至聖所も、床から天井まで、レバノン杉の板を張り巡らしました。　１７神殿のあとの部分の長さは二十メートルです。　１８内部の石壁は全部、ひょうたんと開いた花の模様が浮き彫りにしてある、レバノン杉の板でおおいました。
１９　奥の至聖所には、契約の箱が安置されました。　２０‐２２至聖所は、長さ十メートル、幅十メートル、高さ十メートルで、壁と天井に純金をかぶせました。　至聖所の祭壇もレバノン杉で作りました。　そして、その祭壇も含めて、神殿内部の残りの部分もみな、純金をかぶせたのです。　また、至聖所の入口を守るために、金の鎖を作りました。
２３‐２８至聖所の中に、オリーブ材で作った二つのケルビムの像（天使を象徴する）を置きました。　像の高さは五メートルで、外側に広げた翼は、それぞれ一方の壁に届き、内側に広げた翼は、至聖所の真ん中で触れ合うようになっていました。　それぞれの翼は

二メートル半で、どちらのケルビムも、一方の翼の先からもう一方の翼の先まで、五メートルありました。　像はどちらも同じ寸法、同じ形で、共に純金をかぶせてありました。
２９　至聖所もその手前の聖所も、壁には、ケルビムの像、なつめやしの木、それに開いた花の模様が彫られていました。　３０至聖所も聖所も、床はぜんぶ金でおおいました。
３１　至聖所に通じる入口には、正五角形の柱を使いました。　３２二枚のとびらはオリーブ材でできていて、その上にケルビム、なつめやしの木、花模様を浮き彫りにし、金を張りました。
３３　それから神殿の入口にも、オリーブ材で四角形の柱を作りました。　３４糸杉材の二枚の折り戸がついていて、どちらも蝶番で折りたためるようになっています。　３５その表面にはケルビム、なつめやしの木、それに花模様が浮き彫りになっていて、入念に金を張ってありました。
３６　内庭を囲む塀は、切り石を三段重ねた上に、レバノン杉の角材が一段重ねてありました。
３７　神殿の土台がすえられたのは、ソロモン王の即位後四年目の五月で、　３８建て終わったのは、即位後十一年目の十一月でした。　完成に七年かかったことになります。
七
１　それからソロモン王は、十三年かかって宮殿を建てました。
２　宮殿の一室に「レバノンの森の間」と呼ばれる、長さ五十メートル、幅二十五メートル、高さ十五メートルの大広間がありました。天井には、大きなレバノン杉の梁が、四列の杉材の柱の上に渡してありました。　３４三方の壁には、三列からなる合計四十五の窓がありました。　一列に五つずつです。　５どの入口も窓も、四角の枠でできていました。
６　ほかに「柱の間」と呼ばれる、長さ二十五メートル、幅十五メートルの部屋がありました。　その前には、ひさしのついた玄関がありました。
７　それから、王が訴訟を聞くための、「玉座の間」とも「さばきの間」とも呼ばれる部屋がありました。　ここは、床から天井まで、部屋全体を杉材で張り巡らしました。
８　この部屋のうしろにある庭を取り囲むようにして、同じく杉材を張り巡らした、王の住まいがありました。　またソロモンは、妻としたエジプト王の娘のために、自分のと同じ大きさの住まいを、宮殿の中に建てました。　９建物はすべて、寸法どおりに切り取られた、大きくて高価な石で造られました。　１０土台の石は、四メートルから五メートルもあったのです。　１１塀に使った大きな石も、寸法どおりに切り取られ、上にはレバノン杉の角材を使いました。　１２大庭の周囲の塀にも、三段の大きな切り石を使い、神殿の内庭や玄関のように、その上にレバノン杉の角材を使いました。
１３　ソロモン王は、ヒラムという青銅細工の熟練工を、ツロから呼び寄せました。　１４彼は、父親がツロの鋳造師でしたが、母親はナフタリ族の未亡人だったので、ユダヤ人の血が半分混じっていたのです。　このヒラムが、王のために、いろいろな仕事をすることになりました。

１５　彼は、高さ九メートル、周囲六メートルで、中が空洞の二本の青銅の柱を鋳造しました。　１６－２２柱の上に、青銅で鋳造した柱頭が載せられました。　それはゆりの花の形をしていて、高さ二メートル半、幅二メートルでした。　その柱頭は、青銅の鎖で編んだ七組の格子細工の網と、網の上を二段に取り巻く、四百個の青銅のざくろで飾られていました。　ヒラムはこの二本の柱を、神殿の入口に立てました。　南側の柱はヤキン、北側の柱はボアズと名づけました。
２３　次にヒラムは、高さ二メートル半、直径五メートル、円周十五メートルという、青銅の大洗盤を鋳造しました。　２４その縁の下には、回りを取り巻くように、五センチおきに二列の飾り模様がありました。　洗盤を鋳造した時に鋳込んだものです。　２５この大洗盤は、三頭ずつ組になって、それぞれ背中合わせに東西南北を向いた、十二頭の青銅の牛の上に載せられていました。　２６洗盤の縁は杯の縁のような形をしていて、厚さは八センチあり、容量は約七十二キロリットルでした。
２７－３０彼はまた、四個の車輪で移動できる、二メートル平方で、高さ一メートル半の台を十個作りました。　それぞれには、正方形の板が枠にはめこまれた台があり、その板の上にライオン、牛、ケルビムの飾りが彫ってあります。　ライオンと牛の上下にある枠の表面は、花模様で飾ってあります。　どの台にも、四個の青銅の車輪と青銅の軸がついていて、台の四すみには、表面を花模様で飾った、四本の支柱が立っています。　３１この台の上に、口のまるい洗盤が五十センチ出ています。　洗盤の深さは七十五センチで、花模様細工があしらってあります。　枠の鏡板は正方形で、円形ではありません。
３２　台には四個の車輪が取りつけてありますが、車輪はどれも高さ七十五センチで、それぞれ軸にはめてあります。　３３車輪は戦車の車輪と同じ作りでした。　車軸も、輻も、輪縁も、轂も、台の部品はみな、青銅で鋳造されていたのです。　３４台の四すみにはそれぞれ支柱があり、四本とも台に固定されていました。　３５台の先端を高さ二十五センチのまるい帯輪が取り巻いていて、帯輪は台の取っ手に固定されていました。　このように、全部の部品が台に固定されていたのです。　３６帯輪の縁には、ケルビム、ライオン、なつめやしの木が花模様に囲まれて彫られていました。　３７全部で十個の台は、どれも同じ鋳型で、同じ大きさ、同じ形に作られました。
３８　それから、青銅の洗盤を十個作り、台の上に置きました。　どの洗盤も直径は二メートルで、容積は千四百四十リットルありました。　３９五個の洗盤は神殿の右側に、他の五個は左側に置きました。　また、大洗盤は、神殿の右手にあたる、南東のすみに置きました。　４０さらにヒラムは、灰つぼと十能と鉢を作りました。　こうして、神殿のためにソロモン王が言いつけた仕事を、ぜんぶ完成したのです。
４１－４６ヒラムが作ったものを書き出してみましょう。
二本の柱
二本の柱のいただきに載せる柱頭
柱頭をおおう格子網

格子網に二段に並べられた四百個のざくろ
洗盤と、それを載せて移動できる台、おのおの十個
大洗盤と、それを支える十二頭の牛
灰つぼ
十能
鉢
これらのものはみな、青銅製で、スコテとツァレタンとの間のヨルダン川の低地で鋳造されました。　４７総重量は、あまりにも重いので、ついに量らずじまいでした。
４８　神殿で使う器具や調度は、みな純金で作りました。　その中には、祭壇、供えのパンを載せる机、　４９至聖所に向かい右側に五つ、左側に五つの燭台、花模様、ともしび皿、火ばし、　５０杯、芯切りばさみ、鉢、さじ、火皿、至聖所に通じるとびらの蝶番、神殿の入口のとびらの蝶番がありました。　以上はみな純金製です。
５１　神殿の工事が完成した時、ソロモン王は神殿の宝物倉に、父ダビデが神様にささげるためにと特別にとっておいた金、銀、そのほか各種の器具を納めました。
八
１　ソロモン王は､イスラエルの部族や氏族の長をみなエルサレムに集めて､契約の箱を、ダビデの町シオンにある神の天幕から、神殿に運び入れることにしました。　２この祝典が挙行されたのは､十月の仮庵の祭りの時で、　３４祭りの間に､祭司たちは契約の箱と、それまで天幕に置いてあった神聖な器具をみな、神殿に運び入れました。　５王とイスラエル国民は、契約の箱の前に集まり、数えきれないほどの羊や牛を、いけにえとしてささげました。
６　それから、祭司たちは、契約の箱を神殿の奥の至聖所に運び入れ、ケルビムの翼の下に安置しました。　７ケルビムの像は、翼が箱の上にくるように設計されていたので、その翼は、箱とかつぎ棒をおおいました。　８そのかつぎ棒は長く、先がケルビムの横から突き出ているので、前方の聖所からも見えましたが、外庭からは見えませんでした。　現在もそのままです。　９箱の中には、二枚の石板しか入っていませんでした。　その石板は、神様が、エジプトを出たイスラエル国民と、ホレブ山（シナイ山）で契約を結ばれた時、モーセが納めたものです。
１０　祭司たちが至聖所から出て来ると、なんと、まばゆいほどに輝く雲が神殿に満ちました。　１１神様の栄光が神殿に満ちあふれたので、祭司たちは外に出なければなりませんでした。
１２１３その時、ソロモン王はこう祈りました。
「神様は、暗やみの中にも住む、とお語りになりました。
そこで、神様。　私は神様の永遠の住まいとして、地上に美しい家を建てました。」
１４　それから、振り向いて国民を祝福しました。
１５　「イスラエルの神様をほめたたえよう。　神様は、今日このように、父ダビデに約

束なさったことを成し遂げてくださった。　１６神様は父にこうお語りになったのだ。『わたしは民をエジプトから連れ出した時からこれまで、神殿を建てる場所を指定しなかった。　だが、わが国民の指導者となる者を選んだ。』　１７こう言われたのが、父ダビデだ。　父は、神様のために神殿を建てたいと思った。　１８ところが、神様はお許しにならず、こうお語りになったのだ。　『おまえの志はうれしい。　１９だが、わたしの神殿を建てるのは、おまえの息子だ。』　２０神様は今、お約束を果たしてくださった。　私はイスラエルの王として父の跡を継ぎ、こうして、神様のために神殿を建て上げた。　２１また、神様が、エジプトを出た私たちの先祖と結ばれた契約を、たいせつに保存する箱を、神殿の中に置くことにした。」
２２２３王は、人々が見守る中で祭壇の前に立ち、両手を天に伸べて祈りました。　「ああ、イスラエルの神様。　天にも地にも、あなたのようなお方はありません。　神様は、心からお従いしようとする国民にやさしく親切で、約束を守り通してくださるからです。
２４今日このとおり、神様のしもべである父ダビデへの約束を実現してくださいました。
２５イスラエルの神様、どうか、父ダビデとの約束を、これからも守り通してください。
父の子孫が、父と同じようにお従いし、神様の言われるとおりにするなら、その中の一人が、いつもイスラエルの王座につくようにしてください。　２６イスラエルの神様！　どうか、この約束をお守りください。
２７　それにしても、神様は、はたしてこの地上にお住みになるでしょうか。　大空も天も、神様をお入れすることはできません。　まして、私が建てたこの神殿など、なおさらのことです。　２８しかし神様、どうか、このしもべの願いをお聞き届けください。　２９確かに住むとお約束になったこの場所を、昼も夜も見つめていてください。　そして、私がこの神殿に向かって祈る時、昼であっても夜であっても、聞いて答えてください。　３０イスラエル国民が、この場所に向かって祈る時、いつでも願いを聞き届けてやってください。　神様がお住まいになる天で、その願いを聞き、彼らの罪を赦してやってください。
３１　ある人が何か悪いことをして訴えられた時、この神殿の祭壇の前に立ち、自分はそのようなことはしなかったと誓うなら、　３２天でその訴えを聞き、正しくさばいてください。
３３３４イスラエル国民が罪を犯したため敵に負かされた時、もし悪かったと反省し、もう一度神様をあがめるなら、天で彼らの願いを聞き、その罪を赦してやってください。　そして、先祖にお与えになった地に、彼らを連れ戻してください。
３５３６イスラエル国民の罪が原因で雨が降らない時、彼らがこの場所に向かって祈り、神様をあがめるなら、天でその願いを聞き、彼らをお赦しください。　また、罰を下したあと、正しい道に彼らを引き戻し、神様がお与えになった地に、雨を降らせてください。
３７　農作物の立ち枯れや、いなごや油虫の発生によってききんが起こったり、敵が攻めて来たり、または国民が伝染病や災害に襲われたり、そのほか、どんな問題が起こった時でも、　３８もし国民が罪を悟り、この神殿に向かって祈るなら、　３９天で彼らの祈り

を聞き、正直に罪を告白した人々を赦し、願いをかなえてやってください。　神様は、一人一人の心のうちを知っておられるからです。　４０そうすれば、神様が先祖にお与えになった地に生きている限り、彼らはいつも神様を信じ、お従いするようになるでしょう。
４１４２それから、外国人が神様のすばらしさを聞き、遠い地からはるばる礼拝に来て、この神殿に向かって祈るなら、　４３天で彼らの祈りを聞き、願いをかなえてやってください。　そうすれば、世界中の人が、神様の国民イスラエルと同じように、神様の御名を知り、信じてお従いするようになるでしょう。　こうして全世界は、これが神様の神殿であることを知るでしょう。
４４　神様の国民がご命令で戦いに出かける時、神様がお選びになった町エルサレム、私が神様のために建てたこの神殿に向かって祈るなら、　４５天で彼らの祈りを聞き、彼らを助けてやってください。
４６罪を犯さない人間などいません。　彼らが神様に罪を犯し、お怒りをこうむって、外国に捕虜として連れ去られることもあるでしょう。　４７しかし、そのような時、彼らが、『私たちが悪かった』と反省して、４８心から神様に立ち返り、神様が先祖にお与えになった地、神様がお選びになったエルサレムの町、私が御名のために建てたこの神殿に向かって祈るなら、　４９お住まいである天で彼らの祈りと願いとを聞き、助けの手を差し伸べてください。
５０　神様の国民の悪事をみな赦し、彼らを捕らえた者にあわれみの心を起こさせてください。　５１彼らは、神様がエジプトから連れ出した、たいせつな国民だからです。　５２どうか、目を大きく見開き、耳を傾けて、彼らの願いを聞き届けてください。　ああ神様。　彼らが大声で祈る時、いつも願い事をかなえてやってください。　５３神様が私たちの先祖をエジプトから連れ出した時、しもべモーセにお告げになったとおり、全世界の国民の中からイスラエルを選び出し、特別な国民としてくださったからです。」
５４５５ソロモンは両手を天に伸べたまま、ひざまずいていました。　祈り終えると、祭壇の前から立ち上がり、国民を大声で祝福しました。
５６　「イスラエルの神様をほめたたえます。　神様は約束どおり、ご自分の国民イスラエルに安息をお与えになりました。　しもベモーセによって示された、すばらしい約束のすべてが、一つもたがわず実現したのです。　５７どうか神様が、ご先祖と共におられたように、私たちをも見捨てず、共にいてくださいますように。　５８すべてのことで神様をお喜ばせし、ご先祖にお与えになった教えをみな守ろうという願いを、起こさせてください。　５９この祈りを、いつも覚えていてください。　こうして、毎日、何かあるたびに、私とイスラエルの全国民を助けていただきたいのです。　６０どうか、世界中の人に、あなたのほかに神はいないことを知らせてください。　６１全国民よ。　あなたがたは、神様の前で、正しく、きよい生活を送らなければなりません。　今日のように、いつも神様の教えを守らなければなりません。」
６２６３王と全国民は、神殿を神様にささげました。 この時ささげた和解のいけにえは、

なんと牛二万二千頭、羊と山羊十二万頭にのぼりました。　６４臨時の計らいとして、王は神殿の前の庭をきよめ、そこで完全に焼き尽くすいけにえと、穀物の供え物、それに和解のいけにえの脂肪をささげました。　青銅の祭壇は、おびただしいいけにえを載せるには小さすぎたからです。　６５こうして、祭りは十四日間も続き、イスラエル中から大ぜいの人が集まりました。　６６祭りのあと、王は国民を家へ帰しました。　国民はみな、神様が、しもべダビデとその国民イスラエルにお示しになった多くの恵みを喜び、王に祝福のことばを述べました。
九
１　ソロモン王が神殿と宮殿、それに前々から建てたいと望んでいた建物をぜんぶ完成させた時、　２３初めギブオンで姿を現わした神様は、再びソロモンに現われて、こうお語りになりました。
「わたしはおまえの祈りを聞いた。　おまえの建てたこの神殿をいつまでも、わたしのものとしよう。　いつも喜んでここを見つめていよう。　４父ダビデのように、おまえもわたしの前で誠実であり、いつもわたしの言いつけを守るなら、　５父ダビデに、『おまえの子孫が、いつもイスラエルの王座につくようにする』と約束したとおり、おまえの子孫を永遠にイスラエルの王座につかせよう。
６　だが、おまえ、もしくは子孫がわたしに背き、わたしの教えを捨てて、ほかの神々を拝むなら、　７イスラエル国民を、彼らに与えた地から追い払う。　また、わたしにささげられた神殿を投げ捨てる。　イスラエルは、すべての国々の物笑いとなり、見せしめとなるだろう。　８この神殿も廃墟と化し、そばを通る者はみな驚き、『なぜ神様は、この地と神殿とを、このようにされたのだろう』と語り合うだろう。　９その時人々は、『イスラエル国民は、エジプトから連れ出していただいた神様を捨て、ほかの神々を拝むようになった。　だから神様は、このような災いを下されたのだ』と答えるだろう。」
１０　二十年がかりで、神殿と宮殿を建て終えたソロモン王は、　１１１２ツロの王ヒラムに、ガリラヤにある二十の町を与えました。　ヒラムが建築用のレバノン杉や糸杉の木材、それに金を提供してくれたお返しでした。　ところが、いざヒラムが町々を視察してみると、気に入らない場所ばかりです。
１３　あきれて、「なんてことだ。　これじゃ、まるっきり荒れ地じゃないか」と言いました。　それで今も、その町々は「荒れ地」と呼ばれています。　１４ヒラムはソロモンに、なんと十億円相当の金を送り届けていたのです。
１５　ソロモン王は労働者を集めて、神殿と宮殿のほかにも、ミロの要塞、エルサレムの城壁、ハツォルとメギドとゲゼルの町々をつくりました。　１６ゲゼルは、以前エジプトの王が攻め取って焼き、そこに住むカナン人を殺した所ですが、のちに、ソロモンの妻になった自分の娘に、結婚の贈り物として与えた町です。　１７１８そこでソロモンは、下ベテ・ホロン、バアラテ、荒野の町タデモルとともに、このゲゼルをも再建したのです。
１９王はまた、穀物倉庫の町を建て、戦車隊や、騎兵隊の駐留する町、それに別荘の町を、

エルサレム近郊やレバノン山麓、その他の地につくりました。
２０２１ソロモン王は、エモリ人、ヘテ人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人など、征服した国々の生き残りを労働者にしました。　イスラエル人がこれらの国を征服した時、完全に滅ぼすことができず、奴隷として生き残った者たちです。　２２王は、イスラエル人を労働者にはしませんでした。　イスラエル人は、兵士、役人、将校、戦車隊の指揮官、騎兵となったからです。　２３また、労働者を監督するイスラエル人が、五百五十人いました。
その他のこと
２４　ソロモン王は、エジプト王の娘をエルサレムの旧市内にあたるダビデの町から、宮殿の中に特別に建てた建物に移しました。　次に、ミロの要塞を造りました。
２５　神殿が完成してから、王は年に三度、祭壇に、完全に焼き尽くすいけにえと和解のいけにえをささげ、そこで香をたきました。
２６　ソロモン王は、エドムの地の、紅海に面したエラテに近いエツヨン・ゲベルに造船所を造り、そこで船団を組みました。
２７２８ヒラム王は、この船団の乗組員を補強するため、熟練した水夫を差し向けました。彼らはオフィルとの間を往復し、時価三十六億円相当の金を、ソロモン王のもとへ運んだのです。
一〇
１　シェバの女王は、ソロモン王が神様のすばらしい知恵を授かったと聞き、難問で彼を試そうと思い立ちました。　２女王は、大ぜいの供の者、香料や金や宝石を積んだ長いらくだの列を従えてエルサレムへ行き、さっそく、王に片っぱしから質問しました。　３ところが王は、すべての質問にみごとに答えたのです。　神様が知恵を下さっていたので、答えられない難問は一つもありませんでした。　４女王は、ソロモン王の偉大な知恵についての評判が、すべて事実であることを知ったのです。　また彼女は、王が建てたすばらしい宮殿を見ました。　５その上、食卓に並べられた山海の珍味、そろいの服装で回りに立っている大ぜいの家来や従者、酌をする人たち、それに、神様にささげる、多くの完全に焼き尽くすいけにえを見て、息も止まるばかりでした。
６　女王はため息まじりに、こう言ったものです。　「陛下のすばらしい知恵と、陛下が手がけられたすばらしい事業について国で聞いていたことは、みなほんとうでした。　７ここにまいりますまでは、まさかと思っておりましたが、はっきりこの目で確かめることができました。　それがまあ、私は実際の半分も知らされていなかったんですわ。　陛下の知恵と、お国の繁栄ぶりは、聞きしにまさっております。　８国民は、しあわせ者ですわ。　宮廷のご家来方は、さぞご満悦のことでしょう。　いつでも、おそばで、陛下のすばらしい知恵のおことばが聞けますもの。　９陛下を名ざしで、イスラエルの王座につけてくださった神様が、ほめたたえられますように！　陛下のようなお方を王になさった神様は、どれほどイスラエルを愛しておられることでしょう。　また陛下は、国民のために善政を敷いておられます。」

１０　女王は、十億五千万円相当の金と、たくさんの香料と宝石を王に贈りました。　一度でこれほどたくさんの香料を受け取ったことは、今までにありませんでした。
１１　ヒラム王の船も、オフィルから、金だけでなく、おびただしい量のびゃくだんの木材と宝石を運んで来ました。　１２ソロモン王は､びゃくだん材で神殿と宮殿の柱を作り、また、合唱隊のために竪琴や十弦の琴を作りました。　こんなりっぱな木材が大量に手に入ったのは、空前絶後のことです。
１３　シェバの女王からの贈り物と引き替えに、ソロモン王は、あらかじめ用意しておいた贈り物のほかに、女王が求めたものは何でも惜しみなく与えました。　すっかり気をよくした女王は、家来を従えて国へ帰って行きました。
１４　毎年、ソロモン王は、六十億円相当の金を手に入れました。　１５そのほか、アラビヤおよびその隣接地域からの貿易で得た税収や利益もばく大です。　１６１７王は、一個について百八十万円相当の延べ金を使用した大盾二百を作り、一個について五十四万円相当の金を使用した盾を三百作りました。　それらは宮殿の「レバノンの森の間」に置かれました。
１８　王は純金をかぶせた大きな象牙の王座を作りました。　１９王座には六つの段があり、丸い背とひじかけがついています。　両わきには、一頭ずつライオンが立ち、　２０六つの段の両側にも二頭ずつ、合計十二頭のライオンが立っています。　こんなすばらしい王座は、世界のどこにも見られませんでした。
２１　王の杯と､「レバノンの森の間」にあった王の食器類は、みな金製でした。　銀は値打のないものと思われていたので、使われなかったのです。
２２　ソロモン王の船団はヒラム王の船団と提携して、三年に一度、多くの金、銀、象牙、猿、くじゃくをイスラエルに運んだのです。
２３　ソロモン王の富と知恵にたち打ちできる王は、世界に一人もいませんでした。　２４神様がお授けになった知恵を聞こうと、各国から有名人が来て、ソロモンに謁見を求めました。　２５彼らは毎年、銀や金の器、豪華な衣服、没薬、香料、馬、らばなどを携えて来たのです。
２６　ソロモン王は、たくさんの戦車や騎兵を収容する大兵舎を建てました。　戦車は全部で千四百台、騎兵は一万二千人いて、戦車の町々やエルサレムの宮殿内に配備されました。　２７そのころエルサレムでは、銀は石ころ同然で、レバノン杉も、平地のいちじく桑の木ぐらいにしか思われていませんでした。　２８王の馬は､エジプトや南トルコから、王の代理人が相当の代金を払って買い入れたものです。　２９エジプトからエルサレムに運ばれた戦車の代金は、一台につき十二万円で、馬は一頭につき五万円でした。　これらの輸入品の多くは、ヘテ人やシリヤの王たちに、今度は輸出品として売られたのです。
一一
１　ソロモン王は、エジプトの王女のほかにも、大ぜいの女を妻にしました。　その多くは、偶像を礼拝していたモアブ、アモン、エドム、シドン、およびヘテの出身でした。　２

神様はかねてご自分の国民に、これらの国々の人と結婚してはならないと、はっきり教えておられました。　そんなことをすれば、イスラエル国民と結婚した外国の女は、国民の心を自分たちの神々に向かわせるようになるからです。　それなのに、王は外国の女と結婚したのです。　３それも、妻が七百人と、そばめが三百人です。　案の定、彼女たちは王の心を神様から離れさせました。　４王の晩年には、特にそれがひどくなりました。　彼女たちは、王が父ダビデのように最後まで神様に信頼することを妨げ、自分たちの神々を拝むように仕向けたのです。　５王はシドン人の女神アシュタロテと、アモン人のあの恐るべき神ミルコムを礼拝しました。　６王は、はっきり悪いとわかっていることをして、父ダビデのように神様に従うことを、拒んだのです。　７王はまた、モアブの下劣な神ケモシュと、アモン人の凶悪な神モレクのために、エルサレムの東の谷を越えたオリーブ山の上に、それぞれ礼拝所を建てました。　８また外国人の妻たちにも、それぞれの神々に香をたき、いけにえをささげられるようにと、多くの礼拝所を建ててやりました。
９１０それを見て、神様は考えを変えました。　ご自分から離れた王を、激しく怒ったのです。　神様は二度も王に姿を現わして、ほかの神々を拝むような罪を犯してはならないと警告したのに、王は耳を貸そうとしませんでした。　１１そこで神様は、王に宣告なさいました。「おまえはわたしの契約を破り、わたしの教えを捨てたので、おまえとおまえの一族から王国を奪い返し、ほかの者に与えることにする。　１２１３だが、おまえの父ダビデに免じて、おまえが生きている間は、そうはしない。　おまえの息子から王国を取り上げる。　ただし、ダビデのために、また、わたしが選んだ町エルサレムのために、おまえの息子を一つの部族だけの王にしてやろう。」
１４　こうして神様は、エドム人ハダデが勢力を増すようになさいました。　ハダデはエドム王家の子孫だったので、ソロモン王も神経を使うようになりました。　１５以前、ダビデ王がヨアブを連れて、戦死したイスラエル兵を葬りにエドムへ行った時、イスラエル軍がエドム中の男子を、ほとんど皆殺しにしたことがありました。　１６‐１８六か月にわたる虐殺の結果、エドムの男子はほとんど全滅したのです。　当時、まだほんの子供だったハダデと、彼を連れてエジプトへ逃げた数人の家来だけが、難を免れたのです。　彼らはこっそりミデヤンを出て、パランへ行き、そこでほかの者と合流し、そろってエジプトへ逃れました。　エジプト王は、彼らに家と食糧をあてがってくれました。
１９　エジプトで、ハダデは王の親友となりました。　それで王は、タフペネス王妃の妹を妻として与えたのです。　２０彼らは、息子のゲヌバテをもうけました。　このゲヌバテは、宮殿で、王子たちといっしょに育ちました。　２１ハダデはエジプトで、ダビデもヨアブも死んだと聞き、エドムに帰る許可を王に求めました。
２２　王はびっくりしました。　「なぜ、そんなことを申す。　何か不満でもあるのか。気に入らんことでもしたかな。」
「とんでもありません。　ここの居ごこちは満点です。　ですが、とにかく、故国へ帰りたいのです。」

２３　神様がソロモン王の敵対勢力として起こした人物が、ほかにもいます。　レゾンです。　彼はツォバの王ハダデエゼルの家来でしたが、持ち場を離れ、遠くへ逃げて身を隠していたのです。　２４レゾンは、ダビデがツォバを滅ぼした時、いっしょにダマスコへ逃げた連中で略奪隊をつくり、その隊長になりました。　のちにレゾンは、ダマスコの王になりました。　２５ソロモン王の生きている間、レゾンもハダデも王に敵対しました。二人ともイスラエルをひどく憎んでいたからです。
２６　もう一人の反逆の指導者は、ネバテの子で、エフライムの町ツェレダ出身のヤロブアムです。　彼の母ツェルアは未亡人でした。　２７２８彼が反逆するに至った事情はこうです。　ソロモン王はミロの要塞を再建し、父ダビデが建てたエルサレムの城壁を修復しました。　ヤロブアムは非常に有能だったので、王に認められ、ヨセフ部族から駆り出された労働者の監督になりました。
２９　ある日、エルサレムを出たヤロブアムは、新しい服を着た、シロ出身の預言者アヒヤに出会ったのです。　この時、野原には、彼ら二人しかいませんでした。　アヒヤはヤロブアムを呼び寄せ、　３０着ていた服を十二切れに引き裂いてから、　３１こう言いました。　「このうち十切れを取りなさい。　イスラエルの神様のお告げです。　『わたしはソロモンの王国を引き裂き、そのうちの十部族をおまえに与える。　３２ただし、わたしのしもべダビデと、イスラエルの町々の中でも、特にたいせつにしているエルサレムのために、ソロモンに、一つの部族〔ユダとベニヤミン。　この二部族は時々一つの部族とみなされた〕だけ残す。　３３これもみな、ソロモンがわたしを捨て、シドン人の女神アシュタロテ、モアブ人の神ケモシュ、アモン人の神ミルコムを拝んでいるからだ。　彼はわたしに従わず､わたしが正しいと考えていることを行なわなかった。 わたしの教えを、父ダビデのようには守らなかった。　３４といっても、今すぐ王国を取り上げはしない。命令をよく守った、わたしの選んだしもべダビデに免じて、ソロモンが生きている間は、支配者にしておこう。
３５　だが、彼の息子からは王国を取り上げ、十部族をおまえのものとする。　３６彼の息子には一部族を与える。　そうすることで、わたしの名を記念するためにわたしが選んだ町エルサレムで、ダビデの子孫が王位につくことになる。　３７わたしはおまえをイスラエルの王とし、王にふさわしい力を授けよう。　３８もし、おまえがわたしの命令を聞き、わたしの道を歩み、わたしが正しいと考えることを行ない、わたしのしもべダビデのように、命令を守るなら、おまえを祝福しよう。　おまえの子孫は、永遠にイスラエルを治めることになろう。　わたしは以前、これと同じ約束をダビデにした。　３９だが、ソロモンが罪を犯したので、ダビデの子孫を罰する。　もっとも、永遠にそうするわけではない｡』」
４０　王はヤロブアムを殺そうとしましたが、彼はエジプトの王シシャクのもとへ逃れ、ソロモン王が死ぬまでエジプトにいました。
４１　そのほかの王の言行は、『ソロモン王の業績』の書に記されています。　４２ソロモ

ンは四十年間、エルサレムで王位についていました。　４３死後は、父ダビデの町に葬られ、息子のレハブアムが代わって王となりました。
一二
１　レハブアムがシェケムで即位すると、イスラエル中の人が即位式を祝うために集まりました。　２－４ソロモン王を避けてエジプトに逃げていたヤロブアムは、友人から入れ知恵されました。　彼らはヤロブアムに、即位式に出席することを勧めたのです。　彼はシェケムに集まっていたイスラエル人の集団に加わり、レハブアムに要求をつきつける人々の首謀者となりました。
人々はレハブアムに言いました。　「お父上は、それはそれはひどい方でした。　お父上よりましな政治をすると約束してくださらないなら、あなた様を王にしたくありません。」
５　「三日間、考えさせてくれ。　三日したら、また来るがよい。」人々はレハブアムの返事を聞いて、出て行きました。
６　レハブアムは、父ソロモンの相談相手であった長老たちに、相談を持ちかけました。「いったい、どうしたものか。」
７　「国民を喜ばす答えをなさり、負担を軽くしてやることです。　彼らに仕える態度をおとりになれば、あなた様は永遠に王となられましょう。」
８　ところが、レハブアムはこんなことは気に入りません。　そこで、自分とともに育った若者たちを呼んで相談したのです。
９　「どうすべきだろう。」
１０　「連中に言ってやればいいんです。　『私の父はひどいことをしただと？　それなら、私はもっとひどいことをしよう。　１１なるほど、父は過酷な取り立てをしたが、私はもっと過酷に取り立てるぞ。　父はむちで懲らしめたが、私はさそりを使って痛い目に会わせてやる』と。」
１２　三日後にまたやって来たヤロブアムの一行に、　１３１４新しい王は荒々しく答えました。　長老たちの助言を無視し、若者たちの言ったとおりにし、　１５人々の要求を蹴ったのです。　神様がそう仕向けたからです。　こうなったのは、いつかシロ出身の預言者アヒヤによってヤロブアムに約束されたことが、実現するためでした。
１６１７人々は、王が言い分を聞き入れないのを知ると、大声で叫びました。　「もう、ダビデ王家に用はない。　さあ、国へ帰ろう。　レハブアムは、自分の部族だけの王になればいいのだ。」
イスラエル国民は、レハブアムを王と認めたユダ部族を除いて、みな彼を見限ったのです。
１８王はユダ部族以外からも労働者を集めようと、監督のアドラムを派遣しました。　すると、イスラエルの人々は、アドラムに石を投げつけ、殺してしまったのです。　同行した王は、戦車に乗り込み、やっとの思いでエルサレムへ逃げ帰りました。　１９こうしてイスラエルは、今に至るまでダビデ王朝に背くことになりました。
２０　イスラエル国民は、ヤロブアムがエジプトから戻ったと知ると、国民大会に呼んで、

彼を王にしました。　ただし、ユダ部族〔ベニヤミン部族も含む〕だけは、ダビデ王朝に仕えたのです。
２１　レハブアム王はエルサレムに帰ると、ユダとベニヤミンの部族の体格のよい男子を残らず召集し、十八万の特別攻撃隊を編成しました。その兵力でイスラエルの残りの十部族と戦い、力ずくで、自分が王であることを認めさせせようとしたのです。　２２ところが、神様は預言者シェマヤに、次のように言い含めました。
２３２４「ユダの王、ソロモンの子レハブアムと、ユダとベニヤミンの全住民とに、こう言え。　兄弟であるイスラエルと戦ってはならない。　今回の出来事は、わたしの意にかなっているのだから、解散してめいめいの家に帰れ。」　人々は、命じられたとおり、家に帰って行きました。
２５　ヤロブアムは、エフライムの山地にシェケムの町を再建し、そこを首都にしました。のちに、ペヌエルも再建しました。　２６さて、ヤロブアムは考えました。　「うっかりしては、いられんぞ。　国民は、ダビデの子孫を王にしたい、と考えるかもしれないからな。　２７神殿でいけにえをささげるためにエルサレムへ行けば、どうしても、レハブアム王に親しみを覚えるだろう。　そうなれば、私を殺し、レハブアムを王にせんとも限らん。」
２８　そこで王は、家来の助言を入れて金の子牛を二つ作り、国民に通告しました。　「わざわざエルサレムへ、礼拝に出かけるのはたいへんだ。　これからは、この二つの像を、おまえたちをエジプトから助け出した神として、あがめるように。」
２９　金の子牛の一つはベテルに、もう一つはダンに置くことになりました。　３０これは偶像礼拝ですから、もちろん大きな罪です。　３１王は山の上に礼拝所を建て、祭司階級のレビ部族でない人々から、祭司を任命しました。　３２３３それから自分かってに、仮庵の祭りを、毎年十一月の初めにベテルで行なうことにしました。　これは、エルサレムでの例祭にならったものです。　王が自ら、ベテルの子牛像のために祭壇でいけにえをささげ、香をたきました。　なお、王はこのベテルで、山の上の礼拝所で仕える祭司を任命しました。
一三
１　ヤロブアム王が香をたこうと祭壇に近づくと、ユダから来た神の預言者がそばへ寄りました。　２神様の命令を受けていたこの預言者は、声を張り上げて叫びました。　「祭壇よ、神様のことばを聞け。ダビデの家に、やがてヨシヤという子が生まれる。　彼は、ここへ香をたきに来る祭司たちを、おまえの上に載せ、いけにえとしてささげる。　人骨がおまえの上で焼かれる。」
３　預言者は、それが神様のお告げだという証拠に、「祭壇は裂け、灰が地に落ちる」とも言いました。
４　王は真っ赤になって怒り、護衛兵に、「こいつを捕まえろ！」と大声で命じ、こぶしを振り上げました。　そのとたん、どうしたのでしょう。　王の手は麻痺して動かなくなっ

たのです。　５同時に、預言者が言ったとおり、祭壇に大きな裂け目ができ、灰がこぼれ落ちました。　確かに神様のお告げのとおりです。
６　王は預言者に、「どうか、おまえの神様にお願いして、わしの手を元どおりにしてくれ」と哀願しました。
そこで預言者が祈ると、王の手は元どおりになったのです。
７　すると、王は預言者に、「宮殿に来て、しばらく休んではどうかな。　食事を出そう。手を治してもらった礼もしたいのでな」と言いました。
８　預言者はきっぱり答えました。　「たとい、宮殿の半分を下さると言われましても、まいりません。　それどころか、ここではパンも食べず、水さえ飲まないことにしています。　９神様が、『何も食べるな。　水も飲むな。　また、来た道を通ってユダに帰ってはならない』と、きびしくお命じになったからです。」
１０　それで彼は、別の道を通って帰りました。
１１　たまたま、ベテルに一人の老預言者が住んでいました。　その息子たちが家に立ち寄り、ユダの預言者のしたことと、ヤロブアム王に語ったこととを、父に話したのです。
１２　老預言者は、「その方はどの道を通って帰ったか」と尋ね、道を教えてもらいました。
１３　「さあ、早くろばに鞍を置いてくれ」と、老預言者はせきたてました。　息子たちが言われたとおりにすると、　１４彼はろばに乗って、例の預言者のあとを追い、ついに、その人が樫の木の下に座っているのを見つけました。
「もしもし、もしやユダからおいでの預言者様では？」
「はい、さようですが。」
１５　「どうか、わしの家においでくださらんかな。　ごいっしょに食事でもと思いましてな。」
１６１７「せっかくですが、お断わりします。　ベテルで食べたり飲んだりすることは、いっさい禁じられています。　神様から、そうするな、ときびしく言い渡されているからです。　神様はまた、来た時と同じ道を通って帰るな、ともお命じになりました。」
１８　「実は、わしも同じ預言者でな。　御使いが神様のお告げを知らせてくれましたのじゃ。　それによると、あなたを家にお連れし、食事と水を差し上げるようにとのことでな。」
こう言って、老人はまんまとその人をだましました。　１９預言者は老預言者の家へ行き、食事をし、水を飲んだのです。
２０　二人が食卓についていた時、突然、老預言者に神様のお告げがありました。　２１２２そこで、彼はユダの預言者に、どなるように言いました。　「神様のお告げじゃ。　おまえは命令に背いて、ここへ引き返し、パンを食べ、水を飲んだ。　おまえの死体は先祖の墓には葬られない。」
２３　食事がすむと、老人は預言者のろばに鞍を置き、　２４２５預言者は再び出発しました。　ところが、途中でライオンにかみ殺されたのです。　死体は路上に転がったまま

で、そばに、ろばとライオンが立っていました。　そこを通りかかった人々は、路上に転がっている死体と、そばのライオンのことを、老預言者の住むベテルの町で話しました。
２６　話を聞いて老預言者は、「それは、神様の命令に背いた預言者だ。ライオンに殺され、神様の警告どおりになったのじゃ」と言いました。
２７　それから、息子たちに言いつけて、ろばに鞍を置かせました。
２８　行ってみると、路上には預言者の死体が転がっており、相変わらず、そばにライオンが立っています。　ところが不思議なことに、ライオンは死体を食べもせず、ろばを襲いもしなかったのです。　２９そこで老預言者は、死体をろばに載せて自分の町へ運び、ていねいに葬りました。
３０　彼は遺体を自分の墓に納め、みんなして、その人のために「ああ、わが兄弟！」と言って、嘆き悲しみました。
３１　そののち、彼は息子たちに言い残しました。　「わしが死んだら、あの預言者のそばに埋めてくれ。　３２神様はあの人に、ベテルの祭壇に向かって大声で叫ばせた。　だから、あの人がサマリヤの町の礼拝所をのろったことは、きっとそのとおりになる。」
３３　ところが、この預言者の警告にもかかわらず、ヤロブアム王は悪の道から離れませんでした。　それどころか、山の上の礼拝所に祭られた偶像にいけにえをささげるため、これまで以上に大ぜいの祭司を、一般市民から募集したのです。　そのため、だれでも祭司になることができました。　３４これは大きな罪でしたから、やがてヤロブアムの王国は滅び、その一族は根絶やしになりました。
一四
１　ヤロブアム王は、息子アビヤが重病になったので、　２妻に言いつけました。　「王妃だと気づかれないように変装して、シロの預言者アヒヤのところへ行ってくれ。　私が王になると言ってくれた人だ。　３みやげに、パン十個といちじく菓子、それにはち蜜を持って行き、あの子が治るかどうか、聞いてもらいたいのだ。」
４　王妃は、シロにあるアヒヤの家へ出かけました。　アヒヤはもうかなりの年で、目が見えません。　５ところが神様は、「変装した王妃が子供のことで聞きに来る。　子供が重態だからだ」と耳打ちして、どう返事すべきかを教えてくれました。
６　そこでアヒヤは、戸口に彼女の足音を聞くと、「王妃、お入りください。　なぜ、ほかの人のようなふりをしておいでかな」と声をかけ、次のように言いました。　「実は、悲しいお知らせがございます。　７イスラエルの神様から、王様へのお告げです。　『わたしは身分の卑しいおまえを抜擢し、イスラエルの王とした。　８ダビデ家から王国を引き裂き、おまえのものとした。　ところがおまえは、ダビデのようには、わたしの命令を聞かなかった。　ダビデはいつも、心の底からわたしに従い、わたしの意にかなうことをした。　９ところがおまえは、これまでのどの王よりも悪く、わたし以外の神々を作り、金の子牛を作って、わたしをひどく怒らせた。　このように、わたしの恵みを無視したので、
１０おまえの家に災いを下し、病気の子供だけでなく、ほかの元気な子供もぜんぶ滅ぼす。

おまえの家族を肥やしのように投げ捨てる。　１１町の中で死ぬ者はみな犬に食われ、野で死ぬ者はみな鳥に食われる。』
１２　さあ、家へお帰りなさい。　あなたが町に一歩踏み入れる時、病気のお子は死にます。　１３イスラエル中の人がその死を悲しみ、ていねいに葬ってくれます。　ところで、そのお子は、ご家族で平穏な最期を迎える、たった一人の者となるでしょう。　ヤロブアム家で、そのお子だけが、イスラエルの神様のお気に召したからです。　１４神様は、イスラエルに一人の王をお立てになります。　その王がヤロブアム家を滅ぼします。　１５こうして神様は、イスラエルを水に揺らぐ葦のようにふるい、先祖にお与えになったこの良い地から根こそぎにし、ユーフラテス川の向こうに散らします。 偶像の神々を作って、神様を怒らせたからです。　１６ヤロブアム王は罪を犯し、しかもイスラエルの全国民をも巻き添えにしたので、神様はイスラエルを捨てるのです。」
１７　王妃がティルツァに帰り、家の敷居をまたいだとたん、子供は死にました。　１８イスラエル中の人は、その死を悲しみました。　神様が預言者アヒヤによってお語りになったとおりです。
１９　ヤロブアム王のその他の業績、彼がどう戦い、どう治めたかなどは、『イスラエル諸王の年代記』に記録されています。　２０ヤロブアムは、二十二年のあいだ王位にあって死に、その子ナダブが跡を継ぎました。
２１　その間、ユダでは、ソロモンの子レハブアムが治めていました。　彼は四十一歳で王位につき、神様がイスラエルのすべての町々から、特にご自分の住まいとしてお選びになったエルサレムで、十七年のあいだ治めました。　レハブアムの母はアモン人で、ナアマといいました。　２２レハブアムが王位にある時、ユダの国民は、イスラエル国民と同じように罪を犯し、神様を怒らせました。　その罪は、先祖よりひどいものでした。　２３すべての高い丘の上や木陰に礼拝所を建て、石柱や偶像を立てたのです。　２４また、広く同性愛が行なわれていました。　ユダの国民は、神様が国内から追い払った異教徒のように、堕落してしまったのです。
２５　レハブアムが王位について五年目に、エジプトの王シシャクがエルサレムを攻め落としました。　２６シシャクは神殿と宮殿を物色して歩き、ソロモン王の作った金の盾など、めぼしい物はみな手に入れました。　２７後に、レハブアム王は青銅で代わりの盾を作り、それを宮殿の警護兵にあてがいました。　２８王が神殿に行く時、警護兵がこの盾を持って王の前を進み、あとで控え室に持ち帰るのです。
２９　レハブアム王のその他の業績は、『ユダ諸王の年代記』に記録されています。　３０レハブアム王とヤロブアム王との間には、戦争が絶えませんでした。　３１レハブアム王は死んで、先祖のようにエルサレムに葬られました。 王の母ナアマはアモン人です。 そのあと、息子アビヤムが王となりました。
一五
１２アビヤムがエルサレムでユダの王となり、その三年間の治世が始まったのは、イスラ

エルでのヤロブアム王の治世第十八年のことです。　アビヤムの母マアカはアブシャロムの娘です。　３アビヤムは、ダビデ王のようには神様の前に正しくなかったので、父に負けないほど大きな罪を犯しました。　４しかし、その罪にもかかわらず、神様はダビデ王の忠誠心を覚えておられ、ダビデ王朝の家系を絶やすようなことはなさいませんでした。５それは、王が全生涯を通じて、ヘテ人ウリヤとのこと以外は、神様にお従いしたからです。　６アビヤムが王の間、イスラエルとユダの間には、戦争が絶えませんでした。　７アビヤムのその他の業績は、『ユダ諸王の年代記』に記録されています。　８アビヤムが死んでエルサレムに葬られると、息子アサが王位につきました。
９　アサは、イスラエルのヤロブアム王が王位について二十年目に、エルサレムでユダの王となり、　１０四十一年のあいだ治めました。　王の祖母マアカはアブシャロムの娘です。　１１アサ王は、先祖ダビデ王のように、神様に喜ばれる生活を送りました。　１２神殿男娼を処刑し、父が作った偶像をみな取り除きました。　１３祖母マアカをも、偶像を作ったかどで、王母の地位から退けました。　王はこの偶像を切り倒し、キデロン川で焼きました。　１４しかし、丘の上の礼拝所だけは、そのままでした。　王は、それが悪いことだと気づかなかったのです。　１５王は祖父が献納した青銅の盾を、自分が献納した金や銀の器とともに、神殿の中にいつも飾っておきました。
１６　ユダのアサ王とイスラエルのバシャ王との間には、絶えず戦争がありました。　１７さて、バシャ王は、エルサレムに通じる交易ルートを遮断しようと、ラマに大きな要塞の町を築きました。　１８困ったアサ王は、神殿や宮殿の宝物倉に残っていた金銀をぜんぶ持たせて、ダマスコに住むシリヤの王ベン・ハダデのところへ使いをやりました。
１９　「父同士がそうしたように、同盟を結びましょう。　どうか、この贈り物を納めて、すぐさま、イスラエルのバシャ王との同盟を破棄し、彼が私に手出しできなくなるようにしてください。」
２０　ベン・ハダデ王はこの申し入れを受諾し、軍隊をイスラエルの町町に差し向けて、イヨン、ダン、アベル・ベテ・マアカ、キネレテ全地方、ナフタリの地のすべての町を滅ぼしました。　２１あわてたのはバシャ王です。シリヤ軍来襲の報を受けると、要塞は建てかけのまま、ティルツァに戻りました。　２２アサ王はユダ全国に布告を出し、健康な男子に、ラマの要塞をこわし、石材や木材を運び出すよう命じました。　アサ王はこの石材や木材を使って、ベニヤミンのゲバの町とミツパの町を建てました。
２３　アサ王のその他の業績や、王の建てた町々の名前については、『ユダ諸王の年代記』に記録されています。　王は年をとってから足の病気にかかりました。　２４死後エルサレムの王室墓地に葬られ、息子ヨシャパテが、ユダの新しい王になりました。
２５　その間、イスラエルでは、ヤロブアムの子ナダブが王になっていました。　彼はユダの王アサが即位して二年後に王となり、在位期間は二年でした。　２６ところで、彼は悪い王で、父と同じように多くの偶像を拝み、イスラエルを罪に誘い込みました。
２７　それで、イッサカル部族出身のアヒヤの子バシャが、謀反を企て、イスラエル軍を

率いてペリシテ人の町ギベトンを包囲していた王を、暗殺したのです。　２８こうしてバシャが、ユダのアサ王の即位後三年目に、ナダブに代わって、ティルツァでイスラエルの王となりました。　２９バシャは王位につくと、すぐさまヤロブアム王の子孫を皆殺しにしました。　神様がシロ出身の預言者アヒヤによってお語りになったとおりです。　３０こうなったのもみな、ヤロブアム王が罪を犯し、イスラエルを罪に誘い込んで、神様を怒らせたからにほかなりません。
３１　バシャ王のことは、『イスラエル諸王の年代記』にくわしく記録されています。　３２３３ユダのアサ王とイスラエルのバシャ王との間には、戦争が絶えませんでした。　バシャは二十四年間イスラエルを治めました。　３４しかし、そのあいだ神様には従わず、ヤロブアム王の残した悪の手本に習い、イスラエル国民を偶像礼拝の罪に誘い込んだのです。
一六
１　そのころ､預言者エフーによって､バシャ王に神様からのきついお達しがありました。
２　「わたしはおまえに特別に目をかけて､イスラエルの王とした。　ところがおまえは、ヤロブアムの悪い手本に習い、わたしの国民に罪を犯させた。　だから、わたしは怒っている！　３わたしはヤロブアムとその子孫を滅ぼしたように､おまえも家族も滅ぼす。　４‐７おまえの家族で、この町の中で死ぬ者は犬に食われ、野で死ぬ者は鳥の餌食になる。」このお告げがバシャ王とその家族に伝えられたのは、王が悪事を重ねて、神様の怒りを引き起こしたからです。　ヤロブアム王の子孫は罪を犯したために滅ぼされたというのに、バシャ王もまた、同じように悪に走ったのです。　バシャ王は死んで、ティルツァに葬られました。
バシャ王のその他のことについては、『イスラエル諸王の年代記』に記録されています。
８　バシャの子エラは、ユダのアサ王の即位後二十六年目に、ティルツァで王位につきました。　しかし、彼の在位期間はわずか二年でした。　９王の戦車隊の半分を指揮する将軍ジムリが、謀反を企てたからです。　ある日、エラ王は、首都ティルツァにある宮内長官アルツァの家で、ほろ酔いきげんになっていました。　１０ジムリは家に入って王に近づき、いきなり、王をなぐり殺したのです。　この事件が起こったのは、ユダのアサ王の即位後二十七年目のことでした。 そのあとジムリは､自分が新しい王だと宣言しました。
１１　ジムリは王になると、すぐさまバシャ王の一族を、子供はもちろん遠い親せきや友人までも、一人残らず殺してしまったのです。　１２こうして、神様が預言者エフーに予告させたことが実現しました。　１３この悲劇が起こったのは、バシャとその子エラがイスラエルを偶像礼拝に走らせ、神様の激しい怒りを買ったためです。　１４エラ王の治世中のその他の出来事は､『イスラエル諸王の年代記』に記録されています。
１５１６ところで、ジムリの天下は、たった一週間つづいただけでした。そのころ、ペリシテ人の町ギベトンを攻撃していたイスラエル軍は､ジムリがエラ王を暗殺したと聞くと、最高司令官オムリ将軍を新しい王とすることに決めたのです。　１７そこでオムリは、ギ

ベトンにいたイスラエル軍を率いて、イスラエルの首都ティルツァを包囲しました。　１８ジムリは町が攻め取られるのを見て､宮殿に入って火をつけ､炎に包まれて死にました。１９こうなったのもみな、彼がヤロブアム王のように、偶像を拝み、イスラエル国民を偶像礼拝の罪に誘い込んだからです。　２０ジムリのその他のことや謀反については、『イスラエル諸王の年代記』に記録されています。
２１　ところで、そのころイスラエル王国は分裂していて、国民の半分はオムリ将軍に忠誠を誓い、半分はギナテの子ティブニに従っていました。　２２しかし、オムリ将軍が勝ち、ティブニは殺されました。こうして、オムリは反対勢力を完全に打ち負かし、王位についたのです。
２３　オムリは、ユダのアサ王の即位後三十一年目に、イスラエルの王となり、十二年のあいだ治めました。　そのうちの六年間は､ティルツァで治めました。　２４オムリ王は、現在サマリヤとして知られる丘陵地帯を、地主のシェメルから百二十万円で買い取り、町を建てました。　町は、元の地主シェメルにちなんで、サマリヤと呼ぶことにしました。２５ところが、オムリ王は前例のないほど悪い王でした。２６ヤロブアム王のように、偶像を拝み、イスラエルを偶像礼拝の罪に誘い込んで、神様の激しい怒りを買ったのです。２７オムリ王のその他の記録は､『イスラエル諸王の年代記』に出ています。　２８王は死んでサマリヤに葬られ、息子アハブが王となりました。
２９　アハブは、ユダのアサ王の即位後三十八年目に、イスラエルの王となり、二十二年のあいだ王位にありました。　３０ところが、アハブ王はイスラエルのすべての王の中でも、群を抜いて悪く、その悪名は父オムリ以上でした。　３１しかも、それだけでは足りないかのように、シドン人の王エテバアルの娘イゼベルと結婚し、バアルの偶像を拝み始めたのです。　３２まず、サマリヤにバアルの神殿を建て、祭壇を築きました。　３３それから、別の偶像も作りました。　こうしてアハブ王は、彼以前のイスラエルのどの王にもまして、神様の激しい怒りを招いたのです。
３４　アハブ王の在位中に、ベテル出身のヒエルはエリコを再建しました。　基礎工事をしている時、彼の長子アビラムが死に、城門を造って町が完成した時、末子セグブが死にました。　これは、ヌンの子ヨシュアによって言われていたように、エリコには神様ののろいがあったからです〔カナン征服記上六・二六参照〕。
一七
１　ギルアデのティシュベ出身の預言者エリヤは、アハブ王にこう宣告しました。　「私がお仕えしているイスラエルの神様は、確かに生きておられます。　私が何かを言わない限り、ここ数年、一滴の雨も降らず、露も降りません。」
２　このあと、神様はエリヤにお語りになりました。　３「東の方へ行き、ヨルダン川との合流点の東にある、ケリテ川のほとりに隠れるのだ。　４その川の水を飲み、からすが運んで来るものを食べよ。　食べ物を運ぶように、からすに命じておいたからな。」
５　神様の命令どおり、エリヤはケリテ川のほとりに住みました。６毎日、朝と夕方の二

回、からすがパンと肉を運んで来ました。　彼はまた、川の水を飲みました。　７ところが、どこにも雨が降らなかったので、しばらくすると、川が涸れたのです。
８９その時、神様のおことばがありました。「シドンの町に近いツァレファテ村へ行き、そこに住め。　その村には、おまえを食べさせてくれる未亡人がいる。　彼女にちゃんと指示を与えておいた。」
１０　エリヤは言われるままにツァレファテへ行き、村の入口で、たきぎを拾い集めている未亡人に会ったので、水を一杯求めました。
１１　彼女が水をくみに行こうとすると、エリヤは呼び止めて、「あっ、それからパンも」と言いました。
１２　「あなたの神様にお誓いして申します。　家には一切れのパンもありません。　つぼの底に、粉がほんのちょっとと、油がわずかばかり残っているだけです。　実は、それで最後の食事を作るため、たきぎを集めていたところなのです。　それを食べたら、息子と二人、飢えて死ぬのを待つだけです。」
１３　「なーに、心配することはありませんよ。　さあ、行って、最後の食事を作りなさい。　ただし、まず、私のために小さなパンを焼いてください。　そうしても、あなたと息子さんのために、十分なパンが焼けるはずです。　１４イスラエルの神様が、『わたしが雨を降らして、再び作物を実らせる時まで、おまえのつぼからは粉も油もなくならない』と約束しておられます。」
１５　そこで彼女は、言われたとおりにしました。　と、どうでしょう。　彼女と息子とエリヤは、いつまでも粉と油で作ったパンを食べることができたのです。　１６どんなにたくさん使っても、神様の約束どおり、つぼには、いつも口まで粉と油が詰まっていました。
１７　ところが、ある日、未亡人の息子が病気になり、ついに息を引き取ったのです。
１８　彼女は、「ああ、神の人よ、何ということをしてくださったのですか。　あなたは、息子を殺して、私の罪を罰するために来られたのですか」と叫びました。
１９　エリヤはただ、「息子さんを私に渡しなさい」とだけ言いました。　子供の遺体を受け取ると、彼の居間になっている二階の部屋にかかえて上がり、ベッドに横たえました。
２０それから、大声で神様に祈ったのです。　「ああ、神様、なぜ、なぜ、私が厄介になっている未亡人の息子を死なせなさったのですか。」
２１　そして三度、子供の上に身を伏せて、「ああ、神様、どうか、この子を生き返らせてください」と大声で祈りました。
２２　神様が祈りをお聞きになったので、子供は生き返りました。　２３エリヤはその子をかかえて下へ降り、母親に渡しました。
「ご覧なさい！　息子さんは生き返りましたよ」と言うエリヤの顔は、喜びに輝いていました。
２４　あとで未亡人は、エリヤにこう告白しています。　「今こそ、私は、あなたが預言

者であり、あなたのおっしゃることはみな神様のおことばであることが、ほんとうにわかりました。」
一八
１　それから三年後、神様はエリヤに、「アハブ王に会って、『やがて雨を降らせる』と伝えよ」と命じました。
２　そこでエリヤは、アハブのところへ出向きました。　そのころ、サマリヤはひどいききんに見舞われていたのです。
３４アハブの宮殿の管理人に、心から神様に従っている、オバデヤという人がいました。以前イゼベル王妃が、神の預言者を一人残らず殺そうとした時、オバデヤは百人の預言者を助け、五十人ずつほら穴に隠し、パンと水をあてがったことがあります。
５　エリヤがアハブ王に会おうと道を急いでいる時、王はオバデヤに命じました。　「国中の川を調べてみよう。　わしの馬やらばの食糧になる草があるかどうかな。　わしはこっちへ行くから、おまえはあっちへ行けっ。　二人で国中を捜すのだ。」
６　こうして、二人は別々の道を進みました。　７その時オバデヤは、近づいて来るエリヤを見たのです。　ひと目でエリヤだとわかったので、地面にひれ伏しました。
「もしや、エリヤ先生では？」
８　「そうだ。　王のところへ行って、私がここにいると伝えてくれないか。」
９　「エリヤ先生。　私がどんな悪いことをしたというので、この私を殺そうとなさるのですか。　１０神様にかけて申します。　王様は、世界中の国をすみずみまで捜し回って、あなたを見つけ出そうとしています。　『エリヤは当地にいません』という報告を受けると、王様は決まって、その国の王に、それが真実であると誓わせるのです。　１１ところが、今あなたは、『王のところへ行って、エリヤがここにいると伝えよ』とおっしゃいます。
１２しかし、私があなたから離れたら、すぐ神の霊が、だれも知らない所にあなたを連れ去ってしまうでしょう。　王様が来て、あなたを見つけることができなかったら、私はまちがいなく死刑です。　私はこれまでずっと、心からイスラエルの神様にお仕えしてきたではありませんか。　１３イゼベル王妃が神の預言者を殺そうとした時、預言者百人を二つのほら穴にかくまい、パンと水を差し上げた私のことが、お耳に入りませんでしたか。
１４今おっしゃるとおりにしたら、私は殺されます。」
１５　「私はいつも、天の軍勢の主である神様の前に立っている。　この神様にかけて誓う。　きょう、私は、きっとアハブ王の前に姿を現わす。」
１６　そこでオバデヤは、王のところへ行って、エリヤが来たことを知らせました。　王はエリヤに会いに出て来ました。
１７　王は、エリヤを見るなりどなりました。　「おまえだな。　イスラエルに災害をもたらした張本人は。」
１８　エリヤも負けてはいません。　「災害の張本人は、陛下のほうです。　陛下もそのご一族も、神様を捨てて、バアルを拝んでいるではありませんか。　１９さあ、イスラエ

ル国民と、イゼベル王妃おかかえのバアルの預言者四百五十人、それにアシェラの預言者四百人を、カルメル山に集めなさい。」
２０　そこでアハブは、全国民と預言者をカルメル山に召集しました。
２１　するとエリヤが、こう語りかけました。　「いつまで、迷っているのか。　イスラエルの神様がほんとうの神なら、この神様に従え。　バアルが神だというなら、バアルに従え。」
２２　エリヤは、さらに続けました。　「私はたった一人の神の預言者だ。　ところが、バアルの預言者は四百五十人もいる。　２３さあ、二頭の若い雄牛を引っ張って来い。　バアルの預言者は、どっちでも好きな方を選び、切り裂いて、自分たちの祭壇のたきぎの上に載せるがいい。　ただし、火はつけるな。　私も残った方の雄牛を同じようにして、神様の祭壇のたきぎの上に載せ、火をつけないでおく。　２４それから、おまえたちの神に祈れ。　私も私の神様に祈ろう。　祈りに答えて天から火を降らせ、たきぎを燃やしてくださる神こそ、ほんとうの神様だ！」　国民はみな、この提案に賛成しました。
２５　エリヤはバアルの預言者に言いました。　「おまえたちのほうが大ぜいだから、そっちから始めてくれ。　雄牛を一頭いけにえとしてささげ、おまえたちの神に祈れ。　ただし、たきぎに火をつけてはならん。」
２６　そこで彼らは、いけにえにする若い雄牛を祭壇に載せ、午前中いっぱい、「ああ、バアル様、私たちの祈りに答えてください！」と叫び続けました。　しかし、何の答えもありません。　ついに祭壇の回りで踊りだしました。　２７かれこれ正午にもなろうというころ、エリヤは彼らをあざけりました。
「もっと、もっと大声を出せ。　そんな声じゃ、おまえたちの神には聞こえんぞ。　だれかと話し中かもしれんからな。　トイレに入っているかもしれんし、旅行中かもしれん。それとも、ぐっすり寝こんでいて、起こしてやる必要があるかもしれんな。」
２８　それで彼らは、ますます大声を張り上げ、いつものように、ナイフや剣で体を傷つけたので、血がたらたら流れました。　２９こうして、午後いっぱい騒ぎ立て、夕方のささげ物をする時になりました。　しかし、いぜんとして何の答えもありません。
３０　この時とばかり、エリヤは人々に、「ここへ集まれ」と声をかけました。
人々が回りに集まると、こわれていた神様の祭壇を築き直しました。　３１イスラエルの十二部族を示す十二の石を取り、　３２それで祭壇を築き直したあと、回りに幅一メートルほどの溝を掘りました。３３次に祭壇にたきぎを並べ、もう一頭の若い雄牛を切り裂き、たきぎの上に載せました。
それから人々に命じました。　「四つのたるを水でいっぱいにし、その水をいけにえの雄牛とたきぎにかけなさい。」
人々がそうすると、　３４「もう一度」と頼むのです。　また言われたようにすると、「よーし、もう一度だけかけて」と言うではありませんか。　とうとう人々は、同じことを三度もくり返しました。　３５祭壇から流れ落ちた水は、溝いっぱいにあふれています。

３６　いつもの夕方のささげ物をささげる時間になると、エリヤは祭壇に歩み寄り、こう祈りました。　「ああ、アブラハム、イサク、イスラエル（ヤコブ）の神様。　あなた様こそイスラエルの神様であり、私が神様のしもべであることを、きょうこそ、はっきり証明してください。　私がこのようにしたのは、神様のご命令によったということを、人々にわからせてください。　３７神様、私の祈りに答えてください！　ここにいる人々が、あなた様こそ神であり、彼らをご自分のもとへ立ち返らせてくださることを知るように、どうか、私の祈りを聞き届けてください！」
３８　すると、どうでしょう。　突然、火のかたまりが天から降ってきて、いけにえの若い雄牛、たきぎ、石、ちりを焼き尽くし、溝の水をすっかり蒸発させてしまったのです。
３９　それを見た人々は、その場にひれ伏し、「主こそ神だ！　主こそ神だ！」と叫びました。
４０　そこでエリヤは人々に、バアルの預言者を一人残らず捕らえよ、と命じました。
捕らえたバアルの預言者は、キション川へ連れて行き、そこで殺しました。
４１　それがすむと、エリヤはアハブ王に、「激しい大雨の音が聞こえます。　急いで仮の宿舎へ帰り、ごちそうに舌つづみを打ちなさい」と言いました。
４２　王は宴会の用意をしました。　一方エリヤは、カルメル山頂に登ってひざまずき、顔をひざの間にうずめ、　４３従者に、「さあ、海の方を見てくれ」と頼みました。
従者は戻って来て、「何も見えません」と報告しました。
「もう一度、行ってくれ。　いや同じことを七回くり返すのだ。」
４４　七度目に、とうとう従者は叫びました。　「てのひらほどの小さな雲が、水平線から上って来まーす。」
「そうか。　よし、急いで王のところへ行き、戦車で山を下るように言いなさい。　うかうかしていると、雨で身動きできなくなる。」
４５　このことばのとおり、しばらくすると、強い風が嵐を運んできて、空は真っ暗になり、激しい雨がざあーっと降ってきました。　アハブ王は大急ぎでイズレエルへ向かいました。　４６神様から特別な力をいただいたエリヤは、驚いたことに、王の戦車を追い越して町の入口まで走り通しました。
一九
１　アハブ王は、エリヤがしたすべてのこと、特にバアルの預言者を殺したことを、イゼベル王妃に話しました。　２王妃は腹立ちまぎれに、エリヤにこうことづけました。「よくも私の預言者を殺したね。　今度は、神々にかけて言っておくよ。　明晩の今ごろまでには、きっとおまえを殺してやるから、覚悟をおし。」
３　エリヤは、急にいのちが惜しくなって逃げ出しました。　ユダの町ベエル・シェバまで来ると、そこに従者を残し、　４一人で荒野へ入って行きました。　一日じゅう歩き続けて、くたくたになって、えにしだの木の下に座り込み、ひと思いに殺してくださいと、神様に祈ったのです。

「もうたくさんです。　いっそ、このいのちをお取りください。　どうせ、いつかは死ぬのですから。」
５　そのまま、木の下に横になって眠り込むと、御使いが来て彼にさわり、起きて食事をするようにと言いました。　６見ると、石で焼いたパンと、水の入ったつぼがあります。パンを食べ、水を飲んでから、また横になりました。
７　すると、再び御使いが現われて、彼にさわり、「起きて、もっと食べなさい。　先はまだまだ長いのだから」と言いました。
８　そこでエリヤは起きて、食べ、水を飲みました。　この食事で元気を取り戻したエリヤは、四十日四十夜、旅を続けて神の山ホレブ（シナイ山）に着き、　９そこのほら穴に入りました。
すると、神様が呼びかけました。　「エリヤ、ここで何をしているのか。」
１０　「私は天地の支配者である神様のために、一生懸命に働いてきました。　ところが、イスラエル国民は神様と交わした契約を破り、祭壇をこわし、神の預言者を殺しました。彼らは今、ひとり生き残ったこの私まで、殺そうとしています。」
１１　「外に出て、山の上でわたしの前に立て！」　と、その時、神様が通り過ぎたのです。　激しい風が山を直撃し、岩が砕け落ちましたが、神様は、風の中にはおられませんでした。　風のあとに地震が起こりましたが、神様は、そこにもおられませんでした。　１２地震のあとに火が燃えましたが、火の中にも、神様はおられませんでした。　火のあとに、ささやくような優しい声が聞こえてきました。　１３エリヤはこれを聞くと、顔を外套でおおい、ほら穴の入口に立ちました。
すると、「エリヤ、なぜ、ここにいるのか」という声が聞こえました。
１４　「私は天の軍勢の主である神様のために、骨身を惜しまず働いてきました。　それなのに、人々は契約を破って祭壇をこわし、私以外の神の預言者を一人残らず殺しました。そして今、私まで殺そうとしています。」
１５　「さあ、ダマスコに通じる荒野の道へ引き返せ。　ダマスコに着いたら、ハザエルに油を注いで、シリヤの王とせよ。　１６それから、ニムシの子エフーに油を注いで、イスラエルの王とせよ。　また、アベル・メホラ出身のシャファテの子エリシャに油を注いで、おまえに代わる預言者とせよ。　１７ハザエルの手から逃げる者は、エフーに殺され、エフーの手から逃げる者は、エリシャに殺される。　１８それに、イスラエルには、バアルにひざをかがめず、口づけしない者が、七千人いることを忘れるな。」
１９　エリヤは出かけて行き、十二くびきの牛で畑を耕している、エリシャを見つけました。 彼は最後の十二番目のくびきのところにいました。 エリヤはつかつかと近寄ると、外套を彼の肩に投げかけ、また歩きだしました。
２０　エリシャは牛をそのままにして、エリヤのあとを追いかけ、「まず、父と母に別れのあいさつをさせてください。　それから、お伴をします」と言いました。
「行って来なさい。　なぜ、そんなに興奮しているのです。」

２１　こう言われて、エリシャは引き返し、農耕用の牛を殺し、鋤の柄をたきぎにして、肉をあぶりました。　そのごちそうを家族ともども楽しんでから、エリヤについて行き、仕えました。
二〇
１　シリヤのベン・ハダデ王は軍隊を率い、三十二の同盟国の戦車や騎兵の大軍とともに、イスラエルの首都サマリヤを包囲しました。２３王はサマリヤの町に使者を立て、イスラエルのアハブ王にこう伝えました。　「あなたの金銀は私のものだ。　あなたの美しい妻たちも、器量よしの子供たちも。」
４　アハブ王は、「陛下。　仰せのとおり、私が持っているものはみな陛下のものです」と答えました。
５６やがてベン・ハダデ王の使者が戻って来て、別のことづけを伝えました。　「金銀、妻子をくれるだけではすまんぞ。　あすの今ごろ、家来を差し向け、宮殿と民家を捜し回り、欲しいものを、手あたりしだい持ち帰ることにする。」
７　たいへんな事態です。 アハブ王は相談役の長老たちを呼び、不平をぶちまけました。「やつが何をしようとしているか、ぜひとも知ってくれ。　わしはやつの要求どおり、妻子や金銀を与えると言っておいたのに、図に乗って難題を吹っかけてきおった。」
８　「これ以上、やつに何もやらないでください」と、彼らは助言しました。
９　そこでアハブ王は、ベン・ハダデ王のよこした使者に言いました。　「王にお伝え願いたい。　『初め陛下が要求なさったものはすべて差し上げます。　ですが、ご家来が宮殿や民家を捜し回ることだけは、やめてください』とな。」　使者はベン・ハダデ王のもとへ帰って報告しました。
１０　するとシリヤの王は、またことづけを送ってきました。　「もしわしが、サマリヤを一つかみのちりに変えてしまわなかったら、どうか神々が、わしがおまえにしようとしている以上のことを、わしにしてくださるように！」
１１　イスラエルの王も、負けずに言い返します。　「それこそ、とらぬ狸の皮算用というものだ！」
１２　このアハブ王の返事が、ベン・ハダデをはじめ同盟軍の王たちに届いた時、一同はテントの中で酒をくみ交わしていました。
ベン・ハダデ王は、「何をこしゃくな。　よし、攻撃の準備だ」と将校たちに命じました。
１３　そのころ、一人の預言者がアハブ王に会いに来て、神様のお告げを伝えました。「あの敵の大軍を見たか。　わたしはきょう、敵をおまえの手に渡そう。　そうすれば、いかにおまえでも、わたしこそ神であると思い知るだろう。」
１４　「どのようにして、そうなるのか。」
「『外人部隊によってだ』と、神様は言っておられます。」
「こちらから攻撃をしかけるのか。」
「そうです。」

１５　そこで王は、二百三十二人の外人部隊と、七千人のイスラエル軍を召集しました。
１６真昼ごろ、ベン・ハダデ王と三十二人の同盟軍の王は、まだ酒を飲んでいましたが、アハブ王の先頭部隊はサマリヤを出発しました。
１７　この外人部隊を見た敵軍の斥候は、「小数の敵が攻めて来ます」と報告しました。
１８　ベン・ハダデ王は、「休戦のために来たにせよ、戦うために来たにせよ、生け捕りにしてしまえ」と命じました。
１９　そのころには、アハブ王の全軍が攻撃に加わり、　２０手あたりしだいにシリヤ兵を殺したので、シリヤ軍はパニック状態に陥り、いっせいに逃げ出しました。　イスラエル軍は追撃しましたが、ベン・ハダデ王と少数の者だけは、馬で逃げのびました。　２１こうして、イスラエル軍はシリヤ軍の大半を殺し、おびただしい数の馬と戦車を分捕ったのです。
２２　そののち、例の預言者がアハブ王に近寄り、「シリヤ王の二度目の来襲に備えなさい」と忠告しました。
２３　実は、大敗北のあと、ベン・ハダデ王の家来たちは、王にこう進言していたのです。
「イスラエルの神は山の神だから、今回は負けたのです。　平地なら、難なく勝てます。
２４今度だけは、連合軍の王の代わりに、将軍たちを指揮官に任命してください。　２５失っただけの兵力を補充し、以前と同じ数の馬と戦車と兵を、われわれにお任せください。
平地で戦い、必ずや、勝利を収めてご覧に入れます。」王は、彼らの進言を受け入れ、　２６翌年、シリヤ軍を動員し、再びイスラエルと戦うために、アフェクに向けて進軍しました。　２７イスラエル側も全軍を集め、装備を固めて戦場へ向かいました。　しかし、アフェクを埋め尽くしているシリヤの大軍に比べて、イスラエル軍は二つの子やぎの群れのようにしか見えませんでした。
２８　その時、一人の預言者がイスラエルの王に近づき、神様のお告げを伝えました。「シリヤ人が、『イスラエルの神は山の神で、平地の神ではない』と言うので、わたしはおまえを助けて、この大軍を負かそう。　そうすれば、おまえも、わたしこそ神であると認めるようになる。」
２９　両軍は、陣を敷いたまま向かい合っていましたが、七日目に戦いが始まりました。
最初の日に、イスラエル軍はシリヤ軍の歩兵十万を殺しました。　３０生き残った者は、アフェクの城壁の裏に逃げました。　ところが、城壁がくずれ落ちて、さらに二万七千人が死にました。　ベン・ハダデ王は町の中に逃げ込み、ある家の奥に隠れました。
３１　家来が王に申し出ました。　「陛下。　イスラエルの王はたいそうあわれみ深いと聞いております。　それで、私たちが荒布をまとい、首になわをかけて、イスラエルの王のところへ行くのをお許しください。　陛下のいのち乞いをしたいのです。」
３２　こうして、彼らはイスラエルの王のもとへ行き、「アハブ王のしもべベン・ハダデが、『どうか、いのちだけはお助けください』と申しております」と懇願しました。
イスラエルの王は、「そうか、彼はまだ生きていたのか。　彼はわしの兄弟だ」と答えまし

た。
３３　使者はそのことばに望みを託して、「おことばのとおりでございます。　ベン・ハダデはあなた様の兄弟です！」と、大声であいづちを打ちました。
イスラエルの王は、「彼を連れて来なさい」と命じました。　ベン・ハダデが到着すると、なんと、王は彼を自分の戦車に招き入れたのです。
３４　ベン・ハダデはすっかり感激して、「父があなたの父上から奪い取った町々をお返しします。　父がサマリヤにしたように、あなたもダマスコに市場を設けてかまいません」と言いました。　これで契約は成立です。
３５　一方、神様の命令で、ある預言者が仲間の預言者に、「おまえの剣で私を切ってくれ」と言いました。　しかし、その人は拒んだのです。
３６　そこで、その預言者は言いました。　「おまえは神様の声に従わなかったので、ここを出るとすぐ、ライオンに食い殺される。」　はたして、その人が出て行くと、ライオンに襲われて死にました。
３７　それから、その預言者はまた別の人に、「おまえの剣で私を切ってくれ」と頼みました。　すると、その人は彼に切りつけ、傷を負わせたのです。
３８　その預言者は、目に包帯を巻き、だれだかわからないようにしたまま、道ばたで王を待っていました。
３９　王が通りかかると、預言者は呼び止めました。　「陛下。　私が戦場にいると、ある人が捕虜を連れて来て、『こいつを見張っていてくれ。　逃がしたら、いのちはないぞ。４０それでも助かりたければ、六十万円出せ！』と言ったのです。　ところが、私がほかのことに気を奪われている間に、その捕虜がいなくなりました。」
王は、「それはおまえの責任だ、六十万円支払え」と言いました。
４１　この時、その預言者が包帯をはずしたので、王は、彼が預言者だとわかりました。
４２預言者は、「神様はこう仰せになります。　『わたしが殺そうとした者を助けたので、おまえは彼の代わりに殺される。　おまえの国民は彼の国民の代わりに滅びる』」と王をきめつけました。
４３　王はたちまち不きげんになり、腹を立ててサマリヤへ帰って行きました。
二一
１　さて、イズレエル出身のナボテは、町はずれのアハブ王の宮殿の近くに、ぶどう畑を持っていました。　２ある日、王はナボテに、畑を譲ってくれと申し出ました。
「あそこを庭にしたい。　宮殿に近いから、とても便利なのだ。」　王は、現金で買い取ってもよいし、もしナボテが望むなら、もっと良い地を代わりに与えてもよいと言いました。
３　ところがナボテは、「どんなことがあっても、お譲りするわけにはまいりません。　あそこは先祖伝来の土地でございます」と答えました。
４　とたんに王は不きげんになり、むっとして宮殿に戻り、食事もせず、壁の方を向いたままベッドに横になっていました。

５　妻のイゼベルが入って来て、声をかけました。　「いったい、どうなさったの。　お食事もなさらないなんて。　そんなにふさぎ込んで、腹にすえかねることでもあったのですか。」
６　「ナボテに、ぶどう畑を売ってくれ、なんならほかの土地と交換してもいい、と頼んだんだが、あっさり断わられてしまったのさ。」
７　「まあ、あなたはイスラエルの王ではありませんか。　さあ、起きて、お食事をなさいまし。　そんなことで心配なさるには及びませんわ。　私がナボテのぶどう畑を手に入れてみせますから。」
８　イゼベルは王の名で手紙を書き、王の印を押して、ナボテが住むイズレエルの町の長老に送りました。　９手紙には、こう書いてありました。　「町の者に断食と祈りを命じなさい。　それからナボテを呼び、　１０二人のならず者に、『ナボテは神様と王とをのろった』と言わせるのです。　その上で、ナボテを外に引き出して殺しなさい。」
１１　町の長老は王妃の指図どおりに動きました。　１２町の住民を呼び出し、ナボテを裁判にかけたのです。　１３そこへ、良心のかけらもない二人のならず者が来て、ナボテが神様と王とをのろった、と非難しました。　気の毒に、ナボテは町の外に引き出され、石を投げつけられて殺されたのです。　１４ナボテが死んだことは、すぐ王妃に報告されました。
１５　イゼベルは知らせを聞くと、王に言いました。　「ナボテが売るのをしぶっていたぶどう畑のことを、覚えていらっしゃいますね。さあ、今、それを手に入れることができますわ！　ナボテは死んだのですよ！」
１６　王はぶどう畑を自分のものにするために出かけました。
１７　その時、神様はエリヤに命じました。　１８「アハブ王に会いにサマリヤへ行け。いま王は、ナボテのぶどう畑を自分のものにしようと、近くまで来ている。　１９次のわたしのことばを王に伝えよ。『ナボテを殺しただけでは、まだ足りず、彼の畑まで奪い取ろうというのか。　こんな大それたことをしでかしたので、ナボテの時と同じように、町の外で、犬がおまえの血をなめるようになる！』」
２０　アハブ王はエリヤを見て、「また憎い敵に見つかったか」と叫びました。
エリヤは答えました。　「王が悪魔に身を売り渡したので、神様ののろいを下すため、出て来た。　２１神様は王に大きな災いを下し、一族を一掃しようとしておられる。　王の子孫で、男の子は、一人も生き残れない。　２２ヤロブアム王家やバシャ王家のように滅ぼされる。　神様の激しい怒りを買い、イスラエルを罪に誘い込んだ報いだ。　２３神様はまた、イゼベル王妃についても、『イズレエルの犬がイゼベルの死体を引き裂く』と仰せになった。　２４王の家の者たちで、町の中で死ぬ者は犬に食われ、野で死ぬ者ははげたかの餌食になる。」
２５　アハブ王のように悪魔の言いなりになった者は、ほかに一人もいませんでした。 妻のイゼベルが王をそそのかして、あらゆる悪事に走らせたからです。　２６王が犯した最

大の罪は、神様がこの地から追い出したエモリ人のまねをして、多くの偶像を礼拝したことです。２７王はエリヤのことばを聞くと、上着を引き裂き、ぼろをまとい、断食をし、荒布にくるまって伏し、しょんぼりしていました。
２８　その時、エリヤはまた別のお告げを聞きました。　２９「アハブがわたしの前にへりくだっているのを見たか。　あんなにまでしているので、王が生きている間は、あの約束は実行しないことにする。　息子の代に、そのことが起こって、子孫はみな滅びる。」
二二
１　三年の間、シリヤとイスラエルの間には戦争がありませんでした。　２しかし、三年目になって、ユダ王国のヨシャパテ王がイスラエル王国のアハブ王を訪れた時、　３アハブ王は家来にこう言いました。「シリヤが、われわれの町ラモテ・ギルアデを今でも占領しているのを知っているか。　それなのに、われわれは何もせず、手をこまぬいているだけだ。」
４　それから、ヨシャパテ王に向かって、「ラモテ・ギルアデを取り返すために、援軍を送ってくださいませんか」と頼みました。
「いいですとも！　あなたとは兄弟の仲です。　国民も、馬も、ご自由にお使いください。５それにしても、まず神様におうかがいを立ててみようじゃありませんか。」
６　そこでアハブ王は、四百人の異教の預言者を召集し、「ラモテ・ギルアデに攻め入るべきか、それともやめるべきか」と尋ねました。
彼らは異口同音に、「攻め上りなさい。　神様が陛下を助けて、ラモテ・ギルアデを占領させてくださいます」と答えました。
７　ところが、ヨシャパテ王は満足しません。「ここには神の預言者がいないのですか。神の預言者にも聞いてみたいのです。」
８　「一人だけ、いるにはいますがね、どうも、虫が好かんやつでしてな。　なにしろ、いつも陰気くさいことばかり言って、良いことはちっとも預言しないときている。　イムラの子でミカヤといいますがね。」
「まあまあ、そんなこと言わずに……。」
９　そこでアハブ王も気を取り直し、側近を呼んで、「急いで、ミカヤを連れて来い」と言いつけました。
１０　その間にも、預言者が二人の王の前で次々と預言していました。　二人は王服をまとい、町の門に近い打穀場の、急ごしらえの王座についていました。　１１ケナアナの子で預言者の一人ゼデキヤは、鉄の角を作って言いました。　「この鉄の角でシリヤ軍を押しまくり、ついに全滅させることができると、神様は約束しておられます。」
１２　ほかの預言者も、みな右へならえをして言いました。　「さあ、ラモテ・ギルアデに攻め上りなさい。　神様が勝利を与えてくださいます！」
１３　ミカヤを呼びに行った使者は、ほかの預言者のことばを告げて、同じように語れとうながしました。

１４　しかしミカヤは、「約束できるのは、神様がお告げになることだけを語る、ということだ」と、きっぱり断わりました。
１５　ミカヤが姿を現わすと、王はさっそく尋ねました。　「ミカヤ、ラモテ・ギルアデに攻め入るべきか、それともやめるべきか。」
「もちろん、攻め上りなさい！　大勝利はまちがいありません。　神様が勝利を与えてくださるからです。」
１６　「神様が言われたことだけを語れと、何度言えばわかるのだ。」
１７　「実は、私はイスラエル国民が、羊飼いのいない羊のように山々に散らされているのを、幻で見ました。　神様はこうお語りになりました。　『王は死んだ。　彼らを家へ帰らせるように。』」
１８　「どうです、お話ししたとおりでしょう。　いつも悪いことばかり言って、良いことはこれっぽっちも話しませんよ。」　アハブ王はヨシャパテ王に不満をぶちまけました。
１９　すると、ミカヤが先を続けました。　「神様のおことばをもっと聞きなさい。　私は、神様が王座につき、天の軍勢がその回りに立っているのを見ました。
２０　そのとき神様は、『アハブをそそのかして、ラモテ・ギルアデに攻め上らせ、そこで倒れさせるように仕向ける者は、だれかいないか』と持ち出しました。
いろいろな意見が出た末、　２１一人の御使いが進み出て、『私がやりましょう』と申し出ました。
２２　『どういうふうにするのか』と、神様が尋ねると、
御使いは答えました。　『私が出かけて、アハブの預言者全員に、うそをつかせてご覧に入れます。』
神様はこれを聞いておっしゃいました。　『では、そうするがよい。　きっと成功する。』
２３　ご覧のとおり、神様は、ここにいる預言者全員の口に、うそをつく霊をお入れになりました。　しかし実際には、陛下に臨む災いをお告げになったのです。」
２４　すると、ケナアナの子ゼデキヤが、つかつかと歩み寄り、ミカヤの頬をなぐりつけました。
「いつ神の御霊が私を離れ、おまえに語ったというのか。」
２５　「あなたが奥の間に隠れるようになった時、はっきりわかるでしょうよ。」
２６　アハブ王は、ミカヤを捕らえるように命じました。
「こいつを、市長アモンと王子ヨアシュのところへ連れて行け。　２７『王の命令だ。　この男を牢につなぎ、わしが無事に帰って来るまで、やっと生きられるだけのパンと水をあてがっておけ』と言ってな。」
２８　ミカヤはすかさず言い返しました。　「万が一にも、陛下が無事にお戻りになるようなことがあったら、神様が私によってお語りにならなかった証拠です。」　そして、そばに立っている人々に、「私が言ったことを、よく覚えておきなさい」と言いました。
２９　イスラエルのアハブ王とユダのヨシャパテ王は、それぞれの軍隊を率いてラモテ・

ギルアデに向かいました。
３０　アハブはヨシャパテに、「あなただけ王服を着ていてください」と言いました。
そして、自分は普通の兵士に変装して、戦場に出かけたのです。　３１そうしたのは、シリヤ王が配下の戦車隊長三十二人に、「戦う相手はアハブ王一人だ」と命じていたからです。
３２３３彼らは王服を着たヨシャパテ王を見て、「あれがねらっている相手だ」と思い、いっせいに攻めかかりました。　しかし、ヨシャパテが大声で名のりをあげると、すぐ引き返しました。　３４ところが、ある兵士が放った矢が、たまたまアハブ王のよろいの継ぎ目に命中したのです。
「戦場から連れ出してくれ。　深手を負ってしまった」と、王はうめきながら戦車の御者に語りかけました。
３５　その日、時がたつにつれて、戦いはますます激しくなりました。　王は戦車の中で、寄りかかるようにして立っていましたが、傷口から流れ出る血は床板を真っ赤に染め、夕方になって、ついに息絶えました。　３６３７ちょうど日没のころ、兵士たちの間に、「戦いは終わったぞ。　王は死んだから、みんな家へ帰れ！」という叫び声が伝わりました。
王の遺体はサマリヤに運ばれて葬られました。　３８王の戦車とよろいを、売春婦たちが身を洗うサマリヤの池で洗っていると、犬が来て血をなめました。　こうして、神様のお告げどおりになりました。
３９　その他、アハブ王が象牙の宮殿を建て、町々をつくったことなどについては、『イスラエル諸王の年代記』に記録されています。　４０こうして、アハブ王は先祖代々の墓地に葬られ、息子アハズヤが、新しい王となりました。
４１　ところで、イスラエルの王アハブの即位後四年目に、ユダでアサの子ヨシャパテが王となりました。　４２ヨシャパテが王位についたのは三十五歳の時で、二十五年間エルサレムで治めました。　母親はシルヒの娘のアズバです。　４３ヨシャパテ王は、父アサにならって、すべての面で神様に従いました。　ただし、丘の上の礼拝所だけは取り除かなかったので、人々は相変わらず、そこでいけにえをささげ、香をたき続けました。　４４王はまた、イスラエルのアハブ王と平和協定を結びました。　４５王のその他の行為、輝かしい功績と武勲などは、『ユダ諸王の年代記』に記録されています。
４６　王は、父アサの時代からあった男娼の家を、一つ残らず取り除きました。　４７そのころ、エドムには王がなく、代官が置かれているだけでした。
４８　ヨシャパテ王はオフィルの金を手に入れようと、大船団をつくりました。　ところが、その船団がエツヨン・ゲベルで難破したので、目的を果たせませんでした。　４９アハブの王位を継いだ息子のアハズヤ王は、「私の家来もいっしょにオフィルへ行かせてください」と申し出ました。　しかしヨシャパテ王は、その申し出を断わったのです。
５０　ヨシャパテ王は死んで、先祖とともに父祖ダビデの町エルサレムに葬られ、息子ヨラムが王位につきました。　５１アハブの子アハズヤは、ユダの王ヨシャパテの即位後十七年目に、サマリヤでイスラエルの王となりました。　アハズヤは二年のあいだ治めまし

たが、　５２５３良い王ではありませんでした。　両親はもとより、イスラエルを偶像礼拝の罪に誘い込んだヤロブアムにも、ならったからです。　こうして、イスラエルの神様の激しい怒りを買いました。

▪

王国衰亡記　下（列王記Ⅱ）
本書は、二つの国家的悲劇を含む、およそ二百五十年間にわたる出来事を記しています。紀元前七二二年に、北王国イスラエルはアッシリヤに滅ぼされ、五八七年に南王国ユダがバビロンに滅ぼされました。本書は、諸王の統治を、霊的意義に注目しながら記述しています。善王と悪王、戦争と平和、繁栄と衰退のいずれの時代でも、神様は変わらずに生きて働き、預言者を遣わし、ご自分の考えを伝え、さばきが来ることを警告しておられます。

一
１　アハブ王が死ぬと、モアブの国が独立を宣言し、イスラエルに貢を納めないと言いだしました。
２　さて、イスラエルの新しい王アハズヤは、サマリヤにある宮殿の二階のベランダから落ちて、重傷を負いました。　そこで、使者をエクロンにあるバアル・ゼブブの神殿に送り、傷が治るかどうか、伺いを立てさせようとしました。
３　ところが､神様の使いが預言者エリヤに､こう告げたのです｡「さあ､王の使者に会い､次のように言いなさい。　『イスラエルには神がいないとでもいうのか。　わざわざエクロンの神バアル・ゼブブに、王が治るかどうか伺いを立てるとは……。　４５こんなまねをしたので、王は床に釘づけになったまま、やがて死ぬ。』」
エリヤのことばを聞いた使者は、すぐ王のもとへ引き返しました。
「なぜ、こんなに早く帰って来た？」と尋ねる王に、使者は答えました。
６　「ある人が来て、すぐ陛下のもとへ帰り、こう語るようにと告げたのでございます。『神様は、なぜ王がエクロンの神バアル・ゼブブに伺いを立てるのか、そのわけを知ろうとしておられる。　イスラエルに神がおられないとでもいうのか。　こんなことをしたからには、王は床から離れることはできないし、そのうちきっと死ぬ。』」
７　「だれがそんなことを。　で、どんななりをしておった、そいつは。」
８　「毛衣を着て、太い皮帯を締めていました。」
「うーん、それでまちがいない。　あの預言者エリヤめだっ！」
９　そこで王は、五十人の兵士に隊長をつけて、エリヤ逮捕に向かわせました。　彼らは丘の上に座っているエリヤを見つけ、声をかけました。　「預言者よ、王の命令だ。　いっしょに来てもらおう。」
１０　「もし私が預言者なら、天から火が下って、おまえたちを皆殺しにするはずだ」と、エリヤが言ったとたん、いなずまが彼らを直撃し、一人残らず焼き殺してしまいました。
１１　王はまた、別の五十人の兵士に隊長をつけ、「預言者よ、すぐ来るようにとの、王の命令だ」と言わせました。
１２　「もし私が預言者なら､天から火が下って､おまえたちを皆殺しにするはずだ｡」　今度も、神様の火が彼らを焼き殺してしまいました。
１３　それでも、王はあきらめません。　もう一度、五十人の隊を送り出しました。　と

ころが今度の隊長は、エリヤの前にひざまずいて懇願したのです。 「預言者様、どうか、私どものいのちをお助けください。 １４どうか、お情けを。 前の者たちのように殺さないでください。」
１５ その時、御使いがエリヤに、「こわがらずに、いっしょに行け」と命じたので、エリヤは王に会いに行きました。
１６ エリヤは、王の前でも少しも臆しません。 「なぜ陛下は、ご病気のことで、エクロンの神バアル・ゼブブに伺いを立てようと、使者を送ったのですか。 イスラエルに神がおられないとでもいうのですか。 そんなことをなさったので、陛下は床に釘づけになったまま、そのうちきっと死にます。」
１７ 神様がエリヤによって予告なさったとおり、アハズヤは死に、弟ヨラムが王位につきました。 アハズヤには世継ぎがなかったからです。 それは、ヨシャパテの子でユダの王ヨラムの即位後二年目のことでした。 １８アハズヤのその他の業績は、『イスラエル諸王の年代記』に記録されています。
二
１２さて、神様がエリヤをたつまきで天に上げる時がきました。 エリヤはギルガルを出立する時、エリシャに、「ここに残ってくれ。神様がわしに、ベテルへ行けと仰せじゃ」と言いました。
ところがエリシャは、「神様にかけて言っておきますが、決して先生から離れません」と答えたのです。
そこで二人は、そろってベテルへ向かいました。 ３すると、ベテルの預言者学校の若い預言者たちが迎えに出て、エリシャに言いました。 「きょう、神様がエリヤ先生をあなたから取り上げようとしておられるのを、ご存じですか。」
「黙りなさい！ もちろん知っているとも。」 エリシャはきびしい口調で言いました。
４ すると、エリヤはエリシャに、「このベテルに残れ。 神様がわしを、エリコへやられるのじゃ」と言いました。
しかし、またもエリシャは、「神様にかけて言っておきますが、決して先生から離れません」と答えたのです。 そこで二人は、そろってエリコへ出かけました。
５ エリコでも、預言者学校の生徒たちがエリシャに、「きょう、神様がエリヤ先生をあなたから取り上げようとしておられるのを、ご存じですか」と言いました。
エリシャはきっぱり答えました。 「知っているとも。 だが、そのことは黙っていてくれないか。」
６７エリヤはまたもエリシャに、「ここに残れ。 神様がわしを、ヨルダン川へやられる」と言いました。
この時も、エリシャは前と同じように、「神様にかけて言っておきますが、決して先生から離れません」と答えたのです。
二人はそろって出かけ、ヨルダン川のほとりに立ちました。 若い預言者五十人は、遠く

から見守っていました。　８エリヤが外套を丸めて、ヨルダン川の水を打つと、川の水が分かれたので、二人はかわいた土の上を渡って行きました。
９　向こう岸に着くと、エリヤはエリシャに言いました。　「わしが天に行く前に、どんなことをしてやろうかの。」
「どうぞ、先生の二倍の預言の力を、お授けください。」
１０　「難しいことを注文するものだ。 わしが取り去られる様子を見ることができたら、願いはかなえられるぞ。　じゃが、見られなければだめじゃな。」
１１　二人が話しながら歩いていると、突然、火の馬に引かれた火の戦車が、二人の間に割り込みました。　こうして、エリヤはたつまきに乗って天にのぼって行ったのです。
１２　エリシャはその姿をじっと見つめ、「わが父！　わが父！　イスラエルの戦車と騎兵よ！」と絶叫しました。
エリヤの姿が見えなくなると、エリシャは着物を引き裂きました。　１３１４それから、エリヤの外套を拾い上げ、ヨルダン川のほとりに引き返し、その外套でヨルダン川の水を打ったのです。
「エリヤの神様は、どこにおられますか」と、大声をあげると、水が両側に分かれたので、歩いて川を渡りました。
１５　エリコの若い預言者たちはこれを見て、口々に「エリヤの霊がエリシャに臨んだ！」と叫び、エリシャを迎えに出て、ていねいにおじぎしました。
１６　「お許しをいただければ、五十人の屈強な連中にエリヤ先生を捜しに行かせます。おそらく、神の御霊が先生を運んで、どこかの山か谷に置き去りにされたのでしょうから。」
「どうか、そんなことはしないでくれ。」
１７　ところが、彼らがあまりにもしつこく言うので、ついにエリシャも根負けして、「ま、いいだろう。　そうしなさい」と折れました。　そこで、五十人の男が三日間、手分けして捜しましたが、エリヤの姿はどこにも見あたりません。
１８　すごすご引き返して来ると、エリシャはまだエリコにいて、「だから、あれほど、行くなと言っただろう」としかりつけました。
１９　エリコの町の代表者たちが、エリシャを尋ねて来ました。　「実は、困ったことがあるのです。　この町は、ご覧のとおり、美しい自然に囲まれています。　ところが水が悪くて、女たちは流産に悩まされています。」
２０　「それはお困りですな。　何とかしましょう。　新しい器に塩をいっぱい入れて、持って来なさい。」　そこで彼らは言われたとおりにしました。
２１　エリシャは町の井戸へ出かけ、塩を振りまいて、「神様がこの水をきよめてくださった。　これからはもう、流産する人もないし、水にあたって死ぬ人もいません」と太鼓判を押しました。
２２　はたして、そのとおり水質は良くなったのです。
２３　エリシャがベテルへの道を進んで行くと、ベテルの町から小さい子供たちが出て来

て、「やーい、はげ頭、はげ頭」とはやし立てました。　２４エリシャは子供たちの方を振り向いて、神様の御名によってのろいました。　すると、森の中から二頭の雌熊が出て来て、四十二人もの子供を裂き殺してしまったのです。　２５このあと、エリシャはカルメル山へ行き、またサマリヤへ帰って来ました。
三
１　ユダのヨシャパテ王の即位後十八年目に、アハブの子ヨラムがイスラエルの王となり、首都のサマリヤで十二年のあいだ治めました。　２彼はしたたか者でしたが、両親ほどではありませんでした。　その証拠に、父の作った、バアルにささげる石柱だけは取り除いたのです。　３しかし一方では、イスラエル国民を偶像礼拝に誘った、ネバテの子ヤロブアムの罪を犯し続けました。
４　モアブ人はメシャ王をはじめとして、羊を飼っており、毎年イスラエルに、子羊十万頭と、雄羊十万頭分の羊毛とを貢として納めていました。　５ところが、アハブ王が死ぬと、モアブの王はイスラエルに背いたのです。　６－８そこで、ヨラム王はイスラエル軍を召集する一方、ユダのヨシャパテ王に使いをやりました。
「モアブの王が反旗を翻しました。　戦いにお力添え願えないでしょうか。」
「喜んで力になりましょう。　国民も馬も、あなたの言いなりにさせます。　作戦計画を教えてください。」
「エドムの荒野の道から攻めることにしています。」
９　こうして、エドムからの援軍も加わった、イスラエルとユダの連合軍は、荒野の道を遠回りして七日間すすみました。　ところが、兵士や荷物を運ぶ家畜の飲み水が底をついたのです。
１０　イスラエルの王は悲鳴をあげました。「ああ、どうしよう。　神様はわれわれを、モアブの王の餌食にしようと、ここに連れ出されたのだ。」
１１　「預言者はいないのですか。　もしいたら、どうすればいいかわかるのに。」
ユダのヨシャパテ王のことばに、イスラエルの王の家来が答えました。　「エリヤの助手をしていたエリシャがいます。」
１２　ヨシャパテは、「それはいい。　その人に聞いてみよう」と言いました。　そこで、イスラエルとユダとエドムの王は、そろってエリシャを尋ねたのです。
１３　ところが、エリシャはイスラエルのヨラム王にかみつきました。　「かかわりになりたくありませんな。　ご両親がひいきにしていた、偽預言者のところへでも行ったらいいでしょう。」
「いやだ！　われわれをここに呼び出し、モアブの王の餌食になるように仕向けたのは、神様だぞ。」
１４　「神様にかけて言っておきます。　ユダのヨシャパテ王がいなかったら、こんなことに首をつっ込む気は、さらさらなかったんですがね。　１５ま、しかたがない、竪琴をひく者を連れて来てください。」

竪琴がひき鳴らされると、エリシャに神様のお告げがありました。
１６　「このかわいた谷に溝を掘れ。　わたしがそこに水を満たす。１７風も吹かず、雨も降らないのに、谷は水であふれ、おまえたちも家畜も、十分に飲むことができる。　１８だが、これはまだ序の口だ。わたしはモアブ軍を破り、おまえたちに勝利を与える。　１９おまえたちは城壁で囲まれた最上の町々を占領し、良い畑をみな、石ころで台なしにする。」
２０　翌日、朝のいけにえがささげられるころ、水がエドムの方から流れて来て、あたり一面を水浸しにしました。
２１　そのころ、モアブ人は、連合軍が攻めて来ると聞き、老いも若きも、戦うことのできる男子を総動員して、国境の守備を固めました。　２２ところが、翌朝はやく起きてみると、太陽が水面を真っ赤に照らしているではありませんか。
２３　彼らは思わず、「血だ！　連合軍が、同士討ちをしたに違いない。　さあ、出て行って戦利品を集めよう」と叫びました。
２４　こうして、彼らがイスラエル陣に攻め込むと、イスラエル軍が飛び出して来て、モアブ人を片っぱしから殺し始めたのです。　たちまちモアブ軍は総くずれです。　ここぞとばかり、イスラエル軍はモアブの地に攻め込み、手あたりしだいに破壊してしまいました。　２５町を廃墟とし、すべての良い畑に石を投げ、井戸をふさぎ、実のなる木を切り倒しました。　キル・ハレセテの要害が最後まで残っていましたが、そこもついに、イスラエル軍の手に落ちたのです。
２６　モアブの王は勝ち目がないとわかると、七百人の抜刀隊を率い、エドムの王のところへ突入しようとしましたが、それも失敗に終わりました。　２７そこで、世継ぎの長男を城壁の上で殺し、完全に焼き尽くすいけにえとしてささげたのです。　これを見たイスラエル人は、ぞっとして気分が悪くなり、国へ引き揚げて行きました。
四
１　ある日、預言者学校の生徒の妻がエリシャを訪ね、夫の死を告げました。　「主人は神様を愛していました。　ところが、亡くなる時、少しばかり借金があったのです。　今、貸し主が返済を求め、もし返せなければ、二人の子供を奴隷にすると言うのです。」
２　「はて、どうしてあげたらいいのかな。　家には、どんな物があるかね。」
「油のつぼが一つあるだけで、ほかには何も。」
３　「では、隣近所から、空のかめや鉢をたくさん借りて来なさい。　４鍵をしっかりかけ、子供たちと家に閉じこもり、つぼのオリーブ油を、かめや鉢にどんどんつぎなさい。」
５　女は言われたとおり、子供たちが借りて来たかめや鉢を油でいっぱいにしました。６まもなく、どの入れ物も口まであふれるほど、いっぱいになりました。
「もっと、もっと、かめを持っておいで」と言うと、
「もうないよ」という返事です。そのとたんに元のつぼから油が流れ出なくなりました。
７　女からいきさつを聞くと、預言者は言いました。　「さあ、その油を売って、借金を

返しなさい。　その余りで、子供たちと十分くらしていけるはずだ。」
８　ある日、エリシャがシュネムの町へ行くと、裕福な婦人が食事に招きました。　その後も、そこを通るたびに、彼は立ち寄って食事をするようになったのです。
９　婦人は夫にこう話しました。　「お通りになるたびに立ち寄られるあの方は、きっと神の預言者に違いございませんわ。　１０あの方のために、屋上に小さなお部屋を造って差し上げとうございます。　中には、ベッド、机、いす、それに燭台を置きますの。　そうすれば、おいでになるたびに、そこでゆっくりお休みになれますわ。」
１１１２ある日、エリシャはその部屋で休んでいましたが、しもべのゲハジを呼び、「奥様に、ちょっとお話ししたいことがあると伝えてくれ」と頼みました。
彼女が来ると、　１３エリシャはゲハジに言いました。　「まず、いつも親切にしてくださることのお礼を言ってくれ。　それから、何かして差し上げられることがないか、聞いてほしい。　王様か、将軍にでも、評判を伝えてもらいたいと思っているかもしれんしな。」
ところが、彼女は答えました。　「まあ、とんでもございません。　私は今のままで満足しておりますわ。」
１４　「何かしてやれることはないのかの」と、あとでエリシャがゲハジに尋ねました。
「あの女には子供がありません。　それに、ご主人もかなりの年ですし……。」
１５１６「もう一度、奥さんを呼んでくれ。」
彼女が来ると、エリシャは、入口に立っている彼女に言いました。「来年の今ごろ、あなたに男の子が生まれます。」
「ご、ごじょうだんでしょう。　預言者ともあろうお方が、私をおからかいになるのですか。」　彼女は思わず叫びました。
１７　ところが、それはほんとうのことでした。　婦人はやがてみごもり、エリシャが言ったとおり、翌年の同じころに男の子を産んだのです。
１８　その子が大きくなったある日、小作人といっしょに働いている父親に、会いに出かけました。　１９その時、子供はしきりに頭痛を訴え、苦しみ始めたのです。　父親は下男に、「抱いて母親のところへ連れて行け」と言いつけました。
２０　その子は家へ連れ戻され、母親のひざに抱かれていましたが、昼ごろに息を引き取りました。　２１彼女は子供をかかえて預言者のベッドに運び、戸を閉めました。　２２それから、夫に使いをやって、「どうぞ、下男にろば一頭をつけて寄こしてください。　急いで、あの預言者様のところへ行って来ます。」
２３　「どうしてまた、きょうなどと？　特別な祝日でもないのに。」
「でも、どうしても行きたいのです。」
２４　彼女はろばに鞍を置くと、下男にこう言いつけました。　「うんと急いでおくれ。私の指示のないかぎり、手綱はゆるめなくていいのよ。」
２５　カルメル山に近づいて来る彼女を、エリシャは遠くから見つけ、ゲハジに言いました。　「見なさい。　あのシュネムのご婦人が来る。　２６さあ、走って行って出迎え、

何があったのか聞いてみるのだ。　ご主人やお子さんはお元気かどうかもな。」
彼女はゲハジに、「ありがとうございます。　別に変わりはございません」とだけ答えました。
２７　ところが、山の上にいるエリシャのそばまで来ると、彼女はひれ伏し、彼の足にすがりつきました。　ゲハジが払いのけようとすると、預言者は言いました。　「そのままにさせておきなさい。　何か大きな悩みがあるに違いない。　それが何であるか、神様はまだお告げになっていないのだ。」
２８　「私に子供が生まれると言われたのは、あなた様です。　その時、おからかいにならないでください、と申し上げたはずです。」
２９　これを聞いたエリシャは、ゲハジに命じました。　「大急ぎで、わしの杖を持って行って、あの子の顔の上に置くのだ。　途中、だれに会っても話をするな。　急げ！」
３０　その子の母親が、「神様にかけて申します。　あなた様とごいっしょでなければ、家へ帰りません」と言うので、エリシャは彼女といっしょに出かけました。
３１　ゲハジは先に行って、杖を子供の顔の上に置きましたが、何の変化も起こりません。そこで引き返して、エリシャに、「あの子は死んだままです」と報告しました。
３２　エリシャが着いてみると、なるほど子供は死んでいて、ベッドに寝かされています。
３３彼は中に入り、戸を閉めて、神様に祈りました。　３４それから小さいなきがらの上に体をかぶせ、自分の口を子供の口に、自分の目を子供の目に、自分の両手を子供の両手に重ねました。　すると、子供の体がだんだん温かくなってきました。　３５ここで、いったん降り、部屋の中を、何回か行ったり来たりして、またベッドに戻り、子供の上に体をかぶせました。　すると、子供は七回くしゃみをして、目をぱっちりと開いたのです。
３６　預言者はゲハジを呼んで、「奥さんを呼んで来なさい」と命じました。　彼女が入って行くと、エリシャは、「ほら、お子さんですよ」と声をかけるではありませんか。
３７　彼女はエリシャの足もとにひれ伏しました。　それから子供を抱き上げると、外へ出て行きました。
３８　エリシャがギルガルに戻ってみると、ききんが起こっていました。　ある日、若い預言者たちを教えている時、ゲハジを呼んで、「この人たちのために食事の用意をしなさい」と命じました。
３９　若者の一人が野菜を取りに野へ行き、野生のうりを前掛けにいっぱい入れて帰って来ました。　彼は、毒があるとも知らず、それを輪切りにして、かまに入れたのです。　４０ところが、みんなが一口食べてみて、「先生、たいへんです！　この煮物には毒が入っています！」と大騒ぎになりました。
４１　エリシャは少しもあわてません。　「麦粉を少し持って来なさい」とだけ言いました。　そして麦粉をかまに投げ入れ、「これで大丈夫だ。　さあ、どんどん食べなさい」と言いました。　煮物の毒はすっかり消えていたのです。
４２　ある日、バアル・シャリシャ出身の人が、エリシャのところに、新穀を一袋と、初

穂で焼いた大麦のパン二十個を持って来ました。エリシャはゲハジに、これを若い預言者たちに食べさせるよう指示しました。
４３　ゲハジは、「これっぽちのものを、百人もの人に食べさせるのですか」とあきれ顔でした。
しかし、エリシャは言いました。　「さあ、黙って食べさせるのだ。　『みんなに十分なだけある。　食べ残す者も出るくらいだ』と、神様は言われるのだから。」
４４　はたして、神様が言われたとおりだったのです。
五
１　シリヤの王は、軍の最高司令官ナアマンを非常に重んじていました。　ナアマンが軍隊を率いて、何度も輝かしい勝利を収めたからです。　彼は押しも押されもしない偉大な英雄でしたが、なんと、らい病にかかっていたのです！　２さて、シリヤ軍がイスラエルに侵入した時、捕虜の中に若い娘がいて、ナアマンの妻の小間使いになっていました。
３　ある日、その少女が女主人に申しました。　「だんな様は、サマリヤにいる預言者のところへ行かれたらよろしいのに。　きっと、その方がらい病を治してくださいますわ。」
４　ナアマンは、少女のことばを王に話しました。
５　王は、「その預言者のところへ行くがよい。　イスラエルの王にあてて、紹介状を書こう」と言いました。
そこでナアマンは、贈り物として、千八百万円相当の金と六百万円相当の銀、それに衣服五着を持って、イスラエルへ出発したのです。　６イスラエルの王への手紙には、こう書いてありました。　「この書状をあなたに手渡す男は、私の家来ナアマンです。　ぜひとも、ナアマンのらい病を治してください。」
７　イスラエルの王は手紙を読むと、服を裂いて、こう言いました。　「シリヤの王め、らい病人をよこして、病気を治してくれと無理難題を吹きかけてきおった。　わしは殺したり、生かしたりできる神であろうか。　これは、イスラエル侵略の口実を見つける罠に違いない。」
８　預言者エリシャは、イスラエルの王が苦境に立たされていることを知り、人をやって、次のように言わせました。　「なぜ、そんなに取り乱しているのですか。　ナアマンをお寄こしください。　イスラエルには神の預言者がいることを教えてやりましょう。」
９　ナアマンは馬と戦車を従えて、エリシャの家の玄関に立ちました。　１０エリシャは使いをとおして、次のように言いました。　「ヨルダン川へ行って、体を七回洗いなさい。そうすれば、らい病は完全に治り、跡形もなくなります。」　１１これを聞いたナアマンは、ひどく腹を立て、不きげんそうに引き返しました。
「何てことだ！　預言者がじきじきに出て来てあいさつし、患部に手をあて、彼の神の名を呼んで、らい病を治してくれると思っていたのに。　１２川で洗えだと？　それなら、ダマスコのアマナ川やパルパル川のほうが、よっぽどきれいじゃないか。　どうしても川でなきゃというんなら、故郷の川でやったほうがまだましだ。」　彼はぷりぷり怒って帰っ

て行きました。
１３　ところが、部下がこう説き伏せたのです。　「あの預言者に、何か難しいことをせよと言われても、そうなさるおつもりだったのでしょう。　それなら、体を洗って、きよくなれと言われただけのことですから、そのとおりになさったらいかがですか。」
１４　それももっともです。　ナアマンはヨルダン川へ下って行き、言われたとおり、七回、水につかりました。　すると、どうでしょう。皮膚は幼子のようにつやつやし、すっかり治ったではありませんか！　１５一行は預言者のところへ引き返し、うやうやしく彼の前に立ちました。　ナアマンは感謝でいっぱいです。「今こそ、イスラエルのほかに、世界のどこにも、神様がおられないことがわかりました。　どうぞ、この贈り物をお受けください。」
１６　「私の神様にかけて、そんな物をいただくわけにはまいりません。」
ナアマンはしきりに勧めたのですが、エリシャはどうしても受け取りません。　１７しかたなく、ナアマンは言いました。　「では、これだけはお聞き届け願えないでしょうか。どうぞ、二頭のらばに載せられるだけの土を分けてください。国へ持ち帰りたいのです。これからはもう、イスラエルの神様のほかには、どの神にもいけにえをささげたくありません。　１８ただし、一つだけ、お許しいただきたいことがあります。　私の主君が、リモンの神殿に参拝する時、私の腕に寄りかかります。　その時、私もいっしょに体をかがめますが、そのことを神様がお許しくださいますように。」
１９　「よろしい。　安心してお帰りなされ」というエリシャの返事を聞いて、ナアマンは帰って行きました。
２０　ところが、エリシャのしもべゲハジは、ひそかに考えたのです。　「だんな様のお人好しにも困ったものだ。　贈り物を一つも受け取らずに、あの方を帰してしまうんだから。　よーし、あの方のあとを追いかけ、何かいただいて来よう。」
２１　ゲハジはナアマンのあとを追いました。　ナアマンはゲハジが走って来るのを見ると、戦車から飛び降り、走り寄って迎えました。
「何かあったのですか。」
２２　「はい。　主人がお伝えしたいことがあると、私を使いに出したのでございます。たった今、若い預言者が二人、エフライムの山地から来まして、彼らに何かみやげをと思ったものですから。　よろしければ、六十万円分の銀と衣服二着を分けていただけませんか。」
２３　「よろしいですとも。なんなら、いっそ百二十万円分の銀をお持ちください。」　ナアマンは強く勧め、高価な衣服二着と銀貨二袋を二人の家来に持たせ、ゲハジといっしょに行かせました。　２４エリシャの家のある丘まで来ると、ゲハジは衣服と銀貨の袋を受け取り、二人を帰しました。　受け取ったものを隠しておこうというのです。　２５　何くわぬ顔で主人の前に出たゲハジに、エリシャは尋ねました。　「ゲハジ、どこへ行っていた。」

「別に、どこへもまいりませんが。」
２６　「ナアマンが戦車から降りて、おまえを迎えるのを、わしは心の目で見ていたのだ。今は、金や衣服、オリーブ畑やぶどう畑、羊や牛、下男や下女を受け取る時だろうか。　２７そんなことをしたからには、ナアマンのらい病は、いつまでも、おまえとおまえの子孫に降りかかるぞ。」
ゲハジはたちまちらい病にかかり、肌が雪のように白くなって、エリシャの部屋から出て行きました。
六
１２ある日、預言者学校の生徒たちが、エリシャのところへ来て言いました。　「校長先生、ご覧のように、寄宿舎が手狭になりました。　ヨルダン川のそばには、材木がたくさんありますから、そこに新しい寄宿舎を建ててはいかがでしょう。」
「よかろう。　そうしなさい。」
３　「どうか、先生もいっしょに行ってください。」
「わかった。　行こう。」
４　こうして、一行はヨルダン川に着き、木を切り倒しにかかりました。　５ところが運悪く、一人が斧の頭を川に落としてしまったのです。
「先生、たいへんです。　あの斧は借り物なんです！」
６　「どこへ落とした。」　彼がその場所を教えると、エリシャは一本の枝を切り、そこへ投げ込みました。　すると、斧の頭が水面に浮かび上がったのです。　７「さあ、つかめ！」と言われて、彼は手を伸ばしてつかみ上げました。
８　シリヤの王がイスラエルと戦っていた時のことです。　王は家来たちに、「これこれの所に兵力を集めよう」と言いました。
９　すると、すぐさまエリシャはイスラエルの王に、「あの場所へは近寄りませんように。シリヤ軍が集結しようとしています」と警告しました。
１０　イスラエルの王は、エリシャの言うことがほんとうかどうか確かめようと、斥候を出しました。　はたして、そのとおりです。　こうして、エリシャはイスラエルを救いました。　こんなことが何回もあったのです。
１１　シリヤの王は首をかしげ、家来たちを呼んで、きびしく追及しました。　「この中に裏切り者がいる。　こちらの作戦を敵に通報している者がいるはずじゃ。」
１２　「陛下、私どもではございません。　預言者エリシャが、陛下が寝室でこっそりおっしゃることまで、イスラエルの王に告げているのでございます。」
１３　「そうか、では、そいつの居場所を突き止め、捕まえろ。」
やがて、「エリシャがドタンにいる」という知らせが届きました。
１４　そこで、ある夜、シリヤの王は戦車と馬で武装した大軍を差し向け、ドタンを包囲しました。　１５翌朝はやく、預言者のしもべが起きて、外に出てみると、どうでしょう。馬と戦車で固めた大軍が、ぐるりと取り巻いているではありませんか。

思わず、大声で叫びました。　「ああ、だんな様ーっ。　ど、どうしたらよいでしょうか。」
１６　「恐れるな。　わしらの軍隊は彼らよりも多く、強いのだ。」
１７　こう言って、エリシャは祈りました。　「神様、どうか、彼の目を開いて、見えるようにしてください。」　すると、神様が若者の目を開いてくださったので、火の馬と火の戦車が山の上に目白押しに並んでいるのが見えました。
１８　シリヤ軍が攻め寄せて来た時、エリシャは、「神様、どうぞ、彼らを盲にしてください」と祈りました。　そのとおり、シリヤ軍の兵士たちは盲になったのです。
１９　エリシャは出て行って、彼らに言いました。　「道をまちがえているぞ！　攻撃する町はここじゃない！　わしについて来い。　おまえたちが捜している人のところへ、連れて行ってやろう。」　こうして、彼らをサマリヤへ連れて行きました。
２０　サマリヤに着くと、「神様、彼らの目を開いて、見えるようにしてください」と祈りました。　目が見えるようになった時の、彼らの驚きようといったらありません。　事もあろうに、イスラエルの首都サマリヤにいるのですから。　みな目を丸くしました。
２１　イスラエルの王は敵の兵士を見て、エリシャに尋ねました。「彼らを殺してもいいのですか。」
２２　「捕虜を殺すなど、とんでもないことです。　パンと水を与え、国に帰しておやりなさい。」
２３　そこで王は、彼らのために盛大な宴をもうけてから、シリヤ王のもとへ送り返しました。　それからというもの、シリヤの略奪隊がイスラエルに侵入することは、ぴたりと止みました。
２４　ところが、のちに、シリヤのベン・ハダデ王は、全軍を召集してサマリヤを包囲しました。　２５そのため、サマリヤの町はひどい食糧難にみまわれたのです。　包囲が長く続いたので、ろばの頭一つが一万五千円、鳩の糞〇・五リットルが九百円で売られるほどになりました。
２６‐３０ある日、イスラエルの王が町の城壁の上を歩いていると、一人の女が、「陛下、お助けください！」と叫び求めました。
「神様がおまえを助けてくださらないのに、わしに何ができよう。　食べ物もぶどう酒もやれんぞ。　それにしても、いったいどうしたのか。」
「実は、この女が私に、『きょうはあなたの子供を食べ、あすは私の子供を食べましょう』と言ったのです。　それで、二人して私の子供を煮て食べました。　次の日、私が、『さあ、今度はあなたの子供の番よ』と言うと、この女は子供を隠してしまったのです。」
なんということでしょう。　王はあまりのひどい話に、服を引き裂きました。　それを見ていた人々は、王が下に荒布をまとっているのを知りました。
３１　王は誓って言いました。　「きょう、わしがエリシャの首をはねないなら、神様がわしの首をはねてくださるように。」
３２　王がエリシャを呼び出す使者を立てた時、エリシャは家の中に座って、イスラエル

の長老たちと話し合っていました。　ところが、使者が到着する前に、エリシャは長老たちにこう話しました。　「あの人殺しが、わしを殺そうと使者をよこした。　来ても、戸をしっかり閉め、中に入れてはならん。　本人がすぐあとからやって来るからだ。」
３３　話し終わらないうちに、使者が到着しました。　〔そのあとには王が続いていたのです。〕
王は声を荒立てて言いました。「神様はこんなひどいことをなさった。　もうこれ以上、神様の助けなど期待できん。」
七
１　エリシャは答えました。　「いや、神様はこうお言いじゃ。　あすの今ごろには、サマリヤの市場で、小麦粉十二リットルと大麦二十四リットルが、それぞれ三百円で売られるようになる、とな！」
２　これを聞いた王の侍従は、「たとい神様が天に窓をお作りになっても､そんなことが起こるはずはない！」と言いはりました。
エリシャも、負けずにやり返しました。　「あなたは自分の目でその有様を見る。　しかし、買って食べることはできない！」
３　そのころ、町の門の外に四人のらい病人が座って、こう話し合っていました。
「死ぬまで、ここにじっと座っていることはないな。　４ここにいても、飢え死にするだけだし、町に入っても同じことだ。　それなら、いっそ出て行って、シリヤ軍に降伏しよう。　助かりゃ、もうけものだし、殺されて、もともとだ。」
５　話がまとまり、夕方、そろってシリヤ軍の陣営に行きましたが、驚いたことに、そこにはだれもいません！　６そのわけは、こうでした。　神様がシリヤの全軍に、音を立てて近づいて来る戦車の響きと馬のいななき、それに攻め寄せる大軍の喊声を聞かせたのです。　すると、彼らは口々に、「イスラエルの王がヘテ人やエジプト人を雇って、攻めて来たに違いないぞ！」と叫び、　７あわてふためいて、その夜のうちに、テントも馬もろばも、何もかも置き去りにして、いのちからがら逃げ出したのです。
８　らい病人たちは陣営の端まで来ると、テントを次から次へと回って、食べたり、飲んだりしましたが、金や銀や衣服は持ち出して、隠しておきました。　９そうこうしているうち、「こんなことしてちゃいかんぞ。　このすばらしい知らせを、まだ、だれにも伝えていないじゃないか。　あすの朝まで黙っていようものなら、きっと恐ろしい罰を受けるだろう。　さあ、宮殿にいる人々に知らせよう」ということになりました。
１０　そこで、四人は町へ戻り、見張りの者に、シリヤ軍の陣営に行ってみると、人っ子ひとりおらず、また、馬やろばはつながれたままで、テントもそっくりそのままだと報告しました。　１１見張りは、大声で、この知らせを宮殿の中の人々に伝えました。
１２　王は起き上がると、家来たちに言いました。　「これは罠に違いない。　シリヤ軍は、われわれが飢えているのを知って、わざと陣営をからにし、野に隠れているのだ。　われわれをおびき出す作戦だ。　うっかり出て行ったら、たちまち生け捕りにされ、町も占

領されてしまうだろう。」
１３　家来の一人が答えました。　「では、偵察隊を出して、様子を探らせてみてはいかがでしょう。　残っている馬の中から、五頭だけ差し向けましょう。　こうなれば、何が起ころうが、たいした損失でもありますまい。　どうせここにいても、私たちと共に死ぬのですから。」
１４　戦車用の馬四頭が引き出され、敵陣偵察に、二人の戦車隊員が送り出されました。
１５彼らは大急ぎで、逃げたシリヤ軍のあとを追い、ヨルダン川まで行きましたが、道々に、衣服や武器がいっぱい捨ててあるだけです。　帰って、このことを王に報告しました。
１６そうとわかると、サマリヤの人々は、われ先にシリヤ軍の陣営に殺到し、略奪をほしいままにしました。　それで、神様のお告げのとおり、その日のうちに、小麦粉十二リットルと大麦二十四リットルが、三百円で売られるようになったのです。
１７　王は例の侍従を、門の出入りの監視にあたらせました。　ところが彼は、なだれのように殺到する人々に押し倒され、踏みつけられて、ついに死んでしまいました。　前日、王がエリシャを捕らえようと押しかけた時、エリシャが予告したとおりでした。　１８そのとき預言者は、「あすになったら、小麦粉と大麦が安く売られるようになる」と、王に断言したのです。
１９　ところがその侍従は、「たとい神様が天に窓をお作りになっても、そんなことは起こり得ない」と言いはりました。
そこで預言者は、「あなたは自分の目でそのようになるのを見るが、買って食べることはできない」と言ったのでした。
２０　そのとおり、彼は小麦粉や大麦を買うことができませんでした。　人々が門のところで彼を踏みつけ、殺してしまったからです。
八
１　エリシャは、前に子供を生き返らせてやったことのある婦人に言いました。　「ご家族を連れて、どこかに疎開しなさい。　神様がイスラエルに、七年ものききんを見舞わせるからです。」
２　婦人は家族を連れてペリシテ人の地に移り、七年間そこに住みました。　３ききんが終わると、イスラエルに戻り、自分の家と畑を返してくれるよう、王に願い出ました。　４彼女が王のところへ来た時、たまたま王は、エリシャのしもべゲハジと話している最中でした。王はゲハジに、「エリシャが行なったすばらしいことを、聞かせてくれ」と頼んだのです。　５ゲハジは、エリシャが子供を生き返らせた時のことを話していました。　ちょうどそこへ、その子供の母親が入って来たというわけです。
ゲハジは思わず叫びました。　「陛下！　今、その女がここにおります。　先生が生き返らせたのは、この子です！」
６　「しかと相違ないか」と尋ねられ、彼女が、「そのとおりでございます」と答えると、王は家来に命じました。　「この女が所有していた物を、ぜんぶ返してやるがよい。　留

守の間の収穫に見合うだけの作物もだ。」
７　そののち、エリシャはシリヤの首都ダマスコへ行きました。　時に、シリヤのベン・ハダデ王は病床に伏していましたが、だれかが、「あのイスラエルの預言者がまいりました」と告げたのです。
８　それを聞いた王は、ハザエルに言いつけました。　「その預言者に贈り物を持って行き、わしの病気が治るかどうか、神様に伺いを立ててもらってくれ。」
９　ハザエルは、贈り物として、土地の最上の産物をらくだ四十頭に載せて行き、エリシャに尋ねました。　「ベン・ハダデ王が、病気は治るかどうか、お伺いを立ててほしい、と申しております。」
１０　「『治る』と伝えなさい。　ただし、お告げでは、王はきっと死ぬと出ています。」
１１　そう言うと、エリシャは、ハザエルがきまり悪くなるほど、じっと顔を見つめて、急に泣きだしました。
１２　「先生、いったい、どうなさったのですか。」
「あなたが、イスラエル人に恐ろしいことをしようとしているのが、わかるのだ。　あなたは要塞を焼き払い、若い男を殺し、赤ん坊を岩に投げつけ、妊婦の胎を切り開くだろう。」
１３　「私が情け知らずの犬畜生だとでも？　そんな大それたことなど、できっこありませんよ。」
「いや、神様は、あなたがシリヤの王になると仰せじゃ。」
１４　ハザエルの帰りを待ちかねていた王は、せき込んで尋ねました。「エリシャは何と申した。」
「陛下は治る、と申しました。」
１５　ところが、翌日、ハザエルは水に浸した毛布を王の顔にかぶせて窒息死させ、自分が王に取って代わったのです。
１６　ユダのヨシャパテ王の子ヨラムが王位についたのは、イスラエルのアハブ王の子ヨラム王の即位後五年目のことです。　１７ヨラムは三十二歳で王となり、八年間エルサレムで治めました。１８王はアハブやほかのイスラエルの王のように、悪事を重ねました。アハブ王の娘と結婚していたからです。　１９それにもかかわらず、神様はしもべダビデに、子孫を守り導くと約束しておられたので、ユダを滅ぼすことはなさいませんでした。
２０　ヨラム王の治世に、エドム人はユダに背き、自分たちの王を立てました。　２１ヨラム王は反乱を鎮めようとしましたが、うまくいきませんでした。ヨルダン川を渡って、ツァイルの町を攻撃したものの、あっという間にエドムの軍勢に囲まれてしまったのです。夜陰に乗じて、どうにか敵の包囲は破りましたが、味方の軍勢は、王を見捨てて逃げてしまいました。　２２それ以後、エドムは独立国になったのです。　時を同じくして、リブナも反乱を企てました。
２３　ヨラム王のその他の業績は、『ユダ諸王の年代記』に記録されています。　２４２５王は死んで、ダビデの町、エルサレム旧市街にある王室墓地に葬られました。

ヨラム王の子アハズヤが新しい王となったのは、イスラエルのアハブ王の子ヨラム王の即位後十二年目のことです。　２６アハズヤは二十二歳で王になりましたが、エルサレムで王位についていたのは、わずか一年でした。　母親のアタルヤは、イスラエルのオムリ王の孫娘でした。　２７アハズヤはアハブ家の婿だったので、アハブ王の子孫と同じように悪い王でした。
２８　アハズヤ王は、イスラエルのヨラム王を助けてシリヤのハザエル王と戦うために、ラモテ・ギルアデに出陣しました。　ところが、その戦いでヨラム王は負傷し、　２９イズレエルへ治療に帰りました。その病床を、ユダのアハズヤ王が見舞ったのです。
九
１時に、エリシャは若い預言者を呼んで言いました。
「ラモテ・ギルアデに行くしたくをするのじゃ。　この油のびんも持ってな。　２向こうに着いたら、ニムシの子ヨシャパテの子エフーを捜せ。　捜しあてたら、呼び出して奥の部屋に案内し、　３彼の頭に油を注ぐのじゃ。　それから、『神様はあなたに油を注いでイスラエルの王とされる』と言って、すぐに逃げて来い。」
４　若い預言者は、言われたとおりラモテ・ギルアデへ行き、　５ほかの将校たちと会議中のエフーを見つけました。
「隊長、申し上げることがあります」と、彼は言いました。
「だれにだ」と、エフーが返事しました。
「あなたにです。」
６　エフーは席を立ち、家に入りました。　若者はエフーの頭に油を注いで、言いました。
「イスラエルの神様のお告げです。　『わたしはおまえに油を注いで、神の国民イスラエルの王とする。　７おまえはアハブ家の者を皆殺しにしなければならない。　こうして、イゼベルに殺された預言者や、国民のために復讐するのだ。　８アハブ家の者は、奴隷に至るまで、すべて殺される。　９わたしは、ネバテの子ヤロブアムの家や、アヒアの子バシャの家を滅ぼしたように、アハブの家をも滅ぼす。　１０犬がイズレエルで、アハブの妻イゼベルを食うが、だれも彼女を葬らない。』」
こう言い終わると、彼は一目散に逃げ帰りました。
１１　エフーが仲間のところへ戻ると、一人が尋ねました。　「あの気違い野郎は、何をしに来たんです。　何か変わったことでも？」
「皆さんは、あれがだれか、何を言ったか、よくわかっておいでだ。」
１２　「とんでもない。　わかりませんよ。　教えてください。」
そこでエフーは、あの男が言ったこと、また、神様が自分に油を注いで、イスラエルの王としてくださったことを話しました。
１３　すると、彼らはすばやく上着を脱いで階段の上に敷き、ラッパを鳴らして、「エフーは王様だ！」と大声で叫びました。
１４　こうして、ニムシの子ヨシャパテの子エフーは、ヨラム王に反旗を翻したのです。

ヨラム王はイスラエルの全軍を率いて、ラモテ・ギルアデで、シリヤのハザエル王の軍勢を防いでいました。　１５しかし、傷を負ったので、イズレエルに帰り、治療していたのです。
エフーは、いっしょにいる者たちに言いました。「私が王になることを願っているなら、このことはイズレエルに知らせに行くな。」
１６　それから、エフーは戦車に飛び乗り、病床にいるヨラム王を捜しに、イズレエルへ急行しました。　たまたまユダのアハズヤ王も、ヨラム王を見舞いに来ていました。　１７イズレエルのやぐらの上にいた見張りが、エフーの一隊が近づいて来るのを見て、「だれか来るぞ！」と叫びました。
王は、「騎兵一人を出して、敵か味方か、調べさせよ」と命じました。　１８そこで一人が、エフーを迎えに行きました。
「陛下が、あなたは敵か味方か、と言っておられます。　和平のために来られたのですか。」
「和平が何だ。　つべこべ言わず、ついて来い！」
見張りは王に、「使者は行ったまま戻りません」と報告しました。　１９王は第二の使者を出しました。　彼は馬に乗ってエフーのところへ行き、彼らが友好を意図しているかどうか尋ねました。
「友好が何だ。　つべこべ言わず、ついて来い！」
２０　見張りは大声を張り上げました。　「第二の使者も帰って来ません。　ところで、あれはエフーに違いありません。　気が狂ったように馬を走らせています。」
２１　王は、「急いで、戦車の用意をせよ」と命じました。
ヨラム王とユダのアハズヤ王は、戦車に乗ってエフーを迎えに出ました。　エフーに出会ったのは、ナボテの畑でした。　２２王は尋ねました。「エフー、友人として来たのか。」
「あなたの母イゼベルの悪が、私たちを取り巻いている限り、どうして友情などありえましょう。」
２３　王は戦車の馬を回れ右させて逃げ、大声でアハズヤ王に、「裏切りです！　反逆です！」と叫びました。
２４　エフーは力いっぱい弓を引き絞り、王の両肩の間にねらいをつけました。　矢はみごと心臓を射抜き、王は戦車の中にどっと倒れ、そのまま息が絶えました。
２５　エフーは侍従のビデカルに命じました。　「王の死体をナボテの畑に投げ捨てろ。いつかおまえと馬に乗って、彼の父アハブ王のお供をしていた時、神様からこうお告げがあったからだ。　２６『わたしは、ナボテとその子らを殺した罪に、このナボテの地所で報復する。』　だから、そのとおり、ナボテの畑に王の死体を投げ捨てるのだ。」
２７　その間に、ユダのアハズヤ王はベテ・ハガンの道へ逃げました。　エフーはアハズヤ王を追いかけ、「やつも討ち取れ」と命じました。
エフーの軍勢は、イブレアムに近いグルの坂道で、戦車に乗ったアハズヤ王に矢を射かけ、重傷を負わせました。　王はやっとの思いでメギドまで逃げのびはしたものの、そこでつ

いに事切れたのです。　２８家来たちは遺体を戦車でエルサレムに運び、王室墓地に葬りました。　２９アハズヤがユダの王となったのは、イスラエルのヨラム王の即位後十二年目のことです。
３０　イゼベルはエフーがイズレエルに来たと聞くと、目の縁を塗り、髪を結い直して、窓ぎわに座りました。　３１エフーが宮殿の門を入ると、彼女は大声で呼びかけました。
「あら、人殺しエフーじゃない！　ごきげんいかが。　主君殺しのジムリの子！」
３２　彼がイゼベルを見上げながら、「だれか私に味方する者はおらんか」と叫ぶと、二、三人の宦官が顔を出しました。
３３　「そのあばずれを突き落とせ！」
エフーの命令で、宦官たちはイゼベルを窓から突き落としました。　回りの壁や馬は、その返り血をあびて真っ赤です。　その上、死体は無残にも、馬のひづめにかけられました。
３４　エフーは宮殿に入って食事をしてから、「あの、のろわれた女を葬ってやれ。　何といっても、王の娘だからな」と言いました。
３５　人々が遺体を葬ろうと出て行くと、すでに頭蓋骨と両手両足しか残っていませんでした。
３６３７戻った者たちの報告に、エフーはこう言いました。　「まさに、お告げのとおりだ。　神様は預言者エリヤにお語りになった。　『犬がイゼベルの肉を食い、その死体は肥やしのようにまき散らされ、だれにも、見分けがつかなくなる。』」
一〇
１　それから、エフーはサマリヤの町の役人と、そこに住んでいるアハブ王の七十人の子供の養育係りに、手紙を書きました。
２３「この手紙を読んだら、いちばん優秀な子を王に立て、アハブ王家のために戦う準備をするがいい。　戦車も馬も、城壁のある町も武器も十分ある。」
４　しかし彼らには、そんなことをする勇気などありませんでした。「二人の王でさえ、この人に立ち向かえなかった。　私たちにできるはずがない」と、しりごみするばかりです。
５　そこで宮内長官と町の最高責任者は、役人や養育係りと相談して、エフーに使者を立て、次のように答えました。
「エフー様、私どもはあなた様のしもべですから、ご命令どおり何でもいたします。　アハブのお子ではなく、あなた様を私たちの王と仰ぎ、忠誠を尽くします。」
６　エフーはさっそく返書を送りました。　「もし私の味方となり、私に忠誠を尽くすつもりなら、主君の子供らの首を、あすの今ごろ、イズレエルの私のもとへ持って来るように。」
アハブ王の子供七十人は、サマリヤの町の重だった人たちの家に住み、幼いころから、この町で育てられていたのです。　７手紙が届くと、子供たちはみな殺され、首は幾つかのかごに入れられて、イズレエルにいるエフーのもとへ送り届けられました。　８使者がエ

フーに、王の子供の首が届けられたと伝えると、エフーは、首を二山に分けて門の入口に積み重ね、翌朝まで置いておけと命じました。
９１０朝になると､エフーは出て行って､その回りに集まっていた人々に言いました。「皆さんには落度はありません。　私が主君に陰謀を企て、主君を殺したのです。　しかし、この子供たちを殺したのは、私ではなく、神様です。　神様がお語りになることは、きっとそのとおりになります。　アハブ王の子孫はこうなると、神様はそのしもベエリヤによって、はっきり告げておられたのです。」
１１　エフーは、イズレエルに残っていたアハブ王の家族を、重立った家来、親友、おかかえの祭司と同じく、みな殺しました。　とにかく王と親しい関係にあった者で生き残った者は、一人もありません。１２このあと、エフーはサマリヤに向かいましたが、途中で、羊飼いの宿舎に一泊しました。　１３その時、ユダのアハズヤ王の身内の者に出会いました。
「どなたですか」と尋ねると、
「アハズヤの身内の者です。　王のお子と、王母イゼベル様のお子に会いに、サマリヤへ行くところです」という返事です。
１４　「連中を捕まえろ」と、エフーは家来に命じました。　そして、水ための連れて行って、四十二人全員を殺してしまいました。
１５　宿舎を出たエフーは、彼を迎えに来た、レカブの子ヨナダブに会いました。　互いにあいさつを交わしたあと、エフーが言いました。　「私があなたを裏切らないように、あなたも私を裏切りませんか。」
「もちろんです。」
「では、手を出して。」　エフーは彼の手をとって戦車に引き上げ、こう言いました。
１６　「さあ、いっしょに来て、私がどれほど神様のために熱心か、とくと見届けてください。」
ヨナダブはエフーと並んで戦車に乗りました。　１７サマリヤに着くと、エフーはアハブの親族や友人を、一人残らず虐殺しました。神様がエリヤによって予告なさったとおりのことが、起こったのです。
１８　それから、エフーはサマリヤの全住民を集めて、次のように指示しました。　「アハブでも、私ほど熱心なバアル信奉者ではなかった。　１９バアルの預言者と祭司を全員呼び集めよ。　バアルの礼拝者も残らずだ。　全員が集まったかどうか、しっかり見届けろ。　バアル信奉者こぞってバアルをほめたたえる､盛大な祭りを行なうことにする。　バアル信奉者でここに来ない者は、生かしてはおかない。」
ところが、これは彼らを皆殺しにしようとする計略だったのです。　２０２１エフーはイスラエル中に使者をやり、バアル信奉者を集めました。　バアルの神殿は、すみずみまで人でいっぱいになりました。　２２エフーは衣装係りに､「この者たちに祭服を着せてやれ」と命じました。

２３　エフーとレカブの子ヨナダブは、神殿に入ると、集まった人々にこう語りました。「ここにいるのはバアル信奉者だけかどうか、よく確かめろ。　イスラエルの神様を礼拝する者は、一人も入れてはならんぞ！」
２４　こうして、バアルの祭司が完全に焼き尽くすいけにえをささげている時、エフーは八十人の部下に神殿を取り巻かせ、こう言い渡しました。　「この中にいる者を一人でも逃がしたら、いのちはないぞ！」
２５　いけにえをささげ終わるのを待ちかねたように、エフーは外へ出て、「さあ、入って、一人残らず討ち取れ」と命じました。
彼らは中にいた者を残らず切り殺し、死体を外に引きずり出しました。　それから、神殿の奥に踏み込み、　２６礼拝用の柱を引き倒し、焼き捨てました。　２７また、神殿もこわし、公衆便所に造り変えました。　それは、今もそのままになっています。　２８このようにエフーは、イスラエルからバアルの痕跡を、完全に取り除きました。　２９ただし、ベテルとダンにある金の子牛像だけは、取り除きませんでした。　その子牛像こそ、全イスラエルを罪に陥れたもとでした。　ネバテの子ヤロブアムが犯した、最大の罪の産物だったのです。
３０　のちに、神様はエフーに約束なさいました。　「おまえは、アハブ王家を滅ぼせという、わたしの命令によく従った。　だから、曾孫の代まで、イスラエルの王としよう。」
３１　ところがエフーは、真心から神様に従おうとはしませんでした。　彼は、イスラエルに大きな罪を犯させる原因となった、ヤロブアムの金の子牛像を拝み続けていたのです。
３２３３そのころ、神様はイスラエルの領土を少しずつ削り取っておられました。　ハザエル王が、ガドとルベンの部族のものである、ヨルダン川東岸に広がる、ギルアデの全地域、さらに、アルノン渓谷にあるアロエルからギルアデとバシャンに及ぶ、マナセ部族の諸地域をも手中に収めたのです。
３４　エフーのその他の業績は、『イスラエル諸王の年代記』に記録されています。　３５エフーは死んでサマリヤに葬られ、息子エホアハズが、新しく王となりました。　３６エフーがサマリヤでイスラエルの王位についていたのは、合計二十八年間でした。
一一
１　ユダのアハズヤ王の母アタルヤは、息子が死ぬと、王の子供をぜんぶ殺してしまいました。　２３ただし、アハズヤの子で一歳のヨアシュだけは、叔母のエホシェバに助け出されて無事でした。　エホシェバはアハズヤの父ヨラム王の娘でした。　彼女は、殺される運命にある王子たちの中から、ヨアシュを連れ出し、乳母とともに神殿の物置に隠しました。　二人はそこで、六年間すごしたのです。　その間、アタルヤが女王として治めていました。
４　アタルヤ女王の即位後七年目に、祭司エホヤダは、宮殿の護衛隊長と女王の側近を神殿に呼び集め、秘密を守ると誓わせた上で王子を見せ、　５次のように指示しました。「安息日には、三分の一の者を宮殿の護衛にあたらせ、　６－８残る三分の二は、神殿の警備

にあたらせよ。　めいめい武器を持って、王の回りを囲むのだ。　囲みを破ろうとする者がいたら、容赦なく殺せ。　かた時も王のそばを離れるな。」
９　隊長たちは指示どおり、安息日の勤務をしない者と勤務につく者とを、エホヤダのところへ連れて来ました。　１０エホヤダは彼らを、神殿にあったダビデ王の槍や盾で武装させました。　１１すでに武器を手にしていた宮殿の衛兵たちは、神殿の正面に向かって立ち、ヨアシュの隠れ場所に近い、祭壇の回りを囲みました。
１２　それから、エホヤダは幼い王子を連れ出し、頭に王冠をかぶらせ、十戒の写しを渡し、油を注いで王としたのです。　一同は拍手かっさいして、「王様、ばんざーい！」と叫びました。
１３１４女王はこの騒ぎを聞くと、何事かと神殿へ急ぎました。　見ると、即位の時の習わしに従って、新しい王が柱のそばに立ち、回りを女王の側近やラッパ手たちが、取り囲んでいるではありませんか。　みんな大喜びで、ラッパを吹いているのです。
それを見た女王は、「謀反だ！　反逆だ！」と絶叫して、衣服を引き裂きました。
１５　エホヤダは護衛隊長に命じました。　「女を連れ出せ。　神殿の中で殺してはいかん。　この女につく者があれば、殺してかまわん。」
１６　彼らは女王を引きずり出して宮殿の馬屋へ連れて行き、そこで殺しました。
１７　エホヤダは、神様と、王、国民との間で、神様の国民となるという契約を結び、王と国民との間でも、契約を結びました。　１８人々はバアルの神殿を取りこわし、祭壇と像を砕き、祭壇の前でバアルの祭司マタンを血祭りにあげました。　エホヤダは神殿に警備を置きました。　１９それから、隊長、衛兵、人々とともに、王を神殿から連れ出し、衛兵詰め所から宮殿に入り、王座につけたのです。
２０　人々は喜びにあふれていました。　こうして、アタルヤ女王の死後、ようやくエルサレムの町は平穏を取り戻しました。　２１ヨアシュが王となったのは七歳の時です。
一二
１　ヨアシュがユダの王となったのは、エフーがイスラエルの王となってから七年後のことで、四十年間エルサレムで治めました。　母親は、ベエル・シェバ出身のツィブヤでした。　２ヨアシュ王は一生を通じて、正しいことを行ないました。　大祭司エホヤダが正しく教え導いたからです。　３それでも、丘の上にある礼拝所だけは取りこわさなかったので、国民はなお、そこでいけにえをささげたり、香をたいたりしていました。
４５ある日、ヨアシュ王はエホヤダに言いました。　「神殿を修理しなければならない。割り当てられた献金であっても、自由な特別献金であっても、神様にささげられたものはみな、修理代にあてるように。」
６　ところが、王の即位後二十三年たっても、神殿の修理は手つかずでした。　７そこで王は、エホヤダはじめ祭司たちを呼びつけました。　「なぜ、神殿の修理にかからないのか。　もうこれ以上、献金を祭司の生活費にあててはならん。　これからは、神殿の修復のためにだけ使うように。」

８　祭司たちは、彼らの生活費とは別途の、神殿修理のための基金を積み立てることに同意しました。　９祭司エホヤダは大きな箱のふたに穴をあけ、神殿入口の祭壇の右側に置きました。　門番が、人々の献金を全部その中に納めるのです。　１０箱がいっぱいになると、王の財務官と大祭司がお金を勘定し、袋に詰めました。　１１１２それは工事監督者に渡され、大工、石工、石切り工、材木商、石材商への支払いや、神殿修理に必要な他の資材購入費にあてられました。　１３１４銀杯、金の芯切りばさみ、鉢、ラッパなどを買う費用ではなく、全額が建物の修理だけにあてられたのです。　１５工事監督者は正直な人たちで、忠実に職務を果たしたので、決算報告を求める必要はありませんでした。　１６ところで、罪が赦されるためのいけにえや、罪を償ういけにえのためにささげられたお金は、祭司たちが自由に使えました。　それは箱には入れられませんでした。
１７　そのころ、シリヤのハザエル王はガテを攻めて占領し、余勢をかって、エルサレムへと攻め上りました。　１８ヨアシュ王は、ユダの歴代の王ヨシャパテ、ヨラム、アハズヤなどが神様のために特に選んでささげた物すべて、さらに王自身のささげ物を、神殿と宮殿の宝物倉にある金とともに、ハザエル王に送ったので、王は攻撃を中止しました。
１９　ヨアシュ王のその他の業績は、『ユダ諸王の年代記』に記録されています。　２０ところで、王は謀反を起こした家来に、シラへ下る途中、ミロの王宮で暗殺されたのです。２１暗殺者は王に信頼されていた側近で、シムアテの子ヨザバデと、ショメルの子エホザバデです。　ヨアシュ王はエルサレムの王室墓地に葬られ、息子アマツヤが王位につきました。
一三
１　エフーの子エホアハズが、十七年にわたるイスラエル統治を始めたのは、ユダのヨアシュ王の即位後二十三年目のことです。　２エホアハズは悪い王で、イスラエルを罪に誘い込んだ、ヤロブアムの悪にならいました。　３神様はそんなイスラエルを激しく怒り、シリヤのハザエル王とその子ベン・ハダデが、イスラエルを征服するがままにまかせておかれました。　４ところが、エホアハズ王が助けを祈り求めると、神様はその願いを聞き入れてくださったのです。　シリヤの王がイスラエルをひどく苦しめるのを、見ておられたからです。　５神様はイスラエルに指導者を起こし、シリヤ軍の圧制から救い出してくださいました。　それで人々は、以前のように平和に過ごせるようになりました。　６ところが、それでもなお、人々は罪を犯し続け、ヤロブアムの悪から離れようとしませんでした。　相も変わらず、サマリヤにあったアシェラの女神像を礼拝していたのです。　７ついに神様は、エホアハズ王の軍隊を、騎兵五十、戦車十台、歩兵一万の貧弱な集団にしてしまわれました。　その他の兵力は、シリヤの王によって、足下のちりのように踏みにじられてしまったのです。
８　エホアハズ王のその他の業績は、『イスラエル諸王の年代記』に記録されています。
９１０エホアハズ王は死んで、サマリヤに葬られ、息子ヨアシュが、十六年間サマリヤで王位につきました。　彼が王となったのは、ユダのヨアシュ王の即位後三十七年目のこと

です。　１１ところが、彼は悪人で、ヤロブアムのように、国民を偶像礼拝に誘い込み、罪を犯させました。　１２ヨアシュ王のその他の業績は、ユダのアマツヤ王と戦ったことも含めて、『イスラエル諸王の年代記』に記録されています。１３ヨアシュ王は死んで、歴代のイスラエルの王とともにサマリヤに葬られ、ヤロブアム二世が新しく王となりました。
１４　ところで、エリシャが再起不能の病気になった時、ヨアシュ王は病床を訪れ、泣き伏してしまいました。
「わが父、わが父。　あなたはイスラエルの力です！」
１５　エリシャが、「弓と矢を取り、　１６１７東の窓を開けなさい」と言いました。
さらに、弓に手をかけるように言い、自分の手を王の手に重ねました。
「矢を射なさい。」　王は言われるとおりにしました。
すると、エリシャは言いました。　「これは神様の矢、シリヤに勝つ矢だ。　あなたはアフェクで、シリヤ軍をみごとに破るだろう。　１８さあ、別の矢を取り、それで床を打ちなさい。」
王は矢を取って三度床を打ちました。　１９ところが、預言者は怒ったのです。　「三度だけでなく、五度も六度も打つべきだった。そうすれば、シリヤを徹底的に滅ぼせたのに。これでは、三度しか勝つことはできない。」
２０２１こうしてエリシャは死に、葬られました。
そのころ、毎年春になると、モアブの略奪隊がこの国に侵入して来ました。　ある時、友人を葬ろうとしていた人々が略奪隊を見つけ、あわてて死体をエリシャの墓に投げ入れました。　すると、どうでしょう。　死体がエリシャの骨に触れたとたん、死人は生き返り、すっくと立ち上がったではありませんか！
２２　シリヤのハザエル王は、エホアハズ王が治めている間中、イスラエルを圧迫しました。　２３それでも、神様がイスラエル国民を思いやってくださったので、根絶やしになるようなことはありませんでした。　それというのも、アブラハム、イサク、ヤコブとの契約を、神様がお忘れにならなかったからです。　この契約は、今も変わっていません。
２４シリヤのハザエル王は死に、息子ベン・ハダデが王になりました。　２５エホアハズの子でイスラエルの王ヨアシュは、三度の勝利によって、父が失った町々をベン・ハダデ王から取り返しました。
一四
１　イスラエルのヨアシュ王の即位後二年目に、アマツヤがユダの王となりました。　２時にアマツヤは二十五歳で、二十九年間エルサレムで治めました。　母親はエホアダンといい、エルサレム出身でした。　３彼は先祖ダビデほどではありませんでしたが、神様の目にかなった良い王で、父ヨアシュのように振る舞いました。　４それでも、丘の上の礼拝所だけは取り除かなかったので、国民は相変わらず、そこでいけにえをささげたり、香をたいたりしていました。
５　王国をしっかり掌握すると、王は父を暗殺した者たちを殺しました。　６しかし、そ

の子供たちまでは殺しませんでした。　神様がモーセの法律で、こう命じておられたからです。　「父親が子供のために殺されてはならないし、子供が父親の罪によって殺されてもならない。　だれでも、自分の罪を償わなければならない。」　７ある時、王は塩の谷で、一万ものエドム人を殺しました。　また、セラを占領して、ヨクテエルと名を変えました。今でも、そう呼ばれています。
８　ある日、アマツヤ王は、エホアハズの子でエフーの孫にあたる、イスラエルのヨアシュ王に使者を送り、戦いをしかけました。
９　ところが、ヨアシュ王は相手にしませんでした。　「レバノンのあざみがレバノンの大きな杉の木に、『娘さんを息子の嫁にくれないか』と言っていると、通りかかった野獣があざみを踏みつけてしまったそうだ。　１０どうも、エドムを撃破したことで、鼻を高くしておられるようですな。　だが、悪いことは言わんから、得意になるのはそれくらいにして、家に引っ込んでいなさい。　わざわざ事をかまえて、わが身とユダに災いをもたらすこともないでしょう。」
１１　ところが、アマツヤ王はこれを無視したのです。　そこで、イスラエルのヨアシュ王も軍隊を召集しました。　いよいよユダの町ベテ・シェメシュで、戦いの火ぶたが切られると、　１２ユダ軍はさんざんな負けいくさです。　ほうほうのていで逃げ帰るしかありません。　１３アマツヤ王は捕らえられ、イスラエル軍がエルサレムに進軍しました。そして、城壁をエフライムの門から隅の門まで、約二百メートルにわたってこわしました。１４ヨアシュ王は、多くの人質をはじめ、神殿や宮殿の宝物倉にある金、銀、金の杯などをごっそりサマリヤへ持ち帰りました。
１５　ヨアシュ王のその他の業績や、ユダのアマツヤ王と戦ったことは、『イスラエル諸王の年代記』に記録されています。　１６ヨアシュ王は死んで、歴代のイスラエルの王とともにサマリヤに葬られ、息子ヤロブアムが王位につきました。
１７　アマツヤ王はヨアシュ王の死後、なお十五年生き長らえました。　１８アマツヤ王のその他の業績は、『ユダ諸王の年代記』に記録されています。　１９エルサレムで謀反が起こった時、王はラキシュへ逃げました。　しかし、王のいのちをつけねらう者たちは、暗殺者を送り込んで王を殺しました。　２０遺体は馬でエルサレムに運ばれ、ダビデの町の王室墓地に葬られました。
２１　アマツヤの子アザルヤ〔ウジヤ〕が、十六歳で新しい王となりました。　２２父の死後、アザルヤ王はエラテを再建し、再びユダの領地としました。
２３　一方、イスラエルでは、ユダのアマツヤ王の即位後十五年目に、ヤロブアム二世が王となりました。　ヤロブアムの治世は四十一年間でした。　２４彼は、イスラエルを偶像礼拝の罪に誘い込んだ、ネバテの子ヤロブアム一世と同じくらい悪い王でした。　２５ヤロブアム二世は、レボ・ハマテと死海の間の領土を取り戻しました。　神様が、アミタイの子でガテ・ヘフェル出身の預言者ヨナをとおして、前もって語っておられたとおりでした。　２６そうなったのは、神様がイスラエルの苦境をご覧になり、しかも、イスラエ

ルを助ける者が一人もいなかったからです。　２７神様はイスラエルを抹殺するとはおっしゃいませんでした。　そんなわけで、ヤロブアム二世に力を貸して、イスラエルをお救いになったのです。
２８　ヤロブアム二世の強大な勢力、戦功、ユダに占領されていたダマスコとハマテを取り戻したことなどは、『イスラエル諸王の年代記』に記録されています。　２９ヤロブアム二世は死んで、イスラエルの歴代の王とともに葬られ、息子ゼカリヤが新しい王となりました。
一五
１２ユダの新しい王アザルヤ
父はアマツヤ王
母はエルサレムの出身のエコルヤ
エルサレムでの在位期間は五十二年
十六歳で即位
当時のイスラエルの王はヤロブアム二世。　アザルヤの即位は、
その即位後二十七年目にあたる
３　アザルヤは良い王で、父アマツヤのように、神様に喜ばれることを行ないました。　４ところが、先王にならって、丘の上の礼拝所は取り除きませんでした。　それで国民は、そこでいけにえをささげたり、香をたいたりしたのです。　５このため神様は、王をらい病になさいました。　王は死ぬまでらい病に苦しみ、隔離された家に住まなければなりませんでした。　その間、息子ヨタムが摂政を務めました。　６アザルヤ王のその他の業績は、『ユダ諸王の年代記』に記録されています。　７王は死んで、先祖とともにダビデの町に葬られ、息子ヨタムが王となりました。
８　イスラエルの新しい王ゼカリヤ
父はヤロブアム
在位期間は六か月
当時のユダの王はアザルヤ。　ゼカリヤの即位は、その即位後
三十八年目にあたる
９　ゼカリヤは先祖のように、神様の目から見て悪い王でした。　ネバテの子ヤロブアム一世のように、国民に偶像礼拝の罪をたきつけました。　１０そこでヤベシュの子シャルムが謀反を企て、イブレアムで王を暗殺し、代わって王となりました。　１１ゼカリヤ王のその他の業績は、『イスラエル諸王の年代記』に記録されています。　１２こうして、神様がエフーに予告なさったとおり、エフーの子と孫と曾孫とが、イスラエルの王となったのです。
１３　イスラエルの新しい王シャルム
父はヤベシュ
在位期間は一か月

当時のユダの王はウジヤ。　シャルムの即位は、その即位後
三十九年目にあたる
１４　シャルムが王となって一か月後、ガディの子メナヘムが、ティルツァからサマリヤに上って王を暗殺し、王位を奪いました。　１５シャルム王のその他の業績と、彼が企てた謀反のことは、『イスラエル諸王の年代記』に記録されています。
１６　メナヘム王は、タプアハの町と周辺の村々を滅ぼしました。　そこの住民が、彼を王に迎えることを喜ばなかったからです。　王は全住民を殺害し、妊婦は切り裂いてしまいました。
１７　イスラエルの新しい王メナヘム
サマリヤでの在位期間は十年
当時のユダの王はアザルヤ。　メナヘムの即位は、その即位後
三十九年目にあたる
１８　メナヘムは悪い王で、ヤロブアム一世のように偶像を礼拝し、国民を恐ろしい罪に誘い込みました。　１９２０折りしも、アッシリヤのプル王がこの地を侵略しました。　ところが、メナヘム王が六億円のお金を与えたので、プル王は引き返しました。　王は資金調達のため、資産家全員から六十万円ずつ、特別税を強制的に取り立てました。　２１メナヘム王のその他の業績は、『イスラエル諸王の年代記』に記録されています。　２２王は死んで、息子ペカフヤが新しく王となりました。
２３　イスラエルの新しい王ペカフヤ
父はメナヘム
サマリヤでの在位期間は二年
ユダのアザルヤ王の即位後五十年目に即位
２４　ところで、ペカフヤは悪い王で、イスラエルに悪の根を植えつけた、ネバテの子ヤロブアム一世が持ち込んだ偶像礼拝を続けました。
２５　イスラエル軍の最高司令官であった、レマルヤの子ペカが、ギルアデ出身の五十人を誘って謀反を起こし、サマリヤの宮殿で王を暗殺しました。　その時の反乱で、アルゴブとアルエも巻き添えを食いました。　こうして、ペカが新しく王となりました。　２６ペカフヤ王のその他の業績は、『イスラエル諸王の年代記』に記録されています。
２７　イスラエルの新しい王ペカ
父はレマルヤ
サマリヤでの在位期間は二十年
ユダのアザルヤ王の即位後五十二年目に即位
２８　ペカも悪い王で、イスラエル国民を偶像礼拝の罪に誘い込んだ、ネバテの子ヤロブアム一世にならいました。　２９ペカが王位にある時、アッシリヤのティグラテ・ピレセル〔プル〕王が攻めて来て、イヨン、アベル・ベテ・マアカ、ヤノアハ、ケデシュ、ハツォル、ギルアデ、ガリラヤ、ナフタリの全土を占領し、住民を捕虜として連れ去りました。

３０その時、エラの子ホセアが謀反を企てたのです。　彼は王を暗殺して、自分が王座につきました。
イスラエルの新しい王ホセア
ウジヤの子、ユダの王ヨタムの即位後二十年目に即位
３１　ペカ王のその他の業績は、『イスラエル諸王の年代記』に記録されています。
３２３３ユダの新しい王ヨタム
父はウジヤ
二十五歳で即位
エルサレムでの在位期間は十六年
母はツァドクの娘エルシャ
当時のイスラエルの王はレマルヤの子ペカ。　ヨタムの即位は、
その即位後二年目にあたる
３４３５ヨタムはまずまずは良い王で、父ウジヤのように、神様の言いつけを守りました。しかし、丘の上の礼拝所は取り除かなかったので、人々はそこで、いけにえをささげたり、香をたいたりしていました。　彼の在位中に、神殿の上の門が造られました。　３６ヨタム王のその他の業績は、『ユダ諸王の年代記』に記録されています。　３７そのころ、神様はシリヤのレツィン王とイスラエルのペカ王に、ユダを攻めるよう仕向けました。　３８ヨタム王は死んで、ユダの歴代の王とともにエルサレムの旧市街、ダビデの町の王室墓地に葬られ、息子アハズが新しく王となりました。
一六
１　ユダの新しい王アハズ
父はヨタム
二十歳で即位
エルサレムでの在位期間は十六年
悪政を敷く
当時のイスラエルの王はレマルヤの子ペカ。　アハズの即位は、
その即位後十七年目にあたる
２　アハズは、先祖ダビデのようには、神様の言いつけを守りませんでした。　３それどころか、イスラエルの歴代の王のように偶像礼拝を行ない、完全に焼き尽くすいけにえとして、わが子を神々にささげることまでしました。 イスラエル国民がこの地に入った時、神様が滅ぼしてしまわれた国々の、異教的風習をまねたのです。　４このほかにも、丘の上の礼拝所や木陰の祭壇で、いけにえをささげたり、香をたいたりしました。
５　その時、シリヤのレツィン王とイスラエルのペカ王の連合軍が、ユダに宣戦を布告し、エルサレムを包囲しました。　しかし、町を占領することはできませんでした。　６それでも、レツィン王はエラテの町を取り戻し、ユダの人々を追い出して、シリヤ人を移住させました。　今もそのままです。　７アハズ王はアッシリヤのティグラテ・ピレセル王に

使者を送り、援軍を要請しました。　８このために、神殿や宮殿の宝物倉にあった金銀を、贈り物として差し出したのです。　９そのかいあって、アッシリヤ王はシリヤの首都ダマスコを攻撃し、住民を捕虜として、キルへ連れ去りました。　また、レツィン王は殺されてしまいました。
１０　アハズ王はティグラテ・ピレセル王に会うため、ダマスコへ行き、そこで、異教の神殿にある見慣れない祭壇に目を留めたのです。　さっそくその寸法を書き留め、図面を作り、くわしい説明書きとともに、祭司ウリヤに送りました。　１１１２ウリヤは指示どおりに祭壇を作り、王のために準備しました。　王は、ダマスコから帰るとすぐに、いけにえをささげました。　１３祭壇の上に、完全に焼き尽くすいけにえと穀物の供え物とをささげ、さらに注ぎのささげ物を注いでから、和解のいけにえの血を振りかけたのです。
１４それから、これまで神殿の入口にあった青銅の祭壇を、神殿の正面から新しい祭壇の北側に移し変えました。　１５王は祭司ウリヤに、新しい祭壇の上で、朝ごとの完全に焼き尽くすいけにえと夕べの穀物の供え物、王の完全に焼き尽くすいけにえと穀物の供え物、国民のささげ物、および、これらに添える注ぎのささげ物をささげるように言いつけました。　完全に焼き尽くすいけにえや他のいけにえの血も、新しい祭壇に振りかけられました。　古い祭壇は、もっぱら占い用に使うことになりました。
「古い青銅の祭壇は、私が個人的に伺いを立てるために使おう」と、王が言ったからです。
１６　祭司ウリヤは、王の命令どおりにしました。　１７それから王は、神殿にあった車輪つきの台を解体し、横木とその上に載せてあった洗盤を取りはずしました。　また、青銅の牛の背に載せてあった大洗盤を下ろして、敷石の上に置きました。　１８さらに、アッシリヤ王に敬意を表して、宮殿と神殿との間にこしらえた、祝祭用の通路を取りはずしました。
１９　アハズ王のその他の業績は、『ユダ諸王の年代記』に記録されています。　２０王は死んで、エルサレムの旧市街、ダビデの町の王室墓地に葬られ、息子ヒゼキヤが新しく王となりました。
一七
１２イスラエルの新しい王ホセア
父はエラ
サマリヤでの在位期間は九年
悪政を敷いたが、歴代の王ほどではなかった
当時のユダの王はアハズ。　ホセアの即位は、その即位後十二年
目にあたる
３　さて、アッシリヤのシャルマヌエセル王はイスラエルを攻め、ついにホセア王を服従させました。　イスラエルは、毎年アッシリヤに、ばく大な貢を納めることになったのです。　４ホセア王は謀反を企て、エジプトのソ王に、アッシリヤの支配から脱することができるようにと援軍を頼みました。　ところが、これが発覚してしまったのです。　貢を

納めることを拒んだホセア王を、アッシリヤ王は、反逆のかどで牢に入れ、鎖につなぎました。
５　こうして、イスラエルにアッシリヤ軍がなだれ込み、三年のあいだ首都サマリヤを包囲しました。　６ホセア王の即位後九年目、ついにサマリヤは陥落し、イスラエル国民はアッシリヤへ連れ去られ、ハラフの町、ゴザンのハボル川のほとり、メディヤ人の町々に移されたのです。
７　こうした災難が臨んだのは、国民がほかの神々を礼拝して、エジプトの奴隷生活から救い出してくださった神様に、罪を犯したからです。　８神様が追い払った外国人の悪い風習に、染まっていたのです。　９そのほかにも、ひそかに多くの悪事を行ない、国中に、異教の神々の祭壇を作っていました。　１０彼らは、すべての丘の上やよく繁ったどの木の下にも、石の柱や神々の像を立て、　１１神様がこの地から一掃した外国人の神々に、香をたいていました。　こうして、数々の悪事を重ねたので、ついに神様の激しい怒りを招いたのです。　１２あれほど、神様が口をすっぱくして警告しておられたのに、人々は平気で偶像礼拝の罪を犯していたのです。
１３　神様は再三再四、イスラエルとユダに預言者を送り、悪の道から離れ、先祖に与えたおきてを守るよう、警告してこられました。　１４ところがイスラエル国民は、いっこうに耳を貸そうとしなかったのです。　先祖と同じように強情で、神様を信じようとしませんでした。　１５神様の教えに耳をふさぎ、神様が先祖と結んだ契約を軽んじ、たび重なる警告を無視しました。　それは彼らの愚かさのゆえで、神様のきびしい戒めがあったにもかかわらず、偶像礼拝の罪に陥ったのです。１６神様の命令なんかどこ吹く風とばかり、金で鋳込んだ二つの子牛像を作りました。　さらに、恥ずべき忌まわしい像を作り、バアルを礼拝し、太陽や月や星を拝みました。　１７また、息子や娘さえ焼き殺して、モレクの祭壇にささげるやら、占いやまじないに走るやらで、悪の限りを尽くしたのです。こんなことをして、神様の激しい怒りを買わないわけがありません。　１８とうとう神様は、ユダ部族だけを残して、イスラエル国民を一掃してしまわれたのです。
１９　ところで、神様の命令を守ろうとしないのは、ユダも同じでした。　イスラエルがたどった悪の道を、ユダも進みました。　２０そこで神様は、ヤコブのすべての子孫を見限り、侵略者の手に渡し、ついに打ちのめしてしまわれました。　２１イスラエルはダビデ王朝から分離すると、ネバテの子ヤロブアム一世を王に迎えました。　このヤロブアム王がイスラエルを神様から引き離し、いっそう大きな罪に誘い込んだのです。　２２イスラエル国民は、王の持ち込んだ悪から離れようとしませんでした。　２３それで、ついに神様は、彼らを一掃してしまわれたのです。　預言者によって警告されたとおり、イスラエル国民はアッシリヤに連れ去られ、今なおそこにとどまっています。
２４　アッシリヤ王は、バビロン、クテ、アワ、ハマテ、セファルワイムの住民を連れて来て、サマリヤの町々に住まわせました。　こうして、サマリヤをはじめイスラエルの町々は、アッシリヤ人のものとなったのです。　２５アッシリヤからの移住者は、初め、神様

を礼拝しませんでした。　それで、神様はライオンを送り込み、幾人かを噛み殺させたのです。
２６　移住者はアッシリヤ王に使者を立て、こう報告しました。　「私たちイスラエルに植民した者は、この地の神の教えを知りません。その神がライオンを送り込んで、私たちを滅ぼそうとしました。　その神を礼拝しなかったからです。」
２７２８王は、サマリヤから捕らえ移した祭司をイスラエルに帰らせ、新しい住民に、神様のおきてを教えることにしました。　そんなわけで、祭司の一人がベテルに帰り、バビロンからの移住者に、神様を礼拝する方法を教えました。
２９　それでも、移住者たちは、同時にめいめいの神をも拝んだのです。　神の像は自分たちが住む町の近くにある､丘の上の礼拝所に安置しました。３０バビロンから来た人々はスコテ・ベノテ神、クテから来た人々はネレガル神、ハマテから来た人々はアシマ神というぐあいにです。　３１アワ人はニブハズ神とタルタク神の像を拝み、セファルワイムから来た人々は、アデラメレク神とアナメレク神の祭壇に、わが子を火で焼いてささげました。
３２　彼らは、一方ではイスラエルの神様を礼拝し、他方では同僚の中から祭司を任命して、丘の上の祭壇でいけにえをささげさせました。　３３このように、いぜんとして、出身国の宗教慣習を守り続けていたのです。３４この傾向は今も残っています。彼らは、心から神様を礼拝するのでもなく、のちにイスラエルと改名したヤコブの子孫に与えられた､神様の教えを守るのでもなく、ただ、昔からの故国の風習に従っていただけです。　３５３６神様がヤコブの子孫と結ばれた契約によると、彼らは異教の神々を礼拝したり、これにいけにえをささげたりすべきではなかったのです。　彼らは、驚くべき力と奇蹟によって、エジプトから連れ出してくださった神様だけを、礼拝すべきでした。　３７ヤコブの子孫は、神様のおきてをぜんぶ守り、どんなことがあっても、ほかの神々を礼拝してはならなかったのです。
３８　それというのも、神様がこう命じたからです。　「わたしがおまえたちと結んだ契約を忘れて、ほかの神々を礼拝してはならない。３９わたしだけを礼拝すべきだ。　わたしはおまえたちを、すべての敵から救い出す。」
４０　ところがイスラエルは、このおことばに耳をふさぎ、ほかの神々を礼拝しました。４１一方、バビロンからの移住者は、なるほど神様を礼拝したものの、同時に偶像も拝んでいました。　今でも、彼らの子孫は同じことをしています。
一八
１‐３ユダの新しい王ヒゼキヤ
父はアハズ
エルサレムでの在位期間は二十九年
二十五歳で即位
母はゼカリヤの娘アビ

先祖ダビデと同じように善政を敷く
当時のイスラエルの王はエラの子ホセア。　ヒゼキヤの即位は、
その即位後三年目にあたる
４　ヒゼキヤ王は丘の上の礼拝所を取り除き、石の柱をこわし、アシェラの忌まわしい像を倒しました。　また、人々が香をたいて祈るようになった、モーセの作った青銅の蛇を粉々にしました。　それは、元をただせば、王が指摘したとおり、ただの青銅にすぎなかったのです。　５王はイスラエルの神様に、心から信頼していたのです。　あとにも先にも、ヒゼキヤのように神様に従った王はいませんでした。　６すべての点で神様に従い、神様がモーセにお与えになった命令を、注意深く守っていたからです。　７神様は王とともにおられ、王のすることを、みな祝福してくださいました。　王はアッシリヤの王に反逆し、貢を納めることをやめました。　８また、ガザとその周辺までもペリシテ人の領土を占領し、大小の町々を滅ぼしました。
９　アッシリヤのシャルマヌエセル王が、イスラエルのサマリヤの町を包囲したのは、イスラエルのホセア王の即位後七年目にあたる、ヒゼキヤ王の即位後四年目のことでした。
１０三年後、サマリヤは陥落しました。　１１その時、アッシリヤの王はイスラエル人を捕虜としてアッシリヤに移し、ハラフの町、ゴザンのハボル川のほとり、メディヤの町々に住まわせました。　１２そうなったのは、彼らが神様に聞き従わず、神様の命令を守らなかったからです。　それどころか、神様の契約を踏みにじり、神様のしもべモーセによって与えられたすべてのおきてに背いたのです。
１３　そののち、ヒゼキヤ王の即位後十四年目に、アッシリヤのセナケリブ王が、ユダの要塞化された町を残らず占領しました。　１４ヒゼキヤ王は、ラキシュにいるアッシリヤ王のもとに使者を送って、和平を求めました。　「私がまちがっておりました。　わが国から引き揚げてくださいますなら、お望みどおりの賠償金を支払います。」　アッシリヤ王の要求は四億五千万円でした。　１５ヒゼキヤ王は、神殿と宮殿の宝物倉にある銀を全部、この賠償金にあてました。　１６足りない分は、王自身が献納し、神殿のとびらと柱の金箔をはぎ取って補いました。
１７　ところがアッシリヤ王は、前線の将軍、主計長、参謀長に大軍をつけて、エルサレムに送ったのです。　彼らは、布ざらしの野に面した大路に沿って、上の池の水道のそばに宿営しました。　１８三人は、ヒゼキヤ王とじきじきに話し合うことを望みましたが、王は自分の代わりに、官房長官エルヤキム、書記官シェブナ、史官ヨアフを休戦交渉の代表として送りました。
１９　アッシリヤの将軍は、次のようなことづけを王に伝えました。「アッシリヤの大王の仰せだ。　『余の手からおまえを助け出せる者はいない。　２０２１外国の口先だけの援助をあてにして、余に反逆するとは、もってのほかだ。　同盟国の中で、どの国が実際にその約束を果たしてくれよう。　エジプトだって。　もしエジプトを頼りにしているなら、それこそ大へんだ。　エジプトは葦の杖にすぎない。　おまえの重みでぽっきり折れ、か

えって手を突き刺すだろう。　エジプト王など、少しも当てにならんやつだ。　２２それとも、「きっと神様が助けてくださる」と思っているのではあるまいな。　だったら次のことを忘れるな。　その神とは、おまえが取り除いた丘の上の祭壇の神々と同じだ。　そんな神を、エルサレムの祭壇で拝めと命じているとは、あきれ果てたものだ。』　２３そこで、どうしたらよいか教えてやろう。　わが主君アッシリヤ王と賭けをするがよい。　そちらが馬に乗れる者二千人を用意するなら、こちらで二千頭の馬を出そう。２４おまえたちの小さな軍隊では、わが主君の軍隊の最小部隊を指揮する最下位の将校さえ、脅かすことはできまい。　たとい、エジプトが馬や戦車を出してくれたとしても、それが何の助けになるのか。　２５考え違いをしてもらっては困る。　われわれは野心をいだいて来たのではないぞ。　全くとんでもないことだ。　神様が、『攻め上って滅ぼせ』とばかり、われわれを送り出されたのだ。」
２６　エルヤキムとシェブナとヨアフは、たまりかねて口をはさみました。　「私たちにはアラム語がわかりますから、どうか、アラム語で話してください。　ヘブル語は使わないでください。　城壁の上にいる国民にわかると困るからです。」
２７　しかし、アッシリヤの将軍は平然と答えました。　「わが主君がわざわざ私をよこしたのは、おまえたちやおまえたちの主君とだけ話すためではない。　城壁の上にいる国民にも話しかけるためなのだ。　彼らもいっしょに、自分の糞を食べ、自分の尿を飲むようになるからだ。」
２８　こう言い捨てると、使者は、城壁の上にいる者たちに大声で呼びかけました。　「アッシリヤの大王の仰せを聞け！　２９『ヒゼキヤ王にだまされるな。　彼はおまえたちを、余の手から救い出せん。　３０神様が救い出してくれる、とか何とか言っておるそうだが、決してだまされてはならんぞ。　３１３２ヒゼキヤ王の言うことなど聞かずに、降伏せよ！そうすれば、自分の国で平和に暮らせるのだ。　そのうち、この国と同じように、穀物とぶどう酒がたくさんでき、オリーブの木と蜜に恵まれた、新しい地に連れて行ってやる。それが助かる唯一の道だ。　いくらヒゼキヤ王が、神様が救い出してくれると言っても、そんなたわごとに耳を貸すな。　３３アッシリヤ王の手から国を救った神々がいたか。　３４ハマテ、アルパデ、セファルワイム、ヘナ、イワの神々は、サマリヤを助けたか。　３５どこの神が、余の手から国を救えたか。　いったい何を根拠に、神様はエルサレムを救える、などと考えているのか。』」
３６　城壁の上の者たちは王の命令どおり、黙って、何も答えませんでした。　３７その時、ヒルキヤの子で官房長官のエルヤキム、書記官シェブナ、アサフの子で史官のヨアフは、衣を裂いてヒゼキヤ王のもとへ行き、アッシリヤの将軍が言ったことを報告しました。
一九
１　それを聞いたヒゼキヤ王は、衣を裂き、荒布をまとって、祈るため神殿へ入りました。２それから、エルヤキム、シェブナ、および年長の祭司たちにも荒布をまとわせ、アモツの子の預言者イザヤのもとへやり、こう言わせました。

３　「王はこう仰せです。　『きょうは、苦難と屈辱と不面目の日だ。　子供が生まれようとしているのに、母親には産み落とす力がない。４おそらく、あなたの信じている神様は、生ける神をそしってはばからない、アッシリヤの将軍のことばを聞いて、彼を罰してくださるだろう。　われわれ少数の生存者のために祈ってほしい。』」
５６「神様のお告げです。　『おまえたちの主君に、あのアッシリヤ人が神様をばかにしたことで気に病むな、と伝えよ。』　７アッシリヤの王は、本国から悪い知らせを受け、引き揚げざるを得なくなります。　そして、本国へ戻ったら殺されます。　それもみな、神様のお取り計らいなのです。」
８　まもなく、アッシリヤの将軍は、リブナにいるアッシリヤ王のもとへ帰りました。　王がラキシュを離れたという知らせを受けたからです。　９その後、エチオピヤのティルハカ王が攻めて来るという知らせが、アッシリヤ王のもとに届きました。　この攻撃を受ける前に、彼はヒゼキヤ王に再び使者を立てました。
１０　「おまえが信頼している神に、たぶらかされるな。　神が、『エルサレムを敵の手に渡さない』と言っても、信じてはならん。　１１今まで、アッシリヤの諸王が行く先々でどんなことをしたか、よく知っているはずだ。　彼らは、諸国を手あたりしだい、片っぱしから打ち破って回ったぞ。　なぜ、おまえだけが、そうならないと言えるのか。　１２ほかの国々の神は、国を救ったか。　ゴザン、カラン、レツェフ、およびテラサルにいるエデンの人々の場合を見よ。　彼らは皆殺しにされたではないか。　１３ハマテの王とアルパデの王は、どんな目に会ったか。　セファルワイム、ヘナ、イワの王たちは、どうなったか。」
１４１５王はこの手紙を受け取って目を通すと、神殿に上り、それを神様の前に広げ、こう祈りました。
「ケルビム（契約の箱を守る天使の像）の上に座しておられるイスラエルの神様。　あなた様だけが、全世界を支配する神様でいらっしゃいます。　あなた様は天と地とを創造なさいました。　１６神様、どうか御顔をこちらに向け、とくとご覧ください。　耳を傾けて、生ける神に反抗するこの男のことばを、しかとお聞きください。　１７神様。なるほど、アッシリヤ王は、あらゆる国々を滅ぼし、　１８その国々の偶像を焼き払いました。それらの偶像は、もともと神ではなく、人間が木や石で作ったものにすぎなかったから、当然です。　１９私たちの神様、お願いですから、私たちを彼の手から救い出してください。　そうすれば、全世界は、あなた様だけが神であることを知るでしょう。」
２０　その時、イザヤは人づてに、神様のお告げを王に伝えました。「イスラエルの神様はお語りになります。　『おまえの祈りを聞いた。　２１わたしはセナケリブ王にこう答える。　処女であるシオンの娘はおまえなど少しも恐れない。　エルサレムの娘はおまえをさげすみ、あざ笑う。　２２おまえはだれに反抗し、だれをののしったのか。　だれに向かって、そんなにいばりくさるのか。　相手はイスラエルの聖なる神ではないか。
２３　おまえは鼻高々と言った。　「余の戦車は高い山に登り、レバノンの最高峰まで占

領した。　高くそびえるレバノン杉と良質の糸杉を切り倒し、辺境の地に至るまで手中におさめた。　２４占領した多くの井戸の水を飲んで元気を取り戻し、近寄っただけでエジプトを震え上がらせた」と。
２５　神であるわたしにあやつられていたのを、知らなかったのか。わたしがおまえに、すべての城壁のある町々を占領するよう命じたのだ。　２６だからこそ、あの征服された国々は、おまえに逆らう力を失ったのだ。　まるで、灼熱の太陽のもとでしなびた草、途中で枯れた穂のようにな。　２７わたしはおまえが何を計画し、次にどこへ行こうとしているか、何もかも知っている。　また、わたしについて言っている悪口も、みな筒抜けだ。２８おまえがあまりに思い上がっているので、その鼻に鉤を引っかけ、口にはくつわをはめ、もと来た道に引き戻してやる。　２９はっきり言っておく。　今年、わたしの国民は自然に生えた麦を食べ、それを翌年の種もみにする。　そして三年目には、豊作にわくだろう。
３０　わが国民ユダよ。　敵の包囲を免れた者たちは、再び大きな国民となる。　地中深く根を張り、神のために実を結ぶようになる。　３１わが国民の残りの者は、エルサレムで強くなる。　わたしが目の色を変えてそうするからだ。
３２　アッシリヤ王はこの町に入らせない。王は盾を持って町に近づくことはできない。とりでを築いて町を攻めることも、矢を射かけることもできない。　３３王は来た道を引き返す。　３４わたしが、自分の名誉にかけ、また、わたしのしもべダビデのために、この町を守り、救うからだ。』」
３５　その夜、神様の使いが、アッシリヤの軍勢十八万五千を殺しました。　翌朝になってみると、死体があたり一面に転がっていたのです。
３６　セナケリブ王はニネベに帰って行きましたが、　３７ニスロク神の神殿で礼拝していた時、王子アデラメレクとサルエツェルに殺されてしまいました。　二人は東トルコのアララテに逃げ、王子エサル・ハドンが新しく王となりました。
二〇
１　そのころ、ヒゼキヤ王が重病をわずらい、あすをも知れぬ身となりました。　預言者イザヤは彼を訪ねて来て言いました。
「身の回りを整理しておかれますように。　病気は治らない、とお告げがありました。」
２　王は顔を壁に向け、神様に嘆願しました。
３　「ああ神様、どうか、私がいつも神様にお従いし、何につけても神様をお喜ばせしようとしてきたことを、思い出してください。」　こう言うと、泣き伏してしまいました。
４　イザヤが中庭を出ないうちに、再び神様のお告げがありました。
５　「わが国民の指導者ヒゼキヤのもとへ引き返して、こう告げるがよい。　先祖ダビデの神は、王の祈りを聞き、涙を見た。　王を元どおりにする。　三日後には床から起き上がり、神殿の前に立つ。　６寿命を十五年のばしてやる。　また、アッシリヤ王の手から、王とこの町とを救い出す。　そうするのは、わたし自身の栄光のため、また、わたしのし

もベダビデのためである。」
７　イザヤは干しいちじくをゆでて軟膏をつくり、それを王のはれものにつけるよう指示しました。　すると、王はすっかり治ったのです。
８　ところで、王はイザヤにこう言いました。　「元気になり、三日後にまた神殿へ行けるという証拠を見せてほしい。」
９　「よろしい。　神様は奇蹟を見せてくださいます。　日時計の上の影を十度進ませるか、それとも十度引き戻すか、どちらを選びますか。」
１０　「影は進むと決まっているから、引き戻すほうにしてもらいたい。」
１１　イザヤはそのように祈りました。　すると、神様はアハズの日時計の影を、十度引き戻してくださったのです。
１２　そのころ、バビロン王バルアダンの子メロダク・バルアダンは、ヒゼキヤ王が病気だというので、見舞いの使者に託して、手紙と贈り物を届けました。　１３王は使者を喜んで迎え、宝物として大事にしまってある金、銀、香料、香油、武器などをみな見せました。
１４　そこでイザヤは、王に会って尋ねました。　「あの人たちは何を欲しいと言ったのですか。　どこから来ました？」
「はるばるバビロンからだ。」
１５　「宮殿で何を見たのですか。」
「何もかもだ。　宝物倉にある物はぜんぶ見せた。」
１６　「神様のお告げを聞きなさい。　１７この宮殿にある物が、一つ残らずバビロンに運ばれる時がくる。　先祖の宝物はぜんぶ持ち去られ、何も残らない。　１８息子のうちからは、捕虜になって、バビロン王の宮殿で宦官として仕える者が出る。」
１９　「よくわかりました。　神様のお望みなら、それもけっこうです。」　実を言うと、王は、自分が生きている間は平和と安全が保証されると考え、ほっとしていたのです。
２０　ヒゼキヤ王のその他の業績、すなわち貯水池と水道を造り、町に水を引いたことなどは、『ユダ諸王の年代記』に記録されています。　２１王は死んで、息子マナセが新しく王となりました。
二一
１２ユダの新しい王マナセ
十二歳で即位
エルサレムでの在位期間は五十五年
母はヘフツィ・バハ
以前この地に住んでいた異教の国民の風習にならい、悪政を敷く
３‐５彼は、父ヒゼキヤが取りこわした丘の上の礼拝所を再建し、イスラエルのアハブ王にまねて、バアルのために祭壇を築き、いまわしいアシェラ像を作りました。　また太陽神をはじめ、月や星の神のための祭壇を、なんと神様の神殿に置いたのです。　６さらに、

わが子を偶像の祭壇にいけにえとしてささげ、まじないや占いに凝り、霊媒や口寄せに走りました。　このように、マナセ王のすることがあまりにもひどかったので、神様は激しくお怒りになりました。　７よりによって、いまわしいアシェラ像を神殿に安置したのです。　神殿は、神様がダビデとソロモンに、次のように説明なさった場所にほかなりません。　「わたしは、この神殿と、わたしがイスラエル全部族の町から特に選んだエルサレムに、わたしの名をいつまでも置く。　８もしイスラエル国民が、わたしがモーセをとおして与えておいた命令に従うなら、もう二度と、彼らを父祖の地から追い出さない。」
９　ところが、人々は神様の言いつけに背いたのです。　それに輪をかけるように、マナセ王は国民をそそのかして、すでにイスラエル人の前で神様によって滅ぼされた周囲の国民以上に、悪いことを行なわせたのです。
１０　それで神様は、預言者に次のように言わせました。
１１　「マナセ王はこのように悪事を重ね、その非道ぶりは以前この地にいたエモリ人以上だ。　王はユダの国民を、偶像礼拝に誘い込んだ。　１２だから、わたしはエルサレムとユダに大きな災いを下す。　それを聞く者は、恐怖のあまり、激しい耳鳴りに襲われるだろう。　１３わたしはエルサレムをサマリヤと同じ目に会わせる。　洗った皿をかわかすために引っくり返すように、エルサレムを引っくり返す。　１４生き残りのわずかばかりの国民をも見限り、敵の手に渡す。　１５それというのも、わたしが彼らの先祖をエジプトから連れ出した日から今日まで､彼らが悪に悪を重ね､わたしの怒りを招いたからだ。」
１６　マナセ王は、国民を神様が忌みきらう偶像礼拝に誘い込んだばかりでなく、罪のない人々を大ぜい殺しました。　エルサレムは、その犠牲者の死体で埋め尽くされるほどでした。
１７　罪にまみれたマナセ王のその他の業績は、『ユダ諸王の年代記』に記録されています。
１８マナセ王は死んで、ウザにある宮殿の庭に葬られ、息子アモンが新しく王となりました。
１９２０ユダの新しい王アモン
二十二歳で即位
エルサレムでの在位期間は二年
母はヨテバ出身のハルツの娘メシュレメテ
悪政を敷く
２１　アモン王は父の悪事をそっくりまね、父の拝んだ偶像を拝み、２２先祖代々つかえてきた神様を捨てました。　神様の命令に耳をふさいだのです。　２３そこで、家来が謀反を起こし、宮殿の中で王を殺しました。　２４ところが、今度は武装した民衆が暗殺者を皆殺しにし、アモンの子ヨシヤを王にしたのです。　２５アモン王のその他の業績は、『ユダ諸王の年代記』に記録されています。　２６王はウザの宮殿の庭にある墓地に葬られ、息子ヨシヤが新しく王となりました。
二二

１２ユダの新しい王ヨシヤ
八歳で即位
エルサレムでの在位期間は三十一年
母はボツカテ出身のアダヤの娘エディダ
善政を敷く。　先祖ダビデにならい、完全に神様に従った
３４即位後十八年目に、王はメシュラムの子アツァルヤの子、書記官シャファンを使いに出し、神殿にいる大祭司ヒルキヤに指示しました。
「礼拝に来る者が、神殿の入口にいる祭司に手渡す献金を集めよ。　５６その金を工事監督者に渡し、それで神殿を修理する大工や石工を雇い、木材や石材を買わせよ。」
７　工事監督者たちは正直な人ばかりだったので、支出明細書を出せとは命じられませんでした。
８　ある日、大祭司ヒルキヤは書記官シャファンのところへ来て、「神殿で、神のおきての書いてある巻物を発見しました」と報告しました。
ヒルキヤは、その巻物をシャファンに見せました。　９１０シャファンは神殿の修理状況を王に報告した時、ヒルキヤが発見した巻物のことにもふれ、王の前でそれを読み上げました。　１１王はその内容を聞くと、恐れに取りつかれて衣を裂きました。　１２１３それから祭司ヒルキヤ、シャファン、王の補佐官アサヤ、シャファンの子アヒカム、ミカヤの子アクボルに命じて、神様に尋ねさせたのです。「どうしたらよろしいのですか。　私どもはこの書のおきてを守りませんでした。　私どもも先祖も、ご命令に従わなかったので、神様は激しく怒っておられるに違いありません。」
１４　そこで祭司ヒルキヤ、アヒカム、アクボル、シャファン、アサヤは、エルサレムのミシュネ地区へ行って、女預言者フルダに会いました。　彼女は、ハルハスの子ティクワの子で、宮殿の衣装係りをしているシャルムの妻でした。　１５１６彼女は彼らに、神様のお告げを伝えました。
「おまえたちを使いに出した人に告げなさい。　わたしは、おまえたちが読んだ書物にあるとおり、この町と国民を滅ぼすつもりだ。　１７ユダ国民はわたしを捨てて、ほかの神々を拝み、わたしを激しく怒らせた。　もう、その怒りはとどめようがない。　１８１９だが、この地がのろわれて荒れ地となる、という警告を読んだ時、おまえは深く心を痛め、謙そんになり、衣を裂いて、わたしの前で涙を流した。　それで、おまえの切実な願いを聞き入れよう。　２０おまえが死ぬまで、この国民に災いは臨まない。　わたしがこの場所に下す災いを、おまえは見ないですむ。」
彼らは、このお告げを王に伝えました。
二三
１２その時、王は使者を、ユダとエルサレムの長老や指導者のところへ送り、いっしょに神殿へ上るよう命じました。　そこで、ユダとエルサレムに住む祭司と預言者全員、それに身分の高い者も低い者もみな、神殿に集まりました。　王は、神殿で発見された神のお

きての書を、一同に読み聞かせたのです。　３王は一同の正面の柱のわきに立っていました。　朗読が終わると、王と一同は、いつも神様に従い、おきての書に命じられているすべての戒めを守ることを、神様の前で厳粛に誓いました。
４　そのあと、王は大祭司ヒルキヤをはじめ祭司たち、および神殿の警備員に命じて、バアルやアシェラ、太陽や月や星を礼拝するための設備を、ぜんぶ取りこわさせました。　また、それらをエルサレム郊外のキデロンの野で焼き、灰はベテルへ運ばせました。　５次に、先のユダの王たちが任命した異教の祭司たちを処刑しました。　彼らは、ユダの全地およびエルサレム周辺の丘の上にある礼拝所で香をたき、バアルや太陽、月、星、惑星にも香をたいていたのです。　６さらに王は、いまわしいアシェラ像を神殿から取り除き、エルサレム郊外のキデロン川に運んで焼き、粉々に砕いて灰とし、その灰を共同墓地にまき散らしました。　７また、神殿の回りにあった男娼の家を取りこわしました。　それらの家で、女たちがアシェラ像のために衣を織っていたのです。
８　王は、ユダの町々に住む、神様に仕える祭司たちを、エルサレムに連れ戻しました。そして、北はゲバから南はベエル・シェバに至るまでの丘の上の礼拝所を、全部たたきこわしました。　次に、エルサレム市長ヨシュアの邸宅の入口にあった礼拝所も、取りこわしました。　その邸宅は、町の門をはいって左側にあったのです。　９ところで、この祭司たちは、ほかの祭司たちと共に食事はしたものの、エルサレムにある神様の祭壇で供え物をささげる役には、つきませんでした。
１０　それから王は、だれも二度と、自分の息子や娘をモレクのいけにえとしてささげることがないように、ベン・ヒノムの谷にあるトフェテの祭壇を取りこわしました。　１１また、神殿の入口に近い、宦官ネタン・メレクの部屋の隣にある馬と戦車の像をこわしました。　それは、先のユダの王たちが太陽神に献納したものだからです。　１２さらに、ユダの王たちが宮殿のアハズの部屋の屋上に作った祭壇と、マナセが神殿の二つの庭に作った祭壇も粉々にし、キデロンの谷にまき散らしました。
１３　それから､エルサレムの東､破壊の山の南にある丘の上の礼拝所を取り除きました。ソロモン王が、シドン人の悪の女神アシュタロテ、モアブの悪神ケモシュ、アモン人の悪神ミルコムのために建てたものです。　１４ヨシヤ王は石の柱を粉々に砕き、いまわしいアシェラ像を切り倒し､それらのあった場所に人骨をまき散らして､汚れた所にしました。１５さらに、イスラエルを罪に誘い込んだヤロブアム一世の築いた、ベテルにある祭壇や礼拝所をたたきこわし、石は粉々に砕き、いまわしいアシェラ像を焼き払いました。
１６　王は、山麓に墓があるのを見つけました。　さっそく家来に命じて、その墓から骨を取り出し、それをベテルの祭壇の上で焼かせて、祭壇を汚れたものとしました。　こうして、神の預言者がヤロブアムの祭壇はこうなる、と言っていたとおりになったのです。
１７　王は、「あそこに見える記念碑は何か」と尋ねました。
町の人々は答えました。　「ユダから出て来て、陛下が今ベテルの祭壇に対してなさったことを預言した、預言者の墓でございます。」

１８　「そうか。　では、そのままにしておけ。　だれも彼の骨にさわってはならん。」　それで人々は、彼の骨も、サマリヤから来たあの預言者の骨も、焼きませんでした。
１９　王はサマリヤの丘の上の礼拝所をぜんぶ取り払い、ベテルでしたように、粉々にしてしまいました。　それはみな、イスラエルの王たちが建て、神様の激しい怒りを買ったものです。　２０王はまた、異教の神々に仕える祭司たちを、彼ら自身の祭壇の上で殺し、祭壇を汚れたものとするため、その上で人骨を焼きました。　こうして、エルサレムへ帰ったのです。
２１　王は国民に、神の『契約の書』にあるとおり、過越の儀式を執り行なうよう命じました。　２２イスラエルを士師（王国設立までの軍事的・政治的指導者）が治めていたとき以来、このように過越の祭りが祝われたことはありません。　イスラエルとユダの諸王のどの時代にも、例がありません。　２３この過越が祝われた場所はエルサレムで、ヨシヤ王の即位後十八年目のことでした。
２４　王はまた、霊媒や口寄せ、それにエルサレムとユダの全地にある、ありとあらゆる偶像を一掃しました。　祭司ヒルキヤが神殿で発見した書物にあるおきてを、忠実に守ろうとしたからです。　２５このように完全に神様に立ち返り、モーセのすべてのおきてを守った王は、あとにも先にも、ヨシヤ王のほかにいません。
２６　それにもかかわらず、マナセ王の悪行が引き金となった、ユダへの神様の激しい怒りは、おさまりませんでした。　２７神様は、こう言っておられたのです。　「わたしは、イスラエルを滅ぼしたように、ユダも滅ぼす。　わたしが選んだ町エルサレムも、わたしが自分のものだと言った神殿も、捨ててしまう。」
２８　ヨシヤ王のその他の業績は、『ユダ諸王の年代記』に記録されています。　２９そのころ、エジプトのネコ王が、アッシリヤの王を攻めるため、ユーフラテス川に向かっていました。　ヨシヤ王はアッシリヤの王を助けようと出陣しましたが、メギドでネコ王に会い、殺されたのです。　３０家来たちは、遺体を戦車でエルサレムに運び、前もって決めてあった墓地に葬りました。　国民は、その息子エホアハズを新しい王に選びました。
３１３２ユダの新しい王エホアハズ
二十三歳で即位
エルサレムでの在位期間は三か月
母はリブナ出身のエレミヤの娘ハムタル
先王たちにならって悪政を敷く
３３　ネコ王は、エホアハズが王になることに反対でした。　そこで、彼をハマテにあるリブラの牢獄に入れ、ユダに総計七千万円の重税を課しました。　３４そしてヨシヤの息子エルヤキムを、エルサレムで王位につけ、名をエホヤキムと改めさせました。　一方、エホアハズはエジプトへ連れて行かれ、そこで死にました。　３５エホヤキム王は、エジプトの王が要求する金を集めるため、国民に重税を課したのです。
３６３７ユダの新しい王エホヤキム

二十五歳で即位
エルサレムでの在位期間は十一年
母はルマ出身のペダヤの娘ゼブダ
先王たちにならって悪政を敷く
二四
１　エホヤキムが王であった時、バビロンのネブカデネザル王が、エルサレムを攻めました。　エホヤキム王は降伏し、三年間みつぎを納めたのち、背きました。　２そこで神様は、かねて預言者たちによって警告したとおり、カルデヤ人、シリヤ人、モアブ人、アモン人の略奪隊を送って、ユダとその国民を滅ぼそうとなさいました。　３４こうした災いが臨んだのは、神様のじきじきの命令によります。　マナセ王が、エルサレムを罪のない人の血で満たし、罪に罪を重ねたので、神様もとうとう、堪忍袋の緒が切れて、ユダを一掃しようと決心なさったのです。
５　エホヤキム王のその他の業績は、『ユダ諸王の年代記』に記録されています。　６王は死んで、息子エホヤキンが新しく王となりました。　７当時バビロンの王が、エジプト川からユーフラテス川に至る、以前のエジプトの全占領地を押さえていたので、エジプトの王はその後、再び攻めて来ませんでした。
８９ユダの新しい王エホヤキン
十八歳で即位
エルサレムでの在位期間は三か月
母はエルサレムのエルナタンの娘ネフシュタ
先王たちにならって悪政を敷く
１０　エホヤキンが王であった時、バビロンのネブカデネザル王の軍隊が、エルサレムを包囲しました。　１１さらに王みずからもやって来て、この作戦に加わりました。　１２エホヤキン王と家来一同、それに王母は、そろって降伏し、王は捕虜としてバビロンへ連れて行かれました。　ネブカデネザル王の即位後八年目のことです。
１３　バビロン軍は、神殿と宮殿の宝物を残らず持ち出し、ソロモン王が神様の命令で神殿にしまっておいた金の器具を、片っぱしから二つに切ってしまいました。　１４ネブカデネザル王は、エルサレムから一万人を捕虜として連れ去りました。　多くは、王子、高官、えり抜きの勇士、職人、鍛冶屋でした。　貧乏人や、手に職のない人々だけが、あとに残されたのです。　１５エホヤキン王とその妻たち、家来、それに王母はもちろんのこと、　１６七千人の精鋭部隊、戦争に役立つ職人と鍛冶屋千人が捕虜となりました。　１７このあとバビロンの王は、エホヤキン王の叔父マタヌヤをゼデキヤと改名し、次の王にしました。
１８１９ユダの新しい王ゼデキヤ
二十一歳で即位
エルサレムでの在位期間は十一年

母はリブナ出身のエレミヤの娘ハムタル
エホヤキムと同じく悪政を敷く
２０　神様はとうとう、すっかり怒って、エルサレムとユダの人々を滅ぼしてしまわれたのです。　一方ゼデキヤ王は、バビロン王に反逆を企てました。
二五
１　そこで、ネブカデネザル王は全軍を率いて攻撃をしかけ、エルサレムを包囲してしまいました。　王がエルサレムに来たのは、ゼデキヤ王の即位後九年目の十二月二十四日のことです。　２包囲は、ゼデキヤ王の即位第十一年まで続きました。
３　最後の年の六月二十三日になると､町に残っていた最後の食糧も底をつきました。　４５その夜、王とその手勢は、内側の城壁に穴をあけ、宮殿の庭園の近くにある、二重の城壁の間の門を通り抜けて、アラバへ逃げました。　町を包囲していたバビロンの兵士たちはあとを追い､エリコの平原で王を捕らえました。 家来たちが散り散りになったことは、言うまでもありません。　６王はリブラへ連行され、バビロンの王の前で裁判を受けました。　７その結果、目の前で息子が次々に殺されるのを見せつけられたのち、両眼をえぐり出され、足かせにつながれたまま、バビロンへ連行されました。
８　ネブカデネザル王の即位後十九年目の七月二十一日に、王の侍従長ネブザルアダン将軍が、バビロンからエルサレムに到着し、　９神殿や宮殿をはじめ、町中のめぼしい建物をぜんぶ焼き払いました。１０また、バビロン軍を指揮して、城壁を取りこわしました。１１町に残っていた人々と、バビロンの王に忠誠を誓ったユダの逃亡兵全員は、捕虜としてバビロンへ連行されました。　１２貧民街に住む者だけが、土地を耕すために残されたのです。
１３　バビロン軍は、神殿の青銅の柱と青銅の洗盤を台もろともこわし、青銅を全部バビロンへ運びました。　１４１５また、つぼ、十能、火皿、芯切りばさみ、さじ、その他、いけにえをささげるために使う青銅の器具も全部です。　金や銀の鉢は、その他の金銀とともに、溶かして金塊や銀塊にされました。　１６ソロモン王が神殿のために作った、二本の柱と台つきの大洗盤は、あまりにも重くて、量ることができませんでした。　１７柱の高さは、それぞれ九メートルあり、その上に回りを青銅の網細工とざくろで飾った一メートル半の柱頭がついていました。
１８　ネブザルアダン将軍は、祭司長セラヤと次席祭司ゼパニヤ、それに、三人の神殿警備員を、捕虜としてバビロンへ連れて行きました。　１９ユダ軍の司令官、徴兵官、王の五人の側近、町に隠れているところを見つかった六十人の農夫は、　２０将軍に捕らえられて、リブラにいるバビロンの王のもとへ連行され、　２１剣で切り殺されました。
こうして、ユダの国民は祖国をあとに、捕虜となって連れ去られたのです。
２２　ネブカデネザル王は、アヒカムの子、シャファンの孫ゲダルヤを、ユダに残った者を治める総督に任命しました。 ２３バビロンの王がゲダルヤを総督に任命したと聞くと、イスラエルのゲリラ部隊の指導者たちは、部下を引き連れ、ミツパにいるゲダルヤのとこ

ろへ来ました。　ネタヌヤの子イシュマエル、カレアハの子ヨハナン、ネトファ人タヌフメテの子セラヤ、マアカ人の子ヤアザヌヤと、その部下たちです。
２４　ゲダルヤは、彼らにこう保証しました。　「武器を捨ててバビロン軍に下れば、捕虜にもならず、この地に住める。」　２５ところが、それからしばらくして、王族の一人であったイシュマエルは、十人の部下を連れてミツパへ行き、ゲダルヤをはじめ、ユダ人とバビロン人からなる総督府の職員を殺してしまったのです。　２６たいへんなことになりました。　バビロン軍が報復に出るかもしれません。　人々はゲリラ部隊の指導者たちとともに、あわててエジプトへ逃げました。
２７　エホヤキン王は、捕虜となって三十七年目の三月の十一日に、牢から釈放され、自由の身となりました。
これは、エビル・メロダク王の即位の年のことです。　２８彼はエホヤキンに親切にし、バビロンで共に獄につながれていたどの王よりも、厚遇しました。　２９エホヤキンはそれまでの囚人服から新しい服に着替え、一生の間、いつも王の食卓で食事をしました。　３０王は、エホヤキンが生きている間中、毎日の生活費を支給したのです。
▪

イスラエル年代記上（歴代誌Ｉ.）
本書は、祭司の視点から書かれていて、預言者の視点で書かれた列王記を補っています。ダビデ王家の歴史と、祭司を務めるレビの子孫を記録した一連の系図で始まり、国家の宗教的事情に特別な関心をはらいつつ、サウルの死とダビデの統治に言及し、ソロモンが王になったところで終わっています。

一
１－４人類の最初の先祖は、次のとおりです。
アダム、セツ、エノシュ、ケナン、マハラルエル、エレデ
エノク、メトシェラ、レメク、ノア、セム、ハム、ヤペテ。
５－９ヤペテの子孫は
ゴメル、マゴグ、マダイ、ヤワン、トバル、メシェク、ティラス。
ゴメルの子孫は
アシュケナズ、ディファテ、トガルマ。
ヤワンの子孫は
エリシャ、タルシシュ、キティム、ロダニム。
ハムの子孫は
クシュ、ミツライム、プテ、カナン。
クシュの子孫は
セバ、ハビラ、サブタ、ラマ、サブテカ。
ラマの子孫はシェバ、デダン。
１０　クシュのもう一人の子ニムロデは、偉大な英雄でした。
１１１２ミツライムの子孫の名をとって呼ばれる氏族は、次のとおり。
ルデ人、アナミム人、レハビム人、ナフトヒム人
パテロス人、ペリシテ人の先祖カスルヒム人、カフトル人。
１３－１６カナンの息子は長男のシドンとヘテ。
カナンは、エブス人、エモリ人、ギルガシ人、ヒビ人、アルキ人、シニ人、アルワデ人、ツェマリ人、ハマテ人の先祖となりました。
１７　セムの子孫は
エラム、アシュル、アルパクシャデ、ルデ、アラム、ウツ
フル、ゲテル、メシェク。
１８　アルパクシャデの子はシェラフ、シェラフの子はエベル。
１９　エベルの息子は、「分割」という意味のペレグ。　彼の時代に、地上の人々が言語を異にする群れに分けられたからです。　そして、もう一人はヨクタン。
２０－２３ヨクタンの子孫は
アルモダデ、シェレフ、ハツァルマベテ、エラフ、ハドラム

ウザル、ディクラ、エバル、アビマエル、シェバ、オフィル
ハビラ、ヨバブ。
２４－２７こういうわけで、セムの子はアルパクシャデ、その子はシェラフ。以下、エベル↓ペレグ↓レウ↓セルグ↓ナホル↓テラ↓アブラム〔のちにアブラハムと改名〕と続きます。
２８－３１アブラハムの子はイサクとイシュマエル。
イシュマエルの子孫は次のとおり。
長男ネバヨテ、ケダル、アデベエル、ミブサム
ミシュマ、ドマ、マサ、ハダデ、テマ、エトル
ナフィシュ、ケデマ。
３２　アブラハムが、そばめケトラに産ませた子は
ジムラン、ヨクシャン、メダン、ミデヤン、イシュバク
シュアハ。
ヨクシャンの子はシェバとデダン。
３３　ミデヤンの子は
エファ、エフェル、エノク、アビダ、エルダア。
以上は、そばめケトラによるアブラハムの子孫です。
３４　アブラハムの子イサクには、エサウとイスラエルという二人の子がありました。
３５　エサウの子は
エリファズ、レウエル、エウシュ、ヤラム、コラ。
３６　エリファズの子は
テマン、オマル、ツェフィ、ガタム、ケナズ、ティムナ
アマレク。
３７　レウエルの子は
ナハテ、ゼラフ、シャマ、ミザ。
３８３９セイルの子はロタン、ショバル、ツィブオン、アナ
ディション、エツェル、ディシャン、ロタンの妹ティムナ。
ロタンの子はホリとホマム。
４０　ショバルの子はアルヤン、マナハテ、エバル、シェフィ、オナム。
ツィブオンの子はアヤとアナ。
４１　アナの子はディション。
ディションの子はハムラン、エシュバン、イテラン、ケラン。
４２　エツェルの子はビルハン、ザアワン、ヤアカン。
ディシャンの子はウツとアラン。
４３　イスラエル王国が誕生する前に、エドムの地を治めていた王は、次のとおりです。
ディヌハバの町に住んでいた、ベオルの子ベラ。

４４　ベラが死んで、ボツラ出身のゼラフの子ヨバブが、新しく王となりました。
４５　ヨバブが死ぬと、テマン人の地出身のフシャムが王になりました。
４６　フシャムが死ぬと、モアブの野でミデヤン軍を打ち破った、ベダデの子ハダデが王となり、アビテの町で治めました。
４７　ハダデが死んで、マスレカの町出身のサムラが王座につきました。
４８　サムラが死んで､川のほとりの町レホボテ出身のサウルが､新しく王となりました。
４９　サウルが死ぬと、アクボルの子バアル・ハナンが王になりました。
５０　バアル・ハナンが死んで、ハダデが王となり、パイの町で治めました。　彼の妻はマテレデの娘で、メ・ザハブの孫娘にあたるメヘタブエルでした。
５１‐５４ハダデが死んだ時のエドムの首長たちは、次のとおりです。
ティムナ、アルワ、エテテ、オホリバマ、エラ、ピノン
ケナズ、テマン、ミブツァル、マグディエル、イラム。
二
１２イスラエルの子は
ルベン、シメオン、レビ、ユダ、イッサカル、ゼブルン
ダン、ヨセフ、ベニヤミン、ナフタリ、ガド、アシェル。
３　ユダには、カナンの女シュアの娘から生まれたエル、オナン、シェラの三人の子がいました。　ただし、長男エルはひどい罪を犯したので、神様に殺されてしまいました。
４　エルの妻であったタマルは、あとで、しゅうとユダとの間に、ふたごのペレツとゼラフを産みました。　それで、ユダの子は全部で五人になったのです。
５　ペレツの子はヘツロンとハムル。
６　ゼラフの子は
ジムリ、エタン、ヘマン、カルコル、ダラ。
７　カルミの子アカンは､神様のものを盗んで､イスラエル国民に災いをもたらしました。
８　エタンの子はアザルヤ。
９　ヘツロンの子はエラフメエル、ラム、カレブ。
１０‐１２ラムの子はアミナダブ、その子はイスラエルの指導者ナフション。以下、サルマ↓ボアズ↓オベデ↓エッサイと続きます。
１３　エッサイの長男はエリアブ、次男はアビナダブ、三男はシムア、１４四男はネタヌエル、五男はラダイ、　１５六男はオツェム、七男はダビデです。　１６二人の娘の名はツェルヤとアビガイル。
ツェルヤの子はアブシャイ、ヨアブ、アサエル。
１７　イシュマエル人エテルの妻アビガイルの子は、アマサ。
１８　ヘツロンの子カレブには、アズバとエリオテという二人の妻がありました。　アズバによる子は、エシェル、ショバブ、アルドン。
１９　アズバの死後、カレブはエフラテと結婚しました。　エフラテによる子はフル。

２０　フルの子はウリ、ウリの子はベツァルエル。
２１　ヘツロンは六十歳で、ギルアデの父でもあったマキルの娘と結婚しました。　彼女はひとり息子のセグブを産みました。
２２　セグブは、ギルアデの地で二十三の町を治めたヤイルの父となりました。　２３ところが、やはりマキルの子孫にあたるゲシュルとアラムがこの町々を奪い取り、さらにケナテと周辺の六十の村を手中におさめたのです。
２４　カレブは、父ヘツロンが死ぬとすぐ、父の未亡人エフラテと結婚しました。　彼女はテコアの父アシュフルを産みました。
２５　ヘツロンの長男エラフメエルの子は
長男ラム、ブナ、オレン、オツェム、アヒヤ。
２６　エラフメエルのもう一人の妻アタラは、オナムの母となりました。
２７　ラムの子はマアツ、ヤミン、エケル。
２８　オナムの子はシャマイとヤダ。
シャマイの子はナダブとアビシュル。
２９　アビシュルと妻アビハイルとの子は、アフバンとモリデ。
３０　ナダブの子はセレデとアパイム。　セレデは子がないまま死にました。　３１アパイムの子はイシュイ、その子はシェシャン、その子はアフライ。
３２　シャマイの兄弟ヤダの子はエテルとヨナタン。 エテルは子がないまま死にました。
３３ヨナタンの子はペレテとザザ。
３４３５シェシャンには、娘だけで、息子はいませんでした。　彼は娘の一人を彼の召使のエジプト人ヤルハの妻とし、生まれた息子をアタイと名づけました。
３６－４１アタイの子はナタン。　以下、ザバデ↓エフラル↓オベデ↓エフー↓アザルヤ↓ヘレツ↓エルアサ↓シセマイ↓シャルム↓エカムヤ↓エリシャマと続きます。
４２　エラフメエルの兄弟カレブの長男は、メシャ。　メシャはジフの父、ジフはマレシャの父、マレシャはヘブロンの父。
４３　ヘブロンの子は
コラ、タプアハ、レケム、シェマ。
４４　シェマはラハムの父、ラハムはヨルコアムの父。
レケムはシャマイの父。
４５　シャマイの子はマオン。　マオンはベテ・ツルの父。
４６　カレブのそばめエファは、ハラン、モツァ、ガゼズを産みました。ハランの子はガゼズと名づけられました。
４７　ヤフダイの子は
レゲム、ヨタム、ゲシャン、ペレテ、エファ、シャアフ。
４８４９カレブのもう一人のそばめマアカは、シェベル、ティルハナ、マデマナの父シャアフ、マクベナとギブアの父シェバを産みました。　カレブにはまた、アクサという娘が

いました。
５０　カレブとエフラテから生まれた長男フルの子は､キルヤテ･エアリムの父ショバル、
５１ベツレヘムの父サルマ、ベテ・ガデルの父ハレフ。
５２　ショバルの子には、キルヤテ・エアリムのほかに、メヌホテ族の半分の先祖ハロエがいました。
５３　キルヤテ・エアリムの諸氏族は、エテル人、プテ人、シュマ人、ミシュラ人で、彼らから、ツォルア人とエシュタオル人が出ました。
５４　サルマの子孫は、その子ベツレヘム、ネトファ人、アテロテ・ベテ・ヨアブ、マナハテ人の半分、ツォルア人。　５５ヤベツに住んでいた書記の諸氏族はティルア人、シムア人、スカ人。　みな、レカブ家の父祖ハマテから出たケニ人でした。
三
１　ダビデ王の長男は、イズレエル出身の妻アヒノアムから生まれたアムノン。
次男は、カルメル出身のアビガイルを母とするダニエル。
２　三男は、ゲシュルの王タルマイの娘マアカから生まれたアブシャロム。
四男は、ハギテを母とするアドニヤ。
３　五男は、アビタルを母とするシェファテヤ。
六男は、妻エグラから生まれたイテレアム。
４　以上六人は、ヘブロンで生まれました。　ダビデはこのヘブロンで、七年半にわたって王位にありましたが、のちに都をエルサレムへ移し、三十三年間そこで治めました。
５　エルサレムにいた時、アミエルの娘で、ダビデの妻のバテ・シュアは、シムア、ショバブ、ナタン、ソロモンの母となりました。
６－８ダビデには、ほかにも次の九人の子がいました。
イブハル、エリシャマ、エリフェレテ、ノガハ、ネフェグ
ヤフィア、エリシャマ、エルヤダ、エリフェレテ。
９　以上の系図には、そばめの子は含まれていません。　ダビデには、タマルという娘もいました。
１０－１４ソロモン王の子孫は次のとおり。
レハブアム↓アビヤ↓アサ↓ヨシャパテ↓ヨラム↓アハズヤ↓ヨアシュ↓アマツヤ↓アザルヤ↓ヨタム↓アハズ↓ヒゼキヤ↓マナセ↓アモン↓ヨシヤ。
１５　ヨシヤの子は
ヨハナン、エホヤキム、ゼデキヤ、シャルム。
１６　エホヤキムの子は
エコヌヤ（別名エホヤキン）、ゼデキヤ。
１７１８エコヌヤ王が軟禁されていた時に生まれた子は、次のとおり。
シェアルティエル、マルキラム、ペダヤ、シェヌアツァル
エカムヤ、ホシャマ、ネダブヤ。

１９２０ペダヤはゼルバベルとシムイの父。
ゼルバベルの子は次のとおり。
メシュラム、ハナヌヤ、ハシュバ、オヘル、ベレクヤ
ハサデヤ、ユシャブ・ヘセデ、娘のシェロミテ。
２１２２ハナヌヤの子はペラテヤとエシャヤ。　以下、レファヤ↓アルナン↓オバデヤ↓シェカヌヤ↓シェマヤと続きます。　シェマヤの子は六人で、ハトシュ、イグアル、バリアハ、ネアルヤ、シャファテ。
２３　ネアルヤの子は三人で、エルヨエナイ、ヒゼキヤ、アズリカム。
２４　エルヨエナイの子は七人で、ホダブヤ、エルヤシブ、ペラヤ、アクブ、ヨハナン、デラヤ、アナニ。
四
１　ユダの子孫は
ペレツ、ヘツロン、カルミ、フル、ショバル。
２　ショバルの子レアヤはヤハテの父。　ヤハテは、ツォルア人の諸氏族となったアフマイとラハデの先祖。
３４エタムの子孫は次のとおり。
イズレエル、イシュマ、イデバシュ、娘のハツェレルポニ
ゲドルの先祖ペヌエル、フシャの先祖エゼル。
以上が、ベツレヘムの父で、エフラテの長男にあたるフルの子です。
５　テコアの父アシュフルには、ヘルアとナアラという二人の妻がいました。
６　ナアラはアフザム、ヘフェル、テムニ、アハシュタリを産み、　７ヘルアはツェレテ、ツォハル、エテナンを産みました。
８　コツはアヌブとツォベバの父で、ハルムの子アハルヘルの名で呼ばれた氏族の先祖です。
９　ヤベツは兄弟の中で最も重んじられていました。　母が彼をヤベツ〔「苦しみ」の意〕と名づけたのは、お産の時にたいへんな苦しみを味わったからです。
１０　ヤベツはイスラエルの神様に、こう祈りました。　「どうか、私をうんと祝福し、私の働きを助けてください。　私が行なうすべてのことに御手を添えてください。　すべての悪と災いからお守りください。」　神様はその願いをかなえてくださいました。
１１１２レカの子孫は次のとおり。
エシュトンの父メヒルの父となった、シュハの兄弟ケルブ。
エシュトンはベテ・ラファ、パセアハ、テヒナの父。
テヒナはイル・ナハシュの父。
１３　ケナズの子はオテニエルとセラヤ。
オテニエルの子はハタテとメオノタイ。
１４　メオノタイはオフラの父。

セラヤは､多くの職人が住んでいたので､職人の谷と呼ばれた谷の住人の先祖ヨアブの父。
１５　エフネの子カレブの子は
イル、エラ、ナアム。
エラの子の一人はケナズ。
１６　エハレルエルの子は
ジフ、ジファ、ティルヤ、アサルエル。
１７　エズラの子は
エテル、メレデ、エフェル、ヤロン。
メレデはエジプト王の娘ビテヤと結婚しました。　彼女は、ミリヤム、シャマイ、エシュテモアの先祖イシュバフの母となりました。
１８　エシュテモアの妻はユダヤ人で､エレデ､ヘベル､エクティエルの母となりました。
この三人は、ゲドル人、ソコ人、ザノアハ人の先祖となりました。
１９　ホディヤの妻はナハムの姉妹で、生まれた子の一人はガルミ人ケイラの父となり、もう一人はマアカ人エシュテモアの父となりました。
２０　シモンの子は
アムノン、リナ、ベン・ハナン、ティロン。
イシュイの子は
ゾヘテ、ベン・ゾヘテ。
２１２２ユダの子シェラの子孫は次のとおり。
レカの父エル
マレシャの父ラダ
ベテ・アシュベアで亜麻布業を営む氏族
ヨキム
コゼバの氏族
ヨアシュ
ラヘムに帰るまでモアブの支配者であったサラフ
これらの名は古くから記録にとどめられていました。
２３　これらの氏族は陶芸、庭園、植林の技術にすぐれ、王のために働きました。
２４　シメオンの子は
ネムエル、ヤミン、ヤリブ、ゼラフ、サウル。
２５　サウルの子はシャルム、孫はミブサム、曾孫はミシュマ。
２６　ミシュマの子の一人が、ザクルの父で、シムイの祖父にあたるハムエル。
２７　シムイには十六人の息子と六人の娘がいました。 ところが､シムイの兄弟たちは、ユダの普通の家族に比べて子供が少なかったのです。
２８　彼らは、ベエル・シェバ、モラダ、ハツァル・シュアル、　２９ビルハ、エツェム、トラデ、　３０ベトエル、ホルマ、ツィケラグ、　３１ベテ・マルカボテ、ハツァル・ス

シム、ベテ・ビルイ、シャアライムに住んでいました。　これらの町は、ダビデの時まで、彼らの支配下にあったのです。
３２３３彼らの子孫は、エタム、アイン、リモン、トケン、アシャン、ならびにその周辺に住んでいました。　中には、バアルのような遠方に住んでいた者もいます。　これらのことは、系図に記録されています。
３４－３９次にあげるのは、家畜の群れを飼う牧場を捜し求めて、ゲドルの谷の東側まで旅をした、富んだ氏族の長です。
　メショバブ、ヤムレク、ヨシャ、ヨエル、エフー、エルヨエナイ、ヤアコバ、エショハヤ、アサヤ、アディエル、エシミエル、ベナヤ、シフイの子ジザ。　シフイから順次さかのぼると、アロン、エダヤ、シムリ、シェマヤに至ります。
４０４１彼らは、静かで、平和そのものの良い牧場を見つけました。　ただし、その地はハムの子孫のものでした。　ユダ王朝のヒゼキヤ王の時、これらの氏族長がこの地を襲って、ハムの子孫のテントと家をこわし、住民を殺してそこを奪ったのです。
４２　後日、このシメオン部族から出た侵略者たちのうち五百人は、イシュイの子のペラテヤ、ネアルヤ、レファヤ、ウジエルを指導者に立て、セイル山に行きました。　４３セイル山で、アマレク人の残党を滅ぼし、以来、そこに住みついたのです。
五
１　イスラエルの長男はルベンでしたが、彼は父の妻の一人と寝て、父の顔に泥を塗るようなことをしたので、長子の特権は腹違いの弟ヨセフのものになりました。　それで公式の系図には、ルベンが長男として記されていないのです。
２　さて、ヨセフには長子の特権があったものの、イスラエルのうちで最も有力な部族の先祖になったのは、ユダでした。　このユダ部族から、王（キリスト）が出ました。
３　イスラエルの子ルベンの子は
エノク、パル、ヘツロン、カルミ。
４　ヨエルの子孫は、その子シェマヤ、孫ゴグ、曾孫シムイ。
５　シムイの子はミカ、孫はレアヤ、曾孫はバアル。
６　バアルの子はベエラ。　ベエラはルベン部族の長で、アッシリヤの王ティグラテ・ピレセルの捕虜として、連れて行かれました。
７８彼の親族は氏族の長となり、公式の系図に記されています。
エイエル、ゼカリヤ、それにアザズの子、シェマの孫、ヨエルの曾孫のベラ。
これらのルベン人はアロエルに住み、中には、ネボ山やバアル・メオンのような遠くに住む者もいました。
９　ヨエルは家畜を飼っていましたが、ギルアデの地で家畜が増えたので、その放牧地は、東の荒野の入口からユーフラテス川に及びました。
１０　サウルが王の時、ルベン人はハガル人と戦って勝ったので、ギルアデ東部に移り、そこに住むようになりました。　１１ガドの子孫は、ルベン人の真向かいのバシャンに住

み、サルカにまで居住範囲を広げました。
１２　ヨエルが長で、その次にシャファム、そして、ヤナイとシャファテがいました。　１３その一族の七つの氏族の長は、ミカエル、メシュラム、シェバ、ヨライ、ヤカン、ジア、エベルでした。
１４　ブズの子孫は、系図をたどると次のとおりです。
ヤフド↓エシシャイ↓ミカエル↓ギルアデ↓ヤロアハ↓フリ↓アビハイル。
１５　アブディエルの子、グニの孫アヒは、その一族の指導者でした。１６一族は、バシャンの地のギルアデとその周辺、ならびにシャロンの牧草地全域に住んでいました。　１７彼らはみな、ユダの王ヨタムとイスラエルの王ヤロブアムの時代に、公式の系図に載せられました。
１８　ルベン、ガド、マナセの半部族の軍隊のうちに、四万四千七百六十人の、特に訓練された精鋭部隊がいました。　１９彼らはハガル人、エトル人、ナフィシュ人、ノダブ人と戦いました。　２０ひたすら神様に信頼していたので、祈りが聞かれ、ハガル人とその連合軍をみごとに打ち破ることができました。　２１戦利品は、らくだ五万頭、羊二十五万頭、ろば二千頭、捕虜十万人にのぼりました。　２２敵軍の大半は神様を向こうに回して戦い、戦場で倒れたのです。　そこでルベン人は、のちに捕虜としてアッシリヤへ連れ去られるまで、ハガル人の領土に住みました。
２３　マナセの半部族は、このバシャンの地から、バアル・ヘルモン、セニル、ヘルモン山に至る各地に広がり、増えていきました。
２４　その各氏族の長は次のとおり。
エフェル、イシュイ、エリエル、アズリエル、エレミヤ
ホダブヤ、ヤフディエル。
この人たちはみな大勇士で､すぐれた指導者としても知られていました。　２５ところが、彼らは父祖の神様に忠誠を尽くさず、神様が滅ぼした国々の偶像を拝みました。　２６そこで神様は、ティグラテ・ピレセル三世として知られる、アッシリヤの王プルにこの地を侵略させ、ルベン部族とガド部族、それにマナセの半部族を、捕虜として連れ去ることになさいました。　彼らはハラフ、ハボル、ハラ、およびゴザン川に移され、今なお、そこにとどまっています。
六
１　レビの子は
ゲルション、ケハテ、メラリ。
２　ケハテの子は
アムラム、イツハル、ヘブロン、ウジエル。
３　アムラムの子は
アロン、モーセ、ミリヤム。
アロンの子は

ナダブ、アビフ、エルアザル、イタマル。
４‐１５アロンの家系の長男をたどると、
エルアザル↓ピネハス↓アビシュア↓ブキ↓ウジ↓ゼラヘヤ↓メラヨテ↓アマルヤ↓アヒトブ↓ツァドク↓アヒマアツ↓アザルヤ↓ヨハナン↓ソロモンがエルサレムに建てた神殿の大祭司アザルヤ↓アマルヤ↓アヒトブ↓ツァドク↓シャルム↓ヒルキヤ↓アザルヤ↓セラヤ↓神様が、ネブカデネザルの手でユダとエルサレムの住民を捕虜として移された時、捕虜の一人であったエホツァダクへと続きます。
１６　先にあげたように、レビの子は
ゲルショム、ケハテ、メラリ。
１７　ゲルショムの子は
リブニ、シムイ。
１８　ケハテの子は
アムラム、イツハル、ヘブロン、ウジエル。
１９‐２１メラリの子は
マフリ、ムシ。
レビ人の諸氏族は次のとおり。
ゲルショム氏族では
リブニ、ヤハテ、ジマ、ヨアフ、イド、ゼラフ、エオテライ。
２２‐２４ケハテ氏族では
アミナダブ、コラ、アシル、エルカナ、エブヤサフ、アシル、
タハテ、ウリエル、ウジヤ、サウル。
２５‐２７エルカナの氏族は、さらに、子供たちの代に家族に分かれました。
アマサイ、アヒモテ、エルカナ、ツォファイ、ナハテ、
エリアブ、エロハム、エルカナ。
２８　サムエルの氏族の諸家族は、次のサムエルの息子を長としています。
長男ヨエル
次男アビヤ
２９３０メラリの氏族の諸家族は、次のメラリの子孫を長としています。
マフリ、リブニ、シムイ、ウザ、シムア、ハギヤ、アサヤ。
３１　ダビデ王は契約の箱を神の天幕に納めたのち、そこで神様を賛美する合唱隊の指揮者を任命しました。　３２ソロモン王がエルサレムに神殿を建てるまで、合唱隊は神の天幕で勤務していました。
３３‐３８次にあげるのは、合唱隊の指揮者とその家系です。　歌手ヘマンはケハテ氏族の出身で、その系図は順次さかのぼると、次のとおりです。
　ヨエル、サムエル、エルカナ三世、エロハム、エリエル、トアハ、ツフ、エルカナ二世、マハテ、アマサイ、エルカナ一世、ヨエル、アザルヤ、ゼパニヤ、タハテ、アシル、

エブヤサフ、コラ、イツハル、ケハテ、レビ、イスラエル。
３９－４３ヘマンの助手は同僚のアサフで、その系図は順次さかのぼると、次のとおりです。
ベレクヤ、シムア、ミカエル、バアセヤ、マルキヤ、エテニ、ゼラフ、アダヤ、エタン、ジマ、シムイ、ヤハテ、ゲルショム、レビ。
４４－４７ヘマンの第二助手はメラリ氏族の代表エタンで、ヘマンの左側に立ちました。　メラリの家系は順次さかのぼると、次のとおりです。
キシ、アブディ、マルク、ハシャブヤ、アマツヤ、ヒルキヤ、アムツィ、バニ、シェメル、マフリ、ムシ、メラリ、レビ。
４８　そのほかのレビ人は、天幕での各種の奉仕にあたりました。　４９ただし、祭司の務めにあたったのは、アロンとその子孫だけです。　彼らは、完全に焼き尽くすいけにえをささげ、香をたくなど、至聖所のすべての仕事を一手に引き受け、毎年のイスラエル国民の贖いの日には、大役を果たしました。　これらすべてのことは、モーセが命じたとおり、誤りなく行なわれていました。
５０－５３アロンの子孫は次のとおり。
エルアザル↓ピネハス↓アビシュア↓ブキ↓ウジ↓ゼラヘヤ↓メラヨテ↓アマルヤ↓アヒトブ↓ツァドク↓アヒマアツ。
５４　ケハテ氏族に属するアロンの子孫に、くじで割り当てられた町と土地は、次のとおりです。
５５－５７ユダにある避難用の町ヘブロンとその周辺の牧草地。　ただし、畑と町の周辺の村は、エフネの子カレブに与えられました。　５８５９周囲に牧草地のある町は次のとおり。
リブナ、ヤティル、エシュテモア、ヒレズ、デビル
アシャン、ベテ・シェメシュ。
６０　そのほか、ベニヤミン部族からゲバ、アレメテ、アナトテの町と周辺の牧草地が贈られました。　全部で十三の町が、祭司たちに与えられたことになります。　６１ケハテの残りの子孫には、くじ引きで、マナセの半部族の領土にある十の町が与えられました。
６２　ゲルショムの諸氏族には、イッサカル、アシェル、ナフタリ、バシャンに住むマナセの各部族から、くじ引きで、十三の町が与えられました。
６３　メラリの諸氏族は、ルベン、ガド、ゼブルンの各部族から、くじ引きで十二の町が与えられました。
６４６５くじ引きで、ユダ、シメオン、ベニヤミンの各部族からレビ人に与えられる町と牧草地の名が、読み上げられました。
６６－６９エフライム部族は、次の町と周辺の牧草地を、ケハテの諸氏族に与えました。
エフライムの山地にある避難用の町シェケム、ゲゼル
ヨクメアム、ベテ・ホロン、アヤロン、ガテ・リモン。

７０　マナセの半部族は、次の町と周辺の牧草地を、ケハテの諸氏族に与えました。
アネル、イブレアム。
７１　マナセの残りの半部族は､次の町と周辺の牧草地を､ゲルショム氏族に与えました。
バシャンにある避難用の町ゴラン、アシュタロテ。
７２７３イッサカル部族は、ケデシュ、ダベラテ、ラモテ、アネムと周辺の牧草地を、
７４７５アシェル部族は、マシャル、アブドン、フコク、レホブと周辺の牧草地を、
７６　またナフタリ部族は、ガリラヤにあるケデシュ、ハモン、キルヤタイムと周辺の牧草地を、それぞれゲルショム氏族に与えました。
７７　ゼブルン部族は、リモノとタボルをメラリ氏族に与えました。
７８７９ルベン部族は､エリコの対岸のヨルダン川東岸から､荒野の町ベツェル､ヤハツ､ケデモテ、メファアテと周辺の牧草地を、
８０８１ガド部族は、ギルアデにあるラモテ、マハナイム、ヘシュボン、ヤゼルと周辺の牧草地を、それぞれメラリ氏族に与えました。
七
１　イッサカルの子は
トラ、プア、ヤシュブ、シムロン。
２　トラの子は次のとおりで、みな氏族の長となりました。
ウジ、レファヤ、エリエル、ヤフマイ、イブサム、シェムエル。
ダビデ王の時代には､これらの諸氏族出身の勇士は､総計二万二千六百人にのぼりました。
３　ウジの子はイゼラヘヤ。　イゼラヘヤの息子はミカエル、オバデヤ、ヨエル、イシヤなど五人で、みな氏族の長でした。　４彼らはみな数人の妻をめとり、多くの子をもうけたので、その子孫は、ダビデ王の時代には、三万六千の兵力になりました。　５イッサカル部族の全氏族から兵役についた者は、計八万七千で、みな公式の系図に載っている勇士でした。
６　ベニヤミンの子は
ベラ、ベケル、エディアエル。
７　ベラの子は
エツボン、ウジ、ウジエル、エリモテ、イリ。
この五人の勇士は各氏族の長で、公式の系図に載っている兵士二万二千三十四人の指導者でした。
８　ベケルの子は次のとおり。
ゼミラ、ヨアシュ、エリエゼル、エルヨエナイ、オムリ
エレモテ、アビヤ、アナトテ、アレメテ。
９　ダビデ王の時代には、彼らの子孫から出た勇士は、各氏族の長二万二百人に及びました。
１０　エディアエルの子はビルハン。

ビルハンの子は
エウシュ、ベニヤミン、エフデ、ケナアナ、ゼタン
タルシシュ、アヒシャハル。
１１　彼らはみなエディアエルの諸氏族の長となり、その子孫は、ダビデ王の時代に一万七千二百人の勇士となりました。
１２　イルの子はシュピムとフピム。　フシムはアヘルの子の一人でした。
１３　ヤコブのそばめビルハの子ナフタリの子は、
ヤハツィエル、グニ、エツェル、シャルム。
１４　マナセがアラム人のそばめに産ませた子は、アスリエルとギルアデの父のマキル。
１５　マキルは、フピムとシュピムに妻を見つけてやりました。　マキルの妹はマアカ。彼の次男のツェロフハデには、娘しかいませんでした。
１６　マキルの妻もマアカといいましたが、ペレシュという男の子を産みました。　その弟はシェレシュで、ウラムとレケムという二人の子がいました。
１７　ウラムの子はベダン。　以上はギルアデの子、マキルの孫、マナセの曾孫です。
１８　マキルの妹モレケテは、イシュホデ、アビエゼル、マフラを産みました。
１９　シェミダの子はアフヤン、シェケム、リクヒ、アニアム。
２０２１エフライムの子孫は次のとおり。
シュテラフ↓ベレデ↓タハテ↓エルアダ↓タハテ↓ザバデ↓シュテラフ、それにエゼルとエルアデ。
エルアデとエゼルは、ガテで家畜を盗もうとして土地の農夫に見つかり、殺されました。
２２二人の父エフライムは、長いこと喪に服していたので、兄弟たちが彼を慰めました。
２３そののち、エフライムの妻は男の子を産みましたが、悲劇のただ中で生まれたその子を、彼はベリア〔「悲劇」の意〕と名づけました。
２４　エフライムの娘シェエラは、下および上のベテ・ホロン、それにウゼン・シェエラを建てました。
２５‐２７エフライムの息子ベリアの家系は、
レファフ↓レシェフ↓テラフ↓タハン↓ラダン↓アミフデ↓エリシャマ↓ヌン↓ヨシュアと続きます。
２８　彼らは、ベテルとその周辺の村々、東方ではナアラン、西方ではゲゼルと周辺の村々、シェケムと周辺の村々、さらに、アヤと近郊の町々に住んでいました。
２９　イスラエルの子ヨセフの子孫のマナセ部族は、次の町々と周辺の地域を支配していました。
ベテ・シェアン、タナク、メギド、ドル。
３０　アシェルの子は
イムナ、イシュワ、イシュビ、ベリア、姉妹セラフ。
３１　ベリアの子は

ヘベル、ビルザイテの父のマルキエル。
３２　ヘベルの子は
ヤフレテ、ショメル、ホタム、姉妹シュア。
３３　ヤフレテの子は
パサク、ビムハル、アシュワテ。
３４　彼の兄弟ショメルの子は
アヒ、ロフガ、エフバ、アラム。
３５　彼の兄弟ヘレムの子は
ツォファフ、イムナ、シェレシュ、アマル。
３６３７ツォファフの子は
スアハ、ハルネフェル、シュアル、ベリ、イムラ、ベツェル
ホデ、シャマ、シルシャ、イテラン、ベエラ。
３８　エテルの子は
エフネ、ピスパ、アラ。
３９　ウラの子は
アラフ、ハニエル、リツヤ。
４０　これらアシェルの子孫はみな、各氏族の長で、えり抜きの勇士でした。　アシェルの子孫のうち、軍人で公式の系図に載せられた者は二万六千人でした。
八
１２ベニヤミンの子は年齢順にあげると、次のとおり。
長男ベラ
次男アシュベル
三男アフラフ
四男ノハ
五男ラファ
３‐５ベラの子は
アダル、ゲラ、アビフデ、アビシュア、ナアマン、アホアハ
ゲラ、シェフファン、フラム。
６７捕虜となり、マナハテへ移された、ゲバ在住の氏族の長エフデの子は、次のとおり。
　ナアマン、アヒヤ、それにヘグラムとも呼ばれた、ウザとアヒフデの父ゲラ。
８‐１０シャハライムは、妻のフシムとバアラを離縁したのち、再婚した新しい妻ホデシュによって、モアブの地で次の子をもうけました。
ヨバブ、ツィブヤ、メシャ、マルカム、エウツ、サケヤ、ミルマ。
これらの子は、みな一族の長となりました。
１１　シャハライムの先妻フシムは、アビトブとエルパアルを産みました。
１２　エルパアルの子は

エベル、ミシュアム、オノとロデと周辺の村々を建てたシェメデ。
１３　このほか、同じくエルパアルの子ベリアとシェマは、アヤロンに住む氏族の長で、ガテの住民を追い払いました。
１４　エルパアルには、さらに次の子がいます。
アフヨ、シャシャク、エレモテ。
１５１６ベリアの子は
ゼバデヤ、アラデ、エデル、ミカエル、イシュパ、ヨハ。
１７１８エルパアルには、次の子もいます。
ゼバデヤ、メシュラム、ヒズキ、ヘベル、イシュメライ
イズリア、ヨバブ。
１９‐２１シムイの子は次のとおり。
ヤキム、ジクリ、ザブディ、エリエナイ、ツィルタイ
エリエル、アダヤ、ベラヤ、シムラテ。
２２‐２５シャシャクの子は
イシュパン、エベル、エリエル、アブドン、ジクリ、ハナン
ハナヌヤ、エラム、アヌトティヤ、イフデヤ、ペヌエル。
２６２７エロハムの子は
シャムシェライ、シェハルヤ、アタルヤ、ヤアレシュヤ
エリヤ、ジクリ。
２８　彼らは、エルサレムに住む諸氏族の長でした。
２９　ギブオンの父エイエルはギブオンに住み、妻はマアカといいました。　３０‐３２彼の長男はアブドンで、以下、次の子たちが続きます。
ツル、キシュ、バアル、ナダブ、ゲドル、アフヨ、ゼケル、
シムアの父ミクロテ。
この家族は、みなエルサレムの近くに住んでいました。
３３　ネルはキシュの父、キシュはサウルの父。
サウルの子の一部は次のとおり。
ヨナタン、マルキ・シュア、アビナダブ、エシュバアル。
３４　ヨナタンの子はメフィボシェテ。
メフィボシェテの子はミカ。
３５　ミカの子は
ピトン、メレク、タアレア、アハズ。
３６　アハズはエホアダの父。
エホアダは次の子たちの父。
アレメテ、アズマベテ、ジムリ。
ジムリの子はモツァ。

３７　モツァはビヌアの父。
ビヌアの子孫はラファ、エルアサ、アツェル。
３８　アツェルの六人の子は
アズリカム、ボクル、イシュマエル、シェアルヤ、オバデヤ
ハナン。
３９　アツェルの兄弟エシェクには、次の三人の子がいました。
長男ウラム
次男エウシュ
三男エリフェレテ
４０　ウラムの子は、みなベニヤミン部族に属し、弓の名手として評判が高く、百五十人の子と孫がいました。
九
１　イスラエル国民の系図は、一人ももらさず、『イスラエル諸王の年代記』に載っています。
ユダの国民は、偶像礼拝の罪のため、バビロンに捕虜として連れ去られました。
２　以前に住んでいた町へ最初に帰ったのは、イスラエルの諸部族の家族、祭司、レビ人、それに神殿奉仕者でした。
３　ユダ、ベニヤミン、エフライム、マナセの各部族に属する家族は、エルサレムへ帰りました。
４　その中に、ユダの子ペレツ氏族のウタイの家族がいました。　ウタイは、アミフデの子、順次さかのぼってオムリの子、イムリの子、バニの子。
５　シェラ人も、帰って来た家族の一つで、シェラの長男アサヤと子孫が含まれていました。　６そのほか、エウエルとその同族六百九十人を含む、ゼラフの子孫もいました。
７８ベニヤミン部族の帰還者の中に、次の者がいます。
セヌアの子ホダブヤの子メシュラムの子にあたるサル
エロハムの子イブネヤ
ウジの子で、ミクリの孫エラ
シェファテヤの子で、レウレルの孫、イブニヤの曾孫にあたるメ
シュラ
９　彼らはみな家族の長でした。　総勢九百五十六人のベニヤミン人が帰って来たことになります。
１０１１帰って来た祭司は次のとおり。
　エダヤ、エホヤリブ、ヤキン、神殿の護衛長のアザルヤ。　アザルヤはヒルキヤの子で、順次さかのぼってメシュラムの子、ツァドクの子、メラヨテの子、アヒトブの子。
１２　祭司ではほかに、エロハムの子で、パシュフルの孫、マルキヤの曾孫にあたるアダヤ。

また、アディエルの子マサイ。　さらに順次さかのぼると、アディエルはヤフゼラの子、メシュラムの子、メシレミテの子、イメルの子。
１３　総勢千七百六十人の祭司が帰って来ました。
１４　帰って来たレビ人の中に、シェマヤがいました。　このシェマヤは、メラリの子孫ハシャブヤの曾孫、アズリカムの孫、ハシュブの子です。
１５１６レビ人ではほかに、次の者がいます。
　バクバカル、ヘレシュ、ガラル、アサフの子ジクリの子ミカの子マタヌヤ、エドトンの子ガラルの子シェマヤの子オバデヤ、ネトファ人の村に住んでいたエルカナの子アサの子ベレクヤ。
１７１８門衛はみなレビ人で、長のシャルムはじめ、アクブ、タルモン、アヒマンがいました。　シャルムは今でも、東方にある王の門を守っています。　１９シャルムの家系は、順次さかのぼってコレ、エブヤサフ、コラに至ります。　彼と親族のコラ人は、いけにえをささげる仕事や、先祖が神の天幕の管理と警備にあたっていたように、聖所を守る務めにつきました。　２０昔は、エルアザルの子ピネハスが、この役目の最初の長でした。　神様がピネハスとともにおられたからです。
２１　当時、メシェレムヤの子ゼカリヤが、天幕の入口の警備についていました。　２２このとき門衛として選ばれた人々は、二百十二人です。　この人々は、系図をもとに村々から選び出され、誠実さを買われて、ダビデ王とサムエルによって任命されたのです。　２３２４彼らとその子孫は、天幕の管理と警備のため、東西南北の四方面で部署につきました。　２５彼らの村の同族の者たちが、一週間交替で、それぞれの仕事にあたりました。
２６　四人の門衛の長はみなレビ人で、神の宮にある特別な部屋や宝物倉を管理するという、特に重要な任務を与えられました。　２７そのため、彼らは宮の近くに住み、毎朝、門を開けました。　２８彼らのうちのある者は、いけにえをささげるのに用いる各種の器具の管理にあたり、その出し入れの時、いちいち数を調べ、点検しました。　２９またある者は、聖所の中にある器具や調度の管理、小麦粉、ぶどう酒、香油、香料などの供給の任にあたりました。
３０　ほかの祭司たちは、香料と香油を調合しました。
３１　レビ人で、コラ人シャルムの長男マティテヤは、穀物のささげ物で平たいパンを焼く仕事をしました。
３２　ケハテ氏族のある者は、安息日ごとに並べ替える、特別なパンを用意しました。
３３３４歌手たちは、みな優秀なレビ人で、エルサレムの宮に住み、四六時中、その仕事につきました。　彼らは特に選ばれた者たちで、ほかの責任はいっさい免除されていました。
３５－３７キブオンの父エイエルはギブオンに住み、妻はマアカといいました。　彼は子だくさんでしたが、その中に次の者がいました。
長男アブドン、ツル、キシュ、バアル、ネル

ナダブ、ゲドル、アフヨ、ゼカリヤ、ミクロテ。
３８　ミクロテは息子のシムアムとともにエルサレムに住み、親族の近くにいました。
３９　ネルはキシュの父。
キシュはサウルの父。
　サウルはヨナタン、マルキ・シュア、アビナダブ、エシュバアルの父。
４０　ヨナタンはメフィボシェテの父。
メフィボシェテはミカの父。
４１　ミカはピトン、メレク、タフレア、アハズの父。
４２　アハズはヤラの父。
ヤラはアレメテ、アズマベテ、ジムリの父。
ジムリはモツァの父。
４３　モツァはビヌア、レファヤ、エルアサ、アツェルの父祖。
４４　アツェルの六人の子は次のとおり。
アズリカム、ボクル、イシュマエル、シェアルヤ、オバデヤ
ハナン。
一〇
１　さて、ペリシテ人はイスラエル軍を攻めて打ち破りました。　敗走したイスラエル軍は、ギルボア山のふもとで殺されたのです。　２ペリシテ人は、サウル王と三人の息子ヨナタン、アビナダブ、マルキ・シュアに追いつき、四人とも討ち取りました。　３サウル王は、ペリシテ人の射手たちに囲まれて激しくねらい撃ちされ、深手を負ったのです。
４　王は、苦しい息の下から、そばにいたよろい持ちをせき立てました。　「さあ、おまえの剣でわしを殺してくれ。　あの割礼（男子が生まれて八日目にその生殖器の包皮を切り取る儀式）も受けていない連中に捕まって、なぶり者にされたくないのだ。」
しかし、よろい持ちは恐ろしくて手が出せません。　そこで王は、剣を取り、その上にうつぶせに倒れて自害したのです。　５よろい持ちは、王の死を見届けると、同じように自害しました。　６こうして、サウル王と三人の息子は、みな討ち死にし、彼の全家は一日のうちに滅び去ったのです。
７　山の下の谷にいたイスラエル軍は、味方が総くずれとなり、王と王子たちが戦死したと聞くと、町を捨てて逃げ出しました。　以来、ペリシテ人がその町々に住むようになったのです。　８翌日、ペリシテ人が遺体からめぼしいものをはぎ取り、あたりに散らばっている戦利品を集めようと引き返して来た時､サウル王と息子たちの死体を見つけました。
９さっそく王の武具をはぎ取り、首をはねたことは、言うまでもありません。　その首を自分たちの国へ持ち帰って見せ物とし、偶像の前で勝利を祝いました。　１０武具は神々の宮の壁に取りつけ、首はダゴンの宮の壁にさらしものとしたのです。
１１　ヤベシュ・ギルアデの人々は、ペリシテ人がサウル王の首をさらしたことを聞きました。　１２彼らのうちの勇士は、行って王と三人の王子の死体を取り返し、ヤベシュに

ある樫の木の下に葬り、七日のあいだ断食して喪に服しました。
１３　サウル王は、神様に不従順であったために死んだのです。　王は霊媒にうかがいを立て、　１４神様の導きを求めようとしませんでした。それで、神様は王を殺し、国をエッサイの子ダビデにお与えになったのです。
一一
１　イスラエルの指導者たちは、ヘブロンにいるダビデのところへ行き、こう申し出ました。　「私たちはあなた様の身内です。　２サウルが王であった時でも、私たちを率いて戦場に行き、安全に連れ戻してくださったのは、ほかでもない、あなた様でした。　神様は、『おまえがわたしの国民イスラエルの牧者となり、王となるのだ』と仰せになったではありませんか。」
３　ダビデは神様の前で、彼らと契約を結びました。　彼らは、神様がサムエルに告げたとおり、ダビデに油を注いでイスラエルの王としたのです。　４ダビデ王とイスラエルの指導者たちは、エブスとも呼ばれていたエルサレムへ行きました。　そこには、原住民のエブス人が住んでいました。　５６エブス人は、一行が町に入ることを断わったので、王はシオンの要塞を占領しました。　この要塞が、のちにダビデの町と呼ばれるようになったのです。　その時、王はイスラエルの指導者に、「真っ先にエブス人を殺した者を、最高司令官にするぞ！」と約束しました。　ツェルヤの子ヨアブが真っ先にエブス人を殺し、ダビデの軍隊の将軍になりました。　７以来、ダビデ王はこの要塞に住みついたので、エルサレムのこの一角が、ダビデの町と呼ばれるのです。　８王は要塞の周辺まで町を広げましたが、残りの部分を再建したのはヨアブです。　９神様が共におられたので、ダビデ王の名声は高まり、いよいよ勢力を増していきました。
１０　次に、ダビデ王の勇士の中で最も勇敢であった人々を紹介しましょう。　この面々は、神様の命令どおり、イスラエルの指導者たちを助けて、ダビデをイスラエルの王としました。
１１　まず、ハクモニ人の子ヤショブアムは、三大勇士の筆頭でした。彼は、一度に槍で三百人を殺したことがあります。
１２　三大勇士の第二は、アホアハ氏族に属するドドの子エルアザルです。　１３彼はペリシテ人と戦った時、王とともにパス・ダミムにいました。　大麦畑に隠れていたイスラエル軍が逃げ出そうとした時、１４最後まで踏みとどまり、とうとう味方を立ち直らせ、ペリシテ人を殺しました。　こうして神様は、イスラエルに大勝利をもたらしてくださったのです。
１５　ある時、三十人勇士のうちのこの三人は、アドラムのほら穴に身をひそめていたダビデ王のもとに来ました。　ペリシテ人はレファイムの谷に陣を張っていましたが、　１６その時、ダビデ王は要害にいたのです。　ペリシテ人の前哨部隊はベツレヘムを占領していました。　１７ふと王が、ベツレヘムの門の中にある井戸の水を飲みたいと、家来にもらした時、　１８１９この三人がペリシテ人の陣営を突き抜け、井戸の水をくみ、王の

ところへ持ち帰ったのです。　ところが王は、その水を飲もうとしないばかりか、それを神様へのささげ物として注ぎかけ、こう言いました。　「これはとても飲めん。　いのちをかけて運んで来た、三人の勇士の血に等しいものだ。」
２０　ヨアブの兄弟アブシャイは、三十人勇士の指揮官でした。　彼は、一度に槍で三百人を殺し、三十人勇士の仲間に入りました。　２１その評判は三十人勇士のうち第一でしたが、三大勇士には及びませんでした。
２２　カブツェエル出身の大勇士を父に持つベナヤは、名うてのモアブの巨人二人を殺しました。　また、雪の降る日に、すべりやすい穴に降りて行き、ライオンをしとめました。２３ある時などは、機織棒のように太い槍を持った、身長二メートル半もあるエジプト人を殺しました。　そのとき彼は、たった一本の杖を手に、相手に近づき、ひったくった槍で刺し殺したのです。　２４２５ベナヤは三大勇士と同じくらい有名で、三十人勇士の中でも、特に高い評判を得ていました。　王は彼を護衛隊長にしました。
２６－４７ダビデ王の家来で有名な勇士は次のとおり。
ヨアブの兄弟のアサエル
ベツレヘム出身のドドの子エルハナン
ハロリ出身のシャモテ
ペロニ出身のヘレツ
テコア出身のイケシュの子のイラ
アナトテ出身のアビエゼル
フシャ出身のシベカイ
アホアハ出身のイライ
ネトファ出身のマフライ
ネトファ出身のバアナの子ヘレデ
ギブア出身のベニヤミン族で、リバイの子のイタイ
ピルアトン出身のベナヤ
ガアシュの川のほとり出身のフライ
アラバ出身のアビエル
バハルム出身のアズマベテ
シャアルビム出身のエルヤフバ
ギゾ出身のハシェムの子たち
ハラル出身のシャゲの子ヨナタン
ハラル出身のサカルの子アヒアム
ウルの子エリファル
メケラ出身のヘフェル
ペロニ出身のアヒヤ
カルメル出身のヘツロ

エズバイの子ナアライ
ナタンの兄弟ヨエル
ハグリの子ミブハル
アモン出身のツェレク
ヨアブ将軍のよろい持ちで、ベロテ出身のナフライ
エテル出身のイラ
エテル出身のガレブ
ヘテ人ウリヤ
アフライの子ザバデ
ルベン部族の指導者三十一人に加わっていた、シザの子アディナ
マアカの子ハナン
ミテニ出身のヨシャパテ
アシュタロテ出身のウジヤ
ホタムの子で、アロエル出身のシャマとエイエル
シムリの子エディアエル
エディアエルの兄弟でティツ出身のヨハ
マハビム出身のエリエル
エルナアムの子エリバイとヨシャブヤ
モアブ出身のイテマ
エリエル
オベデ
メツォバヤ出身のヤアシエル
一二
１　次に、サウル王を避け、ツィケラグに逃げていたダビデのもとに、馳せ参じた勇士たちを紹介しましょう。　２彼らはみな右手も左手も同じように使うことができ、弓と石投げの名手で、サウル王のように、ベニヤミン部族の出身でした。
３‐７彼らの長はギブア出身のシェマアの子アヒエゼルで､その他の者は次のとおりです。
　アヒエゼルの兄弟ヨアシュ、アズマベテの子のエジエルとペレテ、ベラカ、アナトテ出身のエフー、三十人勇士よりも評判の高かったギブオン出身のイシュマヤ、エレミヤ、ヤハジエル、ヨハナン、ゲデラ出身のエホザバデ、エルウザイ、エリモテ、ベアルヤ、シェマルヤ、ハリフ出身のシェファテヤ、エルカナ、イシヤ、アザルエル、ヨエゼル、ヤショブアム。 以上はコラ人です。 それにゲドル出身のエロハムの子のヨエラとゼバデヤ。
８‐１３ガド部族で評判の勇士たちも、荒野にいるダビデのもとへ集まりました。　彼らは盾と槍の名手で、「かもしかのように足が速く、しかもライオンのような顔をした人々」でした。
その長はエゼル

第二はオバデヤ
第三はエリアブ
第四はミシュマナ
第五はエレミヤ
第六はアタイ
第七はエリエル
第八はヨハナン
第九はエルザバデ
第十はエレミヤ
第十一はマクバナイ
１４　彼らは軍の司令官で、いちばん弱い者でも普通の兵士百人に匹敵し、強い者ともなると千人にも匹敵しました。　１５彼らはヨルダン川の水があふれる時に川を渡って、両岸の低地を占領したことがあります。
１６　ほかに、ベニヤミンとユダの各部族からも、ダビデのもとへ集まった人々があります。　１７ダビデは彼らを迎えに出て言いました。「私を助けに来てくれたのなら、私たちはこれから友人だ。　しかし、もし罪のない私を敵に売り渡すために来たのなら、ご先祖の神様が報復してくださるように。」
１８　そのとき聖霊が彼らに臨み、三十人勇士の一人アマサイが答えました。
「ダビデ様。　私たちは味方です。
エッサイの子よ。　私たちは家来になります。
あなた様と、あなた様を助けるすべての者に、
平安がありますように。
神様が共におられるからです。」
ダビデは彼らを味方に加え、隊長に取り立てました。
１９　マナセ部族出身の幾人かも、ダビデがペリシテ人の仲間になって、サウル王との戦いに出て行った時、イスラエル軍を離れてダビデのもとへ参じました。　ところが、いざという時になって、ペリシテ人の将軍たちは、ダビデの部隊が戦闘に加わることを拒んだのです。　激論の末、ペリシテ人はダビデの部隊を送り返しました。　ダビデとその部下がサウル王に寝返って、自分たちを窮地に陥れるのではないか、と恐れたからです。
２０　ダビデがツィケラグへの道を進んでいた時、彼を頼って来たマナセ部族の面々は、次のとおりです。
アデナフ、エホザバデ、エディアエル、ミカエル
エホザバデ、エリフ、ツィルタイ。
みなマナセ部隊の指揮官でした。　２１すぐれた勇士ばかりで、ダビデを助けて、ツィケラグでアマレクの略奪隊と戦いました。
２２　ほとんど毎日のように人々が集まって来たので、ダビデの軍隊は、神の軍隊のよう

に強大になりました。　２３ヘブロンでダビデのもとに集まった人々はみな、神様のお告げどおり、ダビデがサウルに代わって王になることを願っていました。　その数は次のとおりです。
２４‐３７ユダ部族から、盾と槍で武装した兵士六千八百人。
シメオン部族から、すぐれた勇士七千百人。
レビ人から、四千六百人。
アロンの子孫である祭司から、エホヤダと勇気ある若者ツァドクに率いられた三千七百人。　ツァドクとその一族の二十二人は、戦う祭司団の指揮官でした。
サウルの属していたベニヤミン部族から、三千人。　この部族の大多数は、サウルについていました。
エフライム部族から、各氏族での名門の勇士二万八百人。
マナセの半部族から、ダビデを王とするために馳せ参じた一万八千人。
イッサカル部族から、部族の指導者が二百人。　彼らはみな時代の流れに通じ、イスラエルの進むべき最善の道を知っていました。
ゼブルン部族から、訓練された勇士五万人。　彼らは完全に武装し、心からダビデに仕えました。
ナフタリ部族から、千人の指揮官と、盾と槍で武装した兵士三万七千人。
ダン部族から、戦いの備えをした兵士二万八千六百人。
アシェル部族から、訓練された兵士四万人。
ルベンとガドの各部族、それにマナセの半部族が住んでいたヨルダン川の東側から、あらゆる種類の武器を備えた兵士十二万人。
３８　これらの戦士たちは、ダビデをイスラエルの王にする目的で、ヘブロンへ集まりました。　実のところ、イスラエル国民のすべてが、ダビデが新しい王になることを望んでいたのです。　３９すでに迎えの準備が整っていたので、彼らは三日間ダビデとともに宴を張り、飲み食いしました。　４０近くから来た者も、イッサカル、ゼブルン、ナフタリのように遠くから来た者も、ろば、らくだ、らば、牛などで食物を運んで来ました。　小麦粉、干しいちじくの菓子、干しぶどう、ぶどう酒、油、牛、羊などが山ほど、この祝宴のために運ばれました。国中が喜びにわきかえっていたのです。
一三
１　ダビデは隊長全員を集めて会議を開いてから、　２イスラエルの全集団に、次のように呼びかけました。
「あなたがたが私を王にすることを願い、また、神様がそれを承認してくださるなら、イスラエル全土にいる同胞に、祭司やレビ人も含めて、すぐここへ集まれと伝えよう。　３

それから、神の箱を持ち帰ろう。　なにしろ、サウルが王となってからは、ずっとほったらかしにしてあるからだ。」
４　提案は満場一致で採択されました。　５そこでダビデは、キルヤテ・エアリムから運び出される神の箱を迎えるために、エジプトのシホルからレボ・ハマテに至るまでの、全イスラエル国民を召集したのです。
６　ダビデとイスラエル全国民は、ケルビム（天使を象徴する像）の上に座しておられる神様の箱を持ち帰ろうと、別名バアラともいう、ユダのキルヤテ・エアリムへ行きました。
７神の箱はアビナダブの家から運び出され、ウザとアフヨが御する、真新しい牛車に載せられました。　８ダビデと全国民は、歌をうたい、琴、竪琴、タンバリン、シンバル、ラッパを鳴らし、力のかぎり神様の前で踊りました。　９ところが、キドンの打ち場まで来た時、牛がつまずいたのです。　ウザは思わず手を伸ばし、箱を押さえました。　１０たちまち、神様の怒りが燃え上がり、ウザはその場に倒れました。　箱に触れたので、神様に殺されたのです。　１１ダビデは、この仕打ちを見て腹を立て、その場所を「ウザ殺し」と名づけました。　今でもそう呼ばれています。
１２　あまりのことに、ダビデは神様がこわくなって、「神の箱を運ぶことなど、とてもできない」と言いました。
１３　とうとう箱をダビデの町に持ち帰ることをあきらめ、ガテ人オベデ・エドムの家に置くことにしました。　１４箱は、三か月間オベデ・エドムの家に置かれていました。　その間中、神様はオベデ・エドムとその家族を祝福なさいました。
一四
１　ツロの王ヒラムは、ダビデの宮殿の建築を助けようと、石工や大工を送り、たくさんの杉材を提供しました。　２ダビデは、神様がなぜ彼を王とし、王国を強大にしてくださったのか、その理由がはっきりわかりました。　神様の国民に喜びを与えるためだったのです。３　ダビデはエルサレムに移ってから、さらに妻をめとり、たくさんの息子や娘をもうけました。
４‐７エルサレムで生まれた子は次のとおりです。
シャムア、ショバブ、ナタン、ソロモン、イブハル
エリシュア、エルペレテ、ノガハ、ネフェグ、ヤフィア
エリシャマ、ベエルヤダ、エリフェレテ。
８　ペリシテ人は、ダビデがイスラエルの新しい王になったと聞くと、なんとかして彼を捕まえようと兵を集めました。　一方ダビデも、ペリシテ人の来襲を事前に知り、軍隊を召集したのです。　９ペリシテ人はレファイムの谷に侵入しました。　１０それを知ったダビデは、神様にうかがいを立てました。　「出て行って戦ったら、勝てるでしょうか。」神様は、「よろしい。　勝利を与えよう」とお答えになりました。
１１　そこでダビデは、バアル・ペラツィムで攻撃をしかけ、敵を全滅させました。　「神様は、水がダムからどっと流れ出るように、敵を打ち破ってくださった！」と、彼は高ら

かに歌いました。　そういうわけで、そこは、バアル・ペラツィム〔「破れの場所」の意〕と呼ばれるようになりました。
１２　戦いのあと、イスラエル軍は、ペリシテ人が置き去りにして行った偶像を、たくさん拾い集めました。　ダビデは、それを焼き捨てるよう命じました。
１３　そののち、ペリシテ人は再びレファイムの谷に侵入しました。１４この時もダビデは、どのようにすべきか、神様にうかがいを立てたのです。
神様はこうお答えになりました。　「バルサムの木を回って行き、そこから攻めよ。　１５バルサムの木の上から行進の音が聞こえたら、それを合図に攻めるのだ。　わたしがおまえの先に立って進み、敵を滅ぼすからだ。」
１６　ダビデは命じられたとおりにしました。 こうしてギブオンからゲゼルまでの間で、ペリシテ軍を破ったのです。　１７神様は、ダビデを恐れる心を、周囲の全国民に植えつけたので、ダビデの名声は各地に広まりました。
★★★★★LIVI0021,A000,G001,00437,00002
一五
１　ダビデはエルサレムに、幾つかの邸宅を建て、神の箱を安置する新しい天幕を張りました。　２それから、次のように命じたのです。「神の箱を新しい場所に移す時、レビ人以外は箱をかついではならん。　そのためにこそレビ人は選ばれたのだ。　だから彼らは、いつまでも神様にお仕えすべきだ。」
３　ダビデは、全イスラエルをエルサレムに召集し、神の箱が新しい天幕に移されたことを祝いました。　４‐１０そのとき集まった祭司とレビ人は、次のとおりです。
ケハテ氏族――百二十人――指導者ウリエル
メラリ氏族――二百二十人――指導者アサヤ
ゲルショム氏族――百三十人――指導者ヨエル
エリツァファン氏族――二百人――指導者シェマヤ
ヘブロン氏族――八十人――指導者エリエル
ウジエル氏族――百十二人――指導者アミナダブ
１１　ダビデは大祭司ツァドクとエブヤタル、それにレビ人の指導者ウリエル、アサヤ、ヨエル、シェマヤ、エリエル、アミナダブを呼び、１２こう言いました。　「おまえたちはレビ人の諸氏族の指導者だ。　レビ人全員が身をきよめ、イスラエルの神様の箱を、わしがあらかじめ準備した場所に運べ。　１３前に神様がお怒りになったのは、おまえたちに運ばせず、定められたとおりにしなかったからだ。」
１４　祭司とレビ人は、神の箱を運び入れるのに先立って、きよめの儀式を受けました。１５それからレビ人は、神様がモーセに命じたとおり、箱をかつぎ棒でかついだのです。
１６　ダビデ王は、レビ人の指導者たちに命じて、楽器の伴奏つきの合唱隊を組織させました。　十弦の琴、竪琴、シンバルを打ち鳴らし、喜びの声をあげて歌うのです。　１７ヨエルの子ヘマン、ベレクヤの子アサフ、メラリ氏族出身のクシャヤの子エタンが、音楽

隊の指揮者に任命されました。
１８　以下は、彼らの補佐に選ばれた者です。
ゼカリヤ、ベン、ヤアジエル、シェミラモテ、エヒエル、ウニ
エリアブ、ベナヤ、マアセヤ、マティテヤ、エリフェレフ
ミクネヤ、門衛オベデ・エドムとエイエル。
１９　ヘマン、アサフ、エタンは、青銅のシンバルを鳴らしました。２０ゼカリヤ、アジエル、シェミラモテ、エヒエル、ウニ、エリアブ、マアセヤ、ベナヤは、琴の八重奏団を編成しました。　２１マティテヤ、エリフェレフ、ミクネヤ、オベデ・エドム、エイエル、アザズヤは、竪琴をひきました。　２２歌の指揮者は、その道に通じているレビ人の長ケナヌヤでした。　２３ベレクヤとエルカナは、神の箱の警護にあたりました。　２４祭司のシェバヌヤ、ヨシャパテ、ネタヌエル、アマサイ、ゼカリヤ、ベナヤ、エリエゼルは、行進の先頭に立ってラッパを吹き鳴らす役につきました。　オベデ・エドムとエヒヤは、箱の警護にあたりました。
２５　こうして、王をはじめイスラエルの長老と将校たちは、神の箱をエルサレムに運ぼうと、喜び勇んでオベデ・エドムの家へ行きました。　２６今度は、箱をかついだレビ人は何の害も受けなかったので、雄牛と子羊を七頭ずついけにえとしてささげました。　２７ダビデと箱をかつぐレビ人、合唱隊員と指揮者ケナヌヤは、みなリンネルの衣を着ていました。　ダビデはさらに、リンネルのエポデを着ていました。　２８こうしてイスラエルの指導者たちは、大歓声があがり、角笛とラッパが響き、シンバルが鳴り、琴や竪琴が高らかにかなでられる中で、神の箱をエルサレムへ運んだのです。
２９　箱がエルサレムに到着した時、サウル王の娘でダビデの妻となったミカルは、窓からそのさまを見下ろしていました。　そして、気違いのように踊りまくるダビデが、ばかに見えてしかたありませんでした。
一六
１　こうして神の箱は、ダビデ王があらかじめ用意しておいた天幕に運び込まれました。イスラエルの指導者たちは、神様の前に、完全に焼き尽くすいけにえと和解のいけにえをささげました。　２いけにえをささげ終わると、王は神様の名によって国民を祝福し、　３集まっていた全員に、パンとぶどう酒と干しぶどうの菓子を配りました。
４　王はまた、レビ人の中から、神の箱の前で仕える者を選びました。　イスラエルの神様を絶えず覚えて感謝し、ほめたたえさせ、一方では、国民への祝福を絶えず祈り求めるようにさせたのです。　この務めに任じられたのは次の人々です。　５責任者はアサフで、シンバルを鳴らしました。　以下、ゼカリヤ、エイエル、シェミラモテ、エヒエル、マティテヤ、エリアブ、ベナヤ、オベデ・エドム、エイエルで、みな琴と竪琴をひきました。６祭司のベナヤとヤハジエルは、神の箱の前で、決まった時間にラッパを吹き鳴らしました。
７　この時から、ダビデ王は、アサフの指揮する祭司の合唱隊に、天幕で神様を賛美させ

ることにしたのです。
８　彼らは次のように歌いました。
「さあ、神様に感謝し、神様に祈れ。
世界の人々に、偉大なみわざを伝えよ。
９　神様をたたえ、そのみわざを告げ知らせよ。
１０　神様の聖なる名を誇れ。
神様を慕い求める者すべてを喜ばせよ。
１１　神様とその御力とを尋ね求めよ。
絶えず御顔を慕い求めよ。
１２１３神様のしもべアブラハムの子孫よ。
神様に選ばれたヤコブの子らよ。
偉大なみわざと、驚くべき奇蹟と御力とを思い起こせ。
１４　このお方こそ、私たちの神様だ！
その御力は全世界に行き渡る。
１５　神様の契約を、いつまでも忘れるな。
その命令は千代にも及ぶ。
１６　神様はアブラハムと契約を結び、
イサクに誓いをお立てになった。
１７　ヤコブにも、祝福すると念を押された。
神様はイスラエルに、
１８　『おまえたちの相続地として、
カナンの地を永久に与える』と約束なさった。
１９　その時、イスラエルの数はごくわずかで、
しかも、約束の地では外国人であった。
２０　彼らは国から国へと、渡り歩いた。
２１　神様はだれにも手を出すことを許さず、
彼らを害する者は、たとい王でも殺された。
２２　『わたしが選んだ国民を害するな。
わたしの預言者だから、さわってはいけない。』
２３　全地よ、神様に歌え。
日ごとに、神様が救い主であることを宣べよ。
２４　神様の栄光を国々に知らせ、
すばらしいみわざを、すべての人に語り告げよ。
２５　神様は偉大で、高らかにほめたたえられるべきお方、
すべての神々にまさって恐れかしこまれるべきお方だ。
２６　神々と呼ばれるものは、みな悪霊だ。

神様こそが天をお造りになった。
２７　尊厳と栄誉は神様の前を進み、
力と歓喜は神様のそばを歩む。
２８　国々の民よ、
神様の大いなる力と栄光とをたたえよ。
２９御名にふさわしく、ほめたたえよ。
ささげ物を携えて、御前に出、
聖なる衣を着けて、神様を礼拝せよ。
３０　全地よ、神様の前におののけ。
世界はびくとも動じない。
３１　天は喜び、地は楽しめ。
全世界の国民は、『神様が世界の王だ』と言え。
３２　大海は鳴りとどろけ。
野とその中にあるものは喜び踊れ。
３３　森の木々も、神様の前で喜び歌え。
神様が地をさばきに来られるからだ。
３４　神様に感謝せよ。
その恵みは深く、愛といつくしみは限りない。
３５　神様に叫べ。
『私たちの神様、どうかお救いください。
私たちを国々から呼び集め、
安らかに連れ戻してください。
そうすれば、神様の聖い御名に感謝し、
声の限りにほめたたえます。』
３６　イスラエルの神様は、永遠にほむべきかな。」
この歌に全国民は「アーメン」と和し、神様をほめたたえました。
３７　ダビデ王は、レビ人のアサフと同僚たちを、神の天幕で仕えさせ、毎日の日課として決められていたことを、規則正しく行なわせました。３８この中には、エドトンの子オベデ・エドム、ホサ、同じ門衛の六十八人が含まれていました。
３９　一方、ギブオンの丘にある古い天幕も、そのままになっていました。　王は、祭司ツァドクと仲間の祭司たちを、そこの天幕で神様に仕えさせました。　４０彼らは、神様の命令どおり、毎朝毎夕、完全に焼き尽くすいけにえを、祭壇の上で神様にささげました。４１王はまた、絶えず注がれる愛と恵みを覚えて感謝をささげる務めに、ヘマンとエドトンをはじめ数人の者を指名しました。　４２彼らはラッパを吹き、シンバルを鳴らし、合唱隊に合わせて、声高らかに神様をほめたたえました。　エドトンの息子たちは門衛に任じられました。

４３　こうして祝いも終わり、国民はそれぞれ家へ帰ったので、王も家族を祝福するために戻りました。
一七
１　新しい宮殿に住むようになってから、しばらくして、ダビデ王は預言者ナタンに言いました。　「わしがりっぱな家に住んでいるというのに、恐れおおくも神の契約の箱は、今なお天幕に置かれたままだ。」
２　「陛下のお考えどおりなさったらよろしいかと存じます。　神様もそれをお望みでございましょう。」
３　ところが、その夜、ナタンに神様のお告げがあったのです。　４「ダビデに言いなさい。　『神殿を建ててはならない。　５わたしは、イスラエルをエジプトから連れ出した日から、ずっと天幕を住まいとしてきた。　６そのあいだ一度も、わたしの国民を養い育てる牧者として任命した指導者の一人にでも、わたしのために神殿を建てよ、と言った覚えはない。』
７　ダビデに伝えよ。　『天地の支配者であるわたしが言うのだ。わたしは、羊飼いのおまえを選んで、イスラエルの王とした。　８おまえがどこへ行っても、共にいて、おまえの敵を滅ぼした。　おまえに世界最高の名声を与えよう。　９わたしの国民イスラエルには、永遠の住まいを与えるので、二度と不安におののくことはない。　悪い国々も、以前のように手出しはできない。　１０士師（王国設立までの軍事的・政治的指導者）が国を治めていたころは、絶えず外敵におびえていたが、今は、すべての敵を滅ぼす。　おまえの子孫を、おまえ同様イスラエルの王にすると、はっきり言っておく。
１１　おまえが地上の生涯を終え、この世を去る時、おまえの息子を王座につかせ、王国をいっそう強固にする。　１２その息子が神殿を建て　るのだ。　わたしは彼の家系と王座を、永久に不動のものとする。１３わたしは彼の父となり、彼はわたしの子となる。　サウルの場合のように、恵みと愛を取り去るようなことはしない。　１４いつまでも彼を、わたしの国民とイスラエル王国の上に立てる。　彼の子孫がいつも王となるのだ。』」
１５　ナタンは、お告げをすべて王に伝えました。
１６　そこで、王は天幕に入り、神様の前に座って、こう申し上げました。　「ああ、神様。　私がいったい何者で、家柄がどうだというので、こんなにまでしてくださるのですか。　１７これまで私にしてくださったどんな大きなことも、これからすると約束してくださったことに比べれば、取るに足りません。　ああ、神様。　いま神様は、将来にわたって私の子孫が王になる、と約束してくださいました。　まるで私がたいへんな功労者ででもあるかのように、語ってくださいました。　１８この上、何を申し上げられましょう。私が犬畜生にすぎないことをご存じの上で、私に名誉をお与えになりました。　１９私を深　く思いやり、このようなすばらしい約束をお与えになったのです。　２０神様のようなお方はほかになく、神様のほかに神はありません。　あなた様のような神がほかにいることなど、一度も耳にしたことがありません。

２１　地上のどの国民が、イスラエルに比べられましょう。　神様は比類のない国民をつくろうと、私たちをエジプトから連れ出し、神様の国民となさいました。　また、私たちの前から他の国々を追い払うために、数々の奇蹟を行なって、御名を大いにあげられました。　２２こうして、神様の国民イスラエルがいつまでも神様のものであり、あなた様が私たちの神となられたことを、証明してくださったのです。
２３　神様。ここに私は､私と私の子孫がいつまでもこの国民を治めるというお約束を､謹んでお受けいたします。　２４どうか、このことによって、御名が永遠にあがめられますように。　すべての人が、神様はいったん約束したことを必ず実行なさる方であることを、知ることができますように。　そうすれば、人々は､『天地を支配なさるお方は、イスラエルの神様のほかにない』と告白するようになります。また、イスラエルは、いつまでも私の子孫が治めるようになります。２５このことをはっきり示してくださったので、大胆に祈ることができました。　２６このすばらしい約束を下さったのは､神様ご自身です。２７どうか、この祝福が、いつまでも私の子孫の上にとどまりますように。　神様の祝福は永遠の祝福にほかならないからです｡」
一八
１　ダビデ王はついにペリシテ人を征服し、ガテと周辺の町々を占領しました。　２次いでモアブをも征服したので、モアブの国民は、毎年、多額の貢物を納めるようになりました。　３ツォバの王ハダデエゼルがユーフラテス川流域まで領土を広げようとした時、ダビデ王は、ハマテまで出かけて、彼の野望を打ち砕きました。　４戦車千台を奪い、騎兵七千、歩兵二万を捕虜にしたのです。　戦車は百台だけをイスラエル軍のために残し、残りはぜんぶ、使えないように解体してしまいました。
５　ダビデ王はまた､､ダマスコからハダデエゼル王の援軍としてくり出したシリヤ軍二万二千を殺し、６シリヤの首都ダマスコにも守備隊を置きました。こうしてシリヤ人も、毎年、多額の貢物を納めるようになりました。　神様は、ダビデ王の行く先々で、勝利をお与えになったのです。　７ダビデ王はハダデエゼル王の家来が持っていた金の盾を、エルサレムに持ち帰りました。　８同時に、ハダデエゼルの町ティブハテとクンから、大量の青銅を奪いました。　のちにソロモン王は、この青銅を溶かして、神殿用の大洗盤、柱、それに祭壇でいけにえをささげるための種々の道具を作ったのです。
９　ハマテの王トウは、ダビデ王がハダデエゼルの軍勢を打ち破ったことを知ると、　１０息子ハドラムを使者としてダビデ王のもとに送り、戦勝を祝いました。　同時に、同盟を結ぶしるしに、金、銀、青銅など多くの贈り物をしました。　ハダデエゼルとトウとは、これまで仲が悪く、何度も戦っていたからです。　１１ダビデ王は、これらの贈り物を、エドム、モアブ、アモン、ペリシテ、アマレクの国々から奪った金銀とともに、神様にささげました。
１２　ツェルヤの子アブシャイは、塩の谷でエドム人一万八千を殺しました。　１３そして、エドムに守備隊を置き、毎年、多額の貢物をダビデ王に納めさせるようにしました。

このように、神様は行く先々で勝利を与えてくださったのです。　１４ダビデ王はイスラエル全土を支配し、正しい政治を行ないました。
１５　ツェルヤの子ヨアブは軍の最高司令官、アヒルデの子ヨシャパテは史官、　１６アヒトブの子ツァドクと、エブヤタルの子アヒメレクは祭司長、シャウシャは王の補佐官、１７エホヤダの子ベナヤは、ケレテ人とペレテ人からなる王の護衛隊の隊長、ダビデの息子たちは王の側近でした。
一九
１　アモンの王ナハシュが死に、息子ハヌンが新しく王となりました。
２３その時、ダビデ王は言いました。　「彼の父はずいぶん親切にしてくれた。　その礼に、ハヌンに友好の使者を送ろう。」
こうして、弔問の使者を立てました。　ところが、使者が着くと、ハヌン王の側近はこう警告したのです。　「ダビデが父君に敬意を表してこの者らをよこした、などとお考えになってはなりません。　きっと、この地を征服しようと、探りに来たのです。」
４　そこでハヌン王は、使者たちのひげをそり落とし、服を半分切り取って腰が丸見えになるようにし、さんざん侮辱した上で追い返しました。　５事のいきさつを知ったダビデ王は、ひどい目に会った一行に、ひげが伸びるまでエリコにとどまるように、と伝えました。　６ハヌン王は判断を誤ったことに気づくと、六億円もかけて、メソポタミヤ、アラム・マアカ、ツォバから、歩兵、戦車、騎兵を雇いました。７雇い入れた戦車三万二千台と、マアカ王の全軍は、メデバに陣を張り、そこで、ハヌン王がアモンの町々から集めた軍勢と合流しました。
８　ダビデ王はこれを知ると、ヨアブの率いるイスラエル最強の軍隊を差し向けました。
９アモン軍が迎え撃って、メデバの町の門で、いよいよ戦闘開始です。　その間、敵側の外人部隊は町の外に出ていました。　１０ヨアブは敵が前後にいるのを知り、兵力を二分して、一部をシリヤ人に立ち向かわせました。　１１残りは彼の兄弟アブシャイの指揮下に入って、アモン人に攻撃をしかけたのです。
１２　ヨアブはアブシャイに言いました。　「もしシリヤ人が強くて私の手に余るようだったら、助けに来てくれ。　もしアモン人が強くておまえの手に余るようなら、助けに行こう。　１３勇気を出せ。　国の安全はわれわれの肩にかかっている。　堂々と戦おう。
神様が最善をなしてくださることを信じてな。」
１４　ヨアブの指揮する隊が攻撃すると、シリヤ人は回れ右をして逃げ出しました。　１５一方アブシャイの率いる一隊から攻撃されていたアモン人も、シリヤ人が敗走するのを見て、あわてて町へ逃げ込みました。　そこでヨアブは、エルサレムへ帰りました。
１６　さて、敗北したシリヤ人は、ユーフラテス川の東から、ハダデエゼル王の最高司令官ショファクの率いる一隊を呼びました。　１７１８この知らせが届くと、ダビデ王はイスラエル中の男子を動員し、ヨルダン川を渡って、敵軍と対戦しました。　結果は、またもやシリヤ軍の大敗北です。　ダビデ王はシリヤ軍の戦車兵七千と歩兵四万を討ち取り、

さらに最高司令官ショファクを殺しました。　１９それを見たハダデエゼル王の軍隊はあえなく降伏し、家来になりました。　これにこりたシリヤ人は、二度とアモン人を助けようとはしませんでした。
二〇
１　次の年、いつも戦争の始まる春になると、ヨアブはイスラエル軍を率いて、アモン人の町や村を襲撃し、片っぱしから占領しました。それから、ラバの町を包囲し、これも攻め落としました。　その間、ダビデ王はエルサレムにとどまっていたのです。　２王は戦場に到着すると、ラバの王から冠を奪い、自分の頭に載せました。　冠は金製で、宝石がちりばめられており、目方は三十七キロもありました。　このほかにも、町からたくさんの戦利品を持ち帰りました。　３また、住民を引っ張って来て、のこぎり、鉄のつるはし、斧などを使う仕事につかせました。　王は占領したアモン人のすべての町の住民を、このようにしたのです。　それから、ダビデとその全軍はエルサレムへ帰りました。
４　その後、ゲゼルでは、再びペリシテ人との戦争が始まりました。ところが、フシャ出身のシベカイが巨人の子孫シパイを倒したので、ペリシテ人は戦意を失って降伏したのです。　５これとは別ですが、やはりペリシテ人との戦いがあった時、ヤイルの子エルハナンは、巨人ゴリヤテの兄弟ラフミを殺しました。　ラフミの槍の柄は、まるで機織棒のようでした。　６７また、ガテで戦いがあった時のことです。　手足の指が六本ずつという巨人の子孫が、さんざんイスラエルを罵倒したのです。　ところが、彼はダビデ王の兄シムアの子ヨナタンに殺されました。　８彼らはみなガテの巨人の子孫で、ダビデ王とその家来たちに殺されてしまったのです。
二一
１　時にサタンが、王に人口調査をさせるように仕向けて、イスラエルに災いをもたらしました。
２　王は、ヨアブをはじめ指導者たちに命じました。　「国中の人口を完全に調べ上げ、その人数を報告してくれ。」
３　ヨアブが反対意見を述べました。「かりに神様が国民を百倍に増してくださっても、みな陛下の民ではありませんか。　それなのに、なぜ、そんな要求をなさるのですか。　なぜ、イスラエルに罪を犯させるようなことを、なさるのですか。」
４　しかし、王が説き伏せたので、ヨアブは命令どおりイスラエル中を巡り歩き、エルサレムへ帰って来ました。　５ヨアブが報告した総人口は、イスラエルで戦いに出られる者百十万、ユダで四十七万でした。　６ただし、ヨアブは王の命令を気に病んでいたので、数の中にレビとベニヤミンの二部族を入れませんでした。　７この人口調査のことで、神様も不きげんになり、イスラエルに罰をお加えになったのです。
８　王は神様におわびしました。　「私は罪を犯しました。　どうかお赦しください。　自分のしたことがどんなにまちがっていたか、今、わかりました。」
９　そこで神様は、王の相談役である預言者ガドにお語りになりました。　１０１１「王

に伝えよ。　『神様は、三つのうち、一つを選べと仰せだ。　１２三年間のききんか、三か月のあいだ敵に苦しめられることか、それとも、御使いが国中を荒らして、三日間おそろしい伝染病に悩まされることかだ。　よく考えて、私をお遣わしになった方に何と答えるか、決めてもらいたい。』」
１３　王は答えました。　「一つを選ぶのは、なんともつらいことです。どうか、私を人の手にではなく、神様の御手に陥らせてください。神様の思いやりは深いからです。」
１４　神様はイスラエルに伝染病を下されたので、七万人が死にました。１５病気が猛威をふるっている時､神様は一人の御使いを送って､エルサレムを滅ぼそうとなさいました。ところが、神様はかわいそうに思って考えを変え、御使いに、「もう十分だ。　手を引け」とお命じになったのです。　御使いはその時、エブス人オルナンの打穀場に立っていました。　１６王は、御使いが抜き身の剣をエルサレムの方に差し伸べ、天と地の間に立っているのを見ました。　そこで、その場に居合わせたイスラエルの長老とともに、荒布をまとい、地にひれ伏したのです。
１７　ダビデ王は神様に願いました。　「人口調査の命令を出して罪を犯したのは、この私です。　国民が何をしたというのでしょう。　神様、私と私の家族を滅ぼしても、国民は滅ぼさないでください。」
１８　すると、御使いはガドに、王がエブス人オルナンの打穀場に祭壇を築くよう指示しました。　１９２０王はさっそく、小麦の打穀をしていたオルナンに会いに行きました。オルナンが振り向くと､御使いの姿が見えたので､彼の四人の子は走って隠れました。　２１オルナンは王が来るのも見たので、打穀場から出て来てひれ伏しました。
２２　「それ相応の金を払うから、この打穀場を譲ってくれんか。　ここに、神様の祭壇を築きたいのだ。　そうすれば、伝染病もおさまるだろうから。」
２３　「陛下、どうぞ、お気に召すままにお使いください。　よろしければ、完全に焼き尽くすいけにえ用の牛も、差し上げます。　打穀の器具を、たきぎ代わりに使っていただいてけっこうです。　穀物のささげ物がお入り用でしたら、小麦がございます。　何でもご用立ていたします。」
２４　「いや、十分な金額で買い取らせてほしい。　おまえのものを取って、それを神様にささげるわけにはいかん。　ふところを痛めずに、完全に焼き尽くすいけにえをささげることは、したくないのだ。」
２５　王はオルナンに百三十万円相当の金を与えました。　２６こうして手に入れた場所に祭壇を築き、その上で、完全に焼き尽くすいけにえと和解のいけにえをささげました。王が大声で神様を呼ぶと、神様は答えてくださり、天から下った火がいけにえを焼き尽くしました。２７それから､神様は御使いに命じて､剣をさやに納めさせました。２８王は､願いが聞かれたのを見て、もう一度、いけにえをささげました。　２９当時、モーセが荒野で作った天幕と祭壇は、ギブオンの丘の上にありました。　３０しかし、王は、そこまで行って神様に祈る気にはなれませんでした。　抜き身の剣を持つ御使いを恐れたからで

す。
二二
１　そこで、ダビデ王は言いました。　「このオルナンの打穀場こそ、神の神殿を建て、イスラエルの完全に焼き尽くすいけにえをささげる祭壇を築くのに、ふさわしい場所だ。」
２　王は、イスラエル在住のすべての外国人を召集し、神殿建築用の石を切り出す仕事にあたらせました。　３彼らは、門のとびらの釘および留め金用の鉄を大量に作りました。また、とても量りきれないほどの青銅を精錬しました。　４ツロとシドンの人々は、おびただしい数の杉の丸太を、いかだに組んで運んで来ました。
５　「ソロモンは、まだ若くて未熟だ。　神の神殿は、世界中に知れ渡るほどの、すぐれた建築にしなければならん。　今から、いざという時のために準備をしておこう。」
こう考えて、王は、生きている間に、多くの建築材料を集めました。　６そのあとで、息子ソロモンに、イスラエルの神様のために神殿を建てるよう命じたのです。
７８「わしは、かねがね神殿を建てたいと思っていたが、そうしてはならんと、神様が仰せられたのじゃ。『おまえは大きな戦いで多くの人を殺し、大地を血で真っ赤に染めた。だから、わたしの神殿を建てることはできない。　９だがおまえに一人の子を授けよう。その子の代には、周囲の国と平和を保てるようにするので、彼は平和の人ソロモンと呼ばれる。　イスラエルは平和一色に塗りつぶされる。１０このソロモンこそが、神殿を建てるのだ。　彼はわたしの子となり、わたしは彼の父となる。　彼の子孫に末長くイスラエルを治めさせよう』とな。
１１　そこでじゃ、どうか、神様が共におられ、神殿をりっぱに建て上げさせてくださるように。　１２おまえに正しい判断力を与えて、イスラエルの王となった時、神様の教えをすべて守れるようにしてくださるように。　１３神様がモーセをとおしてイスラエルにお与えになった教えを、注意深く守るなら、まちがいなく栄える。　何ものをも恐れず、強く、雄々しく、熱心に励め！
１４　わしは苦労して、九千億円相当の金塊と、六億円相当の銀塊、それに量りきれないほど多くの鉄や青銅を集めた。　壁用の木材や石材も集めた。　これだけあれば、工事の第一段階は、なんとか間に合うじゃろう。　１５おまえには、数えきれないほど大ぜいの石工や大工、各種の熟練工がついている。　１６みな優秀な金や銀の細工人、鉄や青銅を扱う専門家ばかりだ。　さあ、仕事にかかるがよい。　どうか、神様が共におられるように。」
１７　王は、イスラエルの全指導者に、ソロモンを助けて神殿建設にあたれと命じました。
１８　「よいな、神様がついておられる。　神様は、周囲の国々との間に平和を与えてくださった。 わしが神様の国民のために、御名によってこれらの国々を征服したからじゃ。
１９さあ、わき目もふらず神様にお従いせよ。　そうすれば、やがて神殿に、神の箱をはじめ聖い器具を運び入れることができよう。」
二三

１　すっかり年をとったダビデは、息子ソロモンに王位を譲りました。２その即位式に、ダビデは、イスラエルの政治と宗教の全指導者を召集しました。　３その時、レビ部族で三十歳以上の男の人口調査をしたところ、総計三万八千人いました。
４５ダビデはこのように指図しました。　「このうち二万四千人に、神殿の仕事を監督させよ。　このほか、六千人は管理者ならびに裁判官、四千人は門衛となり、あとの四千人は、わしの作った楽器で神様を賛美する者となるように。」
６　ダビデは彼らを、レビの三人の息子の名にちなんで、ゲルションの組、ケハテの組、メラリの組に分けました。
７　ゲルションの組は、さらに二人の息子の名にちなんで、ラダンの班とシムイの班に分けられました。　８９その班がまた、さらにラダンとシムイの息子たちの名にちなんで、六つのグループに分けられました。　ラダンの息子は、指導者エヒエル、ゼタム、ヨエル、シムイの息子はシェロミテ、ハジエル、ハランです。
１０１１シムイの各氏族には、四人の息子の名がつけられました。　四人のうち、長はヤハテで、次がジザ、エウシュとベリアは子供が少なかったので、合わせて一つの氏族を構成しました。
１２　ケハテの組は、その息子の名にちなんで、アムラム、イツハル、ヘブロン、ウジエルの四つの班に分けられました。
１３　アムラムはアロンとモーセの父です。　アロンとその息子たちは、人々のいけにえを神様にささげる、特別な奉仕に専念しました。　アロンはいつも神様に仕え、御名によって人々を祝福したのです。
１４１５神の人モーセについて言えば、息子のゲルショムとエリエゼルが、レビ部族に入れられました。　１６ゲルショムの息子たちの長はシェブエルです。　１７エリエゼルのひとり息子のレハブヤは、子供が大ぜいいたので、氏族の長となりました。
１８　イツハルの息子たちの長はシェロミテ。
１９　ヘブロンの息子たちの長はエリヤ。　アマルヤが第二、ヤハジエルが第三、エカムアムが第四の指導者でした。
２０　ウジエルの息子たちの長はミカで、イシヤがこれに続きました。
２１　メラリの息子はマフリとムシ。　マフリの息子はエルアザルとキシュ。　２２エルアザルには息子がなく、娘たちが、いとこにあたるキシュの息子たちと結婚しました。　２３ムシの息子はマフリ、エデル、エレモテです。
２４　人口調査の時、二十歳以上のレビ人はみな、以上の氏族やその一族に組み入れられ、神殿の奉仕を割り当てられました。　２５ダビデがこう言ったからです。　「イスラエルの神様は、平和を与えてくださった。　これからは、神様はエルサレムにお住みになる。２６だからもうレビ人は、天幕とその器具を運ばなくてもよい。」
２７　このレビ部族の人口調査は、ダビデが死ぬ前に行なった最後のものでした。　２８レビ人の仕事は、神殿でいけにえをささげるアロンの子孫である祭司を、補佐することで

した。　また、神殿の管理にあたり、きよめの儀式を行なう手伝いもしました。　２９供えのパン、穀物のささげ物用の小麦粉、それにオリーブ油で揚げたり、オリーブ油を混ぜ合わせたりした、イースト菌を入れないせんべいなどを用意しました。　また、すべてのものの重さや大きさをはかり、　３０毎日、朝と夕方には、神様の前に立って感謝をささげ、神様を賛美しました。３１さらに、完全に焼き尽くすいけにえ、安息日のいけにえ、新月の祝いや各種の例祭用の特別のいけにえも用意しました。　その時に応じて必要な数のレビ人が、仕事にあたりました。　３２彼らは天幕と神殿の管理にあたり、必要な時にはいつでも、祭司たちを助けたのです。
二四
１２アロンの子孫の祭司は、アロンの二人の息子エルアザルとイタマルの名にちなんで、二つの組に分けられました。
ナダブとアビフもアロンの息子でしたが、二人とも父に先立って死に、しかも、子供がありませんでした。　それで、エルアザルとイタマルだけが、祭司の務めを果たしたのです。
３ダビデは、エルアザルの氏族を代表するツァドクと、イタマルの氏族を代表するアヒメレクとに相談して、交替で奉仕できるよう、祭司を多くのグループに分けました。　４エルアザルの子孫は、指導者となる人材に恵まれていたので、十六組に分けられ、イタマルの子孫は八組に分けられました。
５　あらゆる務めは、特定の組に片寄らないよう、くじで各組に割り当てられました。　どの組にも多くのすぐれた人材がいて、神殿の重要な務めにつけたからです。　６レビ人でネタヌエルの子シェマヤが書記となり、王をはじめ祭司ツァドク、エブヤタルの子アヒメレク、ならびに祭司とレビ人の長たちの前で、それぞれの名と役割を書き留めました。　エルアザルの組からの二つのグループと、イタマルの組からの一つのグループが、交互に務めにつくようになっていました。
７－１８くじで、次の各グループの順序に従って、仕事が割り当てられました。
第一――エホヤリブのグループ
第二――エダヤのグループ
第三――ハリムのグループ
第四――セオリムのグループ
第五――マルキヤのグループ
第六――ミヤミンのグループ
第七――コツのグループ
第八――アビヤのグループ
第九――ヨシュアのグループ
第十――シェカヌヤのグループ
第十一――エルヤシブのグループ
第十二――ヤキムのグループ

第十三——フパのグループ
第十四——エシェブアブのグループ
第十五——ビルガのグループ
第十六——イメルのグループ
第十七——ヘジルのグループ
第十八——ピツェツのグループ
第十九——ペタフヤのグループ
第二十——エヘズケルのグループ
第二十一——ヤキンのグループ
第二十二——ガムルのグループ
第二十三——デラヤのグループ
第二十四——マアズヤのグループ
１９各グループは、先祖アロンによって神様から最初に指示されたとおり、神殿の務めにつきました。
２０　そのほかのレビの子孫は次のとおりです。　アムラムおよび彼の子孫シュバエル、シュバエルの子孫エフデヤ、　２１長子イシヤを長とするレハブヤのグループ、　２２シェロミテと彼の子孫ヤハテからなるイツハルのグループ。
２３　ヘブロンのグループは次のとおりです。
ヘブロンの長男エリヤ
次男アマルヤ
三男ヤハジエル
四男エカムアム
２４２５ウジエルのグループの長は、息子ミカ、孫シャミル、ミカの兄弟イシヤ、イシヤの子ゼカリヤでした。
２６２７メラリのグループの長は､息子マフリとムシ。 その子孫ヤアジヤのグループは､彼の息子ベノを長とし､その兄弟ショハム､ザクル､イブリも､責任を分担していました。
２８２９マフリの子孫はエルアザルとキシュで､エルアザルには息子がありませんでした。キシュには息子があり､その一人がエラフメエルです。　３０ムシの子はマフリ､エデル､エリモテ。
以上が、それぞれの氏族に属するレビの子孫です。　３１アロンの子孫と同じように、彼らは年齢や身分に関係なく、くじで決まった順番で、奉仕を割り当てられました。　この順番は、ダビデ王、ツァドク、アヒメレク、そのほかの祭司やレビ人の長たちの前で決められました。
二五
１　ダビデと神の天幕の責任者たちは、琴と竪琴とシンバルの伴奏で預言する者を、アサフ、ヘマン、エドトンの各グループから選びました。　その名と役割は次のとおりです。

２　王の側近の預言者アサフの指揮下に置かれたのは、彼の息子ザクル、ヨセフ、ネタヌヤ、アサルエラ。
３　琴の伴奏で神様を賛美する責任者エドトンの指揮下に置かれたのは、彼の六人の息子ゲダルヤ、ツェリ、エシャヤ、シムイ、ハシャブヤ、マティテヤ。
４５王の側近の祭司ヘマンの指揮下に置かれたのは、彼の息子ブキヤ、マタヌヤ、ウジエル、シェブエル、エリモテ、ハナヌヤ、ハナニ、エリヤタ、ギダルティ、ロマムティ・エゼル、ヨシュベカシャ、マロティ、ホティル、マハジオテ。　神様はヘマンに、この十四人の息子のほかに、三人の娘をもお与えになりました。　６７彼らの務めは、シンバルや竪琴や琴の伴奏で歌いながら、神様に仕えることでした。　なお、彼らの天幕での奉仕は、父の指導のもとでなされました。
アサフとエドトンとヘマンは、直接に王に報告することになっていました。　彼らの家族はみな、賛美歌の合唱の訓練を受けていました。　全部で二百八十八人になりますが、その一人一人が音楽の達人でした。　８この合唱隊員は、年齢や評判に関係なく、くじで決めたそれぞれの順番で務めにつきました。
９‐３１第一――アサフ氏族のヨセフ
第二――ゲダルヤと彼の息子、兄弟合わせて十二人
第三――ザクルと彼の息子、兄弟合わせて十二人
第四――イツェリと彼の息子、兄弟合わせて十二人
第五――ネタヌヤと彼の息子、兄弟合わせて十二人
第六――ブキヤと彼の息子、兄弟合わせて十二人
第七――エサルエラと彼の息子、兄弟合わせて十二人
第八――エシャヤと彼の息子、兄弟合わせて十二人
第九――マタヌヤと彼の息子、兄弟合わせて十二人
第十――シムイと彼の息子、兄弟合わせて十二人
第十一――アザルエルと彼の息子、兄弟合わせて十二人
第十二――ハシャブヤと彼の息子、兄弟合わせて十二人
第十三――シュバエルと彼の息子、兄弟合わせて十二人
第十四――マティテヤと彼の息子、兄弟合わせて十二人
第十五――エレモテと彼の息子、兄弟合わせて十二人
第十六――ハナヌヤと彼の息子、兄弟合わせて十二人
第十七――ヨシュベカシャと彼の息子、兄弟合わせて十二人
第十八――ハナニと彼の息子、兄弟合わせて十二人
第十九――マロティと彼の息子、兄弟合わせて十二人
第二十――エリヤタと彼の息子、兄弟合わせて十二人
第二十一――ホティルと彼の息子、兄弟合わせて十二人
第二十二――ギダルティと彼の息子、兄弟合わせて十二人

第二十三――マハジオテと彼の息子、兄弟合わせて十二人
第二十四――ロマムティ・エゼルと彼の息子、兄弟合わせて十二人
二六
１　神殿の警備隊員は、コラ氏族のアサフ組から選ばれ、コレの子メシェレムヤが隊長になりました。
２３部下は息子たちです。
長男ゼカリヤ
次男エディアエル
三男ゼバデヤ
四男ヤテニエル
五男エラム
六男ヨハナン
七男エルエホエナイ
４５オベデ・エドムの次の息子たちも、神殿の警備隊員に任じられました。
長男シェマヤ
次男エホザバデ
三男ヨアフ
四男サカル
五男ネタヌエル
六男アミエル
七男イッサカル
八男ペウルタイ
神様はオベデ・エドムに、このようにすぐれた息子たちを与え、大いに祝福なさったのです。
６７シェマヤの子オテニ、レファエル、オベデ、エルザバデは、みな傑出した人々で、一族の中で有力な地位を占めました。
彼らの兄弟エリフとセマクヤも勇士で、すぐれた人物でした。
８　オベデ・エドムの息子ならびに孫は総勢六十二人にのぼり、みな傑出した人々で、それぞれの務めにまさに適任と言える人材ばかりです。　９メシェレムヤの息子、兄弟合わせて十八人も、すぐれた指導者でした。　１０メラリのグループの一人ホサは、長男ではないシムリを長にしました。　１１ホサのほかの息子の一部を紹介すると、次のとおりです。
第二がヒルキヤ
第三がテバルヤ
第四がゼカリヤ
ホサの息子と兄弟は、合わせて十三人でした。

１２　神殿の警備にあたる各組は、それぞれの指導者の名で呼ばれましたが、ほかのレビ人と同じように、神殿の務めにもつきました。　１３守る門の割り当ては、各氏族の評判には関係なく、くじで決めました。１４１５東の門を守る務めはシェレムヤのグループ、北の門は、彼の息子で知恵者と言われたゼカリヤ、南の門はオベデ・エドムのグループにあたりました。　オベデ・エドムの一族には、倉を守る務めも与えられました。　１６西の門と上り坂の道にあるシャレケテ門を守る務めは、シュピムとホサにあたりました。　１７毎日、東の門に六人、北の門と南の門に四人ずつ、倉に二人の割で、警備隊員が配置されました。　１８西の門には六人、つまり上り坂の道に四人、その近くの場所に二人が警備につきました。　１９この警備にあたったのは、コラとメラリの二氏族から選ばれた人々です。

２０‐２２アヒヤを指導者とするレビ人は、宝物倉にしまってある神様へのささげ物の管理にあたりました。　ゲルション氏族から出たラダンの一族に、エヒエルの二人の息子ゼタムとヨエルがいました。　２３２４ゲルショムの子で、モーセの孫にあたるシェブエルは、宝物倉を管理する責任者でした。　彼はまた、アムラム、イツハル、ヘブロン、ウジエルの名で呼ばれる各組の指導者でもありました。

２５　エリエゼルの子孫を順にたどると、レハブヤ↓エシャヤ↓ヨラム↓ジクリ↓シェロミテとなります。　２６シェロミテとその兄弟たちは、ダビデ王や将軍など、国民の指導者が神様にささげた物を管理する役につきました。　２７彼らは、神殿の維持費の一部にと、戦利品を奉納していたのです。　２８シェロミテとその兄弟たちには、預言者サムエル、キシュの子サウル、ネルの子アブネル、ツェルヤの子ヨアブのささげ物、そのほかの著名人のささげ物を管理する責任がありました。

２９　イツハルの一族のケナヌヤとその息子たちは、行政と裁判を担当しました。　３０ヘブロンの一族から出たハシャブヤとその同族千七百人は、みな傑出した人物で、ヨルダン川西方のイスラエル領の、宗教行事と行政の責任を負いました。　３１３２エリヤを長とするヘブロン氏族の中で傑出していた二千七百人は、ルベンとガドの二部族、それにマナセの半部族の、宗教行事および行政の指導にあたりました。　この有能な人々が、家系と能力を買われて、責任ある務めに任じられたのは、ダビデ王の即位後四十年目のことで、場所はギルアデのヤゼルでした。

二七

１　イスラエル軍は、二万四千人からなる十二師団に分けられ、毎年、一か月交替で軍務につきました。　各師団には、将校と軍政官が配属されていました。

２３第一師団長――ザブディエルの子で、ペレツの子孫にあたるヤショブアム。　第一の月に軍務につく二万四千の将兵を指揮

４　第二師団長――アホアハの子孫のドダイ。　第二の月に軍務につく者を指揮。　副官はミクロテ

５６第三師団長――ベナヤ。　第三の月に軍務につく者を指揮。　彼は大祭司エホヤダの

子で、ダビデの軍隊で最強と言われた、三十人勇士の筆頭。　息子アミザバデが次の師団長となる
７　第四師団長――ヨアブの兄弟のアサエル。　第四の月に軍務につく者を指揮。　のちに息子ゼバデヤが跡を継ぐ
８　第五師団長――イズラフ出身のシャムフテ。　第五の月に軍務につく者を指揮
９　第六師団長――テコア出身のイケシュの子イラ。　第六の月に軍務につく者を指揮
１０　第七師団長――エフライムのペロニ出身のヘレツ。　第七の月に軍務につく者を指揮
１１　第八師団長――ゼラフ出身のフシャ族のシベカイ。　第八の月に軍務につく者を指揮
１２　第九師団長――ベニヤミンのアナトテ出身のアビエゼル。　第九の月に軍務につく者を指揮
１３　第十師団長――ゼラフのネトファ出身のマフライ。　第十の月に軍務につく者を指揮
１４　第十一師団長――エフライムのピルアトン出身のベナヤ。　第十一の月に軍務につく者を指揮
１５　第十二師団長――オテニエルに属するネトファ出身のヘルダイ。　第十二の月に軍務につく者を指揮
１６－２２イスラエルの各部族の長は次のとおりです。
ルベン部族の長――ジクリの子エリエゼル
シメオン部族の長――マアカの子シェファテヤ
レビ部族の長――ケムエルの子ハシャブヤ
アロンの子孫の長――ツァドク
ユダ部族の長――ダビデ王の兄弟エリフ
イッサカル部族の長――ミカエルの子オムリ
ゼブルン部族の長――オバデヤの子イシェマヤ
ナフタリ部族の長――アズリエルの子エリモテ
エフライム部族の長――アザズヤの子ホセア
マナセの半部族の長――ペダヤの子ヨエル
ギルアデ地域のマナセの半部族の長――ゼカリヤの子イド
ベニヤミン部族の長――アブネルの子ヤアシエル
ダン部族の長――エロハムの子アザルエル
２３　ダビデ王は人口調査の時、二十歳以下は数に入れませんでした。国民の人口を爆発的にふやすという、神様の約束があったからです。２４ヨアブにさせた人口調査は、途中で神様の怒りが下ったため、完了しませんでした。　それで、調査の最終結果は、ダビデ王の年代記に載っていないのです。

２５　アディエルの子アズマベテは、宮殿の宝物倉を管理する最高責任者でした。　ウジヤの子ヨナタンは、イスラエルの町や村、要塞などにある宝物倉の管理責任者でした。
２６　ケルブの子エズリは、王室所有地で働く人々の監督でした。　２７ラマ出身のシムイは、王室ぶどう園の監督でした。　シェファム出身のザブディは、ぶどう酒の製造と貯蔵の責任を負いました。　２８ゲデル出身のバアル・ハナンは、ペリシテ人の領土と隣接する低地にある、王室のオリーブ畑と桑の木を管理する責任を負いました。 ヨアシュは、オリーブ油の製造と貯蔵を受け持ちました。
２９　シャロン出身のシテライは、シャロン平原で牛の群れの飼育にあたりました。　アデライの子のシャファテは、谷にいる牛の群れの飼育にあたりました。　３０らくだは、イシュマエルの地出身のオビルが、雌ろばは、メロノテ出身のエフデヤが世話をしました。
３１羊の群れを世話したのは、ハガル人ヤジズでした。　これらの人々はみな、ダビデ王のために働いたのです。
３２　王子の教育係りは、ダビデ王のおじにあたる、見識のある相談役ヨナタンで、王子の後見人はハクモニの子エヒエルでした。
３３　アヒトフェルは王の相談役、アルキ人フシャイは王の個人的な相談相手でした。 ３４ベナヤの子エホヤダとエブヤタルが、アヒトフェルを補佐しました。　ヨアブはイスラエル軍の最高司令官でした。
二八
１　ダビデ王は、政治的指導者、十二人の師団長、将軍、王の財産や家畜の管理人、その他の有力者たちを、エルサレムに召集しました。２一同を前に、王は演説しました。
「愛する同胞諸君。　神の契約の箱を安置する神殿を建てることは、わしの長年の夢であった。　神様のお住まいを建てようと、前もって必要な資材を集めておいたほどじゃ。　３だが、神様はこう仰せられたのじゃ。　『おまえが神殿を建ててはならん。　おまえは勇敢な戦士として、あまりにも多くの血を流してきたからだ。』
４　それでも神様は、父の家系からわしを選び、永久にイスラエルを治める王朝を起こしてくださった。　ユダ部族を選び、その中から父の家族をお選びになったのじゃ。　そして、兄弟の中でも、特に私に目をかけ、全イスラエルを治める王としてくださった。　５また、大ぜい授かった息子の中から、特にソロモンを選び、わしの世継ぎとしてくださった。　６『おまえの子ソロモンが、わたしの神殿を建てる。わたしは彼をわたしの子として選び、彼の父となるからだ。　７もし彼が、今までどおりわたしの命令と指示に従うなら、彼の王国をいつまでも栄えさせる。』　そう、神様は仰せになったのじゃ。」
８　それから、王はソロモンに言いました。
「今ここにいるイスラエルの指導者と神様の国民の前で、わけても、神様がご覧になっている所で、おまえに、神様の命令をことごとく守れと命じる。　そうすれば、おまえはこの良い地を支配し、しかも、永久におまえの子孫のものとすることができる。　９ソロモンよ、おまえの父の神様を知り、きよい心と喜びをもって神様を礼拝し、仕えよ。　神様

はすべての人の心をくまなくご覧になり、どんな思いも知り尽くしておられるからだ。　おまえが神様を尋ね求めさえすれば、お会いすることができる。　だが、もし神様を見捨てたりしたら、神様のほうが、おまえを永久に退けておしまいになる。　１０だから、くれぐれも注意せよ。　聖い神殿を建てるために特に選ばれたのだから、勇気を出して、神様の命令を守れ。」
１１　こう言うと、王はソロモンに、神殿とその付帯施設である宝物倉、屋上の間、内部屋、いけにえの血を注ぐ場所のある聖所の見取り図を見せました。　１２また、外庭、脇部屋、神殿付属倉庫、著名人からのささげ物を納める宝物倉の見取り図も渡しました。　それらの見取り図は、王が聖霊の助けを借りて描いたものです。　１３王はまた、祭司やレビ人の種々のグループの勤務表、神殿の礼拝や奉仕に用いる器具の明細をも、ソロモンに手渡しました。
１４　ダビデ王は、これらの器具を作るのに必要な金銀の目方、　１５燭台とともしび皿を作るのに必要な金の目方を量りました。　また、各種の銀の燭台とともしび皿を作るのに必要な銀の目方も量りました。１６さらに、供えのパンを置く机や、そのほかの金の机を作る金の目方、銀の机を作る銀の目方も量りました。　１７いけにえの肉を刺す金の肉刺しを作るのに必要な金、また水盤や杯や鉢を作るのに必要な金銀の目方を量りました。
１８最後に、香の祭壇を作るための純金、契約の箱の上に翼を伸べたケルビム（天使を象徴する像）を作るための金の目方を量りました。
１９　ダビデ王はソロモンに言いました。　「この見取り図はみな、神様から直接いただいたものだ。　２０だから、勇気を出して、この仕事をやり遂げよ。　仕事の大きさに恐れをなしてはならん。　わしの神様がついておられるぞ。　神様は決しておまえを見捨てない。　それどころか、すべてが見事に完成するよう、しっかり見届けてくださる。２１出番を待っている祭司とレビ人のグループが、神殿で仕えるようになる。　あらゆる方面の熟練工が進んで仕事にあたり、軍人と国民は、こぞっておまえの命令に従う。」
二九
１　それから、ダビデ王は全会衆に語りました。　「神様が次のイスラエル王にお選びになった、わが子ソロモンは、まだ若く、経験も乏しいのに、非常に重要な仕事にかかろうとしている。　ソロモンが建てる神殿は、ただの建物ではない。　神様のお住まいだ。　２わしは、あらゆる手を打って建築資材を集めた。　金、銀、青銅、鉄、木材は十分あり、そのほか、しまめのう、宝石、大理石も大量に用意した。３それから、神殿が建つのを、わしがどれほど喜んでいるかというしるしに、私財を全部ささげる。　それを、わしがすでに集めた建築資材に加えてほしい。　４５わしがささげる分は、二百五十五億円相当のオフィルの金と六十億円相当の純粋な銀で、神殿の壁にかぶせるためのものだ。　これらの金銀は、そのほかにも、金製品や銀製品、技巧をこらした装飾用にも使われるだろう。
さあ、わしにならって、わが身と私財をすべて、神様にささげる者はいないか。」
６７すると、氏族長、部族長、軍の司令官、行政官は、四百三十五億円相当の金、千五百

万円相当の外貨、九十億円相当の銀、青銅八百トン、鉄四千六百トンをささげると約束しました。　８また、大量の宝石がささげられましたが、宝石類は、ゲルションの子孫エヒエルの管理のもとで、神殿の宝物倉に保管されました。　９だれもが、こうした奉仕の機会を与えられたことを心から喜び、幸福感にひたっていました。　ダビデ王も、喜びのあまり、じっとしていることができませんでした。

１０　王は、そこに集まった全員の前で、はばかることなく神様をたたえました。　「先祖イスラエル（ヤコブ）の神様。　永遠に御名がほめたたえられますように！　１１偉大な力と栄光と勝利と威厳とは、神様のものです。　天と地にあるすべてのものは、神様のものです。　この国も、神様のものです。　私たちは、万物を支配しておられる神様をあがめます。　１２人に富と誉れをお与えになるのは、神様だけです。　神様は全人類の支配者、その御手には驚くべき力があります。　思いのままに人を強くし、力をお与えになるのです。　１３神様。　私たちは神様に感謝し、栄光に輝く御名をたたえます。　１４ところで、私と私の国民とは、いったい何者だというのでしょう。　こんな、わずかばかりのものしか、おささげできないのです。　私たちが持っているものは、すべて神様が下さったもので、私たちはただ、それをお返ししているにすぎません。　１５私たちは、先祖同様、この地では寄留者です。　また、私たちの地上の生涯は影のようなもので、やがて跡形もなく消え去るのです。　１６神様。　私たちが、聖い御名をとどめるために神殿を建てようと集めたものは、すべて神様から出ているのです。　１７神様。　神様は正しい人をお喜びになります。　そこで、人がはたして正しいかどうか、試されるのです。　私は正しい動機で、建築の準備を進めてきました。　そして今、神様の国民が、喜んで自発的に宝をささげるのを見ました。

１８　先祖アブラハム、イサク、イスラエルの神様、私たちを、いつも神様に従うようにしてください。　神様への愛が、かた時も変わることのないようにしてください。　１９わが子ソロモンに正しい心を与えて、どんな小さなことでも神様に従うようにさせ、私が用意したすべてのものを用いて、わき目もふらずに神殿を建て上げるようにさせてください。」

２０　こう祈り終えると、王は全会衆に、「神様をほめたたえよ！」と言いました。　人々は、神様と王の前にひざまずいて、神様をたたえました。

２１　翌日、彼らは雄牛、雄羊、子羊を千頭ずつ、完全に焼き尽くすいけにえとして神様にささげました。　また、イスラエル全国民に代わって、注ぎのぶどう酒をはじめ、多くのいけにえをささげました。２２それから、胸をわくわくさせながら、神様の前に祝宴を張り、大いに食べたり飲んだりしたのです。

そのあと、改めて神様の前でダビデ王の子ソロモンに油を注ぎ、王としました。　同時に、ツァドクにも油を注いで、祭司としました。２３こうして、ソロモンは神様の恵みで父ダビデの王座につき、大いに栄えたので、イスラエル全国民はソロモンに従うようになりました。２４各界の指導者、軍の将校、兄弟全員が、ソロモン王に忠誠を誓いました。　２

５神様は、全国民の人気がソロモン王に集まるようにされたので、父ダビデ以上の財産と名誉を得るようになりました。
２６２７ダビデは、イスラエルの王として四十年のあいだ治めました。そのうち七年はヘブロンで、あとの三十三年はエルサレムで、王座についたのです。　２８ダビデは年老い、財産と名誉に囲まれて死に、代わって息子ソロモンが治めるようになりました。　２９ダビデ王の生涯のくわしいことは、預言者サムエルの言行録、預言者ナタンの言行録、預言者ガドの言行録などに載っています。　３０これらの記録文書には、ダビデ王の政治や威力だけでなく、王とイスラエル、ならびに近隣諸国の王の身に起こったすべての出来事が述べられています。
▪

イスラエル年代記　下（歴代誌Ⅱ）

本書は、ユダの歴史と繁栄したソロモンの統治、および神殿の栄光に、特別の強調点を置いています。　この強調は、本書全体が祭司の視点から書かれているためです。　また、ユダの王たちとその時代の宗教事情がどうなっていたかが描かれています。　ヒゼキヤ王は、祈りによって統治期間が延長されたことで、特記されています。　エルサレムの滅亡やバビロン捕囚にも言及し、ペルシヤ王が人々の帰国を許可する布告を出したところで終わっています。

一

１　神様が、ダビデ王の子ソロモンを強力な専制君主にされたので、彼は押しも押されもしないイスラエルの支配者となりました。　２３ソロモン王はギブオンの丘に、イスラエルの政界・宗教界の指導者だけでなく、軍の将校や裁判官を召集しました。　その丘の上には、神様のしもべモーセが荒野を旅している時に作った、神の天幕があったのです。　４エルサレムには、ダビデ王が契約の箱をキルヤテ・エアリムから移した時に建てた、新しい天幕がありました。　５６フルの子ウリの子ベツァルエルが作った青銅の祭壇が、この古い天幕の前に置かれていました。　王をはじめ一同は、その祭壇の前に集まりました。王は祭壇に、千頭の完全に焼き尽くすいけにえをささげました。

７　その夜、神様は夢の中でソロモン王に現われ、「何でも欲しいものを求めるがよい。どんな願いでもかなえてやろう」とお語りになりました。

８　「神様。　神様は父ダビデに多くの恵みを施し、数々のいつくしみを示してくださいました。　そして今、私に王国を授けてくださいました。　９これ以上、求めるものはございません。　神様が父ダビデへの約束を果たし、この私を、海辺の砂のように多い国民の王としてくださったのですから。　１０どうか、この国民を治めるのに必要な知恵と知識をお授けください。　神様のものである、この偉大な国民を自分の力で治めることのできる者が、どこにおりましょう。」

１１　「何よりも国民の力になりたいと言うのだな。　よくわかった。おまえは自分のために財産や名誉、敵に復讐すること、さらに長寿をも求めず、わたしの国民を正しく導くための知恵と知識を求めた。１２願いどおり、確かにその知恵と知識を与えよう。　また、おまえの前にいたどの王も手にしたことのない財産と名誉をも、与えよう。全世界で、おまえのように偉大な王は、二度と現われないだろう。」

１３　これを聞いたソロモン王は天幕を離れて丘を下り、エルサレムに帰ってイスラエルを治めました。　１４王は戦車千四百台の大機甲部隊をつくり、戦車を配備した町々を守る騎兵一万二千人を集めました。　もちろん、騎兵の一部は、エルサレムの王の身辺に配置されました。１５ソロモン王の時代には、エルサレムで金や銀が路上の石のようにふんだんに使われ、高価な杉材がありふれた桑の木のように大量に用いられました。　１６王は馬を買い入れる商人をエジプトへやり、卸値で買い求めさせました。　１７当時、エジ

プトの戦車は一台十二万円、馬は一頭三万円でした。　相場どおりの値段で買い上げ、輸入した戦車や馬の多くは、ヘテ人とシリヤの王に売り渡しました。
二
１　ソロモン王は、今こそ神殿と宮殿を建てる時だと考えました。　２この工事には、労働者七万人、山で石を切り出す者八万人、監督三千六百人という大人数が必要でした。　３王はツロの王フラムに使者を立て、ダビデが宮殿を建てた時のように、杉材を船積みで送ってくれるようにと頼みました。
４　王はこう伝言しました。　「私は神様の神殿を建てるつもりです。そこで、御前にかおり高い香をたき、特別な供えのパンを並べ、毎日朝と夕の二回、また、安息日や新月の祝い、そのほかの例祭のたびに、完全に焼き尽くすいけにえをささげるのです。　神様はイスラエルに、これらの特別な祭日を祝うことを望んでおられるからです。　５私たちの神様は、ほかのすべての神々にまさる偉大な神ですから、神殿は壮大なものにしなければなりません。　６ところで、いったい、だれが、この神様にふさわしい家を建てることができるでしょう。　天でさえ、神様をお入れするのにふさわしくありません。　神様のために神殿を建てることを許されている私は、いったい何者でしょう。　それはさておき、とにかくそこは、神様を礼拝する場所となるのです。
７　そこで、私のもとに金、銀、青銅、鉄などの細工に熟練した技術者を送っていただけないでしょうか。　また、紫、紅、青の布をおる織物師や、父ダビデが選んだユダとエルサレムの職人といっしょに働く､熟練した彫り物師もお願いしたいのです。　８それから、レバノンの森に生えている杉、もみ、びゃくだんの木材を送ってください。お国の人々は、木を切ることでは天下一品です。　もっとも、こちらからも応援を出しますから、手伝わせてください。　９計画中の神殿は途方もなく大きく、壮麗なものですから、大量の木材がいるのです。　１０働いてくれる人々のために、私は小麦粉七百二十万リットル、大麦七百二十万リットル、ぶどう酒七十二万リットル、オリーブ油七十二万リットルを支払います｡」
１１　フラム王はこう答えました。　「神様はご自分の国民を愛しておられるからこそ、あなたを王となさったのです。　１２天と地を造り、ダビデ王に知恵と悟りに満ちた賢い子を授けて、神殿と宮殿を建てさせてくださるイスラエルの神様が、ほめたたえられますように！
１３　さて、ご要望の件ですが、この人の右に出る者はないという熟練工、フラム・アビを差し向けましょう。　最高に頭のきれる人物で、１４母親はイスラエルのダン出身のユダヤ婦人、父親はツロの人です。金、銀、青銅、鉄、石の細工に腕をふるうことはもちろん、木工、織物の技術にもひいでています。　さらに、紫と青のリンネル、真紅の布を染める技術者であり、加えて、熟練した彫り物師、すぐれた発明家でもあります。　彼は、お国の職人や､私がお仕えした､父君ダビデ王が任命した人々といっしょに働くでしょう。
１５どうか、お約束の小麦、大麦、オリーブ油、ぶどう酒を送ってください。　１６こち

らでは、お入り用なだけレバノンの山から木材を切り出し、いかだに組んで、海路ヨッパまで運びましょう。　そこからは、そちらで陸路エルサレムまで運搬してください。」
１７　ソロモン王は父ダビデと同じように、この国にいる外国人全員の人口調査を行ない、十五万三千六百人いることがわかりました。　１８そのうち七万人は一般労働者、八万人は山で石を切り出す者、三千六百人は現場監督にしました。
三
１　ついに、神殿の建設が始まりました。　敷地はエルサレムのモリヤ山上で、ここは、かつて神様がソロモン王の父ダビデに姿を現わした、エブス人オルナンの打ち場があった所です。　ダビデはかねて、そこを神殿の建設地に予定しておいたのです。　２工事が始まったのは、ソロモン王の即位後四年目の四月十六日でした。
３　まず神殿の土台は、長さ三十メートル、幅十メートルです。　４屋根つきの玄関は、神殿の幅と同じ十メートルの長さで、内側の壁と天井には純金を張りつめました。　屋根の高さは六十メートルです。
５　神殿の主要部は、糸杉でおおい、純金を張りつめ、なつめやしの木と鎖が彫刻してありました。　６壁の内側は、一段と美しさを増すために、宝石で飾られました。　なお、ここで用いた金は、パルワイム産の最上のものです。　７神殿内は、壁も、梁も、とびらも、敷居も金が張りつめられ、壁にはケルビム（天使を象徴する像）が彫ってありました。
８　神殿の奥に、十メートル四方の至聖所がありました。　ここも、時価五十億円相当の金を張りつめました。　９七百二十五グラムの金の釘を使い、屋上の間も金で張りつめました。
１０　いちばん奥の至聖所に、王はケルビムの像二つをすえ、それに金をかぶせました。
１１－１３この像は床の上に立ち、顔を部屋の外に向け、翼を部屋いっぱいに、一方の壁からもう一方の壁まで広げていました。　１４王はまた、至聖所の入口に、ケルビムの縫い取り模様のある青と紅のリンネル製の幕をかけました。
１５　神殿の前には、二本の柱を立てました。　それぞれ高さは十七メートル半で、さらにその上に、高さ二メートル半の柱頭がありました。　１６そのいただきに、百個のざくろがついた鎖を取りつけました。　１７それから、神殿正面の右と左に立て、右側のをヤキン、左側のをボアズと名づけました。
四
１　王はさらに、長さも幅も十メートル、高さ五メートルの青銅の祭壇を作りました。　２それから、直径が五メートルもある大洗盤も作りました。　その縁は床から二メートル半の高さにあり、縁の周囲は十五メートルでした。　３この洗盤は、二段に並んだ金属製の牛の背に載っていました。　洗盤と牛は、セットなのです。　４牛は全部で十二頭で、互いにしっぽを合わせるようにして立っていました。　三頭ずつ、それぞれ顔を北、西、南、東に向けていました。　５洗盤の厚さは八センチあり、容量は百八キロリットルで、縁は杯のようにゆりの花の形をしていました。

６　次に、いけにえを洗う洗盤も十個作り、五個を右側に、五個を左側に置きました。　祭司たちが体をきよめる時は、大洗盤を用いました。
７　それから、神様の指示どおり、金の燭台十個を念入りに鋳造し、五個を神殿内の右側に、五個を左側に置きました。　８机を十個作り、それも五個を神殿内の右側に、五個は左側に置きました。　また、金の鉢を百個鋳造しました。　９それから、祭司たち用の庭と大庭を造り、それぞれの入口のとびらに青銅を張りました。　１０大洗盤は神殿の外の南東のすみに置きました。　１１フラムは、いけにえをささげる時に用いる鉢、十能、灰つぼを作りました。
こうして、ついにフラムは、ソロモン王から命じられた仕事を完成させたのです。
１２‐１６二本の柱
二本の柱の上にある二つの柱頭
柱頭に取りつけられた二組の鎖
二組の柱頭の鎖から垂れ下がる四百個のざくろ
洗盤の台と、洗盤の本体
大洗盤と、それを載せる十二頭の牛
鉢、十能、肉刺し
熟練した職人フラムは、ソロモン王のために、右にあげたすべてのものを、みがき上げた青銅で作りました。　１７１８スコテとツェレダとの間にある、ヨルダン渓谷の粘土層の地で、これらのものを鋳造したのです。　用いられた青銅はあまりに大量で、重さを量りきれないほどでした。
１９　ところで、神殿内のものは金だけを使いました。　祭壇、供えのパンを載せる机などの器具類はぜんぶ金で作るよう、王が指示したからです。　２０‐２２燭台、ともしび皿、花模様の飾り、火ばし、芯切りばさみ、鉢、さじ、火皿なども、みな純金で作りました。　神殿の入口ととびら、至聖所に通じるとびらも、みな金で作りました。
五
１　こうして、神殿がついに完成しました。　そこでソロモン王は、父ダビデが神様にささげたものを、神殿の宝物倉に納めました。
２　王は、イスラエルの部族と氏族の長を全員エルサレムに召集し、契約の箱を、シオンと呼ばれるダビデの町の神の天幕から、新しい神殿に移しました。　３この儀式は、恒例の十月の仮庵の祭りの日に行なわれました。　４５イスラエルの指導者たちが見守る中で、レビ人が箱をかつぎ上げ、そのほかの聖い器具とともに、運び出したのです。６王をはじめ人々は、箱の前で羊や牛をいけにえにささげましたが、その数はあまりに多くて、数えることができませんでした。
７８それから、祭司たちは箱を神殿の奥の至聖所に運び入れ、ケルビム（天使を象徴する像）の翼の下に置きました。　翼は、箱とかつぎ棒をおおうような形で広がっていました。
９そのかつぎ棒は長かったので、先端が前の部屋から見えましたが、外からは見えません

でした。
契約の箱は、この書が書かれた時には、なおそこにありました。１０箱の中には、二枚の石板のほかは何もありませんでした。　その石板は、神様が、エジプトから出て来たイスラエル国民と契約を結ばれた時、モーセがホレブ山（シナイ山）で箱に納めたものです。
１１１２祭司たちはきよめの儀式をすませ、ふだん割り当てられた仕事と関係なく、全員が儀式に参加しました。　レビ人たちは、祭司たちが至聖所から出て来た時、すばらしい声で神様を賛美しました。　歌い手はアサフ、ヘマン、エドトンはじめ、その息子兄弟たちで、全員が純白の美しいリンネルをまとい、祭壇の東側に立っていました。　合唱隊に、ラッパを吹く百二十人の祭司のほか、シンバルや琴や竪琴の演奏者が加わりました。　１３１４この合唱団は、一つとなって神様を賛美し、感謝をささげました。　歌声の合間に、同じく神様を賛美し、感謝をささげるラッパが吹かれ、シンバルその他の楽器がかなでられました。　この時の歌のテーマは、「神様はこの上なく良いお方だ！　神様のいつくしみは永遠に絶えることがない！」というものでした。
すると、神様の栄光がまぶしく光る雲のように現われ、神殿をすっぽり包んだので、祭司たちは、その場に立って務めを果たすことができなくなりました。
六
１２その時、ソロモン王は祈りました。
「神様は、暗やみの中に住む、と仰せでした。
そこで、私は神様のために神殿を建てました。
いつまでもここにお住みいただくためです。」
３　それから王が振り向くと、民は起立して王の祝福を受けました。
４　王は言いました。　「イスラエルの神様が、ほめたたえられるように。　神様は、まず父ダビデに親しく語りかけ、今、約束を果たしてくださった。　神様は父にお告げになったのだ。　５６『わたしの国民をエジプトから導き出して以来、わたしは、わたしを礼拝するための神殿を建てる場所として、イスラエルのどの町も選ばなかった。　また、イスラエル国民の王も選ばなかった。　ところが今、わたしはエルサレムに白羽の矢を立て、ダビデを王として選んだ』と。
７　父は、神殿を建てることをひたすら願っていた。　８ところが神様は、『その志は、たいへんけっこうだが、　９おまえは神殿を建てる適任者ではない。　その仕事には、おまえの息子があたるべきだ』と仰せになった。　１０今や、神様は約束を果たしてくださった。　私は父に代わって王となり、神様のためにこの神殿を建て、　１１神の箱を置いた。この箱には、神様とその国民イスラエルとの間に結ばれた契約が、納められている。」
１２１３そう語った時、王は祭壇の前の、外庭の中央にすえられた、二メートル半四方で、高さが一メートル半の、青銅製の台の上に立っていました。　王は語り終えると、人々が見守る中で、ひざまずき、両手を天に差し伸べ、こう祈りました。
１４　「ああ、イスラエルの神様。　天と地のどこにも、あなた様のような神はおられま

せん。　神様は、神様に従い、なんとかしてみこころを行なおうとするすべての者に、約束を守り通してくださいます。　１５きょう、はっきりわかったように、父ダビデへの約束を実現してくださいました。　１６ああ、イスラエルの神様。　神様は父に、『おまえがわたしの道に歩んだように、おまえの子孫がわたしのおきてを守るなら、代々絶えることなくイスラエルの王としよう』とも約束なさいましたが、どうか、そのとおりにしてください。　１７どうか、この約束を完全に果たしてください。　１８それにしても、神様はこの地上で、ほんとうに人間とともに住まわれるのでしょうか。　天も、天の天も、神様をお入れすることはできないというのに、まして、私が建てたこの神殿ごときには、なおさらお入れすることはできません。
１９　神様、どうか、私の祈りに心を留め、これからささげる祈りに耳を傾けてください。
２０２１御名を置くと言われたこの神殿に、昼も夜も、愛のまなざしを注いでください。私がこの場所に向かってささげる祈りを、いつも聞き届けてください。　私と神様の国民イスラエルが、この神殿に向かってささげる祈りに、耳を傾けてください。　どうか、天から私たちの祈りを聞いて、私たちの罪をお赦しください。
２２　ある人が罪を犯し、この祭壇の前で無罪を主張する時、　２３天から聞いて、もし彼がうそをついているなら罰してください。　そうでなければ、無罪をはっきり認めてやってください。
２４　神様に罪を犯したため、イスラエルが敵に負けるような時、神様のもとに立ち返り、この神殿で神様に祈るなら、　２５天からその祈りを聞き、彼らの罪を赦し、先祖にお与えになったこの地に、彼らを連れ戻してください。
２６　私たちの罪のために天が閉ざされ、雨が降らないような時、私たちがこの神殿に向かって祈り、神様を呼び求め、懲らしめにこりて罪から立ち返るなら、　２７天からその祈りを聞き、国民の罪を赦し、正しい道を教えてください。　また、相続地としてお与えになったこの地に、雨を降らせてください。
２８　この地にききん、災害、立ち枯れ、いなごや油虫の害が発生したり、敵が攻め込んで来て町々を包囲したりした場合、たとい、それがどんな災難であっても、　２９共同でささげる祈りだけでなく、個人個人の祈りにも耳を傾けてください。　３０お住まいの天からその祈りを聞き、赦しを与え、一人一人にふさわしく報いてください。　神様は、すべての人の心を知り尽くしておられるからです。　３１そうすれば、国民はいつまでも神様を恐れかしこみ、神様が行けと言われた道を歩み続けることでしょう。
３２　また、外国人が神様の偉大な力を耳にし、神様をあがめようと、はるばる遠方から出かけて来て、この神殿に向かって祈る時にも、　３３お住まいの天からその祈りを聞き、願いをかなえてやってください。そうすれば、地上のすべての国民は、神様の名声を耳にし、イスラエル国民と同じように、神様を恐れかしこむようになるでしょう。　また、私が建てたこの神殿が、ほんとうに神様の住まわれる所であると、知るようになるでしょう。
３４　神様の国民がご命令で出陣する時、神様がお選びになったこのエルサレムの町、私

が神様のために建てたこの神殿に向かって祈るなら、３５天から彼らの祈りを聞き、勝利を与えてください。
３６　罪を一度も犯さないような人間はいませんから、彼らが神様に罪を犯してお怒りを買い、敵に敗れて異国の地に捕虜として連れ去られるような場合、　３７３８もし、彼らが行った地で神様に立ち返り、先祖にお与えになったこの地、この町、私が建てたこの神殿に向かって、罪の赦しを心から祈り求めるなら、　３９お住まいの天からその祈りを聞き、彼らを助け、罪を犯した神様の国民を赦してやってください。
４０　どうか神様、この所でささげられるすべての祈りに目を留め、じっと耳を傾けてください。　４１神様、どうか、いま立ち上がって、休み場にお入りください。　この休み場には、御力を象徴する箱も置かれています。　神様、祭司たちに救いの衣をまとわせ、聖徒たちに神様の恵みをほめたたえさせてください。　４２神様、私をお忘れにならないでください。　神様が油を注がれた者から、御顔をそむけないでください。　どうか、父ダビデへの愛といつくしみを、お忘れにならないでください。」
七
１２ソロモン王が祈り終えると、天から火が下って、いけにえを焼き尽くしてしまいました。　神様の栄光が神殿に満ちあふれたので、祭司たちは中へ入れません。　３国民はみな、このすばらしい光景を見て、顔を地面にすりつけるようにして神様を拝み、感謝をささげました。
人々は、「神様はなんとすばらしいお方でしょう！　いつも愛と恵みにあふれておられます」と大声で賛美しました。
４５それから、王と国民はみな、完全に焼き尽くすいけにえをささげて、神殿を神様にささげました。　このために、王は牛二万二千頭、羊十二万頭をささげました。　６祭司たちはそれぞれの部署につき、レビ人は、ダビデ王の手作りの楽器を手にして、「神様の恵みは永遠に絶えない」と賛美しました。　祭司たちがラッパを吹く時、国民はみな起立していました。　７青銅の祭壇ではささげきれないほど、たくさんのいけにえがあったので、王はその日のいけにえをささげる場所として、特別に神殿の内庭をきよめました。
８　続く七日間、イスラエル全国から集まった大群衆とともに仮庵の祭りが祝われました。中には、はるばるレボ・ハマテや、エジプト川あたりの遠方から来た人々もいました。　９最後の儀式が八日目にあったのち、　１０十月八日に、王は国民を家に帰しました。　みな、神様がダビデ王とソロモン王、およびイスラエル国民にお示しになった恵みを思い、喜びと感謝にあふれて家路につきました。
１１　こうしてソロモン王は、神殿と宮殿とを建て終わりました。　計画どおりすべて実現したのです。
１２　ある夜、神様は夢でソロモン王に現われ、こう告げました。「わたしはおまえの祈りを聞いた。　また、わたしにいけにえをささげる場所として、この神殿を選んだ。　１３わたしが天を閉ざしたため雨が降らなくなったり、いなごの大群が穀物を食い尽くしたり、

伝染病が大流行したりした場合、　１４もし、わたしの国民が、謙そんになって祈り、悪い道から離れてわたしに立ち返るなら、天からその祈りを聞き、彼らの罪を赦し、この地を元どおりにしよう。 １５この場所でのすべての祈りに耳を傾け、目を見開いていよう。 １６わたしが、この神殿を永遠のわたしの家として選び聖別したのだから、わたしの心はいつもここにある。
１７　おまえが、父ダビデのように、わたしに従うなら、　１８約束どおり、おまえとおまえの子孫を代々イスラエルの王としよう。　１９しかし、もしわたしに従わず、わたしの教えに背いて偶像を拝むなら、 ２０この地からわたしの国民を滅ぼしてしまおう。 わたしのために確保しておいたこの神殿も滅んで、多くの人の恐怖の対象、物笑いの種となろう。　２１神殿が有名であっただけに、そのそばを通る者はみな、信じられないといった顔つきでつぶやくだろう。
『どういうわけで、神様はこの地とこの神殿とに、こんなむごいことをなさったのだろう。』
２２　すると、このような答えが返ってくる。　『この地の国民は、先祖をエジプトから導き出してくださった神様を捨てて、ほかの神々を拝んだので、こんなむごい仕打ちを受けたのだ。』」
八
１　ソロモンが王となってから二十年かかって、神殿と宮殿が完成しました。　２そこでソロモン王は、ツロの王フラムから譲り受けた町町の再建に力を入れ、イスラエル人の一部を、そこに住まわせました。　３そのころ、ソロモン王はハマテ・ツォバの町を攻めて占領し、４荒野にタデモルの町を建て、物資の補給所としてハマテに幾つかの町を建てました。　５また、上ベテ・ホロンと下ベテ・ホロンの町を要塞化しました。　この二つの町は共に物資の補給所で、城壁で囲まれ、門にはかんぬきがかけてありました。　６同じころ、バアラテその他の、物資の補給所となる町々や、戦車や馬を置く町々を建設しました。　こうして王は、エルサレムとレバノンはじめ、すべての領地に建てたいと思っていたものを、みな建設したのです。
７８ソロモン王は、イスラエル人が国内に残しておいた外国人の子孫であるヘテ人、エモリ人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人を、奴隷労働者として徴用しました。　今でもそうです。　９イスラエル国民は奴隷としてではなく、兵士、将校、戦車隊員、騎兵隊員として用いました。　１０また、イスラエル人のうち二百五十人を、行政全般を担当する役人に取り立てました。
１１　ソロモン王はエジプト王の娘であった妻を、エルサレムの一角にあるダビデの町から、彼女のために建てた新しい宮殿に移しました。かねがね、「妻はダビデ王の宮殿に住んではならない。　そこは神の箱のある聖い場所だからだ」と言っていたからです。
１２　それから王は、神殿の玄関の前に築いた祭壇に、神様のために完全に焼き尽くすいけにえをささげました。　１３いけにえの数は、モーセの指示どおり、日によって違っていました。　安息日、新月の祭り、それに年ごとの三つの例祭である過越の祭り、七週の

祭り、仮庵の祭りには、特別のいけにえをささげました。　１４王は父ダビデが用意した当番表に従って、祭司を務めにつかせました。　またレビ人を、毎日の日課に従って、賛美の奉仕と祭司を補佐する仕事につかせ、門衛はそれぞれの門に配置しました。　１５王は、これらのこと、および宝物倉を管理する人事のことで、ダビデ王の指示から少しもそれませんでした。　１６こうして、神殿の建設工事をみごとに完成させたのです。
１７１８それから王は、フラム王が寄贈した船団の進水式に臨むため、エドムにある海港の町エツヨン・ゲベルとエラテへ行きました。　この船団は、ソロモン王の乗組員に協力する、フラム王の熟練した乗組員を乗せてオフィルに向かい、四十億円にも相当する金を、ソロモン王のもとへ持ち帰ったのです。
九
１　そのころ、風の便りで、ソロモン王の知恵のすばらしさを聞き知ったシェバの女王は、難問をしかけて王を試そうと、エルサレムへやって来ました。　大ぜいの家来や召使を従え、香油や金や宝石をらくだに山と積んで来ました。　２王は、すべての質問に明快に答えました。　わからないことは一つもなく、何でも説き明かすことができたのです。　３女王は、その知恵の深さにびっくりし、宮殿の美しさにすっかり圧倒されました。　４その上、食卓の料理の豪勢なこと、王に仕える家来や従者の多いことは、目をみはるばかりです。　彼らのそろいの服装、威儀を正した側近たち、王を護衛する人々を見て、息も止まりそうでした。
５　そこで、思ったとおりをソロモン王に言いました。「国で陛下についてお聞きしたことは、みなほんとうでした。　６実は、ここに来て、この目で拝見するまでは、とても信じられませんでした。 私が想像していたより、はるかにすばらしい知恵をお持ちですこと。
７おそばにいて、陛下のお話を聞けるこの方々は、なんと幸せなことでしょう。　８陛下の神様が、ほめたたえられますように！　神様はイスラエルをことのほか愛しておられるので、陛下のようなすばらしい王を、お立てになったに違いありませんわ。　きっと、イスラエルが、いつまでも偉大な、強い国民であることを望んでおられるのです。」
９　女王は王に、三億円相当の金と、最高の品質を誇る大量の香油、それに無数の宝石を贈りました。
１０　フラム王とソロモン王の乗組員たちは、オフィルから、金のほかに、びゃくだんの木材と宝石を運んで来ました。　１１王はびゃくだんで、神殿と宮殿の階段を作り、また合唱隊の竪琴や琴も作りました。このように見事な楽器は、これまでユダのどこにもありませんでした。
１２　ソロモン王は、シェバの女王に、もらった贈り物に見合う品物を贈り、その上、望みの物は何でも与えました。　それから、女王と家来の一行は故国へ帰って行きました。
１３１４ソロモン王は毎年、三千億円相当の金を受け取りました。　そのほか、アラビヤの王たちや、年貢を納める他の国々からのものや、王の貿易商による貿易収支の黒字がありました。　１５１６王は、一個八千四百万円する金の大盾二百と、一個四千二百万円す

る金の小盾三百を作り、宮殿のレバノンの森の間に置きました。　１７また、大きな象牙の王座を作り、これに純金をかぶせました。　１８金の足台のついたその王座には、六つの金の段がありました。　座席の両側には金のひじかけがついていて、そのわきには二頭の金のライオンが立っていました。　１９六つの段の両わきにも、それぞれ一頭ずつ金のライオンが立っていました。　これと比べられるような王座は、世界のどこにもありませんでした。　２０王の杯はみな純金で作られ、レバノンの森の間にある器物もすべて純金製でした。　銀は、ソロモン王の時代には、石ころ同然にみなされていたのです。　２１王は三年に一度、フラム王の提供する船員を使って、タルシシュへ船をやり、金、銀、象牙、さる、くじゃくなどを運ばせました。
２２　こうしてソロモン王は、世界中のどの王より羽振りがよくなり、また賢くなりました。　２３あらゆる国の王が、ソロモン王に会い、神様から授かった知恵のことばを聞こうと、はるばるやって来ました。２４彼らはおのおの、年ごとの贈り物として、金や銀の鉢、衣服、武器、香油、馬、らばなどを運んで来ました。
２５　そのほか、ソロモン王は四千の馬屋と戦車、それに騎兵一万二千を戦車の町々に配置し、また、エルサレムでの宮殿警護にあたらせました。　２６ユーフラテス川からペリシテ人の地、さらにエジプトの国境に至る地域のすべての王国が、王の支配地でした。　２７エルサレムでは、銀が路上の石のように大量に使われ、杉の木が桑の木のようにふんだんに使われました。　２８馬は、エジプトなどの国々から運ばれて来ました。
２９　そのほかのソロモン王の業績は、預言者ナタンの言行録、シロ人アヒヤの預言書、ならびに先見者イドの見たネバテの子ヤロブアムについての幻の記録に載っています。
３０　ソロモン王はエルサレムで、四十年間イスラエルを治めました。３１王は死んで、エルサレムに葬られ、息子レハブアムが新しく王となりました。
一〇
１　イスラエルの全指導者は、レハブアムの即位式を祝おうとシェケムに集まりました。２３一方、ネバテの子ヤロブアムの支援者たちは、使いを出してソロモン王の死を伝えました。　彼はその時、ソロモン王を避けてエジプトへ逃げていたのです。　急いで帰国したヤロブアムは、即位式に出席して、国民の要求をレハブアムに突きつけました。
４　「お父上は過酷な方でした。　どうか、お父上が私たちに負わせた重いくびきを軽くしてください。　そうすれば、あなたを王として受け入れます。」
５　レハブアムは、三日後に返事をするから、また来るようにと伝えました。　６そしてさっそく、この申し出について、父ソロモンの相談相手であった長老たちに、相談をもちかけました。
「あの連中に、どう返事したものだろうか。」
７　「彼らの王になろうと願われるなら、好意的な返事をして、親切にすることです。」
８９ところが、レハブアムは長老たちの助言を退け、彼といっしょに育った若者たちの意見を求めたのです。

「君たちは、どうしたらよいと思うかね。　父がしたよりも、あの連中への負担を軽くしてやるべきだろうか。」
１０　「とんでもありません！　こう言っておやりなさい。　『もし、父が重いくびきを負わせたと考えているなら、私がどのようにするか、楽しみに待っているがよい』とね。それから、こうも言うのです。『私の小指は、父の腰よりも太い。　１１負担を軽くするどころか、もっと重くしようと思っているのだ。　父はおまえたちを懲らしめるのに鞭を使ったが、私はさそりを使おう。』」
１２　ヤロブアムと国民は、三日後に、返事を聞きに戻って来ました。１３レハブアムは荒々しい口調で答えました。　長老たちの助言を退け、１４若者たちの言いなりになったからです。
「父はおまえたちに重いくびきを負わせたが、私はもっと重くしてやろう。　父は鞭でおまえたちを罰したが、私はさそりで罰してやる。」
１５　こうして王は、人々の願いに耳を貸そうとしませんでした。　こうなったのは、シロ人アヒヤがヤロブアムに告げた預言が実現するよう、神様がうしろであやつっておられたからです。　１６人々はこれを聞いて、王を見限り帰って行きました。
腹立ちまぎれに、「ダビデ王朝もこれまでだな。　だれかほかの人を、王にしよう。　レハブアムは、ユダ部族だけ治めれば十分だ。さあ、帰ろう」と叫びながら、自分の家へ帰ったのです。
１７　ユダ部族の人々は、レハブアムに忠誠を誓いました。　１８そののち、レハブアム王は、イスラエルのほかの部族から労働者を駆り集めようと、ハドラムを遣わしました。しかし、イスラエルの人々は石を投げつけて、彼を殺したのです。　この知らせを受けた王は、戦車に飛び乗ってエルサレムへ逃げ帰りました。　１９このように、イスラエルは現在まで、ダビデ王の子孫に治められることを堅く拒んでいるのです。
一一
１　エルサレムに戻ったレハブアム王は、ユダとベニヤミンのえり抜きの勇士十八万人を召集し、王国の再統一をめざして、他の諸部族に戦いをしかけました。
２　その時、神様は預言者シェマヤに命じました。
３　「さあ、行って、ソロモンの子であるユダの王レハブアムと、ユダとベニヤミンの人々に伝えよ。
４　『神様のお告げだ。　兄弟と戦ってはならない。　みんな家へ帰れ。　彼らの反逆は、わたしが仕向けたものだ。』　人々は、この神様のことばを聞いて、ヤロブアムと戦うことをやめました。
５‐１０レハブアム王はエルサレムにとどまり、守りを固めるため、次のユダの町々を、城壁と城門で囲まれた要塞にしました。
ベツレヘム、エタム、テコア
ベテ・ツル、ソコ、アドラム

ガテ、マレシャ、ジフ
アドライム、ラキシュ、アゼカ
ツォルア、アヤロン、ヘブロン
１１　王はまた、多くのとりでを再建して部隊を配置し、そこに食糧、オリーブ油、ぶどう酒などをたくわえました。　１２すべての町の兵器庫には盾と槍を備え、さらに守りを固めました。 王の側についていたのは､ユダとベニヤミンの二部族だけだったからです。１３１４ところで、他の諸部族出身の祭司とレビ人も、家を離れて、ユダとエルサレムに移って来ました。　ヤロブアム王が、彼らの祭司職を取り上げたからです。　１５ヤロブアム王は別に祭司を任命して、国民に偶像礼拝をけしかけ、自ら丘の上に築いた、雄やぎや子牛の像にいけにえをささげさせました。　１６そのため、イスラエル全国から、神様だけを信じる人々がエルサレムに移って来たのです。　エルサレムなら、自由に先祖の神様を礼拝し､いけにえをささげることができます。 １７その結果､ユダ王国は強くなり、三年間は、たいした困難もなく過ぎました。　この間、ダビデ王とソロモン王にならい、真剣に神様に従おうと努力がはらわれたからです。
１８　レハブアム王は、いとこのマハラテと結婚しました。　彼女は、ダビデの子エリモテと、ダビデの兄弟エリアブの娘アビハイルとの間にできた娘です。　１９この結婚によって、エウシュ、シェマルヤ、ザハムの三人の息子が生まれました。
２０　それから王は､アブシャロムの娘マアカと結婚しました。 彼女はアビヤ､アタイ、ジザ、シェロミテを産みました。　２１王は他のすべての妻、そばめにまさって、マアカを愛しました。　王には十八人の妻、六十人のそばめがいて、全部で息子が二十八人、娘が六十人できました。　２２マアカが産んだアビヤは、王のお気に入りだったので、アビヤを次の王にしたいと考えました。　２３そこで、慎重に、しかも賢く、ほかの息子たちをユダとベニヤミンにある要塞の町々に分散させた上、十分な手当を支給し、めいめいに数人の妻をあてがいました。
一二
１　ところが、人気が増し、力がつくと、レハブアム王は神様を捨てました。　国民も、王にならって同じ罪を犯すようになったのです。２その結果、エジプト王シシャクが、レハブアム王の即位後五年目に、エルサレムを攻撃したのです。　３戦いには、戦車千二百台、騎兵六万、エジプト人、リビヤ人、スキ人、エチオピヤ人からなる、数えきれないほどの大軍が加わりました。　４シシャク王は、たちまちユダの要塞の町々を占領し、ついにエルサレムまで攻め上りました。
５　その時、預言者シェマヤは、レハブアム王と、難を避けてエルサレムに逃げて来たユダ各地の指導者たちに会い、こう言いました。　「神様のお告げです。　『おまえたちはわたしを見捨てた。　それで、わたしもおまえたちを見捨て、シシャクの手に渡す。』」
６　すると､王と指導者たちは罪を告白し､「このような仕打ちをなさる神様は正しい」と叫びました。

７　この謙そんな態度をご覧になった神様は、シェマヤにこう言わせました。　「おまえたちが謙そんになったので、徹底的に滅ぼすようなことはしない。　シシャクの手で、怒りをエルサレムに注ぐことはやめよう。　８ただし、シシャクに、年ごとの貢を納めなければならんぞ。　そうすることで、シシャクに仕えるよりも、わたしに仕えるほうがどれほど良いか、骨身にしみてわかるだろう。」
９　エジプト王シシャクはエルサレムを占領し、神殿と宮殿の財宝を全部、ソロモン王の金の盾も含めて奪い取りました。　１０そこでレハブアム王は､代わりに青銅の盾を作り、護衛隊長に保管させました。１１王が神殿に入る時、護衛兵がその盾を持ち、あとで兵器庫に戻すのです。　１２王が謙そんになった時、神様の怒りはおさまったので、徹底的に懲らしめられるようなことはありませんでした。　そのため、シシャク王の侵略を受けてからも、ユダの経済力はかなりありました。
１３　レハブアム王は、神様がイスラエルのすべての町から、特にご自分の住まいとしてお選びになった町エルサレムで、十七年のあいだ治めました。　彼が王となったのは四十一歳で、母はナアマといいアモン人の女でした。　１４彼は真心から神様をお喜ばせしようとしたことのない、悪い王でした。　１５レハブアム王の業績については、預言者シェマヤと先見者イドの書いた言行録、および系図にくわしく記されています。
レハブアム王とヤロブアム王との間には、絶えず戦争がありました。　１６レハブアム王は死んで、エルサレムに葬られ、息子アビヤが新しく王となりました。
一三
１２アビヤは、イスラエルの王ヤロブアムの即位後十八年目に、エルサレムで、ユダの新しい王となりました。　彼は三年のあいだ王位にあり、母はギブア出身のウリエルの娘ミカヤでした。
彼が王になって間もなく、ユダとイスラエルとの間に戦争がありました。　３アビヤ王の率いる、鍛え抜かれた四十万のユダ軍は、ヤロブアム王の率いる、強力なイスラエル軍八十万と対抗しました。４ユダ軍が､エフライムの山地にあるツェマライム山に到着した時、アビヤ王は、ヤロブアム王とイスラエル軍に向かって叫びました。
５　「よーく聞け！　ダビデ王の子孫が代々イスラエルの王になるという神様の約束を、よもや知らぬはずはあるまい。　６おまえたちの王ヤロブアムは、ダビデの子ソロモンの家来で、主君に反逆した者ではないか。　７その上、ろくでもない不満分子の集団が加わって、ソロモンの子レハブアムに公然と挑戦した。　レハブアムは若く、臆病であったので、立ち向かうことはできなかった。　８ところで、おまえたちは、ダビデの子孫の治める神様の王国を、打ち負かせるとでも思っているのか。　おまえたちの軍勢は、われわれの二倍もあるが、ヤロブアム王が神様だと言って作った、金の子牛のためにのろわれている。　９おまえたちは神様の祭司とレビ人を追い出し、代わりに異教の祭司を任命した。
ほかの民族のように、若い雄牛一頭と雄羊七頭を持って来る者を、だれでも祭司として受け入れている。　どこの馬の骨でも、ものも言えない、おまえたちの神の祭司になれるで

はないか！
１０　だが、われわれはイスラエルの神様を信じる。　神様を捨てるようなことはしなかったのだ。　それに、アロンの直系の子孫だけが祭司で、その働きを助けるのはレビ人だけだ。　１１彼らは朝夕、完全に焼き尽くすいけにえを神様にささげ、かおりの高い香をたき、供えのパンを聖い机の上に置いている。　金の燭台には、毎晩、火がともされている。　このように、われわれは神様の教えを注意深く守っているが、おまえたちは神様を捨ててしまった。　１２これではっきりわかるように、神様はわれわれとともにおられ、導いておられる。　しかも、神様に仕える祭司たちは、進軍ラッパを吹き鳴らして、われわれをおまえたちと戦わせようとしている。　ああ、イスラエル軍よ。　先祖の神様と戦ってはならない！　とうてい勝ち目はないのだから。」
１３１４ところで、ヤロブアム王は、こっそり伏兵を相手の背後に回らせたので、ユダ軍は敵にはさまれてしまいました。　それを知ったユダの人々は、大声で神様のあわれみを求め、祭司たちはラッパを吹き鳴らし、　１５１６いっせいに、ときの声をあげたのです。すると、急に戦いの流れが変わって、アビヤ王とユダ軍は優勢になりました。　１７その日、ユダの人々は、イスラエルのえり抜きの兵士五十万人を殺しました。
１８１９こうしてユダは、先祖の神様に信頼して、イスラエルを破り、ヤロブアム王の軍勢を追い散らし、その支配下にあったベテル、エシャナ、エフラインの町、それに周辺の村々を占領しました。　２０イスラエルの王ヤロブアムは、アビヤ王が生きている間は勢力を挽回することができず、ついに、神様に打たれて死にました。
２１　そうする間に、ユダの王アビヤは力を増し、十四人の妻をめとり、二十二人の息子と十六人の娘をもうけました。　２２アビヤ王の言行のすべては、預言者イドの書いた『ユダ史』に記されています。
一四
１　アビヤ王はエルサレムに葬られ、息子アサが新しくユダの王となりました。　アサが王になった最初の十年間は、平和が続きました。２アサ王が心から神様に従っていたからです。　３王は丘の上の偶像の祭壇を取りこわし、柱を砕き、いまわしいアシェラの偶像を切り倒しました。　４そして、全国民に、先祖の神様の教えに従うよう命じたのです。５また、ユダのすべての町から、丘の上にある太陽神の像と香の祭壇を取り払いました。それで神様は、アサの王国に平和をお与えになったのです。　６王は、国中に、城壁に囲まれた町々を築くことができました。
７　アサ王は国民に語りました。　「今こそ、要塞の町を建てる時だ。私たちが神様に従ったので、神様が平和を与えていてくださるからだ。　城壁で囲まれ、やぐら、門、かんぬきを備えた要塞の町を築こう。」　国民は計画をみごとに実現しました。
８　アサ王の率いるユダ軍には、小盾と槍で武装した、三十万のえり抜きの兵士がいました。　また、ベニヤミン軍は二十八万を数え、大盾と弓で武装していました。　両軍とも十分に訓練された勇士ばかりです。　９１０ところが、ゼラフ将軍に率いられた、百万も

のエチオピヤの大軍が、三百台の戦車を先頭に、ツェファテの谷にあるマレシャの町にまで進んで来ました。　アサ王は、マレシャの町で迎え撃とうと、軍隊を出動させました。
１１　王は大声で神様に祈りました。　「ああ、神様。　私たちを救えるのは神様だけです。　私たちはこの大軍を前にして、あまりにも無力です。　神様、どうか、お助けください！　神様だけに信頼し、神様の御名によって、この大軍にあたります。　ただの人間に神様を負かすようなことは、させないでください！」
１２　神様はエチオピヤ軍を破ってくださいました。　エチオピヤ人は逃げ、アサ王とユダ軍の勝利です。　１３ユダ軍は、敗走する敵をゲラルまで追いつめたので、敵は全滅し、生き残った者は一人もいませんでした。　神様とその軍隊が、彼らを滅ぼしたからです。ユダ軍は山のような戦利品を持ち帰りました。　１４勢いをかって、ユダ軍がゲラル周辺のすべての町を攻めると、住民は神様からくる恐れに取りつかれました。　それで、これらの町からも、さらに大量の戦利品をかき集めました。　１５町を略奪しただけでなく、家畜のテントもこわし、多くの羊やらくだを奪って、意気揚々とエルサレムに凱旋しました。
一五
１　その時、神の御霊がオデデの子アザルヤに臨みました。　２アザルヤは、戦場から帰ったばかりのアサ王に会い、次のように言いました。
「陛下、私の申し上げることをお聞きください。　ユダとベニヤミンの兵士たち、耳をすまして聞きなさい。　あなたがたが神様とともにいる限り、神様もあなたがたとともにおられます。　神様を求めるなら、きっとお会いできます。　ただし、もし神様を捨てるようなことがあれば、神様もあなたがたを捨てます。　３これまで長い間、イスラエル国民はまことの神様を礼拝しませんでした。　国民を正しく導く、本物の祭司がいませんでした。　それで、神様の教えも知らずに生活してきたのです。　４それでも、悩みにぶつかって神様に立ち返り、神様を探し求めた時、神様はいつも、彼らを助けてくださいました。５神様に背いていた時には、平和がなく、八方ふさがりで、犯罪件数はうなぎのぼりでした。　６外敵との戦いに加えて、内戦が起こりました。　神様が、ありとあらゆる苦しみをもって災いを下されたからです。　７ところで、ユダの皆さん、気を落とさずに善行に励んでください。　必ず報いがあります。」
８　アサ王はこのお告げを聞くと、勇気を奮い起こして、ユダとベニヤミンの地、また占領下のエフライムの山地にある町々から、すべての偶像を取り除きました。　また、神殿の正面にある、神様の祭壇を築き直しました。
９　それから、ユダとベニヤミンの全住民、それに神様がアサ王とともにおられるのを見て、イスラエルのエフライム、マナセ、シメオンの各地から移住した人々を召集しました。１０アサ王の即位後十五年目の六月に、人々はみなエルサレムに集まり、　１１戦利品の一部である牛七百頭と羊七千頭を、いけにえとして神様にささげました。　１２そして、先祖の神様だけを礼拝するという契約を結び、　１３違反者はだれでも、老若男女の別な

く殺される、ということに同意したのです。　１４一同はラッパと角笛を吹き、大声で神様への忠誠を誓いました。　１５こうして、真心を尽くして契約を結び、他のすべてのものにまさって神様を慕い求め、ついに神様と出会うことができたので、だれもが大喜びでした。　神様は国のすみずみにまで平和をお与えになりました。
１６　アサ王は、母マアカでさえ、アシェラ像を作ったという理由で王母の位から退けました。　像のほうは、切り倒し、粉々にした上、キデロン川で焼き捨てました。　１７もっとも、イスラエル全国から完全に、偶像の宮が取り除かれたわけではありません。　しかし、ユダとベニヤミンの地に限れば、アサ王の心は、生涯を通じて、神様の前に完全だったと言えます。　１８王は、彼と彼の父が神様にささげた金銀の鉢を、神殿に運び入れました。　１９こうして、王の即位後三十五年目までは、戦争もなく、平和が続きました。
一六
１　アサ王の即位後三十六年目に、イスラエルの王バシャは戦いをしかけ、ユダに通じる道を押さえようと、ラマに要塞を築きました。　２これを知ったアサ王は、神殿と宮殿から金銀を持ち出し、ダマスコにいるシリヤの王ベン・ハダデに送り届けて、こう頼みました。
３　「お父上と私の父との間にあった、相互安全保障条約を、結び直しましょう。　わずかばかりの品ですが、どうぞお受け取りください。イスラエルの王バシャとの同盟を破棄し、彼が私に手出しできなくなるようにしていただきたいのです。」
４　ベン・ハダデ王はアサ王の要請を受け入れ、軍を動員してイスラエルを攻めました。シリヤ軍は、イヨン、ダン、アベル・マイムの町々、またナフタリにある物資の補給所を占領しました。　５事の成り行きを知ったバシャ王は、すぐにラマの再建を中止し、ユダを攻撃する計画をあきらめました。　６アサ王とユダの人々はラマに急行し、建築用の石や木材を持ち帰った上、それを使ってゲバとミツパを建てました。
７　その時、預言者ハナニがアサ王のところへ来て、こう言いました。「陛下は神様を信頼しないで、かえってシリヤ王を信頼なさいました。　そのため、シリヤ軍をむざむざ逃したのです。　８あのエチオピヤ人とリビヤ人の大軍が、戦車や騎兵を先頭に攻めて来た時、どんなことが起こったか、よもやお忘れではないでしょう。　陛下がひたすら神様により頼んだので、神様は彼らをことごとく、陛下の手に渡してくださったではありませんか。９神様は地上をあまねく見渡して、心を完全に神様に向けている人々を、探し求めておられます。　そのような人々を助けようと、大きな力を現わしてくださるのです。　陛下はなんとばかげたことをなさったのでしょう！　これからは、戦いの渦に巻き込まれることになりますぞ。」
１０　王は、これを聞いて真っ赤になって怒り、預言者を牢にぶち込んでしまいました。そのころ、王は国民を踏みにじっていました。
１１　アサ王のそのほかの業績は、『イスラエルとユダ諸王の年代記』に載っています。
１２王は即位後三十九年目に、両足が重い病気にかかりました。　ところが、そのことで

神様に祈るどころか、かえって医者を呼びにやったのです。　１３１４王は即位後四十一年目に死に、かねてからエルサレムに用意しておいた墓に葬られました。　遺体は、高価な香油や香料をしみ込ませた寝床に横たえられました。　人々は彼の埋葬のために、たくさんの香をたきました。
一七
１　アサの子ヨシャパテが代わって王となり、イスラエルと戦う準備を始めました。　２彼は、ユダの要塞化されたすべての町をはじめ、至る所と、父アサ王が占領したエフライムの町々に、守備隊を配置しました。
３　ヨシャパテ王は、父アサ王の最初のころの正しい生き方にならい、偶像を拝まなかったので、神様は彼とともにおられました。　４イスラエルの人々とは反対に、彼の父の神様の教えどおりに生活したのです。　５それで神様は、ユダの王としての彼の立場を、強くしてくださいました。　国民はみな納税に協力したので、王の財産は増え、人気も非常に高まりました。　６王は丘の上の異教の祭壇をこわし、アシェラ像を取り除くなど、思いきり神様に従いました。
７‐９即位後第三年目に、国中に宗教教育を広める計画を実行に移しました。　ベン・ハイル、オバデヤ、ゼカリヤ、ネタヌエル、ミカヤをはじめ政府の高官たちを、教師としてユダのすべての町々に派遣したのです。　また、シェマヤ、ネタヌヤ、ゼバデヤ、アサエル、シェミラモテ、ヨナタン、アドニヤ、トビヤ、トブ・アドニヤなど、レビ人も派遣しました。　祭司からは、エリシャマとヨラムなどです。　一行は、『神のおきての書』の写しを持ってユダのすべての町へ行き、国民に教えました。
１０　その結果、回りのすべての国々が神様を恐れるようになったので、ヨシャパテ王に戦いをしかける国は、一つもありませんでした。　１１ペリシテ人でさえ、贈り物や貢物を納め、アラビヤ人は雄羊七千七百頭、雄やぎ七千七百頭を献上しました。　１２こうして、ヨシャパテ王はますます勢力を増し、国中に要塞や倉庫の町を建てました。
１３　公共事業は拡大し、首都エルサレムには、強力な軍隊が駐屯していました。　１４１５三十万のユダ軍は、アデナ将軍に率いられ、その配下の指揮官ヨハナンの下には、二十八万の将兵がいました。　１６第三の指揮官であるジクリの子アマスヤは、とても信仰のあつい人で、二十万の将兵を率いていました。　１７ベニヤミン部族からは、偉大な将軍エルヤダの率いる、弓と盾で武装した二十万の将兵が加わりました。　１８エルヤダに続く指揮官はエホザバデで、その下に十八万の将兵がいました。　１９以上は、王がユダ国内の要塞化された町々に配置した軍隊とは別に、エルサレムに駐屯していた軍隊です。
一八
１　ところが、財産が増え、人気の高まったヨシャパテ王は、イスラエルの王アハブの娘を、息子の嫁に迎えることになり、アハブと縁を結んだのです。　２数年して、サマリヤにアハブ王を訪ねると、王は大宴会を開き、たくさんの羊や牛を料理してふるまいました。そのあとで王は、ラモテ・ギルアデの攻撃作戦に参加しないかと持ちかけました。

３－５「よろしいですとも。　どこまでも、あなたについて行きますよ。　わが軍はあなたの指揮下にあるようなものです。　それにしても、まず、神様にうかがいを立ててみようじゃありませんか。」　ヨシャパテ王は二つ返事で答えました。
そこでアハブ王は、おかかえの異教の預言者四百人を集め、「ラモテ・ギルアデへ攻め上るべきだろうか、それとも、やめるべきだろうか」と尋ねました。
「行きなさい。　勝利はまちがいありません。」　彼らは口々に答えました。
６７ところが、ヨシャパテ王は満足しません。　「ここには、神の預言者はいないのですか。　神の預言者にも、同じ質問をしてみたいですな。」
「一人だけいます。　あまり好かん男ですがね。　イムラの子でミカヤといいますが、いつも悪いことしか預言しないときてるんです。」
「ま、そんなことは言わず、彼の言うことも聞いてみましょう。」
８　そこで、イスラエルの王は側近の一人を呼び、「急いで、イムラの子ミカヤを呼んでまいれ」と命じました。
９　王衣をまとった二人の王が、威儀を正して、サマリヤの門の入口にある広場の王座につくと、その前で、預言者たちが次々に預言しました。　１０その一人、ケナアナの子ゼデキヤは、あらかじめ作っておいた鉄の角を取り出し、「神様のお告げです。　陛下はこれらの角でシリヤ軍を突き倒し、皆殺しにします」と預言しました。
１１　ほかの預言者もみな、同じように預言しました。　「さあ、ラモテ・ギルアデに攻め上りなさい。　勝利はまちがいありません。」
１２　ミカヤを呼びに行った使いの者は、事の成り行きを告げ、すべての預言者が、この戦争は王の勝利に終わる、と預言したことを話しました。
使いの者は、思いきってミカヤに言いました。　「あなたも、ほかの預言者たちに合わせて、王様のお気に召すようなことを話してくれませんか。」
１３　ミカヤはきっぱり答えました。　「神様にかけて誓います。　私は神様がおっしゃることを、そのまま話します。」
１４　彼が王の前に出ると、王はさっそく尋ねました。　「ミカヤ。　ラモテ・ギルアデに攻め上るべきだろうか、それとも、やめるべきだろうか。」
「攻め上るがよろしい！　大勝利はまちがいありません。」
１５　王は語気を強めて言いました。　「いったい、何度、神様がお語りになること以外はしゃべるな、と言わせるつもりか。」
１６　「私は幻の中で、イスラエル中の人々が、まるで羊飼いのいない羊のように、山々に散らされているのを見ました。　すると神様が、『彼らの主人は殺されたから、彼らを家へ連れ帰れ』と仰せになったのです。」
１７　王はヨシャパテ王に、はき捨てるように言いました。「お話ししたとおりでしょう。いつも、悪いことしか預言しないんですよ。」
１８　ミカヤはことばを続けました。　「神様のお告げはまだあります。私は、神様が御

使いの大軍に囲まれて、御座についておられるのを見ました。
１９２０その時、神様はおっしゃったのです。　『だれか、アハブ王をラモテ・ギルアデとの戦いに誘い出し、戦死させるようにする者はおらぬか。』
いろいろな提案が出されましたが、ついに、ある霊が進み出て、『私にやらせてください』と言いました。
神様が、『どういうふうにやるのか』とお尋ねになると、
２１　霊は答えました。　『王のすべての預言者にうその預言をさせます。』
神様は、『それはよい。　そのようにせよ』とおっしゃいました。
２２　それで、ご覧のとおり、陛下の預言者はうその預言をしたのです。　実際は、正反対のことを、神様は告げておられるのです。」
２３　すると、ケナアナの子ゼデキヤは、つかつかと歩み寄ってミカヤの頬をたたき、「このうそつきめっ！　いつ、神の御霊が私を離れて、おまえに乗り移ったというのか」とわめきたてました。
２４　「あなたが奥の間に隠れるようになった時、ほんとうのことがわかります。」
２５　イスラエルの王は、こう言いつけました。　「この男を捕らえて、市長アモンとわが子ヨアシュに渡し、　２６『この男を牢に入れ、戦いから無事に戻って来るまで、わずかなパンと水をあてがっておけと、王が命じた』と言うがよい。」
２７　ミカヤは答えました。　「もし、陛下が無事お戻りになるようなことがあるなら、神様は私をとおしてお語りにならなかったことになります。」　それから、回りの人々に、「私がいま言ったことを、よく覚えておきなさい」と言いました。
２８　こうして、イスラエルの王とユダの王は、それぞれの軍を率いて、ラモテ・ギルアデに攻め上りました。
２９　イスラエルの王はヨシャパテ王に、「私はだれにも気づかれないように変装しますが、あなたはちゃんと王衣を着ていてください」と言いました。　二人は、口約束したとおりにして出陣したのです。
３０　ところで、シリヤの王は、次のような指示を戦車隊員に与えていました。　「目標はイスラエルの王ただ一人だ！　ほかのだれにも手を出すな！」
３１　シリヤ軍の戦車隊員は、王衣を着たユダの王ヨシャパテを見ると、彼こそ目あてのイスラエルの王に違いないと思って、襲いかかりました。　ヨシャパテ王は、大声で神様に助けを求めました。　それで、シリヤ軍の戦車隊員は人違いだと気づき、王から離れました。　３２イスラエルの王でないとわかると、すぐ、追うことをやめたのです。　３３ところが、シリヤ軍の兵士の一人が、何気なくイスラエル軍に矢を放つと、それがなんと、イスラエルの王の胸当てと草摺りとの間を射抜いたのです。　王は戦車の御者に、苦しい息づかいの下から言いました。　「こ、ここから抜け出させてくれ。　深手を負ってしまった。」　３４その日の戦闘は、ますます激しさを加えました。　アハブ王は戦車の背に寄りかかったまま、シリヤ軍と戦いましたが、日が西の空に沈むころ、息を引き取りました。

一九
１　ユダの王ヨシャパテが無事に戻ると、　２ハナニの子､預言者エフーが出向いて来て、問いただしました。
「悪者を助けるべきでしょうか。　神様を憎む者を愛すべきでしょうか。　陛下がそのようになさったので、神様の怒りが下ります。　３それにしても、陛下には幾つかの良い点があります。　この地からアシェラ像を一掃して、神様に忠誠を尽くそうと努力してきたことが、それです。」
４　そののち、ヨシャパテ王は二度とイスラエルを訪問することもなく、エルサレムにとどまっていました。　のちに、王はもう一度、ベエル・シェバからエフライムの山地まで巡回して、国民が先祖の神様を礼拝するよう指導しました。　５国中の大きな町には裁判官を置き、　６こう訓示しました。
「諸君を任命したのは、わしではなく、神様だ。　だから、自分の行動に注意しなさい。神様が一人一人のそばに立って、諸君の前に持ち出されるすべての訴訟に、正しい判決を下すことができるよう、手を貸してくださる。　７神様のお示しに反するような判決を下さないよう､くれぐれも注意してくれ。　神様のお立てになった裁判官に､不正や不公平、わいろを取るような不始末があってはならないからだ。」
８　王はエルサレムにも裁判所を設けて、レビ人、祭司、氏族長から裁判官を任命し、　９やはり訓示を与えました。　「諸君は、いつも神様を恐れ、誠意を込めて行動しなければならない。　１０各地の裁判官から、殺人事件や神様の教えへの違反などについて、訴訟が持ち込まれたら､事実を確かめ､彼らが正しい判決を下せるよう助けてやりなさい。　神様の怒りが、諸君にも、彼らにも下ることがないためだ。　こうすれば、りっぱに責任を果たしたことになるのだ。」
１１　それから王は、不敬罪の訴訟を扱う裁判の最高責任者として、大祭司アマルヤを、民事訴訟を扱う裁判の最高責任者として、イシュマエルの子でユダ部族の長ゼバデヤを任命し、レビ人を補佐役にあてました。　王は、こう言って訓示を終えました。　「それぞれの職務に、恐れることなく、誠心誠意あたりなさい。　どうか、神様が諸君を用いて、正しい者の味方としてくださるように。」
二〇
１　そののち、モアブ人とアモン人、それにメウニム人の王の率いる連合軍が、ヨシャパテ王とユダの国民に戦争をしかけて来ました。２王に届いた情報はこうです。「大軍が、死海の向こうのシリヤから押し寄せて来ます。　もうハツァツォン･タマル、つまりエン･ゲディまで来ています。」　３あわてふためいた王は、神様の助けを仰ぐよりほかないと判断し、全国民に、神様の前に悔い改めて、しばらく断食して祈りに打ち込むよう命じました。　４人々は国中からエルサレムに集まり、心を一つにして神様の助けを求めました。
５王は、神殿の新しい庭に集まった人々の中に立って祈りました。
６　「先祖の神様。　天におられ、地上のすべての王国を支配しておられる神様。　神様

の測り知れない力に、だれも立ち向かうことはできません。　７私たちの神様。　神様の国民がこの地に入った時、神様は、この地に住んでいた異教徒を追い出し、この地を永久に、神様の友アブラハムの子孫のものとされたではありませんか。　８神様の国民はここに根を下ろし、神様のためにこの神殿を建てました。　９戦争、伝染病、ききんなどの災いに会った時、神様のおられるこの神殿の前に立って祈れば、きっと祈りは聞かれ、助けていただけると信じています。

１０　ところで今、アモンとモアブとセイル山の連合軍がしていることをご覧ください。神様は、先祖がエジプトを出て来た時、彼らの国に侵入するのをお許しになりませんでした。　そこで、彼らの国を避けて通り、滅ぼさないでおいたのです。　１１ところが今、彼らは何をしようとしているでしょうか。　神様が下さった地から、私たちを追い出そうとして攻め寄せて来るのです。　１２神様、彼らの来襲をとどめてください。　私たちには、このような大軍から身を守るすべなどありません。　どうしたらよいのか、見当もつきません。　ただ、神様に助けを求めるばかりです。」

１３　ユダの各地から集まった人々は、妻子や幼児たちといっしょに、神様の前に立っていました。　１４その時、神の御霊が、そこに立っていたレビ人ヤハジエルに臨んだのです。　彼は、アサフの子孫の一人で、マタヌヤの子エイエルの子ベナヤの子ゼカリヤの子でした。

１５　ヤハジエルは大声で語りだしました。　「ユダとエルサレムのすべての人々、またヨシャパテ王よ、よく聞きなさい！　神様のお告げです。　『恐れるな。　この大軍を見て肝をつぶしてはならない。　この戦いはおまえたちの戦いではなく、わたしの戦いだ。１６あす、エルエルの荒野に通じる谷はずれの、ツィツの坂を上って来る敵と出会うから、こちらから攻撃をしかけよ。　１７おまえたちは戦わなくてよい。　持ち場を守り、静かにして、わたしのすばらしい救いを見よ。　ユダとエルサレムの人々よ、恐れたり、気落ちしたりしてはならない。わたしがついている。　あす、出陣するのだ。』」

１８　王は地面にひれ伏しました。　全国民とエルサレムの住民も、同じように神様を礼拝しました。　１９それから、ケハテ氏族とコラ氏族のレビ人が立ち上がり、力強く神様を賛美しました。

２０　翌朝はやく、ユダ軍はテコアの荒野へ進軍しました。　途中、王は立ち止まり、大声で指示を与えました。　「諸君、わしの言うことを聞き、神様を信じなさい。　そうすれば、勝利はまちがいない！　預言者のことばを信じなさい。　そうすれば、事はうまくいく。」

２１　王は国の指導者と相談して、聖歌隊をつくることにしました。　この聖歌隊は聖い衣服をまとい、行進の先頭を進みながら、「神様のいつくしみは、いつまでも」と歌い、神様をたたえ、感謝をささげるのでした。　２２彼らが賛美歌をうたいだした時、神様は、アモン、モアブ、セイル山の連合軍の間で同士討ちを起こさせました。　それで彼らは、互いに殺し合うことになったのです。　２３まずアモン人とモアブ人が、セイル山から来

た軍隊を襲い、一人残らず殺してしまいました。　それが終わると、今度はアモン人とモアブ人がぶつかり合ったのです。　２４それで、ユダ軍が荒野を見下ろす物見の塔に着いた時には、見渡す限り、一面に死体が転がっていました。　逃げのびた敵兵は一人もいなかったのです。　２５王と国民は、遺体から金、武具、宝石などをはぎ取りました。　その数があまりにも多かったので、ぜんぶ運ぶのに三日もかかるほどでした。　２６四日目に、彼らは、今でもベラカ〔祝福〕の谷と呼ばれている谷に集まり、心から神様をほめたたえました。
２７　それから、王を先頭に、意気揚々とエルサレムに凱旋しました。　神様が、信じられないような方法で救い出してくださったので、心は喜びでいっぱいでした。　２８彼らは琴、竪琴、ラッパの奏楽で行進し、神殿に入りました。　２９以前にもあったように、近隣の国々は、神様がイスラエルの敵と戦われたと聞いて、神様への恐れでいっぱいになりました。　３０こうして、神様が安息をお与えになったので、ヨシャパテの王国は安泰を保ちました。
３１　ここで、ヨシャパテ王の一代記を簡単に述べましょう。　彼は三十五歳でユダの王となり、二十五年間エルサレムで治めました。　母親はシルヒの娘のアズバでした。　３２彼は、父アサ王のように良い王で、いつも神様に従おうとしました。　３３ただし、丘の上にある偶像の宮を取りこわすことだけはしなかったので、国民は、先祖の神様に従う決心を固めるまでには至りませんでした。
３４　ヨシャパテ王についての一部始終は、『イスラエル諸王の年代記』に載っている、ハナニの子エフーの書いた言行録に記されています。
３５　ところが王は、晩年になって、悪名高いイスラエルの王アハズヤと同盟を結びました。　３６二人は組んで、タルシシュ行きの船団を、エツヨン・ゲベルで編成したのです。　３７その時、マレシャ出身のドダワの子エリエゼルが、ヨシャパテ王について、「アハズヤ王と同盟を結んだので、神様は陛下の計画をぶちこわしにされます」と預言しました。　そうこうするうちに、船団は難破して、タルシシュへ行くことができなくなりました。
二一
１　ヨシャパテ王は死んで、エルサレムの王室の墓に葬られ、息子ヨラムが新しくユダの王となりました。　２ヨラムの兄弟には、アザルヤ、エヒエル、ゼカリヤ、アザルヤ、ミカエル、シェファテヤがいました。　３４ヨシャパテ王は、その一人一人に、金や宝石などの高価な贈り物、それにユダの要塞化された町々を与えました。　ただし、ヨラムは長男だったので、王国と王権を与えました。　ところが、王としての地位が確立すると、ヨラムは兄弟全員と、多くのイスラエルの指導者を殺したのです。　５ヨラムは三十二歳で王となり、八年間エルサレムで治めました。　６ところが、彼はイスラエルを支配した王、わけても、アハブ王にさえ引けを取らないほどの悪い王でした。　なにしろアハブ王の娘と結婚していたので、一生の間、のべつ幕なしに悪いことをしていました。　７それにもかかわらず、神様はダビデ王朝を見限るようなことはなさいませんでした。　ダビデ王に、

彼の子孫はいつまでも王座につく、と約束なさったからです。
８　そのころ、エドムの王が反逆して、ユダからの独立を宣言しました。　９ヨラム王は、戦車隊を含む全軍を率いて夜襲をかけ、もう少しでエドム軍を破るところでした。　１０ところが、現在まで、エドムはユダの支配を免れることに成功しているのです。　リブナも反逆しました。　それもこれも、王が先祖の神様を捨てたからです。　１１その上、ユダのあちこちの山に偶像の宮を建て、エルサレムの住民を偶像礼拝に誘いました。　それどころか、国民に偶像礼拝を強要さえしたのです。
１２　その時、預言者エリヤは王に、次のような手紙を送りました。「陛下のご先祖ダビデ王の神様のお告げです。　『おまえは、父ヨシャパテや、アサ王の手本にならわず、　１３イスラエルのほかの王にならって悪の道を進み、アハブ王と同じように、エルサレムとユダの国民に偶像礼拝を行なわせた。　また、おまえより善良だった兄弟を殺したので、１４今こそわたしは、おまえの国を大災害で滅ぼそう。　おまえはもちろん、妻子までも打たれ、全財産は散らされる。　１５おまえは腸の病気にかかり、はらわたが腐る。』」
１６　神様は、エチオピヤ人の隣に住むペリシテ人とアラビヤ人を奮い立たせて、ヨラム王を攻撃するよう仕向けました。　１７彼らはユダを目ざして進撃し、国境を越え、ヨラム王の妻子を含めて、王宮にあるめぼしいものをみな奪って行きました。　ようやくのことで、王の末子エホアハズだけが、難を逃れました。
１８　このの ち、神様は王を打たれたので、王は腸をわずらう不治の病にかかりました。１９二年目の終わりになると、腸が外にはみ出し、王は激しい苦しみに襲われながら死にました。　葬儀は略式で、ひどくお粗末なものでした。　２０ヨラム王は三十二歳で王となり、八年間エルサレムで治めて死にましたが、だれも王の死を悼みませんでした。　それどころか、エルサレムに葬られはしたものの、王室の墓地ではありませんでした。
二二
１　エルサレムの人々は、ヨラム王の末子アハズヤ（別名エホアハズ）を、新しく王に選びました。　アラビヤ人の略奪隊が、年長の息子たちを殺してしまったからです。　２アハズヤは二十二歳で王となり、一年間エルサレムで治めました。　母親はオムリの孫娘のアタルヤでした。　３彼もまた、母にそそのかされて、アハブ王の悪い例にならいました。４父ヨラム王の死後、アハブ家の者たちが助言者となったので、アハズヤは、アハブ王に引けを取らない悪い王になりました。
５　アハブ家の悪い助言者にあやつられて、アハズヤ王は、イスラエルの王アハブの子ヨラムと同盟を結びました。　その時、ヨラム王はシリヤの王ハザエルと、ラモテ・ギルアデで戦っていたので、アハズヤ王は軍を率いて援軍に駆けつけました。　イスラエルの王ヨラムは負傷し、　６治療のため、イズレエルに帰って来ました。　アハズヤ王も、イズレエルへ見舞いに行きました。　７ところが、このことが王のいのち取りになりました。神様は、ヨラム王と同盟を結んだ罰を下そうと決めておられたのです。　ヨラム王を見舞ったアハズヤ王は、彼と手を組んで、ニムシの子エフーとの戦いに出かけました。　この

エフーこそ、アハブ家を倒すため、神様がお立てになった人物だったのです。
８　エフーはアハブ家の者を追いかけ、手あたりしだいに殺していましたが、たまたま、ユダの高官とアハズヤ王の甥たちとを見つけたので、彼らも殺してしまいました。　９エフーと家来たちは、なおアハズヤ王を捜し回り、ついにサマリヤの町に隠れていた王を見つけ出したのです。　王はエフーの前に引き出され、殺されましたが、熱心に神様に仕えた、あのヨシャパテ王の孫だということで、王にふさわしく葬られました。　ところで、跡を継いで王となるべき子供は、ヨアシュのほかにいませんでした。　１０アハズヤ王の死の知らせを受けた王母アタルヤが、孫たちを殺してしまったからです。
１１　ヨアシュは、王の妹である叔母エホシェバに助け出され、宮殿の物置小屋に隠されていたのです。　彼女はヨラム王の娘で、祭司エホヤダの妻でした。　１２ヨアシュは、アタルヤが女王であった六年間、叔母や叔父、乳母たちに見守られて、ずっと神殿にかくまわれていました。
二三
１　アタルヤ女王の即位後七年目に、祭司エホヤダは勇気を奮い起こして、軍の指揮官数人と密約を結びました。　その相手は、エロハムの子アザルヤ、ヨハナンの子イシュマエル、オベデの子アザルヤ、アダヤの子マアセヤ、ジクリの子エリシャファテです。　２３彼らはこっそり国中を回って、レビ人や氏族長たちにエホヤダの計画を打ち明け、彼らをエルサレムへ呼び集めました。　集まった一同は、神殿にかくまわれていた若い王に、忠誠を誓いました。
エホヤダはこう訓示しました。　「ダビデ王の子孫が私たちの王となる、という神様のお約束どおり、王の子が王となる時がついにきました。　４次のように手はずを整えましょう。　祭司とレビ人の三分の一は、安息日に勤務する護衛として入口にとどまっていなさい。　５６他の三分の一は宮殿に入り、残りの三分の一は礎の門のところにいることにしましょう。　そのほかの者はみな、神様のおきてで決められたとおり、神殿の外庭にいなければなりません。　務めのある祭司とレビ人だけが、神殿に入ることができます。　７レビ人の諸君は、武器を手に、しっかり王を護衛してください。　神殿に踏み込む無法者がいれば、殺してもかまわない。　かた時もおそばを離れてはなりません。」
８　全員が指示どおりの配置につきました。　三人の指導者はそれぞれ、安息日の勤務当番日にあたる三分の一の祭司と、週日の務めについていた三分の一の祭司を率いていました。　大祭司エホヤダが、彼らを家に帰さずにおいたのです。　９エホヤダは、軍の指揮官全員に、ずっと神殿に保管してあった、ダビデ王の槍と盾を支給しました。１０一同は完全武装し、神殿の正面の端から端までと、外庭にある祭壇の回りに一列に並びました。
１１それから、幼い王子を連れ出して王冠をかぶらせ、その手に神様のおきての写しを渡し、彼が王であることを宣言したのです。
エホヤダとその息子たちが王に油を注いだ時、「王様、ばんざーい！」という叫びが、いっせいに起こりました。

１２１３この一連の騒ぎと王をたたえる声とを聞いて、アタルヤ女王は、何事が起こったのかと、神殿に駆けつけました。　見ると、王が入口の柱のところに立っており、そばには、隊長たちが並び、ラッパ手は王を取り囲んでいるではありませんか。　国中から集まった人々は喜んでラッパを吹き、合唱隊は、賛美を導く奏楽に合わせて歌っています。
女王は衣服を引き裂き、「謀反だ！　謀反だ！」と、気違いのように叫びました。
１４　祭司エホヤダは隊長たちに命じました。　「この女を連れ出して、殺せ！　神殿の中ではいかん。　女を助けようとする者は、だれでも容赦なく殺せ！」
１５‐１７群がっていた人々は、さっと道を開けました。　結局、彼女は宮殿の馬小屋で殺されました。
それからエホヤダは、彼と王と国民とが神様のものとなる、という厳粛な契約を結びました。　国民はこぞってバアルの神殿に駆け込んで建物をこわし、祭壇を砕き、像を倒し、バアルの祭司マタンを祭壇の前で殺しました。　１８エホヤダは、レビ人の祭司に神殿の管理を任せ、モーセのおきてどおり、完全に焼き尽くすいけにえを神様にささげるよう命じました。　ダビデ王の決めた組分けに従って働くレビ人たちは、仕事をしながらうれしそうに歌いました。　１９神殿の門衛は、不浄な者や資格のない者が、いっさい入らないように見張っていました。
２０　それから、軍の指揮官、貴族、高官はじめ人々はみな、王を護衛して神殿から出て行き、上の門を通って宮殿に入り、ヨアシュを王座につかせました。　２１全国民が喜びました。 アタルヤ女王が死んだので､エルサレムの町は平和一色に塗りつぶされました。
二四
１　ヨアシュは七歳で王となり、四十年間エルサレムで治めました。母親はツィブヤといい、ベエル・シェバ出身でした。　２ヨアシュ王は、祭司エホヤダが生きている間は、神様を喜ばせようと一生懸命に努力しました。　３エホヤダが王にあてがった二人の妻は、息子や娘たちを産みました。
４　のちに、王は神殿の修復を思い立ち、　５祭司やレビ人を召集して命じました。
「神殿をりっぱに修復したいから、ユダのすべての町々へ行って、献金を集めよ。　さっそく取りかかれ。　ぐずぐずしてはならない。」ところが、レビ人はなかなか腰をあげようとしませんでした。
６　王は大祭司エホヤダを呼びつけました。　「なぜ、ユダの町々やエルサレムから神殿税を集めるために、レビ人をやらないのですか。神殿の修復用に神様のしもべモーセの決めた納税のおきては、ぜひ実施しなければなりません。」
７８というのは、あの悪女アタルヤの取り巻き連中が神殿を荒らし、神様のために特別に聖めたものを、バアルの神殿に移していたからです。　そこで、王は箱を作って、それを神殿の門の外側に置くよう指示しました。　９それから、神様のしもべモーセが課した税金を神殿に持参するようにとの布告が､ユダのすべての町々とエルサレムに出されました。
１０すると、指導者や国民は、われ先にと税金を投げ入れたので、箱はすぐいっぱいにな

りました。
１１　レビ人が箱を王の会計事務所に運ぶと、王の書記官と大祭司に仕える管理人とが金額を計算し、からになった箱を、また元の場所に返すのです。　同じことが毎日くり返されました。　１２王とエホヤダは、集まった金を修復工事の監督者に渡しました。　彼らは、その金で石工や大工、鉄や青銅の器具を作る鋳造師を雇いました。　１３こうして工事は進み、ついに神殿は前よりもりっぱになりました。　１４工事が完成すると、余った金が王とエホヤダに手渡されました。　それは、金銀のさじ、香をたく金銀の鉢、いけにえをささげるための器具を作る費用にあてました。
祭司エホヤダの生きている間、完全に焼き尽くすいけにえは、一日も欠かさずにささげられました。　１５エホヤダはずいぶん長生きしましたが、ついに百三十歳で死に、　１６ダビデの町の王室墓地に葬られました。　彼はイスラエルのため、神様のため、そして神殿のために、多くの良いことを行なったからです。
１７１８ところが、エホヤダの死後、ユダの指導者たちはヨアシュ王を悪の道に誘い込みました。　王に、先祖の神を捨て、恥ずべき偶像を拝むようにさせたのです。　神様の怒りは再びユダとエルサレムに下りました。　１９神様は、国民が立ち返るようにと、預言者を遣わしましたが、だれも耳を貸そうとしませんでした。
２０　その時、神の御霊がエホヤダの子ゼカリヤに臨みました。　ゼカリヤは全国民を召集し、壇上に立って言いました。　「なぜ神様の戒めに背いているのか、神様は、そのわけを知りたいと言っておられる。　こんな状態では、何をしても失敗に終わるだけだ。　あなたがたが神様を捨てたので、今度は神様があなたがたをお見捨てになる番だ。」
２１　指導者たちはゼカリヤを殺そうとたくらみました。　しかもヨアシュ王は、神殿の庭で彼を死刑にするよう命じたのです。　２２このように王は、エホヤダの愛と忠誠に、彼の息子を殺害するという悪をもって報いたのです。　ゼカリヤは死ぬまぎわに、「神様、彼らがしていることをご覧になり、彼らの悪に報いてください」と言いました。
２３　それから二、三か月して、シリヤ軍がユダとエルサレムに攻め上って、占領しました。　彼らはユダの指導者を一人残らず殺し、大量の戦利品をダマスコへ持ち帰りました。
２４シリヤ軍は少数で大勝利を収めたのです。　ユダの大軍が少数のシリヤ軍に負けたのは、国民が先祖の神様を捨てたからにほかなりません。　こうして、神様はヨアシュ王に、きびしいさばきをお下しになったのです。　２５シリヤ軍は、重傷を負ったヨアシュ王を置き去りにして引き揚げました。　家来たちは、祭司エホヤダの息子を殺した責任を問うため、殺人者の王を暗殺して、ダビデの町に葬りました。　ただし、王室墓地ではありませんでした。　２６この謀反を企てたのは、ザバデとエホザバデで、ザバデの母親シムアテはアモン出身、エホザバデの母親シムリテはモアブ出身です。
２７　ヨアシュ王の子供たち、王に臨んだのろいのこと、神殿の修復のことについてもっと知りたい人は、『諸王の年代記』を参照してください。
ヨアシュ王は死んで、息子アマツヤが新しく王となりました。

二五
１　アマツヤは二十五歳で王となり、二十九年間エルサレムで治めました。　母親はエホアダンといい、エルサレム出身でした。　２アマツヤ王は正しいことを行ないましたが、いつも本心からとは限りませんでした。　３王としての地位が固まると、彼は父親の暗殺者を処刑しました。　４それでも、モーセのおきてを守り、その子供たちまでは殺しませんでした。　モーセのおきてでは、父親は子供のせいで殺されてはならず、子供も父親のせいで殺されてはならないことになっていました。　めいめいの罪によってさばかれるべきだったのです。
５６それから王は、軍隊を再編成し、ユダとベニヤミンの各氏族に指導者を立てました。人口調査をしてみると、槍と剣の使い手として訓練された二十歳以上の兵士が、三十万人もいるとわかりました。　また六千万円を支払って、十万人の訓練された兵士を、イスラエルから雇いました。
７　ところが、預言者が神様のお告げを伝えました。　「陛下、イスラエルの兵士を雇い入れてはなりません。　神様が共におられない者たちだからです。　８そんな連中といっしょに戦いに出たら、どんなによく戦っても負けます。　神様には、助ける力もあれば、倒れさせる力もあるのです。」
９　「だが、あの金が惜しい！　金のことは、どうしたらよいだろう。」
「神様は、それ以上のものを陛下に与えることが、おできになります！」
１０　そこでアマツヤ王は、傭兵を郷里のエフライムへ帰したのです。このことで、彼らは侮辱されたと思い、ひどく腹を立てました。　１１王は勇気を出し、軍隊を率いて塩の谷へ行き、そこでセイルから来た一万人を殺しました。　１２ほかにも一万人を生け捕りにし、がけから突き落としたので、みな谷底の岩でばらばらになりました。
１３　一方、強制送還されたイスラエルの兵士は、ベテ・ホロンからサマリヤまでの地域にある、ユダの幾つかの町に侵入し、三千人を殺し、多くの戦利品を奪い去りました。
１４　エドム人を血祭りにあげたアマツヤ王は、セイルの人々の偶像を持ち帰りました。それぱかりか、この偶像を神々として祭り、その前に頭を下げ、香までたいたのです。　１５このことで激しく怒った神様は､預言者を使いに立て､きびしく問いただしました。「おまえの手から国民を救い出せなかったような神々を、なぜ拝むのか。」
１６　王は預言者のことばをさえぎりました。　「いつ、私が助言を求めたか。　殺されたくなければ、黙っていることだ。」
「これで､はっきりしました。　神様は陛下を滅ぼすおつもりです。　陛下が偶像を拝み、私の勧めを聞こうとされないからです。」　預言者はこの警告を残して、立ち去りました。
１７　ユダの王アマツヤは、相談役の意見を取り入れて、エホアハズの子で、エフーの孫にあたるイスラエルの王ヨアシュに、戦いをしかけました。
１８　ところがヨアシュ王は、次のようなたとえで応じたのです。　「レバノン山のあざみが、レバノン山の杉の木に、『娘さんを息子の嫁にくれないか』と頼みました。　ところ

が、レバノン山の野獣が通りかかり、そのあざみを踏みにじってしまいました。　１９あなたは、エドムを征服したことで鼻を高くしている。　しかし、悪いことは言わないから、おとなしくしていることですな。　へたな手出しはおやめなさい。　さもないと、国民ともども痛い目に会いますよ。」
２０　ところが、アマツヤ王は聞き入れようとはしませんでした。　神様は、エドムの神々を拝んでいた王を、滅ぼそうとしておられたからです。　２１両軍は、ユダのベテ・シェメシュでぶつかりましたが、２２ユダは、総くずれになって退却しました。　２３イスラエルの王ヨアシュは、負けたユダの王アマツヤを捕らえ、捕虜としてエルサレムへ連れて行きました。　それから、エルサレムの城壁をエフライムの門から隅の門まで、二百メートルにわたって取りこわすよう命じました。２４また、神殿にあったすべての財宝と金の鉢、それに宮殿の財宝を運び出し、オベデ・エドムを含む人質を連れてサマリヤへ帰りました。
２５　それでも、アマツヤ王は、ヨアシュ王の死後、なお十五年も生きのびたのです。　２６アマツヤ王のくわしい伝記は、『ユダとイスラエル諸王の年代記』に記されています。２７その記録には、王が神様から離れたいきさつ、エルサレムで謀反が起こり、ラキシュへ逃げたこと、ついに追いつめられてラキシュで殺されたこと、などが載っています。　２８人々は王の死体を馬でエルサレムに運び、王室墓地に葬りました。
二六
１　ユダの国民は、十六歳のウジヤを新しい王としました。　２ウジヤは父の死後、エラテの町を再建して、ユダに復帰させました。　３彼は五十二年間エルサレムで治めました。母親はエコルヤで、エルサレム出身でした。　４ウジヤは父アマツヤ王の足跡にならい、神様の目から見てまずまずの王でした。
５　神様から特別な示しを受けたゼカリヤが生きている間、ウジヤ王は熱心に神様を求めました。　王が神様の道を歩んでいる間は、神様の祝福を受けて、王国は栄えました。　６王はペリシテ人と戦った時、ガテの町を占領して城壁をこわし、ヤブネとアシュドデの町々にも同様にしました。　それから、アシュドデとペリシテのほかの場所に、新しい町を建てたのです。　７神様はペリシテ人との戦いだけでなく、グル・バアルのアラビヤ人との戦い、メウニム人との戦いでも、王を助けてくださいました。　８アモン人はウジヤ王に、年貢を納めるようになりました。　王の勢力は強大になったので、名声は遠くエジプトにまで伝わりました。
９　ウジヤ王は、エルサレムの隅の門、谷の門、それに城壁の曲がり角にやぐらを建てて補強しました。　１０また、ネゲブにも要塞を築き、水ためを幾つも掘りました。　谷にも平地にも、多くの家畜の群れがいたからです。　王は土に親しむ人で、山の中腹や、よく肥えた平野に農園やぶどう畑をたくさん持っていました。
１１　ウジヤ王は、軍隊を組織化して、陸軍長官エイエルと補佐官マアセヤの割り振った、各部隊に編成しました。　最高司令官はハナヌヤ将軍でした。　１２二千六百人の勇敢な

氏族の指導者が、各部隊を指揮しました。　１３この軍隊の兵力はえり抜きの三十万七千五百でした。１４王は全軍を盾、槍、かぶと、よろい、弓、石投げの石などで武装させました。　１５さらに、すぐれた発明家の考案した、やぐらや城壁の角にある塔から矢や大きな石を打ち出す新兵器を、エルサレムで製造しました。　神様が王に力を貸したので、ウジヤ王は非常に有名になりました。
１６　ところが、それに気をよくした王は思い上がり、ついに堕落への道を進み始めました。　入ることを禁じられていた神殿の聖所に入って、祭壇の上で香をたくようなことまでして、神様に罪を犯したのです。　１７１８大祭司アザルヤは、勇気ある祭司八十人を従えて入って来て、口々に、出て行くようにと言いました。
「陛下。　香をたくことは、王の仕事ではなく、アロンの子孫である祭司だけの仕事です。すぐ出てください。　陛下は罪を犯したのです。　こんなことを、神様はおほめにはなりません。」
１９　真っ赤になって怒った王は、香炉を手放そうとしませんでした。ところが、突然、らい病が王の額に現われたのです。　２０アザルヤはじめ祭司たちは、これを見て、あわてて王を外に連れ出そうとしました。　神様に打たれたと知ると、王はさすがに逆らおうとはせず、自分から出て行きました。
２１　らい病にかかった王は、死ぬまでずっと、隔離された家に住み、人々にも神殿にも、近づくことができませんでした。　息子ヨタムが摂政となって王の職務を代行し、国を治めました。
２２　ウジヤ王の治世の一部始終は、アモツの子、預言者イザヤが書き留めています。　２３ウジヤ王は、らい病だったにもかかわらず、死ぬと、王室墓地に葬られ、息子のヨタムが新しく王となりました。
二七
１　ヨタムは二十五歳で王となり、十六年間エルサレムで治めました。　母親エルシャはツァドクの娘でした。　２彼は、不法に神殿に入るような罪を犯したものの、だいたいにおいて良い模範を残した、父ウジヤ王の行状にならいました。　ところが、国民はますます神様から離れていったのです。
３　ヨタム王は神殿の上の門を建て、また、神殿が建っていた丘の上の城壁を再建、拡張しました。　４ユダの山地にも町々を建て、森林地帯には要塞とやぐらを築きました。
５　アモン人と戦って勝ったヨタム王は、それからの三年間、六千万円相当の銀、小麦一万袋、大麦一万袋を年貢として納めさせました。　６王は神様の道を踏みはずすまいと注意したので、勢力を増し加えました。
７　ヨタム王のその他のこと、戦いや行状については、『イスラエルとユダ諸王の年代記』に記されています。　８彼は二十五歳で王となり、十六年間エルサレムで治めたのち、　９死んで、エルサレムに葬られ、息子アハズが新しく王となりました。
二八

１　アハズは二十歳で王となり、十六年間エルサレムで治めました。　ところが、先祖のダビデ王とは似ても似つかない、悪い王でした。２イスラエルの王たちの悪い例にならって、バアルの偶像を拝んだのです。　３わざわざベン・ヒノムの谷まで出向いて、盛大に偶像礼拝を行ないましたが、香をたくだけにとどまりませんでした。　その谷で、神様がイスラエルのために追放した異教徒にならって、自分の子供たちを、いけにえとして火に投げ込んだのです。　４それだけではありません。　丘の上の偶像の宮や、すべての緑の木の下で、いけにえをささげたり、香をたいたりもしました。
５　そういうわけで、神様は、シリヤの王がアハズ王の軍隊に勝ち、国民の多くを捕虜として、ダマスコへ連れ去るままになさいました。　イスラエル軍も、ユダに攻め入り、大損害を与えました。　６たった一日で、レマルヤの子ペカ王は、アハブ王の勇士十二万人を殺したほどでした。　彼らが先祖の神様を捨てたからです。　７エフライムの大勇士ジクリは、王子マアセヤ、宮内長官アズリカム、王の補佐官エルカナを殺しました。　８イスラエル軍は、ユダの婦人と子供、合わせて二十万人を捕虜とし、たくさんの戦利品を手に入れて、サマリヤへ帰りました。
９　ところで､サマリヤにいた神様の預言者オデデが､帰って来たイスラエル軍を出迎え、こう言いました。
「先祖の神様は、ユダを怒ってあなたがたの手にお渡しになった。　ところが、あなたがたは、天もびっくりするほどの残忍さで彼らを手にかけた。　１０しかも、ユダとエルサレムから連れて来た人々を、奴隷にしようとしている。　あなたがた自身が、神様に罪を犯しているのではないか。　１１私の言うことを聞き、親族であるユダの人々を、家へ帰してやりなさい。　そうでないと､神様の燃えるような怒りが､あなたがたにも下るのだ｡」
１２　エフライムの最高指導者であるヨハナンの子アザルヤ、メシレモテの子ベレクヤ、シャルムの子ヒゼキヤ、ハデライの子アマサも、同じ意見でした。
１３　「捕虜を連れて来たら、神様は激しくお怒りになる。　ほかの多くの罪に、さらにこの罪が加わるからだ。　もうこれ以上、神様をわずらわせてはならない｡」
１４　そこで将校たちは､捕虜と戦利品のことは､政治的指導者に任せることにしました。
１５先に名をあげた四人は、戦利品の中にあった多くの衣服を、捕虜の中で困っている婦人や子供たちに配り、くつをはかせ、パンを食べさせ、ぶどう酒を飲ませました。　また、病人や老人はろばに乗せて、なつめやしの町エリコにいる家族のもとへ送り届けました。それから、護送の任にあたった者たちは、サマリヤへ帰りました。
１６１７そのころ、エドムがユダを侵略し、大ぜいの人を奴隷として連れ去ったので、アハズ王は、エドム軍と戦うため、アッシリヤ王に援助を求めました。　１８一方、ペリシテ人は低地の町々や南のネゲブに侵入し、ベテ・シェメシュ、アヤロン、ゲデロテやソコ、ティムナ、ギムゾとそれぞれ周辺の村々を占領し、そこに住みつきました。　１９こうなったのは、ユダの国民の宗教心を破壊し、神様に不信の罪を犯したアハズ王の悪事のためでした。　神様はそのことを反省させようとなさったのです。　２０ところで、アッシリ

ヤの王ティグラテ・ピレセルは、アハズ王を助けるどころか、かえって悩ますためにやって来ました。　２１アハズ王は神殿の金や宮殿の宝物を贈りましたが、なんの効き目もありませんでした。
２２　こうした大きな試練の時に、アハズ王はますます神様に背を向けるようになりました。　２３自分たちを負かしたダマスコの神々にいけにえをささげたのです。　そうすれば、この神々が、シリヤの王を助けたように、自分たちをも助けてくれると思ったからです。　ところが、期待に反して、この神々は王と国民を堕落させるだけでした。２４王は神殿から金の鉢を取り出してめった切りにし、神殿のとびらに釘を打ちつけて、だれもそこで礼拝できないようにしたのです。　また、エルサレムのすべての町かどに、異教の神々のための祭壇を築きました。　２５さらに、ユダのすべての町でも同じようにして、ついに、先祖の神様の激しい怒りを買ったのです。
２６　アハズ王の一生と行状は、『ユダとイスラエル諸王の年代記』にくわしく記されています。　２７王は死んで、エルサレムに葬られましたが、王室墓地には入れてもらえませんでした。　息子ヒゼキヤが新しく王となりました。
二九
１　ヒゼキヤは二十五歳でユダの王となり、二十九年間エルサレムで治めました。　母親はゼカリヤの娘アビヤでした。　２彼の治世は、先祖ダビデがそうであったように、神様のお眼鏡にかなうものでした。
３　治世第一年の一月（ユダヤ暦による。　太陽暦では三、四月にあたる）に、ヒゼキヤ王は神殿のとびらを開けて、内部を修理しました。　４５それから、祭司とレビ人たちを、神殿の東側の広場に呼び集めて訓示しました。
「レビ人の諸君、聞いてください。　まず、あなたがた自身の身をきよめ、それから、先祖の神様の神殿をきよめなさい。　聖所から、きたないものをぜんぶ掃き出しなさい。　６それというのも、私たちの先祖が神様の前に大きな罪を犯し、神様を捨て去り、神殿に背を向けたからだ。　７神殿は堅く閉ざされ、絶やしてはならないともしびの火は消え、香もたかれず、完全に焼き尽くすいけにえもささげられなかった。　８そういうわけで、神様の怒りがユダとエルサレムに下り、今も見るとおり、神様は私たちを、恐れと驚きとあざけりの見本となさったのだ。　９父は戦死し、妻子は捕虜になっている。
１０　私は、神様の燃える怒りが去るように、イスラエルの神様と契約を結びたいと思う。
１１さあ、諸君、これ以上、たいせつな務めを怠ってはならない。　神様は諸君を選んで、ご自分に仕えさせ、香をたく務めに任じてくださったのだ。」
１２‐１４そこでレビ人たちは、それぞれの務めにつきました。
ケハテ氏族からは、アマサイの子マハテとアザルヤの子ヨエル
メラリ氏族からは、アブディの子キシュとエハレルエルの子アザ
ルヤ
ゲルション氏族からは、ジマの子ヨアフとヨアフの子エデン

エリツァファン氏族からは、シムリとエイエル
アサフ氏族からは、ゼカリヤとマタヌヤ
ヘマン氏族からは、エヒエルとシムイ
エドトン氏族からは、シェマヤとウジエル
１５　彼らは次々に、身内のレビ人を集め、まず自分自身の身をきよめてから、神様に代わって語った王の命令どおり、神殿をきよめる仕事に取りかかりました。　１６祭司は神殿の奥の部屋をきよめ、その中にあった汚れたものや、こわれたものを全部、外庭に持ち出しました。　それを、レビ人が車でキデロン川へ運びました。　１７この神殿のきよめが始まったのは一月一日（ユダヤ暦による。　太陽暦では三月中旬）で、その月の八日には外庭のきよめに取りかかり、八日間ですませました。　それで、神殿全体のきよめは、十六日間で終わったことになります。
１８　彼らは宮殿に戻り、ヒゼキヤ王に報告しました。　「ただ今、神殿のきよめを完了いたしました。　完全に焼き尽くすいけにえの祭壇と付属の器具、供えのパンの机と付属の器具も、すべてきよめました。　１９さらに、アハズ王が神殿を閉じたとき取り除いた、すべての器具を整え、きよめました。　みな祭壇のそばにございます。」
２０　翌朝はやく、王は、町の役人たちを従えて神殿に上りました。２１その時、この国と神殿のためにささげる、罪が赦されるためのいけにえとして、雄の子牛七頭、雄羊七頭、子羊七頭、雄やぎ七頭が用意されました。
王はアロンの子孫である祭司に命じて、いけにえを神様の祭壇にささげさせました。　２２雄の子牛が殺されると、祭司はその血を取って、祭壇に注ぎかけました。　雄羊や子羊の場合も同じでした。　２３罪が赦されるためのいけにえ用の雄やぎが、王と役人たちの前に引いて来られると、彼らはその雄やぎの上に手を置きました。　２４それから、祭司はこの雄やぎを殺し、血を祭壇に注いで、罪が赦されるためのいけにえとし、王が命じたとおり、イスラエル全国民のために贖いをしました。　完全に焼き尽くすいけにえと罪が赦されるためのいけにえとは、イスラエル全国民のためにささげるように、王が指示しておいたのです。
２５２６王は、神殿に仕えるレビ人に、シンバル、琴、竪琴を持たせて、オーケストラを編成しました。　これは神様のお告げを受けた、ダビデ王および預言者ガドとナタンの指図に従っています。　祭司はラッパを吹く役を引き受けました。　２７そこで王は、完全に焼き尽くすいけにえを祭壇にささげるよう命じました。　いけにえをささげ始めると、オーケストラがいっせいに賛美歌を演奏し、それに合わせてラッパが響きました。　２８この儀式の間中、歌い手が歌い、ラッパが鳴るのに合わせて、全会衆が神様を礼拝したのです。　２９いけにえをささげ終わると、王と側近たちは、神様の前にひれ伏して礼拝しました。　３０それから王は、ダビデ王と預言者アサフの詩を神様の前で歌うように、レビ人に命じました。　彼らは喜んで神様をほめたたえ、一同はひれ伏して神様を礼拝しました。

３１　王は一同に言いました。「きよめの儀式はこれで終了した。　さあ、今度は、あなたがたの感謝のいけにえを持って来なさい。」　そこで各地から集まった人々は、感謝のいけにえを持って来ました。　中には、進んで、完全に焼き尽くすいけにえを持って来る人もいました。　３２３３完全に焼き尽くすいけにえは、全部で雄の子牛が七十頭、雄羊が百頭、子羊が二百頭でした。　さらに聖なるささげ物として、牛六百頭、羊三千頭が加えられました。　３４ただし、完全に焼き尽くすいけにえの用意をする祭司の手が足りなかったので、彼らの兄弟であるレビ人が、その仕事をしました。　このあとも、さらに多くの祭司が加えられるまで、仕事を手伝いました。レビ人は、祭司よりも早く身をきよめて、準備していたのです。　３５たくさんの完全に焼き尽くすいけにえ、そのための注ぎのぶどう酒、それに、多くの和解のいけにえがありました。　このようにして、神殿での奉仕が再開され、いけにえがささげられるようになったのです。　３６ヒゼキヤと全国民は、神様がこのようにすばやく事を運んでくださったことを、心から喜びました。
三〇
１　ヒゼキヤ王は、イスラエル、ユダ、エフライム、マナセの全地に手紙を送り、エルサレムの神殿に来て、年ごとの過越の祭りを祝うように呼びかけました。　２３王と高官たち、それにエルサレムの全会衆は、今回に限り、ひと月遅れの二月（ユダヤ暦による。　太陽暦では四月末）に祭りを祝うことを決議しました。　一月では、身をきよめた祭司がまだ足りず、また、通知する時間も足りなかったからです。　４王と議官たちは、そうすることで完全に意見が一致しました。　５そこで、ダンからベエル・シェバまでイスラエル全土に、過越の祭りを祝う布告を出し、すべての人を招きました。　決まりどおりに過越の祭りを祝う者が、多くはなかったのです。
６　王の手紙にはこう書かれていました。　「アブラハム、イサク、イスラエル（ヤコブ）の神様に立ち返りなさい。　そうすれば、神様は、アッシリヤの王たちの支配から逃れた私たちのところへ、帰って来てくださいます。　７先祖の神様に罪を犯して滅びを招いた、あなたがたの父や兄弟のようになってはいけません。　８彼らのように強情を張ってはいけません。　自分を神様にささげ、神様が永久にきよめた神殿に来て、神様を礼拝しなさい。　そうすれば、神様の燃えるような怒りも去るでしょう。　９あなたがたが神様に立ち返るなら、捕虜となった兄弟や子供たちも、連れて行かれた先であわれみを受け、再びこの地に戻ることができるでしょう。　神様は、思いやりにあふれた方ですから、もしあなたがたが立ち返るなら、そっぽを向いたままでおられることは決してありません。」
１０　こうして使者は、エフライムとマナセ、さらにゼブルンの地に至るまで、町から町へと行き巡りました。　ところが、ほとんどどこでも、冷笑とさげすみをもって迎えられるのが、おちでした。　１１そういう中で、アシェル、マナセ、ゼブルンの各部族のある者たちは神様に心を向けて、エルサレムへ上って来ました。　１２ユダでは、王と高官たちに命じられたとおり、神様の定めに従いたいという強い願いが、全国民のうちに盛り上がりました。　神様が、そのような願いを起こさせてくださったのです。　１３それで二

月になると、過越の祭りを祝うため続々とエルサレムに集まり、おびただしい大群衆になりました。　１４彼らは､エルサレムにある異教の祭壇と香の祭壇を取りこわしにかかり、その残がいをキデロン川に投げ捨てました。
１５　二月の十四日に、人々は過越の子羊を殺しました。　祭司とレビ人は、自分たちが積極的でないことを恥じて､身をきよめ､完全に焼き尽くすいけにえを神殿に運びました。
１６そして、神の人モーセのおきてに決められたとおり、それぞれの部署につきました。
祭司は、レビ人から受け取った血を注ぎました。
１７‐１９エフライム、マナセ、イッサカル、ゼブルンから来た人々の多くは、きよめの儀式を受けていなかったので、汚れたままでした。　それでレビ人は、彼らのために過越の子羊を殺し、彼らをきよめました。　それからヒゼキヤ王が彼らのために祈ったので、神様の定めに反してはいたものの、過越のいけにえを食べることを許されたのです。　ところで、王はこう祈りました。　「恵み深い神様。　たとい儀式的に正しい手順できよめられていない者でも､先祖の神様に従う決心をした者の罪をお赦しください。」　２０神様は王の祈りを聞き届け、彼らを滅ぼすようなことはなさいませんでした。
２１　こうしてイスラエル国民は、大喜びで七日間、エルサレムでの過越の祭りを祝いました。
その間､レビ人と祭司は､毎日、シンバルなどの楽器に合わせて神様をほめたたえました。
２２王は、すぐれた音楽家であるレビ人に、感謝のことばを述べました。
祭りは七日つづき、和解のいけにえがささげられましたが、その間、国民は先祖の神様の前に罪を告白しました。　２３興奮が高まる中で、さらに七日間、祭りを続けることが、全会一致で決議されました。２４王は国民に、いけにえ用の雄の子牛千頭と羊七千頭を贈り、高官たちも雄の子牛千頭と羊一万頭を寄贈しました。　その時、一団の祭司たちが進み出て、身をきよめました。
２５　ユダの国民は、祭司やレビ人、寄留の外国人やイスラエルから来た人々と、喜びを分かち合いました。　２６ダビデの子ソロモン王の時代からこのかた、エルサレムで、このように盛大に祭りが祝われたことはなかったからです。　２７祭司とレビ人は、立ち上がって国民を祝福しました。　一方、神様は天の聖所で、彼らの祈りを聞き届けてくださいました。
三一
１　そののち、偶像礼拝打破の大がかりな運動が始まりました。　過越の祭りを祝うためにエルサレムにいた人々は、ユダ、ベニヤミン、エフライム、マナセの町々へ行き、偶像の祭壇、石の柱、いまわしい偶像、その他の異教の施設をこわしました。　そのあと、北方の諸部族から祭りに来ていた人々は、それぞれの家へ帰って行きました。
２　ヒゼキヤ王は、祭司とレビ人の組分けを決め、完全に焼き尽くすいけにえと和解のいけにえとをささげさせるとともに、神様を礼拝し、ほめたたえ、感謝する務めにあたらせました。　３また、神様のおきてに定められているとおり、朝ごと夕ごとにささげる完全

に焼き尽くすいけにえのためと、週ごとの安息日、月ごとの新月の祭り、年ごとの例祭にささげる完全に焼き尽くすいけにえのために、自分の分を負担しました。
４　さらに王は、エルサレムの住民に、祭司とレビ人のところへ十分の一のささげ物を持って来るよう命じました。　祭司とレビ人がほかの仕事につく必要がなく、神様のおきてで決められているとおり、その務めに専念できるようにするためでした。　５６住民は、すぐ命令に応じ、作物や穀物、新しいぶどう酒、オリーブ油、金など、すべての収穫や収入の初物をいっぱい持って来ました。　それらのものは、おきてによって神様の分と決められ、彼らのものとなる十分の一で、山のように積まれました。　北の諸部族の地方からユダに移って来た人々と、エルサレムの近くに住む人々も、牛や羊の十分の一を携えて来ました。　彼らはさらに、神様に特別にささげられたものの十分の一を持って来て、山のように積み上げました。　７８このささげ物が最初にエルサレムに到着したのは三月で、積み上げが完了したのは七月（ユダヤ暦による。　太陽暦では六月から十月ごろにあたる）です。　王と高官たちは、ささげ物の大きな山を見た時、どれほど神様をほめたたえ、国民の熱意をたたえたことでしょう。
９　「この山のようなささげ物は、どこから与えられたのか。」　王は祭司とレビ人に尋ねました。
１０　ツァドクの氏族出身の大祭司アザルヤが答えました。　「みな十分の一のささげ物です。　私たちは、もう何週間も、この山のような食物から十分にいただいています。　それでも、これだけ残っているのです。　神様がご自分の国民を祝福してくださったからに、ほかなりません。」
１１　ヒゼキヤ王は神殿に倉庫を用意することにしました。　１２１３ささげ物はすべて神殿に運び入れました。　運搬の責任者はレビ人カナヌヤで、兄弟シムイと次の人々が補佐しました。
エヒエル、アザズヤ、ナハテ、アサエル
エリモテ、エホザバデ、エリエル
イスマクヤ、マハテ、ベナヤ
以上の人々は、王と大祭司アザルヤに任命されたのです。
１４１５東の門の門衛であった、レビ人イムナの子コレは、ささげ物を祭司に分配する責任者になりました。　彼を忠実に補佐したのが、エデン、ミヌヤミン、ヨシュア、シェマヤ、アマルヤ、シェカヌヤです。彼らは、それぞれの町に住む祭司の氏族に、年齢の別なく、等しく分配しました。　１６神殿の務めについている祭司とその家族には、神殿から直接に支給されました。　彼らはこの分配の対象ではなかったのです。　１７１８祭司は氏族ごとに、二十歳以上のレビ人も各自の奉仕の組ごとに、系図に載せられていました。規定に従って割り当てられた食糧が、きちんと系図に載せられた祭司の全家族に、分配されました。　彼らは時間と能力をすべて神殿の奉仕にあてていたので、ほかの収入源が全くなかったのです。　１９祭司が一人ずつ、それぞれの町の祭司全員と、系図に載せられ

ているレビ人全員とに、食糧を配る責任者になりました。
２０　このようにして、ヒゼキヤ王は、神様の前に正しく公平に、ユダ全国にささげ物を分配しました。　２１王は、神殿に仕えることでも、神様のおきてを守って正しい生き方を求めることでも、力の限りを尽くして励み、大きな成果をあげました。
三二
１　ヒゼキヤ王がこのように神様に喜ばれることをしてのち、アッシリヤの王セナケリブが、ユダに攻め込んで城壁のある町々を包囲し、貢物を納めさせようとしました。　２エルサレムを攻撃しようとするセナケリブ王の意図がはっきりわかった時、　３ヒゼキヤ王は王子や高官たちを集めて作戦会議を開き､町の外にある泉をふさぐことにしました。　４そこで、大作業団を組織し、野を流れる川までも、せき止めてしまったのです。
彼らは口々に、｢アッシリヤ王なんかに、水を見つけさせてたまるか！｣と言いました。
５　それから王は、さらに防衛体制を強化するため、城壁のくずれていた個所を修復した上で、外側に第二の城壁を築きました。　また、ダビデの町にミロの要塞を築き、大量の武器や盾を作り、　６兵を補充し､隊長を任命して町の門の広場に召集し､激励しました。
７　｢強く、勇敢であれ。　アッシリヤ王とその大軍を恐れるな。　アッシリヤ王よりもはるかに偉大な方が、われわれと共におられるのだ！　８アッシリヤ王の率いる大軍は、ただの人間の集まりにすぎない。 わが軍には､われわれのために戦ってくださる神様が、ついておられるのだ！｣　このことばに、一同は大いに励まされました。
９　アッシリヤの王セナケリブは、まだラキシュの町を包囲している最中でしたが、ヒゼキヤ王とエルサレム市民に使者を立て、次のように言わせました。
１０　｢アッシリヤの王セナケリブは、こう言っておられる。　『おまえたちは、わが軍のエルサレム包囲を免れると思っているのか。　１１ヒゼキヤ王は、おまえたちが城壁の中で自殺するよう､仕向けているのだ。　彼は､｢神様がアッシリヤ王の手から救い出してくださる！｣とうそぶいているが、おまえたちは飢えと渇きで死ぬに決まっている。１２そもそも、すべての偶像をこわし、ユダとエルサレムの人々に、神殿にある祭壇の上でだけ香をたけと命じた張本人は、ヒゼキヤだぞ。１３いいか、余をはじめ、歴代のアッシリヤの王が、いったん攻撃しようとした国を征服しなかったことは一度もない。　征服された国の神神は、その国を救えなかったのだ！　１４いったい、どの神が、どこで、われわれの攻撃をはばめたか。　そんな例があったら、その神の名をあげてみよ。　それでも、おまえたちの神をあてにする気か。　１５ヒゼキヤにだまされるな。　やつなんか信じるな。　もう一度、はっきり言おう。　どの国の神も、余をはじめ、歴代の王の手から、国民を救えなかったのだ。 おまえたちの神も例外ではない！』｣　１６こう言うと､使者は、神様と神様のしもべヒゼキヤ王をあざ笑い、さんざん悪態をつきました。
１７　セナケリブ王はまた、次のような手紙を書いて、イスラエルの神様をあざけりました。
｢今までどの国の神々も、余の攻撃から国民を守ることができなかった。　ヒゼキヤの神

も同じだ。」
１８　手紙を持って来た使者たちは、城壁の上にたむろしているユダの人々に、ユダのことばで呼びかけました。　脅しをかけて、戦意を喪失させようというのです。　１９彼らは、エルサレムの神様が、まるで人の手で作った偶像にすぎない、異教の神々と同じであるかのようにけなしました。
２０　ヒゼキヤ王と、アモツの子の預言者イザヤは、天の神様に大声で祈りました。　２１すると、神様は一人の御使いを遣わして、アッシリヤ軍を全滅させてしまったのです！　セナケリブ王は大恥をかいて、すごすごと国へ引き揚げました。　おまけに、国で神の宮に入った時、実の息子たちに暗殺されてしまいました。　２２こうして神様は、ヒゼキヤ王とエルサレムの住民とを、救い出してくださったのです。　ヒゼキヤ王の全領土には平和が訪れました。
２３　それ以来、ヒゼキヤ王は近隣の国々から大きな尊敬を集めるようになり、王への高価な贈り物とともに、神様へのたくさんのささげ物が、エルサレムへ送り届けられました。
２４　ところで、そのころ、王は重病にかかりました。　神様に祈ると奇蹟が起こり、病気はすっかりよくなりました。　２５それなのに、王は思い上がって、心からの感謝と賛美をささげませんでした。　たちまち、神様の怒りが、王とユダ、エルサレムに下りました。　２６ところが、王とエルサレムの住民は、高慢の罪を悔い改めて、神様の前に謙そんになったので、神様の怒りは去り、王の在世中、二度と神様の怒りは下りませんでした。
２７　こうして、ヒゼキヤ王は非常に富み、さらに多くの尊敬を受けるようになりました。王は宝物倉を建て、金、銀、宝石、香油、盾、金の鉢などを納めました。　２８２９また、倉庫もたくさん造り、穀物、新しいぶどう酒、オリーブ油を納めました。　牛や羊や山羊などの群れのためにも、小屋を幾つも建てました。　神様からばく大な富をいただき、多くの町も手に入れました。　３０さらに、ギホンの上の泉をせき止め、水道を敷き、その水を、エルサレムにあるダビデの町の西側にまで引きました。　王がすることは、みなうまくいったのです。
３１　ところで、ヒゼキヤ王が奇蹟的に治ったことを知ろうと、バビロンから使者が来た時、神様は王がするままにしておかれました。　王がどのように振る舞うかを、試すためだったのです。
３２　ヒゼキヤ王のその他の業績、特に王が行なったすべての良いことは、アモツの子の預言者イザヤが書いた『イザヤの預言』と、『ユダとイスラエル諸王の年代記』に記されています。　３３ヒゼキヤ王は死んで、丘の中腹にある王室墓地に葬られました。　ユダとエルサレムのすべての人は、王が死んだ時、心から王をたたえました。　そして、息子マナセが新しく王となりました。
三三
１　マナセが王となったのは十二歳の時で、五十五年間エルサレムで治めました。　２ただし、それは悪政でした。　イスラエル国民がこの地に入った時、神様が滅ぼした異教の

国々の偶像を求め、それを国民に拝ませるように仕向けたからです。　３彼は、父ヒゼキヤ王が取りこわした異教の神バアルの祭壇を築き直し、いまわしい偶像を作り、日や月や星を拝みました。　４５事もあろうに、神様を永久にあがめるはずの神殿の庭にまで、異教の祭壇を築き、日や月や星を礼拝したのです。　６また、ベン・ヒノムの谷で、わが子をいけにえとしてささげました。　さらに、霊媒や占い師や魔術師にうかがいを立て、ありとあらゆる悪を行なって、神様の激しい怒りを引き起こしました。
７　考えてもご覧なさい！　よりによって、神の神殿に偶像を置いたのです。　この神殿については、ダビデ王とその子ソロモン王に、神様はこうお語りになりました。　「わたしは、この神殿と、イスラエル全国の町から特に選んだエルサレムで、ほめたたえられる。８もしおまえたちが、わたしがモーセによって与えた、すべてのおきてと定めに従うなら、先祖に与えたこの地から、二度と追い出すようなことはしない。」
９　ところが、マナセ王はユダとエルサレムの人々をそそのかして、イスラエル国民がこの地に入った時に、神様が滅ぼした国民よりも、もっと悪いことを行なわせたのです。　１０王も国民も、神様の警告を、平気で聞き流しました。　１１そこで神様は、アッシリヤ軍を出動させ、ユダに攻め込ませました。　アッシリヤ軍はマナセ王を鉤で捕らえ、青銅の足かせにつないで車に乗せ、バビロンへ引いて行きました。１２その時になって、王はようやく本心に立ち返り、謙そんに助けを求めました。　１３神様は切なる願いに答えて、エルサレムの彼の王国に王を連れ戻してくださいました。　こうして、ついにマナセ王も、主こそ神であることを知ったのです。
１４　こののち、マナセ王はダビデの町の外側の城壁を築き直しました。その城壁は、キデロンの谷にあるギホンの泉の西側から魚の門にまで達し、ひときわ高く築き上げられた「とりでの丘」を、取り巻いていました。　また、ユダで城壁のある町にはすべて、将軍を配置しました。　１５さらに、丘の上に祭ってある外国の神々を除き、神殿から偶像を取り出し、その神殿が建っている山の上と、エルサレムに築いたすべての祭壇を取りこわし、町の外へ投げ捨てました。　１６それから、神様の祭壇を築き直し、その上で和解のいけにえと感謝のいけにえをささげ、ユダの国民に、イスラエルの神様だけを礼拝するよう命じました。　１７それでもなお、国民は丘の上の祭壇にいけにえをささげましたが、それは神様に供えられたものでした。
１８　マナセ王のその他の業績、王が神様にささげた祈り、預言者たちをとおしての神様の答えについては、『イスラエル諸王の年代記』に記されています。　１９王の祈りと、それが神様に聞き届けられたこと、および、悔い改める前に犯した罪や失敗についての報告は、預言者たちの言行録に、包み隠さず記されています。　その中には、王が偶像の宮を築いたり、いまわしい像や刻んだ像を置いたりした場所があげてあります。
２０２１マナセ王は死んで、宮殿の下に葬られ、息子アモンが新しく王となりました。　アモンは二十二歳で王となり、わずか二年間、エルサレムで治めました。　２２その治世は、父マナセ王の初期に劣らず、悪いものでした。　父王がしていたように、あらゆる偶像に

いけにえをささげたのです。　２３しかも、父のようには態度を変えてへりくだることをせず、ますます大きな罪を犯しました。　２４ついに、側近の者が宮殿で王を暗殺しました。　２５しかし、愛国心に燃えた市民たちは、暗殺者を皆殺しにし、アモンの子ヨシヤを、新しく王としました。
三四
１　ヨシヤが王となったのは、まだ八歳の時で、三十一年間エルサレムで治めました。　２彼は先祖ダビデ王の良い模範にならおうと心がけ、すぐれた政治を行ないました。　３十六歳になった治世八年目には、ダビデ王の神様を、熱心に求めるようになりました。　その四年後には、ユダとエルサレムを神様のためにきよめることを始め、丘の上にある異教の祭壇や、いまわしい像を取りこわしました。　４王は陣頭指揮し、バアルの祭壇が取りこわされ、その上にある柱がたたき折られ、いまわしい偶像が粉々に砕かれて、この偶像にいけにえをささげた者たちの墓にまき散らされるのを、見守りました。　５また、異教の祭司たちの骨を彼らの祭壇で焼くことによって、ユダとエルサレムの住民を、偶像礼拝の罪からきよめました。
６　それから、ヨシヤは、マナセ、エフライム、シメオン、さらに遠くナフタリにある町々にまで行って、同じようにしました。　７異教の祭壇を取りこわし、いまわしい偶像を粉々に砕き、すべての柱を切り倒したのです。　ヨシヤ王は、イスラエルの全地でこのようにしてから、エルサレムへ戻りました。
８　全国から偶像を一掃し、神殿のある場所をきよめてのち、治世十八年目に、王は神殿を修理するため、アツァルヤの子シャファン、エルサレム市長マアセヤ、エホアハズの子で市の財政官ヨアフを任命しました。　９三人はさっそく、必要な献金を集めることにしました。　献金は、神殿の入口で、警備のレビ人が集めました。　エルサレムの住民はもちろん、マナセとエフライムから来た人々、および、その他の地方の者たちからも寄せられた献金は、大祭司ヒルキヤに渡され、彼のもとで計算されました。　１０１１それから、レビ人の手で、大工や石工への支払い、切り石、材木、つなぎ材、梁などの建築材料の購入にあてられました。　こうしてヨシヤ王は、先のユダの王たちが荒らした神殿を、りっぱに建て直したのです。
１２　職人たちは、メラリ氏族のレビ人ヤハテとオバデヤの指図で、よく働きました。　工事監督は、ケハテ氏族のゼカリヤとメシュラムでした。　レビ人はみな、すぐれた音楽家でした。　１３ほかに、資材を職人のもとへ運ぶ労働者を監督するレビ人もいました。　また別の者は、書記、監督、門衛の任にあたりました。
１４　ある日、大祭司ヒルキヤが、神殿の入口で集めた献金の額を記入していると、古い巻物が目につきました。　開いて驚きました。　なんと、モーセに与えられた神様のおきてではありませんか！
１５１６ヒルキヤは、王の書記官シャファンに言いました。　「神殿で、こんなものが見つかりましたよ。　これは神様のおきてです！」　巻物を受け取ると、シャファンはさっ

そく王のもとへ持って行き、合わせて、神殿再建の工事が順調に進んでいることを報告しました。
１７　「献金箱をあけ、全額を計算した上で、必要な金額を監督と職人に渡しております。」
１８　それから、例の巻物を見せ、ヒルキヤがそれを発見したしだいを語り、王の前で朗読したのです。　１９おきてが神様の国民に何を求めているかを知って、王は絶望のあまり衣を引き裂きました。　２０そして、ヒルキヤ、シャファンの子アヒカム、ミカの子アブドン、書記官シャファン、王の相談役アサヤを呼び、こう言い渡しました。
２１　「神殿へ行って、私のために神様にお願いしてくれないか。　イスラエルとユダの残りの者のために、祈ってほしいのだ！　この巻物によると、神様の激しい怒りが下ったのは、先祖が、ここに記されているおきてに、従わなかったからだということだ。」
２２　そこで、指名された人々は、ハスラの子トクハテの子シャルムの妻である、女預言者フルダのもとへ行きました。　シャルムは王の衣装係りで、エルサレムの第二区に住んでいました。　一同が王の心配事を伝えると、　２３彼女は答えました。　「イスラエルの神様はこう仰せです。
『おまえたちを遣わした者に告げよ。　２４わたしは、この町と住民を滅ぼすつもりだ。その巻物に記されているのろいが､すべて実現する。　２５わたしの国民がわたしを捨て、異教の神々を礼拝したので、怒りに燃えているのだ。　この場所に下した怒りは、決して消えない。
２６　ところで、このことでわたしに尋ねるため、おまえたちを遣わしたユダの王には、こう告げよ。　イスラエルの神様のお告げです。２７おまえが、この町と住民へのわたしのことばを聞いた時、心から悲しみ、神の前に謙そんになり、絶望のあまり衣を引き裂き、わたしの前でさめざめと泣いたので、おまえの祈りを聞き届けよう。　２８この町と住民に下すと約束した災いを、おまえが死ぬまでは下さない。』」　一同はこのお告げを、王に報告しました。　２９王はユダとエルサレムの長老たちを、残らず召集しました。　３０祭司、レビ人、それに全国民が、王といっしょに神殿へ行きました。　王は、神殿で発見された、神様の契約の書いてある巻物を、読んで聞かせました。　３１それから一同の前で、心を尽くし、精神を尽くして神様の命令に従い、巻物に記されていることを行なう、という誓いを立てました。　３２また、エルサレムとベニヤミンにいるすべての者に、この神様との契約に同意するよう求めたところ、すべての者が賛成したのです。
３３　こうしてヨシヤ王は、ユダヤ人が住む全地域から、一つ残らず偶像を取り除き、すべての者に、神様を礼拝するよう訴えました。　それ以後、王が生きている間ずっと、国民は先祖の神様に仕えました。
三五
１　それからヨシヤ王は、一月十四日（ユダヤ暦による。　太陽暦では三月末）に、エルサレムで過越の祭りを祝う、というお布令を出しました。　その日の夕方、過越の子羊が殺されました。　２また、祭司の組分けを決めて、務めにあたらせるようにしました。　祭

司たちを激励して、再び神殿の務めにつかせたのです。　３イスラエルの宗教教師であるレビ人には、次の命令を出しました。
「神の箱は、今はソロモンの神殿に置かれ、かついで、あちこち持ち運ぶ必要はなくなった。　だから、あなたがたの時間を、神様と神様の国民に仕えるために用いなさい。　４５イスラエルの王ダビデとその子ソロモンの決めた組分けを生かし、組ごとに、神殿にいけにえを持って来る人々に手を貸しなさい。　６過越の子羊を殺し、身をきよめ、人々がいけにえをささげるのを手伝いなさい。　モーセによって示された神様の命令に、すべて従いなさい。」
７　王は、国民がささげる過越のいけにえ用に、子羊と子やぎ三万頭、それに子牛三千頭を寄贈しました。　８王の高官たちも、祭司やレビ人のために喜んで贈り物をしました。神殿の管理者であるヒルキヤ、ゼカリヤ、エヒエルは、祭司がささげる過越のいけにえとして、羊と山羊二千六百頭、牛三百頭を贈りました。　９レビ人の指導者であるカナヌヤ、その兄弟シェマヤとネタヌエル、それにハシャブヤ、エイエル、エホザバデは、レビ人がささげる過越のいけにえとして、羊と山羊五千頭、牛五百頭を贈りました。
１０　すっかり用意ができ上がり、祭司が所定の場所に立ち、レビ人が王の指令どおりの任務についた時、１１レビ人の手で過越の子羊が殺され、その血が祭司に渡されました。祭司が血を祭壇に注ぎかけると、レビ人は殺された子羊の皮をはぎました。　１２彼らは各部族のために、いけにえ用に殺した子羊を山と積み上げました。　モーセのおきてにあるとおり、完全に焼き尽くすいけにえとして、ささげさせるためでした。　牛も同じようにしました。　１３それから、モーセのおきてに決められたとおり、過越の子羊を焼き、その聖いささげ物を、深なべ、平なべ、かまなどで調理し、急いで運んで、人々に食べさせました。　１４そのあとで、自分たちや祭司のために食事を用意しました。　彼らは朝から晩まで、完全に焼き尽くすいけにえの脂肪をささげるのに、追いまくられていたのです。
１５　アサフの子孫にあたる歌い手たちは、何百年も前に、ダビデ王、アサフ、ヘマン、王の預言者エドトンによって命じられたとおりの部署に、ついていました。　門衛たちは門を守っていましたが、食事は同族のレビ人が用意して届けてくれたので、部署を離れる必要がありませんでした。　１６王が指示したとおり、すべての完全に焼き尽くすいけにえが神様にささげられ、過越の全儀式が、その日のうちに終わりました。
１７　エルサレムに来ていた人々は、過越の儀式を守りました。　それに続く七日間、イースト菌を入れないパンを食べる祭りが行なわれました。　１８預言者サムエルの時代からこのかた、これほど盛大に、過越の祭りが祝われたことはありませんでした。　イスラエルのどの王も、この点では、ヨシヤ王に及びませんでした。　ヨシヤ王は、多くの祭司やレビ人、それにエルサレムとユダの全地、さらに遠くイスラエルの地から集まって来た人々を、この過越の祭りに参加させたのです。　１９このことがあったのは、王の治世十八年目のことでした。２０そののち、エジプトの王ネコが、ユーフラテス川沿いのカルケ

ミシュで、〔アッシリヤ軍と〕戦うため、大軍を率いて攻め寄せて来ました。　ヨシヤ王は、このネコ王と一戦まじえようとしたのです。
２１　ところが、ネコ王は使者を立てて、こう言ってよこしました。　「ユダの王よ、あなたとは戦いたくありません。　こうして攻めて来たのは、アッシリヤ王とだけ戦うためです。　黙って行かせてください。　神様が私に、早く行けと命じておられるのです。　神様に手出しするのは、およしなさい。　さもないと、私とともにおられる神様が、あなたを滅ぼしてしまいますよ。」
２２　それでも、ヨシヤ王は引き返そうとせず、かえって、軍隊を率いて、戦場となるメギドの谷へ向かいました。　わざと王服を脱ぎ、敵に気づかれないようにしていました。ネコ王の言ったことが神様から出ていることを、信じようとしなかったのです。　２３敵の放った矢が当たり、ヨシヤ王は致命傷を負いました。
王は側近の者に、「早く戦場から連れ出してくれ」と叫びました。
２４２５そこで、側近の者たちは王を戦車から別の車に移し、エルサレムへ連れ帰りました。　王はエルサレムで死に、王室墓地に葬られました。　ユダ全国とエルサレムは、その死を悼んで喪に服しました。　預言者エレミヤと神殿の歌い手たちは、王のために哀歌を作りました。　今日まで、彼らはなおヨシヤの死について、悲しみの歌をうたっています。　この悲しみの歌が、『哀歌』に載っているからです。
２６　ヨシヤ王のその他の業績、それに王が神様のおきてどおりに生活したことは、　２７『イスラエルとユダ諸王の年代記』に記されています。
三六
１　ヨシヤ王の子エホアハズが、新しい王に選ばれました。　２エホアハズは二十三歳で王となりましたが、在位期間はわずか三か月間でした。　３エジプト王の手で、王位から退けられたのです。　エジプト王はユダに、七千五百万円に相当する年貢を納めるよう命じました。
４　それからエジプト王は、エホアハズの兄弟エルヤキムを、エホヤキムと改名させて、ユダの新しい王にしました。　一方、エホアハズは捕虜として、エジプトへ連れ去られました。　５エホヤキムは二十五歳で王となり、十一年間エルサレムで治めましたが、その政治は悪い政治でした。　６ついに、エルサレムはバビロンの王ネブカデネザルに占領され、エホヤキム王は鎖につながれて、バビロンへ連れ去られました。　７ネブカデネザル王はまた、神殿から金の鉢やその他の器具を持ち出し、バビロンにある彼の神殿に移しました。　８エホヤキム王のその他の業績、悪事のすべては、『ユダ諸王の年代記』に記されています。　息子エホヤキンが新しく王となりました。
９　エホヤキンは十八歳で王となりましたが、在位期間はわずか三か月と十日でした。　しかもその政治は、神様の目から見たら、悪そのものでした。　１０翌年の春、彼はネブカデネザル王からバビロンに呼び出されました。　神殿から持ち出した多くの宝物も、同時にバビロンへ運ばれました。　ネブカデネザル王は、エホヤキンの兄弟ゼデキヤを、ユダ

とエルサレムの新しい王に任命しました。
１１　ゼデキヤは二十一歳で王となり、十一年間エルサレムで治めました。　１２彼も、神様から見たら悪い政治をしました。　神様のお告げを語った預言者エレミヤの勧めを、聞こうとしなかったからです。１３ネブカデネザル王に忠誠を誓いながら、一方では反逆を企てました。　強情者で、イスラエルの神様に従おうとしませんでした。
１４　大祭司をはじめ国の指導者はみな、周囲の国々のいまわしい偶像を礼拝し、エルサレムにある神殿を汚して、平気な顔をしていました。　１５先祖の神様は、再三再四、預言者を遣わし、警告をお与えになりました。　ご自分の国民と神殿とを、深くあわれまれたからです。　１６ところが、国民は神様から遣わされた使者をあざけり、警告を無視し、預言者たちをさんざん侮辱しました。　それでついに、もうこれ以上、神様の怒りをとどめることができない、絶望的な状態になったのです。
１７　神様は、バビロン王を攻め上らせました。　バビロン王は、若者たちを神殿に押し込めて切り殺し、若い女や老人までも、容赦なく殺しました。　神様はバビロン王の手で、彼らを完全に滅ぼそうとなさったのです。　１８王は神殿で使われていた大小の器具を、神殿と宮殿から持ち出した宝物とともに、バビロンへ持ち帰りました。　また、王子全員を連れ去りました。　１９それから、バビロン軍は神殿に火を放ち、城壁を片っぱしからこわし、宮殿を焼き払い、神殿で使われていためぼしい器具を、残らず破壊しました。　２０生き残った者はバビロンへ連れ去られ、ペルシヤ王国がバビロンを征服するまで、バビロンの王と王子たちに仕える奴隷となりました。
２１　こうして、エレミヤの語った神様のお告げが、現実となったのです。　この地は、国民が安息日を守らなかった年月を埋め合わせるため、七十年間の休息を必要としたのです。
２２２３ペルシヤの王クロスの治世一年目に、神様はクロス王の心を動かして、国中に、次のような勅令を出させました。
「地のすべての王国を私に賜わった天の神様は、ユダの地にあるエルサレムに、ご自分の神殿を建てよと、私にお命じになった。　神様の国民である者はみな、神殿建設にイスラエルへ帰るがよい。　神様が共におられるように。」
このことでも、預言者エレミヤの語ったことが、現実となったのです。
▪

エズラ記
本書は、イスラエル人がバビロンでの捕囚を終えて、パレスチナの地に帰ることを、主な内容とします。　著者は、第一次帰還と神殿工事がどのように始められたかを述べたあと、起こってきた問題について述べています。　非常に多くの困難や初期の失敗を乗り越えて、ついに神殿は復興され、栄光ある神様に再びささげられたのです。　エズラの主な働きとして、捕囚から帰って自分勝手に生きている人々のために、神様にとりなしの祈りをすることが記されています。

一
１　ペルシヤ王クロスの治世の元年に、神様は王の心を動かし、エレミヤの預言どおりのことを行なわれました。　クロス王が、帝国中に次のようなお布令を出させたのです。　これは永久保存の文書とされました。
２「ペルシヤ王クロスはここに布告する。　広大な領土をお与えくださった天の神様は、いま余に、ユダの国のエルサレムに神殿を建てよとお告げだ。　３わが帝国におるユダヤ人は、直ちにエルサレムへ帰り、イスラエルとエルサレムの神様の神殿を建てるがよい。神様の祝福があるように。　４帰らない者は帰る者の費用を負担し、衣服、旅費、旅じたくの費用を援助するように。　なお神殿建築のためにも、進んでささげ物をするがよい。」
５　こうして、ユダ部族とベニヤミン部族の指導者たちと、祭司やレビ人たちも、神様から心を駆り立てられて、神殿再建をめざし、さっそく、エルサレムへの帰途につきました。６ペルシヤに残ることにした人々はみな、帰る者への援助を惜しまず、神殿へのささげ物をも託しました。
７　クロス王自身も、かつてネブカデネザル王がエルサレムの神殿から自国の神殿へと移した、金の鉢や、高価な用具類を寄贈しました。８王は財務長官ミテレダテに、それらを確認させたのち、引揚団の指導者シェシュバツァルの手に渡したのです。
９１０その目録は次のとおりです。
金の皿三十枚
銀の皿千枚
香炉二十九点
金の鉢三十個
さまざまなデザインの銀の鉢二千四百十個
その他の用具千点
１１全部で五千四百六十九点の金銀の用具が、シェシュバツァルの手で、エルサレムに持ち帰られることになりました。
二
１　次に示すのは、ネブカデネザル王によってバビロンへ捕らえ移された人々の子孫の中で、エルサレムや他のユダの町々へ帰還した者の名簿です。

２　指導者
ゼルバベル（シェシュバツァル)、ヨシュア
ネヘミヤ、セラヤ、レエラヤ、モルデカイ、ビルシャン
ミスパル、ビグワイ、レフム、バアナ
氏族別の帰還者数
３‐３５パルオシュ族　二千百七十二名
シェファテヤ族　三百七十二名
アラフ族　七百七十五名
ヨシュアとヨアブの子孫パハテ・モアブ族　二千八百十二名
エラム族　千二百五十四名
ザト族　九百四十五名
ザカイ族　七百六十名
バニ族　六百四十二名
ベバイ族　六百二十三名
アズガデ族　千二百二十二名
アドニカム族　六百六十六名
ビグワイ族　二千五十六名
アディン族　四百五十四名
ヒゼキヤ族、すなわちアテル族　九十八名
ベツァイ族　三百二十三名
ヨラ族　百十二名
ハシュム族　二百二十三名
ギバル族　九十五名
ベツレヘムの人　百二十三名
ネトファの人　五十六名
アナトテの人　百二十八名
アズマベテの人　四十二名
キルヤテ・アリム、ケフィラ、ベエロテの人　七百四十三名
ラマとゲバの人　六百二十一名
ミクマスの人　百二十二名
ベテルとアイの人　二百二十三名
ネボの人　五十二名
マグビシュ族　百五十六名
別のエラム族　千二百五十四名
ハリム族　三百二十名
ロデ、ハディデ、オノの人　七百二十五名

エリコの人　三百四十五名
セナアの人　三千六百三十名
３６－３９帰還した祭司
ヨシュアの家系のエダヤ族　九百七十三名
イメル族　千五十二名
パシュフル族　千二百四十七名
ハリム族　千十七名
４０－４２帰還したレビ人
ホダブヤ族の、ヨシュアとカデミエルの二族　七十四名
聖歌隊員のアサフ族　百二十八名
門衛のシャルム族、アテル族、タルモン族、アクブ族
ハティタ族、ショバイ族　合計百三十九名。
４３－５４神殿奉仕者
ツィハ族、ハスファ族、タバオテ族、ケロス族、シアハ族
パドン族、レバナ族、ハガバ族、アクブ族、ハガブ族
サルマイ族、ハナン族、ギデル族、ガハル族、レアヤ族
レツィン族、ネコダ族、ガザム族、ウザ族、パセアハ族
ベサイ族、アスナ族、メウニム族、ネフシム族、バクブク族
ハクファ族、ハルフル族、バツルテ族、メヒダ族
ハルシャ族、バルコス族、シセラ族、テマフ族
ネツィアハ族、ハティファ族
５５－５７ソロモン王臣下の家系の人々
ソタイ族、ソフェレテ族、ペルダ族、ヤラ族、ダルコン族
ギデル族、シェファテヤ族、ハティル族
ポケレテ・ハツェバイム族、アミ族
５８　神殿奉仕者とソロモン王臣下の家系の者は、合計三百九十二名
５９　時を同じくして、ペルシヤのテル・メラフ、テル・ハルシャ、ケルブ、アダン、イメルなどからも、エルサレムに帰った人々がいました。　ところが、系図をなくしてしまっていたので、彼らが生粋のイスラエル人かどうか、明らかではありませんでした。　６０その数は、デラヤ族、トビヤ族、ネコダ族など、総勢六百五十二名にのぼります。
６１　祭司の氏族のうち、ホバヤ族、コツ族、バルジライ族〔ギルアデ人バルジライの娘を妻に迎えたことから、この名で呼ばれた〕も帰還しましたが、　６２６３この人々も系図を紛失していたので、指導者たちから祭司職を差し止められました。　さらに、ウリムとトンミム（神意をうかがう一種のくじ）で調べ、実際に祭司の子孫かどうかが判明するまでは、いけにえのうち祭司の食糧となる分も、与えられないことになったのです。
６４６５こうして、総計四万二千三百六十人がユダへ帰りました。　このほか、男女の奴

隷七千三百三十七人と、男女の聖歌隊員二百人もいっしょでした。　６６６７また、馬七百三十六頭、らば二百四十五頭、らくだ四百三十五頭、ろば六千七百二十頭もいました。
６８　指導者たちは神殿再建のため、率先してささげ物をしました。６９それぞれの力に応じてささげられた金品の総計は、金貨九千万円、銀貨五千百万円、祭司の長服百着でした。
７０　こうして、祭司やレビ人をはじめ、一部の一般人は、エルサレムおよび周辺の村々に住みつき、歌手、門衛、神殿奉仕者たちは、ほかの人々とともに、故郷の町へと帰って行ったのです。
三
１２九月になると、帰還者たちがめいめいの故郷から、エルサレムに集まって来ました。エホツァダクの息子ヨシュアは、仲間の祭司や、シェアルティエルの息子ゼルバベル、およびその氏族の者とともに、イスラエルの神様の祭壇を築き、神の人モーセのおきてどおり、完全に焼き尽くすいけにえをささげました。　３祭壇を元の位置にすえ、さっそく、朝に夕に、完全に焼き尽くすいけにえをささげることにしました。　人々は周囲の国々からの攻撃を恐れていたからです。
４　モーセのおきてどおり仮庵の祭りを守り、祭りのあいだ毎日、定められた完全に焼き尽くすいけにえをささげたのです。　５このほか、安息日、新月の祝い、種々の例祭のため、定められた品々をささげました。　また、国民は自発的にいけにえをささげました。６祭司がいけにえをささげ始めたのは、九月十五日でした。　まだ神殿の土台が築かれる前のことです。
７　次いで、石工や大工が雇われました。　ツロやシドンからは杉材を買いつけ、食料品、ぶどう酒、オリーブ油などを代金にあてました。杉材はレバノン山から切り出し、地中海沿岸を海路ヨッパまで運びました。　このことについては、クロス王も許可済みだったからです。
８　実際に神殿再建が開始されたのは、帰還の翌年の四月のことでした。　帰還者たちが勤労奉仕をし、ゼルバベル、ヨシュア、およびその仲間の祭司やレビ人の指揮のもとで働き続けました。　二十歳以上のレビ人は現場監督にあたり、　９この一大事業の総責任は、ヨシュア、カデミエル、ヘナダデはじめ、その息子や親族が負うことになりました。　みな、レビ人でした。
１０　神殿の土台が完成した時、ダビデ王の定めた様式にのっとって、祭司は祭服を着てラッパを吹き鳴らし、アサフの子孫はシンバルを打ち鳴らして、神様を賛美しました。　１１神様をたたえ、感謝する歌がうたわれたのです。　「神様はすばらしい。　その愛と恵みは、とこしえまでイスラエルに注がれる。」　これを受けて、会衆全員が大声で賛美し、土台の完成を喜びました。
１２　ところが、ソロモン時代の華麗な神殿を知っている、祭司、レビ人、指導者などの年配者は、声をあげて泣いたのです。　１３喜び叫ぶ声と泣き叫ぶ声とが重なりあって、

一大音響をかもし出し、遠くまでもとどろき渡りました。
四
１　ユダとベニヤミンに敵対する人たちは、この神殿再建のことを聞きつけると、　２ゼルバベルや、ほかの指導者たちを訪ねて来て、こう切り出しました。　「あんたがたの神様のことなら、わしらも放ってはおけんよ。　ひとつ、手伝わせてくれんかね。　わしらも、アッシリヤ王エサル・ハドンの手で、ここに住むようにされて以来、ちゃんといけにえをささげてきたんだからな。」
３　しかし、ゼルバベルやヨシュアをはじめ指導者全員は、口をそろえて断わったのです。
「いや、それには及びません。　イスラエルの神様の神殿は、クロス王の命令でもありますが、イスラエル人の手で再建すべきです。」
４５すると、その地の住民は、使いを立ててクロス王に偽りの報告を送り、イスラエル人の気をくじこうとしたり、脅そうとしたりしました。　さらに、議官を買収して計画に反対させ、再建中止に追い込もうとまでしました。　この種の妨害は、クロス王の時代からダリヨス王の治世まで、やむことがありませんでした。
６　やがて、アハシュエロス王が即位すると、住民たちは、ユダとエルサレムの人々を非難する手紙を送りました。　７アルタシャスタ王の時も同じことが行なわれ、ビシュラム、ミテレダテ、タベエルらの一味が、アラム語で手紙をしたため、それが翻訳されて王に差し出されたのです。　８９そのほか、この件にかかわった者には、知事レフム、書記官シムシャイ、数名の裁判官、各地方の役人、ペルシヤ人、バビロニヤ人、エレク人、シュシャンの人々、　１０そのほか数か国の人々がいました。　みな、大王オスナパルによって自国から連れ出され、エルサレムやサマリヤ、ユーフラテス川西岸地域に移住させられた人々です。
１１　そのアルタシャスタ王へあてた手紙とは、次のようなものです。
「ユーフラテス川以西に住む忠実なしもべどもが、ごあいさつ申し上げます。　１２恐れながら、お国から帰国いたしましたユダヤ人は、エルサレムの復興を図っております。　この町がいかに反抗的で邪悪であったかは、歴史の証明するところです。　すでに、城壁が築かれ、神殿の土台も補修されました。　１３しかし、町の再建は陛下のおためにはならない、とご承知おきください。　ユダヤ人が納税を拒否するのは、目に見えております。
１４私どもは陛下のおかげで、安らかに暮らせるのです。　こんなことでご威信が傷つくのを見て、なんで黙っておれましょう。　それで、こうしてお耳に入れようとしたしだいです。　１５なにとぞ、古い文書をお調べください。　この町が過去にどれほど反抗的であったか、また事実、支配下に収めようとした王や国の手にかみつくような騒ぎばかりを起こし続けて、ついに滅ぼされてしまったことが、おわかりいただけると存じます。　１６万一この町が復興し、城壁が完成したが最後、もはやユーフラテス川のこちら側の領土はないものと、おあきらめいただかなければなりますまい。」
１７　王からは、知事レフム、書記官シムシャイ、そのほかサマリヤおよびユーフラテス

川以西の重立った人々に、返書が送られました。
１８　「諸君の手紙は、翻訳させて読ませてもらった。　１９記録も調べさせた。　確かに、エルサレムは歴代の王に対して暴動の温床となり、反抗や騒乱が日常化した町であることがわかった。　２０また同時に、かつてエルサレムでは偉大な王たちが君臨し、ユーフラテス川の向こうの全地域を治め、ばく大な貢物、関税、税金を手にしていたこともわかった。　２１そういうわけで、さらに詳細な調査を終えるまで、工事の中止を命じることにする。　２２手遅れになって、事態の収拾も危ぶまれるようにはならないよう、くれぐれも気をつけよ。」
２３　王の手紙に目を通したレフムとシムシャイは、エルサレムへ急行し、武力をかさに再建作業を中止させました。　２４結局、工事はペルシヤ王ダリヨスの治世第二年まで、中断されたのです。
五
１２当時、エルサレムとユダには預言者がいました。　ハガイと、イドの子ゼカリヤで、二人は神様からのお告げをたずさえて、ゼルバベルとヨシュアを訪ね、工事を再開するよう励ましました。　こうした預言者たちの応援もあって、再び工事が始まったのです。
３　すると、ユーフラテス川西岸地域の知事タテナイと、シェタル・ボズナイは、同僚を引き連れて、直ちにエルサレムへ駆けつけ、とがめだてました。　「だれが、神殿再建と城壁の補修を許可したのだ。」
４　彼らはまた、工事にたずさわっている者全員の名簿を提出するよう、要求しました。
５しかし、全状況は神様の見守りのうちにあったので、敵が力ずくで工事を中断させにかかるようなことはなく、ダリヨス王が事の真相を確かめて決断を下すまで、作業は続けられました。
６　知事タテナイ、シェタル・ボズナイやほかの高官たちから、ダリヨス王にあてた手紙は、次のとおりです。
７「ダリヨス王に全き平安がありますように。
８　このたび、ユダの偉大な神の神殿の工事現場を見回りましたところ、巨大な石が積まれ、壁には木材が組まれておりました。　工事は急ピッチで進み、順調のようです。　９そこで、『だれの許可を得てやっているのか』と、指導者たちに問いただし、　１０ご報告するため、名簿を提出せよと言ってやりました。　１１すると、こう答えるではありませんか。　『私たちは天地の神様のしもべであり、イスラエルの偉大な王が数世紀前にここに建てた神殿の、復興を図っているのです。　１２のちに、先祖たちは神様のお怒りを買い、見捨てられました。　神様はネブカデネザル王の手で神殿を破壊させ、人々をバビロンに捕らえ移させたのです。』
１３　彼らは、バビロン王クロスの元年に、王が神殿再建の命令を下された、と言いはるのでございます。　１４１５何でも、ネブカデネザル王がエルサレムの神殿からバビロンの神殿へと運んだ金銀の器を、クロス王が返されたそうです。　王自らユダの知事に任命

したシェシュバツァルが、これらの用具をエルサレムへ持ち帰り、神殿を復興する命令を受けたと申すのです。　１６帰国したシェシュバツァルは、エルサレムに神殿の土台をすえました。　それ以来、工事は続いていますが、まだ完成してはおりません。　１７どうか、バビロンの王室の文庫を調べ、はたしてクロス王がそのような命令を下していたかどうか、お確かめいただきたいのです。　その上で、本件に関するご指示をお聞かせください。」
六
１　そこでダリヨス王は、文書が保管してあるバビロンのあらゆる文庫を調べさせました。
２　その結果、メディヤ州のアフメタ城内で記録が発見されました。それには、こう記されていたのです。
３　「クロス王の治世の元年に、エルサレムの神殿に関する命令が出された。　かつてユダヤ人がいけにえをささげていたその神殿を再建し、基礎をしっかり築き直すようにというものである。　神殿の高さは三十メートル、幅も三十メートルである。　４土台は巨大な石の層三段、最上層は木材を用いること。　経費はすべて王が負担する。５ネブカデネザル王が持ち出した金銀の器は、エルサレムに戻し、元どおり神殿に安置すること。」
６　ダリヨス王は、知事タテナイ、シェタル・ボズナイはじめ、ユーフラテス川西岸の高官たちに、次のような手紙を送りました。
「神殿工事を中止させる必要はない。　元どおり再建させてかまわない。　７ユダの知事や、工事責任者たちの邪魔をしてはならない。８むしろ、諸君の領地で徴収される税金から、すみやかに全工事費をまかなってやるように。　９エルサレムの祭司たちのためには、完全に焼き尽くすいけにえ用の若い雄牛、雄羊、子羊を調達してやること。　また、小麦、ぶどう酒、塩、オリーブ油も毎日欠かさず与えること。　１０そうすれば、彼らは天の神様の喜ぶいけにえをささげることができ、余や息子たちのためにも祈ってくれるだろう。
１１この命令を少しでも変えようとする者があれば、その家から梁を引き抜き、その者の絞首台を作り、家は瓦礫の山とすること。　１２エルサレムの町をお選びになった神様は、もしこの命令を破り、神殿を破壊しようとする王がいれば、その国を滅ぼさずにはおかない。　余が命じる。　万全の注意をはらって、この命令を守るように。」
１３　知事タテナイ、シェタル・ボズナイとその同僚たちは、直ちに王の命令に従いました。
１４　もう邪魔は入りません。　ユダヤ人指導者たちは工事を続け、預言者ハガイやゼカリヤの説教に、大いに励まされていました。
神様のご命令と、ペルシヤ王クロス、ダリヨス、アルタシャスタの布告どおり、神殿はついに完成しました。　１５それは、ダリヨス王の治世の第六年二月十七日でした。
１６　祭司や、レビ人をはじめ、だれもが、大喜びで献堂式を祝いました。　１７雄牛百頭、雄羊二百頭、子羊四百頭が、いけにえとしてささげられ、雄やぎ十二頭が、イスラエル十二部族の罪を償ういけにえとしてささげられました。　１８そして祭司とレビ人は、

モーセの法律にのっとって、さまざまな奉仕の班に組み分けされ、神様に仕えることになりました。
１９　三月末（ユダヤ歴では一月十四日）には過越の祭りが祝われました。２０すでに、多数の祭司やレビ人が、献身を新たにしていたからです。２１２２また、ユダ在住の外国人の中には、その不道徳な習慣と縁を切り、イスラエル人とともに神様を礼拝する者もいました。　国をあげて過越の祭りの祝宴を張り、また、七日間、種なしパンの祭りを祝いました。　国中が喜びにあふれていました。　神様のお取り計らいで、アッシリヤ王がイスラエルに寛大な態度を示し、神殿の再建にも、力を貸してくれるようになったからです。
七
１－５ここに、ペルシヤ王アルタシャスタの時代にバビロンからエルサレムに帰還した、エズラという人の家系図があります。
エルアザル↓ピネハス↓アビシュア↓ブキ↓ウジ↓ゼラヘヤ↓メ
ラヨテ↓アザルヤ↓アマルヤ↓アヒトブ↓ツァドク↓シャルム↓
ヒルキヤ↓アザルヤ↓セラヤ↓エズラ
エルアザルの父は祭司のかしらアロン。
６エズラはユダヤの宗教的指導者にふさわしく、モーセがイスラエル国民に与えたおきてに、精通していました。　彼は王にエルサレム帰還を願い出て、許されたのでした。　神様に祝福されていたからです。７－９同行者には、祭司、レビ人と、聖歌隊員、門衛、神殿奉仕者などのほか、一般人も大ぜい含まれていました。　一行は、アルタシャスタ王の治世の第七年三月中旬にバビロンを旅立ち、エルサレムには七月に着きました。　旅の間も神様が守ってくださいました。　１０エズラは、神様のおきてを学んで実行し、聖書教師となって、イスラエル中におきてを教え広めようと、心に決めていたのです。
１１　神様のおきてを学んでいる祭司エズラに、アルタシャスタ王は次のような手紙を送りました。
１２　「王の王アルタシャスタから、祭司であり、天の神様のおきての教師であるエズラへ。
１３　わが国内のユダヤ人は、祭司であろうと、レビ人であろうと、だれでも君とともにエルサレムへ戻ってよい。　１４余および七人の議官は、君が神様のおきての写しを、ユダ、つまりエルサレムへ持ち帰り、宗教面での進展ぶりを報告するよう命令する。　１５どうか、われわれが神様にささげたいと思っている金品を、エルサレムに届けてくれ。１６そのほか、国中のユダヤ人や祭司がささげたがっている金品も、集めて帰るがよい。　１７これらの基金は、まず、いけにえ用の雄牛と雄羊と子羊、また、穀物とぶどう酒のささげ物を買いそろえるために用いるように。　向こうに着いたら、神殿の祭壇にささげてくれ。　１８残金の使い道は、君や君の同胞の考えに任せよう。　神様の意志に添うよう、用いてくれたまえ。　１９また、われわれが神殿に奉納する金の器や、用具類も持って行ってくれ。　２０どうしても神殿再建の資金が不足する場合には、王室の宝物倉から援助

することにしよう。
２１　余はユーフラテス川以西の全財務担当者に､次のように命じよう。『エズラの要請があれば、何でも提供してやるように。　彼は祭司であり、天の神様のおきてを説く教師であるからだ。　２２銀は六千万円相当まで、小麦は三十六キロリットルまで、ぶどう酒は三千六百リットルまで､塩はいくらでも与えてよろしい。　２３神殿再建に必要なものは、何でも提供するのだ。　神様の怒りが王や王子たちに下るといけないから。　２４祭司、レビ人、聖歌隊員、門衛、神殿奉仕者、そのほか神殿で働く者は全員免税にせよ。』
２５　エズラよ、神様から授かった知恵を働かして、ユーフラテス川以西の裁判官や知事を任命しなさい。　人々が神様のおきてに明るくない場合は、教えてやりなさい。　２６神様のおきてや王の法律に従わない者は、即刻、死刑、流刑、財産没収、禁固などの刑に処すように。」
２７　ああ、ご先祖の神様はすばらしい方です。　王に働きかけて、エルサレムの神殿の美しさを取り戻してくださいました。　２８また、王や七人の議官、王室の実力者の居並ぶ前で、私にあのような栄誉をお与えくださいました。　神様が共にいてくださったおかげで、私は高い地位につくことができました。　それで、イスラエルの指導者にも、いっしょにエルサレムへ帰ろう、と説得することができたのです。
八
１　アルタシャスタ王の時代に、私とともにバビロンから帰った指導者の名前と家系は、次のとおりです。
２－１４ピネハス族ではゲルショム
イタマル族ではダニエル
ダビデ族の傍系シェカヌヤ族ではハトシュ
パルオシュ族ではゼカリヤと、同行の男子百五十名
パハテ・モアブ族ではゼラヘヤの息子エルエホエナイと、同行の
男子二百名
ザト族ではヤハジエルの息子シェカヌヤと、同行の男子三百名
アディン族ではヨナタンの息子エベデと、同行の男子五十名
エラム族ではアタルヤの息子エシャヤと、同行の男子七十名
シェファテヤ族ではミカエルの息子ゼバデヤと、同行の男子八十
名
ヨアブ族ではエヒエルの息子オバデヤと、同行の男子二百十八名
バニ族では、ヨシフヤの息子シェロミテと、同行の男子百六十名
ベバイ族ではベバイの息子ゼカリヤと、同行の男子二十八名
アズガデ族ではカタンの息子ヨハナンと、同行の男子百十名
帰国が少し遅れたアドニカム族ではエリフェレテ、エイエル、シ
ェマヤと、同行の男子六十名

ビグワイ族ではウタイ、ザクルと、同行の男子七十名
１５　私たちはアハワ川に集合し、そこにキャンプを張って三日間すごしました。　その間に、国民と祭司の名簿を調べてみましたが、レビ人は一人も見あたりませんでした。　１６そこで、指導者である、エリエゼル、アリエル、シェマヤ、エルナタン、ヤリブ、エルナタン、ナタン、ゼカリヤ、メシュラムらを呼び集めました。　知恵者として聞こえたエホヤリブとエルナタンにも、来てもらいました。　１７そして一同に、カシフヤにいるユダヤ人指導者イドのもとへ出向いてもらい、イドやその兄弟、また神殿奉仕者たちに、エルサレムの神殿で働く祭司をよこしてくれないか、と頼んだのです。　１８その結果、神様のお恵みで、傑出した祭司シェレベヤと、その息子や兄弟ら十八名が来てくれることになりました。　シェレベヤは非常に思慮深い人で、マフリの子孫です。　マフリはレビの息子で、イスラエル（ヤコブ）には孫にあたります。　１９神様はこのほか、ハシャブヤと、メラリの子孫エシャヤとその息子や兄弟を二十名、　２０また神殿奉仕者二百二十名を、遣わしてくださいました。　神殿奉仕者とは、ダビデ王が制定した、神殿で働く者の階級で、レビ人を補佐するように任命されていた者です。　これら二百二十名は、それぞれ名を記録に残されました。
２１　さていよいよ、私はアハワ川のほとりで断食を命じ、一人一人が神様の前に謙虚になるよう勧めました。　そして、これからの道中の無事と家族や持ち物の安全を、神様に祈りました。　２２途中の敵を恐れて、王に警護の兵や騎兵をつけるよう願い出たりするのは、恥だと考えたからです。　というのも、かねてから王には、私たちの神様を礼拝する者はだれでも守られ、災難は、神様をないがしろにする者にだけ下るのだ、と申し上げていたからです。　２３そこで、私たちは断食して、神様のお守りを願い求めたわけです。神様は祈りに答えてくださいました。
２４　私は祭司の中から十二人を、指導者に任命しました。　シェレベヤ、ハシャブヤほか十人です。　２５この人たちには、銀、金、金の器や他の用具などの管理をしてもらうことにしました。　このほか、王、議官、長官たち、それに国民がささげた品々の管理も任せました。２６２７彼らに移管する際に金品を量ったところ、銀三億九千万円相当、銀の器類六千万円相当、金九億円相当、金の器が二十点で百五十万円相当あることがわかりました。　このほか、金にも劣らないほどの、美しい青銅の器が二点ありました。　２８私はまず、神様の前で、彼らを特別にこの仕事に任じ、次に、備品類や金品など、進んでささげられた宝物の数々を、神様のものとしてきよめました。
２９　「エルサレムまでしっかり守っていただきたい。　向こうに着いたら、一品たりとも欠けることなく、祭司、レビ人、イスラエルの長老たちに渡せるように。　神殿の宝物倉に納めるものですからな。」
３０　祭司やレビ人たちは、神殿まで守り通す務めを引き受けました。３１こうして、一行がアハワ河畔のキャンプをたたみ、エルサレムめざして出発したのは、三月も末のことでした。　途中、神様は敵や盗賊からお守りくださいました。　３２おかげで、何事もな

く、エルサレムへ着くことができたのです。
３３　到着して四日目、祭司ウリヤの息子メレモテ、ピネハスの息子エルアザル、ヨシュアの息子エホザバデ、ビヌイの息子ノアデヤらが、金銀や高価な品々を量って、確認してくれました。　この人たちはレビ人です。　３４一つ一つについて受領書を作成し、金銀の目方を書き留めました。
３５　それから、一行全員で、完全に焼き尽くすいけにえを神様にささげました。　イスラエルのために雄牛十二頭、雄羊九十六頭、子羊七十七頭をささげ、罪が赦されるためのいけにえに雄やぎ十二頭をささげました。　３６また王の手紙は、軍司令官やユーフラテス川以西の州知事たちに手渡され、彼らも、神殿再建にひと役買うことになったのです。
九
１　ところが、そんなある日、ユダヤ人の指導者たちが訪ねて来て、驚くべき報告をしたのです。　ユダヤ人の中には、この地に移り住んだ異教徒のカナン人、ヘテ人、ペリジ人、エブス人、アモン人、モアブ人、エジプト人、エモリ人などの恐るべき風習に染まっている者が多くいるというのです。　２イスラエル人は異教徒の女と結婚し、息子たちにも嫁をとらせていました。　神様の聖なる国民は、こうした結婚によって堕落していたのです。その最たる者は政治家でした。
３　これを聞いて、あまりのことに、私は着物を引き裂き、髪もひげも引き抜き、打ちのめされた思いで座り込んでしまいました。　４すると、神様を恐れる多くの人が、人々の罪のことで私のところへやって来て、夕方のいけにえをささげる時まで、そばを離れようとしませんでした。
５　ついに私は、どうしたらよいかもわからないまま、神様の前に出ました。　そして、ひざまずき、両手を差し伸べて、　６叫んだのです。　「ああ、神様、何と申し上げたらよいのでしょう。　とても顔向けできません。　私どもの罪は背丈よりも高く積もり、悪行は天空のように際限なく広がっております。　７私どもの歴史はすべて罪の歴史であり、歴代の王や祭司が異教徒の王の手で葬られたのも、このためです。　そのあげく捕囚の身となり、略奪をほしいままにされ、はずかしめを受けました。　ご覧のとおりのざまでございます。　８しかし、神様は今、平和のひと時を与えてくださいました。　少数の者が捕囚からエルサレムに戻ることを、お許しになったのです。　喜びを与え、奴隷の身に、新しい世界を開いてくださいました。　９確かに、私どもは奴隷でした。　しかし、愛と恵みに富む神様は、そのまま見捨てたりせず、かえって、ペルシヤ王が私どもに好意をいだくようにしてくださったのです。　王たちは神殿の再建事業を助け、エルサレムをユダの要塞の町と認めてくれました。
１０　ですが、それにもかかわらず、神様、こんなことになってしまい、何と申し上げたらよろしいのでしょう。　またしても、ご厚意を踏みにじり、おきてを破るようなまねをしでかしました。　１１私どもの国は、先住民族の恐るべき風習によって、すっかり汚れきっているとは、預言者たちが警告してくれていたことです。　この地は、端から端まで

腐りきっています。　１２だからこそ、娘は土着の者と結婚してはならず、息子は土着の娘を妻に迎えてはならない、また、ささいな事でも、この地の国々とはかかわってはならないと、神様はお命じになったのです。　この定めに従いさえすれば、国は繁栄し、永久にその富を子孫に伝えることができる、と約束してくださいました。　１３このたび、私どもの犯した罪の重さに比べればずっと軽い罰とはいえ、捕囚という罰を受けたにもかかわらず、　１４こうして幸いにも帰国してみれば、またまたご命令に背き、恐るべき国民と結婚したりするのですから……。　御怒りは、今度こそ、このひと握りの生き残りの者さえも、滅ぼし尽くすことでしょう。　１５ああ神様、神様の正しさでさばかれれば、御前に立つこの罪の身には、ひと筋の希望もあろうはずがございません。」

一〇

１　ふと気がつくと、神殿の前にひれ伏して、涙ながらに祈り、告白をしている私の回りを、男や女、子供までが、幾重にも取り囲み、いっしょに泣いているではありませんか。

２　エラム族のエヒエルの息子シェカヌヤが、まず口火を切りました。「ほんとうに、神様を裏切ってしまいました。　異教徒の女と結婚してしまいました。　けれども、まだ希望はあります。　３私たちは異教徒の妻と離婚し、子供たちも手放すと、神様の前で約束いたします。　あなたや、同じく神様を恐れる人々のご命令に従います。　神様のおきてを守ります。　４どうか力を奮い起こし、これからどうすればよいか指示してください。　何でも、おっしゃるとおりにいたします。」

５　そこで、私は立ち上がり、祭司、レビ人、一般人の指導者たちに、シェカヌヤのことばどおり実行すると誓ってくれ、と呼びかけました。だれもが、うなずきました。　６そのあと、私は神殿のヨハナンの部屋に入り、飲まず食わずで過ごしました。　捕囚から帰還した人々の罪を悲しんだからです。

７８すぐに、ユダとエルサレムに布告が出されました。　だれもが三日以内にエルサレムに出頭すること、出頭を拒む者は財産を没収され、追放される、という内容のものでした。

９三日以内の十二月四日には、ユダとベニヤミンの男子は全員やって来て、神殿の広場に座りましたが、事の重大さと、折りからの大雨のために震えていました。　１０私は立ち上がり、こう宣言しました。

「異教徒の女と結婚したあなたがたは、罪を犯したのです。　かつてないほど深刻な、神様の責めを受けています。　１１先祖代々の神様に、罪を告白しなさい。　そして、そのご命令どおりにしなさい。回りにいる異教徒や女たちに近寄ってはならない。」

１２　すると、人々はいっせいに立ち上がりました。「おっしゃるとおりにいたします。

１３ただ、一日、二日でけりのつくことでもございません。　大ぜいがこの罪深い事件にかかわってしまったからです。雨も激しいので、これ以上ここに立ってもいられませんが、

１４指導者をとおして、お取り調べください。　異教徒の妻をめとった者は、所定の時刻に、町の長老や判事を伴って出頭いたします。　こうすれば、個々の事例に判決を下し、万事てきぱきと解決できます。　神様の激しい御怒りも、やがて静まるでしょう。」

１５　異議を申し立てたのは、アサエルの息子ヨナタンとティクワの息子ヤフゼヤ、メシュラム、レビ人シャベタイだけでした。
１６‐１９結局、この件は次のように処理されました。　裁判官には氏族の指導者数名と私が任命され、十二月十五日から三月十五日まで、調査を続けました。
次にあげるのは、異教徒の女をめとった祭司の名前です。　一同は妻と離婚すると誓い、あやまちを認めて、雄羊をいけにえにささげました。
マアセヤ、エリエゼル、ヤリブ、ゲダルヤ
２０　イメルの息子ハナニとゼバデヤ
２１　ハリムの息子マアセヤ、エリヤ、シェマヤ、エヒエル、ウジヤ
２２　パシュフルの息子エルヨエナイ、マアセヤ、イシュマエル
ネタヌエル、エホザバデ、エルアサ
２３　レビ人のうちでは、エホザバデ、シムイ
ケリタとも呼ばれるケラヤ、ペタヘヤ、ユダ、エリエゼル
２４　歌手ではエルヤシブ
門衛ではシャルム、テレム、ウリ
２５　一般市民では、パルオシュ族のラムヤ、イジヤ、マルキヤ
ミヤミン、エルアザル、マルキヤ、ベナヤ
２６　エラム族では、マタヌヤ、ゼカリヤ、エヒエル、アブディ
エレモテ、エリヤ
２７　ザト族では、エルヨエナイ、エルヤシブ、マタヌヤ
エレモテ、ザバデ、アジザ
２８　ベバイ族では、ヨハナン、ハナヌヤ、ザバイ、アテライ
２９　バニ族では、メシュラム、マルク、アダヤ、ヤシュブ
シェアル、ラモテ
３０　パハテ・モアブ族では、アデナ、ケラル、ベナヤ、マアセヤ
マタヌヤ、ベツァルエル、ビヌイ、マナセ
３１３２ハリム族では、エリエゼル、イシヤ、マルキヤ、シェマヤ
シメオン、ベニヤミン、マルク、シェマルヤ
３３　ハシュム族では、マテナイ、マタタ、ザバデ、エリフェレテ
エレマイ、マナセ、シムイ
３４‐４２バニ族では、マアダイ、アムラム、ウエル、ベナヤ、ベデヤ
ケルフ、ワヌヤ、メレモテ、エルヤシブ、マタヌヤ、マテナイ
ヤアサイ、バニ、ビヌイ、シムイ、シェレムヤ、ナタン、アダヤ
マクナデバイ、シャシャイ、シャライ、アザルエル
シェレムヤ、シェマルヤ、シャルム、アマルヤ、ヨセフ
４３　ネボ族では、エイエル、マティテヤ、ザバデ、ゼビナ

ヤダイ、ヨエル、ベナヤ
４４以上が異教徒の女をめとった者たちで、妻との間に子供が生まれたケースも多くありました。
▪

ネヘミヤ記
本書は、エズラ記の内容を受け継いで、再建された社会の生活に言及しています。　エズラ記の中心点は神殿の再建であり、ネヘミヤ記の中心点はエルサレム城壁の再建です。　エルサレムには人々を保護するために城壁が必要なことを述べ、次に、内外に起こった数々の問題にもかかわらず、城壁がどのように修復されたかを記しています。

一
１　ハカルヤの息子ネヘミヤの記録
ペルシヤのアルタシャスタ王の時代、第二十年の十二月のこと、シュシャンの宮殿に仕える私のもとに、　２親類のハナニが、ユダヤからの客数人を連れて、訪ねて来ました。　この時とばかり、私はエルサレムはどんな様子かと尋ねてみました。
「エルサレムへ戻ったユダヤ人たちは、よくやっているかね。」
３　「いや、実は、ひどいものです。　城壁はくずれ、門も焼き払われたままで。」
４　これを聞いて、私は泣きだしてしまいました。　それからというもの、断食して、幾日も、天の神様にひたすら祈って過ごしたのです。
５　「神様、偉大で、恐るべきことをなさる神様。　神様は、あなた様を愛し従う者には、約束を守り、愛と思いやりを示してくださるお方です。　どうか、この祈りをお聞きください。　６７私の訴えに耳を傾けてください。　夜も昼も、イスラエル国民のために祈っている私に、目を留めてください。　確かに私どもは罪を犯してしまいました。　恐れ多くも、神様のしもベモーセによって示された戒めを破るような罪を、犯してしまったのです。　８しかし神様、神様はモーセに、こうお語りになったではありませんか。
『もし罪を犯せば、おまえたちを国々に散らそう。　９だが、心を入れ替えて立ち返り、わたしのおきてに従うなら、たとい地の果てからでも、エルサレムへ連れ戻してやろう。エルサレムこそ、わたしの住まいとして選んだ地だからだ。』
１０　私どもは神様に仕える者です。　その偉大なお力によって救われた国民です。　１１神様、どうかこの祈りを聞き入れてください。　神様を喜び敬う者の祈りを、聞き捨てにしないでください。　王のもとへ行き、あることを願い出るつもりでおります。　どうかお助けください。　寛容な答えをいただけるよう、お取り計らいください。」　当時、私は王の献酌官をしておりました。
二
１２四か月ほどたった四月のある日、私が王にぶどう酒をついでおりますと、王がおことばをかけてくださったのです。　「浮かぬ顔をしておるな。　ぐあいでも悪いのか。　まるで大きな悩みでもしょい込んだようじゃぞ。」　その時まで、私は王の前では、いつも明るく振る舞っているつもりでした。　どぎまぎしながらも、こう答えました。　３「陛下、どうして悲しまずにおられましょう。　先祖たちの眠る町が廃墟となり、門も焼け落ちたままだと申しますのに。」

４５「ふむ、いったいどうすれば、心が晴れるのじゃ。」
私は、すかさず天の神様に祈ってから答えました。 「もし、陛下のおこころにかなって、お許しいただけますなら、私めをユダに遣わし、先祖の町を再建させてください。」
６　「して、どのくらい行っているのか。　いつ戻ってまいるのじゃ。」　王は、かたわらの王妃ともどもお尋ねになりました。
こうして、王の承諾を得たのです。　さっそく、私は出発の日取りを決めました。
７　このほかにも、私は王に無心を願い出ました。　「もしよろしければ、ユーフラテス川以西の知事あての手紙を賜わり、途中、その国内を通らせてくれるよう、お取り計らいください。　８また、王室の森林管理人アサフへも手紙を賜わり、神殿付近の城門の梁と、城壁と、私の住まいを建てる材木を、提供させていただけませんでしょうか。」
神様の深いお恵みのおかげで、願いはかなえられました。
９　ユーフラテス川西岸まで来ると、私は知事に王の手紙を渡しました。 ついでですが、王は私に警護の将校と騎兵をつけてくれていたのです。　１０ところが、私が来たことを知り、激怒した人物がいました。　ホロン人サヌバラテと、アモン人の役人トビヤです。この二人は、だれでもイスラエルに手を貸そうとする者には、容赦しなかったからです。
１１１２エルサレムに着いて三日後、私は二、三の者だけを連れて、夜こっそり抜け出しました。　神様が私の心に示してくださったエルサレムに関する計画は、自分ひとりの胸のうちに秘めて、だれにも話していなかったからです。　私はろばに乗り、ほかの者は歩きました。１３谷の門を通り、竜の泉に向かい、糞の門まで行き、くずれた城壁、焼け落ちた門を調べました。　１４１５次いで、泉の門と、王の池へ向かいましたが、私の乗ったろばの通れる場所がありませんでした。 そこで、町の回りを巡り、流れをさかのぼり、城壁を調べて、再び、谷の門から中に入りました。
１６　町の役人たちは、私が出かけたことも、なぜ、そんなことをしたのかも知りませんでした。　この計画を、政府や宗教関係の要人にも、実際の工事にあたる人々にも、まだ打ち明けていなかったからです。
１７　しかし、今や、私は人々に呼びかけました。　「諸君！　この町の惨状に目を向けてくれ。　荒れ果てたままで、門も焼け落ちている。　さあ、もう一度エルサレムの城壁を築こうではないか。　われわれの町の恥をぬぐい去ろう。」
１８　私は、神様がいだかせてくださった願いや、王との話し合いのいきさつ、それに王の同意を取りつけたことなどを話しました。
反応はすぐにありました。　「それはよかった。　さあ、城壁を建て直そうじゃないか。」こうして、工事が始まったのです。
１９　ところが、この話を耳にしたサヌバラテやトビヤ、アラブ人ゲシェムらは、せせら笑いました。　「何をするっていうんだ。　王様に反逆するつもりか。」
２０　しかし、私は答えました。　「天の神様がお助けくださいます。　神様にお従いしている私たちは、必ずこの城壁を再建してみせます。　口出ししないでいただきたい。」

三

１　大祭司エルヤシブはじめ祭司たちは、百塔とハナヌエル塔までの城壁を再建し、次に羊の門ととびらを取りつけ、それを奉献しました。　２その隣は、エリコ出身の者たちが引き受け、続いてその向こうはイムリの息子ザクルの組が工事にあたりました。

３　魚の門はセナアの息子たちが築き、梁、とびら、かんぬき、横木のすべてを取りつけました。　４コツの孫でウリヤの息子メレモテは、それに続く城壁を修理し、その隣は、メシェザブエルの孫でベレクヤの息子メシュラムが、さらにバアナの息子ツァドクが修理を受け継ぎました。　５次を、テコア出身の者が工事にあたりましたが、上流の人たちは怠けて、手伝いませんでした。

６　古い門はパセアハの息子エホヤダと、ベソデヤの息子メシュラムが修理し、梁、とびら、かんぬき、横木を取りつけました。　７その続きは、ギブオン出身のメラテヤと、メロノテ出身のヤドン、それに、ほかの管轄領の住民であるギブオンとミツパの人たちが、引き受けました。　８ハルハヤの息子で金細工人のウジエルも、城壁の工事に精を出しました。　その続きは、香料作りの職人ハナヌヤが受け継ぎ、広い城壁のところまで修理しました。

９　フルの息子で、エルサレム半区の区長をしていたレファヤが、続いて工事にあたりました。　１０ハルマフの息子エダヤは、自宅付近の城壁を修理し、ハシャブネヤの息子ハトシュが、続きを受け持ちました。　１１ハリムの息子マルキヤと、パハテ・モアブの息子ハシュブは、城壁の続きと高炉塔を修理しました。　１２ロヘシュの息子シャルムとその娘たちが、その続きの部分の修理にあたりました。　シャルムはエルサレムの残り半区の区長です。

１３　ザノアハ出身の人々は、ハヌンの監督のもとで谷の門を再建し、とびら、かんぬき、横木を取りつけ、続いて、糞の門までの城壁五百メートルを修理しました。

１４　糞の門は、レカブの息子マルキヤが修理しました。　彼はベテ・ハケレム地区の区長です。　門ができ上がると、とびら、かんぬき、横木が取りつけられました。

１５　ミツパ地区の区長で、コル・ホゼの息子シャルンは、泉の門を修理しました。　でき上がると、屋根をふき、とびら、かんぬき、横木を取りつけました。　続いて、シロアムの池から王の庭まで、つまり、エルサレムのダビデの町から下ってくる石段までの城壁を、修理しました。　１６続いて、ベテ・ツル半区の区長で、アズブクの息子ネヘミヤは、ダビデ王の墓地と貯水池、役人詰め所までの城壁を修理しました。　１７その続きは、バニの息子レフムの指導のもとに、レビ人の一団が奉仕しました。　続いて、ケイラ半区の区長ハシャブヤが監督して、自分の地区の城壁を再建しました。　１８その続きは、ケイラの残り半区の区長で、ヘナダデの息子バワイに率いられた一族が、築き上げました。

１９　そのあとの仕事は、ミツパの残り半区の区長で、ヨシュアの息子エゼルの監督下に進められ、兵器庫のある城壁の曲がり角の部分まで行きました。　２０次に、ザカイの息子バルクが、そこから大祭司エルヤシブの家までの城壁を築きました。　２１コツの孫で

ウリヤの息子メレモテは、エルヤシブの家の門からもう一方の端まで、一区画の城壁を築きました。
２２　そのあとは、町の郊外の平地に住む祭司たちが受け継ぎました。　２３引き続き、ベニヤミン、ハシュブ、アナネヤの孫でマアセヤの息子アザルヤらが、自宅付近の工事を受け持ちました。　２４ヘナダデの息子ビヌイは、アザルヤの家から次の角までの城壁を築きました。　２５ウザイの息子パラルは、そこから、拘置所の庭に面する宮殿の高い塔までの一区画を受け持ちました。　その続きは、パルオシュの息子ペダヤが引き受けました。
２６　オフェルに住む神殿奉仕者の一団が、東の水の門と突き出た塔までの城壁を修理しました。　２７続いて、その城の塔に面する部分からオフェルの城壁までを、テコア人が修理しました。　２８馬の門からあとは、祭司たちが、それぞれ自宅に面する一画を修理しました。
２９　イメルの息子ツァドクは、自宅付近の城壁を再建しました。　そのあとは、東の門の門衛で、シェカヌヤの息子シェマヤが引き受けました。　３０続いて、シェレムヤの息子ハナヌヤ、ツァラフの六男ハヌン、ベレクヤの息子メシュラムらが、自宅付近の城壁を築きました。　３１金細工人マルキヤは、召集の門に面する、神殿奉仕者や商人たちの集会所、つまり、角の二階の部屋までを修理しました。　３２そして、ほかの金細工人や商人たちが、そこから羊の門までを完成させました。
四
１２サヌバラテは、城壁の再建が進んでいるのを知って、おもしろくありません。　腹立ちまぎれに大声でののしったり、あざ笑ったりしました。　友人や、サマリヤ軍の将校も、いっしょになって攻撃してきました。　「こいつら、ひょろひょろのユダヤ人が、何をしようってんだ。　いけにえささえささげれば、一日で城壁ができ上がると思ってやがる。　見ろよ。　瓦礫の中から、焼けこげた石を引っぱり出して使ってるぜ。」
３　サヌバラテのかたわらでは、「きつねが一匹乗っかったって、くずれそうだな」と、トビヤが悪態をつくのでした。
４　私は祈りました。　「神様、お聞きください。　私どもは侮辱されております。　どうか、あの者たちのあざけりを、そっくりそのまま頭上に返してやってください。　彼らにも、外国に囚われの身となる思いを味わわせてください。　５彼らの罪に目をつぶらず、消し去りもしないでください。　城壁を建てようとする私たちを侮辱するのは、神様を侮辱するのと同じだからです。」
６　だれもが一生懸命に工事に精を出したおかげで、高さは以前の半分でしたが、ついに、全市を囲む城壁が完成しました。
７　ところが、サヌバラテ、トビヤ、アラブ人、アモン人、アシュドデ人たちは、工事が順調に進み、城壁の破損個所の修理も終わったと聞くと、腹わたの煮えくり返る思いでした。　８直ちに軍隊を出動させ、エルサレムに暴動と混乱を引き起こそうとたくらみまし

た。　９しかし、私たちは神様に祈り、自衛のため、日夜警戒にあたっていたのです。
１０　しかし、指導者内部に、不満をもらす者が現われてきたのも事実です。　働く者が疲れている、瓦礫が多すぎて、自分たちだけでは手に余る、というのです。　１１そうこうするうち、敵は、奇襲をしかけて私たちを皆殺しにし、工事中止に追い込む計画を着々と進めていました。　１２近くの町や村から来た者も、敵は四方から攻め寄せるだろうと、何度も警告するのでした。　１３そこで私は、城壁のうしろの空地に、各家族ごとに武装した者を配置しました。
１４　こうした情況がはっきりしてきたところで、私は指導者や国民を集め、こう言い聞かせました。　「びくびくしないでください。　神様は偉大で、恵み深いお方ではありませんか。　さあ戦うのです。　友のために、家族のために、家のために。」
１５　敵は、陰謀がばれ、それが神様によってあばかれ、失敗に終わったことを、思い知らされる結果となったのです。　今や、私たちは一丸となって城壁工事を再開しました。
１６このことがあってから、半数の者が工事に取りかかり、残り半数は背後で警戒にあたることにしました。　１７石工や力仕事の者は、手の届く所に武器を置くか、　１８剣を腰につけて工事を進めました。　ラッパで警報を吹き鳴らす者は、私のそばに配置しました。
１９２０「工事現場は各所に散らばり、お互い離れ離れに仕事をしているが、いざラッパが鳴ったら、急いで私のもとに集合してくれ。　神様が味方して戦ってくださるからな。」
２１　私たちは、朝は日の出とともに、夕べは日没まで働きました。半数の者はいつも警戒にあたりました。　２２郊外に住む者には、市内への移住を命じました。　そうすれば、その雇い人たちも、昼間はたらくだけでなく、夜間の警戒にもあたれるからです。　２３この期間中、私も、兄弟も、召使らも、いっしょにいた護衛も服を脱がず、いつも武器を離しませんでした。
五
１　このころ、暴利をむさぼっている金持ちに対して、子供をかかえた者から、激しい抗議の声があがりました。　２‐４事の起こりは、食べるにも事欠く家で、金持ちに子供を売ったり、畑やぶどう園や家を抵当に入れたりする事態が、発生したことです。　それさえできず、税金を払うために、限度いっぱいの借金をしてしまった人もいました。
５　「わしらはみな兄弟同士じゃないか。　子供だって、どこの家の子も同じだ。　それなのに、生きていくために、子供を奴隷に売らなくてはならないなんて！　売った娘を買い戻す金もない。　畑も何も、抵当に取られてしまった。」
６　この抗議を聞いて、私は非常な憤りを感じました。　７何とかしなければなりません。しばらく考えたのち、裕福な官僚たちをきびしく責めることにしました。
「いったい君たちのやってることは何だね。　人助けという名目で、抵当を取って金を貸すとは、よくもできたものだ。」
それから、彼らの処分をめぐって公の裁判を開いたのです。

８　その法廷で、私は彼らを告発しました。　「私たちはみな、遠い国での奴隷生活から引き揚げて来た者たちを援助しようと、できるだけのことをしてきた。　それにもかかわらず、おまえたちは無理やり、彼らを奴隷に戻そうとしている。　いったい何度、私たちに買い戻せというのか。」
彼らには、ひと言も返すことばがありませんでした。
９　私は続けました。「君たちのしていることは、非常に恐ろしいことだ。　いったい、神様を恐れる気持ちがあるのか。　回りには、すきを窺う敵がうごめいている。　１０ほかの者はだれも、同胞のユダヤ人には、利子も取らずに金や穀物を貸してやっているんだぞ。　こんな高利貸しみたいなまねはやめてくれ。　１１畑、ぶどう園、オリーブ園、家をみな返し、証文を破ってやってくれ。」
１２　彼らはうなずき、土地を抵当に取ったり、子供を売らせたりしないで同胞を助ける、と約束しました。　そこで、祭司たちを召集し、正式に誓わせました。　１３違反者には神様からのろいが下るように、とも祈りました。
「もしこの誓いを破ったら、神様が君たちの家と暮らしをめちゃめちゃにされるように。」
国民は全員「アーメン」と叫んで、神様を賛美しました。　金持ちは誓いを実行に移しました。
１４　ついでながら、ここで言っておきたいのですが、アルタシャスタ王の治世の第二十年から三十二年までの十二年間、ユダの知事を務めた私は、その間、副官ともども、イスラエル人からは、一銭も給料や援助を受け取りませんでした。　１５これは、前任の知事が食糧とぶどう酒、一日三万円の手当を要求し、家来たちもやりたい放題、住民を虐待したのとは対照的です。　神様を恐れる私は、そんなことはしませんでした。　１６ひたすら城壁工事に励んだのであって、土地の投機に手を出すなど、ありえないことでした。　家来にも、工事に専念するよう命じました。　１７その上、百五十人のユダヤ人の役人の食いぶちは、私がまかない、ほかに、外国からの客のもてなしもしていたのです。　１８一日につき、雄牛一頭、肥えた羊六頭、おびただしい鶏が必要で、十日ごとに種々のぶどう酒も整えました。　にもかかわらず、新たに課税したりはしませんでした。　そうでなくとも、国民の生活は苦しかったからです。　１９神様、この国民に対する私の態度をおこころに留め、祝福してください。
六
１　さて、城壁工事も余すところ、門のとびらを取りつけるだけとなりましたが、サヌバラテ、トビヤ、アラブ人ゲシェムや、その他の敵どもは、工事もほぼ完成したと聞くと、２手紙をよこして、オノ平野にある村で会見したいと言ってきました。　しかし、それは私を殺す陰謀だと感づいたので、　３次のような返事を送ってやりました。
「まだ、この大事業は終わっていません。　中途で放って、そちらへ出向くわけにはまいりません。」
４　彼らはしつこく、四度も同じ手紙をよこしたので、そのつど、同じように答えておき

ました。　５６五度目に、サヌバラテの使いは、次のような文面の、封のしてない手紙を持って来ました。
「ゲシェムによると、行く先々で、こんなうわさが耳に入るそうです。　ユダヤ人は、謀反を起こすために城壁を再建しているのだ、とね。　君は、王になろうとたくらんでいるそうではありませんか。　もっぱらのうわさですよ。　７それに、エルサレムでは預言者を任命し、『ネヘミヤこそ、われわれに必要な人物だ』と言わせているとか。このことは、必ずアルタシャスタ王の耳に入れます。　悪いことは言いません。　さあ、おいでなさい。話し合う余地は十分にあります。これしか助かる道はありませんぞ。」
８　私はこう答えてやりました。
「胸によく手をあてて、考えてみることですな。　うそ八百を並べ立てているだけではありませんか。　９私たちを脅迫して、ただ工事を中止させたいだけなのです。」　ああ、神様、どうか、私に力をお与えください。
１０　数日後、私は、メヘタブエルの孫でデラヤの息子シェマヤを訪ねました。　神様からお告げがあったと聞いたからです。
「神殿に身を隠して、とびらを閉めるのです。　今晩、やつらはあなたを殺しにやって来ますぞ」と、彼は急を告げました。
１１　「知事たる者が、どうして、危険だからといって逃げ出せましょう。　それに、祭司でもない私が神殿に入ったりすれば、いのちを失います。　とんでもないことです。」
１２１３その時、私は何もかも悟ったのです。　それは神様のお告げではなく、トビヤとサヌバラテの陰謀であったことを。　シェマヤを買収して、私を脅し、神殿に逃げ込むような罪を犯させて、非難のほこ先を向けようとしたのでした。
１４　「神様、トビヤ、サヌバラテ、女預言者ノアデヤ、その他の預言者の罪を、一つ残らず覚えていてください。　あの手この手で、私の気持ちをくじこうと謀りました。」
１５　城壁は、着工から五十二日後の九月はじめに完成しました。
１６　敵や回りの国々は、これを知って驚き、恐れをなしました。　神様の助けがあったからこそ、この工事ができたのだ、と思い知らされたからです。　１７この間、トビヤとユダヤ人の金満政治家の間には、何通もの手紙がやりとりされました。　１８トビヤにとって、アラフの息子シェカヌヤは義父にあたり、息子ヨハナンも、ベレクヤの息子メシュラムの娘と結婚していたので、ユダ国内には、彼に忠誠を誓う者も多かったのです。　１９彼らは口々に、トビヤのことを私にほめそやしましたし、私の言うことはそっくり彼の耳に入れていました。　そしてトビヤは、せっせと脅迫状を送ってよこしたのです。
七
１　城壁が完成し、とびらが取りつけられ、門衛、歌手、レビ人が任命されると、　２私はエルサレムを治める責任を、兄弟ハナニと、ハナヌヤとに委ねました。　ハナヌヤは要塞の司令官で、だれよりも神様を敬う人物だったからです。　３私は二、三の指示を与えました。　太陽がのぼりきるまでは開門してはならないこと、閉門は守衛が警備にあたっ

ているうちに行ない、かんぬきはしっかりかけることなどです。　また、守衛はエルサレムに住み、規則正しく警備にあたること、城壁近くの住民は、付近の城壁警備にあたれと命じました。　４というのも、町は大きいのに、人口が少なく、家もまばらだったからです。
５　神様は、町の指導者や一般市民を集めて登録をさせよ、とお命じになりました。　私は、以前エルサレムに帰って来た人々の系図を見つけましたが、それには、次のように書かれていました。
６　「バビロン王ネブカデネザルが連行した捕囚のうち、エルサレムに帰って来た者の名は次のとおりです。
７　指導者
ゼルバベル、ヨシュア、ネヘミヤ、アザルヤ、ラアムヤ
ナハマニ、モルデカイ、ビルシャン、ミスペレテ、ビグワイ
ネフム、バアナ
８－３８そのとき共に帰って来た者の数
パルオシュ族　二千百七十二名
シェファテヤ族　三百七十二名
アラフ族　六百五十二名
ヨシュアとヨアブの二族からなるパハテ・モアブ族　二千八百十八名
エラム族　千二百五十四名
ザト族　八百四十五名
ザカイ族　七百六十名
ビヌイ族　六百四十八名
ベバイ族　六百二十八名
アズガデ族　二千三百二十二名
アドニカム族　六百六十七名
ビグワイ族　二千六十七名
アディン族　六百五十五名
ヒゼキヤ族、すなわちアテル族　九十八名
ハシュム族　三百二十八名
ベツァイ族　三百二十四名
ハリフ族　百十二名
ギブオン族　九十五名
ベツレヘムとネトファの人々　百八十八名
アナトテの人々　百二十八名
ベテ・アズマベテの人々　四十二名
キルヤテ・エアリム、ケフィラ、ベエロテの人々　七百四十三名

ラマとゲバの人々　六百二十一名
ミクマスの人々　百二十二名
ベテルとアイの人々　百二十三名
ネボの人々　五十二名
エラム族　千二百五十四名
ハリム族　三百二十名
エリコの人々　三百四十五名
ロデ、ハディデ、オノの人々　七百二十一名
セナアの人々　三千九百三十名
３９－４２帰還した祭司の数
エダヤ族のうちヨシュア家の血筋の者　九百七十三名
イメル族　千五十二名
パシュフル族　千二百四十七名
ハリム族　千十七名
４３－４５レビ人の数
ヨシュア族から分かれたホデヤ族のうち、カデミエルの家系の者七十四名
聖歌隊員のアサフ族　百四十八名
門衛のシャルム族、アテル族、タルモン族、アクブ族、ハティタ族、ショバイ族　百三十八名
４６－５６神殿奉仕者のツィハ族、ハスファ族、タバオテ族
ケロス族、シア族、パドン族、レバナ族、ハガバ族
サルマイ族、ハナン族、ギデル族、ガハル族、レアヤ族
レツィン族、ネコダ族、ガザム族、ウザ族、パセアハ族
ベサイ族、メウニム族、ネフィシェシム族、バクブク族
ハクファ族、ハルフル族、バツリテ族、メヒダ族
ハルシャ族、バルコス族、シセラ族、テマフ族
ネツィアハ族、ハティファ族
５７－５９ソロモンの家臣の子孫
ソタイ族、ソフェレテ族、ペリダ族、ヤアラ族
ダルコン族、ギデル族、シェファテヤ族、ハティル族
ポケレテ・ハツェバイム族、アモン族
６０　神殿奉仕者とソロモンの家臣の子孫の合計は、三百九十二名です。」
６１　ペルシヤの諸都市、テル・メラフ、テル・ハルシャ、ケルブ、アドン、イメルなどから引き揚げて来た人々もいましたが、系図をなくしていて、ユダヤ人であることを証明できませんでした。　６２デラヤ族、トビヤ族、ネコダ族の六百四十二名の人々です。
６３－６５祭司の中にも、系図を紛失した人々がいました。　ホバヤ族、コツ族、バルジ

ライ族などという人々です。　このうちバルジライは、ギルアデ人バルジライの娘婿となり、その姓を名乗っていました。この人々は、正真正銘の祭司かどうか、ウリムとトンミム（神意をうかがう一種のくじ）によって神様の判断を仰ぐまでは、祭司の務めにつくこともできず、祭司の食糧として保証されている、供え物の分配にもあずかれないことになったのです。
６６　この時期にユダに帰った一般市民の総数は、四万二千三百六十名にのぼりました。
６７ほかに、奴隷が七千三百三十七名、男女の聖歌隊員が二百四十五名です。　６８馬七百三十六頭、らば二百四十五頭、らくだ四百三十五頭、ろば六千七百二十頭もいっしょでした。
６９７０諸族の指導者の中にも、工事のためにささげ物をする人がいました。　知事は、百五十万円相当の金、金の器五十点、祭司の服五百三十着を、ほかの指導者たちは、三千万円相当の金、二千三百万円相当の銀を、　７１一般市民は、三千万円相当の金、二千百万円相当の銀、祭司の服六十七着を、それぞれささげました。
７２　こうして、祭司、レビ人、門衛、聖歌隊員、神殿奉仕者、その他の人々は、おのおのユダの故郷の町や村へと帰って行ったのです。ただし、九月には、みなエルサレムに集まりました。
八
１‐５さて、九月の中旬ともなると、国民はこぞって水の門の前の広場に集まって来ました。　そして、宗教的指導者エズラに、その昔、神様がモーセにお与えになったおきてを読んで聞かせてほしい、と願い出たのです。
エズラはモーセのおきての巻物を取り寄せ、朗読する姿がだれからも見えるよう、特製の木の台に立ちました。　そして、朝から昼まで朗読して聞かせたのです。　巻物を開くと、人々はいっせいに立ち上がり、理解できる者は熱心に耳を傾けました。　エズラの右側には、マティテヤ、シェマ、アナヤ、ウリヤ、ヒルキヤ、マアセヤが並び、左には、ペダヤ、ミシャエル、マルキヤ、ハシュム、ハシュバダナ、ゼカリヤ、メシュラムが並びました。
６　エズラが、偉大なる神様をほめたたえると、国民はみな手を上げ「アーメン、アーメン」と答えてひざまずき、地面にひれ伏して、神様を礼拝しました。
７８エズラが巻物を読み上げると、レビ人のヨシュア、バニ、シェレベヤ、ヤミン、アクブ、シャベタイ、ホディヤ、マアセヤ、ケリタ、アザルヤ、エホザバデ、ハナン、ペラヤなどが、人々の中に入って行き、その個所の意味を説明しました。　9おきてがどのように命じているかを理解すると、人々はみな泣きだしました。
それで、エズラをはじめ、知事の私や補佐役のレビ人たちは、こう言い聞かせました。「こんな日に泣く者があるか。　きょうは神様の聖なる日ではないか。　１０ごちそうを食べてお祝いし、貧しい人には施しをする日だ。　神様を喜ぶことこそ、あなたがたの力なのだ。　しょんぼりと悲しそうにしていてはいけない。」
１１　「静粛に、静粛に」と、レビ人も声をかけて回り、「そうです。　泣くことはないの

です。　きょうは聖なる日で、悲しみの日ではありません」と言いました。
１２　そこで、人々はお祝いのごちそうを食べるため解散し、施しをしました。　神様のことばを聞き、理解することができたので、大喜びで盛大に祝ったのです。
１３　翌日、諸族の指導者とレビ人はエズラに会い、おきてをもっとくわしく調べることにしました。　１４すると、その月には仮庵の祭りを祝い、イスラエル人はみな仮小屋に住むようにと、神様がモーセにお命じになっていたことがわかりました。　１５その仮小屋についても、山で取って来たオリーブ、ミルトス、なつめやし、いちじくなどの枝で作るようにとあったので、エルサレムをはじめ全国民にお布令が出されました。
１６　そこで、人々は実際に出かけて枝を切り出し、自宅の屋上、庭内、神殿の庭、水の門、エフライムの門の広場などに小屋を建てました。　１７そして祭りの七日間を、その中で暮らしたのです。　だれもが喜びにあふれていました。　この行事はヨシュアの時代以来、ずっと中断されていたのです。　１８エズラはこの七日間、毎日、巻物を読み上げ、八日目には、モーセのおきてに従って、厳粛な閉会礼拝を執り行ないました。
九
１２十月九日になると、人々は別の儀式のためにまた集まりました。　この時は、断食をし、荒布をまとい、頭に土をかぶることになっていました。　こうして、イスラエル人は外国人と縁を切ったのです。３神様のおきてが二、三時間朗読され、その後、数時間にわたって、人々が自分の罪と先祖の罪を告白したのです。　また、全員が神様を礼拝しました。　４レビ人の中には、台の上にあがり、喜びの歌をうたって神様をたたえる者もいました。　それは、ヨシュア、バニ、カデミエル、シェバヌヤ、ブニ、シェレベヤ、バニ、ケナニの面々でした。
５　次いで、レビ人の指導者たちは、大声を張り上げてこう語りかけました。　「さあ立って、神様をほめたたえなさい。　神様は、永遠から永遠に生きておられるお方だからです。　その輝かしいお名前をたたえなさい。　そのお名前は、私たちが考えたり話したりするより、はるかに偉大なものです。」
こう叫んだのは、ヨシュア、カデミエル、バニ、ハシャブネヤ、シェレベヤ、ホディヤ、シェバヌヤ、ペタヘヤでした。
６　エズラは声を出して祈りをささげました。　「ただお一人の神様。　神様は天と地と海、そして、その中に存在するすべてのものをお造りになり、万物を支えておられます。天の御使いたちもみな、ひれ伏しています。
７　あなた様は、アブラムを選んで、カルデヤのウルから連れ出し、アブラハムと命名なさった神様です。　８さらに、忠実なアブラハムと契約を結び、子々孫々に至るまで、カナン人、ヘテ人、エモリ人、ペリジ人、エブス人、ギルガシ人の地を与えようとお約束なさいました。　そして、今、そのお約束は現実となっているのです。　神様はご自分のことばを裏切るようなことはなさいません。
９　かつてご先祖がエジプトでなめた苦しみ悲しみを、見過ごしにはなさらず、紅海のほ

とりで泣き叫んだ声を､聞き届けてくださいました。　１０エジプト王とその国民の前で、奇蹟を起こされました。　エジプト人がどれほど過酷なことを強いたか、ご存じだったからです。この、決して忘れることのできない出来事によって、神様の輝かしい名声はとどろきました。　１１ご自分の国民のために海を分断し、かわいた地を通してくださったのです。　しかも、敵を海の深みでおぼれさせました。　まるで激しい流れに投げ込まれた石のように、彼らは沈みました。　１２そして、人々が道を迷わないように、昼は雲の柱、夜は火の柱を立ちのぼらせて、導いてくださったのです。
１３　また、シナイ山に下り、天から、正しい法律やおきてをお示しくださいました。　１４例えば、聖なる安息日についてのおきてなどです。　それらを完全に守れと、神様のしもべモーセによって、お命じになったのです。
１５　人々が飢えた時には、天からパンを降らせ、のどが渇いた時には、岩から水をほとばしらせてくださいました。　また、約束の地に踏み込んで征服せよ、ともお命じになりました。　１６しかし、ご先祖は高慢で、頑固で、神様の戒めに耳を傾けようとはしませんでした。
１７　彼らは反抗的で、せっかくの奇蹟を何とも思いませんでした。　それどころか、神様に手向かい、指導者を立てて、エジプトの奴隷の身に戻ろうなどと考えだすしまつでした。　しかし、あなた様は赦す神です。　いつも赦そうとし、恵みに富み、思いやり深く、なかなかお怒りにならないお方です。　神様はご先祖をお見捨てにはなりませんでした。　１８彼らが子牛の偶像を作って神にまつり上げ、エジプトから連れ出してくれたのはその神様だ、と言いはった時にさえもです。　罪に罪を重ねた彼らなのに、　１９深い思いやりで包んで見捨てず、荒野で見殺しにもなさいませんでした。　一日一日、昼も夜も、雲の柱と火の柱で道を示してくださいました。　２０また、恵み深い霊を送って教え導き、天からはパンを、のどが渇いた時には水を、絶やさずお与えくださいました。　２１その四十年にわたる荒野生活の間、おかげでご先祖は何一つ不自由しなかったのです。　衣服もすり切れず、足もはれませんでした。
２２　お助けにより、ご先祖は、強大な王国をはじめとして、次々に国々を征服し、足を踏み入れました。　ヘシュボンの王シホンや、バシャンの王オグの国をも、完全に手中におさめました。　２３神様はイスラエル人の人口を爆発的にふやし、ご先祖にお約束くださった国へと導かれました。　２４彼らの前に、すべての国々はくずおれ、カナンの王や国民でさえ力を失いました。　２５神様の国民は、城壁に囲まれた町々と肥沃な土地を占領し、すばらしい品々のあふれる家を攻め取り、掘り井戸、ぶどう園、オリーブ園など、果樹もたくさん手に入れました。　彼らは満腹するまで食べ、お恵みのおかげで楽しむことができました。
２６　ところが、これほどまでにしていただきながら、人々は不従順になり、反逆したのです。　神様のおきてを放り出し、神様に立ち返れと勧めた預言者を殺し、ほかにも、数々の恐るべきことを行ないました。　２７そこで、神様は彼らを敵の手にお渡しになったの

です。　しかし、苦しみの中で叫び求める声を天から聞いて、かわいそうに思い、助け手を送っては、救い出してくださいました。　２８ところが、万事よしと思ったのも束の間、人々はまたまた罪に陥り、神様は、再び敵の手にお渡しになったのです。　しかし、彼らが反省し、助けを叫び求めると、また天からそれを聞き、手を差し伸べてくださいました。全く驚くべきあわれみです。　２９彼らを罰し、おきてに従わせようとなさったのに、当然従うべきおきてを、高慢にも彼らは鼻であしらい、罪を犯し続けました。　３０神様は長年にわたり、忍耐の限りを尽くし、預言者を遣わしては、警告をお与えになりました。しかし、いつまでたっても、馬の耳に念仏でした。　そこで、もう一度、異教の国の手中に落とされたのです。　３１けれども、滅ぼし尽くすことはせず、永遠に見捨てたりもなさいませんでした。　ああ、なんと恵みに富み、あわれみ深いお方でしょう。
３２　大いなる、恐るべき神様。　神様は愛と思いやりに満ちた約束を守るお方です。　私たちがなめてきたこのすべての困難が、何の役にも立たなかったとは、お考えにならないでください。　アッシリヤ王に初めて征服されてから今日まで、私たちや、王、諸侯、祭司、預言者など、ご先祖のなめてきた困難は、それはもう大きなものでした。　３３いつでも、神様は私たちを正しく罰しました。　犯した罪の深さを思えば、当然の罰です。　３４王、諸侯、祭司、ご先祖はおきてを無視し、その警告にも耳を貸そうとはしなかったのです。　３５神様はどれほど素晴らしいことをしてくださり、どれほど深い恵みを注いでくださったことでしょう。　しかし彼らは、神様を礼拝しようとしませんでした。　広大で肥沃な国土をいただいたにもかかわらず、悪の道から離れようとしなかったのです。
３６　私たちは今、ご先祖に与えられたこの豊かな国で奴隷となっています。　こんなに豊かな土地で、奴隷となっているのです。　３７あり余る産物は、この地の王のものです。罪を重ねた私たちは征服され、その王たちの手に落ちたのです。　わが身も家畜も支配され、あわれにも、あごでこき使われています。　３８おかげで目が覚めました。　もう一度、神様にお仕えすると約束します。　諸侯、レビ人、祭司たちとともに、この誓約書に署名いたします。」
一〇
１－８知事ネヘミヤは誓約書に署名しました。　続いて署名した者の名は、次のとおりです。
ゼデキヤ、セラヤ、アザルヤ、エレミヤ、パシュフル
アマルヤ、マルキヤ、ハトシュ、シェバヌヤ、マルク
ハリム、メレモテ、オバデヤ、ダニエル、ギネトン
バルク、メシュラム、アビヤ、ミヤミン、マアズヤ
ビルガイ、シェマヤ以上、祭司
９－１３レビ人では
アザヌヤの息子ヨシュア、ヘナダデの息子のビヌイとカデミエル
シェバヌヤ、ホディヤ、ケリタ、ペラヤ、ハナン、ミカ

レホブ、ハシャブヤ、ザクル、シェレベヤ、シェバヌヤ
ホディヤ、バニ、ベニヌ
１４－２７政治家では
パルオシュ、パハテ・モアブ、エラム、ザト、バニ、ブニ
アズガデ、ベバイ、アドニヤ、ビグワイ、アディン
アテル、ヒゼキヤ、アズル、ホディヤ、ハシュム
ベツァイ、ハリフ、アナトテ、ネバイ、マグピアシュ
メシュラム、ヘジル、メシェザブエル、ツァドク、ヤドア
ペラテヤ、ハナン、アナヤ、ホセア、ハナヌヤ、ハシュブ
ロヘシュ、ピルハ、ショベク、レフム、ハシャブナ
マアセヤ、アヒヤ、ハナン、アナン、マルク、ハリム
バアナ
２８　以上の人々は、全国民を代表して署名したのです。　一般市民も、祭司も、レビ人も、門衛も、聖歌隊員も、神殿奉仕者も、家族も、大人はみな、国内の異教徒と手を切って、神様にお仕えしようと決心していたからです。　２９全員が心からこの誓約に同意し、もしモーセによって示された神様のおきてを破った場合には、進んで神様ののろいを受ける、と宣言したのです。
３０　また、娘や息子をユダヤ人以外の者とは結婚させない、とも誓いました。
３１　さらに、国内の異教徒が、穀物など農産物を売りに来ても、安息日やほかの聖日には、買わないことにしました。　また、七年目には休耕し、ユダヤ人同士の借金は帳消しにしよう、と誓い合いました。
３２　このほか、神殿の維持管理のために、毎年、神殿税を納めることを決めました。　３３毎日供えるパンや、安息日、新月の祭り、例祭などの時の穀物のささげ物、完全に焼き尽くすいけにえなどを用意したり、神殿での奉仕を進めイスラエルを贖う役割を果たしていくには、それなりの用具も整える必要があったからです。
３４　次に、おきてに定められた、完全に焼き尽くすいけにえ用のたきぎを供給する順番を決めるため、祭司、レビ人、指導者たちの家族が、くじを引きました。
３５　なお、穀物でも、果実でも、オリーブの実でも、初物は神殿に持って来ることも決めました。
３６　そして、長男と、牛や羊など、家畜の最初に生まれたものは、おきての規定どおり、神様にささげることにしました。　つまり、神殿に仕える祭司のもとへ連れて来ることにしたのです。　３７持って来られた産物を、祭司は神殿にたくわえます。　良質の穀物、ほかの奉納物、初物の果実、いちばん新しいぶどう酒やオリーブ油などです。また、レビ人には国中の産物の十分の一を給付することも、取り決めました。　各地の農村から十分の一を集める責任は、レビ人にあったからです。　３８アロンの子孫である祭司は、レビ人がこの十分の一を受け取る際に、立ち会わなければなりません。　そして、そのまた十

分の一は、神殿の倉庫に運び込むのです。　３９こうして、定めどおり、人々とレビ人の差し出した、穀物、新しいぶどう酒、オリーブ油は、祭司、門衛、聖歌隊員らをまかなうために、聖所の器具といっしょに倉庫に納めました。
このように、私たちは神殿をなおざりにしないことで一致したのです。
一一
１　そのころ、イスラエルの役人階級は、聖都エルサレムに住んでいました。　また、ユダやベニヤミンの市町村に住む人々のうち、十人に一人はくじで選ばれ、エルサレムに移り住むことになっていました。　２志願してエルサレムに住む人もあり、そういう人たちは称賛されました。
３　エルサレムに転居した地方の役人の名は、次のとおりです。　しかし、大半の指導者、祭司、レビ人、神殿奉仕者、ソロモン臣下の子孫などは、故郷のユダの町々に住んでいました。
４－６ユダ部族では、
アタヤ彼の家系をさかのぼると、父ウジヤから、ゼカリヤ、アマルヤ、シェファテヤ、マハラルエルと続き、このマハラルエルがペレツの子孫にあたるわけです。
マアセヤ彼の家系をさかのぼると、父バルクから、コル・ホゼ、ハザヤ、アダヤ、エホヤリブ、ゼカリヤと続きます。　ゼカリヤはシェラ人の子孫です。
エルサレムに住んだ､ペレツの子孫にあたる屈強の人々は､四百六十八名にのぼりました。
７－９ベニヤミン部族では
サル彼の家系をさかのぼると、父メシュラムから、ヨエデ、ペダヤ、コラヤ、マアセヤ、イティエル、エシャヤとなります。
ガバイとサライの子孫にあたる人々は、九百二十八名にのぼります。　その指導者はジクリの息子ヨエルで、セヌアの息子ユダが、補佐役を務めました。
１０－１４祭司の指導者の中では
エホヤリブの息子のエダヤ
ヤキン
セラヤ彼の家系をさかのぼると、父ヒルキヤから、メシュラム、ツァドク、メラヨテと続きます。　メラヨテは祭司の長アヒトブの息子です。
この人たちのもとで、八百二十二名の祭司が神殿での職務についていました。　また、アダヤの指導下には、二百四十二名の祭司がいました。　アダヤの家系をさかのぼると、父エロハムから、ペラルヤ、アムツィ、ゼカリヤ、パシュフル、マルキヤとなります。
また、アマシュサイの指導下に、百二十八名の屈強の人々がいました。　アマシュサイの家系をさかのぼると、アザルエルから、アフザイ、メシレモテ、イメルとなります。　ザブディエルが彼を補佐しました。　ザブディエルはハゲドリムの息子です。
１５－１７レビ人の指導者たちでは
シェマヤ彼の家系をさかのぼっていくと、父ハシュブから、アズリカム、ハシャブヤ、ブ

ニとなります。
シャベタイとエホザバデは、神殿の雑務の監督にあたりました。
マタヌヤは祈りによる感謝礼拝を始める役でした。　マタヌヤの父はミカで、その父はザブディ、その父はアサフです。
バクブクヤとアブダが、彼の補佐にあたりました。　アブダの父はシャムアで、その父はガラル、その父はエドトンです。
１８　合計二百八十四名のレビ人がエルサレムに住んだことになります。
１９　門衛では、アクブとタルモン、その同族の者に率いられた百七十二名が、エルサレムに住みました。　２０このほかの祭司やレビ人、一般人は、めいめいの相続地に住んでいました。　２１ただし、ツィハとギシュパの監督下にある神殿奉仕者たちは、オフェルに住みました。
２２２３エルサレムに住むレビ人と神殿奉仕者の監督にあたったのは、ウジです。　彼の父はバニで、順次ハシャブヤ、マタヌヤ、ミカとさかのぼります。　つまり、代々神殿の聖歌隊員として仕えた、アサフ氏族の子孫というわけです。　ウジは、王から歌手に任命されました。　その時、王は聖歌隊員の報酬規定も定めたのです。
２４　民政上のあらゆる問題では、ペタヘヤが王の補佐役として活躍しました。　彼の父はメシェザブエルで、ユダの息子ゼラフの子孫にあたります。
２５－３０ユダの人々が住んだ町は、次のとおりです。
キルヤテ・アルバ、ディボン、エカブツェエルと周辺の村々
ヨシュア、モラダ、ベテ・ペレテ、ハツァル・シュアル
ベエル・シェバと周辺の村々、ツィケラグ、メコナと周辺の村々
エン・リモン、ツォルア、ヤルムテ、ザノアハ
アドラムと周辺の村々、ラキシュと周辺の農地
アゼカとその町々
こうして、ユダの人々は、ベエル・シェバからヒノムの谷に及ぶ一帯に住みつきました。
３１－３５ベニヤミン部族の居住地は、次のとおりです。
ゲバ、ミクマス、アヤ、ベテルと周辺の村々、アナトテ
ノブ、アナネヤ、ハツォル、ラマ、ギタイム、ハディデ
ツェボイム、ネバラテ、ロデ、オノ、職人の谷
３６　ユダにいたレビ人の中には、ベニヤミン部族の居住地に転居させられた者もいました。
一二
１－７シェアルティエルの息子ゼルバベルやヨシュアといっしょに帰還した祭司の名前は、次のとおりです。
セラヤ、エレミヤ、エズラ、アマルヤ、マルク、ハトシュ
シェカヌヤ、レフム、メレモテ、イド、ギネトイ、アビヤ

ミヤミン、マアデヤ、ビルガ、シェマヤ、エホヤリブ
エダヤ、サル、アモク、ヒルキヤ、エダヤ
８　レビ人では
ヨシュア、ビヌイ、カデミエル、シェレベヤ、ユダ、マタヌヤ
マタヌヤは礼拝で感謝の歌をうたう責任者でした。　９同族のバクブクヤとウニは、その向かい側に立って応答歌をうたう役を務めました。
１０１１ヨシュアの家系は、息子エホヤキム以下、エルヤシブ、エホヤダ、ヨナタン、ヤドアと続きます。
１２‐２１大祭司エホヤキムのもとで仕えた祭司で､各氏族の長の名は､次のとおりです。
セラヤ族の長はメラヤ
エレミヤ族の長はハナヌヤ
エズラ族の長はメシュラム
アマルヤ族の長はヨハナン
メリク族の長はヨナタン
シェバヌヤ族の長はヨセフ
ハリム族の長はアデナ
メラヨテ族の長はヘルカイ
イド族の長はゼカリヤ
ギネトン族の長はメシュラム
アビヤ族の長はジクリ
ミヌヤミン族とモアデヤ族の長はピルタイ
ビルガ族の長はシャムア
シェマヤ族の長はヨナタン
エホヤリブ族の長はマテナイ
エダヤ族の長はウジ
サライ族の長はカライ
アモク族の長はエベル
ヒルキヤ族の長はハシャブヤ
エダヤ族の長はネタヌエル
２２　祭司やレビ人の氏族長の系図は、ペルシヤ王ダリヨスの時代に作成され、当時、レビ人のエルヤシブ、エホヤダ、ヨハナン、ヤドアが、一族の指導者の地位にありました。
２３『年代記』には、エルヤシブの息子ヨハナンの時代までのレビ人の名が、記されています。
２４　その時代のレビ人の長は、ハシャブヤ、シェレベヤ、カデミエルの息子ヨシュアでした。　同族の人々は、神の人ダビデの命令に従って彼らを守り立て、賛美と感謝の礼典を守っていたのでした。

２５　門の倉庫の責任を委ねられた門衛は、マタヌヤ、バクブクヤ、オバデヤ、メシュラム、タルモン、アクブでした。　２６この人たちは、エホツァダクの孫でヨシュアの息子のエホヤキムの時代と、私が知事で、エズラが祭司および宗教教師の時代に活躍したのです。
２７　エルサレムの新しい城壁の奉献式の時には、国中のレビ人がエルサレムに集まり、それぞれ感謝の歌をうたい、シンバルや十弦の琴や竪琴を鳴らして、喜ばしい式典を盛り上げました。　２８聖歌隊員も、周辺の村々やネトファ人の村から、エルサレムに集まりました。　２９エルサレム郊外に村を建てていた聖歌隊員も、ベテ・ギルガル、ゲバ、アズマベテなどから集まりました。３０祭司とレビ人は､まず自分自身をきよめてささげ、次に、人々、門、城壁をきよめてささげました。
３１３２私はユダの指導者たちを城壁に上らせ、二組に分け、城壁の上をそれぞれ反対方向へと巡らせ、感謝の歌をうたわせました。　右側、糞の門の方へ進んだ半数の組には、３３ホシャヤ、アザルヤ、エズラ、メシュラム、　３４ユダ、ベニヤミン、シェマヤ、エレミヤがいました。
３５３６ラッパを吹き鳴らしたのは､祭司ゼカリヤでした。ゼカリヤの父はヨナタンで、順次シェマヤ、マタヌヤ、ミカヤ、ザクル、アサフとさかのぼります。　このほか、シェマヤ、アザルエル、ミラライ、ギラライ、マアイ、ネタヌエル、ユダ、ハナニも、ラッパを吹きました。　使ったのはダビデ王の楽器です。　祭司エズラが行進の先頭に立ちました。　３７泉の門まで来た一行は、まっすぐ進んで、城のかたわらの、古いダビデの町に通じる階段をのぼりました。　そして、東の水の門へと進んだのです。
３８　私の加わったもう一組は、逆方向を巡って、相手の組と出会うことになっていました。　高炉塔から、広い城壁へ、　３９続いて、エフライムの門から古い門に進み、魚の門とハナヌエルの塔を通って、百塔の門へと巡りました。　そして、羊の門へ行き、監視の門で止まったのです。
４０４１二組の聖歌隊は、そこから神殿に向かいました。　ここで加わったラッパを吹く祭司の名は、次のとおりです。
エルヤキム、マアセヤ、ミヌヤミン、ミカヤ
エルヨエナイ、ゼカリヤ、ハナヌヤ
４２　また聖歌隊員では、次の人々も加わりました。
マアセヤ、シェマヤ、エルアザル、ウジ
ヨハナン、マルキヤ、エラム、エゼル
この人たちは、イゼラフヤの指揮で、高らかに澄んだ歌声を響かせました。
４３　この喜ばしい日を記念して、多くのいけにえがささげられました。　神様への感謝の思いで、いっぱいだったからです。　女も子供も、満面に喜びをたたえ、エルサレムの人々の歓声は、遠くまでとどろきました。
４４　その日､財宝､奉納物､十分の一税､初物などのささげ物の管理責任者が任命され､

モーセのおきてに従って集めることになりました。これらのささげ物は、祭司とレビ人に割り当てられました。　ユダの人々は、祭司やレビ人に対し、また、その職務に対し、感謝の気持ちをいだいていたからです。　４５民衆はまた、聖歌隊員や門衛の働きにも感謝していました。　彼らは、ダビデとその息子ソロモンが定めた礼拝やきよめの儀式の際、祭司やレビ人の補佐役を務めたからです。４６神様をたたえ感謝する歌を、指揮者をつけて聖歌隊に歌わせるという習慣は、ダビデとアサフの時代に始まりました。　４７今やゼルバベルとネヘミヤの時代にも、人々は聖歌隊員や門衛やレビ人のために、日ごとの食糧を持って来ることにしたのです。　レビ人は、受けた分の一部を祭司に渡しました。
一三
１　その日、モーセのおきてが朗読されましたが、その中に、アモン人やモアブ人は神殿で礼拝してはならない、と書いてあるのを見つけました。　２というのは、彼らがイスラエルに対して友好的でないばかりか、バラムを雇って、のろいをかけようとまでしたことがあったからです。　しかし神様は、のろいを祝福に変えてくださったのでした。　３この規定が読み上げられると、直ちに、外国人は一人残らず、集会から追放されました。
４　このことが起こる前の話ですが、神殿の倉庫の管理者で、トビヤと親しかった祭司エルヤシブが、　５トビヤのために、倉庫を豪華な客間に改造した事件がありました。　その部屋は、以前、穀物のささげ物、香料、器物、穀物や新しいぶどう酒やオリーブ油の十分の一税が、保管されていた所です。　モーセは、これらのささげ物はレビ人や聖歌隊員や門衛に支給する、と定めていました。　このほか、祭司のためのささげ物も保管されていました。
６　ちょうどその時、私はエルサレムにいませんでした。　アルタシャスタ王の第三十二年に、バビロンへ帰っていたのです。　やがて、再び許可を得てエルサレムに戻りました。７そして帰着早々、この悪事を知らされたのです。　８私は非常に憤慨し、トビヤの持ち物をぜんぶ外へ放り出しました。　９そして、部屋をきよめさせ、神殿の器物、穀物のささげ物、香料を、元どおりそこに戻したのです。
１０　私はまた、生活費の支給が打ち切られたため、礼拝の務めをする聖歌隊員ともども、おのおのの農地に引き揚げてしまったレビ人のことも、聞かされました。　１１そこですぐ、指導者たちとじかに会い、「どうして、神殿をそんなにないがしろにするんだ」と談判しました。　とにかく、レビ人をみな呼び戻し、本来の職務につかせたのです。１２再び、ユダの人々はみな、穀物やぶどう酒やオリーブ油の十分の一のささげ物を、神殿の宝物倉に持って来るようになりました。
１３　私は、祭司シェレムヤ、学者ツァドク、レビ人ペダヤに倉庫の管理を任せ、マタヌヤの孫でザクルの息子ハナンを、補佐役にしました。　みな評判のよい人々です。　彼らの仕事は、仲間のレビ人に適正な配給をすることでした。
１４　神様、この私の忠実な行ないを心にお留めください。　神殿のためにしたすべてのことを、お忘れにならないでください。

１５　ある日、私は畑で、安息日だというのに、ぶどうを絞ったり、麦束を運んだりしている者や、ぶどう酒、ぶどう、いちじく、そのほかの産物をろばに積んで、エルサレムに運び込もうとしている者たちを見つけました。　そこで、公衆の面前でしかりつけたのです。　１６このほか、ツロから来た商人も、魚などの商品を持って来て、安息日にエルサレムで売っていました。
１７　そこで、ユダの指導者たちに尋ねました。　「よくも、安息日を汚してくれましたな。　１８元はと言えば、ご先祖がこんなことをしたから、私たちは都ともども、災難をこうむったんじゃありませんか。　こんなことを続けていたら、もっと大きな御怒りを招くことになりますぞ。」
１９　それ以来、私は金曜日の日没に都の門を閉め、安息日が終わるまで開かないようにと命じました。　そして、従者に門を監視させ、安息日に商品が持ち込まれないようにしたのです。　２０商人や業者が、エルサレムの外にテントを張ったことも一、二回ありましたが、　２１私はしかりつけました。　「いったい、どういうつもりなんだ。　城壁の回りでうろうろするな。　二度とこんなまねをしたら、即刻逮捕だぞ。」　それ以後、安息日には姿を見せなくなりました。
２２　それから、レビ人に命じて、身をきよめさせ、安息日をきよく保つために門を守らせました。　神様、このような、あなた様をお喜ばせする行ないを心にお留めください。大いなる愛で、私を包んでください。
２３　このころ、ユダヤ人のなかには、アシュドデ人やアモン人やモアブ人の女と結婚している者があり、　２４ユダヤのことばがちんぷんかんぷんという子供も大ぜいいることに、気づきました。　２５そこで、その親たちを非難してのろい、数人をなぐり倒し、毛を引き抜いてやりました。　こうして、子供を外国人とは絶対に結婚させないと、神様に誓わせたのです。
２６　「そもそも、ソロモン王はこの問題でつまずいたのではないか。　彼の右に出るような王はいなかった。　神様からも愛され、イスラエルの王として立てられた彼が、外国の女にそそのかされ、偶像礼拝に陥ったではないか。　２７おまえたちのしたことは、それほど罪深いことなのだ。　見過ごしになどできるものか。」
２８　また、大祭司エルヤシブを父にもつエホヤダの息子の一人が、ホロン人サヌバラテの娘を嫁にしている事実が浮かび上がり、彼を神殿から追放しました。　２９神様、どうかこの者らを忘れないでください。祭司職を汚し、祭司やレビ人の契約と誓約を破ったからです。　３０私は外国人を追放し、祭司とレビ人に務めを割り当て、各自の仕事を徹底させました。　３１彼らは、定められたとおり祭壇にたきぎを運び、いけにえや初物のささげ物の管理にあたりました。　神様、どうか私をあわれみ、心にお留めください。
▪

エステル記
本書は、ペルシヤ人がバビロンを滅ぼしたのちも、多くのユダヤ人が捕囚の地に残っていたころに起こった、重大事件について記されています。　物語は、ペルシヤ王アハシュエロスの王妃になった、エステルという一ユダヤ人にまつわるものです。　王の相談役ハマンは、ユダヤ人の財産管理権を獲得するためユダヤ人虐殺を企てますが、エステルが介入し、自国民の破滅を防ぎました。　ハマンが処刑され、小さな市民戦ののち、再び平和が訪れます。　この記念すべきユダヤ人の救出は、プリムの祭りとして祝われ、今日まで続いています。

一
１‐３アハシュエロスは、インドからエチオピヤにまで及ぶ広大なメド・ペルシヤ帝国の皇帝でしたが、その治世の第三年に、シュシャンの王宮で盛大な祝宴がくり広げられました。　皇帝は各地から、総督、随員、将校たちをみな招待しました。　４お祭り騒ぎは六か月も続き、帝国の富と栄光を誇示する、またとない機会となりました。
５　この期間が終わった時、王は宮廷の門番から閣僚に至るまでをみな招んで、庭園で七日間、飲めや歌えのどんちゃん騒ぎを楽しんだのです。　６大理石の柱の銀の輪には、飾りつけの緑、白、青の布が、紫のリボンで結びつけられ、黒、赤、白、黄色の大理石がはめ込まれたモザイク模様の歩道には、金銀の長いすが並べてありました。　７飲み物は、さまざまなデザインの金の杯に、なみなみとつがれています。すっかり気が大きくなった王は、王室とっておきのワインなども惜しげなくふるまいました。　８酒を飲むのは全く自由で、むりやり勧められることも、強いて遠慮させられることもありません。　王が役人たちに、皆の好きなようにさせよ、と言い含めておいたからです。
９　同じころ､王妃ワシュティも､王宮の婦人たちを集めてパーティーを開いていました。
１０　さて、最後の七日目のことです。　かなり酒のまわった王はつい調子に乗り、王の後宮に仕えるメフマン、ビゼタ、ハルボナ、ビグタ、アバグタ、ゼタル、カルカスら七人の役人を呼びつけ、　１１王妃ワシュティに王冠をかぶらせ、連れて来るようにと命じました。　絶世の美人である彼女の美しさを、並み居る人たちに見せたかったのです。１２彼らがその旨を伝えたところ､王命にもかかわらず､王妃は言うことを聞こうとしません。
王はかんかんに腹を立てましたが、　１３‐１５とりあえず、おかかえの法律専門家たちに相談することにしました。　彼らの助言なしには何もできません。　彼らはペルシヤの法律と裁判に通じているばかりか、臨機応変に事を処理できる知恵者でもあり、王は全く信頼しきっていたのです。　その法律専門家というのはカルシェナ、シェタル、アデマタ、タルシシュ、メレス、マルセナ、メムカンの七人で、いずれもメド・ペルシヤの高官でした。　ただ政府の有力者であるだけでなく、王とも個人的に親しくしていました。
王はさっそく意見を求めました。　「今度の件だが、どうしたらいいものかな。　王妃のやつめ、側近を通じ、ちゃんと手続きを踏んで出した命令をはねつけおった！　いったい

法律では、どのように罰せよと定めておるのか。」
１６　メムカンが一同を代表して答えました。　「陛下、王妃は、陛下ばかりか、役人や全国民にまで悪い手本を残しました。　１７と申しますのも、これをいいことに、女どもはだれもかれも王妃のまねをして、夫に逆らうに違いないからです。　１８今晩にも、国中の役人の夫人連中は､われわれ亭主族に口答えするに決まっております。 そうなれば、陛下、領地内はくまなく軽べつや怒りであふれ返りますぞ。　１９もしよろしければ、勅令を出し、絶対不変のメディヤとペルシヤの法律で、ワシュティ王妃を永久に追放し、代わりにもっとふさわしい王妃を選ぶとご宣言ください。　２０このお布令が帝国のすみずみまで及びますと、身分にかかわりなく、世の夫どもの尊厳は女房の手前、守られるのでございます。」
２１　なるほど、そのとおりです。　王も側近の者もメムカンの意見に従うことにしました。　２２こうして王は各州に通達を出し、それぞれの民族のことばで、男はみな一家を治めること、また家長としての威厳を保つことを強調したのです。
二
１　憤りがおさまると、アハシュエロス王は、今さらながら、ワシュティに会えないのが寂しくてたまりません。
２　見かねた王の側近がこう勧めました。　「おこころが晴れますよう、国中から特に美しい娘を探してまいりましょう。　３各州に、このための役人を任命し、後宮にふさわしい若く美しい娘を選ばせるのです。　後宮の監督官ヘガイには、化粧品などを取りそろえる役目を仰せつけください。　４そうして、最もお気に召しました娘を、ワシュティ様の代わりに王妃にお迎えになってはと存じます。」
この提案に王が有頂天になったことは、言うまでもありません。さっそく実行に移しました。
５　さて、王宮に一人のユダヤ人がいました。　ベニヤミン部族の出身で名をモルデカイといい、ヤイルの息子でした。　ヤイルの父はシムイ、シムイの父はキシュです。　６彼は、エルサレムがバビロンのネブカデネザル王の手に落ちた時に捕らえられ、ユダのエコヌヤ王をはじめ多くの人々とともに、バビロンへ送られたのでした。　７このモルデカイは、ハダサ、またの名をエステルという若く美しい娘を育てていました。　実際はいとこに当たるのですが、年もずいぶん離れていたことでもあり、両親が亡くなったあと、手もとに引き取ったのです。　８さて、王のお布令が出ると、エステルもほかの大ぜいの娘とともに、シュシャンの王宮内の後宮に連れて来られました。　９ところが、後宮を管理していたヘガイが、特にエステルを気に入り、彼女のためには何でもしてくれるのでした。特別の食事や化粧用の品々など、何かにつけて便宜をはかってくれます。　わざわざ王宮の侍女を七人呼んで身の回りの世話をさせるやら、後宮一の部屋をあてがうやら、それはもう大そうなものでした。　１０エステルは自分がユダヤ人であることを、だれにも黙っていました。　モルデカイに堅く口止めされていたからです。　１１モルデカイは毎日、

後宮の庭に来てエステルの安否を尋ね、これから先の成り行きを見届けようとしていました。
１２‐１４選ばれた娘たちについては、こういう取り決めがありました。王の寝所に召される前に、没薬の油で六か月、ついで特製の香水と香油で六か月、それぞれ美しさにみがきをかける期間が約束されていたのです。　それも終わり、いざ王のもとへ召される時がくると、精いっぱい美しくよそおうため、衣装でも宝石でも願いどおりの物が与えられます。　こうして夕刻、王の部屋へ行き、翌朝には、王の奥方たちの住む別の後宮へ移るのです。　そこではまた、シャアシュガズという別の役人の管理のもとで、一生を送ることになります。　そこにいる婦人は、特別王に気に入られ、指名されないかぎり、二度と王のそばへ行くことはできません。
１５　さて、いよいよエステルが王のもとへ行く番になりました。　彼女は、例のヘガイに見立ててもらった衣装を身につけました。　その姿の美しさには、ほかの娘たちもいっせいに歓声をあげるほどでした。１６こうしてエステルは、王の治世の第七年の一月に召し入れられたのです。　１７王はほかのだれよりもエステルを愛しました。　すっかり気をよくした王は､彼女に王冠を与え､ワシュティの代わりに王妃にすると宣言したのです。
１８この記念に、王はもう一度、高官から召使に至るまで全員を集め、大宴会を開きました。　諸州には、気前よく贈り物を配ったり、免税を認めたりしました。
１９　のちに、王がまた美人選びをしようとした時、モルデカイは政府の役人に取り立てられていました。
２０　エステルはいまだに、ユダヤ人であることを隠し通していました。モルデカイの家にいた時と同じように、彼の言いつけをよく守っていたのです。
２１　そんなある日のこと、宮殿警護の当直にあたっていたモルデカイは、たまたま、城門の警備についている後宮の役人ビグタンとテレシュが、王への腹いせに暗殺計画を練っているのを知ったのです。　２２ぐずぐずできません。　さっそく王妃エステルに通報しました。　すぐさまエステルは王の耳に入れ、これを知らせてきたのはモルデカイであることも、忘れずにつけ加えました。　２３取り調べの結果、ゆるがぬ証拠があがり、二人ははりつけになりました。　この件に関しては、アハシュエロス王の年代記にくわしく記されました。
三
１　その後まもなくして､王は､アガグ人ハメダタの子ハマンを総理大臣に抜擢しました。今やハマンは、国王に次ぐ実力者です。　２彼に出会うと、王の家臣はみな、うやうやしく頭を下げます。　そうするようにとの王の命令だったのです。　ところがモルデカイだけは、絶対に頭を下げようとしませんでした。
３４周囲からは、くる日もくる日も、「どうして王の言いつけに背くんだ」と責め立てられます。　それでも彼は、頑として聞こうとしません。　そこでついに人々は、モルデカイだけに勝手なまねをさせてなるものかと、ハマンに密告したのです。　モルデカイが、自

分はユダヤ人だから別だ、と主張していたからです。　５６ハマンはかんかんに腹を立てましたが､モルデカイ一人に手を下すだけではおもしろくありません。 いい機会だから、このさい国中のユダヤ人を皆殺しにしてやろうと考えました。　７計画を決行する日は、さいころで決めることにしました。　アハシュエロス王の治世の第十二年の四月のことです。　その結果、決行の日は翌年の二月と決まりました。
８　こうしてハマンは、王にうかがいを立てました。　「この帝国のどの州にもくまなく入り込んでいる、ある民族をご存じでしょうか」と、彼は切り出しました。　「彼らの法律と申しますのが、どの国のものとも違っておりまして、そのために陛下の命令に従おうともいたしません。 この上やつらを生かしておいては､陛下のおためになりません。 ９もしよろしければ、やつらを皆殺しにせよとの勅令を、出していただけませんか。　必要な費用につきましては、私が六十億円を国庫に納めさせていただきますので｡」
１０　王は同意し､考えの変わらぬしるしにと､指輪をはずしてハマンに渡しました。　１１「金の心配はいらんぞ。　さあ、とにかくおまえの考えどおりにやってくれ｡」
１２　二、三週間後、ハマンは王の書記官を呼び集め、国中の総督や役人あてに手紙を書かせました。　州ごとに、それぞれの言語や方言で書くのです。　一通ごとにアハシュエロス王の署名があり、王の指輪の印が押されます。　１３手紙は急使を立て、全州に送り届けました。手紙の内容は、ユダヤ人は老若男女を問わず、翌年の二月二十八日を期して皆殺しにすべきこと､なお彼らの財産は、手を下した者が取ってよいことなどでした。　１４そのあとに､「この勅令の写しをとり､各州の法令として公示し､全国民に通達すべきこと。　各人は、決行当日のため準備をしておくこと」と書き添えてありました。　１５勅令はまずシュシャンの都で発令されたのち、至急便で各地方へ送られました。　都が騒然とし始めたころ、王とハマンは酒をくみ交わし、悦に入っていました。
四
１　事のいきさつを知ったモルデカイは、あまりのことに着物を裂き、荒布をまとい、灰をかぶって嘆き悲しみました。 それから､大声で泣きながら町へ出て行ったのです。　２彼は城門の外に立ちました。喪服を着たままで入ることは、だれひとり許されていなかったからです。　３どの州でも､ユダヤ人の間ではすさまじい嘆きの声が起こりました。　王の勅令を聞いて生きる望みを失い、断食して泣き、大部分が荒布をまとっては、灰の上に座り込みました。
４　モルデカイの様子は､侍女や後宮の役人の口を通して､エステルの耳にも達しました。彼女は心配で居ても立ってもいられず､着物を送って､荒布を脱ぐようにと伝えましたが、彼は受け取ろうとはしません。　５そこで、自分に仕えてくれる役人ハタクを呼び寄せ、モルデカイのもとへ行き、なぜそんな振る舞いをするのか聞きただしてほしい、と命じたのです。　６ハタクは町の広場に出て､城門のそばにいるモルデカイを見つけました。　７モルデカイの話から、いっさいの事情がはっきりしました。　ハマンが、ユダヤ人を殺すためには六十億円を国庫に納めてもよい､とまで言ったというのです。 ８モルデカイは、

ユダヤ人殺しを命じる勅令の写しを渡し、エステルに見せてくれと頼みました。　そして、エステルみずから王の前に出て、同胞のために命乞いするようにとことづけたのです。　９ハタクはそのとおりエステルに伝えました。　１０エステルは困りました。　どうしたらよいのでしょう。　そこでもう一度、ハタクをモルデカイのもとへやりました。
１１　「この国では、お呼びもないのに王宮の内庭に入ったりすれば、男でも女でも即刻打ち首なのです。　陛下が金の笏を伸べてくだされば別ですけれど……。　それにもう一月も、陛下は私を召してくださいません。」
１２　ハタクはエステルの苦しい心中を告げました。
１３　しかし、モルデカイの答えはきびしいものでした。　「ユダヤ人がぜんぶ殺されるというのに、王宮にいるからといって、おまえだけが助かるとでも思うのか。　１４もしも、この事態をおまえが手をこまぬいて見ているなら、神様は別の人を用いてユダヤ人をお救いになるだろう。　だがいいか、おまえと一族だけは滅びると覚悟しておけ。神様がおまえを王妃となさったのは、ひょっとして、この時のためかもしれないのだぞ。」
１５　折り返し、エステルからの返事が届きました。
１６　「シュシャンにいるユダヤ人をぜんぶ集め、私のために断食させてください。　三日間、昼も夜も、飲み食いしないでください。　私も侍女もそういたしますから。　そのあと、国禁を犯してでも陛下にお目にかかるつもりです。　そのために死ななければならないのでしたら、いさぎよく死にましょう。」
１７　モルデカイはエステルの言うとおりにしました。
五
１　こうして三日後、エステルは王妃の服装をし、王宮の内庭に足を踏み入れました。　その向こうに謁見の間が続き、王は王座にすわっていました。　２ふと見ると、王妃エステルが内庭に立っています。王は、「よく来た」と言わんばかりに、金の笏を差し伸べました。そこでエステルは進み出て、笏の先にさわりました。
３　「どうした、エステル。　何か願い事でもあるのか。　申してみい。　たとい帝国の半分でもな、おまえにならやるぞ！」
４　「もし陛下さえおよろしければ、きょう陛下のために宴を催したいと存じます。　どうかハマン様とごいっしょにお越しくださいませ。」　エステルは、かしこまって答えました。
５　それを聞いて王は側近を振り返り、「ハマンに、急いで来るよう申せ！」と命じました。こうして王とハマンは、エステルの宴会に来ることになったのです。
６　酒がふるまわれる時になって、王はエステルに尋ねました。　「さあ、どうしてほしいのか申すがよい。　たとい国の半分でもやるぞ！」
７８「お願いでございます、陛下。　もし陛下が私を愛し、おこころにかけてくださいますなら、どうかあすも、ハマン様を連れてお越しくださいませ。　あすの夜、何もかも申し上げたいと存じます。」

９　宴会のあと、ハマンは天にものぼる思いでした。　ところが、門のそばまで来ると、またあの無礼なモルデカイがいます。 例によって、彼を見ても立とうともしません。 全くしゃくにさわります。　１０しかし、ここで腹を立てては元も子もありません。　はやる気持ちを抑えて家に戻り、友人や妻ゼレシュを呼び集めました。　１１自慢話をしようというのです。　自分が財産家であること、子宝に恵まれていること、異例の昇進をしたこと、この国で王に次ぐ権力を握っているのは自分であることなど、得々と語り始めました。
１２　話にあぶらが乗ってきたところで、さも取っておきの話だとばかりに大得意で続けました。　「実はな、エステル王妃のパーティーに招かれたのは、陛下とわしの二人だけだったのさ。 そればかりか、あすもまた、陛下と二人でご招待を受けてな。　１３だが、それにしてもだ……」と、彼は急に口ごもりました。　「小憎らしいのは、あのユダヤ人のモルデカイのやつさ。　城門の前に座り込みやがって、わしを見ても知らん顔をしておる。　全くあいつのおかげで、せっかくの喜びも吹っ飛んでしまうわ！」
１４　すると、ゼレシュや友人たちは、口をそろえて言いました。「だったら、こうすればいいでしょう。　うんと高い絞首台を作るんですよ。　二十五メートルもあるのを。　あすの朝にも、陛下に願い出て、モルデカイをつるしてやりなさい。 さっぱりした気分で、陛下と宴会においでになれますよ。」　なんとうまい考えでしょう。 ハマンは大いに乗り気になって、すぐさま絞首台を作らせました。
六
１２さてその夜のこと、王はどうしても寝つかれません。 しばらく読書でもしようかと、書庫から王国の記録文書を持って来させました。読み進むうち、ある項目に目が行きました。　門の警備に当たっていた役人ビグタンとテレシュが企てた、王の暗殺未遂事件のところです。計画が未然に防げたのはモルデカイの手柄だとあります。
３　王はそばにいた者に尋ねました。
「このモルデカイに何かほうびを取らせたかな。」
「何も取らせてはおりません。」
４　「だれか外庭で勤務についている者はおらんか。」　王がこう言った時、例の絞首台にモルデカイをつるす許可を得ようと、ハマンが城の外庭にさしかかったところでした。
５　そこで家来は答えました。　「ハマン様がお見えです。」
「ちょうどよい。 ここへ呼べ。」 ６ハマンが来ると、王はさっそく話を切り出しました。
「余の眼鏡にかなった者には、どんな栄誉を与えたらよいものかな。」
ハマンは心のうちで思いました。　「きっと私のことだぞ。　私以外に、陛下が栄誉を与えたいと思う者などいるはずがないからな。」７８そこで、わくわくしながら意見を述べました。 「陛下ご着用の王衣、それにご愛馬と王冠をおとりそろえください。　９そして、最も身分の高い貴族の一人にその人の世話をさせてください。　つまり陛下の服を着せ、ご愛馬に乗せ、くつわを取らせて通りを引いて行かせるのでございます。　その時、『陛下

のおこころにかない、このような栄誉を賜わったのだ！』とふれさせてはいかがでしょう。」
１０　「名案じゃ！」　王は思わずひざを打ちました。　「大至急、王衣を持って来させ、余の馬を引いて来て、そのとおりにしてくれ。　果報者は宮廷務めのユダヤ人モルデカイだ。　よいな、いま言ったことを、そっくりそのまま実行するのだぞ。」
１１　なんということでしょう。　しかしどうにもなりません。　ハマンは王衣をモルデカイに着せ、王の愛馬にまたがらせ、くつわを取って通りを引き歩きながら、「陛下のおこころにかない、このような栄誉を賜わったのだ！」と叫びました。
１２　そのあと、モルデカイは勤務に戻りましたが、おさまらないのはハマンです。　何とも言えないみじめな気持ちで家へ逃げ帰りました。１３これからどうしたものでしょう。何はさておき、妻のゼレシュや取り巻き連中に、事の次第を話すしかありません。　一同は頭をかかえるばかりです。　「まずいですな。　モルデカイがユダヤ人だと陛下に知れた以上、あいつを亡き者にする計画はおじゃんですよ。 いつまでも目の敵にしていたら、かえって命取りになりますよ。」
１４　あれこれ知恵をしぼり、善後策を講じている最中に、王の使いが来て、エステルの設けた宴会へ出向くようせき立てました。
七
１　こうして、王とハマンはやって来たのです。　２酒がふるまわれるころ、王はもう一度たずねました。　「エステルよ、いったい何が欲しいのじゃ。　願い事を申すがよい。何なりとかなえてやろう。　帝国の半分でもな。」
３　ついに、王妃エステルの重い口が開きました。　「ああ、陛下。　もし、もし私をいとしいとお思いでしたら、そして、もしこの事がおこころにかないますなら、何とぞ、私と私の同胞のいのちをお助けください。　４このままでは、私も同胞の者たちも助かるすべはありません。　皆殺しにされる運命なのです。　奴隷に売られるだけなら、口をつぐんでもおれました。　もちろんその場合でも、陛下は測り知れない損失をこうむられたでしょうけれど。　実際、それはお金では償えないものでございます。」
５　王は唖然として言いました。　「はてさて何のことを申しておるのかな。　かわいそうに、いったいどこのどいつが手出しをするというのじゃ。」
６　「恐れながら陛下、ここにおりますハマンこそ、悪の張本人、私どもの敵でございます。」
二人の目の前で、ハマンの顔からはみるみる血の気が引いていきました。　７王は荒々しく立ち上がると、庭に出て行きました。　もうだめです。　自分のいのちは風前の灯だと察したハマンは、立って王妃エステルに命乞いを始めました。　８やがて彼は絶望のあまり、エステルのもたれていたソファーにくずれかかりました。　ちょうどその時、王が庭から引き返して来たから大へんです。
「この宮殿の中で、しかも余の目の前で、王妃に手を出すつもりかっ！」　王の怒りが爆発しました。　その場で直ちに、ハマンの顔には死刑用のベールがかけられました。

９　その時、王の側近ハルボナが申し出ました。　「陛下、ハマンはモルデカイをつるそうと、二十五メートルもある絞首台を自宅の庭に作らせております。　事もあろうに、暗殺者の手から陛下のおいのちを救った、あのモルデカイをでございますよ！」
すかさず王は命じました。　「ハマンをそれにつるせっ！」
１０　こうしてハマンは処刑されたのです。　それでやっと王の憤りもおさまりました。
八
１　その日、アハシュエロス王は、ユダヤ人の敵ハマンの財産を、そっくり王妃エステルに与えました。　続いて、モルデカイが王の前に召し出されました。　実は彼がいとこであり養父であることを、エステルが明かしたからです。　２王はハマンから取り返した指輪をはずしてモルデカイに与え、即座に総理大臣に任命しました。　エステルはエステルで、モルデカイにハマンの財産の管理を一任しました。
３　ハマンのことが片づくと、エステルはもう一度王の前に出て、足もとにひれ伏し、ユダヤ人に対するハマンのたくらみを無効にしてくださるようにと､涙ながらに訴えました。４この時も、王は金の笏を差し伸べたので、彼女は身を起こし、立ち上がって、　５こう願い出ました。　「もしこれがおこころにかない、私をあわれとおぼし召されますなら、どうぞ勅令を出して、諸州のユダヤ人を殺せというハマンの指令を、取り消してくださいませ。　６同胞がむざむざ殺されるのを、とても黙って見てはおられません。」
７　王は王妃エステルとモルデカイに答えました。　「おまえたちに手を下そうとしたハマンを、余は絞首台につるし、家も没収してエステルに与えたではないか。　８ユダヤ人の件については、余の名で思いどおりの通達を出すがよい。　王の指輪で印を押せ。　だれにも有無を言わせんためだ。」
９１０直ちに王の書記官が召集されました。　時に六月七日でした。彼らはモルデカイが口述するままに、インドからエチオピヤに及ぶ全百二十七州のユダヤ人をはじめ、役人、総督、領主にあてた文書を作成したのです。　それはまた、各民族の言語、方言に翻訳されました。モルデカイはアハシュエロス王の名を記した上、王の指輪で印を押し、その手紙を王室専用の早飛脚に託しました。　彼らはめいめい、らくだ、らば、若いひとこぶらくだなどにまたがって、全国各地に飛んだのです。　１１この通達には、各地のユダヤ人に対し、自らと家族のいのちを守るために武装蜂起すべきこと、また敵には全力をあげて対抗し、その財産を奪ってもかまわないことが記されていました。　１２しかも、全州いっせいに、この決行日は二月二十八日と定められていたのです。　１３さらに、この勅令の写しをとって各州の法令とすること、勅令は全国民に公示して、ユダヤ人が敵を打ち破る十分な準備ができるようにすること、と書き添えてありました。　１４ただでさえ速い王の急使は、特命を受けていっそう速く、駆けに駆けて先を急ぎました。勅令はシュシャンの城内でも発布されました。
１５　モルデカイは青と白の王服をまとい、大きな金の冠をかぶり、しなやかなリンネルと紫の外套をひるがえして、王の前から、喜びにわきたつ群衆であふれる大通りへと、姿

を現わしました。　１６ここかしこに集まった誇らしげなユダヤ人の間からは、どっと歓声があがりました。　１７王の勅令が届いたどの町、どの州でも、ユダヤ人の顔は喜びに輝き、その日を祝日にして盛大な祝賀会を開いたのでした。　国民の中には、ユダヤ人のふりをする者も大ぜいいました。　ユダヤ人の仕返しを恐れたからです。
九
１２いよいよ運命の日、二月二十八日がきました。　王の二つの勅令が発効する日です。この日、ユダヤ人を血祭りにあげようと意気込んでいた敵の立場は、全く逆転してしまいました。　ユダヤ人は自衛のために、全国各地の町々に結集しました。　ところが、あえて手出しする者は一人もありません。　全国民がユダヤ人を恐れていたからです。　３諸州の指導者層である総督、役人、従臣たちはみな、モルデカイを恐れていたので、進んでユダヤ人に手を貸してくれました。　４今やモルデカイは、宮中で飛ぶ鳥を落とす勢いであり、その名声は津々浦々に鳴り響き、しかもますます勢力を伸ばしていたのです。
５　ユダヤ人は、決起の日がくるといっせいに行動を起こし、片っぱしから敵をなぎ倒しました。　６シュシャンでは五百人が殺されました。　７－１０ハメダタの子である宿敵ハマンの息子十人が殺されたのは、言うまでもありません。　その名は次のとおりです。
パルシャヌダタ、ダルフォン、アスパタ
ポラタ、アダルヤ、アリダタ
パルマシュタ、アリサイ
アリダイ、それにワユザタ
しかし人々は、ハマンの資産には手を出しませんでした。
１１　夜も遅く、シュシャンでの死者の数が報告されると、　１２王は王妃エステルを呼び寄せて言いました。「シュシャンだけでも五百人は、ユダヤ人に殺されたという。　もちろんハマンの息子十人もな。ここでさえこんな具合なら、ほかの州ではどうなっていることか！どうだ、まだ何かしてほしいことがあるか。　あれば、かなえてつかわそう。　遠慮なく申すがよいぞ。」
１３　「もしおよろしければ、もう一日、シュシャンにいるユダヤ人に、きょうと同じようにさせてくださいませ。　それから、ハマンの十人の息子を、絞首台につるしてやりとうございます。」
１４　王が承知したので、シュシャンでは勅令がおり、ハマンの息子らはさらし者にされることになりました。　１５シュシャンに住むユダヤ人は翌日も集まり、さらに三百人を殺しましたが、この時も財産には指一本ふれませんでした。
１６　一方、全州のユダヤ人も、シュシャンと同様、自衛のために一丸となって立ち上がり、敵対する七万五千人を剣にかけましたが、やはり相手方の持ち物には手を出しませんでした。　１７このことは二月二十八日、全州いっせいに行なわれたのです。　翌日は特別な休日として祝宴を設け、大喜びで勝利を祝いました。　１８ただ、シュシャンにいるユダヤ人だけは二日目も敵を殺し、その明くる日を休日として、祝い合ったのでした。　１

９こんなことから、今も、イスラエルの地方の小さな村々では、毎年、この二日目を祝日とし、贈り物を交換し合うのです。
２０　さてモルデカイは、これらの出来事すべてを記録し、遠い近いには関係なく、全州のユダヤ人に手紙を送りました。　２１その中で彼は、二月の末の二日間を年ごとの祝日と定め、　２２この歴史的な日を記念して､断食と贈り物の交換をしようと提唱しました。この日こそ、ユダヤ人が敵の手から救われ、悲しみを喜びに、嘆きを幸福の絶頂へと変えられた日だからです。
２３　ユダヤ人はモルデカイの提案どおり、毎年この習慣を守りました。２４２５ハマンがユダヤ人殺しの日を、さいころを投げて決めたこと、さらに、事の次第が明らかになった時、ハマンの陰謀はついえ去り、王命によって、自ら作った絞首台の露と消えたこと、息子たちもまた、さらし者となったことの記念日としたのです。　２６こんなことから、この祝日は「プリム」と呼ばれるようになりました。　さいころを投げることを、ペルシヤ語で「プル」と言ったからです。　２７国中のユダヤ人は帰化した者も含め、毎年この二日間を、子々孫々に至るまで、祝日として守り抜こうと決心しました。　２８こうしてこの行事は、津々浦々にまで行き渡り、いついつまでもこの出来事が、ユダヤ人の脳裏にあざやかに刻まれることとなったのです。
２９‐３１一方、王妃エステルは、プリムの祭りの制定についてモルデカイを支持するとの手紙を送りました。　そのほかにも、百二十七州のユダヤ人を励ます善意に満ちた手紙を、モルデカイと王妃エステルの連名で出しました。　ユダヤ人は進んで、この、国をあげての断食と祈りの日を記念することに決めました。　３２こうしてエステルの命令で、祭りの日は正式に法令で定められたのです。
一〇
１　アハシュエロス王は、本土だけでなく島々からも貢物を納めさせました。　２王のすぐれた業績とモルデカイの偉大さ、彼が王から受けた栄誉については、メディヤとペルシヤの王の年代記にくわしく記されています。　３ユダヤ人モルデカイは総理大臣となり、アハシュエロス王に次ぐ権威の座につきました。　彼はユダヤ人の英雄であるばかりか、全国民の尊敬の的でもありました。　それは、彼が同胞のために最善を尽くす一方、だれをも差別なく引き立てたからです。
▪

イスラエルの文学

ヨブ記からソロモンの愛の歌までをまとめて、文学書、あるいは知恵文学と呼んでいます。預言書はイスラエル民族の没落期に属しますが、文学書のほとんどは、イスラエルの歴史の黄金時代（紀元前千年ごろ）に属しています。特に詩篇は、賛美と告白の文学であり、根底には信仰と服従のテーマが流れ、神様の前にあるイスラエルの心が、つぶさに記されています。イスラエル独特の知恵は、神様から出ており、生きて働かれる神様をまず信じ、たいせつにすることによって与えられるものだ、と説かれています。

ヨブ記

本書は、人間がもつ最も深遠な問題に触れています。　もし、罪や苦しみに対して何らかの力を発揮できる神様が存在するなら、どうして、まだ罪や苦しみがこの世にあるのか、という問題です。　本書の初めは、苦しんでいるヨブが三人の友だちと討論するところです。　エリファズ、ビルダデ、ツォファルはそれぞれ、ヨブの不幸を異なった方法で説明しようとします。　四番目の人物エリフは、状況の要約をし、かつ、ヨブがなぜ苦しみを受けているかについて、別の解釈をします。　最後に、神様ご自身がヨブに語りかけ、ヨブは人生の諸問題の解答を得ることより、むしろ神様ご自身を必要とすることを悟ります。こうしてヨブは、以前にもましてすばらしい境遇に戻されたのです。

一

１　ウツの国にヨブという人が住んでいました。　この人は人格者で、神様を敬い、悪から遠ざかっていました。　２３子宝に恵まれ、息子が七人、娘が三人もいました。　それに、羊七千頭、らくだ三千頭、五百くびきの牛、雌ろば五百頭がいる上に、大ぜいの召使をかかえる億万長者でした。　名実ともに、その地方きっての大牧場主だったのです。
４　毎年、ヨブの息子たちは、誕生日ごとに、自宅へ兄弟姉妹を招いて祝賀会を開き、飲み食いして陽気にはしゃぐことにしていました。　５時には数日に及ぶこの誕生パーティーが終わると、ヨブは決まって子供たちを呼び寄せ、彼らの身をきよめる儀式を行ないました。　彼は朝早く起き、子供たち一人一人のために、完全に焼き尽くすいけにえをささげるのでした。　彼は口ぐせのように、「息子たちが、もしかしたら罪を犯し、心の中で神様に背いたかもしれない」と言っていたからです。　この儀式はヨブの年中行事の一つに

なっていました。
６　ある日、御使いたちが神様の前に出た時のことです。　その中に、告発者のサタンもいました。
７　神様はサタンに問いただしました。　「おまえはどこから来たのか。」
「地球のパトロールから帰って来たところでさ。」
８　「わたしのしもべヨブを知っているか。　彼は世界でいちばんの人格者だ。　神は敬うし、一点の非の打ちどころもない。」
９　「あたり前ですよ。　あなたが特別ひいきにしているんだから。　１０あなたはいつも、彼とその家庭、持ち物を守っているじゃないですか。　それに、彼のすることは何でも栄えるように目をかけている。　これじゃあ、金がうなるほどあっても不思議はない。あなたを拝むふりをして当然ですよ。　１１試しに、やっこさんの財産を取り上げてみるんですな。　きっとあなたをのろいますぜ。」
１２１３「彼の財産のことは、おまえの好きなようにしてよい。　ただし、彼の体に触れてはならんぞ。」
こうして、サタンは出て行きました。　それからしばらくして、ヨブの息子、娘たちが長兄の家で祝宴を張っている時、悲劇の幕が切って落とされました。
１４１５使者がヨブの家に飛んで来て、悲報を伝えたのです。　「た、たいへんです。　牛が畑を耕し、そばでろばが草を食べているところへ、いきなりシェバ人が襲いかかりました。　家畜はさらわれ、作男たちは皆殺しです。　どうにか助かったのは私ひとりです。」
１６　彼の話がまだ終わらないうちに、別の使いが、いっそう悪い知らせを伝えました。
「恐ろしいことです。　神の火が天から下って、羊と牧童を残らず焼き殺しました。　難を免れたのは私だけです。」
１７　この男が報告し終えないうちに、もう一人の使者が息せき切って駆け込んで来ました。　「だんな様ーっ。　三組のカルデヤ人の野盗がらくだを奪い、召使たちを殺したのです。　私ひとりが、なんとか逃げて来ました。」
１８　彼がなおも話している間に、さらにもう一人が駆けつけました。　「お子さんたちが大へんです。　皆さん、ご長男の家で宴会を開いておいででした。　１９すると突然、砂漠の方から大風が吹きつけて、家を直撃したのです。　それで屋根が落ち、その下敷きになって、皆さんお亡くなりに……。　私だけが、どうにか命拾いをしました。」
２０　この時ヨブは立ち上がり、悲しみのあまり上着を引き裂き、地にひれ伏して、　２１神様に言いました。　「生まれた時、私は裸でした。　死ぬ時も、何一つ持って行けません。　私の持ち物は全部、神様が下さったものです。　ですから、神様はそれを取り上げる権利もお持ちです。　いつでも、どんな時でも、神様の御名がたたえられますように。」
２２　このような事態になっても、ヨブは罪を犯したり、神様を悪しざまに言ったりしませんでした。
二

１　この事があってから、御使いたちが再び神様の前に出た時、サタンも同席していました。
２　神様はサタンに問いただしました。　「おまえはどこから来たのか。」
「地球のパトロールから帰って来たところでさ。」
３　「そうか。　で、おまえは、わたしのしもべヨブの態度を見たか。　彼は世界でいちばんの人格者だ。　神は敬うし、いっさいの悪から遠ざかっている。　おまえは、わたしをくどいて、理由もないのに彼に危害を加えた。　ところがどうだ、あの信仰深さは。　これでもまだ、彼をけなすつもりか。」
４５「いのちが助かるためなら、人はどんなことでもしますよ。　今度はやっこさんを病気にしてみればいい。　きっと、面と向かってあなたをのろいますぜ。」
６　「何とでも気のすむようにするがいい。　ただし、彼のいのちだけは取らぬようにな。」
７　こうして神様の前から引き下がったサタンは、ヨブを、頭のてっぺんから足の裏まで悪性のはれものだらけにし、責め立てました。８ヨブは土器のかけらで体中をかき、灰の上に座り込んだのです。
９　それを見て、妻がそそのかしました。　「こんなひどい仕打ちに会っても、まだ神様をたいせつにするの。　いっそ、神様をのろって死んだらどう？……」
１０　「まるで、神様を知らない外国の女のような口をきくんだな。神様から祝福ばかりいただいて、災いはお断わりという法があるかい。」　こうしてヨブは、このようになってもなお、神様を冒涜するようなことは、いっさい口にしませんでした。
１１　さて、ヨブの身に災難が降りかかったことを知った友だちが三人、お互いにしめし合わせ、彼を慰め励ましてやろうと、はるばる訪ねて来ました。　この三人は、テマン人エリファズ、シュアハ人ビルダデ、ナアマ人ツォファルです。　１２ところが彼らは、ヨブを見て、ただただ、びっくりするばかりでした。　顔形はすっかり変わり、だれの顔か見分けもつかないほどです。　あまりの痛ましさに、声をあげて泣き、めいめい上着を裂き、ちりを空中にまき散らし、頭に土をかぶって悲しみました。　１３それから、ヨブとともに七日七夜、地に座っていましたが、だれも唖のように黙ったままでした。　彼の苦しみようがあまりひどいので、うっかり話しかける気にもならなかったのです。
三
１　ついにヨブが口を開き、自分の生まれた日をのろいました。
２３「ああ、わしはなぜ生まれたのか！　こんなことなら、いっそ生まれないほうがよかった！　４誕生日なんか、なくなってしまえっ！　神にさえ見捨てられ、永遠の暗やみに包まれてしまえっ！　５６そうだ、暗やみがその日を引き取り、黒雲がおおい隠せ。　その日がカレンダーから消され、ほかの月日とともに指折り数えられないようになれ。　７その夜を吹きさらしにし、喜びを追い出せ。　８のろいの名人よ、その日をのろってくれ。９その夜は、星も出るな。　どんなに光を待ちあぐねても夜は明けず、朝がくるな。　１０こんな災難に会うため、わざわざ生まれて来たわしのために。

１１　ああ、なぜ、生まれてすぐ死ななかったのか。　１２なぜ、産婆はわしを生かしておき、乳房をふくませて養い育てたのか。　１３生まれてすぐ死んでいたら、今ごろ安らかに眠っていただろうに。　１４１５飛ぶ鳥を落とす勢いの総理大臣や王たち、また城の中に財宝を積み上げた羽振りのいい領主たちと、いっしょになっていただろうに。　１６呼吸もせず、陽の光を見ることもない、死産だったらよかったのだ。１７死んでしまえば、悪者も人に迷惑をかけず、疲れきった者も憩う。１８囚人でさえ、彼らをのろう残忍な看守から解放される。　１９死んでしまえば、金持ちも貧乏人もない。　奴隷でさえ、全く自由の身となる。
２０２１なぜ、悲惨な境遇に泣く者に、光といのちが与えられるのか。彼らは死にたくても死ねない。　人が食べ物や金のことで目の色を変えるように、ひたすら死にたがる。　２２思いどおり死ねたら、どんなにほっとするだろう。　２３神の与えるものが無益と失意の人生だけだとしたら、なぜ、人を生まれさせるのだろう。　２４出るのはため息ばかりで、食事ものどを通らない。　うめき声は水のように止めどなくあふれる。　２５恐れていたことが、とうとう起こったのだ。　２６ぬくぬくと遊び暮らしていたわけでもないのに、災いが容赦なく降りかかったのだ。」
四
１　テマン人エリファズからヨブへの答え。
２　「ひと言いわせてくれ。　もう黙ってはおれん。　３４以前あんたは、悩んでいる人をつかまえては、神様を信頼しろと口ぐせのように言ってたな。　そう言って、弱っている人、倒れそうになった人、立つ気力もなくして地面に座り込む人、自暴自棄に陥った人を元気づけてきた。　５ところがどうだ。　いざ自分がその身になってみると、すっかり意気阻喪し、青菜に塩じゃないか。
６　こんな時こそ、神様を信頼するはずじゃなかったのか。　正しい人に神様は目をかけてくださることが、信じられないのか。　７８考えてもみろ。　心底から正しくて罪のない人が罰せられるなんてことを、一度でも聞いたことがあるか。　罪と争いの種をまく者が悩みを刈り取るとは、経験の教えるところだ。　９そのような者は、神様に握りつぶされて死ぬ。　１０若いライオンのように居丈高にしていても、押しつぶされて滅びるのがおちだ。　１１いつかは、役立たずの老いぼれライオンのように飢え、子供たちも散り散りになる。
１２　耳もとのささやきのようにこっそりと、この真理がわしに伝えられた。　１３あれは、人が寝静まった夜中だった。　わしは幻を見たのだ。　１４急にわしは恐ろしくなり、身の毛のよだつ思いに全身がわななないた。　１５一つの霊が前を通り過ぎる時、髪の毛は逆立った。　１６といっても、霊の気配を感じただけで、姿を見たわけじゃないがね。すると、気味悪いほどしーんと静まりかえった中で、どこからともなく、こう言う声が聞こえてきた。
１７　『人は神より正しくありえようか。　人は創造者よりきよくありうるだろうか。』

１８１９御使いさえあやまちを犯し、神様に信頼されないとしたら、ちりから造られた人はなおさらのことだ。　人はしみのように、簡単につぶされて死ぬ。　２０朝には生きていても、夕方には冷たいむくろとなり、だれからも顧みられないまま永久に葬られる。　２１か細いいのちの火は吹き消され、なすすべもなく死ぬだけだ。
五
１　助けを呼び求めても、だれも答えてくれない。　神々によりすがっても、救ってもらえない。　２彼らは怒り狂い、のたうち回って息絶える。　３神に背く者は、しばらくは栄えるように見えても、思いもよらない災いにみまわれる。　４彼らの子供たちは、だれにもかばってもらえず、簡単にだまされる。　５せっかくあげた収穫も人手に渡り、その富は、ほかの多くの人の渇きをいやす。　６罪の種をまいた者には、罰として不幸が襲う。７火種から勢いよく炎が吹き上げるように、人は罪と不幸に向かってまっしぐらに進む。
８　だから、あんたに忠告したい。　神様に罪を告白しなさい。　９神様は、目をみはるような奇蹟を数限りなくなさるからだ。　１０神様は地に雨を降らせて田畑をうるおし、１１貧しい者と謙そんな者を富ませ、苦しむ者を安全な場所へ連れて行く。
１２　神様は、ずる賢い者の計画をくつがえす。　１３彼らは知恵をこらして計画を練り、そのわなに自分でかかる。　１４彼らは夜だけでなく、昼日中でも、盲人のように手探りで歩く。
１５　神様は、このような横暴な連中から、身寄りのない者や貧しい者を救う。　１６こうして、貧しい者はついに希望を見いだし、悪者の牙はへし折られる。
１７　神様に誤りを正してもらえる人は、なんと幸せなことか。　神様の懲らしめを、ないがしろにしてはいけない。　自分で罪を犯し、招いた結果なのだから。　１８神様は傷つけても包帯を巻き、治してくださる。　１９何度でも救い出してくださる。　だから、災いがあんたに寄りつく暇もない。
２０　ききんの時には死から、戦いの時には剣から守られる。
２１　人の中傷も苦にならず、将来の心配もなくなる。
２２　あんたは戦いとききんをあざ笑い、野獣に襲われることもない。　２３野の石と、どう猛な野獣は、あんたと平和協定を結ぶからだ。
２４　家を留守にしても、何の心配もない。　倉庫には、だれも指一本ふれないからだ。
２５　あんたの息子たちは、なくてはならぬ人物となり、子孫は草のようにはびこる。　２６麦は、収穫の時まではどんなことがあっても刈り取られない。　そのように、あんたも幸せな一生を送り、長寿を全うする。　２７このことが嘘偽りでないことを、わしは経験から割り出した。　あんたのためを思えばこそ、忠告するんだ。　わしの助言を聞いてくれ。」
六
１　ヨブの返事。
２　「ああ、この悲しみと苦しさが、秤りにかけられたらなあ。　３まるで海辺の砂を千

倍にもしたような重さだ。　だから、ついきついことばを吐いてしまった。　４神様は弓に矢をつがえ、わしを狙いうちにした。　その毒矢は心臓深く突き刺さった。　神様は次から次へとわしを脅かす。　そのたびに、身のすくむような思いをする。　５‐７草がなくなれば、野ろばは鳴く。　飼い葉のあるうちは、牛もおとなしくしている。　食べ物に塩気がなければ、人は苦情を言う。　生卵の白身ほどまずいものはない。　それを見ると食欲がなくなり、食べようと思っただけで吐き気がする！
８９ああ神様、もうたくさんです。　どうか死なせてください。　死ねば、この痛みから解放されます。　１０わしは神様のおことばを一度だって拒まなかった。　少なくともこのことが、苦しい拷問の中での唯一の慰めだ。　１１なぜ、まだ生きる力が残っているのだろう。　息を引き取る瞬間まで、このまま我慢できようか。　１２わしは石のように感覚がないというのだろうか。　わしの肉体は、真鍮でできているとでもいうのだろうか。
１３もう何の希望もない。　天涯孤独となり果ててしまった。
１４　気落ちした友には、親切にすべきじゃないか。　それなのに何だ。神様を少しも恐れず、わしを容赦なく責め立てるばかりじゃないか。　１５‐１８あんたは砂漠の川のように頼りにならないことが、よくわかった。それは、雨期になるとあふれるが、夏の盛りには干上がってしまう。川を目あてに、隊商はわざわざ脇道して来るが、一滴の水もないのであえない最期を遂げる。　１９‐２１テマとシェバの隊商は、水を求めてそこに来るが、望みは無残にも砕かれる。　あんたへの期待も、同じように裏切られた。　わしを見てこわがり、後ずさりしたな。　救いの手を伸ばしてくれなかったな。　２２なぜだ。　これまで、一度でも頼み事をしたことがあるか。　あんたに物乞いしたことなんかないぞ。
２３助けを仰いだこともな。　２４わしはただ､道理にかなった返事をしてほしいだけだ。それが聞けたら、おとなしくしているさ。　教えてくれ。　いったいわしが、どんな悪いことをしたというんだ。
２５２６真実を言われれば、だれでも胸に響くものだ。　ところが、あんたの批判にはまるで根拠がない。　一時の感情にかられ、やけを起こしたというだけで、わしを責めるのか。　２７それじゃあ、身寄りのないみなしごを傷つけ、友を売るのと同じじゃないか。
２８わしの目をまともに見てくれ！　あんたの前でうそをつくような人間に見えるか。２９わしは潔白なんだ。　邪推するのは、よしてくれ。　そんなにつらくあたるなよ。　３０わしにも善悪の区別ぐらいつくんだ。　もし落度があるなら、気づかないはずがないじゃないか。
七
１　人は、なんと苦しみもだえることか。　人の一生は、奴隷の日々のように長く苛酷だ。
２一日の終わりが、なんと待ち遠しいことか。人は賃金のもらえる月末まで汗水流して働く。　３同じようにわしにも、苦しい日々と、長くて物憂い夜がある。　４床につく時、『あーあ、朝ならいいのになあ』と思い、東の空が白むまで、寝返りを打って悶悶とする。
５　体にはうじがたかり、皮膚は黒ずんでいる。　肉はざくろのように口を開け、膿が流

れている。　６望みもないまま、あっという間に一日一日が過ぎ去る。　７わしのいのちは、はかない息のようで、良いものは何一つ残っていない。　８わしを見ていられるのも長くはない。　もうじき、わしの死骸を見るようになるだろうよ。　９雲が散って消えるように、死んだ者は永久に戻らない。　１０家族の前から永久に姿を隠し、再び顔を見せることもない。　１１頼むから、わかってくれよ。　悩み苦しんでいるわしに、気がすむまで話させてくれ。
１２　ああ神様、どうして私を放っておいてくださらないのですか。　私は化け物でしょうか。　１３１４眠って悲惨な境遇を忘れようとすると、あなたは悪夢で私を脅します。
１５こんな状態がいつまでも続くくらいなら、ひと思いに締め殺されたほうがましです。
１６もう生きていたくなんかありません。　お願いです、神様。　残り少ない日々を、私ひとりにしておいてください。　１７人とは何者でしょう。　神様がわざわざ時間をかけて苦しめるだけの値打が、あるでしょうか。　１８朝ごとに尋問し、一日中いじめ抜かなければ、気がすまないのですか。　１９せめてつばを吐く間だけでも、一人にしておいてください。
２０　人間の見張り役である神様。　私の罪がご気分を害したのですか。なぜ私を標的にし、とても生きてはいられないようにさせるのですか。　２１なぜ私の罪を赦し、除いてくださらないのですか。　私は今にも息絶える身ではありませんか。　神様がどこを捜しても、いなくなるのです。」
八
１　シュアハ人ビルダデのヨブへの返事。
２　「ヨブ、いつまでふてくされてるんだ。　意味もないことをまくし立てるのはよせ。
３神様が正義を曲げるだろうか。　４あんたの子供が罪を犯し、神様から罰を受けても、
５あんたが全能の神様に嘆願するなら、　６神様は祈りを聞き、元どおりの幸福な家庭となさる。　もっとも、あんたが潔白で正しければの話だが。　７たとい裸一貫で出直しても、やがて多くの財産を築くさ。
８　歴史の書物をひもとき、調べてみるがいい。　９わしらは赤ん坊で、ほんのわずかのことしか知らないからだ。　われわれの一生は影のようにはかない。　１０だが、昔の人の知恵は大したものだ。　ほかの人の経験から、あんたは次のことを思い出す。　１１‐１３神様を忘れる者の望みは断たれる。　彼らは根を下ろす土のない葦や水分を断たれた草のように、鎌を入れないうちから、しおれる。　１４神様を追い出した者は、くもの巣を頼りにするようで、頼みの綱はみな切られる。１５自分の家は安全だと思っていても、思いがけない災害に会う。　１６朝のうちは、青々と茂る木のように、力にあふれ、枝は庭いっぱいに張っている。　１７根は石地を伝い下り、地下水にまで届く。　１８ところが、その彼が急に姿を消しても、だれも悲しんではくれない。　１９彼が期待できることといえば、これくらいだ。　そればかりか、彼の代わりに、ほかの者が地から芽を出す。
２０　いいか、考えてもみろ。　神様は正しい人をお見捨てにならないし、悪い奴を栄え

させることもないんだ。　２１あんたにも、いつか必ず笑顔を取り戻し、喜びの叫びをあげる日がくるさ。　２２あんたを憎む者は、結局は赤恥をかき、悪者は滅ぶのさ。」
九
１　ヨブの答え。
２　「そんな事ぐらいわかっているよ。　ちっとも耳新しいものはないじゃないか。　ところで､答えてもらいたいな。 どうして人は神様の目から見て正しい者となれるんだい。３神様が本腰を入れて人と議論しようと思ったら、千の質問のうちただの一つでも答えることはできまい。　４神様の知恵と力は底知れないのだ。　今までに、神様に盾をついて成功した者なんか、いやしない。
５　神様はとつぜん怒って山を動かし､ひっくり返す。 ６大地さえ土台から揺り動かす。７神様が命令すると、太陽はのぼらず、星も光らない。　８神様はただ一人で天を張り広げ、海の上をゆったりと歩いた。　９牡牛座、オリオン座、スバル座、それに、南の星座も、みな神様が造った。
１０　ほかにも、目をみはるような奇蹟はいっぱいある。　あまり多くて数えきれないほどだ。　１１神様がそばを通り過ぎても、お姿は見えない。　１２神様が人のいのちを奪う時、だれもその手をとどめることはできない。　『何をするのですか』と抗議できる者もいない。
１３　しかも、神様は怒りを静めず、高慢な人間を土下座させる。　１４わしには、全能の神様を相手どって議論し、説き伏せることなどできない。　１５たといこちらに落度がなくても、自分を弁護しない。　ただただ、あわれみを求めるだけだ。　１６たとい祈りが答えられても、神様がわしの叫びを聞いたとは思えない。　１７神様は、こんなにまでわしを打ちのめし、理由もないのに傷口を広げるからだ。　１８次から次へと、息もつかせず、骨の髄までしみとおる悲しみで満たしている。１９強くて正しいのは、この世に神様だけではないか。
２０　ところで、わしは正しいだろうか。　そうでないことは、自分がよく知っている。たとい一点の非の打ちどころもないとしても、神様はわしに悪人のレッテルを張る。　２１完全に潔白でもだ。　だが、そんなはずはない。　ああ、自分で自分がわからない。　つくづく自分がいやになった。　２２潔白であるにせよ、悪人であるにせよ、神様にとっては同じことさ。　どちらにしても滅ぼすんだ。　２３神様は、罪のない者が災難に押しつぶされるのを見て笑う。　２４全地は悪者どもの手中にある。　神様は裁判官を明き盲にして、不公平な裁判を行なわせる。　そうするのが神様でないとしたら、いったいだれが張本人なのか。
２５　わしの一生は悲劇をはらんだまま、矢のように飛び去る。　２６わしの歳月は船足の速い舟のように遠ざかり、獲物に襲いかかる鷲のように飛び去る。
２７　神様への不満を忘れ、悲しむのをやめて明るく振る舞おうとしても、　２８神様は今まで以上の悲しみを与えるばかりだ。　ああ神様。私にはわかっています。　あなたは

私を有罪となさいます。　２９罪人扱いするに違いありません。　だから何を言ってもむだです。　３０たとい、水晶のような水で体を洗い、灰汁で手の汚れをすっかり落としても、　３１神様は私をどぶに突き落とします。　そのため泥まみれになった着物でさえ、神様の目には、私よりきれいに見えるでしょう。
３２３３神様は人間ではないので、私は自分を弁護することができません。もし神様が人間なら、同じ立場で話し合えるでしょう。 おまけに、私たちの間には仲裁人がいません。仲を取り持つ者がいないのです。３４これ以上、神様の刑罰の恐ろしさにおびえなくてすむよう、私を打ちたたくのを控えてください。　３５そうすれば、遠慮なくお話しし、身の潔白を大胆に主張できるのです。
一〇
１　あーあ、もう生きるのはうんざりだ。　頼むから、思いっきりうっぷんを晴らさせてくれ。　積もる恨みつらみをぶちまけ、　２神様にこう言おう。　むやみやたらと責めるだけでなく、なぜそうするのか、わけを聞かせてください。　３私を造ったのは神様です。その私をしいたげ、さげすみ、一方では悪人にいい目を見させることが、正しいことでしょうか。　４‐７神様も、人間と同じように不公平なのですか。　神様の寿命はあまりにも短いので、私の無罪を十分に知りながら、ありもしない罪をとがめようとあせり、私を追いかけ回すのですか。　それとも、だれも御手から私を救い出せないのを承知の上で、このようにしているのですか。
８　神様は私を造っておきながら、今になって滅ぼそうとなさいます。9お願いです。　私がちりで造られたことを思い出してください。こんなにも早く、私をちりに逆戻りさせるのですか。　１０神様は私を牛乳のように、びんからびんへと移し替え、チーズのように固めました。　１１神様は私の体を、皮や肉、骨や筋でお造りになり、　１２いのちを与え、恵みと愛を注いでくださいました。　神様のいつくしみがあったからこそ、私はきょうまで生き長らえたのです。
１３１４ところが、神様のほんとうのねらいは、もし私が罪を犯したら断じて赦さず、容赦なく滅ぼすことにあったのです。　１５ほんのちょっとした落度があるだけで、たちまちお払い箱です。　たとい私が正しくても、そんなことは何の足しにもなりません。　いったいどうすればいいのですか。　１６立ち上がろうとすると、神様はライオンのように襲いかかり、とどめを刺します。　１７次々と不利な証言を突きつけ、いよいよ激しく憤り、新たな手勢をくり出し、これでもか、これでもかと攻め立てます。
１８　こんな事をなさるくらいなら、なぜ、私を生まれさせたのですか。なぜ、生まれるとすぐ殺さなかったのですか。　１９そうすれば、私は母の胎から墓へと直行し、こんな悲惨な目に会わなくてすんだのです。　２０２１私の寿命が残りわずかであることが、おわかりにならないのですか。 二度と帰らぬ旅路につき、暗やみと死の陰の国へ行く前に、しばらく私をそっとしておき、つかの間の安らぎを味わわせてください。　２２私が行こうとしているのは、真夜中のように暗い国です。 渾沌としていて、最も明るい光でさえ、

真夜中の闇のように暗い場所なのです。」
一一
１　ナアマ人ツォファルのヨブへの返事。
２　「そんなにまくし立てたら、だれだって、ひと言いいたくなるさ。ことば数が多ければ、潔白だってもんじゃないぞ。　３あんたが大きな口をきいている間中、黙って聞いていなければならんのか。　冗談じゃない。　あんたが神様を欺くんだったら、恥ずかしい思いをさせなきゃならん。　４神様の目から見ても、自分は純粋だと？　５神様がご自分の考えを、あんたに知らせてくださったらいいんだ。　６あんたが自分のほんとうの姿に気づくようにな。　神様には、何もかもお見通しだ。　あんたが当然うける罰の量を、神様は、うんと減らしておられるのだ。
７　あんたは神様の思いと目的を知っているか。 どんなに時間をかけて調べたところで、わかるまい。　全能者をさばく資格なんかないのだからな。　８神様は、天が地よりも高いように、想像もできないほどきよい方だ。　いったい、あんたは何様のつもりか。　神様の思いは底知れず深い。　それに比べ、あんたの知識はどれほどだというのか。　９神様の知識は大地より広く、海より大きい。　１０神様がいきなり割り込んでだれかを逮捕し、法廷を開いたとしても、だれが制止できよう。　１１神様は、人間の欠点を一つ残らずご存じで、別に目を光らせなくても、すべての罪を見抜くのだ。
１２　野ろばの子が人間として生まれないように、人間が賢くなることなどありえない。
１３１４神様の方を向き、手を差し伸べる前に、まず自分の罪を除き去り、いっさいの悪から遠ざかるべきだ。　１５そうしてはじめて、罪のしみもなく、胸を張って神様に近づける。　１６そうなれば、悲惨な境遇も忘れられる。　みな過去のものとなるからだ。　１７しかも、あんたの一生は雲一つない快晴のようになる。　暗さがあっても、それは朝のようにまばゆく輝く。
１８　望みがわき、勇気があふれる。　ゆったりとくつろぎ、安らかに休息する。　１９安心しきって横になることもできる。　多くの人があんたの助けを求めて集まる。　２０だが、悪人は逃げ場を失い、死を待つだけだ。」
一二
１　ヨブの返事。
２　「あんたが博学で、何でもご存じだってことは、よくわかった。だがな、そんな知恵なんか、あんたといっしょに滅んでしまえ。　３あんたも、わしと似たりよったりさ。　それくらいのことは、だれだって知っているよ。　４わしは、神様に助けを願い、じきじきに答えていただいたこともあるのに、今は人の笑い草になってしまった。　品行方正なわしが、物笑いの種とはな。　５その一方では、金持ちどもが、難儀している者をあざけり、困っている者を目ざとく見つけてばかにする。　６物取りは栄えるものだ。　さあ、かまうことはないから、神様を怒らせてみたらどうだ。　別に罰があたるわけでもあるまい。それでも神様は、必要なものはぜんぶ下さるだろうよ。

７－９神様がどうしようもないわからず屋だってことぐらい、だれでも知っている。　犬畜生でも、それぐらいのことは知っている。　鳥に聞いてみろ。　そうだと答えてくれる。地と、海の魚に教えてもらえ。　同じ答えが返ってくるさ。　１０すべての生き物のいのちと、すべての人間の息とは、共に神様の御手のうちにあるからだ。　１１舌が、うまいかまずいかを区別するように、思考力は、耳に入ることばが本当かうそかを聞き分ける。１２お説のとおり、わしのような老人には知恵と分別がある。　１３だが、本物の知恵と力は神様だけのものだ。ただ神様だけが、わしらのなすべきことをご存じだ。　何といっても、神様には思慮がある。
１４　おまけに、神様の力ときたらどうだ。　神様がこわしたものは、二度と建て直せない。　神様に追い詰められたら、観念するしかない。１５神様が雨を引き止めると、地は砂漠となり、嵐を送ると、水浸しになる。　１６このように、力と知恵は神様のものだ。欺く者も欺かれる者も、共に神様の奴隷であることに変わりはない。
１７　神様は助言者と裁判官をなぶりものにする。　１８王を奴隷の身分に落とし、その召使たちを自由の身にする。　１９祭司は奴隷のように売られていく。　神様は権力者を落ちぶれさせる。　２０雄弁家からは声を、長老からは見識を奪い取る。　２１君主をさげすみ、勇士を腰抜けにする。　２２やみを光の洪水とし、死の暗い陰さえ明るくする。２３国を興したかと思うと、滅ぼし、大国にしたかと思うと、没落させる。　２４２５王の分別を取り去り、道案内の明かりもないまま、手探りでやみの中をさまよわせる。
一三
１　あんたが引き合いに出したような例は、山ほど見てきたさ。　言いたいことはよくわかる。　２わしはばかじゃない。　あんたと同じくらい道理はわきまえているつもりだ。３ああ、全能者とじかに話してみたい。　この問題を直接、話し合ってみたい。　４あんたたちは、まるでわしを誤解している。　藪医者もいいとこだ。　５頼むから、黙っててくれ。　それが最高の知恵というものだ。
６　さあ、聞いてくれ。　わしの考えの背景にある道理と、わしの訴えに耳を貸してくれ。
７　神様は一度だって、あんたたちの言っているようなことを口になさらないのに、それでもなお、神の代弁者面をするつもりか。　８真理を曲げるような、あんたたちの助けを、神様は求めるだろうか。９化けの皮がはがれないように、注意することだ。　それとも、人間同様、神様も手玉にとれると考えているのか。　１０とんでもないことだ！　神様をだしにして嘘偽りを並べ立てると、うんと油を絞られるぞ。　１１ほんとうなら、神様の威厳はあんたたちを恐れさせるはずだ。だから、そんなことができるはずはない。　１２せっかくだが、これまでのご託宣は、灰ひと握りの値打もない。　あんたたちは神様を弁護しているつもりだろうが、そんなものは土器のようにもろい。
１３　余計な口出しはしないで、ほっといてくれ。　わしにしゃべらせてくれ。　結果はどう出ようと、わしが責任をとる。　１４こうなったら、いのちを賭けてもいい。　思っていることを洗いざらいしゃべろう。　１５そのために神様に殺されるなら、それでもい

い。　たとい殺されても、やめるものか。　１６わしが信者なので、神様の前から即刻立ち退きを命ぜられないことが、せめてもの頼みの綱だ。　１７耳の穴をほじって、最後まで聞いてくれ。
１８　わしが正しいことはわかっている。　これがわしの言い分だ。１９このことでわしと議論できる者がいるか。　もし、あんたたちがわしのまちがいを証明できたら、わしは自分の弁護をやめ、いさぎよく死んでみせる。
２０　ああ神様、お願いです。　二つのことだけはしないでください。そうすれば、私は神様と顔を合わせることができます。　２１私を見捨てないでください。　こわい顔をして、私をおびえさせないでください。　２２そばへ来い、と声をかけてくだされば、すぐにも飛んで行きます。　でなければ、私の質問に答えてください。　２３私がどんな悪いことをしたか教えてください。　どこがいけないのか、はっきり示してください。　２４なぜ横を向いて、私を敵の手に渡すのですか。２５風が吹き飛ばした葉を目くじら立てて責めるのですか。　かわいた役立たずのわらを、なぜ目の色を変えて追い回すのですか。
２６　神様は、私を痛烈に批判し、若いころのあやまちを一つ残らずあばき立てる。　２７２８私を牢獄にぶち込み、四方が壁のへやに閉じ込める。　私は朽ち木のようになり、しみに食われた着物のようになる。
一四
１　人はなんともろいものか。　人生はなんと短く、苦しみに満ちていることか。　２人は花のように咲いても、みるみるしおれ、通り過ぎる雲の影のように、あっという間に消え失せる。　３神様は、このようにはかない人間をきびしく責め、あくまで白黒をつけようというのですか。　４生まれつき汚れている者に、どうしてきよさを求めることができましょう。　５神様は人間に、ほんのわずかな人生の枠組みを与えました。　それは月単位ではかる日数で、それ以上は、たとい一分一秒でも延びません。　６だから、つかの間の休息を与えてください。　怒りに燃える目をそらし、死ぬ前に、ほんのちょっとでも息を入れさせてください。
７　木には望みがある。　切り倒されても芽を出し、やわらかな新しい枝を張る。　８９たとい根が老化し、根株が枯れても、水さえあれば、新しい苗木のように芽を吹き、枝を出す。　１０だが、人は違う。死んで葬られると、その霊魂はどこへ行くだろうか。　１１１２水が湖から蒸発し、日照りの時に川が干上がるように、人は地に伏すと、永久に立ち上がらない。　目も覚まさず、眠りから起きることもない。１３私を死人のいる所に隠し、神様の怒りが過ぎるまで忘れ、ずっとあとになって、思い出してくださるとよいのに！
１４　人は死んでも生き返るかもしれない。　私はそのことに望みをかけているのです。それで、苦しみながらも、ひたすら死を待ち望むのです！　１５私を呼んでください。　いつでもみもとへ参ります。 神様は私のしたことに、ことごとく報いてくださるでしょう。
１６ところが今、案に相違して、神様は私にあとわずかしか生きることを許さず、しかも、すべてのあやまちに目を留め、　１７それを束にし、証拠として私に突きつけます。

１８１９山はすり減ってなくなり、水は石をうがって砂にし、大水は土砂を押し流す。　そのように、人のすべての望みは絶える。　２０２１神様はいつまでも人を打ち負かすので、ついに人は舞台から姿を消します。　神様は人をしわだらけの老人とし、遠くへ追いやります。　だから、自分の子供たちが尊敬されようが、世渡りに失敗し、災難に会おうが、人にはわかりません。　２２知っていることは、ただ悲しみと痛みだけです。」
一五
１　テマン人エリファズの返事。
２　「あんたはりこう者のはずだったのに、愚にもつかぬことばかり言うんだな。　まるで中身がないじゃないか。　３そんなに屁理屈を並べるのはよせ。　言って何になる。　４５神様を恐れ、敬う気持ちがないのか。　そんなことを言うのも、あんたの罪のせいだ。　どんなうまいことを言ったって、偽りは偽りだ。　６罪人呼ばわりされるのが不満らしいが、それもこれも、みなあんたが悪いんじゃないか。
７８それとも何か？　あんたは人間の中で、いちばんの知恵者だとでも思ってるのか。　うぬぼれるのも、いいかげんにしろ！　丘が造られる前に生まれ、神様の秘密会談に出たことがあるか。　神様の相談役にでも選ばれているのか。　それとも、知恵をひとり占めにしているのか。　９わしらより物知りだというのか。　あんたに理解できて、わしらに理解できないことがあるだろうか。　１０中には、あんたの父親より年輩の者だっているというのに。　１１神様の慰めなど、あんたには取るに足りないものなのか。　神様のやさしさは、むしろ、あんたの気持ちを逆なでするのか。
１２　あんたは腹立ちのあまり理性を失い、目をぎらつかせている。　その態度は、いったい何だ。　１３しかも、神様に言うまじきことを言いまくる。　１４あんたの言うような純粋で完全な人間が、この地上にいるだろうか。　１５神様は、御使いでさえ信頼しないではないか！　天でさえ、神様と比べたらきよくない。　１６堕落して罪深く、海綿が水を吸うように罪をのみ込むあんたのような人間は、なおさらだ。
１７‐１９よく聞け。　わしは経験から言っている。　建国者である先祖からじかに聞いた聡明な人たちが、経験によって確かめた知恵を、わしは譲り受けたのだ。
２０　悪者は一生の間、のべつ幕なしに苦しむ。　２１身の毛のよだつようなことに囲まれ、穏やかな日があっても、すぐさま過ぎ去る。　２２殺されるのがこわくて、暗がりに出て行けない。　２３２４乞食に落ちぶれ、さまよい歩くが、毎日びくびくしながら、苦しみ悩んで生活する。　王が敵を破るように、彼の敵は彼を滅ぼす。　２５２６彼はブリキの盾をとって、神に向かってこぶしを振り、全能者にいどみ、おこがましくも攻撃をしかける。
２７２８悪の張本人は脂肪太りで金回りがよく、攻め取った町の住民を殺して、そこに住んでいた。　２９だが、金はいつまでもあるわけではない。　そんな財産は長持ちしない。　３０暗やみが永久に彼を包み込む。　神の息が彼を滅ぼし、炎が彼の持ち物ぜんぶを焼き尽くす。

３１　これ以上、むなしい富をあてにするな。　自分を欺いてはいけない。　金をあてにすれば、ほかに報いはないからだ。　３２彼は生きているうちに、不幸にみまわれる。　頼りにしていたものはみな姿を消し、　３３しなびたぶどうのように地面に落ちる。　こうして、彼がもくろんできたことは、計画倒れに終わる。　３４神を信じない者には実りがなく、一つとして良いものを生み出さない。　神の火が、持ち物もろとも彼らを焼き滅ぼす。　３５彼らがはらむものは罪だけで、彼らの心は悪を生み落とす。」
一六
１　ヨブの返事。
２　「そんなことぐらい先刻ご承知さ。　そろいもそろって、たいした慰め役だな。　３ばかばかしい。　いつになったら、やめるんだ。いったい、わしが何を言った？　そんなにまくし立てなくてもいいじゃないか。　４とはいっても、立場が逆だったら、わしも同じようなお説教をしていたかもしれんがね。　あきれ果て、痛烈な批判を浴びせかけていただろうよ。　５いや、そんなことは、天地がひっくり返ってもしないぞ。　わしなら、励ましになることを話すはずだ。　あんたたちの悲しみを和らげようと、一生懸命になるはずだ。
６　だが、わしがどれほど自分を弁護したところで、悲しみは消えるもんじゃない。　だからといって、口をつぐんでいても、何の足しにもならない。　７神様がわしを押しつぶし、家族を取り上げたからだ。８ああ神様。　あなたは私を骨と皮ばかりになさいました。ここにいる連中は、私が罪を犯した証拠だと責めます。　９神様は私を憎み、怒りにまかせて私の体を引き裂きます。　私に向かって歯ぎしりし、少しでも生きている気配があったら踏みにじろうと身構えるのです。　１０ここにいる自称なぐさめ役どもは、私を丸のみにしようと口を大きく開けています。　敵はいっせいに攻撃をしかけます。　１１しかも神様は、私を罪人どもの手に渡し、悪者の餌食にしたのです。
１２　神様がわしをずたずたにするまでは、平穏無事な生活を送っていたのだ。　ところが神様は、わしの首をつかまえ、打ちつけて粉々にし、おまけに吊るし上げて的にした。１３わしを取り巻く射手たちが、容赦なく矢を射込んだので、傷口から流れ出る血で地はしめった。１４神様はたたみかけるように攻撃し、巨人のように襲いかかる。　１５あげくの果てに、わしはこうして荒布をまとって座り込み、いっさいの望みをちりの中に埋めた。　１６泣きはらして目は赤くなり、まぶたには死の陰がただよう。
１７　だが、引っ込まないぞ。　だれが何と言おうと、わしは潔白で、わしの祈りは純粋だ。　１８大地よ、わしの血を吸わないでくれ。　わしのために大声で抗議してくれ。
１９　今でも天には、わしの身の潔白を証明するお方がいる。　わしの弁護人は高い所にいる。　２０友人たちはわしをあざける。　だがわしは、神様の前で涙を流す。　２１人が友のためにとりなすように、その方に、わしと神様との間に立っていただきたい。　２２わしはもうじき、二度と帰ることのない旅路につくのだから。
一七

１　わしの病気は重く、死の一歩手前だ。　墓は口を開いてわしを迎える。　２あざける者がわしを取り巻く。　右を見ても左を見ても、彼らの姿が目につく。　３４わしの潔白を証明してくれる者は、どこにもいないのか。　ああ神様、だれも私を理解しないように仕向けたのは、あなたです。　だから、お願いします。　彼らが勝ち誇らないようにしてください。　５わいろをもらって友人を告発するような者の子供たちは、盲になります。
６　神様はわしを物笑いの種にした。　連中はわしの顔につばを吐く。７あまりの情けなさに、目は涙にかすむ。　今のわしは昔の影にすぎない。　８公平な見方をする人がいたら、わしを見て目を丸くするだろう。
しかし最後には、潔白な人は不信心な者を抜いて先頭に立つ。９正しい人は躍進を続け、心のきよい人はいっそう力を増し加える。
１０　みんな、頼むから帰ってくれ。　だれも、わかっちゃいないんだ。１１わしの古き良き時代は終わった。　希望は失せ、夢は破れた。　１２夜を昼、昼を夜だと人は言う。とんでもない錯覚だ！
１３１４死ねば、暗やみの中に入り、墓をわが父と、うじをわが母、わが姉妹と呼ぶ。　１５そうなったら、わしの望みはどうなるのだ。　だれが、望みを見つけてくれるのか。　１６それは、わしとともに墓に下る。ちりの中で共に憩うようになるのだ！」
一八
１　シュアハ人ビルダデの二度目の返事。
２「気でも狂れたのか。　助言してほしかったら、少しは筋の通ったことを言うものだ！３それじゃあまるで、わしらが、とんまで物言わぬ獣みたいじゃないか。　４あんたが怒って着物を裂いただけで、地震が起こり、わしらは逃げ隠れするとでも思っているのか。
５　あんたが繁栄しなかったとしたら、それはあんたが悪人だったからだ。　炎が消えて当然だ。　６悪の居座る家には暗やみがつきものだからな。
７　悪人は肩で風を切って歩くが、急に足もとが危うくなり、全身の力が抜けていくのがわかる。　８９彼は落とし穴に落ち、待ち伏せしていた追いはぎの餌食になる。　１０どこを通っても、罠がしかけてある。　１１敵が、すぐあとをつけているのだから、彼がこわがるのもむりはない。
１２　飢えのために消耗した彼を、災難が待ちかまえている。　１３病気が皮膚をむしばみ、死が彼をむさぼり食う。　１４日ごろ頼りにしていた富にもそっぽを向かれ、恐怖の王のもとへ引き立てられる。　１５家も、燃える硫黄の集中攻撃を浴びて姿をかき消す。１６彼は根元から枯れ、枝は一本残らず切り取られる。
１７　彼の記憶は地上から一掃され、彼を覚えている者は一人もいなくなる。　１８彼は光の国から闇の国へと追いやられ、この世から強制立ち退きを命じられる。　１９子も孫も親類縁者もいなくなる。　２０老人も若者も、彼の運命を知ってぞっとする。　２１これが、神を信じない罪人の行き着く先だ。」
一九

１　ヨブの返事。
２　「いつまで、あんたたちはわしを悩ませ、こけおどしの論法で言いくるめようとするのか。　３もう十回も、わしが罪人だときめつけた。　そんなに容赦なくわしを手玉に取って、恥ずかしいと思わんのか。　４わしが悪いとしても、まだその事実を証明していないぞ。　５何もかもお見通しだと思っているらしいが、それなら、わしの落度を証明したらどうだ！
６　いま言えることは、神様がわしを押し倒し、網で生け捕りにしたということだ。　７必死に助けを求めても、だれも相手にしてくれない。　声を限りに叫んでも、人間扱いしてもらえない。　８神様はわしの道を遮断し、光を闇に変えた。　９わしの栄光をはぎ取り、冠を取り上げた。　１０わしはとことんまで打ちのめされ、虫の息だ。　もうおしまいだ。　１１神様はわしを敵視し、わしに向かって怒りを燃やす。　１２神様の送った軍勢は、わしのテントを十重二十重に囲む。
１３　神様は兄弟や友人たちまで遠ざけた。　１４親族はわしを裏切り、友人もわしを見捨てた。　１５家の者は、召使でさえ、わしを赤の他人のように扱う。　わしは外国人と変わりない。　１６召使を呼んでも来ず、手をついて頼むしまつだ！　１７妻や兄弟も、まるで知らん顔だ。　１８年端もゆかぬ子供までが、ばかにする。　起き上がって話しかけようとすると、あざけり笑う。
１９　親友はわしを毛虫のように嫌い、手塩にかけてきた人たちも背いた。　２０わしは骨と皮ばかりになり、かろうじて助かったのだ。
２１　お願いだ。　神様の怒りの手で打たれた、わしの身にもなってくれ。　２２神様と同じように、わしをいじめないでくれ。　これだけわしの悩みを見れば、満足だろうが。
２３２４ああ、わしの訴えを鉄のペンで岩に書きつけ、いつまでも残せたらなあ。
２５　だが、わしは知っている。　わしを救うお方は生きておられ、ついには地上に降り立つのだ。　２６この肉体が朽ち果てたのち、わしは新しい肉体で神様を見る。　２７その時、神様はわしの味方になってくださるはずだ！　そうだ、その時わしの目に映る神様は、見も知らぬお方ではなく、親しい友人であるはずだ！　ああ、なんとすばらしい希望だろう。
２８　だのにあんたたちは、わしの刑があたかも確定したかのように、臆面もなくわしを責め立てる。　２９いいか、警告しておくぞ。　そんな態度をとっていれば、あんたたちも罰せられることを忘れるな。」
二〇
１　ナアマ人ツォファルの演説。
２　「もう我慢できん。　どうしてもあんたに言ってやりたいことがある。　３罪人呼ばわりされた腹いせに、わしに恥をかかせるつもりか。　そうなりゃ、こっちだって黙っていないぞ。
４　あんたにもわかっているはずだ。　この地上に人が住むようになって以来、　５悪者

が勝ち誇るのはつかの間で、不信心な者の喜びは一夜の夢だ。　６たとい、連中が思い上がり、肩をいからせて歩いても、　７糞のようにつまみ捨てられ、永久に滅びる。　彼を知る人たちは、どこへ行ったのかといぶかる。　８彼は幻のように消え失せ、９友人も家族も、二度とその姿を見ることはない。
１０　子供たちは貧乏人に物乞いし、やっとの思いで負債を埋め合わせる。　１１たとい彼がまだ若くても、その骨はちりに横たわる。
１２　彼は悪の楽しみを覚え、それを口の中でとかし、　１３ゆっくり味わいながら、少しずつ飲みくだす。
１４　ところが、それは突然、腹の中で苦くなる。　１５たらふく食べた利得も、吐き出さなければならない。　彼が食べた物を消化するのを、神様はお許しにならないのだ。　１６それは彼を殺す毒となる。　１７盗品を自分のものにして財産をふやすことはできない。　１８労苦は報いられず、富も喜びを与えない。　１９貧しい者を虐待し、彼らの家を差し押さえたからだ。　彼が元どおりになることはありえない。　２０彼の目はいつも貪欲に燃えていたが、今はすっかり貧乏になり、彼の夢見てきたものは、みな飛び去った。　２１彼は機会あるごとに盗みを働いたので、その財産はすぐになくなる。
２２　大臣風を吹かしている彼を、いきなり災難が襲う。　不幸な人たちは、寄ってたかって彼を食い物にする。　２３彼が腹いっぱいになる寸前に、神様の怒りが下る。　２４彼は追われ、ついに射止められる。２５矢を抜くと、光る矢尻が胆のうから出てくる。　彼は断末魔の苦しみで顔をゆがめる。
２６　彼の宝は暗やみの中に隠される。　燃えさかる炎が彼の持ち物をなめ、遺産をすべて焼き尽くす。　２７天は彼の罪をあばき、地は不利な証言を並べ立てる。　２８神様の怒りの前には、富も役に立たない。ただ踏みにじられてなくなるばかりだ。　２９これが悪者を待ち受ける運命だ。　神様がそのようにする。」
二一
１　ヨブの返事。
２３「わしの言い分をよく聞け。　とにかく、しゃべらせてくれ。　そのあとで、好きなだけあざけるがいいさ。
４　人はどうでもいい。　わしは神様に文句があるんだ。　こんな状態じゃ、悩むのが当然だろう。　５まともにわしを見ろ。　どうだ、こわいか。　こわかったら、手を口にあてるがいい。　６わしでさえ、自分の姿を見ると恐ろしくなって身震いする。
７　ほんとうのところ、悪者は天寿を全うし、名をあげ、羽振りをきかせている。　８連中は子供が成長するまで長生きし、おまけに孫の顔まで見る。　９家庭の心配事など一つもなく、平和そのものだ。　しかも、神様は彼らを罰しない。　１０家畜もどんどん増える。　１１快活な子供たちにも恵まれる。　１２１３毎日、歌と踊りで明け暮れ、財産家となり、倹約などどこ吹く風で、死ぬまで栄える。　１４神様を追い出し、神様にかかわるのはまっぴらごめんだと思っているのに、こうなる。

１５　彼らは大きな口をたたく。『全能の神様だって？　いったいだれのことだい。　だいたい、なぜ神様なんかに従わなきゃならんのかね。　たいしたご利益もないのに。』
１６　悪者がさわった物は、何もかも金になる！　だが、そんな連中の顔など見たくもない。　１７悪者は何をしてもうまくいく。　一度だって災いに会わず、神様が悲しみ、怒る時には､彼らだけがお目こぼしにあずかる。　１８風が彼らをわらのように吹き飛ばし、嵐が運び去るだと？　とんでもない。　彼らはびくともしないではないか。
１９　『だが神様は、少なくとも彼らの子供を罰する』と言うのか。　しかし、わしは納得できない。　罪を犯した当人を罰すべきで、子供は問題外だ！　当人が身をもって、刑罰の痛みを思い知るべきではないか。　２０自分が悪くて滅びを招いたのだから、全能者の怒りを、はらわたにしみるまで飲むべきだ。　２１死ねば、二度と団らんを楽しむこともできない。
２２　とはいえ、だれが、裁判長である神様に異議を申し立てることができようか。　２３２４神様は健康な者、富んでいる者、太っている者、栄えている者を滅ぼす。　２５一方では、生まれて一度もいい目を見たことのない貧乏人をも滅ぼす。　２６どちらも、同じちりの中に埋められ、同じようにうじの餌食になる。
２７　あんたたちの言わんとすることはわかっている。　２８きっと、罪のために災いを招いた､金持ちの悪者を引き合いに出すことだろうよ。２９だが､手近な人に尋ねてみろ。３０‐３２悪者はたいてい災いの日に命拾いし､逃げのびる､と答えるに決まっているさ。だれも面と向かって彼を責めず、報復もしない。　それればかりか、警備員が彼の墓を見張る。　３３盛大な葬儀の行列が続き、やわらかい土が彼をおおう。３４いいかげんな前提のもとに話をされたって、慰めにも何にもなりはしない。」
二二
１　エリファズの再度の演説。
２　「人は少しでも神様の役に立つだろうか。　最高の知恵者でさえ、自分の役に立つだけだ。　３あんたが正しいからといって、全能者は喜ぶだろうか。　あんたが完全だからといって、神様の得になるだろうか。　４罰を受けているのは、あんたが正しいからだろうか。　５とんでもない。　悪いからこそ、罰せられるのだ。　あんたの罪は底なしの沼だ！
６　あんたは、着ている物をぜんぶ質草に取らなければ、困っている友人に金を貸さなかったのだろう。　そうだとも、彼らの骨までしゃぶったに違いない。　７のどが渇いている者に水を飲ませず、飢えている者にパンを与えなかったに違いない。　８ところが、権力者には欲しい物は何でもくれてやり、金持ちには好きな所に住まわせた。　９気の毒な未亡人を手ぶらで追い返し、みなしごの腕をへし折った。　１０１１だから今、突然の恐れに取りつかれ、暗やみと戦慄の波にのまれるのだ。
１２　神様は、天や星より高い所にいる偉大なお方だ。　１３ところが、あんたは言う。『だから神様は、わしのしていることが見えないのだ。　暗やみごしに、正しいさばきな

んかできやしない。　１４黒雲に取り巻かれて、神様には何も見えやしないんだ。　神様は、はるかかなたの空の上を、のんびり散歩しているだけさ。』
１５１６昔ながらの罪の道を歩いている者は若死にし、その人生の土台は押し流されることが、わからないのか。　１７そんな連中は神様に言った。　『神様、じゃまだからどいてくれ！　あんたがいたって、何の役にも立ちゃしない。』　１８わしだったら、口が裂けてもこんなことは言わない。　彼らは、神様が良い物をいっぱい下さったことを忘れている。　１９そこで今度は、正しい者が悪者の滅びるのを眺める番だ。　潔白な者は悪者をあざけり笑う。　２０彼らは口々に言う。　『見ろよ。　敵の最後の一人が火で滅ぼされたぞ。』
２１　神様に口答えするのはよしたまえ！　いさぎよく仲直りしろよ。　そうしたら、気が楽になるぞ。　まちがっていたことを素直に認めれば、神様のいつくしみがある。　２２神様の教えに耳を傾け、それを心にたくわえろ。　２３神様に立ち返り、いっさいの悪を閉め出せば、元どおり栄える。　２４金銭欲を断ち切り、取っておきの黄金を捨てれば、２５全能者があんたの宝となり、神様が貴重な銀となるのだ。
２６　その時、あんたは神様の恵みを感じて喜び、神様を見上げる。２７祈れば答えがあるので、あんたは神様への約束をみな果たすようになる。　２８望むことはすべて実現し、あんたの進む道には天の光がさす。　２９たとい攻撃され、打ち倒されても、必ずまた高い地位に返り咲く。　神様は謙そんな者を救い、　３０あんたのきよい手で、罪人をさえ助けるのだ。」
二三
１　ヨブの返事。
２　「きょうは、ふんまんやる方ない。　いくらなんでも罰がきびしすぎる。　３どこで会えるかがわかれば、さっそく御座へ行って神様と談判できるのだが。　４５こちらの言い分を何もかも話した上で、神様の返事を聞き、何がお望みか理解したい。　６偉大な神様が、わしを鼻先であしらうだろうか。　むしろ、わしの言うことを聞いて同情するに違いない。　７正直で公平な者だけが神様と論じ合うことが許され、裁判官である神様によって無罪放免となる。
８　ところが、いくら神様を探してもむだだ。　あちこち尋ねても見つからない。　９北へ行っても見あたらず、南に向きを変えても、神様は姿をくらます。　１０だが神様は、わしの身に起こった一部始終をご存じだ。　調べてもらえばわかる。　神様は、わしが完全に潔白であると認めるはずだ。　そうだ、純金のように混じり気がないとな。
１１　わしは神様の道から離れず、神様にくっついてきた。　一歩だって脇道にそれたことはない。　１２神様の命令は三度の食事以上の楽しみだった。　１３とはいえ、神様のおこころが変わるはずはない。　神様の決めたことは、だれにもくつがえせない。　神様は、望みどおりのことを意のままに行なうからだ。　１４わしのことも、決めたとおり全部なさるだろう。　これからも、もっと多くの災いが降りかかるはずだ。

１５　だから、わしはこわくてたまらない。　先のことを思うと、震えが止まらない。　１６１７すっかり弱気になってしまった。　全能の神様は、一面の闇でわしを脅かす。　右を見ても左を見ても、一寸先もわからない闇だ。
二四
１　なぜ、神様は法廷を開いて、わしの訴えを聞いてくれないのか。　なぜ、信心深い者が待ちぼうけをくうのか。　２犯罪はうなぎ上りで、地境は移され、羊の群れは盗まれ、３貧乏人やみなしごのろばまで奪われているではないか。 その日暮らしの未亡人たちは、担保に入れたわずかの物さえ取り立てられる。　４生活に困っている者は蹴倒され、すごすごと引き下がる。　５貧乏人は、野ろばのように、足を棒にして一日分の食いぶちをあさる。　子供の食べる物を捜しに、荒野にまで出かける。　６彼らは野生のものを口に入れ、悪者のぶどう畑の取り残しにさえ手を出す。　７寒中でも、着る物も上にかける物もないままで夜を過ごす。　８山でにわか雨に会ってずぶ濡れになり、住む家もないので洞窟の中で生活する。
９　悪者は父なし子を母親の乳房からもぎ取り、貧乏人に金や穀物を貸す前に、まずその赤ん坊を質草として取る。　１０だから貧乏人は着物もなく、裸で歩き回り、すきっ腹をかかえて他人の食糧をかつぐ。　１１オリーブ油を絞りながらも味見できず、ぶどうの実を踏みながらも、のどの渇きを訴える。　１２町の中から瀕死の病人のうめきが起こり、傷ついた者は助けを求めて叫ぶ。　しかし、神様は彼らの嘆きに耳を貸さない。
１３　悪者は光に反抗し、正義と善になじまない。　１４１５彼らは人殺しだ。　夜明けとともに起き、生活に追われる者を殺す。 夜になると盗賊と姦通者に早変わりし、『だれにも気づかれない時がきたぞ』とほくそ笑み、夕暮れを待ち受ける。　正体を見破られないように覆面をつけ、　１６夜の闇にまぎれて家々に押し込み、昼間は高いびきをかく。こんなにも光と無縁の者なのだ。　１７彼らには暗い夜が朝で、彼らは暗黒の恐怖と手を結ぶ。
１８　だが、彼らはあっという間に地上から姿を消す。　その持ち物はのろわれ、子供に財産を残せない。　１９雪が日照りと暑さで跡形もなく消えるように、罪人は死ぬと影も形もなくなる。 ２０生みの親さえ彼らを忘れ、うじが寄ってたかって彼らを食い尽くす。二度と人の話題にのぼらない。 悪人は、もろに嵐を受けた木のようにへし折られる。 ２１頼りになる子供のいない者を食い物にし、その日暮らしの未亡人を助けなかったからだ。２２２３ところが、どうしたことだろう。 神様は金持ちを保護し、ほかの者は死ぬのに、彼らだけ長生きさせることがある。　彼らに自信と力を与え、何くれとなく面倒を見る。２４だが、今はわが世の春と思っていても、彼らもやはり、麦の穂のように刈り取られ、帰らぬ人となる。　２５だれが、そうでないと言えよう。　だれが、わしはうそつきだと証明し、わしの言うことはまちがいだときめつけられるだろうか。」
二五
１　シュアハ人ビルダデの三度目の返事。

２　「神様は権力のある、こわいお方だ。　神様は天で平和をつくる。　３だれに、雲霞のような御使いを数えることができよう。　神様の光は地をあまねく照らす。　４人は神様の前に立ち、自分は正しいと主張できようか。　胸を張って、自分は潔白だと言いきれる者は、広い天下にただの一人もいない。　５神様の栄光はあまりにもまばゆく、月や星でさえ比べることもできない。　６まして、神様の目からすればうじ虫にすぎない人間は、なおさらのことだ。」
二六
１　ヨブの返事。
２　「そろいもそろって、なんという連中だ。　困り果てているこのわしを、こんなにも励まし、助けてくれるとはなあ！　３思慮の足りないわしを、ご親切にも、いろいろ教え導いてくれた。　４だがな、そんな才知あふれる猿知恵をどうやって思いついたのか、ぜひとも伺いたいものだな。
５６死者は裸のまま神様の前で震えている。　７神様は虚空に天を張り、奈落の底の上に地球をつるす。　８神様は雨を厚い雲に包み込むが、雲は裂けない。　９また、雲で御座をおおい、　１０海の境界線を決め、昼と夜の境目を設けた。　１１神様がしかると、天の柱は大揺れにゆれる。　１２神様の力によって、海は鏡のような凪となる。　全く、神様は海の高ぶりを打ち砕く名人だ！　１３天は神の御霊によって美しく晴れ渡る。　神様はまた、素早くはって逃げる蛇を刺し殺す。
１４　こんなことは神様にすればほんの小手調べで、神様の力の序の口にすぎない。」
二七
１　ヨブの最後の弁解。
２　「わしの権利を奪い取った神様、わしのたましいを苦しめた全能者を指して誓う。　３生きている限り、息のある間は、　４わしは悪を語らず、うそを言わない。　５あんたたちの言い分が正しいとは、絶対に認めない。　最期の息を引き取るまで、身の潔白を主張し続けるぞ。　６わしが絶対に罪人でないことを、口がすっぱくなるまでくり返すぞ。　良心に恥じることは何もない。　７わしの主張に横槍を入れる者は、絶対に赦さん。　そんな悪魔のような連中は、わしの敵だ。
８　不信心な者は、神様にいのちを断たれる時、何の望みもなくなる。　９災難が降りかかって悲鳴をあげても、神様はそっぽを向く。　１０彼が全能者を心の喜びとせず、困ったとき以外は神様を心に留めないからだ。
１１　神様について教えてやろうか。　１２いや、その必要もあるまい。　あんたたちもわし同様、神様のことを知っているのだ。　それなのに、あんたたちは愚にもつかない御託を並べ立てる。
１３　悪者が全能者の手から受ける運命は決まっている。　１４たとい子だくさんでも、その子らは戦死するか、さもなくば飢え死にする。　１５生き残ったにしても、結局は病気で墓場行きだ。　しかも、だれも悲しんでくれない。　彼らの妻さえ嘆かない。

１６　金がうなるほどあり、たんすには衣装がぎっしり詰まっていて、　１７それが特別あつらえの物ばかりであっても、結局は正しい人がそれを身に着け、悪者の銀を山分けするようになる。　１８悪人の建てた家はくもの巣のようにもろく、ほったて小屋のように隙間だらけだ。
１９　寝る時は金持ちだが、朝、目を覚ますと財産がごっそりなくなっている。　２０彼は恐怖に打ちひしがれ、夜の間の嵐に吹き飛ばされる。　２１東風が彼を、永遠の世界へと運び去る。　２２神様は容赦なく彼に襲いかかり、彼は神様から逃げようと必死にもがく。　２３彼が死ぬと人々は手をたたき、軽べつの目で、彼を永遠の世界へと見送る。
二八
１　人は銀を掘り出し、金を精錬し、　２地から鉄をとり、石をとかして銅をとる。　３４暗やみに明かりをともして縦坑を掘り、地底の神秘を探る。　体にロープをゆわえ、死の陰におおわれた暗い穴の中に揺れ動きながら降りて行く。
５　人は地の表面で食べ物を捜すが、地の下では火が燃えている。
６　人はサファイヤや金のありかを知っている。　７これらの宝は、猛禽も見たことがなく、鷲の目に触れたこともない。　８鉱山のふところ深く眠っているからだ。　野獣もそれを踏んだことがなく、ライオンもその上に爪を立てたことがない。　９人は堅い岩を割り、山々をふもとからくつがえす。　１０岩山にトンネルを掘り、貴金属を露出させ、　１１川をせき止め、砂を洗って金をとる。
１２　こんなにも巧みに宝石を見つける人間も、どこで知恵と悟りを見つけ出したらよいかを知らない。　１３どのようにしてそれを手に入れるかわからない。　実を言えば、それは地上には見あたらないのだ。
１４　大洋は、『ここにはない』と言い、海は、『ここにもない』と答える。
１５　それは金や銀で買い取ることはできないし、　１６オフィルの金や高価なしまめのう、それにサファイヤを山と積んでも、譲ってもらえない。　１７知恵は金や高価なガラス細工よりはるかに価値がある。宝石をちりばめた純金の器でも交換できない。　１８さんごも水晶も、それと比べたら形なしだ。　ルビーの値段よりけたはずれに高い。１９エチオピヤのトパーズはもちろん、品質最高の純金をもってしても、それは手に入らない。
２０　知恵はどこへ行けば手に入るのか。　どこで見つかるのか。　２１それは全人類の目から隠されている。　空を飛ぶ、鋭い目をした鳥でさえ、見つけることはできない。
２２　だが滅びと死は、『知恵のことなら少しは知っている』と言う。　２３２４神様はもちろん、それがどこにあるかご存じだ。　地上をくまなく探し、天の下を余す所なく見つめるからだ。　２５神様は風を吹かせ、海の境を決める。　２６雨の法則をつくり、いなびかりの通り道を決める。　２７神様は知恵のありかを知っていて、耳を傾ける者にそれを伝授する。　そして吟味に吟味を重ね、それを確かなものとする。　２８さて、神様が全人類に言うことは、こうだ。　『神を恐れることがほんとうの知恵、悪を捨てることがほんとうの悟りだ。』」

二九
１　ヨブの弁解の続き。
２　「神様が目をかけてくださった昔がなつかしい。　３神様はわしの歩く道を照らしたので、暗やみの中を歩いても無事だった。　４まだ若かったころ、神様のあたたかい思いやりは、家の中でも感じられた。　５全能者はわしとともにいたし、子供たちも回りにいた。　６手がけることはみなうまくいき、岩でさえ、わしのためにオリーブ油を注ぎ出した！
７　あのころ、わしは町の門に行き、名誉長老の席に座った。　８青年たちはわしを見ると道をあけ、年寄りでさえ、わざわざ起立して敬意を表した。　９領主たちは立ったままおし黙り、手を口にあてた。　１０町の最高幹部は声をひそめた。　１１だれもがわしの言うことに聞き惚れ、わしをほめそやした。
１２　わしは曲がったことの大きらいな判事として、生活苦にあえぐ貧乏人や、身寄りのないみなしごを助けてきた。　１３死にかかっている者に救いの手を伸ばすと、彼らはわしを祝福した。　気の毒な未亡人には、喜びの歌をうたえるようにしてやった。　１４わしのすることはみな正しく、嘘偽りがなかった。　正義こそ、わしの衣だったのだ。　１５盲人には目となり、足なえには足となって仕えた。　１６貧しい者には父親のようになり、一面識もない者でも、公平な裁判が受けられるように面倒をみた。　１７神様など眼中にない無法者の牙を折り、口にくわえていた犠牲者を助け出した。
１８　そこで考えたものさ。　『きっと幸せいっぱいの長寿を全うし、たたみの上で大往生を遂げるだろう』とな。　１９わしのすることはみな栄え、畑は夜露でうるおった。　２０次々と名誉が与えられ、わしの手腕は日ごとにみがきをかけられ、さえわたった。　２１だれもがわしのことばに耳をすまし、わしの意見を尊重した。　人々はわしが発言するまで静粛そのものだった。　２２わしが話し終えると、それ以上何も言わなかった。　わしの助言が彼らをたんのうさせたからだ。　２３彼らは日照りの時に雨を待ちこがれる人のように、わしが語りだすのを、今や遅しと待ち受けた。　口をあけ、真剣そのものの表情で待った。　２４失意に沈んでいる時でも、わしが笑っただけで元気づき、明るさを取り戻した。　２５わしは彼らにどうすべきかを教えた。　また、指導者、閲兵式に臨む王、嘆く者を慰める者として、彼らに接した。
三〇
１　ところが、今はどうだ。　わしより若い連中が、わしをばかにする。　連中の父親は、わしの家の番犬にも劣るというのに。　２彼らには強力なうしろだてがある。　だがそれも、実際は張り子の虎にすぎない。　３彼らはききんで骨と皮になり、荒れ果てて陰気な不毛の地や砂漠に放り出される。　４５食べる物といえば木の根や葉ばかりの、人里離れた所へ追いやられる。　どろぼうか何かのように、人々は大声をあげて追い払う。　６足のすくむような谷の斜面、洞窟、岩場が、彼らの住みかとなる。　７やぶの中で獣のようにうめき、雨露をしのぐために、いら草の下に群がって体をすり寄せるのだ。　８この小

わっぱどもも能なしになった。　彼らは水呑み百姓の子、世間から爪はじきにされた者の子だ。
９　それなのにわしは今、彼らの下品な歌の材料となり、笑い草になった。　１０彼らはわしをさげすんで近寄らず、わしの顔に容赦なくつばを吐きかける。　１１神様がわしのいのちを危険にさらしたからだ。　若僧のくせに、わしに恥をかかせるだけじゃ足りず、今度はしたいほうだいのことを始めた。１２野次馬根性よろしく､わしの揚げ足をとり、行く手に罠をしかける。　１３わしの進む道をふさぎ、助ける者がだれもいないことを承知の上で、早く死ねとばかりに一気に攻め立てる。　１４四方八方から襲いかかり、倒れたわしを踏みつける。
１５　わしは今、恐ろしくてしかたがない。　こんな連中にまで軽べつされ、あれほどの繁栄も､強風に吹き払われる雲のように消えたのだ。１６これが嘆かずにおられようか。昼は昼で気分が滅入り、　１７夜になればなったで、何もかもが物憂く、骨がけずりとられるような痛みがひっきりなしに走る。　１８夜通し悶々として寝返りをうつが、着物がからまってじゃまをする。　１９神様はわしを泥に投げ込んだので、まるでちりや灰のようになってしまった。
２０　ああ神様、私がどんなに叫んでも、あなたはお答えになりません。　あなたの前に立っても、そっぽを向いたままです。　２１まるで血も涙もないかのように、本気で力まかせに私をいじめます。　２２私をつむじ風に乗せ、嵐の中で五体をばらばらにします。２３あなたが私を殺すつもりだということが、よくわかります。　２４倒れた者が手を伸ばし、災難に会った者が助けを呼び求めるように、私は、この責苦から解放してくださいとお願いしました。
２５　わしは、困っている人のために涙を流した。　生活に追われている人を見て、心から同情した。　２６だから当然、祝福がくるものと思っていたのだ。　ところが、きたのは災いだった。　光を望んだのに、暗やみがきた。　２７わしの心は騒ぎ、休みなくいらだつ。　２８２９悲しみのあまり太陽さえも見えない。　わしは立ち上がり、大ぜいの人に助けを呼び求めるが、ただの一人芝居に終わるだけだ。　わしは山犬の兄弟分とみなされ､だちょうの仲間と思われている。　３０病気のために皮膚は黒ずみ､むけ落ちた。　高熱のために骨は焼けるように痛む。　３１喜びと楽しみの歌は、今や嘆きの声となった。
三一
１　情欲をもって女性を見ないようにしよう。　わしは、そう自分の目と契約を結んだ。２３みだらな者に全能の神様が災いを下すことを知っているからだ。　４神様はわしの行動を何もかもお見通しだ。
５　わしが嘘をつき、人を欺いたことがあるだろうか。　６もちろん、神様はわしの潔白をご存じだ。　７８わしは、神様の道を踏みはずしたことも、目に入るものを貪ったこともない。　そのほかの罪についても、全く身に覚えがない。　もし少しでもやましい所があったら、わしが種をまいて育てた作物をほかの者が刈り取り、わしの植えた木がみな根

こそぎにされてもいい。
９　わしが人の妻を欲しがったことがあるなら、　１０殺されてもいい。　わしの妻が人の家に入り、その人が彼女の夫になってもいい。　１１情欲は恥ずべき罪、罰せられるべき犯罪、　１２何もかも焼き尽くす地獄の火だ。　それは、わしの植えたものをみな根こそぎにする。
１３　少しでも召使たちを不当にあしらったことがあったら、　１４神様をまともに見ることなんかできるわけがない。　神様にそのことを問いただされたら、何とも答えようがない。　１５神様はわしを造り、また召使たちをも造ったからだ。
１６　わしが貧しい人を傷つけ、未亡人を泣かせたことがあるだろうか。　１７腹をすかせた孤児に、食べ物を恵まなかったことがあるだろうか。　１８いつも、孤児を引き取って親身に世話し､わが子同様に育てた｡１９２０寒さにこごえている者に着る物を与えず、その人を暖めるために羊の毛を刈らなかったことがあるだろうか。　２１孤児をだしに使って、もうけたことがあるだろうか。　２２こんなことを一つでもしていたら、腕がつけ根からもぎ取られ、肩の骨がはずれてもかまわん！　２３こんなことをするくらいなら、世界でいちばん恐ろしい神様にさばかれるほうがましだ。　威厳のある神様を向こうに回したら、それこそ、一片の望みもなくなってしまう。
２４　わしは金を頼りにしたことがあるだろうか。　２５財産のあるなしを幸福の尺度にしたことがあるだろうか。　２６あるいは、空に輝く太陽を見、銀の道をそぞろ歩きする月を見て、　２７心ひそかに魅せられ、手を合わせて拝んだことがあるだろうか。　２８こんな行為も、裁判にかけて罰せられるべきだ。　わしがこんなことをしたのなら、天の神様を否定したことになるからだ。
２９　わしは、敵が苦しむのを見て喜んだことがあるだろうか。　３０人をのろったり、復讐したりしたことなど一度もない。　３１召使にすきっ腹をかかえさせたこともない。３２見知らぬ人でも追い返したりせず、だれが来ても気持ちよく迎え入れた。　３３わしは、アダムのように罪を隠したことがあるだろうか。　３４群衆におびえ、軽べつされることを恐れて､罪を認めようとせず､人の力になることをためらったことがあるだろうか。３５わしの言い分を聞き、わしの立場を理解してくれる者はいないのか。　だれが何と言おうと、わしは正しい。もし、まちがっていたら、それを全能者に指摘してもらいたいものだ。　敵の起訴状が正当であることを、全能者にぜひ認めてもらいたいものだ。　３６わしはそれを、冠のように大事にしまっておく。　３７それから、自分が何をしたかを、包み隠さず神様に打ち明け、堂々と自分の立場を弁護したい。
３８３９わしの田畑が、産物を盗んだ張本人としてわしを責めるなら、または、わしが小作人を殺して、彼らの収穫を奪い取ったことがあるなら、　４０小麦の代わりにいばらが生え、大麦の代わりに雑草がはびこるように｡」
ここでヨブの答弁は終わりました。
三二

１　三人の友人は、それ以上ヨブに答えるのをやめました。　彼が、自分は潔白だと言いはって一歩も譲らなかったからです。
２　このやりとりを聞いていた、ラム族のブズ人、バラクエルの子エリフは、腹を立てました。　ヨブが、罪を犯したことをいっこうに認めず、正当な理由があるからこそ、神様が彼を罰したのだということを、認めようとしなかったからです。　３彼はまた、ヨブの三人の友人にも腹を立てました。　ヨブの議論に満足な受け答えもできないくせに、彼を罪人呼ばわりしたからです。　４エリフは、自分の話す番がくるのを、しびれをきらして待っていました。　いちばん年下だったので、これまで遠慮していたのです。
５　ところが、三人が答えに詰まったのを見ると、この時とばかり、怒りに震えながら、６口を開きました。　「ぼくは若いし、皆さんは人生の大先輩だ。　だから遠慮して、今まで黙っていた。　７亀の甲より年の劫って言いますからね。　８９しかし、年をとれば必ずりこうになるってものじゃないんだ。　人を聡明にするのは、人のうちにある神の霊だ。　１０だから、しばらくぼくの言うことを聞いてもらいたい。
　１１１２ぼくはこれまで、じーっと皆さんの言い分を聞いてきた。ところが皆さんは、ヨブさんに罪を認めさせることも、彼が罪人であることを証明することもできなかった。
１３『人に罪を認めさせるのは神様だけだ』などと、言いわけしないでもらいたい。　１４ヨブさんが初めからぼくと議論していたら、ぼくは絶対、皆さんのような論法では答えなかった。
１５１６だれも答えることばもなく、途方にくれ、口をつぐんで座り込んでいるのに、それでも待ち続けるべきだろうか。　１７とんでもない。　ぼくだって、言うだけは言わせてもらう。　１８さっきから、言いたくてむずむずしているんだ。　１９密閉したぶどう酒のたるのように、ぼくの腹は、今にも張り裂けそうだ！　２０思いっきりうっぷんを晴らさせてほしい。　２１２２ぼくは、人を侮辱するのを恐れて手ごころを加えたりしないし、だれにもおべっかなんか使わない。　遠慮なく言わせてもらう。　神様の罰を受けて死にたくないからだ。
三三
１　ところでヨブさん、ぼくの言い分を聞いてもらいたい。　２いったん口を開いたからには、話を続けさせてほしい。　３ぼくは腹を割って本当のことを言う。　４神の御霊がぼくを造り、全能者の息がぼくにいのちを与えるからだ。　５できれば、遠慮しないで反論してほしい。
６７ぼくはお望みどおり、あなたと神様の間に立ち、双方の代弁者になれると思っている。あなたをびくびくさせたり、こわがらせたりするお偉方とは違うんだ。　ぼくも、あなたと同じ、ただの人間だ。
８　確かに、あなたはぼくの聞いているところで、何度も言いましたね。　９『わしは潔白だ。　罪なんか犯していない』と。　１０神様は重箱の隅をつつくように、一つのあらも見のがすまいと目を光らせ、あなたを敵視していると、あなたは言う。　１１また、『神

様はわしの足にかせをはめ、ちょっとした動きでも監視する』とこぼす。
１２　ぼくの答えを言おう。　このように神様を悪しざまに言うことが、そもそも罪なのだ。　神様は人より偉大ではないか。　１３神様が自分のすることを、あなたにいちいち説明しないからといって、なぜ神様に反抗するのか。
１４　神様は何度でもお語りになる。　１５それも、人が深い眠りにつく夜の夢と幻の中でだ。　１６神様はこのような方法で、人の耳を開き、知恵と訓戒を授け、　１７１８その心を変え、思い上がらないように守り、罪には刑罰のあることを警告し、罠に落ちないように守る。
１９　神様は、骨が一本も折れないように注意しながらも、病気と痛みを送る。　２０それで人は、生きる楽しみどころか食欲すら失い、よだれの出そうなデザートでさえ見向きもしなくなる。　２１彼はやせ細って骨と皮だけになり、　２２死の一歩手前に近づく。　２３２４しかし、そこに天からの使者がいて、友人として彼をとりなし、何が正しいかを告げるなら、神様は彼をあわれんでこう言う。　『彼を自由の身にせよ。　死なせるな。　彼の身代わりができたからだ。』　２５こうして彼は、子供のように元気になり、若さを取り戻して健康になる。　２６彼が祈ると、神様はすぐさま答え、喜んで彼を受け入れ、彼を元の働き場に戻す。　２７彼は大声で友人に言う。　『ぼくは罪を犯したが、神様は釈放してくださった。　２８ぼくが死ぬのをお許しにならなかった。　これからは光の中で生活しよう。』
２９　神様はたびたび、このようにして、　３０人のたましいを深い穴から引き上げ、いのちの光の中で生きるようにしてくださる。　３１ヨブさん、このことを心に留めてもらいたいんだ。　ところで、まだ話は終わったわけじゃないから、続けて聞いてもらいましょう。　３２これまでのところで何か言い分があるなら､遠慮しないで言ってくださいよ。　ぼくはあなたの正しさを認めたくて、うずうずしているんだから、喜んで聞きましょう。　３３別になければ、黙って、おとなしく聞いてもらいたいですね。　これから知恵をお教えしましょう。」
三四
１　エリフの弁論の続き。
２　「たいそう博学の皆さん、ぼくの言うことを聞いていただきたい。　３われわれは、聞きたい音楽を選び、食べたい料理を選ぶように、４正しいことには従うという建て前を選ぶべきだ。　しかし、まず手始めに、正しいとはどういうことか定義する必要がある。　５ヨブさんがこう言ったからだ。　『わしは潔白なのに、神様はそうでないと言い、　６うそつき呼ばわりする。　罪など犯したこともないのに、恐ろしい罰を受けているんだ。』　７‐９ヨブさんのように尊大な人間が、ほかにいるだろうか。　なにしろ、『神様の気に入ろうとするなんて時間の浪費さ』と言うほどだから、悪者たちとよほど親しくしていたに違いない。
１０　実に物わかりのいい皆さん、ぼくの言うことを聞いてほしい。神様は罪を犯さない

ことぐらい、子供だって知っている。　１１たいせつなのはむしろ、神様が罪人を罰するということだ。　１２神様は絶対に悪を行なわず、正義を曲げないということほど確かなことが、あるだろうか。　１３ただ神様だけが、地上を支配する権威を持ち、正義をもって全世界を治める。　１４神様がご自分の御霊を引き上げたら、１５いのちあるものはみな姿を消し、人は元のちりに帰る。
１６　ぼくのことばに耳を傾け、これから言うことを理解してほしい。　１７もし、神様が正義を憎んだとしたら、支配者としての資格があるだろうか。　あなたは、全能の裁判官をとがめるつもりか。　１８王や高貴な人に、『おまえたちは不正を働く悪人だ』と言うこの神様を、とがめるつもりか。　１９神様は、どんなに身分の高い者にも色目を使わず、貧乏人より金持ちを、多少でもえこひいきしたりしない。　どんな人間でも、神様が造ったからだ。　２０彼らはあっという間に死ぬ。　身分の高い者も低い者も、真夜中に突然、人の手によらないで取り去られる。
２１　神様はすべての人の行動に目を光らせ、何もかもお見通しなのだ。　２２悪人が神様の視線から身を隠すような暗やみはない。　２３だから、人を神様の法廷に引き立てるには、何か大きな罪を犯すのを待つまでもない。　２４神様は最高権力者を、取り調べることもなく失脚させ、他の人を代わりに立てる。　２５彼らのすることを監視し、一夜のうちに彼らをくつがえし、滅ぼす。　２６また、公衆の面前で、彼らを悪者として打ちたたく。　２７彼らが神様から離れてわき道にそれ、　２８貧しい者の叫びが神様の耳に届いたからだ。　神様は虐待される者の叫びを聞く。　２９３０神様が沈黙を守っているからといって、だれが神様を非難できよう。　神様は、下劣な者が支配権をにぎらないようにして、国を滅亡から救う。　その一方では、いとも簡単に一つの国を葬る。
３１　なぜ、人は神様に、『私たちは罪を犯しましたが、もういたしません』と言わないのだろう。　３２あるいは、『私たちは、どんな悪いことをしたのかわかりません。　教えていただければ、すぐに改めます』と言わないのだろう。
３３　神様は、あなたの注文どおりに法を曲げるだろうか。　あなたの移り気に合わせて、宇宙の秩序を変えるだろうか。　答えはわかりきっている。　３４３５ヨブさん、昼あんどんだって、あなたがばかげた話し方をするというぼくの説に、賛成するはずだ。　３６あんなに神様を悪く言ったんだから、厳罰を受けて当然だ。　３７あなたは、ほかの罪に、背き、傲慢、冒涜の罪を加えた。」
三五
１　エリフの弁論の続き。
２３「『わしは罪を犯していない。　だからといって、神様の前で立場がよくなるわけではない』と、あなたは言う。　そのようにうそぶくことは、正しいとでも考えているのか。
４　今、あなたばかりか、ここにいる皆の前で答えよう。　５はるかに高い天を見上げてみよ。　６あなたが罪を犯したところで、天をゆさぶり、神様を御座から転げ落ちさせることができようか。　罪を山と積んだところで、神様に少しでも圧力をかけることができ

ようか。　７あるいは、あなたが正しいとしても、それで神様に恩を着せることになろうか。　８あなたの罪はほかの人を傷つけ、善行はほかの人の役に立つだけだ。　９１０虐待される者は不正行為に悲鳴をあげ、金の力に屈してうめく。　しかし、だれひとり神様に泣きつき、『私を造った神様はどこにいるのか。　夜には歌を与え、　１１私たちを獣や鳥より、多少でも賢くするお方はどこか』と尋ねようとしない。
１２　神様にこう問いかけたところで、神様はすぐさま報復してくださるわけではない。１３かといって、神様がこのような叫びに耳をふさいでいると思うのは、まちがいだ。　１４１５神様は事の成り行きを見ていないと考えるのは、いっそう大きなまちがいだ。　神様を待ち望みさえすれば、正しい裁きをしてくださる。　神様が怒ってすぐ罰しないからといって、大声をあげて神様にかみつく法はないんだ。　１６ヨブさん、あなたは薄ばかのような口のきき方をしている。」
三六
１　エリフの弁論の続き。
２　「これからが、いよいよ話の本筋だ。　まだ、神様のための弁護を終えたわけじゃない。　３ぼくを造った方の正しさを説明するために、多くの例話を引き合いに出そう。　４ぼくは生半可な知識人じゃないから、あなたに話すことは混じり気のない真実ばかりだ。
５　神様は全能だが、だれをもさげすまない！　それに、神様の理解力は完璧だ。　６神様は悪者を祝福せず、ます目いっぱいに刑罰を加える。　７神様は正しい者を、陽のあたらない所へは置かず､かえって名誉を与えて永遠の王座につける。　８彼らが災いに会い、奴隷となって苦しむと、　９災いがきた理由を示し、どのような悪いことをしたのか、またどのように思い上がっていたかを指摘する。　１０神様は、彼らが神様の戒めを聞き、罪から離れるように力を貸す。
１１　彼らが神様に従うなら、一生のあいだ祝福されて繁栄する。　１２しかし、神様のことばを聞かないなら、良識を失って戦場で倒れる。　１３一方、不信心な者は神様の怒りを買う。　彼らは神様に懲らしめられている時でも、神様に立ち返ろうとしない。　１４道楽にうつつを抜かして堕落し、若死にする。　１５神様は悩んでいる者を救い出す！人は苦しむと、神様のことばを聞くようになる！
１６　神様はどんなにか、あなたを危険から救い出し、居心地のいい広々した谷間へ連れて行き、そこであなたを繁栄させたいと思っていることか。　１７ところがあなたは、他人への不平不満にとらわれすぎている。　１８他人への怒りが昂じて、神様を愚弄することがないように注意せよ。　苦しいからといって、あなたを助け出せる、ただ一人のお方の感情まで害するな。　１９大声で叫べば、神様は恥じて悔い改める、と本気で考えているのか。　そんなことで、あなたへの懲らしめが終わるだろうか。
２０　神様のさばきによって人々が取り去られる夜を求めるな。　２１悪をきっぱり捨てよ。　そもそも夜は、今の苦しみの原因である悪の生活から、あなたを守るためにあったのだ。

２２　神様は全能だ。　神様のようなすばらしい教師はいない。　２３神様のすることは間が抜けているとか、不正だとか言える者はいない。　２４目をみはるようなみわざを覚えて、神様をほめたたえよ。　２５すべての人が、遠くからこのみわざを眺めたではないか。
２６　神様はあまりにも大きいので、神様を知る手がかりさえつかめない。　だれも永遠の「いろは」さえ理解できない。　２７神様は水蒸気を吸い上げ、冷やして雨とし、　２８空から地上に降らす。　２９だれが雲の広がりと、その中の雷とを正確に知っているだろう。　３０どのようにして神様がいなずまを走らせ､山々の頂上を雲でおおうかを見よ。３１神様は、自然界に現われる突拍子もない力によって、人々を罰し、祝福し、食べ物を豊富に与える。　３２神様の両手にはいなずまの矢が盛られていて、その一本一本を的めがけて投げつける。　３３われわれは雷の中に神様の気配を感じる。　嵐が来るという警告を、すべての罪人に聞いてもらいたいものだ。
三七
１　ぼくの心はおののく。　２神様の声である雷の音を聞け。　３それが天を渡って来ると、いなずまの閃光は四方八方に散る。　４そのあとで、耳をつんざくような雷鳴がとどろく。　それは神様の威厳を告げ知らせるのだ。　５雷鳴は神様の声に栄光を添える。　神様の力の偉大さは測り知れない。　６神様が雪や夕立や豪雨を地上に降らせると、　７すべての人は仕事の手を休め、神様の力を認める。　８野獣は岩間やほら穴に避難する。
９　雨は南から、寒さは北から来る。　１０神様が川の上に息を吹きかけると、岩をかむ急流でさえ凍りつく。　１１神様が雲に水分を含ませると、雲はいなずまをまき散らす。１２いなずまは神様の命令どおり、地を行き巡る。　１３神様が嵐を起こすのは懲らしめのため、また、いつくしみで人々を元気づけるためだ。
１４　ヨブさん､神様のすばらしい奇蹟をじっくり考えてもらいたいな。１５あなたは、どのようにして神様が自然界を支配し､雲間にいなずまをひらめかすのか知っていますか。１６１７雲は完全な調和をもって見事につり合っているし、南風が吹くと暑くなる。　いったいどうしてそうなるのか、わかっているんですか。　１８あなたは神様のように、途方もなく大きな空の鏡を張り広げることができるんですか。
１９２０自分には知識があり余っていると考える人がいたら、神様に近づく方法を教えてもらいたいものだ。　われわれはあまりにも鈍く、何もわかっていないからだ。　ところで、そんな知識で神様に近づけるだろうか。　生きたまま立ち枯れになるのは、まっぴらごめんだ。２１風が雲を吹き払うと、まぶしくて、太陽をまともに見ることができないように、　２２天の切れ間から差し込む、目のくらむような輝きを放つ神様の威厳を見つめることは、不可能だ。　２３全能者の力を推し量ることはできない。　しかし、神様はこの上なく正しく、思いやりにあふれているので、われわれを滅ぼさない。　２４どこへ行っても、人々が神様を恐れるのは当然だ。　世界最高の頭脳も、神様には歯が立たないのだから！」

三八
１　その時、神様はつむじ風の中からヨブに答えました。
２　「なぜおまえは、わたしの摂理を否定しようとして、無知をさらけ出すのか。　３さあ、遠慮なくかかってこい。　これから幾つかの質問をするから、きっぱり答えてみろ。
４　わたしが地の土台をすえた時、おまえはどこにいたか。　わかるなら言ってみろ。　５おまえは地の寸法がどのようにして決められ、だれがその調査にあたったかを知っているか。　６７その土台を支えるものが何か、だれが隅の親石をすえたかを知っているか。　その時、明け方の星は声を合わせて歌い、御使いたちは歓声をあげた。
８９海が地の底から吹き出た時、だれが、その境界線を決めたか。だれが、雲と暗やみを海の着物とし、　１０海岸線で区切って、それをせき止め、　１１『ここまでだ。　これ以上、来てはいけない。　おまえの高ぶる波はここ止まりだ！』と言ったか。
１２　おまえはただの一度でも、朝に姿を現わせと命じ、暁を東の空からのぼらせたことがあるか。　１３夜明けの光に、地上をくまなく照らし、不法な夜の支配にとどめを刺せと命じたことがあるか。　１４暁をあかく彩り、　１５悪人の巣を乱し、振り上げられた腕をとどめたことがあるか。
１６　おまえは海の源の泉を探り、深海の底を歩いたことがあるか。１７１８死の門のありかを突き止めたことがあるか。　地の広さを見きわめたことがあるか。　知っているなら言ってみろ！　１９光はどこから来るか。　どうしたらそこへ行き着けるか。　それとも、暗やみについて話せるか。　それはどこから来るか。　２０その境を見つけ、その源まで行くことができるか。　２１おまえはこれらのものが造られる前に生まれ、人生経験をじゅうぶん積んでいるのだから、そんなことぐらい、百も承知だろうが。
２２２３おまえは雪の倉に行ってみたことがあるか。　雹が造られ蓄えられる場所を見たことがあるか。　わたしはそれを、戦いの時に使おうと保管している。　２４光の分岐点に通じる道はどこにあるか。　東風の故郷はどこか。　２５‐２７大雨の水路として谷を掘ったのはだれか。だれがいなずまの道を造り、砂漠に雨を降らせ、乾ききった不毛の大地に水をじゅうぶん吸わせ、やわらかい草を生えさせるのか。
２８　雨には父親があるか。　露はどこから来るか。　２９氷と霜の母親はだれか。　３０水は姿を変え、石のように堅い氷になるではないか。
３１　おまえは星を取り抑え、オリオン座やスバル座を引き止めることができるか。　３２四季の順序を正しく決め、牡牛座のすべての星を正しい軌道に導くことができるか。　３３宇宙の法則に通じ、天がどのような影響を地に及ぼすかを知っているか。　３４おまえの叫び声を雲にまで届かせ、そこから雨を降らすことができるか。　３５いなずまを呼び寄せ、意のままに雷を落とすことができるか。
３６　直観力と本能を授けたのはだれか。　３７３８雲をぜんぶ数えられるほどのりこう者がいるか。　土地が乾ききって固まり、ほこりだらけになる時、だれが天の水がめを傾けることができるか。　３９４０子供のライオンがほら穴に伏し、またジャングルの中に

寝そべって食べ物を待つ時、おまえは母親のライオンのように、獲物に忍び寄ってしとめることができるか。　４１からすの子がひもじさを訴えて巣の中で背伸びし、神に鳴き叫ぶ時、親がらすに餌を与えるのはだれか。
三九
１　おまえは、野やぎがどのようにして子を産むのか知っているか。　その光景を見たことがあるか。　２３それが身をかがめて子を産み落とし、体内の重荷から解放されるまでに、何か月みごもっているのか知っているか。　４その子らが野原で成長すると、親のもとを離れ、二度と帰って来ない。
５　だれが野ろばを野生にしたか。　６このわたしが、それを荒れ地に放ち、住みかとして不毛の地を与えた。　７野ろばはにぎやかな町をきらい、追い手の叫び声を聞くのがいやなのだ。　８山や丘が彼らの牧場だ。　彼らはそこで、青い物なら何でも探す。
９　野牛はおまえに気持ちよく仕えるだろうか。　おまえの飼い葉おけのそばに寄って来るだろうか。　１０おまえは野牛を使って畑を耕せるか。　それは馬鍬を曳くだろうか。　１１野牛は力が強いからといって、おまえは頼りにするだろうか。　野牛に、どこで働くかをかってに決めさせるだろうか。　１２打ち場から穀物を運んで来させようと、使いに出すだろうか。
１３　だちょうは誇らし気にはばたくが、母親の愛は持ち合わせていない。　１４地面の上に産んだ卵を、砂に暖めさせるだけだ。　１５だれかに踏まれたり、野獣につぶされたりするのを忘れている。　１６まるで自分の子でないかのように冷淡にあしらい、死んでもいっこうに気にしない。　１７わたしがそれから知恵を奪ったからだ。　１８ところが、それがいったん跳びはねて走りだすと、どんなに速い馬をも追い越す。
１９　おまえは馬に力を与えたか。　風になびくたてがみを、その首につけたか。　２０馬をいなごのように跳びはねさせることができるか。　そのすさまじいいななきは天下一品だ！　２１‐２３それは地面を前足でかき、自分の力を誇る。　いったん戦場に出ると何ものをも恐れず、矢が雨あられと降って来ようと、光る槍と投げ槍が飛んで来ようと逃げ出さない。　２４戦闘ラッパが鳴り渡ると、前足で激しく地面をかき、疾風のように敵陣へと駆けて行く。　２５ラッパの鳴るたびにヒヒーンといななき、遠くから戦いの匂いを嗅ぎつける。　ときの声と、命令を伝える指揮官の怒号を聞いてこおどりする。
２６　おまえは、鷹がどのようにして高く舞い上がり、南方さして翼を広げるかを知っているか。　２７鷲が崖の上に高くのぼって巣を作るのは、おまえの指図によるのか。　２８それは崖の上に住み、自然の要害を住みかとする。　２９そこから、はるか遠くにいる獲物をうかがう。　３０それは死んだ動物を見つけて運び、ひなはその血を吸う。」
四〇
１　神様はさらに続けました。
２　「まだ全能者と口論したいのか。　それとも降参するか。　神のあらを捜す者よ、答えてみよ。」

３　ヨブは神様に答えました。
４　「私は少しの値打もない者です。　どうして答えることができましょう。　口に手をあてて黙り込むだけです。　５私はしゃべりすぎました。」
６　神様は再びつむじ風の中から、ヨブに語りかけました。
７　「さあ、男らしく立ち上がり、戦いに備えてかぶとの緒をしめろ。　わたしの質問に、答えてみろ。　８おまえは自分の正しさを主張しようとして、わたしのさばきを無効にし、わたしを罪人呼ばわりするのか。　９おまえは神のように強く、神のような大声を張り上げることができるか。　１０そうだとしたら、おまえの尊厳と威光を身にまとうがいい。　１１おまえの怒りを吐き出し、思い上がった者の上にまき散らせ。　１２横柄な者をひと目でへりくだらせ、悪者をその場で踏みにじれ。　１３彼らをちりの中に沈め、死者の牢獄につなげ。　１４それができたら、自分の力で自分を救えるという、おまえの説に同意しよう。
１５　河馬を見よ！　わたしはおまえを造ったように、河馬も造った！　それは牛のように草を食べる。　１６がっしりした腰と腹の筋肉を見よ。　１７尾は杉のようにたれ、ももの筋はしっかり編み合わせてある。　１８背骨は真鍮の管のようにまっすぐ伸び、肋骨は鉄の棒のようだ。　１９それは、わたしが造ったものの中で飛びきり凶暴だ！　だから、それを手なずけたいと思ったら、鋭い剣がいる。　２０山々は最高の食べ物をそれに差し出す。　そこでは他の野獣もたわむれる。　２１それは葦の茂みに隠れた蓮の下に横たわる。　２２蓮がこれをおおい、川のほとりの柳がこれを囲む。　２３河馬は川が荒れ狂っても騒がず、水嵩の増したヨルダン川が押しかぶさっても動じない。　２４目つぶしをくらわせても、だれも捕まえることができない。　鼻に輪をつけ、引きずることもできない。
四一
１　おまえは糸とつり針でレビヤタンをつり上げたり、舌に輪なわをかけたりできるか。　２鼻に綱を通して、つなぎ止めたり、あごを大釘で刺し通したりできるか。　３それは、打ちかからないでくれと、おまえに哀願したり、こびへつらったりするだろうか。　４いつまでもおまえの奴隷になることを承知するだろうか。　５それを、小鳥のようにペットにしたり、幼い娘の遊び相手としてあてがったりできようか。　６漁師仲間はそれを魚屋に売るだろうか。　７その皮を投げ槍で傷つけたり、頭にもりを打ち込んだりできようか。
８　頭に手をのせようものなら、そのあとの恐ろしい格闘のことがいつまでも頭にこびりつき、こりて二度と手出ししなくなる。　９生け捕りにすることなど、もってのほかで、考えただけでぞっとする！１０それを怒らすほど勇気のある者はいない。　まして、それを征服するなど大それた話だ。　だれ一人その前に立ちはだかることができない。　だとしたら、だれがわたしの前に立てようか。　１１わたしはだれにも借りがない。　天の下にあるものはみな、わたしのものだ。
１２　またレビヤタンには、手足と巨大な体にみなぎる、途方もない力がある。　１３だ

れがその厚い皮をはぎ、重なり合ったうろこの間に入れるか。　１４その鋭い歯は見るからに恐ろしい。　１５‐１７ご自慢の、うろこがびっしり重なり合ったよろいは、密封してあって空気も通さず、どんな物もそれを刺し通せない。
１８　それがくしゃみすると、陽の光は霧ごしにいなずまのように光り、その目は火花のように輝く。　１９口は火を吐き、　２０鼻からは煙が出る。　かわいた藺草を燃やし、その上にかけた煮えたぎる釜から水蒸気が立ちのぼるように。　２１その息は炭火をおこし、口から炎がほとばしる。
２２　首には途方もない力があり、行く先々でパニックを巻き起こす。　２３やわらかな脂肪太りでなく、肉は堅くしまっている。　２４心臓は岩のように堅く、まるでひき臼のようだ。　２５それが体を起こすと、勇者もおじけづき、恐怖に取りつかれる。　２６剣はおろか、槍や投げ槍、先のとがったもりも、その行く手をさえぎれない。　２７２８鉄もわらと変わらず、真鍮は腐った木のようだ。　矢もそれを追い払えず、投石器もわら同様に効き目がない。　２９棍棒も歯が立たず、それは飛んで来る投げ槍をあざ笑う。　３０腹は瀬戸物のかけらのように鋭いうろこでおおわれており、その巨体はローラーのように地面をならす。
３１３２それが興奮すると水を沸き立たせ、深い淵をかき混ぜる。　それが通ったあとには光るあわの筋が残るので、人はさぞかし、海が霜からできていると思うだろう！　３３これほど恐れを知らぬものは地上にいない。　３４それは、獣の帝王で、獣の中で一番いばっている。」
四二
１　ヨブは神様に答えました。
２　「神様はどんなことでもでき、しかも、だれも神様を制止できないことがわかりました。　３向こう見ずにも神の摂理を否定する者はだれか、とお尋ねですが、それはこの私です。　私は何もわかっていないことを口走り､及びもつかない不思議を論じていました。
４　『わたしの言うことをよく聞け！　おまえに質問するから､答えられたら答えてみろ』とのことでしたね。
５　私には、こう申し上げるほかありません。　『神様のことはずっと前から聞いていましたが､今はこの目ではっきり見たのです。　６つくづく自分にいや気がさしました。　私はちりと灰の中で悔い改めます。』」
７　神様はヨブに語り終えたのち、テマン人エリファズにこう言いました。
「おまえと二人の友人には､全く腹が立つ。　おまえたちがわたしについて言ったことは、わたしのしもベヨブほど正しくなかったからだ。　８今、若い雄牛七頭と雄羊七頭をヨブのところへ引いて行き、完全に焼き尽くすいけにえをささげてもらえ。　ヨブはおまえたちのために祈るだろう。　わたしは彼の祈りを聞き入れる。　ヨブについてまちがったことを言った罪のために、おまえたちを滅ぼしはしない。」
９　テマン人エリファズ、シュアハ人ビルダデ、それにナアマ人ツォファルは、命じられ

たとおりにしました。　神様はヨブの祈りをお聞きになりました。　１０ヨブが友人のために祈ると、神様は彼を、元どおりの裕福で幸せな人間になさいました。　それどころか、前の二倍の物を与えたのです！　１１すると、兄弟姉妹をはじめ、以前の友人たちが一人残らずやって来て、彼の家で彼を囲んで食事をしました。　悲しみ抜いた彼をいたわり、神様から受けたすべての試練のことで彼を慰め、めいめい金や金の指輪を贈りました。
１２　ヨブの晩年は、初めよりずっと祝福されました。　羊を一万四千頭、らくだを六千頭、千くびきの牛、雌ろば千頭を持つ身となったのです。
１３１４そればかりか、息子が七人、娘が三人さずかりました。
娘の名は、エミマ、ケツィア、ケレン・ハプクです。
１５　ヨブの娘たちほどの器量よしは、どこにもいませんでした。　ヨブは、息子たちだけでなく娘たちにも、遺産を分け与えました。
１６　そののち、ヨブは百四十年生き長らえ、孫と曾孫の顔を見ることができました。　１７こうして彼は年老い、幸せいっぱいの長寿を全うして死んだのです。
▪

詩　篇
人間のどんな感情も、神様の前にさらけ出すことができ、神様はそのことを祝福なさいます。　本書には、悲しみと喜び、怒りと平安、疑いと信仰、悔い改めと賛美などがあります。　また過去の回想、現在生きていることの苦しみ、輝かしい未来の幻もあります。　多くの個所で、神様から遣わされる救い主イエス・キリストの受難や栄光の姿が記されています。

一
１　悪人の入れ知恵に耳を貸したり、罪人といっしょになって神様をあざけったりしない人は、なんと幸いなことでしょう。　２そうした人は、神様がお望みになることを何でも喜んで実践し、いつも、おきてのことを考えては、どうしたらもっと神様に近づけるかと思いめぐらします。
３　そのような人は、川の土手に植えられた木が、毎年欠かさず甘い実をつけるのに似ています。　その葉は決して枯れず、することなすこと、みな栄えます。
４　ところが罪人には、まったく逆の運命が待っています。　まるで風に吹き飛ばされるもみがらのようで、　５神様のさばきの日には不安にかられます。　彼らは、信心深い人と肩を並べて立つことはできません。
６　神様は信心深い人の願いも成り行きも、すべて見守ってくださいます。　それに引き替え、不信心な者の行き着く先は滅びです。
二
１　身のほど知らずめ！　なぜ、国々は主に向かって怒り狂うのか！人が神様を出し抜こうなんて、そんなばかな！　２地上の王たちは一つとなり、神様と、王なるキリストに反逆する陰謀を練りました。　３彼らはうそぶきます。　「さあ、神の鎖を断ち切ろう。　もう神の奴隷なんかじゃないぞ。」
４　しかし、天におられる神様は一笑にふすだけです！　取るに足りない計画を聞いて、吹き出すだけです。　５それから、激しい怒りを燃やしてしかりつけ、彼らを恐れおののかせます。
６　主は断言なさいます。　「これがわたしの選んだ王だ。　わたしは彼をわたしの聖なる都エルサレムで即位させた。」
７　選ばれたお方がお答えになります。　「神の永遠の目的を明らかにするのは、このわたしです。　主が、『わが子よ、きょうはおまえの戴冠式だ。　今、子にふさわしい栄誉を与える』と告げてくださいました。」　８「わたしに願い出よ。　そうすれば、世界中の国々を授けよう。　９それらを鉄の杖で治め、粘土細工のつぼのように砕くがよい。」
１０　ああ、この世の王、支配者たちよ、手遅れにならないうちに聞きなさい。　１１敬虔な恐れをいだいて主に仕え、おののきをもって喜びなさい。　１２神のひとり子の前にひれ伏し、その足に口づけするように。　神様の怒りにふれて、滅ぼされたりしないうち

に。　その怒りがまもなく燃え上がることを、警告しておきます。　しかし、主に信頼する人は、なんと幸いでしょう。
三
ダビデが王子アブシャロムに追われて逃げた時の賛歌。
１　ああ神様。　どうして、こんなに大ぜいの人が私に逆らうのでしょう。　どうして、こんなに大ぜいから命をつけ狙われるのですか？　右も左も敵ばかりです。　２神様が私をお助けになるはずはないと、だれもが口をそろえて言います。　３しかし、神様は私の盾、栄光であり、たった一つの望みです。　神様だけが、今は恥じてうなだれている私の頭を、高く持ち上げてくださるお方です。
４　私が大声で叫ぶと、主はエルサレムの神殿から答えてくださいました。　５それで、安心して横になり、ぐっすり眠りました。　主が見守ってくださったからです。　６今はもう、たとい一万の敵に包囲されても、恐れません。　７私は主に叫びます。　「主よ、立ち上がってください！　神様、お救いください！」　すると、主は敵の顔に平手打ちをくらわせて侮辱し、歯をへし折ります。
８　救いは神様から来ます。　神様はご自分の国民に、なんと大きな喜びをお与えになることでしょう。
四
１　ああ神様。 神様は私を、御目にかなった完全な者だとおっしゃってくださいました。私が苦しんでいる時、いつも介抱してくださいました。　今また、私は神様を呼んでいます。　どうか答えてください。　あわれんで、私の祈りを聞いてください。
２　主は問いただします。　「人の子よ、こんなくだらない偶像を拝んで、いつまでわたしの栄光をはずかしめるつもりか。　その偶像の肩書きなど、ぜんぶ偽物なのに。」
３　いいですか、よく心に留めておきなさい。　主は救われた人々を、ご自分のためにえり分けました。　ですから、私の声に耳をそば立てていて、答えてくださいます。　４恐れかしこんで、主の前に立ちなさい。　また、主に罪を犯してはいけません。　寝床で、静かに思いめぐらしなさい。　５主に信頼し、喜ばれる供え物をささげなさい。
６　神様が助けるはずがないと、だれもが言っています。　ああ主よ、御顔の光で私たちを照らし出し、彼らの誤りを実証してください。７あなたからいただいた喜びは、刈り入れ時に、人々が穀物の山を眺めて喜ぶのより、幾倍もまさっています。　８私は安心しきって横になり、眠ります。　たとい一人ぼっちであっても、ああ主よ、あなたはすべての危害から守ってくださるからです。
五
１２ああ主よ、この祈りを聞いてください。　王である神様、私の嘆きに耳を傾けてください。　私は神様以外のだれにも、決して祈ったりしません。　３朝ごとに、天におられる神様を見上げ、御前に願い事を申し上げ、ひたすら祈ります。
４　神様は、これっぽっちの悪も喜んだりなさらず、どんなささいな罪でも大目に見たり

はなさいません。　５ですから、おごり高ぶる罪人どもは、神様の鋭い視線に色を失うのです。　神様は不法な行為を徹底的に憎むからです。　６うそはあばかれ、彼らは滅ぼされます。神様は、殺人と欺きをどんなにお嫌いになることでしょう。
７　しかしこの私は、あわれみと愛に守られて、神殿へまいります。心の底から恐れかしこんで神様を礼拝します。
８　主よ、お約束のとおり、私を導いてください。　そうでないと、敵に踏みにじられてしまいます。　何をなすべきか、どちらへ曲がるべきか、はっきりお教えください。　９彼らは嘘ばかりつき、心は悪い思いでいっぱいです。　彼らの誘いには、罪と死の悪臭がただよい、邪悪な目的のためには、おべっかを使いまくるのです。　１０ああ神様、彼らに責任をとらせてください。　自分でしかけた罠にかからせてやってください。　自らの罪の重みに耐えかねて、その下敷きになりますように。　彼らは神様に背いたのです。
１１　しかし、すべて神様を信頼する者には、喜びをお与えください。神様がかばってくださることを知って、彼らがいつまでも喜びの声を張り上げますように。　神様を愛する人たちを、幸福にひたらせてください。　１２神様は信心深い者を祝福なさいます。　ああ主よ、あなたは愛の盾で囲んでくださいます。
六
１　主よ、お願いです！　怒りにまかせて私を罰しないでください。２ああ主よ、あわれんでください。　か弱い者です。　いやしてください。　私は病気なのです。　３狼狽し、頭が混乱しています。　心は不安に駆り立てられ、気分がすっかりめいっています。　ああ、早く元どおりにしてください。
４　ああ主よ、帰って来て、私を健康にしてください。　あわれんで、お救いください。５死んでしまえば、友の前で神様をほめたたえることができません。　６痛みのため、私はやせ細りました。　夜ごと涙で枕をぬらします。　７回りは敵ばかりなので、嘆いて目も衰え、かすんできました。
８　不法を行なう者ども、さあ、あっちへ行け。　私の泣き声は天に届き、　９訴えも取り上げられた。　主は私の祈りにすべて答えてくださいます。　１０敵はみな、突然、名誉をはく奪され、恐れにわななき、恥辱を受ける。　神様は彼らに赤恥をかかせて、追い返します。
七
１　ああ私の神、主よ。　頼りになるのは、あなただけです。　どうか、迫害する者からお救いください。　２だれも助ける者がいないために、彼らがライオンのように襲いかかり、私をさらって行くことがありませんように。　３主よ。　もし、私が悪事を働いているというなら、話は別です。　４悪をもって善に報い、えり好みして人を不当に攻撃しているというのなら、話は別です。　５もしそうであれば、敵が私を滅ぼし、地に押しつぶし、ちりの中でこの命を踏みにじるのを、神様がお許しになったとしても、文句の言いようはありません。

６　しかし、主よ！　怒り狂う敵に対しては、怒りを込めて立ち上がってください。　目を覚ましてください！　どうか、正しい裁判をお開きください。　主よ！　７８諸国民を召集し、いちだんと高い座から、彼らの罪をさばいてください。　そして、この身の潔白を明らかにしてください。 全員の前で、私の名誉を回復し、誠実さを証明してください。９ああ主よ、いっさいの悪を根絶やしにし、心底から主を礼拝する者を祝福してください。正しい神である主は、人の心の奥底まで見抜き、いっさいの動機と思いとをお調べになります。

１０　神様は私の盾。　私を守ってくださるお方です。　神様は、心と生活が真実で正しい人をお救いになります。

１１　神様は公平そのものの裁判官。　日々、悪人には怒りを燃やします。　１２悔い改めない者を、とぎすました剣で血祭りにあげます。

神様は弓を引きしぼり、　１３恐ろしい火の矢をつがえています。

１４　悪者は良からぬことをたくらみ、陰謀を企てては、偽りと背信行為に走ります。　１５そんな連中は、自らしかけた罠に落ち込めばいいのに。　１６他人にふるった暴力がわが身に跳ね返り、いのちを奪われるといいのに。

１７　ああ、どれほど主に感謝していることでしょう。 その恵みは測り知れません。 王の王なる主の御名を、力いっぱいほめ歌います。

八

１　ああ私たちの神、主よ。　御名の威厳と栄光は全地に満ち、天にみなぎっています。２神様は幼子たちに、神様を真心からほめたたえよとお教えになりました。　その子供たちの姿に、敵が恥じ入って、口をつぐみますように。

３　夜空を仰いで、神様がお造りになった月や星を眺めると、　４なぜ、ちっぽけで取るに足りない人間を、神様が相手にし、目をかけてくださるのか、わからなくなります。　５ところが神様は、御使いにほんの少し及ばないだけのものとして人間を造り、栄光と誉れの冠をお与えになりました。

６　神様は、お造りになった万物を、人間の手におゆだねになったのです。　いっさいのものが人の支配下にあります。　７牛も羊も、また野獣も、　８鳥、魚、すべての海の生物も。　９私たちの神、主よ。御名の威厳と栄光は全地に満ちています。

九

１　ああ主よ。　心の底からあなたをたたえます。　目を見はるばかりのお働きを、すべての人に伝えます。　２私はうれしいのです。神様のおかげで喜びが込み上げてきます。あらゆる神々にまさる神様。　私はあなたをほめ歌います。

３　敵は御前でたじろぎ、滅んでしまいます。　４神様は私を弁護してくださいました。御座から私の行為を支持し、この身の潔白を保証してくださいました。　５神様は諸国民をしかり、悪者を滅ぼし、その名を永久に抹殺なさいました。　６よいか、敵対する者ども。　おまえたちの行き着く先は、永遠の滅びだ。　主はおまえたちの町々を廃墟となさ

るので、その町があったことさえ、人々の記憶から消えうせるだろう。
７８しかし、主は永遠に生きておられます。　主は御座につき、世界中の国々を正しくおさばきになります。　９虐待された人々はみな、主のもとに来ます。　主は苦しんでいる人々の隠れ家です。　１０主よ。主のあわれみを知る者はみな、お助けを期待しているのです。　主はいまだかつて、頼って来る者をお見捨てになったことがないからです。
１１　エルサレムに住まわれる神様に、賛美の歌をささげよう。　世界中の人に、永久に銘記すべき神様のみわざを伝えよう。　１２殺人者に報復なさるお方は、正しいさばきを求める者の叫びに耳を貸します。苦しんで助けを求める者の祈りを、無視したりはなさいません。
１３　ああ主よ、私をあわれんでください。　私を憎む者の手にかかって私がどんなに苦しんでいるか、目を留めてください。　主よ、死の口から私を引き出してください。　１４どうかお救いください。　そうなれば、エルサレムの門の、並み居る人々の前で、神様をたたえ、救い出された喜びを語ることができます。
１５　諸国民は、人を落とそうと掘った穴に落ち込みます。　自分のしかけた罠にかかります。　１６主は、悪者に自業自得の罰を与える名手です！
１７　悪者は地獄へ送り込まれます。　これが、主を忘れた国民の運命です。　１８困っている者の窮状は、いつまでも放っておかれるわけではありません。 貧しい者の願いは、いつも踏みにじられるとは限らないのです。
１９　ああ主よ、立ち上がってください。　諸国民をさばき、罰してください。　彼らが神様に勝ち誇ったりしませんように！　２０恐れおののかせてやってください。　諸国民に分をわきまえさせ、取るに足りない人間にすぎないことを、思い知らせてください。
一〇
１　主よ、なぜ、遠く離れてお立ちになるのですか。 主をいちばん必要としている時に、なぜ、お隠れになるのですか。
２　そばに来て、貧しい者を邪険に扱う、高慢ちきな者どもの相手になってください。 連中の悪だくみを、その頭上に返してやってください！　３やつらときたら、汚ない欲望を自慢するしまつです。　神様をののしり、主に忌みきらわれる者どもと意気投合しています。彼らにとっては、金だけが人生の目的なのです。
４　この悪者どもは、お話にならないほど高慢で横柄で、神様は死んだとみなしているかのようです。　彼らには、神様を求める気持ちなど、これっぽちもありません！　５ところが、手がけることは片っぱしから成功し、敵をなぎ倒していきます。　神様の刑罰が待ち受けていることなど、まるで眼中にないのです。　６「神も人もさしたる相手ではない」と、彼らはうそぶきます。　そしてどういうわけか、道を切り開いていくのです！
７　彼らの口には、神様への冒涜と偽りと欺きとが満ちています。常に悪だくみを自慢の種にしています。　８薄暗い裏通りに待ち伏せては、道行く人を殺すのです。　９ライオンのように息をひそめてうずくまり、貧しい者に今にも襲いかからんばかりです。　猟師

のように罠をしかけ、えじきを得ます。　１０不運な人は彼らの並はずれた腕力に圧倒され、一撃のもとに倒されるのです。　１１彼らは自分にこう言い聞かせています。　「神はご存じないさ！　見てもいないんだから。」
１２　ああ主よ、立ち上がってください！　ああ神様、彼らをひねりつぶしてください！　貧しい者を忘れないでください。　１３なぜ、悪者が神様を侮るのを放っておかれるのですか。　「神から責任を追求されることはない」と、彼らは高をくくっているのです。　１４主よ。あなたは彼らの仕打ちをご存じのはずです。　悪行の数々をじっとご覧になったはずです。　彼らがどれだけ悩みや悲しみを引き起こしたかご存じです。　さあ、罰してください。　ああ主よ。　貧しい者はあなただけが頼りなのです。　あなたは無力な者の助け手として知られています。　１５悪者どもの腕をへし折ってください。　最後の一人に至るまで、追い回して滅ぼしてください。
１６　主は永遠から永遠まで王であられます。　ほかの神々に従う者は、主の地から一掃されます。
１７　主よ。　あなたは謙そんな人の望みが何であるか、ご存じです。必ずその叫びを聞いて救いの手を差し伸べ、心に安らぎを与えてくださいます。　１８主は、みなしごや虐待されている人たちのそば近くにいてくださるお方です。　おかげで彼らは、この世の人間から、二度と脅かされることはありません。
一一
１　なぜ、あなたたちは臆面もなく、「身の安全のため山へ逃げろ」と言うのですか。　私は主に信頼しているというのに。
２　なるほど、悪者どもは弓を張り、弦に矢をつがえ、神様の国民を射ようと待ち伏せています。　３「法も秩序もあったものじゃない。こうなれば、正しい者は逃げるより手がない」と、人々は言います。
４　しかし、主はいぜんとして聖なる宮に住み、天から何もかも支配しておられます。　地上での出来事をことごとく監視しておられます。５主は正しい者と悪者とをふるいにかけ、暴虐を好む者を憎みます。６悪者の上に火と硫黄の雨を降らせ、燃える風で彼らをあぶります。
７　神様は正しく、正義を愛します。　信心深い者はその御顔を拝することができるでしょう。
一二
１　主よ、お助けください！　神様を敬う者がどんどん減っていきます。　世界中さがしても、頼りになる人などいません。　２だれもかれもがだまし合い、お世辞を並べ立て、嘘をつきます。　もはや、一かけらの誠実も残っていません。
３４しかし、このように振る舞う者を、主が優遇なさるはずがありません。　「好きなだけ嘘をついてやるさ。　どうせ自分の舌じゃないか。　だれに止められるわけじゃなし。」　こんな鼻持ちならない嘘つきどもを、主は滅ぼすのです。　５主の答えはこうです。　「立

ち上がって、虐待された者、貧しい者、困っている者を守ろう。　わたしの救いを待ちこがれてきた人々を助け出そう。」　６主の約束は確実です。　不用意なことばが主の口からもれることはなく、七度も精錬された銀のように、純粋そのものの真理ばかりをお語りになります。７ああ主よ。　あなたはご自分の国民を、悪者の手の届かない所に永久にかくまってくださるはずです。　８たとい、連中がぐるりをうろつき、国中に不道徳が横行しようとも。
一三
１　主よ、いつまで私を顧みてくださらないのですか。　永久にですか。　こんなに困っているというのに。　いつまで知らん顔で、よそをご覧になっているのですか。　２いつまで日々つきまとう苦悩に耐えなければならないのですか。　いつまで敵が先手を取るのでしょう。　３教えてください。　ああ主よ、私の神よ。　私が死なないように、　暗がりに光を投じてください。４敵に、「あいつをやっつけたぞ！」と言わせないでください。私が倒れたと言って、彼らがほくそ笑んだりしませんように。
５　私は常に、主とそのお恵みによりすがり、主の救いを喜びます。６身にあまる祝福をいただき、心から主に歌います。
一四
１　「神なんかいやしない！」と言う者の愚かさよ。　この手の人間は、決まって偏見をいだいており、絶対に根っからの善人ではありません。
２　主は天から全人類を見下ろし、神様をお喜ばせしたいと願う賢い者をお探しになります。　３ところが、いないのです。　だれもが道を踏みはずし、罪のために腐りきっています。　善人はいません。ただの一人もです！　４彼らはわたしの国民をパンのように食いものにし、祈ろうなどとは思ってもみない！　もっとましな生き方があることを、ほんとうに知らないのだろうか。
５　そのうち、彼らは恐怖に取りつかれるに決まっています。　神様はご自分を愛する者とともにおられるからです。　６貧しい者や謙そんな者が悪人に虐待される時、神様は避け所となってくださいます。７ああ、今すぐ救出の時がきますように。　ご自分の国民を救うため、神様が即刻、シオン（エルサレム）から駆けつけてくださいますように。　ああ、イスラエルが救い出される時は、どんなにうれしいでしょう！
一五
１　主よ。　聖なる山にある神の天幕に行き、身の避け所を見いだす人はだれでしょう。
２　それは、非の打ちどころのない生活を送る、誠実そのものの人です。　３口が裂けても人を中傷せず、うわさ話に耳を貸さず、決して隣人を傷つけたりしない人です。　４大胆に罪を告発し、罪に落ち込んだ者を批判しては、主に忠実に従う者をほめる人です。　たとい危害を受けようとも、約束は破らない人です。　５高い利息で負債者を窮地に追い込むようなことはせず、わいろを受け取って、無実の人に不利な証言をしたりなど、まちがってもしない人です。　このような人は大地にしっかり根を下ろし、いつまでたっても、

びくともしません。
一六
１　ああ神様、どうかお救いください。　私は隠れ家を求めてまいりました。　２「あなたは私の主です。　神様のもと以外に助かる場所はありません。」　私はこう申し上げました。　３私はこの国の神様を敬う人々の仲間に加わりたいのです。　彼らこそ、真に高貴な人々です。　４ほかの神々を選んだ者は、すっかり悲しみに打ち沈むことでしょう。　私は彼らのように供え物をささげず、その神々の名を口にすることもありません。
５　神様こそ、私の相続財産、また宝です。　私の血となり肉となるもの、また最高の喜びです！　主は私の全所有物を守ってくださいます。　６美しい谷川と青々とした牧場が、分け前としていただけますように！　なんとすばらしい譲りの地でしょう！　７助言者である主をほめたたえます。　夜になると、主は知恵を授けてくださいます。どうしたらよいかを教えてくださいます。
８　私は、いつも主のことを思っています。　主がすぐそばにいてくださるので、つまずいたり、倒れたりする心配もありません。　９心も体もたましいまでも、喜びにあふれています。　１０神様は私を死人の中に置き去りにせず、墓の中で朽ち果てるのをお許しにならないからです。　１１神様は生きる喜びを教え、永遠に伴ってくださることによって、無上の楽しみを経験させてくださいます。
一七
１　ああ神様、お願いです。　どうかお助けください。　私はまっとうに生き、正しいことだけをしてきました。　ですから、どうしても、この切なる叫びを聞いていただきたいのです！　２主よ、人前で私の嫌疑を晴らしてください。　神様はいつも公平なお方だからです。３神様は私を取り調べて、やましいところがないと確認してくださいました。　神様は夜中に来られましたが、不正は何一つ見いだせず、私が真実を語ってきたことをお認めになりました。　４私はご指示に従ってまいりましたし、残忍な悪人とは行動を共にしませんでした。　５私の足は、神様の道から一歩たりともすべり落ちたりしませんでした。
６　なぜ、私はこのように祈っているのでしょう。　お答えがいただけると信じているからです。　ああ神様！　どうかこの祈りを聞いてください。　７ああ、敵から助け出されたいと願う者すべての救い主よ。　その大いなる愛を、目をみはるほどに見せてください。８私をひとみのように守り、御翼の陰にかくまってください。
９　敵は殺意をいだいて私を取り囲んでいます。　１０情け知らずで、横柄なやつらです。豪語する彼らの声に耳を傾けてください。　１１私を追いつめ、今にも地面に投げつけんばかりです。　１２私を引き裂こうと目を光らせるライオン、チャンスをうかがって待ち伏せる若いライオンのようです。
１３１４主よ、立ち上がり、対戦してください。　彼らを追い返してください。　早くおいでになって、地上の利得しか眼中にないこの世の人々から、救ってください。　彼らの家には神様の宝がうなっているので、子々孫々栄えています。

１５　しかし、私の関心は富にはなく、神様を見ているかどうか、また、神様との間がうまくいっているかどうかにあります。　天で私が目覚める時、この上ない満足感にひたるでしょう。　神様の御顔をじかに見るからです。
一八
主が、サウルをはじめとする多くの敵から救い出してくださった時、ダビデはこの歌を書きました。
１　主よ。　どれほどお慕いしていることでしょう！　こんなにもすばらしいことをしてくださった主を。
２　主は、安心して立てこもれるとりでです。　だれ一人、そこまで入って来て、私を殺すことはできません。　主は、身を隠すのに絶好の険しい山、私の救い主、だれも近づくことのできない岩、安全を保証する塔です。　また私の盾、めっぽう強い闘牛の角です。３私はただ、主に叫び求めさえすればよいのです。　そうすれば、あらゆる敵から助けてくださいます。　ああ、主をほめたたえよ。
４　死の鎖が私に巻きつき、滅びが洪水のように押し寄せてきました。５私は罠に落ち、助けてくれる人もなく、死へと引きずり込む綱の力に抵抗してもがきました。
６　力尽きる思いの中で、私は主の助けを叫び求めました。　その声を、主は天から聞いてくださいました。　叫びは届いたのです。　７その時、大地は大揺れに揺れ、山々は震えわななきました。　その揺れ方といったらありません。　神様のお怒りのせいです。　８神様の口からはすさまじい炎が吹き出して、地を焼き尽くし、鼻からは煙が立ちのぼりました。　９主は天を押し曲げて降りて来て、私を救ってくださいました。　御足の下には、暗やみがたちこめていました。１０主はケルビム（天使）にまたがり、風を翼とし、矢のように速く、助けに来てくださいました。　１１暗やみを身にまとい、一寸先もわからない濃い黒雲におおわれて、近づいてくださいました。　１２突然、いなずまと雹の嵐を伴って、お姿が、雲間から輝きました。
１３　雷のような声が天空にとどろき、神の中の神がお語りになったのです。　ああ、雹が。　そして、火が！　１４主はいなずまを恐怖の矢として放ち、私の敵をかき乱しました。　あの逃げ惑うさまを見てください。　１５主よ、ご命令のままに海の水は引き、あなたのすさまじい鼻息で、海の底はむき出しになりました。
１６　主は天から下って来て、私を大きな試練から助け出してくださいました。　深い海の底から引き上げてくださったのです。　１７その手にかかって、手も足も出なかった私を、頑強な敵から、私を憎む者から救い出してくださいました。
１８　彼らは、弱りきっている私に襲いかかりました。　しかし、主は私をしっかり支え、１９安全な場所へ連れ出してくださいました。私を喜びとされたからです。　２０正しいことを行ない、潔白であった点に、報いてくださったのです。　２１私はご命令に従い、主に背を向け、罪を犯すようなことはしませんでした。　２２いつも主のおきてを目の前に掲げ、一つたりとも捨てたりはしなかったのです。　２３おきてを守ることに全力を尽

くし、悪行への誘惑を振り払い続けました。　２４それにこたえて、主は祝福を下さったのです。　私が正しいことを行ない、純粋な思いをいだいていたことを、ご存じなのです。私の一挙手一投足に目を留めておられるのですから。
２５　主よ。　あなたは、恵み深い者に対してはなんと恵み深くあられることでしょう。また、悪の道から引き返す者には罰をお加えになりません。　２６心のきよい者には祝福を、主の道からそれる者には苦痛をお与えになります。　２７謙そんな者をお救いになりますが、高慢で横柄な者は有罪に定めます。　２８主は、私に明かりをともしてくださいました。　神様は、私を囲むやみを光に変えてくださいました。２９今や私には、どんなに高い城壁でもよじ登り、どんなに強力な軍隊でも襲う力が与えられています。
３０　なんとすばらしい神様でしょう！　神様はあらゆる点で全く完全です！　そのお約束がすべて真実であることは、明らかです。　その背後に隠れる者には、盾となってくださいます。　３１私たちの主のほかに、だれが神でありえましょう。　だれが不動の岩でありえましょう。
３２　主は私に力をみなぎらせ、行く先々でお守りくださいます。　３３私の足を、岩山ででもしっかり立つ野やぎのようにし、絶壁の上をも安全に導いてくださいます。　３４戦いに備えて私を鍛え、鉄の弓さえ引く力を与えてくださいます。
３５　主の救いは私の盾です。　ああ主よ。　右の御手が私を支えています。　主のご温情のおかげで、私は名の知れた者となりました。３６主は、私を大またで歩かせ、しかも足がすべらないようにしてくださいました。　３７私は敵を追撃し、一人残らず倒すまでは引き返しませんでした。　３８連中を地面に突き刺してやりました。　敵はたじたじとなり、私はその首を踏んづけてやりました。　３９戦いに臨んで、頑丈なよろいを着せていただいたおかげです。　敵は私を見ておじ気づき、足もとに倒れ伏します。　４０主が、背を向けて逃げるように仕向けたので､私を憎む者を皆殺しにすることができました。　４１大声で助けを求めても、だれひとり彼らを助ける者はいませんでした。　そこで、彼らは主に向かって叫びましたが、返事がありません。　４２私は、ここぞとばかり彼らをちりのように粉々に砕き、空中高くまき散らしました。　彼らを、床を掃くように掃き捨てました。　４３‐４５神様は、次々と戦いに勝利をもたらしてくださいました。　諸国民は私のもとに来て、仕えるようになりました。　知りもしなかった国民までが、やって来てひれ伏すのです。　全く面識のない外国人が､いとも簡単に恭順の意を表わします。　震えながら、とりでから出て来るのです。
４６　主は生きておられます！　大いなる救いの岩である主をほめたたえよ。　４７神様は私に害を加える者に報復し、目の前の国々を制圧してくださいます。
４８　敵に囲まれた私を助け出して、手の届かない安全な場所に移し、猛威をふるう相手から救ってくださいます。　４９ですから、私は主を国々の間でほめたたえます。　５０主から王に定められた私は、幾度となく、奇蹟的に救い出されました。　いつも愛と恵みを注いでいただきました。　子孫をも同様に、お恵みくださることでしょう。

一九
１　天は、神様の栄光を物語る、神様の手になる傑作です。　２そして、昼となく夜となく、神様について語り続けます。　３４大空は、音もことばもなく、静まり返っているのに、その意味するところは全世界に知られます。　太陽は神様の定めた空間を回ります。５結婚式の花婿のように晴れ晴れと、競技を待ちわびる選手のようにうれしげに、大空を闊歩します。　６天の端から端まで渡り、その熱を免れるものは何一つありません。
７８神様のおきては完全無欠です。　私たちを守り、賢くし、喜びと光を与えます。　９そのおきては純粋で、正しく、すたれることがありません。　１０また、金よりも慕わしく、蜜ばちの巣からしたたる蜜よりも甘いのです。　１１それは、危険に近づくなと警告し、従う者には祝福を約束するからです。
１２　しかし、心にひそむ罪を、どうして知りえましょう。　どうか、隠れた罪からもきよめてください。　１３故意に悪に走ることからも引き止め、守ってください。　そうすれば、私は過ちを犯さず、大きな罪からも逃れることができます。
１４　私の口のことばと、秘めた思いが、神様に喜ばれますように。ああ、私の岩、私の救い主、主よ。
二〇
１　苦難の日に、神様があなたとともにおられますように！　ヤコブの神が、いっさいの危険から守ってくださいますように。　２主がシオン（エルサレム）の聖所から、助けの手を伸べてくださいますように。３あなたのささげ物、完全に焼き尽くすいけにえを、喜んで心に留めてくださいますように。　４あなたの願いをかなえ、計画をことごとく実現させてくださいますように。　５あなたの勝利の知らせが伝わると、喜びの声がわき上がり、神様があなたのためになさったすべてを記念して、神様をたたえる旗が高く掲げられますように。　あなたの祈りが、ぜんぶ答えられますように！
６　神様が王をお救いになるのを、今こそ知りました。　神様は高い天から答えて、大勝利をもたらしてくださいます。　７他の国々は軍隊や武器を誇りますが、私たちは私たちの神、主を誇ります。　８国々はやがて衰え、滅びます。　しかし、私たちは立ち上がり、大地に根を下ろしてびくともしません。
９　ああ主よ、王に勝利をお与えください。　どうか、この祈りをお聞きください。
二一
１　ああ主よ。　王はどんなに御力を喜ぶことでしょう！　どんなに救われたことに狂喜することでしょう。　２主が願いをかなえ、望むものをことごとくお与えになったからです。
３　主は、名誉と繁栄の保証された王座に彼を迎え、純金の王冠をかぶせてくださいました。　４満ち足りた長寿を求める王の願いを、お聞き届けになりました。　彼のいのちは永遠に限りなく続くのです。５主は彼に名誉と名声を与え、威光と尊厳とをまとわせました。　６また、永遠の幸福を授け、主の前に立つことの喜びが、いつまでも薄れないよう

にしてくださいました。　７王は主により頼んでいるので、つまずいたり倒れたりすることは絶対にありません。　あらゆる神々にまさる神様の不変の愛に、頼りきっているからです。
８　ああ主よ。　あなたの手は敵を見つけ出します。　主を憎む者を一人残らず探し出します。　９１０主が姿を現わされると、御前から出る激しい火が、彼らをたちどころに滅ぼします。　その子らも共に倒されます。　１１この連中は、主であるあなたに陰謀をたくらんだからです。　しかし、そんな計画は万に一つも成功するはずがありません。　１２彼らは、主の矢にねらわれているのを知り、あわてて向きを変え、一目散に逃げるでしょう。
１３　ああ主よ、この賛美をお受けください。　御力をたたえているのです。　私たちは、向かうところ敵なしの主を記念して、歌を書きとどめます。
二二
１　ああ神様、私の神様。　どうして、私をお見捨てになったのですか。　どうして、助けるどころか、うめきさえ聞いてくださらないのですか。　２昼となく夜となく泣いては、助けを叫び求めていますのに、答えてくださいません。　３４しかし、主はきよいお方です。
先祖の賛美の声は、御座を取り囲んでいました。　主に信頼していた彼らを、主は助け出してくださいました。　５彼らの叫びを聞いて、救い出してくださいました。　助けを求める人々を、ただの一度も失望に終わらせたりなさらなかったのです。
６　しかし、この私は虫けら同然で人間ではありません。　同国人ばかりか、全人類からもさげすまれています。　７私を見るなり、だれもがあざけり、冷笑し、肩をすくめます。８私はお笑い草となるのです。　「これが、主に重荷を肩代わりしてもらったという男かい。　主のお気に入りだとうぬぼれていたやつか。　神様に助け出されるところを見せてもらおうじゃないか。　そうしたら信じてもいいぜ。」
９‐１１主よ、以前はよく、助けてくださったではありませんか。　母の胎から難なく取り上げ、幼い日々も、無事に過ごさせてくださったではありませんか。　私は生まれてこのかた、ずっと主を頼りにしてきたのです。　主はいつも私の神様でした。　今になって、置き去りにしないでください。　苦難が近づいており、主のほかだれも、私を助けることはできません。
１２　バシャンの巨大な雄牛のように獰猛な敵が、私を囲んでいます。１３まるで獲物をねらってほえたけるライオンのように、口を開けて近づいて来ます。　１４私は空気の抜けたタイヤのようになり、骨はみながくがくし、心臓はろうのように溶けてしまいました。１５天日でかわかした粘土のようにひからび、舌は上あごにくっつきました。　主が私を、死のちりの中に置かれたからです。　１６徒党を組んだ悪人どもが、群がる野犬のように私を取り巻きます。　私の手足は引き裂かれています。　１７自分の骨を、一本残らず数えることができるほどです。　私を見てはほくそ笑む、この悪人どもをご覧ください。　１

８彼らはくじ引きで、私の着物を分け合うのです。
１９　ああ主よ、そばにいてください。　ああ、私の力である神様、大急ぎで助けに来てください。　２０死から救い出してください。　かけがえのないこの命を、こんな悪人の手に渡さないでください。　２１ライオンの口や、野牛の角からお救いください。　そうだ、神様は私に答えて、助け出してくださるに違いない。
２２　私はすべての兄弟の前で主をたたえ、会衆の面前で、主のすばらしい行為を語ります。　２３声を大にして語ります。　「主を恐れる人たちよ、主をほめたたえよ。　主の名を恐れ、敬え。　イスラエルのすべての人よ、主に向かって賛美の歌をうたえ。　２４主は、私の絶望の底からの叫びをさげすまれなかった。　背を向けて立ち去りはなさらなかった。　叫び声が届くと、主は助けに来てくださった。」
２５　私は全会衆を前にして、主をほめたたえます。　御名を心から敬う人々の面前で、誓いを果たします。　２６貧しい者はたらふく食べて満足し、主を求める者は主を見いだして、御名をほめたたえるでしょう。　その心は永遠の喜びに酔いしれるはずです。　２７それを目のあたりにした全世界の人々は、主のもとに立ち返るでしょう。　あらゆる国民が主を礼拝するでしょう。
２８　主は王であって、国々を支配します。　２９高慢な者も謙そんな者も、死すべき運命にある人はみな、主を拝みます。　３０私たちの子供も主に仕えます。　私たちが、主のすばらしさを語り伝えるからです。３１のちのちの世代もまた、主が私たちのためになさったすべての奇蹟のことを聞くでしょう。
二三
１　主は私の羊飼いですから、必要なものはみな与えてくださいます。
２３主は私を牧草地にいこわせ、ゆるやかな流れのほとりに連れて行かれます。　傷ついたこの身を立ち直らせ、私が最高に主の栄光を現わす仕事ができるよう、手を貸してくださいます。
４　たとい、死の暗い谷間を通ることがあっても、こわがったりしません。　主がすぐそばにいて、道中ずっとお守りくださるからです。
５　主は敵の面前で、私のためにおいしいごちそうを備えてくださいます。　たいせつな客としてもてなしてくださったのです。　まるで、あふれんばかりの祝福です。
６　生きている限り、主の恵みといつくしみが、私についてきます。やがて、私は主の家に着き、いつまでもおそばで暮らすことでしょう。
二四
１　全地は神様のものです！　世界中のものがすべて神様の持ち物です！　２このお方は、海を押しやり、かわいた地をあらわにされました。
３　主の山に登り、主のお住まいに入れる者はだれですか。　主の前に立てる者はだれですか。　４それは、心と手のきよい人、嘘偽りのない人だけです。　５そのような人は、神様の祝福と恵みをいただけます。　しかも、救い主である神様は、その恵みが日々の生

活に根を下ろすようにしてくださいます。　６こうした日々が許される人、それは、主の前に立ち、ヤコブの神を拝むことを許された人だけです。
７　古くからある門よ、開け。　栄光の王をお通しせよ。　８栄光の王とはだれですか。　強くたくましく、向かうところ敵なしの王のことです。　９門を開け放ち、栄光の王をお迎えせよ。
１０　栄光の王とはだれですか。　天の軍勢の主ではないか。
二五
１　ああ神様、あなたに祈ります。　２主よ、信頼もうし上げている私に、恥をかかせないでください。　敵が有利に立ち回り、勝ち誇ったりしませんように。　３神様を信じる者は、だれ一人、信仰のために面目を失ったりしません。　しかし、罪のない者を傷つける者はみな、身をもって手痛い敗北を経験します。
４　ああ主よ、進むべき道を教えてください。　歩むべき小道を示してください。　５私を導き、教えてください。　主は救いをお与えになる神だからです。　主以外に望みはありません。　６７若いころの罪はお見のがしください。　ああ主よ！　あわれみと赦しの目で、永遠の愛と恵みの目で、私をご覧ください。
８　主は正しいお方で、迷い出た人に、喜んで正しい道を教えてくださいます。　９謙そんになって主のもとに帰る人に、主は最高の道を教えてくださいます。　１０主に従い行く時、その道は、どこもかしこも、主のいつくしみと真実の香りが漂っています。
１１　しかし、主よ。　私はなんと数多くの罪を犯していることでしょう。　ああどうか、御名のために私をお赦しください。
１２　主を恐れる人はどこにいますか。　主はその人に、最善のものを選ぶ秘訣を教えてくださいます。
１３　その人は神様の祝福の中に住み、子孫は地を受け継ぎます。
１４　神様を敬う者には神様との親しい交際が待っています。　神様はそのような人とだけ、秘密の約束をかわされます。
１５　私の目はいつも助け主に向いています。　私を救い出せるのは、主お一人だからです。　１６主よ、早くおいでになって、あわれみをお示しください。　私はすっかり打ちひしがれ、手も足も出ずに悩んでいます。　１７かかえている問題は、だんだん手に負えなくなるのです。ああ、すべての苦しみから引き離してください。　１８この悲しみに目を留め、この痛みを感じ取り、この罪をお赦しください。　１９私にはなんと敵が多く、また、どれほど彼らに憎まれているかをご覧ください。　２０お救いください！　このいのちを敵の手中から奪い返してください！　ああ、主に信頼したことがむだだったなどと、決して言わせないでください。
２１　神様を敬う心と誠実さとに、私を守らせてください。　主が私を守ってくださり、２２また、イスラエルを、ありとあらゆる苦しみから解放してくださると期待しています。
二六

１　私に対する告発をすべて却下してください、主よ。　私はいつもおきてを守ろうと心がけ、迷うことなく主に信頼してまいりましたから。　２きびしく取り調べて、お確かめください。　ああ主よ、動機ばかりか、思いも探ってください。　３私は、主の恵み深さと真実を理想としてまいりました。４私は､裏表のあるずるい人間とはつき合いません。連中は不誠実で、偽善的です。　５私は罪人のたまり場がきらいです。　まちがっても、そんな所には出入りしません｡６私は手を洗って身の潔白を証明し､それから祭壇に行き、７感謝の歌をうたい、主の奇蹟を人々に語り聞かせます。
８　主よ。　私はあなたの家を愛しています。　光り輝くこの宮を。主ご自身から照り渡る、目もくらむばかりのこの輝きを。
９１０どうか、私をありきたりの罪人といっしょにしないでください。また、罪もない者を罠にかけ、わいろを取る連中といっしょにしないでください。
１１　私はそんな人間ではありません。　ああ主よ。　正しいことだけを行なうために、狭くてまっすぐな道を歩もうとしてきたのです。どうか、あわれんでお救いください。
１２　主は、すべったり、倒れたりしないように守ってくださいます。私はそのことを、人々の前でほめたたえるのです。
二七
１　主は私の光、また救いです。　だれを恐れる必要がありましょう。２私を亡き者にしようと襲いかかる悪者は、つまずき倒れます。　３たとい大軍が押し寄せようとも、こわくありません！　必ず神様が救ってくださると信じているからです。
４　私が神様にお願いすることは、ただ一つです。　その求めてやまないものとは、主の宮で黙想にふけり、いのちある限り主の前で暮らし、主の比類なき完全と栄光とを喜ぶ特権です。　５悩みの日に、私はそこへ出かけます。　主はかくまってくださり、高い岩の上に座らせて、　６敵が手出しできないようにしてくださいます。　その時、私は主に供え物をささげ､大喜びで賛美の歌をうたいます。　７私の訴えに耳を傾けてください。　主よ。　あわれんで、お助けください。
８　「ここへ来て、わたしと話そう。」　このお声を、私の心は聞きました。　そして、こう答えます。　「主よ、参ります。」
９　どうか、お隠れにならないでください。　あなたを見つけ出そうとしているのです。怒って、召使の私を退けないでください。　かつて、試練に会うたびに助けてくださったではありませんか。　今になって、放り出さないでください。　ああ救いの神よ、見捨てないでください。　１０たとい、父や母が私を勘当しても、主は迎え入れて、慰めてくださるはずです。
１１　ああ主よ、どうすべきか、はっきり教えてください。　敵が手ぐすねひいて待ちかまえているのです。　１２どうか、捕まったりしませんように！　彼らの手中に陥ることなどありませんように！　身に覚えのないことを、彼らは告発するのです。　その一方では、いつも残忍な仕打ちをたくらんでいます。　１３主は、今度もきっと救い出してくだ

さいます。　人々が生きているこの地上で、改めて主のあわれみを見ることができますように。
１４　いらだってはいけません。　主を待ち望みなさい。　主は必ずおいでになって、あなたを救ってくださいます。　勇気を出しなさい。　神様を待ち望みなさい。　主はきっと救ってくださいます。
二八
１　ああ神様、どうかお助けください。　神様は安全を保証してくださる岩です。　神様にそっぽを向かれたら、いっさいをあきらめ、死ぬしかありません。　２主よ。　私は両手を差し伸べ、お助けをひたすら願っているのです。　どうか、私の叫びを聞いてください。
３　口先では隣人に愛想をふりまきながら、心の中ではひそかに相手を殺そうとたくらむ悪者どもと、いっしょに罰しないでください。４彼らに見合う罰が下りますように！　その悪事に比例して罰を重くし、すべてのしわざに報いてください。　５連中は神様のことになど無関心で、神様が何をなさろうとおかまいなしです。　ですから、神様の手で古い建物のように取りこわされ、二度と建て直されません。
６　私は、訴えを取り上げてくださった神様をほめたたえます。　７神様は私の力、あらゆる危険から身を守る盾です。　私の信頼にこたえて、神様は助けてくださいました。　心にわき上がる喜びは、賛美の歌となってあふれます。　８神様はご自分の国民を守り、油を注がれた王に勝利をもたらしてくださいます。
９　主よ、あなたの国民を守ってください。　主に選ばれた者を守り、祝福してください。　羊飼いとなって、いつまでも抱きかかえて運んでください。
二九
１　御使いたちは神様をほめたたえなさい。　その栄光と力をほめたたえなさい。　２まぶしいばかりの御名の栄光を覚えて、主をほめたたえなさい。　きよい衣を着て神様の前に出なさい。
３　神様の声は雲間から響きます。　栄光の神様は大空に雷鳴をとどろかせます。　４その声は力強く、威厳に満ちています。　５６それは杉の木をなぎ倒し、レバノンの巨木を引き裂きます。　また、レバノン山とシルヨン山を揺り動かし、子牛のように跳びはねさせます。７神様の声は、いなずまを光らせ、とどろき渡ります。　８砂漠にこだまし、カデシュの荒野を揺るがします。　９それは巨大な樫の木を倒します。　また、大風を巻き起こして森を激しくゆさぶり、丸裸にします。　しかし神の宮では、「栄光あれ。　神様に栄光あれ」と、ものみなほめたたえる声がするのです。
１０　大洪水をもたらして、全宇宙の支配者であることを示された主は、引き続きその力を顕示しておられます。　１１ご自分の国民に力を与え、平安をもたらし、祝福してくださいます。
三〇

１　私は神様をほめたたえます。　神様は私を敵の手から助け出し、敵が勝ち誇るのをお許しにならなかったからです。　２ああ神様。　神様は私の願いを聞き入れて、元の健康な体に戻してくださいました。　３墓の入口から、連れ戻してくださいました。　おかげで、こうして生きることができます。
４　神様を信じる人よ、神様を賛美し、そのきよい御名に感謝しなさい。　５主の怒りはつかの間に過ぎますが、その恵みは生きる限り続きます。　たとい、夜通し泣き明かすことがあろうと、朝には喜びが訪れます。
６７順境の日に、私はこう言いました。　「いつまでも今のままだ。　だれも私のじゃまはできない。　神様が恵んでくださって、私をびくともしない山のようにしてくださった。」ところが、神様は顔をそむけて、祝福の川をからしたのです。　たちまち私は意気消沈し、恐怖におじまどいました。　８ああ神様。　私は大声でお願いしました。９「神様、私を殺したって、一文の得にもなりません。　生きていてこそ、友人の前で神様をたたえることができるのです。　墓に埋められたら、どうして神様の真実を世間に知らせることができましょう。１０ああ神様、どうか私をあわれみ、助けてください。」　１１すると、神様は嘆きを喜びに変え、喪服を脱がせて、きらびやかな晴れ着をきせてくださいました。　１２墓に埋められないで、神様に喜ばしい賛美の歌声をあげるためです。　ああ神様。　私はいつまでもこの感謝の気持ちを忘れません。
三一
１　神様。　あなただけが頼りなのです。　どうか敵の横暴から私を守ってください。　いつも正しいことをなさる神様、どうか助け出してください。　２すすり泣きの訴えに、すぐさま答えてください。絶え絶えの祈りに、耳を傾けてください。　外敵を防ぐ大きな岩となってください。　３神様こそ私の岩、とりでです。　どうかこの窮地から救い出して、神様のお名前をあまねく知れ渡らせてください。４敵がしかけた罠から、抜け出させてください。　神様だけが、そうする力をお持ちなのです。　５６私はたましいを御手にゆだねます。
ああ、約束をお守りになる神様。　私を助け出してくださったあなただけを礼拝いたします。　神様はどれほど、まがいものの神や偶像を拝む者どもを、おきらいになることでしょう。　７神様の恵み深さを知って、私の顔は喜びに輝きます。　神様は私の苦悩を知り、たましいにしのびよる危機を察してくださいました。　８私を敵の手に渡さず、作戦上有利な、見通しのきく場所へと移してくださいました。
９１０ああ神様、苦しみもだえるこの身をあわれんでください。　さんざん泣いて、目も真っ赤です。　嘆き疲れた体は、もうずたずたです。　悲しみのためにやつれ果て、私の歳月は縮まり、力尽きてしまいました。　罪のおかげで骨抜きにされ、嘆きと恥とでうずくまっています。　１１敵という敵は言うに及ばず、隣人や友人からも悪しざまにののしられます。　彼らは私に会うのもいやだと言わんばかりに、すれ違いざま、ぷいと顔をそむけます。　１２まるで屍のように、こわれたつぼのように、見捨てられた私です。　１

３絶え間なく、デマや敵の中傷が耳に入り、どちらを向いても、恐怖ばかりです。　連中はこの私の命をつけねらっているのです。
１４１５しかし神様。　私はあなたへの信頼を失わずに、こう申し上げました。　「神様はあなたお一人だけです。　私の時は神様の手中にあります。　情け容赦なく追い立てる者の手からお助けください。　１６恵みの光で、もう一度このしもべを照らしてください。限りなく恵み深いお方よ、どうかお救いください。　１７主よ、助けを叫び求める私を放りっぱなしにして、恥をかかせないでください。　一方、悪者どもは、頼みとするものに裏切られて、赤恥をかくようにしてください。　その口を封じ、墓に埋めてやってください。　１８その時、正しい者を非難する、横柄きわまりないやつらのくちびるは、ついに麻痺するのです。」
１９　神様の助けを信じて公言する者を、神様はなんと大きな恵みで包んでくださることでしょう。　信頼と敬愛を失わない者のために、神様はすばらしい祝福をたくわえてくださっています。
２０　いとおしまれる者たちを、神様のおられる隠れ家にかくまい、謀略家の手から守ってください。　２１ああ、恵み深い神様。　あなたは変わらない愛を示して、分厚いとりでの壁のように守ってくださいました。　２２「神様に見捨てられた」と口走った私でしたが、やはり早合点でした。　確かに神様は、私の願いを聞き入れてくださったのですから。
２３　神様の国民よ、こぞって神様を愛しなさい。　神様は忠誠を尽くす人を守られますが、はねつける者には断固とした罰をお下しになるからです。　２４さあ、元気を出しなさい。　もし、神様に信頼しているなら、雄々しく立ち上がりなさい。
三二
１２罪を赦された人は、どれほど幸せなことでしょう。　罪がかき消されたとすれば、どれほどうれしいことでしょう。　罪を告白し、その記録を塗りつぶしてもらった人は、どれほど解放感を味わうことでしょう。
３　この私には、罪状を認めたくない時がありました。　おかげで、すっかりみじめな思いをし、くる日もくる日も挫折感にとらわれて過ごしたものです。　４神様の手は、いつも重くのしかかっていました。　私の力は、強烈な日ざしの中の水たまりのように干上がりました。5とうとう私は、自分の罪を神様の前にさらけ出さざるをえませんでした。「何もかも神様にお話ししよう」と決心したのです。　すると、神様は赦してくださいました。私の罪は跡形もなく消えたのです。
６　私は神様を信じる人々に、自分の罪に気づいたら、まだ赦される間に神様に告白しなさいと、大声で忠告します。　そうすれば、その人は天罰を免れるのです。
７　この人生にどんな嵐が吹き寄せようと、私は神様のもとに避難いたします。　そこでは勝利の歌が響き、苦しみに巻き込まれることがないからです。　８神様はこう言われます。　わたしはあなたを教え、最善の人生航路へと導いてあげよう。　助言を与えて、一

歩一歩を見守ってあげよう。　９くつわをはめなければ言うことを聞かない、馬やらばのようになるな！
１０　悪者どもは次々と悲しみに見舞われますが、神様に信頼する人は神様の無限の愛に包まれます。　１１ですから、神様のものとなっている人々は喜びなさい。　これから神様に従おうとする人々は、喜びの声をあげなさい。
三三
１　神様を敬う人々の喜びが、賛美の声となってわき上がりますように。　神様をほめたたえるのは良いことです。　２竪琴と十弦の琴で、喜びにあふれる賛美の調べをかなでなさい。　３新しい賛美歌を作り、巧みにハープをかき鳴らして、喜びの歌をうたいなさい。
４　神様のことばには偽りがなく、その行為にも裏切りはありえないのです。　５神様はすべて正しいこと、良いことを愛しておられ、地上はそのやさしい愛で潤っています。　６あの星をちりばめた天空も、神様のひと言で造られました。　７神様は海を造り、水を注がれました。
８　全世界の人は、老いも若きも、男も女も、恐れかしこみながら神様の前に立ちなさい。
９神様のおことば一つで、この世界は始まったからです。　１０主はひと息で、反抗的な国々の策略を吹き消されます。　１１神様の計画はいつまでも不滅で、そのお考えはいつの時代にも揺るぎません。
１２　神様を信じる国民はしあわせです。　神様から選ばれた国民だからです。　１３‐１５人の心を造られた神様は、天のお住まいから全人類を見下ろし、一人一人の行動をつぶさに眺めておられます。
１６１７最強の軍備を誇る軍隊でも、王を救えるわけではありません。力だけでは、だれひとり救うことはできないのです。　勇ましい軍馬も、勝ちいくさを保証してはくれません。　力が救いとはならないのです。
１８１９しかし神様の視線は、神様を信じて従い、その変わらない愛に頼る者に注がれます。　ききんの際にも、餓死することはありません。２０あてになるのは主お一人です。
神様は盾となって守ってくださるのです。　２１神様に信頼する私たちに、喜びがあふれるのは当然です。　２２主よ、尽きることのない愛で包んでください。　あなただけが望みなのです。
三四
１　何が起ころうと、私は神様をほめたたえます。　どんな時にも、神様の栄光と恵みを人々に伝えます。　２神様のあたたかい思いやりの数々を誇ります。　失意の中にある人々は気を取り直しなさい。３さあ、共に神様をほめたたえ、そのお名前をとどろかせましょう。
４　声の限りに私が呼び求めた時、神様はそれに答えて、いっさいの恐怖を取り払ってくださいました。　５神様のなさることを見て、私以外の人も顔を輝かせました。　もう、その表情は沈んでいません。　６大声で叫び求める哀れな者を、神様は苦しみから助け出

してくださいました。　７神様の使いは、敬虔な人を守り、救い出してくれるのです。
８　さあ、神様を試してみたらどうですか。　そして、どんなに神様が恵み深いお方か思い知るべきです。　神様に信頼する人には恵みが雨と降り注ぐことを、自分で確かめてごらんなさい。　９あなたが神様のものとなっているのなら、恐れかしこみなさい。　そうすれば、必要なものはいっさい与えられます。　１０若く雄々しいライオンも、時にはひもじさに襲われます。しかし、神様を敬う私たちに、祝福が足りない時などありません。
１１　息子よ、娘よ、私のことばを聞きなさい。　神様だけに頼り、信じてお従いすることのたいせつさを教えよう。　１２君たちは、しあわせになって長生きしたいと願っているのか。　１３それなら、自分のことばに注意をはらいなさい。　どんなことがあっても、うそをつかないことです。　１４罪だと思うものからは、いっさい手を引き、善行を積むことに身を入れなさい。　だれとでも平和に暮らそうと考え、そのために全力を尽くしなさい。
１５　神様は正しい生活を送る者をじっと見守り、その人の願い出ることを聞き届けてくださいます。　１６しかし、悪者どもは地上から抹殺し、彼らがいたという記憶さえぬぐい去ろうと決心なさいました。１７神様は正しい人の叫びを聞き、すべての苦しみから救い出してくださいます。
１８　神様は心の砕かれた人のそばにおられ、謙虚に罪を悔いる人を助け出されます。　１９正しい人だからといって、すべての苦難を免れるわけではありません。　しかし、神様はあらゆる苦しみから救い出し、　２０不慮の事故から守ってくださるのです。
２１　悪者には、災難が的中し、善人を憎む者には、重い刑罰が待っています。　２２しかし、神様はご自分のしもべを救い出されるのです。神様のもとに逃げ込む人は、無条件で赦されます。
三五
１　ああ神様、私にいどむ者に立ち向かい、攻撃をしかけてくる者と戦ってください。　２よろいをまとい、盾を取り、前に立ちはだかって私を守ってください。　３槍を高くかざしてください。　追手がすぐそこまで迫っていますから。　絶対に敵の手に渡したりしないとおっしゃってください。　４私のいのちをつけねらう連中をなぎ倒し、赤恥をかかせてやってください。　５主の使いの起こす風で、もみがらのように吹き飛ばしてください。
６主の使いに追い立てられた連中の逃げ道をすべりやすくし、暗やみで閉ざしてください。
７連中は無実の私にぬれぎぬを着せようと、罠をしかけ、落とし穴を掘ったのですから。
８どうか、自らしかけた網にかかり、たちまち滅んでしまいますように。
９　しかし、私は、神様が助けてくださると信じてほほ笑みます。１０心の底から、神様への賛美が込み上げてきます。　天にも地にも、神様のようなお方はありません。　いったいだれが、身寄りのない弱い者を強い者から守り、貧しい者を強盗から救い出してくれるでしょうか。
１１　これらの悪者どもは、宣誓したその舌でうその証言をします。身に覚えのないこと

で私を告訴します。　１２良いことをしてやっても、しっぺ返しをくらうのです。　私はもう力尽きてくずおれます。　１３彼らが病気の時、治してやってくださいと神様に泣いてすがったのは私です。　そのために食を断ち、ひたすら祈り続けました。　しかし、神様はお聞き入れになりませんでした。　１４私はまるで、自分の親兄弟や友人が危篤ででもあるかのように、悲痛な思いにとらわれていたのです。　１５ところが、いざ私が困難にぶつかると、彼らは手を打って喜び、ぐるになって押しかけて来ては、のべつ幕なしに中傷します。中には、私の知らない顔もありました。　１６私をのろわせるのに、町のならず者まで駆り集めていたからです。
１７　主よ、いつまで手をこまぬいて、つっ立っていらっしゃるのです？　さあ、どうか助け出してください。　若いライオンが牙をむいて、かけがえのない私のいのちをねらっています。　１８お救いください。そうすれば、私は黒山の人だかりもものともせず、感謝の祈りをささげます。
１９　理由もなく私を憎む者どもに､勝ち誇らせないでください。 私が倒れるのを見て、彼らが手をたたくなんてことがあってたまるものですか。　彼らにこそ死がふさわしいのです。　２０平和や慈善事業については口をつぐむ彼らも、善良な市民を陥れる悪だくみとなると、能弁になります。　２１彼らは、この私が悪事を働く現場を目撃したと叫びます。　「確かにこの目で、あいつが悪いことをするのを見たんだぜ」とはやし立てます。
２２主よ、あなたは一部始終をご存じです。貝のように口をつぐんで、私を見捨てないでください。
２３　ああ神様、今こそこの身の疑いを晴らしてください。　２４正義の神様、どうか私の無実を宣告してください。 悩む私の姿を見て､はしゃぎ回ったりさせないでください。
２５「全く思いどおりに事が運んだな。　ついにあいつもお陀仏だよ！」と喜ばせてなるものですか。　２６彼らこそ赤恥をかきますように。　人の苦しみを喜ぶ者こそ、不幸にみまわれ、文無しになりますように。　身ぐるみはいで、恥をかかせてやってください。
２７しかし、私のしあわせを願ってくれる者には、大きな喜びをお与えください。　そして、こう叫ばせてください。　「信じる者を喜んで助けてくださる神様はすばらしい！」
２８神様がどれほど偉大で正しいお方か、私は会う人ごとに語りましょう。　一日じゅう神様をほめたたえて過ごしましょう。
三六
１　罪は悪者どもの心に巣くい、いつも悪事へとけしかけます。　彼らには、神様を恐れて悪事から遠ざかろうとする気持ちなどありません。　２それどころか、知らぬ存ぜぬで押し通せば、どんな不正行為も隠しおおせ、逮捕にまでは至らないと、自分に言い聞かせています。　３彼らのことばにはみな裏があり、一かけらの真実もありません。知恵や善行とは無縁の連中です。　４夜通し悪事をたくらむ彼らには、悪事から足を洗おうという気持ちなど、みじんもないのです。
５　ああ神様。　あなたの揺るがぬ愛は天のように高く、あなたの真実は雲にまで達しま

す。　６あなたの正義は神の山のように不動で、そのご判断は、満ち潮の海のように知恵であふれています。　神様は人にも獣にも心をお配りになります。　７ああ神様。　尽きることのないご愛を、心から感謝いたします。　あらゆる人が御翼の陰に身を隠します。８その人々は神様の祝福をふんだんに受けて養われ、喜びの川の水を心ゆくまで飲ませていただくのです。
９　神様はいのちの泉です。　私たちは神様の光を反映しているにすぎません。　１０神様を信じている人々に、変わらない愛を注いでください。　どうか、おこころにかなった生き方をしようとする人々を、お救いください。
１１　あの高慢な連中が私を踏みにじるのを、許さないでください。不正を行なう者らの手で、もてあそばれるのはごめんです。　１２ご覧ください。　彼らは投げ倒され、二度と立てなくなったのです。
三七
１　悪者をうらやんではいけません。　２しょせん、草のようにあっという間に枯れ、消え失せる存在なのですから。　３神様を信頼して他人を思いやり、親切にしてやりなさい。そうすれば、この地に安住し、成功を収めることもできます。
４　神様を喜びとしなさい。　神様は心の願いをみな、かなえてくださいます。　５自分のしようとすることをみな、神様にゆだねなさい。信頼する者を、神様は助けてくださいます。　６あなたの潔白はだれの目にも明らかになります。　神様は、真昼の太陽のようにまぶしい正義の光をあてて、弁護してくださいます。
７　すべてを神様にゆだねて、大船に乗った気でいなさい。　神様が立ち上がられるまで忍耐して待つのです。　悪者どもの繁栄ぶりをねたんではいけません。
８　怒るのをやめ、憤りを捨てなさい。　くよくよ思い悩んではいけません。　自分が傷つくだけです。　９悪者は滅ぼされますが、神様に信頼する者には祝福が降り注ぐのです。１０もうしばらくすれば、どれほどひとみをこらそうと、悪者の姿は見あたらなくなります。１１一方、神様の前に謙そんになる人は、ありとあらゆる祝福を受け、ここちよい平安にひたるのです。
１２１３神様は、ご自分を信じる人を陥れようとたくらむ者を一笑にふされます。　彼らのさばかれる日が近いのをご存じだからです。　１４悪者どもは貧しい者のいのちをつけねらい、正義の人を血祭りにあげようと身構えています。　１５しかし、彼らの剣は自分の心臓を突き刺し、その武器はみな木端微塵になるに決まっているのです。
１６　不正な手段でかせぎまくるより、わずかな持ち物に甘んじて、神様を敬って過ごすほうがましです。　１７悪者の腕はへし折られますが、罪を赦された人は神様に守られて暮らせるからです。
１８　神様は毎日、神様を敬う人の善行をご覧になっていて、永遠のほうびをお与えになるのです。　１９逆境の時にも、神様に守られています。　だから、ききんの年にも飽き足りることができるのです。　２０しかし、悪者は滅びます。　神様に敵対する者は草の

ようにしおれ、煙のようにはかないのです。　２１悪者は借りても、返済できません。しかし、正しい人は利子をはずんで返します。　２２神様に祝福された人はこの地上を相続しますが、のろわれた者は滅びます。
２３　正しい人は、神様の指示に従って歩みます。　神様はその一歩一歩をお喜びになるのです。　２４たとい倒れても、それで終わりではありません。　神様がしっかり支えておられるからです。
２５　以前は若かった私も、今では年をとりました。　しかしこの間、神様が御自身を愛する者をお見捨てになったり、神様を敬う人の子供を空腹のまま放っておかれたりする光景を、一度も目にしたことがありません。　２６むしろ、神様を敬う人は惜しげもなく物を人にふるまい、金を貸しており、その祝福は子供にまで及ぶのを見ました。
２７　永遠の住まいに行きたいと願うのなら、卑劣な悪の道を捨て、正しい生活を送りなさい。　２８神様は正義と公平を愛されるからです。神様はご自分の国民を決してお見捨てになりません。　その人々は永遠に安全を保証されているのです。　反対に、悪の道を慕う者は滅びます。
２９　神様を敬う人はこの地に植えられて根を張り、永遠に住みつくのです。　３０３１神様を敬う人は正しく公平で、善悪をわきまえているため、すぐれた相談役を務めます。
３２　悪者どもは神様を敬う人をつけねらい、なんとか訴える口実を見つけ、死罪に追い込もうと目を光らせます。　３３しかし、悪者どもの思いどおりになるのを、神様がお見過ごしになるはずがありません。神様を敬う人は、法廷に引き出されるようなことがあっても、有罪の判決を受けることはありません。
３４　神様が乗り出される時を、じっとしんぼうして待ちなさい。　そして、神様の道をしっかり歩んで行くのです。　やがて、神様が祝福をあふれるばかりに注ぎ、あなたの名声を高めてくださる時がきます。しかも、あなたは悪者が滅ぼされるのを目のあたりにするのです。３５３６この光景は私自身も経験ずみです。 そびえ立つレバノン杉のように、おごり高ぶった悪者が、次の瞬間には影も形もなくなっていたのです。　ひとみをこらして捜しましたが、その姿は消え失せていました。　３７それに引き替え、正しい人はどうでしょう！　非の打ちどころなく高潔で、平和を愛するその人の未来は、ばら色に輝いています。　人もうらやむ晩年が待っているのです。　３８しかし、悪者は滅ぼされ、子孫は根絶やしにされます。
３９　神様を敬う人は救われます。　苦しみの時、神様は救いとなり、とりでとなってくださるのです。　４０神様は、頼って来る者を助け、悪者の策略から守ってくださいます。
三八
１　ああ神様、お怒りのままに私を罰しないでください。　２あなたの矢は深く突き刺さり、私は容赦ない連打に圧倒されました。　３４お怒りにふれて病気となり、罪のため健康を害したのです。　罪は洪水のように頭上を越えました。　もう、自分では負いきれない重荷です。　５６傷口はただれ、うみがあふれています。　罪の重さに、身を二つに折

るようにして苦しんでいます。　昼も夜も苦痛に満ち、　７腰は焼けつくように痛く、全身が病み疲れているのです。　８私は精根尽き果て、絶望してうめくのみです。
９　主よ。　どれほど健康な体に戻りたいことか！　あなたはご存じです。　私のため息は一つ残らずお耳に達したはずです。　１０動悸は激しく、体力は消耗し、失明の一歩手前まで来ました。　１１愛する者や友人たちは、私の病気をこわがって近寄ってくれません。　家族の者さえ遠巻きにしています。
１２　一方、敵はと言えば、この命をつけねらい、目覚めている間中、策略を練っているのです。　１３１４しかし私は、彼らの脅し声には我関せずを決め込んでいます。　おしのように、黙りこくっています。１５神様に望みを託しているからです。　ああ神様、早くおいでになって、私を守ってください。　１６ざまあ見ろと言わんばかりに、失意の私を眺める、あの高慢な連中に、とどめを刺してください！
１７　いつまで私は危険な崖っぷちに立ち尽くすのでしょう。悲しみの原因である罪が、四六時中、私を見すえています。　１８私は罪を告白いたします。　どうか、今までの行ないを赦してください。　１９しかし、私を憎む敵は気勢をあげて迫害してきます。　私には少しも身に覚えがありませんのに。　２０連中は悪をもって善に報い、正義を唱える私を憎むのです。
２１　ああ神様、私を置き去りにしないでください。　２２私を救ってくださる神様、急いで駆けつけて来てお助けください。
三九
１　私は自分に言い聞かせました。「不平を鳴らすのはやめよう。特に、神様を信じない連中に取り巻かれている間は。」　２３ところが、おし黙っている私の心の中では、すさまじい暴風が吹き荒れているのです。　思いにふければふけるほど、体の中で火が燃え上がります。私はたまりかねて口を開き、神様にとりすがりました。　４主よ、地上で生きる期間などあっという間だ、とわからせてください。　ここにいるのもあとほんの少しだ、と思い知らせてください。　５６残りの生涯は手の幅ほどもありません。　私の一生など、神様から見ればただの一瞬にすぎません。　人はなんとおごり高ぶることでしょう。　人のいのちは息のようにはかないものです。　しかも、どんなにあくせくしようと、何一つ残せるわけではありません。　他人にくれてやるために、富を築くようなものです。　７ですから、神様。　私は神様にだけ望みをかけているのです。
８　私が罪に負けたりしないように、神様、助けてください。　そうでないと、間の抜けた連中までが、私をばか呼ばわりしますから。
９　主よ。　もう私は何も申し上げません。　不平がましいことなどひと言も口にいたしません。　罰をお下しになるのは神様ですから。
１０　主よ、これ以上、打たないでください。　おかげで私は、息も絶え絶えです。　１１ひとたび神様から罪を罰せられれば、だれでも倒れてしまいます。　人は、しみに食われた衣類のようにもろく、霧のようにはかないものですから。

１２　ああ神様、私の祈りを聞いてください。　この涙ながらの訴えに耳を貸してください。　私の涙などそ知らぬ顔で、手をこまぬいていないでください。　私は神様に招かれた客ではありませんか。　先祖同様、この地上を仮の宿とする旅人なのです。
１３　どうかこの命をお助けください。 死ぬ前にもう一度、元気になりたいのです。 喜びに満たされたいのです。
四〇
１　私はただひたすら神様のお助けを待ち望みました。　すると、その願いは聞かれたのです。　２神様は絶望の穴から、どろどろのぬかるみから引き上げて、踏み固めた道に下ろし、しっかり歩けるようにしてくださいました。　３神様は私の口に、新しい賛美の歌を授けてくださいました。　私が神様に、どれほどすばらしいことをしていただいたかを知って、大ぜいの人が敬虔な心で神様を敬い、信頼するようになるでしょう。　４いばったり偶像を拝んだりする者には頼らず、神様だけを頼りとする人には、ふんだんに祝福が注がれます。
５　ああ神様。　何度も何度も大きな奇蹟を見せてくださったあなたは、いつも私たちのことを心に留めてくださっています。　ほかのだれに、こんなすばらしいまねができるでしょう。　だれも比べものにはなりません。　神様のすばらしいみわざは、どんなに時間をかけても語り尽くせないのです。
６　神様が真に望んでおられるものは、いけにえや供え物ではありません。　完全に焼き尽くすいけにえが、特に神様をお喜ばせするわけではありません。　しかし、生涯を通じて神様にお仕えしようとする私の申し出は、受け入れてくださいました。　７そこで、私はこう言いました。 「神様。 いま私は、預言者が言っていたとおりに参りました。　８神様のおきてを心に刻んでいる私は、喜んでご意志に従います。」
９　私は会う人ごとに、神様が人の罪を赦してくださるという、うれしい知らせを伝えます。　そうすることにためらわなかったのは、よくご存じだと思います。　１０私はこの良い知らせを胸の中にしまい込んだりはせず、かえって、神様のいつくしみと真実を多くの人にふれ回りました。
１１　ああ神様。　あなたの愛と真実だけが頼りなのですから、あわれみを出し惜しまないでください。　１２それがなければ、私は滅んでしまいます。　とても手に負えない問題が、山積みなのですから。　その上、数えきれない罪に責め立てられ、恥じ入るばかりで顔を上げることもできません。　身も心も縮み上がる思いです。
１３　お願いです。　さあ、早く助けてください。　１４１５いのちをつけねらう者どもをかき乱し、追い払ってください。　あざけるやつらをいやと言うほど痛めつけ、赤恥をかかせてやってください。
１６　しかし、神様とその救いを慕う人は、喜びにあふれますように。そして、常にその口からは、「神様はなんとすばらしいお方でしょう」という賛美がもれますように。
１７　私は貧乏で、困っています。　しかし、神様はこんな時こそ、私を心にかけてくだ

さっているのです。　ああ、救い主であられる神様、直ちに駆けつけて、救ってください。
四一
１　貧しい者に親切な人は、神様から祝福を受けます。　その人が困難に会う時、神様は助けの手を差し伸べてくださいます。　２また、無事に守って生かし、人前で面目を施させ、敵を蹴散らしてくださいます。　３病気になると、神様ご自身が看護にあたり、痛みをやわらげ、心配事を取り去ってくださるのです。
４　私はこう祈りました。　「ああ神様、私をあわれんで、病気を治してください。　私は罪を洗いざらい告白したではありませんか。」５ところが敵は、「とっととくたばれ。　早くあの世に行っちまえ」と言っています。　６連中は、いかにも親しげに、病床の私を見舞うくせに、心の中では憎悪をたぎらせていて、苦痛を訴えながら寝ている私を見てほくそ笑むのです。　一歩外に出ると、大笑いし、あざけり、　７私が死んだらどうしてくれようかと、ひそひそ耳打ちし合っています。　８彼らはこう言います。　「どんな病気か知らんが、もうすぐお陀仏さ。　二度と起き上がれるものか！」
９　食事を共にした親友さえ、私を裏切りました。　１０神様、どうか私を見殺しにしないでください。　あわれに思ってください。　どうか健康な体に戻し、この手で、やつらに仕返しできるようにしてください。　１１神様は、敵が私に勝ち誇るのをお許しになりませんでした。おかげで私は、神様のお目にかなっていることを知りました。　１２正直がとりえの私を、神様はこれまで守ってくださったのです。　これから先、いつまでも目をかけてくださいます。
１３　イスラエルの神様をあがめなさい。　この方は永遠に生きておられます。　アーメン。　アーメン！
四二
１　ああ神様。　鹿が水をあえぎ求めるように、私も神様を慕い求めます。　２焼けつくような渇きを覚えながら、私は生きておられる神様を慕っています。　どこへ行けば、お目どおりがかなうのでしょうか。　３昼も夜も涙にむせびながら、神様のお助けを祈っています。かたわらでは敵が、「おまえの神様とやらはどこへ行ったんだ」とあざけるのです。
４５さあ、私のたましいよ、元気を出せ。　あの日のことを思い出すのだ。　よもや忘れはしまい。　あの祭りの日、多くの人の先頭に立って神の宮に参り、喜びに満たされて賛美の歌をうたったことを！どうしてそんなに沈み込む必要があるのか？　どうして、悲しげにしょげ込んでいるのだ。　神様に望みを託すがよい。　そうだ、お助けを信じて、もう一度神様をほめたたえよう。　６それでもなお、私は意気消沈し、ふさぎ込んでいます。しかし、やがてその思いは、ヨルダン川が流れ、ヘルモン山やミツァル山のそびえる美しいこの地に注がれている、神様のお恵みへと移っていくのです。　７神様のさかまく大波が私の頭上を越え、悲しみの洪水が、とどろく大滝のように降りかかって来ます。
８　しかし、その一方、神様は日ごとに変わらない愛を注いでくださるのです。　私は夜通し賛美歌をうたい、このいのちを授けてくださった神様に祈りをささげます。

９　「ああ、岩なる神様」と、私は叫びます。　「なぜ、私をお見捨てになったのですか。なぜ、私は敵の攻撃にさらされて、こんなにも苦しまなければならないのですか。」　１０人のあざけりが、この身を突き刺し、致命傷を負わせます。　やつらは、「おまえの神様はいったいどこへ行ったのだ」と、いやがらせを言うのです。　１１しかし、私のたましいよ、気落ちするな。　動転するな。　神様はきっと乗り出してくださる。　そのうち、神様がすばらしいことをしてくださり、私は賛嘆の声をあげるに決まっているのだ。　このお方こそ、私のいのち綱。　私の神なのです。
四三
１　ああ神様、情け容赦もなく、だまし取ろうとするやつらの言いがかりから、守ってください。　２神様は、かけがえのない隠れ家なのです。　どうして、私など眼中にないかのように突き放されるのですか。　どうして、敵に痛めつけられて私が泣きを見なければならないのですか。
３　どうか、あなたの光と真実に道案内させ、きよいシオンの山にある神の宮へと導いてください。　４この上ない喜びにあふれて祭壇の前に立ち、竪琴をかきならしながら賛美したいのです。　ああ神様。５私のたましいよ、どうしてそんな憂うつそうな顔をして、ふさぎ込むのか。　神様に何もかもお任せしなさい。　きっとそのうち、すばらしい助けの手が差し伸べられ、感謝の思いに満たされるに決まっている。　神様はきっとまた、私の顔をほころばせてくださる。　神様は私を決してお見捨てになったりはしない。
四四
１２ああ神様。　ずっと昔には、神様はすばらしい奇蹟を行なわれたと聞いています。　私たちの先祖は、神様がこの地から異教の国民を追い出し、すみずみまでイスラエルの支配を行き渡らせてくださったいきさつを、話してくれました。　３人々は自分の力や腕で、この地を手に入れたのではありません。　全能の力をお持ちの神様が、おこころにかけてくださり、お力添えくださったおかげなのです。
４　私の王、私の神様！　あなたの国民に勝利をもたらしてください。５敵を踏みにじるには、そのお力とお名前のご威光にすがるよりないからです。　６武器などあてにはなりません。　そんなものが救ってくれると考えるのは、大まちがいです。　７神様だけが、憎しみのかたまりとなっている連中に打ち勝つことが、おできになるのです。
８　私はいつも神様を誇ってきました。　神様には、どんなに感謝しても、感謝しきれません。　９ああ神様。　けれどもここしばらく、あなたは私どもを無視していらっしゃいます。　おかげで大いに面目を失いました。　これほど悪戦苦闘しておりますのに、助けの手を差し伸べてくださいません。　１０それどころか、私たちに対抗しようとさえなさり、敵の前で痛い目に会わせられました。　敵はこの国を襲い、あちこち略奪して回りました。　１１まるで屠殺場の羊のように、神様は私たちを扱い、国中に散らされました。１２そして、二束三文で売り飛ばされたのです。　何の値打も認めてくださらなかったのです。　１３このひどい仕打ちのおかげで、私たちは回りの国々の笑い者となり、さんざ

んばかにされました。　１４「ユダヤ人」ということばが、外国人の間では侮蔑と恥の代名詞となったのは、神様のせいです。　１５１６復讐心に燃えた敵は、私たちをのべつ幕なしにさげすみ、あざけり、なじり、のろっています。
１７　あれほど神様に忠誠を尽くし、神様のご契約を守ってきましたのに、こんなひどい目に会わされています。　１８私たちの心は、かた時も神様から離れたことはありませんのに！　ただの一度も、神様の道からそれませんでしたのに。　１９もしそんな過失があったのなら、荒野で罰せられようと、暗やみと死に放り出されようと納得がいきます。２０もし、私たちが神様に背いて、偶像を拝んでいたりすれば、当然お目にも留まるはずです。　２１神様は人の心の奥の奥までお見通しではありませんか。　２２ところが、私たちときたら、神様にお従いしているばかりに、常に死の恐怖にとらわれているのです。　まるで屠殺場に引かれて行く羊みたいです。
２３　ああ神様、目を覚まし、起き上がってください！　まどろまないでください。　いつまでも見捨てておかないでください。　２４どうして、顔をそむけ、この悲しみと苦悩を見て見ぬふりなさるのですか。　２５私たちは泥の中に転がっています。　２６ああ神様、早く来て、変わらない愛でお助けください。
四五
１　私の心は美しい思いであふれています。 さあ、うるわしい詩を王にささげましょう。見る間に物語をつづる即興詩人のように、ことばがわき上がってくるのです。
２　あなたはだれより美しい。
あなたのことばは優しさにあふれている。
永遠にあなたは神様の祝福に包まれる人。
３　力強い方よ、
威風堂々として、腰に剣をつけなさい。
４　威厳をまとい、勝ち進むのだ。
真理と謙そんと正義のために
手あたりしだいに粛清を押し進めよ。
５　あなたの矢は鋭く、
敵の胸に突き刺さり、
目の前でなぎ倒していく。
６　神様の王座は永遠、
神様の笏は正義。
７　真実を愛し、悪を憎むあなたに、
神様は格別大きな喜びをお授けになった。
８　あなたの服には没薬、アロエ、シナモンの芳香がただよいます。象牙をちりばめた宮殿では、ここちよい音楽がかなでられています。９諸王の娘があなたの側室に加わり、王妃は、オフィル産の最高級の金の飾りをつけ、あなたのかたわらに立っています。　１０

１１「娘よ、私の忠告を聞きなさい。　遠い故国の父や母を思って悲しんではいけません。あなたには王という夫があり、あなたの美しさはことのほか愛でられています。　主人である王に、うやうやしく仕えなさい。１２当世いちばん金回りのよいツロの人々が、あなたの歓心を買おうと、贈り物を山と積んで来るでしょう。」
１３　花嫁姿の王女は、金の糸で織りなした美しい晴れ着をまとい、自室で控えています。１４侍女にかしずかれ、しずしずと王の前に出る、その姿の美しいこと！　１５王宮の門をくぐる行列は、なんと楽しげで、うれしそうなのでしょう。　１６「あなたから生まれる子供は、いつか父親の跡を継いで王となり、世界を支配します。
１７　わたしはあなたの名を、のちの世までも輝かせます。　諸国民はいつまでも称賛してやまないでしょう。」
四六
１　神様は私たちの隠れ家、また力、そして苦難にあえぐ時の確実な助けです。　２ですから、たとい全世界が吹っ飛び、山々が海に沈もうとも、こわがることはありません。　３海よ、鳴りとどろき、白くあわ立つがよい。　山よ、激しく揺れ動くがよい。
４　喜びの川が、神の神であられるお方の聖なる住まいのある都を流れます。　５神様がそこに住んでおられるので、ここかしこで騒ぎが起ころうと、都はびくともしません。　しかも、神様はすばやく助けの手を差し伸べてくださるのです。　６国々は怒り狂い、わめき散らします。　しかし、神様のひと言で大地は溶けて服従し、王国はよろめき倒れます。
７　天の軍勢の主である神様が、そばにいてくださいます。　このお方はヤコブの神で、私たちを助けに駆けつけてくださいました。　８さあ、どんなにすばらしいことをなさるか、よく見なさい。　神様は全世界を灰とし、　９世界のすみずみまで戦争をやめさせ、武器という武器を残らず破壊し、焼き捨てられます。　１０「よく聞きなさい。　わたしこそ神であることを、思い知りなさい！　わたしは全世界の称賛の的となるのだ！」
１１　天の軍勢の主は、確かに私たちの味方です。　ヤコブの神であるこのお方が、駆けつけて助けてくださいました。
四七
１　さあ、皆さん、喜んで手をたたきましょう。　大声をあげて神様をほめたたえましょう。　２この比類ないお方は、ことばには尽くせないほど神々しい神であり、全地を治める偉大な王なのです。　３神様は、私たちが国々を治めやすいようにしてくださり、　４ご自分の愛する者たちに、手ずから最高の祝福を選び取ってくださいます。　５　鳴りわたるラッパの音と勇ましい雄叫びの中を、神様はのぼって行かれました。　６７私たちの主である神様に向かって、賛美の歌を声高らかにうたいなさい。　全世界の王である神様をほめ歌いなさい。　心からほめ歌いなさい。　８神様は国々を治め、聖なる御座におつきになります。　９全世界の支配者たちも、声を合わせて、アブラハムの神をほめたたえました。　１０諸国の勇者が手に取る盾は、神様のトロフィーなのです。　神様は世界のどこででも大きな栄誉をお受けになります。

四八
１　神様はなんと偉大なお方でしょう。 どれほどほめことばを連ねても足りません。 神様はエルサレムのシオン山に住んでおられます。　２なんと神々しい光景でしょう。　都の北に､ひときわ高くそびえ立つシオン山をご覧なさい。 あそこは偉大な王の住まいで、世界中の喜びの源泉です。
３　神様ご自身がエルサレムの守りにつかれます。　４諸国の王は、都を探ろうと集まって来ました。　５しかし、ひと目見るなり驚嘆し、ほうほうの体で逃げ帰りました。　６彼らは目に映ったものにおびえ、産気づいた女のようにうろたえます。　７神様には、無敵艦隊を木端微塵にすることなど朝飯前です。　８かねてから、天の軍勢の主であられる神様の都のすばらしさは、話には聞いていましたが、ついに今、この目で確かめました。神様はエルサレムを永遠の都となさいました。
９　主よ。　私たちは、神殿の中で、あなたの恵みと愛に思いをはせています。　１０ああ神様。　あなたのお名前は全世界に知れ渡っています。　世界中の人をお救いくださる神様に、至る所で賛美がわき上がっています。　１１エルサレムとユダヤの人々は喜びなさい。　最後には、あなたがたも陽の目を見るようになると、神様が保証してくださっています。　１２さあ、都中を点検しなさい。　外側を巡って、塔を数えなさい。　１３城壁に注意をはらい、宮殿を見て歩きなさい。そうしてこそ、子孫に語り伝えることもできるというものです。
１４　この偉大なお方は、いつまでも私たちの神様でいてくださり、死ぬまで導いてくださいます。
四九
１２身分の高い者も低い者も、金持ちも貧乏人も、世界中のだれもかれも、私のことばに耳を傾けてください。　３この口から出ることばは、心の底まで見通して、知恵に満ちているのです。
４　竪琴の伴奏に合わせ、奥深い人生の問題に答えて歌いましょう。　５悩みが訪れ、敵にぐるりを囲まれようと、少しもこわがることはありません。　６彼らの信じるものは金だけで、その誇りは財産だけなのです。　７しかし、王に負けないくらい裕福な彼らも、兄弟の罪を帳消しにしてやることはできません。 罪の赦しは金では買えないのです。 ８９たましいは余りにも高価なので、この世の富をいくら積んでも買い戻せません。　世界中の金をかき集めても、ただ一人分の永遠のいのちも買ってやれません。　もちろん、地獄から救い出してやることもできないのです。
１０　あなたがた金持ちも、傲慢な者も、賢い者も、結局、同じように死ぬ運命にあります。　ばかで、まぬけな連中より長生きできるわけではありません。　しかも、一銭だって持って死ねはしないのです。　１１あなたがたは、まるで永久にその土地に住めるかのように、自分の名をつけています。　１２しかし、どんなに羽振りのいい人間でも、死ぬのは犬や猫とそう変わりません。　１３全く、あほらしい存在です。　それなのに、そう

いう人々は死後も、非常に賢い人物として引き合いに出されたりもするというわけです。
１４　死が全人類を飼い慣らしています。　別世界に目覚めたその朝、邪悪な者たちは正しい人々の奴隷となるのです。　死と同時に、金にものを言わせることは不可能になります。　なにしろ、金を持って行くことはできないのですから。
１５　しかし､私は別です。 神様はこのたましいを死の力から買い戻してくださいます。私を迎え入れてくださるからです。　１６ですから、悪者の金回りがよかろうと、りっぱな邸宅を構えていようと、目をむくことはありません。　１７死ぬ時には、名誉はおろか、何一つ持って行けないのですから。　１８生きている間中しあわせ者だと自分でも思い、世間からも出世頭だと拍手を送られるような人でも、　１９やがては皆と同じように死に絶え、永遠のやみに沈んでいくのです。
２０　どんなに華やかな生涯を送ろうと、人は犬や猫とそう変わりなく死ぬことになっています。
五〇
１　全能の神様は、東の果てから西の果てまで、人々を召集なさいました。
２　シオン山のうるわしい宮から、神様の栄光が輝きわたります。３神様は焼き尽くす火をまとい、雷とともに姿を現わされます。　その回りには嵐が猛り狂っています。　４ご自分の国民をさばくためにおいでになった神様は、天と地にこうお叫びになります。　５「祭壇にいけにえをささげてくれた人々を捜し出せ。　わたしに忠誠を誓った国民を集めてくれ。」　６神様は完全無欠な裁判官となって、判決を下されます。　天も、神様のおっしゃることの正しさはよくわかっていて、証言に立ちます。
７　民よ、耳を傾けなさい。　わたしはあなたがたの神です。　話しておきたいことがあります。　８といって､祭壇にささげられるいけにえに､不満があるわけではありません。それは欠かさず供えられています。　９しかし、真にわたしの求めているものは、いけにえの雄牛や雄やぎではないのです。　１０１１野原や林の獣は、もともとわたしのものなのですから。 ここかしこの丘で草をはむ家畜も､山の鳥もみな､わたしのものなのです。１２たとい飢えても､あなたがたに頼ったりはしません。 全世界とその中のものはみな、わたしのものなのですから。　１３あなたがたに、いけにえの肉と血を、どうしてもささげてもらわなければならないわけではないのです。　１４１５わたしが欲しいのは、真心からの感謝です。　誓いを果たすことです。　困難に出会った時、わたしにすがってほしいのです。　そうすれば、わたしは助けの手を差し伸べ、あなたがたはわたしの栄誉をたたえてくれるでしょう。
１６　しかし、悪者に向かっては、神様はこう宣言なさいます。　二度とわたしのおきてを口にしてはいけません。 わたしの約束を盾に取ってどうこう言ってはいけません。 １７わたしの懲らしめを拒み､おきてをないがしろにしたおまえには､当然のことです。 １８おまえは、どろぼうを見ると手を貸し、腹黒い者や不道徳な人間とつき合っています。１９２０のろいのことばを吐き、うそをつき、聞くに耐えないことばを口にする、おまえ

のような人間は､血を分けた兄弟の悪口さえ平気で言うのです。　２１今まではわたしも、じっと黙って見てきました。　さぞかし、気にされてないといい気になっていたことでしょう。　しかしついに、罰の下る時がきたのです。　おまえの罪状は、ほら、このとおりだ！　２２しかし、神を忘れ去った者にも最後のチャンスが残されている。　さあ、心を入れ替えないと、即刻おまえをずたずたに引き裂くぞ。　そうなっては、もう遅いのだ。
２３　わたしは、心からの賛美がうれしいのです。　それこそ、わたしの栄誉です。　わたしの道を進む人は救われるのです。
五一
ダビデはバテ・シェバと姦通し、その夫ウリヤを殺した。　そこへ預言者ナタンが来て、神の審判を告げた。　その時のダビデの作。
１　ああ、愛と恵みにあふれる神様、私をあわれんで、恐ろしい罪の汚点をぬぐい去ってください。　２どうか私を洗い、この罪からきよめて、もう一度、潔白な身としてください。　３私は、自分がどんな恥ずべきことをしたか、よく存じております。　そのことで夜も昼も責めさいなまれているのです。　４私はあなたに、ただあなたに罪を犯し、この恐ろしいことをしでかしました。　一部始終をご存じの神様が下す判決に、誤りはございません。　５しかし、私は生まれながらの罪人なのです。　母が私をみごもった時から、罪人でした。　６神様をお喜ばせするものは、徹底した正直さだけです。　ああ、そのことを私に心底わからせてください。
７　汚れをきよめる血を振りかけてください。　再び身も心もきれいになれるように、私を洗ってください。　雪よりも白くなりたいのです。　８罰は受けます。　でもそののち、喜びを取り戻させてください。　９どうか、いつまでもこの罪を見すえないで、視界から消し去ってください。　１０ああ神様。　どうか､きよい思いと正しい願いでいっぱいの、新しいきれいな心にしてください。　１１私を見限って、永久に御前から追放しないでください。　聖霊を私から取り上げないでください。　１２救いの喜びを再びあざやかにして、心から神様に従おうとする思いに満たしてください。　１３そうすれば、私のように罪深いほかの人間にも、神様の道を教えてやります。　きっと悔い改めて、神様に立ち返ることでしょう。　１４１５ああ神様。　頼みの綱はあなただけですから、どうか死刑の宣告を下さないでください。　助けてさえいただければ、私の舌はゆるみ、神様の赦しを高らかに歌いだすでしょう。　ああ、どれほど神様をほめたたえますことか。
１６　神様は罪滅ぼしに何かをせよとはおっしゃいません。　もしそうであれば、喜んで仰せに従うことでしょう。　神様は、祭壇で焼かれる供え物に興味をお持ちになるわけではありません。　１７神様がお望みなのは、悔いくずおれたたましいです。　ああ神様。罪を深く後悔して砕かれた心にこそ、神様は目を留めてくださるのです。
１８　どうか神様、私の罪のためにイスラエルの国を罰しないでください。　あなたの国民を助け、エルサレムをお守りください。
１９　私が潔白の身となってはじめて、神様は私の善行と、祭壇に供えるいけにえの雄牛

とを、喜んで受け入れてくださることでしょう。
五二
ダビデが、その敵ドエグ（王国成立記上二二章参照）に抗議して書いたもの。　ドエグは、のちに八十五人の祭司とその家族を虐殺した。
１　おまえは英雄のつもりでいるのか。 神様の国民に加えたこの暴虐を誇っているのか。２おまえは策略を謀ることにかけては天才だ。　３どうしてそれほど、善より悪が、真実よりうそが好きなのか。　４相手を中傷するのに目がなく、うそ八百を並べ立てては、平気で人を傷つけるやつめ。
５　神様はおまえをなぐり倒し、死人の国へ引きずって行かれるぞ。　６それを見て、神様に従う人々は恐れを感じるが、まもなく笑ってこう言うだろう。　７「あれが、神様をあなどり、ますます大胆に悪事を働いた拝金主義者の末路だ。」
８　一方、この私は、神様に守られている、囲いの中のオリーブのようで、いつまでも神様のあわれみにすがるのだ。　９ああ神様。　あなたの懲らしめがどんなものか知った私は、永久にあなたをほめたたえて、そのあわれみを待ち望みます。　あなたがどんなにいつくしみ深い神であるか、知らない者などいないのですから。
五三
１　「神などいない」と言うのは愚か者だけです。　心がひねくれていて、うしろ暗い生活を送っている証拠です。　その人のいのちは罪にむしばまれています。
２　神様は天から全人類を見下ろして、だれか一人でも、正しいことを行ない、心から神様を求める者がいないかと、ひとみをこらしておられます。　３しかし、神様に背いていない人間なんていないのです。　人々は罪にまみれ、芯まで腐りきっています。　正しい者は一人もいません。　４どうしてこんなことになったのでしょうか。　彼らには何一つわかっていないのでしょうか。　彼らはパンのように、わたしの国民を食いちぎり、神様に立ち返ろうとしないからです。　５しかし、そのうち、かつてないほどの恐怖に取りつかれます。　神様は、こういう敵どもを見捨て、その骨をばらまかれます。
６　ああ、今、神様がシオン（エルサレム）からおいでになって、イスラエルを救ってくださったなら、と思います。　神様の手で元どおりにしていただいてはじめて、人々はしあわせになれるのです。
五四
ジフの人々によって、あわやサウル王に売り渡されそうになった時のダビデの詩。
１　ああ神様。　大いなる力をふるって私をお救いください。　力強い腕でかばってください。　２どうか、この祈りを聞き届けてくださいますように。　３暴虐を働く者どもが、いどみかかってまいります。　神様のことなど眼中にない、冷酷無比の連中が、このいのちをつけねらっています。
４　しかし、神様は助けてくださいます。　私の友なのですから。５敵の悪らつな仕打ちは、反動で、その頭上に跳ね返ることになります。　ああ神様。　お約束どおりに事を運

び、悪人どもの息の根を止めてください。　６主よ。　私はあなたに心からのいけにえをささげ、御名をほめたたえます。　それこそ道理にかなったことです。
７　神様はすべての苦しみから私を救い出し、敵を蹴散らしてくださいます。
五五
１　ああ神様、この祈りをお聞きください。　この切なる願いに、お姿を隠さないでください。　２主よ、私に目を留めてください！　重荷につぶされそうなこの身からは、うめきと涙しか出て来ません。
３　敵はわめき散らし、殺してやると脅します。　遠巻きにして、私を殺す策略を練っています。　その激しい怒りと憎しみが、じかに肌に伝わってきます。　４私は身もだえして苦しみ、恐怖の戦慄が全身を貫きます。　５私は身ぶるいし、おののいています。　６ああ、鳩のように翼があれば、遠くへ飛び去り、身を横たえることもできますのに。　７はるかかなたの砂漠へ飛んで行き、そこに潜んでいたいのです。　８この嵐を逃れて、どこかの避難所へ逃げ出したいのです。
９　主よ、敵を仲間割れさせ、暴力沙汰で自滅させてください。　１０やつらときたら昼も夜も城壁の上を巡り、侵入者を見張っていますが、実際には問題は内部に巣くっているのです。　邪悪と不正行為が町にはびこっていますから。　１１そのほか、殺人や強盗、市場ばかりか至る所で詐欺がまかり通っています。
１２　私をののしるのは敵ではありません。　それなら我慢もできたでしょう。　身を避け、逃げることもできたでしょう。　１３しかし、相手というのは、ほかならぬおまえ、仲間であり、友人であるおまえだった。　１４われわれは兄弟同様の仲だったではないか。祭りの日には連れ立って神の宮へ行き、道々楽しく語り合った私たちだったのに。
１５　死が取りついて、働き盛りの彼らを倒しますように。　その家庭生活まで罪に冒され、心は底の底まで汚れきっていますから。　１６しかし私は、神様にお願いすれば、救っていただけるのです。　１７朝、昼、晩と、私は神様に祈り、大声で嘆願します。　すると、神様はその願いを受け入れてくださいます。　１８多数を敵に回した不利な戦いであろうと、神様の救いは確実です。　１９神様を敬わず、その戒めを踏みにじった彼らには、永遠の神様が報復なさるのです。
２０　かつてあれほど親しかった友人が、私を裏切りました。　約束を破ったのです。　２１口あたりのいいことばの裏には殺意が、甘いことばの中には剣が隠されているのです。
２２　重荷は神様におゆだねしなさい。　神様が背負ってくださいます。　信じて従って来る者が足をすべらせたり、倒れたりするのを、神様が黙って見ておられるはずがありません。　２３神様は敵を滅びの穴に投げ込まれます。　人殺しと嘘つきの寿命は、半分に縮まることでしょう。　しかし、私は神様のお救いを信じ続けます。
五六
１２主よ、私をあわれんでください。　敵の軍勢が、夜も昼も押し寄せて来ます。　居丈高に襲いかかって、私を血祭りにあげようとする連中がひしめいているのです。

３４おじ気づいた心の頼みの綱は、神様だけです。　神様の約束だけが頼りなのです。　神様に信頼している私に、ただの人間が手出しなどできるわけがありません。　５彼らはいつでも私のことばをねじ曲げ、どうしたら私を傷つけることができるかと考えています。６彼らは計画を練り上げるために集まり、道ばたに潜んでは、私をねらって待ち伏せています。　７主よ。　彼らは首尾よく事を運べるつもりでいるのでしょうか。　そんな思いのままにはさせないでください。　どうか、怒りを燃やし、やつらを地面にたたきつけてください。
８　神様は、私が夜通し寝返りを打っているのをご存じです。　神様は、私の涙を一滴残さず、びんにすくい集めてくださいました。　その一滴一滴は、余すところなく、神様の文書に記録されています。
９　私が助けを呼び求めると、その日のうちに戦いの流れは変わり、敵は逃げ惑います。私にわかっているのは、ただこの一事、神様が味方だということです。　１０１１私は神様への信頼を失いません。　ああ、神様のすばらしいお約束！　人間ごときが何をしかけて来ようと、私は恐れません。　そうです、神様は約束を守ってくださるのです。　１２主よ。　あなたへの約束は、きっと果たします。　お助けいただいたことを心から感謝しています。　１３なぜなら、あなたは、私が地上で御前を歩めるように、死から救い出し、転ばないようにと支えてくださったからです。
五七
１　ああ神様、あなただけを頼りにしているこの私を、あわれんでください。　嵐が過ぎ去るまで、御翼の陰に潜ませてください。　２私は、天におられる神様、奇蹟を行なってくださる神様に、大声でお願いします。　３すると、愛と真実の神様は、天から手を差し伸べて救ってくださるでしょう。　私を亡き者にしようと、やっきになっている嘘つきどもから、救ってくださるでしょう。　４私は、どう猛なライオンに囲まれているようなものです。　やつらときたら、まるで槍や矢のように鋭い歯をして、気炎を上げています。その舌は、まさしく剣です。　５主よ、ご名声を天まで高めてください。　ご栄光を地上高く現わしてください。　６敵が罠をしかけたので、私は言いようのない恐怖にとらわれています。　また、私の通り道に落とし穴も掘りました。　しかし、ざまあ見ろと言ってやります。　そこに落ちたのは、彼らのほうだったのです。
７　ああ神様。　私の心は平安で、確信に満ちています。　神様をたたえる歌が、自然に口をついて出ます。　８私のたましいよ、目を覚ませ。　十弦の琴と竪琴よ、身を起こせ。さあ、歌って夜明けを待とう。　９私は国中を巡り、公衆の前で神様に感謝をささげます。諸国を漫遊して、神様をたたえる歌をうたいます。　１０神様の恵みと愛は、天そのもののように広大無辺です。　神様の真実は、空よりも高くそびえています。
１１　ああ神様。　ご名声が天よりも高く響き渡りますように。　ご栄光が全世界を照らしますように。
五八

１２正義だと？　権力を笠に着るおまえたち政治家に、このことばの意味がわかってたまるか。　公平だと？　おまえたちのうち、多少なりともそれをわきまえている者がいるのか。　おまえたちの取り引きは不正だらけで、わいろと引き替えに「正義」を切り売りしている。　３こんな手合いは生まれながらの罪人で、最初に覚えたのが嘘をつくことなのです。　４５彼らは毒蛇のように口に毒を含み、熟練した蛇使いの声にさえ耳をふさぐコブラのようです。
６　ああ神様、彼らの牙を折り、若いライオンの歯のようなその歯を引き抜いてください。７かわききった地に吸い込まれる水のように、影も形もなくしてください。　彼らの手の武器を、へし折ってください。　８塩をかけられて溶けるなめくじのように、日の光を知らない死産の子のようにしてください。　９神様は、老いも若きもいっしょに掃き捨て、あっという間に滅ぼされます。
１０　神様を敬う人は、ついには正義が勝つのを見て喜び、殺された悪者どもの血のしたたる野原を歩きます。　１１こうして、地上には公平にさばく神様がおられ、善人に必ず報いてくださることが、だれの目にも明らかになるのです。
五九
ダビデ殺害を謀るサウル王の配下に包囲された時、ダビデの書いた詩（王国成立記上一九・一一参照）。
１　ああ神様、敵の手から救い出してください。　いのちをねらって押し寄せて来る者どもから守ってください。　２人殺しどもの手から守ってください。　３腕っぷしの太いやつも、手ぐすねひいて待ち伏せています。　主よ。　何も私が悪いことをしたわけではありません。　４それなのに、彼らは私の息の根を止めようと、意気込んでいるのです。　主よ、目を覚まして、この有様をよくご覧ください。　そして助けの手を差し伸べてください。　５天の軍勢の主であるイスラエルの神様、どうか周囲の異教の国々を罰してください。　こんな恥知らずの悪党どもを、生かしておかないでください。　６彼らは夕暮れになると様子をうかがい、町の通りを犬のように嗅ぎ回ります。　７「だれも聞いていないさ」と高をくくっている彼らは、大声で悪態をついては、神様をのろいます。　８主よ、こんな連中は、笑い者にしてください。
９　私の力の源、神様を賛美します。　神様は、私の安全な隠れ家ですから。　１０神様は、常に変わらない愛を注ぎ、私を助けに来てくださいます。　また、敵を私の思いどおりにしてくださいます。　１１彼らに、まだとどめを刺さないでください。　私の国民の心に、貴重な教訓を刻み込みたいからです。　私たちの盾である神様、お力で敵をよろめかせ、ひざまずかせ、どろの中にはいつくばわせてください。　１２１３彼らはおごり高ぶり、うそをつき、口汚なくののしります。　どうか、激しい怒りで彼らを滅ぼし、一掃してください。　そして、神様がイスラエルを支配し、やがて全世界を治められることを、諸国民にも知らせてください。　１４１５こういう腹黒い連中は、夕方になると舞い戻って来て、夜通し町をうろつき、犬のようにほえ、食べ物をあさるのです。　それも、なす

がままにさせておきましょう。
１６　しかしこの私は、朝ごとに神様の力と恵みを歌います。　悩みの日、神様は危険を避ける高い塔、安全な隠れ家となってくださったからです。　１７ああ、私の力そのものの神様。　あなたをたたえて歌います。　あなたは、安全な高い塔、恵みにあふれた神様だからです。
六〇
ダビデはシリヤを向こうに回して戦ったが、戦況は渾沌としていた。　折りも折り、司令官ヨアブが、塩の谷でエドム人一万二千人を打ち殺したとの情報が入った。　その時のダビデの作。
１　ああ神様。　あなたは私たちには取り合わず、その守りをもくずされました。　お怒りにふれて、私たちは見捨てられたのです。　主よ、もう一度、情けをかけてください。
２あなたはこの国を恐怖で震撼させ、ずたずたに引き裂かれました。　主よ、今、地に落ちた国威を回復してください。　３さんざんに打ちのめされて、私たちの足はふらついています。
４５しかし、神様はこんな私たちを奮起させるための旗を下さいました。　真理を愛する人々が、この旗のもとに集うためです。　そうしてこそ、神様は愛する国民に解放をもたらしてくださるわけです。　どうか、力に満ちた右の手をふるって、私たちを救い出してください。　６７神様は、ご自分の名誉にかけて救援を請け合ってくださいました。　私が有頂天になるのも無理はありません。　神様はこう宣言なさいます。　「シェケム、スコテ、ギルアデ、マナセは、いぜんとしてわたしのものだ。　ユダからは相変わらず王が出るし、エフライムからは勇士が誕生する。　８モアブは、わたしの召使となり、エドムは奴隷となる。　わたしはまた、ペリシテを攻め取って、大声で勝ちどきをあげよう。」
９１０あの強固なエドムの町に、この私を入城させてくださるのはどなたでしょう。　神様に決まっています！　一度は私たちを捨てて、敵の手に渡された、その神様です。　１１主よ、どうか敵の攻撃から守ってください。　人の助けなど、あてになりません。
１２　神様の助けがあれば、めざましい活躍をしてみせます。　神様が敵を踏みつけてくださるからです。
六一
１　ああ神様、この声を聞き、この祈りに答えてください。　２どこからでも、たとい地の果てからでも、私は大声で、お助けくださいと叫びます。　失望落胆して心がくずおれる時、堅固な大岩に避難させてください。　３神様は私の隠れ家、敵を寄せつけない高い塔です。　４私はいつまでも神様の天幕で暮らします。　神様の翼の陰に身を潜めていれば、何も心配はありません。　５ああ神様。　くる日もくる日も神様をほめたたえて過ごすという私の誓いを、あなたは覚えておられるはずです。　それで私は、神様を信じてお従いする者のために用意された祝福を、いただいたのです。
６　神様は私の寿命を延ばし、何世代もの人々のいのちを凝縮したような、充実した人生

を送らせてくださるでしょう。　７しかも､いつまでも神様のそばで暮らせるのです。　どうかあなたの慈愛と真実で、私をしっかり支えてください。　８そうすれば、私は常に神様をほめたたえるという誓いを果たします。
六二
１　私は黙って、神様から救いの手が差し伸べられるのを待ちます。　救うことができるのは神様だけですから。　２神様こそ私の岩､私を救うお方､そして私のとりでです。　ですから、私には、困難にぶつかったからといって、おじ気づく理由は何もないのです。
３４ところが、いったいどうしたことでしょう。　私の王座がぐらつくと、人々はいっせいに非難をあびせかけてくるのです。　王位から追い落とそうと、策略を練り、やっきになって根も葉もないうわさを流します。　面と向かっては、いかにもにこやかに振る舞うくせに、心の中ではのろっているのです。　５しかし、私はじっと黙って、神様から救いの手が差し伸べられるのを待ちます。　救うことができるのは神様だけだからです。　６確かに、神様だけが私の岩、私を救うお方、そして私のとりでなのです。　ですから、困難に出くわしても、顔をこわばらせなくてよいのです。
７　私が守られるのも、名声を獲得するのも、神様のおこころひとつです。　神様は私の隠れ家、敵の手の届かない岩です。　８同胞よ。　いつでも神様への信頼を失わず、心にある願いを洗いざらい申し上げなさい。　きっと神様は助けてくださいます。　９身分の高い者も低い者も、神様の目から見ればみな同じで、秤皿の上の空気より軽いのです。
１０１１搾取と強奪によって財産をふやしてはいけません。　金持ちだからといって、大きな顔をするものではありません。　１２愛と恵みに満ちた神様は、一人一人のしわざに報われるのです。
六三
ダビデの賛歌。　ユダの荒野に潜伏中の作。
１　ああ神様！　いったいどこにおられるのですか。　一滴の水もない、からからの荒れ地で、気も狂わんばかりに私は神様を慕い求めています。　２神の聖所へ行ってお力とご栄光を拝したいと、どれほど願っていることでしょう。　３私にとって、神様の愛と恵みは、いのちよりも大切なのです。　ああ、神様はなんとすばらしいお方でしょう。　４生きている限り、私は神様をほめたたえ、両手を上げて祈ります。　５こうして、ついには身も心も満ち足りるのです。　私は喜びにあふれて賛美します。
６　私は夜、横になったまま、　７今までどれほど神様に助けていただいたかを思いめぐらします。　そうして、御翼の下にいこいながら、夜通し喜びにひたるのです。　８神様のふところに飛び込めば、右の手でしっかり抱きしめていただけます。　９一方、私のいのちをつけねらう者どもは、地獄の底にたたき落とされるのです。　１０彼らは結局、剣に倒れ、野獣のえじきとなるのです。　１１しかしこの私は、神様にいだかれて喜びにあふれます。　神様に信頼する者は歓声をあげ、うそつきどもは、うちしおれることでしょう。

六四
１２神様、この訴えに耳を傾け、残忍な悪党どものたくらみから、守ってください。　３やつらの舌ときたら、剣のようにとぎすまされていて、私を傷つけるのです。　情け容赦ないことばを矢のように、この胸に射かけてくるのです。　４彼らは待ち伏せては、罪もない者を不意打ちにしますが、何食わぬ顔をしています。　５彼らは肩をたたき合って、悪事に励むのです。　ひそかに談合しては、罠をしかけ、「よもや、気づくまい」とほくそ笑みます。　６とにかく、うの目たかの目で、悪事を重ねる機会をねらっているのです。たっぷり時間をかけて、際限のない悪知恵を働かせ、策略を巡らします。
７　しかし、神様から不意に矢が飛んで来るのです。　矢は彼らを突き刺します。　８彼らはよろめいてのけぞり、敵対していた相手の手で、息の根を止められるのです。　それを見ていた人々はみな、あざ笑います。　９同時に、すべての人は恐れに取りつかれ、神様の奇蹟の偉大さを口にするのです。　こうして、神様は驚くべきことをなさるお方だと思い知ります。　１０正しい人は神様を信頼して喜び、賛美のことばを惜しみません。
六五
１２ああ、シオン（エルサレム）に住まわれる神様。　私たちは賛美を内に秘めながら、おいでをお待ちしています。　この態度こそ、私どもの誓いを果たすものです。　神様は祈りに答えてくださるお方なので、あらゆる人が願い事を携えてまいります。　３たとい私の心が罪に占領されていようと、お赦しになることができるお方です。　４聖い天幕の内庭で神様とともに住むようにと名指された人は、なんともうらやましい限りです。　そこには、すべての良いものに混じって、大いなる喜びが待ちかまえているのです。　５神様は、恐怖におののかせるような行為や、恐ろしい力を駆使して、私たちを敵から救い出してくださいます。　神様は、世界中の人々にとって、唯一の望みなのです。
６　神様は底知れない力で山々をお造りになりました。　７また、怒濤さかまく海原を静め、世界中の騒動を鎮圧なさいます。　８地の果てに住む人々は、神様のまばゆいばかりの行ないに度肝を抜かれます。　夜明けと日没は喜びの声を張り上げます。　９神様は水をまいて､肥沃な土地に変えられます。 神様の川は常にまんまんと水をたたえています。また神様は、ご自分の国民のために大地を整え、大豊作をもたらされます。　１０あぜみぞは十分な雨でうるおいます。　夕立が大地をやわらげ、土のかたまりをほぐして、田畑はいっせいに芽吹くのです。　１１１２こうして、大地は緑の絨毯でおおわれ、荒れ地にはみずみずしい牧草が生い茂り、小高い山の木々は嬉々として花を咲かせます。　１３牧草地には羊が群がり、谷間には麦の穂が波打ちます。　全世界が喜びの声を張り上げ、歌っています。
六六
１２全地よ。　主に向かって歌声をあげ、栄光に輝く神様を賛美しなさい。　世界中の人に、神様のすばらしさをふれ回りなさい。
３　ああ神様。　あなたのなさることの荘厳さに打たれます。　そのお力の壮大さに圧倒

されます。　敵が降伏するのも、もっともです。　４全地はひれ伏し、ご栄光をほめ歌います。　５さあ、こっちへ来て、神様がどんなにすばらしいことをなさったかご覧なさい。神様の国民は驚くべき奇蹟を体験するのです。　６例えば、海の中にかわいた道をつくっていただいたこともありました。　人々はそこを踏みしめて渡りました。　その日、彼らはどれほど興奮し、喜びにあふれたことか！
７　神様は、偉大な力で永久に支配し、国々の動静を監視なさるお方です。　謀反を謀る国々は、高慢の鼻をへし折られます。
８　すべての人よ、神様をほめたたえ、賛美の歌をうたいなさい。９私たちのいのちを手中におさめておられるのは、神様なのです。　神様はまた、道を踏みはずさないように、私たちを支えてくださいます。　１０ああ神様。　あなたはるつぼの銀のように、私たちを炎で精錬なさいました。　１１あなたは私たちを網で生け捕りにし、背中に大きな荷をくくりつけられたのですね。　１２軍隊を送って、息も絶え絶えの私たちを踏みつけにされたのですね。　こうして、火の中を通り、水の中をくぐり抜けた私たちも、最後には、この世のパラダイスへと導かれました。
１３　私は今、誓いを果たすため、火で焼き尽くすいけにえの動物を引いて、宮へやってまいりました。　１４苦しみの渦中で私は、やがて供え物を山ほどささげますと約束したからです。　１５おかげで、こうして雄やぎや、雄羊、雄牛を持って来ることができました。　このいけにえから立ちのぼる煙は、きっと神様のもとに届くことでしょう。
１６　さあ、神様を敬う人よ、こっちへ来て聞きなさい。　神様のなさったことをいろいろとお話ししますから。　１７私は、この口で助けてくださいと叫び、この舌で神様をほめたたえてきた人間です。　１８もし、私が罪を告白していなかったら、神様は祈りに答えてくださらなかったに違いありません。　１９しかし、神様は身を乗り出すようにして、私の祈りを聞き届けてくださいました。
２０　祈りの声を無視せず、恵みと愛をふんだんに注いでくださった神様を、ほめたたえます。
六七
１　ああ神様。　私たちをあわれんで祝福してください。　私たちをご覧になる時のお顔が喜びにほころびますように。
２　私たちを世界各地に送り出し、神様の救いの力と全人類への永遠のご計画とをふれ回らせてください。　３どの国の人々も、心から神様をほめたたえるでしょう。　４また国々は、神様が王となってくださり、公平にさばいてくださると知ったら、喜びのあまり歌いだすに決まっています。　５全世界が、神様をほめたたえ、地上のすべての国が、感謝をささげますように。　６７刈り入れた作物が、山のように積み上げられたからです。　神様が、私たちを祝福してくださいますように。　そうすれば、地の果てに住む人も、私たちの神様を拝むようになるでしょう。
六八

１　ああ神様、立ち上がってください。　敵どもを蹴散らし、追い返してください。　２煙が風で吹き払われ、ろうが火で溶けるように、悪党どもが神様の御前で滅ぼされますように。
３　しかし、正しい者は、躍り上がって喜ぶことになりますように。　歓喜にあふれますように。　４神様に賛美の歌をささげなさい。　雲に乗って来られる方に、声高らかに歌いなさい。　喜びを満面にたたえて、この方の前に出なさい。　５きよいお方である神様は、みなしごの父となり、未亡人の訴えを公正に取り扱ってくださいます。６身寄りのない者に家族を与え、囚人を牢獄から解き放ち、その口に喜びの歌をわき上がらせてくださいます。　しかし、おこころに背く者の行く手には、ききんと悩みが待っているのです。
７　ああ神様。　あなたが荒野で人々を導かれた時、　８大地は揺れ動き、天は震えました。　シナイ山も、イスラエルの神様の前で縮み上がりました。　９１０ああ神様。　ふんだんに雨を降らせ、くたびれ果てたようなご自分の領地を、生き返らせてくださったのですね。　おかげで、根無し草のようであった神様の国民は、その地を住みかとしていただいたのです。
１１－１３神様のひと言で、敵は逃げ惑います。　家を守る女たちは、「こっちへ向かっていた敵軍は、逃げて行きましたよ！」と大声でふれ回ります。　今や、イスラエル中の女が戦利品を分け合うのです。　ご覧なさい。　女たちは、まるで羽でおおわれた鳩のように、きらめく金銀で身を飾ります。　１４敵は神様の手によって、ツァルモンの森に落ちる雪片のように、影も形もなく消え去りました。
１５１６バシャンに連なってそびえる、壮大な山々、峰々よ。　君たちがシオン山をうらやましげに眺めるのも、もっともです。　この山は、神様の永遠の住まいとして選ばれたのですから。　１７おびただしい戦車を巡らして、神様はシナイ山から、シオン山にある聖なる宮に移られます。　１８大ぜいの捕虜を率いて、高い所へ上って行かれます。神様の受けられる貢物の中には、かつての反逆者からのものもあります。　神様は私たちのただ中に住んでくださるのです。
１９　神様はすばらしいお方です。　日ごとに私たちの重荷を肩代わりして、救いの手を差し伸べてくださるのです。
２０　神様は私たちを解き放ち、死から救い出されます。　２１しかし、強情で罪深い生き方を改めようとしない敵は、粉砕なさいます。　２２ヘルモン山の岩地や、海の底に身を潜めている敵に、「さあ、出て来い」と叫ばれます。　２３人々はこの敵を徹底的に滅ぼし、彼らの血に足を浸すべきです。　犬が敵の肉を食べるでしょう。
２４　私の王である神様の行列は、聖所に向かっています。　２５先頭を行くのは歌い手たちで、楽器をかなでる人々がしんがりを務め、真ん中をタンバリンを打ち鳴らすおとめらが進みます。　２６さあ、イスラエル国民よ、私たちの泉そのものである神様をほめたたえなさい。　２７小部族のベニヤミンが先頭集団となり、そのあとに、ユダの部族長と長老たち、ゼブルンとナフタリの部族長たちが続きます。　２８ああ神様、どうか奮い立

って、今まで同様に、あなたの力強さをお示しください。
２９　諸国の王は、エルサレムの神の宮に貢物を納めに来ます。　３０ああ神様、敵をしかりつけ、進んで税を持って来るようにしてください。　争い事を好む連中を蹴散らしてください。　３１エジプトは貴金属の品品を贈ってよこし、エチオピヤは神様に慕いこがれて手を差し出すでしょう。　３２世界の国々よ、神様に賛美の歌声をあげなさい。　３３大昔からこの天空にまたがり、力強い声を、雷のように大空にとどろかせておられた神様に、賛美をささげなさい。
３４　力の源は神様です。　神様のご威光はイスラエルの上に輝き、その力は天上にみなぎります。　３５宮でぬかずく時、口では言い表わせないほどの厳粛さに打たれます。　イスラエルの神様は、ご自分の国民を強化し、力づけてくださいます。　神様をほめたたえましょう。
六九
１２ああ神様、お救いください。　洪水で水がはんらんし、私はどろの中にじわじわと沈み込んでいきます。　３泣き疲れて、のどは干からび、声はかれ果てました。　神様の助けを待ちわびて、目も充血してはれ上がりました。　４理由もないのに私を憎む者はあとを絶ちません。　何も悪いことをしていない私を殺そうと謀る連中はみな、有力者ばかりです。　私は身に覚えがないのに、彼らは報復しようといきり立っています。
５　ああ神様。　あなたは、私の愚かさかげんをよくご存じです。　私の罪も一つ残らず覚えておられます。　６ああ神様。　この私の存在が、あなたを信頼しようとする人々にとって、つまずきとなったりしませんように。　また、混乱を引き起こす原因にもなりませんように。　７私は神様のために、のろわれ、辱しめられているからです。　８血を分けた実の兄弟でさえ、赤の他人のようにしか振る舞ってくれません。　９神様のことを熱心に思うあまり、心は焼け尽きそうです。　私が神様の代弁者を買って出たところ、敵は、私をあなた同様にみなして、侮辱のことばを投げつけてきます。　１０私が神様の前で嘆き悲しみ、断食すると、連中はどれほどあざ笑い、ばかにすることでしょう。　１１罪を恥じて謙そんになり、悲しんで荒布をまとう私を、どれほど笑い者にすることでしょう。
１２町の人は私のうわさを立て、私の名は酔いどれのざれ歌にものぼりました。　１３しかし、私は祈りの手を下ろしません。　神様がかがみ込んで聞いてくださる時がきたからです。　神様は、愛と恵みを十分に用意して、待っていてくださいます。　どうか祈りに答え、約束どおりお救いください。　１４このどろ沼から引き上げてください。　このまま沈ませないでください。　憎しみをいだく者どもから救い出し、深い水から引き上げてください。
１５　洪水が私の背丈を越え、海にのみ込まれたりしませんように。私を脅かす穴から救ってください。　１６ああ神様、私の祈りに答えてください。　あなたの恵みはすばらしく、あわれみにあふれています。　１７どうかお姿を隠さないでください。　早く駆けつけて、苦しみのどん底から救ってください。　１８主よ、駆けつけて来て、救い出してく

ださい。　敵の手から守ってください。　１９彼らが折りあるごとに私のうわさをし、名誉を傷つけているのを、ご存じのはずです。 彼ら一人一人がどんなことばを口にしたか、覚えておられるはずです。
２０　彼らにさげすまれて、私の心は傷つきました。　ふさぎの虫に取りつかれました。一人でも、同情して慰めのことばをかけてくれる人がいてくれたらと思います。　２１彼らは私の食べ物に毒を盛り、のどの渇きを訴えると酢をつぎました。　２２彼らの喜びはくすぶり、不安にとらわれますように。　２３暗やみに閉じ込められて失明し、骨と皮ばかりに衰えますように。　２４御怒りの火で、彼らを焼き尽くしてください。　２５その住まいは廃屋とし、荒れるにまかせてください。　２６彼らは、神様が懲らしめた者を迫害し、神様が切りつけた者の傷を見てあざけったからです。　２７彼らの罪は高く積もっています。　どうか、見のがさないでください。　２８この連中の名を、いのちの書から抹殺してやってください。 正しい人と同じように生きる権利など、はく奪してください。
２９　しかし、この私は、貧困と苦痛から救い上げてくださいますように。　ああ神様。３０そうすれば、感謝を込めてあなたをほめたたえることができます。　３１それは、いけにえの雄牛や若い雄牛以上に、神様をお喜ばせするでしょう。　３２謙そんな人々は神様からの助けを体験します。　彼らがこおどりして喜ぶのも当然です。　神様を探し求める人は、喜びに満たされます。　３３神様は困っている人の叫びを聞き届けてくださり、無視したりはなさいません。
３４　天と地よ、神様をほめたたえなさい。　海も、その中に生きるものも、神様をほめたたえなさい。 ３５神様はエルサレムを救い、ユダの町々を再建してくださるからです。神様の国民はそこに住み、決して追い立てをくったりすることはありません。　３６子々孫々にわたってその地を受け継ぎ、神様を愛する人々は平穏無事に暮らします。
七〇
１　ああ神様、お救いください。　急いで手を差し伸べてください。　２３私のいのちをねらう者どもが、傷を負わせて楽しんでいるのです。　あんな連中は右往左往させてください。　恥をかかせてやってください。　そんなにいつまでも、ばかにされてたまるものですか。　４しかし、神様にお従いする者には喜びを下さい。　あなたの救いを喜ぶ者には、「なんとすばらしい神様でしょう！」と叫ばせてください。　５とにかく、今、私は困り果てています。　どうか駆けつけてください。　あなたにしか助けていただけないのです。　主よ、さあ早くお越しください。
七一
１　主よ。　あなたは私の隠れ家です。　私をくずおれさせないでください。　２不正を憎まれるお方、この訴えに耳を傾け、救いの手を差し伸べてください。　３私を守る大きな岩であってください。　いつでも私をかくまい、あらゆる攻撃を防いでください。　４ああ神様、不正を売り物にする残忍な者どもの手から、逃れさせてください。　５ああ、神様だけが頼りです。　幼いころから神様に頼ってきたのです。　６そうです、産声をあ

げた瞬間から、神様はそばにいてくださり、折りあるごとに助けてくださいました。　ですから、私がいつも神様をほめたたえるのも当然なのです。　７神様の強力な応援のおかげで、私は多くの人がいぶかるほどの成功を収めたのです。　８ああ神様。　私は一日中、あなたが骨折ってくださった数々のことを思い起こしては、あなたを賛美し、栄誉をたたえているのです。
９　ところで、今や、年老いて体力も衰えた私ですが、どうか、お見捨てにならないでください。　１０敵はひそひそ話しています。　１１「神もあいつを見限ったぞ。　もうじゃまは入らん。　今度こそ、やっつけてしまえ。」　１２ああ神様、そんなに離れた所にいないでください。　飛んで来て助けてください。　１３敵を痛めつけ、赤恥をかかせてください。　１４助けてくださると信じて待ちます。　ますます神様をほめたたえます。　１５何度、神様が、危ない目から助けてくださったか、数えきれないくらいです。　会う人ごとに、神様の恵み深さと、日々とぎれることのない思いやりとを告げましょう。　１６神様の力をおびて歩き回り、正しくて恵み深いお方は神様だけだと伝えましょう。　１７ああ、右も左も知らない子供の時分から、私を助けてくださった神様。　それで、私は機会あるごとに、あなたのすばらしいわざを、ほかの人に伝えてきたのです。　１８今、年をとり、白髪頭になった私ですが、どうか見捨てないでください。　神様のめざましい奇蹟を新しい世代に伝える機会を、与えてください。　１９主よ。　あなたの力と恵みは天の天にまで届きます。　あなたほどすばらしいことをなさった神が、ほかにあるでしょうか。　２０時に私は、八方ふさがりの深刻な問題をかかえ込まされたこともありました。しかし、神様は地中深い所から私を引き上げ、再び生き返らせてくださるお方なのです。２１そして、以前にもまさる名誉を与え、振り向いて慰めてくださるのです。
２２　ああ、イスラエルのきよい神様。　私は楽器をかなでてほめ歌をうたい、あなたがどれほど約束に忠実なお方であるかを、告げ知らせます。　２３神様に救い出していただいた私は、歓声をあげて、感謝の賛歌をうたいます。　２４一日中、神様の公正なおさばきとご温情とを、人々に伝えます。　私に害を加えようとした者はみな、恥じ入り、すっかり面目を失ったからです。
七二
１　ああ神様。　王がおこころにかなった政治を行ない、王子も神を恐れて暮らすように、助けてください。　２王が、神様の国民にはもちろんのこと、貧しい人にも公平であるように、助けてください。　３王のすぐれた治世を反映して、山や丘には草木が生い茂りますように。　４王の手で、貧しい者や困っている者が手厚く保護され、虐待しようとする連中は容赦なく懲らしめられるように、ご配慮ください。　５こうして、貧しい者や困っている者が、太陽や月が空にかかっている限り永久に、いつも神様に対して敬虔な態度をくずしませんように。
６　約束の王子は、牧草地に降る春の雨のようにおだやかに、世を治めてくれますように。地をうるおす夕立のように、人々を豊かにしてくれますように。　７彼の治世においては、

正しい者が栄え、永遠に平和を楽しみますように。　８その支配は東の海から西の海に至るまで、ユーフラテス川から地の果てにまで及びますように。　９砂漠の遊牧民は目の前にひれ伏し、敵は土下座するでしょう。　１０タルシシュや地中海に浮かぶ島々の首長、シェバやセバの王侯はみな、貢物を納めるでしょう。　１１それどころか、全地の王が頭を下げ、すべての人が彼に仕えるでしょう。
１２　彼は、身寄りのない者や貧しい者を援護します。　１３弱っている者や困っている者を見ると、いても立ってもいられず、助け上げるのです。　１４人の命はかけがえのないものだと感じる彼は、虐待されたり痛めつけられたりしている人を、黙って見過ごしにはできないのです。
１５　彼は長生きし、シェバから黄金を贈られます。　絶えず称賛を受け、国民も一日じゅう祝福を祈ってくれます。　１６どうか、平野ばかりか高原にも、豊作の恵みをもたらしてください。　レバノンのような実り多い地にしてください。　青々とした野原のように、町を人々であふれさせてください。　１７この方の名は太陽のように永遠にあがめられます。　すべての人はこの方によって祝福され、世界中の国々がこの方をほめたたえます。
１８　イスラエルの神様、ばんざい！　このお方こそすばらしいことをしてくださるのです。　１９栄光に輝くこの方のお名前を、永遠にほめたたえなさい。　そのご栄光が全世界を照らしますように。　アーメン。　アーメン。
２０　（エッサイの子ダビデの賛歌は、ここで終わります。）
七三
１　神様はイスラエルに対して、なんと恵み深いことでしょう。　また心のきよい人に対して、その恵みは行き渡ります。　２しかし、私はと言えば、崖っぷちぎりぎりで足をすべらせ、あわや、下へまっさかさまという目に会いました。　３というのも、傲慢な連中や悪党どもの羽振りがよいのを、ねたましく思ったからです。　４全くやつらの人生ときたら、すいすいうまくいくんですから。　あのつややかな顔、でっぷりした体。　５連中は、ほかの人のように悩むこともなく、深刻な問題で頭をかかえ込んだりすることもないのです。　６おかげで、きらきら光る首飾りのダイヤのように高慢をちらつかせ、残忍の糸で織ったかのような服を着ています。　７この腹の突き出た連中には、欲しいものが何でも手に入るのです。　８神様をあざけり、神様を信じる人々を脅す、その口のきき方のなんと横柄なこと！　９彼らは天を向こうに回していばり、大手を振って地上を闊歩します。
１０　おかげで、その影響は神様を信じる人々にもまともに及び、多くの混乱ととまどいをもたらしたのです。　１１なんとも納得しがたいのです。　「いったい神様は、地上でどんなことが起こっているか、ご存じなんだろうか。　１２見ろよ。　あのいばりくさった連中を。　全く気楽なもんだぜ。　じっとしていても財産は雪だるま式に増えていくんだからな。」

１３　私が今までしてきたことは、むだだったのでしょうか。　きよくあろうと苦しんだ日々は、何だったのでしょう。　１４神様にお従いする生活から得たものと言えば、苦しみと災いだけです。　しかも、それは、くる日もくる日も、朝から晩までつきまとうのです。　１５もし、本気でこう口にしたら、私は神様の国民を裏切ることになったでしょう。１６とはいえ、主を憎む者どもがこんなに栄えている現実をどう説明したらいいのか、私にはわかりません。　１７ところが、ある日、神の聖所で瞑想していた私は、これらの悪者どもの行き着く先を悟ったのです。　１８あの者たちは、なんとすべりやすい道を歩いていることでしょう。　突然、神様から崖っぷちに追いやられて、足をすべらせ、滅びの底に落ちて行くのです。　１９こうして、その幸福も、あっけなく幕切れとなり、永遠の恐怖にのみ込まれるのです。２０彼らの今の暮らしぶりも、つかの間の夢にすぎません。夢から現実の世界に引き戻される人のように、いつかは、真実を突きつけられるのです！２１　このことがわかった時の、私の心の動揺といったら！　２２自分がどれほど愚かで無知であったかを思い知らされたのです。　ああ神様。　さぞかし、私は獣のように見えたことでしょう。　２３しかし、神様はこんな私をも愛してくださり、右手をしっかりつかんでくださっています。　２４生涯を通して、神様は知恵と助言を与えて私を導いてくださることでしょう。そしてついに、私は栄光の天へと招かれるのです。２５天でも、あなた以外に私の神様はなく、地上でも、慕わしいお方はあなたお一人です。　２６やがて私の体は衰え、気分も沈みがちになっていくことでしょう。　しかし神様は、いつまでもお変わりになりません。　心の支えとなってくださいます。　永久に私の神様でいてくださいます。
２７　神様を拝まない者は破滅です。　神様は、ほかの神々に仕える者を滅ぼされるからです。
２８　しかしこの私は、できるだけ神様のおそばにいましょう。　神様にお従いするのです。　会う人ごとに、神様のすばらしい救いのわざを告げましょう。
七四
１　ああ神様、いつまでも私たちをお見捨てになるのですか？　なぜ、神様を信じお従いしている私たちに、こんなにも激しい怒りを向けられるのですか？　２その昔、奴隷の身であった私たちを救い出し、かけがえのない宝のように大切になさったことを、思い出してください。自ら地上の住まいとお定めになったエルサレムを、思い起こしてください。
３　どうか、敵の手で、見るも無残な廃墟と化した都を、あなたの聖所を、ご覧ください。４そこで、敵は勝ちどきをあげ、戦勝記念碑を建てたのです。　５６あらゆるものが荒廃し、木を切り倒したあとの森のようです。　彼らはハンマーや斧で、聖所の彫り物を打ち砕き、切り刻み、　７８あげくの果てに火を放ちました。恐れ多くも神様の聖所にです。彼らは、「さあ、神の名残をとどめるものを一掃しろ」と叫びながら、国中を駆け巡り、礼拝するための集会場を焼き払いました。
９１０私たちが神様の国民であることを証明するものは、もう何もなくなりました。　預

言者もいないのです。　こんな状態がいつまで続くのか、だれも知りません。　ああ神様、いつまで、敵があなたのお名前を踏みつけるのを、お許しになるのですか。　いつまで、見て見ぬふりをなさるのですか。　１１なぜ、ためらっておられるのですか。　なぜ、手をこまぬいておられるのですか。 さあ、手をポケットから出して彼らをめった打ちにし、息の根を止めてやってください。
１２　神様は、大昔から私の王であられました。　私がどこにいても、いつも神様のほうから、救いの手を差し伸べてくださったのです。　１３１４神様は紅海を二つに分け、海神の脳天を打ち砕き、砂漠に住む人々のえじきとされました。　１５神様がお命じになると泉がわき出て、イスラエル人はそれを飲んだのです。　次には、とうとうと流れるヨルダン川をせき止め、そこを乾いた道となさいました。　１６昼も夜も神様の支配下にあります。　神様は星と太陽をお造りになったお方です。　１７自然界を治め、夏と冬の区別もおつけになりました。　１８主よ、敵がどんなにあなたをあざけっているか、ご存じですか？　ああ神様。　思い上がった国民がお名前を冒涜しています。
１９　主よ、お救いください。　あなたの山鳩を、どう猛な鷹からお守りください。　あなたが愛しておられる国民を、獣からお救いください。　２０お約束を思い出してください。　この地は暗やみに閉ざされ、残忍な者どもが幅をきかせているからです。　２１主よ、あなたの国民が踏みにじられ、いつまでもばかにされ続けていいのですか。　金もなく日々の生活にも事欠く者たちが、お名前をほめたたえることができるようにしてください。　２２ああ神様、立って敵に言ってやってください。　反逆者が一日中あびせかけてくる侮辱のことばを、聞いてください。　２３敵ののろいのことばを、聞き逃さないでください。　それはしだいに声高になっていくのです。
七五
１　神様。　感謝のことばもありません！　このすばらしい奇蹟の数数は、やっぱり私たちをおこころにかけてくださっていた証拠なのですね。
２　すると、神様のお声がしました。　「そうだ、手はずが整いしだい、悪者には罰を下そう。　３地が揺れ動き、人々が大混乱に巻き込まれても、地の柱は揺るがない。　それは、わたしが据えつけたものだからだ。
４　わたしは思い上がった者に、謙そんになれと警告した。　悪者には、横柄な態度を捨て、　５強情で高慢な生き方もやめよと言った。」　６７神様のお力添えがあってこそ、栄達も権力も手にすることができるのです。　神様は、思いのままに人を栄転させたり、左遷させたりなさいます。　８神様の手には、よく醸された白ぶどう酒のグラスがあり、このさばきの杯を、悪者たちは最後の一滴まで飲みほさなければなりません。　９一方、私はと言えば、神様を永久にほめたたえます。　１０神様は、「悪者の力は打ち砕こう。　しかし、正しい者の力は増し加えよう」と言われます。
七六
１　神様のご名声はユダとイスラエルに行き渡っています。　２神様はエルサレムのシオ

ン山に住まいを定めて、　３敵の武器を粉砕なさいます。
４　大昔からそびえ立つ山々も、栄光をまとわれた神様の足もとには及びません。　５最強の敵でさえ征服されて死体を横たえ、一人として手向かって来る者はありません。　６神様のご叱責のひと声で、敵の軍馬は騎手もろとも倒れました。　７当然、人々は神様を非常に恐れ、だれ一人お怒りに耐えることはできません。　８神様が天から宣告を下されると、地はおののき、口をつぐみます。　９神様は立ち上がって、悪事を働く者を罰し、謙そんな人を弁護なさいます。　１０人間の無益な憤りは、神様の飾りとなるだけで、かえってご栄光を輝かせるのです。
１１　神様に立てた誓いは、すべて果たしなさい。　すべての人に、贈り物をささげさせなさい。　神様を敬い、恐れるべきです。　１２神様はこの世の君主のいのちを絶ち、諸王に恐ろしい境遇を用意なさるのです。
七七
１　私は声がかれ果てるまで神様を呼び続けます。　どうか耳を傾けてください。　２苦悶に沈みながら、あえぐようにお助けを求めています。　夜通し祈り、天に手を差し伸べて嘆願しているのです。　祈りが聞かれるまでは、喜びなどとは縁がありません。　３神様のことを思いめぐらしてはうめき、気が遠くなるほどお助けを待ちわびているのです。
４神様からお答えが来るまでは、眠ることもできません。　それどころか、悲しみのあまり、もう祈りのことばさえ出てこないのです。
５　私は、とうに終わった古き良き時代のことを思い起こします。６あのころは、夜になると喜びの歌が口をついて出てきました。　この、たましいのあまりにも大きな変わりようは、どうでしょう。　７神様は永久に私を吐き捨てて、二度と陽の目を見せないおつもりでしょうか。　８神様の恵みは過去とともに過ぎ去り、お約束もすたれたのでしょうか。
９ろくでなしに注ぐお恵みなど用がない、とお考えなのでしょうか。　怒って戸を閉め、愛を隠してしまわれたのでしょうか。　１０「これが運命なのだ。　神様の祝福はのろいに変わった」と、私は自分に言い聞かせました。　１１ずっと昔、神様のなさった多くの奇蹟を思い起こします。　１２あのころのすばらしい恵みが、頭にこびりついて離れないのです。　どうして、忘れてしまうことなどできましょうか。
１３　ああ神様。　あなたの道はきよさで塗り固められています。　あなたのように力に満ちたお方は、ほかにありません。　１４あなたは奇蹟を行なう神で、今でも恐るべき力を発揮なさいます。
１５　かつて、神様はその力強さで、ヤコブとヨセフの子孫である私たちを救い出してくださいました。　１６紅海は神様をひと目見るなり、縮み上がり、底まで揺すぶられました。　１７雨が降り、いなずまが走り、雷がとどろき渡りました。　１８雷鳴とともにつむじ風が巻き起こり、いなずまが世界を照らし出すと、大地はわななき、揺れ動きました。
１９　神様の道は海底に敷かれていました。　そんな所に道があろうとは、だれひとり知らなかったのです。　２０神様がお立てになった指導者、モーセとアロンは、神様の国民

をその道づたいに、まるで羊の群れを牧するように導いたのでした。
七八
１　民よ、私の教えをよく聞きなさい。　私のことばに耳を傾けなさい。　２３先祖代々語り伝えられてきた教訓を、たとえを使って教えよう。　４この真実の解き明かしを聞いたら、あなたがたもまた、栄光に輝く神様のわざを子孫に説明し、そのめざましい奇蹟を語り伝えてほしい。　５神様はおきてをまずイスラエルに授け、私たちの先祖に、子孫にまでも伝えよとお命じになりました。　６こうして、神様のおきては順々に、子から孫の世代へと伝えられていくのです。　７こうしていけば、各世代の人々は、神様のおきてを守り、神様に希望を見いだし、その栄光に輝く奇蹟を忘れることはないのです。　８そればかりか、先祖のように、反抗的なひねくれ者や、神様に心を明け渡そうとしない者も出ないはずです。
９　エフライムの人々は、完全武装にもかかわらず、いざ戦いとなると敵に背を向け、逃げ出しました。　１０神様のおきてを守らず、ご命令に従うのを拒んだからです。　１１１２エジプトでは先祖があれほど助けていただき、ほかにもすばらしい奇蹟を見せていただいたというのに、彼らは神様を忘れてしまったのです。　１３神様は、目の前で海を二つに分け、その間を通らせてくださったというのに。　しかも、水は両側にせき止められてそそり立っていたというではありませんか。　１４神様は、昼は雲で、夜は火の柱で人々をお導きになりました。　１５荒野では、岩から水を吹き出させ、ぞんぶんに飲ませてくださいました。　１６岩からほとばしり出た水は、川のように流れたそうではありませんか。　１７それでもなお、人々は神様に背き続け、罪を犯し続けたのです。　１８不平たらたらで、神様の下さる食べ物ではいやだと言いだしました。　１９２０面と向かって神様に文句を言ったのです。　「神様、水を出されたくらいですから、もう少しましな食べ物をいただけないものですかね」と。　２１このことばに、神様はどれほどお怒りになったことでしょう。　怒りの炎がイスラエルに向かって燃え上がりました。　２２親身になって心を砕いてくださる神様に、信頼しなかったからです。　２３神様は、天の窓を開き、２４天上のパンとも言うべきマナを降らせてくださったというのに。　２５御使いの食べ物を、たらふく食べさせていただいたというのに。
２６　神様は東風を起こし、すごい力で南風を引き寄せられました。２７そのため、空から鳥の大群が落ちて来て、ちりのように厚く、海辺の砂のようにびっしり敷き詰められました。　２８こうして、テントのそばに落ちた小鳥は、　２９十分に人々の食欲を満たしたのです。人々の欲しがるものを、神様はお与えになったわけです。　３０しかし、まだ肉が歯にはさまっている間に、　３１神様の怒りは燃え上がり、イスラエルの屈強の若者たちがなぎ倒されました。　３２それでもなお、人々は罪を犯し続け、神様の奇蹟を信じようとはしませんでした。３３そこで、神様は人々の寿命を短くし、悲惨な生涯を用意されたのです。
３４　神様が彼らを滅ぼされると、ついに、人々は目の色を変えて神様に立ち返りました。

３５神様こそ自分たちの岩であり、どんな神々にもまさるお方であることを思い出したのです。　３６しかし、その従順ぶりもしょせん口先だけで、心からのものではなかったのです。　３７本心は遠く離れていたので、約束もすぐに破ってしまいました。　３８それでもなお、あわれみ深い神様は、そんな彼らの罪を赦し、絶滅にまでは追い込まれませんでした。　幾度も、怒りをぐっとのみ込まれたのです。　３９人々が朽ちていく存在にすぎず、風のように、あわただしく去っていく身であることを、思いやられたからです。
４０　荒野をさまよっていたころ､人々は何度反抗して､神様を悲しませたことでしょう。　４１彼らは性懲りもなく背いては、神様に殺されそうになりました。　こうして、自らの手で、神様の祝福をとどめたのです。　４２神様の力も愛も、どのようにして敵の手から救い出していただいたかも忘れました。　４３また、ツォアンの野でエジプト人が神罰を受け、恐ろしい病魔に冒されたことも、　４４川の水が血に変わって、飲めなくなったことも、　４５エジプト全土におびただしいあぶの群れが押し寄せたり、かえるが国中にあふれたりした事件も忘れました。
４６　神様はエジプト人の作物を油虫に食わせたり、その収穫物をいなごの餌に変えたりもなさいました。　４７また、彼らのぶどうといちじくを雹で全滅させました。　４８天から降って来た氷のかたまりの直撃で家畜が殺されたり、落雷によって羊の群れが死んだりもしました。　４９神様は彼らに激しい怒りを燃やし、災難をもたらす御使いの一軍を送り込まれました。　５０神様の怒りは荒馬のように駆け巡ったので、エジプト人は次々と伝染病にかかって倒れました。　５１続いて神様は、エジプトの全家族から、一家の柱となるべき長男をより分けて殺されました。
５２　しかし、ご自分の国民をさながら羊の群れのように導き出し、荒野の道も無事に進ませてくださいました。　５３神様が安全を保証してくださったので、恐れを感じることもなかったのです。　結局、敵は海にのみ込まれて滅びました。　５４こうして彼らは、神様が特別に備えてくださった、なだらかな丘陵の続く、祝福の地の入口まで連れて来られたのです。　５５神様はこの国に住みついている民族を追い払い、イスラエルの各部族に、領地を分配してくださいました。
５６　このように至れり尽くせりの恵みを受けながらも、彼らは神様に逆らい、その言いつけを守ろうとしませんでした。　５７入ろうとしている約束の地からあとずさりして、先祖同様に神様を裏切り、先の曲がった矢のように、神様が意図なさった的からそれてしまったのです。　５８また、他の神々の像を作り、異教の祭壇を築いては、神様の怒りを買いました。
５９　彼らのしわざをご覧になった神様の怒りは激しく、ご自分の国民をさえ、さげすむまでになりました。　６０そこで、地上の住まいであったシロの宮を見限り、　６１契約の箱が奪われるのも無視なさいました。　ご自分の栄光を敵の手にお渡しになったのです。　６２神様の怒りの火は燃えさかり、イスラエル国民は虫けら同様に殺されました。　６３若い男は焼き殺され､若い女は､婚姻の歌をうたう年齢に達しないうちに死に絶えました。

６４祭司は虐殺され、その未亡人は、夫の死を嘆くいとまもなく亡くなりました。　６５その時、神様は眠りから覚めた人のように、また、ぶどう酒を飲んで景気づいた勇士のように立ち上がられました。　６６敵はあわてふためいて逃げ、ぬぐいがたい恥をかかされたのです。　６７神様はヨセフの家系のエフライム部族を見放し、　６８ユダ部族を選んで、シオン山をいとおしまれました。　６９そこに、山のようにそびえ立つ不動の神殿をお建てになりました。　７０そして、ダビデをしもべとして選び、羊飼いの仕事場から、７１７２子羊を連れた雌羊の番をしていた場所から召し出されました。　イスラエルの羊飼いとなったダビデは、その昔ならした腕で、真心から人々のために尽くしました。
七九
１　ああ神様。　あなたの地は、外国の軍隊の占領下にあります。　神殿は汚され、エルサレムは瓦礫の山となりました。　２あなたの国民のしかばねは野ざらしで、鳥や獣のえじきとなっています。　３敵はエルサレムの全住民を、まるで家畜でもほふるように殺したので、血は川となって流れました。　一人の生き残りもいないのですから、いったいだれが死体を埋葬できるでしょう。　４周囲の国々が、寄ってたかって私たちをあざけり、侮辱の限りを尽くします。
５　ああ神様、いつまでお怒りになるのですか。　あなたのねたみの炎は、私たちの望みをすべて焼き尽くすまで燃えるのでしょうか。６その激しい怒りを､私たちにではなく、神様を信じない国々に注いでください。　祈りもせず、お名前を呼び求めもしない国々に注いでください。　７その国々は、神様の国民イスラエルを滅ぼし、一軒残らず荒らし回ったからです。８私たちの昔の罪を持ち出して、有罪の宣告を下さないでください。　行き届いた神様のあわれみで、ちりの中にはいつくばっている私たちを立たせてください。
９救いの神様、お名前があがめられるためにも、私たちを助け、この罪を赦してください。
１０どうして、外国人が、「いったいおまえたちの神はどこにいるんだ」とあざけるのを、放っておかれるのですか。　おかげで、神様の国民は無残にも虐殺されたわけですから、白日のもとで彼らに報復してください。　１１牢獄につながれている者と、死刑を待つ者のうめきを聞いてください。　彼らを救い出し、神様の力の偉大さを証明してください。
１２ああ神様、あなたをののしった国々に、七倍の報復を加えてください。
１３　そうすれば、神様の国民である私たちは、いつまでも感謝し、のちのちまで神様の偉大さをほめたたえるでしょう。
八〇
１　ああ、イスラエルを導く偉大な羊飼いよ。　ケルビム（天使を象徴する像）の上の王座におられる神様。　どうか、私の訴えを聞き入れて、お力を発揮してください。　光り輝くご栄光を現わしてください。２さあ、お立ちになって、どれほど強い力で私たちを救い出してくださるのか、エフライムやベニヤミンやマナセにも見せてやってください。
３　ああ神様、おそばに戻らせていただきとうございます。　喜びと愛のまなざしを注いでください。　それこそ、私たちを救うものです。　４ああ神様、いつまで怒ったままで、

この祈りを無視なさるのですか。　５悲しみと涙が私たちの食べ物なのですか。　６いつまで私たちを、近隣諸国の笑い者とされるのですか。
７　ああ神様、おそばに戻らせてください。　喜びと愛のまなざしを注いでください。　それこそ、私たちを救うものなのです。　８神様は私たちをエジプトから、か弱いぶどうの木でも運ぶようにして連れ出し、異教の国民を追い出したあとの約束の地に、植えつけてくださいました。　９土をふんわり耕していただいたので、私たちは根を張り、国中にはびこりました。　１０山々も私たちの影でおおわれました。　私たちは杉の大木のように枝を伸ばし、　１１地中海からユーフラテス川に至る全土を埋め尽くしました。　１２ところが今になって、神様は私たちの石垣を切りくずし、番人を追い払って、荒らされるままに任せられます。　１３森のいのししには回りを鼻で掘られ、野獣どもには格好のえじきとねらわれています。
１４　ああ神様、お願いですから、お戻りになって私たちを祝福してください。　天からこの惨状をご覧になり、あなたのぶどうの木を手入れしてください。　１５手ずから植え、手塩にかけて育て上げた子供を守ってください。　１６敵にぶった切られて焼かれているのですから、その敵が神様のきびしい御顔を見て、消え入りますように。　１７いとおしまれた、お気に入りの息子を強めてください。　１８もう二度と、私たちは神様を捨てたりはしません。　私たちを再び生かし、神様への信頼を回復させてください。
１９　ああ神様、おそばに連れ戻してください。　私たちに向けられる御顔が、喜びと愛で明るく輝きますように。　それこそ、私たちを救うものです。
八一
１　神様こそ私たちの力です。　さあ、賛美の歌をうたいましょう。
２　タンバリンの伴奏で歌いましょう。うるわしい音色の竪琴と十弦の琴をかなで、　３ラッパも吹き鳴らしましょう。　さあ、祭りです。　楽しく祝いましょう。　満月と新月の祭り、そのほかにも祭りは多いのです。　４祭りにはうんと楽しめと、神様がイスラエルのおきてに、組み込んでくださったのです。　５祭りは、私たちに奴隷の強制労働を強いたエジプトに対する戦いの記念として、神様が定めてくださったのです。
私は、生まれて初めて、こんなお声を聞きました。　６「さあ、肩の重荷を下ろしてやろう。　重労働から解放してやろう。　７おまえが『苦しい』と叫ぶと、わたしは助けてやった。　雷の隠れ家シナイ山から、わたしは答えた。　『水がない』と、おまえが文句を言った時、メリバでおまえの信仰を試した。　８わたしの国民よ。　こうして口をすっぱくして叱っている間に、聞き従ってくれたならなあ！　９どんなことがあっても、ほかの神を拝むんじゃないぞ。　また、家の中に偶像を置いてもいけない。　１０エジプトから連れ出してやったのは、おまえの神である、このわたしではないか。　疑うのなら、口をあんぐり開けてみるがよい。　そして、わたしが口いっぱいに恵みを満たすかどうか試しなさい。　ありとあらゆる祝福はおまえのものになるだろう。　１１しかし、わたしの国民はいっこうに聞こうとしない。　イスラエルは、わたしのそばを煙たがる。　１２そこ

で、かってに闇の中を手探りして、欲望のままに暮らすがいい、と放っておくことにしたのだ。
１３　ああ、わたしの国民が、従順になってくれたならなあ。　イスラエルが、わたしの道を歩んでくれたならなあ。　１４そうなれば､直ちに敵と戦って征服してやるのに。」　１５いま神様を憎んでいる者も、やがてはぺこぺこするようになるのです。　そして、そんなみじめな状態から、決して抜けられなくなります。　１６しかし、神様はあなたに極上の食べ物を下さり、上質の蜜で堪能させてくださるのです。
八二
１　神様は、天の法廷を開いて、裁判官たちに判決をお授けになります。　２いつまでおまえたち裁判官は、真実の証言に耳をふさぐのか。　いつまで悪党どもに便宜をはかってやるのか。　３貧しい者、悩む者、身寄りのない者、暮らしに事欠く者を公平にさばけ。４腹黒い連中から、貧乏で苦しんでいる人々を救ってやれ。　５ところが、おまえたちときたら、お話にならないくらい無知なのだ。　それというのも、おまえたちが暗やみに閉じ込められていて、社会の土台も根本から揺らいでいるからだ。　６わたしはおまえたちに「神様方」とか、「いと高き神々のご子息様」とか呼びかけてやった。　７しかし、やっぱり死んでいくのだから、ただの人間と変わりはしない。　ほかの王族にしても同じだ。人間はみな死すべき運命にある。
８　ああ神様、立ち上がって、この世をさばいてください。　地にあるものはみな、神様のもので、諸国は神様の手中にあります。
八三
１　ああ神様、私たちが祈っているのに、じっと黙って、見て見ぬふりをしないでください。　祈りに答え、救い出してください。
２　あの、敵の興奮して騒ぎ立てる声が、お耳に入らないのですか。　神様を憎む者どもの目に余る行為が、お目に留まらないのですか。　３やつらは悪知恵を働かせて策略を練り、神様にとってかけがえのない人たちを殺そうとしています。　４「さあ、イスラエルを抹殺しよう。　そんな国があった痕跡さえ残すな。」　５これが、彼らのトップ会談での一致した意見でした。　全能の神様を敵に回して、彼らは同盟条約を結んだのです。　６こうして、イシュマエル人、エドム人、モアブ人、ハガル人、　７ゲバル、アモン、アマレク、ペリシテ、ツロの住民たち、　８それにアッシリヤも加わって、このロトの子孫たちとの連合軍ができ上がりました。
９　どうか彼らを、いつかのミデヤンと同じような目に会わせてください。　もしくは、キション川でのシセラやヤビンと同じ敗北を、なめさせてやってください。　１０また、土地をこやすほど死体が朽ち果てたエン・ドルでの敵のようにしてください。　１１とくに権力者の貴族たちには、オレブとゼエブのような死にかたをさせてください〔カナン征服記下七・二五参照〕。　また高官たちをも、ゼバフとツァルムナのように葬り去ってください〔カナン征服記下八・二一参照〕。　１２この二人は、「神様の牧場をごっそりいただ

いて、わしらのものにしようぜ」とたくらんだ連中です。
１３　ああ神様、砂ぼこりやもみがらのように、彼らを吹き飛ばしてください。　１４森林をなめ尽くす山火事のように襲ってください。　１５猛烈な嵐や龍巻で、追い払ってください。　１６ああ主よ、彼らがあなたのお力とお名前の前にかぶとを脱ぐまで、徹底的に恥をかかせてください。　１７そのやることなすことを、すべて失敗に終わらせてください。　そうして深く恥じ入り、おじ気づき、　１８ついには、全地を支配する神様はあなたお一人であることを、思い知らせてほしいのです。
八四
１　天の神様。　あなたの神殿の美しさには、全くほれぼれいたします。
２　この神殿の内庭に入り、生ける神様のおそば近くに出ることを、私は夢にまで見ているのです。　３雀やつばめでさえ、祭壇の回りに巣を作らせてもらい、ひなを育てています。　天の神様。私の王様。　４神殿に住めて、常にあなたを賛美できる人は、なんと幸せなことでしょう。
５　神様から力をいただき、神様に従って歩むことを最優先したいと願う人は幸いです。６そんな人には、涙の谷も、祝福のわき出る泉となるでしょう。　７彼らはいよいよ溌剌としてシオン（エルサレム）に向かい、一人ずつ呼ばれて、主にお目どおりを許されるのです。
８　ああ神様、私の祈りを聞いてください。　９私たちを守る盾であられる神様、あなたが油を注いでお立てになった王をあわれんでください。
１０　あなたの神殿で過ごす一日は、よそで過ごす千日よりもすばらしいのです。　悪の宮殿に住むよりは、神の家の門番になりたいと思います。　１１神様は、私たちの光であり、守り手であるからです。　神様は恵みと栄光を下さる方であり、ご自分の道を歩む者に、良いものを出し渋ったりはなさいません。
１２　天の神様に信頼する人は幸いです。
八五
１　神様、あなたは驚くべき恵みをこの国に注がれましたね。　イスラエルの繁栄を回復し、　２国民の罪を赦し、そのいっさいを水に流されたのですね。　３こうして、神様の激しい怒りは、きれいに消え去りました。
４　ああ神様、あなたを愛していた昔に戻してください。　そうすれば、二度とお怒りを買うこともないと思います。　５それとも、子々孫々に至るまで、いつまでもお怒りはやまないのですか。　６私たちを生き返らせてください！　そうなれば、神様の国民は、再びあなたを喜ぶようになります。　７主よ、私たちに愛と恵みを注いで、救ってください。
８　私は、神様の口から出ることばをひと言も聞きもらすまいと、耳をそばだてています。神様の国民である聖徒たちが罪を離れさえすれば、平和を告げられるからです。　９救いは、神様を敬う人たちの身辺にあるのです。　私たちの国は、やがて主の栄光で満ちあふれるようになるでしょう。

１０　恵みと真実は出会いました。　厳正な正義と平和は頬ずりし合いました。　１１真実は地に生い茂り、神様の公正は天からほほ笑みます。
１２　神様から祝福されて、この国には豊作が続きます。　１３正義は神様の前を進んで、道を踏み固めます。
八六
１　ああ神様、こちらを向いて、この祈りをお聞きください。　私は悩み果てています。
２　神様のおきてをすべて守ろうとしている私です。　どうか、このいのちをお守りください。　神様に信頼して仕えている私です。　どうかお救いください。　３ああ神様、最後まで望みを失わず、あなたを見上げている私をあわれんでください。　４神様以外のだれをも拝んだりはしませんから、どうか、しあわせにしてください。　５神様は恵み深いお方で、赦すのをためらったりなさいませんから、助けを求めて来る人にはだれにでも、あふれるほどにあわれみをかけてくださいます。
６　ああ神様。　もう限界です。　この叫びを聞いてください。　７苦しいことにぶつかるたびに、神様を呼んでいます。　すると、あなたは助けてくださるのです。
８　異教の神々の中に、神様のような方はいません。　だれがあんな奇蹟を行なえるものですか。　９神様がお立てになった諸国家は、目の前でひれ伏し、聖なるお名前をたたえるでしょう。　１０神はあなたお一人であり、目をみはるばかりの偉大な奇蹟を行なわれます。
１１　私がどちらへ行けば、おこころにかなうのか教えてください。喜んで、そちらへ参ります。　全身で、神様のお名前を恐れさせてください。　１２心の底から神様をほめたたえ、常にお名前に栄光を帰したいのです。　１３神様はこんなにも愛してくださり、常に情けをかけてくださるからです。　また、神様は、地獄の底から私を救い出してくださったお方です。
１４　ああ神様。　思い上がった連中が、公然と突っかかって来ます。　神様を無視するならず者が、私のいのちをねらっています。　１５しかし神様。　あなたはあわれみ深くてやさしく、短気を起こさず、恵みと真実にあふれていらっしゃいます。　１６ですから、あなたのしもべである私にあわれみをかけ、力を与えて救い出してください。　１７おこころにかけてくださっているというしるしを、見せてください。　私を憎むやつらに、それを突きつけてやりたいのです。 私が神様から助けられ、慰められているのを知ったら、彼らも面目を失うでしょう。
八七
１２エルサレムは神様のきよい山にそびえています。　この神の都を、神様はどこよりも深く愛しておられるのです。
３　神の都については、なんとすばらしい語り伝えのあることでしょう。　４最近、友人たちとの会合で、エジプトやバビロン、ペリシテやツロ、それにはるかエチオピヤの名前が話題にのぼった時、それらの国の生まれだと誇らしげに語る人がいました。　５しかし、

いつかは、エルサレム生まれであることが最高の栄誉となる日が訪れます。　神々にまさる神が、格別この都に目をかけ、祝福してくださることになるからです。　６エルサレム出身者は国籍の登録に際して、神様から二重丸をいただくでしょう。　７祭りの日、人々は、「ああ、わが心のエルサレム」と歌うようになります。
八八
１　ああ、私を救ってくださる神様。　私は昼も夜も、あなたの前で泣きくずおれているのです。　２この叫びに耳を傾け、祈りを聞き届けてください。　３苦しみにがんじがらめにされた私に、死の足音が忍び寄って来たのです。　４人々は、私のいのちが尽きるのも時間の問題で、手の施しようもないと言います。　５戦場で倒れ、神様からのあわれみも絶たれた兵士のように、見殺しにするのです。
６　神様は私を、深い真っ暗やみの穴に投げ込まれました。　７神様の激しい怒りは、息つく暇なく押し寄せる波のように、私をのみ込みます。　８神様は、友人たちが私をけぎらいして去るようにされました。　私はさながら袋のねずみでした。　９目は泣き疲れてかすんでいます。　ああ神様。　くる日もくる日も、助けてくださいと、取りすがっているのです。　あわれんでくださいと、両手を差し伸べているのです。
１０　もうすぐ、手遅れになってしまいます。　死んでしまえば、どんな奇蹟を行なってくださろうと、あとの祭りです。　私が、神様をたたえるすべもありますまい。　１１なんで墓の中にいる者が、神様の恵みや真実を言い広めることができましょう。　１２暗やみに、神様の奇蹟を証言できるでしょうか。　あの世へ行った人間に、神様の助けを語り伝えることができるでしょうか。
１３　ああ神様。　くる日もくる日も、私はいのち乞いをしています。　１４なぜ、私の寿命を縮められるのですか。　なぜ、お顔をそむけられるのですか。　１５私は若いころから病気がちで、いつも死にさらされていました。　死におびえて、なすすべもなく立ち尽くしていました。　１６神様の激しい怒りに私は震え上がりました。　１７一日中、恐怖に襲われています。　１８愛する人も、友人も、知人も、みな去って行きました。　どちらを向いても、暗やみばかりです。
八九
１　私は神様のこまやかなお心づかいを、いつまでも歌います。　２神様の愛と恵み、それに真実は、永遠に絶えることがありません。
３４神様はこう言われます。　「わたしは、よりすぐったしもべダビデと厳粛な契約を結んだ。　彼の子孫を永久に王座につけると誓ったのだ。」
５　ああ神様。　天はあなたの奇蹟をたたえ、御使いたちは、あなたの真実をたたえます。　６天に、神様と並ぶ存在などありえませんから。　いちばん偉い御使いでさえ、神様の足もとにも及びません。　７天使の中で最高位の者さえ、御前では恐れおののきます。　ほかのだれが、神様のように尊敬されているでしょうか。　８天の軍勢の主である神様。　あなたのように権威ある方は一人もいません。　神様は真実そのものなのです。

９　すさまじい嵐が起こって、波がさかまこうと、神様のひと言で凪いでしまいます。　１０傲慢な態度を捨てなかったエジプトは、神様の手で切り刻まれました。　神様の恐るべき腕を見て、敵はくもの子を散らすように逃げて行きました。　１１天も地も、万物は神様の手中にあります。　いっさいのものを造られたのは神様なのですから。　１２北も南も神様がお造りになりました。　タボル山とヘルモン山は、創造主の神様に感謝しています。　１３神様の腕の力は天下に並ぶものがなく、その栄光ある右の手は、高くあげられています。
１４１５神様の王座を支えているのは、公平と正義の太い二本の柱です。　あわれみと真実は、いつもおそばに控えています。　喜びに震えるラッパの音を聞く人々は、神様の光の中を歩くことができるので幸せです。　１６彼らは、神様のすばらしい名声と、非の打ちどころのない正義を知って、一日じゅう喜びに満たされます。　１７神様は彼らの力です。　神様の恵みが私たちの力の源であるとは、なんという光栄でしょう。　１８私たちの保護者は、ほかならぬ神様ご自身です。　この、イスラエルのきよい神様が、私たちに王をお立てくださいました。
１９　神様は幻の中で、預言者にこう告げました。　「わたしは国民の中から、一人のすぐれた若者を選んで王とした。　２０しもべダビデだ！　わたしは彼に、きよい油を注いだ。　２１彼をしっかり支えて、強めよう。　２２だから彼は、決して敵に出し抜かれたり、悪者にひけをとったりすることはない。　２３わたしは敵を打ちのめし、彼を憎む者の息の根を止めてやろう。　２４常に彼を守り、祝福し、愛で包もう。　わたしといううしろだてを得て、彼は名をあげるのだ。　２５ユーフラテス川から地中海に至るまでが、彼の領地となる。　２６『あなたはわたしの父、わたしの神、わたしの救いの岩』と、彼はわたしを呼ぶだろう。
２７　わたしは彼を長男として迎え、地上で最強を誇る王としよう。２８いついつまでも愛を注ぎ、常に恵みをほどこそう。 彼との間に立てた契約は、決して破棄されはしない。２９また跡継ぎの絶えることもなく、永遠に王座は受け継がれていく。　３０‐３２しかし、もし彼の子孫がわたしのおきてを無視して守らなくなれば、罰が下ることになる。　３３とはいえ、恵みを根こそぎ奪ったり、約束を破ったりはしない。　３４そうだ。　わたしは契約を破りはしない。　前言を翻すようなこともしない。　３５３６わたしはダビデに、その王朝はいつまでも続き、王座も、月日のある限りすたれはしない、と誓ったからだ。　そして、きよい神は決して嘘がつけないのだ。　３７大空にかかる忠実な証人である月のように、彼の王座はいつまでも続くのだ。」
３８　このようにおっしゃった神様が、どうして彼を拒絶し、お捨てになるのですか。　なぜ、王として選んでおきながら、こんなにもお怒りになるのですか。　３９神様は、ダビデとの契約を解消なさったのでしょうか。　その王冠をはく奪されたではありませんか。
４０神様は城壁をくずし、要塞を一つ残らず破壊なさいました。　４１行きずりの者たちがその廃墟を物色してあさり、近隣の者もあざけって見ています。　４２神様は、むしろ

敵を勇気づけ、喜ばせておられるのですね。　４３戦場では、彼の手から剣をたたき落とし、見殺しになさったではありませんか。　４４その勢いにとどめを刺し、その王座をくつがえされたではありませんか。　４５彼を年以上にふけこませ、公衆の面前で恥をかかせられたではありませんか。
４６　ああ神様、いつまでこんな状態が続くのですか。　いつまで顔をそむけて、燃えさかる怒りを注がれるのですか。　４７あなたが人間の一生を、どんなに短く、また空しいものにお定めになったか思い起こしてください。　４８人はいつまでも生きることはできません。　みな死に果てるのです。　だれが、墓から自分のいのちを救い出せましょう。
４９　神様、以前は、あんなに愛してくださったではありませんか。かつてダビデに約束された確かな恵みは、どこへ行ったのでしょう。　５０主よ、ご覧ください。　人々がこのように私をばかにしているのです。　５１敵も、神様が王として油を注がれたこの私を、はやし立てています。
５２　しかし、それでもなお、神様は永遠にほめたたえられるべきお方です。　アーメン。アーメン。
九〇
神の人モーセの祈り。
１　神様。　あなたはいついつまでも私たちの住まいです。　２大地が造られ、山が生まれる前から、あなたは神であられました。　あなたには初めも終わりもないのです。
３　神様のひと言で、人は土に帰ります。　４千年の昔も神様にとっては、きのうのことにすぎず、つい一時間前と変わりません。　５６私たちは流れの速い潮に乗って、見る間に過ぎ去り、一夜の夢のように、あわただしく消えていきます。　朝のうちは青々と生い茂っていても、夕暮れには刈られてしおれる草に似ています。　７私たちはあなたの怒りのうちに死に、あなたの憤りに打ち滅ぼされます。　８神様は隠された罪をあばき、白日にさらされます。　９神様のお怒りの日々は、私たちに重く長く、ため息ばかりで過ぎていくのです。
１０　人生七十年、中には八十まで生きる人もいるでしょう。　しかし、その脂の乗りきった時期でも、むなしさと苦しみにむしばまれています。　しかも、月日は矢のように過ぎて、たちまち帰らぬ身となるのです。　１１だれが、神様のお怒りの真のこわさを知っているでしょう。　だれが、ほんとうに恐れることを知っているでしょう。
１２　どうか、私たちに与えられた日を数えさせてください。　そして、どんなに短いものか気づかせてください。　どうか、正しい日の過ごし方を教えてください。
１３　ああ神様、祝福してください。　いつまでじらすおつもりですか。　お怒りはずっと向こうに遠ざけてください。　１４お恵みで若い日々を満ち足らせ、生涯を閉じる日まで、喜びを絶えさせないでほしいのです。　１５悲惨な日々のことなどつゆだに思い返さないほどの喜びを、いただきたいのです。　災いの年月を、祝福の日々と取り替えてください。　１６もう一度、奇蹟を見せてください。　子供たちに、以前のようにご栄光を見

せてやってください。　１７どうか、私たちに目をかけ、することなすこと成功させてください。
九一
１　私たちは、どんな神々にもまさる神様によってかくまわれ、この全能のお方のふところに住んでいます。
２　私は宣言します。　「神様こそ私の避難所、また安全地帯です。　この神様への信頼を失うことはありません。」　３神様はどのような罠からもあなたを救い出し、いのち取りの病気からも守ってくださいます。　４神様の翼の下に、あなたはかくまわれるのです。また、神様の変わることのないお約束が、あなたのよろいとなるのです。　５ですから、もう暗やみを恐れてはいけません。　真昼の襲撃にもおののいてはいけません。　６暗やみに乗じてはびこる伝染病も、明け方を襲う災害も恐れるに足りません。
７　たとい千人がそばに倒れ、一万人の死体が回りを埋め尽くそうと、私はかすり傷一つ負いません。　８ただ、悪者が罰せられるのを眺めていればよいのです。　９私には、神様という避難所があるのです。　私はこのお方を、すべての神々にまさる神様として選んだのです。　１０ですから、災難にみまわれたり、伝染病に取りつかれたりするはずがありません。　１１神様が御使いたちに言いつけて、行く先々で守ってくださるからです。１２山道でも、石につまずかないように、手で支えてもらえるのです。　１３ライオンに出くわそうと、毒蛇を踏もうと、平気のへいざで踏みにじることさえできるのです。
１４　主はこう言っておられます。　「わたしを愛する者を、救い出してやろう。　わたしを信頼する者を偉大な人物にしよう。　１５その者が呼べば答えてやり、苦しんでいる時にはそばにいてやろう。　その者を救い出し、面目をほどこしてやろう。　１６彼を救って、充実した人生を送らせよう。」
九二
安息日にうたう歌。
１　神様に「感謝します」と言うこと、神々にまさる神様に賛美の歌をささげることは、すばらしいではありませんか。
２　朝ごとに、「お恵みを感謝します」と言い、夜ごとに、神様の真実を喜びなさい。　３十弦の琴やリュート、竪琴をかなでながら、賛美の歌をうたいなさい。　４こんなにも多くのことをしてくださった神様に、感謝せずにはいられません。　喜びの歌をうたわずにはいられません。
５　神様、なんとすばらしい奇蹟でしょう！　あなたの思慮の深さには測りがたいものがあります。　６浅はかな人には、とても理解できず、愚かな人の想像をも越えています。７たとい、今は雑草のようにはびこっていようと、悪人を待ち受けているのは永遠の滅びだけです。　８神様は永遠に天であがめられるお方ですが、　９神様に敵して悪事を働く者の運命は、滅びなのです。
１０　しかし、神様は私を、野牛のように強くしてくださいました。神様に祝福されて、

活力がみなぎりました。　１１敵が刑罰を宣告されて滅ぶ様子を、私はこの目で見ました。
１２しかし、神様を信じて従う人は、なつめやしの木のように青々と茂り、レバノン杉のようにそびえ立ちます。　１３というのも、神様の農園に移植され、しかも、神様みずから世話してくださるからです。　１４おかげで老木となっても実を結び、青々と茂ることができるのです。　１５そして、このことが神様の栄誉となり、その真実を人々に知らせることになります。　神様は私の隠れ家です。　神様は恵みそのもののお方です。

九三

１２世界の王、主は、威光と権能をまとっておられます。
ああ神様。　永遠の昔から、あなたは世界を支配しておられます。　３大洋も鳴りとどろいて、賛美しています。　４白く砕け散りながら岩をかむ大波より力強いお方です。　５そのおきては不変で、その支配の原理は、きよさです。

九四

１２復讐する権利をお持ちの神、主よ、ご栄光を輝かせてください。　地上の人々をさばき、おごり高ぶる連中を罰してください。　３神様、いつまで悪者が勝ち誇り、有頂天になっているのですか。　４あの横柄なことば、人を食った態度、大口をたたく様子をご覧ください。　５ああ神様。　彼らは、あなたが愛しておられる人々をあんなにも悩ませています。　６７「なあに、神に知れるわきゃないよ」と、未亡人や移民、みなしごなどを殺します。
８　この愚か者めが！　９耳と目をお造りになった神様が、なんでつんぼで盲なものか。
１０世界をおさばきになるお方が、なんでおまえたちの罪を見過ごしになさるのだ。　いっさいのことをお見通しの神様に、おまえたちの悪事がばれないはずはないのだ。
１１　神様は、人の考えや判断にはどれほど限りがあり、無益かを、よくご存じです。　１２１３ですから、痛い目に会わせることによって、私たちを神様の道へと導かれるのです。
一方、神様は敵に罠をしかけて滅ぼし、私たちにひと息つかせてくださいます。　１４決して、ご自分の国民を見捨てたりなさいません。 宝のように思っておられるのですから。
１５裁判は再び公平さを取り戻し、正直な人が陽の目を見るようになります。
１６　だれが、盾となって私を悪者から守ってくれるのでしょう。　１７もし神様の助けの手が差し伸べられなかったら、私は今ごろ死んでいたことでしょう。　１８「ああ神様、足もとがすべります！」と大声を出した時、神様は救い上げてくださったのでした。
１９　神様、何もかも信じられなくなって動揺している時、どうか私の気持ちを静め、新しい希望を与え、快活さを取り戻させてください。　２０どうか、悪が正義に勝っても当然とするような腐敗政治を、神様の保護のもとに存続させないでください。　２１２２まさか、罪もない人が死刑になるのを見過ごされるわけはないでしょうね！　神様は私のとりで、難を避けるための、揺るぎない岩です。　２３悪者どもの罪は、その頭上に跳ね返らせてくださいました。　神様は悪者の計略を逆用して、皆殺しになさいます。

九五

１　さあ、神様をたたえましょう。　救いの岩である神様に向かって、喜びの声を張り上げましょう。
２　感謝の思いを込めて御前に近づき、賛美の歌をささげましょう。　３神様は、どんな神にもまさる偉大な王であられるのです。　４主は地中深い地層も、そびえ立つ高い山々も、意のままにあやつられます。　すべてのものが神様のものなのです。　５神様は海と陸をお造りになりました。　それらは神様のものです。　６さあ、創造主である神様の前に出て、ひざまずきましょう。　７私たちは神様の羊であり、神様は羊飼いなのです。　きょう呼びかけられる声を聞いたなら、神様のもとへ行きましょう。
８　荒野のメリバやマサでのイスラエル国民のように、強情になってはいけません〔出エジプト記一七・七参照〕。　９あの時、あなたがたの先祖は、わたしの奇蹟を何度も目にしながら、信じようとしなかったのです。　わたしの忍耐は、彼らの不平やぐちで、ぎりぎりのところまで試されました。　１０「この四十年間、わたしは苦々しい思いで国民を見すえてきた。　心も思いも遠く離れているこの国民は、わたしのおきてに見向きもしなかった。　１１わたしは激しい怒りを込めて、彼らのためにせっかく用意した約束の地への入国を、拒否したのである。」
九六
１　世界中どこででも神様に新しい歌をささげましょう。　２賛美の声をあげましょう。くる日もくる日も、だれかに、神様の救いを伝えなさい。
３　栄光に輝く神様を世界中に宣伝し、神様のお働きに、目をみはらせましょう。　４神様は、口で言い表わせないほど偉大で、大いにほめたたえられるべきお方なのです。　他の神々には目もくれず、ひたすら神様だけを拝みなさい。　５他国の神は、人が作った偶像にすぎません。　しかし私たちの神様は、天をお造りになったお方です。６栄誉と威光が神様を包み、力と美が宮に立ちこめています。
７　世界の国々よ、神様だけに栄光と力があることを認めなさい。８神様にふさわしい栄誉をささげ、供え物を携えて来て礼拝しなさい。　９同時に、きよい生活を守りなさい。全地は神様の前で震えおののくべきなのです。　１０諸国民に、神様の支配が行き渡ると告げなさい。　神様の権威は、いつまでもすたれることなく、すべての国を公平にさばかれるのです。
１１　天は喜び、地はこおどりしなさい。　見渡す限りの海は、鳴りとどろいて神様の栄光を伝えなさい。　１２青々とした野原を見て、ほめたたえなさい。　草の一本一本が、神様の偉大さを物語っているではありませんか。　森の木々も、こずえを鳴らして賛美しなさい。　１３神様は世界をさばくためにおいでになり、公平で真実なさばきを下されます。
九七
１　神様は全世界の王です。　大地よ、喜んで跳びはねなさい。　最果ての島々も喜びなさい。

２　雲と暗やみが神様を取り囲み､正義がその王座の土台です。　３露払いを務める火が、敵をみな焼き滅ぼします。　４大地は、神様のいなずまがあちこちで光るのを見て、おののきます。　５山々は、神様の前でろうのように溶けました。　６天は神様の正義を宣言し、世界中の人々が神様の栄光を仰ぎます。
７　拝む価値もない神々を誇る者どもは、恥をかきますように。　その神々はみな、まことの神様の前にひれ伏すべき存在なのです。　８９神様。　エルサレムとユダの町々は、あなたの公正な判決を耳にしました。　神様の威厳に満ちた支配が全地に行き渡り、ほかの神々ははるか足もとにも及ばないのですから、喜びもひとしおです。
１０　神様は、悪を憎む人をいとおしまれます。　神様の国民はいのちを守られ、悪者の手から救い出されます。　１１光は、神様を敬う者のために蒔かれ、喜びは、正しい者のために蒔かれます。　１２神様を敬う人がみな幸せになり、きよい神様に冠をささげますように。
九八
１　神様のめざましい働きをたたえる、新しい歌をささげましょう。　そのお力ときよさが、すばらしい勝利を神様にもたらしたからです。　２３この勝利は全世界の人々の目に明らかです。　それは、イスラエルを恵むという約束の実現によって、歴然としているのです。　全世界は、神様がご自分の国民を救われる様子を目のあたりにしました。　４だからこそ、大地は大声を張り上げてほめたたえ、感きわまって歌うのです。
５　竪琴の音色に合わせて、賛美歌をうたいましょう。　６角笛とラッパの音を高らかに響かせなさい。　王である神様の前で、喜びに満ちたシンフォニーをかなでなさい。　７広大な海と、その中のすべてのものは、鳴りとどろいて賛美しなさい。　地と、そこに住むものはみな､「神様に栄光があるように」と叫びなさい。
８９海の波は楽しげに手を打ち鳴らし、山々は、喜びの歌を合唱しなさい。　正義を貫いて世界をさばくために、神様はおいでになるのです。
九九
１　全世界の王、神様は、ケルビム（天使を象徴する像）の上の王座におつきです。　諸国民は、震え上がり、大地は揺らぎますように。
２　シオン（エルサレム）に立たれる神様のご威光はと言えば､この世の支配者たちには、はるかに及びもつかないものです。　３どうか彼らが、きよく偉大な神様のお名前を、恐れかしこみますように。
４　公正なさばきを断行すること、それこそが、この絶大な王の支配理念なのです。　イスラエル中に正しい判決が下ります。　５きよい神様をあがめ、その足もとにひれ伏しなさい。
６　預言者モーセとアロン、それにサムエルが助けを呼び求めた時、神様はお答えになりました。　７雲の中から響いてくるお声に、彼らは従順に従いました。　８神様。　あなたは、彼らの祈りに答えて罪をお赦しになりましたが、その誤った行為に対しては、厳然

として罰を下されたのです。
９　私たちの神様をあがめ、エルサレムの聖なる山で礼拝しなさい。神様はきよいお方なのです。
一〇〇
１　大地よ。　神様に喜びの声をあげなさい。　２喜びをもってお仕えし、喜びの歌をうたいつつ、神様の前に進み出なさい。
３　主が神であるとはどんなことか、肌で感じ取りなさい。　主は私たちをお造りになりました。　私たちは神様の国民、その牧場の羊なのです。
４　感謝の思いも新たに、神殿の門をくぐり、賛美の歌声とともに宮の内庭に入りなさい。さあ、感謝してほめたたえなさい。　５神様はいつも正しく、愛と思いやりに満ち、いついつまでも変わらない真実を示されるのです。
一〇一
１　神様。　あなたがどんなに恵み深く公正なお方であるかを、ほめ歌いたいのです。
２　非の打ちどころのない生活を送りたい、と心がけている私ですが、神様のお助けなしには何もできません。　ことに、おこころにそった歩みをしたいとせつに願う家庭の中でこそ、お助けいただきたいのです。
３　低俗で下品なものをはねつけ、あらゆる不正行為を憎んで、縁を切らせてください。４いっさいの自分中心の態度を捨て、すべての悪から遠ざかるつもりです。　５陰で隣人を中傷するような人間には、容赦をしません。　また、うぬぼれや思い上がりが幅をきかすのを、黙って見てはいられません。　６神様を敬う人こそ真の英雄と考えて、家へ招きます。　身も心も潔白な人だけが、わが家の召使となれるのです。　７うそを言ったり裏切ったりする人を泊めることなど、決していたしません。　８悪人狩りをして神様の都を守ることが、私の日課なのです。
一〇二
悩みに打ちひしがれている人の祈り
１　神様、この祈りを聞き、この訴えに耳を傾けてください。
２　こんな悩みの時にこそ、私を放っておかないで、すみやかに答えてください。　３４私の日々は、煙のように消えていくからです。私は肉体ばかりか心も病んでいて、草のように踏みにじられ、しおれてしまいました。　食欲もなく、何を食べてもまずいのです。５絶望して嘆き、うめき続けたこの身は、骨と皮だけになりました。　６まるで、はるか遠い荒野に住むはげたかや、仲間からはずれて砂漠をさまようふくろうのようです。　７また、一羽だけ屋根にいる雀のように、孤独をかみしめ、まんじりともせず身を横たえているのです。
８　敵は、くる日もくる日も私をののしり、のろいます。　９１０神様の激しいお怒りにふれて、私はパンの代わりに灰を食べ、涙まじりの飲み物をのむのです。　私は神様から突き放されました。　１１私の一生は、夕方の影のように伸び尽くし、草のようにしおれ

ます。　１２それに引き替え、永遠の王である神様のご名声は、いついつまでも語り継がれます。
１３　私は、神様がエルサレムをあわれんでくださることを知っています。　今こそ、その時なのです。　１４神様の国民は、城壁の一つ一つの石に愛着を覚え、通りの土にさえ忘れがたい思いをいだいているのです。　１５諸国の民や支配者たちは、神様の前で震え上がりますように。　１６神様が栄光の姿で現われ、必ずエルサレムを再建してくださるからです。
１７　神様は、苦闘している人の祈りを聞かれます。　主は、彼らの願いが耳に入らないほど、忙しくしてはおられません。　１８このことを記録にとどめるのは、子孫たちにも神様のなさったことをたたえさせ､次の時代の者に主を賛美させるためです。 １９さあ、こう伝えなさい。神様は天から見下ろし、　２０奴隷として死ぬ運命にある国民のうめきを聞いて、解放してくださったと。　２１２２すると、人々はエルサレムの神殿になだれ込んで、神様を賛美し、その歌声は都中に広がるでしょう。　また、世界各国の王も、神様を拝もうと詰めかけて来ることでしょう。
２３　神様は、寿命を短くして、人生半ばで私を倒れさせました。　２４そこで、こう申し上げたのです。　「ああ、永遠に生きておられる神様、どうか死なせないでください。ようやく､人生も折り返し点に来たところですのに。 ２５大昔､神様は地の基礎をすえ、天をお造りになりました。　２６それらはやがて消滅するでしょうが、神様は永遠に生き続けられます。　着古した着物のようにすり切れたものは、新しいものと取り替えられますが、　２７神様ご自身は永久に不変です。
２８　そして私たちの家系も、神様の保護のもとに、めんめんと世代から世代へ継承されていくのです。」
一〇三
１　私は心から神様をたたえます。　２今までにいただいた祝福を、決して忘れません。
３　神様は私の罪をみな赦し､病気を治してくださいます。 ４地獄行きの身を身受けし、恵みとやさしい思いやりで包んでくださいます。５私の一生は祝福でおおわれ、鷲のように若返ります。　６神様は、不当に扱われている者を公平にさばかれます。　７神様はご自分の本性と、これからなそうとすることを、モーセおよびイスラエル国民に知らされました。
８　神様は、虫けら同然の者をあわれみ、やさしくいたわってくださいます。　また、短気を起こさず、恵みと愛に満ち、　９いつまでも根に持ったりはなさいません。　１０罪の深さに比例して罰を下されるわけでもありません。 １１神様を恐れ､あがめる人には、無尽蔵のあわれみをかけてくださいます。　１２神様は私たちの罪を取り除き、はるか地平線のかなたに投げ捨ててくださいました。　１３神様は、恐れかしこむ者に対しては、父親のようにやさしい思いやりを示してくださいます。　１４というのも、私たちが土くれにすぎず、　１５また草花のようにはかなく、　１６風に吹き飛ばされて消える存在で

あることを、知っておられるからです。
１７１８しかし、神様は、ご自分を信じる人をいついつまでも恵み、神様との契約を忠実に守り従う人を、子々孫々に至るまでお救いになります。
１９　神様は天に御座をすえ、すべてのものを支配なさいます。　２０神様の命令を一つとして聞きもらさず、すぐ実行に移す御使いたちよ、神様をほめたたえなさい。　２１四六時中、神様に仕える天使の軍団よ、ほめたたえなさい。
２２　万物が声を合わせて、賛美しますように。　私も力いっぱいにほめ歌います。
一〇四
１２神様はすばらしいお方です。　栄誉と威厳をまとわれたそのお姿は、なんと神々しいことでしょう。　天には星をちりばめ、　３地表のくぼみには海原を創造された神様。　雲の馬車に乗り、風の翼でかけ抜けられる神様。　４その先ぶれを務める天使は、風のように速い、炎の使者です。
５　くずれ落ちることのないように、大地はしっかりとゆわえつけられました。　６また、山々をのみ尽くすほどの洪水で、大地はおおわれました。　７８神様のひと声で、水はたちまち広大な海の底に吸い込まれ、山々は姿を現わし、谷は規定の線まで沈みました。　９神様はまた、海水が二度と地表にあふれないよう、境界線をお定めになりました。
１０　谷には泉を、山には渓流を、神様は配置なさいます。　１１あらゆる獣はそこでのどをうるおし、野ろばは渇きをいやします。　１２鳥は渓流のほとりに巣を作り、木々のこずえでさえずります。　１３神様は山々に雨を降り注ぎ、地をくだものの宝庫となさいます。　１４そのひと言で、家畜の飼料となる柔らかい草が生え、栽培用の果樹や野菜、それに穀物も育ちます。　１５また、だんらん用のぶどう酒、皮膚をつややかにするオリーブ油、力の源となるパンも作ることができるのです。　１６神様がお植えになったレバノン杉は、すくすくと伸び、みごとな大木に成長しました。　１７そこには鳥が巣を作り、こうのとりは、もみの木に宿ります。　１８高原には野やぎの牧草地があり、岩だぬきは、岩の間を隠れ場にしています。
１９　神様は、一か月の長さを知るために月を掲げ、一日を区切る目じるしとして太陽を照らされました。　２０夜のとばりが神様の手で降ろされると、森の獣たちはいっせいに出て来ます。　２１若いライオンは、獲物を求めてほえたけります。　しかし、神様のお助けなしに、食い物にありつくことはありません。　２２明け方近く、獣たちはほら穴に引き返して横になり、　２３入れ替わりに、人間が一日の作業を始め、夕暮れまで働きます。　２４神様。　あなたの知恵で、さまざまな生活形体ができ上がりました。　おかげで、地は豊かに満ちあふれています。
２５　目の前に開ける広大な海には、大小さまざま、ありとあらゆる生物が生息しています。　２６あそこを行く船をご覧なさい。　沖合にはくじらが戯れ、　２７神様から食べ物をいただくのを待っています。２８そして、配られた食糧を満腹するまで食べるのです。
２９　もし、神様のそのような配慮がなければ、彼らは途方にくれ、飢え死にするしかな

いのです。
３０　神様が御霊を送られると、新しいいのちが誕生します。　３１神様をいついつまでもほめたたえなさい。　神様は、ご自分の手のわざに目を細めておられるのです。　３２神様にひと睨みされると、大地はすくみ上がり、神様の手が少しでも触れれば、山は噴火するのです。
３３　私は息を引き取るその時まで、神様をたたえ続けます。　３４どうか、こんな思いが神様に喜ばれますように。　私にとって、神様は喜びの泉なのです。　３５神様なんかくそ食らえと思っている罪人たちはみな、地上から消え去りますように。　しかしこの私は、神様をほめたたえます。　ハレルヤ。
一〇五
１　神様のすばらしい行為の一つ一つに感謝し、諸国民に伝えなさい。　２賛美の歌をうたい、会う人ごとにその奇蹟を告げ知らせなさい。３神様を拝む人々は、誇らかにこおどりして喜びなさい。
４　常に神様を求め、お力を慕い続けなさい。
５６神様がどれほど大きいことをしてくださったか、考えてみなさい。それは、私たちが神様のしもべアブラハムとヤコブの子孫であり、選ばれた国民だからです。　さあ、どのようにして敵を滅ぼしていただいたか、思い起こしなさい。　７私たちの神様の恵みは、国じゅう至る所で明らかです。　８９たとい、何千年を経たのちでも、神様はお約束を忘れず、アブラハムやイサクと結んだ契約をお破りになりません。　１０１１そして、この契約をヤコブに再確認されました。　つまり、「カナンの地を相続させよう」という、イスラエル国民への約束です。１２このころはまだ、イスラエルはほんの一にぎりの少数民族であり、カナンの寄留民にすぎなかったのです。　１３こののち、彼らは国々に散らされ、国から国へと放浪したこともありました。　１４しかし、そんな時でも、神様の許しなしには、彼らに指一本ふれることはできなかったのです。　彼らを攻撃しようとする多くの王が滅ぼされました。１５「わたしの選んだ者にさわるな。　わたしの預言者に害を加えるな」と、神様の警告が響き渡りました。
１６　神様がカナンの地にききんを呼び寄せられると、食糧が底をつきました。　１７その一方、ご自分の国民を飢えから救うため、ヨセフを奴隷としてエジプトに送り込まれました。　１８ところが、彼は牢獄につながれ、足かせや鉄の首輪をかけられたのです。　１９しかしこれこそ、ヨセフの忍耐を試す絶好の機会となりました。　２０彼はついに、王によって自由の身とされ、　２１王室の全財産の管理を任されました。　２２このため、思いどおりに王の補佐官を投獄したり、側近を教育したりできる身となったのです。
２３　そののち、ヤコブもエジプトを訪れて、息子たちとともに住みつくことになりました。　２４それ以後、イスラエルの人口は爆発的に増え、支配者たちを脅かす大民族とまでなったのです。　２５ここまで来て、神様はエジプト人をイスラエルの敵と変え、イスラエル国民は奴隷にされてしまったのです。

２６　しかし、神様はご自分の代理として、モーセをアロンとともに派遣なさいました。２７エジプトに、世にも恐ろしいみわざを行なうためです。　２８神様からのお指図を受けて、この二人は、国中を暗やみでおおい、　２９あの国家の象徴とも言うべき大河を血に変え、魚を死滅させました。　３０また、おびただしいかえるが王の部屋を占拠しそうになりました。　３１モーセのひと言で、あぶやぶよが雲やかすみのように立ちこめ、エジプト全土をおおいました。　３２神様は、雨の代わりに、人の脳天を打ち砕く雹をお降らせになりました。　また、目もくらむばかりのいなずまに、エジプト国民は震え上がりました。３３ぶどうといちじくの木は全滅し、木という木の幹は、ことごとく裂けたのです。　３４また、神様のひと声で、いなごの大群が襲来して、　３５青いものを跡形なく食い尽くし、穀物をすべて食い荒らしました。３６続いて、神様はエジプト人の全家庭の長男を殺されました。 長男は、その家の誇りを一身にになう存在なのです。　３７一方、ご自分の国民には銀と金をふんだんに持たせて、エジプトを脱出させてくださいました。その時、一行の中からは、体の弱い者や病人は一人も出ませんでした。　３８あまりの恐怖にゆすぶられたエジプトは、むしろ、彼らが国外に出てくれて喜んだくらいです。
３９　神様は雲の幕を広げて、彼らから焼けつく太陽をさえぎり、夜には火の柱を立てて、明かりとされました。　４０人々が肉を欲しがると、空からうずらを降らせ、その上、天のパンとも言うべきマナをお与えになりました。　４１神様が岩を裂かれると、水がほとばしり出て、かわいた地をうるおす川となりました。　４２神様は、しもべアブラハムへの約束を覚えておられたのです。
４３　こうして、選民イスラエルは、意気揚々と約束の地に入りました。　４４神様が、麦の穂の波打つ他民族の領地を与えてくださったので、彼らは、他人が育てた穀物を食べました。　４５それもこれも、神様のおきてを忠実に守るためでした。　ハレルヤ。
一〇六
１　ハレルヤ。 神様の恵み深さを感謝します。 その愛は、いつまでも脈打っています。２栄光に輝く神様の奇蹟を、一つ残らず書き留めることのできる人がいるでしょうか。 だれが、神様を十分に賛美し尽くせましょう。
３　公平と正義と思いやりとを身につけている人々には、幸福が訪れます。
４　ああ神様。　あなたの国民に祝福と救いを注がれる時、私にも目を留めてください。５この身をも、選ばれた国民の繁栄にあずからせ、彼らと同じ喜びにひたり、ご栄光を共有できるようにしてください。
６　私たちも先祖同様、はなはだしい悪の道にそれました。　７先祖はエジプトで、あれほどの、目をみはるばかりの奇蹟を目撃しながら、感動することもなく、たちまち数々の恵みを忘れてしまったのです。それどころか、紅海のほとりで、神様に逆らったりもしたのです。８しかし、そんな人々をも、神様はお救いになりました。　それは、ご自身の名誉を守り、お力を全世界に知らせるためでした。　９紅海に命じられると、海は二つに裂け、まるで砂漠のように乾ききった、一本の道ができたのです。　１０こうして、神様は

人々を敵の手から救い出し、　１１続いて、水を元に戻して、敵を一人残らずおぼれさせてくださいました。
１２　ここまで来て、ようやく彼らは神様を信じ、堅く閉じていた口を開いて、賛美の歌をうたいました。
１３　しかし、あっという間に、元のもくあみです。　彼らは神様を無視して行動し、　１４もっとおいしいものを食べたいと注文をつけました。　こうして、神様の忍耐はぎりぎりのところまで試されたのです。　１５神様は欲しがるものをお与えになりましたが、彼らの心を空虚になさいました。　１６人々は、モーセと、神様に祭司として任命されたアロンとをねたんだのです。　１７そのため、大地は口をあけてダタンとアビラム、その友人たちをのみ込みました。　１８しかも、天から降って来た火は、悪者どもを焼き尽くしたのです。　１９２０それは、彼らが栄光に輝く神様より、草を食べる牛の像を選んだことへの罰でした。　２１２２彼らは、エジプトと紅海のほとりで大きな奇蹟をなさった神様の顔に、どろを塗るようなまねをしたのです。　２３あわや神様は、人々を皆殺しにしようとなさるところでしたが、選ばれた人モーセが間に入ってとりなしました。どうか、お怒りを静め、人々を滅ぼすのを思いとどまってください、と嘆願したのです。
２４　彼らは、神様がきっと祝福してくださるという約束を信じられず、約束の地に入ることを拒絶したのです。　２５人々はおのおのの天幕で口をとがらせ、嘆き悲しみ、神様の命令なんかくそ食らえ、とどなりました。　２６そこで神様は、彼らを荒野で殺し、　２７その子孫を遠い国へ追いやることになさったのです。　２８そのあと、私たちの先祖は、ペオルでのバアル礼拝に加わったり、死人にいけにえをささげたりするところまで堕落しました。　２９こうして、神様の怒りは極限に達し、恐ろしい伝染病が起こったのです。３０ピネハスが、災いを引き起こした張本人たちを処刑してはじめて、病気はおさまりました。　３１このピネハスの適切な処置は歴史に残ることでしょう。
３２　イスラエル国民はメリバでも神様を怒らせ、モーセを窮地に追い込みました。　３３そのためかっとしたモーセは、思わず軽率なことを口にしてしまったのです。　３４さて、イスラエル国民は、神様の命令に逆らい、カナンに住む外国人を滅ぼさなかったばかりか、　３５いっしょになって悪の道に励みました。　３６土着民の偶像にいけにえをささげ、神様には目もくれませんでした。　３７３８果ては、わが子を、カナンの偶像の悪霊にささげたりするしまつで、罪のない者の血を流し、国土を汚したのです。　３９偶像を愛することは、神様の目から見れば姦淫罪であり、自分自身を汚すことにもなりました。
４０今や、神様の怒りは燃え上がりました。　彼らの存在は神様に嫌悪感をもよおさせ、４１４２こんなことから、イスラエルは外国人に踏みにじられるようになったのです。敵に支配され、その虐待に甘んじる時期が続きました。
４３　そんな奴隷状態から、神様は何度お救いくださったことでしょう。しかし人々は、反抗的な態度をくずそうとせず、とうとう自滅していったのです。　４４それでもなお、神様はその叫びを聞き、その苦境を思いやってくださいました。　４５愛の神様は、以前

の約束を思い出してあわれみ、　４６敵さえ、捕虜となったイスラエル人をあわれむように配慮してくださいました。
４７　ああ神様、お救いください。　各地に散らされた人々を再び集めてください。　私たちは、躍り上がって喜び、感謝と賛美をささげさせていただきたいのです。
４８　イスラエルの神様は､永遠から永遠まで賛美を受けるにふさわしいお方です。 人々が口々に､「アーメン」と申しますように。　ハレルヤ。
一〇七
１　神様に感謝しなさい。 神様は恵み深く､愛と思いやりにあふれたお方ですから。 ２神様のおかげで自由の身となれた人は、大声でそう人に伝えなさい。　神様に、敵の手から救い出してもらったことを、ほかの人に知らせなさい。
３　主は､最果ての地で囚われの身となった人々を連れ戻されました｡4住む家もない人々は、砂漠をあてどなくさまよい、　５空腹をかかえ、のどはからから、体力も衰え果てました。　６しかし､「神様、助けてください」と彼らが叫ぶと、その切なる願いは聞かれました。７神様はすぐさま、安全で住むのに適した土地へと移してくださったのです。　８神様がどれほどおやさしい心づかいを示し、どれほどすばらしいことをしてくださったか分かっているなら、賛美がおのずからあふれてくるでしょう。　９神様は渇いたたましいを潤し、飢えたたましいを良いもので満たされるからです。
１０　みじめな奴隷になり下がり、陰湿な暗やみに座り込んでいる人はだれですか。　１１主に逆らい、神々にまさる神をさげすんだ人々です。　１２それゆえ、彼らは神様から重労働を強いられ、倒れても、だれにも起こしてもらえないのです。　１３八方ふさがりの中で、彼らが神様に助けを求めた時、その願いは聞かれました。　１４陰惨な暗やみから引き上げられ、奴隷の鎖を断ち切っていただきました。　１５これほどすばらしい思いやりと恵みをかけていただいたのですから、神様への賛美を忘れないでほしいものです。１６牢獄の青銅のとびらを押し倒し、鉄格子を切断してくださったのは、ほかならぬ神様なのですから。
１７　またほかの所には、自業自得で病気にかかった愚かな人もいました。　１８食欲もなく、死の一歩手前にいた人たちですが、　１９その苦境の中から神様を呼んだところ、力を与えられ救い出されたのです。　２０神様のひと声で病気はたちどころに治り、死の口から引き上げられました。　２１これほどすばらしい恵みをいただいたのですから、いつまでも神様を賛美して過ごしなさい。　２２感謝のことばが何よりの供え物です。　神様がしてくださったすばらしいことを歌にして、語り継ぎなさい。
２３　またほかには、七つの海をまたにかけて商売をする船乗りたちがいました。　２４この人たちもまた、神様の力を目のあたりに見るのです。　２５神様がお命じになると、波は山のように高くうねり、　２６船を天まで持ち上げるのです。　そして、次の瞬間、奈落の底にでも沈み込んだかのように、船乗りたちを恐怖のどん底に突き落とすのです。２７彼らは酔っぱらいのようによろめいて、途方にくれます。　２８こうして、あえぎな

がら神様を呼び求める時、彼らは救われるのです。２９神様は嵐を静め、波をおだやかにされます。　３０海が凪ぐと、目ざす港に無事に導かれるのです。　なんという祝福でしょう。　３１このすばらしい恵みを決して忘れることなく、いつまでも彼らが神様をほめたたえますように。　３２どうか、公衆の面前でも神様をほめたたえ、お偉い方々の前でも、ものおじしませんように。
３３　神様は川の水を干上がらせ、　３４悪者どもの手に入れた折り紙つきの一等地を、塩分の多い荒れ地に変えられます。　３５また砂漠を、肥沃で水はけのいい平野に変えられます。　３６そこに飢えた人々を住まわせると、彼らは町をつくり、　３７畑に種をまき、ぶどう畑には苗木を植え、やがて豊作を祝うようになります。　３８神様の祝福を受けて、大家族をかかえるようになり、家畜も大いに増えます。
３９　しかし、虐待され、苦しみや悲しみをなめていくうちに、貧しくなる人々もいます。４０神様は、おごり高ぶった人々をさげすみ、権力者に廃墟をさまよわせます。　４１しかし、神様を信じて従う貧しい人には、救いを与え、子宝を恵み、繁栄をもたらされます。４２正しい人々はそれを見てかっさいを送り、悪者どもは貝のように堅く口を閉ざさざるをえません。
４３　あなたに知恵があるというなら、私の言っていることをよく聞いて、神様の恵みを深く思いめぐらすがよい。
一〇八
１　ああ神様。　賛美が私の口からあふれてきます。　大喜びであなたへの歌をささげましょう。
２　十弦の琴と竪琴よ、目覚めなさい。　共々に歌って、夜明けを迎えようではないか。３私は世界のどこでも、神様をたたえます。４神様の恵みは測り知れず、その真実は天にまで達します。　５ご栄光は、大空を突き抜くようにそびえています。　６目をかけていただいている私の叫びが、お耳に達したなら、どうか救いにおいでください。
７　神様から聖なる約束を交わしていただいた私が、有頂天になるのも当然です。　神様は、シェケムの全土とスコテの谷を下さると約束なさいました。　８「ギルアデとマナセは、おまえたちに与えるつもりの、わたしの領地だ。　エフライムは、わたしのかぶと、ユダはわたしの笏。　９しかし、モアブとエドムには、つばを吐きかけよう。わたしはペリシテ人に向かって、勝ちどきをあげよう。」
１０　神様でなくてだれが、こんな要塞で固められた町々を征服する力を、私に授けてくれるでしょう。　また、エドムまで導いてくれるでしょう。
１１　神様、まさか、私たちを見捨て、その軍勢を置き去りになどなさらないでしょうね。１２どうか､敵に立ち向かう力を与えてください｡同盟軍の助太刀などあてにできません。１３神様のお助けさえあれば、何ものをも恐れない勇者さながら、ぞんぶんに戦えます。神様が敵を踏みにじってくださるからです。
一〇九

１　ああ、すばらしい神様、そんなに遠くで黙っていないでください。２悪者どもは私を中傷し、うそ八百を並べ立てています。　３これという理由もないのに私を憎み、突っかかって来るのです。　４私は彼らを愛し、祈ってやっているのに、私のいのちをつけねらうのです。５善の代わりに悪を、愛の代わりに憎しみを、返してよこします。
６　私がどんな気持ちでいるか、敵に知らせてやってください。　ありもしない噂を立てて、彼を不公平な裁判官のいる法廷に引き出してください。　７そして、有罪宣告が下されますように。　彼の祈りさえも、罪とみなしてくだされぱいいのです。　８彼の寿命は縮まり､その仕事はほかの者が取って代わりますように。９１０その子供は父なし子に、妻は未亡人になり、荒れ果てた家から立ち退きを命じられますように。　１１債権者に全財産を没収され、見も知らぬ者に、たくわえをみな巻き上げられますように。　１２１３だれひとり同情せず、遺児にもあわれみをかけてやりませんように。　一家の者が死に絶え、その家系が一代でとだえればいいのです。　１４両親の罪まで見のがさず、徹底して罰してください。　１５彼のした悪事をかた時も忘れず、その名を人々の記憶から消し去ってください。
１６　彼は人を思いやる気持ちなどみじんも持たず、困っている人を虐待し、傷心の者を死に追いやったからです。　１７人をのろうのを趣味にしていた彼を、今度は、神様がのろう番です。一度も人を祝福したことがない彼から､今度は祝福を奪い返してください。１８彼にとってのろうことは、水を飲んだり、好きな物を口にしたりするのと同様に、体にしみついてしまっているのです。
１９　今度は、そののろいが舞い戻って来て、彼にからみつきますように。　２０それこそ、私のことで嘘の証言をし、殺してやるぞと脅した敵への、神様からの刑罰なのです。
２１　しかし神様、私はあなたの子にしてください。　どうか、やさしいおこころをかけてください。　ああ、限りなく恵み深いお方よ、どうか救い出してください。
２２２３私は、まっさかさまに谷へ落ちて行くような心境です。　人の腕から払いのけられるいなごのようです。　２４断食のため、ひざはがくがくし始め、体は骨と皮になりました。　２５まるで失敗の見本でも見るように、人々は私をあざけります。
２６　愛と真実に満ちた神様、どうかお救いください。　２７人々の目の前で私に救いの手を差し伸べてくださるなら、きっとだれもが、あなたこそ力ある神様であることを知るでしょう。　２８そうすれば、彼らにいくらのろわれても平気です。　神様の祝福さえあれば、何も気になりません。　私を亡き者にしようとする彼らの努力は水泡に帰し、私は胸を張って出歩けるようになるのです。
２９　することなすこと彼らは失敗し、恥じ入りますように。　３０しかし、私は絶えず神様に感謝をささげ、あらゆる人々の前で賛美します。３１神様は、飢えている貧しい者の味方となって、敵の手から救ってくださるからです。
一一〇
１　神様は、私の救い主にお告げになりました。　「わたしの代理として、右の座につい

て治めてくれ。　わたしは敵を征服し、おまえの前で土下座させよう。」
２　神様は、あなたが敵を支配するために、エルサレムに強固な王座をおすえになりました。　３あなたのご威光が輝き渡ると、国民はきよい祭服をまとって、いそいそとやってまいりましょう。　あなたは、朝露のように、日々新しい力を帯びられます。　４神様は、あなたが永遠にメルキゼデクのような祭司であるという契約は、決して無効にはならない、と誓われました。　５神様はあなたのそばにいて、守られます。　ひとたびあなたの怒りを買った国々の王は、必ず倒されます。　６あなたは国々を罰し、指導者を全滅させては、死体で足の踏み場もないほどにされます。　７しかし、あなたは道のほとりの泉から水を飲み、気勢をあげられるのです。
一一一
１２ハレルヤ。　私がどれほど神様に感謝しているか、人々に知ってほしいものです。　感謝を忘れない人たちよ、さあいっしょに、神様のなさった数々の奇蹟を振り返ってみましょう。　３この奇蹟こそ、神様の栄誉と威厳、それに永遠の恵みを物語るものです。
４　だれが、神様のあわれみと恵みを簡単に忘れるでしょう。　５神様はご自分に信頼を寄せる人に食いぶちを与え、決して約束を破棄なさいません。　６神様はご自分の国民を大きな力でバックアップし、多くの民族が根づいていた、今のイスラエルの地をお与えになりました。　７神様のなさることはみな正しく、そのおきてはどれ一つ取っても誤りがありません。　８それは真理と恵みで成り立っていて、永遠にすたれません。　９神様から身の代金の全額を払っていただいた国民は、恐れ多くも、今や自由に神様の前に出入りできるのです。
１０　人はどうしたら知恵をみがけましょうか。 それには、神様を信じて従うことです。 そのおきてを守ってこそ、賢くなれるのです。神様を永遠にほめたたえましょう。
一一二
１　神様をほめたたえましょう。　神様を信じて従う人は、口で言い表わせないほどの祝福を受けます。　心から、神様のおっしゃるとおりにする人はしあわせです。
２　正しい人は息子にまで祝福が受け継がれます。 その子らは至る所で尊敬を集めます。 ３正しい人は資産にも恵まれ、善行をたたえられるでしょう。　４たとい、暗やみの力に巻き込まれたとしても、すぐに光にこうこうと照らされるでしょう。 彼はあわれみ深く、親切です。　５公平な取り引きをするので、万事がうまく運びます。
６　このような人は、事態が思わしくなくなったからといって、動じたりしません。　周囲の人々は、神様が彼をいつも引き立てておられる様子を見て、深い感銘を受けるのです。 ７彼は悪い知らせを受けても恐れず、今度は何が起こるかと、びくつきもしません。　神様から見放されるわけがないと、信じきっているからです。　８ですから、何事も恐れないで、冷静に敵の顔を見つめることができるのです。９彼は物惜しみしたりせず、貧しい人に気前よく与えます。　その善行は、いつまでも忘れられず、人々の尊敬を集めます。
１０　これを見たひねくれ者は、怒りに震えますが、歯ぎしりしながら、逃げるしかあり

ません。　望みが消え去ったからです。
一一三
１　ハレルヤ。　神様に仕える人々は、そのお名前をほめたたえなさい。　２永遠から永遠まで、神様のお名前がたたえられますように。３夜明けから日没まで賛美し続けなさい。４神様は国々を高い所から見下ろし、ご栄光は世界中にみなぎっているのです。
５　これほど高い御座についておられる神様を、ほかのだれと比べることができましょう。６はるか下の天と地を、身をかがめて眺めては、　７弱い者や、飢えた者を拾い上げ、　８人々の指導者とされるのです。　９不妊の女は子宝に恵まれて、しあわせな母親となるのです。
ハレルヤ。　神様をほめたたえなさい。
一一四
１　昔、イスラエル国民は、ことばも通じない外国、つまりエジプトから逃げ出して来ました。　２その時、ユダとイスラエルの地は、神様の新しい住まいとなり、王国となったのです。
３　紅海は、神様の国民の近づく足音に、あわてて二つに分かれ、ヨルダン川は、歩いて渡れる道をつくりました。　４山は雄羊のように跳びはね、丘は子羊のように躍りました。５なぜ、紅海は二つに分かれたのですか。　どうして、ヨルダン川の水が逆流したのですか。６なぜ、山は雄羊のように跳びはね、丘は子羊のように躍ったのですか。
７　大地よ、神様の前におののきなさい。　８神様は、堅い岩から、噴水のように水を出されたからです。
一一五
１　ああ神様。　私たちではなく、あなたがあがめられますように。すべての人が、神様の恵みと真実をたたえますように。　２諸国民に、「あいつらの神は死んだんじゃないのか」などと言わせておいて、よいものでしょうか。
３　天におられる私たちの神様は、意のままに事を運ばれます。　４ところが彼らの神々ときたら、銀や金でこしらえた手製のものなのです。５目や口があっても、見ることも話すこともできません。　６聞くことや、嗅ぐことはおろか、　７手足を動かすことも、声をたてることもできないのです。　８そんなものを作ったり、拝んだりする連中のおめでたさかげんも、偶像と似たりよったりです。
９　イスラエルよ、神様にすがりなさい。　神様はあなたがたを助け、盾となって守ってくださいます。　１０アロンの家の祭司よ、神様に信頼しなさい。　神様はあなたがたを助け、盾となって守ってくださいます。　１１神様の国民となった人々も、神様に信頼しなさい。　神様はあなたがたを助け、また盾となって守られます。
１２　神様はいつも私たちを心にかけて、祝福してくださいます。　イスラエル国民とアロンの家の祭司、　１３それに、神様を信じてお従いする人は、だれでも祝福されるのです。

１４　神様が、あなたがたとその子孫を十分に祝福してくださいますように。　１５天と地をお造りになった神様は、進んであなたがたを祝福されるに違いありません。　１６天は神様のものですが、地は人間にゆだねられています。
１７　死んでしまえば、神様を賛美することもできません。　１８しかし、私たちには、それができます。　神様をいつまでもほめたたえましょう。　ハレルヤ。
一一六
１　私は神様を愛しています。　なぜなら、祈りを聞いてくださるからです。　２身を乗り出して聞いてくださる神様に、私は生きている限り祈り続けます。
３　死に見入られた私は、恐怖にかられ、悲しみのどん底に突き落とされました。　４思わず、「神様、どうかお救いください」と叫んだのですが、　５神様は実にあわれみ深く、恵みを注いでくださいました。　６子供のように素直な心根の者を、お見捨てにはならないのです。　私も、死の一歩手前で救われました。　７おかげで今、ゆったりくつろいでいます。　神様がすばらしい奇蹟を行なってくださったからです。　８死の手から私を救い出して、つまずいたり、泣いたりしなくてもいいようにしてくださいました。　９私は生きることができるのです。　神様の前で、しかもこの地上で、大手を振って生きるのです。
１０１１失意に沈んでいたころの私は、「もうだめだ。　死ぬに決まっている。　回りの人間は気休めを言ってくれているのだ」と思い悩んでいました。　１２しかし今では、これほどよくしてくださった神様に、どうお報いすればよいのか、迷ってしまいます。　１３感謝のしるしに、ぶどう酒を供え、神様のお名前をほめたたえましょう。　１４また、かねてからの約束どおり、人々の目の前でいけにえをささげます。　１５神様に愛されている、かけがえのない人々が、そう簡単にいのちを落とすなど、許されるものですか。
１６　ああ神様。　自由の身としていただいた私は、いつまでもあなたにお仕えいたします。　１７あなたを拝み、感謝のしるしのいけにえをささげます。　１８１９ここエルサレムの神殿の庭で、しかも公衆の面前で、誓いどおりのことをみないたします。　神様をほめたたえましょう。
一一七
１　世界の諸国よ。　神様をほめたたえなさい。　地に住む人はみな、賛美しなさい。　２私たちを、目に入れても痛くないほどに思ってくださる神様に、心変わりはありえません。神様をほめたたえなさい。
一一八
１　さあ、神様に感謝しましょう。　神様はあわれみ深く、その恵みはいつまでも尽きません。
２　イスラエルの人々よ、口々に、「神様の恵みは尽きることがありません」とほめたたえなさい。　３アロンの家の祭司よ、「神様の恵みはいつまでも尽きません」と歌いなさい。４神様を信じるようになった外国人も、「神様の恵みはいつまでも尽きません」と歌いなさ

い。
５　苦しみの中から祈り求めると、神様は答えて、救い出してくださいました。　６神様は私の味方です。　ですから、こわいものなどないのです。　ただの人間に何の手出しができましょう。　７神様がそばにいて助けてくださるから、私を憎む者どもよ、用心するがいい。
８　人をあてにするより、神様を信頼したほうがよいのです。　９力ある王にかくまわれるより、神様の保護を受けるほうがよいのです。
１０　たとい、世界中の国が攻めて来ても、私は神様のあとについて進軍し、敵を全滅させてやります。　１１敵に包囲され、攻撃をしかけられても、私は高々と翻る神様の旗のもとで、勇気百倍し、相手方を皆殺しにしてやります。　１２蜂のように群がって来る敵は、ごうごうと燃え上がる炎さながら襲いかかります。　しかし、私は神様の旗のもとで彼らを滅ぼします。　１３私を亡き者にしようと図る彼らは、あらゆる手を打ってきましたが、神様はいつも助けてくださいました。１４激戦のさなかに、神様は私の力となり、歌となってくださいます。こうして、私は勝利を手にしました。　１５１６私たちの勝利の知らせを聞いて、神様を信じお従いする人々の家には、喜びの歌がわき起こります。　神様はめざましい働きをしてくださいました。　１７死なずにすんだ私は、生き長らえて、神様のなさったことを人々に語り伝えましょう。　１８神様は私を懲らしめられたものの、死には渡されませんでした。
１９　神殿の門よ、開きなさい。　私は中に入って、神様に感謝します。２０神様を信じお従いする人が、この門から入って神様の前に出るのです。　２１ああ神様。　祈りに答えて私を救ってくださったことを、心の底から感謝します。
２２　大工の捨てた石が、今では一番たいせつな土台石になっています。２３これこそ神様のなさることで、人の思いをはるかに越えています。２４きょうこそ、主がお造りになった日です。　さあ、この日をぞんぶんに楽しみましょう。　２５ああ神様、どうかお助けください。　お救いください。　することをすべて成功させてください。　２６神様の代理として間もなくおいでになる方に、祝福がありますように。　私たちは神殿であなたがたを祝福します。
２７２８神様は私たちの光です。 私はいけにえを祭壇にささげます。私は神様に感謝し、賛美の声をあげます。　２９感謝の祈りをささげましょう。　神様はあわれみ深く、その恵みはいつまでも尽きないのです。
一一九
１　神様のおきてを完全に守る人は幸いです。　２神様を探し求め、常にそのご意志に従う人は幸いです。　３そのような人は、まちがっても悪と妥協などせず、神様の道をひたすら歩みます。　４神様は、守るべきおきてを与えてくださいました。　５おきてから少しでもそれないでいたいと、どれほど私は願っていることでしょう。　６それさえできれば、いつも良心はすみきっていて、恥をかくこともないでしょう。

７　神様に懲らしめられれば、私は神様に喜ばれる生活をして、感謝の気持ちを表わすでしょう。　８これからは神様にお従いしますから、どうか、見捨てないでください。　私があとずさりして、二度と罪の中に落ち込まないように導いてください。
９　どうしたら、若い人は身も心もきよく保つことができるでしょうか。　神様のおことばを読み、その規範に従うほかはありません。１０私は、神様を見いだそうと、あらゆる努力をはらいました。　どうか、お教えからはみ出さないよう守ってください。　１１私はおことばを深く味わい、心にたくわえました。　それによって罪から引き離されるためです。
１２　神様、あなたの規範をお教えください。　１３私はあなたのおきてを暗唱し、　１４宝よりもたいせつにしました。　１５それをかみしめて味わい、心からの敬意をはらうのです。　１６それは私の喜びであり、常に忘れることのないものです。
１７　私を長く生かして、いつまでもお従いできるようにしてください。１８私の目を開いて、おことばの中に隠されている、すばらしい祝福を見させてください。　１９私はこの地上では旅人です。　神様のご命令が私の地図であり、ガイドブックなのです。　２０神様のお教えを、どれほど切望していることか。
２１　神様は、言いつけを守らない、思い上がった連中をしかりつけられます。　２２彼らが、神様にお従いする私をばかにしたりしませんように。　２３たとい、町の名士からそろって非難されても、この私は、神様のお決めになった道から一歩もそれません。　２４神様のおきては私の光であり、相談相手です。
２５　私は失望のあまり、ちりの中にはいつくばっています。　おことばによって、生き返らせてください。　２６私の考えを申し上げると、神様は答えてくださいました。　どうか、指示をお与えください。２７何をお望みなのか、私にわからせてください。　そうすれば、私は神様の奇蹟を見ることができます。
２８　私は悲しみのあまりすすり泣き、すっかり滅入ってしまいました。どうか、勇気づけ、奮い立たせるようなおことばをかけてください。２９３０どうか、いっさいの過ちから守り、こんな私ですが、神様のおきてが守れるように助けてください。　私はすでに、正しい道を進もうと決心したからです。　３１私は神様の戒めにしがみつき、できるだけ忠実に守ります。　神様、どうか、落度なく過ごさせてください。３２神様のおこころに従うことが楽しくなるように助けていただけるなら、もっとおきてに情熱を傾けることができるでしょう。
３３３４神様、実際にどうしたらいいかを教えてください。　そのとおりにしたいと思います。　いのちある限り、心を尽くしてお従いします。３５私に正しい道を歩ませてください。　それがどれほど喜ばしいことか、よく存じていますから。
３６　金もうけより、従順の道を選び取らせてください。　３７神様のご計画以外のものに目移りさせないでください。 私の心を奮い立たせ､ひたすら神様を慕わせてください。３８お約束を再確認させてください。 神様への信頼と敬愛の念を失っていないからです。

３９　まだ私には、神様にお従いしているために人からばかにされることを、かなり恐れているきらいがあります。　神様のおきてはみな正しく、良いものばかりだというのに。
４０‐４２神様のおきてを守りたいと、ひたすら願っている私の健康を、すっかり回復させてください。救いの手を差し伸べてくださるというのが、前々からのお約束でしたから。どうか、その恵みと愛でお救いください。　そうすれば、お約束を私が信じているからと言ってののしる連中に、言い返すことばも出てくるというものです。
４３　どんなことがあっても、神様のおことばを忘れさせないでください。　それこそ、ただ一つの望みですから。　４４‐４６私は、いついつまでも心から神様にお従いします。おきての範囲内でこそ、自由があるからです。　また、神様のおきてを国王に告げれば、彼らは関心をいだき、襟を正して、聞き入ることでしょう。
４７　どれほど神様のおきてを愛し、ご命令に従うことに、生きがいを見いだしていることでしょう。　４８「さあ、早く、早く来てください」と、私はおきてを手招きします。それを愛し、身も心もささげたいと願っているからです。
４９５０神様にお仕えしている私への約束を、お忘れにならないでください。　それこそ頼みの綱なのですから。　おかげで、困難な時にも、どれほど力づけられたかしれません。全く息を吹き返す思いでした。　５１おごり高ぶる者どもは、神様にお従いする私をばかにしますが、私は動揺しません。　５２幼いころからずっと、私は神様にお従いしようと心がけてきました。　神様のおことばによって、いつも慰められてきました。
５３　神様のご命令を無視する者たちには、腹が立ってなりません。５４神様のおきては、この地上での巡礼の道中にある私にとって、喜びと歌の原動力なのですから。　５５ああ神様。　私は夜でもおきてを守り、あなたに思いをはせます。　５６常に神様にお従いすることが、どれほど祝福であったことでしょう。
５７　神様は私のたいせつなお方ですから、喜んでお従いします。　５８私はひたすら祝福を求めています。　どうか、お約束どおりあわれんでください。　５９６０私は、知らぬ間にまちがった方向に進んでいる自分に気づき、あわてて引き返し、神様のもとに駆け込みました。　６１悪者どもは、私の首に綱を巻き、罪に引きずり込もうとしました。　しかし、私は神様のおきてにつなぎ留められています。
６２　真夜中に私は起きて、こんなにすばらしいおきてを授けてくださったお方に感謝します。　６３神様を信じてお従いする人は、だれでも私の兄弟です。　６４ああ神様。　大地はお恵みであふれています。正しい道をお教えください。
６５　神様。　お約束のとおり、私は十分に祝福をいただいております。６６どうか、知識ばかりか、正しい判断力をも与えてください。　神様のおきては、案内の杖なのです。
６７神様に懲らしめられる前は、私はよく迷い出ました。　これからは、おことばにはすべて従います。６８神様は情け深く、いつも恵みを注いでくださいます。　どうか、従順にならせてください。
６９　思い上がった連中は、私について根も葉もないことを言いふらします。　しかし、

私はただひたすら神様のおきてを守ります。　７０やつらの良心は麻痺しているのです。私は冷静に、神様にお従いしています。
７１７２結局、神様から懲らしめられたことは、この上ない幸いだったのです。　おかげで、はっきり目をおきてに向けることができました。このおきてこそ、山と積まれた金や銀より価値あるものと思えます。
７３　神様。　あなたは私の体をお造りになったお方です。　ですから、今度はおきて第一に歩むための知恵をお授けください。　７４神様を信じて従っている人々は、仲間が一人ふえたと心から迎え入れてくれるでしょう。
７５‐７７ああ神様。　あなたは正しい決定と罰を下されるお方であることを知っています。　どうか、お約束どおり、やさしく慰めてください。あたたかい思いやりで包んで、生かしてください。　神様のおきてこそ、私の無上の喜びなのですから。
７８　思い上がっている連中の鼻っ柱を、へし折ってやってください。全くのうそ八百を並べ立てて人を傷つける者たちなのです。　しかし、私の関心はもっぱら神様のおきてにあります。
７９　神様に信頼し、お従いしている人々を、もっと仲間に加えてください。　皆で神様のお教えについて語り明かします。　８０神様のお気持ちに添いたいと熱烈に思わせてください。　そうすれば、わが身をふがいなく思うこともなくなりましょう。
８１　神様からの救いを待ちくたびれました。　それでもなお、助けてくださるというお約束を期待しています。　８２約束どおりになる瞬間を見のがすまいと、目も緊張し続けて、すっかり充血してしまいました。　いったいいつ、私を助け、慰めてくださるのですか。　８３私は待つのに疲れ果て、ミイラのようになりました。　しかし、なおおきてを恋い慕っています。　８４いつになったら、迫害して来るやつらに報復してくださるのですか。　８５８６神様の真実とおきてを目の敵にする、この思い上がった連中は、私を蹴落とそうと深い穴を掘ったのです。 彼らの偽りのおかげで、ひどい目に会わされました。神様は真実を愛されるお方なのですから、どうか助けの手を伸べてください。８７あわや命を落としそうになったほどです。　しかし、私は彼らの言いなりにはなりませんでしたし、おきてを捨てたりもしませんでした。８８お願いですから、この命をお救いください。そうすれば、こののちずっと、神様にお従いすることができるのです。
８９　ああ神様。　あなたのおことばは、天にある、びくともしない岩のようです。　９０９１あなたの真実は、あなたの手でできた大地のように、いつまでも存続します。　万物はご計画の完成を目ざして、ご命令どおりに動くのです。
９２　神様のおきてが、心の底からわき上がる喜びになっていなかったら、私は失望の果てに、自滅したことでしょう。　９３どんなことがあろうと、おきてだけは手放せません。その教えによって、喜びと健康を回復していただいたからです。　９４神様のものとなった私を、どうか救ってください。　私は、神様のお望みどおりの生活をしようと心がけてまいりました。　９５悪者どもは命をねらって待ち伏せしますが、私は落ち着いて、神様

のお約束だけを思いめぐらしています。
９６　神様のおことば以外に、完全なものは何もありません。　９７どれほど、そのおことばを愛していることか！　一日中、そのことばかり思いめぐらしているのです。　９８それは、かた時も離れず道案内を務めてくれ、敵よりもまさる知恵を授けてくれます。　９９それどころか、私は、教師と呼ばれる人たちよりも賢くなります。　というのも、一日中、神様のおきてを思って暮らしているからです。　１００またさらに、私は、長年の経験を積んだ人々より賢い知恵をいただくのです。
１０１　神様のおことばに従順でありたかった私は、断固として悪の道に足を踏み入れませんでした。　１０２１０３神様のおことばは蜜より甘いので、私はそのお教えに聞き入ってきました。　１０４おきてから受ける真の知恵と理解力のおかげで、私はまちがったすべての教えを退けることができました。
１０５　神様のおことばは、つまずかないように道を照らしてくれる懐中電燈です。　１０６私は神様のすばらしいおきてに従います。　何度でもそう宣言します。
１０７　私は敵の手に落ちて、死と背中合わせになっています。　どうか、お約束どおり私を生き返らせてください。　１０８この心からの感謝を受け入れ、神様が何を望んでおられるかを悟らせてください。　１０９かろうじて生きているような私ですが、そう簡単に、おきてを手放したりするものですか。　１１０悪者どもは、私の通り道に罠をしかけましたが、だからといって、わき道にそれようとは思いません。　１１１神様のおきては、いつまでも私の宝です。　１１２死ぬまで神様に従う決心を固めております。
１１３　神様に従おうかどうしようかと迷う優柔不断な人々を、私は軽べつします。　私は、おきてを愛するという立場を貫きます。　１１４神様は私の隠れ家、また盾です。　神様のお約束だけが、私の望みです。１１５悪事をたくらむ者よ、とっとと消え失せろ。　私が神様の言いつけを守るのを邪魔するな。　１１６神様。　私を生かすと言われたお約束が空手形になったなんて、人々に言わせてなるものですか。　１１７私を敵の手の届かない高い所で、しっかり支えてください。　そうすれば、こののちおきてを守ることができます。
１１８　神様のおきてを捨てる人はみな、神様に捨てられました。　彼らは結局、自分をあざむいたことになるのです。　１１９悪者どもは、神様に捨てられる金かすにすぎません。　私が喜んでおきてに従うのも、当然です。　１２０私は神様の罰を恐れるあまり、胴震いしています。
１２１　どうか、私を敵のなぶりものにしないでください。　私は正しいことをしてきましたし、だれの目にも公平な立場をとってきたからです。　１２２思いきり私を祝福してください。　思い上がった連中の攻撃から、身を守ってください。　１２３いつ神様がお約束を果たして、救い出してくださるのかと、食い入るように見つめてきた私の目は、すっかりかすんでしまいました。　１２４主よ、やさしく私を取り扱い、このしもべに従順を学ばせてください。　１２５どうか、あなたにお仕えする身である私に、すべての点で

あなたの規範に照らして考える知恵を、お授けください。
１２６　神様、どうか、お出ましください。　悪者どもが、おきてを破りましたから。　１２７一方、私はと言えば、神様の戒めを純金より慕っています。　１２８神様のおきては、どれを取っても正しいのです。　この道以外に慕うべき道はありません。
１２９　神様のおきてはすばらしく、私は何のためらいもなくそれを守ります。　１３０神様のご計画が明らかにされると、それは頭の鈍い者にさえ理解できるのです。　１３１当然、私は、神様がどんな言いつけを下さるか、とても期待して待っているのです。
１３２　神様を愛する者にいつもかけてくださるあわれみを、そばに来て、私にもかけてください。　１３３悪に打ち負かされることのないように、どうか、そのおことばで導いてください。　１３４悪者どもの虐待から、救い出してください。　そうすれば、大手を振ってお従いすることができます。　１３５愛情のこもったまなざしを注ぎ、すべてのおきてを教えてください。　１３６おきてが平気で破られる現状に、私の目は涙でくもります。
１３７　ああ神様。　公明正大なあなたは、人を正しくさばいて罰を下されます。　１３８神様のご要求はみな正しく、理にかなっているのです。１３９敵がおきてを鼻であしらう様子には我慢なりません。　１４０あらゆる角度から、神様のお約束を検討してみた上で、私はそれに惚れ込んでいるのです。　１４１取るに足りない存在で、人からばかにされている私ですが、おきてだけは大事に守っているのです。
１４２　そのおきては完全無欠なので、神様の正義は永遠に朽ちないのです。　１４３神様の戒めは、苦しみ悩んでいる私を慰めてくれます。　１４４公平そのもののおきてを、真に理解させてください。　そうすれば、胸を張って歩けます。
１４５　ああ神様、ひたすら祈り続ける私にお答えください。　私もおきてに従います。
１４６「どうか、お救いください。　あなたにお従いしていますから」と、私は叫びます。
１４７朝早く、日がのぼる前に私は祈り、どんなにあなたを信頼しているかを示してきました。　１４８私は夜通し起きていて、お約束をかみしめます。　１４９愛と思いやりに満ちた神様、私の声を聞き、元の健康な体に戻してください。
１５０　攻撃をしかける無法者が迫って来ました。　１５１しかし、神様がそばにいてくださいます。　神様の戒めはみな、真理なのです。　１５２神様は決してお変わりにならないということを、私は小さいころから知っています。　１５３悲しみの涙にくれる私を救い出してください。　私は、お言いつけを忠実に守っているからです。　１５４私を救い出して、かねてからのお約束どおり、再び胸を張って歩けるようにしてください。　１５５神様のおきてなどどこ吹く風といった悪者どもは、だんだん救いから遠ざかっていくのです。　１５６神様、限りないあわれみを注いで、どうか、再び私を生かしてください。
１５７　おびただしい数の敵が、なんとかして私を神様から離そうとやっきになっています。　しかし、私は神様のおこころから、一歩たりとも迷い出たりしませんでした。　１５８神様のおきてなどに見向きもしない、こんな裏切り者を見ていると、全く胸くそが悪

くなります。　１５９神様、私があなたの戒めをどんなに愛しているか、わかってください。どうか、あふれる恵みで、私の健康を回復させてください。　１６０神様のおきては真理そのものであり、戒めは永遠にすたれません。
１６１　この世の権力者は､いわれもない迫害を加えますが､私の恐れるものはただ一つ、神様のおことばだけです。　１６２私は、金鉱を見つけた人のように、おきてを喜んでいます。　１６３どんな嘘でも徹底して憎む私ですが、おきては心から愛します。　１６４このすばらしいおきてを思いめぐらし、一日に七回、神様をたたえます。
１６５　このおきてを愛する人は、平安な心を与えられ、過ちを犯すこともありません。
１６６主よ。　救いを待ち望んでいる私は、あなたのおきてを守ってきました。　１６７あなたの戒めを何よりも愛し、慕い求めてきました。　１６８実際、目の色を変えるほどにそれを追い求めたことを、神様はご存じのはずです。　私のすることなすことはみな、神様のお目にとまっているはずです。
１６９　ああ神様､この祈りを聞き届け､お約束の知恵をお授けください。１７０どうか、お約束のとおり、救い出してください。　１７１おきてを学ばせてくださる神様を、ほめたたえます。　１７２神様の口から出る完全無欠なことばを、ほめ歌わずにいられるものですか。　１７３おこころどおりに従う道を選び取った私を、いざという時いつでも助けられるようにしていてください。　１７４ああ神様。　私はあなたの救いを慕い求めてきたのです。　あなたのおきてはこの上ない喜びとなっています。　１７５生かし続けていただける限り、神様をほめたたえましょう。　どうか、おきてによって支えてください。
１７６　羊のようにあてどもなくさまよう私を、捜し出してください。私は、お言いつけに背いたりしませんでしたから。
一二〇
１　苦しみの底から助けを呼び求めると、神様は救いの手を差し伸べてくださいました。
２　ああ神様、うそでこり固まった連中から救い出してください。３平気でうそをつく者には、どれほど恐ろしい運命が待っていることでしょう。　４おまえたちは鋭い矢で射抜かれ、真っ赤な炭火で焼かれるのです。
５６私は、神様を憎む、メシェクとケダルの住人の間に住んでいるようなもので、気苦労がますます重なります。　平和をきらうこの連中と暮らすのには、ほとほと疲れました。
７平和を愛する私に､彼らは挑戦的で､そのどなり声に私の声もかき消されてしまいます。
一二一
１　私は、山に住むという神々に、助けを仰ぐべきなのでしょうか。２いいえ、真の助けは、山々を造られた神様から来るのです。　この神様は、天もお造りになりました。　３４このお方は、私が決してつまずいたり、足をすべらせたり、倒れたりしないように守ってくださいます。　また、眠り込んだりもなさいません。　いつも大きく目を見開いて、見守ってくださいます。
５　神様は自ら、あなたのために配慮してくださるのです。　危険からも守ってください

ます。　６昼も夜も注意深く、　７あらゆる害悪を寄せつけず、いのちを守ってください
ます。　８あなたの全生活を、神様は目に留め、援護してくださいます。
一二二
１　エルサレムへ行って神の宮に詣でよう、と誘われた時のうれしさは忘れられません。
２３いま私たちは、都の雑踏の中に身を置いています。　４神様のおきてに従って、人々
がイスラエル中からここに集まり、礼拝し、感謝をささげ、賛美しているのです。　５都
の門のそばでは、裁判官が人々の論争を裁いています。
６　エルサレムの平和のために祈ってください。　この都を愛する人々に繁栄をもたらし
てください。　７エルサレムの城壁のうちに平和がみなぎり、宮殿は富み栄えますように。
８この都に住む友人、兄弟のために願います。　９神の宮にふさわしい平和で満たされま
すようにと。
一二三
１　私は天の王座の神様を見上げます。
２　食い入るように、いつ神様があわれんでくださるかと見つめています。　ちょうど、
召使が主人の顔色をうかがい、ちょっとした表情にさえ気を配って仕えるのと同じです。
３４主よ、お願いですから、あわれんでください。　私たちはさんざん、金持ちや鼻息の
荒い連中にばかにされ、あざけられてきたからです。
一二四
１　イスラエル中の人は、次のことに気づくべきです。　もし神様が味方でなかったなら、
２３私たちは敵にいけにえとされ、皆殺しの目に会っていたことでしょう。　４５その激
しい怒りと思い上がりの洪水にのまれて、おぼれたことでしょう。
６　神様のおかげで、敵のえじきにならずにすんだのです。　心から感謝しなさい。　７
猟師のしかけた網から逃げる鳥のように、命からがら助かったのです。　網が裂けて、た
ちまち自由に舞い上がれたのです。
８　天地をお造りになった神様から、助けの手は伸べられます。
一二五
１　神様を信頼する人は、シオンの山のように、どのような情況の変化にも動じないので
す。
２　エルサレムがその周囲の山々に守られているように、主もご自分の国民を取り囲んで、
守ってくださいます。　３神様を信じて従っている人々を悪者どもが牛耳り、悪事を押し
つけるようなことがあってはならないからです。　４ああ神様、心のまっすぐな正しい人々
を恵んでください。　５そして、悪者どもは、処刑場へ引っ立ててください。　イスラエ
ルに平和がありますように。
一二六
１　神様が、捕虜となっていた人々をエルサレムへ連れ戻された時は、まるで夢でも見て
いるようでした。　２笑いが込み上げ、ひとりでに歌っていました。　外国人の驚きよう

と言ったらありませんでした。「神様って、すごいことをなさるもんだな」と騒いでいたではありませんか。
３　確かにすばらしいことでした。　信じられないようなことでした。どれほどうれしかったことか！　４旅人が砂漠でオアシスを見つけた時のように、私たちをすっかり元気にしてください。
５　涙をまく人は、やがて喜びを刈り取ります。　６種を手にし、目を泣きはらして出て行った人々が、やがて収穫の束をかかえ、歌いながら帰って来ます。
一二七
１　神様に建築責任者になっていただかないのなら、家を建ててもむだです。　神様に町を守っていただかないのなら、見張りが立つ意味もありません。　２暮らしを支えるために朝早くから夜遅くまで身を粉にして働いたとしても、それが何になるでしょう。　神様は、愛する者に適当な休息を与えようとなさるお方です。
３　子供たちは神様からの贈り物であり、ほうびなのです。　４若いうちに生まれた子供は、身を守る鋭い矢のようです。　５矢筒が矢でいっぱいの人はしあわせです。　敵と論争する時にも、ちゃんと味方がついているわけです。
一二八
１　神様を恐れかしこみ、信じて従っている人に、祝福がありますように。
２　その人へのほうびは、繁栄と幸福です。　３あなたの妻は、家庭の中で、いかにも満足げです。　それに、食卓に集まる子供たちの健康そうなこと！　オリーブの若木のように溌剌としています。　４これこそ、神様を信頼している人たちの姿です。
５　人間的な喜びだけでなく、天の祝福をも、神様は注いでくださいますように！　６孫の顔を見て喜べるよう、長生きしてほしいものです。　神様がイスラエルを祝福してくださいますように。
一二九
１　イスラエルの述懐。　私は若いころから迫害され、　２長いあいだ差別にも甘んじてきましたが、滅ぼされることはありませんでした。敵には、私の息の根を止めることが、ついにできなかったのです。３４彼らは私の背中をむちで切り裂きましたが、幸いにも、神様は、悪者どもが巻きつけた鎖を引きちぎってくださいました。
５　ユダヤ人を憎む者どもが面目まるつぶれになるように、敗北を味わわせてください。６７土の浅い地に生えた草がしおれて黄色くなり、刈り取る者や束ねる者から、見向きもされないようにしてください。　８道行く人々にも、「祝福がありますように。　神様の名によって祈ります」などと、決して言わせないでください。
一三〇
１　ああ神様。　私は失意のどん底から、あなたの助けを叫び求めます。　２「お願いですから、私の訴えを聞いて、助けてください。」
３４もし、神様がいつまでも私たちの罪を心に留められるのでしたら、とうてい、この祈

りも聞いてはいただけないでしょう。　しかし、恐れ多いことですが、神様は赦してくださるお方です。　５だからこそ、お助けを信じつつ、期待をこめて待っているのです。　６見張りの者が夜明けを待つよりも切実に、神様を待ち望んでいます。
７　イスラエルよ、神様を信じて希望を持ちなさい。　神様は恵み深く親切で、両腕いっぱいの祝福をかかえておいでになるからです。８神様は、罪の奴隷となったイスラエルを買い戻してくださいます。
一三一
１　神様。　私は思い上がったり、横柄な態度をとったりいたしません。　知ったかぶりをしたり、ほかの者より善人ぶったりもいたしません。　２今こうして、乳離れした幼児のように、神様の前でおとなしくしています。　もう、あれこれ願い事を並べ立てるのはやめにしました。
３　イスラエルよ、おまえもまた、今だけでなく、いつまでも、静かに神様に信頼していなさい。
一三二
１　神様。　あなたは、私の心が騒ぎ立っていた頃のことをご存じですか。　２‐５契約の箱を納める、イスラエルの全能の神様の神殿をどう建てたらいいかと思いめぐらし、休むことも、眠ることもできない状態でした。　あのとき私は、どんなことがあっても神の宮を建てようと誓ったのです。
６　契約の箱は、最初エフラテにあり、次に遠く離れたヤアルの田舎に移されました。　７しかし今こそ、神様の地上のお住まい、神殿にお迎えいたします。　私どもはそこで、神様を拝むのです。　８ああ神様、どうぞ立ち上がって、お力の象徴である箱とともに、神殿にお入りください。
９　祭司には、純潔のしるしの白い服をまとわせます。　わが国の人々を、歓声でわき立たせてください。
１０　あなたの国民の王として選ばれた、しもべダビデを退けないでください。　１１私の息子が後継者となって王座につく、とお約束くださったではありませんか。　神様が約束を破られるはずはありません。１２神様はまた、もし子孫が、神様と私との契約を守るなら、ダビデ王朝はいつまでも安泰だ、と約束してくださいました。
１３　ああ神様。　あなたはエルサレムを住まいとしてお選びになり、１４こう言われました。　「ここここそわたしの永遠の住まい。　わたしの望みの地。　１５わたしはこの都を繁栄させ、貧しい住民を満腹にしてやる。　１６祭司には救いの服を着せる。　わたしを信じる都の住民は、喜びの声を張り上げるだろう。　１７わたしはダビデの子孫を全世界の王とし、その権力をますます増大させよう。　１８敵対する者には恥をかかせ、ダビデ王家は栄光に輝かせよう。」
一三三
１　兄弟たちが一つになって仲良く暮らす様子は、なんと楽しげで、すばらしいことでし

ょう。　２それは、頭に注がれた香り高い油のようです。　かつて、アロンに注がれた油はひげに流れ落ち、服のえりにまでしたたったではありませんか。　３それは、ヘルモン山やイスラエルの山々に降りる露にも似ていて、新たな息吹を呼びさますのです。　こうして、神様はイスラエルに、永遠のいのちの祝福を与えると約束なさったのです。
一三四
１　夜ごと神殿の警備に立つ、神様に仕える人々よ。　さあ、ほめたたえなさい。　２きよい手をあげて、ほめたたえなさい。
３　天地をお造りになった神様が、シオン（エルサレム）からあなたを祝福してくださいますように。
一三五
１２ハレルヤ。　神様の国民は、神殿の内庭に立って、ほめたたえなさい。　３恵み深い神様のすばらしいお名前をたたえて歌いなさい。４神様はイスラエルを、ご自分のものとして選んでくださったのです。
５　神様の偉大さは、とてもほかの神々とは比べものになりません。６天も地も、深い海も、神様は思いどおりにあやつられます。　７地上にもやを立ちこめさせ、雨をもたらすいなずまを光らせ、その宝物倉から風を送り出されます。　８神様はエジプト人に生まれた長男をみな､家畜の初子もろとも滅ぼされました。 ９エジプトの王や国民の目の前で、大きな奇蹟を見せられたのです。　１０強い国々を滅ぼし、負けを知らない王侯を殺されました。　１１エモリ人の王シホン、バシャンの王オグ、それにカナンの王たちをご覧なさい。　１２神様は彼らの土地を、ご自分の国民イスラエルに、永遠の贈り物としてお与えくださいました。
１３　ああ神様。　あなたの御名はいつまでもすたれず、あらゆる時代の人々に知れ渡ります。　１４神様はご自分の国民を弁護し、仕える人人をあわれまれるからです。
１５　外国人は、人の手で作った金や銀の偶像を拝みます。　１６それこそ口があってもしゃべれず、目があっても見えず、　１７耳があっても聞こえない代物で、呼吸さえできないのです。　１８これを作る者も、また信心する者も、同じく無能です。
１９　イスラエルよ、神様をほめたたえなさい。　アロンの家系の大祭司よ、ほめたたえなさい。　２０レビの家系の祭司も、神様を信じてお従いしている人々も、神様をほめたたえなさい。　２１エルサレムの住民よ、ほめたたえなさい。　エルサレムは神様のお住まいではありませんか。
一三六
１　絶え間なく恵みを注いでくださる神様に感謝しなさい。
２　神々の神であられるお方に感謝しなさい。　その恵みはいつまでも絶えることがありません。　３主の主に感謝しなさい。　その恵みはいつまでも絶えません。　４めざましい奇蹟をなさる、ただ一人のお方をほめたたえなさい。　その恵みは絶えることがありません。５天を造られたお方をほめたたえなさい。　その恵みは永遠のものです。　６地中

に水脈を巡らされたお方をほめたたえなさい。 その恵みは絶えることがありません。 ７天に明かりをともされたお方をほめたたえなさい。 その恵みは絶えることがありません。８９昼のために太陽を、夜のためには月と星とを造られたお方の恵みは、絶えることなく続きます。　１０エジプト人の長男を打ち殺された神様をほめたたえなさい。　イスラエルへの恵みは絶えることがありません。１１１２神様は、大いなる力を背景にイスラエルの人々を連れ出し、敵に対しては、こぶしを振りかざされました。　イスラエルへの恵みは絶えることがありません。　１３紅海を真っ二つにし、道をあけてくださった神様を、ほめたたえなさい。　その恵みは絶えることがありません。　１４その道を無事に通らせてくださったのも、神様です。　その恵みは絶えることがありません。　１５一方、エジプト王の軍隊はおぼれてしまいました。　イスラエルへの神様の恵みは、絶えることがありません。
１６　荒野を旅する間も導いてくださったお方を、ほめたたえなさい。その恵みは絶えることがありません。　１７強大な諸国の王の手から救い出してくださったお方を、ほめたたえなさい。　その恵みは絶えることがありません。　１８勇名をはせた王も、敵対すれば神様の手で打たれました。　イスラエルへの神様の恵みは、絶えることがありません。１９２０エモリ人の王シホンも、バシャンの王オグも、神様の手にかかって殺されました。イスラエルへの恵みは絶えることがありません。　２１これらの王の領地は、イスラエルのものになりました。神様の恵みは絶えることがありません。　２２そうです、神様に仕えるイスラエルへの、変わることのない贈り物としてです。　神様の恵みは絶えることがありません。
２３　神様は、私たちがどれほど弱い存在か、思い起こしてくださいます。　その恵みは絶えることがありません。　２４敵の手から救い出してくださる神様の恵みは、絶えることがありません。
２５　神様はいのちあるすべてのものを養われるお方です。　その恵みは絶えることがありません。　２６ああ、天の神様に感謝しなさい。その恵みは絶えることがないのです。
一三七
１　バビロンの川のほとりに座り、私たちはエルサレムをしのんで泣きました。　２手にしていた竪琴も柳の枝にかけてしまいました。３４どうして歌う気になどなれましょう。ところが、冷酷無比の征服者たちは、余興にシオン（エルサレム）の歌をうたえと、しつこくからみました。　５６ああエルサレムよ。　もし私がおまえを忘れるようなことがあれば、もしおまえへの愛を失うようなことがあれば、この琴をひく腕が折れ、二度と歌えなくなるがいい。
７　神様、バビロン軍によるエルサレム陥落の日の、エドム人たちの仕打ちを忘れないでください。　「建物という建物はみなこわしてしまえ」とわめき散らしていました。　８どう猛な野獣、バビロンよ。今におまえは滅ぼされるぞ。　よくも私たちを痛めつけてくれたな。今度はお返しだ。　おまえを滅ぼしてくれる人には、祝福があるように。　９お

まえの赤ん坊を、岩に投げつける人に、祝福があるように。
一三八
１　主よ。　私は心の底から感謝し、御使いたちの前でほめたたえます。　２礼拝するたびにあなたの宮に向かい､そのすべての恵みと真実を思い起こして感謝をささげます。 神様は、御自身の名誉にかけても、お約束は守られるはずですから。　３必ず私の祈りに答えて、力を与え、励ましてくださいます。
４　主よ。　この世の王はみなお声を聞き、感謝をささげます。　５彼らは、栄光に輝く神様の道をたたえて歌います。　ご栄光の偉大さに圧倒されるからです。　６この上なく偉大な神様は、謙そんな人を重んじ、高慢な人を寄せつけません。　７たとい、四方八方を苦しみに取り巻かれても、私は無事に救い出していただけます。　怒り狂った敵には、神様のこぶしが振り下ろされるのです。　８私のためのご計画は、次々に実現していきます。　神様の恵みは絶えることがないからです。　どうか、私を置き去りにしないでください。　私は神様の手で造られた者ですから。
一三九
１　主よ。　あなたは私の心の奥底まで探り、どんなささいなことも見のがされません。 ２私の立ち居振る舞いさえご存じです。　遠くからでも、私の内面をすべて読み取られます。　３また､私の進む道を下調べして､どこで休息をとるべきかも教えてくださいます。常に私の居場所もご存じです。　４そして、口を開かない前から、私が何を言いたいかも見抜いておられます。　５先になりあとになりして、祝福の御手を伸べてくださいます。
６　しかし、このようなことはあまりにももったいない話で、ほんとうだとは信じがたいほどです。　７神様の視界から逃れることは決してできません。　身を隠すことも、不可能です。　８たとい天までのぼろうと、神様はそこにおられ、死の世界まで降りて行こうと、神様はそこで待っておられるのです。　９たとい朝風に乗り、地球の果てまで飛んで行こうと、　１０神様の力強い腕は、私を導き、支えてくださいます。　１１もし暗やみにまぎれ込もうとしたりすると、夜はさっと私を照らし出す光となるのです。　１２神様の目をさえぎるのに、暗やみは、何の役にも立ちません。　神様のためなら、夜も昼のように輝くのですから。
１３　神様は､精巧に私の体の各器官を造り､母の胎内で組み立ててくださいました。　１４こんなにも複雑かつ緻密に仕上げてくださったことを感謝します。　その腕前は天下一品だと、よくわかっております。１５秘密の工房で私を組み立てる時、神様は立ち合われました。　１６生まれる前から､まだ呼吸を始める前から､神様の目は私に注がれており、その生涯にわたるご計画も、練り上げられていたのです。
１７１８主よ。　あなたが私をかた時も忘れずにいてくださる事実は、かけがえのない支えです。　あなたは一日に、数えきれないほど何度も、私のことを思い起こしてくださるのです。　朝、私が、まどろみから覚めるころにも、まだ私に思いを馳せていてくださるのです。

１９　必ず、悪者どもは神様の手にかかって滅びます。　血に飢えた者どもよ、とっとと消え失せるがよい。　２０神様の御名を汚し、横柄な態度をとる連中のばかさかげんには驚きます。　２１主よ。　あなたを憎む者どもを、この私が憎まずにいられましょうか。心を痛めずにいられましょうか。　２２もちろん、憎まざるをえないのです。　あなたの敵は私の敵ですから。
２３　ああ神様。　私の心を探り、その内面を調べ上げてください。２４もし、あなたを悲しませるようなものがあるなら、教えてください。　そうして、永遠のいのちへの道からそれないようにお導きください。
一四〇
１　ああ神様、私を悪者から救い出し、乱暴者から守ってください。２連中は一日じゅう悪事をたくらみ、騒ぎを引き起こします。　３そのことばときたら、毒蛇の牙のように人を刺すのです。　４彼らの手の届かない所に私を置き、その暴行を防いでください。　彼らは危害を加えようと策略を練っています。　５わがもの顔にのさばる連中は、私を生け捕りにしようと、罠をしかけました。　足をすくい、宙吊りにする輪なわです。　また、身動きがとれないように網を投げかけようと、待ち伏せています。
６－８ああ、私の救い主であり盾であられる神様、この祈りに耳を傾けてください。　悪者どもの思いどおりには、させないでください。彼らのすることばかりがうまくいき、いばり散らされてはかないません。　９そのたくらみを、そのまま彼らの頭上に返してやってください。　自分たちのしかけた罠で、身を滅ぼしますように。　１０赤々と燃える炭火を、その上に降らせてください。　また、火の中か、底なしの穴に、彼らを投げ込んでください。
１１　二枚舌を使う者どもが、この国で甘い汁を吸うのはごめんです。早々に罰してやってください。　１２しかし神様は、踏みつけにされている人々を助け、貧しい者の権利をお守りくださいます。　１３神様を信じて従う人は、きっと感謝の声をあげることになるでしょう。　神様のおそばで暮らせる時が、必ずくるからです。
一四一
１　主よ、どうか早く、私の祈りに答えてください。　助けを呼び求める声を聞いてください。　２私の祈りが、夕方の供え物となり、あなたの前に立ちのぼる香となりますように。
３　主よ、どうか、この口を堅く閉じ、くちびるに封をさせてください。　４悪に走るきたない心を取り除いてください。　罪人の仲間入りをして、彼らのごちそうに舌つづみを打ったりなど、決してしたくありません。　５神様を敬う人のきびしい忠告は、親切心から出たものです。　非難されたように感じても、結局は薬となるのです。　ですから、拒絶反応を示してしまいませんように。　私は、悪者どもには警戒を怠らず、彼らの悪行に対抗して絶えず祈ります。　６７リーダー格の悪党が神罰を受け、その骨が地面にばらまかれでもしたら、はじめて連中は私のことばに注意をはらい、今まで、私が彼らを助けよ

うと苦心していたことに気づくでしょう。
８　神様。　私はあなたを見つめ、いつ助けてくださるかと待っています。　神様は私の隠れ家ですから、彼らに手出しをさせないでください。　９彼らの罠に近づけないでください。　１０その罠には彼ら自身がかかり、この私は難を免れることができますように。
一四二
１２私は神様の前に悩み事をさらけ出して、あわれんでくださいと祈ります。　３私は打ちひしがれ、絶望しています。　どの道を進めば敵のしかけた罠にかからずにすむかは、神様だけがご存じです。　４ほら、右側の少し先に、罠が一つあります。　だれ一人、声をかけて助けてくれる人はいないのです。 私がどうなろうと、だれもおかまいなしです。
５そこで、私は神様に祈りました。　「神様。　あなたは唯一の隠れ家です。　あなただけが、無事に守ってくださるのです。
６　窮地に追い込まれた私の叫びを聞いてください。　迫害する者どもの手から、救い出してください。　相手は強すぎて、とても手に負えません。　７どうか、私を牢獄から連れ出し、神様への感謝にあふれさせてください。　私が助けられた事実は、神様を敬う人々への朗報となるでしょう。」
一四三
１　神様、私の祈りを聞き、願いに答えてください。　神様は、約束を決してお破りにならないお方ですから。　２私を裁判にかけないでください。　神様ほど完全なお方はいないのですから。
３　私は敵に追いつめられ、地面にたたきつけられました。　そして、むりやり暗い所に押し込まれたのです。　４いっさいの希望を失った私は、恐怖に取りつかれ、身震いしています。
５　昔、神様はすばらしい奇蹟の数々を行なわれたではありませんか。６かわききった地が雨を慕うように、私は神様に両手を差し伸べています。　７主よ、すぐにもこの祈りに答えてください。　悩みはますます深刻になります。　どうか見放さないでください。　でないと、私は死んでしまいます。　８朝のうちに、神様の恵みを見せてください。　神様をあてにして生きている私に、どの道を選ぶべきか教えてください。　私は真剣勝負で祈っています。　９主よ、敵からお救いください。　私はあなたのふところに飛び込んで危険を避けます。１０あなたは私の神様ですから、ご意志にそった行動をとらせてください。恵み深い御霊によって、私を祝福の道へと導いてください。
１１　主よ。　私をお救いくだされば、ご威光はひときわ明るく輝くでしょう。　あなたは約束を守ってくださるお方ですから、どうか、私をいっさいの苦しみから引き上げてください。　１２私を愛してくださる恵み深い神様！　すべての敵を根絶やしにし、危害を加えようとする者どもを滅ぼしてください。　私は神様に仕える身ですから。
一四四
１　揺るぎない岩、神様をほめたたえましょう。　戦いが起こると、神様は、弓をひく私

の腕を強めてくださいます。　２いつも恵み深く、愛を注いでくださる神様は、私の要塞であり、びくともしないやぐらです。　私を救ってくださる神様は、盾となって立ちはだかってくださいます。　こうして、神様は国民を私に服従させてくださるのです。
３　主よ。　いったい人間のどこが、お目をひくのですか。　どうして、こんな人間を相手になさるのですか。　４人の一生は、ただのひと呼吸のよう、また影のようで、あっけなく消えるではありませんか。
５　主よ、どうか、天を裂いて降りて来てください。　あなたの手が山に触れると、煙が吹き出します。　６主よ、いなずまの矢を敵に放ち、くもの子を散らすように蹴散らしてください。
７　天から御手を差し伸べ、私を引き上げてください。　深い水の中から、強い敵の腕から、助け出してください。　８彼らは嘘のかたまりで、まことしやかに誓いを立てます。
９　ああ神様。　私は十弦の琴をかなで、あなたに新しい歌をささげます。　１０あなたは王に勝利をもたらされるお方です。　あなたのしもべダビデを、運命の剣から救い出されるお方です。　１１どうか、悪賢い敵から、私を救い出してください。
１２‐１５神様を信じる国の祝福された様子を話してみます。
　男の子は、すくすくと成長する木のように、元気いっぱいに育ちます。
女の子は、宮殿の壁の柱のように、しとやかで優雅です。
倉には穀物がぎっしりで、これ以上つめ込めません。
羊の群れは、幾千頭、幾万頭と増えていきます。
牛は次々と子供を産みます。
敵は一人も攻めて来ず、平和が満ちあふれています。
町に犯罪は一件も発生しません。
このように、神様を信じる国民はしあわせになれるのです。
一四五
１２私の王である神様。　くる日もくる日も、私は永久にあなたをほめたたえます。
３　声の限りに、偉大な神様をたたえましょう。　神様の偉大さは、一生かけても窮めることができません。　４それぞれの時代に生きる人々が、子供たちに、神様のすばらしさを言い残していきますように。５そのまぶしいばかりの栄光、ご威光、それに奇蹟を、私は深く思いめぐらします。　６だれもが、神様のなさる恐ろしい御業について語ります。私は声を大にして、その偉大さを伝えます。　７人々は、神様の恵み深さと、正しさについて歌います。
８　神様はやさしく、あわれみ深く、短気を起こさず、愛にあふれていらっしゃいます。９だれにも恵み深い神様の思いやりは、その一つ一つの行為に込められています。　１０主よ。　いのちあるものはみな、あなたに感謝をささげます。　あなたの国民は賛美し、１１口々に、栄光に輝くあなたの王国を話題にのせ、その威力について語り合うでしょう。１２また、神様の行なわれた奇蹟と、栄光に包まれたご支配についても語るでしょう。　１

３神様の王国に終わりはなく、その統治は、代々限りなく続くからです。
１４　神様は倒れた人を起こし、あまりの重荷に身をかがめている人の背筋を伸ばされます。　１５すべての人が、神様に助けを求め、必要な食べ物をいただくのです。　１６神様はいつも、生きているすべてのものの願いに答えてくださいます。
１７　神様はいつでも公平第一で、恵みにあふれておられます。　１８そして、真心から願い出る人のそば近くにいてくださるのです。 １９神様は､敬虔な心で信頼を寄せる人々の願いを､かなえておやりになります。 助けを呼び求める声を聞いてくださいます。 ２０神様を慕う人はみな守られ、悪者どもは滅ぼされます。
２１　私は神様をほめたたえ、世界中の人に、神様のきよいお名前を、いついつまでもあがめるようにと呼びかけます。
一四六
１　真心から、神様をほめたたえましょう。　２生きている間はもちろん、死ぬまぎわの虫の息でも、神様を賛美します。
３　人の助けをあてにしてはいけません。　どんなに偉大な指導者も、頼りにはならないのです。　４人はみな死ぬ運命にあるからです。呼吸が止まり、いのちの火が消えた瞬間に、その人の人生の計画は、すべて水泡に帰すのです。　５しかし、神様の助けをあてにし、望みをつなぐ人はしあわせです。　６神様は、天と地と海と、その中のいっさいのものをお造りになりました。　どんな約束でも守り抜き、７貧しい人や虐待されている人に公平なさばきを保証し､飢えた人には食べ物をお与えになるのです。 囚人を解放し、 ８盲人の目をあけ、身をかがめて歩いている人の重荷を取り除かれます。　神様は正しい人を愛しておられるからです。　９神様は移民の権利を守り、孤児や未亡人のめんどうを見られますが、その一方、悪者の計画をひっくり返されます。
１０　エルサレムよ。　あなたの神様は、永遠に支配なさる王なのです。ハレルヤ。　神様をほめたたえましょう。
一四七
１　ハレルヤ。　神様をほめたたえましょう。　神様を賛美するのは、道理にかなった喜ばしいことなのです。
２　神様はエルサレムの町を建て直し、捕虜として連れ去られた人々を返してくださいます。　３傷心の人々をやさしくいたわり、傷口を包帯で手当てしてくださいます。　４神様は星を数え、その一つ一つの名前を呼ばれます。　５偉大な神様のお力は限りなく、その知恵は底なしです。　６主は謙そんな人を支えられますが、悪者どもは泥の中にねじ伏せられます。　７神様に感謝の歌をうたいなさい。　竪琴の伴奏で、賛美の歌をうたいなさい。 ８神様は雲で天をおおい隠し､夕立を送り､牧草を青々と生やしてくださいます。
９また野の獣を養われます。　からすの子は、神様に食べ物をねだって鳴くのです。１０どんなに足の早い馬でも、神様からすれば、のろまのかたつむりと同じです。　どんなに腕力を誇る人でも、神様からすれば、赤ん坊の手をねじ伏せるより簡単なのです。　１１

しかし、神様を敬い、その愛と恵みを待ち望む人々を、神様はことのほかお喜びになります。
１２　エルサレムは神様をほめたたえなさい。　シオンも賛美の声をあげなさい。　１３神様は敵に備えてあなたの城の守りを固め､あなたの子供たちを祝福されたからです。　１４神様は平和を与え、最上の小麦で倉を満たしてくださいます。　１５神様のご命令は全世界に行き渡ります。　そのおことばは、飛ぶように駆け巡るのです。　１６神様は真っ白な雪を降らせ、地面に霜をまき、　１７雹を地上に投げつけられます。　その凍りつくような寒さに、だれが耐えられましょうか。１８しかし、神様が春をお呼びになると、暖かい風が吹いてきて川面の氷を溶かすのです。　１９神様はイスラエルに、ご自分のおきてと礼拝の仕方を手ほどきなさいました。　２０こんなことは、ほかの国にはなかったことです。　他の国民は、神様の戒めを聞かされていません。
ハレルヤ。　神様をほめたたえましょう。
一四八
１　天よ、はるか上空から神様をほめたたえなさい。　２御使いたちは、天の軍勢ともどもに賛美の声をあげなさい。　３太陽と月、それにまたたく星もみな、神様をほめたたえなさい。　４大空も、雲のはるか上にある水蒸気も、神様をほめたたえなさい。
５　造られたものがみな、神様を賛美しますように。　みな、神様のおことば一つででき上がったからです。　６これらは、いつまでも残るものとして造られました。　神様の命令は、どんなことがあろうと、取り消されはしません。
７　海の底にいる生き物よ、主をほめたたえなさい。　８いなずま、雹、雪、雨、風、それに霧よ､神様のお指図に従いなさい。　９山や丘､実のなる木や杉、　１０野獣や家畜、蛇や鳥、　１１王や国民、それに支配者や裁判官、　１２若い男や女、老人や子供など、１３みな声を合わせて､神様をほめたたえなさい。 賛美を受けるのにふさわしいお方は、神様だけなのですから。　神様の栄光は、天地をひっくるめた一切のものより、はるかに尊いのです。　１４神様はご自分の国民を強くし、かけがえのないものと思っておられるイスラエル国民の名声を、大いに高めてくださいました。
ハレルヤ。　神様をほめたたえましょう。
一四九
１　ハレルヤ。　神様をほめたたえ、新しい歌をうたいましょう。神様の国民よ。　賛美の歌声をあげなさい。
２　イスラエルよ、あなたを造られた神様を喜びなさい。　エルサレムの人々よ、王であるお方の前でこおどりしなさい。　３タンバリンと竪琴の伴奏で、踊りながら神様のお名前をほめたたえなさい。
４５神様はご自分の国民を喜んで受け入れ、謙虚な者を救ってくださるのです。　この光栄を思い浮かべて、神様の国民が感謝しますように。　寝床でも、喜びのあまり歌いだしますように。

６７神様の国民よ、神様をあがめなさい。　神様に代わって両刃の剣を取り、国々に報復しなさい。　８王や指導者を鉄の鎖で縛り上げ、９懲らしめてやりなさい。
神様の国民の栄光は神様ご自身です。　ハレルヤ。　神様をほめたたえましょう。
一五〇
１　ハレルヤ。　神様の家でほめたたえましょう。　神様のお力を示す天で、ほめたたえましょう。　２偉大な奇蹟を思い起こして、ほめたたえましょう。　３ラッパと十弦の琴と竪琴をかなでながら、賛美の歌をうたいましょう。　４タンバリンを打ち、元気のいい聖歌をうたいましょう。　弦楽器と笛でほめたたえましょう。　５大音響を出すシンバルを打ち鳴らして、ほめたたえましょう。
６　生きているものはみな、賛美の声をあげなさい。　さあ、あなたも神様をほめたたえなさい。
ハレルヤ。
▪

知恵の泉（箴言）
箴言は、充実した人生を送るための実際的教訓集です。　人々を悔い改めに導く働きをする預言者の教えや、人々の礼拝を導く祭司たちの教えを補うものとして、神様から与えられたものです。　箴言には、神様の知恵とともに、もともと人間に備わっている知恵や常識などもあり、それぞれ、日常生活に役立つものです。　何世紀にもわたる実際的格言も集められていて、子供の訓育、社会正義、むだ話、行儀作法などについて、種々論じられます。　そして、すぐれた妻について意義深く描かれた記事で、終わっています。

一
１　ダビデ王の子、イスラエルの王ソロモンの教訓。
２３ソロモン王がこの教訓を書いたのは、人々がどんな時にも物事を正しく判断し、だれをもえこひいきしないようにと考えたからです。　４「なんとかして人々に正しい生き方を教えたい。」　「若い人たちが正しい生活を送れるように警告してやりたい。」　これが彼の心からの願いでした。　５６「物事のよくわかる人には、この知恵のことばの深い真理をもっともっと勉強して、人々を指導できるようになってもらいたい。」
７‐９では、どうしたら物事がよくわかるようになるでしょう。　それには、まず神様を信じ、神様を大切にすることです。　ばかな人にかぎって神様の教えをばかにします。　さあ、両親の忠告に従いなさい。　そうすれば、あとになって人々にほめられるようになります。
１０　もし悪い仲間が、「よお、おれたちの仲間に入れよ」と言っても、きっぱり断わりなさい。　１１たとい、こんなふうに誘われてもです。　「待ち伏せして人を襲い、洗いざらい巻き上げて殺すんだ。　１２だれかれの区別もいらん。　１３そうすれば、盗んだ物は全部いただきさ。　いろんな物があるぜ。　１４さあ、仲間に入れよ。　取り分は山分けってところだ。」
１５　決してその誘いにのってはいけません。　そんな連中には近寄らないようにしなさい。　１６彼らは悪いことをするだけが生きがいで、人殺しが専門なのです。　１７鳥はかすみ網が張られるのを見ると、近寄りません。　１８ところが、この連中ときたら自分を罠にかけているのです。　まぬけなことに、罠をかけて自分のいのちをつけねらっているのです。　１９暴力をふるったり人殺しをしたりする連中は、みなこうなります。　だれもろくな死に方はできません。
２０　知恵は町の中で叫んでいます。　２１目抜き通りをごった返す群衆や法廷の裁判官、そして国中の人に呼びかけているのです。　２２「ばか者よ、いつまで聞き分けがないのか。　いつまで知恵をばかにし、素直に事実を認めないのか。　２３さあ、私の言うことを聞いて、少しは利口になれ。　２４私は何度も呼んだのに、あなたがたはそばに来ようともしなかった。　手をついて頼んでも、まるで知らん顔をしていた。　２５私の忠告などどこ吹く風で、耳を貸そうともしない。　２６だがいいか。　いつか困る時がくるぞ。

そうしたら、思いっきり笑ってやる。　私をばかにしたお返しだ。　２７災いが嵐のように襲いかかり、恐れや苦しみに打ちのめされそうになってからでは遅い。　２８その時になって助けてくれと言っても、私の知ったことじゃない。　血眼になって私を捜しても、すべてはあとの祭りだ。
２９　それもこれもみな自分のせいだ。わざと事実から目をそむけ､神様を信じもせず、３０私の忠告などそっちのけで、やりたいことをやっていたからだ。　３１その報いを受けるがいい。　だれでもない自分で選んだ道なのだから、うんと苦しみ、恐ろしい思いもするがいい。　３２私をきらうとは、全くばかな人たちだ。　一歩一歩死に近づいているのも知らずに、いい気になっている。　３３だが、私の言うことを聞く人は違う。　何の心配もなく、平和な毎日を送るのだ。」
二
１２私の言うことを聞き、言いつけを守る若者はみな、知恵を身につけ、物事がよくわかるようになります。　３‐５もっと深く知りたかったら、なくした金や秘密の宝を捜すように、熱心に知恵を求めなさい。　そうすれば、神様ご自身を知り、すばらしい神様の知恵が身につきます。　神様を信じ敬うことがどんなに大切か、わかるようになるのです。
６　神様が知恵をお与えになるからです。　神様のことばは知恵の宝庫です。　７８神様を大切にすれば、物事がよくわかるようになります。　そういう人を、神様は安全に守ってくださいます。　９また、どんな時にも何が正しく何がまちがっているかを正しく判断する方法を、教えてくださるのです。　１０そういう人は知恵と真理がよくわかり、喜びにあふれているからです。　１１‐１４こうして、あなたは慎み深くなり、悪い仲間に引っ張り込もうとする連中から離れます。　そんな連中は神様の道からそれ、悪の道に踏み込んで有頂天になっています。　悪いことをするのが何よりも楽しいのです。　１５それで、ひねくれたこと、まちがったことばかりするのです。
１６１７売春婦の甘い誘いに惑わされないために、神様の知恵を身につけなさい。　彼女は結婚の誓いをばかにし、平気で夫を裏切りました。　１８彼女の家は死と地獄への通り道です。　１９その家に入ったが最後、身をもちくずし、二度と立ち直れません。
２０　身も心もきよく生きなさい。何があろうと正しい道からそれてはいけません。２１人生を思うぞんぶん楽しめるのは正しい人だけです。　２２悪人はせっかく幸運を手にしてもすぐに逃がし、やがては完全に息の根を止められてしまいます。
三
１２私の教えを忘れてはいけません。　充実した人生を送りたければ、私の命令を忠実に守りなさい。　３いつも正しい生活をし、人には親切にするのです。　この二つが心から行なえるように、しっかり身につけなさい。　４５神にも人にも喜ばれ、物事を正しく判断できるようになりたければ、徹底的に神様に頼ることです。　絶対に自分を頼ってはいけません。　６何をするにも、神様を第一にしなさい。　神様がどうすればよいか教えてくださり、それを成功させてくださいます。

７８思い上がって、自分の知恵をあてにしたりしてはいけません。むしろ、神様をたいせつにし信頼することで、悪の道から離れなさい。　心も体もみずみずしく元気いっぱいになります。
９１０収入があったら、まずその一部をささげて、神様をあがめなさい。　そうすれば、倉には食べ物があふれ、酒蔵は極上の酒でいっぱいになります。
１１１２神様に懲らしめられても、腹を立ててはいけません。　あなたを愛していればこそ、そうなさるのです。　父親がかわいい子供の将来を思って罰するのと同じです。
１３－１５良いことと悪いことの区別がつき、物事を正しく判断できる人は、大金持ちよりもしあわせです。　高価な宝石であれ何であれ、このような知恵に比べたら問題にもなりません。　１６１７知恵が与えるものは、充実した人生、財産、名誉、楽しみ、平安です。　１８知恵はいのちの木、いつもその実を食べる人はしあわせです。
１９　神様の知恵によって地球は造られ、宇宙は完全にでき上がりました。　２０神様の知恵によって、泉は地中深くからわき上がり、空は雨を降らせます。
２１　二つのものを求めなさい。　善悪を見分けて実行する知恵と良識です。　この二つを見失ってはいけません。　２２知恵と良識を持つことはたいへんな名誉です。　そればかりか、生きる力が与えられ、２３失敗をしたり、道を誤ったりすることもなくなります。
２４－２６この二つのものが見張ってくれるので、安心して眠れます。　また、神様がそばで守ってくださるので、みじめな思いをすることも、悪人の悪だくみを恐れることもありません。
２７２８人に何か頼まれたら、すぐにしてやりなさい。　「いつかそのうち」などと、あとに延ばしてはいけません。　２９あなたを信じきっている隣人を陥れてはいけません。
３０どうでもいいようなことで争うのはやめなさい。３１暴力をふるう連中をうらやみ、その手口をまねてはいけません。　３２神様はそんな連中が大きらいです。　しかし、きよく正しく生きる人には親しくしてくださいます。
３３　結局、悪者は神様にのろわれ、正しい人は祝福されます。　３４あざける者はあざけられ、謙そんな人は助けられ、　３５知恵のある人はたたえられ、ばか者は恥をかくのです。
四
１２さあ、父親の話を聞くように、私の言うことを聞きなさい。　知恵のある人になるために、私が教える真理を勉強しなさい。　そっぽを向いてはいけません。　３私も若いころは、母にはひとり息子としてかわいがられ、父とはよくいろいろなことを話し合ったものです。　４そんな時、父は口ぐせのように、こう言い聞かせてくれました。「いいか、よく聞けよ。　父さんの言うとおりにしさえすれば、一生しあわせに暮らせるんだ。　５何よりも、物のよくわかる人間になれ。　このことは何度念を押しても、これでいい、ということはないぞ。」６知恵があなたを守ってくれます。　しっかり心に留め、たいせつにしなさい。

７　知恵のある人になるには、まず賢くなろうと決心することです。　こうして、知恵と物事を正しく判断できる力とが身につくのです。８９知恵を最高の地位につければ、あなたもいい席につけます。　知恵を確実に自分のものにすれば、美しい冠をかぶって名誉ある特別席に座れるのです。　１０さあ、私の言うとおりにしなさい。　そうすれば長生きし、一生しあわせに過ごせます。
１１　正しい生活をするのが、いちばん賢い生き方です。　このたいせつな真理を、しっかり勉強しなさい。　１２正しく生きれば一歩一歩たしかに前進し、走ってもつまずきません。　１３生活を充実させるには、私の命令を忘れずに守ることです。
１４　悪人のまねをしてはいけません。　１５連中のたまり場には近寄らず、避けて通りなさい。　１６連中は一日分の悪事を働かないとおちおち眠ることもできず、人をつまずかせないうちはゆっくり休むこともできません。　１７悪いことをし、暴力をふるわないと生きていられないのです。
１８　神様は正しい人の道をやさしく見守り､真昼のように明るく照らしてくださいます。１９ところが悪人は、暗がりでうろうろ手探りし、あちこちでつまずくのです。
２０　さあ、私の言うことをよく聞きなさい。　２１それを肝に銘じ、忘れないようにしなさい。　２２そうすることが、健康で充実した生活を送る秘訣です。
２３　何よりも、心を見守りなさい。　心は生活全体に影響を与えます。　２４売春婦の慎みのない口づけをはねのけなさい。　そんな女に近づいてはいけません。　２５ただまっすぐ前を見つめ、うしろを振り返らないことです。　２６道から少しもそれないように注意深く、確実に一歩一歩すすみなさい。　２７横道にそれてはいけません。　危険だとわかったら、一目散に引き返しなさい。
五
１　さあ、私の言うことを聞きなさい。　私にわかっていることを教えてあげよう。　２不注意から、大切なことをうっかりもらさないよう気をつけなさい。　３売春婦は甘いことばと調子のいいお世辞が売り物です。　４それにのせられると、あとで苦しまなければなりません。　鋭い剣で突き刺されたように、良心がずきずき痛むのです。５苦しみもがけばもがくほど、ずるずる地獄の底へ引きずり込まれます。　６彼女は自分でも正しく生きる道を知りません。　迷路を、行き先も知らずによろよろ歩いているだけです。
７　さあ、私の言うことを聞きなさい。　しっかり頭にたたき込むのです。　８彼女から逃げなさい。 その家に近寄ってもいけません。 ９女の誘惑に負けて自分を台なしにし、残忍で薄情な主人に一生こき使われる身分にならないためです。　１０せっかく築いた財産を、見ず知らずの人に横取りされないためです。　１１梅毒にむしばまれてうめき苦しみ、恥をかかないためです。　１２あとで悔やんでも、どうにもなりません。 「あーあ、言われたとおりにしていたらよかった。一時の欲望に負けなければ、こんなことにならなかっただろうに。１３ああ、どうして忠告も聞かず、あんなばかなことをしたんだろう。１４もう、だれにも会わせる顔がない。」

１５　だから、自分の井戸の水を飲みなさい。　生涯、妻を裏切ってはいけません。　１６通りすがりの女に私生児を産ませていいでしょうか。　１７妻でもない女との間に子供があっていいでしょうか。　１８男らしさをたいせつにし、いつまでも妻を愛しなさい。１９やさしく抱きしめてくれる妻に満足し、愛されている幸せをかみしめなさい。　２０どうして売春婦などにうつつを抜かし、妻以外の女を抱くのですか。　２１気をつけなさい。　神様は何もかも見ておられます。　あなたの行ないの一つ一つに目を光らせておられるのです。
２２　悪者は、自分で自分の足をすくっているのです。　悪いことをすればするほど抜き差しならなくなり､ついには身を滅ぼします。 ２３それもこれも真理に背いたからです。自分からばかなことをした罰です。
六
１　やたらに見ず知らずの人の保証人になってはいけません。　その借金の肩代わりをするはめになったら、どうするのです。　２お人好しがすぎると、とんだことになります。３もしそんなことになったら､すぐに手を打ちなさい。 気まりが悪かろうが何だろうが、なりふりかまわず相手のところへ飛んで行き､保証人になるのを取り消してもらいなさい。４先に延ばさず、今すぐしなさい。　眠るのはそのあとにしなさい。　５鹿がハンターの手を逃れ、鳥が網から逃れるように、うまく逃げ出すのです。
６　怠け者よ、蟻を見ならいなさい。　蟻のやり方を見て学びなさい。　７蟻には、働けと命じる王がいません。　８それでも夏中けんめいに働き、冬の食糧を集めます。　９ところが、あなたがたは眠ってばかりいます。　いったいいつ目を覚ますのですか！　１０「もうちょっとだけ寝かせてくれよ」と頼みますが、その「ちょっと」が曲者なのです。１１のんびり眠っている間に貧乏神に取りつかれ、気がついた時には手遅れです。
１２１３悪人は人間のくずです。　彼らは平気でうそをつき、仲間には目くばせや合図で本心を伝えます。　１４そのくせ反抗心は人一倍強く、悪いことばかり考え、何にでもぶつぶつ不平を言うのです。　１５だから、あっという間に身を滅ぼし、倒れたら二度と立ち直れません。
１６－１９神様のきらいなものが六つ、いいえ七つあります。　なまいきな態度、うそをつくこと、人殺し、悪だくみ、悪事に熱中すること、偽証、仲たがいの種をまくことです。
２０　親の言いつけを守りなさい。　２１かた時も忘れないように、その教えをしっかり頭にたたき込みなさい。　２２昼も夜も彼らの助言に従えば、いつも安全です。　朝、目を覚ましたら、教えどおりに一日を始めなさい。　２３危険だとわかっていればこそ、前もって忠告してくれるのです。　だから忠告を聞き、充実した人生を送りなさい。　２４そうすれば、売春婦の甘いお世辞に惑わされることもありません。
２５　売春婦の美しさに心を奪われてはいけません。　色っぽい目つきにだまされてはいけません。　２６売春婦におぼれると金を巻き上げられ、人妻にうつつを抜かすと身を滅ぼすからです。　２７火をかかえ込めばやけどをし、　２８かっかと燃える炭火の上を歩

けば火ぶくれができます。　２９同じように、人妻と汚らわしい関係を結ぶ者も罰を免れません。　３０空腹のあまり盗みをするというのなら、どろぼうにも三分の理があるでしょう。　３１しかし、盗みは盗みです。　償いにたくさんの罰金を払わなければなりません。　持ち物をぜんぶ売り払ってでも、支払わなければならないのです。
３２　人妻と関係する者は、自分の墓穴を掘る大ばか者です。　３３身も心も傷つき、取り返しのつかない恥をかくのです。　３４嫉妬に狂った夫は徹底的に仕返しします。　３５どんなに金を積んでも赦してもらえません。
七
１　さあ、私の忠告を聞きなさい。　いつも心に留めて、忘れないようにしなさい。　２それが生きる秘訣です。　私のことばを宝物のように大事にしなさい。　３肝に銘じ、心に刻みつけなさい。　４知恵を恋人のように愛し、家族のように親しくしなさい。　５そうすれば、売春婦の家に通うことも、甘いお世辞に耳を貸すこともなくなります。
６　ある日、窓の外を眺めると、　７物事を的確に判断できない未熟な若者が、通りを歩いていました。　８９もう間もなく日も暮れようという時です。　彼はいかがわしい女を訪ねました。　１０女はなまめかしい身なりで、あつかましく若者に近づきました。　１１１２よく通りや市場で見かける、下品でがさつな女です。　そうやって、あちこちの町角で男を誘惑するのです。
１３　女はその若者を抱きしめて口づけし、何食わぬ顔で言いました。　１４１５「ちょうどよかったわ、あなたを捜しに行くところだったの。ねえ、もう喧嘩はやめましょうよ。１６１７ベッドには最高のエジプト麻のすてきなシーツを敷いて、没薬だの、アロエだの、シナモンだのの香りがしみ込ませてあるわ。１８さあ、朝までうんと楽しみましょうよ。１９家の人は出張中よ。　２０お金をたくさん持ってったから、四、五日は帰らないわ。」
２１　女が巧みにくどくので、若者はとうとう甘いことばに負けてしまいました。　２２彼は屠殺場に引かれて行く牛のように、罠にかかった鹿のように女のあとについて行き、２３心臓を射抜かれるのを待つだけです。　まるで、かすみ網に飛び込む鳥のように、どんな運命が待ち受けているか知らないのです。
２４　さあ、私の言うことを聞き、そのとおりにしなさい。　２５どうにもならなくなる前に欲望を抑えなさい。　いかがわしい女のことなど考えないことです。　言い寄るすきを与えないように、彼女のいそうな所は避けて通りなさい。　２６大ぜいの人が彼女のために一生を棒にふりました。　犠牲者は数えきれないほどです。　２７それでも、あえて地獄への道を知りたい人は、まず彼女の家を捜しなさい。
八
１－３知恵が叫んでいるのが聞こえませんか。　丘のいただきや道ばた、町の門、四つ角、家々の玄関で、知恵は叫んでいます。　４５「皆さーん、あなたがたは何もわかっていない。　ばかなことばかりしている。　だから、わからせてあげよう。　６７いいか、これは大切なことだ。　私はごまかしは大きらいだから、絶対にうそはつかない。　８皆さん

のためになること、正しいことしか言わない。　９聞く気があれば、だれにでもすぐわかること、　１０それでいて、銀や金よりも値打があることを教えるのだ。」
１１　知恵は宝石よりずっと値打があります。　どんな物も比べ物にならないほどです。　１２知恵のある人は正しい判断ができます。　知恵がその人に、いろいろなことを教えるからです。　１３神様をばかにせず大切にする人は、悪いことがきらいです。　そうです。知恵のある人はみな、自分を鼻にかけて偉ぶったり、汚職や詐欺を働いたりすることが大きらいなのです。
１４１５「私は知恵だ。　ためになることを教えてあげよう。　王が国を治めるのも、裁判官が正邪を見分けるのも、みな私のおかげだ。　１６国の指導者は私がいなければ正しく治めることはできない。　１７私は、私を愛する人を愛するから、熱心に捜せば必ず私を見つける。　１８そして、富と名誉、正しいことを行なう力を手に入れるのだ。　１９それが私の贈り物、純金や混じり気のない銀よりもすばらしい。　２０私はだれをも正しく扱い、えこひいきはしない。　２１だから、私を愛し、私の言うことを守る人はみな、あらゆる面で裕福になれる。
２２　神様は創造のみわざを始める前に、まず私をおつくりになった。　２３永遠の昔から、まだ地球もない大昔から、私はいた。　２４海もなく、泉もなく、　２５山や丘がそびえる以前から、私はいた。　２６神様が大地や草原を造られる以前に、私はすでにいたのだ。
２７‐２９神様が大地の上に天を広げ、海の底から大きな泉をわき上がらせた時、私はいた。　海と陸の境界線を決め、水があふれないようにされた時も、私はいた。　そうだ。神様が大地と海の青写真をつくられた時、私もいたのだ。　３０私はいつも神様といっしょに働き、子供のように毎日そばにいて、神様を喜ばせた。　３１そして神様が造られたこの世界で、人間たちと楽しく過ごした。　３２だから、私の言うことを聞きなさい。　私の命令を守ることが幸福の鍵だ。
３３　私の言うことを聞いて、知恵のある人になりなさい。　耳をふさいではいけない。３４なんとしてもいっしょにいたいと、毎日門の前で、私が出て来るのを待ちかまえている人はしあわせだ。　３５私を見つける人は充実した人生を送り、神様にほめられる。　３６しかし私を見失う人は、自分をだめにする。　私の忠告をはねつける人は死を愛しているのだ。」
九
１　知恵はりっぱな宮殿を建て、　２大宴会を開こうと、ぶどう酒を用意し、　３娘たちに客を呼びにやらせました。　娘たちは繁華街で人々に呼びかけました。　４「自分は物わかりが悪く未熟者だと思っている方は、どうぞおいでください。　５知恵が開く宴会で、私がブレンドしたぶどう酒を召し上がれ。　６どうしたら利口になれるか、賢明に生きられるか、よくおわかりになるわ。」
７８人をばかにするような者にそれを注意すると、しっぺ返しをくらいます。　せいぜい

かみつかれるのが落ちです。　好意でしても憎まれるばかりだから、かかわり合いにならないことです。　しかし、知恵のある人は違います。　注意すると、前以上にあなたを愛します。　９知恵のある人を教えなさい。　そうすれば、ますます利口になります。　正しい人を教えなさい。　その人は、もっともっと多くのことがわかるようになります。　１０知恵の基本は、神様を恐れ、たいせつにすることです。　物事がよくわかりたかったら、まず神様を知りなさい。　１１「生きがいのある実り多い人生を送らせてあげよう」と、知恵は呼びかけます。　１２知恵は知恵ある人を助けます。　知恵をばかにすれば、自分が傷つくだけです。
１３　売春婦はがさつで、みだらで、恥知らずです。　１４自分の家の前や町角で、　１５通りがかりの人や仕事に出かける人をつかまえては誘惑し、　１６いい鴨を見つけると、しつこくささやきかけます。　「ねえ、寄ってらっしゃいよ。　１７盗んだ柿は甘いって言うじゃないの。」　１８しかし彼らは、女の客になった者が今は地獄にいることを知らないのです。
一〇
１　ソロモンの教訓。　物わかりのいい子を持つ人はしあわせですが、ばかな子を持つ母親は気の毒です。
２　悪いことをしてもうけた金はすぐなくなります。　どこまでも正しく生きることが幸福の鍵です。
３　正しく生きている人を、神様は飢え死にさせません。　しかし悪人は、せっかくもうけた金を神様に取り上げられます。
４　怠ければたちまち貧乏になり、こつこつ働けば財産もできます。
５　りこうな若者は陽の高いうちに干し草をつくり、恥知らずの若者はいざという時にも平気で居眠りします。
６　正しい人は頭のてっぺんから足のつま先まで祝福され、悪人は心の中で不運をのろいます。
７　正しい人を思い出すのは楽しいものです。　しかし悪人の名前は、思い出すだけでも不愉快です。
８　知恵のある人は喜んで人から教わり、ばか者は知ったかぶりをして失敗します。
９　正しい人はしっかりした足どりで歩き、ひねくれ者はすべって転びます。
１０　罪を見て見ぬふりをすると、あとで悲しい思いをします。　しかし思いきって注意すれば、あとは安心です。
１１　正しい人はほんとうに役立つことばかり言い、悪人は人をのろうことしか知りません。
１２　憎しみはいつも争いを起こし、愛は侮辱されても相手を赦します。
１３　物事のよくわかる人は適切な助言をして人にほめられ、何もわかっていない者は人並みに扱われません。

１４　知恵のある人はことば数が少なく、ばか者は知っていることを洗いざらいしゃべりまくります。　おかげで、余計な心配事をかかえ込むのです。
１５　金持ちは財産に頼り、貧しい人はひたすら貧乏をのろいます。
１６　正しい人はもうけた金を生かして使い、悪人は金を手に入れると、ますます悪いことをします。
１７　進んで誤りを指摘してもらう人は、充実した人生を送り、忠告を聞かない者は、またとないチャンスを逃がします。
１８　ひそかに人を憎むのはうそつき、あからさまに中傷するのはばか者です。
１９　ことば数が多いと失敗します。　十分に気をつけて話す人が、ほんとうに知恵があるのです。
２０　正しい人の言うことは聞く値打があります。　しかし、ばか者の言うことは聞くだけむだです。
２１　神様を信じる正しい人は、ためになることを言い、頑固に信じない者は、何もわからないまま死んでいきます。
２２　神様に祝福されることほどすばらしいことはありません。 どんなにがんばっても、人間にはこれ以上のことはありません。
２３　ばか者の楽しみは悪事を働くこと、知恵ある人の楽しみは利口になることです。
２４　悪人が恐れていることは何もかもそのとおりになり、正しい人が望むことはみな、かなえられます。
２５災いは龍巻のように襲いかかり、あっという間に悪人を巻き上げます。　しかし、正しい人には重い錨があるので安心です。
２６　煙が目にしみ、酢が歯を浮かすように、怠け者は雇い主の悩みの種です。
２７　神様を敬う人の毎日は充実していますが、悪人の一生は全くむなしいものです。
２８　正しい人の望みは永遠のしあわせにつながり、悪人の期待は水の泡と消えます。
２９　神様は正しく生きる人を守り、悪人の息の根を止められます。
３０　正しい人は必ず神様に祝福され、悪人は何もかも失います。
３１　正しい人はよく考えてから忠告します。　だれも、うそつきの言うことなど聞きません。
３２　正しく生きる人は役に立つことを話し、悪人は何にでも反対します。
一一
１　神様は人をだます者が大きらいで、正直な人が好きです。
２　高慢な人は恥をかきますが、謙そんな人は知恵を身につけます。
３　正しい人は誠実に歩み、悪人は不正直なために破滅します。
４　金さえあれば大丈夫と高をくくってはいけません。　さばきの日には、正しく生きる人だけが救われるのです。
５　正しい人は正直に生き、悪人は犯した罪の重さに耐えられず、ついには押しつぶされ

てしまいます。
６　正しく生きる人の身は安全ですが、裏切り者はいつかは破滅します。
７　悪人はこの世のことしか考えないので、死んでしまえばそれまでです。
８　神様は正しい人を危険から助け出し、代わりに悪人をそのあとへ投げ込みます。
９　悪人のことばは何もかもぶちこわし、正しい人の知識はそれを建て直します。
１０　正しい人が成功すると全市をあげて祝うように、悪人が死ぬとだれもが大喜びします。
１１　神様を信じる市民が良い影響を与えているうちは町は栄え、悪い連中が幅をきかせるようになると、たちまちすたれます。
１２　隣近所とけんかをするほどばかなことはありません。　りこうな人は黙ってかかわり合いません。
１３　おしゃべりな人は根も葉もないことを言いふらし、信頼できる人はうわさ話にふたをします。
１４　良い指導者がいないと国民は苦しみ、適切な助言をする人がいれば国は安全です。
１５　保証人になる時は相手をよく見なさい。　あとで苦しむより、初めから断わるほうがましです。
１６　親切でやさしい婦人は良い評判を得、思いやりのない男は金を手に入れます。
１７　人に親切にすると心も豊かになり、思いやりのないことばかりしていると気持ちがすさびます。
１８　悪いことをしてもうけた金はすぐになくなり、正しいことをして得た報酬はいつまでも残ります。
１９　正しい人は生きることのほんとうの意味を見つけ、悪人はただむなしく死んでいきます。
２０　強情っ張りは神様にきらわれます。　神様が好きなのは正しい人です。
２１　悪人はいつか必ず罰せられます。　同様に、神様は正しい人の子供を必ず助けてくださいます。
２２　みかけは美人でも浅はかで慎みがないのは、まるで豚がダイヤのネックレスをしているようなものです。
２３　正しい人は幸せをつかみ、悪人は激しい怒りを買います。
２４２５惜しげなく人に施して、ますます金持ちになる人もあれば、財布のひもをぎゅっと締めていながら、文無しになる人もいます。　物惜しみしない人が金持ちになります。人をうるおして自分もうるおうからです。
２６　値上がりするまで穀物を売り惜しみする者は恨まれ、皆が困っている時にそれを売り出す人は喜ばれます。
２７　良いことをしようとひたすら努力する人は神様に愛され、悪いことばかりに熱中する者はきらわれます。

２８　金に頼ると失敗します。　神様に頼れば、若木がすくすく生長するように、何もかもうまくいきます。
２９　家族を怒らせるようなばか者は、やがて大事なものまでなくし、ついには知恵ある人の使用人になりさがります。
３０　神様を信じる人はいのちの実のなる木を育て、知恵ある人は人のたましいを破滅から救います。
３１　神様を信じる人がこの世で報いを受けるなら、悪人が報いを受けるのは当然です。
一二
１　人の言うことを聞く気がなければ、教わることはできません。懲らしめに耳をふさぐ者はばかです。
２　神様は正しい人を祝福し、悪人を罰します。
３　悪いことをして成功する者はいません。　成功するのは正しい人だけです。
４　良い妻は夫の誇り、悪い妻は夫に肩身のせまい思いをさせ、事々に足を引っ張ります。
５　正しい人の考えは正直一筋ですが、悪人はうそと偽りでこり固まっています。
６　悪人は何かというと人を責め、神様を恐れる人は人をかばいます。
７　悪人は必ず滅び、正しい人が最後には勝ちます。
８　物事のよくわかる人は、だれからもほめられ、ひねくれ者はみんなに軽べつされます。
９　お高くとまって働きもせず、食うにも事欠くより、つまらない仕事でもまじめに働き、食にありつくほうがましです。
１０　正しい人は家畜のことにまで細かく気を配ります。　しかし神様を恐れない人は、うわべは親切そうでも思いやりがありません。
１１　まじめにこつこつ働けば生活は楽になります。　ぶらぶら遊んでいるのはばか者だけです。
１２　ひねくれ者は仲間の分け前までほしがり、正しい人は自分の物をなげうってでも人を助けます。
１３　うそをつくとあとで苦しみますが、正直者にはそんな心配はありません。
１４　ほんとうのことを言う人も、こつこつ働く人も必ず報われます。
１５　ばか者は忠告を無視し、知恵ある人は人のことばに耳を傾けます。
１６　ばか者はすぐかっとなり、知恵ある人は侮辱されても冷静です。
１７　正しい人かどうかは正直さでわかり、不誠実な人はうそと欺きでわかります。
１８　批評好きは人を傷つけ、知恵ある人のことばは人を慰めます。
１９　ほんとうの事はいつまでも変わらず、うその鍍金はすぐにはげます。
２０　悪いことをたくらむ者は、人をだますことで頭がいっぱいです。　しかし良いことをする人は、いつも喜びでいっぱいです。
２１　正しい人はどんな災いにも会わず、悪人には苦しみがつきまといます。
２２　神様は約束をきちんと守る人は好きですが、破る人は大きらいです。

２３　知恵のある人は知っていることでも黙っていますが、ばか者はばかさかげんを丸出しにします。
２４　まじめにこつこつ努力する人は指導者になり、怠け者はいつまでたっても成功しません。
２５　どんなに沈んでいる人も、励ましのひと言で気は軽くなります。
２６　正しい人は悪いことをしませんが、悪人は滅びます。
２７　無精者は、せっかく捕らえた獲物を料理するのも面倒がります。　しかし勤勉な人は、見つけた物は少しもむだにせず、うまく利用します。
２８　神様を信じる人は天国への道を歩いているので、死を恐れません。
一三
１　知恵のある若者は父親の忠告を聞き、親をばかにする子は鼻であしらいます。
２　正しい人はよく考えて物を言うので訴訟に勝ちますが、陰険な人は争いを望みます。
３　自分を制するとはことばに気をつけることです。　せっかちに言い返すと、何もかもぶちこわしになります。
４　怠け者は欲の皮だけ人一倍つっ張っていても、何も得られません。しかしこつこつ働く人は、裕福になります。
５　正しい人はうそを憎み、悪人はうそで身を固めて赤恥をかきます。
６　何よりもまず正しく生きることです。　悪いことをすれば必ず身を滅ぼします。
７　自分で金持ちだと思っていても、実は貧しい人がいるかと思えば、貧乏だと思っていても、実は富んでいる人もいます。
８　金がなければ、身の代金めあてに子供を誘拐される心配もありません。
９　正しい人は明るく生き生きした毎日を送り、悪人は陰気くさい日陰の道を歩きます。
１０　自分に自信がありすぎる人は、なかなか主張を曲げません。　素直に忠告を聞き、もっと利口になりなさい。
１１　賭事でもうけた金は羽が生えて飛んでいき、こつこつためた金は確実に増えていきます。
１２　長いこと期待し続けるのはつらいものですが、待ちに待った夢が実現すると、たちまち生きているのが楽しくなります。
１３　神様の教えをばかにすると苦しい目に会い、素直に守れば成功します。
１４　知恵のある人の助言を聞くのは、泉の水を飲むようなものです。　たちまち元気が出て、前にある落とし穴がよく見えるようになります。
１５　物事のよくわかる人は高く評価され、裏切り者は苦い思いをします。
１６　知恵のある人は先を見て動き、ばか者は目先のきかないことをわざわざ自慢します。
１７　あてにならない人に伝言を頼むとめんどうが起き、信頼できる人に頼めばちゃんとことづけてくれ、事はうまくいきます。
１８　正しい批判に耳を貸さないと、いつまでも貧乏でうだつが上がりません。　聞くべ

きことをちゃんと聞けば必ず陽の目を見ます。
１９　計画どおりにいくのは気持ちがいいものです。　だからばか者は、まちがった計画でもなかなかあきらめません。
２０　知恵のある人のそばにいれば知恵ある人になり、悪人のそばにいれば悪に染まります。
２１　悪いことをすれば人にのろわれ、正しいことをすれば祝福されます。
２２　正しい人は孫にまで遺産を残しますが、罪人の財産は、最後には神様を恐れる人のものになります。
２３　貧しい人の畑でも土は肥えています。　しかし不正をすれば、せっかく収入があっても、横取りされるのです。
２４　子供を懲らしめない親はその子を心から愛していないのです。愛している子なら罰するはずです。
２５　正しい人は生きるために食べ、悪人は食べるために生きます。
一四
１　知恵のある女は自分の家を建て、ばかな女は懸命にこわします。
２　正しいこととは神様をたいせつにすること、罪を犯すとは神様をばかにすることです。
３　高慢な者はむだ口をたたいて自分の名誉を傷つけ、知恵のある人は役に立つことを語って人から尊敬されます。
４　働かなければ、手も汚れない代わりに収入もありません。
５　正直な証人はうそをつかず、偽証人はうそ八百を並べ立てます。
６　人をばかにする者に知恵は寄りつかず、物わかりのいい人には知恵のほうからやって来ます。
７　忠告してもらいたいなら、ばか者を相手にしないことです。
８　知恵のある人は先を見越し、ばか者は自分をごまかして事実を直視しません。
９　神様の教えを守らない者は罪を犯し、神様を恐れる人は人を思いやります。
１０　悲しみでも喜びでも、ほんとうにわかるのは本人だけで、他人にはどうにもできません。
１１　悪人は失敗し、神様を恐れる人だけが成功します。
１２　だれでも、広く歩きやすい道が正しい道だと考えますが、それは死に通じる道です。
１３　笑っても苦しみは隠せません。　笑い終わると悲しみが残ります。
１４　信仰をなくした人の生活はマンネリ化し、神様を恐れる人の生活には活気があります。
１５　単純な人間だけが言われたことを鵜呑みにし、慎重な人は将来をよく考えて行動します。
１６　りこうな人は用心深く危険を避け、ばか者は自信満々つき進みます。
１７　短気な人はばかなことをし、忍耐強い人をきらいます。

１８　ばか者の報いはばかにされること、りこうな人はりこうなことをします。
１９　悪人は、いつかは神様を恐れる人に頭を下げます。
２０　貧しいと隣近所にさえ相手にされず、金持ちだと友だちに不自由しません。
２１　貧しい人を軽べつしてはいけません。　そういう人に親切にすれば自分もしあわせになります。
２２　悪いことをたくらむ者は道に迷い､良いことを計画する人は神様に愛され安全です。
２３　まじめに働けば収入は増え、むだ話ばかりしていると貧しくなります。
２４　知恵のある人は知恵をほめられ、ばか者はばかさかげんを軽べつされます。
２５　ほんとうのことを言う証人は無実の罪をはらしてくれますが、うそつきの証人は平気で裏切ります。
２６　神様を恐れ大切にする人は頼りがいがあるので、子供たちは安心して頼ります。
２７　神様を恐れ大切にすることは、いのちの泉です。　その水を飲めば生きる力がわきます。
２８　国民が増えるのは王にとって名誉であり、減るのは王座が揺らぐしるしです。
２９　りこうな人は腹を立てれば損だとわかっているので、ぐっと感情を抑えます。
３０　心がおおらかだと長生きし、嫉妬深いと寿命を縮めます。
３１　貧しい人をいじめるのは、その人たちを造った神様をばかにすること、貧しい人を助けるのは神様を大切にすることです。
３２　神様を大切にする人は、死ぬ時にも心の拠り所がありますが、悪人は罪に押しつぶされます。
３３　知恵は物わかりのいい人の心に住み、ばか者の注意を引くには懸命に叫ばなければなりません。
３４　だれもが神様を恐れ、正しく生きれば国はよくなり、罪がはびこると国民は恥をかきます。
３５　やるべきことを心得ている召使は王に好かれ、やっかい者の召使は王の怒りを買います。
一五
１　穏やかに答えれば相手も気を静め、激しくやり返すとけんかになります。
２　良い教師は授業を楽しくし、だめな教師はくだらないことをまくし立てます。
３　神様は、あらゆる所で、悪人も正しい人も一人残らず見張っておられます。
４　やさしいことばは人を元気づけ、不平は人の気をくじきます。
５　ばかな子ほど父親の忠告を軽く見、りこうな子ほどひと言ひと言を熱心に聞きます。
６　正しい人は裕福になり、悪人はめんどうに巻き込まれます。
７　人を教えられるのは知恵のある人だけで、神様に背く者にはとてもできません。
８　神様は悪人の供え物を憎み、正しい人の祈りを喜ばれます。
９１０神様は悪人の行ないをきらい、正しく生きようとする人を愛します。　しかし中途

で心変わりしたら、きびしい罰が待っています。素直に罰を受けなければ死ぬだけです。
１１　地獄の底までお見通しの神様には、人の心など手に取るようにわかります。
１２　人をばかにする者は、しかられるのをきらって、知恵のある人を煙たがります。
１３　楽しければ顔も輝き、悲しければ顔もくもります。
１４　知恵のある人は熱心に真理を求め、人をばかにする者はつまらないことに熱を上げます。
１５　気が重いと何もかも悪く見え、気分がいいと何もかもよく見えます。
１６　財産があるばかりにあれこれ気を使うより、貧しくても神様を信じながら生きるほうが幸せです。
１７　憎い相手といっしょにビフテキをぱくつくより、愛する人といっしょにおかゆをすするほうが幸せです。
１８　気の短い者はすぐけんかを売り、冷静な人はうまくその場を収めます。
１９　怠け者は年中やっかい事をかかえ込み、正しい人は平和な一生を送ります。
２０　物わかりのいい息子は父親を喜ばせ、言いつけに背く息子は母親を悲しませます。
２１　ばかなことをして喜ぶのは、どこかが狂っている証拠です。　物のわかった人は正しい道を踏みはずしません。
２２　良い意見を出してくれる人が少ないと計画は失敗し、多いと成功します。
２３　だれもが良い助言ができたらと思います。　ここという時にぴったりのことが言えたら、どんなにすばらしいでしょう。
２４　神様を恐れる人の道は天国へ上る道。　地獄からはどんどん遠ざかります。
２５　神様は高慢な者を破産させ、未亡人のめんどうを見てくださいます。
２６　神様は悪人の計画を憎み、親切なことばを喜ばれます。
２７　不正な手段で金をもうけると家族みんなが不幸になり、わいろを憎めば必ず幸せになります。
２８　正しい人はよく考えてから物を言い、悪人は前後の見境もなく悪態をつきます。
２９　神様は悪人を相手にせず、正しい人の祈りを聞かれます。
３０　生き生きした目と良い知らせとは、人を喜ばせ、力づけます。
３１３２ためになる批判をどんどん取り入れるのは利口な人です。　耳の痛いことを喜んで聞かないと、自分をだめにします。
３３　神様を恐れ、謙そんに生きる人は知恵を身につけ、人からもほめられます。
一六
１　人は計画を立てますが、その結果を決めるのは神様です。
２　自分が正しいと思うのは簡単です。　しかし、神様は納得なさいません。
３　自分でしようと思わず、神様に任せなさい。　そうすればうまくいきます。
４　神様はすべてのものを目的があってお造りになりました。　悪者でさえ、罰するために造られたのです。

５　神様は高慢な人が大きらいです。　そういう人は必ず罰せられます。
６　思いやりと真心があれば罪は除かれ、神様を恐れる気持ちがあれば悪いことに手を出しません。
７　神様を喜ばせようとしさえすれば、その人の最大の敵も、神様が味方に変えてくださいます。
８　人をだましてぼろもうけするより、わずかずつでも正直にかせぐほうがましです。
９　神様の考えを無視して、計画を立ててはいけません。
１０　神様は正しい裁判ができるように王を助けるので、王はまちがったことを言いません。
１１　正直に商売すること、それが神様の決めた原則です。
１２　王が悪いことをしたら大へんです。　正しく治めてこそ、その地位は長続きするのです。
１３　国民が正直に生きると王は喜びます。
１４　王を怒らせるのは死刑を宣告されるようなものです。　知恵のある人は王の怒りをうまくなだめます。
１５　王を喜ばせる者は目をかけられます。
１６　知恵は金よりもすばらしく、理解力は銀よりもすばらしいものです。
１７　神様を恐れる人は悪いことをしません。　それが安全な生き方です。
１８　プライドが高すぎると身を滅ぼし、なまいきなことばかりしていると失敗します。
１９　金持ちになってお高くとまっているより、貧しくても謙そんなほうが幸せです。
２０　神様は言うことを聞く人を祝福なさいます。　だから、神様に頼れば幸せになるのです。
２１　知恵のある教師は物わかりがよく、魅力的な教師は最高です。
２２　知恵のある人は生きる喜びにあふれ、ばか者はばかなために苦しみます。
２３　知恵のある人のことばは的を射て説得力があります。
２４　親切なことばは、はち蜜のように甘く、人を元気づけます。
２５　広く歩きやすい道は、だれもが正しい道だと思います。　しかし、その終点は死です。
２６　食べるために働く気を起こさせるなら、ひもじさも役に立ちます。
２７　怠け者の手は悪魔の手、その口は悪魔の口です。
２８　悪人は争いを起こし、陰口を言う人は親友とも気まずくなります。
２９　悪人は仲間をつくるのが大好きで、人を悪いことに誘い込みます。
３０　悪人は心の中で悪いことをたくらみ、うまくいくと、してやったりとすましています。
３１　白髪は何よりもすばらしい冠です。　神様を恐れる人にそれが目立ちます。
３２　英雄よりも自分を抑える者のほうが強く、軍隊を自由に動かす指揮官よりも自分を

制する者のほうが力があります。
３３　人はくじを引きますが、その結果を決めるのは神様です。
一七
１　けんかしながら毎日ビフテキをぱくつくより､冷や飯を仲よく食べるほうがましです。
２　物のわかる使用人は主人のどら息子を監督し、財産の分け前をもらいます。
３　銀や金は火で精錬しますが、人の心をきよめるのは神様です。
４　悪人は悪人同士でつき合い、うそつきはうそつき同士でつき合います。
５　貧しい人をばかにするのは、その人を造った神様をばかにするのと同じです。　神様は人の不幸を喜ぶ者を罰せられます。
６　孫は老人の自慢の種、父親は子供の尊敬の的です。
７　神様に背く者がほんとうのことを言うとは思われず、王たる者がうそをつくとは思われません。
８　わいろには魔力があり、だれが使っても効果があります。
９　思いやりのある人は人のまちがいを水に流し、いつまでもこだわる者は親友までも失います。
１０　物わかりのいい人は一度しかれば十分です。　それだけで、聞き分けのない者の背を百ぺんむち打つより効き目があります。
１１　悪人は何にでも背くために生き、きびしい罰を受けます。
１２　ばかなことをしていい気になっている者に会うより、子を取られた雌熊に会うほうがよほど安全です。
１３　よくしてもらいながら、その好意を裏切る者はのろわれます。
１４　いったん火のついたけんかは、なかなか収まりません。　だから初めから、けんかしないことです。
１５　まちがいを正しいことだと言い、正しいことをまちがいだと言う者は、神様に憎まれます。
１６　真理を学ぶ気がなければ、いくら学費を払っても意味がありません。
１７　ほんとうの友だちは決して裏切りません。　兄弟は困った時に助け合うためにいるのです。
１８　考えの足りない者は気安く連帯保証人になり、人の借金の責任を負います。
１９　何にでも逆らう者はけんかが大好きで、うぬぼれ屋は問題をほじくり出します。
２０　悪人はだれにでも疑いの目を向け、いつも面倒に巻き込まれます。
２１　言いつけに背く者の父親には、生きる楽しみがありません。
２２　心がうきうきすれば体も健康になり、気がふさげば病気になります。
２３　買収されて法を曲げるのはよくありません。
２４　物事のよくわかる人は知恵から目を離さず、ばか者はぼんやり遠くを眺めます。
２５　言いつけに背く子は親泣かせです。

２６　正しい人が正しいことをしたと言って罰するのは、ばかもいいとこです。
２７２８りこうな人は無口で、すぐにかっとなったりしません。　だから、ばかな人でも黙っていればりこうに見え、大いに得をします。
一八
１　自分のことしか考えない者は、あらゆる規則に盾をつき、自分のやり方を押し通します。
２　神様の教えに背く者はただ大声でわめきたいだけで､事実など､どうでもいいのです。
３　悪いことをすれば必ず恥をかきます。
４　知恵のある人は、深い流れのように味わいのあることを言います。
５　裁判官が悪者をかばい、無実の者を罰するのはよくありません。
６７ばか者は何かというとけんかをします。　彼の口は破滅のもとで、いつも危ない橋を渡ります。
８　陰口はよだれの出そうなごちそうのように、大いに食欲をそそります。
９　怠け者はサボリ屋の兄弟です。
１０　神様は絶対安全なとりで、正しい人はその中に逃げ込みます。
１１　金持ちは浅はかにも､｢金がすべてだ。 金さえあれば絶対安全だ｣と思っています。
１２　高慢になると身を滅ぼし、謙そんになると人からほめられます。
１３　よく聞きもしないで早合点すると、赤恥をかきます。
１４　勇気があれば病気にも負けません。　しかし、勇気がなくなったらおしまいです。
１５　知識のある人は、いつも新しいことを知ろうと努力します。
１６　わいろは奇蹟を起こします。　金さえ積めば地位ある人にも会えるのです。
１７　だれの話でも、他の人が裏を明かし、全貌がわかるまでは、もっともらしく思えます。
１８　いくら言い争っても埒があかない時は、くじで決めなさい。　そうすれば丸く収まります。
１９　堅固な城を攻め落とすより､けんかした友だちと仲直りするほうが大へんです。 怒った相手は、頑としてあなたを受けつけません。
２０　忠告するのが上手な人は、ごちそうをたらふく食べた時のような満足感をいつも味わいます。
２１　おしゃべり好きはおしゃべりの後始末をさせられます。　うっかりまちがったことを言って死ぬこともあるのです。
２２　妻を見つける人は幸せ者です。　妻は神様からのすばらしい贈り物です。
２３　貧しい人は拝むようにして頼み、金持ちは軽べつしきって答えます。
２４　友だちのふりをする友人もいれば、実の兄弟より親しい友人もいます。
一九
１　人をだまして金持ちになるより、貧しくても正直に生きるほうが幸せです。

２　よく調べもせずに突っ走るのは、失敗のもとです。
３　人は自分の不注意でチャンスをつぶしては、それを神様のせいにします。
４　金持ちには友だちがたくさんできますが、貧しい人にはだれも寄りつきません。
５　偽証すれば罰せられ、うそをつけば罰があたります。
６　気前のいい人は大ぜいの人に好かれ、だれとでも友だちになります。
７　貧しいと、友だちばかりか兄弟にまでそっぽを向かれます。　どんなに呼んでも、去った人は戻りません。
８　知恵のある人は、自分のいちばん大事な仕事を愛して成功します。
９　偽証すれば罰せられ、うそをつけば捕まります。
１０　ばか者が成功し、使用人が主人をこき使うのは、ふさわしくありません。
１１　りこうな人は、侮辱されてもぐっとこらえて信用を得ます。
１２　王の怒りはライオンのうなり声のように恐ろしく、やさしいことばは草に降りる露のように気持ちのいいものです。
１３　言いつけに背く子はやっかい者、文句ばかり言う妻は、したたり続ける雨もりのように我慢がなりません。
１４　父親が残せるのは家と財産、神様の贈り物はりこうな妻です。
１５　怠けて眠りこけていると、そのうち飢えます。
１６　いのちが惜しければ命令を守りなさい。　命令を無視する者は死にます。
１７　貧しい人に金を恵むのは、神様に貸すのと同じです。　あとでたっぷり利息がついて戻ってきます。
１８　まだ望みのあるうちに子供を懲らしめなさい。　放っておいて、その一生を台なしにしてはいけません。
１９　短気な者が失敗したら、自分で後始末させなさい。　一度でも助けてやるとくせになります。
２０　忠告はできるだけ聞いて、賢く生きなさい。
２１　人は計画を立てますが、その成り行きを決めるのは神様です。
２２親切な人はだれにでも好かれます。　貧しくても、うそつきよりはましです。
２３　神様を恐れることは、しあわせで安全な生活の鍵です。
２４　目の前に食べ物があるのに、口に入れようともしない怠け者がいます。
２５　人をばかにする者を罰すればいい見せしめになり、知恵のある人をしかるとますます利口になります。
２６　親に乱暴する者はいい恥さらしです。
２７　まちがっていると思う教えを聞くのはやめなさい。
２８　偽証人は正しい裁判をばかにし、こりずにまた罪を犯します。
２９　法律をばかにして守らない者は、きびしく罰せられます。
二〇

１　酒を飲むと気が大きくなり、酔っぱらってけんかになります。酒に飲まれて失敗する人はばかです。
２　王が怒るとライオンがほえるようです。 その怒りを買うといのちは危うくなります。
３　争いを避けるのは名誉なことです。　けんか好きなのはばか者だけです。
４　冬のうちに耕しておかないと、刈り入れ時になっても収穫はありません。
５　人が心の中で考えていることを、知恵のある人はうまく引き出して役立てます。
６　人はだれでも、自分を頼りになる友だと言いますが、ほんとうにそう思っているのでしょうか。
７　子供にとっていちばんの遺産は、正直に生きることを教わることです。
８　裁判の席につく王は、あらゆる証拠を注意深く調べ、ほんとうのことと嘘とを見分けます。
９　「心を入れ替えたから、もう潔白だ」と、だれが言えるでしょう。
１０　神様はごまかしや嘘が大きらいです。
１１　小さな子供でも、行ないが正しいかどうかを見れば性格がわかります。
１２　目が見え、耳が聞こえるだけでも、神様に感謝しなさい。
１３　眠ってばかりいると貧乏神に取りつかれます。　目を覚まし力いっぱい働けば、食べるに事欠きません。
１４　人は、値切る時には「こんな物どこがいいんだい」とけちをつけても、買ってしまうと「すごい掘り出し物だぜ」と自慢します。
１５　金や宝石を持っているより、物事をよくわきまえているほうが、ずっとすばらしいことです。
１６　見ず知らずの人に金を貸すと、それっきりになる恐れがあります。
１７　人をだまして喜んでいる人がいます。 しかし､だまし取った金で買ったケーキは、口の中でじゃりに変わります。
１８　計画を立てる時は人の意見をよく聞き、戦いを始めるのは皆が賛成してからにしなさい。
１９　おしゃべり好きにうっかり秘密をもらすと、世界中に宣伝されます。
２０　親をのろう者は死ななければなりません。
２１　思わぬ大金が転がり込むと、かえって不幸になることがあります。
２２　悪いことをされても仕返ししてはいけません。　神様が片をつけてくださるのを待ちなさい。
２３　神様はごまかしや嘘が大きらいです。
２４　神様がついているのだから、余計な心配はせずに、何もかも任せなさい。
２５　よく考えもしないで神様に約束すると、あとで大へんな目に会います。
２６　知恵のある王は犯罪をなくすために、犯人をきびしく罰します。
２７　良心は心の中をはっきり照らして、隠れた思いを明るみに出す、神様の光です。

２８　正しく思いやりのある王が治める国は、何があってもびくともしません。
２９　若い人のいいところは若さにあふれていること、老人のすばらしいところは経験が豊かなことです。
３０　体罰を加えるのは、二度と悪いことをしないように教えるためです。
二一
１　水がどこにでも流れ込むように、神様は王の心を思いのままに動かされます。
２　どんな行ないでも、もっともらしい理由をつければ正しく見えますが、神様はどんなつもりでそうしたかを問題にされます。
３　供え物をするより、正しい人であるほうが、よっぽど神様に喜ばれます。
４　われこそはと鼻にかけることも、やたらに物を欲しがることも、悪いことをすることも、みな罪です。
５　しっかりした計画を立てれば確実にもうかり、あわてると損をします。
６　悪いことをしてもうけた金はすぐなくなります。　だったらどうして、危ない橋を渡るのですか。
７　悪人は人をだましてばかりいますが、最後には自分で自分の首を締めます。
８　行ないを見ればその人がわかります。　悪人は悪いことをし、正しい人は神様の教えを守るのです。
９　気むずかし屋の女とりっぱな家に住むより、屋根裏部屋のすみっこで暮らすほうがましです。
１０　悪人は人を傷つけるのが大好きで、親切にしようなどとは、これっぽっちも考えません。
１１　人が罰せられるのを見て、初めて悪いとわかるのはばか者です。　知恵のある人は聞くだけでちゃんとわかります。
１２　神様を恐れる人は悪者が滅ぶのを見て、その人は悪者であるとわかります。
１３　貧しい人を助けない者は、自分が困った時に助けてもらえません。
１４　贈り物をすれば、怒っている人も機嫌を直します。
１５　正しい人は喜んで正しいことをし、悪人を恐れさせます。
１６　わからず屋のろくでなしは、のたれ死にするしかありません。
１７　毎日遊び暮らしていると貧しくなります。 酒やぜいたく品に金がかかるからです。
１８　最後に勝つのは、悪人ではなく正しい人です。
１９　口うるさく不平ばかりこぼす女といるより、砂漠にでも住むほうがましです。
２０　知恵のある人は将来に備えて貯金をし、ばか者は考えもなしに金を使います。
２１　正しく思いやりのある者になろうとする人は、充実した生活を送り、人からもほめられます。
２２　知恵のある人は強い相手と戦っても負けません。　とりでに立てこもる敵も見事に打ち負かします。

２３　いらぬ口出しをしなければ、めんどうに巻き込まれることもありません。
２４われこそはと思っている者は自分を鼻にかけ、人をばかにします。
２５２６怠け者は働きもしないで、やたらに物を欲しがり、人をうらやむことしか知りません。　しかし神様を恐れる人は、喜んで人に与えます。
２７　神様は悪人の贈り物が大きらいです。　買収の下心がある時はなおさらです。
２８　偽証すれば罰せられ、正直に証言すれば安全です。
２９　悪人は強情ですが、神様を恐れる人は、悪いとわかれば素直に考え直します。
３０　どんなに知恵のある人でも、どんなに良い教育を受けた人でも、神様には歯が立ちません。
３１　さあ、戦う準備をしなさい。　しかし、勝たせてくださるのは神様です。
二二
１　財産よりも名声を大事にしなさい。　金で名声は買えません。
２　金持ちも貧しい人も、神様の前では同じです。　どちらも神様がお造りになったからです。
３　注意深い人はちゃんと見通しを立て、失敗しないように準備します。　考えの足りない者は盲めっぽうに進んで、あとで苦しみます。
４　謙そんで神様をたいせつにする人は、人からもほめられ、一生なに不自由なく暮らせます。
５　神様の教えに背く者の道には、危険な罠がいっぱいです。　自分をたいせつにする人は決して近寄りません。
６　子供の時に正しい生き方を教えておけば、年をとってからも変わりません。
７　貧しい人が金持ちに押さえつけられるように、借金した相手には頭が上がりません。
８　悪い支配者は必ず災いに会い、権力を失います。
９　親切な人は貧しい人に食べ物をわけて喜ばれます。
１０　人をばかにする者を追い出せば、みんなうちとけて、争いも口げんかもなくなります。
１１　きよい心を愛し、良いことを語る人は、王のほうから友だちになってくれます。
１２　神様は正しい人を守り、悪人の計画をだめにされます。
１３　怠け者は「仕事になんかとても行けないよ。　外に出たら、通りでライオンに食い殺されるかもしれないじゃないか」と言いわけします。
１４　売春婦は危険な罠、神様にのろわれた者はやすやすと引っかかります。
１５　若者は反抗心でいっぱいですが、正しく罰すれば素直になります。
１６　貧しい人からせしめたり、金持ちにわいろを贈ったりして財産をつくっても、必ず貧しくなります。
１７－１９神様を信じて任せなさい。　知恵のことばを聞いて忘れずに守りなさい。　それは、自分の益になるばかりでなく、人にも教えるためです。

２０２１私はまちがったことを言ったことはないのだから、私の言うことを信じて、そのとおり人にも教えなさい。
２２２３貧しい人や病人のものを横取りしてはいけません。 神様が見ておられます。 そんなことをする者は必ず罰せられます。
２４２５すぐに腹を立てるばか者には気をつけなさい。　へたに近寄ると巻き添えをくいます。
２６２７手もとに余分な金もないのに、人の保証人になってはいけません。　他人の借金の形に、全財産はおろか布団まで取り上げられたらどうするのです。
２８　先祖代々の地境をかってに変えるのは、どろぼうと同じことです。
２９　まじめにいい仕事をする人は、必ず出世します。
二三
１‐３金持ちといっしょに食事する時は、どんなにごちそうが並んでいても、ガツガツ食べてはいけません。 もてなしておいてまんまと買収するのが､連中の手だからです。 そんな所に招待されても何にもなりません。
４５金持ちになろうとあくせくするのは時間のむだです。　そうやってもうけても、札束はすぐに羽が生えて飛んで行くからです。
６‐８悪人とつき合うとばかを見ます。　気に入られたいとか、贈り物をもらいたいとか思ってはいけません。　いかにも親切そうに見せかけて、ほんとうはあなたを出汁にしているのです。　彼らのごちそうは、食べると気分が悪くなり、結局は吐き出してしまいます。　だから礼を言ったことさえ、ばからしくなるのです。
９　忠告に逆らう者に言い聞かせてもむだです。　どんなにためになることを言っても、そっぽを向くだけです。
１０１１先祖代々の地境をかってに変えて、みなしごの土地を横取りしてはいけません。 彼らには神様がついておられるからです。
１２　耳の痛いことばも喜んで聞き、ためになることはどんどん取り入れなさい。
１３１４子供はきびしく育てなさい。　むちで打っても死にはしませんが、甘やかすと、やがて地獄に落ちることになります。
１５１６｢息子よ､おまえが物のわかる人間になってくれたら､どんなにうれしいだろう。 あまりうれしくて、おまえの意味深いひと言ひと言に、胸がおどるだろう。｣
１７１８将来は希望にあふれているのですから、悪人をうらやまず、いつも神様を恐れて生活しなさい。
１９‐２１知恵を身につけ、神様を信じる道をまっすぐ進みなさい。　大酒飲みや大食いとつき合ってはいけません。　そんなことをしていると貧乏になるばかりです。　おまけに怠けぐせがついて、ろくな物も着れなくなったらどうするのです。　２２父親の忠告を聞き、経験をつんだ母親をたいせつにしなさい。　２３どんな犠牲をはらっても、ほんとうのことを知りなさい。　物事を正しく判断できる力をしっかり身につけるのです。　２

４２５神様を恐れる人の父親はしあわせ者、知恵のある子は父親の自慢の種です。　これ以上の親孝行はありません。
２６－２８売春婦に近寄ってはいけません。　彼女は狭くて深い墓穴のようにぽっかり口を開けて、あわれな犠牲者が落ちるのを待っています。 まるで強盗のように待ち伏せて、男たちに妻を裏切らせるのです。
２９３０悩みと悲しみに押しつぶされているのはだれですか。　けんかばかりしているのはだれですか。　血走った目をし、生傷の絶えないのはだれですか。　それは、飲み屋に入り浸って酒ばかり飲んでいる者です。　３１細かくあわ立つぶどう酒の赤い色、こくのある味にだまされてはいけません。　３２それはあとで、毒蛇やまむしのようにかみつくからです。　３３酔っ払うと物がまともに見えず、何を言っているかわからなくなり、普通の時なら恥ずかしくてとても言えないようなことを、ペラペラしゃべります。　３４また、ちゃんと歩くこともできず、しけに会って揺れるマストにしがみつく船乗りのように、あっちへふらふら、こっちへふらふらよろめくのです。 ３５そして、「なぐられたなんて、ちっとも気がつかなかったなあ。　まあいいや、もう一杯飲みに行こうぜ」とすまして言うのです。
二四
１　神様を信じない連中をうらやんではいけません。　仲間になろうと思ってもいけません。　２彼らは毎日毎日、人に乱暴し、だますことに明け暮れているのです。
３４事業を始める時は、よく考えてきちんとした計画を立て、がっちり基礎を固めなさい。こうして事実をしっかり見きわめながら進めば、成功まちがいなしです。
５　知恵のある人は力のある人より強く、知恵は力より優れています。
６　戦いに出かける時は、知恵のある人の意見を聞いてからにしなさい。　助言する人が大ぜいいれば安心です。
７　神様に背く者には、知恵は高すぎて買えません。　だから、人前で意見を言わせてもらえません。
８　悪いことをたくらむのも、それを実行するのも、同じように悪いことです。
９　神様に背く者は悪い計画ばかり立て、人をばかにする者は世界中の人にきらわれます。
１０　逆境のとき苦しみに耐えられないような者は弱虫です。
１１１２無実の罪で死刑を宣告された人を助けなさい。　その人が殺されるのを、黙って眺めていてはいけません。　「ちっとも知らなかった」ととぼけても、神様の目はごまかせません。　神様はそれぞれの行ないにふさわしく報いられるのです。
１３１４はち蜜が食欲をそそるように、知恵もりこうになりたいという意欲を起こさせます。　それがあれば、希望にあふれた将来が約束されるのです。
１５１６悪者よ、正しい人に手出しをしてはいけません。　正しい人は七度倒れても、そのたびに起き上がることを知らないのですか。　しかしおまえを倒すには、一度で十分です。

１７　敵が苦しむのを喜んではいけません。　失敗したからといって、うれしがってはいけません。　１８そんなことをしたら神様が気を悪くし、彼らを罰するのをやめるかもしれません。
１９２０悪人をうらやみ、その財産を欲しがってはいけません。　悪人の最後は目に見えているからです。
２１２２神様と王の前では注意深く行動しなさい。　過激な連中とつき合ってはいけません。　彼らのいのちは短く、思いもよらない災いに会うからです。
２３　さらに幾つかのことを教えましょう。
貧しい人を有罪とし、金持ちを赦すのはよくありません。　２４悪者に向かって「無罪だ」と言う者は、大ぜいの人にのろわれます。　２５反対に、悪者の罪をはっきり指摘する人は、だれからも感謝されます。
２６　率直に答えてもらえるのは、ありがたいことだと思いなさい。
２７　家を建てるのは、仕事がうまくいってからにしなさい。
２８２９無実の人に、わざと不利な証言やうその証言をしてはいけません。　「いい機会だから、これまでのお返しをしてやろう」と考えてはいけません。
３０３１怠け者の畑のそばを通ったら、いばらと雑草だらけで、おまけに柵もこわれています。　３２３３これを見て大いに勉強になりました。
「もうちょっと眠り、
もうちょっと昼寝し、
もうちょっと休もう。」
３４こんな生活をしていると、どんどん貧しくなり、どうにもならなくなります。
二五
１　次にあげるソロモン王の教訓は、ユダのヒゼキヤ王〔ソロモンより二百年のちの王〕に仕えた人々が見つけ、書き写したものです。
２３物事を秘密にするのは神様の特権、それを探り出すのは王の特権です。　だから、天の高さや地の深さ、それに王の考えを知ることはできません。
４５銀からかすを除けば良い入れ物ができ、宮廷から心の腐った役人を追い出せば正しい政治ができます。
６７勢力のある貴族か何かのように、ずうずうしく王の前に出てはいけません。　そんなことをして列の最後に回され、みんなの前で恥をかくより、呼ばれるまでじっと待つほうがりこうです。
８‐１０かっとなり、よく考えもせずに人を訴えてはいけません。　引っ込みがつかなくなり、おまけに裁判にも負けたらどうするのですか。　そんな恥をかかないためにも、まず二人だけでよく話し合いなさい。　他人に話して名誉毀損で訴えられたら、謝っただけではすみません。
１１　ほんとうに必要な時に忠告するのは、銀の器に金のりんごを盛るようなものです。

１２　正しい批判を聞くのは、勲章をもらうようにありがたいものです。
１３　使用人がよく言いつけを聞いてくれるのは、真夏のすずしい日のように気持ちのいいものです。
１４　贈り物をすると約束しながらすっぽかす者は、雨を一滴も降らせずに砂漠を横切る雲のようです。
１５　小さな水のしずくでも、長い間には堅い岩をけずります。　同じように、じっとしんぼうしていれば、最後には必ず勝つのです。
１６いくら好きな物でも、食べすぎたら気持ちが悪くなります。
１７　近所だからといって、人の家にあまり通いすぎると煙たがられます。
１８　うそを言いふらすのは、斧を振り回し、刃物を持って切りかかり、鋭い矢を射かけるのと同じです。
１９　あてにならない人に頼るのは、痛む歯でかみ、折れた足で走るようなものです。
２０　気が沈んでいる人のそばではしゃぐのは、寒さに震えている人の上着を盗み、傷口に塩をすり込むようなものです。
２１２２敵がお腹をすかせていたら食べさせ、のどが渇いていたら飲ませなさい。　そうすれば、相手は恥ずかしい思いをし、あなたは神様からほうびをいただけます。
２３　北風が吹くと寒くなるように、陰口をたたかれると腹が立ちます。
２４　怒りっぽい女と大邸宅に住むより､屋根裏部屋のすみっこで暮らすほうがましです。
２５　遠くの人からうれしい知らせをもらうのは、のどが渇いた時に冷たい水を飲むようなものです。
２６　神様を恐れる人が少しでも悪者の言い分を認めるのは、井戸にごみを投げ込むようなものです。
２７　どんなに良い物でも、食べすぎは体に毒です。　同じように、人からほめられるのはすばらしいことですが、それを意識しすぎるのはよくありません。
２８　自分の心をどうにもできない人は、堀をうめた城のように戦う力がありません。
二六
１　ばか者がほめられるとしたら、真夏に雪が降り、太陽が西からのぼっても不思議はありません。
２　雀やつばめは、すいすい飛び回っている限りだれにも害を与えないように、理由もなく人をのろっても、少しも効き目はありません。
３　ろばはくつわで、馬や反対ばかりする者にはむちで、言うことを聞かせます。
４５反対する者と議論する時は、向こうのペースにのせられないように気をつけなさい。そうでないと、同じような愚か者になります。　ばかなことを言う相手には、とぼけた返事をして、うぬぼれを打ち砕いてやりなさい。
６　反対する者を信用してことづけを頼むのは、自分で足を切り、毒を飲むようにばかげています。

７　どんなにもっともらしく語っても、ばか者の言うことは、中風の足のように役に立ちません。
８　反対する者に高い地位を与えるのは、銃に弾をこめるように危険です。
９　酔っぱらいがいばらをにぎっても痛さを感じないように、反対する者が教訓を語っても、少しも心に訴えません。
１０　腕はよくても言うことを聞かない工員より、新米の工員のほうがいい仕事をすることがあります。
１１　犬が自分の吐いた物をまた食べるように、ばか者は何度でもばかなことをします。
１２　ばか者より始末の悪い者、それはうぬぼれ屋です。
１３　怠け者は仕事にも出かけず、「外にライオンがいるかもしれないぜ」と言いわけします。　１４ちょうどドアが蝶番で回るように、ベッドの上でごろごろしています。　１５おまけに皿から口に食べ物を運ぶことさえ面倒がります。　１６それでいて、知恵のある人を七人束にしたより利口だとうぬぼれるのです。
１７　関係もないことに口出しするのは、犬の耳を引っ張るのと同じくらい、ばかげています。
１８１９人をだましておきながら、「なに、ちょっとからかっただけさ」としらばくれる者は、手あたりしだい物を投げつける気違いのように危険です。
２０　たきぎがなければ火は消え、うわさがやめば争いもなくなります。
２１　マッチ一本で簡単に火がつくように、けんか好きはすぐにけんかを始めます。
２２　うわさ話はおいしいごちそうのように食欲をそそります。
２３　素焼きの土器でも、きれいな上薬をかければ上等に見えるように、お世辞がじょうずだと悪意を隠せます。
２４‐２６憎しみをいだく者も、表面は愉快そうにしています。　しかし信じてはいけません。　うまいことを言われても油断しないようにしなさい。　心の中では、あなたをのろっているからです。　どんなに親切ぶっても憎しみは隠せません。
２７　罠をしかければ自分がかかり、人に向かって石をころがすと、戻って来た石の下敷きになります。
２８　お世辞は憎しみが形を変えただけで、人をひどく傷つけます。
二七
１　きょう一日、何が起こるかわからないのに、あすの予定を得意になって話してはいけません。
２　自分で自分をほめるより、人からほめられるようにしなさい。
３　神様に背く者は､思いどおりにならないとすぐ腹を立て､手のつけようがありません。
４　怒られるよりも、嫉妬されるほうがこわいものです。
５　愛するあまり、悪いことをしても何も注意しないより、しかる時ははっきりしかるほうがいいのです。

６　敵にうわべだけ親切にされるより、友だちに傷つけられるほうがましです。
７　お腹がいっぱいだと、どんなごちそうでもまずく感じますが、腹ぺこだと何でもおいしく食べられます。
８　家を離れてあちこち移り歩く人は、巣を離れてさまよう鳥のようです。
９　友だちに励まされるのは、香水をつけたように気持ちのいいものです。
１０　自分の友だちでも父親の友だちでも、友だちは大事にしなさい。　そうすれば、いざという時に遠くの親類をあてにしなくてすみます。
１１　物わかりのいい人間になりなさい。　そうしたら、私もどんなにうれしく、鼻が高いことでしょう。
１２　何かを始める時、物事のよくわかる人はきちんと見通しを立てますが、考えの足りない人は向こう見ずに手をつけて失敗します。
１３　見ず知らずの人の借金を立て替える以上に危ない賭はありません。
１４　朝まだ暗いうちに大声であいさつすると、いやがられます。
１５　怒りっぽい女は、いつまでもしたたり続ける雨もりのようです。　１６風を止めることも、油でぬるぬるした手で物をつかむこともできないように、彼女のぐちを止めることはできません。
１７　鉄で鉄を打つと火花が散るように、友だち同士の熱のこもった議論は、互いの刺激となります。
１８　果樹園の番人がそこの果物を食べるように、人のために働く者が給料をもらうのは当然です。
１９　顔を映すのは鏡ですが、人のほんとうの心はどんな友だちを選ぶかでわかります。
２０　野心と死には終わりがありません。
２１　銀と金の純度はるつぼでテストされ、人は、ほめられた時にどのような態度をとるかでテストされます。
２２　神様の教えに背くばか者につける薬はありません。
２３２４財産はすぐなくなり、王位もいつまでも続きはしません。　だから収入がいくらあり、家畜は元気かどうか気をつけなさい。　２５－２７牧草を刈り取り、二番草も取ったあと、山の草を集めなさい。　そうすれば、子羊の毛も山羊の乳も十分に取れ、家族の生活には困りません。
二八
１　悪者は追われもしないのに逃げ回りますが、神様を恐れる人にこわいものはありません。
２　国民が平気で悪いことをするようになると、政府は簡単に倒れますが、物事のよくわかるまじめな指導者がいれば、国は安全です。
３　貧しい人が自分より貧しい人をいじめるのは、激しい流れが、あっという間に最後の頼みの綱を押し流すようなものです。

４　法律に文句を言うのは悪者をほめるのと同じです。　法律を守ることが悪者と戦うことです。
５　悪人は、正しいことをするのがどんなに大切なことかわかりませんが、神様の教えを守ろうとする人はよくわかります。
６　うそつきの金持ちになるより、貧しくても正直に生きるほうがずっと幸せです。
７　知恵のある若者はきちんと規則を守り、非行少年は父親に恥をかかせます。
８　貧しい人からしぼり取った金は､巡り巡って､彼らに親切にする人のものになります。
９　教えをばかにする者の祈りは、かなえられません。
１０　神様を恐れる人を悪い仲間に誘う者はのろわれ、正しく生きる人を励ます人はだれにも好かれ、尊敬されます。
１１　貧しくても知恵のある人は、金持ちだとうぬぼれている人がほんとうは貧しいことを見抜きます。
１２　神様を恐れる人が成功するとだれもが喜び、悪人が成功するとがっかりします。
１３　悪いところを認めない者は成功しませんが、素直に認め、直そうとする人には、別のチャンスが転がり込みます。
１４　神様をたいせつにする人はしあわせになり、神様のことなど気にもかけない者はめんどうに巻き込まれます。
１５　貧しい人にとって、悪い支配者は襲いかかるライオンや熊のように恐ろしいものです。
１６　力に物を言わせるのは、ばかな支配者です。　金に動かされない正直な王が、長く国を治めるのです。
１７　殺人者は良心に責められ、地獄へ落ちます。　彼を止めてはいけません。
１８　正しい人は災いに会っても助け出されますが､人をだますような者は滅ぼされます。
１９　こつこつ働けば生活は楽になり、遊んでばかりいると貧乏神に取りつかれます。
２０　正しいことをしようとする人は必ず報われ、金をもうけようとあせる者はすぐ失敗します。
２１　金持ちをえこひいきするのは､一切れのパン欲しさにたましいを売り渡すことです。
２２　金持ちになろうとあせる者は、かえって貧乏になります。
２３　最後に感謝されるのは、お世辞ではなく率直な忠告です。
２４　親のものを横取りして､「いったいどこが悪いんだい」ととぼけるのは､人殺しと同じです。
２５　欲張りはけんかばかりしますが、神様に頼る人は幸せになります。
２６　自分に頼るのはばかですが、神様の知恵に頼れば安全です。
２７　貧しい人を助けておけば、いざという時に困りませんが、見て見ぬふりをすると恨まれます。
２８　正しい人は、悪人が幅をきかせると隠れ、彼らが滅びると戻って来ます。

二九
１　何度しかられても言うことを聞かない者は、突然たおれて二度と立ち直れません。
２　正しい人が治めると国民は喜び、悪人が権力を握ると嘆きます。
３　知恵のある子は父親をしあわせにしますが、売春婦とつき合う者は財産を使い果たして、親に恥をかかせます。
４　正しいことをする王は国をしっかり治め、金で動く王は国を滅ぼします。
５６調子のいいお世辞は罠です。　悪人はそれに足をとられて転びますが、正しい人は近寄ろうともしないので安全です。
７　正しい人は貧しい人の権利も認めますが、神様を信じない者は気にもかけません。
８　ばか者はけんかの種をまき散らし、知恵のある人は事を丸く収めます。
９　ばか者と言い争っても、相手はかっとなり、感情をむき出しにして、こちらをばかにするだけです。
１０　神様を恐れる人は、いのちをつけねらう者のためにも祈ります。
１１　反対ばかりする者は頭にくるとすぐどなり、知恵のある人はじっと我慢します。
１２　悪い指導者の回りには、悪い部下が集まるものです。
１３金持ちも貧しい人も、神様の前では全く同じように太陽の恵みを受けます。
１４　貧しい人を差別せずに正しくさばく王は、長く国を治めます。
１５　子供は、しかられ懲らしめられることで、何が悪いことかを知るのです。　わがままいっぱいに育てると、あとで母親が恥をかきます。
１６　支配者が悪いと国民も悪くなりますが、正しい人は必ず彼らの滅びを見届けます。
１７　子供をきびしくしつければ、老後はしあわせに過ごせます。
１８　神様を知らない国民は好き勝手に振る舞い、手がつけられませんが、国中の人が神様の教えを守ろうとする国は幸いです。
１９　右から左に聞き流す者は、しかるだけでなく、懲らしめなければ言うことを聞きません。
２０　短気な者に比べたら、ばか者のほうがまだましです。
２１　使用人を子供のころから甘やかすと､息子みたいに大きな顔をするようになります。
２２　短気な者はけんかの種をまき散らし、いつもめんどうに巻き込まれます。
２３　自分を鼻にかけすぎるとたたかれ、謙そんにしているとほめられます。
２４　悪いとわかっていながら、どろぼうに手を貸す者は、いつかは自分にいや気がさします。
２５　人を恐れることは危険な罠ですが、神様に頼れば安心です。
２６　正しい裁判をしてほしかったら、裁判官に取り入ろうとせず、神様に任せなさい。
２７　正しい人は悪人のすることが、悪人は正しい人のすることが大きらいです。
三〇
１　次にあげるのは、マサの人（アラビヤ半島の中央部以東に住む、イシュマエルの子孫）

でヤケの子アグルが、イティエルとウカルに教えたことです。
２　ああ神様！　私はくたくたで、今にも死にそうです。　おまけに、人間の資格さえないような大ばか者です。　３だいいち神様はもとより、人間というものがわかりません。それがわかるのは神様だけです。　４神様のほかにだれが、天と地の間を上り下りしたでしょう。　だれが風や海を思いのままに造り、治めているでしょう。　神様のほかにだれが、世界を造ったというのでしょう。　いるとしたら、どこのだれで、子供は何という名前ですか。
５　神様はほんとうのことしか言わず、頼って来る者をみな守ってくださいます。　６だから、神様の言うことに余計なつけ足しをして、うそをついたと言われないようにしなさい。
７　ああ神様！　最後の二つの願いを聞いてください。　８私が決してうそをつきませんように。　それから、私を特に貧乏にも金持ちにもせず、ただ生きるのにどうしても必要なものだけを与えてください。　９ぜいたくに慣れすぎて神様を忘れたり、貧乏のあまり盗みを働いて神様の顔をつぶしたりしたくないのです。
１０　雇い主に従業員の悪口を言ってはいけません。　そんなことをしたら恨まれるだけです。
１１１２親をのろい、悪いことばかりしているくせに、自分は少しも欠点がないとすます者がいます。　１３１４そんな連中は自分のことを鼻にかけ、人を人とも思いません。　貧しい人を食い物にしようと、いつも歯をとぎすましているのです。
１５１６蛭のようにしつこく、いつまでも満足しないものが二つ、三つ、いいえ四つあります。
地獄、不妊の胎、かわききった砂漠、それに火です。
１７　父親をばかにし、母親を軽べつするような者は、からすに目をほじくられ、はげたかの餌になります。
１８１９どんなに考えてもわからないことが三つ、いいえ四つあります。
どのようにしてわしは大空を飛び、
どのようにして蛇は岩の上をはい、
どのようにして船は海を横切る道を見つけ、
どのようにして若い二人の間に愛情が芽生えるのでしょう。
２０わからないことがもう一つあります。　どうして売春婦は、悪いことをしながら、あつかましく「いったい、どこがいけないのさ」と言えるのでしょう。
２１－２３地も震えるほどいやなことが三つ、いいえ四つあります。
奴隷が王になり、
謀反人が成功し、
きらわれ女が結婚し、
女中が女主人に取って代わることです。

２４‐２８体は小さくても、頭の良さでは何にも負けないものが四つあります。
力はなくても、冬の食糧を集める蟻、
弱くても、岩の間に住んで身を守る岩だぬき、
指導者がなくても、いっしょに行動するいなご、
簡単に捕まるけれど、王宮にでも住みつくやもりです。
２９‐３１地上に堂々としたものが三つ、いいえ四つあります。
こわいものなしの百獣の王ライオン、くじゃく、雄やぎ、軍隊を指揮する王です。
３２　得意になって悪いことをするのはばかです。　少しは恥ずかしいと思いなさい。
３３　クリームをかきまぜるとバターができ､鼻にパンチをくらわせると血が出るように、人を怒らすとけんかになります。
三一
１　これは、マサの王レムエルが母親に教わったことです。
２　レムエルや、おまえは神様から授かった子です。　３だから、女にうつつを抜かして自分をだめにしてはいけません。
４　レムエルや、ワインもウイスキーも王が飲む物ではありません。　５酔っ払ってばかりいたら、王の仕事は勤まりません。　苦しめられている人のために正しい裁判をしてやることもできません。　６７酒は、治る見込みのない病人や悲しみに沈んでいる人に飲ませる物です。　酒で苦しさをまぎらわすのです。
８　だれからも見放された人を守ってやりなさい。　９正しい裁判をして、貧しい人や困っている人を助けてやりなさい。
１０　ほんとうに良い妻を見つけたら、宝石よりもすばらしいものを手に入れたのです。
１１彼女は夫に信頼され、夫に決して不自由な思いはさせません。　１２いつも陰にあって夫を助け、足を引っ張るようなことはしません。　１３また羊毛や亜麻を見つけては、手まめにつむぎ、　１４外国から船で運ばれて来た輸入食品を買います。　１５まだ暗いうちに起きて朝食のしたくをすませ､使用人の仕事の計画を立てるのが､彼女の務めです。
１６畑を買う時は自分の目でよく調べて買い、ぶどう畑をつくります。　１７こまねずみのように働き、　１８へたな買い物はしません。　夜は夜で、遅くまでせっせと働くのです。
１９２０貧しい人には服を縫ってやり、困っている人を喜んで助けます。　２１家族みんなの冬服をちゃんと用意してあるので、冬がきてもあわてません。　２２部屋には最高級の絨毯を敷き、紫色の上等のガウンを着ます。　２３夫は人々に信頼される町の指導者の一人です。　２４彼女はまた、リンネルでベルトつきの服を作り、商人に売ります。
２５　上品で何事にもしっかりしている彼女には､老後の心配など少しもありません。２６決してばかなことは言わず、いつも人を思いやります。　２７家のことに何から何まで気を配り、かた時も怠けません。
２８子供たちは彼女をたたえ、夫も負けずにほめちぎります。　２９「君はほんとうにす

ばらしいね。　世界中さがしても、君ほどの女はいないよ。」
３０　人は見かけの美しさにすぐだまされますが、そんな美しさは長続きしません。　しかし神様を恐れる女は、ほめたたえられます。　３１「りっぱな女だ」と評判になり、ついには、国の指導者にまでほめられるようになります。
▪

ソロモンの人生論（伝道者の書）
この難解な書物は、神様から離れて平安を見つけようとした人が、そこには空しさしかないことを悟った、光のない人生論を記しています。人生の疑問に対する唯一の解答を、本書は結論としています。　すなわち、「神様を敬い、その命令に従いなさい。　これこそ人間の本分だからです」（一二・一三）が、それです。　この積極的な考えが導き出されるためには、幾つかの描写があり、それぞれは、神なしの生活がいかに不毛かを語っています。財産、知恵、名声、快楽など、すべては空しく、人がこの世にではなく、神様に心を向ける時にだけ、真の幸福を見いだせます。

一
１　ダビデ王の子で、エルサレムに住み、「伝道者」と呼ばれたソロモンの教訓。
２　私はこの世に価値のあるものなどないと思います。　何もかも空しいのです。　３‐７人はあくせく働いた報酬として、何を手に入れるのでしょう。
一つの時代は去り、新しい時代がきますが、少しも変わりばえしません。　太陽はのぼっては沈み、またのぼろうと、急いで元の所へ帰ります。　風は南に吹き、北に吹き、あちこち向きを変えますが、結局行き着く所もありません。　川は海に注ぎますが、海は決してあふれることはありません。　水は再び川に戻り、また海に流れて行きます。　８‐１１何もかも、くり返しだけで、あきあきしてきます。　どれだけ見ていても満足はできません。　どれだけ聞いても、もうこれで良いということはありません。
歴史はくり返すだけです。　ほんとうの意味で新しいものなど、何もありません。　たといあるように思えても、必ず前例があるか、すでにだれかが言いふるしたものです。　何か「これは新しいものだ」と指摘できるものがありますか。　それがずっと昔になかったと、どうしてわかるのですか。　私たちは、先の時代にどんなことが起こったのか、忘れてしまいます。　そればかりか、のちの時代には、私たちが今していることを、だれも覚えていないのです。
１２‐１５伝道者である私は、イスラエルの王で、エルサレムに住んでいました。　私は宇宙のあらゆることを理解しようと、全力を注ぎました。　その結果、神様が人間への分け前としてお与えになったものは、決して楽しいものでないことがわかりました。　それはみな、ばかばかしく、風を追うように空しいものです。　まちがいは直せません。　覆水盆に返らず、です。　以前あったかもしれないものを考えてみたところで、何の役に立つでしょう。
１６‐１８私は自分に言い聞かせました。　「これまでのエルサレムのどの王より、いろんな勉強もした。　どの王より知恵や知識を得た。」　私はりこうになろうと、一生懸命に努力しました。　ところが、今ではそんな努力さえ、風をつかまえるようだとわかったのです。　りこうになればなるほど、悲しみも増えるからです。　知識を増すことは、悩みを増すことにほかなりません。

二

１２それで「よーし、愉快にやろう。　思うぞんぶん楽しむことだ」と、ひそかに思いました。　ところが、こうした生き方も実にくだらないことがわかりました。　寝ても覚めても笑っていたら､頭がおかしくなったと思われます。 それが何の得になるのでしょう。

３　いろいろやってみてから、私は知恵を探求し続ける一方で、酒を飲んでみようと思いました。

次に、もう一度考えを変えて、ばかになりきることにしました。　普通にいう幸福も味わってみよう、と思ったからです。

４‐６今度は､大規模な事業に乗り出して､仕事からくる充実感を得ようとしました。 邸宅を建て、ぶどう園、庭園、公園、それに果樹園までつくり、良い作物を実らせるために貯水池までつくってみたのです。

７８次に、男女の奴隷を買いました。　私の家で生まれた奴隷たちもいます。　ほかに家畜の群れも飼ってみましたが、その数は以前のどの王よりも多かったのです。　さらに、多くの州や国から、税金として金銀をかき集めました。

文化活動としては、混声コーラス・グループやオーケストラを組織しました。

その上、大ぜいの美しいそばめがいたのです。

９　こうして、歴代のエルサレムの王もやらなかったような、あらゆることをやってみました。　両眼をしっかり見開いて、これらのものの価値を見極めようとしたのです。　１０欲しいものは何でも手に入れ、したい放題の楽しみをしてみました。　つらい仕事にも大きな喜びがあることさえ知りました。　この喜びこそ、実に、あらゆる労働に共通した報酬なのです。

１１　しかし、してきたことを振り返ってみると、どれもこれも役に立たないことばかりで、風をつかむようなものです。　これこそ価値があると言えるものなど、どこにもありません。　１２そこで、知恵と無知の価値を比較してみることにしました。　きっとだれでも、同じ結論に達すると思います。　１３１４それは、こういうことです。　光が暗やみより良いように、知恵は無知よりはるかに価値があります。　りこうな人は物事を正しく判断しますが、頭の悪い人は、先のことがわかりません。　ところが私は、りこうな人にも頭の悪い人にも共通点があることに気づきました。　１５頭の悪い人が死ぬように、この私も死ぬのです。 だから､知恵をつけたって､いったいどうなるというのでしょう。こうして、知恵をつけることでさえ空しいものだと悟りました。　１６りこうな人も頭の悪い人も死ぬのです。　時がたてば、両者とも、すっかり忘れられてしまいます。　１７ここまでくると、生きているのがいやになりました。　人生は不条理きわまりないからです。　何もかもばかげていて、風をつかむようなものです。

１８　一生懸命に築き上げたものが他人のものになると思うと、うんざりしてきました。

１９そればかりか、跡取り息子が馬鹿かりこうか、だれにわかるでしょう。　それでも、私の財産は何もかも、息子のものになるのです。　気分がめいることではありませんか。

２０‐２３こうして、満足感を与えてくれると考えていた労苦にも愛想をつかし、見切りをつけました。　たとい、生涯かけて知恵や知識や技術を追求しても、せっかく手に入れたものを全部、何もしないでぬくぬくとしていた者に、譲るはめになるのです。　彼が、私の汗の結晶をさらっていくのです。　不公平を通り越して、ばかばかしいことです。　どれほど必死に働いても、何の役にも立ちません。　あるものと言えば、悲しみと悩みに押しつぶされそうな、心の休まらない日々と、眠れない夜です。　全くばかばかしい話ではありませんか。
２４‐２６そこで私は、食べたり飲んだりすることと、仕事を楽しむこと以外に生きがいはない、と判断しました。　しかも、このような楽しみさえ神様の御手から来るとわかったのです。　というのも、神様のお世話にならなければ、だれも食べたり楽しんだりはできないからです。　神様は、おこころにかなった者に知恵、知識、喜びをお与えになります。　ところが、罪人が金持ちになると、その財産を取り上げ、おこころにかなった者に分けてやるのです。　ここにも、風をつかむようなばかばかしさの一例があります。
三
１　何事にも時があります。
２　生まれる時
死ぬ時
植える時
収穫の時
３　殺す時
病気が治る時
こわす時
やり直す時
４　泣く時
笑う時
悲しむ時
踊る時
５　石をばらまく時
石をかき集める時
抱きしめる時
抱きしめてはいけない時
６　何かを見つける時
物を失う時
たいせつにしまっておく時
遠くに投げ捨てる時
７　引き裂く時

修理する時
黙っている時
口を開く時
８　愛する時
憎む時
戦う時
和解する時
９　一生懸命に働いたところで、何の利益があるでしょう。　１０このことを、神様が人間にお与えになったさまざまの仕事と関連して、考えてみました。　１１あらゆることには、潮時というものがあります。　神様はまた人間の心に、永遠を思う思いをもお与えになりました。しかし、人は神様の働きの全体を見ることができないのです。　１２私の結論はこうです。　第一に、できるだけ幸福に過ごし、人生を楽しむ以上に、すばらしいことはないということです。　１３第二に、人は、食べたり飲んだりして、自分の労苦の実を楽しみ、味わうべきだということです。　それは神様からの贈り物だからです。
１４　続いて、次のことも知りました。　神様のなさることは一点の非の打ちどころもなく、何一つつけ加えたり、取り除いたりすることはできません。　神様はこのことを通して、人が全能の神様を恐れるようにと願っておられるのです。
１５　今あるものは、ずっと昔にもありました。　これから起こることも、以前に起こっています。　神様は、はるか昔にあって今は跡形もなくなっているものを、再び実現しようとしておられるのです。
１６　それだけでなく、世界中で正義がすたれて犯罪が増し、法廷さえ金次第になっていることがわかりました。　１７私は自分に言い聞かせました。　「神様はやがて、人間のしたことを、良いことも悪いことも全部おさばきになる。」
１８　また、神様が罪深い今の世界をそのままにしておかれるのは、人間をテストするためであり、人間が獣と変わらないことを悟らせるためであることに気づきました。　１９人間も動物も、同じ空気を吸い、死んでいきます。　ですから、人間が獣より優れている点などないのです。 なんとばかげたことでしょう。 ２０どちらも同じ所へ行くのです。土から出て土に帰るのです。　２１こんなことを言うのも、人の霊は天にのぼり、動物の霊は地中深く降りて行くことを、だれひとり証明できないからです。　２２だからこそ、自分の仕事に生きがいを見いだす以上に幸福なことはない、と判断したのです。　これが地上にいる理由です。　未来に起こることを楽しめはしないのですから、今のうちに人生をぞんぶんに楽しむことです。
四
１　次に私は、世界中のしいたげと悲しみを見ました。　しいたげられる人が涙を流しても、だれも手を貸そうとしません。　一方では、しいたげる者たちは、しっかりと手を組んでいます。　２ですから、死んだ人のほうが生きている人よりましだと思いました。　３

中でもいちばん幸福なのは、生まれて来なかった人で、地上の悪を見たことのない人です。
４　次に、物事を成功させる原動力は、ねたみであることを知りました。　これもまたばかげたことで、風をつかむような話です。　５６ばか者は、いっこうに働こうとせず、餓死すれすれの線をさまよいます。ところが結局は、空しいの一語に尽きるような労働を続けるより、のんびりその日暮らしをするほうが、ましだとわかるのです。
７　ばかばかしいことが、もう一つあります。８息子も兄弟もいない一人暮らしの人が、もっと金持ちになろうと目の色を変えている場合です。　この人は、だれに全財産を残そうというのでしょう。　全くつじつまの合わない、憂うつな話です。
９　二人が手を組めば、一人の場合の倍以上のことができます。　結果から見れば、二人のほうがずっといいからです。　１０片方が倒れても、もう一方が起こせます。　ところが、一人の時に倒れたとなると、なんとも惨めです。
１１　また、寒い夜、二人が一枚の毛布をかぶって寝ても、お互いの体温で暖かくなります。　しかし、ひとりでは、どうにも暖まることができません。　１２一人では、攻撃を受けると負けてしまいます。　しかし二人なら、背中合わせになって戦うことができ、相手に勝つことができます。　三人なら、なお結構です。　三つ撚りの糸は、めったなことでは切れないからです。
１３　貧乏でもりこうな若者は、どんな忠告も受けつけない年取ったばかな王よりましです。　１４そんな若者は、牢獄から出て立身出世することでしょう。　それどころか、生まれが卑しくても、王にだってなれるかもしれません。　１５こんな若者なら、たとい王位を奪うことであっても、人々は喜んで協力するに違いありません。１６こうして彼は、幾百万もの人の指導者となり、非常に有名になるかもしれません。　ところが、次の世代の人は、彼を追放してしまいます。　これもまたばかげたことで、風をつかむような話です。
五
１－３神殿に入る時は、聞き耳を立て、口は堅くつぐみなさい。　神様に軽はずみな約束をするのは罪です。　それがわからないほど、ばかになってはいけません。　神様は天におられ、私たちは地にいるのですから、口数はできるだけ少なくすべきです。　あまり忙しすぎると悪夢にうなされるように、ばかになると急におしゃべりになるものです。　４神様に、何かをしますと誓いを立てた時は、さっそく実行しなさい。　神様は、ばかな人間をお喜びにならないからです。神様との約束は、どんなことがあっても果たしなさい。５何かをしますと言いながらしないより、初めから口にしないほうがずっと良いのです。６７約束を果たさなければ、口で罪を犯すことになります。神様の使者に、誓いを立てたのはまちがいでした、などと弁解してはいけません。　それを聞いて神様は腹を立て、あなたの財産を投げ捨てるかもしれないからです。　夢ばかり見ていて実行しないのは、愚の骨頂です。　意味のないことをぺらぺらしゃべると、滅びを招きます。　そんなことをしないで、神様を恐れなさい。

８　貧乏人が金持ちにいじめられ、国中で正義が踏みにじられているのを見ても、別に驚くことはありません。　どの役人にも上役がいて、その上にさらに高官がいるからです。こうして糸をたぐっていくと、官僚政治の壁にぶつかります。　９ところが、全体の上に王が立てられています。　もしその王が、国のために何もかもささげ尽くした王なら、どんなにすばらしいことでしょう。　そうした人物だけが、国を混乱から救えます。
１０　金銭を愛する者は、決してこれで満足だということがありません。金さえあれば幸せだという考えは、なんとばかげていることでしょう。１１収入が多くなれば、それにつれて支出も多くなります。　だから、金銭にどんな利益があるのでしょう。　指の間から漏れるのを見るのが、関の山です。　１２汗水流して働く人は、食事の多少にかかわらず、ぐっすり眠ります。　しかし、金満家は不安につきまとわれ、不眠症に悩まされます。
１３１４私はまた、ここかしこに深刻な問題があるのに気づきました。せっかくの貯金が危険な投資に使われ、子供に残す財産もなくなってしまうという現実です。　１５投機に手を出す者は、すぐさま、無一文の振り出しに戻ります。　１６これは先に指摘したように、とても深刻な問題です。　どんなに働いても、ざるで水をくむようなものであり、風をつかむようなものです。　せっかく手に入れたものが、全部なくなってしまいます。　１７その上、残る生涯を、陰気に、失意と挫折感に打ち沈み、世間を恨んで過ごすことになります。
１８　こうは言っても、良いことだって、少なくとも一つはあります。生きている限りは、おいしい物を食べ、上等のワインを飲み、置かれた立場に甘んじ、与えられた仕事がどのようなものであれ、それを楽しむことです。　１９２０神様のおかげで財産家になり、そのうえ健康にも恵まれているとしたら、それこそ申し分のないことです。　仕事を楽しみ、与えられた人生に満足することこそ、神様からの贈り物です。こういう人は、神様から喜びを与えられているのですから、悲しい思いで過去を振り返る必要などありません。
六
１２ところで、至る所に、鼻持ちならない悪がはびこっています。ある人は、神様から巨万の富と名誉をいただき、欲しいものは何でも手に入る身分でありながら、人生を楽しむだけの健康に恵まれていません。　そのため早死にして、全財産を他人の手に渡してしまいます。これは実に悪質な冗談で、やりきれない思いがします。
３　一方では、百人の息子と娘に恵まれ、長寿を全うしながら、わずかばかりの遺産もなく、子供たちは満足な葬式さえ出せないことがあります。　この人は生まれて来なかったほうがましです。　４誕生が喜ばれず、闇から闇に葬られ、名前さえつけてもらえず、　５陽の目も見ず、その存在さえ知られないとしても、みじめな老人になるよりずっとましです。　６何千年生きたとしても、満足することがなければ、生きていることに何の価値があるのでしょう。
７８りこうな人もばか者も、食べ物を得るために人生を費やしますが、もうこれで十分だということがありません。　そういう意味では、どちらも同じです。　しかし、貧しくて

もりこうな人は、ずっとましな生活をしています。　９手の中の一羽の鳥は、やぶの中の二羽より価値があります。　あこがれているものを夢見ているだけでは、ばかばかしいことで、風をつかまえるようなものです。
１０　あらゆるものには定まった運命があります。　それぞれの将来は、ずっと以前からわかっています。　だから、自分の運命について神と議論してもむだです。
１１　しゃべればしゃべるだけ、口にすることばの意味が薄れてきます。　だから、全然しゃべらないほうがましです。
１２　空しい人生のわずかの歳月だというのに、どうしたら最高の生き方ができるのかわかりません。 死んだ先のことまで考えると､何が最善かを言い当てることはできません。将来の見通しのつく人は、一人もいないからです。
七
１　良い評判は、最高級の香水より値打があります。
死ぬ日は、生まれた日よりたいせつです。　２宴会に顔を出すより、葬式に列席するほうが得です。　私たちはやがて死ぬ運命にあるのですから、まだ生きているうちに、死について考えるのは良いことです。　３悲しみは笑いよりまさっています。　悲しみは、私たちの心から不純物を取り除く効果があるからです。　４りこうな人は死についてじっくり考えますが、ばか者は今どうしたら愉快に過ごせるかだけを考えます。
５　ばか者からちやほやされるより､りこうな人から痛烈な批評を受けるほうがましです。６ばか者のお世辞は、火にくべた紙切れのように、何の役にも立ちません。　そんなものに心を動かすとは、ばかもいいところではありませんか。
７　りこうな人でも、わいろによってばか者になります。　わいろは人の判断力を麻痺させるからです。
８　物事の終わりは初めよりまさっています。　忍耐は高慢に勝ちます。　９短気を起こしてはいけません。　短気はばか者の特徴です。
１０　過ぎ去った昔の栄光に未練を残してはいけません。　ほんとうに昔が今より良かったかどうか、わからないからです。
１１　りこうになることは、金持ちになると同じくらい価値があります。　いや、それ以上です。　１２知恵からでも金銭からでも、利益をあげることができます。　しかし、りこうになることのほうが、多くの利点があります。
１３　神様のなさることに目を留め、それに従いなさい。　自然界の道理を敵に回してはいけません。　１４順境の時には、できるだけ楽しみなさい。　逆境が訪れたら、神様は与えると同時に取り上げる方だと知りなさい。　こうしてすべての人が、この世ではあらゆるものが空しいと悟るのです。
１５－１７私は、このばかげた人生のすべてを見てきました。　善人が若死にし、悪人がうんと長生きすることだってあるのです。　だから、正しすぎるのも困るし、りこうすぎても困るわけです。　極端に走って自滅してはいけません。　一方、悪人になりすぎるの

も問題だし､ばか者になるのも考えものです。 天寿を全うする前に死んではいけません。
１８　任せられる仕事は、どんなことがあっても手放してはいけません。　神様を敬っているなら、きっと神様からの祝福を期待できるのです。
１９　知恵のある人は、十都市の市長を合わせたより力があります。２０この世界には、いつも品行方正で、一度も罪を犯さない人など一人もいません。
２１２２人の言うことをいちいち気にしてはいけません。　ことによると使用人からのろわれるかもしれません。　あなただって、何度も人をのろったはずです。
２３　私はりこうになろうと､できるだけのことをしてみました｡「きっとりこうになってやる」とも、人前で言ってみましたが、はったりにすぎませんでした。　２４知恵は遠いかなたにあって、探し出すのはきわめて困難です。　２５私は知恵と物事の道理を見つけようと、四方くまなく探しました。　また、軽率な行為がどれほど悪く、ばかにつける薬はないことを、身をもって知ろうとしました。
２６　売春婦は死よりも大きな苦痛を与えます。　神様に喜ばれる者は恵みによって、彼女から逃れますが、罪人は彼女のしかけた罠にかかってしまいます。
２７２８「私の結論はこうです」と、伝道者は言います。　私はあらゆる方面から調べてみて、次のことを確信するようになりました。　私が面接した男性の千人に一人は、確かに知恵がある人物です。しかし女性の場合には、一人の該当者もいませんでした。
２９　さらに、こんなこともわかりました。　神様は人を正しい者に造られたのに、だれもがかってに向きを変え、罪の生活へと走りだしたのです。
八
１　知恵を身につけて、物事を正しく判断し、さらに分析し説明できる能力があったら、なんとすばらしいことでしょう。　知恵は人の顔をぱっと明るくし、顔の堅さをほぐします。
２３誓ったとおりに王に従いなさい。　いつでも、どんないやなことであっても、義務から逃げようとしてはなりません。　王は不従順な者に罰を加えるからです。　４王の命令は大きな権力に裏打ちされているのですから、それに逆らったり、疑問を差しはさんだりできる者はいません。　５従順にしていれば罰せられることもありません｡りこうな者は、自分のことばを実行する、時と方法とを知っています。　６７そうです。　すべてのことに時と方法があるものです。　たとい、困ったことが頭上に重くのしかかっている場合でもです。　人は、自分の知らないことが身に降りかかるのを、避けることはできません。
８　だれも、たましいが体から離れるのをとどめることはできません。　だれも、自分の死ぬ日をかってに決めることはできません。　この暗黒の戦いを免れることは、絶対にできないのです。　その場に臨んだら、どんな悪人でも、じたばたしないことです。
９１０私は、人々が支配したりされたりして互いに傷つけ合っているすべてのことを、深く考えてみました。　悪者の葬式をすませ、墓地から帰って来る時には、友人たちは故人のした悪事をすっかり忘れています。　それどころか、この男は、生前に多くの犯罪を重

ねた当の町で、ほめそやされるのです。　なんとおかしな話でしょう。　１１神様はすぐに罪人を罰しないので､人々は悪いことをしても別にこわくないと思っているのです。　１２百度も罪を犯して、なお生き長らえている人があるとしても、神様を敬っている人のほうが、ずっとしあわせです。　１３悪者どもは長生きできませんし、幸福な生活も送れません。　彼らは神様を敬わないので、その一生は影のように素早く過ぎ去ります。
１４　この地上では、奇妙なことが起こっています。　善人が悪人のような待遇を受け、逆に、悪人が善人のような待遇を受けている事実です。　これもまた、なんとも割り切れない思いにさせられます。
１５　そこで私は、おもしろおかしく一生を送ろうと決心しました。この世に、食べて、飲んで、愉快にやること以外に良いことはない、と考えたからです。　この幸福は、神様が世界中の人に与えておられるつらい仕事に、くっついてくるものです。
１６１７私は知恵を尋ね求めている間に、地上での、休むことのない、人の活動を観察してみましたが、すべてのことを見抜くのは神様だけでした。　自分は何でも知っているんだとうそぶく、知恵のかたまりのような人でも、実はわずかのことさえ知らないのです。
九
１　私は注意して、次のことも調べてみました。　神様を敬う人も知恵のある人も、神様のご計画の中にあるということです。　はたして神様が自分をひいきにしてくださるかどうかは、だれにもわかりません。　何もかも偶然の組み合わせなのです。　２３善人であろうが悪人であろうが、宗教の有無を問わず、神様をののしる者であろうが敬う者であろうが、どんな人も、同じ摂理で動かされています。　すべての人に同じ結末がくるとは、なんと不公平でしょう。　だからこそ、人は正しく生きようとはせず、むしろ、気違いじみた道を選ぶのです。　待ちかまえているのは死だけですから、希望などありません。
４　生きている人にだけ、希望があります。　「死んだライオンより、生きている犬のほうがましだ」と言われるとおりです。　５生きている者には、少なくとも、自分は死ぬという自覚があります。　ところが、死んだ者は何一つわからないのです。　記憶さえありません。６愛したこともねたみ憎んだことも、とっくの昔に消えてなくなり、もはやこの地上には、一つも分け前がないのです。　７だから、食べて、飲んで、愉快にやるに限ります。　そうしたからといって、神様にはどうということはないのです。　８かぐわしいオーデコロンを振りかけ、すてきな服を着なさい。　９短い一生の間、愛する女性と幸福に過ごしなさい。　神様が下さった妻は、地上での労苦に対する最大の報酬だからです。
１０何をするにしても、りっぱに仕上げなさい。　これから行こうとする死の世界では、仕事も計画も知識も理解力もないからです。
１１　私は再びこの世界を見て、足の速い人が必ずしも競走で勝つとは限らず、強い人が必ずしも戦いに勝つわけでもなく、りこうな人がかえって貧乏暮らしをし、腕はあっても認められない人がいることを知りました。　あらゆることが偶然の組み合わせであり、出る場所と時が良ければ、勝運に恵まれるのです。　１２いつ悪運にみまわれるかを知って

いる人はいません。　人はみな、網にかかった魚、罠にかかった鳥のようです。
１３　人間界の出来事を見つめてきた私に、もう一つ深く印象に残っていることがあります。　１４人口の少ない町があり、そこに強い王が大軍を率いて攻めて来て、包囲した時のことです。　１５この町に、知恵はありながら非常に貧しい人がいました。　この人は町を救う方法を知っていたので、町の解放に力を尽くしました。　ところが、あとになると、だれひとり彼のことを思い出さないのです。　１６このことから、なるほど知恵は力以上のものだが、その人が貧しければ、さげすまれ、言ったことも感謝されないのだとよくわかったのです。　１７しかし、そうは言うものの、知恵ある人の穏やかなことばは、薄ばかな王のどなり散らすことばより、値打があるのです。　１８知恵は武器にまさるものですが、たった一回のミスで、物事全部をだめにもします。
一〇
１　死んだハエは、香水さえ臭くします。　同じように、ちょっとした過失でも、多くの知恵と名誉をだいなしにします。　２りこうな人は正しい道に足を向け、ばか者は悪の道に向かいます。　３どこを歩くかで、その人がわかります。
４　上役にしかられても、職場を放棄してはいけません。　冷静な態度は、相手の不きげんをなだめるものです。
５　世の中の移り変わりに注意していると、もう一つの悪が目につきました。　王や支配者のことです。　６ばか者に大きな権威が与えられているのに、りこうな人で、当然と思える社会的地位さえ与えられていない人を知っています。　７また、召使が馬上でふんぞり返り、君主が召使のように歩いている姿も見ました。
８９井戸を掘ると中に落ち、古い石垣をこわすと蛇にかまれます。　採石場で働いていると落石につぶされることがあり、斧を振り上げるたびに危険にさらされます。
１０　斧の切れ味が悪くなると、力ばかりいるようになります。　そんな時には、頭を働かせて刃をとぐことです。
１１　馬が盗まれてから馬小屋に鍵をかけても、あとの祭りです。
１２１３知恵あることばは心地よいが、ばか者のおしゃべりは身を滅ぼします。　彼の話の前置きがばかげているかと思えば、その結論も気違いじみています。　１４ばか者は将来について何でも知っているふりをして、事細かに話して聞かせます。　しかし、これから起こることは、だれにもわからないのです。　１５ばか者はちょっとした仕事にも動揺するので、ごくささいなことにも力を出せません。
１６１７王が幼く、指導者たちが朝っぱらから酔っている国は、とんでもない目に会います。　王は名門の出で、指導者たちは勤勉を第一と心がけ、これからの仕事の景気づけをする時にだけ宴会を開いて飲む国は、しあわせです。　１８怠けていると、天井から雨がもり、たるきが腐ってきます。　１９パーティーは笑いを、ぶどう酒は幸福感を、金はいっさいのものを与えます。　２０たとい心の中であっても、王をのろってはいけません。金持ちをのろってもいけません。　小鳥が彼らに、あなたがどんなことを言ったかを告げ

るからです。
一一
１　気前よく与えなさい。　あとになって、与えたものが戻ってくるからです。　２持っているものを、人々に分け与えなさい。　あとになってあなたも、人から助けてもらうことになるからです。
３　雲が垂れこめると雨が降ります。　斧が木にあてられるとは、木が北に倒れようが南に倒れようが、すでにさいは投げられたことを意味します。　４条件が良くなるまで待っていたら、何一つ仕上げることはできません。　５神様のなさることは風の通り道と同様に神秘的です。　それはまた、母親の胎内の赤ん坊にたましいが吹き込まれるのと同じように、不可思議なものです。　６手を休めずに種をまきなさい。　どの種が芽を出すか、わからないからです。　ひょっとしたら、ぜんぶ芽を出すかもしれません。
７　生きていることは実にすばらしいことです。　８長生きしている人は、一日一日をぞんぶんに楽しみなさい。　ただし、永遠と比べたら、地上のことはみな空しいことを覚えておきなさい。
９　若い人よ。　若いことは実にすばらしい。　四六時中、青春を謳歌しなさい。　したいことは何でもしなさい。　欲しいものは何でも手に入れなさい。　しかし、自分のしたことはみな、神様の前で申し開きをしなければならないことを覚えておきなさい。　１０だから､悲しみと痛みとを取り除きなさい。 青春時代は前途が洋々としているとはいえ、重大な過ちを犯しがちでもあることを、忘れてはいけません。
一二
１　若さに酔って、あなたの造り主である神様を忘れてはいけません。　生きていることを楽しむ余裕などない逆境の時がくる前に、若い日に神様を信じなさい。　２年をとり、陽の光や月、星がかすんでよく見えず、夢も希望もなくなってから、神様を思い出そうとしても手遅れです。　３やがて、手足が老齢のため震えるようになり、しっかりしていた足も弱くなり、歯がなくなって物もかめず、目も見えなくなる時がきます。　４歯がなくなれば、物を食べる時でも、もぐもぐするばかりです。　鳥がさえずり始める朝早く目が覚めても、あなたは耳が遠くて聞こえず、声もしわがれてきます。　５あなたは、高い所をこわがり、転ぶことを案じる白髪のしわだらけの老人となり、足を引きずりながら歩きます。　性欲もなく、死の門のそばに立ち、死んだ人を嘆く者のように、永遠の家へと近づいて行きます。
６　もう一度いいます。　まだ若い今のうちに、あなたの造り主を思い出しなさい。　銀色のいのちのひもが切れ、金のおわんがこわれ、水がめが泉のそばでこわれ、滑車が井戸のそばでこわれない前に。７やがて、ちりは元の地に帰り、たましいは、これを授けてくださった神様のもとに帰ります。　８伝道者は強調します。　何もかも空しいのだ、と。
９　しかし､伝道者は知恵があったので､自分の知っていることをぜんぶ人に教えました。また、さまざまの人生訓を集め、それを分類しました。　１０知恵があっただけでなく、

優れた教師でもあったからです。　彼は人々に、自分の知っていることを興味深く教えたのです。　１１知恵ある人のことばは、家畜を追い立てる突き棒のようなものです。それは、たいせつな真理を逃しません。　教師の語ることを身につける学生はりこうです。

１２　注意してください。　人の意見には際限がありません。　それをぜんぶ学ぼうと思ったら、いつになっても終わりがなく、疲れきってしまいます。

１３　これが私の最終的な結論です。　神様を敬い、その命令に従いなさい。　これこそ人間の本分だからです。　１４神様は私たちのすることは何でも、人目につかないものでも、善でも悪でも、みなさばかれるのです。

▪

愛の歌（雅歌）

ソロモンとシュラムの婦人との愛を歌う本書は､叙情詩や歌でつづられていて､「歌の中の歌」と言われています。　内容は単純ですが、感動的で、恋人同士がお互いに求め合う姿や、克服しなければならない葛藤、愛によって呼び覚まされるやさしい感情から、恋人同士がいっしょにいる喜びなどが描かれています。　ソロモンや彼の恋人とともに登場するエルサレムの娘たちは、彼女たちの観察を加えることにより、物語を劇的なものにしています。

一

１　ソロモン王が作ったこの歌は、ほかのどんな歌よりすばらしいものです。
おとめ「２もっともっと口づけしてください。　あなたの愛は、ぶどう酒より甘く、　３あなたのオーデコロンは､なんとすてきな香りでしょう。　名前もとても魅力的です。　若い娘たちが夢中になるのも無理はありません。　４私を連れて行ってください。さあ、走って行きましょう。」
おとめ「陛下は私を、宮殿に連れて行ってくださいました。　私たちは幸せでいっぱいです。　あなたの愛は、ぶどう酒以上です。若い娘たちが夢中になって当然です。」
おとめ「５エルサレムの娘さん、私はケダルの天幕（荒野のアラビヤ人が住む黒いテント）のように、日焼けして黒いわ。　でも、きれいでしょう。」
ソロモン王「いや、わたしの絹の天幕のように愛らしいよ。」
おとめ「６町の娘さん、そんなに見つめないでちょうだい。　私の肌はとても黒いんですもの。　兄にしかられ、かんかん照りのぶどう園の番をさせられたので、すっかり日焼けしてしまったの。」
おとめ「７私の愛する方、どうか教えてください。　きょうは、羊の群れをどこへ連れて行くのですか。　お昼には、どこにいらっしゃるの。　私は、あなたの仲間に混じって浮浪者のようにうろつき回りたくありません。　いつもおそばにいたいのです。」
ソロモン王「８世界でいちばん美しい女よ、それなら、群れのあとについて行って羊飼いのテントを捜しあて、そこで、君の羊と子羊の世話をしなさい。　９愛する人よ。　君はかわいい子馬のようだ。　１０頬にたれる髪の毛が、とてもすてきだよ。　宝石をちりばめた首飾りをつけた首には、気品が漂っている。　１１君のために、金のイヤリングと銀の首飾りを作ってあげよう。」
おとめ「１２ベッドに横になられた陛下は、私のつけている香水の香りにうっとりしています。　１３私の愛するお方は、乳房の間にある、没薬の匂い袋のようです。」
ソロモン王「１４私の愛する人は、エン・ゲディ（死海西岸のオアシス）の植物園にある花束のようだ。　１５愛する人よ。　君はなんて美しいんだ。　どう言ったらいいか、わからないほどだ。　目は鳩のようにやさしく、　１６草の上に身を横たえる姿は、まるで

絵に描いたようだ。　１７その上に、杉や糸杉が影を落としている。」
二
おとめ「１私はシャロンのサフラン、谷間のゆりです。」
ソロモン王「２そうだ、まさにゆりだ。　私の愛する人とほかの娘たちを比べたら、いばらとその中に咲くゆりの花ほども違う。」
おとめ「３私の恋人はほかの男の方と比べたら、果樹園の中のいちばん上等のりんごの木のようです。 私は慕わしいお方の陰に座りましたが､その実は口の中でとろけそうです。４あの方は私を宴会の広間に連れて行かれますが、そこでだれもが、あの方がどんなに私を愛しておられるかを見るのです。　５あなたの干しぶどうで、あなたのりんごで、そうです、あなたの愛で、私を元気づけてください。　私は恋わずらいをしているのです。　６あの方は、左手を私の頭の下にあて、右手でしっかり抱いてくださいます。　７エルサレムの娘さん、あなたがたに、かもしかや野の鹿を指して誓ってほしいのです。　どうか、私の恋人を起こさないでください。　十分に寝かせてあげてください。」
おとめ「８ああ、愛するお方の声が聞こえます。　あの方は、山々を跳び越え、丘々を跳ねるようにしておいでになります。　９まるでかもしかか若い雄鹿のように。　ご覧になって、あの方は壁のうしろにいます。　今度は、窓からのぞいています。
１０あの方は、こうおっしゃいました。　『愛する人、いとしい人よ、さあ、起きて、出ておいで。　１１冬は過ぎ、雨もすっかりあがったよ。　１２花が咲き、小鳥の歌う季節になった。　そう、もう春なんだよ。　１３若葉がもえいで、ぶどうの木は花ざかりだ。たまらないほどいい香りを放っている。　愛する人、いとしい人よ、さあ、起きて、出ておいで。』
１４崖の岩のうしろに隠れている私の鳩よ、私を呼んで、美しい声を聞かせてください。りりしいお顔を見せてください。
１５小ぎつねがぶどう園を荒らし回っています。　捕まえてください。　ぶどうの木は花ざかりなのですから。
１６私の愛する方は私のもの、私はあの方のもの。　あの方は、ゆりの花の間で羊の群れを飼っています。　１７ああ、お慕いしてやまない方、夜が明け、影が消える前に、私のところへ来てください。　帰って来て、険しい山の上のかもしかや、若い雄鹿のようになってください。」
三
おとめ「１ある夜のこと、恋人は私のベッドから姿を消してしまいました。　起きて捜しましたが、見あたりません。　２通りへ出て夢中で捜しても、どこにもいないのです。　３途中、警官に呼び止められたので、『どこかで、私が心から愛している方を見かけませんでしたか』と尋ねてみました。　４それからほんの少しして、あの方は見つかりました。　私はうれしくて、あの方をしっかりつかまえ、実家へお連れし、母の古い寝室へ案内しました。

５エルサレムの娘さん、あなたがたに、かもしかや野の鹿を指して誓ってもらいたいのです。　私の恋人を起こさないでください。　十分に寝かせてあげてください。」
エルサレムの若い娘たち「６没薬や香料、そのほか手に入るかぎりの香りのあるものをぷんぷんさせながら、煙のように荒野から上って来るのは何ですか。　７ご覧なさい。　あれは、六十人のえりぬきの勇士に守られた、ソロモン王のみこしです。　８みな腕の立つ兵士で、経験を積んだボディー・ガードです。　めいめい、夜襲に備えて王を守るため、腰に剣を下げています。　９みこしは、王がレバノンの木で特別にあつらえたものです。
１０その支柱は銀、天蓋は金、座席は紫のカバーがかかっています。　背当てには、『エルサレムの娘たちから愛を込めて』という文字が、ちりばめてあります。」
おとめ「１１シオン（エルサレム）の娘さん、さあ、ソロモン王を見に出かけなさい。　陛下の喜ばしい結婚式の日に、母上が手ずからかぶせたという冠を見てごらんなさい。」
四
ソロモン王「１愛する人よ。　君はなんて美しいんだ。　全くほれぼれするほどだ。　その鳩のような目がたまらない。　君の顔にゆれる髪は、ギルアデの山腹を跳ね回る山羊の群れのようだ。　２歯は、毛を刈って体を洗ってもらったばかりの羊の群れのように、真っ白で、きれいな歯ならびだ。　３くちびるは赤い糸のようで、かわいらしい口もとが、何とも言えない。　巻き毛のかかる頬は愛らしく、ふくよかだ。　４首は、千人の英雄の盾で飾られているダビデの塔のように、しっかりしている。　５二つの乳房は、ゆりの間で草を食べている、ふたごの子鹿のようだ。　６夜が明け、影が消えるまでに、私は没薬の山、香料の丘に行っていよう。　７愛する人よ。　君のすべてが美しい。
８花嫁よ、私といっしょにレバノンから来なさい。　山の頂上から、ヘルモン山のいただきから、見下ろしてみよう。　そこにはライオンのほら穴があり、ひょうがうろついている。　９美しい花嫁よ。　君は私をとりこにしてしまった。　君のただ一度のまなざしと、ネックレスのただ一つの宝石で、私はすっかり心を奪われてしまった。　１０いとしい花嫁よ。　君の愛は、なんと甘いことか。　ぶどう酒も比べものにならないほどだ。　君の愛の香水は、最高の香料よりかぐわしい香りを放っている。　１１いとしい人よ。　君のくちびるは、はち蜜でできている。　舌の裏には蜜とクリームがある。　君の服は山やレバノン杉の香りがする。
１２私のいとしい花嫁は、ほかの人の入れない庭園、私だけの泉だ。　１３１４君はまるで、おいしい実の取れる、見事な果樹園のようだ。　そこでは、ナルド、サフラン、しょうぶ、シナモンといった最高の香料をはじめ、種々の香料、没薬とアロエ、良質のスパイスなどが取れる。　１５君は庭園の泉、湧き水の井戸で、レバノンの山山から流れ落ちる冷たい水のように、私をさわやかな気分にしてくれる。」
おとめ「１６北風よ、さあ吹いておくれ。　南風よ、私の庭に吹いて、愛する方のもとに香りを届けておくれ。　あの方がご自分の庭に来て、最上の実を召し上がるように。」
五

ソロモン王「１いとしい花嫁よ、さあ、私の庭園にやって来たよ。私は没薬とスパイスを集め、はちの巣から蜜を取って食べ、ぶどう酒とミルクを飲んでいる。」
エルサレムの娘たち「愛する方たちよ、食べて飲んでください。　十分に飲んでください。」
おとめ「２ある夜のこと、眠っている時、夢の中で愛する方の声が聞こえるのです。　あの方は、私の寝室のドアをたたいておられました。　『いとしい人、私の恋人、私のかわいい鳩よ、開けておくれ。　夜通し外にいたので、すっかり露にぬれてしまった。』
３ところが、私はこう答えたのです。　『もう寝間着をきてしまったのに、また着替えるのですか。　足も洗ったので、汚したくありませんわ。』
４それでも、愛する方が鍵を開けようとなさるのを見て気の毒になり、　５跳び起きて、ドアを開けました。　かんぬきの取っ手を引いた時、私の手から香水が、指からかぐわしい没薬の液がしたたり落ちました。　６ところが、せっかくお開けしたのに、もうあの方の姿は見えません。　私は心臓の止まる思いでした。どんなにあちこち捜しても、あの方は見あたらないのです。　必死にお呼びしても、返事はありません。　７夜警に見つかり、さんざんにたたかれました。　城壁の見張りには、ベールをはぎ取られました。　８エルサレムの娘さん、どうか誓ってください。　私の愛する方を見かけたら、私が恋の病をわずらっていると伝えてほしいの。」
エルサレムの娘たち「９女性の中でいちばん美しい人よ。　それほどまでに頼み込む、だれよりもすてきな人とは、いったいどんなお方ですか。」
おとめ「１０私の愛する方は日焼けしていてハンサムで、ほかのどの男の方よりすてきですわ。　１１頭は純金のようで、からすのように黒い髪が波打っています。　１２目は、小川のほとりにいる鳩のようで、穏やかに輝き、深く澄んでいます。　１３頬は、かぐわしい香料の花壇、くちびるはゆりの花、息は没薬のようです。　１４腕は、トパーズをはめ込んだ丸い金の棒。　体は、宝石をちりばめた、光沢のある象牙。　１５足は、純金の台座にすえられた大理石のようで、レバノン杉のようにたくましい。　あの方にたち打ちできる人はいません。　１６あの方のことばは、うっとりするほどです。　あの方のすべてがすてきなのです。　エルサレムの娘さん。　これが私の愛する方、私の恋人です。」
六
エルサレムの娘たち「１だれよりも美しい人よ。　あなたの愛する人は、どこへ行かれたのですか。　その方を捜してあげましょう。」
おとめ「２あの方は、ご自分の庭園、香料の花壇へ行かれました。羊の群れを飼い、ゆりの花を集めるためです。　３私は愛する方のもの、愛する方は私のもの。　あの方は、ゆりの花の間で羊の群れを飼っておられます。」
ソロモン王「４愛する人よ。　君は眺めのよいティルツァの地のように美しく、エルサレムのように愛らしい。　君は私をとりこにした。　５そんなに見つめないでくれ。　君の目に、吸い込まれてしまいそうだ。　君の顔にゆれる髪は、ギルアデの山腹を跳びはねて降りて来る山羊の群れのようだ。　６歯は、体を洗い流してやったばかりの雌羊のように、

真っ白で、きれいな歯ならびだ。　７髪の毛のかかる頬は、なんともかわいらしい。　８私には、王妃が六十人、そばめは八十人、おとめたちは数知れずいる。　９だが、鳩にも似た、君のような完全な女は、ただの一人もいない。　エルサレムの女たちは、君を見て歓声をあげた。　王妃やそばめたちでさえ、君をほめそやした。　１０『夜明けのようにほのぼのしていて、月のようにおしとやかな、また太陽のように明るく、私たちをすっかり魅了してしまうこの方は、いったいだれですか』と。」
おとめ「１１私はくるみ林と谷へ行ってみました。　春の訪れを知りたかったからです。ぶどうの木が芽を吹いたか、もう、ざくろの花が咲いたかを見に。　１２でも、いつしかひどいホームシックにかかり、生まれ故郷がたまらなく恋しくなりました。」
エルサレムの娘たち「１３シュラムの娘さん、帰って来てください。私たちのところへ戻って来てください。　もう一度、あなたの顔を見たいのです。」
おとめ「どうして、ただのシュラム人の女を、そんなに見たいのですか。」
ソロモン王「それは、君が見事な舞を見せるからだよ。」
七
ソロモン王「１女王のような女よ。　軽やかに歩く君の足は、なんと美しいことか。　丸くてふっくらしたももは、名人が磨き上げた宝石のようだ。　２へそは、ぶどう酒をなみなみとついだグラスのようにかわいらしい。　腰は、ゆりの花をあしらった小麦の山のようだ。　３乳房は、ふたごの子鹿のようにかわいらしい。４首は、象牙の塔のように、形がよくなめらかで、目は、バテ・ラビムの門のほとりにあるヘシュボンの池のように澄んでいる。　鼻は、ダマスコを見下ろすレバノンの塔のように、形がよく、筋が通っている。５カルメル山が山々の冠となってそびえているように、君の髪は君の冠だ。　私は、そのふさふさした髪のとりこになってしまった。
６ああ、君はなんとすてきな人なんだ。　そばへ行くだけで、すっかり有頂天にさせられる。　７君はやしの木のように背が高く、ほっそりしている。　乳房は、なつめやしの房のようだ。　８私は言った。　やしの木によじ登って、枝をつかもう。　君の乳房はぶどうの房のよう、君の口の匂いはりんごの香りのようであればいい。　９君の口づけは、最上のぶどう酒のようになめらかで甘く、興奮させ、眠っている者のくちびるを開かせる。」
おとめ「１０私は愛する方のもの、あの方の望みどおりの者。　１１私の愛する方、さあ、野原へ出かけ、村にしばらく滞在しましょう。　１２早起きしてぶどう園へ行き、ぶどうの木が芽を出したか、花が咲いたか、ざくろの木が花をつけたかを見てみましょう。　そのぶどう園で、私の愛をあなたにささげます。　１３そこでは恋なすびが香りを放ち、私たちの門のそばには、古いのも新しいのも取り混ぜた最高の果物があります。　私の愛する方のために、わざわざたくわえておいたものです。」
八
おとめ「１ああ、あなたが私の兄さんであったらいいのに。　そしたら、あなたに口づけしているのをだれに見られても、笑われないんですもの。　２あなたを実家にお連れして、

そこでいろいろ教わりたいことがあるのです。　また、香料を混ぜたぶどう酒、甘いざくろの果実酒を差し上げたいのです。　３あの方の左手が私の頭の下にあり、右手でしっかりと抱いてくださるとよいのに。　４エルサレムの娘さん、どうか、あの方が十分に眠るまで起こさない、と誓ってください。」
エルサレムの娘たち「５愛する人に寄りかかって、砂漠から上って来るのはだれでしょう。」
ソロモン王「君の母親が、産みの苦しみをして君を産んだりんごの木の下で、私は君の愛を呼び起こした。」
おとめ「６私をあなたの心に刻みつけて、どんなことがあっても見捨てないでください。愛は死のように強く、ねたみは地獄のように残忍だからです。　その炎は、神様の炎にほかなりません。７どんなに水をかけても、愛の炎を消すことはできません。　大洪水でさえ、それを押し流すことはできません。　たとい、全財産をはたいて愛を買おうとしても、できない相談です。」
おとめ「８私たちには、まだ乳房がふくらんでいない妹がいます。だれかが彼女に結婚を申し込んだら、どうしましょう。」
ソロモン王「９彼女がりっぱな城壁なら、銀の胸壁をつけてやろう。　しかしただの戸であるなら、杉の板で囲んでやろう。」
おとめ「１０私はほっそりしていて、背は高く、乳房は十分にふくらんでいます。　そのため、愛する方の目にとまり、かわいがっていただきました。　１１ソロモン王はバアル・ハモンにぶどう園をお持ちです。　それを土地の小作人に、めいめい銀貨千枚で貸しているのです。　１２でも、陛下。　私のぶどう園の場合は、陛下には銀貨千枚を差し上げ、管理人には銀貨二百枚ずつを払います。
１３庭園に住んでいる私の愛する方。　お仲間は、あなたの声に聞きほれています。　私にもぜひお聞かせください。　１４愛する方、早く来て、険しい山の上のかもしかや、若い雄鹿のようになってください。」
▪

イスラエルの預言者

預言者は、単に将来のことを告げるのではなく、特別に神様から使命を受けて、神様の考えを人々に代弁しました。彼らのことばだけでなく、行ないも生活も、すべてが預言でした。盛んに活躍した時期は、北王国が偶像礼拝に染まり、南王国も偶像礼拝に明け暮れて、神様の名が人々の心から消えかかっていた、紀元前八百年から四百年ころです。預言者は、政治の腐敗や道徳的な堕落を責めることより、むしろ、その原因となっている偶像礼拝をきびしく責め、まことの神礼拝に立ち返るよう力説しました。

イザヤの預言
イザヤの働きは約六十年間で、改革者ヒゼキヤを含む四代の王にわたりました。　彼は、主としてユダに遣わされた預言者でしたが、北王国イスラエルに対しても語りました。　彼はまた、イスラエルとユダの、内乱の恐ろしい時代に生き、紀元前七二二年のアッシリヤによる北王国滅亡を、目のあたりにしました。　その滅亡から得た身の引きしまる教訓を忘れず、ヒゼキヤに、エジプトとの軍事同盟をやめて、神様だけに頼るよう絶えず勧めました。　神様は伝染病を送って、強力なアッシリヤ軍からユダを救いました。　また、イザヤは自分の時代を超えて、将来、ユダが奴隷になることや、神様が用意なさる解放についても預言しています。

一
１　ユダの王のウジヤ、ヨタム、アハズ、ヒゼキヤの時代に、アモツの子イザヤに幻の中で神様から与えられたお告げ。　このお告げで、神様はイザヤに、ユダ王国と首都エルサレムがどうなるかをお示しになりました。
２　天も地も、耳をすまして神様のお告げを聞きなさい。
なんということだ。　手塩にかけて育て、長い間めんどうを見てきた子供たちが、わたしに逆らった。　３犬や猫でさえ飼い主の顔を覚えていて、日ごろの恩に感謝するというのに、わたしの国民イスラエルだけは別だ。　どんなに尽くしてやっても、知らぬ顔を決め込んでいる。　４なんと罪深い国民だろう。　罪の重さに耐えかね、やっとこさ歩いている。　そういえば、彼らの先祖も同じように悪かった。　彼らは生まれながらの悪人で、

わたしに背き、わたしをさげすんだ。　自分から、わたしの助けを断わったのだ。
５６ああ、わたしの国民よ、もう十分に罰を受けたではないか。　それなのになぜ、わたしをけしかけ、なおもむちで打たれようとするのか。　いつまでも反逆するつもりか。　頭のてっぺんから足のつま先まで病気にかかり、弱り果て、今にも倒れそうではないか。　体じゅう切り傷と打ち身だらけで、傷口はひどく化膿している。　しかも、薬はおろか包帯も巻いてもらえない。　７国は荒れほうだい、町々は焼け落ちた。　外国人がおまえたちの見ている前で、目につく物は手あたりしだいこわし、略奪している。　８ところがおまえたちは取り残され、ただ呆然と眺めているだけだ。収穫期の終わったあとの番小屋や、作物が荒らされている時の番小屋のように、だれからも見放されている。
９　もし天の軍勢の主が乗り込んで、わずかに生き残った私たちを救ってくださらなかったら、まちがいなくソドムやゴモラ（悪行のために、神様に滅ぼされた町）の住民のように全滅していたでしょう。　１０さあ、聞きなさい。　ソドムとゴモラのようなイスラエルの指導者と住民ども。　神様がお語りになることを聞きなさい。
１１　おまえたちのいけにえなど、もううんざりだ。　これ以上わたしのところへ持って来るな。　丸々太った子羊もいらない。　おまえたちの供え物からしたたる血など見たくもない。　１２１３罪を悔いていない者のいけにえなど欲しくもないのだ。　おまえたちのたく香は、匂いをかぐだけで胸がむかつく。　新月や安息日の儀式、それに、おまえたちが最もおごそかな行事だという特別の断食も、全部まやかしだ。　これ以上、そんなものとのお付き合いはごめんだ。　１４そんなものは大きらいだ。　見ただけでも気分が悪くなる。　１５これからは、手を天に差し伸べて祈ってもむだだ。　目を閉じ、耳にはせんをする。どんなに長く祈っても聞かない。　おまえたちの手は人殺しの手で、罪のない犠牲者の血がこびりついているからだ。
１６　身を洗って、きれいになれ。　もうこれ以上、悪事を重ねるところを見せないでくれ。　悪の道と、きっぱり縁を切れ。　１７正しいことに打ち込み、貧しい人やみなしご、気の毒な未亡人を助け、人並みに扱ってやれ。
１８　神様はこうもお語りになります。
さあ、大いに話し合おう。　おまえたちの罪のしみがどんなに頑固でも、わたしはそれをきれいにし、降ったばかりの雪のように真っ白にする。　たとい紅のような真っ赤なしみでも、羊毛のように白くする。　１９喜んでわたしの手を借り、わたしに従いさえすれば、何不自由ない金持ちにしてやろう。　２０だが、相変わらずわたしに背き、言うことを聞かないなら、おまえたちは敵の手にかかって殺される。神であるわたしがこう言うのだ。
２１　エルサレムよ。　一度はわたしの貞淑な妻であったおまえが、今では売春婦になり下がり、ほかの神々に首ったけになっている。　一度は「紳士の都」と呼ばれたのに、今では人殺しのならず者だ。　２２以前は、混じり物のない銀のようだったのに、今では安っぽい金属が混ざっている。　以前は純粋そのものだったのに、今では水割りのぶどう酒のようになってしまった。　２３指導者たちは謀反人、どろぼうの仲間で、だれもかれも

賄賂を取り、未亡人やみなしごの肩をもたない。　２４だからイスラエルの全能の神、天の軍勢の主は告げます。　わたしは、敵となったおまえに怒りをぶちまける。　２５この手でおまえを溶鉱炉にぶち込み、溶かし、金くそを取り除く。
２６　こうしていつか、以前いたような立派な裁判官や助言者たちを与えよう。　そうすれば、エルサレムはまた「正義の都」「忠実な町」と呼ばれるようになる。　２７神のもとに帰る正しい者は罪を免れる。
２８　だが罪人は、最後の一人まで滅び去る。 わたしのところへ来ようとしないからだ。
２９おまえたちは恥ずかしくてたまらなくなる。　おまえたちにとって神聖だった樫の木立で、偶像にいけにえをささげた時のことを思い、顔が真っ赤になる。　３０まるで枯れ木か水のなくなった庭園のように、見る影もなくなる。　３１大勇士も、燃えるわらのように姿を消す。　悪の火花がわらに燃えつき、いったん燃え上がったらだれも消せない。
二
１　ユダ王国とエルサレムについて、神様からイザヤに別のお告げがありました。　それは次のようなものです。
２　終わりの時代には、だれもが、一度はエルサレムと神の神殿に行ってみたいと思うようになります。　世界各地から大ぜいの人が、神様を拝みに詰めかけるのです。
３　そしてだれもが言います。　「さあ、神の山へ登ろう。　イスラエルの神様の神殿に行くのだ。 そこで神様のおきてを教えていただこう。 喜んでお従いしたいものだ。」 その時代になると、世界の支配権はエルサレムへ移ります。　４神様が国家間の紛争を解決するのです。　世界中で、武器を平和の道具に作り直します。 その時になってはじめて、いっさいの戦争は終わりを告げ、いっさいの軍事訓練が不要になるのです。　５イスラエルよ、さあ神様の光の中をともどもに歩き、おきてに従いましょう。
６　神様はあなたがたを捨ててしまわれました。　あなたがたがペリシテ人の習慣にならい、魔術や悪魔礼拝をする東方の外国人を歓迎したからです。
７　イスラエルには金や銀がうなるほどあり、馬や戦車も数知れません。　８そのうえ国中に偶像があふれています。　人間が作った、ただの像を拝んでいるのです。　９地位のある人もない人も、だれもが偶像を拝んでいます。　こんな罪を、神様は決してお赦しになりません。
１０　洞窟にもぐり込み、神様のまばゆいばかりの威光から身を隠しなさい。　１１身のほど知らずの思い上がりが、ぺしゃんこにされる日がきたからです。　たたえられるのはただ神様だけです。　１２その日には、天の軍勢の主は思い上がった者や横柄な者にいどみかかり、ちりの中で土下座させます。　１３レバノンの高くそびえる杉とバシャンの樫の大木は、難なくへし折られ、　１４すべての高い山と丘も、　１５高い塔と城壁も、　１６誇らしげに波を砕く外洋の船と美しく装った内海航路の船も、その日にはみな、神様の前で無残にこわされてしまいます。　１７これでは、人類の栄光も形なしです。　人間の誇りは地に落ち、ただ神様だけがたたえられるのです。　１８すべての偶像はこわされ、

影も形もありません。
１９　神様が御座から立ち上がって地を揺るがす時、敵どもはおじ気づき、ご威光を恐れて穴や洞窟にもぐり込みます。　２０その時になってはじめて、金や銀で作った偶像を、もぐらやこうもりに投げ与え、２１あたふたと洞窟に逃げ込むのです。　こうして、崖の上の岩の裂け目に隠れ、見れば身震いするような神様の御姿と、地を恐怖に落とし込むご威光から、少しでも遠ざかろうとするのです。　２２息のようにはかなく、あわれな人間よ！　そんな人間を絶対に信頼してはいけません。
三
１　天の軍勢の主は、エルサレムとユダ王国の食糧と水の補給路を断ち、　２指導者たちを殺します。　軍隊、裁判官、預言者、長老、３将校、実業家、法律家、魔術師、政治家などです。　４イスラエルの王たちはまるで赤ん坊のようになり、子供のような政治をします。　５おかげで手のつけられない無政府状態となり、だれもが人を踏みつけ、隣人同士で牙をむき合い、権威に盾をつき、身分の低い者が高貴な人をあざ笑うようになるのです。
６　そのとき人は、兄弟にまですがって哀願します。　「おまえには余分の着物があるじゃないか。　頼むから王になってくれよ。　この混乱した社会を何とかしてくれっ！」
７　ところが、相手は口をとがらせるばかりです。　「冗談じゃないよ。　おれに何ができるって言うんだい。　着物も食べ物も、余分なんかありゃしない。　変な巻き添えを食わすのはよしてくれ。」
８　イスラエルがすっかり落ちぶれたのは、ユダヤ人が神様の悪口を言い、神様を拝もうとしなかったからです。　彼らは神様の顔に泥を塗りました。　９彼らの顔つきを見ればそれもうなずけます。　なるほど罪の深そうな顔をしています。　おまけに、自分たちの罪はソドムの住民の罪といい勝負だとうそぶき、恥ずかしいなどとは少しも思っていません。　もう手の施しようもありません。　自分で自分の滅亡の運命を決めてしまったのです。
１０　しかし神様を敬う人は、何もかもうまくいきます。　そういう人には、「すばらしい報いがありますよ」と励ましなさい。　１１ただし悪者には、「おまえにもそれ相当の報いがある。　今に恐ろしい刑罰を受けるだろうよ」と言ってやりなさい。
１２　かわいそうな国民よ、支配者がどんなにあなたがたを惑わしているか、わからないのですか。　女のように弱く、子供のような世間知らずが、王のまね事をしているのです。これでも指導者でしょうか。　とんでもない！　あなたがたを滅びへと真っさかさまに突き落とす連中です。
１３　神様は立ち上がります。　検察官として、ご自分の国民の起訴状を読み上げます。
１４真っ先に神様の怒りに触れるのは、長老や重臣です。　彼らは貧しい人から腕ずくで巻き上げ、力のない小作人から取り上げた穀物で、倉をいっぱいにしました。
１５　天の軍勢の主は、「どうしてわたしの国民をこんなに踏みにじったのか」と、彼らを

なじります。
１６　次に神様は、お高くとまったユダヤの婦人をさばきます。　彼女たちは気取って歩き、鼻をつんと高くし、くるぶしの飾り輪をちゃらちゃら言わせ、男の気をひこうと人ごみの中で流し目を使います。１７神様はその頭をかさぶただらけにし、裸にして人々のさらし者にします。　１８もう二度と、これ見よがしに外を歩けません。　美しい化粧や装飾品、　１９ネックレス、腕輪、それに薄いベールもみな、はぎ取られるからです。　２０スカーフ、くるぶしの飾り輪、ヘア・バンド、イヤリング、香水、　２１指輪、宝石、　２２夜会服、チュニック・コート、ケープ、彫り物のついたくし、さいふ、　２３鏡、美しい肌着、高価なドレス、ベールなどはなくなります。　２４香水の香りは消え、体からは、吐き気をもよおしそうな匂いがただよいます。　きれいにセットした髪はぜんぶ抜け落ち、帯の代わりに荒なわをしめ、夜会服の代わりに麻袋を着ます。
美貌は跡形もなくなり、あるものといえば恥と屈辱だけです。２５２６夫まで戦場で死んでしまいます。　こうして何もかも失い、地面に座り込んで泣くのです。
四
１　その時、生き残りの男は数えるほどしかいません。　そこで、七人の女が一人の男を奪い合います。　「食べる物や着る物はなんとかしますから、どうか私たちぜんぶと結婚してください。　姓をいただければいいんです。　オールド・ミスと、ばかにされるのだけは我慢できません。」
２－４滅びゆくエルサレムと運命を共にしないように、神様から特別に名前を書き記された人の汚れは、洗いきよめられ、不道徳のしみも火で焼かれます。　神様のきよい国民となるのです。　それだけでなく、地は黄金色の穂波と、みずみずしい果物を実らせます。
５そのとき神様は、イスラエル中の家と会合の場所に、昼は煙と雲のおおいをかけ、夜は火の雲のアーケードを造って、栄光の国を、　６日中の暑さや風雨から守ります。
五
１　さあ、私の愛する方のために、ぶどう園の歌をうたいましょう。
私の愛する方のぶどう園は、よく肥えた丘の上にありました。２その方は畑を十分に耕し、石ころをぜんぶ取り除き、最上のぶどうの木を植えました。　見張り台を建て、岩を掘って酒ぶねまで造り、収穫期を楽しみに待ったのです。　ところが、実ったぶどうは野生ですっぱく、全くの期待はずれでした。
３　さて、エルサレムとユダ王国の者たちよ。　これで問題点がはっきりした。　さあ、裁判官になってくれ。　４わたしはこの上、いったい何ができるだろう。　これまでしたのに、なぜわたしのぶどう園は甘いぶどうではなく、野生のぶどうを実らせたのか。　５こうなったからには垣根をこわし、ぶどう園を牧場にして、家畜や羊の踏みにじるままにするほかない。　６枝をおろしたり雑草を取ったりせず、いばらのはびこるままにしておこう。　また二度と雨を降らせないよう、雲に命じよう。
７　この話のぶどう園というのは、実は神様の国民のことです。　イスラエルとユダは、

神様のお気に入りの土地でした。　神様はそこが正義の国となるのを期待していたのに、実際にお目にとまったのは流血の惨事でした。　正しいことが行なわれるようにと願っていたのに、実際にお耳に届いたのは、しいたげられた人たちの叫びでした。　８土地はどんどん買い占められ、住む所さえない人が大ぜいいます。　それなのにあなたがたは、広々とした土地の真ん中に大邸宅をかまえ、まるで、地球はぜんぶ自分のものだと言わんばかりの顔をしています。　９しかし、それも今のうちです。　天の軍勢の主は、あなたがたがきっと恐ろしい目に会うと予告しています。　「多くの美しい邸宅が荒れ果て、そこに住む者は殺されるか、行方不明になる」と告げるのを、この耳ではっきり聞きました。　１０四千平方メートルのぶどう園から、たった四リットルのぶどう汁も取れず、三百六十リットルの種をまいても、たった三十六リットルの収穫しかあげられません。
１１　朝早くから夜ふけまで酒をあびる者は、必ず災難に会います。飲んだくれは、ひどい目を見ます。　１２あなたがたの豪勢な宴会にはムード音楽が流れ、雇ったバンドも一流のものです。　ところが神様のこととなると、まるで頭にありません。　１３だから、おまえたちを捕虜として遠い国へ連れて行く。　おまえたちは、わたしにどんなによくされたか知りもせず、心にも留めていない。　大いに尊敬されていた者さえ飢え、一般の国民は飲む水もなく、舌が上あごにくっついたまま死ぬ。
１４　地獄は、エルサレムという、よだれの流れそうなごちそうを前にして舌なめずりし、その市民を飲んだくれもろとも、のみ込みます。　１５その日には、横柄な者でもちりの中に土下座し、思い上がった者も腰を低くします。　１６天の軍勢の主だけが、ひときわたたえられるのです。　天下広しといえども、きよく正しい方は神様だけだからです。　１７そのとき廃墟の中では、家畜の群れが草を食べ、子羊と子牛、子やぎがたわむれます。
１８　雄牛に綱をつけて引くように自分の罪を引きずり歩く者は、きっとひどい目に会います。　１９そんな連中はイスラエルのきよい神様さえばかにし、罰を受けることなんか平気だという顔で、ぬけぬけと言うのです。　「神様、罰するなら早く罰してください。お力のほどを、とくと拝見したいものですな。」　２０連中は白を黒、黒を白と言い、苦いものを甘い、甘いものを苦いと言いはります。
２１　自分には知恵があると思い、りこうぶる者は、きっとひどい目に会います。　２２酒ならだれにも負けないと自慢する者も、同じです。２３こんな連中は、わいろをもらって正義を曲げ、悪者を保釈して罪のない者を牢にたたき込みます。　２４だから神様は、彼らをきつく罰し、火で焼くのです。　彼らはわらのように、あっという間に燃え尽きます。　その根はたちまち腐り、花はしぼみます。　神様のおきてを捨て、イスラエルのきよい神様のおことばを軽んじたからです。　２５だからこそ、神様の怒りはイスラエルに向かって燃え上がり、御手を下して彼らを打ったのです。　丘は震えがとまらなくなり、人々の腐った死体は、ごみのように町の中に捨てられます。　それでもまだ、神様の怒りがおさまったわけではありません。　御手はなおも、重くのしかかります。
２６　神様が遠く離れた国々に合図を送り、地の果ての人たちを笛で呼ぶと、彼らはわれ

先にエルサレムへなだれ込みます。　２７全く疲れを知らず、つまずいたり立ち止まったりしません。　腰のベルトはきつくしまり、くつひもも丈夫で切れません。　不眠不休で走り続けて来ます。　２８その矢じりは研ぎすまされ、弓はいっぱいに張られ、乗馬のひづめは火花を散らし、戦車の車輪は風車のように回ります。　２９まるでライオンのようにほえ、獲物に襲いかかって私の国民をつかまえ、捕虜として連れ去りますが、だれひとり救い出す者はいません。　３０海鳴りのようなうなり声とともに、犠牲者を、ひと呑みにするのです。イスラエル中が絶望のやみと悲しみに沈み、空は真っ黒になります。
六
１　ウジヤ王の死んだ年に、私は神様のお姿を見ました。　高い御座におすわりになっていましたが、神殿はご栄光で満ちあふれていました。　２神様の回りを、三対の翼のあるセラフィム（人間の罪をきよめる天使）が舞っていました。　互いに一対の翼で顔をおおい、一対で両足をおおい、残りの一対で飛んでいるのです。　３セラフィムは、互いに歌いました。　「聖なる、聖なる、聖なるお方。　それは天の軍勢の主。　全地は主の栄光で満ちている。」　４このすばらしい合唱のために神殿は土台から揺らぎ、聖所はたちまち煙でいっぱいになりました。
５　私は恐ろしくてたまりません。　思わず叫びました。　「もうおしまいだ。　こんな罪深い、口の汚れた私が、こともあろうに天の軍勢の主である王を見てしまったんだから。」
６　すると、セラフィムの一人が祭壇へ飛んで行き、かっかと燃える炭を火ばさみでつまみ、　７それを私のくちびるにつけて言いました。「さあ、これできれいになった。　この炭がくちびるに触れたからだ。あなたの罪はみな赦された。」
８　続いて神様のお声がしました。　「だれをわたしの国民への使いとしよう。　だれが行ってくれるだろうか。」
「神様、私がまいります。　私を使いに出してください。」
９　「では、行くがよい。　そして、こう言うのだ。　『おまえたちは、神のことばを耳にたこができるほど聞いても、悟らない。　神の奇蹟をあきるほど見ても、どんな意味かわからない。』　１０彼らの理解力をにぶらせ、耳を閉じ、目を見えないようにせよ。　彼らには、見たり聞いたり悟ったり、また病気を治してもらうために、わたしのもとへ戻ってほしくないのだ。」
１１　「神様、いつまでそんなふうに言って歩いたらよろしいのでしょうか。」
「町々が破壊され、人っ子ひとりいなくなり、国中が荒れ果て、１２だれもが遠い外国へ奴隷となって連れ去られ、イスラエル全土が荒野となるまでだ。　１３しかし国民の十分の一だけは残る。　イスラエルは何度も侵略され、戦火にみまわれる。　それでも、切り倒されてもなお新芽を出す切り株のように、必ず立ち直る。」
七
１　ヨタムの子で、ウジヤ王の孫にあたるアハズ王が治めている時、エルサレムはシリヤの王レツィンと、レマルヤの子であるイスラエルの王ペカの攻撃を受けました。　幸いエ

ルサレムは占領されず、無事でした。　２ところが、「シリヤとイスラエルが連合して攻めて来る」という情報が伝わると、王も国民も震え上がり、暴風にゆさぶられる木々のようにおののきました。
３　そのとき神様は、イザヤに命じました。　「息子のシェアル・ヤシュブと出かけ、アハズ王に面会を求めなさい。　王は今、ギホンの泉から布さらしの野に通じる道の近くにある、上の貯水池へと向かう上水道の端にいる。　４会って、心配するな、と伝えるのだ。レツィンとペカが何だ、あんなおちぶれた二人が真っ赤になって怒ったからといって、別にこわがることはない、と言って聞かせるのだ。　５なるほど、シリヤとイスラエルの王は攻めて来る。
彼らはこう言うだろう。　６『さあ、ユダに攻め上って、パニック状態にしてやろう。　それから一気にエルサレムへ進撃し、タベアルの子を新しい王にしよう。』
７　だがわたしは断言する。　この計画は成功しない。　８ダマスコはシリヤの首都で終わり、レツィン王の領土はこれ以上ふえないからだ。　またイスラエルも、六十五年以内に、跡形もなくなる。　９サマリヤはイスラエルの首都で終わる。　ペカ王の努力も水のあわだ。　わたしのことばが信じられるか。　守ってほしければ、わたしの言うことを素直に信じるのだ。」
１０　それから間もなく、神様はアハズ王に告げました。
１１　「アハズよ、わたしはおまえの敵を粉砕すると言った。　この約束の確かなしるしを求めよ。　天でも地でも、望みどおりのものを。」
１２　「と、とんでもありません。　そんなことで、わざわざ神様をわずらわすなど恐れ多くて……。」　王は首を振りました。　１３その返事を聞き、イザヤは開き直りました。ダビデの家よ。　あなたがたは私の堪忍袋の緒を切らせるだけで満足せず、神様の堪忍袋の緒まで切らせようとするのですか。　１４それならそれでいいでしょう。　しるしは神様がお決めになります。　見ていなさい。　処女が子供を産みます。　彼女は生まれた子にインマヌエル〔「神様がいっしょにおられる」の意〕という名前をつけます。　１５１６この子が乳離れして、正しいことと悪いことの区別を知るころまでには、あなたがたがこわがっているイスラエルとシリヤの王は、二人とも死んでしまいます。
１７　しかし安心はできません。　やがて、あなたとあなたの国民とあなたの父の家に、恐ろしいのろいが下ります。　ソロモン帝国がイスラエルとユダに分かれて以来、一度もなかった恐怖が襲います。　アッシリヤの大王が大軍を率いて押し寄せるのです。　１８その時になると、神様は北部エジプトとアッシリヤの軍隊に合図します。　彼らははえのように群がり、はちのように襲いかかって、あなたがたを刺し殺します。　１９どっと押し寄せ、国中いたる所に攻め入り、よく肥えた地だけでなく、人家のない谷やほら穴、いばらだらけの地までも侵略します。　２０その日には、助っ人として雇ったアッシリヤ人は一変して、神様の手に握られたかみそりとなり、土地といわず、作物といわず、人といわず、あなたがたのものを全部そり落としてしまいます。

２１２２略奪を終え、やっとひと息つく時には、国中は牧草地に変わり果てているでしょう。　ただし、家畜の群れは手あたりしだいに殺されるので、一頭の牛と二頭の羊が残っているだけでも、幸運な人と呼ばれます。　それでも牧草はあり余るほどあるので、牛乳はたっぷり取れ、生き残った者は凝乳と野生のはち蜜を常食にします。　２３みごとな収穫をあげたぶどう園は、いばらの茂る雑草地となり、　２４国中が巨大ないばらの野となり、野獣の跳びはねる狩猟地となります。　２５以前はよく耕されていた土壌の肥えた山腹も、いばらにおおわれ、だれも寄りつかなくなります。　ただ牛や羊ばかりが草を食べに来るだけです。
八
１　神様はまた、私にお命じになりました。
「大きな看板を作り、やがて授かる子供の名を、だれもが読めるように書け。　名前はマヘル・シャラル・ハシュ・バズ。　『敵はまもなく滅びる』という意味だ。」　２私は祭司ウリヤとエベレクヤの子ゼカリヤに頼んで、証人になってもらいました。　まだ子供の生まれないうちに、確かに私がこのことを書いた、と証言してもらうためです。　３やがて妻はみごもり、男の子を産みました。　そのとき神様の声が響いてきました。　「この子をマヘル・シャラル・ハシュ・バズと呼べ。　４この名は、一、二年のうちに、この子が『お父さん』とか『お母さん』とか言うようになる前に、アッシリヤ王がダマスコ（シリヤ）とサマリヤ（イスラエル）を侵略し、金銀財宝を奪い去ることを予告している。」
５　神様はさらに続けました。
６　「エルサレムの住民は、わたしが親身に世話を焼いてやったのに見向きもせず、レツィン王とペカ王が、なんとかして救援に駆けつけてくれないかと、やっきになっている。
７８だから、ユーフラテス川の大洪水で度肝を抜いてやろう。　アッシリヤ王が大軍を率いて襲いかかる。　ああ、インマヌエル。　この洪水は、おまえたちユダ王国に堰を切ったように流れ込み、端から端まで水浸しにする。」
９１０シリヤもイスラエルもほかの国々も、悪の限りを尽くしてみるがよい。　だが、そんな計画は成功するはずはない。　必ずがたがたになる。　さあ敵どもよ、私の言うことを聞け。 戦争でも何でもしかけてこい！　そして滅んでしまえ！　参謀どもを呼び集め、緻密な作戦を立て、抜かりなく攻撃準備を整えろ。　そして滅んでしまえ。私たちには神様がついておられる。
１１　神様は語調きびしく命じました。　「どんなことがあっても絶対、シリヤとイスラエルに降伏しようという計画にのるな。　１２神に忠実であるばかりに、同胞から裏切り者呼ばわりされるのを恐れるな。人がどんなに浮き足立っても、シリヤとイスラエルが攻めて来るというので、あわてふためくな。　１３天の軍勢の主のほかは、だれをも恐れるな。　わたしだけを恐れていれば、ほかの者はだれ一人こわくないはずだ。　１４１５おまえの安全は、わたしが保証する。　ところがイスラエルとユダは、せっかくの親切をはねのけた。　おかげで、救いの元となるはずの岩につまずき、倒れて下敷きになった。　わ

たしのいたことがかえって邪魔になり、彼らに危害を及ぼすはめになったのだ。　１６これからわたしのしようとしていることを残らず書き留め､将来のために封をしておけ。 神を敬う者に託して、のちの時代の神を敬う者らに渡してもらうのだ。」
１７　神様はいま姿を隠しておられますが、私は神様の助けを信じて、ひたすら待ち望みます。　神様だけが私の希望です。　１８私の名も、神様が授けてくださった子供たちの名も、みな天の軍勢の主の計画を暗示しています。　イザヤというのは「神様はご自分の国民を救う」、シェアル・ヤシュブは「残りの国民が帰って来る」、マヘル・シャラル・ハシュ・バズは「敵はまもなく滅びる」という意味です。　１９だというのに、なぜ魔術師や霊媒師などに相談し、将来どんなことが起こるかを知ろうとするのですか。　連中のささやきや呪文を聞いてはなりません。　だいたい生きている者が、死んだ人間から将来のことを聞き出せるものでしょうか。　知りたかったら、どうして神様に直接たずねないのですか。
２０　神様はこうお語りになります。　「魔術師どものことばを、神のことばと比較してみよ。 連中の言うことが､わたしの言うことと違ったら､連中はわたしの使者ではない。彼らには真理の光などありはしない。 ２１わたしの国民は捕虜となり､飢えて弱り果て、つまずきよろけながら連れ去られる。　空腹のあまりうわ言をいい、天に向かってこぶしを振り、王と神をのろう。　２２どこを見ても、目につくものは苦しみと悩みと暗たんとした絶望だけだ。　こうして暗やみの中に追いやられてしまう。」
九
１　とはいうものの､この暗やみと絶望の時は､いつまでも続くわけではありません。 もうすぐ､ゼブルンの地とナフタリの地は神様からの辱しめとさばきを受けますが､将来は、海沿いの道、外国人の住むガリラヤ、ヨルダン川の東の地は、神様の栄光でまぶしいほどになります。　２暗がりを歩いていた人たちは大きな光を見ます。　それは、死の陰の地に住んでいた者を照らす光です。　３イスラエルはもう一度、偉大な民族となり、収穫期を迎えた農夫のような喜びにあふれ､分捕り物を山分けする者のように有頂天になります。４神様は、ギデオンのわずかな部下でミデヤン人の大軍を破った時のように、ご自分の国民をつないでいる鎖をこわし、懲らしめの笞をへし折るのです。　５すばらしい平和の時代が訪れ、軍靴や血のついた軍服などはみな焼き捨てられます。
６　私たちのために一人の男の子が与えられます。　しかも、その手にすべての主権が握られるのです。　その子は､「すばらしい助言者」「全能の神」「永遠の父」「平和の君」という肩書きをもらいます。７日増しに努力を重ね、平和を実現する彼の政治は、決してすたれません。　彼は先祖ダビデの王座につき、完全な正しさをもって支配します。　世界中の国に、本物の正義と平和とはこんなものだと手本を示すのです。　天の軍勢の主が本腰を入れてぶつかるので、このことは必ず実現します。
８－１０われわれの国はすっかり廃墟になったが、やがて以前より立派な国を建ててみせるとうそぶく、大ぼら吹きのイスラエルを、神様はたしなめます。　いちじく桑の木は切

り倒されたが、代わりに杉の木を植えようと、イスラエルは考えているのです。　１１１２この大ぼらに対する返事として､神様は東からシリヤ人を西からペリシテ人をけしかけ、あなたがたに敵対させます。　彼らは牙をむき出して､イスラエルに襲いかかります。　それでも神様の怒りはおさまらず、振り上げられたこぶしは下ろされません。　１３こんなにひどい罰を受けても、悔い改めて、天の軍勢の主に立ち返ろうとしないからです。　１４１５そこで神様は、たった一日のうちに、イスラエルの指導者と、でたらめを教えている預言者とを皆殺しにします。　１６それというのも、この指導者連中が、国民を滅びの道へと引きずり込んだからです。
１７　神様はイスラエルの若い男たちを喜ばず、未亡人やみなしごにさえ、あわれみをかけません。　だれもかれも汚いことばを吐き、平気でうそをつくからです。　だからこそ、神様の怒りはなおもおさまらず、一人残らず打ち殺そうと、こぶしを振り上げたままにしておくのです。　１８神様が彼らの悪を焼き尽くす火は森林までなめ尽くし、煙はもくもくと立ちのぼって天をおおいます。　１９２０地は、この火と天の軍勢の主の怒りによって黒ずみ、地の住民は、火勢を強める燃料となります。　兄弟げんかまでして食べ物を奪い合いますが、まだまだ飢えて、お腹はくっつきそうです。　ついには、わが子まで食べるようになります。　２１マナセとエフライムは争いが絶えなかったが、その時ばかりは一致協力してユダを襲います。　それでもなお、神様の怒りはおさまりません。　いぜんとして、御手は重くのしかかります。
一〇
１　「不正な裁判官と不公平な法律をつくる者とは、ひどい目に会う」と、神様は断言なさいます。　２このような連中は、貧乏人、未亡人、みなしごを見殺しにし、物品を巻き上げます。
３　わたしが遠い国から滅亡を招き寄せる。　さあ、どうするつもりか。　その時、だれに助けを求めるつもりか。　どこに財宝を隠すつもりか。　４わたしは助けない。　道は二つ。　囚人となって､よろめきながら引かれて行くか､死体となって地面に転がるかだ。それでもわたしの怒りはおさまらない。　なおも打ちのめそうと、こぶしを振り上げる。
５６アッシリヤはわたしの怒りのむちだ。　わたしはその軍事力を使って、滅びる運命にある、神を敬わないこの国を攻め立てる。　アッシリヤはこの国民を捕虜にし、略奪をほしいままにし、泥のように踏みにじる。　７ところが当のアッシリヤ王は、わたしにあやつられていようとは夢にも思わない。　世界征服の一部として、神の国民を攻めているだけだと考える。　８高官たちを、占領した国々の王にすえ、得意げに言う。
９　「さあ、カルケミシュのようにカルノもやっつけてしまおう。ハマテなんか一ひねりだ。　アルパデみたいに、必ず降伏するにきまっている。　サマリヤもダマスコのように足腰が立たなくしてやろう。１０われわれはすでに、エルサレムやサマリヤの神よりずっとご利益のある神々の国を、片っ端からたいらげた。　１１サマリヤとその神をやっつけたように、エルサレムとその神も征服しよう。」

１２　神様はアッシリヤ王を用いて目的を果たしたのち、今度は、高慢で横柄なアッシリヤに襲いかかって罰を加えます。
１３　彼らは鼻を高くしてうそぶいています。　「われわれは自分の力と知恵で戦いに勝ってきた。　われわれは高度の文明を誇る偉大な国民だ。　われわれの手で城壁をぶちこわし、住民を滅ぼし、財宝を運び出した。　１４思うままに行く先々で宝物倉をかすめ、ちょうど卵を集めるように、難なく多くの国々をかき集めた。　それでもだれ一人、横槍を入れることはおろか、抗議さえできなかったのだ。」
１５　しかし神様は、きびしく問い返します。　「斧は、主人に、自分のほうに力があると自慢できようか。　のこぎりは、それを使う人よりほめられるだろうか。　棒は、それを動かす手がなかったら、人をたたくことができようか。　杖は一人で歩くことができようか。」
１６　アッシリヤの王よ、いい気になっていられるのも、これまでです。　天の軍勢の主は負け知らずのあなたの軍隊に伝染病をはやらせ、兵をばたばたと倒します。　１７光であるイスラエルのきよい神様は、燃えさかる炎となって全軍を焼き尽くします。　イスラエルの国土を荒らした、いばらやおどろのようなアッシリヤ人を、たった一瞬のうちに焼き払うのです。　１８今は壮麗な森のような大軍も、無残な姿をさらし、病人がやせ細っていくように、たましいと体もろとも滅び去ります。　１９おびただしい兵力を誇った大軍のうち、生き残る者はほんのわずかで、子供でさえ数えることができます。
２０　そうなってはじめて、イスラエルとユダに残っていた者は、二度とアッシリヤ人を恐れなくなり、イスラエルのきよい神様である主だけを頼みとするようになります。　２１全能の神様に立ち返るのです。　２２しかし、今イスラエル国民は海辺の砂のように多くいようとも、その時まで生き残り、神様に立ち返る者は、ごくわずかしかいません。　神様はご自分の国民を滅ぼそうと、堅く覚悟を決めておられるからです。　２３彼らを根こそぎにすることは、天の軍勢の主である神様によって、すでに決められたことです。
２４　だから天の軍勢の主である神様は、こう命じます。　「エルサレムに住むわたしの国民よ、昔のエジプト人のようにアッシリヤ人が圧力をかけても、こわがってはならない。２５もうしばらくの辛抱だ。　わたしの怒りはおまえたちから離れ、アッシリヤ人に向けられる。彼らは滅びるのだ。」
２６　天の軍勢の主は、ギデオンがオレブの岩でミデヤン軍を打ち破った時のように、またエジプト軍が海でおぼれた時のように、アッシリヤ軍を血祭りにあげます。　２７その日になると、神様はご自分の国民を解放し、奴隷のくびきをはずして粉々にこわします。
２８２９さあ、アッシリヤの大軍が押し寄せて来ます。　さっきまでアヤテにいたのに、もうミグロンに着きました。　彼らはミクマスに軍用物資を置き、渡し場を過ぎ、ゲバで野営します。　ラマの町は震え上がり、サウルの町ギブアの住民は命からがら逃げます。
３０ガリムの人たちよ、さあ、恐怖に取りつかれて金切り声をあげなさい。　大軍がやって来るのだから、ラユシャに大声で危険を知らせなさい。　哀れなアナトテよ、あなたの

運命はなんとも哀れです。　３１あそこに行くのは、落ちのびて行くマデメナの人たちではありませんか。　ゲビムの住民は逃げじたくをしています。　３２ところがその日、敵軍はノブで止まり、シオン山の上にあるエルサレムに向けてこぶしを振ります。
３３　あれを見なさい。　なんと天の軍勢の主が、えらいけんまくで大木を切り倒しています。　将校と兵卒の区別なく、あの大軍をしらみつぶしにしています。　３４全能の神様が、きこりが斧でレバノンの森の木々を切り倒すように、敵をなで切りにするのです。
一一
１　ダビデ王の家系は、木のように切り倒され、ずたずたにされるものの、必ず切り株から新しい芽が出ます。　元の根から新しい一本の枝が生え、　２その上に神様の霊が宿ります。　それは知恵の霊、悟りの霊、助言と力の霊、知識の霊、それに神様を恐れる霊です。　３この方は神様に従うことを喜びとし、外見やでっち上げの証拠、うわさなどによってさばかず、　４貧乏人や食い物にされている人の味方になります。　反対に、このような人にむごい仕打ちをする悪者どもには容赦しません。　５公平と真実を身にまとっているからです。
６　その日には、狼と子羊はいっしょに寝そべり、ひょうと子やぎは大の仲良しになります。　子牛や丸々太った家畜がライオンの間にいても心配はなく、小さい子供がその群れを追って行きます。　７牛は熊の間に割り込んで草を食べ、その子らはじゃれ合い、ライオンは牛のように草を食べます。　８赤ん坊が毒蛇の間をはい回ってもかまれず、小さな子供は平気な顔でまむしの巣に手を入れます。　９神様の聖なる山のどこででも、傷つけたり危害を加えたりするものは一つもありません。　水が海を満たすように、神様を知る知識が地にあふれるからです。
１０　その日、エッサイの家から出てダビデ王朝を開いたお方は、全世界の人々の救いの旗となって翻ります。　この方のいる地は栄光のとどまる所となるので、国々の民がこの方のもとへ集まります。　１１その時になって、神様は、生き残ったご自分の国民を呼び戻します。これは二度目の帰郷で、彼らはアッシリヤ、南北エジプト、エチオピヤ、エラム、バビロン、ハマテ、および遠く離れた島国からイスラエルへ帰って来るのです。　１２神様は国々の中に合図の旗をあげ、散り散りになったイスラエル人を、地の果てから呼び集めます。　１３その時になってはじめて、イスラエルとユダのねたみ合いはなくなり、二度と戦いを交えません。　１４むしろ力を合わせて国々に飛びかかり、東西に領土をのばし、エドム、モアブ、アモンを占領します。
１５　神様は紅海を干上がらせて乾いた道をつくり、ユーフラテス川に向かって手を振り、強い風で七つの流れに分けます。　こうして、だれでも簡単に渡れるようになるのです。
１６生き残った国民のために、アッシリヤからの幹線道路もできます。　ずっと昔、イスラエル人がエジプトから帰って来た時にも、同じようなことがありました。
一二
１　その日、あなたは言います。　「神様はなんとすばらしいお方だろう。　私のことを

怒っておられたのに、今度は慰めてくださる。２そればかりか、私を救うために駆けつけてくださった。　神様にすっかり信頼しているので、少しもこわくない。　神様は私の力、歌、そして救いだ。　３救いの泉からぞんぶんに飲める喜びを、何にたとえたらいいのだろう。」
４　この記念すべき日に、あなたは言うでしょう。「神様に感謝し、御名をたたえよう。世界中の人に、神様のすばらしい愛を伝えよう。　全く神様の力の偉大さは想像もできない。」　５神様はすばらしいことをなさったのだから、神様に歌いましょう。　神様をたたえる歌声を世界中に響かせましょう。　６エルサレムの全住民が、喜びにあふれて高らかに賛美しますように。　あなたのうちに住んでおられるイスラエルのきよい神様は、この上なく偉大で、力あるお方だからです。
一三
１　以下は、神様がアモツの子イザヤにお示しになった、バビロン滅亡の模様です。
２　バビロンに攻め上る敵軍の旗を見よ。　財産のうなる権力者どもの邸宅をこわそうと進撃して来る彼らに、歓声をあげて手を振れ。３神であるわたしは、この時のために彼らを取っておいた。　わたしは、わたしの怒りをぶちまける仕事に喜んで協力する者を呼び集めた。　４山の上の騒動と、軍隊が行進して来る音を聞け。　あれは、多くの国の兵士がどよめき叫ぶ声だ。　天の軍勢の主が彼らを連れて来た。　５それも、ずっと遠い国々からだ。　バビロンよ、彼らはおまえを攻め立てる神様の武器だ。　神様の怒りを運んで来て、おまえの国を見るも無残に踏みにじる。
６　いよいよ神の時がきたのだから、恐怖におびえて金切り声をあげろ。　全能の神がおまえたちを木端微塵に砕く時が、ついにきた。７あまりの恐ろしさに腕は麻痺し、勇気はくじけ、　８震え上がる。　産みの苦しみにあえぐ女のように、激しい苦痛を伴う恐れに取りつかれる。おまえたちは絶望して互いに見つめ合うが、青ざめたその顔に映るのは、町を焼く炎ばかりだ。　９さあ、神の日がくる。　それは、神の憤りと激しい怒りに包まれた、身の毛もよだつような日だ。　地は、そこに住む罪人もろとも滅びうせる。　１０星も太陽も月も、一筋の光さえ放たず、天は真っ暗になる。
１１　わたしは世界をその悪のために、悪者どもをその罪のために罰する。　いばり散らす者と横柄な金持ちとを踏みつぶす。　１２わたしがひと仕事終えた時、生き残っている者はほんのひと握りだけだ。
その時、人間は金鉱より探しあてるのが難しくなり、オフィルの金より価値あるものとなる。　１３わたしが憤りと激しい怒りで天をゆするので、地球は元の場所から移動する。
１４　バビロンの兵士は逃げて逃げて逃げ回り、ついに精根尽きて倒れる。　まるで犬に追われる鹿のように故国めざして一目散に走り、羊飼いに見捨てられた羊のようにさまよう。　１５走る気力を失った者は、無残な殺され方をする。　１６小さな子供たちは、目の前で、舗道の石に投げつけられて殺される。　家は略奪され、妻は攻め入った敵兵に犯される。１７わたしはメディヤ人をバビロンに敵対させる。どれほど金銀を積んでも、

彼らのきげんをとることはできない。　１８侵入した軍隊は、若者も赤ん坊も容赦せず、子供たちにもいっさい手ごころを加えない。
１９　こうして、王国の誉れでありカルデヤ文明の華であったバビロンは、天からの火に焼かれたソドムとゴモラのように滅びる。　２０バビロンは二度と立ち上がれず、永久に人が住みつかない〔現在のイラクにあるバビロンは、今なお全くの廃墟である〕。　遊牧の民でさえ、そこにはテントを張らず、羊飼いも、そこでは羊の群れを休ませない。　２１全く砂漠の野獣やだちょうの住みかとなり果てる。　家々はみみずくの巣となり、悪鬼が来ては踊り回る。　２２ハイエナや山犬は宮殿を巣窟とする。　バビロンの寿命はあとわずか、運命の時は、そこまで来ている。
一四
１　しかし神様は、イスラエル人にはあわれみをかけます。　彼らが特別の国民であることに、変わりはないからです。　神様は彼らを連れ戻し、もう一度イスラエルに住まわせます。　多くの国が彼らと手を結び、忠実な連合軍ができます。　２世界中の国々が彼らの帰国を助け、イスラエルに移住した外国人は彼らに仕えます。　イスラエル人を奴隷にした者は、逆に奴隷となります。　こうしてイスラエルは、かつての敵を支配するようになるのです。
３　神様がご自分の国民から悲しみや恐れを取り除き、奴隷の鎖から解放して休息をお与えになる時、　４あなたがたはバビロンの王を思いっきりやじります。　「やあ、弱い者いじめさんよ、とうとう年貢の納め時がきたようだな。　５もうこれまでだ。　おまえの力も支配も、神様にとどめを刺されたんだ。」　６あなたはイスラエルを怒りにまかせて迫害し、国々を牛耳り、圧制をほしいままにしてきました。　７やっと今、全地は静けさを取り戻し、ひと息いれることができます。　世界中の人の口に喜びの歌がのぼりました。８糸杉やレバノン杉のような森の木でさえ、うれしそうに声を張り上げて歌います。「バビロンは骨抜きになった。　もうだれにも煩わされない。　やっと平和になった。」
９　あなたが地獄の門に着くと、そこの住民はこぞって迎えに出ます。　ずっと前に死んだ世界の指導者や大王たちも会いに来て、　１０声をそろえて叫びます。　「やあ、とうとうあんたも、われわれのように弱くなったな。」　１１あなたの権力は失われ、あなたとともに葬られます。　あなたの宮殿で聞かれた、浮き浮きするような音楽もとだえ、うじがシーツ、虫けらが毛布の代わりです。
１２　暁の子、ルシファー（天使）よ、どうして天から落ちたのか。　世界に並ぶ者のない権力者だったのに、どうして切り倒されたのか。１３それは、心の中でこううそぶいたからです。　「天にのぼり、最高の王座について、御使いたちを支配してやろう。　北の果てにある集会の山で議長になりたい。　１４一番上の天にのぼって、全能の神様のようになってやろう。」　１５ところが、実際は地獄の深い穴に落とされ、しかも底の底まで落とされます。　１６そこにいる者はみな、あなたをまじまじと見つめて言うでしょう。「ほんとにこの人が、世界中の王国を縮み上がらせた当人だろうか。　１７全世界を足の踏み

場もないまでに破壊し尽くし、大都市を瓦礫の山とし、捕虜に少しもあわれみをかけなかった当人だろうか。」
１８　国々の王は、りっぱな墓に手厚く葬られています。　１９しかしあなたの体は、折られた枝のように放り出されるだけです。　戦場で殺された兵士の死体といっしょに、口を開いたままの墓に投げ込まれ、道ばたに転がる死体のように、馬のひづめにかかり、無残に引き裂かれます。　２０自分の国を滅ぼし、自分の国民を虐殺したのだから、記念碑は建ててもらえません。　あなたの子は王位を継げません。　２１こんな罪人の子供たちは刀にかけて殺しなさい。　もう二度と立ち直れず、世界を再征服して、国を建てられないようにするのです。
２２「わたしは立ち上がって彼に刃向かい、彼の子供と孫を切り殺し、だれひとり王座につかせない。　２３バビロンを湿地と沼に囲まれた、針ねずみの住む荒れ地にする。　この地を滅亡のほうきで一掃する」と、天の軍勢の主は断言なさいます。　２４必ずそうすると、誓いまで立てました。　そうすることが神様の目的であり計画だからです。２５「わたしは、イスラエルに攻め込んだアッシリヤ軍を打ち破り、わたしの山で踏みつけることに決めた。　わたしの国民は二度と彼らの奴隷にならない。　２６これが全地に対するわたしの計画だ。　わたしは、世界のすみずみにまで及ぶ全能の力によって、この計画を実現する。」　２７天の軍勢の主が取り決めた計画を、だれが変更できるでしょう。　いったん動きだした神様の手は、だれも止められません。
２８　以下は、アハズ王の死んだ年に聞いた、神様のお告げです。
２９　「ペリシテ人よ、おまえを打った王が死んだからといって、喜ぶのは早い。　なるほど、あの杖は折れた。　だが、息子は父以上のたたりを及ぼす。　蛇からまむしが生まれ、おまえをかみ殺す。　３０わたしの国民のうちの貧しい者は、わたし自身が羊飼いになって養う。　わたしの牧場で草を食べさせ、生活に困っている者にも心配はさせない。だが、おまえたちは別だ。　おまえたちは、ききんと剣で皆殺しにする。　３１ペリシテの町々よ、大声で泣きわめけ。　おまえたちの運命は決まっている。　国は滅ぶのだ。　北から、鍛え抜かれた軍隊が攻めて来る。」　３２ところで、外国の報道官には、どう報告したらよいでしょうか。　「神はすでにエルサレムの土台を築き、貧しい国民を城壁内にかくまうことに決定した、と伝えておけばよい。」
一五
１　次は、モアブへの神様のお告げです。
たった一夜で、アルとキルの町は灰になる。　２ディボンの住民は、災難に会ったネボとメデバを悼もうと、泣きながら神殿へ行く。　頭をそり、ひげを切り落として、悲しみ嘆く。　３荒布を着て町を歩けば、どの家からも泣き声が聞こえる。　４ヘシュボンとエルアレの住民の叫びは、ずっと離れたヤハツからでも聞ける。　モアブでいちばん勇敢な勇士でさえ、すっかりおじ気づいて泣き声をあげる。
５　わたしはモアブのために涙を流す。　人々はツォアルとエグラテ・シェリシヤまで落

ちのび、泣きながらルヒテに通じる坂道を登る。　その泣き声は、ホロナイムの道沿いにひっきりなしに聞こえる。　６ニムリム川でさえ、草で青々としていた土手は茶褐色に変わり、柔らかい芽をふく木々はなくなり、見る影もない。　７避難民は、両手に持てるだけの物を持ち､命からがらアラビム川を渡って逃げる。８モアブの全土は端から端まで、泣き声でいっぱいだ。　９ディモンの流れは血で真っ赤に染まるが、それでもまだ、さばきの手をゆるめない。　やっとの思いで逃げのびた生き残りの者に、ライオンが襲いかかる。
一六
１　セラにいるモアブの避難民は､ユダの王と同盟を結んだしるしとして子羊を送ります。２モアブの女たちは、アルノン川の渡し場で、帰る巣のなくなった鳥のように置き去りにされます。　３エルサレムに貢物を運ぶ使節たちは、助言と協力を求めます。　「私どもをかくまってください。　お願いですから、敵の手に渡さないでください。　４５見捨てられた私どもの同胞が、お国に住めるよう計らってください。　そのご厚意を、神様はきっとおこころに留められることでしょう。　モアブの亡命者を受け入れてくださるなら、災いが過ぎ去ったのち、ダビデの王座を永久に不動のものとされましょう。　しかもその王座には、正義の王と評判の高い王が座るのです｡」
６　これが、かねがねうわさに聞いていた、あの高慢ちきなモアブだろうか。　人を人とも思わない横柄な態度は、どこへ行ったのか。７モアブ中の人が泣く。　打ちのめされたキル・ハレセテのために嘆き、　８荒れ果てたヘシュボンの畑とシブマのぶどう園のために悲しむ。　戦争好きな敵将たちが、品質を誇るぶどうの木を切り倒したからだ。　指揮官は砂漠のヤゼルまで隊を進め、海岸地帯まで攻撃する。　９だからわたしは、ヤゼルのため、またシブマのぶどう園のために大声で泣く。　ヘシュボンとエルアレのために、滝のように涙を流す。　そこでは夏のくだものと穀物がだいなしになったからだ。　１０楽しみも刈り入れの喜びも、むなしく消え去った。　ぶどう園で聞かれた陽気な歌声は、二度と聞けない。　酒ぶねでぶどうの実を踏む光景は、これで見納めだ。　このわたしが、刈り入れの喜びに終止符を打ったのだ。
１１　わたしはモアブのために､気も狂わんばかりに泣く。キル･ヘレスへの悲しみは、とてもことばで表わせない。１２モアブ人が丘の上で身もだえしながら偶像に祈っても、気休めにもならない。　偶像を祭り、宮で神々に叫んでも、救いはこない。　１３１４モアブについて、神様は以前からこのようにお語りになっていました。　しかし今度は、三年以内にまちがいなくモアブの栄光は去り、ごく少数の者しか生き残らないと断言なさるのです。
一七
１　これは、シリヤの首都ダマスコへの神様のお告げです。
ダマスコは影も形もなくなる。　もはや都市ではなく、巨大な瓦礫の山となる。　２アロエルの町々には人が住まず、羊は追い払われる心配もなくのんびりと伏し、草を食べる。

３イスラエルの力とダマスコの栄誉はなくなり、残ったシリヤ人も滅びる。　イスラエルの栄光が去ったように、彼らの栄光も消えてなくなるからだ。　４イスラエルの栄光は、貧しさが国中に広がるので、あるかないか、わからないまでになる。　５イスラエルは、レファイムの谷にある、刈り入れを終えた畑のように見捨てられる。　６残っている者はほんの数えるほどしかいない。　収穫を終えた木に、ごくわずかのオリーブの実が残っているようなものだ。　高い枝に二つ三つ、枝の先に四つ五つといった具合だ。　ダマスコとイスラエルはこのようになり、ごく少数の貧しい人だけが残る。
７　その時になってはじめて、彼らは創造者である神様を心に留め、イスラエルのきよいお方を敬うようになります。　８もはや、偶像に助けを求めるようなことはせず、自分の手で作ったものを拝みません。　二度と、アシェラ像や香の祭壇に敬意を表わしません。
９　ご自慢の大都市は、遠く離れた丘や山の頂上のように見捨てられ、昔イスラエル軍によって破壊されたエモリ人の町々のように荒れ果てます。　１０あなたを守ってくださる神様に背いた、当然の報いです。　たとい、買い手が金に糸目をつけない品質最高の実を結ぶ苗を植え、　１１しかも、それがすくすく伸びて、植えた日の朝にはもう花を咲かせたとしても、あなたは刈り入れることができません。　刈り入れるのは、山のような大きな悲しみと、いつまでもとれない痛みだけです。
１２　神様の息のかかっている国をめがけて、怒濤のように押し寄せる軍勢を見なさい。
１３しかし心配はいりません。　たとい彼らが海鳴りのような大声をあげても、神様はたちまち沈黙させます。　彼らは一目散に逃げ、風に吹き飛ばされるもみがらや、嵐にもてあそばれるちりのようになります。　１４夕方には、イスラエルは恐怖に包まれていますが、夜明けになれば、敵は山のような死体を残して姿を消します。　これが、神様の国民を滅ぼし略奪する者たちへの、正当な報いです。
一八
１　ナイル川の上流にある、帆船が川面をすべっている国エチオピヤよ。　２矢のように速く川を下る船で、使節たちを送り出している国よ。　ナイル川を境とし、征服者と恐れられる者たちの住む国よ。　急使があなたのところへ引き返し、こうことづける。
３　私が山の上に戦いの旗を立てるのを見のがさないように、世界中の人はよく注意していなさい。　私がラッパを吹き鳴らしたら、耳をすましなさい。　４神様が私に、アッシリヤの強力な軍隊をイスラエルめざして進ませよ、と命じたからです。　神様はエルサレムの神殿から静かに眺めています。　ここちよい夏の日のように、また収穫の秋のすがすがしい朝のように、ゆったりした気持ちで見ています。５しかし、手をこまぬいているわけではありません。　あなたが攻撃に移る前に、まだ作戦が熟さないうちに、神様はぶどうの枝を払うように、大きなはさみであなたを切り、勢いよく伸びるつるを摘み取ってしまいます。　６負け知らずのあなたの軍隊は、戦場で死体をさらし、野鳥や野獣の餌食になるのです。　はげたかの群れは夏中かかって死体を食い荒らし、野獣の群れは冬中かかって骨をしゃぶります。　７その時には、近くの国にも遠くの国にも征服者と恐れられ、

ナイル川を境とするこの大国からも、エルサレムに住む天の軍勢の主のもとへ、貢物が運び込まれます。　そこは、神様がご自分の名を置かれた所だからです。
一九
１　今度は、エジプトについての神様のお告げです。
わたしは速い雲に乗ってエジプトへ向かう。　エジプトの偶像はみな身震いし、エジプト人は恐ろしさのあまり意気消沈する。 ２わたしが同士討ちをさせるので、兄弟は兄弟と、隣人は隣人と、町は町と、州は州と争う。　３日ごろは人一倍知恵のある助言者も、どうしたらいいかわからなくなって途方にくれ、あげくの果てに、偶像に助けを求め、霊媒や魔術師や魔女にうかがいをたてる。
４　「わたしはエジプトを、血も涙もない残忍な王に引き渡す」と、天の軍勢の主は告げます。　５ナイル川の水は、いつものようにあふれて土地をうるおすこともなく、溝は干上がり、　６運河は水草が腐って臭くなります。　７土手沿いの緑の葦はみな枯れ、風に吹き飛ばされます。　作物も立ち枯れが続出し、何もかも死に絶えるのです。　８漁師は仕事にあぶれて泣き、釣り師や網を打つ者は一人残らずくびになります。　９機を織る者は、亜麻や綿が手に入りません。 １０織工も労働者も大きな打撃を受け、心を痛めます。
１１　ツォアンの助言者は、なんというばか者ぞろいでしょう。　エジプト王に進言する最高の策さえ、お話にならないほど間の抜けたものです。　それでもなお、知識をひけらかすことができるでしょうか。　王の前で、学者の家柄を誇らしげに紹介できるでしょうか。　１２エジプト王よ、あなたの知恵袋と呼ばれた助言者は、どうしたのですか。そのけっこうな知恵はどこへ行ったのですか。　彼らに知恵があるというなら、神様がエジプトに何をしようとしておられるかを、彼らから聞けばいいのです。　１３ツォアンの「物知り博士」たちは、まるで頼りにならず、メンピスの知識人たちも、すっかり思い違いしています。　なるほど、彼らはあなたにとって最高の策略家でしょう。　しかし、その浅はかな進言によって、エジプトは滅んだのです。　１４神様が正しく判断できないようにさせたので、彼らは見当はずれのことばかり言います。　それを聞くエジプトは、ひどい酔っぱらいのように足をふらつかせて歩きます。　１５どんな人も物も、エジプトを救えません。　エジプトに正しい道を示すことのできる者は、だれ一人いません。
１６　その日、エジプト人は女のように弱くなり、振り上げられた神様のこぶしを見て、恐ろしさのあまり立ちすくみます。　１７イスラエルの名を耳にしただけで、物の怪につかれたようにおびえます。 それというのも、天の軍勢の主の計画が知らされたからです。
１８　その時、エジプトの五つの都市が天の軍勢の主に忠誠を誓い、ヘブル語を話すようになります。　その一つはヘリオポリス（「太陽の都」の意）と呼ばれます。　１９その時代に、神様の祭壇がエジプトの真ん中に建てられ、国境には神様の記念碑が置かれて、　２０天の軍勢の主への忠誠のしるしとなります。 彼らが、迫害の中で助けを呼び求めると、神様は救い主を送ります。　この方が彼らを救い出すのです。
２１　その日、神様はエジプト人にご自身をお示しになります。　彼らは神様を知り、誓

願のためのいけにえと供え物をささげ、神様との約束を守るようになります。　２２神様は打ちのめしたあとで、もう一度建て直すのです。　エジプト人が素直に神様を信じるので、願いを聞き入れ、何もかも元どおりになさるのです。
２３　その日、エジプトとアッシリヤは幹線道路で結ばれて自由に行き来し、共々に同じ神様を拝むようになります。　２４イスラエルはこの両国と同盟を結び、三つの国が団結します。　しかもイスラエルは、両国にとって祝福となるのです。　２５イスラエルと親しくするので、エジプトとアッシリヤも祝福されます。　神様は、それぞれをこう祝福なさいます。　「わたしの国民エジプトに祝福あれ。　わたしのつくった国アッシリヤに祝福あれ。　わたしの相続財産イスラエルに祝福あれ。」
二〇
１　アッシリヤのサルゴン王が、司令官にペリシテの町アシュドデを襲わせ、占領させた年のことです。　２神様はアモツの子イザヤに、着物も履き物も脱ぎ、裸のまま素足で歩けと命じました。　イザヤは言われたとおりにしました。
３　すると神様は、こう宣言なさったのです。　神の預言者イザヤが、この三年間、裸のまま素足で歩いたことは、わたしがエジプトとエチオピヤに下す恐ろしい災害の前兆だ。４アッシリヤ王はエジプト人とエチオピヤ人を捕虜にし、老人も若者もみな真っ裸のまま素足で歩かせ、エジプトの恥をさらす。　５６これを見て、エチオピヤの力をあてにし、同盟国のエジプトを頼りにしていたペリシテ人は、あわてふためき、口々に言うだろう。「なんてことだ。　エジプトでさえこのざまなら、とうていわれわれに勝ち目はない。」
二一
１　次は、バビロンについての神様のお告げです。
ネゲブから吹きつける龍巻のように、砂漠から恐ろしい災難が、うなり声をあげてあなたを襲います。　２神様は幻の中で、身の毛もよだつような将来の出来事をお示しになりました。　見ると、エラム人とメディヤ人（どちらも、バビロンの東、ティグリス川の東側に住む民族）が攻撃に加わり、あなたがたを滅ぼし略奪しているのです。　バビロンは倒れ、今までバビロンの仕打ちに泣いていた国々のうめきは、二度と聞かれなくなります。３私の胃袋はしめつけられ、苦痛で焼けつくようです。　子供を産もうとする女に苦しみが臨むように、激しい苦痛が私を襲います。　神様の計画を聞いているうちに、恐怖に取りつかれ、失神しそうになりました。　４恐ろしさのあまり、体はすくみ、頭はくらくらし、心臓は早鐘を打つようです。　いつもは、夜ともなれば、ここちよい憩いの時だったのに、今は、一睡もできず、ぶるぶる震えています。
５　彼らは盛大な宴会の準備をしています。　テーブルにごちそうを山盛りにし、いすを引いて、まさに食べようとするところです。　もうすぐ敵が攻めて来ます。　さあ、急いで盾を取り、戦いのしたくをしなさい。
６７神様は幻の中で私に命じました。　「城壁には見張りを立て、変わったことがあったら大声で報告させろ。　その見張りが、ろばやらくだに乗った二列の騎兵が見えると言っ

たら、『それだ！』と声をかけてやるのだ。」
８９私は言われたとおり、城壁に見張りを立てました。　やがて、声をふりしぼるようにして、彼が報告してきました。　「くる日もくる日も、かた時も休まず見張ったかいがあったぞ！　見ろ、二列に並んだ騎兵がやって来る！」
その時、大きな声が響き渡りました。　「バビロンは倒れた。　倒れた。　バビロンの偶像は一つ残らず無残にこわされ、投げ捨てられた。」
１０　脱穀され、ふるいにかけられたユダの人々よ、天の軍勢の主であるイスラエルの神様のお告げは、全部話しました。
１１　次は、ドマ（エドムのこと。　パレスチナ南部の山地。　住民はエサウの子孫で、イスラエルとは深い関係にある）への神様のお告げです。
だれかが、ひっきりなしに私に問いかけます。　「もしもし、今は夜の何時ですか。　恐れ入りますが、今は夜の何時ですか。　夜明けまで、まだだいぶ間がありますか。」　１２「あなたがたのさばかれる日が、もうそこまで来ています。　神様に立ち返りなさい。　そうしたら、もっと良い知らせを聞かせよう。　神様を求めなさい。　そのあとでもう一度、聞きに来なさい。」
１３　次は、アラビヤについての神様のお告げです。
デダンから来た隊商よ、アラビヤ砂漠に身を隠しなさい。　１４テマの人たちよ、疲れきった亡命者に水と食べ物を持って行ってやりなさい。　１５彼らは抜き身の剣と飛びかう矢、それに戦争の恐怖から、やっとの思いで逃げて来たのです。　１６しかし、神様は断言なさいます。　「もう一年したら、彼らの敵であり、今は絶大な力を持つケダル人の栄光は地に落ちる。　１７ごくわずかの勇敢な射手しか残らない。」　イスラエルの神様である主が、こうお語りになりました。
二二
１　今度は、エルサレムについての神様のお告げです。
いったい、どうしたというのでしょう。　だれもかれも、どこへ行こうとしているのでしょう。　大急ぎで屋上に上り、何を見つめているのでしょう。　２町中が上を下への大騒ぎです。　あれほど繁栄していた優雅な都に、足の踏み場もないほど死体が転がっています。　それも、勇敢に戦い、戦死したのではなく、伝染病で倒れた人たちの死体です。　３指導者はわれ先に逃げ、あっさり降伏します。　住民も脱出をはかりますが、途中で捕虜になります。　４私を一人にしてくれ。　思いっきり泣きたいのだ。　へたに慰めないでくれ。　同胞が目の前で滅ぼされるのを見て、どうして泣かずにおれよう。　５ああ、胸の張り裂けそうな悲しみの日！　天の軍勢の主が与える混乱と恐怖の日！　エルサレムの城壁はくずれ落ち、山々に断末魔の叫びがこだまします。　６７エラム人は弓の名手、シリヤ人は戦車をあやつる名人です。　おまけに、キル人は盾を並べて逃げ場を絶ちます。
彼らは、いちばん美しい谷に押し寄せ、城門めざしてなだれ込むのです。
８　神様が手を引いてしまったので、あなたがたはあわてて武器を取りに兵器庫へ走りま

す。　９‐１１大急ぎで城壁を調べ、修理個所を捜しておいた上で、家々を見て回り、ある家はこわして城壁を修理する材料にします。　また、二重になっている城壁の間に貯水池を造り、下の池から水を引きます。　しかし、このような涙ぐましい努力も水のあわです。　ずっと前からこのような計画を立てていた神様の助けを、求めなかったからです。
１２天の軍勢の主である神様は、あなたがたが悔い改め、罪を犯したことを泣き悲しんで頭をそり、荒布で作った着物をまとうように、と呼びかけてきました。　１３ところがあなたがたときたら、歌と踊りと遊びに興じ、飲み食いに明け暮れたのです。　「さあ、大いに飲み、たらふく食べよう。　せいぜい愉快にやろうじゃないか。　人生は太く短くだ。どうせ明日は死ぬんだから」と開き直っています。　１４天の軍勢の主は、このような罪は死ぬまで赦されない、と断言なさいます。
１５１６天の軍勢の主である神様は、次のようにもお語りになりました。　さあ、宮殿を管理しているシェブナに言ってやれ。　「おまえは、岩を掘ってりっぱな墓を造ったが、いったい自分を何様だと考えているのか。　１７ああ、勇士よ。　おまえにこんなぜいたくな暮らしを許した神は、おまえを放り投げ、捕虜として遠くへ連れて行く。　１８神はおまえを手の中で丸めてまりのようにし、草木も生えない遠くの不毛の地に投げ捨てる。ああ、名声をほしいままにした者、国の恥さらしよ。　おまえはそこで死ぬのだ。
１９　わたしはおまえを追放し、高い地位から引きずり下ろす。　２０そのあとで、ヒルキヤの子である、わたしのしもべエルヤキムを召し、おまえの代わりとする。　２１彼はおまえの長服を身に着け、おまえの肩書きと権力を譲り受け、エルサレムの住民とユダ国民の父となる。　２２彼に、わたしの国民を支配する権威を与えるのだ。　彼の言うことは何でもそのとおりになる。　だれ一人その前に立ちはだかることはできない。　２３２４わたしは彼を、わたしの国民を支えるための、しっかり打ち込まれた太い釘とする。人々は彼に全権をゆだね、彼は家門の誉れとなる。」　２５しかし神様はやがて、壁にしっかり打ち込まれたこの太い釘を抜きます。　それはすっぽり抜け落ち、支えていた物もいっせいにくずれ落ちます。　神様がそう断言なさったからです。
二三
１今度は、ツロについての神様のお告げです。
遠い国から来るタルシシュの船よ、なくなった母港のために思いっきり泣きなさい。　キプロスで聞いたうわさは全部ほんとうだったのです。　２３どこもかしこも死の静寂がおおっています。　海の向こうから、また、エジプトとナイル川沿いの地から商品を運んで来たシドンの船でいっぱいになり、大いににぎわっていた、かつての貿易中心地は、今ではひっそり静まり返っています。　４海の要塞であるシドンよ、今はもう子〔ツロ。　シドンの植民地〕がいないのだから恥じなさい。　５エジプトがこのことを聞いたら、悲しみにくれるでしょう。　６ツロの人たちよ、泣きながらタルシシュへ逃げなさい。　７物言わぬ廃墟が、かつては喜びの声にあふれていた地の、ただ一つの名残です。　輝かしい歴史を振り返り、遠くにあった植民地の一つ一つを思い出しなさい。

８だれが、大帝国を築き上げて世界貿易の王者にのし上がったツロを、こんな悲惨な目に会わせたのでしょう。　９ほかでもない天の軍勢の主が､その思い上がりをたたきのめし、人間の偉大さなど物の数ではないことを示そうと、このようにしたのです。　１０タルシシュの船よ、母港はなくなったのだから、あてもなく航海を続けなさい。１１１２神様は海の上に御手を伸ばし、地上の国々を縮み上がらせます。　この偉大な商業都市を滅ぼせと命じた神様は、こう断言なさいます。「ああ、名誉を傷つけられたシドンの娘よ、二度と威勢よくこおどりして喜ぶな。　たといキプロスに逃げのびても、休むことはできない。」１３見なさい。 バビロンもアッシリヤ人に滅ぼされ､野獣の住みかになっています。 彼らはしつこく攻撃して宮殿をこわし、瓦礫の山にします。　１４大洋をわがもの顔で走る船よ、母港は無残にこわされたのだから、泣きわめきなさい。
１５１６ツロは七十年のあいだ忘れられます。　そのあと別の王が治めるようになって、町は息を吹き返し、売春婦が、久しく会わない恋人を捜して、甘い歌をうたいながら通りを歩くように､恋の歌をうたいます。　１７七十年たって､神様がツロを生き返らせても、町は再び、世界をまたに元の悪事を重ねます。　１８ところが、ずっとあとになって、そのもうけは神様のために使われ、神の祭司のごちそうや上等の服装の代金となります。
二四
１神様は地をくつがえし、広大な荒れ地にしようとしておられます。　全国民を地上のあちこちに追い散らすのです。　２祭司も一般の国民も､召使も主人も､女奴隷も女主人も、売り手も買い手も、貸す者も借りる者も、銀行家も債務者も、一人としてこの運命を免れることはできません。　３猫の子一匹いなくなり、いっさいのものが略奪されます。　このことは、神様がじきじきお語りになりました。　４５国は住民の罪のために苦しみ、地はやせ衰え、作物はしおれ、空は雨を降らせません。　国は犯罪によって汚れました。　住民が神様のおきてに背き、神様の永遠の命令を破ったからです。　６そのため神様ののろいが下り、人々は心がすさみ、日照りで死に絶えます。　生き残る者はほんの数えるほどしかいません。
７もう人生の喜びなどありません。　ぶどうは収穫期になっても実らず、ぶどう酒は底をつきます。　陽気だった人も、すっかり顔をくもらせ、うなだれます。　８竪琴やタンバリンの陽気な音は二度と聞かれません。　楽しかった時代は全く過去のものとなります。９ぶどう酒を飲みながら歌う喜びは昔物語となり、強い酒を飲んでも、口の中が苦くなるばかりです。
１０町は無法地帯も同然で、どの家も店も戸締まりを厳重にし、略奪されまいと神経をとがらせます。　１１暴徒は群れをなして通りをのし歩き、「酒をくれ」とわめきます。　喜びは失われ、楽しみは忘れ去られました。　１２町は荒れほうだい、城門は無残な姿をさらすばかりです。　１３国中どこでも、ごくわずかの生存者しかいません。
１４しかし、残った者は大喜びで歌います。　西に住む者が神様の偉大さをたたえれば、１５１６東に住む者も、喜んで声を合わせます。地の果てから神様をほめ歌い、正義の神

様の誉れをたたえる声に耳をすましなさい。
ああ、それなのに、私の心は憂いのために重く沈んでいます。　悪はいぜんとしてはびこり、裏切り行為は至る所で見られるからです。　１７全世界の人々よ。　あなたがたが恐怖の地獄へ引かれて行く運命に、変わりはありません。　１８恐ろしくなって逃げようとすると、穴に落ち込みます。　やっとのことで穴からはい出せば、今度は罠にかかります。天から滅びが降ってくるので、足の下で大地は揺れ動きます。１９地はずたずたに裂け、何もかも原形をとどめなくなり、足の踏み場もなくなります。　２０世界中が酔っぱらいのようにふらつき、嵐の中のテントのように揺れ動きます。　あまりの罪の大きさに耐えきれず、世界は倒れて、二度と起き上がれません。
２１その日、神様は天上の堕落した天使を罰し、地上の国々の高慢な支配者に罰を加えます。　２２彼らは囚人のように駆り集められ、刑の執行の時まで地下牢に閉じ込められます。　２３ついに天の軍勢の主はシオンの御座にのぼり、イスラエルの長老たちの見ている前で、エルサレムを中心に世を治めます。　その栄光は、太陽の輝きも月のうるわしさも、色あせてしまうほどです。
二五
１神様、私はあなたをあがめ、御名をたたえます。　あなたは私の神であられ、こんなにすばらしいことをなさるからです。　ずっと昔から計画しておられたことを、そのとおり実現なさいました。　２大都市を廃墟とし、難攻不落を誇っていた要塞を瓦礫の山にしました。　外国人の建てた美しい宮殿は影も形もなくなり、再建のあてさえありません。　３どんなに強い国でも、神様の前に出たら、こわくてひざが震えます。　どんなに血も涙もない冷酷な国でも、神様に服従し、御名をあがめます。
４しかし神様は、貧しい者にとっては、嵐を避ける隠れ家、暑さをしのぐ木陰、土塀をくずすどしゃ降りの雨のように非情な人間からかくまう避け所です。　５乾燥し熱しきった地が、上空をおおう雲でほてりを静めるように、神様は血も涙もない国々のうぬぼれを冷まします。　６天の軍勢の主は、エルサレムにあるシオンの山で、全世界の人々のために豪勢な宴会を催します。　山海の珍味を盛ったごちそうと、すき通った年代もののぶどう酒、それに最上等の牛肉が出ます。７その時、神様は、地表をおおっている陰気な死の雲を取り除き、８永久にのみ尽くします。　神様である主は、すべての涙をぬぐい、ご自分の国と国民に対するいっさいの侮辱とさげすみとを、永久に取り除きます。　神様がじきじき、こうお語りになったのだから、必ずそのとおりになります。
９その日、人々は、「このお方こそ、私たちが信頼し、長いこと待ち続けた神様だ。　とうとう、おいでになったぞ」と大声で叫びます。　なんと喜びにあふれた日でしょう。　１０神様の恵みの御手はエルサレムにとどまり、一方、モアブは御足の下でわらのように踏みにじられ、腐ってしまうのです。　１１泳ぐ人が水をかくように、モアブも必死に手を伸ばしますが、神様は彼らを押さえつけます。　彼らの思い上がりと、いっさいの悪にとどめを刺すのです。　１２モアブの高い城壁はくずれ落ち、ただの土くれになります。

二六
１ユダ国民の歌声を聞きなさい。　その日、国中にこのような歌が流れます。
「私たちの町はびくともしない。　神様の救いの城壁で囲まれているからだ。」　２門を開けて、自由に入らせなさい。　神様を愛する人なら、だれでも中に入れます。　３神様を信頼し、いつも神様のことに思いをはせる者を、神様は何の心配もないように守ってくださいます。　４どんな時でも、神様である主に信頼しなさい。　いつまでも尽きない力がいただけるのは、主からだけです。　５神様は思い上がった者に赤恥をかかせ、横柄な町を土下座させ、城壁をくずします。　６神様はそれを、貧しい人や困っている人の生活の足しとしてお与えになります。
７正しい人の道は、息の切れる急坂でも、歩きにくいでこぼこ道でもありません。　神様が道をならし、平らにされるのです。　８神様、私たちは、神様がお喜びになることを行ないたくて、うずうずしています。　御名を高らかにたたえることだけが、心からの願いです。９私は夜通し神様を探し求めます。　真剣に尋ねます。　あなたがさばきの神として地上に下り、罰を加える時にだけ、人々は悪を離れ、正しいことを行なうからです。
１０神様がどんなに親切にしても､悪者は善人になりません。 彼らは悪事を働くだけで、神様の偉大さやすばらしさを心に留めないのです。　１１神様の警告を聞いても、いっこうに気にかけず、振り上げられたこぶしを見ようともしません。　どうか、イスラエルをどんなに愛しているかを、はっきり示してやってください。　そうすれば彼らも恥じ入るでしょう。　神様の敵のために取っておかれた火で、彼らを焼き尽くしてください。
１２神様、私たちに平和をお与えください。　私たちが今持っているもの、また私たちの今の境遇は、みな神様からいただいたものばかりです。　１３私たちの神様、主よ。　私たちは以前、ほかの神々を拝んでいましたが、今は神様だけを礼拝しています。　１４私たちが仕えた神々は死んで姿を消し、もう息を吹き返しません。　神様が彼らに立ち向かい、滅ぼしたからです。　彼らはすっかり忘れ去られました。　１５神様はなんとすばらしい方でしょう。　私たちの国境を広げ、私たちを偉大な国民にしてくださいました。
１６神様、彼らは苦しい時に、神様を求めました。　神様の罰が下った時、絶え入るような声で祈りました。　１７神様、私たちはなぜ、神様のもとから遠ざかったのでしょう。おかげで､苦しみもだえる産婦のように苦しみました。 １８身もだえしてうめきました。どんなに努力しても、自由の身になれませんでした。　１９しかし私たちは、神様に従う者はきっと生き返ると確信しています。　そのような人の体はよみがえります。　ちりの中に住んでいる者は、やがて目を覚まし、喜びの歌声をあげるはずです。　神様のいのちの光が、露のように降ってくるからです。
２０　私の国民よ、家へ帰って、戸に鍵をかけなさい。　敵に対する神様の憤りが過ぎ去るまで､ほんのしばらく隠れていなさい。 ２１神様は､地に住む者の罪を罰するために､天から降りて来ます。　地は、もはや人殺しをかくまいません。　一人一人の罪状が明らかになるのです。

二七
１その日、神様は恐ろしく鋭い剣で、素早く動く蛇、とぐろを巻いている蛇、海の竜であるレビヤタンを殺します。
２イスラエルの解放の日に、国民が次の賛歌を口ずさみますように。
３イスラエルはわたしのぶどう園。　神であるこのわたしが、実を結ぶぶどうの手入れをする。　毎日水をかけ、昼も夜も、敵が近づかないように見張る。　４５イスラエルへの怒りは、もうおさまった。　いばらが彼らをわずらわせようものなら、手をついてあやまり、赦しを求めない限り、この憎い敵を焼き払う。　６やがてイスラエルが根を張り、つぼみをつけ、花を咲かせ、世界を実でいっぱいにする時がくる。
７８神様はイスラエルの敵を罰したように、イスラエルを罰したのでしょうか。　そんなことはありません。　敵は息の根を止められました。　しかしイスラエルは、ほんの少し罰を受けただけです。　東からの嵐に吹き飛ばされるように、遠く離れた地へ追いやられたにすぎません。　９では、なぜ？　なぜ神様はそのようにしたのでしょう。　イスラエルの罪をきよめ、偶像とその祭壇とを取り除くためです。　これらのものは二度と礼拝の対象にはなりません。　１０城壁で囲まれた町々はひっそり静まり返り、家は荒れほうだい、通りには草が茂り、牛は町をのし歩いて草を食べ、木の枝を食べるようになります。
１１私の国民は枯れ枝のように折られ、煮たき用のたきぎになります。　彼らは鈍い国民で頭の回転が遅く、間が抜けています。　それというのも、神様に背いているからです。
だから、彼らをお造りになった方は、少しもあわれみをかけません。　１２しかし、穀物を一粒一粒ひろい上げるように、神様が彼らを集め、ユーフラテス川からエジプト国境に及ぶ、広大な打穀場から選び分ける時がきます。　１３その日、大きなラッパが鳴りわたり、アッシリヤやエジプトで、息も絶え絶えになっている大ぜいのイスラエル人が救い出され、聖なる山で神様を拝むためにエルサレムへ連れ戻されます。
二八
１よく肥えた谷に囲まれたサマリヤの町は、恐ろしい目に会います。　酔いどれイスラエルの誇りであり、喜びでもあるサマリヤよ。　その色あせていく美しさと、路上で酔いつぶれている者にとっての最大の栄誉は、見る影もなくなります。　２神様があなたに、アッシリヤの強大な軍隊を差し向けるからです。　荒れすさぶ雹の嵐のように、大軍が襲いかかり、あなたを地にたたきつけます。　３酔いどれイスラエルの喜びだった高慢なサマリヤの町は、地面に投げつけられ、くつで踏みにじられます。　４よく肥えた谷に囲まれた、まぶしいまでの美しさは、あっという間に消え、初なりのいちじくの実が摘み取られて口に放り込まれるように、貪欲な手で、もぎ取られます。
５その時になってはじめて、天の軍勢の主が彼らの最大の栄誉となり、残った国民の美しい冠となります。　６神様は、裁判官には正義心を、城門の外に最後まで踏みとどまって戦う兵士には、大きな勇気を与えます。　７しかし今のところ、エルサレムは酔っぱらいの手に握られています。　祭司も預言者も足がふらつき、常識では考えられないまちがい

をしでかします。　８彼らの食卓は吐いた物だらけで、どこもかしこも汚物でいっぱいです。
９ところが国民は、口々に不平を言うのです。　「イザヤのやつ、ずいぶんずけずけ言うじゃないか。　いったい何様だと思ってるんだ。　おれたちを片言まじりの子供扱いしやがって。　１０もうたくさんだ。　耳にたこができた。　同じことをくどくどと、何度にも分けて少しずつ話す。　あれじゃ、子供でもわかるだろうよ。」
１１こう言って、いっこうに耳を貸そうとしません。　彼らにぴんと来るのは、罰があたるということばだけです。　だから神様は罰として、ちんぷんかんぷんな話し方をする外国人を、彼らに敵対させます。　そうなってはじめて、彼らは神様のことばを聞くようになります。１２最初から神様のいいつけを守り、正しい生活を送っていたら、自分の国で安心して暮らせたはずです。　せっかくの神様の約束に、彼らは耳をふさぎました。　１３そこで神様は、機会を見ては、わかりやすいことばで何度も同じことを言いました。　ところがこの簡単明瞭なお告げに、彼らはつまずいて倒れ、足を折り、罠にかかって捕らえられる有様です。
１４だから、口ぎたないエルサレムの指導者は、次の神様のおことばを聞くがいい。
１５おまえたちは死と契約を結んだとうそぶいている。　しかも、アッシリヤ人の攻撃から守ってもらうという交換条件で、悪魔に身を売り渡したということだ。　「彼らはわれわれに指一本ふれることもできない。　われわれには、彼らをあざむいてくれる強い味方がついているのだ」と、おまえたちは高をくくっている。
１６しかし、神様である主のお告げは違います。　わたしはシオンに土台石を置く。　それは試験ずみの、かけがえのない隅の親石で、どんな重さにも耐える。　信じる者は二度と逃げなくてもよい。　１７わたしは測りなわと正義のおもりで、おまえたちの城壁の基礎工事を調べる。　それは、見た目にはりっぱだが、実際はもろく、雹の嵐で簡単にくずれる。　敵は洪水のように押し寄せて城壁をのみ込み、おまえたちはおぼれる。　１８わたしは、おまえたちが死や悪魔と結んだ協定を破棄するので、恐ろしい敵がなだれ込み、おまえたちを踏みにじる。　１９洪水はくり返し襲いかかり、おまえたちを一人残らず押し流す。　だから、わたしが前もって警告しておいたことが実際にはどんなに恐ろしいことか、身にしみてわかる。
２０あなたがたの作ったベッドは丈が短くて足が出るし、毛布は小さすぎて体をくるむことができません。　２１神様は、ペラツィム山とギブオンでの時のように、思わぬ時に突然やって来て、神様の国民を滅ぼすという、常識では考えられないようなことをします。
２２だから、刑罰がいっそう重くならないためにも、これ以上あざけってはいけません。
天の軍勢の主である神様は、私にはっきりと、あなたがたを押しつぶすことにした、とお語りになっているからです。
２３２４私の言うことをよく聞き、私の嘆願に耳を傾けなさい。　農夫は、畑を耕し、ならすばかりで、いつまでも種をまかないでしょうか。２５耕し終えたら、さまざまの穀物

の種を、それぞれの場所にまかないでしょうか。　２６農夫は作物をどう扱えばよいかを知っています。　神様が、物事をよく見て正しく判断する力をお与えになったからです。　２７だから、どの穀物も同じように脱穀したりはしません。　いのんどの実は、大つちではなく棒で打ちます。　クミンの場合は、脱穀車の車輪を回して押しつぶすのではなく、からざおで静かにたたきます。　２８パンの材料になる麦は、すぐつぶれるので、いつまでもたたくようなまねはしません。　２９天の軍勢の主はすぐれた教師であり、農夫に知恵をお授けになるのです。

二九

１ダビデの町エルサレムよ、おまえはひどい目に会う。　くる年ごとに、おまえは多くの供え物をささげる。　２しかし、わたしが重い罰を加えるので、泣き声と悲しみがあふれる。　それというのも、「アリエル」というあだ名のとおり、エルサレムは血だらけの祭壇になるからだ。　３わたしはおまえの敵となる。　エルサレムを包囲し、しつこく攻めたて、周囲に要塞を築いて滅ぼす。　４おまえの声は、埋められた地中から、幽霊のようにかすかに聞こえるばかりだ。

５だが、残酷な敵も、みるみるうちに、風の前のもみがらのように吹き飛ばされる。　６天の軍勢の主であるわたしは、雷と地震とつむじ風、それに火をもって不意に襲いかかる。　７エルサレムに戦いをいどむ国はすべて、一夜の夢のように消え去る。　８腹ぺこの人が食事の夢を見ても相変わらず空腹であるように、また、のどの渇いた人が水を飲む夢を見ても相変わらず渇きで苦しむように、おまえの敵は勝利の夢を見るが、現実とはならない。

９あなたがたは信じられないのですか。　目をぱちくりさせたりして。　こんなことが信じられないくらいなら、もう知りません。　かってに盲のままでいなさい。　あなたがたは頭の働きが鈍くなりますが、ぶどう酒に酔ったせいではありません。　足がふらつきますが、強い酒のせいではありません。　１０神様が深い眠りの霊を注いだのです。　神様は預言者や先見者の目をふさいだので、　１１将来の出来事のいっさいは、彼らにとって封をされた書物同然になりました。　ですから、いくら読解力のある人に渡しても、「読めません。　封がしてありますから」と答えます。　１２別の人に回すと、「お気の毒さま。私にも読めません」という返事です。

１３そこで神様はお語りになります。　「この国民は、口先ではわたしの民だと言いながら、実際にはわたしの言いつけを守らない。　連中の礼拝ときたら、そらで覚えた文句の反復だ。　１４もう黙ってはいられない。　偽善者どもに思い知らせてやる。　最高の助言者さえ、まぬけ同然にしてやろう。」

１５自分の計画を神様に隠そうとする者と、陰で悪を行なう者は、ひどい目に会います。そんな者は、口はばったいことを言います。「神様はこんなところまで目が届かない。　地上で何が起こっているかなんて、大よそご存じないさ。」　１６なんとばかげたことを言うのでしょう。　陶器師である神様は、陶器にすぎないあなたがたより偉くないのでしょうか。　それとも、神様に向かって、「あなたは私たちを造らなかった」と盾をつくのですか。

機械はそれを発明した人に、「あなたはおしだ」と言えた義理でしょうか。
１７もうしばらくしたら、レバノンの荒野は再び実り豊かな平野となり、樹木がうっそうと茂るよく肥えた森となります。　１８その日、耳しいは書物のことばを聞き、盲人は暗やみごしに神様の計画したことを見ます。　１９柔和な人は神様からくる新しい喜びにあふれ、貧しい人はイスラエルのきよい神様によって喜び踊ります。　２０弱い者いじめはいなくなり、あざける者は断たれ、悪事をたくらむ者は一人残らず殺されます。　２１こんな連中は、ちょっとしたことに言いがかりをつけてはけんかを売り、裁判になればなったで、有罪の判決を下した裁判官を待ちぶせて袋だたきにします。　あらゆる口実をもうけて不正を行なうのです。
２２だから、アブラハムを救い出した神様は、こう断言なさいます。　わたしの国民は恐れのあまり青くなったり、恥をかいたりはしない。　２３人口が急増し、経済が好転するのを見て、わたしの名を恐れ、わたしをたたえるようになる。　２４道を踏みはずしていた者は、真理を信じるようになり、不平ばかり言っていた者は、進んで教えを受けるようになる。
三〇
１逆らってばかりいるわたしの子供たちは、きっとひどい目に会う。　おまえたちは、わたし以外の者なら、だれの忠告でも聞く。　しかも、これだけはしてもらいたくないと思うことを、平気でする。　不信者と同盟を結び、どんどん罪を重ねる。　２わたしとは相談もせず、助けが欲しいばかりにエジプトへ下り、エジプト王の保護をあてにした。　３だがエジプト王をあてにすれば、失望し、屈辱を受け、面子をつぶすことはまちがいない。彼にはおまえたちを救う力などないからだ。４たとい王の勢力がツォアンにまで及び、おまえたちを歓迎する使者をわざわざハネスにまで遣わしても、　５ほんの少しでも助けることはできない。　おまえたちは恥をかくだけだ。
６エジプトめざして、恐ろしい砂漠をそろそろと進んで行く様子を思い浮かべよ。　エジプトの援助を買いつけるための宝物を山と積んだ、ろばやらくだの列が進む。　ライオンやすばしこいまむしの住む地を越えて行く。　ところがエジプトは、何一つお返しができない。　７エジプトの約束は空手形だ。　わたしはこの国を、「無気力なわに」と呼ぶ。
８さあ、行って、エジプトについてわたしが言ったことを書き記せ。　のちのちまで、イスラエルの不信仰に対する起訴状として残しておきたいのだ。　９そうでもしなければ、彼らは口をとがらせ、わたしが一度も警告しなかった、と文句を言うに違いない。　「とんでもありません。　神様はただの一度だって、そんなことはおっしゃいませんでした」と言うに決まっている。
彼らは意地っぱりで、強情な反逆者だ。　１０１１事もあろうに、神の預言者たちに向かって、「だまれ。　おまえの言うことなんか、もう聞きたくもない」とか、「本当のことなんかどうでもいい。　耳ざわりのいいことだけを話してくれ。　うそでもかまわん。　陰気くさいことはまっぴらだ。　『イスラエルのきよい神様がこう言った』なんて決まり文

句は、耳にたこができるほど聞いた」と言う。
１２イスラエルのきよい神様の返事はこうです。
おまえたちはわたしの言うことを無視し、根も葉もないことを信じて悔い改めようとしなかった。　１３だから、災難が突然おまえたちを襲う。　ちょうど城壁にひびが入り、がらがら音を立ててくずれ落ちるようにだ。　何もかも、あっという間の出来事だ。　１４わたしは皿を割るようにおまえたちを砕き、少しも手ごころを加えない。　いろりから炭火を移したり、井戸の水を少しでも運べるほどの破片も残らない。　１５イスラエルのきよい神様である主は、こうお語りになります。　わたしに立ち返り、わたしの助けを待ち望みさえすれば、おまえたちは救われる。　心を落ち着けて信頼することが、おまえたちの力となるのだ。　ところがおまえたちは、そうはしなかった。
１６あなたがたは言います。　「とんでもないことだ。　さっそくエジプトの力を借りよう。　足の速い軍馬を提供してくれるはずだ。」しかし実際に見るのは、あなたがたを追いかける敵の速さだけです。１７たった一人の敵に千人が追い回され、わずか五人の敵で散り散りばらばらにされます。　こうしてあなたがたは、遠くの山頂の、まばらに生えた木のようになるのです。　１８しかし神様は、あなたがたを愛し、いつかみもとに帰るのを待っています。　約束どおり、あなたがたを無理やりつかまえてでも祝福しようと、待ちかまえています。　神様は約束は必ず守るお方なので、神様の助けを待ち望む人はしあわせです。
１９エルサレムに住む私の国民よ、もう泣くことはありません。　神様はあなたがたの叫びに答え、まちがいなく恵んでくださるからです。　２０逆境のパンと悩みの水を差し出す時でさえ、神様は必ずそばにいて教えてくださいます。　自分の目ではっきりと、教師を見ることができるのです。　２１神の道を離れて迷っても、うしろから、「そっちではない。　こっちの道を歩け」という声が聞こえます。　２２あなたがたは金や銀で作った偶像をぶちこわし、手にするのも汚らわしいかのように、「消えうせろっ！」と言って投げ捨てるでしょう。
２３そののち、神様は種まき時には雨を、収穫時には黄金の穂波を、また乳牛には牧草を、たっぷり与えてくださいます。　２４畑を耕す雄牛や若いろばは、もみがらを除いたおいしい穀物を食べます。　２５神様が乗り出して敵を滅ぼす時、どの山や丘からも水が豊かに流れます。　２６神様がご自分の国民の傷を治す時には、月は太陽のように明るくなり、太陽の光は七倍も明るく輝くのです。
２７神様が真っ赤になって怒り、立ちのぼる濃い煙に包まれて遠くから来る様子を見なさい。　口は激しい怒りの火を吐き、ことばは火のように何もかも焼き尽くします。　２８憤りは洪水のようにあふれ、人も物も洗いざらい流し去ります。　神様は思い上がった国々をふるいにかけ、くつわをかけ、屠殺場へ連れて行きます。
２９しかし神様の国民は、きよい祭りの晩のように、心を込めて喜びの歌をうたいます。巡礼の一団が笛の音に合わせて、イスラエルの岩である主の山へ登って行く時のように、

心をはずませます。　３０神様が威厳ある声を響かせ、怒りを込めて敵の頭上に力強い腕を振り下ろす時、燃える炎とつむじ風、恐ろしい嵐と大きな雹が伴奏をかなでます。　３１神様は恐ろしい声で、以前は懲らしめの杖の役目をしたアッシリヤ人を罰するのです。３２彼らが打たれるたびに、神様の国民は音楽をかなで、歌をうたって喜びます。　３３アッシリヤのためには、ずっと前から火葬用のたきぎが高く積み上げてあります。　神様の息が、吹き上げる火山の火のように、たきぎの山を一瞬のうちに燃やします。
三一
１助けを求めてエジプトに走り、イスラエルのきよい神様の指示を仰がず、エジプトの強い騎兵と戦車をあてにする者は、今にひどい目に会います。　２神様はご自分の知恵によって、その民に大きな災難を下します。　しかも、一度思いたったことは変えません。　彼らの悪を決して見のがさず、同時に同盟軍も踏みつぶします。　３エジプト人はただの人間で、神ではありません。　その馬は取るに足らぬ動物で、どんなものでも蹴散らす霊ではありません。　神様がこぶしを振り上げると彼らはつまずき、助けるはずだった人たちの間で倒れ、どちらも滅んでしまいます。
４５しかし神様は、こうお告げになりました。　ライオンが羊をかみ殺す時には、羊飼いの叫び声や騒ぎなど気にもかけない。　さっと襲いかかって一気に食べる。　同じように、シオンの山の上で戦うわたしは､おびえて逃げたりはしない。　わたしは天の軍勢の主だ。鳥が巣の上を飛び回るように､エルサレムの上空を舞う。　こうして都を守り､救い出す。６だから私の国民よ。　あなたがたは箸にも棒にもかからぬ悪党だが、神様のもとへ帰りなさい。　７やがて、あなたがたが一人残らず、罪深い手で作った金や銀の偶像を投げ捨てる、すばらしい日がきます。　８アッシリヤ人は滅びますが、人の剣によってではありません。　「神の剣」が彼らを切り殺すのです。　彼らはあわてふためいて逃げます。　屈強の若者は奴隷として引かれて行きます。　９将軍たちさえ恐れのため身震いし、イスラエルの軍旗を見ると一目散に逃げると、神様は断言なさいます。　神の炎が、赤々とエルサレムに燃え上がるからです。
三二
１正義の衣をまとった王が、忠実な部下を引き連れて来ます。　２王はイスラエルを嵐と風から守ります。　イスラエルを砂漠の川のようにし、日照りで乾ききった地にある、大きな岩の涼しい陰のようにします。　３その時になってはじめて、イスラエルの目は神様に向かって大きく開かれ、国民は御声に耳を傾けます。　４せっかちな者さえ常識豊かな人間となり、口ごもる者も、はっきりしゃべるようになります。
５　その時には、神様を敬わない無神論者は、決して英雄になれません。　たとい金持ちでも、人をだます者は、りっぱな人と呼ばれません。　６だれもが、見たとたんに、これは悪人だと直感します。　偽善者は、もうだれもだませません。　神様についてまことしやかに嘘をつき、飢えた人をあざむくとたんに、嘘がばれるからです。　７悪者の巧妙な手口も、難なくあばかれます。　法廷で貧乏人を脅すための偽証も、例外ではありません。

８しかし正しい人は人にも寛大で、することなすこと神様に祝福されます。
９何もせずにぶらぶらしている女は、私の言うことを聞きなさい。　その報いがどんなものか話してやろう。　１０あと一年とちょっとで、大へんなことになります。　収穫期になっても作物がとれないのです。　その時になってあわてても手遅れです。　１１のんきにかまえてばかりいず、少しは先の心配をして、無頓着な態度を改めなさい。　美しい着物を脱ぎ、悲しみの日に備えて荒布をまといなさい。　１２涙をしぼって嘆きなさい。　よく肥えた畑は見る影もなくなり、かつては実をいっぱいつけたぶどうの木は、形なしになるからです。　１３土地にはいばらや野ばらが生い茂り、笑い声の絶えなかった家や、活気に満ちていた町は、跡形もなくなります。　１４宮殿や邸宅は荒れ果て、人でごった返していた町も、猫の子一匹見えません。　見張り塔のあった山の上では、野生のろばや山羊が草を食べます。　１５しかし、やがては天から御霊が注がれ、再び見渡す限りの黄金の穂波が見られるようになります。　１６そのとき正義は国中を支配し、　１７その正義から平和が生まれます。　また、静けさと信頼がいつまでも支配します。
１８私の国民はいっさいの危害から守られ、静かに落ち着いて暮らします。　１９しかしアッシリヤは滅び、その町々は破壊されます。　２０神様はご自分の国民に豊かな祝福を注ぎます。　ですから、どこに種をまいても作物はみごとに成長し、牛やろばは緑の牧場で草を食べるのです。
三三
１回りのものは手あたりしだいに破壊したが、自分では痛い目に会ったことのないアッシリヤ人たち。　あなたがたに災いが及びます。　あなたがたは、人に約束を守ることを期待しながら、自分は平気で裏切ります。　今度は、裏切られ、滅ぼされる番です。
２　しかし神様、私たちは神様を待ち望んできたのですから、お心にかけてください。　毎日、私たちの力となり、苦難の時には救いとなってください。　３神様が大声をあげると、敵は逃げ、神様が腰をあげると、国々の民はわれ先にと逃げます。　４いなごが畑やぶどうの木を丸裸にするように、エルサレムは、アッシリヤの敗残兵から何もかも奪い取ります。
５神様はとても偉い方で、天に住み、エルサレムを正義と恵みの住まいにします。　６知恵と知識、それに神様への尊敬とともに、ユダのためには、あふれんばかりの救いが、安全な場所にたくわえられています。
７しかし今は、あなたがたの大使はひどく失望して泣きます。　アッシリヤが和平の申し入れをけったからです。　８街道はいたんだままなので、旅人は裏道を遠回りしなければなりません。　アッシリヤ人は和平協定を平気で破ります。　証人の前で取り決めた約束など何とも思っていないのです。　相手がだれであれ、少しも手ごころを加えません。　９イスラエル全土が苦難に巻き込まれます。　レバノンは滅ぼされ、シャロンは荒れ地となり、バシャンとカルメルは略奪されます。
１０しかし神様は、きっぱり宣言なさいます。　わたしは立ち上がり、大きな力を天下に

示す。　１１おまえたちアッシリヤ人は、どんなにがんばっても、何一つ手に入れることはできない。　かえって自分の息の炎で焼き殺されるだけだ。　１２ご自慢の軍隊は、切り払われ、火に投げ込まれる、いばらのように焼かれ、石灰になる。
１３遠い国々の人は、わたしのしたことを聞け。　近くの人々は、わたしの力の偉大さを知れ。　１４わたしの国民のうちの罪人は、恐れに取りつかれて身震いし、口々に叫ぶ。「すべてのものを焼き尽くす永遠の火の前に、だれが立ちはだかれよう。」　１５それができる者を知らせよう。　それは正直で陰日向のない者、詐欺でもうけない者、わいろが差し出されたらあわてて手を引っこめる者、殺人の計画に耳をふさぐ者、いっさいの誘惑に目をつむる者だ。　１６このような者は高い所に住む。　山の岩が、彼らを守る頑丈なとりでとなる。　食べ物は十分にあてがわれ、欲しいだけの水が補給される。
１７あなたの目は美しく着飾った王を見、はるかかなたの御国を見ます。　１８また、アッシリヤの将校たちが城壁の外で塔の数をかぞえ、この都を占領したらどれだけの分捕り物があるだろうか、と胸算用していた、あの恐ろしい時を思い浮かべます。　１９しかし彼らを見るのも、あとわずかです。　わけのわからないことばを話す荒くれ男たちは、どこかへ行ってしまいます。
２０代わりにあなたがたは、平和なたたずまいのエルサレムを見ます。それは神様を礼拝する場所です。　どんなことがあってもびくともしない都です。　２１栄光の神様が広い川となって私たちを守るので、敵は一歩も近づけません。　２２神様は私たちをさばき、法律を与える王です。　私たちを心にかけ、救ってくださいます。　２３敵の船の帆は折れたマストにだらしなく張られ、索具は役に立ちません。　宝物は神様の国民が分配し、足なえさえ割り当てにあずかります。　２４イスラエル国民は二度と、「ひどい病気で、立つ気力さえない」とは言いません。　神様が彼らの罪を赦し、彼らを祝福するからです。
三四
１世界中の国と、世界にあるすべてのものが、私のことばを聞くように。　２神様の激しい怒りの炎が、国々の軍隊に向けられたからです。　神様は彼らをとことんまで滅ぼし、屠殺人の手に渡します。３死体は放り出されたままで腐り、その悪臭が国中に満ち、山々は血の海となります。　４その時、天体は溶けて巻物のように巻かれ、星は木の葉や熟しきった実のように、落ちて来ます。
５わたしの剣が天でひと暴れしたあとどうなるか、よく見ているのだ。　それは、わたしが滅亡の宣言をしておいたエドム人の上に落ちる。　６剣には血がしたたっている。　いけにえの子羊や山羊を切り裂いた時のように、血をたっぷり吸っている。　わたしがエドムで大がかりないけにえを屠り、大虐殺をするからだ。　７いちばん強い勇士も倒れ、若者も経験を積んだ者も共に滅びる。　地はたっぷり血を吸い、脂肪でよく肥える。　８さあ、復讐の日だ。　エドムのイスラエルへの仕打ちに報復する時だ。　９エドムの川には燃えるピッチがあふれ、地は一面の火に包まれる。
１０エドムのさばきは終わりがありません。　煙はいつまでも立ちのぼり、地は代々にわ

たって荒れほうだいです。　だれひとり住みつく者もありません。　１１人間の代わりにペリカンや針ねずみが住み、ふくろうやからすが巣を作ります。　神様がこの地を見て、滅ぼす以外にないと考えたからです。　そこの貴族たちを審査して、生きている資格はないと判断したのです。　その地は「虚無の地」と呼ばれ、１２重立った人たちはみな姿を消します。　１３宮殿にはいばらが生い茂り、要塞にはいらくさが一面に生えます。　こうして、山犬のねぐら、だちょうの住みかとなるのです。　１４砂漠の野獣が山犬といっしょになり、その遠吠えが夜通し聞こえます。　夜の怪物はぶきみな叫び声をあげ、悪鬼がそこを休み場にします。　１５蛇が巣を作り、卵を生んで子をかえし、大事に育てます。鳶のつがいもそこに来ます。
１６神様の書物を調べて、これからどうなるかに目を留めなさい。神様はただの一項目でも手を抜きません。　その地には、つがいでないものはいません。　神様がそう命じたからです。　しかも神様の御霊は、そのとおりになるように力を入れます。　１７神様はあらかじめ、この地を下調べして区分けし、これらの陰気な生き物の住みかと定めました。だからこれらの動物は、いつまでもこの地の主になります。
三五
１その時代には、荒野や砂漠さえ、こおどりして喜びます。　砂漠には花が咲き乱れます。　２いっせいに花が咲き競い、歌声と喜びの声がわき上がります。　砂漠はレバノン山のように緑に囲まれ、カルメル山の牧場やシャロンの牧草地のように、美しい景色になります。そこは神様の栄光の舞台となるからです。
３この良い知らせで、絶望した人を元気づけ、　４こわがっている人を励ましなさい。「さあさあ、元気を出しなさい。　こわがることはありませんよ。　神様が敵を滅ぼしに来ます。　きっと、あなたがたを救いに来ます」と伝えなさい。　５神様が来れば、盲人の目は見えるようになり、耳しいの耳は聞こえるようになります。　６足なえは鹿のように跳びはね、今まで口のきけなかった人は大声で叫び、歌います。　荒野には泉がわき、砂漠には川が流れます。　７からからに乾いた地は池となり、日照りのために地割れした所から水がわき上がります。　砂漠の山犬の住みかは、葦や藺草の茂みになります。
８かつては砂漠であった所に幹線道路が通ります。　それは「聖なる道」と呼ばれ、心の汚れた人は通れません。　神様がいっしょなので、どんなにばかだと言われる人でも道に迷いません。　９道沿いにライオンが潜んでいることもなく、これといった危険もありません。　神様に罪を赦された人だけが、そこを通ります。　１０この道を通ってシオンへ帰るのです。　永遠の喜びの歌を口ずさむ彼らには、悲しみもため息もみな過去のものとなります。　あるものと言えば、喜びと楽しみだけです。
三六
１さて、ヒゼキヤ王の治世の第十四年に、アッシリヤの王セナケリブが、城壁で囲まれたユダの町々を攻め取りました。　２それからだいぶたってからのことです。　王はラキシュから、大軍をつけて使節を送り、エルサレムのヒゼキヤ王と交渉させました。　使節の

一行は、布さらしの野を通る道のほとりの、上の貯水池の出口近くに宿営しました。
３ヒルキヤの子でイスラエルの首相のエルヤキム、王の書記官シェブナ、それにアサフの子で王の秘書官のヨアフが休戦協定委員となり、彼らに会いに出かけました。　４使節は、次のようなヒゼキヤ王への伝言を突きつけました。　「アッシリヤの大王様は、エジプト王の助けをあてにするのは大ばか者だと仰せになっている。　５エジプト王の約束など、ぼろきれ同然だ。　口先だけでは勝てない。　それなのに、おまえは彼の助けをあてにし、私に手向かった。　６エジプトは危険な同盟軍だ。　何をしでかすかわかったものじゃない。　寄りかかってきたら手を刺してやろうと、杖の先をとがらせて待っている。　忘れるな、今までこの国に助けを求めた者は、例外なくひどい目に会ったのだぞ。　７ひょっとしたらおまえは、『われわれは神様にお頼りしている』と殊勝なことを言うかもしれない。だが、よく考えてみろ。　その神様にしてからが、ヒゼキヤ王が丘の上の神殿や祭壇を片っ端からこわしたあげく、ユダの国民に、エルサレムの祭壇の前でだけ拝めと命じた、あの神ではないか。　８９わが主君、アッシリヤの大王様は、ちょっとした賭をしたいと言っておられる。　どうかな、そちらの兵は二千とは残っていまい。　もし残っていたら、大王様は二千頭の馬をくれてやろうとおっしゃる。　それで編成した、吹けば飛ぶような軍隊では、わが軍の、いちばん弱い部隊ですら撃退できまい。　エジプトの助けなどあてにならないからだ。　１０それだけではないぞ。　そもそも、ここまでわざわざ出かけて来たのも、神様がこの国を占領せよと言ったからだ。　『さあ、行って、ユダを滅ぼせ。』そう、神様は言ったのだ。」
１１これを聞いたエルヤキムとシェブナ、それにヨアフは、使節に頼みました。　「私どもはアラム語〔当時の国際共通語〕がよくわかります。　どうか、ヘブル語でなくアラム語で話してください。　城壁の上にいる者たちに聞かれたくありませんので……。」
１２ところが、相手はますます図に乗り、ふんぞり返って答えました。　「大王様は、おまえたちだけでなくエルサレム中の者に知らせたいと思っておられるのだ。　おまえたちが降伏しなければ、この都はすっかり包囲され、だれもが飢えと渇きに我慢できなくなって、自分の糞を食べ、自分の小便を飲むようになることを知らせたいとな。」
１３こう言うと、城壁の上で聞き耳を立てているユダヤ人たちに、大声でどなりました。「アッシリヤの大王様のおことばを、よーく聞け。　大王様はこう仰せだ。
１４『ヒゼキヤにだまされるな。　彼がどんなにもがいても、おまえたちを救えやしない。
１５神様を信じろ、神様がついていれば、アッシリヤ王に征服されることはないと言われても、耳を貸すな。　１６ヒゼキヤの言うことを聞くな。　大王様はすばらしい条件を出しておられる。　さあ、降伏のしるしに貢物を出せ。　門を開けて出て来い。　そうすれば、もれなく畑と庭と飲み水を与え、　１７いずれ、ここと よく似た国へ連れて行ってやろう。　穀物もぶどうもよく取れる、豊かな国だ。　１８気休めにすぎないヒゼキヤのことばにつられて、こんなすばらしい特権をふいにするな。　これまでに、大王様の無敵の軍隊を負かした神々がいたか。　１９ハマテやアルパデがどんな目に会ったか覚えている

だろう。　彼らの神々は彼らを救ったか。　セファルワイムとサマリヤの場合はどうだ。　いま、彼らの神々はどこにいる。　２０これらの国々の神が、私の手から人々を救い出したか。　そんな例があったら、その神の名をあげてみろ。　なのに、おまえたちの神に限ってエルサレムを救えるとでも考えているのか。　頭を冷やして、よく考えてみることだ。』」
２１人々は押し黙ってひと言も答えません。 ヒゼキヤがそう命じておいたからです。 ２２首相のエルヤキム、王の書記官シェブナ、それに王の秘書官ヨアフは、絶望のしるしに、着ている物をずたずたに裂き、ヒゼキヤのところへ帰って一部始終を報告しました。
三七
１王は会談の結果を聞いて王衣を裂き、屈辱と嘆きのしるしに、袋を作る目のあらい布を身にまといました。　それから、祈るために神殿へ行きました。　２一方、首相のエルヤキム、王の書記官シェブナ、それに年長の祭司たちにも同じような格好をさせ、アモツの子である預言者イザヤのところへ行かせたのです。 ３彼らは王のことづけを伝えました。「きょうは苦しみと懲らしめと侮辱の日です。　女が子を産もうとしてひどく苦しんでいるのに、なかなか生まれないような、たいへんな日です。　４５たぶんあなたの神様である主は、アッシリヤ王の使節の、あの聞くに耐えないののしりをお聞きになったと思います。　神様がこのままで済ますはずはありません。　あんな暴言を吐いたやつを責めるでしょう。　お願いですから、生き残りのわれわれのために祈ってください。」
６「わかりました。　陛下に神様のおことばを取り次ぎなさい。　アッシリヤ王の家来の脅しと暴言で取り乱してはいけない。　７アッシリヤから王のもとへ、帰国しなければならない急な知らせが届く。王は国へ帰り、そこで殺される。　すべてわたしが手はずを整えたのだ。」
８９アッシリヤの使節はエルサレムを離れ、ラキシュに続いてリブナを攻撃中の王と相談するため、道を急ぎました。　ところが、王はちょうどこの時、エチオピヤの皇太子ティルハカが軍隊を率いて向かって来るとの知らせを受けたのです。　これを聞くと、もう一度エルサレムへ使いをやり、ヒゼキヤに次の手紙を渡しました。
１０「おまえは、エルサレムは余の手に渡さないとか何とか、偉そうな口をたたいておるが、おまえの信じている神にごまかされるな。１１余の行く先々でどんなことが起こったかを思い出せ。　刃向かう者は手あたりしだいに押しつぶしてやったぞ。　自分だけは例外だと思うのか。　１２ゴザン、カラン、レツェフの町々、それにテラサルにいるエデンの住民が、神々に救い出されたか。　とんでもない！　アッシリヤの王たちは彼らを皆殺しにした。　１３ハマテの王、アルパデの王、セファルワイム、ヘナ、イワの町々の王の最期がどうであったか、忘れないことだ。」
１４ヒゼキヤ王は読み終えると、すぐさま神殿に駆けつけ、神様の前に手紙を広げ、　１５こう祈りました。　１６１７「天の軍勢の主、ケルビム（契約の箱を守る天使の像）の上におられるイスラエルの神様。　あなただけが世界でただ一人の神様です。　あなただ

けが天と地をお造りになりました。　どうか今、私の願いをお聞きください。　祈っている私に目を留めてください。　ご覧ください。　これがセナケリブ王の手紙です。　王は生きておられる神様をあざけりました。　１８手紙にもあるように、王が国々を滅ぼしたのは事実です。　１９そして国々の神を火に投げ入れました。　みな神とは名ばかりで、人間が木や石で作った、ただの偶像にすぎませんが……。　だからアッシリヤ人は、難なくこれらの神々の息の根を止めることができたのです。　２０ああ神様、世界中の国が、あなただけが神であることを知るためにも、どうか私たちをお救いください。」
２１その時、アモツの子イザヤは使いをやり、ヒゼキヤ王にことづけを伝えました。「イスラエルの神様のお告げがありました。　神様は、あなたがアッシリヤの王セナケリブのことで祈るのを、お聞きになりました。
２２彼についてのお告げはこうです。　シオンのよるべのない娘であるわたしの国民は、おまえを軽べつし、笑い者にし、ばかにして頭を振る。　２３おまえがののしり、あざけった相手は、いったいだれか。　おまえはだれに毒づいたのか。　だれに高ぶり、言ってはならぬことを口にしたのか。　イスラエルのきよい神、わたしにではないか。２４おまえは使いをよこして、わたしをあざけった。　得意になって自慢した。　『私は強力な軍勢を引き連れ、西の国を攻めた。　そびえるレバノン杉と良質の糸杉を切り倒した。　高い山々を征服し、密林を踏みにじった』とな。
２５おまえは、征服した地に多くの井戸を掘ったことを自慢している。　エジプトが全軍をあげてかかっても、おまえには歯が立たない。　２６だが、こうなるように昔から決めていたのは、このわたしだ。　まだそのことに気づかないのか。　大昔からこのような力を与えておいたのは、わたしだったのだ。　おまえが城壁に囲まれた町々を瓦礫の山にしたのは、わたしの計画で実現させたのだ。　２７だからこそ、おまえが攻めた国々の住民は弱く、やすやすと餌食になったのだ。　彼らは草のように無力で、容易に踏みにじられる新芽のようにもろく、屋根の草のように、太陽にあたると黄色にしなびた。　２８わたしはおまえをよく知っている。　あらゆる行動が手に取るようにわかる。　わたしに向かっていきりたったのも知っている。　２９神にいどみかかるとは何事だ。　わたしは暴言をぜんぶ聞いた。　もう黙ってはいない。おまえの鼻にかぎを引っかけ、口にはくつわをはめて、もと来た道を連れ戻す。」
３０続いて神様は、ヒゼキヤに言いました。　「この都をアッシリヤ王の手から救い出すのはわたしだ、という証拠を見せよう。　今年中に彼は包囲を解く。　種をまくには遅すぎるので、今年の秋は落ち穂から生えたもので我慢しなければなるまい。　だが来年は、まあまあと言うところまで持ち直し、二年先には、以前のようにぜいたくな暮らしができる。　３１ユダに残った者はまた自分の土地に住み、繁栄し、増える。　３２エルサレムの生き残りが住みつくからだ。　わたしが、これらのことをみな実現する。
３３　アッシリヤ軍はエルサレムに侵入しない。　矢を放ち、城門の外に迫り、城壁沿いにとりでを築くこともしない。　３４もと来た道を引き返す。　この都に入ることは絶対

にない。　３５わたしの名誉にかけて、また、わたしの忠実なしもべダビデのためにも、必ずここを守る。」
３６その夜のことです。　神様の使いがアッシリヤ軍の宿営地に出かけ、十八万五千人の兵士を殺しました。 翌朝､何事も知らずに目を覚ました者たちはびっくり仰天しました。それもそのはず、あたりは死体の山で、目もあてられません。　３７アッシリヤ王セナケリブは、しかたなく自分の国のニネベへ逃げ帰りました。　３８そんなある日、守護神ニスロクの神殿で拝んでいると、息子のアデラメレクとサルエツェルが、いきなり剣を抜いて切りかかったのです。　二人は王を殺すと、アララテの地へ逃げました。　こうして、別の息子エサル・ハドンが王になりました。
三八
１　この事件の少し前でしたが、ヒゼキヤは死病に取りつかれました。　そこへアモツの子である預言者イザヤが来て、神様のお告げを伝えました。
「おまえはもう長くない。　身の回りを整理しておけ。　治る見込みはない。」
２なんということでしょう。　ヒゼキヤはくるりと壁のほうを向き、必死に祈りました。
３「ああ神様、お忘れになったのですか。　あんなに真実を尽くし、いつもお言いつけに従おうと努力してきましたのに。」　王は肩をふるわせ、大声で泣きました。
４これを見て、神様はイザヤに告げました。
５「さあ、ヒゼキヤに言ってやりなさい。　おまえの先祖ダビデの神である主は、確かに祈りを聞いた。　おまえの涙を見て、あと十五年いのちを延ばすことにした。　６おまえとこの都をアッシリヤ王の手から救い出そう。　心配はいらない。　まちがいなく守ってやる。　７８その保証として、アハズの日時計の目盛りを十度だけあとに戻す。」
そのとおり、日の影は十度もあと戻りしました。
９ヒゼキヤは元気になると、この経験を詩にまとめました。
１０「まだ働き盛りだというのに、いっさいをあきらめなければならないのか。　これからの歳月は奪い取られ、よみの門に入ろうとしている。　１１もう二度と、生きている人の国で神様を見ないだろう。この世で友人の顔を見ることもない。　１２私のいのちは、羊飼いのテントのように風で吹き飛ばされ、機を織る人が中途で手を止めるように中断された。　私のいのちは、たった一日で消えていく。
１３私は夜通しうめいた。　まるでライオンに引き裂かれるような苦しみだ。　１４私は錯乱状態になり、雀のようにさえずり、鳩のようにうめいた。　助けを求めて上を見続けていたので、目はすっかりかすんでしまった。　私は叫んだ。　『神様、助けてください。苦しくてたまりません。』　１５しかし､ほんとうはこんなことを言えた義理ではない。 私を病気にしたのは神様なのだから。　苦しさのあまり眠ることもできない。　１６神様、あなたの懲らしめはためになり、いのちと健康に通じます。　どうか病気を治し、私を生かしてください。
１７今やっとわかりました。　こんな苦しい経験も、みな私のためだったのです。　それ

というのも、神様が愛をもって私を死から救い出し、いっさいの罪を赦してくださったからです。　１８死人は神様を賛美できません。　死んでしまえば希望も何もありません。１９生きていてこそ、きょうの私のように、神様を賛美できるのです。　神様の真実は父から子へと代々語り継がれます。　２０ああ、神様は病気を治してくださった。　これからは毎日、いのちある限り、神殿で楽器の伴奏つきで賛美しよう。」
２１イザヤは王の召使に、「いちじくで塗り薬をつくり、はれものに塗りなさい。　そうすれば、陛下は元どおり元気になられます」と言いました。
２２するとヒゼキヤは、「病気がきっと治る保証として、神様はどんなしるしをお与えになりますか」と尋ねました。
三九
１それから間もなくのことです。　バルアダンの子、バビロンの王メロダク・バルアダンは、ヒゼキヤ王に好意を示し、贈り物を届けました。　ヒゼキヤが重病であったのに、元気になったと聞いたからです。　２ヒゼキヤはうれしくてたまりません。　バビロンの使者を宮殿のあちこちと案内して回り、銀、金、香料、香水でいっぱいの宝物倉まで見せました。　さらに宝石のしまってある部屋へ連れて行き、そこにある物を一つ残らず見せたのです。
３それを聞いた預言者イザヤは、さっそく王のところへ来て質しました。
「いったい何をお見せになったのですか。　使者というのは、どこから来たのですか。」
「遠いバビロンからだ。」
４「それで陛下は、どの程度までお見せになったのですか。」
「全財産だ。　貴重な宝物も残らず見せた。」
５「そのことで、天の軍勢の主のお告げがありました。
６おまえの全財産、先祖がたくわえた宝物全部が、バビロンに運び去られる時がくる。　何一つ残らない。　７またおまえの子供の中にも、バビロン王の宮殿で宦官として仕える者が出る。」
８「それはけっこうだな。　神様のおことばはみな、ためになることばかりだ。　だが、少なくとも余が生きている間は、平和が続くのであろう？」
四〇
１「わたしの国民を慰めよ」と、神様は命じます。
２エルサレムにやさしく語りかけ、悲しみの日は過ぎ去ったと言ってやれ。　罪は赦された。　そればかりか、刑罰の二倍の祝福を与えよう。
３耳をすましなさい。　だれかが荒野で叫んでいる声が聞こえます。　「神様がお通りになる道をつくれ。　砂漠を横切る、平らでまっすぐな道を、神様のためにつくれ。　４谷は埋め、丘はけずり、曲がりくねった道はまっすぐにし、路面のでこぼこはよくならせ。５神様のすばらしさを全人類に示せ。」　神様が命じた以上、きっとそのとおりになります。
６「大声で叫べ！」という声が聞こえます。

「何と叫んだらよいのですか」と、私は尋ねました。
「こう叫ぶのだ。　人は、しおれてしまう草のようなものだ。　その美しさは、しぼんでいく花のように色あせる。　７神の息がかかると、草はしおれ、花はしぼむ。　もろい人間もそれと同じだ。　８草はしおれ、花はしぼむ。　しかし神様のおことばは、いつまでもすたれることはない。」
９　すばらしい知らせを大声で伝える人よ、山の頂上から、エルサレムに向かって叫びなさい。　こわがらずに大声を張り上げなさい。ユダの町々に「神様が来る！」と知らせなさい。　１０神様である主は、全能の力をもって来ます。　恐ろしいまでの力で支配し、一人一人の行ないに応じて報います。　１１また、羊飼いのように群れの世話をします。子羊を抱いて運び、子連れの雌羊をやさしく導くのです。
１２神様以外にだれが、手で海を支え、巻き尺で天の大きさを測ったでしょう。　神様以外にだれが、地球の重さと、山や丘の重さを知っているでしょう。　１３だれが神の御霊の助言者となり、神様を教え、相談役になったでしょう。　１４神様は人間の助言を必要としたでしょうか。　何が正しく、何が最善であるかを知るために、だれかの指示を仰いだでしょうか。　１５そんなことは絶対にありません。　人間はだれも、神様と比べたら無に等しく、バケツの中の一滴の水、はかり皿の上のちりにすぎないからです。　神様は島々を、少しも重さのないもののように、いとも軽々と持ち上げます。　１６レバノンの森林の木をぜんぶ集めても、神様にふさわしいいけにえを焼くたきぎにも足りません。 そこの獣を一匹残らず集めても、いけにえとするには、とうてい数が足りません。　１７すべての国々は、神様の目から見れば無に等しいのです。
１８神様をどう説明したらいいでしょう。 神様を何と比べることができるでしょう。 １９泥をこね、金をかぶせ、首に銀の鎖をかけた偶像でしょうか。　２０高価な神々を買えない貧乏人は、腐らない木を見つけ、それに顔を彫ってくれる人を雇います。　こうしてできた動くことさえできないものが、神となるのです。
２１　あなたがたは、何も知らないのですか。　世界が造られる前からあった神様のおことばに、つんぼを決め込んでいるのですか。　一度もおことばを聞き、理解したことがないのですか。　２２神様は地球のはるか上におられます。　下界の人間など、まるでいなごのように見えることでしょう。　神様は、天をカーテンのように引き伸ばし、ご自分の住まいとします。　２３世界中に名の知れ渡った偉人を手玉にとり、いてもいなくても同じ者にします。　２４やっとの思いで仕事に取りかかり、根を張ろうとすると、神様に痛い目に会わされ、事業は挫折します。　そのうえ風が吹いて、彼らをわらのように巻き上げるのです。
２５「おまえたちは、わたしをだれと比べるというのか。　わたしと肩を並べる者がいるか」と、きよい神様は問いかけます。
２６天を仰いでみなさい。　星は、いったいだれが造ったのですか。　羊飼いは群れを導き、それぞれの愛称で呼び、一匹でもいなくなってはいないかと数えます。　同じように

神様も、星をぜんぶ数えます。　２７ああ、ヤコブよ。　ああ、イスラエルよ。　神様は苦しみを見て見ぬふりをしているから不公平だなどと、どうして言えるのですか。　２８まだわからないのですか。　全世界を造った永遠の神様は、絶対に疲れたり、ふらついたりしません。　神様の理解の深さを推測できる者は、一人もいません。　２９神様は疲れた者に力を、弱い者に活力を与えます。　３０若い人もくたくたになり、若い男もまいってしまいます。　３１しかし神様を待ち望む者は、新しい力がみなぎり、わしのように翼を張って舞い上がります。　いくら走っても疲れず、どんなに歩いても息切れしません。
四一
１海の向こうの島々よ、わたしの前では口をつぐんで聞け。　どんな難問でも吹っかけてこい。　おまえたちのために法廷が開かれているから、そこで話すがよい。
２だれが、東の国のあの人物を奮い立たせ、行く先々で勝利を得させたのか。　わたし以外の者であるはずはない。　わたしが彼に、多くの国々を征服し、王たちを踏みにじり、その軍隊を剣の餌食にする力を与えたのだ。　３彼は敵を追いかけるが、一度も通ったことのない道だというのに安全に進んで行く。　４その進撃によって歴史は大きく塗り変えられる。　こんな途方もなく大きなことを演出したのは、だれか。　それは、わたし、初めでもあり終わりでもある、このわたしだ。　わたしだけが神なのだ。
５海の向こうの国々は震え上がり、今度のクロス王の遠征計画はどこかとやきもきする。遠い国々も震えおののき、戦争の準備をする。　６互いに肩をたたき合い、「心配するな。彼が勝つはずはないさ」と気休めを言う。　７そう言う一方では、新しい偶像作りに駆けずり回る。　彫刻師は鍛冶屋をせかせ、鋳物師は、かなとこをたたく手伝いをして、「もう十分火が通った。　さあ、腕の部分をはんだづけしよう」と言う。　注意深く各部分をくっつけ、堅くしめつけて、ばらばらにならないようにする。
８だがイスラエルは違う。　おまえはわたしの友人アブラハムの家族だ。　だから、わたしはおまえを選び、わたしのものとした。　９おまえを地の果てから呼び出し、わたしだけに仕えよと言いつけた。わたしがおまえを選び、しかも、どんなことがあってもおまえを見捨てないからだ。　１０恐れるな。　わたしがついている。　取り乱すな。　わたしはおまえの神だ。　わたしはおまえを力づけ、おまえを助け、勝利の右の手でしっかり支える。
１１いきりたつ敵はみな、無残に踏みにじられる。　おまえに刃向かう者はみな死に絶える。　１２彼らの姿を捜し回ってもむだだ。　一人もいなくなるからだ。　１３わたしがおまえの右手をつかみ、「こわがるな。　おまえを助けに来た」と励ます。　１４イスラエルよ、たとい軽べつされても恐れるな。　わたしは必ずおまえを助ける。　わたしは主、おまえを贖う者だ。　わたしはイスラエルのきよい神だ。　１５おまえは新しい鋭い刃のついた打穀機となり、敵という敵を粉々にし、もみがらの山をつくる。　１６それを空中に放り上げると、風が吹き飛ばし、つむじ風がまき散らす。　こうして主の喜びがおまえの心を満たし、おまえはイスラエルの神をうんと自慢するようになる。

１７貧しい者や困っている者は水を捜しても見つからず､のどは渇き､舌が上あごにつく。そのような時、わたしを呼べば、わたしは答える。　イスラエルの神であるわたしは、いつまでも彼らを見捨てない。　１８台地に川を開き､谷間には泉を造って､彼らに与える。砂漠には池ができ、からからに乾いた地には、多くの泉から川が流れだす。１９わたしは不毛の地に、杉、アカシヤ、ミルトス、オリーブ、糸杉、プラタナス、松の木を植える。２０だれもがこの奇蹟を見て、これをしたのはイスラエルのきよい神だと認める。
２１おまえたちの偶像に、こんなことができるか、とくとお手並みを拝見したいものだ。イスラエルの王である神様は、こう質します。　２２昔どんなことが起こったか、将来どんなことが起こるかを、話してもらいたいものです。　２３いやしくも神々のはしくれなら､これから何が起こるかを説明してもらいましょう。　それとも､びっくりするような、すばらしい奇蹟を見せてほしいものです。　２４といっても、そんなことができるはずはありません。　神といっても名ばかりで、何一つできないのです。　あなたがたを神に選んだ者は、頭が正常かどうか、調べてもらったらいいでしょう。
　２５わたしは北と東から〔クロスを〕呼び出す。　彼は国々を相手に戦いをいどみ、わたしの名を呼ぶ。　わたしはそれに答え、国々の王や領主を征服する力を与えるので、彼は陶器師がつちくれを踏むように、彼らを踏みにじる。
　２６こんなことを､わたし以外にだれが告げたか。　いったいだれが､説得力をもって､こうなると予告したか。　だれ一人いなかったではないか。　ほかの神々は、ただのひと言も口をはさまなかった。　２７「さあ、目を上げて見るのだ。　助けは、すぐそこまで来ている」と、真っ先にエルサレムに伝えたのは、わたしだった。　２８おまえたちの偶像のどれ一つとして､こうは言わなかった。わたしが問いかけても返事さえしなかった。２９そろいもそろって頭が悪く､役立たずばかりだ。まるで風のように頼りにならない。
四二
１わたしの支持するしもべ、わたしの喜びとする選ばれた者に目を留めよ。　わたしは彼に、わたしの霊を与えた。　彼は世界の国々に正義を示す。　２彼は物静かで、路上で大声を出したり言い争ったりしない。　３いたんだ葦を折らず、今にも消えそうな火でも消さない。　しょんぼりしている人を元気づけ、もうだめだとあきらめる者を励ます。　こうして、痛めつけられた者たちに完全な正義が与えられるのを見届ける。　４真実と正義が世界中にいき渡り、海の向こうの遠い国々の国民が彼を信頼するようになるまで、手を休めない。
５天を造ってそれを引き伸ばし、地と地上のすべてのものを造り、すべての人間にいのちと霊とを授けた、神様である主が、ご自分のしもべであるメシヤ（救い主）に、こうお語りになります。
６「主であるわたしが、わたしの正義をはっきり打ち出すために、あなたを呼んだ。　わたしはあなたを守り、あなたを支える。　わたしの国民と結んだ契約を確かなものとするために、わたしはあなたを彼らのもとへ送った。　あなたはまた、世界の国民をわたしの

もとへ導く光となる。　７盲人の目をあけ、暗い牢獄で希望もなく座り込んでいる人々を解き放す。　８わたしは主だ。　これがわたしの名である。　わたしは、ほかの者に栄光を譲るようなことはしない。　わたしの名誉を、彫刻した偶像どもに分け与えるようなことは絶対にしない。　９わたしが今まで預言したことは何もかもそのとおりになった。　だから、もう一度預言しよう。　将来のことを、実際に起こる前から知らせよう。」
１０神様に新しい歌をうたいなさい。　地の果てに住む人たちは、こぞって神様をたたえる歌をうたいなさい。　海も、海の向こうの遠い国々に住む人たちも、こぞって歌いなさい。　１１ケダルとセラの砂漠の町々、山の上に住む人たちも、コーラスに加わりなさい。
１２西の海岸沿いの国々や島々は、神様をあがめ、全能の力を歌いなさい。
１３神様は、だれも立ち向かえない勇敢な戦士となり、激しい怒りを敵にぶちまけます。ときの声をあげ、敵を蹴散らします。　１４長いあいだ沈黙を守り、じっとこらえてきましたが、今は思うぞんぶんうさを晴らし、子を産もうとしている女のようにうめき、叫ぶのです。　１５山や丘を平らにし、青草を枯らし、川や池の水を干上がらせます。　１６目の見えないイスラエルの手を引いて、初めての道を通らせ、行く手の暗やみを明るくし、前方の道をまっすぐ平らにします。　神様は決してイスラエルをお見捨てになりません。
１７しかし偶像を頼りにし、神と呼ぶ者は、失望落胆します。　そのような連中は追い立てをくいます。
１８おまえたちは神のこととなると、何も見えず、何も聞こえなくなる。　なぜ聞こうとしないのか。　なぜ見ようとしないのか。　１９真理のにない手と期待されているわたしの国民ほどの盲が、世界にいるだろうか。　わたしのために特別に選ばれた「主のしもべ」ほど、目の見えない者がいるだろうか。　２０おまえたちは真理を見て頭ではわかっているが、それを心に留めようとも、行なおうともしない。
２１神様はご自分のおきてを広め、それを栄光に輝くものとなさいました。　おきてによって、ご自分が正しい方であることを世界中の人々に示そうと計画したのです。　２２ところが、神様のおきてがどんなにすばらしいかを伝えるはずの国民は、なんと落ちぶれたことでしょう。　略奪され、奴隷になり、罠にかかり、格好の攻撃目標となっても、だれひとり守ってくれる者がありません。　２３過去の教訓から学んで、目の前に滅びが待っていると予測できる者が、ただの一人もいないのでしょうか。　２４だれが、イスラエルを奪い取り、傷つけるのを許したのでしょう。　それは、神様ではないですか。　彼らが罪を犯し続けてきた当の相手の神様です。　彼らは、神様が行けと命じた所へ行こうとせず、神様のおきてに耳をふさぎました。　２５だからこそ、神様はこんなにも激しく怒り、ご自分の国民をさえ戦場で滅ぼしたのです。　ところが、火がつき、燃え上がっても、彼らはなぜそうなったかに気づきませんでした。　神様は、彼らが悔い改めることを望んでおられるというのに。
四三
１だが、イスラエルよ、あなたを造った神様は、今こう慰めてくださいます。　「わたし

が敵の手から買い戻してやったのだから、こわがるな。　わたしはおまえの名を呼んだ。おまえはわたしのものだ。　２たとい水の中をくぐり、大きな困難にぶつかっても、わたしはそばにいる。　悩みの川を渡る時も、おぼれはしない。　反対の火の手が上がり、そこを突き抜けていく時も心配はない。　炎はおまえを焼き殺さないからだ。　３わたしは主、おまえの神、おまえの救い主、イスラエルのきよい神だ。　わたしはおまえを自由の身とする代わりに、エジプトとエチオピヤとセバを〔クロスに〕与えた。　４おまえを生かすために他の者が犠牲になった。　おまえのいのちを買い戻すため、他の者のいのちで取り引きした。　わたしにとっておまえは、愛してやまない、かけがえのない国民だからだ。
５６わたしがついている。　こわがるな。　わたしはおまえを東西南北から集める。　地の果てから､息子や娘をイスラエルへ連れ戻す。　７わたしを神として拝む者はみな来る。わたしはそのような人たちを、わたしの栄光のために造った。　８わたしが呼ぶと、急に目も見えず耳も聞こえなくなってしまう者たちを、わたしのもとへ連れ戻せ。
９国々の民を集めよ。　どの偶像が、このようなことを前もって知らせたか。　どの偶像が、一日先のことでも予告できるか。　どこに、彼らのことばを少しでも聞いた証人がいるか。　そんな者は一人もいない。　だとしたら、預言できるのは神だけだと認めないわけにはいくまい。
１０だが、わたしには証人がいる。　イスラエルよ、おまえたちがわたしの証人、わたしのしもべだ。　わたしを信じ､わたしだけが神であることを知るために選ばれたのだ。　わたしのほかに神はない。今までも、またこれからも。　１１わたしが主であって、ほかに救い主はいない。　１２おまえが偶像を投げ捨てるたびに、わたしは力を示した。　ただのひと言で、おまえを救った。　おまえはわたしの救いをその目で見たのだから、わたしの証人だ。　１３永遠から永遠まで、わたしは神だ。　わたしが何かをしようと身構える時、その前に立ちはだかる者は一人もいない。」
１４あなたを贖うイスラエルのきよい神様は、こう宣言なさいます。
「わたしはおまえのために、バビロンに軍隊を侵入させる。　それもほとんど無傷のままだ。　おごり高ぶっていたバビロニヤ人は、恐怖の叫びをあげる。　１５わたしは主、おまえのきよい神、イスラエルを造った者、おまえの王だ。　１６水の中に道を開き、海底を横切る道を造る主だ。　１７わたしはエジプトの強力な軍隊を、戦車や馬もろとも海底のもくずとした。　彼らのいのちは燈心のように吹き消された。
１８だがこんなことは、これからすることに比べたら物の数ではない。　１９わたしは全く新しいことをしようとしている。　いや、すでに手をつけた。　おまえの目には見えないか。　わたしの国民が故国へ戻るために、荒野に道を造り、彼らの飲み水として砂漠に川を開くのだ。　２０野の獣、山犬、だちょうは、荒野に水がわき出たというので、わたしに感謝する。　わたしに選ばれた国民は、この砂漠の泉でのどをうるおし、元気づく。
２１わたしはイスラエルを自分のために造った。　この国民は、いつかきっと、世界中の

人々の前でわたしをあがめるようになる。
２２だがイスラエルよ、おまえはわたしの助けを求めなかった。　わたしにいや気がさしたのか。　２３完全に焼き尽くすいけにえ用の子羊を連れても来ず、供え物をささげて、わたしをあがめもしなかった。　わたしが自分からいけにえや香料を要求したことは、ほとんどない。　おまえたちを奴隷扱いしたこともない。　２４それなのに、わたしのために香りのよい香を買いもせず､いけにえの脂肪でわたしを喜ばせようともしなかった。 それどころか、贈り物といえば罪だけで、ありとあらゆる欠点を見せつけ、わたしをうんざりさせた。
２５だから、わたしがおまえたちの罪をぬぐい去り、それを二度と思い浮かべないのも、自分のためだ。　２６この罪の赦しの約束を思い出させてくれ。　さあ、おまえたちの罪について話し合おう。　赦してほしければ、おまえたちのほうから申し立てよ。　２７おまえたちの先祖は最初から､わたしに罪を犯し､一人残らずわたしのおきてに背いた。　２８だからこそ、わたしは祭司たちを首にし、イスラエルを滅ぼし、辱しめられるままにしておいたのだ。」
四四
１わたしのしもべイスラエル、わたしの選んだ者たちよ。　わたしのことばを聞け。
２あなたを造り、あなたを助ける神様は、こう宣言なさいます。「わたしのしもべよ、恐れるな。　わたしの選んだエルサレムよ、こわがるな。　３渇いたのどと干上がった地をうるおす水を、ふんだんに与えよう。　おまえの子供たちには、わたしの霊と祝福とを注ごう。　４彼らは、水分を十分に吸った青草や土手沿いの柳のように繁栄する。　５自慢げに、『私は主のものだ』とか『私はユダヤ人だ』とか言い、手にわたしの名かイスラエルの名を入れ墨する。」
６イスラエルの王である主､イスラエルを救う天の軍勢の主は､こう断言なさいます。「わたしは初めであり、終わりだ。　わたしのほかに神はない。　７わたし以外にだれが、これからさき何が起こるかを言いあてることができるか。　もしそのような者がいたら、遠慮なく名乗りをあげ、大きな力があるところを見せてもらいたい。　わたしがずっと昔からしてきたのと同じことを、してもらいたいものだ。　８どんなことがあっても恐れてはいけない。　わたしは大昔から、きっと救うと言っていたではないか。　おまえたちはわたしの証人だ。　わたしのほかに神はない。　断じて一人もいない。　わたしのほかに岩はない。」
９偶像を作り、それを神にするとは、なんと浅はかでしょう。　そんな連中の希望はむなしい夢にすぎません。　見ることも知ることもできない偶像を頼みにしているからです。　こんな偶像を拝む者が赤恥をかくのは当然です。　１０少しも頼りにならない偶像を作る者は、大ばか者と言われてもしかたありません。　１１それを拝む者はみな、顔を真っ赤にして神様の前に立つでしょう。 自分は神を作ったと粋がっていた大工も同じことです。彼らはともどもに、震えおののきながら神様の前に立ちます。　１２金属細工師は斧を作

るために炉のそばに立ち、真っ赤に焼けた鉄をかなとこの上で力いっぱいたたきます。そのうちのどは渇くし、腹はへるしで、ふらふらになります。　１３次は、大工がその斧で偶像を作る番です。　木ぎれの寸法を測り、しるしをつけ、人の形に彫ります。　こうして、一歩も歩けないが、見せかけは美しい偶像ができ上がります。　１４彼は杉を切り倒し、糸杉や樫を選びます。　また森に月桂樹を植えれば、雨が育ててくれます。
１５こうして大きくなった木の一部で体を暖め、パンを焼くたきぎとします。　さて、その残りはどうするのでしょう。　なんと、それで人々が拝む神を作るのです。　人々がひれ伏して賛美する偶像を作るのです。　１６木の一部で、肉をあぶり、体を暖め、満腹感を味わいます。 １７ところがその残りで､神を作ります。 彫った偶像を拝み、「どうか、お救いください。　あなたは私の神です」と願うのです。
１８こんなばかなことがあって、いいでしょうか。　神様は、見えないようにと彼らの目をふさぎ、理解できないようにと思いを鈍くしました。　１９彼らはよく考えようともしません。　「なんだ。　これはただの木ぎれじゃないか。　同じ木で体を暖め、パンを焼き、肉をあぶった。　その残りが神様だって？　そんなことがあり得るだろうか。　木の切れ端にひれ伏すなんてばかげてる」と自問自答してもよさそうなものなのに。　２０人にだまされている哀れな男は灰を食べます。何の助けにもならないものを頼りにしているからです。　彼はまともな考え方ができません。　「この手に握っている偶像は、偽の神じゃないか」と問いかけることができません。
２１「わたしのしもべイスラエルよ、注意して聞くのだ。　わたしがおまえを造った。　だから、どんなことがあってもおまえを助ける。　２２わたしは、おまえの罪をすっかり消した。　それは、昼ごろになると朝もやが消えてなくなるように、影も形もなくなった。　さあ、帰って来い。　おまえを自由にする代価は支払いずみだ。」
２３天よ、神様がこんなにもすばらしいことをなさったのだから、歌いなさい。　地は大声を張り上げ、山も森も木々も歌声を響かせなさい。　神様はイスラエルを敵の手から買い戻し、国中であがめられているからです。　２４あなたを造り、あなたを買い戻した神様は、次のように宣言なさいます。　「わたしはこの手ですべてのものを造った。　わたし一人で、天を引き伸ばし、地とその中にあるすべてのものを造った。
２５わたしは、偽預言者の予想をくつがえし、彼らが大うそつきであることを証明する。知恵のある者にまで見当違いの助言をさせ、笑い者にする。　２６だが、わたしの預言者の言うことは必ず実現させる。 彼らが､エルサレムは敵の手から救い出され､ユダの町々には再び人が住むようになると言うと､そのとおりになる。　２７わたしが川に､『干上がれ！』と言うと、水はかれる。　２８クロスのことを、『わたしの羊飼いだ』と言うと、彼はわたしが言ったとおりのことをする。こうしてエルサレムは再建され、神殿は元どおりになる。　わたしがそう言ったからだ。」
四五
１これは、多くの国々を征服させるために神様が選び、油を注いで任命したクロスへのお

告げです。　神様が力を与えると、彼は強大な王たちの力を砕きます。　神様が彼の前でバビロンの城門を開くと、門は二度と閉まりません。　２クロスよ、わたしはおまえの前を進む。　山々を平らにし、青銅の城門をぶちこわし、鉄のかんぬきを飴のようにねじ曲げる。　３こうして、暗やみに隠された財宝や、だれも知らない富を与える。　その時おまえは、おまえを名ざしで呼ぶ、わたし、イスラエルの神が、このことをしていると気づく。
４ところで、この仕事のためにおまえを名ざしで呼んだのはなぜか。　わたしのしもべヤコブ、わたしの選んだイスラエルのためだ。　おまえがまだわたしを知らない時に、わたしはおまえを名前で呼んだ。５わたしは主だ。　わたしのほかに神はいない。　たといおまえがわたしを知らなくても、わたしはおまえを強くし、どの戦いにも勝利を得させる。６世界中の人々に、わたしのほかに神はいないことを思い知らせるのだ。 わたしが主だ。わたしのほかに神はいない。７わたしは光を呼び、やみを招き、時代を良くも悪くもする。わたしは、このようなことをする者だ。　８天は窓をいっぱいに開き、空は正義を降らすように。　救いと正義が共々に地から芽を出すように。　わたしが、それらのものを造ったのだ。
９創造主を向こうに回して戦う者は、ひどい目に会います。　つぼは、それを作った者に議論をふっかけるでしょうか。　粘土は、それを細工する者に、「待ってくれ。　作る物が違ってるじゃないか」と言ったり、「なんてぶきっちょなんだ」と文句を言ったりするでしょうか。　１０両親に、「なぜ私を産んだのか。　産んだのはまちがいじゃないか」とわめきたてる者は、ひどい目に会います。
１１イスラエルのきよい神様であり、イスラエルの創造者である主は、お語りになります。どんな権限があって、わたしのすることに口をはさむのか。　わたしの仕事にいちいち注文をつけるおまえたちは、いったい何者だ。　１２わたしは地球を造り、その上に住む人間を造った。　自分の手で天を引き伸ばし、無数の星に命令した。　１３わたしの目的を果たすためにクロスを起こし、彼の進む道を整える。　彼はわたしの都を再建し、捕虜になったわたしの国民を解放する。　しかも無報酬でだ。
１４神様は、こうもお語りになります。　エジプト人、エチオピヤ人、セバ人はおまえたちの言いなりになる。　彼らは国の産物を山と積んでやって来る。　それが全部おまえたちのものになる。　彼らは鎖でつながれた囚人のようにおまえについて回り、土下座して「あなたがたの神様だけが本物の神様です」と言う。
１５イスラエルの神様である救い主よ、あなたは全く不思議なことをなさいます。　１６偶像を拝む者どもはみな裏切られ、恥をかきます。　１７しかしイスラエルは、神様の永遠の救いを手に入れます。 いつまでも神様を信じ、ただの一度も期待を裏切られません。
１８神様は天と地を造り、すべてのものをあるべき所に置きました。　世界を何もない空間ではなく、人の住む所として造りました。　神様は断言なさいます。　わたしは主で、ほかに神はいない。　１９わたしは人々の見ている前で思い切った約束を伝えた。　暗が

りでぼそぼそ、何を言ったかわからないような言い方はしない。　イスラエルに、空手形で約束しない。　わたしは、真実で正しいことだけを口にする。
２０クロスの手から逃げて来た人々よ、さあ、手をつないで集まれ。　木の偶像をかつぎ回り、救うことのできない神々に祈りをささげる者は、なんというばか者だろう。　２１額を集めて相談し、偶像礼拝にどんなご利益があるか、証拠を出してみろ。　ほんとうの神以外にだれが、クロスはこんなことをすると言ったか。　どこの偶像が、そんなことを知らせたか。　わたしのほかに、ほんとうの神はいない。　２２世界中の人よ、わたしだけが神だから、わたしを信じて救われよ。　２３世界中のすべての人がわたしの前にひれ伏し、すべての舌がわたしの名に忠誠を誓うようになることを、わたしは自分にかけて誓う。　わたしの言ったことは真実だから、絶対そうなる。
２４人々は、「神様にこそ私の正義と力がある」と胸をたたいて言います。　それまで敵対していた者もみな神様のもとに来て、深く恥じ入ります。　２５イスラエルの子孫は神様によって正しい者と認められ、勝ち誇ります。
四六
１２バビロンの偶像ベルとネボは、牛のひく荷車に載せられ、遠くへ運ばれます。　ところが、牛はよろめき、荷車はひっくり返り、神々は地面に放り出されます。　自分が転げ落ちることさえ防げないのに、彼らを拝んでいる者をクロスの手から救い出すことなど、できない相談です。
３「生き残りのイスラエル人よ、わたしの言うことを聞け。　わたしはおまえたちを造り、生まれた時から面倒を見てきた。　４おまえたちが生きているあいだ中、たといおまえたちが年をとり、髪の毛が白くなっても、わたしはおまえたちの神となる。　わたしがおまえたちを造ったのだから、道中おまえたちを運び、救い出そう。
５天と地にあるものの何を引き合いに出して、わたしと比べようというのか。　わたしと等しい者を、だれか捜すことができるか。　６わたしを、金と銀を惜しげもなく使った偶像と比べるつもりか。 おまえたちの金をふんだくって金細工人を雇う者は、偶像を作り、ひれ伏して拝む。　７彼らは偶像をかついで運び、下に置くが、それはじっと立ったままで動けない。　どんなに祈っても答えがない。　拝む者を苦しみからも救えないのだ。
８やましいところのある者よ、このことを忘れるな。　９わたしがはっきり何度も、将来なにが起こるか告げてきたことを忘れるな。わたしだけが神で、わたしのような者はほかにいない。　１０何が起こるかを教えることができるのは、このわたしだけだ。　わたしの言ったことは、みなそのとおりになる。　わたしは、こうと決めたことはどんなことでも実行する。　１１わたしは猛禽を東から、クロスを遠い地から呼ぶ。　彼は来て、わたしの言いつけておいたことをする。わたしは、すると言ったことは必ず実行する。　１２強情で性悪なおまえたち、わたしの言うことを聞け。　１３わたしはおまえたちを救う。それも遠い将来ではなく、今すぐだ。　すでにおまえたちを救う準備は整った。　わたしは、わたしの栄光であるエルサレムとイスラエルを再建する。

四七
１負け知らずのバビロンよ、下って来て、ちりの中に座れ。　栄光の日々は終わり、おまえたちの華やかさと名誉は色あせたからだ。カルデヤの娘よ、おまえは二度と、優雅で美しい王妃と呼ばれない。２重いひき臼で粉をひけ。　売春婦のようにベールを取り、王妃の衣を脱ぎ捨て、人々の目に身をさらせ。　３おまえは裸になり、赤恥をかく。　わたしはおまえに報復し、少しも後悔しない。」
４バビロンの強大な力からイスラエルを救う、私たちの救い主は、こう宣言なさいます。この方の名は天の軍勢の主で、イスラエルのきよい神様にほかなりません。
５バビロンよ､黙って暗がりに座れ。 おまえは二度と､「国々の女王」と呼ばれない。　６バビロンよ､わたしはイスラエルを怒っておまえの手に渡し､少しばかり罰しようとした。ところがおまえは、少しも手ごころを加えなかった。　それどころか、老人に重い荷物を運ばせるようなことまでした。　７おまえは、自分がいつまでも世界の女王として君臨するものと思った。　わたしの国民を少しもあわれまず、また彼らに危害を加えたらどうなるかも考えなかった。
８大国だと自慢し、安逸をむさぼり、快楽を追い求める国よ。　おまえの罪に対する、わたしの法廷での判決を聞け。　おまえは、「私だけが神だ。　天地が引っくり返っても、私が未亡人になるわけがない。　子供を失うこともない」とうぬぼれている。　９それも今のうちだ。　次の二つのことが、一日のうちに、しかも、あっという間に実現する。　どんなに魔法や魔術に頼ってみても、おまえは未亡人となり、子供を失う。
１０おまえは､どんなに悪いことをしても大丈夫だと考えていた。「だれも見ていない」と､おまえは言った。　その「知恵」と「知識」が災いして、わたしに背き、自分こそ神だと言うまでになった。　１１だからこそ、大きな災難が突然おまえに襲いかかる。　あまり突然なので、それがどこから来たのかわからないほどだ。　その時には、おまえの罪をきよめる神への供え物はない。
１２長いあいだ拝んできた悪鬼の群れを、呼び出してみよ。　彼らの助けを借りて、もう一度多くの人々を恐れさせることができるかどうか、試してみよ。　１３助言者は掃いて捨てるほどいる。　星占い、星を見る者といった、未来の出来事を言いあてる者はわんさといる。　１４しかし彼らは、火がつくとぱっと燃え上がる枯れ草のように、役に立つどころか手がつけられなくなる。　自分さえ救えないのだから、とても頼りにはならない。その火は、そばに座って体を暖める火ではない。　１５おまけに、子供のころの友人まで、みなこそこそと逃げ出し、姿を隠し、力になってくれない。
四八
１２わたしの国民よ、わたしの言うことを聞け。　おまえたちは、きよい都に住んでいることを自慢し、イスラエルの神に信頼していると大きな口をたたいているが、口先だけのことだ。　おまえたちの神への忠誠心は、全く看板倒れだ。　３わたしは何度も、これから何が起こるかを知らせてきた。　そして語り終えるか終えないうちに、言ったとおり実

行した。　４わたしは、おまえたちがどんなに強情で頑固か知っている。　首はまるで鉄棒のように曲がらず、頭は石のようにこちこちだ。　５だからこそ、これからしようとすることを、あらかじめ知らせておいたのだ。　そうでもしなければ、おまえたちは「私の偶像がしたのだ。 私の彫像が、そうなるようにと命令したのだ」と言うに決まっている。
６おまえたちはわたしの預言を聞き、しかも実現するのを見た。　ところが、わたしがそのようにしたことを認めない。　今度は、今まで話したこともない、新しいことを知らせよう。　一度も耳にしたことのない秘密をな。
７だからおまえたちは、「ああ、そのことなら、ずっと前から知っていた」と言うことはできない。
８わたしは全く新しいことを告げる。　おまえたちがどんなにひどい裏切り者で、ものごころついたころから背き続け、芯まで腐りきっているかを、よく知っているからだ。　９だがわたしは、自分のため、自分の名誉のために怒りをぐっとこらえ、おまえたちを根絶やしにはしない。　１０わたしはおまえたちを悩みの炉で精錬したが、銀は見つからなかった。　おまえたちは、少しも良いところのないがらくただ。　１１それでもわたしは、自分のためにおまえたちを助ける。　滅ぼしはしない。　そうでないと、外国人は、彼らの神々がわたしを征服したと言うだろう。 彼らにわたしの栄光を譲り渡すようなまねは、絶対しない。
１２わたしの国民、わたしの選んだ者らよ、わたしの言うことを聞け。　わたしだけが神だ。　わたしは初めであり、終わりだ。　１３この手で地の基礎をすえ、この右の手で天を引き伸ばした。　わたしが命じると、たちまちそのとおりの物ができた。
１４みな集まって、よく聞け。　おまえたちの偶像のうちで、次のように知らせてくれたものが一つでもあったか。　「主はクロスを愛し、彼にバビロン帝国の息の根を止めさせる。　主はカルデヤ人の軍隊を根こそぎにする。」　１５こんなことが言えるのは、このわたしだけだ。　わたしがクロスを呼び出し、使者として送り出した。　わたしは彼のすることをきっと成功させる。
１６近寄って聞きなさい。　私はこれまでいつも、どんなことが起こるかをはっきり知らせてきました。　あなたがたが十分に理解するためです。　今度も、神様とその御霊のお告げを伝えます。　１７あなたがたを救うイスラエルのきよい神様は、こう宣言なさいます。　「わたしはおまえたちの神、主だ。　わたしは、おまえたちのためを思って罰し、進むべき道に導く。
１８ああ、おまえたちが、わたしのおきてに従ってくれさえしたら。　そうすれば、平安は川のように流れ、正義は大波のように打ち寄せる。　１９おまえたちは、世界中の浜辺の砂のように、あまりにも多くて、数えられなくなる。　滅ぼされる心配もいっさいなくなる。」
２０今からでも遅くはありません。 あなたがたを奴隷としている者の手から逃げなさい。バビロンをあとにし、歌いながら出て来なさい。　神様がご自分のしもべユダヤ人を救い

出したことを､地の果てまで大声で知らせなさい。　２１彼らは砂漠を越えて来ましたが、少しも渇きませんでした。　神様が岩を真っ二つにすると､水があふれ出たからです。　２２しかし､「悪者どもに平安はない」と、神様は断言なさいます。
四九
１遠い国々の皆さん､私の言うことを聞きなさい。　神様は生まれる前から私に目をかけ、母の胎内にいた時から私を名ざしで呼びました。　２神様は私のさばきのことばを、剣のように切れ味するどくします。　秘密兵器のように、私を御手の中に隠しました。　私はちょうど、神様の矢筒の中にある、先のとがった矢のようです。
３神様は私に告げました。　「おまえはわたしのしもべだ。　神の力を授かった王子として、わたしのすばらしさを示す。」
４「おことばですが神様、私のこれまでの仕事はみな失敗に終わりました。　すっかり力を使い果たしましたが、何の手ごたえもありません。　どうぞ、おこころのままに報いてください。」
５ところが､神様の国民イスラエルを立ち返らせる使者として､私を母の胎内で形づくり、この仕事を成し遂げる力を与え、私を特別扱いしてくださった神様は、さらに告げたのです。　６「おまえはイスラエルをわたしに立ち返らせる以上のことをする。　国々の光となって、外国にまでわたしの救いをもたらす。」
７イスラエルのきよい神様である救い主は､さげすまれている者､のけ者にされている者、支配者の足もとにうずくまる者を慰めます。　「おまえが通ると、王は立ち上がって敬意を表わす。　わたしがおまえを選んだので、地方長官は深々と頭を下げる。　イスラエルのきよい神であるわたしが、おまえを選ぶのだ。」
８９神様はまた､こうお語りになります。「おまえは、ちょうどよい時に願い事をした。わたしはまだ危害が及ばないうちからおまえを守り、イスラエルへの約束のしるしを与える。　わたしが国を再建し、そこに人を住まわせるという証拠だ。　わたしはおまえの口を借りて、暗やみの中に閉じ込められた囚人に､『さあ､出て来い。　おまえたちはもう自由だ』と語りかける。　彼らはわたしの羊となり、緑の牧草地と青々とした丘で草を食べる。　１０ひもじくなることも、のどが渇くこともない。　こげつくような太陽も、焼けるような砂漠の風も、二度と害を与えない。　わたしが彼らを思いやり、冷たい水のわく所へ連れて行くからだ。　１１わたしは彼らのために、山々を平らな道とし、谷の上高く幹線道路を通す。　１２わたしの国民は遠くから、北、西、南から帰って来る。」
１３天は喜んで歌いなさい。　地は歓声をあげなさい。　山々は歌声を響かせなさい。　神様が、悲しみに沈んでいたイスラエルをやさしく慰めるからです。
１４ところが、あなたがたは言います。　「神様は私たちを見捨て、私たちをお忘れになった。」
１５「そんなはずはない。　母親がわが子を忘れ､愛さなくなることがあるだろうか。　だが、たといそんなことがあっても、わたしはおまえを忘れない。　１６わたしはおまえの

名をてのひらに入れ墨した。　わたしの目の前にはいつも、くずれたエルサレムの城壁がちらついている。　１７もうすぐ、おまえを再建する者が来て、滅ぼした者どもをおまえのところから追い払う。　１８さあ、よく見ろ。　敵は一人残らずおまえの奴隷になる、と誓おう。　彼らはおまえにとって、陳列棚に飾る宝石や花嫁の装身具のようになる。
１９だれもが愛想をつかした、いちばん荒れた土地でさえ、まもなく人々でごった返すようになる。　おまえを奴隷にした敵は、はるかかなたに遠ざかる。　２０異国に捕らわれていた時に生まれた者は帰って来て、『もっと部屋が欲しい。　ここは狭すぎる』とこぼす。
２１その時、おまえは心の中でつぶやくだろう。　『こんなにたくさんの子供を下さったのは、いったいだれだろう。　大半は殺され、残りは捕虜として遠くへ連れて行かれ、私だけここに残ったというのに……。　だれがこの子たちを産み、育ててくれたのだろう。』」
２２神様はこうもお語りになります。　「わたしが外国人に合図すると、彼らはおまえの幼い息子たちをおまえのふところに連れ戻し、娘たちを肩に載せてやって来る。　２３王や王妃はおまえに仕え、行き届いた世話をしてくれる。　彼らは土下座し、おまえの足についたちりをなめる。　その時おまえは、わたしが神であることを知る。　わたしに望みをかける者は、決して恥をかかない。」
２４腕力の強い者の手から、だれが、奪い取られたものを取り戻せるでしょうか。　泣く子も黙るこわい王に、だれが、捕虜を自由の身にしてやれと命令できるでしょうか。　２５しかし神様は、きっぱり宣言なさいます。　「名前を聞くだけで震え上がる残忍な王の捕虜になった者でも、一人残らず釈放される。　わたしはわたしと戦う者と戦い、おまえの子供たちを救い出すからだ。　２６おまえの敵には自分の肉を食べさせる。　彼らはしたたり落ちる自分の血を飲んで酔う。　こうして世界中の者が、主であるわたしがおまえの救い主であり、イスラエルの強い神であることを知る。」
五〇
１神様は問いかけます。　わたしはおまえたちを債権者に売り飛ばしただろうか。　そのために、おまえたちはここにいないのか。　わたしがおまえたちの母親と離婚し、追い出したから、彼女の姿が見あたらないのか。　とんでもない！　おまえたちが、自分の罪のために自分を売ったのではないか。　母親は借金のかたに連れ去られたのだ。　２わたしに力がなくて、おまえたちを救えないのだろうか。　それがために、わたしが帰宅してみると、家はからっぽで静まり返っているのだろうか。　わたしにはもう、おまえたちを救い出す力がないとでも言うのか。　とんでもない！　そのつもりになれば、海をしかりつけ、干上がらせることも何でもない。　多くの川が流れる平野を砂漠とし、死んだ魚でいっぱいにすることもできる。　３空一面をやみでおおうことさえできるのだ。
４神様は私に、知恵のことばを授けました。　疲れきった人に何を言ったらいいかを教えるためです。　朝ごとに、神様は私の目を覚まし、理解力を深め、みこころを示してくださいます。　５神様のおことばを、私は耳をすまして聞きます。　逆らったり、そっぽを向いたりはしません。　６私はむち打つ者に背中をさらし、ひげを抜き取る者に顔を差し

出しました。　恥さらしになっても、逃げも隠れもしません。　彼らは私の顔につばをはきかけました。
７神様のお助けがあるので、私はうろたえたり、気を落としたりしません。　断固として決意を固め、神様の命じることを行ないます。　しかも、必ず勝つと確信しています。　８私が正しいと認めてくださる方が、そばにおられるのです。　さあ、だれが相手になるのか。私の敵はどこか。　いたら、姿を現わしてもらいたいものだ。　９神様が味方である以上、だれも、私に罪があるときめつけることはできません。　敵はみな、しみに食われた古着のように、ぼろぼろになります。
１０あなたがたのうち、神様を恐れ、主のしもべに聞き従う者はだれですか。　もしそのような人が今、やみの中にいて、一筋の光もないというなら、主に頼り、神様にすがってもらいたいものです。　１１しかし、自分の光の中を歩き、神様の火ではなく、自分の火に暖まっている者よ。　あなたがたは悲しみに明け暮れるようになります。
五一
１２自由の身となることを願い、神を尋ね求める者よ、わたしの言うことを聞け。　おまえたちが掘り出された採石場、切り出された岩を見よ。　先祖アブラハムとサラのことを考えてみよ。　おまえたちは、力がなく数も少ないと思い悩んでいる。　だが、わたしがアブラハムを呼び出した時、彼はたった一人ではなかったか。　それが祝福を受けて、大きな国になった。　３わたしはもう一度イスラエルを祝福し、砂漠を花畑とする。　何も生えなかった荒野はエデンの園のように美しくなる。　そこは喜びと楽しみにあふれ、感謝と美しい歌声が絶えない。
４わたしの国民イスラエルよ、よく聞け。　わたしは必ず正義が勝つようにしてみせる。５思いやりと正義はもうすぐ来る。　救いは門口まで来ている。　わたしは国々を支配する。　世界中の人がわたしに望みをかけ、わたしが来るのをひたすら待っている。　６高い空と足もとの大地を見よ。　大空は煙のように消えてなくなり、大地は着物のように古びる。　そこに住む者は、はえのように死ぬ。　だが、わたしの救いはいつまでもすたらない。　わたしの正しい政治は、とだえることも行きづまることもない。
７わたしの言うことを聞け。　正しいこととまちがったことが区別でき、わたしのおきてを大切に胸にしまっている人たちよ。　そしりや中傷をこわがるな。　８そんな連中は、しみや虫が着物を食い荒らすように、食い尽くされる。　だが、わたしの正義と思いやりはいつまでもなくならず、わたしの救いは代々限りなく続く。
９神様、目を覚ましてください。　立ち上がって、力を奮い起こしてください。　エジプトを打った昔のように、ナイルの竜を刺し殺した時のように立ち上がってください。　１０あなたは今も、海を干上がらせ、自ら救い出した国民の通り道を造った時と同じように、全能の神様ではありませんか。　１１神様に救い出された人たちの帰って来る時がきます。喜びと永遠の楽しさにあふれ、歌いながらエルサレムに帰って来ます。　悲しみと嘆きは跡形もなくなります。

１２おまえを慰め、喜びを与えるのは、このわたしだ。　だから、草のようにしおれて枯れるただの人間を、こわがってはいけない。　１３ところがおまえたちときたら、おまえたちを造った神を恐れず、星を大空にちりばめ、地を造ったわたしを忘れてしまった。　一方、人からの圧力を絶えずこわがり、憤りを買いはしないかと一日中びくびくしている。
１４だが奴隷の生活も長くはない。　もうすぐ自由の身だ。　地下牢や飢えや死とは縁がなくなる。　１５わたしはおまえたちの神、主であって、海を真っ二つにし、とどろく波を壁にして通り道を造った。　１６わたしのことばをおまえたちの口に入れ、手の中におまえたちを隠して守った。　星をそれぞれ決められた場所に置き、地球を造った。　わたしはイスラエルに、「おまえはわたしのものだ」と言いきれる神だ。
１７エルサレムよ、目を覚ましなさい。　もう十分に、神様の憤りの杯を飲みほしました。　恐怖の杯を最後の一滴まで飲みました。　１８力を貸し、相談相手になってくれる息子は、一人も残っていません。１９荒廃と滅亡、それだけがあなたの分け前です。　ほかには、ききんと剣しかありません。　だれが同情し、慰めてくれるでしょう。　２０息子たちは網にかかった大かもしかのように気を失い、道に転がっています。　神様がお怒りになったからです。　２１困り果て、酒も飲まないのに頭がもうろうとしている人たちよ、安心しなさい。　２２ご自分の国民をかばう神様は、きっぱり断言なさいます。　「さあ、おまえの手から恐ろしい杯を取り上げよう。　もう二度とわたしの怒りを飲まなくてよい。　それは過ぎ去った。　２３今度はこの恐ろしい杯を、おまえを苦しめ、おまえのたましいを踏みにじり、おまえの背中を踏み越えた者の手に渡す。」
五二
１エルサレムよ、さあ、目を覚まして神様の力を着なさい。　きよい都、シオン（エルサレム）よ、美しい衣をまといなさい。　神様に背く罪人は、もはやあなたの門をくぐりません。　２エルサレムよ、ちりを払って立ち上がりなさい。　捕虜になったシオンの娘よ、首から奴隷のかせをはずしなさい。　３神様はこうお語りになります。　捕虜としておまえたちを迫害者どもに売った時、ただの一円も請求しなかった。　だから今度は、おまえたちをただで取り戻す。　４理由もなくエジプトとアッシリヤにいじめられた時も、わたしは救い出した。　５「ところで、これはどうしたことか」と、神様は尋ねます。　なぜわたしの国民はまた奴隷となり、理由もなくいじめられているのか。　彼らの支配者は歓声をあげ、わたしの名は一日中さげすまれている。　６だから、わたしの国民にわたしの名をはっきり知らせる。　彼らはこの名を聞いて励まされ、話しかけているのがわたしだと認めるようになる。
７イスラエルの神様が王座についたという、平和と救いの良い知らせを伝える者の足は、山の上にあって、なんと美しく見えることでしょう。　８見張り人が声を張り上げ、喜びいっぱい歌っています。　神様がエルサレムへ帰るのを目のあたりに見るからです。　９エルサレムの廃墟よ、大声で喜びの歌をうたいなさい。　神様はご自分の国民を慰め、エルサレムを敵の手から買い戻したからです。　１０すべての国々の目の前に、神様はきよ

い御腕を現わしました。　地の果ての人たちも私たちの神様の救いを見ます。
１１さあ今、奴隷のかせをはずし、自由になりなさい。　バビロンと、それにかかわりのある、いっさいのものから遠ざかりなさい。　それはみな、あなたがたにとって汚れています。　あなたがたは神様のきよい国民です。　神様の器具を故国に持って帰る者は自分をきよめなさい。　１２命からがら、あわてて逃げることはありません。　神様が先頭をきり、またうしろから、あなたがたを守ってくださいます。
１３わたしのしもべ〔救い主イエス・キリスト〕は繁栄し、高くあげられる。　１４１５ところが、彼を見て多くの人が驚く。　遠い外国から来た者や王は、その前に出ると、ことばもなく唖のように黙り込む。　今まで一度も見たことのないものを見、一度も聞いたことのないことを理解するからだ。　彼らは、ひどく打ちたたかれて血まみれになり、とても人間とは思えないほど顔かたちのくずれた、わたしのしもべを見る。　だが彼は、多くの国の人々をきよめるのだ。
五三
１しかし、このことを信じる人はなんと少ないことでしょう。　いったいだれが、耳をすまして聞くでしょう。　神様はだれに、救いの力をお示しになるのでしょう。　２神様の目から見れば彼は柔らかな若芽のようで、不毛の地の根から芽を吹き出したのです。　ところが私たちの目から見れば、人目をひくものは一つもなく、好意をいだかせるものも一つもありません。　３私たちは彼をさげすみ、のけ者にしました。　彼は悲しみの人、人生の苦しみをなめ尽くした人でした。　私たちは彼に背き、そばを通ってもそっぽを向きました。　彼が侮られても、そ知らぬふりをしていました。
４ところが、彼が背負い込んだのは、実は私たちの悲しみであり、彼を押しつぶしたのは、私たちの嘆きでした。　私たちは、彼がそんなに苦しむのは、罪を犯して神様に罰せられているからだと考えていました。　５しかし実際は、私たちの罪のために傷つき、血を流したのです。　彼は私たちに平安を与えようとして、進んで懲らしめを受けました。　彼がむち打たれたので、私たちはいやされました。　６私たちは神様の道を踏みはずし、羊のようにさまよい出て、自分勝手な道を歩いてきました。　ところが神様は、私たち一人一人の罪を彼に負わせたのです。
７彼は痛めつけられ、苦しみ、悩みました。　それでも、ただのひと言も口にしませんでした。　子羊のようにおとなしく屠殺場へ引いて行かれ、毛を刈り取られる羊のように、非難をあびせかける者たちの前に黙って立ちました。　８人々は彼を裁判にかけ、死刑場へ引き立てました。　はたして、彼が死ぬのは自分たちの罪のためであり、身代わりに刑罰を受けて苦しんでいることを知っていた者が、その当時いたでしょうか。　９彼は罪人扱いを受け、金持ちの墓に葬られました。　しかし実際は、悪いことなど何一つしたわけでもなく、悪いことばを一度でも口にしたわけではありません。
１０彼を傷つけ、悲しみで押しつぶすのは、実は神様の計画だったのです。　罪が赦されるためのささげ物として、そのたましいをささげる時、彼は多くの子孫を見ることができ

ます。　しかも彼は復活するので、神様の計画は彼の手によって陽の目を見ます。　１１彼は、自分のたましいが苦しみもだえた末、神様のみわざが実現するのを見て、すっかり満足します。　わたしの正しいしもべは、このような苦しみを経験して、多くの者を神様の前に無罪とする。　彼が人々の罪をいっさい負うからだ。　１２わたしは彼に、偉大な勝利者としての栄誉を与える。　彼は進んでいのちをささげたのだ。　彼は罪人の一人に数えられ、多くの者の罪を負い、罪人のために神にとりなした。
五四
１子供のない女よ、歌え。　エルサレムよ、大声を張り上げ、喜びの歌をうたえ。　今になってみると、捨てられた女のほうが、夫のある女より、子供に恵まれているからだ。　２家を増築し、余分の部屋を造れ。　３前の着物は小さくなり、今にもはち切れそうだ。　おまえの子孫は、外国の捕虜になっていたあいだ荒れほうだいだった町々を取り戻し、祖国を占領していた国々を逆に支配するようになる。
４恐れてはいけない。　おまえは二度と恥にまみれた生活をしなくてもすむ。　若いころの恥と、やもめ時代の悲しみは、永久に思い出されない。　５おまえを造った者が、夫になるからだ。　その名は天の軍勢の主。　おまえを救い出す者、イスラエルのきよい神、全世界の神だ。　６わたしは、夫に捨てられて悲しむ若妻のようなおまえを、立ち直らせた。　７ほんのちょっとの間おまえを見捨てたが、今度は心から同情して、おまえを集める。　８しばらくの間、怒って顔をそむけたが、今度は永遠の愛をもって愛すると、あなたを救い出す神様は約束なさいます。　９わたしはノアの時代に、いのちあるものを二度と洪水で滅ぼさないと誓った。　同じように、今度は、おまえを外国の捕虜にした時のように怒りをぶつけないと誓う。　１０山々は動いて場所を変え、丘は消えてなくなっても、わたしの愛はおまえから離れない。　平安を与えるという約束を、どんなことがあっても破らない。　あなたを愛する神様は、きっぱり断言なさいます。
１１嵐にもてあそばれ、苦しみ悩んできたわたしの国民よ。　わたしはおまえをサファイヤの土台石の上に建て、回りの壁を宝石で造る。　１２光るルビーで塔を建て、まぶしく輝く宝石で門と城壁を造る。　１３おまえの町に住む者はみな、わたしの教えを受け、めざましい繁栄を遂げる。　１４正しく公平な政治が行なわれ、敵に侵略される心配もなく、平和な生活を楽しむようになる。　恐ろしいことは起こらない。　１５たとい戦いをしかける国があっても、おまえを罰するために、わたしがそうさせるのではない。　わたしはあくまでも、おまえの味方だから、相手は手痛い敗北を喫する。　１６炉の火を吹きおこして武器を作る鍛冶屋は、わたしが造った。　また破壊する軍隊も造った。　１７しかし、やがて来る日には、おまえに向けられるどんな武器も役に立たなくなり、法廷でどんなに偽証が並べ立てられても、おまえは正しいと認められるようになる。　これが、主のしもべの特権であり、わたしからの祝福だ。　こう神様はお語りになります。
五五
１渇いている人がいたら、金がぜんぜんなくても、自由に飲みに来るがよい。　最上のぶ

どう酒とミルクを持って行け。　全部ただだ。　２どうして、少しも力のつかない食料品のために金をむだ使いするのか。　少しも腹の足しにならない食べ物のために金を払うのか。　わたしの言うことを聞け。　そうすれば、たましいを元気にする栄養価の高い食べ物をどこで手に入れるか、教えてやろう。
３わたしのところへ来て、耳の穴をほじってよーく聞け。　おまえたちは立つか倒れるかの瀬戸際だからだ。 わたしはおまえたちと永遠の契約を結び､ダビデ王を愛したように、今も変わらず、おまえたちを愛したい。　４彼は周囲の国々を平らげ、わたしの力のほどを証明した。　５おまえもまた国々に命令するだけで、彼らは走って来て仕える。　それは、おまえの力や功績によるのではない。　おまえの神であるこのわたしが、おまえに華を持たせた結果だ。
６尋ねることのできる間に神様を探し求めなさい。 近くにおられる間に呼び求めなさい。
７悪事を捨て、悪いことをしようとする思いすら、きっぱり捨てなさい。　愛していただくために、主のもとへ帰りなさい。　私たちの神様のところへ帰りなさい。　何もかも赦してくださいます。
８わたしの計画はおまえたちの考えつく計画とは違い、わたしの思いはおまえたちの思いと同じではない。　９天が地より高いように、わたしの道はおまえたちの道より高く、わたしの思いはおまえたちの思いより高い。
１０雨や雪は天から降って来て地をうるおし、穀物を成長させ、農夫には種を、空腹な人にはパンを与える。　１１わたしのことばも、同じだ。　送り出せば必ず実を結ぶ。　わたしの望みどおりのことをし、送られた先々で大きな影響を及ぼす。　１２おまえは喜びと平安に包まれて生活し、山も丘も野の木々も、周囲のものはみな、こおどりして喜ぶ。
１３いばらの生えていた所には、糸杉が茂り、いらくさが、所狭しと生えていた所には、ミルトスの木が芽を出す。　この奇蹟はわたしの名を偉大にし、わたしの力と愛を証明する永遠のしるしとなる。
五六
１正義を守り、すべての人に公平であれ。　主である神様はこう命じます。　正しいと思うことをやれ。　もうすぐ、おまえを救い出しに行くからだ。　２わたしの安息日にはどんなことがあっても仕事をせず､細心の注意をはらってこの日を守る人はしあわせだ。 自分をきびしく監視し、悪いことをいっさいしない人はしあわせだ。
３わたしの祝福は、神を信じる外国人にも及ぶ。　彼らは、二の次にされるなどと考えてはならない。　宦官の場合も同じだ。　ほかの人同様、彼らも完全にわたしのものとなれる。　４安息日をきよい心で守り、わたしの喜ぶことを進んで行ない、おきてをきちんと守る宦官に、こう約束する。　５わたしの家とわたしの城壁のうちで、子だくさんの者が受ける称賛など比べものにならない、良い名前を与える。　わたしが与える名前はいつまでも価値のあるもので、決してすたれることはない。
６また、神の国民の仲間入りをしてわたしに仕え、わたしの名を愛し、わたしのしもべと

なって安息日をきよく守り､わたしの契約を受け入れた外国人には､次のように約束する。
７エルサレムにあるわたしの聖なる山へ連れて行き、わたしの祈りの家でこおどりして喜ばせる。
わたしは彼らのいけにえや供え物を受け入れる。　わたしの神殿は「すべての民族の祈りの家」と呼ばれるようになるからだ。　８追放されたイスラエル国民を呼び戻す神様は、神様の国民イスラエル以外の者たちも集めると告げます。
９野の獣よ、来て羊を裂き殺せ。　森の獣よ、来て、わたしの国民の骨までしゃぶれ。　１０わたしの立てた見張りであり羊飼いであるイスラエルの指導者は、みな明き盲で、危険に気づかない。　そろって低能で、危険が近づいても警告しない。　ごろりと横になり、寝込んで夢を見るのが大好きだ。　１１貪欲な犬で、満足することを知らない。　自分の利益だけを追い求める間抜けな羊飼いで、めぼしいところから、できるだけ多くもうけてやろうと目を光らせている。
１２彼らはこう言った。「さあ、酒を手に入れ、宴会を開こう。みんなで酔っ払うんだ。これこそ生きがいというものさ。　さあ、浴びるほど飲もう。　明日は今日よりもっとすばらしいことがあるかもしれないぜ。」
五七
１善人が滅び、神を敬う人が人生の半ばで死んでも、だれ一人として深刻に考え、なぜだろうと不思議に思いません。　神様がそのような人を、災いがくる前に取り去ることに気づく者は、一人もいません。　２神を敬う人は、死んだら平和そのものの安息にはいります。
３だがおまえたち、魔法使いの子、姦夫と売春婦の子孫よ、ここに来い。　４おまえたちは、だれをからかい、大きな顔をして舌を出すのか。　罪人とうそつきの子よ。　５おまえたちは木陰で熱心に偶像を拝み、谷間や岩の間で子供をいけにえにする。　６神々といっても、谷間に転がっているなめらかな石ではないか。　おまえたちはそれを拝み、わたしとは似ても似つかぬその神々を、相続財産としている。　こんな仕打ちをされて、はたして平気でいられるだろうか。　７８おまえたちは山の頂上で偶像を拝み、わたしを見限ることによって姦淫の罪を犯した。　とびらを閉じ、偶像をすえ、そして拝む。　わたし以外の者を拝むことは姦淫の罪にほかならない。　わたしではなく、偶像を愛しているからだ。　９おまえたちは、かぐわしい香と香水をモレクへの供え物にした。　遠い道をもいとわず、地獄にまでも行って、愛を注ぐ新しい神々を見つけようと血眼になった。　１０長旅に疲れても決してあきらめず、気合いをいれながら旅を続けた。　１１どうして、わたしよりも他の神々をこわがったのか。　わたしのことなど眼中になかったのは、どういうわけか。　わたしがあまりにもやさしすぎたので、少しもこわくないと考えるようになったのか。
１２それに、おまえたちの言う「正しさ」と「善行」が、邪魔している。　そんなものは、おまえたちを救えない。　１３集めた偶像が、はたして、いざという時に救ってくれるか

どうか試してみろ。　これらの偶像は、吹けば飛ぶように頼りにならない代物だ。　たったのひと息で、遠くに飛んでいくではないか。　だが、わたしを信頼する者は土地を所有し、わたしの聖なる山を受け継ぐ。　１４さあ、道を造れ。　石や岩を取り除け。　捕虜になっていたわたしの国民の帰国に備えて、すばらしいハイウエーを造れ。
１５永遠を住まいとする高くあげられたきよいお方が、お語りになります。　わたしは高くてきよい所に住んでいるが、そこには、心くだけた謙そんな人が住む。　わたしは謙そんな人を生き返らせ、悔い改めた人に新たな勇気を起こさせる。　１６いつまでもおまえたちと戦い、憤りをぶつけるわけではない。　そんなことをしていたら、わたしが造った全人類は死に絶えてしまう。　１７わたしは怒って、貪欲な者たちを打った。　ところが、連中は性懲りもなく罪を犯し続け、悪事の限りを尽くした。　１８彼らのしわざはこの目で見た。　しかし今は、ともかく彼らをいやそう。　彼らを導き、慰め、罪を嘆いて告白するように仕向けよう。　１９近くにいる者にも遠くにいる者にも、平安があるように。わたしは彼らをいやす。　２０それでもなお逆らう者は、少しも静まることのない海のようだ。　かた時も休まず泥を吐き出している。　２１そのような者に平安はない。　こう神様は断言なさいます。
五八
１ラッパのような大声でどなれ。　わたしの国民に、彼らの罪が何であるかを知らせよ。
２彼らはいかにも神を敬うかのように振る舞っている。　毎日神殿へ来て、おきての朗読を聞いて喜ぶ。　まるで、神のおきてに従うことを望み、神の戒めを軽んじることなど考えられない、といったふうに見える。　見た目には、正しく礼拝することを心から願い、神殿での奉仕をことのほか愛しているようだ。
３彼らは不満げに言う。　「神様の前で断食したのに、なぜ心に留めてくださらないのですか。　なぜ、私たちのいけにえをご覧にならないのですか。　どうして、私たちの祈りを聞いてくださらないのですか。　たくさんの罪滅ぼしをしたのに、目も向けてくださいませんでした。」　その理由を説明しよう。　おまえたちは断食の最中にも悪い楽しみにふけり、雇った労働者をいじめている。　４考えてもみろ。　仲間割れしながら断食して、いったいどんな利益があるというのか。そんな断食をしても、わたしとの関係は少しもよくなるはずがない。５そんな罪滅ぼしが何だ。　風に揺られる葦のように頭を下げたり、荒布をまとい灰をかぶったりすることを、はたしてわたしが望んでいるだろうか。
６わたしの喜ぶ断食とは、労働者をいじめるのをやめ、公平な扱いをし、彼らの給料をピンはねしないことではないか。　７空腹の者には食べ物を分け与え、身寄りのない者、暮らしに困っている者を家へ迎えること、それがおまえに望むことだ。　寒さに震えている者には着物をきせ、親族が助けを求めているのに姿をくらましてはならない。　８このようにすれば、神様はあなたに輝かしい光を投げかけ、病気を治してくださいます。　神様を敬う思いが、あなたを前進させます。恵みがあなたの前方を守る盾となり、神様の栄光があなたをうしろから支えます。　９あなたが呼べば、「わたしは、ここにいる」と、神様

はすぐ答えます。　あなたのすべきことは、弱い者いじめをやめ、でっち上げの告発をしたり、悪質なうわさを流したりするのをやめることだけです。
１０飢えた者に食べさせ、困っている者を助けなさい。　そうすれば、あなたの光は暗やみの中から輝き渡り、あなたを取り囲む暗やみは真昼のように明るくなります。　１１神様はかた時も休むことなくあなたを導き、ありとあらゆるすばらしいもので満足させ、いつも元気はつらつにしてくださいます。　あなたは、よくうるおった庭園のようになり、こんこんと水がわく泉のようになります。　１２息子たちは、長いあいだ人の住んでいなかった町々の廃墟を建て直し、「城壁と町を造り直す恩人」と呼ばれます。
１３安息日をきよい心で守り、その日には仕事や趣味に熱中したりせず、喜んで安息日を過ごし、神のきよい日だと喜びを込めて言い、自分のしたいことをせずにむだ口を慎み、わたしをあがめるなら、　１４わたしはおまえの喜びとなる。　しかもわたしは、おまえが地の高い所を駆け巡り、おまえの父ヤコブに約束しておいた祝福をあますところなく受け継ぐように、まちがいなく取り計らう。　神様が、このようにお語りになりました。
五九
１さあ、耳をすまして聞きなさい。　神様は力不足のため、あなたがたを救えないのではありません。　神様の耳が遠くなったのでもありません。　あなたがたの声は、まちがいなく神様の耳に届きます。　２問題はあなたがたの罪です。　罪があなたがたと神様との断絶のもとです。　罪のために、神様は顔をそむけ、いっこうに聞こうとなさいません。
３あなたがたの手は殺人者の手であり、あなたがたの指は罪に汚れています。　あなたがたは嘘をつき、不平を鳴らし、正しいことに盾をつきます。　４誠実で、人に偏見をもつまいと心がける者は、一人もいません。　訴えは嘘で固められています。　悪事をたくらみ、実行することばかりに力を入れます。　５恐ろしい結果をもたらす悪い計画を練ることに力を入れ、時間をかけます。　６手あたりしだい人をだまし、つり銭をごまかします。
やることなすこと罪にまみれ、暴虐がトレードマークです。　７足は悪を求めて走り、人殺しとなると全速力で走ります。　頭には罪を犯すことしかなく、どこへ行っても悲惨と死の足跡を残します。　８平和がどんなものか、正義や善意がどんなものか知りもしません。　年がら年中どんな所でも悪いことをするので、あなたがたのかばん持ちも、平和の味を知りません。
９こんな悪に染まっているからこそ、神様の祝福を見いだせないのです。　だからこそ、あなたがたに危害を加える者を、神様は罰しないのです。　光を望みながら実際には暗やみに閉ざされているのも、無理はありません。　暗がりの中を歩いて当然です。　１０盲人のように手探りで歩き、真昼に真夜中のようにつまずいても、不思議ではありません。
元気な若者と比べたら、死人同然に見えるのも、もっともです。　１１あなたがたは飢えた熊のようにほえ、鳩のように、いかにも悲しそうなうめき声をあげます。　神様を見上げますが、神様は守ってくださいません。　横を向いてしまわれたのです。　１２正しい神様の前に、あなたがたの罪が山と積み上げられ、あなたがたに不利な証言をするからで

す。
私たちは、自分がどんなにひどい罪人であるかを知っています。　１３自分の不従順さを知っています。　私たちは、神様である主を否みました。　自分がひどい反逆者であり、どんなに誠実さに欠けているかを知っています。　それというのも、私たちはどのように嘘をつこうかと、前もって考えているからです。　１４法廷では正しい人を不利にし、公平な精神など薬にしたくてもありません。　真実は路上で行き倒れになり、正義は追放されています。
１５真実は行方不明になり、まじめな生活をしようと心がける者は、すぐさま攻撃の的になります。　神様はこのような悪を見、何の手も打たれていないのを不快に思いました。
１６また、だれ一人あなたがたを助ける者がなく、ただの一人も間に立とうとしないのを不思議に思いました。　そこで、ご自分の大能の力と正義をもってあなたがたを救い出そうと、割り込んで来られたのです。　１７神様は正義のよろいをまとい、救いのかぶとをかぶり、復讐と激しい怒りの衣を身につけました。　１８数々の敵の悪事に報い、遠くの敵には怒りに燃えて仕返しするのです。　１９こうなってはじめて、人々は西から東に至るまで、神様を敬い、あがめるようになります。　御口の息に押し流される高潮のように、神様は来られます。　２０罪に背を向けたシオン（エルサレム）の住民のもとには、救い主としておいでになるのです。
２１神様はこう告げます。　「これが彼らへの約束だ。　わたしの霊は決して彼らから離れない。　彼らは正しいことを望み、悪を憎むようになる。　彼らだけでなく、子々孫々、永遠にそのようになる。」
六〇
１わたしの国民よ、起き上がれ。　神の栄光がおまえから輝き始めた。　世界中の国民に見えるように、その光を輝かすのだ。　２夜のような暗やみが地上に住む者ぜんぶをおおうが、神の栄光はおまえから輝き出る。　３国々の民は、おまえの光を慕って来る。　力ある王たちは、おまえの上に輝く神の栄光を見るために来る。
４目を上げて回りを見よ。　息子や娘が遠い国から帰って来るからだ。　５世界中の商人がわれ先に、多くの国々の財宝を運んで来るので、おまえの目は喜びに輝き、心は躍る。
６らくだの大群が、あとからあとから押し寄せる。　ミデヤンとシェバとエファからも、ひとこぶらくだが金と香料を運んで来て、共に神をほめたたえる。　７ケダルの羊の群れはおまえのものとなり、ネバヨテの雄羊はわたしの祭壇にささげられる。　こうして、わたしはその日、栄光に輝くわたしの神殿をひときわすばらしくする。
８雲のようにイスラエルへ飛び帰り、鳩のように巣へ舞い戻るのは、だれか。　９わたしは多くの国々の船を取っておいた。　それも一番よい船を。　それでイスラエルの子らを遠い所から連れ帰り、いっしょに財産も運んで来るためだ。　それというのも、世界中に知れ渡っているイスラエルのきよい神が、すべての人の見ている前で、おまえを特別に光り輝く者としたからだ。

１０外国人も来て、おまえの町々を建てる。　大統領や王は、こぞっておまえを助ける。　わたしは怒っておまえを打ったが、恵みをもっておまえにあわれみをかける。　１１おまえの門は二十四時間、いっぱいに開かれていて、多くの国々からの富を受け入れる。　世界中の王がおまえに仕える。　１２おまえと同盟を結ぼうとしない国々は痛い目に会い、二度と立てなくなるからだ。　１３レバノンの栄光である糸杉、プラタナス、松などの森はおまえのものとなり、わたしの聖所を美しくするのに役立つ。　こうして、わたしの神殿は神々しい光を放つようになる。
１４セム族を敵視していた者たちの子孫は来て、おまえの前に深々と頭を下げ、おまえの足に口づけする。　彼らはエルサレムを、「主の都」とか「イスラエルのきよい神の栄光に輝く山」とか呼ぶ。　１５おまえはすべての人に軽べつされ、憎まれ、のけ者にされていたが、永遠の美をまとい、いつまでも世界中の人たちの喜びとなる。　わたしが、そうするからだ。　１６力のある王や大国が、競っておまえの必要にこたえようと、いちばん良い物資を持って来る。　おまえはその時になってはじめて、主であるこのわたしがおまえの救い主であり、イスラエルの大能の神であることがわかる。　１７わたしは、おまえの青銅を金と、鉄を銀と、材木を青銅と、石を鉄と交換する。　平和と正義がおまえの監督者となる。　１８暴虐は姿を消し、戦争という戦争は終わりを告げる。　おまえの城壁は「救い」となり、おまえの門は「賛美」となる。
１９もはや太陽や月の光はいらない。　おまえの神であるわたしが、おまえの永遠の光、おまえの栄光となるからだ。　２０おまえの太陽は永久に沈まず、月も欠けない。　わたしが永遠の光となり、悲しみの日はことごとく終わるからだ。　２１国民は一人の例外もなく善人となり、いつまでも国土に住みつく。　わたしが手ずから彼らをそこに植えるからだ。　このことは、わたしの栄光を増し加える。　２２小人数の世帯でも大氏族となり、小さな集団は強大な国家となる。　時がきたら、主であるわたしは、これらのことをみな実現する。
六一
１神様である主の霊が私の上にあります。　苦しんでいる人や悩んでいる人にすばらしい知らせを伝えるために、神様は私に油を注ぎました。　心の傷ついた人を慰め、捕虜になった人に自由を、捕らわれていた人に釈放を告げるために、神様は私を送り出しました。
２嘆き悲しんでいる人に、神様の恵みの時と敵が滅びる日のきたことを知らせるために、神様は私を送り出しました。　３嘆き悲しむすべてのイスラエル人に、神様は次のものをお与えになります。
灰の代わりに美しさを。
悲しみの代わりに喜びを。
重い心の代わりに賛美を。
神様はご自分の栄光のために、優雅で強い樫の木のように彼らを植えたのです。
４彼らは廃墟を建て直し、ずっと前にこわされた町々に手を加え、長いあいだ荒れほうだ

いだった所を、にぎやかな町にします。　５外国人は使用人となって家畜の群れを飼い、畑を耕し、ぶどう園の番人となります。　６あなたがたは、神の祭司、神に仕える者と呼ばれるようになります。　あなたがたは国々の富で肥え太り、その財宝を誇りにします。７恥と不名誉の代わりに、二倍の繁栄にあずかり、永遠の喜びにひたるのです。
８主であるわたしは、正義を愛し、不正と盗みを憎む。　わたしは、苦しんだわたしの国民にまちがいなく報い､彼らと永遠の契約を結ぶ。　９彼らの子孫は国々の間に知れ渡り、尊敬される。　すべての者が、彼らは神に祝福された国民だと認める。
１０神様が私をどんなに幸福にしてくださったか、お話ししましょう。　神様は私に救いの衣を着せ、正義の外套をかけてくださいました。　私はまるで、婚礼の服をまとった花婿、宝石で身を飾った花嫁のようです。　１１神様は世界中の国々に、ご自分の正義をお示しになります。　こうして、すべての人が神様をたたえるのです。　神様の正義は芽を吹いた木、ここかしこに青い芽が顔を出した早春の庭園のようです。
六二
１私はシオンを愛し、エルサレムを心から慕っています。　だからこそ、エルサレムが正義をまとってまぶしく輝き、救いによって栄光を放つまでは、この都のために祈るのをやめたり、神様に叫ぶのをやめたりしません。　２やがて国々はあなたの正義に気がつき、王たちはあなたの栄光に目がくらむようになります。　あなたは神様から、新しい名をいただきます。　３神様はあなたを握りしめ、だれにでも見えるように高くあげます。　あなたは、王の王である方の、光り輝く冠となるのです。　４もう二度と､「神に見捨てられた地」とか「神が忘れてしまった地」とか呼ばれません。　新しい名は「神が喜ぶ地」また「花嫁」です。　神様があなたをことのほか喜び、ご自分のものにするからです。　５エルサレムよ、あなたの子らは、おとめをめとる若者のような喜びをもって、あなたの面倒を見ます。　神様は、花婿が花嫁を喜ぶように、あなたをお喜びになります。
６７エルサレムよ、私は城壁の上に見張りを置きました。　その人が昼となく夜となく、約束の成就を神様に祈り求めるためです。　祈る人たちよ、少しでも手を抜いてはいけません。 神様がエルサレムをしっかり建て､世界中の人の尊敬と称賛の的とされるまでは､神様を少しでも休ませてはいけません。 ８神様はエルサレムに､真心こめて誓いました。「二度とおまえを敵の手に渡さない。　二度と、外国の兵士に穀物とぶどう酒を横取りさせない。　９自分で栽培したものは自分の口に入れ、わたしをたたえるようになる。　神殿の内庭で、手づくりのぶどう酒を飲む。　１０さあ、行って、わたしの国民が帰って来るための道を造れ。　土を盛り、石を除き、イスラエルの旗を高く掲げよ。」
１１見なさい。　神様はあらゆる国に使者を送って、こう言わせました。　「わたしの国民に、神である主が、たくさんの贈り物を持っておまえたちを救いに行くと伝えよ。」　１２彼らは「きよい国民」「神が買い取った人たち」と呼ばれ、エルサレムは「慕わしい地」「神が祝福した都」と呼ばれるようになります。
六三

１エドムから来る、あの人はだれですか。　目にも鮮やかな深紅の衣を着て、ボツラの町から来る、あの人はだれですか。　王の衣をまとい、威風堂々とやって来る、あの人はだれですか。
「それは、おまえたちに救いを告げ知らせる神だ。　大きな力をもって救う主だ。」
２「どうしてお着物が、ぶどうを踏みしぼった時のように真っ赤なのですか。」
３「わたしは、たった一人で酒ぶねを踏んだ。　手伝ってくれる者は一人もいなかった。わたしは激しく怒り、敵をぶどうのように踏みつぶした。　真っ赤になって怒り、敵を踏みにじった。　着物にしみついているのは、彼らの血だ。　４わたしの国民のかたきを討ち、いじめる者の手から救い出す時が、ついに来たのだ。　５わたしは辺りを見回したが、彼らに手を貸す者は一人もいなかった。　わたしはあきれ返り、身のすくむ思いをした。だから、だれの手も借りず、ただ一人で復讐したのだ。　６わたしが怒って外国人を踏みつけたので、彼らはよろめき、倒れた。」
７私は神様の恵みを人々に知らせます。　神様のなさったすべてのことのゆえに、神様をたたえます。　私はまた、イスラエルに示された神様の深い思いやりを喜びます。　神様は愛にかられて、思いやりを示してくださったのです。　８「彼らはわたしのものだ。　彼らはもう二度と道を踏みはずさない」と、神様は断言なさいました。　こうして神様は、彼らの救い主となったのです。　９彼らが苦しむ時、神様はいつもいっしょに苦しみ、彼らを救い出しました。　神様は、ご自分の愛のために彼らを買い戻し、彼らを高く掲げ、これまでずっと彼らを導きました。
１０ところが、彼らは神様に反抗し、神の聖霊を悲しませたのです。　それで神様は、彼らの敵となり、彼らと戦ったのです。　１１そのとき彼らは、神のしもべモーセがイスラエルをエジプトから連れ出した時のことを思い出し、こう叫びました。　「モーセを羊飼いに立てて、イスラエル国民を導き、海を通らせたお方は、どこにおられますか。ご自分の国民の中に聖霊を送られた神様は、どこにおられますか。１２モーセが手をあげた時、人々の見ている前で海を二つに分け、ご自分の評判を永遠のものとなさったお方は、どこにおられますか。　１３人人に海の底を通らせたのは、どなたですか。　彼らは砂漠を駆け巡る優秀な馬のように、少しもつまずきませんでした。　１４谷間で草を食べる家畜のように、神の御霊は彼らに休息を与えました。　こうして神様は、自らご自分の名声を不動のものとされたのです。」
１５ああ神様、どうか天から見下ろし、栄光に輝くきよいお住まいから、私たちに目を留めてください。　以前いつも示してくださった愛は、どこへ行ったのですか。　神様の力、思いやり、同情は、いったいどこにあるのですか。　１６神様が今でも私たちの父であることに、変わりはありません。　たとい、アブラハムとヤコブが私たちを勘当しても、神様は私たちの父であり、大昔からの救い主です。　１７神様、なぜ私たちを頑固にし、罪を犯して神様に背くようになさったのですか。　どうか、戻って来て、私たちをお助けください。　私たちは神様のもの、どうしても神様が必要です。　１８エルサレムが私たち

のものであった期間は、なんと短かったことでしょう。　敵はこの都を破壊しました。　１９ああ神様、どうして私たちを、神様の名で呼ばれたことのない外国人のように、お取り扱いになるのですか。
六四
１ああ、神様が天を引き裂いて地上に降りて来られますように！山々は御前で、どんなに揺れ動くことでしょう。　２すべてのものを焼き尽くすご栄光の火は、森林を灰にし、海を干上がらせるでしょう。　国々は御前で震えるでしょう。　その時になって、敵どもは、神様の名声が響き渡っている理由を肌で感じます。　３私たちが夢にも考えていなかった恐ろしいことをなさるので、神様が来られるとき山々は胴震いするでしょう。　４世界が始まって以来、私たちの神様のように、待ち望む者にすばらしいことをしてくださる方は、ほかにありません。　５神様は、喜んで正しいことを行なう者、神様につき従う者を、大手を広げて迎えてくださいます。
ところが、私たちは神様を敬わず、一生罪を犯し続けています。　そのため、神様の怒りが重くのしかかっているのです。　このような者が、どうして救われるでしょう。　６私たちはみな罪の毒に冒され、汚れきっています。　これこそ正義だという最上の着物をまとっても、悪臭を放つぼろきれにすぎません。　私たちは秋の木の葉のように色あせ、しおれて落ちます。　あえなく罪の風に吹き飛ばされるばかりです。　７それでもなお、だれひとり神様の名を呼び、あわれみにすがろうとしません。　そこで神様も、私たちにそっぽを向き、罪に引き渡したのです。
８しかし神様、それでもなお、神様は私たちの父です。　私たちは粘土で、神様は陶器師です。　私たちはみな御手によって造られました。　９神様、どうか、そんなに怒らないでください。　私たちの罪を早く忘れてください。　どうか、私たちをご覧になり、神様の国民であることを心に留めてください。
１０神様のきよい町々は破壊されたままです。　エルサレムは住む者もいない荒れ地になっています。　１１先祖が神様を礼拝した、あの聖なる美しい神殿は焼け落ちました。　美しい物は何もかもこわされました。　１２神様、これでもなお、私たちを助けるのをしぶるのですか。　黙って眺めるだけで、なおも私たちを罰するのですか。
六五
１神様はこう告げます。　わたしのことを聞きもしなかった国民が、今ではわたしを捜し出す。　以前はわたしを捜しもしなかった国民が、わたしを見いだす。
２ところが、イスラエルはどうだ。　わたしが一日じゅう手を広げて招いているのに、まだ逆らっている。　自分の思いどおりに悪の道を歩き続けている。　３至る所の庭園で偶像を拝み、家の屋上で香をたき、いつもわたしの顔にどろを塗っている。　４夜は夜で、墓地や洞窟へ出かけて悪霊を拝み、豚や、その他の禁じられているものを食べる。　５それでいて、人にはぬけぬけと、「そばへ来るな。　汚らわしい。　おれはおまえよりきよいんだぞ！」と言う。　彼らを見ると、わたしは息苦しくなる。　昼も夜も、わたしを怒ら

せるからだ。
６さあ、これが、わたしの書いた声明文だ。　「わたしは黙っていない。　きっと報復する。　そうだ、まちがいなく報復する。」　７彼らの罪だけではない。　先祖の罪にも報復する。　先祖たちも、山々の上で香をたき、丘の上でわたしを侮辱したからだ。　今こそ、いやと言うほどお返しする。
８だが、全部を滅ぼすわけではない。　悪いぶどうの房に良いぶどうも混ざっていることだから、イスラエル人全員を滅ぼしはしない。　中には、心のきよい、わたしのしもべもいるのだ。　９その残りの者を取っておき、イスラエルの地を与える。　わたしの選ぶ者がその地を受け継ぎ、そこでわたしに仕えるようになる。　１０わたしを尋ね求めた者のために、シャロンの平野は再び羊の群れで埋まり、アコルの谷は家畜の群れを飼う所となる。
１１だが、それ以外の連中には容赦しない。　彼らはわたしと神殿とを捨て、「運命」と「宿命」の神々を拝んできた。　１２だから、そのとおり剣に渡す「運命」に定めよう。　また、暗い「宿命」を負わせよう。　わたしが呼んだ時に答えず、わたしが語った時に聞こうとしなかったからだ。　それればかりか、わたしの目の前でわざと罪を犯し、よりによってわたしの大きらいなことをしてきた。　１３それで、神様は宣言なさいます。　おまえたちは飢えるが、わたしのしもべたちはたらふく食べる。　おまえたちはのどが渇くが、彼らはぞんぶんに飲む。　おまえたちは悲しみに沈み、恥をかくが、彼らはこおどりして喜ぶ。　１４おまえたちは、悲しみと苦しみと絶望の中で泣き叫ぶが、彼らはうれしさのあまり歌いだす。　１５おまえたちの名は、わたしの国民の間で、のろいの代名詞となる。それは、神様があなたがたを殺し、本物の神のしもべを特別の名でお呼びになるからです。
１６だが、祝福を祈り求めたり誓ったりする者がみな、まことの神の名を使うようになる日がくる。　わたしが怒りを静め、おまえたちのした悪事を忘れるからだ。　１７わたしは新しい天と地とを造る。　それは目を見張るほどすばらしいので、もうだれも、古い天と地とを思い出さなくなる。　１８わたしの造るものをいつまでも喜べ。　わたしはエルサレムを、幸福の都として建て直す。　そこに住む者はいつも喜びにあふれる。　１９エルサレムとわたしの国民とは、わたしの喜びだ。　そこにはもう、泣き声や叫び声は聞かれない。
２０生まれてすぐ死ぬ赤ん坊はいなくなる。　百歳まで長生きしても、まだ老人とは呼ばれない。　その若さで死ぬのは罪人だけだ。　２１２２その時には、家を建てればいつまでも住みつける。　昔のように、外国の軍隊が侵入し、家をこわされることはない。　わたしの国民はぶどう園をつくり、取れた実を自分で食べる。敵が横取りすることはない。だれもが木の寿命ほども長生きし、丹精して作った穀物を、長いあいだ楽しみながら食べる。　２３せっかく刈り入れた物が敵の食糧になったり、生まれた子供が戦場で死んだりすることはない。　彼らは神様に祝福され、その子らも祝福されるからだ。　２４彼らが呼ばない先から、わたしは答える。　彼らが困って相談を持ちかける時、わたしは先回り

して、彼らの祈りに答える。　２５狼と子羊はいっしょに草を食べ、ライオンは牛のようにわらを食べ、蛇はちりを食べて、人にはかみつかない。　その時、神の聖なる山では、傷つくものは一人もなく、こわれるものは一つもない。　そう神様は断言なさいます。
六六
１天はわたしの王座、地はわたしの足台だ。　おまえたちにこれ以上の神殿を建てることができるか。　２わたしはこの手で天と地を造った。　全部がわたしのものだ。　わたしはこのような偉大な者だが、謙そんになって深く罪を悔い、わたしのことばに恐れおののく者に目をかける。
３だが、自分勝手な道を選び、罪にふける者はのろわれる。　そんな連中のささげ物を、わたしは絶対に受け入れない。　たとい牛を祭壇にささげても、生身の人間をささげた時のように、見向きもしない。　子羊や穀物をささげても、犬や豚の血を供えた時のように、顔をしかめる。　わたしに香をたいているつもりでも、偶像を拝んでいるのだとみなす。
４わたしは彼らに、彼らが恐れているものを送る。　わたしが呼んだのに、答えようともせず、話しかけたのに、強情を張って聞こうともしなかったからだ。　それどころか、わたしの見ている前で悪いことをし、わたしが大きらいなことを、そうと知りながら、わざと行なった。
５神を恐れる者は、神のことばを聞いておののけ。　おまえたちの同胞は、わたしに忠実だというだけで、おまえたちを憎み、村八分にする。　「神様に栄光があるように。　主を信じて、せいぜいお幸せに」と、彼らはあざける。　だが、そう言う彼らが赤恥をかくようになる。
６町が騒ぎ立っています。　いったいどうしたというのでしょう。　神殿から聞こえてくる、あのすさまじい物音は何でしょう。　あれは、神様が敵に報復している音です。
７８こんなに不思議なことを見聞きした者が、いるでしょうか。　まだ陣痛が起こりもしないのに、たった一日で、突然、イスラエルの国が産み落とされたというのです。　産みの苦しみが始まるとすぐ、一瞬のうちに、赤ん坊が生まれ、国家が出現するのです。　９「わたしは産み出す寸前になってこれを産まず、放っておくだろうか」と、あなたがたの神様である主は問いかけます。　そんなことは、天地がひっくり返っても、あろうはずがありません。
１０エルサレムを愛し、そのために嘆いてきた者よ、エルサレムといっしょに喜び、楽しめ。　１１エルサレムをこの上もない喜びとせよ。　赤ん坊が母親の豊かな乳房を吸うように、エルサレムの栄光を堪能するまで飲め。　１２神様は告げます。　繁栄が川のようにエルサレムにみなぎりあふれる。　わたしが必ずそのようにする。　外国の富はこの都に流れ込む。　子供たちはエルサレムの乳房を吸い、わきに抱かれ、ひざの上であやされる。　１３わたしはその都で、幼児が母親に慰められるように、おまえたちを慰める。　１４おまえたちはエルサレムを見て心を躍らせる。　おまえたちは、はち切れんばかりの健康体になる。　世界中の人が、神の国民に加えられたわたしの恵み深い手と、敵に向けら

れたわたしの憤りとを見る。
１５神様は怒りをぶちまけ、激しく責めたてるために、火に包まれ、すべてのものを破壊する速い戦車に乗って来ます。　１６火と剣で、この世の人々を罰するのです。　神様に殺される人は、なんと多いことでしょう。　１７神様は告げます。　庭の木のうしろに隠してある偶像をこっそり拝み、そこで豚の肉やねずみ、その他の禁じられている物をおいしそうに食べる者はみな、悲惨な最期を迎える。　１８わたしには、彼らが何をしようとしているか、一から十までわかる。　何を考えているかも知っている。　そこで、すべての国の人々をエルサレムの前に集め、わたしの栄光を見せる。　１９彼らの目の前で度肝を抜くような奇蹟をして見せ､逃れた者を宣教師として各地に送り出すのだ。 行く先は、タルシシュ（スペイン半島の南端）、プル、ルデ〔どちらもアフリカの北部〕、メシェク、ロシュ、トバル〔これらはトルコからアルメニヤに及ぶ地域〕、ヤワン（ギリシヤのこと）、それに、わたしの評判を耳にしたこともなく、わたしの栄光を見たこともない、海の向こうの国々だ。　こうして、わたしの栄光を外国人に告げ知らせる。　２０彼らは、すべての国々から、おまえたちの同胞を神への贈り物として、馬、車、担架、らば、らくだに乗せ、わたしの聖なる山エルサレムへたいせつに運んで来る。　ちょうど、刈り入れの時期に、神のものとして特別にきよめた入れ物に供え物を載せ、続々と神殿へ運び込むのと同じだ。　２１こうして帰って来た者の中から、祭司とレビ人を選び出す。　こう神様は断言なさいます。
２２わたしの造る新しい天と地がいつまでも残るように。　おまえたちはいつまでもわたしの国民となり、おまえたちに与えられる名は永久にすたれない。　２３すべての者が、週ごとに、また月ごとに、わたしを礼拝するために来る。　２４彼らは出て行って、わたしに背いた者たちの死体を見る。 そのうじはいつまでも死なず､その火も消えないので、すべての人が目をそむける。
▪

エレミヤの預言
エレミヤは、ユダ滅亡前の四十年間に活躍しました。　彼は、「新しい出発のために、神様のさばきを受けよ」と力説したのです。　エレミヤは、バビロン軍の侵入、敵による自国民の国外追放、エルサレム住民の殺害、神殿の破壊など、つらい経験を重ねました。　彼はこれらの出来事について人々に警告し、罪から離れて神様に立ち返るよう、涙を流して勧めましたが、むだでした。　ただ、あざけられ、迫害されるばかりでした。

一
１ここに書いてあるのは、ユダのベニヤミンの地のアナトテという町に住んでいた祭司、ヒルキヤの子エレミヤへの神様のお告げです。２アモンの子でユダ王朝のヨシヤ王の治世第十三年に、最初のお告げがありました。　３そののち、ヨシヤの子でユダ王朝のエホヤキム王の時代など、ヨシヤの子でユダ王朝のゼデキヤ王の治世第十一年の七月にエルサレムが陥落して、住民が奴隷として連れ去られるまで、数回にわたってお告げがありました。
４神様は私に、こうお語りになりました。　５「おまえが母の胎内に宿る前から、おまえを知っていた。　おまえが生まれる前から、おまえをわたしのものとして取っておき、国々へのわたしの代弁者に任命していた。」
６「神様、とんでもないことです。　そんなことができるはずはありません。　何と言っても若すぎます。　まだほんの青二才ですから。」
７「そんな言い方をするものではない。　おまえは、わたしの送り出す所はどこへでも行き、命じることはどんなことでも語るようになるのだ。　８人を恐れてはいけない。　主であるこのわたしがついていて、どんな時にも面倒を見てやる。」
９こう言ってから、神様は私の口にさわりました。　「さあ、わたしのことばをおまえの口に入れた。　１０きょうから、世界の国々に警告するおまえの仕事が始まる。　おまえの口から語られるわたしのことばどおりに、わたしはある国を引き倒し、あるいは滅ぼし、ある国は起こし、育て、大国にする。」
１１それから、こうお尋ねになりました。　「エレミヤよ、何が見えるかね。」
「アーモンドの枝でできたむちが見えます。」
１２「よくわかったな。　そのむちは、わたしが必ず恐ろしい罰を下すというしるしだ。
１３さあ、今度は何が見えるかね。」
「煮立っているなべが、南の方に傾き、ユダの上に煮え湯がこぼれているのが見えます。」
１４「そのとおり。　北からの恐怖が、この地の全住民に降りかかる。１５わたしは北方の国々の軍隊に、エルサレムを攻めさせる。　彼らは都の門と城壁沿いに、またユダのほかの町々に、それぞれの王座をつくる。　１６このようにして、わたしの国民に罰を加える。　彼らがわたしを捨て、自分の手で作った神々を拝んだからだ。　１７さあ、立って身じたくを整え、出かけなさい。　わたしが伝えるとおりを彼らに語るのだ。　彼らをこわがるな。　さもないと、おまえを彼らの目の前で物笑いの種にするぞ。　１８わたしは

きょう、おまえを彼らには歯の立たないものとした。　彼らはどのようにしても、おまえに危害を加えることはできない。　おまえは、難攻不落の要塞化した町のようにがんじょうそのもので、鉄の柱、青銅製の重い門のように強いのだ。ユダの王たち、将校たち、祭司たちをはじめ、この国民は、おまえと戦っても、とうてい勝ち目がない。　１９攻撃をしかけても、途中であきらめる。　わたしがおまえについていて、きっと救い出すからだ。」
二
１神様は再び、私にお語りになりました。
２さあ、出かけて行って、エルサレムの町の通りで、次のように大声で語れ。　わたしは、ずっと昔、おまえがまだ若い花嫁だったころ、わたしを喜ばせようとしてどんなに尽くしてくれたか、また、わたしを愛し、一本の草木も生えていない砂漠でさえも、わたしについて来てくれたことを覚えている。　３そのころ、イスラエルはきよい民、わたしの初子だった。　これに害を加える者はだれでも犯罪人とみなされ、これに触れる者には大きな災いが降りかかったものだ。
４５ああ、イスラエルよ。　おまえの先祖は、どうしてわたしを置き去りにしたのか。　わたしのどこが、いけなかったのか。　わたしに背き、偶像を拝むなど、全くばかげている。
６彼らは、自分たちをエジプトから無事に連れ出し、だれも住まず、足も踏み入れない砂漠と岩の地、乾ききった死の地である荒野を導きとおしたのが、主であるこのわたしであったことに、目をつぶっている。　７わたしは彼らを、実り豊かな地に連れて入り、そこの祝福をぞんぶんに味わわせた。　ところが、彼らはそこを罪と腐敗の地に変え、わたしの相続地を汚した。　８祭司でさえ、神のことなどそっちのけにし、裁判官もわたしを無視した。　指導者連中はわたしに盾をつき、預言者はバアルを拝み、くだらないことで時間をつぶした。
９だが、まだおまえたちをあきらめたわけではない。　わたしに立ち返るようにと、根気よく、何度でも説得する。　のちのちの子孫の時代になっても、同じようにする。
１０１１あたりを見回して、たとい少しも価値がないものであったにせよ、昔からいた神々を、新しい神々と取り替えた国があったか、調べてみよ。　西にあるキプロスに使いを出し、東にあるケダルの砂漠に人をやり、こんなおかしなことを今までに聞いたことがあるかどうか、調べさせてみよ。　ところがわたしの国民は、栄光に輝く神を捨て、代わりに役立たずの偶像を取り入れた。　１２天はこれを知ってショックを受け、恐怖に身をすくめる。　１３わたしの国民は二つの悪事を重ねたのだ。　まず、いのちの水の泉であるわたしに見切りをつけ、次に、水をためることもできない、こわれた水ためを作った。
１４イスラエルは、どうして奴隷の国になり下がったのか。　どうして捕虜となり、遠い国へ連れて行かれたのか。
１５わたしには、エルサレムに向かって進んで来る大軍が見える。　彼らは天にも届くような大声をあげてエルサレムを破壊し、焼き払い、人の住まない荒れ地とする。　１６わたしには、エルサレムへ攻め上ろうとしているエジプトの軍隊も見える。　メンピスとタ

フパヌヘスの町々から行軍して来て、イスラエルの栄光と力を踏みにじろうとしている。
１７こうなったのは、神であるわたしがおまえを導き、行くべき道を示そうとしたのに、おまえが反抗したからだ。
１８エジプトやアッシリヤと手を組んで、どんな得をした？　１９身から出たさびが、おまえに罰を加える。　神である主に刃向かい、いとも簡単に神を捨てることがどんなに悪いことであり、恐ろしいことであるかを、身をもって知るようになる。　こう天の軍勢の主は宣告なさいます。　２０おまえはとうの昔に、わたしのくびきを払いのけ、わたしのきずなを断ち切った。　頑として、わたしの言うことを聞こうとしない。　すべての丘の上、またすべての木の下で、偶像に深々と頭を下げたのだ。
２１こんなことが、ありうるだろうか。　どうして、こんなことになったのか。　おまえを植えた時、あんなに注意して、最上の苗木を選んだというのに。　どうして、これほど堕落した悪い人種になったのか。　２２どれほどの石けんと灰汁を使っても、おまえはきれいにならない。　どんなことをしても洗い流せない罪の汚れが、こびりついている。　それがいつも、わたしの目の前にちらついている。　こう神様は言います。　２３それでもなお、そんなはずはない、偶像を拝んだ覚えなどない、と言いはるのか。　そんなことを言えた義理だろうか。試しに、この国のどの谷へでも行ってみよ。　あくせくと雄を捜し求める雌のらくだよ、おまえの犯した恐ろしい罪を、まともに見つめよ。２４おまえは、さかりのついた時期にくんくんと鼻を鳴らす、野ろばそのものではないか。　だれが、おまえの欲情を抑えることができようか。　雄のほうでは、別におまえを捜す必要はない。なにしろ、おまえのほうで飛んで来るのだから。　２５どうしてそのように労苦もいとわず、ほかの神々の尻を追い回すのか。　おまえは言う。　「おせっかいはやかないでください。　私はこの他国の人に恋をしてしまったのです。　今は好きで好きでたまりません。」
２６２７イスラエルは、どろぼうのように、捕まることだけを恥と考えている。　王、指導者、祭司、それに預言者も、この点ではみな同じだ。彼らは木彫りの像を父と呼び、石細工の偶像を母と呼ぶ。　ところが、いざ困ったことが起こると、助けてくださいと、わたしに泣きつく。２８どうして、手作りの神々に願をかけないのか。　危険が近づいたら、彼らに助けてもらえばいい。　ユダの町の数ほども神々をかかえているのだから。　２９おまえたちはみな反逆者だ。　なぜわたしと言い争うのか。　３０おまえたちの子らを懲らしめてみたが、むだだった。彼らは、いっこうにわたしに従おうとしない。　おまえたち自身も、ライオンが獲物を殺すように、わたしの預言者たちを殺した。
３１ああ、わたしの国民よ、神のことばに耳を傾けよ。　わたしはイスラエルに、何か不正をしただろうか。　彼らにとって、暗やみにおおわれた地のようであっただろうか。　なのにどうして、わたしの国民は「これでやっと、神様から自由になれた。　神様とは、もう二度とかかわりになりたくない」と言うのか。　３２どうして、こんなにも簡単に神を捨てることができるのか。　おとめは、自分のたいせつな宝石を忘れはしない。　どんな花嫁も、結婚衣装を隠すようなばかなまねはしない。　ところがどうだ。　わたしの国民

は、最も貴重な宝であるわたしを、長いあいだ忘れたままでいる。
３３おまえたちは恋人を手に入れるためには､なんと念入りで巧みな計画を立てることか。そのやり方は、腕ききの売春婦でさえ、学ぶところが多いというものだ。　３４着ている物には、罪のない貧しい人の血がついている。　おまえたちは理由もなしに、ずうずうしくも人殺しをやってのける。　３５しかも､そのあとは口をぬぐい､「神様を怒らせるようなことなど､一つもしていないさ。　だから､神様が腹を立てるわけがない」ととぼける。「罪を犯していない」と、あくまでも白を切る以上、わたしはおまえたちをきびしく罰する。
３６おまえたちは、ここかしこと飛び回り、次々と同盟国を乗り換え、助けを求めて歩き回る。　だが､そんなことをしてもむだだ。　おまえたちの新しい友人であるエジプトは､かつてのアッシリヤのように、おまえたちを見捨てる。　３７わたしがおまえたちの頼りにしている者を退けるので、おまえたちは両手で顔をおおい、失望のあまりしゃがみ込んでしまう。　たとい彼らの助けがあったにしても、うまくいくはずはない。
三
１ある人が妻を離縁し、彼女が再婚した場合、再び彼女を妻にすることはできない、という法律がある。　彼女は汚れた者となっているからだ。　だが、おまえたちは、わたしを置き去りにして幾人もの恋人と結婚しておきながら、あつかましくも、またわたしのもとへ帰ると言っている。　２ほかの神々を拝むという姦淫の罪で汚れていない所は、国中どこにもない。　おまえたちは売春婦のように道ばたに座り込み、相手が来るのを待っている。　砂漠のベドウィン人のように、たった一人で座っている。　おまえたちは、赦しがたい淫行の罪で地を汚してしまった。　３今は春の雨も降らなくなった。　それというのも、おまえたちが恥知らずの売春婦だからだ。　４５それでもなお､おまえたちは臆面もなく言う。　「神様。　あなたは、これまでずっと私の夫でした。　だから、こんな小さなことでお怒りになるはずはありません。　私の罪など、きれいさっぱり忘れてくださるはずです｡」　こう言って、相も変わらず、ありとあらゆる悪事を積み重ねている。
６ヨシヤ王の時代に、私に次のような神様のお告げがありました。
おまえは、イスラエルのしていることを見たか。　ほかの男に体を許すみだらな妻のように、イスラエルはすべての丘の、すべての木の下で、ほかの神々を拝んできた。　７いつかはわたしのもとへ帰り、わたしのものになってくれると思っていたのに、とうとう帰って来なかった。　しかも、不真実な妹のユダも、イスラエルがのべつ神に逆らっているのを見た。　８ユダのほうは、わたしが背信のイスラエルを離縁したのを見ていながら、少しも気にかけなかった。　それどころか、自分でもわたしを置き去りにして、淫行に身を委ねてしまった。彼女もまた、ほかの神々を拝んだのだ。　９しかも、彼女にとって、木や石で作った偶像を拝むことは､三度の食事をとるように簡単なことだった。 そのため、国中がひどく汚れた。　１０あとになって、この背信の女は、涼しい顔をしてわたしのところへ帰って来た。　彼女の悲しみはただの演技だったのだ。　１１事実、背信のイスラ

エルのほうが裏切り者のユダより、いくらかはましだ。
１２だから、出かけて行って、イスラエルにこう言え。　ああ、罪深いわたしの国民イスラエルよ、もう一度、わたしのもとへ帰って来るがよい。　わたしはあわれみ深い。　いつまでも怒っているわけではない。　１３ただ､罪を認めよ。　神であるわたしに逆らい、すべての木の下で偶像を拝み、わたしに姦淫の罪を犯したことを認めよ。　わたしに従おうとしなかったことを告白せよ。　１４ああ、罪深い子らよ、帰って来い。　おまえたちの主人であるわたしは、ここから一人、あそこから二人とおまえたちを集め、再びイスラエルの地に連れ戻す。１５また、わたしの心にかなった指導者を与える。　彼は知恵と知識をもって、おまえたちを導く。
１６こうして、イスラエルが再び人でいっぱいになる時、おまえたちは、神の契約の箱があったころの「古き良き時代」がなつかしい、などと言わなくなる。　当時のことは思い出されず､契約の箱を作り直すこともない。　１７わたしがおまえたちのうちにいるので、エルサレム全市は神の御座となり、世界中の人がそこへ来てわたしに会い、二度と、以前のような悪くて頑固な思いのままに生活しなくなるからだ。１８その時、ユダとイスラエルの国民は肩を組み、捕虜として連れて行かれた北の国から、わたしが彼らの先祖に永遠の相続として与えた地へ戻って来る。　１９わたしは、おまえたちがわたしの子らといっしょにこの地にいるのは、どんなにすばらしいことかと考えていた。　おまえたちに、世界でいちばん美しいこの国の一部を与えようと思っていた。　また、おまえたちがわたしを「父」と呼ぶ日を待ちわび、おまえたちが二度とわたしを離れないものと考えていた。
２０ところが、なんと、おまえたちはわたしを裏切ったのだ。　おまえたちはさまよい出て、多くの外国の神々に身を委ね、夫のもとを去る不貞の妻になった。
２１吹きさらしの高い山の上から、泣き叫ぶ声が聞こえる。　神に背き、遠くへさまよい出たイスラエルの子らの泣き声だ。　２２わたしの背信の子らよ、もう一度わたしのところへ戻って来い。　そうすれば、おまえたちの罪の病気を治してやろう。
この神様の呼びかけに、彼らはこう答えます。　帰ります、神様。神様は私たちの主だからです。　２３丘の上で偶像を拝んだり、山の上でお祭り騒ぎをするのは、もううんざりです。　私たちは悪い夢を見ていました。　神様だけに、イスラエルの助けと救いがあるのです。２４私たちは子供のころから、先祖のものであった羊や牛の群れ、それに息子、娘が、偶像や祭司の食い物になるのを見てきました。　２５私たちは恥と不名誉の中に伏しています。　私たちも先祖も、子供のころから神様に罪を犯し、お従いしなかったからです。
四
1イスラエルよ、本気でわたしのもとへ帰りたければ、偶像を未練もなく捨てよ。　２もしおまえが、生ける神であるわたしによってだけ誓い、誠実できよく正しい生活を始めるなら､おまえは世界の国々へのあかしとなる。　こうして､諸国民はわたしのもとへ来て、わたしの名をあがめるようになる。

３神様はユダとエルサレムの人たちに、こう告げます。　固くなったおまえたちの心を耕せ。　そうでないと、良い種がいばらにふさがれて、だめになる。　４体だけでなく、心と思いもきよめよ。　そうでないと、おまえたちの罪のためにわたしの憤りが爆発し、おまえたちを黒こげにしてしまう。　だれ一人、その火を消すことはできない。
５エルサレムとユダに向かって叫べ。　国中に響くように警報を鳴らせと言え。　「いのちが危ないから、走って逃げるのだ。　要塞で固めた町へ逃げ込め。」　６エルサレムから合図を送れ。　「すぐ、逃げ出せ。　ぐずぐずするな。」　神であるわたしが、北から、途方もなく大きな破滅をもたらそうとしているからだ。　７ライオンのように国々を滅ぼす者が住みかから出て来て、おまえたちの国へ向かっている。　町々は住む者もなく、廃墟となる。　８喪服を着て、胸も張り裂けんばかりに泣きなさい。　神様の激しい怒りが、まだ私たちから去らないからです。　９「その日には、王や指導者は恐ろしさで震え、祭司と預言者は恐怖に顔をこわばらせる」と、神様は言います。
１０そこで、私は申し上げました。　「ですが神様。　国民は、あなたのおことばにだまされました。　確か、エルサレムに大きな祝福がくるとのお約束だったのに、今になっても剣が住民に突きつけられています。」
１１１２その時、神様は砂漠から、すさまじい勢いで吹きまくる熱風を送ります。　こうして、滅亡の時がきたことを宣告なさるのです。　１３敵は嵐のように襲いかかります。その戦車は龍巻のようで、その馬はわしよりも速く走ります。　ついに滅亡の時がきたのです。　ああ、なんという大きな災いでしょう。
１４エルサレムよ、手遅れにならないうちに心をきよめなさい。　今ならまだ、悪い思いを捨てれば、救われます。　１５ダンから、エフライムの山から、あなたの滅びが言い渡されました。　１６ほかの国々に知らせてやりなさい。　遠い国から敵が来て、喊声をあげながらエルサレムとユダの町々に向かって来ます。　１７彼らは、野獣に立ち向かう羊飼いたちのように、エルサレムを包囲します。　「それは、わたしの国民がわたしに背いたからだ」と、神様は言います。　１８あなたの行ないが、この災いを招いたのです。　それはあなたにとって苦い薬で、腹の底までしみ渡ります。
１９私は苦痛のため身もだえします。　心臓は激しく波打っています。とても黙ってはいられません。　敵のラッパの音と雄たけびを聞いてしまったからです。　２０破壊に次ぐ破壊の波が押し寄せ、ついに、国土はすっかり荒れ果ててしまいます。　突然、一瞬のうちに、家は一軒残らず押しつぶされます。　２１いつまで、このような状態が続くのでしょう。　いつまで、私の回りに戦いと死を見なければならないのでしょう。
２２「わたしの国民が愚かなことをやめるまでだ。　彼らは、わたしの言うことを聞こうとしない。　頭のにぶい知恵遅れの子で、判断力がない。　悪いことをするとなると素早いが、正しいことをする才能など、まるで持ち合わせていない。」
２３彼らの地を見下ろすと、見渡す限りの廃墟で、空は真っ黒です。２４山々は身震いし、揺れ動いていました。　２５なおもよく見ると、人っ子ひとりおらず、鳥は飛び去ってい

ました。
２６よく肥えた谷間は荒野となり、町という町はことごとく、神様によって破壊され、神様の激しい憤りによって押しつぶされていました。２７滅ぼせという神様の命令が、全地に行き渡っているのです。
しかし、神様は宣言なさいます。　「それでも、わたしの国民はほんの少しだけ残る。　２８地は嘆き悲しみ、天は真っ暗になる。　わたしが、滅ぼせとの勅令を出したからだ。　わたしがいったん決心したことは、絶対に変更しない。」
２９町中の者は近づいて来る軍隊の行進の音におびえ、逃げ出します。草むらに隠れ、山へ逃げます。　住民は恐ろしさのあまり、われ先にと逃げるので、町には猫の子一匹いなくなります。　３０どうして晴れ着をまとい、宝石をつけ、めかしこむのですか。　そんなことをしても、何の役にも立ちません。　同盟軍はあなたがたをばかにし、殺してしまいます。
３１わたしは、初産の女の陣痛のような、大きなうめき声を聞いた。それは、殺そうとする者の前にひれ伏し、あえぎながら助けを請う、わたしの国民の叫びだ。
五
１エルサレム中の通りを駆け巡れ。　高い所も低い所も捜して、正直で公平を愛している者が一人でもいるかどうか、調べてみよ。　あらゆる広場を捜して、そのような者がただの一人でもいたら、わたしはこの都を滅ぼさない。　２彼らは、誓いを立てる時でも嘘をつく。３神様。　あなたは真実以外のものを受けつけません。　神様は罰を加えて、彼らが正直になることを期待したのに、少しも変わりませんでした。　彼らを打ったのに、罪から離れようともしませんでした。彼らは、顔を岩のように堅くし、どんなことがあっても悔い改めまいと決心しています。
４私は思いました。　「無知で哀れな者に、いったい何を期待できよう。　神の道を知らないのだから、神様に従うことなどできない相談だ」と。
５今度は、身分の高い人のところへ行って話してみよう。　指導者なら、神の道に通じ、罪を犯せばさばきが来ることを知っているだろうから。　ところが彼らも、神様に真っ向から反対していたのです。
６だからこそ、わたしは怒って、彼らに「森のライオン」を送る。「砂漠の狼」は彼らに襲いかかり、「ひょう」が町々の回りをうろつくので、町から一歩でも外に出たら引き裂かれる。　彼らの罪は数えられないほど多く、わたしへの背信は、はなはだしいからだ。
７これでは、どうして赦すことができようか。　おまえたちの子供でさえ、わたしに背き、神とは似ても似つかぬものを拝んでいる。 彼らが満腹になるまで食べさせてやったのに、そのお返しと言えば、これ見よがしに姦淫の罪を犯し、町の売春宿に押しかけることだった。８彼らは丸々と太った、さかりのついた馬で、隣の妻を慕っていななく。　９このようなことを、わたしが罰しないでおくだろうか。　このような国に、報復せずにおくだろうか。　１０ぶどう園へ行き、手あたり次第にぶどうの木を引っこ抜け。　だが、ごくわ

ずかの木は残しておけ。　枝を切り落とせ。　神のものでないからだ。
１１イスラエルとユダの国民は、わたしを踏みつけたと、神様は言います。　１２彼らは平気で嘘をつきました。　「神様がわれわれに手を出すはずはない。　災いが降りかかるはずはない。　ききんも戦争も、あるものか。　１３預言者なんぞは、ことばはいっぱい詰まっているが権威も何もない風の袋だ。　連中の言う滅びのご託宣は、われわれにではなく、自分自身に下るのさ。」
１４彼らがこのように言ったので、天の軍勢の主は、ご自分の預言者たちに、こう告げます。　わたしは、おまえたちのことばを燃える火とし、彼らを火のついたたきぎのように焼き尽くす。　１５ああ、イスラエルよ。　わたしは遠い国の民を連れて来て、おまえを攻めさせる。それは大昔からある強大な国〔古バビロニヤ帝国〕で、おまえには彼らの話すことばが通じない。　１６彼らの武器には恐ろしい威力があり、一人一人は大勇士だ。
１７彼らは、おまえの刈り入れた穀物と子らのパンを略奪し、おまえの羊の群れ、家畜の群れ、ぶどう、それにいちじくを食べ、ここは大丈夫と思っている城壁のある町に侵入し、略奪をほしいままにする。
１８だが、わたしはおまえたちを根絶やしにはしないと、神様は断言なさいます。
１９おまえの同胞が「どうして神様は、こんなことをなさるのか」と尋ねたら、こう答えてやれ。「あなたがたは神様を捨て、自分の国で、ほかの神々に身も心もささげました。だから今度は、その神々の出身地である国々で、外国人の奴隷になる番です。」
２０ユダとイスラエルに告げよ。
２１目があっても見えず、耳があっても聞こえない、愚かで思慮のない者たちよ。　２２よく聞け。　おまえたちには、少しでもわたしを尊敬しようという気持ちがないのか。　わたしの前に出ても身震いしないとは、いったいどうしたことか。　わたしは永遠の命令を出して、世界中の海岸線を決めた。　だから、たとい海の波がとどろき、逆巻いても、最後の一線を越えることはない。　このような神を、恐れもせず、拝みもしないことが許されるだろうか。
２３２４ところが、わたしの国民はわたしに背き、偶像礼拝の道に走った。わたしは、年ごとに春と秋には雨を降らせ、刈り入れの時を与える神なのに、彼らはわたしを敬いもせず、恐れもしない。　２５そこで、このような四季の恵みをいっさい彼らから遠ざけた。何もかも彼らの罪のせいだ。
２６わたしの国民のうちに、人を待ち伏せして血祭りにあげる悪人がいる。　彼らは暗がりに隠れている猟師のようで、罠をしかけておく。２７彼らの家は、鶏がいっぱいいる鳥小屋のように、悪だくみであふれ返る。　ところで、その結果はどうなっただろう。　いま彼らは名をあげ、金持ちになり、　２８ごちそうをたらふく食べ、回りの人にちやほやされている。　彼らの悪事は際限がなく、みなしごを正しく扱わず、貧しい者の権利をないがしろにしている。　２９わたしは腕組みしたままで、手を下さないだろうか。　このような国を罰しないでおくだろうか。

３０実に恐ろしいことが、この国に起こっている。　３１祭司はいんちき預言者の意のままになり、しかも国民は、そうなることを喜んでいる。　おまえたちは必ず滅びる。　その時はどうするつもりだ。
六
１ベニヤミンの部族よ、走って逃げなさい。　エルサレムから逃げ出しなさい。　それしか助かる道はありません。　テコアで警報を鳴らし、ベテ・ハケレムでのろしを上げなさい。　北方の強力な軍隊が、この国を滅ぼそうとして攻めて来たことを、すべての人に知らせなさい。　２あなたがたはおとめのように美しく、きゃしゃであり、しかも滅びる運命にあります。　３悪い羊飼いたちが、あなたがたを取り囲みます。　彼らは都の回りにテントを張り、自分たちの羊の群れのために牧場を没収します。　４彼らが戦いの準備をしている様子を見なさい。　戦いは正午に始まり、午後いっぱい、夕方まで続きます。５彼らは言います。　「さあ、夜襲をしかけて、宮殿をこわそう。」
６実は、天の軍勢の主が、彼らにこう命じたのです。　木を切って、城壁を突きくずす槌を作り、それでエルサレムの城壁をくずすのだ。この都は悪に悪を重ねたので、もはや罰を免れることはできない。７泉のように悪を吹き出し、通りには暴虐の声が響く。　この町の病気と打ち傷は、いつもわたしの前にある。
８エルサレムよ、これが最後の警告だ。　わたしの言うことを聞かないと、この町にだれも住まないようにする。　９災難に次ぐ災難が襲い、イスラエルに残っているわずかな者さえ、再び刈り取られてしまう。　こう天の軍勢の主が告げます。　ぶどうの実を摘む者が、摘み残しはないかと一本一本調べて回るように、わたしの国民の残りの者は、もう一度滅ぼされる運命にある。　１０ところが、だれもわたしの警告に耳を傾けない。　彼らの耳はふさがれていて、聞こうともしない。　わたしのことばは彼らのしゃくにさわり、好ましくないものとなった。
１１彼らへの憤りがわたしのうちにあふれた。　それに耐えるのに疲れ果てた。　わたしは憤りを、エルサレムにぶちまける。　路上で遊んでいる子供にも、若い人の集まりにも、夫や妻や祖父母にも、ぶちまける。　１２敵が彼らの家に住み、畑や妻を横取りする。　わたしがこの国民を罰するからだ。　１３彼らは、最も身分の低い者から最も高い者まで、詐欺師の大うそつきだ。　預言者や祭司までが、一つ穴のむじなだ。　１４傷などどこにもない、と言ったからとて、傷が治るわけではない。　戦争で上を下への大騒ぎだというのに、平和だと言いはる。　１５わたしの国民は、偶像を拝んで、恥ずかしいと思っただろうか。　とんでもない。　顔を赤らめさえしなかった。　それで、彼らは死人の間に転がり、わたしの憤りの下敷きになって死ぬ。
１６ところが、それでもなお、神様はあなたがたに訴えます。　ずっと昔おまえたちが歩いていた、神を恐れる幸いな道を探し出し、その道を歩け。　そうすれば、たましいに安らぎがくる。　だがおまえたちは、「いや、その道は通りたくない」と答える。　１７わたしは見張りを立て、「ラッパの音に注意せよ。　危険が近づいた合図だ」と警告した。　だ

がおまえたちは、「いや、そんなものに注意する必要なんかない」と言い返した。
１８１９だから、今こそ宣言する。　全地よ聞け、遠い国々もエルサレムのわたしの国民も聞け。　わたしはこの国民に災いをもたらす。　というより、むしろ彼ら自身が災いを招いたのだ。　わたしの言うことを聞こうとしなかった罰だ。　彼らはわたしの戒めをはねつけた。２０今になって、シェバの香り高い香をわたしの前でたいても、何の役にも立たない。　高価な香はしまっておけ。　おまえたちの供え物を受け入れるわけにはいかない。　それらのものは、もはやわたしにとって良い香りとはならない。　２１わたしは彼らの道につまずきの石を置く。　父や子はつまずき、隣人や友人も共に倒れる。　２２北から攻めて来る軍隊を見よ。　それは、おまえたちに襲いかかる強大な国家だ。　２３彼らは血も涙もない残忍な国民で、完全武装し、馬にまたがっている。　この軍隊のざわめきは、海のとどろきに似ている。
２４私たちはこの軍隊のうわさを聞いて、恐怖に取りつかれ、すっかり腰抜けになりました。　産みの苦しみをする女のような恐怖と苦痛が、私たちを捕らえました。　２５畑に出てはいけません。　道を歩いてもいけません。　どこもかしこも敵だらけで、人を見たら殺そうと待ちかまえているからです。　私たちは、曲がり角に来るたびに、びくびくします。
２６ユダの誇りであるエルサレムよ、喪服を身にまとい、灰の中に座り、ひとり子を亡くした時のように激しく泣きなさい。　何もかも滅ぼす軍隊が、あっという間に攻めかかるからです。
２７エレミヤよ、わたしはおまえを金属を試す器具にした。　おまえがわたしの国民を試して、どれだけの価値があるかを調べるためだ。彼らの言うことに耳を傾け、彼らがすることに目を留めよ。　２８彼らは最悪の反逆者で、神に逆らうことばだけが口を突いて出る。　真鍮のようにあつかましく、鉄のように堅くて残忍だ。　２９ふいごで勢いよく吹き、火の温度をうんと上げても、彼らを精錬することはできない。　もともと彼らには、うちに隠されている純粋なものなど少しもない。　だから、どんなに時間をかけて精錬してもむだだ。　彼らにあるものは、かすだけだ。　どんなに火を熱くしても、彼らを悪の道から引き離すことはできない。　３０わたしは彼らに、「不純で使いものにならない銀」というレッテルを張り、捨ててしまった。
七
１神様はエレミヤに、次のようにお語りになりました。　２神殿の入口へ行き、そこで人々にこう言え。　神のお告げを聞け。　ここで礼拝している者はみな、耳を傾けよ。　３天の軍勢の主であるイスラエルの神は、こう言う。　今からでも遅くはない。　悪の道を離れさえすれば、おまえたちを国におらせよう。　４神殿がここにあるのだから、神はエルサレムが破壊されるのを黙って見ているはずはない、と言う者たちのことばにだまされるな。　５次の条件を満たした時にだけ、ここにいることができる。　悪い思いと行ないを捨て、人には公平であり、　６みなしご、やもめ、それに外国人を食い物にしないこと。

人殺しをやめること。　今のように、偶像を拝んで自分を傷つけるような、ばかなまねはしないこと。　７以上の条件にかなった時にだけ、おまえたちの先祖に永遠の相続地として与えたこの地に住める。
８神殿がここにあるから災いに会うはずはない、と考えているのか。自分をあざむいてはならない。　９おまえたちは、平気で盗み、人を殺し、姦淫の罪を犯し、うそをつき、バアルをはじめ新しい神々を拝んでいる。　１０しかもここに来て、わたしの宮に入ってわたしの前に立ち、「われわれは救われています」と言い、再び悪事をくり返すことができると、本気で考えているのか。　１１わたしの宮は強盗の巣か？　ありとあらゆる悪がはびこって、目もあてられない。
１２わたしが初め、わたしの名にふさわしい町としたシロへ行き、そこで、イスラエル人の悪のために、わたしがどんなことをしたかをよく見て来い。　１３１４おまえたちの行なったもろもろの悪事のために、ここでも同じことをする。　わたしは何度も語りかけ、しきりに呼び続けたのに、おまえたちは聞こうともせず、答えようともしなかった。だから、シロでしたように、この神殿をこわす。　おまえたちの心の拠り所である、わたしの名で呼ばれるこの神殿、おまえたちと先祖に与えたこの場所をだ。　１５しかもおまえたちを、おまえたちの兄弟エフライム人（北のイスラエル王国）のように、捕虜として外国に追い払う。
１６エレミヤよ、二度とこの国民のために祈ってはならない。 彼らのために泣くことも、彼らを助けるようにと、わたしに祈ったり、哀願したりすることもならない。　わたしは耳をふさぐからだ。　１７彼らがユダの町々、エルサレムの通りで何をしているか、知らないとでも言うのか。　１８わたしがこんなに腹を立てるのも、もっともなことではないか。　子供はたきぎを集め、父親は火をたき、女は粉をこね、愛の女神「天の女王」をはじめ、偶像の神々に供えるパン菓子を作っている。　１９彼らが傷つけている相手は、はたしてこのわたしだろうか。　実際には自分を傷つけ、自分の恥をさらしているだけではないか。　２０だから、神様である主はこう宣言なさいます。　わたしは激しい怒りを、この所に注ぐ。　人も家畜も木も穀物も、どんなことをしても消えない、わたしの怒りの火によって焼き尽くされる。
２１イスラエルの神様である天の軍勢の主は、こう命じます。　おまえたちの供え物といけにえを捨ててしまえ。　２２わたしがおまえたちの先祖をエジプトから連れ出した時、彼らに求めたものは供え物やいけにえではなかった。　わたしの戒めの中心点は、そんなものではなかった。　２３わたしが知らせたのは、次のことだ。　わたしに従いさえすれば、わたしはおまえたちの神となり、おまえたちはわたしの国民となる。　わたしの命令どおりにしさえすれば、あとは何もかもうまくいく。
２４ところが、彼らはわたしの言いつけを聞こうとせず、頑固で悪い思いのままに、したいほうだいのことをした。　前進するどころか、後退した。　２５おまえたちの先祖がエジプトを出た日から今日に至るまで、わたしは毎日、預言者を彼らのところに送り出した。

２６ところがどうだ。　彼らは耳を傾けるどころか、聞こうとするそぶりさえ見せなかった。　手のつけられない頑固者だ。　おまけに反抗心がおうせいで、先祖より悪質だ。
２７わたしがこれからすることを、一から十まで知らせても、彼らが聞いてくれると思ってはならない。　大声で警告しても、反応を示してくれると甘く考えてはならない。　２８彼らに言ってやれ。　おまえたちは、神である主に従うことを拒み、教えられることを拒む国民だ。ひどい偽りの生活を続けている。
２９エルサレムよ、深く恥じて頭をそり、ひとり山の上で泣け。　わたしは憤って、この国民を退け、捨てたからだ。　３０それは、ユダの国民がわたしの目の前で罪を犯したからだ。　彼らはわたしの神殿に偶像を持ち込み、神殿を汚した。　３１ベン・ヒノムの谷にトフェテという名の祭壇を築き、そこで、幼い息子や娘を神々へのいけにえとして焼き殺している。　これは、わたしが思いもよらず、まして命じた覚えなど全くない恐ろしい行為だ。　３２だから、この谷が「トフェテ」でも「ベン・ヒノムの谷」でもなく、「虐殺の谷」と呼ばれる時がくる。　あまりにも多くの者が殺され、墓を作る場所がなくなり、遺体をこの谷に投げ捨てるようになるからだ。　３３遺体は鳥や獣のえじきになるが、これを追い払う者は一人もいない。　３４わたしはエルサレムとユダの町々から、楽しそうな歌声や笑い声を消し、花婿や花嫁のはずんだ声を絶やす。　この国は廃墟となる。
八
１神様はこうお語りになります。　その時、敵は歴代のユダの王の墓、指導者、祭司、預言者、住民の墓をあばき、　２骨を掘り出して、わたしの国民が愛して拝んだ太陽や月や星の前にさらす。　骨は再び集められて葬られることもなく、肥やしのように地面にばらまかれる。３それでもまだ生き残る者は、わたしが追いやる国で生きのびるより、むしろ死ぬことをひたすら願うようになる。　こう天の軍勢の主は宣告なさいます。
４５もう一度、わたしの言うことを伝えよ。　人は倒れたら、起き上がり、まちがった道を歩いていると気づいたら、もと来た道を引き返す。　ところがこの国民は、わたしの警告があるにもかかわらず、悪い道をどんどん進んで行く。　６わたしは彼らの会話をじっと聞いていたが、いったいどんなことが耳に入ったと思うか。　自分の罪を悔いている者は、一人もいない。　「なんと恐ろしいことをしたのだろう」と言う者は、一人もいない。みな、戦場に突進して行く馬のように、罪の道を全速力で走って行く。　７こうのとりは、生まれ故郷に帰る時を知っている。　山鳩、鶴、つばめも同じことで、毎年、神の定めた季節がくると、帰って行く。　しかし、わたしの国民はそうではない。　彼らは神のおきてを受け入れようとしない。
８どうしておまえたちは、「われわれは神様のおきてを知っている」と言えよう。　なにしろ、教師連中が、そのおきてをひねくり回し、わたしが言ったこともないようなものにしているのだから。　９このりこうな教師どもは、神のことばを変えた罪のために遠い国へ流され、恥をさらす。　その時になっても、相変わらずりこうだと言えるだろうか。　１０わたしは、彼らの妻と畑をほかの者に与える。　彼らはみな、身分の高い者も低い者も、

預言者も祭司も､人のものを自分のふところに入れることだけを目的に生きてきたからだ。
１１彼らは、実際には平安などどこにもないのに、すべてがうまくいくと保証する。こうして、わたしの国民のひどい傷に、効き目のない薬を塗っている。１２偶像を拝むことを恥じるどころか、顔を赤らめることさえ知らない。その報いで彼らは死に、倒れた者の間に転がる。　１３いちじくとぶどうは姿を消し、くだものの木は枯れ、わたしが与えたすべての良いものは、すぐになくなる。
１４その時、人々はこう言うだろう。　「ここでじっと死を待つ法はない。　さあ、城壁のある町へ行って、そこで死のう。　神様は、われわれを滅ぼすことに決め、われわれの罪と引き替えに、毒薬を盛った杯を下さったのだ。　１５平和を期待したが、平和はこなかった。　健康の回復を待ち望んだが、あるのはただ恐怖だけだ。」
１６戦争の音が北の国境から聞こえる。　全地は、恐ろしい軍隊が近づく音に震えおののく。　敵が来て、国中の町や住民を滅ぼし尽くすからだ。　１７わたしはおまえたちに、まじないのきかない毒蛇のような敵の軍隊を送り届ける。　どんな手段を講じても、彼らはおまえたちにかみついて殺す。
１８あまりの悲しみに、どうしたらよいかわかりません。　私の心はすっかり弱り果てました。　１９国中に響き渡る泣き声を聞いてください。
「神様、どこにおられるのですか。　私たちを置き去りにされるのですか」と、彼らは叫びます。
ところが神様は､「どうして彼らは、彫り刻んだ偶像や、外国の悪い習慣をまねて、わたしを怒らせてしまったのか」と答えるのです。
２０「刈り入れは過ぎ、夏も終わった。　それなのに、まだ救われない。」
２１傷ついた同胞のことを思うと、涙があふれます。　あまりの驚きと悲しみのために、口もきけません。　２２ギルアデには薬がないのですか。　医者はいないのですか。　どうして神様は、何か手を打たなかったのでしょう。　どうして助けてくださらなかったのでしょう。
九
１ああ、私の目が涙の泉であったら、殺された同胞のために、昼となく夜となく、永久にすすり泣くものを！　２ああ、どこか遠くへ行って何もかも忘れ、砂漠の掘っ立て小屋に住めたら、どんなに気が楽か！　彼らはみな姦淫の罪を犯し、裏切り者になり下がってしまった。
３「彼らは舌を弓のように曲げ、不真実という矢を射る。　正しいことには縁もゆかりもない者で、悪から悪へと進み、わたしのことなどいっこう心に留めない」と、神様は言います。
４隣人や兄弟に気をつけなさい。　だれもかれも互いにつけこもうとし、まことしやかに嘘を並べ立てるからです。　５彼らは、よく訓練された舌で、互いにだまし合い、罪を犯し続けて、自分をすり減らします。

６「彼らは悪に悪を、偽りに偽りを積み重ね、絶対にわたしのところへ来ようとしない」と、神様は言います。
７そのため、天の軍勢の主は、さらにこうつけ加えます。　「わたしは彼らを悩みの炉に入れてとかす。　彼らを精錬し、金属のように試す。　これ以外にどんなことができよう。８彼らの舌は毒矢のような嘘を射る。　口先ではおじょうずを言うが、心の中では相手を殺そうとたくらむ。　９この事実に目をつぶり、罰しないで放っておけるだろうか。　このような国に復讐しないでおれようか。」
１０私は泣きながら、山や牧場を指さします。　なんということでしょう。　そこには住む者もなく、すっかり荒れ果てているのです。　家畜の鳴き声は絶え、鳥や獣も姿を消しました。
１１「わたしはエルサレムを、瓦礫の山にする。　そこを住みかとするのは山犬だけだ。ユダの町々は、だれひとり住む者もない廃墟になる。」
１２このことを悟る知恵者は、どこにいますか。　このことを説明してくれる神様の使者は、どこにいますか。　どうしてこの国は荒れ地となり、通行人さえいなくなったのですか。
１３「それは、わたしの国民がわたしの戒めを捨て、おきてに従わなかったからだ。　１４それどころか、好き勝手なことばかりして、先祖が伝えたバアルの偶像を拝んだ。　１５そこで、イスラエルの神であるわたしは言う。　彼らに苦い物を食べさせ、毒を飲ませる。　１６彼らを世界中に散らし、見知らぬ遠くの国々に追い払う。　そこへ行っても、剣に追い回され、ついに根絶やしにされる。
１７１８わたしは言う。　大急ぎで泣き女を呼んで来て、さっそく泣かせよ。　涙を滝のように流せ。　１９エルサレムが絶望しきって泣いているのを聞け。　『町はすっかり荒れ果てた。　悲劇が私たちを襲った。こうなったら、国も家も見捨てるよりほかない。』」
２０大声をあげて泣く女たちよ、神様のことばに耳を傾けなさい。　あなたがたの娘と隣人に、泣き方を教えてやりなさい。　２１死があなたがたの家の窓に忍び込み、若い命をもぎ取ったからです。　道ばたで遊ぶ子供の姿はなく、広場にも若者の姿はありません。
２２次のことを話すようにと、神様は言います。　死体は肥やしのように、また刈り入れのあとの束のように、あちこちに散らされたままで、だれも埋めてくれない。
２３神様は命じます。　知恵のある者は、知恵を見せびらかしてはいけない。　力のある者は力を、金持ちは富を誇ってはいけない。　２４誇る者は、わたしをほんとうに知っていること、また、わたしが正義の主であって、その愛は変わらないと知っていることを誇れ。
２５２６わたしが、体に割礼（男子が生まれて八日目にその生殖器の包皮を切り取る儀式）を受けていても、心に割礼を受けていないエジプト人、エドム人、アモン人、モアブ人、アラブ人、それに、おまえたちユダの国民を罰する時が近づいている。　異教の国々の民でも体の割礼は受ける。　わたしを愛するという心の割礼を受けなければ、おまえたちの

割礼は、異教徒の儀式と少しも変わらない。
一〇
１イスラエルよ、神様のことばを聞きなさい。
２３天宮図を作って、星占いで、自分の運命や将来を読もうとする者のまねをしてはいけない。　彼らの予言を聞いておびえてはいけない。そんなものは、うその詰め合わせにすぎない。　彼らの生き方はむなしく、ばかげている。　彼らは木を切り倒して偶像を刻み、４それを金と銀で飾り、金槌と釘で動かないように打ちつける。　５畑のかかしのように立っている神は、ものも言えない。　歩けないから、だれかが運んでやらなければならない。　そんな神は、人に災いを下すことも助けることもできず、わずかの利益を与えることもできないのだから、少しもこわがることはない。
６神様。　あなたのような神はほかにいません。　神様は偉大な方で、御名には力があふれています。　７神様だけが、国々の王と呼ばれるのにふさわしい方です。　神様を恐れない者がいるでしょうか。地上の知恵者の中にも、世界の王国の中にも、神様と並ぶ者は一人もいません。
８どんなに知恵があろうとも、偶像を拝む者はみな、まぬけで、とんまです。　９彼らはタルシシュから銀の延べ板を、ウファズからは金を運んで来て、偶像を作る熟練した細工人に渡します。　それから、でき上がった神々に、仕立ての名人の作った、王の着る紫の衣を着せます。
１０しかし、主はただ一人のまことの神、生ける神、また永遠の王です。　ひとたび主が怒れば、全地は震えます。　このお方の不興を買えば、世界は御前を離れて隠れます。
１１ほかの神々を拝む者に言ってやりなさい。　天と地を造ったのでもない神々は、地上から姿を消す運命にあります。　１２しかし私たちの神様は、ご自分の力と知恵によって世界を造り、すぐれた知性によって星を空間にちりばめ、天を張り広げました。　１３嵐を運ぶ雲から聞こえる雷鳴は、御声の響きです。　神様は地からもやを立ちのぼらせ、いなずまを送り、雨を降らせ、倉から風を呼び出します。
１４神様を知らず、偶像に頭を下げる者は、義理にも利口とは言えません。　むしろ恥ずかしいことをしています。　いのちも力もない、いんちきな神々を作っているからです。
１５そんなものはみな、まるで値打のない、ばかげたものです。　刑罰の下る時には粉々にこわされます。　１６しかしイスラエルの神様は、こんなくだらない偶像とは違います。神様はあらゆるものを造ったお方であり、しかもイスラエルは神様に選ばれた国なのです。天の軍勢の主というのが、そのお名前です。
１７神様は命じます。　さあ、荷物をまとめよ。　もう間もなく攻撃が始まるから、逃げるしたくをせよ。　１８今度こそ、わたしは大きな悩みをもたらし、おまえたちをこの地から放り出す。　こうしてやっと、おまえたちはわたしの憤りを肌で感じるようになる。
１９私の傷は重く、悲しみは深い。　私は不治の病にかかっていますが、耐えていかなければなりません。　２０家はなくなり、連れ去られた子供たちとは、二度と会えないでし

ょう。　家を建て直す手伝いをしてくれる者は、一人も残っていません。　２１指導者たちは分別を失いました。　彼らはもはや神様に従おうとせず、みこころを尋ねようともしません。　そのため、彼らは滅び、群れは散り散りになります。２２北から来る大軍の巻き起こす、すさまじい物音を聞きなさい。　ユダの町々は山犬の住みかになってしまいます。
２３神様。　人は自分の力で人生の地図をつくり、進路を決めることはできないことを、私は知っています。　２４私をたたき直してください。　ただし、どうか、やさしく扱ってください。　怒りにまかせて、つらくあたらないでください。　そうでないと、私は死んでしまいます。　２５神様に従わない国民に、激しい怒りを注いでください。　彼らはイスラエルを破壊し、国を見渡す限りの荒れ地にしたからです。
一一
１‐３神様はまた、エレミヤにお語りになりました。
ユダの国民と、エルサレムの全住民に、わたしが彼らの先祖と契約を結んだことを思い出させよ。　その契約を守らない者はのろわれる。　４わたしは、エジプトの奴隷だった彼らを助け出した時、わたしの言いつけを守りさえすれば、彼らも子孫も共々にわたしの国民となり、わたしは彼らの神となると言った。　５だからわたしに従え。そうすれば、誓いどおり、すばらしいことをしてやろう。　今日あるとおり、「乳と蜜の流れる地」を与えたいのだ。　これを聞いて、私は「神様、ぜひ、そうしてください」と答えました。
６すると、神様は命じました。　以上のことをエルサレムの町中で、大声で伝えよ。　国中の町々を巡って、「ご先祖が神様と結んだ契約を思い出し、約束どおりに行なえ」と言え。
７わたしは、おまえたちの先祖をエジプトから助け出した時から今日まで、口がすっぱくなるほど、「わたしのすべての命令に従え」と言い続けてきた。　８だがおまえたちの先祖は、従うどころか聞こうとさえせず、頑として、好き勝手に振る舞った。　彼らが従うことを拒否したので、わたしは契約の中にある災いをみな下した。
９神様はまた、私にお語りになりました。　わたしは、ユダとエルサレムの住民の間に、わたしに対する陰謀のあることを知った。　１０彼らは先祖の道にあと戻りし、わたしの命令をやぶり、偶像を拝んだ。わたしが彼らの先祖と結んだ契約を破棄したのだ。　１１だから、彼らに災いを下す。　それから逃げることはできない。　あわれみを叫び求めても、わたしは耳を貸さない。　１２そこで彼らは、偶像の前で香をたいて祈る。　だが、そんなことをしても、悩みと絶望からは救われない。　１３ああ、わたしの国民よ。　おまえたちの神々は掃いて捨てるほどあり、バアルに香をたく恥の祭壇は、エルサレムのどの通りにもある。
１４だからエレミヤよ、もう、この国民のために祈ってはならない。彼らのために、泣いたり嘆願したりしてはならない。　わたしは、彼らが最後の土壇場になって助けを求めてきても、耳をふさぐことに決めた。　１５わたしの国民は、どんな権利があって、わたしの宮に来るのか。　おまえたちは裏切り者で、ほかの神々を拝んできた。　おまえたちの

いろいろな約束やいけにえが、今になって、滅びの運命をいのちと喜びに変えることができようか。　１６わたしはかつて、おまえたちを「おいしい実をたくさんつける、美しい緑のオリーブの木」と呼んだ。　ところが今度は、おまえたちを焼き焦がし、丸坊主にするために、敵という火を送り込んだ。　１７イスラエルとユダがバアルに香をたくという悪事を働いたため、木を植えたわたしが滅ぼせと命じたのだ。
１８神様は私に、彼らの計画をぜんぶ知らせ、その悪だくみを教えてくださいました。　１９私は、屠殺場に引かれて行く子羊や牛のように、先にある危険に少しも感づいていませんでした。　まさか彼らが私を殺そうとしていようとは、夢にも思わなかったのです。　彼らは、「あの男を殺し、口を封じてしまおう。　殺して、やつの名を永久に葬り去ろう」と相談し合いました。
２０ああ、天の軍勢の主よ。　あなたは正しいお方です。　彼らの心と動機とを探り、彼らの企てた悪事に報いてください。　私は、神様が正義を行なうのを見守っています。
２１２２すると、神様はこうお答えになりました。　アナトテの町の住民は、おまえを殺そうとしたので罰を受ける。　彼らはおまえに、神の名によって預言したら殺してやる、と言うだろう。　それで、彼らの若い男たちは戦場で死に、息子、娘は飢えに苦しむ。　２３こうして、陰謀に加わった者は一人もいなくなる。　わたしが大きな災いを下すからだ。彼らの刑罰の時はすでにきた。
一二
１神様。　これまでどんな問題を持ち出しても、神様はいつも正義をもって答えてくださいました。　今度は苦情を言う番です。　どうして、悪人がこんなに栄えているのですか。どうして、心の曲がった者がこんなにも幸福なのですか。　２神様が彼らを植えると、彼らは根を張り、その事業は発展します。　大きな利益をあげ、大金持ちになります。　彼らは、口では「神様ありがとうございます」と言いますが、心の中では舌を出しているのです。　３ところで、神様は私の心をご存じです。　私がどんなに神様を慕っているか、ご存じです。それに、私は貧乏です。　神様、どうか彼らを、哀れな羊のように、屠殺場に引いて行ってください。　ああ神様、彼らをさばいてください。
４いつまで、神様のものであるこの地は、彼らのなすままになるのですか。　野の草でさえ、彼らの悪事のためにうめき、泣いています。野獣や鳥は姿を消し、地は荒れ果てました。　それでもなお人々は、「神様がわれわれをさばくはずがない。　われわれは全く安全だ」と言います。
５神様は私に、こう答えました。　もしおまえが、このアナトテの住民のような、ただの人間と競走して息を切らせるとしたら、どうして、馬や王、その家来、悪い祭司を相手に競争できるだろうか。　平地でつまずき、倒れるとしたら、ヨルダンの密林では、どうなるのか。６兄弟や家族の者さえ、おまえに背いたのだ。　彼らは、暴徒を呼んでおまえにリンチを加えようとした。　だから、彼らがどんなに愛想よく話しかけても、信じてはならない。

７神様は、続けて言いました。　わたしは、わたしの相続財産である国民を見限った。　いちばん愛している者たちを、敵の手に渡した。８わたしの国民は、密林のライオンのように、わたしに向かってうなり声をあげた。　そのため、わたしは彼らを、毛ぎらいしている者のように扱った。　９わたしの国民は倒れた。　わたしは、はげたかと野獣の群れに、その死体の肉を食べさせる。
１０多くの外国の支配者が来て、私のぶどう園を荒らし、ぶどうの木を踏みにじり、美しい地所を草木の生えない荒野にしました。　１１彼らはそこを荒れ地としました。　それが痛々しそうに泣いている声が、聞こえます。　全地は荒れ果てているのに、だれひとり心に留めようとしません。　１２あらゆるものを破壊する軍隊が、全地を荒らします。神様の剣が国の端から端まで暴れ回るので、だれも逃げることができません。　１３小麦をまいても、刈り取るのはいばらです。　どんなに汗水流して働いても、少しの足しにもなりません。　ただ恥を刈り取るだけです。　激しい神様の怒りが注がれるからです。
１４今度は、ご自分の国民イスラエルに与えた地を包囲する悪い国々への宣告です。　わたしはおまえたちを、ユダにしたと同じように、おまえたちの国から引き抜く。　１５だが、あとになって同情を寄せ、おまえたちの相続地である国へ連れ戻す。　１６もし、これらの異教の国々が素早くわたしの国民の生き方を身につけ、イスラエルに輸出したバアルではなく、わたしを神とするなら、わたしの国民のうちでも強いものとなる。　１７だがわたしに従わない国は、もう一度追放され、根絶やしにされる。
一三
１神様は私に、こう命じました。　行って、リンネルの帯を買い、それを締めよ。　ただし、水で洗ってはいけない。　２私はさっそく帯を買って、それを締めました。　３すると、またお告げがありました。　４その帯を取り、ユーフラテス川に持って行き、岩の割れ目に隠せ。
５私は言われたとおりにしました。　６かなりしてから、また命令がありました。　もう一度でかけ、あの帯を取り出せ。　７私はすぐさま出かけ、隠しておいた岩の割れ目から帯を取り出しました。　ところが、かびが生えて、ぼろぼろになり、とても使いものになりません。
８９すると、神様がきっぱり言いました。　わたしはこのように、ユダとエルサレムの誇りを腐らせる。　１０この悪い国民は、わたしのことばを聞こうともせず、悪い願望のままに生活して偶像を拝んでいる。だから、この帯のように全く役に立たなくなる。　１１帯を腰に巻きつけるように、わたしはユダとイスラエルをわたしに結びつけた。　彼らはわたしの名の栄光を現わすための、わたしの国民である。　ところが、彼らはわたしから離れて行った。
１２彼らに告げよ。　おまえたちのつぼには、ぶどう酒がいっぱい詰まっている。　これを聞いて、彼らは答えるだろう。　そんなことぐらい、わかっているさ。　われわれがどんなに富んでいるかを、別に教えてもらう必要はない。　１３そこで、こう言ってやれ。

おまえたちの性根は腐っている。　わたしは、ダビデの王座につく王、祭司、預言者、それに全国民を途方にくれさせる。　１４父と息子をいがみ合わせる。　少しもあわれみをかけず、徹底的に滅ぼす。
１５そんなに思い上がり、強情を張るものではありません。　神様がお語りになったのだから、素直に聞きなさい。　１６視界ゼロの暗やみを送り込まれる前に、手遅れにならないうちに、神様に栄光をお返ししなさい。　その時になれば、あなたがたは暗い山につまずき、倒れます。　その時には、光を捜し求めても、あるものは身の毛のよだつ暗やみだけです。　１７それでもなお、耳をふさぐのですか。　もしそうなら、私は心を痛め、思い上がったあなたがたのために、一人で嘆き悲しみましょう。　神様の国民が奴隷になって連れ去られるのです。とても泣かずにはいられません。
１８王と王母に、王座から降りて、ちりの中に座れと告げよ。　その頭上に輝く冠は、奪い取られ、ほかの人に与えられるからだ。　１９エルサレムの南にあるネゲブの町々は、敵襲に備えて門を閉めた。　エルサレムは助けにならないので、自分で自分を守らなければならないのだ。　それに、ユダの全国民は、奴隷として連れ去られる。　２０北から攻めて来る軍隊を見よ。　エルサレムよ、おまえの羊の群れはどこにいるのか。　わたしが預けておいた美しい羊の群れはどこか。２１わたしがおまえの同盟軍をおまえの支配者とする時、おまえはどう思うだろう。　さぞかし、子供を産もうとする女のように、身もだえして苦しむことだろう。　２２どうしてこんなことが起こったのか、と聞きただすだろうが、何もかも、おまえの犯した多くの罪のためなのだ。　だからこそ、おまえは侵入して来た軍隊に辱しめられ、破壊される。
２３エチオピヤ人は皮膚の色を変えることができようか。　ひょうが斑点を消すことができようか。　同じように、悪いことをするのに慣れたおまえも、善人になることなどできない。　２４２５おまえはわたしを忘れ、偽りの神々に頼っているので、砂漠の強い風に吹き飛ばされるもみがらのように散らす。　これが、特におまえのために考えておいた運命だ。　２６おまえの恥を洗いざらいさらけ出す。　２７おまえの背信、わたしへの裏切り、野原や丘の上でのいまわしい偶像礼拝を、いやと言うほど見せつけられた。　エルサレムよ。　おまえはひどい目に会うぞ。　いったい、いつになったらきよくなるのか。
一四
１　神様は日照りについて、次のようにエレミヤに説明なさいました。
２ユダは嘆き悲しむ。　いっさいの仕事の手を止め、だれもかれも地にひれ伏す。　エルサレムから大きな叫び声があがる。　３貴族たちは召使に井戸の水をくませようとするが、井戸は干上がっている。しかたなく召使は手ぶらで帰り、悲しみながら頭をかかえこむ。
４水不足で地面はからからに乾き、あちこちに地割れができる。　農夫はおびえきる。　５どこにも草がなく、鹿は子供を置き去りにする。６野ろばは裸の丘に立ち、のどの渇いた山犬のように肩で息をする。目を大きく見開いて草を捜し求めるが、一本の草も見つからない。

７ああ神様。　私たちはひどい罪を犯しました。　ですが、神様ご自身の評判のために、私たちを助けてください。　８イスラエルの望みであるお方、困った時に助けてくださる神様。　どうして、一夜の宿を求める旅人のように、この国をあわただしく通り過ぎて行かれるのですか。　９とまどっておられるのですか。　力がないので、救ってくださることができないのですか。　神様は私たちの真ん中におられます。　だれもが知るとおり、私たちは神様の名をいただいた国民です。　どうぞ私たちを見捨てないでください。
１０ところが神様は、こうお答えになりました。　おまえたちはわたしを離れてさすらうのを得意とし、わたしの道を歩こうとしなかった。今さら、わたしの国民として受け入れることはできない。　わたしは今、おまえたちのしたいっさいの悪を思い出し、おまえたちの罪を罰する。
１１神様はまた、私に命じました。　これ以上、この国民を祝福してくれと願ってはならない。　二度と彼らのために祈ってはならない。１２彼らが断食しても、見て見ぬふりをする。　供え物やいけにえをささげても、受けつけない。　わたしのお返しは戦争とききんと病気だ。
１３そこで、私は申し上げました。　神様。　彼らの預言者は、戦争もききんもなく、平穏無事だと告げています。　神様はまちがいなく平和をもたらし、祝福してくださると伝えています。
１４神様はお答えになりました。 預言者どもは、わたしの名をかたって嘘をついている。わたしは彼らを送り出しもせず、何か話すようにと命じもしなかった。　彼らは、見たことも聞いたこともない幻と啓示について預言している。　口から出まかせに、まやかし事を話す。 １５わたしはこの預言者どもを罰する。 戦争もききんも起こらないと言うが、そう言う彼らが、戦争とききんで死ぬ。　１６彼らの預言を聞く者も、ききんと戦争の犠牲となり、遺体はエルサレムの通りに捨てられる。　葬る者は一人もいない。　夫も妻も息子も娘も、みな姿を消す。　罪の罰として、わたしが恐ろしい刑罰を下すからだ。
１７だから、彼らにこう言ってやれ。「私の目からは、夜となく昼となく涙があふれる。 同胞が剣で刺され、重傷を負って地面に転がっているので、私は男泣きに泣く。　１８野に出ると、切り殺された者の死体が転がっている。　通りを歩くと、飢えや病気で死んだ者の遺体がごろごろしている。 ところが預言者や祭司は、おろおろさまよい歩くばかりだ。」
１９神様、ユダをすっかりお見捨てになったのですか。　エルサレムを毛ぎらいなさるのですか。　これほどの罰を受けても、まだ平和は訪れないのですか。　これでやっと傷を治していただける、と思っていましたのに……。　ところがどうでしょう。　平和になるどころか、どこもかしこも悩みと恐ればかりです。　２０神様、お赦しください。私たちがまちがっていました。　２１御名のために、私たちを憎まないでください。　私たちを祝福するという約束を反古にして、神様ご自身と、その栄光の御座を恥さらしにしないでください。　２２どこの国の神が、私たちのために雨を降らせるでしょう。　私たちの神様以外に、このようなことのできる神はいません。　ですから私たちは、神様が助けてく

ださるのを待っているのです。
一五
１すると神様は、こう私にお語りになりました。　たといモーセとサムエルがわたしの前に立ち、この国民のために嘆願しても、わたしは彼らを助けない。　彼らのことなど放っておけ。　わたしの目の届かない所へ追っ払え。　２もし彼らがおまえに、どこへ行ったらいいのかと尋ねたら、わたしがこう言ったと告げてやれ。　死に定められた者は死に、剣で殺される運命にある者は剣に、ききんに定められた者はききんに、捕虜になる者は捕虜に。　３わたしは彼らのために、四種類の殺し屋を決めておく。　切り殺す剣、食いちぎる犬、残ったものをきれいに平らげるはげたかと野獣だ。　４ユダの王、ヒゼキヤの子マナセがエルサレムでなした悪事のために、おまえたちを厳しく罰する。　おまえたちの身に起こることは、世界中の人々に、鳥肌が立つほどの恐怖を与える。
５エルサレムよ。　だれが、おまえのために心を痛めて泣くだろうか。　だれが、おまえの安否を尋ねるだろうか。　６おまえはわたしを捨て、わたしに背いた。　だからわたしは、おまえを打ちすえようと、こぶしを振り上げる。　おまえに立ち直る機会を与えるのには、もう疲れた。　７おまえを町の門でふるいにかけ、おまえが大切にしているものをみな奪い取る。　わたしの国民は悪の道を振り切ってわたしに立ち返ろうとしないので、彼らを滅ぼす。　８未亡人の数はかぞえきれなくなる。　わたしは真昼に若い男を死に渡し、母親を嘆かせる。　彼らに突然、苦痛と恐怖を与える。　９七人の子をもつ母親は、息子がみな死ぬので半狂乱になる。　まだ昼だというのに、目の前は真っ暗だ。　子供がみな殺されるので、子供がない女となり果て恥をかく。
１０その時、エレミヤはこう言いました。　「お母さん、なんてことでしょう。　こんな悲しい思いをするくらいなら、生まれてすぐ死んでいたらよかったのに。　どこへ行っても、私は憎まれ者です。　やかましく返済を迫ったことも、人から借りた物を返さなかったこともないのに､だれもかれも私をのろいます。　１１彼らがのろうままにしておこう。神様。　あなたは、敵対する彼らのために私がどんなにとりなし、どんなにその助命を嘆願したかをご存じです｡」
１２１３北の国の鉄や青銅のかんぬきは、どのようにしてもこわれない。同じように、この国民の強情な心も、砕くことはできない。　わたしへの罪のために、おまえたちの富と財宝を戦利品として敵に与える。１４敵がおまえたちを捕虜とし、おまえたちの知らない国へ連れて行くにまかせる。　わたしの怒りは火のように燃え上がり、おまえたちを焼き尽くす。
１５これに答えて、エレミヤが言いました。「神様。　私がこんなに苦しんでいるのは、神様のためであることをご存じですね。　神様のおことばを伝えたので、人々は私を迫害します。　どうか、彼らの手にかかって殺されるようなことがありませんように。　私を彼らの強い力から救い出し、彼らにふさわしい罰を加えてください。　１６神様のおことばは、私をしっかり支えます。　それは、ひもじい私のたましいにとっての食べ物です。

私の重い心に喜びをもたらし、有頂天にさせてくれます。　神様。　私は、神様の預言者にされたことを誇りに思います。　１７１８私は、笑いさざめく彼らの宴会に列席しませんでした。　神様の御手のもとに一人で座っています。　彼らの罪への憤りで、心は張り裂けんばかりです。　ところが神様は、いざという時に私を見殺しにしたのです。　迫害をやめさせてはくださいませんでした。　彼らは、私に害を加える手を、ただのひと時も止めないのでしょうか。　神様の助けは、ある時は水があふれ、ある時は干上がってしまう谷川のように、あてになりません。」
１９神様はこうお答えになりました。　「そんな訳のわからないことを言わず、もう少し分別のあることを口にするものだ。　おまえが、前のようにわたしに頼るようになれば、わたしの代弁者にしておく。おまえが彼らに影響を与えるべきであって、逆に彼らの影響を受けてはならない。　２０彼らは、高い城壁に向かって攻撃をしかける軍隊のようにおまえと戦うが、どうしても勝てない。　わたしが味方につき、おまえを守り、救い出すからだ。　２１わたしはきっと、この悪人どもからおまえを助け出し、彼らの無慈悲な手からおまえを救う。」
一六
１別の機会に、神様はこうもお語りになりました。
２おまえは妻をめとり、この地で子供をもうけてはならない。　３この町で生まれる子供も、その両親も、　４恐ろしい病気にかかって死ぬからだ。　彼らのために嘆いたり、埋葬してくれる者は、一人もいない。　死体は地面に放り出されたままで腐り、地の肥やしになる。彼らは戦争やききんで死に、死体は、はげたかや野獣につつかれ、引き裂かれる。
５彼らのために嘆いたり、泣いたりするな。　わたしは彼らを保護するのをやめ、平安を取り上げたばかりか、恵みとあわれみをかけることさえやめたからだ。　６国民は身分の高い者も低い者も、死んでも埋葬してもらえず、悲しんでもらえない。　友人でさえ、髪を刈ったり、頭をそったりして悲しみの気持ちを表わそうとしない。　７だれ一人、悲しむ者に食事を出して慰めず、相手の両親の死を悼むしるしに一杯のぶどう酒を与えようともしない。
８こんな悲惨なことが待っているのだから、そのしるしとして、宴会やパーティーに二度と顔を出してはならない。　彼らと食事を共にすることも許されない。　９イスラエルの神、天の軍勢の主であるわたしが、こう言うのだ。　おまえの生きている間に、しかもおまえの見ている前で、わたしはこの国から笑い声を絶やす。　楽しい歌声、結婚の披露宴、それに花婿と花嫁の歌声はとだえる。
１０これらのことを包み隠さずに話すと、彼らはこう聞き返すだろう。「どうして神様は、こんなに恐ろしいことをなさるのか。　こんなひどい目に会わせられる覚えはない。　いったい私たちが神様に、どんな罪を犯したというのか。」　１１そうしたら、わたしの返事を知らせてやれ。　おまえたちの先祖がわたしを捨てたから、こんなことになったのだ。彼らはほかの神々を拝み、それに仕えた。　わたしのおきてを守らなかった。　１２それ

ばかりか、おまえたちも、先祖より悪いことをしてきたではないか。　自分たちの心のままに悪の道へ走り、わたしの言うことを聞こうとさえしなかった。　１３だから、おまえたちをこの国の外に放り出し、だれも知らない異国の地に追い払う。そこで、好きなだけ偶像を拝むがいい。　ただし、わたしは少しも恵みを与えない。
１４１５しかし、栄光に輝く日がくると、神様は宣言なさいます。　その時の話題の中心は、神様がご自分の国民を、みせしめのために奴隷として追いやった北の国々から、連れ戻すということです。　その時、おまえたちはもはや、わたしがおまえたちをエジプトから連れ戻した時のことを、なつかしそうに振り返らなくなる。　あの時の大きな奇蹟でさえ、ほとんど話の種にならなくなる。　わたしがおまえたちを、先祖に与えたこの地に連れ帰るからだ。　そう神様は断言なさいます。
１６わたしは大ぜいの漁師をやり、わたしの憤りから逃げて深い所に隠れているおまえたちを、網で引き上げる。　狩人をやって、森の中の鹿や、近づくことのできない断崖の上に立つ野やぎを狩り出すように、おまえたちを低地へ追い立てる。　わたしのさばきをのがれて逃げ出しても､必ず見つけ出して罰する。　１７わたしはおまえたちに目を光らせ、一部始終を見ているのだ。　すべての罪を心に留めている。わたしから逃げ出すなど、できない相談だ。　１８わたしはおまえたちのすべての罪に対して､二倍の罰を加える。　おまえたちがわたしの地を鼻持ちならない偶像で汚し､あらん限りの悪事で満たしたからだ。
１９神様。　私の力、私の要塞、悩みの日の私の隠れ家よ。　世界中の国民がみもとに来て、こう言うでしょう。　「私たちの先祖はほんとうにばかでした。　少しも価値のない偶像を拝んでいたからです。２０神を作ることが人間にできるでしょうか。　人間の作る神々は本物の神ではありません。」　２１彼らがこのような気持ちでわたしのところへ来る時、わたしは彼らに力を示し、わたしだけが神であることを悟らせる。
一七
１鉄のペンかダイヤモンドの先端で、石の心と祭壇の端に、悪いおきてが刻み込まれているかのように、わたしの国民は吸い寄せられるようにして罪を犯す。　２３若者でさえ罪を犯すことだけは忘れず､木々の下で偶像を拝み､高い山でも平地でも偶像に仕えている。だから、おまえたちの全財産を、罪に見合う代価として、敵に渡す。４こうして、わたしがおまえたちのために取っておいたすばらしい相続財産は、おまえたちの指の間からすべり落ちる。　わたしはまた、おまえたちを奴隷として、遠くの敵国へ売り渡す。　それというのも、おまえたちが、いったん燃えたら永久に消えないわたしの憤りに、火をつけたからだ。
５神様はこう告げます。　死んでいく人間を頼りとし、心が神から離れる者は、のろわれる。　６そのような者には、砂漠のずんぐりした灌木のように、将来の希望など少しもない。　古き良き時代から永久に見放された彼は、草木も生えない､塩分の多い荒野に住む。
７だがわたしを頼りとし、わたしを望みとする者は、祝福される。８彼は川の土手に沿って植えられた木のように、深く張った根で川から直接水分を吸収するので、暑さにもしお

れず、長いかんばつでも弱らない。　葉はいつも青々と茂り、みずみずしくおいしい実をつける。
９人の心は何ものよりも欺きやすく、芯まで腐っている。　それがどんなに悪質なものであるかは、だれにもわからない。　１０ただわたしだけが人の心を知っていて、すみずみまで探り、いちばん奥に隠された動機まで調べ上げる。　そして、一人一人にそれぞれの生き方に応じた報いを与える。
１１自分でかえさなかったひな鳥を抱く鳥は、やがて、そのひなに逃げられる。　不正な手段で富を手に入れる者も同じだ。　遅かれ早かれ富を失い、結局は哀れなおいぼれになる。
１２私たちの逃げ場は、永遠の栄光に輝く、高くあげられた神様の御座です。　１３イスラエルの望みである神様。　神様に背く者はみな、面目を失い、恥をかきます。　そのような者の名は、地上の名簿には載っていますが、天の名簿には載りません。　いのちの泉である神様を見捨てたからです。　１４神様。　私を健康にし、救ってくださるのは、神様だけです。　ですから、ただ神様だけをほめたたえます。
１５人々は私をあざけります。「おまえがしきりに口にしていた神様のことばとやらは、いったいどうなったんだい。　おまえの言っていた脅しが、ほんとうに神様から出たのなら、どうしてそのとおりにならないんだい。」
１６神様。　私は人々が恐ろしい災難の下敷きになるのを見たくありません。　そのような計画は神様が立てたので、私が立てたのではありません。　私が彼らに伝えたのは、神様のおことばであって、私のことばではありません。　彼らが滅びるのを見るに忍びません。　１７神様、今になって、私を置き去りにしないでください。　神様だけが私の望みです。　１８私を迫害する者に混乱と悩みをもって報いてください。　私には平安を与え、彼らには二倍もひどい滅びを与えてください。
１９神様は私にお語りになりました。　さあ、エルサレムの門に立て。まず、王の通用門へ行き、次にほかのすべての門へ行って、　２０すべての者にこう言え。　ユダの王と国民、それにエルサレムの全住民よ、よく聞け。　２１２２神はこう言う。　おまえたちの生き方に気をつけろ。安息日は身も心もきよく過ごし、不必要な仕事をするな。　わたしはこの命令をおまえたちの先祖に伝えた。　２３ところが、彼らは聞かず、従おうとしなかった。　強情を張り、注意深く教えを聞こうとしなかった。
２４だが、おまえたちがわたしに従い、安息日に働くのをやめ、きよい特別な日とするなら、　２５この国はいつまでも繁栄する。　エルサレムの王座には、いつもダビデの子孫が座るようになる。　いつの時代にも、はなやかに着飾った王や君主が車に揺られて都大路を通る。２６また人々は、エルサレムの周囲、ユダとベニヤミンの町々、それに南のネゲブとユダの西部にある低地から、完全に焼き尽くすいけにえや、穀物の供え物、香料などを携えて来る。　さらに、神殿で神をほめたたえるために、いけにえを引いて来る。
２７しかし、わたしの言うことを聞かず、安息日を汚し、安息日だというのにほかの日と

同じように、エルサレムの門の中に商品の荷を運び込むようなことをしたら、わたしはこれらの門に火をつける。　火は宮殿にまで燃え広がり、それを灰にする。　しかも、燃えさかる炎はだれにも消せない。
一八
１神様からエレミヤに、次のようなお告げがありました。
２「さあ、陶器を作っている家に行け。　そこで、おまえに話そう。」　３言われたとおりにすると、陶器師はろくろを回している最中でした。　４ところが、彼は手がけていたつぼが気に入らなかったので、それをつぶして粘土のかたまりにし、初めからやり直しました。
５その時、神様がお語りになりました。
６イスラエルよ。　この陶器師が粘土にしたのと同じことを、わたしはおまえたちにできないだろうか。　陶器師の手の中に粘土があるように、おまえたちもわたしの手の中にある。　７わたしが、一つの国が引き抜かれて滅ぼされると言った時、　８もしその国が悪の道を捨てるなら、わたしは予定を変更して、その国を滅ぼさない。　９また、わたしが、ある国を強くすると言った時、　１０もしその国が途中で考えを変えて悪の道に走り、わたしに従わなくなれば、わたしも考えを変え、祝福の約束を撤回する。
１１だから出かけて行って、ユダとエルサレムの全住民に、こう警告せよ。　さあ、神のことばを聞け。　わたしは今おまえたちのために、良いことではなく悪いことを計画している。　だから悪の道を捨て、正しいことを行なえ。
１２ところが彼らは、こう答えました。　「おせっかいはよしてくれ。神様の言われたことを行なう気なんか、これっぽっちもないんだ。だれからも束縛されるものか。　こうやって強情を張りとおし、悪を身につけたまま、いつまでも好き勝手な生活をしたいのだ。」
１３その時、神様はこう言いました。　たとい異教の国民の間でも、こんなことを聞いた者はいない。　考えただけでぞっとするようなことをわたしの国民がしたのだ。　１４レバノン山頂の雪は決してとけず、ヘルモン山から流れ下る冷たい水は、決してかれない。
１５これらのものは、いつもあてにできる。　ところがわたしの国民ときたら、全くあてにならない。　彼らはわたしを置き去りにして、むなしい偶像のもとに走った。　昔からの正しい道をはずれ、罪のどろ沼に迷い込んだ。　１６そのため、国は荒れ果て、そこを通る人は思わず息をのみ、あまりにもすさまじい光景に驚いて頭を振る。　１７わたしはわたしの国民を、東風がちりを巻き上げるように、敵の前でまき散らす。　彼らがどんなに悩んでも、知らぬ顔を決め込み、彼らの苦しみを心にかけない。
１８すると、人々はこう相談しました。　「さあ、エレミヤを殺してしまおう。　われわれには、祭司や学者、それに預言者がついている。やつの忠告なんかいらない。　二度とわれわれに不利なことをしゃべり、われわれを苦しめないように、やつの口を封じよう。」
１９ああ神様、私を助けてください。　彼らが私にどんなことをしようとしているか、見てください。　２０彼らは、悪をもって善に報いようとするのでしょうか。　彼らは私を

殺そうと、罠をしかけました。それでも私は、彼らのことをよく言い、何とかして、神様の怒りが彼らに向けられないようにと努力しました。　２１神様、彼らの子供を飢え死にさせてください。　彼らを剣にかけてください。　彼らの妻を未亡人とし、子供を一人残らず失わせてください。　男は伝染病で死なせ、若者は戦場で倒れさせてください。　２２兵士の一隊が不意に襲う時、彼らの家から泣き叫ぶ声が聞こえますように。　彼らは私を落とそうとして穴を掘り、私の歩く道に、こっそり罠をしかけたからです。　２３神様。あなたは、私を殺そうとする彼らの計画をご存じです。　彼らを赦さないでください。　彼らの罪を赦さず、御前で滅ぼしてください。　彼らに御怒りをぶちまけてください。
一九
１２神様はこうお語りになりました。　粘土で作ったつぼを買い、都の南東にある瀬戸のかけらの門に近いベン・ヒノムの谷へ持って行け。長老と先輩の祭司を数人つれて行き、わたしがあなたに伝えることは何でも語れ。
３神様は彼らにこう語りかけました。　ユダの王とエルサレムの市民よ、わたしのことばを聞け。　わたしはイスラエルの神、天の軍勢の主だ。　わたしはここに恐ろしい災害をもたらす。　それは想像を絶するほど恐ろしいもので、それを聞く者の耳は刺すように痛む。４イスラエルがわたしを捨て、この谷を恥と悪のたまり場にしたからだ。　この国民は、今の時代の者も先祖も、またユダの諸王も拝んだことのない偶像に香をたき、ここを罪のない子供たちの血で満たした。５バアルのために高い祭壇を築き、そこでわが子をいけにえとして焼いたのだ。　こんなことは、命じもしなければ考えもしなかったことだ。６だから、この谷が「トフェテ」でも「ベン・ヒノム」でもなく、「虐殺の谷」と呼ばれる日がくる。　７わたしはユダとエルサレムの作戦計画の裏をかき、侵入して来る軍隊にここでおまえたちを殺させ、その死体をはげたかと野獣のえじきとするからだ。　８また、わたしがエルサレムを地上から一掃するので、そこを通り過ぎる人はみな、わたしがこの町にどんなことをしたかを見て、驚きのあまり息をのむだろう。　９敵が町を包囲するので食糧はなくなり、閉じ込められた者がわが子や友人の肉を食べるようになる。
１０さて、エレミヤよ。　連れの者が見ている前で、持って来たつぼを砕き、　１１天の軍勢の主のお告げだと言って、こう伝えよ。　このつぼが粉々になったように、わたしはエルサレムの市民を粉々にする。つぼが元どおりにならないように、彼らも元どおりにならない。　殺される人があまりにも多いので、埋葬する場所もなくなり、ついには、死体がこの谷に山積みになる。　１２それと同じことをエルサレムでもするので、そこも死体であふれる。　１３わたしはエルサレムのすべての家を汚す。　その中には、ユダ王朝の王宮もあり、屋上で星の神々に香をたき、ぶどう酒を注いだ家々もある。
１４エレミヤは、以上のことをトフェテで伝えたのち、市内に戻り、神殿の前で足を止め、全市民に言いました。　１５イスラエルの神である天の軍勢の主のお告げだ。　わたしはこの町と周囲の町々に、約束どおり災いを下す。　おまえたちが強情を張り、わたしのことばを聞こうとしなかったからだ。

二〇
１神殿を管理する祭司、イメルの子パシュフルは、エレミヤの語ることを聞くと、　２彼を逮捕してむちで打たせ、神殿に近いベニヤミンの門にある足かせにつなぎました。　３エレミヤは、一晩中そこにさらされたのです。
翌日、パシュフルがやっと釈放すると、エレミヤは言いました。「パシュフル、神様はあなたの名を変えました。　これからは『おびえながら生きる者』と呼ばれるようになる、と言っておられます。４神様があなたとあなたの友人に、恐怖を与えるからです。　あなたは、友人が敵の剣で殺されるのを見るでしょう。　神様はこう断言なさいます。　わたしはユダをバビロンの王に引き渡す。　王はこの国民を奴隷としてバビロンへ連れて行き、そこで殺す。　５またわたしは、敵にエルサレムを略奪させる。　よく知られたこの町の財宝は、王の宝石や金銀ともども、遠くバビロンへと運ばれる。　６さて、パシュフルよ。おまえと家族、一族郎党はみなバビロンで奴隷となり、そこで死ぬ。　おまえをはじめ、万事うまくいくという、うその預言を聞いた者もみな、同じ運命に会う。」
７その時、私はこう言いました。　ああ神様。　あなたは、助けてやると約束しておきながら、私を欺きました。　神様は私より強い方なので、お告げを伝えないわけにはいきません。　ところが今、私は町中の笑い者になり、だれからもばかにされています。　８神様はただの一度も、私が彼らにやさしいことばをかけてやるのを、お許しになりませんでした。　私が話すのは、いつも決まって、災害や恐怖、それに滅亡でした。　彼らが私をあざけり、ばかにし、物笑いの種にするのは当然です。　９ところが、私は神様の使者になるのをやめるわけにはいきません。　二度と神様のことを口にしまい、これ以上、神様の名によって語るのは、まっぴらごめんだと言うと、私の心のうちにある神様のことばは、まるで火のように骨の中で燃えます。 そのため、苦しくてたまりません。　１０その上、四方八方から脅し声が聞こえるので、私はおじ気づきます。　「あいつを訴えてやろう」と、彼らは言います。　元の友人でさえ、私をうかがい、私がつまずき倒れるのを今や遅しと待っています。　「きっとあいつは、自分でしかけた罠に落ちるだろう。　そうしたら、うんと仕返しをしてやるんだ」とてぐすね引いているのです。
１１しかし神様は、大勇士として私のそばに立っています。　この力ある恐ろしいお方の前で、彼らは縮み上がります。　彼らは私に歯が立ちません。　かえって恥をかき、徹底的に屈辱感を味わい、一生、汚名を着せられるようになります。　１２ああ、天の軍勢の主よ。　正しい者を見分け、人の心の奥底にある思いを調べるお方よ。　私の件については、いっさいお任せしますから、神様が彼らに復讐してください。　１３神様、ありがとうございます。　私は神様をたたえ、ほめ歌います。　困りきっている哀れなこの私を、迫害する者の手から救い出してくださったからです。
１４とは言うものの、やはり、誕生日をのろいたくなるのだ。　１５父に、男の子が生まれたと報告した人は、のろわれるがいい。　１６神様が少しも手ごころを加えずにくつがえした昔の町々のように、滅ぼされてしまえ。　一日中、戦いの叫び声を聞いておじ気づ

けばいいのだ。１７私が生まれた時に、私を殺してしまわなかったからだ。　母の胎内にいる時に死に、そこが私の墓となっていたら、どんなによかったか！　１８どうして、生まれて来たのか。　悩みと悲しみと恥ばかりの一生を送るために。
二一
１２次もまた、神様からエレミヤにあったお告げです。　ゼデキヤ王は、マルキヤの子パシュフルと、マアセヤの子で祭司のゼパニヤをエレミヤのもとへやり、こう言わせました。「神様がお助けくださるように祈ってくれ。　バビロンの王ネブカデネザルが、宣戦布告をしてきたからだ。　ひょっとしたら、神様は私たちへの恵みを忘れず、昔のようにすばらしい奇蹟を行なって、王が軍隊を撤退させるように働きかけてくださるかもしれない。」
３４エレミヤは答えました。　「ゼデキヤ王のところへ戻り、イスラエルの神様が、こうお語りになったと伝えなさい。　わたしは、バビロンの王と、おまえたちを包囲しているカルデヤ人との前で、おまえたちの武器を役立たずにする。　それどころか、敵を町の真ん中に引き入れ、　５自らおまえたちを相手に戦う。　わたしは真っ赤になって怒っているからだ。　６その上、恐ろしい伝染病をはやらせるので、人も家畜も共に死ぬ。　７あげくの果てに、ゼデキヤ王をはじめ、町に残っている者ぜんぶを、バビロンの王ネブカデネザルの手に渡す。彼らは、少しもあわれまれず、家畜のように殺される。
８この国民に知らせてやれ。　そう神様は告げます。　生きるか死ぬかの、どちらかを選べ。　９エルサレムに残り、敵の手にかかって殺されるか、飢えや病気で死ぬほうを取るか、それとも、町を出てカルデヤ軍に降伏し、生きるほうを取るか。　１０わたしはこの町をにらみつけている。　この町の敵となり、友とはならない。　この町はバビロン王の手に渡され、灰となる。
１１ユダの王に、神様はこう告げます。　１２おまえのしているいっさいの悪のため、おまえを裁くことにした。　さあ、急いで公平な裁判をするのだ。　わたしの燃える憤りが、だれにも消せない火となっておまえに燃え移る前に、正しいことを始めよ。　１３『われわれは安全だ。　ここにいる以上、だれも指一本ふれることはできない』とうそぶいているエルサレムを相手に、わたしは戦う。　１４自ら手を下し、罪を犯した罰としておまえたちを滅ぼす。　わたしが森に火を放つので、回りのものは何もかも灰になる。」
二二
１神様は私にお語りになりました。　出かけて行って、直接ユダの王に伝えよ。　２ダビデの王座についているユダ王朝の王と家来たち、それに国民よ、わたしのことばを聞け。
３これがわたしの命令だ。　公平で正しいことを行なえ。　正義を求める人を助け、悪いことは即刻やめよ。　外国人や移民、それに孤児と未亡人の権利を守り、まちがっても罪のない者を殺すな。　４もしおまえが、今している恐ろしいことに終止符を打つなら、わたしはこの国を解放し、再びダビデの王座に次々と王をつかせるようにする。　しかも、全国民が栄えるようになる。
５　だが、もしおまえがこの警告を聞かないなら、わたしは自分の名にかけて誓うが、こ

の宮殿は必ず、足の踏み場もないほどの廃墟となる。　６この宮殿については、こう宣告する。　おまえは、わたしにとっては豊作の地ギルアデであり、レバノンの緑したたる森林だ。だが、わたしはおまえを滅ぼし、人の住まない、荒れ果てた場所にする。　７おまえを解体する道具を持った破壊班を召集する。 彼らは､木目の美しい杉の木を引き抜き、火に投げ込む。　８多くの国々の民が、この町の廃墟のそばを過ぎ、口々に言う。　「イスラエルの神様はなぜ、このようなことをしたのだろう。　なぜ、こんなに大きな都をつぶしたのだろう。」　９この疑問に、次のような答えが返ってくる。「ここの住民が、神様を忘れ、神様との契約を破ったからだ。　彼らは偶像を拝んだのだ。」
１０死んだ人のために泣いてはならない。　むしろ、連れて行かれた捕虜のために泣け。彼らは二度と祖国の土を踏めないからだ。　１１また、父ヨシヤの跡を継いで王位にのぼり、捕虜として連れ去られたエホアハズについては、こう宣告する。　１２彼は遠い異国で死に、二度と故国を見ることはできない。
１３エホヤキム王よ。　おまえはひどい目に会う。　強制労働によって宮殿を建てているからだ。　おまえは、賃金を支払わないという不正を宮殿の壁に塗り込み、戸のわくと天井に虐待をはめ込んでいる。１４そして、こう言っている。　「広々した部屋が幾つもあり、窓のたくさんついた、壮大な宮殿を建てよう。　香りの高い杉材をふんだんに使い、鮮やかな朱に塗り上げよ。」　１５だが、美しい宮殿ができたからといって、中に住む王の貫禄がつくわけではない。 おまえの父ヨシヤは､なぜ長いあいだ王位についていたのか。彼が正しく、すべてのことで公平を第一としたからだ。　だからこそ、彼には神の祝福があった。　１６彼は、貧しい人や困っている人に正義と援助の手が差し伸べられるように心を配った。　それで、何もかもうまくいったのだ。　このようにしてこそ、人は神のそば近くにいることができる。　１７　だが､おまえはどうか。　自己中心で、貪欲であり、不誠実この上もない。　罪のない者を虫けらのように殺し、貧しい者を苦しめ、血も涙もない暴君になり下がっている。
１８だから、父ヨシヤの跡を継いだエホヤキム王に、次の刑罰を下す。　彼が死んでも、家族の者はだれも泣かない。　家来は、彼が死んだことなど気にもかけない。　１９彼はエルサレムの外に引きずり出され、門の向こうのごみ捨て場に投げ込まれて、死んだろばのように埋められる。　２０頼みの連合軍は姿を消したから、大声をあげて泣け。　レバノンに行って彼らを捜し、バシャンで叫べ。　アバリムで彼らを尋ねよ。　彼らは一人残らず死んでいて、おまえを助けてくれる者は一人も残っていない。　２１おまえが羽振りをきかせていた時、わたしは警告したが、おまえは「干渉しないでください」と言った。子供のころから、わたしのことばを聞いたためしがない。　２２今度は、おまえの連合軍は、ひと吹きの風で姿を消した。　友人はみな、奴隷となって連れて行かれる。　こうして、いやでも自分の悪を認めざるをえなくなり、赤恥をかく。　２３レバノンの杉の木立の中の、美しい宮殿の中で優雅な生活を送ることは、快適この上もない。　だが、まもなくおまえは大声をあげ、陣痛に襲われた産婦のように、うめき苦しむ。

２４２５それから、ユダ王朝の王エホヤキムの子エコヌヤよ。　たとい、おまえがわたしの右手にはめた認印つきの指輪でも、わたしはおまえを抜き取り、おまえが最も恐れているバビロンの王ネブカデネザルと、その強力な軍隊に渡す。　２６おまえとおまえの母をこの国から放り出す。 おまえは異国で死ぬ。 ２７慕っている祖国へは決して帰れない。２８このエコヌヤという男は、こわれて捨てられた皿のようだ。　彼も彼の子供も、遠い国に流される。
２９地よ、神様のことばを聞きなさい。　３０神様はこうお語りになります。
エコヌヤを、子供のない者として記録しておけ。　彼の子供のうち一人も、ダビデの王座につき、ユダを支配することはないからだ。　こうして、彼の一生はあぶくのように消える。
二三
１神様は宣告なさいます。 わたしは、わたしの国民の羊飼いである指導者に災いを下す。彼らは、めんどうを見なければならない者を滅ぼし、散らしたからだ。 ２おまえたちは、わたしの群れを安全に導くどころか、置き去りにし、滅びへと追いやった。　わたしは、おまえたちが彼らになした悪のために刑罰を下す。　３一方、群れの残りを、わたしが追いやった所から集め、元の牧場に連れ戻す。　彼らは再び子を生んで増える。　４また彼らの上に、責任感の強い羊飼いを立てる。 彼らは二度とこわがる必要はなく、四六時中、守られるようになる。
５６やがて、わたしがダビデの王座に、正義の若枝を置く時がくる。彼は知恵と正義をもって治める王となり、地上のどこにも正しさが行き渡るようにする。　「神様は私たちの正義」というのが、彼の呼び名だ。　その時、ユダは救われ、イスラエルは平和のうちに過ごす。
７その日、人々は誓いを立てる時、「イスラエル国民をエジプトから救い出した神様は生きておられる」と言わないで、　８「ユダヤ人を、追いやられた国々からイスラエルへ連れ戻した神様は生きておられる」と言うようになる。
９うそで固めた偽預言者たちのことを考えると、心が痛みます。　私は恐ろしくなって目を覚まし、酒にのまれた酔っぱらいのようにふらつきます。　彼らには、恐ろしい運命が待ちかまえているからです。神様は刑罰を下すと宣告なさいました。　１０この国は姦通罪に満ちて、神様ののろいがかかっています。　地そのものが嘆き悲しみ、牧草地は茶褐色になっています。　預言者たちは悪に走り、不正を行なうことに精力を注いでいます。
１１祭司も預言者同様、神様を敬わない悪党ばかりです。　神様は言います。　わたしは神殿の中でさえ下品なことが行なわれるのを見た。 １２そのため、彼らの道は暗くなり、すべりやすくなる。　彼らは暗い危険な小道に追いつめられ、倒れる。わたしは彼らに災いを下し、時がきたら、必ずその罪の罰金を全額支払わせる。
１３わたしは、サマリヤの預言者がお話にならないほど悪いことを知った。　彼らはバアルによって預言し、わたしの国民イスラエルを罪に引きずり込んだからだ。　１４ところ

が、エルサレムの預言者はもっと悪い。　彼らのしていることは、目もそむけたくなるほどで、姦通罪を犯し、不正を愛している。　悪いことをしている者を罪から引き戻すどころか、反対にほめ、励ましている。　この預言者たちは、ソドムやゴモラの住民のように、徹底して堕落している。
１５そのため、天の軍勢の主は宣告なさいます。　わたしは彼らに苦い物を食べさせ、毒を飲ませる。　彼らがいたばかりに、この国に悪がはびこるようになったからだ。　１６これがわたしの国民への警告だと、天の軍勢の主は告げます。　むなしい希望を与える偽預言者の言うことを、聞いてはならない。　彼らは口から出まかせを言い、わたしのために語ろうとしない。　１７わたしを侮る反逆者たちに、「何も心配することはない。　何もかもうまくいくさ」としきりに言う。　自分勝手な生活をしている者たちには、「平安があると、神様のお告げがありました」と言っている。
１８だが、神のことばを聞けるほど神に近くいる預言者を、ただの一人でもあげることができようか。　彼らのうちの一人でも、神のことばを聞こうと努力しただろうか。　１９このような悪者どもを吹き飛ばすために、わたしは激しいつむじ風を送る。　２０わたしの恐ろしい憤りは、刑罰を余すところなく下すまでは、やまない。　後日、エルサレムが敵の手に落ちた時、おまえたちはわたしの言ったことを認めるようになる。
２１わたしはこんな預言者を遣わした覚えはないのに、彼らはわたしのために語っているのだと、大きな口をたたく。　わたしは彼らに何も言わなかったのに、自分たちの預言がわたしのものだと言いはる。２２もし彼らがわたしの預言者なら、わたしの国民を悪の道から立ち返らせようと努力しただろうに。　２３このわたしは一個所だけに閉じ込められていて、彼のしていることが見えないような神だろうか。　２４人はわたしから姿を隠せるだろうか。　わたしは、天にも地にも、どこにでもいるではないか。
２５「ゆうべ、神様からの夢を見た。　まあ、その話を聞いてくれ」と、彼らは言う。　こうして、わたしの名をかたって嘘を並べるのだ。　２６こんなことが、いつまで続くのか。仮に彼らが「預言者」だと言うなら、彼らは偽預言者で、自分たちの言うことをみな発明していることになる。　２７わたしが見せたのでもない夢を得々と説明することによって、バアルの偶像礼拝に転向していった先祖のように、わたしの国民にわたしを忘れさせようとしている。　２８こんないんちき預言者は、夢物語にうつつを抜かすままにしておけ。だがわたしの本物の使者は、わたしのことばを残すところなく忠実に語る。　両者の間には、麦ともみがらほどの差がある。　２９わたしのことばは、火のように燃えないだろうか。　それは、岩でさえ粉々に砕く巨大なハンマーではないか。　３０３１わたしは、お互いに語ることを知らせ合っている、これらの「預言者」に立ち向かう。　口あたりのよいことを言う預言者どもは、「このお告げは神様からのものだ」と言う。　３２彼らが知恵をしぼって考え出した夢は、わたしの国民を罪へ誘い込む、まことしやかな嘘で固まっている。　わたしは彼らを遣わさなかったし、彼らには、わたしの国民に告げることなど少しもない。

３３国民の一人、または「預言者」か祭司の一人が、「ところでエレミヤさん。　きょう神様から聞いたという悲しいニュースって何ですか」と尋ねたら、こう答えてやれ。　「どんなニュースを聞きたいのか。　おまえたち自身が悲しいニュースだ。　なにしろ、神様がおまえたちを捨てたのだから。」３４「きょうの神様からの悲しいニュース」などと悪ふざけをする偽預言者、祭司、国民がいたら、わたしは彼らとその家族を罰する。　３５「神様はどんなことをお語りになりましたか」と尋ね合うのはよい。　３６だが、「神様からの悲しいニュース」と言ってはならない。　悲しいのは、おまえたち自身のこと、おまえたちが平気で嘘をつくことにほかならないからだ。　おまえたちはわたしのことばを曲げ、わたしが言いもしない「神様のお告げ」を発明している。　３７おまえたちは、「神様からどんなお告げがありましたか。　神様は何と言われましたか」と、尊敬を込めてエレミヤに尋ねるべきだ。　３８３９だが、わたしの警告を無視して、「きょうの神様からの悲しいニュース」について聞こうとすれば、神であるわたしは、重荷となっているおまえたちを捨てる。　おまえたちと、おまえたちの先祖に与えたこの町を、共にわたしの前から放り投げる。　４０わたしはおまえたちの恥をさらすので、おまえたちの名はいつまでも鼻持ちならないものとなる。
二四
１バビロンの王ネブカデネザルが、エホヤキムの子でユダ王朝の王エコヌヤを捕虜とし、ユダの高官、大工や鍛冶屋などの熟練工とともにバビロンへ連れ去ったのち、神様は次の幻を私に示しました。　２エルサレムの神殿の前に、いちじくを盛った二つのかごが見えました。一つのかごには、よく熟した取り立てのいちじくがありました。　しかし、もう一方のかごのいちじくは、いたんでかびが生え、ひどく腐っていて、とても食べられない代物でした。　３その時、神様がお尋ねになりました。　「エレミヤよ、何が見えるか。」「いちじくです。　とてもおいしそうなものもありますし、お話にならないほど悪いものもあります。」
４５「良いいちじくとは、バビロンに移された人のことだ。　わたしは彼らのためを思って、彼らを異国に送った。　６わたしは、彼らが、行った先で丁重に扱われるように仕向け、またこの地に連れ戻す。　彼らを助けこそすれ、傷つけるようなことはしない。　彼らを植えて、二度と引き抜かない。　７彼らに、わたしに対して、打てば響くような心を与える。　彼らはわたしの国民となり、わたしは彼らの神となる。　彼らは大喜びで、わたしのもとへ帰って来るからだ。
８一方、腐ったいちじくとは、ユダの王ゼデキヤをはじめ役人連中、それにこの地に残っているエルサレムの住民のことだ。　エジプトに住んでいる者も、この中に含まれる。　わたしは彼らを、悪くて食べられない、いたんだいちじくのように処分する。　９彼らを、地上のあらゆる国々から毛虫のように嫌われるようにする。　彼らは、わたしが強制的に追いやる地で、あざけられ、ののしられ、のろわれる。１０わたしが大虐殺とききんと伝染病を送るので、ついに彼らは、わたしが彼らと先祖に与えたイスラエルの地から絶たれ

る。」
二五
１ユダの全国民にあてられた次のお告げは、ヨシヤの子でユダ王朝の王エホヤキムの治世の第四年に、神様がエレミヤに語ったものです。　この年に、バビロンの王ネブカデネザルが即位しました。
２３アモンの子でユダ王朝の王ヨシヤの第十三年から今まで、二十三年間にわたって、神様のお告げが私にありました。　私はそのお告げを忠実に伝えてきたのに、あなたがたは聞こうとしませんでした。４神様は何度も、ご自分の預言者をあなたがたのもとへ遣わしたのに、あなたがたは耳をふさぎました。　５お告げは、いつも次のようなものでした。悪の道から離れ、悪事から足を洗え。　そうして初めて、おまえたちは、わたしがおまえたちと先祖に与えたこの地に、いつまでも住むことができる。　６偶像礼拝という大それたことをして、わたしを怒らせるな。　わたしに真実を尽くすなら、害は加えない。７だがおまえたちは、わたしのことばを聞こうとしなかった。　かえって、まっしぐらに悪の道に進み、偶像のことでわたしを怒らせた。　ありとあらゆる災いをこうむる結果を、自ら招いたのだ。
８９そして今、天の軍勢の主である神様は、こう宣告なさいます。おまえたちはわたしのことばを聞かなかったので、わたしの代理人に立てたバビロンの王ネブカデネザルの率いる北方軍団を呼び、この国と住民、それに周囲の国々を攻めさせる。　こうして、おまえたちを徹底的に滅ぼし、永久にさげすみの代名詞とする。　１０おまえたちの喜びと楽しみ、結婚の披露宴を取り除く。　事業は失敗に終わり、おまえたちの家庭は無気味な暗やみに閉ざされる。　１１国の全土は見渡す限りの荒れ地となるので、全世界の人は、おまえたちに降りかかった災害を知ってショックを受ける。　イスラエルと近隣の諸国は、七十年間バビロン王に仕える。
１２この奴隷の期間が終わったら、わたしはバビロン王とその国民を、彼らの罪のために罰する。　カルデヤの地を永久に荒れ果てた所とする。　１３この書の中で約束した恐ろしい災害、エレミヤが国々に宣告した刑罰を全部、この地にもたらす。　１４多くの国々と強い王たちが、ちょうどカルデヤ人がわたしの国民を奴隷にしたように、今度はカルデヤ人を奴隷にする。　わたしは彼らを、彼らがわたしの国民をどう扱ったかを基準にして罰する。
１５神様は私に、こうお語りになりました。　「わたしの手から、わたしの憤りがなみなみとつがれている、このぶどう酒の杯を取り、わたしがあなたを遣わす、すべての国々の人に飲ませよ。　１６彼らは飲んでふらつき、わたしが下す死の打撃によって頭がおかしくなる。」
１７そこで、私は神様の手から憤りの杯を取り、遣わされたすべての国々の人に飲ませました。　１８私はエルサレムとユダの町々へ行きました。　すると、王と長官はその杯から飲んだので、その日から今まで、彼らはみじめになり、憎まれ、のろわれるようになり

ました。１９２０私はまた、エジプトの王とその家来、そして指導者とすべての国民のところへ行きました。　彼らもまた、その地に住む外国人ともども、この恐怖の杯から飲みました。　ウツの地のすべての王、ペリシテの町々の王、すなわちアシュケロン、ガザ、エクロン、アシュドデの残りの者も、同じようにしました。　２１私はさらにエドム、モアブ、アモンの国々へ行きました。　２２またツロとシドンのすべての王、海の向こうにある地方の王、　２３デダン、テマ、ブズ、およびそこにいる異教の民、　２４アラビヤのすべての王、砂漠の遊牧民のすべての王、　２５ジムリ、エラム、メディヤのすべての王、　２６北方のすべての王を、近い者も遠い者もひとりひとり訪ね、地上のすべての王国を巡りました。　最後には、バビロンの王自身が、神様の憤りを盛ったこの杯から飲みました。
２７彼らにこう言え。　「イスラエルの神である天の軍勢の主は言う。　酔っ払って、へどを吐き、二度と立てなくなるまで、わたしの憤りを盛ったこの杯から飲め。　おまえたちに恐ろしい戦争を送るからだ。」　２８もし杯を受け取らないなら、こう言ってやれ。「天の軍勢の主は、どうしてもこれを飲めと命じている。 避けるわけにはいかないのだ。２９すでに、自分の国民さえ罰し始めているからだ。　おまえたちだけ無罪放免になるわけがない。　どんなにもがいてみても、刑罰を免れることはできない。　わたしは地上の全住民に戦争を呼び寄せる。」
３０だから、彼らに預言せよ。　彼らに、神は天の聖所から自分の国民に呼びかけ、全世界の国民に呼びかけると伝えよ。　神は、酒ぶねの中でぶどうの実を踏みつぶす者のように、大声を張り上げる。　３１このさばきの叫び声は、地の果てまでも届く。　神が全世界の人をさばき、すべての悪者を殺すからだ。　３２天の軍勢の主はこう言う。　刑罰が国から国へと渡り歩き、神の憤りの暴風は地の果てまでも吹きつける。　３３その日、神に殺される者は地の果てから果てまで及ぶ。だれも彼らのために嘆き悲しんだり、死体を集めて埋めたりしないので、彼らは地の肥やしとなる。
３４悪い羊飼いよ、泣きわめけ。　人民の指導者よ、石に頭を打ちつけよ。　おまえたちが虐殺され、散らされる時がきたからだ。　おまえたちは弱々しい婦人のように倒れる。３５しかも、逃げ隠れする場所を捜しても、どこにも見つからない。
３６羊飼いの半狂乱の叫び声、指導者の絶望まじりの叫び声を聞け。　わたしは彼らの牧場を荒らしたのだ。　３７今まで平穏無事な生活を送ってきた者も、神の激しい怒りによって切り倒される。　３８神は、獲物を捜すライオンのように、忍び足で出て行った。　神の激しい怒りのために、彼らの国は侵入してくる軍隊によって荒れ果てた。
二六
１ヨシヤの子でユダ王朝の王エホヤキムの治世の第一年に、神様からエレミヤに、次のお告げがありました。
２神殿の前に立って、ユダの各地から参拝に来たすべての人に語れ。　わたしの言ったことをぜんぶ知らせよ。　わたしが彼らに聞かせたいと思っていることを、ただのひと言で

も省略してはいけない。　３ひょっとしたら、彼らはわたしのことばを聞いて、悪の道から離れるかもしれないからだ。　そうしたら、彼らの悪事のために下そうとしている刑罰を、思いとどまる。　４彼らに、わたしがこう言っていると告げよ。　もし、わたしのことばを聞かず、わたしが与えたおきてに従わず、　５また、わたしのしもべの預言者に聞かないなら、もっとも、何度も預言者をやって警告させたのに、おまえたちは聞こうとしなかったが、　６この神殿をシロの神殿のようにこわし、エルサレムを全世界ののろいの代名詞とする。

７８神様に告げられたことをみな語り終えた時、祭司と偽預言者、それに神殿の中にいたすべての者がエレミヤに襲いかかり、「殺せっ！　殺せっ！」と絶叫しました。　９「どんな権威があって、神様がこの神殿をシロの神殿のようにこわすなどと言うのか。　エルサレムが破壊され、一人の生き残りもいなくなるとは、いったいどういうことか。」　こうして騒ぎは大きくなり、だれもがエレミヤを攻撃しに、神殿へ押しかけました。

１０役人は事の成り行きを聞くと、宮殿から駆けつけ、神殿の入口に座って裁判を開きました。　１１すると、祭司と偽預言者たちは、役人と集まった全員に、「この男は死刑にすべきだ。　こいつがどんなにひどい裏切り者かは、お聞きのとおりだ。　だいたい今までだって、この都に不利な預言ばかりしてきたのだ」と告訴しました。

１２エレミヤは次のように自分を弁護しました。　「神様が、この神殿とこの町に不利な預言をせよと、私にお命じになったのです。　私の話したことはみな、神様のおことばです。　１３もし、あなたがたが罪を犯すのをやめ、神様に従うなら、神様はすでに宣告ずみのいっさいの刑罰を思いとどまるでしょう。　１４私は無力で、しかも、あなたがたの手中にあります。　煮るなり焼くなり、好きなようにしてください。　１５ただし、ひと言だけいっておきますが、もし私を殺したら、罪のない者のいのちを奪ったことになります。　その責任はあなたがたと、この町、またここの全住民がとらなければなりません。というのは、神様は確かに、あなたがたの聞いたことを残らず話すようにと、私にお命じになったからです。」

１６これを聞いて、役人をはじめ人々は、祭司と偽預言者に言いました。　「この男は死刑にあたらない。　神様の名によって語ったのだから。」

１７その時、知恵のある何人かの老人が立って、全員に話しかけました。

１８「この決定は正しいと思う。　以前、モレシェテ人ミカがユダ王朝の王ヒゼキヤの時代に、『神様が、この丘は平地の畑のように耕され、エルサレムの都は石の山となり、いま大きな神殿の建っている山頂は森になると言う』と預言しました。　１９ところで、その彼を、ヒゼキヤ王と国民は殺したでしょうか。　反対です。　彼らは悪から離れ、神様を拝み、神様のあわれみをひたすら求めました。　それで神様は、予告しておいた恐ろしい刑罰を下すことを思いとどまったのです。　もし私たちが、神様のお告げを伝えたからというのでエレミヤを殺せば、どんな仕返しをなさるかわかりません。」

２０エレミヤのほかにも、シェマヤの子でキルヤテ・エアリム出身の、ウリヤという本物

の預言者がいて、同じ時期に、エルサレムとその住民とをきびしく非難しました。　２１エホヤキム王をはじめ将校、役人もみな、彼のことばを聞きました。　ところが王は、人をやって彼を殺そうとしたのです。 このことを知ったウリヤは､エジプトへ逃げました。２２すると王は、アクボルの子エルナタンに数人の者をつけ、ウリヤを捕まえに、わざわざエジプトまで行かせました。　２３彼を逮捕し、王のもとへ連れ帰ると、王は彼を八つ裂きにし、死体を無縁墓地に捨てさせました。
２４しかし、シャファンの子で王室の秘書官アヒカムは、エレミヤの味方になり、彼のいのちをねらう暴徒たちの手に渡さないようにしました。
二七
１ヨシヤの子でユダ王朝の王エホヤキムの治世の初めに、神様からエレミヤに別のお告げがありました。
２くびきを作り、それを農耕用の牛につけるように、おまえの首に革ひもで結びつけよ。３それから、エドムの王、モアブの王、アモンの王、ツロの王、シドンの王に、エルサレム在住の大使を通じてことづてを送れ。　４それぞれの主人に、イスラエルの神である天の軍勢の主からのお告げだと言わせよ。
５「わたしは大きな力をもって、地と、全人類と、あらゆる動物を造った。　これらのものを、わたしの眼鏡にかなった者に与える。６わたしはすでにおまえたちの国々を、わたしの代理人であるバビロンの王ネブカデネザルに与えた。　また、おまえたちの家畜をぜんぶ彼のものとした。　７彼の時がくるまで、すべての国は彼とその子孫に仕える。　そのあとで、多くの国民と強い王たちがバビロンを征服し、住民を奴隷とする。　８今は彼の言いなりになり、彼に仕えよ。　おまえたちの首をバビロンのくびきに入れよ。　わたしは、彼の奴隷になろうとしない国民を罰する。　戦争とききんと伝染病を送るので、その国は彼に征服される。
９バビロンの王はおまえたちを奴隷にしないと言う、偽預言者、占い師、夢見る者、霊媒、魔術師のことばに耳を傾けるな。　１０彼らはみな嘘つきだ。 もし、彼らの助言に従い、バビロンの王に降伏するのを拒むなら、おまえたちを国外へ追放し、遠い地に送って滅ぼす。　１１だが､バビロンの王の意のままになる国民は､今までのように自分の国に住み､その土地を耕す。」
１２エレミヤはこの預言をユダの王ゼデキヤにも伝え、こうつけ加えました。　「いのちが惜しかったら、バビロン王に降伏しなさい。１３なぜ、陛下も国民も、そんなに死に急ぐのですか。　なぜ、神様がバビロン王に従わない国々に約束した、戦争とききんと伝染病を選ぶのですか。　１４バビロン王がこの国を征服するはずはないと、しきりに言っている偽預言者のことばを聞いてはなりません。　彼らは、とんでもない嘘つきです。　１５『わたしは送り出した覚えもないのに、彼らはわたしの名によって、おまえたちに嘘をついている。　どうしても彼らの言うことを聞くというなら、おまえを、偽預言者ともどもこの国から追放して、殺すよりほかはない』と、神様は仰せになります。」

１６私はくり返し、祭司と全国民に告げました。　「神様は命じます。　神殿から運び出された金の皿はまもなくバビロンから戻ってくる、と言う預言者に、耳を貸すな。　そんなことが、あるはずはない。　１７彼らの言うことを聞いてはならない。　バビロン王に降伏して生きのびよ。　そうでないと、この町はぜんぶ破壊される。　１８もし、彼らがほんとうに神の預言者であるなら、まだ神殿に残っている金の皿や、王宮とエルサレムの宮殿にある金の皿が、おまえたちといっしょにバビロンへ持ち去られないよう、祈るべきではないか。
１９‐２１天の軍勢の主は、こう言います。　バビロンの王ネブカデネザルが、ユダとエルサレムの重立った人々を、エホヤキムの子でユダ王朝の王エコヌヤとともに連れ去ったとき残しておいた、神殿の前にある青銅の柱、神殿の庭の大きな青銅の水盤、そのほか金属製の台や儀式用具などは、　２２みなバビロンに運び去られ、わたしが取り返すまでそこにある。　後日、わたしはそれらの物をみな、エルサレムへ持ち帰る。」
二八
１その同じ年、ユダ王朝のゼデキヤ王の治世の第四年の七月のある日、アズルの子でギブオン出身の偽預言者ハナヌヤが、神殿の中で私に挑戦しました。　祭司全員と人々が聞いている前で、きっぱり断言したのです。
２「イスラエルの神様である天の軍勢の主は、こう言っています。　わたしは、おまえたちの首からバビロン王のくびきをはずした。　３二年以内に、ネブカデネザルがバビロンへ運び去った神殿の宝物を、ぜんぶ持ち帰る。　４また、エホヤキムの子でユダ王朝の王エコヌヤと、バビロンに移された捕虜全員を連れ戻す。　わたしは必ず、バビロン王がおまえたちの首にかけたくびきをはずす。」
５これを聞いたエレミヤは、祭司と人々の前で、ハナヌヤに言いました。　６「アーメン。あなたの預言どおりになりますように。　全く、神様があなたの言ったことをぜんぶ実現して、神殿の宝物を、愛する同胞といっしょにバビロンから取り戻してくだされば、それほどけっこうなことはない。　７しかし今は、ここにいる人たちの前ではっきりさせておこう。　８昔の預言者たちは、多くの国々に不利なことを話し、いつも決まって、戦争とききんと伝染病の警告をしたものだ。　９だから、平和を予告する預言者は、ほんとうに神様から遣わされたのかどうか、証明してみせなければならない。　預言がそのとおり実現してはじめて、そのことが明らかになるからだ。」
１０ハナヌヤも負けてはいません。　エレミヤの首から例のくびきをはずし、それをこわしました。　１１そして、集まっていた人々に、「見ろ、このとおりだ。　神様は、二年以内に、今バビロンの王ネブカデネザルの奴隷になっている国々の民を解放する、と約束なさった」と宣言しました。　ここまで聞いて、エレミヤは出て行きました。
１２すると間もなく、神様からエレミヤに次のお告げがありました。
１３ハナヌヤのところへ行き、神がこう言うと伝えよ。　おまえは木のくびきをこわしたが、これらの国民は首に鉄のくびきをつけている。　１４イスラエルの神、天の軍勢の主

であるわたしが言う。　わたしは、これらの国民に鉄のくびきをはめ、むりやりバビロンの王ネブカデネザルの奴隷とした。　この運命は、どんなことがあっても変わらない。　おまえたちの家畜まで、彼のものになる。
１５そこで、エレミヤは偽預言者ハナヌヤに言いました。　「よく聞け、ハナヌヤ。　神様はあなたをお遣わしにならなかった。　ところが人々は、あなたの嘘を信じ込んでいる。
１６だから、あなたはどうしても死ななければならない。　これは神様のお告げだ。　今年中に、あなたの寿命は尽きる。　神様に逆らった罰だ。」
１７このことばのとおり、二か月後にハナヌヤは死にました。
二九
１２エコヌヤ王と王母、宮廷の役人、地方長官、それに技術者たちが、ネブカデネザルによってバビロンへ移されてのち、エレミヤはユダヤ人の長老、祭司、預言者、全国民にあてて手紙を書きました。　３この手紙を、ゼデキヤ王の使節としてバビロンの王ネブカデネザルを訪問した、シャファンの子エルアサとヒルキヤの子ゲマルヤの二人に託しました。
手紙の文面は次のとおりです。
４イスラエルの神様である天の軍勢の主は、エルサレムからバビロンへ移された捕虜全員に、こう告げます。
５家を建て、長期の滞在計画を立てよ。　長年にわたってそこにいることになるから、ぶどう園をつくれ。　６結婚して、子供をもうけよ。　子供には相手を見つけてやり、多くの孫が生まれるようにせよ。　人口を減らしてはならない。　７バビロンの平和と繁栄のために努力し、そのために祈れ。　バビロンが平和であれば、おまえたちも平和に過ごせるからだ。
８イスラエルの神様である天の軍勢の主は、こう告げます。　おまえたちのうちにいる偽預言者や霊媒にだまされるな。　彼らの考え出した夢物語を聞いてはならない。　９彼らは、わたしの名をかたって嘘の預言をするからだ。　わたしは彼らを遣わさなかった。　１０ほんとうのことを言うと、おまえたちは一生バビロンにいる。　だが、こうして七十年が過ぎたら、おまえたちを思いやり、約束しておいたいっさいの祝福を与え、故国に連れ戻す。　１１わたしは、おまえたちのために立てた計画をよく知っている。　それは災いではなく祝福を与える計画で、ばら色の将来と希望を約束する。　１２その時になったら、おまえたちが祈る時、わたしは聞き耳を立てる。　１３おまえたちが真剣にわたしを探し求めるなら、見つけることができる。
１４そうだ。　わたしはおまえたちに見つけられる。　わたしはおまえたちを奴隷の身分から解放し、財産を回復し、追いやられた国々から集め、再び故国の土を踏ませる。
１５だが今は、偽預言者の言うことを信じ、神が彼らを遣わしたと言っているので、　１６１７わたしは、エルサレムに残っているおまえたちの親族とダビデの王座についている王に、戦争とききんと伝染病を送る。　彼らは、悪くて食べられない腐ったいちじくのようになる。１８しかもわたしは、彼らを世界各地にばらまく。　彼らは行った先々の国で、

のろわれ、やじられ、あざけられる。　１９わたしが、わたしの預言者をとおして何度も語ったのに、いっこうに言うことを聞こうとしなかったからだ。
２０だから、バビロンにいるすべてのユダヤ人捕虜よ、神様のことばを聞きなさい。　２１イスラエルの神様である天の軍勢の主は、神の名をかたって嘘をついている、コラヤの子の偽預言者アハブとマアセヤの子ゼデキヤについて、こう告げます。　わたしは二人をネブカデネザルの手に渡し、人々の前で処刑させる。　２２彼らの運命は悪いことを表わすことわざとなり、のろいのことばとして、「神様がおまえを、バビロンの王に焼き殺されたゼデキヤやアハブと、同じ目に会わせるように」と言われるようになる。　２３彼らはわたしの国民の間で恐ろしいことをした。　隣人の妻と姦通し、わたしの名をかたって嘘をついた。　わたしは彼らのすることをぜんぶ見てきたので、その行動の一部始終を知っている。　２４その名のとおり夢見る者、ネヘラム人シェマヤには、次のように言え。
２５イスラエルの神様である天の軍勢の主は、こう告げます。　おまえはマアセヤの子の祭司ゼパニヤに手紙を書き、その写しをほかの祭司とエルサレムの全住民に送った。　２６おまえは手紙の中でこう書いた。　「神様は、祭司エホヤダの代わりに、あなたをエルサレムの祭司に任命しました。　ですから、預言者だと自称する狂った男を捕まえ、足かせと首かせをはめる責任があります。　２７それなのにどうして、アナトテ出身の偽預言者エレミヤを放っておくのですか。　２８彼はバビロンにいる私たちに、捕虜になる期間は長いので、しっかりした家を建て、長期の滞在計画を立て、くだものの木を植えるようにと指図しました。　私たちがこれから先ずっとここにいて、その木の実を食べることになるとぬかすのです。」
２９ゼパニヤは、この手紙をエレミヤのところへ持って行き、読んで聞かせました。　３０すると、神様からエレミヤに次のお告げがありました。
３１バビロンに流された者全員に開封の手紙を出し、こう伝えよ。わたしは任命した覚えがないのに、ネヘラム人シェマヤは勝手におまえたちに「預言」し、嘘を信じ込ませようとした。　３２わたしは彼とその家族を罰する。　彼の子孫はだれ一人、わたしの国民のために用意してある祝福を見ない。　彼がおまえたちに、わたしに背くようにと教えたからだ。
三〇
１　これは、神様からエレミヤにあった別のお告げです。
２イスラエルの神様はこう命じます。　わたしがおまえに語ったことをみな、記録に残しておけ。　３わたしの国民イスラエルとユダを、元どおり、先祖に与えたこの地へ連れ戻す時がくるからだ。　彼らはこの地を所有し、再び住みつく。
４また、わたしがイスラエルとユダについて語った次のことばも、書き留めておけ。
５「平和はどこにあるのだ。　あるのは恐怖とおののきだけだ。６男が子供を産むだろうか。　そんなことはありえないのに、どうして彼らは、真っ青な顔をして、産婦のように腰に手をあてて立っているのか」と、彼らは悲鳴をあげる。

７ああ、今までの歴史の中で、やがてくる日のような恐怖の時があったでしょうか。　それは、同胞イスラエルの苦しみの時で、今までに一度も経験したことのないものです。　しかし、神様は彼らを救い出してくださいます。　８天の軍勢の主は、こう約束なさるのです。　その日になると、わたしは彼らの首のくびきをこわし、体に巻きついている鎖を断ち切る。　外国人は二度と彼らの主人にならない。　９彼らは、わたしと、わたしが彼らのために立てる王ダビデに仕えるようになる。
１０わたしのしもべヤコブよ、こわがることはない。　イスラエルよ、うろたえなくてもいい。　わたしがおまえを遠い国から連れ戻し、おまえの子孫を、流されて行った先から連れ戻すからだ。　彼らは自分の国でゆったりくつろぎ、だれも彼らを脅かさなくなる。
１１わたしがそばについていて救うからだ。　たといおまえの寄留先の国々を全滅させても、おまえは根絶やしにしない。　もちろん、全く罰を免れるというわけではないが……。
１２おまえの罪は、どうしても治らない打ち傷のようで、ひどく痛む。　１３助ける者はなく、傷口に包帯を巻く者もいない。　どんな薬も効き目がない。　１４恋人はみな、おまえを置き去りにし、二度とめんどうを見てくれない。　わたしが、まるで敵ででもあるかのように、おまえをひどく傷つけたからだ。　血も涙もない敵のように、容赦なく痛めつけた。　おまえの罪があまりにも多く、とががあまりにも大きかったからだ。
１５なぜ抗議するのか。　当然の刑罰ではないか。　おまえの罪は目もあてられないほど醜いので、悲しみはいつまでも終わらない。　こんなにも懲らしめるのは、おまえのとがが途方もなく大きいからだ。
１６だがいつか必ず、おまえを滅ぼす者はみな滅ぼされ、おまえの敵はみな奴隷となる。おまえから略奪する者は略奪され、おまえを攻撃する者は、逆に攻撃される。　１７わたしはおまえの傷を治し、元の健康体にする。　今は、おまえは「捨てられた者」「だれも欲しがらないエルサレム」と呼ばれている。
１８しかし、神様は約束なさいます。　わたしがおまえたちを捕虜になっていた地から連れ帰り、元の状態に戻す時、エルサレムは廃墟の上に再建される。　宮殿は以前のように建て直され、　１９町には喜びと感謝の声があふれる。　わたしの国民は増え、名誉ある偉大な国民となる。　２０彼らの子孫は、ダビデが王位についていたころのように栄える。国民はわたしの前に堅く立てられ、わたしは彼らに危害を加える者を罰する。　２１彼らは再び指導者をいただく。　しかも、外国人ではない指導者を。　わたしが彼を、わたしの祭壇に仕える祭司にするために招くと、彼はわたしに近づく。　招かれないのに近づく者はいない。　２２おまえたちはわたしの国民となり、わたしはおまえたちの神となる。
２３何もかも吹き飛ばす神のつむじ風が突然おこり、狂ったように悪者どもを直撃する。
２４わたしは、計画しておいた恐ろしい破壊を完了するまでは、激しい憤りをおさめない。のちになって、おまえたちはわたしの言ったことを理解する。
三一
１その時、イスラエルの全家族はわたしを神と認める。　彼らは、わたしの国民として振

る舞うようになる。　２昔わたしが、エジプトから逃げて来たイスラエル人に、荒野であわれみをかけ、休息を与えた時のように、彼らをいたわり、めんどうを見る。　３それというのも、ずっと前に、イスラエルにこう言ったからだ。　わたしの国民よ。　わたしは永遠の愛をもっておまえを愛してきた。　あわれみの綱でおまえを引き寄せてきた。　４イスラエルのおとめよ。　わたしは、おまえの国を再建する。　おまえは元のように幸せになり、タンバリンをたたいて陽気に踊る。　５もう一度サマリヤの山の上にぶどう園をつくり、その実を食べるようになる。
６エフライムの丘に立つ見張りが大声を張り上げ、「さあ､シオン(エルサレム)に上って、神様のもとへ行こう」と言う日がくる。　７神様はこう言います。　地上で最も偉大な国イスラエルに、わたしがどんなことをするかを知って、喜び歌え。　「神様は、イスラエルの残りの民であるご自分の国民を救った」と、賛美と喜びをもって大声で言いふらせ。８わたしが彼らを、北から、また地の果てから連れ戻すからだ。　盲人や足なえ、赤ん坊を連れた若い母親、お産まぢかの女には、特別に目をかける。　彼らは大きな集団となって帰る。　９だれの頬にもうれし涙が伝わる。　わたしは彼らを、こわれ物を運ぶように注意して連れ帰る。　彼らは静かに流れる川のほとりを歩き、つまずくことはない。　イスラエルにとってわたしは父であり、エフライムはわたしの長男だからだ。
１０世界の国々よ、神様からの次のお告げを聞き、言い広めなさい。　神様はご自分の国民を散らしたが、再び集め、羊飼いがその群れを飼う時のように見守ります。　１１イスラエルを、とても歯が立たない敵の手から救い出すのです。　１２彼らは帰国して、シオンの丘で喜びの歌をうたいます。　豊作の穀物、麦とぶどう酒と油、健康そのものの羊と家畜の群れという神様の恵みに浴して、彼らの顔は喜びに輝きます。　彼らのたましいは潤った園のようになり、悲しみは一つ残らず逃げ去ります。　１３娘たちは喜びのあまり踊りだし、男たちは、年寄りも若者も陽気にはしゃぎます。　「わたしは彼らの嘆きを喜びに変え、彼らを慰め、楽しませる。　苦しいことだらけの捕虜の時代は、もう過去のこととなった。　１４わたしは祭司たちを、神殿に運ばれる山のような供え物で、再びもてなす。　わたしの国民がすっかり満足するまで、たらふく食べさせる」と、神様は約束なさいます。
１５神様は私に、再びお語りになりました。　ラマ（バビロンの捕虜となったユダヤ人が集合させられた場所）で激しい泣き声が聞こえる。　ラケル〔ヤコブの妻。　イスラエル王国の母として象徴的に言われている〕は子供のために身もあられもなく泣いているが、どうしても慰めることはできない。　それもそのはず、子供がいなくなったからだ。　１６しかし、神様は約束なさいます。　もう、泣かなくていい。　確かにおまえの祈りを聞いた。　おまえはまた子供に会える。　彼らは遠い敵の国から、おまえのふところへ帰って来る。　１７おまえの将来には希望がある。 おまえの子供は生まれ故郷へ帰って来る。
１８私はエフライムのうめき声を聞きました。　「神様は私をひどく罰しました。　子牛がくびきを負う訓練をさせられるように、私にも懲らしめが必要だったのです。　私を神

様のもとに立ち返らせ、元どおりにしてください。　神様。　ただあなただけが主だからです。１９私は神様に背きましたが、後悔しました。　なんとばかな人間だったのだろうかと反省し、ももの肉をつねりました。　若かったころにしたことを考えると、穴があったら入りたいくらいです。」
２０神様のお答えはこうです。　エフライムは今でもわたしの子だ。　目に入れても痛くない子であることに、変わりはない。　罰を加えないわけにはいかないが、それでもなお、彼を愛している。　いとおしくてたまらないので、きっとあわれみをかけてやる。
２１捕虜として遠い国へ引かれて行く時、イスラエルに帰る目じるしとなる道しるべを、あちこちに立てておけ。　通った道をしっかり頭に入れておけ。　おとめイスラエルよ。やがて、おまえは自分の町町に帰って来ることになる。　２２気まぐれ娘よ。　いつまで、どっちつかずでいるのか。　わたしは、今までに聞いたこともないような新しいことをする。　その時イスラエルは、わたしを尋ね求めるようになる。
２３　イスラエルの神様である天の軍勢の主は、こう言います。　わたしが彼らを連れ戻す時、彼らはユダとその町々で、次のように言うだろう。「義の本家よ。　きよい山よ。神様があなたを祝福されるように。」　２４町の住民も、農夫も、羊飼いも、ともどもに平和で幸福な暮らしをするようになる。　２５わたしは疲れた者には休息を、悲しむ者には喜びを与えるからだ。
２６ここでエレミヤは目を覚まし、「こんな眠りなら、とてもあと味がよい」と言いました。
２７神様はこう言います。　わたしが、このイスラエルで人口をうんとふやし、家畜を増し加える時がくる。　２８以前この国を性懲りもなくこわしたが、今度は注意して築き上げる。　２９人々は二度と、「父親の罪のあとしまつを子供がさせられる」ということわざを、口にしなくなる。　３０だれもが自分の罪のために死ぬようになるからだ。　ほかでもない、すっぱいぶどうを食べた本人の歯が浮くのだ。
３１神様は言います。　わたしがイスラエルおよびユダの国民と、新しい契約を結ぶ日がくる。　３２それは、わたしが彼らの先祖の手をとってエジプトから導き出した時、結んだようなものではない。　彼らがそれを破ったので、やむなく、わたしは彼らを見捨てた。
３３新しい契約とはこうだ。　わたしは、わたしのおきてを彼らの心に刻みつける。　そのため彼らは、わたしをあがめたいという気持ちになる。　こうして、彼らは文字どおりわたしの国民となり、わたしは彼らの神となる。　３４その時はもう、互いに神を知るようにと忠告する必要はなくなる。　身分の高い者も低い者も、だれもがわたしを心底から知るようになるからだ。　わたしは彼らの罪を赦すだけでなく、それをすっかり忘れる。
３５日中は太陽の光を与え、夜を明るくするために月と星を与え、海をかき立てて大波を起こす天の軍勢の主は、こう言います。
３６もし、これらの自然界の法則がなくなるものなら、わたしはわたしの国民イスラエルを見限るだろう。　３７宇宙のすみずみまで正確に測られ、地中深くに埋めてある基礎が現われない限り、罪を犯したからといって、わたしが彼らを捨てることなどありえない。

３８３９神様は言います。 エルサレムの町全体が、わたしのために再建される時がくる。 北東の端にあるハナヌエルの塔から、北西にある隅の門まで、また南西にあるガレブの丘から、南東にあるゴアに至るまで、すべて建て直される。　４０墓地と谷にある灰捨て場を含め、全市が、わたしにとってきよいものとなる。 キデロン川に至るまでの畑ぜんぶ、そこから町の東側にある馬の門に至るまでの地区も、きよいものとなる。　これからは、二度と敵に踏みにじられたり、占領されたりはしない。
三二
１ネブカデネザル王の第十八年にあたる、ユダ王朝のゼデキヤ王の第十年に、神様からエレミヤに次のお告げがありました。　２そのころ、エレミヤは王宮の地下牢に閉じ込められており、一方、バビロンの軍隊はエルサレムを包囲していました。　３ゼデキヤ王が彼をそこに閉じ込めたのは、彼があくまで、エルサレムはバビロンの王に占領され、　４ゼデキヤ王も捕まり、捕虜としてバビロンの王の前に連れ出され、裁かれると預言し続けたからです。
５「彼は陛下をバビロンへ連れて行き、死ぬまで牢に入れておきます。　どうして、この事実を素直に認めないのですか。　勝てるはずはありません。　今、降伏しなさい。」　エレミヤは口をすっぱくして言いました。
６７その時、神様からエレミヤに次のお告げがありました。　まもなく、シャルムの子ハナムエルが来て、アナトテにある畑を買ってくれと頼む。　おまえはいとこで、法律によると、それを買う優先権があるからだ。　８はたしてハナムエルは、そのとおり、牢にいるエレミヤを訪ね、こう頼みました。　「ベニヤミンの地のアナトテにある、私の畑を買ってくれないか。　法律によると、君にそれを買う優先権があるんだ。」　私は、彼の言うことがまちがいなく主から出たことを知りました。
９そこで畑を買うことにし、ハナムエルに銀貨十七枚を払いました。　１０ちゃんと証人の前で契約書に署名した上で封印し、支払いをすませたのです。　１１それから、さまざまの規約を記した封印された証書と、封印されていない写しを受け取り、　１２いとこのハナムエルと証書に署名した証人との前で、看守に見守られながら、その証書をマフセヤの子ネリヤの子であるバルクに渡しました。　１３それから、全員の聞いている前でこう指示しました。
１４「イスラエルの神様である天の軍勢の主の命令です。　封印してある証書と封印のない写しを、つぼに入れて長く保管しておけ。　１５やがてこの証書に価値の出る時がくる。 そのうちにきっと、人々は再びこの国に土地を持ち、家やぶどう園や畑を売り買いするようになる。」
１６証書をバルクに渡すと、私は祈りました。
１７「ああ神様。　神様は大きな力をもって天と地をお造りになりました。　神様にとって、難しいことは何一つありません。　１８神様は愛と恵みに満ちたお方です。　しかし、父親が罪を犯したら、その子供を苦しめるお方でもあります。　偉大な全能の神、天の軍

勢の主です。　１９あらゆる知恵をたくわえ､目をみはるような大きな奇蹟をなさいます。　神様の視線は人のすべての道に注がれており、それぞれの生き方と行為に従って、一人一人に報いるのです。　２０あのエジプトの国では、信じられないようなことをなさいました。　それらのことはみな、今日でも、私たちの記憶に残っています。　しかも、イスラエルばかりか全世界で、今も大きな奇蹟を行ない続けておられます。　こうして、ご自分の名を今日のように偉大なものとなさいました。
２１神様は、目をみはる奇蹟と、大きな力、大きな恐れをもって、イスラエル人をエジプトから連れ出しました。　２２ずっと以前に先祖に約束したこの国を、お与えになりました。　まことにそれは、乳と蜜の流れる地です。　２３私たちの先祖はこの地を占領し、ここに住みつくようになりました。　ところが、彼らは神様に従わず、神様のおきてを守りませんでした。　神様に命じられたことを、ただの一つも行なおうとしませんでした。　だからこそ､この恐ろしい災いが下ったのです。　２４ご覧ください。　町の城壁沿いに、とりでが築き上げられました。　バビロニヤ人がこの町を、剣とききんと伝染病によって攻め取ろうとしています。　何もかも、お告げのとおりになりました。　２５まもなくこの町が敵の手に渡るというのに、神様は私に、畑を買い、証人たちの前で大金を払えとお命じになるのです。｣
２６すると、エレミヤにこのようなお告げがありました。
２７わたしは、全人類の神、主だ。　わたしにとって、ただの一つでも不可能なことはない。　２８わたしは必ず、この町をバビロニヤ人とバビロンの王ネブカデネザルの手に渡す。　彼がここを占領する。　２９また、いま城壁の外にいるバビロニヤ人は、市内に侵入して町に火をつける。　屋上で香をたき、ほかの神々にぶどう酒を注いで、わたしの激しい怒りを買う原因となった家々を焼き払うのだ。　３０イスラエルとユダは、若いころから悪いことばかりしてきた。　彼らは、ありとあらゆる悪でわたしを激怒させた。　３１この町は、建てられた時から今日まで、わたしを怒らせることばかりしてきた。　だから、わたしはこの町を滅ぼす。
３２イスラエルとユダの罪がわたしの顔を逆なでする。　３３彼らはわたしに背いたまま、いっこうに立ち返ろうとしない。　わたしは毎年、くる日もくる日も正しいことと悪いことの区別を教えるのに、彼らは聞こうとも、言いつけを守ろうともしない。　３４神殿の中でさえ憎むべき偶像を拝み、そこを汚した。　３５それでも足りず、ヒノムの谷にバアルの高い祭壇を築いた。　そこで自分の子供を焼き、モレクへのいけにえとした。　こんなことは、命じた覚えもなければ、考えもしなかったことだ。　ユダに大きな罪を犯させる原因となったこの罪は、けたはずれに大きなものだ。
３６だから今、イスラエルの神であるわたしは、この町が戦争とききんと伝染病によってバビロン王の手に落ちると断言する。　３７しかしわたしは、わたしの国民を、憤って散らした国々から連れ戻す。　この町に連れ帰って､安らかに住まわせる。　３８こうして、彼らはわたしの国民となり、わたしは彼らの神となる。　３９また、わたしは彼らと彼ら

の子孫のためを考えて、彼らに、わたしを永久に拝む心と思いを与える。
４０わたしは、二度と彼らを見限ることはなく、恵みだけを与える約束として、彼らと永遠の契約を結ぶ。　彼らの心に、わたしを拝もうという願いを入れるので、どんなことがあってもわたしから離れなくなる。　４１わたしは心から喜んで彼らを幸福にし、この地に再び植える。　４２これらの恐怖と災いを送ったように、その時は、約束しておいたすべての祝福を注ぐ。
４３今はバビロニヤ人に荒らされ、人も家畜も姿を消したこの国で、再び畑が売買されるようになる。　４４ベニヤミンの地でも、ここエルサレムでも、ユダの町々でも、山地でも、平野でも、ネゲブでも、もう一度、証書に署名し、封印し、証人を立てて、畑を売買するようになる。　わたしはいつか必ず、土地を彼らに返すからだ。
三三
１まだエレミヤが牢につながれていた時、神様は二度目のお告げを彼に伝えました。
２主という名の、天と地の造り主である神様は、こう言います。
３わたしに尋ねよ。　そうすれば、この地に起ころうとしている、とても信じられないような不思議なことを教える。　４たとい、この町の家々と王の宮殿をこわし、敵のとりでに対抗するため､城壁を補強する材料にしたとしても、　５バビロニヤ人は侵入して来る。この町の男たちは、すでに死んだも同然だ。　わたしが、激しい怒りをもって殺そうと決めているからだ。　彼らのひどい悪のために、わたしは彼らを見捨てた。　たとい助けを呼び求めても、あわれまない。
６とは言うものの、わたしがエルサレムの損害を補償し、繁栄と平和を与える時がくる。
７ユダとイスラエルの町々を再建し、彼らの財産を元どおりにして返す。　８彼らのすべての罪をきよめ、赦す。　９その時、この町はわたしにとっての名誉となる。　また、わたしの喜びとなり、地上のすべての国々の間で、わたしをあがめ、わたしの栄光を現わす中心地となる。 世界中の人は､わたしがわたしの国民にどんな祝福を与えたかを知って、恐れに取りつかれ、身震いする。
１０１１花婿と花嫁の楽しさいっぱいの声、わたしに感謝の供え物を運んで来る人の喜びの歌が、再び、この破滅を宣告された地で聞けるようになる。　人々は､「神様をほめたたえよう。　神様は恵み深く、そのあわれみは永遠にすたれない」と歌うようになる。　わたしはこの地を、前よりも幸福にし、栄えさせる。　１２今は住民ぜんぶと家畜の滅亡が決まっているものの、もう一度、羊や子羊を導く羊飼いの姿を見るようになる。　１３山地の村々、平野部の東にある町々、ネゲブのすべての町々、ベニヤミンの地、エルサレム近郊、それにユダのすべての町々でも、再び羊の群れが増える。　１４イスラエルとユダに、わたしが約束しておいたすべての祝福の実現する日がくる。
１５その時、わたしはダビデのほんとうの子を王にする。　彼は正義をもって支配する。
１６その日、ユダとエルサレムの人たちは安心して住み､「神様は私たちの正義」という標語を掲げる。　１７それからは、ダビデの世継ぎが永久にイスラエルの王座につくように

なる。　１８さらに、いつもレビ人が、完全に焼き尽くすいけにえをはじめ、その他のいけにえや供え物を、神にささげるようになる。
１９その時、神様からエレミヤに次のお告げがありました。
２０２１わたしが昼および夜と結んだ契約を破り、きちんと決まった時間に、昼や夜がこないようにできるか。　もしできたら、わたしがわたしのしもべダビデと結んだ契約も破られ、彼の王座につく子孫はいなくなる。　このように、神に仕えるレビ人の祭司たちと結んだわたしの契約も、決して破棄されない。　２２星が数えきれず、海辺の砂が量りきれないように、わたしのしもべダビデの子孫と、わたしに仕えるレビ人の子孫は増える。
２３神様は再び、エレミヤにこう語りかけました。
２４おまえは人々が何と言っているか、聞かなかったのか。　彼らは、神はユダとイスラエルを選んでおきながら、見捨ててしまった、と言っている。　イスラエルはもはや国家としての価値がなくなったと言い、あざ笑っている。　２５２６だが、わたしはこう答えよう。　わたしが昼と夜、天と地の法則を変えないように、わたしの国民を捨てるはずはない。　わたしは決して、ユダヤ人とわたしのしもべダビデとを見限らない。　また、ダビデの子がいつかはアブラハム､イサク､ヤコブの子孫を支配するという計画を変えない。それどころか、彼らにあわれみをかけ、その財産を元どおりにする。
三四
１バビロンの王ネブカデネザルと、その支配下の国々の軍隊が一つになって、エルサレムとユダの町々を攻めている時、神様からエレミヤに次のお告げがありました。
２ユダの王ゼデキヤに、神がこう言うと伝えよ。　わたしはこの町をバビロン王に渡すので、彼は町を焼く。　３おまえは逃げられない。　捕虜になってバビロン王の前に引き出され、有罪を宣告される。　そしてバビロンへ連れて行かれる。　４だがユダの王ゼデキヤよ､次のことをよく聞け。 おまえは戦争や虐殺に巻き込まれて死ぬようなことはなく、５人々に囲まれて安らかに死ぬ。　皆、おまえの先祖にしたように、おまえを記念して香をたく。　おまえのために､「ああ、王様が死んでしまった」と泣いてくれる。　このことを確かに言っておく。
６そこでエレミヤは、そのとおりゼデキヤ王に知らせました。　７ちょうどその時、バビロン軍はエルサレムとラキシュ、アゼカを包囲中でした。　ユダでまだ残っている城壁のある町は、これだけだったのです。
８ゼデキヤ王が、エルサレムにいる奴隷を全員解放したのちに、神様からエレミヤに次のお告げがありました。　９王は全住民に、ヘブル人（イスラエル人）の奴隷は男女を問わず自由の身にするようにと命じたのです。　ユダヤ人は兄弟同士だから、奴隷にしてはいけないというわけです。　１０高官や住民はみな王の命令に従い、奴隷を自由の身にしましたが、それは一時的なことでした。　１１あとで心変わりして、使用人を再び奴隷にしました。　１２それで、次のお告げがエルサレムにあったのです。
１３イスラエルの神様は、こう言います。

わたしは、奴隷だったおまえたちの先祖をエジプトから連れ出した時、彼らと契約を結んだ。　１４わたしは彼らに、ヘブル人の奴隷は例外なしに、六年の年季があけたら自由の身にしなければならない、と念を押した。　だが、このことは実行されなかった。　１５ところが最近になって、おまえたちは、わたしが命じたとおりの正しいことをして、奴隷を自由の身とした。　きっと命じられたとおりにしますと、神殿で、おごそかに約束した。
１６ところがどうだ。　今になって急に態度を変え、誓いを破ってわたしの顔に泥を塗り、いったん自由にした人たちを再び奴隷にした。
１７結局おまえたちはわたしの言うことを聞こうとせず、奴隷を解放しないので、戦争とききんと伝染病でおまえたちを殺す。　流浪の民として世界中にばらまく。　１８１９おまえたちは契約を守らなかったので、わたしはおまえたちを、誓いを確かなものとするために牛を二つに断ち切ってその間を通る儀式にならい、真っ二つにする。　高官であろうが、宮廷の役人であろうが、祭司であろうが、一般の市民であろうが、誓いを破った以上は、家畜のように殺す。　２０わたしがおまえたちを敵の手に渡すので、敵はおまえたちを血祭りにあげる。　おまえたちの死体は、はげたかや野獣のえじきとなる。　２１わたしはまた、ユダのゼデキヤ王と部下である役人たちを、いったんこの町から遠のいたバビロン王の軍勢に引き渡す。　２２わたしが呼び戻すので、バビロン軍は再びこの町を攻撃して占領し、火をつける。　必ずユダの町々を、見る影もなくこわし、猫の子一匹いない荒れ跡にする。
三五
１ヨシヤの子のエホヤキムがユダ王朝の王であった時、神様はエレミヤに、こうお語りになりました。
２「レカブの家系の人たちが住んでいる所へ行き、神殿へ連れて来い。　奥の一室に案内して、ぶどう酒をすすめよ。」
３そこで私は、ハツィヌヤの子エレミヤの子ヤアザヌヤのところへ行き、レカブ家を代表する彼と、その兄弟、息子たちを連れて、　４神殿へ行き、イグダルヤの子で預言者のハナンの息子たちにあてがわれている部屋に入りました。　その部屋は、宮殿の役人が使う部屋の隣で、神殿の入口を守るシャルムの子マアセヤの部屋の真上にありました。　５私は彼らの前にぶどう酒の入ったつぼとコップを置き、「さあ飲みなさい」とすすめました。
６ところが、彼らは断わったのです。
「私たちはぶどう酒を飲みません。　先祖レカブの子ヨナダブが、子々孫々、永久にぶどう酒を飲んではならない、と命じたからです。　７また、家を建てたり、作物を植えたり、ぶどう園をつくったり、畑を所有したりせず、いつもテントに住むようにと言いつけました。言われたとおりにして、自分の地で、満ち足りた長寿を全うするためです。　８私たちは、あらゆる点でヨナダブの言いつけを守りました。　ぶどう酒を一滴も口にしませんでしたし、家族の者も、同じようにしてきました。　９家を建てたり、畑を所有したり、作物を植えたりもしませんでした。　１０テントに住み、先祖ヨナダブが命じたことをみ

な忠実に守ってきました。　１１ところが、バビロンの王ネブカデネザルがこの国に攻め上った時、こわくなってエルサレムへ引っ越すことに決めました。　それで今、ここにいるのです。」
１２その時、神様はエレミヤにお語りになりました。
１３　イスラエルの神様である天の軍勢の主は、こう言います。　ユダとエルサレムへ行って、レカブ家の人たちから教訓を学べ。　１４彼らは先祖の命令を守り、ぶどう酒を飲まない。　ところが、おまえたちはどうだ。　わたしが耳にたこができるほど語ったのに、聞こうとも従おうともしない。　１５わたしは次々に預言者を送り、悪の道から離れ、ほかの神々を拝むのをやめるようにと言わせた。　わたしのことばに従うなら、おまえたちと先祖に与えたこの地で、平和に暮らせるようにすると言わせた。　だがおまえたちは、聞こうとも従おうともしなかった。　１６レカブ家の人たちは先祖の言いつけを守ったというのに、おまえたちはわたしの言うことを聞こうとしなかった。　１７だから、イスラエルの神であるわたしは言う。　おまえたちはわたしのことばに耳を傾けず、呼んでもそっぽを向いているので、ユダとエルサレムに、前々から言っておいたすべての災いを下す。
１８１９エレミヤはレカブ家の人たちに振り向いて、こう言いました。「イスラエルの神様である天の軍勢の主は、こう言います。　おまえたちはあらゆる点で先祖の命令に従ったので、おまえたちの家系には、わたしを拝む者が絶えない。」
三六
１ヨシヤの子でユダ王朝のエホヤキム王の第四年に、神様からエレミヤに次のお告げがありました。
２「巻物を取り、わたしがイスラエル、ユダ、その他の国々について語ったことをみな書きつけよ。　まず、ヨシヤの時代に語ったことから始め、わたしのことばを残らず書き留めるのだ。　３ひょっとしたら、ユダの国民は、わたしがこれからしようとしている恐ろしいことが文字になっているのを見て、悔い改めるかもしれない。　そうすれば、彼らを赦す。」
４そこでエレミヤは、ネリヤの子バルクを呼びました。 バルクはエレミヤの口述どおり、全部の預言を筆記しました。
５書き終わったあと、エレミヤはバルクに言いました。　「私は囚人の身だから、　６次の断食の日、私の代わりに神殿でこれを読み上げなさい。　その日は、人々がユダ全国から上って来る。　７ひょっとしたら、彼らは悪の道を離れ、手遅れにならないうちに神様に赦しを求めるかもしれない。　もっとも、ここに書かれている神様ののろいは、すでに宣告ずみだがね。」
８バルクは言われたとおり、神殿で、神様のことばをひと言ももらさず人々の前で読みました。　９このことは、ヨシヤの子エホヤキム王の第五年にあたる十二月の断食日に起こりました。　その日、ユダ全国から人々が、神殿での儀式に参列するため上って来ました。
１０バルクは巻物を読むため、シャファンの子の書記ゲマルヤの事務所へ行きました。　こ

の事務所は新しい門の入口に近く、境内の奥の集会所のそばにありました。
１１シャファンの子ゲマルヤの子ミカヤは、お告げを聞くと、　１２宮殿の会議室へ報告に行きました。　ちょうど、役人たちが待っています。　そこにいたのは、書記官エリシャマをはじめ、シェマヤの子デラヤ、アクボルの子エルナタン、シャファンの子ゲマルヤ、ハナヌヤの子ゼデキヤのほかに、同じ職務につく人たちでした。　１３ミカヤが事情を伝えると、　１４１５役人たちはクシの子シェレムヤの子ネタヌヤの子エフディを使いに出して、バルクに、自ら出向いて神様のお告げを語るようにと言わせました。　バルクは同意しました。
１６　彼が読み終えると、一同はおびえきって言いました。　「ぜひ陛下のお耳に入れなければ……。　１７何はともあれ、このお告げはどこから手に入れたのかね。　エレミヤが口述したのか？」　１８バルクは、エレミヤの口述どおり書き写したと説明しました。
１９役人たちはバルクに忠告しました。　「さあ、二人とも身を隠しなさい。　居場所をだれにも知らせてはいけない。」　２０それから、巻物を書記官エリシャマの部屋に隠し、王に報告するために出かけました。
２１　報告を聞いた王は、さっそくエフディに、その巻物を取って来させました。　エフディはそれを書記官エリシャマのところから持って来て、王とおそばの者たちの前で読みました。　２２ちょうど十二月で寒かったため、王は宮殿の暖房設備のある部屋にいて、暖炉の前に座っていました。　２３エフディが三、四段読むたびに、王はナイフでその部分を切り裂き、火に投げ入れたので、とうとう巻物はぜんぶ灰になってしまいました。　２４２５ところが、エルナタンとデラヤ、それにゲマルヤのほかは、だれも抗議もしません。この三人は、巻物を焼かないようにと訴えましたが、王は耳を貸しませんでした。　そのほかの家来は、王のひどい仕打ちを見ても、感情を外に出しませんでした。
２６王は王子エラフメエルとアズリエルの子セラヤ、それにアブデエルの子シェレムヤに命じて、バルクとエレミヤを逮捕させようとしました。　しかし、神様は二人を隠したのです。
２７王が巻物を焼いたのち、神様はエレミヤに命じました。
２８別の巻物を手に入れ、前のように、わたしの言ったことをすべて書き、　２９その上で王に言え。　「神様は、こう宣告なさいます。前の巻物には、バビロン王がこの国を荒らし、何もかもこわすと書いてあったので、おまえは怒って焼いた。　３０そこで、ユダ王朝のエホヤキム王について、次の一項目をつけ加える。　彼には、ダビデの王座につく者がいなくなる。　彼の死体は捨てられ、太陽の炎熱と夜の霜にさらされる。　３１わたしは彼とその家族、それに家来たちを、それぞれの罪のゆえに罰する。　彼らに、またユダとエルサレムの全住民に、かねて予告しておいたすべての災いを下す。　わたしの警告を聞こうとしなかったからだ。」
３２エレミヤは、もう一つの巻物を取り、先に言ったことをみなバルクに口述しました。ただし、今度は、前にはなかったこともつけ加えてありました。

三七

１バビロンの王ネブカデネザルは、エホヤキムの子エコヌヤの代わりにヨシヤの子ゼデキヤを、ユダの新しい王に選びました。　２ところが、ゼデキヤ王も、家来も、国に残っている民も、神様がエレミヤをとおしてお語りになったことを、聞きませんでした。　３にもかかわらず、王は、シェレムヤの子エフカルとマアセヤの子の祭司ゼパニヤをエレミヤのもとへやり、自分たちのために祈ってくれと言わせたのです。　４そのころ、エレミヤはまだ牢に入れられていなかったので、自由に出入りできました。

５エジプト王の軍隊が、包囲されたエルサレムを救援するためユダの南の国境に現われたので、バビロン軍は一戦を交えるため、エルサレムから退却していました。

６その時、神様からエレミヤに次のお告げがありました。

７「イスラエルの神が、こう言う。　これから先どうなるかを聞くため、使いをよこした王に、エジプト王の軍隊はおまえたちを助けに来たものの、やがてエジプトへ逃げ帰る、と言ってやれ。　バビロニヤ人が彼らを破って、もと来た所に押し返す。　８一方、バビロニヤ人はこの町を占領し、すっかり灰にする。　９バビロニヤ人がもう来ないと考えて、自分をごまかすな。　そんなはずはないからだ。　１０万が一にもバビロン軍を負かし、生き残りのわずかな兵が重傷を負ってテントに横たわったとしても、彼らははい出して来ておまえたちを破り、この町に火をつける。」

１１バビロン軍がエジプトと戦うためにエルサレムの囲いを解いた時、　１２エレミヤは町を出てベニヤミンの地へ行き、自分の買った土地がどうなっているかを見ようとしました。　１３ところが、ベニヤミンの門を出ようとした時、歩哨に見つかり、バビロニヤ人に通じる裏切り者として捕らえられたのです。　その歩哨というのは、ハナヌヤの孫でシェレムヤの子のイルイヤでした。

１４「とんでもない誤解だ。　味方を裏切るつもりは少しもない」と、エレミヤは抗議しました。

しかし、イルイヤは聞こうともしないで、役人たちの詰め所に連れて行きました。　１５

１６彼らが怒ったのは言うまでもありません。さんざんに笞でたたいたあげく、書記官ヨナタンの家を改造してこしらえた地下牢に閉じ込めました。　エレミヤは長い間そこにいました。　１７さて、ゼデキヤ王は彼のところへ使いをやり、こっそり宮殿に呼び寄せました。　神様からのことばが最近あったかと尋ねたかったのです。　エレミヤは、「はい、ありました。　陛下はバビロン王に負けます」と答えました。

１８続いてエレミヤは、牢に入れられたことに話題を変えました。「牢に入れられるようなことは何もしていません。　いったいどんな罪を犯したというのですか。　もし私が、陛下やご家来方、それに一般の民衆に何か悪いことをしたというのなら、それを教えてください。　１９御前で、バビロン王は来ないと断言した預言者たちは、今、どこにいるのですか。　２０陛下、お願いでございます。　どうか私を、あの地下牢に送り返さないでください。　あそこにいたら、死んでしまいます。」

２１そこでゼデキヤ王は、エレミヤを地下牢に戻さないよう手配し、代わりに宮殿付属の牢に入れて、町にパンがある限りは、毎日、焼き立てのパンを一個ずつ与えるようにと命じました。　こうして、エレミヤは宮殿付属の牢にとどまることになりました。
三八
１しかし、マタンの子シェファテヤ、パシュフルの子ゲダルヤ、シェレムヤの子ユカル、それにマルキヤの子パシュフルは､エレミヤが人々に次のように言うのを聞いていました。
２「エルサレムに残っている者はみな、剣かききんか伝染病で死ぬ。　しかし、バビロニヤ人に降伏する者は助かる。　３エルサレムの町は、まちがいなくバビロニヤ人に占領されるのだ。」　４これを聞いた四人は王のところへ行き、こう進言しました。　「陛下、あいつを生かしておくわけにはまいりません。　あんなことを言われたら、わずかしか残っていない兵士と民衆の士気は、くじかれてしまいます。　あいつは大の裏切り者です。」
５王は同意しました。　「よろしい。　おまえたちの好きなようにせよ。　反対するわけにもいくまい。」
６そこで彼らはエレミヤを牢から連れ出し、ロープでゆわえて、構内にある空の井戸につり降ろしました。　この井戸は王子マルキヤのものでした。　中に水はありませんでしたが、泥がたっぷりたまっていたので、エレミヤはその中に沈みました。
７王の信任の厚い役人でエチオピヤ人のエベデ・メレクは、エレミヤが井戸に閉じ込められたと聞くと、　８王が裁きの座についているベニヤミンの門に駆けつけました。
９「陛下。　あの四人は、エレミヤを井戸につり降ろすという、大それたことをしました。町にはもう、パンはほとんどありません。　このままだと、彼は飢え死にします。」
１０すると王は、エベデ・メレクに、三十人を連れて行き、エレミヤが死なないうちに引き上げるようにと命じました。　１１エベデ・メレクはさっそく三十人の男たちを連れ、使い古した衣料が保管してある宮殿の倉庫へ行きました。　そこで見つけたぼろきれや着物をかかえ、エレミヤのいる井戸へ行き、綱に結びつけてつり降ろしました。　１２エベデ・メレクは、大声でエレミヤに言いました。　「ぼろきれをわきの下にはさみ、その上に綱を巻きつけなさい。」　エレミヤがそのとおりにすると、　１３彼らは引き上げ、元いた宮殿の牢に帰しました。
１４ある日、ゼデキヤ王は使いを出して、エレミヤを神殿の通用門に呼びました。
王は言いました。　「ぜひとも聞きたいことがある。　何事も隠し立てはならんぞ。」
１５「ほんとうのことを申し上げたら、陛下は私を殺すに決まっております。　いずれにしても、陛下は私のことばに耳を貸すはずがございません。」
１６王は、彼の造り主である全能の神様を指して、絶対にエレミヤに手をかけたり、そのいのちをねらう者に引き渡したりしないと誓いました。
１７そこでエレミヤは、王に言いました。　「イスラエルの神様である天の軍勢の主は、こう告げます。　もしおまえがバビロン軍に降伏するなら、おまえもおまえの家族も生きのび、しかも町は焼かれずにすむ。　１８だが、降伏することを拒むなら、町はバビロン

の兵士によって焼き払われ、おまえは恐ろしい運命をたどる。」
１９「だがな、余は降伏するのがこわいのだ。　バビロニヤ人は、先に投降したユダヤ人に余を引き渡すだろうし、そうなったら、どうなることかわかったものではないからな。」
２０ためらう王に、エレミヤは答えました。　「神様に従いさえすれば、彼らの手に落ちるようなことはありません。　おいのちは助かり、万事がうまく運びます。　２１２２しかし、あくまで降伏を拒むなら、王宮にいる婦人たちはみな引き出され、バビロン軍の将校たちのものになります。　婦人たちは、陛下を恨み、口ぎたなくののしるでしょう。『陛下はエジプト人という、すてきな友人をお持ちですこと。　ご覧なさいませ、彼らはみごと裏切り、陛下を悲惨な運命に渡してくれましたわ』というふうに。　２３ご家族はみな、バビロニヤ人の前に引き出されます。　陛下ご自身も同じ目に会います。　陛下はバビロン王に捕らえられ、町は焼け野原になります。」
２４これを聞いた王は、エレミヤに言いました。　「たとい口が裂けても、いま余に言ったことをだれにも話すな。　２５家来どもが、会見のことを知って、話の内容を教えなければ殺すと脅したら、こう言うのだ。　２６ヨナタンの地下牢にいたら死ぬに決まっているので、そこへ送り返されないよう、王に嘆願したまでです、とな。」
２７王の推測どおり、まもなく町の役人たちが押しかけ、なぜ王は彼を呼び出したのかと尋ねました。　エレミヤは、王に言われたとおり答えたので、だれにも本当のことはわからずじまいでした。　王との会見を立ち聞きした者はいなかったからです。　２８エレミヤは、エルサレムがバビロニヤ人の手に落ちるまで、牢に閉じ込められたままでした。
三九
１ユダ王朝のゼデキヤ王の第九年の十二月末、ネブカデネザルの率いる軍隊は再びエルサレムの攻撃にかかり、町を包囲しました。　２それから二年後の六月末、ついに彼らは城壁を破り、町を占領しました。　３バビロン軍の将校はみな入城して、中央の門に座り、戦勝祝賀会を開きました。　そこにいたのは、ネルガル・サル・エツェル、サムガル・ネブ、サル・セキム、指揮官のネルガル・サル・エツェル、そのほか大ぜいでした。
４ゼデキヤ王とその護衛兵たちは、町が落ちたのを見て、夜の間に抜け出し、王宮の庭のうしろにある二重の城壁の間にある門を通り、ヨルダンの渓谷に向かって野原を横切ろうとしました。　５ところが、バビロニヤ人は王を追いかけてエリコの草原で捕まえ、ハマテの地リブラにいたネブカデネザルのところへ引き立てました。　ゼデキヤを裁判にかけようというのです。　６バビロン王はゼデキヤの目の前で、彼の子供と、ユダの貴族全員を殺しました。　７そのあとで彼の両眼をえぐり出し、鎖につないで、奴隷としてバビロンへ引いて行ったのです。
８一方、エルサレムの町は王宮もろとも焼き払われ、城壁は無残な姿をさらすばかりでした。　９親衛隊長ネブザルアダンとその部下は、町に残っている住民と、投降した者をバビロンへ連れて行きました。　１０しかし、ごく貧しいわずかの人たちは、そのままユダの各地に残しておき、畑とぶどう園を与えました。

１１１２一方、ネブカデネザル王はネブザルアダンに、エレミヤを捜し出すよう命じました。　「あの男が無事かどうか、見て来い。　十分めんどうを見てやって、欲しいものは何でも与えるのだ。」　１３そこで、親衛隊長ネブザルアダン、宦官の長ネブシャズ・バン、指揮官ネルガル・サル・エツェル、そのほかの将校たちは、王の命令を実行に移す相談をしました。　１４まず兵士たちをやってエレミヤを牢から連れ出し、シャファンの子アヒカムの子ゲダルヤにあずけ、無事に家へ帰らせることにしました。 こうしてエレミヤは、国に残っている人々とともに、故国で暮らすことになったのです。
１５ところで、バビロン軍が来る前、エレミヤがまだ牢に閉じ込められていた時、神様から次のお告げがありました。
１６「エチオピヤ人エベデ・メレクに、こう伝えよ。　イスラエルの神である天の軍勢の主は言う。　わたしはこの国民に、予告した災いをすべて下す。　この町をおまえの見ている前で滅ぼすが、　１７おまえは救い出す。　おまえがひどく恐れている者の手にかかって殺されるようなことはないから、安心するがいい。　１８わたしに信頼したほうびとして、いのちを助け、危害を受けないように守ってやるのだ。」
四〇
１親衛隊長ネブザルアダンは、バビロンへ引いて行かれるエルサレムとユダの捕虜といっしょに、エレミヤをラマまで連れて行き、そこで彼を釈放しました。
２３隊長はエレミヤを呼んで言いました。「あなたの神様は、かねてからの預言どおり、この国に災いをお下しになりました。　ユダの国民が神様に罪を犯したので、こうなったのです。　４さあ、鎖をはずして、あなたを自由の身としましょう。　私といっしょにバビロンへ来るなら、それもけっこうです。　責任をもって、あなたの生活が十分に保証されるように取り計らいましょう。　もちろん、帰ってもかまいません。　あなたの自由です。　好きな所へ行きなさい。　５もし、自分の国にいたければ、バビロン王がユダの総督に任命したゲダルヤのもとへ帰り、残っている人たちといっしょに生活しなさい。　いずれにしても、あなたの気持ちしだいです。　好きなようにしなさい。」
ネブザルアダンは、食糧と贈り物を与えた上でエレミヤを去らせました。　６エレミヤはゲダルヤのもとへ帰り、国に残っている人たちといっしょに暮らしました。
７さて、田舎にいたユダヤのゲリラ隊の隊長たちは、バビロン王が国民全員をバビロンへ連れて行ったわけでなく、ゲダルヤを総督に任命して、あとに残った貧民を治めさせていることを聞きました。　８そこで彼らは、総督府のあるミツパに来て、ゲダルヤに面会しました。　隊長たちの名は次のとおりです。　ネタヌヤの子イシュマエル、カレアハの子ヨハナンとヨナタン、タヌフメテの子セラヤ、ネトファ人エファイの子ら、マアカ人の子エザヌヤ。　ほかに部下もいっしょでした。　９ゲダルヤは、バビロン軍に降伏するのがいちばん安全だ、と説得しました。
「ここにいて、バビロン王に仕えなさい。　そうすれば、何もかもうまくいきます。　１０私はミツパにいて、行政指導に来るバビロニヤ人たちに、あなたがたのことを口添えし

ましょう。　好きな町に落ち着いて、この国で生活しなさい。　ぶどうと夏のくだもの、それにオリーブの実を取って、たくわえておきなさい。」
１１モアブや、アモン人のところ、エドム、その他の近くの国々にいたユダヤ人たちは、ユダにはわずかながらもまだ人々が住んでいること、バビロン王は全員を連れて行かなかったこと、ゲダルヤが総督になったことなどを聞きました。　１２彼らはみな、亡命先の国々からユダに帰って来ました。　まず、ミツパに足を止め、ゲダルヤと善後策を講じてから、ほったらかしの畑へ行き、ぶどう酒用のぶどうをはじめ、多くの作物を集めました。
１３１４このことがあってから間もなく、カレアハの子ヨハナンとほかのゲリラ隊長らがミツパに来て、アモン人の王バアリスがネタヌヤの子イシュマエルに、ゲダルヤを暗殺させようとしていると知らせました。　ところが、ゲダルヤは信じようとしません。　１５しかたなく、ヨハナンはゲダルヤとひそかに相談することにしました。　だれにもわからないようにイシュマエルを殺す役を、買って出ようというのです。
ヨハナンは言いました。　「彼があなたを殺すのを、おめおめ見ていられますか。　そんなことにでもなったら、わざわざ国へ帰って来たユダヤ人は、どうなるのですか。　残っている人たちが散り散りになって滅んでも、いいのですか。」
１６しかし、ゲダルヤは答えました。　「そんなことは、絶対してはならない。　でたらめを言うのも、いいかげんにしろ。」
四一
１十月に入って、王族の一人、エリシャマの子ネタヌヤの子イシュマエルは、十人の部下を連れてミツパに来ました。　ゲダルヤは一行を食事に招きました。　２ところが食事の最中に、イシュマエルと、仲間の者は、急に立ち上がって剣を抜き、ゲダルヤを殺したのです。　３そのあと出かけて行って、ミツパでゲダルヤのそばにいたユダヤ人の役人、バビロンの兵士をも虐殺しました。
４次の日、外部の人がこの出来事をまだ知らないうちに、　５シェケム、シロ、サマリヤから、神殿に参拝するために、八十人の者がミツパに来ました。　めいめいひげをそり、着ている物を裂き、体に傷をつけて、供え物や香を運んでいました。　６イシュマエルは、わざと泣きながら町の外へ出て、彼らを見ると言いました。　「さあ、いっしょに来て、ゲダルヤがどうなったか見てください。」
７こうして、全員が町に入ると、イシュマエルと部下たちは、十人を別として残り全員を殺し、死体を穴に放り込みました。　８助かった十人は、隠しておいた小麦、大麦、油、それに蜜を必ず持って来るから、いのちだけは助けてくれと、イシュマエルに頼んだのです。９死体を投げ込んだ穴は大きなもので、アサ王がイスラエル王朝のバシャ王を恐れて、ミツパの防備を固めた時に掘ったものでした。
１０イシュマエルは、王女たちと、親衛隊長ネブザルアダンがゲダルヤに任せた人たちとを捕虜にし、すぐさまアモン人の国へ旅立ちました。
１１カレアハの子ヨハナンをはじめとするゲリラ隊長たちは、イシュマエルのしたことを

聞くと、　１２部下を引き連れてあとを追い、ギブオンの近くの池のそばで、一行を見つけました。　１３１４捕虜になっていた人たちは､ヨハナンとその部下たちの姿を見ると、歓声をあげて走って来ました。
１５一方、イシュマエルは八人の部下とともに、アモン人の地へ逃げのびました。
１６１７さて、ヨハナンとその部下は、救い出した兵士、婦人、子供、宦官などを引き連れて、ベツレヘム近郊のゲルテ・キムハムという村へ行き、そこでエジプトに脱出する準備を始めました。　１８イシュマエルが、バビロン王の立てた総督ゲダルヤを殺したというニュースが伝わったら、バビロニヤ人はどんな報復に出るかわかったものじゃない、と恐れたのです。
四二
１ヨハナン、ホシャヤの子イザヌヤ、将校たちをはじめ、身分の高い者も低い者も、そろってエレミヤのところへ行き、　２こう頼みました。　「どうか、あなたの神様に祈ってください。　よくご存じのように、私たちはあとに残った、ほんのひと握りの仲間です。
３あなたの神様が私たちに、どうしたらいいか、またどこへ行ったらいいかを教えてくださるよう、頼んでみてください。」
４「いいですとも。　神様に尋ねてみましょう。　神様のお語りになることは、包み隠さずお知らせしますよ。」
５「もし、私たちが神様のお語りになったことに背くようだったら、のろわれてもかまいません。　６お告げが気に入ろうが、気に入るまいが、神様に従います。　従いさえすれば、何もかもうまくいくからです。」
７それから十日して、神様の返事がエレミヤにありました。　８彼はヨハナンと、その下にいる隊長たち､それに身分の高い者も低い者もみな呼んで、　９こう言いました。「あなたがたは私を代わりに立て、イスラエルの神様に尋ねさせました。　これが神様からの返事です。
１０この地にとどまれ。　そうすれば、おまえたちを祝福する。　だれひとり危害を加える者はいない。　わたしは、おまえたちに刑罰を下したことを後悔している。　１１これ以上バビロン王をこわがるな。　わたしがついている。　必ず彼の手からおまえたちを助け出してやる。　１２気の毒なおまえたちのために、彼に同情心を起こさせるので、彼はおまえたちを殺したり、奴隷にしたりせず、かえって、これまでどおり国におられるように取り計らってくれる。
１３１４しかし、神様に逆らって､『ここにいるのはいやだ』と言い、戦争や飢えや危険のない別世界だと考えているエジプトへ、どうしても行こうとするなら、　１５イスラエルの神様は、きっぱり断言なさいます。　ユダの残りの者よ。　どうしてもエジプトへ行くと言ってきかないなら、　１６おまえたちの恐れている戦争とききんが、すぐうしろからくっついて行き、おまえたちを滅ぼす。　１７これが、エジプトに住もうと言いはる者の運命だ。　おまえたちはまちがいなく剣と、ききん、それに伝染病で死ぬ。　エジプトで

わたしが下す災いを免れる者は、一人もいない。
１８イスラエルの神様である天の軍勢の主は、こう断言なさいます。　わたしの怒りと憤りは、エルサレムの住民に注がれたように、エジプト入りした者にも注がれる。　おまえたちは侮られ、憎まれ、のろわれ、ののしられる。　しかも、二度と祖国を見ることはできない。　１９なぜなら、わたしは『ユダの残りの者よ、エジプトへ行ってはならない』と、はっきり命じたからだ。」
こう言うと、エレミヤは話をしめくくりました。　「私がきょう警告したことを、決して忘れてはなりません。　２０もし、それでも行くなら、いのちはありません。　あなたがたが私を代わりに立てて神様に祈らせ、『神様のお語りになるとおりを知らせてください。私たちは従いますから』と言ったことは、真っ赤なうそになるからです。　２１きょう私は、神様のご命令を、そのとおり伝えました。　ところがあなたがたは、いつものように、やっぱり従おうとしません。　２２だから、このことを頭にたたき込んでおきなさい。　あなたがたは、どうしても行くのだと言ってきかないエジプトの地で、剣とききんと伝染病によって死にます。」
四三
１エレミヤが、神様のことばをすべての人に語り終えた時、　２３ホシャヤの子アザルヤと、カレアハの子ヨハナン、その他の思い上がった者が、エレミヤをきめつけました。「うそだ。　神様が、エジプトへ行ってはならないなどと言うはずがない。　ネリヤの子バルクが陰謀を企て、そう言わせたに違いない。　われわれをこの地に残して、バビロニヤ人に殺させたり、奴隷としてバビロンに連れて行かせたりするためにな。」
４このように、ヨハナンをはじめ、ゲリラ隊長たち、それに残っていた者はみな、神様の命令に従ってユダにとどまることを拒みました。　５こうして、亡命先の近くの国々から帰って来た人も含めて、すべての者が、ヨハナンや他の隊長とともに、エジプトめざして出発しました。　６その中には、男、女、子供、王女たち、それに親衛隊長ネブザルアダンがゲダルヤに託したすべての人がいました。　彼らは、エレミヤとバルクも力ずくで連れて行き、　７エジプトのタフパヌヘスに着きました。　彼らは神様のことばに従わなかったのです。
８タフパヌヘスで、神様は再びエレミヤに語りかけました。
９「ユダの人たちを呼び集めよ。　彼らの見ている前で、このタフパヌヘスにあるエジプト王の宮殿の入口にある敷石の間に、大きな石を埋めるのだ。　１０それから、皆にこう言ってやれ。　イスラエルの神様である天の軍勢の主は言います。　わたしはまちがいなく、わたしの意のままに動くバビロンの王ネブカデネザルを、このエジプトに連れて来る。彼の王座を、いま隠した石の上にすえる。　彼は、その石の上に王の天蓋を張る。　１１彼はエジプトに来て荒らし、わたしが殺そうと思っている者をみな殺し、わたしが捕虜にしようと思っている者を捕虜にする。　また、多くの者が伝染病にかかって死ぬ。１２彼はエジプトの神々の神殿に火をつけ、偶像を焼き、人々を奴隷にして連れ去る。　彼はま

た、羊飼いが着物についた虱をつぶすように、エジプトを踏みつぶし、しかも無傷で去る。１３ヘリオポリスにある偶像の記念塔はこわされ、エジプトの神々の神殿も焼き払われる。」
四四
１エジプト北部のミグドル、タフパヌヘス、メンピスの町々、それにエジプト南部に住む全ユダヤ人について、次のお告げがエレミヤにありました。
２３イスラエルの神様である天の軍勢の主は、こう言います。　おまえたちは、わたしがエルサレムとユダのすべての町にしたことを見た。　それらの町々は、はなはだしい悪のために灰になり、廃墟となって、今は猫の子一匹も住んでいない。　自分も先祖も知らなかったような神々を拝んで、わたしの怒りを買ったからだ。　４わたしはわたしのしもべである預言者を送って、わたしの憎む、このような恐ろしいことをしないようにと、何度も警告し、説得してきた。　５それなのに、少しも言うことを聞かず、悪の道を捨てなかった。　性懲りもなく、神々にいけにえをささげ続けた。　６そのため、わたしの憤りは爆発し、火のようにユダの町々とエルサレム市内に燃え移り、現在のような廃墟としたのだ。
７イスラエルの神様であり、天の軍勢の主でもある神様は、あなたがたに尋ねます。　なぜおまえたちは、好んでいのちを絶とうとしているのか。　ユダから逃げてこの地に来た者は、男、女、子供はもちろん、抱かれている乳飲み子さえ、一人として死を免れることはできない。　８おまえたちは、エジプトへ来てまで偶像を拝み、香をたいて、わたしの怒りをかき立てている。　だから、おまえたちをとことんまで滅ぼし、全世界の国々ののろいとし、鼻つまみものとする。９おまえたちは、ユダとエルサレムでの先祖の罪、ユダの王と王妃たちの罪、おまえたち自身の罪、それにおまえたちの妻の罪を忘れてしまったのか。　１０今の今まで、申しわけないことをしましたとわびた者は、だれもいない。　一人として、わたしに立ち返ろうとせず、わたしがおまえたちの先祖に与えたおきてに従おうとしない。
１１そのため、イスラエルの神様である天の軍勢の主は言います。わたしは怒りで全身が熱くなった。　おまえたちを一人残らず滅ぼしてやる。　１２エジプトに来ることを強く主張した、この生き残りのユダヤ人を皆殺しにする。　彼らはここエジプトの地で倒れ、ききんと剣でいのちを落とし、身分の高い者も低い者も、一人残らず死ぬ。　彼らはさげすまれ、忌みきらわれ、のろわれる。　１３わたしは、エルサレムの住民を剣とききんと伝染病で罰したように、エジプトにいる彼らを罰する。　１４ここに来たことを悔い、ほかの者と別行動をとって故国に帰る者のほかは、ただの一人も、わたしの憤りから逃げることはできない。
１５そこに居合わせた女たちと、妻が偶像に香をたいていることを知っている男たちは、声を一つにして言い返しました。　エジプト南部には、おびただしい数のユダヤ人がいたのです。

１６「そんな偽のお告げには、同意できません。　１７私たちの好きなようにさせてください。　ご先祖や、王たち、重立った人たちが、ユダの町々やエルサレムでいつもしていたように、思いきり『天の女王』に香をたきたいのです。　あのころは、食べ物がどっさりあり、しあわせいっぱいでした。　１８ところが、『天の女王』に香をたいて拝むのをやめてからというもの、災い続きで、剣とききんにたたられどおしです。」
１９女たちも、負けずに口をはさみました。　「私たちはちゃんと夫に相談してから、『天の女王』を拝み、それにぶどう酒を注ぎ、女王に象ったケーキを作ったのですよ。　黙って内緒でなんかするものですか。」
２０それでもエレミヤは、簡単には引っ込みません。
２１「あなたがたや、あなたがたの先祖、王、重立った人たち、それに全国民が、ユダの町々とエルサレムで偶像に香をたいていたことを、神様がご存じないとでも思うのですか。
２２神様があなたがたの悪に我慢できなくなったので、祖国は今のように荒れ果てて、お話にならないほど破壊され、のろわれ、人っ子ひとり住まなくなったのです。２３こんな恐ろしい運命に見舞われたそもそもの原因は、あなたがたが香をたき、神様に罪を犯し、神様に従うことをやめたところにあります。」
２４さらにエレミヤは、女たちも含め、全員に言いました。　「エジプトに住むすべてのユダヤ人は、神様のおことばを聞きなさい。　２５イスラエルの神様である天の軍勢の主は、こうお語りになります。　おまえたちも妻も、『天の女王』にいけにえをささげることを絶対にやめない、と言った。　しかも、このことを態度で証明してきた。　それなら、『天の女王』に誓ったことを果たすがいい。　２６だがいいか、エジプトに住むすべてのユダヤ人よ。　わたしの言うことをよく聞け。　これからは、『神様、どうか助けてください』と言って、わたしの助けと祝福を求めても手遅れだ。　２７おまえたちに目は留めるが、祝福のためではない。　災いがもろに襲うようにするのだ。　だから、おまえたちは戦争とききんで倒れ、ついには死に絶える。
２８ユダに帰るほんのひと握りの者だけが、わたしの憤りに会わない。　だが帰国を拒んで、エジプトに居すわる者はみな、ほんとうのことを言っているのがわたしであるか、それとも彼らであるかを、いやと言うほど思い知るのだ。　２９わたしが前々から警告していたことはみな実現し、わたしはこの地でおまえたちを罰する。　これが、わたしのことばが正しいという証拠だ。　３０わたしは、ユダ王朝のゼデキヤ王をバビロンの王ネブカデネザルに渡したように、エジプトの王ホフラを、彼のいのちをねらう者の手に渡す。」
四五
１ヨシヤの子エホヤキム王が即位して四年目に、バルクはエレミヤの口述するままに、神様のことばを書きつけました。　そののち、エレミヤは彼に言いました。
２バルクよ。　イスラエルの神様が、あなたにこう言います。
３おまえはこう言ったな。　私は実にみじめな人間だ。　もう十分に苦しんできたのに、神様は、なおも苦しみをお加えになった。　出るのはため息ばかりで、ゆっくり休むこと

さえできない。　４こう言うバルクに、次のように答えてやれ。　わたしは、わたしの建てたこの国をこわし、わたしの築いたものを引き抜く。　５おまえは、自分のために特別なことを求めてはならない。　わたしはこの国民に大きな災いを下すが、おまえには報いとして、どこへ行っても守ってやることにする。
四六
１ほかの国々についてエレミヤが聞いた神様のお告げを、次に書き留めておきます。
エジプト人について
２ヨシヤの子でユダ王朝のエホヤキム王が即位して四年目に、エジプトの王ネコの率いる軍隊が、ユーフラテス川のほとりで、バビロンの王ネブカデネザルに敗れたカルケミシュの戦闘の時、エジプトについて次のお告げがありました。
３エジプト人はよろいに身を固め、戦いに出て行け。　４馬に鞍をつけ、いつでも乗れるようにしておけ。　かぶとをかぶり、槍の穂先をみがき、よろいを着よ。　５だがどうしたわけか、エジプトの軍勢は恐れに取りつかれて逃げて行く。　人一倍の武勇を誇る兵士さえ、うしろを振り向きもせず、一目散に逃げる。　恐れが四方八方から彼らを取り囲む。
６どんなに足の速い者も、どんな勇士も、逃げることはできない。　北のユーフラテス川のほとりで、彼らはつまずき倒れる。
　７　洪水の時期のナイル川のようにわき上がり、各地にあふれていくこの強大な軍隊は、どこの国のものか。　８それは、すべての国々を洪水のようにおおい、すべての敵を破るとうそぶく、エジプトの軍隊だ。　９馬と戦車、それに無敵を誇るエジプト兵たちよ、さあ、来い。　盾を取り、弓を引きしぼるエチオピヤ、プテ、ルデの人たちも来い。　１０きょうこそ、天の軍勢の主の日、わたしが敵に復讐する日だ。　剣はおまえたちの血を十分に吸い、これ以上一滴も飲めないというまで働く。　きょう、天の軍勢の主であるわたしに、北の地ユーフラテス川のほとりで、いけにえがささげられるからだ。　１１エジプトの娘よ、薬を捜しにギルアデに上れ。　だが、そうしても、おまえの傷は治らない。　どんなに薬を使っても、元の健康には戻らない。　１２国々はおまえの恥を聞いた。　地はおまえの絶望と敗北の叫び声で満ちる。　おまえの勇士は鉢合わせして、共に倒れる。
１３次に神様は、バビロンの王ネブカデネザルがエジプトを攻撃することについて、こうお語りになりました。
１４エジプトで、バビロン軍の来襲を大声で伝えよ。　ミグドル、メンピス、タフパヌヘスの町の人々に言い広めよ。　滅びの剣が周囲を食い尽くすから、兵士を集めて戦いの準備をせよ。　１５なぜ、おまえたちの雄牛の神アピスは、真っ青になって逃げたのか。　神様が敵の前で、彼を打ちのめしたからだ。　１６数えきれないほどの人が倒れ、死人の山ができる。　その時、ユダヤ人の残った者は言う。　「さあ、生まれ故郷のユダへ帰ろう。こんな恐ろしい虐殺の現場から遠ざかろう。」
１７エジプトの王ホフラの名を、「力はないが、実に騒がしい男」と変える。
１８天の軍勢の主である王は、こう言います。　タボル山か海に突き出たカルメル山のよ

うに背の高い者が、エジプトに襲いかかる。　１９エジプトの住民は、荷物をまとめ、捕虜になって連れて行かれるしたくをせよ。　メンピスの町は根こそぎにされ、一人も生き残らないからだ。　２０２１エジプトは若い雌牛のように肌がつややかだ。　だが、北からあぶが飛んで来て、彼女を追い回す。　かの名高い傭兵たちも、おびえきった子牛のようになり、回れ右して逃げる。　エジプトに徹底した罰が下り、大災害の見舞う時がきたからだ。　２２２３エジプトは、蛇が身をくねらせて姿を消すように、音もなく逃げる。代わりに、侵略軍が入って来て、数えきれないほどの兵士が、森の木立を切り払うきこりのように、人々をなで切りにする。　２４この北から来た国民の前では、エジプトは少女のように無力だ。

２５イスラエルの神様である天の軍勢の主は、こう言います。　わたしはテーベの神アモン、その他のエジプトの神々を罰する。　また、エジプト王と、王を頼りとするすべての者を罰する。　２６彼らを、彼らを殺すのを生きがいとするバビロンの王ネブカデネザルと、その軍隊の手に渡す。　しかし後日、エジプトは戦争の荒廃から立ち直る。

２７だが、祖国に帰るわたしの国民よ、こわがったり、うろたえたりするな。　わたしは遠くにいるおまえたちを救い、おまえたちの子孫を遠くの国から連れ戻すからだ。　イスラエルは帰って来て平穏無事に住み、何ものにもおびえない。　２８わたしのしもべヤコブよ、恐れるな。　わたしがついている。　わたしは、おまえの寄留していたすべての国々を滅ぼすが、おまえには手をかけない。　懲らしめはするが、それもおまえの曲がった性根をまっすぐにするためだ。

四七

ペリシテ人について

１ガザがエジプト軍に占領される前に、この町のペリシテ人について神様がエレミヤに語ったことばは、次のとおりです。

２神様はこう言います。　北から洪水が押し寄せて、ペリシテ人の地にあふれようとしている。　それは、町々とその中にあるものを何もかも破壊する。　強い男たちでも恐れて悲鳴をあげ、国中の民が泣きわめく。　３遠くから聞こえるひづめの音と、地響きを立てる戦車の車輪の音を聞け。　父親は、泣き叫ぶわが子には目もくれず、一目散に逃げる。

４すべてのペリシテ人と、ツロおよびシドンの同盟軍の滅ぼされる時が、ついにきたのだ。神様が、カフトル（クレテ島周辺）からの開拓者であるペリシテ人を滅ぼすのだ。　５ガザとアシュケロンの町は、跡をとどめないまでに破壊され、廃墟となる。　アナク人の子孫は、どれほど嘆き悲しまなければならないことか。

６神様の剣は、いつになったら休むつもりでしょう。　元のさやに納まって、静かに休みなさい。　７しかし、いったん神様が使命を与えたからには、じっとしていることはできません。　アシュケロンの町と、海岸沿いの住民は、どうしても殺されなければならないのです。

四八

モアブ人について
１モアブについて、イスラエルの神様である天の軍勢の主は、こう言います。
ネボの町はひどい目に会い、跡形もなくこわされる。　キルヤタイムの町は占領され、それを守る要塞はつぶされる。　２‐４もう、だれもモアブのことを鼻にかける者はいない。その命はつけねらわれているからだ。　すでにヘシュボンでは、モアブを破壊する手はずが整った。　「さあ、あの国を滅ぼして、地上から抹殺しよう」と、彼らは言う。　マデメンはひっそり静まり返っている。　一方、ホロナイムには戦いの物音が近づく。　こうして、モアブは全滅し、その叫び声はツォアルにまで響く。　５泣きながらルヒテの坂を上る避難民の耳には、下に見える町からの、恐怖の叫びが聞こえる。　６いのちが助かるために逃げ、荒野に身をひそめよ。　７おまえたちは自分の腕を頼みとし、富を誇ったので、滅びる。　おまえたちの神ケモシュは、祭司や重立った人たちとともに、遠い国へ連れ去られる。
８村も町も、高台にあると谷間にあるとの区別なく、すべて滅びる。　わたしがそう言ったからだ。　９モアブに羽が生えてどこかへ飛んで行けたら、どんなにいいだろうに。　この国の町々には、いのちある者は一人もいなくなるからだ。　１０モアブの血を流すのをいとい、剣を抜くのをひかえる者は、のろわれよ。　わたしが与えた仕事に手をつけない者は、のろわれよ。
１１モアブは建国以来、外敵から守られ平穏無事に過ごしてきた。この国は、びんからびんに移し変えられないぶどう酒のようで、香りがよく、口あたりがなめらかだ。　だが今度は、捕虜として外に注ぎ出される番だ。　１２乱暴者が来て、つぼからつぼへ荒々しく移し変え、しかも、そのつぼを粉々に砕く時がすぐにくる。　１３その時になってはじめて、ベテルでイスラエルが子牛の偶像を恥ずかしいと思ったように、モアブは自分の偶像ケモシュを恥ずかしく思うようになる。
１４あなたがたは、「われわれは英雄だ。　歴戦の勇士だ」とうぬぼれていたころのことを覚えていますか。　１５しかし今、「モアブは滅ぼされようとしている。　滅ぼす者が近づいている。　えり抜きの若者も血祭りにあげられる」と、天の軍勢の主である王が言います。　１６大きな災害が足早にモアブに近づいています。
１７モアブの友人たちよ、モアブのために大声で泣きなさい。　力と美しさを誇ったこの国は、粉々に砕かれました。　１８ディボンの人たちよ、栄光の座を降り、ちりの中に座りなさい。　モアブを滅ぼす者はディボンも荒らし、すべての塔を倒すからです。　１９アロエルの住民よ、道のそばに立って、モアブから逃げて来る人たちに、「いったい何が起こったのですか」と聞いてみなさい。
２０彼らは答えるでしょう。「モアブは焼け野原になりました。　大声で泣きなさい。　アルノン川の土手で、モアブは滅びたと伝えなさい。」
２１平地にあるすべての町は廃墟になりました。　神様の刑罰は、これらの町ぜんぶに下されたのです。　ホロンも、ヤハツ、メファアテも、　２２ディボン、ネボ、ベテ・ディ

ブラタイムも、　２３キルヤタイム、ベテ・ガムル、ベテ・メオンも、　２４キルヨテ、ボツラも、それに、モアブの国の遠くや近くにあるすべての町々も、同じ運命に会いました。
２５モアブは角を切り取られ、両腕を折られ、すっかり骨抜きになりました。　２６酔っぱらいのようにふらつき、倒れるままにしておきなさい。　神様に背いた罰です。　モアブは自分の吐いたへどの中で転げ回り、すべての人にさげすまれます。　２７それというのも、イスラエルをさげすんで強奪し、それが倒れた時、手を打って喜んだからです。
２８モアブの人たちよ、町を捨てて逃げ、岩の裂け目に巣を作る鳩のように、ほら穴に住みなさい。　２９モアブの思い上がりは度はずれのものだったので、私たちの耳にまで達しました。　その、他人を見下す横柄な態度、思い上がった心を、私たちは知っています。
３０「わたしはモアブの思い上がりを知っている」と、神様は言います。　しかし、そのうぬぼれは根拠のないもので､から威張りにすぎません。　３１私はモアブのために泣き、私の心は、キル・ヘレスの人々のことを思って痛みます。
３２ぶどうのお陰で富んでいるシブマ（良質のぶどうの産地）の人よ。私はヤゼルの人以上に、あなたがたのために泣きます。　滅ぼす者が来て、よく伸びたあなたがたのつるを切り、ぶどうと夏のくだものを横取りしたからです。　そのため、あなたがたは丸裸になりました。　３３実り豊かなモアブから、喜びと楽しみの声が消え、酒ぶねに入れるぶどうもなく、喜びの声をあげてぶどうを踏む者もいません。　なるほど、叫び声は聞こえますが、それは歓声ではありません。　３４恐怖と苦痛の、身の毛もよだつ叫び声が、ヘシュボンからエルアレとヤハツ、ツォアルからホロナイムとエグラテ・シェリシヤに渡る国中に響きます。　ニムリム川沿いの牧草地は、今ではすっかり荒れ地になりました。
３５「わたしは、モアブが偽の神々を拝み、偶像に香をたくのをやめさせた」と、神様は言います。　３６私は、モアブとキル・ヘレスのために嘆き悲しみます。　彼らのせっかくの富も消えうせたからです。　３７彼らは苦しみもだえて頭の毛とひげをそり、手に傷をつけ、袋を作る荒布を身にまといます。　３８どのモアブ人の家からも、路上からも、泣き悲しむ声が聞こえます。　「わたしがモアブを、だれも見向きもしない古いびんのように割ったからだ」と、神様は言います。　３９なぜこわされたのでしょう。　泣きわめく声を聞き、モアブの恥に目を留めなさい。　モアブは今、周囲の人たちにとって、恐怖とさげすみのしるしとなっています。
４０「モアブの上空を、不吉の使者のはげたかが輪を描いて飛んでいる」と、神様は言います。　４１町々は攻め取られ、要塞はつぶされます。　大の勇士も、産みの苦しみをする女のように、恐れに取りつかれて弱くなります。　４２モアブは、もはや国ではありません。　神様に大きな口をたたいたからです。　４３「モアブよ、恐れと罠と裏切りが、おまえの分け前になる。　４４逃げる者は落とし穴に落ち、そこからやっとはい上がったかと思うと、今度は罠に足をはさまれる。　わたしは、おまえがどんなにもがいても脱出できないように、目を光らせる。　おまえの刑罰の時がきたのだ」と、神様は言います。

４５彼らは、やっとの思いでヘシュボンまで逃げのびますが、それ以上は行けません。　シホンの先祖の土地であるヘシュボンから火が出て、国の端から端までなめ尽くし、反逆者たちをみな焼き殺します。
４６ああ、モアブよ。　恐ろしい運命があなたを待ち受けています。　ケモシュの神を拝む人々は滅びました。　あなたの息子と娘は、奴隷として連れ去られます。　４７「だが、後日、わたしはモアブの国を再建する」と、神様は言います。
モアブについての預言は、これで終わりです。
四九
アモン人について
１おまえたちは、ここで何をしているのか。　なぜユダヤ人の町に住んでいるのか。　そこはユダヤ人だけの住みかであり、彼らがわたしから受け継いだ所ではないか。　それなのに、ミルコムの神を拝むおまえたちが、なぜガドとその町々を占領したのか。　２このため、わたしはおまえたちを罰し、おまえたちの町ラバを破壊する。　そこは人の住まないごみの山となり、近くの町々も焼き払われる。　そのあとイスラエルが来て、おまえたちの手から国を取り戻し、失ったものを奪い返す。　こう神様は言います。
３ヘシュボンよ、アイが滅びたのだから、泣きわめくがいい。　ラバの娘よ、喪服を着け、垣根に身を隠し、ぞんぶんに泣け。　おまえの神ミルコムが、重立った人や祭司とともに、遠い国へ連れて行かれるからだ。　４おまえは、よく肥えた谷間の地を自慢にしているが、それはまもなく荒れ地になる。　根性の曲がった娘よ。　おまえは自分の財産を心の拠り所とし、手出しする者はだれもいないと考えていた。　５だが、見ているがいい。　わたしはおまえに恐怖を送る。　天の軍勢の主である神様が、こう言います。　隣人たちはおまえをおまえの国から追い出し、おまえが捕虜になって連れ去られるのを横目で見ながら、逃げて行く。　６だが、後日、わたしはアモン人の国を元どおりに繁栄させる。
エドム人について
７天の軍勢の主はこう言います。　昔いた賢い連中はどこへ行ったのか。　テマンには、もう知恵者は一人もいないのか。　８デダン〔隊商で栄えた、アラビヤ北部の町〕の人よ、砂漠のいちばん奥まで逃げて行け。　わたしはエドムを罰する時に、おまえたちをも罰するからだ。　９１０ぶどうを収穫する者は、貧しい者のことを考えて少しは残しておく。　どろぼうでさえ、いっさいがっさい盗んで行くようなことはしない。　だが、わたしがエドムを丸裸にするので、隠れる所はどこにもない。　子供も、兄弟も、隣人も、一人残らず殺され、おまえ自身も滅びる。　１１だがわたしは、生き残ったみなしごたちを守り、未亡人たちがわたしを頼りとするようにする。
１２神様はエドムに言います。　罪のない者さえ苦しむとしたら、おまえは、どれほど苦しまなければならないことか。　罰を受けずにすむはずはない。　どうしても、このさばきの杯を飲まなければならない。　１３ボツラは荒れ果て、のろいとあざけりを受けるようになると、わたしは自分の名にかけて誓ったのだ。　その町々は永遠の廃墟となる。

１４私は神様から、次の知らせを聞きました。
神様はエドムを滅ぼす同盟軍を起こすため､国々に呼びかける使者を送り出しました。　１５神様は言います。　わたしはこの国を弱くし、周囲の国々にさげすまれるようにする。　１６おまえはペトラの山々に住み、岩の裂け目に住んで、自分の名声と思い上がりにだまされてきた。　だが、わしのように高い峰に住んでいても、わたしはおまえを引きずり降ろす。
１７エドムは非常に恐ろしい目に会う。　そこに近づく者はみな、あまりにも悲惨な光景に背筋が凍り、息の止まる思いがする。　１８おまえの町々は、ソドムとゴモラやその近くの町々のように静まり返る。　二度とそこに住む者はいない。　１９わたしが彼らのもとに、ヨルダンの密林から出て、囲いの中の羊に忍び寄るライオンのような侵略者を送るので、一瞬のうちにエドムは滅びる。　そのあとで、わたしの選んだ者をエドム人の上に立てよう。　わたしのような者がいるだろうか。　だれがわたしを呼びつけて、報告を求めることができよう。　どこの羊飼いが、わたしに反抗できよう。　２０次のことを心に留めておきなさい。　神様はまちがいなくエドムとテマンの住民に、小さな子供さえ奴隷になって引きずられて行く光景を見せます。　それは、見るに耐えない悲惨なことです。　２１エドムが倒れる音で地は揺れ動きます。 人々の叫び声は紅海にまで聞こえます。　２２襲いかかる者は、はげたかのように速く飛んで来て、ボツラに向かって翼を広げます。　それを見て、大勇士の勇気もくじけ、産みの苦しみをする女のようになります。
ダマスコについて
２３ハマテとアルパデの町々は、恐れに取りつかれた。　彼らの運命がどうなるかを聞いたからだ。　彼らの心は、嵐の荒れ狂う海のように、ざわめき立っている。　２４ダマスコはすっかりおじ気づき、住民はみな逃げた。　恐れと苦しみと悲しみが、産婦に取りつくように、ダマスコに取りついた。　２５ああ、名の知れた町、喜びの町よ。　どうしておまえは、今になって見捨てられたのか。　２６若者たちは、死体となって路上に横たわっている。　おまえの軍隊は、ただの一日で蹴散らされてしまう。　そう天の軍勢の主は言います。　２７わたしはダマスコの城壁に火をつける。　その火で、ベン・ハダデの宮殿は焼け落ちる。
ケダルとハツォルについて
２８次の預言は、ケダルとハツォル〔どちらも、パレスチナ東方の荒野に住むアラブ遊牧民〕の王国についてのものです。　これらの王国は、神様の命令を受けたバビロンの王ネブカデネザルによって、まもなく滅ぼされようとしています。　２９神様は言います。　彼らの羊の群れもテントも、家庭用品ともどもに奪い取られる。　らくだも連れ去られ、「われわれは包囲された。　いよいよ最期だ」という恐怖にひきつった叫び声が、あちこちから聞こえる。　３０いのちが助かるために逃げよ。　ハツォルの人たちは砂漠の奥へ隠れよ。　バビロンの王ネブカデネザルが陰謀をめぐらし、おまえたちを根絶やしにしようと手はずを整えているからだ。

３１神様はネブカデネザル王に、こう言いました。　「さあ、のん気そのもので、砂漠に孤立して住んでいる金持ちのベドウィン族に襲いかかれ。　彼らは、だれの力も借りずにやっていけるとうぬぼれ、城壁も門もいらないと大口をたたいている。　３２彼らのらくだと家畜はみなおまえのものになる。　わたしはこのアラブ人を吹き散らし、四方八方から災難を呼び寄せる。」
３３ハツォルは砂漠の野獣の住みかになります。　人も住まない、永遠の荒れ地となるのです。
エラムについて
３４ユダの王ゼデキヤの治世の初めに、エラムについてのお告げが、エレミヤにありました。
３５天の軍勢の主はこう言います。　わたしはエラムの軍隊を破る。　３６また、四方からの風でエラムの住民を吹き散らす。　そのため、彼らは世界中の国々に流れ着く。　３７わたしは激しく怒ってエラムに大きな災いを下し、敵がこの地の住民を一掃するように仕向ける。　３８わたしはわたしの王座をエラムに置き、王と重立った者たちを滅ぼす。
３９だが、後日、わたしはエラム人を呼び戻す。
五〇
バビロンについて
１次は、神様が預言者エレミヤをとおして、カルデヤ人の国バビロンについて語ったことばです。
２全世界の人に､バビロンは滅びると告げよ。 この国の神であるメロダクは赤恥をかく。
３北から一つの国が攻め上り、この地を二度と人が住めないほど徹底的に荒らすからだ。
人も家畜も逃げる。
４その時､イスラエルとユダの国民は､泣きながら､彼らの神であるわたしを尋ね求める。
５シオン（エルサレム）に通じる道を尋ね、故国をめざして帰る。　「二度と破ったりしない永遠の誓いを立て、神様にしっかり結びつこう」と、彼らは言う。
６わたしの国民は迷った羊だ。　羊飼いたちはとんでもない方角に彼らを連れて行き、山の中に置き去りにした。　彼らは道に迷い、どうしたら元の場所へ帰れるかと途方にくれた。　７彼らを見つけた者は彼らをさんざん食い物にし､「こいつらを好きなように料理しよう。　この連中は、正義の神であり、彼らの先祖の望みであった神様に罪を犯したのだから」と言った。
８しかし今度は、カルデヤ人の国バビロンから逃げ出せ。　わたしの国民を故国に連れ帰れ。　９わたしは北方の強い国々の軍隊を奮い立たせ､バビロンに敵対させるからだ。　バビロンは滅びる。　敵の矢は的をめがけて飛んで来て、一本もはずれない。　１０バビロンはすっかり丸裸になる。
１１わたしの国民から身ぐるみはぎ取ったカルデヤ人よ。　おまえたちは喜び、みずみずしい草の茂る放牧地の牛のように肥え太り、種馬のようにいなないても、　１２おまえた

ちの母は赤恥をかいて顔を伏せる。　おまえたちはいちばん弱い国となり、荒野となり、乾ききった砂漠となるからだ。　１３わたしの怒りによって、バビロンはさびれた荒れ地となる。　そこを通り過ぎる者は血の気を失い、そのすべての傷を見てあざける。
１４回りを取り囲むすべての国々よ、バビロンと戦う準備をせよ。弓を引く者は、バビロンめがけて矢を放て。　彼は神に逆らって罪を犯したのだから、矢を惜しまず、容赦なく射かけるのだ。　１５四方から、いっせいにときの声をあげよ。　城壁はくずれ、バビロンは降伏する。　わたしはとうとう復讐した。　バビロンがしたとおりのことを、お返ししてやれ。　１６畑で働く外国人は、みな逃げろ。　敵の軍勢が攻めて来るから、自分の国に走って帰れ。
１７イスラエル人はライオンに追われる羊のようだ。　初めはアッシリヤの王がその肉を食い、次にはバビロンの王ネブカデネザルが、骨までしゃぶった。　１８そこで、イスラエルの神である天の軍勢の主は、こう言います。　わたしは今度は、アッシリヤを罰したように、バビロンの王とその国に罰を加える。　１９わたしはイスラエル人を故国に連れ戻す。　彼らはカルメルとバシャンで草を食べ、もう一度、エフライムとギルアデの山々でしあわせに暮らすようになる。　２０その日には、イスラエルにもユダにも、罪は一つも見あたらなくなる。　わたしは残った者たちを赦すからだ。
２１わたしの勇士たちよ。　メラタイム〔南部バビロニヤ〕とペコデ〔東部バビロニヤ〕に攻め上れ。　わたしがさばこうとしている反逆の国バビロンに、威勢よく進撃せよ。　命令しておいたとおり、彼らを根絶やしにせよ。　２２国中に戦いの雄たけび、大きな破滅の叫びがあがるように。　２３地上のすべての国々を打った強力な金槌は折られ、粉々になった。　バビロンは国々の中で、荒れ果てた地となった。　２４バビロンよ。　わたしがおまえに罠をしかけ、おまえを捕まえたのだ。　おまえがわたしに戦いをいどんだからだ。
２５わたしは兵器庫を開き、敵に怒りをぶちまけようと武器を取り出した。　バビロンに降りかかった恐怖は、天の軍勢の主であるわたしが指図したものだ。　２６遠くから来てバビロンに攻めかかれ。　穀物倉に押し入り、城壁と家々をこわして高く積み上げ、とことん荒らすのだ。　めぼしいものは何一つ残すな。　２７家畜にまで、のろいが下るように。　それを一頭残らず殺せ。　バビロンの荒廃の時がきたからだ。
２８だが、わたしの国民は逃げ出す。　彼らは故国に逃れ、彼らの神であるわたしが怒りに狂い、神殿をこわした者たちに仕返ししたと報告する。
２９弓を引く者をバビロンに呼び集めよ。　この都を包囲し、蟻一匹はい出るすきもないようにするのだ。　バビロンがほかの国々にしたとおりに仕返ししてやれ。　彼らはイスラエルのきよい神であるわたしに大きな口をたたき、公然と反抗したからだ。　３０若者は路上に倒れて死に、勇士は皆殺しになる。　３１天狗になっている者たちよ。わたしはおまえたちの敵になる。　おまえたちのさばきの日が、ついにきたのだ。　３２高ぶる国よ。　おまえはつまずいて倒れるが、だれも起こしてくれない。　わたしが町々に火をつ

け、何もかも灰にするからだ。
３３天の軍勢の主はこう言います。　捕虜になったイスラエルとユダの国民は虐待されている。　主人どもは彼らを釈放しようとしない。３４だが、彼らを救い出す者は強く、その名は天の軍勢の主だ。　わたしは彼らの訴えを聞き、彼らが自由の身となり、再びイスラエルの地で静かに暮らせるように取り計らう。
だが、バビロンの住民に安息はない。　３５破滅の剣がカルデヤ人に切りかかる。　それはバビロンの住民を、重立った者も知恵のある者も区別なしに切りまくる。　３６賢い助言者も薄ばかになり､何ものをも恐れない勇士もあわてふためく。３７戦いが起こって、馬も戦車ものみ尽くす。　同盟を結んだほかの国々の者らは、女のように腰抜けになり、財宝はみな略奪される。　３８そればかりか、水の補給さえなくなる。　どうして、このようになるのだろうか。　国中に神々の像が立ち、国民は狂わんばかりに偶像を慕っているからだ。
３９バビロンの都は、だちょうや山犬、砂漠の野獣の住みかとなり、人は二度と住みつかない。　永久に荒れ果てた地となる。　４０わたしは、ソドムとゴモラとその近くの町々を滅ぼしたように、バビロンをも滅ぼす。　これらの町々に人が住まなくなったように、バビロンにも人が寄りつかなくなる。
４１北から大軍が押し寄せて来ます。　神様が多くの国から呼び集めた王たちが、この軍隊を指揮しています。　４２彼らは完全武装していて、残忍で血も涙もありません。　その雄たけびは、海辺に打ち寄せる波のように響き渡ります。　バビロンよ。　彼らは戦いのしたくを整え、馬に乗って攻めかかります。
４３バビロンの王は、敵が来たという報告を受けると、肩を落としました。　産みの苦しみをしている女のように、恐怖の苦痛に取りつかれたのです。
４４ヨルダンの密林から出て､草を食べている羊に飛びかかるライオンのような侵略者を､わたしは彼らに突然おそいかからせる。　彼らを守る者たちを追い払い、わたしの気に入った指導者を立てる。　わたしのような者がいるだろうか。　わたしの決めたことに盾をつく支配者が、どこにいるだろうか。　だれがわたしを呼びつけて、説明を求めることができようか。　４５カルデヤ人の国バビロンへの、わたしの計画を聞け。　小さな子供たちでさえ､奴隷になって引かれて行く｡身の毛もよだつほど恐ろしいことではないか。　４６バビロンの倒れる地響きで、全地は揺れ動く。　その断末魔の叫びは、世界のすみずみに届く。
五一
１神様はこう言います。　わたしは、カルデヤ人の住むバビロンをすみずみまで滅ぼす者たちを、勇気づける。　２ふるい分ける者たちが来て、バビロンをふるいにかけ、吹き飛ばす。　彼らは、災いの日に四方八方から来て、攻め立てる。　３敵の矢はバビロンの射手を倒し、勇士のよろいを貫く。　生きのびる者は一人もいない。　若者も老人もみな、いのちを落とす。　４カルデヤ人の地に倒れ、めった切りにされて路上で息絶える。　５

わたしは、イスラエルとユダを見捨てたわけではなく、いぜんとして彼らの神である。　だがカルデヤ人の地は、イスラエルのきよい神に対する罪で満ちている。
６バビロンから逃げ出し、自分のいのちを救いなさい。　罠にかかってはいけません。　そのまま残ったら、神様がバビロンのすべての罪に報復なさる時、巻き添えを食います。　７バビロンは、神様の御手にある金の杯のようでした。　すべての国々はこれから飲んで、酔いつぶれました。　８ところが今度は、突然、そのバビロンが倒れたのです。　この国のために泣きなさい。　薬を与えなさい。　ひょっとしたら、元どおりになるかもしれません。　９できることなら助けたいのです。　しかし今となっては、どんな手を打っても救えません。　この国を見捨てて、故国へ帰りなさい。　神様がこの国に天罰を下しているからです。　１０神様は私たちの顔を立ててくださいました。さあ、エルサレムで、神様のなさったすべてのことを言い広めましょう。
１１矢じりをとぎ、盾を高く掲げなさい。　神様はメディヤ人の王たちを勇気づけてバビロンに乗り込ませ、これを滅ぼすことに決めたからです。　これが、神様の国民を虐待し、神殿を汚した者たちへの報復です。　１２バビロンよ、守備を固め、城壁に見張りを大ぜい立て、伏兵を隠しておきなさい。　神様は宣言したことをみな実行するからです。　１３商業の中心地である繁栄した港よ。　いのちの糸が切られる最期の時がきました。　１４天の軍勢の主はご自分の名にかけて、こう誓いました。　おまえの町々は、無数のばったが群がる畑のように、敵兵であふれ返る。　彼らは、天にも届けとばかり、勝ちどきをあげる。
１５神様は力と知恵をもって地をお造りになりました。　すぐれた知性をもって天を張り広げました。　１６神様が口を開くと大空に雷がとどろき渡ります。　神様は大地から水蒸気をのぼらせ、ご自分の倉から、雨と風を伴ういなずまを取り出します。　１７神様に比べたら、人間は知能の低い獣で、一かけらの知恵もありません。　金細工人は偶像を作るたびに、ますます良心が鈍くなります。　偶像には、いのちのしるしである息がないのに、それを作るたびに神様ができたと言って、うそをつくからです。　１８偶像は、毒にも薬にもならない、むなしいものです。　神様が来てそれをみな滅ぼす時が、近づいています。　１９イスラエルの神様は偶像ではありません。　この神様があらゆるものを造り、イスラエルをご自分の国民となさいました。　その名は天の軍勢の主です。
２０バビロンは神様のための戦いの斧であり、また剣です。　神様は言います。　わたしは国々を木端微塵に砕き、多くの王国を滅ぼすためにおまえを用いる。　２１おまえを使って軍勢を蹴散らし、馬と乗り手を倒し、戦車とそれに乗っている者をひっくり返す。　２２おまえを使って、年寄りも若者も、若い男も若い女も、　２３羊飼いも羊の群れも、農夫も牛も、指揮官も総督も倒す。　２４わたしはイスラエルの目の前で、バビロンとカルデヤ人に報いる。　彼らがわたしの国民に加えたすべての悪に仕返しするのだ。
２５　全世界を破壊する大きな山、バビロンよ。　わたしはおまえを攻める。　おまえにこぶしを振り上げ、高い所から突き落とし、おまえを焼けただれた山にする。　２６おま

えは永久に荒れ地となり、おまえの石さえも、建築用として再生されない。　おまえは地上から完全に一掃されるのだ。
２７多くの国々に合図して、バビロンを攻める兵士を集めなさい。雄たけびをあたりに響かせなさい。　アララテ、ミニ、アシュケナズの軍隊を呼びなさい。　指揮官を決め、長蛇の列をなして馬を進めなさい。　２８バビロンめざして、メディヤ人の王たちと将軍たち、その支配下の国々の軍隊を攻め上らせなさい。
２９バビロンは震え、苦痛で身もだえします。　神様がこの国について計画したことはみな、少しも変更されないからです。　バビロンは、人っ子ひとり住まない荒れ地となります。　３０大勇士でも、戦う気力を失い、仮小屋に引きこもります。　腰抜けになり、女のようになるのです。　侵略者たちは家々を焼き、町の門をこわしました。　３１伝令が四方八方から王のもとへ駆けつけ、何もかも失われたと報告します。　３２退路はすべて断たれ、とりでは焼き払われ、兵士たちは大混乱に陥っています。
３３イスラエルの神様である天の軍勢の主が、こう言ったからです。　バビロンは打ち場に積まれた麦のようだ。　もうすぐ、からざおで打たれる。
３４３５バビロンのユダヤ人たちは訴えます。「バビロンの王ネブカデネザルは、私たちを食い物にし、踏みつけ、骨なしにしました。　怪物のように私たちをのみ込み、私たちの財宝で腹を満たし、私たちをイスラエルから追放しました。　バビロンに、このすべての悪事の報いを刈り取らせ、その手で流した私たちの血を完全に償わせてください。」
３６それに対して、神様はこうお答えになります。 わたしはおまえたちの弁護士となり、おまえたちのために報復する。　バビロンの川を干上がらせ、その水の補給を断つ。　３７こうしてバビロンは、石くれの山となり、山犬が住みつき、人っ子ひとりいない、見るも恐ろしい地となる。　３８バビロニヤ人は無礼講を開いてしたたかに飲み、ライオンのようにほえる。 ３９彼らがありったけのぶどう酒を飲んで気持ちが大きくなっている時、わたしは彼らのために別の宴会を設け、彼らが意識を失って倒れ、永遠の眠りにつくまで飲ませる。 ４０彼らを子羊のように、また雄羊や雄やぎのように、屠殺場に引いて行く。
４１全世界の人のあこがれの的だった、あの偉大なバビロンは、なぜ倒れたのか。　世界は、バビロンが倒れるのを見て、わが目を疑う。　４２海がせり上がってバビロンを包むと、それは波におおわれた。　４３町町は廃墟となった。　バビロンは、人っ子ひとり住まず、旅人さえ寄りつかない、乾ききった荒れ地となる。　４４わたしはバビロンの神であるベルを罰し、その口から、彼がのみ込んだ物を取り出す。　諸国民は二度と彼を拝まない。　バビロンの城壁は倒れてしまった。
４５わたしの国民よ、バビロンを脱出し、わたしの激しい怒りから自分を救え。　４６外国の軍隊が近づいて来るといううわさを聞いても、うろたえるな。　うわさは、いつになっても絶えないものだ。　だが、この国に内戦が起こり、各州の総督が互いに戦う時がくる。　４７わたしがこの大都市とこの国のすべての偶像を罰する時が、きっとくる。　そうなれば、町中に死人がごろごろ転がるようになる。　４８バビロンを攻める強力な軍勢

が北から来るので、天も地もこおどりして喜ぶ。　そう神様は言います。　４９かつてイスラエルの国民を殺したように、今度はバビロンが殺される番です。　５０剣から逃れた者は、立ち止まって、あたりの様子を見ていてはいけません。　力の限り逃げなさい。　神様を思い出して、はるかかなたのエルサレムへ帰って行きなさい。
５１「バビロンから来た外国人たちの手で神殿が汚されたので、私たちはとても恥ずかしい思いをしました。」
５２「そのとおりだ」と、神様は言います。　しかし、バビロンの偶像がこわされる時が近づいています。　国中に、傷ついた人のうめき声が聞こえます。　５３「たとい、バビロンが天のように高くなり、その力が信じられないほど増し加わったとしても、必ず死ぬ」と、神様は言います。
５４カルデヤ人の支配する地、バビロンにあがる断末魔の叫びを聞きなさい。　５５神様はバビロンの息の根を止めます。　その大きな声も、やがては大波にのまれて消えます。
５６すべてのものを破壊する軍勢が攻めて来て、勇士たちを血祭りにあげます。　武器という武器は、どれもこれも、まるで役に立ちません。　神様がバビロンに与えるものは、当然の刑罰だけです。　５７わたしは、この国の重立った者、知恵のある者、支配者、指揮官、それに勇士たちを酔いつぶす。　彼らは深い眠りに落ち、二度と目を覚まさない。こう天の軍勢の主である王が言います。　５８バビロンの厚い城壁はくずれて平らになり、高い城門も無残に焼け落ちます。　多くの国から呼び集められた建築士は、造った物が火で焼かれるため、むだ骨を折ったことに気づきます。
５９ゼデキヤ王の治世の第四年に、エレミヤをとおして、次のお告げがマフセヤの子のネリヤの子セラヤにありました。　それは、主計長セラヤがユダの王ゼデキヤとともに捕まり、バビロンへ流される、というものでした。　６０エレミヤは、先に書いたような、神様がバビロンに下そうとしているすべての災害を巻物に書き留め、　６１６２その巻物をセラヤに渡して言いました。　「バビロンに着いたら、私の書いたことを読み、次のように言いなさい。　『神様。　あなたはバビロンを滅ぼし、そこを猫の子一匹いない、永遠に見捨てられた所にする、とお語りになりました。』　６３６４読み終えたら、石を結びつけてユーフラテス川に投げ込み、こう言いなさい。『このように、バビロンは沈み、二度と浮かび上がらない。　わたしがこの国に災いを招くからだ。』」
これで、エレミヤのことばは終わります。
五二
〔以下は、三十九章の記事の補足です。〕
１ゼデキヤは二十一歳で王となり、十一年間エルサレムで王座につきました。　彼の母はリブナ出身のエレミヤの娘で、名をハムタルといいました。　２ところが彼は、先代のエホヤキムのように悪名の高い王でした。　３悪事の限りを尽くす王に、神様はとうとう怒りを燃やし、バビロン王に反逆するよう仕向けたのです。　こうして王とイスラエル国民は、神様の前から追放され、エルサレムとユダをあとにして、遠くバビロンへ捕虜として

連れ去られました。
４ゼデキヤが即位して九年目の、十二月二十五日（ユダヤ暦では十月十日）に、バビロンの王ネブカデネザルは全軍を率いてエルサレムを攻め、周囲にとりでを築き、　５二年間この町を包囲しました。　６六月二十四日（ユダヤ暦では四月九日）になって、町ではききんがひどくなり、ついに最後の食糧も底をついたので、　７住民は城壁に穴をあけ、また兵士たちもみな夜のやみにまぎれ、王の庭園の近くにある二重の城壁の間にある門を通って、町の外へ逃げました。　町はカルデヤ人にすっかり囲まれていたからです。　人々は野原を横切り、アラバめざして急ぎました。
８しかし、カルデヤ兵はあとを追い、エリコに近い野原で、護衛兵に逃げられて孤立しているゼデキヤ王を捕まえました。　９兵士たちは、ハマテのリブラという町にいるバビロン王のところへ彼を引き立てて行き、そこで軍事裁判にかけました。　１０ゼデキヤは、目の前で､息子をはじめユダの重立った人たちが虐殺されるのを見せつけられたあと、１１両眼をえぐり出され、鎖につながれてバビロンへ引いて行かれ、死ぬまで牢に閉じ込められていました。
１２バビロンの王ネブカデネザルが即位して十九年目の七月二十五日（ユダヤ暦では五月十日）に、親衛隊長ネブザルアダンがエルサレムに乗り込んで、　１３神殿と王宮、それにすべての邸宅を焼き、　１４兵士たちに、町の城壁をいっせいに取りこわすように命じました。　１５それから、貧民の一部、町がこわされた時に生き残っていた者、ゼデキヤを見限ってバビロン軍に投降した者、それにまだ残っていた交易商人を、捕虜としてバビロンへ連れて行きました。　１６しかし貧民の一部は残して、ぶどう園の手入れをさせたり、畑を耕させたりしました。
１７バビロニヤ人は、神殿の入口に立つ二本の大きな青銅の柱と、牛の形をした青銅の台と､その上にすえてある青銅の洗盤を取りはずして､バビロンへ運びました。　１８また、すべての青銅のつぼと湯わかし、祭壇で使う十能、芯切りばさみ、そのほか神殿で使ういっさいの器具を差し押さえました。　１９さらに、火皿、純金と純銀の燭台、茶わん、鉢も奪いました。
２０　途方もなく大きな二本の柱、洗盤、それに十二の青銅の牛の目方は、大へんなものでした。　とても量りようがありません。　みな、ソロモン王の時代に作られたものです。
２１柱はそれぞれ高さ九メートル、周囲六メートル、厚さ八センチで、中は空洞でした。
２２柱の頭の部分二･五メートルは､青銅のざくろを彫刻した網目模様になっていました。
２３回りには九十六のざくろがあり､周囲の網細工には､さらに百のざくろがありました。
２４２５親衛隊長はまた、主席祭司セラヤと次席祭司ゼパニヤ、三人の神殿警備隊長、軍の参謀、町の中で見つかった王の特別補佐官七人を捕まえました。　さらに、ユダヤ軍の徴兵指揮官と、隠れていた六十人の高官も捕まえました。　２６そのあと、彼らを、リブラにいるバビロン王のところへ連れて行ったのです。　２７彼らは王の命令によって、一人残らず死刑になりました。

こうしてユダの国民は、捕虜となって故国をあとにすることになったのです。　２８ネブカデネザルが即位して七年目に、捕虜としてバビロンへ連れ去られた人々の数は、三千二十三人でした。　２９それから十一年後には、八百三十二人が加わりました。　３０さらに五年後､王の命令を受けた親衛隊長ネブザルアダンは､七百四十五人を連れて来ました。結局、合計で四千六百人です。
３１ユダ王朝のエホヤキン王が、バビロンの牢に入って三十七年目の三月十日（ユダヤ暦では十二月二十五日）に、その年バビロン王となったエビル・メロダクは、エホヤキンに親切にし、彼を牢から出しました。　３２しかも、親しみを込めて彼に話しかけ、バビロンのどの総督よりも高い位を与え、　３３新しい衣服をあてがい、生涯、いつも王の料理係りの作る物を食べさせました。　３４エホヤキンは死ぬ日まで、生活費を王から支給されました。
▪

悲しみの歌（哀歌）
本書は、都エルサレムの陥落を悲しんで作られた歌です。　破滅を目撃した著者は、一語一語に、絶望した心の響きを伝え、また、その破滅がいかに恐怖に満ちたものかを語っています。　それは、神様に反逆した報いとして、どれほど恐ろしい代価を支払わなければならないかを、人々に知らせるためでした。　しかしその中にも、わずかながら慰めを与える個所もあります。　五章のエレミヤの祈りは、かつて栄えた都エルサレムの廃墟のかなたに、永遠に王座をすえる神様を仰ぎ見ています。

一
１一度は人々でにぎわっていたエルサレムの通りが、今はひっそり静まり返っています。世界の女王ともてはやされたこの都が、今では奴隷となり、悲しみに沈む未亡人のように、座り込んで嘆いています。
２彼女は夜通し泣き、涙がとめどなく流れます。　恋人たち〔エジプトや他の同盟国〕は、だれひとり声もかけてくれません。　今ではみな、敵に回っているからです。
３ユダは労役で悩み苦しんだあげく、奴隷として遠い国へ連れて行かれたのです。　今は征服者の手に落ち、外国で不安な毎日を過ごしています。
４シオン〔エルサレム〕への道は、神殿での例祭を祝うにぎやかな参拝客の列もとだえ、すっかりさびれて、憂いに沈んでいます。　都の門はさびつき、祭司たちはうめき、おとめたちは悲しみに打ちひしがれています。　シオンは泣き伏しています。
５敵がわがもの顔に振る舞っています。　エルサレムの多くの罪のために、神様が罰を加えたからです。　幼い子供たちは捕まり、奴隷として遠くへ連れ去られました。
６シオンの美しさも威厳も、すっかりなくなりました。　指導者たちは、あてもなく牧草地をうろつく飢えた鹿のようで、敵に出会っても逃げる力さえありません。
７エルサレムは悲しみのどん底にあって、過ぎ去った楽しい日々を思い浮かべます。　今はもう、だれひとり援助の手を伸ばしてくれる者はなく、あえなく敵に屈し、あざけりの的となっています。
８エルサレムは罪に罪を重ねたので、汚いぼろきれのように捨てられました。　丸裸にされ、人前に尻をさらしているので、かつては尊敬の眼で見つめた人たちも、今では軽べつのまなざしを向けるだけです。　あまりの恥ずかしさに彼女はうめき、顔を隠します。
９この都は不品行の罪にうつつを抜かし、まちがいなく刑罰が下るという事実を認めませんでした。　今ではどぶに落ち込んでいますが、だれも引き上げてくれないので、こう叫びます。　「ああ神様、私の不幸に目を留めてください。　敵はあんなに勝ち誇っています。」
１０敵は貴重品を一つ残らず取り上げ、無一物にしました。　そればかりか、神聖な神殿を荒らし回りました。　そこに入ることさえ神様に禁じられた外国人たちが、です。
１１民はうめき、血眼になってパンを捜し求めます。　持ち物をぜんぶ売り払い、少しで

も体力を回復しようと、食べ物をあさります。「神様、ご覧ください。　私がどんなにさげすまれているかを知ってください」と、エルサレムは祈ります。
１２道行く人よ、何とも思わないのですか。　神様が燃える怒りの日に、こんなにも私を悩ませたのです。　これ以上の悲しみを見たことがありますか。
１３神様が天から送った火は、私の骨の中で燃え続けています。　神様は私の道に落とし穴を掘り、私を追い返しました。　私を病気にしたまま置き去りにし、つらい思いをさせました。
１４神様は私の罪を編んで綱とし、それで私を引いて、奴隷のくびきに結びつけました。私を骨抜きにして、敵の手に渡しました。　私は敵のなすがままになっています。
１５　神様は味方の勇士をみな踏みにじりました。　神様の命令によって強力な軍隊が押し寄せて来て、気品のある若者たちを倒しました。神様は愛する都を、酒ぶねのぶどうのように踏みつぶしました。
１６私は泣きに泣きます。　私を助けるのは神様だけだというのに、神様は私を慰めもせず、遠く離れて立っています。　子供たちに未来はありません。　私たちは征服された民族です。
１７エルサレムは助けを求めて哀願しますが､だれも慰めてくれません。 神様ご自身が、こう言ったからです。　「隣人が敵となれ。この都は悪臭を放つぼろきれのように、投げ捨てられてしまえ。」
１８神様がこう言うのも、もっともなことです。 私たちは神様に反逆したからです。 しかし、すべての国の人よ、一かけらの望みさえない私の苦悩に目を留めてください。　息子も、娘も、奴隷として遠い国へ連れて行かれました。
１９私は同盟国の助けを求めましたが、彼らは少しも役に立たず、がっかりするばかりでした。　祭司も、長老も、同じことでした。　彼らは、残飯をあさってうろつきながら、町の中で飢え死にしたのです。
２０神様、私の苦しみに目を留めてください。　私の心は傷つき、たましいは絶望にあえいでいます。　私が神様にひどく背いたからです。外に出ると、剣が待ち伏せし、家にいても、病気と死がつかまえて放しません。
２１私のうめき声を聞いてください。　助けてくれる者はどこにも見あたりません。　敵は私が苦しんでいるのを聞きました。　彼らは、神様が私に罰を加えたと知って、喜んでいます。　しかし神様。　お約束どおり、彼らも私と同じ目に会う時が、きっと来るはずです。
２２神様、彼らの罪にも目を留め、私と同じように、罰してください。私はため息をくり返し、心はしおれきっているからです。
二
１神様の怒りの雲がエルサレムをおおいました。　イスラエルで最も美しい町が、ちりの中に伏し、神様の命令によって天から投げ落とされました。　御怒りの燃え上がる日にな

ると、神様はご自分の宮にさえ、一かけらのあわれみもかけませんでした。
２神様は容赦なく、イスラエル中の家を倒し、怒りにまかせて、すべての要塞と城壁をこわしました。　この国を、支配者もろとも、地にたたきつけたのです。
３イスラエルの力は、神様の憤りの前に、あえなくつぶれます。神様は敵が攻めて来た時、援助の手を引っ込めました。　神様は猛り狂う火のように、イスラエルを焼き尽くします。
４神様はご自分の国民に、まるで敵ででもあるかのように弓を引きます。　御力をもって立ち向かい、りっぱな若者たちを殺します。憤りを火のように注ぎます。
５神様は、敵のようになって、イスラエルを地上から抹殺しました。その要塞と宮殿をこわしました。　こうして、悲しみと涙がエルサレムの分け前となったのです。
６神様は、庭先にある木の枝と葉で作ったあばら屋のように、ご自分の神殿を手荒くこわしました。　きよい例祭と安息日を二度と祝うことはできません。　王も、祭司も、神様の激しい怒りの前に倒れます。
７神様はご自分の祭壇にそっぽを向きました。　形ばかりの礼拝に愛想をつかしたからです。　神様は宮殿を敵の手に渡しました。　彼らは、きよい例祭の日にイスラエル人がしたように、神殿でどんちゃん騒ぎをしました。
８神様はエルサレムを滅ぼそうと決めました。　滅亡という名の巻き尺でこの都を測ったのです。　それで、とりでも城壁も音を立ててくずれました。
９エルサレムの門はもう役に立ちません。　神様の手にかかって、錠もかんぬきもこわされたからです。　王も、重臣も、奴隷となり、遠くの国へ引かれて行きました。　そこには神殿もなく、生活の指針となる神様のおきてもなく、彼らの指標となる預言者の幻もありません。
１０エルサレムの長老たちは、荒布をまとって地面に座り、黙り込んでいます。　彼らは悲しみ、失望して、頭にちりをかぶります。　おとめたちも、恥ずかしがって頭をたれます。
１１私は涙のかれるまで泣きました。　同胞の身に起こったことを見て、悲しみのあまり胸は張り裂け、身を切られるような思いでした。幼い子供や、生まれたばかりの赤ん坊が、路上で息も絶え絶えになっているのです。
１２「何か食べたいよーっ！」と訴え、乳の出ない母の胸に顔を埋めます。　小さないのちは、戦場で傷ついた兵士のように消えていきます。
１３今までこんな悲しみがあったでしょうか。　エルサレムよ。　あなたの苦悩を何にたとえたらよいでしょう。　どのようにして慰めたらよいのでしょう。　傷は、海よりも深く、だれにもいやせません。
１４預言者どもは、うそで固めたことばかり話しました。　あなたの罪を指摘して、何とかしてあなたが奴隷にならないようにしようとは、努力しませんでした。　かえって、平気でうそをつき、万事がうまくいくと断言したのです。
１５道行く人たちはみな、あざけって頭を振り、「これが『世界でいちばん美しい都』とも、

『全世界の喜び』とも呼ばれていた町なのか」とばかにします。
１６敵はあなたを笑い者にし、口をとがらせ歯ぎしりして、言います。「とうとう、この都を滅ぼしたぞ。　待ちに待った時がついにきた。この目で、都が倒れるのを見た。」
１７しかし、このようにしたのは、ほかならぬ神様です。　神様は、警告どおりのことをしたのです。　ずっと前から決めていた破壊するという約束を実現させたのです。　容赦なくエルサレムを滅ぼし、敵がこの町のことで喜び、自分たちの力を自慢するように仕向けたのです。
１８　その時、人々は神様の前で泣きました。　エルサレムの城壁よ、昼も夜も、休みなく、ぞんぶんに泣きなさい。　涙が川となって落ちるまでに。
１９夜おきて、神様に叫びなさい。　神様に向かって両手を上げ、心を水のように注ぎ出しなさい。　飢えて路上にしゃがみ込んでいる子供たちのために、ひたすら祈りなさい。
２０神様、考え直してください。　このような仕打ちを受けている相手は、神様の国民ではありませんか。　母親が、ひざの上であやしたわが子を食べていいでしょうか。　祭司や預言者が、神殿の中で殺されていいでしょうか。
２１老人も幼い者も、男も女も、敵の剣にかかって路上に倒れています。　神様。　あなたが怒って容赦なく殺したのです。
２２神様が、この恐ろしい破壊を招き寄せたのです。　神様の怒りの日に、逃げのびた者や生き残った者は、一人もいません。　幼い子供たちはみな敵の手に落ち、冷たくなって路上に転がっています。
三
１私は、神様の激しい怒りのむちが振り下ろされるのを、この目で見ました。　２神様は暗やみの底に私を連れて行き、いっさいの明かりを吹き消しました。　３私に襲いかかる神様の手は、昼も夜も重くのしかかっています。　４私は憔悴しきって、すっかり老け込んでしまいました。
５神様は私の前にとりでを築き、苦しみと悩みで私を取り囲みました。　６私を、ずっと前に死んだ者のように、暗がりに埋めました。７神様が閉じ込めたので、どんなにもがいても逃げられません。　神様は私を重い鎖でつなぎました。　８私がどんなに声を張り上げても、神様は祈りを聞こうともしません。　９私は、高い崖が周囲にそそり立つ場所に閉じ込められ、どんなに急いでも、回り道ばかりして先へ進めません。
１０神様は熊やライオンのように、私に襲いかかろうと待ち伏せています。　１１神様は私をやぶに引きずり込み、前足でずたずたに引き裂き、置き去りにしました。
１２神様は弓をぐっと引きしぼり、私にねらいをつけました。　１３その矢は、私の心臓に突き刺さりました。
１４同胞は私を笑い者にします。　一日中、下品な歌をうたって、私にあてこすります。
１５神様に悲しみの杯を飲まされ、口中が苦くなりました。　１６小石を食べさせられ、歯が折れました。　神様は、私が灰とちりの中を転げ回るようにしました。　１７神様、

平和も繁栄も、ずっと前に姿を消しました。　神様が取り去ったからです。　私は、楽しみとはどんなことか、すっかり忘れ、　１８夢も希望もなくなりました。　もう気力さえ残っていません。　神様が私を置き去りにしたからです。　１９どうか、私に突きつけた苦い杯と苦しみとを思い出してください。　２０身のすくむような恐ろしい年月を、忘れようにも忘れられません。　私のたましいは恥の中に沈んだままです。
２１しかし、ただ一つの望みが残っています。２２神様のあわれみは決してすたれない、ということです。　私たちが全滅しなかったのは、神様のあわれみのおかげです。　２３神様の真実は限りなく、その恵みは朝ごとに新しくなります。　２４神様こそ私の分け前なので、私は神様に望みを置きます。　２５神様は、ご自分を待ち望む者、ご自分を求める者に、とてもよくしてくださいます。　２６神様の救いだけに望みを置いて、静かに待つのはよいことです。
２７若い時にきびしくしつけられるのはよいことです。　２８なぜなら、その人は神様からご命令があった時、まず静かに受け止めて考え、２９顔をうつむけてへりくだります。そして希望を見いだすようになるでしょう。　３０その人は、自分を打つ者にもう一方の頬を向け、侮辱をぞんぶんに受ければいいのです。　３１神様がいつまでもお見捨てになるはずはありません。　３２たとい、彼に悩みを与える場合でも、恵み深いお方ですから、忘れずにあわれみをかけてくださるはずです。３３神様は好んで人を苦しませ、悲しませたりはなさいません。
３４－３６しかし、あなたは身分の低い者を踏みにじり、神様のお与えになった当然の権利を奪い、公平に扱いませんでした。　だから、いま神様がつらくあたるのは当然のことです。　３７神様の許しがなければ、だれもあなたに、あんなひどい仕打ちをするはずがありません。　３８ある人を助け、ほかの人に災いを下すのは、神様です。
３９それなのに、どうしてただの人間にすぎない私たちは、自分の罪のために罰を受けたからといって、つぶやいたり、不平を言ったりするのでしょう。　４０むしろ、わが身を振り返り、悔い改めて、神様に立ち返るべきです。　４１手だけでなく、心もいっしょに、天におられる神様に向けようではありませんか。　４２私たちは罪を犯したからです。　私たちは神様に反抗し、しかも神様は、そのことをお忘れになりませんでした。
４３神様。　あなたは怒って私たちを追いつめ、容赦なく殺しました。４４雲でお姿を隠しているので、私たちの祈りは届きませんでした。４５神様は私たちを、国々の間でがらくたとし、ごみ箱に捨てる物としました。　４６敵はみな、私たちに大きな口をたたきました。　４７私たちは罠にかかり、見殺しにされたので、恐れに取りつかれました。
４８４９同胞が滅んでいくので、昼となく夜となく、私の目から涙があふれ落ちます。　５０ああ、神様が天から見下ろして、私の叫びに答えてくださるとよいのに。　５１胸は、エルサレムの娘たちの災難を知って、張り裂けんばかりです。
５２今までに一度もこちらから害を加えたことのない敵が、まるで鳥をねらうように、私を追いかけました。　５３彼らは私を井戸に放り込み、大きな石でふたをしたのです。　５

４水が頭の上まで来たので、これで終わりだ、と思いました。　５５しかし神様。　私は井戸の底から、神様の名を呼びました。　５６すると、神様はその叫びを聞いてくださいました。　私の訴えに耳を傾け、私の泣き声をお聞きになったのです。　５７私の絶望の声を聞いて近づき、恐れてはいけない、と語りかけました。
５８私の弁護士である神様、私を弁護してください。　神様が私のいのちを買い戻してくださったからです。　５９神様は、敵が私にどんなに悪いことをしたかをご覧になりました。　裁判官になって、私の身の潔白を証明してください。　６０神様は、敵がたくらんださまざまの陰謀をご覧になり、６１聞くに耐えない名前で私を呼んだのをご存じです。
６２また、私について言っていることと、ひそひそ声で相談している計画をご存じです。
６３私の失脚を謀って、あざ笑い、はしゃいで歌っている様子をご覧ください。
６４神様、彼らのしたすべての悪に、たっぷり報いてください。　６５神様、彼らを強情にし、のろってください。　６６とことんまで追いつめ、天の下から根絶やしにしてください。
四
１どうして、純金は光沢を失ったのでしょうか。　それを埋め込んだ神殿の壁がくずれ落ち、道ばたに散らかったからです。　２純金であるはずの若者が、土器のように取り扱われています。　３４山犬でさえ、その子を育てるというのに、イスラエルは無慈悲な砂漠のだちょうのように、赤ん坊の泣き声を聞いても知らぬふりをしています。一滴の水も残っていないので、子供たちは渇きのため、舌が上あごにくっついています。　幼子はパンが欲しくて泣きますが、だれ一人、ほんの一かけらも与えることができません。　５味にうるさい美食家たちも、口に入る物ならなんでも恵んでくださいと、路上で物乞いしています。　宮殿育ちの貴族までが、ごみ捨て場をあさります。　６それというのも、イスラエルの罪は、あっという間に人手によらず滅んだソドムの罪より大きいからです。
７上流階級の人たちは、ほっそりしているが日に焼け、見るからに健康そうで、最高の人種ともいうべき人たちでした。　８それが今では、顔はすすけたように真っ黒です。　町の中にいても見分けがつきません。　皮膚はかさかさに乾いてしなび、骨にくっついています。９剣でひと思いに殺される者は、飢えのためじわじわ死に追いつめられる者よりはるかにましです。　１０心のやさしい女でさえ、生きのびるためには自分の腹を痛めた子供を食べました。
１１こうして神様は怒りをぶちまけ、激しい憤りは、ぜんぶ出し尽くされました。　神様がエルサレムに放った火は、その土台まで焼き尽くしました。　１２世界中のだれもが、まさか敵軍がエルサレムの門を破るとは、夢にも思いませんでした。　１３しかし、神様がそのようにしたのは、罪のない者の血を流して都を汚した預言者や祭司たちの罪のためです。　１４今では、この連中は血にまみれ、触れるものは何でも汚しながら、あてもなく町の中をさまよい歩いています。
１５彼らを見て、人々は「あっちへ行け。　汚らわしい」とわめきます。　彼らは遠い国

へ逃げて行き、外国人の居留地をさまよい歩きます。　しかし、どこへ行っても仲間はずれで、だれひとり居住権を与えてくれません。　１６神様は彼らにつらくあたり、援助の手を伸べるのを差し控えました。　彼らが、神様に最後まで忠実だった祭司や長老たちを迫害したからです。
１７私たちは、同盟国が助けに来るのを待っていましたが、来てくれませんでした。　期待に反して、一番あてにしていた国さえ、少しも動こうとしませんでした。
１８一歩外に出れば、身の危険にさらされどおしです。　私たちの最期は間近です。　余命いくばくもありません。　私たちは滅亡の宣告を受けています。　１９敵はわしより速く飛ぶので、たとい山へ逃げても、すぐ見つかります。　たとい荒野に隠れても、先回りして待っています。　２０杖とも頼む、神に油を注がれた王は、敵の罠にかかって捕まりました。　この偉大な王の保護があれば、どんな国が来ても大丈夫だ、と自慢していたのに。
２１ウツの地に住むエドムの人たちよ。　喜んでいるのですか。　しかしあなたがたもそのうち、神様の恐ろしい怒りを肌身に感じるようになります。　２２イスラエルは罪を犯して遠い国へ移されましたが、刑期はやがて終わります。　しかしエドムの刑期は、いつまでも終わりません。
五
１神様、私たちの身に起こったことをみな思い出してください。私たちが、どんなに大きな悲しみを忍ばなければならないかに、目を留めてください。　２私たちの家にも、国にも、見知らぬ外国人が住みついています。　３父親は死に、母親は未亡人となり、私たちはみなしごとなりました。　４飲み水にさえ、金を払わなければならないしまつです。　たきぎを買おうとすると、目の玉の飛び出るような値段をつけられます。　５私たちは支配者の足もとに土下座し、いつ終わるとも知れない労働にせき立てられます。　６パンを得るために、エジプトやアッシリヤに頭を下げます。
７私たちの先祖は罪を犯しましたが、さばきが下る前に死にました。私たちは、彼らの受けるはずの刑罰を背負い込んだのです。
８以前は私たちに仕えていた召使が、今では主人に取って代わりました。　私たちを救ってくれる者は一人もいません。　９私たちは、敵に襲われていのちを落とすのを覚悟の上で、食べ物を捜しに荒野へ行きました。　１０皮膚は、飢えのため黒ずんできました。　１１敵はエルサレムの女や、ユダの町々の娘をはずかしめました。　１２私たちの指導者は彼らの手でつるされました。　老人でさえ、犬畜生のように扱われたのです。　１３彼らは、ひき臼をひかせるために若い人たちを、重い荷をかつがせるために幼い子供たちを、それぞれ労働力として連れ去りました。
１４もう町の門には、年寄りが座っていません。　若い人が踊ったり歌ったりする姿は、もう見あたりません。　１５私たちの心の喜びは終わり、私たちの踊りは死の踊りとなりました。　１６私たちの栄光は去り、私たちの頭から冠が転げ落ちました。　私たちが罪

を犯したために、災難が降りかかったのです。　１７私たちの心は弱って疲れ果て、目はかすんでいます。　１８エルサレムと神殿は荒れ果て、住む人がなく、いるのは廃墟を歩き回る野獣だけです。
１９神様。　あなたはいつまでも変わらないお方で、御座は永久に続きます。　２０それなのになぜ、私たちを忘れてしまったのですか。なぜ、こんなに長い間、私たちを見捨てておくのですか。　２１私たちに顔を向け、もう一度、みもとに連れ戻してください。　それだけが私たちの望みです。　以前にあった喜びを返してください。　２２それとも、神様は私たちをすっかり勘当したのですか。　まだ、私たちを怒っているのですか。
▪

エゼキエルの預言
祭司エゼキエルは、紀元前五九七年に、捕囚としてバビロンに連れて行かれ、そこで神の預言者となりました。　彼は、エルサレムに残っている人々に、必ずさばきが下ると説きましたが、周囲のユダヤ人は快く聞き入れませんでした。　しかし、彼の予告どおり、五八七年にエルサレムが崩壊してから、人々ははじめて彼のことばに熱心に耳を傾けるようになるのです。　エゼキエルの預言は、この時を境に、暗いさばきの内容から、将来に対する慰めと希望に変わります。　最悪の事態はすでに過ぎ、今は再出発の用意の時だからです。

一
１‐３ブジの息子エゼキエルは祭司でしたが、バビロンに連れて来られた捕囚のユダヤ人の一人として、ケバル川のほとりに住んでいました。
六月も終わろうとするある日、突然、天が開いて、私は神様からの幻を見たのです。　その時、私は三十歳になっていました。　４その幻の中で、北の方から、燃える火のような巨大な雲を前面に押し出しながら、激しい嵐が私を目がけて突進して来るではありませんか！　雲に包まれた火は絶えず閃光を発し、火の中には、みがき上げた真鍮のように輝くものがありました。
５すると、その雲の真ん中から、人間のように見える奇妙な姿をした四つのものが現われました。　６その四つのものは、それぞれ四つの顔と二対の翼をもっているのです。　７足は人間の足のようですが、先が子牛のひづめのように分かれていて、みがいた真鍮のように輝いているのです。　８また、それぞれ翼の下から人間の手が出ているのが見えました。
９この四つの生きものは翼を連ねて、曲がらずにまっすぐ飛んで来ました。　１０それぞれ正面は人の顔、右側はライオンの顔、左側は牛の顔、背面はわしの顔をしていました。
１１二対の翼は背中の中央から広げられ、一対は両側の生きものの翼に連なり、他の一対は体をおおっていました。　１２そして、彼らの霊が行く所はどこへでも、曲がることなく、まっすぐに進んで行きました。
１３これらの生きものの間を、赤く燃える炭火のように、明るいたいまつのように輝く別の生きものが行きつ戻りつしていました。　それらの生きものから、いなずまが出ていました。　１４生きものは、いなずまのひらめきのように速く、あちこちへと突き進んでいました。
１５私がこの光景に見入っていると、四つの生きものの下に、地上でそれらを支えるように、四つの輪があるのが見えました。　それぞれの生きものに一つの輪がついているのです。　１６輪はまるで、みがき上げた琥珀でできているように見え、輪の中にもう一つの輪が交叉するようにはめ込まれていました。　１７これらの輪は、向きを変えずに四方八方、どこへでも向かうことができました。　１８四つの輪には縁と輻があり、縁の回りに

は目がいっぱいついていました。
１９－２１四つの生きものが前方に飛ぶ時は輪も前方に動き、上に飛ぶと輪も上に動きました。　そして、生きものが止まると輪も止まりました。　生きものの霊が輪の中にあったからです。　それで、霊が行く所はどこへでも、輪と生きものも行きました。
２２生きものの上に広がった大空は、まるで水晶のように輝き、その美しさは、とても筆舌に尽くせないほどでした。
２３それぞれの生きものの翼は、互いにまっすぐに伸びて触れ合い、もう一対の翼が体をおおっていました。　２４生きものが飛ぶと、翼は岸を打つ波か神様の声、あるいは、大軍勢のときの声のような響きを立てました。　止まると、翼を下に垂れました。　２５生きものが止まるたびに、頭上の水晶のような大空から声が聞こえました。
２６空高く、壮麗な青いサファイヤで作った王座のようなものがあり、人間の姿に似た方が座っていたのです。
２７２８腰から上は、火のように照り輝く、燃える青銅のように見えました。　腰から下は炎に包まれ、その方の回りには虹のような輝きがありました。　このように、神様の栄光が示されたのです。　これを見て、私は地にひれ伏しました。　そして、私に語りかける方の声を聞いたのです。
二
１その方は私に、「ちりの子〔「死んでちりに帰る人間」の意。　この書に特有の表現〕よ、立て。　わたしはおまえに語ろう」と言いました。
２その方が語ると、御霊が私の中に入り、私を立たせました。
３「ちりの子よ、おまえをイスラエルの国、すなわち、わたしに反逆している国に遣わす。彼らも、彼らの先祖も、この時まで、わたしに罪を犯し続けてきた。　４彼らは恐ろしく強情で頑固者だ。　それでも、わたしは、神であるわたしのことばを伝えるために、あなたを遣わす。　５だが忘れるな。　彼らは反逆者なのだ。　しかし彼らが聞こうが、聞くまいが、少なくとも、彼らの間に預言者がいたことだけは知るだろう。
６ちりの子よ、彼らを恐れるな。　どんなに彼らの脅しがきいて、とげとげしく、さそりのように突き刺しても、びくともするな。　険悪な顔つきをされても、たじろぐな。　彼らは反逆者なのだ。　７彼らが聞こうが、聞くまいが、おまえはわたしの言うことを語れ。もっとも彼らは骨の髄まで反逆者だから、聞きはしまいが……。　８ちりの子よ、わたしが語ることを聞け。　おまえが反逆者になってはいかん！　口を大きく開けて、わたしが与えるものを食べるがいい。」
９１０そこで私が見ていると、両面に字が書いてある巻物を持つ手が、目の前に差し出されたのです。　その方は巻物を広げましたが、そこには警告や、悲嘆や、審判の宣告などが、びっしり書き込んでありました。
三
１その方は命じました。　「ちりの子よ、わたしが与えるものを食べよ。　さあ、この巻

物を食べるのだ！　それから出て行き、そのことばをイスラエル国民に告げよ。」
２私は巻物を手に取りました。
３「それを残らず食べよ」と、その方は言います。　食べてみると、なんと蜜のように甘い味がするではありませんか。
４命令はさらに続きます。　「ちりの子よ。　おまえをイスラエルの人々に遣わす。　わたしのことばを携えて行け。　５ことばが通じない遠い外国へ遣わすのではない。　６とにかく、難しい外国語を話す部族に遣わすのではない。　だが、もしそうしたなら、彼らは耳を傾けるだろう！　７わたしが遣わすのは、イスラエル人のところだ。彼らはわたしの言うことを聞こうとしないのだから、あなたの言うことも聞こうとはしない！　彼らの面の皮は厚く、ずうずうしく、頑固なのだ。　８ところで、わたしもまた、おまえを、まるで彼らと同じように、面の皮の厚い頑固者にした。　９おまえの額を岩よりも堅くした。だから、彼らがどんなにしぶとい反逆者でも、恐れるな。　どんなにいやな顔、おこった顔をされても、たじろぐな。」
１０その方は続けて言いました。　「ちりの子よ、まず、わたしのことばを余すところなく心の奥底に収め、注意深くそれに聞き従いなさい。　１１それから、捕囚とされた同胞のところへ行き、彼らが聞こうが、聞くまいが、『神様はこう言う』と告げるがいい。」
１２すると、御霊が私を持ち上げました。　大きな地震の響きを伴って、神様の栄光が移り始めました。　１３その響きは、生きものたちの翼が互いに触れ合う音であり、輪がきしむ音でした。
１４１５御霊は私を持ち上げると、ケバル川のほとりにある、別のユダヤ人居留地テル・アビブに連れて行きました。　私は憤り、苦々しい思いで行きましたが、神様の御手が強く私の上に置かれていました。　七日間というもの、私はただ呆然と、彼らの中に座っていました。
１６七日目の終わりに、神様はこうお語りになりました。
１７「ちりの子よ。　わたしはおまえをイスラエルの見張り役とした。　わたしの国民に与える警告を、直ちに伝えよ。　１８わたしが悪者に、『おまえたちは死刑に相当する。　だから、悔い改めて、自分のいのちを救え』と伝えてほしい時、そのように警告しないなら、彼らは自分の罪のために死ぬが、わたしはおまえを罰する。　彼らの血の責任をおまえに問う。　１９だが、おまえがいくら警告しても、彼らが罪を犯し続け、いっこうに悔い改めないなら、彼らは自分の罪のために死ぬ。　しかも、おまえには責任がない。　おまえはできるだけのことをしたのだから。　２０もし善良な人が悪を行なっているのに、おまえが警告しないなら、わたしは彼を滅ぼす。　以前の善行は何の助けにもならない。　彼は自分の罪のために死ぬ。　だが、わたしは彼の死の責任をおまえに問い、おまえを罰する。　２１もしおまえが警告し、彼が悔い改めるなら、二人とも自分のいのちを救うことになる。」
２２私はどうすることもできない状態のまま、神様の御手の中にありました。　神様が「谷

間に出て行け。　そこでおまえと語ろう」と命じた時、　２３私はすぐに立って、谷間へ出て行きました。　すると、ケバル川のほとりで最初に見たのと同じ神様の栄光を、そこでも見たのです。　私は思わず地面にひれ伏しました。
２４すると、御霊が私の中に入り、私を立たせました。 神様は私にこう命じました。「行って、家に閉じこもれ。　２５わたしはおまえが家から出られないように、おまえの体を麻痺させる。　２６また、舌を上あごにつかせるので、おまえは彼らを責めることができなくなる。　彼らは反逆者だからだ。　２７だが、わたしがおまえに語る時は、おまえの舌を自由にし、話せるようにしてやる。　彼らに『神様はこう言う』と言え。　聞きたい者には聞かせ、聞きたくない者には聞かせるな。　まことに、彼らは反逆者だからだ。
四
１さて、ちりの子よ、大きなれんがを一枚、前に置き、その上にエルサレムの町の地図を描け。　２この町を包囲し、攻撃するために築かれるとりでで、その回りの敵軍の陣営、さらに城壁を取り囲む破城槌（城壁破壊用の武器）を描け。　３また、おまえと町との間に、鉄の壁のように一枚の鉄板を立てよ。　こうして、敵軍がどのようにエルサレムを攻略するかを、実証して見せるのだ。
わたしが命じた一つ一つのことには、それぞれ特別の意味がある。　というのは、それはイスラエルの民に対する警告だからだ。
４５さあ、捕囚と破滅によって三百九十年間、イスラエルが罰せられることを示すために、三百九十日間、左わきを下にして横になれ。その一日は、イスラエルにやがて訪れる一年間の刑罰を表わしている。　６次に、向きを変え、ユダに対する刑罰の期間を示すために、四十日間、右わきを下にして横になれ。　やはり一日が一年の勘定だ。
７とにかく、エルサレムの包囲の様子を実演して見せるのだ。〔その包囲と攻撃がどんなに強烈なものかを教えるために〕、腕をまくって横になれ。 これはエルサレム滅亡の預言だ。
８わたしがおまえの体を麻痺させるので、包囲の全期間が終わるまで、寝返りもできない。
９初めの三百九十日間は、小麦、大麦、そら豆、レンズ豆、あわ、裸麦の粉をつぼに入れて混ぜ合わせ、その粉でパンを作って食べよ。　１０一日に一食、一回二百三十グラムずつに分けて食べよ。　１１そして、水は一日に一リットルだけ飲め。　それ以上飲んではならない。　１２毎日、たるから粉を取り出し、大麦のパン菓子を作れ。　みんなの見ている前で、かわいた人糞の火の上で焼いて、それを食べよ。　１３わたしの命令だ。　わたしが捕囚とする異国の地で、イスラエルは汚れたパンを食べるのだ！」
１４「おお神様。　私は人糞で身を汚さなければならないのでしょうか。　今まで、一度も身を汚したことがありません。　子供の時から今まで、病気で死んだり、傷ついたり、死んで見つかったりした獣を食べたことはありません。　また、おきてが禁じている種類の獣を食べたこともありません。」
１５「そうか。　それなら、人糞の代わりに牛の糞でもよい。」
１６こう答えると、神様はさらにことばを続けました。　「ちりの子よ。　エルサレムで

はパンの配給が乏しくなる。　注意深く量り、こわごわ食べることになろう。　水も少量しか分け与えられず、人々は不安のうちにそれを飲むようになる。　１７わたしが乏しくさせるのだ。　また、気違いじみた恐怖心をいだいて互いに見合うように、人々を刑罰のもとにくたくたに疲れ果てさせる。
五
１ちりの子よ、鋭い刃の剣を取り、床屋のかみそりのようにそれを使って、頭とひげをそれ。　また、その毛をはかりにかけて、三等分せよ。　２その三分の一をエルサレムの地図の真ん中に置き、包囲の期間が終わったら、そこで燃やせ。　次の三分の一を、地図に描いた町の回りに広げ、ナイフでめった切りにせよ。　残りの三分の一は、風で吹き散らせ。　わたしは剣をもってわたしの国民を追いかけるからだ。　３その毛を少し取っておき、衣のすそで包め。　４そのうちから数本の毛を取り出し、火に投げ込め。　この残りの毛から出る火が、全イスラエルを焼き滅ぼすのだ。」
５‐７神様は言います。　「これはエルサレムに起こることを例証している。　エルサレムはわたしのおきてから離れ､周囲の国々よりも悪くなってしまったからだ。」　８そこで、神様は言います。　「今、このわたしが、自らおまえを攻め、すべての国々が見守る中で罰する。　９おまえが犯した恐ろしい罪のゆえに、今までにも下したことがなく、これからも下さないような重い刑罰を下す。　１０父親はわが子を食べ、息子も実の父親を食べるようになる。　幸いにして生き残った者も、世界中に散らされる。
１１おまえに約束する。　偶像や忌まわしいいけにえによってわたしの聖所を汚したからには、おまえを惜しんだり、あわれんだりしない。　１２おまえの三分の一はききんと伝染病で倒れ、他の三分の一は敵に殺される。　残りの三分の一は風に散らされるが、そのあとから敵の剣が追いかける。　１３こうして、わたしの怒りもようやくおさまる。　全イスラエルは、わたしが警告どおりに実行することを悟るであろう。
１４わたしは、周囲のすべての国々に、また、廃墟となったこの地を通り過ぎるすべての旅人に、おまえを見せしめとする。　１５おまえは全世界の笑い草となり、すべての人に対する恐ろしい見せしめとなる。　すべての人が、神が一つの国を激しく譴責し、その国全体に立ち向かう時、どのようなことが起こるかを見るからだ。　神であるわたしが、これを語っている。
１６わたしは恐ろしいききんの矢を雨と降らせて、おまえを滅ぼす。　ききんはますますひどくなり、一切れのパンも残らなくなる。　１７ききんばかりでなく、野獣がおまえとおまえの家族を襲って、かみ殺す。　伝染病と戦争が国中を闊歩し、敵の剣がおまえを虐殺する。　神であるわたしが、これを語っている。」
六
１再び、神様からお告げが与えられました。
２「ちりの子よ、イスラエルの山々に預言せよ。　３ああ、イスラエルの山々よ、おまえたちに、また、川や谷に語られる神様のお告げを聞け。　わたしが、神であるこのわたし

が、おまえたちの偶像を滅ぼすために戦争を起こすのだ。　４‐７町々はすべて打ち砕かれ、焼かれる。　偶像の祭壇は捨て去られる。　神々の像は粉々に砕かれ、その礼拝者たちの骨も祭壇の回りにまき散らされる。　その時、ようやくおまえたちは、わたしこそ神であることを知る。
８だがわたしは、わたしの国民のうち少数の者を逃れさせ、世界の国々に散らそう。　９そうすれば、国々に捕囚として連れて行かれる時、彼らはわたしを思い起こすだろう。　わたしが彼らの姦淫の心、偶像を愛する心を取り去り、ほかの神々を慕うみだらな目を見えなくするからだ。　その時になってやっと、彼らは自分が犯した悪のゆえに、自分自身をいとうようになる。　１０彼らは、わたしだけが神であり、わたしがこれらすべてのことが起こると語った時、決していい加減なことを言ったのでないと気づくだろう。」
１１神様はこうお語りになります。　「恐れおののきつつ両手をあげ、深く、激しい自責の念にかられ、頭を振って叫べ。　『ああ、なんという悪事をしでかしたことか！』と叫ぶがいい。　おまえたちは、戦争とききんと伝染病で滅びようとしているからだ。　１２捕囚の地にある者は伝染病で死に、イスラエルの国にいる者は戦争で倒れ、生き残っている者もききんと籠城で死ぬ。　こうして、わたしの憤りも、ついに出尽くしてしまう。　１３殺された者が、すべての丘や山の上にある偶像や祭壇の回りに、また、神々に香をたいた青い木や茂った樫の木の下に、散り散りに横たわる時、おまえたちは、わたしだけが神であることに気づく。　１４わたしはおまえたちを押しつぶし、南は荒野から北はリブラまで、町々を荒廃させる。　その時、わたしが主であることを知るだろう。」
七
１続いて、神様からのお告げが私に与えられました。
２「イスラエルに告げよ。　『おまえたちの見る所はみな、東も、西も、南も、北も、もう終わりだ。　おまえたちの国はもうおしまいだ。　３わたしは、偶像を拝んだおまえたちに怒りをぶつける。　もう絶体絶命だ。　４目をそむけたり、あわれんだりはしない。とことんまで罰する。　そうすれば、わたしが神であることを、おまえたちも知るようになろう。』」
５６神様は言います。「次から次へと災いを送って、おまえたちにとどめを刺そう。　終わりはすでに来ている。　終局の破滅が待っているだけだ。　７ああ、イスラエルよ。　滅亡の日のきざしは現われ、時はきた。　患難の日は近い。　それは喜びの声をあげる日ではなく、苦しみもだえて叫ぶ日だ！　８９やがて、わたしは憤りをぶちまけ、おまえたちの悪事のすべてを徹底的に罰しよう。　もはや、おまえたちを惜しまず、あわれまない。これをしているのが、実に神であるわたしであることを、おまえたちは知るようになろう。
１０１１ついに、さばきの日がきた。　朝日がのぼってくる。　おまえたちの悪と高ぶりは頂点に達し、行き着くところまで行ったからだ。　富におごり、誇りに酔いしれた悪者は、一人も生き長らえない。　おまえたちの高慢の鼻は完全にへし折られ、おまえたちの運命を嘆く者もいなくなる。

１２さあ、その時がきた。　その日が近づいた。　神の怒りがその地に臨むので、買う物もなく、売る物もなくなる。　１３神がイスラエル国民全体にさばきを宣言したので、たとい商人が生き長らえても、商売はできなくなる。　すべての人が滅ぼされる。　罪に満ちた生活をしている者は、だれも立ち直れない。
１４イスラエル軍に、『進め！』とラッパを吹き鳴らしても、だれも聞こうとしない。　わたしの怒りがすべての者に臨むからだ。　１５城壁の外に出れば、敵がおまえたちを殺そうと待ちかまえている。 城壁の内側にとどまれば､ききんと伝染病で滅ぼし尽くされる。
１６運よく逃れた者も、山々にひそむ鳩のように、その寂しさを嘆き悲しみ、自分の罪のために泣き悲しむ。　１７手も弱くなり、ひざもがくがく震えるようになる。　１８おまえたちは荒布を着、恐怖と恥で包まれ、悲しみと自責の念にかられて頭をそる。
１９金を投げ捨てよ！　怒りの日には何の価値もなくなるのだから、がらくたのように放り出せ。　おまえたちの罪の根本は金を愛することにある。　その金が、腹を満たすことも、満足させることもできなくなるのだ。　２０わたしの神殿を美しく飾るために与えた金で、おまえたちは偶像を作ってしまった。　だから、わたしはそれを全部とり上げる。
２１戦利品として外国人や悪者どもに与える。　彼らはわたしの神殿を汚すだろう。　２２その時、わたしは見て見ぬふりをする。　止めはしない。　彼らは強盗のように宝物をあさり、神殿を廃墟のようにする。
２３わたしの国民のために鎖を用意せよ。　この国は流血の罪で満ちているからだ。　エルサレムは暴虐に満ちているので、その住民を奴隷とする。　２４諸国の中でも最悪の国を、エルサレムに来させよう。　彼らは家々を占領し、おまえたちが誇っている要塞を破壊し、神殿を汚して、おまえたちの高慢の鼻をへし折る。　２５イスラエルを切り捨てる時が、いよいよきた。　平和を求めても得られない。　２６２７災いの上に災いが、悲しみの上に悲しみが、惨事の上に惨事が襲う。　おまえたちは預言者の指導を求める。　それなのに、祭司も長老も、王も君主も、ただ手をこまぬいているだけで、絶望のうちに泣き悲しんでいる。　わたしは人々が行なった悪に対し、それに十分見合ったお返しをするので、彼らは恐怖のあまり震えおののく。　そして、わたしが神であることを知るようになる。」
八
１それから、エホヤキン王の捕囚の六年目の八月末のこと、私が家でユダの長老たちと話していると、神様の力が私に臨みました。２私は人の姿のようなものを見たのです。　腰から下は火で、上は琥珀色に輝いていました。　３その方が手の形をしたものを伸ばして私の髪の毛をつかむと、御霊が私を宙に持ち上げ、エルサレムの北の門の入口に連れて行ったのです。　そこに、神様の激しい怒りを引き起こした偶像がありました。　４すると突然、前に谷間で見たのと同じ、イスラエルの神様の栄光が現われました。
５その方は私に、「ちりの子よ、北の方を見よ」と命じました。見ると、祭壇の門の北にある入口に、なんと偶像が立っているではありませんか。

６その方はさらに言いました。　「ちりの子よ、彼らのしていることが見えるか。　わたしを神殿から追い出すために、イスラエル国民がここで犯している大きな罪が見えるか。さあ、もっと大きな罪を見せてやろう。」
７こう言うと、その方は私を神殿の庭の入口に連れて行きました。そこの壁に穴がありました。
８するとその方は、「さあ、壁を掘り抜け」と命じます。　そのとおりにすると、隠れた部屋に通じる入口があるではありませんか。
９「入って行って、そこで行なわれている悪事を見よ。」
１０入って、びっくりしました。　あらゆる種類の蛇やとかげ、ぞっとするような獣の絵が、イスラエル国民が礼拝する各種の偶像とともに、壁一面に描かれているのです。　１１そこに、イスラエルの七十人の長老が、シャファンの息子ヤアザヌヤとともに立ち、それらの絵を拝んでいます。　長老たちはそれぞれ香をたく香炉を持っており、一同の頭上には、香の濃い煙が雲のように立ちこめていました。
１２　「ちりの子よ、イスラエルの長老たちが自分から進んでしていることを、よく見たか。　彼らは、『神様は見ておられない。　神様は去って行った』とうそぶいている。　１３さあ、もっと大きな罪を見せよう。」
１４その方は私を、神殿の北の門に連れて行きました。　そこには婦人たちが座って、異教の神タンムズのために泣いていたのです。
１５「見たか。　だが、もっと大きな悪事を見せよう。」
１６こう言うと、その方は私を神殿の内庭に連れて行きました。　そこでは、神殿の玄関と青銅の祭壇との間に、二十五人ばかりの人が神殿に背を向けて立ち、東を向いて、太陽を拝んでいたのです！
１７「見たか。　こんなひどい罪を犯して、国全体を偶像礼拝に導き、わたしを鼻であしらって、ますますわたしを怒らせるようなことは、ユダの人々にとって取るに足りないことであろうか。　１８それで、わたしも激しい憤りをもって彼らをあしらう。　少しもあわれまず、惜しみもしない。　彼らがあわれみを求めて叫んでも、耳をふさいでいよう。」
九
１それから、その方は大声で叫びました。「わたしがこの町を与えた者たちを呼べ。　武器を持って攻めて来るようにと言え。」
２六人の男が、この呼び声に答えて、おのおの剣を持って北側の上の門から現われました。そのうちの一人はリンネルの衣を着、腰に筆入れをつけていました。　彼らはみな神殿に入り、青銅の祭壇のそばに立ちました。　３その時、イスラエルの神様の栄光がケルビム（神の契約の箱を守る天使）から立ち上り、神殿の入口の上にとどまりました。
神様は筆入れを持った男を呼び寄せ、　４「エルサレム中を行き巡り、この町で行なわれるすべての罪悪のために泣き悲しむ者の額に、しるしをつけよ」と命じました。
５また、ほかの男たちにはこう言うのが、聞こえました。「彼について町中を行き巡り、

額にしるしがついていない者を、片っぱしから殺せ。　惜しんだり、あわれんだりするな。
６老若男女を問わず、小さい子供も、残らず殺すのだ。　ただし、しるしのついている者には触れるな。　まず、この神殿から始めよ。」　そこで彼らは、七十人の長老たちから殺し始めました。
　７さらに神様は命じました。　「神殿を汚せ！　おまえたちが殺す者たちの死体で庭を満たせ！　さあ、行け！」　彼らは出て行って、命令どおりにしました。
８その間、私はひとり残されました。　私は地にひれ伏し、思わずこう叫びました。　「ああ神様。　エルサレムに対する憤りのあまり、イスラエルに残された者たちを皆殺しになさるのでしょうか。」
９「イスラエルとユダの罪は非常に大きく、国全体に虐殺と不正行為が満ちている。　彼らは、『神様は見ておられない。　神様は去って行った』と言っているのだ。　１０だから、わたしは彼らを惜しまず、あわれみもしない。　彼らがしたことに対して、十分なお返しをする。」
１１ちょうどその時、リンネルの衣を着て、筆入れを持った男が、戻って来て、「ご命令のとおりにいたしました」と報告しました。
一〇
１突然、ケルビムの頭上の大空に、青く輝くサファイヤの王座が現われました。
２神様はリンネルの衣を着た者に命じました。　「ケルビムの下で回っている輪の間に入り、真っ赤に燃える炭火を両手いっぱいに持ち、町の上にまき散らせ。」
私の見ている前で、彼はそのとおりにしました。　３その男が入って行った時、ケルビムは神殿の南端に立っていて、栄光の雲が内庭いっぱいに広がっていました。　４すると、神様の栄光がケルビムから立ちのぼり、神殿の入口に向かいました。　神殿は栄光の雲に包まれ、庭は神様の栄光で輝いています。　５ケルビムの翼の音も、全能の神様の声のように、外庭にまではっきり聞こえます。
６神様がリンネルの衣を着た男に、「ケルビムの間に入り、輪の間から燃える炭火を取りなさい」と命じた時、その人は入って行って、一つの輪のそばに立ちました。　７８ケルビムの一つが翼の下から手を伸ばして、燃えさかる火の中から炭火を取り出し、リンネルの衣を着た男の両手に盛りました。　彼はそれを受け取ると出て行きました。
９‐１３四つのケルビムのそばにそれぞれ一つの輪があり、それが「車輪」と呼ばれているのを、私は聞きました。　第二の輪が交叉して第一の輪の中にはめ込まれており、その輪は黄緑の輝きを放ち、緑柱石のように光って見えました。　このような輪の構造から、ケルビムは四方八方どこへでも、まっすぐ進むことができました。　向きを変えなくても、ケルビムの顔の向く方向に進めるのです。　四つの輪はどれも、縁や輻まで全部、目でおおわれていました。　１４四つのケルビムはそれぞれ四つの顔があり、第一の顔は牛の顔、第二の顔は人間の顔、第三の顔はライオンの顔、第四の顔はわしの顔でした。
１５１６これらの生きものは、かつてケバル川のほとりで見たのと同じものでした。　ケ

ルビムが飛び立つと、輪も同じように飛び立ちます。　ケルビムが飛んでいる間、輪もそばについています。　１７ケルビムが立ち止まると、輪も立ち止まります。　ケルビムの霊が輪の中にあったからです。
１８その時、神様の栄光が神殿の入口から移動して、ケルビムの上にとどまりました。　１９そのまま見ていると、ケルビムが輪とともに神殿の東の門に飛んで行き、イスラエルの神様の栄光がその上をおおったのです。
２０これらの生きものは、かつてケバル川のほとりで、イスラエルの神様の下にいるのを見たのと同じものでした。　同じケルビムであることはすぐわかります。　２１それぞれ四つの顔と四つの翼を持ち、その翼の下には人間の手のようなものがあったからです。　２２その容貌も、かつてケバル川のほとりで見たものと同じでした。　ケルビムはみな、まっすぐ前へ進んで行きました。
一一
１２その時、御霊が私を持ち上げて、神殿の東の門に連れて行きました。　そこには、町の名士二十五人がおり、その中に、アズルの息子ヤアザヌヤとベナヤの息子ペラテヤという名の、二人の高官がいました。
御霊は私に言いました。　「ちりの子よ。　この者たちは、この町で立てられた邪悪な計画のすべてに責任を負っている。　３彼らは人々に、『さあ、エルサレムを再建する時がきた。　われわれの町は鉄の盾だ。　どんな危害からも守ってくれる』と言っている。　４だから、ちりの子よ。　大声で、はっきりと預言してやれ。」
５それから、神の御霊が私に下り、次のように警告せよと命じました。　「神様はイスラエル国民に、こうお語りになります。　おまえたちが言おうとすることを、わたしが知らないとでも思うのか。　おまえたちの考えていることぐらい、何もかも知っている。　６おまえたちは性懲りもなく人を殺し、町の通りを死人の山とした。
７神様はお語りになります。　本気で、この町が鉄の盾だと思っているのか。　とんでもない。　この町はおまえたちを守れない。　町の中には、おまえたちに殺された者の死体がごろごろし、おまえたちも引きずり出されて虐殺される。　８また、おまえたちが非常に恐れている戦争に巻き込まれる。　神様がこう言うのです。　９わたしは、おまえたちをエルサレムから連れ出し、わたしに代わってさばきを下す外国人の手に渡そう。　１０おまえたちは、イスラエルの国境に至るすべての道で殺される。　その時おまえたちは、わたしが神であることを知る。　１１この町はおまえたちにとって鉄の盾とはならず、その中は少しも安全ではない。　わたしは、イスラエルの国境までおまえたちを追いかける。
１２そうされてやっと、わたしが神であることを知るのだ。　おまえたちはわたしに服従せず、回りのすべての国々の習わしに従っていたからだ。」
１３私がこう預言している最中に、ベナヤの息子ペラテヤが突然たおれて息絶えました。
そこで、私は地にひれ伏して叫びました。「ああ神様、イスラエルにいる者を残らず殺そうとなさるのですか。」

１４その時、神様からお告げがありました。
１５「ちりの子よ。　エルサレムに残された者たちは、捕囚の同胞についてこう言っている。　『あんなにも悪いことをしたから、神様は彼らを追放し、その土地をわれわれに下さったのだ』とな。
１６だが、わたしはそうは言わない。　わたしは世界の国々におまえたちを散らしたが、そこにいる間、わたし自身がおまえたちの聖所となる。　１７そして、散らされた国々から連れ戻し、イスラエルの地を再び与える。　１８再び戻る時、おまえたちは、すべての偶像礼拝を跡形もなく取り除くようになる。　１９わたしはおまえたちに、一つの心と一つの新しい霊を与える。　おまえたちから石の心を取り除き、代わりに神を愛する柔らかい心を与える。　２０そこで、おまえたちはわたしのおきてを守れるようになり、わたしの国民となる。　わたしもまた、おまえたちの神となる。　２１その反対に、今エルサレムに住み、偶像を慕っている者たちには、その罪に対する十分なお返しをしよう。」
２２その時、ケルビムは翼を広げ、輪とともに空中に舞い上がり、イスラエルの神様の栄光がその上に輝きました。　２３それから、栄光は町の上にのぼり、東方の山の上にとどまりました。
２４そののち、神の御霊は私を再び、バビロンにいる捕囚のユダヤ人のところへ連れ戻してくれました。　私のエルサレム訪問の幻は、これで終わったのです。　２５神様が私にお示しになったすべてのことを、私は捕囚の民に語って聞かせました。
一二
１また、神様から私に、このようなお告げがありました。
２「ちりの子よ。　おまえは反逆者たちの中に住んでいる。　彼らは真理を知ろうとするなら知ることができるのに、知ろうともしない。　また、聞こうとするなら聞けるのに、聞こうともしない。　３彼らは反逆者なのだ。　だから、捕囚になることがどんなものか教えるために、実演して見せるがいい。　背中にかつげるだけの荷物をかついで、家を出よ。　どこかほかの場所へ行け。　それも昼のうちに、みんなが見ている前でだ。　どんな反逆者でも、それを見て、その意味するところを考えるかもしれない。　４昼のうちに、みんなが見守る中で、荷物を家の外へ持ち出せ。　それから、遠くの地へ長い旅をする捕囚の民のように、夕方、家をあとにして出かけよ。　５町の人々が見ている前で壁に穴をあけ、そこから荷物を持ち出せ。　６また、みんなが見守る中で、荷物をかついで夜の暗やみの中へ歩いて行け。　顔をおおい、回りを見るな。　これはみな、イスラエル国民に与える、エルサレムに降りかかる災いのしるしだ。」
７私は命じられたとおりにしました。　昼のうちに、捕囚に持って行けるだけの荷物を外へ運び出しました。　夕方になると、手で壁に穴をあけました。　そして、みんなが見ている前で、荷物をかついで暗やみの中へ歩きだしたのです。　８翌朝、神様からお告げがありました。
９「ちりの子よ。　反逆者であるイスラエル国民は、『いったい、これは何の意味なのか』

と尋ねている。　１０だから説明してやれ。　『これは、エルサレムのゼデキヤ王とイスラエル国民全体への、神様の宣告だ』とな。　１１これまで実演して見せたことは、これから起こることなのだ、と教えてやれ。　彼らは家から連れ出され、捕囚の地へ送られる。　１２ゼデキヤ王さえ、自分で持てる物だけ持って、何も見えないように顔をおおい、壁にあけた穴から、闇にまぎれて出て行くのだ。　１３わたしは網で王を捕らえ、カルデヤ人の地、バビロンへ連れて行く。　だが王は、その地を自分の目で見ることなく、そこで死ぬ。　１４わたしは、王に仕える者や、兵士たちを四方に風のように追い散らし、剣をそのあとから送る。　１５このように諸国に散らされてはじめて、彼らは、わたしが神であることを知る。　１６わたしはまた、わずかな者たちを戦争とききんと伝染病から免れさせよう。　免れた者たちは、自分がどんなに悪いことをしてきたかを、国々の前で告白するだろう。　こうして彼らも、わたしが神であることを知る。」
１７さらにまた、神様からお告げがありました。
１８「ちりの子よ、震えながら食事をせよ。　水も、これで最後であるかのように制限して飲め。　１９そして、こう警告せよ。　『神様は言います。　イスラエルとエルサレムの住民は、そのあらゆる罪のゆえに、食糧を最大限に節約し、水も絶望感にさいなまれながら少量ずつ飲むようになる。　２０町々は滅ぼされ、耕作地は荒れ果てる。　その時おまえたちは、わたしが神であることを知る。』」
２１続いて、神様はお語りになりました。
２２「ちりの子よ。　『日数が延び、預言者がみな嘘つきになる』という、イスラエル人たちが口にすることわざは何だ。　２３神であるわたしは、このことわざをやめさせる。　人々はもう、それを口にしなくなる。　代わりに、このことわざを言わせよ。　『すべての預言の成就する時がきた。』
２４その時、エルサレムの安全は保証つき、という偽りの予告が暴露される。　２５わたしは神である。　わたしが起こると警告することは、必ず起こる。　ああ、イスラエルの反逆者たち。　もう決して遅れることはない。　おまえたちが生きているうちに、わたしはそのようにする。」　こう神様が言われるのだ。
２６また、このようなお告げがありました。
２７「ちりの子よ。　イスラエル国民は、『彼が見ている幻は、まだ当分のあいだ実現しそうにない』と言っている。　２８だから、『神様はこう言います。　もう、これ以上遅れることはない。　わたしは今、それを行なう』と言ってやれ。」
一三
１それから、次のようなお告げがありました。
２３「ちりの子よ、イスラエルの偽預言者どもに預言せよ。　彼らは自分かってに幻を考え出し、わたしが何も語らないのに、神のお告げだと主張している。　そんな連中はのろわれるべきだ！
４ああ、イスラエルよ。　おまえの預言者どもは、まるで廃墟にいるきつねのように、城

壁を再建する役に立たない。　５ああ、悪い預言者ども。　敵の攻撃に備えて城壁を補強し、神にあってイスラエルを強化するために、おまえたちは何をしたのか。　６かえって、『これは神様からのお告げです』と言って、うそをついている。　わたしはおまえたちなんか遣わさなかった。　それなのに、自分たちの預言が実現することを期待している。　７見たこともないのに幻を見たと言ったり、わたしが何も語らないのに、『このお告げは神様からのものです』と言ったりしたことを、否定しきれるか。
８それゆえ、神様はお語りになります。　わたしはこれらの幻とうそのゆえに、おまえたちを滅ぼそう。　９わたしはおまえたちに立ち向かい、イスラエルの指導者の中から切り捨てる。　おまえたちの名を消し去る。　だから、おまえたちは二度と祖国を見ることがない。　その時おまえたちは、わたしが神であることを知る。　１０まことに、この悪者どもは、『神様は平安を下さる』と言って、わたしの国民をだましている。　平安を与えることなど、わたしの計画には全く入っていない。　わたしの国民はもろい壁を建てているのに、偽預言者どもはそれをほめそやし、しっくいで上塗りをしている。
１１この悪質な土建屋どもに、『その壁は倒れるぞ』と警告せよ。大雨が土台を浸食し、大粒の雹と激しい風が壁を打ち倒す。　１２壁が倒れると、人々は、『なぜ初めから、それではだめだと注意してくれなかったのだ。　なぜ、上塗りをして欠陥をおおうようなことをしたのだ』と叫ぶ。　１３いいか。　壁は必ず倒れる。　そう神様は言います。　わたしは憤りの嵐と、怒りの大洪水と、憤激の雹とによって、壁をなぎ倒す。　１４しっくいで上塗りした壁を打ちこわす。　壁はおまえたちの上に倒れて、おまえたちを押しつぶす。　その時おまえたちは、わたしが神であることを知る。　１５こうして、壁に対するわたしの怒りは、ようやく消える。　それで、壁をほめそやした者どもについて、わたしは『壁も、それを建てた者たちも、消え去った』と言おう。　１６彼らはまさしく偽預言者だった。　ほんとうは平安がないのに、エルサレムには平安がある、と言いはっていたのだ。　神様がこうお語りになるのです。
１７１８ちりの子よ、神からお告げを与えられているかのように装っている女預言者どもに、神はこう言うと語れ。『みんなの手首に魔術のお札を結び、魔術のベールをかぶせ、免罪符を売りまくって、老いも若きも、わたしの全国民のたましいを破滅させている女どもは、のろわれよ！　この女どもは、自分に利益がないと知ると、すぐに援助の手を引っ込める。　１９ほんの一つかみの大麦のために、あるいは、ほんの一切れのパンのために、わたしの国民をわたしから去らせようとするのか。　おまえたちは、死んではならない者を死に追いやったのだ！　わたしの国民にうそをつき、生きていてはならない者にいのちを約束している。　そうするのが、あの女どもの好む手口だ。』
２０そこで、神様はお語りになります。　おまえたちがわたしの国民のたましいを魔術にかけているので、おまえたちを押し倒す。　わたしは魔術のひもを引きちぎり、かごの鳥を放つように、わたしの国民を解放する。　２１魔術のベールも引き裂き、おまえたちの手からわたしの国民を救い出す。　もう彼らは、おまえたちの餌食ではない。　その時お

まえたちも、わたしが神であることを知る。　２２おまえたちの偽りは、わたしの意に反して、正しい人を落胆させた。　それどころか、罪の生活を続ける連中にいのちの約束をして、その悪者どもを力づけるようなことまでしたのだ。　２３だが、もうそんな偽りは絶対に許されない。　見たこともない幻を見たと言ったり、魔術をしたりすることもできなくなる。　わたしがおまえたちを滅ぼして、わたしの国民をおまえたちの手から救い出すからだ。　こうしておまえたちも、わたしが神であることを知る。」
一四
１それから、イスラエルの長老たち数人が来て、神様のお告げをうかがってほしいと願い出ました。　２彼らのために私に示されたお告げは、次のようなものです。
３「ちりの子よ。　この者たちは心の中で偶像礼拝をしている。どうして、彼らの願いなど聞いてやれようか。　４むしろ、わたしはこう言うと告げてやれ。　イスラエルの中で偶像を礼拝しながら、平気でわたしの助けを求めて来るような者には、神であるわたしは、それぞれに応じた処置をする。５わたしから離れて偶像礼拝に走る者たちの思いと心を、わたしは罰する。
６７それゆえ、神様は次のように警告なさいます。　悔い改めよ。　偶像を打ちこわし、心の中で偶像礼拝をすることをやめよ。　神であるわたしは、イスラエル人でも、イスラエルに住む外国人でも、わたしを拒んで偶像を礼拝しながら、わたしの助けや助言を求めて預言者のところへ来る者を、それぞれ必ず罰しよう。８そういう不届き者の敵となり、彼を完全に滅ぼして、恐るべきさばきの見本としよう。　その時おまえたちは、わたしが神であることを知る。　９偽預言者の一人がお告げを語っても、それはうそだ。　そんな預言は実現しない。　わたしはその預言者を、わたしの国民イスラエルから絶ち滅ぼす。
１０偽預言者と偽善者たち。　わたしのことばが欲しいなどと、ぬけぬけと言う悪者たちはみな、その罪のために罰を受ける。　１１その時イスラエル国民は、わたしを捨てて、これ以上罪に汚れた生活を続けるべきではなく、むしろ、わたしの国民となり、わたしも彼らの神となるべきだと、身をもって知る。　神様はこうお語りになります。」
１２また、このようなお告げがありました。
１３「ちりの子よ。　この国の人々がわたしに罪を犯す時、わたしは、こぶしで彼らを打ちのめし、食糧の供給を絶ち、ききんで人間も動物も絶ち滅ぼす。　１４たといノアやダニエルやヨブが、ここに今いたとしても、本人だけが、その思いや行ないの正しさによって救われるだけだ。　だれも、ほかの者を助けることはできない。　わたしはイスラエルの残りの者を滅ぼす。　このように神様がお語りになるのです。
１５わたしがこの地に危険な野獣を放ち、荒らすにまかせれば、　１６たといこの三人がいたとしても、何の役にも立たない。　彼らは、待ちかまえている滅びから人々を救えない。　こう神様は断言なさいます。　この三人だけは救われても、地は荒れ果てる。
１７あるいは、わたしがこの地に戦争を起こし、敵軍にすべての物を破壊するようにと命じる時、　１８たといその三人がここにいても、わたしが言うとおり、救われるのは彼ら

だけだ。
１９２０あるいは、わたしがこの地に憤りを注いで伝染病をはやらせ、その災害で人間も動物も死ぬ時、たといノアやダニエルやヨブが生きていたとしても、わたしが言うとおり、その思いや行ないの正しさのゆえに救われるのは、彼らだけだ。
２１神様はお語りになります。　戦争とききんとどう猛な野獣と伝染病、この四つの厳罰がエルサレムに下り、すべての生きものを滅ぼそうとしている。　２２もし生き残る者がいて、バビロンに捕囚の身とされているおまえたちのところへ来たとしても、おまえたちは自分の目で、彼らがどんなに悪い者であるかを見て、わたしがエルサレムを滅ぼしたのは当然だ、と認める。　２３彼らに会えば、起こるべきことがイスラエルに起こったのだ、とうなずくことだろう。」
一五
１それから、このようなお告げが神様から与えられました。
２「ちりの子よ。　森の中のぶどうの木に、どれだけの価値があるか。　ほかの木のように役に立つだろうか。　その枝の一本ほどの価値があるだろうか。　３とんでもない。　ぶどうの木は、なべなどを掛ける木くぎにさえできない。　４役に立つことと言えば、たきぎにするぐらいだが、それも、あまりよく燃えないしまつだ。　５６だから、たきぎにして燃やす前も、燃やしたあとも、ろくな役に立たないのだ。
これは次のようなことを意味していると、神様はお語りになります。　エルサレムの住民は森のぶどうの木のようなものだ。　火に投げ入れられる前も、投げ入れられたあとも、まるで役に立たない。　７わたしは敵のように、彼らの前に立ちはだかり、彼らが一度は火から逃れても、次の時は必ず火に追い込んでやる。　その時おまえたちは、わたしが神であることを知る。　８彼らが偶像礼拝をやめないので、わたしはこの地を荒れ果てさせる。」　そう神様はお語りになるのです。
一六
１再び、神様からお告げがありました。
２「ちりの子よ、胸がむかつくような罪のことでエルサレムに言え。　３神様は、エルサレムについてこうお語りになります。　おまえはカナンの地で生まれ、カナン人にまさるところは何もない。　おまえの父はエモリ人、母はヘテ人だったのだ。　４おまえが生まれた時、だれも面倒を見てくれなかった。　へその緒も切ってもらえず、裸のまま、うぶ湯にも入れてもらえず、うぶ声もあげられずに放置されていた。　５目をかける人もなく、かわいそうに思って世話をしてくれる人もなかった。　生まれたその日に、野原に捨てられ、死ぬばかりだった。　おまえなんか、いらない子だったのだ。
６７ところが、わたしが通りかかって、血まみれのままのおまえを見つけたのだ。　『死んではいけない！　野の草のようにたくましく、大きくなるのだ！』と、わたしは言った。すると、そのとおりになったのだ。　おまえは背も高く、ほっそりと、しなやかになり、玉のように美しい、うら若いおとめに育ち、乳房もふくらみ、髪も伸びた。　だが丸裸だ

った。
８しばらくして、おまえのそばを通りかかると、結婚できる年ごろになっていた。　そこで、わたしの衣でおまえを包み、結婚の誓いをした。　誓約を交わして、おまえはわたしのものとなった。　９１０結婚式の時、わたしは刺繍をほどこした豪華な美しい着物や、いるかの皮のサンダルをおまえにやった。　１１１２また、すばらしい装身具、腕輪や首飾り、鼻輪、イヤリング、宝石のついた冠も整えた。　１３こうして、おまえは金や銀で美しく身を飾り、刺繍した絹やリンネルをまとっていたのだ。　そのうえ最高のごちそうを食べて、いちだんと美しくなった。　まるで女王のように、いや、まさに女王そのものになったのだ。　１４その美しさは回りの国々の評判になった。　わたしが言うとおり、おまえはわたしの贈り物で美しさを極めていたのだ。
１５ところがおまえは、自分の美しさを鼻にかけ、それさえあれば、わたしなしでもやっていけると考えた。　そして、やって来る男には、だれかれかまわず、売春婦のように身を任せた。　おまえの美しさは、それを求める男のものになり下がった。　１６わたしが与えた愛らしい物を偶像の宮のために使い、また売春の床を飾るために使ってしまった。全く信じられない、前代未聞のことだ。　１７わたしが与えた宝石や金銀の装身具で男の像を作り、それを拝んだ。　それこそ、わたしを裏切る姦淫だ。　１８また、わたしが与えた刺繍入りの美しい着物は、偶像をおおうために使った。　そればかりか、わたしの油と香とを、それらの偶像を拝むために使った。　１９考えてもみろ。　おまえは、わたしが与えた上等の小麦粉や油や蜜までも、偶像にささげたのだ。　２０そして、わたしのために産んだ息子や娘を、偶像の神々にいけにえとしてささげ、無残にも殺してしまった。自分が売春婦になっただけでは満足できないのか。　２１ほんとうの神でもない偶像の祭壇で、わたしの子供まで、いけにえとして焼き殺さなければならないのか。
２２おまえは、長いこと姦淫と罪の生活にふけり、一度も、丸裸で、血まみれになっていた昔のことを、思い出さなかった。
２３おまえのすべての悪行、ああ、それはなんと忌まわしいことか。　そのために、災いが降りかかる。　そのほかにも、　２４おまえは、愛人たちのために特別な売春宿を設け、道という道に偶像の祭壇を建てた。　２５そこで、飽きもせず、通りかかる男という男に身を任せた。　２６さらに、みだらなエジプトに身を売り、姦通同然の同盟を結んだ。　わたしは怒り心頭に発する思いだ。
２７だから、わたしはげんこつでおまえを打ち倒した。　おまえの国を小さくし、おまえを憎むペリシテ人の手中に陥らせた。　ところが、その彼らでさえ、おまえの行状を見て顔を赤くしている。
２８おまえは、アッシリヤ人とも〔同盟を結んだり、彼らの神々を礼拝したりして〕姦通した。　次から次へと新しい神々を見つけても、まだ満足できないようだ。　アッシリヤ人と姦通してもまだ飽き足りず、　２９あの偉大な商業国バビロンの神々をも拝んだ。　だが、それでもまだ満足しなかった。　３０３１そこで、神様はお語りになります。　こん

なことをするおまえの心は、なんと汚れていることよ。　道という道に、売春宿である偶像の祭壇を築き、ずうずうしく淫行を重ねている。　おまえは、売春婦よりも悪い。　金を得るためでもなく、ただ悪にふけるために、そうしているからだ。　３２おまえは夫以外の男たちと同棲する不貞の妻だ。３３３４売春婦は報酬を得るために働いている。それで、男たちは多くの贈り物をする。　ところがおまえときたら、自分のほうから贈り物をして、自分のところへ来てくれるようにと、男たちを買収している。　売春婦とは全く反対のことをしているのだ。　だれもおまえなんか求めないから、自分から報酬を払わなければならなかったのだ。
３５ああ、ふしだらな女よ、神のことばを聞け。
３６神様はこうお語りになります。　わたしはおまえの汚れた罪、偶像礼拝という姦淫の罪、わが子をいけにえとして神々にささげたことなどを見てきた。３７その報いとして、このようにする。　おまえが愛した者であろうと、憎んだ者であろうと、とにかくおまえと同罪の愛人、つまりおまえの同盟国すべてを集め、彼らの見ている前で、おまえを裸にする。　３８おまえを殺人犯、また、不貞を働いた女として罰する。　３９おまえの愛人である多くの国々の手で、おまえを滅ぼす。　彼らはおまえが建てた売春宿や偶像の祭壇を打ちこわし、着ている物をはぎ取り、美しい宝石を奪い取り、丸裸にし、さんざん辱しめる。　４０４１彼らは家々を焼き払い、大ぜいの女の見ている前でおまえを罰する。わたしは、おまえが他の神々と姦通することをやめさせる。おまえが同盟国にこびて報酬を支払うようなこともやめさせる。
４２その時ようやく、わたしはおまえに対する激しい怒りを静め、ねたみを水に流し、平静になる。　もう怒ったりしない。　４３だがまず、おまえが犯したすべての罪を徹底的に罰する。　おまえは若いころに受けた恵みを忘れ、これらすべての悪事を働いて、わたしを怒らせたからだ。　これは神様がお語りになるのです。　おまえは悪事を重ねるばかりか、感謝することも忘れている。
４４『あの母親にして、この娘あり。』　みんながおまえのことを、こう言っている。　４５おまえの母親は夫と子供をきらったが、同じことをおまえもしている。　姉妹とも似たり寄ったりだ。　彼女たちも夫や子供をないがしろにした。　だから、おまえの母はヘテ人、父はエモリ人だったに違いない。
４６おまえの姉サマリヤは、娘といっしょに北に住み、妹ソドムは、娘といっしょに南に住んでいる。　４７もっとも、おまえは二人のようには罪を犯さなかった。　いや、無関係と言ってよいくらいだった。　それが、あっという間に、二人をはるかにしのぐほど堕落してしまったのだ。
４８神様はお語りになります。　ソドムとその娘たちは、おまえやおまえの娘たちほどのしたたか者では、断じてなかった。　４９妹ソドムとその娘たちの罪とは、貧乏人が飢えて苦しんでいるのを見ながら、思い上がり、安逸をむさぼり、腹いっぱい食べていたことだ。　５０彼女たちはわたしの見ている前で、無礼にも多くの偶像を拝んでいた。だから、

わたしは彼女たちを滅ぼしたのだ。
５１サマリヤでさえ、おまえの半分も罪を犯していない。　おまえは姉妹たちがした以上に偶像を礼拝した。　おまえに比べたら、姉妹たちはずっとまともに見える。　５２だから、彼女たちの罰がおまえより軽いと言って驚くな。　おまえがやったことは、ほんとうにひどいことだ。　おまえに比べたら、姉妹たちは潔白にさえ見える。　５３ところで、いつの日にか、わたしはソドムやサマリヤ、そしてユダをも、以前のように栄えさせる。５４おまえが受ける恐ろしい刑罰を見て、ソドムやサマリヤは、自分たちの刑罰はまだ軽かったと慰められるだろう。
５５やがて、おまえの姉妹であるソドムとサマリヤ、また、その全住民は、元の所へ帰る。その日には、ユダにも繁栄が戻ってくる。　５６おまえは、自分だけは特別だと得意になっていた時には、ソドムなどまるで鼻にもひっかけなかった。　５７だが今、おまえのひどい悪事が全世界にあばかれ、エドムやその近隣の国々、すべてのペリシテ人の笑い者になっている。　５８これはわたしが言うとおり、おまえが犯したすべての罪に対する刑罰の、ほんの一部だ。
５９６０それというのも、神様がこうお語りになるからです。　わたしは、おまえが約束を破ったので報復する。　おまえは、わたしと結んだ神聖な契約を、いとも簡単に破ってしまった。　だが、わたしは、おまえの若いころに結んだ契約を、これからも守る。　わたしはおまえと永遠の契約を結んだのだ。　６１それで、おまえもようやく、自分のしてきた悪事を残らず思い出して、恥じるようになるだろう。　わたしがおまえの姉妹であるサマリヤとソドムとを選び取り、彼女たちをおまえの娘とし、おまえに統治させる時、おまえはわたしの好意に深く胸を打たれる。　わたしとの契約を破ったからには、こんなすばらしい取り扱いを受ける資格などないことが、よくわかっているからだ。　６２わたしはもう一度、おまえとの約束を確認する。　おまえは、わたしが神であることを知るようになる。　６３おまえの今までの行ないにもかかわらず、わたしはおまえに親切にする。わたしがおまえの行なった悪事のすべてを赦す時、おまえは恥じ入って、ただただ口をつぐむだろう。　神様が、このようにお語りになるのです。」
一七
１それからまた、このようなお告げを神様から与えられました。
２「ちりの子よ、このなぞをイスラエル国民に示せ。
３４色とりどりの羽の色をした大わしがレバノンに飛んで来て、いちばん高い杉の木のてっぺんの若枝を摘み取り、商人の町へ運んで行った。　５そして、柳のように早く育つようにと、大きな川のほとりの肥えた地に植えた。　６やがて、木は根を張って生長し、たけは低いが、わしに向かってつるを張り、強い枝とよく茂った葉をつけた。７ところで、大きな翼と豊かな羽毛をもった別の大わしが来ると、木はそのわしに向かって、根と枝を伸ばした。　８もっとも、この木は、葉を茂らせ、実を結ぶ良いぶどうの木となるように、水に恵まれた良い地に、すでに植えられていたのだ。

９神様がお尋ねになります。　わたしがこの木を生長させ、繁茂させるだろうか。　いや、断じてさせない！　根こそぎ引き抜いてしまう！　枝は切り落とし、葉は枯らす。　それはたやすいことだ。　大ぜいの人手も、いろんな道具もいらない。　１０最初は順調に育っていても、ぶどうの木はそれでよく茂るだろうか。　いや、そんなことはない。　東風が吹きつけると、みごとに枯れてしまう。　それまで順調に育っていた最適の地でも、枯れてしまうのだ。」
１１また、次のようなお告げがありました。
１２１３「イスラエルの反逆者どもに問え。　この二羽のわしのなぞが何を意味するか、わからないのか。　それなら、わたしが教えよう。　〔最初のわしは〕バビロンの王ネブカデネザルだ。　彼はエルサレムに攻めて来て、〔木のてっぺんの若枝である〕王と王子たちを捕らえ、バビロンへ連れて行った。　ネブカデネザル王は王家の一人〔ゼデキヤ〕と契約を結び、忠誠を誓わせた。　その若枝を摘み取って、大きな川のそばの肥えた地に植えた。　これは、イスラエルの政治的指導者たちを捕囚として連れ去ったことを指す。　１４イスラエルが再び力をつけ、反逆することがないようにしたのだ。　こうして、イスラエルはその契約を守ることにより、かろうじて国としての体面を保ち、その立場を認められた。
１５ところが、ゼデキヤはバビロンに反逆を企て、ネブカデネザルと戦うため、〔もう一羽のわし〕エジプトに使者を立て、大軍と馬の救援を求めた。　このように約束を破って、イスラエルは繁栄し、存続できるだろうか。　１６とんでもない！　神様はこうお語りになります。　わたしは生きている。　イスラエルの王は必ず死ぬ。　〔ネブカデネザルは、その木を根こそぎ引き抜いてしまう。〕　ゼデキヤは、自分を王位につけてくれた王の住むバビロンで死ぬ。　この王との契約をないがしろにし、それを破ったからだ。　１７バビロン王が再びエルサレムを包囲し、そこに住む大ぜいの者を虐殺しても、エジプト王とその軍勢は、イスラエルを助けてはくれない。　１８イスラエルの王は忠誠を誓いながら、あとでその約束を破ったからだ。　彼は罰を免れない。
１９神様がこうお語りになります。　わたしは生きている。　だから、わたしの名にかけて誓った神聖な誓約をないがしろにした者を、必ず罰する。　２０その者の上にわたしの網を広げ、罠にかけて捕らえ、バビロンへ引いて行く。　こうして、わたしに反逆した罪を罰するのだ。　２１イスラエルの精鋭もみな剣で殺され、エルサレムに残った者も四方八方に散らされる。　その時おまえは、神であるわたしが、このことを語ったのだとわかる。
２２２３神様はこうお語りになります。　わたし自身が、いちばん高いレバノン杉の木のてっぺんから、いちばん柔らかい若枝を摘み取り、イスラエルのいちばん高い山のいただきに植える。　木はやがて枝を伸ばし、実を結んで、りっぱな杉の木となる。　その下にはあらゆる種類の動物が集まり､枝にはあらゆる種類の鳥が巣をつくる。　２４こうして、高い木を切り倒し、低い木を高くし、緑の木を枯らし、枯れた木を生き返らせるのは、神

であるわたしであることを、すべての人が知る。 神であるわたしがすると言ったことは、必ずそのとおりになる。」
一八
１また、神様からのお告げがありました。
２「人々がイスラエルについて、『父親の罪のために子供が罰を受けている』と言いふらすのは、なぜか。　３神様はこうお語りになります。　わたしは生きている。　もう二度と、こんなことわざをイスラエルで口に上らせはしない。　４わたしは、父であろうと、息子であろうと、すべての人を同じようにさばく。　それも、自分の犯した罪のために罰せられ、死ぬのだ。
５もしある人が、法に照らして正しく生き、　６山へ行ってイスラエルの偶像の前で食事をせず、偶像を拝まず、姦淫をせず、生理中の女に近づかず、　７貧しい者に親切にし、金を貸しても質物は返してやり、飢えている者には食物を与え、裸の者には着物をきせ、８利息を取らずに貸し、悪の道から離れ、公平に裁きをし、　９わたしのおきてを守るなら、わたしのことばどおり、その人はまさに正しい人だ。　その人は必ず生きる。
１０だが、もし彼の息子が盗みや人殺しをし、自分の責任も果たさず、　１１わたしのおきてに逆らって、山の上で偶像を拝み、姦淫を行ない、　１２貧しい者を苦しめ、質物を取り上げ、偶像を愛してやまず、　１３高利で金を貸しつけるなら、その人は生きることができるだろうか。　とんでもない！　彼は自分の罪のために必ず死ぬ。
１４反対に、この罪深い男の息子が、父親のしている悪事を見て神を恐れ、そんな生活は絶対しまいと決意し、　１５山へ行って偶像の前で食事をせず、偶像を拝まず、姦淫をせず、　１６借りる者を公平に扱い、不当な取り立てをせず、飢えている者に食べさせ、裸の者には着せ、　１７貧しい者を助け、利息を取らずに貸し、　わたしのおきてを守るなら、彼は父親の罪のために死ぬことはない。　必ず生きる。　１８だが父親は、自分の罪のために死ぬ。　残酷なことをし、盗みなどの悪事を重ねているからである。
１９おまえたちは、『どうしてですか。　子が親の罪を負わなくていいのですか』と、びっくりして聞き返すだろう。　そうだ。　負わなくていいのだ。　その子が正しく生き、わたしのおきてを守るなら、必ず生きるのだ。　２０罪を犯した本人が死ぬ。　子は親の罪のために罰せられてはならず、親も子のために罰せられてはならない。　正しい者は自分の善行に対する報いを受け、悪者は自分の悪行に対する報いを受ける。　２１だが悪者でも、すべての罪から足を洗い、わたしのおきてを守るようになって、正しく誠実に生きるなら、必ず生きて、死ぬことはない。　２２過去の罪はすべて忘れられ、彼は善行のために生きる者となる。
２３神様はこう問いかけます。　わたしが、悪者の死ぬのを見たがっているとでも思うのか。　とんでもないことだ！　わたしは、彼が悪の道から足を洗い、まともに生きるようになることしか願っていない。　２４だが、正しい人が罪を犯して、ほかの悪者と同じことをするなら、そのような者を生かしておけるだろうか。　もちろん、生かしておくわけ

にはいかない。　これまでの正しい行ないはすべて忘れられ、その罪のために死ななければならない。
２５ところがおまえたちは、『神様は不公平だ』と文句を言う。 さあ､イスラエル国民よ、聞け。　不公平なのはわたしか。　それとも、おまえたちか。　２６正しい人が正しく生きることをやめて、悪を行ない、そのまま死ぬなら、それは彼が行なった悪のせいだ。　２７また、もし悪者でも、悪から足を洗い、わたしのおきてに従って正しいことを行なうなら､彼は自分のいのちを救うことになる。　２８深く反省して､罪の道からきっぱり離れ、正しい人生を送ろうと決心したからだ。　彼は必ず生きる。　決して死ぬことはない。
２９それでもイスラエル国民は､『神様は不公平だ』と言いはる。　ああ、イスラエルよ。公平でないのは、わたしでなく、おまえたちだ。　３０ああ、イスラエルよ。　わたしはおまえたちを一人一人、その行ないに応じてさばき、報いを与える。　さあ、今のうちに悪事から足を洗え。　３１悪の道をあとにして、新しい心と新しい霊を受けよ。　ああ、イスラエルよ。　なぜ死に急ぐのか。　３２おまえたちが死ぬのなんか見たくない。　神様がこうお語りになるのです。　さあ、悔い改めよ！　悔い改めて、生きよ！
一九
１イスラエルの指導者たちの死を悼む哀歌をうたえ。　２おまえの母はなんという女だろう。　まるで雌のライオンのようで、子供もライオンの子のようだ。　３そのうちの一頭〔エホアハズ王〕は強いライオンに育ち、獲物を捕らえることを習い、ついに人を食べるようになった。　４そこで、諸国から狩人が集められ、そのライオンを落とし穴で捕らえると、鎖につないでエジプトへ連れて行った。
５母ライオンであるイスラエルは、その子への望みが絶たれたので、残る子の中から別の一頭〔エホヤキン王〕を取り、百獣の王となるように訓練した。　６それで、このライオンは仲間の指導者となり、獲物を捕らえることを習い、やがて人を食べるようになった。
７近隣の国々の宮殿を破壊し、町々を廃墟とし、農地を荒らし回り、作物をだめにした。この地の人はみな､そのうなり声を聞くと､恐ろしさのあまり震え上がった。　８それで、諸国の軍隊が四方八方から攻め上り、彼を落とし穴に追い込んで捕らえた。　９彼を檻に入れ､バビロン王の前に連れ出した。　彼は捕囚となり､その声は二度とイスラエルの山々で聞かれなくなった。
１０おまえの母はまた、灌漑用水のほとりに植えられたぶどうの木のようだった。　豊かな水のおかげで葉も青々と茂っていた。　１１そのいちばん強い枝が王の杖となった。 それは他のものから抜きんでて高く、遠くからもすぐ目についた。　１２だが、そのぶどうの木も憤りで根こそぎ引き抜かれ､地に投げ捨てられた。 枝は強い東風に折られて枯れ、実も焼かれてしまった。　１３今ぶどうの木は、水のない乾ききった荒野に植えられている。　１４すでに内側から枯れ始め､強そうな枝ぶりも見られない。　この悲しい預言は、すでに現実となっている。　もう、その実現をとどめることはできないのだ。」
二〇

１エホヤキン王が捕らえ移されてから六年後の七月下旬､イスラエルの長老たち幾人かが、神様にうかがいを立ててほしいと尋ねて来ました。　彼らは私の前に座って、神様のお答えを待っていました。
２そのとき神様は、このようなお告げを私に下さったのです。
３「ちりの子よ、イスラエルの長老たちに、神はこうお語りになると言え。　よくもぬけぬけと、助けを求めに来れたな。　決して語ってなどやるものか。　４さあ、ちりの子よ、彼らをさばけ。　責めよ。　先祖の時代から今日まで、この国の人々が行なってきた、すべての罪を教えてやれ。　５６神はこうお語りになると告げよ。　わたしがイスラエルを選び､エジプトでわたしが神であることを示した時､彼らとその子孫とにこう誓った。　彼らをエジプトから連れ出し、彼らのために探しておいた、乳と蜜が流れる最良の地に導くとな。
７それから、こう命じた。　すべての偶像を捨てよ。　わたしこそ、おまえたちの神だ。エジプトの神々を拝んで身を汚すようなことはするな。　８だが彼らは､わたしに背いて、いっこうに聞こうとしなかった。　偶像を除くことも、エジプトの神々を捨てることもしなかった。　それで、彼らがまだエジプトにいる時、わたしは彼らに怒りをぶちまけようと思った。
９１０だが結局、そうはしなかった。　イスラエルの神は自分の国民を守ることもできなかった、とエジプト人にあざ笑われることがないように、わたしの名誉を守ろうとしたからだ。　それで、エジプト人の目の前で、わたしの国民をエジプトから連れ出し、荒野へ導き入れたのだ。　１１その荒野で､おきてを与えた。　そのおきてを守ることによって、彼らが生きるためだ。　わたしのおきてを守るなら、だれでも生きる。　１２わたしは彼らに安息日〔毎週七日目の休息日〕を与えた。　それは彼らとわたしとの間で、彼らを選び分けて、ほんとうに神の国民とするのは、このわたしであることを思い起こさせるしるしだ。
１３それなのに、イスラエルはわたしに逆らった。　あの荒野で、わたしのおきてに従うことを拒んだのだ。　わたしの定めを守るなら、真のいのちが与えられるのに、それを守ろうとはしなかった。　安息日も悪用した。　それで、わたしは憤りを爆発させ、荒野で彼らを滅ぼしてしまおうと考えたのだ。
１４だが、わたしの名誉を守るために、またも思いとどまった。　エジプトから彼らを連れ出すのを見ていた国々の民に、めんどうを見きれなくなって滅ぼしたのだ、と言わせないためだ。　１５そこでわたしは、一度は与えようと思った世界一すばらしい地、乳と蜜の流れる地に導き入れないことにした、と断言した。　１６わたしのおきてを鼻であしらい、わたしの願いを無視し、安息日を守らなかった報いだ。要するに、彼らの心は偶像に引き寄せられていたのだ。　１７それでも、わたしは彼らを惜しんで、荒野で滅ぼすことはしなかった。
１８わたしは彼らの子供たちにこう警告した。　『親の二の舞を演じるな。　偶像礼拝で

身を汚すな。　１９わたしこそ、おまえたちの神だ。わたしのおきてを守り、わたしの命令に従え。　２０安息日を特別な日として、身も心もきよく過ごせ。　その日は、わたしがおまえたちの神であることを思い起こさせるために、わたしたちの間に立てた契約のしるしなのだ。』
２１それなのに、子供たちもまた、わたしに逆らった。　わたしのおきてを守るなら、正しく生きることができるのに、それを拒んだ。安息日も汚した。　そこで、こう言ってやった。　『もう我慢がならん。　今すぐ、この荒野で、おまえたちに憤りをぶちまける。』
２２それでも、わたしは罰せずにおいた。　エジプトから彼らを連れ出したわたしの力を見た国々の中で、わたしの名が傷つけられないためだ。　２３２４だが、彼らが荒野にいた時、はっきり言い渡した。　わたしのおきてを守らず、それをあざ笑うかのように安息日を破り、父たちが拝んだ偶像を慕ったので、地の果てにまで彼らを散らす、と。　２５わたしは、彼らがくだらない習慣や法律を取り入れるのを見ても、好きなようにさせておいた。　そんなものを守っても、いのちを得ることなんかできない。　２６わたしは彼らに、自分のやっていることがどんなに恐ろしいことか、また、わたしだけが神であることに気づいてほしいと思い、わたしが与えた良いもので、彼らがわれとわが身を汚すままにさせたのだ。　彼らは、最初に生まれた子供を偶像にささげて、焼き殺したのだ。
２７２８ちりの子よ、神がこうお語りになると、彼らに告げよ。　おまえたちの先祖は、約束の地に導き入れられてからも、高い丘や木の下で、所を選ばずいけにえをささげ、香をたいて、いつもわたしを裏切り、冒涜してはばからなかった。　彼らが神々にいけにえをささげた時、わたしの怒りは燃え上がった。　事もあろうに、偶像に香をたき、ぶどう酒を注いだからだ。　２９そこで、『おまえたちがいけにえをささげに行く場所は、いったい何だ』と問いただした。　そういうわけで、そこは今も、『いけにえの場所』と呼ばれている。
３０神様は、このことを知りたがっておられる。　おまえたちも先祖のように身を汚し、偶像を拝み続けるつもりか。　３１現に今おまえたちが、偶像へのささげ物として幼児を焼き殺し、灰にしているのに、イスラエルよ、どうして、おまえたちの願いを聞いて、助けることができるだろうか。　神様はお語りになります。　わたしは生きている。　おまえたちがいくら願っても、わたしは何も答えない。
３２いくらおまえたちが、回りの国々を見ならって木や石の偶像を拝もうとしても、そうは問屋が卸さない。　３３わたしが鉄のこぶしを振り上げ、大きな怒りを込めて、おまえたちを治めるからだ。　３４憤りを込めた強い力で、散らされていた国々からおまえたちを連れ出し、　３５３６荒野にあるわたしの法廷に集める。　そこで、おまえたちをさばく。　おまえたちをエジプトから連れ出したあと、荒野でした時のように、反逆者を取り除く。　３７おまえたちを念入りに数え上げ、ほんの一握りの者だけをイスラエルに戻す。
３８残る大部分の者は、わたしに反逆して罪を犯しているので、おまえたちの間から取り除く。彼らは捕らえられている国から連れ出されるが、イスラエルには入れない。　この

とおりのことが起こる時、おまえたちは、わたしが神であることを知るようになる。
３９ああ、イスラエルよ。　神様はこうお語りになります。　そんなにも偶像を拝みたければ拝むがいい。　だが、そうするなら、わたしにささげ物を持って来るようなことはするな。　そんなまねをして、わたしの聖い名を汚すようなことはやめてくれ。　４０神様はこうお語りになります。　わたしの聖い山エルサレムで、全イスラエルはわたしを礼拝するのだ。　その所で、わたしはおまえたちを喜んで迎え、おまえたちからいけにえと最上のささげ物を求めよう。　４１わたしがおまえたちを捕囚から連れ戻す時、おまえたち自身がわたしにささげられた良い香りとなる。　諸国の民はおまえたちの心に大きな変化が起こったことを知る。　４２さらに、わたしが先祖に約束した地に連れ戻す時、おまえたちはわたしが神であることを知るようになる。　４３その時、自分が犯した罪をことごとく思い起こし、その悪事のゆえに自分自身を忌みきらうようになる。　４４おまえたちの悪事にもかかわらず、おまえたちを祝福することによって、わたしの名誉を守る時、イスラエルよ、おまえたちはわたしが神であることを知るようになるのだ。」
４５さらに、このようなお告げが神様から示されました。
４６「ちりの子よ、エルサレムの方へ顔を向け、エルサレムとネゲブの森に、　４７こう預言せよ。　神のことばを聞け。　ああ、森よ。わたしはおまえに火をつける。　生木も枯れ木も、木という木をすべて焼き尽くそう。　その燃えさかる炎は消されず、国中を焼け野原とする。　４８そして全世界は、神であるわたしが火をつけたことを知るだろう。その火が消されることはない。」
４９そこで、私はこう叫びました。　「おお神様。　彼らは私のことを、『彼は、なぞでしか語らない』と言っています。」
二一
１それから、このようなお告げが神様から与えられました。
２「ちりの子よ、エルサレムに顔を向け、イスラエルとわたしの神殿とに預言せよ。　３神様はこうお語りになります。　イスラエルよ。　わたしはおまえを攻める。　剣を抜き、善人も悪人も区別なく、みな滅ぼす。　４正しい者も生かしてはおかない。　南のネゲブから北の国境まで、国中の者をきれいに一掃する。　５全世界は、こうしたのが神であるわたしであることを知る。　わたしは剣を手にし、このことをやり遂げるまで、剣をさやに納めない。
６ちりの子よ、人々の前で嘆け。　苦悩のあまり、うめき声をあげよ。　７どうしたのかと聞かれたら、こう答えよ。　神様が恐ろしいことを語ったからです。　そのとおりになったら、どんな勇敢な者も恐怖におののき、力もみな抜けてしまう。　意気消沈し、強いひざもがたがた震える。　神様がこうお語りになります。　おまえたちは滅びに向かっている。　わたしは必ず成敗してくれる。」
８また、神様からお告げがありました。
９－１１「ちりの子よ、このように人々に告げよ。　大虐殺用に、もう一振りの剣が研ぎ

すまされている。　それでも、笑い飛ばそうというのか。　おまえたちよりずっと強い者も滅んでいった。　その剣が今、刑を執行する者の手に渡されているのだ。　１２ちりの子よ、さあ、人目もはばからず泣きわめけ。　その剣で、わたしの国民と指導者がみな殺されるからだ。　みんな同じように死ぬ。　１３こうして、すべての者が試される。　逃れることはできない。　神様がこうお語りになるのです。
１４このように預言せよ。　力いっぱい手を打ち鳴らせ。　それから剣を取って、二回、三回と振り回せ。　それこそ彼らが虐殺されるしるしだ。　１５彼らを震え上がらせよ。抜き放たれた剣が、どの家の門口でもぴかぴか光っている。　その鋭い刃先が、人を切り殺そうと、いなずまのように光っている。　１６さあ、剣よ、右に左に、思うままに切りまくれ。　１７おまえが手を打ち鳴らして預言したように、神であるわたしがエルサレムを打ちのめして、わたしの憤りを静めよう。」
１８それから、このようなお告げが示されました。　神様はこうお語りになったのです。
１９２０「ちりの子よ、地図を作れ。　その上に、バビロンの王が攻めて来る二つの道を書きつけよ。　一つはエルサレムに通じる道、もう一つはヨルダン川東岸のラバに向かう道だ。　バビロンからの道が二つに別れる地点に、しるしをつけておけ。　２１バビロンの王はその地点で、エルサレムを攻撃しようか、ラバを攻撃しようか、と思案するからだ。彼は占い師を呼んで占わせる。　占い師は矢筒から矢を振り出したり、偶像にささげたいけにえの肝を調べたりする〔神々から情報を得る、古代の占い法〕。　２２その結果、エルサレムに向かえ、と言うだろう。　彼らは城壁を破壊する兵器を持って、城門めがけて攻めかかり、『皆殺しにしろっ！』と口々に叫ぶ。　また、包囲攻撃用に塔を建て、城壁を乗り越えるためにとりでを築く。　２３エルサレムはバビロンの裏切りを理解できないだろう。　どうして占い師が、こんな恐ろしいまちがいをしでかしたのか。　バビロンはユダの同盟国ではないか。　エルサレムを守ると約束してくれたではないか。　だがバビロンの王には、ユダの国民が反逆した時のことしか念頭にないのだ。　王はユダを攻め、国民を滅ぼす。
２４神様はこうお語りになります。　再三再四、おまえたちの有罪が宣告されている。　人前もはばからず、ぬけぬけと悪を行なっているからだ。　おまえたちはどこへ行っても、何をしても、悪いことばかりしている。　今こそ、罰を受ける時がきた。　２５ああ、悪にまみれたイスラエルの王ゼデキヤよ。　さあ、年貢の納め時だ。　２６神様がこうお語りになります。　宝石をちりばめた冠を取り去れ。　世の中がひっくり返る。　今や、貧乏人が高い地位に着き、金持ちが低くされる。　２７わたしはユダの王国を根底からくつがえす。　たとい新しい体制が生まれても、それに権威を授ける者が現われるまで、決して国は確立しない。　わたしが、その者にあらゆる権威を与えるのだ。
２８ちりの子よ、アモン人にも預言せよ。　彼らはわたしの国民が苦しんでいる時、それをあざ笑っていた。　彼らにこう言え。
おまえたちを切るために、わたしの剣がさやから抜き放たれた。　その剣は鋭く研ぎすま

され、いなずまのように光っている。　２９おまえたちの占い師や偽預言者どもは、おまえたちの神々がバビロンの王の手から救ってくれるから、『安全だ。　心配はない』とうそをついた。　こうして、おまえたちを他の悪者ともども死に追いやったのだ。　最後の罰の下る日がくる時、おまえたちは傷ついて死ぬ。　３０おまえたちを罰せずに、わたしの剣が元のさやに納められることはない。　生まれ育った祖国で、おまえたちを滅ぼそう。３１おまえたちに憤りをぶちまけ、大火事になるほど怒りの炎を吹きつけよう。　そして、破壊することの上手な、残忍な者どもの手に引き渡そう。　３２おまえたちは、火に注がれる油のようになり、おまえたちの血が国中に流される。　おまえたちは一掃されて、歴史から完全に忘れ去られる。神であるわたしが、こう断言するのだ。」
二二
１また、別のお告げがありました。　神様はこうお語りになったのです。
２「ちりの子よ、エルサレムを殺人のかどで告発せよ。　その恐ろしい残虐行為を、公然と非難せよ。　３のろわれ、滅ぼされようとしている殺人の町！　汚れと悪臭にまみれた偶像の町。　４おまえは殺人と偶像礼拝の罪を犯している。　今、おまえの滅びの日が近づいている。　年貢の納め時だ。　おまえを全世界の笑い者とし、非難の的としよう。　５近くの者も遠くの者も、悪名高き反逆の町として、おまえのことをあざ笑うだろう。
６おまえの城壁の中に住むイスラエルの指導者たちは、人殺しに夢中だ。　７両親は全く相手にもされず、寄留者や旅行者は保護という名目で不当な金を払わされ、孤児や未亡人は不正な扱いを受け、さんざんな目に会っている。　８神に関することは、どうでもよいことのように思われ、安息日も軽んじられている。　９囚人はぬれ衣を着せられ、死刑にまでされている。　すべての山のいただきは偶像でいっぱいだ。　みだらなことも至る所で行なわれている。　１０義母と姦淫したり、生理中の女と寝たりする男もいる。　１１人妻や息子の嫁、あるいは腹違いの姉妹と姦淫しても、あたり前のような風潮になっている。　１２雇われて人殺しをする者、暴利をむさぼる高利貸し、不当に搾取する者が、うようよしている。　わたしのことも、わたしの戒めのことも、てんで考えていない。　神様がこうお語りになるのです。
１３さあ今、わたしは指を鳴らして、おまえの不正な利得と流血をやめさせる。　１４わたしが罰する日に、おまえは強く、勇敢でいられようか。　神であるわたしが語るのだ。みなそのとおり行なわれる。　１５わたしはおまえを世界中に散らし、おまえのうちにある悪を焼き滅ぼそう。　１６おまえは国々の間ではずかしめられる。　その時、おまえはわたしが神であることを知る。」
１７それから、神様はこうお語りになりました。
１８－２０「ちりの子よ。　イスラエル国民は、銀を精錬する時に出る、何の役にも立たないかすのようなものだ。　真鍮、すず、鉄、鉛を混合する時に出る浮きかすだ。　だから、神様はこうお語りになります。　おまえたちは役に立たない浮きかすだから、わたしの炉であるエルサレムに集め、わたしの怒りの火で溶かそう。　２１憤りの炎を吹きつけ、

２２その激しい熱で、銀のように溶かしてしまおう。　その時、おまえたちは神であるわたしが怒りをぶちまけたことを知る。」
２３また、このような神様のお告げがありました。
２４「ちりの子よ、イスラエル国民に言え。　わたしの憤りが爆発する日に、おまえたちはきたない荒れ地、雨の降らない砂漠のようになる。　２５おまえたちの預言者どもは、獲物に忍び寄るライオンのように陰謀をめぐらす。　彼らはむさぼり食うように多くのいのちを奪い、財産や宝を強奪し、国中に未亡人をふやす。　２６また、祭司は祭司で、わたしのおきてを破り、神殿を汚し、わたしの聖さに泥を塗った。　彼らにとって、祭司の務めは日常の仕事と全く変わりないのだ。　わたしの国民に善悪の区別も教えず、安息日も無視した。　こうして、わたしの聖い名は彼らの間でひどく汚されている。　２７指導者も、獲物に飛びかかる狼のように、自分の利益のために人のいのちを奪っている。　２８預言者は偽りの幻を語り、わたしがひと言も語らないのに、神様がこうお語りになったのだと、平気で偽りのお告げを伝えている。　こうして、しっくいで壁の上塗りをするように、ごまかしているのだ。　２９それで、一般の人も、貧しくて乏しい者たちを虐待し、物をかすめ、寄留の外国人からも強奪している。
３０わたしは、この国を守る正義の城壁を建て上げ、破れ口に立ちふさがって、わたしの正しいさばきからおまえたちを守ってくれる者を捜し求めた。　だが、一人も見つからなかった。　３１そこで、怒りをぶちまけ、怒りの炎で、おまえたちを焼き尽くした。　おまえたちのすべての罪に見合うだけのお返しをしたのだ。」
二三
１またも、神様のお告げがありました。
２３「ちりの子よ、二人の姉妹のことを話そう。　二人はうら若いおとめであったころ、エジプトで売春をしていた。　４５姉はオホラ、妹はオホリバと言った。　この二人とはサマリヤとエルサレムのことだ。 二人はわたしの妻となり､それぞれ息子や娘を産んだ。ところが、オホラはわたしのもとを離れて他の神々に走り、隣のアッシリヤ人を愛した。６みな魅力的な若者で、鮮やかな青い衣を着て、威風堂々と馬にまたがった司令官や隊長だったからだ。　７こうして、アッシリヤのえり抜きの男たちと姦通の罪を犯し、彼らの偶像を拝んで身を汚した。　８オホラはエジプトを出てからも、みだらな情欲の炎が消えていなかった。　エジプト人が彼女に欲情を募らせて、その純潔を奪った、あのうら若いころと少しも変わっていないのだ。
９彼女はアッシリヤの神々に熱を上げている。　それでわたしは、彼女をアッシリヤ人の毒手に渡した。　１０彼らは、彼女を丸裸にして殺した上、その子供たちを連れ去って奴隷にした。　彼女の名は、当然の報いを受けた悪女として、国中の女たちの語り草となった。
１１妹のオホリバ〔エルサレム〕も、姉の身に起こったことを見ていながら、同じことをしでかしたばかりか、もっとひどい罪を犯した。１２彼女も、堂々と軍馬にまたがった若

者、すてきな制服を着た士官であるアッシリヤ人に、手あたりしだい、だれでもよいとばかりに、こびへつらった。　１３こうして妹も、姉の歩んだ道をまっしぐらに進んで行った。
１４１５事実、オホリバの堕落ぶりはサマリヤをはるかに上回っていた。　彼女は壁にかかっている絵を見て、そのとりこになってしまったのだ。　そこに描かれていたのは、バビロンの士官たちで、目のさめるような赤い制服を着け、すてきなベルトを締め、頭には垂れるほどのターバンを巻きつけていた。　１６この絵を見ただけで、彼女は男たちにすっかり魅せられ、使者をカルデヤに遣わした。　もちろん、彼らを自分のもとに招くためだ。　１７彼らは来て彼女と姦淫し、邪恋の床で彼女を汚した。　すると、彼女は急に彼らがきらいになり、きっぱり別れてしまった。
１８わたしは、姉と同様、妹にも愛想が尽きた。　この妹は、これ見よがしに裸体を彼らの前にさらけだし、彼らの情欲に身を任せたからだ。　１９２０それでもいっこうに懲りもせず、さらに淫行をほしいままにし、エジプトで売春をした若いころの愛人たちを思い出し、よりを戻して淫行を重ねた。　２１こうして、エジプト人に純潔をささげた、あのうら若いおとめのころを祝って、なつかしがっているしまつだ。
２２それで今、神様はこうお語りになります。　ああ、オホリバ。　わたしは、おまえが愛想をつかして別れたその国々を奮い立たせて、おまえに立ち向かわせる。　２３見よ、バビロニヤ人が攻めて来る。　ペコデやショアやコアから、すべてのカルデヤ人がやって来る。　それに、馬にまたがった、アッシリヤの眉目秀麗な若者、高官たちが加わっている。　２４彼らは戦車や車に乗り、戦闘準備を整えた大軍を率いて、北から攻めて来る。この大軍団は四方八方からおまえを囲み、やりたいほうだいのことをする。　２５わたしはおまえを断じて赦さず、恐ろしい目に会わせる。　おまえの耳も鼻も切り落とされ、生き残った者も殺される。　子供たちは奴隷として連れ去られ､残ったものは焼き払われる。２６美しい衣や宝石もはぎ取られる。
２７こうして、わたしは、エジプトから持ち込んで来た、みだらな行為をやめさせる。　おまえはもう二度とエジプトにあこがれたり、その神々を慕うことがない。　２８神様がこうお語りになります。　わたしは、おまえが忌みきらう敵どもの手におまえを必ず渡す。２９彼らは憎しみを込めておまえに当たり､何もかも奪い取り､丸裸にして放り出す。　こうして、おまえの売淫の恥が全世界にさらされるのだ。
３０だが、それも自業自得というものだ。　外国の神々を拝み、偶像礼拝によって、われとわが身を汚したからだ。　３１おまえは姉と同じ道をたどったので、姉を滅ぼしたのと同じ恐ろしい罰を、おまえにも下す。　３２そうだ。　姉に臨んだ恐るべきことが、おまえにも降りかかる。　姉が飲んだ杯には、なみなみとつがれていた。　おまえが苦しむのを見て、世界中があざ笑うだろう。　３３おまえも、姉サマリヤのように、悲嘆にくれ、酔っぱらいのようによろめき歩くようになる。　３４苦しみもだえながら、なおも恐怖の杯を最後の一滴まで飲み干すのだ。　これを語ったのはわたしだ。　３５わたしを忘れ、

わたしに背を向けた責任はみな、おまえが自分で負わなければならない。
３６ちりの子よ、恐ろしい悪事を重ねているエルサレムとサマリヤを非難せよ。　３７彼らは姦淫と殺人の罪を犯した。　偶像を拝み、わたしのために産んだ子供たちを、偶像の祭壇にいけにえとしてささげ、焼き殺してしまったのだ。　３８その同じ日に、わたしの神殿を汚し、安息日を無視した。　３９なにしろ、子供を殺して偶像にささげておきながら、同じ日に、なんとその足で、神殿へぬけぬけと礼拝に来るのだから。　彼らのわたしに対する態度は、こんなものでしかないのだ。４０そればかりか、おまえは遠くの国にまで使いをやり、偶像の神々に仕える祭司を招き、歓待している。　彼らの気を引こうと、おまえは体を洗い、アイシャドーを塗り、最上の宝石で身を飾った。　４１豪華なベッドにいっしょに腰をかけ、その前に置いたテーブルの上に香と油とを並べた。　４２おまえの部屋からは、荒くれ者の飲んだくれや、いやらしい連中のどんちゃん騒ぎが聞こえてきた。　彼らはおまえの腕に腕輪をはめ、頭にきらきら輝く冠をのせた。　４３だれが、年老いて醜くなった売春婦と姦淫をするだろうか。　４４ところが、この男たちはそうしたのだ。　恥じらいを忘れた売春婦サマリヤとエルサレムのもとへ、情欲にかられて彼らは行った。　４５だが、正しい者は、どこででも、彼女たちの正体が姦婦や人殺しであることを見抜き、法律に従って彼女たちを裁くのだ。
４６神様はこうお語りになります。　大軍を攻め上らせて、彼女たちをはずかしめ、打ち砕く。　４７敵兵は彼女たちを石で打ち、剣で殺し、息子や娘を虐殺し、家は火で焼き払う。　４８こうして、わたしはこの地から、みだらな行為や偶像礼拝をなくさせる。　わたしのさばきは、それを見るすべての人々に、偶像礼拝の非を悟らせる教訓となろう。　４９おまえたちは、売春や偶像礼拝の罪の報いを余すところなく受ける。　その全部の罰を負わなければならない。　その時、おまえたちはわたしだけが神であることを知る。」
二四
１〔エホヤキン王が捕囚となって〕九年目の十二月下旬のこと、次のようなお告げが神様から示されました。
２「ちりの子よ、きょうの日付を書き留めよ。　きょう、バビロンの王がエルサレムに攻撃をしかけたからだ。　３さあ、反逆者であるイスラエルに、このたとえを語れ。　神様がこう命じる。　なべに水を入れ、火にかけて沸騰させよ。　４そこに最上の羊の肉、ももや肩などの柔らかい肉をいっぱい入れよ。　５群れの最良の羊だけを使え。　火にはどんどん薪をくべ、肉が骨から離れるまでよく煮るのだ。
６神様はこうお語りになります。　ああ、殺人の町、エルサレムはのろわれよ。　おまえは、さびと悪とで穴だらけになったなべのようだ。　だから、その中から手あたりしだい、肉を取り出せ。　どれが良いということはなく、みな同じだからだ。　７エルサレムの悪さ加減は周知のことだ。　平気で人を殺し、その血が岩にたれて、人目にさらされても、隠そうともしない。　８だから、わたしもそのままにして、その血がエルサレムの犯行を訴えるにまかせた。　わたしの怒りと憤りはいやがうえにも募った。

９殺人の町､エルサレムはのろわれよ！　わたしはその下に薪を積み上げる。　１０さあ、薪をくべろ。　ぼんぼん火を燃やせ。　なべを煮えたぎらせよ。　肉をよく煮てから、なべを空っぽにし、骨を燃やすのだ。　１１空のなべを炭火にかけ、そのさびや汚れを焼き落とせ。　１２だが、すべては骨折り損だ。　火をどんなに強くしても、さびや汚れは落ちずに残るからだ。　１３そのさびと汚れとは、偶像を礼拝してやまない、おまえのみだらな行為のことだ。　わたしはおまえをきよめようとしたが、おまえが拒んだので、憤りを燃え上がらせ､おまえを恐ろしい目に会わす。　それまで汚れたままでいるがいい。　１４神であるわたしが、これを語ったのだ。　このことは必ず起こる。　わたしがそうするからだ。｣
１５また、次のようなお告げが神様から示されました。
１６｢ちりの子よ。　わたしはおまえの愛する妻を取り去る。　彼女は急死する。　だが、悲しんではならない。　決して泣くな。　涙を流すな。　１７ため息くらいならいいが、声をたててはならない。　その墓でも、声をあげて泣くな。　頭にターバンを巻き、足には靴をはけ。　慰めにと、友人が持って来る食べ物を受けるな。｣
１８その朝、私はこのことを人々に語りました。　ところがその晩、妻が死んだのです。翌朝、私は神様がお語りになったとおりにしました。
１９すると人々は、｢なぜ、そんなふうにするのですか。　わけを教えてください｣と尋ねてきました。
２０２１そこで私は、こう答えました。　｢神様が私に、イスラエル国民にこう言え、とお語りになったのです。　わたしは、おまえたちが国の力とも頼み、わたしが愛してやまない、美しい神殿を滅破壊しよう。そして、ユダヤにいる、おまえたちの息子や娘を剣で殺そう。　２２私がしたと同じことを、あなたがたもするようになるのです。　人前で嘆き悲しむことも、同情して友人が持って来てくれた食べ物を食べることも、できなくなるのです。　２３喪中だというのに、頭にはターバンを巻き、足には靴をはき、嘆くことも泣くこともしません。　自分たちの罪を嘆き合い、自分が犯した多くの悪事を一人で悲しむばかりです。　２４神様が言われるとおり、私は手本を示したのです。　エゼキエルがしたとおりに、おまえたちもするようになる。　その時がきたら、おまえたちは、わたしが神であることを知るようになる。
２５ちりの子よ。　わたしがエルサレムの住民から、その心の喜びであり誇りでもある妻や、息子や、娘を取り去る日に、　２６エルサレムから命からがら逃れた者が、バビロンにいるおまえに、その出来事を知らせるために旅立つ。　２７その者が到着したら、さっそく、話をするがいい。　おまえはこの人々のためのしるしとなるのだ。　その時、彼らはわたしが神であることを知る。｣
二五
１それから、このような神様のお告げがありました。
２｢ちりの子よ。　アモンの地に顔を向け、その住民に預言せよ。　３こう告げるのだ。

神様がお語りになることを聞きなさい。　おまえは、わたしの神殿が破壊された時、あざ笑った。　イスラエルが苦しんでいる時、これをさげすんだ。　ユダが捕囚として連れて行かれた時、ざまあ見ろと叫んだ。　４だから、東の砂漠からベドウィン族をおまえの地に侵入させる。　彼らはおまえのうちに陣取り、住みつき、おまえが手塩にかけた作物をぜんぶ刈り取り、乳牛を盗んでいく。　５わたしはラバの町をらくだの牧場とし、アモン人の住む全地を羊の放牧地として荒れるにまかせよう。　その時、おまえはわたしが神であることを知る。
６神様はこうお語りになります。　おまえはわたしの国民の滅亡を見て、手をたたき、足を踏み鳴らして喜んだ。　７だから、重い罰を加え、多くの国を侵入させて、おまえを荒れるにまかせる。　国として立ち行かなくなるまで、完全に滅ぼそう。　その時、おまえはわたしが神であることを知る。
８神様はこうお語りになります。　モアブ人は、『ユダの国も他の国と、ちっとも変わらないじゃないか』と言っている。　９１０だから、わたしはモアブの東の国境を開け放ち、モアブ人が誇りとしているベテ・ハエシモテ、バアル・メオン、キルヤタイムの町々を掃討する。　東の砂漠から来るベドウィン族が、アモンに対するように、モアブにもなだれ込む。　アモンは国々の間から抹消される運命にある。　１１こうして、わたしのさばきが下る時、モアブ人は、わたしが神であることを知る。
１２神様はこうお語りになります。　エドムの住民は、自分の手でユダの国民に復讐するという大それた罪を犯した。　１３だから、こぶしでエドムを打ちたたき、人も家畜も、羊の群れをも一掃する。　テマンからデダンまで、すべてのものを剣で切り倒す。　１４わたしの国民イスラエルの手によって、このことを行なう。　彼らがわたしの激しい復讐を遂げてくれる。
１５神様はこうお語りになります。　ペリシテ人は、昔からユダに恨みをいだき、復讐の念に燃えて攻めて来た。　１６だから、ペリシテ人の地にこぶしを振り上げ、ケレテ人を一掃し、海岸に住む者を完全に滅ぼす。　１７彼らのしてきたことに対して、恐ろしい復讐をする。それが現実となる時、彼らは、わたしが神であることを知る。」
二六
１〔エホヤキン王が捕囚となって〕十一年目のその月の一日、新しいお告げが神様から示されました。
２「ちりの子よ。　ツロはエルサレムの滅亡を喜んで、『それ見たことか。　エルサレムは地中海沿岸と、ヨルダン川沿いの南北に通じるドル箱の通商路を手中におさめていたが、ついに打ち破られた。　今度はおれ様の出番だぞ。　エルサレムが廃墟になったので、おれ様が金持ちになれるのだ』と言いおった。
３だから、神様はこうお語りになります。　ツロよ。　わたしはおまえを攻める。　波が打ち寄せるように、たくさんの国が次から次へと攻め寄せる。　４彼らはツロの城壁を破壊し、やぐらを倒す。　わたしは、その土をけずり取って、そこを裸の岩にしよう。　５

島には、住む人もなく、ただ漁師が網をしかける場所となる。　これを語ったのはわたしであると、神様が言います。　ツロは多くの国のえじきとなるのだ。　６陸地にあるツロの町も剣によって滅びる。　その時、彼らはわたしが神であることを知る。
７神様はこうお語りになります。　北から、王の王であるバビロンの王ネブカデネザルを連れて来よう。　彼は騎兵と戦車の大軍を率いて、ツロに攻め寄せる。　８まず、周辺の村々を攻略し、それから陸地の町を包囲してとりでを築き、盾を屋根のように掲げて攻撃する。　９城壁破壊用の武器で城壁を突きくずし、大槌をふるってとりでを粉砕する。　１０騎兵隊の巻き上げる土煙で、町中は息もつけない有様となろう。　打ち破られた城内から、戦車を引いて疾駆する馬の地響きに、城壁は震え上がるだろう。　１１騎兵たちが町の通りにひしめき、おまえの住民を片っぱしから殺して回る。　あの名高い、大きな柱も倒される。
１２財宝も商品も残らず略奪され、城壁も打ちこわされる。　快適な家は取りこわされ、石も木も、そしてちりまでも、海に投げ捨てられる。　１３わたしは、おまえが歌うのをやめさせる。　もう竪琴の音も聞こえなくなる。　１４おまえの島を裸岩とし、漁師たちが網をしかける所とする。　おまえは二度と建て直されることはない。　神であるわたしが言うのだから間違いない。　１５おまえがくずれ落ちる響きで国中が震え上がり、虐殺が続けられる中で、傷ついた者が悲鳴をあげる。
１６その時、海辺の諸国の指導者たちは、王座から降り、王衣も美しい着物も脱ぎ捨て、あまりに恐ろしい光景に、身を震わせながら地面に座り込む。　１７彼らはおまえのために嘆き悲しみ、こんな哀歌を口にする。　『ああ、難攻不落を誇った島の町。　その強大な海軍力が陸地を震え上がらせていたのに、どうして海に消えてしまったのか。　１８島々はおまえの滅亡に震え上がり、おびえたまなざしで見つめている。』
１９神様がこうお語りになるのです。　わたしはツロを完全に滅ぼす。　大洪水のような敵の猛攻撃で、その下に沈められてしまう。　大海がおまえをのみ込んでしまうのだ。　２０わたしはおまえを地獄の穴に送り込み、昔の民といっしょに横たえさせる。　町は荒れ果て、ずっと昔に下界に下った者の死体のような、死の町となる。　再び人が住むことはなく、その美しさを取り戻すこともない。　２１わたしはおまえに恐ろしい最期を遂げさせる。　いくら捜しても、おまえを見つけることはできない。　このように神様がお語りになるのです。」
二七
１それから、次のような神様からのお告げがありました。
２「ちりの子よ、ツロのために、この悲しみの歌をうたえ。
３ああ、世界貿易の中心地、強大な港町よ。　神様のお告げを聞きなさい。　おまえは『世界でいちばん美しい町だ』と自慢している。　４おまえは領土を海の中にまで広げ、建築家たちはおまえを豪華に仕上げた。　５おまえはセニル産の最上のもみの木で造った船のようだ。　マストにはレバノン杉を使った。　６かいにはバシャン産の樫の木、船室の壁

にはキプロス南岸産の糸杉材を使った。　７その帆はエジプト亜麻の最上の帆布で、おまえをおおう日よけは東部キプロス産の紫と紅の染料で明るく彩られている。
８船員はシドンとアルワデ出身の者、舵手はツロの腕ききだ。　９ゲバル出身の経験豊富な老船大工が船板の継ぎ目を修理する。 世界の各地から商品を満載した船がやって来て、おまえと商いをする。
１０おまえの軍隊には遠くペルシヤ、ルデ、プテの出身者がおり、おまえに仕えた。　城壁にかけた彼らの盾は、おまえの自慢の種だった。　１１アルワデとヘレク出身の者が城壁の歩哨に立ち、やぐらはガマデ出身の者が守りを固めていた。　彼らの盾も城壁にずらっと並び、おまえの栄誉はまさに完全そのものだった。
１２タルシシュから、銀、鉄、すず、鉛など、あらゆる種類の財宝が手に入った。　１３ヤワン、トバル、メシェクの商人は奴隷や青銅の器を持参し、　１４ベテ・トガルマからは軍馬、戦車用の馬、らばが運ばれて来た。
１５デダンからも商人が来た。　おまえは地中海沿岸の市場を支配し、黒檀や象牙で支払わせた。　１６エドムの貿易商人はおまえの製品をたくさん買い、エメラルド、紫色の染料、刺繍品、上質のリンネル、さんごやめのうなどの宝石と交換した。　１７ユダと、かつてイスラエル王国にあった町々も、ミニテの小麦といちじく、はち蜜、香油、香料などを持参して、おまえと商いをした。　１８ダマスコからもやって来て、ヘルボンのぶどう酒とシリヤの羊毛を、おまえの豊富な製品と交換した。　１９ベダンとヤワンも、アラビヤ糸、銑鉄、桂枝、菖蒲を持参して、商いをした。　２０デダンは鞍に敷く高級な布地を持参した。
２１アラビヤ人もケダルの裕福な君主たちも、子羊、雄羊、山羊を持参した。　２２シェバとラマの商人は、いろんな種類の香料、宝石、金を持って来た。　２３カランとカネ、エデン、アッシリヤ、キルマデも、それぞれの製品を持って来た。　２４青色の着物、刺繍品、よく撚った太ひもでしっかり織り上げた多彩な敷き物など、最上質の織物類だった。
２５タルシシュ船団は、おまえが雇った海のキャラバン隊だ。おまえの島の倉庫はあふれるばかりだ。
２６だが今、おまえの政治家たちはツロ丸を嵐の真っただ中にこぎ出した。　激しい東風に、さすがの巨船もぐらつき、海の真ん中で難破する。　２７すべてのものが海のもくずと消える。　財宝も商品も、船員も水先案内人も、船大工も商人も兵隊も、すべての人が、ツロの壊滅の日に、海の底に沈む。
２８恐怖におののく水先案内人の叫び声に、近隣の町々は震え上がる。　２９３０海に出ていた船員が上陸し、本土の岸に立って見回しながら大声で泣き、頭にちりを振りかけ、灰の中をころげ回る。　３１悲しみのあまり頭をそって丸坊主となり、荒布をまとい、おまえのために心を痛めて、泣きくずれる。
３２彼らは悲しみの歌をうたう。『海の真ん中で滅ぼされたツロのように不思議な町が、世界のどこにあったろうか。　３３おまえの商品は多くの国の人々の欲望を満足させた。

地の果てに住む王たちも、おまえが送った財宝を喜んだ。　３４だが今、おまえは海の底に横たわっている。　すべての商品も、それを運ぶ船員もみな、おまえとともに沈んでしまった。　３５沿岸に住む者はみな、わが目を疑い、立ちすくんでいる。　王たちも、おびえた表情でじっと見つめている。　３６他国の商人も、おまえがたどった運命の恐ろしさに、頭を振って考え込んでいる。　おまえは永久に滅び去ったのだ。』」
二八
１また、次のような神様のお告げが示されました。
２３「ちりの子よ、ツロの君主に言え。　神様はこうお語りになります。　おまえは身のほどをわきまえず、自分を神だと思い上がり、大海に浮かぶ島で神の座についている。　だが、いくら神のように振る舞っても、おまえは人であって神ではない。　確かに、おまえはダニエルよりも賢く、どんな秘密もおまえには筒抜けだ。　４その知恵と知識を駆使して、おまえは金、銀、財宝を手に入れ、大きな富を築いた。　５そうだ。　おまえの知恵がおまえを大金持ちにし、どうしようもないほど高慢にしたのだ。
６だから、神様はこうお語りになります。　おまえは、自分が神のように賢いと言いはっている。　７それで、諸国に恐れられている敵の大軍が、知恵を自慢しているおまえに向かって、さっと剣を抜き放ち、その栄華をめった切りにしてしまう。　８海の真ん中の島で、おまえを地獄の穴へ突き落とし、剣で八つ裂きにする。　９それでも、神だと言いはるのか。　少なくとも、侵略者たちにとって、おまえなんか神ではなく、ただの人間だ。
１０おまえは外国人の手で、まるでごみ屑を掃き捨てるように、惜しげもなく殺されてしまう。　わたしがこう言うのだと、神様はお語りになります。」
１１また、次のようなお告げがありました。
１２「ちりの子よ、ツロの王のために泣け。　神様はこうお語りになります、と告げよ。おまえは知恵に満ち、美を極めていた。　１３おまえは神の園、エデンのような所にいて、その服には、最高級の金の台に、ルビー、トパーズ、ダイヤモンド、貴橄欖石、しまめのう、碧玉、サファイヤ、紅玉、エメラルドなどあらゆる種類の宝石をはめ込んだ飾りをつけていた。　みな、おまえが王となった日に贈られた物だ。　１４わたしはおまえを、特に選ばれた守護者ケルブに任命した。　おまえは神の聖なる山に近づき、火の石の間を歩いていた。
１５王となってから、不正が見つかる時まで、おまえがやったことはみな完璧だった。　１６ばく大な富に目がくらんで、おまえは罪を犯したのだ。　そこでわたしは、普通の罪人と同じように、おまえを神の山から追い出した。　ああ、すぐれたケルブよ。　わたしはおまえを火の石の間から消滅させた。　１７おまえは自分の美しさを鼻にかけ、思い上がっていた。　栄華のために、自分の知恵を台なしにしてしまった。　だから、おまえを地面にたたき伏せ、何事が起こったのかと好奇の目をみはる王たちの前に、おまえの無力さを見せつけたのだ。　１８おまえは不正な商いをして自分を汚した。　だから、おまえ自身の所業から火を引き出し、みんなが見ている前でおまえを焼き、地上の灰としてやった。

１９おまえを知っていた者はみな、その恐ろしい運命に背筋を凍らせる。　おまえは見せしめとして、永久に滅ぼされるのだ。」
２０次のようなお告げもありました。
２１「ちりの子よ、シドンの町にこう預言せよ。
２２神様がこうお語りになります。　シドンよ。　わたしはおまえの敵となり、わたしの力を見せてやろう。　おまえを滅ぼして、わたしの聖さが示される時、それを見る者はみな、わたしが神であることを知る。　２３伝染病をはやらせ、兵を送って滅ぼす。　町の通りで、傷ついた者たちは四方八方から攻め寄せる敵兵に殺される。　その時おまえは、わたしが神であることを知る。　２４おまえも、他のイスラエルの近隣の国々も、かつてはイスラエルをばかにし、邪険にしてきたのだが、これからはもう、いばらやとげのようにイスラエルを突き刺したり、引き裂いたりしなくなる。
２５イスラエル国民は、わたしがその先祖ヤコブに与えた地に、再び住むようになる。　散らしておいた遠くの国々から、わたしがもう一度、彼らを集めるからだ。　こうして、わたしは全世界にわたしの聖さを示す。　２６彼らはイスラエルに安らかに住み、家を建て、ぶどう畑をつくる。　こうしてイスラエルをばかにした回りの国々がみな罰せられる時、彼らは、わたしが彼らの神であることを知る。」
二九
１〔エホヤキン王が投獄されて〕十年目の十二月末に、神様から次のようなお告げがありました。
２「ちりの子よ、エジプトの王と国民に預言せよ。　３神様がこうお語りになります、と告げよ。 川の真ん中にいる強い竜のようなエジプト王よ。 わたしはおまえの敵となる。 おまえが、『ナイル川は私のものだ。　私が自分のためにつくったのだ。』と言っているからだ。　４わたしは、おまえのあごに鉤をかけ、うろこについた魚ごと岸に引き上げる。 ５おまえを魚もろとも、死ぬまで荒野に放っておく。　遺体を葬る者はいない。　わたしがおまえを野獣や鳥のえじきとしたからだ。
６イスラエルが〔わたしに頼る代わりに〕おまえに助けを求めた時、おまえにはそれだけの力がなかった。　そのことから、おまえたちはみな、わたしが神であることを知るようになる。　７イスラエルはおまえに寄りかかった。　だがおまえは、ひびの入った杖のように折れた。　イスラエルは肩を砕き、痛みのあまりよろめいた。　８それで、神様はこうお語りになります。　ああ、エジプトよ。　わたしは軍隊を送っておまえを攻め、人も家畜もみな滅ぼす。　９エジプトは荒れ果てる。　その時エジプト人は、このようにしたのは神であるわたしだと知る。
おまえは、『ナイル川は私のもの。　私がつくったのだ』と言っている。　１０だからわたしは、おまえとその川に向かって立ち上がり、ミグドルからセベネ、さらに南のエチオピヤとの国境に至るまで、エジプト全地を完全に滅ぼす。　１１四十年間、人っ子ひとり、獣一匹さえ、エジプトを通らないだろう。　もちろん、住む者もいなくなる。　１２エジ

プトばかりか周囲の国々も荒廃させ、町々も四十年間、荒れほうだいにする。　わたしはエジプト人を他の国に追い散らす。
１３ところで、神様はこうお語りになります。　四十年が過ぎたら、エジプト人を散らされていた国々から連れ戻そう。　１４エジプトの富を回復し、彼らが生まれ育った地、南エジプトのパテロスに帰らせる。　だが、もうエジプトは、何の影響力もない小国となる。
１５すべての国々の中でも最小の国となり、二度と他の国の上に立つこともない。　今までのような大国には決してなれない。
１６イスラエルも、二度とエジプトに助けを求めたりはしない。　助けを求めようとするたびに、以前の苦い失敗を思い出すからだ。　こうしてイスラエルは、わたしだけが神であることを認めるようになる。」
１７エホヤキン王が捕囚となって二十七年目の三月中旬に、次のような神様のお告げがありました。
１８「ちりの子よ。　バビロンの王ネブカデネザルの軍隊がツロを激しく攻撃した。　兵士たちは〔土をいっぱい入れた重いバケツを載せて運んだため〕頭がはげ、肩は〔包囲攻撃に使う石の重さで〕すりむけ、まめができた。　そうまでしても、ネブカデネザル王は何の戦利品も得られず、兵士たちに何も報いることができなかった。　１９そこで、神様はこうお語りになります。　わたしは、バビロンの王ネブカデネザルにエジプトの地を与えよう。　彼はエジプトの財宝を取り上げ、すべての物を奪って部下への報いとする。　２０そうだ。　わたしは、エジプトの地を報酬として彼に与える。　彼はツロで、〔十三年間〕わたしのために働いてくれたからだ。　このように神様がお語りになります。　２１やがて、わたしがイスラエルに、昔の栄えを回復する日がくる。　その日には、イスラエルの発言が重視される。　こうしてエジプトは、わたしが神であることを知る。」
三〇
１また、別のお告げが神様から示されました。
２３「ちりの子よ、預言せよ。　神様はこうお語りになります。　大声で泣け。　恐ろしい日が間近に迫っている。　それは神の日、暗雲の垂れこめた日、諸国民の絶望の日だ。
４剣がエジプトに振り下ろされ、殺された者で地面がおおわれる。　その富は奪い去られ、土台はくつがえされる。　エチオピヤも強奪される。　５エチオピヤ、プテ、ルデ、アラビヤ、リビヤ、そのほかエジプトと同盟を結んだ国々はみな、その戦争で滅ぼされる。
６　神様がこうお語りになるからです。　エジプトの同盟国はみな滅び、自慢していたエジプトの勢力も消え失せる。　エジプトの町はミグドルからセベネに至るまで、残らず剣でなぎ倒される。　７エジプトは荒廃し、周囲の国々も荒れ果てる。　町々も廃墟となり、さらに廃墟と化した回りの町々が、これを取り囲む。　８わたしがエジプトに火をつけ、その同盟国をも滅ぼす時、彼らは、わたしが神であることを知る。　９その時、わたしは早馬の使者を立ててエチオピヤ人をあわてさせる。　エジプトの運命が定まる時、彼らは大きな恐怖に包まれる。　このことは、すべて必ず起こる。

１０神様がこうお語りになるからです。　バビロンの王ネブカデネザルは、大ぜいのエジプト人を殺す。　１１国々に恐れられる王とその軍隊は、エジプトを破壊するために遣わされる。　彼らはエジプトを攻め、地を死体でおおう。　１２わたしはナイル川を干上がらせ、国全体を悪人どもの手に渡す。　外国人の手を借りて、エジプトとその中にあるすべてのものを滅ぼす。　神であるわたしが、こう語ったのだ。　１３わたしは、エジプトの偶像やメンピスの神々の像を打ちこわす。　エジプトには王がいなくなり、無政府状態になる。
１４〔ナイル川上流の〕パテロスの町々、ツォアンやテーベは、わたしの手で廃墟と化そう。　１５またエジプト最強のとりでペルシウムに怒りを注ぎ、テーベの人々を絶ち滅ぼす。　１６必ずわたしはエジプトに火をつけ、ペルシウムを痛みで苦しませ、テーベを引き裂き、メンピスを連日、恐怖におののかせる。　１７ヘリオポリスとブバスティスの若い男たちは剣で殺され、女たちは奴隷として連れ去られる。　１８わたしがエジプトの力を砕く時、タフパヌヘスも暗黒の日となる。　暗雲が地をおおい、娘たちはとりことして連れ去られる。　１９このようにして、エジプトをきびしく罰する時、彼らはわたしが神であることを知る。」
２０さて、それから一年後、すなわちエホヤキン王が捕囚となって十一年目〔エルサレム陥落の年〕の三月中旬に、神様から次のようなお告げがありました。
２１「ちりの子よ。　わたしはエジプト王の腕を打ち砕いた。　その腕は手あてもされず、ギブスもはめられなかったので、二度と剣を持つことができない。　２２神様がこう断言なさるからです。　わたしはエジプト王を攻め、骨折した腕とともに、もう一方の丈夫な腕も砕き、その手から剣をたたき落とす。　２３そして、エジプト人を多くの国に追い散らす。　２４わたしはバビロン王の腕を強くし、その手にわたしの剣を握らせて、エジプト王の腕を砕く。　彼はバビロン王の前で、瀕死の重傷を負った者のようにうめく。　２５わたしはバビロン王の手を強くするが、エジプト王の腕はわきに垂れ下がるだけで使いものにならなくする。　だから、バビロン王がわたしの剣を握り、それをエジプトに振りかざす時、エジプトは、わたしが神であることを知る。　２６わたしはエジプト人を外国に散らす。　そのとき彼らは、わたしが神であることを知る。」
三一
１エホヤキン王が捕囚となって十一年目の五月中旬に、次のような神様のお告げがありました。
２３「ちりの子よ、エジプト王とその全国民に告げよ。　おまえはかつての大国アッシリヤと同じく、まるでレバノン杉のようだ。　枝を大きく張って涼しい木陰をつくり、その先端は高く雲にまで達している。　４根は地下深く伸びて、よく生い茂り、水を回りの木々にも供給していた。　５どの木よりも高くそびえ立ち、根から十分に水分を吸収して枝も大きく伸び、こんもりと茂っていた。　６枝には鳥が巣をかけ、木陰で家畜が子を産んだ。このように世界の大国がみな、その木陰に住んだのだ。　７木はたくましく、美しかった。

深く根を張り、十分に水分を吸収していたからだ。　８神の園の中にも、この木より高くそびえるものはなかった。　糸杉も、この木の枝とは比べようがなく、その美しさにはかなわなかった。　９わたしが与えたその雄姿を､エデンのすべての木がうらやましがった。
１０しかし、神様はこうお語りになります。　エジプトは思い上がって、尊大になった。雲にまで達するほど自分を高くして、他を見下した。　１１その罰として、わたしはエジプトを大国の手に渡して滅ぼす。　わたしが、エジプトを切り倒すのだ。　１２国々から恐れられている〔バビロンからの〕軍隊を侵入させ、その木を切り倒して、地に投げ捨てさせる。　枝はエジプトの山や谷や川に散らされる。　その木陰に身を寄せていた者はみな、倒れたエジプトを見捨てて出て行く。　１３いろいろの鳥が倒れた木の小枝をむしり取り、野獣が枝の間に住みつくようになる。　１４どんな国も、雲より高くそびえても、その繁栄を鼻にかけて思い上がってはならない。　すべてのものは滅びてしまうからだ。それらはみな、世界中のおごり高ぶる者とともに、地獄に落とされる。
１５神様はこうお語りになります。　エジプトが滅んだ日に、わたしは大海原を喪に服させ、その潮の満ち干を止めてしまった。　レバノンに喪服をまとわせ、その木々を嘆き悲しませた。　１６エジプトがくずれ落ちる大音響で、多くの国を震え上がらせた。　エジプトと同罪の国々をも、いっしょに地獄に投げ込んだからだ。　エデンでおごり高ぶっている他のすべての木々、レバノンのえり抜きの大木、根を深く下ろして水分を吸い上げた木々は、エジプトが共に地獄にいるのを見て慰められる。　１７エジプトの同盟国も、いっしょに滅ぼされる。　その木陰に宿っていた国々も、共に下界に下って行った。
１８ああ、エジプトよ。　おまえはエデンの木々、すなわち世界の国々の中で、その偉大さと栄光を誇っている。　だが、他のすべての国々とともに地獄の穴に投げ込まれてしまう。　おまえが見下していた国々のように、剣で切り殺されるのだ。　これがエジプト王とその大軍の運命だと、神様がお語りになります。」
三二
１エホヤキン王が捕囚となって十二年目の二月中旬に、このような神様のお告げがありました。
２「ちりの子よ、エジプト王のために嘆け。　そして、王に言え。　おまえは自分を、国々の中で強くて若いライオンのようだと思っている。　だがおまえは、ナイル川の岸で水をかき混ぜて濁らせている、わにのような存在でしかない。
３神様はこうお語りになります。　わたしは大軍を差し向け、わたしの網におまえをひっかける。　それから引き上げ、　４死ぬまで地面に放り出しておく。　空のあらゆる鳥がその上に群がり、全地の野獣がむさぼり食って、飽きるようになろう。　５わたしは山々をおまえの肉でおおい、谷をその骨でうずめる。　６谷川から山の頂上に至るまで、地をおまえのほとばしる血で染めよう。　７わたしはおまえを抹殺し、空をおおい、星を暗くする。　太陽は雲に隠れ、月も光を放たない。　８ほんとうに、暗黒が国中を支配し、明るく輝いている星でさえ、おまえの上では暗くなる。

９わたしがおまえを滅ぼす時、おまえが見たこともない遠い国々の人が、大ぜい嘆き悲しむ。　１０確かに、わたしがおまえにすることを見て、多くの国々が恐怖に襲われ、王たちは震え上がる。　わたしが彼らの前で剣を振り回すと、恐ろしさにわなわな震える。　おまえが倒される日、彼らは死の恐怖に取りつかれる。
１１神様がこうお語りになるからです。　バビロン王の剣がおまえの上に振り下ろされる。
１２わたしは、国々に恐れられているバビロンの大軍を差し向けて、おまえを滅ぼす。　エジプトの誇りも国民もみな、粉々にしてしまう。　何もかも滅ぼされてしまうのだ。　１３流れのほとりに放牧されている家畜の群れも滅ぼす。　その水を濁らせる人も動物もいなくなる。　１４それで、エジプトの川はオリーブ油のように澄んで、穏やかに流れる。
神様がこうお語りになるのです。１５わたしがエジプトを破滅させ、その財産をぜんぶ巻き上げる時、エジプトは、神であるわたしがそうしたことを知る。　１６さあ、エジプトのために泣き叫べ。　すべての国々よ、エジプトとその国民のために悲しめ。　神様がこうお語りになるのです。」
１７二週間後、神様から次のようなお告げがありました。
１８「ちりの子よ、エジプト国民のために、また他の強大な国々のために泣け。　彼らを死者の住みかに送り込め。　１９ああ、エジプトよ。　おまえのように美しい国があろうか。　だが、その終わりは地獄であり、おまえが見下していた者たちといっしょに横たわるのだ。　２０人人は無残にも剣で殺される。　エジプトの地を切るために、剣が抜き放たれたからだ。　エジプトはさばきの座に引きずり下ろされる。２１下界の勇士たちは、エジプトの到着をその友だちといっしょに待ちかねている。　エジプトは、自分が見下していた国々、また剣の犠牲となったすべての人々といっしょに、そこに横たわるのだ。
２２アッシリヤの君主たちは､剣で殺されたアッシリヤの全民衆の墓に囲まれている。　２３それらの墓は地獄の奥深くにあり、回りには同盟国の墓がある。　かつて人々に恐れられた勇士たちも、みんな敵の手にかかって死んでしまった。
２４エラムの大王たちも、その国民とともにそこに横たわっている。　生前、彼らは国々をさんざん荒らし回った。　しかし今では、落ちぶれて地獄に横たわっている。　その終わりは、普通の人間と少しも変わらない。　２５殺された全民衆の墓の間に眠るだけだ。
生きていた時は、国々に恐れられていたのに、今は剣に倒れ、その恥を地獄にさらしている。
２６メシェクとトバルの君主たちも、兵士たちの墓に囲まれてそこにいる。　みな偶像礼拝者で、かつては人々を恐れさせた者だったのに、今は死んで横たわっている。　２７昔の君主たちは、その武具をわきに、剣を枕とし、盾で体をおおわれるように大きな栄誉を受けて埋葬された。　だが、共同墓地に埋められただけだ。　生前は、人々に恐れられていたというのに……。　２８今は打ち砕かれて、偶像礼拝者や剣で殺された者とともに横たわっている。
２９そこには、エドムとその王たち、そのすべての族長たちがいる。　かつては勇者だっ

た彼らも、剣で殺された者や地獄に落ちた偶像礼拝者とともに横たわっている。　３０そこには､殺された北の国々の君主たちやシドン人もいる。 かつて恐れられていた彼らも、今は恥をさらして横たわっている。　殺されて地獄の穴に落ちた者とともに、同じ屈辱を味わっている。
３１神様はこうお語りになります。　エジプト王はそこに来ると、殺された配下の兵士たちもいるのを見て、胸をなでおろす。　３２わたしは生きている者すべてを、恐怖のどん底に突き落とす。 エジプト王とその軍勢は､剣で殺された偶像礼拝者とともに横たわる｡」
三三
１再び神様からお告げがありました。
２「ちりの子よ、あなたの同胞に告げよ。　わたしがある国に軍隊を差し向けると、その国では見張りを立て、　３敵軍の来襲を見て警報を鳴らす。　４その時、警報を聞き流して死ぬ者がいても、自業自得だ。　５警告を聞いてもそれに従わなかったのだから、非は彼にある。　警告に従っていたら、助かったであろう。　６だが、見張り役が敵の来襲を見ながら、警報を鳴らさず、警告もしなかったなら、人々の死の責任は彼にある。　人々は自分の罪のために死ぬのだが、その死の責任は見張り役にある。　わたしはその責任を問う。
７ちりの子よ、あなたにも言う。　わたしはあなたをイスラエルの見張り役とした。　だから、わたしの語ることに耳を傾け、わたしに代わって彼らに警告せよ。　８わたしが悪者に向かって、『悪者よ。　おまえは必ず死ぬ』と言う時、あなたがそれを伝えなければ、彼は悔い改めることをせず、その罪のために死んでいく。　ただし、わたしはその死の責任をあなたに問う。　９ところが、あなたが悔い改めるように警告しても、それを聞かないなら、彼は自分の罪のために死ぬ。　しかも、あなたには何の責任もない。
１０ああ、イスラエル国民よ。　おまえたちは､『私たちの犯した罪が重くのしかかって、すっかりやせ衰えた。 どうして生きておられよう』と嘆いている。 １１彼らに告げよ。神様がこうお語りになります。　わたしは生きている。　わたしは悪人どもの死を喜ばない。 それどころか､悪人が悪の道から足を洗って、生きるようになることを願っている。さあ帰って来い。　悪の道から足を洗って、帰って来い。　ああ、イスラエルよ。　なぜ、そんなにも死にたがるのか。１２たとい正しい行ないをしていた人でも、罪を犯すなら、その人は救われない。　どんな悪人の罪も、その人が悔い改めて、罪から足を洗うなら、滅ぼされることはない。
１３わたしは『正しい人は生きる』と言った。　だが、今まで良いことをしてきたから大目に見てもらえるだろうと罪を犯す人には､以前の正しい行ないなど何の役にも立たない。わたしは、その罪のゆえに彼を滅ぼす。　１４また、わたしから『必ず死ぬ』と言われた悪人が、罪から足を洗って、きよく正しいことを行なうなら、　１５すなわち、質草を返し、盗んだ物を償い、正しい道を歩んで悪を行なわないなら、彼は必ず生きる。　決して死ぬことはない。　１６もう二度と、過去の罪を持ち出して彼を責めはしない。　正しい

道に立ち返ったから、彼は必ず生きるのだ。
１７それでも、イスラエル国民は、『神様は公平ではない』と不平を言っている。　だが問題なのは、そう言っている彼ら自身が正しくないことだ。　１８もう一度いう。　正しい人でも、悪の道に入るなら、必ず死ぬ。　１９悪人でも、悪から足を洗って、きよく正しいことを行なうなら、必ず生きる。　２０おまえたちは今も、『神様は公平ではない』と非難している。　わたしは、おまえたち一人一人を、その行ないに従ってさばく。」
２１私たちが捕囚となってから十一年目の十二月下旬に、エルサレムから逃げて来た者たちの一人が、「エルサレムが陥落した！」と、私に告げました。　２２その前夜、神様の御手が私の上に置かれ、私を元気に立ち上がらせてくださいました。　それで、彼が到着した時には、再び語ることができるようにされていたのです。
２３その時、神様から次のようなお告げがありました。
２４「ちりの子よ。　廃墟と化したユダの町々に残って散り散りに住んでいる者たちは、『アブラハムはたった一人で、この地全体を所有していた。　これだけ大ぜいいれば、この地を取り返せないはずはない』と息まいている。　２５しかし、神様はこうお語りになります。おまえたちは悪いことをしているのだから、何の力もない。　血がついたままの肉を食べ、偶像を礼拝し、人を殺している。　それでも、わたしがその地を与えると思っているのか。　２６人殺し！　偶像礼拝者！　姦淫を行なう者！　そんなおまえたちが、この地を所有できるだろうか。
２７彼らに告げよ。　神様はこうお語りになります。　わたしは生きている。　あの廃墟に住んでいる者は必ず剣に倒れる。　原野に住んでいる者は野獣のえじきとなり、要害やほら穴にいる者は伝染病にかかって死ぬ。　２８わたしはその地を荒廃させ、彼らの高慢の鼻をへし折り、その力にとどめを刺す。　イスラエルの山地にある村々は荒れ果てて、通る人もいなくなる。　２９わたしが彼らの罪のゆえにその地を滅ぼす時、彼らは、わたしが神であることを知る。
３０ちりの子よ。　あなたの同胞は、あなたの陰口をたたいている。　家や戸口で、ひそひそ話している。　『なあ、神様がどんなことを言っておられるか、あいつに聞くのもおもしろいぞ。　ひとつ聞いてみようじゃないか』と。　３１彼らはもっともらしい顔をしてやって来る。　そして、あなたの前に座って聞くだろう。　だが、わたしが言うとおりにする気はさらさらない。　口では、いかにも調子よく、わたしを愛しているようなことを言うが、その実、心は金銭欲でいっぱいだ。　３２彼らにとって、あなたは、すてきな声で恋の歌をうたい、じょうずに楽器をかなでる芸人のようなものだ。　ただ聞くのを楽しむだけで、言われたことを心に留めようとはしない。　３３だが、先に語った恐ろしいことがぜんぶ起こる時、それは必ず起こるのだが、その時になってはじめて、彼らは自分たちの間に預言者がいたことを知る。」
三四
１また、次のような神様からのお告げがありました。

２「ちりの子よ、羊飼いであるイスラエルの指導者に預言せよ。彼らに言え。　神様はこうお語りになります。　羊の世話はそっちのけで、私腹を肥やすことしか考えていない羊飼いは、災いだ。　羊飼いなら羊を養うべきではないか。　３自分たちは最上の物を食べ、最高の衣をまといながら、群れの羊を飢えさせている。　４弱い羊のめんどうを見ず、病気の羊を介抱せず、骨折した羊の手あてをせず、迷って行方不明になった羊を捜すこともない。　それどころか、力ずくで残酷な支配をほしいままにしてきた。　５だから、羊は羊飼いがいないために散らされ、野獣のえじきとなってしまった。　６わたしの羊は山々や丘など、地上の至る所をさまよった。　だが、捜し出してくれる者も、世話してくれる者もいなかった。
７だから、羊飼いたち、神様のことばを聞きなさい。
８神様はこうお語りになります。　わたしは生きている。　おまえたちはわたしの羊をほったらかし、野獣に襲われても助けようとしなかった。　おまえたちは本当の羊飼いではなかった。　それで、いなくなった羊を捜し出そうとしなかったのだ。　自分はたらふく食べて、羊を平気で餓死させていた。　９１０だから、わたしは羊飼いたちに、わたしの羊の身に降りかかった災いの責任を問う。　彼らにはもう、羊を飼わせない。　また、彼ら自身が食べることも許さない。わたしの羊を救い出す。彼らのえじきにはさせない。
１１神様がこうお語りになるからです。　わたしは自分の羊を必ず捜し出す。　１２羊飼いのように、わたしの群れを捜し回る。　あの暗雲に包まれた日に散らされて行った所から、わたしの羊を捜し出し、救い出す。　１３いろいろな国や民族の中に散らされた彼らを、母国イスラエルへ連れ戻し、山や、よく肥えた川のほとりで養う。　１４そうだ、イスラエルの高原の良い牧場を与えよう。　そこでは安心して身を横たえ、おいしい牧草にたっぷりありつける。　１５１６わたしが自ら羊飼いとなって、安心して休めるように世話をする。　神様がこうお語りになるのです。　わたしは、道に迷って、いなくなった者たちを捜し出し、無事に家へ連れ帰る。　また、骨折には添え木をあて、傷には包帯を巻き、病気を治す。　だが、権力をふるって肥えた羊飼いは滅ぼす。　罰を下すことによって、彼らを養おう。
１７わたしの群れ、わたしの国民よと、神様はお語りになります。　わたしは子羊と子やぎとを、雄羊と雄やぎとを分ける。
１８ああ、悪い羊飼いども。　牧場の最上の場所を自分のために取っておきながら、残りの場所を踏みにじるとは、もってのほかだ。　自分が澄んだ水をたっぷり飲むと、足でその水を濁らせているが、とんでもないことだ。　１９わたしの群れに残されたものと言えば、踏みにじられた牧草と、濁った水だけだ。
２０だから、神様はこうお語りになります。　わたしは、この肥えた羊飼いとやせこけた羊との間をさばいて、黒白をはっきりさせる。　２１この羊飼いどもは、飢えて病気にかかったわたしの羊を圧迫し、突き倒し、むりやり遠くにまで散らしてしまったからだ。　２２それで、わたしは自分の手でわたしの群れを救い出す。　もう二度と、いじめたり、殺

したりはさせない。　わたしには、どれが肥えているか、どれがやせているか、その訳がちゃんとわかっている。　２３わたしは、国民全体を牧する一人の羊飼いを立てよう。　それはわたしの忠実なしもべ、ダビデだ。　彼は羊飼いとなって、わたしの国民を養う。
２４こうして、わたしが彼らの神となり、わたしのしもべダビデは君主となる。　神であるわたしがこう語ったのだ。　２５わたしは彼らと平和条約を結び、危険な動物をこの国から追い払う。　それで、国民はどんな荒れ地でも安心してテントを張り、森の中でも安らかに眠ることができる。　２６わたしの国民と、わたしの丘の回りにある彼らの家々とを祝福しよう。　そこに恵みの雨を降らせよう。　季節ごとに雨をきちんと降らせる。　２７果樹は実をたわわにつけ、畑も豊作で、みんな安心して日を送る。　こうして、わたしが奴隷の鎖を断ち切り、金もうけのために酷使した者の手から彼らを解放する時、彼らは、わたしが神であることを知る。　２８もう二度と、他国に征服されたり、野獣に襲われたりしない。　だれにも脅かされず、安心して過ごす。
２９わたしはイスラエルに、りっぱなぶどうの木〔メシヤ〕を生やす。
わたしの国民は、二度とひもじい思いをしたり、異教徒に征服されて恥をかいたりはしない。　３０こうして、彼らは、神であるこのわたしが共におり、自分たちが神の国民であることを知る。　神様がこうお語りになるのです。　３１おまえたちはわたしの羊、わたしの牧場の羊だ。　おまえたちはわたしのもの、わたしはおまえたちの神だ。　神様がこのようにお語りになります。」
三五
１再び、次のような神様からのお告げがありました。
２「ちりの子よ、セイル山の方を向き、そこに住む人々に預言せよ。
３神様がこうお語りになります。　わたしはおまえの敵となる。こぶしでおまえを打ち砕き、完全に滅ぼしてしまう。　４５おまえがわたしの国民イスラエルを憎んでいるので、町々を木端微塵にし、荒れ果てさせる。　その時おまえは、わたしが神であることを知る。
わたしがイスラエルの罪をきびしく罰し、彼らが窮地に立たされていた時、おまえは彼らを虐殺した。　６神様がこうお語りになります。　わたしは生きている。　そんなに血を流したいのなら、わたしがおまえを血に染めてやろう。　今度はおまえが殺される番だ。
７わたしはセイル山の住民を一掃する。　逃げ出そうとする者も、引き返して来る者も、一人残らず殺す。　８山々を死体でいっぱいにする。　丘も谷も川もみな、剣で殺された者で埋め尽くされる。　９おまえが活気を取り戻すことは決してない。　永久に見捨てられ、町々も再建されることがない。　その時おまえたちは、わたしが神であることを知る。
１０おまえは、『イスラエルもユダも、おれたちのものだ。　占領してしまおう。　神がいたってかまうものか』と言った。　１１だから、神様はこうお語りになります。　わたしは生きている。　おまえが怒りにまかせて、わたしの国民にした数々の行為に仕返しする。
ねたみと憎しみにかられた、おまえの行為のすべてを必ず罰する。　わたしがおまえにすることを見て、イスラエルはわたしをほめたたえるようになる。　１２その時、『神の国民

といったって、力も何もありゃしない。　われわれの格好のえじきだぞ』と悪口を吐いたのを、わたしがちゃんと聞いていたことを、おまえは知る。　１３おまえは神に対して高慢不遜なことばを吐いた。　それをみな、わたしは聞いたのだ。１４わたしがおまえの地を荒廃させる時、全世界はこおどりして喜ぶだろう。　１５おまえはイスラエルの恐ろしい破滅を見て喜んだ。　今わたしは、おまえの破滅を喜ぼう。　ああ、セイル山の住民よ、エドムに住むすべての者よ。　おまえたちは一掃されてしまうのだ。　その時おまえたちは、わたしが神であることを知る。
三六
１ちりの子よ、イスラエルの山々に預言せよ。　このわたしのことばを聞け、と告げよ。２おまえたちの敵はさんざんあざ笑い、昔からおまえたちのものであった高地を、自分たちのものだと主張している。　３そして、四方八方から攻撃しておまえたちを滅ぼし、多くの国々に奴隷として連れて行った。　おまえたちはあざけられ、なぶりものにされている。４だから、イスラエルの山々よ、神様のことばを聞きなさい。　神様は、山や丘、谷や川、周囲の異教の国々にかすめられ、あざけられたまま荒れ果てた農地や、長いこと見捨てられた町々に、こうお語りになります。　５わたしの怒りは、これらの国々、特にエドムに対して燃えている。　彼らはわたしを完全に無視し、興味本位にわたしの国を横領し、自分たちのものにしたからだ。
６だから、イスラエルの山や丘、谷や川に預言せよ。　神様がこうお語りになります。　おまえたちが周囲の国々に恥をかかされているので、わたしは大いに憤慨している。　７だから、手を高くあげて誓う。　これらの国々が恥をかく番が必ず巡ってくる。　８そしてイスラエルには、良い時代が戻ってくる。　わたしの国民が帰って来るために果物をいっぱいならせよう。　わたしの国民はもうすぐ母国に帰って来る。　９さあ、わたしはおまえたちの味方として、土地を耕し、種をまくのを手伝おう。　１０イスラエルの人口を大いに増し加え、荒れ果てた町々も再建して、人でいっぱいにする。　１１人だけではない。家畜も大いにふやそう。　ああ、イスラエルの山々よ。　そこにまた、家々がいっぱい建ち並ぶ。　以前にもまさって、おまえたちを栄えさせる。　その時おまえたちは、わたしが神であることを知る。　１２わたしの国民がまた山々を歩き、そこを領土とする。　もう二度と山々が、完全に焼き尽くすいけにえとして、子供を偶像の祭壇にささげる場所となることはない。
１３神様はこうお語りになります。　他の国々はおまえをあざ笑い、『イスラエルの山々は、その住民を食い尽くす地だ』と言っている。１４だが、もう、そんなことは言わなくなる。神様がこうお語りになるからです。　イスラエルの出生率は上昇し、幼児の死亡率は目に見えて低下する。　１５二度と異教の国々に見くびられることはない。おまえはもう罪人の国ではないからだ。　神様がこうお語りになります。」
１６さらに、次のようなお告げが神様から示されました。
１７「ちりの子よ。　イスラエル国民は、自分の国に住んでいた時、悪い行ないで国を汚

した。　彼らの礼拝は、わたしから見ると、まるできたないぼろ切れのように不潔だった。
１８彼らは人殺しや偶像礼拝で国を堕落させた。　だから、わたしは怒って、彼らをきびしく罰した。　１９彼らを多くの国々に追放し、その悪い生き方をきびしく罰したのだ。
２０だが、国々の間に散らされた時、彼らはまたも、わたしの聖なる名に泥を塗った。　行った先の国々で、『この連中は神の国民だというが、その神が、どうして彼らを災いから守ることができないのだ』とあざけられているからだ。　２１彼らのせいで、わたしの評判が世界的に落ちていることを、わたしは気にしている。
２２だから、イスラエル国民に言え。　神様はこうお語りになります。　わたしはおまえたちを祖国に連れ戻す。　それだけの取り柄がおまえたちにあるからではない。　そうするのは、おまえたちが国々の間で傷つけた、わたしの評判を回復するためだ。　２３おまえたちが汚したわたしの偉大な名を、もう一度あがめられるようにする。　そのとき世界の人々は、わたしが神であることを知る。　おまえたちを捕囚の地から救い出す時、わたしは彼らの目の前であがめられる。　２４わたしがおまえたちを、イスラエルの地に連れ戻すからだ。
２５その時おまえたちは、きよい水を振りかけられたようになる。汚れはすっかりきよめられ、偶像礼拝も行なわれなくなり、おまえたちはきよくなるからだ。　２６わたしはおまえたちに新しい心を与える。それで、おまえたちは正しい願いをいだくようになる。　また、おまえたちに新しい霊を授ける。　それで、おまえたちの石のように堅い罪の心が取り除かれて、愛に満ちた新しい心が生じる。　２７おまえたちにわたしの御霊を授けるので、おまえたちはわたしのおきてを守り、わたしの命令に何でも従うようになる。
２８おまえたちは、わたしが先祖に与えたイスラエルの地に住むようになる。　こうして、おまえたちはわたしの国民となり、わたしもおまえたちの神となる。　２９わたしはおまえたちの罪を洗いきよめる。　農作物の不作やききんもなくなる。　３０果樹園からも畑からもたくさんの収穫があるので、周囲の国々も、もう二度と、イスラエルをききんのためにそしることはできなくなる。　３１その時、おまえたちは過去に犯した罪を思い出し、そんなことをした自分自身にいや気がさすようになる。　３２だが、このことだけは、いつも肝に銘じておけ。こうするのは、おまえたちのためではなく、わたし自身のためなのだ。ああ、わたしの国民イスラエルよ、おまえたちがしたすべてのことを、心の底から恥じるがいい。
３３神様はこうお語りになります。　わたしは、おまえたちを罪からきよめる日に、おまえたちを祖国イスラエルに連れ戻し、廃墟と化した国を再建する。　３４捕囚のあいだ不毛の荒れ地のように放っておかれた農地は、再び耕される。　その地の荒れ果てた姿に、そこを通り過ぎる者は大きな衝撃を受けた。　３５だが、わたしがおまえたちを連れ帰る時、彼らは言うだろう。　『神様に見捨てられていた地がエデンの園のようになった。　廃墟となった町々が再建され、城壁が築かれ、人があふれている。』　３６その時、まだ残っていた周囲の国々は、廃墟を再建し、荒れ果てていた土地に豊かな作物を実らせたのは、

神であるわたしだということを知る。　神であるわたしが約束したからには、必ずそのとおりになるのだ。
３７３８神様はこうお語りになります。　わたしは今、祝福を求めるイスラエルの祈りを聞き、その願いをかなえよう。　彼らに祈らせよ。わたしは、いけにえをささげる時エルサレムの街路を埋め尽くす羊の群れのように、彼らをふやそう。　廃墟であった町々も再び人が群がるようになる。　その時すべての人は、わたしが神であることを知る。」
三七
１２神様の力が私に臨み、私は御霊によって、干からびた骨が至る所にいっぱい散らばっている谷間に連れて行かれました。　神様は私を引っぱって、その間をあちらこちらと行き巡らせてから、　３こうお語りになりました。
「ちりの子よ。　これらの骨がまた元のように生きた人間になれるだろうか。」
私は、「神様。　その答えは、あなた様だけがご存じです」と答えました。
４すると神様は、これらの骨に語るようにとお命じになったのです。「ああ、干からびた骨よ、神様のことばを聞きなさい。　５神様がこうお語りになるからです。　見よ。　わたしはおまえたちを生かし、息を吹き返させる。　６元のように肉をつけ、筋を与え、皮膚でおおう。　わたしが息を吹き入れると、おまえたちは生き返る。　その時おまえたちは、わたしが神であることを知る。」
７そこで私は、言われたとおり神様のことばを告げました。　すると突然、谷間のあちらこちらから、がさがさという音がして、骨が集まり、それぞれが元のようにつながり始めたではありませんか。　８さらに見ていると、骨の上に筋肉がつき、その上を皮膚がおおったのです。　しかし、その体にはまだ息が入っていませんでした。　９そこで、神様は私に、息に呼びかけて次のように語れ、とお命じになりました。「神様の命令です。　さあ、息よ、四方から風のように吹いて来い。　この殺された者たちの体に吹きつけて、彼らが生き返るようにせよ。」　１０私はそのとおりに命じました。　すると、これらの体は息を吹き返し、むくむくと起き上がったではありませんか。　それはものすごい大集団となりました。
１１その時、神様は私に、この幻が告げようとしている意味を教えてくださいました。「これらの骨は、イスラエル国民全体を表わしている。　彼らは、『われわれは干からびた骨の山になってしまった。　もうお先真っ暗だ』と嘆いている。　１２神様はこうお語りになります。そんな彼らに告げよ。　わたしの国民よ。　わたしは捕囚という墓を開いて、おまえたちを生き返らせ、イスラエルの地に連れ戻す。　１３その時、わたしの国民よ。　おまえたちはやっと、わたしが神であることを知るのだ。　１４わたしの霊をおまえたちに注ぎ入れると、おまえたちは生き返り、なつかしの故国に帰ることができる。　その時、おまえたちは神であるわたしが約束を果たしたことを知る。」
１５また、次のような神様のお告げがありました。
１６「一本の杖を取り、それに『この杖はユダとその味方の諸部族を表わす』と刻め。　そ

れから､もう一本の杖を取り､『この杖はイスラエルの残りの全部族を表わす』と刻め。　１７さあ､その二本の杖を片手でつかんで一本の杖とせよ。　１８‐２０それを高く掲げて、みんなに見せながら言え。　神様はこうお語りになります。　わたしはイスラエルの諸部族をユダといっしょにし、わたしの手の中で一本の杖とする。
２１神様がこうお語りになるからです。　わたしはイスラエル国民を国々から集め、世界中から連れ出して祖国に帰らせる。　２２そして、彼らを一つの国民にする。　一人の王が立てられ、二度と二つの国に分かれることはない。　２３人々はもう偶像礼拝やその他の罪で身を汚さない。　わたしが、この罪のいまわしさのすべてから、彼らを救い出すからだ。　こうして、彼らは真実にわたしの国民となり、わたしは彼らの神となる。
２４わたしのしもべダビデ〔メシヤ〕が彼らの王となり、ただ一人の羊飼いとなる。　彼らはわたしのおきてを守り、わたしが望むとおりの生活をする。　２５彼らは、わたしがわたしのしもべヤコブに与えた地、彼らの先祖が住んでいたイスラエルの地に住むようになる。　彼らだけでなく、その子々孫々に至るまで、そこに住むようになる。　そして、わたしのしもべダビデが、永遠に彼らの王となる。　２６わたしは彼らと、平和の契約を結ぶ。　それは永遠に変わらない条約だ。　わたしは彼らを祝福し、その数をふやし、わたしの神殿を彼らのうちにいつまでも置こう。　２７彼らのうちにわたしの住まいを設ける。　そうだ、わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの国民となる。　２８わたしの神殿が変わることなく、彼らのうちにとどまっているのを見て、世界の国々は、神であるわたしが、特別にイスラエルを選んで、これを祝福していることを知る。」
三八
１また、神様から別のお告げがありました。
２３「ちりの子よ、北の方、マゴグの地に顔を向け、メシェクとトバルの王ゴグ〔神に敵対する勢力を総結集した軍隊を表わす、象徴的な存在〕に預言せよ。　彼に言え。　神様はこうお語りになります。　ゴグよ。　わたしはおまえの敵となる。　４わたしはおまえのあごに鉤針をかけ、破局へと引きずり込もう。　おまえの軍隊や武装した騎兵隊を総動員し、完全武装の強力な大軍に仕立てよう。　５ペルシヤ、エチオピヤ、プテも、それぞれの武器を持っておまえに合流する。　６また、ゴメルとその全軍、北の果てのベテ・トガルマの軍隊、その他たくさんの軍勢も、おまえの味方につく。　７いつでも出動できるように、備えていよ。　ゴグよ。　おまえが全軍の総指揮官なのだ。
８おまえが出動命令を下すのは、ずっと先のことだ。　幾多の年月を経てから、おまえはイスラエルに襲いかかる。　そこには、多くの国々から帰って来た国民が平穏に暮らしている。　９おまえとその同盟国は、恐ろしい大軍となって、嵐のように攻め寄せ、雲のように地をおおう。　１０その時、おまえは悪いことを考えるようになる。　１１おまえはこう言うだろう。　『イスラエルは、まるで城壁のない、無防備な村の集まりのようなもんだ。　よーし、この地に攻め入り、そんな大胆不敵な面をして暮らしている連中を、一気にひねりつぶしてくれるわ。　１２一度は廃墟となり、今は国々から戻った者らで栄え

ている町々を攻め、山のような分捕り物と大ぜいの奴隷を手に入れよう。　ここの連中ときたら、今はたくさんの家畜や財産を持ち、まるで世界の中心のように振る舞っているのだから。』
１３だが、シェバやデダン、それにイスラエルと交易しているタルシシュの豪商たちは、こう問い返すだろう。　『イスラエルの金銀を奪い、家畜や財産を略奪して彼らを貧乏にしようとするおまえは、いったい何者か。』
１４神様はゴグにこうお語りになります。　わたしの国民が自分の国で平和に暮らしている時、おまえは動きだす。　１５１６騎兵の大軍を率いて北から攻め入り、雲のようにこの地をおおう。　このことが起こるのは、この世も末の遠い将来だ。　わたしはおまえに、わたしの地を攻めさせる。　みんなが見ている前で、おまえは徹底的に打ちのめされる。それによって、わたしの聖さが証明され、すべての国々は、わたしが神であることを知る。
１７神様はこうお語りになります。　わたしが昔、イスラエルの預言者たちをとおして語った当の人物は、おまえだ。　彼らは、ずっとのちに、長い年月を経てから、わたしがおまえにイスラエルを攻めさせる、と預言していたのだ。　１８だが、おまえがイスラエルを滅ぼそうと攻めて来る時、わたしの怒りは燃え上がる。　１９その日には、わたしは約束するが、ねたみと激しく燃える怒りとで、イスラエルに大地震を起こそう。　２０すべての生き物は、あまりの恐ろしさに、わたしの前で震え上がる。　山々は倒れ、崖はくずれ落ち、城壁は粉々にこわれる。　２１おまえをあらゆる恐怖に直面させる。　神様はこうお語りになります。　おまえたちは同士打ちで倒れるのだ。　２２わたしは、剣、伝染病、大洪水、大きな雹、火と硫黄で、おまえと戦おう。　２３こうして、わたしの偉大さを示し、わたしの誉れを表わそう。　世界の国々は、わたしが行なったことを聞き、わたしが神であることを知る。
三九
１ちりの子よ、このこともゴグに預言せよ。　彼にこう告げよ。
メシェクとトバルの王であるゴグよ。　わたしはおまえを攻める。　２おまえを遠い北の果てから引き回すように連れて来て、イスラエルの山地まで攻め入らせる。　そして、おまえの軍隊の大半を山の中で滅ぼす。　３おまえの手から武器をたたき落とし、手も足も出ないようにする。　４おまえもその大軍も山の中で死に、はげたかや野獣のえじきとなる。　５おまえが町まで達することは絶対にない。　野原で倒れてしまうからだ。　わたしがこれを語ったのだと、神様は断言なさいます。　６わたしは、マゴグや沿岸地域に安住しているおまえの同盟国のすべてに、火の雨を降らせる。　そのとき、彼らもわたしが神であることを知る。
７こうして、わたしの国民イスラエルの間に、わたしの聖い名を知らせよう。　わたしの名があざけられるようなことは、二度とさせない。　諸国民も、わたしがイスラエルの聖い神であることを知る。８審判の日は必ずくる。　わたしが予告したとおりに、すべてのことが起こるのだ。

９イスラエルの町々の住民は出て来て、おまえの盾と大盾、弓と矢、投げ槍と槍を拾い集め、薪とする。　それは七年分もある。　１０だから七年間は、ほかに薪はいらない。　野や森の木を切らなくても、この武具だけで十分まに合う。　イスラエル国民は、前に略奪した者たちの持ち物を使うようになるのだ。
１１死海の東にある旅人の谷に、わたしはゴグとその軍隊の広大な墓地を設ける。　そのため旅人の道がふさがれてしまうほどだ。　そこにゴグとその軍隊が埋葬され、『ハモン・ゴグ〔ゴグ軍〕の谷』と呼ばれるようになる。　１２死体の埋葬に、イスラエル国民は七か月もかかる。　１３全国民が、この仕事を手伝う。　わたしの栄光が現わされるこの日こそ、イスラエルにとって輝かしい勝利の日となるからだ。神様がこうお語りになるのです。　１４さて、七か月目の終わりに、国をきよめるために、国中をくまなく調査し、残っている骨を埋葬する人々が選び出される。　１５１６骨を見つけた者は、埋葬する者にわかるように、そばに標識を立てる。　それを見て、埋葬する者がその骨を『ハモン・ゴグの谷』に運び、埋葬する。　そのために、そこの町はハモナと呼ばれるようになる。　こうして、国全体が完全にきよめられる。
１７さあ、ちりの子よ、鳥にも獣にも呼びかけて、こう言え。　みんな集まれ。　いけにえの大饗宴だ。　近くからも遠くからも、イスラエルの山々に来い。　さあ、肉を食べ、血を飲め。　１８勇士たちの肉を食べ、君主たちの血を飲め。　彼らこそ、わたしの祭りのための雄羊、子羊、雄やぎ、バシャンの肥えた若い雄牛なのだ。　１９飽きるほどたらふく肉を食べ、ぐでんぐでんに酔っ払うまで血を飲みほせ。これが、おまえたちのために準備した、いけにえのご馳走だ。　２０わたしの宴のテーブルで、たらふく食べよ。　さあ、馬も、騎手も、勇敢な戦士も、山ほどある。　神様がこうお語りになるのです。　２１こうして、わたしは国々の中にわたしの栄光を現わす。　すべての人は、ゴグが受けた刑罰を見て、わたしがそれをしたことを知る。
２２その時から、イスラエル国民は、わたしが彼らの神であることを知る。　２３諸国民は、イスラエルが捕囚として異国に送られたのは、彼らの罪に対するさばきであったことを知る。　事実、彼らは神を裏切る行為をしたからだ。　それで、わたしは彼らから顔をそむけ、敵の手で滅ぼされるようにしたのだ。　２４顔をそむけて、その大きな罪にふさわしく、彼らを厳罰に処したのだ。
２５しかし今、神様はこうお語りになります。　わたしは、わたしの国民の捕囚を終わらせ、彼らをいつくしんで、また元のように栄えさせる。　こうするのは、何よりもわたしの栄誉のためだ。　２６彼らの反逆と恥辱の時代は過ぎ去る。　彼らは祖国に帰り、平和で安らかな生活を送る。　もう、だれにも脅かされず、悩まされることもない。　２７わたしは彼らを、敵の国々から祖国へ帰らせる。　そうする時、わたしの栄光がすべての国々に示される。　イスラエル国民をとおして、わたしの聖さが、全世界の前で証明されるのだ。　２８その時、わたしの国民は彼らを捕囚に追いやったのも、また祖国に連れ戻したのも、神であるわたしであることを知る。　わたしは一人も残さず国々から連れ戻す。　２

９もう二度と、彼らから顔をそむけることはしない。わたしの霊を彼らに注ぐからだ。　神様がこうお語りになるのです。」
四〇
１捕囚となって二十五年目、エルサレムが占領されてから十四年目の三月下旬に、神様の御手が私の上に置かれました。　２幻の中で、主は私をイスラエルへ連れて行き、高い山の上に下ろしてくださいました。　そこから見下ろすと、町のようなものが見えました。
３近づいてみると、青銅のように輝く顔をした人が、神殿の門のそばに立っているではありませんか。　手には、巻き尺と物差しを持っています。
４その人は私に言いました。　「ちりの子よ、目でよく見、耳で聞き、わたしが見せるものをすべて心に留めよ。　ここに連れて来たのは、多くのものを見せたいからだ。　それで、イスラエル国民のもとへ帰ったら、見たことを細大もらさず語り告げよ。」　５その人は三メートル半の物差しで、神殿の外側に張り巡らされている塀を測り始めました。　そして私に、「この塀の高さは三メートル半、厚さも三メートル半」と教えました。　６それから、私は東向きの門に連れて行かれました。　そこの階段を〔七段〕のぼったところで、その人は門の入口の部分を測りました。　その幅は三メートル半でした。
７‐１２その門を通り抜けると、両側に三つずつ詰め所が並んでいるのが見えました。　どれも三・五メートル平方の部屋で、部屋と部屋との間には、厚さ二メートル九十センチの壁がありました。　各部屋の前には高さ五十八センチ、幅五十八センチの低い柵がありました。　詰め所を過ぎると、三メートル半の入口があって、四メートル六十四センチの玄関に通じていました。　その玄関の壁柱は一メートル十六センチでした。　玄関を過ぎると、通路の奥に幅七メートル半、奥行五メートル八十センチの控えの間がありました。
１３それから、この通路の外側から見た全体の幅を測るために、詰め所の外側の戸口から屋根越しに測ると、十四メートル半ありました。　１４次に、入口の両側の柱の高さを測ると、三十四メートル八十センチでした。　１５入口の通路の全長は、端から端まで二十九メートルでした。　１６通路の両側の壁と詰め所の壁とに、格子窓が取りつけてありました。　また、出入りをする部屋にも窓があり、柱にはなつめやしの木が彫刻してありました。
１７それから私たちは、通路から庭に出ました。　塀の内側には石だたみが敷かれ、その上に塀に面するように三十の部屋が建っていました。　１８これは『下の石だたみ』と呼ばれ、入口の通路の長さと同じ幅でした。
１９それから、この〔神殿の『外庭』と呼ばれていた〕庭から内側の塀までの距離を測ると、五十八メートルありました。　２０その人は私を連れて、東の門から北に向いた門へ行き、そこを測りました。　２１ここにも、両側に詰め所が三つずつあり、大きさは東の門と同じでした。　全長は二十九メートルで、詰め所の屋根越しに端から端まで測ると、幅は十四メートル半ありました。　２２窓も、玄関も、なつめやしの木の彫刻も、東の門のものと全く同じでした。　七段の階段があり、それをのぼると入口があって、玄関に通

じていました。
２３この北の門も東の門と同じで、通路を通って庭に出、そこをまっすぐ横切ると内側の塀に通じ、そこを抜けて内庭に出ます。　この間の距離は、やはり五十八メートルありました。　２４それから、その人は私を南の門に連れて行き、その通路の各部を測りましたが、前の二つの門と同じ寸法でした。　２５壁に沿った窓も同じで、玄関もありました。他の通路と同じように、その通路も長さ二十九メートル、幅十四メートル半でした。　２６玄関に通じる階段も七段で、壁にはなつめやしの木が彫刻してありました。　２７ここでも、通路を通って庭を横切り、内側の塀の通路から内庭に抜けることができました。　この間の距離も五十八メートルありました。
２８それから、その人は私を南の門の内側の塀に連れて行きました。　その人がその通路を測ったところ、外側の塀の通路と同じ寸法でした。２９３０詰め所も、柱も、玄関も前のものと全く同じです。　壁や玄関の窓もそっくり同じです。　通路も同じく、長さ二十九メートル、幅十四メートル半です。　３１ただ一つ違っていたのは、玄関に通じる階段が七段ではなく八段になっていることでした。　柱のなつめやしの木の彫刻も前のものと同じでした。
３２それから、その人は私を庭から内側の塀の東の門へ連れて行きました。　その人はその通路も測りましたが、寸法は他の通路のものと同じでした。　３３詰め所も、柱も、玄関も、他の通路のものと同じ大きさです。　壁や玄関の窓も、他の通路のものと変わりません。　その通路も長さ二十九メートル、幅十四メートル半です。　３４その玄関は外庭に面しており、柱にはなつめやしの木が彫刻してありました。　階段は七段ではなく八段ありました。
３５それから、その人は私を北にある内側の門へ連れて行きました。そこの寸法も他のものと同じでした。　３６通路の詰め所も、柱も、玄関も、他と変わりなく、通路も長さ二十九メートル、幅十四メートル半です。　３７その玄関も外庭に面しており、通路の両側の壁にはなつめやしの木が彫刻してあり、階段は八段ありました。
３８玄関の一つの戸から脇間に通じていましたが、そこは、いけにえの肉を祭壇にささげる前に洗う所でした。　３９通路の玄関の両側にはそれぞれ二つずつ台が置いてありました。　その上で、神殿でささげる完全に焼き尽くすいけにえ、罪が赦されるためのいけにえ、罪を償ういけにえが殺されるのです。　４０玄関の外側に二つずつ台が置かれていました。　４１それで内側と外側とで合計八つの台があることになります。　その上でいけにえが切り裂かれ、整えられるのです。　４２また、四つの石の台があって、その上に肉切り包丁など、いけにえを殺すための道具が置かれていました。　この台は八十七センチ平方で、高さが五十八センチありました。　４３玄関の壁には、八センチの留め金が幾つも取りつけてあり、台の上には、いけにえの肉を置けるようになっていました。
４４内庭には一間の建物が二つあり、一つは北の門のわきにあって南を向き、もう一つは南の門のわきにあって北を向いていました。

４５その人は私に教えてくれました。　「この北の門のわきの建物は、神殿を管理する祭司のためのものだ。　４６南の門のわきの建物は、ツァドクの子孫にあたる、祭壇の責任をもつ祭司のためのものだ。 レビの子孫の中で神様に近づいて仕えることができるのは、彼らだけだからだ。」
４７それから、その人が〔神殿の前の〕内庭を測ったところ、五十八メートル平方ありました。　その内庭の神殿の前に祭壇がありました。　４８４９その人は私を神殿の玄関に連れて行きました。　内庭からはそこにのぼる十段の階段がありました。　玄関の壁は両側に広がって壁柱となり、どちらも二メートル九十センチありました。　入口は八メートル十二センチあり、その両わきの壁は一メートル七十四センチありました。　玄関の間口は十一メートル六十センチ、奥行きは六メートル九十六センチでした。
四一
１その後、その人は私を、神殿の中央の大広間である本堂へ連れて行きました。　その入口の壁柱を測りましたが、幅は縦横とも三メートル半でした。　２玄関の間口は五メートル八十センチ、奥行きは二メートル九十センチでした。　本堂は長さ二十三メートル二十センチ、幅十一メートル六十センチでした。
３その人は本堂の奥の部屋に入り、入口の柱を測ると、一メートル十六センチの厚さがありました。　入口の幅は三メートル半、それに続く廊下の長さは四メートルでした。　４奥の間は十一メートル六十センチ平方あり、「これが至聖所だ」と私に教えてくれました。
５その人が神殿の壁を測ると、三メートル半あり、その外側に小部屋が並んでいました。 各部屋の間口は二メートル三十二センチでした。　６これらの部屋は階段式に三段に重なっており、各階に三十の小部屋がありました。　部屋はみな、神殿の壁に固定してあるのではなく、大梁で支えられていました。　７階段式の小部屋は上に行くほど広くなり、神殿の壁が上に行くほど狭くなっているのと対応していました。　神殿のわきには階段があり、上の階に上がれるようになっていました。
８私は、神殿が高台の上に建てられていて、いちばん下の小部屋の土台も、その高台にあるのを見ました。　その高さは三メートル半でした。　９これらの小部屋の外壁の厚さは二メートル九十センチあり、高台の端まで二メートル九十センチの空地が両側に残っていました。
１０その高台から十一メートル六十センチ離れた内庭には、神殿をはさんで両側に、部屋が並んでいました。　１１階段式の小部屋には戸が二つあり、二メートル九十センチの空地に向かって開くようになっていました。　一つの戸は北に向き、もう一つの戸は南に向いていました。
１２西側には、神殿の庭に面して大きな建物が建っていました。　その間口は四十メートル六十センチ、奥行きは五十二メートル二十センチありました。　壁の厚さは、二メートル九十センチでした。　１３それから、その人が神殿とその回りとを測ると、五十八メートル平方でした。　１４神殿の東側の内庭も、幅が五十八メートルあり、　１５１６神殿

の西側の建物も、二つの壁を含めると同じ五十八メートルの幅になりました。
神殿の本堂にも、至聖所にも、玄関にも、羽目板が張り巡らされ、それぞれ格子窓が取りつけてありました。　神殿の内側の壁にも、窓の上と下の部分に羽目板が張られていました。　１７１８至聖所に通じる戸の上も羽目板が張られていました。　壁には、それぞれ二つの顔を持つケルビム（神の契約の箱を守る天使）となつめやしの木とが交互に彫刻してありました。　１９２０その顔の一つ、人間の顔は一方のなつめやしの木の方を向き、もう一つの顔、若いライオンの顔は反対側のなつめやしの木の方を向いていました。　このような彫刻が、神殿の内壁全体をおおっていました。
２１本堂の入口の柱は四角で､至聖所の前には祭壇のようなものがありました。 しかも、それは木製でした。　２２この祭壇は一メートル十六センチ四方で、高さが一メートル七十四センチありました。　その四すみも、台も、側面も、ぜんぶ木でできていました。　その人は私に､「これは神様の壇だ」と説明してくれました。
２３本堂と至聖所には二重の扉がついていて、　２４それぞれの扉は折りたたみ式の二枚戸になっていました。　２５本堂に通じる扉には、神殿の内側の壁と同じように、ケルビムとなつめやしの木が彫刻してありました。　玄関の上には木製のひさしがついていました。　２６そのひさしの上と、玄関の両側と、神殿のわきの小部屋にも、それぞれなつめやしの木の彫刻がしてあり、格子窓がついていました。
四二
１それから、その人は私を神殿から連れ出し、内庭にある神殿の北側の部屋と、もう一つの建物に連れて行きました。　２これらの建物のある場所は、長さが五十八メートル、幅が二十九メートルありました。　３この建物の裏に階段式の小部屋があり、庭の内側の壁になっていました。　この階段式の小部屋は三階までありました。　その片側から外庭が見渡せ、もう一方の側は長さ十一メートル六十センチの内庭に面していました。　４その建物と階段式の小部屋との間に、幅五メートル八十センチ、全長五十八メートルの通路があり、その建物の入口は北に向いていました。　５二階、三階と上に行くほど通路が広くなり、その分だけ部屋が狭くなりました。　６この建物は、外庭の建物と違って大梁を用いていないため、上の階へ行くにしたがって狭くなっていたのです。
７８北側に並んだ階段式の小部屋は外庭に続いており､その全長は二十九メートルでした。神殿の内庭に面した側は五十八メートルありましたから、その半分の長さです。　外側の塀が、短い側の端から長い側へと平行して伸びていました。　９１０外庭からこれらの小部屋へ入る入口は東側にありました。　神殿をはさんで反対側にも、神殿と外庭との間にある内庭の南側に、同じように二組の建物がありました。　構造は北側のものと全く同じでした。　１１庭の向こう側の建物と同じように、この二組の建物の間にも通路があり、建物の長さも幅も、出入口も戸も全く同じでした。　１２また、外庭からの入口は東側にありました。
１３その人は私にこう言いました。 「この､神殿に面している北と南の階段式の部屋は､

特別にきよめられた部屋だ。　そこで、神様にいけにえをささげる祭司たちが、最も聖なるいけにえ、穀物のささげ物、罪が赦されるためのいけにえ、罪を償ういけにえを食べたり、たくわえたりするのだ。　１４祭司は聖所〔神殿の本堂〕を出る時には、外庭へ出る前に、服を着替えなければならない。　聖所で仕える時に着る服は特別にきよいものだから、まずそれを脱がなければならない。　だれでもが入れる場所へ行く時には、他の服に着替えなければならない。」
１５その人は神殿を測り終えると､私を東の門から連れ出して､神殿の周囲を測りました。
１６‐２０それは二百九十メートル平方で、ほかの公共の場所と区別するために塀で囲まれていました。
四三
１そのあと、その人は外塀を回って、私を東の門に連れ戻しました。２すると突然、イスラエルの神様の栄光が東の方に現われました。その近づく音は激流のとどろきのようで、その全光景が栄光に輝いていました。　３その光景は、私が最初にケバル川のほとりで、次にエルサレムで、神様がその町を滅ぼすために来られた時に見た幻と同じでした。　私は顔を地にすりつけるように､ひれ伏しました。　４栄光に輝く神様は､東の門を通って､神殿に入って行かれました。
５それから、私は御霊によって引き上げられ、内庭に連れて行かれました。　神殿は神様の栄光に包まれていました。　６すると、神殿の中から神様が私に語りかけておられる声を聞いたのです。　あの、神殿を測っていた人は、まだ私のそばに立っていました。
７神様はこうお語りになりました。
「ちりの子よ。　ここは、わたしの王座、わたしの足台、永遠にわたしがイスラエル国民の間に住む場所である。　国民も王たちも、無節操に他の神々を礼拝したり、王たちの墓を拝んだりして、わたしの聖い名に泥を塗ることは、もうしなくなる。　８彼らは、わたしの神殿のすぐわきに、塀一つ隔てただけで偶像の宮を建て、偶像を礼拝していた。　このような悪行によって､わたしの聖い名を傷つけたので､わたしは怒って彼らを滅ぼした。
９さあ、今、その偶像や、王たちの墓を取り除け。　そうすれば、わたしは永遠に彼らの間に住もう。
１０ちりの子よ。　おまえに見せた神殿の光景を、イスラエル国民に描いてやれ。　神殿の構造や造りを教えてやれ。　そうしたら、彼らも罪を恥じるようになるだろう。　１１もし彼らがほんとうに自分たちのしたことを恥じるなら、その時には、戸や入口などの構造を、細大もらさず説明してやれ。　守らなければならない命令や規則を、みな書き記せ。
１２聖さ！　これこそ､神殿の生命だ。　神殿が建っている山のいただき全域が聖い。　これこそ、神殿についての基本線だ。
１３さて、祭壇の寸法は次のようにせよ。　土台の高さは五十八センチ、その回りのみぞの幅は二十五センチ。　また、土台は祭壇の回りより五十八センチずつ広くする。　１４祭壇の第一段は石の台座で、その高さは一メートル十六センチ。　この台座は土台よりも

五十八センチずつ狭くする。　この台座の上にはさらに五十八センチ狭くなった台座があり、その高さは二メートル三十二センチ。　１５その上にさらに狭い台座があり、これが祭壇の最上部で、その高さは二メートル三十二センチ。　その四すみに五十八センチの角が上方に突き出ている。　１６この最上部の台座は、六メートル九十六センチの正方形である。１７その下の台座は八メートル十二センチの正方形で、その回りのみぞは二十九センチである。　この台座は四方とも上の台座より五十八センチずつ広くなっていて、東側に祭壇にのぼる階段がある。」
１８さらに、次のようにお語りになりました。
　「ちりの子よ。　神であるわたしがこう言う。　以上が、完全に焼き尽くすいけにえをささげて血を注ぐために、将来建てる祭壇の寸法だ。　１９祭壇が建てられた時には、わたしに仕えるレビ部族のツァドク家の者たちに、罪が赦されるためのいけにえとする若い雄牛一頭を与えよ。　２０おまえは、その血を取って、祭壇の四本の角と、最上部の台座の四すみと、その回りのみぞとに塗りつけよ。　その血によって祭壇はきよめられ、神のものとされるのだ。　２１それから、罪が赦されるためのいけにえの雄牛を取り、聖所の外にある所定の場所で焼け。
２２二日目に、病気がなく、欠陥も傷も傷跡もない若い雄やぎを、罪が赦されるためのいけにえとしてささげよ。　こうして、雄牛できよめたのと同じように、祭壇をきよめる。
２３このきよめの儀式が終わったら、群れのうちから、傷や欠陥のない完全な雄牛と雄羊を、さらに一頭ずつささげよ。　２４わたしの前にこの二頭を差し出せ。　すると、祭司がその上に塩をまき、完全に焼き尽くすいけにえとしてささげる。
２５七日間、毎日、罪が赦されるためのいけにえとして、群れの中から雄やぎ、雄牛、雄羊を取ってささげよ。　いけにえには、どんな欠陥も病気もあってはならない。　２６七日間、毎日このようにして祭壇をきよめ、神のものとして特別にささげられたものとするのだ。　２７八日目以後は毎日、祭司は祭壇の上で、国民のために完全に焼き尽くすいけにえと、和解のいけにえとをささげなければならない。　そうすれば、わたしはおまえたちを受け入れる。　神様がこうお語りになるのです。」
四四
１神様は私を東の門に連れ戻しました。　ところが、門は閉ざされていました。　２神様はこうお語りになりました。
「この門は閉ざされたままにしておく。　開けてはならない。だれもここから入ってはならない。　イスラエルの神がここから入ったからだ。　だから、この門は閉じておく。　３ただ、王だけが、王であるがゆえに、門の内側に座って、神の前でパンを食べることができる。　だが、その王も、門の玄関を通って出入りしなければならない。」
４それから、神様は私を、北の門から神殿の正面に連れて行きました。　目をあげると、神殿が神様の栄光にすっかり包まれているではありませんか。　私はただ地に顔をすりつけるように、ひれ伏すばかりでした。

５すると、神様はこうお語りになりました。
「ちりの子よ、細心の注意をはらって、わたしの言うことを心に留め、しっかり目を開き、耳を傾けよ。　神の神殿の規定と法律を教えるから、聞きもらさないようにせよ。　神殿に入ることが許される者と、許されない者とをはっきり区別せよ。　６反逆のイスラエル国民に言え。　神様はこうお語りになります。　ああ、イスラエルよ。　おまえたちは、なんとひどい罪を犯してきたことか。　７わたしにパンと脂肪と血をささげる時、わたしの聖所に、割礼（男子が生まれて八日目に、その生殖器の包皮を切り取る儀式）も受けず、神に従う心を全く持たない連中を入れるとは、どういうことか。　他のもろもろの罪に加えて、こうして、おまえたちはわたしとの契約を破ったのだ。　８また、わたしが与えた聖所での聖なる務めについての規定を守らなかった。そのたいせつな務めをさせるために、わざわざ外国人を雇っていたのだ。
９神様はこうお語りになります。　おまえたちの中に大ぜいいる外国人で、割礼を受けておらず、神を愛していない者は、一人もわたしの聖所に入らせてはならない。　１０また、レビ部族の者でも、イスラエルが神から離れて偶像に走った時、わたしを捨てた者たちは、その不誠実をきびしく罰せられなければならない。　１１彼らは神殿警備と門衛の務めにあたり、完全に焼き尽くすいけにえの動物を殺し、国民に仕えるべきであった。　１２それなのに、他の神々を礼拝するように国民をそそのかし、恐ろしい罪に引きずり込んだ。だから、神様はこうお語りになります。　わたしは手をあげて誓う。　彼らは罰を受けなければならない。　１３彼らは祭司として仕えるために、わたしに近づいてはならない。神聖な物にさわってもいけない。　自分たちが犯したすべての罪の責任をとらなければならないからだ。　１４今後、彼らは神殿の管理人として、神殿で行なわれる各種の行事を管理し、人々を助ける務めにあたるのだ。
１５だが、レビ部族でもツァドクの子孫だけは、イスラエルがわたしを捨てて偶像に走った時も、祭司として神殿における務めを果たしていた。　これからは、この者たちがわたしに仕える者となり、わたしの前に脂肪といけにえの血とをささげることになる。　神様がこうお語りになるのです。　１６彼らがわたしの聖所に入り、わたしの壇に近づいて、わたしに仕え、わたしの命令を守るのだ。
１７彼らは門から内庭に入る時、リンネルの服を着なければならない。　内庭や神殿で務めをする時は、毛織物を着てはならない。　１８リンネルのターバンをかぶり、リンネルのももひきをはかなければならない。　汗をかかないようにするためだ。　１９外庭に出る時には、わたしに仕えるために着ていた服を脱ぎ、それを聖所の部屋にしまい、ほかの服を着なければならない。　祭司以外の人が聖所で着る服にうっかり触れて、特別に聖なる者とされることがないためである。
２０祭司は髪を長く伸ばしすぎても、そり落としてもいけない。　適度に刈らなければならない。　２１祭司はだれでも、内庭に入る前には、ぶどう酒を飲んではならない。　２２結婚するなら、ユダヤ人の処女か祭司の未亡人とすべきである。　離縁された女と結婚

してはいけない。２３祭司はわたしの国民に、聖と俗、善と悪との区別を教えなければならない。
２４祭司は、人々の争いを収拾する裁判官ともなる。　その判決は、わたしの法に基づいていなければならない。　祭司自身が、すべての聖なる祭りにおいて、わたしの法律と規定に従い、また、安息日を聖なる日として守らなければならない。
２５祭司は、死体に近づいて身を汚してはならない。　ただし、両親、子供、兄弟、未婚の姉妹の場合は例外で、その時は近づいてもよい。　２６その場合、身をきよめる期間として、普通よりさらに七日間待ち、それから神殿での務めにつくことができる。　２７再び務めにつくために内庭や聖所に入る最初の日に、その祭司は、まず自分のために罪が赦されるためのいけにえをささげなければならない。　神様がこうお語りになるのです。
２８祭司は私有財産を持ってはならない。　わたし自身が彼らの相続財産だからだ。　それで十分である。
２９彼らの食物は、穀物のささげ物や罪が赦されるためのいけにえ、罪を償ういけにえなど､人々が神殿に持って来たささげ物やいけにえである。 神にささげられる物は何でも、祭司のものとなる。　３０あらゆる果実の初物や神にささげられたすべての物は、祭司のものとなる。　穀物の初物も祭司に贈られる。　そうするなら、わたしはおまえたちの家庭を祝福しよう。　３１祭司は、自然に死んだ鳥や動物、あるいは他の動物に殺された鳥や動物の肉は、絶対に食べてはならない。
四五
１イスラエルの各部族に土地を分割する時は、その一部を、まず聖なる土地として、神にささげなければならない。　その土地は、長さ十二キロ半、幅五キロで、その全体が聖なる地である。
２そのうち、縦横二百九十メートル四方の土地を聖所にあて、その回りを二十九メートル幅の空地にしなければならない。　３神殿は、長さ十二キロ半、幅五キロの土地の中に建てるようにせよ。　４この区域はすべて聖なる地で、聖所の務めにあたる祭司たちが、彼らの住む家とわたしの神殿のために用いる。
５それに隣接する長さ十二キロ半、幅五キロの区域は、神殿で奉仕するレビ人の居住地とせよ。　６これらの聖なる区域に沿った、長さ十二キロ半、幅二キロ半の土地は、町の区域としてイスラエルの人々に利用させよ。
７聖なる区域と町の区域との両側に、君主のための特別区域を設けよ。　その幅は、隣接している聖なる区域と町の区域を合わせたもので、東と西の境界線は各部族の分割地と同じにする。　８これが君主の分け前だ。　君主たちは、もう二度とわたしの国民を抑圧したり、搾取したりすることはない。　残りの土地は全部、イスラエル国民に与え、各部族に分割せよ。　９神様は支配者たちにこうお語りになります。　わたしの国民の土地を奪ったり、だまし取ったりして、彼らを家から追い出すようなことをやめよ。　いつも公平に、正直に振る舞え。

１０量目の正しいはかりを使え。　１１ホメル〔約三百六十リットル〕を計量単位の基準とせよ。　さらに小さな単位として、液体でないものにはエパ〔ホメルの十分の一〕、液体にはバテ〔ホメルの十分の一〕を用いよ。１２重さの単位は銀のシェケル〔約十四グラム〕を使え。　一シェケルはいつも二十ゲラと両替される。　それ以下であってはならない。五シェケルは五シェケル、十シェケルは十シェケルでなければならない。それをごまかしてはならない。　五十シェケルはいつも一ミナに相当する。
１３君主に納める税は、次のようにせよ。　小麦や大麦は収穫量三百六十リットルにつき六リットルの割合、　１４オリーブ油は百分の一の割合、　１５イスラエルで飼う羊の群れ二百頭ごとに一頭を差し出せ。 これらは穀物のささげ物､完全に焼き尽くすいけにえ、和解のいけにえであって、ささげる者たちの罪を帳消しにしてくれる。　神様がこうお語りになるのです。　１６イスラエルの全国民は、そのささげ物を君主に納めなければならない。
１７君主は、イスラエル国民を神と和解させるために公の礼拝で用いる、罪が赦されるためのいけにえ、完全に焼き尽くすいけにえ、穀物やぶどう酒のささげ物、和解のいけにえを用意しなければならない。　新月祭、安息日、その他の祭りの時に、そのようにする義務がある。
１８神様はこうお語りになります。　毎年一月一日（ユダヤ暦による。太陽暦では三月中旬）に、傷のない若い雄牛をいけにえとしてささげ、神殿をきよめよ。　１９祭司は、この罪が赦されるためのいけにえの血を取り、それを神殿の入口の柱や、祭壇の台座の四すみや、内庭の入口の壁に塗らなければならない。　２０同じ月の七日にも、あやまって、あるいは知らずに罪を犯した者のために、同じようにしなければならない。　こうして神殿はきよめられる。
２１同じ月の十四日には、過越の祭りを守るようにせよ。　この祭りは七日間にわたり、その間ずっとイースト菌の入らないパンだけを食べなければならない。　２２過越の祭りの日に、君主は、自分自身とイスラエルの全国民のために、罪が赦されるためのいけにえとして、若い雄牛をささげなければならない。　２３その祭りの七日間、君主は毎日、完全に焼き尽くすいけにえを神にささげなければならない。　このように毎日ささげられるいけにえは、傷のない若い雄牛七頭と雄羊七頭である。　また雄やぎ一頭も、毎日、罪が赦されるためのいけにえとしてささげるようにせよ。　２４君主は、穀物のささげ物として、五百四リットルの穀類をささげなければならない。　雄牛と雄羊とを一頭ささげるごとに三十六リットルの穀類をささげることになっているからだ。　また、いっしょにオリーブ油八十四リットルも用意しなければならない。　穀類三十六リットルにつき六リットルのオリーブ油を添えることになっているからだ。
２５毎年、十月上旬に行なわれる七日間の祭りにも、過越の祭りと同じように、君主は、罪が赦されるためのいけにえ、完全に焼き尽くすいけにえ、穀物とオリーブ油のささげ物とをささげなければならない。

四六
１神様はこうお語りになります。　東の内側の門は、労働をする週日の六日間は閉ざし、安息日と新月祭の時だけ開けるようにせよ。２君主は、外側の門の玄関から入り、内側の壁のすぐ手前まで進まなければならない。　その時、祭司は完全に焼き尽くすいけにえと和解のいけにえとをささげるのだ。　君主は門の内側で礼拝したら、その入口まで戻らなければならない。　入口は日が暮れるまで閉じてはならない。　３一般の人は、安息日と新月祭に、この入口の手前で礼拝するようにせよ。
４君主が安息日に神にささげる完全に焼き尽くすいけにえは、傷のない子羊六頭と傷のない雄羊一頭である。　５雄羊一頭につき小麦粉三十六リットル、子羊については各自が喜んでささげられる量だけをささげるようにせよ。　オリーブ油は小麦粉三十六リットルごとに六リットルの割合でささげる。　６新月祭には、完全な状態の若い雄牛一頭、傷のない子羊六頭、傷のない雄羊一頭をささげる。　７若い雄牛とともに小麦粉三十六リットルを穀物のささげ物とし、雄羊にも小麦粉三十六リットルをささげる。　子羊については各自が喜んでささげられる量だけをささげる。　また、小麦粉三十六リットルごとにオリーブ油六リットルをささげる。
８君主は門の玄関から入り、同じ所から出て行かなければならない。９しかし、一般の人は、祭りの期間中、北の門から入り、ささげ物をしたら、南の門を通って出て行かなければならない。　南の門から入って来た者は、北の門から出て行かなければならない。　要するに、入って来た門から出てはならないのであって、必ず反対側の門から出る。　１０君主も、こうした祭りの期間には、一般の人といっしょに入り、また出るようにすべきである。
１１特別の祭りや神聖な祝いの時には、穀物のささげ物は、若い雄牛一頭につき三十六リットル、雄羊一頭につき三十六リットル、子羊については、君主が喜んでささげられる量だけをささげるようにせよ。　また、小麦粉三十六リットルごとにオリーブ油六リットルをささげる。　１２君主が神に、特別の完全に焼き尽くすいけにえや和解のいけにえをささげる時には、東の内側の門を開け、彼はそこから入って、安息日にするのと同じように、そのいけにえをささげる。　それから、同じ門から出て行く。　彼が出たら、門は閉じる。
１３毎朝、一歳の子羊を一頭、完全に焼き尽くすいけにえとして神にささげなければならない。　１４１５それと同時に、毎朝、穀物のささげ物として、小麦粉六リットルと、それに混ぜる油二リットルをささげなければならない。　これは永久に変わらない定めだ。毎朝、日ごとのささげ物として、子羊と穀物のささげ物とオリーブ油を整えなければならない。
１６神様がこうお語りになります。　君主が息子に土地を贈与するなら、その土地は永遠に息子のものとなる。　１７ところが、奴隷の一人に贈与した場合には、彼が自由の身とされる〔七年目ごとの〕解放の年まで、彼のものとなるだけである。　その後、その土地は君主に返される。　永続するのは息子に贈与されたものだけだ。　１８また、君主は力

ずくで人の土地を取り上げてはならない。　息子たちには、自分の土地を与えなければならない。　わたしの国民が土地を失って、追い出されるような事態になることを、わたしは望まないからだ。」
１９２０そのあと、私は正面の門のわきの出入口を通って、北側の、祭司たちの部屋が並んでいる所に連れて行かれました。　部屋の並びの西の端に、料理場がありました。　私を案内した人の説明によると、そこは、祭司たちが罪を償ういけにえや、知らずに犯した罪が赦されるためのいけにえを煮たり、穀物のささげ物の小麦粉を焼いてパンにしたりする所でした。　そうしたのは、いけにえを外庭に持ち出して、一般の国民を特別に聖なる者とされた仲間に加えるようなことを、避けるためでした。
２１２２それから、私は再び外庭に連れ出され、その四すみに連れて行かれました。　四すみには、それぞれ縦二十三メートル二十センチ、横十七メートル四十センチの、壁に囲まれた庭がありました。　２３壁の内側にれんが製のかまどが並んでいて、調理ができるようになっています。　２４その人は、「この庭は神殿で祭司を助けるレビ人のもので、人々が持って来たいけにえを料理する場所だ」と話してくれました。
四七
１それから、その人は私を神殿の入口に連れ戻しました。　見ると、神殿の下から東に向かって、水が流れ出ているではありませんか。水は祭壇の右側、すなわち南側を通って流れていました。　２私は北の門を通って塀の外へ連れ出され、東の門へと回らされました。見ると、水は〔東の門の〕南端を流れていました。　３流れに沿って測りながら、その人は東に進み、五百メートル行った時、その流れを渡るように、私に命じました。　水はくるぶしまでありました。　４さらに五百メートル行くと、また、渡るように命じられました。　今度は、水はひざまでありました。　５それから五百メートル行くと、水の深さは腰までになりました。　さらに五百メートル先へ行くと、もう泳がなければ渡れないほどの川となっていました。　深くて、とても歩いて渡ることはできませんでした。
６その人は、いま見たことをよく脳裏に刻み込んでおくように言って、私をその川の岸に沿って連れ帰りました。　７すると、驚いたことに、川の両岸にたくさんの木が茂っているではありませんか。
８その人はこう言いました。　「この川は東に流れて、砂漠地帯とヨルダン渓谷を通って死海に注いでいる。　こうして死海の塩分の多い水を浄化し、新鮮な水に変えるのだ。　９この川の水に触れるものはすべて、生き生きとなる。　魚が住める水に変えられるので、死海にも魚がいっぱいになる。　この水が流れ込む所はどこでも、すべてのものが生かされる。　１０南はエン・ゲディから北はエン・エグライムに至るまで、死海の沿岸で、漁師が漁をするようになる。　岸には一面に網が干されるようになる。　魚の種類も、地中海の魚と同じくらい豊富になる。　１１だが、沼地や湿地は、相変わらず塩水のまま残される。　１２川岸には、あらゆる種類の果樹が茂り、その葉は枯れず、落ちることもなく、いつも実がなっている。　それで毎月、必ず新しい実がなるのだ。　神殿から流れ出る水

で潤されているからだ。　その実は食物に、葉は薬になる。
１３神様はこうお語りになります。　イスラエルの十二の部族に土地を分割する時は、次のようにせよ。　ヨセフ〔エフライムとマナセ〕の部族には、二区分を与えよ。　１４他の部族には、それぞれ平等に一区分が与えられる。　わたしはおまえたちの先祖に、土地を与えると約束した。　今おまえたちは、その土地を受け継ぐのだ。
１５北の境界線は、地中海からヘテロンに、さらにレボ・ハマテからツェダデに、　１６ダマスコとハマテの境にあるベロタとシブライムを経て、ハウランの境にあるハツェル・ハティコンに至る。　１７つまり、地中海から、北はハマテと、南はダマスコと接しているハツァル・エナンまでである。
１８東の境界線は、ハツァル・エナンからハウラン山へと南下し、そこで西に曲がってガリラヤ湖の南岸から、イスラエルとギルアデとを分けるヨルダン川に沿って死海に下り、さらにタマルに至る。
１９南の境界線は、タマルから西に向かってメリバテ・カデシュの泉を通り、エジプト川〔ワディ・エル・アリシュ〕に沿って地中海に至る。
２０西側は地中海が境界線で、南の境界線から北の境界線が始まる所までである。
２１これらの境界線の内側を、イスラエルの部族に分割しなければならない。　２２その土地をおまえたちと､おまえたちの間に住んでいる外国人の相続地として割り当てよ。 イスラエルの地で生まれた子供はみな、たとい親が外国人でも、イスラエルの市民権が与えられ、おまえたちの子供と同じ権利を与えられる。　２３このような移住者全員に、現在住んでいる部族の間で、土地を与えなければならない。
四八
１以下は、各部族と、その土地のリストである。　ダンの所有地は、地中海に面する北西の境界線からヘテロン、レボ・ハマテを経て、さらに南はダマスコと、北はハマテと接する境界線上のハツァル・エナンまでである。　ダンの地の東と西はそれぞれ境界線が境となっている。　２アシェルの土地は、ダンの南で、東と西はそれぞれの境界線が境となっている。　３ナフタリの土地は、アシェルの南で、東と西はそれぞれの境界線が境となっている。　４マナセの土地は、ナフタリの南で、同じように、東と西はそれぞれ境界線が境となっている。　５‐７さらに、南へと、エフライム、ルベン、ユダの土地が続き、その東と西は同じように境界線が境となっている。
８ユダの南は神殿のために取っておかれた土地で、その中央に神殿がある。　その東と西の境は､各部族の土地の境と同じである。　９この神殿のための土地は､長さ十二キロ半、幅十キロである。
１０神殿は、東西十二キロ半、南北五キロの土地の中央にある。　１１この区域は祭司たちのものである。　この祭司たちは、イスラエル国民やレビ部族の残りの者たちが罪を犯した時、わたしに従って罪を犯さなかったツァドクの子孫である。　１２この土地は、分割される土地の中の特別の区域で、最も神聖な土地である。　それに隣接して、他のレビ

部族の住む区域がある。　１３その広さは祭司のための区域と同じで、二つ合わせると、長さ十二キロ半、幅十キロになる。　１４この特別区の買売や交換は厳禁され、ほかの者に使わせてもいけない。　それは神のために聖別された地だからである。
１５神殿のための特別区域の南にある、長さ十二キロ半、幅二キロ半の細長い地は、一般用のもので、町を中心にして、家や牧場や農園をつくるようにせよ。　１６町は二キロ二百五十メートル四方の正方形とする。　１７牧場は約百二十五メートルの幅で、町の回りを囲むようにする。　１８聖なる区域に接したこの地域で、町の外にある残りの地は、東西にそれぞれ五キロで､町の住民のための農園である。１９町で働くイスラエル人なら、どの部族の者でも、この農園で働くことができる。
２０聖なる区域と町の所有地とを合わせた、この土地全体は十二・五キロ四方である。
２１２２この区域の両側の､イスラエルの東と西の境までの地は､君主のものである。ユダとベニヤミンとの土地にはさまれたこの土地は、聖なる区域と町の所有地との両側にあって、幅はそれぞれ十二・五キロである。
２３残りの部族に分割される土地は、次のとおり。　ベニヤミンの土地は、東の境界線から西の境界線まで、イスラエルの全地を横切っている。　２４ベニヤミンの土地の南にはシメオンの土地があり、同じように東と西の境界線の間に広がっている。　２５イッサカルの土地が、その南に同じようにある。　２６さらに、その南にゼブルンの土地が同じようにある。　２７２８それから、ガドの土地がその南にあるが、東と西の境界線は同じでも、南の境界線は、タマルからメリバテ・カデシュの泉、さらにエジプト川〔ワディ・エル・アリシュ〕に沿って地中海に至っている。　２９以上が各部族に割り当てられた土地である。　このように、神様がお語りになるのです。
３０３１町の門には、それぞれイスラエルの各部族の名がつけられている。北側の二キロ二百五十メートルの城壁には三つの門があり、ルベンの門、ユダの門、レビの門と名づけられている。　３２東側の二キロ二百五十メートルの城壁にも、ヨセフの門、ベニヤミンの門､ダンの門と名づけられた門がある。３３南側の城壁も同じ長さで､シメオンの門､イッサカルの門、ゼブルンの門と呼ばれる三つの門がある。　３４西側の二キロ二百五十メートルの城壁にも､ガドの門､アシェルの門､ナフタリの門と呼ばれる三つの門がある。
３５町の周囲は九キロあり、町の名は『神の都』と呼ばれる。」
▪

ダニエルの預言
ダニエルは、少年のころ、バビロンに捕らえ移され、捕囚の身でありながら、そこで教育を受け、バビロン政府や、のちにはペルシヤ政府の高官になりました。　神様を信じていたために、ライオンの穴に投げ込まれるような残忍な迫害を受け、同胞の友だち三人も炉に投げ込まれたりしました。　しかし、神様の力によって生き残ったのです。　本書は、ダニエル時代の歴史上の事件に言及し、将来についての預言なども含んでいます。　ダニエルは、来たるべき大世界帝国をはじめ、神様の力や、メシヤであるイエス・キリストの幻を見ます。　やがて、メシヤが来てこの世の悪を滅ぼし、究極的には、永遠に過ぎ去らない正義の王国を確立するのです。

一
１２エホヤキム王がユダを治めるようになって三年後、バビロンの王ネブカデネザルが大軍を率いて、エルサレムに攻めて来ました。　神様はネブカデネザル王に勝利をお与えになりました。　バビロンへ帰る時、王は、神殿から聖なる器具を持ち出し、シヌアルにある自分の神の宝物倉に納めました。
３４ネブカデネザル王は、宮殿の人事担当者アシュペナズに命じて、捕囚として連れて来たユダヤ人の若者の中から、ユダの王族か貴族の出身者数人を選び、カルデヤ人のことばと文学を教えるようにさせました。　王はこう命じたのです。　「いろいろの分野の知識に通じ、知恵にすぐれ、鋭敏な上に良識を備え、宮廷に仕えるにふさわしい身だしなみがあり、身体剛健で容姿端麗な若者を選び出せ。」
５王はこの若者たちに、三年間の訓練期間中、王自身の料理場から最上の食物とぶどう酒をあてがいました。　訓練ののち、この若者たちを、王の参議官に取り立てようとする特別な計らいだったのです。
６こうして選ばれた若者の中に、ダニエル、ハナヌヤ、ミシャエル、アザルヤの四人がいました。　四人ともユダ部族の出身でした。　７ところで、彼らの監督官は、それぞれにバビロニヤ名を与えました。　それで、ダニエルはベルテシャツァル、ハナヌヤはシャデラク、ミシャエルはメシャク、アザルヤはアベデ・ネゴと呼ばれました。
８しかし、ダニエルは、王の支給する食物〔ユダヤの法律で禁止されていた豚などが含まれていたと思われる〕もぶどう酒も断じて口にしない、と決心したのです。　それで、ほかの食事をとることができるよう､その許可を監督官に願い出ました。　９すると神様は、この監督官に、ダニエルを特別に配慮し、その苦しい立場を思いやる心をお与えになりました。　１０それでも彼は、ダニエルの申し出には頭を痛めました。
監督官は恐る恐る言いました。「ほかの同輩の若者と比べて､あなたがたの顔が青白く、やせ細ってしまったら、どうなるだろう。　職務怠慢のかどで、首を切られるかもしれない。」
１１そこでダニエルは、監督官が彼ら四人につけてくれた世話役と、このことについて話

し合い、　１２ともかく、十日間、野菜中心の食事をさせてくれるように頼みました。　１３その試験期間が終わった段階で、王のごちそうを食べた者たちと比較して、野菜中心の食事を継続するかどうかを決める、ということにしたのです。
１４世話役は、ついにこの試験期間を実施することに踏み切りました。１５さて、十日が過ぎました。　ダニエルとその三人の友人は、王のごちそうを食べた若者たちよりも健康そうで、栄養が十分なように見えます。　１６そこで世話役は、それからも、ごちそうやぶどう酒抜きの、野菜中心の食事をダニエルたちに与えました。
１７神様はこの四人の若者に、すぐれた学習力をお与えになりました。　それで四人は、すぐに当時の文学や科学を修得したのです。　また、神様はダニエルに、夢や幻の意味を知る特別の能力をお与えになりました。
１８１９三年にわたる訓練期間が終わると、監督官は、前もって命じられていたように、口頭試問を受けさせるために、若者たちを王の前に連れて来ました。　王は一人一人と時間をかけて話し合いました。　その時、ダニエル、ハナヌヤ、ミシャエル、アザルヤの四人が群を抜いて、王に深い感銘を与えたのです。　そこで、この四人が王に仕える常任補佐官に取り立てられました。　２０情報を得たり、均衡のとれた判断を必要とする全分野で、この四人の若者の意見は、国中のどの熟練した呪法師や知恵のある占星学者の意見よりも、十倍もまさっていることを、王は知ったのです。
２１ダニエルは、クロス王の治世の元年まで、王の参議官の地位にありました。
二
１ネブカデネザル王の治世第二年のある夜、王は恐ろしい悪夢にうなされ、震えおののきながら目を覚ましました。　２王は直ちに呪法師、呪文師、呪術師、占星学者を呼び寄せて、その夢を解き明かせと要求したのです。
　３一同が召し出されると、王はこう言いました。　「余は恐ろしい悪夢にうなされたのだが、何か不吉な予感がしてならんのだ。　余の見た夢を説明してくれんか。」
４そこで占星学者たちは、アラム語で王に申しました。　「陛下、まず、どんな夢かをお教えください。　そうすれば、その意味を解き明かしてご覧に入れます。」
５「いま言ったではないか。　どんな夢か、思い出せんのだ。　どんな夢で、それがどんな意味か説明することができないなら、おまえたちの手足をばらばらにし、おまえたちの家をごみの山としてくれよう。　６しかし、夢とその意味を説明してくれたなら、たくさんの褒美を取らせ、栄誉も与えよう。　さあ、教えてくれ。」
７「おことばですが、まずその夢をお教えくださらないことには、意味を解き明かせないのです。」
８９「おまえたちの魂胆はわかったぞ。　悪夢の示す災いが余に降りかかるまで、時間をかせごうというのだろう。　どんな夢かもわからないくらいなら、おまえたちの解き明かしなど、信じられるかっ！」
１０「人の見た夢をあてる者など、地上にはおりません！　また、そんな、むちゃなこと

をお尋ねになる王様も、世界にはおりません！１１陛下は、できないことをしろとおっしゃるのです。　神々ならぬ人間には、だれも陛下のご覧になった夢はわかりません。　それができる神々は、ここにはおられないのです。」
１２これを聞いた王は、かんかんに怒り、「バビロンの知者を一人残らず死刑にせよ」と命じました。　１３ダニエルと三人の仲間も、他の知者たちといっしょに殺されることになりました。
１４しかし、死刑執行の責任者アルヨクが姿を現わした時、ダニエルは、この時とばかり、知恵の限りを尽くして話し合いました。　１５「なぜ、陛下はそんなにご立腹なのですか。いったい、何があったのですか。」
そこでアルヨクは、事の次第を説明しました。
１６すると、ダニエルは王にお目どおりを願い出て、「陛下、しばらくのご猶予を下さい。陛下がご覧になった夢と、その意味をお教えいたします」と申しました。
１７ダニエルは家に帰り、さっそく、仲間のハナヌヤ、ミシャエル、アザルヤに事の成り行きを話しました。　１８彼らは、ほかの者といっしょに殺されなくてもすむよう、この夢の秘密を明らかにしてくださり、そのことによってあわれみを示してくださるよう、ひたすら天の神様に祈りました。　１９その晩、幻の中で、神様はダニエルに、王が見た夢を示してくださったのです。
ダニエルは天の神様をほめたたえました。　２０「神様の御名が、永遠にほめたたえられますように。　神様だけがすべての知恵と力をお持ちです。　２１世界の出来事は、すべて神様の支配下にあります。　王を退け、ほかの者を王位につける方は、神様にほかなりません。知者に知恵を与え、学者に知性をお与えになるのも、神様です。　２２神様は、人の理解をはるかに越えた深い奥義を、明らかにしてくださいます。　人の目に隠されているどんなことも、ご存じです。　神様は光であられるので、どんな暗やみも見通してしまわれるからです。２３私の先祖の神様。　神様に心から感謝し、賛美します。　私に知恵を与え、すばらしい健康をもお与えくださったばかりか、今、王様の夢とその意味を、お教えくださいました。」
２４それからダニエルは、バビロンの知者を死刑にするよう命令されていたアルヨクに会い、こう言いました。　「彼らを殺してはなりません。　さあ、陛下のところへ案内してください。　陛下の知りたがっておられることを、お教えします。」
２５アルヨクは急いでダニエルを王のもとへ案内して、こう申しました。　「ユダヤ人の捕虜の中に、陛下の夢を解き明かせる者を見つけました。」
２６王はダニエルに、「なに、ほんとうか。　余の夢を解き明かせると申すのだな」と問いかけました。
　２７「知者も、占星学者も、呪法師も、どんな天才でも、そのようなことはできますまい。　２８しかし、隠されていることを明らかにしてくださる神様が、天にはおられます。この神様が、陛下がご覧になった夢の中で、将来どのようなことが起こるかを、お示しに

なったのです。　これから申し上げますことが、陛下のご覧になった夢でございます。
２９陛下は、これから起こる出来事を夢でご覧になりました。　が、それは隠されていることを明らかにしてくださる神様が、陛下にお語りになったのです。　３０ところで、お断わりしておかなければなりません。　私が陛下の夢の秘密を知っておりますのは、ほかの人よりも知恵があるからではありません。　神様が、陛下のために、私にお示しくださったのです。
３１陛下。　陛下がご覧になったのは、ぞっとするほど恐ろしい姿をし、まばゆいばかりに光り輝き、人の形をした、巨大な、力ある像でございました。　３２この巨像の頭は純金、胸と両腕は銀、腹とももは青銅、　３３すねは鉄、足は一部が鉄、一部が粘土でできていました。　３４陛下が見ておられるうちに、一つの岩が、超自然的な方法で山腹から切り出されました。　その岩は、巨像に向かって転がり落ち、激突して、その像の鉄と粘土の足を粉々に砕きました。　３５その時、巨像全体も倒れて砕け、鉄や粘土や青銅や銀や金の破片の山と化したのです。　その破片は、もみがらのように小粒だったので、ぜんぶ風に吹き飛ばされてしまいました。　ところが、その巨像を打ち砕いた岩は、大きな山となって全地をおおいました。
３６以上が、陛下のご覧になった夢でございます。　さて、その意味はこうでございます。
３７恐れながら、陛下は多くの王の上に君臨する王であられます。天の神様が、陛下に王国と権威と力と光栄とを、お与えになったからです。　３８神様は、陛下が辺境の地まで治め、動物や、鳥をも支配するようお定めになりました。　陛下は、あの金の頭でございます。
３９しかし、陛下の王国の命運が尽きると、別の強国〔メド・ペルシヤ〕が代わって起こります。　その国は、陛下の王国に比べると劣ります。　この第二の国が倒れると、巨像の青銅の腹が表わす第三の強国〔ギリシヤ〕が起こり、世界を支配するようになります。
４０続いて、鉄のように強い第四の国〔ローマ〕が起こり、その国は、鉄が打ち砕くように、他の国々を粉砕し、征服していくのです。　４１４２一部が鉄で、一部が粘土でできている足は、のちに第四の国が分裂することを示しています。　分裂した国の一部は鉄のように強く、他の一部は、粘土のようにもろいのです。　４３この鉄と粘土の混合は、分裂した王国同士が支配者相互の政略結婚によって同盟を結び、勢力を強化しようとすることを示しています。　しかし、それは成功しません。　鉄と粘土とは混じり合わないからです。
４４この王たちの時代に、天の神様は、決して滅ぼされることのない一つの国を起こします。　だれもこの国を征服できません。　その国は、すべての国々を打ち砕いて絶滅させます。　まさに永遠不滅の国なのです。　４５人手によらずに山腹から切り出された岩、鉄も、青銅も、粘土も、銀も、金もすべて粉々にしてしまったあの岩が示している意味は、以上のとおりでございます。
偉大な神様が、このように将来おこることをお示しになったのです。　陛下の夢について

のこの解き明かしは、私が夢の内容を描写したのと同様、確かなものでございます。」
４６すると、ネブカデネザル王はダニエルの前にひれ伏し、ダニエルを拝みました。　それからダニエルにささげ物をし、その前で良い香りのする香をたかせました。
４７王はこう言いました。　「ダニエルよ。　まことに、おまえの神様は、この秘密をおまえにお示しになったのだから、神々の神、王の王、奥義の啓示者だ。」
４８王はダニエルを高い位につけ、たくさんの高価な贈り物を与えました。　彼はバビロン全州の知事となり、王に仕える知者たちの長官に任じられたのです。
４９また王は、ダニエルの求めで、シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴをダニエルの補佐官とし、バビロン州の政務全般をつかさどらせました。　ダニエルは総務長官として王の宮廷で仕えました。
三
１ネブカデネザル王は、高さ三十メートル、幅三メートルもある金の像を造り、それをバビロン州のドラの平野に立てました。　２それから、命令を発して、すべての君主、長官、総督、参議官、財務官、司法官、保安官および各州の知事たちを召集し、その像の除幕式に出席させることにしました。　３４この指導者たちが全員出席して像の前に立つと、伝令官が大声で叫びました。　「諸国、諸国語の皆様。　陛下のご命令です。
５楽隊の奏楽と同時に、地にひれ伏して、陛下がお立てになった金の像を拝みなさい。　６命令に従わない者は、直ちに火の燃える炉に投げ込まれます。」
７それで、楽隊の奏楽が始まると、諸国、諸国語、諸宗教の者たちがいっせいにひれ伏し、金の像を拝みました。
８ところが、ある役人たちが王のもとへ来て、像を拝まなかったユダヤ人のことを非難しました。
９‐１１「陛下。　陛下は、『楽隊の演奏と同時に、全員がひれ伏して、金の像を拝め。　命令に従わない者はだれでも、火の燃える炉に投げ込まれる』という法令をお出しになりました。　１２ところが、陛下がバビロン州の政務担当者に任命なさったシャデラク、メシャク、アベデ・ネゴは、この法令を無視して、陛下の神々に仕えることをせず、陛下がお立てになった金の像を拝まなかったのです。」
１３これを聞いた王は、烈火のように怒り、シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴを引き立てて来るよう命じました。
１４王は三人に問いただしました。　「ああ、シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴ。　おまえたちが余の神々に仕えず、また、余の立てた金の像を拝まなかったというのは、ほんとうか。　１５とにかく、もう一度チャンスを与えよう。　奏楽が始まったら、ひれ伏して像を拝めばよし、さもなければ、直ちに火の燃える炉に投げ込むぞ。　どのような神が、余の手からおまえたちを救い出せるというのか。」
１６シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴは答えました。　「陛下、私たちの身にどんなことが起ころうと、ご心配には及びません。　１７たとい燃えさかる炉に投げ込まれまし

ても、陛下、私たちの神様は、私たちを陛下の手から救い出すことがおできになります。
１８たといそうでなくても、陛下、ご承知ください。　私たちはどんな情況におかれても、決して陛下の神々に仕えたり、金の像を拝んだりはいたしません。」
１９すると、王はかんかんになり、シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴへの憤りで顔は真っ赤になりました。　そして、炉をいつもの七倍も熱くするよう命じました。　２０また、王の軍隊の中でいちばん頑健な兵士たちに、シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴを縛り、火に投げ込むよう命じたのです。
２１三人は衣服を着たまま縛られ、炉に投げ込まれました。　２２王が激怒のあまり、炉を熱くするよう命じたので、炉は灼熱の状態でした。　兵士たちが三人を投げ込んだ時、吹き上げる炎が兵士たちを焼き殺したほどです。　２３シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴは、縛られたまま、ごうごうと音を立てて燃えさかる炎の中に落ち込んで行きました。
２４突然、じっと見つめていた王が驚いて立ち上がり、側近の者たちに叫びました。「炉に投げ込んだのは三人ではなかったのか。」
「さようでございます、陛下。」
２５「だが、よく見ろ。　四人いるではないか。　縄を解かれて火の中を歩いているぞ。しかも、焼かれた様子は全くない。　第四の人は、まるで神様のようだ。」
２６それから、王は燃える炉の口にできるだけ近づいて、こう叫びました。　「シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴ。　いと高き神のしもべたちよ、出て来い。　すぐ出て来い！」すると、三人は出て来たではありませんか。
２７君主、長官、総督、参議官たちが、駆け寄って、三人を調べました。　驚いたことに、焼かれたあとは少しもありません。　頭の毛も焦げず、上着も焼けず、煙の臭いさえしませんでした。
２８王は、思わず感嘆の声をあげました。　「シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴの神様は、なんとすばらしい方だ！　王の命令を拒み、自分たちの神様以外の神を拝むくらいなら死もいとわないほど、信仰に徹したしもべたちに、御使いを送って救い出してくださるとは。　２９よいか、余の命令だ。　シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴの神様に逆らう者は、どの国、どの国語、どの宗教の者であっても、手足を切り取り、その家をごみの山とする。　この三人の神様のようにできる神は、ほかにいないからだ。」
３０王は、シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴを昇進させました。　それで三人は、バビロン州で大いに栄えたのです。
四
１ネブカデネザル王は、次のような声明文を、当時の世界の諸国、諸国語の民に送りました。
諸国民に告ぐ。
２いと高き神様が、余に行なわれた不思議なみわざについて、知らせたいと思う。　３それは信じ難いほどの奇蹟であった。　今こそ、この神様の王国が永遠のものであることを、

余ははっきり知った。その神様の支配は永遠に変わらない。
４余は、平安と繁栄をむさぼりながら生きていた。　５ところが、ある夜、非常に恐ろしい夢を見た。　６そこで、バビロン中の知者という知者を集めて、夢の解き明かしをさせることにした。　７呪法師、占星学者、占い師、天才などと言われる者が、みな集まった。その席で、余の夢のことを話したが、だれも解き明かせなかった。　８最後に、ダニエルが来た。　余は自分の神の名にちなんで、彼にベルテシャツァルと名をつけたが、この者には聖なる神の霊が宿っていたのだ。　そこで余は、ダニエルに夢のことを話した。
９「おお、呪法師の長ベルテシャツァル。　余はおまえのうちに聖なる神の霊が宿っており、どんな秘密も見事に解き明かせるのを知っているぞ。　余の夢の意味を教えてくれ。
１０１１余は野原に立っている大木を見た。　その木は天へ向かってどんどん伸び、ついに世界中の人々が、どこからでも見えるほどになった。　１２葉は青々と茂り、枝にはすべての人が食べても足りるほど、実がたわわになっていた。　野の動物はその木陰にいこい、鳥はその枝を住みかとし、全世界がその木によって養われた。　１３以上のようなことを夢で見ていると、神様の使いの一人が天から降りて来るのが見えた。
１４その御使いはこう叫んだ。　『その木を切り倒し、枝を切り払え。　また、葉を振り落とし、実をまき散らせ。　動物を木陰から、鳥を枝から追い払え。　１５だが、切り株と根は残し、鉄と青銅の鎖をかけて、野の若草の中に置け。　天の露にぬれさせ、野の動物といっしょに草を食べさせるのだ！　１６七年間、人の心ではなく動物の心を持たせるがよい。　１７これは見張り人たちの宣告であり、聖なる者たちの命令である。　このように宣言するのは、いと高き神が、世界の国々を支配し、みこころのままに、人間の中で最もへりくだった者にさえ、その国々をお与えになるということを、全世界が知るためである。』
１８ベルテシャツァルよ。　以上が余の見た夢だ。　さあ、その意味を教えてくれ。　おまえのほかに、教えてくれる者はいない。　この王国で最も知恵のある者もだめだ。　だが、おまえには聖なる神の霊が宿っているので、教えることができる。」
１９その時ダニエルは、しばらくの間、その夢の意味に度肝を抜かれ、おびえてひと言も口をきけなかった。　ついに、余が口をひらいた。　「ベルテシャツァル、恐れることはない。　夢の意味を話してくれ。」
ダニエルは答えた。　「この夢の示していることが、陛下にではなく、陛下の敵にあてはまるのならよろしいのですが……。　２０‐２２実は、陛下が夢でご覧になりました木、青々とした葉をいっぱい茂らせ、みんなが食べても足りるほど実をたわわにつけ、その陰には野獣が住まい、枝には鳥がいっぱいに宿り、世界中の人々に見えるように天にまで達した高い木は、陛下ご自身でございます。　陛下は強く、大きくなり、その偉大さは天にまで達し、その支配は地の果てにまで及びます。
２３陛下は、神様の使いが天から降りて来て、こう言うのをお聞きになりました。　『この木を切り倒して滅ぼせ。　ただし、切り株と根は若草に囲まれたまま残し、鉄と青銅の

鎖をかけておけ。　天の露にぬれさせ、七年間、野の動物たちといっしょに草を食べさせよ。』
２４陛下。　これはいと高き神様がお定めになったことですから、必ず起こります。　２５陛下の国民が陛下を宮殿から追い出します。　陛下は動物のように野に住んで、牛のように草を食べ、その背中は天の露でぬれるでしょう。　いと高き神様が人間の国々を支配し、お選びになった者に支配権をお与えになるということを、陛下が悟るまで、七年間、こんな生活が続きます。　２６ただし、切り株と根とは残されます。　その意味は、天の神様が支配しておられることを陛下が悟った時、国を返していただける、ということでございます。
２７ネブカデネザル王よ、お願いでございます。　どうぞ、罪を犯しませんように。　正しいことを行ない、貧しい者をあわれんでください。　そうすれば、あるいは神様のお赦しがあるかもしれません。」
２８ところが、これらのことがみな、余の身に起こったのだ。　２９この夢を見てから十二か月後のことだ。 余は､バビロンの王宮の屋上を歩きながら、 ３０こう言った。「余は自分の力で、この美しい都を、王宮のある町、帝国の首都に建て上げたのだ。」
３１このことばを語り終えないうちに、天から声があった。 「ネブカデネザル王よ。 おまえに宣告する。　おまえはもう、この国の王ではない。　３２宮殿から追い出され、七年間、野の動物たちとともに住み、牛のように草を食べて生活するのだ。　それで、やっと、神様が人間に国々を分け与え、お選びになった者に国をお与えになることを悟るだろう。」
３３そのことは、すぐ実現した。　余は宮殿から追われ、牛のように草を食べ、体は露でぬれ、髪の毛はわしの羽のように長くなり、爪は鳥の爪のようになったのだ。
３４七年目の終わりに、余は天を見上げた。　すると、正気に戻ったので、いと高き神様を賛美し、礼拝した。　そして、永遠に生きておられる方、その御国の支配が代々限りなく続くお方を、心からほめたたえた。　３５神様に比べれば、地上の人間はみな無に等しい。　神様は、天の御使いたちの中にあっても、地上に住む人々の中にあっても、最善と思われることを行なってくださる。 それに対して､「どうして、こんなことをなさるのですか」と言って、神様に挑戦したり、神様をとどめたりはできない。　３６正気に戻った時、余の名誉も、光栄も、王国も戻って来た。　参議官も役人も戻って来てくれたので、余は以前にもまさる栄誉に包まれ、王位を確立することができたのだ。
３７ここに今、余は、そのなされることがすべて正しく善である方、すべての者をおさばきになる方、天の王を賛美し、ほめたたえる。　そのお方は、思い上がって歩む者を手玉に取り、ちりの中に押し込めてしまわれるのだ
五
１ベルシャツァル王は、千人の高位高官を招いて大宴会を催し、ふんだんにぶどう酒をふるまいました。　２－４王は、ぶどう酒を飲みながら、ずっと以前、ネブカデネザル王の

治世に、エルサレムの神殿からバビロンに持って来た、金と銀の杯のことを思い出しました。さっそく、この聖なる杯を宴席に持って来るよう命じました。　杯が運ばれて来ると、王と王子たち、妻とそばめたちは、金、銀、青銅、鉄、木、石で作られた偶像のために、その杯で乾杯したのです。
５すると突然、居並ぶ者たちの目の前で、人の手の指が現われ、燭台の向こうの塗り壁に何か書いたのです。　王も、確かにその指を見ました。　６恐ろしさのあまり、王の顔は蒼白となり、すっかりおびえて、ひざががくがく震えだし、とうとうその場に座り込んでしまいました。
７王は叫びました。　「呪文師、占星学者を呼べ。　カルデヤびとを呼べ。　だれか、壁に書かれた文字を読み､その意味を解き明かせるなら､王室の栄誉を帯びた紫の衣を着せ、首に金の鎖をかけ、この国の第三の支配者としようぞ！」
８しかし、呼び集められた者のうち、一人としてその文字を読み、意味を解き明かせる者はいません。
９王はますます興奮し、恐怖におびえ、居並ぶ高官たちも、うろたえるばかりです。　１０このことを聞いた王母は、すぐ宴会場に駆けつけ、王に言いました。　「王よ、落ち着きなさい。　そんなお顔をなさったり、おびえたりするのはおやめなさい。　１１あなたの王国には、聖なる神の霊が宿っている人がいるではありませんか。　父上の時代に、その人は、まるで神様のように、知恵と理解力に満ちていました。　父上の治世に、その人は、バビロン全土の呪文師、占星学者、カルデヤびと、占い師たちの長とされたのです。
１２その人は､ダニエルと申します。 父上は彼をベルテシャツァルと呼んでおりました。その人を召してください。　彼の頭脳は神様の知恵と理解力に満ちています。　それで、夢を解き明かし、なぞを解き、どんな難問も解決できるのです。　あの壁に書かれた文字も、きっと読みこなしてくれましょう。」
１３ダニエルは、すぐさま王のもとに召されました。　王はダニエルに語りかけました。「ネブカデネザル王がイスラエルから捕虜として連れて来たユダヤ人ダニエルと申すのは、おまえか。　１４おまえのうちには神の霊が宿り、知恵と理解力にすぐれていると聞いている。　１５余の知者や占星学者どもは、あの壁に書かれた文字を読み、その意味を解き明かそうとしたが、できなかった。　１６おまえは、どんな難問も解くことができるそうだな。　この文字を解き明かしてくれるなら、紫の衣を着せ、首に金の鎖をかけ、この国で第三の支配者としてやるが、どうだ。」
１７「ありがたい仰せではございますが､その褒美は､ご自分のために取っておかれるか、だれかほかの者におやりください。　とにかく、壁の文字の意味はお教えします。　１８陛下。　いと高き神様は、先王ネブカデネザルに、偉大な王国と、それにふさわしい威厳と光栄とをお与えになりました。　１９その威厳はたいへんなもので、世界の国々はみな恐れのあまり、王の前に震えおののいたものです。　気に入らない者は殺し、気に入る者は生かす、というように、気の向くままに人を用いたり、捨てたりなさいました。　２０

こうして、王の心がおごり高ぶった時、神様は王をその位から退け、栄光を奪っておしまいになったのです。　２１王は、宮殿から野に追われ、心も感情も動物と同じようになり、野ろばとともに住み、牛のように草を食べ、体は天の露にぬれるしまつでした。　このことを経験して、王も、いと高き神様が人間の国々を支配し、みこころにかなう者に国々を支配する権威をお与えになることを、ついに悟ったのです。
２２その後継者である王よ。　陛下は、そのことをみな知っていながら、へりくだることをなさいませんでした。　２３それどころか、天の神様を侮り、神の神殿の杯をこんな所に持って来させました。　陛下も、高官たちも、王妃やそばめたちも、その杯でぶどう酒を飲み、金、銀、青銅、鉄、木、石で作った、見ることも、聞くことも、知ることもできない神々をほめたたえました。　こうして、陛下にいのちの息を与え、陛下の人生を手中に握っておられる神様を、ほめたたえなかったのです。　２４２５それで神様は、手の指を送り、この文字を書かせたのです。　それは『メネ、メネ、テケル、ウ・パルシン』と読みます。
２６意味はこうです。
『メネ』は数えられた、という意味で、神様が陛下の治世の日数をかぞえて、それがもう終わったということです。
２７『テケル』ははかりで量られた、という意味で、陛下が神様のはかりで量られ、その審査に落ちたということです。
２８『パルシン』は分割された、という意味で、陛下の王国が分割されて、メディヤとペルシヤに与えられるということです。」
２９それから、ベルシャツァル王の命令で、ダニエルは紫の衣を着せられ、首に金の鎖をかけられました。　こうして、王国で第三の支配者と認められたのです。
３０その夜のうちに、ベルシャツァルは殺され、　３１メディヤ人ダリヨスが都に入り、その国を支配するようになりました。　時に、ダリヨスは六十二歳でした。
六
１ダリヨス王は国を百二十の州に分け、それぞれに知事をおきました。　２州知事の上に三人の大臣をおき、ダニエルはその一人でした。　この三人に報告するように義務づけることで、王は効果的に王国を治めることができました。
３ダニエルは、そのすぐれた能力のゆえに、他の大臣や、州知事よりはるかに有能であることが、だれの目にも明らかになりました。　そこで王は、彼を行政長官とし、全帝国を治めさせようとしました。
４そのため、他の大臣や州知事は激しく嫉妬し、ダニエルの行政に何か落度はないかとあら捜しをし、王に訴える口実を見つけようとしました。　しかし、何一つ批判すべき点を見つけることができません。　ダニエルは誠実で、正直に振る舞い、まちがいを犯すことがありませんでした。　５そこで、「残された道はただ一つ。　ダニエルの宗教を突くことだ」ということになったのです。

６彼らは、申し合わせて王のもとへ行き、次のように進言しました。　「ダリヨス王よ。いつまでもご健勝であられますように。　７私ども大臣、州知事、参議官ならびに総督は、どんな事情があっても取り消すことのできない法令を陛下に制定していただくよう、全会一致で決議いたしました。　その法令とは、向こう三十日間、陛下以外の者に、どんな神にも人にも祈りをささげる者があれば、ライオンの餌食にされる、という内容のものでございます。　８この法令に署名をお願いいたします。　そうすることで、これは無効にすることも、変更することもできないものになります。　まさに、取り消しのできない『メディヤとペルシヤの法律』となるのでございます。」
９そこで王は、この法律に署名したのです。
１０ところで、ダニエルはそのことを知りましたが、家に帰ると、いつものように二階の寝室に入り、ひざまずきました。 エルサレムの方角の窓を開けたまま、彼は一日に三度、祈りをし、感謝をささげていたのです。
１１すると、陰謀を企てた連中がダニエルの家に押しかけ、神様に哀願し、ひたすら祈っているダニエルの姿を見つけました。　１２彼らは王のもとに急ぎ、あの法律について念を押してから、こう言いました。 「陛下。　陛下は、向こう三十日間、陛下以外の者に、どんな神にも人にも祈りをささげてはならないという法律に、署名なさいました。 また、その法律には、背く者はライオンの餌食にされる、ともございました。」
「いかにも、そのとおりだ。　変更も取り消しもできない『メディヤとペルシヤの法律』だ。」
１３そこで彼らは、王に訴えました。　「あのユダヤ人捕虜の一人、ダニエルは、陛下をも、陛下の法律をも無視して、日に三度、彼の神に祈りをささげているのです。」
１４これを聞いて、王は法律に署名したことを悔やみ、何とかしてダニエルを助けようとしました。　その日が暮れるまで、ダニエルを救い出す手だてはないものか、と思いめぐらしていました。
１５夕方になると、陰謀を企てた連中がまた来て、しきりにせき立てます。 「陛下。　もう、どうしようもございません。　陛下が署名された法律ですから、変更の余地はございません。」
１６万策尽きた王は、ダニエルを逮捕するよう命じました。　ダニエルは捕らえられ、ライオンの穴に投げ込まれたのです。　王はダニエルに呼びかけました。　「おまえがいつも礼拝している神様が、どうか、おまえを救ってくださるように。」　１７それから、一つの石が運んで来られ、穴の口に置かれました。　だれもダニエルをライオンの穴から救い出せないように、王と政府の公印をもって封じたのです。
１８王は宮殿に帰ると、食事もせずに寝込んでしまいました。　その晩は、いつもの催しも中止して、とにかく眠ってしまおうとしました。　が、なかなか眠れません。　１９２０翌朝はやく、まだ夜の明けないうちに、王はライオンの穴に駆けつけ、悲痛な声でダニエルを呼びました。　「ダニエル！　生ける神のしもべよ！　おまえがいつも礼拝してい

る神様は、ライオンから救ってくださったのか。」
２１すると、ダニエルの声がするではありませんか。　「陛下。　永遠に生き長らえられますように。」　まぎれもなくダニエルの声です。　２２「私の神様は御使いを送り、ライオンの口をふさいでくださったので、ライオンは何もできませんでした。　それは、神様の前で、私に罪のないことが認められたからでございます。　また、陛下に対しても、何も悪いことをしていないからでございます。」
２３王は我を忘れて喜び、ダニエルを穴から出すよう命じました。ダニエルは神様に信頼していたので、体にはかすり傷一つ負いませんでした。
２４王はダニエルを訴えた連中を妻子ともども捕らえ、ライオンの穴に投げ込みました。すると、彼らが穴の底に落ちないうちに、ライオンが飛びかかり、かみ殺してしまいました。
２５２６そののち、ダリヨス王は、帝国内の全国民に、次のような声明文を書き送りました。
「諸国民に告ぐ。　余が治めるこの国のどこでも、ダニエルの神様の前に、震えおののくようにせよ。　彼の神様こそ、変わることのない生ける神であり、その国は滅びることがなく、その力は尽きることがない。　２７この神様はご自分の国民を救い出し、危険からお守りになる。　天においても、地においても、驚くべき奇蹟を行なわれる。　ライオンからダニエルを救い出してくださったのは、実に、この神様だ。」
２８こうしてダニエルは、ダリヨス王の治世とペルシヤ人クロス王の治世とに、大いに栄えました。
七
１バビロン帝国の王ベルシャツァルの治世元年のことです。　ダニエルは夢を見、それを書き留めました。　夢は次のようなものです。　２「大海に激しい嵐が起こり、強風が四方から吹きまくっていました。　３すると、四頭の巨大な動物が海から上がって来たのです。四頭とも、みな別の動物でした。　４第一の動物はライオンのようで、わしの翼をつけています。　よく見ると、その翼はもぎ取られて、もう飛べなくなっており、人間のように地上に二本足で立ち、人間の心まで与えられているのです。　５第二の動物は熊のようで、横ざまに寝ていました。　牙の間に、肋骨を三本くわえています。　すると、それに向かって、『起き上がれ！　大ぜいの人を食らえ！』と命じる声がしました。　６第三の奇妙な動物は、ひょうの格好をしていました。　背中には鳥の翼があり、さらに四つの頭があります。　しかも、この動物に、全人類を治める偉大な権力が与えられているのです。
７さらに、目をこらして見ていると、第四の動物が海から姿を現わしました。　その形相の恐ろしさは、とうていことばに表わせません。　また、その強さは信じられないほどです。　巨大な鉄の牙で、餌食になった者を食い裂き、ほかの者を足で踏みつぶしてしまいました。　この第四の動物は、前に現われた動物よりはるかに荒々しく、残忍な性格で、十本の角を持っていました。

８その角を注意して見ていると、突然、角の間から別に一本の小さな角が出て来ました。　そのために、最初の十本の角のうち三本が根こそぎ引き抜かれてしまいました。　この小さな角には、人間の目と、大言壮語する口がついていました。
９続けてよく見ていると、幾つかの王座が備えられ、全能の神様が、審判のため、その座にお着きになりました。　その衣は雪のように白く、髪の毛は純白の羊毛のようでした。　燃える車輪で運ばれて来た火の王座に、神様は座りました。　１０神様の前からは火の川が流れ出ていました。　何百万の御使いが神様に仕えており、何億という人が神様の前に立たされて、さばきを待っていました。　それから法廷が開かれ、幾つかの記録文書がひもとかれたのです。
１１さらに、よく見ていると、あの残忍な第四の動物が殺され、体を焼かれてしまいました。　全能の神様に対して尊大に振る舞い、その小さな角を誇っていたからです。　１２残りの三頭の動物は、王国を召し上げられたものの、しばらくは生きのびることを許されました。
１３次に、人のように見えるものが、天の雲に乗って来るのが見えました。　その方は、神様の前に導かれました。　１４その方は、世界の国々を治める権威と栄光とを与えられていました。　それで、どの国民もみな、この方に聞き従うようになりました。　この方の権威は永遠で、決して終わることがありません。　その国は滅びることがないのです。
１５私は夢で見たことによって、すっかり混乱し、動揺しました。　１６そこで、王座のそばに立っている者の一人に近づき、見たことすべてについて、その意味を尋ねました。　すると、次のように説明してくれたのです。
１７『四頭の巨大な動物は、いつか地上を治める四人の王を表わしている。　１８だが最後には、いと高き神の国民が、代々限りなく世界を治めるようになる。』
１９次に、第四の動物について尋ねました。　それはぞっとするほど恐ろしく、とても残忍な動物で、鉄の牙と青銅の爪で人々を引き裂き、足で残りの人々を踏み殺したりしました。　２０また、十本の角と、あとから出て来て、前の十本のうち三本を倒した小さい角のことを尋ねました。　その小さい角には目があり、大声で大言壮語する口があって、他の角よりも強かったのです。　２１見ていると、その角は神様の国民と戦って、勝ったからです。　２２しかし、その勝利も、永遠の神様が来て法廷を開き、神様の国民の正しさを立証して、彼らに全世界を治める権威をお与えになるまでのことでした。
２３王座のそばに立っている人は、このように説明してくれました。　『この第四の動物は、地上を治める第四の世界帝国〔一般にはローマ帝国〕のことだ。　それは他の国々をしのぐ残忍さで、全世界を食い尽くし、それまであったすべてのものを打ちこわす。　２４十本の角は、この帝国から立つ十人の王のことだ。　それから、もう一人の王が立つが、この王は十人の王よりも残忍で、その中の三人の王を打ち倒してしまう。　２５この王は、いと高き神様にまで反抗し、聖徒たちを迫害して滅ぼし、すべての法律、道徳、慣習を変えてしまおうとする。　神様の国民も、三年半の間、この王の手中にあって、どうするこ

ともできない。
２６だが、神様が来て、正義の法廷を開き、この残忍な王からすべての主権を取り去り、完全に滅ぼし尽くす。　２７それから、天の下にあるすべての国と権威が、神様の国民に与えられるのだ。　彼らは永遠にすべてのものを治め、すべての支配者が彼らに仕え、従うようになる。』
２８夢はそこで終わりました。　目を覚ますと、私はひどく動揺し、顔色も恐怖で青ざめていました。　夢で見たことは、だれにも話しませんでした。」
八
１ベルシャツァル王の治世の第三年に、私は最初の夢と同じような、もう一つの夢を見ました。
２その夢の中で、私はエラム州の首都シュシャンにいました。　よく見ると、私はウライ川のほとりに立っているではありませんか。３３あたりを見回すと、川岸に二本の長い角を持った雄羊が立っていました。　よく見ると、一本の角が伸び始め、もう一本の角より長くなりました。　４この雄羊は､道をふさぐものを片っぱしから突きのけて進みました。だれも立ち向かえず､被害者を助けることもできません。　雄羊は思いのままに振る舞い、ますます尊大になっていきました。
５これはどうしたことかといぶかっていると、突然、一頭の雄やぎが、地を飛ぶように早く、西方から姿を現わしました。　この雄やぎには、目と目の間に一本の大きな角がありました。　６そして、二本の角がある雄羊に向かって猛烈な勢いで突進して行きました。
７雄羊に近づくと、ますます怒り狂い、激しくぶつかって、二本の角をへし折ってしまいました。　雄羊はどうすることもできず、雄やぎに打ち倒され、踏みつけられるままでした。　雄羊を救い出そうとするものは、どこにもいなかったからです。
８勝利者となった雄やぎは高慢になり、強大な力を誇るようになりましたが、突然、その権力の絶頂で、大きな角がへし折られました。　すると、その折れた所に、四方に伸びた四本の角が生えてきたのです。　９そのうちの一本は、初めは伸びるのが遅かったのですが、そこから小さな角が生え、やがて非常に強くなり、南と東とを攻撃し、イスラエルに戦いをいどみました。　１０彼は神様の国民と戦って、その指導者たちの幾人かを打ち倒しました。　１１そればかりか、天の軍勢の主にさえ挑戦して、その方に毎日ささげられるいけにえを取り上げ、その神殿を汚したのです。　１２それでも、天の軍勢は、このような悪行にとどめを刺すことを禁じられていました。　その結果､真理と正義は姿を消し、悪が我が物顔に振る舞っていたのです。
１３それから私は、聖なる御使い二人が話し合っているのを耳にしました。　一人が次のように尋ねました。　「以前のように、毎日いけにえをささげることができるようになるのは、いつの日のことだろうか。　神殿が破壊されたことに復讐し、神様の国民が勝利を得るのは、いつの日だろうか。」
１４もう一人が答えました。　「二千三百日が過ぎてからだ。」

１５この幻の意味を知ろうと思いめぐらしていると、突然、目の前に、人のように見える方が立ったのです。　１６すると川の向こうから、「ガブリエル、この幻の意味をダニエルに教えてやれ」という人の声が聞こえました。
１７ガブリエルが近づいて来ると、私は恐ろしさのあまり立っていることができず、思わず地面にひれ伏しました。　ガブリエルは言いました。　「あなたが幻の中で見た出来事は、終わりの時に起こることだ。」
１８私は意識を失って、地面に倒れてしまいました。　御使いは手を貸して起こし、立ち上がらせてくれました。　１９そして、こう言いました。「私がここに遣わされたのは、恐ろしい終わりの日に起ころうとしていることを知らせるためだ。あなたが見たことは、歴史の終わりに起こる出来事にかかわるからだ。
２０あなたが見た雄羊の二本の角は、メディヤとペルシヤの王のことだ。　２１毛むくじゃらの雄やぎはギリシヤで、その大きな角は、ギリシヤの第一の王を表わしている。　２２その大きな角が折れて、代わりに四本の小さな角が生えてきたのは、ギリシヤ帝国が、四人の王に四分されることを意味している。四人の王には､第一の王のような力はない。
２３これらの王国の末期に、その道徳的腐敗が極に達すると、非常に狡猾で抜け目のない一人の王が、怒りを込めて権力の座にのし上がる。　２４その強大な権力は悪魔から出たもので、彼自身のものではない。彼は何をやっても成功し、どんなに強力な軍隊でも、敵対する者はみな打ち滅ぼし、神様の国民をも荒らし回る。
２５彼は人を欺く天才で、偽りの安全の中にどっぷりつかっている大ぜいの人を、不意に襲って打ち負かす。　それで、自分こそ偉大な王だとうぬぼれ､『君主の中の君主』に戦いをいどむ。　だが､そうすることによって､自分の破滅の運命を決定的なものにしたのだ。人間の力では打ち負かすことができなくても、神様の御手によって、彼は打ち砕かれるからだ。
２６それから、あなたは先の幻で、礼拝をする権利が回復されるまで二千三百日かかる、ということを聞いた。　この数字は、そのとおりのことを意味している。　だが、これらのことが起こるのは、まだ遠い将来のことなので、だれにも話してはならない。」
２７こののち数日間、私は病気になって床についてしまいました。　それから、ようやく起き上がって、王様に仕えることができるようになりましたが、夢のことで思案にくれるばかりでした。　その意味が理解できなかったからです。
九
１今や時が過ぎて、アハシュエロスの子ダリヨス王の治世の第一年となりました。　ダリヨスはメディヤ人でしたが、カルデヤ人の王となったのです。　２このダリヨス王の治世の第一年に、私、ダニエルは、預言者エレミヤの書から、エルサレムが七十年のあいだ荒廃したままである、ということを知りました。　３４そこで神様に、〔捕囚を終わらせ、祖国に帰してくださいと〕真剣にお願いしました。
断食をし、荒布を着、灰をかぶり、自分の罪や同胞の罪を告白して、祈り求めました。

「ああ神様。　神様は大いなる恐るべきお方です。　神様を愛し、神様のおきてを守る者には、恵みによる約束を必ずお果たしになります。　５私たちは多くの罪を犯しました。神様に反逆し、ご命令を無視しました。　６また、神様のしもべである預言者の言うことを聞きませんでした。　神様が長年にわたり、再三再四、しもべである預言者を遣わして、王や指導者、また、全国民にお告げを示してくださったのに、その声に耳を傾けませんでした。
７ああ神様。　神様は正しいお方です。　それなのに、私たちは相も変わらず、いつも罪を犯し、恥ずかしい生き方をしています。　ユダの国民も、エルサレムの住民も、神様に対する不真実のゆえに散らされました。　近くに、あるいは遠くにいるイスラエル人も、みなそうなのです。　８ああ神様。　私たちも、私たちの王、指導者、先祖も、そのあらゆる罪のゆえに、いやと言うほど恥をかかせられるのです。
９ところで、神様はあわれみに満ちたお方で、反逆した者をもお赦しになります。
１０ああ神様。　私たちは不従順で、神様が預言者をとおしてお与えになったすべてのおきてを、鼻であしらうようなことをしました。　１１イスラエル人はみな、不従順の罪を犯しました。　神様から離れ、御声を聞きませんでした。　それで、神様のしもベモーセの法律に書かれている恐ろしいのろいが、私たちを押しつぶしてしまったのです。　１２神様は、警告どおりのことを行なわれました。　エルサレムで、私たちや指導者たちに降りかかったこのような惨事は、これまでの歴史で一度も見たことがありません。　１３私たちへののろいは、モーセの法律に書かれているのですが、みなそのとおりになったのです。　モーセが予告していた不幸なことが、みな現実となったのです。　それでもなお、私たちは罪を捨て、正しいことをして、神様の期待にこたえようとしなかったのです。
１４そこで神様は、用意しておられた災難を下して、私たちを押しつぶしてしまわれました。　神様が行なわれたことはすべて正しいのに、私たちは従おうとしませんでした。　１５神様。　神様は、偉大な御力を現わして、エジプトからご自分の国民を導き出し、その御名の限りなくすばらしいことをお示しになりました。　神様、もう一度、そうしてください。　私たちは多くの罪を犯し、悪を行なっています。１６それでも神様。　神様の真実なあわれみのゆえに、激しい憤りを、ご自身の町、聖なる山エルサレムから取り除いてください。　神様の町が私たちの罪のゆえに廃墟と化しているのを見て、異邦人が神様をあざけっているからです。
１７ああ、私たちの神様。　しもべの祈りを聞き入れ、その願いに耳を傾けてください。神様。　神様の栄光のために、荒廃した神殿の上に、御顔を輝かせ、平和と喜びとを満たしてください。
１８神様、どうか私の願いを聞き入れてください。　御目を開いて、私たちの惨状をご覧ください。　神様の町がどんなに荒れ果ててしまっているか、よくご覧ください。　この町は神様のものであることを、だれもが知っているのです。　助けていただく値打があると思うから、お願いしているのではありません。　私たちのどうしようもない罪にもかか

わらず、神様はあわれみに満ちたお方でいらっしゃるので、お願いしているのです。
１９神様、お聞き入れください。　どうか、お赦しください。　私の願いをかなえてください。　神様、神様ご自身のために、それを遅らせないでください。　神様の国民と神様の町とには、御名がつけられているからです。」
２０２１私がまだ祈り､自分と同胞との罪を告白し､神様の聖なる山エルサレムのために、神様に一心にお願いしていた時、初めに見た幻の中に現われた人ガブリエルが、夕方のいけにえがささげられるころ、私のところへさっと飛んで来ました。　２２そして、こう言いました。｢ダニエル。　私は神様の計画を悟らせるためにやって来た。　２３あなたが祈り始めた時、一つの命令を授けられ、それを伝えに来たのだ。　それというのも、神様があなたを非常に愛しておられるからだ。　よく耳を傾けて、あなたが見た幻の意味を聞き分けるようにせよ。
２４神様は、エルサレムとあなたの同胞とに、さらに四百九十年に及ぶさばきを言い渡した。　それで、ようやく彼らは罪から離れるようになり、その罪のとがめから解き放たれる。　それから、永遠の義の支配が始まり、預言者たちが告げたように、神様の至聖所が再建される。　２５さあ、よく聞け！　エルサレム再建の命令が出てから、神様に油を注がれた方が来るまで、四十九年に加えて四百三十四年かかる。　それは苦しい時代だが、その間にエルサレムの城壁も町並みも再建される。
２６四百三十四年が過ぎると、油を注がれた方は、その王国が実現する前に殺されてしまう。　すると、一人の王が起こり、その軍隊がエルサレムの町と聖所とを破壊する。　神様の国民は、まるで洪水にでも会ったように、一気に押し流されてしまう。　その時から終わりの時まで､戦争と荒廃が続く。　２７この王は､神様の国民と七年の条約を結ぶが、その期限の半ばで約束を破り、ユダヤ人がささげる、いけにえとささげ物をすべてやめさせる。　それから、その身の毛もよだつような行為の絶頂として、この恐るべき敵である王は神様の聖所を徹底的に汚す。　だが、神様の時と計画に従って、この悪者に断固たるさばきが下される。」
一〇
１ペルシヤの王クロスの治世の第三年に、ベルテシャツァルとも呼ばれたダニエルは、もう一つの幻を見ました。 それは､いつか必ず起こる出来事についてでした。 すなわち、打ち続く戦争や悲惨による激しい苦難の時代のことでした。　この時ダニエルは、その幻の意味を悟ることができました。
２〔ダニエルは後に、このように言ったのです。〕　この幻を見た時、私はまる三週間、喪に服していました。　３その間ずっと、ぶどう酒も肉も口にせず、もちろん、茶菓も手にすることはありませんでした。　体を洗ったり、ひげを剃ったり、髪を梳くこともしませんでした。
４四月初旬のある日、私はティグリス川のほとりに立っていました。　５６と、突然、目の前に、リンネルの衣服をまとい、腰に純金の帯を締め、光り輝くような肌をした方が立

っているのが見えたのです。　その顔からは、いなずまのように、目もくらむばかりの閃光がきらめいています。　目は燃える火の池のようであり、腕と足は磨き上げた真鍮のように輝き、その声は大群衆の叫びのようです。
７この圧倒されるような幻を見たのは、私だけでした。　いっしょにいた者たちは何も見なかったのに、突然、異常な恐怖に取りつかれ、逃げるように身を隠してしまい、　８私だけが残ったのです。　この恐ろしい幻を見て、私はすっかり力が抜け、恐怖のあまり顔色も青ざめてしまいました。
９それから、その方が語りかけましたが、私は意識を失い、うつぶせに地面に倒れてしまいました。　１０すると、一つの手が、手も膝もがくがく震えている私を起こしてくれました。　１１その時、その方の声が聞こえました。　「さあ、だれよりも神様に愛されているダニエルよ、立ちなさい。　これから語ることを、よく聞くがいい。　神様が私を、あなたのところへ、お遣わしになったのだ。」　そこで私は、まだ恐怖で震えながらも、立ち上がりました。
１２その方は続けました。　「ダニエル、恐れることはないぞ。　あなたが神様の御前で断食し、幻の意味を悟ることができるように祈り求めた最初の日に、あなたの願いは天において聞かれ、すでに答えられているからだ。　その日に、私はあなたに会うため、ここに遣わされていたのだ。　１３ところが、二十一日間も、ペルシヤを支配する巨大な悪の霊が、行く手に立ちふさがっていた。　その時、天の軍勢の最高指揮官の一人ミカエルが助けに来てくれたので、私はペルシヤの霊的支配者を打ち破ることができたのだ。　１４いま私は、終わりの時に、あなたの同胞であるユダヤ人に起こることを知らせるために、ここに来ている。　もっとも、この預言の実現はまだ何年も先のことだ。」
１５このことばを聞いている間ずっと、私はうつむいて、ひと言もしゃべることはできませんでした。　１６ちょうどその時、人の姿をした方がくちびるに触れてくれました。　すると、再び話せるようになり、天から遣わされた方に申しました。　「主よ。　私はあなた様の出現に恐れおののき、力も抜けてしまいました。　１７私のような者が、どうしてあなた様とお話しできましょう。　力が抜けて、息をするのがやっとです。」
１８その時、もう一度その方が私に触れてくれました。　すると、なんだか元気を取り戻したような気がしたのです。　１９その方は言いました。　「神様はあなたをだれよりも愛しておられる。　だから、恐れるな。　気を落ちつけて、しっかりするのだ。」
このことばを聞くと、急に力がわいてきました。　「主よ。　どうぞ、先を続けてください。　あなた様が力づけてくださったので、もう心配御無用です。」
２０２１「なぜ私があなたのところへ来たか、知っているか。『未来の書』に書かれていることを知らせるために、ここにいるのだ。　それから、ここを去り、再びペルシヤの君主と戦うために帰って行く。　そのあとで、ギリシヤの君主とも戦う。　あなたの同胞イスラエルを守る天使ミカエルしか、私を助けてくれる者はいない。
一一

１メディヤ人ダリヨスをその治世の元年に力づけ、助けるために遣わされたのは、この私だった。　２今、その私が、将来おこることを、あなたに示そうとしている。　さらに三人のペルシヤ人の王が治め、そのあと、この三人よりはるかに富んだ第四の者が王位を継ぐ。　この王は、その富を政治的に利用し、ギリシヤに全面戦争をしかける。
３その時、ギリシヤに強力な王が起こる。　この王は、広大な国を治め、計画したことをすべて実現する。　４だが、その権力の絶頂で、王国は崩壊し、四つの弱小国に分割される。　しかも、それらの弱小国も、王の息子たちのものとはならない。　大帝国は分割して、ほかの者たちに与える。　５そのうちの一人、エジプトの王は権力を増すが、高官の一人が反逆して王国を乗っ取り、さらに強大なものにする。
６数年後、シリヤの王とエジプトの王とは同盟を結ぶ。　エジプト王の娘が、和睦のしるしとして、シリヤの王に嫁がされる。　だが、彼女はやがてシリヤの王に対する影響力を失い、彼女自身の期待は言うに及ばず、父親であるエジプト王をはじめ、大使や、彼女が産んだ子供の期待をも踏みにじる結果となる。　７だが、彼女の兄弟がエジプトの王になると、軍隊を率いてシリヤの王と戦い、ついに打ち負かす。　８エジプトに凱旋する時、彼はシリヤの偶像の神々や高価な金銀の食器類を、戦利品として持ち帰る。　そののち何年間か、彼はシリヤの王にかまわない。
９そうこうするうち、シリヤの王は短期間エジプトを侵略するが、すぐ自分の国へ帰ってしまう。　１０１１ところが、このシリヤ王の息子たちは、大軍を集めて、イスラエルからエジプトへ洪水のように押し寄せ、攻め入ろうとする。　それを見て、エジプトの王は非常に怒り、シリヤの大軍を迎え撃って、敗走させる。　１２この大勝利に気をよくした王は、さらに幾千幾万の敵を打ち殺すが、その勝利は長続きしない。
１３数年して、シリヤの王は、かつて敗北を喫した時よりもはるかに装備された大軍を率いて、攻め返す。　１４その時は、他の国々もエジプト攻撃に加わる。　さらに、あなたの同胞であるユダヤ人の暴徒もそれに加わるが、この暴挙は失敗に終わる。　１５それから、シリヤの王とその同盟国の大軍が攻め寄せ、エジプトの要塞化された町を包囲し、ついに占領する。　エジプトが誇る精兵も打ち負かされる。
１６シリヤの王は抵抗を受けずに攻め進み､だれもそれを食い止めることができない。 彼はまた､『栄光の国』イスラエルに踏み込み、そこを略奪する。　１７全エジプトを征服しようとするシリヤの王の策略はこうである。　彼もエジプトの王と同盟を結び、娘を政略結婚させ、その国を内部からくつがえそうとする。　だが、計画は失敗する。
１８そののち、シリヤの王は沿岸の島々に目を向け、その多くを征服する。　だが、一人の将軍がその攻撃を阻み、不面目な退却を余儀なくさせる。　１９王はすごすごと国へ引き返すが、途中で災難に会い、姿を消す。
２０彼の後継者は、イスラエルに収税官を派遣した王として知られるが、ごく短期間、王座にあるだけで、戦争にも暴動にもよらず、奇妙な死に方をする。
２１その跡を継ぐ王は、王家の血筋に関係のない悪者で、国の危機に乗じて、巧言と陰謀

で王国を奪い取る。　２２彼の前から、祭司の指導者を含む、すべての反対者が一掃される。　２３この王の約束は反古同然で、そのやり口は最初から欺きによる。　ほんの一にぎりの側近によって、彼は強大な権力者にのし上がる。　２４彼は不意に、その国の最も肥沃な地域に侵入し、だれもしたことがないようなことをする。　富める者たちの富と財産を取り上げて、味方の者に気前よく与える。 その領土内の強力な要塞をうまく包囲し、攻略する。　だが、これも短期間のことだ。　２５それから、彼は勇気を奮い起こし、大軍を率いてエジプトを攻める。　エジプトも強力な軍隊をもって応戦するが、どうすることもできない。　エジプトに対する陰謀が功を奏するからだ。
２６エジプト王の身内の者たちが彼に反逆し、軍隊も持ち場を捨て、多くの人が殺される。
２７この二人の王は、会談の席でも互いにだまし合い、陰謀をめぐらし合う。　だが、それで事情が変わるわけではない。　神様の定めた時がくるまで、どちらも成功することはない。
２８シリヤの王はばく大な富を携えて国へ帰って行くが、真っ先にイスラエルに進撃して、これを滅ぼそうとする。　２９それから、定められた時に、すでに脅しをかけていたように、再び南へ軍隊を進めるが、今度は以前のようにはいかない。　３０３１というのも、ローマの軍艦におびえて退却し、国へ逃げ帰る破目になるからだ。　退却を余儀なくされた王は腹を立て、再びエルサレムを襲って聖所を汚し、毎日のささげ物をやめさせ、神殿の中で偶像を礼拝させるようにする。　エルサレムを去る時、王は、父祖の信仰を捨ててしまった不信仰なユダヤ人を、権力の座につかせる。　３２王は、神様を憎む連中を巧言をもってあやつり、自分の側につかせようとする。 だが、神様を知る人々は勢力を増し、大きなことを行なうようになる。
３３その時には、霊的理解力を備えた人々は、多くの人を教える幅広い働きをする。　だが、いつも危険にさらされ、そのうちの多くの者は火や剣で殺され、あるいは、獄につながれ、略奪される。　３４やがて、こうした迫害も収まろう。　だが、不信仰な者たちの中から、援助の手を差し伸べるように見せかけ、実は自分たちに有利に事を運ぼうとする連中が現われる。
３５その時には、神様のことに精通している人々の中からも、つまずき倒れる者が出る。
これは、神様の定めた試練が終わる時まで、彼らを精錬し、純化するのに役立つ。
３６この王は、何でも自分の好きなように振る舞い、どんな神よりも自分は偉いのだと主張して、まことの神様さえも冒涜し、なお栄えている。　それも彼の時が終わるまでだ。
神様の計画は揺らぐことがないからだ。　３７彼は、先祖の神々も、女たちの慕う神も、その他どんな神も心にかけない。　どの神々よりも自分は偉いと思い上がっている。　３８その代わりに、先祖たちの知らなかった、とりでの神を礼拝し、高価なささげ物を惜しげもなくささげる。　３９この神の助けによって、彼は最強を誇るとりでの攻略に成功する。　また、自分によく従う者たちを重く用い、彼らに権力を与え、報奨として領土を与える。

４０それから、終わりの時がくると、南の王は北の王に再び攻めかかる。　北の王はつむじ風のような力と狂暴さをもって反撃し、その巨大な陸軍と海軍の総力をあげて、南の王を葬り去ろうと攻め寄せる。４１進撃の途上、美しい国イスラエルを含む多くの国々を侵略し、その政府を打ち倒す。　モアブとエドム、およびアモンの大部分は侵略を免れる。
４２だが、エジプトと他の多くの国々は占領される。　４３彼はエジプトの宝物を戦利品とし、リビヤ人やエチオピヤ人を従わせる。
４４ところが、東と北からの知らせが王を脅かし、激しい怒りに燃えて引き返す時、その行く先々を荒らし回る。　４５彼はエルサレムと海との間に立ち止まり、そこに本営を置く。　ところが、そこに滞在する間に、突然、彼の時が終わり、助ける者は一人もいなくなる。
一二
１その時、あなたの国を守る強力な御使いの君主、ミカエルが立ち上がり、〔あなたのために天で悪魔の軍勢と戦う〕。　こうして、これまでのユダヤの歴史で経験したどの苦難よりも深刻な、苦しみの時がくる。　だが、あなたの同胞のうち、いのちの書に名が記されている者は、みなその苦しみを耐え忍ぶことができる。
２死んで葬られた者のうち、多くの者が生き返る。　ある者は永遠のいのちへ、ある者は永遠のはずかしめへと。
３賢い神様の国民は、太陽のように明るく輝く。　多くの人を正しい道に導く者は、いつまでも星のようにきらめく。
４ところで、ダニエルよ、この預言を人に知らせるな。　旅行や教育が広く普及する終わりの時がくるまで、だれにも悟られないように、この預言のことばを封じておけ。」
５それから、私が見ていると、川の両岸に一人ずつ、人が立っていました。　６その一人が、川の水の上に立っている、あのリンネルの衣を着た人に尋ねました。　「いつになったら、この恐ろしいことがすべて終わるのですか。」
７その方は両手を高く天にあげ､永遠に生きておられる方を指して誓うように答えました。
「神様の国民の勢力が打ち砕かれてから三年半が過ぎるまでは、終わりません。」
８私はその方が言うことを聞いても、その意味を理解できませんでした。　そこで、こう尋ねました。　「恐れ入りますが、これはどんな結末になるのでしょうか。」
９その方は言いました。　「ダニエルよ、さあ行け。　私が言ったことは、終わりの時がくるまで理解されない。　１０多くの者は、激しい試練や迫害によってきよめられる。　悪者は悪の中に生き続け、一人として悟る者がない。　進んで学ぼうとする者だけが、その意味を知るようになる。
１１毎日のささげ物が取り除かれて、『恐るべきもの』が礼拝されるために据えられてから、千二百九十日もある。　１２なお忍耐して千三百三十五日に至る者は、なんと幸いなことよ。
１３ところで、あなたは自分の人生を全うし、休みに入るがよい。あなたは生き返り、終

わりの時に受けるべき分を完全に受けるようになる。」

▪

ホセアの預言
本書は、ふぞろいな二つの部分からなっています。　すなわちホセアの生涯（一章―三章）とホセアの説教（四章―一四章）です。　ホセアは、紀元前七二二年の滅亡に先立って、北王国イスラエルに遣わされた預言者で、働きはおよそ四十年間に及びました。　彼はアモス、イザヤ、ミカと同時代の人でした。　ホセアの不幸な家庭生活は、北王国の状態を象徴的に表わしています。　彼の妻が、売春のために家出したように、イスラエルは偽りの神々を求めて神様から離れ、その結果、国中にみだらな生活が広がりました。　しかし、ホセアが妻を愛し続け、ついには、もう一度連れ戻したように、神様はイスラエルを愛し通し、やがては国を再建し、恵みを与えることを約束しました。

一
１ウジヤ、ヨタム、アハズ、ヒゼキヤ、というユダ王国の四人の王の治世に、ベエリの子ホセアに神様のお告げがありました。　その間のイスラエルの王の一人は、ヨアシュの子ヤロブアムです。
２最初のお告げはこうです。「遊女と結婚せよ。　その女から生まれる子供のうちには、ほかの男が父親である場合もある。　そのことは、わたしの国民のわたしに対する不誠実を表わしている。　彼らは他の神々を礼拝し、わたしを無視して、おおっぴらに姦淫している。」
３こうしてホセアは、ディブライムの娘ゴメルと結婚しました。彼女はみごもり、男の子を産みました。
４５すると、次のお告げがありました。「その子をイズレエルと名づけよ。　わたしは、イズレエルの谷で、エフーが犯した殺人〔王国衰亡記下一〇・一一参照〕に報復するため、エフー王家を罰しようとしている。　そうだ、わたしはイズレエルの谷で、イスラエルの独立を失わせ、その国の力を打ち破ろう。」
６やがてゴメルは、もう一人の子を産みました。　今度は女の子です。　またホセアに、お告げがありました。「ロ・ルハマ〔『もうあわれみをかけない』の意〕と名づけよ。　わたしは二度とイスラエルにあわれみをかけず、イスラエルを赦そうとは思わないからだ。
７だが､ユダ部族にはあわれみをかける。 ユダ王国の軍隊や武器の力を借りることなく、わたし自身の力で、ユダを敵の手から救い出して自由にする。」
８ロ・ルハマが乳離れすると、ゴメルはまたもみごもり、今度は男の子を産みました。　９例によってお告げがありました。　「ロ・アミ〔『わたしのものではない』の意〕と名づけよ。　イスラエルはわたしのものではなく、わたしも彼らの神ではないからだ。
１０それでも、イスラエルが栄え、大きな国民となる時がくる。　その日には、海岸の砂のように数えきれないほどの人口となる。　その時は、彼らに、『おまえたちはわたしの国民ではない』と言わずに、『おまえたちはわたしの息子、生ける神の子供だ』と言おう。　１１それから、ユダとイスラエルは統一され、一人の指導者が立てられる。　人々は捕囚の

地から手を携えて帰る。　それが実現する日は、なんとすばらしいことか。　その日、わたしはわたしの民を、彼らのものである肥沃な地に、再び住まわせる。」
二
１イズレエルよ、おまえの弟や妹の名を改めよ。　弟をアミ〔「今、あなたはわたしのもの」の意〕、妹をルハマ〔「あわれみを受けた」の意〕と呼ぶのだ。　神様があわれみをかけようとしておられるからだ。
２おまえたちの母親を責めよ。　彼女はほかの男の妻になったのだ。　私はもう彼女の夫ではない。　姦淫をやめ、ほかの男たちに身を任せないよう、懇願するがいい。　３もしやめなければ、私は彼女の着物をはいで裸にし、生まれたままの姿にする。　ききんや日照りで地割れした土地のように、彼女をやせ衰えさせ、干からびて死ぬようにさせる。　４わが子を愛するようには、彼女の子供たちに愛を注ぐことはしない。　私の子供ではなく、ほかの男の子供だからだ。
５それというのも、その母親が姦淫したからだ。　彼女は、「男たちを追いかけ、食べ物、飲み物、着物のために、身を売ったのさ」と言い、あさましいことをした。　６わたしは、いばらの茂みで彼女を囲み、進む道をふさいで路頭に迷わせる。　７それで、彼女が恋人たちを追いかけても、つかまえることができない。　捜し回っても、見つけることができない。　そこで、「夫のもとに戻ろうかしら。　今より、あの人と暮らしていた時のほうが、ずっとよかったわ」と考え直すようになる。
８彼女は、持っているものはすべて、わたしが与えたものであることに気づかない。　彼女の神バアルを拝むために使った金や銀も、全部わたしが与えたものだ。
９それで、今からは、わたしが欠かさず与えたぶどう酒と穀物を取り戻そう。　彼女の裸をおおうために与えた着物も、はぎ取ろう。わたしはもう、季節ごとの豊かな収穫を約束せず、ぶどうの収穫時にも、ぶどう酒を与えない。　１０さあ、彼女の裸を人前にさらして、恋人たちに見せつけよう。　だれもわたしの手から彼女を救い出すことはできない。
１１彼女のすべての喜び、宴会、休日、楽しい祭りを、ぴたりとやめさせる。　１２彼女が恋人たちに、報酬として要求したぶどう畑と果樹園をめちゃめちゃにして、ジャングルのようにする。　野獣がその実を食い散らす。
１３彼女が、偶像の神バアルのために香をたき、イヤリングや宝石を身につけ、わたしを捨てて、恋人たちを捜し求めて行ったこと、その他もろもろの悪事のために、わたしは彼女に仕返しをする。　神様がこう言われるのです。
１４だが、わたしは再び彼女をくどいて荒野に連れて行き、やさしく語りかけよう。　１５そこを彼女のためにぶどう畑とし、「苦しみの谷」を「望みの門」に変えよう。　彼女はそこでわたしに答え、遠い昔、彼女が若かった日に、わたしがエジプトの奴隷から解放してやった時のように、喜びにあふれて歌うようになる。
１６神様はこうお語りになります。　その日には、彼女はわたしを「ご主人様」とは呼ばず、「私の夫」と呼ぶようになる。　１７ああ、イスラエルよ。　わたしはおまえの偶像を

忘れさせよう。　その名さえ口にすることがなくなるように。
１８その時わたしは、もうこれ以上、互いに恐れることがないように、おまえと野獣や鳥や蛇との間に契約を結ぼう。 すべての武器を捨てさせるので、地上から戦争がなくなる。おまえたちは、何の心配もなく横になれる。　１９正義と公平、愛とあわれみの鎖で、永遠におまえをわたしにつなぎとめる。　２０真実な愛をもって、おまえと契りを結ぶ。　その時、以前とは全く違って、ほんとうにわたしがわかるようになる。
２１２２その日、雨を降らせてくれという天の叫びに答えて、わたしは、雨雲を呼ぼう。すると地は、穀物やぶどうやオリーブの木の求めに応じて、水分と露を供給する。　全地から、「神様が種をまいてくださる」という大合唱が起こる。　神様がすべてのものを与えてくださるのだ。
２３わたしはイスラエルという種をまき、自分自身のために、それを育てる。　「あわれみをかけられなかった」者たちをあわれみ、「わたしの国民ではない」者たちに、「今、おまえたちはわたしの国民だ」と言おう。　すると彼らは、「あなた様こそ私たちの神です」と答える。
三
１それから、神様は私にこうお語りになりました。　「さあ、もう一度、妻を連れ戻せ。たとい姦通の女であっても、彼女を愛せ。　イスラエルが他の神々に心を向け、その祭壇に高価な贈り物をささげても、わたしはなおもイスラエルを愛しているからだ。」
２そこで私は、六百円と大麦五百四十リットルで、〔奴隷であった〕妻を買い戻し、　３こう言い渡しました。　「当分、一人で暮らすのだ。　ほかの男たちと出かけたり、遊女になることはやめろ。　いいな。」
４これは、イスラエルが今後ずっと、王も、君主も、祭壇も、神殿も、祭司も、また偶像もなく過ごすことを示します。
５のちに、彼らは、彼らの神様と、彼らの王であるメシヤのもとに帰って来るでしょう。終わりの日に、彼らは震えおののきながら、うやうやしく神様とその恵みに近づいて来るのです。
四
１イスラエル国民よ、私のことばを聞け。　私はあなたがたを訴え、非難しているのだ。イスラエルの地には、誠実もなく、親切もなく、神を知ることもない。　２やたらに毒づき、うそをつき、人を殺し、盗み、姦淫にふけっている。　至る所に暴虐があり、流血は後を断たない。
３それで、この地には産物がなく悲しみだけが満ちる。　すべての生き物は病んで倒れ、動物も鳥も、果ては魚までも姿を消す。
４だれかを指さして、責めるようなことをするな。　ほら、祭司よ。　わたしの指はおまえをさしている。　５その罪のため、おまえは真昼でも、夜と同じようにつまずく。　頼みの綱の偽預言者も同じだ。わたしは、おまえの母であるイスラエルを滅ぼす。　６わた

しの国民は、わたしを知らないために滅ぼされる。　それもみな、おまえたち祭司のせいだ。　おまえたちが、わたしを知ろうとしなかったからだ。　それで、わたしも、おまえたちをわたしの祭司とは認めない。　おまえがわたしのおきてを忘れてしまったので、わたしもおまえの子供たちを祝福することを忘れよう。　７おまえは数を増せば増すほど、わたしに罪を犯すようになった。　神の栄光を偶像の恥に変えたのだ。
８祭司は、国民が罪を犯すのを喜び、それに自分もはまり込み、もっと罪を犯すことを願うかのように、舌なめずりする。　９だから、「祭司も国民も変わらない」と言われる。　祭司が悪いから、国民も悪くなるのだ。　だから、祭司も国民も、その邪悪な行ないに応じて罰する。　１０彼らはいくら食べても腹がへる。　いくら姦淫しても、望む子供は生まれない。　わたしを見捨てて、他の神々へ心を向けたからだ。
１１酒と女と歌は、わたしの国民から判断力を奪ってしまった。　１２驚いたことに、彼らは木片に向かって、自分がどうしたらよいか、うかがいを立てている。　神の真理を占いによって知ろうとしている。偶像を恋い慕ううちに、ろくでなしになってしまった。　他の神々に仕えて遊女とたわむれ、わたしなど捨ててしまった。　１３山のいただきで偶像にいけにえをささげ、丘に登って、樫やポプラやテレビンの木の心地よい木陰で香をたく。おまえたちの娘はそこで売春婦に身を持ちくずし、おまえたちの嫁はそこで姦淫をする。
１４だが、どうして彼女らを罰することができよう？　男のおまえたちも同じことをし、遊女や神殿娼婦とともにいけにえをささげ、罪を犯しているからだ。　大ばか者め！　いっこうに目が覚めないので、おまえたちの運命は定まっている。
１５イスラエルが売春婦のようであっても、ユダはそれに惑わされないようにせよ。　ユダよ、ギルガルやベテルで、心にもなくわたしを礼拝している者たちの仲間になるな。　その礼拝は見せかけにすぎない。　１６イスラエルは若い雌牛のように扱いにくく、せっかく草の生い茂る牧場へ連れて行こうとしても、ちっとも言うことを聞かない。　ユダよ、そのようになるな。　１７イスラエルは偶像崇拝からどうしても離れられないでいる。　そのような者から遠ざかれ。
１８イスラエルの男たちは酒を飲みあかし、それにも飽きると、売春婦をあさる。　名誉よりも恥を愛してやまないのだ。
１９だから、強い風が吹きつけ、彼らを巻き散らす。　偶像にいけにえをささげたので、恥さらしな死に方をするのだ。
五
１祭司とイスラエルの指導者よ、よく聞け。　王家の者たちよ、聞け。　おまえたちに判決が下る。　おまえたちはミツパやタボルで、国民をたぶらかして偶像に走らせた。　２心の曲がった者は、深い穴を掘って彼らをその中に落とし込んだ。　そのことは決して忘れないぞ。　おまえたちがしでかしたことの決済は必ずする。
３イスラエルよ。　おまえたちの邪悪な行ないはお見通しだ。　売春婦が夫を置き去りにするように、おまえたちはわたしを捨てた。全身汚れきっている。　４その行ないが、お

まえたちに神のもとへ帰ろうという気を起こさせない。　姦淫の思いで心の底まで腐り果て、神を知ることができなくなっているからだ。
５イスラエルの鼻持ちならない思い上がりは、わたしの法廷では不利な証言となる。　イスラエルは罪の重荷によろめき、ユダも倒れる。　６それからやっと、羊や牛の群れを引いて、神にいけにえをささげにやって来る。　だが、もう遅い。　もうわたしを見いだすことができない。　わたしは彼らから離れて行き、彼らだけが取り残される。
７彼らはわたしの子でない子供を産んで、わたしの顔にどろを塗ったからだ。　あっという間に、彼らも彼らの富も消えうせる。　８警告のラッパを吹け。　ギブアとラマで、ベテルまでもラッパを吹き鳴らし、警告せよ。　ベニヤミンの地も震えおののけ。　９イスラエルよ、この知らせを聞け。　刑罰の日がくれば、おまえたちは瓦礫の山となるのだ。
１０ユダの指導者たちは、最もたちの悪い盗人となる。　だから、滝のように激しい怒りを、彼らにぶちまける。　１１イスラエルは偶像に従う決心をしたので、罰を受けて押しつぶされる。　１２しみが羊毛を食い荒らすように、わたしはイスラエルを滅ぼす。　木材が腐るように、ユダの力を取り去る。
１３イスラエルとユダが自分たちの病状を知ると、イスラエルはアッシリヤの大王に頼ろうとする。　だが、大王は助けることも、治すこともできない。
１４ライオンが獲物を引き裂くように、わたしはイスラエルとユダとを引き裂き、連れ去る。　彼らを助けようとする者たちも追い散らす。　１５非を認めて、わたしに助けを求めて来るまで、彼らをほったらかし、家に戻っていよう。　苦しい目に会うと、たちまち彼らはわたしを求め、次のように言うのだ。
六
１「さあ、神様に帰ろう。　私たちを引き裂いたのは神様だ。　その神様が治してくださる。　神様は傷つけたが、傷口に包帯を巻いてくださる。　２ほんの二日で、いや、せいぜい三日で、私たちを立ち上がらせ、愛のうちに生かしてくださる。　３そうだ、神様を知ろう。　ほんとうに、神様を求めよう。　必ず夜明けが訪れ、早春の雨期がくるように、神様は必ず報いてくださるのだ。」
４イスラエルとユダよ。　おまえたちをどうしたらいいのか。　おまえたちの愛は、朝もやのように消えうせ、露のように消え去る。５預言者たちを遣わして、おまえたちに迫る滅びを警告した。　「おまえたちは死ぬぞ」と脅しつけることばで、おまえたちを切り殺した。　突然、前ぶれもなく、ちょうど昼のあとに夜がくるように、わたしのさばきがおまえたちを打ち倒す。
６いけにえなど、欲しくもない。　ただ、わたしを愛してほしいのだ。　ささげ物もいらない。　何よりも、わたしを知ってもらいたいのだ。
７ところが、おまえたちはアダムのように契約を破り、わたしの愛をはねつけた。　８ギルアデは罪に満ちた町で、血の足跡がついている。　９どろぼうが犠牲者を待ち伏せるように、祭司も徒党を組み、シェケムへ通じる道で人を殺し、ありとあらゆる犯罪を重ねて

いる。　１０まさに、わたしはイスラエルの中に身の毛もよだつようなことを見た。　エフライム（イスラエル）は他の神々を追い求め、イスラエルはとことんまで身を汚している。
１１ユダよ。　おまえたちにも、重い刑罰の刈り入れがどっさり待ち受けている。　わたしはおまえたちを、どれほど祝福したかったことか。
七
１わたしはイスラエルをどうしても赦したかった。 だが､イスラエルの罪はひどすぎた。 うそつきやどろぼうや追いはぎにでもならなければ､だれもサマリヤには住めないほどだ。
２国民は、わたしが見ていることなど気にもかけない。　彼らの罪深い行ないが、あらゆる面から彼らの正体をあばき出している。　わたしはそれを見届ける。　３王は彼らの悪をうれしがり、王子たちは彼らのうそに笑いこける。　４彼らはみな姦通者だ。　パン屋が小麦粉をこね、それがふくらむのを待つ間を除いて、パン焼きがまがいつも燃えているように、この国民はいつも欲望を燃やしている。
５王の誕生日に、王子たちは王に酒を飲ませる。　王は笑い者にされ、自分をあざける連中と酒をくみ交わす。　６彼らの心は陰謀で炉のように燃えさかる。　その計略は夜通しくすぶり続け、朝になると、めらめら燃え上がる。
７彼らは次から次へと王を殺す。　だが、だれ一人、わたしに助けを呼び求めようとしない。
８わたしの国民は異教徒とつき合い、その悪に染まっている。　だから、生焼けの菓子のように、何の役にも立たなくなる。
９外国の神々を礼拝するうちに、彼らの力が抜けてしまった。　だが、それに気づいていない。　白髪になっているのに、自分が老い衰えたことを知らない。　１０ほかの神々を自慢して、公然と自分を罪に定めている。　自分の神のもとには帰らず、神を求めようともしないのだ。
１１イスラエルは愚かで、思慮の欠けた鳩だ。　エジプトに呼びかけ、アッシリヤに飛んで行く。　１２だが、わたしは飛んでいるイスラエルに網を投げ、空から舞い落ちる鳥のように、彼を引き落とす。　わたしは、そのすべての悪行に報いる。
１３わたしを捨て去ったわたしの国民は、のろわれよ。　わたしに罪を犯したのだから、滅びうせよ。　わたしは彼らを救い出そうとしたが、彼らは強情を張り、真理を受け入れようとしなかった。　１４彼らは心配のあまり眠れない。　それでも、わたしに助けを求めない。　それどころか、異教の神々を拝み、それらに穀物をささげて、繁栄を願い求めている。
１５わたしは彼らを助け、また強くした。　それでもなお、彼らはわたしに背を向けている。
１６彼らはあたり一帯をくまなく見回すが、いと高き神がいる天には目を向けない。　まるで、いつも的をはずす、曲がった弓のようだ。　指導者たちは、わたしへの横柄な態度

のゆえに敵の剣に倒れる。　こうして、全エジプトが彼らをあざ笑うようになる。
八
１警告を発せよ。　敵が来る。　はげたかのように、敵が神の国民を襲って来る。　彼らがわたしとの契約を破り、わたしのおきてに背いたからだ。
２今になってイスラエルは、「神様、助けてください」と泣きつく。　３だが、もう遅い。イスラエルはまたとない機会を踏みにじってしまった。　だから、今度は敵に追いかけられる破目になるのだ。　４イスラエルは、わたしの同意なしに、かってに王や君主を立てた。金や銀で偶像を作り上げ、それを拝んで、わたしの助けをはねのけた。
５サマリヤよ。　わたしはあの子牛など認めない。　あんなものはおまえたちが作った偶像だ。　おまえたちには全く腹が立つ。　いつになったら、正直者をただの一人でも見つけることができるだろう。　６いつになったら、おまえたちは、自分が礼拝しているあの子牛を、人間の手で作られたものだと認めるのだろう。　そんなものは神ではない。　そんなものは、粉々に砕かれてしまうのだ。
７彼らは風を蒔いて、つむじ風を刈り取る。　麦には穂が出ず、茎だけが立っている。　そのうち枯れて病気になり、実を結ばなくなる。　たとい少しばかり実を結んでも、外国人に食べられてしまう。
８イスラエルは滅ぼされ、こわれた壺のようになって、国々の間に横たわる。　９一人ぼっちでさまよう野生のろばのようになる。 友と言えば、自分が雇い入れた者たちだけで、アッシリヤもその一人だ。
１０たとい多くの国から友を雇い入れても、わたしはイスラエルを国外に追放する。　ほんのしばらくの間、イスラエルは王の重荷から解放される。　１１イスラエルは多くの祭壇を築いたが、わたしを礼拝するためのものではない。　それは罪を積み上げる祭壇だ。
１２たといわたしが万という法律を授けても、彼らはそれを自分のものとはせず、遠くにいるだれかのものだ、と言うだろう。　１３この国民は、いけにえの儀式を好むが、わたしにとって、それくらい無意味なものはない。わたしは彼らの罪の勘定を清算し、それを罰する。　彼らはエジプトに帰る。
１４イスラエルは大きな宮殿を多く建て、ユダは町々の防備を固めた。　だが、どちらも、自分たちを造った神を忘れてしまった。　だから、わたしはそれらの宮殿に火を放ち、それらの要塞を燃やしてしまう。
九
１ああ、イスラエルよ、ほかの国々の民のように喜ぶな。　おまえは自分の神を捨て去り、すべての麦打ち場で、ほかの神々にいけにえをささげたからだ。
２それゆえ、収穫は乏しく、ぶどうの木も枯れ果ててしまう。
３おまえはこの神の地にこれ以上とどまることができず、エジプトやアッシリヤに連れ去られる。　そこで残飯を食べて生活するようになる。　４祖国を遠く離れたその地では、神にささげるいけにえのために、ぶどう酒を注ぐこともできない。　その地でささげられ

るいけにえは、どれも神を喜ばせることができない。　それは、まるで葬式の食物のように汚れている。　そのようないけにえを食べる者は、だれでも汚れた者となるのだ。　自分のためにそれを食べるのはかまわないが、神にささげることは許されない。　５６アッシリヤに奴隷として連れて行かれる時、聖なる日や神の祭りの日に、何をしようとするのか。　あとに残された財産は、だれが相続するのか。　その相続者はエジプトだ。　エジプトはおまえたちの死体を集め、メンピスがそれを埋葬する。　その廃墟には、いばらとあざみが生える。
７イスラエルの刑罰の日がきた。　ついに報復の日が訪れた。　やがてイスラエルは、そのことをいやというほど思い知らされる。「預言者たちは頭が変だ。」「霊感を受けた人たちは気が狂っている。」　こう言って人々はあざ笑う。　それは、この国民が罪のうちに沈み、神を愛する者たちに憎しみしか示さないからだ。
８わたしは自分の国民を守ろうと預言者を任命した。　だが、この国民はことごとに預言者たちを妨害し、公衆の面前で彼らへの憎しみを露骨に示し、神の神殿でも同じように振る舞った。　９今わたしの国民がやっていることは、昔ギブアでやったこと〔カナン征服記下一九・一四以下参照〕と同じように、堕落しきっている。　わたしはそれを忘れず、必ず罰を下す。
１０ああ、イスラエルよ。　わたしは荒野でおまえたちを導いた、あの最初の楽しかった日々のことを、よく覚えている。　おまえたちの愛は、なんと新鮮であったことか！　夏の初物のいちじくのように、その愛は満ち足りていた。　だが、バアル・ペオル（イスラエル人が偶像礼拝をした山）でわたしを捨て、ほかの神々に身をゆだねてしまった。やがて、偶像の神々と同じように、おまえたちは汚れてしまった。１１イスラエルの栄光は鳥のように飛び去る。　おまえたちの子供は出産と同時に死に、あるいは胎内で消えうせ、はらまれることもなくなる。　１２たとい子供たちが育っても、わたしは彼らを取り去る。すべてが滅びに定められている。　ほんとうに、わたしがおまえたちから離れ、おまえたちを放り出す時は、悲しみの日となるのだ。
１３私は幻のうちに、イスラエルの息子たちが滅びに定められているのを見た。 父親は、息子たちを虐殺される場所までむりやり連れて行かせられる。　１４神様。　あなたの国民のために、何を願ったらよいのでしょう。　子を産まない胎と、乳を出して養うことをしない乳房とを、私は求めます。
１５彼らのすべての悪事はギルガルで始まった。 わたしも、その地で彼らを憎み始めた。その偶像礼拝のゆえに、わたしは彼らをわたしの地から追い出す。　二度と彼らを愛さない。　彼らの指導者はみな反逆者だからだ。　１６エフライムも滅びに定められている。イスラエルの根は枯れ、もう実を結ばなくなる。　たとい子を産んでも、わたしはそのいとし子をも殺す。
１７私の神様は、聞くことも従うこともしないので、イスラエル国民を滅ぼされる。　彼らは諸国民の中で、祖国のない、さすらいのユダヤ人となる。

一〇
１イスラエルの繁栄ぶりの、なんとすばらしいことよ。　まるで実を豊かに結んだぶどうの木のようだ。　ところが、わたしが富をふやせばふやすほど、異教の神々の祭壇に多くの物が供えられる有様だ。　収穫を豊かにすればするほど、それだけ多くの美しい彫像や偶像を立てるしまつだ。　２イスラエル国民の心は偽りで満ちている。　彼らには罪があり、刑罰を受けなければならない。　わたしは彼らの作った異教の偶像を砕き、その祭壇を打ちこわす。　３そのとき彼らは言う。　「私たちが神様を捨てたので、神様は王を取り去ってしまわれた。　だから、どうだというのだ。　王なんか要るものか！」
４彼らは守る気もないのに約束事をする。　それゆえ、畑のうねの間に生える毒草のように、刑罰が彼らの間に生え出る。　５サマリヤの住民は、ベテルの子牛像が倒されはしまいかと震えおののく。　祭司も国民も共に、打ち砕かれた偶像の、失われた栄光のために悲しむ。　６この像は、彼らがアッシリヤに奴隷となって行く時、そこの大王への贈り物として持ち去られる。　こんな偶像に信頼していたのかと、エフライムはあざけられ、イスラエルは赤恥をかく。　７サマリヤの王は、大海の波間にただよう一片の木切れのように消えうせる。　８イスラエルが罪を犯した、ベテルにある偶像の祭壇もくずれ落ち、いばらやあざみが回りに生い茂る。　人々は山や丘に、「私たちの上に落ちかかり、押しつぶせ」と叫ぶ。
９ああ、イスラエルよ。　あのギブアでの恐怖の夜以来、ただ罪、罪、罪の連続だ。　おまえたちには全く進歩が見られない。　ギブアの人々が一掃されたのも当然ではないか。
１０わたしはおまえたちの不従順に立ち向かう。　山のように積み上げられた罪を罰するために、わたしは諸国の軍隊を集めて、おまえたちを攻めさせる。
１１イスラエルは麦打ち場で麦を踏むことに親しみ、そのたやすい仕事が好きだ。　わたしはこれまで、イスラエルに重いくびきをかけたことがなかった。　そのか弱い首をいたわったのだ。　だが今、イスラエルにくびきをかけて馬鍬をひかせ、畑を耕させる。　気楽に過ごす時代は終わったのだ。
１２正義の種をまけ。　そうすれば、わたしの愛の実を刈り取るだろう。　堅くなった心を耕せ。　わたしが救いの恵みを注ごう。　今は神を求める時なのだ。
１３ところが、実際はどうか。　おまえたちは悪を耕し、はびこる罪の実を育ててきた。巨大な軍事力があれば安全だと信じたので、そのような偽りに信頼した報いを、十分に受けることになったのだ。
１４それで、戦争の恐怖が民の中に起こり、シャレマンがベテ・アレベルを破壊したように、おまえたちの要塞はみな打ちくずされる。母親は子供もろとも、その場で一気に殺される。　１５イスラエル国民よ。　それもみな、おまえたちの罪悪があまりにもひどいからだ。　ある朝、イスラエルの王は滅ぼされる。
一一
１イスラエルが子供のころ、わたしは彼を息子のように愛し、エジプトから連れ出した。

２それなのに、呼べば呼ぶほど、彼はますます反逆し、バアルにいけにえをささげ、偶像に香をたいた。　３わたしは、赤ん坊の時からいろいろと面倒を見、歩くことを教えたり、腕に抱いたりした。　だが、彼らを育てたのはこのわたしであることを、彼らは知りもしなければ、心にかけようともしない。
４まるで気に入った牛を引いて歩くように、わたしはイスラエルを愛の綱で導いた。　食べる時には、くつわをゆるめ、わたし自身しゃがんで食べさせてやったりした。　５それなのに、わたしの国民はエジプトやアッシリヤに帰ろうとする。　わたしのところへ帰りたくないからだ。
６イスラエルの町々は戦争のうずに巻き込まれ、敵は門を押しつぶし、計略にかけて苦しめる。　７わたしの国民が、わたしを離れる決心をしたからだ。　わたしは彼らに、奴隷となるよう宣告した。　解放する者はだれもいない。
８ああ、わたしのイスラエル。　どうして、おまえを捨て去ることができよう。　どうして見放せよう。　どうして、アデマやツェボイム〔ソドム、ゴモラとともに滅びた町〕のように見捨てることができよう。わたしの心は叫んでいる。　なんとしても、おまえたちを助けたい。　９確かに、燃えるような怒りが、そうするように命じるが、わたしはおまえたちを罰しない。　イスラエルを滅ぼすのは、これが最後だ。　わたしは神であって、人ではないからだ。　わたしはおまえたちのうちに住む聖なる者であって、滅ぼすために来たのではない。
１０人々は、わたしのあとについて歩くようになる。　わたしは、〔イスラエルの敵に向かって〕ライオンのようにほえる。　わたしの国民は、西方から震えおののきながら帰って来る。　１１鳥の群れのようにエジプトからやって来る。　鳩のようにアッシリヤから飛んで来る。　こうしてわたしは、彼らを再び自分の家へ連れて行く。　これは神様の約束です。
１２イスラエルは偽りと欺きでわたしを取り囲む。　だが、ユダはまだわたしに信頼し、聖なる神に忠実だ。
一二
１イスラエルは風を追い、つむじ風の番をしている。　全く危険な遊びだ。　エジプトやアッシリヤへ、援助を求めて贈り物をするが、その報いは価値のない約束ばかりだ。　２だが、神様はユダをも告訴しておられる。　ユダもその行ないのゆえに、公正に罰せられる。３ユダの先祖ヤコブは、生まれるとき兄弟と争い、大人になってからは神様とさえ戦った。　４まさに、彼は御使いと格闘して、勝ったのだ。　彼は御使いに、祝福してくれるようにと泣いて頼んだ。　ベテルでは、神様と顔と顔を合わせるようにして出会った。神様は彼に語りかけた。　５まことに、主は天の軍勢の神であり、「主」と呼ばれるにふさわしい方だ。
６さあ、神様に立ち返り、愛と公正の原理に立って生活せよ。　いつも、神様から多くのものを期待せよ。

７ところが、わたしの国民はその反対で、ずる賢い商人のように不正なはかりで物を売っている。　だますことが好きなのだ。　８イスラエルは自慢そうに言う。　「私はこんな大金持ちになった。 みんな自分でもうけたんだ。」 だが、富は罪を贖うことができない。９わたしは、おまえをエジプトの奴隷生活から救い出した、その同じ主、同じ神だ。　わたしは、毎年の仮庵の祭りの時のように、おまえを再びテントに住まわせる。　１０わたしは預言者を遣わし、多くの幻やたとえや夢で警告した。　１１それなのに、ギルガルの罪は相も変わらず、おおっぴらに行なわれている。　まるで畑のうねのように幾段も祭壇が築かれ、偶像へのいけにえのために使われている。　ギルアデも、偶像を礼拝するばか者でいっぱいだ。　１２ヤコブはシリヤへ逃げ、羊の番をして妻をめとった。　１３神様はその国民をエジプトから連れ出すために一人の預言者を立て、彼らを導き、守るようにさせた。　１４それなのに、イスラエルは神様をひどく怒らせてしまった。その罪の支払いとして、神様は彼に、死の宣告を下されるのだ。
一三
１かつては、イスラエルが何か言うと、国々は恐れのあまり震え上がったものだ。　イスラエルが強力な君主だったからだ。　ところが、イスラエルはバアルを拝んで、滅びを決定的なものにした。
２今や、人々は以前にもまして不従順になっている。　銀を溶かして鋳型に入れ、じょうずに偶像を作っている。　「これにいけにえをささげろ」と言い、その子牛像に口づけしている。　３だから、彼らは朝もやのように、すぐ乾いてしまう露のように、風で吹き散らされるもみがらのように、また煙のように、消え去るのだ。
４わたしだけがおまえの神だ。　そのことは、エジプトからおまえを連れ出した時から、ずっと変わらない。　わたしのほかに、神はいない。　ほかに救い主はいないからだ。　５あの乾ききって一滴の水もない荒野で、おまえの面倒を見てやった。　６だが、たらふく食べて満足すると、高慢になり、わたしを忘れてしまった。　７だから、わたしはライオンのように、また道ばたで待ち伏せるひょうのように、おまえに襲いかかる。　８子を奪われた熊のように、おまえをずたずたに引き裂き、ライオンのように、食い尽くす。
９ああ、イスラエルよ。　わたしが滅ぼしたら、だれがおまえを救えよう。　１０おまえの王はどこにいる。　なぜ、その王に助けてもらわないのか。　この地の指導者はどこにいるのか。 おまえは王や指導者を頼みにした。 それなら、彼らに救ってもらうがいい。
１１わたしは怒って王を与えたが、憤って王を取り上げた。　１２イスラエルの罪は刈り取られ、罰せられるために積み上げられている。
１３イスラエルは、新生の機会が与えられているというのに、母親の胎内で生まれ出るのを拒んでいる子供のようだ。　なんと頑固で、愚かなことよ。　１４わたしはイスラエルを地獄から解き放ち、死から救い出すべきだろうか。　死よ、その恐ろしさをイスラエルに存分に味わわせよ。　墓よ、その災いをはっきり示せ。　わたしはかわいそうに思わないからだ。

１５イスラエルは、兄弟たちの中でいちばん実り豊かな者と呼ばれた。だが、東風、荒野からの神の風が吹きまくり、イスラエルを干上がらせてしまう。　そのあふれる泉も緑のオアシスも枯れてしまう。　こうして、イスラエルは渇きで死に絶える。　１６サマリヤも自分の神に反逆したので、刑罰を受けなければならない。　住民は侵略軍に殺され、赤子は地面にたたきつけられ、妊婦は剣で切り裂かれる。
一四
１ああ、イスラエルよ、神に立ち返れ。　おまえは罪によってたたきのめされていたからだ。　２願い事を携えて来い。　わたしのもとへ来て、こう祈るがいい。　「ああ神様、私たちの罪を取り去り、恵みによって私たちを受け入れてください。　私たちは賛美のいけにえをささげます。　３アッシリヤは私たちを救えません。　私たちの戦力も同様です。もう二度と、自分で作った偶像に頼るようなことはしません。　神様。　みなしごの私たちは、神様からしか、あわれみをいただくことができないのです。」
４その時、おまえたちの偶像礼拝と不信の罪をいやそう。　わたしの愛は尽きることを知らない。　わたしの怒りは永久に消えてしまうからだ。　５わたしは天からの露のようにイスラエルを潤すので、イスラエルはゆりのように花を咲かせ、レバノン杉のように土の中に深く根を張る。　６枝はオリーブの木のように美しく伸びて広がり、その香りはレバノンの森のようにかぐわしい。　７イスラエル国民は遠い地での捕囚から帰り、わたしの陰にいこうようになる。　彼らは水をまいた庭のようになり、ぶどうの木のように花を咲かせ、レバノンのぶどう酒のように良い香りを放つ。
８ああ、イスラエルよ、偶像から離れよ。　わたしは生き生きとして、たくましい。　わたしがおまえの世話をし、面倒を見る。　わたしは常磐木のように、一年中、おまえにわたしの実を結ばせる。　わたしのあわれみは決して絶えることがない。
９賢い者はみな、これらのことを悟れ。　知恵のある者はみな、聞け。　神の道は真実で正しい。　良い人はその道を歩む。　だが罪人は、そうしようとしても、つまずき倒れる。
▪

ヨエルの預言
本書は、神様がやがてエルサレムをさばかれることを表わすのに、いなごの災害を象徴的に取り扱っています。　当時、いなごによって国土が食い尽くされたように、もし国民が罪を悔い改めないなら、敵軍によって滅ぼされると警告しています。　しかし、人々が心から神様に立ち返るなら、国は栄え、神様は再び祝福してくださいます。　近い将来でなく、やがて神様がすべての人に聖霊を注がれる時にこそ、神様のいつくしみが表わされるのです。

一
１ペトエルの息子ヨエルに、神様から次のようなお告げがありました。
２ユダの老人たちよ、よく聞け。　ほかの者たちもだ。　一生のうちに、いや、イスラエルの全歴史で、これから話すようなことを、聞いたことがあるか。　３やがて時がきたら、このことを子供たちに話してやれ。　この恐ろしい話を代々語り伝えよ。　４歯のするどいいなごが作物を食いちぎると、いなごの大群が残りを食いあさる。　そのあとに、ばったが襲い、青虫も来て食い尽くす。
５酔いどれどもよ、目を覚まして泣け。　ぶどうが全滅し、ぶどう酒がなくなるからだ。
６いなごの大群がこの地をおおう。　とても数えきれないほどの大群だ。　まるでライオンのような鋭い歯を持った恐ろしい軍隊で、　７わたしのぶどうの木を荒らし、いちじくの樹皮を食いちぎり、幹も枝も白く、丸裸にしてしまう。
８婚約者の死を悲しむおとめのように、泣き悲しめ。　９神殿にささげる穀物とぶどう酒がなくなり、祭司たちは喪に服す。　神に仕える者たちの泣き叫ぶ声を聞け。　１０畑には作物がなく、どこもかしこも嘆きと悲しみでいっぱいだ。　穀物も、ぶどうも、オリーブ油もなくなる。
１１その衝撃で、農夫は打ちのめされる。　ぶどうを栽培する者は悲嘆にくれる。　小麦も大麦もだめになる。　だから、嘆き悲しめ。１２ぶどうの木は枯れ、いちじくの木はしおれる。　ざくろやなつめやしの木は弱り果て、りんごの木も干からびた実をつける。　すべての喜びが消えうせてしまった。
１３祭司たちよ、荒布をまとえ。　神に仕える者たちよ、祭壇の前で夜どおし泣き明かせ。おまえたちに必要な穀物やぶどう酒のささげ物が、もうないからだ。　１４断食を布告し、聖なる集会に集まるよう呼びかけよ。　神殿に、長老たちと全国民を集め、神の前で泣き悲しめ。
１５　ああ、恐ろしい刑罰の日が、すぐそこまで来ている。　全能の神から臨む破壊が、戸口まで来ている。　１６食べ物が私たちの目の前から消えうせ、神殿からは、喜びも楽しみも一掃される。　１７種は土の中で腐り、納屋や穀物倉もからっぽになる。　穀物は畑で枯れてしまう。　１８家畜は腹をすかしてうめき、牧草がないので群れをなしてさまよう。　羊は悲しい鳴き声をあげる。

１９神様、助けてください。　暑さで牧草はすっかり枯れ、木はすべて焼けてしまいました。　２０野獣も、水が欲しいと、神様に叫び求めています。　小川は干上がり、牧場は焦土と化しているのです。
二
１さあ､エルサレムに警報を鳴らせ。 わたしの聖なる山に警告のラッパを響かせよ。 すべての者よ、恐れおののけ。　神のさばきの日が近づいているからだ。
２陰うつな暗やみの日。　暗雲の重くたれこめた日。　なんという大軍か。　山々を夜のようにおおい尽くしている。　なんと強大な国民か。　このような国民は、世界が始まって以来、見たこともないし、これから見ることもないだろう。　３その行く先々には火の手が上がり、回りにも広がる。　前には、エデンの園のように美しい地が横たわっているが､彼らはそれを根こそぎ破壊してしまう。 ４まるで小馬のように､ぐるぐる駆け回る。
５山々のいただきを跳びはねる様子を見よ。　そのざわめきに耳を傾けよ。　まるで戦車の押し寄せる響き、野原をなめ尽くす炎の音のようだ。　また、戦場に突入する強大な軍隊のようでもある。
６迎える国民は、恐怖のあまり青ざめる。　７その兵士は歩兵のように突撃し、えり抜きの精兵のように城壁をよじ登る。　列を乱すことなく、まっすぐに進む。　８互いに群がることもなく、整然と行進する。　どんな武器も、彼らをとどめることができない。　９たちまち町に殺到し、城壁をよじ登る。　また、窓から押し入る強盗のように、家々の壁をもよじ登る。　１０彼らの前で、地は揺れ動き、天も震え上がる。　太陽と月は光を失い、星も姿を消す。
１１神様はひと声で、彼らを指揮する。　これは神の大軍で、そのご命令に従う。　神のさばきの日は、ほんとうに恐ろしい。　だれが、それに耐え得ようか。
１２それゆえ、神様はこうお語りになります。　「まだ、間に合うぞ。　さあ、わたしに立ち返れ。　全身全霊をわたしに傾けよ。　断食し、嘆き悲しみながら来い。　１３悪かったと心底から認め、衣を引き裂くのではなく、心を引き裂け。」　神様に立ち返れ。　神様は恵み深く、あわれみに富んでおられるからだ。　神様は親切で、むやみに怒ることもなく、あなたがたを何とか罰しないでおこうとしておられるのだ。
１４だれが知ろう。　もしかすると、神様は恐ろしいのろいをかけるのをやめ、あなたがたにそのまま祝福を下さるかもしれない。　以前と変わらず、神様に穀物やぶどう酒をささげることができるように、それらをいっぱい恵んでくださるかもしれない。
１５シオン（エルサルム）にラッパを吹き鳴らせ。　断食を呼びかけ、すべての人に聖なる集会のふれを出せ。　１６老人も、子供も、赤ん坊も、みな連れて来い。　花婿を寝室から、花嫁をその部屋から呼び出せ。１７神に仕える祭司たちは、人々と祭壇との間に立って、泣きながら祈るがいい。　「ああ神様、私たちをおこころにかけてください。　私たちは神様の国民ですから､異教徒の支配下に置かないでください｡『彼らの神はどこにいるんだい？　きっと弱くて、何もできないんだろうよ』などと、あざけられないようにし

てください。」
１８これを聞いて、神様はかわいそうに思い、ご自分の地の名誉が傷つけられるのをいたく憤慨された。　１９そして、このようにお答えになった。　「さあ、おまえたちが不自由しないように、たくさんの穀物とぶどう酒と油を送ろう。　もう決しておまえたちを、他国の物笑いの種にはさせない。　２０北から来る軍隊を立ち退かせ、遠くへ追いやる。彼らはからからに乾いた荒れ地に退き、そこで死ぬ。　半分は死海に追いやられ、残りは地中海に押しやられる。　その死体の悪臭がこの地に満ちる。　おまえたちのために、すばらしい奇蹟を行なったのだ。」
２１私の国民よ、恐れるな。　さあ、楽しみ喜べ。　神様が驚くべきことをしてくださったのだ。
２２羊や牛の群れに、飢えを忘れさせよ。　牧場は再び緑におおわれる。　木々は実をつけ、いちじくやぶどうも豊かな実りをもたらす。
２３喜べ、さあ、エルサレムの住民よ。　神様を喜びたたえよ。　神様が降らせてくださる雨は、赦しの確かなしるしだ。　春に雨が降るように、また秋にも雨が降る。　２４脱穀場の床には小麦がうず高く積まれ、圧搾機からはオリーブ油とぶどう酒があふれ出る。
２５わたしは、いなご、――おまえたちを滅ぼすために送り込んだ軍勢――が食い尽くした作物を、返してやろう。　２６再び、おまえたちは欲しいだけ、食物を手に入れることができる。
こんな驚くべきことをしてくださった神様を、ほめたたえよ。
わたしは二度と、わたしの国民をこんな災いに会わせはしない。
２７おまえたちは、イスラエルの中にわたしが確かにいることを、また、わたしだけがおまえたちの神であることを知る。　わたしの国民は、二度とこのような打撃をこうむることはない。
２８雨を降らせたあと、わたしの霊をおまえたちに注ぐ。　息子や娘は預言し、老人は夢を見、若者は幻を見る。　２９奴隷にも、男にも、女にも、同じようにわたしの霊を注ぐ。
３０地上にも大空にも、不思議なしるし、血や火や煙の柱を置く。
３１神の大いなる恐るべき日がくる前に、太陽は暗くなり、月は血に変わる。
３２神様の名を呼び求める者は、だれでも救われる。　神様が約束なさったように、エルサレムにも、幾人か難を逃れる者がいる。　神様が幾人かを選んで、生き残るようにしてくださったからだ。
三
１神様はこうお語りになります。　「ユダとエルサレムの繁栄を回復させる時、　２わたしは世界の軍隊をヨシャパテ〔『神はさばく』の意〕の谷に集めて、罰する。　彼らはわたしの国民を傷つけ、わたしの相続人を諸国に追い散らして、わたしの地を分割したからだ。
３彼らはわたしの民を分け合って、奴隷にした。　若い娘は遊女に売り飛ばし、幼女は酒代の足しにした。　４ツロとシドンよ、邪魔だてするな。　ペリシテの町々よ、わたしに

報復する気か。　気をつけるがいい。　わたしはすばやく、おまえたちの頭を打ち返すぞ。
５おまえたちは、わたしの金銀と高価な宝石とを奪い、異教の神殿に運び込んだ。　６ユダとエルサレムの住民をギリシヤ人に売り渡し、ギリシヤ人は遠い祖国に彼らを連れて行った。　７だがわたしは、おまえたちが売り飛ばした所から、彼らを連れ戻す。　そして、おまえたちがしたこと全部に、お返しをする。　８おまえたちの息子や娘をユダの国民に売り渡そう。　ユダの国民は、遠くのシェバ人に彼らを売りつける。　神であるわたしがこう約束する。」
９このことを、できるだけ遠くまで告げ知らせよ。　戦いの準備をせよ。　精兵を集め、全軍を召集せよ。　１０鋤を溶かして剣に打ち変え、鎌を打ち直して槍にせよ。　弱い者を強くせよ。　１１諸国民よ。束になってかかって来い。
神様、今こそ、神様の勇士たちを遣わしてください。
１２諸国民をヨシャパテの谷に連れて来い。　そこで、わたしは全員に判決を下す。　１３さあ、鎌を入れよ。　時がきて、刈り入れを待っている。　酒ぶねを踏め。　彼らの悪が満ちあふれているからだ。
１４谷は、群衆、また群衆でうずまっている。　運命の判決が下るのを待っているのだ。さばきの谷に神の日が近づいているからだ。
１５太陽と月は暗くなり、星も光を失う。　１６神様がエルサレムの神殿からひと声叫ぶと、地と空は震えだす。　しかし、ご自分の国民イスラエルには、神様はことのほかやさしいお方だ。　神様は彼らの安全地帯、また力だ。
１７「その時おまえたちは、わたしが聖なる山シオンで、おまえたちの神であることを知る。　エルサレムは永遠にわたしのものとなる。その時には、もう外国の軍隊がそこを通ることはない。
１８山々から甘いぶどう酒がしたたり、丘には乳が流れる。　水はユダの乾いた川床を満たし、泉は神殿からあふれ出て、シティムの谷をうるおす。　１９エジプトは滅ぼされる。エドムも同じ運命をたどる。　彼らがユダヤ人に暴力をふるい、彼らの国で罪のない者を殺したからだ。
２０だが、ユダは永遠に栄え、エルサレムは代々にわたって繁栄する。　２１わたしが、わたしの国民を殺した者たちに復讐するからだ。　わたしの国民を圧迫した者たちを、そのままにはしておかない。　わたしの家は、わたしの国民とともにエルサレムにあるからだ。」
▪

アモスの預言
アモスは、ホセア、イザヤ、ミカと同時代の人で、ホセアと同じく南王国の出身でした。　しかし彼は、北王国イスラエルに対して語りました。　彼は、まず周辺諸国へのさばきを宣べ、次に、イスラエルだけに集中して宣告します。　さらに、イスラエルの罪を痛烈に非難する個所が続き、特に、当時の社会的罪、すなわち不正、役人の腐敗、貪欲、偽りの礼拝などを指摘します。　きびしい調子の警告のあとに、一連の幻が述べられ、イスラエルがやがては耳を傾けるという、かすかな望みを記して終わります。

一
１アモスはテコアの村に住む羊飼いでした。　一日中、丘の中腹にいて、羊が迷い出ないように見張っていたのです。
２ある日、神様は、イスラエルに起こることを、幻によってお示しになりました。　それは、ウジヤがユダの王、ヨアシュの子ヤロブアムがイスラエルの王であった時で、あの大地震が起こる二年前のことでした。
その時の模様を、アモスは次のように報告しています。　神様はまるで、ねぐらでほえる獰猛なライオンのように、シオンの山にある神殿から、大声で叫びました。　すると突然、カルメル山のみずみずしい牧草がしおれ、たちまち枯れてしまったのです。　羊飼いはみな、声をあげて泣きました。
３神様はこうお語りになります。　「ダマスコの住民は、何度もくり返して罪を犯した。わたしはそのことを決して忘れない。　もうこれ以上、処罰を猶予しない。　彼らは穀物を鉄の打穀機で打つように、ギルアデのわたしの国民を打ちのめした。　４だから、ハザエルの宮殿に火を放ち、ベン・ハダデの堅固なとりでを突きくずす。　５ダマスコの町の門のかんぬきを折り、アベンの平野に住む者や、ベテ・エデンで王位についている者を殺す。　シリヤの国民はキルに戻されて奴隷となる。」
６神様はこうお語りになります。　「ガザは何度もくり返して罪を犯した。　わたしはそのことを決して忘れない。　もうこれ以上、処罰を猶予しない。　ガザはわたしの国民を追い出し、奴隷としてエドムに売り渡した。　７だから、ガザの城壁に火を放ち、宮殿を片っぱしから破壊する。　８アシュドデの住民を殺し、エクロンとアシュケロンの王を滅ぼそう。　残ったペリシテ人も皆殺しだ。」
９神様はこうお語りになります。　「ツロの住民は何度もくり返して罪を犯した。　わたしはそのことを断じて忘れない。　もうこれ以上、処罰を猶予しない。　彼らは兄弟分であるイスラエルとの約束を破り、攻撃をしかけて征服し、奴隷としてエドムに売り渡した。
１０だから、ツロの城壁に火を放ち、とりでも宮殿も灰にする。」
１１神様はこうお語りになります。　「エドムは何度もくり返して罪を犯した。　わたしはそのことを決して忘れない。　もうこれ以上、処罰を猶予しない。　彼らは兄弟分であるイスラエルを剣で追いかけ、怒りにまかせて容赦せず、残酷に振る舞った。　１２だか

ら、テマンに火をかけ、ボツラの宮殿をすべて灰にする。」
１３神様はこうお語りになります。「アモンの住民は何度もくり返して罪を犯した。　わたしはそのことを決して忘れない。　もうこれ以上、処罰を猶予しない。　彼らはギルアデの戦いで、領土を広げるために残虐なことをしでかし、剣で妊婦を切り裂いたりした。１４だから、ラバの城壁に火を放ち、とりでも宮殿も灰にする。　嵐の時のつむじ風のように、戦場でものすごい叫び声があがる。　１５王も王子も捕囚として連れ去られる。」
二
１神様はこうお語りになります。　「モアブの住民は何度もくり返して罪を犯した。　わたしはそのことを決して忘れない。　もうこれ以上、　処罰を猶予しない。　エドムの王たちの墓をあばき、死者を丁重に取り扱わなかったからだ。　２今、その報いとして、モアブに火を放ち、ケリヨテの宮殿をすべて破壊する。　勇士が叫び、ラッパが鳴り響く時、大混乱が起こる。　３わたしは王を滅ぼし、その臣下もみな切り倒す。」
４神様はこうお語りになります。　「ユダの国民は何度もくり返して罪を犯した。　わたしはそのことを断じて忘れない。　もうこれ以上、処罰を猶予しない。　わたしのおきてをばかにして、従おうとしなかったからだ。　先祖がそうであったように、頑固に逆らった。５だから、ユダを焼き滅ぼし、エルサレムの宮殿も、とりでも灰にする。」
６神様はこうお語りになります。　「イスラエルの国民は何度もくり返して罪を犯した。わたしはそのことを決して忘れない。　もうこれ以上、処罰を猶予しない。　賄賂を取って公正な裁判を曲げ、借金を返せない貧しい者を、奴隷に売り飛ばしたからだ。　それも、たったのくつ一足分の代金でだ。　７まさに貧しい者を地面に踏みつけ、おとなしい者を足蹴にしている。
父と息子とが同じ巫女を犯し、わたしの聖なる名を傷つけている。　８祭りの日には、借金のかたに奪い取った着物をまとい、わたしの神殿に、盗んだ金で買ったぶどう酒を携えて来る。
９わたしが彼らにしてやったことを、よく考えてみよ。　目の前に立ちはだかるエモリ人を、この地から追い払ってやったのは、このわたしだ。　彼らは杉のように背が高く、樫の木のように強く、頑丈だった。　だが、わたしはその実を切り取り、根っこを引き抜いた。１０おまえたちをエジプトから連れ出し、荒野の中を四十年間も導き、ついにエモリ人の地を所有させたのだ。　１１また、おまえたちの息子の中から（神のために特別にきよめられた）ナジル人や預言者を選んだ。　イスラエルよ、そうではなかったか。　１２ところがおまえたちは、ナジル人に無理にぶどう酒を飲ませて罪を犯させ、また、『うるさい、黙れ！』と言って、預言者を沈黙させた。
１３だから、満載した穀物の重みで荷車がきしむように、おまえたちを重荷にあえがせよう。　１４おまえたちの中で一番すばやい兵士が戦場でよろめき、剛健な者もみな弱くなり、勇士も自分のいのちを救えない。　１５射かける矢は、みなはずれ、ずば抜けて足の速い者でも逃げそびれ、熟練した騎手も危険地帯を駆け抜けることができない。１６その

日には、どんなに勇敢で力のある者も、武器を捨てて、命からがら逃げのびる。」　神様がこのようにお語りになったのです。
三
１聞け。 これが神様の判決だ。 エジプトから連れ出したイスラエルとユダの全家族に、神様はこうお語りになる。
２　「わたしは、世界中の国民の中から、おまえたちだけを選んだのだ。　それだけに、おまえたちの罪を罰しないわけにはいかない。３だれが悪いことをしている者と、仲よく肩を並べて歩けるだろうか。　４　わたしは訳もなく、ライオンのようにほえているのではない。　すでに、おまえたちを滅ぼす準備に取りかかっている。　幼いライオンでも、うなり声をあげるのは、えさに飛びかかる寸前なのだ。　５踏みつけなければ罠にかかることもなかったろうに。　おまえたちは当然の刑罰を受けるのだ。　６耳をすませ。　警告のラッパが鳴っている。　さあ、おののくがいい。　わたしが、おまえたちの国に災いを下そうとしているからだ。
７わたしはいつも、事が起こる前に、真っ先に預言者をとおして警告する。　今も、そうしているのだ。」
８ライオンがうなり声をあげた。　恐れ、わななけ。　神様の宣告が下ったのだ。　どうして黙っていられよう。
９アシュドデとエジプトの指導者たちを共に呼び寄せて、こう言え。「さあ、サマリヤの山々に陣取って、イスラエルの恥ずべき罪悪の現状をつぶさに見届けよ。　１０わたしの国民は、正しいことを行なうのがどういうことかも、忘れてしまったのだ。　彼らの宮殿は、盗んだり、奪い取ったりした物でいっぱいだ。　１１だから、敵が襲って来る。彼らは取り囲まれ、頼みのとりでを破壊され、宮殿も略奪されてしまう。」
１２神様はこうもお語りになります。　「羊飼いは、羊をライオンの口から救い出そうとしたが、間に合わなかった。　どうにか、もぎ取ったのは、二本の足と片方の耳だけだった。　それと同様に、サマリヤのイスラエル人は、やっとの思いで助け出されるが、生き残った者はみな、半分しかない椅子や、ぼろぼろの枕のようだ。」
１３天の軍勢を率いる神様は、こうお語りになります。「これから言うことをよく聞き、イスラエルにくまなく告げよ。　１４罪を犯したイスラエルを罰するその日に、ベテルの偶像の祭壇をも取りこわす。　祭壇の角は折られ、地べたに落ちる。
１５　金持ちどもの、大邸宅のような夏の別荘と冬の別荘を破壊し、象牙の宮殿も粉砕する。」
四
１わたしのことばに耳を傾けよ、サマリヤに住むバシャンの太った雌牛ども。　おまえたちは、夫をけしかけて貧しい人から物を取り上げ、困っている者からしぼり取っている。全く飽き足りることを知らないやつらだ。　２そんなおまえたちの鼻に鼻輪をつけ、牛のように引いて行く時が必ずくる。　神様は、ご自分の聖さにかけてそう誓われた。　最後

の一人まで、つり針にかけられて引かれて行く。　３豪華な家から引きずり出され、いちばん近い城壁の破れ口から、町の外に放り出される。　神様がこうお語りになったのだ。
４さあ、どんどん、ベテルとギルガルの偶像にいけにえをささげろ。そうやって、いつまでも逆らうがいい。　おまえたちの罪は山のように積まれている。　いけにえは毎朝、十分の一のささげ物は週に二回ささげよ。　５すべて正しい方法で行ない、特別のささげ物もせよ。おまえたちは、そうすることを得意がり、どこでもそれを自慢して歩いている。
６神様はこうお語りになります。　「おまえたちをひもじくさせたが、何にもならなかった。　それでも、わたしのもとに帰ろうとはしなかった。　７収穫の前に三か月間も雨を降らせないで作物をだめにしてやった。　ある町には雨を降らせたが、他の町には降らせなかった。　ある畑には雨が降っているのに、他の畑は乾ききっていた。８二、三の町の住民は、飲み水を求めて、雨の降った一つの町へ疲れきった体で出かけて行った。　それでも満ち足りることはなかった。そんなことがあっても、なお、わたしのもとへ帰ろうとしなかった。」
９神様はこうお語りになります。　「立ち枯れ病と黒穂病を、農場やぶどう畑ではやらせた。　いなごが、いちじくやオリーブの木を食い荒らした。　それでも、おまえたちは、わたしのもとへ帰ろうとしなかった。　１０はるか昔、エジプトでしたように、おまえたちに伝染病を流行させた。　戦争で若者を殺し、馬を奪い去った。　死体からの悪臭がひどく鼻をついた。　だが、そんなことがあっても、なお、わたしのもとへ帰るのを拒んだ。
１１わたしはソドムとゴモラにしたように、おまえたちの町の幾つかを破壊した。　生き残った者たちも、まるで火の中から取り出された燃えさしのようだった。　それでも、わたしのもとへ帰ろうとしなかった。
１２だから、警告しておいたとおり、おまえたちをもっとひどい災難に会わす。　イスラエルよ、おまえの神に会う備えをせよ。」　１３山々を造り、風を送り、おまえたちの考えを全部知っている方と出会うことになるからだ。　その方は、朝を暗やみに変え、山を踏み砕いてしまわれる。　その名は神、天の軍勢の主だ。
五
１イスラエルよ。　私は悲痛な思いで、この悲しみの歌をうたいます。
２「美しいイスラエルは押し倒され、地面にたたきつけられて、立ち上がることができない。　助けの手を差し伸べてくれる者もなく、孤独の中に死んでいく。」　３神様がこうお語りになるからです。「戦場に千人の兵士を送り出した町では、たった百人しか帰って来ない。　百人の兵士を送り出した町では、十人がやっと生きて帰る。」
４神様はイスラエルの国民にこう告げます。　「わたしを求めよ。わたしを求めることによって生きよ。　５ベテルやギルガルやベエル・シェバの偶像を求めるな。　ギルガルの住民は連れ去られ、ベテルの住民には必ず悲しみが襲いかかる。」
６神様を求めて、生きよ。　さもないと、神様は炎となって、イスラエルをなめ尽くす。ベテルの偶像は、どれもその火を消すことができない。

７邪悪な者たち。　おまえたちは公正の名のもとに貧しい人をしいたげている。　正義も公平も、おまえたちにはただの方便にすぎない。
８スバル座やオリオン座を造った方を求めよ。　その方は、暗やみを朝に変え、昼を夜にし、海の水を蒸発させて地上に雨を降らせてくださる。　その名は「主」だ。　９この方は、目にもとまらぬ速さと力で、強い者を打ちのめし、すべての要塞をつぶしてしまわれる。
１０おまえたちは正直な裁判官を憎んでいる。 真実を告げる者を小ばかにしている。 １１貧しい人を踏みつけ、税や罰金や利子と言っては、ほんのわずかしかない持ち物を取り上げている。　それゆえ、いま建てている石造りの豪荘な屋敷に、おまえたちは決して住めない。また、いま植えている見事なぶどうからつくるぶどう酒も飲めない。
１２おまえたちの罪が極悪で、数えきれないほどだからだ。　私はそのすべてを知っている。　おまえたちは、良いことすべてに反対している。　賄賂を取り、貧しい人の益になることは何もしない。 １３だから賢い者は､神様がおまえたちを罰する恐ろしい日には､黙って口出ししようとはしない。
１４正しいことをし、悪から足を洗え。　そのようにして生きよ。そうすれば、願いどおり、天の軍勢の主が味方となって助けてくださる。　１５悪を憎み、善を愛して、正しい裁判をせよ。　あるいは、神様が、残っている国民をあわれんでくださるかもしれない。
１６それゆえ、天の軍勢の主である神様は、こうお語りになります。　「あちらの通りでも、こちらの道でも、泣き叫ぶ声が起こる。　農夫を呼んで、いっしょに泣いてくれるように頼め。　泣き男や泣き女を呼んで、大いに嘆かせよ。　１７わたしが通り過ぎて破壊するので、どのぶどう畑にも悲しみの叫びがあがる。　１８おまえたちは､『ああ､早く神様の日がきてくれたらなあ。　そうしたら、敵の手から救い出していただけるのに』と言う。　だがおまえたちは、自分が何を願っているのか、わかっていない。　その日は、光でも希望でもない。暗黒と絶滅の日だ。　それはなんと恐ろしい暗黒であろう。　喜びや希望の光などひと筋もない。　１９その日、おまえたちはライオンに追いかけられ、その上、熊に出会った者のようになる。　また、真っ暗な部屋を壁に寄りかかるように歩いていて、思わず手が蛇に触れた者のようになる。　２０まさに、おまえたちにとって、それは暗やみと絶望の日だ。
２１おまえたちの、祭りと聖なる集会を開いては、わたしを『あがめたてまつっている』見せかけの演技など、真っ平ごめんだ。　２２完全に焼き尽くすいけにえも穀物のささげ物も、受けたくない。　わたしをなだめようとしてささげる和解のいけにえなど、見たくもない。２３賛美歌もうたうな。　わたしの耳には騒音にしか聞こえない。　どんなに甘い響きをかなでても、おまえたちの音楽など聞きたくない。
２４わたしは正義が力強く巷に満ちあふれるのを、正しい行ないが川のように流れるのを見たい。
２５－２７イスラエルよ。 おまえたちは四十年間､荒野でわたしにいけにえをささげた。

だが、心の底ではいつでも、異教の神々を慕っていた。　おまえたちの王サクテや星の神キウン、そして、自分たちが作った神々の像に関心を寄せていた。　だから、おまえたちといっしょに、それらの神々も、ダマスコのはるか東へ捕らえ移そう。」　天の軍勢の主である神様が、こうお語りになるのです。
六
１イスラエルの国民によく知られた、エルサレムとサマリヤでぜいたくにのんびり暮らしている者どもは、のろわれるべきだ。　２カルネへ行って、そこで起こったことを見るがいい。　それから大ハマテや、ペリシテ人の地にあるガテへも下って行け。　かつてそこは、おまえたちより立派で、栄えていた。　だが、今はどうなっているかを見よ。　３おまえたちは、迫っている刑罰のことを、ぜんぜん考えようともしない。　だが、おまえたちの行ないによって、刑罰の日が刻刻と近づいているのだ。
４おまえたちは、いちばん柔らかい子羊の肉や、最上の子牛の肉を食べながら、ぜいたくを尽くした象牙のベッドに寝そべっている。５竪琴に合わせて、くだらない歌をうたいながら、ダビデ王のような偉大な音楽家のつもりになっている。
６自分はあびるほどぶどう酒を飲み、香油を体に塗りたくっていても、助けを求める兄弟たちには何もしてやらない。　７だから、おまえたちが真っ先に奴隷となって連れ去られる。　おまえたちの酒盛りは、とつぜん終わるのだ。
８天の軍勢の主である神様は、ご自分の名にかけてお語りになります。　「わたしはイスラエルの思い上がりと偽りの繁栄をきらい、彼らの豪壮な宮殿を憎む。　この町とその中にあるすべての物を敵の手に渡す。」
９残った者がたった十人、家一軒であったとしても、それさえも滅ぼされてしまう。　１０かろうじて生き残った親せきの者が、死体を葬る。　死体を家から運び出す時、家の中に一人だけ生き残っている者に、「ほかにだれか助かった者がいるか」と聞くと、「いない」という答えが帰ってくる。　そして、「しーっ。　神様の名を口にするな。　あんたの言うことを聞いておられるかもしれないからな」と言う。
１１神様がこのようにお命じになったからです。　豪壮な邸宅も、貧弱な家も、木端微塵になれ。　１２馬が岩の上を走れるだろうか。　牛が海を耕せるだろうか。　これは聞くだけばかなことだが、おまえたちのやっていることも、負けず劣らずばかげている。　正義をあざけり、よいことや正しいことを腐敗させ、堕落させているではないか。　１３また、無に等しい者であるのに、偉い者であるかのようにうぬぼれ、有頂天になっている。ちっぽけな力を、たいそうなご自慢にしている。
１４天の軍勢の主である神様はこうお語りになります。　「イスラエルよ。　わたしは、一つの国民を起こして、おまえたちを攻めさせる。北はレボ・ハマテから南はアラバの川筋までの全域で、彼らはおまえたちをしいたげる。」
七
１神様は私に、こんな幻を見せてくださいました。　最初の草刈りのあとに生えた、王に

年貢として納める主要な穀物を、片っぱしから食い荒らすいなごの大群を、神様は用意なさいました。　２見る見るうちに、その大群は何もかも食い尽くしてしまいました。　それで必死になってお願いしたのです。　「ああ神様。　どうぞ、あなた様の国民をお赦しください。　こんな災いに会わせないでください。　神様が立ち向かわれたら、ほんの小民族にすぎないのですから、イスラエルはひとたまりもありません。」　３そこで神様は思い直して、その幻を実行には移さず、「やめよう」と言ってくださったのです。
４それから神様は、勢いよく燃え上がる火を見せてくださいました。それで人々を罰するつもりだったのです。　その火は水という水を蒸発させ、イスラエルの全地を焼き尽くしてしまいました。
５それで、またお願いしました。「ああ神様。　どうぞ、そんなことはおやめください。神様が立ち向かわれたら、ほんの小民族にすぎないのですから、彼らはひとたまりもありません。」
６神様は、この計画もご破算にし、「これもやめよう」と言われたのです。
７それから､次のことを示してくださいました。神様は築き上げた城壁のそばに立って、重りをつけた糸で、それが真っすぐかどうか調べておられました。　８そして、「アモス、何を見ているのか」とお尋ねになりました。
「重りをつけた糸です。」
そう答えると、続けてお語りになりました。　「重りをつけた糸で、わたしの国民が真っすぐかどうか調べてみよう。　もう罰することを差し控えたりはしない。　９イスラエルにある偶像の祭壇と神殿は破壊される。　また、剣でヤロブアム王家を打ち倒そう。」
１０　ところがベテルの祭司アマジヤは、アモスが語ったことを聞くと、すぐにヤロブアム王に伝えました。「アモスは謀反人で、陛下を殺害しようとたくらんでおります。　これは一大事です。　放っておいたら、取り返しのつかないことになります。　１１あやつは、事もあろうに、陛下が殺され、イスラエルは奴隷として遠い地に連れて行かれる、などとぬかしております。」
１２そして、アモスにこう命じました。　「とっとと、ここから出て行け。　預言者め。そんなに預言がしたけりゃ、ユダへでも行って、好きなことをしゃべるがいい。　１３だがな、この首都に住むわれわれをわずらわすのは、いいかげんにしてくれ。　ここは王の礼拝堂がある所なのだぞ。」
１４アモスは答えました。　「私は預言者ではありません。　預言者の家の者でもありません。　ただの羊飼いで、果樹を栽培している者にすぎません。　１５ところが神様は、羊の群れの世話をしている私に、『さあ、わたしの国民イスラエルに預言せよ』とお命じになったのです。
１６ですから今、神様のお告げを聞きなさい。　『イスラエルに不利な預言はするな』とのことですが、　１７神様のお答えはこうです。『わたしに邪魔だてしたので、おまえの妻は、この町で売春婦となる。息子や娘は殺され、おまえの土地は細かく分割されてしまう。

おまえ自身も異教の地で死ぬ。　イスラエルの国民も、祖国から遠く離れた地へ連れ去られ、そこで奴隷となる。』」
八
１それから神様は、熟した夏の果物がいっぱい入ったかごを、幻のうちにお示しになりました。
２「アモス、何を見ているのか。」
「熟した夏の果物がいっぱい入ったかごです。」
すると神様は、こうお語りになりました。　「この果物は、わたしの国民イスラエルを表わしている。　彼らの刑罰の時が熟したのだ。もう延期されない。　３その時には、神殿から聞こえる騒々しい歌声は、すすり泣きに変わる。　そこら中に死体が散らばる。　だれもが無言のうちに、それを町の外へ運び出す。」　神様がこう宣告なさったのです。
４貧しい人から取り上げ、困っている人を踏みつける商人ども。よく聞け。　５おまえたちは、安息日や新月の祭りが早く終わればよい、とひたすら思っている。　そうすれば商売ができ、ごまかして儲けることができる。　はかりをごまかし、金は多く取り、品物は少なく渡している。　６また、わずかな借金、たった一足のくつの形に貧しい人を奴隷とし、かびた小麦を困っている人に売りつけている。７イスラエルの誇りである神様は、誓ってこうお語りになります。「おまえたちの悪行は決して忘れない。　８この地は、滅びを目前にして震えおののき、だれもが嘆き悲しむ。　この地は、増水したナイル川のように盛り上がり、激しく揺れ動き、再び沈む。　９その時、わたしは昼のうちに太陽を沈ませ、地上を暗やみにする。
１０宴会を嘆きの場に変え、喜びの歌を絶望の叫びに変える。　おまえたちは喪服を着、頭をそり、まるでひとり息子が死んだように悲しむ。　その日には、悲惨、ただ悲惨があるのみだ。」　１１神様はお語りになります。「時は刻々と近づいている。　その日には、この地にききんが起こる。　パンや水のききんではない。　神のことばを聞くことのききんだ。　１２人々は海から海へと至る所を歩き回り、神のことばを捜し求める。　だが、あちらこちらと捜し回っても、ついに見つけ出せない。
１３美しい娘も、りっぱな若者も、神のことばを渇き求めてやせ衰え、ぐったりする。　１４サマリヤ、ダン、ベエル・シェバの偶像を拝む者どもは倒れて、二度と立ち上がれなくなる。」
九
１私は、神様が祭壇のそばに立っておられるのを見ました。　神様はこうお命じになりました。　「柱のてっぺんを打て。　神殿をゆさぶり、柱を倒し、下にいる者たちの上に屋根を落ちかからせよ。　彼らは逃げようにも逃げられず、一人残らず下敷きになって死ぬ。
２彼らが地獄に下っても、わたしは引っ張り上げ、また、天にのぼっても、引きずり降ろす。　３たといカルメル山頂の岩間に隠れても、見つけ出して、捕まえる。　深海に身をひそめても、海蛇を送って、かみ殺させる。　４あるいは、進んで国外へ捕らえ移されて

も、剣に命じて、そこで彼らを殺させる。　彼らが、善ではなく悪を受け取るのを、ちゃんと見届ける。」
５天の軍勢の主である神様が地に触れると、地は溶け去り、そこに住む民はみな嘆き悲しむ。　地はエジプトのナイル川のように盛り上がり、また沈む。　６神様が住まわれる高殿は、その基を地にすえ、天にまでそびえ立っている。　神様はまた、海の水を蒸発させて、地に雨を降らせる。　その名は「主」である。
７「イスラエルの国民よ。　わたしにとって、おまえたちはエチオピヤ人より大切であろうか。　確かにわたしは、おまえたちをエジプトから連れ出したが、ほかの国民にも同じようにしたのだ。　ペリシテ人をカフトルから、シリヤ人をキルから連れ出した。
８わたしの目は、罪深い国民イスラエルに向けられている。　わたしはこの国民を根こそぎにし、世界にまき散らす。　ただし、永久に根絶やしにはしないと約束した。　９わたしが命じたとおり、穀物をふるいにかけるように、本物だけを選び分けるために、イスラエルを他の国々にふるわせるからだ。　１０だが、『神様は私たちに手を下さない』とうそぶいている不届き者は、みな剣で殺される。
１１その時には、今は荒れ果てたままになっているダビデの町を再建し、以前のように栄えた町にする。　１２イスラエルは、エドムに残されている者と、すべての国民のうちでわたしの国民となる者とを手に入れる。」　このすべてを計画した神様が、このようにお語りになるのです。
１３「その時がくる。　その時には、大豊作で、やっと収穫が終わると思ったら、息つく暇もなく別の種をまく有様で、イスラエルの丘のぶどう畑は甘いぶどう酒をしたたらせるようになる。　１４わたしは、わたしの国民イスラエルの繁栄を回復する。　彼らは荒れた町々を建て直し、再びそこに住んで、ぶどうや果樹を栽培する。　そこで自分たちの収穫した物を食べ、ぶどう酒を飲むようになる。　１５わたしは彼らを、わたしが与えた地にしっかり植えつける。　彼らは、もう引き抜かれることはない。」　あなたがたの神様がこうお語りになるのです。
▪

オバデヤの預言
本書はエドム滅亡の預言です。　この国は紀元前五八七年、バビロンがエルサレムを攻めた時、援軍を出さないばかりか、むしろ敵方に味方し、傷ついた都の略奪に加わったのです。　エドム人はエサウの子孫であり、イスラエル人はヤコブの子孫です。　ヤコブとエサウは兄弟でした。　エドムが罰せられるのは、兄弟イスラエルに対する暴虐行為のためです。　エドムは、裏切りと高慢のために神様にさばかれたのです。

１神様は、幻によって、これからエドムの地に起こることを、オバデヤにお示しになりました。
オバデヤはこう言いました。　「神様は、国々に使者を遣わして、次のようにお命じになりました。　『よく聞け。　討伐軍を動員し、エドムを滅ぼすのだ。』」
２エドムよ。　わたしはおまえを切り刻み、国々の間で小さい者とし、物笑いの種にしよう。
３おまえは人が寄りつけないような高い断崖に住んで、高慢になっている。　「だれも、ここまでは登って来られない」と高をくくっている。　思い違いをするな。　４おまえが鷲のように高く舞い上がっても、星の間に巣を設けても、わたしはおまえを引きずり降ろす。そう神様はお語りになるのだ。
５夜中に強盗に襲われるほうが、まだましだ。　やつらは根こそぎ持って行きはしないから。　あるいは、ぶどう園の実をぜんぶ盗まれるほうが、まだましだ。　少なくとも落ちた実だけは残るだろうから。　６だがおまえは、虱つぶしに捜し回られ、残らず取り上げられる。宝はすべて見つけ出され、持ち去られる。
７同盟者がこぞって反旗をひるがえし、この地からおまえを追い出そうとする。　平和を約束しながら、陰では滅ぼすことをたくらんでいる。　信頼する友が罠をしかけ、おまえたちの反撃は、ことごとく失敗に終わる。　８神様はお語りになる。　その日、エドム中を捜しても、どこにも賢い者などいない。　わたしが、〔名だたる〕エドムの賢者を愚かにするからだ。　９テマンの勇士もあわてふためき、虐殺者から身を守れなくなる。
１０どうして、そんな目に会うのだろうか。　それは、おまえが兄弟イスラエルにしたことへの報いだ。　今、おまえの罪は白日のもとにさらされる。　何の抵抗もできず、さんざん辱しめられ、永遠に切り捨てられる。　１１イスラエルが困っていた時、見て見ぬふりをしたからだ。　イスラエルに侵入した者が財宝を持ち去り、くじでエルサレムを分け合っていても、知らん顔をして、指一本うごかそうとしなかった。　まるでイスラエルの敵のように振る舞っていた。
１２　おまえは、そうすべきではなかった。　侵略者がイスラエルを遠い異国へ連れ去るのを見て、ほくそ笑むべきではなかった。　彼らの不幸を喜んだり、あざけるようなことはすべきでなかった。　１３そればかりか、おまえは災難につけ込んで、イスラエルに押し入り、略奪さえした。　彼らを犠牲にして私腹を肥やしたのだ。　１４十字路に立ちは

だかり、逃げる者を殺した。　彼らが恐ろしい窮地に立たされた日に、かろうじて生き残った者を捕らえ、敵の手に渡した。
１５神様はすぐにもすべての国に復讐する。　イスラエルにしたとおりのことが、おまえの身に起こる。　ブーメランのように、そのとおりのことが自分に返ってくる。　１６わたしの聖なる山で、おまえたちは刑罰の杯を飲みほした。　回りの国々も、それを飲みほすことになる。　そうだ、飲みつぶれて、歴史から姿を消していく。　そのような国々は、もう存在しなくなる。
１７しかし、エルサレムは避難所となり、逃げ道となる。　イスラエルは再びそこを所有する。　１８イスラエルは、エドムの乾燥した平野に放たれた火となる。　そこには、だれも生き残らない。　神様が、そうお語りになったからだ。
１９そして、ネゲブに住むわたしの国民は南のエドムの丘陵地を占有し、ユダの低地に住む者は西のペリシテの平野を所有し、北のエフライムやサマリヤの平野を取り戻す。　ベニヤミンの部族は東のギルアデを所有する。
２０捕囚のイスラエル人は帰って来て、フェニキヤの海岸地帯を遠く北のツァレファテまで占領する。　小アジヤに連れて行かれた者も故国に帰り、ネゲブの辺境の村々を征服する。　２１救う者たちがエルサレムに来て、エドムをくまなく支配するからだ。　その時、神様が王となられる。
▪

ヨナの預言
ヨナはイスラエルの預言者で、まもなく（紀元前七二二年）イスラエルを滅ぼそうとしていた敵国アッシリヤ（首都ニネベ）に、悔い改めの説教をするように、神様から示されました。　しかし、ヨナの愛国心が異教徒に救いをもたらすことを許さず、彼は船で神様から逃げようとします。　その途中、海に投げ込まれ、大魚にのみ込まれますが、やがて海岸に吐き出され、ついには神様の命令に従い、ニネベ宣教に出かけたのです。　しかし、人々が悔い改めたのを見て憤ったヨナに、神様は一本の木をとおして、実物教育をすることになります。

一
１アミタイの子ヨナに、神様から次のようなお告げがありました。
２　「あの大都市ニネベへ行って、神がこう語ると告げよ。　『わたしはおまえたちを滅ぼす。　おまえたちの悪行の数々が、山のように積もり、その悪臭が天にまでただよって来たからだ。』
３　ところが、ヨナは行くことをいやがり、神様の前から逃げ出して海岸の方へ行き、ヨッパの港へ出たのです。　ちょうど、タルシシュ行きの船が出航するところでした。　船賃を払って船に乗り込んだヨナは、神様から身を隠そうと、暗い船底に降りて行きました。
４　ところが、航海が始まると、突然のように神様は嵐を起こし、その船めがけて突風を吹きつけました。　船は今にも沈みそうです。　５身の危険を感じた水夫たちは、必死の思いで、自分の信じている神々に助けを求めました。　また、なんとか船を軽くしようと、積み荷を海に捨てました。　その間、ヨナは船底でぐっすり眠り込んでいたのです。
６　あきれた船長は船底に降りて行って、どやしつけました。　「おい！　どういうつもりだ、こんな時に眠りこけて。　さっさと起きて、おまえの神様に祈ったらどうだ。　そうすれば、お恵みで助かるかもしれんぞ！」
７　乗組員はくじを引くことにしました。　神々を怒らせて、こんな恐ろしい嵐を引き起こした張本人はだれか、見つけようというのです。　くじはヨナに当たりました。
８　「いったい何をしでかしたんだ。　こんなに恐ろしい嵐を起こすとは？　えっ！　おまえさん何者だい？　仕事は？　どっから来た？どこの者だ。」
９１０「ユダヤ人です。　この地と海とをお造りになった天の神様を信じ、拝んでいる者です。」　それから、その神様から逃げ回っているわけを話しました。
人々は話を聞くと、ますます恐ろしくなりました。　「何でそんなことをしたんだ？　１１ああ、この嵐を静めるために、おまえさんをどうすりゃいいんだろう」と叫ぶように言いました。　海はいっそう荒れ狂ってきたからです。
１２「どうか、私を海に投げ込んでください。　そうすれば、静まるでしょう。　この嵐も、私のせいなのですから。」
１３　それでも、なんとか陸に近づこうと必死にこぎましたが、どうにもなりません。　突

風が荒れ狂い、まともに吹きつけるのです。　１４とうとう、人々はヨナが仕えている神様に大声で祈りました。　「ああ神様。　お願いでございます。　この男のために、おれたちまで巻き添えにしないでください。　この男を海に投げ込みますが、どうぞ、おれたちを罰しないでください。　おれたちの責任じゃありません。特別なわけがあって、神様がこの男に嵐を見舞わせているのですから。」
１５　彼らはヨナを荒れ狂う海に投げ込みました。　すると、どうでしょう。　嵐はぴたりと収まったではありませんか。
１６　人々は神様の前に恐れをなし、いけにえをささげて、ヨナの信じていた神様に仕えることを誓いました。
１７　ところで、神様は大きな魚に、ヨナをのみ込ませました。　ヨナは三日三晩、魚の腹の中にいたのです。
二
１　ヨナは魚の腹の中から、神様に祈りました。
２　「神様。　神様は、苦しくてどうしようもない時に祈ると、答えてくださいました。死の深みから叫び求めた時、聞いてくださいました。　３神様は私を、大海の深みに投げ込みました。　激しくさかまく波をかぶって、深い水中に私は沈みました。　４そのとき私は、『ああ神様。　神様は私を退け、海に投げ込みました。　もう二度と、神様の聖なる神殿を見ることはできません』と申しました。
５　海中に沈み、もう少しで死ぬところでした。　水の中では、海草が頭にからみつきました。　６私は海の底の底まで沈んだのです。助かる望みもなく、死の牢につながれてしまいました。　しかし神様は、ぽっかり開いた死の口から、私をすばやく助け出してくださいました。
７　全く望みを失った時、もう一度、私は神様に思いを向けたのです。　聖なる神殿におられる神様に、真剣な祈りをささげました。　８偽りの神々を拝んでいる者は、神様が与えようとしておられる恵みに、背を向けているのです。
９　私は、神様以外のものを決して拝みません。　ああ、神様がしてくださったことに、どう感謝したらよいでしょう。 私は必ず約束を果たします。 私を救ってくださるのは、神様だけだからです。」
１０　そこで神様は、ヨナを海岸に吐き出すよう魚に命じ、そのとおりになりました。
三
１２神様は再び、ヨナにお語りになりました。　「あの大都市ニネベへ行き、滅びが迫っていると警告せよ。」
３　ヨナは、言われたとおりニネベへ行きました。　ニネベは大きな都市で、回りに広大な郊外を控えていました。　歩いて町をひと回りするだけでも、三日はかかるほどです。
４５ところが、ヨナが町に入って説教を始めたその日から、人々は悔い改めたのです。　ヨナは回りを取り囲んだ群衆に、「きょうから四十日後に、ニネベは滅びるぞ！」と叫びまし

た。　彼らはヨナのことばを信じ、断食を始めました。　上は王から下は身分の低い者に至るまで、すべての人が粗末な服をまとい、嘆き悲しんだのです。
６　ニネベの王は、ヨナが語ったことを聞くと、王座から立ち上がり、王服をわきへ押しやって粗末な服を着、灰の中に座りました。　７そして大臣と相談し、町中に次のようなお布令を出したのです。　「何人も、動物さえも、食べ物を口にしてはならない。　水も飲んではならない。　８粗末な服を着、ひたすら神様に祈ること。　また、おのおの暴力や強奪をやめ、悪の道から足を洗うこと。　９はっきりとは言えないが、もしかすると、神様は憤りを静めて、いのちを助けてくださるかもしれない。」
１０　神様は、彼らが悪の道から離れたことをご覧になりました。　それで、彼らを滅ぼす計画を中止したのです。
四
１　この計画変更に、ヨナはひどく腹を立て、　２神様に文句を言ったのです。「神様、やっぱり、こんなふうになさったんですね。　最初からわかっていましたよ。　国でニネベへ行けと言われた時、こうなると思ったのです。　それで、タルシシュへ逃げたのです。神様が恵み深く、あわれみに富み、なかなかお怒りにならず、思いやりのあるお方であることを知っていましたからね。　この人々を滅ぼす計画さえ、いとも簡単に取りやめてしまわれるって、わかっていたんですよ。
３　ああ神様、私なんか殺してください！　〔私の語ったことが嘘になったのですから〕、死んだほうがましです。」
４　すると、神様はお語りになりました。　「なんで腹を立てるのか。」
５　ヨナは町から出て行き、ふくれっ面をして、町の東のはずれに腰をおろしました。　そこに木の葉で日よけ小屋を作り、町がどうなるかを見きわめるつもりだったのです。　６ところが、葉っぱが暑さで枯れてしまったので、神様は急いでつる草を生えさせ、大きな葉で日をさえぎってくださいました。おかげで居心地がよくなり、ヨナは大喜びでした。
７　ところが、神様は一匹の虫をも用意しておられました。　翌朝、その虫が茎を食いちぎると、草は見る間に枯れてしまったのです。
８　太陽がのぼって暑くなると、神様は焼けつくような東風を吹きつけさせました。　太陽が頭にじりじり照りつけます。　ヨナはすっかりまいってしまい、死にたいと思いました。　「こんな思いをするくらいなら、死んだほうがましだ。」　とうとう、彼は叫んだのです。
９　神様はヨナにお語りになりました。　「この草が枯れたことを怒るのは、正しいことだろうか。」
「もちろんです。　死ぬほど怒って当然です。」
１０　「おまえは、苦労してつくったのでもない日陰がなくなっただけで、そんなにも嘆いている。　あんな草はもともと、はかない命しかないものだ。　１１だったら、わたしが、このニネベのように大きな町を惜しむ気持ちが、どうしてわからないのか。　そこに

は、事の善悪をわきまえない十二万もの人々と、たくさんの家畜がいるのだ。」

▪

ミカの預言
ミカはイザヤと同時代の人で、紀元前八世紀にイスラエルとユダの両国に宣教しました。彼は、エルサレムの南の小さな町モレシェテに住んでいましたが、首都であるエルサレムとサマリヤに向けて預言しました。　彼らの圧制、高慢、貪欲、腐敗、偽りの信心、傲慢などを手きびしく非難したのです。　国の指導的立場にある首都は、罪ではなく、正義の手本となるべきで、正義である神様は、それらの町の行動をさばかれる、と説いています。

一
１ヨタム王、アハズ王、ヒゼキヤ王がユダ王国を治めていた時代に、神様は、モレシェテの町に住むミカにお語りになりました。　それはサマリヤ（イスラエル）とユダについてのお告げで、幻によって示されたものです。
２よく聞け。　全世界の国民よ。　耳をすませ。　聖なる神殿に住まわれる神様が、おまえたちを告発したのだ。
３見よ、神様がおいでになる。　天の王座を離れ、山々のいただきを踏みながら、この地上においでになる。　４山々は、火に投げ込まれた蝋のように神様の足の下で溶け、水のように丘の上から谷へ流れ込む。
５どうして、こんなことが起こるのか。 積もり積もったイスラエルとユダの罪のせいだ。どんな罪か。　それぞれの首都サマリヤとエルサレムを中心に行なわれている、偶像崇拝と虐待だ。
６　だから、サマリヤの町は完全に破壊され、瓦礫の山となる。 だだっ広い原野となり、その通りも畑にされ、ぶどうを植えるために掘り返される。　神様はイスラエルの城壁と要塞をこわし、土台をあばき、その石を谷底へ投げ捨てる。　７刻んだ像は一つ残らず粉々に砕かれ、献金で建てたきらびやかな偶像の神殿は、跡形もなく焼き払われる。
８わたしは、山犬の遠ぼえのように、声をあげて嘆こう。　まるで、夜、泣きながら砂漠を横切るだちょうのように。　悲痛と屈辱をかみしめながら、はだしで、しかも裸で歩こう。　９わたしの国民の傷が、とても治せないほど深いからだ。　神様はエルサレムを罰しようと、すでにその門に立っておられる。　１０ガテの町はのろわれよ。　嘆き悲しむな。　ベテ・レアフラでは、恥ずかしさのあまりちりの中をころげ回れ。　１１シャフィルの人は身ぐるみはがれて裸にされたまま、奴隷として引かれて行く。　ツァアナンの人は、町の外に一歩も出ようとしない。　ベテ・エツェルは、町の土台ごと一掃される。　１２マロテの人は、これから幸せになると思っている。　だが、待ちかまえているのは苦痛だけだ。　神様が今にも、エルサレムを打とうとしておられるからだ。
１３さあ、急げ！　ラキシュの人よ。　いちばん速い戦車で逃げよ。　イスラエルのまねをして、ユダの国中を偶像崇拝の悪事に引きずり込んだのは、おまえたちなのだから。
１４ガテのモレシェテに書き送れ。　もう救われる望みはない。　アクジブの町は、できもしない援助を約束して、イスラエルの王を欺いた。　１５マレシャの人よ、おまえたち

の町は敵の手に落ちる。　敵は、イスラエルの誉れであるアドラムにまで侵入する。
１６泣け。　子供たちのために泣き悲しめ。　子供たちはあっという間に奪い去られ、二度と会えなくなる。　奴隷として遠くの地へ連れて行かれてしまった。　それゆえ頭をそって嘆き悲しむがいい。
二
１夜中に寝床で悪事をたくらむ者は、のろわれよ。　おまえたちは、その計略を実行するためには、朝、まだ暗いうちに起きだし、権力と財力にものを言わせてやってのける。　２人の家や土地を欲しがり、だましたり、脅したり、暴力をふるったりして、それを取り上げる。
３しかし、神様はこうお語りになります。　「おまえたちの悪には、悪をもって報いる。何ものも、わたしをとどめることはできない。　わたしが見放したら、おまえたちはもう二度と、そっくり返って、いばり散らすことはできない。」　４その時、敵はおまえたちをあざけり、「ああ、もうおしまいだ。　滅ぼされる。　神様は私たちから土地を取り上げ、遠くへ連れ去り、他人に私たちの財産をやってしまう」という、おまえたちの嘆きの歌をまねて、笑いころげる。　５その時には、他人がおまえたちの領土の境界線を決め、おまえたち神の国民は、連れ去られた所に住むようになる。
６ところが、人々は言う。　「そんなことを、くどくど言うのはやめろ。　とんだ恥っさらしだ。　そんな悪いことが、起こるはずがないじゃないか。」
７ああ、ヤコブの家（イスラエル）よ。　それは正しい答え方だろうか。　神の御霊は、好きこのんでそんな荒々しい話し方をするだろうか。　断じて、そうではない。　神様の脅しは、おまえたちのため、おまえたちが正しい道に立ち返るためのものだ。
８それなのに、もうこの時にも、わたしの国民はわたしに反抗している。　おまえたちを信頼し、安心して歩いている者の背後から、すばやく上着をはぎ取っている。
９未亡人からは家を取り上げ、その子供たちからは、神様が与えた権利までもぎ取っている。　１０さあ、立て！　出て行けっ！　もうここは、おまえたちの土地でも家でもない。あらゆる悪事を働いてこの地を汚したので、おまえたちはここから吐き出されるのだ。
１１「酒の楽しみを教えてやろう。」　これは、おまえたちのお気に入り、飲んだくれの嘘つき預言者が言うことだ。
１２イスラエルよ。　やがて、わたしが残っている者をみな呼び集める時がくる。　その時、わたしは囲いの中の羊や牧場の羊の群れのように、もう一度おまえたちを一つに集める。　人々は心から喜びの声をあげる。　１３救い主がおまえたちを、連れ去られた地から導き出し、捕らわれていた町の門を通って、この地に連れ戻す。　おまえたちの王は先に立って進む。　その王こそ神だ。
三
１イスラエルの指導者たちよ、聞け。　おまえたちは、悪を憎み、善を愛するようになるべきだ。　２それなのに、善を憎み、悪を好む最たる者となり下がっている。　わたしの

国民の皮をはぎ、骨までしゃぶっている。
３彼らを食い尽くし、こき使い、その骨を砕いて、まるで、食用肉のように切り刻んで、なべに放り込む。　４それでいて、困難に直面すると、神様に助けを求めるのだ。　願いを聞いてくださるとでも、本気で思っているのか。　神様はそっぽを向いておられる。　５偽預言者め。　神様の国民を迷わせている者ども！　おまえたちは、食べ物をくれる者には「平安があるように」と言い、何もしてくれない者は脅すのだ。
そんなおまえたちに、神様はこう宣告なさいます。　６夜がおまえたちを取り囲み、おまえたちの望みを断ち切る。　暗やみがおまえたちをおおい、わたしから何も聞けない。　太陽も沈み、おまえたちの日は終わる。　７そのようになってはじめて、恥じ入って顔を隠し、自分たちの語ったことが、神から出たものでなかったことを認める。
８ところで私は、神の御霊の力に満たされ、神様が、罪を犯したイスラエルを罰することを、少しも恐れず語り続けよう。
９イスラエルの指導者たち、私の言うことを聞け。　おまえたちは正義を憎み、不正を愛している。　１０エルサレムに、殺人をはじめ、いろんな罪をはびこらせている。　１１おまえたち指導者は賄賂を取り、祭司も預言者も、金をもらわなければ、教えることも預言することもしない。　それでいて、神様といかにも親しいふりをし、「すべてうまくいっています。　神様は私たちとともにおられます。　どんな災いも私たちをよけて行きます」とうそぶく。　１２そんなおまえたちのせいで、エルサレムは畑のように耕され、瓦礫の山となる。　神殿が立っている山のいただきも、雑草がはびこり、藪のようになる。
四
１ところが、終わりの日に、シオンは世界で最も有名な山となり、全世界の人にたたえられ、世界各地から巡礼が訪れる。
２彼らは互いに言う。　「さあ、行こう。　神様の山に登り、イスラエルの神様の神殿を見よう。　神様は、私たちがどうしたらよいか教えてくださるだろう。　そうしたら、そのとおりにしよう。」　その時には、神様がエルサレムから全世界を支配なさるのだ。　エルサレムから神様の法律が公布され、その教えが示される。
３神様は諸国の間を仲裁し、遠く離れた強国にも指令を下す。　国国は剣を打ち直して鋤にし、槍を鎌にする。　国と国とはもう争うことなく、戦争は永久に終わるからだ。　世界平和が実現し、軍の学校や訓練場は閉鎖される。
４だれもが自分の家で、豊かで落ち着いた生活を営むようになる。　脅かすものが何もないからだ。　神様ご自身が、こう約束しておられる。　５だから、たとい、回りのすべての国が偶像を拝んでも、私たちはいつまでも神様に従おう。
６その定められた日に、神様は次のようにするとお語りになります。 罰せられた者たち、すなわち、病弱な者、足の悪い者、貧しい者を連れ戻し、　７彼らの地で再び強くし、強力な国とし、わたし自身が永久に王となり、シオンの山から支配する。　８エルサレム、神の国民の見張り塔よ。　おまえの王国と力は、以前のように回復される。

９だが、今は違う。　おまえたちはおびえて金切り声をあげる。おまえたちを導く王はどこにいるか。　彼は死ぬ。　賢い者たちはどこにいるか。　みんないなくなる。　産みの苦しみをしている女のように、苦痛がおまえたちを捕らえて放さない。　１０ああ、シオンの住民よ、激しい苦痛に、身もだえしてうめけ。　おまえたちはこの町を出て、野宿しなければならない。　遠くバビロンへ追放されるからだ。　だが、そこで、わたしはおまえたちを救い出し、敵の手から解放しよう。
１１実際、多くの国が集まり、おまえたちの血を求め、おまえたちを滅ぼそうとやっきになっている。　１２だが、彼らはわたしの考えを知らず、わたしのもくろみを理解するよしもない。　神がイスラエルの敵を、脱穀される麦束のように寄せ集める時がくるのだ。イスラエルに対して、彼らは全く無力だ。
１３シオンの娘よ、さあ、立って麦を打て。　わたしが鉄の角と青銅のひづめをやる。　それで大ぜいの者を踏みつけ、粉々にしろ。　そして、彼らの富を、全世界の支配者である神に、ささげ物としてささげるのだ。
五
１さあ、軍隊を動員しろ。　敵がエルサレムを攻め囲んでいる。やつらは、イスラエルの士師（ここでは王のこと）の顔を、杖でなぐろうとしている。
２ベツレヘム・エフラテよ。　おまえはユダの小さな町にすぎないが、永遠の昔から生きておられる王が生まれる地となる。　３神様は､イスラエルが霊的に生まれ変わる時まで、ご自分の国民を敵の手にお渡しになる。　そののち、捕囚の地で生き残ったイスラエル人が、ついに故国の同胞のもとへ帰る。
４その王は立ち上がり、神様の力と御名の威光とによって、群れを養う。　国民は、そこで落ち着いた生活をする。　その方が、全世界の尊敬の的になるからだ。　５その方は私たちの平和となる。　アッシリヤがこの地に攻め入り、丘を横切って進んで来る時、その方は、私たちを見守る七人の羊飼いを任命し、私たちを導く八人の指導者を立てる。　６彼らは抜き身の剣でアッシリヤを制圧し、ニムロデの地の門に侵入する。　アッシリヤが私たちの国に侵入して来る時、その方が、私たちを救い出してくださる。
７その時、イスラエル国民は、そっと降りる露や待ちに待った雨のように、世界を潤してさわやかにする。　彼らはもはや、人に望みをおかない。　８イスラエルはライオンのように強くなる。　その前で、世界の国々は、まるで羊のようにおとなしくなる。　９イスラエルが敵の前に立ちはだかると、敵はひとたまりもない。
１０その時、神様はこうお語りになる。　おまえたちが頼みにしている武器を、一つ残らず破壊し、　１１城壁を切りくずし、町の要塞を取りこわす。　１２いっさいの魔術の息の根をとめる。　運勢を占う易者はどこにもいなくなる。　１３また、すべての偶像を打ちこわす。　おまえたちはもう、自分の手で作った物を拝みはしない。　１４わたしは、おまえたちの間から異教の宮を取り除き、偶像の宮がある町々を破壊する。
１５こうして、わたしに従わない国々に復讐し、思い知らせてやる。

六
１さあ、神様がご自分の国民にお語りになることを、聞け。
わたしに文句があるなら言え。　山や丘に証人になってもらうから、おまえたちの言い分を述べよ。
２山々よ、神様の言い分に耳を傾けよ。　神様はご自分の国民イスラエルに、言いたいことがおありになる。　神様は彼らを容赦なく告訴する。　３わたしの国民よ、なぜ、わたしに背くのか。　わたしがどんな悪いことをしたというのだ。　なぜ、我慢できなくなったのか。　さあ、はっきり答えよ。　４わたしはおまえの奴隷の鎖を解き、エジプトから連れ出してやった。　また、おまえを助けるために、モーセ、アロン、ミリヤムを送ってやったのだ。
５忘れたのか。　モアブの王バラクが、ベオルの子バラムにのろわせて、おまえを滅ぼそうとした時のことを。　わたしはバラムに、おまえをのろうどころか、かえって祝福させたのだ。　このように再三再四、おまえに好意を示した。　シティムやギルガルで起こったことも、みんな忘れてしまったのか。　そこでも、どんなにおまえを祝福してやったことか。
６おまえはこのように問う。　「私たちがしたことに対して、どんな償いをしたらよいでしょうか。　一歳の子牛をいけにえとしてささげ、神様の前にひれ伏したらよいでしょうか。」
そんなことではだめだ。　７幾千の雄羊、幾万の川の流れに相当するオリーブ油をささげたら、喜んでいただけるだろうか。　神様は満足なさるだろうか。　長男をいけにえとしてささげたら、神様のきげんを直せるだろうか。　そして、罪を赦していただけるだろうか。もちろん、だめだ。
８神様は、えこひいきせず、だれに対しても公平で、親切であること、また、謙そんになって神様とともに歩むことを、望んでおられる。
９神様の御声はエルサレム中に響き渡る。 賢い人は聞け。 大軍が攻め寄せて来る。 神様がそうなさるのだ。
１０おまえの罪があまりにもひどいからだ。　人をだまして金を巻き上げることは、いつやめるのか。　悪者の家には、いんちきなはかりでもうけた、汚らわしい財宝がいっぱい詰まっている。　１１そんな偽りの枡と欺きの重りとを使う商人に、「それでよい」などと言えるだろうか。　公正である神様が、どうして、そんなことをおっしゃれようか。　１２おまえたち金持ちは、脅しと暴力で富を得ている。　おまえたち市民は、うそばかりついて、その舌は真実を語れない。
１３だから、痛い目に会わせてやる。　罪を犯した罰に、みじめな思いをさせてやる。　１４おまえは食べても満腹せず、いつも飢えで苦しみ、空腹感に悩まされる。　いくら金をためようとしても、何も残らない。　ほんのわずかな蓄えも、おまえを征服する者に取り上げられてしまう。　１５種をまいても収穫はなく、オリーブを絞っても自分の体に塗る

ほどの油も出ない。　ぶどうを踏んでも、ぶどう酒をつくるだけ液が得られない。
１６おまえたちはオムリの法律しか守らず、ただ、アハブのまねをしているだけだ。　だから、見せしめのために滅ぼすのだ。　おまえたちは世界中の物笑いになる。　おまえたちを見る者は、さんざんあざけるだろう。
七
１２ああ、悲しいことだ。　正直者を見いだすのが、こんなにも困難だとは。　まるで、収穫期を過ぎたぶどうやいちじくの実を見つけるようなものだ。 どんなに食べたくても、ぶどう一ふさ、初なりのいちじく一個もない。 正しい人は地上から消えてしまった。 誠実な人は一人も残っていない。　残っているのはみな人殺しで、自分の兄弟までも手にかけようとしている。
３彼らは、あらゆる手段を用いて、悪事を働いている。 しかも、その手口のうまいこと。　政治家も裁判官も、賄賂を求める。　金持ちは彼らを買収し、邪魔者を消す相談をしている。　正義はゆがめられてしまった。　４一番ましな者でも、いばらのようにとげとげしい。　最も実直そうな者でも、いばらの垣根よりねじれている。　そんなおまえをさばく日が、今、矢のように迫っている。　処罰の時が、すぐそこまで来ている。　混乱と破滅と恐怖が、おまえを捕らえて離さない。
５だれも信じるな。　親友も、そして、妻でさえも。　６息子は父親をばかにし、娘は母親に逆らい、嫁はしゅうとめの悪口を言う。　まさに、敵が自分の家の中にいるのだ。
７それでも、私は神様の助けを待ち望み、私を救い出してくださるのを待っている。　神様は私の祈りを聞いてくださる。　８敵よ、喜ぶのは早いぞ。　私は倒れても、すぐ起き上がるからだ。 たとい暗やみの中に座っていても、神様が私の光となってくださる。　９神様から罰を受けている間、私はじっとそれに耐えている。　私が神様に罪を犯したからだ。　そののち、神様は私を敵の手から守り、彼らが私にしたすべての悪を罰してくださる。　私を、暗やみから光の中へ連れ出してくださるのだ。　私は神様の正しさを見る。
１０そのとき敵は、神様が私の味方であることを認め、「おまえの神はどこにいるんだい」と悪しざまに言ったことを恥じる。　今すでに、彼らがまるで道の土のように踏みつけられるさまが、まざまざと目に浮かぶ。
１１神様の国民よ。 おまえの町々はりっぱに再建され、今よりも大きくなり、繁栄する。
１２アッシリヤからエジプトまで、エジプトからユーフラテス川まで、海から海まで、遠い山から山まで、多くの国の人々が来て、ほめそやす。
１３だが、その前にまず、恐ろしい滅亡がイスラエルに臨む。　それは、イスラエル国民のはなはだしい悪のためだ。　１４神様、来て、あなたの国民を治めてください。　あなたの群れを養い、平和で豊かな生活を送らせてください。　昔のように、バシャンやギルアデの原野を、青々とした牧草で満たしてください。
１５神様はこうお答えになります。　「そうしよう。　エジプトで奴隷となっていたおまえを連れ出した時のように、驚くべき奇蹟を行なおう。　１６全世界は、わたしのするこ

とに度肝を抜かれ、自分たちの力など物の数ではないことを知って、おじまどう。　恐ろしさのあまり口もきけず、ただぼう然と立ち尽くして、何も耳に入らなくなる。」　１７彼らは、蛇や穴からはい出す虫けらのように、みじめにはいずり回っている自分に気づく。そして、私たちの神様にお会いするため、自分たちが築いたとりでから、震えながら出て来る。　彼らは神様を恐れかしこんで、立ち尽くす。
１８あなたのような神が、ほかにいるでしょうか。　神様はご自分の国民の中で生き残った者の罪を、赦してくださいます。　神様はあわれみを好み、いつまでも怒りを燃やしてはおられません。　１９もう一度、私たちにあわれみをかけてくださいます。　私たちの罪を踏みつけ、海の底に投げ込まれます。　２０ずっと以前、先祖ヤコブに約束なさったように、私たちを祝福してくださいます。　先祖アブラハムに約束なさったように、私たちを愛してくださいます。
▪

ナホムの預言
本書は、アッシリヤの首都ニネベ滅亡の預言です。　アッシリヤ人は紀元前七二二年にイスラエルを滅ぼしましたが、六一二年には、その高慢と残忍さのゆえに、自らが滅ぼされることになりました。 ナホムは、当時、地上の女王のように振る舞ったニネベに宣教し、滅亡の原因を生々しく語っています。　その原因とは、偶像礼拝、残忍性、殺人、偽り、裏切り、迷信、不正などです。　そこは血でいっぱいの町（三・一）で、そんな町が永続するはずはないのです。

一
１神様は、エルコシュに住むナホムに、ニネベ〔アッシリヤの首都〕に降りかかる運命について、次のような幻をお示しになりました。
２神様は、ねたむほどにご自分の国民を愛しておられる。　だから、その国民を痛めつける者どもに復讐する。　ご自分の国民の敵を、すさまじい勢いで滅ぼす。　３神様はなかなかお怒りにならないが、いったん怒りだすと、その勢いはものすごく、簡単にはおさまらない。　御力を、台風や暴風雨の中にお示しになり、渦まく雲も、御足の下でかき立てられる砂ぼこりのようなものだ。　４お命じになると、海も川も、かわいた砂地となる。バシャンとカルメルの青々とした草はしおれ、レバノンの緑の森も枯れ果てる。　５神様の前に出ると、山々は震えおののき、丘は溶けて流れだす。　大地はくずれ落ち、その住民は滅ぼされる。
６だれが、憤りに燃える神様の前に立てよう。　御怒りは燃えさかる火のようで、山々はその御怒りの前にころがり落ちる。
７神様は確かな方、悩みに襲われる時、身を寄せるべき場所だ。神様は、ご自分に信頼する者を、すべてご存じだ。　８しかし、あふれみなぎる洪水で、敵を一掃し、一夜のうちに追いやる。
９ニネベよ、神様に反抗しようと、何をもくろんでいるのか。　神様はおまえなど、ただの一撃で倒し、二度と立ち上がれないようにしておしまいになる。　１０からみついたいばらの塊を投げ込むように、ご自分に敵対する者を火に投げ込むのだ。　彼らはわらのように、あっという間に燃え尽きる。　１１このような神様に刃向かおうとするとは、おまえの王は、いったい何者か。　１２神様は、少しも恐れておられないぞ。　神様はこう宣言なさるのだ。　「何百万もの強力な軍隊を組織しても、むだだ。　ああ、わたしの国民よ。　おまえはもう十分に罰を受けた。　１３今、おまえの鎖を打ち砕き、アッシリヤ王の奴隷のくびきから解放しよう。」　１４それから、アッシリヤの王に宣告なさる。　「おまえの王朝はもう終わりだ。　息子たちは王位につけない。　わたしはおまえの拝む神々や神殿を打ちこわし、おまえを葬り去ろう。　鼻持ちならない罪の悪臭を放ったからだ。」
１５見よ。　うれしい知らせを伝える使者が、山から駆け降りて来る。　「侵入者は一掃された。　もう心配はない。」　ユダよ、さあ、感謝祭をするとふれ回り、誓ったとおり、

神様だけを礼拝せよ。　二度と、ニネベから敵が攻めて来ることはない。　彼らは永久に滅ぼされ、再びその姿を見ることもない。
二
１ニネベよ。　おまえの終わりが来た。　もうすでに敵に囲まれている。　警鐘を鳴らせ。城壁に人を配置し、守りを固め、全力を尽くして敵の侵入を見張れ。　２神様の国民の地は、おまえの攻撃で破壊され、めちゃめちゃにされてしまった。　だが、神様は、彼らの誉れと力とを回復してくださる。
３盾は太陽の光を受け、真っ赤に輝いている。　さあ、攻撃開始だ。　その緋色の軍服を見よ。　きらきら輝く戦車が横に並んで進んで来る。４おまえの戦車は、たいまつのような光を放ちながら、やみくもに通りを突っ走り、狂ったように広場を走り抜ける。　５王は家来を呼び集める。　彼らはあわてふためいてつまずきながら、防御柵を設けようと、城壁に向かって走る。　６だが、時すでに遅し。　水門は破られた。　ぞくぞくと敵が進入して来る。　宮殿はまさに上を下への大騒ぎだ。
７ニネベの女王は通りに引き出され、奴隷として連れ去られる。泣き悲しむ侍女たちもいっしょだ。　聞け、彼女たちが鳩のように泣く声と、悲しんで胸を打ちたたく音を。　８ニネベは水のもる水槽のようだ。　だれもかれも町を見捨てて、こっそり逃げ出す。　呼び戻すことはできない。　「止まれ。　戻れ」と叫んでも、振り向こうともせず、走って行く。
９「それ、銀を奪え！　金もだ！　財宝はいくらでもあるぞ！」山のような富も、無残にはぎ取られてしまう。　１０間もなく、ニネベの町は殺風景な修羅場と化す。　心は恐怖におののき、ひざの震えは止まらない。　人々はあっけにとられて立ちすくみ、真っ青になって震えている。
１１諸国の間でライオンのように振る舞い、闘志と大胆さをみなぎらせていた町、年老いて弱くなった者も、いたいけな子供も、不安なく暮らしていた町、あの偉大なニネベは、今、どこにあるのか。
１２ニネベよ、かつての勇猛なライオンよ。　おまえは妻子に食べさせるために、多くの敵を踏みつぶし、町と家を分捕り物や奴隷でいっぱいにした。
１３しかし、今、天の軍勢の主がおまえに立ち向かう。　おまえの武器は破壊され、戦車は使われないままひっそりと放置される。　りっぱな若者も死体となって横たわる。　もう、他国を征服して、奴隷を連れて来ることもない。　おまえは、二度と地上を支配できないのだ。
三
１流血の町、偽りに満ち、分捕り物で腹を満たした町ニネベは、のろわれよ。　２聞け、むちの音を。　戦車がニネベに向かって進んで来る。　車輪とひづめの音を響かせて、荒々しく通りを走り抜けて行く。　ああ、その音のすさまじいことよ。　３騎兵が高々と振りかざす剣と槍が、きらめいている。　死人が通りに転がっている。　どこもかしこも死体、

死体、死体の山だ。　人々はそれにつまずいて足がもつれ、どっと倒れる。
４こうなったのもみな、ニネベが神様に敵対したからだ。　見た目には美しいが不誠実な町は、魅惑の女王のように、その美しさで国々を惑わし、偽りの神々を拝めとそそのかした。
５天の軍勢の主はこうお語りになる。　「わたしがおまえに立ち向かうのは、当然のことだ。　今、おまえを裸にして、全世界におまえの恥をさらしてやる。　６おまえに汚物をかけ、おまえが実際どんなに卑しい者であるか、全世界に見せてやる。」　７おまえを見る者はみな、恐れてしりごみする。　「ニネベは完全に廃墟と化してしまった」と。　それなのに、おまえの運命を悲しむ者など、どこにもいない。　８おまえは、ナイル川の両岸にまたがり、四方を川で守られていたテーベ〔アッシリヤに征服された、エジプトの町〕よりも堅固だろうか。９エチオピヤとエジプト全土はテーベの力強い味方で、テーベはプテとリビヤのように、彼らからどんな援助でも求めることができた。　１０それでもテーベは陥落し、その住民は奴隷となって連れて行かれたのだ。　赤ん坊は、道路の石にたたきつけられるようにして殺された。高官たちも、くじ引きで兵士たちの奴隷にされた。　指導者はみな鎖につながれた。
１１ニネベも、酔っぱらいのようにふらつき、おびえて身を隠すようになる。　１２すべての要塞が陥落する。　木をゆすぶる人の口の中に落ちた、初なりのいちじくのように、食べられてしまう。　１３おまえの軍隊は女のように弱くて、頼りにならない。　国のすべての門は敵に広く開け放たれ、火で焼かれてしまう。　１４さあ、籠城に備えよ。　水をたくわえよ。　要塞を強固にせよ。　城壁を修理するために、れんがをたくさん用意せよ。　洞窟の中で粘土をこね、型につめるのだ。
１５しかし、その準備が終わらないうちに、火がおまえを焼き尽くす。剣がおまえを切り倒す。　食欲旺盛ないなごが、前にある物を手あたりしだい平らげてしまうように、敵がおまえを食い尽くす。　おまえはばったのように増え広がるが、滅びを逃れることはできない。　１６商人は星のように多く、巨万の富をこの町にもたらしたが、敵はいなごのように群がり、すべてを持ち去る。　１７王子や高官たちは、いなごが寒い季節に城壁に群がるように、たむろしている。　ところが、日がのぼり、地が暖まりだすと、そのいなごも姿を消すように、たちまち消え失せて、いなくなる。
１８アッシリヤの王よ。　おまえの息子たちは、死んでちりの中に横たわる。　おまえの国民は、山の向こうに散らされる。　彼らを集める牧者はいない。　１９おまえの傷は治らない。　あまりにも傷が深いからだ。　おまえの最期を聞く者はみな、手をたたいて喜ぶ。　だれもが、おまえの残虐な振る舞いに苦しんだからだ。
▪

ハバククの預言
ハバククは、紀元前五八七年にエルサレムが滅亡する直前の、ユダの最後の時代に活躍しました。　彼は降りかかる運命を思って、二つのことに悩みました。　すなわち、なぜ神様はユダの国を敵の手に渡すのか、また、なぜユダをその罪のために罰しながら、バビロンのような罪深い国の存在を許すのか、でした。　神様はハバククの疑問に答えて、幻の中でご自身をお示しになりました。　神様の存在についての新しい洞察から、ハバククは自分の不十分さを知り、その暗き時代に、何ものにも動かされない力をもって生き抜く勇気を与えられたのです。

一
１これは、幻のうちに、神様から預言者ハバククに示されたお告げです。
２神様、助けを求める私の祈りに、いつになったら耳を傾けてくださるのですか。　何のお答えもないので、私はむなしく叫ぶばかりです。　「助けてくれ、人殺しだ」といくら叫んでも、だれも助けに来てくれません。　３私を取り囲んでいる罪と悲惨を、いつまで見続けなければならないのですか。
どこもかしこも不正な権力と金力がはびこり、人は好んで議論や争いにふけっています。
４法は無視され、法廷では正しい裁きが行なわれません。　悪人が正しい人の上にのさばり、贈賄や詐欺が公然と行なわれているからです。
５神様はお答えになりました。　「よく見ろ。　わたしが今しようとしていることを知ったら、おまえは肝をつぶすだろう。　それは、おまえが生きているうちに起こる。　聞いただけでは、とても信じられないようなことだ。　６地上の新しい勢力として、カルデヤ人〔アッシリヤに対抗してバビロニヤ帝国を築いた民族〕を起こす。　残忍で横暴なこの国民は、世界を踏みにじり、次々と征服する。　７その残酷さは世に鳴り響く。　彼らは、やりたいほうだいのことをするが、だれも止めることができない。　８その馬は豹よりすばやく、国民の狂暴さは日暮れの狼もかなわないほどだ。　騎兵は、鷲が急降下して獲物に飛びかかるように、はるかかなたから得々と突き進んで来る。　９刃向かおうとした者もみな、その姿を見るなり、おびえて戦う気力を失う。　まるで砂でも集めるように、彼らは捕虜を集める。
１０彼らは王や王子をあざけり、要塞をも鼻であしらう。　城壁に向かっていとも簡単に土を積み上げ、それを占領してしまう。　１１風のようにさーっと襲い、すばやく引き揚げて行く。　だが、彼らの罪はとてつもなく重い。　その力は自分たちの神々から与えられた、と言いはるからだ。」
１２ああ、私の神様、聖なる永遠のお方よ。　私たちを地上から抹殺するために、このような計画をお立てになったのですか。　断じて違います。　ああ、私たちの岩である神様。
神様は、恐ろしい罪を犯した私たちを懲らしめ、正しい者にしようとして、カルデヤ人を起こされたのです。　１３私たちは確かに悪いのですが、彼らはもっと悪いのです。　ど

んな罪をも見のがさない神様は、私たちがのみ込まれてしまうのを、ただそばに突っ立って、見ておられるのですか。　極悪人どもが、彼らよりましな者を痛めつけるのを、黙って見過ごされるのですか。
１４私たちは、捕らえられて殺される魚にすぎないのですか。　敵から守ってくれる指導者がいないので、おずおずとはい回る虫けらにすぎないのですか。　１５彼らは楽しみながら、私たちをつり針でつり上げたり、網で捕らえてしまうのですか。　１６そうであるなら、彼らはその網を拝み、その前で香をたいて、「これが、われわれをこんなに豊かにしてくれた神々だ」と言うでしょう。
１７いつまでも、こんなことをさせておくのですか。　これからも、彼らは情け容赦なく戦い、勝ち抜いていくのでしょうか。
二
１見張り台に登り、神様が私の訴えにどう答えてくださるかを見ていると、　２神様はこうお語りになりました。　「板に、わたしの答えを書き記せ。　それを見る者がひと目でわかり、ほかの者にすぐ伝えられるように、大きな字で、はっきり書け。　３だが、わたしがしようとしていることは、今すぐには起こらない。　ゆっくりと、少しずつ、しかも確実に、実行に移される。　遅いように思えても、失望するな。　必ず計画どおりになるのだ。　忍耐して待て。　ただの一日も、遅れることはない。
４さあ、今から言うことをしっかり頭にたたき込め。　〔カルデヤ人がそうするように〕、悪者は自分だけを信頼し、ついには滅びる。　だが正しい人は、わたしに信頼することによって生きる。　５おごり高ぶったカルデヤ人は、自分たちのぶどう酒によって裏切られる。　ぶどう酒は人を欺くものだからだ。　彼らは貪欲で、まるで死や地獄のように、多くの国を自分のもとにかき集めても、なお飽き足らない。　６捕らえられた者たちが、そういう彼らを物笑いの種にする時がくる。　『強盗ども。　とうとう年貢の納め時がきたな。　人を苦しめたり、かすめたりした当然の報いを受けろ！』
７突然、おまえが借金していた者たちが、怒り狂って刃向かい、おまえの持ち物を奪い取る。　その時、おまえはなすすべもなく立ち尽くし、ただ震えている。　８おまえは多くの国を滅ぼした。　今度は、彼らがおまえを滅ぼす番だ。　人殺し。　おまえは、すべての町も田舎も、めちゃめちゃにしてしまった。
９不正な手段で富を得ながら、自分だけは災いから逃れようとしている。　そういうおまえは、のろわれよ！　１０自分が犯した殺人の罪で、自分の名をはずかしめ、いのちまで失うのだ。　１１まさに、おまえの家の石壁が、おまえを訴えている。　天井の梁までが、それに同調している。
１２流血と強奪で得た財貨で、町を築き上げようとしている。　そういうおまえは、のろわれよ！　１３わたしは、神に逆らう国民の利益を、彼らの手の中で灰にする。　彼らがどんなに精を出しても、すべてが水の泡だ。
１４海が水で満たされているように、全世界が神の栄光を知ることで満たされる時がくる。

１５まるで酔っぱらいをこづくように、近隣の国々をよろめかせ、その裸の姿を眺めて、楽しもうとしている。　そういうおまえは、のろわれよ。　１６やがて、おまえの全盛時代は終わり、はずかしめられる。　おまえこそ、神のさばきの杯を飲み干すがいい。　よろめいて倒れよ。　１７おまえはレバノンの森を切り倒した。　が、今度は、おまえが切り倒される番だ。　また、罠で捕らえた野獣をひどい目に会わせた。　が、今度は、おまえがひどい目に会わされる番だ。　至る所の町々で、殺人と暴虐をほしいままにした報いだ。
１８人間が作った偶像を拝んで、何の得があるのか。　そんな物が助けになるなど、うそっぱちもはなはだしい。　自分の手で作った物を信じるとは、なんてばか者だ。　１９いのちのない木の偶像に救いを求める者も、もの言わぬ石に教えを請う者も、のろわれよ。偶像は、神の代わりに語ることができるか。　金や銀で美しくおおわれてはいるが、その中にいのちはないのだ。」
２０しかし、神様は、ご自分の聖なる神殿におられる。　全地よ、その御前に静まれ。
三
１これは、ハバククが神様の前で歌い上げた、勝利の祈りです。
２神様。　今、私は、神様の評判を聞きました。　神様が行なおうとしておられる恐るべきことを知り、恐れをもって御前にひれ伏しています。　この困難な時代に直面している私たちを、以前のように助けてください。　神様の御力を示してください。　御怒りの中にも、あわれみを忘れないでください。
３見なさい。　神様がシナイ山から砂漠を横切って来られます。　神様の輝きが天地に満ちています。　栄光は天に満ち、神様への賛美が地にあふれています。　神様は、なんとすばらしいお方でしょう。
４御手からは、まばゆいばかりの光が放たれます。　神様は恐るべき御力を秘めておられます。　５ペスト菌が神様の前を進み、あとから、恐ろしい伝染病がぴったりとつき従います。　６神様はしばらくの間じっと立ち止まり、地上を見渡しておられます。　やがて国々を揺り動かし、今まで、びくともしないように見えた山々を打ち砕き、丘を平らになさるのです。　御力は変わることがありません。　７見なさい。　クシャンとミデヤンの人々は、恐れおののいています。
８９神様、川を打ち、海の水を左右に分けたのは、お怒りになったからですか。　それとも、川や海に不満をいだかれたからですか。　とんでもありません。　神様は救いの戦車を遣わされたのです。　すべての人が、はっきり御力を見たのです。　その時、神様がお命じになると、泉がわき出ました。　１０山々はそれを見て、震え上がりました。　激流がどっと押し寄せ、底知れぬ深い淵が降伏の叫びをあげました。　１１得意満面だった太陽や月も色を失い、神様の矢から発する輝きと、きらりと光る槍のひらめきとで、すっかりぼやけてしまいます。
１２神様は憤りに燃えて地を行き巡り、御怒りで国々を踏みつけてしまわれました。　１

３ご自分が選んだ民を救うために出て来て、悪者どもの頭をたたき割り、頭のてっぺんから足のつま先まで、その骨をさらしものになさいました。　１４イスラエルなど物の数ではないと、つむじ風のように押し寄せて来た者たちも、自らの武器で滅ぼされてしまいました。
１５神様の騎手たちは、海を渡って行進しました。　さかまく海は、せき止められたように高くもり上がったのです。　１６これを聞いて、私は震え上がり、歯ががくがくしています。　足もとがふらつき、ぶるぶる震えています。　それでも、私たちを襲った者たちに苦しみが襲いかかる日を、静かに待ちましょう。
１７いちじくの木が枯れて花も実もつけず、オリーブの木も実りがなく、畑が荒れたままになっても、また、羊の群れが野で死に絶え、家畜小屋がからっぽになっても、　１８私はなお、神様を信じて喜びます。　私を救ってくださる神様に感謝します。　１９神様は私の力です。　神様は私を鹿のように速く走れるようにし、山々を安全に越えさせてくださるのです。
（聖歌隊の指揮者へ。　この詩は弦楽器に合わせて歌うこと。）
▪

ゼパニヤの預言
ゼパニヤは､ユダが紀元前五八七年に滅ぼされる前の数十年間に活躍した預言者です。 ゼパニヤが宣教した時、ヨシヤ王はゼパニヤの預言で奮起し、六二一年には徹底的な改革を始めました。 しかし､これらの改革はあまりにも現実性に乏しく､遅きにすぎたのです。 人々はすぐ悪の道に逆戻りし、都はバビロン軍の侵入で滅びました。 ゼパニヤの警告はきびしい調子のもので、神様の公正なさばきに基づいていました。 ユダばかりか、ほかの周辺諸国も、自分たちの罪に対する神様のさばきを感じることになります。

一

１これは、ユダの王、アモンの子ヨシヤの治世に、神様からクシの子ゼパニヤに示されたお告げです。 クシはゲダルヤの子、ゲダルヤはアマルヤの子、アマルヤはヒゼキヤの子です。
２神様はこうお語りになる。 「わたしは、地にあるものを一掃し、徹底的に滅ぼす。 ３人も動物もだ。 悪者は滅び、人はみな消え去る。 空の鳥も海の魚も死に絶える。 ４こぶしでユダとエルサレムを打ち砕き、まだ生き残っているバアル神の礼拝者を断ち滅ぼす。 偶像に仕える祭司を抹殺し、彼らの記憶を完全に消し去ってしまおう。 ５彼らは屋上で、太陽や月や星を拝んでいる。『神様に従っている』と言いながら、モレク神をも拝んでいる。 わたしは、そんな彼らを滅ぼす。 ６以前はわたしを礼拝していたのに、今は拝んでいない者や、わたしを愛したことも、愛そうと思ったこともない者を、断ち滅ぼす。」
７静まって、神様の前に立て。 恐ろしい審判の日がくるからだ。神様はご自分の国民を虐殺する手はずを整え、死刑執行人を選んでおられる。 ８「審判の日に、わたしは、ユダの指導者と王子たち、それに異教の服を着た者をすべて罰する。 ９よいか、異教の習慣に従う者や、盗みや人殺しをほしいままにして、主人の家を暴力や詐欺の悪徳で満たす者を罰する。 １０警告の叫びが、エルサレムの中心から遠く離れた門からあがり、だんだん近づいて来る。 ついに、攻め寄せる軍勢の叫びが、町が建っている丘のてっぺんまで響き渡る。
１１エルサレムの住民よ、泣き悲しめ。 町の貪欲な商人、強欲な高利貸しは、一人残らず死ぬのだ。
１２わたしは、ともしびをかざして、エルサレムの暗いすみずみまで捜し回る。 罪にどっぷりつかりきり、神は自分たちをそっとしておいてくれると考え、関心を示さない者どもを見つけ出して、罰するのだ。 １３彼らの財産は奪われ、家は荒らされる。 彼らは自分が建てた新しい家に住むことができず、自分が植えたぶどう畑のぶどう酒を飲むこともできない。」
１４「その恐るべき日は近い。 急ぎ足でやって来る。 その日には、勇士たちも泣きくずれる。 １５それは神の怒りがぶちまけられる日、恐ろしい苦悩と苦痛の日、崩壊と滅

亡の日、暗やみと陰鬱、暗雲と暗黒の日だ。　１６ラッパが吹き鳴らされ、戦いの叫びがあがる。　そら、城壁で囲まれた町とその強固な塔がくずれ落ちる。
１７わたしはおまえたちを、手探りで道を捜し回る盲人のようにする。　神に罪を犯したからだ。　それで、おまえたちの血はちりのように振りまかれ、死体は地面に転がされたまま朽ち果てる。」
１８おまえたちの金も銀も、神様の怒りの日には役に立たない。　そんなもので罪を帳消しにはできない。　神様のねたみの炎が、全地をなめ尽くすからだ。　神様はユダの全国民を、たちまちのうちに滅ぼしてしまう。
二
１さあ、集まって祈れ、恥知らずの国民よ。　２審判が始まるまで、まだ時間がある。　残された機会はわずかだ。　もみがらのように吹き飛んでしまう。　さあ、神様の激しい怒りが襲いかからないうちに。恐るべき神様の怒りの日が臨まないうちに。　３謙そんに神様のおきてに従おうとしている者たちよ、さあ、神様に助けを請え。
謙そんになって、正しいことをせよ。　そうすれば、その運命の日に、守っていただけるかもしれない。
４ガザ、アシュケロン、アシュドデ、エクロン、これらのペリシテ人の町も、根こそぎにされ、荒れ果てたままにされる。　５地中海沿岸とカナンの地に住むペリシテ人は、のろわれよ。　審判はおまえたちにも向けられているからだ。　神様はおまえたちを、一人残らず滅ぼしてしまわれる。　６海岸地帯は牧草地となり、羊飼いがテントを張り、羊がたわむれるようになる。
７そこでは、わずかに生き残ったユダ部族が、家畜を放牧する。　彼らは、住む者もなくなったアシュケロンの家に、身を横たえて休む。神様が、ご自分の国民を親しく訪れ、元どおり繁栄させてくださるからだ。
８９イスラエルの神様である、天の軍勢の主はお語りになる。　「わたしは、モアブ人とアモン人がわたしの国民をあざけり、この地を侵略したことを知っている。　わたしは生きている。　モアブもアモンも、ソドムとゴモラのように滅ぼされ、とげのあるいら草が茂る所、塩の穴、永久に人の住まない地となる。　生き残ったわたしの国民が、そこを奪って、自分のものにする。」　１０彼らは思い上がり、全世界を支配する神様の国民をあざけったので、報いを受けるのだ。　１１神様は彼らをひどい目に会わせ、世界の列強の神々をことごとく餓死させる。　全世界の人々はみな、自分の住む地で、神様を礼拝するようになる。
１２エチオピヤ人よ。　おまえたちも神様の剣で切り倒される。　１３北の地も同様だ。
神様はアッシリヤを滅ぼし、その壮大な首都ニネベ〔周囲百キロの大城郭都市だったが、完全に破壊された〕を、荒野のような不毛の地にする。　１４あの隆盛を誇っていた町が、羊の牧草地となり、あらゆる野獣が住みつくようになるのだ。　針ねずみは巣穴を掘り、はげたかやふくろうは宮殿の廃墟に住み、破れた窓で鳴いている。　からすは扉のところ

で鳴いている。　高価な杉の羽目板も、風雨にさらされたままだ。
１５これが、「世界中で、これほどすばらしい都市はない」と言って、安らかに暮らしていた、あの繁栄をきわめた大都会の運命だ。　さあ、見よ。　その大都会が荒れ果て、動物の住みかとなってしまった。　そこを通る者はみなあざけり、とても信じられないといった顔で首を振る。
三
１ああ、罪と汚れに満ちたエルサレム。　ああ、暴力と犯罪の町。　２おごり高ぶって、神様の声に耳を貸そうとしない。　だれが忠告してもむだだ。　あらゆる懲らしめを拒んでいるからだ。　神様に信頼せず、求めようともしないのだ。
３指導者は､獲物を求めてほえたけるライオンのようだ。 手に入れることができるなら、たとい何であっても出かけて行く。　裁判官は、まるで日暮れの飢えた狼のようだ。　明け方には、もう食い尽くして、なに食わぬ顔をしている。
４預言者はうそつきで、自分の利得しか考えない。　祭司は神様のおきてに背いて、神殿を汚している。
５しかし、神様はそんな町におられても、不正を行なわない。　日に日に神様の正しさが明らかになる。　ところが、だれ一人そのことを気にも留めない。　全く恥知らずな悪人どもだ。
６「わたしは多くの国を切り捨て、その全領地を荒廃させた。　通りは荒れ果てて静まり返り、町には住む人もない。　昔の繁栄をしのばせるものは何もない。　７わたしは思った。　『今度こそ、彼らはわたしの言うことを聞くだろう。　わたしの警告に耳を傾けるから、二度と、懲らしめることもあるまい』と。　ところが、そうではなかった。　どんなに罰しても、朝から晩まで、いや夕方から明け方まで、悪事を犯し続けている。」　８それでも、神様はこうお語りになる。「もう少しのがまんだ。 悪に染まった国々の罪を告発するために､わたしが立ち上がる時が､すぐに来る。 わたしは地上の国々を一つに集め、激しい怒りと憤りを下すことにしている。　全地は、わたしのねたみの炎で焼き尽くされてしまう。
９その時、諸国民はきよいことを語り、全員が共に神を礼拝するようになる。　１０エチオピヤの川のはるか向こうに住んでいる人々も、贈り物を携えて来て、もう一度彼らの神になってくれるよう、わたしに願い出る。　１１その時おまえたちは、もうわたしに反逆しないので、恥じ入ることもない。　おまえたちの中から、高ぶっている横柄な連中を取り除く。　わたしの聖なる山には、おごり高ぶる者は一人もいなくなる。　１２生き残った人々は、心から謙そんになって、わたしの名に信頼する。　１３罪を犯さず、偽りを言わず、欺くこともない。　静かで平和な生活を送り、安らかに眠りにつく。　だれにも脅かされることがない。」
１４シオン（エルサレム）の娘よ、歌え。　イスラエルよ、叫べ。　エルサレムの娘よ、心の底から喜び楽しめ。　１５神様はあなたを罰する手を引っ込め、あなたの敵を追い散

らすからだ。　イスラエルの王である神様が、あなたのうちに住まわれる。　ついに、あなたの苦しみは終わる。　もう恐れることはない。
１６その日、エルサレムに告げ知らされる。　「さあ、元気を出せ。　恐れるな。　１７
１８神様が、あなたのうちに住むために来られた。　神様は力ある救い主で、あなたに勝利をお与えになる。　あなたのことをことのほか喜び、非常に満足なさる。　あなたを愛して、責めるようなことはなさらない。」　ほら、聞こえてくるのは、喜びにあふれた聖歌隊の歌声であろうか。　いや、あれは神様が、あなたがたのことで、喜びいっぱいに歌っておられる声だ。
「わたしは傷ついた者を集め、おまえの恥をすすごう。　１９また、おまえを圧迫した者には、断固たる態度で臨もう。　寄るべのない弱い者を助け、追い散らされた者を集めよう。　捕囚としてあざけられ、はずかしめを受けた国民に、誉れを与えよう。
２０その時、わたしはおまえを呼び集め、家に連れ戻そう。　そして、全世界の国民の間で抜きん出た、りっぱな称号を授けよう。　おまえの目の前で、おまえを元どおり繁栄させる時、彼らはおまえを称賛するようになる。」　このように、神様がお語りになるのだ。
▪

ハガイの預言
ハガイはゼカリヤと同時代の人で、捕囚から帰って来た人々に対して神様から遣わされ、彼らを励まして神殿再建計画を完了させました。　彼は特に、指導者である総督ゼルバベルと祭司ヨシュアの二人に語りました。　本書には、その工事の進行を早めるための、五つの預言的説教があります。　説教はすばらしい結果をもたらし、神殿は紀元前五一六年に再び奉献されました。

一
１これは、ダリヨス一世の治世の第二年の八月下旬に、預言者ハガイに示された、神様からのお告げです。　ハガイはそれを、シェアルティエルの子でユダの総督ゼルバベルと、エホツァダクの子の大祭司ヨシュアとに伝えました。　この二人へのお告げだったからです。
２「なぜ、今は神殿を再建する時期ではないと、だれもが言うのか」と、神様はお尋ねになります。
３４神様のお答えはこうです。　「神殿が荒れ果てたままなのに、おまえたちだけが、ぜいたくな家に住むべき時だろうか。　５その結果はどうか。　６いくら種をまいても、ほんのわずかしか収穫がない。　飲み食いにも事欠き、寒さを防ぐ衣服もない有様ではないか。　収入は、まるで底のぬけたポケットに入れるように、すぐなくなってしまう。」
７天の軍勢の主はこうお語りになります。「自分たちがどんなことをしてきたか、また、その結果どうなったかをよく考えよ。　８さあ、山に登り、材木を切り出し、神殿を再建せよ。　わたしは喜んで受け入れ、わたしの栄光をそこに現わそう。
９おまえたちは多くを望んでも、少ししか得られない。　それを家に持ち帰っても、わたしが吹き飛ばす。　結局、なくなってしまうのだ。　なぜか。　神殿が廃墟のままなのに、心にもかけないからだ。 わが家をよくすることばかりに気を配っている。 １０だから、わたしは雨を降らせず、わずかな収穫しか与えない。　１１平地にも高地にも、ひどい日照りをもたらす。　麦も、ぶどうも、オリーブも、他の穀物も、みな干からび、人も家畜も飢えに苦しむ。　いくら仕事に精を出しても、すべては水の泡だ。」
１２すると、シェアルティエルの子でユダの総督ゼルバベルと、エホツァダクの子の大祭司ヨシュアと、この地に残ったわずかな国民は、神様がハガイに示したお告げに従いました。　真剣に、神様を礼拝するようになったのです。
１３そのとき神様は再び、神様の使いであるハガイによって、彼らにお語りになりました。「わたしはおまえたちと共にいて祝福する。」　１４１５こうして、神様が神殿再建の願いを起こさせたので、彼らはみなダリヨス王の治世の第二年の九月上旬に集まり、進んでその仕事に取りかかりました。
二
１その年の十月上旬に、神様は次のようなお告げを彼らに伝えるよう、ハガイに命じまし

た。
２総督と大祭司、およびこの地に残っているすべての者に、こう尋ねよ。
３「おまえたちの中に、前にあった神殿を覚えている者がいるか。　それは栄光に輝く神殿であった。　それに比べると、今は、まるで無に等しいではないか。　４だが、勇気を出せ、ゼルバベルよ、ヨシュアよ、全国民よ。　元気を出して働け。　天の軍勢の主がこうお語りになる。　『わたしはおまえたちと共にいる。　５エジプトを脱出した時、わたしの霊がおまえたちにとどまる、と約束したとおりだ。だから、恐れるな。』
６天の軍勢の主はこうお語りになるのだ。　『しばらくして、わたしは天と地を、また海と陸を揺り動かす。　７すべての国をも揺り動かす。　すべての国の待ち望む方〔メシヤ〕が、この神殿に来て、ここをわたしの栄光で満たす。　８９この神殿の未来の栄光は、最初の神殿の輝きにまさるものとなる。　それに必要な金銀は、わたしが山ほど持っているからだ。　わたしは、ここに平和をもたらす。』」
１０ダリヨス王の治世の第二年の十二月上旬に、次のような神様からのお告げが、預言者ハガイによって示されました。
１１祭司たちに、おきてのことで次のように尋ねよ。　１２「おまえたちのうちだれかが、神聖ないけにえを着物に入れて運んでいて、着物がパンかぶどう酒か肉に触れたら、触れたものは聖なるものとなるか。」
祭司は答えました。　「いや、そんなことで聖なるものにはならない。」
１３ハガイは続けて尋ねました。　「だれかが死体に触れるなら、礼拝規則上は汚れる。では、その人が何かに触れると、それも汚れるのか。」
「そのとおりだ。」
１４そこでハガイは、神様のために、もっとはっきり言いました。「おまえたちはみな、身勝手な態度をとり、良からぬ思いで日を過ごし、自分がささげるいけにえを汚している。いや、いけにえだけではない。　わたしに対する務めまでも汚している。　１５それで、することなすことが、うまくいかなかったのだ。　だが、今からは違う。　神殿を建て始めたからだ。　１６１７これまでは、二十束の麦の収穫を期待しても、半分の十束しかなかった。　五十桶分のオリーブ油を絞ろうとしても、わずか二十桶分しか絞れなかった。立ち枯れ病と黒穂病と雹とをもって、おまえたちの労働に報いたからだ。　それでも、わたしのもとに帰ろうとしなかった。」　このように、神様がお語りになるのだ。
１８１９「だが今は、このことを心に留めよ。　きょう十二月八日、すなわち、神殿の土台が据えられた日から、わたしはおまえたちを祝福しよう。　よいか。　おまえたちが神殿の再建に取りかかる前に、また穀物を刈り入れる前に、ぶどう、いちじく、ざくろ、オリーブが実を結ぶ前に、このことをはっきり約束しておく。　この日から、おまえたちを祝福する。」
２０同じ日に、別のお告げがハガイに示されました。
２１ユダの総督ゼルバベルに告げよ。「わたしは天と地を揺り動かそうとしている。　２

２また、もろもろの王座をくつがえし、もろもろの王国の力を滅ぼそうとしている。　その兵力は砕かれ、彼らは同士討ちで自滅する。　２３そのことが起こったら、わたしのしもベゼルバベルよ、おまえを登用しよう。　おまえは、わたしの指にはめた印章つきの指輪のようになる。　わたしが特別に選んで、誉れを授けたからだ。」　このように、天の軍勢の主がお語りになるのだ。

▪

ゼカリヤの預言
ゼカリヤはハガイと同時代に活躍した預言者で、捕囚から帰った人々に対して遣わされました。　彼は、恐れず神様に仕えるよう、人々を励ましました。　本書は一連の八つの幻で始まります。　非常に絵画的な描写のうちに、神様の威力、種々の出来事を神様が支配されること、霊的な力の重要性、罪に対する神様のさばき、壮大な将来についての約束などが語られています。　次に、特定の時期を指さない預言が続き、一般的な励ましと来たるべきさばきのことが記されます。　本書の最も重要な部分は、キリストの到来に関する預言です。

一
１これは、ダリヨス王の治世の第二年の十一月上旬に、ベレクヤの子で、祭司イドの孫にあたるゼカリヤに、神様から示されたお告げです。
２天の軍勢の主であるわたしは、おまえたちの先祖に激しい怒りを燃やした。　３だが、おまえたちがわたしのもとに帰るなら、わたしもおまえたちのもとに帰り、恵みを与えよう。　４先祖たちのようであってはならない。　先の預言者たちは、先祖伝来の悪の道から離れるように訴え続けてきたが、むだ骨に終わった。
「さあ、わたしのもとに帰れ」と語ったのに、いっこうに聞こうとせず、馬耳東風だった。
５６先祖も預言者も、とうの昔に死んでしまった。　だが、彼らが身をもってあかしした、「神のことばは永遠に保つ」という真理を忘れるな。　神のことばは彼らに迫り、彼らを罰した。　それで、ようやく悔い改めた。
その時、彼らは言った。　「当然の報いを受けたのです。　神様は警告どおりのことをなさいました。」
７それから三か月後の二月に、神様から別のお告げが、夜の幻のうちにゼカリヤに示されました。　８私は、川岸のミルトスの木の間に、一人の人が赤い馬にまたがっているのを見ました。　そのうしろに、赤、栗毛、白い馬が続き、それぞれ人が乗っています。
９一人の御使いがそばに立っていたので、「この馬は何ですか」と尋ねました。
「話してあげよう」と彼は返事をしました。
１０そして、赤い馬に乗っていた人が答えました。　その人は、実は神様の御使いだったのです。　「神様が地上を巡回させておられるのだ。」
１１ほかの乗り手が、その神様の御使いに報告しました。　「世界中を巡回したところ、どこもかしこも、繁栄と平和を楽しんでいます。」
１２これを聞いて、神様の御使いは祈りました。　「ああ、天の軍勢の主よ。　七十年の間、あなたの怒りはエルサレムとユダの町々に荒れ狂いました。　いつまで待ったら、もう一度あわれみを施してくださるのでしょうか。」
１３神様は、私のそばに立っていた御使いに、慰めと確信に満ちたことばでお答えになりました。

１４そこで、御使いはこう私に命じたのです。　「天の軍勢の主から示されたお告げを、大声で告げよ。　ユダとエルサレムに起こったことに、わたしが無関心でいるとでも思うのか。　夫が、捕囚として連れ去られた妻を思うように、わたしも彼らのことを思っている。　１５安逸をむさぼっている異教の国々に、激しい怒りを燃やしている。　わたしはほんのちょっと自分の国民に腹を立てただけなのに、その国々は、彼らを、わたしが考えていたよりもずっとひどい目に会わせたからだ。　１６だから、神様はこう宣言なさる。わたしはエルサレムに帰り、そこをあわれみで満たそう。　神殿は再建され、エルサレム全市が建て直される。　天の軍勢の主が、こうお語りになるのだ。　１７もう一度、大声で言え。　天の軍勢の主は、イスラエルの町々が再び栄え、主ご自身が再びエルサレムを慰め、祝福し、そこに住む、と宣言しておられる。」
１８それから私は、動物の四本の角を見ました。
１９私はあの御使いに、「あれは何ですか」と尋ねました。
「ユダとイスラエルとエルサレムを追い散らした世界の四大列強を表わしている。」
２０そのとき神様は、四人の鍛冶屋を見せてくださいました。
２１私は、「この人たちは、何をしに来たのですか」と尋ねました。
御使いが答えました。　「ユダを散り散りにさせた四本の角をつかまえ、かな床で打ち砕き、放り出すために来たのだ。」
二
１もう一度あたりを見回すと、一人の人が手に物差しを持っているのが見えました。
２「どちらへ？」
「エルサレムを測りに。　全住民を入れる大きさがあるかどうか、調べたいからだ。」
３私と話していた御使いが出て行くと、もう一人の御使いが彼に近づき、　４こう言いました。　「さあ、この若者に、いつの日かエルサレムは人であふれ、狭すぎるようになる、と告げよ。　この町の城壁の外で、多くの人がたくさんの家畜といっしょに住むようになる。　それでも別に心配はない。　５神様が、彼らとエルサレム全市を守る火の城壁となってくださるからだ。　神様はエルサレムの栄光となる。
６７『さあ、北の国バビロンから逃げよ。』　神様はバビロンへ連れて行かれた者にこうお命じになる。　『わたしは、おまえたちを風のように散らした。　だが、もう一度つれ帰る。　さあ、そこを出て、シオン（エルサレム）に逃れよ。
８栄光の神様は、おまえたちを虐待した国々に、私をお遣わしになった。　おまえたちを害するのは、神様のひとみに指を突き刺すも同然だからだ。
９わたしは、こぶしで彼らを打ちのめす。　彼らの奴隷が彼らの支配者となる。　その時おまえたちは、私を遣わした方が天の軍勢の主であることを知る。　１０エルサレムよ、喜び歌え。　わたしが来て、共に住むからだ。』　神様がこうお語りになるのだ。　１１１２『そのとき、多くの国はわたしに心を向け、わたしの国民となる。　わたしは彼らすべてと共に住む。』　その時おまえたちは、私を遣わした方が天の軍勢の主であることを知る。

ユダは、聖なる地で神の相続人となる。神様がもう一度エルサレムを選んで、祝福なさるからだ。
１３すべての人よ、神様の前で静まれ。　神様が、その聖なる住まいである天から下って来られるからだ。」
三
１それから、神様は〔幻の中で〕私に、神様の御使いの前に立っている大祭司ヨシュアを見せてくれました。　そしてサタンも、ヨシュアを訴えようと、神様の御使いの右手に立っていました。
２神様はサタンに言いました。　「サタンよ、おまえの訴えは退ける。　そうだ、エルサレムを助けることに決めたので、おまえをしかりつける。　ヨシュアとその国民を助けることにした。　彼らは、火の中から取り出した燃えさしのようなものだ。」
３神様の御使いの前に立った時、ヨシュアの衣服はひどく汚れていました。
４それで、神様の御使いはそこに立っている者たちに、「汚れた服を脱がせなさい」と命じました。　それからヨシュアの方を向いて、「さあ、あなたの罪を取り去った。　今、このりっぱな新しい服を着せてあげよう」と言いました。
５６私が「どうぞ、きれいなターバンも」とお願いすると、そのとおりにしてくださいました。
それから、神様の御使いはおごそかな調子でヨシュアに語りかけました。　７「天の軍勢の主は、こう宣言なさる。　『わたしがおまえのために用意した道を歩み、わたしが命じる事をもれなく守るなら、神殿を管理させよう。　それを聖く保て。　そうすれば、この御使いたちと同じように、いつでも神殿に出入りして、わたしに会うことができる。　８聞け、大祭司ヨシュアとほかの祭司たちよ。　おまえたちは、やがて起こる良いことのしるしだ。　わからないのか。　ヨシュアは、わたしが遣わす枝〔メシヤ〕、わたしのしもべを代表している。　９彼は、ヨシュアがそのかたわらに立っている神殿の礎石となるのだ。わたしはその上に七回、『わたしは、たった一日で、この地の罪を取り去る』と彫りつける。
１０天の軍勢の主はこう宣言なさる。　『その日ののち、おまえたちは安らかに栄えた生活をし、それぞれ自分の家を持ち、隣人を招くようになる。』」
四
１それから、私と話していた御使いが、眠っている人を起こすように私を呼び起こしました。
２「いま何が見えるか。」
「七つのともしび皿がついた金の燭台です。　てっぺんにオリーブ油のつぼがあり、七本の管で、それぞれの皿に油が流れ込むしかけになっています。　３また、燭台の油つぼの両側に、オリーブの木が一本ずつ彫りつけてあるのが見えます。　４いったい、どういうことでしょう。　意味がわかりません。」
５「えっ？　ほんとうに知らないのか。」

「はい。」
６「これは、ゼルバベル〔ユダの総督で、神殿再建の責任者〕への神様のお告げだ。　天の軍勢の主がお語りになる。『これは、能力によるのでも、権勢によるのでもない。　わたしの霊によるのだ。　おまえたちは数も少なく、弱いが、わたしの霊によってやり遂げることができる。』　７だから、どんなに高い山も、ゼルバベルの前に立ちはだかることはできない。　みんな平らにされてしまうからだ。　こうしてゼルバベルは、神殿を建て上げ、神様の助けを感謝しながら、すべてが神様の恵みによって行なわれたことを、力強く宣言するようになる。」
８私は神様から別のお告げを示されました。
９「ゼルバベルは神殿の土台を据えたが、さらにそれを完成させる。　その時おまえたちは、これが天の軍勢の主である神からのお告げであったことを知る。　１０この小さな始まりを軽んじるな。　わたしはその仕事が始まり、ゼルバベルの手で測られるのを自分の目で見て、とても喜んでいる。　七つのともしびは、世界をくまなく見渡す主の目を表わすのだ。」
１１それから私は、燭台の両側にある二本のオリーブの木と、　１２油を金の鉢に注ぐ管となっている二本の枝のことを、尋ねました。
１３「それも知らないのか。」
「はい。」
１４「それは、全世界を治める神様を助けるために選ばれた、二人の油を注がれた人を表わすのだ。」
五
１また目を上げると、空中を飛んでいる巻物が見えました。
２「何が見えるか。」
「飛んでる巻物です。　長さが十メートル、幅が五メートルほどもあるでしょうか。」
３「巻物は、全地に及ぶ神様ののろいのことばを示している。　盗みをしたり、うそをついたりする者はみな裁かれ、死刑の宣告を受ける、と書いてある。」
４天の軍勢の主はこうお語りになります。　「わたしは、すべての盗人の家と、わたしの名によって偽りの誓いをしたすべての者とに、のろいを送る。　のろいはその家にとどまり、徹底的に滅ぼす。」
５御使いは、しばらく私を置き去りにしていましたが、また戻って来て、こう言いました。
「上を見よ。　何かが空中に漂っている。」
６「何ですか、あれは。」
「全地にはびこる罪を入れた大きなかごだ。」
７と、突然、かごの重い鉛のふたが開きました。　なんと、その中に一人の女が座っているではありませんか。
８御使いは、「この女は罪悪を表わしているのだ」と言いながら、女を押し込め、重いふた

をしっかりかぶせてしまいました。
９続けて見ていると、こうのとりのような翼を生やした二人の女が、こちらに飛んで来るではありませんか。　二人はかごを持つと、空高く舞い上がりました。
１０「かごの中の女を、どこへ連れて行くのですか。」
１１「女の古巣のバビロン〔偶像礼拝と罪に満ちた世界の象徴〕だ。　そこにずっととどまることになろう。」
六
１それから、また見上げると、二つの青銅の山のように見えるものの間から、四台の戦車が出て来ました。　２初めの戦車は赤い馬が、次のは黒い馬が、　３三番目のは白い馬が、四番目のはまだらのねずみ色の馬が引いています。
４「これは、どういうことですか。」
５「全世界を治める神様の前に立つ、四つの霊だ。　それぞれの務めを果たしに天から出て行くところだ。　６黒い馬が引く戦車は北へ行き、白い馬のがあとに従う。　まだらのねずみ色の馬が引く戦車は南だ。」
７馬は、地を駆け巡るために出かけたがっていました。　そこで神様が、「行って、地を巡回せよ」と命じると、すぐさま出て行きました。
８その時、神様は私を呼んで、こうお語りになりました。　「北へ行った戦車は、わたしの判決を執行し、その地へのわたしの怒りを静める。」
９神様はまた、別のお告げを下さいました。
１０１１「ヘルダイとトビヤとエダヤは、バビロンで捕囚の身となっているユダヤ人からの贈り物として、金や銀を持って来る。　一行が着いたその日に、ゼパニヤの子ヨシヤの家で出迎えよ。　そこに彼らは滞在することになる。　贈り物を受け取り、金と銀で冠を作れ。　冠はエホツァダクの子の大祭司ヨシュアにかぶせる。　１２天の軍勢の主は、彼にお語りになる。　『おまえは、やがて来る人を表わすしるしだ。　その人は「枝」と呼ばれ、自力で成長し、神の神殿を建てる。　１３さらに王の称号を受ける。　彼は王として、また祭司として世を治め、二つの務めをみごとに調和させる。』
１４それから、ささげ物をしたヘルダイ、トビヤ、エダヤと、ヨシヤとの栄誉のために、神殿にその冠を安置せよ。　１５遠い地から来た三人は、神殿を再建するために、いつか遠い地から来る人々を表わしている。　そのことが起こる時、おまえたちは、このお告げが天の軍勢の主である神からのものであったことを知る。　だが、神のおきてに心から従わないなら、このようなことは起こらない。」
七
１ダリヨス王の治世の第四年の十一月下旬に、新しいお告げがありました。
２ベテルの町のユダヤ人は、王の行政長官サル・エツェルおよびレゲム・メレクの率いる使節団を、エルサレムの神殿に遣わしました。それは、神様の祝福を求めるためと、　３毎年八月に断食をして嘆くことにしてきた、伝統的行事を続けるべきかどうか、祭司や預

言者に尋ねるためでした。
４神様は次のようにお答えになりました。
５「ベテルへ帰って、全住民と祭司たちに言え。　『捕囚の七十年間、おまえたちは八月と十月に断食し、嘆きの時を過ごしていた。　だが、本気で罪を悲しみ、罪から離れて、わたしに帰ろうとしたか。　全然、そんなことはなかった。　６そして今、この聖なる祭日にさえ、わたしのことなど考えもせず、食べ物のことや仲間同士の交わりや、楽しみのことばかり考えている。　７はるか昔、エルサレムが栄え、その南方にも平地づたいに町々が連なり、人が大ぜい住んでいたころ、預言者が警告していたのは、このような状態のままでは滅びを免れないということだった。』」
８９続いて、神様からゼカリヤに、次のようなお告げがありました。「彼らにこう言え。誠実で公平に振る舞え。　賄賂を取るな。　だれに対しても情け深く、親切にせよ。　１０また、未亡人や孤児、外国人や貧乏人をいじめることをやめ、互いに悪をたくらむな。１１おまえたちの先祖は、このことに耳を貸そうともしなかった。　強情に顔をそむけ、わたしのことばを聞くまいと、指で耳の穴にせんをした。　１２火打ち石のように心を堅くして、天の軍勢の主である神が命じたことば、主の霊によって、預言者たちをとおして示されたおきてを聞こうとしなかった。　だから、あんな激しい神の怒りが下ったのだ。１３わたしが呼びかけても、聞こうとしなかった。　それで、わたしに助けを求めて泣き叫んだ時、顔をそむけてやったのだ。　１４彼らを、はるかかなたの国々に、つむじ風で吹き飛ばすようにまき散らした。彼らの地は荒れ果て、通る者もいなくなった。　あの慕わしい地が、すっかり荒れ果てて、不毛の地となってしまった。」
八
１再び神様のお告げがありました。
２「天の軍勢の主はこうお語りになります。　わたしの心は穏やかではない。　それどころか、敵がエルサレムに行なったすべてのことを、腹にすえかねている。　３今、自分の地に帰り、自分から進んでエルサレムに住もう。　エルサレムは、『真実の町』『聖なる山』『天の軍勢の主の山』と呼ばれるようになる。」
４天の軍勢の主はこうお語りになります。「エルサレムには平和と繁栄が長く続くので、また、老人たちが杖をついて通りをゆっくり歩き、　５子供も道いっぱいに遊びたわむれるようになる。」
６神様はお語りになります。　「こんなことは、とても信じられないだろう。　おまえたちは、わずかばかりの生き残りで、おまけに落胆しているのだから。　だが、このわたしには、何でもないことなのだ。　７たといどこに散らされていても、自分の国民を、西からでも東からでも救い出す。　そのことを確信するがよい。　８彼らを故郷に連れ帰り、安心してエルサレムに住まわせる。　彼らはわたしの国民となり、わたしは公平と真実をもって彼らの神となる。　そして、彼らの罪も赦される。」
９天の軍勢の主はこうお語りになります。　「さあ、工事を続け、完成させよ。　もう耳

にたこができるほど、聞いたことだ。　神殿の基礎工事が始まって以来、預言者たちは口をすっぱくして、完成のあかつきには祝福が待っている、と言い続けているのだから。　１０工事が始まる前には、仕事も収入もなく、安全も保証されていなかった。　町を出たら、戻れる保証はなかった。　悪がはびこっていたからだ。
１１だが今は、すべてが変わった。　１２おまえたちの間に平和と繁栄の種をまいているからだ。　穀物の収穫は増え、ぶどうの枝は実の重みでたれさがる。　雨に恵まれて、土地は豊かになる。　この地に残った人々に、この祝福がすべて与えられる。　１３『ユダのように貧しくなるがいい。』　人をのろう時、外国人はそう言った。　だが、それもこれまでだ。　今からは、ユダはのろいのことばではなく、祝福のことばとなる。　人々は、『ユダのように栄え、しあわせであるように』と言うだろう。　だから、恐れるな。　気落ちするな。　神殿再建の工事を続けよ。　１４１５そうすれば、必ずおまえたちを祝福する。　わたしが心変わりするかもしれないなどと、思ってもみるな。　おまえたちの先祖がわたしを怒らせた時、わたしは必ず罰すると約束し、そのとおり実行した。　だから、おまえたちを祝福するというこの約束も変えることはしない。　１６これがおまえたちの果たすべき役割だ。　真実を語り、だれに対しても公平であれ。　すべての人と仲良く、平和に暮らせ。　１７人を傷つけることをたくらむな。　ほんとうではないのに、ほんとうだと誓ったりするな。　わたしは、そんなことに我慢がならないのだ。」
１８また、次のような新しいお告げが、天の軍勢の主から示されました。
１９「これまで七月、八月、十月、一月に、伝統的に守られてきた断食と嘆きの行事も、もう終わりだ。　おまえたちが真実と平和を愛するなら、それは、喜びの例祭に変わる。
２０２１人々が、世界中から巡礼に出かけ、この例祭に参加しようと、外国の町々からエルサレムへ押しかける。　人々は、他の町にいる親しい者を手紙で誘う。　『神様の祝福とあわれみを求めて、エルサレムへ行きましょう。　私も行きます。　さあ、すぐいっしょに行きましょう。』　２２そうだ。　多くの人が、強い国々からも、祝福と助けを求めて、エルサレムにいる天の軍勢の主のもとに来る。　２３その時には、それぞれ異なる国から来た十人の者が、一人のユダヤ人の上着のそでをしっかりつかみ、『どうか、友だちになってください。　知ってますよ。　神様があなたがたと共におられることをね』と頼むようになる。」
九
１このお告げは、ハデラクとダマスコの地に対する、神様ののろいに関するものです。　神様はイスラエルだけでなく、全人類をくまなく見回しておられるからです。
２「ダマスコに近いハマテにも、抜け目のないツロやシドンにも、のろいが宣告される。
３ツロは自分のために完全武装し、大金持ちになり、銀や純金を掃いて捨てるほど持っている。　４だが、わたしはツロの所有権を取り上げ、とりでを海に投げ込んでしまう。　ツロは火をつけられ、完全に焼け落ちる。
５アシュケロンは、これを見て恐れに取りつかれる。　ガザは絶望に打ちのめされ、エク

ロンも恐怖で震えが止まらない。　ツロが敵の侵入を防いでくれると思っていたのに、その頼みの綱が断たれてしまったからだ。　ガザは征服されて王が殺され、アシュケロンは徹底的に破壊される。
６外国人が、繁栄を誇るペリシテ人の町アシュドデの富を奪う。　７わたしは、その口から偶像にささげたものを引っぱり出し、その歯の間から血といっしょに食べたいけにえを引き出す。　生き残った者はみな、神を礼拝し、イスラエル人の新しい一族となる。　エクロンのペリシテ人は、昔のエブス人のように、ユダヤ人と結婚する。　８わたしは、侵入する敵軍を防ぐ見張りのように、神殿の周囲を守る。　ペリシテ人の動きを注意して見張り、一歩も近づかせない。　もう二度と、外国の支配者がわたしの国民の地を襲うことはない。
９さあ、わたしの国民よ、躍り上がって喜べ。　歓声をあげよ。　さあ、おまえたちの王が来る。　その王は正しく、いつも勝利を収める。　しかも、謙そんで、ろばの子に乗って来る。　１０わたしは、わたしの国民イスラエルも含めて、全世界の国民の武装を解除する。　この王は諸国に平和をもたらす。　その領土は海から海へ、ユーフラテス川から地の果てにまで及ぶ。　１１わたしはおまえを、水のない穴から助け出す。　血でサインした、おまえとの契約を守るためだ。　１２捕らわれの身である者よ。　さあ、安全な場所へ行け。 まだ希望がある。 おまえが味わった苦悩に倍する祝福を返すと約束しよう。
１３ユダよ。　おまえはわたしの弓だ。　エフライム（イスラエル）よ。　おまえはわたしの矢だ。　二人とも、わたしの剣、ギリシヤ人に向かって勇士が振りかざす剣のようにする。」
１４神様はご自分の国民の先頭に立って戦われます。　その矢は、まるでいなずまが走るようです。　神様は召集ラッパを吹き鳴らし、南から砂漠を通って吹いて来るつむじ風のように、敵に向かって突進するのです。　１５神様の守りがあるので、人々は敵を打ち負かし、足で踏みにじるでしょう。　彼らは勝利に酔い、勝ちどきをあげます。　敵は切り殺され、至る所で、恐ろしい大虐殺が行なわれます。　１６１７その日、神様は、羊飼いが羊の世話をするように、ご自分の国民を救い出します。　彼らは、王冠にきらめく宝石のように、神様の地で光り輝くのです。　ああ、なんとすばらしく、なんと美しいことでしょう。
あり余る穀物とぶどう酒が、青年たちをはつらつとさせます。　彼らは健康と幸福に満ちあふれるのです。
一〇
１春の雨を神様に乞い求めなさい。　そうすれば、神様はいなずまを走らせ、雨を降らせてくださいます。　どこの野も一面、青々とした牧場と変わるでしょう。　２ところが、それを偶像に願い求めるとは、なんと愚かなことをしたのでしょう。　占い師の言うことは、ばかげた偽りだけです。　実現しないことを言われて、安心しようというのですか。
ユダとイスラエルは、迷子の羊のように迷い出たのです。　守ってくれる羊飼いがいない

ので、攻撃の的にされているのです。
３「わたしの怒りは、おまえたちの羊飼いである指導者に向かって燃え上がる。　わたしは、この悪党の雄やぎどもを罰する。　天の軍勢の主であるわたしは、自分の群れの羊であるユダを助けに来たのだ。 彼らを強くし、戦場を誇らしげに駆ける軍馬のようにする。
４この群れから、礎石が、すべての人の望みである杭が、戦いを勝利に導く弓が、全地の支配者が、出て来る〔これらはみなメシヤを指す〕。　５彼らは神のために戦う勇士となり、敵の顔をどろに押しつけ、踏みつける。　わたしが共に戦うので、敵は全滅する。
６わたしはユダを、そして、イスラエルをも強くする。　彼らを愛しているので、建て直すのだ。　彼らは、一度もわたしに捨てられたことがない者のようになる。　神であるこのわたしが、彼らの叫びを聞き届けるからだ。　７彼らは勇士のようになる。　ぶどう酒に酔った時のような喜びを味わい、子供たちも神のあわれみを知って喜ぶ。　神にあって喜びにあふれる。　８わたしが口笛を吹くと、みな駆け寄って来る。　わたしが彼らを再び買い戻したからだ。　残っている者は少ないが、以前と同じように人口が増える。　９わたしは種をまくように、彼らを諸国にまき散らしたが、それでも彼らはわたしを思い出し、わたしのもとへ帰って来る。　子供たちもみな連れて、イスラエルのわが家へ帰って来る。　１０わたしは彼らをエジプトとアッシリヤから連れ戻し、イスラエルに――ギルアデとレバノンに――再び住みつかせる。　だがそこも、すべての者が住むには狭すぎるようになる。　１１波が退くので、彼らは困難な海を安全に通り過ぎる。　ナイル川は干上がる。　こうして、わたしの国民を支配したアッシリヤとエジプトの時代は、終わりを告げる。」
１２神様はこうお語りになります。　「わたしから出る力によって、わたしの国民を強くする。　彼らは、どこへでも行きたい所へ出かける。　どこへ行っても、わたしの保護のもとにある。」
一一
１レバノンよ、さあ、扉をひらけ。　審判が下される。　おまえの森が火で焼き尽くされるように、おまえは滅ぼされる。　２糸杉よ、声を出して泣け。　すべての杉が倒れてしまうからだ。　高くそびえ立つ見事な木も全部だ。　バシャンの樫の木よ、恐ろしさのあまり泣き叫べ。　いちばん深い森まで切り倒されるのを見るからだ。　３悪質な羊飼い、イスラエルの指導者たちの悲痛な叫びを聞け。　彼らの富が失われてしまうからだ。　若いライオンのほえる声を聞け。　王子たちが泣いているのだ。　茂みの豊かなヨルダン渓谷が、荒れ果ててしまうからだ。
４それから、神様はこうお語りになりました。　「さあ、殺されるための肥えた羊の群れを養う羊飼いになれ。　５これは、わたしの国民の姿を表わしている。　彼らは悪い指導者どもに売り渡され、殺されている。　しかも、指導者は罰せられない。　わたしの国民を裏切った者たちは、『神様、ありがとうございます。　おかげで、こんなに裕福になりました』と言う。　というのは、この羊飼いは、容赦なく羊を売り飛ばしてしまったのだ。

６それで、わたしはもう、わたしの国民を惜しまない。　彼らを邪悪な指導者どもの手に陥らせる。　指導者どもは彼らを殺し、この地を荒れ地としてしまう。　わたしは、そうなるのをじっと見ているだけだ。」　こう神様がお語りになります。
７そこで、私は杖を二本取り、一本を「恵み」と名づけ、もう一本を「結合」と名づけました。　その二本の杖で、命じられたとおり、羊の群れを飼いました。　８そして一月のうちに、三人の悪質な羊飼いを追い出しました。　ところが、私は羊である国民にも、我慢がならなくなったのです。　彼らも私を憎みました。
９それで彼らに言ってやりました。　「もう、おまえたちの羊飼いはまっぴらだ。　死にたきゃ、かってに死ぬがいい。　殺されたって知るもんか。　自滅するのも自業自得だ。」
１０私は「恵み」と名づけた杖を取り、真っ二つに折りました。　そうすることによって、彼らを守り導くと誓った契約を、破棄したことを示したのです。　１１こうして、協定は無効になりました。　羊を売買する者たちは、これを見て、私の行動が神様のお考えを示していることを悟ったのです。
１２私は彼らに言いました。　「よかったら、私に見合った賃金を払いなさい。　ただし、ほんとうにそうしたければですよ。」
彼らが払った賃金は、たった銀貨三十枚〔奴隷の値段〕でした。
１３神様は私に、こうお命じになりました。　「それを神殿の献金箱に投げ込め。　おまえを値積もりした貴重な銀貨全部をだ。」
私は言われたとおり、銀貨三十枚を全部投げ入れました。　１４それから、「結合」と呼ばれるもう一本の杖を折って、ユダとイスラエルとの結合関係が破られたことを示しました。
１５それから神様は、もう一度、羊飼いの務めにつくようにとお命じになりました。　今度は、役立たずの悪い羊飼いの役を演じることになったのです。
１６神様はこうお語りになりました。　「そうするのは、わたしがこの国に立てる羊飼いの姿を示すためだ。　その羊飼いは、死にそうな羊の世話もせず、小さい羊の面倒も見ず、骨を折った羊の手あてもせず、元気な羊にえさをやることもしない。　歩けない羊を抱いて運んでやることもせず、やることと言えば、食用にする肥えた羊の足を引き裂くことだけだ。　１７羊の群れの世話をしない、こんな役立たずの羊飼いは、のろわれよ。　神の剣が彼の腕を切り、その右目を刺し通す。　腕は使えなくなり、右目は見えなくなる。」
一二
１天を張り、地の基をすえ、霊を持つ者として人をお造りになった神様は、イスラエルの運命を、次のように宣告しておられます。
２「わたしは、エルサレムを包囲する軍隊を差し向ける回りの国々に対して、エルサレムとユダを、毒を盛った杯のようにする。　３エルサレムは、世界を苦しめる重い石となる。全世界の国々が力を合わせて動かそうとするが、逆に押しつぶされてしまう。
４その日、わたしはエルサレムに迫る敵軍をうろたえさせ、物笑いの種にする。　わたしはユダの国民を見守り、すべての敵を盲目にするからだ。

５それでユダ部族の者は、心の中で『エルサレムの住民は、彼らの力が、彼らの神、天の軍勢の主のうちにあることを知ったのだ』と言うであろう。
６その日、わたしはユダ部族の者を、森をも焼き払う小さな炎、わらの束を燃やすマッチのようにする。　彼らは、右も左も、回りのすべての国々を焼き尽くすが、エルサレムだけはそのまま残る。
７神様はエルサレムより先に、ユダに残されていた者に勝利をお与えになる。　それは、エルサレムの住民とダビデ王の子孫が、その成功を鼻にかけることがないためだ。　８神様はエルサレムの住民をお守りになる。　その中でいちばん弱い者も、ダビデ王のように強くなる。　ダビデ王の子孫は、神様のようになり、彼らの前を行く御使いのようになる。
９わたしが、エルサレムに敵対する国を、ことごとく滅ぼすことにしたからだ。　１０その時、わたしはエルサレムの全住民に、恵みと祈りの霊を注ぐ。　彼らは、自分たちが突き殺した者を見て、まるでひとり息子をなくしたように彼のために泣き悲しみ、長男が死んだ時のように彼のことで嘆き悲しむ。　１１その時のエルサレムでの悲しみと嘆きは、神様を敬ったヨシヤ王が、メギドの谷で殺された時の嘆きよりも深い。
１２‐１４イスラエルの全国民は、深い悔恨の涙を流す。　国中の者が残らず、王も、預言者も、祭司も、国民も、苦悩のあまり身をかがめる。　家族も引き裂かれ、夫と妻も引き離されて、だれもが、ただひとり嘆き悲しむ。
一三
１その時、一つの泉がわきいで、イスラエルとエルサレムの住民を、罪と汚れからきよめる。」
２天の軍勢の主は宣告なさいます。　「その日、わたしはこの地にはびこる偶像礼拝を、跡形も残さず取り除く。　偶像の神々の名さえ、すっかり忘れ去られる。　偽預言者や占い師も、一掃される。　３それでも懲りずに偽りの預言をする者は、両親に切り殺される。両親はその時、『神様の名を使って偽りの預言をするようなやつは、死ねっ』とどやしつけるであろう。
４それで、預言する力を自慢する者はいなくなる。　また、人の目を欺こうとして預言者の装束を着る者もない。
５彼は、『私は預言者じゃありません。　農夫ですよ。　若い時からずっと、土地を耕して暮らしを立ててきたのです』と言う。
６『それなら、胸と背中にある傷〔偽預言者が自分でつける傷〕は何ですか』と聞かれると、『友だちの家でけんかした跡です』と答える。」
７天の軍勢の主はお語りになります。　「剣よ、目を覚まして、わたしの友であり、仲間である羊飼いに切りかかれ。　その羊飼いを打ち殺せ。　そうすれば、羊は散り散りになろう。　だが、わたしは戻って来て、子羊をいたわり、介抱する。　８イスラエルの全国民の三分の二が殺され、死に絶える。〔このことはすでに何度か起こっている。　紀元七十年のローマ軍や、ヒットラーによる虐殺〕　三分の一だけが、その地に残る。　９わたし

は、その残った三分の一を、金や銀を精錬するように、火の中を通して純化する。　彼らはわたしの名を呼び、わたしはその声に答える。　わたしが『これはわたしの国民だ』と言うと、彼らが『主はわたしたちの神様です』と答える。」
一四
１２気をつけよ。　神様の日がすぐに来る。　その日、神様は国々を集めて、エルサレムを攻めさせる。　町は占領され、家々は略奪され、戦利品は分配され、婦人たちは暴行される。　住民の半分は奴隷として連れ去られ、残りの半分が廃墟の町に残される。
３その時、神様は完全武装して、この国々と戦うために出て来られる。　４その日、神様はエルサレムの東にあるオリーブ山のいただきに立たれる。　すると、オリーブ山は真っ二つに裂け、広く東西に走る深い谷ができる。　山の半分が北に、別の半分が南に動くからだ。　５谷は町の門に通じているので、そこを通って逃げることができる。　何世紀も昔、ユダのウジヤ王の時、先祖たちが地震を避けて逃げたように、逃げることになろう。そして、私の神様である主が来られる。　すべての聖徒と御使いも共に。
６太陽も月も星も、もう輝かない。　７それでも真昼が続く。　どうしてかは、神様だけがご存じだ。　これまでのような昼と夜ではなくなり、夕暮れ時にも、なお光がある。　８いのちを与える水が、エルサレムからわき出る。　半分は死海に、半分は地中海に注ぎ、夏も冬も、絶え間なく流れ続ける。
９こうして、神様は全地を支配する王となられる。　その日には、他の神々は退けられ、神様の御名だけがあがめられる。　１０ユダの北端にあるゲバから、南端のリモンまで、全地が一つの広大な平地となる。　ただし、エルサレムだけが高台にあり、その区域は、ベニヤミンの門から古い門の跡、それから隅の門、さらにハナヌエルの塔を通って、王のぶどう酒を絞る所までだ。　１１ついにエルサレムは、人が安心して住める場所になる。もう二度と、のろわれ、滅ぼされない。
１２神様は、エルサレムを攻撃したすべての国民を伝染病で苦しめる。　彼らは、歩く屍のようになる。　肉は腐って落ち、目はくぼみ、舌は口の中で衰える。
１３神様は彼らを狼狽させ、恐怖でおののかせる。　彼らは互いに争い、つかみ合い、なぐり合う。　１４ユダの全住民はエルサレムで戦う。　回りのすべての国々の財宝、多量の金銀と上等の衣類は、押収される。　１５先のと同じ伝染病が、馬、らば、らくだ、ろば、および敵陣にいるすべての動物に襲いかかる。
１６ついに、この災いの中で生き残った者たちが、毎年エルサレムへ上り、天の軍勢の主である王を礼拝し、感謝する時を守るようになる。　１７世界中どこでも、天の軍勢の主である王を礼拝しにエルサレムへ来ない国民には、雨が降らなくなる。　１８もしエジプトが来ないなら、雨が降らないことはもちろん、神様はほかの災害も下して懲らしめる。
１９エジプトであっても、ほかの国であっても、もしエルサレムへ上って来ないなら、みな罰せられるのだ。
２０その日、馬の鈴にも、「神様にささげられた聖なるもの」と書かれ、神殿のなべも、祭

壇のそばの鉢のように神聖なものとなる。　２１実際、エルサレムとユダにあるすべての容器は、天の軍勢の主への聖なるものとなる。　礼拝に来る者は、いけにえを煮るために、どの容器でも自由に使ってかまわない。　神殿には、もう、強欲な商人はいなくなる。

▪

マラキの預言
マラキは、捕囚から帰った人々のために遣わされた預言者で、彼らの霊的熱心が冷えきった時代に活躍しました。　ネヘミヤとエズラが、礼拝儀式や政治上必要な改革を手がけたのに対し、マラキは、人々に霊的問題を真剣に考えるよう教えました。　マラキが論じた根本的な問題は、祭司の堕落、神殿が軽視されること、家庭における個人的な罪などでした。　本書は、来たるべきメシヤとその先ぶれのバプテスマのヨハネ（ここではエリヤと言われる）についての預言で終わっています。こうして旧約聖書は、神様が新約聖書でなされることを待望しつつ終わるのです。

一
１これは、神様が預言者マラキをとおして、イスラエルにお与えになったお告げです。
２３「おまえたちをとても愛している」と、神様は言われます。
ところが、あなたがたは「ほんとうですか？　いつ、そうしてくださいましたか」と問い返します。
神様のお答えはこうです。　「おまえたちの先祖ヤコブを愛することによって、おまえたちに対する愛を示したのだ。　そうする理由など、さらさらなかったのに。　わたしは、ヤコブの兄エサウを退け､彼が相続する山地を荒廃させ､山犬しか住まない荒れ地とした。
４エサウの子孫が、『その廃墟を建て直そう』と言うなら、わたしはこう言う。　『やりたいならやってみろ。　だが、わたしは再び廃墟にするぞ。』　彼らの国は邪悪の地と名づけられ、住民も神に見放された者たちと呼ばれるからだ。」
５さあ、イスラエルよ、目を上げて、神様が世界中でなさっていることを見なさい。　その時、あなたがたはこう言うようになります。　「ほんとうに、神様の大いなる御力は、イスラエルの国境を越えて全地に及んでいる。」
６「子は父を敬い、召使は主人を敬うものだ。　わたしはおまえたちの父であり、また主人なのに、おまえたちはわたしを少しも敬っていない。　ああ、祭司たちよ、おまえたちはわたしの名をさげすんでいる。」
「だれが？　私たちが、ですって？　いつ、神様の御名をさげすんだというのですか。」
７「わたしの祭壇に汚れたいけにえをささげる時だ。」
「汚れたいけにえですって？　いつ、そんなことをしましたか。」
「いつも、おまえたちは言っている。　『わざわざ高価なものを神様にささげる必要はない。　８祭壇にささげるのは、びっこの動物でたくさんだ。　そうそう、病気のだって、盲のだってかまわない。』これが悪いことではない、と言いはるのか。　総督に、そんな贈り物をしてみろ。　喜んで受け取るか、試してみるがいい。
９おまえたちは、『神様は私たちをあわれんでくださる。　神様は恵み深い』と口ぐせのように言う。　だが、そんな贈り物を持って来るおまえたちに、どうして好意を示せよう。
１０ああ、神殿のとびらを閉ざして、こんないけにえを断固拒否する祭司が、一人でもい

たらいいのだが。　もう、おまえたちには我慢がならん。　そんなささげ物など欲しくもない」と、天の軍勢の主は言われます。
１１「ところで、わたしの名は外国人の間で、朝から晩まであがめられるようになる。　世界中どこでも、人々はわたしの名をあがめて、かぐわしい香りと、きよいささげ物をささげるようになる。　国々の間で、わたしの名が大いに高められるからだ。　１２それなのに、おまえたちときたらどうだ。　祭壇など気にしなくていい、と言ったり、ささげる動物は安上がりの、傷ついたものでかまわない、と指示したりして、わたしの祭壇を汚している」と、天の軍勢の主はお語りになります。
１３「『ああ、神様に仕え、神様が望んでおられることをするのは、なんとわずらわしいことだろう』と、おまえたちは言う。　そして、わたしが守るようにと与えた規則など、鼻であしらっている。　考えてもみろ。　盗んだ動物や、びっこや病気のものを、神へのささげ物としているのだぞ。　わたしが、そんなささげ物を受け入れると思うのか」と、神様は詰問なさいます。　１４「神へのいけにえとして、群れの中から上等の雄羊をささげると約束しながら、傷のあるものと取り替える者は、のろわれる。　わたしは偉大な王であり、わたしの名は外国人の間で、大いに尊ばれているからだ」と、天の軍勢の主はお語りになります。
二
１２祭司たちよ、天の軍勢の主の警告を聞きなさい。
「おまえたちが生き方を変えず、わたしの名をあがめないなら、恐ろしい刑罰を下す。　わたしが与えようとしている祝福に代えて、のろいを与える。　実際、もうすでに、おまえたちをのろっているのだ。　わたしにとって何よりも大事なことを、いい加減に扱ったからだ。
３いいか。　わたしはおまえたちの子供を責め、わたしにささげた動物の糞をおまえたちの顔にぶちまけ、まるで糞のようにおまえたちを投げ捨てよう。　４その時、やっとおまえたちは、神が先祖レビに与えた法律に、おまえたちを引き戻そうと警告したのが、このわたしであったことを知る」と、天の軍勢の主がお語りになります。　５「この法律の目的は、それを守る人にいのちと平安を与え、わたしへの尊敬と畏怖の念を示す機会とすることだ。　６レビは、わたしから学んだすべての真理を人々に伝えた。　うそをついたり、だましたりしなかった。　誠実な正しい生活をして、わたしと共に歩み、多くの人を罪の生活から立ち返らせた。
７祭司のくちびるは、人々が神のおきてを学べるように、あふれ出るように神のことを語るべきだ。　祭司は天の軍勢の主の使者であり、人々は導きを求めて彼らのもとへ来るべきなのだ。　８ところがどうか。　おまえたちは神の道から離れてしまった。　そればかりか、多くの人に罪を犯させている。　レビとの契約をねじ曲げ、見せかけだけのものにしてしまった。　９だから、おまえたちを、すべての人の軽べつの的にする。　わたしに従わず、平気で、自分たちの好きなように法律を変えたからだ」と、天の軍勢の主はお語

りになります。
１０私たちは同じ父アブラハムの子孫であり、同じ神様によって創造された者です。　それなのに、ご先祖の契約を破り、互いに裏切り合っています。　１１ユダでも、イスラエルでも、エルサレムの中でさえも、反逆が行なわれています。　ユダの人々が、偶像を拝む外国の女と結婚して、神様の愛された聖なる神殿を汚したからです。　１２こんなことをする者は、祭司であっても、信徒であっても、神様が一人残らず契約から除外してくださるように。
１３ところが、あなたがたは涙で祭壇をぬらしています。　もう神様があなたがたのささげ物に目をくれないので、どんな祝福も受けられないからです。　１４「なぜ、神様は私たちを見捨ててしまわれたのか」と、あなたがたは泣き叫んでいます。　そのわけを教えましょう。　長年忠実に連れ添った妻、いつまでも離れないと約束をかわした伴侶を離縁するという、あなたの裏切り行為を、神様が見ておられたからです。　１５神様が、あなたを妻と一体にさせてくださったのです。　神様の深いご計画のうちに結婚した時、神様の前で、二人は一体となったのです。　神様は何を望んでおられたのでしょうか。　あなたがたの結合から生まれ出る信仰の子供たちをです。 ですから､情欲に気をつけなさい｡ 若い時の妻に誠意を尽くしなさい。
１６イスラエルの神様である主は離婚を憎み、妻を離縁するような無情な男はきらいだ、と言われるからです。　ですから、情欲を抑えなさい。　妻を離縁してはなりません。
１７あなたがたは、自分のことばで神様をわずらわしたのです。
「神様をわずらわしたですって？　どうやって？」　さらにそう言って、わざと驚いてみせます。
あなたがたはぬけぬけと､「悪を行なうこともいい。　それも神様を喜ばせているのだ」と言っているではないですか。　また､「神様は私たちを罰しない。　そんなことを、神様は気にしておられない」とうそぶいています。
三
１「聞け。　わたしはわたしの前に使者を遣わして、道を備えさせる。　それから、おまえたちが探し求めている人が、突如として、神殿に来る。　神が約束したその使者は、すばらしい喜びをもたらす。そうだ、その人は必ず来る」と、天の軍勢の主はお語りになります。　２「その人が現われる時、だれが生きておれよう。　彼が来ることに、だれが耐え得よう。　彼は、貴金属を精錬する燃えさかる火のようであり、どす黒く汚れた上衣を、真っ白にすることができるからだ。　３銀を精錬する人のように、腰をすえて、不純物が燃え尽きてしまうまで、じっと見守っている。　きよい心で仕えることができるように、神に仕えるレビの子孫をきよめ、精錬された金や銀のように純粋にする。　４それからもう一度、わたしは以前のように、ユダとエルサレムの住民が携えて来るささげ物を喜んで受ける。　５その時、わたしのさばきは素早く、確実に行なわれる。　罪のない人をだます悪者、不品行な者、うそつき、雇い人を不当な賃金で酷使する者、未亡人や孤児を苦し

める者、うまいことを言って外国人をだます者、わたしを恐れかしこまない者を、わたしは直ちに排除する」と、天の軍勢の主はお語りになります。　６「神であるわたしは、決して変わることがない。　それだからこそ、おまえたちはとことんまで滅ぼされてはいない。　〔わたしのあわれみは永遠に変わらないからだ。〕
７おまえたちは初めからわたしの法律を軽んじてきたが、ついにわたしのもとへ帰るようになる」と、天の軍勢の主はお語りになります。　「さあ、帰って来い。　そうすれば赦してやる。
ところがおまえたちは、『私たちは背いたことなんかありません』と言う。
８人は神のものを盗めるだろうか。　とんでもない。　ところがおまえたちは、わたしのものを盗んでいる。
『何のことですか。　いつ、神様のものを盗んだりしましたか。』
わたしに納めるべき収入の十分の一と、ささげ物を盗んでいるではないか。　９だから、神の恐ろしいのろいが、おまえたちを包んでいるのだ。　全国民がわたしのものを盗んでいるからだ。　１０収入の十分の一をすべて倉に携えて来い。　そうすれば、神殿には食べ物が十分あるようになる。　そうすれば、わたしは天の窓を開いて、すばらしい祝福をあふれるばかりに注ごう。
試してみよ。　わたしに、そのことを証明させてほしい。　１１わたしが害虫や病害から守るので、収穫は多くなる。　ぶどうが熟す前にだめになることもない」と、天の軍勢の主はお語りになります。　１２「すべての国民は、おまえたちを祝福された者と言う。　イスラエルが幸福に満ちた地となるからだ。　以上はわたしの約束だ。
１３わたしに対するおまえたちの態度は、なんと高慢で横柄なのだ」と、神様は言われます。
「ところが、あなたがたは答えます。　『何のことですか。　言ってはならないことでも言いましたか。』
１４１５聞きなさい。　あなたがたはこう言ったのです。　『神様を礼拝したり、神様に従うなんて馬鹿げている。　神様のおきてを守ったり、罪を悲しんだりして、何の役に立つのか。　もう今からは、「高ぶる者は幸いだ」と言いはろう。　悪事を働く者が栄え、神様に罰せられるようなことをやってのけても、罰を免れて平気でいるからだ』と。」
１６その時、神様を恐れかしこむ者たちは、互いに神様のことを語り合っていました。　神様は『記憶の書』を作成して、そのような者たちの名前を記録してくださったのです。
１７天の軍勢の主はこうお語りになります。「わたしが自分の宝石を仕上げるその日に、彼らはわたしのものとなる。　人が、忠実に務めを果たす子を特別に扱うように、わたしも彼らを特別に扱おう。　１８その時おまえたちは、善人と悪人とで、また、神に仕える者と仕えない者とで、神の取り扱いが全く違うことを知る。」
四
１天の軍勢の主はこう宣言なさいます。　「さあ、見るがいい。　かまどのように燃えな

がら、審判の日がくる。　高ぶる者、悪を行なう者はみな、わらのように燃えつき、木のように焼き払われる。　根までも全部だ。
２だが、わたしの名を恐れかしこむおまえたちには、正義の太陽がのぼり、その翼がおまえたちをいやす。　そして、牧場に放された子牛のように自由にされ、喜びのあまり跳びはねる。　３その時おまえたちは、灰を踏みつけるように、悪者どもを踏みつける。　４ホレブ山（シナイ山）で、わたしのしもべモーセによって、わたしが全イスラエルに与えた法律を守れ。　そのことを忘れるな。
５見よ。　神の大いなる恐るべき審判の日がくる前に、エリヤのような預言者を遣わす。
６彼の宣教によって、父と子が再び結び合わされ、一つ心、一つ思いとされる。　それというのも、悔い改めないなら、わたしが来てこの地を完全に破壊してしまうことを、彼らが知るからだ。」
▪

新約聖書

キリストの生涯

聖書の中心はイエス・キリストです。では、いったいキリストとはどういうお方で、何をなさり、どんなことをお語りになったのでしょうか。ここには、キリストと行動を共にし、その教えを受け、さまざまな出来事を見聞きした人々の証言を、それぞれ違った観点からまとめた、四つの記録が収められています。四人の著者は、キリストの直弟子もいれば、そうでない者もおり、社会的地位も、取税人、青年、医者、漁師と、全く異なります。この四人の目をとおして、キリストの姿が生き生きと描かれています。

マタイの福音書（取税人マタイの記録）

マタイは、税金を取り立てる役人でした。　当時、彼らの中には、不正に多く取り立てて、自分のものにする者がいたので、人々にきらわれ、軽べつされる職業でした。　しかし、イエスは、あえてそのような人を弟子になさったのです。　イエスに出会ったマタイの生活は一変しました。 いっさいを捨てて彼にお従いしたのです。 そしてこのイエスこそ、以前から神の預言者によって、この世に現われると言われ続けてきた救い主であることを、人々に伝える者となったのです。

一

１　初めに、イエス・キリストの先祖の名前を記すことから始めましょう。　イエス・キリストはダビデ王の子孫、さらにさかのぼってアブラハムの子孫です。

２　アブラハムはイサクの父、イサクはヤコブの父、ヤコブはユダとその兄弟たちの父です。

３　ユダはパレスとザラの父〔彼らの母はタマル〕、パレスはエスロンの父、エスロンはアラムの父です。

４　アラムはアミナダブの父、アミナダブはナアソンの父、ナアソンはサルモンの父です。

５　サルモンはボアズの父〔母はラハブ〕、ボアズはオベデの父〔母はルツ〕、オベデはエッサイの父です。

６　エッサイはダビデ王の父、ダビデはソロモンの父〔母は、もとウリヤの妻〕です。

７　ソロモンはレハベアムの父、レハベアムはアビヤの父、アビヤはアサの父です。

８　アサはヨサパテの父、ヨサパテはヨラムの父、ヨラムはウジヤの父です。
９　ウジヤはヨタムの父、ヨタムはアハズの父、アハズはヒゼキヤの父です。
１０　ヒゼキヤはマナセの父、マナセはアモンの父、アモンはヨシヤの父です。
１１　ヨシヤはエコニヤとその兄弟たちの父です〔彼らは、イスラエルの人たちがバビロンに移住していた時に生まれました〕。
１２　バビロンに移住してからは、エコニヤはサラテルの父、サラテルはゾロバベルの父です。
１３　ゾロバベルはアビウデの父、アビウデはエリヤキムの父、エリヤキムはアゾルの父です。
１４　アゾルはサドクの父、サドクはアキムの父、アキムはエリウデの父です。
１５　エリウデはエレアザルの父、エレアザルはマタンの父、マタンはヤコブの父です。
１６　そして、ヤコブはヨセフの父です〔このヨセフが、キリストと呼ばれるイエスの母マリヤの夫となった人です〕。
１７　こういう次第で、アブラハムからダビデ王までが十四代、ダビデ王からバビロン移住までが十四代、バビロン移住からキリストまでが十四代となります。
約束されていた救い主
１８　イエス・キリストの誕生は次のとおりです。　母マリヤはヨセフと婚約していました。　ところが、結婚する前に、聖霊によってみごもったのです。　１９婚約者のヨセフは、神の教えを堅く守る人でしたから、婚約を破棄しようと決心しました。　しかし、人前にマリヤの恥をさらしたくなかったので、ひそかに縁を切ることにしました。
２０　ヨセフがこのことで悩んでいた時、御使いが夢に現われて言いました。　「ダビデの子孫ヨセフよ。　ためらわないで、マリヤと結婚しなさい。　マリヤは聖霊様によってみごもったのです。　２１彼女は男の子を産みます。　その子をイエス（救い主）と名づけなさい。　この方こそ、ご自分を信じる人々を、罪から救ってくださるからです。　２２このことはみな、神様が預言者を通して語られた、次のことばが実現するためです。
２３　『見よ。　処女がみごもって、男の子を産む。　その子はインマヌエル〔神が私たちと共におられる〕と呼ばれる。』」
２４　目が覚めると、ヨセフは、御使いの命じたとおり、マリヤと結婚しました。　２５しかし、その子が生まれるまでは、マリヤに触れませんでした。　そして、生まれた子をイエスと名づけました。
二
イエスの誕生
１　イエスはヘロデ王の時代に、ユダヤのベツレヘムの町でお生まれになりました。
そのころ、天文学者たちが、東の国からはるばるエルサレムへやって来て、こう尋ねました。　２「このたびお生まれになったユダヤ人の王様は、どこにおられますか。　私たちは、その方の星をはるか東の国で見たので、その方を拝むために参ったのです。」

３　それを聞いたヘロデ大王は、ひどくうろたえ、エルサレム中がその噂でもちきりになりました。　４大王はさっそくユダヤ人の宗教的指導者たちを召集し、「預言者どもは、メシヤ（救い主）がどこで生まれると告げているのか」と尋ねました。
５　彼らは答えました。　「ユダヤのベツレヘムです。　預言者ミカがこう書いております。
６　『小さな町ベツレヘムよ。
おまえはユダヤの中でも決して
ただのつまらない町ではない。
おまえから偉大な支配者が出て、
わたしの国民イスラエルを
治めるようになるからだ。』」
７　それでヘロデは、ひそかに天文学者たちを呼びにやり、例の星が初めて現われた正確な時刻を聞き出しました。　８そして彼らに、「さあ、ベツレヘムへ行って、その子を捜すがいい。　見つかったら、必ず知らせてくれ。　わしも、ぜひその方を拝みに行きたいから」と命じました。
９　彼らがさっそく出発すると、なんと、あの星がまた現われて、彼らをベツレヘムに案内し、とある家の上にとどまったではありませんか。　１０それを見た彼らは、躍り上がって喜びました。
１１　その家に入ると、幼子と母マリヤがおられました。　彼らはひれ伏して、その幼子を拝みました。　そして、宝の箱を開け、金と乳香（香料の一種）と没薬（天然ゴムの樹脂で、古代の貴重な防腐剤）を贈り物としてささげました。　１２それから、ヘロデ大王に報告するためにエルサレムへは戻らず、そのまま、自分たちの国へ帰って行きました。神が夢の中で、ほかの道を通って帰るように警告されたからです。
１３　彼らが帰ったあと、主の使いが夢でヨセフに現われて言いました。「起きなさい。幼子とその母を連れて、エジプトに逃げるのです。　そして、帰れと言うまで、ずっとそこにいなさい。　ヘロデがこの子を殺そうとしています。」　１４ヨセフは、マリヤと幼子を連れて、その夜のうちにエジプトへ旅立ちました。　１５そして、ヘロデ大王が死ぬまで、そこに住んでいました。　こうして、「わたしは、わたしの子をエジプトから呼び出した」という預言者のことばが実現することになったのです。
１６　ヘロデは、天文学者たちにだまされたとわかると、怒り狂い、すぐさま、ベツレヘムに兵隊をやって、町とその近辺に住む二歳以下の男の子を一人残らず殺せ、と命じました。　というのは、学者たちが、その星は二年前に現われたと言っていたからです。　１７ヘロデのこの残忍な行為によって、エレミヤの次の預言が実現しました。
１８　「ラマから声が聞こえる。
苦しみの叫びと、大きな泣き声が。
ラケルが子供たちのために泣いている。

だれも彼女を慰めることができない。
子供たちは死んでしまったのだから。」
１９　ヘロデが死ぬと、エジプトに住むヨセフの夢に主の使いが現われ、　２０「さあ、子供とその母を連れてイスラエルに帰りなさい。　子供を殺そうとしていた者たちは死んだから」と言いました。
２１　そこでヨセフは、イエスとマリヤを連れて、すぐイスラエルに帰りました。　２２ところが途中で、新しい王はヘロデの息子アケラオだと聞いてこわくなりました。　するともう一度、夢で、ユダヤ地方に行くなと警告されたので、ガリラヤに行き、　２３ナザレという町に住みつきました。　こうして、預言者がメシヤのことを、「彼はナザレ人と呼ばれる」と語ったとおりになったのです。
三
バプテスマのヨハネ
１　ヨセフ一家がナザレに住んでいたころ、バプテスマのヨハネがユダヤの荒野で教えを宣べ伝え始めました。　彼の訴えることは、いつも同じでした。　２「悔い改めて、神様に立ち返れ。　天国が近づいたからだ。」　３このバプテスマのヨハネの働きについては、数百年前、すでに、預言者イザヤが語っています。
「荒野から叫ぶ声が聞こえる。
『主のための道を準備せよ。
主が通られる道をまっすぐにせよ。』」
４　ヨハネはらくだの毛で織った服に皮の帯をしめ、いなごとはち蜜を常食にしていました。　５このヨハネの教えを聞こうと、エルサレムやヨルダン川流域だけでなく、ユダヤの全地方から、人々が荒野に押しかけました。　６神にそむく生活を送っていたことを全面的に認め、それを言い表わした人たちに、ヨハネはヨルダン川でバプテスマ（洗礼）を授けました。
７　ところが、パリサイ人（特におきてを守ることに熱心なユダヤ教の一派）やサドカイ人（神殿を牛耳っていた祭司階級。　ユダヤ教の主流派）が大ぜい、バプテスマを受けに来たのを見て、ヨハネは彼らをきびしくしかりつけました。　「まむしの子らめっ！　だれがおまえらに、もうすぐ来る神のさばきから逃れられると言ったのか。　８バプテスマを受ける前に、悔い改めにふさわしい行ないをせよ。　９『自分はユダヤ人だから、アブラハムの子孫だから大丈夫』などとは思ってもみるな。　そんなことは何の役にも立たない。　神様はこんな石ころからでも、今すぐアブラハムの子孫をお造りになれるのだ。
１０　今の今でも、神様はさばきの斧をふり上げ、実のならない木を切り倒そうと待ちかまえておられる。　そんな木はすぐにも切り倒され、燃やされるのだ。
１１　私は今、罪を悔い改める者たちに水でバプテスマを授けている。しかし、まもなく、私など比べものにもならない、はるかに偉大な方がおいでになる。　その方のしもべとなる値打さえ、私にはない。　その方は、聖霊と火でバプテスマをお授けになる。　１２刈

り入れの時が来たら、麦ともみがらをふるい分け、麦は倉に納め、もみがらは永久に消えない火で焼きすててしまわれる。」
イエス、バプテスマを受ける
１３　そのころイエスは、ガリラヤからヨルダン川へ来て、ヨハネからバプテスマ（洗礼）を受けようとなさいました。　１４ところが、ヨハネはそうさせまいとして言いました。「とんでもない。　私こそ、あなた様からバプテスマを受けなければなりませんのに。」
１５　しかしイエスが、「今はそうさせてもらいたい。　なすべきことは、すべてしなければならないのですから」とお答えになり、ヨハネからバプテスマをお受けになりました。
１６　イエスが、バプテスマを受けて水から上がって来られると、突然天が開け、イエスは、神の御霊が鳩のようにご自分の上にお下りになるのをごらんになりました。　１７その時、天から声が聞こえました。「これこそ、わたしの愛する子。　わたしは彼を心から喜んでいる。」
四
イエス、悪魔に試される
１　それからイエスは、聖霊に導かれて荒野にお出かけになりました。悪魔に試されるためでした。　２イエスはそこで、まる四十日間、何一つ口にされなかったので、空腹を覚えられました。　３その時です、悪魔が誘いかけてきたのは。　「どうだい。　ひとつ、ここに転がっている石をパンに変えてみたら？　そうすりゃあ、あんたが神の子だということも一目瞭然だろうが。」
４　しかしイエスは、お答えになりました。　「それは違う。　聖書（旧約）には、『人はただパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる』と書いてある。　わたしたちは、神のすべてのことばに従うべきなのです。」
５　それから悪魔は、イエスをエルサレムに連れて行き、神殿の一番高い所に立たせて言いました。　６「さあ、ここから飛び降りてみろ。そうすりゃあ、あんたが神の子だということがわかるだろうよ。　聖書（旧約）に、『神は、御使いを送って、あなたを支えさせ、あなたが岩の上に落ちて砕かれることのないように守られる』と、はっきり書いてあるんだから。」
７　イエスは言い返されました。　「『あなたの神である主を試してはならない』とも書いてあるではないですか。」
８　次に悪魔は、非常に高い山の頂上にイエスを連れて行きました。そして、世界の国々とその繁栄ぶりとを見せ、　９「さあさあ、ひざまずいて、このおれ様を拝みさえすりゃあ、これを全部あんたにやるよ」とそそのかしました。
１０　「立ち去れ、サタン！　『神である主だけを礼拝し、主にだけ従え』と聖書（旧約）に書いてあるではないか。」イエスは悪魔を一喝なさいました。
１１　すると、悪魔は退散し、御使いたちが来て、イエスに仕えました。
イエス、教え始める

１２　イエスは、ヨハネが捕らえられたと聞くと、ユダヤを去って、ガリラヤのナザレにお帰りになり、　１３まもなく、ゼブルンとナフタリに近い、ガリラヤ湖畔のカペナウムに移られました。　１４これは、イザヤの預言が実現するためでした。
１５１６「ゼブルンとナフタリの地、海沿いの道、
ヨルダン川の向こう岸、
多くの外国人が住んでいる北ガリラヤ。
そこで暗やみの中にうずくまっていた人たちは、
大きな光を見た。
死の陰の地に座っていた彼らの上に、
光が差した。」
１７　その時から、イエスは教えを宣べ伝え始められました。「悔い改めて神に立ち返りなさい。　天国が近づいているから。」
１８　ある日、イエスが、ガリラヤ湖の岸辺を歩いておられると、シモン〔別名ペテロ〕とアンデレの二人の兄弟が舟に乗り、網で漁をしているのに出会いました。　彼らは漁師でした。
１９　イエスが、「わたしについて来なさい。　人間をとる漁師にしてあげよう」と声をおかけになると、　２０二人はすぐに網を捨て、イエスについて行きました。
２１　しばらく行ったところで、今度は別の二人の兄弟ヤコブとヨハネが、父のゼベダイといっしょに、舟の中で網を修繕しているのを見つけ、そこでも、ついて来るようにと声をおかけになりました。　２２彼らはすぐ仕事をやめ、父をあとに残して、イエスについて行きました。
２３　イエスはガリラヤ中を旅して、ユダヤ人の会堂で教え、あらゆる場所で、天国についてのすばらしい知らせを宣べ伝え、さらに、あらゆる種類の病気や病弱を治されました。
２４このイエスの奇蹟の評判は、ガリラヤの外にまで広がったので、シリヤのような遠方からも、人々は病人を連れてやって来ました。　その病気や痛みがどのようなものであろうと、悪霊に取りつかれた人であれ、てんかんの人であれ、中風の人であれ、一人残らず治るのです。　２５こうして、イエスがどこに行かれても、たいへんな数の群衆があとについて行きました。　それは、ガリラヤ、デカポリス、エルサレム、ユダヤのあらゆる所から来た人々で、中にはヨルダン川の向こうから来た人もいました。
五
山上の教え
１２ある日、大ぜいの人が集まって来たので、イエスは弟子たちを連れて山に登り、そこに腰をおろして、彼らにお教えになりました。
３　「心の貧しさを知る謙そんな人は幸福です。　天国はそういう人に与えられるからです。　４悲しみ嘆いている人は幸福です。　そういう人は慰められるからです。　５柔和で高ぶらない人は幸福です。　全世界はそういう人のものになるからです。

６　神の前に、正しく良い者になりたいと心から願っている人は幸福です。　そういう人の願いは完全にかなえられるからです。　７親切であわれみ深い人は幸福です。　そういう人はあわれみを受けるからです。　８心のきよい人は幸福です。　そういう人は親しく神とお会いできるからです。　９平和をつくり出そうとしている人は幸福です。　そういう人は神の子供と呼ばれるからです。　１０正しい者だというので迫害されている人は幸福です。　天国はそういう人のものだからです。
１１　わたしの弟子だというので、悪口を言われたり、迫害されたり、ありもしないことを言いふらされたりしたら、なんとすばらしいことでしょう。　１２喜びなさい。　躍り上がって喜びなさい。　天国では、目を見張るようなごほうびが待っているからです。　昔の預言者たちも、そのように迫害されたことを思い出しなさい。
１３　あなたがたは、世の塩です。　もしあなたがたが塩けをなくしてしまったら、この世はどうなるでしょう。　あなたがたも、無用のものとして外に捨てられ、人々に踏みつけられてしまうのです。　１４あなたがたは世の光です。　丘の上にある町は、夜になると灯がともり、だれにもよく見えるようになります。　１５１６あなたがたの光を隠してはいけません。　すべての人のために輝かせなさい。　だれにも見えるように、あなたがたの良い行ないを輝かせなさい。　そうすれば、人々がそれを見て、天におられるあなたがたの父を、ほめたたえるようになるのです。
１７　誤解してはいけません。　わたしは、モーセの法律や預言者の教え（旧約聖書）を無効にするために来たのではありません。　かえって、それを完成させ、ことごとく実現させるために来たのです。　１８よく言っておきますが、聖書（旧約）にあるどんなおきても、その目的が完全に果たされるまで、無効になることはありません。　１９ですから、どんな小さいおきてでも、破ったり、また人にも破るように教えたりする人は、天国で最も小さい者となります。　しかし、神のおきてを教え、また自分でもそれを実行する人は、天国で偉大な者となります。
２０　よく聞きなさい。　パリサイ人や、ユダヤ人の指導者たちは、神のおきてを守っているのは自分たちだと言いはります。　だが、いいですか。　彼ら以上に正しくなければ、あなたがたは天国には入れません。
２１　モーセの法律では、『人を殺した者は、死刑に処す』とあります。　２２しかし、わたしはさらにこうつけ加えましょう。　人に腹を立てるなら、たとい相手が自分の家族であっても、裁判にかけられます。　友達をばか呼ばわりするなら裁判所に引っぱり出されます。　友達をのろったりするなら、地獄の火に投げ込まれます。
２３　ですから、神殿の祭壇に供え物をしようとしている時、何か友達に恨まれていることを思い出したら、　２４供え物はそのままにして、相手に会ってあやまり、仲直りすることです。　神に供え物をするのはそのあとにしなさい。　２５あなたを告訴する人と、一刻も早く和解しなさい。　裁判所に引っぱって行かれてからでは、間に合いません。　そうなったら、あなたは留置場に放り込まれ、　２６最後の一円を払い終えるまで、出て来

られないでしょう。
２７　モーセの法律では、『姦淫してはならない』とあります。　２８しかし、わたしは言いましょう。　だれでも、みだらな思いで女性を見るなら、それだけでもう、心の中では姦淫したことになるのです。　２９ですから、もしあなたの目が情欲を引き起こすなら、その目を〔それが良いほうの目であっても〕えぐり出して捨てなさい。　体の一部を失っても、体全体が地獄に投げ込まれるより、よっぽどましです。　３０また、もしあなたの手が罪を犯させるなら、〔たといききき腕であっても〕そんな手は切り捨てなさい。　地獄に落ちるより、そのほうがどんなにましでしょう。
３１　また、モーセの法律では、『離縁状を手渡すだけで、妻を離縁できる』とあります。３２しかし、わたしは言いましょう。　だれでも、不倫以外の理由で妻を離縁するなら、その婦人が再婚した場合、彼女にも、彼女と結婚する相手にも姦淫の罪を犯させることになるのです。
３３　さらに、モーセの法律では、『いったん神に立てた誓いは、破ってはならない。　どんなことがあっても、みな実行しなければならない』とあります。　３４しかし、わたしは言いましょう。　どんな誓いも立ててはいけません。　たとい『天にかけて』と言っても、神に誓うのと同じです。　天は神の王座だからです。　３５『地にかけて』と言ってもいけません。　地は神の足台だからです。　また『エルサレムにかけて』と言って誓ってもいけません。　エルサレムは大王である神の都だからです。　３６『私の頭にかけて』と言って誓ってもいけません。　あなたがたは髪の毛一本さえ白くも黒くもできないからです。　３７ただ『はい、そうします』とか、『いいえ、そうしません』とだけ言いなさい。それで十分です。 誓いを立てることで約束を信じてもらおうとするのは、悪いことです。
３８　モーセの法律では、『人の目をえぐり出した者は、自分の目もえぐり出される。　人の歯を折った者は、自分の歯も折られる』とあります。　３９しかし、わたしはあえて言いましょう。　暴力に暴力で手向かってはいけません。　もし右の頬をなぐられたら、左の頬も向けてやりなさい。　４０借金のかたに下着を取り上げようとする人には、上着もやりなさい。　４１荷物を一キロ先まで運べと命令されたら、二キロ先まで運んでやりなさい。　４２何か下さいと頼む人には与え、借りに来た人を手ぶらで追い返さないようにしなさい。
４３　『隣人を愛し、敵を憎め』とは、よく言われることです。　４４しかし、わたしは言いましょう。　敵を愛し、迫害する人のために祈りなさい。　４５それこそ、天の父の子供であるあなたがたに、ふさわしいことです。　天の父は、悪人にも善人にも太陽の光を注ぎ、正しい人にも正しくない人にもわけ隔てなく雨を降らせてくださいます。　４６自分を愛してくれる人だけを愛したからといって、取り立てて自慢できるでしょうか。 ならず者でも、そのくらいのことはしています。　４７気の合う友達とだけ親しくしたところで、ほかの人とどこが違うと言えるでしょう。　神を信じない人でも、そのくらいのことはします。　４８ですから、あなたがたは、天の父が完全であるように、完全でありな

さい。
六
１　人にほめられようと、人前で善行を見せびらかさないようにしなさい。　そんなことをすれば､天の父からごほうびをいただけません。　２貧しい人にお金や物を恵む時には、偽善者たちのように、そのことを大声で宣伝してはいけません。　彼らは、人目につくように、会堂や街頭で鳴り物入りで慈善行為をします。　いいですか、よく言っておきますが、そういう人たちは、もうそれで、ごほうびはもらったのです。　３ですから、人に親切にする時は、右手が何をしているか左手でさえ気づかないくらいに、こっそりとしなさい。　４そうすれば、隠れたことはどんな小さなことでもご存じの天の父から、必ずごほうびがいただけます。
神様に聞かれる祈り
５　ここで、祈りについて注意しておきましょう。　人の見ている大通りや会堂で、さも信心深そうに祈って見せる偽善者のように祈ってはいけません。 よく言っておきますが、そういう人たちは、もうそれで、賞賛を受けてしまったのです。　６祈る時には、一人で部屋に閉じこもり、父なる神に祈りなさい。　隠れたことはどんな小さなことでもご存じのあなたの父から、必ずごほうびがいただけます。
７　ほんとうの神を知らない人たちのように、同じ文句をくどくど唱えてはいけません。彼らは、同じ文句をくり返しさえすれば、祈りが聞かれると思っているのです。　８いいですか。　父なる神は、あなたがたに何が必要かを、あなたがたが祈る前からすでに、ご存じなのです。
９　ですから、こう祈りなさい。
『天におられるお父様。
あなたのきよい御名があがめられますように。
１０　あなたの御国がいま来ますように。
天の御国でと同じように、この地上でも、
あなたのみこころが行なわれますように。
１１　私たちに必要な日々の食物を、今日もお与えください。
１２　私たちの罪をお赦しください。
私たちも、私たちに罪を犯す者を赦しました。
１３　私たちを誘惑に会わせないように守り、
悪い者から救い出してください。アーメン。』
１４もしあなたがたが、自分に対して罪を犯した人を赦すなら、天の父も、あなたがたを赦してくださいます。　１５しかし、あなたがたが赦さないなら、天の父も、あなたがたを赦してくださいません。
１６　次に、断食についてですが、神のことだけに心を集中したくて断食をする時は、偽善者たちのような、人目につくやり方は避けなさい。彼らは、やつれた顔をわざと見せつ

け、同情を買おうとします。よく言っておきますが、そういう人たちは、もうそれで、賞賛を受けてしまったのです。　１７断食をする時は、むしろ晴着をまといなさい。　１８そうすれば、だれもあなたが断食をしているとは気づかないでしょう。　しかし、あなたの父は、どんなことでもご存じです。　そして、報いてくださるのです。
１９　財産を、この地上にたくわえてはいけません。　地上では、損なわれたり、盗まれたりするからです。　２０財産は天にたくわえなさい。そこでは、価値を失うこともないし、盗まれる心配もありません。　２１あなたの持ち物が天にあるなら、あなたの心もまた天にあるのです。
２２　目が澄みきっているなら､あなたのたましいも輝いているはずです。　２３しかし、目が､悪い考えや欲望でくもっているなら､あなたのたましいは暗やみの中にいるのです。その暗やみのなんと深いことか！
２４　だれも、神とお金の両方に仕えることはできません。　必ず、どちらか一方を憎んで、他方を愛するからです。
２５　ですから、食べ物や飲み物、着物のことで心配してはいけません。今、現に生きている、そのことのほうが、何を食べ、何を着るかということより、ずっと大事です。　２６空の鳥を見なさい。　食べ物の心配をしていますか。　種をまいたり、刈り取ったり、倉庫にため込んだりしていますか。　そんなことをしなくても、天の父は鳥を養っておられるでしょう。 まして､あなたがたは天の父にとって鳥よりはるかに価値があるのです。
２７だいたい、どんなに心配したところで、自分のいのちを一瞬でも延ばすことができますか。
２８　また､なぜ着物の心配をするのですか。 野に咲いているゆりの花を見なさい。 着物の心配などしていないでしょう。　２９それなのに、栄華をきわめたソロモンでさえ、この花ほど美しくは着飾っていませんでした。　３０今日は咲いていても、明日は枯れてしまう草花でさえ、神はこれほど心にかけてくださるのです。　だとしたら、あなたがたのことは、なおさらよくしてくださるでしょう。　ああ、全く信仰の薄い人たち。
３１　ですから、食べ物や着物のことは、何も心配しなくていいのです。　３２ほんとうの神を信じない人たちのまねをしてはいけません。　彼らは、このような物がたくさんあることを鼻にかけ、そうした物に心を奪われています。　しかし、天の父は、それらがあなたがたに必要なことは、よくご存じです。　３３神を第一とし、神が望まれるとおりの生活をしなさい。　そうすれば、必要なものは、神が与えてくださいます。
３４　明日のことを心配するのはやめなさい。　神は明日のことも心にかけてくださるのですから、一日一日を力いっぱい生き抜きなさい。
七
１　人のあら捜しはいけません。　自分もそうされないためです。　２なぜなら、あなたがたが接するのと同じ態度で、相手も接してくるからです。　３自分の目に材木を入れたままで、どうして人の目にある、おがくずほどの小さなごみを気にするのですか。　４材

木が目をふさいで、自分がよく見えないというのに、どうして、『目にごみが入ってるよ。取ってあげよう』などと言うのですか。　５偽善者よ。　まず自分の目から材木を取り除きなさい。　そうすれば、はっきり見えるようになって、人を助けることができます。
６　聖なるものを犬に与えてはいけません。　真珠を豚にやってはいけません。　豚は真珠を踏みつけ、向き直って、あなたがたに突っかかって来るでしょう。
７　求めなさい。　そうすれば与えられます。　捜しなさい。　そうすれば見つかります。戸をたたきなさい。　そうすれば開けてもらえます。　８求める人はだれでも与えられ、捜す人はだれでも見つけ出します。　戸をたたきさえすれば開けてもらえるのです。　９パンをねだる子供に、石ころを与える父親がいるでしょうか。　１０『魚が食べたい』と言う子供に、毒蛇を与える父親がいるでしょうか。　いるわけがありません。　１１罪深いあなたがたでさえ、自分の子供には良い物をやりたいと思うのです。　だったらなおのこと、あなたがたの天の父が、求める者に良い物を下さらないことがあるでしょうか。
１２　人からしてほしいと思うことを、そのとおり、人にもしてあげなさい。　これがモーセの法律の要約です。
天国への道は狭い
１３　狭い門を通らなければ、天国に入れません。　人を滅びに導く道は広く、大ぜいの人がその楽な道を進み、広い門から入って行きます。　１４しかし、いのちに至る門は小さく、その道は狭いので、ほんのわずかな人しか見つけることができません。
１５　偽教師たちに気をつけなさい。　彼らは羊の毛皮をかぶった狼だから、あなたがたを、ずたずたに引き裂いてしまうでしょう。　１６彼らの行ないを見て、正体を見抜きなさい。　ちょうど、木を見分けるように。　実を見れば、何の木かはっきりわかります。ぶどうといばら、いちじくとあざみとを見まちがえることなど、ありえません。　１７食べてみれば、どんな木かすぐにわかります。　１８おいしい実をつける木が、まずい実をつけるはずはないし、まずい実をつける木が、おいしい実をつけるはずもありません。　１９まずい実しかつけない木は、結局は切り倒され、焼き捨てられてしまいます。　２０木でも人でも、それを見分けるには、どんな実を結ぶかを見ればよいのです。
２１　信心深そうな口をきく人がみな、ほんとうにそうだとは限りません。　そういう人たちは、わたしに向かって『主よ、主よ』と言うでしょう。　けれども天国に入れるわけではありません。 天におられるわたしの父のみこころに従うかどうかが決め手です。 ２２最後の審判の時、大ぜいの人が弁解するでしょう。　『主よ、主よ。　私たちは熱心に伝道しました。　あなたのお名前を使って悪霊を追い出し、すばらしい奇蹟を何度も行なったじゃありませんか。』　２３しかし、わたしはこう宣告します。　『あなたがたのことは知らない。　ここから出て行きなさい！　あなたがたがしたのは悪いことばかりではありませんか。』
２４　わたしの教えを聞いて、そのとおり忠実に実行する人はみな、堅い岩の上に家を建てる賢い人に似ています。　２５大雨が降り、大水が押し寄せ、大風が吹きつけても、そ

の家はびくともしません。　土台がしっかりしているからです。
２６　反対に、わたしの教えを聞いても、それを無視する人は、砂の上に家を建てる愚かな人に似ています。　２７大雨、大水、大風が襲いかかると、その家はあとかたもなく、こわれてしまうからです。」　２８群衆は、イエスの教えに目をみはりました。　２９どんなユダヤ人の指導者たちとも違い、特別な権威をもってお語りになっていたからです。
八
イエス、病気を治す
１　イエスが山を下られると、大ぜいの群衆がついて来ました。
２　その時です。　らい病人が一人、イエスに駆け寄り、足下にひれ伏しました。　「先生。　お願いですから、私を治してください。　お気持ちひとつで、おできになるのですから。」
３　イエスはその男にさわり、「そうしてあげましょう。　さあ、よくなりなさい」と言われました。　するとたちまち、らい病はあとかたもなくきれいに治ってしまいました。
４　「さあ、道草を食わないで、まっすぐ祭司のところに行き、体を調べてもらいなさい。モーセの法律にあるとおり、らい病が治った時のささげ物をしなさい。　完全に治ったことを人々の前で証明するのですよ。」
５６イエスが、カペナウムの町に入られると、ローマ軍の隊長がやって来て、「先生。　うちの若い召使が体の麻痺で苦しんでおります。　とてもひどく、起き上がることもできません。　どうか治してやってください。　お願いします」としきりに頼みます。
７　「わかりました。　では、行って治してあげましょう」とイエスは承知なさいました。
８　ところが、隊長の返事はこうでした。　「先生。　私には、あなた様を家にお迎えするだけの資格はありません。　わざわざご足労いただかなくても、ただこの場で、『治れ』と言ってくださるだけでけっこうです。　そうすれば、召使は必ず治ります。　９と申しますのは、私も上官に仕える身ですが、その私の下にも部下が大ぜいおります。　その一人に私が『行け』と言えば行きますし、『来い』と言えば来ます。　また奴隷に『あれをやれ。　これをやれ』と命じると、そのとおりにします。　私にさえそんな権威があるのですから、先生の権威で、病気に『出て行け』とお命じになれば、必ず治るはずです。」
１０　イエスはたいへん驚き、群衆のほうをふり向いて言われました。「これほど信仰深い人は、イスラエル中でも見たことがありません。　１１いいですか、皆さん。　やがて、この人のような外国人が大ぜい、世界中からやって来て、天国で、アブラハム、イサク、ヤコブといっしょに席に着くでしょう。　１２ところが、天国はもともとイスラエル人のために準備されたのに、たくさんの人が入りそこねて、外の暗やみに放り出され、泣きわめき、もだえ苦しむことになるのです。」
１３　それから、ローマ軍の隊長に、「さあ、家に帰りなさい。　あなたの信じたとおりのことが起こっています」と言われました。　ちょうどその時刻でした。　召使の病気が治ったのは。

１４　イエスがペテロの家に行かれると、ペテロのしゅうとめが、高熱でうなされていました。　１５ところが、イエスがその手におさわりになると、たちまち熱がひき、彼女は起き出して、みんなの食事の仕たくを始めたではありませんか。
１６　その夕方のことです。　悪霊に取りつかれた人たちが、イエスのところに連れて来られました。　イエスが、ただひと言お命じになると、たちまち悪霊どもは逃げ出し、病人はみな治りました。　１７こうして、イエスについてイザヤが、「彼は、私たちの病弱を身に引き受け、私たちの病気を背負った」と預言したとおりになったのです。
イエス、嵐を静める
１８　イエスは、自分を取り巻く群衆の数がだんだんふくれ上がっていくのに気づき、湖を渡る舟の手配を弟子たちにお命じになりました。
１９　ちょうどその時、ユダヤ教の教師の一人が、「先生。　あなた様がどこへ行かれようと、ついてまいります」と申し出ました。
２０　しかし、イエスは言われました。「きつねにも穴があり、鳥にも巣があります。　しかし、メシヤ（救い主）のわたしには自分の家はおろか、横になる所もありません。」
２１　また、ある弟子は、「先生。　ごいっしょするのは、父の葬式を出してからにしたいのですが」と言いました。
２２　けれどもイエスは、「いや、今いっしょに来なさい。　死人のことは、あとに残った者たちに任せておけばいいのです」とお答えになりました。
２３　それから、イエスと弟子たちの一行は舟に乗り込み、湖を渡り始めました。　２４すると突然、激しい嵐になりました。　舟は今にも、山のような大波にのまれそうです。ところが、イエスはぐっすり眠っておられます。
２５　弟子たちはあわてて、イエスを揺り起こし、「主よ。　お助けください。　沈みそうです」と叫びました。
２６　ところがイエスは、「なんということでしょう！　それでも神を信じているのですか。　そんなにこわがったりして」と答えられると、ゆっくり立ち上がり、風と波をおしかりになりました。　するとどうでしょう。　嵐はぴたりとやみ、大なぎになったではありませんか。　２７弟子たちは恐ろしさのあまり、その場に座り込み、「いやはや、なんというお方だろう。　風や湖までが従うとはなあ！」と、ささやき合いました。
２８　やがて、舟は湖の向こう岸に着きました。　ガダラ人の住む地方です。　と、そこに、二人の男がやって来ました。　実はこの二人は悪霊に取りつかれ、墓場をねぐらにしている人たちでした。　何をされるか分かったものではないので、だれもそのあたりに近寄りませんでした。
２９　二人は、イエスに大声でわめき立てました。　「やいやい、おれたちをどうしようってんだい。　確かに、お前さんは神の子さ。　だがな、今はまだ、おれたちを苦しめる権利はないはずだぜ。」
３０　さて、ずっと向こうのほうでは、豚の群れが放し飼いになっていました。　３１そ

こで悪霊どもは、「もし、おれたちを追い出すんだったら、あの豚の群れの中に入れてくれ」と頼みました。
３２　イエスは、「よし、出て行け」とお命じになり、悪霊どもは男たちから出て、豚の中に入りました。　そのとたん、群れはまっしぐらに走りだし、湖めがけていっせいに、がけを駆け降り、おぼれ死んでしまいました。　３３びっくりした豚飼いたちが、近くの町に逃げ込み、事の一部始終をふれ回ると、　３４それこそ町中の人がこぞって押しかけ、これ以上迷惑をかけてもらいたくないから、ここを立ち去ってくれと、イエスに頼みました。
九
医者が必要なのは？
１　それで、イエスは舟に乗り込み、自分の町カペナウムに帰られました。
２　そうこうするうち、数人の人が、中風の男を運んで来ました。　それも、身動きできない病人なので、床に寝かせたまま。　必ず治していただけると信じていたからです。　イエスはこの人たちの信仰を見て、病人に、「さあ、元気を出しなさい。　わたしがあなたの罪を赦したのですから」と言われました。
３　「なんて罰あたりなことばだ！　まるで、自分が神だと言っているようなもんじゃないか。」ユダヤ教の指導者のある者は、腹の中が煮えくり返る思いでした。
４　イエスは、彼らの心中を見抜いて、「なぜそんな悪いことを考えているのですか。　５６この人に『あなたの罪が赦されました』と言うのと、『起きて歩きなさい』と言うのと、どちらがやさしいですか。さあ、わたしに地上で罪を赦す権威があることを証明してみせましょう」と言い、向き直って、中風の男に命令なさいました。「さあ、起きて、床をたたみ、家に帰りなさい。　もう治ったのですから。」
７　すると男はとび起き、家に帰って行きました。
８　この有様を目のあたりにした群衆は、恐ろしさのあまり、震え上がりました。　そして、このような権威を人間にお与えになった神を、ただただ、ほめたたえるばかりでした。
９　イエスはそこを去り、道を進んで行かれました。　途中、マタイという取税人が税金取立所に座っていたので、「来なさい。　わたしの弟子になりなさい」と声をおかけになると、マタイはすぐ立ち上がり、あとについて来ました。
１０　そのあと、イエスと弟子たちは、マタイの家で夕食をなさることになり、取税人仲間や名うての詐欺師たちも大ぜい招かれました。
１１　これを見たパリサイ人たちはかんかんになり、弟子たちに、「あんたがたの先生は、どうしてあんなひどい連中とつき合うんだい」と食ってかかりました。
１２　「健康な人には医者はいりません。　医者が必要なのは病人です。」イエスはこうお答えになり、　１３さらにことばを続けられました。「聖書（旧約）に『わたしが喜ぶのは、いけにえやささげ物ではなく、あなたがたがあわれみ深くなることである』とあります。このほんとうの意味を、もう一度学んできなさい。　わたしは、自分を正しいと思ってい

る人たちのためにではなく、罪人を神に立ち返らせるために来たのです。」
１４　ある日、バプテスマのヨハネの弟子たちがイエスのところに来て、尋ねました。「なぜ、先生のお弟子さんたちは、私たちやパリサイ人のようには断食しないのですか。」
１５　するとイエスは、こうお話しになりました。「花婿の友達は、花婿がいっしょにいる間は、嘆き悲しんだり食事をしなかったりするでしょうか。　しかし、やがて花婿のわたしが、彼らから引き離される日が来ます。　その時こそ断食するでしょう。
１６　水洗いしていない布で、古い着物に継ぎ当てをする人がいるでしょうか。　そんなことをしたら、当て布は縮んで着物を破り、穴はもっと大きくなるでしょう。　１７また、新しいぶどう酒を貯蔵するのに、古い皮袋を使う人がいるでしょうか。　そんなことをしたら、古い皮袋は新しいぶどう酒の圧力で張り裂け、ぶどう酒はこぼれ、どちらも台なしになってしまいます。　新しいぶどう酒を貯蔵するには、新しい皮袋を使います。　そうすれば両方とも、もつのです。」
１８　このように話しておられると、町の会堂管理人が駆け込んで来ました。　そしてイエスの前にひれ伏し、「先生。　うちの娘がたったいま息を引き取りました。　まだ幼いのに……。　お願いです。　あの子を生き返らせてください。　ちょっと来て、さわっていただければいいのですから」と訴えました。
１９　そこでイエスと弟子たちは、彼の家へ向かわれました。　２０その途中、十二年間も出血の止まらない病気で苦しんでいた一人の女が、人ごみにまぎれて、うしろからイエスの着物のふさにさわりました。　２１「このお方にさわりさえすれば、きっと治る」と思ったからです。
２２　イエスはふり向き、女に声をおかけになりました。「さあ、勇気を出しなさい。　あなたの信仰があなたを治したのですよ。」この瞬間から、女はすっかりよくなりました。
２３　さて、管理人の家に着くと、人々でごった返し、葬式の音楽が聞こえてきます。　２４そこでイエスは、「さあ、この人たちを外に出しなさい。　娘さんは死んではいません。ただ眠っているだけなのですから」とお命じになりました。　それを聞くと、みんなはイエスをばかにし、あざ笑いました。
２５　人々がみな出て行くと、イエスは少女の寝ている部屋にお入りになり、その手をお取りになりました。　するとどうでしょう。　少女はすぐに起き上がり、もとどおり元気になったではありませんか。　２６すばらしい奇蹟です！　このうわさは、たちまち辺り一円に広まりました。
２７　イエスが少女の家をあとにされると、二人の盲人が、「ダビデ王の子よ！　あわれな私たちをお助けください」と叫びながらついて来ました。
２８　そしてついに、イエスが泊まっておられる家にまで入り込んで来ました。　イエスが「わたしがほんとうに目を開けることができると思いますか」とお尋ねになると、彼らは、「はい、もちろんです」と答えました。
２９　そこでイエスは、二人の目におさわりになり、「あなたがたの信じるとおりになりな

さい」と言われました。
３０　すると、彼らの目が見えるようになったのです！　「このことをだれにも話してはいけませんよ」と、イエスはきびしくお命じになりましたが、　３１それでも、彼らは、イエスのことを町中にふれ回りました。
３２　この人たちと入れ替わりに、悪霊に取りつかれてものが言えなくなった男が、連れて来られました。　３３イエスが悪霊を追い出されると、その人はすぐに口をきき始めたので、みんなは驚きあきれ、「こんなこと、今まで見たことがあるかい」と大声で言い合いました。
３４　しかし、パリサイ人たちは、「あいつは、悪霊の王ベルゼブル（サタン）に取りつかれているんだ。　それで悪霊どもを簡単に追い出せるのさ」と言いはりました。
助けを求める人は多い
３５　イエスは、その地方の町や村をくまなく巡回され、ユダヤ人の会堂で教え、御国についてのすばらしい知らせをお伝えになりました。また、行く先々で、あらゆる病人を治されました。　３６このように、ご自分のところにやって来る群衆をごらんになると、イエスの心は、深く痛みました。　彼らは、かかえている問題が非常に大きいのに、どうしたらよいか、どこへ助けを求めたらよいか、まるでわからないのです。　ちょうど、羊飼いのいない羊のように。
３７　イエスは弟子たちに言われました。　「収穫はたくさんあるのに、働く人があまりにも少ないのです。　３８ですから、収穫の主である神に祈りなさい。　刈り入れの場にもっと多くの働き手を送ってくださるように願うのです。」
一〇
　１　イエスは、十二人の弟子たちをそばに呼び寄せられ、彼らに、汚れた霊を追い出し、あらゆる病気、病弱を治す権威をお与えになりました。
２‐４その十二人の名前は次のとおりです。
シモン〔別名ペテロ〕、
アンデレ〔ペテロの兄弟〕、
ヤコブ〔ゼベダイの息子〕、
ヨハネ〔ヤコブの兄弟〕、
ピリポ、
バルトロマイ、
トマス、
マタイ〔取税人〕、
ヤコブ〔アルパヨの息子〕、
タダイ、
シモン〔「熱心党」という急進派グループのメンバー〕、
イスカリオテのユダ〔後にイエスを裏切った男〕。

伝道の心がまえ
５　イエスは、次のような指示をお与えになり、弟子たちを派遣なさいました。　「外国人やサマリヤ人のところに行ってはいけません。　６イスラエル人のところにだけ行きなさい。　この人たちは神のおりから迷い出た羊です。　７彼らのところに行って、『天国は近づいた』と伝えなさい。　８病人を治し、死人を生き返らせ、らい病人を治し、悪霊を追い出しなさい。　ただで受けたのだから、ただで与えなさい。
９　お金は、たといわずかでも、持って行ってはいけません。　１０旅行袋に、着替えの服や、くつ、それに杖も。　そういうものは、あなたがたが助けてあげる人たちから、世話してもらいなさい。　それが当然のことです。　１１どんな町や村に入っても、神を敬う人を見つけ、次の町へ行くまで、その家に泊まりなさい。　１２泊めてもらう時は、心から頼み、その家の祝福を祈りなさい。　１３もし、神を敬う家庭なら、その家は必ず祝福されるし、そうでなければ、祝福されないでしょう。　１４あなたがたを受け入れない町や家があったら、そこを立ち去る時、足からその場所のちりを払い落としなさい。　１５よく言っておきますが、さばきの日には、あの邪悪なソドムとゴモラの町のほうが、その町よりまだ罰が軽いのです。
１６　いいですか。　あなたがたを派遣するのは、いわば、羊を狼の群れの中へ送るようなものです。　ですから、用心深さの点では蛇のように、純真さの点では鳩のようになりなさい。　１７気をつけなさい。　あなたがたは捕らえられて、裁判にかけられ、会堂でむち打たれるからです。　１８わたしのために、総督や王たちの前で取り調べられることもあります。　その時こそ、わたしのことを彼らに知らせ、さらに世間の人々に証言するチャンスです。
１９　逮捕されたら、取り調べの際、どう釈明しようかなどと心配してはいけません。　その時その時に適切なことばが語れるからです。　２０釈明するのは、あなたがたではありません。　あなたがたの天の父の御霊が、あなたがたの口を通して語ってくださるのです。
２１　兄弟が兄弟を裏切って殺し、親も子を裏切るようになります。　そして子は親に反抗し、親を殺します。　２２わたしの弟子だというので、あなたがたはすべての人に憎まれます。　けれども、最後までじっと耐え忍ぶ者はみな救われるのです。
２３　一つの町で迫害されたら、次の町に逃げなさい。　あなたがたがイスラエルの町を全部めぐり終えないうちに、わたしは戻って来るからです。　２４生徒は先生より偉くはなく、使用人は主人より上ではありません。　２５生徒は先生と運命を共にし、使用人は主人と運命を共にします。　主人のわたしが、ベルゼブル（サタン）と呼ばれるくらいなのだから、ましてあなたがたは、どんなひどいことを言われるか……。　２６しかし、脅迫する者たちを恐れてはいけません。　やがてほんとうのことが明らかになり、彼らがひそかに巡らした陰謀は、すべての人に知れ渡るからです。
２７　わたしが今、暗やみで語ることを、夜明けになったら、大声でふれ回りなさい。　わたしがあなたがたの耳にささやいたことを、屋上から言い広めなさい。

２８　体だけは殺せても、たましいには指一本ふれることもできないような人々を、恐れてはいけません。　たましいも体も地獄に落とすことのできる神だけを恐れなさい。　２９たった一羽の雀〔二羽で五十円にしかならない雀〕でさえ、あなたがたの天の父が知らないうちに、地に落ちることはありません。　３０あなたがたの髪の毛さえ一本残らず数えられています。　３１ですから、心配しなくてもいいのです。　あなたがたは、神にとって、雀などより、ずっと大切なものではありませんか。
３２　もしあなたがたが､だれの前でも､『私はイエスの友達だ』と認めるなら､わたしも、天の父の前で、あなたがたをわたしの友だとはっきり認めましょう。　３３しかし、もし人々の前で、『イエスなんか知るもんか』と言うなら、わたしもまた、天の父の前で、あなたがたを知らないと、はっきり言いましょう。
３４　わたしが来たのは、地上を平和にするためだ、などと誤解してはいけません。　平和ではなく、むしろ争いを引き起こすために来たのです。　３５そうです。　息子を父親に、娘を母親に、嫁をしゅうとめに逆らわせるためです。　３６家族の者さえ最悪の敵となる場合があるのです。　３７わたし以上に父や母を愛する者は、わたしを信じる者にふさわしくありません。　また、わたしよりも息子や娘を愛する者は、わたしを信じる者にふさわしくありません。　３８さらに、自分の十字架を背負ってわたしに従って来ない者は、わたしを信じる者にふさわしくありません。
３９　自分のいのちを一生懸命守ろうとする者は、それを失いますが、わたしのためにいのちを投げ出す者は、ほんとうの意味でそれを自分のものとします。
４０　あなたがたを受け入れる人は、わたしを受け入れるのです。　わたしを受け入れる人は、わたしをお遣わしになった神を受け入れていることになります。　４１もし預言者を、神から遣わされた預言者だというので受け入れるなら、預言者と同じごほうびを受けるでしょう。　また、神を敬う正しい人たちを、彼らが神を敬うというので受け入れるなら、彼らと同じごほうびを受けます。
４２　また、この小さい者のひとりに、わたしに代わって冷たい水一杯でも与えるなら、よく言っておきますが、その人は必ずごほうびを受けるのです。」
一一
１　イエスは、十二人の弟子たちに、このような指示を与えると、ご自分も教えを宣べ伝えるために、彼らが行くことになっていた町々へお出かけになりました。
ヨハネとイエスの違い
２　さて、そのころ牢獄にいたバプテスマのヨハネは、キリストがさまざまな奇蹟を行なっておられることを聞きました。　そこで、弟子たちをイエスのもとに送り、　３「あなた様は、ほんとうに、私たちの待ち続けてきたお方ですか。　それとも、まだ別の方を待たなければならないのでしょうか」と尋ねさせました。
４　イエスは答えて言われました。　「ヨハネのところに帰り、わたしの行なっている奇蹟について、見たままを話してあげなさい。　５盲人は見えるようになり、足の立たなか

った者が今は自分で歩けるようになり、らい病人が治り、耳の聞こえなかった人も聞こえ、死人が生き返り、そして、貧しい人々がわたしのすばらしい知らせを聞いていることなどを。　６それから、こう伝えるのです。　『わたしを疑わない人は幸福です。』」
７　ヨハネの弟子たちが帰ってしまうと、イエスは群衆に、ヨハネのことを話し始められました。　「あなたがたはヨハネに会おうと荒野へ出かけて行った時、彼をどんな人物だと考えていましたか。　風にそよぐ葦のような人だとでも思っていたのですか。　８それとも、宮殿に住む王子のように、きらびやかに着飾った人に会えるとでも思ったのですか。９あるいは、神の預言者に会えると期待していたのですか。　そのとおり、彼は預言者です。　いや、それ以上の者です。　１０彼こそ、聖書（旧約）の中で、『見よ。　わたしはあなたより先に使者を送る。　その使者は、人々にあなたを迎え入れる準備をさせる』と言われている、その人です。
１１　よく言っておきます。　今までに生まれた人の中で、バプテスマのヨハネほどすぐれた働きをした人物はいません。　しかし、天国で一番小さい者でも、ヨハネよりはずっと偉大なのです。　１２ヨハネが教えを宣べ伝え、バプテスマ（洗礼）を授け始めてから現在まで、大ぜいの熱心な人々が、天国を目指して押し寄せました。　１３すべての律法と預言者（旧約聖書）とは、メシヤ（救い主）を待ち望んできたからです。　そして、ヨハネが現われました。　１４ですから、わたしの言うことを喜んで理解しようとする人なら、ヨハネこそ、天国が来る前に現われると言われていた、あの預言者、エリヤだとわかるでしょう。　１５さあ、聞く耳のある人は、聞きなさい。
１６　あなたがたイスラエル人のことを、何と言えばいいでしょう。　まるで小さな子供のようです。　あなたがたは友達同士で遊びながら、こう責めているのです。　１７『結婚式ごっこをして遊ぼうって言ったのに、ちっともうれしがってくれなかったよ。　だから葬式ごっこにしたのに、今度は悲しがってくれないじゃないか。』　１８つまり、バプテスマのヨハネが酒も飲まず、また何度も断食していると、『やつは気が変になっている』とけなし、　１９メシヤのわたしが、ごちそうを食べていると、『大食いの大酒飲み、最もたちの悪い罪人の仲間だ』とののしります。　もっとも、賢いあなたがたのことですから、うまくつじつまを合わせるでしょうが、知恵が正しいかどうかは、行ないによって証明されるのです。」
わたしのところに来なさい
２０　それからイエスは、多くの奇蹟を目のあたりに見ながら、それでも、神に立ち返ろうとしなかった町々をお責めになりました。
２１　「ああ、コラジンよ。　ああ、ベツサイダよ。　わたしが、あなたがたの街頭で行なったような奇蹟を、あの邪悪な町ツロやシドンで見せたなら、そこの人々は、とうの昔に、恥じ入り、へりくだって悔い改めていたでしょうに。　２２いいですか、さばきの日には、ツロとシドン（悪行のため、神に滅ぼされた町の名）のほうが、あなたがたより、まだましなものとされるのです。　２３ああ、カペナウムよ。　大きな名誉を受けたあな

たも、地獄にまで突き落とされるのです。　あなたのところでしたすばらしい奇蹟を、もしあのソドム（悪行のため、神に滅ぼされた町の名）で見せたなら、ソドムは滅ぼされずにすんだでしょうに。　２４いいですか、さばきの日には、ソドムのほうがあなたより、まだましなものとされるのです。」
２５　そして、こう祈られました。　「ああ、天地の主である父よ。　自分を賢いとうぬぼれる者たちには、あなたの真理を隠し、それを小さな子供たちに示してくださって、ありがとうございます。　２６父よ。　これが、お心にかなったことでした。
２７　あなたは、すべてのことを、わたしに任せてくださいました。　わたしを知っておられるのは、父であるあなただけですし、あなたを知っているのは、子であるわたしと、わたしが教える人たちだけです。　２８重いくびきを負って働かされ、疲れはてている人たちよ。　さあ、わたしのところに来なさい。　あなたがたを休ませてあげましょう。　２９わたしはやさしく、謙そんな者ですから、それこそ負いやすいわたしのくびきを、わたしといっしょに負って、わたしの教えを受けなさい。　そうすれば、あなたがたのたましいは安らかになります。　３０わたしが与えるのは、軽い荷物だけだからです。」
一二
安息日をも支配するイエス
１　そのころのことです。　イエスは弟子たちといっしょに、麦畑の中を歩いておられました。　ちょうど、ユダヤの礼拝日にあたる安息日でしたが、お腹がすいた弟子たちは、麦の穂を摘み取って食べ始めました。
２　ところが、それを見た、あるパリサイ人たちが抗議しました。「お弟子さんたちが、おきてを破ってますよ。　安息日に刈り入れをするなど、もってのほかだ。」
３　しかし、イエスは言われました。　「ダビデ王とその家来たちが空腹になった時、どんなことをしたか、聖書（旧約）で読んだことがないのですか。　４ダビデ王は神殿に入り、祭司しか食べられない供え物のパンを、みんなで食べたではないですか。　王でさえ、おきてを破ったわけです。　５また、神殿で奉仕をする祭司は、安息日に働いてもよい、と聖書に書いてあるのを、読んだことがないのですか。　６ことわっておきますが、このわたしは、神殿よりもずっと偉大なのです。　７もしあなたがたが、『わたしは供え物を受けるより、あなたがたにあわれみ深くなってほしいのです』という聖書のことばをよく理解していたら、罪もない人たちを、とがめたりはしなかったはずです。　８安息日といえども、天から来たわたしの支配下にあるのですから。」
９　このあとで、イエスは会堂にお入りになりました。　１０ふとごらんになると、そこに、片手の不自由な男がいます。　これ幸いとばかり、パリサイ人たちは、「安息日に病気を治してやっても、おきてに違反しないでしょうか」と尋ねました。　それは、イエスがきっと「さしつかえない」と答えるだろうから、そうしたら逮捕しよう、という計略でした。　１１ところが、イエスの答えは違いました。　「あなたがたが、羊を一匹飼っていたとします。　ところが、その羊が安息日に井戸に落ちてしまった。　さあ、どうします

か。　もちろん、すぐに助けてあげるでしょう。　１２人間の値打は、羊などとは、比べものになりません。　だから、安息日に良いことをするのは、正しいことなのです。」　１３それからイエスは、片手の不自由な男に、「手を伸ばしなさい」と言われ、彼がそのとおりにすると、手はすっかりよくなりました。
１４　そこでパリサイ人たちは、どうにかしてイエスを逮捕し死刑にしようと、集まって陰謀を巡らしました。　１５しかし、それに気づいたイエスは、いち早く会堂を抜け出されました。　すると、大ぜいの人がついて来たので、その中の病人をみな治されました。　１６そして彼らに、この奇蹟のうわさを言い広めないようにと、くれぐれも注意なさいました。　１７こうして、イザヤの預言のとおりになったのです。
１８　「わたしのしもべを見よ。
彼こそわたしの選んだ者。
わたしが喜ぶ、わたしの愛する者。
わたしは彼の上にわたしの霊を置き、
彼は国々をさばく。
１９　彼は争わず、
叫ぶことも大声をあげることもない。
２０　弱い者を踏み倒さず、
どんな小さな望みの火も消さない。
彼は最後の勝利を飾り、
あらゆる争いに終止符を打つ。
２１　彼の名こそ、全世界の希望となる。」
２２　その時、悪霊に取りつかれて、目も見えず、口もきけない人が連れて来られたので、イエスは彼の目を開け、口もきけるようになさいました。　２３これを見た人々は驚き、「やっぱり、この人がメシヤ（救い主）ではないだろうか」と言い合いました。
２４　しかし、このことを耳にしたパリサイ人たちは、「イエスが悪霊を追い出せるのは、自分が悪霊の王ベルゼブル（サタン）だからさ」とうそぶきました。
２５　イエスは彼らの考えを見抜き、こう言われました。　「内紛の絶えない国は、結局滅びます。　町でも、家庭でも、分裂していては長続きしません。　２６もしサタンがサタンを追い出すなら、自分で自分と戦い、自分の国を破壊することになるのです。　２７わたしがベルゼブルの力で悪霊を追い出していると言うが、あなたがたの仲間も、悪霊を追い出しているではありませんか。　彼らは、いったい何の力で追い出しているのですか。あなたがたの非難があたっているかどうか、彼らに答えてもらいましょう。　２８ところで、もしわたしが神の霊によって悪霊を追い出しているとしたら、どうでしょう。　神の国はもう、あなたがたのところに来ているのです。　２９強い者の家に押し入って、物を盗み出すには、まず、その強い者を縛り上げなければなりません。　悪霊も同じことです。まずサタンを縛り上げなければ、悪霊を追い出せるわけがありません。　３０わたしに味

方しない者はだれでもみな、わたしの敵なのです。
３１３２だから、あなたがたに言っておきます。　どんなにわたしを悪く言おうと、またどんな罪を犯そうと、神は赦してくださいます。　ただ一つ、聖霊を汚すことだけは例外です。　この罪ばかりは、いつの世でも絶対に赦されることはありません。
３３　木の良し悪しは、実で見分けます。　良い品種は良い実をつけ、劣った品種は悪い実をつけるものです。　３４ああ、まむしの子らよ。　あなたがたのような悪者の口から、どうして正しい、良いことばが出てくるでしょう。　人の心の思いが、そのまま口から出てくるのですから。　　３５良い人のことばを聞けば、その人の心の中にすばらしい宝がたくわえられていることがわかります。 しかし､悪い人の心の中は悪意でいっぱいです。
３６言っておきますが、やがてさばきの日には、あなたがたは今まで口にしたむだ口を、一つ一つ釈明しなければならないのです。　３７いま口にすることばしだいで、あなたがたの将来は決まります。自分のことばによって、正しい者と認められるか、あるいは有罪を宣告されるか、そのどちらかになるのです。」
証拠を求める人々
３８　ある日、ユダヤ人の指導者とパリサイ人のうちの何人かがやって来て、ほんとうにメシヤ（救い主）なら、その証拠に奇蹟を見せてほしいと頼みました。
３９　しかしイエスは、お答えになりました。　「悪と不信の時代に生きる人々だけが、証拠を要求するのです。　けれども、預言者ヨナに起こったこと以外は、何の証拠も与えられません。　４０つまり、ヨナが三日三晩大きな魚の腹の中で過ごしたように、メシヤのわたしも、三日三晩、地の中で過ごすからです。　４１さばきの日には、あのニネベの人々が、あなたがたをきびしく罰する側に立つでしょう。　ニネベの人々はヨナの教えを聞いて、それまでの堕落した生活を悔い改め、神に立ち返ったからです。　ところが、今ここに、ヨナとは比べものにならないほど偉大な者が立っているのに、あなたがたはその人を信じようとしません。　４２シェバの女王でさえ、あなたがたをきびしく罰する側に回るでしょう。　彼女は、ソロモンから知恵のことばを聞こうと、あれほど遠い国から旅して来ることも、いとわなかったからです。　ここに、そのソロモンより、もっと偉大な者がいるのに、あなたがたは信じようとしません。
４３　この邪悪な時代に生きる人たちは､ちょうど悪霊に取りつかれた人のようです。 せっかく、その人から悪霊が出て行っても、しばらくの間、悪霊は別の住みかを求めて荒野をあちこち歩き回るだけです。結局、適当な場所が見つからないので、　４４『もとの家に帰ろう』と帰ってみると、その人の心はきれいに片づけてあり、しかも空っぽです。　４５そこで、しめたとばかり、もっとたちの悪い七つの霊を連れ込んで、住みついてしまうというわけです。　こうなると、その人の状態は以前より、はるかに悲惨なものとなります。」
４６　イエスが人々のひしめき合う家の中で話しておられた時、母と弟たちがやって来ました。　イエスと話がしたかったからです。　４７だれかが、「先生。　お母様と弟さんた

ちがお見えですよ」と知らせると、　４８イエスは、みんなを見回して、「わたしの母や兄弟とは、いったいだれのことですか」と言われました。　４９そして弟子たちを指さし、「ごらんなさい。　この人たちこそわたしの母であり兄弟です。　５０天におられるわたしの父に従う人はだれでも、わたしの母であり、兄弟であり、姉妹なのです」と言われました。
一三
天国のたとえ話
１　その日のうちに、イエスは家を出て、湖の岸辺に降りて行かれました。　２３ところがそこも、またたく間に群衆でいっぱいになったので、小舟に乗り込み、舟の上から、岸辺に座っている群衆に、多くのたとえを使って教えを語られました。
「農夫が畑で種まきをしていました。　４まいているうちに、ある種が道ばたに落ちました。　すると、鳥が来て、食べてしまいました。　５また、土の浅い石地に落ちた種もありました。　それはすぐに芽を出したのですが、　６土が浅すぎて、十分根を張ることができません。　やがて日が照りつけると枯れてしまいました。　７ほかに、いばらの中に落ちた種もありましたが、いばらが茂って、結局、生長できませんでした。　８しかし、中には、耕された良い地に落ちた種もありました。　そして、まいた種の三十倍、六十倍、いや百倍もの実を結びました。　９聞く耳のある人はよく聞きなさい。」
１０　その時、弟子たちが近寄って来て、尋ねました。　「どうして、人々にはいつも、このようなたとえでお話しになるのですか。」
１１　「あなたがたには天国を理解することが許されていますが、ほかの人たちはそうではないからです。」イエスはこうお答えになり、　１２さらに続けて説明なさいました。
「つまり、持っている者はますます多くの物を持つようになり、持たない者はわずかな持ち物さえ取り上げられてしまいます。　１３だから、たとえを使って話すのです。　彼らは、いくら見ても聞いても、少しも理解しようとしません。
１４　こうして、イザヤの預言のとおりになりました。
『彼らは、聞くには聞くが理解しない。
見るには見るが認めない。
１５　その心は肥えて鈍くなり、
その耳は遠く、その目は閉じられている。
彼らは見もせず、聞きもせず、理解もせず、
神に立ち返って、わたしにいやされることがない。』
１６しかし、あなたがたの目は見ているから幸いです。　また、あなたがたの耳は聞いているから幸いです。　１７よく言っておきますが、多くの預言者や神を敬う人たちが、今あなたがたの見聞きしていることを、見たい、聞きたいと、どんなに願ったことでしょう。しかし、残念ながらできなかったのです。
１８　さて、さっきの種まきのたとえ話を説明しましょう。　１９最初の道ばたというの

は、踏み固められた堅い土のことで、御国についてのすばらしい知らせを耳にしながら、それを理解しようとしない人の心を表わしています。　こういう人だと、悪魔がさっそくやって来て、その心から、まかれた種を奪い取っていくのです。　２０次に、土が浅く、石ころの多い地というのは、教えを聞いた当座は大喜びで受け入れる人の心を表わしています。　２１ところが、その人の生活には深みがないので、このすばらしい教えも、心の中に深く根をおろすことができません。　ですから、しばらくして信仰上の問題が起こったり、迫害が始まったりすると、熱がさめ、いとも簡単に落後してしまうのです。　２２また、いばらの生い茂った地というのは、神のことばを聞いても、生活の苦労や金銭欲などがそれをふさいでしまい、しだいに神から離れていく人のことです。　２３最後に、良い地というのは、神のことばに耳を傾け、それを理解する人の心のことです。　このような人こそ、出かけて行って、三十倍、六十倍、いや百倍もの人を天国に連れて来ることができるのです。」
２４　イエスは、別のたとえ話もなさいました。　「天国は、自分の畑に良い種をまく農夫のようなものです。　２５ところがある晩、農夫が眠っているうちに敵が来て、麦の中に毒麦の種をまいていきました。　２６麦が育つと、毒麦もいっしょに伸びだしたではありませんか。
２７　使用人は主人のところに駆けつけ、このことを報告しました。『だんな様、大変でございます！　極上の種をまいた畑が、なんと毒麦でいっぱいになっています。』
２８　『敵のしわざだな。』主人はすぐに真相を見抜きました。　使用人たちが、『毒麦を引き抜きましょうか』と尋ねると、　２９主人は、『いや、だめだ。　そんなことをしたら、麦まで引き抜いてしまうだろう。　３０収穫の時まで、放っておけ。　その時がきたら、まず毒麦だけを束ねて燃やし、あとで麦はきちんと倉庫に納めさせればいいから』と答えました。」
３１　また、こんなたとえ話もあります。　「天国は、畑にまいたからしの種みたいです。３２それはどんな種よりも小粒ですが、生長すると大きな木になり、鳥が巣を作れるほどになります。」
３３　またさらに、こんなたとえ話もあります。　「天国は、女の人がパンを焼くのにも似ています。　小麦粉に、ほんの少しのイースト菌を入れるだけで、パン生地全体がふくらんできます。」
３４３５群衆に話をする時は、イエスはいつも、このようなたとえ話をなさいました。　それは、預言者によって言われたことが実現するためでした。　「わたしはたとえを使って語り、世の初めから隠されている秘密を説き明かそう。」　３６こうして、イエスが群衆と別れ、家に入られると、弟子たちは、さっきの毒麦のたとえの意味を説明してくださいと頼みました。
３７　イエスは、お答えになりました。　「いいでしょう。　良い麦の種をまく農夫とは、わたしです。　３８畑とはこの世界、良い麦の種というのは天国に属する人々、毒麦とは

悪魔に属する人々のことです。　３９畑に毒麦の種をまいた者とは悪魔であり、収穫の時とはこの世の終わり、刈り入れをする人とは御使いたちのことです。
４０　この話では、毒麦がより分けられ、焼かれますが、この世の終わりにも、同じようなことが起こります。　４１わたしは御使いを送って、人をそそのかす者や悪人たちをより分け、　４２炉に投げ込んで燃やしてしまいます。　悪人たちは、そこで泣きわめき、歯ぎしりしてくやしがるのです。　４３その時、正しい人たちは、父の御国で太陽のように輝きます。　聞く耳のある人は、よく聞きなさい。
４４　天国は、ある人が畑の中で見つけた宝のようなものです。　見つけた人は、もう大喜びで、だれにも知らせず、全財産をはたいてその畑を買い、宝を手に入れるに違いありません。
４５　また天国は、良質の真珠を捜している宝石商のようなものです。　４６彼は掘り出し物の真珠を見つけると、持ち物全部を売り払ってでも、それを手に入れようとするのです。
４７４８また天国は、漁師にたとえることもできます。　漁師は、いろいろな魚でいっぱいになった網を引き上げると、岸辺に座り込んで網の中の魚をより分けます。　食べられるものはかごに入れて、食べられないものは捨てるというふうに。　４９この世の終わりにも、同じようなことが起こります。　御使いがやって来て、正しい者と悪い者とを区別し、　５０悪い者を火に投げ込むのです。　彼らはそこで泣きわめき、歯ぎしりしてくやしがります。　５１これで、わかりましたね。」
「はい。」
５２　そこでイエスは、さらにこう言われました。「ユダヤ人のおきてに通じ、しかも、わたしの弟子でもある人たちは、古くからある聖書（旧約）の宝と、私が与える新しい宝と、二つの宝を持つことになるのです。」
故郷の町ナザレでのイエス
５３５４この一連のたとえ話を語り終えられると、イエスはガリラヤのナザレにお帰りになり、町の会堂で教えられました。　ところが、人々はみなイエスの知恵とその不思議な力に驚いてしまいました。「なんてこった。　５５たかが大工のせがれじゃないか。　あれの母親はマリヤだし、弟のヤコブも、ヨセフも、シモンも、ユダも、　５６妹たちも、よく知っているぞ。　みんな、ここに住んでるんだから。　なのに、あのイエスが偉いなんてはずはないじゃないか。」　５７人々は、かえってイエスに反感を持つようになりました。
「預言者はどこででも尊敬されますが、ただ自分の故郷、身内の者の間では尊敬されないものです。」イエスはこう言われました。　５８このような人々の不信仰のために、そこでは、ほんのわずかの奇蹟を行なわれただけでした。
一四
殺されたヨハネ

１　そのころ、イエスのうわさを聞いたヘロデ王は、家来たちに言いました。　２「あれはバプテスマのヨハネだ。　ヨハネが生き返ったに違いない。　そうでなきゃ、こんな奇蹟はできるわけがない。」　３実はこのヘロデは以前、兄のピリポの妻であったヘロデヤにそそのかされてヨハネを捕らえ、牢獄につないだ張本人でした。　４それは、ヨハネが、兄嫁を横取りするのはよくないと忠告したからです。　５その時ヘロデは、ヨハネを殺そうとも考えましたが、それでは暴動が起きる恐れがあったので、思いとどまりました。人々はみな、ヨハネを預言者だと信じて疑わなかったからです。
６　ところが、ヘロデの誕生祝いのパーティーが開かれた席で、ヘロデヤの娘が、みごとな舞を披露し、ヘロデをたいそう喜ばせました。　７それで王は娘に、「ほしいものを、何でも言うがよい。　必ず与えよう」と誓いました。　８ところがヘロデヤに入れ知恵された娘は、なんと、バプテスマのヨハネの首を盆に載せていただきたいと願い出たのです。
９　王は心を痛めましたが、自分が誓ったことでもあり、また並み居る客の手前もあって、引っ込みがつきません。　しかたなく、それを彼女に与えるように命令しました。
１０　こうしてヨハネは、獄中で首を切られ、　１１その首は盆に載せられ、約束どおり娘に与えられました。　娘はそれを母親のところに持って行きました。
１２　ヨハネの弟子たちは死体を引き取って埋葬し、この悲惨な出来事をイエスに知らせました。
１３　この知らせを聞くと、イエスは一人、舟をこぎ出し、人里離れた所へ行こうとなさいました。　ところが、大ぜいの群衆がそれと気づき、町々村々から、岸づたいにイエスのあとを追って行きました。
五つのパンと二匹の魚
１４　舟から上がられたイエスは、大ぜいの群衆をごらんになり、あわれに思って、病人たちをみな治されました。
１５　夕方になったので、弟子たちはイエスのところに来て、「先生。もうとっくに夕食の時間も過ぎてますよ。　こんな寂しい所じゃ、食べ物もないし、みんなを解散してはどうでしょう。　村へ行けば、めいめいで食べる物を買えますから」と勧めました。
１６　しかし、イエスはお答えになりました。　「それにはおよびません。　あなたがたが、みんなに食べる物をあげなさい。」
１７　弟子たちは驚いて叫びました。　「何ですって！　先生、いま手もとには、小さなパンが五つと、魚が二匹あるだけなんですよ。」
１８　ところがイエスは、「そのパンと魚とを持って来なさい」と言われました。
１９　それから、群衆を草の上に座らせると、五つのパンと二匹の魚を取り、天を見上げて神の祝福を祈り求め、パンをちぎって、弟子たちに配らせました。　２０こうして、みんなが食べ、満腹したのです。　あとで、パンくずを拾い集めると、なんと十二のかごに、いっぱいになったではありませんか。　２１そこには、女や子供を除いて、男だけでも五千人ぐらいの人がいたというのに。　２２このあとすぐ、イエスは弟子たちを舟に乗り込

ませて、向こう岸に向かわせ、また、群衆にも解散するよう説得なさいました。
２３　みんなをお帰しになったあと、ただお一人になったイエスは、祈るために丘に登って行かれました。　２４一方、湖上では、夕やみが迫り、弟子たちは強い向かい風と大波に悩まされていました。
２５　朝の四時ごろ、イエスが水の上を歩いて、弟子たちのところに行かれると、　２６弟子たちは、悲鳴をあげました。　てっきり幽霊だと思ったからです。
２７　しかし、すぐにイエスが、「わたしです。　こわがらなくてもよいのです」と声をおかけになったので、彼らはほっと胸をなでおろしました。
２８　その時です。　ペテロが叫びました。　「先生。　もしほんとうにあなた様だったら、わたしに、水の上を歩いてここまで来い、とおっしゃってください。」
２９　「いいでしょう。　来なさい。」　言われるままに、ペテロは舟べりをまたいで、水の上を歩き始めました。　３０ところが、高波を見てこわくなり、沈みかけたので、大声で、「助けてくれーっ」と叫びました。
３１　イエスはすぐに手を差し出してペテロを助け、「ああ、信仰の薄い人よ。　なぜわたしを疑うのですか」と言われました。　３２二人が舟に乗り込むと、すぐに風はやみました。
３３　舟の中にいた者たちはみな厳粛な思いに打たれ、「あなた様はほんとうに神の子です」と告白しました。
３４　やがて、舟はゲネサレに着きました。　３５イエスが来られたという知らせはたちまち町中に広まり、人々がどっと押しかけました。　互いに誘い合い、病人という病人をみな連れてきて、　３６イエスに頼みました。　「せめてお着物のすそにでもさわらせてやってください。」さわった人たちはみな治りました。
一五
規則より大切なもの
１　パリサイ人やユダヤ人の指導者たちが、イエスに会いに、はるばるエルサレムからやって来ました。　２彼らは、「どうしてあんたの弟子たちは、ご先祖様の言い伝えを守らないのか。　食事の前に手を洗わないとは、けしからん」と問い詰めました。
３　そこでイエスは、こう言われました。　「それならお聞きします。あなたがたも自分たちの言い伝えのために、神のおきてを破っていますね。　それはどういうわけですか。
４たとえば、おきてには、『あなたの父と母とを敬え。　だれでも父や母をののしる者は死刑に処せられる』とあります。　５６ところが、どうでしょう。　あなたがたは、両親が困っていようが何だろうが、『このお金は教会にささげました』と言いさえすれば、もう両親のためにそのお金を使わなくてもよいと教えています。　つまり、人間の作った規則を盾にとって、両親を敬い、そのめんどうを見なさいという神のおきてを破っているのです。
７まさに偽善者です。　全くイザヤが預言したとおりです。
８　『彼らは口先ではわたしを敬うが、

心はわたしから遠く離れている。
９　彼らがわたしを拝んでも、むだなことだ。
神のおきての代わりに、
人間の規則を教えているのだから。』」
１０　それからイエスは、群衆を呼び寄せて言われました。　「いいですか、よく聞きなさい。　１１おきてで禁じられている物を食べたからといって、汚れるわけではありません。　人を汚すのは、口から出ることばであり、心の思いなのです。」
１２　その時、弟子たちが来て言いました。　「先生があんなことをおっしゃったので、パリサイ人たちはかんかんですよ。」
１３　しかし、イエスは言われました。　「わたしの父がお植えにならなかった木は、みな根こそぎ抜かれてしまいます。　１４だから、あの人たちのことは放っておきなさい。彼らは盲人なのです。　おまけに、ほかの盲人の道案内までして、結局、二人とも溝にはまってしまうでしょう。」
１５　すると、ペテロが尋ねました。　「おきてで、きよくないとされている物を食べても汚れないというのは、どうしてですか。」
１６　イエスは言われました。　「こんなことがわからないのですか。　１７口から入る物は何でも腹に入って、外へ出ます。　１８ところが、悪いことばは悪い心から出てくるので、人を汚すのです。　１９つまり、悪い考え、殺人、姦淫、不品行、盗み、うそ、また悪口などは、心から出て、　２０人を汚すのです。　だが、食事の前に手を洗うという規則を破ったからといって、汚れるわけではありません。」
２１　イエスはその地方を去り、ツロとシドンに向かわれました。
数々の奇蹟
２２　この地方に住んでいるカナン人の女がイエスのところに来て、必死に願いました。「主よ。　ダビデ王の子よ！　お願いでございます。　どうか、私をあわれと思ってお助けくださいまし。　娘が悪霊に取りつかれて、ひどく苦しんでいるのです。」
２３　しかし、イエスは堅く口を閉ざして、ひと言もお答えになりません。　とうとう弟子たちが、「あの女に早く帰るように言ってください。　あんまりしつこいので、うるさくてしかたがありません」と頼みました。
２４　それでイエスは、「わたしが遣わされたのは、外国人を助けるためではありません。ユダヤ人を助けるためです」と説明なさいました。
２５　それでも女は、イエスの前にひれ伏し、「主よ。　どうかお助けください」と願い続けました。
２６　イエスは、「子供たちのパンを取り上げて、犬に投げてやるのはよくないことです」と言われました。
２７　しかし、女はあきらめません。　「おおせのとおりです。　でも、食卓の下にいる小犬でも、落ちたパンくずぐらいは食べさせてもらえますもの。」

２８　そのことばにイエスは感心し、「あなたの信仰は見上げたものです。 いいでしょう。願いをかなえてあげましょう」と言われました。　ちょうどその時、娘は治りました。
２９　さて、舞台は再びガリラヤ湖に移ります。　イエスは丘に登り、腰をおろしておられました。　３０そこへ、大ぜいの人が、足の不自由な者、盲人、体の不自由な人、聾唖者をはじめ、たくさんの病人を連れて来たので、イエスはその人たちをみな治されました。
３１なんという驚くべき光景でしょう。　口のきけなかった人が興奮して話しだし、歩けなかった人が歩きだし、目の見えなかった人が見えるようになったのです。 人々は驚き、心からイスラエルの神をほめたたえました。
３２　イエスは、弟子たちを呼び寄せられました。 「この人たちがかわいそうです。　もう三日もわたしといっしょにいるのですから。　食べ物はとっくにないようだし、このまま帰らせたら、きっと途中で倒れてしまうでしょう。」
３３　「でも、こんな寂しい所で、これほどたくさんの人ですよ……。それだけの食べ物を、いったいどこで手に入れるのですか。」
３４　「今、手もとにある食べ物は？」
「パンが七つと、小さい魚がほんの少しだけです。」
３５　それを聞くと、イエスは、みんなを地べたに座らせました。　３６そして、七つのパンと魚を取り、神に感謝をささげてから、それを裂き、弟子たちに渡して、一人一人に配らせました。　３７３８婦人や子供を除いても、四千人もの群衆でしたが、だれもが満腹するほど食べました。　あとでパンくずを拾い集めると、なんと七つのかごがいっぱいになりました。
３９　そこで、イエスは人々を家に帰し、舟に乗ってマガダン地方へ向かわれました。
一六
まちがった教え
１　ある日、パリサイ人やサドカイ人たちがイエスのところに来て、天からのすばらしい奇蹟を見せてくださいと頼みました。　メシヤ（救い主）だと自称するイエスの主張がほんとうかどうかを、試してやろうと思ったのです。
２３イエスのご返事はこうでした。 「あなたがたは、天気を予測するのが得意です。　夕焼けになると、『明日は晴れだ』と言うし、朝焼けを見ると、『今日は荒れ模様だ』と言います。　そんなに上手に空模様を見分けるのに、これほどはっきりした時代の兆候は、読み取れないのですか。　４今の悪い不信仰な時代は、不思議なしるしが天に現われることばかり求めています。　しかし、ヨナの身に起こった奇蹟以外に、神からの証拠は与えられません。」そしてイエスは、彼らを残したまま去って行かれました。
５　一行は湖の向こう岸へ渡りました。　ところが、食べ物を持って来るのを忘れていたのです。
６　イエスは、「パリサイ人とサドカイ人のイースト菌に気をつけなさい」と忠告なさいましたが、　７弟子たちは、パンを忘れてきたので、おしかりになっているのだろうと勘違

いしました。
８　それに気づいたイエスは、「ああ、信仰の薄い人たちよ。　なぜそんなに、食べ物を持って来なかったことを気に病むのですか。　９まだわからないのですか。　五つのパンを五千人に食べさせた時、幾かごものパンが余ったではありませんか。　１０また四千人に食べさせた時も、たくさんのパンが余りました。　１１パンのことなど問題ではありません。　どうしてわからないのですか。　もう一度、はっきり言いましょう。　わたしは、『パリサイ人とサドカイ人のイースト菌に気をつけなさい』と言ったのです」と言われました。
１２　それでやっと弟子たちにも、イースト菌とは、パリサイ人やサドカイ人のまちがった教えのことだとわかりました。
わたしはだれか
１３　ピリポ・カイザリヤに行った時、イエスは弟子たちに、「みんなは、わたしのことをだれだと言っていますか」とお尋ねになりました。
１４　弟子たちは答えました。　「バプテスマのヨハネだと言う人もいますし、エリヤだと言う人もいます。　また、エレミヤだとか、ほかの預言者の一人だとか、いろいろです。」
１５　「では、あなたがたは、どうなのですか。」
１６　シモン・ペテロが答えました。　「あなた様こそ、キリスト（救い主）です。　生ける神の子です。」
１７　「ヨナの息子シモンよ。　神があなたを祝福してくださったのです。　それがわかったのは、天におられるわたしの父が、あなたに個人的に教えてくださったからですよ。人間の力ではありません。　１８あなたはペテロ（岩）です。　わたしはこの大きな岩の上にわたしの教会を建てます。　地獄のどんな恐ろしい力も、わたしの教会に打ち勝つことはできません。　１９あなたに天国のかぎをあげましょう。　あなたが地上でかぎをかける戸は、みな、天でも閉じられ、あなたが地上でかぎを開ける戸はみな、天でも開かれるのです。」
２０　このあとイエスは、ご自分がキリストであることをほかの人に話してはいけない、と弟子たちに注意なさいました。
２１　その時から、イエスは、ご自分が、エルサレムに行くことと、そこでご自分の身に起こること、すなわち、ユダヤ人の指導者たちの手でひどく苦しめられ、殺され、そして三日目に復活されることを、はっきり弟子たちに話し始められました。
２２　ところが、ペテロはイエスをわきへ呼んで忠告しました。　「先生。　とんでもございません。　あなたのようなお方に、そんなことが起こってたまるものですか！」
２３　イエスはふり向かれ、「サタンよ。　出て行きなさい！　そのようなことを言って、わたしをわなにかける気ですか。　あなたはただ人間的な見方をして、神の立場を忘れている！」とおしかりになりました。
２４　それから、弟子たちに言われました。　「だれでもわたしの弟子になりたければ、

自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしについて来なさい。　２５いのちを大事にする者は、いのちを失うことになります。　しかし、わたしのためにいのちを投げ出す者は、それをもう一度自分のものにできるのです。　２６たとい、全世界を自分のものにしても、永遠のいのちを失ってしまったら、何の得になるでしょう。　いったい、永遠のいのちほど価値のあるものが、ほかにあるでしょうか。　２７メシヤのわたしは、やがて、父の栄光を帯びて、御使いたちと共にやって来ます。　そして、一人一人を、その行ないによってさばくのです。　２８今ここにいる者の中には、生きているうちに、わたしが御国の力を帯びて来るのを、その目で見る者がいます。」
一七
栄光に輝くイエス
１　六日後、イエスは、ペテロと、ヤコブとヨハネの兄弟とを連れて、人里離れた高い山の頂上に登られました。　２すると、三人の目の前で、たちまちイエスの姿が変わりました。　顔は太陽のように輝き、着物はまばゆいほどの白さです。
３　そこへ突然、モーセとエリヤが現われて、イエスと親しく話し始めたではありませんか。　４これを見て、ペテロは思わず口走りました。　「ああ、先生。　なんとありがたいことでしょう。　こんなすばらしい所に居合わすなんて！　もし、よろしければ、小屋を三つお建てしましょう。　あなた様と、モーセ様とエリヤ様のために。」
５　ところが、そう言っているうちにも、光り輝く雲が現われて、三人をすっぽり包んでしまいました。　そして雲の中から、「これこそ、わたしの愛する子。　わたしは彼を心から喜んでいる。　彼の言うことを聞きなさい」という声がしました。
６　この声を聞いた弟子たちは、恐ろしさのあまり、わなわなとふるえ、ひれ伏してしまいました。　７イエスは近寄り、彼らにさわって言われました。　「さあ、起きなさい。こわがることはありません。」
８　それで、ようやく顔を上げると、そこにはもう、イエスのほかにはだれもおられませんでした。
９　山を降りながら、イエスは、いま見たことを、自分が復活するまではだれにも話してはいけません、とお命じになりました。
１０　そこで、弟子たちが尋ねました。　「どうしてユダヤ人の指導者たちは、メシヤ（救い主）が来る前に、エリヤが必ず戻って来ると主張しているのでしょうか。」
１１　「彼らの言うとおりです。　まずエリヤが来て、すべての準備をするのです。　１２実際、エリヤはもう来たのです。　しかし、人々は彼を認めず、ひどい目に会わせました。　そればかりか、メシヤのわたしもまた、彼らの手で苦しめられるのです。」
１３　その時、弟子たちは、イエスがバプテスマのヨハネのことを言っておられるのだと気づきました。
山を降りたイエス
１４　彼らがふもとに着くと、大ぜいの群衆が待ちかまえていました。その時、一人の男

が駆け寄り、イエスの前にひざまずいて叫びました。　１５「先生。　息子をあわれと思ってお助けください。　ひどいてんかん持ちで、火の中でも水の中でも、おかまいなしに倒れるのです。　１６それで、お弟子さんたちのところに連れて来て、お願いしたのですが、だめでした。」
１７　「ああ、なんと不信仰な人たちでしょう。　いったいいつまで、あなたがたのことを我慢しなければならないのですか。　さあ、その子をここに連れて来なさい。」　１８こう言って、その子に取りついている悪霊をおしかりになると、悪霊は、出ていき、子供はその場ですっかり治ってしまいました。
１９　あとで弟子たちは、そっとイエスに尋ねました。　「どうして、私たちには悪霊が追い出せなかったのでしょう。」
２０　イエスはお答えになりました。　「信仰が足りないからですよ。　もしあなたがたに、からしの種ほどの信仰があったら、この山に向かって『動け』と言えば、そのとおり山は動くのです。　何でもできないことはありません。　２１ただし、こういった悪霊は、祈りと断食によらなければ、とても追い出せないのです。」
２２２３まだガリラヤにいたある日のこと、イエスはこんなことをお話しになりました。「わたしは裏切られ、人々の手に引き渡され、殺されますが、三日目には必ず復活します。」これを聞いて、弟子たちの心は悲しみと恐れとで、いっぱいになりました。
２４　カペナウムに着いた時、神殿に納める税金を取り立てる役人がペテロのところへ来て、「あんたがたの先生は、税金を納めないのか」と尋ねました。
２５　「もちろん、納めますとも。」こう答えると、ペテロは急いで家に入り、このことを話そうとしました。　ところが、まだ話を切り出さないうちに、イエスのほうから、お尋ねになりました。　「ペテロ。　あなたはどう思いますか。　世の王たちはだれから税を取り立てるでしょうか。　自分の子供たちからですか、それとも、ほかの人たちからですか。」
２６　「ほかの人たちからです」とペテロは答えました。
「では、王の子供たちは税金を納める必要はないのです。　２７しかし、役人たちを怒らせたくはありません。　今から湖へ行ってつり糸をたれてみなさい。　最初につれた魚の口から、わたしたち二人分の税金を払うだけのお金が見つかるはずです。　それで払いなさい。」
一八
小さい子供のように
１　そこへ、弟子たちがやって来て、「私たちのうち、だれが天国で一番偉いのでしょうか」と尋ねました。
２　するとイエスは、近くにいた小さい子供を呼び寄せ、みんなの真ん中に立たせてから、話しだされました。
３　「よく聞いておくのですよ。　悔い改めて神に立ち返り、この小さい子供たちのよう

にならなければ、決して天国には入れません。　４ですから、小さい子供のように自分を低くする者が、天国では一番偉いのです。　５また、だれでも、この小さい者たちを、わたしのために受け入れる者は、わたしを受け入れるのです。　６反対に、わたしに頼りきっているこの子供たちの信仰を失わせるような者は、首に大きな石をくくりつけられて、海に投げ込まれたほうが、よっぽどましです。
７　悪がはびこるこの世はいまわしいものです。誘惑されるのは避けられないとしても、誘惑のもとになる人はいまわしいものです。　８罪を犯させるものは、手だろうが足だろうが、切り取ってしまいなさい。　五体満足で地獄へ行くより、片手片足になっても天国に入るほうが、よっぽどましです。　９また、目が罪を犯させるなら、そんなものはえぐり出しなさい。　両眼そろって地獄へ行くより、片目でも天国に入るほうが、よっぽどましだからです。
１０　この小さい子供たちの一人でも、見下げたりしないように気をつけなさい。　言っておきますが、天国では、子供たちを守る御使いが、いつでもわたしの父のそば近くにいるのです。　１１メシヤ（救い主）のわたしは、神から離れ、迷っている者を救うために来たのです。
１２　ある人が百匹の羊を持っていたとします。　そのうちの一匹が迷い出ていなくなったら、その人はどうするでしょう。　ほかの九十九匹はその場に残したまま、いなくなった一匹を捜しに、山へ出かけるでしょう。　１３そして、もし見つけようものなら、何でもなかったほかの九十九匹以上に、この一匹のために大喜びします。　１４同じように、わたしの父も、この小さい者たちの一人でも滅びないようにと願っておられるのです。
人を赦す者
１５　信仰の友達があなたがたに罪を犯した時は、一人で行って、その誤りを指摘してあげなさい。　もし、相手が忠告を聞いて罪を認めれば、あなたはその友達を取り戻したことになるのです。　１６しかし、もしあなたの言うことに耳を貸そうとしないなら、一人か二人の証人を立てて、もう一度相手のところへ行きなさい。　あなたの言い分をすべて証明してもらうためです。　１７それでも忠告を聞き入れないなら、その問題を教会に持ち出しなさい。　そして、教会があなたを支持してもなお、相手がそれを受け入れないなら、教会はその人と交わるのをやめなさい。　１８言っておきますが、あなたがたが地上で赦したり、禁じたりすることは、天でも同じようになされるのです。
１９　このことも言っておきましょう。もし、あなたがたのうち二人の者が、何であれ、この地上で心を一つにして願い求めるなら、天におられるわたしの父は、その願い事をかなえてくださいます。　２０たとい二、三人でも、わたしを信じる者同士が集まるなら、わたしはその人たちの真ん中にいるからです。」
２１　その時、ペテロが、イエスのそばに来て尋ねました。　「先生。　友達が私に罪を犯した場合、何回ぐらいまで赦してやればいいでしょうか。　七回でしょうか。」
２２　イエスはお答えになりました。　「いや、七回を七十倍するまでです。

２３　天国は、帳じりをきちんと合わせようとした王にたとえることができます。　２４清算が始まってまもなく、王から三十億円というばく大な借金をしていた男が引き立てられて来ました。　２５その男は借金を返すことができなかったので、王は、自分の身や持ち物全部を売り払ってでも返済しろ、と命じました。
２６　ところが、男は王の前にひれ伏し、顔を地面にすりつけて、『ああ、王様。　お願いでございます。　もう少し、もう少しだけお待ちください。　きっと全額お返しいたしますから』と、必死に願いました。
２７　これを見て、王はかわいそうになり、借金を全額免除し、釈放してやりました。
２８　ところが、赦してもらった男は、王のところから帰ると、その足で、六十万円貸してある人の家に出かけました。　そして、首根っこをつかまえ、『たったいま借金を返せ』と迫ったのです。
２９　相手は、男の前にひれ伏して、『今はかんべんしてください。　もう少ししたら、きっとお返ししますから』と、拝まんばかりに頼みました。
３０　しかし、男は少しも待ってやろうとはせず、その人を捕らえると、借金を全額返すまで牢にたたき込んでしまいました。
３１　このことを知った友人たちが王のところへ行き、事の成り行きを話しました。　３２怒った王は、借金を免除してやった男を呼びつけて、言いました。　『この人でなしめっ！　おまえがあんなに頼んだからこそ、あれほど多額の借金も全部免除してやったのだ。３３自分があわれんでもらったように、ほかの人をあわれんであげるべきではなかったのかっ！』
３４　そして、借金を全額返済し終えるまで、男を牢に放り込んでおきました。　３５あなたがたも、心から友達を赦さないなら、天の父も、あなたがたに同じようになさるのです。」
一九
１　これらのことを話し終えられると、イエスはガリラヤをお去りになり、ヨルダン川を渡って、ユダヤ地方に向かわれました。　２すると、大ぜいの人があとを追って来たので、病人を治されました。
結婚と離婚
３　イエスをわなにかけ、破滅させてやろうと、何人かのパリサイ人がやって来ました。そして、「あなたは離婚をお認めになりますか」と尋ねました。
４‐６「聖書（旧約）を読んだことがないのですか。　聖書には、神が初めに男と女を造られたので、人は両親から離れて、永遠に妻と結ばれ、二人の者は一体となる、と書いてあるではないですか。　彼らはもう二人ではなく、一人なのです。　ですから、神が結び合わせたものを、だれも離すことはできません。」
７　「でも、モーセは、離縁状を渡しさえすれば、妻と別れてもよいと言いましたよ。」なおも食い下がる彼らに、　８イエスは答えて言われました。「モーセがそう言ったのは、

あなたがたの心が邪悪で強情なのを知っていたからです。　しかしそれは、神がもともと望んでおられたことではありません。　９言っておきますが、不倫以外の理由で妻を離縁し、ほかの女性と結婚する者は、姦淫の罪を犯すのです。」
１０　「それなら、結婚しないほうがましですね。」弟子たちがイエスに言いました。
１１　「そうは言っても、独身で通すことは、だれにでもできることではありません。　ただ、神に力を与えられた者だけが、できるのです。　１２生まれつき結婚する能力のない人もいるし、人の手で結婚できないようにされた人もいます。　またある人は、天国のために、自分から進んで独身を通します。　わたしの言ったことを受け入れることのできる人は、受け入れなさい。」
１３　その時、イエスに手を置いて祈っていただこうと、人々が小さい子供たちを連れて来ました。　ところが、弟子たちは、「先生のおじゃまだ」としかりつけました。
１４　しかし、イエスはそれをとどめて、「子供たちを自由に来させなさい。　じゃまをしてはいけません。　天国は、この子たちのような者の国なのですから」と言われました。
１５そして、子供たちの頭に手を置いて祝福し、そこを去って行かれました。
天国に入るには？
１６　一人の青年がイエスのところに来て、こう質問しました。　「先生。　永遠のいのちがほしいのですが、どんな良いことをしたら、もらえるでしょうか。」
１７　「良いことについて、なぜわたしに尋ねるのですか。　ほんとうに良い方は、ただ神お一人なのです。　しかし、質問に答えてあげましょう。　天国に入るには、神のおきてを守ればいいのです。」
１８　「どのおきてでしょうか。」
「殺してはならない、姦淫してはならない、盗んではならない、うそをついてはならない、１９あなたの父や母を敬いなさい、隣人を自分と同じように愛しなさい、というおきてです。」
２０　「それなら、全部守っています。　ほかには？」
２１　「完全な者になりたければ、家に帰って、財産を全部売り払い、そのお金を貧しい人たちに分けてあげなさい。　天に宝をたくわえるのです。　それから、わたしについて来なさい。」　２２青年はこれを聞くと、悲しそうに帰って行きました。　たいへんな金持ちだったからです。
２３　イエスは、弟子たちに言われました。　「金持ちが天国に入るのは、なんとむずかしいことでしょう。　２４もう一度言いますが、金持ちが天国に入るよりは、らくだが針の穴を通るほうがずっとやさしいのです。」
２５　このことばに、弟子たちはすっかり面食らってしまいました。「それなら、この世の中で、救われる人などいるでしょうか。」
２６　イエスは、弟子たちをじっと見つめて言われました。「人間にはできません。　だが、神には、何でもできます。」

２７　その時、ペテロが質問しました。　「私たちは何もかも捨てて、お従いしてまいりました。　それで、いったい何がいただけるのでしょうか。」
２８　イエスはお答えになりました。　「メシヤ（救い主）のわたしが、やがて、御国の栄光の王座につく時、あなたがたも十二の王座について、イスラエルの十二の部族をさばくことになるのですよ。　２９わたしに従うために、家、兄弟、姉妹、父、母、妻、子、あるいは財産を捨てた者はだれでも、代わりにその百倍もの報いを受け、また永遠のいのちまでいただくのです。　３０ただ、今は先頭を行くように見える者が、その時には最後になり、今は最後にいるように見えても、その時には先頭になる者が大ぜいいるのです。
二〇
１　天国を、こんなふうにたとえることもできます。　農園の経営者が、果樹園で働く日雇労務者を雇おうと、朝早く出かけて行きました。　２そして、日当六千円の約束で、労務者たちを果樹園へ送り込みました。
３　二、三時間後、また、職を求める人々の集まる場所へ行ってみると、仕事にあぶれた男たちがたむろしています。　４それで、その人たちも、夕方には適当な賃金を払うという約束で、果樹園へ行かせました。　５昼ごろと、午後の三時ごろにも、同じようにしました。
６　夕方も五時近くに、もう一度出かけてみると、まだぶらぶらしている者たちがいます。『どうして一日中遊んでいるのかね』と尋ねると、　７『仕事がないんでさあ』と答えたので、農園主は言いました。　『それなら今すぐ行って、私の農園でみんなといっしょに働きなさい。』
８　終業の時刻になり、農園主は会計係に言いつけて、労務者たちを呼び集めました。　そして、最後に雇った男たちから順に日当を支払いました。　９五時に雇われた男たちの日当はなんと一人六千円です。　１０それで、早くから仕事にかかっていた男たちは、もっとたくさんもらえるだろうと思いました。　ところが、彼らの日当もやっぱり六千円だったのです。
１１１２当てがはずれた者たちはみな、農園主に文句を言いました。　『あいつらは、たった一時間働いただけなんですぜ。　なのに、この炎天下、一日中働いたおれたちと同じに払ってやるんですかい。』
１３　ところが、農園主はその一人に答えました。　『いいかね。　私はおまえに何も悪いことはしていないぞ。　おまえは一日六千円で働くことを承知したはずだ。　１４文句を言わずに、それを持って帰れ。　私はだれにでも分けへだてなく払ってやりたいのだ。１５自分の金をどう使おうと、自由だろうが。　私がほかの者たちに親切なので、おまえは腹を立てているのか。』　１６このように、最後の者が最初になり、最初の者が最後になるのです。」

仕える者になりなさい

１７　さて、エルサレムへ行く途中のことです。　イエスは十二人の弟子だけをわきへ呼び寄せ、　１８やがて、自分がエルサレムでどんな目に会うかを、お話しになりました。
「わたしは、祭司長や他のユダヤ人の指導者たちに引き渡され、彼らから死刑を宣告されます。　１９そしてローマの役人の手に渡され、あざけられ、十字架につけられます。　しかし、わたしは三日目に復活するのです。」
２０　その時、ゼベダイの息子ヤコブとヨハネとの母親が、息子たちを連れて来ました。母親はイエスの前にひざまずき、「お願いがございます」と言いました。
２１　「どんなことですか。」
「どうぞ、あなた様の御国で、二人の息子を、あなた様の次に高い位につかせてやってくださいまし。」
２２　ところがイエスは、「あなたには、何もわかっていませんね」と答え、今度は、ヤコブとヨハネのほうをご覧になりました。
「あなたがたは、わたしが飲もうとしている恐るべき杯を飲むことができますか。」
「はい。　できます。」イエスの質問に、二人はきっぱり答えました。
２３　しかしイエスは、「確かに飲むことにはなるでしょう。　だが、だれをわたしの次の位につかせるかは、わたしの決めることではありません。　わたしの父がお決めになることです」と言われました。
２４　ほかの十人の弟子たちは、ヤコブとヨハネがイエスにどんな願い事をしたかを聞いて、もうれつに腹を立てました。
２５　そこでイエスは、彼らを呼び集め、言われました。　「この世の普通の人たちの間では、王は暴君であり、役人は部下にいばり散らすものです。　２６だが、あなたがたの間では、違います。　リーダーになりたい者は、仕える者になりなさい。　２７上に立ちたいと思う者は、奴隷のように仕えなければなりません。　２８メシヤ（救い主）のわたしでさえ、人々に仕えられるためではなく、みんなに仕えるためにこの世に来たのです。それればかりか、多くの人の罪の代償として自分のいのちを与えるために来たのです。　だからあなたがたも、わたしを見ならいなさい。」
２９　イエスの一行がエリコの町を出ると、大ぜいの人があとについて行きました。
３０　途中の道ばたに二人の盲人が座っていました。 イエスのお通りだと聞いた二人は、大声で訴えました。　「主よ。　ダビデ王の子よ！　私どもをあわれんでください。」
３１　人々が黙らせようとすると、ますます激しく叫び立てます。
３２３３ところが、イエスは二人の前でぴたりと足を止め、「どうしてほしいのですか」とお尋ねになりました。　「先生。　見えるようになりたいんです。」彼らは答えました。
３４　イエスは心からかわいそうに思い、彼らの目におさわりになりました。　すると、たちまち目が見えるようになり、二人はイエスについて行きました。
二一
エルサレムへ

１　一行がエルサレムに近づき、オリーブ山のふもとのベテパゲ近くまで来た時、イエスは弟子を二人、こう言って使いに出しました。
２　「村に入るとすぐ、一頭のろばといっしょに、子ろばがつないであるのに気づくでしょう。　それをほどいて、連れて来なさい。　３もしだれかに、何をしているのかと聞かれたら、『主がお入用なのです』とだけ答えなさい。　そうすれば、何もめんどうは起こらないはずです。」
４　それは、次のような昔の預言が実現するためでした。
５　「エルサレムに告げよ。
『王がおいでになる。
ろばの子に乗って。
柔和な王がおいでになる。』」
６　二人の弟子は、イエスの言いつけどおりに、　７ろばの親子を連れて戻りました。　そして、子ろばの背に自分たちの上着をかけ、イエスをお乗せしました。　８すると、群衆の中の大ぜいの者が、イエスの進んで行かれる道に自分たちの上着を敷いたり、木の枝を切ってきて敷き並べたりしました。
９　どっと押し寄せた群衆は、イエスを取り囲み、口々に叫びました。
「ダビデ王の子、ばんざーいっ！」
「主をほめたたえよ！」
「このお方こそ神の人だーっ！」
「主よ。　このお方に祝福を！」
１０　イエスがエルサレムに入られると、町中が上を下への大騒ぎです。だれもが興奮して、「いったい、その方はどなたなんだい」と尋ねます。
１１　イエスについて来た群衆は、「ガリラヤのナザレ出身の預言者イエス様だよ」と答えました。
１２　それから、イエスは宮にお入りになり、境内で商売していた者たちを追い出され、両替人の机や、鳩を売っていた者たちの台をひっくり返し始められたのです。
１３　そして、彼らにはっきりと言われました。　「聖書（旧約）には、『わたしの神殿は祈りの場所と呼ばれる』と書いてあります。　ところがあなたがたは、それを強盗の巣にしてしまったではありませんか。」
１４　この宮の中へも、盲人や足の不自由な人たちがやって来たので、イエスは彼らを治されました。　１５ところが、祭司長や他のユダヤ人の指導者たちは、イエスが不思議な奇蹟を行なうのを見、また宮の中で小さい子供までが「ダビデ王の子、ばんざーいっ！」と叫ぶのを聞いて、すっかり腹を立てました。　１６そしてイエスに、「子供までがあんなことを言っているのに、おまえには聞こえないのか」と抗議しました。
　しかしイエスは、お答えになりました。　「もちろん聞こえています。　だが、いったい、あなたがたは聖書を読んだことがないのですか。　『小さい子供でさえ神をたたえる』

と、書いてあるのを。」
１７　それから、イエスはエルサレムを出て、ベタニヤ村にお戻りになり、そこで一泊なさいました。
１８　翌朝、エルサレムに向かう途中、イエスは空腹になられました。　１９ふと見ると、道ばたにいちじくの木があります。　さっそく、そばへ行き、実がなっているかどうかをごらんになりましたが、あいにく葉ばかりです。　それで、イエスはその木に、「二度と実がなるな」と言われました。　すると、どうでしょう。　木はみるみる枯れていきました。
２０　「ああ、先生。　どうしたんでしょう。　こんなにもすぐに枯れるなんて……。」すっかり驚いた弟子たちの質問に、　２１イエスはお答えになりました。　「よく聞きなさい。　あなたがただって、信仰を持ち、疑いさえしなければ、もっと大きなことができるのですよ。　たとえば……、このオリーブ山に、『動いて、海に入れ』と言っても、そのとおりになります。　２２ほんとうに信じて祈り求めるなら、何でも与えられるのです。」
敵のわな
２３　イエスが宮に戻って教えておられると、祭司長と他のユダヤ人の指導者たちが来ました。　「昨日、おまえは商人たちを、ここから追い出したな。　いったい何の権威があって、そんなことをしたんだ。　ええっ。　さあ答えてもらおう。」彼らは詰め寄りました。
２４　イエスはお答えになりました。　「いいでしょう。　だが、まずわたしの質問に答えなさい。　そのあとで答えましょう。　２５バプテスマのヨハネは、神から遣わされたのですか。　それとも、遣わされなかったのですか。」彼らは集まって、ひそひそ相談しました。　「もし、『神様から遣わされた』と答えれば、『それを知っていて、どうしてヨハネのことばを信じなかったのか』と聞かれるだろう。　２６だからといって、『神様から遣わされたのではない』と言えば、今度は、ここにいる大ぜいの群衆が騒ぎだすだろう。　なにしろ連中はみな、ヨハネを預言者だと信じきっているんだから。」　２７結局、「わかりません」と答えるほかありませんでした。
　するとイエスは、言われました。「それなら、わたしもさっきの質問には答えません。
２８ところで、次のような話をどう思いますか。ある人に息子が二人いました。　兄のほうに『今日、農場で働いてくれ』と言うと、　２９『はい、行きます』と答えたのに、実際には行きませんでした。　３０次に、弟のほうに、『おまえも行きなさい』と言いました。弟は『いやです』と答えましたが、あとで悪かったと思い直し、出かけました。　３１二人のうち、どちらが父親の言うことを聞いたのでしょうか。」「もちろん、弟です。」彼らは答えました。
次にイエスは、そのたとえ話の意味を説明なさいました。　「確かに、悪人や売春婦たちのほうが、あなたがたより先に神の国に入ります。　３２そうでしょう。　バプテスマのヨハネが来て、悔い改めて神に立ち返れと言った時、あなたがたはその忠告を無視しました。　しかし、極悪人や売春婦たちは言われたとおりにしました。　あなたがたは、それを目のあたりにしながら、なお罪を捨てようとしませんでした。　ですから、信じること

ができなかったのです。
３３　もう一つのたとえ話をしましょう。　ある農園主が、ぶどう園を造り、垣根を巡らし、見張りの塔を建てました。　そして、収穫の何割かを取り分にするという約束で、農夫たちにぶどう園を貸し、自分は外国へ行って、そこに住んでいました。
３４　さて、収穫の時期になったので、幾人かの代理人をやり、自分の分を受け取ろうとしました。　３５ところが農夫たちは、代理人たちに襲いかかり、袋だたきにするやら、石を投げつけるやらしたあげく、一人を殺してしまいました。
３６　農園主はさらに多くの人を送りましたが､結果は同じことでした。３７最後には、ついに息子を送ることにしました。　息子なら、きっと敬ってくれるだろうと思ったからです。
３８　ところが農夫たちは、その息子が来るのを見ると、『おっ、あれは、ぶどう園の跡取りだ。　よーし、あいつを片づけようぜ。　そうすりゃあ、ここはおれたちのものだ』と言って、　３９彼をぶどう園の外に引きずり出し、殺してしまいました。
４０　さあ、農園主が帰って来た時、この農夫たちはどんな目に会うでしょうか。」
４１　「もちろん農園主は、その悪者どもを情け容赦なく殺して、きちんと小作料を納める、ほかの農夫たちに貸すに決まってます。」
４２　「聖書（旧約）にこう書いてあるのを、読んだことがないのですか。
『建築士たちの捨てた石が、
最も重要な土台石となった。
なんとすばらしいことか。
主は、なんと驚くべきことをなさる方か。』
４３　わたしが言いたいのは、こういうことです。　神の国はあなたがたから取り上げられ、収穫の中から、神に納める分をきちんと納める、ほかの人たちに与えられるのです。
４４この真理の石につまずく者はみな打ち砕かれます。反対に､この石が落ちてくると、だれもかれも、こっぱみじんです。」
４５　祭司長やパリサイ人たちは、このたとえ話を聞いて、その悪い農夫とは、実は自分たちのことなのだと気づきました。　４６それで、なんとかイエスを始末しようと考えましたが、群衆がこわくて手出しができません。　群衆は、イエスを預言者だと認めていたからです。
二二
天国とは？
１　天国がどのようなものかを教えようと、イエスはまた幾つかのたとえ話をなさいました。
２　「たとえば､天国は､王子のために盛大な結婚披露宴を準備した王のようなものです。
３大ぜいの客が招待されました。　宴会の準備がすっかり整ったので、王は使いをやり、招待客に、もうおいでになる時間です、と知らせました。　ところが、なんと、みな出席

を断わってきたではありませんか。　４それでも王は、もう一度別の使いをやり、こう言わせました。　『何もかも用意ができました。　肉も焼き始めています。　あなた様のおいでを待つばかりです。』
５　ところが、招待客はそれをせせら笑うだけで、ある者は農場へ、ある者は自分の店へと出かけて行きました。　６そればかりか、中には王の使者に恥をかかせたり、なぐったり、殺してしまう者さえいました。
７　これを聞いて、もうれつに怒った王は、すぐさま軍隊を出動させ、人殺しどもを滅ぼし、町を焼き払ってしまいました。　８そして王は、『披露宴の準備はできたというのに、招いておいた者どもは列席する資格のない連中ばかりだった。　９よろしい。　さあ、町へ行って、出会う者は片っぱしから、みな招待してくるのだ』と命じました。
１０　王の使者たちは、命令どおり、善人悪人の区別なく、だれでも招待してきました。宴会場は客でいっぱいです。　１１ところが、王が客に会おうと出て来ると、用意しておいた婚礼の礼服を着ていない客が一人います。　１２『礼服もつけずに、どうしてここへ入って来たのか』と尋ねましたが、その男は何とも返事をしません。
１３　それで王は、側近の者たちに命じました。　『この男の手足を縛って、外の暗やみに放り出せ。　そこで泣きわめいたり、歯ぎしりしたりしてくやしがるがよい。』　１４招待される人は多くても、選ばれる人は少ないのです。」
１５　そのころ、パリサイ人たちは、イエスをわなにかけて逮捕のきっかけになることを言わせようと、知恵をしぼりました。　１６そして、数人の仲間をヘロデ党（ヘロデを支持する政治的な一派）の者たちといっしょにイエスのところへやり、こう質問させました。
「先生。　あなた様がたいへん正直なお方で、だれをも恐れず、また人をえこひいきもなさらず、いつも堂々と真理を教えておられることは、よく存じ上げております。　１７それで、ぜひともお教え願いたいのですが……、ローマ政府に税金を納めることは、正しいことでしょうか。　それともよくないことでしょうか。」
１８　イエスは、彼らの計略を見抜いて言われました。
「偽善者たち！　わたしをわなにかけようというのですか。　１９さあ、銀貨を出して見せなさい。」
２０　「ここに刻まれているのは、だれの肖像ですか、その下にある名前はだれのものですか。」銀貨を受け取ったイエスは問いただしました。
２１　「カイザル（ローマ皇帝）です。」
「そのとおり。　ローマ皇帝のものなら、それはローマ皇帝に返しなさい。　しかし神のものは全部、神に返さなければなりません。」
２２　彼らはこの答えに驚き、返すことばもなく、すごすごイエスの前から立ち去りました。
２３　ちょうど同じ日に、死後の復活などはないと主張するサドカイ人たちも来て、イエスに尋ねました。　２４「先生。　モーセの法律では、ある男が結婚して子供のないまま

死んだ場合、弟が兄の未亡人と結婚して、生まれた子供に兄のあとを継がせることになっていますね。　２５ところで、こういう場合はどうなるのでしょう。　七人兄弟の家族があって、長男は結婚しましたが、子供がないまま死んだので、残された未亡人は次男の妻になりました。　２６ところが、次男も子供がないまま死に、その妻は三男のものになりました。　しかし、三男も四男も同じことで、ついにこの女は、七人兄弟全部の妻になりましたが、結局、子供はできずじまいでした。　２７そして、彼女も死んだのですが……、２８そうすると、復活の時には、彼女はいったいだれの妻になるのでしょう。　生前、七人とも彼女を妻にしたのですが。」
２９　しかし、イエスは言われました。　「あなたがたは聖書も神の力もわかっていません。　思い違いをしています。　３０いいですか。　復活の時には、結婚などというものはありません。　みんなが天の使いのようになるのです。　３１３２ところで、死人が復活するかどうかについて、聖書を読んだことがないのですか。　神が、『わたしはアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である』と言われた時（すでに死んでしまったアブラハム、イサク、ヤコブがいま神の御前で生きていなければ、神は『アブラハム、イサク、ヤコブの神であった』と言われるはずです）、あなたがたにも直接そう語りかけておられたのだということが、わからないのですか。　神は死んだ人の神ではなく、生きている人の神なのです。」
一番重要な戒め
３３　群衆はこのイエスの答えに、すっかり感心しました。　３４３５しかし、パリサイ人たちはそうはいきません。　サドカイ人たちが言い負かされたと知ると、彼らは彼らで新しい質問を考え出し、さっそくイエスのところにやって来ました。　その中の法律の専門家が、　３６「先生。　モーセの法律の中で一番重要な戒めは何でしょうか」と尋ねました。
３７　イエスはお答えになりました。　「『心を尽くし、たましいを尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』　３８これが第一で、最も重要な戒めです。　３９第二に重要なのも、同じようなもので、『自分を愛するように、あなたの隣人を愛しなさい』という戒めです。　４０ほかのすべての戒めと預言者たちの命令も、この二つから出ています。　ですから、この二つを守れば、ほかの戒めを全部守ったことになるのです。これを守りなさい。」
４１　それから、イエスは、回りを取り囲んでいるパリサイ人たちに質問なさいました。
４２「キリストをどう思いますか。　彼はいったいだれの子ですか。」
「ダビデ王の子です。」
４３　「それでは、なぜダビデは聖霊に動かされて語った時、キリストを『主』と呼んだのでしょうか。　確かこんなふうに……。
４４　『神が私の主に言われた。
「わたしがあなたの敵を

あなたの足の下に置くまで、
わたしの右に座っていなさい。」』
４５ダビデがキリストを『主』と呼んでいるのなら、キリストが、ただのダビデの子であるわけはありません。」
４６　これには、返すことばもありませんでした。　その日以来、だれも、あえてイエスに質問しようとしなくなりました。
二三
偽善者のまちがい
１　イエスは群衆と弟子たちに、お語りになりました。　２「ユダヤ人の指導者やパリサイ人たちが、あまりたくさんの戒めを作り上げているので、あなたがたは、彼らをまるでモーセみたいだと思っているでしょう。　３もちろん、彼らの言うことは、みな実行すべきです。言っていることはいいのですから。　だが、やっていることだけは絶対にまねてはいけません。　彼らは言うとおりに実行していないからです。　　４とうてい実行できないような命令を与えておいて、自分では、それを守ろうともしないのです。
５　彼らのやることと言ったら、人に見せびらかすことばかりです。幅広の経札（聖書のことばを納めた小箱で、祈りの時に身につける）を腕や額につけたり、着物のふさ（神のおきてを思い出すために着物のすそにつけるように命じられていた）を長くしたりして、あたかも聖者であるかのように、ふるまいます。　６また、宴会で上座に着いたり、会堂の特別席に座ったりするのが何より好きです。　７街頭でていねいなあいさつを受けたり、『ラビ』とか『先生』とか呼ばれることも大好きです。　８だがあなたがたは、だれからもそう呼ばれないようにしなさい。　なぜなら、神だけがあなたがたのラビ〔教師〕であって、あなたがたはみな同じ兄弟だからです。　９またこの地上で、だれをも『父』と呼ばないようにしなさい。　天におられる神だけが『父』と呼ばれるにふさわしい方だからです。　１０それに、『先生』と呼ばれてもいけません。　あなたがたの先生は、ただキリスト一人です。
１１　人に仕える人が最も偉大な者です。　ですから、まず仕える者になりなさい。　１２われこそはと思っている人たちは、必ず失望し、高慢の鼻をへし折られてしまいます。一方、自分から身を低くする者は、かえって高く上げられるのです。
１３　いまわしい人たちよ。　パリサイ人、ユダヤ教の指導者たち。　あなたがたは偽善者です。　天国に入ろうとしている人たちのじゃまをし、自分でも入ろうとはしないのです。　１４町の大通りで、見栄のための長い祈りをし、聖者のようなふりをしながら、そのくせ未亡人の家を食いものにしています。　偽善者たち。　１５そうです。　あなたがたのような偽善者こそいまわしいものです。　たった一人の改宗者（ユダヤ教に転向した人）をつくるために、どんな遠くへでもせっせと出かけて行くが、結局その人を、自分より倍も悪い地獄の子にしてしまうからです。　１６自分の目が見えないくせに人の道案内をしようとする者たち。 いまわしい人たちよ。 あなたがたの規則では、『神殿にかけて』

と誓った誓いは何でもないが、『神殿の黄金にかけて』と誓った誓いは果たさなければならないそうですね。　１７愚かな人たち。　黄金と、黄金を神聖なものにする神殿と、いったいどちらが大切なのですか。　１８また、『祭壇にかけて』と誓った誓いは破ってもいいが、『祭壇の上の供え物にかけて』と誓った誓いは果たさなければならないそうですね。
１９愚かな人たち。　祭壇の上の供え物と、その供え物を神聖なものにする祭壇自体と、いったいどちらが大切なのですか。　２０『祭壇にかけて』と誓うことは、祭壇の上のすべてのものにかけて誓うことにもなるのだし、　２１『神殿にかけて』と誓うなら、神殿と、そこにおられる神にかけて誓うことになるのです。　２２また、『天にかけて』と誓うなら、神の御座と神ご自身にかけて誓うことになるのです。
２３　いまわしい人たちよ。　パリサイ人、ユダヤ教の指導者たち。　あなたがたは偽善者です。　自分の畑でとれる、はっかの葉の最後の一枚に至るまで、実にきちょうめんに十分の一をささげているのに、正義と思いやり、信仰というほんとうに大切なことは無視しています。　もちろん、十分の一献金はしなければなりません。　しかし、もっと大切なことをなおざりにしては、何にもなりません。　２４自分の目が見えないくせに、他人の道案内をしようとする者たち。　あなたがたは、ぶよはこして取り出しながら、らくだは丸ごと飲み込んでいるのです。
２５　いまわしい人たちよ。　パリサイ人、ユダヤ教の指導者たち。　あなたがたは偽善者です。 杯の外側はきれいにみがき上げるが､内側はゆすりと貪欲で汚れきっています。
２６目の見えないパリサイ人たち。　まず杯の内側をきれいにしなさい。　そうすれば、杯全体がきれいになるのです。
２７　いまわしい人たちよ。　パリサイ人、ユダヤ教の指導者たち。　あなたがたは美しく塗り立てた墓のようです。　外側がどんなにきれいでも、中は死人の骨や汚らわしいもの、腐ったものでいっぱいなのです。　２８自分を聖人らしく見せようとしているが、その信仰深そうな外見とは裏腹に、心の中はあらゆる偽善と罪で汚れているのです。
２９　いまわしい人たちよ。　パリサイ人、ユダヤ教の指導者たち。　あなたがたは偽善者です。　先祖が殺した預言者の記念碑を建てたり、先祖の手にかかった、神を敬う者たちの墓前に花を飾ったりして、　３０『私たちには、ご先祖様がしたような、こんな恐ろしいまねは、とてもできません』と言っています。
３１　そんなことを言うこと自体、自分があの悪人たちの子孫だということを、自分で証言するようなものです。　３２あなたがたは先祖の悪業を継いで、その目盛りの不足分を満たしているのです。　３３蛇よ。まむしの子らよ。　あなたがたは、地獄の刑罰を逃れることはできません。
３４　わたしがあなたがたのところに、預言者や、聖霊に満たされた人、神のことばを書き記す力を与えられた人たちを遣わすと、あなたがたは彼らを十字架につけて殺したり、会堂でむち打ったり、町から町へと追い回して迫害したりします。
３５３６こうして、正義の人アベルから、神殿と祭壇との間で殺されたバラキヤの子ザカ

リヤに至るまで、神を敬う人たちが流したすべての血について、あなたがたは有罪とされます。　そうです。　何世紀にもわたって積み重ねられてきたこれらの報いは、今この時代の者たちの上に一度に降りかかってくるのです。
３７　ああ、エルサレム、エルサレム。　預言者たちを殺し、神がこの都のために遣わされたすべての人を石で打ち殺す町よ。　わたしは、めんどりがひなを翼の下に集めるように、何度、あなたの子らを集めようとしたことでしょう。　それなのに、あなたがたはそれを拒んでしまったのです。　３８ですから、あなたがたの家は荒れ果てたまま見捨てられます。　３９はっきり言っておきます。　神から遣わされた方を喜んで迎えるようになるまで、あなたがたは二度とわたしを見ることはありません。」
二四
この世の終わり
１　イエスが神殿の庭から出ようとしておられると､弟子たちが近寄って来て､「この神殿は、たいそう立派ですね」と言いました。
２　ところが、イエスは言われました。　「今、あなたがたが目を見張っているこれらの建物は、一つの石もほかの石の上に残らないほど、あとかたもなく壊されてしまいます。」
３　そのあとのことです。　イエスがオリーブ山の中腹に座っておられると、弟子たちが来てこっそり尋ねました。　「そんな恐ろしいことがいつ起こるのですか。　あなた様がもう一度おいでになる時や、この世の終わりには、どんな前兆があるのでしょう。」
４　そこでイエスは、彼らに説明なさいました。　「だれにもだまされないようにしなさい。　５そのうち、自分こそキリストだと名乗る者が大ぜい現われて、多くの人を惑わすでしょう。　６また、あちらこちらで戦争が始まったといううわさが流れるでしょう。　だがそれは、わたしがもう一度来る時の前兆ではありません。　こういう現象は必ず起こりますが、それでもまだ、終わりが来たのではありません。　７民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、至る所できさんと地震が起こります。　８しかし、これらはみな、やがて起こる恐ろしい出来事のほんの始まりにすぎないのです。
９　その時、あなたがたは苦しめられ、殺されることもあるでしょう。また、わたしの弟子だというだけで、世界中の人から憎まれるでしょう。　１０ですから、その時には多くの者が罪の生活に逆戻りし、互いに裏切り、憎み合います。　１１また多くの偽預言者が現われ、大ぜいの人を惑わします。　１２罪があらゆる所にはびこり、人々の愛は冷えきってしまいます。　１３けれども、最後まで耐え忍ぶ者は救われるのです。
１４　そして御国についてのすばらしい知らせが全世界に宣べ伝えられ、すべての国民がそれを耳にします。　それから、ほんとうの終わりが来るのです。
１５　ですから、預言者ダニエルが語った、あの恐るべきものが聖所に立つのを見たなら〔読者よ、この意味をよく考えなさい〕、　１６その時は、ユダヤにいる人たちは山に逃げなさい。　１７屋上にいる人たちは家の中の物を持ち出そうと下に降りてはいけません。　１８畑で野良仕事をしている人たちは着物を取りに戻ってはいけません。

１９　このような日には、妊娠している女と乳飲み子をかかえている母親は、ほんとうに不幸です。　２０あなたがたの逃げる日が、冬や安息日にならないように祈りなさい。　２１その時には、歴史上、類を見ないような大迫害が起こるからです。
２２　もし、このような迫害の期間が短くされないなら、人類は一人残らず滅ぶでしょう。だが、神に選ばれた人たちのために、この期間は短くされるのです。
２３　その時、『キリスト様がここにおられるぞ』とか、『あそこだ』『いや、ここだ』などと情報が乱れ飛んでも、そんなデマを信じてはいけません。　２４それは、偽キリストや偽善者たちです。　彼らは不思議な奇蹟を行なって、できることなら、神に選ばれた者たちをさえ、惑わそうとするのです。　２５いいですね。　よく警告しておきますよ。
２６　ですから、だれかが、『メシヤ（救い主）がまたおいでになった。荒野におられるぞ』と知らせても、わざわざ見に出かけることはありません。　また、『メシヤはこれこれの所に隠れておられるぞ』と言っても、信じてはいけません。　２７なぜなら、メシヤのわたしは、いなずまが東から西へひらめき渡るようにして、帰って来るからです。　２８死体がある所には、はげたかが集まるものです。
２９　これらの迫害が続いたすぐあとで、太陽は暗くなり、月は光を失い、星は天から落ち、宇宙に異変が起こります。
３０　その時、わたしが来るという前兆が天に現われるのです。　地上のあらゆる国の人々は深い悲しみに包まれ、わたしが力とすばらしい栄光を帯びて、雲に乗って来るのを見ます。　３１ラッパが高らかに鳴り響く中で、わたしは御使いたちを遣わします。　御使いたちは、天と地の果てから果てまで行き巡り、選ばれた者たちを集めるのです。
３２　さあ、いちじくの木から教訓を学びなさい。　いちじくの葉が出てくれば、夏は間近です。　３３同じように、このようなことが起こり始めたら、わたしは、もう戸口まで来ているのです。　３４それらのことが全部起こってから、この時代は終わりになるのです。
３５　天地は消え去りますが、わたしのことばは永遠に残ります。　３６だが、その日、その時がいつであるかは、だれも知りません。　御使いばかりか、神の子さえも、知らないのです。　ただ父だけがご存じです。
３７３８ちょうど、ノアの時代のように。　当時の人々は洪水が襲う直前まで、やれ宴会だ、パーティーだ、結婚式だと陽気にやっていました。　３９何もかも押し流されてしまうまで、洪水のことなど信じようとしなかったのです。　わたしが来る時も、それと同じです。
４０　その時、二人の人が野良仕事をしていると、一人は天に上げられ、一人はあとに残されます。　４１家事をしている二人の婦人のうち、一人は天に上げられ、一人はその場に残されます。
４２　主はいつ来られるか、わからないのだから、いつ来られてもいいように準備をしていなさい。

４３　寝ずの番をしていれば、どろぼうに入られることもありません。　４４同じように、日ごろの備えが万全であれば、わたしが何の前ぶれもなくやって来ても、少しも困ることはないはずです。
４５４６あなたがたは、主の、賢い忠実な召使として働いていますか。　あなたがたに、子供たちの食事の世話をし、家の中を管理する仕事を任せたではありませんか。　わたしが帰って来た時、その仕事を忠実にやっているところを見られる人はしあわせです。　４７わたしはそのような忠実な人たちに、全財産を管理させるつもりです。
４８　しかし、もし、あなたがたが悪い召使で、『主はまだ当分、帰って来ないだろう』と高をくくり、　４９仲間をいじめたり、宴会を開いて酒を飲んだりし始めたらどうでしょう。　５０主は何の前ぶれもなく、思いがけない時に帰って来て、この有様を見、　５１あなたがたを激しくむち打ち、偽善者たちと同じ目に会わせるでしょう。　あなたがたは泣きわめき、歯ぎしりしてくやしがるのです。
二五
再び天国のたとえ話
１　天国は、ランプを持って花婿を迎えに出た、十人の娘〔花嫁の付き添い〕の話でも説明できます。　２‐４そのうちの五人は賢く、ランプの油を十分用意していましたが、残りの五人は愚かで、うっかり忘れていました。
５　さて、花婿の到着が遅れたので、みな横になり寝入ってしまいました。　６真夜中ごろ、ようやく、『花婿のお着きーっ。　迎えに出なさーい』と叫ぶ声がします。
７８娘たちはとび起きると、めいめい自分のランプを整えました。　その時、油を用意していなかった五人の娘は、ランプが今にも消えそうなので、ほかの五人に油を分けてほしいと頼みました。
９　『ごめんなさい。　でも、分けてあげるほどはないの。　それよりもお店に行って、買ってきたほうがいいんじゃないかしら。』
１０　こう言われて、あわてて買いに行っているうちに、花婿が到着しました。　用意のできていた娘たちは、花婿といっしょに披露宴に行き、戸は閉じられました。
１１　そのあとで、例の五人が帰って来て、『ご主人様ーっ、戸を、戸を開けてくださーい』と叫びました。
１２　ところが主人は、『さっさと行ってしまえ。 もう遅すぎる！』と冷たく答えました。
１３　こんなことにならないために、目を覚まして、いつでもわたしを迎える準備をしていなさい。　わたしが来るその日、その時が、いつかわからないのですから……。
１４　天国はまた、他国へ出かけたある人の例で説明できます。　彼は出発前に、使用人たちを呼び、『さあ、元手をやるから、これで留守中に商売をしろ』と、それぞれにお金を預けました。
１５　めいめいの能力に応じて、一人には百五十万円、ほかの一人には六十万円、もう一人には三十万円というふうに。　こうして、彼は旅に出ました。　１６百五十万円受け取

った男は、それを元手にさっそく商売を始め、じきに百五十万円もうけました。　１７六十万円受け取った男もすぐ仕事を始め、六十万円もうけました。
１８　ところが、三十万円受け取った男は、地面に穴を掘ると、その中にお金を隠してしまいました。
１９　だいぶ時がたち、主人が帰って来ました。　すぐに使用人たちが呼ばれ、清算が始まりました。　２０百五十万円預かった男は三百万円を差し出しました。
２１　主人は彼の働きをほめました。　『おまえはわずかなお金を忠実に使ったな。　今度はもっと大きな責任のある仕事をやろう。　私といっしょに喜んでくれ。』
２２　次に、六十万円受け取った男が来て、報告しました。　『ご主人様。　ごらんください。　あの六十万円を倍にしました。』
２３　『よくやった。　おまえはやり手で、しかも忠実なやつだ。　わずかなお金を忠実に使ったから、次はもっとたくさんの仕事をやろう。』主人はこの男もほめてやりました。
２４２５最後に、三十万円受け取った男が進み出て、言いました。　『ご主人様。　あなた様はたいそうひどい方でございます。　私は前々から、それを存じ上げておりましたから、せっかくお金をもうけても、あなた様が横取りなさるのではないかと、こわくてしかたがなかったのです。　それで、あなた様のお金を土の中に隠しておきました。　はい、これがそのお金でございます。』
２６　これを聞いて、主人は答えて言いました。　『なんという悪いやつだ！　なまけ者めが！　私がおまえのもうけを取り上げるのが、わかっていたというのか。　２７だったら、せめて、そのお金を銀行にでも預金しておけばよかったのだ。　そうすりゃあ、利息がついたじゃないか。　２８さあ、こいつのお金を取り上げて、三百万円持っている者にやってしまえ。　２９与えられたものを上手に使う者にはもっと多くのものが与えられて、ますます豊かになる。　だが不忠実な者は、与えられたわずかなものさえ取り上げられてしまうのだ。　３０役立たずは、外の暗やみへ追い出してしまえ。　そこで、泣きわめくなり、歯ぎしりしてくやしがるなりするがいい。』
３１　けれども、メシヤ（救い主）のわたしが、その栄光の輝きのうちに、すべての御使いと共にやって来る時、わたしは栄光の王座につきます。　３２そして、すべての国民がわたしの前に集められます。　その時わたしは、羊飼いが羊とやぎとを選別するように、人々を二組に分け、　３３羊はわたしの右側に、やぎを左側に置きます。
３４　王として、わたしはまず、右側の人たちに言います。　『わたしの父に祝福された人たちよ。　さあ、この世の初めから、あなたがたのために用意されていた御国に入りなさい。　３５あなたがたは、わたしが空腹だった時に食べ物を与え、のどが渇いていた時に水を飲ませ、旅人だった時に家に招いてくれたからです。　３６それにまた、わたしが裸の時に服を与え、病気の時や、牢獄にいた時には見舞ってもくれました。』
３７　すると、これらの正しい人たちは答えるでしょう。　『王様。　私たちがいったいいつ、あなた様に食べ物を差し上げたり、水を飲ませたりしたでしょうか。　３８また、

いったいいつ、あなた様をお泊めしたり、服を差し上げたり、　３９お見舞いにうかがったりしたでしょうか。』
４０　『あなたがたが、だれでも困っている人に親切にしたのは、わたしにしたのと同じなのですよ。』
４１　次に、左側にいる人たちに言います。　『のろわれた者たちよ。　さあ、悪魔とその手下の悪霊どものために用意されている、永遠に燃え続ける火の中に入りなさい！　４２あなたがたは、わたしが空腹だった時にも食べ物をくれず、のどが渇いていた時にも水一滴恵もうとはせず、　４３旅人だった時にも、もてなそうとはしませんでした。　またわたしが裸の時にも着物一枚くれるわけでなく、病気の時にも、牢獄にいた時にも知らん顔をしていたではありませんか。』
４４　すると彼らは、こんなふうに抗議するでしょう。　『王様。　私たちがいったいいつ、あなた様が空腹だったり、のどが渇いていたり、旅人だったり、裸だったり、病気だったり、牢獄におられたりするのを見て、お世話しなかったとおっしゃるのですか。』
４５　そこで、わたしはこう言います。　『あなたがたが、これらの一番小さい者たちを助けようとしなかったのは、わたしを助けなかったのと同じです。』
４６　こうして、この人たちは永遠の刑罰を受け、一方、正しい人たちには永遠のいのちが与えられるのです。」
二六
ユダの裏切り
１　イエスはこれらのことを話し終えると、弟子たちに言われました。
２「あなたがたも知っているように、あと二日で過越の祭りが始まります。　いよいよ、わたしが裏切られ、十字架につけられる時が近づいたのです。」
３　ちょうどそのころ、大祭司カヤパの家では、祭司長やユダヤ人の指導者たちが集まり、４イエスをひそかに捕らえて殺そうという相談のまっ最中でした。　５しかし、「祭りの間は見合わせたほうがいいだろうな。　群衆の暴動でも起きたら、それこそ大変だから」というのが、彼らの一致した意見でした。
６　さて、イエスはベタニヤへ行き、らい病人シモンの家にお入りになりました。　７そこで食事をしておられると、非常に高価な香油のつぼを持った女が入って来て、その香油をイエスの頭に注ぎかけました。
８　それを見た弟子たちは、腹を立てました。　「なんてもったいないことを！　９売ればひと財産にもなって、貧しい人たちに恵むこともできたのに。」
１０　イエスはこれを聞いて言われました。　「なぜ、そうとやかく言うのですか。　この女はわたしのために、とてもよいことをしてくれたのです。　１１いいですか。　貧しい人たちならいつも回りにいますが、わたしはそうではありません。　１２今、この女が香油を注いでくれたのは、わたしの葬りの準備なのです。　１３ですから、よく言っておきますが、この女のことは、いつまでも忘れられないでしょう。　そして御国のすばらし

い知らせが伝えられる所ならどこででも、この女のしたことも語り継がれるでしょう。」
１４１５このことがあってから、十二弟子の一人、イスカリオテのユダは祭司長たちのところへ、「あのイエスをあなたがたに売り渡したら、いったい、いくらいただけるんですか」と聞きに行きました。　こうして、とうとう彼らから銀貨三十枚を受け取ったのです。　１６この時から、ユダはイエスを売り渡そうと機会をねらい始めました。
１７　過越の祭りの日、すなわちイースト菌を入れないパンの祭りの最初の日に、弟子たちが来て、イエスに尋ねました。　「先生。　過越の食事は、どこですればよろしいでしょうか。」
１８「町に入って行くと、これこれの人に会います。　その人に言いなさい。　『私どもの先生が「わたしの時が近づいた。　お宅で弟子たちといっしょに過越の食事をしたいのだが」と申しております。』　１９弟子たちはイエスの言われたとおりに事を運び、夕食の用意をしました。
２０　その夕方、十二弟子といっしょに食事をしている時、　２１イエスは、「あなたがたのうちの一人が、わたしを裏切ろうとしています」と言われました。
２２　これを聞いた弟子たちはひどく心を痛め、口々に「まさか、私じゃないでしょうね」と尋ねました。
２３「わたしといっしょに鉢に手を浸している者が、裏切るのです。　２４わたしは預言のとおりに、死ななければなりません。　だが、わたしを裏切る者はのろわれます。　その人は、むしろ生まれなかったほうがよかったのです。」
２５　ユダも、何げないふりをして尋ねました。　「先生。　まさか、私じゃないでしょうね。」
「いや、あなたです。」イエスはお答えになりました。
２６　食事の最中に、イエスは一かたまりのパンを取り、祝福してから、それをちぎって弟子たちに分け与えました。　「これを取って食べなさい。　わたしの体です。」
２７　またぶどう酒の杯を取り、感謝の祈りをささげてから、弟子たちに与えて言われました。　「皆この杯から飲みなさい。　２８これは新しい契約を保証するわたしの血、多くの人の罪を赦すために流される血です。　２９よく言っておきますが、やがて父の御国で、あなたがたといっしょに新しく飲む日まで、わたしは二度と、このぶどう酒を飲みません。」
３０　このあと、一同は賛美歌をうたうと、そこを出て、オリーブ山に向かいました。
３１　その時、イエスは弟子たちに言われました。　「今夜あなたがたはみな、わたしを見捨てて逃げるでしょう。　聖書（旧約）に、『わたしが羊飼いを打つ。　すると羊の群れは散り散りになる』と書いてあるから……。　３２だが、わたしは復活して、もう一度ガリラヤに行きます。　そこであなたがたに会います。」
３３「たとい、みんながあなた様を見捨てようと、私だけは、この私だけは絶対に、見捨てなどいたしません」と叫ぶペテロに、　３４イエスは言われました。　「はっきり言い

ましょう。　あなたは今夜鶏が鳴く前に、三度、わたしを知らないと言います。」
３５　しかしペテロは、「死んでも、あなた様を知らないなどとは申しません」と言いはり、ほかの弟子たちも、口々に同じことを言いました。
苦しみ祈るイエス
３６　それからイエスは、弟子たちを連れて、木の茂ったゲツセマネの園に行かれました。そして弟子たちに、「わたしが向こうで祈っている間、ここに座って待っていなさい」と言い残し、　３７ペテロと、ゼベダイの子ヤコブとヨハネだけを連れて、さらに奥のほうへ行かれました。　その時です。　激しい苦痛と絶望がイエスを襲い、苦しみもだえ始められました。
３８「ああ、恐れと悲しみのあまり、今にも死にそうです。　ここを離れずに、わたしといっしょに目を覚ましていなさい。」
３９　三人にこう頼むと、イエスは少し離れた所に行き、地面にひれ伏して必死に祈られました。　「父よ。　もし、もしできることなら、この杯を取り除いてください。　しかし、わたしの思いどおりにではなく、あなたのお心のままになさってください！」
４０　それから、弟子たちのところへ戻って来られると、なんと、三人ともぐっすり眠り込んでいるではありませんか。　そこで、ペテロを呼び起こされました。　「起きなさい、ペテロ。　たったの一時間も、わたしといっしょに目を覚ましていられなかったのですか。
４１油断しないで、いつも祈っていなさい。　さもないと誘惑に負けてしまいます。　あなたがたの心は燃えていても、肉体はとても弱いのですから。」
４２　こうしてまた、彼らから離れて、祈られました。　「父よ。　もし、この杯を飲みほさなければならないのでしたら、どうぞ、あなたのお心のままになさってください！」
４３　イエスがもう一度戻って来られると、三人はまたもや眠り込んでいます。　まぶたが重くなって、どうしても起きていられなかったのです。　４４イエスは、三度目の祈りをするために戻り、前と同じ祈りをなさいました。
４５　それからまた、弟子たちのところに来て、「まだ眠っているのですか！　目を覚ましなさい。　時が来ました。　いよいよ、わたしは悪い人たちに売り渡されるのです。　４６立ちなさい。　さあ、行くのです。　ごらんなさい、裏切り者が近づいて来ます」と言われました。
４７　イエスがまだ言い終わらないうちに、十二弟子の一人ユダがやって来ました。　彼といっしょに、ユダヤ人の指導者たちが差し向けた大ぜいの群衆も、手に手に剣やこん棒を持って向かって来ます。　４８彼らの間では、ユダがあいさつする相手こそイエスだから、そいつを逮捕するようにと、前もって打ち合わせがしてありました。　４９それで、ユダはまっすぐイエスのほうへ歩み寄り、「先生。　こんばんは」と声をかけ、さも親しげにイエスを抱きしめました。
５０　イエスが「ユダよ。　さあ、おまえのしようとしていることを、しなさい」と言われたその瞬間、人々はてんでに飛びかかり、イエスを捕らえました。

５１　その時、イエスといっしょにいた一人が、さっと剣を抜き放つと、大祭司の部下の耳を切り落としました。
５２　ところが、イエスは彼を制せられたのです。　「剣をさやに納めなさい。　剣を使う者は、自分もまた剣で殺されるのです。　５３わからないのですか。　わたしが願いさえすれば、父が何万という御使いを送って、わたしを守ってくださるのです。　５４しかし、もし今そんなことをしたら、こうなると書いてある聖書（旧約）のことばが実現しないではありませんか。」
５５　そして今度は、群衆に向かって言われました。　「剣やこん棒で、これほどものものしく武装しなければならないほど、わたしは凶悪犯なのでしょうか！　わたしが毎日神殿で教えていた時には、手出しもできなかったではありませんか。　５６だがいいですか、こうなったのはすべて、預言者たちのことばが実現するためなのです。」
もうこの時には、弟子たちはみな、イエスを見捨てて逃げ去っていました。
５７　暴徒どもは、イエスを大祭司カヤパの家に引っ立てました。　ちょうど、ユダヤ人の指導者たちが、一堂に集まり、今や遅しと待ちかまえているところでした。　５８一方、ペテロは遠くからあとをつけて行き、大祭司の家の中庭にもぐり込みました。　そして兵士たちにまじって、イエスがどんなことになるのか見届けようとしました。
５９　そこには、祭司長たちやユダヤの最高議会の全議員が集まり、なんとかイエスを死刑にしようと、偽証する者を捜し回っていました。
６０　ところが、偽証した者は多かったのですが、その証言がみな食い違っているのです。
そうこうするうちに、やっとのことで、格好の証人が現われました。　二人の男が進み出て、　６１「こいつは、『神殿を打ちこわして、三日の間に建て直すことができる』と言っていました」と、証言したのです。
６２　大祭司はここぞとばかりに立ち上がり、イエスに問いただしました。　「さあ、黙っていないで答えたらどうだ。　ほんとうにそんな大それたことを言ったのか。　それとも言わなかったのか。」　６３それでもなお、イエスは黙っておられます。　大祭司は続けました。　「生ける神の御名によって命じる。　おまえは神の子キリストなのかどうか。
さあ、はっきり答えてみろ。」
６４　イエスはお答えになりました。　「そのとおり、わたしがキリストです。　あなたがたは、やがてメシヤ（救い主）のわたしが、神の右の座につき、雲に乗って来るのを見るでしょう。」
６５　これを聞いた大祭司は、即座に着物を引き裂き、大声で叫びました。「冒涜だ！　神を汚すことばだ！　これだけ聞けば十分だ。　さあ、みんなも聞いたとおりだ。　６６この男をどうしよう。」
一同はいっせいに叫びました。　「死刑だ、死刑だ、死刑にしろっ！」
６７　そうして、イエスの顔につばきをかけたり、げんこつでなぐったりしました。　中には、平手打ちを食らわせて、　６８「おい、キリストだってなあ。　当ててみろよ。　今

おまえさんを打ったのはどこのどいつだい」とからかう者もいました。
ペテロの大失敗
６９　一方、ペテロは中庭に座っていましたが、一人の女中がやって来て、「あら、あんたイエスといっしょにいた人じゃないの。　二人ともガリラヤの人でしょう」と話しかけました。
７０　ところがペテロは、「人違いだ。　変な言いがかりはよしてくれ」と大声で否定しました。
７１　まずいことになったと、急いで出口のほうへ行きかけると、また別の女中に見つかりました。　女中は回りの人たちに、「ねえねえ、この人もナザレから来たイエスという人といっしょだったわよ」と言いふらすではありませんか。
７２　ペテロはあわててそれを打ち消し、その上、「断じて、そんな男は知るもんか」と誓いました。
７３　ところが、しばらくすると、近くにいた人たちが彼のところへ来て、口々に言い始めました。　「いやーっ、おまえは確かにあの男の弟子の一人だぞ。　隠してもむださ。　そのガリラヤなまりが何よりの証拠だからな。」
７４　たじたじとなったペテロは「そんな男のことなんか、絶対に知るもんか。　これがうそなら、どんな罰があたってもかまわないぞ」と言いだしました。
するとどうでしょう。　すぐに、鶏の鳴く声が聞こえました。　７５その瞬間、ペテロは、はっとわれに返りました。　「鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言うでしょう」と言われたイエスのことばを思い出したからです。　ペテロは外へ駆け出して行くと、胸も張り裂けんばかりに激しく泣きました。
二七
イエスの裁判と十字架の死
１　さて、朝になりました。　祭司長とユダヤ人の指導者たちはまた集まり、どうやってローマ政府にイエスの死刑を承認させようかと、あれこれ策を練りました。　２それから、縛ったまま、イエスをローマ総督ピラトに引き渡しました。
３　ところで、裏切り者のユダは、どうなったでしょう。　イエスに死刑の判決が下されると聞いてはじめて、彼は自分のしたことがどんなに大それたことか気づき、深く後悔しました。　祭司長やユダヤ人の指導者たちのところに銀貨三十枚を返しに行き、　４「私はとんでもない罪を犯してしまった。　なんてことだ。　罪のない人を裏切ったりして……」と言いました。
しかし祭司長たちは、「今さらわしらの知ったことか。　かってにしろ」と突っぱね、取り合おうともしません。
５　それでユダは、神殿の床に銀貨を投げ込み、出て行って首をくくって死んでしまいました。　６祭司長たちはその銀貨を拾い上げてつぶやきました。　「まさか、これを神殿の金庫に入れるわけにもいくまい。　人を殺すために使った金を納めるなど、おきてに反

することだからなあ……。」
７　相談の結果、そのお金で、陶器師が粘土を取っていた畑を買い上げ、そこをエルサレムで死んだ外国人の墓地とすることに決まりました。　８そこでこの墓地は、今でも「血の畑」と呼ばれています。
９１０こうして、エレミヤの預言のとおりになったのです。　「彼らは銀貨三十枚を取った。　それは、イスラエルの人々がその人を見積った値段だ。　彼らは、主が私に命じられたように、それで陶器師の畑を買った。」
１１　さてイエスは、ローマ総督ピラトの前に立たれました。　総督はイエスを尋問しました。　「おまえはユダヤ人の王なのか。」イエスは「そのとおりです」とお答えになりました。
１２　しかし､祭司長とユダヤ人の指導者たちからいろいろな訴えが出されている時には､口をつぐんで､何もお答えになりませんでした。　１３それでピラトは､「おまえにあれほど不利な証言をしているのが、聞こえんのか」と尋ねました。
１４　それでもイエスは何もお答えになりません。　これには総督も、驚きあきれてしまいました。
１５　ところで、毎年、過越の祭りの間に、ユダヤ人たちが希望する囚人の一人に、総督が恩赦を与える習慣がありました。　１６当時、獄中には、バラバという悪名高い男が捕らえられていました。　１７それで、その朝、群衆が官邸に詰めかけた時、ピラトは尋ねました。　「さあ、いったいどちらを釈放してほしいのか。　バラバか、それともキリストと呼ばれるイエスか。」　１８こう言ったのは、イエスが捕らえられたのは、イエスの人気をねたむユダヤ人の指導者たちの陰謀にすぎない、とにらんだからです。
１９　裁判のまっ最中に、ピラトのところへ夫人が、「どうぞ、その正しい方に手をお出しになりませんように。　ゆうべ、その人のことで恐ろしい夢を見ましたから」と言ってよこしました。
２０　ところが、祭司長とユダヤ人の役人たちは、バラバを釈放し、イエスの死刑を要求するように、群衆をたきつけました。　２１それで、ピラトがもう一度、「二人のうち、どちらを釈放してほしいのか」と尋ねると、群衆は即座に、「バラバを！」と大声で叫んだのでした。
２２「では、キリストと呼ばれるあのイエスは、どうするのだ。」
「十字架につけろっ！」
２３「どうしてか。　ええっ。　あの男がいったいどんな悪事を働いたというのだ。」ピラトがむきになって尋ねても、人々は「十字架だっ！　十字架につけろっ！」と叫び続けるばかりです。
２４　どうにも手のつけようがありません。　暴動になる恐れさえ出てきました。　あきらめたピラトは、水を入れた鉢を持って来させ、群衆の面前で手を洗い、「この正しい人の血について、私には何の責任もない。　責任は全部おまえたちが負え」と言いました。

２５　すると群衆は大声で、「かまうもんか。　責任はおれたちが負ってやらあ。　子供らの上にふりかかってもいいぜ」とわめき立てるのでした。
２６　ピラトはやむなくバラバを釈放し、イエスのほうは、むち打ってから、十字架につけるためにローマ兵に引き渡しました。　２７兵士たちはまず、イエスを兵営に連れて行き、全部隊を召集すると、　２８イエスの着物をはぎとって赤いガウンを着せ、　２９長いとげのいばらで作った冠を頭に載せ、右手には、王の笏に見立てた葦の棒を持たせました。　それから、拝むまねをして、「これはこれは、ユダヤ人の王様ですか。　ばんざーいっ！」とはやし立てました。　３０また、つばきをかけたり、葦の棒をひったくって頭をたたいたりしました。
３１　こうしてさんざんからかったあげく、赤いガウンを脱がせ、もとの服を着せると、いよいよ十字架につけるために引っ立てて行きました。　３２刑場に行く途中、通りすがりの男にむりやりイエスの十字架を背負わせました。　クレネから来合わせていたシモンという男でした。　３３ついに、ゴルゴタ、すなわち「がいこつの丘」という名で知られる場所に着きました。　３４兵士たちはそこで、薬用のぶどう酒を飲ませようとしましたが、イエスはちょっと口をつけただけで、飲もうとはなさいませんでした。
３５　イエスを十字架につけ終わると、兵士たちはさいころを投げてイエスの着物を分け合いました。　３６それがすむと、今度はその場に座り込んで見張り番です。　３７またイエスの頭上には、「この者はユダヤ人の王イエスである」と書いた罪状書きを打ちつけました。
３８　その朝、強盗が二人、それぞれイエスの右と左で十字架につけられました。　３９刑場のそばを通りかかった人々は、大げさな身ぶりをしながら、口ぎたなくイエスをののしりました。　４０「やーい。　神殿を打ちこわして、三日のうちに建て直せるんだってなあ！　へん、おまえが神の子だって？　なら、十字架から降りてみろよ。」
４１　祭司長やユダヤ人の指導者たちも、イエスをあざけりました。　４２「ふん、他人は救えるが自分は救えないというわけか。イスラエルの王が聞いてあきれるわ。さあ、十字架から降りて来い！　そうしたら信じてやろうじゃないか。　４３おまえは神様に頼ってるんだろうが。　神様のお気に入りなら、せいぜい助けていただくがいい。　なにしろ、自分を神の子だと言ってたんだからな。」
４４　強盗までがいっしょになって、悪口をあびせました。
４５　さて時間がたち、正午にもなったでしょうか、急にあたりが暗くなり、一面のやみにおおわれました。　それが、なんと三時間も続いたのです。
４６　三時ごろ、イエスは大声で、「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」と叫ばれました。　それは「わが神、わが神。　どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意味です。
４７　近くで、その声を聞いた人の中には、「あれはエリヤを呼んでいるのだ」と思う者もいました。　４８一人の男がさっと駆け寄り、海綿に酸っぱいぶどう酒を含ませると、それを葦の棒につけて差し出しました。　４９ところが、ほかの者たちは、「放っておけよ。

エリヤが救いに来るかどうか、とくと拝見しようじゃないか」と言うだけでした。
５０　その時、イエスはもう一度大声で叫んで、息を引き取られました。　５１するとどうでしょう。 神殿の至聖所を仕切っていた幕が､上から下まで真っ二つに裂けたのです。 大地は揺れ動き、岩はくずれました。　　５２さらに墓が開いて、生前神を敬う生活を送った人たちが、大ぜい生き返りました。　５３彼らはイエスが復活されたあと、墓を出てエルサレムに入り、多くの人の前に姿を現わしたのです。
５４　十字架のそばにいた隊長や兵士たちは、このすさまじい地震やいろいろの出来事を見て震え上がり､「ああ、この人はほんとうに神の子だった！」と叫びました。
５５　イエスの世話をするためにガリラヤからついて来た、大ぜいの婦人たちも、遠くからこの様子を見ていました。　５６マグダラのマリヤ、ヤコブとヨセフの母マリヤ、ゼベダイの息子のヤコブとヨハネとの母などです。
イエスの埋葬
５７　夕方になりました。　イエスの弟子で、アリマタヤ出身のヨセフという金持ちが来て、　５８ピラトに、イエスの遺体を引き取りたいと願い出ました。　ピラトは願いを聞き入れ、遺体を渡すように命じました。　５９ヨセフは遺体を取り降ろすと、きれいな亜麻布でくるみ、　６０岩をくり抜いた、自分の新しい墓に納めました。　そして、大きな石を転がして入口をふさぎ、帰って行きました。　６１この有様を、マグダラのマリヤともう一人のマリヤが、近くに座って見ていました。６２６３翌日の安息日に、祭司長やパリサイ人たちがピラトに願い出ました。　「総督閣下。　あの大うそつきめは、確か、『わたしは三日後に復活する』……とか何とかぬかしていました。　６４それをいいことに、弟子どもが死体を盗み出し、イエスは復活したと言いふらしては、まずいことになりかねません。　それこそ､今どころの騒ぎではすみますまい。　大混乱になるかもしれません。 ですからどうぞ、墓を三日目まで封印するように命令を出してください。」
６５　ピラトは答えました。　「よろしい。　では神殿警備員に、厳重に見張らせるがよい。」
６６　そこで彼らは、石に封印をし、警備員をおいて、だれも忍び込めないようにしました。
二八
イエスは復活した！
１　安息日も終わり、日曜日になりました。　マグダラのマリヤともう一人のマリヤは、明け方早く、墓へ出かけました。
２　突然、大きな地震が起きました。　主の使いが天から下って来て、墓の入口から石を転がし、その上に座ったからです。　３御使いの顔はいなずまのように輝き、着物はまばゆいほどの白さでした。　４警備員たちはその姿を見て震え上がり、まるで死人のようになって、へなへなと座り込んでしまいました。
５　すると、御使いがマリヤたちに声をかけました。　「こわがらなくてもいいのです。

十字架につけられたイエス様を捜していることはわかっています。　６だがもう、イエス様はここにはおられません。 前から話していたように復活されたのです。 中に入って、遺体の置いてあった所を見てごらんなさい……。　７さあ早く行って、弟子たちに、イエス様が死人の中から復活されたこと、ガリラヤへ行けば、そこでお会いできることを知らせてあげなさい。　わかりましたね。」
８　二人は、恐ろしさに震えながらも、一方ではあふれる喜びを抑えることができませんでした。　一刻も早くこのことを弟子たちに伝えようと、一目散に駆けだしました。　９すると、そこへ突然イエスがお姿を現わされ、目の前にお立ちになり、「おはよう」とあいさつなさいました。　二人はイエスの前にひれ伏し、御足を抱いて礼拝しました。
１０　イエスは言われました。　「こわがらなくてもいいのですよ。　行って、わたしの兄弟たちに、すぐガリラヤへ行くように言いなさい。　そこでわたしに会えるのです。」
１１　二人が町へ急いでいるころ、墓の番をしていた警備員たちは祭司長たちのところに駆け込み、一部始終を報告しました。
１２１３ユダヤ人の指導者が全員召集され、善後策が講じられました。　その結果、警備員たちにお金をつかませて、夜、眠っている間に、イエスの弟子たちが死体を盗んでいった、と言わせることにしました。
１４　「もしこのことが総督閣下の耳に入ったとしても、うまく説得してやるから心配ない。　おまえたちには決して迷惑はかけない。」彼らはこう約束しました。
１５　賄賂を受け取った警備員たちは、言われたとおりに話しました。そのため、この話は広くユダヤ人の間に行き渡り、今でも、彼らはそう信じているのです。
１６　一方、十一人の弟子はガリラヤに出かけ、イエスから指示された山に登りました。
１７そこでイエスにお会いして礼拝しましたが、中には、ほんとうにイエスだと信じない者もいました。
１８　イエスは弟子たちに言われました。　「わたしには天と地のすべての権威が与えられています。　１９だから、出て行って、すべての国の人々をわたしの弟子とし、彼らに、父と子と聖霊との名によってバプテスマ（洗礼）を授けなさい。　２０また、新しく弟子となった者たちには、あなたがたに命じておいたすべての戒めを守るように教えなさい。わたしはこの世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいるのです。」
▪

マルコの福音書（青年マルコの記録）
すべての人に気を配り、いたわり、愛し続けるイエス。　どんな時でも、苦しみ、悲しみ、助けを必要としている人々に仕え続けられるイエス。　そして、最後には、全人類の救いのために、ご自分のいのちまでも投げ出されたイエス。　本書は、そういうイエスの姿を見、行動を共にした使徒ペテロの語る思い出話の数々を、イエスが逮捕される時、逃げた青年（マルコ一四・五一、五二）と思われているマルコが記録したものです。

一
１　神の子イエス・キリストの世にもすばらしい物語の始まりは、こうです。
２　神様が地上にご自分のひとり子を遣わされることと、彼を迎える準備のために特別な使者を送られることとは、預言者イザヤがずっと以前に告げていました。
３　「この使者は、不毛の荒野に住み、すべての人に呼びかける。　『生活を正せ。　主をお迎えする準備をせよ』」と、イザヤの書物に書いてあります。
バプテスマのヨハネの働き
４　この使者とは、バプテスマのヨハネのことです。　彼は荒野に住み、人々にこう教えました。　「罪を赦していただくために、悔い改めて神に立ち返れ。　そして、そのしるしにバプテスマ（洗礼）を受けるのだ。」　５このヨハネのことばを聞こうと、エルサレムばかりか、ユダヤ全国から大ぜいの人が詰めかけ、次々と今までの悪い思いや行ないを神様に告白しました。　ヨハネはそういう人たちに、ヨルダン川でバプテスマを授けていたのです。　６らくだの毛で織った着物に、皮の帯、いなごとはち蜜が常食という生活を送りながら、　７彼は次のように宣べ伝えました。
「私よりもはるかにすばらしい方が、もうすぐおいでになる。　私など、その方のしもべとなる値打もない。　８私は水でバプテスマを授けているが、その方は聖霊様によってバプテスマをお授けになるのだ。」
９　そのころ、イエスもガリラヤのナザレから来て、人々といっしょに、ヨルダン川で、ヨハネからバプテスマをお受けになりました。　１０ところが、イエスが水から上がられたちょうどその時、天がさっと開け、聖霊が鳩のようにご自分の上に下って来られるのが見えました。　１１そして天から、「あなたはわたしの愛する子、わたしの喜びだ」というお声が聞こえました。
１２　このあとすぐ、聖霊はイエスを荒野へ追いやりました。　１３イエスは、そこで四十日間、野獣と共に過ごし、罪を犯させようとするサタンの誘惑をお受けになりました。しかし後には、御使いたちがやって来て、イエスに仕えていました。
１４　ヨハネがヘロデ王の命令で逮捕されると、イエスはガリラヤに行き、神のすばらしい知らせを宣べ伝えました。
１５　「いよいよ、来るべき時が来ました。　神の国が近づいたのです。皆、悔い改めなさい。　このすばらしい知らせに従って行動するのです。」

イエス、弟子を集める
１６　ある日、イエスがガリラヤ湖の岸辺を歩いておられると、シモンとアンデレが兄弟で網を打っている姿が目に入りました。　二人は本職の漁師でした。
１７　イエスは声をおかけになりました。　「さあ、ついて来なさい。　人間をとる漁師にしてあげましょう。」　１８すると二人はすぐ網を置き、イエスについて行きました。
１９　もう少し先に行かれると、ゼベダイの息子のヤコブとヨハネとが舟の中で網を修繕しています。　２０そこでまた、この二人もお呼びになりました。　二人とも、父と雇い人たちとを舟に残したまま、イエスについて行きました。
２１　さて、一行はカペナウムの町にやって来ました。　土曜日の朝、イエスはユダヤ人の礼拝所である会堂へ出かけて、教えを語られました。　２２それを聞いた会衆は驚きました。　イエスの話し方が、これまで聞いてきたのとは、まるで違っていたからです。　イエスはやたらに他人のことばを引用せず、権威をもって堂々と話されました。
イエス、大ぜいの病人を治す
２３　ところが、その会堂に悪霊に取りつかれた人がいて、大声で叫びだしました。　２４「やい、ナザレのイエス！　おれたちをどうしようというんだい。　おれたちを滅ぼすために来たんだろうが。　あんたのことはよく知ってるぜ。　そうとも、神のきよい御子様よ！」
２５　イエスは、悪霊にそれ以上は言わせず、「その人から出て行きなさい！」とお命じになりました。　２６すると、悪霊は大声をあげ、その人を激しく引きつけさせて、出て行きました。　２７この有様に聴衆は肝をつぶし、興奮のあまり口々に論じ合いました。
「いったい、どうなってるんだ！」
「悪霊どもさえ、命令を聞くなんて……。」
「新しい教えなのかね。」
２８　イエスの評判は、たちまちガリラヤの全地方に広まりました。
２９　このあと、会堂を出た一行は、シモンとアンデレの家に行きました。　３０あいにく、この時シモンのしゅうとめは、高熱にうなされて、床についていました。　イエスはそれを知ると、　３１さっそく彼女のそばに行き、手を取って助け起こされました。　するとどうでしょう。たちまち熱が下がり、すっかり元気になったしゅうとめは、みんなをもてなすために、いそいそと食事の用意を始めたのです。
３２　日の沈むころになると、シモンの家の庭は、イエスに治していただくために連れて来られた、病人や悪霊に取りつかれた者たちで、いっぱいになりました。　３３また戸口には、カペナウム中の人たちが詰めかけ、がやがや騒ぎながら中の様子をながめていました。　３４イエスはこの時も、大ぜいの病人を治され、悪霊を追い出されました。　しかも、悪霊にひと言も口をきかせませんでした。　悪霊は、イエスがどういう方か知っていたからです。
３５　翌朝、イエスは夜明け前に起き、ただ一人、人気のない寂しい所へ行って祈られま

した。
３６　そのうちに、あちらこちらとイエスを捜し回ったシモンたちが来て、　３７「みんなが先生を捜してますよ」と言いました。
３８　イエスは、「さあ、ほかの町へ出かけましょう。 そこでも教えなければなりません。わたしはそのために来たのですから」とお答えになりました。
３９　こうしてイエスは、ガリラヤ中をくまなく回り、会堂で教え、悪霊に取りつかれた人を大ぜいお助けになりました。
４０　ある時、一人のらい病人がやって来て、イエスの前にひざまずき、熱心に頼みました。　「お願いでございます。　どうか私の体をもとどおりに治してください。　先生のお気持ちひとつで治るのですから。」
４１　イエスは心からかわいそうに思い、彼にさわって、「そうしてあげましょう。 さあ、よくなりなさい」と言われました。　４２すると、たちまち、らい病はあとかたもなくなり、完全に治ってしまいました。　４３４４「これからすぐに祭司のところへ行き、体を調べてもらいなさい。途中で寄り道や立ち話をしてはいけません。　健康な体に戻ったことを明らかにするために、モーセの命じたとおりの供え物をしなさい。」
４５　イエスにきびしく止められたにもかかわらず、男は、うれしさを抑えきれず、この出来事を大声でふれ回って歩きました。　そのため、イエスの回りにはみるみる人垣ができ、公然とは町へ入れなくなりました。　しかたなく町はずれにとどまっておられましたが、そこにも、人々が大ぜい押しかけて来ました。
二
１　数日後、イエスはカペナウムに戻られました。　イエス来訪のニュースはたちまち町中に伝わり、　２人々がいっぱい集まって来ました。　家は足の踏み場もないほどで、外にまで人があふれています。　この人たちに、イエスは神の教えを語られました。　３その時、四人の人が、担架で中風の男を運んで来ました。　４しかし、群衆をかき分けて中へ入ることもできません。　そこで、屋根にのぼり、穴をあけると、そこから病人を担架に乗せたまま、イエスの前へつり降ろしました。
５　必ず治してもらえると、堅く信じて疑わない彼らの信仰をごらんになって、イエスは中風の男に、「あなたの罪は赦されました」と言われました。
６　ところが、その場にいた何人かのユダヤ人の宗教的指導者たちの心中は、おだやかではありません。　７「なんだって！　神様を汚すことばだ。　いったい自分を何様だと思っているのか。　罪を赦すなんて、神様にしかできないことなのに。」
８　イエスはすぐに、彼らが心の中で理屈をこねているのを見抜かれました。　「どうして、そう思うのですか。　９‐１１この人に、『あなたの罪が赦されました』と言うのと、『起きて歩きなさい』と言うのと、どちらがやさしいですか。　さあ、メシヤ（救い主）のわたしが罪を赦したという証拠を見せてあげましょう。」イエスは中風の男のほうに向き直られ、「あなたはもうよくなりました。　床をたたんで、家に帰りなさい」と言われまし

た。
１２　すると、男はとび起き、床をかかえ、あっけにとられている見物人を押し分けて、出て行ってしまいました。　「こんなことは、見たこともない！」人々は口々に叫び、心から神を賛美しました。
１３　イエスはまた湖畔に行き、集まって来た大ぜいの群衆にお教えになりました。　１４岸辺を歩いておられると、税金取立所にアルパヨの子レビが座っています。　「ついて来なさい。 わたしの弟子になりなさい。」イエスの呼びかけに、レビはさっと立ち上がり、あとに従いました。
１５　その夜、レビは、イエスを夕食に招待しました。　その席には、取税人仲間や、評判の悪い人たちも大ぜい招かれていました。　イエスに従う者には、この種の人々も多かったのです。　１６しかし、これを見たパリサイ人（特におきてを守ることに熱心なユダヤ教の一派）のある学者たちは、気持ちがおさまりません。 弟子たちに詰め寄りました。「おまえさんたちの先生は、どうして、こんなくずみたいな連中といっしょに食事をするのか。」
１７　彼らの非難に、イエスはこうお答えになりました。　「丈夫な者に医者はいりません。　病人こそ医者が必要なのです。　わたしは自分を正しいと思っている人たちのためにではなく、罪人を神に立ち返らせるために来たのです。」
パリサイ人の非難
１８　バプテスマのヨハネの弟子やパリサイ人たちは、断食のおきてを守っていました。ある時、彼らが来て、「どうして先生のお弟子さんたちは断食しないのですか」と問いただしました。
１９　イエスは、こうお答えになりました。　「花婿の友達は、披露宴の席で、ごちそうに、はしをつけなかったり、嘆き悲しんだりはしません。　２０しかし、やがて花婿が彼らから引き離される日が来ます。その時には断食するのです。　２１こう言えばわかるでしょう。　水洗いしていない新しい布で、古い着物の継ぎ当てをしてごらんなさい。どうなりますか。　当て布は縮んで着物を破り、穴はますます大きくなってしまうでしょう。２２新しいぶどう酒を古い皮袋に入れることもしません。　そんなことをしたら、皮袋は張り裂け、ぶどう酒はこぼれ、どちらもだいなしでしょう。　新しいぶどう酒には、新しい皮袋が必要なのです。」
２３　ある安息日のこと、イエスと弟子たちは麦畑の中を歩いていました。　その時、弟子たちは麦の穂を摘んで、食べ始めました。
２４　これを見たパリサイ人たちは、「お弟子さんたちがあんなことをするなんて！　安息日に刈り入れをするのは、おきて違反なのをご存じのはずでしょう」と抗議しました。
２５２６しかしイエスはお答えになりました。　「ダビデ王とその家来たちが空腹でがまんできなかった時、神殿に入って〔当時アビヤタルが大祭司でしたが〕、祭司以外に食べてはいけない特別のパンを食べたという記事を、読んだことがないのですか。　それもおき

てに反することでしょう。　２７いいですか。　安息日は人間のためにつくられたのであって、人間が安息日のためにつくられたのではありません。　２８しかしメシヤ（救い主）のわたしには、安息日に何をしてよいかを決める権威もあるのです。」
三
１　カペナウムで､イエスがまた会堂に入られると､そこに片手の不自由な男がいました。
２　その日は安息日だったので、イエスに敵対する者たちはみな、イエスの行動に目を光らせていました。　この男の手を治しでもしたら、それをきっかけに逮捕してやろうとたくらんでいたからです。
３　イエスはその男を呼び、会衆の前に立たせられました。　４それから、敵対する者たちのほうを向いて言われました。　「さあ、答えてください。　安息日に良いことをするのと悪いことをするのと、どちらが正しいですか。　安息日は、いのちを救う日ですか。　それとも殺す日ですか｡」しかし、だれも押し黙っています。　５イエスは、人の不幸に対する彼らの冷淡さ、頑固さを深く嘆き、怒りを込めて見回すと、片手の不自由な男に、「さあ、手を伸ばしてごらんなさい」と言われました。　男がそのとおりにすると、たちどころに治ってしまいました。
６　おさまらないのはパリサイ人です。　すぐ会堂を飛び出し、ヘロデ党の者たち（ヘロデ王を支持する政治的な一派）と、イエスを殺す計画を相談し始めました。　７８一方、イエスと弟子たちは湖のほとりへ立ちのかれましたが､それでも､ガリラヤ全地､ユダヤ､エルサレム、イドマヤばかりか、ヨルダン川の向こう岸、さらにツロやシドンといった遠方からも、たくさんの群衆がやって来て、あとについて行きました。　イエスの奇蹟の評判が広まるにつれ､「ひと目でいいからイエス様を見たい」と､人々が押しかけたからです。
９　イエスは、群衆が岸辺に押し寄せても大丈夫なように、弟子たちに小舟を一そう用意させました。　１０その日、多くの病人が治されたと聞いて、病気の人たちがみな、何とかしてイエスにさわろうと詰めかけたからです。
１１　また､悪霊に取りつかれた人たちは､イエスを見さえすれば､その前にひれ伏して､「あなたは神の子です！」と叫ぶのでした。　１２イエスは彼らに、ご自分のことをだれにも口外してはいけないと、きびしく警告なさいました。
選ばれた十二人
１３　その後イエスは丘に登り、今までに選ばれた者たちを召集されました。　皆が集まったところで、　１４十二人の者を特に選び出されました。　いつもそば近くに置き、彼らに、神のすばらしい知らせを宣べ伝えさせたり、　１５悪霊を追い出させたりするためでした。
１６－１９十二人の名前は次のとおりです。
シモン〔イエスによって「ペテロ」と名づけられた〕、
ヤコブとヨハネ〔ゼベダイの息子で、イエスから「雷の子」と呼ばれた〕、
アンデレ、

ピリポ、
バルトロマイ、
マタイ、
トマス、
ヤコブ〔アルパヨの息子〕、
タダイ、
シモン〔「熱心党」という急進派のメンバー〕、
イスカリオテのユダ〔後にイエスを裏切った男〕。
２０　イエスが、泊まっていた家に戻られると、群衆がまた集まって来ました。　まもなく家の中は人でいっぱいになり、食事をする暇もないほどです。　２１これを身内の者たちが聞き、力ずくででも、イエスを家に連れ戻そうとしました。　てっきり、イエスは気が変になったと思ったからです。
だれがイエスの兄弟、姉妹か
２２　しかし、エルサレムから来ていたユダヤ教の教師たちは、こんなふうにうわさしました。　「やつは、悪霊の王ベルゼブル（サタン）に取りつかれているのだ。　だから、手下の悪霊どもがやつの言うことを聞いて、おとなしく引き下がるのさ。」
２３　イエスは、こんなことを言う人々をそばに呼び、だれもがわかるように、たとえを使って話されました。　「どうしてサタンがサタンを追い出せるでしょうか。　２４内部で分かれ争っている国は、結局自滅してしまいます。　２５争い事や不和が絶えない家庭は、崩壊するだけです。　２６サタンの場合も全く同じことです。　内部で争っていたら、何もできないばかりか、生き残ることさえできません。　２７強い人の家に押し入って、その財産を盗み出すには、まずその強い人を縛り上げなければならないでしょう。　悪霊を追い出すには、まずサタンを縛り上げなければならないのです。
２８　これは大切なことだから、はっきり言います。　人が犯す罪は、どんな罪でも赦してもらえます。　たとい、わたしの父を汚すことばでも。　２９しかし聖霊を汚す罪だけは、決して赦されません。　それは永遠の罪なのです。」
３０　こう言われたのは、彼らが、イエスの奇蹟は聖霊の力によるものだとは認めず、サタンの力によるのだと言いふらしていたからです。
３１　さて、イエスの母と弟たちが、教えを聞く人々でごった返す家に来て、話があるから出て来るように、とことづけました。　３２「お母様と弟さんたちが、お会いしたいと外でお待ちです」と言われて、　３３イエスはこうお答えになりました。　「わたしの母と兄弟とは、それはいったい、だれのことですか。」
３４　それから、ぐるりと回りを見渡し、「この人たちこそわたしの母であり兄弟です。３５だれでも、神のお心のままに歩む人が、わたしの兄弟、姉妹、また母なのですよ」と言われました。
四

神の国のたとえ話

１　イエスが湖のほとりで教えておられると､またもや大ぜいの群衆が集まって来ました。それでイエスは小舟に乗り､そこに腰をおろして､お話しになりました。　２イエスが人々に教えられる時には、たとえ話を使うのが普通でしたが、この日の話は次のようなものでした。

３　「よく聞きなさい。　農夫が種まきをしました。　畑に種をまいていると、　４ある種はあぜ道に落ちました。　すると鳥が来て、その種を食べてしまいました。　５別の種は土の浅い石地に落ちました。　初めは急速に生長した種も、　６土が浅いため、根から十分養分を取ることができず、強烈な日差しの中で、すぐに枯れてしまいました。　７また、いばらの中に落ちた種もありましたが、いばらが茂って、生長をはばみ、結局、実を結べませんでした。　８けれども中には、良い地に落ちた種もありました。　その種は、三十倍、六十倍、いや百倍もの収穫をあげることができたのです。　９聞く耳のある人はよく聞きなさい。」

１０　その後、イエスが一人になられると、十二人の弟子と、ほかの弟子たちが、そろってイエスに尋ねました。　「先生。　さっきのお話はどういう意味でしょう。」

１１　イエスはお答えになりました。　「あなたがたには、神の国の真理を知ることが許されていますが､ほかの人には隠されているのです。　１２預言者イザヤが言ったように、『彼らは見もし、聞きもするが、悔い改めて神に立ち返り、その罪を赦していただくことはない』のです。　１３ところで、こんな簡単なたとえ話がわからないのですか。　こんな調子では、これから話すほかのすべてのたとえ話は、どうなることでしょう……。

１４　いいですか。　農夫とは、人々に神のことばを伝える人のことです。　このような人たちは、聞く人の心に良い種をまこうとします。　１５ある種が落ちた、踏み固められたあぜ道とは、神のことばを聞いても心を堅く閉ざした人のことです。　すぐにサタンがやって来て、そのことばを忘れさせてしまうのです。　１６１７土が浅く石ころの多い地とは、最初は喜んで神のことばを聞く人の心を表わしています。　ところが、そんな地に落ちた種は、根を深くおろすことができません。　だから、初めのうちこそうまくいっても、迫害が始まると、たちまちぐらついてしまうのです。

１８１９いばらの地とは、神のすばらしい知らせに耳を傾け、それを受け入れる人の心を表わしています。　けれども、すぐにこの世の魅力、金もうけの楽しさ、成功欲、物欲のとりこになり、神のことばなどは心からはじき出されて、実を結ぶまでには至らないのです。

２０　良い地とは、神のことばをまちがいなく受け入れ、神のために、三十倍、六十倍、いや百倍もの収穫をあげる人の心を表わしています。」

２１　イエスは、続けてお話しになりました。　「せっかく灯をともしたランプに箱をかぶせ、光をさえぎる人がいるでしょうか。　もちろん、いません。　それでは意味がありませんから。　だいたいランプというものは、台の上に置き、あたりを照らしてこそ、存

在価値があるのです。
２２　いま隠されているものはみな、いつかは明るみに出されます。　２３聞く耳のある人はよく聞きなさい。　２４また、聞いたことは必ず実行しなさい。　そうすればするほど、わたしの言ったことがわかるようになります。 ２５持っている人はさらに与えられ、持っていない人は、持っているわずかな物さえ取り上げられてしまうのです。
２６　神の国のたとえを、もう一つ話しましょう。
ある農夫が畑に種をまいて、　２７家に帰りました。　日がたつにつれて、別に何もしなくても、種はどんどん生長しました。　２８土が種を生長させるからです。　まず芽が出て、次に穂、そして最後に実が入ります。　２９すると、さっそく農夫が刈り取るのです。」
３０　また、こうも言われました。　「神の国をどう説明し、何にたとえたらいいでしょう。　３１そうですね、神の国は小さなからしの種みたいです。　からしの種は、種の中でも一番小さいものですが、　３２生長すると、とても大きくなり、鳥が巣を作れるほどになります。」
３３　このように、イエスは多くのたとえを使い、人々の理解力に応じて教えられました。
３４たとえを使わずに話をなさることはありませんでした。　しかし弟子たちにだけは、あとでその意味を説き明かされました。
３５　夕やみの迫るころ、イエスは弟子たちに、「さあ、湖の向こう岸に渡ろう」と言われました。 ３６弟子たちは群衆をあとに残し、イエスの乗った小舟をこぎ出しました。 しかし、あとからついて来る舟も、何そうかありました。　３７ところが、まもなく、恐ろしい嵐が襲って来たのです。　小舟は大波にほんろうされ、舟は水浸しです。　３８イエスはと見れば、とものほうで眠っておられます。 弟子たちは気が気ではありません。 半狂乱のていでイエスを呼び起こしました。　「先生！　舟が沈みかけているのに、よく平気でいられますねっ！」
３９　イエスはゆっくり起き上がられると、風をおしかりになり、湖に「静まれっ！」と言われました。　するとどうでしょう。　たちまち風はやみ、湖は何事もなかったかのような大なぎになりました。
４０　イエスは弟子たちに言われました。　「どうしてそんなにこわがるのですか。　まだわたしが信じられないのですか。」
４１　弟子たちは、ただもう恐怖に打ちのめされて、「ああ、なんというお方だ。　風や湖までが従うとは！」と、ささやき合いました。
五
イエス、悪霊を追い出す
１　やがて一行は湖を渡り、向こう岸のゲラサ人の地に着きました。　２イエスが小舟をおりる間もなく、悪霊に取りつかれた男が墓場から走って来て、イエスを迎えました。
３４この男は墓場に寝起きしていましたが、すごい強力で、手かせ足かせをはめられても、たちまち引きちぎって逃げてしまうのでした。そんなわけで、だれもこの男を取り押さえ

ることができません。　５昼も夜も、大声でわめき、とがった石で体をかきむしりながら、墓場や山の中をさまよい歩いていました。
６　この男は、イエスがまだ遠く湖上にいる時からその姿を認め、走って来たのです。　そしてイエスの前まで来ると、いきなり地にひれ伏しました。
７８その時です。　イエスは男に取りついている悪霊に、「悪霊よ、出て行きなさい」とお命じになりました。　すると悪霊は、ぞっとするような声で、「おれ様を、ど、どうしようというんだい。　お願いだから、苦しめないでくれーっ！　いと高き神の子、イエス様」とわめきたてました。
９　イエスが「あなたの名前は？」とただされると、「レギオン（ローマ軍隊の一軍団）だ。おれたちは大ぜいでこいつに取りついてるんでね」と、悪霊は答えました。
１０　それから、自分たちを遠方へ追い払わないでほしいと、しきりに頼み続けました。
１１　その時たまたま、湖畔に沿った丘の上で、豚の大群がえさをあさっていました。　１２悪霊どもは、「おれたちをあの豚の中へやってくれ」と願いました。
１３　イエスが、お許しになると、悪霊はすぐさまその男から出て、豚の中に入りました。とたんに、二千匹もの群れがいっせいに、がけを駆け降り、湖に飛び込んでおぼれてしまいました。
１４　豚飼いたちは近くの町や村に逃げて行き、この出来事をふれ回りました。　人々は、自分の目で確かめようと、ぞろぞろ出かけて来ました。　１５たちまちイエスの回りは黒山の人だかりです。　しかも、うわさの男は、ちゃんと服を着、すっかり正気に戻って座っているではありませんか。　人々は恐ろしくなりました。　１６初めからこの出来事を目撃していた人たちが、みんなに一部始終を説明しました。　１７それを聞くと、人々はイエスに、かかわりあいになりたくないから、どこかへ行ってくれ、と願い始めたのです。
１８イエスはまた舟に乗り込みました。　悪霊に取りつかれていた男が、「ぜひお伴を」と願いましたが、　１９お許しにならず、「家族や、友人のところへお帰りなさい。　神がどんなにすばらしいことをしてくださったか、また、どんなにあわれんでくださったかを話してあげなさい」と言われました。　２０　男はさっそく、デカポリス（十の町）地方を回り、イエスがどんなにすばらしいことをしてくださったかを知らせました。　その話を聞いた人々はみんな驚きました。
イエス、少女を生き返らす！
２１　イエスがもう一度、舟で向こう岸へ渡られると、大ぜいの群衆が詰めかけました。
２２　そこへ、その地方の会堂管理人で、ヤイロという名の人が来て、イエスの前にひれ伏しました。　２３娘を助けてほしいというのです。「先生。　娘が危篤なんです。　まだ、ほんの子供なのに……。　どうぞ、娘の上に手を置き、治してやってください。」
２４　必死の願いに、イエスはヤイロといっしょに出かけました。　群衆は押し合いへし合い、イエスについて行きました。　２５さてその中に、出血の止まらない病気で十二年間も苦しみ続けてきた女がいました。　２６大ぜいの医者にかかり、さんざん苦しい目に

会い、治療代で財産をすっかり使い果たしてしまいましたが、病気はよくなるどころか、悪化する一方でした。　２７イエスがこれまでに行なったすばらしい奇蹟の数々を耳にした彼女は、人ごみにまぎれて近づき、背後からイエスの着物にさわりました。
２８　「せめてこの方の着物にでも手を触れさせていただけば、きっと治る」と考えたからです。　２９さわったとたん、出血が止まり、彼女は病気が治ったと感じました。
３０　イエスはすぐ、自分から病気を治す力が出て行ったのに気づき、群衆のほうをふり向かれて、「今、わたしにさわったのはだれですか」とお尋ねになりました。
３１　「こんなに大ぜいの人がひしめき合っているのですよ。　それなのに、だれがさわったのかと聞かれるのですか。」弟子たちはけげんな顔で答えました。
３２　それでもなお､イエスはあたりを見回しておられます。　３３恐ろしくなった女は、自分の身に起こったことを知り、震えながら進み出てイエスの足もとにひれ伏し、ありのままを、正直に話しました。　３４イエスは言われました。　「あなたの信仰があなたを治したのですよ。　もう大丈夫です。　いつまでも元気でいるのですよ。」
３５　こう話しておられるうちに、ヤイロの家から使いの者が来て、娘は死んでしまったので、来ていただいても手遅れだと伝えました。　３６しかしイエスは、ヤイロに言われました。　「恐れてはいけません。ただわたしを信じなさい。」
３７　イエスは、群衆をその場にとどまらせ、ペテロとヤコブとヨハネのほかは、だれにもついて行くことをお許しになりませんでした。　３８ヤイロの家に着くと、だれもかれもが取り乱し、大声で泣いたり、わめいたり、たいへんな騒ぎです。　これを見たイエスは、　３９中に入られ、「なぜ、泣いたり、わめいたりしているのですか。　子供は死んだのではありません。　ただ眠っているだけです」と言われました。
４０　それを聞いた人々は、イエスをあざ笑いました。　しかしイエスは、全員を家の外に出されると、娘の両親と三人の弟子だけを連れて病室に入られました。
４１　そして娘の手を取り、「さあ、起きなさい」と声をおかけになりました。　４２するとどうでしょう。　少女はぱっととび起き、ぐるぐる歩き回るではありませんか！　〔娘はこの時、十二歳でした。〕両親は、ただあっけにとられて見守るばかりです。　４３イエスは、このことを決して口外しないようにと、きびしくお命じになってから、少女に何か食べさせるようにと言われました。
六
１　まもなくイエスはその地方を去り､弟子たちを連れて故郷の町ナザレに帰られました。２３次の安息日に、会堂へ出かけて話をなさると、聴衆はその知恵と奇蹟にすっかり驚きました。　イエスのことを、自分たちと同じ、ただの田舎者だと思っていたからです。
「あいつのどこがおれたちと違うというんだい。　ただの大工のせがれじゃないか。　母親はマリヤだし、ヤコブやヨセやユダやシモンは兄弟だ。　妹たちだって、おれたちといっしょにここに住んでるじゃないか。」町の人たちはイエスに腹を立てました。
４　そこで、イエスは言われました。　「預言者はどこででも尊敬されます。　ただ、自

分の故郷、親族、家族の中では別です。」
５　こうして､人々の不信仰のために､ほんのわずかの病人に手を置いて治されただけで､そこでは何一つ大きな奇蹟を行なえませんでした。　６イエスは、自分を信じようともしないナザレの人たちの態度に、驚かれました。
このことがあってから、イエスは付近の村々を巡り歩いて、お教えになりました。　７また、十二人の弟子を呼び、悪霊を追い出す力を与えると、二人ずつ組にして送り出されました。　８９そして、携行品は杖だけにし、食料も旅行袋も、お金も、はき替えのくつも、着替えの下着も持って行ってはいけませんと、注意されました。
１０　また、続けて言われました。　「どこの村ででも、一軒の家に泊まるように。　あっちこっちと家々を渡り歩いてはいけません。　１１もしその村が、あなたがたを門前払いにし、あなたがたのことばに耳を貸そうともしないなら、そこから出る時、足のちりを払い落としなさい。　それは、その村を滅びるに任せたというしるしです。」
１２　こうして、弟子たちは出て行き、出会ったすべての人に、悔い改めて神に立ち返るようにと教え、　１３多くの悪霊を追い出し、オリーブ油を塗って大ぜいの病人を治しました。
ヨハネの死
１４　イエスの奇蹟は至る所で話題になったので、まもなく、ヘロデ王の耳にも入りました。　王は、このイエスがバプテスマのヨハネの生き返りだと考えました。　そして人々も､「だからこそ､イエスにはあんな奇蹟ができるのだ｣とうわさしました。１５中には、預言者エリヤが生き返ったのだと考える者もあり、いや昔の偉大な預言者たちのような新しい預言者だ、と主張する者もありました。
１６　しかしヘロデは､「いや､あれはわしが処刑したヨハネに違いない。　ヨハネが死人の中から生き返ったのだ」と言いました。
１７１８実はこのヘロデが、兵士たちに命じて、ヨハネを捕らえ、投獄したのです。　ヨハネがヘロデに、兄嫁のヘロデヤを横取りするのはよくないと抗議したからです。　１９ヘロデヤはその腹いせに､ヨハネを殺してやろうと思いましたが､ヘロデの許可なしには､何の手出しもできません。　２０ヘロデが、ヨハネを正しくきよい人物だと知って、尊敬し、保護していたからです。　ヘロデはヨハネと話をすると、決まって不安にかられましたが、それでも好んで聞いていました。
２１　ところが、とうとうヘロデヤに絶好のチャンスが訪れました。　それはヘロデの誕生日のことでした。　王は､宮中の高官､高級将校､ガリラヤ地方の名士などを招待して､宴会を開きました。　２２その時、ヘロデヤの娘が居並ぶ客の前で舞をまい、一同をたいそう楽しませました。　喜んだ王は､「ほしいものはないか。　なんなりと申せ」と言い､２３その上､「国の半分をやってもよいぞ」と誓ったのです。
２４　娘は出て行って、母親と相談しました。　すると母親は､しめたとばかり､「バプテスマのヨハネの首をいただきたいと申し上げなさい」と入れ知恵しました。

２５　娘は、王の前に進み出ると、「今すぐ、バプテスマのヨハネの首を、盆に載せていただきとうございます」と言いました。
２６　王は困ったことになったと心を痛めましたが、誓ったことでもあり、また一同の手前もあって引っ込みがつきません。　２７やむなく護衛兵に、獄中のヨハネの首を切り、その首を持って来るように命じました。　兵士は言われたとおり、　２８ヨハネの首を盆に載せてきて、ヘロデヤの娘に渡しました。　すると、娘はさっそく、それを母親のところへ持って行きました。
２９　ヨハネの弟子たちはそのことを聞くと、遺体を引き取り、墓に葬りました。
五つのパンと二匹の魚
３０　さて、十二人の弟子は旅を終えてイエスのもとに帰り、自分たちのしたこと、また行った先々で人々に教えたことなどを、くわしく報告しました。
３１　イエスは弟子たちに言われました。　「さあ、しばらく人ごみを避けて休みましょう。」イエスのもとには人の出入りが多く、食事をする暇もなかったからです。　３２彼らは舟に乗り、静かな場所へ出かけました。　３３ところが、大ぜいの群衆がそれと気づき、岸づたいに走って行って、一行が上陸するのを待ちかまえていました。　３４舟から上がられたイエスの前には、大ぜいの群衆がたむろしていました。まるで羊飼いのいない羊のような群衆を見て、イエスは深くあわれみ、いろいろなことを教え始められました。
３５３６午後も遅くなって、弟子たちがイエスのところに来ました。　「先生。　この人たちに、近くの村や農場へ行って、めいめいで食べ物を買うように言っていただけませんか。　こんな寂しい所では、何もありません。　それに時刻も遅いことですし……。」
３７　しかし、イエスは言われました。　「あなたがたが、この人たちに食べ物をあげるのです。」
「何ですって！　いったい何を食べさせたらいいんですか。　この大ぜいの人たちに。　そんなことをしたら、破産してしまいますよ。」
３８　「手持ちの食べ物がどのくらいあるか、見て来なさい。」こう言われて、弟子たちは調べに行きました。　その結果は、パンが五つと魚が二匹あるだけでした。　３９４０イエスは、群衆に座るようにお命じになりました。　まもなく、五十人から百人ほどの色とりどりのグループが、それぞれ一団となって緑の草の上に座りました。
４１　イエスは五つのパンと二匹の魚を取り、天を見上げて、感謝の祈りをささげると、パンをちぎって、人々に配るよう弟子たちに手渡されました。　魚も同様になさいました。
４２群衆は、もうこれ以上は食べられないというほど、たらふく食べました。
４３４４その場で食事をしたのは、男だけでも五千人はいました。　あとで草の上のパンくずを拾い集めると、なんと十二のかごにいっぱいでした。
４５　それからすぐ、イエスは弟子たちに、舟に戻り、先にベツサイダまで行くようにお命じになりました。　あとで弟子たちと落ち合うつもりで、イエスだけその場に残り、群衆を解散させられたのです。

４６　そのあと、イエスは山へ登られました。　祈るためです。　４７夜になり、舟に乗った弟子たちは湖の真ん中までこぎ出していましたが、イエスはただ一人、陸地におられました。　４８ふと、ごらんになると、弟子たちは向かい風と波のためにこぎあぐね、危険にさらされています。　夜明けの三時ごろ、イエスは水の上を歩いて彼らに近づき、そのままそばを通り過ぎようとされました。　４９ところが、弟子たちは湖上を歩くイエスを幽霊と見まちがい、恐怖のあまり大声をあげました。　５０皆が、おびえてしまったからです。　イエスはすぐに、「安心しなさい。　ほら、わたしです。　こわがることはありません」と声をおかけになりました。　５１イエスが舟に乗り込まれると、風はぴたりとやみました。　弟子たちは訳がわからず、ただぼんやりと座っているだけでした。　５２前日の夕方、あれほどの奇蹟を目のあたりにしながら、弟子たちには、イエスがどんな方か、まだわかっていなかったのです。　彼らは、初めから信じようとしていなかったからです。
５３　一行は、湖の向こう岸のゲネサレに着き、舟をつなぎました。　５４彼らが舟から上がると、人々はすぐにイエスだと気づき、　５５その地方全体に、イエスがおいでになったとふれ回りました。寝たままの病人が次々にイエスのもとに運び込まれました。５６イエスがおいでになると、村でも町でも農場でも、人々は病人を広場に寝かせ、せめて着物のすそにでもさわらせてやってくださいと、必死に願うのです。　こうして、さわった者はみな治りました。
▪
七
本当に大切なのは心
１　ある日、ユダヤ人の宗教的指導者たちが数人、イエスを調べてやろうと、わざわざエルサレムから出向いて来ました。　２そして、イエスの弟子の中に、ユダヤの食前のしきたりを守らない者がいるのを見つけました。　３そのしきたりというのは、ユダヤ人の中でも特にパリサイ人たちがやかましく守っているものでした。　古くからの言い伝えで、食事の前には必ず、腕からひじにかけて水を注ぐ決まりだったのです。　４また市場から帰って来た時には､食べ物に触れる前に必ず体に水を注ぎかける決まりもありました。そのほかにも、水差し、なべ、皿を洗うことなど、何世紀ものあいだ守り続けてきた、こまごまとしたおきてやしきたりがあったのです。５そこで､宗教的指導者たちはイエスに、「どうしてあんたの弟子は、昔からの言い伝えを守らないのか。　手も洗わないで、食事をするとはけしからん」と詰め寄りました。
６　イエスはお答えになりました｡「あなたがたこそ偽善者です。預言者イザヤが言ったのは、あなたがたのことだったのです。
『彼らは口先ではわたしを敬うが、
心はわたしから遠く離れている。
７　彼らがわたしを拝んでも、むだなことだ。

神のおきての代わりに、
人間の規則を教えているのだから。』
なんと的を射たことばでしょう。
８　あなたがたは、神の特別な命令をないがしろにして、自分たちの言い伝えを代用としているのです。　９それを守るために、よくも神のおきてを捨て、踏みにじったものです。
１０　例をあげましょう。　モーセは、『あなたの父と母とを敬え』というおきてを神から託され、あなたがたに伝えました。　また、父や母をののしる者は死刑に処せられるとも言いました。　１１１２ところがどうです。　あなたがたときたら、『すみませんが、お助けするわけにはまいりません。　差し上げるはずのものは、神様にささげてしまいましたから』と言いさえすれば、助けを求める両親をおろそかにしてもかまわない、と教えているのです。　１３あなたがたは自分たちのつくった言い伝えを守るために、神のおきてを破っているのです。　これは、ほんの一例にすぎません。　ほかにも同じような例がたくさんあるのです。」
１４　イエスは、もう一度群衆を呼び寄せられ、「さあ、よく聞いて、その意味を考えなさい。　１５１６人は決して外から入る食べ物によって汚されるのではありません。　むしろ内から出て来ることばや思いによって汚されるのです」と言われました。
１７　それから群衆と別れ、家に入られました。　すると弟子たちが、「さっきのおことばは、どういう意味でしょうか」と尋ねました。
１８　イエスはお答えになりました。「こんなことがわからないのですか。　食べ物は人を汚さないということが、そんなに不思議なのですか。」　１９いいですか。　食べ物は別に人の心に入るわけではないでしょう。　腹に入って、外へ出るだけではありませんか。　こうして、あらゆる食べ物がおきてにかなうきよい物であることを示し、　２０さらに続けて言われました。　「人の内側から出るもの、それがくせものです。　２１肉欲、盗み、殺人、姦淫、　２２貪欲、邪悪、あざむき、好色、ねたみ、悪口、高慢、あらゆる愚かさ、それらのものはみな、人の心の中からあふれ出ます。　２３この内側から出て来るものが、人を汚し、神にふさわしくない者とするのです。」
広まるイエスのうわさ
２４　イエスはガリラヤを去り、ツロとシドンの地方に行かれました。内緒の旅行でしたが、いつものように、イエス来訪のニュースは、あっという間に広がってしまったのです。
２５　小さな娘が悪霊に取りつかれて困っていた母親が、うわさを聞いて駆けつけました。彼女はイエスの前にひれ伏すと、　２６娘から悪霊を追い出してくださいと、必死で頼みました。　実は、この女はスロ・フェニキヤ人で、ユダヤ人から見れば、「軽べつすべき外国人」でした。
２７　イエスは女に言われました。　「わたしはまず、同胞のユダヤ人を助けなければなりません。　子供たちのパンを取り上げて、小犬に投げてあげるのはよくないことなのです。」

２８　「おっしゃるとおりでございます。　でも先生、食卓の下の小犬だって、子供たちのパンくずは食べるではありませんか。」
２９　この答えにイエスは感心しました。　「実に見上げたものです。さあ、安心して家にお帰りなさい。　悪霊はもう、娘さんから出て行きましたよ。」
３０　女が家に戻ってみると、娘は静かにベッドに横たわっており、悪霊は出たあとでした。
３１　イエスはツロをあとにし、シドンからデカポリス（十の町）地方を通って、ガリラヤ湖畔にお帰りになりました。　３２その時、人々が、耳も聞こえず、口もきけない男を、イエスのところに連れて来て、「どうぞ、手を置いて治してやってください」と頼みました。
３３　イエスはその男を群衆の中から連れ出し、自分の指を男の両耳に差し入れ、それからつばきをして舌にさわられました。　３４そして、天を見上げてふっとため息をつき、「開け」とお命じになりました。　３５するとどうでしょう。　耳は完全に聞こえるようになり、舌のもつれもとけて、はっきり話せるようになったではありませんか。
３６　イエスは群衆に、うわさを広めないようにと堅く口止めされましたが、そう言えば言うほど、人々はかえって言い広めました。　３７イエスのなさったことに、驚き、あきれたからです。　「ああ、なんてすばらしいことをなさるお方だろう。　耳が聞こえず、口もきけない人さえ、お治しになった！」と、人々は何度も言い合いました。
八
１　そのころ、またおびただしい群衆が集まって来ましたが、みんなの食べる物がなくなったので、　２イエスは弟子たちを呼んで言われました。　「この人たちがかわいそうです。　もう三日も、わたしといっしょにいるのだから、食べ物はとっくにないはずです。３このまま帰らせたら、きっと途中で倒れてしまいます。　中には遠くから来た人もいることでしょうし……。」
４　「でも、先生。　こんな寂しい所で、これほど大ぜいの人たちなんですよ。　いったいどこで、食べ物を手に入れるのですか。」
５　「パンは幾つありますか。」
「七つです。」
６　イエスは、群衆に地べたに座るようにお命じになりました。　そして七つのパンを取り、神に感謝の祈りをささげてから、ちぎって弟子たちに手渡され、弟子たちがみんなに配りました。　７まだ小さい魚が少しばかりあったので、これも同様に祝福してから、人々に配るよう弟子たちに手渡されました。
８９こうして、全員が満腹するほど食べました。　それからイエスは、人々を家にお帰しになりました。　その日集まった人の数はおよそ四千人でしたが、あとでパンくずを拾い集めると、なんと七つのかごにいっぱいになりました。
ダルマヌタへ
１０　このあとすぐ、イエスは弟子たちと舟でダルマヌタ地方へ向かわれました。　１１

その地方のパリサイ人たちはイエスが来られたと知り、議論をふっかけてやろうと、勇んでやって来ました。　「奇蹟を見せたらどうだい。　天に不思議なしるしが現われでもしたら、あんたを信じようじゃないか。」
１２　このことばに、イエスは思わず、ため息をおつきになりました。「とんでもありません。　いったいどれだけ奇蹟を見れば気がすむのですか。」
１３　イエスは彼らを残して、また舟に乗り、湖の向こう岸に渡られました。　１４ところが、弟子たちがうっかり、出発前に食べ物を用意するのを忘れたので、舟の中にある食べ物といえば、一かたまりのパンだけでした。
１５　まだ湖上にいた時、イエスは弟子たちに、厳粛なお顔で、「ヘロデ王とパリサイ人たちのイースト菌に気をつけなさい」と言われました。
１６　弟子たちは、「先生は、なぜあんなことをおっしゃったんだろう」と首をかしげましたが、結局、パンを持って来なかったからだろうということに、話が落ち着きました。
１７　弟子たちが「ああでもない、こうでもない」と言い合っているのを聞いて、イエスは言われました。「いや、そんなことではありません。　まだわからないのですか。　なんて物わかりの悪い人たちでしょう。　１８ちゃんと、目も耳もそろっているのに、見えも聞こえもしないのですか。　何も覚えていないのですか。　１９五つのパンを五千人に食べさせた時のことを。　あの時、パンくずは幾かごになりましたか。」
「十二かごです。」
２０　「じゃあ、七つのパンで四千人に食べさせた時は？」
「七かごです。」
２１　「それなのに、まだあなたがたは、パンがないのを、わたしが苦にしていると思うのですか。」
２２　一行がベツサイダに到着すると、人々が盲人の手を引いて来ました。　「どうか、さわって治してやってください」と頼むので、　２３イエスはその盲人の手を取り、村の外へ連れ出されました。　そして彼の両眼につばきをつけ、手をあてて、「どうですか、何か見えますか」とお尋ねになりました。
２４　男はあたりをきょろきょろ見回しながら、「は、はい。　見えます。　見えます。　人が見えます。　ぼんやりしていますが……。　まるで、木が歩いてるみたいです」と答えました。
２５　イエスはもう一度、両眼におさわりになりました。　男はじっと見つめていました。するとだんだん視力が回復し、何もかも、はっきり見えるようになりました。
２６　イエスは、男を家族のもとへお帰しになり、「村へは行かないように」と注意されました。
イエスこそ救い主
２７　イエスの一行はガリラヤを去り、ピリポ・カイザリヤの村々へ行きました。　道々、イエスは弟子たちに、「人々は、わたしのことをだれだと言っていますか」とお尋ねになり

ました。
２８　「バプテスマのヨハネだと言う者もいれば、エリヤだと言う者もいます。　また昔の預言者が生き返ったと言う者もいます」と、弟子たちは答えました。
２９　するとイエスは、「では、あなたがたは、だれだと思っているのですか」とお尋ねになりました。　即座に、ペテロが、「あなた様こそキリスト（救い主）です」と答えました。
３０ところが、イエスは、このことをだれにも話してはいけないと、きびしく言われました。
３１　それから、やがて自分が経験する恐ろしい出来事――長老、祭司長、ユダヤ人の指導者たちに捨てられ、殺され、三日目に復活することを、弟子たちに話し始めました。　３２それも、実にはっきりとお話しになったので、ペテロはイエスをわきに呼び、「そんなことをおっしゃるものではありません」と忠告しました。
３３　イエスは、ふり返って弟子たちを見回すと、非常にきびしい口調でペテロに言われました。　「下がれ、サタン！　あなたはただ人間的な見方をして、神の立場からは考えてみようともしていないのです。」
３４　それから、弟子たちと群衆とを呼び寄せ、こう言われました。　「だれでもわたしについて来たければ、自己中心の生活をやめ、自分の十字架を背負って、ついて来なさい。
３５いのちを守ることにばかり、あくせくしていたら、かえってそれを失います。　わたしと、この神のすばらしい知らせとのためにいのちを投げ出す者だけが、生きることの意味をほんとうに知るのです。
３６　たとい全世界を自分のものにしても、いのちを失ったら、何の得があるでしょう。
３７いのちを買い戻すどんな手だてがあるというのでしょう。　３８だれでも、この不信仰と罪の時代にあって、わたしとわたしのことばとを恥じる者をメシヤ（救い主）のわたしも、やがて父の栄光を帯びて聖なる御使いと共に帰って来る時、恥じるのです。」
九
栄光に輝くイエス
１　イエスはさらに、ことばを続けました。　「ここに立っている人人の中には、神の国が大きな力を持って来るのを見るまで、生きている人がいます。」
２　それから六日後、イエスはペテロとヤコブとヨハネだけを連れて、山に登られました。
突然、イエスの顔が栄光に輝き、　３着物はまばゆいばかりの白さになりました。　世のどんな布さらし屋も、こんなに白くはできないと思われるほどの白さでした。　４そこへ、なんとエリヤとモーセが現われ、イエスと親しく話し始めたではありませんか。
５　これを見たペテロは、思わず叫びました。　「先生。　なんとすばらしいことでしょう！　ここに、お一人に一つずつ、三つの小屋を建てましょう。」
６　こう言う以外に、何と言ったらよいかわからなかったのです。　弟子たちはみな、おびえ切っていました。
７　ペテロがまだ言い終わらないうちに、雲がすっぽり彼らを包み、太陽をさえぎったか

と思うと、雲の中から、「これはわたしの愛する子。　この人の言うことを聞きなさい」という声がしました。
８　あっけにとられた弟子たちがあたりを見回すと、すでにモーセとエリヤの姿は見えません。　ただイエスがおられるだけでした。
９　山を降りながら、イエスは弟子たちに、いま見たことを、自分が死人の中から復活する時まで、だれにも口外しないようにとお命じになりました。　１０三人はそのことを深く心に秘めておきましたが、「死人の中から復活する」とはどういう意味かわからず、あれこれ話し合いました。
１１　そこで彼らは、「どうしてユダヤ人の宗教的指導者たちは、メシヤ（救い主）が来る前に、必ずエリヤが来るはずだ、と言っているのでしょうか」と尋ねました。　１２１３イエスは、「まずエリヤが来て道を整えるというのはほんとうです。　実際、エリヤはもう来たのです」とお答えになりました。　そして、エリヤは預言どおり、人々からひどい仕打ちを受けたのですと説明されてから、「では、メシヤが、さんざん苦しめられ、ひどく軽べつされるという預言はどういうことでしょうか」とお尋ねになりました。
山を降りたイエス
１４　四人が弟子たちのところに帰ってみると、大ぜいの群衆に囲まれて、弟子たちと数人のユダヤ人の指導者たちが論争のまっ最中でした。　１５人々は、イエスの姿を見て驚き、すぐに駆け寄り、あいさつしました。　１６「何を議論しているのですか」と、イエスはお尋ねになりました。
１７　すると一人の男が、こう答えました。　「先生。　あなた様に息子を治していただこうと連れてまいりました。　息子は悪霊に取りつかれていて、ものを言うことができません。　１８この悪霊が取りつくと、どこであろうと、あたりかまわず押し倒すので、息子は口からあわを吹き、歯ぎしりして、体を硬直させてしまいます。　お弟子さんたちに、何とか悪霊を追い出してくださいとお願いしたのですが、だめでした。」
１９　「ああ、なんと信仰の薄い人たちでしょう。　いつまで、あなたがたといっしょにいなければならないことでしょうか。　さあ、その子を連れて来なさい。」
２０　さっそく少年が連れて来られました。　ところが、イエスを見るなり、悪霊が彼をひどくひきつけさせたので、ばったり倒れ、あわを吹きながら、のたうち回りました。
２１　イエスは父親にお尋ねになりました。　「いつからこのようになったのですか。」
「それが、小さい時分からで。　２２悪霊は、この子を殺そうと、何度も火の中、水の中に倒したんで……。　先生、お願いです。　もしおできになるなら、何とか、何とかしてください！」
２３　「もしできるなら、と言うのですか。　あなたが信じるなら、どんなことでもできるのです。」
２４　「信じます、信じますとも！　ああ、どうか不信仰な私をお助けください。」
２５　人だかりが、だんだんひどくなるのを見て、イエスは悪霊をしかりつけました。「聞

くことも言うこともできなくさせる霊よ。　さあ、この子から出て行きなさい！　二度と戻って来てはいけない！」
２６　すると悪霊は大声をあげ、もう一度少年を激しくひきつけさせて出て行きました。少年はぐったりとなり、まるで死んだように動きません。　人々はざわつき始めました。「おい、死んでしまったぞ」というささやきも聞こえます。　２７ところが、イエスが少年の手を取って起こされると、彼はぱっと立ち上がり、すっかり元気になりました。　２８あとで、家に入り、ほかにはだれもいなくなった時、弟子たちはイエスに尋ねました。「どうして私たちには、あの悪霊を追い出せなかったのでしょう。」
２９　イエスは、「こういうことには、特に祈りが必要なのです」とお答えになりました。
３０　一行はそこを去り、ガリラヤを通って行きました。　イエスは、できるだけ人目につかないように心を配っておられました。　３１なるべく多くの時間をさいて、弟子たちと語り合い、教育するおつもりだったからです。　「メシヤ（救い主）のわたしは裏切られ、殺され、そして三日目に復活します」と、イエスは教えられました。
３２　しかし弟子たちには何のことやら、さっぱりわかりません。　かといって、イエスに直接その意味を尋ねるのも、なんだかこわかったのです。
３３　カペナウムに着き、泊まることになっていた家に入ってしばらくすると、イエスが弟子たちに、「ここへ来る途中、何を言い合っていたのですか」とお尋ねになりました。
３４　弟子たちは顔を真っ赤にして、うつむいてしまいました。　実は、だれが一番偉いかと言い合っていたからです。
３５　イエスは腰をおろし、弟子たちを回りに呼び寄せると、「だれでも一番偉くなりたい人は、一番小さい者となり、だれにでも仕える者となりなさい」と教えられました。　３６それから、小さな子供を真ん中に立たせ、腕に抱いて言われました。　３７「見なさい。だれでもわたしの名のゆえに、このような小さい者をも受け入れる人は、わたしを受け入れているのです。　そしてわたしを受け入れる人は、わたしを遣わされたわたしの父をも受け入れているのです」
３８　ある時、弟子のヨハネがイエスに言いました。　「先生。　あなた様のお名前を使って悪霊を追い出している人を見かけましたよ。 でも、私たちの仲間じゃなかったので、即刻やめさせました。」
３９　するとイエスは言われました。　「やめさせることはありません。わたしの名によって奇蹟を行ないながら、そのすぐあとで、わたしに逆らう者はいないのですから。　４０わたしたちに反対しない者は、味方なのです。　４１あなたがたがキリストの弟子だと知って、水一杯でも飲ませてくれる人は、よく言っておきますが、必ずごほうびをもらいます。
４２だが反対に、これら小さい者の一人にでも信仰を失わせるような者は、大きな石を首にくくりつけられて、海中に投げ込まれたほうが、よっぽどましです。
４３４４もし手が悪いことをするなら、切り取ってしまいなさい。　片手になっても永遠

に生きるほうが、両手そろって、いつまでも燃え続ける地獄の火に投げ込まれるよりは、ずっとよいのです。　４５４６もし足があなたを悪事に引きずり込むなら、切り取ってしまいなさい。　片足になっても永遠に生きるほうが、両足そろって、地獄に落ちるよりは、ずっとよいのです。
４７　もし目が罪を犯すなら、えぐり出してしまいなさい。　片目ででも神の国に入るほうが、両眼そろって地獄の火を見るより、はるかによいのです。　４８地獄では、彼らを食ううじはいつまでも死なず、燃えさかる火は消えることがありません。　４９すべてのものは、火のような試練で塩けをつけられるのです。
５０　良い塩も、塩けをなくしたら、だいなしです。　味つけの役に立たなくなってしまいます。　だからあなたがたも、塩けをなくさないように、よく注意しなさい。　そして、互いに仲むつまじく暮らしなさい。」
一〇
神様からのすばらしい報い
１　イエスはカペナウムをあとにし、ユダヤ地方とヨルダン東岸へ行かれました。　またもや群衆が集まったので、イエスは彼らに教えておられました。
２　そこへ何人かのパリサイ人たちが来て、イエスに、「あなたは、離婚をお認めになりますか」と尋ねました。　もちろん、これはわなでした。
３　「モーセは、離婚について何と言いましたか。」反対に、イエスがお尋ねになりました。
４　「離婚してもさしつかえないと言いました。　ただその時は、男が女に離縁状を書く決まりですが。」
５　「なぜモーセはそう言ったのか、考えてみなさい。　あなたがたの心が邪悪で強情だったから、しかたなく認めたのです。　６７離婚は神の意志に反します。　神は、そもそもの初めから、人を男と女とに造られたのです。　ですから、人は両親から離れて、　８妻と一体となるのです。　もはや二人ではなく、一人なのです。　９神が一つにしてくださったものを、だれも引き離してはなりません。」
１０　イエスが家に戻られると、弟子たちはまた、この問題を持ち出しました。
１１　イエスは言われました。　「ほかの女と結婚したいばかりに妻を離縁するなら、妻に対して姦通罪を犯すのです。　１２また夫と離婚して別の男と再婚する女も同様です。」
１３　さて、イエスに祝福していただこうと、人々が、子供たちを連れてやって来ました。ところが弟子たちは、じゃまだとばかり、彼らを追い返そうとしました。
１４　それをごらんになったイエスは、憤って弟子たちをおしかりになりました。　「子供たちを、自由に来させなさい。　神の国はこの子供たちのような者の国なのです。　追い払うなど、とんでもありません。　１５いいですか。　よく言っておきますが、小さな子供のように神の国を受け入れる者でなければ、決してそこに入ることはできません。」
１６　それから、子供たちを抱き上げ、頭に手を置いて、祝福されました。
１７　イエスが道に出て行くと、一人の人が走り寄って、ひざまずき、「先生。　あなた様

は尊いお方です。　お教えください。　天国に入るには、どうしたらよいでしょうか」と尋ねました。
１８　「どうしてわたしを尊いと言うのですか。　尊いお方は神お一人です。　１９まあ、それはさておき、今の質問に答えましょう。　守るべき戒めは知っていますね。　そう、殺してはならない、姦淫してはならない、盗んではならない、うそをついてはならない、だまし取ってはならない、あなたの父と母とを敬いなさい、という戒めです。」
２０　「はい、先生。　私は今まで、これらの戒めを一つも破ったことはありません。」
２１　イエスは心から彼に同情して言われました。　「あなたには、たった一つだけ欠けたところがあるのです。　さあ、家に帰って、財産を全部売り払い、そのお金を貧しい人たちに分けてやりなさい。　そうすれば、天に宝をたくわえることになるのです。　それから、わたしについて来なさい。」
２２　このイエスのことばに、その人は顔をくもらせ、悲しそうに、すごすごと帰って行きました。　たいへんな金持ちだったからです。
２３　そのうしろ姿をじっと見ておられたイエスは、弟子たちのほうをふり返られ、「金持ちが神の国に入るのは、実にむずかしいことです」と言われました。
２４　これには、弟子たちもびっくりしてしまいました。　イエスは、もう一度言われました。　「愛する子供たちよ。　財産を頼みとする人が神の国に入るのは、なんとむずかしいことでしょう。　２５金持ちが神の国に入るよりは、らくだが針の穴を通るほうが、よっぽどやさしいのです。」
２６　弟子たちはますます驚いて言いました。　「そうだとしたら、この世の中で、いったいだれが救われるのでしょう。」
２７　イエスは弟子たちをじっと見つめ、「神でなければできません。神には、どんなことでもできるのです」と言われました。
２８　するとペテロが、自分や他の弟子たちが捨ててきたものをいちいち数え始めました。「私たちは何もかも捨てて、あなた様に従ってまいりました。」
２９３０これを聞いて、イエスは言われました。　「はっきり言っておきます。　わたしを愛するゆえに、また神のすばらしい知らせを人々に告げ知らせるために、家、兄弟、姉妹、父、母、子、財産をすべて投げ捨てた者は、必ずその百倍の報いを受けます。　この地上では迫害されますが、それでも家、兄弟、姉妹、母、子、土地はちゃんと戻ってきます。　そればかりか、次の世では永遠のいのちを受けるのです。　３１今は一番偉そうに見える者が、その時には一番軽んじられ、今は小さい者と見くびられていても、その時には一番大きい者となる者が大ぜいいるのです。」
イエス、ご自分の死と復活を予告する
３２　さて一行は、エルサレムを目指して進んで行きました。　イエスが先頭で、弟子たちはあとから続きます。　彼らは恐れと不安な気持ちにかられていました。　そこでイエスは、弟子たちをわきへ呼び、エルサレムに到着してから自分の身に起こることを、もう

一度、話して聞かせられました。
３３　「エルサレムに着くと、メシヤ（救い主）のわたしは捕らえられ、祭司長やユダヤ人の指導者たちに引き渡され、死刑を宣告されます。そして死刑執行のためにローマの役人の手に渡され、　３４あざけられ、つばきをかけられ、むちで打たれ、殺されます。　だが、わたしは三日目に復活するのです。」
３５　さて、ゼベダイの息子のヤコブとヨハネが来て、イエスにこっそりと頼みました。「先生。　折り入ってお願いしたいことがあるのですが……。」
３６　「どんなことですか。」
３７　「実は、あなた様の御国で、私たちをあなた様の次に高い位につかせていただきたいのです。　一人はあなた様の右に、一人は左にというぐあいに。」
３８　しかし、イエスは言われました。「あなたがたは、何もわかっていませんね。　わたしが飲もうとしている恐るべき杯を飲み、わたしが受けようとしている苦しみのバプテスマ（洗礼）を受けることができるとでも言うのですか。」
３９　「できますとも！」と、自信をもって答える二人に、イエスは、「確かにあなたがたはわたしの杯を飲み、バプテスマを受けるでしょう。　４０だが、だれをわたしの次の位につかせるかは、わたしが決めることではありません。　もうすでに、決まっているのです」とおっしゃいました。
４１　この、ヤコブとヨハネの願い事を知ったほかの弟子たちは、もうれつに腹を立てました。　４２それでイエスは、皆を呼び集められ、こう言われました。「あなたがたも知っているとおり、この世の王や高官は、支配者として権力をほしいままにしています。４３しかし、あなたがたの間では違います。　偉くなりたければ、皆に仕える者となりなさい。　４４人を支配したければ、奴隷のように仕える者となりなさい。　４５メシヤのわたしでさえ、人に仕えられるためではなく、仕えるために来たのであり、多くの人の罪の代償として、自分のいのちを与えるために来たのです。」
４６　一行はエリコに着きました。　やがてその町を出ようとすると、大ぜいの群衆がついて来ます。　その時、テマイの子でバルテマイという名の盲目のこじきが、道ばたに座っていました。
４７　ナザレのイエスのお通りだと聞いて、バルテマイは大声を張り上げました。　「イエス様、ダビデ王の子よ！　どうぞお助けを！」
４８　「うるさい。　黙れっ！」と、だれかがどなりつけました。　それでも、バルテマイはますます声を張り上げ、「ああ、ダビデ王の子よ。　お助けください」とくり返し叫びました。
４９　その声を聞きつけて、イエスはつっと立ち止まり、「あの男を連れて来なさい」と言われました。　そこで、人々はその盲人に、「運のいいやつだ。　おい、イエス様がお呼びだぞ」と告げました。　５０バルテマイは、はおっていた上着をぱっと脱ぎ捨てると、喜び勇んでイエスのそばに跳んで来ました。

５１　「どうしてほしいのですか」と、イエスがお尋ねになると、彼はもどかしげに、「先生。　見えるように、見えるようになりたいんです」と答えました。
５２　「わかりました。　さあ、もうあなたの目は治りました。　あなたの信仰があなたを治したのです。」イエスがこう言われた瞬間、彼の目は見えるようになり、イエスについて行きました。
一一
エルサレムに着いてから
１２エルサレム郊外のオリーブ山のふもとに、ベテパゲとベタニヤという二つの村がありました。　その近くまで来られた時、イエスはこう言って、弟子を二人、村へ使いに出されました。　「あそこの村に行きなさい。　するとすぐに、だれも乗ったことのないろばの子がつないであるのに気づくでしょう。　それをほどいて、連れて来なさい。　３もしだれかに何をしているのかと聞かれたら、『主がお入用なのです。　すぐお返しします』とだけ答えなさい。」
４５二人が出かけてみると、なるほど、表通りに面した家の外に、ろばの子がつないであります。　さっそく綱をほどきにかかると、そばにいた人たちが見とがめて、「そのろばの子を、いったいどうしようというんだい」と尋ねました。
６　二人が、イエスに教えられたとおりに答えると、その人たちは納得しました。
７　ろばの子をイエスのところに連れて来た弟子たちは、上着を脱ぎ、ろばの背中にかけました。　イエスがその上に乗られると、　８群衆の中の多くの者たちも次々と上着を脱ぎ、イエスの進んで行かれる道に敷いたり、野原から葉のついた枝を切ってきて、敷き並べたりしました。
９１０イエスを行列の真ん中にし、ぐるりと取り囲んだ群衆が、口々にこう叫びました。
「王様、ばんざーいっ！」
「主の御名によって来られる方に祝福を！」
「この方が興される御国に、われらの父祖ダビデの国に祝福を！」
「全世界の王、ばんざーいっ！」
１１　こうして、イエスはエルサレムに着き、宮に入られました。　そして中の様子をよくごらんになってから、もう時間も遅かったので、十二人の弟子たちといっしょに、ベタニヤまで引き返されました。
１２　翌朝、ベタニヤを出たイエスは、途中で空腹になられました。　１３ふと見ると、少し離れた所に、葉の茂ったいちじくの木があります。近づいて、実がなっているかどうかごらんになりました。　ところが、その木は葉ばかりでした。　まだ実のなる季節ではなかったからです。
１４　それでイエスは、その木に向かって、「二度と実をつけることがないように」と言われました。　弟子たちはこのことばを心にとめていました。
１５　エルサレムに戻ると、イエスは宮に入り、境内で商売をしていた者たちを追い出し

にかかられ、両替人の机や、鳩を売っていた者たちの台をひっくり返されました。　１６また、いろいろな荷物を持って境内を通り抜けることも、お許しになりませんでした。
１７　そういう人たちに、イエスは、このように言われました。　「聖書（旧約）には、『わたしの神殿は、世界中の人たちの祈りの場所と呼ばれる』と書いてあるではありませんか。　それなのに、あなたがたはここを強盗の巣にしてしまったのです。」
１８　こうしたイエスの言動を耳にした祭司長やユダヤ人の指導者たちは、どうすれば首尾よくイエスを始末できるかと、相談を始めました。人々がみなイエスの教えに夢中になっていたので、へたに動いて暴動でも起きたら、それこそ一大事と考えたからです。
１９　その夕方､いつものようにイエスと弟子たちはエルサレムを出ました。　２０翌朝、例のいちじくの木のそばを通りかかると、なんと根もとまですっかり枯れているではありませんか！　２１ペテロはすぐ、前の日にイエスがこの木に向かって言われたことばを思い出し、大声をあげました。　「先生。　ごらんください。　昨日あなた様がのろわれた木が枯れています！」
２２２３イエスは、弟子たちにお答えになりました。　「よく言っておくが、あなたがたでも神を信じさえすれば、このオリーブ山に『動いて、海に入れ』と言っても、そのとおりになります。　大切なのは、信じて疑わないことです。　２４いいですか。　よく聞きなさい。　あなたがたはどんなことでも祈り求めることができます。　そして信じて疑わないなら、それらのものはみな与えられるのです。　すでにあなたがたのものなのです。
２５だが、祈っている時、だれかに恨みをいだいていたら、まずその人を赦してやりなさい。　そうすれば、天におられるあなたがたの父も、あなたがたの罪を赦してくださいます。」
２６‐２８一行は、またエルサレムにやって来ました。　イエスが宮の中を歩いておられると、祭司長やユダヤ人の指導者たちが近づいて、「ここで何をしているのか。　いったいだれが、あんたに商人たちを追い出す権利を与えたのか」と食ってかかりました。
２９　イエスはお答えになりました。　「では、まずわたしの質問に答えなさい。　そのあとで答えましょう。　３０バプテスマのヨハネは、神から遣わされたのですか。　それとも、違うというのですか。　さあ、答えてもらいましょう。」
３１　彼らは集まってひそひそ相談しました。　「もし、『神様から遣わされた』と答えれば、『それを知っていながら、なぜ、ヨハネを信じなかったのか』と聞かれるだろう。　３２かといって、もし、『神様から遣わされたのではない』と答えれば、ここにいる群衆が騒ぎだすだろう。」〔人々はみな、ヨハネは預言者だと堅く信じていたのです。〕
３３　彼らはしかたなく、「わかりません」と答えました。 するとイエスは、「それなら、わたしもあなたがたの質問には答えないことにします」と言われました。
▪
一二
ぶどう園のたとえ話

１　それからイエスは、たとえを使って人々に話し始められました。
「ある農園主がぶどう園を造り、垣根を巡らし、ぶどうの汁をしぼる穴を掘り、見張りのやぐらを建てました。　そして、このぶどう園を農夫たちに貸し、外国へ出かけました。
２ぶどうの収穫の季節になったので、農園主は代理の者をやり、分け前を受け取ろうとしました。　３けれども農夫たちは、代理の者を袋だたきにしたあげく、手ぶらで送り帰したのです。
４　そこで、もう一人の代理人を送りましたが、彼も同じような仕打ちを受け、しかも頭にひどいけがを負いました。　５農園主はまた別の人を送りました。　こともあろうに、農夫たちはその人を殺してしまいました。　そのあとも次々に人が送られましたが、みな袋だたきにされたり、殺されたりして、　６残るは、農園主の息子だけになりました。　愛するたった一人の息子でした。　しかし農園主は『息子だったら、農夫たちも尊敬してくれるだろう』と思い、ついにその息子を送り出しました。
７　ところが、農夫たちは息子を見ると、『おい、絶好のチャンスだぜ。　ぶどう園の跡取りがやって来らあ。　よーし、あいつを殺っちまおうぜ。　そうすりゃあ、ここはおれたちのものよ』とばかり、　８いっせいに息子を捕らえて殺し、死体をぶどう園の外に放り出しました。
９　農園主がこのことを知ったら、どうすると思いますか。　すぐさま帰って来て、農夫たちを皆殺しにし、ぶどう園はほかの人たちに貸すでしょう。　１０あなたがたは、聖書（旧約）にこう書いてあるのを読んだことがないのですか。
『建築士たちの捨てた石が、
最も重要な土台石となった。
１１　なんとすばらしいことか。
主はなんと驚くべきことをなさる方か。』」
敵のわなを見破る
１２　このたとえ話を聞いた祭司長やユダヤ人の指導者たちは、その悪い農夫とは、実は自分たちのことなのだと気づき、イエスを捕らえようと思いましたが、群衆の暴動がこわくて手出しができません。　しかたなく、イエスをそのままにして、そそくさと立ち去りました。　１３それでも、何とかして逮捕の口実をつかもうと、パリサイ人やヘロデ党（ヘロデ王を支持する政治的な一派）の者たちを送りました。
１４　彼らはイエスに尋ねました。　「先生。　あなた様のおっしゃることは、いちいちごもっともでございます。　そうですとも、あなた様は、私利私欲にとらわれず、まじめに神の道を教えておられます。　つきましては……、ちょっとお尋ねしたいのですが、ローマ政府に税金を納めるのは正しいことでしょうか。　それとも……。」
１５　彼らのわなを見破ったイエスは、「教えてあげるから、銀貨を見せなさい」と言われました。
１６　そして銀貨を受け取ると、こうお尋ねになりました。

「この銀貨に刻んである肖像と名前はだれのものですか。」
「ローマ皇帝のものです。」
１７　「その通りです。　皇帝のものなら、皇帝に返しなさい。　しかし、神のものはすべて、神に返さなければなりません。」こう言われて、彼らは頭をかかえ込んでしまいました。
１８　次に、復活などありえないと主張していたサドカイ人たち（神殿を牛耳っていた祭司階級。ユダヤ教の主流派）がやって来ました。
１９　「先生。　モーセの法律によると、ある男が結婚して子供がないまま死んだ場合、弟が兄の未亡人と結婚して、生まれた子供に兄のあとを継がせることになっています。　２０‐２２ところで、ここに七人兄弟がいたとしましょう。　長男は結婚しましたが、子供がないまま死に、残された未亡人は次男の妻になりました。　ところが次男も子供ができずに死んだので、その妻は三男のものになりました。　三男も四男も同じことで、ついにこの女は、七人兄弟全部の妻になりましたが、結局、子供はできずじまいでした。　最後にこの未亡人も死にました。
２３　そこでお尋ねしたいのですが……、復活の時、この女はいったいだれの妻になるのでしょう。　七人とも彼女を妻にしたのですが。」
２４　イエスはお答えになりました。「聖書も神の力もわかっていないようですね。　全く思い違いをしています。　２５復活の時には、結婚などはないのです。　みんなが天の使いのようになるのですから。
２６　ところで、復活のあるなしについては、聖書の、モーセと燃える柴の個所を読んだことがないのですか。　神はモーセに、『わたしはアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である』と言われました。
２７　実際には、これらの人たちは数百年も前に死んでいたのに、神はモーセに、彼らはなお生きていると教えられたのです。　そうでなければ、すでに存在していない人の『神である』などと、おっしゃるはずがありません。　あなたがたは、この点で決定的なまちがいを犯しています。」
２８　イエスのそばで、この見事な返答ぶりを聞いていた一人のユダヤ教の教師が、「先生。すべての戒めの中で、どれが一番重要な戒めでしょうか」と尋ねました。
２９　「『イスラエルよ、聞け！　主なる神こそ、ただ一人の神です。　３０心を尽くし、たましいを尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの主を愛しなさい。』これが最も重要な戒めです。
３１　第二は、『自分を愛するように、あなたの隣人を愛しなさい』という戒めです。　これ以上に重要な戒めはありません。」
３２　「先生。　あなた様は今、神様はお一人で、ほかに神はいないとおっしゃいましたが、まさにそのとおりです。　３３そして、神殿の祭壇にどんな供え物をささげるよりも、『心を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして主を愛し、また隣人を自分と同じように愛す

る』ことのほうが、ずっと大切です。」
３４　この賢明な答えに感心したイエスは、「あなたは神の国から遠くない」と言われました。　そのあとはもう、だれも、あえてイエスに質問しようとはしませんでした。
３５　その後、神殿の境内で教えておられた時、イエスはこうお尋ねになりました。「ユダヤ教の教師たちは、どうしてキリストがダビデ王の子だと言いはるのですか。　３６ダビデ自身が、といっても、ほんとうは聖霊がダビデを通して語られたのですが、こう言っているではありませんか。
『神が私の主に言われた。
「わたしがあなたの敵を
あなたの足台とするまで、
わたしの右に座っていなさい。」』
３７ダビデがキリストを主と呼んでいるのなら、どうしてキリストがダビデの子でありうるでしょうか。」こういう議論に群衆は大喜びです。好奇のまなざしで、わくわくしながらイエスの話に聞き入っていました。
３８　イエスは、ほかにも次のような話をなさいました。
「ユダヤ教の教師たちを警戒しなさい。　彼らは見るからに学者らしいぜいたくなガウンをはおったり、広場を歩いている時に、大ぜいの人からあいさつされたりするのが、何よりうれしいのです。　３９また会堂で特別席に座ったり、宴会で上座に着いたりするのも大好きです。　４０裏では、恥知らずにも、未亡人の家を食いものにしながら、人前では長ったらしい祈りをして、これ見よがしに神を敬うふりをしています。　こういう人たちは、人一倍きびしい罰を受けるのです。」
４１　それから、神殿の献金箱のそばに座り、人々がお金を投げ入れる様子をじっと見ておられました。　大ぜいの金持ちが、気前よく大金をささげているところへ、　４２みすぼらしいなりの未亡人がやって来て、そっと十円玉を二つ投げ入れました。
４３４４それをごらんになったイエスは、弟子たちを呼び寄せられ、こう言われました。
「あの貧しい未亡人は、どの金持ちよりも、はるかに多く投げ入れたのですよ。　金持ちたちはあり余る中からほんの少しばかりささげたのに、この女は、乏しい中から持っている全部をささげたのですから。」
一三
この世の終わり
１　イエスが宮から出ようとしておられた時、弟子の一人が言いました。　「先生。　まあ、なんと美しい建物でしょう。　なんと見事な石でしょう。」
２　すると、イエスはお答えになりました。　「なるほどすばらしいものです。　だが、この建物も、たった一つの石さえほかの石の上に残らないほど、あとかたもなくくずれ落ちてしまうのです。」
３４イエスがオリーブ山で、宮のほうを向いて座っておられると、ペテロ、ヤコブ、ヨハ

ネ、アンデレがひそかにイエスに尋ねました。「いったいいつ、神殿にそんなことが起こるのですか。　そうなる前に、何か前兆でもあるのでしょうか。」
５　そこで、イエスはゆっくり話し始められました。　「だれにもだまされてはいけません。　６自分こそキリストだと名乗る者が大ぜい現われて、多くの人を惑わすからです。７また、あちこちで戦争が始まるでしょう。　けれども、まだ終わりが来たわけではありません。
８　民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、至る所で地震やききんが起こります。しかしこれらはみな、やがて襲って来る苦しみの、ほんの始まりにすぎないのです。　９しかし、これらのことが起こり始めたら、よく警戒しなさい。　非常な危険が迫っているからです。　あなたがたは法廷に引き出され、会堂でむち打ちの刑を受け、またわたしに従う者だというだけで、総督や王たちの前で訴えられるでしょう。　しかしその時こそ、神のすばらしい知らせを語るチャンスです。　１０終わりの時が来る前に、この知らせは世界中の人々に伝えられなければなりません。　１１逮捕されても、取り調べの時、どう釈明しようかと心配することはいりません。　ただ、その時、神があなたがたに語ってくださることだけを話せばいいのです。 話をするのはあなたがたではなく、聖霊なのです。
１２　兄弟同士が裏切り合い殺し合うかと思えば、親までが子を裏切り、子もまた親に反逆し、殺します。　１３そしてあなたがたは、わたしの弟子であるというだけで、すべての人に憎まれます。　しかし終わりまで、わたしへの信仰を捨てずに耐え忍ぶ者は、みな救われます。
１４　恐るべきものが神殿に立つのを見たら〔読者よ、よく考えなさい〕、ユダヤにいる人たちは、山へ逃げなさい。　１５１６急ぐのです。もしその時、屋上にいたら、家の中に戻ってはいけません。　畑で野良仕事をしていたら、お金や着物を取りに帰ってはいけません。
１７　このような日に妊娠している女と乳飲み子をかかえている母親は、ほんとうに不幸です。　１８あなたがたの逃げるのが、冬にならないように祈りなさい。　１９それは、神が天地を創造された初めから今に至るまで、いまだかつてなかったような恐るべき日だからです。　２０主が、このわざわいの期間を短くしてくださらないかぎり、地上には、一人も生き残れないでしょう。　だが、神に選ばれた人たちのために、その期間は短くされるのです。
２１　その時、だれかが『この方がキリスト様だ』とか『いや、あの方がそうだ』とか言っても、気をとられてはいけません。　２２偽キリストや偽預言者が次々に現われて、不思議な奇蹟を行ない、できることなら神に選ばれた者たちをさえ惑わそうとするからです。２３気をつけていなさい。　警告しておきますよ。
２４　この苦難の時に続いて、太陽は暗くなり、月は光を失い、　２５星は落ち、宇宙に異変が起こります。
２６　その時すべての人が、メシヤ（救い主）のわたしが大きな力と栄光とを帯びて、雲

に乗って来るのを見るでしょう。　２７わたしは御使いたちを遣わし、世界中から、天と地の果てから、選ばれた者たちを呼び集めるのです。
２８　さて、いちじくの木から教訓を学びなさい。　いちじくの葉が出てくれば、夏は間近です。　２９同じように、いま言ったようなことが起これば、わたしはもう戸口まで来ているのです。
３０　そうです。　これが、この時代の終わりの前兆なのです。　３１天地は消え去りますが、わたしのことばは永遠に残ります。
３２　しかし、だれも、天の使いも、わたし自身でさえも、その日、その時がいつかは知りません。　ただ父だけが知っておられます。　３３だから、いつ終わりが来ても困らないように、〔わたしの帰りを〕目を覚まして待っていなさい。
３４　こう言えば、もっとはっきりするでしょう。　ある人が外国旅行に出かける時、使用人たちに留守中の仕事の手配をし、門番には、主人の帰りを見張っているようにと命じて出かけました。　３５だから、しっかり目を覚ましていなさい。　いつわたしが帰って来るか、夕方か、夜中か、明け方か、それともすっかり明るくなってからか、わからないのですから。　３６不意をつかれて、居眠りしているところを、見られないようにしなさい。　３７あなたがただけでなく、すべての人にも、念を押しておきます。　わたしの帰りを、抜かりなく見張っていなさい。」
一四
裏切られたイエス
１　過越の祭り〔イースト菌を入れないパンを食べる、年に一度のユダヤ人の祭り〕が二日後に迫りました。　いぜんとして、祭司長やユダヤ人の指導者たちは、イエスを捕らえて死刑にしようと、うの目たかの目で機会をうかがっています。
２　しかし、「祭りの間はまずいぞ。　群衆が暴動でも起こすと取り返しがつかないからな」と用心していました。
３　さて、イエスは、ベタニヤのらい病人シモンの家におられました。ちょうど食卓に着いておられる時、女が一人、入って来ました。　高価な香油の入った美しいつぼを持っています。　女はイエスに近づくと、いきなりつぼの封を切り、香油をイエスの頭に注ぎかけました。
４５同席していた何人かの者たちは腹を立て、「なんてもったいないことをする女だ。 この香油なら、高く売れて、貧しい人たちに恵むこともできたのに」と女をとがめました。
６　しかしイエスは、彼らに言われました。　「するままにさせておきなさい。　良いことをしてくれたのに、なぜ非難するのですか。　７貧しい人たちは、いつも身近にいるから、その気があれば、いつでも助けることができます。　しかし、わたしはもう、そんなに長くこの地上にいないのです。
８　この女は、精一杯のことをしてくれました。　わたしの葬りの準備に、香油を塗ってくれたのですから。　９よく言っておきます。　世界中どこででも、神のすばらしい知ら

せが伝えられる所では、この女のしたことも必ず賞賛されるでしょう。」
１０　ところで、弟子の一人、イスカリオテのユダは、イエスを売り渡そうと、わざわざ祭司長たちのところに出かけました。
１１　ユダが来意を告げると、祭司長たちは有頂天になり、「謝礼ははずんでやるぞ」と約束しました。　それ以来、ユダは、イエスを売り渡すチャンスをねらうようになりました。
１２　過越の祭りの最初の日、すなわち、小羊をいけにえとしてささげる日に、弟子たちは「どこで過越の食事をなさるおつもりですか」と尋ねました。　１３そこでイエスは弟子を二人エルサレムへやり、その準備をさせることにしました。　「町を歩いて行くと、水がめを持って来る男に出会うから、その男について行きなさい。　１４彼が入った家の主人に、『私どもの先生が、過越の食事をする部屋を見て来るようにと申しました』と言いなさい。　１５主人はすっかり用意の整った二階の広間を見せてくれるはずです。　そこで食事のしたくをしなさい。」
１６　二人が町に入って行くと、何もかもイエスの言われたとおりでした。　こうして、過越の準備は整いました。
１７　夕方、イエスと弟子たちは連れ立って、そこにやって来ました。　１８皆が食卓を囲んで食事をしていると、イエスは言われました。　「いいですか。　よく言っておきます。　今わたしといっしょに食事をしている者の一人が、わたしを裏切るのです。」
１９　これを聞いた弟子たちは、ひどく心を痛め、口々に、「まさか、私じゃないでしょうね」と尋ねました。
２０　「あなたがた十二人の中の一人で、今わたしといっしょに、同じ鉢にパンを浸している者が、裏切り者です。　２１預言者が、ずっと昔からはっきり預言してきたように、わたしは死ななければなりません。だが、わたしを裏切る者はのろわれます。　その人はむしろ生まれてこなかったほうがよかったのです。」
２２　食事の最中に、イエスはパンを取り、神様の祝福を祈ってから、それをちぎり、弟子たちに分け与えられました。　「食べなさい。　これはわたしの体です。」
２３　それからぶどう酒の杯を取り、神様に感謝の祈りをささげてから、弟子たちに与えられました。　弟子たちはみな、その杯から飲みました。
２４　イエスは言われました。　「これは多くの人のために流す、わたしの血です。　神と人間との新しい契約を保証する血です。　２５よく言っておきますが､やがて神の国で、もっとすばらしいものを飲むその日まで、わたしは、もう決してぶどう酒を飲みません。」
２６　一同は賛美歌をうたってから、オリーブ山に向かいました。
２７　イエスは、弟子たちに言われました。　「あなたがたはみな、わたしを見捨てるでしょう。　神が預言者を通して、『わたしが羊飼いを打つ。　すると羊は散り散りになる』と言われたとおりに。　２８だが、わたしは復活して、ガリラヤに行きます。　そこであなたがたに会うでしょう。」
２９　「だれがどうあろうと、私だけは、この私だけは絶対にあなた様を捨てません」と

叫ぶペテロに、　３０イエスは、「ペテロよ。　あなたは明日の朝、鶏が二度鳴く前に、三度わたしを知らないと言うでしょう」と言われました。
３１　「とんでもない！　たとい死んでも、絶対にあなた様を知らないなどとは申しません。」ペテロは大声で言い返しました。　ほかの弟子たちも、口々に誓い始めました。
３２　さて、一同は、オリーブの木の茂っている、ゲツセマネと呼ばれる園にやって来ました。　「わたしが向こうで祈っている間、ここに座っていなさい。」
３３　こうお命じになると、イエスは、ペテロとヤコブとヨハネだけを連れて、奥のほうに行かれました。　その時、恐れと絶望に襲われて、イエスはもだえ始められました。　３４「わたしは悲しみのあまり、今にも死にそうです。　お願いだから、ここを離れず、わたしといっしょに目を覚ましていなさい。」
３５　こう頼むと、三人から少し離れた所へ行き、地面にひれ伏して、もしできることなら、自分を待ちかまえている恐ろしい時が来ないようにと、切に祈られました。
３６　「父よ、父よ。　あなたはどんなことでもおできになります。　どうぞ、この杯を取り除いてください。　しかし、わたしの思いどおりにではなく、あなたのお心のままになさってください！」
３７　イエスが弟子たちのところへ戻って来られると、三人が三人とも、ぐっすり眠り込んでいるではありませんか。　そこで、ペテロに声をかけました。　「シモンよ。　眠っているのですか。　たったの一時間でも、わたしといっしょに目を覚ましていられなかったのですか。　３８しっかり目を覚まして祈っていなさい。　さもないと誘惑に負けてしまいます。　心は燃えていても、肉体は弱いのですから。」
３９　こうしてまた、彼らから離れ、前と同じことを祈られました。　４０そのあと、もう一度弟子たちのところへ戻って来ると、またもや、三人とも眠り込んでいます。　ひどく眠気がさして我慢できなかったからです。　彼らは何と言いわけしたらよいか、わかりませんでした。
４１　イエスは三度目に戻って来て言われました。　「まだ眠っているのですか。　それだけ眠れば十分でしょう。　さあ、時が来ました。　いよいよ、わたしは悪い者たちの手に売り渡されるのです。　４２さあ、立ちなさい。　行くのです。　見なさい、裏切り者がやってきました。」
４３　イエスがまだ言い終わらないうちに、祭司長やユダヤ人の指導者たちの差し向けた暴徒たちが、手に手に剣やこん棒を振りかざし、弟子の一人であるユダを先頭に近づいて来ました。
４４　ユダは前もって、「いいか。　私があいさつをする相手がイエスだから、そいつをつかまえて、引っ立てて行くのだ」と打ち合わせておきました。　４５それで、やって来るとすぐ、イエスに近づき、「先生」と声をかけ、さも親しげに抱きしめました。　４６そのとたん、暴徒たちがいっせいにイエスを取り押さえました。　４７その時、イエスのそばにいた一人が、さっと剣を抜き放つと、大祭司の部下に切りかかり、相手の耳を切り落と

してしまいました。
４８　イエスは暴徒たちに向かって言われました。　「剣やこん棒で、これほどものものしい武装をしなければならないほど、わたしは凶悪な犯罪者なのですか！　４９なぜ、神殿で捕らえようとしなかったのですか。　わたしはあそこで毎日教えていたのに。　いいですか、これもみな、わたしについての預言が実現するためなのです。」
５０　この時にはもう、弟子たちはみな、イエスを見捨てて逃げ去っていました。　５１５２ただ一人、亜麻布を一枚だけまとって、イエスのうしろからついて行く青年がいました。　ところが、途中で暴徒たちに見つかり、危うく、つかまりそうになったので、引きちぎられた亜麻布を脱ぎ捨て、裸のまま、ほうほうのていで逃げて行きました。
ペテロ、イエスを知らないと言う
５３　イエスは、大祭司の家に引っ立てられて行きました。　祭司長やユダヤ人の指導者たちも、急いで駆けつけ、まもなく全員がそろいました。　５４さてペテロは、遠くからあとをつけて行き、うまく門からもぐり込んで、兵士たちにまぎれて、火のそばでうずくまっていました。
５５　中では、イエスに死刑の宣告を下すための証拠集めに、祭司長やユダヤの最高議会の全議員がやっきになっていましたが、何も見つけることができません。　５６偽の証人は大ぜい名乗り出たのですが、証言がみな食い違っていたからです。
５７５８そのうち、とうとう何人かが、「確か、こいつが『人間の手で造られた神殿をこわして、人間の手によらない神殿を三日で建ててみせる』とほざいているのを聞きました」と偽証しました。　５９しかしこの点でも、証言は一致しませんでした。
６０　その時、大祭司が進み出て、イエスに問いただしました。　「おまえは、これらの訴えに答えないつもりか。　えっ、どうなんだ。　何も釈明する気はないのか。」
６１　イエスは、ひと言もお答えになりません。　大祭司は続けて、「おまえは神の子、キリストなのか」と問い詰めました。
６２　「そのとおりです。　あなたがたは、やがてわたしが神の右の座につき、雲に乗って、もう一度この地上に来るのを見るでしょう。」
６３６４この答えに、大祭司は、即座に着物を引き裂き、こう叫びました。「これだけ聞けば十分だ！　さあ、お聞きのとおりだ。　神を汚したこの男を、どうしよう。」こうして、イエスの死刑は全員一致で確定しました。
６５　このあと、ある者たちは、イエスにつばきをかけたり、目隠しして、げんこつで顔をなぐり、「今なぐったのはだれだい。　さあ当ててみろよ。　預言者様」とあざけったりしました。　役人たちもイエスを引き取って、打ちたたきました。
６６　一方ペテロは、下の中庭にいました。　大祭司の女中の一人が、　６７火にあたっているペテロに気づき、じっと見つめながら言いました。「あら、あんた。　ナザレ人イエスといっしょにいた人じゃないの？」
６８　ペテロはそのことばを打ち消し、「変な言いがかりはよしてくれ」と言って、出口の

方へ行きかけました。　その時、鶏が鳴きました。
６９　すると女中は、またもペテロをしげしげと見つめ、そばに立っている人たちに、「ほら、あの人。　あの人はイエスの弟子よ」と言いふらしました。
７０　ペテロはあわててそれを打ち消しました。　しばらくすると、火のそばに立っていたほかの男たちも、「おまえは確かにイエスの仲間だ。　ガリラヤ人だからな」と騒ぎだしました。
７１　ペテロは、「そんな男のことなんか、知るもんか。　これがうそなら、どんな罰があたってもかまわないぞ」と叫びました。
７２　するとすぐ、鶏が二度目に鳴くのが聞こえました。　その瞬間、イエスのことばが、ぱっとペテロの心にひらめきました。　「鶏が二度鳴く前に三度わたしを知らないと言います」ということばを思い出したのです。　ペテロは激しく泣きくずれました。
一五
イエスの裁判、十字架の死、埋葬
１　朝早く、祭司長と長老、それにユダヤ教の教師たちからなる最高会議の全議員が、次の手はずをあれこれ協議した結果、縛ったまま、イエスをローマ総督ピラトに引き渡すことに決まりました。
２　「おまえはユダヤ人の王なのか」というピラトの尋問に、イエスは「そのとおりです」とお答えになりました。
３　そこで祭司長たちは、あることないことを挙げつらね、イエスを訴えました。　４これを聞いたピラトは、「どうして何も言わないのか。　あんなにまで訴えているのに、平気なのか」と尋ねました。
５　しかしイエスは、ひと言もお答えになりません。　これにはピラトも、驚き、あきれてしまいました。
６　さてピラトは、毎年、過越の祭りには、人々の願うままにユダヤ人の囚人を一人、釈放してやることにしていました。
７たまたまこの時、暴動で人殺しをし、投獄されていた暴徒たちの中に、バラバという男がいました。
８　群衆はピラトの前に押し寄せ、例年どおり囚人を釈放するよう迫りました。
９　そこで、ピラトは尋ねました。　「『ユダヤ人の王』を釈放してほしいのか。　おまえたちが赦してほしいのはこの男か。」　１０こう言ったのは、イエスが捕らえられたのは、彼の人気をねたむ祭司長たちのでっち上げによる、とにらんだからです。
１１　ところが、祭司長たちも抜かりはありません。　たくみに群衆をけしかけ、イエスではなくバラバの釈放を要求させたのです。
１２　「バラバは釈放するとして、おまえたちが王と呼んでいるあの男は、いったいどうするつもりか。」
１３　「十字架につけろ！」

１４　「なぜだ。　ええっ、あの男が、いったいどんな悪事を働いたというのだ！」それでも群衆はおさまりません。　なおも大声で、「十字架につけろ！」とわめき続けます。
１５　ピラトは群衆のきげんをそこねたくなかったので、結局、バラバを釈放することにしました。　イエスのほうは、先端に鉛のついたむちで打たせてから、十字架につけるために引き渡しました。
１６　ローマ兵たちは、イエスを総督官邸内の兵営に引っ立てて行き、全部隊を召集しました。　１７その目の前で、イエスに紫色のガウンを着せ、長く鋭いとげのあるいばらで冠を作り、頭にかぶせると、　１８「よおっ、ユダヤ人の王様」とはやし立て、皮肉たっぷり敬礼しました。　１９それから、頭を葦の棒でたたいたり、つばきをかけたり、ひれ伏して拝むまねをしたりして、からかいました。
２０　こうしてさんざん笑いものにしたあげく、紫色のガウンをはぎとってもとの着物をきせ、いよいよ、十字架につけるために引き出しました。
２１　途中、ちょうど、田舎から来合わせていたクレネ人のシモンという男に、むりやりイエスの十字架を背負わせました〔シモンは、アレキサンデルとルポスの父親です〕。
２２　兵士たちは、イエスをゴルゴタ〔がいこつ〕と呼ばれる場所に連れて行きました。
２３そこで、没薬を混ぜたぶどう酒（痛みを和らげる飲み物）を飲ませようとしましたが、イエスはお断わりになりました。　２４兵士たちは、イエスを十字架につけてしまうと、さっそくくじを引き、その着物を分け合いました。
２５　イエスが十字架につけられたのは、朝の九時ごろでした。
２６　イエスの頭上には、罪状書きが掲げられ、それには「ユダヤ人の王」と書いてありました。
２７　その日、二人の強盗も、イエスといっしょに十字架につけられました。　二人の十字架はイエスの両側でした。　２８こうして、『彼は罪人の一人に数えられた』という聖書（旧約）のことばどおりになったのです。
２９３０刑場のそばを通りかかった人たちは、大げさな身ぶりをしながら、「ざまあみろ！神殿を打ちこわして三日で建て直すんだってなあ、そんなに偉いなら、たった今、十字架から降りて来いよ、自分を救ったらどうなんだい！」と、口ぎたなくイエスをののしりました。
３１　祭司長やユダヤ人の指導者たちも、同じようにあざけりました。
「ふん、人を救っても、自分は救えないというわけか。」
３２　「よおよお、キリスト様。　イスラエルの王様。　十字架から降りてみろ。　そうしたら、信じてやろうじゃないか。」
イエスの両側で十字架につけられていた強盗までが、悪口をあびせました。
３３　さて、正午にもなったころ、急にあたりが暗くなり、一面やみにおおわれました。
それが、なんと三時間も続いたのです。
３４　三時ごろ、イエスは大声で「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」と叫ばれました。　そ

れは「わが神、わが神。　どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意味です。
３５　近くで、その声を聞いた人の中には、預言者エリヤを呼んでいるのだと思う者もありました。　３６その時、一人の男がさっと駆け寄り、海綿に酸っぱいぶどう酒を含ませると、それを葦の棒につけて、差し出しました。　そして、「さあ、エリヤがこいつを降ろしに来るかどうか、とくと拝見しようじゃないか」と言いました。
３７　イエスはもう一度大声で叫ぶと、息を引き取られました。
３８　するとどうでしょう。　神殿の幕が、上から下まで真っ二つに裂けたのです。
３９　十字架のそばに立っていたローマ軍の士官は、イエスの死の有様を見て、「この方はほんとうに神の子だった！」と叫びました。
４０　数人の婦人が、遠くから恐る恐るこの様子をながめていました。マグダラのマリヤ、小ヤコブとヨセの母マリヤ、サロメをはじめ、何人かの婦人たちです。　４１この女たちは、イエスがガリラヤにおられた時、いつもお仕えしていたのです。　ほかにも大ぜいの婦人が、イエスといっしょにエルサレムまで来ていました。
４２４３以上の出来事はすべて、安息日の前日に起こったことです。　その日の夕方、一人の人がピラトのところへ行き、勇気を奮い起こして、イエスの遺体を引き取りたいと申し出ました。　その人はアリマタヤ出身のヨセフといい、ユダヤの最高議会の有力な議員で、神の国が来ることを熱心に待ち望んでいました。
４４　ピラトは、イエスがもう死んでしまったとは、どうしても信じられません。　ローマ軍の士官を呼びつけ、しかと問いただしました。　４５士官が死を確認したので、それではと、遺体の引き取りを許可しました。
４６　ヨセフは亜麻布を何メートルも買って来ると、イエスの遺体を十字架から取り降ろし、布でくるんで、岩をくり抜いた墓の中に納め、入口は石を転がしてふさぎました。
４７　マグダラのマリヤとヨセの母マリヤとは、イエスが葬られるのをじっと見守っていました。
一六
イエスは復活した！
１　翌日の夕方、安息日が終わると、マグダラのマリヤとヤコブの母マリヤ、それにサロメの三人は、さっそく、イエスの遺体に塗る香料を買い求めました。
２　翌朝早く、日が昇るとすぐ、婦人たちは香料を持って墓へ急ぎました。　３ところが、気にかかることが一つあります。　どうしたら、あの大きな石を入口から取りのけることができるのでしょう。　道々、そのことばかり話し合っていました。
４　それがどうでしょう。　着いてみると、あの重い石はどけてあり、入口が開いているではありませんか。　５中に入ると、右のほうに、白い着物をきた青年が座っています。婦人たちはびっくりして、息も止まるほどでした。　６その御使いがおもむろに口を開きました。「そんなに驚くことはありません。 十字架につけられたナザレのイエス様を捜しているのでしょう。　あの方はもうここにはおられません。復活されたのです。ごらんな

さい。ここがあの方の遺体があった場所です。　７さあ、行って、ペテロやほかの弟子たちに、『イエス様はあなたがたより先にガリラヤへ行かれます。 前もって言われたとおり、そこでお会いできるのです』と知らせてあげなさい。」
８　婦人たちは震え上がり、転がるようにして墓から逃げ帰りました。そして、あまりの恐ろしさに、この出来事をだれにも話すことができませんでした。
９　〔さて、イエスの復活は、日曜日の早朝のことでした。　最初にイエスにお会いしたのは、マグダラのマリヤです。　彼女はかつて、イエスに七つの悪霊を追い出していただいたことがありました。　１０１１マリヤはすぐさま、悲しみに打ちひしがれて泣いている弟子たちのところへ行き、「大変よ！　イエス様は生きておられるわよ。　私、ちゃんとこの目でお目にかかったんですもの」と話しました。　しかし、弟子たちは、マリヤの言うことを信じようとしませんでした。
１２　その日の夕方､二人の弟子がエルサレムから田舎へ向かう道を歩いていました。 そこへイエスが現われましたが、とっさには、だれだか見分けがつきませんでした。　以前とは違った姿をしておられたからです。　１３やっとイエスだとわかると、エルサレムに跳んで帰り、ほかの弟子たちに、この出来事を知らせました。　しかし、だれも二人の言うことを信じませんでした。
１４　その後、十一人の弟子たちが食事をしているところへ、イエスが現われ、彼らの不信仰をお責めになりました。　「どうして、わたしが復活したと言う者たちの証言を信じなかったのですか。　全く頑固な人たちです。」
１５　それから、こう宣言されました。「全世界に出て行きなさい。　すべての人々に、このすばらしい知らせを宣べ伝えるのです。　１６信じて、バプテスマ（洗礼）を受ける者は救われます。　しかし、信じない者は、罪に定められます。
１７　信じる人々は、わたしの権威によって悪霊を追い出し、新しいことばを語ります。
１８蛇をつかんでも安全だし、毒を飲んでも害はありません。　病人に手を置けば、病気は治ります。」
１９　こう語り終えると、イエスは、天に上げられ、神の右の座につかれました。
２０　弟子たちは、命じられたとおり出て行き、あらゆる所で、このすばらしい知らせを宣べ伝えました。　主が共に働いてくださったので、数々の奇蹟が起こり、弟子たちの教えの確かさが証明されました。〕
▪

ルカの福音書（医者ルカの記録）
快復の見込みのない病気で絶望している人。　社会的地位も低く、人からいやしめられ、軽べつされている人。　人々に訴える力も、権力もない弱い女たち。　社会の片隅に追いやられ、存在すらも認められない、そのような人たちの心を、イエスは大切になさいました。　そして、つらい思いでいる人々の気持ちを理解し、やさしい励ましと、慰めのことばを一人一人にかけていかれたのです。　そういうキリストの姿が、医者ルカの目を通して生き生きと描かれています。

一
神様を愛する親愛なる友へ。
１２イエス・キリストの伝記は、最初からの目撃者であり弟子であった人たちの証言をもとに、すでに幾つかでき上がっています。　３しかし私は、すべての記録を、もう一度初めからチェックし、徹底的に調査した上で、あなたのために順序正しく書いて差し上げたいと思うようになりました。　４それによって、教わっていたことはみな正確な事実であることが、よくおわかりいただけると思います。
ザカリヤへの約束
５　私の話は、ヘロデがユダヤの王であった時代にユダヤの祭司をしていた、ザカリヤという人のことから始まります。　ザカリヤは、神殿で奉仕するアビヤの組の一員で、妻エリサベツも祭司の家系でアロンの子孫でした。　６この夫婦は神様を愛し、おきてを忠実に守り、心から従っていました。　７しかし、エリサベツは子供のできない体だったので、夫婦には子供がなく、二人ともすっかり年をとっていました。
８　さて、ザカリヤの組が週の当番となり、彼は神殿で祭司の務めをしていましたが、　９祭司職の習慣に従ってくじを引いたところ、聖所に入って主の前に香をたくという光栄ある務めが当たりました。　１０香がたかれている間、民衆は神殿の庭で祈るのです。　大ぜいの人が集まっていました。
１１　ザカリヤが聖所で香をたいていると、突然、御使いが現われ、香をたく壇の右側に立ったではありませんか。　１２ザカリヤはびっくりし、言い知れぬ恐怖に襲われました。
１３　しかし、御使いは言いました。「ザカリヤよ。　こわがることはありません。　うれしい知らせなのだから。　神様があなたの祈りをかなえてくださったのです。　エリサベツは男の子を産むでしょう。その子にヨハネという名前をつけなさい。　１４その子はあなたがたの喜びとなり、楽しみとなります。　また多くの人もあなたがたと共に喜びます。　１５その子が、主の前に偉大な者となるからです。　彼はぶどう酒や強い酒は絶対に飲みません。　生まれる前から聖霊様に満たされており、　１６やがて、多くのユダヤ人を神様に立ち返らせるのです。　１７昔の預言者エリヤのように、たくましい霊と力にあふれて、メシヤ（救い主）の前ぶれをし、人々にメシヤを迎える準備をさせます。　大人には子供のような素直な心を呼び覚まし、逆らう者には信仰心を起こさせるのです。」

１８　「そんなことは信じられません。　私はもう老いぼれですし、妻もすっかり年をとっているんです。」
１９　「私はガブリエル、神様の前に立つ者です。　神おん自らが、すばらしい知らせを伝えるために、私を遣わされたのです。　２０この知らせを、あなたは信じませんでした。その罰に、あなたは神様に打たれて口がきけなくなります。　子供が生まれるまで話すことはできません。　その時が来れば、必ず私の言ったとおりになるのです。」
２１　外の人たちは、ザカリヤが出て来るのを、今や遅しと待ちかまえていましたが、なぜそんなに手間どっているのか不思議でなりません。　２２ついに出て来ました。　ところが、何も言わないのです。　しかし、ザカリヤの身ぶりから、きっと神殿の中で幻を見たのだろうと考えました。　２３ザカリヤは残りの期間の奉仕をすませ、家に帰りました。
２４まもなく、エリサベツは妊娠し、五か月間、家に引きこもっていました。
２５　エリサベツは、「主は、私に子供を与えて、恥を取り除いてくださった。　なんとあわれみ深いお方でしょう」と言いました。
マリヤへの約束
２６　その翌月、神は御使いガブリエルを、ガリラヤのナザレ村に住む、マリヤという処女のところへお遣わしになりました。　２７この娘は、ダビデ王の子孫にあたるヨセフという人の婚約者でした。
２８　ガブリエルはマリヤに声をかけました。　「おめでとう、恵まれた女よ。　主が共におられます。」
２９　これを聞いたマリヤは、すっかり戸惑い、このあいさつはどういう意味だろうと考え込んでしまいました。
３０　すると御使いが言いました。　「こわがらなくてもいいのです、マリヤ。　神様があなたに、すばらしいことをしてくださるのです。　３１あなたはすぐにみごもり、男の子を産みます。　その子を『イエス』と名づけなさい。　３２彼は非常に偉大な人になり、神の子と呼ばれます。　神である主は、その子に先祖ダビデの王座をお与えになります。
３３彼は永遠にイスラエルを治め、その国はいつまでも続くのです。」
３４　「どうして子供ができましょう。　まだ結婚もしておりませんのに。」
３５　「聖霊様があなたに下り、神様の力があなたをおおうのです。　ですから、生まれてくる子供は聖なる者、神の子と呼ばれます。　３６ちょうど半年前、あなたのいとこのエリサベツも、『子供のできない女』と言われていたのに、あの年になってみごもりました。
３７神様の約束は、必ずそのとおりになるのです。」
３８　「私は主の召使にすぎません。　何もかも主のお言いつけどおりにいたします。　どうぞ、いま言われたとおりになりますように。」マリヤがこう言うと、御使いは見えなくなりました。
３９４０数日後、マリヤはユダヤの山地へ急ぎました。　そして、ザカリヤの住む町へ行き、エリサベツを訪ねました。

４１　マリヤのあいさつを聞くと、エリサベツの子供は、お腹の中で跳びはね、エリサベツは聖霊に満たされました。
４２　エリサベツは喜びを抑えきれず､大声でマリヤに言いました。｢あなたほどすばらしい恵みを受けた女はいないわ。　お子さんが、神様の最も大きな誉れを表わすようになるんですもの。　４３主のお母様がわざわざおいでくださるなんて､身に余る光栄だわ。　４４あなたが入って来てあいさつなさった時、子供がお腹の中で喜び踊りましたの。　４５神様が語られたことは必ずそのとおりになると信じたので、神様はあなたに、こんなすばらしいことをしてくださったのね。｣
４６　マリヤは答えました。
「ああ、私は心から主を賛美いたします。
４７　救い主である神様を、心から喜びます。
４８　神様は取るに足りない召使のような私さえ、
お心にとめてくださいました。
これから永遠に、どの時代の人々も、
私を、神様に祝福された者と呼ぶでしょう。
４９　力ある聖なる方が、私に大きなことをしてくださったからです。
５０　そのあわれみは、いつまでも、神様を恐れかしこむ者の上にとどまります。
５１　その御手はどんなに力強いことでしょう！
主は心の高ぶった者を追い散らし、
５２　権力をふるう者を王座から引きずり降ろし、
身分の低い者を高く引き上げ、
５３　飢え渇いた者を満ち足らせ、
金持ちを手ぶらで追い返されました。
５４　主は約束を忘れず、
しもベイスラエルをお助けになりました。
５５　先祖アブラハムとその子孫を、永遠にあわれむと約束されたとおりに。」
５６　マリヤは、エリサベツの家に三か月ほどいてから、家に帰りました。
バプテスマのヨハネの誕生
５７　さて、エリサベツの待ちに待った日が来て、男の子が生まれました。　５８このニュースはたちまち近所の人や親類の間に伝わり、人々は、神がエリサベツをあわれんでくださったことを、心から喜び合いました。
５９　子供が生まれて八日目に、友人や親類の人が集まりました。　その子に割礼（男子の生殖器の包皮を切り取る儀式）を行なうためです。　だれもが、子供の名前は父親の名を継いで、「ザカリヤ」になるものとばかり思っていました。
６０　ところがエリサベツは、「いいえ、この子にはヨハネという名をつけますの」と言うではありませんか。

６１　「なんだって！　親族にそんな名前の者は一人もいないじゃないか。」　６２あっけにとられた人々は、父親のザカリヤに、身ぶりで尋ねました。
６３　ザカリヤは、紙をくれと合図し、それに「この子の名はヨハネ」と書いたので、一同はびっくりしてしまいました。　６４とたんに、ザカリヤの口が開きました。　また話せるようになったのです。　彼は神を賛美し始めました。
６５　これには近所の人たちも驚き、このニュースはユダヤの山地一帯に広まりました。
６６だれもがその出来事を心にとめ、「この子はいったい､将来どんな人物になるんだろう。うーん、確かにこの子には、主の守りと助けがあるぞ」とうわさし合いました。
６７　さて、父親のザカリヤは聖霊に満たされ、こう預言しました。
６８　「イスラエルの神、主をほめたたえよう。
主は来て、ご自分の民を解放し、
６９　そのしもベダビデ王の血筋から、力ある救い主を遣わされた。
７０　ずっと昔から、聖なる預言者を通して約束されたとおりに。
７１　救い主は、私たちを憎むすべての敵から救い出してくださる。
７２７３主は私たちの先祖をあわれみ、
特にアブラハムをあわれみ、
彼と結んだ聖なる契約を果たされた。
７４　私たちを敵の手から解放し、
恐れず主に仕える者としてくださった。
７５　私たちはきよい者、
神様の前に立つにふさわしい者とされた。
７６　幼い息子よ。
おまえは栄光ある神の預言者と呼ばれよう。
おまえがメシヤ（救い主）のために道を備え、
７７　主の民に、罪が赦され、
救われる道を教えるからだ。
７８　これはみな、ただ神の深いあわれみによることだ。
天の夜明けがいま訪れようとしている。
７９　その光は、暗黒と死の陰にうずくまる者たちを照らし、私たちを平和の道へと導くのだ。」
８０　ヨハネは心から神を愛し、やがて成長すると、イスラエルの人々の前で公に語り始めるまで、たった一人、寂しい荒野に住んでいました。
二
イエスの誕生
１　そのころ、皇帝アウグストが全ローマ帝国の住民登録をせよと命じました。　２これは、クレニオがシリヤの総督だった時に行なわれた、最初の住民登録でした。

３　登録のため、国中の人がそれぞれ先祖の故郷へ帰りました。　４ヨセフは王家の血筋だったので、ガリラヤ地方のナザレから、ダビデ王の出身地ユダヤのベツレヘムまで行かなければなりません。　５婚約者のマリヤも連れて行きましたが、この時にはもう、マリヤのお腹は目立つほどになっていました。
６　ベツレヘムにいる間に、　７マリヤは初めての子を産みました。男の子でした。　彼女はその子を布でくるみ、飼葉おけに寝かせました。　宿屋が満員で、泊めてもらえなかったからです。
８　その夜、町はずれの野原では、羊飼いが数人、羊の番をしていました。　９そこへ突然、御使いが現われ、主の栄光がさっとあたり一面を照らしたのです。　これを見た羊飼いたちは恐ろしさのあまり震え上がりました。
１０　御使いが言いました。　「こわがることはありません。　これまで聞いたこともない、すばらしい出来事を知らせてあげましょう。　すべての人への、うれしい知らせです。
１１今夜ダビデの町（ベツレヘム）で救い主がお生まれになりました。　この方こそ主キリストです。　１２布にくるまれ、飼葉おけに寝かされている赤ん坊、それが、目じるしです。」
１３　するとたちまち、天の軍勢が現われ、御使いといっしょに神をほめたたえました。
１４　「天では、神様に栄光があるように。
地上では、
平和が、神様に喜ばれる人々にあるように。」
１５　御使いの大軍が天に帰ると、羊飼いたちは、「さあ、ベツレヘムへ行こうぜ。　主が知らせてくださった、すばらしい出来事を見てこようじゃないか！」と言い合いました。
１６羊飼いたちは息せき切って町まで駆けて行き、ようやくヨセフとマリヤとを捜しあてました。　飼葉おけには、赤ん坊が寝ています。　１７何もかも御使いの言ったとおりです。　羊飼いたちはこのことを大ぜいの人に話して聞かせました。　１８それを聞いた人々はみな、ひどく驚きましたが、　１９マリヤはこれらのことを胸に納め、時々、思い返していました。
２０　羊飼いたちは、お告げどおり赤ん坊にお会いできたので、神を賛美しながら、帰って行きました。
２１　八日たち、割礼（男子の生殖器の包皮を切り取る儀式）を行なう日になりました。
その子は、母の胎内に宿る前から御使いに示されたとおり、「イエス」と名づけられました。
２２　モーセの法律によるきよめ（母親のきよめと幼子の献児）の時が来ると、両親はイエスを主にささげるため、エルサレムに連れて来ました。　２３モーセの法律には、「女から最初に生まれる子が男であれば、その子を主にささげなければならない」とあったのです。
２４　両親は、決まりどおり、「山鳩一つがい、または家鳩のひな二羽」をきよめの供え物としてささげました。　２５その日、神殿には、エルサレムに住むシメオンという人がい

ました。　正しい、信仰のあつい人で、聖霊に満たされ、メシヤ（救い主）のおいでをひたすら待ち望んでいました。　２６主が遣わされるその方を見るまでは絶対に死なない、という聖霊のお告げを受けていたのです。　２７その日は、聖霊に導かれて神殿に来ました。　そして、マリヤとヨセフが、決まりどおり、イエスを主にささげるためにやって来るのに出会ったのです。　２８シメオンはイエスを抱き上げ、神を賛美しました。
２９　「主よ。　今こそ私は安心して死ねます。
３０　お約束どおり、この目でメシヤを見、
３１　あなたが遣わされた救い主にお会いしたのですから。
３２　この方はすべての国を照らす光、
あなたの民イスラエルの光栄です。」
３３　ヨセフとマリヤはそこに立ったまま、驚いてシメオンの言うことを聞いていました。
３４３５シメオンは両親を祝福してから、マリヤに言いました。　「剣があなたの胸を刺し通すでしょう。　イスラエルの多くの人がこの子を信じようとしないで、滅びるからです。　しかし、この子によって大きな喜びを受ける人も大ぜいいます。　こうして、多くの人の隠れた思いが現わされるのです。」
３６３７その日、女預言者アンナも神殿にいました。 彼女はアセル族のパヌエルの娘で、たいへんな年寄りでした。　七年の結婚生活の後、未亡人で通し、もう八十四歳にもなっていたのです。　彼女は神殿を一歩も離れず、祈りと断食に明け暮れ、神に仕える毎日を送っていました。
３８　そこにいたアンナも神に感謝をささげ、救い主のおいでを待ちわびていたエルサレムのすべての人に、メシヤがおいでになったと語り聞かせました。
少年イエス
３９　モーセの法律どおりにすべてのことをすませると、ヨセフとマリヤはガリラヤのナザレに帰りました。　４０イエスは成長してたくましくなり、年に似合わず賢い子だ、と評判になるほどでした。　神も絶えずイエスを祝福してくださいました。
４１　さて、両親は過越の祭りには、毎年かかさずエルサレムに行きました。　４２十二歳の時、イエスは祭りの習慣どおり、両親についてエルサレムに行きました。　４３祭りが終わると、両親は帰途に着きましたが、イエスはそのまま、エルサレムに残りました。
そうとは知らない両親は、　４４てっきりほかの人たちといっしょだろうと考え、たいして気にもとめず、その日一日、旅を続けました。　ところが、夕方になってもイエスの姿は見あたりません。 あわてて、親族や友人たちの間を捜し始めました。　４５それでも、やっぱり見つかりません。　とうとう捜しながらエルサレムまで引き返しました。
４６　三日後、ようやく、イエスの居場所がわかりました。　なんと、神殿で法律の教師たちを相手に、むずかしい議論をしていたのです。　４７取り巻く見物人はみな、イエスの知恵と答えとに舌を巻いていました。
４８　両親は、わが子が落ち着きはらって座っているのを見て、面食らってしまいました。

「どうして、こんなことをしてくれたんですっ！　お父さんもお母さんも、どんなに心配して捜し回ったか知れないんですよっ」と、マリヤが言いました。
４９　ところがイエスは、「なぜ捜したの。　ぼくがお父さんの家〔神殿〕にいるって、わからなかったのかなあ」とお答えになりました。　５０こう言われても、どういうことか、両親にはさっぱりわかりませんでした。
５１　それからイエスは、両親といっしょにナザレにお帰りになり、彼らによくお仕えになりました。　マリヤは、このことをみな、心にとめておきました。　５２イエスは身長も伸び、知恵も加わって、神にも人にも愛されました。
三
ヨハネ、活動を始める
１２ローマ皇帝テベリオの治世の十五年目に、神は、荒野に住むザカリヤの子ヨハネにお語りになりました。〔当時、ポンテオ・ピラトが全ユダヤの総督で、ヘロデはガリラヤ、その兄弟ピリポがイツリヤとテラコニテ、ルサニヤがアビレネを治めていました。　大祭司はアンナスとカヤパでした。〕
３ヨハネはヨルダン川周辺をくまなく歩き、罪が赦されるために、今までの生活を悔い改めて、神に立ち返ったことを表明するバプテスマ（洗礼）を受けるようにと、教えを説き始めました。
４　預言者イザヤの書にあるとおりです。
「荒野から叫ぶ声が聞こえる。
『主の道を準備せよ。
主が通られる道をまっすぐにせよ。
５　山はけずられ、
谷は埋められ、
曲がった所はまっすぐにされ、
でこぼこ道は平らにされる。
６　こうして、すべての人が
神様から遣わされた救い主を見るのだ。』」
７　バプテスマを受けに来る人たちに、ヨハネはきびしい口調で話しました。
「まむしの子らめっ！　おまえたちは神様に立ち返ろうともせず、ただ地獄から逃れたい一心でバプテスマを受けようとしている。　８その前に、悔い改めたことを行ないで示すがいい。　アブラハムの子孫だから大丈夫などとは思ってもみるな。　そんなものは何の役にも立ちはしない。　神様はこの石ころからでも、今すぐアブラハムの子孫をお造りになれるのだ。　９今の今でも、神様のさばきの斧はふりかぶられ、おまえたちを根もとから切り倒そうと待ちかまえている。　そうだ。　良い実を結ばない木は、すぐにも切り倒され、火に投げ込まれてしまうのだ。」
１０　「じゃあ、いったいどうすればいいんです？」

１１　こう尋ねる群衆に、ヨハネはずばり答えました。　「下着を二枚持っていたら、一枚は貧しい人に与えよ。　余分の食べ物があったら、お腹をすかせている人に与えよ。」
１２　取税人たち〔ローマに納める税金をあくどいやり方で取り立て、人々から毛虫のようにきらわれていた〕でさえ、バプテスマを受けようと出かけて来ました。　そして、恐る恐る「あのー、私どもは、どうしたらよろしいので？」と尋ねました。
１３　「正直になれ。　ローマ政府が決めた以上の税金を取り立ててはいけない。」
１４　兵士たちも尋ねました。　「おれたちゃあ、どうすりゃいいんだね。」
「脅しや暴力で金をゆすったり、何もしない人を訴えたりしてはいけない。　給料で満足しろ。」
１５　人々はみな、まもなく救い主がおいでになると期待していました。そして、もしかしたらヨハネがキリストではないかとも考えました。
１６　この疑問を、ヨハネはきっぱり否定しました。　「私はただ水でバプテスマを授けている。　しかし、もうすぐ、私よりはるかに権威ある方がおいでになるのだ。　その方のしもべとなる値打さえ、私にはない。　いいか。　その方は、聖霊と火でバプテスマをお授けになる。　１７また、麦と、もみがらとをふるい分け、麦は倉に納め、もみがらを永久に消えない火で焼き尽くされるのだ。」　１８ヨハネは、ほかにも多くのことを教え、神のすばらしい知らせを伝えました。
１９２０〔当時、ガリラヤの領主ヘロデが、兄嫁のヘロデヤを横取りするなど、悪事を重ねていたので、ヨハネはおおっぴらに非難しました。そのため、捕らえられ、牢獄にたたき込まれてしまいました。　こうしてヘロデは、多くの悪事に、さらにもう一つ悪事を重ねたのです。〕　２１さて、そうしたある日のこと、イエスは、ヨハネからバプテスマを受ける群衆にお加わりになりました。　バプテスマをお受けになり、祈っておられると、天が開き、　２２聖霊が鳩のようにイエスにお下りになりました。　そして、天から「あなたはわたしの愛する子、わたしの喜びだ」という声が聞こえました。
イエスの家系
２３‐３８イエスが公に教え始められたのは、およそ三十歳のころでした。
人々はイエスを、ヨセフの息子と思っていました。
このヨセフの父はヘリ、
ヘリの父はマタテ、
マタテの父はレビ、
レビの父はメルキ、
メルキの父はヤンナイ、
ヤンナイの父はヨセフ、
ヨセフの父はマタテヤ、
マタテヤの父はアモス、
アモスの父はナホム、

ナホムの父はエスリ、
エスリの父はナンガイ、
ナンガイの父はマハテ、
マハテの父はマタテヤ、
マタテヤの父はシメイ、
シメイの父はヨセク、
ヨセクの父はヨダ、
ヨダの父はヨハナン、
ヨハナンの父はレサ、
レサの父はゾロバベル、
ゾロバベルの父はサラテル、
サラテルの父はネリ、
ネリの父はメルキ、
メルキの父はアデイ、
アデイの父はコサム、
コサムの父はエルマダム、
エルマダムの父はエル、
エルの父はヨシュア、
ヨシュアの父はエリエゼル、
エリエゼルの父はヨリム、
ヨリムの父はマタテ、
マタテの父はレビ、
レビの父はシメオン、
シメオンの父はユダ、
ユダの父はヨセフ、
ヨセフの父はヨナム、
ヨナムの父はエリヤキム、
エリヤキムの父はメレヤ、
メレヤの父はメナ、
メナの父はマタタ、
マタタの父はナタン、
ナタンの父はダビデ、
ダビデの父はエッサイ、
エッサイの父はオベデ、
オベデの父はボアズ、
ボアズの父はサラ、

サラの父はナアソン、
ナアソンの父はアミナダブ、
アミナダブの父はアデミン、
アデミンの父はアルニ、
アルニの父はエスロン、
エスロンの父はパレス、
パレスの父はユダ、
ユダの父はヤコブ、
ヤコブの父はイサク、
イサクの父はアブラハム、
アブラハムの父はテラ、
テラの父はナホル、
ナホルの父はセルグ、
セルグの父はレウ、
レウの父はペレグ、
ペレグの父はエベル、
エベルの父はサラ、
サラの父はカイナン、
カイナンの父はアルパクサデ、
アルパクサデの父はセム、
セムの父はノア、
ノアの父はラメク、
ラメクの父はメトセラ、
メトセラの父はエノク、
エノクの父はヤレデ、
ヤレデの父はマハラレル、
マハラレルの父はカイナン、
カイナンの父はエノス、
エノスの父はセツ、
セツの父はアダム、
アダムの父は神です。
▪
四
イエス、悪魔に試される
１　さて、イエスは聖霊に満たされ、ヨルダン川をあとにすると、御霊に導かれるまま、ユダヤの荒野に向かわれました。　２そこで、悪魔が四十日間、イエスを誘惑したのです。

その間、何も口にされなかったので、空腹を覚えられました。
３　その時です。　悪魔がたくみに誘いかけました。　「もしあんたが神の子なら、ここに転がっている石をパンに変えてみたらどうだい。」
４　しかしイエスは、お答えになりました。　「『人はただパンだけで生きるのではない』と聖書（旧約）に書いてあるではないかっ！」
５　次に悪魔は、イエスを高い所へ連れて行き、一瞬のうちに、世界の国々とその繁栄ぶりとを見せて言いました。
６７「さあ、ここにひれ伏して、このおれ様を拝んでみろ。　そうすりゃあ、これらの国々とその栄光とを、全部やってもいいぜ。　何もかも、このおれ様のもの、おれ様の自由だからな。」
８　イエスはお答えになりました。　「『神である主だけを礼拝し、主にだけ従え』と聖書（旧約）に書いてあるではないかっ！」
９　さらに悪魔は、イエスをエルサレムへ連れて行き、神殿のてっぺんに立たせて言いました。　「さあ、ほんとうに神の子だと言うなら、ここから飛び降りてみろ。　１０聖書には『神様は、御使いを送って、　１１あなたを支えさせ、あなたが岩の上に落ちて砕かれることのないように守られる』と、はっきり書いてあるんだから。」
１２　しかしイエスは、お答えになりました。　「『あなたの神である主を、試してはならない』とも書いてあるっ！」
１３　あの手この手と誘惑のかぎりを尽くすと、悪魔は一時、イエスから離れました。
イエス、活動を始める
１４　イエスが、聖霊の力に満たされてガリラヤにお戻りになると、まもなく、その地方一帯に評判が広まりました。　１５あちこちの会堂で教えをお語りになるイエスは、人々の賞賛の的でした。
１６　それからイエスは、少年時代を過ごしたナザレにお帰りになり、いつものように、土曜日に会堂へ行かれました。　聖書を朗読しようと席を立つと、　１７預言者イザヤの書が手渡されたので、次の個所をお開きになりました。
１８１９「わたしの上に主の御霊がとどまっておられる。
主は、貧しい人たちにこのすばらしい知らせを伝えるために、
わたしを任命された。
主はわたしを遣わして、
捕虜には解放を、
盲人には視力の回復を告げられる。
踏みにじられている人を自由にし、
主の恵みの年を告げられる。」
２０　朗読を終えると、聖書を閉じ、係りの者に返して、腰をおろされました。　みんなの目はいっせいにイエスに注がれました。　２１それにこたえるように、イエスはこう宣

言なさいました。　「この聖書のことばは、今日、実現したのです。」
２２　人々はみなイエスをほめ、そのことばのすばらしさに驚きました。ところが一方では、「いったいどうなってんだ。　ただのヨセフのせがれじゃないか」とささやき合いました。
２３　そこで、イエスは言われました。　「たぶん、あなたがたは、『医者よ、自分を治してみろ』ということわざを引いて、『カペナウムで行なった奇蹟を、郷里でもしてみせろ』と言うのでしょう。　２４だが、はっきり言いましょう。　どんな預言者でも、故郷では歓迎されないものです。　２５２６たとえば、エリヤはどうだったでしょうか。　三年半ものあいだ雨がなく、国中が大ききんに見舞われた時、イスラエルには助けを求める未亡人が大ぜいいました。　だが、当のエリヤは、そういう人たちのところへではなく、わざわざシドンのサレプタに住む外国人の未亡人のところへ遣わされ、奇蹟によって彼女を助けました。　２７また預言者エリシャの場合はどうだったでしょうか。　ユダヤにも大ぜい、らい病人がいたというのに、そのだれもが治されず、ただシリヤ人ナアマンだけが治されたではありませんか。」
２８　こう言われて、会堂にいた人たちはもうれつに腹を立てました。　２９どっとイエスに襲いかかり、町が建っている丘のがけっぷちまで連れて行きました。　そこから突き落とすつもりだったのです。　３０ところがイエスは、群衆の間をすり抜け、去って行かれました。
３１　それから、ガリラヤの町カペナウムに帰り、毎土曜日、会堂で教えを宣べ伝えられました。　３２ここでもまた、人々はイエスの教えに驚きました。　イエスが、自分を権威づけるために、むやみに他人の意見を引用するのではなく、真理を知っている者のように語られたからです。
３３　ある時、会堂で教えておられると、悪霊に取りつかれた男が、イエスに向かって、大声でわめき立てました。
３４　「やいやい、ナザレのイエス。　お願いだから出てってくれよ！　おれたちをどうしようってんだ。　おれたちを滅ぼしに来たんだろうが。　あんたがだれかって？　よーくわかってらあ。　神のきよい御子様よ。」
３５　イエスは悪霊をさえぎり、「黙りなさい。　その人から出て行きなさい」とお命じになりました。　すると突然、悪霊は、人々の目の前で男を投げ倒しましたが、それ以上は何の危害も加えずに出て行きました。
３６　あっけにとられた人々は、口々に言い合いました。　「悪霊までが言うことを聞くなんてなあ！　この方のことばには、なんという力があるんだろう。」　３７こうしてイエスのうわさは、この地方一帯に、野火のような勢いで広まりました。
３８　その日、イエスは会堂から、シモンの家へ行かれました。　すると、シモンのしゅうとめが高熱にうなされているところでした。　「お願いです。　治してやってください」と頼まれて、　３９イエスはベッドのそばに立ち、熱病をおしかりになりました。　する

とどうでしょう。　たちまち熱がひき、平熱に戻ったしゅうとめは、すぐに起き上がり、食事の用意を始めたではありませんか。
４０　夕方になると、病人を連れた村の人たちが、ぞくぞく詰めかけました。　イエスは、どんな病気であろうと、連れて来られた病人一人一人にさわり、治されました。　４１中には悪霊に取りつかれた人もいましたが、イエスの命令一下、悪霊は大声で、「あんたは神の子だっ！」と叫びながら出て行きました。　イエスはこの悪霊にきつく口止めなさいました。　悪霊が、イエスはキリスト（救い主）だと知っていたからです。
４２　翌朝早く、イエスはただ一人、人気のない寂しい所へ行かれました。　人々はあちこち捜し回り、やっとのことでイエスを見つけ出すと、もうどこへも行かないで、ずっとここにいてくださいと、しきりに頼みました。　４３ところがイエスは、お答えになりました。　「ほかの町々にも、神のすばらしい知らせを伝えなければならないのです。　そのために、わたしは来たのですから。」　４４こうしてイエスは、ユダヤ中を旅し、ほうぼうの会堂で教えをお語りになりました。
五
イエス、弟子を集める
１　ある日、イエスがゲネサレ湖のほとりで教えを宣べ伝えておられるところへ、大ぜいの人が神のことばを聞こうと押しかけました。　２３ふと見ると、水ぎわの二そうの小舟で、漁師たちがせっせと網を洗っています。　イエスはそのうちの一そうに乗り込んで、持ち主のシモンに少しこぎ出してもらい、舟の中に座ったまま、群衆に教えられました。
４　お話が終わると、シモンにおっしゃいました。　「さあ、もっと沖へこぎ出して、網をおろしてごらんなさい。　たくさん魚がとれますよ。」
５　「でも先生。　おれたちは夜通し一生懸命働いたんですぜ。　なのに、雑魚一匹とれなかった。　だけど、まあ、せっかくそうおっしゃるんだから、もう一度やってみますがね……。」
６　ところがどうでしょう。　今度は網が破れるほどたくさんの魚がとれたのです。　７あまり多くて、手がつけられません。　大声で助けを求めました。　仲間の舟が来ましたが、二そうとも魚でいっぱいになり、今にも沈みそうです。
８　シモン・ペテロは事の真相に気づくと、あわててイエスの前にひれ伏し、「ああ、先生。どうぞ私みたいな者から離れてください。　私は罪深い人間で、とてもおそばへは寄れません」と叫びました。　９あまりの大漁に、ペテロも仲間たちも恐ろしくなったからです。
１０仲間には、ゼベダイの息子のヤコブやヨハネもいました。　イエスはシモンに、「こわがらなくてもいいのです。　今からは人間をとる漁師になるのですから」と言われました。
１１　岸へ上がると、彼らは何もかも捨てて、イエスにお従いしました。
イエス、病気を治す
１２　イエスがある村におられた時のことです。　そこに、らい病に全身を冒された男がいました。　彼はイエスを見るや、その前にひれ伏し、額を地面にこすりつけて頼みまし

た。
「お願いでございますっ！　どうぞ私の体を、体をもとどおりにしてください。　あなた様のお気持ちひとつで治るのですから。」
１３　イエスは手を伸ばして男にさわり、「治してあげましょう。　どれどれ、さあ、もう大丈夫ですよ」と言われました。　すると驚いたことに、らい病はたちまち消え去り、あとかたもなくなったのです。　１４「このことをだれにも話してはいけませんよ。　すぐに祭司のところへ行って、体を調べてもらい、モーセの法律どおりのささげ物をしなさい。そうすれば、病気が治ったことが、みんなの前で証明されるのです。」こう言われたにもかかわらず、　１５イエスのうわさはあっという間に広まり、大ぜいの人が教えを聞こう、病気を治してもらおうと詰めかけました。　１６しかしイエスは、何度も荒野に身を避け、祈っておられました。
１７　ある日、イエスが教えておられると、パリサイ人（特におきてを守ることに熱心なユダヤ教の一派）と法律の専門家が数人そばに座っていました。　〔ガリラヤやユダヤのすべての村、またエルサレムから来た人たちです。〕イエスには、病気を治す神の力がありました。
１８１９その時、数人の人がやって来ました。　見ると、中風の男を、それも、ふとんごとかついでいます。　彼らは、何とか群衆をかき分けてイエスのところへ行こうとしましたが、とても近づけたものではありません。　しかたなく、屋根にのぼり、天井に穴をあけ、病人をふとんごと、人々の真ん中に立っておられるイエスの目の前につり降ろしました。
２０　イエスはこれほどまでの信仰を見て、病人に、「あなたの罪は赦されました」と宣言なさいました。
２１「なんて罰あたりなことばだっ！　いったい何様だと思ってるのか。 冒涜だ！　明らかに神様を汚す言葉だ。　罪を赦すなんて、神様にしかできないことなのに……。」パリサイ人や法律の専門家たちは、心の中で強く反発しました。
２２　それを見抜いたイエスは、「なぜ、わたしのことばが神を汚すことになるのですか。２３２４この人に、『あなたの罪は赦されました』と言うのと、『起きて歩きなさい』と言うのと、どちらがむずかしいですか。　わたしは病気を治す力も、罪を赦す権威も持っているのです。　それを証明してみせましょう」と言い、中風の男に、「さあ、起きなさい。床をたたんで、家に帰りなさい」とお命じになりました。
２５　男はぱっとはね起き、並み居る人をしり目に、すぐに床を取り上げると、神を賛美しながら帰って行きました。　２６居合わせた人たちはたいへんです。　みな恐れに取りつかれ、「不思議だ。　まるで考えられないことだ」と幾度もくり返しては、神をほめたたえました。
２７　このあと、町を出ようとされた時、一人の取税人が税金取立所に座っているのが見えました。　その男の名はレビと言いました。　「さあ、ついて来て、わたしの弟子にな

りなさい。」　２８イエスの誘いに、レビは何もかも捨て、さっと立ち上がり、あとに従いました。
２９　まもなくレビは、家で、イエスのために盛大な歓迎会を催しました。　多くの取税人仲間をはじめ、大ぜいの人が招かれました。
パリサイ人たちの言いがかり
３０　ところが、パリサイ人や法律の専門家たちはこの光景を見て、弟子たちに激しい非難をあびせました。　「おまえさんたちは、どうして、こんなくずのような連中といっしょに食事をするんだい。」
３１　イエスは、お答えになりました。　「医者が必要なのは病人で、健康な人ではありません。　３２わたしは、自分を正しいと思う人を招くためではなく、罪人を招いて、罪を悔い改めさせるために来たのです。」
３３　彼らも負けてはいません。　今度は違った面から、詰め寄りました。　「バプテスマのヨハネの弟子たちは、いつも断食して祈っている。 パリサイ人の弟子たちも同様だ。なのに、おまえさんのお弟子たちときたら、平気で飲み食いしている。　そのわけを聞かしてもらおうじゃないか。」
３４　イエスは言われました。　「しあわせな人が断食しますか。　結婚披露宴で、花婿の招待客がお腹をすかしたままでいることがあるでしょうか。 もちろん、ありえません。３５しかし、花婿が彼らから引き離される日が来ます。　その時こそ、断食するのです。」
３６　続いて、もう一つのたとえ話をなさいました。　「古い着物に継ぎを当てるのに、新しい着物から布切れを切り取る人がいるでしょうか。　そんなことをしたら、新しい着物もだめになるし、古い着物も継ぎ目が破れて、結局どちらもだいなしです。　３７また、新しいぶどう酒を古い皮袋に入れる人がいるでしょうか。　そんなことをしたら、古い皮袋は新しいぶどう酒の圧力で張り裂け、ぶどう酒もこぼれてしまいます。　３８新しいぶどう酒は、新しい皮袋に入れるものです。　３９こうも言えます。　だれでも古いぶどう酒を飲んだあとで、新しいぶどう酒を口にしたいとは思わないでしょう。　『古い物はよい』と言われるとおりです。」
六
安息日の主であるイエス
１　ある安息日のことです。　イエスと弟子たちは麦畑の中を歩いていました。　弟子たちは歩きながら、麦の穂を摘んでは、手でもみ、殻を取って食べました。
２　パリサイ人たちが目ざとくそれを見つけ、抗議しました。 「どう見ても違反だ！　お弟子たちのやってることは何です？　明らかに刈り入れじゃないか。　安息日の労働はユダヤのおきてで禁じられているというのに。」
３　イエスは、お答えになりました。 「聖書（旧約）を読んだことがないのですか。　ダビデ王とその家来たちが空腹になった時、どうしたでしょうか。　４ダビデ王は神殿に入り、主に供えられた特別なパンを取って食べたではありませんか。　これはおきてに反す

ることでしたが、自分ばかりか、家来たちにも分けてあげました。」　５また、こうも言われました。　「わたしは安息日の主です。」
６　今度は別の安息日のことです。　イエスは会堂で教えておられました。　ちょうどそこに、右手の不自由な男が居合わせました。　７安息日だというので、法律の専門家やパリサイ人たちは、イエスがこの男を治してやるかどうか、うの目たかの目で見ています。何とかしてイエスを訴える口実を見つけようと、必死だったのです。
８　彼らの魂胆を見抜いたイエスは、その男に、「さあ、みんなの真ん中に立ちなさい」とお命じになりました。　男が言われたとおりにすると、　９イエスはパリサイ人たちに、「ひとつ聞きたいのですが、安息日に良いことをするのと悪いことをするのと、どちらが正しいでしょうか。　人のいのちを救うのと、いのちを奪うのと、どちらが正しいでしょうか」とお尋ねになりました。
１０　それから、会衆をぐるりと見回し、男に、「さあ、手を伸ばしなさい」とおっしゃいました。　そのとおりにすると、なんと、右手はすっかりもとどおりです。　１１これを見たパリサイ人たちは逆上し、イエスを殺そうとたくらみ始めました。
イエス、十二人を選ぶ
１２　それからまもなく、イエスは山へ行き、徹夜で祈られました。　１３夜明けごろ、弟子たちを呼び寄せると、特に十二人を選び、「使徒」という名をおつけになりました。　１４‐１６十二人の名前は次のとおりです。
シモン〔イエスはペテロともお呼びになりました〕、
アンデレ〔シモンの兄弟〕、
ヤコブ、
ヨハネ、
ピリポ、
バルトロマイ、
マタイ、
トマス、
ヤコブ〔アルパヨの息子〕、
シモン〔「熱心党」という急進派グループのメンバー〕、
ユダ〔ヤコブの息子〕、
イスカリオテのユダ〔後にイエスを裏切った男〕。
１７１８イエスは弟子たちといっしょに山を降り、広々とした所にお立ちになりました。するとほかの大ぜいの弟子と群衆が駆け寄り、たちまちイエスの回りは、人の波でうずまりました。　ユダヤ全地、エルサレム、はるか北のツロやシドンの海岸地方などから、イエスの話を聞き、また病気を治してもらおうと、はるばるやって来た人ばかりです。　悪霊に苦しめられている人もいたので、イエスは治されました。　１９だれもがみな、イエスにさわろうと押し合いへし合いの大騒ぎです。　さわれば、病気を治す力がイエスから

出て、どんな病気もいやされたからです。
２０　それからイエスは、弟子たちのほうをふり向き、話し始められました。
「あなたがた貧しい人は幸福です。　神の国はあなたがたのものだからです。　２１いま空腹な人は幸福です。　やがて十分満足するようになるからです。　泣いている人は幸福です。　もうすぐ笑うようになるからです。　２２わたしの弟子だというので、憎まれたり、追い出されたり、悪口を言われたりするなら、なんとすばらしいことでしょう。　２３そんなことになったら、心から喜びなさい。　躍り上がって喜びなさい。　やがて天国で、目を見張るばかりのごほうびが、いただけるからです。　そして、同じような扱いを受けた、昔の預言者たちの仲間入りができるのです。
２４　これとは反対に、金持ちたちを待ち受けているのは悲しみだけです。　彼らの幸福はこの地上限りのものだからです。　２５肥え太り、今は栄えていても、やがて恐ろしい飢えの日が来れば、彼らの大笑いは、一瞬にして悲しみに変わるでしょう。　２６ほめそやされる者はあわれです。　偽預言者はいつの時代でも、そのような扱いを受けたからです。
２７　いいですか、よく聞くのです。　敵を愛しなさい。　あなたがたを憎む者によくしてやりなさい。　２８あなたがたをのろう者の幸福を祈ってあげなさい。　あなたがたを侮辱する者に神の祝福を祈り求めなさい。
２９　もしだれかが頬をなぐったら、もう一方の頬もなぐらせなさい。また、もしだれかが上着を取ろうとしたら、下着もつけてやりなさい。　３０持ち物は何でも、ほしがる人にやりなさい。　盗難にあっても、それを取り返そうとやきもきしてはいけません。　３１人からしてほしいと思うことを、そのとおり人にもしてあげなさい。
３２　愛してくれる人だけを愛したところで､ほめられたことでも何でもありません。 神を知らない人でさえ、それぐらいのことはします。　３３よくしてくれる人にだけ、よくしたところで、何の意味があると言うのでしょう。　罪人でさえ、それぐらいのことはします。　３４また、返してもらえる人にだけお金を貸したところで、善行と言えるでしょうか。　全額戻るとわかっていれば、どんな悪党でも、仲間にお金を貸してあげます。
３５　敵を愛しなさい。　よくしてあげるのです。　返してもらうことなど当てにせず、気前よく貸してあげなさい。 そうすれば､天から､すばらしいごほうびがいただけます。神の子供になれるのです。　神は、恩知らずの者や極悪人にも、あわれみ深い方だからです。
３６　天の父と同じように､あわれみ深い者になりなさい。 ３７人のあら捜しをしたり、悪口を言ったりしてはいけません。　自分もそうされないためです。　人には広い心で接しなさい。 そうすれば､彼らも同じようにしてくれるでしょう。　３８与えなさい。 そうすれば与えられます。　彼らは、ますに押し込んだり、揺すり入れたりしてたっぷり量り、あふれるばかりにして返してくれます。　自分が量るそのはかりで、自分も量り返されるのです。」

３９　イエスはさらに、もう一つのたとえ話をなさいました。
「盲人が盲人の道案内をしたら、どうなるでしょう。　一人が穴に落ち込めば、もう一人のほうも巻き添えを食うでしょう。　４０生徒が先生より偉くなれますか。　しかし、一生懸命勉強すれば、先生と同じぐらいにはなれます。
４１　また、自分の目に材木が入っているのに、どうしてほかの人の目の中にある、おがくずほどの小さなごみを気にするのでしょう。　４２材木がじゃまで、よく見えもしないのに、どうして、『目にごみが入ってるよ。 取ってあげよう』などと言うのでしょう。 偽善者よ！　まず自分の目から材木を取り除きなさい。　そうすれば、はっきり見えるようになって、ほかの人の小さなごみを取ってあげることもできるのです。
４３　おいしい実をつける木が、まずい実をつけるはずはないし、まずい実をつける木が、おいしい実をつけるはずもありません。　４４つまり、木は実によって見分けることができるのです。　いばらにいちじくの実はならないし、野ばらにぶどうの実もなりません。
４５良い人は良い心から良い行ないを生み出します。　悪い人は隠された悪い心から悪い行ないを生み出します。　心に秘めたことが、ことばになってあふれ出るからです。
４６　なぜ、『主よ、主よ』と呼びながら、わたしに従おうとはしないのですか。　４７そばに来て、わたしの教えを聞き、そのとおり実行する人はみな、　４８地面を深く掘つて、岩の上に土台をすえ、その上に家を建てる人のようです。　洪水になり、激流に洗われても、家はびくともしません。　土台がしっかりしているからです。
４９　しかし、わたしのことばを聞いても実行しない人は、ちょうど、土台なしで家を建てる人のようです。　激流が押し寄せると、家はあとかたもなく、こわれてしまいます。」
七
すばらしい奇蹟
１　これらのお話を終えると、イエスはカペナウムの町に帰って行かれました。
２　ちょうどそのころ、あるローマ軍の隊長が目をかけていた召使が、病気で死にかかっていました。　３イエスの評判を聞いた隊長は、日頃みんなに尊敬されているユダヤ人の長老たちをイエスのところにやり、召使のいのちを助けに来てくださいと願いました。 ４依頼を受けた長老たちは、この隊長がどんなにすばらしい人物かを説明し、熱心に頼みました。　「あなた様に助けていただく値打のある人がいるとしたら、この方こそふさわしい人です。　５ユダヤ人を愛し、会堂も建ててくれました。」
６７イエスは長老たちといっしょに出かけられました。　家まであとわずかという時、隊長の友人たちが来て、ことづけを伝えました。　「先生。　わざわざおいでくださいませんように。　とても、そんな名誉を受ける資格はございません。　自分でお迎えに上がることさえ失礼と存じます。　どうぞ今おられる所で、ただひと言おことばをください。　それで十分でございます。 召使は必ず治ります。 ８私も上官の権威の下にあるのですが、その私でさえ部下には権威があります。　たとえば、私が『行け』と命じれば行きますし、『来い』と言えば来ます。　また奴隷にも『あれをやれ』『これをやれ』と言えば、そのと

おりにするのです。」
９　これを聞くと、イエスはたいへん驚き、群衆のほうをふり向いて言われました。 「どうです、皆さん。　これほど信仰深い人は、イスラエル中でも見たことがありません。」
１０　使いの者たちが戻ってみると、どうでしょう。　召使はすっかり治っていました。
１１　それからまもなく、イエスは弟子たちといっしょにナインの町へ行かれました。 いつものように、あとから大ぜいの人がぞろぞろついて行きます。　１２町の門の近くで、葬式の行列にばったり出会いました。 死んだのは、夫に先立たれた女の一人息子でした。町の人が大ぜい母親に付き添っています。
１３　痛々しい母親の姿を見てかわいそうに思ったイエスは、「泣かなくてもいいのですよ」と、やさしく声をおかけになりました。　１４そして歩み寄り、棺に手をかけると、かついでいた人たちが立ち止まったので、「少年よ、起きなさい」と言われました。　１５すると少年はすぐに起き上がり、回りの人たちに話しかけたではありませんか。　イエスは少年を母親に返してあげたのです。
１６　人々はびっくりし、ものも言えませんでしたが、次の瞬間、あちこちから神を賛美する声がわき上がりました。
「大預言者様だっ！」
「神様のお働きだっ！　この目で見たぞっ！」
１７　この日の出来事は、あっという間にユダヤ全土と回りの地方一帯に広まりました。
イエスとヨハネ
１８　イエスのこうした行ないの数々は、バプテスマのヨハネの弟子たちの耳にも入り、細大もらさずヨハネに報告されました。　１９２０ヨハネは、弟子を二人イエスのもとへやり、こう尋ねさせました。　「あなた様は、ほんとうに私たちの待ち続けてきたお方なのでしょうか。　それとも、まだ別の方をお待ちしなければ……。」
２１　ちょうどその時、イエスはさまざまな病気にかかった大ぜいの病人を治し、盲人を見えるようにし、悪霊を追い出しておられるところでした。　２２イエスの答えはこうでした。　「帰って、ヨハネに、今ここで見聞きしたことを話してやりなさい。　盲人が見えるようになり、立てなかった人が、今は自分で歩けるようになり、らい病人が治り、耳の聞こえなかった人が聞こえるようになり、死人が生き返り、貧しい人々がすばらしい知らせを聞いていることなどを。　２３それから、『わたしを疑わない人はしあわせです』と伝えなさい。」
２４　ヨハネの弟子たちが帰ってしまうと、イエスは人々に、ヨハネのことを話し始められました。 「ヨハネに会いに荒野へ出かけた時、どんな人物だと考えていましたか。　風にそよぐ葦のような人だとでも思ったのですか。　２５それとも、きらびやかに着飾った人に会えるとでも……。　ぜいたくな暮らしをしている人なら宮殿にいます。　荒野にはいません。　２６あるいは、預言者に会えると期待したのですか。　そのとおり、ヨハネは預言者以上の者です。　２７彼こそ聖書（旧約）の中で、『見よ。　わたしはあなたより

先に使者を送る。　その使者は人々に、あなたを迎える準備をさせる』と言われている、その人です。　２８今まで生まれた人の中で、ヨハネほどすぐれた働きをした人はいません。　けれども、神の国で一番小さい者も、ヨハネよりはずっと偉大なのです。
２９　ヨハネの教えを聞いた人はみな、取税人たちでさえ、神の正しさを認め、バプテスマ（洗礼）を受けました。　３０ただパリサイ人と法律の専門家だけが、そっぽを向いたのです。　あつかましくも、神のご計画を退け、ヨハネのバプテスマを拒否したのです。
３１　このような人々のことを、どう言ったらいいでしょう。　３２まるで遊び友達に文句を言っている子供のようです。　『結婚式ごっこして遊ぼうって言ったのに、ちっともうれしがってくれないでさ、それで葬式ごっこにしたら、今度は、ぜんぜん悲しがってくれないや』とわめいているのです。　３３つまり、バプテスマのヨハネが何度も断食し、生涯、酒も飲まずにいると、『やつは気が変になっている』ときめつけ、　３４わたしが食事をしたり、ぶどう酒を飲んだりすると、『あいつは大食いの大酒飲み、一番たちの悪い罪人どもの仲間だ』とののしります。　３５けれども、神の知恵の正しさは、神を信じる者たちが証明するのです。」
罪を赦された女
３６　あるパリサイ人から食事に招待されたので、イエスは快く応じました。　一同が食卓に着いていると、　３７町の女が一人、高価な香油の入った美しいつぼを持ってやって来ました。　この女は売春婦でした。　３８女は部屋に入るなり、イエスのうしろにひざまずき、さめざめと泣きました。　あまり泣いたので、イエスの足が涙でぬれるほどでした。　女はていねいに髪で涙をぬぐい、心を込めて足にくちづけしてから、その上に香油を注ぎかけました。
３９　イエスを招待したパリサイ人は、この出来事を見て、「これで、やつが預言者でないことが、はっきりしたぞ。　もしほんとうに神様から遣わされた方なら、この女の正体がわかるはずだからな」とひそかに思いました。
４０　ところが、イエスは何もかもお見通しでした。
「シモンよ。　あなたに言っておきたいことがあります。」
「はい、先生。　何でございましょう。」
４１　「ある男が二人の人に金を貸しました。　一人には百五十万円、もう一人には十五万円でした。　４２ところが二人とも、どうしても借金を返せません。　金を貸した男はたいへん思いやりのある人だったので、二人の借金を帳消しにしてあげました。　この二人のうちどちらがよけいに、貸し主に感謝し、彼を愛したでしょうか。」
４３　「たくさん借りていたほうでしょうね。」シモンの答えに、イエスも、「そのとおりです」とうなずかれました。
４４　それから、ひざまずいている女のほうをふり向き、シモンに言われました。　「ほら、この女を見なさい。　わたしがお宅に来た時、あなたは足を洗う水さえ出してくれませんでした。　ところがこの女は、涙でわたしの足を洗い、髪でふいてくれました。　４

５あなたはあいさつのくちづけをしてくれなかったが、この女はわたしが入って来た時から、何度も足にくちづけしてくれました。　４６それにどうです。　あなたはわたしの頭にオリーブ油を注いでくれましたか。　それが、あたりまえの礼儀というものでしょう。けれども、この女は足にこんなに高価な香油を注いでくれたのです。　４７だから、この女の多くの罪は赦されました。　この女がわたしを多く愛してくれたからです。　少ししか赦されない者は、少ししか愛さないのです。」
４８　そして女に言われました。　「あなたの罪は赦されているのですよ。」
４９　その場に同席していた人たちが、心の中でつぶやき始めました。「罪を赦すなんて、いったい自分を何様だと思ってるんだろう。」
５０　しかし、イエスは女に、「あなたの信仰があなたを救ったのです。安心してお帰りなさい」と言われました。
八
種まきのたとえ話
１　その後しばらくして、イエスはガリラヤの町や村を回り、神のすばらしい知らせを伝え始められました。　十二人の弟子も同行しました。　２イエスに悪霊を追い出してもらったり、病気を治してもらったりした女たちもいっしょでした。　この中には、七つの悪霊を追い出してもらったマグダラのマリヤや、　３ヘロデ王の執事クーザの妻ヨハンナ、スザンナをはじめ、財産を投げ出して、イエスや弟子たちの世話をする大ぜいの婦人がいました。
４　ある日、話を聞こうと、大ぜいの群衆が町々村々から押しかけたので、イエスはこんなたとえ話をなさいました。
５　「一人の農夫が、種まきをしようと畑に出かけました。　種をまいているうちに、ある種は道ばたに落ちて、踏みつけられ、そのうち鳥が来て食べてしまいました。　６土の浅い石地に落ちた種もありました。　それは芽を出したのですが、水分が足りないので、すぐ枯れてしまいました。　７いばらの中に落ちた種もありましたが、いばらがいっしょに生え出て、結局、生長できませんでした。　８しかし、中には良い土壌に落ちた種もありました。　それはぐんぐん育ち、まいた種の百倍もの実を結びました。」
イエスは話しながら、「聞く耳のある人はよく聞きなさい」と、みんなの注意をうながされました。
９　「このたとえはどういう意味なんですか。」弟子たちに質問されて、　１０イエスはお答えになりました。
「あなたがたには神の国を理解することが許されていますが、群衆はそうではありません。だから、たとえで話すのです。　彼らは見たり聞いたりしても、少しも理解しようとしません。
１１　さて、このたとえの意味を説明しましょう。　種とは神の教えのことです。　１２ある種が落ちた道ばたとは、神のことばを聞いても、受けいれない頑固な心を表わします。

やがて悪魔が来て、それを持ち去り、信じて救われるのをじゃまするのです。　１３次に、土の浅い石地とは、喜んで教えは聞くものの、ほんとうの意味で心に根を張れない状態のことです。　教えられたことはいちいちもっともだと納得し、しばらくの間は信じているのですが、迫害の嵐がやってくると、すぐにぐらついてしまうのです。　１４いばらの中の種とは、聞いて信じても、その後、いろいろな心配事や金銭欲、また人生のさまざまな重荷や快楽などに、信仰を妨げられてしまう人のことです。　これでは、せっかく教えを聞いても、だれにも話して聞かせることができません。
１５　良い土壌とは、素直で正直な心の人を表わします。　こういう人は、神のことばを聞くと、それをしっかり守り、辛抱強くほかの人に話してあげるので、大ぜいの人が信じるようになるのです。」
１６　また、次のようなたとえ話もなさいました。
「ランプをつけてから、すっぽりおおいをかけ、光をさえぎる人がいるでしょうか。　ランプはあたりを照らすように台の上に置くものです。　１７これは、いつの日か、すべてのことが明るみに出されることを示しています。　１８だから、どのように聞くか、よく注意しなさい。　持っている者はもっとたくさん与えられ、持っていない者は、持っているつもりの物までも、取り上げられてしまうからです。」
１９　ある時、母と弟たちがイエスに会いに来ました。　ところが、イエスが教えておられた家は黒山の人だかりで、とても中へは入れません。　２０だれかが、「先生。　お母様と弟さんがたがお見えですよ」と知らせると、　２１イエスはみんなを見回し、「わたしの母、わたしの兄弟たちとは、神のことばを聞いて、それを守る者のことです」とお答えになりました。
イエス、嵐を静める
２２　そのころのことです。　ある日、イエスは弟子たちと舟に乗り込み、「さあ、湖の向こう岸に渡ろう」と言われました。　２３途中、イエスが横になられ、眠っておられると、風が出てきました。　風はだんだん強くなります。　恐ろしい嵐に、舟は水をかぶって、今にも沈みそうです。　もう一刻の猶予もなりません。
２４　弟子たちはあわててイエスを揺り起こし、「先生、先生。　舟が沈みそうですっ！」と叫びました。　そこで、イエスはゆっくり起き上がると、「静まれっ！」と嵐に命じられました。　するとどうでしょう。　たちまち風も波もおさまり、何事もなかったかのように静かになりました。
２５　イエスはおっしゃいました。　「ああ、あなたがたの信仰はどこにあるのですか。」弟子たちは驚くやら恐ろしいやらで、「なんてお方だろう。 風や波までが言うことを聞くとは！」とささやき合いました。
２６　こうして一行は、無事ガリラヤの対岸にあるゲラサ人の地方に着きました。　２７舟から上がると、この町に住む男が一人、イエスに会いに来ました。　長年、悪霊に取りつかれ、家もなく、裸のまま、墓場をねぐらにしている男でした。　２８男はイエスを見

るやいなや、恐ろしい叫び声をあげて、その場に倒れました。　「やいやい、おれ様をどうしようってんだっ！　いと高き神の子イエス様よ。　お願いだから、苦しめないでくれっ！」
２９　こうわめいたのは、イエスが悪霊に、出て行けとお命じになったからです。　今までは、悪霊が何度も男に取りつくので、鎖でしっかり縛りつけておくのですが、どんなに太い鎖でも、いつもやすやすと引きちぎり、荒野へ逃げてしまうのでした。　３０「あなたの名前は？」というイエスの質問に、悪霊は、「レギオン（ローマ軍の一軍団）だ」と答えました。　男には何千という悪霊が入り込んでいたからです。　３１悪霊どもは、底なしの穴に行くことだけはかんべんしてくれと、必死に願い続けました。
３２　うまいことに、近くの山の中腹で、豚の群れがえさをあさっています。　悪霊どもは、しめたとばかり、その豚の中に入らせてくれと頼みました。　イエスがお許しになると、　３３すぐさまその男から出て、豚の中に入りました。　そのとたんです。　群れはいっせいに駆け降り、がけから湖に飛び込んで、おぼれ死んでしまいました。　３４びっくりした豚飼いたちは近くの町に駆け込み、この出来事を言いふらしました。
３５　まもなく、大ぜいの人が、どやどや集まって来ました。　自分の目で確かめようと思ったのです。　と、どうでしょう。　今まで悪霊に取りつかれていた男が、きちんと服を着込み、すっかり正気に戻って、イエスの前に座っているではありませんか。　みんなは、あっけにとられてしまいました。　３６初めから一部始終を目撃していた人たちが、事細かにその時の状況を説明しました。　３７それを聞くと、人々はますます恐ろしくなり、イエスに、ここから立ちのいて、もうこれ以上かかわり合わないでくれと頼み始めました。　それで、イエスは舟に戻り、また向こう岸へ帰って行かれました。　３８悪霊に取りつかれていた男は、ぜひにとお伴を願い出ましたが、イエスはお許しになりません。
３９「家族のところへ帰りなさい。 神がどんなにすばらしいことをしてくださったかを、話してあげるのです。」こう言われて、男は町中の人に、イエスのすばらしい奇蹟を話して回りました。
イエス、娘を生き返らす
４０　ガリラヤに帰ると、イエスは心からの歓迎を受けました。　人々はおいでを待ちわびていたのです。
４１　その時、ユダヤの会堂管理人で、ヤイロという名の人が来て、イエスの足もとにひれ伏し、家においでくださいと願いました。　４２十二歳になる一人娘が、危篤状態だったのです。　熱心な頼みに、イエスは人垣をかき分けるようにして、ヤイロの家に向かわれました。
４３４４途中で、一人の女が、いやされたい一心で、うしろからイエスにさわりました。
十二年もの間、出血の止まらない病気に悩まされ、どうしても治らなかったからです。　ところが、イエスの着物のふさにさわったとたん、出血は止まりました。
４５　イエスは、「わたしにさわったのはだれですか」とお尋ねになりました。　みんなが

めいめい自分ではないと答えた時、ペテロが口を出しました。　「先生。　わかりっこありませんよ。　回りにはこんなに大ぜいの人がひしめき合っているんですから……。」
４６　「いや、だれかがさわりました。　力が出て行くのを感じたのですから。」
４７　女は、イエスが何もかもご存じなので、わなわな震えだしました。　とても隠しきれません。　しかたなくイエスの前にひれ伏し、さわった訳とすっかりよくなったこととを、包み隠さず打ち明けました。
４８　イエスは女に、「あなたの信仰があなたを治したのですよ。　さあ、安心してお帰りなさい」とおっしゃいました。
４９　まだイエスが話し終えないうちに、ヤイロの家から使いの者が駆けつけ、こう言いました。　「だんな様っ！　お嬢様は、たった今お亡くなりに……。　先生にわざわざおいでいただいても、手遅れでございます。」
５０　これを聞いて、イエスはヤイロに言われました。　「恐れないで、わたしを信じていなさい。　娘さんは必ずよくなりますから。」
５１　家に着くと、イエスはペテロ、ヨハネ、ヤコブの三人の弟子と、両親のほかはだれも、中へ入ってはいけないと言われました。　５２家の中は嘆き悲しむ人でごった返していたのです。　「もう泣くのはやめなさい。　娘さんは死んだのではありません。　ただ眠っているだけです。」　５３娘が死んだことをよく知っていた人々は、このイエスのことばをあざ笑いました。
５４　イエスが手を取り、「さあ、起きなさい」と呼びかけると、　５５その瞬間、娘は生き返り、すぐに起き上がったではありませんか。　イエスは何か食べさせるようにとお言いつけになりました。　５６あまりのことに、両親はあっけにとられていたからです。　そして、このことをだれにも話さないようにと、堅く口止めなさいました。
▪
九
イエス、神の国を告げ知らせる
１　ある日、イエスは十二人の弟子を呼び集め、悪霊を追い出し、病気を治す力と権威とをお授けになりました。　２こうして、すべての人に神の国が来ることを告げ知らせ、病人を治すために、派遣されたのです。
３　イエスの指示はこうでした。　「杖も、旅行袋も、食べ物も、お金も持って行ってはいけません。　また下着も二枚はいりません。　４どの町でも、ずっと同じ家に泊まりなさい。
５　もし、町の人たちがあなたがたのことばに耳を貸さないなら、回れ右して、急いで町から出なさい。　その時は、神が怒っておられる証拠に、足のちりを払い落としなさい。」
６　弟子たちは村々を巡り、神のすばらしい知らせを伝え、病人を治して歩きました。
７　イエスの奇蹟のうわさを耳にした領主ヘロデは、ひどくとまどいました。　「きっとバプテスマのヨハネが生き返ったのだ」と言う人もあれば、　８「いや、エリヤか、昔の

預言者の一人だろう」と主張する人もいるというぐあいに、それぞれ、かってなことを言い合っていたからです。　とにかく、うわさはうわさを呼び、いろいろな憶測が国中に乱れ飛びました。
９「ヨハネなら、確かにわしが首をはねた。　だとしたら、この不思議なうわさの主はいったい何者だろう。」ヘロデは、自分でイエスに会ってみようとしました。
１０　さて、旅から帰った弟子たちは、その経過を残らず報告しました。イエスは彼らを連れ、ひそかにベツサイダの町に行こうとされましたが、　１１人々の目を逃れることはできませんでした。　大ぜいの群衆が、あとを追って来たのです。　そのような彼らを、イエスは心から喜んで迎え、神の国について教えたり、病人を治したりなさいました。
１２　そのうち、日も暮れ始めたので、十二人の弟子たちはイエスのところへ来て頼みました。　「先生。　この人たちを解散させてください。　近くの村や農場に行って、食べ物と今夜の宿を見つけることができるようにしてやらなければ……。　こんな寂しい所じゃ、何もありませんから。」
１３　「いいえ。　あなたがたで、みんなに食べ物をあげるのです。」イエスの答えに、弟子たちはあきれ顔で抗議しました。　「何ですって！　手もとには、パンが五つと魚が二匹あるだけですよ。　これだけ大ぜいの人が食べる物を、買い出しに行けとでもおっしゃるんですか。」　１４こう言うのも、むりはありません。　男だけでも五千人はいたのですから。
しかし、イエスは、「さあ、みんなを五十人ぐらいずつのグループに分けて、座らせなさい」と言われます。　１５弟子たちは訳がわからないながらも、指示どおりにしました。
１６　そこでイエスは、五つのパンと二匹の魚を取り、天を見上げ、感謝の祈りをささげられました。　それからパンをちぎり、人々に配るため、弟子たちに手渡されました。　１７みんながお腹いっぱい食べたあと、パンくずを集めると、なんと十二かごにもなりました。
１８　ある日のこと、イエスは一人で祈っておられました。　弟子たちは少し離れた所で待っています。　しばらくしてイエスは歩み寄り、「人々は、わたしのことをだれだと言っていますか」とお尋ねになりました。
１９　「バプテスマのヨハネだと言う者もいますし、エリヤだと言う者もいます。　それに、昔の預言者が生き返ったのだと言っている者も……。」
２０　「では、あなたがたはどう思っているのですか。」即座にペテロが答えました。　「あなた様こそ神のキリスト（救い主）です！」
２１　しかしイエスは、このことをだれにも言ってはいけませんときびしく戒め、　２２「わたしは多くの苦しみを受け、ユダヤ人の指導者たち、長老、祭司長、法律の専門家たちに捨てられ、殺され、そして三日目に復活するのです」とお話しになりました。
２３　それから、一同に言われました。
「いいですか。　わたしについて来たい人はだれでも、自分のつごうや利益を考えてはい

けません。　日々自分の十字架を背負い、わたしのすぐあとについて来なさい。　２４いのちを守ることにばかりあくせくしている者は、かえってそれを失います。　ですが、わたしのためにいのちを投げ出す者は、それを救うのです。　２５たとい全世界を手に入れても、ほんとうの自分を失ってしまったら、何の役にも立ちません。
２６　メシヤのわたしも、自分自身と父と聖なる御使いとの栄光を帯びてやって来る時、わたしとわたしのことばとを恥じるような者たちのことを、恥じるでしょう。　２７よく言っておきますが、あなたがたの中には、神の国を見ないうちは決して死なない者がいるのです。」
栄光に輝くイエス
２８　八日が過ぎました。　イエスはペテロ、ヨハネ、ヤコブを連れ、祈るために山に登られました。　２９祈っておられるうちに……、どうでしょう。　イエスの顔は輝きだし、着物はまばゆいばかり白くなったのです。　３０その時、二人の人が現われ、いかにも親しげにイエスと話し始めました。　なんとモーセとエリヤです。　３１二人の姿も輝いています。　三人は、神の計画どおり、イエスがエルサレムで最期を遂げることについて話し合っていたのです。
３２　ペテロもほかの二人も、まぶたが重くなり、ぐっすり寝込んでしまいました。　はっと気がつくと､イエスは栄光に包まれ､モーセとエリヤといっしょに立っておられます。
３３二人が立ち去ろうとするのを見て、すっかり動転していたペテロは、何を言っているのかもわからないまま、思わず口走りました。「先生。　なんてすばらしいんでしょう！　そうだ。　小屋を三つお建てしましょう！　一つは先生のために。　それから、モーセ様とエリヤ様のためにも一つずつ。」
３４　ペテロがまだ言い終わらないうちに、光り輝く雲がもくもく立ち込め、一同をすっぽりおおったので、弟子たちは恐ろしさのあまり、がたがた震えだしました。　３５すると雲の中から「これはわたしの子、わたしの選んだ者。　この人の言うことを聞け」という声がしたのです。
３６　その声がやむと、イエスの姿しか見あたりません。　三人の弟子たちは、この時のことを、ずっとあとになるまで、だれにも話しませんでした。
山を降り、エルサレムを目指して進むイエス
３７　次の日、一行が山から降りて来ると、大ぜいの群衆が待ちかまえているところでした。　３８この時、群衆の中から一人の男が叫びました。「先生、どうかお助けを！　息子を見てやってください。　たった一人の息子なんです。　３９なのに、悪霊に取りつかれて……。　なにしろ、大声でわめくは、ひきつけを起こして口からあわを吹くはで、たいへんなんです。　それも一度や二度じゃないんで。　悪霊は何度も何度も取りついて、発作を起こさせ、なかなか離れようとしません。　４０そこで、ここにいらっしゃるお弟子さんたちに、悪霊を追い出してくださいとお願いしたのですが、だめでした。」
４１　イエスは弟子たちに言われました。　「ああ、全く手に負えない、不信仰な人たち

よ！　いつまで我慢しなければならないのでしょう。さあ、その子を連れて来なさい。」
４２　少年が近寄ると、悪霊はその子を押し倒し、激しくひきつけさせました。　イエスは悪霊に出て行けと命じ、すっかり元気になった少年を、父親の手に返してあげました。
４３　人々は、こんなことは神にしかできないと考え、恐ろしくなりました。
人々がイエスの巻き起こすさまざまの不思議なことについて、盛んにほめたてていた時、イエスは弟子たちにおっしゃいました。
４４　「いいですか、よく聞いて、しっかり覚えておきなさい。　メシヤ（救い主）のわたしは、やがて裏切られるのです。」　４５ところが弟子たちには、何のことか、さっぱりわかりません。　このことばの真意が隠されていたからです。　それに、何となくこわくて、聞き返すこともできませんでした。
４６　さて、弟子たちの間で、やがて来る神の国ではだれが一番偉いかという議論が持ち上がりました。　４７彼らの考えを見抜いたイエスは、小さな子供を一人そばに立たせて、４８お話しになりました。「だれでも、このように小さな子供を大切にする者は、実は、わたしを大切にしているのです。　またわたしを大切にする者は、わたしを遣わされた神を大切にしているのです。　わかりましたね。　最も謙そんな者が、ほんとうは最も偉大な者となるのです。」　４９弟子のヨハネが、そばに来て報告しました。　「先生。　無断であなた様のお名前を使い、悪霊を追い出している人を見かけました。　もっとも、仲間じゃなかったので、すぐやめさせましたがね。」
５０　ところが、イエスは言われました。　「そんなことをしてはいけません。　敵対しない者はみな、味方なのですから。」
５１　天に帰られる日がだんだん近づきました。　イエスは鉄のように強固な意志を内に秘め、エルサレムを目指して、ひたすら進んで行かれました。
５２　そんなある日、イエスは使いを出して、サマリヤ人の村で泊まろうとなさいました。
５３ところが、使いの者は追い返されてしまいました。　サマリヤ人が、エルサレムに向かう一行だとわかり、村に迎え入れるのをいやがったからです。
５４　このいきさつを聞いたヤコブとヨハネは、かっとなりました。「先生。　天から火を呼び下し、やつらを焼き滅ぼしてやりましょうか。」　５５しかし、イエスはふり返り、二人をおしかりになりました。　５６一行は別の村に向かいました。
５７　道を歩いている時、ある人がイエスに言いました。　「あなた様がおいでになる所なら、どんな所へでもまいります。」
５８　イエスはお答えになりました。　「これだけは、よく覚えておきなさい。　わたしには寝る所さえないのです。　きつねにも穴があり、鳥にも巣があるというのに、天から来たメシヤのわたしには、この地上には住む家もないのです。」
５９　またある時、イエスは一人の男に、弟子になるようにと声をおかけになりました。
男は承知しましたが、ただ父親が死んで葬式を出すまで待ってくださいと頼みました。
６０　イエスはお答えになりました。　「死人のことは、あとに残った者たちに任せてお

きなさい。　あなたの務めは、出て行って、世界中の人たちに神の国が来ると伝えることです。」
６１　別の人はこうも言いました。　「はい、先生。　喜んでお従いします。でもその前に、家族の許しを得てきたいのですが……。」
６２　しかし、イエスは言われました。　「ほんの片時でも、その人のために計画された仕事から目をそらす者は、神の国にふさわしくありません。」
一〇
伝道の心がまえ
１　さてイエスは、ほかに七十人の弟子を選び、これから訪問する予定の町や村に、二人一組で、先に派遣なさいました。
２　その時、次のような注意をお与えになりました。
「収穫はたくさんあるのに、働く人があまりにも少ないのです。ですから、収穫の責任者である主に、もっと大ぜいの働き手を送ってくださるように願いなさい。　３さあ、出かけなさい。　だがこれだけは忘れないように。　あなたがたを派遣するのは、まるで羊を狼の群れの中に送るようなものです。　４お金も旅行袋も、はき替えのくつも持たないで行きなさい。　途中、道草を食ってはいけません。
５　どんな家に入っても、神の祝福があるようにと祈りなさい。　６その家に祝福を受ける値打があれば、祝福はとどまるし、そうでなければ、あなたがたのところに返って来ます。
７　一つの村に入ったら、あっちこっちと家々を渡り歩いてはいけません。　同じ家に泊まり、とやかく言わずに、出される物をごちそうになりなさい。　ていねいなもてなしを遠慮することはありません。　働く者が報酬を受けるのは当然です。
８９喜んで迎えてくれる町では、次のことを守りなさい。　出された物は何でも食べることと、病人を治し、『神の国が、すぐそこまで来ている』と宣言すること、この二つです。
１０　しかし、歓迎してくれないような町では、大通りに出て、こう言いなさい。
１１　『あなたがたは必ず滅びます！　これがそのしるしです。　この町のちりは、足から払い落として行きます。　ただ、神の国がすぐそこまで来ていることは知っておきなさい。』
１２　よく言っておきましょう。　さばきの日には、あの邪悪な町ソドムのほうが、その町よりよっぽどましなのです。　１３ああコラジンよ。ああベツサイダよ。　どんな恐ろしいことが待ち受けていることか。　わたしがあなたがたにしたような奇蹟を、ツロとシドンでしたら、そこの人々はとうの昔に荒布をまとい、頭に灰をかぶって嘆き悲しみ、罪を悔い改めたことでしょう。　１４そうです。　さばきの日には、ツロとシドンのほうが、あなたがたより罰が軽いのです。　１５ああカペナウムの住民よ。　あなたがたはどうでしょう。　天に上げられるとうぬぼれている者たちよ。　思い違いもひどすぎます。　あなたがたは地獄に突き落とされるのです！」

１６　さらに続けて言われました。
「あなたがたを受け入れる人は、実は、わたしを受け入れているのです。　あなたがたを受け入れない人は、わたしを受け入れないばかりか、わたしを遣わされた神をも受け入れないのです。」
１７　その後、七十人の弟子たちは喜び勇んで旅行から帰り、イエスに報告しました。「あなた様のお名前を使うと、悪霊どもでさえ、言うことを聞きましたっ！」
１８　「そうです。　わたしは見ました。　まるでいなずまみたいに、サタンが天から落ちるのを。　１９あなたがたには、敵のあらゆる力に打ち勝ち、蛇やさそりを踏みつぶす権威を与えてあります。　だから、あなたがたに危害を加えるものなど、一つもないのです。　２０だが、悪霊どもが言うことを聞くからといって、いい気になってはいけません。何よりも大切なのは、あなたがたの名前が天国の市民として登録されていることなのです。」
２１　この時、イエスの心は、聖霊が与えてくださる喜びでいっぱいになられました。
「父よ。天地の主であるあなたをほめたたえます。　これらのことを頭のよい者や世渡りのうまい者たちには隠して、小さい子供のように神を信じきる者に示してくださいました。ほんとうに、ありがとうございます。　これが、あなたのお心にかなったことでした。　２２すべてのことで、わたしはあなたの代理を務めます。　あなただけが子のほんとうの姿をご存じですし、あなたをほんとうに知っているのは、子のわたしと、あなたを紹介しようと、わたしが選んだ者たちだけなのです。」
２３　それから弟子たちのほうを向いて、そっと言われました。
「あなたがたの目はなんと幸せなことでしょうか！　この上なくすばらしいものを見ているのですから。　２４大ぜいの昔の預言者や王たちは、あなたがたの見聞きしたことを、見たい、聞きたいと、どれほど願ったかしれません。　残念ながら、その願いはかなえられなかったのです。」
親切なサマリヤ人
２５　ある日、法律の専門家がわざわざやって来て、イエスを試そうとしました。　「先生。　ちょっとお聞きしたいんですが、天国で永遠に生きるには、何をしたらよろしいでしょうか。」
２６　「モーセの法律には、どう書いてありますか。」
２７　「心を尽くし、たましいを尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、自分自身を愛するようにあなたの隣人を愛しなさい、とございますが。」
２８　「そう、そのとおりにすればいいのです。　そうすれば、永遠に生きられます。」
２９　しかし法律の専門家は、自分がある種の人々を愛していないことを正当化しようと、「ですが……、隣人とはだれのことで？」と聞き返しました。
３０　イエスは直接答える代わりに、例をあげて説明なさいました。
「エルサレムからエリコへ旅をしていたユダヤ人が、強盗に襲われました。 強盗どもは、

身ぐるみはぎ取り、あり金全部を奪うと、殴ったり、蹴ったりして半殺しにし、道ばたに放り出してさっさと逃げて行きました。
３１　ちょうどそこへ、ユダヤの祭司が通りかかりました。　ふと見ると、旅人が倒れています。　でも、めんどうに巻き込まれたくなかったので、そそくさと道の反対側へ回り、何くわぬ顔で通り過ぎてしまいました。　３２しばらくすると、今度はレビ人〔神殿で奉仕する人〕が通りかかりましたが、彼も、倒れている旅人を横目でちらっとながめただけで、行ってしまいました。
３３　ところが、常日頃ユダヤ人に軽べつされていたサマリヤ人が、たまたま通りかかり、旅人を見つけました。　気の毒な有様に、心から同情したサマリヤ人は、　３４急いでそばにひざまずき、傷口に薬をぬり、包帯を巻いて応急手当をしました。　それから、自分のろばに乗せ、宿屋まで運んで、一晩中、看病してあげました。　３５翌日、宿屋の主人に六千六百円渡し、『あの人を介抱してあげてください。　足りない分は、帰りに寄ってお払いしますから』とくれぐれも頼みました。
３６　この三人のうちだれが、強盗に襲われた人の隣人になったと思いますか。」
３７　「もちろん、親切にしてやった人です。」この答えを聞くと、イエスは言われました。「そのとおりです。　あなたも同じようにしなさい。」
３８　エルサレムへの旅の途中で、イエスはある村に立ち寄られました。その村のマルタという名の婦人が、喜んで一行を家に迎えました。　３９マルタにはマリヤという妹がおりました。　マリヤは座り込んで、イエスの話にじっと聞き入っていました。
４０　一方マルタはというと、てんてこ舞の忙しさです。　「どんなごちそうで、おもてなししようかしら。　あれがいいかしら、それとも……。」気を使うことばかりです。　とうとうイエスのところへ来て、文句を言いました。　「先生。　私が、目が回るほど忙しい思いをしているのに、まあ、どうでしょう。　妹ったら、何もしないで座ってるだけなんですから。　不公平じゃございません？　少しは手伝いをするように、おっしゃってくださいな。」
４１　しかし主は、マルタに言われました。　「マルタさん。　あまり多くのことに気を使いすぎているようですね。　４２でも、どうしても必要なことはただ一つだけです。　妹さんはそれを見つけたのです。　わたしはそれを取り上げようとは思いません。」
一一
祈りについて
１　ある時、イエスは外で祈っておられました。　ちょうど祈り終えたところへ一人の弟子が来て、「主よ。　バプテスマのヨハネが弟子たちに教えたように、私たちにも祈りを教えてください」と願いました。
２　そこでイエスがお教えになった祈りは、こうでした。
「天のお父様。　あなたのきよい御名が、あがめられますように。
あなたの御国がすぐに来ますように。

３　私たちに日々必要な食物をお与えください。
４　私たちの罪をお赦しください。
私たちも、私たちに罪を犯した者を赦します。
私たちを誘惑に会わせないでください。」
５６祈りについての教えはまだ続きました。　それが、このたとえ話です。
「真夜中に、どうしてもパンを三つ借りなければならなくなって、友達の家に駆けつけたとします。　戸をどんどんたたき、大声を張り上げて、『迷惑をかけてすまないけど、突然のお客でねえ。　あいにく、家には一切れのパンもないんだよ。　お願いだから貸してくれないか』と頼みます。　７友達は何と答えるでしょう。　中から、『おいおい、かんべんしてくれよ。　いま何時だと思ってんだい。　戸じまりもしてしまったし、もうみんな寝てるんだ。　何も出してやれないよ』とどなり返すだけかもしれません。
８　だが、これだけは言えます。　友達だからというのでは何もしてくれなくても、しつこくたたき続けるなら、その根気に負けて、必要な物をみな出してくれるでしょう。　９祈りも同じです。　あきらめずに、求め続けなさい。　そうすれば、与えられます。　捜し続けなさい。　そうすれば、見つかります。　戸をたたきなさい。　そうすれば、開けてもらえます。　１０求める人は与えられ、捜す人は見つけ出し、戸をたたく人は開けてもらえるのです。
１１　パンをねだる子供に、石ころをあげる父親がいるでしょうか。　魚が食べたいと言うのに、毒蛇を与える親がいるでしょうか。　１２卵がほしいと言うのに、さそりをあげたりするでしょうか。　もちろん、あげるはずがありません。
１３　罪深い人間でさえ、子供には良い物をあげたいと思うのが人情です。　そうだとしたら天の父が、求める者に聖霊を下さらないということはありません。」
１４　ある時、イエスは悪霊に取りつかれて口がきけない男から、悪霊を追い出してあげました。　すると、どうでしょう。　男はぺらぺらしゃべりだしたのです。　その場に居合わせた人々はすっかり驚いてしまいました。　１５しかし中には、意地悪く中傷する人もいました。　「へん、別に驚くほどのことじゃないさ。　悪霊を追い出すことなんか朝飯前だろうよ。　なにしろやつは、悪霊の王ベルゼブル〔サタン〕の力をもらってるんだからな。」　１６またほかの人は、ほんとうにメシヤ（救い主）なら、その証拠に、何か不思議な奇蹟を天に起こしてほしいと求めました。
１７　そういう一人一人の考えを見抜いて、イエスは言われました。「内乱の絶えない国は滅びます。　争ったり、けんかばかりしている家庭も同じことです。　１８あなたがたの言うように、ベルゼブルがわたしに悪霊を追い出す力を与えて、自分自身と戦っているとしたら、どうしてサタンの国はやっていけるでしょう。　１９それにしても、あなたがたの仲間にだって、悪霊を追い出す人がいるではありませんか。わたしがベルゼブルの力で悪霊を追い出しているというのなら、彼らだってそうでしょう。　あなたがたの考えが正しいかどうか、その人たちに聞いてみたらどうです。　２０しかし、もしわたしが神の力

で悪霊を追い出しているとしたら、もう神の国があなたがたのところに来ている証拠です。
２１　強く、完全武装したサタンが宮殿を守っているうちは、彼の国は安泰です。　２２　しかし、もっと強く、もっと強力な武器を持った者が襲いかかったら、なんなく倒され、武器も持ち物も、一つ残らず取り上げられてしまうでしょう。
２３　わたしに味方しない者はみな敵です。 助けてくれない者は、じゃまをする者です。
２４　悪霊が人から追い出されると、別の住みかはないかと荒野をあちこちうろつき回ります。　ところが、やっぱり適当な場所が見つからないので、もとの所へすごすご戻って行きます。　２５見ると、以前の住みかはすみずみまで掃除が行き届き、きれいになっています。　２６こいつはしめたとばかり、自分より、もっとたちの悪い七つの悪霊を連れて来て、住みついてしまうというわけです。　そうなったら、その人の状態は以前よりずっとみじめになるのです。」
２７　こう話しておられると、群衆の中から、一人の婦人が感きわまって叫びました。「あなたのお母様はなんて幸せな方でしょう！　あなたを宿したお腹、あなたの吸った乳房はなんて祝福されているんでしょう！」
２８　「そのとおりです。　でも、神のことばを聞いて、そのとおり実行する人のほうが、もっと祝福されているのです。」
２９　群衆の数はどんどんふくれ上がる一方です。　イエスは教えを宣べ伝え始められました。
「今の時代は、悪人のはびこる悪い時代です。　人々は、寄ってたかって、メシヤなら、天に何か不思議なしるしを起こしてみせろと、しつこく求めます。　けれども、わたしが見せられる証拠はたった一つ、ヨナの奇蹟だけです。　３０ヨナの経験は、ニネベの人たちの目に、神がヨナを派遣されたことの明らかな証拠と映りました。　わたしも、このヨナと同じような経験をします。　それが、わたしをこの世の人たちのところへお遣わしになったのは神だという、動かぬ証拠となるのです。
３１　さばきの日には、シェバの女王が立ち上がり、この時代の人々を名指しで断罪します。　彼女は、ソロモンから知恵のことばを聞くために、あれほど遠い国からはるばる旅して来ることを、いとわなかったからです。　けれども、そのソロモンよりはるかに偉大な者が、ここにいるのです。　〔それなのに、だれ一人見向きもしません。〕
３２　ニネベの人たちも立ち上がり、この時代の人々に刑罰を宣告します。　彼らはヨナの教えを聞いて、それまでの堕落しきった生活を悔い改めたからです。　けれども、そのヨナより、もっと偉大な者が、ここにいるのです。　〔ところが、耳を傾ける人は一人もいません。〕
３３　ランプをつけて、わざわざそれを隠す人がいますか？　ランプは部屋を明るく照らすものだから、燭台の上に置かなければ、何にもなりません。　３４目は、心の中まで明るくします。　澄みきった目は、たましいの中まで光をとおします。　肉欲に汚れた目は、光をさえぎり、あなたを暗やみに閉じ込めてしまいます。　３５ですから、光がおおい隠

されないように、よく気をつけなさい。　３６内面が光に満ちあふれている人は、顔も、明るい光をあてられたように、はつらつと輝くことでしょう。」
偽善者のまちがい
３７３８話が一段落したところで、あるパリサイ人が、イエスを食事に招待しました。　イエスは誘われるまま彼の家に行き、食卓に着かれました。　ところが、その時、なぜか手をお洗いになりません。　この儀式は、ユダヤでは必ず行なう習慣でしたので、家の主人は全く意外だという顔つきで、まじまじとイエスをながめました。
３９　イエスは、おっしゃいました。　「あなたがたパリサイ人は、確かに外側はきれいに洗います。　しかし、内側はどうですか？　汚れたままで、貪欲や悪意がいっぱいではありませんか。　４０愚かな人たちです。　神は外側だけを造られたのですか。　もちろん、そんなことはありません。　神はちゃんと内側も造られたのです。　４１内面のきよさは行ないに表われます。　たとえば、どれだけ親切に、貧しい人たちを助けてあげるかによって、はっきりするのです。
４２　あなたがたパリサイ人は、実にいまわしいものです。　どんなわずかな収入でも、実にきちょうめんに十分の一をささげていながら、正義と神を愛することとは、きれいさっぱり忘れているのですから。　もちろん、十分の一献金は大いにけっこうです。　しかし、もっと大切なことをなおざりにしては意味がありません。
４３　あなたがたパリサイ人は、実にいまわしいものです。　会堂で特別席に座ったり、市場を歩いていて、みんなからていねいなあいさつを受けたりするのが、何よりの楽しみなのですから。　４４そんなあなたがたを待ちかまえているのは何でしょう。　そう、恐ろしいさばきです。　あなたがたはまるで、野原にある、人目につかない墓みたいです。人々は、汚れたものが近くにあるとは気づかず、平気であなたがたのそばを通り過ぎるのです。」
４５　そばに立って話を聞いていた法律の専門家が、我慢がならないといったふうに、食ってかかりました。　「失礼ですが、おことばがすぎませんか。　私たちまで侮辱なさるとは。」
４６　イエスは、言われました。　「そうではありません。　あなたがたにも恐ろしいさばきが待ち受けているのです。　とうてい実行できない命令を与えて、人々を押しつぶしておきながら、自分は守ろうともしないのですから。　４７あなたがたも、いまわしいものです。　昔、預言者を殺した先祖と、全くよく似ています。　４８人殺しとちっとも変わりません。　ずうずうしくも、先祖が殺した預言者の記念碑を建て、『ご先祖様は正しかった』と認めているのですから。　だから、あなたがただって、きっと同じことをしたでしょう。
４９　あなたがたのことを、神はこう言っておられます。　『わたしは、預言者や使徒たちを派遣します。　しかしあなたがたは、彼らを殺したり、迫害したりするのです。』
５０５１今の時代に生きるあなたがたは、世界が造られてからずっと、すなわち、アベル

が殺された時から、ザカリヤが神殿と祭壇との間で殺された時まで、神の預言者たちを殺し続けてきた責任を問われます。そうです。　確かにあなたがたには責任があるのです。
５２　法律の専門家たちよ、全くいまわしいものです。　人々の目から真理を隠しているのですから。　自分が真理を信じないばかりか、ほかの人たちが信じるチャンスさえ奪っているのです。」
５３５４これには、パリサイ人や法律の専門家たちも頭にきました。　この時からです。彼らがむずかしい質問を矢のようにあびせて、何とかイエスをわなにかけ、逮捕する口実を得ようとし始めたのは。
一二
神を恐れなさい
１　そのうちに、群衆の数はますますふくれ上がり、押し合いへし合いの有様です。　イエスはまず、弟子たちに警告なさいました。
「何よりも、パリサイ人の偽善ぶりに注意しなさい。　ほんとうは悪いことをたくらんでいるのに善人ぶる者たちのやり方にごまかされてはいけません。　２だが、そういう偽善は、いつまでも隠しおおせるものではありません。　やがて、パン生地の中のイースト菌のように、ふくれ始め、だれの目にもはっきりします。　３暗やみにまぎれて言ったことがみな、明るみで聞かれ、奥の部屋でささやいたことが、屋上から大声で宣伝されるのです。
４　親しい友よ。　体を殺しても、たましいには指一本ふれることができない者たちを恐れてはいけません。　５ほんとうに恐れなければならない相手を教えましょう。　殺したあとで、地獄に投げ込む力を持っておられる神を恐れなさい。　神こそ、ほんとうに恐れなければならないお方なのです。
６　雀五羽はいったいいくらですか。　たったの百円ではありませんか。　こんな雀一羽でさえ、神はお見捨てにならないのです。　７それどころか、あなたがたの髪の毛の本数さえご存じなのです。　恐れることはありません。　あなたがたは、たくさんの雀より、はるかに価値があるのですから。
８　次のことをはっきりさせておきましょう。　この地上で、わたしを友とはっきり認めるなら、メシヤ（救い主）のわたしも、神の使いの前で、確かにわたしの友だと認めます。９だが、もし人前で、わたしを知らないと言うなら、わたしも神の使いの前で、こんな人は見覚えもないと言います。　１０それでも、わたしに逆らうぐらいなら、何とか赦されます。　だが、聖霊に言い逆らう者は絶対に赦されないのです。
１１　裁判を受けるために、役人や会堂の権力者たちの前に引き出されても、どう釈明しようかなどと、くよくよ心配してはいけません。　１２聖霊が、時にかなったことばを教えてくださるからです。」
１３　その時、群衆の中から一人の男が叫びました。　「先生一っ！　どうぞ兄に、父の遺産を分けてくれるよう言ってください。」

１４　「はて、だれがわたしをそんなことの裁判官にしたのですか。」　１５続けてイエスは群衆に言われました。　「貪欲には、くれぐれも注意しなさい。　どんな物持ちでも、人のいのちは財産とは無関係なのですから。」
１６　そこで、たとえ話を一つなさいました。
「ある金持ちが、良い作物のとれる肥えた畑を持っていました。　１７倉はいっぱいで、収穫物を全部納めきれないほどです。　あれこれ考えたあげく、うまいことを思いつきました。　１８『こうすりゃいいんだ。　あの倉を取りこわして、もっと大きいのを建てる。そうすりゃあ、作物を全部納められるさ。』　１９ひとり悦に入った金持ちは、ふんぞり返って、われとわが身に言い聞かせたものです。　『もう何も心配はいらないぞ。　これから先何年分もの食料がたっぷりあるんだ。　のんびり、楽しくやろう。　さあ、酒だ、女だ、歌だっ！』
２０　しかし神は、こう言われました。　『愚か者よ！　あなたのいのちは、今夜にもなくなるのです。　そうしたら、ここにある物は、いったいだれのものになるのですか。』
２１　いいですか。　この地上でいくらお金をため込んでも、天国に財産を持っていない者はみな、愚か者なのです。」
２２　それから、また弟子たちのほうを向き、先をお続けになりました。
「ですから、言っておきましょう。　食べ物は十分か、着る物はどうか、といったことでいちいち気を使うのはやめなさい。　２３人のいのちは、食べ物や着る物よりどれだけ価値があるか知れないのです。　２４からすを見なさい。　種もまかず、刈り入れもせず、倉を持ってるわけでもありません。　それでもゆうゆうと構えていられるのは、神が養ってくださるからです。　神にしてみれば、からすなどより、あなたがたのほうが、よっぽど大切なのです。
２５　それに、くよくよしたところで、どうにもなりません。　心配すれば、寿命が一日でも延びるのですか？　２６こんな小さなことさえできない者が、もっと大きなことを心配したところで何になるでしょう。
２７　ゆりの花を見なさい。　別に働いているわけでもないし、紡いだり、織ったりするわけでもありません。　だが全盛時代のソロモンでさえ、この花ほど着飾ってはいませんでした。　２８今日は咲き誇っていても、明日はしぼんでしまう花でさえ、神はこのように装ってくださるのです。　そうだとしたら、疑い深い人たちよ、どうして、神がちゃんと着物を用意してくださるとは考えないのですか。　２９何を食べようか、何を飲もうかと食事の心配をするのはやめなさい。　神が用意してくださるのに、思いわずらってはいけません。　３０人はだれでも毎日のパンのためにあくせく働きます。　天の父が、必要なものはすべてご存じだというのに……。　３１神の国を第一に考えるなら、神は必要なものを毎日与えてくださるのです。
３２　たとい少数派でも恐れることはありません。　神は喜んで、あなたがたを神の国に導いてくださるのです。　３３持ち物を売り払って、貧しい人たちに分けてあげなさい。

そうすれば、天にある財布はふくらんでふくらんで、はち切れそうになること間違いありません。　ところが、この財布は破れもしなければ、穴があくこともないから、あなたがたの財産がなくなることは絶対にありません。　どろぼうに盗まれることも、虫に食われる心配もありません。　３４宝のある所に、心も思いも釘づけになるものだからです。
３５　きちんと身じたくを整え、あかりをともしていなさい。　３６主人が結婚披露宴から戻るのを待っている人のように。　こうしていれば、主人がノックすると同時に、戸を開けて迎えることができます。　３７そのように忠実な姿を見られる人は、ほんとうに幸せ者です。　主人は、感心な者だと思い、食卓で、反対に自分のほうから給仕してくれるでしょう。　３８主人の帰りは夜の九時になるか、真夜中になるか、かいもくわかりません。　しかし、いつ帰ってもいいように準備のできている人は、ほんとうに幸せ者です。
３９　どろぼうがいつ入るかわかっていれば、家人は、てぐすね引いて待ちかまえています。　同様に、主人の帰りが何時ごろか、はっきりわかっていれば、準備をして待つのはあたりまえです。　４０だから、いつでも用意していなさい。　メシヤのわたしは、思いがけない時に来るのです。」
４１　ペテロが、いぶかしげに尋ねました。　「主よ。　今の……お話は、私たちにだけ……話されたのですか。　それとも……、ここにいるみんなに……？」
４２‐４４イエスは、お答えになりました。
「では、こう言えばわかるでしょうか。　主人の留守中、ほかの召使たちの面倒を見る責任を負わされた、忠実で賢い人たちに話しているのです。　主人が戻った時、かいがいしく働いているところを見られるなら、ほんとうに幸せです。　主人に全財産を任されることになるでしょう。
４５　ところが、『ご主人様はまだまだお帰りになるまい』と高をくくり、いい気になって召使たちを打ちたたき、飲んだり食べたりのどんちゃん騒ぎをしていたらどうでしょう。
４６主人は出し抜けに帰って来て、この有様を見ます。　不届き者は、責任ある地位からはずされ、不忠実な者と同じ仕事につけられるのがおちです。　４７自分の義務を心得ながら、果たそうとしなかった罰です。
４８　だが、自分でも気がつかないうちに悪いことをした人の罰は、軽くてすみます。　だれでも多く与えられた者は多く求められ、多く任された者は多く要求されるのです。
４９　わたしは、この地上に火を投げ込むために来ました。　ああ、この仕事がもうすでに終わっていたらよかったのに。　５０恐ろしいバプテスマ（洗礼）が待っています。　それが成し遂げられるまで、どんなに苦しい思いをすることでしょう。
５１　このわたしが地上に平和を与えるために来た、とでも思っているようですが、とんでもない見当違いです。　それどころか、争いと分裂を引き起こすために来たのです。　５２今から後、家庭内に分裂が生じるでしょう。　五人家族だとすれば、三対二というぐあいに、わたしに賛成するか反対するかで分かれ争うことになるのです。　５３父親がわたしのことで決断を下すと、子供は逆らうでしょう。　母と娘との意見は一致しなくなり、

本来なら尊重されるしゅうとめの考えも、嫁にはねつけられてしまうでしょう。」
５４　それから、群衆に話しかけられました。
「あなたがたは天気を予測するのがとても上手です。 西の空に雲がわき上がれば、『やっ、にわか雨が来る』と言い、まさにそのとおりになります。
５５　また南風が吹けば、『やれやれ、ひどく暑い日になるぞ』とこぼし、それもまた、予測どおりになるのです。　５６偽善者たちよ！　これほど上手に空模様を見分けられるのに、目前に迫る危機についての警告には、少しの注意もはらおうとしないのですかっ！　５７どうして、何が正しいかを見分けようとしないのですか。
５８　裁判所へ行く途中、あなたを訴える人と出会ったら、裁判官の前に出るまでに、問題を解決するよう努力しなさい。　さもないと、牢獄に入れられてしまいます。　５９そうなったら、罰金を最後の一円までも払いきらなければ、出してもらえないのです。」
一三
救われる人は少ないのか
１　そのころ、ガリラヤ出身のユダヤ人が数名、エルサレムの神殿で供え物をしていた時、ピラトに殺害されたというニュースが、イエスに伝えられました。
２　これを聞いたイエスは、逆に、お尋ねになりました。　「あなたがたは、この人たちが、ほかの、どのガリラヤ出身の人よりも罪が深かったから、こんな災難に会ったと思うのですか。　３それは違います。　あなたがただって、今の悪い行ないをやめて神に立ち返らなければ、同じように滅びるのです。
４　そうそう、シロアムの塔の下敷きになって死んだ人がいました。確か……十八人でした。　彼らのことはどう思いますか。　エルサレムで一番罪深い人たちだったのでしょうか。　５とんでもありません。　あなたがたも罪を悔い改めないなら、同じように滅びるのです。」
６　そして、次のようなたとえ話をなさいました。
「ある人が、ぶどう園にいちじくの木を植えました。 そして、実がなっているかどうか、何度も何度も、見に行きました。　ところが、期待はいつも裏切られてばかりです。　７とうとう主人は頭にきて、『こんなろくでもない木は切り倒してしまえっ！』と番人に命じました。　『三年だぞ。　三年も待ったというのに、一つも実がならない。　もうこれ以上、手をかけることはない。　全く場所ふさぎもいいとこだ。』
８　すると番人が、何とか思いとどまらせようと、なだめにかかりました。 『まあまあ、ご主人様。　もう一年、もう一年だけお待ちください。　特に念入りに、肥料をやってみましょう。　９それで来年実がなれば、もうけもの。　だめで、もともとです。　それから切り倒しても遅くはありません。』」
１０　ある安息日のこと、イエスは会堂で教えておられました。　１１そこに、十八年もの間、腰が曲がったきりで、全然伸ばすことのできない女がいました。
１２　イエスは女をそばへ呼び、「さあ、あなたの病気は治りましたよ」とおっしゃいまし

た。　１３イエスがさわると、どうでしょう。　たちまち腰はしゃんとなったではありませんか。　女は喜びを抑えきれず、神をあがめ、賛美しました。
１４　ところが、会堂のいっさいの責任を持っていた、この地方のユダヤ人の指導者は、それが安息日だというので、もうれつに腹を立て、群衆に怒りをぶちまけました。　「よりによって安息日に病気を治してもらうなど、もってのほかだっ！　仕事のできる日は、一週間に六日もあるだろうが。　その間に治してもらえ。」
１５　「いいえ、あなたがたこそ偽善者です。　安息日に働いていないと言いきれるのですか。　安息日でも、家畜を小屋から出してやり、水を飲ませに連れて行くではありませんか。　１６わたしは今、十八年もの間サタンに束縛されていた、ユダヤ人の女を解放してあげたのです。たまたまそれが安息日だったからといって、どこがいけないのですか。」
１７　このイエスのことばに、敵対する者たちは、ぐうの音も出ず、恥じ入るばかりでした。　群衆はと言うと、イエスの行なったすばらしい奇蹟に大喜びです。
１８　そこでイエスは、神の国について教え始められました。
「神の国は何に似ているでしょう。　どういうふうに説明したらいいでしょう。　１９そう、神の国は畑にまいた小さなからしの種みたいです。　やがて、大きな木に生長し、鳥が枝に巣をかけるほどになるのです。　２０２１また神の国は、パン生地の中のイースト菌のようだとも言えます。　目には見えないけれども、少しずつ確実に作用して、パン全体を大きくふくらませるのです。」
２２　イエスは町々村々を通り、人々に教えながら、ひたすらエルサレムへと進んで行かれました。
２３　ある人がイエスに、「救われる人は少ないのでしょうか」と尋ねました。
　イエスはお答えになりました。
２４　「天国への戸は狭いのです。　できるかぎりの努力をして、そこから入りなさい。よく言っておきますが、入ろうとしても、入れない人が大ぜいいるのです。
２５　家の主人が戸を閉めてからでは遅すぎます。　外に立ち、どんどんたたきながら、『ご主人様一っ！　開けてくださーい、お願いでございまーす』と、なりふりかまわず頼んでも、中からは『おまえたちなんか、全然知らないね』と、冷たい返事が返ってくるだけです。
２６　それでもあきらめず、『何かのおまちがいでは？　私どもは、あなた様と食事をごいっしょしたこともありますし、大通りで、あなた様から教えていただきました』と食い下がります。
２７　けれども主人は、けんもほろろに答えるのです。　『おまえたちなど知らないと言うのが、聞こえんのかっ！　おまえたちのような悪党は、ここには入れないのだ。　とっとと行ってしまえっ！』
２８　アブラハム、イサク、ヤコブ、それに預言者たちもみな神の国に入っているのに、あなたがたはいつまでも外に立ち尽くして、泣きわめき、歯ぎしりするのです。　２９一

方人々は、あちらからもこちらからも来て、神の国に迎え入れられ、席に着きます。　３０いいですか。このことは肝に銘じておきなさい。　今は軽んじられている者が、その時には大いにほめたたえられ、今は重んじられている者が、その時には最も軽んじられるのです。」
３１　ちょうどその時、パリサイ人が数人、つかつかと歩み寄り、イエスに忠告しました。「いのちが惜しかったら、ここから出て行きなさい。　ヘロデ王があなたをねらっています。」
３２　イエスはお答えになりました。「あのきつねにこう言ってやりなさい。 今日も、明日も、わたしは悪霊を追い出し、病気を治します。　そして三日目に、目的を達成します。　３３そうです。　今日も、明日も、その次の日も、わたしは進んで行くのです。　神から遣わされた預言者が、エルサレム以外の場所で殺されることは、ありえないからです。
３４　ああ、エルサレム、エルサレム。　なんという町でしょう。　預言者たちを殺し、町を救うために遣わされた人たちを石で打ち殺すとは。　めんどりがひなを翼の下にかばうように、何度あなたの子供たちを集めようとしたことでしょう。　しかし、あなたがたは、それを拒んだのです。　３５だから今、あなたがたの家は、荒れ果てたまま見捨てられます。　はっきり言いましょう。　あなたがたが、『主の名によって来られる方、ようこそ』と言うその日まで、わたしの姿を二度と見ることはないのです。」
▪
一四
１２ある安息日のこと、イエスはパリサイ派の指導者の家に入られました。　パリサイ人たちは、その場にいた水腫の男をどうなさるかと、息をこらし、目をさらのようにして、イエスを見つめました。
３　するとイエスは、回りに立っているパリサイ人や法律の専門家たちに、「ところで、安息日に病気を治すことは、おきてにかないますか。　それとも……、違反でしょうか」とお尋ねになりました。
４　だれも、押し黙って答えません。　イエスは男の手を取り、病気を治してあげると、すぐに家にお帰しになりました。　５それから、面と向かってパリサイ人たちにお尋ねになりました。　「あなたがたのうちで、安息日に絶対働かない者がいますか。　息子や牛が穴に落ちたら、安息日だろうが何だろうが、すぐに引き上げてあげるのではありませんか。」
６　今度も、あえて答える者はいませんでした。
自分から名誉を求めるな
７　イエスは、宴会に招かれた人たちがみな、少しでも上席に座ろうとしているのに気づいて、こう忠告なさいました。
８　「結婚披露宴に招かれた時、いつでも上席に座ろうとしてはいけません。　あなたよりもっと名誉ある人が招かれていた場合のことを、考えてごらんなさい。　その人が姿を

見せたら、　９主人は、『あいすみませんが、こちらの方と代わっていただけませんか』と申し出るでしょう。　そうなると、赤恥をかいた上に、すごすごと末席に着かなければならないのです。
１０　招かれた時には、まず末席に座りなさい。　そうすれば、主人が来て、『さあさあ、ご遠慮なさらないで、もっと上席にお進みください』と勧めるでしょう。　あなたは居並ぶ客の前で面目を施すことになるのです。　１１自分から名誉を受けようとする人は低くされ、自分から、腰を低くする人は、身に余る名誉を受けるのです。」
１２　それから、食事に招いてくれた人にも、念を押されました。「宴会を開く時には、友人や兄弟、親類、それにお金持ちの知人などを招かないようにしなさい。　彼らはお返しに、あなたを招くからです。　１３むしろ、貧しい人や体の不自由な人、足の不自由な人や盲人などを招待しなさい。　１４幸い、そういう人たちはお返しができないので、やがて神を敬う者たちの復活の日に、神が手ずからその分を報いてくださるでしょう。」
１５　この忠告を聞いて、同席していた客の一人が、「神の国で食事をする、それ以上のしあわせ者はいないでしょうな」と言いました。
１６　イエスは、遠回しにたとえ話でお答えになりました。
「ある人が大宴会を催すことにして、大ぜいの人に招待状を送りました。　１７準備がすっかり整ったので、召使に、宴会が始まる時間です、とふれ回らせました。　１８ところがなんと、招待客はみな、そろいもそろって口実をつくり、出席を断わり始めたのです。一人は、ちょうど畑を買ったところなので、これから見に行かなければならないと断わり、１９ほかの人は、さっき五くびきの牛を買ったので試してみたいと言いわけをしました。２０またある人は、結婚したばかりで、それどころではないと断わりました。
２１　召使は戻り、ありのままを主人に報告しました。　主人はかんかんに怒りました。そして、『よし、それなら、今度は大通りや裏通りに行って、貧しい人や体の不自由な人、足の不自由な人、盲人たちを、片っぱしから招待して来い』と命じました。　２２そうやって客を集めても、会場にはまだ空席が目立ちます。
２３　それで主人は言いました。　『えーい。　もうこうなったら、家がいっぱいになるように、街道や垣根の外へ行って、出会った者はだれでもかまわん、無理にでも連れて来い。　２４初めに招待した者たちには、一口だって宴会の食事など出してやるものか。』」
２５　さて、イエスのあとには、大ぜいの群衆がぞろぞろついて行きました。　イエスはふり返り、彼らに言われました。
２６　「だれでも、わたしに従いたければ、父、母、妻、子、兄弟、姉妹以上に、いや自分のいのち以上にわたしを愛しなさい。　２７また、自分の十字架を背負い、わたしに従って来なければ、とてもわたしの弟子にはなれません。
２８　けれども、仕事に手をつけるのは、必要な経費を見積もってからにしなさい。　家を建てるのに、資金の見通しが立たないうちに建て始める人がいますか。　２９そんなことをすれば、土台を据えただけで、資金切れとなるかもしれません。　それこそいい物笑

いです。
３０　人々は、『よおよお、あのざまを見ろよ。　建てかけで金がなくなったんだとさ』とけなし、あざ笑うでしょう。
３１　また、一万の兵を持つ王が、二万の敵軍との交戦を考える時は、必ず参謀会議を開き、はたして勝ち目があるかどうか、あらゆる角度から検討するでしょう。
３２　どうしても勝ち目がないとわかれば、敵軍がまだ遠くにいるうちに、使者を送り、何としても講話条約を結ばなくてはなりません。　３３だれでも、まず座って、自分の持ち物を数え上げ、それを全部わたしのために捨てるのでなければ、わたしの弟子にはなれません。
３４　塩が塩けをなくしたら、何の役に立ちますか。　３５味のない塩など、肥やしにもなりません。　捨てるほかはないのです。　聞く耳のある人は、よく聞きなさい。」
一五
失われた者が見つかる喜び
１　イエスの教えを聞きに来る人たちの中には、あくどい取り立てをする取税人や札つきの悪党が、かなりいました。　２ユダヤ教の指導者や法律の専門家は、イエスがそういう問題の多い人々とつきあい、時には食事までいっしょにするのを見て、不平をもらしました。　３そこでイエスは、次のようなたとえ話をなさいました。
４　「羊を百匹持っているとします。　そのうちの一匹が迷い出て、荒野で行方がわからなくなったらどうしますか。　ほかの九十九匹は放っておいて、いなくなった一匹が見つかるまで捜し歩くでしょう。　５そして、見つかったら、大喜びで羊を肩にかつぎ上げ、６家に帰ると、さっそく友達や近所の人たちを呼び集めて、いっしょに喜んでもらうでしょう。
７　それと同じことです。　迷い出た一人の罪人が神のもとに帰った時は、少しも迷ったことのない九十九人を合わせたよりも大きな喜びが、天にあふれるのです。
８　もう一度、別のたとえで話してみましょう。　女の人が銀貨を十枚持っていました。ところが、どうしたことか一枚なくしてしまったのです。　この女は、ランプをつけ、家の中をすみからすみまで掃除して、その一枚を見つけるまで、必死で捜し回るでしょう。９そして、見つけ出したら、一人ではもの足りず、友達や近所の人を呼び、いっしょに喜んでもらうでしょう。　１０同じように、一人の罪人が罪を悔いて神のもとに帰った時、神の使いたちはたいへんな喜びにわくのです。」
１１　イエスはもっとよく説明しようと、また別のたとえ話もなさいました。
「ある人に息子が二人いました。　１２ある日、弟のほうが出し抜けに、『お父さん。　あなたが亡くなってからじゃなく、今すぐ財産の分け前がほしいんだけどな。　だめですか』と言いだしたのです。　それで父親は、二人にそれぞれ財産を分けてやりました。
１３　もらう物をもらうと、何日もたたないうちに、弟は荷物をまとめ、そそくさと遠い国に旅立ちました。　そこで放蕩に明け暮れ、全財産を使い果たしてしまいました。　１

４一文なしになった時、その国に大ききんが起こり、食べる物にも事欠く有様でした。　１５それで、その地方のある農夫に頼み込み、畑で豚を飼う仕事をもらいました。　１６あまりのひもじさに、豚のえさのいなご豆さえ食べたいほどでしたが、だれも食べる物をくれません。
１７　こんな毎日を送るうち、彼もやっと目が覚めました。　『あーあ、家なら雇い人にだって、あり余るほど食べ物があるだろうな……。　なのにおれときたら、なんてみじめなんだ。　こんなとこで飢え死にしかけてる。　１８そうだ。　家に帰ろう。　帰って、お父さんに頼もう。　「お父さん。　すみませんでした。　神様にも、お父さんにも、罪を犯してしまって……。　１９もう息子と呼ばれる資格はありません。　どうか、雇い人として使ってください。」』
２０　決心がつくと、彼は父親のもとに帰って行きました。　ところが、家までは、まだ遠く離れていたというのに、父親は息子の姿を、いち早く見つけたのです。　『あれが帰って来た。　かわいそうに、あんな、みすぼらしいなりで……。』こう思うと、じっと待ってなどいられません。　走り寄ってぎゅっと抱きしめ、口づけしました。
２１　『お父さん。　ごめんなさいっ！　ぼくは神様にも、お父さんにも、取り返しのつかないことをしでかしました。　もう息子と呼ばれる資格はありません……。』
２２　ところが父親は、使用人たちにこう言いつけたのです。　『さあさあ、何をぼやぼやしている。　一番よい服を出して、これに着せてやれ！　宝石のついた指輪も、くつもだ。　２３あっ、それから、肥えた子牛を料理して、盛大な祝宴の用意も忘れんようにな。２４死んだものとあきらめていた息子が生き返り、行方の知れなかった息子が帰って来たのだから。』こうして、祝宴が始まりました。
２５　ところで、兄のほうはどうでしょう。　その日も畑で働いていました。　家に戻ってみると、何やら楽しげな踊りの音楽が聞こえます。　２６いったい何事かと、使用人の一人に尋ねると、　２７『弟さんが帰られたのでございますよ。　だんな様は、たいへんなお喜びで、肥えた子牛を料理し、ご無事を祝う宴会を開いておられるのです』と言うではありませんか。
２８　事情を聞くと、無性に腹が立ってきました。　中に入るのさえしゃくにさわります。父親が出て来て、いろいろとなだめてみました。　２９それでも気持ちはおさまりません。『私はこれまで、お父さんのために汗水流して働いてきたんですよ。　言いつけにだって、ただの一度もそむいたことはありません。　なのに、友達と宴会を開けと言って、子やぎ一匹くれたことがありますか。　３０ところが、女にうつつを抜かし、あなたのお金を使い果たした弟のやつには、最上の子牛を料理して、お祭り騒ぎをするんですか』と、食ってかかりました。
３１　すると父親は言いました。　『いいか、よく聞きなさい。　おまえはいつだって、私のそばにいたじゃないか。　私のものは全部おまえのものだ。　３２だがな、考えてもみな。　あれはおまえの弟なんだよ。　死んだと思ってあきらめていたのに、無事に帰っ

て来たんじゃないか。　いなくなっていたのが見つかったんだから、お祝いするのはあたりまえじゃないか。』」
一六
神とお金の両方に仕えることはできない
１　さてイエスは、弟子たちにも話をなさいました。
「ある金持ちが計理士を雇いました。　ところが、この計理士はずる賢い男で数字をごまかしている、といううわさを聞きました。
２　さっそく金持ちは彼を呼びつけ、きつく言い渡しました。　『帳簿をごまかしているそうだな。　もっぱらのうわさだぞ。　なんてことだ。　こうなった以上、やめてもらおう。　報告書を整理しておくんだな。』
３　計理士は、はたと考え込みました。　『さて、どうしたものか。　首になるのは時間の問題だ。　日雇いをやるほどの力もないし、かといって、まさかこじきをするってわけにも……、だめだ、とてもプライドが許さない……。　４待てよ。　そうだ、こうしよう。これなら、首になっても大丈夫。　みんなが面倒を見てくれることまちがいなしだ。』
５　どうしたかと言うと、彼は雇い主からお金を借りている人を一人一人呼び出して、話し合ったのです。　まず、最初の人とはこんなぐあいに。　『主人にいくら借りがありますか。』　６『オリーブ油三千五百リットルです。』『そうですか。　えーと、これが証文ですね。　さあ破って、破って。　代わりに、その半分を借りたという証文を書くんですよ。』
７　次の人にも同じように。『あなたの借りはどのくらいですか。』『小麦三十トンです。』『いいでしょう。　これが証文……。　じゃあ、新しく二十五トンの証文を書いてください。　これと取り替えてあげるから。』
８　この抜け目のなさには、さすがの金持ちも舌を巻き、うまいやり方だ、とほめないわけには、いきませんでした。　確かに、この世の人々のほうが、神を信じる者たちよりずっと抜け目がないのです。　９不正の富を利用してでも、親しい友達をつくりなさい。　そうしておけば、富がなくなった時、親切にしてやった人たちが、永遠の天の住まいに迎え入れてくれるでしょう。　１０小さなことに忠実な人は、大きなことにも忠実です。　小さなことに不忠実な人は、大きな責任を与えられても、忠実に果たすことはできません。１１この世の富も任せられない人に、どうして、天にある、ほんとうの富を任せることができるでしょう。　１２他人の富に忠実でなかったら、あなたがたは自分の富さえ、任せてもらえないのです。
１３　だれも、二人の主人に仕えることはできません。　一方を憎んで他方に忠実であるか、あるいは、一方を重んじて他方は軽んじるようになるからです。　神とお金の両方に仕えることはできないのです。」
１４　何よりもお金に目のないパリサイ人たちは、当然のことながら、この話を聞いて、イエスをあざけりました。
１５　そんな彼らに、イエスは、おっしゃいました。　「あなたがたは、人前では、いか

にも上品でうやうやしい態度をとっています。　しかし神は、あなたがたの悪い心をお見通しです。　いくら人の目をごまかし、賞賛を受けても、神には憎まれるのです。　１６バプテスマのヨハネが現われて教えを説き始めるまでは、モーセの律法と預言者たちのことば（旧約聖書）が、あなたがたの指針でした。　しかしヨハネ以後は、神の国のすばらしい知らせが宣べ伝えられ、大ぜいの人がむりにでも入ろうと、押し合いへし合いしています。　１７だからといって、おきてのどんな細かい部分も、効力を失ったというわけではありません。　たとい天地が滅びようと、神のおきてはびくともしないのです。
１８　だから、妻を離縁してほかの女と結婚する者は、姦通罪を犯すことになり、離縁された女と結婚する者も同罪なのです。」
１９　イエスは話を続けられました。
「金持ちがいました。　きらびやかな服を着、ぜいたくざんまいの暮らしでした。　２０ある日のこと、その家の門前に、ひどい病気にかかったラザロというこじきが横になっていました。　２１金持ちの家の食べ残りでもいい、とにかく食べ物にありつきたいと思っていたのです。　かわいそうに、犬までが、おできだらけのラザロの体をなめ回します。　２２やがて、このこじきは死にました。　御使いたちに連れられて行ったのは、生前神を信じ、正しい生活を送った人たちのところでした。　そこで、アブラハムといっしょにいることになったのです。　そのうち、金持ちも死んで葬られましたが、　２３彼のたましいは地獄に落ちました。　苦しみあえぎながら、ふと目を上げると、はるかかなたに、アブラハムといっしょにいるラザロの姿が見えます。
２４　金持ちはあらんかぎりの声を張り上げました。　『アブラハム様ーっ！　どうぞお助けを。　お、お願いでございまーす。　ラザロをよこし、水に浸した指先で、ほんのちょっとでも舌を冷やさせてください。　この炎の中では、もう苦しくて、苦しくてたまりません。』
２５　しかし、アブラハムは答えました。　『思い出してもみろ。　おまえは生きている間、ほしい物はなんでも手に入れ、思うままの生活をした。　だがラザロはどうだ。　全くの無一物だった。　それで今は反対に、ラザロは慰められ、おまえは苦しむのだ。　２６それに、そちらへ行こうにも、間に大きな溝があって、とても行き来はできない。』
２７　『ああ、アブラハム様。　それならせめて、ラザロを私の父の家にやってください。　２８まだ五人の兄弟がいるのです。　彼らだけは、こんな目に会わせたくありません。　どうぞ、この恐ろしい苦しみの場所があることを、教えてやってください。』
２９　『それは聖書が何度も警告してきたことではないかね。　その気があれば、いつでも読めるはずだよ。』
３０　金持ちはあきらめません。　『でも、アブラハム様。　彼は、聖書を読みたがらないのでございます。　ですが、もしだれかが死人の中から遣わされて行ったら、彼らも罪深い生活から立ち直れるでしょう。』
３１　アブラハムはきっぱり言いきりました。　『モーセと預言者たちのことばに耳を貸

さないのなら、だれかが生き返って話したところで同じことだ。　彼らは聞こうとしないだろう。』」
一七
１　ある日のこと、イエスは弟子たちにお話しになりました。
「罪を犯させようとする誘惑は、いつもつきまとっています。　しかし誘惑する本人は、何ともいまわしいものです。　２これら小さい者の心を傷つける者は、首に大きな石をくくりつけられて、海に投げ込まれるほうが、よっぽどましです。
３　いいですか。　友達が罪を犯したら、注意してあげなさい。　そして悔い改めたら、赦してあげなさい。　４あなたに対して日に七度罪を犯しても、そのたびに『悪かった。赦してくれ』とあやまるなら、赦してあげなさい。」
からし種ほどの信仰
５　ある日、使徒たちが主に、「もっと信仰が強くなりたいんですが、どうしたらいいでしょう」と尋ねました。
６　イエスのお答えはこうでした。
「ほら、あそこに桑の木があるでしょう。　小さな、からしの種ほどの信仰でもあれば、あの木を根こそぎ海の中へ投げ込むことぐらい、ぞうさもないことです。　そう命令しさえすれば、たちまちそのとおりになります。　７‐９ところで話は変わりますが、畑を耕すか、羊の番をするかして一日中働いた奴隷が、帰って来るなりどっかと腰をおろし、食事を始めるなどということがあるでしょうか。　まず主人の食事のしたくをし、給仕をすませ、それからようやく、自分の食事をするのが普通です。　しかも、そうしたからといって取り立てて感謝されるわけでもありません。 当然のことをしたと思われるだけです。１０あなたがたがわたしに従って来るにしても同じことで、特別ほめられることではありません。　義務を果たしているにすぎないのですから。」
１１　一行はエルサレムを目指して進み､途中サマリヤとガリラヤの境を通りました。 １２ある村に入ると、十人のらい病人がずっと向こうのほうから、　１３大声で、「イエス様一っ！　どうぞお助けを！」と叫びました。
１４　イエスはそちらに目をやり、「さあ、祭司のところへ行き、らい病が治ったことを見せてきなさい」と言われました。　そのとおり出かけて行くと、途中で、らい病はきれいに治りました。
１５１６その中の一人が、イエスのところに引き返し、足もとにひれ伏して、「ありがとうございます。　おっしゃるとおり、すっかりよくなりました。　神様に栄光がありますように」と言いました。 実はこの人は、ユダヤ人から軽べつされていたサマリヤ人でした。
１７　「はて、十人全部を治したはずだが……、ほかの九人はどうしたのか。　１８神を賛美するために帰って来たのが、この外国人だけとは……。」
１９　こうおっしゃってから、イエスはその男に、「さあ、立ってお帰りなさい。　あなたの信仰があなたを治したのです」と言われました。

準備をして待て
２０　ある日、パリサイ人たちがイエスに尋ねました。　「神の国はいったい、いつ来るのですか。」
「神の国は、目に見える形では来ません。　２１『ここに来た』とか、『あそこに来た』とか言えないのです。　はっきり言いましょう。　神の国は、あなたがたの中にあるのです。」
２２　そのあとで、イエスは神の国についてもう一度、弟子たちにお話しになりました。
「まもなく、一日でいいからいっしょにいたいと願っても、わたしはもうここにはいない、という日が来ます。　２３その時にはまた、『イエス様は帰って来られた。　ここにおられるぞ』とか、『いや、あそこだ』というふうに、情報が乱れ飛ぶでしょう。　そんなうわさを信じたり、彼らのしり馬に乗ってあとを追いかけたりしてはいけません。　２４わたしが帰って来る時には、はっきりわかるからです。　ちょうど、いなずまが空の端から端までひらめき渡るように、一目瞭然なのです。　２５しかしその前に、わたしはひどい苦しみを受け、この国の人々全部から、つまはじきにされなければなりません。
２６　わたしが帰って来る時、人々は、かつてのノアの時代のように、神のことなどには、まるで無関心でしょう。　２７ノアが箱舟に入り、洪水が押し寄せ、何もかも滅ぼし尽くすまで、人々は飲んだり、食べたり、結婚したりの、いつもと変わらない生活をしていました。
２８　また、ロトの時代の人々とも、比べることができるでしょう。　当時も、人々はいつもと同じように、食べたり飲んだり、売ったり買ったり、植えたり建てたりの生活をしていましたが、　２９ロトがソドムの町を抜け出した日に、火と硫黄が天から雨あられと降り注ぎ、一人残らず滅ぼされてしまったのです。　３０わたしが再び来る時も同じです。その瞬間まで、『すべてがいつものとおり』なのです。
３１　その日、外出中の者は、荷物を取りに家へ戻ってはいけません。野良仕事をしている者も、家に帰ってはいけません。　３２ロトの妻がどんな目に会ったか、思い出しなさい。　３３だれでも、いのちにしがみつく者は失い、いのちを投げ出す者が、かえって自分のものにできるのです。　３４よく言っておきましょう。　その夜二人の男が一つの部屋に寝ていると、一人は天に上げられ、一人は残されます。　３５３６家事をしている二人の婦人のうち、一人は天に上げられ、一人は残されます。　また、畑でいっしょに野良仕事をしている二人の男も、同様です。」
３７　「主よ。　どこでそんなことが起こるのですか。」
「死体のあるところに、はげたかも集まるのです。」
一八
祈り続けなさい
１　ある日、イエスは弟子たちに、いつでも祈り、また答えられるまで祈り続けることを教えようと、一つのたとえ話をなさいました。
２　「ある町に、少しも神を恐れず、人を人とも思わない裁判官がいました。　３同じ町

に住む一人の未亡人が、たびたび、この裁判官のところへ押しかけ、『訴えられて困っています。　どうかお力添えを』と願い出ました。　４５裁判官はしばらくの間は、相手にもしませんでしたが、あまりのしつこさに、とうとう我慢できなくなりました。　彼は心の中でこう考えました。　『わしは神様だろうが人間様だろうが、ちっともこわくなんかない。　だが、あの女ときたひにゃ、うるさくてかなわん。　しかたがない。　裁判をしてやることにしよう。　そうすりゃあ、もう、わずらわしい思いをしなくてすむだろう。』」
６　主は続けて言われました。
「このように、悪徳裁判官でさえ音を上げてしまうのなら、　７まして神は、昼も夜もひたすら訴え続ける信者たちを、必ず正しく取り扱ってくださるはずでしょう。　そうは思いませんか。　８神はすぐに答えてくださるのです。　ただ問題は、メシヤ（救い主）のわたしが帰って来る時、いったいどれだけの人が信仰を持って祈り続けているかです。」
９　それから、自分の美徳を鼻にかけ、他人を軽べつする人たちに、こんな話をなさいました。
１０　「二人の男が祈るために神殿へ行きました。　一人は自尊心が強く、あくまでも自分を正しいと主張するパリサイ人、もう一人は、人のお金をだまし取る取税人でした。　１１高慢なパリサイ人は、胸を張って祈りました。　『神様。　ありがとうございます。　私はほかの連中、特に、ここにいる取税人のような罪人ではありません。　人をだましたこともなければ、姦淫したこともありません。　１２一週間に二回は必ず断食し、全収入の十分の一もきちんと献金しています。』
１３　一方、取税人は遠く離れて立ち、目を伏せ、悲しみのあまり胸をたたきながら、『神様。　罪人の私めを、あわれんでください』と叫びました。　１４よく言っておきますが、罪を赦されて帰ったのは、パリサイ人ではなく、この罪人のほうです。　高慢な者は卑しい者とされ、謙そんな者には大きな名誉が与えられるからです。」
１５　ある日のことです。　イエスにさわって祝福していただこうと、人々が子供たちを連れて来ました。　ところが弟子たちは、じゃまだとばかり、追い返そうとしました。
１６　するとイエスは、子供たちを呼び寄せ、弟子たちに言われました。「いいから、子供たちを自由に来させなさい。　追い払うなんてとんでもありません。　１７神の国は、この子供たちのように、素直に信じる心を持っている人たちのものなのです。」
天国に入るには？
１８　ある時、一人のユダヤ教の指導者がイエスに尋ねました。　「先生。　あなた様は尊いお方です。　そこでお聞きしたいのですが、天国に入るには、どうすればよろしいのでしょう。」
１９　「わたしのことを『尊い』と言いましたね。　それがどういうことか、わかっているのですか。　『尊い』方は、ほかのだれでもない、ただ神お一人だけです。
２０　それはそれとして、質問に答えましょう。　戒めは知っていますね。　姦淫してはいけない、殺してはいけない、盗んではいけない、うそをついてはいけない、父や母を敬

え、とあります。」
２１　「子供のころから、戒めはきちんと守ってきました。」
２２　「そうですか、でも一つだけ欠けたところがあります。　さあ、財産を全部売り払って、その代金を貧しい人たちに分けてあげなさい。天に宝をたくわえるのです。　それから、わたしについて来なさい。」
２３　このイエスのことばに、その人はがっくり肩を落として立ち去りました。　たいへんな金持ちだったからです。
２４　そのうしろ姿を食い入るように見つめていたイエスは、弟子たちに言われました。「金持ちが神の国に入るのは、なんとむずかしいことでしょう。　２５それよりは、らくだが針の穴を通るほうが、よっぽどやさしいのです。」
２６　これには弟子たちも驚き、思わず叫びました。「そんなにむずかしいのですかっ！だとしたら、救われる人などいるでしょうか。」
２７　「人間にはできません。　だが、神にはできるのです。」
２８　すかさずペテロが口をはさみました。　「私たちは家も捨てて、お従いしました。」
２９　「そうですね。　あなたがたのように、神の国のために、家、妻、兄弟、両親、子供を捨てた者はだれでも、３０この世ではその何倍もの報いを受け、やがて来る世では、永遠のいのちまでいただけるのです。」
３１　ここで、十二人の弟子たちをそばに呼び寄せ、特に言って聞かせられました。「あなたがたも知っているとおり、わたしたちはエルサレムへ行くところです。　そこで、昔の預言者たちのことばどおりのことが、わたしの身に起こります。　３２わたしは外国人の手に渡され、あざけられ、侮辱され、つばきをかけられ、　３３むちで打たれ、ついには殺されますが、三日目に復活するのです。」
３４　ところが弟子たちには、イエスの言われることが、さっぱりわかりません。　「先生はきっと、なぞをかけておられるのだろう」としか考えられませんでした。
３５　ほどなくエリコという所で、盲人が一人、道ばたに座り込み、通りがかりの人に物ごいをしていました。　３６大ぜいの人があわただしく通り過ぎ、あたりの様子も、何だかざわついてきました。　いったいどうしたのでしょう。　不思議に思った盲人は、そばにいた人をつかまえて尋ねました。　３７すると、ナザレのイエスのお通りだと言うではありませんか。　３８盲人は、この時とばかり大声で叫びだしました。「イエス様ーっ！ダビデ王の子よ！　どうぞお助けを！」
３９　イエスの前を進んで来た人たちが、黙らせようとしましたが、そうすればするほど、ますます大声でわめき立てます。　「ダビデ王の子よ！　お助けを！」
４０　その時、イエスはそばまで来て、つと足を止め、「あの人を連れて来なさい」と言われました。　４１それから、彼にお尋ねになりました。　「どうしてほしいのですか。」「見えるようになりたいんです！」
４２　「わかりました。　さあ、見えるようになりなさい。　あなたの信仰があなたを治

したのです。」
４３　その瞬間、彼の目は見えるようになりました。　そして、心から神をほめたたえながら、イエスについて行きました。　この出来事を見ていた人たちもみな、神を賛美しました。
一九
ザアカイの救い
１２イエスはエリコの町を通り過ぎるところでした。　この町には、ローマの税金取り立ての仕事をしているザアカイという男がいました。取税人の中でもとりわけ権力をふるっていた、たいへんな金持ちでした。　３さて、このザアカイも、ひと目イエスを見ようと思いましたが、なにぶん背が低いので、いくら背伸びをしても、人垣のうしろからは何も見えません。　４そこで、ずっと先のほうに走って行き、道ばたにあったいちじく桑の木によじ登り、見下ろしていました。
５　やがて、そこへ差しかかったイエスは、ザアカイを見上げると、彼の名を呼んで、「ザアカイさん。　早く降りてきなさい。　今晩はあなたの家に泊めてもらうつもりでいますから」と言われました。
６　ザアカイは急いで降りると、大喜びでイエスを家に迎えました。
７　しかし、これを見ていた人々の心中は、おだやかではありません。「なにも、あの札つきの悪党の家の客にならなくても……」と、ぶつぶつ文句を言いました。
８　一方、ザアカイは主の前で、こう告白したのです。　「先生。　今からは、財産の半分を貧しい人たちに分けてあげます。　税金を取り過ぎた人たちには、四倍にして払い戻します。」
９１０イエスは言われました。　「その告白こそ、今日この家に救いが来たことの動かぬ証拠です。　この人も迷い出たアブラハムの子供の一人なのだから。　メシヤ（救い主）のわたしは、実にこの人のような者を捜し出して救うために来たのです。」
１１　イエスがいよいよエルサレムに近づくのを見て、今すぐにでも神の国が実現するのではないか、と早合点した人々がいました。　そのまちがいを正そうと、イエスはたとえ話を一つなさいました。
１２　「ある所に身分の高い人が住んでいました。　やがてその地方の王に任命されるため、遠くの首都に出かけることになりました。　１３そこで、出発前に十人の家来を呼び寄せ、留守中に事業を始めるようにと、めいめいに六十万円ずつ渡しました。　１４ところがそこの住民の中には、その人が王になるのを快く思わない人々があり、反対の声明文を首都に送りつけたのです。
１５　さて、その人は王位を受けて帰ると、さっそく、資金を預けた家来たちを呼び集め、経過報告をさせました。
１６　最初の家来は、元金の十倍というすばらしい利益をあげたと報告しました。
１７　王は非常に喜び、『でかしたぞ！　感心なやつだ。 少しばかりのものにも忠実に励

んでくれた。　よし、ほうびに、十の町を治めさせよう』と言いました。
１８　次の家来が進み出て、元金の五倍の利益をあげたと報告しました。
１９　『よくやった！　おまえには五つの町を治めてもらおう。』王は上きげんで言いました。
２０　ところが、三番目の家来は、預かった資金をそっくりそのまま差し出すではありませんか。　『私はお金を大切に保管しておきました。　２１せっかくもうけても、横取りされてしまうのではつまりません。　あなた様はほんとうにひどい方で、ご自分のものでないものまで取り立て、他人の作った穀物さえ、取り上げるのですから。』
２２　王は激しく怒ってどなりつけました。　『なんて悪いやつだっ！　わしが、そんなにひどい人間だと言うのか。　よし、それなら思い知らせてやろう。　それほどよくわかっていたのなら、　２３なぜ、銀行に預けておかなかったのか。　そうすりゃあ、利息ぐらいついたのに。』
２４　王は側近の者たちに、『さあ、こいつからお金を取り上げ、一番多くもうけた者にやってしまえ』と命じました。
２５　『ですが王様。　あの者はもうすでに、たくさん持っていますが。』
２６　それでも、王は言いました。　『そのとおり。　だがな、いつでもそうだが、持っている者はさらに多く与えられ、持っていない者はそのわずかな物さえ失ってしまうのだ。２７それから、謀反を起こしたやつらのことだが、すぐにここへ引っ立てろ。　わしの目の前で死刑にしてやるがいい。』」
エルサレムを目前にして
２８　お話を終えると、イエスは先頭に立ち、エルサレムに向かわれました。　２９一行がオリーブ山のふもとのベテパゲとベタニヤの村に近づいた時、イエスは、先に弟子を二人、使いに出し、こう指示なさいました。　３０「さあ、あの村へ行って、道ばたにつないである、ろばの子を捜しなさい。　まだだれも乗ったことのないろばの子です。　見つけたら、綱をほどいて、連れて来るのです。　３１もしだれかにとがめられたら、『主がお入用なのです』とだけ答えなさい。」
３２　二人は、言われたとおり、ろばの子を見つけました。　３３さっそく綱をほどきにかかると、持ち主が来て、「何をしてるんだ。 おれたちのろばの子をどうしようってんだ」と聞きただしました。
３４　弟子たちは、「主がお入用なのです」と答え、　３５ろばの子を連れて来ました。 そして、その背中に自分たちの上着を敷き、イエスをお乗せしました。
３６３７イエスがろばの子に乗って進んで行かれると、大ぜいの人が次々と上着を脱ぎ、道に敷き並べました。　この一団がオリーブ山のふもとに差しかかった時、群衆の中から大きな声が上がりました。　イエスが行なわれたすばらしい奇蹟のことで、神を賛美し始めたのです。
３８　「神様がお立てくださったわれらの王に

祝福があるように。
天よ、喜べ。
いと高き天で、神様に栄光があるように！」
３９　群衆の中にいたパリサイ人たちは、これが気に入りません。　「先生。　あんなことを言ってます。　しかってください。」
４０　ところが、イエスはお答えになりました。　「それもいいでしょう。　だが、この人たちが黙っても、道ばたの石が叫びだします。」
４１　さらにエルサレムに近づいた時、イエスは都をごらんになり、はらはらと涙をこぼされました。　４２「永遠の平和が、すぐ手の届くところにあったのに、あなたはそれをはねつけてしまいました。　もう遅すぎます。　４３敵が、城壁に土塁を築き、あなたを包囲し、攻め寄せ、　４４子供たちもろとも、地面にたたきつけるでしょう。　一つの石もほかの石の上に残らないほど、完全に破壊されるのです。　せっかく神が機会を与えてくださったのに、それをはねつけた罰です。」
神殿での出来事
４５　このあと、イエスは宮に入り、境内で商売していた者たちを追い出しにかかられました。　そして、強い調子で言われました。　４６「聖書（旧約）に『わたしの神殿は祈りの場所と呼ばれる』と、はっきり書いてあるではありませんか。　それなのに、あなたがたは強盗の巣にしてしまったのです！」
４７　その日からイエスは、毎日、神殿で教え始められました。　一方、祭司長や他の宗教的指導者、それに町の実力者たちは、イエスを殺すうまい方法はないかと虎視眈々機会をねらっていましたが、　４８全く手出しができませんでした。　民衆がイエスをすっかり英雄視し、語られるひと言ひと言に、熱心に聞き入っていたからです。
▪
二〇
１　ある日、イエスが宮の中で人々を教え、神のすばらしい知らせを宣べ伝えておられるところへ、祭司長や、他の宗教的指導者たちが、イエスと対決しようと、やって来ました。
２彼らは、何の権威で商人たちを宮から追い出したのか、と詰め寄りました。
３　イエスはお答えになりました。　「答える前に、まず、わたしから質問しましょう。
４バプテスマのヨハネは神に遣わされて来たのですか。　それとも、ただ自分の考えを主張しただけですか。」
５　彼らは集まって、ひそひそ相談しました。　「ヨハネの語ったことが神様からの教えだと答えてみろ、逆にわなにかけられてしまうぞ。　６かといってなあ……、神様からじゃないと答えるわけにもいくまい。そんなことをしたら、今度は、群衆が襲いかかって来るだろう。 やつらはみな、ヨハネを預言者だと信じ込んでいるんだから。」 ７とうとう、「わかりません」と答えました。
８　イエスは、「そうですか。　では、わたしも答えません」とおっしゃいました。

９　それから、また人々のほうを向き、次のようなたとえ話をなさいました。
「ある人がぶどう園を造り、それを数人の農夫に貸して外国へ行き、長いこと、そこに住んでいました。　１０やがて、収穫の季節になりました。　主人は代理の者をやり、分け前を受け取ろうとしました。ところが、農夫たちはどうしたでしょう。　代理人を袋だたきにし、手ぶらで追い返したのです。　１１また別の代理人を送りましたが、彼もまた袋だたきにされ、さんざん侮辱されたあげく、手ぶらで追い返されました。　１２三人目の代理人も同じこと、傷を負わされ、ほうほうのていで逃げ帰りました。
１３　考えあぐねた主人は、一人つぶやきました。　『いったい、どうしたものか……。そうだ！　息子をやろう。　かわいいやつだ。　息子なら、きっと農夫たちも一目おくに違いない。』
１４　ところが、当の農夫たちは、主人の息子が来るのを見て、『おい、絶好のチャンスだぞ。　ありゃあ、跡取り息子だ。　さあ、あいつを殺っちまおうぜ。　そうすりゃあ、ぶどう園はおれたちのものよ』とささやき合いました。
１５　そのことばどおり、農夫たちは息子をぶどう園の外に引きずり出し、殺してしまいました。
さて、主人はどうするでしょう。　１６今度は自分で乗り込み、農夫たちを皆殺しにし、ぶどう園はほかの人たちに貸すに決まっています。」
この話を聞いていた人たちはみな、「そんな恐ろしいことがあるなんて、とても考えられません」と答えました。
１７　しかしイエスは、人々の顔をぐるりと見回しながら、おっしゃいました。「では、聖書（旧約）に、
『建築士たちの捨てた石が、
最も重要な土台石となった』
と書いてあるのは、どういう意味ですか。」　１８さらにことばをお続けになり、「この石につまずく者はみな、打ち砕かれます。　反対に、この石が落ちてくれば、だれもかれも、こっぱみじんです」と言われました。
１９　祭司長や宗教的指導者たちは、この話を聞いて、その悪い農夫とは、実は自分たちのことなのだと気づき、すぐにもイエスを捕らえたいと思いました。　しかし群衆の暴動がこわくて、どうにも手出しができません。　２０そこでローマ総督に報告できる逮捕の口実をつかもうと、何とかして不利になることを言わせようと、やっきになりました。　こうして機会をねらっていた彼らは、正直者のふりをしたスパイどもをイエスのもとにやり、２１こう質問させました。　「先生。　私どもは、あなた様がどんなに正直な教師か、よく承知しております。　あなた様はいつも真理を語り、他人の思わくなど気にせず、ひたすら、神の道を教えておられます。　２２それで、ぜひ、お教えいただきたいのですが……、ローマ政府に税金を納めるのは正しいことでしょうか。　それとも……。」
２３　彼らの計略は見えすいています。　イエスは言われました。　２４「銀貨を見せな

さい。　ここに刻まれているのは、だれの肖像、だれの名前ですか。」
「カイザル（ローマ皇帝）のもので。」
２５　「それなら、皇帝のものは、皇帝に返せばいいでしょう。　しかし、神のものはみな、神に返さなければなりません。」
２６　公衆の面前でイエスのことばじりをとらえようとするたくらみは、みごと失敗に終わりました。　彼らは、イエスの答えに恐れ入り、返すことばもありません。
２７　次にやって来たのは、死んでしまえばそれまでで、復活などありえないと主張していた、サドカイ人たち（神殿を牛耳っていた祭司階級。ユダヤ教の主流派）でした。
２８　「モーセの法律には、もしある人が子供のないまま死んだら、弟は残された未亡人と結婚しなければならず、二人の間にできた子供は、法律的には死んだ者の子として、その家を継ぐ、と書いてあります。　２９ところで、七人兄弟がいたとします。　長男は結婚しましたが、子供がないまま死んだので、　３０次男がその未亡人と結婚しました。　ところが、彼も子供ができずに死にました。　３１こうして、兄弟が次々にこの未亡人と結婚したのですが、七人とも子供がないまま死にました。　３２最後に、未亡人も死にました。　３３そこでお尋ねしたいのですが……、この女は復活の時、いったいだれの妻になるのでしょう。　兄弟みなが彼女と結婚したのですが。」
３４３５「結婚とは、この地上に住む人たちのものです。　死人の中から復活して、天国へ行く資格ありと認められた人たちは、結婚などしません。　３６二度と死ぬこともありません。　この点では、御使いと変わりなく、また、死人の中から新しいいのちへと復活したのですから、神の子供なのです。
３７３８しかし、あなたがたがほんとうに聞きたいのは、復活があるかないか、ということでしょう。　モーセ自身は何と書き残していますか。燃えさかる柴の中に現われた神とお会いした時、モーセは神を、『アブラハムの神様、イサクの神様、ヤコブの神様』と呼びました。　主が彼らの神と呼ばれている以上、彼らは生きているはずです。　死んだのではありません。　神の目から見れば、すべての人が生きているのです。」
３９　その場に居合わせたユダヤの法律の専門家たちは、「先生。 全く非の打ちどころのないお答えです」と言い、　４０あえてそれ以上、尋ねようとはしませんでした。
４１　すると今度は、反対にイエスが質問なさいました。　「あなたがたはどうして、キリストをダビデの子だと言うのですか。　４２４３ダビデ自身が、聖書（旧約）の詩篇の中でこう歌っています。
『神が私の主に言われた。
「わたしがあなたの敵を
あなたの足の下に置くまで、
わたしの右に座っていなさい。」』
４４キリストは、ダビデの子であると同時に神であるなどということがありうるでしょうか。」

４５　人々がイエスのことばに耳を傾けていると、イエスは弟子たちに言われました。
４６　「ユダヤ教の学者たちを警戒しなさい。　彼らはぜいたくな着物をきて歩き回り、通りで人々から、ていねいなあいさつを受けるのが何より好きです。 また会堂や宴会で、特別席に着くのも大好きです。　４７うわべは、さも信心深そうに、長々と祈りますが、その実、未亡人をだまして財産を奪い取ろう、とたくらんでいるのです。　こういう人々には、神から、最もきびしい罰が下るのです。」
二一
１　さて、宮の中でのことです。　イエスは、金持ちたちが次々と献金箱にお金を投げ込む様子を見ておられました。　２そこへ貧しい身なりの未亡人がやって来て、十円玉を二個そっと投げ入れました。
３　それを見たイエスは「実のところ、この女は、だれよりも多くささげたのです。　４ほかの人たちはあり余る中からほんのわずかだけささげたのに、この女は乏しい中から持っている全部をささげたからです」と言われました。
世の終わり
５　弟子たちの何人かが、神殿のすばらしい石細工や壁の飾りなどに目を奪われ、感心しながら話し合っていました。
６　するとイエスは、彼らに言われました。　「今は賞賛の的になっているこれらのものが、一つの石もほかの石の上に残らないほど、完全に破壊され、全くの瓦礫の山と化する日がもうすぐ来ます。」
７　「いつのことですか！　その前に、何か前兆があるのでしょうか。」驚いた弟子たちが、思わず叫びました。
８　イエスはお答えになりました。　「だれにもだまされないようにしなさい。　『私がキリストだ。　今こそ時が来た』と言いふらす者が大ぜい現われるからです。　そういう人々を、絶対に信じてはいけません。　９また、戦争や暴動が始まったという情報が乱れ飛んでも、あわてふためかないようにしなさい。　戦争は必ず起こりますが、すぐに終わりが来るわけではありません。　１０民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、　１１すさまじい地震が起こり、多くの国がききんに見舞われ、伝染病が流行し、恐ろしい異変が天に現われます。
１２　だが、このことが起こる前に、まず大迫害の時代が来るのです。あなたがたは、わたしを信じているばかりに、会堂や牢獄、また王や総督の前に、引っ立てられます。　１３その結果、かえってメシヤ（救い主）のことが広く知られ、あがめられるようになるのです。　１４だから、人々の訴えにどう釈明しようかと心配してはいけません。　１５答えることは、わたしが教えてあげます。　どんな反対者も反論できない、すばらしい答えです。　１６一番身近な人、たとえば両親、兄弟、親類、また友人などがあなたがたを裏切り、逮捕に一役買うようになるでしょう。　中には殺される者も出ます。　１７わたしの弟子だというので、あらゆる人があなたがたを憎むようになるでしょう。　１８だが、

あなたがたの髪の毛一本さえ、なくなることはありません。　１９忍耐強く忍び通せば、いのちを自分のものにできるのです。
２０　エルサレムが軍隊に包囲されるのを見たら、滅びの時が来たと思いなさい。　２１ユダヤにいる人たちは山へ逃げなさい。　エルサレムにいる人たちは市外へ逃げなさい。　地方の人たちは都に逃げ込んではいけません。　２２神のさばきの日だからです。　預言者が書いた聖書（旧約）のことばどおりのことが起こるのです。　２３その日、妊娠している女と乳飲み子をかかえた母親は、ほんとうに気の毒です。　この国に大きな苦難がふりかかり、神の怒りが下るからです。　２４人々は敵の手にかかってむごい殺され方をするでしょう。　また捕虜となって多くの国々に連れ去られたり、追放されたりする人もいます。　エルサレムは占領され、神の恵みの時が来て、外国人の勝利の期間が終わるまで、外国人に踏みにじられるのです。
２５　それから、天に不思議な現象が起こります。　太陽と月と星には不吉な前兆が現われ、地上では荒れ狂う海と高潮のために、諸国民はおじ惑い、大騒ぎとなります。　２６人々は、何か、とてつもなく恐ろしいことが起こるのではないかという不安にかられ、意気阻喪します。不動と信じられていた天そのものが揺れ動くのですから、むりもありません。　２７その時、地上にいる人々は、メシヤのわたしが、雲に乗り、力と輝かしい栄光を帯びてやって来るのを見るでしょう。　２８いま言ったようなことが起こり始めたら、しっかりと立ち、天を見上げなさい。　救いの時が近づいているのです。」
２９　このあとイエスは、人々にたとえ話をなさいました。
「いちじくの木やほかの木に注意しなさい。　３０葉が出てくれば、ああ、もうすぐ夏だなと思うでしょう。　３１同じように、こうした現象が起こるのを見たら、神の国はもうそこまで来ていると考えなさい。
３２　はっきり言いましょう。 このことが全部起こってから、世の終わりが来るのです。３３天と地とは消えてなくなります。　けれどもわたしのことばは、永遠に真実なものとして残るのです。
３４３５気をつけなさい。　わたしは不意に来ます。　その時になって、あわてふためかないようにしなさい。　どんちゃん騒ぎをしたり、酒におぼれたり、ほかの人々のようにこの世の心配事のために駆けずり回ったりしている姿を、見られないようにしなさい。　３６少しでも油断してはいけません。　できることなら、こんな恐ろしい目を見ずに、わたしの前へ出られるように、熱心に祈りなさい。」
３７３８イエスは毎日、宮で教えておられました。　人々は朝早くから、話を聞こうと詰めかけます。　こうして夜になると、オリーブ山に戻られるのが常でした。
二二
イエスを殺す陰謀
１　イースト菌を入れないパンを食べる、ユダヤ人の過越の祭りが近づきました。　２祭司長や他の宗教的指導者たちは、何とかイエスを殺そうと、あれこれ陰謀を巡らしていま

した。　群衆の暴動を引き起こさずにイエスを葬り去るうまい方法がないものかと、やっきになっていたのです。
３　さて、十二人の弟子の一人イスカリオテのユダの心に、サタンが忍び込みました。　４ユダはわざわざ祭司長や神殿の警備隊長たちのところへ出かけ、イエスを売り渡す一番よい方法を相談しました。　５この協力に彼らは大喜びでした。　ほうびをやる約束までしたほどです。　６それでユダは、群衆が回りにいない時にひそかにイエスを逮捕しようと、チャンスをうかがい始めました。
７　さて、過越の小羊を殺し、イースト菌を入れないパンといっしょに食べる、過越の日になりました。　８イエスはペテロとヨハネを先にやり、過越の食事をする場所を捜させました。
９　「どこへ行けば、よろしいでしょう。」
１０　「エルサレムに入るとすぐ、水がめを運んでいる男に出会うから、あとについて行きなさい。　１１彼が入った家の主人に、『私どもの先生が、弟子たちといっしょに過越の食事のできる客間を見せていただきたい、と申しておりますが』と言いなさい。　１２主人は、用意万端ととのった、二階の広間を見せてくれるでしょう。　そこで食事の用意をしなさい。　さあ、急いで。」
１３　二人が町に行ってみると、何もかも言われたとおりです。　こうして、食事の準備はできあがりました。
最後の晩餐
１４　やがて時間になり、一同は、その広間で、そろって食卓に着きました。　１５まず口を切ったのは、イエスです。　「苦しみの始まる前に、ぜひ、いっしょに過越の食事をしたいと思っていました。　１６今だから言いますが、神の国で過越が実現するまで、わたしは二度と過越の食事をしません。」
１７　それから、ぶどう酒の杯を取り、感謝の祈りをささげてから、こう言われました。「これを分け合いなさい。　１８わたしは神の国が来るまで、二度とぶどう酒は飲みません。」
１９　次にパンを取り、神に感謝してから、それをちぎり、弟子たち一人一人に分け与えながら言われました。　「これはあなたがたに与える私の体です。　わたしの記念に、食べなさい。」
２０　食事のあと、杯を弟子たちに渡して言われました。　「このぶどう酒は、神があなたがたを救ってくださるという新しい契約を保証するものです。　つまり、あなたがたのたましいを買い戻すために、わたしが流す血の代わりなのです。　２１それなのに、この食事にいっしょに座っている一人が、わたしを裏切るのです。　２２わたしは死ななければなりません。　それが神のご計画なのです。　だが、裏切り者には、どんな恐ろしいのろいが待ち受けていることでしょうか……。」
２３　弟子たちは、そんなことをするのは、いったいだれだろう、といぶかりました。

２４　それが一段落すると、やがて実現する御国で、だれが一番偉いかということで、ああでもない、こうでもないと議論を始めました。
２５　イエスは、この有様をご覧になって言われました。　「この世では、王や高官たちが、支配者として権力をほしいままにしています。　２６だが、あなたがたの間では違います。　一番よく人に仕える人こそ、指導者になるのです。　２７この世では、主人が食卓に着き、召使に給仕をさせます。　だが、あなたがたの間では、それではいけません。このわたしが給仕してあげるのですから。　２８だがあなたがたは、わたしにふりかかった、さまざまの試練の時に、よくいっしょに耐え抜いてくれました。　２９だから、父が、わたしに御国をお任せくださったように、わたしも、あなたがたにすばらしい特権をあげましょう。　３０御国で、わたしの食卓に着き、共に食事をする特権、また王座に座って、イスラエルの十二の部族をさばく特権です。
３１　シモン、シモン。　いいですか。　サタンがあなたがたを麦のように、ふるいにかけることを願い出ました。　３２だが、安心しなさい。　あなたの信仰が全くだめにならないように、祈ってあげました。　だから、悔い改めて立ち直った時には、仲間の者たちもしっかり立てるように、力づけてやりなさい。」
３３　するとシモンは、とんでもないといった顔で、きっぱりと言いきりました。　「主よ、何をおっしゃるのです！　私は牢獄までもついてまいります。　ごいっしょに死ぬ覚悟もできております。」
３４　「ペテロよ。　残念ですが、はっきり言います。　明日の朝、鶏が鳴くまでに、あなたは三度、わたしを知らないと言いはるでしょう。」
３５　それから、弟子たちにお尋ねになりました。　「前に、神のすばらしい知らせを伝えようと、あなたがたを派遣した時、わずかの金も、旅行袋も、着替えも持たせませんでした。　その時、旅先で何か不自由しましたか。」
「いいえ、ちっとも。」
３６　「だが今は、手持ちの物があれば、旅行袋も財布も持っていきなさい。　剣がなかったら、着物を売り払ってでも手に入れなさい。　３７『彼は罪人の一人に数えられた』という預言どおりのことが、わたしに起こるからです。　そうです。　預言者がわたしについて預言したことは、何もかも、そのとおりになるのです。」
３８　「先生。　剣なら二振りありますが。」
「そうですか、それで十分です。」
逮捕されたイエス
３９　それから、イエスは弟子たちと連れ立って部屋を出、いつものようにオリーブ山に行かれました。　４０「誘惑に負けないように、神に祈りなさい。」
４１４２こう言い残すと、イエスは、石を投げれば届くあたりまで歩いて行き、ひざまずいて祈り始められました。　「父よ。許していただけるなら、どうぞこの恐ろしい杯を取り除いてください。　ですが……、わたしの思いどおりにではなく、あなたのお心のまま

になさってください。」　４３この時、天から御使いが現われ、イエスを力づけました。　４４イエスは苦しみもだえながら、いよいよ力を込めて祈られます。　大粒の汗が、まるで血のしずくのように、したたり落ちました。　４５ようやく立ち上がり、弟子たちのところに帰って来ると、どうでしょう。　弟子たちは、悲しみのあまり、疲れ果てて眠り込んでいます。
４６　「どうして眠っているのですか。　さあ、起きなさい。　誘惑に負けないように、祈りなさい。」
４７　こう言い終わらないうちに、十二弟子の一人ユダに先導されて、大ぜいの暴徒が押し寄せました。　ユダはイエスに駆け寄り、さも親しげに頬にくちづけのあいさつをしました。
４８　しかしイエスは、あわれむように、「ユダよ。　あなたは、くちづけでメシヤ（救い主）を裏切るのですか」と言われました。
４９　この事態の急変に取り乱した弟子たちは、「戦いましょう、先生。やつらをたたき切ってやりましょう！」と騒ぎだしました。　５０そして一人が、大祭司の家来に襲いかかり、右の耳を切り落としました。
５１　「やめなさい。　それ以上手向かってはいけません。」イエスはこう命じてから、その家来の傷口にさわって、治されました。　５２次に、暴徒どもの先頭にいた祭司長、神殿の警備隊長、ユダヤ人の指導者たちに向かって言われました。「剣やこん棒とは。　こんなものものしい武装をしなければならないほど、わたしは凶悪犯なのですか。　５３なぜ神殿で捕らえなかったのですか。　毎日あそこにいたのに。　しかし、今はあなたがたの時、サタンが勝ち誇る時なのです。」
ペテロの大失敗
５４　人々はイエスを捕らえ、大祭司の家に引っ立てました。　遠くから、ペテロが、恐る恐るあとをつけて行きました。　５５家の中庭では、兵士たちがたき火を囲んで暖まっています。　ペテロもその中にまぎれて座り込んでいました。
５６　そのうち、一人の女中が火のあかりでペテロに気づき、「この人、イエスといっしょだったわ！」と叫びました。
５７　「と、とんでもない！　そんなやつは知らんよ！」ペテロはあわてて打ち消しました。
５８　しばらくすると、ほかの男が「いいや、おまえはやつらの仲間に違いない」と言い寄りました。　「違う、違う。　絶対そんなことはない！」ペテロはまた否定しました。
５９　一時間ほどたったでしょうか。　また別の男が、「おまえは確かにイエスの弟子だ。その証拠に、二人ともガリラヤ人じゃないか」ときめつけました。
６０　ペテロは夢中で否定しました。　「何のことだい！　さっぱりわからないぜ。」こう言うか言わないかのうちに、鶏の鳴き声が聞こえました。
６１　その瞬間、イエスはふり向き、ペテロを見つめられました。　ペテロは、はっと我

に返りました。　「あすの朝、鶏が鳴くまでに三度、わたしを知らないと言うだろう」というイエスのことばを思い出したのです。　６２ペテロは外へ走り出て、激しく泣きくずれました。
６３６４さて、見張りの警備員たちは、イエスをからかい始めました。　目隠しをしては、こぶしでなぐり、「おい、今なぐったのはだれだ。　さあ当ててみろよ、預言者様やーい」とはやし立てるなど、　６５ありとあらゆる侮辱を加えました。
６６　翌朝、夜がしらじらと明けそめるころ、ユダヤの最高議会が開かれました。　祭司長をはじめ、国中の指導者たちがみな勢ぞろいしています。　そこへ、イエスは引き出されました。　６７６８尋問が始まりました。　「ほんとうに、おまえはメシヤ（救い主）か。　はっきりしろ。」
「そうだと言ったところで、信じる気はもうとうないのでしょう。釈明させるつもりも。
６９しかし、栄光のメシヤであるわたしが、全能の神の右の座につく時は、もうすぐです。」
７０　議場は騒然、尋問する声も荒立ってきました。　「なにーっ！　あくまで神の子だと言いはるつもりかっ！」
「そのとおりです。」イエスはお答えになりました。
７１　「これだけ聞けば十分だっ！　こいつの口から確かに聞いたぞ。」議員たちは叫びました。
二三
イエス、死刑の判決を受ける
１　衆議一決。　全議員がうちそろって、イエスを総督ピラトのもとに引っ立てて行きました。　２そして、口々に訴えました。　「こやつは、ローマ政府に税金を納めるなとか、自分こそメシヤ（救い主）だの、王だのとぬかし、国民を惑わした不届き者でございます。」
３　ピラトはイエスに問いただしました。　「ほんとうに、おまえはユダヤ人のメシヤであり、王なのか。」
「そのとおりです。」
４　ピラトは祭司長や群衆のほうを向き、「この男には罪はないではないか」と言いました。
５　これを聞いて、人々は狂ったように叫びました。　「とんでもございません！　こやつはガリラヤからエルサレムまで、ユダヤ全国、至る所で民衆をたきつけ、暴動を起こそうとしたんですよっ！」
６　そこでピラトは、「では、この男はガリラヤ人なのか」と尋ね、　７人々がそうだと答えると、イエスをヘロデ王のもとへ連行するように命じました。　ガリラヤはヘロデの支配下にあり、その時ヘロデは、ちょうどエルサレムに滞在中だったからです。　８イエスに会えて、ヘロデは大喜びでした。　前々からイエスのうわさを耳にし、ぜひ一度、奇蹟を見たいものだと思っていたのです。
９　ヘロデはイエスを前にして、次から次へと質問をあびせました。ところがイエスは、きっと口をつぐみ、何一つお答えになりません。　１０祭司長や他の宗教的指導者たちも、

そばに立ち、激しい口調で訴えました。
１１　ヘロデと部下の兵士どもは、さんざんイエスをばかにし、あざけったあげく、王が着るようなガウンを着せて、ピラトのもとに送り返しました。　１２それまで敵対していたヘロデとピラトが、どういう訳か、たいそう親しくなったのは、この日からです。
１３　ピラトは､祭司長とユダヤ人の指導者たち､それに民衆もみないっしょに呼び出し、１４判決を言い渡しました。
「おまえたちは、この男を、ローマ政府への反乱を指導したかどで訴えた。　それで、くわしく調べてみたが、そのような容疑事実はない。　この男は無罪だ。　１５ヘロデも同じ結論に達し、私のもとに送り返してきた。　この男は死刑にあたるようなことは何もしていない。　１６だから、先端に鉛のついたむちで打ってから釈放しようと思う。」
１７１８しかし、人々はいっせいにわめき立てました。　「そいつを殺せっ！　バラバを釈放しろっ！」　１９バラバとは、エルサレムで、政府転覆を図った罪と殺人罪とで、投獄されていた男でした。　２０ピラトは、なんとかしてイエスを釈放しようと、なおも、群衆を説得しようとしましたが、　２１彼らは聞き入れません。　「十字架だっ！　十字架につけろっ！」と叫び続けるばかりです。
２２　ピラトは、三度目に念を押しました。　「どうしてだっ！　この男がどんな悪事を働いたというのか。　死刑を宣告する理由など見つからん。　だから、むち打ってから釈放してやるつもりだ。」　２３それでも、騒ぎはおさまりません。　ますます大声で、イエスを殺せとわめき立てる群衆の声に、ついに、ピラトも負けてしまいました。
２４　しかたがありません。　要求どおり、イエスに死刑を宣告し、　２５反逆罪と殺人罪で投獄されていたバラバを釈放しました。　イエスのほうは、すぐに人々の手に渡し、好きなようにさせました。
２６　イエスを刑場に引いて行く途中、田舎からエルサレムに着いたばかりの、シモンというクレネ人に会いました。　全く好都合です。　むりやり十字架を背負わせ、イエスのうしろから運ばせました。　２７大ぜいの群衆や、悲しみに打ちひしがれた婦人たちが、あとから、ぞろぞろついて行きます。
２８　イエスは婦人たちのほうをふり向き、とぎれとぎれに言われました。　「エルサレムの娘たちよ……。　わたしのために泣いてはならない。　自分と、子供たちのために、泣きなさい……。　２９いいですか……、子供のできない女のほうが、しあわせだ、と思われる日が、すぐにでも、来るのです。　３０その時、人々は……山に向かって、『私たちの上に倒れて、押しつぶしてくれっ！』と叫び、丘に向かって……、『私たちを埋めてくれっ！』と必死で、頼むでしょう……。　３１生木のわたしでさえ、こんな目に会うとしたら……、あなたがたのような……枯れ木同然の人たちには、いったい……どんなことが……起こるでしょう。」
イエスの十字架の死と埋葬
３２３３イエスだけでなく、ほかにも二人の犯罪者が、「がいこつ」と呼ばれる場所で処刑

されるために、引き立てられました。　刑場に着くと、いよいよ十字架刑です。　イエスは真ん中に、二人はその両側に……。
３４　その時、イエスはこう言われました。「父よ。　この人々をお赦しください。　自分たちが何をしているかわかっていないのです。」
　兵士たちがさいころを投げて、イエスの着物を分け合うのを、　３５群衆はそばで、おもしろそうにながめています。一方、ユダヤ人の指導者たちは、得意げにイエスをあざけりました。「たいしたお人好しよ。　他人ばかり助けてやってよ。　このざまは何だ。ほんとうに神様に選ばれたメシヤ（救い主）なら、自分を救ってみろ！」
３６　兵士たちも、酸っぱいぶどう酒を差し出しながら、皮肉たっぷりに、　３７「よおよお、ユダヤ人の王様っ！　ご自分を救ったらどうだい！」とからかいました。
３８　十字架のイエスの頭上には、「これはユダヤ人の王」と書いた罪状書きが、掲げてありました。
３９　イエスの横で十字架につけられていた犯罪人の一人までが、「あんたメシヤ様なんだってなあ。　だったらよお、自分とおれたちを救ってもよさそうなもんだぜ。　ええっ、どうなんだいっ！」とののしりました。
４０４１しかしもう一人は、それをたしなめました。　「この期に及んで、まだ神様を恐れないのかっ！　おれたちゃあ悪事を働いたんだから、殺されて当然さ。　だがよ、このお方はどうだ。　悪いことなんぞ、これっぽっちもしちゃおられないんだぜ。」　４２そして、イエスにこう頼みました。　「イエス様。　御国に入られる時、どうぞ、私を思い出してください。」
４３　イエスはお答えになりました。　「あなたは今日、わたしといっしょにパラダイスに入ります。　約束します。」
４４　その時です。　正午だというのに、突然、あたりが暗くなり、午後三時まで、そんな状態が続きました。　４５太陽は光を失い、神殿の幕が、なんと真っ二つに裂けたのです。
４６　その時イエスは、大声で、「父よ。　わたしの霊をおゆだねします！」と叫ばれたかと思うと、息を引き取られました。
４７　刑を執行していたローマ軍の隊長は、不思議な出来事を見て、神への恐れに打たれ、「確かに、この人には罪がなかった」と叫びました。
４８　また、十字架を見物に来ていた大ぜいの人も、この、イエスの最期の有様を見ると、みな深い悲しみに沈んで、すごすご家へ帰って行きました。　４９一方、ガリラヤからイエスに従って来た婦人たちやイエスの友人たちは、遠くから、じっとこの様子を見守っていました。
５０‐５２そのころ、ユダヤの最高会議の議員で、アリマタヤ出身のヨセフという人が、ピラトのもとに行き、イエスの遺体を引き取りたいと願い出ました。　彼はメシヤが来るのをひたすら待ち望んでいた神を敬う人物で、他の議員たちの決議や行動には、全然同意

していませんでした。　５３ヨセフは遺体を十字架から降ろし、長い亜麻布に包んで、岩をくり抜いた、新しい、まだだれも葬ったことのない墓に納めました。　５４これは、安息日の準備の日にあたる金曜日の、午後も遅いころのことでした。
５５　遺体が十字架から降ろされた時、ガリラヤから従って来た婦人たちは、ヨセフのあとについて行き、イエスが墓に納められるのを見届けました。　５６それから家に戻り、急いで、遺体に塗る香料と香油とを用意しましたが、すぐに安息日になったので、ユダヤのおきてに従って休みました。
二四
イエスは復活した！
１　日曜日の明け方早く、待ちかねた婦人たちは香油を持って墓に急ぎました。　２着いてみると、どうしたことでしょう。　入口をふさいであった大きな石が、わきへ転がしてあるではありませんか。　３中へ入って見ると、主イエスの体は影も形もありません。
４「いったい、どうなってるのかしら。」きつねにでもつままれたような気持ちです。　すると突然、まばゆいばかりに輝く衣をまとった人が二人、目の前に現われました。　５女たちは、もう恐ろしくて恐ろしくて、顔も上げられません。　地に伏したまま、わなわな震えていました。　その時、二人が声をかけました。　「なぜ生きておられる方を、墓の中で捜しているのです。　６７あの方はここにはおられません。　復活なさったのです。　まだガリラヤにおられたころ、何と言われましたか。　メシヤ（救い主）は悪い者たちの手に売り渡され、十字架につけられ、それから三日目に復活する、と宣言なさったではありませんか……。」
８　そう言われて女たちは、はっと思いあたりました。　９すぐさまエルサレムに取って返し、一部始終を、十一人の弟子やほかの人たちに話しました。　１０そのとき墓へ行った婦人たちは、マグダラのマリヤとヨハンナ、ヤコブの母マリヤ、そのほか数人でした。
１１ところが、男たちには、この話がまるで物語のようで、とても現実のこととは思えません。　だれも、まともに信じようとしませんでした。
１２　しかしペテロは、それでも一応は確認しなければ、と墓へ駆けつけ、身をかがめて中をのぞき込みました。　するとどうでしょう。　亜麻布のほかには、何も見あたりません。　この出来事に驚いて、家に戻って行きました。
１３　この同じ日曜日のことです。　二人の弟子が、エルサレムから十一キロほど離れたエマオという村へ急いでいました。　１４二人が道々話し合っていたことは、イエスの死のことでした。　１５そこへ突然、当のイエスが近づき、彼らと連れ立って歩き始めました。　１６しかし二人には、イエスだとはわかりません。　神がそうなさったのです。
１７　イエスがお尋ねになりました。　「何やら熱心にお話しのようですね。　いったい何が、そんなに問題なのですか。」すると二人は、急に顔をくもらせ、思わず足を止めました。
１８　クレオパというほうの弟子が、あきれたように、「エルサレムにいながら、先週起こ

った、あんな恐ろしい出来事を知らないなんて……、そんな人は、あなたぐらいのものでしょう」と言いました。
１９　「そうですか。　で、どんなことでしょうか？」
「ナザレ出身のイエス様のことをご存じないのですか。　この方は、信じられないような奇蹟を幾つもなさった預言者で､すばらしい教師でもあられたんですよ。 そんなわけで、神様からも人からも、重んじられていたんですが、　２０祭司長や他の宗教的指導者たちは、理不尽にもこの方をつかまえて、ローマ政府に引き渡し、なんと、十字架につけてしまったんですよ。　２１‐２３私たちは、この方こそ栄光に輝くメシヤで、イスラエルを救うために来られたに違いない、とまあ、こんなふうに考えていたんですがね……。　ところが、話はそれで終わらないんですよ。　弟子仲間の婦人たちが、なんとも奇妙なことを言いだしたんです。　その処刑があった日から、今日で三日目になるんですがね、今朝がた早く、その婦人たちが墓へ行ったところ、イエス様のお体は影も形もないと言うじゃありませんか。　しかもその場に御使いが現われて、イエス様は生きておられると語ったとか何とか……。　２４その話を聞いて、仲間のある者たちが墓へ駆けつけて確認したのですがね、彼らも口をそろえて、墓は空っぽだったと証言してるんですよ。」
２５　「ああ、どうしてそんなに、ものわかりが悪いのですか。　預言者たちが聖書（旧約）に書いていることを信じられないのですか。　２６キリストは、栄光の時を迎える前に、必ずこのような苦しみを受けるはずだと、預言者たちは、はっきり予告したではありませんか。」
２７　それからイエスは、創世記から始めて、聖書（旧約）全体にわたって次から次へと預言者のことばを引用しては、救い主についての教えを説き明かしました。
２８　そうこうするうち、そろそろエマオに近づきましたが、イエスは、まだ旅を続ける様子です。　２９二人は、じきに暗くなるから、今晩はここで、いっしょに泊まってくださいと熱心に頼みました。　それで、イエスもいっしょに家に入りました。　３０一同が食卓に着くと､イエスはパンを取り､神に祝福を祈り求め､ちぎって､二人に渡しました。
３１その瞬間、二人の目が開かれ、その人がイエスだとわかりました。と同時に、イエスの姿はかき消すように見えなくなりました。
３２　二人はあっけにとられながらも､「そう言えば､あの方が歩きながら語りかけてくださった時も、聖書のことばを説明してくださった時も、不思議なほど心が燃えたなあ」と言い合いました。　３３３４そして、すぐエルサレムへ取って返しました。　戻ってみると､十一人の弟子たちやほかの弟子たちが迎え､「主は､ほんとうに復活されたんだよ。 ペテロがお会いしたんだからまちがいない」と話すではありませんか。
３５　そこで二人も､エマオへ行く途中イエスと出会ったことや､パンをちぎられた時に､はっきりイエスだとわかったことなどを事細かに話しました。　３６ところが、この話の最中に、突然イエスが現われ、みんなの真ん中に立って、あいさつされました。　３７それなのに、だれもかれも幽霊を見ているのだと勘違いし、ぶるぶる震えています。

３８　「なぜそんなに驚くのですか。　どうしてそんなに疑うのですか。　３９さあ、この手を、この足を、よくごらんなさい。　わたしにまちがいないでしょう。　さあ、さわってみなさい。　これでも幽霊でしょうか。　幽霊だったら、体などないはずです。」　４０イエスはこう言いながら、手を差し出して釘の跡をお見せになり、また足の傷もお示しになりました。
４１　弟子たちは、うれしいにはうれしいのですが、まだ半信半疑です。心を決めかねて、ぼう然と突っ立っていました。　それでイエスは、「何か食べ物がありますか」とお尋ねになりました。
４２　焼き魚を一切れ差し上げると、　４３イエスはみんなの見ている前で召し上がりました。
４４　「以前、いっしょにいた時、モーセや預言者の書いたこと、それに聖書（旧約）の詩篇にあることはみな、必ずそのとおりになると話して聞かせたはずです。　忘れてしまったのですか。」　４５イエスが弟子たちの心の目を開かれたので、彼らにも、やっと納得がいきました。　４６イエスは、さらに先をお続けになりました。　「そうです。メシヤが苦しめられ、殺され、そして三日目に復活することは、ずっと昔から記されていたのです。　４７わたしのもとに立ち返る人は、だれでも罪が赦されます。　この救いの知らせは、エルサレムから始まり、世界中に伝えられるのです。　４８あなたがたはこのことの証人です。　初めから何もかも見てきたのですから。
４９　父が約束してくださった聖霊を送ります。　しかし、聖霊がおいでになり、天からの力で満たしてくださるまでは、だれにも話してはいけません。　この都にとどまっていなさい。」
５０　それからイエスは、一同をベタニヤまで連れて行き、手を上げて祝福してから、　５１天に帰って行かれました。　５２人々は、イエスを礼拝すると、喜びに胸を躍らせて、エルサレムに戻り、　５３いつも宮にいて、神を賛美していました。
▪

ヨハネの福音書（漁師ヨハネの記録）
ヨハネは漁師でした。　キリストを信じてから約三年の間、イエスに身近に接し、彼が普通の人と全く違うことを見いだしたのです。　それは、今まで出会った人には見られなかった権威あることばや、人々から恐れられ、敬われている学者や指導者に、はっきりとその間違いを正す態度、そして、神様に祈り求めてなされる数々の奇蹟等によってでした。
ヨハネは知ったのです。　イエスこそ、ご自分で言われるとおり、神のひとり子であり、この世の救い主であることを。

一
キリストこそほんとうの光
１２まだ何もない時、キリストは神と共におられました。　キリストは、いつの時代にも生きておられます。　キリストは神なのです。　３このキリストが、すべてのものをお造りになりました。　そうでないものは一つもありません。　４キリストには永遠のいのちがあります。　全人類に光を与えるいのちです。　５そのいのちは、暗やみの中でさんぜんと輝き、どんな暗やみも、この光を消すことはできません。
６７イエス・キリストこそほんとうの光です。　このことを証言させるために、神はバプテスマのヨハネをお遣わしになりました。　８ヨハネ自身は光ではなく、ただその光を指し示す証人にすぎません。　９後に、ほんとうの光である方が来て、全世界の人々を照らしてくださったのです。
１０　ところが、世界を造った方が来られたというのに、だれもこの方に気づきませんでした。　１１１２自分の国にいながら、自分の民のユダヤ人にさえ、受け入れてはもらえなかったのです。　この方を心から喜び迎えたのは、ほんのわずかな人にすぎません。　しかし、受け入れた人はみな、この方から、神の子供となる特権をいただきました。　それにはただ、この方が救ってくださると信じればよかったのです。　１３信じる人はだれでも、新しく生まれ変わります。　神が、そう望まれたのです。　人間の熱意や計画は全く関係ありません。
１４　キリストは人間となり、この地上で私たちと共に生活なさいました。　彼は恵みと真実の方でした。　私たちはこの方の栄光を目のあたりにしました。　それは天の父のひとり子としての栄光でした。
１５　ヨハネは人々にキリストを紹介しました。「私が今まで、『まもなく来られる方は、私よりはるかに偉大な方だ。　私が生まれるずっと前からおられたからだ』と口をすっぱくして言ってきたのは、まさにこの方のことなのだ。」　１６この方の恵みは尽きるところを知りません。　私たちはみな、次から次へと、あふれるばかりに恵みをいただきました。
１７モーセはきびしい命令と、情け容赦もない法律とを与えただけでしたが、イエス・キリストはその上に、愛に満ちた赦しの道を備えてくださったからです。　１８いまだかつて、実際に神を見た人はいません。　しかしもちろん、神のひとり子だけは別です。　御

子は、父なる神といつもいっしょですから、神について知っていることは、何でも教えてくださったのです。
ヨハネの証言
１９　ユダヤ人の指導者たちは、エルサレムから、祭司とその助手たちとをヨハネのもとへ派遣し、「おまえはキリストか」と問いたださせました。
２０　ヨハネは、「とんでもない」と、きっぱり否定しました。
２１　「そうか。　では、いったい何者だ。　エリヤか。」
「いや、違う。」
「すると、あの預言者か。」
「いや。」
２２　「では、いったい何者か。　はっきりしてくれ。　私たちは帰って報告しなければならないのだ。　ええっ、おまえは何者なのだ。」
２３　「私は、イザヤが預言した、あの、荒野から聞こえる叫び声にすぎない。　『主を迎える準備をせよ』と叫ぶ声、あれが私だ。」
２４２５パリサイ人（特におきてを守ることに熱心なユダヤ教の一派）から派遣された人たちは、なおも問い詰めました。　「キリストでも、エリヤでも、あの預言者でもないのなら、いったいどんな資格でバプテスマ（洗礼）を授けているのか。」
２６　ヨハネは答えました。　「私はただ、水でバプテスマを授けているだけだ。　しかし、ここにいる人々の中には、あなたがたのまだ知らない方がおられる。　２７まもなく、あなたがたの間で働きを始められるだろう。　私には、その方のしもべとなる資格もないのだ。」
２８　この出来事は、ヨハネがバプテスマを授けていたヨルダン川の東岸にある、ベタニヤ村で起こりました。
２９　翌日のことです。　ヨハネは、イエスが来られるのを見て、言いました。　「ご覧なさい！　この方こそ、世の人々の罪を取り除く神の小羊だ。　３０ああ、『まもなく、私よりはるかに偉大な方がおいでになる。　私よりずっと前からおられる方だ』と常々話していたのは、この方のことだったのだ。　３１今までは、この方だとわからなかった。　だが、私がここで水のバプテスマを授けているのは、まさにこの方を、イスラエルの人々に紹介するためだったのだ。」
３２　ヨハネはさらに続けました。　「確かに、聖霊様が鳩のように天から下り、この方の上にとどまられるのを見た。
３３　初めは私も、この方がその方だとはわからなかった。　だが、バプテスマを授けさせるために私を遣わす時、神様はこう言われたのだ。『もし、聖霊がだれかに下り、その上にとどまるのを見たら、その方こそ、あなたの捜し求める方、聖霊のバプテスマをお授けになる方だ。』　３４そのとおりのことが、この方に起こった。　しかと、この目で見たのだ。　この方は神の子にまちがいない。」

イエス、弟子を集める
３５　その翌日、ヨハネは二人の弟子といっしょに立っていました。　３６目を上げると、イエスが歩いておられるではありませんか。　その姿を食い入るように見つめながら、ヨハネは、「ご覧なさい。　神の小羊だっ！」と言いました。
３７　これを聞いた弟子は二人とも、急いでイエスのあとを追いかけました。
３８　その足音にイエスはふり向かれ、二人を見てお尋ねになりました。「おや、何かご用でしょうか？」
「失礼ですが、先生。　どちらにお住まいで？」
３９　「いっしょに来なさい。　すぐにわかりますよ。」こう言われて二人は、イエスの泊まっておられる所までついて行きました。 だいたい午後四時ごろだったでしょうか。 その日は、それからずっと、イエスといっしょにいました。　４０二人のうち一人は、シモン・ペテロの兄弟アンデレでした。
４１　それから、アンデレはシモンを捜し出し、「とうとうメシヤ〔訳すとキリスト〕様にお会いしたよ」と言いました。　４２そして、彼をイエスのところへ引っ張って行きました。
　イエスはシモンをじっと見つめられ、「あなたはヨハネの子シモンですね。 だがこれからは、ペテロ、つまり『岩』と呼ばせてもらいますよ」と言われました。
４３　その翌日、イエスは、ガリラヤへ出発なさいました。　途中、ピリポを見つけ、「さあ、ついて来なさい」と言われました。　４４ピリポは、アンデレやペテロと同郷で、ベツサイダの出身だったのです。
４５　ピリポはナタナエルを捜しに行き、会うなり言いました。
「メシヤ（救い主）様にお会いしたぞ。　モーセや預言者たちが言ったあのお方だよ。　ナザレ出身のイエスという方なんだ。　ヨセフという人の息子さんだそうだ。」
４６　「ナザレだって！」ナタナエルはびっくりしました。　「あんな所から、すぐれた人物なんか出っこないぜ。」
　しかしピリポは、「まあまあ、とにかく来てみろよ。 自分の目で確かめたらいいだろう」と言いはります。
４７　ナタナエルも行ってみる気になりました。　イエスは、歩いて来るナタナエルの姿に目をとめておっしゃいました。
「根っからの正直者がやって来ます。　この人こそ生粋のイスラエル人です。」
４８　「どうして、おわかりなのですか。」ナタナエルは聞き返しました。
「見ましたよ。　ピリポがあなたに会う前に、いちじくの木の下にいたのを。」
４９　「先生。　あなた様は神の子、イスラエルの王です！」
５０　「そう信じるのは、あなたがいちじくの木の下にいるのを見たと、わたしが言ったからですか。　だが、それよりはるかにすばらしい証拠があります。　５１天が開けて、神の使いたちがメシヤのわたしをとおって行き来するのを、やがて、あなたがたは見るの

です。」
二
イエス、水をぶどう酒に変える
１　それから三日目に、ガリラヤのカナという村で結婚式があり、イエスの母マリヤは、客として出席しました。　２イエスと弟子たちも招待されました。　３ところが、宴会の最中だというのに、ぶどう酒が切れてしまったのです。　マリヤは、そのことをイエスに知らせました。
４　イエスは、「今はだめですよ、お母さん。　まだ、奇蹟を行なう時ではありませんから」と、お答えになりました。
５　しかし、マリヤは手伝いの者たちに、「この人の言いつけどおりになさってね」と申し渡しました。
６　さてそこには、石の水がめが六つありました。　ユダヤ教の儀式に使う水がめで、それぞれ八十リットルから百二十リットルぐらい入るものです。　７イエスは手伝いの者たちに、「さあ、縁までいっぱい水を入れなさい」と指示なさいました。　彼らがそのとおりにすると、　８「いいでしょう。　では今度は、それを汲んで、宴会の世話役のところへ持って行きなさい」と言われました。　彼らは、言われるままに持って行きました。
９　宴会の世話役が試しに一口味わってみると、おいしいぶどう酒です。　「こんな上等の酒を、いったいどこから出してきたんだろう」と首をかしげました。　〔もちろん手伝いの者たちは何もかも知っています。〕そこで、花婿を呼び出して、　１０言いました。
「これは極上のぶどう酒じゃないですか。　あなたは並みの方じゃありませんね。　たいていどこの家でも、初めに良いぶどう酒を出し、酔いがまわって味がわからなくなると、安物でごまかすものですよ。　ところがあなたは、一番上等なものを、最後まで取っておかれたんですからね。」
１１　このガリラヤのカナでの奇蹟は、イエスが神の力を公に示された最初のものでした。これを見て、弟子たちは、「イエス様は正真正銘のメシヤ（救い主）だ」と信じたのです。
１２　その結婚式のあと、イエスは、母や兄弟、弟子たちといっしょにカペナウムへ行き、数日間、滞在されました。
イエス、エルサレム神殿をきよめる
１３　ユダヤ人の過越の祭りが近づき、イエスはエルサレムへ行かれました。
１４　そして、宮の境内で、供え物用の牛、羊、鳩を売る商人たちや、勘定台を前にどっかと座り込んでいる両替人たちをごらんになりました。　１５あまりの有様に、イエスはなわでむちを作り、商売人たちをみな追い出され、鳩や羊や牛を追い散らし始められました。　次々に両替人の勘定台をひっくり返されるので、お金はあたり一面に散らばり、足の踏み場もありません。　１６鳩を売る者たちには、「それを持って、出て行きなさい。　父の家を金もうけの場所にしてはいけません」と、言われました。
１７　そのとき弟子たちは、「神の家を思う熱心が、わたしを焼き尽くす」という、聖書（旧

約）の預言を思い出したのです。
１８　おさまらないのは､ユダヤ人の指導者たちです。 かんかんになって抗議しました。 「いったい何の権利があって、この人たちを追い出すのかっ！　そんな権威を神様から与えられてるんだったら、その証拠に奇蹟を見せてもらおうじゃないか。」
１９　イエスはお答えになりました。 「わかりました。 この神殿をこわしなさい。 三日で建て直してみせましょう。」
２０　「何だってっ！　この神殿は建てるのに四十六年もかかったんだ。それを三日で建てると言うのかっ！」ユダヤ人たちはあきれ返りました。　２１しかしイエスが「この神殿」と言われたのは、自分の体のことだったのです。　２２イエスが復活されてから、弟子たちは、このことを思い出しました。　そして、イエスは自分のことを、聖書のことばを引用して話されたのであり、何もかもそのとおりになったと、改めて納得がいったのです。
２３　過越の祭りの時､イエスがエルサレムで奇蹟を行なわれたので､多くの人が､「この方は確かにメシヤ（救い主）様だ」と信じるようになりました。　２４２５しかしイエスは、そういう人々を信用されたわけではありません。　人間がどれほど変わりやすいものか、その心の底の底まで、知り尽くしておられたからです。
三
新しいいのちが与えられる
１２とっぷり日も暮れたある夜のこと、パリサイ人で、ニコデモという名のユダヤ人の指導者が、イエスに会いに来ました。　「先生。　だれもみな、あなた様が神様から遣わされた教師であることを存じ上げております。　あなた様のなさる奇蹟を見ればもう、わかりきったことでございます。」
３　「そうですか。 でもよく言っておきますが､あなたはもう一度生まれ直さなければ､絶対に神の国へは入れません。」
４　ニコデモは､思わず大声で叫びました。 「ええっ､もう一度生まれるのですか！　いったい、どういうことですか。　年をとった人間が母親の胎内に戻って、もう一度生まれるんですか。　そんなこと、できっこありませんよ。」
５　「よく言っておきますが、だれでも水と御霊によって生まれなければ､神の国へは入れません。　６人間からは人間のいのちが生まれるだけです。　けれども聖霊は、天からの、全く新しいいのちを下さるのです。　７もう一度生まれなければならない、と言われたからといって、驚くことはありません。　８風は、音が聞こえるだけで、どこから吹いて来るかも､どこへ行くのかもわかりません。 御霊だって同じことです。 次はだれに､この天からのいのちが与えられるか、まるでわからないのです。」
９　「それはいったい、どういうことで？」
１０　「あなたはみんなに尊敬されているユダヤ人の教師ではありませんか。　このようなこともわからないのですか……。　１１わたしは知っていること、見たことだけを話し

ているのです。　それなのに、あなたがたは信じてくれません。　１２人間の世界で現に起こっていることなのですよ。　それも信じられないくらいなら、天で起こることなど、話したところで、とても信じられないでしょう。　１３メシヤ（救い主）のわたしだけが、この地上に下って来て、また天に帰るのです。　１４モーセが荒野で、青銅で作った蛇を、さおの先に掲げたように、わたしも木の上に上げられなければなりません。　１５わたしを信じる人はだれでも、永遠のいのちを持つためです。」
１６　実に神は、ひとり子をさえ惜しまず与えるほどに、世を愛してくださいました。　それは、神の御子を信じる者が、だれ一人滅びず、永遠のいのちを得るためです。　１７神がご自分の御子を世にお遣わしになったのは、世に有罪判決を下すためではありません。救うためです。
１８　この神の子に救っていただけると信じ、何もかもお任せする者は、永遠の滅びを免れます。　しかし、お任せしない者は、神のひとり子を信じなかったのですから、すでにさばかれ、有罪判決を下されたのです。　１９そのような判決が下ったわけは、こうです。天からの光が世に来ているのに、彼らは、自分の行ないが悪かったため、光よりも暗やみを愛したのです。　２０暗やみの中で罪を犯したいので、彼らは天からの光をきらいました。　罪が暴露され罰せられるのを恐れて、光のほうに出て来ようともしません。　２１しかし、正しいことを行なっている人は、喜んで光のほうに出て来ます。　神の望まれることを行なっていると、だれの目にもはっきりわかるためです。
２２　その後、イエスと弟子たちは、エルサレムを去り、しばらくユダヤに滞在し、バプテスマ（洗礼）を授けていました。
ヨハネとイエスの役割
２３２４そのころはまだ、バプテスマのヨハネは投獄されておらず、サリムに近いアイノンで、バプテスマを授けていました。　そこには、水がたくさんあったからです。　２５ある日、一人のユダヤ人が、「イエス様のバプテスマのほうがすぐれている」と、ヨハネの弟子たちに議論を吹っかけました。　２６弟子たちは、ヨハネのところに来てこぼしました。　「先生。　ヨルダン川の向こう岸でお会いしたあの方、あなた様がメシヤ（救い主）だとおっしゃったあの方も、バプテスマを授けておられるそうで……。　みんな、こちらには来ないで、どんどんあの方のほうへ行ってしまいます。」
２７　ヨハネは答えました。　「天の神様が、一人一人にそれぞれの役割を決めてくださる。　２８私の役目は、だれもがあの方のところへ行けるように道を備えることだ。　私はキリストではないと、はっきり言ったはずだよ。　あの方のために道を備えるために、私はここにいるのだ。　２９一番魅力のあるものに人々が集まるのは当然だろうが。　花嫁は花婿のもとへ行く。　花婿の友達は花婿といっしょに喜ぶ。　私は花婿の友達だから、花婿の喜ぶ声を聞くと、うれしくてたまらないのだ。　３０あの方はますます偉大になり、私はますます力を失う。
３１　あの方は天から来られた方。　ほかのだれよりも偉大なお方だ。　私は地から出た

者。　地上のことしかわからない。　３２あの方は、見たこと聞いたことをお話しになる。だが、そのおことばを信じる人はなんと少ないことか……。　３３あの方を信じれば、神様が真理の源だとわかるのに。　３４神様から遣わされたあの方は、神様のことばをお話しになる。　あの方の上には、神の御霊が無限に注がれているからだ。　３５父なる神様はこの方を愛し、万物をこの方にお与えになった。
３６　この方は神様の御子なのだ。　この方に救っていただけると信じ、何もかも任せきる者はだれでも、永遠のいのちを得る。　だが、この方を信じない者、従わない者は、絶対に天国を見ることはできない。　そればかりか、神様の怒りがその人の上にとどまるのだ。」
四
サマリヤ人の女
１　さて、イエスのところには、ぞくぞくと人々が詰めかけ、バプテスマ（洗礼）を受けて弟子になり、その数はヨハネよりも多いといううわさが、パリサイ人たちの耳に入りました。　イエスはこのことを知ると、　２――もっとも、実際にバプテスマを授けていたのは、イエス自身ではなく、弟子たちでしたが、――　３ユダヤをお去りになり、またガリラヤ地方へ行かれました。
４　その途中で、どうしてもサマリヤをお通りにならなければなりません。
５６サマリヤのスカルという村にさしかかられたのは、ちょうど正午ごろでした。　そこに、昔ヤコブが息子ヨセフに与えた土地があり、ヤコブの井戸がありました。　日のかんかん照りつける長い道のりを歩いて来られたイエスは、疲れ果て、井戸のそばにぐったり腰をおろされました。
７　まもなく、サマリヤ人の女が一人、水を汲みに来ました。 イエスは、「すみませんが、水を一杯下さい」と声をおかけになりました。　８そのとき弟子たちは、村へ食べ物を買いに行っており、ほかにはだれもいません。
９　女はびっくりしたようです。　「あれまあ、あんたユダヤ人じゃないのさ。　あたしはサマリヤ人だよ。　なのにどうして、水をくれなんて頼むのさ。」〔当時、ユダヤ人はサマリヤ人を見下し、口をきこうとさえしなかったのです。〕
１０　「もし、神があなたに、どんなにすばらしい贈り物を用意しておられるか、また、わたしがだれかを知ってさえいたら、あなたのほうから、いのちの水をくださいと願ったでしょう。」
１１　「そんなこと言ったって、あんたは水を汲むおけも綱も持ってないじゃないか。　この井戸はとても深いんだよ。　そのいのちの水を、いったいどっから汲むのさ。　１２あんたは、あたしたちのご先祖ヤコブ様よりも偉いってのかい。　ヤコブ様はこの井戸をあたしたちにくれたんだよ。　ヤコブ様も、その子孫も、家畜もみんな、この井戸の水を喜んで飲んだんだ。　これよりいい水をくれるってのかい。」
１３　「この水を飲んでも、すぐにまた、のどが渇きます。　１４けれども、わたしがあ

げる水を飲めば、絶対に渇くことはありません。　わたしがあげる水は、それを飲む人のうちで、永久にかれない泉となり、いつまでも、その人を永遠のいのちで潤すからです。」
１５　「先生。　その水をあたしに下さいよ。　そうすりゃ、のども渇かないし、毎日こんな遠くまで、てくてく歩いてさ、水汲みに来なくてすむもの。」
１６　「帰って、夫を連れて来なさい。」
１７１８「でも、あたし、結婚なんかしてない。」
「それもそうです。　あなたは五回も結婚したけれど、今いっしょに暮らしてる男は、確かに夫ではありませんね。」
１９　「先生。　あなた様は預言者でしょう。　２０だったら教えてくださいよ。　ユダヤ人は、礼拝の場所はエルサレムだけだと言いはるし、サマリヤ人は、あたしたちのご先祖様が礼拝した、このゲリジム山だと言ってる。　どうしてなんです？」
２１‐２４「いいですか。　父なる神を礼拝する場所は、この山か、それともエルサレムか、などとこだわる必要のない時が来るのです。　大切なのは、どこで礼拝するかではありません。　どのように礼拝するかです。　霊的な、真心からの礼拝をしているかどうかが問題なのです。　神は霊なるお方だから、正しい礼拝をするには、聖霊の助けが必要です。　神はそのような礼拝をしてほしいのですよ。　あなたがたサマリヤ人は、神のことはほとんど何も知らないで礼拝していますが、私たちユダヤ人はよく知っています。　救いはユダヤ人を通してこの世に来るのですから。」
２５　「そりゃあね、キリストと呼ばれるメシヤ（救い主）様がおいでになることだけは、知ってますよ。　その方がおいでになれば、いっさいのことを説明してくださるんでしょう。」
２６　「わたしがそのメシヤです。」
２７　ちょうどその時、弟子たちが戻って来ました。　驚いたことに、イエスは女と話しておられるではありませんか。　しかし、どうしてなのか、何を話していらっしゃるのか尋ねた者はいませんでした。
２８　女は、水がめを井戸のそばに置いたまま村に帰り、会う人ごとに話しかけました。
２９「ねえねえ、来て、会ってごらんよ。　あたしのしてきたことを、何もかも言い当てた方がいるのさ。 あの方こそ､キリスト様に違いないよ。」　３０この誘いに村人たちは、イエスに会おうと、ぞくぞく押しかけました。
３１　その間に、弟子たちはイエスに、「先生。　どうぞお食事を」と勧めました。　３２ところがイエスは、「いやけっこうです。　わたしには、あなたがたの知らない食べ物があるのですよ」と言われたのです。
３３　弟子たちはけげんそうに、「だれかが食べ物を持って来たんだろう」と言い合いました。
３４　そこでイエスは説明なさいました。　「いいですか、わたしの食べ物というのは、わたしを遣わされた神のお心にかなうことをし､神の仕事をやり遂げることなのです。　３

５『刈り入れはまだ四か月も先のこと、夏も終わりにならなければ始まらない』と思っているようですね。　だが、回りをよく見なさい。　人間のたましいの畑は広々と一面に実り、刈り入れを待つばかりです。　３６刈り入れをする人たちは、たくさんの報酬をもらい、永遠のいのちに入るたましいを天の倉に取り入れます。　その時、種をまいた者も、刈り入れをした者も、共々に、大いに喜ぶのです。　３７『一人が種をまき、ほかの人が刈り入れる』ということわざのとおりにです。　３８あなたがたが自分で種まきをしなかった畑に、わたしはあなたがたを遣わしました。　ほかの人々が苦労して育てたものを、あなたがたが刈り入れるのです。」
３９　スカルの村から押しかけたサマリヤ人の多くは、例の女が、「あの方はあたしのしてきたことを、何もかも言い当てた」と言うのを聞いて、イエスをメシヤだと信じました。　４０彼らは井戸のところに来てイエスにお会いすると、村に滞在してくださいと頼みました。　そこでイエスは、二日間、滞在しました。　４１その間に、もっと大ぜいの人が、イエスのことばを聞いて、信じました。　４２そういう人々は女に「もう私たちは、おまえさんが話してくれたことを聞いたから信じてるんじゃないよ。　この方の言われることを、じかに聞いたからさ。　この方こそ、ほんとうに世の救い主だ」と、言いました。
４３　さて、二日の後、イエスはスカルの村を去り、ガリラヤへ行かれました。　４４イエスは常々、「預言者は、故郷では尊敬されないものです」と言っておられました。　４５ところが、どうでしょう。　ガリラヤの人たちは、大喜びでイエスを迎えたのです。　それもそのはず、この人たちは過越の祭りの時にエルサレムにいて、イエスのなさったことを、全部見ていたのです。
イエス、役人の息子を治す
４６　ガリラヤ旅行の途中、イエスはカナの村に行かれました。　以前、水をぶどう酒に変えた所です。　ところで、カペナウムの町に、重病の息子をかかえた政府の役人がいました。　４７うわさでは、イエスはユダヤを出てガリラヤを旅行中だということです。　役人は、さっそくカナまでやって来ました。　そしてイエスにお会いすると、「息子が今にも死にそうなんです。　どうぞカペナウムへおいでになって、治してやってくださいっ！」と熱心に頼みました。
４８　「わたしがもっと多くの奇蹟を行なわなければ、信じようとしないのですか。」
４９　「先生。　お願いですっ！　子供が死なないうちにおいでください。」
５０　「さあ、家にお帰りなさい。　お子さんは治りました。」
役人は、イエスのことばを信じ、家へ急ぎました。　５１途中、召使たちが迎えに来て、「お坊っちゃまは、すっかりよくなりました」と知らせました。
５２　「えっ！　いつからだ。」
「昨日の午後一時ごろでしょうか、急に熱が下がりまして……。」
５３　それはまさに、イエスが「お子さんは治りました」と言われた時刻とぴったり一致していました。　このことがあって、役人と家族全員が、イエスをメシヤ（救い主）だと

信じました。
５４　これは、イエスがユダヤから来られて、ガリラヤで行なわれた第二の奇蹟です。
五
聖書（旧約）はイエスを指し示す
１　その後、ユダヤ人の祭りがあったので、イエスはエルサレムに戻られました。　２エルサレム市内には、羊の門の近くに、ベテスダという池がありました。　池の回りには、屋根つきの五つの廊下があります。　３そこに、足の不自由な人、盲人、手足の麻痺した人など、大ぜいの病人が横たわっていました。　〔この人たちは、水面が揺れ動くのを待っていたのです。　４というのは、時たま主の使いが来て、水をかき回すことがあり、その時、最初に池に入った人は、病気が治ったからです。〕
５　その中に、三十八年間も病気で苦しんでいる男がいました。　６イエスはこの男をごらんになり、長い間どんなに苦しんできたかを知って、「よくなりたいですか」とお尋ねになりました。
７　「もうあきらめてますよ。　せっかく水が動いても、だれも池に入れてはくれないんだから。 何とかして行こうとしている間に、いつでもほかの人が先に入っちゃうんでね。」
８　「さあ、立って、床をたたんで家に帰りなさい。」
９　イエスがこう言われると、たちまち病気は治りました。　男はすぐに床をたたみ、歩きだしたのです。
ところが、この奇蹟が行なわれたのが安息日だったので、　１０ユダヤ人の指導者たちはひどく腹を立て、その男をしかりつけました。「安息日に仕事をするとはけしからん。　床を運んだりするのは、おきて違反だっ！」
１１　「でも……、私を治してくださった方が、そうしろとおっしゃったんですよ。」
１２　「そんなことを言ったのはどこのどいつだっ！」彼らは問い詰めましたが、　１３男には、だれかわかりません。 イエスはすでに、人ごみに姿を消しておられたからです。
１４しばらくして、イエスは宮でその男を見つけ、声をおかけになりました。　「どうですか、すっかりよくなったでしょう。　もう前のように罪を犯してはいけませんよ。　そうでないと、もっとひどい目に会うかもしれませんから。」
１５　男は、ユダヤ人の指導者たちを捜し出し、治してくれたのはイエスだと告げました。
１６　ユダヤ人の指導者たちは、イエスを、安息日の違反者ときめつけ、しつこい攻撃を始めました。　１７ところが、イエスはお答えになりました。　「わたしの父は、絶えず良い働きをしておられます。　その模範にならっているのです。」
１８　これを聞いたユダヤ人の指導者たちは、ますます、イエスを殺そうと思うようになりました。　イエスが安息日のおきてを破ったばかりか、事もあろうに、神を「父」と呼んで、自分を神と等しい者とされたからです。
１９　イエスはお答えになりました。　「よく言っておきます。　子は自分からは何もできません。　ただ父がしておられることを見て、同じようにするだけです。　２０父は子

を愛して、自分のすることは何でも、子に教えてくださるのです。　子は、病気を治すことなど比べものにならないほど大きな、驚くべき奇蹟を行ないます。　２１父が死人を生き返らせるように、子も、思うままに人を死人の中から生き返らせもするのです。　２２父は、罪のさばきを、いっさい子に任せておられます。　２３すべての者が父を敬うように、子をも敬うためです。　だから、父がお遣わしになった神の子を敬わないのは、父を敬わないのと全く同じことです。

２４　よく言っておきます。　わたしの言うことを聞き、わたしを遣わされた神を信じる人はだれでも、永遠のいのちがあります。　罪のために罰せられることは絶対にありません。　すでに死からいのちに移っているのです。　２５はっきり言いましょう。　死人が、神の子であるわたしの声を聞く時が、じきに来ます。　いやもう来ているのです。　そして、聞いた者は生きます。　２６父が自分のいのちを、子にも与えてくださったからです。　２７また、全人類の罪をさばく権威も下さいました。

それもみな、子がメシヤ（救い主）だからです。　２８驚いてはいけません。　墓の中の死人がみな、神の子の声を聞く時が来ます。　２９その時、彼らは復活します。　良いことをしてきた者は、永遠のいのちをいただくために、悪いことをし続けてきた者は、さばきを受けるために。

３０　しかしわたしは、父と相談もせずに判決を下したりはしません。　ただ言われるとおりにさばくだけです。　ですから、わたしのさばきは絶対に公平で正しいのです。　自分の考えだけによらず、わたしを遣わされた神の意志に従ってさばくからです。

３１　わたしが自分について証言しても、だれも信じないでしょう。　３２しかし、わたしのことを証言してくださる方がほかにおられます。その方の証言はまちがいなく真実です。　３３あなたがたは、バプテスマのヨハネの教えを聞こうと、わざわざ出かけて行きました。確かに、ヨハネがわたしについて語ることは、何もかもほんとうのことです。　３４しかし、わたしについての最高の証言は、人間の証言ではありません。　ただ、ヨハネの証言のことを思い出させたのは、わたしを信じて救われてほしい一心からです。　３５なるほどヨハネはしばらくの間、ひときわ明るく輝き、あなたがたもそれを喜びました。３６しかし、わたしには、ヨハネの証言よりも、もっとすぐれた証言があります。　それは、わたしの行なう奇蹟です。　これらの奇蹟は、父がわたしに託されたもので、父がわたしをお遣わしになったという、動かぬ証拠なのです。　３７また、父もおん自ら、直接あなたがたに姿を現わしたり、語りかけたりはなさいませんが、わたしのことを証言しておられます。　３８ところがどうです。　あなたがたは、父のことばを聞こうともしません。　神のことづけを伝えるために遣わされたわたしを、信じないのですから。

３９　あなたがたは、永遠のいのちを見つけようと、熱心に聖書を調べています。　その聖書は、わたしを指し示しているのです。　４０それなのにあなたがたは、わたしのところに来ようともしません。　ですから、永遠のいのちを受けることができないのです。

４１４２あなたがたがわたしを認めようが認めまいが、そんなことはどうでもいいことで

す。　あなたがたのうちには神の愛がないのですから。　４３わたしは父の代理として来たのに、あなたがたは喜んで迎えてはくれません。　ところが、ほかの人が、神から遣わされたのでもなく、ただ自分の権威を引っ下げて来ると、待ってましたとばかり、手をたたいて迎えるのです。　４４もっとも、あなたがたが信じられないのも、むりはありません。　互いにほめたり、ほめられたりすることは喜んでも、ただ一人の神からほめていただくことなどまるで関心がないのですから。
４５　しかし、このことであなたがたを父に訴えるのは、わたしではありません。　それはモーセです。 あなたがたはモーセのおきてにひたすら天国への望みをかけていますが、おきてを与えた当のモーセが訴えるのです。　４６それもみな、あなたがたがほんとうはモーセを信じていないからです。　モーセはわたしのことを書いたのです。　そのモーセを信じないから、わたしをも信じないのです。　４７モーセの書いたものを信じないくらいだから、わたしを信じないのも不思議はありません。」
▪
六
天からのパンであるイエス
１　その後､イエスはテベリヤ湖とも呼ばれるガリラヤ湖の向こう岸に行かれました。 ２‐５大ぜいの群衆が、どこまでもあとについて行きました。　イエスが病人を治されるのを見たからです。　人々の多くは、年一度の過越の祭りのため、エルサレムへ行く途中でした。
イエスが丘に登り、弟子たちといっしょに腰をおろされると、大ぜいの群衆も、追いかけるように、あとからあとから丘に登って来ます。
その様子をながめながら、イエスはピリポにお尋ねになりました。「ピリポ。　この人たち全部に食べさせるには、どこからパンを買ってきたらいいでしょうか。」　６もっとも、これは、ピリポを試しただけで、どうするかは、もうとっくに決めておられたのです。
７　ピリポは、「こんなに大ぜいじゃ、ひと財産あっても、まだ足りないでしょうね」と答えました。
８　シモン・ペテロの兄弟アンデレが口をはさみました。　９「この子が、大麦のパンを五つと魚を二匹持ってますよ。　でもなあ、こんなに大ぜいじゃ、焼け石に水かな？」
１０　イエスは、「さあ、みんなを座らせなさい」とお命じになりました。　男だけでも五千人はいたでしょうか。　それが全員、草の生えた斜面に、どやどや腰をおろしました。
１１そこで、イエスはパンを取り、神に感謝の祈りをささげてから、人々にお配りになりました。　また魚も同様になさいました。　みんなほしいだけ食べて、お腹はいっぱいです。
１２　イエスは弟子たちに言われました。　「さあ、少しもむだにしないよう、パンくずを集めなさい。」　１３残り物を集めると、なんと十二のかごにいっぱいです。
１４　それを見た人々は､どんなにすばらしい奇蹟が起こったのか初めて気づき､口々に､

「この方こそ、待ちに待ったあの預言者様だっ！　絶対にまちがいない！」と叫びました。
１５　人々は熱狂して、むりやりにでも、イエスを王にまつり上げかねない勢いです。　イエスはそっと抜け出し、ただ一人、山に登って行かれました。
１６　その日の夕方、弟子たちは湖の岸辺に降りて行きました。　１７もう暗くなったのに、イエスはまだ戻られません。　そこで舟に乗り込み、カペナウムに向けて湖を渡り始めました。
１８１９ところが、しばらくこいで行くうちに、風が出てきました。　風はびゅうびゅう吹きまくり、湖も荒れだしました。　それも、だんだんひどくなる一方です。　四、五キロほどもこぎ出したでしょうか。　ふと見ると、イエスが舟のほうに歩いて来られます。あまりの恐ろしさに、ただもう震え上がるばかりです。　２０イエスが、「こわがることはありません」と声をおかけになると、　２１やっと気を取り直し、うれしそうにイエスを舟にお乗せしました。　するとどうでしょう。　舟はすぐに目ざす地に着いたのです。
２２　朝になりました。　湖のこちら側では、大ぜいの人が、イエスに会おうと集まって来ました。　昨日、イエスをあとに残し、弟子たちだけが舟で出かけたことを知っていたからです。　２３イエスが感謝の祈りをささげ、みんなでパンを食べた場所の近くに、テベリヤから数隻の小舟が来ていました。　２４イエスも弟子たちも、そこにはいないとわかると、人々は、その舟に乗り込み、イエスを捜してカペナウムまで来ました。
２５　そしてイエスを見つけると、さっそく、「先生。　いったいどうやって、ここまでおいでになったのです？」と尋ねました。　２６「いいですか。　あなたがたがわたしのそばにいたがるのは、わたしを信じているからではありません。　パンを食べさせてあげたからですね。　２７食べ物みたいになくなってしまうものに、心を奪われてはいけません。それよりも、永遠のいのちを手に入れる努力をしなさい。　メシヤ（救い主）のわたしは、それをあげるのです。　そのためにこそ、父なる神は、わたしをお遣わしになったのですから。」
２８　「神様に満足していただくには、どうしたらいいんでしょうか。」
２９　「神が遣わされた者を信じることです。　それこそ、神が望んでおられることです。」
３０３１「あなた様がメシヤなら、その証拠に、もっといろいろな奇蹟を見せてください。そう、毎日ただでパンを下さるとか……。　ちょうど先祖たちが荒野を旅した時、毎日パンをもらったようにね。　『モーセは天からのパンを彼らに与えた』と聖書（旧約）に書いてあるでしょう。」
３２　「そのパンを与えたのは、モーセではありません。　わたしの父です。　そして今、父はあなたがたに、天からのほんとうのパンを下さるおつもりです。　３３ほんとうのパンとは、神から遣わされて天から来た、一人の方のことです。　その方が、世の人々にいのちを与えるのです。」
３４　「先生。　ぜひそのパンを、一生の間、毎日下さい。」
３５　「わたしが、そのいのちのパンなのです。　わたしのところに来る人は、二度と飢

えることがありません。　わたしを信じる人は、決して渇くことがありません。　３６ところがあなたがたときたら、どうでしょう。　前にも言ったように、わたしを見ながら信じないのですから。　全く困った人たちです。　３７けれども、父が与えてくださった人は、わたしのところに来ます。　そういう人を拒むようなことは絶対にしません。　３８わたしが天から下って来たのは、自分の思いのままにするためではなく、神の意志どおりに行なうためだからです。　３９神が与えてくださったすべての人を、一人も失わないように守り、終わりの日に永遠のいのちに復活させるのです。　４０事実、父は、子を信じる者がみな、永遠のいのちを得、終わりの日に、復活することを願っておられるのです。」

４１　ユダヤ人たちは、イエスが「わたしは天から下って来たパンです」とはっきり言われたので、ぶつぶつ文句を言い始めました。

４２　「何だって！　たかがヨセフの息子イエスじゃないか。　父親も母親もいやというほど知ってらあ。　なのに、『わたしは天から下って来た』などと、とんでもないことをぬかしやがって」と彼らは叫びました。

４３　イエスはお答えになりました。　「わたしの言ったことでぶつぶつ言い合うのはやめなさい。　４４わたしをお遣わしになった父が引き寄せてくださらない限り、だれもわたしのところへは来られません。わたしのところに来る者を一人残らず、わたしは終わりの日に復活させるのです。　４５聖書（旧約）には、『彼らはみな神によって教えられる』と書いてあります。　父の語ることばを聞き、父から真理を学んだ人たちは、わたしのところへ来ます。　４６実際に父を見た者は一人もいません。　ただわたしだけが、この目で父を見たのです。

４７　よく言っておきます。　わたしを信じている人はだれでも、すでに永遠のいのちを得ているのです。　４８そうです、わたしが、いのちのパンなのです。　４９あなたがたの先祖は、荒野で、空から降って来たパンを食べましたが、結局はみな死んでしまいました。　５０けれども、天から下って来たパンは違います。　それを食べる人は永遠のいのちをいただくのです。　５１わたしが、その、天から下って来た、いのちのパンです。　このパンを食べる人はだれでも、永遠に生きます。　このパンは、人類の救いのためにささげる、わたしの体なのです。」

５２　ユダヤ人たちは、イエスはいったい何を言っているのかと、あれこれ議論し始めました。　「なんてことを言うんだ。　自分の体を、食べさせるんだってさ。　そんなことできるもんか。」

５３　そこでイエスは、またお話しになりました。　「よく言っておきます。　メシヤの肉を食べ、その血を飲まなければ、永遠のいのちを得ることはできません。　５４けれども、わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む人はみな、永遠のいのちがあります。　わたしは終わりの日に、その人を復活させます。　５５わたしの肉はほんとうの食べ物、わたしの血はほんとうの飲み物です。　５６わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む人はみな、わたしのうちにとどまり、わたしもその人のうちにとどまります。　５７わたしは、わたし

をお遣わしになった、生ける神の力によって生きています。　同じように、わたしを食べる人は、わたしによって生きるのです。　５８わたしは、天から下って来たほんとうのパンです。　このパンを食べる人はみな、永遠に生きます。　空から降って来たパンを食べたのに死んでしまった先祖たちみたいに、死ぬことはありません。」　５９〔以上は、イエスがカペナウムの会堂でなさったお話です。〕
６０　これには、弟子たちでさえ、思わず「なんてむずかしい話だ。　さっぱりわからない」とつぶやくほどでした。
６１　それに気づいたイエスは、彼らにおっしゃいました。　「こんなことでつまずくのですか。　６２そんなことでは、メシヤのわたしが天に帰るのを見たら、いったいどう思うことでしょう……。　６３いいですか。　ただ聖霊だけが、永遠のいのちを与えてくださいます。　肉体的にこの世に生まれただけでは、絶対に、永遠のいのちの贈り物はいただけません。　いま話してあげたのは、まさにこのこと、どうしたら、ほんとうの霊的ないのちを、いただけるかということなのです。　６４だが残念なことに、あなたがたの中には、わたしを信じない者がいます。」イエスは初めから、信じない者はだれか、裏切り者はだれかを、知っておられたのです。
６５　イエスは先をお続けになりました。「『父が引き寄せてくださらない限り、だれもわたしのところへは来られません』と言ったのは、そういう意味なのです。」
６６　この時から、大ぜいの弟子たちが、イエスとたもとを分かち、もはや行動を共にしませんでした。
６７　そこでイエスは、十二人の弟子たちにも、「あなたがたは、まさか行ってしまわないでしょうね」とお尋ねになりました。
６８　シモン・ペテロが、即座に答えました。　「何をおっしゃるんです、先生。　あなた様をさしおいて、ほかの人のところへ行くわけがないじゃありませんか！　永遠のいのちを与えることばを握っているのは、あなた様だけなんですから。　６９私たちは、そのことばを信じておりますし、あなた様が神のきよい御子だということも、存じ上げております。」
７０　「あなたがた十二人を選んだのはわたしです。　だが、なんということでしょう。悪魔が一人まぎれ込んでいます。」　７１イエスが言われたのは、イスカリオテのシモンの子ユダのことでした。　ユダは、十二人の弟子の一人でありながら、イエスを裏切ろうとしていたのです。
七
仮庵の祭りにおけるイエス
１　このあと、イエスはガリラヤに行かれ、村から村を巡回なさいました。　ユダヤ人の指導者たちが命をつけねらっていたので、ユダヤ以外の地に身を避けようと思われたからです。　２そうこうするうち、ユダヤの年ごとの祭りである仮庵の祭りが近づきました。３イエスの弟たちは、祭りのためにユダヤへ行くよう、しきりに勧めました。「もっと大ぜ

いの人が奇蹟を見てくれるような所へ行ったらどうだい。　４こんな所でくすぶってても有名にはなれないよ。　兄さんがそんなに偉いんだったら、世間の人に証明してみせなくっちゃ」と、半ばあざけるように言いました。　５弟たちでさえ、イエスを信じていなかったのです。
６　「今はまだ、その時ではありません。　しかし、あなたがたはいつ行ってもいいし、いつ行こうが、別にかまいません。　７世間の人に憎まれるはずもありませんから。　だが、わたしは憎まれています。　彼らの痛いところを突くからです。　８いいから、あなたがただけで行きなさい。　わたしは、行く時が来たら行きますから。」　９こう言って、イエスはガリラヤに残っておられました。
１０　しかし、弟たちが出かけたあと、人目を忍んでこっそりお出かけになったのです。
１１ユダヤ人の指導者たちは､祭りの間にイエスを見つけ出してやろうと思い､「だれかイエスを見かけた者はいないか」と、やっきになって尋ね回りました。　１２確かに、イエスのことはいろいろ話題になりました。　「あの方はすばらしい方だ」とほめる者もいれば､「いや､違う。　とんだ食わせ物だ」と非難する者もいます。　１３しかし、だれも指導者たちの仕返しを恐れ、表立ってうわさするほど大胆な人はいませんでした。
１４　祭りも半ばになったころ、イエスは宮へ行き、おおっぴらに教え始められました。
１５それを聞いたユダヤ人の指導者たちは驚いて､「こいつは､一度も学校で学んだことがないくせに、どうして、こんなに深い知識を持ってるんだろう！」と言い合いました。
１６　「わたしの教えは、自分で考え出したことではありません。　わたしをお遣わしになった神の教えなのです。　１７ほんとうに神の望まれるとおりのことをしようと思う人なら、わたしの教えが神から出たものか、あるいはわたしから出たものか、はっきりわかるはずです。　１８自分の意見だけをまくし立てる人は、実は、わが身がほめられたい一心なのです。　しかし、自分をお遣わしになった方の栄誉を求める人は、正直者です。　１９自分ではモーセのおきてを守らないのに、どうして、おきてを破ったと、わたしを非難するのですか。　どうして命までつけねらうのですか。」
２０　群衆が答えました。　「おい、気でも変になったんじゃないか。　だれがあんたを殺そうってんだい？」
２１－２３「わたしが安息日に病気の人を治したら､労働をしたと驚いています。　だが、あなたがたはどうでしょうか。　モーセのおきてどおりに割礼（男子が生まれて八日目にその生殖器の包皮を切り取る儀式）を施すためには〔実際は、割礼の習慣はモーセのおきてより古くからあったのですが〕､安息日でも、平気で労働するではありませんか。　割礼の日がちょうど安息日にあたっても、別だん気にもかけず、あたりまえのように割礼を施しています。　それなら､安息日に病人を元気にしてやって､どこが悪いでしょうか？　何を根拠にわたしを非難するのですか。　２４よく考えてみなさい。　わたしの言うことはまちがっているでしょうか？」
２５　エルサレムの人々の間では、互いにこんなことが言い交わされていました。　「こ

の人は、連中が殺そうとねらってる人じゃないか。　２６ところがさ、今ここで、おおっぴらに話をしてるってのに、だれも何も言わないんだからな。　指導者たちも、結局は、正真正銘のキリスト様だと認めちゃったのかね。　２７だけどさ、この人がキリスト様のわけはないよ。　どこの生まれか、身元が知れてるんだから。　キリスト様は、どこからともなく、突然、現われなさるはずだからね。」
２８　イエスは宮で、大声をあげて教えられました。　「皆さん。　確かに、わたしの生まれも、育ちもはっきりしています。　しかしわたしは、あなたがたの全く知らない方の代理なのです。　その方は真実です。　２９わたしはその方を知っています。　その方といっしょにいたのですから。　その方がわたしをお遣わしになったのです。」
３０　ユダヤ人の指導者たちは､何とかしてイエスを逮捕しようと思いました。 しかし、実際に手を出す者は一人もいません。　まだ、その時ではなかったのです。
３１　宮にいた人々の多くは、イエスを信じ､「これだけの奇蹟をなさるからには、やっぱりキリスト様じゃないだろうか」と言い合いました。
３２　パリサイ人たちは、群衆がこう考えているとわかるや、祭司長たちとぐるになり、イエスを逮捕するために、役人を差し向けました。　３３ところがイエスは、その人たちに言われました。　「まだその時ではありません。　もうしばらく、ここにいます。　そのあとで、わたしをお遣わしになった方のところに帰るのです。　３４その時には、わたしを捜しても、見つけることはできません。　また、わたしのいる所に来ることもできません。」
３５　このことばに、ユダヤ人の指導者たちはすっかり面食らいました。｢こいつは、いったいどこへ行くつもりだろう。　もしかしたら、ユダヤを出て、外地のユダヤ人や、あるいは、ひょっとして外国人に教えを伝えようとでも考えてるのかもしれないな。　３６だが、捜しても見つけだせないとは、どういうことだろう。　それに、『わたしのいる所に来ることができない』とも言ったが、何のことやらまるで見当もつかない。」
３７　祭りの最後の一番大切な日に、イエスは大声で群衆に語りかけました。　「だれでも､のどが渇いているなら､わたしのところへ来て飲みなさい。　３８わたしを信じれば、心の奥底からいのちの水の川が流れ出ると、聖書（旧約）に、はっきり書いてあるでしょう！」　３９〔イエスは聖霊のことを言われたのです。　御霊は、イエスを信じる人すべてに与えられることになっていましたが、この時はまだでした。　イエスが、天にある栄光の座に戻っておられなかったからです。〕
４０　イエスがこう言われるのを聞いて、群衆のうちのある者は､「この人は、確かに、キリスト様のすぐ前に来るという、あの預言者だ！」と、確信をもって言いました。　４１４２「この方こそキリスト様だ！」と言いきる者もいました。　しかし､「いや、そんなはずはない。 まさかガリラヤみたいな所からキリスト様は出ないだろうよ｡キリスト様は、れっきとしたダビデ王の血筋で、ダビデ王の生地ベツレヘムの村に生まれると、聖書（旧約）に、はっきり書いてあるんだからな」と主張する者まで現われました。　４３こんな

ぐあいで、イエスについての意見はまちまちでした。　４４中には、逮捕したいと思う者さえいましたが、手を出すまでには至りませんでした。
４５　イエスの逮捕に向かった宮の警備員たちは、すごすごと祭司長やパリサイ人たちのところに戻るほかありません。　「どうして、やつをつかまえて来なかったのかっ！」彼らはきびしく問いただしました。
４６　警備員たちは、口ごもりながら答えました。　「は、はい。　でも、あの人の話すことが、とてもすばらしくて……。　なにせ、これまで聞いたこともないようなお話なんですから。」
４７　これを聞くと、パリサイ人たちはあざ笑いました。　「さては、おまえたちも惑わされたな。　４８われわれユダヤ人の議員やパリサイ人の中で、あいつをメシヤ（救い主）だと信じてる者が、一人でもいるか？　４９そりゃあ、無知な連中は頭から信じきってるかもしらんがね。だが、やつらに何がわかるか。　罰あたり者めが。」
５０　その時、ニコデモが口を開きました。　〔そうです。夜ひそかにイエスを訪ねた、あのユダヤ人の指導者です。〕
５１　「おことばですがね、取り調べもしないうちに、有罪だと決めるのは、合法的ではありませんな。」
５２　「おや、あなたも卑しいガリラヤ人なんですか。　まあ、聖書（旧約）を調べることですな。　ガリラヤから預言者など出るはずがないことを、ご自分の目で確かめたらどうです。」
５３　こうして、一同は散会し、めいめい家に帰りました。
八
赦された不倫の女
１　さて、イエスはオリーブ山に戻られましたが、　２翌朝早く、また宮にお出かけになりました。　たちまち人々が押しかけ、黒山の人だかりです。　イエスはゆっくり腰をおろし、話し始められました。　３その最中に、ユダヤ人の指導者やパリサイ人が、寄ってたかって、一人の女を引っ立てて来ます。　彼らは、あっけにとられて見つめる人々の目の前に、女を突き出しました。
４　「先生。　この女を見てください。　不倫の現場でつかまったんですよ。　５モーセの法律では、こういう不届き者は石で打ち殺すことになってますが、どうしたものでしょう。」
６　こう言ったのは、何かことばじりをとらえて、訴えてやろうという魂胆があったからです。　ところがイエスは、体をかがめ、指で地面に何か書いておられるだけです。　７けれども、彼らは引き下がりません。　あくまで質問を続けます。　そこで、イエスは、ゆっくり体を起こし、「わかりました。　この女を石で打ち殺しなさい。　しかしいいですか。　最初に石を投げるのは、今まで、一度も、罪を犯したことのない者ですよ」と言われました。

８　そして、すぐにまた体をかがめ、地面に何か書きつけられました。　９すると、ユダヤ人の指導者もパリサイ人も、ばつが悪そうに、年長者から順に一人去り、二人去りして、とうとうイエスと女だけが、群衆の前に取り残されました。
１０　イエスは体を起こし、女に言われました。　「はて、あなたを訴えた人たちはどこにいますか。　罰する者は一人もいなかったのですか。」
１１　「はい、先生。」
「そうですか。　わたしもあなたを罰しません。　さあ、行きなさい。　もう二度と罪を犯してはいけませんよ。」
世の光であるイエス
１２　そのあとで、イエスは人々にお話しになりました。　「わたしは世の光です。　わたしに従って来れば、暗やみでつまずくことはありません。　いのちの光が、あなたがたの進む道をあかあかと照らすからです。」
１３　すると、パリサイ人たちがぶつぶつ文句を言いました。　「自慢話もほどほどにしたらどうだい。　うそばかり並べ立てて！」
１４　「わたしはありのままを言っているのです。　うそでも、でたらめでもありません。自分がどこから来てどこへ行くか、よくわかっています。　ところがあなたがたは、全然わかっていません。　１５事実を知らないで、判決を下しているのですから。　まあ今は、とやかく言うのはやめておきましょう。　１６しかし、あなたがたをさばいたとしても、わたしのさばきは、どこから見ても正しいのです。　わたしをお遣わしになった父がいっしょにさばいてくださるからです。　１７あなたがたの法律では、ある出来事について二人の証言が一致すれば、事実と認められることになっています。　１８だとしたら、わたしとわたしをお遣わしになった父とで、りっぱに二人の証人がそろいます。」
１９　「じゃあ、そのお父上とやらはどこにいるんだい。」
「わたしのことを知らないから、父のこともわからないのです。わたしを知っていたら、父をも知っていたでしょうに。」
真理はあなたを自由にする
２０　こうした話がなされたのは、宮の中の献金箱が置いてある所でした。　しかし、だれ一人、イエスを逮捕する者はいません。　まだ、その時ではなかったのです。
２１　イエスはまた、こんな話もなさいました。「わたしはもうすぐ、いなくなります。あなたがたは必死でわたしを捜しても、結局は、罪が赦されないまま死ぬのです。　わたしが行く所へは、来られません。」
２２　ユダヤ人たちは、さっぱり、わけがわかりません。　「この人は自殺でもするつもりなのかね。　彼が行く所へ私たちは行けない、とか何とか言ってたけど、いったい、どういうことだい」と首をかしげるばかりです。
２３　そこでイエスは、言われました。　「いいですか。　あなたがたは地上に生まれた者ですが、わたしは天から来た者です。　あなたがたはこの世の者ですが、わたしは違い

ます。　２４だから、『あなたがたは罪が赦されないまま死ぬ』と言ったのです。　わたしが神の子、メシヤ（救い主）であることを信じなければ、罪ののろいの下で、死ぬしかないからです。」
２５　「あなたはいったい、どういう方なのですか。」
「そのことは、いつも、はっきり言っていたはずです。　２６あなたがたには非難したいことや、教えたいことが山ほどあります。　しかし、そうはしません。　ただ、わたしをお遣わしになった方から聞いたことだけを話してあげましょう。　その方は真実な方だからです。」　２７それでも彼らにはまだ、イエスが神のことを話しておられるのが、わかりませんでした。
２８　「わたしを殺してはじめて、あなたがたは、わたしがメシヤと気づくでしょう。　そして、わたしが自分の考えではなく、父から教わったことを話したとわかるでしょう。　２９わたしをお遣わしになった方が、いつもいっしょにおられます。　わたしをお見捨てになることはありません。　いつもその方のお心にかなうことをするからです。」
３０３１この話を聞いたユダヤ人の指導者の多くは、イエスをメシヤと信じるようになりました。
その人たちにイエスは、「わたしが教えたとおりに生活すれば、ほんとうの弟子と言えます。３２あなたがたは真理を知り、その真理があなたがたを自由にするのです」と言いました。
３３　「おことばですが、私たちはれっきとしたアブラハムの子孫です。これまで、だれの奴隷になったこともありません。　『自由にする』とはどういうことでしょう。」
３４　「それは違います。　あなたがたは一人のこらず罪の奴隷なのです。　３５奴隷には何の権利もありません。　しかし、息子は別です。　ありとあらゆる権利を持っています。　３６だから、神の子が自由にしてあげたら、それこそ、ほんとうに自由の身になるのです。　３７確かに、あなたがたはアブラハムの子孫です。　けれども、あなたがたの中には、わたしを殺そうとねらっている者がいるのです。　わたしのことばが、心にしっかり根を下ろしていないからです。　３８せっかく、わたしの父といっしょにいた時に見たことを話してあげても、あなたがたは、自分の父の言いつけに従っているだけです。」
３９　「私たちの父はアブラハムです。」彼らは、きっぱり言いきりました。
「いや、あなたがたの父がアブラハムだったら、彼の良い模範にならったはずです。　４０ところが、どうです。　反対にわたしを殺そうとしているではありませんか。　しかも、その理由がまるでおかしいのです。　わたしが神から聞いた真理を語ったからというのですから。　アブラハムなら、そんなことは絶対にしなかったでしょう。　４１そんなことをするのは、自分の父の言いつけに従っているからです。」
「私たちは私生児じゃありません。　私たちの真の父は、神ご自身です。」
４２　「ほんとうにそのとおりなら、わたしを愛したはずです。　わたしは神のもとから来たのですから。　自分の考えで、今、ここに、いるのではありません。　父が、ここにお遣わしになったのです。　４３まあ、わたしの言うことがわからないのも、むりはあり

ません。　理解できないようにされているのですから……。　４４あなたがたの父は悪魔です。　悪魔の子が、悪魔の悪い行ないを喜んでまねても、不思議ではありません。　悪魔は初めから人殺しで、真理をきらっています。　悪魔のうちには真理の一かけらもありません。　悪魔がうそをつくのは、しごく当然です。　そもそも、うそつきの元祖なのですから。　４５だから、真理を語っても、あなたがたが信じてくれないのは、あたりまえです。

４６　あなたがたのうち、だれが、たった一つでもわたしの罪を指摘できますか。　できないでしょう。　真理を話してあげるのに、なぜわたしを信じないのですか。　４７神の子供ならだれでも、神のおっしゃることを喜んで聞くはずです。　ところが、あなたがたは聞き従わないのですから、神の子供ではありません。」

４８　「あんたはサマリヤ人だ！　よそ者だ！　悪魔だっ！　そうとも、やっぱり悪魔に取りつかれてるんだ。」ユダヤ人の指導者たちはわめき立てました。

４９　イエスは「いや、断じてそんなことはありません。　わたしは父を尊敬しています。あなたがたはわたしを軽べつしているから、そんな誤解をするのです。　５０もっとも、敬意をはらってもらいたいとも思いませんが。　ただ、神が、わたしの名誉のために、わたしを受け入れない人々をおさばきになるのです。　５１よく言っておきましょう。　わたしに従う者は、いつまでも死なないのです」と言われました。

５２　「あんたが悪霊に取りつかれていることが、はっきりした。　アブラハムも、偉大な預言者たちも死んだのだ。　なのに、『わたしに従う者は死なない』などと、よく言うよ。５３ええっ、どうなんだい。　ご先祖のアブラハム様よりもお偉いのかい。　アブラハム様は死んだろうが。　それとも、あの預言者たちよりも偉いとでも？　その預言者たちも死んだがね。　いったい何様だと思ってるんだい。」

５４　イエスは、言われました。　「わたしがただ自慢しているだけなら、全くむなしいものです。　しかし、わたしに栄光を与えてくださるのは、父なのです。　この方を、あなたがたは『私たちの神様』と呼んでいます。

５５　そう呼びながら、実はこの方を知りもしません。　わたしはよく知っています。　知らないなどと言ったら、それこそ、あなたがた同様、大うそつきになります。　わたしがこの方を知り、この方に全く従っているというのはほんとうです。　５６あなたがたの先祖アブラハムは、わたしの日を思いやって喜びにあふれました。　わたしが来るとわかったからです。」

５７　「へえーっ、まだ五十にもなってないあんたがね……。　さぞかしよく、アブラハム様を見たことだろうよ。」

５８　「アブラハムが生まれるずっと前から、わたしはいたのです。　これは、まぎれもない事実です。」

５９　話がここまで来ると、もう堪忍袋の緒が切れました。　ユダヤ人の指導者たちは、手に手に石をつかみ、今にもイエスを打ち殺さんばかりのけんまくです。　しかし、イエ

スはすばやく身を避け、急いで宮を抜け出されました。

九

ただ、神の力が現わされるため

１　さて、道を歩いていた時のこと、イエスは生まれつきの盲人をごらんになりました。
２　弟子たちが尋ねました。　「先生。　どうしてこの人は、生まれつき目が見えないのです？　本人が罪を犯したからですか。　それとも両親が……？」
３　「いや、そのどちらでもありません。　ただ神の力が現わされるためです。　４わたしたちはみな、わたしをお遣わしになった方からいただいた仕事を、急いでやり遂げなければなりません。　もうすぐ夜が来ます。　そうしたら、もう仕事はできないのですから。
５だが、まだこの世にいる間は、わたしは、光を与え続けましょう。」
６　こう言われると、イエスは地面につばをし、泥をこね、それを盲人の目に塗って、　７言われました。　「さあ、シロアムの池に行って、洗い落としなさい」〔「シロアム」とは、「遣わされた者」の意味〕。　その方が言われたとおりにすると、どうでしょう。　ちゃんと見えるようになって戻って来たではありませんか！
８　近所の人や、彼が盲目のこじきだったことを知っている人はたまげ返り、「これが、あのこじきかい？」と口をそろえて叫びました。
９　こちらで「そうだ」と言えば、「いや、違う」と言う声も聞こえます。　みな、「あいつのはずはない。　だが実によく似てるな！」と思ったのです。
すると当のこじきが、「なに言ってんだい。　おれだよ」と言いました。
１０　人々はあっけにとられながらも、「いったい全体どうしたんだい。どうやって見えるようになったんだよ」と矢つぎばやに尋ねました。何が起ったのか知りたくてたまらなかったのです。
１１　その男は答えました。　「イエスという方が、泥をこねて、目に塗り、『シロアムの池に行って、泥を洗い落としなさい』と言ったのさ。　それで、そのとおりにすると、見えるようになったんだよ。」
１２　「その人は今どこにいるんだい。」
「さあ、知らないな。」
１３　人々は、男をパリサイ人たちのところへ連れて行きました。　１４ところで、この日は、たまたま安息日でした。　１５パリサイ人たちに事の一部始終を尋ねられて、男は、イエスが目に塗った泥を洗い落とすと見えるようになったいきさつを、くわしく話しました。
１６　パリサイ人のある者は、「そのイエスというやつは、神様から遣わされたんじゃないぞ。　安息日に仕事なんかしたんだからな」ときめつけます。
かと思うと、「だがな……、罪人にすぎない普通の人間に、こんな奇蹟が行なえるだろうか……」と疑問を投げかける者もいます。　意見は真っ二つに分かれました。
１７　しかたなく、その盲目だった男に、「おまえの目を開けてくれた人のことをどう思う

か」と問いただしました。
「きっと神様が遣わした預言者ですよ」と男は答えました。
１８　ユダヤ人の指導者たちは、この男が盲目だったことを、どうしても信じようとはしません。　とうとう両親まで呼び出し、　１９確かめることにしました。　「この男は息子だな。　ほんとうに生まれつき見えなかったのか。　だったら、どうして見えるようになった？」
２０　「はい、確かに息子でございます。　この子は生まれつき目が見えませんで……。
２１けれども、どうして見えるようになったのか、どなたがこれの目を開けてくださったのかは、少しも存じません。　どうぞ本人からじかにお聞きくださいまし。　もう一人前の大人ですから、自分で説明できるでしょう。」
２２２３こう言ったのは、ユダヤ人の指導者たちがこわかったからです。彼らはすでに、「イエスはメシヤ（救い主）だ」と言う者は、だれかれの区別なく会堂から除名すると公表していたのです。
２４　指導者たちは、男をもう一度呼び寄せ、きつく申し渡しました。「イエスなんかじゃなく、神様をあがめなさい。　やつは悪党だ。」
２５　「さあ、あの方が善人か悪人かは、わかりませんがね。　これだけは、はっきりしています。　私は今まで見えなかったのに、今は見えるんです。」
２６　「だが、あいつは何をした？　どうやっておまえの目を開けた？」
２７　男はまたかと腹を立て、大声で言いました。　「そのことは、もう話したではありませんかっ！　お聞きにならなかったのですか。　もう一度言えとは、どういうことでしょう。　あの方の弟子にでもなるおつもりで？」
２８　こう言われて、指導者たちは男をののしりました。　「なにっ、おまえこそあいつの弟子のくせに。　われわれはモーセの弟子だ。　２９神様はまちがいなく、モーセにお語りになった。　だが、あいつはどこの馬の骨かわかるもんか！」
３０　「これは驚きました。　あの方は盲人の目を開けることができるんですよ。　なのに、あの方のことは何も知らないとおっしゃる。　３１神様は悪人の言うことはお聞きになりません。　しかし、神様を礼拝し、お心にかなうことを行なう者には、耳を傾けてくださるんじゃありませんか。　３２世の初めからこのかた、生まれつきの盲人の目を開けた人など、いたためしがありません。　３３神様から遣わされた方でなければ、こんなことはできないはずです。」
３４　こうまで言われては、もう我慢ができません。　「このろくでなしめっ！　われわれを教えようとでもいうのかっ！」とどなりつけたあげく、男を追い出してしまいました。
３５　そのいきさつを伝え聞いたイエスは、男をお捜しになり、見つけ出されると、「あなたはメシヤを信じますか」とお聞きになりました。
３６　「先生。　どなたがメシヤ様で？　教えてください。　ぜひ信じたいのです。」
３７　「もうその人に会っているのですよ。　あなたと話しているわたしがメシヤなので

す。」
３８　「主よ。　信じます。」男はそう言って、イエスを礼拝しました。
３９　すると、イエスは言われました。　「わたしがこの世に来たのは、心の目の見えない人を見えるようにするため、また、見えると思い込んでいる人に、実は盲目だということを、わからせるためなのですよ。」
４０　ちょうどその場に居合わせたパリサイ人たちが、けげんそうに尋ねました。　「なんですか、じゃあ、私たちも盲目だと言うのか？」
４１　「もしあなたがたが盲目だったら、罪に問われないですんだでしょう。　しかし、何もかもわかっているとあくまで言いはるので、あなたがたの罪はそのまま残るのです。」
▪

一〇

良い羊飼いであるイエス

１　「よく言っておきます。　羊の囲いの中に、門から入らないで、柵を乗り越えて忍び込む者は、強盗に違いありません。
２羊飼いなら、堂々と門から入って来るはずです。　３門番も羊飼いには門を開けてくれます。　彼の声を聞くと、羊は回りに駆け寄って来ます。　羊飼いは一匹一匹自分の羊の名を呼んで連れ出すのです。　４先頭に立つのは羊飼い、羊はそのあとについて行きます。声を知っているからです。　５知らない人にはついて行きません。 反対に逃げ出します。聞き覚えのない声だからです。」
６　イエスがこのたとえ話をなさっても、聞いている人々には、どういう意味かさっぱりわかりません。　７そこで、イエスは説明なさいました。
「いいですか。　わたしが、羊の出入りする門なのです。　８わたしより前に来た人々はみな、どろぼうか強盗です。　ほんとうの羊は、彼らの言うことは聞きませんでした。　９そう、わたしは門なのです。　この門から入る者は救われます。　また、安心して出入りができ、緑の牧草を見つけるのです。　１０強盗は、盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするために来ます。　しかしわたしが来たのは、いのちを、あふれるほど豊かに与えるためです。
１１　わたしはまた、良い羊飼いです。　良い羊飼いは羊のためにはいのちも捨てます。
１２雇い人は、狼が来れば、羊など見向きもせず、自分だけ、すぐに逃げ出します。　羊の持ち主でも、羊飼いでもないからです。　こうして狼は羊にとびかかり、群れを追い散らしてしまうのです。　１３雇い人は、ただ、お金で雇われているだけです。　羊のことを、ほんとうに心にかけているわけではないので、平気で逃げてしまうのです。
１４　わたしは良い羊飼いであり、自分の羊を知っています。　また羊もわたしを知っています。　１５わたしの父がわたしを知っておられ、わたしも父を知っているのと同じです。　わたしは羊のためにいのちを捨てるのです。　１６このほかに、別の囲いにも羊がいます。　その羊をも導かなければなりません。　やがてその羊も、わたしの声に注意深

く聞き従い、一人の羊飼いのもとに一つの群れとなるのです。
１７　わたしが、再びいのちを得るために、いのちを投げ出すからこそ、父はわたしを愛してくださいます。　１８だれもわたしの意に反して、わたしを殺すことはできません。自分から進んでいのちを捨てるのです。　わたしには、いのちを自由に捨て、もう一度それを得る権威と力があるからです。　父がこの権威を下さったのです。」
１９　この話のことで、ユダヤ人の指導者たちの意見は、また真っ二つに分かれました。
２０「こいつは悪霊に取りつかれてるか、それとも気が変になってるかだ。　こんなやつの言うことに耳を貸す必要なんかあるもんか」と息まく者があるかと思えば、　２１「いいや、とても悪霊に取りつかれた者のことばとは思えないな。　だいいち、悪霊に盲人の目を開けることなんかできるはずもないだろう」と言い返す者も出るというしまつです。
宮きよめの祭りにおけるイエス
２２２３時は冬でした。　宮きよめの祭りがあり、イエスもエルサレムにおられました。ちょうど、宮の中のソロモンの廊と呼ばれる所を歩いておられると、　２４ユダヤ人の指導者たちが来て、まわりを取り囲みました。　「いつまで気をもませるつもりです？　キリスト様なら、はっきりそう言ったらいいでしょう。」
２５　彼らの質問に、イエスはお答えになりました。　「そのことだったら、もう話しました。　もっとも、あなたがたは信じませんでしたが。　父の御名によって、何度も奇蹟を行なったでしょう。　証拠はそれで十分なはずです。　２６それでも、あなたがたはわたしを信じないのです。　あなたがたはわたしの羊の群れに属さないのですから、しかたがありません。　２７わたしの羊はわたしの声を聞き分けます。　わたしは彼らを知っているし、彼らもわたしにはついて来ます。　２８わたしは彼らに永遠のいのちを与えるのです。　だから、絶対に滅びたりはしません。　だれも、わたしの手から彼らを奪い取ることはできません。　２９父がわたしに下さった群れなのですから。　父はだれよりも力があります。　わたしの羊をさらうことなんか、だれにもできません。　３０わたしと父とは一つです。」
３１　これを聞いて、ユダヤ人の指導者たちは、にわかに石をつかみました。　イエスを打ち殺そうというのです。
３２　「わたしは、神の指図どおり、たくさんの奇蹟を行なって、人々を助けただけです。そのどこがいけなくて殺されなければならないのでしょうか？」
３３　「なにも良い行ないを責めてるわけじゃない。　神様を汚したからだ。　ただの人間のくせに、神だなどとぬかしおって！」
３４　「あなたがたの律法には、『わたしは言った。　「あなたがたは神神だ」』と書いてあるではありませんか。　３５無効になることのありえない聖書が、神のことばを受けた人々を神々と呼んでいるのです。　３６とすれば、父がきよめ分かち、この世にお遣わしになった者が、『わたしは神の子だ』と言うのが、どうして神を汚すことになるのですか。
３７わたしが神の奇蹟を行なっていないのなら、わたしを信じなくてかまいません。　３

８しかし、もし神の奇蹟を行なっているのなら、わたしを信じないにしても、奇蹟そのものは信用しなさい。　父がわたしのうちにおられ、わたしが父のうちにいることが、はっきりわかるでしょう。」
３９　彼らが、またも逮捕しかねない勢いなので、イエスはうまくその場を切り抜けられ、エルサレムをあとになさいました。　４０そして、ヨルダン川を渡り、ヨハネが最初にバプテスマ（洗礼）を授けていたあたりにおられましたが、　４１ここでも、大ぜいの人が、あとからあとから詰めかけます。
彼らは口々に言いました。　「ヨハネは一つも奇蹟を行なわなかったけど、この方について話したことは、何もかもそのとおりになったな。」　４２こうして、大ぜいの人が、イエスこそメシヤ（救い主）だと信じるようになったのです。
一一
ラザロの死
１２マリヤのことを覚えていますか。　イエスの足に高価な香油を注ぎ、それを髪でぬぐったあの婦人です。　さて、そのマリヤの兄弟ラザロが病気になりました。　彼と、マリヤ、その姉のマルタはいっしょにベタニヤに住んでいました。　３マルタとマリヤはイエスのもとに使いをよこしました。　「先生。　あなた様が目をかけてくださったラザロが重い病気にかかり、明日をも知れない状態です。」
４　この知らせを聞いたイエスは、言われました。　「この病気は、ラザロが死んで、それで終わりということにはなりません。　神の栄光が現わされるためですから。　神の子のわたしが、栄光を受けるのです。」
５　イエスは、マルタたち三人を心から愛しておられました。　６けれども、なぜか、なお二日間そこにいて、なかなか腰を上げようとはなさいません。　７二日たって、ようやく、「さあ、ユダヤに行きましょう」と、弟子たちに言われました。
８　ところが、もうれつな反対が返ってきたのです。　「なんてことを、先生！　つい先日、ユダヤ人の指導者たちが、先生を殺そうとしたのをお忘れですか！　なのに、また、のこのこと出かけて行くなんて全く非常識です。」
９　「昼間は十二時間あります。　その間に歩けば、安全で、つまずくこともありません。１０ところが、夜歩いたらとても危険です。　暗くて、足を踏みはずすかもしれませんから。」イエスはこうお答えになってから、　１１さらに続けられました。　「友達のラザロが眠っています。　彼を起こしに行かなくては。」
１２１３これを、ラザロが夜ぐっすり眠れたものと勘違いした弟子たちは、「じゃあ、病状はよくなってるんですね」と聞き返しました。　しかしイエスは、ラザロは死んだと言われたのです。
１４　そこで、今度は、はっきりとおっしゃいました。　「ラザロは死んだのです。　１５わたしがその場に居合わせなくてよかったのです。　これでまた、あなたがたがわたしを信じる機会が増えるのですから。　さあ、彼のところへ出かけましょう。」

１６　ここで、「ふたご」とあだ名されているトマスが、「おい、みんなで行ってさ、先生とごいっしょに死のうじゃないか」と、仲間の弟子たちに誘いかけました。
１７　一行がベタニヤに着いてみると、もう手遅れでした。 ラザロはすでに墓に葬られ、四日にもなるというのです。　１８ベタニヤは、エルサレムからわずか三キロほどの所でしたので、　１９ユダヤ人たちが大ぜい、お悔やみに詰めかけていました。　マルタとマリヤが慰めのことばを受けているところへ、　２０イエスのおいでが知らされました。マルタはそれを聞くと、取る物も取りあえず、迎えに駆けつけました。ところが、マリヤは家の中にじっと座ったままでした。
２１　マルタはイエスに訴えました。　「先生！　あなた様が、あなた様さえいてくださったら、ラザロは死なずにすみましたものを……。　２２でも、まだ遅くはありません。あなた様が神様にお願いしてくだされば、生き返らせていただけますもの……。」
２３　イエスは言われました。　「そのとおりです。　ラザロは生き返るのです。」
２４　「はい。　いつかすべての人が復活する日には、もちろん……。」
２５　「このわたしが、死人を生き返らせ、もう一度いのちを与えるのです。　わたしを信じる者は、たといほかの人と同じように死んでも、また生きるのです。　２６わたしを信じて永遠のいのちを持っているからです。　滅びることなど絶対にありません。　このことを信じますか、マルタ。」
２７　「はい、先生。　あなた様こそ、長いあいだ待ち続けてきた神の子キリストだと、信じております。」
２８　マルタは、家に戻り、マリヤをわきへ呼んでそっと耳うちしました。 「先生がね、すぐそこまでおいでになって、あんたに会いたいって言ってらしたわよ。」　２９そこでマリヤは、すぐにイエスのところへ出かけて行きました。
イエス、ラザロを生き返らす
３０　さて、イエスはまだ村に入らず、マルタが出迎えた場所におられました。　３１マリヤを慰めていたユダヤ人たちは、彼女がそそくさと出て行くのを見て、きっと墓へ泣きに行くのだろうと思って、あとについて行きました。
３２　マリヤは、イエスのところまで来ると、くずおれるように足もとにひれ伏し、涙ながらに言いました。　「ああ、先生……。　あなた様さえいてくださったら、ラザロは、ラザロはまだ生きて……。」
３３　イエスは、目の前でマリヤが泣き伏し、ユダヤ人たちもいっしょに嘆き悲しんでいるのに強く心を打たれ、動揺なさった様子です。　３４「ところで、ラザロの墓は？」とおっしゃいました。
「来て、ごらんください。」　３５イエスの目に涙があふれました。
３６　「お気の毒になあ、心底ラザロを愛しておられたんだよ。　二人はほんとうに親しかったのだ。」ユダヤ人たちはこう言い合いました。
３７　しかし、中には、「盲人の目を開けたこの人でも、ラザロを生かしておくことはでき

なかったのかね」と、非難がましく言う人もいました。　３８これを聞いたイエスは、またも心に深い憤りをお感じになりました。　墓に着きました。　それはほら穴で、入口には重い石が立てかけてあります。
３９　「さあ、石をわきにどけなさい。」イエスは人々をうながされました。
マルタがあわてて押しとどめました。　「でも、もうひどいにおいがしてますわ。　なにしろ、死んでから今日で四日ですもの。」
４０　イエスは、マルタにおっしゃいました。　「もし信じるなら、神のすばらしい奇蹟を見る、と言ったはずですよ。」
４１　人々は言われるままに石を取りのけました。　イエスは天を見上げ、「父よ。　願いを聞いてくださってありがとうございます。　４２もちろん、いつも聞いてくださることはわかっています。　ただ、ここに立っているみんなにもわかるように、こう申し上げたのです。　あなたがわたしをお遣わしになったことを、信じてもらいたいからです」と祈られました。　４３それから、大声で、「ラザロよ。　出て来なさいっ！」とお命じになりました。
４４　すると、どうでしょう。　布でぐるぐる巻かれた姿のまま、ラザロが出て来たではありませんか！　顔も布で包まれたままです。　イエスはあっけにとられている人々に言われました。　「さあ、早く布をほどいてやって、帰らせなさい。」
４５　マリヤについて来て、この出来事を見た大ぜいのユダヤ人も、ついにイエスを信じるようになりました。　４６しかし、パリサイ人たちのところへ行き、事細かに、このことを報告する者も何人かいました。
４７　そこで、祭司長やパリサイ人たちは、この問題を協議するため、さっそく議会を召集したのです。　たいへんな議論になりました。　「あいつが確かに奇蹟を行なっているというのに、いったい何をぐずぐずしているのか。　４８あいつをこのまま放っておいてみろ。　国民一人残らずあいつを信じるようになってしまうぞ。　そんなことにでもなったら、取り返しがつかない。　ローマ軍が踏み込んで来て、われわれを殺し、ユダヤ政府を乗っ取るだろう。」
４９　すると、その年の大祭司カヤパが、業をにやして言いました。「ばかを言うな。　こんなこともわからないのか。　５０全国民の代わりに、やつ一人に死んでもらえば事はすむのだ。　国民全体が滅びるなんて、冗談じゃない。」
５１　イエスが全国民の代わりに死ぬことを、ほかでもない大祭司カヤパが預言したのです。　カヤパは、自分で考えたのではありません。そう言うように、聖霊に導かれたのです。　５２これは、イエスが、イスラエル人ばかりか、世界中に散らされているすべての神の子供たちのためにも死んでくださるという預言でした。　５３この時から、ユダヤ人の指導者たちは、イエスを殺す、うまい計画をあれこれ練り始めました。
５４　そんなこともあって、イエスは、人前でおおっぴらに活動するのをやめ、エルサレムをあとにされました。　そして、荒野に近いエフライムの村で、しばらく弟子たちと共

に身を潜めておられました。
５５　ユダヤ人の過越の祭りが近づきました。　この時は、大ぜいの人が各地からエルサレムに集まります。　みな祭りの始まる前にきよめの儀式をすませようと、数日前には着くように出かけて来るのです。　５６人々はイエスに会いたいと思いました。　宮のあちこちで、「どうだろうね。　あの方は、祭りにいらっしゃるかな」と、しきりにうわさし合う声が聞こえます。　５７一方、祭司長やパリサイ人たちの頭には、イエスを逮捕することしかありません。　「イエスを見かけた者は、直ちに届け出よ」という命令を出していました。
一二
イエスに香油を注ぐマリヤ
１　過越の祭りの始まる六日前に、イエスはベタニヤにお着きになりました。　いつか生き返らせてやった、あのラザロがいる村です。　２さっそく晩餐が用意されました。　マルタは給仕にいとまがありません。　ラザロはイエスといっしょに食卓に着いています。３そこへマリヤが、香油のつぼを手に、入って来ました。　それは、ナルドから作った純粋な香油で、とても高価なものです。　マリヤはイエスのそばに歩み寄ると、驚いたことに、その香油をイエスの足に注いだのです。　それから、ていねいに髪でぬぐいました。たちまち家中にすばらしい香りがたちこめました。
４　ところが、弟子の一人で、イエスを裏切ろうとしていたイスカリオテのユダが、非難がましく言いました。　５「やれやれ、この香油はひと財産ものだよ。　売って、その代金を貧しい人たちに恵んでやればよさそうなものなのに。　全くもったいない話だ。」　６こう言ったのは、貧しい人たちのことを心にかけていたからではありません。　仲間の会計をいっさい任されているのをいいことに、使い込みを重ねていたからです。
７　イエスはお答えになりました。　「したいようにさせておきなさい。　マリヤは、わたしの葬りの準備をしてくれたのです。　８貧しい人たちは、いつでも助けてあげられます。　だが、わたしはもう、それほど長くいっしょにはいられないのですから。」
９　エルサレムの市民は、イエスがおられると聞いて、どっとラザロの家に押しかけました。　イエスに会うためばかりではありません。　一度死んで生き返ったラザロを、一目見たいとも思ったのです。　１０これには、祭司長たちも頭をかかえ込み、いっそのことラザロも殺してしまおうと相談しました。　１１ラザロのことで、大ぜいのユダヤ人がユダヤ教から離れ去り、イエスをメシヤ（救い主）と信じるようになったからです。
エルサレムにおけるイエスの最後の宣教
１２　翌日､イエスがエルサレムに向かわれるというニュースが町中に広まりました。 過越の祭りで上京した人々は、　１３「それ、イエス様をお迎えしろ」と、手に手にしゅろの枝を振りかざして駆けつけます。　沿道はたちまち人の波、波、波……。　あちこちで大歓声が上がります。
「救い主様ーっ！

イスラエルの王様ばんざーいっ！
神の大使ばんざーいっ！」
１４　イエスはろばの子に乗っておられました。　こうして、預言どおりのことが起こったのです。
１５　「イスラエルの民よ。
あなたがたの王を恐れるな。
王は柔和で、ろばの子に乗って、
来られるのだから。」
１６　〔この時、弟子たちにはまだ、この出来事が預言どおりに起こったとは、思えませんでした。　しかし、イエスが天にある栄光の座に帰られたあと、「そういえば、あの事も聖書にあるとおりだった。　この事も預言どおりだった」と、一つ一つ思い当たることばかりでした。〕
１７　群衆の中には、イエスがラザロを生き返らせる現場を目撃した人たちの顔もちらほら見られます。　彼らは事件の一部始終をふれ回っていました。　１８こんなに大ぜいの人がイエスを出迎えたのも、実を言えば、そのすばらしい奇蹟のことを聞いたからなのです。
１９　この有様に、パリサイ人たちは、とうとうやけを起こしてしまいました。　「なんてことだっ！　見ろ。　みんな、あいつについて行ったじゃないかっ！」
２０　さて、過越の祭りに加わろうと、エルサレムに来ていた数人のギリシヤ人が、　２１ベツサイダ出身のピリポのところへ来て、「先生。ぜひともイエス様にお会いしたいのですが」と頼み込みました。　２２ピリポはアンデレにそのことを話し、二人でお願いしようということになりました。
２３　イエスはお答えになりました。　「いよいよ、わたしが天にある栄光の座に帰る時が来たのです。　２４よく言っておきます。　畑にまかれる一粒の麦のように、わたしも地に落ちて死ななければなりません。　そうしなければ、いつまでたっても、一人のまま、一粒の種のままです。　だが、死ねば、多くの新しい実が生じ、新しいいのちが豊かに実を結ぶことになります。　２５この地上のいのちを愛するなら、結局はそれを失うだけです。　しかし、地上のいのちに執着しなければ、代わりに永遠の栄光を受けるのです。
２６　わたしの弟子になりたい者は、ついて来なさい。　わたしに仕える者は、わたしのいる所にいなければならないのですから。　わたしに従う者を、父は重んじてくださるのです。　２７だが、今いったい、わたしはどうしたらいいのでしょうか……。　『父よ。行く手に待ちかまえていることからお救いください』と祈るべきでしょうか。　ああ、だが、このために、このためにこそ、わたしは来たのです……。　２８父よ。　どうぞあなたの栄光を現わし、あなたの名が、あがめられるようにしてください！」
その時、天から声が聞こえました。　「わたしはすでにそうしたし、また、もう一度そうしよう。」

２９　この声を聞いた群衆はかってに想像をめぐらし、「雷が鳴ったのだ」と思う者もあれば、「御使いが語りかけたのだ」と言いはる者もいるというしまつでした。
３０　そこで、イエスは群衆に言われました。　「この声が聞こえたのは、わたしのためではありません。　あなたがたのためです。　３１さばきの時が来ています。　この世の支配者サタンは追い出されるのです。　３２わたしは十字架の上に上げられる時、すべての人をわたしのもとに引き寄せましょう。」　３３こう言われたのは、自分がどのような死に方をするかを示されるためでした。
３４　「あなた様が死ぬですって？　メシヤ（救い主）様は永遠に生きていて、絶対に死んだりなさらないものと思っておりましたのに。　どうして、そんなことをおっしゃるのです？　いったいどんなメシヤ様のことを言っておられるのですか。」
３５　「もうほんのしばらくの間、わたしの光はあなたがたのために輝いています。　光のある間に光の中を歩きなさい。　暗やみが襲って来る前に、行こうと思う所に行きなさい。　襲って来てからでは遅すぎます。　道を見つけることもできません。　３６まだ時間のある間に、光を十分に用いなさい。　そうすれば、光の子になれるのです。」イエスは、こう話し終えられると、そこを立ち去り、身を隠されました。
３７　ところが、イエスがあれほど多くの奇蹟をなさったにもかかわらず、大部分の人は、イエスをメシヤとは信じませんでした。　３８まさに、イザヤが預言したとおりです。「主よ。　だれが私たちのことばを信じるのですか。　だれが、神様の力強い奇蹟を、証拠と認めるのですか。」　３９人々は信じることができませんでした。　イザヤは次のようにも言っています。　４０「神は彼らの目を盲目に、心をかたくなにされた。　彼らが見ることも、理解することも、わたしのもとに立ち返っていやされることもないためだ。」　４１この預言は、イエスのことを指しています。　イザヤは、メシヤの栄光の幻を見て預言したからです。
４２　それでも、だれも信じなかったというわけではありません。　ユダヤ人の指導者の中にさえ、イエスをメシヤと信じる者がかなりいました。　ただ、パリサイ人たちに会堂から除名されるのがこわくて、そのことを打ち明ける気になれなかったのです。　４３神にほめていただくことよりも、人にほめられることのほうを重んじたからです。
４４　イエスは大声で、群衆に語りかけました。　「わたしを信じて任せきる人は、ほんとうの意味で神を信じているのです。　４５わたしを見るのは、わたしをお遣わしになった方を見るのと同じだからです。　４６わたしは、この暗い世に輝く光として来ました。わたしを信じる人がだれも、もはや暗やみの中をさまようことのないためです。　４７わたしのことばを聞きながら従おうとしない人がいても、あえてさばきはしません。　わたしが来たのは、世の人々を救うためで、さばくためではないからです。　４８しかし、わたしを退け、わたしの言うことを受け入れないすべての人をさばくものがあります。　わたしの語った真理が、終わりのさばきの日に、その人をさばくのです。　４９その真理は、わたしがかってに考え出したことではなく、父が語れとお命じになったことだからです。

５０神の命令は、人を永遠のいのちに導きます。　だから、神が語れと言われたことを、何でもそのとおり語っているのです。」
一三
イエス、弟子の足を洗う
１　過越の祭りの前に、イエスは、いよいよ、この世を去って父のもとに帰る最後の時が来たと覚悟を決め、弟子たちを最後まで徹底的に愛しとおされました。　２夕食の間のことです。　悪魔はすでに、シモンの子、イスカリオテのユダに、今夜こそ、かねてからの計画を実行に移す絶好の時だという考えを、吹き込んでいました。　３イエスは、父がすべてのものを与えてくださったことと、自分が神のもとから来て、また神のもとに帰ろうとしていることを知り、　４夕食の席から、ゆっくり立ち上がられ、上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰に巻かれました。　５そして、たらいに水を入れ、弟子たち一人一人の足を洗い、腰の手ぬぐいでふき始められたのです。
６　シモン・ペテロの番になりました。　ペテロは言いました。　「主よ。　足を洗っていただくなど、もったいなくてとてもできません。」
７　「なぜこんなことをするのか、今はわからないでしょう。　だが、あとでわかるようになります。」
８　「いいえ。　わからなくてもけっこうです。　どうかもう、おやめください」とペテロは言いはります。
「だが、足を洗ってあげなければ、わたしの仲間にはなれません。」
９　これには、ペテロもすっかりあわてて、「そ、それなら、足だけとおっしゃらず、手も、それに頭も！」と叫びました。
１０　「水浴した者は、足だけ洗えば、全身きれいになります。　今あなたがたはきれいなのです。　もっとも、みんながみんな、というわけではありませんが。」　１１イエスは、だれが裏切り者かちゃんとお見通しだったので、「みんながみんな、きれいなわけではありません」と言われたのです。
１２　弟子たちの足を洗い終えると、また上着をきて、席に戻り、改めてお尋ねになりました。　「わたしのしたことがわかりますか。　１３あなたがたはわたしを『先生』とも『主』とも呼んでいます。　それはかまいません。　まさにそのとおりなのですから。　１４その、主でも先生でもあるわたしが足を洗ってあげたのですから、あなたがたも互いに足を洗い合いなさい。　１５わたしは模範を示したのです。　わたしがしたとおりに、あなたがたもしなさい。　１６使用人は主人より偉くはないし、遣わした本人より使者のほうが大物だということもありえません。　１７このことがわかったら、すぐ実行しなさい。これこそ祝福される道です。
１８　あなたがた全員に、こう言っているのではありません。　あなたがたを選んだのは、このわたしです。　ですから、一人一人がどんな人間かよく知っています。　聖書（旧約）には、『わたしと食事を共にしている者が、わたしを裏切る』とはっきり書いてあるでしょ

う。　いいですか。　まもなく、そのとおりのことが起こるのです。　１９今そのことを話しておきましょう。　その時になって、あなたがたがわたしを信じられるように。
２０　よく言っておきます。　わたしが遣わす者を心から受け入れる人はだれでも、わたしを受け入れるのです。　そして、わたしを心から受け入れることは、わたしをお遣わしになった父を受け入れることなのです。」
新しい戒めを与えるイエス
２１　ここでイエスは、込み上げる霊の悲しみを抑え、叫ばれました。「そうです。　まぎれもない事実なのです。　あなたがたのうちの一人が、わたしを裏切るのです！」　２２弟子たちは、だれのことか見当もつきません。　きょとんとして顔を見合わせるばかりです。　２３ところで、私は日ごろから特に目をかけていただいていたので、食卓では先生の隣に座っていました。　２４だからでしょうか、シモン・ペテロが私に、「そんな恐ろしいことをしでかすのは、いったいだれか聞いてくれ」と合図を送ってきました。
２５　そこで私は、先生に、「主よ。　だれがそんなことを？」と尋ねました。
２６　「わたしが手ずからスープに浸したパンを与える者がそうです。」
こう言われると、イエスはパンを浸し、イスカリオテのシモンの子ユダに与えられたのです。
２７　ユダがそのパンを口に入れるが早いか、サタンがユダの心に入り込みました。　そこで、イエスはユダに、「さあ、急いで、することをしなさい」と言われました。
２８　食卓に着いているほかの者はみな、何のことやら、さっぱりわかりません。　２９ユダが一行の会計係だったので、おおかた、食べ物の代金の支払いか、貧しい人々に金を恵むことぐらいだろう、と思った者もいました。　３０ユダはぱっと席を立つと、夜のやみに飛び出して行きました。
３１　ユダが姿を消すとすぐ、イエスが言われました。　「時が来ました。　神の栄光がわたしの回りに輝き渡るのも、時間の問題です。　同時にまた、わたしの身に起こるすべてのことゆえに、神も大いにほめたたえられるでしょう。　３２神はわたしに、ご自分の栄光を与えてくださるのです。　それも、すぐに。　３３心から愛してやまない子供たちよ。　ああ、もう時間がありません。　あなたがたを残して行かなければならないのです……。　その時には、いくらわたしを捜しても、わたしのところへ来ることはできません。そう、ユダヤ人の指導者たちにも言っておいたとおりです。
３４　そこで今、新しい戒めを与えましょう。　わたしがあなたがたを愛するように、互いに愛し合いなさい。　３５互いに心から愛し合うなら、わたしの弟子であることが、だれの目にもはっきりするのです。」
３６　さっそく、シモン・ペテロが尋ねました。　「主よ。　いったい、どこへいらっしゃるのですか？」
「あなたは、今はついて来れません。　しかし、ずっとあとになって、ついて来ます。」
３７　「でも、どうしてですか。　どうして今はだめなのですか。　あなた様のためなら

死ぬ覚悟もできてます。」
３８　「わたしのために死ぬ、と言うのですか。　いや違います。　そう言うあなたが、明日の朝、鶏が鳴く前に、三度、わたしを知らないと言いはるのです。」
一四
１　「どんなことがあっても、心配したりあわてたりしてはいけません。　神を信じ、何もかも、わたしに任せなさい。　２父の住んでおられる所には、家がたくさんあります。もしなかったら、はっきり言っておいたでしょう。　実を言えば、あなたがたを迎える家を準備しに行くのです。　３すっかり準備ができたら、迎えに来ます。　わたしがいる所に、いつでも、いられるようにしてあげるためにです。
４これだけ言えば、わたしがどこへ行くか、どうしたらそこへ行けるか、もうわかったでしょう。」
５　するとトマスが、言い返しました。　「いいえ、ちっともわかりません。　先生がどこへおいでになるのか、まるで見当もつきません。　まして、そこへ行く道など、どうしてわかりましょう。」
６　イエスはトマスにおっしゃいました。　「いいですか。　わたしが道です。　そして真理でもあり、いのちでもあります。　わたしを通らなければ、だれ一人、父のところへは行けません。　７わたしがどういう者か知っていたら、わたしの父のこともわかったはずです。　今から、あなたがたは父を知る、というより、もうすでに父を見ているのです。」
８　今度はピリポが口をはさみました。　「先生。　あなたのお父様を見せてください。それだけで十分ですから。」
９　「ピリポ。　こんなに長くいっしょにいるのに、わたしがどういう者か、まだわからないのですか。　わたしを見た者は、父を見たのです。　それなのにどうして父を見せてくださいなどと言うのですか。　１０わたしが父のうちにおり、父がわたしのうちにおられることを信じないのですか。　いいですか。　わたしは自分の考えを話しているのではありません。　わたしのうちに住んでおられる父の命じるままに話しているのです。　父は、わたしを通して、働きをなさいます。　１１わたしが父のうちにおり、父がわたしのうちにおられる、ただこのことを信じなさい。　もし信じられないなら、わたしが見せてあげた力ある奇蹟を思い出してごらんなさい。　そうしたら信じられるでしょう。
１２　よく言っておきます。　わたしを信じる者はだれでも、わたしと同じ奇蹟を行なうばかりか、それよりもさらに大きな奇蹟さえ行なうのです。　わたしが父のもとに行くからです。　１３わたしの名を使って、父に願い求めなさい。　どんなことでもかまいません。　必ずかなえてあげます。　それもみな、父がほめたたえられるためです。　１４そうです。　わたしの名によって、どんなことでも願い求めなさい。　必ずかなえてあげます。
イエス、もう一人の助け主（聖霊）を送ると約束する
１５　わたしを愛するなら、わたしの戒めを守りなさい。　１６父に、もう一人の助け主

を送っていただくよう、お願いしましょう。　その助け主は、絶対にあなたがたを離れません。　１７その方とは聖霊、すなわち、すべての真理へと導いてくださる御霊のことです。　世間の人は、この方を受け入れることはできません。　この方を求めもしなければ、認めようともしないからです。　しかし、あなたがたはこの方を知っています。　あなたがたと共に住み、あなたがたのうちにおられるからです。　１８そうですとも。　わたしがあなたがたを見捨てたり、嵐のまっただ中に、孤児のように置き去りにしたりなどするものですか。　必ずあなたがたのところに帰って来ます。　１９もうすぐ、わたしはこの世を去りますが、それでもなお、いっしょにいるのです。　わたしは再び生き返り、あなたがたもいのちを受けるからです。　２０わたしが復活する時、あなたがたは、わたしが父のうちにおり、あなたがたが、わたしのうちにおり、またわたしが、あなたがたのうちにいることがわかります。　２１わたしに従い、わたしの戒めを守る人は、わたしを愛する人です。　わたしを愛する人を、父は愛してくださいます。　わたしもまたその人を愛し、わたし自身を現わします。」

２２　ユダ〔イスカリオテのユダではなく、同名の他の弟子〕がイエスに、不思議そうに尋ねました。　「先生。　私たち弟子にだけ、ご自分を現わそうとなさって、世間の人に現わそうとなさらないのは、どうしてですか。」

２３　イエスはお答えになりました。「わたしを愛し、わたしのことばを守る人にだけ、わたしは自分を現わすのです。　父もまた、そういう人を愛してくださいます。　わたしたちはその人のところに来て、その人といっしょに住みます。　２４わたしのことばを守らない人は、わたしを愛していないのです。　わたしは、自分で考え出したことを話しているのではありません。　わたしをお遣わしになった父が教えてくださったことを話しているのです。　２５今、まだあなたがたといっしょにいる間に、このことをみな話しておきます。　２６しかし、父がわたしの代わりに助け主〔聖霊のこと〕を送ってくださる時には、わたしが話しておくことを、その方がみな思い出させてくださるばかりか、それ以上のことを、いろいろ教えてくださるのです。

２７　ところで、贈り物をあげましょう。　そう、あなたがたの思いと心を安らかにしてあげる、それがわたしの贈り物です。　わたしが与える平安は、この世が与える、はかない平安とは比べものになりません。　だから、どんな時にも、おろおろしたり、恐れたりしてはいけません。　２８『わたしは行くが、また戻って来る』と言ったことを思い出しなさい。　ほんとうにわたしを愛しているなら、わたしのために心から喜んでくれるはずです。　今わたしは、父のもとに行けるのですから。　父はわたしよりも偉大です。　２９わたしは、まだ起こらないことを前もって話しました。　それが起こった時に、あなたがたがわたしを信じるためです。

３０　もう、あまり多くのことを話す時間がありません。　この世の悪い支配者が、そこまで近づいているからです。　彼はわたしに何もできません。　３１わたしは、父がせよとおっしゃることを進んで実行します。　わたしが父を愛していることを、世の人が思い

知るためです。　さあ、出かけましょう。

一五

すばらしい実を結ぶために

１　わたしはほんとうのぶどうの木、わたしの父はぶどう園の農夫です。　２父は、実のならない枝をみな切り落とし、実のなる枝は、もっとたくさんなるように、余分な枝を整理なさいます。　３父はいっそう強く、役立つ者にしようと、すでに、あなたがたの枝を整理してくださいました。　わたしが与えた命令という、はさみを使って、きれいに手入れをすまされたのです。　４わたしのうちに生きるよう心がけなさい。　またわたしが、あなたがたのうちに生きられるようにしなさい。　枝は幹につながっていなければ、実を結べないでしょう。 同じようにあなたがたも、わたしから離れたら、実を結ぶことなど、とてもできません。

５　そうです。　わたしがぶどうの木で、あなたがたはその枝なのです。　人がわたしのうちに生き、わたしもその人のうちに生きていれば、その人は実をいっぱい結びます。　わたしを離れては何もできません。　６わたしから離れる者はだれでも、役に立たない枝のように投げ捨てられ、枯れてしまいます。　最後には、ほかの枝といっしょに積み上げられ、焼かれてしまうのです。　７しかし、もしわたしのうちにとどまり、わたしの命令に従うなら、何でもほしいものを求めなさい。　きっとかなえられます。　８わたしのほんとうの弟子は、実をいっぱい結びます。　そのことによって、父が大いにほめたたえられるのです。

９　父がわたしを愛してくださったように、わたしもあなたがたを愛しました。　わたしの愛のうちに生きなさい。　１０わたしの戒めを守るなら、わたしの愛のうちに生き続けます。　わたしが父の戒めを守り、父の愛のうちに生きているのと同じです。　１１このことを話したのは、あふれる喜びを共に味わいたいからです。　１２わたしがあなたがたを愛するように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。　これがわたしの教えです。　１３愛は何によって測ることができるでしょう。　友のためにいのちを投げ出すこと、これより大きな愛はありません。　１４わたしの命令に従う人は、わたしの友です。　１５あなたがたはもう使用人ではありません。　今からは、わたしの友です。　主人は使用人に秘密を打ち明けたりはしません。　だがわたしは、父から聞いたことを、何もかも話してあげたのです。

１６　あなたがたがわたしを選んだのではありません。　わたしが、あなたがたを選んだのです。　そして任命しました。　だから、あなたがたは行って、いつまでも残る、すばらしい実を結びます。　また、わたしの名前を使って父に求めるものは、何でもいただけるのです。　１７もう一度念を押します。　互いに愛し合いなさい。　１８あなたがたは、世間の人にひどく憎まれるからです。　だが、忘れてはいけません。　あなたがたより先に、わたしが憎まれたのです。　１９あなたがたが彼らと一つ穴のむじなであったら、世間も、あなたがたを愛したでしょう。　だが、そうではありません。　わたしが、自分で

選び、世間から連れ出したのです。　だからこそ、世間はあなたがたを憎むのです。　２０『使用人は主人より偉くはない』と言ったのを、覚えているでしょう。　わたしを迫害した人々が、あなたがたを迫害して、何の不思議があるでしょう。　しごく当然のことです。　わたしの言うことを聞く人なら、あなたがたの言うことも聞くはずです。　２１世間の人は、わたしの弟子だというだけで、あなたがたを迫害します。　わたしをお遣わしになった神を、全く知らないからです。
２２　わたしが来て、何も話さなかったのであれば、彼らは無罪です。だが今はもう、罪の言いわけは許されません。　２３だれでもわたしを憎む者は、わたしの父をも憎むのです。　２４わたしがあれほどの奇蹟を行なわなかったのであれば、彼らは有罪と宣告されることもなかったでしょう。　だが実際は、奇蹟をはっきり見たにもかかわらず、わたしもわたしの父をも憎んだのです。　２５こうして、『彼らは理由もなしにわたしを憎んだ』という、メシヤ（救い主）についての預言は、そのとおり実現しました。
２６　だが、わたしはあなたがたに、助け主、すなわち、すべての真理の根源である聖霊を遣わしましょう。　その方は、父のもとから来て、わたしのことを、何から何まで語ってくださいます。　２７あなたがたもまた、わたしのことをすべての人に語らなければなりません。　初めから、わたしといっしょにいたからです。
▪
一六
悲しみは喜びに変わる
１　このことを話したのは、これからどんなことが起こっても、あなたがたがおたおたしないためです。　２覚悟しなさい。　会堂から除名され、いのちまでつけねらわれる身になるのですから。　事実、あなたがたを殺すことで、神への奉仕を果たすのだと、人々がとんでもない思い違いをする時が来ます。　３父をも、わたしをも知らない人々のやりそうなことです。　４いいですか。　この警告をしっかり心にとめておきなさい。　迫害が現実に起きた時、あわてふためかないですむようにしなさい。　今までこんなことを言わなかったのは、しばらくでも、いっしょにいてあげられたからです。
５　しかし今は、わたしをお遣わしになった方のもとに行かなければなりません。　それでもあなたがたは、わたしが何のためにそこへ行くのか、知りたくないようです。　だれ一人、どこに行くのか尋ねもしないではありませんか。　６ただもう、わたしの話を聞いて、悲しみで胸が張り裂けんばかりなのでしょう。　７だがほんとうは、わたしが行くのは、あなたがたにとって一番よいことなのです。　わたしが行かなければ、助け主はおいでになりません。　行けば、必ずおいでになります。　それというのも、わたしが、その方を遣わすからです。
８　その方が来られると、世間の人に誤りを認めさせます。　罪、心の正しさ、神との正しい関係、さばきからの救いということで、人々はまるで考え違いをしているのです。　９まず罪とは、わたしを信じないことです。　１０正しい心を持ち、神と正しい関係を結べ

るのは、わたしが父のもとに行き、もはやわたしを見なくなるからです。　１１さばきから救われるのは、この世の支配者がすでにさばかれたからです。
１２　ああ、話しておきたいことは、まだまだ、たくさんあります。　それなのに、今のあなたがたには、理解できないことばかり……。　１３だが、真理である聖霊が来られます。　その方の指導を受けて、あなたがたもいつか、すべての真理を知るのです。　聖霊は、自分の考えを述べたりはなさいません。　ただ、聞くままを伝えてくださるのです。やがて起こることについても話してくださいます。　１４また、わたしを賞賛し、わたしの栄光を示すことによって、大きな栄誉を与えてもくださいます。　１５父の栄光はみなわたしの栄光です。　だから聖霊がわたしの栄光を示すと言ったのです。　１６じきに、わたしは去って行きます。　もはやわたしを見ることはできません。　だが、またすぐに、わたしを見るのです。」
１７１８この話を聞いて、弟子たちの何人かが、ひそひそささやき始めました。　「いったい何のことだろう。　『じきに、わたしを見なくなり、またすぐに、わたしを見る』とか、『父のもとに行く』とかおっしゃったけど、さっぱりわからないな。」
１９　弟子たちが質問したくて、うずうずしていると、イエスはそれに答えるように、また話し始められました。　「何をひそひそ言い合っているのですか。　そんなにわたしの言うことがわからないのですか？　２０いいですか。　わたしの身に起こることで、この世は、それ見たことかと大喜びし、あなたがたは悲しみます。　だが、やがてわたしに再会するのです。　その時、悲しみは大きな喜びに変わるでしょう。　２１苦しんで子供を産む母親の喜びと全く同じです。　今の今までの激しい苦しみは、うれしさのあまり足が地につかないほどの大きな喜びに変わり、痛みも何もかも、まるでうそのように忘れてしまうのです。　２２今は悲しみでいっぱいでしょう。　だがわたしは、もう一度あなたがたに会います。　その時あなたがたは、だれにも奪われない喜びにあふれるのです。　２３その時には、何一つわたしに求める必要はありません。　直接父に求めることができるからです。　父は、わたしの名前で求めるものは何でも、与えてくださいます。　２４今までこのような求め方をしたことはありませんね。　わたしの名前で求めなさい。　そうすれば与えられ、あなたがたは喜びに満ちあふれるのです。
２５　わたしはたとえを使って話しましたが、そんな必要はなくなる時が来ます。　その時には、父のことを何もかもはっきりと話しましょう。　２６その時、あなたがたはわたしの名前で願い事をするのです。　わたしが代わって、どうぞ願いを聞き届けてやってくださいと父に頼む必要はなくなります。　２７わたしを愛し、わたしが父から来たことを信じるあなたがたを、父も心から愛してくださるからです。　２８そう、わたしは父のもとからこの世に来ました。　そして、また世を去り、父のもとに帰るのです。」
２９　「それならわかります、先生！　少しもなぞめいたところはありません。　３０あなた様は何もかも、ご存じです。　差しで口など、とても口はばったくてできません。　あなた様は、確かに神様に遣わされた方です。」

３１　「やっと信じてくれるのですね。　３２ああ、でも時が来れば、あなたがたは、ばらばらに追い散らされます。　わたし一人を残して、見向きもせず、一目散に家に逃げ帰るのです。　いや、その時はもう来ています。　だが、わたしは一人ではありません。　父がついておられます。　３３あなたがたも、心配しないで、安心していなさい。　こんなにも、念には念を入れて話してあげたのは、そのためなのですから。　確かに、この世では苦難と悲しみが山ほどあります。　しかし、元気を出しなさい。　わたしはすでに世に勝ったのです。」
一七
イエスの祈り
１　ひとしきり語り終えられると、イエスは天を見上げて言われました。　「父よ。　いよいよ時が来ました。　わたしがあなたに栄光をお返しできるように、わたしの栄光を現わしてください。　２地上のすべての人を支配する権威を、わたしに下さったのですから。こうして、あなたから任せられた一人一人に、永遠のいのちを与えるのです。　３ただ一人の、まことの神であるあなたと、あなたがこの地上にお遣わしになったわたしを知ること、それが、永遠のいのちを得る道です。　４わたしは、何もかも、あなたに言われたとおりやり遂げ、地上であなたの栄光を現わしました。　５父よ。　今こそあなたの前で、わたしの栄光を現わしてください。　世界が造られる前に、ごいっしょに持っていたあの栄光で、わたしを輝かせてください。
６　あなたのことはすべて、この人たちに話しました。　彼らはこの世にいましたが、あなたが世から選び出し、わたしに下さったのです。実際にはいつもあなたのものである彼らを、わたしに下さったのです。彼らはあなたのおことばを守りました。　７いま彼らは、わたしの持っているものはみな、あなたからの贈り物であることを知っています。　８わたしが、あなたの命令を伝えたからです。　彼らはそれを受け入れ、確かに、わたしがあなたのもとから、この地上に遣わされて来たのだと納得し、信じています。
９　お願いがあります。　もちろん、世のためではなく、あなたがわたしに下さった者たちのためです。　何と言っても、彼らはあなたのものなのですから。　１０彼らはみな、わたしのもの、また、あなたのものです。　あなたは彼らを、他のすべてのものといっしょに、わたしに下さいました。　ですから、彼らはわたしの栄光なのです。　１１わたしは世を去り、あなたのもとに帰ります。　彼らをあとに残して……。　ああ、父よ。　この人たちが一人も脱落しないように守ってください。　わたしたちが一つであるように、彼らも一つとならせてください。　１２わたしがいっしょにいた間は、あなたの家族として、一人一人を安全に守りました。　滅びないように、いつも見守りました。　ただ地獄の子は別です。　彼一人だけが滅びました。　聖書（旧約）に言われていたとおり……。
１３　今わたしは、みもとにまいります。　彼らの心がわたしの喜びでいっぱいになるようにと、いっしょにいる間は、できるだけのことを話しました。　１４あなたの命令も伝えました。　するとどうでしょう。　世間の人は彼らを憎んだのです。　わたし同様、彼

らもこの世と調子を合わせようとしないからです。　１５彼らをこの世から取り去ってくださいとはお願いしません。　ただ、サタンから安全に守ってやってください。　１６わたし同様、彼らも、この世のものではありません。　１７あなたの真理のことばを教え、彼らを純粋な、きよい者としてください。　１８あなたがわたしを世にお遣わしになったように、わたしも彼らを世に遣わします。　１９また、彼らが真理を知る、きよい者として成長できるように、この身をささげます。
２０　この人たちのことだけでなく、この人たちの証言を聞いて、わたしを信じるすべての人のためにも祈ります。　２１父よ。　お願いです！　あなたとわたしが一つであるように、彼らも一つの心、一つの思いとなりますように。　あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるのと同じように、彼らをもわたしたちのうちにおらせてください。　それを見て、あなたがわたしをお遣わしになったことを、世間が信じますように。
２２　あなたが下さった栄光を、わたしは彼らに与えました。　わたしたちが一つであるように、彼らも輝かしい一致を保ってほしかったからです。　２３わたしが彼らのうちにおり、あなたがわたしのうちにおられて初めて、みな完全に一つになるのです。　その時、世間は、あなたがわたしをお遣わしになったことを知り、わたしだけでなく彼らをも愛しておられることを、認めざるをえなくなるのです。　２４父よ。　彼らを、わたしといっしょにおらせてください。　わたしの栄光を見させてあげてください。　世界の造られる前からわたしを愛しておられた、あなたが下さった栄光を。
２５　ああ、父よ。　何事につけても正しい父よ。　世間はあなたを知りません。　けれども、わたしはあなたを知っています。　この弟子たちも、あなたがわたしをお遣わしになったことを知っています。　２６わたしが教えたのです。　これからも教えます。　あなたの大きな愛が彼らをつつみ、わたしも彼らのうちにいられるように。」
一八
逮捕されるイエス
１　ようやく話し終えると、イエスは弟子たちといっしょに出かけ、ケデロンの谷を横切り、とあるオリーブ園に入って行かれました。　２裏切り者のユダも知っている場所でした。　前によく弟子たちと、ここに来たことがあったのです。
３　祭司長とパリサイ人たちは、一個大隊の兵士と神殿警備員たちをユダにつけてやりました。　手に手にあかあかと燃えるたいまつやランプをかざし、武器を引っ下げた一隊が、オリーブ園に押しかけます。
４５イエスは、自分の身に起こることを何もかもご存じだったので、少しもあわてません。前に進み出て人々を迎えました。　裏切り者のユダもいっしょです。　「だれを捜しているのですか。」
「ナザレのイエス！」
「わたしがイエスです。」　６このイエスのことばに、人々はみな息をのんであとずさりし、ばたばたとあお向けに倒れました。

７　イエスはもう一度お尋ねになりました。　「だれを捜しているのですか。」
「ナザレのイエス。」
８　「わたしがそうだと言ったではありませんか。　目当てがこのわたしなら、ほかの者は関係ありません。 このまま帰らせてあげなさい。」 ９こうおっしゃったのは、さっき、「わたしに下さった人たちを、ただの一人も失いませんでした」と言ったとおりになるためでした。
１０　その時、シモン・ペテロは剣を抜き放ち、大祭司の部下、マルコスの右の耳を切り落としました。
１１　しかし、イエスはペテロをたしなめました。　「剣をさやに納めなさい。　父が下さった杯は飲まなければならないのです。」
１２　これを聞くと、ユダヤ人の警備員たちは、大隊長や兵士たちといっしょに、やにわに襲いかかり、イエスを縛り上げてしまいました。　１３彼らがまずイエスを引っ立てて行ったのは、その年の大祭司カヤパのしゅうとアンナスのところでした。　１４カヤパは以前、ユダヤ人の指導者たちに、「一人の人が、全国民の代わりに死ぬほうが得策だ」と助言した人物です。　１５シモン・ペテロは、もう一人の弟子といっしょに、恐る恐るイエスについて行きました。　その弟子はうまいぐあいに大祭司の知り合いだったので、イエスといっしょに中庭に入れてもらえましたが、　１６ペテロは、じりじりしながら、門の外に立っているほかありません。　そこへあの弟子が来て、門番の女に頼み込んだので、やっと入れてもらえることになりました。　１７ほっとしたのもつかの間、女は、まじまじとペテロを見やり、「ねえ、ちょっと、あんた、イエスの弟子じゃない？」と聞くではありませんか。
「とんでもない、何を言うんだい。」そらとぼけてその場はなんとか切り抜けました。
１８　寒い日でした。　警備員や召使たちは、炭火をかこんで、暖まっています。　ペテロも何くわぬ顔で、いっしょに立って暖まっていました。
１９　中ではいよいよ、大祭司がイエスに、弟子たちのことや教えの内容などについて、尋問を始めたところです。
２０　イエスはお答えになりました。　「わたしの教えは、わかっているでしょう。　いつも会堂や宮で教えたのですから。　ユダヤ人の指導者の皆さんも、聞いておられたはずです。　それ以外に、隠れて別のことを教えたことはありません。　２１どうして、そんな質問をするのですか。　そのようなことは、わたしの話を聞いた人たちに尋ねればすむのに。　ここにも何人かはいるでしょう。　わたしが何を言ったか、その人たちが一番よく知っています。」
２２　「無礼者！　それが、大祭司様に対する口のきき方かっ！」そばに立っていた役人の一人が、どなりつけざま、平手でイエスをなぐりました。
２３　イエスは、お答えになりました。 「何か、まちがったことでも言いましたか。　だったら、証拠を見せてください。　正しいことを言う者をなぐる法はないはずです。」

２４　こうしたやりとりのあと、アンナスはイエスを、縛ったまま、大祭司カヤパのところに回しました。
２５　一方、シモン・ペテロはどうしたでしょう。　火のそばで暖まっていると、またしても人々が、「あんた、あの人の弟子じゃないかね」と問い詰めるではありませんか。
「弟子だって？　冗談じゃない。」
２６　こう答えたものの、まずいことに、ペテロが耳を切り落とした、あの大祭司の部下の親類にあたる者が居合わせたのです。　「しらばっくれてもだめだぜ。　あのオリーブ園で、確かにイエスといっしょだったぞ。」
２７　こうまで言われても、ペテロはあくまで白をきりました。　と、その時、鶏の鳴く声が聞こえました。
裁判を受けるイエス
２８　カヤパの取り調べは、その朝早く終わり、今度はローマ総督の番です。　訴える人々は、イエスを総督官邸まで連れて行きましたが、中へは入ろうとしません。　そんなことをしたら、身が汚れて、過越の小羊が食べられなくなるというのです。　（ユダヤ教のおきてでは、異教徒の家に入ることは、たいへん汚らわしいことだったのです。）　２９それで、総督ピラトがわざわざ外に出て来て、問いただしました。「何を告発するのか。　いったいこの男はどんな悪事を働いたのだ。」
３０　「やつが犯罪人でないなら、逮捕したりはいたしません！」彼らも負けずにやり返します。
３１　「そうか。　だったら、おまえたちが裁判したらよかろう。　おまえたちの法律に従ってな。」
「お忘れですか。　私どもにはこの男を死刑にする権利はないのですよ。　ぜひとも閣下のご承認がいただきたいですな。」　３２こうして、自分がどのような方法で処刑されるか、イエスが前もって話しておられたことが、現実となったのです（マタイ二〇・一九参照）。
３３　ピラトは官邸内に戻ると、イエスを呼び寄せて尋ねました。　「おまえはユダヤ人の王か。　どうなんだ。　ええっ。」
３４　「はて、王といわれましても……。　普通の意味での王ですか。　それとも、ユダヤ人の言う王でしょうか。」
３５　ピラトは頭にきて言い返しました。　「なにっ！　私がユダヤ人だとでも言うつもりか。　おまえをここに引っ立てて来たのは、ユダヤ人と祭司長どもなんだぞ。　いったいどうしたのだ。　何をしでかしたのか。」
３６　「わたしは地上の王ではありません。　もし地上の王であったら、逮捕された時、弟子たちは戦いをいどんだでしょう。　わたしの国はこの世のものではないのです。」
３７　「なんだと、それじゃあ、やっぱりおまえは王なんだなっ！」
「いかにもそのとおりです。　そのためにこそ、わたしは生まれたのです。　そう、この世に真理を伝えるために。　真理を愛する者はみな、わたしに従うのです。」

３８　「真理だと？　真理とは何だ。」吐き捨てるように叫ぶと、ピラトはまたユダヤ人たちのところへ行き、こう提案しました。　「あの男は無罪だ。　３９ところで、毎年過越の祭りの時には､囚人を一人釈放してやることになっている。 おまえたちさえよければ、あの『ユダヤ人の王』を釈放してやるが、どうだ。」
４０　「違う！　あいつじゃない！　バラバだ！」彼らはまた大声でわめき立てました。このバラバという男は強盗だったのです。
一九
１　しかたなくピラトは、イエスの背中を鉛のついたむちで打たせました。　２そして兵士たちは、いばらで冠を編み、イエスの頭にかぶらせ、王の着る紫色のガウンを着せました。　３それから､「よお、ユダヤ人の王様、ばんざーいっ！」とさんざんからかい、おまけに平手でたたいたりしたのです。
４　ピラトはもう一度外に出て､ユダヤ人たちに念を押しました。「今､あの男を連れ出す。だがいいか。　私の見たところでは、あの男は無罪だ。」
５　イエスは、いばらの冠に紫色のガウンという姿のまま、出て来られました。　「よく見ろ。　この男だ」と、ピラトが言いました。
６　「十字架につけろっ！　十字架だっ！」イエスを見るやいなや、祭司長やユダヤ人の役人たちは、大声でわめき立てました。
「そこまで言うなら、おまえたちがやれっ！　私の調べでは無罪だからな。」
７　「こいつは自分を神の子とぬかしました。　私どもの法律では、死刑です。」
８　このことばを聞くと、ピラトは、ますますこわくなりました。　９もう一度、イエスを官邸へ連れ戻し、尋ねました。　「おまえはいったい、どこから来た？」しかし、イエスは、ひと言もお答えになりません。
１０　ピラトはさらに問い詰めます。　「何も言わないのか。　わからんやつだな。　私の命令ひとつで、おまえを釈放することも、十字架につけることもできるのだぞ。」
１１　イエスは言われました。　「神から与えられた権威でなければ、あなたは何も手出しはできません。　ですから、わたしをあなたに引き渡した者の罪は、もっと大きいのです。」
１２　何とかしてイエスを釈放しようと手を尽くすピラトに、ユダヤ人の指導者たちは激しく抵抗しました。　「こやつを釈放なさるおつもりで？　そんなことをしたら、あなた様はカイザル（ローマ皇帝）の味方ではありません。　だれであろうが、自分を王とする者は謀反人です。」
１３　こう言われて、ピラトは、またもやイエスを外に連れ出し、敷石〔ヘブル語では「ガバタ」〕という場所で裁判の席に着きました。　１４ちょうど、過越の祭りの前日、正午ごろのことでした。
「さあ、おまえたちの王だ。」
１５　「殺せ、殺せ。　十字架につけろっ！」

「なにっ？　おまえたちの王をか？」
「カイザルのほかに王はないっ！」祭司長たちは、むきになって叫び返します。
１６　これでは、しかたがありません。　ピラトもあきらめ、十字架につけるため、イエスをユダヤ人に引き渡しました。
十字架につけられ、埋葬されるイエス
１７　ついに、イエスはユダヤ人たちの手に落ちたのです。　イエスは、十字架を背負わされ、エルサレム市外の、「がいこつ」〔ヘブル語で「ゴルゴタ」〕という場所へ引っ立てられて行かれました。　１８人々はそこで、ほかの二人といっしょにイエスを十字架につけました。　イエスは真ん中、二人はその両側に。　１９ピラトは、イエスの頭上に、「ユダヤ人の王、ナザレのイエス」と書いた罪状書きを掲げました。　２０処刑の場所は都に近く、しかも、罪状書きはヘブル語、ラテン語、ギリシヤ語で書いてあったので、大ぜいの人が読みました。
２１　これを見た祭司長たちは、ピラトに抗議しました。　「『ユダヤ人の王』とあるのは納得がいきません。　『ユダヤ人の王と自称した』と書き直してください。」
２２　「私が書いたことに口出しする気かっ！　そのままにしておけ。」ピラトは頑として聞き入れません。
２３　さて、イエスを十字架につけてしまうと、兵士たちは、はぎ取った着物を四つに分け、一つずつ取りました。　下着もそうしようとしましたが、見ると縫い目がありません。
２４「こいつは裂くわけにいかないな。　よし、だれが取るか、くじで決めようぜ」と相談がまとまりました。　「彼らはわたしの着物を分け合い、下着をくじ引きにした」という聖書（旧約）のことばどおりになったのです。　２５兵士たちがこんなやり方をしたのも、実はそのためでした。
十字架のそばには、イエスの母マリヤ、おば、クロパの妻マリヤ、マグダラのマリヤが立っていました。　２６特に目をかけていただいた私もいっしょでした。　イエスは、私のそばに立ち尽くしているご自分の母親を見つめられ、「お母さん。　ほら、そこにあなたの息子がいますよ」とお声をかけられました。
２７　それから、弟子の私に、「さあ、あなたの母親ですよ」とおっしゃいました。　その時以来、私は先生のお母さんを家に引き取ったのです。
２８　こうして、何もかもすっかり終わったことを知ったイエスは、「わたしは渇く」と言われました。　これも　聖書（旧約）のことばどおりの出来事です。　２９そこには、ちょうど酸っぱいぶどう酒のつぼが置いてあります。　人々は、海綿を浸し、ヒソプの枝の先につけて、イエスの口もとに差し出しました。
３０　それをお受けになると、最後に「何もかもなしとげた」とひと言叫ばれ、息を引きとられたのです。
３１　まずいことに、翌日は安息日でした。　〔しかも特別に重要な日でした。〕ユダヤ人の指導者たちは、どうしても、死体を翌日まで十字架にかけっぱなしにしておきたくあり

ません。　ピラトに、受刑者どものすねを折って早く死なせるよう取り計らってほしい、と願い出ました。　そうすれば、取り降ろせるからです。　３２さっそく兵士たちが来て、イエスといっしょに十字架につけられた二人の男のすねを折りました。　３３最後に、イエスのところに来て見上げると、すでに死んでおられます。　それで、すねを折るのはやめにしました。　３４ところが、兵士の一人が何を思ったのか、いきなり槍でわき腹を突きました。　すると、どうでしょう。　そこから血と水が流れ出たのです。　３５この一部始終を、私は確かにこの目で見ました。　それをありのままに、正確に報告しています。皆さんにも信じていただきたいからです。　３６３７兵士たちがこうしたのは、聖書（旧約）に、「彼の骨は一つも砕かれない」、また「彼らは自分たちが突き刺した方を見る」とあるとおりのことが、起こるためでした。
３８　このあと、弟子でありながら、ユダヤ人の指導者たちを恐れて、それをひた隠しにしていたアリマタヤのヨセフが、勇気を奮い起こし、ピラトに、イエスの死体を引き取りたいと願い出ました。　ピラトの許可を得ると、すぐ刑場に駆けつけ、死体の取り降ろしにかかりました。　　３９前に、夜、イエスのところに来たことのあるニコデモも、没薬（天然ゴムの樹脂で、古代の防腐剤）とアロエでつくった埋葬用の香油を三十キロほど用意して来ました。　４０二人はいっしょに、ユダヤ人の埋葬の習慣に従い、香料をしみ込ませた長い亜麻布でイエスのお体を包みました。　４１刑場の近くに、木の生えている園があり、そこには、さいわい新しい墓がありました。　４２安息日の前日ですから、急がなければなりません。　すぐ近くだったこともあり、イエスをその墓に納めました。
二〇
イエスは復活した！
１　週の初めの日（日曜日）、朝早く、まだ暗いうちに、マグダラのマリヤは墓に行きました。　見ると、入口の石がわきにのけてあります。
２　驚いたマリヤは、息せき切ってシモン・ペテロと私のところに駆けつけ、「た、たいへんよ。　だ、だれかが、主のお体を取ってっちゃったわ！　ねえ、いったい全体、どこに置いたのかしら」と叫びました。
３４私たちは、それを確かめようと、二人して墓に急ぎました。　私はペテロより速かったので、先に着きました。　５すぐさま身をかがめてのぞき込むと、亜麻布が見えます。けれども、中には入りませんでした。　６続いてシモン・ペテロが駆けつけ、ためらわず中に入りました。　彼もやっぱり、亜麻布と、　７そこからやや離れた所に、イエスの頭に巻いたはずの布がそのままの形で置いてあるのを見ました。　８私もあとから入り、この有様を見て、イエスが復活なさったことを信じました。　９この時までは、イエスは必ず復活すると書いてある聖書のことばを、全く理解していなかったのです。
１０　二人は家に帰りました。　１１同じころ、マリヤは墓に戻り、外に立って泣いていました。　ところが、泣きながら身をかがめて墓の中をのぞき込むと、　１２イエスのお体があった場所の、頭と足にあたる所に、白い着物をきた御使いが二人、座っているでは

ありませんか。
１３　「なぜ泣いているのです？」御使いたちがマリヤに尋ねました。
「だれかが私の主を取って行ったからですわ。　どこに置いたのか、まるっきりわからないんですもの。」
１４　こう答えてふり向くと、だれかが立っています。　なんとイエスでした。　しかし、マリヤはまだ気がつかないようです。
１５　イエスはマリヤにお尋ねになりました。　「どうかしましたか。　泣いたりして……。　だれを捜しているのですか？」
マリヤは、園の管理人と勘違いしていたので、「あの方を運んだのはあなた？　もしそうだったら、どこに置いたのか教えてください。私が引き取ります」と言いました。
１６　「マリヤ。」イエスが呼びかけられました。　その声にマリヤは、イエスのほうを向いて叫びました。
「先生っ！」
１７　「待ちなさい。　すがりつくのはやめなさい。　まだ父のもとに上っていないのですから。　それよりも、してほしいことがあります。　行ってわたしの兄弟たちに、『わたしは、わたしの父、またあなたがたの父である方、わたしの神、またあなたがたの神である方のもとに上って行く』と伝えてほしいのです。」
１８　マグダラのマリヤは、さっそく帰って行き、弟子たちに、「ねえ聞いて、主にお会いしたのよ」と告げ、イエスの言われたとおりに話しました。
１９　同じ日曜日の夕方のことです。　弟子たちは、ユダヤ人の指導者たちを恐れて、戸にしっかりかぎをかけ、肩を寄せ合うようにして集まっていました。　その時、突然、全く突然に、イエスが一同の中にお立ちになったのです。　「平安があるように。」イエスはまず、こうあいさつされてから、　２０手とわき腹をお見せになりました。　主を見た弟子たちの喜びは、どんなだったでしょう。
２１　イエスはもう一度言われました。　「平安があるように。　父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わします。」　２２ここで、一同にふっと息を吹きかけ、また言われました。　「聖霊を受けなさい。　２３あなたがたが赦すなら、だれの罪も赦されます。　あなたがたが赦さない罪は赦されません。」
疑わずに信じなさい
２４　十二弟子の一人で、「ふたご」と呼ばれたトマスは、その時、その場に居合わせませんでした。　２５それでみんなが、「ほんとうだよ。主にお会いしたんだよ」と口をすっぱくして話しましたが、本気にしません。　頑として、こう言いはるばかりです。　「主の御手に釘あとを見、この指をそこに差し入れ、この手を主のわき腹に差し入れてみなきゃ、信じるもんか。」
２６　八日たちました。　その日も、弟子たちは集まっていました。　今度はトマスもいっしょです。　戸には、かぎがかかっています。　ところが、突然、前の時と全く同じよ

うに、イエスが一同の中に立ち、「平安があるように」と、あいさつなさったではありませんか。
２７　それからイエスは、トマスにおっしゃいました。　「さあ、あなたの指をこの手に当ててみなさい。　あなたの手をこのわき腹に差し入れてみなさい。　いつまでも疑っていないで、信じなさい。」
２８　「ああ、わが主、わが神よ！」感きわまって、トマスは叫びました。
２９　「わたしを見たから信じたのですか。　しかし、見なくても信じる者はしあわせです。」
３０　この本に記した奇蹟のほかにも、もっと多くの奇蹟をイエスが行なわれるのを、弟子たちは見ました。　３１しかし、これらのことを特に書いたのは、あなたがたが、イエスは神の子キリストであると信じるため、またそう信じていのちを得るためです。
二一
ガリラヤ湖畔で弟子に現われたイエス
１　このことがあってから、ガリラヤ湖のほとりで、もう一度、イエスは弟子たちの前に現われました。　その時のいきさつはこうです。
２　シモン・ペテロ、「ふたご」と呼ばれたトマス、ガリラヤのカナ出身のナタナエル、私の兄弟のヤコブ、それに私と、ほかに二人の弟子がいっしょにいました。
３　「漁に行くぞ」とシモン・ペテロが言いだしました。
すると、みんな、「それじゃあ、おれたちも」というわけで、そろって出かけました。　小舟に乗り込み、漁が始まりました。　ところが、一晩中かかっても、雑魚一匹とれません。
４もう夜明けというころ、だれかが岸辺に立っているのが見えました。　ぼんやりかすんでいるので、だれかは、ちょっとわかりません。
５　「おーい。　魚はとれたかーい。」その人が声をかけてきました。
「いやー、全然だめだよー。」
６　「では、舟の右側に網を下ろしてごらんなさい。　きっと、たくさんとれますよ。」さっそく、そのとおりにすると、どうでしょう。　重くて引き上げられないほど、たくさんの魚がかかったのです。
７　その時、私ははっと気がつき、「おい、あの方は主だぞ！」とペテロに言いました。　それを聞くとペテロは、裸だったので、あわてて上着をはおり、さっと水に飛び込みました。
８舟に残った私たちは、百メートルほど離れた岸辺まで、魚ではち切れんばかりの網を引いて、そろそろ進みました。　９着いてみると、炭火がおこしてあります。　その上では魚がいいぐあいに焼けており、パンもあります。
１０　「今とった魚を少し持って来なさい。」　１１こう言われて、シモン・ペテロがまっ先に飛んで行き、網を陸に引き上げました。数えてみると、なんと、大きな魚が百五十三匹……。　しかも、網はどこも破れていません。
１２　「さあ、ここへ来て、朝ごはんにしなさい」とイエスはうながされます。　「ほん

とうに主ですか」などとあえて尋ねる者は、一人もいません。　それほどよく、わかっていたのです。　１３イエスはそばに来られ､パンと魚をめいめいに配ってくださいました。
１４　死人の中から復活されたあと、私たちに現われてくださったのは、これで三度目です。
１５　食事がすむと、イエスはシモン・ペテロを見つめておっしゃいました。　「ヨハネの子シモン。　ほかのだれよりもわたしを愛しますか。」
「はい、主よ。　私があなたを愛することは、あなたがご存じです。」
「それでは、わたしの小羊を養いなさい。」
１６　イエスは、くり返しお尋ねになりました。　「ヨハネの子シモン。　ほんとうにわたしを愛していますか。」
「はい、主よ。　私があなたを愛することは、あなたがご存じです。」
「それでは、わたしの羊の世話をしなさい。」
１７　イエスはもう一度、念を押されました。　「ヨハネの子シモン。ほんとうにわたしを愛していますか？」
三度こんな尋ね方をされたので、ペテロは心に痛みを感じながら答えました。　「主よ。いっさいをご存じなのはあなた様です。　私があなたを愛することは、あなたがご存じです。」
「それでは、わたしの羊を養いなさい。　１８あなたは若い時には、したいことをし、行きたい所に行きました。　だが、年をとると、そうはいかなくなります。　あなたは自分の手を伸ばし、だれかほかの人が、行きたくもない所へあなたを引っ張って行くのです。」
１９こう言われたのには訳がありました。　ペテロがどんな死に方をして、神の栄光を現わすかを、知らせようとなさったのです。　それから、「わたしについて来なさい」と言われました。
２０　ペテロが何げなくふり向くと、イエスが特に目をかけておられた弟子が、ついて来るではありませんか。　あの最後の夕食の時と、イエスに寄りかかって、「主よ。　裏切り者はだれですか」と尋ねた弟子です。
２１　たちまちペテロの好奇心が頭をもたげました。「主よ。　彼はどうなんです？　どういう死に方をするのですか。」
２２　「もう一度戻って来るまで、彼に生きていてほしいと、わたしが思ったとしても、あなたとはなんの関係もないでしょう。　人のことは気にしないで、ただわたしについて来ればいいのです。」
２３　このことから、その弟子は死なないといううわさが、クリスチャンたちの間に広まりました。　しかし、イエスはそう断言なさったわけではありません。　ただ、「もう一度戻って来るまで、彼に生きていてほしいと、わたしが思ったとしても、あなたとはなんの関係もないでしょう」と言われただけなのです。
２４　その弟子とは、実は私のことです。　私はこれらの出来事を、見たとおり、ここに

記録しました。　この記録が正確なことは、私たちみんなが知っています。
２５　イエスのなさったことは、ほかにもたくさんあります。　それをいちいち書き記すとしたら、全くきりがないでしょう。　世界中が本であふれるほど書いても、それでもまだ足りないと思います。
▪

キリスト教会の誕生

教会はまず、エルサレムで誕生しました。そして、パレスチナから、小アジヤ、ギリシヤへと、次々に伝道活動を推し進め、ついに、当時の世界の中心ローマにも、その輪は広がっていったのです。人々の激しい反対や迫害にもめげず、弟子たちは力強く、大胆にキリストの教えを伝えました。こうして、世界各地にキリスト教が広まり、教会がつくられる有様が、教会の中心的指導者であったペテロとパウロの活動や体験を軸に、種々の事件をまじえながら展開していきます。

使徒の働き（弟子たちの伝道記録）
自分たちの師であったイエス・キリストが捕らえられ、十字架上で殺されたのを知った弟子たちは、ユダヤ人を恐れ、一個所に閉じこもっていました。　けれども、その彼らの目前に、復活したイエスが立った時、不安と恐れが消え、イエスこそ人類の救い主であることを、力強く人々に知らせる者と変わったのです。　本書は、一地域から、そして、ほんの小さな人々の集まりから出発したキリスト教会の誕生と発展、および、キリストの弟子たちの働きの記録です。

一
１２神を愛する親愛な友へ。
この前の手紙では、イエスの生涯とその教えについて書き、イエスが、お選びになった使徒たちに、聖霊によって指示を与え、天に帰られたところまで、お伝えしました。
３十字架刑のあと、四十日にわたって、イエスは何度も使徒たちに姿を現わされました。自分が、まぎれもなくイエスであることを、さまざまな方法で証明なさったのです。　またそのつど、神の国のこともお話しになりました。
イエスの昇天
４そんなある時のことです。　イエスは使徒たちに、こうお命じになりました。　「エルサレムから離れてはいけないよ。　前にも言ったように、父が約束を果たしてくださるまで、待っていなさい。
５バプテスマのヨハネは、水でバプテスマ（洗礼）を授けたが、もうじき、あなたがたは

聖霊様によるバプテスマを受けるからだ。」
６そこで、またイエスが姿を現わされた時、使徒たちはわくわくしながら、「主よ。　今こそ、イスラエルを解放し、独立国として再興なさるのですか」と尋ねました。
７「それがいつかは、父がお決めになる。　あなたがたが、とやかく言うことはできないのだよ。　８だが、聖霊様があなたがたに下る時、あなたがたは大きな力を受け、エルサレムからユダヤ全土、そしてサマリヤから地の果てまで、わたしの死と復活を伝える証人となるのだ。」
９こうお答えになると、イエスは、あれよあれよと見守る使徒たちの目の前で、天にのぼり、たちまち雲の中に姿を消されました。　１０彼らがなおも目をこらして見上げていると、突然、白い着物をきた人が二人、そばに立って言いました。
１１「ガリラヤの人たちよ。　なぜ空ばかり見上げているのですか。　イエス様は天にのぼりましたが、いつかまた、今と同じようにして、地上へ帰って来られるのです。」
１２このことが起こったのはオリーブ山でした。　そこから一キロほど歩いてエルサレムに戻るとすぐ、　１３１４使徒たちは、泊まっていた家の二階で、祈り会を始めました。
そこにいたのは次の人たちです。
ペテロ、
ヨハネ、
ヤコブ、
アンデレ、
ピリポ、
トマス、
バルトロマイ、
マタイ、
ヤコブ〔アルパヨの息子〕、
シモン〔「熱心党」という反体制グループのメンバー〕、
ユダ〔ヤコブの息子〕、
イエスの母、兄弟たち、
何人かの婦人たち。
１５この祈り会は数日間続きました。　ある日、百二十人ほども集まっていた時、ペテロが立ち上がり、次のように提案しました。
１６「皆さん。　暴徒どもの手引きをした裏切り者のユダには、聖書のことばどおりのことが起こりました。　そうならなければならなかったのです。　ずっと昔、聖霊様によって、ダビデ王が預言したことだからです。　１７ユダは、使徒にも選ばれた、私たちの仲間でした。　１８ところが彼は、裏切りでもうけた金で畑を手に入れたものの、まっさかさまに落ちて、体が裂け、はらわたがみな飛び出すという無残な死に方をしたのです。　１９この出来事は、あっという間にエルサレム中に広まり、いつしか、人々はその場所を『血

の畑』と呼ぶようになりました。　２０実は、聖書（旧約）の詩篇の中で、ダビデ王が『彼の家は荒れ果て、だれも住まなくなれ』『彼の仕事を、ほかの人に与えよ』と預言しています。
２１２２だから今、ユダの代わりにほかの人を、イエスの復活の証人に選ばなければなりません。　選ばれる者の資格ですが……、何と言っても、初めから私たちと行動を共にしてきた人でなければいけません。 そう､イエス様がヨハネからバプテスマを受けて以来、別れを告げて天にのぼられるまでの間、ずっと私たちといっしょにいた人です。」
２３一同は二名の候補者を立てました。　ユストというヨセフ〔別名バルサバ〕と、マッテヤです。
２４２５それから、ふさわしい人が選ばれるように、みな一心に祈りました。　「ああ、主よ。 あなた様はすべての人の心をご存じです。 どうぞ､裏切り者のユダの代わりに、二人のうち、どちらを使徒にお選びになるか、お示しください。　ユダは当然行くべき所に行ってしまいました。」
２６いよいよくじを引きます。　当たったのは……、マッテヤです。　こうして、ほかの十一人に、彼が使徒として加わることになりました。
二
聖霊が下る
１さて、イエスの死と復活から、七週間が過ぎました。　五旬節（ユダヤ教の祭りの一つ）の日です。　信者たちが一堂に集まっていると、　２突然、天からものすごい音がしました。　まるで、激しい風が吹きつけるような音です。　それが、家全体にごうごうと響き渡ったのです。　３そして、めらめら燃える炎の舌のようなものが現われ、みんなの頭上にとどまりました。　４するとどうでしょう。　その場にいた人は、一人残らず聖霊に満たされ、知りもしない外国語で話し始めたではありませんか。　聖霊が、それだけの力を与えてくださったのです。
５その日、エルサレムには、たくさんの敬虔なユダヤ人が、祭りのために、世界のあちこちから集まっていました。　６この大音響に、人々は、いったい何事かと駆けつけましたが、弟子たちの話していることばを聞いて、すっかり面食らってしまいました。　まぎれもなく自分たちの国のことばだったからです。
７さっぱり訳がわかりません。　ただ口々に、こう言い合うばかりでした。　「こ、こんなことって、あるかい。　みんな、ガリラヤ出身の人だというのに……。　８それが、私たちの国のことばで、すらすら話している。　９ここには、パルテヤ人、メジヤ人、エラム人、またメソポタミヤ、ユダヤ、カパドキヤ、ポント、アジヤ、　１０フルギヤ、パンフリヤ、エジプト、それにリビヤのクレネ語が使われている地方などから来た人たちがいるし、ほかにも、ローマからの旅行者で、もともとのユダヤ人もいれば、ユダヤ教への改宗者もいるといったぐあいに様々だ。　１１あっ、そうそう、クレテ人やアラビヤ人もいたっけ。　それがどうだ。　それぞれの生まれ故郷のことばで、神様のすばらしい奇蹟の

話を聞くとはなあ……。」
１２人々はただ呆然として、「いったい、どうなってるんだ？」と顔を見合わせました。
１３しかし、中には、「なに、あいつら、酔っぱらってるだけさ」と、あざける連中もいました。
１４するとペテロが、十一人の使徒と共につかつかと進み出て、声を張り上げ、人々に語りかけました。
「よそから来られた方も、エルサレムに住んでおられる皆さんも、どうぞお聞きください。
１５皆さんの中には、私たちが酒に酔っているのだとおっしゃる方もいますが、そんなことは絶対にありません。　酒に酔うには時間が早すぎます。　朝の九時から酒を飲む人はいないでしょう。　１６いま見ていることは、まさに、何世紀も前に、預言者ヨエルが預言したことなのです。
１７『神は言われる。
終わりの日に、
わたしはすべての人にわたしの霊を注ぐ。
その時、あなたがたの息子、娘は預言し、
青年は幻を見、
老人は夢を見る。
１８聖霊は、男女を問わず、わたしに仕える者たちに
注がれる。
すると、彼らは預言をする。
１９また、わたしは天と地に不思議なしるしを現わす。
血と火と煙の雲だ。
２０主の恐るべき日が来る前に、
太陽は暗くなり、月は血のように赤くなる。
２１しかし、主にあわれみを求める者はみな、
あわれみを受けて救われる。』
２２ああ、皆さん。　これから申し上げることを聞いてください。　よくご存じのように、ナザレのイエスは、大ぜいの人の前で、すばらしい奇蹟を行なわれました。　神様は、こうして、だれにもはっきりわかるように、イエス様の身元を保証なさったのです。　２３神様は、あらかじめ計画したとおり、この方を、あなたがたの手でローマ政府に引き渡し、十字架で処刑することをお許しになりました。　２４そうした上で、この方を死の恐怖から解放し、復活させたのです。　この方が、ずっと死んだままでいることなど、ありえないことだったからです。
２５ダビデ王は、イエス様のことをこう言っています。
『主はいつも私と共におられる。
主が私を助け、

神の大きな力が私を支える。
２６だから、心は喜びにあふれ、
舌は主をほめたたえる。
たとい死んでも、私には望みがある。
２７あなたは、私のたましいを地獄に放置せず、
あなたの聖なる息子の体を、
朽ち果てさせることもない。
２８私を生き返らせ、
あなたの前で、すばらしい喜びにあふれさせる。』
２９愛する皆さん。　考えてもみなさい。　ダビデはここで、自分のことを語っているわけではありません。　そうでしょう。　ダビデは死んで、葬られ、その墓は今でも、ちゃんと残っているではありませんか。　３０しかし、彼は預言者でしたから、子孫の一人がメシヤ（救い主）となり、ダビデの王座につくと神が誓われたことは、知っていたのです。
３１それで、遠い将来を望み見ながら、メシヤの復活を預言しました。　メシヤのたましいは地獄に放置されず、その体が朽ち果てることもない、と語ったのです。　３２そのとおり、神様はイエス様を復活させました。　私たちはみな、そのことの証人です。
３３今イエス様は、天で最も名誉ある神の右の座についておられます。　そして、約束どおり、父は聖霊様を送ってくださいました。　その結果、たったいま見聞きしたことが起こったのです。
３４３５いいですね。　ダビデは、決して自分のことを言ったのではありません。　ダビデは天にのぼったことはないからです。　それに、当のダビデが、こうも言っています。
『神は私の主に言われた。
「わたしがあなたの敵を
完全に征服するまで、
わたしの右に座っていなさい。」』
３６ですから、イスラエルのすべての人に、はっきり言っておきます。　神様は、あなたがたが十字架につけたイエス様を主とし、キリスト（救い主）とされたのです。」
３７ペテロのことばは、人々の心を強く打ちました。「それじゃあ、私たちはどうすればいいんでしょう。」　あちらからもこちらからも、使徒たちへの質問の声があがりました。
３８ペテロは答えました。　「一人一人が、罪の生活から足を洗って神様に立ち返りなさい。　そして、罪を赦していただくために、イエス・キリストの名によってバプテスマ（洗礼）を受けなさい。　そうすれば、聖霊様という贈り物をいただけます。　３９それは、キリスト様が約束してくださったのです。　あなたがたは言うまでもなく、あなたがたの子孫、また遠くにいても、私たちの神である主が、ちゃんとお招きになったすべての人にも、与えられるのです。」
４０このあとも、ペテロの説教はえんえんと続きました。　イエスのことや、悪に満ちた

この時代から救われなければならないことを、ことばを尽くして訴えたのです。　４１この日、ペテロの言うことを信じた人はバプテスマを受けましたが、その数は全部で三千人ぐらいでした。　４２みな、使徒たちの教えをよく守り、聖餐式（キリスト教の儀式の一つ）や祈り会に毎回きちんと出席していました。　４３だれもが、心から神様を恐れ敬うようになり、一方、使徒たちは次々と奇蹟を行ないました。
４４信者たちはみないっしょにいて、それぞれの持ち物を分け合い、　４５金が必要な人には、財産を売り払って与えました。　４６毎日、神殿できちんと礼拝をし、聖餐の時は、小人数に分かれてめいめいの家に集まり、心から喜びと感謝にあふれて、食べ物を分け合いました。　４７心から神を賛美する彼らに、町中の人は少なからず好感をいだき、神もまた、救われる者を毎日、仲間に加えてくださいました。
三
美しの門で
１ある日の午後、ペテロとヨハネは宮へ出かけました。　日課である午後三時の祈りをするためです。　２もうすぐ宮だという所で、生まれつき立ち上がることもできない男が運ばれて来るのに、出会いました。　この男は、いつも、宮の「美しの門」のそばに置いてもらい、宮に入る人たちから施しを受けていたのです。　３二人が前を通り過ぎようとすると、「だんな様方。　どうぞお恵みを」と、その男が声をかけました。
４二人は立ち止まり、男をじっと見つめました。　やがて、ペテロが口を開きました。「私たちをごらん。」
５男は何かもらえるのだろうと思って、二人を見上げました。
６ところが、ペテロは全く意外なことを言ったのです。　「あげようにも、お金は持っていないんだよ。　だが、ほかのものをあげよう。　ナザレのイエス・キリストの名によって命じる。　さあ、立って歩きなさい。」
７８そう言うなり、ペテロは手をかして立たせようとしました。　すると、驚いたことに、足もくるぶしもたちまち強くなり、しゃんと立ち上がったのです。　そして、すたすた歩き始めました。　二人が宮に入ると、男も跳んだりはねたりして、神を賛美しながらついて行きます。
９中にいた人たちは、神を賛美しながら歩いている男を、じろじろながめました。　どうしたことでしょう。　１０いつも「美しの門」で見かける、足の悪いこじきではありませんか。　だれもかれもびっくり仰天、たまげ返るばかりです。　１１そうこうするうち、みんながいっせいに、三人のいる「ソロモンの廊」と呼ばれる回廊に押し寄せました。　男はうれしくてたまらないのでしょう。　ペテロとヨハネにまつわりついて離れません。　この有様を目のあたりにした人々は、あまりのことに恐ろしくなったほどです。
１２さあ、絶好のチャンスです。　ペテロがすかさず話し始めました。
「皆さん。　どうして、そんなに驚くのです？　なぜ、私たちが自分の力や信仰深さによって、この人を歩かせたかのように、私たちを見つめるのです？　１３この奇蹟は、アブ

ラハム、イサク、ヤコブの神様、私たちの先祖の神様が、そのしもベイエスに栄光を与えるために、なさったことです。　その方を、あなたがたはピラトの面前で、はっきり拒否しました。　ピラトがあれほど釈放しようとしたにもかかわらず……。　１４このきよく正しい方を自由にしようと考えるどころか、反対に人殺しの男を釈放しろと要求したのです。　１５こうして、とうとう、いのちの源である方を殺してしまいました。　しかし神様は、この方を復活させてくださいました。　ヨハネも私も、このことの証人です。　あなたがたが処刑したあと、私たちは確かに、復活したこの方にお会いしたのです。
１６この方のお名前の力で、この人は治ったのです。　彼の足が以前どんな状態だったかは、ご存じのとおりです。　神様から与えられた、イエスの名を信じる信仰によって、彼は完全に治ったのです。
１７愛する皆さん。　あなたがたは何も知らなかったのでしょう。　知らなかったからこそ、イエス様をあんな目に会わせたのでしょう。　それは、指導者連中にも言えることです。　１８しかし神様は、実にこのことによって、メシヤ（救い主）は苦しめられるという預言を実現してくださったのです。　１９ですから、すっかり心を入れ替えて、神様に立ち返りなさい。　そうすれば、神様は罪をきよめてくださいます。　２０そして、すべてを新しくする恵みの時に、メシヤであるイエス様を、もう一度遣わしてくださるのです。
２１２２この方は、昔からの預言どおり、すべてのものが罪ののろいから救われる時まで、天にとどまっていなければなりません。　たとえば、ずっと昔に、モーセは言いました。『神である主は、やがて、私と同じような預言者を起こされる。　この方の語ることはすべて注意深く聞け。　２３この方に耳を傾けない者はだれでも、必ず滅ぼされるのだ。』
２４実に、サムエルをはじめ、それ以後の預言者はみな、現在起こっていることを預言しました。　２５あなたがたは、預言者たちの子孫でしょう。　だったら、神様がアブラハムに与えた、全世界はユダヤ民族によって祝福されるという先祖への約束に、あなたがたも、ちゃんと含まれているのです。　２６神様は自分の息子を復活させると、真っ先にあなたがたイスラエル人のもとに遣わしました。　あなたがたを、罪の生活から引き戻し、祝福なさるためです。」
四
ペテロとヨハネの逮捕
１二人が話しているところへ、祭司たちや神殿の警備隊長、それにサドカイ人たち（神殿を牛耳っていた祭司階級。　ユダヤ教の主流派）が来ました。　２聞いてみると、二人は堂々と、イエスが死人の中から復活したと話しています。　これはまずい、と思った彼らは、　３二人を逮捕しましたが、もう夕方だったので、一晩、留置場に入れておくことになりました。　４しかし、二人の話を聞いた人たちが大ぜい信じ、信者の数は、男だけで五千人に上りました。
５翌日、ユダヤ人の指導者たちの会議が、エルサレムで開かれました。　６大祭司アンナス、カヤパ、ヨハネ、アレキサンデル、そのほか大祭司の一族もみな顔をそろえています。

７二人が一同の前に引き出されました。　いよいよ尋問の始まりです。「おまえたちは、何の力で、まただれの権威で、こんなことをしたのか。」
８その時、ペテロは聖霊に満たされ、落ち着きはらって答えました。　「わが国の名誉ある指導者、ならびに長老の方々。　９お尋ねの件は、あの足の悪い男のことで、どのようにして彼が治ったかということでしょうか。　１０そのことなら、あなたがた、いや、イスラエルのすべての人たちに、はっきりお話ししたいのです。　この出来事は、あなたがたが十字架につけ、神様が復活させてくださった、あのメシヤ（救い主）、ナザレのイエス様の名と力とによるのです。　１１メシヤのイエス様は、まさに『建築士たちの捨てた石が、最も重要な土台石になった』と旧約聖書にある、その石なのです。　１２この方以外には、だれによっても救われません。　天下に、人がその名を呼んで救われる名は、ほかにないのです。」
１３あまりにも大胆な二人の態度に、議員たちもたじたじです。　しかも二人は、明らかに教育も受けていなければ、宗教の専門家でもありません。　ただただ驚くばかりです。そしてとうとう、イエスといっしょにいたから、そうなったのだ、と認めないわけにはいかなくなりました。　１４その上、実際に足の治った当の男が二人のそばに立っていたのでは、この事実を否定することもできません。　１５しかたなく、二人を退場させ、秘密に協議しました。
１６「さあて、あいつらを、どうしよう。　たいへんな奇蹟を行なったという事実は、どうにも否定のしようがない。　なにしろ、エルサレム中の人たちが知っているんだからな……。　１７だが、これ以上の宣伝活動はやめさせなきゃならん。　今後イエスのことを人前で語ったら、ただじゃすまないぞと、脅してやろう。」　１８話が決まったところで、もう一度二人を呼び入れ、こんりんざいイエスのことを話してはならないと、きつく申し渡しました。
１９しかし、ペテロとヨハネは、きっぱり答えました。「神様にではなく、あなたがたに従うことを、神様が望んでおられるとでもお考えなのですか。　２０私たちは、イエス様の行なわれたことや、お話しになったことを、知らせないわけにはいきません。」
２１議員たちは、なおもしつこく脅しましたが、効き目はありません。　かといって、二人を罰しようものなら、暴動が起こりかねないと考え、ついにあきらめ、釈放しました。人々がみな、すばらしい奇蹟を見て、神をほめたたえていたからです。　２２なにしろ、四十年も立てなかった人が、完全に治ったのですから、むりもありません。
２３晴れて自由の身になると、ペテロとヨハネは、すぐほかの弟子たちのところへ帰り、議員たちの言ったことを残らず伝えました。
祈りと賛美にあふれる教会
２４これを聞いた信者たちはみな、心を一つにして祈りました。
「ああ、天と地と海と、その中にあるすべてのものを造られた主よ。　２５２６あなた様は、はるか昔、あなた様のしもべである先祖ダビデの口を通し、聖霊様によって、こう語

られました。
『なぜ異教徒どもは主に怒りを燃やし、
愚かな国々は全能の神に、むだな抵抗をするのか。
地上の王たちは一つとなり、
神とキリストに戦いをしかける。』
２７まさに、この預言どおりのことが、今エルサレムで起こっています。　ヘロデ王と総督ピラト、それにローマ人どもがみな、イスラエルの人たちと手を組み、あなたが油を注いだ、聖なるしもべイエスに反逆しました。　２８何もかも、あなた様のお考えのとおりです。　連中のやっていることは一つ残らず、知恵ある力によって、あなた様が行なわせているのです。　２９ああ主よ、どうか今、連中の脅しを聞き、忠実に、しかも大胆に、あなた様の教えを語れるように、私たちをお守りください。　３０私たちに、病気を治す力を与え、あなた様の聖なるしもべイエスの名によって、奇蹟と不思議なことを行なわせてください。」
３１こう祈った時､集まっていた家が激しく揺れ動き､一同はたちまち聖霊に満たされて、大胆に神の教えを語り始めました。
神様へのうそ
３２さて、イエスを信じた人たちはみな、心と思いを一つにし、だれ一人、財産を惜しむ者もなく、すべてのものを平等に分け合っていました。　３３使徒たちは、主イエスの復活を力強く語り、信者同士では、だれもが親しくつき合っていました。　３４３５土地や家を持っている人はみな、それを売り払い、代金を使徒たちのところに持って来ました。そのお金は､必要に応じて､みんなに分配されたので､貧しい者は一人もいませんでした。
３６一例をあげましょう。　キプロス島出身で、レビ族の一人、ヨセフの場合です。　彼はバルナバ〔慰めの子〕と呼ばれていましたが、　３７畑を売った代金を､「困っている人たちに」と言って、使徒たちのところへ持って来ました。
五
１ところが、中にはこんな事件もありました。　アナニヤという人が、妻サッピラといっしょに財産を売り払いました。　２しかしアナニヤは、代金の一部を手もとに残しておきながら､すまして､「これで全額です」と言って、使徒たちに差し出したのです。　妻サッピラと示し合わせた上のことでした。
３しかし、ペテロはそれを見抜いて、彼を責めました。　「アナニヤよ。　悪魔に心を奪われたのかっ！　これで全額ですと言った時、おまえは、ほかのだれでもない、聖霊様ご自身にうそをついたのだ。　４おまえの財産は、売ろうと売るまいと、おまえのものであることに変わりはない。　たとい売ったとしても、その代金をどれぐらい人に施すかも全く自由だ。　なのに、どうしてこんなことをしたっ！　わかっているのか。　おまえは私たちにじゃなく、神様にうそをついたのだぞ。」
５このことばを聞くと、アナニヤはばたりと床に倒れ、あっという間に死んでしまったの

です。　これを見た人々は、恐ろしさのあまり、ちぢみ上がりました。　６やがて青年たちが、死体を布でおおい、外に運び出して葬りました。
７それから三時間ほどあとでしょうか。　アナニヤの妻が、何事も知らずにやって来ました。　８ペテロは尋ねました。「あなたがたが売った土地の代金は、これで全額ですか。」
「はい、そうです。」
９「よくまあ、夫婦そろって大それたことを考えたものだ。　聖霊様をだまそうとはな。見ろ。　おまえの夫を葬った青年たちが、門のすぐそばまで来ている。　おまえも運び出してもらうがいい。」
１０ペテロが言い終わるか終わらないかのうちに、サッピラは床に倒れ、息が絶えました。ちょうどそこへ、青年たちが入って来ました。　確かに死んでいるのを見届けると、その足で運び出し、夫のそばに葬りました。　１１教会全体と、この出来事を聞いたすべての人が、言い知れない恐怖にとらわれたことは、言うまでもありません。
１２一方、使徒たちは、神殿の「ソロモンの廊」で、定期的に集会を開いていました。　目をみはるような奇蹟も、たくさん行なわれました。　１３ほかの人々は、その仲間入りはしないまでも、みな使徒たちを心から尊敬していました。　１４こうして、男女を問わず、主を信じる人がますます増えていきました。　１５人々はついに、病人をふとんごと通りへかつぎ出し、「せめて、ペテロ様の影だけでもかかれば……」と願うほどになりました。
１６また、エルサレム付近の町々からも、大ぜいの人が、病人や悪霊に取りつかれた人たちを連れて来ました。　その人たちは一人残らず、すっかりよくなりました。
また逮捕された使徒
１７これを知った、大祭司とその一族であるサドカイ派の人たちはみな、激しいねたみにかられ、　１８うむを言わさず使徒たちを逮捕し、留置場に放り込んでしまいました。
１９しかし、夜、主の使いが来て、留置場の戸を開け、使徒たちを外に連れ出して言いました。　２０「さあ宮へ行き、このいのちの教えを、大胆に語りなさい。」
２１言われたとおり、使徒たちは夜明けごろ宮へ行き、すぐに説教を始めました。　一方、大祭司とその取り巻き連中は、宮に来て、ユダヤの最高議会と長老全員を召集しました。さあ、いよいよ尋問を始めようと、人をやり、使徒たちを引き出して来させることになりました。　２２ところが、警備員が留置場をのぞいてみると、どうしたことでしょう。　使徒たちの影も形もありません。　びっくりして議会に取って返し、　２３「もぬけのからです。　かぎはちゃんとかかっていたし、外には見張りもおりましたのに」と報告しました。
２４これを聞いた警備隊長や祭司長たちは、さっぱり訳がわかりません。　いったい何事がもち上がるのだろうかと、あわてふためくばかりです。　２５その時、一人の人が駆けつけて、留置場にいるはずの人たちが、宮で説教していると知らせました。
２６２７警備隊長は役人たちを伴って出かけ、使徒たちを連行して来ましたが、何一つ、手荒なことはしませんでした。　下手に手出しでもしようものなら、かえって自分たちの

身が危ういと思ったからです。 こうして、ようやく使徒たちが議会に引き出されました。
２８まず、大祭司が問いただしました。 「二度とイエスのことを説教してはならないと、あれほどきつく申し渡したではないか。　それなのに、なんだ。　エルサレム中に教えを広めている。　おまえたちの魂胆はわかっている。　あいつを殺した責任を、私たちにかぶせようというのだ。」
２９しかし、ペテロと使徒たちは答えました。 「人間よりも、神様に従うべきです。　３０ご先祖の神様は、あなたがたが十字架で処刑したイエス様を、復活させてくださいました。　３１神様は、大きな力でこの方を引き上げ、神の王子、また救い主となさったのです。　それもみな、罪を悔い改め赦していただく機会を、イスラエルの人々に与えるためでした。　３２私たちは、実にこのことの証人です。　神様に従うすべての人に与えられる聖霊様もまた、このことの証人なのです。」
３３これを聞いた議員たちは烈火のごとく怒り、使徒たちを殺そうと決めました。　３４ところがこの時、一人の議員が立ち上がりました。　パリサイ派（信徒で、特におきてを守ることに熱心なユダヤ教の一派）のガマリエルで、法律の専門家として名が通っている人物です。　彼は、意見を述べる間、使徒たちを議会から連れ出すことを要求しました。
３５それから、一同に言いました。 「イスラエルの皆さん。 あの人たちの扱い方には、よくよく注意してください。　３６しばらく前のことになりますが、チゥダという男の事件を覚えておいででしょうか。 この男が、いかにも偉大な人物のように見せかけたため、四百人ほどの者が仲間になりましたね。　ところが結局、当の本人は殺され、一味も、散り散りばらばらになりました。
３７それから、人口調査の時にも、ガリラヤ人のユダという男が民衆をそそのかして反乱を起こしました。　しかし、やはり、この男も死に、仲間も散らされました。
３８それで、提案ですが、あの人たちを放っておいてはどうでしょう。　もし彼らの教えや行動が、ただのでっち上げなら、遅からずくつがえされてしまうでしょう。　３９しかし、もし神様の力によるものだったら、いかなる人といえども阻止はできません。 いや、そればかりか、まかりまちがえば、神様に敵対することにもなりかねません。」
４０説得は効を奏しました。　一同は、ガマリエルの忠告に従うことにしたのです。　そこで、使徒たちをもう一度呼び入れ、むち打ちにし、二度とイエスの名を口にしてはならないと命じてから釈放しました。　４１使徒たちは、神様の名のために、はずかしめを受けたことを、むしろ喜びながら、議会をあとにしました。　４２そして毎日、宮や家家で教え、イエスこそキリストだと宣べ伝えました。
六
１ところが、信者の数がどんどん増えると、内部からも不満の声が出るようになりました。
ギリシヤ語を話すユダヤ人たちが、ヘブル語を話すユダヤ人たちに苦情をぶつけたのです。
事の原因は、彼らの未亡人たちが、毎日の食料の配給で差別待遇されていることでした。
２そこで十二人の使徒は、信者全員を召集し、こう提案しました。　「私たちが食料の配

給に時間をさくのは、よくありません。　何よりも、神様のことばを伝えることにまい進すべきです。　３そこで、愛する皆さん。　この仕事にふさわしい人、賢明で、聖霊様に満たされた人に、いっさいを任せることにしましょう。　さあ回りをよく見回して、この人という人を七人選んでください。　４そうすれば、私たちは祈りと説教と教育に打ち込むことができます。」
５全員がこの提案に賛成し、次の人たちを選びました。
ステパノ〔常に聖霊に満たされた、信仰深い人物〕、
ピリポ、
プロコロ、
ニカノル、
テモン、
パルメナ、
アンテオケのニコラオ〔ユダヤ教に改宗していた外国人で、
今はクリスチャン〕。
６以上の七名が前に立ったので､使徒たちは彼らのために祈り､手を置いて祝福しました。
７こうして、神のことばはますます広まり、エルサレムでは、弟子の数が驚くほど増えていきました。　ユダヤ教の祭司たちの中からも、信仰に入る者が大ぜい出ました。　８さて、ステパノは聖霊の力に満たされた、信仰深い人物で、すばらしい奇蹟を行なっていました。
９ところがある日、「自由民」というユダヤ教の一派の面々が、ステパノに議論をふっかけました。　するとたちまち、クレネやエジプトのアレキサンドリヤ、トルコのキリキヤ地方やアジヤ地方から来たユダヤ人たちも、仲間に加わり、ああでもないこうでもない、と言いだしました。　１０しかしステパノは、聖霊に助けられ、知恵のかぎりを尽くして語ったので、だれも、たち打ちできません。
１１それで連中は、何人かの者をそそのかし、「彼はモーセや神様を汚すことばを吐いたぞ」と、言いふらさせました。
ステパノの弁明
１２こうして連中は、ステパノに対する民衆の怒りをあおり立て、ユダヤ人の指導者たちまで扇動して、とうとうステパノを捕らえ、議会に引いて行きました。　１３偽証人どもは、でたらめの証言を並べ立てました。　「こいつは、いつも、神殿やモーセの律法に逆らうことばかり言ってます。　１４確かに、こいつが、ナザレのイエスはこの神殿をぶっこわし､モーセの律法をみな無効にしてしまう､とぬかすのを聞きました。」　１５この時、議会にいた者は、いっせいにステパノに目をやりました。　するとどうでしょう。　彼の顔は、御使いのように輝いているではありませんか。
▪
七

１大祭司はステパノに、「この訴えのとおりか」と問いただしました。
２ステパノは、答弁を始めました。
「お聞きください、皆さん。　ご先祖アブラハムがまだシリヤに移らない前、つまり、イラクに住んでいたころ、栄光に輝く神様が彼に現われました。　３そして、故郷を離れ、親族とも別れて、神様が命じる国へ行くように、とおっしゃいました。　４そこでアブラハムはカルデヤ人の地を離れ、シリヤのカランに移り、父親が死ぬまでそこに住みました。そのあと神様は、彼をこのイスラエルに連れて来られたのです。　５ところがそこには、彼の土地はたったの一坪もなく、その上、子供もありませんでした。
にもかかわらず、神様は、やがてこの地が全部、アブラハムとその子孫のものになる、と約束されたのです。　６同時に、子孫たちが、この地を去って外国に住み、四百年のあいだ奴隷になるとも言われました。　７ただし、『わたしは、彼らを奴隷とした国民を必ず罰する。　その後、あなたの子孫はこの地に戻り、ここでわたしを礼拝するようになる』との約束を添えて……。
８神様はまた、その時、割礼の儀式（男子が生まれて八日目にその生殖器の包皮を切り取る儀式）を定め、それを神様とアブラハムの子孫との契約の証拠となさいました。　それで、アブラハムの息子イサクは、生後八日目に割礼を受けたのです。　このイサクの息子がヤコブで、ヤコブの十二人の息子は、それぞれユダヤ民族の十二部族の長となりました。
９その一人ヨセフは、ほかの兄弟たちのねたみを買い、エジプトに奴隷として売られました。　しかし神様は、ヨセフと共にいて、　１０あらゆる苦境から彼を救い出し、エジプトの王パロの前で彼に恵みを施されたのです。　神様がヨセフにすばらしい知恵を与えたので、パロはヨセフを、エジプト全土を治める大臣に取り立て、宮中の管理もいっさい任せました。
１１ところが、やがてエジプトとカナンの全土に大ききんが起こり、ご先祖たちは、たいへんな苦境に陥りました。　食料がなくなったのです。　１２話に聞くと、エジプトにはまだ穀物があるそうです。　ヤコブはさっそく、息子たちをやり、食料を買わせました。
１３二度目の時、ヨセフは自分の素性を兄弟たちに打ち明けました。　パロもそのことを知ったので、　１４ヨセフは人をやり、父ヤコブと兄弟たちの一族、総勢七十五人を、エジプトに招きました。　１５こうして、ヤコブと息子たちはエジプトに住み、そこで死にました。　１６遺体はみなシケムに持ち帰り、アブラハムがシケムのハモルの子から買った墓地に葬りました。
１７神様がアブラハムに立てた、彼の子孫を奴隷から解放するという約束の時が近づくにつれ、ユダヤ人の人口は、エジプトでどんどんふくれ上がっていきました。　１８そのうち、ヨセフのことを知らない王が即位し、　１９ユダヤ人に悪巧みをはかりました。　事もあろうに、親たちに、子供を野原に捨てさせたのです。
２０モーセが生まれたのは、ちょうどこのような時でした。　彼は神様の目にかなった、かわいらしい子供でした。　両親は、三か月の間、家の中に隠しておきましたが、　２１

とうとう、それ以上は隠しきれなくなり、しかたなく捨てることにしました。　ところが、エジプト王パロの娘が、その子を見つけ、養子として育てることになったのです。２２こうして、モーセはエジプトの最高の教育を受け、たくましく、雄弁な王子に成長しました。
２３四十歳の誕生日が近づいたある日、モーセは、同胞のイスラエル人のところへ行って見よう、と思い立ちました。　２４ところが、行ってみると、どうでしょう。　一人のエジプト人が、イスラエル人を虐待しているではありませんか。　モーセはイスラエル人をかばおうとの一心から、相手のエジプト人を殺してしまいました。　２５モーセは、イスラエル人を助けるために、神様が自分をお遣わしになったと認めてもらえるだろうと、かってに決め込んでいました。ところが、現実は、思いどおりにいきません。
２６翌日、もう一度出かけて行くと、今度はイスラエル人同士で争っているのにぶつかりました。　モーセは間に割って入り、『兄弟同士じゃないか。　けんかなんかやめろ』と押しとどめました。
２７すると、相手を痛めつけていたほうの男が、よけいな口出しをするな、とわめきました。　『やいやい、だれがあんたを、おれたちの支配者や裁判官にしたんだよー。　２８ええっ、どうなんだい。　昨日、あのエジプト人を殺したみたいによー、おれまで殺そうってのかい。』
２９これを聞いて、モーセはまずいことになったと、エジプトを逃げ出し、ミデアンの地に身を寄せました。　そこで、二人の子供をもうけたのです。
３０それから四十年の歳月が流れました。 ある日のことです。 シナイ山に近い荒野で、御使いが柴の燃える炎の中に現われました。　３１モーセはその光景に驚き、何事かと一目散に駆け寄ってみると、主の声が聞こえてきました。　３２『わたしはあなたの先祖、アブラハム、イサク、ヤコブの神である。』　モーセはすっかり震え上がり、顔を上げる勇気もありません。
３３主は続けて語られました。　『くつを脱ぎなさい。あなたの立っている所は聖なる地だから。　３４わたしは、エジプトで苦しめられているわたしの民の姿を見、またその叫びを聞いた。　わたしは彼らを救い出そうと下って来たのだ。　行け。　わたしが、あなたをエジプトに遣わすのだ。』　３５こうして神様は、『だれがあんたを、おれたちの支配者や裁判官にしたのかよ』と、ユダヤ人たちに退けられたモーセを、もう一度、エジプトに帰らせたのです。　モーセは初めて、イスラエル人の支配者、また解放者となったのです。　３６モーセは、数々の驚くべき奇蹟によって、人々をエジプトから連れ出し、紅海を横断して、四十年にわたる荒野での生活を指導しました。
３７このモーセが、『神様はあなたがたの中から、私のような預言者をお立てになる』と、イスラエルの人々に宣言したのです。　３８モーセは荒野では、神様と人との仲介者でした。　すなわち、シナイ山で、神のおきてである、いのちのことばを御使いから受け、それをイスラエルの人々に与える役を果たしたのです。
３９しかしご先祖は、モーセの言うことに従おうとせず、しきりにエジプトに帰りたがり

ました。　４０そして、アロンに、『私たちをエジプトに連れ帰ってくれる神々の像を作ってくださいよ。　私たちを、エジプトから連れ出したモーセは、どうなったかわかったもんじゃない』と迫りました。　４１彼らは子牛の像を作って、供え物をささげ、自分たちが作った物で楽しくやっていました。
４２４３このため、神様は彼らに背を向け、彼らが日や月や星を神と思い、仕えるのを放っておかれました。　神である主は、預言者アモスの書の中で、こう語っておられます。
『イスラエルよ。　あなたがたは
四十年の荒野の生活で、
わたしに、いけにえをささげたことがあるか。
いや、あなたがたのほんとうの関心は、
異教徒の偶像にあったのだ。
モロクの神や星の神ロンパ、
そのほか自分たちで作った偶像に。
だから、わたしはあなたがたを、
バビロンのかなたへ捕らわれの身とする。』
４４荒野の旅で、ご先祖は、持ち運びのできる幕屋を、神殿の代わりに携えていました。その中には、神様が下さった十戒を彫った、石の板が二枚ありました。　この幕屋は、神様がモーセに指示なさったとおり、寸分の狂いもなく造ってありました。　４５ご先祖は代々、この幕屋を受け継ぎ、ヨシュアの指揮のもとに外国と戦って得た新しい領土に運び込み、ダビデ王の時代までありました。
４６さて、神様はダビデ王をたいへん祝福なさいました。　ダビデ王は、ヤコブの神様のために、永久に残る神殿を建てさせてくださいと、熱心に願いましたが、　４７実際に建てたのは、息子のソロモン王でした。　４８‐５０しかし神様は、人間が造った神殿にはお住みにならないのです。　主は預言者の口を通して、次のように語っておられます。
『主は言われる。
天はわたしの王座、
地はわたしの足台。
いったいどのような家を
わたしのために建てようというのか。
わたしが、そのような所にとどまるだろうか。
わたしが、天と地とを造ったのではないか。』
５１ほんとうに、強情な異教徒です、あなたがたは。　いつまで聖霊様にそむき続けるのですか。　かつてのご先祖たちのまねをして……。　５２あなたがたのご先祖が、迫害しなかった預言者の名をあげることができたら、一人でもいいから、言ってごらんなさい。ご先祖たちは、正しい方がおいでになると預言した人たちを殺したのですが、あなたがたは、当のメシヤ（救い主）を裏切り、殺したのです。　５３そうです。　あなたがたは、

御使いが手ずから下さった神のおきてを、わざと破っているのです。」
ステパノの死
５４この告発に、ユダヤ人の指導者たちの怒りは爆発しました。　彼らは歯ぎしりしてくやしがりました。　５５しかし、ステパノは聖霊に満たされ、ぐっと頭をもたげて天を見上げました。　その目に、神様の栄光と神様の右に立っておられるイエス様の姿が、ありありと見えました。　５６「ごらんなさい。　天が開けて、メシヤのイエス様が、神様の右に立っておられますっ！」
５７しかし、そのとき人々は耳をおおい、割れんばかりの大声をあげ、ステパノ目がけて殺到したので、彼の声はほとんど聞き取れないほどでした。　５８人々は、ステパノを石で打ち殺そうと、町の外に引きずり出しました。　証人たち〔死刑執行人たち〕は上着を脱ぎ、パウロという青年の足もとに置きました。
５９石が雨あられと飛んで来る中で、ステパノは祈りました。　「主イエスよ。　私の霊を、私の霊を迎え入れてください。」　６０そして、ひざまずき、「主よ。　どうぞこの罪の責任を、この人たちに負わせないでくださいっ！」と大声で叫んだかと思うと、ついに事切れました。
八
１パウロは、ステパノを殺すことに大賛成でした。　その日から、激しい迫害の嵐がエルサレムの教会を襲い、使徒たち以外の者はみな、いのちからがら、ユダヤやサマリヤへ逃げのびました。　２ステパノの遺体は、敬虔なユダヤ人たちの手で、悲しみのうちに埋葬されました。　３一方、パウロは気違いのようになって、教会を荒らし回り、家々に押し入っては男女を問わず引きずり出し、牢にぶち込みました。
ピリポ、サマリヤへ
４しかし、エルサレムから逃げ出したクリスチャンたちは、どこへ行っても、イエスのすばらしい知らせを伝えて歩きました。　５ピリポはサマリヤの町へ行き、人々に、キリストのことを話しました。６ピリポが奇蹟を行なったので、みんな彼の話に熱心に耳を傾けました。　７悪霊どもは大声でわめきながら人々から出て行き、中風の人や足の不自由な人たちも、次々に治ります。　８今や、町中が喜びにわき返り、大騒ぎです。
９‐１１さてこの町には、長年、魔術を行なってきた人がいました。　シモンと言い、持ち前の不思議な力で人々をびっくりさせたので、サマリヤ地方でたいへんな影響力を持っていました。　メシヤ（救い主）ではないかと言われたことも、しばしばでした。　１２しかし今は、だいぶ様子が違ってきました。　ピリポが来て、イエスこそメシヤだと教えたからです。　彼が神の国について話すのを聞き、大ぜいの人が信じ、男も女もみなバプテスマ（洗礼）を受けました。　１３そのうちにシモンも信じ、バプテスマを受けることになりました。　彼はピリポの行くところは、どこへでもついて行き、その奇蹟に驚いていました。
１４エルサレムにとどまっていた使徒たちは、サマリヤ人が神の教えを信じたと伝え聞き、

ペテロとヨハネを派遣しました。　１５二人はサマリヤに来ると、さっそく、新しいクリスチャンたちが聖霊を受けるようにと祈りました。　１６主イエスの名によってバプテスマを受けただけで、まだ聖霊が下っていなかったからです。　１７二人が信者たちに手を置いて祈ると、みな聖霊を受けました。
１８使徒たちが手を置くと聖霊が与えられるのを見たシモンは、この力を買い取ろうと、お金を持ってやって来ました。　１９「お願いです。　手を置けば、だれでも聖霊様が受けられるように、私にもその力を下さい。」　彼は、声を大にして頼みました。
２０しかし、ペテロは答えました。　「その金もろとも滅んでしまえっ！　金で神様の贈り物が買えるとでも思っているのか。　とんでもない了見違いだ。　２１心が神様の前に正しくないのに、この特権がいただけるはずはない。　２２こんなことは二度とするな。主に祈れ。　おまえのような不心得者でも、まだ赦していただけるかもしれない。　２３ちゃんとわかってるぞ。　おまえの心の中は、ねたみと罪でいっぱいだ。」　２４シモンは驚いて叫びました。　「ああ、そ、そんな恐ろしいことが起こらないように、祈ってくださいっ！」
２５ペテロとヨハネは、このサマリヤの町で、イエスのことを証言したり説教したりしてから、サマリヤ人のあちこちの村へ行って、神のすばらしい知らせを伝えながら、エルサレムへ戻りました。
２６ところで、ピリポはどうしたでしょう。　主の使いが現われて、「さあ、エルサレムからガザの荒野へ通じる道に、お昼ごろ着くように出かけなさい」と言うではありませんか。
２７言われたとおりにすると、エチオピヤの女王カンダケのもとで、大きな権力を持ち、女王の財政を管理していたエチオピヤ人の宦官が向こうから来ます。　この人は、神殿で礼拝するためにエルサレムへ行き、　２８いま馬車で帰るところでした。　ちょうど預言者イザヤの書を、声をあげて読んでいる最中です。
２９聖霊がピリポをうながしました。　「さあ、あの馬車に近づいて、いっしょに行きなさい。」
３０ピリポが走り寄ると、イザヤの書を読んでいるのが聞こえます。　そこで、「失礼ですが、その意味がおわかりですか」と尋ねました。
３１「残念ながら、だれかが教えてくれないとわかりませんな。」　こう答えると、その人は、馬車に乗って、そばに座ってくれと頼みました。
３２３３読んでいたのは、こういうところでした。
「その方は、殺されるために引かれて行く羊のように、
また、毛を刈る者たちの前で黙っている小羊のように、
口を開かなかった。
その方は卑しい者と見なされ、
正しいさばきも受けなかった。
だれが、この時代の人々の邪悪さを語れよう。

その方のいのちが、地上から取り去られたからには。」
３４宦官はピリポに尋ねました。　「その方とは、いったいだれのことです？　イザヤは自分のことを言っているのでしょうか。　それとも、だれかほかの人のことを……。」
３５またとないチャンスです。　ピリポは、このイザヤのことばから始めて、旧約聖書のあちこちを引用し、イエスのことをくわしく説明しました。
３６さて、道を進んで行くうちに、水のある所に来ました。　すると宦官は、「ごらんなさい。　水がありますよ。　ここでバプテスマを受けてはいけない理由はないでしょう。　どうです？」と言いだしました。
３７「心から信じておられるなら、もちろんかまいませんとも。」
「私はイエス・キリストを神の子と信じます。」
３８宦官がはっきり告白したので、馬車を止めさせ、二人して水の中に入り、バプテスマを授けました。　３９二人が水から上がった時、主の霊が、あっという間にピリポを連れ去りました。　宦官はもう二度とピリポの姿を見ることはできませんでしたが、喜びに胸をはずませ、旅を続けました。　４０一方、ピリポはアゾトの町に姿を現わし、そこで、神のすばらしい知らせを伝えました。　そして、道々説教しながら、カイザリヤに向かいました。
九
パウロの回心
１さてパウロは、クリスチャンを全滅させてやろうと、闘志満々、エルサレムの大祭司のところへやって来ました。　２そして、ダマスコの諸会堂あての手紙を書いてくれと頼み込みました。　それは、ダマスコのクリスチャンを、男だろうが女だろうが、見つけしだい縛り上げ、エルサレムに連行するためのものでした。
３パウロがこの仕事で、ダマスコの近くまで来た時、突然、天からまばゆい光がさっと彼を照らしました。　４そして、地に倒れた彼の耳に、こう語りかける声が響いてきました。
「パウロ、パウロ。　なぜわたしを迫害するのか。」
５パウロが、「いったい、どなたですか」と尋ねると、「あなたが迫害しているイエスだ。６さあ立って、町に入り、わたしの命令を待て」という答えが返ってきました。
７同行していた人々は驚き、口もきけずに立ちすくんでいました。　彼らには、声は聞こえても、イエスの姿は見えなかったからです。　８９ようやくパウロは起き上がりましたが、どうしたことでしょう、目が見えません。　手を引いてもらって、やっとダマスコに入り、三日間、盲目のまま、何も飲み食いせずに過ごしました。
１０さて､ダマスコにはアナニヤというクリスチャンが住んでいました。 主は幻の中で、彼に語りかけました。
「アナニヤよ。」
「はい。」
１１「『まっすぐ』という名の通りに行き、ユダという人の家を捜しなさい。　そこにタル

ソのパウロという人がいて、いま祈っています。　１２わたしは幻の中で、アナニヤという人が来て、彼に手を置くと、もとどおり見えるようになる、と知らせておいたから。」
１３アナニヤは驚いて、叫びました。　「主よ、パウロですって！あの男がエルサレムのクリスチャンをどんな目に会わせているか、聞いております。　１４それに、祭司長たちから逮捕状をもらい、このダマスコのクリスチャンを一人残らず捕らえる権限を持っているという、もっぱらのうわさです。」
１５しかし、主は言われました。　「さあ、言うとおりにしなさい。　このパウロこそ、わたしの教えを、イスラエル人ばかりでなく、世界中の人々や王たちに伝えるために、わたしが選んだ人です。　１６彼には、わたしのために、どんなに苦しむことになるかを告げるつもりです。」
１７アナニヤは出かけ、パウロを捜し当てました。　そして彼に手を置き、「兄弟パウロ。ここへ来る途中、主にお会いしましたね。　その主イエス様の言いつけでまいりました。あなたが聖霊様に満たされ、また見えるようになるためです」と言いました。
１８するとたちまち、パウロの目から、うろこのようなものが落ち、もとどおり見えるようになりました。　彼は直ちにバプテスマ（洗礼）を受け、　１９食事をすますと、すっかり元気を取り戻しました。　それから数日の間、ダマスコのクリスチャンといっしょに過ごすと、　２０すぐにも会堂へ行き、イエスは神の子だ、と語り始めました。　２１そのことばを聞いて、人々はみな耳を疑いました。　「この人は、エルサレムで、イエスの弟子たちを迫害した張本人じゃないか。　ここへ来たのも、クリスチャンたちをみな縛り上げ、祭司長のもとへ引いて行くためだと聞いていたが……。」
２２しかしパウロは、ますます熱心に、イエスこそほんとうのキリストだと証明したので、ダマスコのユダヤ人たちはまるで訳がわからず、とうとう堪忍袋の緒が切れてしまいました。
２３しばらくして、ユダヤ人の指導者たちは、パウロ殺害を決議しました。　２４そして、昼も夜も町の門を見張りましたが、いつしか、この陰謀はパウロの耳にも入ってしまいました。　２５そこで、パウロの話を聞いて信者になった人たちが、夜の間に、彼をかごに乗せ、町の城壁からつり降ろしました。
２６エルサレムに着いたパウロは、クリスチャンの仲間に加わろうとしましたが、だれもパウロを仲間だとは信じられず、恐れるばかりでした。　２７しかし、バルナバは違いました。　パウロを使徒たちのところへ連れて行き、事の一部始終を説明してやりました。パウロがダマスコに向かう途中で主にお会いしたこと、また主がパウロに告げたことばや、それ以来パウロが、イエスの名によって力強い説教をしたことなど……。　２８それで使徒たちも、ようやくパウロを受け入れました。　それからは、パウロはいつもクリスチャンと行動を共にし、主の名によって大胆に語りました。　２９また、ギリシヤ語を話すユダヤ人と意見を戦わせることもありました。　ところが、彼らの中には、パウロのいのちをねらう連中がいました。　３０それと知った信者たちは、パウロを故郷のタルソへ帰そ

うということになり、カイザリヤまで同行して見送りました。
３１こうして教会は、ユダヤ、ガリラヤ、サマリヤの至る所で無事に守られ、どんどん勢力を伸ばしていきました。　信者たちは、心から主を恐れつつ、聖霊に慰められながら生活することを学びました。
ペテロの奇蹟
３２さて、ペテロは、ほうぼうの信者を訪問する旅の途中、ルダの町にもやって来ました。
３３そこでアイネヤという人に出会いました。　話を聞くと、八年間も中風で寝たきりだそうです。
３４ペテロは、「アイネヤよ。　イエス・キリストが治してくださるのだ。　さあ起きて、自分でベッドを片づけなさい」と言いました。　するとどうでしょう。　アイネヤの病気は、たちどころに治ってしまいました。　３５ルダとサロン一帯に住む人々はみな、アイネヤが元気に歩き回っている姿を見て、主イエスを信じるようになりました。
３６そのころ、ヨッパの町にドルカス〔かもしか〕という名の婦人が住んでいました。　クリスチャンで、いつも貧しい人たちのことに心を配り、何かと親切にしていました。　３７ところが、このドルカスが病気で死んでしまったのです。　友人たちは、葬式の準備をし、遺体を二階に安置しました。　３８ちょうど、ペテロが近くのルダにいるということなので、使いを出し、ぜひヨッパまで足を伸ばしてほしいと頼みました。　３９ペテロは快く承知しました。　彼がヨッパに着くやいなや、人々は待ちかねたように、遺体が安置されている二階の部屋まで連れて上がりました。　そこは、生前ドルカスがめんどうを見てやった婦人たちで、いっぱいでした。　みな、ドルカスに作ってもらった服などを見せ合っては、涙にくれています。　４０ペテロは、みんなを部屋から出し、やおらひざまずいて祈り始めました。　それから遺体のほうを向き、「起きなさい。　ドルカス」と声をかけました。　すると、なんということでしょう。　彼女が目を開けたのです！　ペテロをじっと見、体を起こしたのです！　４１ペテロは、いたわるように手を取って立たせ、一同を呼び入れました。　あっけにとられた人々の前に、ドルカスが立っています……。
４２この話は、またたく間に町中に広まり、大ぜいの人が主を信じました。　４３ペテロは長いことヨッパにとどまり、その間、皮なめしのシモンの家に泊まっていました。
一〇
神の使いとコルネリオ
１カイザリヤに、コルネリオという、ローマ軍の士官がいました。　イタリヤ連隊に所属する隊長の一人でした。　２この人はたいそう信仰があつく、一家そろって神を信じていました。　また、困っている人には惜しみなく施し、実によく祈る人でもありました。　３ある日の午後、彼は幻を見ました。　午後三時ごろのことで、意識ははっきりしていました。　幻の中で、御使いが現われ、彼のところへ来て、「コルネリオよ」と呼びかけるではありませんか。
４じっと御使いを見つめていると、なんだか恐ろしくなりました。　「どんなご用でしょ

うか。」
「あなたの祈りも、良い行ないも、神様はすべてご存じです。　５６さあ、ヨッパに使いをやって、シモン・ペテロという人を捜させなさい。　海岸沿いの皮なめし職人シモンの家にいます。　彼に、ここへ来てくれるように頼みなさい。」
７御使いが姿を消すとすぐ、コルネリオは使用人二人と、神を敬う側近の兵士一人とを呼び寄せました。　８そして、このいきさつを話し、ヨッパへやりました。
９‐１１翌日、三人がヨッパの町に近づいたころ、ペテロは祈るために屋上に上がりました。　正午ごろのことで、お腹がすき、食事をしたくなりました。　ところが、昼食の用意がなされている間に、とろとろ夢ごこちになったのです。　ふと見ると、天が開け、四すみをつった大きな布のようなものが降りて来ます。　１２中には、ユダヤ人は食べることが禁じられていた蛇や鳥など、あらゆる種類の動物が入っています。
１３そして、「さあ、どれでも好きなものを料理して食べなさい」という声が聞こえました。
１４「主よ、とんでもありません。　生まれてこのかた、口にしたこともないものばかりです。　ユダヤのおきてで禁じられているのですから。」
１５「ペテロよ、神様に口答えするのか。　神様が、『きよい食べ物だ』と言われたものは、きよいのだ。」
１６同じことが三度あってから、布はすうっと天に引き上げられました。
１７ペテロは、この幻はどういう意味なのだろうと、すっかり考え込んでしまいました。ちょうどその時です。　コルネリオから遣わされた人たちがシモンの家を捜し当て、門口に立ち、　１８「こちらにシモン・ペテロという方が泊まっておいでですしょうか」と尋ねました。
１９一方、ペテロは、今しがたの不思議な幻のことをあれこれ考えあぐねていると、聖霊がこうおっしゃいました。「三人の人が、あなたに会いに来ました。　２０さあ降りて、その人たちに会い、いっしょに出かけなさい。　心配はいりません。　わたしが、その人たちをよこしたのだから。」
２１そこでペテロは下へ降り、「お尋ねのペテロは、私です。　どんなご用でしょうか」と尋ねました。
２２すると三人は、ローマ軍の士官コルネリオが、たいそう信心深い人で、ユダヤ人みんなから好意を持たれていることや、そのコルネリオのもとに現われた御使いが、ペテロを招いて神のことばを聞くように指示なさったいきさつなどを話しました。
ペテロ、コルネリオを訪問
２３ペテロは三人を家に招き入れて一晩泊め、翌日いっしょに出かけました。　ヨッパの信者も数人、同行しました。
２４一行がカイザリヤに到着したのは、次の日でした。　コルネリオは、親類の者や親しい友人たちを呼び集め、一行を、今や遅しと待ち受けていました。　２５そして、ペテロが家に入ると、その前にひれ伏して礼拝したのです。

２６ペテロはそれを押しとどめました。「お立ちなさい。　私は神様じゃありませんよ。」
２７コルネリオは立ち上がり、しばらく二人で話し合ってから、人々の待つ部屋へ入りました。
２８ペテロは一同に言いました。　「このようにして外国人の家に入ることが、ユダヤのおきてで禁じられていることは、よくご存じでしょう。　ところが神様は私に、どんな人をも差別してはならないと、幻で示してくださいました。　２９ですから、お招きを受けた時、何のためらいもなく、やって来たわけです。　ところで、いったいどんなご用があるのでしょう。」
３０コルネリオが口を切りました。　「実は、四日前の午後のことです。　ちょうど今ごろですが、いつものように祈っておりましたところ、突然、輝くばかりの衣をまとった人が、目の前に現われたのです。　３１その人は、『コルネリオよ。　あなたの祈りも良い行ないも、神様はすべてご存じです。　３２さあ、ヨッパに使いをやって、シモン・ペテロという人を招きなさい。　海岸沿いの皮なめし職人シモンの家にいます』とおっしゃいました。　３３それで、すぐあなた様を迎えにやったのですが、こんなに早々とお越しいただいて、何とお礼を申し上げてよいやら……。　私たちは今、主があなた様にお命じになったことを、一つ残らずうかがおうと、こうして神様の前に出て待っているのです。」
３４ペテロは話し始めました。
「神様はただユダヤ人だけを愛しておられるのではないことが、はっきりわかりました。
３５神様を礼拝し、また良い行ないをして神様に喜ばれる人は、どこの国にもいるのです。
３６３７イスラエル人に伝えられた神様のすばらしい知らせのことは、すでにお聞きおよびでしょう。　全人類の主である救い主イエス様によって、私たちが神様と和解できるということです。　この教えは、バプテスマのヨハネが語り始め、ガリラヤからユダヤ全土に広まりました。　３８ナザレのイエス様は、神の聖霊と力とに満たされて、すばらしいことを行ない、また悪霊に取りつかれている人たちをみな治しながら、ほうぼうを巡回されました。　それは、神様がこの方と共におられたからだということも、きっとご存じでしょう。
３９私たち使徒は、イエス様がイスラエル全国、またエルサレムでなさったすべてのことの証人です。　このエルサレムで、イエス様は十字架につけられたのです。　４０４１しかし神様は、三日後にイエス様を復活させてくださいました。　そしてそのことを、一般の人にではなく、神様があらかじめ選んでおられた特定の証人に、示してくださったのです。　私たちは復活したイエス様とお会いして、いっしょに食事もしました。　４２主は、このすばらしい知らせをすべての人に伝えようと、私たちを派遣なさいました。　それで私たちは、このイエス様が、生きている人でも死んだ人でもすべての人を審判する方として、神様に任命されたのだと証言しているのです。　４３もちろんイエス様のことは、今までのどの預言者も、この方を信じる者はだれでも、その名によって罪が赦されると証言しています。」

４４ペテロがまだ話しているうちに、聖霊が一人一人に下りました。　４５ペテロに同行して来たユダヤ人のクリスチャンたちは、外国人にも聖霊の贈り物が与えられたので驚きました。　４６４７しかし、疑う余地のない事実です。　人々は自由に他国のことばで話し、神を賛美していたからです。
「私たちと同じく、聖霊様を受けた以上、この人たちにバプテスマ（洗礼）を授けることに、だれも反対できません。」　こうきっぱり言いきると、　４８ペテロは、キリスト・イエスの名によって、バプテスマを授けました。　コルネリオはペテロに、数日間、泊まってほしいと頼みました。
一一
ペテロの報告
１まもなく、外国人もクリスチャンになった、というニュースが、使徒やユダヤにいるクリスチャンのもとに届きました。　２そこでユダヤ人のクリスチャンは、エルサレムに帰ったペテロに、面と向かって、非難をあびせました。
３「外国人と親しくし、おまけに食事までいっしょにしたそうじゃないですか。」
４それでペテロは、その時のいきさつを包み隠さず話して聞かせました。
５「ある日、ヨッパで祈っていた時、幻を見たのです。　四すみをつった大きな布が天から降りて来ました。　６中には、ユダヤ人は食べてはならない、あらゆる種類の獣、爬虫類、鳥が入っていました。　７そして、『どれでも好きなものを料理して食べなさい』という声がしました。
８私は必死で、『主よ。　そんなことはできません。　ユダヤのおきてで禁じられているものは、口にしたこともありません』と申し上げました。
９しかし､その声は、『神様がきよいと宣言されたものを､きよくないと言ってはいけない』と言うのです。
１０同じことが三度あってから、布は天に引き上げられました。　１１ちょうどその時、カイザリヤから三人の人が、私のいた家まで迎えに来たのです。　１２聖霊様は、相手が外国人であることなど気にかけず、いっしょに行けとおっしゃいました。　ここにいる六人のクリスチャンも、同行しました。　こうして、使いをよこした人の家に着きました。
１３その人が説明するには、御使いが現われ、ヨッパにいるシモン・ペテロを招け、と言われたというのです。　１４そして御使いは、『ペテロは、あなたとあなたの家の者たちが救われるには、どうしたらよいか教えてくれます』と告げたそうです。
１５私は彼らに、神様のすばらしい知らせを語りました。　ところが、説教を始めるとすぐ、彼らにも聖霊様が下ったのです。　まさに、あの最初のときと同じ光景でした。　１６その時、私は、『ヨハネは水でバプテスマ（洗礼）を授けたが、あなたがたは聖霊様によってバプテスマを授けられる』と言われた主のことばを、ふと思い出したのです。１７私たちが、主イエス・キリストを信じた時に与えられたのと同じ贈り物が、外国人にも与えられたという、まぎれもない事実を前にしては、だれが神様に、とやかく申せましょう。」

１８ペテロの説明に、疑問は氷解しました。　一同は、「神様は、外国人にも、神様に立ち返って永遠のいのちをいただく特権を、お与えになったのだ」と、口々に神を賛美しました。
アンテオケ教会の成立
１９一方、ステパノの死をきっかけとして起こった迫害のために、エルサレムから逃げ出したクリスチャンは、フェニキヤ、キプロス、アンテオケにまでも足を伸ばしました。　そしてそれぞれの所で、神様のすばらしい知らせを語ったのですが、相手はユダヤ人に限られました。　２０しかし、何人かのキプロス出身とクレネ出身のクリスチャンは、アンテオケで、主イエスについての教えを、ユダヤ人だけでなく、ギリシヤ人にも伝えました。
２１主がいっしょに働かれたので、大ぜいの外国人がクリスチャンになりました。
２２このニュースを耳にすると、エルサレムの教会は、新しくクリスチャンになった人たちを助けようと、さっそくバルナバを派遣しました。　２３アンテオケに到着したバルナバは、神のなさるすばらしいことを見て、深く感動し、喜びにあふれました。　そしてクリスチャン一人一人に、どんな犠牲をはらってでも、絶対に主から離れないようにと忠告し、励ましました。　２４バルナバは聖霊に満たされた、信仰のあついりっぱな人でした。
こうして、たくさんの人が主イエスを信じるようになったのです。
２５このあと、バルナバはパウロを捜しに、タルソへ行きました。　２６捜し当てると、アンテオケに連れて来て、二人でまる一年とどまり、新しくクリスチャンとなった多くの人々を教えました。　〔そもそも、このアンテオケで、キリストを信じる者たちが、初めてクリスチャンと呼ばれるようになったのです。〕
２７ちょうどそのころ、何人かの預言者がエルサレムからアンテオケにやって来ましたが、
２８その中の一人アガボが、ある集会の席上で、大ききんがイスラエル全地に起こる、と聖霊によって預言しました。　はたしてこの預言は、クラウデオの治世に事実となりました。　２９そこで、アンテオケのクリスチャンは、協議の結果、ユダヤのクリスチャンのために、できる限りの援助をすることになりました。　３０そう決まると、さっそく実行に移し、救援物資をバルナバとパウロに託して、エルサレム教会の長老たちのもとへ届けました。
一二
ペテロの逮捕と救出
１そのころ、ヘロデ王は一部のクリスチャンに迫害の手を伸ばし、　２ヨハネの兄弟、使徒のヤコブを血祭りに上げました。　３４このことで、ユダヤ人の指導者たちが上きげんになったことを知ると、今度はペテロを逮捕しました。　ちょうど過越の祭りの最中だったので、祭りが終わりしだい、処刑のためにユダヤ人に引き渡すつもりで、牢にぶち込み、十六人の兵士に監視させました。　５教会では、そのあいだ中、ペテロをお守りくださいと、熱心な祈りを神様にささげていました。
６処刑前夜、ペテロは二人の兵士にはさまれ、二重の鎖につながれて眠っていました。　牢

獄の門の前には、ほかの番兵が立っています。　７そのとき突然、牢獄の中が、ぱっと光り輝き、主の使いが現われました。　御使いはペテロのわき腹をつついて起こし、「さあ、立って、立って。　急ぎなさい」と言いました。　そのとたん、鎖が手首からはずれました。　８「身じたくを整えて、くつをはきなさい。」　ペテロがそのとおりにすると、今度は、「さあ上着をきて、ついて来なさい」と命じます。
９ペテロは牢獄を出て、御使いについて行きましたが、その間ずっと、夢か幻でも見ているような気分で、どうしても現実のこととは思えません。　１０第一、第二の見張り所を通り抜け、とうとう町に通じる鉄の門の前までやって来ました。　するとその門も、ひとりでに開くではありませんか。　二人はなんなく外に出て、次の通りまで歩いて行きました。　そのとき御使いの姿は、かき消すように見えなくなりました。
１１ペテロは初めて我に返り、やっと何が起こったかに気づきました。　「夢じゃない、夢じゃないんだ。　主が御使いを遣わし、ヘロデの手から、またユダヤ人どものたくらみから、救い出してくださったのだっ！」　１２何もかもはっきりすると、彼は、マルコと呼ばれるヨハネの母マリヤの家へ急ぎました。　そこには大ぜいの人が集まり、祈っていました。
１３ペテロは玄関の戸を、どんどんとたたきました。　その音を聞きつけて、ロダという女中が取り次ぎに出て来ました。　１４ところが、声の主がペテロだとわかると、喜びのあまり、戸を開けることも忘れて、そのまま家の中に走り込み、みんなに、ペテロが帰って来たと知らせました。　１５しかし人々は、「気でも狂ったのか」と言って、取り合おうともしません。　しかし彼女があくまで言いはるので、「それじゃ、きっとペテロについている御使いだ〔とすると、ペテロは殺されたに違いない〕」と、言い合いました。
１６一方ペテロは、そのあいだ中、戸をたたき続けていました。　やっと人々が出て来ました。　戸を開けた時の、彼らの驚きようといったらありません。　１７ペテロは手ぶりでその場を静め、何が起こったのか、主がどのようにして牢獄から出してくださったかを話しました。　そして、「ヤコブやほかの信者たちにもこのことを知らせてほしい」と言って、安全な場所へ立ち去りました。
１８朝になると、牢獄では、ペテロはいったいどこに行ったのかと、上を下への大騒ぎです。　１９ペテロを引き出そうとしたヘロデは、ペテロがいなくなったと知るや、十六人の番兵を片っぱしから逮捕して、軍法会議にかけ、全員に死刑を宣告しました。　ヘロデはその後、カイザリヤに行き、しばらくそこにとどまりました。
２０ヘロデはツロとシドンの住民に激しい敵意をいだいていましたが、カイザリヤ滞在中に、この二つの町の代表者たちが、王の侍従ブラストに取り入って、和解を申し出ました。というのも、二つの町は経済的にヘロデの国との交易に頼っていたからです。　２１会見の約束ができ、いよいよ、その当日です。　ヘロデは王服を着けて王座に座り、彼らに向かって演説を始めました。　２２演説が終わると、彼らは大喝采を送り、大声で、「神様の声だっ！　とても、人間の声とは思えない」と叫びました。

２３するとたちまち、御使いが、ヘロデを罰したので、彼は病気になり、やがて体中にうじがわいて、死んでしまいました。　神だけにふさわしい栄光を横取りし、身のほど知らずにも、人々の礼拝を受け、神に栄光をお返ししなかった報いです。
バルナバとパウロ
２４神のすばらしい知らせはますます広まり､新しいクリスチャンが大ぜい誕生しました。
２５エルサレムを訪問したバルナバとパウロは、務めを果たしたあと、ヨハネと呼ばれるマルコを連れて、アンテオケに帰りました。
▪
一三
１アンテオケの教会の預言者や教師たちの中には、次の人たちがいました。　バルナバ、シメオン〔別名「黒い人」〕、ルキオ〔クレネ出身〕、マナエン〔ヘロデ王とは乳兄弟〕、それにパウロなどです。　２ある日、これらの人たちが礼拝をささげ、断食していると、聖霊が、「バルナバとパウロに、わたしの特別な仕事をさせなさい」と言われました。　３それで、さらに断食して祈ったあと、二人に手を置いて任命し、出発させました。
４二人は聖霊に導かれてセルキヤに行き､そこから､船でキプロス島に向かいました。　５島のサラミスという町に着くと、さっそくユダヤ人の会堂に出向いて説教です。　ヨハネと呼ばれるマルコも、助手として同行しました。　６７このあと、町から町へと、島中を巡り歩いて説教を続け、最後にパポスという町に来ました。　そこで、偽預言者でバルイエスと名乗る魔術師に出会ったのです。　この男は、総督のセルギオ・パウロの取り巻きの一人でしたが、総督自身は物事に明るい、たいへん理解のある人でした。　かねがね神の教えを聞きたいと思っていた総督は､この機会にバルナバとパウロとを招きました。　８ところが、強力な反対者が現われました。　魔術師エルマ〔バルイエスのギリシヤ名〕です。　彼は､パウロやバルナバのことばに耳を傾けないようにとそそのかし､何としても､総督に主を信じさせまいとやっきになりました。
９しかし、パウロは聖霊に満たされ、魔術師をきっとにらみつけ、　１０「悪魔の子、ぺてん師めっ！　おまえのように悪事にたけたやつは、正義の敵だ。　どこまで主に反抗するつもりか。　１１さあ、神様のさばきを受けるがいい。　そうだ。　おまえは盲目になる。　しばらくの間、日の光が見えなくなるのだっ！」とどなりつけました。
するとたちまち、かすみとやみとが彼をすっぽりおおい、彼は、「おーい、だれか手を引いてくれーっ」と叫びながら、手さぐりで歩き回りました。　１２この出来事を目のあたりにした総督は、神を信じ、今さらのように神の教えの偉大さにびっくりしました。
トルコへ
１３さて、パウロ一行はトルコに向かうため、船でパポスを発ち、ペルガの港に上陸しました。　ここまで来ると、マルコは二人を捨て、一人でさっさとエルサレムに帰ってしまいました。　１４しかしバルナバとパウロは、ピシデヤ地方の町、アンテオケに行きました。

安息日になり、二人は会堂へ出かけました。　礼拝をするためです。　１５いつものとおり、モーセの書と預言者の書からの朗読がすむと、会堂の管理人たちが、二人に言ってよこしました。　「おふた方。　何かお話ししていただけますか。　よろしかったら、お願いします。」
１６そこで、パウロが立ち上がり、会衆にあいさつしてから、話し始めました。
「イスラエルの人たち、ならびに、ここにおられる神様を敬う皆さん、お聞きください。まず、私たちの歴史からお話ししましょう。
１７イスラエルの神様は、私たちのご先祖をお選びになりました。　そして、エジプトで奴隷にされた彼らを、目を見張るような方法で救い出し、名誉を回復してくださったのです。　１８彼らが荒野をさまよい歩いた四十年の間も､ずっと養い続けてくださいました。
１９２０また、カナンの七つの民族を滅ぼし、その土地を相続財産として、分配なさいました。　こうなるまでに約四百五十年もかかりました。　そのあとは、預言者サムエルが現われるまで、さばき人が国の秩序を保っていたのです。
２１やがて人々は、王がほしいと言いだしました。　そこで神様は、ベニヤミン族のキスの息子サウロを王とし、四十年間、国を治めさせました。　２２しかし、そのサウロも神様に退けられ、代わりにダビデが王になりました。　このダビデのことを、神様は『エッサイの息子ダビデこそ、わたしの心にかなう者、わたしの意志に完全に従ってくれる者だ』と言われました。　２３このダビデ王の子孫から、約束どおり、イスラエルの救い主、イエス様を起こしてくださったのです。
２４この方がおいでになる前に､バプテスマのヨハネは､イスラエルの全国民が罪を捨て、神様に立ち返らなければならないと教えました。　２５そのヨハネが、働きを終える時、こう言いきったのです。　『あなたがたは、私をだれだと思っているのか。　私はメシヤ（救い主）ではない。　ほんとうのメシヤはまもなくおいでになる。　この方に比べれば、私など、全く取るに足りない。』
２６アブラハムの子孫の方々、ならびに、神様を敬う外国人の皆さん。　この救いは、私たちみんなのものです。　２７エルサレムにいるユダヤ人とその指導者たちは、イエス様を処刑することで、皮肉にも、預言を実現させたのです。　安息日ごとに預言者のことばが読まれるのを聞きながら、イエス様こそ、その預言されたお方であることを認めようとしませんでした。　２８そして、正当な理由は何一つなかったのに、どうしても死刑にしてほしいと、ピラトに要求したのです。　２９こうして、何もかも預言どおりに、イエス様は死なれたのです。　そのあと、イエス様の遺体は十字架から降ろされ、墓に葬られました。
３０しかし神様は、このイエス様を復活させてくださったのです。　３１イエス様は幾日もの間、ガリラヤからエルサレムまで、ずっと行動を共にした人たちに、たびたび姿を現わしました。　復活のイエス様にお会いした人たちはいつも、人々に、このことを証言し続けてきたのです。

３２３３バルナバと私もまた、この喜ばしい知らせを伝えようと、こうして、わざわざやって来たのです。　その知らせとは、神様がイエス様を復活させたことによって、私たちのご先祖への約束が､今の時代に実現したということです。 旧約聖書の詩篇の第二篇に、『今日、わたしはあなたに、子としての名誉を与えた』とあるとおりです。
３４神様はイエス様を復活させ、二度と死なない方となさいました。　聖書に､『わたしはダビデに約束したすばらしい祝福を、あなたがたに与える』とあるとおりです。　３５また詩篇のほかの個所では、もっとはっきりしています。 『神様は、ご自分の聖なる方が、朽ち果てるのをお許しにならない。』　３６これは、ダビデのことではありません。ダビデは、神様のお心のままに、当時の人たちに仕えた後、死んで葬られ、その体は朽ち果てたからです。　３７しかし、神様が復活させた方は、墓の中で朽ちはしませんでした。
３８聞いてください､皆さん！　このイエス様こそ､皆さんの罪を赦してくださるのです。
３９イエス様を信じる人はみな､すべての罪から解放され､正しい者と宣言されるのです。
これは、モーセの法律では、どうしてもできないことでした。　４０くれぐれも注意してください。　預言者たちの次のことばが、皆さんに的中しないように。
４１『見ろ。　そして滅べ。
真理を見下す者どもよ。
おまえたちの時代に、一つのことをしよう。
どんなに説明しても、
とうてい信じられないことを。』」
４２その日、会堂からの帰り道、人々はパウロに、次の週も、また話してほしいと頼みました。　４３礼拝が終わってからも大ぜいのユダヤ人や信心深い外国人が、パウロとバルナバについて来たのです。　二人は、その人たちに、神の恵みを受けるようにと教えました。　４４次の週の礼拝には、町中の人がこぞって詰めかけ、二人が神のことばを話すのを聞こうとしました。
４５しかし、ユダヤ人の指導者たちは、この群衆を見て、ねたみに駆られ、口ぎたなくののしり、ことごとくパウロに反対しました。
４６そこでパウロとバルナバは、きっぱり言ってやりました。　「この神様からのすばらしい知らせは、まずあなたがたユダヤ人に伝えられるはずだった。　だが、あなたがたはそれを突っぱね、永遠のいのちを受けるにふさわしくない者であることを、自分から証明したのだ。　いいだろう。　これからは、このすばらしい知らせは、外国人に伝えよう。
４７主のご命令のとおりにな。　主は、『わたしはあなたを外国人の光とした。　地の果てからも、人々を救いに導くためである』と言っておられるのだ。」
４８これを聞いた外国人たちは、うれしさを隠しきれません。　喜んで、パウロの話に耳を傾けました。　そして永遠のいのちを求める人はみな、信仰に入りました。　４９こうして神の教えは、この地方全体に広まったのです。
５０しかし、ユダヤ人の指導者たちも、おとなしく引き下がってはいません。　うまいこ

と信心深い婦人や町の有力者たちをそそのかし、パウロとバルナバを迫害したあげく、とうとう町から追い出してしまいました。　５１二人は、その町と縁を切るしるしに、足のちりを払い落とし、イコニオムへ向かいました。　５２一方、主を信じた人たちは聖霊に満たされ、喜びにあふれていました。
一四
１イコニオムの町でも、パウロとバルナバは連れ立って会堂に行き、力強く語ったので、ユダヤ人も、外国人も、大ぜい信じました。
２しかし、神のことばを軽んじるユダヤ人たちは、根も葉もないことで二人を中傷し、人々の不信をかき立てました。　３それにもかかわらず、二人は長い間そこに滞在し、大胆に説教を続けたのです。　主は、すばらしい奇蹟を行なわせ、二人のことばが真実であることを証明なさいました。　４ところが、町の人たちの意見は真っ二つに分かれました。　ユダヤ人の指導者側の意見に、もろ手を上げて賛成する連中があるかと思うと、使徒たちの味方につく者もあるといったぐあいです。
ルステラでの出来事
５６外国人とユダヤ人たちが、ユダヤ人の指導者たちとぐるになり、二人を襲い、石で打ち殺そうとたくらんでいるという情報が、二人の耳に入りました。　二人は、急いで町を出ると、ルカオニヤの町のルステラとデルベ、またその周辺に難をのがれ、　７そこで、神様のすばらしい知らせを伝えました。
８ルステラにいた時のことです。　一人の足の立たない人に出会いました。　生まれてこのかた、一歩も歩いたことがない人でした。９その人がパウロの説教に、一心に耳を傾けていたのです。　当然、パウロの目にとまりました。　その人に、治されるだけの信仰があると見抜いたパウロは、　１０大声で、「立ちなさい」と呼びかけました。　その瞬間、その人はとび上がり、勢いよく歩きだしたのです。
１１これを見た人々は、その地方のことばで、「神々だ。　人間の姿をした神々だ」と叫びだしました。　１２そして、わいわい騒ぎながら、二人をギリシヤの神々にまつり上げたのです。　バルナバはゼウス、パウロはおもに話をしたので、ヘルメスだということになりました。　１３町の門のすぐ外にある、ゼウス神殿の祭司までが、花飾りを持って駆けつけ、門のところで群衆といっしょに、雄牛を数頭いけにえとし、二人にささげようとするではありませんか。
１４バルナバとパウロは、この神を汚すふるまいに仰天し、着物を引き裂いて、群衆の中に駆け込み、大声で叫びました。
１５「皆さん。　なんということをするのです。　私たちは、皆さん同様、ただの人間じゃありませんか。　こんなばかばかしいことは、おやめなさいっ！　天と地と海、それにその中のすべてのものをお造りになった神様を礼拝しなさい。　私たちは、そのために、すばらしい知らせを持って来たのです。　１６過去の時代には、神様はあらゆる国民が、それぞれ自分勝手な道に進むことを許しておられました。１７といっても、神様のことが

全然わからなかったわけじゃありません。　神様を思い起こさせるものは、いつでも私たちの周囲にあったのです。　たとえば、雨を降らせてくださったのも神様ですし、食べ物が不足しないようにと、すばらしい収穫をあげさせ、喜びに満たしてくださったのも、ほかならぬ神様なのです。」
１８こうして、パウロとバルナバは、やっとのことで、いけにえをささげるのを、やめさせました。
１９しかし、その数日後、また別の事件が起こりました。　アンテオケとイコニオムから数人のユダヤ人が来て、町の人たちを味方に引き入れ、パウロを襲ってさんざん石を投げつけ、町の外へ引きずり出したのです。　ぐったりとしたパウロを見て、てっきり死んだものと思ったからです。　２０クリスチャンたちはぐるっと回りを取り巻き、心配そうにながめていました。　するとどうでしょう。　当の本人はむっくり起き上がり、何事もなかったように町へ帰って行ったのです。
翌日、パウロはバルナバといっしょに、デルベに向けて出発しました。　２１そこで神のすばらしい知らせを語り、大ぜいの人をクリスチャンにしてから、ルステラ、イコニオム、アンテオケへと引き返しました。　２２それぞれの町でクリスチャンたちに会い、ますます神を愛し、また互いに愛し合うように教え、どんな迫害にもくじけず、信仰にとどまり続けるようにと励ましました。　そして、「神の国に入るには、いろいろ苦しい目に会わなければならない」と語りました。　２３二人は、どこの教会でも長老を任命し、彼らのために断食して祈り、だれよりも信頼する主にゆだねました。
２４それがすむと、ピシデヤを通ってパンフリヤに帰り、　２５また、ペルガで説教してから、アタリヤに行きました。
２６そしてついに、船でアンテオケに帰って来たのです。　この町は、今まさに終えたばかりの務めを、神からゆだねられ、出発した所でした。　２７二人はさっそく信者たちを集めて、伝道旅行の報告をし、神は外国人にも信仰の門を開いてくださったと話しました。
２８それから、かなり長い間、アンテオケで、信者たちといっしょに過ごしました。
一五
最初の教会会議
１パウロとバルナバがアンテオケにいた時のこと、ユダヤから来た人たちが、クリスチャンに、古いユダヤの習慣どおり割礼（男子の生殖器の包皮を切り取る儀式）を受けなければ救われない、と教え始めました。　２パウロとバルナバは、このことで彼らと激しく対立し、大論争が持ち上がりました。　それでとうとう、この地方の人を何人かつけて、パウロたちをエルサレムにやり、この問題について使徒や長老たちと協議してもらうことになりました。　３一行は、町の外で、教会員全員の見送りを受けて出発しました。　途中フェニキヤとサマリヤの町に立ち寄り、外国人も次々に主イエスを信じるようになったというニュースを告げて、クリスチャンを大いに喜ばせました。
４エルサレムに着くと、教会員と指導者たち――使徒全員と長老たち――一同が出迎えま

した。　そこで、パウロとバルナバは、今回の伝道旅行で、神がどんなことをしてくださったか、ありのままを報告しました。　５しかし、主イエスを信じる以前はパリサイ派だった人たちのうちの何人かが立ち上がり、外国人といえども、クリスチャンになった以上は、割礼を受け、ユダヤの習慣や儀式を残らず守るべきだと主張しました。　６そこで使徒と長老たちは、この問題に決着をつけるため、会議を開きました。
７激しい論争が続いたあと、ペテロが立ち上がり、意見を述べました。
「皆さん、お忘れですか。　ずっと以前、外国人もこのすばらしい知らせを聞いて信じるために、神様が私をお選びになったことを。　８人の心を何もかもご存じの神様は、ご自分が外国人をも受け入れておられることをわからせようと、私たち同様、彼らにも聖霊様を与えてくださったではありませんか。　９神様は、外国人とユダヤ人を少しも差別なさいません。　だからこそ、私たちと同じように、信仰によって、彼らの心をもきよめてくださったのです。　１０それなのに、どうして、私たちにしても、私たちのご先祖にしても背負いきれなかった重荷を､彼らに負わせようとするのですか。 そんなことをしたら、それこそ、神様がなさったことを訂正するようなものです。　１１私たちは、すべての人が同じ方法で､すなわち､主イエス様が一方的に与えてくださった恵みによって救われる、と信じているのではありませんか。」
１２これを聞くと、あえてそれ以上、議論する者はいなくなりました。　そして一同は、神様が外国人の間で行なわれた奇蹟について語る、バルナバとパウロの話に、耳を傾けました。
１３話が終わると、ヤコブが立ち上がりました。　発言するためです。
「皆さん、お聞きください。　１４今しがたペテロは、神様が初めて外国人に目をとめ、その中から御名をあがめる者たちを起こされた時のことを、話してくれました。１５この事実は、預言者たちの預言とも一致します。　次のように書いてあるとおりです。
１６『この後、わたしは帰って来て、
とぎれていたダビデとの契約を更新する。
１７わたしを信じる人たちがみな、
外国人も含めて、主を見いだすためである。
１８初めから、ご計画を示してこられた神が、
こう言われる。』
１９ですから、これはあくまで私の判断ですが……、神様に立ち返る外国人に、ユダヤ人のおきてを押しつけるべきではありません。　２０ただ、偶像に供えた肉を食べること、あらゆる不品行、しめ殺した動物の肉を血を抜かないまま食べること、また血を食べることはやめるように言ってやればいいでしょう。 ２１どこの町でも､ユダヤ人の会堂では、安息日ごとに、何代にもわたって、このことに反対する説教がなされてきたからです。」
２２使徒や長老たちをはじめ会衆一同は、パウロとバルナバと共に、アンテオケまで代表を派遣し、この決定事項を報告することを決議しました。　そこで選ばれたのが、教会の

指導者、ユダ〔別名バルサバ〕とシラスでした。
２３二人が持って行った手紙には、こう書いてありました。
「使徒および長老たち、ならびにエルサレムのクリスチャンから、アンテオケ、シリヤ、キリキヤの外国人クリスチャンの皆様へ、
２４こちらから行った何人かのクリスチャンが、いろいろなことを言って、皆様をまどわせ、救いにまで疑問をいだかせたことを、確かにうかがいました。　しかし、誤解なさらないでください。　私たちがそのような指示を与えたわけではありません。　２５それでこの際、愛するバルナバとパウロと共に、二人の正式な代表を派遣するのが最もよい方法だと、全会一致で決議しました。　２６２７代表のユダとシラスは、主イエス・キリストのために、いのちを危険にさらしてきた人たちです。　この人たちが、今回の問題についての決定を、口頭でお伝えするはずです。
２８２９すなわち、偶像に供えた物を食べないこと、しめ殺した動物の肉は、血を抜かないままで食べないこと、血を食べないこと、それから、もちろん不品行を避けることです。これ以外のユダヤ人のおきてを押しつけるようなことは、好ましくありません。 それは、聖霊様もお示しになったことですし、私たちも、そう判断するのです。　皆様には、これだけ守っていただけば十分です。敬具」
３０四人は、すぐにアンテオケに向かい、クリスチャンの総会を召集して、この手紙を手渡しました。　３１人々が、この手紙で、たいへん慰められ、喜びにあふれたことは、言うまでもありません。
３２ユダとシラスは、二人ともすぐれた説教者だったので、多くの説教をして、人々の信仰を力づけました。　３３こうして数日が過ぎました。　ユダとシラスは、エルサレム教会への感謝とあいさつを託されて、帰って行き、　３４３５パウロとバルナバは、そのままアンテオケにとどまりました。　そこで説教したり教えたりしている人たちに、協力したのです。
パウロとバルナバ決裂
３６しばらくたつと、パウロはバルナバに、「どうだろう、またトルコへ行っては？　以前に説教した、ほうぼうの町で、クリスチャンたちが、その後どうしているか、ぜひこの目で確かめようじゃないか」と誘いかけました。　３７バルナバも、これには賛成でした。ところが、問題はだれを連れて行くかです。　バルナバはマルコと呼ばれるヨハネを考えていました。　３８しかし、パウロは反対でした。　というのは、ヨハネはこの前の時、パンフリヤで、さっさと一人だけ先に帰ってしまったからです。　３９二人の対立は相当に激しく、ついに別行動をとることになりました。　バルナバはマルコを連れて、船でキプロスに渡りました。　４０４１一方、パウロはシラスに白羽の矢を立てました。　二人は人々の祝福を受けて、陸路シリヤとキリキヤに向かい、ほうぼうの教会を力づけました。
一六
１パウロとシラスがまず行ったのは、デルベでした。 それからルステラに行き、そこで、

テモテという信者に会いました。　母親は、クリスチャンのユダヤ人、父親はギリシヤ人ということです。　２テモテは、ルステラとイコニオムのクリスチャンたちから好感を持たれていたので、　３パウロは、ぜひ自分たちの伝道旅行に加わるように勧めました。　ところが、テモテの父親がギリシヤ人であることはだれもが知っていたので、この地方のユダヤ人の手前、出発前に割礼（男子の生殖器の包皮を切り取る儀式）を受けさせました。
４一行は町から町を訪問して回り、エルサレムの使徒や長老たちが外国人向けに決めた事柄を伝えました。　５それで教会は、日を追って、信仰もしっかりし、信者の数も増え、めざましい発展を遂げたのです。
６聖霊が、今回はトルコのアジヤ地方へは行くなと指示なさったので、一行はフルギヤとガラテヤ地方を通ることにしました。　７それからムシヤとの境に沿って進み、北のビテニヤ地方に行こうとすると、またもや聖霊に禁じられたのです。　８そこで、代わりにムシヤ地方を通ってトロアスに行きました。
パウロの見た幻
９その夜、パウロは幻を見ました。　幻の中で、海の向こうに住むマケドニヤ人が、「こちらに来て、私たちを助けてください」としきりに頼むのです。　１０事は決まりました。直ちにマケドニヤに向かうことになったのです。　神様がそこへ私たちを遣わし、すばらしい知らせを伝えようとしておられるのは、まちがいありません。
１１私たちは、トロアスから船で、サモトラケに直航し、翌日ネアポリスに着きました。
１２そしてついに、マケドニヤの国境から少し入った、ローマの植民地ピリピに到着し、数日の間そこにいました。
１３安息日に、私たちは郊外に出て、人々が祈りに来ると思われる川岸に行きました。　やがて、数人の婦人が集まったので、聖書のことばを教えました。　１４その中に、テアテラ市から来た紫布の商人ルデヤがいました。 以前から神様を礼拝していた婦人です。 このルデヤが、私たちの話に耳を傾けていた時、神様は彼女の心を開き、パウロの語ることをみな信じさせたのです。　１５彼女は一家をあげてバプテスマ（洗礼）を受け、「私を主に忠実な者とお思いくださるなら、どうぞ家にお泊まりください」と招待しました。　たっての申し出に、私たちはその招待を受けることにしました。
牢獄で
１６ある日、川岸の祈り場に行く途中、私たちは悪霊に取りつかれた、若い女奴隷の占い師に出会いました。　彼女の占いのおかげで、主人たちは、甘い汁をいっぱい吸っていたのです。　１７この女が、ついて来て、「ねえねえ、この人たちは神様のお使いだよ。　あんたたちにさ、どうしたら罪が赦されるか、教えてくれるんだよ」と大声で叫び続けます。
１８こんなことが毎日続いたので、困り果てたパウロは、ある日、彼女に取りついた悪霊に、「イエス・キリストの名によって命じる。　この女から出て行けっ！」とどなりつけました。　するとたちまち、悪霊は出て行きました。
１９面白くないのは、女の主人たちです。　もう、ふところに金がころがり込むあてがな

くなったのです。　その腹いせに、パウロとシラスをつかまえ、広場にいる裁判官たちの前へ引きずって行き、口々に訴えました。
２０２１「このユダヤ人のやつらときたひにゃ、町をすっかりだめにしようって魂胆なんです。　ローマの法律に反することばかり教えてるんですから。」
２２たちまち、二人に反感をいだく人たちで、広場には黒山の人だかりができました。　そこで裁判官たちは、二人を裸にし、むちで打たせました。　２３何度も何度もむちが振り下ろされ、しまいには、二人の背中から、たらたらと血がしたたり落ちました。　二人は、牢に放り込まれました。　こいつらを逃がしでもしたら命はないものと思え、と脅された看守は、　２４二人を奥の牢に入れ、厳重に足かせをかけました。
２５真夜中ごろ、パウロとシラスは、主に祈ったり、賛美歌をうたったりしていました。ほかの囚人たちも、じっと聞き入っています。　その時です。　２６突然、大地震が起こったのです。　牢獄は土台からぐらぐら揺れ動き、戸という戸は開き、囚人たちの鎖もはずれてしまいました。　２７看守が目を覚ますと、戸が全部開いています。　てっきり、囚人はみな脱走したものと思い込み、もうだめだとばかり、剣を抜いて自殺しようとしました。
２８その瞬間、パウロが叫びました。　「死ぬなっ！　全員ここにいるぞっ！」
２９看守はあかりを取って来させると、中に駆け込み、恐ろしさのあまりわなわな震えながら、パウロとシラスの前にひれ伏しました。３０そして、二人を外に連れ出し、「先生方。救われるには、どうすればよろしいのでしょう！」と尋ねました。
３１二人は答えました。　「主イエス様を信じなさい。　そうすれば、あなたも家族全員も救われますよ。」
３２こうして二人は、看守とその家の者たち全員に、主のすばらしい知らせを伝えたのです。　３３看守は、二人の打ち傷をていねいに洗って手当てをしたあと、家族ぐるみでバプテスマ（洗礼）を受けました。
３４それから、二人を自宅に案内し、食事のもてなしをし、家族そろってクリスチャンになったことを、心から喜び合いました。　３５翌朝、裁判官たちは警備員をよこして、「あの者たちを釈放せよ」と、通告してきました。　３６そこで看守はパウロに、「お二人とも自由の身です」と伝えました。
３７ところがパウロは、警備員たちにこう答えたのです。　「とんでもない。　あの人たちは、裁判もしないで、いきなり私たちを公衆の面前でむち打ち、そのあげく投獄したんですよ。　私たちは、れっきとしたローマ市民だというのに……。　それを、今さらなんです。　こそこそ釈放しようなんて。　それですむ問題だと思っているんですか。　自分からやって来て、釈放するのが筋じゃありませんか。」
３８警備員たちは、パウロのことばを裁判官たちに伝えました。　パウロとシラスがローマ市民だと聞いた時の、彼らの驚きようといったらありません。　命が危うくなるかもしれないのです。　３９さっそく牢獄に駆けつけ、「どうか、ここから出てください」と平身

低頭、二人を連れ出し、町から立ち去ってほしいと頼みました。　４０パウロとシラスはルデヤの家に戻り、信者たちに会って、もう一度話をし、町をあとにしました。
一七
迫害
１さて、一行はアムピポリスとアポロニヤの町を通り、テサロニケに出ました。　その町にはユダヤ人の会堂がありました。　２パウロはいつものように会堂へ行き、三回の安息日とも、聖書から説教しました。　３そして、キリストの苦しみと復活の預言を説明し、イエスこそキリストだと証明しました。　４聞いた人の何人かは、よく理解して信じました。　信心深いギリシヤ人や、町の有力な婦人たちで信じた人も、少なくありません。
５おさまらないのは、ユダヤ人の指導者たちです。　ねたみに駆られ、とうとう町のやくざどもをけしかけ、暴動を起こしました。　ヤソンの家を襲い、処罰するために、パウロとシラスとを町の議会に引き出そうとしました。
６しかし、当の二人が見つかりません。　しかたなく、代わりにヤソンと数人の信者とを引きずって行き、いかにも大げさに訴えました。　「ご存じでしょうか。　世界中をひっくり返してきたパウロとシラスが、今この町でも騒ぎを起こしているのを。　７そんなぶっそうな連中を、ヤソンは、事もあろうに家にかくまったのです。　やつらはみな反逆罪を犯してます。　カイザルじゃなく、イエスという別の男が王だ、とふれ回ってるんです。」
８９これを聞くと、町民も裁判官たちもひどく不安になり、保釈金を取った上で、彼らを釈放しました。
１０その夜、クリスチャンたちはパウロとシラスを、急いでベレヤへ逃がしました。　ベレヤに着くと、二人はいつものように、会堂で説教です。　１１ベレヤの人たちは、テサロニケの人たちに比べて、ずっと心が広く、喜んで話を聞いてくれます。　そればかりか、二人の言うことがそのとおりかどうか、毎日、聖書を調べるほどの熱心さです。　１２その結果、大ぜいの者が信じました。　中には、名の知れたギリシヤ人の婦人も数人いましたし、男性で信じた人も、かなりの数に上りました。
１３ところが、テサロニケのユダヤ人たちは、パウロがベレヤで伝道していると聞くと、わざわざベレヤまで押しかけ、騒ぎ立てたのです。　１４クリスチャンたちは、すぐにパウロを海岸へ逃がしましたが、シラスとテモテはベレヤに残りました。　１５パウロに同行した人たちは、アテネまで送り、一刻も早く来るようにという、シラスとテモテへのことづけを持って、ベレヤに戻りました。
１６アテネで二人を待つ間、パウロは市内を見物することにしました。　ところがどうでしょう。　町は偶像でいっぱいです。　パウロの胸には、むらむらと怒りが込み上げてきました。　１７黙ってはいられません。　会堂へ行き、ユダヤ人や敬虔な外国人たちと議論する一方、毎日広場で、そこに居合わせた人たちと論じ合いました。
アテネでの混乱
１８パウロはまた、エピクロス派やストア派の哲学者たちとも議論を戦わせました。　と

ころが、イエスのことやその復活のことに話がおよぶと、「こいつは夢を見てるんだ」とあざ笑う者と、「おおかた外国の宗教でも押しつけるつもりだろう」と言う者に分かれました。
１９彼らは、マルスの丘の広場で話してはどうかと提案しました。「どうです。　その新しい宗教のことをもっとくわしくお聞かせ願えないでしょうか。　２０何やら珍しいことをおっしゃっているようで、とても興味があるのです。」　２１アテネに住む人たちは、生粋のアテネ人も、寄留している外国人もみな、新しもの好きで、いつでも何か目新しいことを論じ合っては、日を過ごしていたのです。
２２マルスの丘の広場に立ったパウロは、大ぜいの人を前にして、演説を始めました。
「アテネの皆さん。　あなたがたは宗教にたいへん関心をお持ちのようですね。　２３町を歩けば、必ず多くの祭壇が目にとまります。　ところで、その中に、『知られない神に』と刻まれたものがありましたね。　あなたがたは、この神様がどういうお方かも知らずに拝んでいるわけですが、私は今、この方のことをお話ししたいと思います。
２４この方は、世界と、その中のすべてのものをお造りになった天地の主です。　ですから、人の造った神殿には、お住みになりません。　２５また人は、この方の必要を満たすこともできません。　第一、この方には、必要なものなど何もありません。　かえって、すべての人にいのちを与え、必要なものは何でも、十分に与えてくださるのです。　２６神様は全人類を、一人の人間アダムから造り、すべての国民を全世界に散らされました。あらかじめ、どの国が興り、どの国が滅びるか、いつそうなるか、何もかも決め、国々の境界をもお定めになったのです。
２７これもみな、人々が神様を求め、手さぐりしてでも神様を捜し出すためでした。　事実、神様は私たちから遠く離れておられるのではありません。　２８私たちは神様の中に生き、動き、存在しているのです。　あなたがたの詩人の一人が、『私たちは、神の子孫だ』と言ったとおりです。　２９もしこのとおりなら、神様を、金や銀、あるいは石のかけらなどで人間が作った、偶像みたいなものと考えるべきではありません。　３０今までは、神様はこうした無知を、見過ごしておられました。　しかし今は、すべての人に、偶像を捨てて神様に立ち返るようにと命じておられるのです。　３１神様の任命なさった方が正しいさばきを行なう日が、決まっているからです。　神様は、その方を復活させ、そのことの動かぬ証拠とされたのです。」
３２死人の復活にまで話がおよぶと、人々は笑って相手にしなくなり、中には、「ま、くわしいことはあとでお聞きしましょう」と言う人たちもありました。　３３こうして、議論は終わりましたが、　３４数名の者がパウロの側につき、クリスチャンになりました。　市議会議員のデオヌシオや、ダマリスという婦人なども、その中に含まれていました。
一八
１パウロは、アテネを去り、コリントへ行きました。　２３そこで、ポント生まれのアクラというユダヤ人と知り合いになりました。　この人は妻プリスキラと連れ立って、最近イタリヤから来たばかりでした。　彼らは、クラウデオ帝が、ローマの全ユダヤ人の追放

令を出したため、イタリヤから追い出されたのです。　アクラも、パウロと同じ天幕作りの職人だったので、パウロはその家に同居し、いっしょに仕事を始めました。
今からは外国人に
４パウロは安息日ごとに会堂に出かけ、ユダヤ人だけでなく、外国人をも説得しようとしました。　５シラスとテモテがマケドニヤから来てからは、全時間をユダヤ人の説得に費やすことになり、イエスこそキリストだと証言しました。　６ところが、ユダヤ人たちは反抗し、侮辱を加えるばかりか、イエスのことまで、ひどくののしるではありませんか。もう我慢はできません。パウロは､彼らときっぱり縁を切るしるしに上着のちりを払い、こう言い放ちました。　「おまえたちの血の責任は、おまえたちに降りかかれっ！　私のせいじゃない。　これからは、外国人を教えよう。」
７その後パウロは､テテオ･ユストという外国人の家に泊めてもらうことにしました。　この人は、外国人ながらも神を敬う人で、うまいことに、隣が会堂でした。　８会堂管理人クリスポの一家は、ほかの大ぜいのコリント人と共に主を信じ、バプテスマ（洗礼）を受けました。
９ある夜、主は幻の中で、パウロにおっしゃいました。　「恐れるな。　語り続けなさい。やめてはいけない。　１０わたしがついている。　だれもあなたに危害を加えることはできない。　この町には､わたしにつく者が大ぜいいる｡」　１１パウロは､一年六か月の間、この町にとどまり、神の真理を教えました。
１２しかし、ガリオがアカヤ地方の総督に就任すると、ユダヤ人は徒党を組んでパウロに反抗し、力ずくで総督のところへ引っぱって行き、　１３「ローマの法律に反するやり方で、神様を礼拝しろと教える不届き者です」と訴えました。　１４パウロが釈明するより早く、ガリオが口を切りました。　「いいか、ユダヤ人諸君。　犯罪事件なら、諸君の訴えを聞きもしよう。　１５しかし、これは何だ。　ことばの解釈とか、人物批判とか、諸君のばかげたおきてに関する事ばかりではないか。　そんなことは、自分たちで始末をつけるがよかろう。　私にはどうでもいいことだし、かかわりになりたくもない。」　１６これだけ言うと、ガリオは、さっさと人々を法廷から追い出しました。
１７暴徒どもは、腹立ちまぎれに会堂の新しい管理人ソステネを捕らえ、法廷の外で打ちたたきました。　しかしガリオは、そんなことには、まるで無関心でした。
１８このあとも、パウロはコリントにとどまりましたが、しばらくすると、クリスチャンたちに別れを告げ、プリスキラとアクラを連れて、船でシリヤに向かいました。　パウロはこの時､一つの誓いを立てていたので､ケンクレヤで頭をそりました。　そうするのが、ユダヤ人の習慣だったのです。　１９一行がエペソに着くと、パウロは、二人を船に残したまま会堂へ出かけ、ユダヤ人たちと議論を戦わせました。　２０２１「もう少し、いてくださいませんか」と頼まれましたが、そんな余裕はありません。　「せっかくですが、どうしても祭りまでにエルサレムへ行かなければならないので、ちょっと……」と断るほかありませんでした。　機会さえあれば、また必ず来ると約束して、一行は船旅を続け

ました。
２２やがて、船はカイザリヤに着き、上陸したパウロは、まずエルサレムの教会を訪問し、皆にあいさつしてから、アンテオケに向かいました。　２３アンテオケにはしばらくいました。　そのあとまた、トルコへ行き、ガラテヤとフルギヤ地方のクリスチャンを訪問しては、励ましのことばをかけ、信仰の成長に役立つ話をして回りました。
２４そのころたまたま、すばらしい聖書教師で、説教者としても有能なアポロというユダヤ人が、エジプトのアレキサンドリヤからエペソに来ました。　２５２６アポロは、エジプトにいたころ、バプテスマのヨハネのことと、ヨハネがイエスについて語ったことを聞いた以外、何も知りませんでした。　それでも大胆に、また熱心に「メシヤ（救い主）様がもうすぐ来られます。　お迎えの準備をしなさい」と会堂で説教しました。　プリスキラとアクラも、その力強い説教を聞きました。　二人はあとでアポロに面会を求め、ヨハネの預言以後、イエスの身に起こったことと、その意味を正確に説明してやりました。
２７アポロの希望はギリシヤへ行くことでした。　それには、クリスチャンたちも賛成です。　大いに励まし、ギリシヤのクリスチャンに手紙で、アポロのことをよろしくと伝えました。　ギリシヤに行ったアポロは、神のためにいかんなく有能ぶりを発揮し、教会を励ましました。　２８また公の場では、ユダヤ人たちをみごとにやり込め、聖書のことばを引用して、イエスこそキリストだと証明しました。
一九
イエスの名によるバプテスマ
１アポロがコリントにいる間に、パウロはトルコを通ってエペソに来ました。　そこで会った何人かの弟子たちに、パウロは尋ねました。　２「ところで、信じた時、聖霊様を受けましたか。」
「いったい何のことでしょう。　聖霊なんて聞いたこともありません。」
３「それじゃあ、バプテスマ（洗礼）を受けた時、どんな信仰告白をしたんです？」
「バプテスマのヨハネの教えた……。」
４これを聞いたパウロは、ヨハネのバプテスマは、罪を離れて神に立ち返る決意を表わすものだから、それを受けた者が、ヨハネの証言どおり、あとから来られたイエスを信じるのは、当然のことだと説明しました。
５彼らはすぐ、主イエスの名によってバプテスマを受けました。　６そして、パウロが彼らの頭に手を置くと、聖霊が下りました。　すると彼らは、外国語で話したり、預言したりし始めたのです。　７みなで十二名ほどの人でした。
８このあと、パウロは会堂で、三か月の間、安息日ごとに大胆に説教し、神の国のことを教えました。　９中には、パウロの話を非難し、人々の面前で、キリストに逆らうことばを吐く連中もいました。　そんな連中は、もう二度と相手にしないことに決め、会堂での説教はそれっきりになりました。　代わりに、クリスチャンたちを誘って、ツラノの講堂で別の集会を開き、毎日そこで説教しました。　１０これが二年間も続いたので、トルコ

のアジヤ地方に住む人たちは、ユダヤ人だろうが外国人だろうが、主の教えを聞かない人は、ほとんどいないほどでした。　１１しかもパウロは、すばらしい奇蹟を行なう力にも恵まれたので、　１２彼の手ぬぐいや、前かけを病人にかけるだけで、病気は治り、悪霊は出て行きました。
１３ところで、町から町へと渡り歩く、ユダヤ人の魔よけ祈祷師の一行がありました。　そこで、試しに主イエスの名を使ってみようという話が持ち上がり、「パウロが伝えているイエスによって命令する。　出て行けっ！」と、まじないを唱えることにしました。　１４こんなことをしたのは、実は、ユダヤの祭司長スケワの七人の息子たちでした。　１５ところが、悪霊に取りつかれた人に実際に試してみると、結果はさんざんでした。　悪霊は、平然と「イエスなら知ってる。　パウロだって知ってる。　だが、おまえらは何者だ」と言い返してきたのです。　１６そればかりか、悪霊に取りつかれた男が、一行のうちの二人に飛びかかり、めったやたらになぐりつけたので、裸にはされるし、重傷は負うしで、命からがら、やっとその家から逃げ出しました。
１７この出来事は、あっという間に、エペソ中のユダヤ人やギリシヤ人に伝わり、町中が大きな恐れに包まれると同時に、主イエスの御名がほめたたえられました。　１８１９それまで魔術を行なっていた信者たちも、そのことを告白し、呪文の本やお札を持ってきて山と積み上げ、みんなの見ている前で焼き捨てました。　ざっと見積っても、銀貨五万枚にはなりそうな量でした。　２０このこと一つ取ってみても、この地方一帯が、どれだけ神のことばによって揺り動かされたか、よくわかります。
エペソでの騒動
２１事件が一段落すると、パウロは聖霊の導きで、ギリシヤを回ってから、エルサレムに帰ることにしました。 あとでローマへも行くつもりでした。 それをはっきりさせると、２２まず、助手のテモテとエラストとをギリシヤへやり、自分は、なおしばらくトルコにとどまりました。
２３ちょうどそのころ、エペソで、クリスチャンのことで大騒動が持ち上がりました。　２４事を起こしたのは、デメテリオという銀細工人です。　この男は職人を大ぜい雇い、ギリシヤの女神アルテミスの神殿の模型作りを手広くやっていました。　２５この男が、自分のところの職人や同業者を集めて、たいそうな演説をぶったのです。
「皆さん。　私たちは神殿の模型作りで食べています。　２６ところがですよ、ご存じのように、あのパウロとかいうやつが、手で作ったものは神じゃないなどと、不届きなことをぬかし、大ぜいの人にふれ回っているのです。　おかげで、こちらの売り上げは、がた落ちです。　エペソばかりか、この地方全体がそうなんです。　２７もちろん、商売が圧迫されるとか、もうけが減るとかいったことだけを、とやかく言うつもりはありません。私が声を大にして叫びたいことは、このままでは、偉大な女神アルテミス様の神殿のご威光が薄れ、トルコのこの地方は言うにおよばず、世界中の人たちが礼拝してきた、すばらしい女神アルテミス様が忘れられてしまうということです。」

２８この演説で、人々は逆上し、大声で「偉大なのはエペソ人の女神アルテミス様だっ！」とわめき始めました。
２９たちまち町中は大混乱です。　人々はパウロに同行したガイオとアリスタルコとを裁判にかけようと、二人をむりやり引っ立て、円形劇場へなだれ込みました。　３０これを見て中に入ろうとするパウロを、弟子たちが必死に押しとどめました。　３１パウロの友人であるこの地方のローマの役人たちも、使いの者をよこし、危険だから、くれぐれも中へは入らないように、と言ってきました。
３２一方、劇場の中では、各人がてんでんばらばらのことをわめき立てるので、ほとんどの人が、なぜ集まっているのかさえ、わからない有様でした。
３３そうこうするうちに、ユダヤ人たちが、群衆の中からアレキサンデルという男を前に押しやりました。　演説させようというのです。　アレキサンデルは、進み出て、静かにするよう身ぶりで合図しました。　３４しかし、彼がユダヤ人だとわかると、群衆は、前よりも激しく騒ぎだし、手のつけようがありません。　「エペソ人の偉大な女神アルテミス様、ばんざーいっ！　ばんざーいっ！」と二時間も叫び続けました。
３５とうとう市長が乗り出し、やっとのことで、なんとか話ができるまでに騒ぎを静めました。　「市民の皆さん。　エペソが偉大なアルテミス様の宗教の本山であることは、だれもが知っています。　アルテミス様のご神体は、天から、われわれのもとに下って来たのです。　３６それは、はっきりしているのだから、何を言われても、あわてることはありません。　くれぐれも軽はずみなことだけは、しないようにしてください。　３７さて、ここへ連れて来た二人のことですが、女神の神殿から何かを盗み出したり、女神を冒涜したりしたわけではありません。　３８もしデメテリオや職人たちが、二人を訴えたいのなら、法廷があるのだから、裁判官の前に持ち出せばいいのです。　何事も法律にのっとって進めてもらいたいですね。　３９また、それ以外のことで不平があれば、定例の市議会に提出すればすむことです。　４０とにかく、今日のこの騒動は、ローマ政府から騒擾罪に問われるかもしれません。　なにしろ、正当な理由が一つもないのだから、どうなっても、責任は負えませんよ。」
４１こうして、市長は人々を解散させました。
▪
二〇
１騒ぎが収まると、パウロは、使いをやって弟子たちを集め、別れの説教をしてから、ギリシヤへ出発しました。　２その旅の途中でも、立ち寄るすべての町で説教し、クリスチャンを力づけることは忘れませんでした。　やがてギリシヤに着きました。　３そこに三か月の間とどまったあと、船でシリヤへ向かおうと準備を進めていたところ、ユダヤ人たちがパウロの命をねらっているという情報が入ったのです。　急いで予定を変え、北のマケドニヤを通って帰ることにしました。
４数人の人が、トルコまで同行することになっていました。　プロの息子でベレヤ出身の

ソパテロ、テサロニケから来たアリスタルコとセクンド、デルベのガイオ、それにテモテです。　またテキコとトロピモは、トルコの故郷の町に帰るところでした。　５彼らはひと足先に出かけ、トロアスで私たちを待っていました。　６過越の祭りが終わるとすぐ、私たちはマケドニヤのピリピから船出し、五日後にはトルコのトロアスに着いて、一週間そこで過ごしました。

三階から落ちた青年

７日曜日になりました。　私たちは聖餐式（キリスト教の儀式の一つ）のために集まり、パウロが説教しました。　翌日には出発することになっていたので、話は夜中まで続きました。　８会場の三階の部屋には、たくさんのランプが、あかあかと点されていました。

９ところが、話がえんえんと続くので、窓ぎわに腰かけていたユテコという青年は、ぐっすり眠り込み、三階からまっさかさまに落ちてしまいました。 人々が抱き起こした時は、もう死んでいました。　１０‐１２パウロは降りて来て、彼を抱きかかえ、「心配するな。大丈夫だ」と言いました。　すると、驚いたことに、そのことばどおりに、青年は生き返ったのです。　人々の喜びはたいへんなものでした。　一同は、もう一度三階に上がり、聖餐式をしました。　パウロは、そのあとも長いこと説教し、夜明けごろ、ようやく出発しました。

１３パウロは陸路アソスに向かうつもりだったので、私たちは船で先に出発しました。 １４そして、アソスで落ち合い、いっしょに船でミテレネまで行き、　１５翌日にはキヨスの沖を過ぎ、次の日サモスに寄港しました。　その翌日には、もうミレトです。

別れのあいさつ

１６パウロは、できれば五旬節の祭りまでにはエルサレムへ行こうと、先を急いでいたので、エペソには立ち寄らないつもりでした。　１７それで、ミレトに上陸すると、さっそくエペソ教会の長老たちに、船まで会いに来るようにとことづけました。

１８集まった長老たちに、パウロはこう語りました。

「私がトルコに足を踏み入れて以来、どんなふうに生きてきたかは、よくご存じですね。

１９私は謙そんの限りを尽くし、涙を流しながら、神様のために働いてきました。　ユダヤ人には命をつけねらわれ、危険な目に会ったのも、一度や二度じゃありません。　２０それでも、ためらわず真理を語りました。　個人的にばかりでなく、堂々と大ぜいの人の前でも。　２１また、ユダヤ人にもギリシヤ人にも、罪から離れ、主イエス・キリストを信じて神様に立ち返るように勧めました。

２２今は、聖霊様が、どうにも逆らえない強い力で、私をエルサレムへ行かせるのです。

そこで何が待ち受けているか、見当もつきません。　２３ただわかっているのは、行く先々の町で、入獄と苦難が待っていると、聖霊様が告げてくださったことだけです。　２４しかし、主イエス様がせよと言われた仕事をやり遂げるためなら、こんなつまらない命でも、喜んで投げ出す覚悟はできています。　その仕事とは、神様の力強い愛とあわれみについての、すばらしい知らせを伝えることです。

２５皆さん。　これまで何回か、あなたがたのところを訪問し、神の国のことを教えた私ですが、もう二度とお目にかかることもないでしょう。　２６ですから、今ここで、はっきり宣言します。　あなたがたが、どんなさばきを受けることになろうと、私の責任ではありません。　２７私は、神様の教えを、何もかも話してあげたからです。
２８注意しなさい。　あなたがたは、神の羊たち〔神様がキリストのいのちと引き替えに買い取った教会〕を養い育てる立場にあるのです。　このことをしっかり肝に銘じておきなさい。　いいですか、聖霊様が、この監督者としての責任をお与えになったのですよ。
２９私が去ったあと、狂暴な狼のような偽教師たちが忍び込み、情け容赦なく群れを荒らし回るでしょう。　３０それだけじゃありません。　あなたがたの中からも、弟子を自分の側に引き込みたいばかりに真理を曲げる者が出るでしょう。　３１だから、よく見張っていなさい。　私といっしょに過ごした三年間を忘れてはいけません。　昼も夜も目を離さず、あなたがたのために流してきた、私の涙を忘れてはいけません。
３２私は今、あなたがたを、神様とそのすばらしいみことばとにゆだねます。　このことばが､あなたがたの信仰を強くし､神様のためにきよい者とされた人々が相続する財産を、あなたがたにも与えるのです。
３３私はお金やぜいたくな衣服をほしいと思ったことなど､ただの一度もありません。 ３４この手、この両手が、どれだけ自分の生活や、いっしょにいた人たちの必要のために働いたかは、よくご存じでしょう。　３５また、貧しい人たちを助けることでも、常に良い手本となったつもりです。 それは『与えることは受けることよりも幸いである』という、主イエス様のことばが、いつも頭にあったからです。」
３６語り終えると、パウロはひざまずき、長老たちのために祈りました。　３７人々は別れを惜しんで、一人一人パウロを抱きしめ、おいおい声をあげて泣きました。　３８もう二度と会えないだろうと言ったパウロのことばに､胸も張り裂ける思いだったのです。 それから一同は、パウロを船まで見送りました。
二一
エルサレムへの最後の旅
１エペソの長老たちと別れたあと、私たちはコスに直航し、翌日はロドス、それからパタラへと船旅を続けました。 ２そこで､シリヤのフェニキヤ方面に行く船に乗り替え、 ３キプロス島の南を通ってシリヤに向かい、一たんツロに上陸しました。　ここで船の積み荷を陸上げすることになっていたからです。　４上陸すると、クリスチャンを捜し出し、一週間ほどいっしょに過ごしました。　この町のクリスチャンは聖霊のお告げを受け、どうにかしてパウロにエルサレム行きを思いとどまらせようとしました。　５しかし、停泊期間も終わり、私たちは予定どおり船に戻ることになったので、人々は家族総出で、浜辺まで見送りに来ました。　互いに祈り合い、別れのあいさつがすむと、６私たちは船に乗り込み、人々は家へ帰りました。
７ツロの次はトレマイです。　この町のクリスチャンにもあいさつをしましたが、いたの

は、一日だけでした。　８翌日には、もうカイザリヤに着き、そこでは、最初の七人の執事の一人であった、伝道者ピリポの家に泊まりました。　９ピリポには、預言する力のある未婚の娘が四人いました。
１０１１数日そこに世話になっているあいだに、やはり預言する力のあるアガボという人の訪問を受けました。　この人は、わざわざユダヤから来たのです。　アガボはパウロの帯を取り、それで自分の手足を縛ってから、言いました。「聖霊様のお告げです。『この帯の持ち主は、エルサレムでユダヤ人からこのように縛り上げられ、ローマ人に引き渡される。』」　１２これを聞いた者はみな、この町のクリスチャンも、同行していた私たちも、声をそろえて、エルサレムへは行かないでほしいと、涙ながらに訴えました。
１３しかしパウロは、断固として決心を変えません。「なぜ泣くのか。　私の心をくじくのはやめてくれ。主イエス様のためなら、エルサレムで投獄されてもかまわないのだ。いや、殺されてもいい、とまで覚悟しているのだ。」　１４もうこれ以上何を言ってもむだです。　「主のお心のままになりますように」と言って、口をつぐむほかありません。
１５しばらくして、私たちは荷物をまとめエルサレムへ出発しました。　１６カイザリヤのクリスチャンも幾人か同行し、エルサレムに着くとすぐ、最古参のクリスチャンの一人、キプロス島出身のマナソンの家へ案内してくれました。　そこに泊めてもらうことになっていたからです。　１７エルサレムのクリスチャンはみな、私たちを心から歓迎してくれました。
１８翌日、パウロは私たちを連れ、ヤコブをはじめエルサレム教会の長老たちに会いに出かけました。　１９ひと通りあいさつがすむと、パウロは、この伝道旅行で、神がどれだけ多くのことを成し遂げてくださったかを、くわしく報告しました。
２０それを聞いた人々は心から神をほめたたえ、パウロに言いました。「愛する兄弟よ。ご存じとは思いますが、何千というユダヤ人もまた、主イエス様を信じるようになったのです。　彼らはクリスチャンになっても、ユダヤ人はユダヤの伝統と習慣を守り続けるべきだと強く主張しています。　２１そこで困ったことがあるんですよ。　あなたがモーセの法律やユダヤ人の習慣に反し、子供に割礼（男子が生まれて八日目にその生殖器の包皮を切り取る儀式）を施すことを禁じているといううわさが、エルサレムに流れているのです。　２２どうしたものでしょうね。　あなたが来たことは、必ず彼らの耳にも入るでしょうし……。
２３それでと言ってはなんですが、こうしたらどうでしょう。　ある誓願を立てて頭をそる人が四人います。２４この人たちを神殿に連れて行き、あなたもいっしょに頭をそり、彼らの費用を払ってやるのです。　そうすれば、うわさが事実無根であり、あなたはユダヤ人として、おきてもちゃんと守り、私たちと同じ考えであることが、よくわかってもらえるでしょう。
２５もちろん、外国人のクリスチャンには、このようなユダヤの習慣を押しつけるつもりは毛頭ありません。　ただ、前に手紙で知らせたように、偶像にささげた物を食べないこ

と、血を食べないこと、しめ殺された動物の肉は、血を抜かないままで食べないこと、不品行を避けること、これだけを守ってもらえばいいのです。」
２６パウロはこの提案を受け入れ、翌日、四人の人といっしょに儀式を受けるために宮へ行き、ほかの人たちともども、七日後に供え物をささげる誓いを立てたことを公表しました。
２７その七日目がようやく終わるという時、トルコから来た数人のユダヤ人が、宮の中でパウロを見つけたのです。　連中は群衆をそそのかしてどっと襲いかかり、　２８パウロを押さえつけると大声で叫びました。　「おーい、みんな、手を貸してくれーっ！　こいつは、とんでもないやつなんだ。　ユダヤ人に逆らえだの、おきてを守るな、だのとふれ回ってるんだ。　そればかりじゃないぞ。　神殿の規則に反することも教えている。　現に、外国人をこの神聖な場所に連れ込むようなまねを平気でやってるんだからな。」　２９〔連中は、その日の早朝、パウロが、エペソから来た外国人のトロピモといっしょにいるのを見かけたので、パウロが彼を神殿に連れ込んだものと勘違いしたのです。〕
３０効果てきめん。　この訴えに、町中の人が興奮して騒ぎだしました。　人々はパウロ目がけて殺到し、むりやり宮の外へ引きずり出すと、ぴったり門をしめてしまいました。
３１彼らがパウロを殺そうとしていた時、ローマの守備隊司令官のもとに、エルサレムが混乱状態に陥ったという知らせが届きました。　３２司令官は、直ちに兵士と士官を率いて現場に駆けつけました。　軍隊が近づいて来たので、人々はパウロをなぐるのをやめました。　３３司令官はパウロをとらえると、まず二重の鎖で縛らせ、次に、この男は何者で、いったい何をしでかしたのかと、人々に尋ねました。　３４ところが、人々がめいめい勝手なことを叫び続けたので、さっぱり事情がつかめません。　ひとまず、パウロを兵営へ連行しろと命じました。　３５しかし、階段にさしかかった時には、群衆がますますひどく騒ぎ立てたので、パウロをかつぎ上げなければならなくなりました。　３６「そいつを殺せっ！　殺しちまえっ！」とわめきながら、押し寄せて来ました。
３７３８兵営に連れ込まれようという時、パウロは司令官に、「お話ししたいことがあるのですが」と言いました。　そのことばに司令官は驚いて、聞き返しました。　「おまえ、ギリシヤ語が話せるのか。　じゃあおまえは、数年前、反乱を起こし、四千人の殺し屋を引き連れて荒野へ逃亡した、あのエジプト人じゃないのか。」
３９「とんでもありません。　私はキリキヤのタルソ出身のユダヤ人です。　お願いです。どうかこの人たちに話をさせてください。」
パウロの釈明
４０司令官が許可したので、パウロは階段の上に立ち、身ぶりで人々を静めました。　まもなくすっかり静かになったところで、パウロはヘブル語で話し始めました。
二二
１「私の兄弟とも父とも言うべき皆さん。　どうか、私の申し上げることを聞いてください。」　２〔パウロがヘブル語で話すのを聞いて、人々はしーんと静まり返りました。〕　３

「私はキリキヤの町タルソで生まれたユダヤ人ですが、エルサレムのガマリエル先生のもとで教育を受けました。　先生の門下生として、ユダヤのおきてと習慣には、特にきびしく従うように教えられました。　つまり、今の皆さん同様、こと神様に関する限り、人並み以上に熱心だったのです。　４クリスチャンを迫害し、逃げる者たちを、どこまでも執念深く追い回し、男でも女でも手当たりしだいに縛り上げて投獄したり、殺したり……。

５そのことは、大祭司様も、議会の議員の方々も証言してくださるでしょう。　この人たちに頼んで、ダマスコに住むユダヤ人の指導者あてに、クリスチャンを見つけしだい縛り上げ、処罰するためにエルサレムへ連行することを認めさせる手紙を、書いてもらったのですから。

６ところが、もうじきダマスコという時、そう、あれはちょうど正午ごろでしたが、突然まばゆい光が、天からさっと私を照らしたのです。　７思わず倒れ伏した私の耳に、『パウロ、パウロ。　なぜわたしを迫害するのか』と呼びかける声が聞こえました。

８『そう言われるあなた様は？』と尋ねると、その声は『あなたが迫害しているナザレのイエスだ』と答えるではありませんか。　９いっしょにいた人たちには、光は見えましたが、ことばはわかりません。

１０『主よ。　私はいったい、どうしたらよいのでしょう。』　私がこう尋ねると、主は、『立って、ダマスコの町に入りなさい。　将来どんなことがあなたの身に起こるかは、そこで教えられるだろう』というお答えです。

１１ところが、あまりのまぶしさに、目が見えなくなり、連れの者にダマスコまで手を引いて行ってもらわなければなりませんでした。　１２ダマスコには、神様のおきてを忠実に守る、信心深いアナニヤという人がいました。　ダマスコのすべてのユダヤ人に、たいそう評判のよい人でした。　１３この人が来て、『兄弟パウロ。　見えるようになれ』と言うと、たちまち彼の姿が見えるようになりました。

１４するとアナニヤは、こう言ったのです。　『ご先祖の神様があなたをお選びになったのです。　神様がそのことをあなたに知らせ、メシヤ（救い主）に会わせ、その御声を聞かせてくださったのです。　１５あなたがこの方の教えを携えて行き、自分で見聞きしたことを、あらゆる所のあらゆる人たちに伝えるためです。　１６さあさあ、何をためらっているのです。　お立ちなさい。　主の名を呼んでバプテスマ（洗礼）を受け、罪をすっかり洗いきよめていただくのですよ。』

１７１８こうしてエルサレムに帰り、ある日、神殿で祈っていると、うつらうつら夢ごこちになり、神様の幻を見たのです。　神様は、『さあ、急いでエルサレムを離れなさい。　ここの人たちは、あなたがわたしの教えを伝えても信じないから』とおっしゃいました。

１９私は答えました。　『主よ。　人々はかつて私がどこの会堂ででも、あなた様を信じる人たちを投獄し、むち打ったことを、いやと言うほど知っているのです。　２０しかも私は、あのステパノが殺された時には、それに賛成して現場に立ち合ったばかりか、石を投げつける連中の上着の番をしたのですよ。』

２１しかし神様はやっぱり、『さあ出発しなさい。　あなたを遠く、外国人のところへ派遣します』と言われるのです。」
２２ここまで話すと、人々はいっせいに叫びだしました。「こんなやつは消しちまえっ！　生かしておくな。　殺せ、殺せーっ！」　２３あたりは興奮のるつぼです。　大声でわめく声、声、声……。　上着は宙に舞い、あちこちで、ちりをつかんでまき散らす者も出るしまつです。
２４どうしてこれほどの怒りを買うのでしょう。 その事情を知りたいと思った司令官は、パウロを兵営に引き入れ、むちで打って白状させようと思いました。
２５兵士たちが縛り上げた時、パウロはそばに立っている士官に、「ローマ市民の私を、裁判にもかけずにむち打つのは、法律違反じゃないですか」と言いました。
２６これを聞いて、士官はあわてて司令官のところへ駆けつけ、「いかがいたしましょう。あの男はローマ市民だと言っております」と耳打ちしました。
２７そこで司令官がじきじきに、問いただしました。
「はっきりしろ。　おまえはローマ市民なのか。」
「おおせのとおり、確かにローマ市民です。」
２８「わしもローマの市民権を持っているが、ずいぶん金を積んだものだ。」
「私は生まれながらの市民です。」
２９パウロを打とうと、そこに立っていた兵士たちは、ローマ市民だとわかったとたん、びっくりして手を引きました。　司令官も、知らなかったとはいえ、ローマ市民を縛ってむち打つように命令したので、ひどく不安になりました。
最高議会で
３０翌日、司令官はパウロの鎖を解き、祭司長たちに、ユダヤの最高議会の召集を命じました。　その場にパウロを連れ出し、騒ぎの原因を突きとめようと思ったのです。
二三
１パウロは議会の面々をじっと見つめ、口を開きました。　「皆さん。　私はいつでも神様の前で、少しも良心に恥じない生活を送ってまいりました。」
２これを聞いただけで、大祭司のアナニヤは、パウロのそばに立っている者たちに、「やつの口を打て」と命じました。
３パウロは、きっとアナニヤを見すえてやり返しました。　「神様に罰せられるのは、おまえのほうだ。　うわべだけは取りつくろっても、自分でおきてを破っている。　私を打てだと、なんという裁判官か。」
４「それが大祭司様に対することばかっ！」　そばにいた者たちが叫びました。
５「あの人が大祭司様ですって？　それは知りませんでした。　聖書には、確かに『指導者の悪口を言ってはならない』と書いてありますな。」
６そのうちパウロは、議会にはサドカイ人（神殿を牛耳っていた祭司階級。　ユダヤ教の主流派）もいれば、パリサイ人（信徒で、特におきてを守ることに熱心なユダヤ教の一派）

もいることに気づき、こう叫びました。　「皆さん。　私は先祖代々のパリサイ人です。私が今ここでさばかれているのは、死人の復活を信じているからなのです。」
７このことばで､議会はパリサイ派とサドカイ派に真っ二つに分かれてしまいました。　８サドカイ派は、復活も御使いも信ぜず、永遠に生きる霊もないと主張する一方、パリサイ派は、それらを全部信じていたからです。
９議会は大混乱に陥りました。　ユダヤ人の指導者の中にも、パウロは正しいと論じる人が現われるしまつです。　彼らは大声でこう言いました。　「この人は別に悪いことなんかしちゃいないぞ。　たぶんダマスコへ行く途中で、何かの霊か御使いが語りかけたんだろう。」
１０叫び声はますます大きくなり、人々はパウロを両方から奪い合おうとします。　今にもパウロが引き裂かれそうな勢いです。　心配になった司令官は、兵士たちに、力ずくでパウロを人々から引き離させ、兵営に連れ帰りました。
１１その夜、主がパウロのそばに立って、こう言われました。　「パウロよ。　心配はいらない。　あなたは、このエルサレムでと同じように、ローマでもわたしのことを人々に証言するのだ。」
１２１３翌朝、四十名以上のユダヤ人が集まり、パウロを殺すまでは飲み食いをしないと誓い合いました。　１４彼らは､祭司長と長老たちのところへ行ってその決意を告げ、　１５｢もう少しパウロを尋問したいとか何とか言って､やつをもう一度議会に立たせるよう、司令官に頼んでいただけないでしょうか。　あとは、私たちが途中で待ち伏せて、うまいこと始末します」と願い出ました。
１６ところが、この陰謀を、パウロの甥が知ったのです。　彼は急いで兵営に駆け込み、このことをパウロに知らせました。
１７パウロは士官の一人を呼び､｢この青年を､司令官に会わせてやってください。　重大な報告があるそうですから」と頼みました。
１８士官はすぐに､青年を連れて司令官のところへ行き､｢囚人のパウロが､この青年をお引き合わせするようにと申しております。　何か報告があるそうで……」と伝えました。
１９司令官は青年の手を取り､だれもいないところへ連れて行って､｢いったいどんな用件か」と尋ねました。
２０「ユダヤ人たちが、もう少し取り調べたいことがあるようなふりをして、明日パウロをもう一度議会に呼び出すことを願い出ます。　２１しかし、どうか許可なさいませんように。　四十名以上の者が､パウロを襲い､殺そうと待ち伏せているからです。　連中は、パウロを殺すまでは飲み食いしないと誓い合っています。　今、連中は外で、あなたの許可が下りるのを待っているのです。」
２２　司令官は青年に､｢このことはだれにも口外するな｣と言い含めて帰しました。　２３２４それからすぐ､士官を二人呼び､｢今夜九時、カイザリヤに向けて出発できるよう準備しろ。　兵士は二百名だ。　それと槍兵二百名、騎兵七十名も同行させろ。　パウロを

馬に乗せ、総督ペリクス閣下のもとへ無事に送り届けるのだ」と命じました。
２５このとき司令官が総督に送った手紙は、次のようなものでした。
２６「クラウデオ・ルシヤから、総督ペリクス閣下に、ごあいさつを申し上げます。
２７この者は、ユダヤ人に捕らえられ、危うく殺害されるところを、本官が兵を率いて駆けつけ、救出した者でございます。　それというのも、れっきとしたローマ市民であったからです。　２８その後、議会で、事の真相を調べましたところ、　２９問題はユダヤ人の信仰上のことであり、この者を投獄したり、死刑にしたりするような事件ではないことが判明いたしました。　３０しかし、この者のいのちをねらう陰謀が巡らされているとの情報をつかみましたので、彼の身柄を閣下のもとに送ることにいたします。　また、この者を訴えたければ、以後は、閣下の前に訴えるようにと、その旨指示しておきました。」
３１その夜のうちに、兵士たちは命令どおりパウロをアンテパトリスまで護送し、　３２翌朝、そこからカイザリヤまでは騎兵隊に任せて、兵営に引き返しました。
３３カイザリヤに着くと、騎兵隊は、司令官からの手紙といっしょにパウロを総督に引き渡しました。　３４手紙を読み終えた総督が、出身地を尋ねたので、パウロはキリキヤだと答えました。
３５総督は、「おまえを訴える者たちが来てから、くわしく取り調べよう」と申し渡し、ヘロデの官邸内の牢獄に、パウロを入れておくよう命じました。
二四
ローマ総督の前で
１五日後、大祭司アナニヤが、ユダヤ人の指導者数人と弁護士テルトロとを連れて来て、訴えを起こしました。　２総督の前に呼び出されたテルトロは、でたらめの告訴理由を並べ立てました。
「閣下。　われわれユダヤ人がおだやかで平和な生活を送れますのも、みな、あなた様のおかげでございます。　また、われわれに対する差別待遇の問題も驚くほど改善され、　３一同、心から感謝いたしております。　４さて、あまりくどくならぬよう、手短に、この男に対する訴えの筋を申し上げますので、何とぞ、お聞き届けください。５このパウロは全く人騒がせな男で、ナザレ人という一派の首領におさまり、世界中を駆け巡ってユダヤ人をたきつけ、ローマ政府に反乱を起こそうとしているのでございます。　６その上、神殿までも汚そうとしたので、引っ捕らえたしだいでございます。
われわれとしては、当然の罰を加えようとしただけですのに、　７守備隊司令官のルシヤ様が、この男を力ずくで奪い、　８ローマの法律で裁判しろとお命じになったのです。　閣下がお調べくだされば、われわれの正しいことがおわかりいただけると存じます。」
９ほかのユダヤ人たちも、口をそろえて、テルトロの言うとおりだ、とくり返しました。
１０次に総督は、身ぶりでパウロをうながしました。　パウロは立ち上がり、釈明を始めました。
「閣下が長年にわたり、ユダヤ人の問題をさばいてこられたことは、よく存じ上げており

ます。　ですから、安心して釈明させていただきます。　１１お調べくだされればすぐにわかることですが、私が神殿で礼拝するためにエルサレムに着いてから、十二日しかたっておりません。　１２私はどこの会堂でも町でも、騒ぎを起こせと人々をそそのかしたことなど、一度もございません。　１３この人たちは、何一つ証拠をあげられないはずです。１４しかし、この人たちが異端ときめつけている救いの道を信じていることだけは、確かでございます。　私はこの道を伝えることで、私たちの先祖の神様に仕えているのです。またユダヤ人のおきてと、預言者の書にあることもみな堅く信じております。　１５この人たち同様、正しい者も不信心な者も共に復活すると信じております。　１６神様の前でも人の前でも、いつも良心に恥じない生活を精一杯心がけているのでございます。
１７私は何年ぶりかで、ユダヤ人への援助金を携え、神様に供え物をささげようと、エルサレムに帰ってまいりました。　１８私を訴える人たちは、私が神殿で感謝のささげ物をしているのを見たのです。　私は規則どおり頭を丸めておりましたし、別に、回りに人だかりがあったわけでも、騒ぎがあったわけでもありません。　ただ、トルコから来たユダヤ人が数人いただけです。　１９私を訴えるのなら、まず、それを見た人たちがここに来るべきです。　２０また、この人たちには、議会で、私に不正な点を見いだせたかどうか尋ねてみてください。　２１私は議会では、ただひと言、『死人が復活するという信仰のことで釈明するため、議会に呼び出されたのです』と叫んだだけでございます。」
２２ペリクスは、クリスチャンが暴動をあおり立てたりはしないことを知っていたので、ユダヤ人には、守備隊の司令官ルシヤが来てから片をつけると言って、裁判を延期しました。　２３一方、パウロのほうは、また監禁するよう命じましたが、看守には、丁重に取り扱い、友人たちの面会や差し入れも自由にさせろと言い含めました。
２４数日後、ペリクスは、ユダヤ人の妻ドルシラを伴って来ました。　パウロを呼び出し、二人でキリスト・イエスに対する信仰について話を聞こうというのです。　２５しかし、話が正義と節制、それに、やがて来る審判のことだったので、こわくなり、「もう帰ってよい。　また折りを見て話を聞こう」と体よく断わりました。
２６それからも時々、パウロを呼び出しては話し合いましたが、それというのも、パウロから金をもらいたい下心があったからです。　２７こんなふうにして二年が過ぎ、ペリクスはポルキオ・フェストと交替しました。　ペリクスはユダヤ人のきげんを損ねたくなかったので、パウロを捕らえたままにしておいたのです。
二五
１新総督としてカイザリヤに着いて三日後に、フェストは、エルサレムへ来ました。　２祭司長やユダヤ人の指導者たちはさっそく面会を求め、パウロの一件を持ち出しました。３願うことはただ一つ、パウロを直ちにエルサレムに連れ戻してほしいということです。〔彼らはまだ、途中で待ち伏せて殺そうと思っていたのです。〕　４そんなことは知らないフェストは、パウロはカイザリヤに拘留中だし、自分もすぐ戻るので、　５パウロを告発したければ、それ相応の人が自分と同行し、向こうで裁判にかけてはどうか、と提案しま

した。
裁判
６八日か十日の後、フェストはカイザリヤに帰り、翌日、パウロの裁判が開かれました。
７パウロが出廷したとたん、エルサレムから来たユダヤ人たちが取り囲み、次々に重い罪名をあげて訴えたものの、それを証拠立てることはできませんでした。　８この訴えに対して、パウロは、「私は潔白です。　別にユダヤ人のおきてに反対したわけでもなく、神殿を汚したことも、ローマ政府にそむいたこともございません」ときっぱり否定しました。
９そこでフェストは、ユダヤ人の歓心を買おうとして尋ねました。　「どうだ、エルサレムで裁判を受ける気はないか。　もちろん、私の前でだが。」
１０１１「それよりも、ローマ皇帝に上訴する権利を要求いたします。　私が無実であることは、あなた様もご存じのはずです。　もし、何か死刑にあたるようなことをしているのなら、逃げも隠れもいたしません。　しかし、私は潔白でございます。　だれにも、私をこの人たちの手に渡して殺させる権利はありません。　私はカイザル（ローマ皇帝）に上訴いたします。」
１２フェストは事態をどう始末したものかと、顧問たちに相談してから、「いいだろう、おまえはカイザルに上訴したのだから、カイザルのところへ行け」と言いました。
１３数日後、新総督に敬意を表するため、アグリッパ王がベルニケといっしょに、フェストを訪問しました。　１４二人が何日間か滞在している間に、フェストは、パウロの一件を王に持ち出しました。「実は、ペリクスから引き継いだ囚人が一人いるのですが、　１５どうも、祭司長やユダヤ人の指導者たちは、彼を死刑にしたいらしいのです。　私がエルサレムへ行った時、そう申していました。　１６もちろん私は、ローマの法律では、裁判もせずに人を有罪にはできないと答えましたがね。　それで、この男に、訴える者たちの面前で釈明する機会を、与えることになったのです。
１７告発者たちがこちらに出向いた翌日、私は裁判を開き、パウロを出廷させました。　１８ところが、訴えというのが全く予想外でして、　１９ユダヤの宗教上の問題なのです。
なんでも死んでしまったイエスとかいう人物のことで、パウロはその人が生きていると主張しているのです。　２０こんな事件は、とても手に負えそうもありません。　そこで、エルサレムで裁判を受ける気はないかと尋ねてみたら、　２１なんとまあ、カイザルに上訴すると言いだしましてね。　しかたありません。　皇帝陛下のもとへ送る手はずが整うまで、牢に入れてあるのです。」
２２アグリッパはこの話に興味を示しました。　「ほう、直接、その男の話を聞いてみたいものですな。」
「では、明日お聞きいただきましょう。」
２３翌日、盛装した王とベルニケが、司令官たちや町の有力者たちと連れ立って法廷に入ると、フェストはパウロを引いて来いと命じました。
２４まずフェストが立ち上がり、演説しました。　「アグリッパ王、ならびにご列席の皆

さん。　この地方のユダヤ人もエルサレムのユダヤ人も、この男の死刑を要求しております。　２５しかし、私の見る限り、彼は何も死刑にあたるようなことはしていないのであります。　ところが、この男が自分でカイザルに上訴しましたので、私は、彼をカイザルのもとに送ることに決めたしだいです。　２６しかし、皇帝に何と書き送ったらよいでしょう。　告訴できるだけの理由が何もないのですから。　それで皆さんの前に、特にアグリッパ王の前に連れてまいりました。　皆さんに調べていただき、何と書いたらいいか教えていただきたいのです。　２７何の理由もなく、囚人を皇帝陛下のもとに送るのは、はなはだ理屈に合わないことだからです。」

二六

アグリッパに答える

１アグリッパはパウロに、「さあ、おまえの言い分を話せ」とうながしました。　そのアグリッパに敬意を表してから、パウロは話し始めました。

２「アグリッパ王。　あなた様の前で釈明できますことを、たいへん光栄に存じます。　３あなた様がユダヤ人のおきてと習慣に特に精通しておられるからです。　どうぞ忍耐してお聞きくださいますように。

４このことは、ユダヤ人もよく知っているのですが、私はタルソで生まれ、エルサレムで、ユダヤ教徒としての徹底した訓練を受け、それにふさわしく生きてまいりました。　５また、ユダヤのおきてと習慣を守ることでは、最も厳格なパリサイ派の一人でした。　その気さえあれば、ユダヤ人も簡単に証言できることです。　６しかし、彼らが訴えたいのは、そんなことではありません。　私が、先祖に与えられた約束の実現を待ち望んでいることが、彼らの気に入らないのです。　７イスラエルの十二の部族は、私と同じ希望をいだいて昼も夜も努力してきたというのに……。　王よ。　それが、私だけ罪に問われるとは、理にかないません。　８死人の復活を信じることが犯罪でしょうか。　神様が人間を復活させることは、そんなに信じがたいことでしょうか。

９かつて私は、ナザレのイエスの弟子は撲滅すべきだと堅く信じていました。　１０ですから、祭司長たちの手先になり、エルサレムでクリスチャンを片っぱしから投獄し、裁判の時には、死刑に賛成の票を投じました。　１１また、クリスチャンに、キリストを冒涜することばを吐かせるためには手段を選ばず、拷問を加えることもしばしばでした。　それほど激しく反対していた私ですから、遠く外国まで迫害の手を伸ばそうとしたのも、不思議はありません。

１２ところが、何もかも祭司長たちから任され、そのつもりでダマスコに向かう途中、　１３あれは、ちょうど正午ごろでしたが、太陽よりもまばゆい光が、天から私と連れの者とを照らしたのです。　１４私たちはみな、その場に倒れました。　その時です。　私は、ヘブル語でこう語りかける声を聞いたのです。　『パウロ、パウロ。　なぜわたしを迫害するのか。　そんなことをしたら、自分が傷つくばかりだよ。』

１５『あなた様は、いったいどなたです？』と私は尋ねました。

すると主は言われたのです。『わたしかね、わたしは、あなたが迫害しているイエスだ。１６さあ、立ちなさい。　あなたに姿を現わしたのは、あなたを、わたしに仕える者、またわたしの証人として任命するためだ。　あなたは、このことをはじめとして、これからあとも、わたしがあなたに現われて示す多くのことを、世界中に語り伝えなければならないのだ。　１７心配はいらない。　あなたを、ユダヤ人からも外国人からも守ろう。　あなたを外国人のところに派遣するのだから。　１８人々の目を開き、自分のほんとうの姿に気づかせ、罪を悔い改め、悪魔の暗やみから出て、神様の光の中に生きるようにするために。　わたしを信じる信仰によって、彼らは罪の赦しを受け、きよくされたすべての人たちと共に、神様の相続財産を受けるようになるのだ。』
１９それで、アグリッパ王よ。　私はこの天からの幻に従ったのでございます。　２０ダマスコを手はじめに、エルサレム、ユダヤ全国、さらに外国人にも、すべての人が罪を捨てて神様に立ち返り、それを良い行ないで示さなければならない、と宣べ伝えてきました。
２１このために、ユダヤ人は私を神殿でつかまえ、殺そうとしたのです。　２２しかし神様のお守りがあったので、私は今日まで生きながらえ、身分の高い人にも低い人にも、あらゆる人にこのことを伝えているのです。　私は、預言者とモーセが語ったこと以外、何も話してはおりません。　２３私が話しているのは、キリストは苦しみを受け、死人の中から最初に復活して、ユダヤ人にも外国人にも光をもたらす、ということだけです。」
２４ここで突然、フェストが大声をあげました。　「パウロ、気が狂ったかっ！　あまり学問に身を入れすぎて、おかしくなったな。」
２５「何をおっしゃいます、フェスト閣下。　気など狂ってはおりません。　まじめに真理を語っているだけでございます。　２６アグリッパ王はよくご存じのはずです。　そう確信しておりますから、率直に申し上げているのです。　これはみな、片すみで起こったことではないのですから。　２７アグリッパ王、あなた様は預言者を信じておられますか。　もちろん、信じておられるものと確信しておりますが。」
２８アグリッパは、パウロのことばをさえぎりました。　「おまえは少しばかり話しただけで、余をクリスチャンにしようというのか。」
２９「お話ししたことが短かろうと長かろうと、そんなことはかまいません。　私がひたすら神様にお願いするのは、あなた様をはじめ、ここにおられる皆さん全部が、私と同じようになってくださることです。　もちろん、この鎖につながれることは、別ですが……。」
３０ここで王と総督とベルニケ、またほかの人たちもみな席を立ち、出て行きました。　３１あとで話し合った結果、一致した意見は、「あの男は、死刑や投獄にあたることは何もしていない」ということでした。
３２アグリッパはフェストに、「カイザル（ローマ皇帝）に上訴さえしていなければ、自由の身になれたものをなあ」ともらしました。
二七
ローマ目指して

１ようやく、船でローマに向かう手はずが整い、数人の囚人といっしょに、パウロは、ユリアスという親衛隊の士官に引き渡されました。　２私たちが乗り込んだ船は、トルコ沿岸の幾つかの港に寄港して、ギリシヤに向かうことになっていました。　テサロニケ出身のギリシヤ人アリスタルコも同行したことを、書き添えておきましょう。
３翌日、船はシドンに入港しました。　ユリアスはパウロにとても親切で、上陸して友人を訪問したり、もてなしを受けたりすることを許可してくれました。　４やがて、そこを出帆しましたが、まずいことに、向かい風が吹いてきました。　予定の進路をあきらめなければなりません。　キプロスの北側の島と本土との間を通ることになりました。　５あとは、そのままキリキヤとパンフリヤの沿岸を航行して、ルキヤ地方のミラに入港しました。　６ここで、親衛隊の士官は、アレキサンドリヤから来た、イタリヤ行きのエジプト船を見つけ、私たちを乗り込ませました。
７８数日の間たいへんな航海を続け、ようやくクニドはもう目と鼻の先という所まで来ましたが、風があまり強くなったので、サルモネ港の沖を通り、クレテの島陰を進みました。ひどい風に苦労しながら、島の南岸をゆっくり進んで、やっとのことでラサヤ近くの「良い港」と呼ばれる所にたどり着きました。　９そこに数日とどまりましたが、もう秋分も過ぎ、天候も、長期の航海には危険な時期になっていました。　パウロは航海士たちに忠告しました。
１０「皆さん。　このまま進んだら、きっとひどい目に会いますよ。　難破して積荷を失うだけならまだしも、けが人や死者が出るかもしれません。」　１１しかし囚人を護送している士官は、パウロのことばよりも、船長や船主のことばに耳を傾けたのです。　１２その上、この「良い港」は吹きさらしの場所で、冬を越すには適していないこともあって、大部分の船員も、海岸沿いにピニクスまで行き、そこで冬を過ごしたほうがいいと主張しました。　ピニクスは北西と南西だけが入口になっている良港でした。
１３折からおだやかな南風が吹き始め、絶好の航海日和と思われたので、船は錨を上げ、沿岸を進み始めました。　１４１５　ところが、それもつかの間、突然天候が変わり、ひどい暴風〔ユーラクロン〕が襲ってきて、あっという間に船は沖へ沖へと押し流されました。　最初のうちは、なんとか岸へ引き返そうと必死で船を操作した人々も、どうにも手のつけようがないとわかると、すっかりあきらめ、船は吹き流されるままでした。
１６しかし、ようやくクラウダという小島の陰に入り、ほっとひと息です。　引いていたボートを、なんとか甲板に引き上げ、　１７船をロープで縛って、船体を補強しました。また、アフリカ海岸の浅瀬に乗り上げないように、船具をはずし、風に流されるままにしました。
１８翌日、波はさらに高くなり、船員たちは積荷を捨て始めました。　１９その翌日には、もう手当たりしだい、船具までも捨てざるをえなくなりました。　２０来る日も来る日も恐ろしい嵐は荒れ狂い、最後の望みも絶たれました。
２１長い間、だれも食事をしていません。　パウロは船員たちを呼び集め、こう言いまし

た。「皆さん。 最初から私の忠告を聞いて、『良い港』を出なければよかったのですよ。そうすれば、こんな目に会わなくてすんだのです。　２２でも、元気を出しなさい。　船は沈みますが、だれも死にはしません。
２３ゆうべ、私の仕えている神様からの御使いが、そばに立ち、こう知らせてくれたのです。
２４『恐れることはない。　パウロ。　あなたはまちがいなく、カイザル（ローマ皇帝）の前で裁判を受けるのです。　そればかりか、神様はあなたの願いを聞き届け、同船の人たち全員のいのちも救ってくださいます。』
２５さあさあ、元気を出して、出して。　私は神様を信じています。　神様がおっしゃることにうそはありません。　２６やがて、私たちはある島に打ち上げられるでしょう。」
２７嵐になって十四日目のことです。　船はアドリヤ海を漂流していました。　真夜中ごろ、水夫たちは陸地が近いと感じました。　２８それで水深を測りました。　四十メートルほどです。 またしばらくして測ってみました。 今度は三十メートルになっています。
２９この調子では、もうまちがいありません。　岸は近いのです。　そこで海岸付近の岩場に乗り上げないようにと、船尾から錨を四つ降ろし、祈りながら夜明けを待ちました。
３０数人の水夫が、船を捨てて逃げようと、船首から錨を降ろすふりをしながら、救命ボートを降ろそうとしました。　３１それを見たパウロは、いち早く兵士たちや士官に、「あの人たちがいなきゃ、助かる見込みはありませんよ」と言ったので、　３２兵士たちは綱を切り、ボートを海に落としてしまいました。
３３ついに夜明けの光がさし始めたころ、パウロは全員に、食事をするように勧めました。「皆さんは、今日で二週間も、食べ物を口にしてないじゃありませんか。　３４さあ、食事をしましょう。　皆さんの髪の毛一本も失われないのですから。」
３５こう言うと、パウロは乾パンを取り、皆の前で感謝の祈りをしてから、割って食べ始めたのです。　３６それでだれもが元気づけられ、いっしょに食べ始めました。　３７上船していた人は、全部で二百七十六人でした。　３８食事のあと、積んでいた麦を全部投げ捨て、船を軽くしました。
難船
３９夜が明けると、どこの海岸線かはわかりませんが、砂浜のある入江が見えます。　それで、岩の間をぬって砂浜まで行けるかどうか相談しました。　４０そして、ついに決行と決まりました。　まず錨を切り捨て、かじ綱を解き、前の帆を上げ、浜に向かって進みました。　４１ところが、砂州に乗り上げてしまい、船首は深くめり込み、船尾は激しい波でこわれ始めたではありませんか。
４２兵士たちは、囚人がてんでに泳いで逃げると困るから、いっそ殺してはどうか、と士官に勧めました。　４３しかし、ユリアスはパウロを助けたかったので、聞き入れません。そして全員に、泳げる者は海に飛び込んで陸に上がり、　４４泳げない者は、板切れや、こわれた船の破片につかまって行くようにと命じました。　こうして、全員が無事に上陸

できたのです。
二八
１２そこがマルタと呼ばれる島であることは、すぐにわかりました。　島民はとても親切で､雨と寒さでぶるぶる震えていた私たちを暖めようと､浜辺でたき火をしてくれました。
３パウロが一かかえの木切れをたばねて火にくべると、熱気でまむしがはい出し、手に巻きつきました。　４島の人たちは、まむしがぶらさがっているのを見て、「きっと人殺しなんだよ。　海からは助かっても、正義の女神がお見のがしにはならないんだね」と、ひそひそささやき合いました。
５ところがパウロは、平気な顔でまむしを火の中に払い落とし、ぴんぴんしています。　６人々は、今にも、はれ上がるか、突然倒れて死ぬのではないかと、息を殺していました。しかし、いくら待っても、いっこうに何も起こりません。　今度は、パウロを神だと考えるようになりました。
７この浜辺の近くに、島の首長ポプリオの領地がありました。　首長は私たちを招き、三日間も親切にもてなしてくれました。　８ところが、ポプリオの父が高熱と赤痢で苦しんでいるというので、パウロが行って、彼のために祈り、手を置いて治してやりました。　９これを聞くと、島中の病人がぞくぞく詰めかけ、みんな治してもらいました。　１０それで彼らは、私たちを非常に尊敬し、また出帆の時には、旅に必要なあらゆる品物を、船に積み込んでくれました。
１１難破してから三か月後、今度は、この島で越冬していた、アレキサンドリヤの「ふたごの兄弟号」という船に乗り込むことになりました。　１２最初の寄港地はシラクサで、三日間停泊し、　１３そこからずっと遠回りして、レギオンに行きました。　一日すると南風が吹き始めたので、翌日には、順調にポテオリまで進むことができました。　１４そこで数名のクリスチャンに出会い、勧められるままに七日間世話になってから、ローマに向かいました。
１５私たちのことを聞いて、ローマのクリスチャンたちは、わざわざ、アピア街道のポロまで迎えに来てくれました。　トレス・タベルネという所で落ち合う人たちもいました。パウロが、この人たちに会えたことを心から神に感謝し、勇気づけられたことは言うまでもありません。
ついにローマ
１６ローマに着くと、パウロは、兵士の監視のもとではありましたが、好きな所に住んでもよいことになりました。　１７到着して三日後には、パウロは地元のユダヤ人の指導者たちを呼び集め、話をしました。
「皆さん。　私はだれに危害を加えたわけでもなく、ご先祖様の習慣を破った覚えもないのに、エルサレムでユダヤ人につかまり、訴えられて、ローマ政府の手に渡されました。
１８取り調べの結果、一たんは釈放と決まりました。　ユダヤ人の指導者たちが主張するような、死刑にあたる罪は認められなかったからです。　１９ところが、ユダヤ人がこの

決定に異議を申し立てたのです。　同胞を訴えるつもりは、つゆほどもありませんが、これでは、しかたありません。　カイザル（ローマ皇帝）に上訴しました。　２０今日、皆さん方をお招きしたのは、お近づきになりたかったからです。　また、私が捕らわれの身なのは、メシヤ（救い主）様が来られたと信じているためだと、わかっていただきたかったからです。」
２１ユダヤ人たちは答えました。「私たちは、あなたのことは何も聞いていません。　ユダヤから手紙も来ていませんし、エルサレムから来た人たちからも、そのような報告を受けてはいません。　２２しかし私たちは、あなたの信じていることを、あなたの口からお聞きしたいのです。　クリスチャンについて、私たちの知っていることと言えば、彼らが至る所で非難の的だということだけなのですから。」
２３彼らはこうして日を決め、さらに大ぜいでパウロの家に来ました。パウロは彼らに、神の国のことを語り、またモーセの律法から預言者の書に至るまで、聖書のありとあらゆる個所を使って、イエスのことを教えました。　話は、朝からえんえん、夕方まで続きました。
２４信じる人もいれば、信じない人もいるというぐあいで、人さまざまです。　２５しかし、ああでもない、こうでもないと言い合いながら帰る彼らの耳には、いつまでも、パウロの最後のことばが響いていました。　「聖霊様が預言者イザヤを通してお語りになったことは正しかったのです。
２６『ユダヤ人に告げよ。
「あなたがたは聞くには聞くが理解しない。
見るには見るが認めない。
２７心は肥えて鈍くなり、
耳も遠く、目も閉じられている。
見もせず、聞きもせず、理解もしない。
わたしに立ち返って、いやされようともしない。」』
２８２９だから、よく覚えておきなさい。　神様のこの救いは、外国人に与えられました。彼らはこの救いを受け入れるでしょう。」
３０パウロはそれからまる二年の間、借家に住み、訪れる人たちを歓迎し、　３１大胆に神の国と主イエス・キリストのことを語りました。　それを妨げる者はだれもいませんでした。
▪

クリスチャンへの手紙

教会の数が増えていくと、重要な人物がいつも同じ教会にとどまり、直接指導にあたることはできなくなります。広く伝道旅行に出かけ、各地に教会つくったパウロの場合は、特にそうでした。そこで、まだまだ未熟なクリスチャンを教え導き、教会内で持ち上がったやっかいな問題を解決するために、多くの手紙を書いたのです。どの手紙も、それぞれ大切な事柄を扱っています。こうしたパウロの手紙に、ペテロをはじめ、ほかの数人の指導者のものを加えてまとめたのが、この手紙集です。

ローマ人への手紙（ローマ教会の皆さんへ）
著者パウロは、この手紙でローマ教会の信者に自分を紹介するとともに、彼の神学を解説しています。　そういうわけで、この手紙は、パウロの手紙のうちで最も組織立ったものと言えるでしょう。　まず、人間はだれもが罪人であることを語り、外国人もユダヤ人も、律法を守ることでは神様を喜ばせることはできないこと、および、私たちが罪人であっても、あわれみ深い神様は自ら近づいてくださり、神様に立ち返る道を備えてくださったことを、教えています。

一
ローマの愛する皆さんへ。
１キリスト・イエスの奴隷であり、伝道者として選ばれ、神様の良い知らせを伝えるために遣わされたパウロが、この手紙を送ります。　２この良い知らせは、ずっと以前から、神様が預言者を通して、旧約聖書の中で約束しておられたもので、　３神のひとり息子、主イエス・キリストに関するものです。　この方は、人の子として、ダビデ王の家系にお生まれになりました。　４しかも、死んでのち復活することにより、神様のきよい性質を備えた、力ある神のひとり息子であることが証明されたのです。
５このキリスト様を通して、今や、神様のすべての恵みが、それを受ける資格のない罪人の私たちに、あふれるばかり注がれています。　そして今、私たちは、神様が人類のためにしてくださったすばらしいことを、全世界の人々に知らせるために、キリスト様から遣わされているのです。　それは、すべての人がキリスト様を信じ、従うようになるためで

す。
６７ローマの愛する皆さん。　あなたがたも、キリスト様に深く愛されているのです。　また、イエス・キリストに招かれて、神ご自身のもの、つまり神様の聖なる民とされているのです。　どうか、私たちの父なる神と主イエス・キリストから、神様の豊かなあわれみと平安が、あなたがたに与えられますように。
８何はさておき言っておきたいのは、どこへ行っても、あなたがたの評判を耳にするということです。　神様を信じるあなたがたの信仰は、世界中に知れ渡っているからです。　私は、この良い評判を聞くたびに、イエス・キリストによって、どんなに神様に感謝していることでしょう。　９あなたがたのために私がどれほど祈っているかは、神様がご存じです。　私は、神様のひとり息子についての良い知らせを人々に伝えながら、全力投球で仕えている神様に、あなたがたに必要なものが与えられますようにと、昼も夜も祈っています。
１０また、神様が許してくださるなら、いつかあなたがたを訪ね、できれば安全な旅をしたいと、いつも祈っています。　１１１２どうしても行きたいと思うのは、信仰をいくらかでもお分かちして、あなたがたの教会が、主にあって強く成長するように役立ちたいからです。　それに、私も皆さんの助けが必要です。　私の信仰をお分かちするだけでなく、あなたがたの信仰によって、私も力づけてもらいたいのです。　こうして私たちは、お互いに励まし合えるでしょう。
１３愛する皆さん。　私がこれまでに何度も、あなたがたのところへ行こうとしたことを〔しかし、その計画は妨げられてきました〕ぜひ知っていただきたいのです。　他の国の諸教会でと同様に、あなたがたのところでも、すばらしい成果を得たいと思ったのです。
１４私はあなたがたにも、また、ほかのすべての人にも、文明人にも未開人にも、教育のある人にもない人にも、ばく大な借りがあります。　１５ですから、何とかして、ローマにいるあなたがたのところにも、神様の良い知らせをお伝えしたいと、心の底から願っているのです。
１６というのも、キリスト様についての、この良い知らせを、私は少しも恥じてはいないからです。　この知らせは、それを信じる人をだれでも天国に導く、神様の力ある手段です。　この知らせは最初、ユダヤ人だけに伝えられていました。　しかし今では、すべての人が、この同じ方法で神様のもとに招かれているのです。　１７この良い知らせは、私たちがキリスト様を信じておゆだねする時、神様は私たちを、天国に入るにふさわしい者、すなわち、神様の目から見て正しい者としてくださる、と教えています。　これは、初めから終わりまで、信仰によって達成されます。「正しい人は信仰によって生きる」と、旧約聖書に書いてあるとおりです。
１８しかし、真理を押しのける、罪深い邪悪なすべての人に、神様の怒りは天から下ります。　１９なぜなら、彼らは神様についての真理を、本能的に知っているからです。　神様が、この知識を、彼らの心にお与えになったのです。　２０世界が創造されてからこの

かた、人々は、天地や、神様がお造りになったすべてのものを見て、神様の存在と、その偉大な永遠の力をはっきり知っていました。　ですから、彼らには弁解の余地がないのです。
２１そうです。　彼らは確かに神様を知っているのです。　けれども、そのことを認めず、神様を礼拝せず、毎日神様に守られていることを感謝しようともしません。　やがて彼らは、神様がどのようなお方か、また自分たちに何を求めておられるかについて、ばかげたことを考えるようになりました。　その結果、彼らの愚かな心はくもり、何が何だか、わからなくなったのです。　２２「神様なんか信じなくてもいい、自分は賢いのだ」と主張しながら、その実、全くの愚か者になってしまいました。　２３そして、栄光に輝き、永遠に生きておられる神様を礼拝する代わりに、木や石で、鳥や獣や蛇、あるいは、くだらない人間の偶像を作り、それを神としたのです。
２４そこで神様は、彼らがあらゆる性的な罪に深入りするに任せました。　そうです。　彼らは互いの肉体で、汚らわしい罪深い行為にふけったのです。　２５彼らは、神様についての真理を知っていながら、信じようとせず、わざわざ、偽りを信じる道を選びました。そして、神様に造られた物には祈りながら、それらをお造りになった神様には従いませんでした。　この創造主である神様こそ、永遠にほめたたえられる方です。　アーメン。
２６そんなわけで、神様は彼らを放任し、したいほうだいの事をさせました。　そのため、女でさえ、定められた自然の計画に逆らい、同性愛にふけるようになり、　２７男も、女との正常な性的関係を捨てて、同性間で汚れた情欲を燃やし、恥ずべきことを行ないました。　その結果、当然の報いを受けているのです。
２８このように、彼らが神様を捨て、認めようともしなかったので、神様は、彼らに考え出せるかぎりの悪事をさせておかれました。　２９それで、彼らの生活は、あらゆる悪と罪に染まり、むさぼりや憎しみ、ねたみ、殺意、争い、偽り、苦々しい思い、陰口に満ちたものとなりました。　３０彼らは人の悪口を言い、神様を憎み、横柄で、高慢で、大ぼらを吹き、いつも何か新しい悪事を考え出し、親に反抗し続けました。　３１わざと物事を曲解し、平気で約束を破り、情け知らずの不親切な者となりました。　３２そのような罪を犯せば神様から死の刑罰を受けなければならないことを、よくよく承知の上で、その道を突き進み、しかも、自分ばかりか、他の人まで引きずり込んでいるのです。
二
１こう書くと、あなたは「なんてひどい連中だろう」と言うかもしれません。　しかし、ちょっと待ってください。　あなただって、悪いことにかけては五十歩百歩ではありませんか。　「そんな悪い連中が罰を受けるのは当然だ」ときめつける時、ほかでもない自分自身にそう言っているのです。　あなただって、同じことをしているのですから。　２そういうことをする人には一人残らず、神様は、正義をもって罰をお下しになることを、私たちは知っています。　３それなのに、あなたは、「ほかの人の場合はいざしらず、私の場合は別だ。神様は見逃してくださる」と、たかをくくっているのですか。　４神様がどれ

だけ忍耐しておられるか、わからないのですか。　それとも、そんなことは気にもかけないのですか。　神様があなたを罰しもせず、長いあいだ待っていてくださったのは、罪から離れるのに必要な時間を与えるためでした。　それがわからないのですか。　神様のやさしい思いやりは、あなたを悔い改めに導くためのものです。
５ところが、どうでしょう。　あなたは耳を貸そうともしません。　強情をはり、罪から離れようともしません。　こうして、恐ろしい刑罰をどんどん積み上げているのです。　なぜなら、神様が裁判官として立ち、すべての人を正しくさばかれる、御怒りの日が近づいているからです。　６神様は、一人一人に、その行ないにふさわしい報いをお与えになります。　７神様の喜ばれることを忍耐強く行ない、目には見えなくても、神様が与えようとしておられる栄光と栄誉と永遠のいのちとを求める人には、それが与えられるのです。
８けれども、神様の真理に逆らい、不正な道を歩む人には、恐ろしい罰が下ります。　神様の怒りは、そのような人々に注がれるのです。　９罪を犯し続ける人には、ユダヤ人にも外国人にも、同じように悲しみと苦しみが降りかかります。　１０反対に、神様に従う人には、だれであっても、神様からの栄光と栄誉と平安とがあります。　１１なぜなら、神様はすべての人を公平に扱われるからです。
１２‐１５神様はどんな罪も罰します。　外国人が罪を犯した場合、たとい彼らが、文字に書かれた神様のおきてを知らなくてもです。　彼らは心の奥底では、正しいことと悪いこととを区別できるからです。　心の中には、神様のおきてが書かれてあるのです。　つまり、彼らの良心が、彼らを責めたり、また時には弁護したりするわけです。　ユダヤ人が罪を犯した場合、神様は彼らを罰します。　神様のおきてが与えられているのに、従わないからです。　彼らは何が正しいかを知りながら、実行しません。　結局のところ、なすべきことを知りながら実行しない人は、救われないのです。　１６神様のご命令によって、キリスト・イエスが、すべての人の心の奥底に潜む思いや動機をさばかれる日が、必ず来ます。　このことは、私が伝えている神様の偉大なご計画の一部です。
１７あなたは、自分はユダヤ人だと称し、「ユダヤ人には神様のおきてが与えられているのだから、私と神様との間は万事うまくいっている」と考え、「私たちは神様と特別親しい関係だ」と自慢しています。　１８確かにあなたは、神様が何を求めておられるかを知っています。また、小さい時からずっと、神様のおきてを教えられてきたので、善悪の区別を知り、正しいほうに賛成しています。　１９自分は神様のもとへ行く道をよく知っているから、それを目の見えない人に示すことができる、と思っています。　まるで、暗やみで道に迷った人々を神様のもとに導く燈台の光であるかのように考えています。　２０すべての知識と真理に満ちた神様のおきてを知っている自分には、愚かな人人を導き、子供たちにさえ神様のことを教える資格があると思い込んでいます。
２１そうです。　あなたは人を教えています。　そのくせ、なぜ自分を教えないのですか。人には「盗むな」と説きながら、なぜ盗むのですか。　２２「姦淫は悪いことだ」と言いながら、なぜ姦淫するのですか。　あなたは、「偶像に祈ってはいけない」と言いながら、

自分では、お金を神としています。
２３あなたは、神様のおきてを知っていると自慢しながら、おきてを破って、神様の名誉を汚しているのです。　２４「あなたがたのゆえに、世の人々は神様をけなす」と旧約聖書に書いてありますが、まさにそのとおりです。
２５もしあなたが神様のおきてに従っているなら、ユダヤ人であることにいくらかの価値はあるでしょう。　しかし、もし従っていないなら、外国人よりすぐれたところはありません。　２６たとい外国人でも、神様のおきてに従うなら、神様はユダヤ人に与えようと計画しておられたすべての特権と栄誉を、お与えになるのではないでしょうか。２７事実、そのような外国人は、ユダヤ人のあなたより、はるかにすぐれていることになります。　あなたは神様について多くのことを知っており、神様の約束をいただいていながら、そのおきてに従わないからです。
２８ユダヤ人の両親から生まれたとか、ユダヤ人と認められるための儀式である割礼（男子が生まれて八日目にその生殖器の包皮を切り取る儀式）を受けたとかいうだけでは、真のユダヤ人とは言えません。　２９真のユダヤ人とは、心が神様と正しい関係にある人のことです。　神様は、実際に体の割礼を受けて肉体の一部を切り取った人ではなく、心と思いが全く変えられた人を、捜し求めておられるからです。　人生が全く変えられた人こそ、たとい人にはほめられなくても、神様にほめていただけるのです。
三
１では、ユダヤ人であることに、どういう利点があるのでしょう。　彼らには何か特典があるでしょうか。　ユダヤ人の割礼の儀式に、価値があるのでしょうか。　２もちろんです。　ユダヤ人であることには、多くの利点があります。
まず第一に、神様はユダヤ人に自分のおきてをおゆだねになりました。　〔それは、彼らに神様の御心を知らせ、それを実行させるためでした。〕　３確かに、ユダヤ人の中には不忠実な者がいました。しかし、一部の不忠実な者が神様との約束を破ったからといって、神様も約束を破るでしょうか。　４絶対にそんなことはありません。たとい世界中の人がうそつきでも、神様は違います。　このことについて、旧約聖書の詩篇には「神様のことばに誤りはない。　だれが疑いを差しはさもうと、いつも真実で正しい」と書いてあります。
５ところが、こんなふうに主張する人がいます。　「でも、私たちの神様に対する不忠実は、むしろよかったのではありませんか。　私たちの罪は、かえって目的にかなうのではないでしょうか。　なぜなら、人々は、私たちがどんなに悪い人間であるかを見て、神様がどんなに正しい方であるかに、気づくでしょうから。　すると、私たちの罪が神様の役に立っているのに、罰せられるのは、不公平ではありませんか。」　〔ある人々はこんな理屈をこねるのです。〕　６とんでもない！　罪を見過ごすような神様があるでしょうか。そんなことで、神様はどうして人をさばけるでしょう。　７たとえば、もし、私がうそをついたとします。　それと対照的に神の真実がはっきりと際立ち、私の不真実が、かえっ

て神様の栄光を輝かすとしたら、神様は私を罪人としてさばき、有罪の判決を下すことなどできなくなってしまいます。　８このような論理を突きつめてゆくと、最後には、「私たちが悪ければ悪いほど、神様には好都合だ」ということになってしまいます。　しかし、こんなことを言う人がきびしく罰せられるのは当然です。　ところが、事もあろうに、私がそのように説教していると言いはる人々がいるのです。
９それでは、私たちユダヤ人は、ほかの人々よりすぐれているのでしょうか。　いいえ、絶対にそんなことはありません。　すでに指摘したように、ユダヤ人であろうと外国人であろうと、みな同様に罪人です。　１０旧約聖書に、次のように書いてあるとおりです。
「正しい人は一人もいない。
罪のない人は世界中に一人もいない。
１１真実に神の道に従って歩んだ人は
かつて一人もいない。
そうしたいと心から願った人さえいない。
１２すべての人が道を踏みはずし、
みな、まちがった方向に進んで行った。
正しいことをずっと行なってきた人は
どこにもいない。　一人もいない。」
１３「彼らの会話は、不潔で腐っており、
まるで開いた墓穴からもれる悪臭のようだ。
彼らの舌はうそで固められている。」
「彼らのことばには、
恐ろしい毒蛇のきばと毒がある。」
１４「彼らの口は、
のろいと苦々しいことばで満ちている。」
１５「彼らは自分と意見の合わない人を憎み、
すぐに殺す。
１６彼らの行く所ではどこでも、
悲惨な結果とめんどうな問題があとを絶たない。
１７彼らは一度も心の安らぎを感じたことがなく、
神の祝福を味わったこともない。」
１８「彼らには、
神を恐れて悪事から遠ざかろうとする気持ちなど、
少しもない。」
１９そんなわけで、神様のさばきが、ユダヤ人に重々しくのしかかっています。　なぜなら、彼らは神様のおきてを守る責任があるのに、守らず、こうした悪事にふけっているからです。　彼らのうち一人として、申し開きのできる者はいません。　事実、全世界が全

能の神様の前に沈黙して立ち、有罪の宣告を受けているのです。
２０さて、おわかりでしょうか。　おきての命じることを実行して、神様に正しい者と認められようとしてもむだです。　私たちが神様のおきてを深く知れば知るほど、自分が従っていないことが明らかになるからです。　神様のおきては、私たちに、自分が罪人であることを自覚させてくれるだけです。
２１２２しかし今や、神様は、天国へ行く別の道を示してくださいました。　その新しい道は、「善人になる」とか、神様のおきてを守ろうと努力するような道ではありません〔とはいっても、この道については、ずっと前から旧約聖書で教えられていたのですから、実際には新しい道とは言えませんが〕。　神様は今、「もし私たちが、イエス・キリストを信じきるなら、あなたがたを受け入れ、『罪のない者』と宣言する」と言われます。　どんな人間であろうと、私たちはみな、キリストを信じきるという、この方法によって救われるのです。　２３そうです。　すべての人は罪を犯しました。　神の輝かしい標準にはほど遠い存在です。　２４けれども、もし私たちがキリスト・イエスを信じきるなら、神様は私たちを「罪のない者」と宣言してくださいます。　このキリスト・イエスが、恵みにより、無償で私たちの罪を帳消しにしてくださるからです。
２５神様はキリスト・イエスを遣わして、私たちの罪のための刑罰を受けさせ、私たちへの怒りをとどめてくださいました。　神様は、私たちをご自分の怒りから救い出すための手段として、キリスト様の血と私たちの信仰とをお用いになりました。　ですから、それまでの時代に罪を犯した者たちを罰せられなかったとしても、神様は完全に公正であられたわけです。　キリスト様が来て人々の罪を取り除く時を、神様は待ち望んでおられたからです。　２６そして今日でも、神様はこの同じ方法で罪人を受け入れてくださいます。イエス様が彼らの罪を帳消しにしてくださったからです。
しかし、このように、罪を犯した者を赦し、無罪を宣告するのは、神様の公正なやり方に反するのではないでしょうか。　いいえ、そんなことはありません。　なぜなら、彼らが自分の罪を帳消しにしてくださったイエス様を信じたという事実に基づいて、神様はそうなさるからです。
２７それでは、救われるために、私たちは何か誇れるようなことをしたでしょうか。　何もしていません。　なぜでしょう。　私たちは自分の善行によって無罪とされるのではないからです。　それは、キリスト様が成し遂げてくださったことと、キリスト様に対する私たちの信仰に基づいているのです。　２８つまり、私たちが救われるのは、キリスト様を信じる信仰だけによるのであって、善行によるのではありません。
２９神様はこの方法で、ユダヤ人だけをお救いになるのでしょうか。　いいえ、それ以外の外国人も、同じようにして神様のもとに行くことができます。　３０神様はすべての人を全く平等に取り扱われます。ユダヤ人であろうと外国人であろうと、人はみな、信仰があれば無罪とされるのです。　３１それでは、信仰によって救われるのなら、もはや神様のおきてに従う必要はないことになるのでしょうか。　正反対です。　実のところ、私た

ちはイエス様を信じきってこそ、ほんとうに神様に従うことができるのです。
四
１２この問題について、アブラハムの場合を考えてみましょう。　アブラハムは、人間的に見れば､私たちユダヤ民族の先祖にあたります。 信仰によって救われる問題について、彼はどんな経験をしたでしょうか。　彼が神様に受け入れられたのは、良い行ないをしたからでしょうか。　もしそうなら､彼は誇れたはずです。　しかし､神様の目から見ると、アブラハムには、誇る理由などみじんもありませんでした。　３というのは、旧約聖書に「アブラハムは神様を信じた。　だから､神様はアブラハムの罪を帳消しにして､『罪のない者』と宣言された」と書いてあるからです。
４５しかし、アブラハムが天国に行く資格を得たのは、良いことをしたからではないでしょうか。　違います。　救いは贈り物として与えられるものだからです。　もし善行によって救われるとすれば、もはや無料ではなくなってしまいます。　ところが、救いは無料なのです。　救いは､自分の力で手に入れようとしない人にこそ与えられます｡なぜなら､罪人が、キリスト様は自分を神様の怒りから救い出してくださると信じきる時に、神様は彼らを、正しい者と宣言してくださるからです。
６ダビデ王は、救われる値打のない罪人が、神様から「罪のない者」と宣言される幸いについて、こう言っています。
７「罪を赦された者、罪をすっかり消された者は、
なんと幸いだろう。
８もはや主に罪を数え上げられないですむ人の喜びは、
どんなだろう。｣
９すると、次のような質問が出て来ます。　この祝福は、キリスト様を信じた上に、さらにユダヤ教のいろいろなおきても守っている人にだけ与えられるのでしょうか。　それとも、ユダヤ教の規則は守らなくても、ただキリスト様を信じてさえいれば与えられるのでしょうか。　アブラハムの場合はどうだったのでしょう。　「アブラハムは信仰によってこれらの祝福を受けた」と言われています。　それは、ただ信仰だけによったのでしょうか。　それとも、ユダヤ教のいろいろな規則も守ったからなのでしょうか。
１０この質問に答えるためには、まず、次の質問に答えなければなりません。　神様はいつ、アブラハムにこの祝福をお与えになったかということです。　それは、彼がユダヤ人になる前──すなわち、ユダヤ人として認められるための儀式である割礼を受ける前──のことでした。
１１アブラハムが割礼を受けたのは、神様が彼をその信仰のゆえに祝福すると約束された時より、もっとあとのことです。　割礼の儀式が行なわれる前に、アブラハムはすでに信仰を持っており、神様はすでに彼を受け入れ、ご自分の目から見て正しい者、良い者と宣言しておられました。　割礼の儀式は、そのしるしだったのです。　こうしてアブラハムは、ユダヤ教のいろいろなおきてに従わなくても、信じて救われる人々の、信仰の父とさ

れています。　ですから、これらの規則を守っていない人々も、信仰によって神様から正しい者と認めていただけることがわかります。　１２アブラハムは同時に、割礼を受けているユダヤ人の、信仰の父でもあります。　ユダヤ人は、アブラハムの例から、自分たちはこの割礼の儀式によって救われるのではないとわかるはずです。　なぜなら、アブラハムは、割礼を受ける前に、ただ信仰によって神様の恵みを受けたからです。
１３そういうわけで、全地をアブラハムとその子孫に与えるという神様の約束は、アブラハムが神様のおきてに従ったからではなく、神様は必ず約束を果たしてくださる、と信じたからこそ与えられたことは明らかです。　１４にもかかわらず、神様の祝福は「完全に善良な」人に与えられると主張するなら、「信仰を持つ者に対する神様の約束なんか意味がない。　信仰なんかばかげてる」と言っているのと同じです。　１５ところが、実際には、神様のおきてを守ることによって神様の祝福と救いとを得ようと努力しても、結局は、神様の怒りを招く結果に終わるだけです。　なぜなら、それを守ることなど、とうていできないからです。 おきてを破らないためには､破るようなおきてを持たないにかぎります。
１６そういうわけで、神様の祝福は、無代価の贈り物として、信仰によって与えられるのです。　ユダヤ人の習慣に従うか否かに関係なく、アブラハムと同じ信仰を持っているなら、神様の祝福を確実にいただけるのです。　信仰の面から言えば、アブラハムは、私たちみんなの父です。　１７旧約聖書に、神様はアブラハムを多くの国民の父とされた、とあるのは、この意味にほかなりません。　神様は、どこの国の人でも、アブラハムと同じように、神様に信頼する者を、みな受け入れてくださるのです。　神ご自身が――そうです。　死人を生き返らせ、未来の出来事を、すでに実現したかのような確実さでお語りになる、神ご自身が――そう約束しておられるのです。
１８神様はアブラハムに、「あなたに一人の男の子を授けよう。 その子から多くの子孫が生まれ、偉大な民族となるのだ」と言われました。　この時アブラハムは、そんな約束はとうてい実現するとは思えなかったにもかかわらず、神様を信じました。　１９アブラハムの信仰は強かったので、百歳の自分が、もう父親になれる年ではないことも、また九十歳の妻サラが子供を産めるとは思えないことも、気にかけませんでした。
２０アブラハムは少しも疑うことなく、ひたすら神様を信じ、その信仰と信頼はますます強くなりました。　彼は、そのことがまだ実現しないうちから、その祝福のゆえに神様を賛美しました。　２１神様の約束はどんなことでも実現すると、堅く信じていたのです。
２２この信仰のゆえに､神様は彼の罪を赦し、「罪のない者」と宣言してくださったのです。
２３ところで、「彼は信仰によって神様に受け入れられ、正しい者と認められた」という、このすばらしいことばが書かれたのは、ただアブラハムのためだけでなく、　２４私たちのためでもあったのです。　それは、主イエス様を死人の中から復活させた神様の約束を信じる時、神様がアブラハムと全く同様に、私たちをも受け入れてくださることを保証しています。　２５主イエス様は、私たちの罪のために死にました。　そして私たちを、神様との正しい関係に入れ、神様の恵みで満たしてくださるために、復活なさったのです。

五
１そういうわけで、私たちは、神様の約束を信じる信仰によって、神の目から見て正しい者とされているのですから、今や神様との間に真の平和を得ています。　それは、私たちの主イエス・キリストのおかげです。　２信仰のゆえに、キリスト様は私たちを、いま立っている、この最高の特権ある立場に導いてくださいました。　そして私たちは、神様の私たちに対する計画がすべて実現するのを、確信と喜びにあふれて待ち望んでいるのです。
３私たちはさらに、さまざまの問題や困難に直面した時も喜ぶことができます。　それは忍耐を学ぶのに役立つからです。　４忍耐によって、私たちの人格は筋金入りにされ、ひいては神様への信頼を深められるのです。　こうしてついに、私たちの希望と信仰は、強く、何ものにも動じなくなるのです。　５そうなった時、どんなことが起ころうと失望落胆せず、また、万事が益であるとわかります。　それは、神様がどんなに深く愛していてくださるか、わかるからです。　私たちは、そのあたたかい愛を全身で感じています。　それは、神様が聖霊様を与えてくださり、その聖霊様が私たちの心に、神様の愛を満たしてくださっているからです。
６私たちが逃れる道もなく、全く窮地に陥っていた、まさにその時、キリスト様はおいでになり、何の役にも立たない、私たち罪人のために死んでくださいました。　７たとい私たちが良い人間であったとしても、だれかが自分のために死んでくれるなどとは、考えてもみなかったでしょう。　もちろん、そういう可能性が全然ないわけではありませんが。
８しかし、私たちがまだ罪人であった時に、神様はキリスト様を遣わしてくださいました。そのキリスト様が私たちのために死んだことにより、神様は私たちに、大きな愛を示してくださったのです。　９キリスト様は、罪人のために、血さえ流してくださったのですから、神様が私たちを無罪と宣言した今は、もっとすばらしいことをしてくださるに違いありません。　今やキリスト様は、やがて来る神様の怒りから、完全に救い出してくださるのです。　１０私たちが神様の敵であった時に、神のひとり息子の死によって、神様のもとに連れ戻されたくらいですから、私たちが神様の友となり、神様が私たちのうちに生きておられる今、どんなにすばらしい祝福が備えられていることでしょう。
１１今や私たちは、神様との驚くべき新しい関係を心から喜んでいます。　それはただ、主イエス・キリストが私たちの罪のために死んで成し遂げてくださったこと、すなわち、私たちを神様の友としてくださったことのおかげなのです。
１２アダムが罪を犯した時、罪は全世界に入り込みました。　アダムの罪により、死が全人類に広まり、すべての人は年老いて死ぬよう定められました。　それと言うのも、すべての人が罪を犯したからです。　１３これらの原因がアダムの罪にあることを、私たちは知っています。　というのは、もちろんアダムからモーセまでの時代にも、人々は罪を犯していましたが、神様はそのころには、ご自分のおきてを破ったかどで、彼らに死刑を宣告したりは、なさらなかったからです。――神様はまだ、彼らにご自分のおきてを与えず、また、彼らにどんな行為を望んでいるかも、告げておられなかったのです。　１４そうい

うわけで、彼らの肉体の死は、彼らの罪のせいではありませんでした。　アダムのように、禁断の木の実を食べるな、という神様の特別のおきてを破ったわけではないからです。アダムと、やがて来ることになっていたキリスト様とは、なんと対照的でしょう。　１５人間の罪と神様の赦しとの間には、なんと大きな違いがあることでしょう。
一人の人アダムは、自分の罪によって多くの人に死をもたらしました。　しかし、一人の人イエス・キリストは、神様のあわれみによって、多くの人に赦しをもたらしたのです。１６アダムの一つの罪が、多くの人に死の罰をもたらしました。　一方、キリスト様は、無代価で多くの罪を取り除き、その代わりにすばらしいいのちを下さるのです。　１７この一人の人アダムの罪により、死はすべての人を支配する王となりました。　しかし、神様から、罪の赦しと無罪放免という無代価の贈り物をいただく人はみな、この一人の人イエス・キリストによって、いのちの王となります。　１８そうです。　アダムの罪は、すべての人に刑罰をもたらしましたが、キリスト様の正しさは、人々を神様の前に正しい者とするのです。　それで、人々は生きることができるのです。　１９神様に従わなかったアダムは、多くの人を罪人にしましたが、神様にお従いしたキリスト様は、多くの人を神様に受け入れられる者としてくださいました。
２０「十戒」が与えられて、すべての人は、自分がいかに神様のおきてに従いえない存在か、よくわかるようになりました。　しかし、私たちは、自分の罪深さを知れば知るほど、赦してくださる神様の満ちあふれる恵みが、いっそうわかるようになるのです。　２１以前は、罪がすべての人を支配し、死に導きました。　しかし今では、反対に神様の恵みが私たちを支配するようになり、主イエス・キリストによって、私たちに神様の前での正しい身分を与え、永遠のいのちへと導いてくれるのです。
六
１では、神様がますます私たちを恵み、赦し続けることができるように、私たちは罪を犯し続けるほうがよいのでしょうか。
２３もちろん、絶対にそんなことはありません。　罪を犯さないでいられるようになったのに、なおも罪を犯し続けてよいでしょうか。私たちがクリスチャンになり、バプテスマ（洗礼）を受けてキリスト・イエスの体の一部となった時に、罪の支配力は打ち破られてしまったのです。　すなわち、キリスト・イエスの死によって、あなたがたの罪深い性質は打ち砕かれ、力を失ったのです。　４罪を愛する古い性質は、キリスト様が死なれた時、バプテスマによって、キリスト様と共に葬り去られました。　そして、父なる神が、栄光の力でキリスト様を復活させてくださった時、あなたがたは、キリスト様のすばらしい新しいいのちを与えられ、そのいのちに生きる者となりました。
５あなたがたはキリスト様の体の一部として、キリスト様が死なれた時、いわば、いっしょに死んだのです。　そして今は、キリスト様の新しいいのちをいただいており、やがてキリスト様と同じように復活するのです。　６あなたがたの古い邪悪な欲望は、キリスト様といっしょに十字架につけられました。　罪を愛する部分は、打ち砕かれ、致命傷を負

いました。　それは、罪を愛する体が、もはや罪の支配を受けず、二度と罪の奴隷にならないためです。　７罪に対して死んでしまえば、どんな罪の誘惑や力からも自由にされるはずだからです。　８罪を愛する古い性質が、キリスト様といっしょに「死んだ」のですから、確かにあなたがたは、キリスト様の新しいいのちを共有しているのです。　９キリスト様は死人の中から復活し、もう二度と死ぬことはありません。　死には、もはやキリスト様を支配する力がないのです。　１０キリスト様は、罪の力にとどめを刺すために、ただ一度死なれました。　しかし今では、神様との絶えることのない交わりの中に、永遠に生きておられます。　１１ですから、あなたがたの古い罪の性質を、罪に対して死んだもの、反応しなくなったものとみなしなさい。　そして、その代わりに、私たちの主イエス・キリストによって、神様に対して生きる者、敏感に応答する者となりなさい。
１２これからはもう、あなたがたの短命な体を罪の支配にゆだねてはいけません。　罪深い欲望に従ってはいけません。　１３体のどんな部分をも、罪を犯すための悪の道具にしてはいけません。　むしろ、自分自身――あなたがたの全肢体――を、完全に神様にささげなさい。　なぜなら、あなたがたは、死人の中から生かされた者であり、神様の思いのままに使っていただく道具として,神様の良い目的に役立とうと願っているからです。　１４罪は、二度とあなたがたを支配しません。　なぜなら、あなたがたはもう、おきて〔このおきてを手段として、罪はあなたがたを奴隷にしたのです〕に束縛されてはおらず、神様の恵みとあわれみの下にあって、自由の身となっているからです。
１５それでは、どうなのでしょう。　おきてを守ることによってではなく、神様の恵みを受けることによって救われるのであれば、「かまわないから、どんどん罪を犯そう」ということになるのでしょうか。　絶対にそんなことはありません。
１６知らないのですか。　自分の主人は自分で選べるのです。　〔死を伴う〕罪を選ぶこともできれば、〔無罪の宣告を伴う〕従順を選ぶこともできます。　だれかに自分をささげれば、その相手があなたがたを受け入れて主人となり、あなたがたはその奴隷となるのです。１７神様に感謝すべきことに、あなたがたは、以前は罪の奴隷になる生き方を選んでいましたが、今では、神様からゆだねられた教えに心から従う者となりました。　１８今やあなたがたは、罪という古い主人から解放されて、正しさという新しい主人の奴隷になっているのです。
１９このように奴隷と主人の例をあげてお話しするのは、そのほうが、わかりやすいからです。　あなたがたは、かつて、あらゆる罪に仕える奴隷であったように、今は、あらゆる正しいこと、きよいことに仕える奴隷にならなければなりません。
２０あなたがたは、罪の奴隷であった時には、良いことについては無関心でした。　２１その結果はどうだったでしょうか。　明らかに、かんばしくないものでした。　だからこそ、かつて自分がしていたことを考えるだけでも、恥ずかしくなるのです。　その行き着くところは、永遠の滅びです。　２２しかし今は、罪の力から解放されて、神様の奴隷になっています。　そして、神様があなたがたに下さる恵みによって、きよくされ、永遠の

いのちがある者とされるのです。　２３罪の支払う報酬は死です。　しかし、神様が、ただで下さる贈り物は、私たちの主キリスト・イエスによる永遠のいのちです。
七
１キリスト様を信じるユダヤ人の皆さん。　おきては死んだ人まで拘束しないことに、まだ気づかないのですか。
２一例をあげれば、女は結婚すると、夫が生きている限り、おきてによって夫に束縛されています。　しかし夫の死後は、もはや束縛されません。　結婚の規定は、もう適用されないのです。　３ほかの男と結婚したければ、結婚してかまいません。　夫が生きているうちは罪悪ですが、夫の死後なら、やましいことは少しもありません。
４かつて、ユダヤ教のおきては、あなたがたの「夫」すなわち主人でした。　しかし、あなたがたは、言わばキリスト様といっしょに十字架上で「死んだ」のですから、「おきてとの結婚関係」は解消されました。　もうおきてに支配されることはありません。　そして、キリスト様の復活と同時に、あなたがたも復活し、新しい人になりました。　今では、死人の中から復活された方と「結婚している」のです。　神様のために良い実を結ぶため、すなわち、善を行なうためにです。　５あなたがたの古い性質がまだ生きていた時には、罪深い欲望があなたの内部で跳びはね、神様のご命令には何でも逆らい、罪深い行ないという、死に至る腐った実を結びました。　６しかし、もうユダヤ教のおきてや習慣にわずらわされる必要はありません。　なぜなら、それらに捕らわれていた間に、あなたがたは「死んだ」のですから。そして今では、心から神様に仕えることができるようになっています。　昔のように、一連の規則に機械的に従うのではありません。　心から喜んで、真心こめて仕えるのです。
７私が、神様のおきては悪いものだと言っているとお思いですか。　絶対にそんなことはありません。　おきてそのものが悪いわけではありません。　それどころか、おきてが私の罪を明らかにしてくれたのです。　もし「心に邪悪な欲望をいだいてはならない」というおきてがなければ、私は、自分の心にある罪――そこに潜んでいる邪悪な欲望――に気づかなかったでしょう。　８ところが罪は、邪悪な欲望に対してこのおきてを逆用しました。　このような欲望が悪いことをわからせながら、かえって、あらゆる禁じられた欲望をかき立てました。　破るようなおきてさえなかったなら、罪を犯すこともなかったと思います。
９私は、おきてが実際に何を要求しているかを知らなかった時には、気楽に構えていることができました。　しかし、真実がわかった時、自分がおきてを破っており、死を宣告された罪人であることが、はっきりわかりました。　１０ですから、私に関する限り、本来いのちの道を示してくれるはずの良いおきてが、かえって、死の罰を科すものになってしまったわけです。　１１罪は私をだましたのです。　神様の良いおきてを盾に取り、私を死罪に定めたのですから。　１２しかし、おきてそのものは全く正しく、善であることは、おわかりいただけると思います。

１３でも、はたして納得できますか。　私に死の運命をもたらしたのは、ほかならぬおきてなんですから。　どうしておきてが良いものでありえましょう。　その張本人は、実は、罪なのです。　おきてを利用して死罪をもたらしたのは、悪魔的な、この罪だったのです。罪がどんなにずる賢く、恐ろしく、いまわしいものか、わかるでしょう。　自分の悪い目的のために、ぬけぬけと神様の良いおきてを利用するのですから。　１４おきては良いものであり、それ自体に問題はありません。　問題はむしろ私にあります。　私は、罪という主人に、奴隷として売り渡されているからです。
１５私は自分が全くわかりません。　ほんとうは正しいことをしたいのに、できないのです。　反対に、したくないこと、憎んでいることをしてしまいます。　１６自分の行ないが誤りであること、破っているおきてそのものは良いものであること、それは、よくわかっています。　１７しかし、どうにもできません。　それをしているのは、もはや私ではないからです。　悪を行なわせるのは、私のうちに住みついている、私より強力な罪なのです。
１８古い罪の性質に関する限り、私は自分が全く腐敗しきっていることを知っています。どんなにもがいても、自分で自分に、正しいことを行なわせることができません。　そうしたいのですが、できないのです。　１９良いことをしたいと思ってもできず、悪いことをしないようにと努めても、どうしてもやめられません。　２０自分ではしたくないことをしているとすれば、問題点は明らかです。　すなわち、罪がなおも私をしっかり捕らえているのです。
２１正しいことをしたいと思っているのに、どうしても悪いことをしてしまう、これが人生の現実であるように思えます。　２２新しい性質をいただいた私としては、神様の意志どおり行ないたいのです。　２３－２５ところが、心の奥深くに潜む低劣な性質には、何か別のものがあって、それが私の心に戦いをいどみます。　そして、ついに私を打ち負かし、いまだに私のうちに住みついている罪の奴隷にしてしまうのです。私は、心では、喜んで神様に従う召使でありたいと願いながら、実際には、相変わらず罪の奴隷となっている自分に気づくのです。
これで、私の実情がおわかりいただけたでしょう。　すなわち、新しいいのちは、「正しいことをせよ」と命じているのに、いまだに住みついている古い性質が、罪を犯したがるのです。　ああ、私はなんとみじめで哀れな人間でしょう。　いったいだれが、このひどい低劣な性質の奴隷状態から解放してくれるのでしょうか。　ただ神様に感謝します！　主イエス・キリストによって、私は解放されました。この方が自由の身にしてくださったのです。
八
１こういうわけで、今やキリスト・イエスに属する人は、有罪の宣告を受けることがありません。　２なぜなら、いのちを与える御霊の力〔この力を、キリスト・イエスは私に与えてくださいました〕が、罪と死の悪循環から解放してくれたからです。　３神様のおき

てを知っているだけでは、罪の支配から救い出されません。　私たちはそれを守ることもできないし、実際守ってもいないからです。　ところが、神様は私たちを救うために、別の計画を実行に移されました。　すなわち、神様のひとり息子を、私たちと同じ体を持つ者として〔ただ私たちのような罪の性質を持たない点では異なりますが〕この世にお遣わしになったのです。　そして、彼を私たちの罪のためのいけにえとして、私たちをがんじがらめにする罪の支配を、打ち破られたのです。　４ですから、今や私たちは、聖霊様に従って歩むなら、神様のおきてに従えるのです。　そしてもはや、古い邪悪な性質の言いなりになることもありません。
５低劣な性質の言いなりになっている人は､自分を喜ばせるためにだけ生きています。 しかし、聖霊様に従って歩む人は、神様をお喜ばせしようとしている自分に気づくのです。
６聖霊様に従って歩むなら、いのちと平安が待っています。　しかし、古い性質に従って歩めば、死に行き着くのです。　７古い罪の性質は、神様に敵対するからです。　古い性質が神様のおきてに従ったことは一度もなかったし、これからも決してありません。　８ですから、なおも古い罪深い自我に支配されて、欲望に従い続ける者は、決して神様をお喜ばせできないわけです。
９しかし、あなたがたはそうではありません。　もし神の御霊が、あなたがたのうちに住んでおられるなら、新しい性質に支配されているのです。　〔もしその人のうちにキリストの御霊が住んでおられないなら､その人はクリスチャンではありません｡〕　１０ところで、キリスト様がうちに住んでおられるとしても、あなたがたの体は、やはり罪のために死にます。　しかし、あなたがたの霊は生きるのです。キリスト様があなたがたの霊を赦してくださったからです。　１１そして、もしイエス様を復活させた神の御霊が、あなたがたのうちに住んでおられるなら、神様は、この同じ聖霊様によって、死後も、あなたがたの滅ぶべき体を復活させてくださるのです。
１２ですから､愛する皆さん。 あなたがたの古い罪深い性質がどんなことを要求しても、それに応じる必要は全くありません。　１３もし古い罪深い性質に従い続けるなら、道に迷い、やがて滅びるしかありません。　しかし、もし聖霊様の力によって、その罪深い性質と、邪悪な行ないとを打ち砕くなら、あなたがたは生きるのです。　１４神の御霊によって導かれる者はだれでも、神様の子供だからです。
１５そこで私たちは、奴隷のように、いつもびくびく恐れる必要はありません。　神様の家族の中に､子供としてあたたかく迎え入れられたのですから､実の子供らしくふるまい、神様を「お父さん」と呼ぶべきです。　１６というのは、神の聖霊が、私たちの心の奥底に、私たちはほんとうに神様の子供だと語りかけてくださるからです。　１７ところで、私たちは神様の子供なのですから、神様の財産の分け前をいただくのです。　神様がひとり息子イエスにお与えになったものは､今では私たちのものでもあるからです。 しかし、私たちが神の子の栄光を共に受けるのなら､当然､その苦難をも受けなければなりません。
１８けれども、私たちがいま味わっている苦しみなどは、後にいただく栄光に比べたら、

取るに足りないものです。　１９神様がお造りになったものはみな、やがて神の子供たちが復活させられる日を、忍耐と希望をもって待ち望んでいます。　２０２１その日には、いばらやあざみ、罪、死、腐敗など〔この世界は、神様のご命令により、不本意ながら、これらのものに支配されていますが〕は跡形もなく消え去り、私たちを取り巻く世界は、神の子供たちが喜びをもって味わう、罪からの輝かしい解放にあずかるからです。
２２動物や植物のような自然界のものでさえ、このすばらしい日を待ち望みながら、病気や死の苦しみにうめいていることを、私たちは知っています。　２３そればかりか、クリスチャンでさえ、聖霊様を自分のうちにいただいて、将来の栄光を先取りしているにもかかわらず、苦しみと悩みから解放されたいとうめいています。　また、神様の子供としての完全な権利が与えられるその日を、ひたすら待ちこがれています。　その日には、神様が約束してくださった新しい体、すなわち、もはや病気にかかることも死ぬこともない体をいただくのです。
２４私たちは、このように信じて待ち望むことで救われています。信じて待ち望むとは、今は持っていなくても、やがて与えられると確信して待つことです。　すでに持っている人は、神様が与えてくださると期待したり、信じて待ち望んだりする必要はありません。
２５しかし、まだ起こっていないことを、神様を信じて待たなければならないのなら、忍耐強く、確信をもって待ち望むことです。
２６聖霊様も同じようにして──すなわち、私たちの信仰を通して──日常生活の問題や、祈りの中で、助けてくださいます。　私たちは、何を、どのように祈ったらよいかさえ、わからないのですが、聖霊様は、ことばに表わせないほどの切実な感情をこめて、祈ってくださるのです。　２７すべての人の心を知っておられる父なる神は、御霊が私たちのために、神ご自身のお心にかなう願いをささげてくださる時、その願いの意図するところを、もちろん知っておられます。２８そして私たちは、神様を愛し、神様のご計画どおりに歩んでいるなら、自分の身に起こることはすべて、益となることを知っているのです。
２９というのは、神様はあらかじめ、だれが自分のもとに来るかご存じで、そのような人々がご自分の息子と同じになるようにと、最初から定めておられたからです。　それは、ひとり息子を大ぜいのクリスチャンの中で長子とするためでした。　３０神様は私たちを選び、招いてくださいました。　そして、私たちがおそばに行くと、私たちに「無罪」を宣言し、キリスト様の良い性質を下さり、神様との正しい関係を結ばせ、さらに、栄光を与えると約束してくださいました。
３１こんなにすばらしい恵みに対して、いったい何と言ったらよいでしょう。　神様が味方なら、だれが私たちに敵対できるでしょうか。　３２神様は私たちのために、たった一人の息子をさえ惜しまずに、死に渡してしまわれたほどのお方ですから、ほかのすべてのものをも下さらないわけがあるでしょうか。
３３神様がご自分のものとして選ばれた私たちを、あえて訴えるのはだれですか。　神様ですか。　とんでもない。　神様は、私たちを赦し、ご自分と正しく関係づけてくださっ

た方ではありませんか。
３４では、私たちに有罪を宣告するのはだれですか。　キリスト様ですか。　とんでもない。　キリスト様は、私たちのために死に、そして復活し、今は天で、神の右の最も名誉ある座で、私たちのために祈っていてくださるお方ではありませんか。
３５では、いったいだれが、私たちをキリスト様の愛から引き離せるでしょうか。　私たちは困難や災難に会い、また迫害され、殺されるかもしれません。　しかしそれは、神様が、もう私たちを愛しておられないからでしょうか。　また、もし私たちが飢え、文なしになり、危険にさらされ、死に脅かされるなら、神様に見捨てられたことになるのでしょうか。
３６違います。　旧約聖書にこう書いてあるからです。
「神様のためには、いつでも
死ねる心がまえでいなければならない。
私たちは殺されるのを待つ羊のようだ。」
３７しかし、こうした中にあっても、私たちは、いのちを投げ出してまで愛してくださったキリスト様によって、圧倒的な勝利を得るのです。　３８神様の愛から私たちを引き離せるものは何一つない、と確信しています。　死にもいのちにも、そんなことはできません。　御使いにもできません。　地獄の全勢力を結集しても、神様の愛から遠ざけることはできません。　今日の恐れも、明日の不安も同様です。　３９あるいは、私たちがどこにいようと――空高くのぼっても、海の底深くもぐっても――私たちの主キリスト・イエスの死によってはっきり示された神様の愛から、私たちを引き離せるものは、何一つありません。
▪
九
１－３私の同胞であるイスラエルの人々、同国人であるユダヤ人の皆さん。　あなたがたがキリスト様のおそばに来ることを､私はどんなに望んでいることでしょう。　昼も夜も、あなたがたのことで心は重く、悲しみのあまり、胸も張り裂けんばかりです。　あなたがたが救われるためなら、私は永遠にのろわれてもかまいません。　むしろ、のろわれたいくらいです。　口先だけでこう言っているのでないことは、キリスト様も聖霊様も知っておられます。
４神様は実に多くのものを与えてくださいました。　それなのにあなたがたは、いっこうに神様に聞き従おうとしません。　神様はあなたがたを、ご自分の特別な民として選び出し、栄光に輝く雲によって導き、また、どんなにあなたがたを祝福したいと思っておられるかをお示しになりました。　さらに、日常生活のさまざまな規則も与えてくださいました。　おかげであなたがたは、神様が自分たちに望んでおられることを知ることができます。　神様はまた、あなたがたに神様を礼拝することを教え、数々のすばらしい約束を与えてくださいました。　５あなたがたの先祖には、神様を信じる偉大な信仰の持ち主がい

ます。　キリストご自身も、人間としての出生についてだけ言えば、ユダヤ人であり、あなたがたの同胞だったのです。　このキリスト様こそ、今やすべてのものを支配しておられる方です。　神様を永遠にほめたたえましょう。
６それでは、ユダヤ人に対する神様の約束は無効になったのでしょうか。　そんなことはありません。〔神様の約束は、真の意味でのユダヤ人にだけ与えられているのです。〕　ユダヤ人に生まれついた者がみな、真の意味でのユダヤ人だとは限りません。　７血筋の上でアブラハムの子孫だからと言って、真の意味でのアブラハムの子孫ではありません。　なぜなら、聖書に次のように書いてあるからです。アブラハムには、イサクのほかにも子供がいたが、神様の約束が適用されるのは、イサクとその子孫に対してだけであると。　８つまり、アブラハムの子供が全部神様の子なのではなく、神様がアブラハムにお与えになった救いの約束を信じる人々だけが、神様の子供なのです。
９神様はアブラハムに、「来年、わたしはあなたとサラに男の子を授けよう」と約束しておられました。　１０－１３それから、何年か過ぎて、息子イサクは成長し、結婚しました。その妻リベカがみごもって、ふたごを産もうとしている時、神様はリベカに、「ふたごのうち、初めに生まれる兄のエサウが、弟のヤコブに仕える者となる」とお告げになりました。旧約聖書には、「わたしはエサウではなく、ヤコブを祝福する」と書いてあります。　神様がこう宣言されたのは、子供たちがまだ生まれてもおらず、まだ良いことも悪いこともしていなかった時のことです。　このことからもはっきりわかるように、神様は最初から決めておいたことを実行されたのです。　子供たちの行ないによってではなく、神様の意志と選びによって、すべてが決定されたのです。
１４では、神様は不公平なのでしょうか。　絶対にそんなことはありません。　１５神様はモーセにこう言われました。　「わたしは、自分が親切にしたい人に親切にし、情けをかけてやりたい人に情けをかける。」
１６したがって、神様の祝福は、だれかがそれを得ようと決心したからとか、そのために努力したからとかで、与えられるようなものではありません。　それは、神様が情けをかけたいと思う人に与えられるものなのです。
１７エジプトの王パロの場合は、この良い例です。　神様はパロにこう言われました。「あなたにエジプトの国を与えたのは、わたしの恐るべき力をあなたに示すため、それによって、世界中の人々が、わたしの栄光ある名を耳にするためである。」　１８これでわかるように、神様は、ご自分のお考えで、ある人々には親切にし、また、ある人々を不従順な者とされるのです。　１９では、なぜ神様は人々の不従順をお責めになるのでしょう。　彼らは、神様のお考えどおりにしたのではありませんか。
２０そんなことを言ってはなりません。　神様を非難するあなたは、いったい何者なのですか。　造られた者が造った者に、「なぜ私をこのように造ったのですか」などと言ってよいでしょうか。　２１ある人が粘土でつぼを作るとします。　その場合、同じ粘土のかたまりを、一つは美しい花びんに、もう一つはごみ捨て容器に作り上げる権利を持っていな

いでしょうか。　２２そのように、どう考えても滅びるしかないような人々に対して、激しい怒りと力を示す当然の権利が、神様にはないと言うのですか。　しかし神様は、これらの人々に対して、これまでずっと忍耐してこられたのです。　２３２４同時に神様は、私たちのようにユダヤ人であっても、外国人であっても、ご自分の栄光の富を与えるためにお造りになった者たちを召し出し、いつくしむことで、神様の栄光がどんなに偉大かをすべての人に示す権利を持っておられます。
２５旧約聖書のホセア書に何と書いてあるか、思い出してください。　神様は、こう言っておられます。
「わたしは自分のために、
ほかの子ら〔ユダヤ人以外の家系の子〕を見つけ出し、
だれからも愛されたことのない、その子らを愛する。
２６そして、かつては
『わたしの民ではない』と宣告された異教徒たちが、
『生ける神の子ら』と呼ばれるようになる。」
２７またユダヤ人については、預言者イザヤがこう叫びました。
「たとい彼らの数が海辺の砂のように多くても、
ほんの一握りの者しか救われない。
２８主はおことばを完全に、
しかもすみやかに、
地上に成し遂げられるからだ。」
２９イザヤはまた、ほかの個所でこう言っています。
「神様のあわれみがなかったら、
ユダヤ人はみな、
ちょうどソドムやゴモラに住む人々が
全滅したように、
一人残らず滅ぼされたに違いない。」
３０それでは、どういうことになるのでしょう。　実情はこうです。　外国人は、実際には神様を求めていなかったにもかかわらず、神様は、信仰によって無罪とされる機会をお与えになりました。　３１ところが、ユダヤ人は、神様のおきてを守ることによって、神様の前での正しい身分を得ようと、一生懸命努力したのに、得ることができませんでした。
３２なぜでしょう。　信仰によってではなく、おきてを守ること、善良な人間になることによって救われようとしたからです。 彼らは、大きなつまずきの石につまずいたのです。
３３このことについて、神様は旧約聖書の中で、次のように警告しておられます。
「わたしはユダヤ人の通り道に、一つの岩を置く。
多くの者が、それ〔イエス〕につまずくであろう。
しかし、この方を信じる者は、

決して失望させられることがない。」
一〇
１愛する皆さん。　私が心から願い、祈り求めているのは、ユダヤ人が救われることです。２私は、彼らが神様の誉れをどんなに熱心に求めているか、よく知っています。　しかし、それは見当違いの熱心なのです。　３というのも、彼らには、キリスト様が自分たちを神様の前に正しい者とするために死んでくださったことが、わかっていないからです。　そして、ユダヤ教のおきてや習慣を守ることによって、神様の祝福をいただける善良な人間になろうと、努力を重ねています。　しかし、神様はそんな方法でお救いになるのではありません。　４彼らが、おきてを守ることによって手に入れようとしているものすべてを、キリスト様は、ご自分を信じる人々に与えてくださいます。　そのことを、彼らは悟っていないのです。　キリスト様は、おきてをすべて終結させたのです。
５モーセは、「もし人が、非の打ちどころなく善良であり、一生涯、誘惑にも負けず、ただの一度も罪を犯さずにいられるなら、その時はじめて救われる」と書いています。　６しかし、信仰を通して与えられる救いは、こう教えてくれます。　「あなたは、キリスト様を見つけようと天を捜し回る必要も、助けていただこうと引き降ろす必要もない。」　７また、「キリスト様をもう一度復活させようと、死人の中を歩き回る必要もない。」
８というのは、キリスト様を信じることによって与えられる救い〔私たちが宣べ伝えているのは、まさしくこの救いです〕は、すでに、私たちのすぐ手の届く所にあるからです。実際それは、自分の心や口のように、すぐ近くにあるのです。　９なぜなら、もし自分の口で「イエス・キリストは私の主です」と告白し、自分の心で、神様はイエス・キリストを死人の中から復活させてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。　１０人は、心で信じることによって、神様から正しい者とされ、その信仰を自分の口で告白することによって、救いを確実なものとするからです。　１１聖書は私たちに、「キリスト様を信じる者は、決して失望させられることがない」と教えています。　１２この点では、ユダヤ人もそれ以外の外国人も同じです。　同じ主がユダヤ人にとっても外国人にとっても主であり、求める者にはだれにでも、ご自分の宝を惜しみなく与えてくださるのです。
１３主の御名を呼び求める者は、だれでも救われるのです。
１４しかし、主を信じていなければ、どうして主に、「救ってください」と求めるでしょうか。　また、主のことを一度も聞いたことがなければ、どうして主を信じることができるでしょうか。　だれかが教えてくれなければ、どうして主のことを聞けるでしょうか。　１５また、だれかが遣わさなければ、どうして人々のところへ出かけて教える人が出るでしょうか。　旧約聖書に、「神との平和を宣べ伝え、良い知らせをもたらす人の足は、なんとうるわしいことか」とあるのは、まさにこのことです。　つまり、神様の良い知らせを伝える人は、なんと歓迎されることか、というのです。
１６しかし、この良い知らせを耳にした人がみな、喜んで受け入れたわけではありません。預言者イザヤが、「主よ。　彼らに語った時、だれが、私のことばを信じましたか」と言っ

ているとおりです。１７しかし、信仰は、このキリスト様の良い知らせに耳を傾けることから、始まるのです。
１８しかし、ユダヤ人についてはどうでしょうか。　彼らは神様のことばを聞いたのでしょうか。　もちろんです。　神様のことばは、彼らをどこまでも追いかけ、良い知らせは地の果てまでも告げ知らされたのですから。　１９さらに、ユダヤ人は、もし自分たちが神様の救いを拒むなら、その救いはほかの人々に与えられることを、知っていたのでしょうか。　もちろん、知っていました。　というのは、その昔、モーセの時代に、すでに神様はこう告げておられたからです。
「わたしは、無知な異教の諸国民に
救いを与えることで、
わたしの民にねたみを起こさせ、
その目を覚まさせよう。」
２０後に、イザヤも大胆にこう言っています。
「捜し求めもしなかった人々によって
神様は見いだされる。」
２１その一方、神様はユダヤ人にも、引き続き御手を差し伸べておられるのですが、彼らは何やかやと理屈をこねて、神様のもとに行こうとしないのです。
一一
１では神様はご自分の民であるユダヤ人を退け、見捨ててしまわれたのでしょうか。　とんでもない。　決してそんなことはありません。　この私もユダヤ人であり、アブラハムの子孫、ベニヤミン族の一人であることを、忘れないでください。
２３もちろん神様は、最初から選んだ自分の民を見捨てるようなことはなさいませんでした。　旧約聖書には何と書いてあるでしょうか。　預言者エリヤは、ユダヤ人を告発し、彼らが預言者を殺し、神様の祭壇をこわしたことを神様に申し上げています。　そして、「今なおあなた様を愛する者は、この国中で私一人です。　その私も、殺されそうなのです」と訴えました。
４それに対して神様が何とお答えになったか、覚えていますか。「いや、あなただけではない。　わたしには、なおもわたしを愛し、偶像を拝んだことのない人が、ほかに七千人いる。」
５今でも同じことが言えます。　ユダヤ人の全部が神様から離れ去ったわけではありません。　神様の恵みによって選ばれ、救われている人々が、少数ながらいるのです。　６しかし、それは神様の恵みのおかげであり、彼らが善良だからではありません。　そうでなければ、ただであるはずの贈り物が、もはやただでなくなってしまいます。かせいで手に入れるのであれば、ただとは言えません。
７さて、実情はこうです。　大部分のユダヤ人は、追い求めていた神様の恵みを、得ることができませんでした。　恵みを得たのは、神様に選ばれた少数の者だけでした。　ほか

の人々は盲目にされてしまったのです。　８旧約聖書に次のように記されているのは、このことなのです。
「神様は彼らを眠らせ、目と耳とをふさがれた。
それゆえ、キリスト様のことを語りかけても、
彼らにはわからない。
今日までその状態は続いている。」
９ダビデ王も同じことを言っています。
「食卓のごちそうや、さまざまの祝福は
彼らのわなとなれ。　彼らを、
『神様とは万事うまくいっている』
という思いにさせよ。
これらの良いものがはね返って来て、
彼らの頭上に落ち、
当然の報いとして彼らを押しつぶすがいい。
１０彼らの目は見えなくなれ。
重荷を負わされて、
いつまでも背中を曲げたまま歩くがいい。」
１１これは、神様がご自分の民であるユダヤ人を退けてしまわれたことを意味するのでしょうか。　絶対にそんなことはありません。　神様の目的は、このことによって神様の救いが外国人にも及び、その結果、ユダヤ人がねたんで、自分でも救いを求めるようになることにあったのです。　１２ところで、考えてもごらんなさい。　ユダヤ人が神様の救いにつまずき、それを拒んだ時、全世界が豊かに恵まれたのです。　とすれば、後にユダヤ人もキリスト様に立ち返る時には、どんなに大きく、すばらしい祝福が、この世に与えられることでしょう。
１３ご存じのように、神様は私を、あなたがた外国人への特使に任命してくださいました。私はこのことを非常に重んじており、できるだけ多くの機会をとらえては、そのことをユダヤ人に思い出させるようにしています。　１４何とかして、ユダヤ人にも、あなたがた外国人が持っているものを求めさせ、幾人かでも救いたいのです。　１５ユダヤ人がクリスチャンになったら、どんなにすばらしいでしょう。　神様がユダヤ人から御顔をそむけたために、神様の救いが、世界のユダヤ人以外の人々に差し出されたのです。　とすれば、ユダヤ人がキリスト様に立ち返るなら、もっとすばらしいことが起こります。　それはちょうど、死人が生き返るようなものです。　１６アブラハムや預言者は神様の民なのですから、その子孫もまた、神様の民となるはずです。　木の根がきよければ、その枝もきよくなるはずだからです。
１７ところが、アブラハムという木の幾枝か――すなわちユダヤ人のある者――は折り取られてしまいました。　そして、いわば野生のオリーブの木の枝であった外国人のあなた

が、それにつぎ木されました。　それで今、あなたも、神がオリーブの木に注がれる、特別豊かな滋養分にあずかって、アブラハムとその子孫とに約束された祝福をいただいているのです。
１８しかし、折り取られた枝の代わりにつぎ木されたことを自慢しないように、注意しなさい。　あなたが重要なのは、ただ神様の木の一部になっているからです。　このことを忘れてはなりません。　あなたは、ただの枝であって根ではないのです。
１９あなたは「前の枝が折り取られたのは、私に場所を譲るためだった。　とすれば、私はかなりいい人間に違いない」と考えるかもしれません。
２０気をつけなさい。　ユダヤ人のその枝が折り取られたのは、神様を信じなかったからであり、あなたがつぎ木されたのは、ただ神様を信じたからにほかなりません。　このことを忘れないようにしなさい。　高慢になってはいけません。　むしろ、謙虚になり、感謝する人になりなさい。　また、注意深くなければなりません。　２１もし神様がもとの木の枝を惜しまれなかったとすれば、あなたをも惜しまれないでしょう。
２２神様がどんなに恵み深く、また、どんなにきびしい方かを考えなさい。　不従順な者には、非常にきびしい方ですが、神様を愛し、信じ続ける者には、とても恵み深いお方です。　しかし、もしそうしないなら、あなたもまた、折り取られてしまうのです。　２３一方、ユダヤ人が不信仰な生き方をやめて神様に立ち返るなら、神様はまた、もとの木についでくださいます。　神様には、そうする力があるのです。
２４あなたは、野生のオリーブの木の一部として、神様から遠く離れた存在でしたが、神様は喜んで受け入れ、ご自分の良い木についでくださったのです。　これは異例のことです。　とすれば、もともとその木の枝であったユダヤ人にはどうでしょう。　もっとたやすく、もとの木につぎ木しようと、構えておられるのではないでしょうか。
２５愛する皆さん。　この神様の真理を知っていただきたいのです。　そうすれば、高ぶったり、自慢したりすることもないでしょう。　確かに、今のところ、ユダヤ人のある者は、神様の良い知らせに反対しています。　しかし、そのような状態が続くのは、あなたがた外国人のうち、そう願う者がすべて、キリスト様のもとに来る時までにすぎません。
２６その時が来れば、イスラエル人はみな救われます。
このことについて、預言者は何と言っているでしょう。
「一人の救い手がシオンから出て、
ユダヤ人をあらゆる不敬虔から立ち返らせる。
２７その時わたしは、
約束どおり、彼らの罪を取り除く。」
２８今のところ、ユダヤ人の多くは、神様の良い知らせに敵対し、それを憎んでいます。
しかし、そのことはかえって、あなたがたには益となりました。　というのは、神様がその贈り物を、あなたがた外国人に与えてくださることになったからです。　しかし、ユダヤ人は、神様がアブラハム、イサク、ヤコブにお与えになった約束のゆえに、今でも愛さ

れているのです。　２９神様の贈り物と招きは決して取り消されないからです。　神様は決して、約束を破ったりはなさいません。　３０あなたがたは、以前は神様に逆らっていましたが、ユダヤ人が神様の贈り物を拒んだので、代わりに、神様のあわれみを受けることになりました。　３１そして今、ユダヤ人は神様に逆らっていますが、いつの日か彼らもまた、あなたがたの受けている神様のあわれみを共に受けるようになるのです。　３２なぜなら、神様はすべての人を同じようにあわれもうとして、すべての人が不従順の罪に落ちるままにされたからです。
３３ああ、なんとすばらしい神様を、私たちは信じていることでしょう。　神様の知恵と知識と富は、なんと偉大なことでしょう。 神様の取り決めと方法とを理解することなど、とうていできません。　３４いったいだれが、主のお心を知ることができますか。　だれが、主の相談相手、案内役となるほどの知識を持っていますか。　３５また、いったいだれが、主から報いがいただけるほど十分に、主にささげましたか。　３６というのも、すべてのものは、ただ神様から出ているからです。　すべてのものは、神様に生かされており、神様の栄光のために存在しているのです。　どうか、この神様に栄光がとこしえにありますように。
一二
１愛する皆さん。　そういうわけですから、あなたがたにお願いします。　自分の体を神様にささげてください。　それを、神様に喜んでいただける、生きた、きよい供え物としてください。　神様がしてくださったことを思えば、これは、決してむりな注文ではないはずです。　２世間の人々の生活態度や習慣をまねてはいけません。　むしろ、すること考えることすべての面で、生き生きとした、全く新しい別人となりなさい。 そうすれば、神の道がどんなに自分を満足させてくれるか、わかるようになります。
３私は、神様の使者として、あなたがた一人一人に神様の警告を伝えます。　自分を正直に評価しなさい。　神様からどれだけの信仰を与えられているかを尺度にして、自分の値打をはかりなさい。 ４５私たちの体に多くの器官があるのと同様、キリスト様の体にも、多くの器官があります。　私たちはみな、キリスト様の体の各器官です。キリスト様の体が完全になるには、私たちが必要です。　というのは、それぞれが異なった役目を果たすからです。　ですから、私たちは互いに依存し合っており、だれもが、ほかのすべての人を必要としているのです。
６神様は一人一人に、何かすぐれた能力を授けてくださっています。　ですから、預言する能力を授かっているなら、できる時にはいつも――神様からのことばを受け取る信仰の力に応じて、できるだけ多くの機会に――預言しなさい。　７ほかの人々に仕える能力を授かっているなら、快く仕えなさい。 教える立場にあるなら、りっぱに教えなさい。 ８説教をする人であれば、力強く、また、人の助けとなるように説教しなさい。　お金をたくさんいただいているなら、人助けのために、惜しみなく使いなさい。　管理者としての能力を与えられ、人々の仕事を監督する立場にあるなら、その責任を誠実に果たしなさい。

悲しんでいる者を慰める人は、クリスチャンとして、喜んでそうしなさい。
９ただ見せかけだけで人を愛してはいけません。　真心から愛しなさい。　悪いことを憎み、良いことには味方しなさい。　１０兄弟のような愛情で互いに愛し合い、また、心から尊敬し合いなさい。　１１決して仕事を怠けず、熱心に主に仕えなさい。
１２あなたがたのために神様が計画しておられることすべてを喜びなさい。　困難の中でじっと耐え、常に祈りなさい。　１３クリスチャンが困っている時には、助けてあげなさい。　客を家に招いてもてなし、宿が必要なら泊めてあげるようにしなさい。
１４クリスチャンだからというので、だれかに危害を加えられても、のろってはいけません。　むしろ、神様がその人を祝福してくださるように祈ってあげなさい。　１５だれかがしあわせな思いで喜んでいる時には、いっしょに喜んであげなさい。　悲しんでいる人がいたら、いっしょに悲しんであげなさい。　１６互いに心を一つにし、楽しく働きなさい。　お高くとまってはいけません。　偉い人に取り入ろうとせず、かえって、平凡な普通の人々と喜んで交際しなさい。 何でも知っているなどと､思い上がってはいけません。
１７悪いことをされても、決して仕返しをしてはいけません。　だれが見ても、あなたがたの正直さを認めるように行動しなさい。　１８だれとも争ってはいけません。　できる限りあらゆる人と仲よくしなさい。
１９愛する皆さん。　決して自分で復讐してはいけません。　復讐は神様に任せなさい。なぜなら、神様が、「当然報復を受けなければならない人には、わたしが報復する」と言っておられるからです。２０むしろ、あなたの敵が飢えていたら、食べさせてやりなさい。のどが渇いていたら、飲ませてやりなさい。　そうすることによって、あなたは、「敵の頭上に燃えさかる炭火を積む」ことになります。つまり、彼は、あなたにしてきたことを思って、恥じ入るようになるのです。　２１悪に負けてはいけません。　かえって、善を行なうことによって悪に打ち勝ちなさい。
一三
１上に立つ権威に従いなさい。　神様がお立てになった権威だからです。　神様によらない権威はどこにもありません。　２ですから、国の法律に従わない者は、神様に従うことを拒んでいるのです。　その人は必ず罰せられます。　３正しいことをしている人は、支配者を恐れません。　しかし、悪いことをしている人は、いつも支配者を恐れるのです。ですから、びくびくしたくなければ、法律を守りなさい。　そうすれば、安心して過ごせます。　４支配者は、あなたを助けるために、神様から遣わされているのです。　しかし、何か悪いことをしていれば、支配者はあなたを罰するでしょうから、当然、恐れなければなりません。　そのためにこそ、彼は神様から遣わされているのです。　５法律に従うには、二つの理由があります。　第一に、罰を受けないためであり、第二に、それを守るべきだとわかっているからです。
６同じ理由で、税金も納めなさい。　政府の役人が国民のために、神様から与えられた仕事を続けるには、給料が必要だからです。　７支払うべきものは、だれにでも支払いなさ

い。　税金や輸入税をすすんで納め、上に立つ人々に従い、敬うべき人を敬い、重んずべき人を重んじなさい。　８借りがあれば、全部返しなさい。　ただし、他の人を愛するという「借り」だけは別です。　その「借り」だけは、いつまでも返し続けなさい。　というのは、人を愛することは、神様のすべてのおきて、すべての要求にかなうことだからです。　９自分を愛するように隣人を愛していれば、その人を傷つけたり、だましたり、殺したり、その人のものを盗んだりしたいとは思わないでしょう。またその人の妻と罪を犯すとか、その人のものを欲しがるとかいった、「十戒」で禁じられていることは、何一つしないでしょう。　このように、十戒はすべて、「自分を愛するように、あなたの隣人を愛しなさい」という一つの戒めに含まれるのです。　１０愛はだれにも悪を行ないません。　だからこそ、愛は神様の要求をすべて完全に満たすのです。　愛こそ、あなたがたに必要なただ一つのおきてです。
１１正しい生活をしなければならない、もう一つの理由があります。　すなわち、今や終末に近づいており、時はどんどん過ぎていることに、あなたがたが気づいているからです。　目を覚ましなさい。　初め信じた時より、今はいっそう、主の来られる時が近いからです。
１２１３夜はふけ、昼がすぐそこまで近づいています。　ですから、暗やみに属する悪い行ないを捨てて、昼間生きるため、正しい生活という武具で身をかためなさい。　あなたがたの行為は正しいと、だれからも認められるよう、何をするにも、りっぱに、誠実にふるまいなさい。　どんちゃん騒ぎをしたり、酔っぱらったり、姦淫したり、肉欲にふけったり、争ったり、ねたんだりして時間を浪費してはなりません。　１４当然なすべき正しい生活ができるように、主イエス・キリストに助けを求めなさい。　悪を楽しむような計画を立ててはいけません。
一四
１仲間に加わりたいという人がいたら、たとい信仰の弱い人であっても、あたたかく迎え入れなさい。　事の良し悪しについて考えが違うからといって、批判してはいけません。
２たとえば、偶像に供えられた肉を食べてもよいかどうかなどと、議論してはいけません。　あなたがたは、偶像に供えられた肉を食べても別に悪くはない、と信じているかもしれません。　しかし、ほかの人たちの信仰は、もっと弱いのです。　彼らは、偶像に供えられた肉を食べるのは悪いとして、全く肉なしですませ、肉類よりむしろ野菜を食べるほうがよいと思っています。　３肉を食べてもよいと思っている人は、食べようとしない人を見下してはいけません。　また、食べようとしない人は、食べる人を非難してはいけません。　神様はそのどちらをも受け入れて、自分の子供としてくださったからです。　４どちらも神様に仕えているのであって、あなたに仕えているわけではありません。　神様に対して責任を負うのであって、あなたに責任を負うのではありません。　正しいか、まちがっているかは、神様がその人に教えてくださるはずです。　しかも神様は、その人が正しく行動できるように助けることがおできになります。
５ある人は、クリスチャンも、神様を礼拝する特別な日として、ユダヤ教の祝祭日を守る

べきだ、と考えています。　しかし、他の人は、どの日もみな同様に神様のものだから、いちいちそんな面倒なことをするのは、まちがっているし、ばからしい、と言います。　こうした問題については、一人一人が自分で判断しなければなりません。　６もし主を礼拝するために特別な日を守っているなら、主をあがめようとしてすることなのですから、良いことなのです。　偶像に供えた肉を食べる人についても、同じことが言えます。　彼はその肉のことで主に感謝しているのですから、正しいのです。　そんな肉には触れようともしない人もまた、主に喜んでいただこうと切に願うからそうするのであって、彼も感謝しているのです。
７私たちには、自分の生死をかってに決める権利がありません。８生きるにしても死ぬにしても、主に従うのです。　いずれにせよ、私たちは主のものです。　９キリスト様の死と復活の目的は、私たちが生きている時も死んでいる時も、キリスト様がいつも私たちの主となられることだったのです。
１０あなたがたには、自分の兄弟（信仰を同じくする人）を批判したり、見下したりする資格はありません。　だれもが、神様のさばきの座の前に立つことを、忘れてはなりません。　１１次のように書いてあるとおりです。
「主は言われる。　わたしは生きている。
すべてのひざは、わたしの前にかがめられ、
すべての舌は、神に告白する。」
１２そうです。　一人一人が、神様に申し開きをすることになるのです。　１３ですから、これからはもう、批判し合ってはいけません。　むしろ、人をつまずかせないように生活しようと心がけなさい。　兄弟が「悪いことだ」と信じていることを目の前でしてみせて、彼をつまずかせるようなことは、絶対にいけません。
１４私個人は、主イエスの権威に基づいて、はっきり確信しています。　偶像に供えた肉を食べることは悪くありません。　しかし、それを悪いと信じている人がいるなら、悪いことは避けるべきですから、その人は食べてはいけません。　１５兄弟が、あなたの食べる物のことで心を痛めているのに、そのまま平気でいるとしたら、愛によって行動しているとは言えません。　あなたの食べる物のことで人を滅ぼしてはなりません。　その人のためにも、キリスト様は死なれたのです。１６たとい自分の行為は正しいとわかっていても、人の批判の的になるようなことをしてはなりません。　１７なぜなら、私たちクリスチャンにとって大切なのは、何を食べるか何を飲むかではなく、正しさと、平安と、聖霊様から来る喜びとに、満ちあふれているかどうかだからです。　１８このようにキリスト様に仕えてこそ、神様に喜ばれ、また、人々にも喜ばれるのです。　１９こうして、教会内の調和を目指し、互いに助け合って成長するように努めなさい。
２０ささいな肉の問題で、神様の働きを台なしにしてはなりません。　肉そのものは別に悪くなくても、それが他人のつまずきとなるなら、肉を食べるのはよくないということを、忘れないでください。　２１肉だけに限りません。　酒の問題でも、そのほか何でも、兄

弟をつまずかせたり、罪を犯させるようなことは一切やめなさい。　それこそ正しい行ないです。　２２あなたには、自分のしていることは、たとい神様の目から見ても潔白だ、とわかっているかもしれません。　しかし、その確信は、心にしまっておきなさい。　自分の信仰を人前で見せびらかしてはいけません。　もしかしたら、人々がそのために傷つくかもしれないのです。　このような場合、正しいと思うことをして、しかも、それが罪を犯すことにならない人こそ、しあわせだと言うべきです。　２３しかし、「自分がしようとしていることは悪いことだ」と信じている人は、してはなりません。　悪いと思ってするのですから、彼としては、罪を犯すことになるのです。　何であれ、悪いと思うことをするのは、すべて罪です。
一五
１２何かをする場合、別に主に対して何の支障もないとわかっていても、ただ自分の喜びのためにするのはいけません。　それは悪いことではないかと、疑問や不安をいだく人のことを思いやり、そういう弱い人々の「重荷」を軽くしてやりなさい。　自分ではなく、人を喜ばせましょう。　そして、人の益になることをし、その人が主にあって成長できるよう助けましょう。　３キリスト様も、自分を喜ばせようとはなさいませんでした。「彼が来られたのは、実に、敵対する者たちの侮辱を受けて苦しむためであった」と、詩篇の作者が言っているとおりです。　４ずっと昔に旧約聖書に書かれたこのことばは、私たちに忍耐を教え、励ますためのものです。　また、神様が死と罪の力とを打ち破ってくださる時を、私たちが期待にあふれて待ち望むためのものです。
５どうか、不動の忍耐力と励ましを与える神様が、あなたがたが一つ思いとなって仲よく暮らしてゆけるよう、助けてくださいますように。　一人一人が互いに、キリスト様の、他の人に対する態度を見ならうことができますように。　６そうしてはじめて、私たちはみな、主イエス・キリストの父なる神をほめたたえ、声を合わせて賛美できるのです。
７そういうわけですから、キリスト様があなたがたをあたたかく受け入れてくださったように、あなたがたもお互い同士、あたたかく教会に受け入れ合いなさい。　そうすれば、神様があがめられるのです。　８イエス・キリストが来られたのは、神様がご自分の約束に対して誠実な方であることを示すため、またユダヤ人を助けるためであったことを、思い出してください。　９それはまた、外国人も救われて、自分たちに対する神様のあわれみのゆえに神様をほめたたえるためでもあったことを、思い出してください。　このことを、詩篇の作者は次のように書いています。
「私は外国人の中で、あなたを賛美し、
あなたの御名をほめ歌おう。」
１０また、ほかの個所にはこうあります。
「外国人よ。　主の民であるユダヤ人と共に喜べ。」
１１さらにまた、
「外国人よ。　主をほめたたえよ。

すべての人よ。　主をほめたたえよ。」
１２また、預言者イザヤはこう言っています。
「エッサイの家系に一人の世継ぎが生まれる。
その方は外国人を治める王となる。
彼らは、ただこの方だけに望みをかける。」
１３そこで、私はあなたがた外国人のために祈ります。　どうか、希望を与えてくださる神様が、神様を信じているあなたがたを幸せにし、平安で満たしてくださいますように。またどうか、あなたがたに働きかける聖霊様の力によって、神様にある希望にあふれさせてくださいますように。
１４私の兄弟たちよ。　あなたがたが知恵に満ち、善意にあふれていること、そして、これらを余すところなく他の人々に教えることができるほど、よくわきまえていることを、私は知っているのです。１５１６しかし、それにもかかわらず、かなり大胆に、そのことを強調してきました。 あなたがたに､そのことを思い起こしてもらいたかったからです。私は、神様の恵みにより、キリスト・イエスから、あなたがた外国人のもとに遣わされた特使であって、良い知らせを伝え、かおり高い供え物として、あなたがたを神様にささげる務めを果たしているのです。　あなたがたは聖霊様によって、きよい者、神様に喜ばれる者とされています。　１７それで、キリスト・イエスが私を用いてなしてくださったすべてのことについて、少しは誇ってもよいと思います。　１８私は、キリスト様がほかの人たちをどのように有効にお用いになったかについて､どうこう言うつもりはありません。ただこのことだけは知っています。　外国人を神様に導くために、キリスト様が私を役立ててくださったということです。　私は、ことばと、生活態度、　１９および、神からのしるしとして私を通してなされた奇蹟によって、外国人を神様に導いてきました。　すべては聖霊様の力によってなされたのです。　このようにして、私は、エルサレムからイルリコに至るまで、キリスト様の良い知らせを、くまなく伝えてきました。
２０しかし、そのあいだ中、私が切に願っていたことは、もっと遠くまで出かけることでした。　すでに、だれかほかの人によって教会がスタートしている所ではなく、むしろ、キリスト様という尊い名を、まだ一度も聞いたことがない人々のところで、良い知らせを宣べ伝えたいと、切に望んだのです。　２１私は、旧約聖書に述べられている計画に従ってきました。　すなわち、イザヤが、キリスト様という名を一度も聞いたことのない人々が、見て理解するようになる、と言っているとおりに。　２２このような事情のもとで、私は長いこと、あなたがたのところに行けませんでした。
２３しかし、ついに、こちらでの働きも終わり、長いあいだ待ったかいがあって、とうとう、そちらに行けそうです。　２４実は今、スペイン旅行を計画しているのです。　その途中、ローマに立ち寄るつもりです。　そして、わずかな間でも、共に楽しい時を過ごしてから、あなたがたに送られて、旅を続けたいと願っています。
２５しかし、その前に、エルサレムに行かなければなりません。　そこにいるユダヤ人の

クリスチャンに贈り物を届けるためです。　２６ご存じのように、マケドニヤとアカヤのクリスチャンが、いま困難な目に会っているエルサレムのクリスチャンのために、募金することにしたからです。　２７彼らは喜んでしてくれました。　エルサレムのクリスチャンには大きな借りがあると思っているのです。　なぜでしょうか。　キリスト様の良い知らせは、エルサレムの教会から伝えられたからです。　彼らは、エルサレム教会から、良い知らせという、すばらしい霊の贈り物を受けました。　そこで、いくらかでも物質的な援助をして、せめてもの恩返しができればと願っているのです。　２８それで私は、このお金を渡して、彼らの善行を完了させしだい、スペイン旅行の途中で、あなたがたを訪ねたいと思っています。　２９その時には、きっと、主からの大きな祝福をお分かちできるでしょう。
３０どうか、私の祈りの友になってください。　主イエス・キリストのゆえに、また、聖霊様によってあなたがたが私を愛する愛のゆえに、私の働きのために、共に精一杯祈ってください。　３１エルサレムにいる、クリスチャン以外の人々から、私が無事に守られるよう祈ってください。　また、私の持って行くお金を、エルサレムのクリスチャンが喜んで受け取ってくれるようにも、祈ってください。　３２そうすれば、私は、神の御心により、喜びにあふれて、あなたがたのところに行き、互いに励まし合うことができます。
３３どうか、平安を与えてくださる神様が、今あなたがた一同と共にいてくださいますように。　アーメン。
一六
１ケンクレヤ町出身の、愛するクリスチャン婦人フィベが、そのうちあなたがたを訪れるでしょう。　彼女は教会で熱心に働いてきた人です。　２どうか、主にある姉妹として、あたたかいクリスチャンの愛で歓迎してあげてください。　できることは何でもして、助けてあげてください。　この人はこれまで、私も含めて、多くの困っている人を助けてくれたのです。　３プリスカとアクラによろしく。　この夫婦は、私の同労者として、キリスト・イエスのために働いてきました。　４事実、二人は、いのちをかけて私を守ってくれたのです。感謝しているのは、私だけではありません。　どの外国人教会でも、この二人には感謝しています。
５また、礼拝のために二人の家に集まっている人々にも、よろしく伝えてください。　私の親しい友であるエパネトによろしく。 アジヤで真っ先にクリスチャンになった人です。
６骨身を惜しまず働き、助けてくれたマリヤにもよろしく。　７それから、私の親類で、私と共に投獄されたこともあるアンドロニコとユニアスがそちらにいます。　彼らは使徒たちにも尊敬されており、私よりも先にクリスチャンになった人たちです。　どうぞ、この二人にもよろしく伝えてください。　８神様の子供の一人として私が愛しているアムプリアトによろしく。　９また、私の同労者ウルバノと、愛するスタキスとによろしく。
１０それに、アペレがいます。　主によって認められているりっぱな人です。　よろしく伝えてください。　またアリストブロの家で働いている人たちによろしく。　１１私の親

類ヘロデオンによろしく。　ナルキソの家で働いているクリスチャン奴隷の人たちによろしく。　１２主のために働いているツルパナとツルポサによろしく。　また、主のために大変な苦労をした愛するペルシスによろしく。　１３主がご自分のものとしてお選びになったルポスによろしく。　また愛する彼の母上にもよろしく。　彼女は、私にとっても母でした。　１４どうか、アスンクリト、フレゴン、ヘルメス、パトロバ、ヘルマス、いっしょにいる他の兄弟たちによろしく伝えてください。　１５フィロロゴ、ユリヤ、ネレオとその姉妹、オルンパ、および、いっしょにいるすべてのクリスチャンに、私の愛をお伝えください。　１６互いに親しみをこめてあいさつを交わしなさい。　こちらのすべての教会が、皆さんによろしくと言っています。

１７この手紙を終える前に、もう一つ言っておきたいことがあります。　キリスト様について今まで学んできたことと反することを教えて、分裂を引き起こし、人々の信仰をくつがえすような人たちから離れていなさい。　１８そのような教師たちは、主イエスのために働いているのではなく、自分の利益を求めているだけです。　彼らは口が達者なので、純朴な人たちは、しばしばだまされるのです。　１９しかし、あなたがたが忠実であり、また真実であることは、だれもが知っています。ほんとうにうれしいことです。　私は、あなたがたがいつも、何が正しいかについては鋭敏であり、一方、いかなる悪にもうとい者であってほしいと願っています。　２０平和の神様はすぐにも、サタンをあなたがたの足の下に踏み砕いてくださいます。　どうか、私たちの主イエス・キリストからの祝福が、あなたがたと共にありますように。

２１私の同労者テモテと、私の親類のルキオ、ヤソン、ソシパテロが、皆さんによろしくと言っています。　２２ここで、この手紙の代筆を務めた私テルテオも、クリスチャンとして皆さんにごあいさつ申し上げます。　２３ガイオも皆さんによろしくと言っています。いま私は彼の家で世話になっています。　教会はそこで集会を開いているのです。　市の収入役であるエラストと、クリスチャンの兄弟クワルトも、皆さんによろしくと言っています。　２４では、さようなら。　私たちの主イエス・キリストの恵みが、あなたがた一同と共にありますように。

２５－２７私は皆さんを神様におゆだねします。　私が語った良い知らせにあるとおり、この神様はあなたがたを、主にあって強くし、不動のものとなしうる方です。　この良い知らせは、あなたがた外国人を救う、神様の特別の計画であり、世の初めから秘密にされてきたものです。　しかし今や、預言者たちの予告どおり、また神様の命令どおりに、この知らせは至る所に伝えられています。　世界中の人がキリスト様を信じ、従うようになるためです。　ただ一人の知恵に満ちた神様に、私たちの主イエス・キリストによって、栄光がとこしえまでありますように。　アーメン。

パウロ

▪

コリント人への手紙　Ｉ（コリント教会の皆さんへ　Ｉ）
ほんとうの愛！　その愛について、著者パウロはことばを尽くして語ります。　当時、コリントの教会には、いろいろな問題が持ち上がっていました。　その原因は、「自分さえよければ、人はどうでもいい。自分のしたいことをして何が悪い。　それが自由というものだ」といった態度にあることを、パウロは鋭い目で見抜いていました。　そして、時には厳しいとも思える口調で忠告し、お互いに心から愛し合い、欠点を補い合い、問題を解決するよう勧めています。

一

１　神様に選ばれて、キリスト・イエスを宣べ伝える伝道者となったパウロと、信仰の友ソステネから、　２神の民として招かれ、キリスト・イエスによって神様に受け入れられる者とされた、コリント教会の皆さん、および主イエス・キリストの御名を至る所で呼び求めているクリスチャンの方々へ。
この主は、私たちの主であると共に、すべての人の主です。
３どうか、父なる神と主イエス・キリストが、あなたがたをあふれるほど祝福し、すばらしい平安を与えてくださいますように。
４神様があなたがたにお与えになったすばらしい贈り物を思う時、感謝せずにはいられません。　今やあなたがたは、キリスト様のものとなったのです。　５キリスト様は、あなたがたの全生活を充実させてくださり、キリスト様について大胆に語る力や、真理を十分に理解する力を与えてくださいました。　６以前、私が、キリスト様はきっとそうしてくださる、と話しておいたとおりでしょう。　７今やあなたがたは、あらゆる恵みと祝福とを手にしたのです。　主イエス・キリストのおいでを待ち望んでいるこの時、主のお心にかなったことをするのに必要な、あらゆる霊の賜物と力とが、あなたがたには備わっています。　８そして、主が再び来られるその日に、あなたがたが罪も欠点もない者と認められるように、主は最後まで責任をもって守ってくださいます。　９この神様の約束は確かです。　神様はいつでも、口にしたことばをそのとおり実行なさるからです。　この神様があなたがたを、神の子、すなわち主イエス・キリストとのすばらしい交わりに、招き入れてくださったのです。
１０しかし、愛する皆さん、私は主イエス・キリストの御名によってお願いします。　仲間同士の言い争いはやめなさい。　教会の中で仲間割れなどしないよう、真の一致を保ってください。　同じ考え、同じ目的で結ばれて、一つ心になってほしいのです。　１１実は、クロエの家の者が知らせてくれたのですが、愛する皆さん、あなたがたの間には、口論や反目があるそうではありませんか。　１２ある人は「私はパウロの弟子だ」と言い、また、ある人は「私はアポロの弟子だ」とか「私はペテロの弟子だ」と言い、また、ある人は「自分たちだけがキリスト様の真の弟子だ」と言っているそうですね。　１３そのように言い争って、キリスト様を小間切れにするつもりですか。

しかし、このパウロが、あなたがたの罪のために死にましたか。　あなたがたのだれが、私の名によってバプテスマ（洗礼）を受けたでしょうか。　１４いま私は、あなたがたのところで、クリスポとガイオのほかには、だれにもバプテスマを授けなかったことを、心から感謝しています。　１５私が新しく、「パウロの教会」とやらを起こそうとしていたなどと考えられては、たまらないからです。　１６そうそう、ステパナの家族にもバプテスマを授けましたね。　しかし、そのほかは、だれにも授けた覚えはありません。　１７キリスト様が私をお遣わしになった目的は、バプテスマを授けさせることではなく、良い知らせを宣べ伝えさせるためです。　私の説教も、貧弱に聞こえるかもしれません。　難しいことばを使ったり、高尚な考えを述べたりはしないからです。　それというのも、キリスト様の十字架の教えの単純さに込められているすばらしい力を、そんなもので薄めてはならない、と考えているからです。
１８「イエス様は私たちを救うために死んでくださった」ということばが、滅んでゆく人々にはどんなにばからしく響くか、私にはよくわかっています。　しかし、救われた私たちは、これが神の力そのものであると認めるのです。　１９なぜなら、神様がこう言われるからです。
「わたしは、たとい人の目には
どんなにりっぱに見える計画でも、
人間の側の救いの計画をことごとく打ちこわし、
最も才気あふれる人の、最もすぐれた考えをも無視する。」
２０こうした知識人、学者、この世の重大問題にかかわる議論家たちについては、何と言われているでしょう。　神様は、彼らをみな愚か者とし、そんな知恵など無用の長物だときめつけました。　２１この世がいかに人間のすぐれた知恵を結集しても神様を見いだせないのは、神様のお考えによることです。　そして神様は、一般の人には、ばかばかしくて話にならないような神のことばを信じる人を、救うことにされたのです。　２２これは、ユダヤ人には、ばからしく思われるでしょう。　彼らは、説かれていることの真実さを証拠立てるような、天からのしるしを求めているからです。　また、それ以外の外国人にも、ばからしいと思われるでしょう。　彼らは、理性で納得できることとか、賢明と思われることしか信じないからです。　２３それで、人々を救うために死なれたキリスト様について話すと、ユダヤ人は腹を立て、外国人は「まるでナンセンスだ」と言うのです。
２４しかし神様は、ユダヤ人でも外国人でも、救いへと招かれた人々の目を開いて、キリスト様こそ彼らを救う偉大な神の力であることを、悟らせてくださいました。　実に、キリストご自身こそ、人々を救うための、神の知恵に満ちた計画の中心なのです。　２５この、いわゆる「ばからしい」神の計画は、最高の知識人の最も賢明な計画より、はるかにすぐれたものです。　また、キリストの十字架上の死という神の弱さは、実は、どんな人間よりも強いのです。
２６愛する皆さん。　自分たちの仲間を見回してごらんなさい。　キリスト様に従うあな

たがたの中には、有名人や権力者や金持ちはほとんどいません。　２７それどころか、神様は、この世では愚か者、無価値な者と思われている人々を、わざわざお選びになりました。　それは、この世で知恵ある者、りっぱな人とされている人々を辱しめるためです。　２８神様は、いわゆるこの世で見下されている者、全く取るに足りない者を選び、そんな人々を役立てることによって、世間では大物と言われる人を、なきに等しい者とされたのです。　２９ですから、どこのだれであっても、神の御前で自慢することはできません。　３０というのは、あなたがたがキリスト・イエスによっていのちを確保できたのは、ひとえに神様のおかげだからです。　キリスト様は、神様の救いの計画を明らかにしてくださいました。　私たちを神様に受け入れられる者としてくださったのは、このキリスト様でした。　この方は、私たちを、きよく聖なる者とし、また、私たちの救いを買い取るために、ご自身を投げ出されたのです。　３１旧約聖書の、「だれでも誇ろうとする者は、主のなさったことだけを誇れ」という、ことばどおりになるためです。
二
１愛する皆さん。　私が初めて皆さんのところへ行った時、神様からのことばを伝えるのに、程度の高い、難しいことばづかいをしたり、りっぱな理論をふりまわしたりはしませんでした。　２なぜなら、イエス・キリストと、その十字架上の死以外は語るまい、と決心したからです。　３私は弱々しく、おずおずと、震えおののきながら、あなたがたのところへ行きました。　４また私の説教も、雄弁な説得力あることばや、人間的な知恵にはほど遠く、全く単純そのものでした。　しかし、そのことばには神様の力がこもっていて、聞く人々は、それが神様からのことばだとわかったのです。　５私がそうしたのは、あなたがたの信仰が、人間のすぐれた思想にではなく、神様に根ざしてほしかったからです。　６とはいえ、成長したクリスチャンの間では、私はすぐれた知恵のことばを語ります。　しかしそれは、この地上の知恵ではなく、また、滅ぶべき運命にある、この世のお偉方の気に入る知恵でもありません。　７私たちのことばに知恵があるのは、それが神様から出た教えで、天の栄光に導く、神様の知恵に満ちた計画を告げるものだからです。　この特別の計画は、以前は隠されていましたが、世界の始まる前から、私たちのために備えられていたものです。　８しかし、この世の偉い人々は、このことを理解しませんでした。　もし理解していたら、まさか栄光の主を十字架につけるようなまねは、しなかったでしょう。　９まさに、旧約聖書の次のことばどおりです。
「普通の人が、これまで見聞きしたことも、
想像したこともないほどすばらしいことを、
神様は、ご自分を愛する人々のために
用意してくださった。」
１０しかし私たちには、このすばらしいことがわかっています。　神様がご自分の御霊を通して知らせてくださったからです。　神の御霊は、神様の最も奥深い秘密を探り出して、それを教えてくださるのです。　１１人が何を考えているか、その人が実際にどんな人間

であるか、本人以外にはわかりません。　同様に、神様の考えを知りうるのは、神の御霊以外にありません。　１２事実、神様は私たちに、この世の霊ではなく、ご自分の御霊を与えてくださいました。　それは、神様からの、すばらしい恵みと祝福という贈り物を、私たちが知るためです。
１３この贈り物について話す時、私たちは、自分が人間として選んだことばではなく、聖霊様によって教えられたことばを使ってきました。　つまり、聖霊様のことを説明するには、聖霊様のことばを用いるのです。　１４しかし、クリスチャンでない人は、聖霊様が教えてくださる神様の思いを理解することも、受け入れることもできません。　彼には、ばからしく思えるのです。というのは､自分のうちに聖霊様をいただいている人だけが、聖霊様のお考えを理解できるからです。　ほかの人にはそれが理解できません。　１５聖霊様をいただいている人は、すべてを見抜きます。　ところが、この世の人は彼を全く理解できないので、まごつき、とまどうのです。　１６どうして、この世の人にそれがわかるでしょう。　なぜなら、彼は、主の思いを知ったこともなく、それを主と論じ合ったこともなく、また、祈りによって神様の御手を動かしたこともないからです。　しかし、驚くべきことに、実際に私たちクリスチャンは、まさにキリスト様の思いと心の一部を共有しているのです。
三
１愛する皆さん。　私は皆さんにクリスチャン生活の面では、まるで子供に対するように書いてきました。　あなたがたは、主に従わないで、好きかってに、ふるまっています。そんなあなたがたに、御霊に満たされた健全なクリスチャンを相手にしているようには書けないからです。　２つまり、堅い食物を避けてミルクを飲ませました。　堅い食物の消化はむりだったからです。現に今でも､ミルクしか飲めない有様です。　３相変わらず、よちよち歩きもおぼつかないクリスチャンで、神様に従うどころか、好きかってに、ふるまっているのですから。　それは、あなたがたが、ねたみ合い、仲間割れをしていることからも、明らかです。　実際、あなたがたの態度ときたら、まるで主を信じていない人みたいです。　４「パウロとアポロとどちらが偉いか」などと口論して、教会を分裂させている現状では、主にあって少しも成長していないことを、さらけ出しているようなものではありませんか。
５私たちが争いの原因になるなんて！　いったい、私が何者だと言うのですか。　アポロが何者ですか。　ただ神様に仕える者にすぎず、それぞれに特別の才能が与えられて、あなたがたが信じるように、手助けしたにすぎません。　６私の仕事は、あなたがたの心に種をまくことでした。　アポロの仕事は、それに水をやることでした。　しかし、あなたがたの心の中でそれを生長させたのは神様であり､私たちではありません。　７まく者も、水をやる者も、さほど大切ではありません。　大切なのは、生長させてくださる神様なのです。　８アポロも私も、同じ目標を目指して働いていますが、それぞれ、その労苦に従って報酬を受けるでしょう。　９私たちは神様の協力者にすぎません。　あなたがたは、

私たちの畑ではなく、神様の畑です。　私たちの建物ではなく、神様の建物です。
１０神様は恵みによって、私に、どうしたら腕のよい建築家になれるかを教えてくださいました。　私が土台をすえ、アポロがその上に建物を建てました。　しかし、その土台の上に建物を建てる者には、細心の注意力が必要です。　１１私たちがすでに持っている本物の土台――　イエス・キリスト――以外に、土台をすえることなど、だれにもできないからです。　１２しかし、この土台の上には、いろいろの材料で建てることができます。金や銀や宝石を使う人もいれば、また、木や草、あるいは、わらなどを用いる人もあります。　１３やがて、すべてがテストされる、キリストのさばきの日が来ます。　その時には、建築家が各自どんな材料で建てたか明白になります。　それぞれの仕事は火でテストされ、なお、価値が変わらないかどうか、ほんとうに完璧な建物かどうかが、だれの目にも明らかになります。　１４そして、その土台の上に適切な材料を使って建てた人は、建物があとに残るので、報酬を受けます。　１５しかし、家が焼けてしまった人は、大損害をこうむります。　ただその人自身は、炎の中をくぐり抜けるように、命からがら救われるでしょう。
１６あなたがたは、自分たちがお互いに神の家であり、神の御霊が、その中に住んでおられることが、わからないのですか。　１７もし、神の家を汚したり、こわしたりする人がいれば、神様はその人を滅ぼされます。　なぜなら、神の家はきよく聖なるものだからです。　あなたがたは、その神の家なのです。
１８自分をだますのはやめなさい。　「世間一般からすれば、自分は人並み以上のりこう者だ」と、もし考えているのなら、そんな考えはかなぐり捨てて、むしろ、ばかになるほうが身のためです。　天からの真の知恵を受ける妨げにならないためです。　１９この世の知恵は、神様から見れば愚かだからです。　旧約聖書のヨブ記に、「神は人の知恵を、その人を捕らえるわなとして用いられる」と書いてあるとおりです。　つまり、人は自分の「知恵」につまずいて倒れるのです。　２０また、詩篇には、「主は、人間の考えや判断がどんな程度か、また、それがどんなに愚かしく無益か、よく知っておられる」とあります。
２１ですから、この世の知者の弟子であることを誇ってはなりません。　神様はすでに、あなたがたに必要なものは全部与えてくださっているからです。　２２パウロも、アポロも、ペテロも、あなたがたを助けるために、神様がお遣わしになったのです。　神様は全世界を、あなたがたの益になるよう与えてくださいました。　生も、また死さえも、あなたがたの配下です。　現在のものも、将来のものも、すべては、あなたがたの手にあります。　２３そして、あなたがたはキリスト様のもの、キリスト様は神様のものです。
四
１こういうわけで、アポロや私を、神の特別の計画を説明し、その祝福を配って回る、キリスト様の家来と考えてください。　２ところで、家来にとって一番大切なことは、主人の命令に従うことです。　３さて、私の場合はどうでしょう。　良い家来だったでしょうか。　この点に関して、あなたがたがどう考えようと、また、ほかの人がどう思おうと、

私は少しも気にしません。　この件については、自分の判断さえ、信用していないのです。
４良心にやましいところは、さらさらありませんが、だからといって、安心しきっているわけでもありません。　調べた上で判決をお下しになるのは、主ご自身だからです。
５ですから、主がまだお帰りにならないうちから、ある人が良い家来かどうか、せっかちに結論を下すことがないように注意しなさい。　主が来られる時、すべては明るみに出されます。　一人一人の心の奥底までが見通され、ありのままの姿が、だれの目にもはっきり見えるようになります。　その時、私たちが、なぜ主の仕事をしてきたのか、だれにもわかるようになります。　そして、一人一人が、ふさわしい賞賛を神様から受けるのです。
６これまで私は、アポロと自分を例にあげて説明してきました。ある人を特別にえこひいきしてはならないことを、教えたかったのです。　神様がお立てになった教師の一人を、他の教師以上に誇ってはなりません。　７いったい何について、そんなに得意になるのですか。　あなたの持ちもので、神様からいただかないものがありますか。　その全部が神様からいただいたものなら、どうして、さも偉そうにふるまうのですか。　また、自力で何かを成し遂げたような態度をとるのですか。
８あなたがたは、自分に必要な霊の食べ物はみな、すでに手にした、と思っているようです。　十分に満ち足り、霊的に満足しています。　私たちを差し置いて、裕福な王様になり、王座にふんぞり返っています。　ああ、ほんとうに王座についていたらよかったのに。そうすれば、いつか私たちも、その王座で、あなたがたと共に君臨できたでしょうに。　９しばしば、こんな思いが私に浮かびます。　神様は私たち使徒を、死刑を目前にした捕虜のように凱旋行列の最後に引き出し、人々や御使いの前で見せ物にされたのだ、と。
１０信仰のために私たちが愚か者になったと、あなたがたは言います。　そういうあなたがたは、もちろん、たいそう賢い、分別あるクリスチャンですとも。　私たちは弱くて、あなたがたは強いのです。　人受けのよいあなたがたと違って、私たちは笑いものにされています。　１１今の今まで、私たちは飢えと渇きに悩まされ、寒さをしのぐ着物さえありませんでした。　自分の家もなく、どこへ行っても、冷たくあしらわれるばかりでした。
１２また、生活のために、自ら汗水流して働きました。　私たちをのろう人たちを、かえって祝福し、危害を加えられても耐え忍び、　１３ののしられても、おだやかに答えるのが常でした。　それなのに、今この時に至るまで、私たちは、まるで足もとのちりや、ごみのようです。
１４このように書いたのは、あなたがたに恥をかかせるためではありません。　愛する子供として戒め、さとすためです。　１５たとい、キリスト様のことを教えてくれる人が一万人いたとしても、あなたがたの父はこの私だけであることを、忘れないでください。　良い知らせを伝えて、キリスト様に導いたのは、この私一人なのですから。　１６そこで、お願いがあります。　どうか、私の模範にならい、同じ行ないをしてください。
１７その点であなたがたの助けになればと思い、テモテを遣わします。　彼は、私がキリスト様に導いた一人で、主にあって愛し、信頼できる息子だからです。　彼は、クリスチ

ャンとしての私の生き方を、私が行く先々の教会で教えているとおりに、あなたがたに思い出させてくれるでしょう。
１８中には、「パウロはこちらへ来て話をつけるのがこわいのだ」と、思い上がっている人たちがいるそうですね。　１９しかし、もし主のお許しがあれば、私はすぐにでも行くつもりです。　そうすれば、その高慢な人たちが、ただ大きなことを言っているだけか、それとも、ほんとうに神様の力を持っているのか、わかるでしょう。　２０神の国は、ことばだけのものではありません。　神の力によって生きることなのです。　２１さあ、どちらを選びますか。　私が罰と叱責をもって行くほうですか。　それとも、愛とやさしい心とをもって行くほうですか。
五
１あなたがたの間に起こった、ひどい出来事について、みんながうわさをしています。　それは、「異教徒」でもしでかさないほどの不始末で、父の妻（おそらく、まま母のこと）と不義の関係にある人が、教会にいるそうではありませんか。　２それでもなお、自分たちは「霊的」だと白を切るつもりですか。　どうしてそのことで嘆き悲しみ、恥じないのですか。　なぜその人を教会から除名しないのですか。
３４いっしょにはいませんが、私もこの問題をよく考えてみました。　そして、実際その場に居合わせたように、主イエス・キリストの御名によって、すでに対策を決めました。さっそく教会で集会を開きなさい。――その時、主イエスの力があなたがたと共にあり、私も霊において出席します。　――　５そして、その人を罰するために、教会から追放して、サタンの手に引き渡しなさい。　そうするのは、主イエス・キリストが帰って来られる時に、その人のたましいが救われるようにと願うからです。
６潔白さを誇るあなたがたが、こんな事件に目をつぶっているかと思うと、ぞっとします。たとい一人でも、罪を犯すままに放任しておけば、やがてその影響が全員に及ぶことが、わからないのですか。　７恐ろしい癌であるその人を、あなたがたの間から除きなさい。そうすれば、きよさを保てます。　神の小羊であるキリスト様は、私たちのためにすでに殺されたのです。　８ですから、悪意や不正でいっぱいの、癌に冒された古い生活から、全く離れなさい。　しっかりキリスト様につながり、クリスチャン生活において、力強く成長しようではありませんか。　悪意や不正のまじったパンではなく、栄誉と誠実と真実の純粋なパンを、食べようではありませんか。
９私は以前、あなたがたに手紙で、悪い人たちと交際しないように書き送りました。　１０しかし、それは、性的な罪を犯している者、欲張りの詐欺師、どろぼう、偶像を拝む者、というような不信仰者とは口もきくな、という意味ではありません。　そのような人たちから離れていようとすれば、この世では、とうてい生きていけないからです。　１１私がほんとうに意図したところは、自分はクリスチャンだと公言している者で、しかも性的な罪にふける者、貪欲な者、人をだます者、偶像を拝む者、酒に酔う者、口ぎたなくののしる者とはつき合うな、ということです。　そのような者と共に食事をすることさえいけま

せん。
１２１３教会外の人たちをさばくことは、私たちの務めではありません。　神様お一人のなさることです。　しかし、教会員でありながら、このような罪を犯す者がいたら、きびしい処置をとることは、当然です。　その悪い人を処罰し、教会から除名しなければなりません。
六
１クリスチャン同士の争いが生じた場合、どちらが正しいかを、他のクリスチャンに判断してもらおうとせず、異教徒の法廷に訴え出るとは、いったいどういうつもりですか。　２いつか、私たちクリスチャンがこの世をさばき、支配する日が来ることを知らないのですか。　この世こそあなたがたにさばかれる運命にあるのに、どうしてあなたがたは、内輪のそんなささいな事件さえ解決できないのですか。　３クリスチャンは、天の御使いさえもさばくようになることがわからないのですか。　この地上での自分たちの問題をさばくくらい、朝飯前のはずです。　４それなのに、なぜ、教会外の、クリスチャンでもない裁判官のもとへ出向くのですか。　５あえてあなたがたに恥をかかせようと、私はこう言うのです。　いったい教会には、こうした争いを解決できる賢明な人が、一人もいないのですか。　６それで、クリスチャンがクリスチャンを訴え、しかも、それを異教徒の前に持ち出すようなまねをするのですか。
７そもそも、訴え合うこと自体が、クリスチャンにとって、すでに敗北です。　なぜ、不正な仕打ちに甘んじようとしないのですか。　むしろ、だまされるほうが、もっと主に喜ばれるでしょう。　８ところが、あなたがたは不正を行ない、だまし取り、しかも兄弟（信仰を同じくする人）に対して、そんなことをしているのです。
９１０こんな者が神の国を相続できないのは、当然ではありませんか。　思い違いをしてはいけません。　不道徳な生活をしている者、偶像を拝む者、姦淫する者や同性愛にふける者は、神の国を相続できません。　どろぼう、貪欲な者、酒に酔う者、人をそしる者、強盗も同様です。　１１あなたがたの中にも、そんな過去をもつ人がいます。　しかし、主イエス・キリストと神の御霊のおかげで、今や罪は洗い流され、あなたがたは神様のために聖なる者とされ、神様に受け入れられているのです。　１２キリスト様が禁じておられること以外、私には、何でもする自由があります。　しかしその中には、自分のためにならないこともあります。　たとい、してよいことであっても、それに捕らえられたら最後、やめようとしても簡単にやめられないことには、手を出しません。　１３たとえば、食べることについて考えてみましょう。　神様は、物を食べるために食欲を与え、消化するために胃を備えてくださいました。　しかし、だからといって、必要以上に食べてよい、ということにはなりません。　食べることが第一だなどと考えてはいけません。　なぜなら、いつの日か神様は、胃も食べ物も取り上げるからです。
しかし、性的な罪は絶対にいけません。　私たちの体は、そんなことのためにではなく、主のために造られたのです。　そして、主ご自身が、私たちの体に住もうと願っておられ

ます。　１４神様は、主イエス・キリストを復活させたのと同じ力で、私たちの体をも、死人の中から復活させようとしておられます。　１５あなたがたの体は、事実、キリスト様の体の一部であることが、わからないのですか。　キリスト様の体の一部と売春婦とを結びつけるようなことをしてよいでしょうか。　とんでもないことです。　１６もし人が売春婦と結びつくなら、その人と彼女は一心同体になることが、わからないのですか。　というのは、神様が聖書の中で言われるとおり、神様の目には、二人の者は一人とみなされるからです。　１７しかし、自分を主にささげるなら、その人とキリスト様は、一人の人として結び合わされるのです。
１８性的な罪とは無縁になりなさいと、私が言うのは、そのためです。　これほど体に悪影響を及ぼす罪は、ほかにありません。　この罪を犯すことは、自分の体に対して罪を犯すことです。　１９体は、神様があなたがたに与えてくださった聖霊の家であって、聖霊様がそこに住んでおられることが、まだわからないのですか。　あなたがたの体は、自分のものではありません。　２０神様が多額の代価を払って、あなたがたを買い取ってくださったからです。　ですから、あなたがたの体のどの部分も、神様の栄光を現わすために用いなさい。　その所有者は神様だからです。
七
１さて、この前の手紙にあった質問に答えましょう。　もし結婚しないなら、それは良いことです。　２しかし、普通の場合、結婚するのが一番良いでしょう。　男はそれぞれ妻を、女も夫を持ちなさい。　そうでないと、不品行の罪に陥る危険があるからです。
３夫は妻に、妻が当然受けるものを、すべて与えなければなりません。　妻もまた、夫に同様の義務を負っています。　４結婚した女性は、もはや自分の体を自分の思いのままにする権利はありません。　妻の体に対する権利は、夫にもあるからです。　同様に、夫も、もはや自分の体を自分の一存で、どうこうすることはできません。　妻も、夫の体に対する権利を持っているからです。　５ですから、互いにこの権利を拒んではなりません。　ただ一つの例外があります。　ひたすら祈りに専心するため、二人が合意の上で、一定の期間、夫婦生活から離れる場合です。　そのあと、二人はまたいっしょになるべきです。　それは、自制力の弱さにつけ込む、サタンの誘惑を避けるためです。
６私は、結婚しなければならない、と言っているのではありません。　ただ、結婚したければ、してもかまわない、と言っているのです。　７私の願いは、だれもが私のように、結婚しないでもやっていけることです。　しかし、人それぞれです。　神様は、ある人には、夫となり妻となる恵みを与え、ほかの人には、独身のまま幸福にすごす恵みを与えておられます。　８さて、独身者と未亡人にひとこと言いますが、もし私のようにしていられるなら、独身のままでいるほうが良いのです。　９しかし、もし自制できないなら、ためらわずに結婚しなさい。　情欲を燃やすよりは、結婚するほうが良いからです。
１０次に、結婚した人たちには、こうしたほうが良いと、単に忠告するのではなく、はっきりと命令しておきます。　この命令は、私が考え出したものではありません。　主ご自

身からの命令です。　妻は、夫と別れてはいけません。　１１しかし、もしすでに別れているなら、そのまま一人でいるか、夫のもとに帰るかしなさい。　また、夫も、妻を離縁してはいけません。
１２ここで、少し私の考えを、付け加えておきましょう。　これは主からの直接の命令ではありませんが、私が正しいと思っていることです。　夫がクリスチャンで妻はそうでない場合、いっしょにいることを妻が望むなら、追い出したり離婚したりしてはいけません。
１３また、妻がクリスチャンで夫はそうでない場合も、夫がいっしょにいることを望むなら、離婚してはいけません。　１４なぜなら、クリスチャンでない夫は、クリスチャンの妻の助けによって、クリスチャンになるかもしれないからです。　また、同様のことが、クリスチャンでない妻の場合にも言えるからです。　もし家族がバラバラになってしまったら、子供たちは主を知る機会を失うことになります。　一方、家族が一つにまとまっていれば、神様の計画によって、子供たちも救われる可能性があるのです。
１５しかし、もしクリスチャンでない夫や妻が、どうしても別れたいと言うなら、そうさせなさい。　こんな時、別れようとする相手を、むりに引き留めるべきではありません。　神様は、自分の子供たちが仲良く平和に暮らすことを望んでおられるからです。　１６なぜなら、結局のところ、妻にとって、いっしょにいれば夫がクリスチャンになるという保証はなく、夫にとっても、妻がクリスチャンになる保証はないからです。
１７しかし、これらを決めるにあたっては、結婚するにしてもしないにしても、神様の導きと助けに従い、どんな立場に置かれようとも、それに甘んじ、神様の御心にかなった生活をしている、と確信しなさい。　私はどこの教会でも、このように指導しています。
１８たとえば、クリスチャンになる前に、すでにユダヤ教の割礼（男子が生まれて八日目にその生殖器の包皮を切り取る儀式）を受けた人は、それを気にしてはいけません。　また、割礼を受けていない人は、今さら割礼を受けるべきではありません。　１９クリスチャンには、割礼を受けているかどうかで、違いはないからです。　しかし、真に神様を喜ばせ、神様の戒めを守っているかどうかでは、大きな違いがあります。　この点が重要なのです。
２０たいていの場合、人は、神様に召された時にしていた仕事を続けるべきです。　２１あなたが奴隷でも、そのことを気にしてはいけません。　しかし、もし自由の身になる機会があれば、もちろん自由になりなさい。　２２もし奴隷のあなたが主に召されたのなら、キリスト様は恐ろしい罪の力からあなたを解放して、自由の身にしてくださったことを忘れてはなりません。　また、もしあなたが自由人であって、主に召されたのなら、今はキリスト様の奴隷であることを忘れてはなりません。　２３あなたがたは、キリスト様が、代価を払って買い取ってくださった身であり、キリスト様のものなのです。　ですから、こうした、この世の誇りや恐れのすべてから、自由になりなさい。　２４愛する皆さん、クリスチャンになった時の状態がどんなものであろうと、その状態にとどまっていなさい。主が今、助けてくださるからです。

２５さて、今度は別の質問を取り上げましょう。　未婚の女性は結婚してもよいか、ということでしたね。　この問題について、私は主からとりたてて命令を受けたわけではありません。　しかし、主は恵みによって私に、人々から信頼されるに足る知恵を授けてくださいました。　それで、喜んで私の見解を申し上げましょう。
２６クリスチャンは、現在、大きな危機に直面しています。　そこが問題なのです。　このような時には、結婚しないでいるのが一番良いと考えます。　２７だからといって、もちろん、すでに結婚している人は別れてはなりません。　しかし、もし結婚していないなら、このような時に、結婚を急いではなりません。　２８しかし、もし男性が、どうしても結婚しようと決心し、いま結婚したとしても、それは正しいことです。　また、このような時に女性が結婚したとしても、罪を犯すわけではありません。　ただし、結婚すれば、余計な問題をかかえ込むことになるでしょう。　今は、そんな目に会ってほしくないのです。
２９私たちに残された時間はきわめて短く、主の仕事をする機会もきわめて少ないのです。そんなわけで、妻のある者も、主のために、できるだけ身軽にしていなければなりません。
３０喜びとか、悲しみとか、財産などが、神様の仕事をする妨げになってはなりません。
３１この世の魅力的なものに接する機会の多い者たちは、その機会を正しく利用し、おぼれることがないようにしなさい。　現在あるがままの世界は、やがて過ぎ去るからです。
３２何をするにしても、あなたがたがあれこれ思いわずらわないようにと願います。　独身の男性の場合、時間を主の仕事のためにささげることも、どうしたら主に喜んでいただけるかを常に考えることもできます。　３３しかし、結婚した男性は、そうはいきません。どうしても、この世での責任や、妻を喜ばせることに、気を取られがちになります。　３４こうして、彼の関心は分散するのです。　結婚した女性についても、同様のことが言えます。　同じ問題に直面するのです。　独身の女性は、何とかして主に喜ばれる者になりたい、主に喜ばれることをしたいと心を配ります。　しかし、結婚した女性は、家事や、夫の好ききらいまで、いろいろ考えないわけにはいきません。
３５私がこう言うのも、あなたがたのためを思うからであって、結婚させまいとしているのではありません。　私が願うのは、あなたがたが、思いを主からそらすようなことは、できるだけ避けて、主に仕えるのに役立つことは何でもすることなのです。
３６しかし、もし、高まる感情を抑えるのがむずかしいので結婚すべきだ、と考える人がいれば、それも結構です。　罪ではありません。　そういう人は結婚しなさい。　３７しかし、もし独身でいるだけの意志力を持ち、自分は結婚する必要もないし、むしろ、しないほうが良いと考えるなら、その決心はりっぱです。　３８つまり、結婚する人は、良いことをしているのであり、結婚しない人は、もっと良いことをしているのです。
３９妻は、夫が生きている間は、夫の一部です。　しかし、夫が死ねば、再婚してもかまいません。　ただし、その場合、相手はクリスチャンに限ります。　４０けれども、私の考えでは、もし再婚しないでいられるなら、そのほうが、はるかに幸せでしょう。　神の

御霊からの助言をいただいて、私はこう言うのです。
八
１次に、偶像に供えられた物を食べることはどうか、という質問に答えましょう。　この件については、だれもが、自分の判断は正しいと思っています。　しかし、自分の万全の知識がどんなに重要に思えても、教会を建て上げるためにほんとうに必要なのは、愛です。
２もし、自分はどんな問題にも答えられる、と思い上がっている人がいたなら、それは、自らの無知をさらけ出しているにすぎません。　３しかし、ほんとうに神様を愛している人は、神様に知られているのです。
４では、先ほどの問題はどうなるでしょう。　偶像に供えた肉を食べてもよいのでしょうか。　私たちはみな、偶像など実際には神ではなく、神様はただお一人だけで、ほかにはいないことを知っています。　５ある人は、偉大な神々は天にも地にも数多いと考えています。　６しかし私たちは、父なる神ただお一人しかいないことを知っているのです。　この神様が、万物を創造し、人間をご自分のものとして造られたのです。　また私たちは、ただ一人の主、イエス・キリストがおられることを知っています。　この方が、すべてのものを造り、私たちにいのちを与えてくださるのです。
７けれども、クリスチャンの中には、このことがわかっていない人もいます。　そういう人は、これまでずっと、偶像を生きているもののように考えてきたので、ただの偶像に供えられたにすぎない物を、あたかも、実在する神々に供えたかのように思ってしまうのです。そのため、それを食べる時にひどく気になり、傷つきやすい良心が痛むのです。　８ただ、このことを覚えておいてください。　神様は、私たちがそれを食べるか食べないかなど、気にかけておられません。　食べなくても損にはならないし、食べても得をするわけではありません。　９ただし、いくら自由だといっても、あなたがたがそれを食べたために、あなたがたよりも良心の弱いクリスチャンが罪を犯すようなことにならないよう、くれぐれも注意しなさい。
１０あなたが、偶像への供え物を食べても別に害にはならないことを知っていて、神殿の食堂で食事をしたとしましょう。　それを、食べてはいけないと思っている人が見たら、どうでしょうか。　その人は、いつもそれは悪いことだと思っているのに、つい気持ちがゆるんで、自分もそれを食べてしまうでしょう。　１１すると、あなたは、それを食べても差しつかえないことを知っていたために、傷つきやすい良心を持った兄弟に、信仰上の大きな損害を与えた責任を負うことになります。　キリスト様は、その兄弟のためにも死んでくださったのです。　１２ある行為は悪いと信じている兄弟が、あなたがたのふるまいに刺激されて、その行為をしてしまうなら、あなたがたはその兄弟に罪を犯し、同時に、キリスト様に対しても罪を犯すことになるのです。　１３ですから、もし偶像に供えた肉を食べることで、兄弟に罪を犯させるなら、私は一生、それを食べません。　私の兄弟に罪を犯させたくないからです。
九

１私は使徒、すなわち神様の使者ですから、単なる人間に対して責任を負っているわけではありません。　私は、実際、この目で、主イエスを見た者です。　あなたがたの人生が一変したのは、私が主のために一生懸命働いた結果なのです。　２たとい、ほかの人が私を使徒と認めなくても、あなたがたにとって、私は確かに使徒なのです。　あなたがたは、私を通してキリスト様に導かれたのですから。　３私の権利をとやかく問題にする人たちに対しては、次のように答えることにしています。
４いったい、私には、どんな権利もないのでしょうか。　ほかの使徒たちのように、あなたがたの家で、客としてもてなしてもらう権利はないのでしょうか。　５もし私にクリスチャンの妻があればの話ですが、ほかの弟子や主の兄弟やペテロ同様、妻を連れて旅行もできないのでしょうか。　６ほかの使徒はあなたがたから生活費をもらっているのに、バルナバと私だけは、生活のために働き続けなければならないのでしょうか。　７いったい、自費で軍務につかなければならない兵士がいるでしょうか。　丹精した作物を食べる権利のない農夫の話など、聞いたこともありません。　世話をしている羊や、やぎの乳も飲めない羊飼いがいるでしょうか。　８私は、ただ人間の考えだけを引き合いに出して、権利がどうのこうのと言うのではありません。　神様のおきてでは、どうなっているか示しましょう。　９神様は、モーセにお与えになったおきての中で、「穀物を踏んで脱穀している牛に口輪をかけて、その穀物を食べる自由を奪ってはならない」と言っておられます。　神様は牛のことだけを心にかけて、こう言われたのだと思いますか。　１０私たちのことも、心にかけておられたのではないでしょうか。　もちろんそうです。　クリスチャンの働き人が、その人のおかげで益を受ける人々から報酬をもらうのは当然であることを、神様は教えたかったのです。　耕す者も脱穀する者も、当然、収穫の分け前にあずかることを、期待してよいのです。
１１私たちはあなたがたの心に、良い霊の種をまきました。　とすれば、そのお返しとして食べ物や着物を要求するのは、行き過ぎでしょうか。　１２あなたがたは、神のことばを伝えてくれたほかの人たちには、そうした必需品を提供しています。　それは当然のことです。　すると、なおさら私たちは、それらを要求する権利があるはずではありませんか。　けれども、一度も、この権利を持ち出したことはありません。　かえって、働いて自活し、援助を受けませんでした。　どんな報酬も求めなかった理由は、キリスト様の良い知らせをせっかく伝えても、報酬のために、あなたがたの関心が薄れるのではないかと心配したからです。
１３神の宮での奉仕者は、神様にささげられる食べ物の一部を自分のために取るように、という神様の命令を、知らないのですか。　また、祭壇の前で働く人々は、主へのささげ物の分け前をいただくのです。　１４同じように、主は、良い知らせを宣べ伝える者は、それを信じるようになった人々から生活を支えてもらうべきだ、と命じておられます。　１５けれども、私はあなたがたに、ビタ一文要求したことはありません。　それに、今からでもそうしてほしいと、それとなく、ほのめかしているのでもありません。　実を言えば、

無報酬であなたがたに良い知らせを宣べ伝えることの満足感を失うくらいなら、飢え死にしたほうがましです。　１６それというのも、良い知らせを宣べ伝えても、別に私の名誉にはならないからです。　たとい、やめたいと思っても、やめるわけにはいきません。　もしやめたら、全くみじめなことになります。　それを宣べ伝えなかったら、私は災いに会います。
１７もし自分から進んで、この務めを引き受けたのであれば、主は私に特別な報酬を下さるでしょう。　しかし、実際はそうではなかったのです。　神様が私を選び出して、この聖なる任務につかせてくださったのであって、選ぶ自由などなかったのです。　１８このような状況で、私の受ける報酬とはどんなものでしょう。　だれにも負担をかけず、自分の権利を少しも主張せずに、良い知らせを宣べ伝えることから来る特別の喜び、これこそ、私の報酬なのです。
１９これにはまた、すばらしい利点があります。　だれからも給料をもらわないということは、だれにも気がねがいらないということです。　けれども、一人でも多くの人をキリスト様に導くために、自ら進んで、また喜んで、すべての人の奴隷となりました。　２０ユダヤ人といっしょにいる時は、ユダヤ人のようにふるまいます。　それによって、彼らが良い知らせに耳を傾け、キリスト様に導かれるためです。　また、ユダヤ教の習慣や儀式を守っている外国人といっしょにいる時は、私自身はそのことに同意していなくても、議論したりはしません。　何とかして、彼らを助けたいからです。　２１異教徒といっしょにいる時は、できるだけ、彼らに合わせるようにしています。　もちろん、クリスチャンとしての正しさだけは失わないように、気をつけますが。　こうして、彼らに合わせることによって、その信頼を得、彼らをも助けることができるのです。
２２ささいなことで、すぐに良心を悩ませる人たちのそばでは、自分の知識をひけらかすような行動をしたり、「それは考えが足りない」などと指摘したりはしません。　そうすると、彼らのほうでも心を開いてくれて、力になることができます。　そうです。　キリスト様のことを話し、その人が救われるためには、私はどんな人に対しても、対等の立場に立とうと心がけています。　２３これは、良い知らせを伝えるためであり、また、キリスト様に導かれる彼らを見て、私自身も祝福を受けるためでもあります。
２４競走をする場合、優勝者は一人だけです。　ですから、あなたがたも、優勝するように走りなさい。　２５優勝するには、ベストを尽くせるよう、何事にも節制しなければなりません。　競技の選手は、この世のメダルや優勝杯を得ようと、あらゆる困難と戦い、ひたすらトレーニングに励みます。　しかし私たちは、神様から与えられる、決して朽ちない栄光を受けるために、そうするのです。　２６ですから私は、ゴールを目指して、わき目もふらずに、全力で走ります。　勝つために戦うのです。　空を打つようなボクシングをしたり、おもしろ半分に走ったりもしません。　２７競技の選手のように、自分の体をむち打って、きびしく鍛練し、自分の気分のままにではなく、なすべきことができるよう、訓練しています。　そうでないと、ほかの人たちを競技に参加させておきながら、自

分は失格者として、退場を命じられるかもしれないからです。
▪
一〇
１愛する皆さん。　昔、私たちの先祖が荒野でどんな経験をしたか、決して忘れてはなりません。　神様は、雲を案内役として立て、彼らを導きました。　また、全員が安全に紅海を通り抜けるように導きました。　２これは、彼らの「バプテスマ」であった、とみなしてよいでしょう。　彼らは、モーセに従う者として――すなわち、指導者であるモーセにすべてを任せて――海と雲によって、バプテスマを受けたのです。　３４さらに神様は、奇蹟によって、荒野で彼らに、食べ物と飲み水をお与えになりました。　彼らは、キリスト様から水をいただいたのです。　キリスト様は、信仰に新しい力を与える力強い岩として、いっしょにおられたのでした。　５それにもかかわらず、大部分の者が神様に従わなかったので、神様は、荒野で滅ぼしてしまいました。
６この事実から、大切な教訓を学べます。　悪事を追い求めてはならないこと、　７また、偶像を拝んではならないことです。　〔旧約聖書には、金の子牛を拝むために「人々は座っては飲み食いし、立っては踊った」と書いてあります。〕
８ほかにも、教訓があります。　彼らのうちのある人たちが外国人の女と不道徳な罪を犯した時は、一日のうちに二万三千人もが死にました。　９また、彼らのように、主がどれだけ忍耐してくださるかを、試すようなまねをしてはなりません。　主を試そうとした人たちは、蛇にかまれて死にました。　１０また、彼らのように、神様に向かって文句を言ったり、「神様のなさり方は不当だ」などと、不平を並べてはなりません。　それゆえに、神様は御使いを遣わして、彼らを滅ぼされたのです。
１１先祖たちの身に起こった、これらのことは、同じことをくり返すなと私たちに警告する実例、すなわち、生きた教訓です。　それが記録されたのは、世の終わりが近づいている今、私たちがそれを読んで、彼らの例から教訓を学ぶためにほかなりません。
１２ですから、よく注意しなさい。　「私は、そんなことは絶対にしないから大丈夫」などと思っている人がいれば、そういう人こそ、よくよく注意しなければなりません。　同じ罪を犯すかもしれないからです。　１３ただ、このことを覚えていてください。　あなたがたの生活の中に入り込む悪い欲望は、別に新しいものでも、特別なものでもないということです。　ほかにも多くの人たちが、あなたがたよりも先に、同じ問題にぶつかってきたのです。　どんな誘惑にも、抵抗するすべはあります。　神様は決して、とてもたち打ちできないほどの誘惑に会わせたりは、なさいません。　神様がそう約束されたのであり、神様の約束は必ず実行されるのです。　神様は、あなたがたが、誘惑に忍耐強く立ち向かえるように、それから逃れる方法を教えてくださいます。　１４ですから、愛する皆さん、偶像礼拝は、どんなものでも、用心深く避けてください。
１５あなたがたは頭がよいのですから、私の言うことが正しいかどうか、自分で考え、判断してください。　１６私たちが聖餐式で主の食卓に着き、ぶどう酒を飲んで、主の祝福

を求める時、それは、そのぶどう酒を飲む者がみな、キリスト様の血の祝福を共に受けることを、意味しないでしょうか。　また、一つのパンをちぎって共に食べる時、それは、私たちがキリスト様の体の恩恵を共に受けることを、示すのではないでしょうか。　１７私たちの数がどんなに多かろうと、問題ではありません。　みな同じパンを食べて、同じキリスト様の、体の部分であることを示すのです。　１８ユダヤ人のことを考えてごらんなさい。　供え物を食べる者はみな、それによって一つとされているのです。
１９私は何を言おうとしているのでしょうか。　異教徒たちが供え物をささげる偶像は、実際に生きているとか、ほんとうの神であるとか、あるいは、偶像への供え物に何か価値があるとか、言おうとしているのでしょうか。　とんでもありません。　２０私が言いたいのは、偶像に物を供える人は、もちろん神様にではなく、悪霊にささげる点で、みな一つに結ばれているということです。　あなたがたの中から、偶像への供え物を異教徒たちと共に食べたりして、悪霊の仲間になる人など、一人も出てほしくありません。　２１主の食卓の杯と悪霊の食卓の杯の両方を飲むことはできません。　同じように、主の食卓のパンと悪霊の食卓のパンを、両方とも食べることなどできません。
２２いったい、あなたがたは、主を怒らせようとしているのですか。　自分が主よりも強いとでも言うのですか。　２３もし食べたければ、偶像への供え物を食べても、一向にかまいません。　その肉を食べても、神様のおきてに反しません。　しかし、だからといって、それをどんどん食べてよい、ということにはなりません。　たとい、少しもおきてに反しないことでも、最善とは限らず、また有益でない場合もあるのです。　２４自分のことばかり考えてはいけません。　他人を思いやり、何がその人にとって最善か、よく考えなさい。
２５こうすればよいのです。　市場で売られている肉は、どれでも自由に食べなさい。　それが偶像に供えられた物かどうか、いちいち尋ねなくてよいのです。　そうすれば、良心を傷つけることもないでしょう。　２６地と、地上にある良いものはみな、主のものであり、あなたがたを楽しませるために、あるのですから。
２７クリスチャンでない人から食事に招待された場合、行きたければ、行ってかまいません。　そして、出される物は、何でも食べなさい。　それについて、いちいち尋ねてはいけません。　尋ねなければ、偶像に供えられた物かどうかわからないし、食べて良心が傷つく心配もありません。　２８しかし、もしだれか、「この肉は偶像に供えられたものです」と注意してくれる人がいたら、その人のために、またその人の良心のために、出された肉を食べるのはやめなさい。　２９この場合、肉についての自分の判断よりも、相手の考えが、大切なのです。
しかし、あなたはこう言うでしょう。　「なぜ、他人の考えに支配されたり、束縛されたりしなければならないのですか。　３０神様に感謝してそれを食べることができれば、他人から、とやかく言われる筋合いは、ないではありませんか。」　３１では、その理由を申しましょう。　つまり、食べるにも、飲むにも、何をするにも、ただ神様の栄光のために

すべきだからです。　３２ですから、相手がユダヤ人であれ、外国人であれ、クリスチャンであれ、だれをも、つまずかせてはいけません。　３３これは、私の生活の原則でもあります。　私は、何をするにも、すべての人に喜ばれようと務めています。　自分のしたいことや、つごうの良いことをするのでなく、人々が救われるのに最善のことをするのです。

一一

１私がキリスト様の模範にならっているように、あなたがたも、私の模範にならってください。　２愛する皆さん。　あなたがたが私の教えを忘れず、すべてそのとおり実行していることを、とてもうれしく思います。　３しかし、知っておいてほしいことが一つあります。　それは、妻は夫に責任があり、夫はキリスト様に責任があり、キリスト様は神様に責任がある、ということです。　４ですから、男が祈ったり説教をしたりする時、帽子を取らないなら、キリスト様を侮辱することになります。　５また、女が頭にかぶり物を着けずに、人前で祈ったり預言したりすれば、夫を侮辱することになります〔かぶり物は、夫に対する服従のしるしだからです〕。　６何もかぶりたくないなら、いっそ髪もそってしまいなさい。　もし頭をそるのが女として恥ずかしいことなら、かぶり物を着けなさい。７しかし、男は何もかぶるべきではありません〔礼拝の時の女の帽子は、男への服従のしるしだからです〕。

男は神様に似せて造られたのであり、神様の栄光の現われです。　女は男の栄光の現われです。　８最初の男は女から造られたのではなく、最初の女が男から造られたのです。　９また、最初の男アダムは、エバのために造られたのではなく、エバが、アダムのために造られたのです。　１０そういうわけで、女は、男の権威の下にあるしるしとして、頭にかぶり物を着けなければなりません。 すべての御使いたちがそれを認めて、喜ぶためです。１１しかし、神様の計画では、男と女は、お互いを必要とし合う存在であることを、忘れてはなりません。　１２なぜなら、最初の女は男から造られたとは言っても、それ以後、男はすべて、女から生まれたからです。　そして、男も女も、両方をお造りになった神様から出ているのです。

１３あなたがたは、この問題について、実際にどう考えますか。　女がかぶり物も着けずに人前で祈ることは、正しいでしょうか。　１４１５女が頭をおおうことは、感覚的にもきわめて自然ではありませんか。長い髪は女の誇りだからです。　ところが、男の長い髪は恥なのです。　１６たとい、この点について別の意見の人がいても、私はこのようにしか教えません。　すなわち、女が教会で公に預言したり祈ったりする時は、必ずかぶり物を着けなさい、と。　このことは、どこの教会でも同じように考えています。

１７さて、もう一つ、私が不服に思っている事を書きます。　あなたがたの聖餐式の集まりが益になるどころか、かえって、害になっているように思えるからです。　１８その席で議論し合い、分裂がますます深刻化していると、私の耳にも伝わってきます。　ですから、それを信じないわけにはいきません。　１９たぶん、あなたがたは、だれが正しいか

はっきりさせるには、分裂もやむをえないと思っているのでしょう。
２０あなたがたの集まりは、主の晩餐のためではなく、　２１自分たちの食事をするためのものです。　ほかの人と分け合おうと待っている人など、一人もいず、早い者勝ちにがつがつ食べているそうではありませんか。　おかげで、十分食べられずにお腹をすかしている者もいれば、浴びるほど飲んで酔っぱらっている者もいる、ということです。　２２何ということでしょう。　ほんとうに、そうなのですか。　食べたり飲んだりなら、自分の家でできるではありませんか。　そうすれば、教会の名誉を傷つけたり、食べ物を持って来られない貧しい人たちに、恥をかかせたりしないですみます。　このことについて、何と言ったらよいでしょう。　ほめてでも、もらいたいのですか。　まさか！　そうはいきません。
２３なぜなら、以前あなたがたに伝えたとおり、聖餐式について、主ご自身がこう言われたからです。　すなわち、ユダが主イエスを裏切った日の夜、主イエスはパンを取り、　２４神様に感謝の祈りをささげてから、ちぎって弟子たちに与え、こう言われました。　「取って食べなさい。　これは、あなたがたのために引き裂かれる、わたしの体です。　わたしを思い出すために、このようにして食べなさい。」　２５夕食の後、同じように、ぶどう酒の杯を取って言われました。　「この杯は、神様とあなたがたとの間の新しい契約です。この契約は、わたしの血によって立てられ、効力を発します。　これを飲むたびに、わたしを思い出すため、このようにしなさい。」　２６ですから、あなたがたは、このパンを食べ、杯を飲むたびに、「主は私たちのために死んでくださった」という主の死の意味を、くり返し告白するわけです。　主が再び来られる時まで、続けなさい。
２７ですから、もしふさわしくない態度でこのパンを食べ、主の杯を飲む人がいれば、彼は、主の体と血とに対して罪を犯すことになります。　２８ですから、聖餐に臨む前に、めいめいが注意深く、自分を反省しなければなりません。　２９もしキリスト様の体を気にもかけず、その意味を考えもせずに、ふさわしくないままでパンを食べ、杯を飲むなら、神様のさばきを招くはめになります。キリスト様の死をもてあそんだわけですから。　３０あなたがたの中に弱い者や病人が多く、また死者も出たのは、そのためです。
３１しかし、食べる前に、注意深く自分を反省するなら、さばきや懲らしめを受けることはありません。　３２けれども、私たちが主にさばかれ、懲らしめられるのは、この世の人々といっしょに有罪を宣告されないためです。　３３こういうわけですから、愛する皆さん、主の晩餐〔聖餐式〕に集まる時は、皆がそろうまで待ちなさい。　３４ほんとうに空腹な人は、家で食べなさい。　それは、いっしょに集まりながら、自分の身に罰を受けないためです。
そのほかのことは、そちらに行ってから、お話ししましょう。
一二
１さて、皆さん。　聖霊様があなたがたに授けてくださった特別な才能について、書きたいと思います。　この点で、少しの誤解もないようにと願うからです。　２覚えがあると

思いますが、あなたがたはクリスチャンになる前、ひと言も口がきけない偶像のもとへ、あちこち出かけたものでした。　３ところが、いま接している人たちは、自分は神の御霊から託されたことばを語っている、と主張する人たちです。　その人たちがほんとうに神様に導かれているのか、それとも、ただそんなふりをしているだけか、どのようにして見分ければよいでしょう。　そのためには、次の点に注意しなさい。　すなわち、神の御霊の力を受けている者はだれも、イエスをのろうことはできないし、また、聖霊様の助けがなければ、だれも、ほんとうの意味で、「イエスは主です」と告白できない、という点です。

４ところで、神様は私たちに、いろいろな種類の特別な才能を与えてくださっていますが、みな、聖霊様から出たものです。　５神様への奉仕はいろいろですが、私たちは同一の主に仕えているのです。６神様は私たちの生活の中で、いろいろな方法で働きかけてくださいます。　しかし、神様のものとされた私たちの中で、また私たちを通してお働きになるのは、ただ一人の神様です。　７聖霊様は、教会全体の利益のために、私たちを通して神様の力を現わしてくださるのです。

８御霊様はある人に、賢明な助言者としての才能を与えておられます。 またある人には、研究し、人に教える点ですぐれた才能を与えておられます。　９また、ある人には特別な信仰を与え、ある人には病気を治す力を与えておられます。　１０そのほか、奇蹟を行なう力が与えられている人もあれば、預言や説教をする力をいただいている人もいます。 また御霊様は、ある人には、「自分は神のことばを与えられている」と主張する人が、ほんとうに神の御霊によって語っているかどうかを見分ける力を、与えておられます。　そしてさらに、ある人には、異言〔今まで知らなかったことば〕で語る能力を与え、同時に、別の人にその異言を解き明かす能力を、授けておられるのです。　１１こうしたすべての賜物と力は、同一の聖霊様が思いのままに、私たちに与えてくださるのです。

１２人体には多くの部分がありますが、その各部分が結び合わされて、一つの体が成り立っています。　キリスト様の「体」についても、同じことが言えます。　１３私たちはそれぞれ、キリスト様の体の一部です。　ある者はユダヤ人、ある者は外国人、ある者は奴隷、ある者は自由人です。　しかし、聖霊様は、私たちをみな結び合わせて、一体としてくださいました。　私たちは、ただ一人の御霊様によって、キリスト様の体に結び合わされるバプテスマ（洗礼）を受け、みな、同じ神の霊を与えられているのです。

１４確かに、体はただ一つの部分からではなく、多くの部分から成り立っています。　１５たとい足が「私は手ではないから、体の一部ではない」と言いはったところで、体の一部でなくなるわけではありません。　１６また、もし耳が「私は耳で、目ではないから、体の一部ではない」などと言ったら、どうでしょう。　そんなことで、耳が体から離れることができますか。　１７考えてもごらんなさい。　もし体全体が目であれば、聞くことができるでしょうか。　もし体全体が巨大な一つの耳なら、においをかげるでしょうか。

１８しかし、神様は私たちの体を、そのように造られたのではありません。　体のために多くの部分を造り、各部分を思い通りに配置されました。　１９もし体が単一の器官でで

きていたら、それこそ、ばけものです。　２０ですから、神様は多くの器官を造られました。　しかし、やはり体は、ただ一つなのです。
２１目が手に、「私には、あなたなんか必要じゃない」などとは、決して言えません。　また、頭が足に、「あなたなんかいらない」とも言えません。
２２それどころか、一番弱く、一番不要だと思われている部分が、実は、最も必要なのです。　２３そうです。　私たちは、むしろ余分と思える部分が与えられていることを、特に喜ぶのです。　そして、人目にさらすべきでない部分は、人目から注意深く守ります。
２４一方、見られてもよい部分は、もちろん、特別な注意を要しません。　そのように、神様は、あまり重要視されない部分が特別に重んじられ、注意深く扱われるように、体を組み立ててくださったのです。　２５それは、各部分が幸福になり、互いにいたわり合うためです。　２６もし一つの部分が苦しむなら、すべての部分が共に苦しみます。　そして、一つの部分が重んじられれば、すべての部分が喜ぶのです。
２７そこで、私は次のことを言いたいのです。　すなわち、あなたがたは共に、キリストという一つの体であり、一人一人が、なくてはならない部分である、と。　２８キリスト様は、自分の体である教会を形成する個々の部分として、人々を次のように任命されました。
使徒、
預言者〔神のことばを伝える者〕、
教師、
奇蹟を行なう者、
病気を治す力のある者、
人々を援助する者、
人々の働きを管理する者、
異言で話す者。
２９皆が使徒でしょうか。　もちろん違います。　皆が説教者でしょうか。　違います。皆が教師でしょうか。　皆が奇蹟を行なえるでしょうか。　３０皆が病気を治せるでしょうか。　もちろん、そんなことはできません。　神様は全員に、異言で話す能力を与えておられるのでしょうか。　またそれを、皆が理解し、解き明かすことができるでしょうか。
３１そんなことはありません。　しかし、あなたがたは、これらの賜物より、もっと大切なものを、全力を尽くして求めなさい。
ところで、まず、これらの賜物よりもすぐれたものについて教えましょう。
一三
１たとい私に、異言（今まで知らなかったことば）で話す才能があり、また、天と地のあらゆることばを話すことができても、人を愛していなければ、ただの騒音にすぎません。
２同様に、預言をする才能があり、将来の出来事を予知し、あらゆることに通じていても、人を愛さないなら、何の役に立つでしょう。　また、山を動かすほどの強い信仰を持って

いても、愛がないなら、私には何の値打もないのです。　３そして、自分の財産を全部、貧しい人たちに分け与えても、また、良い知らせを宣べ伝えるために火あぶりの刑に甘んじても、愛がなければ、何の値打もありません。
４愛はきわめて忍耐強く、親切です。　愛は決してねたみません。　また、決して自慢せず、高慢になりません。　５決して思い上がらず、自分の利益を求めず、無礼なふるまいをしません。　愛は自分のやり方を押し通そうとはしません。　また、いらいらせず、腹を立てません。　人に恨みをいだかず、人から悪いことをされても、気にしません。　６決して不正を喜ばず、真理が勝つ時は、いつも喜びます。　７だれかを愛する人は、どんな犠牲をはらっても、誠実であろうとするでしょう。　また、いつもその人を信じ、その人に最善を期待し、いのちがけで、その人を守り抜くでしょう。
８神様からいただいた特別の賜物や力は、いつかは尽きるものです。　しかし、愛は永遠に続きます。　預言すること、人の知らないことばで語ること、特別な知識などの賜物は、やがて消え去ります。　９たとい、特別な才能が与えられていても、いま私たちの知っていることは、ほんの一部にすぎません。　また、最高の才能に恵まれた人の説教でも、貧弱なものです。　１０しかし、私たちが完全無欠な存在とされる時、これら不完全な賜物は不要になり、消え去ってしまうのです。
１１それは、こんなことから説明できるでしょう。　子供の時の私は、子供のように話し、子供のように考え、子供のように判断していました。　しかし、大人になると、考え方も成長して、子供時代とは違い、今では子供っぽいこととは縁を切りました。　１２同様に、今の私たちの神様に対する知識や理解は、そまつな鏡にぼんやり映る姿のようなものです。しかし、やがていつかは、面と向かって、神様の完全な姿を見るのです。　いま私が知っていることはみな、おぼろげで、ぼんやりしています。　しかしその時には、いま神様が私の心を見通しておられるのと同様、すべてが、はっきりわかるでしょう。
１３いつまでも残るものが三つあります。　信仰と希望と愛です。　その中で一番すぐれたものは愛です。
一四
１愛を、最高の目標にしなさい。　それと共に、聖霊様が与えてくださる特別な才能、特に、神様のことばを伝える預言の賜物を求めなさい。
２しかし、もしあなたが、異言を語る〔すなわち、今まで知らなかったことばで話す〕場合、それは神様への語りかけであって、人々へではありません。　人々には、そのことばが理解できないからです。　あなたは、御霊の力によって語るのですが、それはみな、秘密の事柄なのです。　３しかし、神様からのことばを語る者は、人々を励まし、慰め、人々の主にある成長を助けます。　４ですから、「異言を語る」者は、自分の信仰を成長させますが、神様のことばを語って預言する者は、教会全体が幸福になることと、きよくなることとを助けるのです。
５もちろん私は、あなたがたがみな、「異言を語る」才能を与えられることを望んでいます。

しかし、それにもまして、神様のことばを語って預言してくれることを望みます。　なぜなら、聞いたこともないことばで話すよりも、預言することのほうが、はるかにまさっており、有益だからです。――もっとも、異言のあとで、その内容をわかるように説明できるなら、それも、少しは役立つでしょう。
６愛する皆さん。　私があなたがたのところで、異言を語ったとしても、どうしてプラスになるでしょう。　しかし、もし神様から与えられたひらめきを語り明かし、また、いま私にわかっていることや、これから起こることや、神のことばの真理を語るなら、それは、あなたがたにとって必要かつ有意義なことです。　７異言で語るより、はっきりした、わかりやすい国語で語るほうがよいことは、笛やハープのような楽器のことを考えてみても、わかります。　はっきりした音色が出なければ、どんな曲を演奏しているのか、だれにもわからないからです。　８もし軍隊のラッパ手が、はっきりした音を出さなければ、それが戦闘の合図であっても、兵士にはわかりません。　９相手に理解できないことばで話しかける場合も、同様です。　まるで、だれもいない空間に、話しかけるようなものです。
１０世界には、非常に多くのことばがありますが、どのことばも、それがわかる人にはすばらしいものです。　１１ところが私には、ちんぷんかんぷんなのです。　そのようなことばで話しかけてくる人と私とは、お互いに外国人同士ということになります。　１２あなたがたは、聖霊様が下さる特別の賜物を、熱心に求めているのですから、教会全体の益となるような、最善のものを求めなさい。
１３異言で話す才能を与えられている人は、そのことばを自分で理解する力も与えられるように祈りなさい。　そうすれば、あとで、人々にわかりやすく説明できます。　１４もし私が、自分でも理解できないことばで祈るなら、霊では祈っていても、自分では何を祈っているのかわかりません。　１５では、どうすればよいのでしょう。　私は二通りのことをします。　異言で祈り、また、だれにでもわかる普通のことばでも祈るのです。　異言で賛美し、また、自分にもわかるように、普通のことばでも賛美するのです。　１６もしあなたが、異言を用いて、霊だけで神様を賛美し、感謝をささげても、それを理解できない人たちは、どうして、いっしょに賛美できるでしょう。　また、どうして、いっしょに感謝できるでしょう。　１７確かに、あなたは心からの感謝をささげていることでしょう。　しかし、そこにいる人たちには、何の益にもならないのです。
１８私は、個人的には、あなたがたのだれよりも多く「異言を語る」ことを、神様に感謝しています。　１９しかし、公の礼拝の場では、異言で一万語話すよりも、人々に役立つ五つのことばを話すほうが、ずっとよいのです。
２０愛する皆さん。　こんな道理がわからないような子供であってはなりません。　悪事をたくらむことにかけては、無邪気な赤ん坊でありなさい。　しかし、こうしたことを理解する点では、知恵のある大人になりなさい。　２１旧約聖書に次のように書いてあります。　神様は、外国語で自分の民に語るために、外国人を遣わされるが、それでもなお、民は耳を傾けない、と。　２２「異言」は、信者のためではなく、信じない人々のさばき

のしるしとして語られるのです。　けれども、預言〔神の深い真理を説くこと〕は、クリスチャンにとって必要なもので、クリスチャンでない者は、まだ、それを聞く準備ができていません。
２３それにしても、まだ救われていない人や、この才能を持っていない人が教会に来て、皆が聞いたこともない国のことばで語っている現場に出くわしたら、きっと気違いだと思うでしょう。　２４しかし、もしあなたがたが、神様のことばを語って預言しているなら〔たといその説教が、主として信者向けのものであっても〕、まだ救われていない者やクリスチャンになったばかりの者〔すなわち、そのようなことがわからない者〕も、みんなの説教によって、自分が罪人であると、はっきり自覚するでしょう。　そして、耳にする一つ一つのことばによって、良心を刺されるでしょう。　２５そのうちに、心の中の隠れた思いがあばかれ、ついには、「神様は、ほんとうにあなたがたと共におられます」と叫んでひれ伏し、神様を礼拝するでしょう。
２６さて、皆さん、私の言わんとすることをまとめてみましょう。　あなたがたが集まる時には、ある人は賛美し、ある人は教え、ある人は神様から教えられた特別の知識を語ります。　ある人は異言を話し、またある人は、その異言の内容を人々に説明します。　ただし、これらはすべて、全体の益となり、一同が主にあって成長できるよう役立つものでなければなりません。　２７異言で話すのは、せいぜい二人か、多くても三人どまりにしなさい。　しかも、一度に一人が話し、その内容を解き明かせる人がそばにいなければなりません。　２８もし解き明かしのできる人がいなければ、声に出して語ってはいけません。公に語るのではなく、ひとり言か、または神様に向かって語りなさい。
２９預言の才能に恵まれている人の場合も、一人ずつ二人か三人が預言しなさい。　そして、ほかの人はみな、それを聞くのです。　３０しかし、だれかの預言中に、別の人に主から特別のお告げとか考えが与えられたら、先に話していた人は口をつぐみなさい。　３１このようにして、預言の才能に恵まれている人はみな、代わる代わる話しなさい。　そして、だれもが学び、励まされ、助けを受けるのです。　３２神様からことばを与えられている人は、自分の番まで自制して待つ能力も与えられていることを、忘れてはなりません。　３３神様は、無秩序や混乱を喜ばれません。　調和を愛する神様ですから、どの教会にも、この調和があるのです。
３４女は教会の集会では黙っていなさい。　口をはさんではいけません。　なぜなら、聖書にもはっきり記されているように、女は男に服従すべきだからです。　３５もし何か質問があれば、家で夫に尋ねなさい。　教会の集会で意見を述べることは、女としてふさわしくないからです。
３６この考えに文句がありますか。　神様のお心を知るのは、自分たちコリントの信者だけの特権だ、とでも思っているのですか。　それなら、まちがっています。　３７預言の才能や、そのほか聖霊様が与えてくださる才能に恵まれていると自認する人はまず、私の主張自体が主からの命令であると、認めなければなりません。　３８しかし、それでもな

お賛成できないなら、そんな人は、無知のまま放っておきましょう。
３９ですから、信仰の友である皆さん、神様からのことばをはっきりと語れる預言者になれるよう、熱心に願いなさい。　また、「異言を語る」のはよくないなどと、決して言ってはなりません。　４０ただし、何事も適切に秩序正しく行なうようにしなさい。
一五
１さて、皆さん、良い知らせとはほんとうは何なのか、思い出してほしいのです。　というのも、それは少しも変質していず、以前あなたがたに宣べ伝えた良い知らせと同じものだからです。　あなたがたは、それを喜んで受け入れました。　そして今に至っています。信仰が、このすばらしい知らせにしっかり根ざしているからです。　２もし初めにいい加減な気持ちでその良い知らせを信じたのでなく、今もなお、それを堅く信じているのなら、この良い知らせは、あなたがたを救ってくれるのです。
３私はまず第一に、かつて自分も知らされた、次のことを伝えました。　すなわち、キリスト様は、聖書に記されているとおり、私たちの罪のために死なれ、　４葬られたこと、そして預言者たちの予告どおりに、三日目に墓の中から復活されたことです。　５キリスト様はペテロに姿を現わし、そのあと「十二弟子」の残りの者の前にも立たれました。　６そしてある時には、五百人以上のクリスチャンの前にも、姿をお見せになったのです。　その中の何人かはもう死にましたが、大部分は今も健在です。　７それから、キリスト様はヤコブに、そして使徒たち全員に現われました。　８そして最後に、未熟児みたいな私の前にも現われてくださったのです。　９私は、使徒の中では一番ちっぽけな者であり、使徒と呼ばれる資格さえない者です。　神の教会の迫害者だったのですから。
１０しかし、今の私があるのは、ただひとえに、あふれるほどに注がれた神様の恵みと、あわれみとのおかげです。　この恵みとあわれみは、むだではありませんでした。　なぜなら、私はほかのどの使徒たちよりも、よく働いてきたからです。　とはいえ、実際に働いたのは私ではありません。　神様が私の内部で働き、祝福してくださったのです。　１１一番よく働いたのが、私であろうとだれであろうと、そんなことは問題ではありません。大切なのは、私たちが良い知らせを宣べ伝え、あなたがたが、それを信じたという事実です。
１２しかし、これだけは言わせてください。　私たちが伝えたとおり、あなたがたが、キリスト様の死からの復活を信じているのなら、なぜ、「死んだ者は二度と生き返らない」と言ったりする人が出るのですか。　１３もし死人の復活がないなら、キリスト様は、今も死んだままのはずです。　１４もしそれが事実なら、私たちが宣べ伝えていることはすべてむだであり、神様に対するあなたがたの信頼もむなしく、価値のない、絶望的なものとなるのです。　１５そして、使徒はみな、うそつきということになります。　なぜなら、「神様はキリスト様を、墓から復活させられた」という私たちの主張は、もし死人の復活がないのなら、当然、うそになるからです。　１６もし死人が復活しないのなら、キリスト様は、今なお死んだまま、ということになります。　１７そして、神様が救ってくださ

ると信じ続けることは、全くばかげており、あなたがたは、今なお有罪宣告を受けたまま、ということになります。　１８また、すでに死んだクリスチャンは、みな、滅んでしまったことになります。　１９もしクリスチャンであることが、この世の生活でしか価値がないのなら、私たちほどみじめな者はありません。
２０しかし、事実、キリスト様は死人の中から復活しました。　そして、復活が約束されている何千万何百万もの人の、復活第一号となられたのです。
２１一人の人〔アダム〕の行為によって、死がこの世に入って来ました。　そして、このもう一人の人〔キリスト〕の行為によって、今や、死人の復活は事実となったのです。　２２人はみな、罪深いアダムの子孫として、その血縁のために、死ななければなりません。罪のあるところには、その結果として、死もあるのです。　しかし、キリスト様と血縁関係にある者はみな、やがて復活します。　２３ただし、順番があります。　最初にキリスト様が復活なさいました。　次に、キリスト様が帰って来られる時に、彼に属する全員が復活します。
２４そのあとで、終わりが来ます。　その時、キリスト様はあらゆる敵を滅ぼし、国を父なる神にお渡しになります。　２５王としてキリスト様が支配なさるのは、敵を全滅させる時までだからです。　２６その敵の中には、最終の敵である死も入っています。　死もまた、打ち破られ、とどめを刺されなければならないのです。　２７というのは、キリスト様には、すべてのものを支配する権威が、父なる神から授けられているからです。　ただ、すべてのものと言っても、この支配権をお授けになった父なる神だけは、もちろんキリスト様の支配下に含まれません。　２８キリスト様は、ついにあらゆる敵との戦いに勝利を収めると、神の子として、自分を父なる神の支配におゆだねになります。　それは、子にすべてを征服する力をお授けになった神様が、最終的に、最高の存在となられるためです。
２９もし死人の復活がないのなら、死んだ人のためにバプテスマ（洗礼）を受ける人たちには、何の意味があるのですか。　将来の死人の復活を信じてもいないのに、どうしてそんなことをするでしょう。
３０また、なぜ私たちは、いつも死に直面し、いのちの危険にさらされるのに、甘んじているのでしょうか。　３１事実、私は毎日、死に直面しています。　このことは、あなたがたの主にある成長を、私が誇るのと同じように、確かなことです。　３２もし私が、この地上の生涯のために、野獣――それはエペソの人たちのことですが――と戦ったのだとしたら、どれだけの価値があるでしょう。　死後の復活などありえないのなら、「大いに飲み食いして、愉快に過ごそう。　文句があるか。　どうせ明日は死ぬ身だ。　死ねば、何もかもおしまいなのだ」ということになります。
３３そう言う人たちにだまされてはいけません。　それに耳を傾けていると、同じ状態に陥ってしまいます。　３４目を覚まして、罪を犯すのをやめなさい。　恥をかかせるつもりで、あえて申しますが、あなたがたの中には、神様について実際には何も知らない、全

くクリスチャンらしくない人がいます。
３５しかし、こう聞く人もいるでしょう。　「死人は、どのように復活するのですか。　どんな体になるのですか。」　３６なんとばからしい質問でしょう。　畑を見れば、わかるではありませんか。　まいた種は、まず死ななければ、芽を出しません。　３７そして、その種から出る緑の芽は、初めの種とは全く別物です。　土にまくのは、麦でも何でも、干からびた小さな種粒だからです。　３８ところが神様は、その種に、それぞれにふさわしい、美しく新しい体を与えてくださいます。　それで、いろいろな種類の種から、それぞれ植物が生長してくるのです。　３９いろいろな種類の種や植物があるように、肉にもいろいろな種類があります。　人間、獣、鳥、魚は、それぞれみな異なっています。
４０天の御使いは、私たちとは全く異なった体を持っています。　その美しさや栄光は、人間の体の美しさや栄光とは異なっています。４１太陽には太陽の栄光があり、月や星には別の栄光があります。　一つ一つの星にも、美しさや輝きに違いがあります。
４２同じように、死んだら朽ち果てる、私たちの地上の体は、復活の時に与えられる体とは異なったものです。　復活の体は決して死にません。　４３今の体は、病気や死で、私たちを悩まします。　しかし、復活の時には、それは栄光に満ちたものとなるのです。　確かに、今は死ぬべき弱い体ですが、復活の時には、力にあふれた体となるのです。　４４今は死ぬべき人間の体にすぎませんが、復活の時には、神様から与えられる超自然の体になります。　自然のままの人体があるように、神様からの超自然の体も存在するのです。
４５旧約聖書には、「最初の人アダムは、自然のままの人間の体を与えられた」と書いてあります。　しかし、キリスト様は、アダムより、はるかにまさった方です。　なぜなら、いのちを与える方となられたからです。
４６初めはこのような体をまとっている私たちに、後には、神様が天上の体を下さるのです。　４７アダムは地上の土から造られた者ですが､キリスト様は天から来られた方です。
４８人間はだれでも、アダムと同じ土の体を持っています。　しかし、キリスト様のものとなった人はみな、キリスト様と同じ、天から与えられる体を、持つようになるのです。
４９今アダムと同じ体を持っている私たちは、そのように、いつの日かキリスト様と同じ体を持つのです。
５０愛する皆さん。　念を押しておきます。　地上の、血と肉の体は、神の国から閉め出されます。　今の私たちの体は死ぬべきもので、永遠に生きることはできません。　５１しかし、ここで驚くべきことを告げましょう。　それは、神様のすばらしい特別の計画です。　私たちは全滅するのではありません。　新しい体をいただくのです。　５２終わりのラッパが鳴り渡る時、一瞬のうちに、そうなるのです。　天からラッパの音が響くと、死んでいたすべてのクリスチャンは、たちまち、絶対に死なない、新しい体に復活します。次に、まだ生き残っている私たちもまた、一瞬にして、新しい体に変わるのです。　５３なぜなら、地上の、死ぬべき今の体は、天上の、決して死ぬことのない、永遠に生きる体に変えられなければならないからです。

５４この時、「死は勝利にのみ込まれた」という旧約聖書のことばが、現実となるのです。
５５５６「死よ。　おまえの勝利はどこにあるのか。
死よ。　おまえのとげはどこにあるのか。」
罪、すなわち死をもたらすとげは、ことごとく切り取られます。　そして、罪をあばくおきても、もはや私たちをさばきません。　５７これらすべてのゆえに、どう神様に感謝したらよいでしょう。　神様は、主イエス・キリストによって、私たちに勝利を与えてくださるのです。
５８そこで愛する皆さん、このように将来の勝利は確実なのですから、しっかり立って、動揺することなく、いつも、主の働きに熱心に励みなさい。　なぜなら、復活は確かであり、主のための働きが、決してむだ骨に終わらないことを、あなたがたは知っているからです。
一六
１さて、エルサレムのクリスチャンあての献金については、次のようにお願いしたいのです。　〔この件に関しては、ガラテヤの諸教会にも同様に通知しておきました。〕　２日曜日ごとに、めいめいが、前の週の収入の一部を別にしておいて、この献金にあてなさい。その額は、主の助けによって得た収入に応じて決めなさい。　私がそちらに行ってから、一度に全部集めることなど、ないようにしてください。　３私が着いたら、使者として信頼できる人たちを、あなたがたに選んでもらい、手紙をことづけて、エルサレムに派遣し、その愛の贈り物を届けさせましょう。　４私も同行するほうがよければ、そうしましょう。
５私は、まずマケドニヤに行ってから、あなたがたを訪問する予定です。　マケドニヤには、ちょっと立ち寄るだけです。　６しかし、あなたがたのところでの滞在は、かなり長びくでしょう。　もしかしたら、ひと冬を過ごすかもしれません。　そうなれば、あなたがたに送られて、次の目的地へ向かえます。　７今は、旅の途中でちょっとだけ会い、すぐにいとまごいなど、したくないのです。　主のお許しがあれば、しばらく滞在したいと思っています。　８ただ、五旬節（ユダヤ教の祭りの一つ）までは、エペソを離れません。
９というのは、ここで、良い知らせを宣べ伝えるための門戸が、広く開放されているからです。　しかし、それだけにまた、敵対する者も多いのですが……。
１０テモテが着いたら、あたたかく迎えてやってください。　私と同様、主の仕事に励んでいる人です。　１１彼が若いからといって、見下したり、無視したりしないでください。そちらでのすばらしい体験を胸に、喜び勇んで、彼が帰って来られるようにしてください。私は、彼の一行の帰りを、首を長くして待っています。　１２私はアポロにも、ほかの人たちと共にコリントへ行くよう、しきりに勧めたのですが、彼には、今、それが神様の望んでおられることだとは、どうしても思えないようです。　あとで機会があれば、行くでしょう。
１３目を覚まして、霊的な危険に身構えていなさい。　いつも、主に忠実でありなさい。男らしく行動し、強くありなさい。　１４すべての点で、親切と愛から出た行動をとりな

さい。
１５ステパナとその一家を覚えているでしょう。　ギリシヤで最初にクリスチャンになった人たちです。　今、あちこちのクリスチャンのために、熱心に援助や奉仕の活動をしています。　１６どうか、彼らの指示には従ってください。　また、彼ら同様、あなたがたのために真心から献身的に働いている人たちを、できる限り助けてください。　１７ステパナとポルトナトとアカイコの来訪を、心から喜んでいます。　この人たちは、離れていて手助けできないあなたがたに代わって、助けてくれたのです。　１８彼らから私が受けた励ましは大きく、たいへん勇気づけられました。　あなたがたもきっと、同様に励まされたことでしょう。　心から感謝してほしいのです。
１９アジヤの諸教会から、くれぐれもよろしくとのことです。 アクラとプリスカ、また、礼拝のためにその家に集まっている人々がみな、心からよろしくと言っています。　２０こちらの友人たち全員が、よろしくとのことです。　あなたがたも、会った時には、互いに愛のこもったあいさつを交わしなさい。
２１この手紙の最後のことばは、私が自分で書きます。　２２もし主を愛さない人があれば、その人はのろわれます。　主イエスよ、来てください。　２３主イエス・キリストの愛と恵みが、あなたがたと共にありますように。　２４私の愛が、キリスト・イエスにあって、あなたがた一同と共にありますように。
パウロ
▪

コリント人への手紙　Ⅱ（コリント教会の皆さんへ　Ⅱ）
キリストの教えを伝えるのは、決して楽なことではありません。　むしろ苦しいことのほうが多いでしょう。　著者パウロの場合も、まさに苦難の連続でした。　先の手紙で、コリント教会の問題が完全に解決したわけではありませんでした。　特に、パウロが使徒かどうかが引き続き問題になっていました。　この手紙でパウロは、自分が使徒であることをくり返し主張しています。　そのほか、いつも貧しい者を助けるように、というような実際問題も、述べられています。

一
１　神様からキリスト・イエスの使者に任命されたパウロと、信仰の友テモテから、コリントおよびギリシヤ全土に住むすべてのクリスチャンへ。　２どうか、私たちの父なる神と主イエス・キリストが、あなたがた一人一人に、あふれるほどの祝福と平安とを、注いでくださいますように。
３４私たちの神様は、なんとすばらしいお方でしょう。　神様は、主イエス・キリストの父であり、あらゆる慈愛の源です。　そして、私たちが苦しみや困難にあえいでいる時、すばらしい慰めと励ましを与えてくださるお方です。　どうしてでしょう。　それは、苦しみの中にあって、同情と励ましを必要としている人々に、私たちも、神様から受ける助けと慰めを与えることができるためです。　５私たちがキリスト様のために苦しめば苦しむほど、慰めと励ましが、もっと豊かにキリスト様から与えられるという事実、これは確かです。　６７私たちが大きな苦しみに会うのも、あなたがたが神様の慰めと救いを受けるためです。　現に、苦しんでいる私たちを、神様は慰めてくださいました。　それはまた、あなたがたのためでもあるのです。　すなわち、あなたがたが同じような苦しい境遇に立たされた時、神様の慰めが、どれほどやさしいものであるかを、私たちの体験から知るためです。　神様は必ず、苦しみに耐え抜く力を与えてくださるのです。
８愛する皆さん。　私たちがアジヤでなめた苦しみについて、ぜひ知っていただきたいと思います。　非常に激しい迫害を受け、打ちのめされて、もうこれ以上生き延びるのはむりかと思いました。　９死を覚悟し、自分の無力さを痛いほど思い知らされました。　しかし、それがよかったのです。　というのは、そんな状態の中で、何もかも神様にお任せしたからです。　救い出すことができるのは、神様だけです。　死人を復活させることさえ、できるお方なのですから。　１０やはり、神様は私たちを助け、恐ろしい死の危険から救い出してくださいました。　そしてこれからも、何度でも、救い出してくださるに違いありません。　１１あなたがたもまた、祈りによって私たちを助けてください。　それは、私たちの安全を願う、その祈りに、神様がはっきりと答えてくださるのを見て、あなたがたが、もっともっと感謝と賛美をささげるようになるためです。
１２私たちは、どのような場合にも、自分の知恵に頼らず、助けてくださる主に静かに信頼し、きよさと誠実さをもって行動してきました。　特にあなたがたには、そのようにふ

るまってきました。　胸を張ってそう言えるのを、とてもうれしく思います。　１３１４私の手紙は、単刀直入に、しかも、真心をこめて書いたものです。　どちらにも取れるあいまいなことは、決して書いていません。　それで、たとい今は、私についてあまりよく知らないあなたがたでも〔もっとも、いつかはよく知っていただきたいのです〕、私を受け入れ、私を誇りとしてくださるよう望みます。　もちろん、今も、ある程度そうしてくれていますが。　ちょうど、主イエスがもう一度帰って来られる日に、私があなたがたを誇りにするのと同じようにです。　１５１６あなたがたの私に対する理解と信頼を確信したので、次のような計画を立てました。　すなわち、マケドニヤへ向かう途中、まずコリントであなたがたに会い、また帰りにも立ち寄るという計画でした。　そうすれば、あなたがたは二倍の祝福を受けることができ、私も、あなたがたに送られて、ユダヤへ行けるからです。
１７では、なぜ計画を変更したのか、と尋ねるかもしれません。　その決心が、まだ固まっていなかったからでしょうか。　それとも、私も世間の人のように、ほんとうは「いいえ」のつもりで「はい」と言ったりしたのでしょうか。　１８絶対にそんなことはありません。　私がそんな人間でないことは、神様の真実さと同様に確かです。　私の「はい」は、ほんとうに「はい」なのです。
１９テモテとシルワノと私は、神の子キリスト・イエスについて語ってきました。　この方は、「いいえ」の意味で「はい」と言われる方ではありません。　いつも、ことばどおり実行なさいます。　２０また、どれほどたくさんの神様の約束でも、ことごとく実行し、完成なさいます。　それで私たちは、この方がどんなに真実な方か、すべての人に知らせ、その御名をほめたたえるのです。　２１あなたがたや私を、忠実なクリスチャンとし、また私たちを、良い知らせを宣べ伝える使徒に任命してくださったのは、この神様です。　２２また、神様のものとなった証拠の印を私たちに押し、私たちの心に聖霊様を遣わしてくださったのも神様です。　この聖霊様は、私たちが神様のものであることの保証であり、また、神様が下さる最初の贈り物です。
２３この神様に証人となっていただき、少しの偽りもない真実を述べましょう。　私がまだ、あなたがたを訪問しないでいるのは、きびしくしかりつけて悲しい思いをさせたくないからです。　２４コリントへ行く時には、〔もっとも、すでにしっかりした信仰を持っているあなたがたのために、私は、そうお役に立てるわけではありませんが〕あなたがたを喜ばせることをしたいと願っています。　悲しみではなく、喜びをもたらしたいのです。
二
１私は、「コリントの人々を苦しめるような訪問は、二度とすまい」と、自分に言い聞かせました。　２もし私があなたがたを悲しませているとしたら、どうして喜べるでしょう。私を喜ばせることができるのは、あなたがただけです。　それなのに、私があなたがたを苦しませているとしたら、どうして喜ばせてもらえるでしょう。　３前の手紙であのように書いたのは、私が行く前に、あなたがたの手で、事を処理してもらいたかったからです。

そうすれば、会って、一番喜ばせてくれるはずの人たちから、悲しい思いをさせられなくてすむでしょう。　あなたがたの喜びと私の喜びとは、切っても切れない関係なのですから。　私が喜び勇んで行くのでなければ、あなたがたも、幸福な気持ちにはなれません。
４どんなにつらい思いであの手紙をしたためたことか！　胸も張り裂けんばかりの思いで、正直なところ、泣いてしまったのです。　傷つけるつもりなどさらさらなく、あなたがたをどれほど愛しているか、また、あなたがたの間で起こった問題をどんなに心にかけているか、ぜひ知ってもらいたかったのです。
５６覚えておいてください。　あの手紙に書いた、今度の事件の張本人は、私を悲しませたというより、あなたがた全体を悲しませたのです。――もっとも、私もずいぶん悲しい思いをしましたが。　私はその人に対して、必要以上にきびしい態度をとりたくありません。彼は、みんなから責められて、もう十分罰を受けています。　７今はむしろ、赦し、慰めてやりなさい。　そうしないと、あまりの悲しみと絶望に打ちひしがれて、立ち直れなくなるかもしれません。　８ですから、あなたがたが今もってどんなに深くその人を愛しているか、どうぞ示してやってください。
９私の手紙は、あなたがたが、どのくらい私の指示に従ってくれるかを、確かめるためのものでした。　１０あなたがたがだれかを赦すなら、私もその人を赦します。　何であれ、私が赦したのは、キリスト様の権威によって、あなたがたのために赦したのです。　１１赦さなければならない理由は、ほかにもあります。　それは、サタンにあざむかれないためです。　私たちは、サタンのたくらみを知っているのですから。
１２さて、私がトロアスの町まで行った時、主は、良い知らせを宣べ伝える、絶好の機会を与えてくださいました。　１３ところが、そこでは、信仰の友である、愛するテトスに会えなかったので、彼がどこにいるのか、その身に何か起こったのではないかと、気がかりでなりませんでした。　そんなわけで、何とかしてテトスに会おうと、人々に別れを告げ、まっすぐマケドニヤに向かったのです。
１４しかし、神様に感謝します。　神様は、キリスト様のお働きのゆえに、私たちを、勝利の行進に加えてくださいました。　その目的は、私たちがどこにいようと、今、神様が私たちを通して、主のことを他の人々に告げ知らせ、良い知らせを、かぐわしい香水のように、あたりに広めてくださることです。　１５神様に関するかぎり、私たちの生活には、すばらしい、かぐわしい香りが漂っています。　それは、私たちのうちにあるキリスト様の香りであって、回りの救われている人々にも、救われていない人々にも、一つの香りなのです。　１６救われていない人々にとっては、私たちは死と滅びの恐れに満ちた香りのように思われます。　けれども、キリスト様を知る人々にとっては、いのちを与える香りなのです。　しかし、このような任務にふさわしい者とは、いったいどんな人でしょう。
１７それはただ、私たちのように、神様から遣わされて、真心から語る者、キリスト様の力によって、神様の前で語る者だけです。　私たちは、よく人がするように、神様のことばを都合よく曲げて、売り歩くようなことはしません。

三

１私は今、偽教師のまねをして自己推薦を始めているのでしょうか。　あなたがたの身近にいる偽教師たちは、自分で自分を推薦したり、あなたがたあての長い推薦状を持って行ったりしなければならないような人たちです。　しかし私は、だれからも推薦状を書いてもらう必要などないと思っていますが、いかがでしょう。　また、あなたがたからの推薦状も必要ではありません。　２私に必要な推薦状は、あなたがた自身です。　あなたがたの心の、そのすばらしい変わりようを見れば、だれにも、私たちの良い働きは一目瞭然です。　３あなたがたは、私たちが書いたキリスト様からの手紙であることが、だれにもわかります。　それは、ペンとインキで書かれたのではなく、生きておられる神の御霊によって書かれたものです。　石の板にではなく、人の心に刻み込まれた手紙です。

４大胆にこのような自慢をするのは、キリスト様を通して、心から神様に信頼しているからに、ほかなりません。　すなわち、神様は必ず、私たちのことばが真実となるよう助けてくださる、と信じているからです。　５不変の価値があることを、自分の力でできる、と考えているからではありません。　私たちの力も成功も、ただ神様から来るのです。　６神様は、人々を救う新しい契約について、人々に知らせることができるように、助けてくださいました。　私たちは、「神様のおきてを全部守れ。　さもないと滅びるぞ」と教えているのではありません。　「聖霊様が新しいいのちを下さる」と教えているのです。　「十戒」を守って救われようとする、古い方法の行き着く先は死です。　しかし新しい方法によれば、聖霊様からいのちをいただけるのです。

７けれども、死に通じる、おきてによる、その古い方法も、初めは輝かしい栄光をおびていたのです。　その栄光のまばゆさに、イスラエルの人々は、モーセの顔をまともに見られないほどでした。　従うべき神のおきてを示した時のモーセの顔は、神の栄光そのもので光り輝いていたからです。――もっとも、その輝きは、やがて消え去る運命にあったのですが。　８とすれば、聖霊様がいのちを与えてくださる、この今の時には、はるかにすばらしい栄光を、期待できるのではないでしょうか。　９死に通じる計画にも栄光があったのなら、人々を神様との正しい関係に導く計画には、なおさら、栄光が満ちあふれるのです。　１０事実、モーセの顔の最初の栄光は、新しい契約の圧倒的な栄光に比べたら、取るに足りないものです。　１１もし消え去ってゆく古い方法にも、天の栄光が満ちていたとすれば、私たちの救いのために立てられた神様の新しい計画には、はるかにまさった栄光があるはずです。　それは永遠に続くものだからです。

１２この新しい栄光は、決して消え去らないと確信しているので、私たちはきわめて大胆に語れるのです。　１３そして、モーセのように、栄光の消えていく様子をイスラエルの人々から隠すため、顔に覆いをかけたりはしません。

１４覆いがかけられたのは、モーセの顔だけではありません。　イスラエルの人々の思いや、理解力も、覆われたのです。　今でも、聖書が朗読される時、ユダヤ人の心と思いには、厚い覆いがかかっているように思えます。　というのは、聖書のほんとうの意味を知

ることも、理解することもできないからです。　この覆いは、キリスト様を信じてはじめて、取り除かれるのです。　１５確かに、今日でも、彼らがモーセの書を朗読する時、その心には覆いがかかったままです。　それで、「十戒」に従うことこそ救われる道だ、と考えているのです。
１６しかし、だれでも罪に背を向け、主のほうに向く時、その覆いは取り除かれます。　１７主は、いのちを与えてくださる御霊です。　御霊のおられるところには自由があります。〔それは、神のおきてを守って救われようとすることからの解放です。〕　１８しかし、私たちクリスチャンには、顔の覆いがありません。　鏡のように、主の栄光をはっきり映すことができます。　そして、主の御霊がうちで働いてくださるにつれて、私たちはますます主に似た者となるのです。
四
１神様の良い知らせを伝えるという、このすばらしい務めに、私たちを任命してくださったのは、神様ご自身です。　それは、あわれみによるのです。　ですから、私たちは、決して落胆しません。　２信じさせるために、あれこれたくらむようなまねはしません。　だましたりは、したくないのです。　書かれてもいないことを、聖書の教えであるかのように思わせることも、決してしません。　そのような恥ずかしい方法は、絶対に用いません。語る時には、神様の前に立って真実を語ります。　私たちを知っている人はみな、このことを認めてくれるはずです。
３もし私たちの宣べ伝える良い知らせが、だれかの目に隠されているとしたら、永遠の滅びに突っ走っている人に対してです。　４それは、この邪悪な世の神であるサタンのしわざです。　目隠しをさせて、その人の上に輝いている良い知らせの栄光が、見えないようにしているのです。　また、まことの神、キリスト様の栄光に関する、私たちのすばらしい証言を、理解できないようにしているのです。　５私たちは、自分のことを宣伝しているのではありません。　主であるキリスト・イエスのことを、宣べ伝えているのです。　自分については、ただ、イエス様が私たちのために成し遂げてくださったことを知ったので、あなたがたに仕える者となった、とだけ言っておきます。　６というのは、「やみの中に光が輝け」と言われた神様が、私たちに、イエス・キリストの顔にある神の栄光の輝きを、理解させてくださったからです。
７しかし、このすばらしい宝〔いま私たちのうちに輝いている光と力〕は、こわれやすい器〔私たちの弱い肉体〕の中に入っています。　うちにある、その栄光に満ちた力が、確かに神様から与えられたものであって、私たち自身から出たものでないことは、だれの目にも明らかです。
８私たちは四方八方から苦しめられ、圧迫されますが、押しつぶされ、打ちのめされることはありません。　「どうしてこんなことが……」と途方にくれるようなことが起きても、絶望して投げ出したりはしません。　９迫害されていても、神様は決してお見捨てになりません。　打ち倒されても、また立ち上がって、前進を続けます。　１０この体は、かつ

てのイエス様がそうであったように、いつも死に直面しています。　ですから、私たちを安全に守ってくださる方は、うちに生きておられるイエス様だけであることが、だれの目にも明らかになるのです。
１１まことに、私たちは、主に仕えているために、絶えず死の危険にさらされています。　しかし、そのことでかえって、死ぬべき私たちの体によって、イエス・キリストの力を明らかに示す機会が、常に与えられているのです。　１２私たちは、良い知らせを宣べ伝えているために、死に直面しています。　しかしその結果、あなたがたに永遠のいのちが与えられるのです。
１３旧約聖書の詩篇の作者は、「私は信じている。　それゆえに語る」と言いました。　同じように私たちも、自分が神様の守りの中にあることを確信して、信じていることを大胆に語ります。　１４主イエス様を死から復活させてくださった神様が、私たちをもイエス様と共に復活させ、あなたがたといっしょに御前に立たせてくださることを、信じています。　１５こんな苦しみに甘んじているのも、あなたがたのためを思うからです。　キリスト様に導かれる人が増えれば増えるほど、その大きな恵みを感謝する気持ちがますます満ちあふれ、主の栄光がますます明らかになるのです。
１６ですから、私たちは決して落胆しません。　肉体はしだいに衰えますが、うちにある力は日ごとに強くなってゆきます。　１７今の私たちの苦しみや悩みは、結局のところ、取るに足りないものであり、それほど長続きもしません。　しかも、このつかの間の苦しみは、永遠に尽きない、あふれるばかりの、神様の祝福をもたらすのです。　１８ですから私たちは、いま見えるもの、すなわち、身の回りの苦しみには目をとめません。　むしろ、今は見えない天にある喜びを望み見ているのです。　苦しみは、やがて消え去ります。　しかし、その喜びは、永遠に続くのです。
五
１私たちがいま住んでいる、天幕の家が取りこわされると〔すなわち、私たちが死んでこの肉体を離れると〕、天にある新しい体、永遠に保証された家がいただけるのです。　それは、人の手ではなく、神様の手でつくられた家です。　２今のこの体には、もう飽き飽きしています。　だからこそ、天上の体をまるで新しい着物のようにまとえる日を、首を長くして待っているのです。　３それを着れば、体のない霊だけの状態でいることはないからです。　４この地上の体のために、嘆きやうめきがありますが、だからといって、死んで、体のない状態になりたいとは思いません。　その新しい体にもぐり込みたいと願うばかりです。　そうすれば、この死ぬべき体が、言わば、永遠のいのちに呑み込まれてしまうからです。　５これこそ、神様が私たちのために用意してくださったことであり、その保証として、聖霊様を遣わしてくださったのです。
６いま私たちは、確信をもって、天上の体を待ちこがれています。　また、このように地上の体で過ごしている間は、イエス様と共に過ごす、天上の永遠の家から離れていることも、よく知っています。　７実際に見ることによってではなく、信じることによって、こ

れを事実と認めているのです。　８ですから、少しも恐れません。　むしろ、死ぬことは願わしいのです。　それは、天の家に主と共に住むことを意味するからです。　９そういうわけで、地上でこの肉体でいようと、肉体を離れて主と共に天にいようと、私たちの目的は、何をするにも、いつも主に喜ばれることです。　１０なぜなら、やがて私たちはみな、キリスト様の前で、さばきを受けなければならず、全生活がさらけ出されることになるからです。　善であれ悪であれ、地上の体でいる時の行ないに応じて、私たちはそれぞれ、ふさわしい報いを受けるのです。
１１ですから、私たちの心には、いつも主を恐れかしこむ厳粛な思いがあります。　それで、ほかの人々を説得しようと、やっきになっているのです。　それが純粋な気持ちから出ていることを、神様はご存じです。　だから、あなたがたにも、このことをはっきり知っていただきたいと、心から願っているのです。
１２またもや、私たちが自己推薦を始めたと思いますか。　そうではありません。　ただ、あなたがたに手ごろな武器を供給しようとしているのです。　この武器があれば、外見のりっぱさと説教のうまさとを誇りながら、その実、心の中は偽りと不誠実で満ちている説教者に対抗できます。　少なくともあなたがたは、私たちの動機が正しく、しかも誠実である点を誇ることができるのです。　１３１４自分のことをこのように言うとは、気が狂っているのでしょうか。　もし気が狂っているとすれば、それは神様の栄光のためです。もし正気であるなら、あなたがたのためです。　確かに、私たちは何をするにしても、自分の利益を求めるのではなく、キリスト様の愛に動かされて、しているのです。　キリスト様が私たちすべてのために死んでくださったことを信じる以上、自分が、今までの古い生活に対して死んだことも信じなければなりません。　１５キリスト様は、全人類のために死んでくださいました。　それは、キリスト様から永遠のいのちをいただいて生きる人がみな、もはや自分を喜ばせるためではなく、自分のために死んで復活されたキリスト様に喜ばれるように生きるためです。　１６ですから、世間の評判や、外見の良し悪しで、クリスチャンを評価するのはやめなさい。　以前、私は、その誤った考え方で、キリスト様のことを、単に自分と同じ人間とみなしていました。　しかし今では、その考えは一変しました。　１７だれでも、クリスチャンになると、内側が全く新しくされます。　もはや今までと同じ人間ではありません。　新しい人生が始まったのです。
１８この新しい出来事はすべて神様から出ています。　神様は、キリスト・イエスのお働きによって、私たちをご自分のもとに連れ戻してくださいました。　そして、この恵みによる神様との和解を、すべての人に勧める特権をも、私たちに与えてくださったのです。１９つまり、キリスト様によって、この世をご自分と和解させ、その罪を数え立てずに、かえって、帳消しにしてくださったのです。　これが、人々に伝えるようにと私たちにゆだねられた、すばらしい知らせです。　２０私たちはキリスト様の大使です。　神様が、私たちの口から語りかけるのです。　あたかも、キリスト様がここで懇願しておられるかのように、お願いします。　どうか、せっかく差し出された愛を拒まず、神様と和解して

ください。　２１というのは、神様は、罪のないキリスト様に私たちの罪を背負わせ、それと引き換えに、私たちに恵みを注いでくださったからです。
六
１私たちは、神様と共に働く者として、お願いします。　神様の大きな恵みに関する、すばらしい知らせを聞き逃さないように、気をつけてください。　２神様はこう言われるからです。
「歓迎の門が大きく開かれている恵みの時に、
あなたの叫びはわたしに届いた。
救いが差し出されている日に、
わたしはあなたを助けた。」
まさしく今、神様はあなたがたを、喜び迎えようとしておられます。　今日、救おうとしておられます。
３私たちの行動が、だれかをつまずかせたり、主との出会いを妨げたりすることがないように、生活態度には気をつけています。　私たちの欠点が、主を非難する口実に用いられたら大変だからです。　４事実、あらゆる点で、自分がほんとうに神様に仕える者であることを示そうと努めています。　次から次へと襲ってくる悩み、苦しみ、困難にも、しんぼう強く耐えています。　５むちで打たれたことも、投獄されたことも、怒り狂う暴徒に取り囲まれたこともありました。　ある時は力尽きるまで働き、ある時は一睡もせずに夜を明かし、また食べる物のない日もありました。　６健全な生活と良い知らせに対する理解と、忍耐とによって、自分の口に偽りがないことを証明してきました。　いつも親切にし、愛に富み、聖霊様に満たされてきました。　７何をするにも、神様の力に助けられて、真実を貫いてきました。　神様を敬う人に備わる、すべての武器――防衛と攻撃の武器――を、いつも手にしていました。
８人に尊敬されようと軽べつされようと、あるいは非難されようと賞賛されようと、主への忠誠に変わりはありません。　人からはうそつきと呼ばれようと、私たちは正直です。
９この世から無視されても、私たちは神様に認められています。死に直面しながら生きていても、こんなに生き生きしています。　傷つけられたこともありますが、死を免れてきました。　１０心に痛みがありますが、主の喜びも同時に持っています。　貧しくても、ふんだんに霊の贈り物をしています。　何も持っていなくても、あらゆるものに満たされています。
１１愛するコリント教会の皆さん。　私は心にあることをみなお話ししました。　私は心の底から、あなたがたを愛しているのです。　１２今なお私たちの間に冷たいものがあるとしても、私に愛が欠けているせいではありません。　あなたがたの愛があまりにも少なくて、私まで届かないのです。　１３今、実の子供に対するように、あなたがたに話しています。　どうか心を開いてください。　私たちの愛にこたえてください。
１４主を愛していない者の仲間入りをしてはいけません。　神の民と罪の民との間に、い

ったいどんな共通点があるでしょう。　光と暗やみとが、どうして共存できるでしょう。
１５キリスト様と悪魔との間に、なんの調和がありえましょう。　クリスチャンは、信じていない人と、どうして手をつなぐことができましょう。　１６神の宮と偶像との間に、なんの一致があるでしょう。　あなたがたは神の宮であり、生ける神の住まいなのです。
神様はあなたがたについてこう言われました。
「わたしは彼らのうちに住み、
その間を歩む。
わたしは彼らの神となり、
彼らはわたしの民となる。」
１７それゆえ、主はこう言っておられます。
「彼らから立ち去り、縁を切れ。
その汚れたものに触れてはならない。
そうすれば、わたしはあなたがたを迎え入れ、
１８あなたがたの父となり、
あなたがたはわたしの息子、娘となる。」
七
１愛する皆さん。　私たちは、このようにすばらしい約束を与えられているのですから、肉体と霊を汚すいっさいの悪ときっぱり縁を切って、自分をきよめようではありませんか。
そして心から恐れかしこみつつ、ただ神様だけに、自分をささげようではありませんか。
２どうか、もう一度心を開いてください。　だれ一人、私たちから害を受けた人はいないはずです。　また、惑わされた人もいません。　私たちがだましたことも、人をうまく利用したこともありません。　３あなたがたをしかったり、責めたりするつもりで、こう言うのではありません。　前にも言ったように、私はいつも心の中であなたがたのことを思い、あなたがたと生死を共にしているのです。　４限りない信頼を寄せ、あなたがたを、たいへん誇りに思っています。　おかげで大いに勇気づけられました。　さまざまの苦しみの中でも、いつも幸福でした。
５マケドニヤに着いた時、私たちには、少しの安らぎもありませんでした。　外側には四方八方に困難が立ちふさがり、内側は恐れと不安でいっぱいでした。　６その時、意気消沈している者を励ましてくださる神様は、テトスの到着によって、元気づけてくださいました。　７また、テトスの到来もさることながら、彼があなたがたのところですばらしい時を過ごしたと聞いて、とてもうれしく思いました。　あなたがたが、どんなに私の訪問を待ちこがれているか、この前の事件でどんなに嘆き悲しんでいるか、また、どんなに私に忠実であり、心から愛してくれているかを、彼が報告してくれました。　それを聞いて、私はほんとうに喜びました。
８あの手紙を書き送ったことを、もう後悔してはいません。　実は、あれが、あなたがたをどんなに苦しめたかを知って、一時はとても後悔したのです。　けれども、あなたがた

を苦しめたのは、つかの間にすぎませんでした。　９今では、あの手紙を送ってよかった、と思っています。　苦しませたからではなく、その苦しみのおかげで、あなたがたが神様に立ち返ったからです。　それは、神様がご自分の民に経験させたいと望んでおられる、良い意味での悲しみだったのです。　もうこれで、そちらに行ってきびしくしからないですみます。　１０罪と縁を切らせ、永遠のいのちを求めさせるために、時々、神様は、悲しみを与えます。　そのような悲しみを、嘆いてはなりません。　しかし、クリスチャンでない人の悲しみは、真の悔い改めの悲しみではなく、永遠の死を食い止める力がありません。
１１考えてもごらんなさい。　主が与えられたこの悲しみは、どんなに益となったことでしょう。　あなたがたはそこで絶望せず、かえって、私が手紙で指摘した罪を取り除こうと、真剣に誠意をもって、しかも熱心に努力しました。　あんな出来事が起こったことに恐れをいだき、私の来訪と助けとを心から願うに至りました。　正面からこの問題に取り組み、罪を犯した者を処罰して、問題を解決しました。　実際、事態を正しく処理するために、あなたがたは、できる限りのことをしたのです。
１２あの手紙は、あなたがたが、どんなに私たちのことを心にかけていてくれるか、主の前で明らかにするために書きました。　実は、これこそ、例の罪の張本人や被害者である父親を助けること以上に、私が願ったことなのです。
１３こうして、あなたがたの愛を知り、私たちは大いに勇気づけられました。　その上、テトスの喜びが加わって、喜びも倍増しました。　あなたがたがテトスをあたたかく迎え入れ、くつろがせてくれたおかげです。　１４テトスの出発前に、私は、あなたがたのことを誇りに思っていると話しておきましたが、よくぞ信頼にこたえてくれました。　私はいつも真実を語ってきましたが、テトスに誇ったことも、うそではなかったと証明されたのです。　１５テトスは、あなたがたが彼のことばに喜んで耳を傾け、非常な心づかいと深い関心をもって受け入れてくれたことを思い出しては、今まで以上に、あなたがたへの愛を深めています。　１６いま私たちの間には、以前と同様、なんのわだかまりもなくなり、ほんとうにうれしくてたまりません。　再び、あなたがたに全幅の信頼を寄せることができるのです。
▪
八
１ところで、神様が、マケドニヤの諸教会にどんな恵みを施されたか、お知らせしたいと思います。
２多くの試練や困難のただ中にあったマケドニヤの諸教会が、ひどい貧しさにもかかわらず、喜びに満ち、その結果、惜しみなく、あふれるほど他の人々に施すようになりました。
３自分たちの力に応じてささげたばかりでなく、力以上にささげました。　誓ってもいいのですが、私がやかましく催促したからではなく、自発的にそうしたのです。　４「エルサレムのクリスチャンを援助できるなんて光栄です。　ぜひその献金の仲間に入れてくだ

さい」と、熱心そのものでした。　５何よりもすばらしいのは、彼らが期待をはるかに超えることをしてくれた点です。　まず、自分自身を主にささげ、また私たちにもゆだねてくれました。　つまり、神様が私たちを通して、どんなことをお命じになっても、それに従うためです。
６このような献金に対する彼らの熱意を見て、私たちはテトスに、あなたがたのところへ行くよう強く勧めたのです。　初めに献金を勧めたテトスが、この際、あなたがたを励まして、献金の奉仕を完了させるのがよいと思ったからです。　７あなたがたは、多方面にわたって指導的立場にある人々です。　あつい信仰も持っています。　すぐれた説教者も大ぜいいます。　広い知識、燃えるような熱心、私たちに対するあふれるほどの愛も持っています。　そこで今、喜んでささげるという精神においても、指導者になっていただきたいのです。　８これは命令ではありません。　献金しなければならない、と言っているのではありません。　ただ、ほかの人々の献金に対する熱心さを話しているのです。　でも、この献金の奉仕は、あなたがたの愛が、単に口先だけにとどまらず、真実のものだと証明する、一つの手段にはなるでしょう。
９あなたがたは、主イエス・キリストが、どんなに愛と恵みに満ちておられたかを知っています。　あれほど富んでおられた主が、あなたがたを助けるために、あれほど貧しくなられました。　その貧しさによって、あなたがたを富む者とするためでした。
１０一年前に始めたことを、この際、やり遂げてみたらどうでしょう。　この献金を最初に申し出たのも、最初に実行に移したのも、あなたがたなのですから。　１１あんなに熱意をもって始めたのですから、自分の持っているものの中から、ささげられるものは、みなささげ、喜んでこの計画を完成すべきです。　最初の熱意が、現在の行動にも現われてほしいものです。　１２ささげる熱意がほんとうにあるなら、いくらささげるべきかは、問題ではありません。　神様は、持っていないものまで、ささげるようにとはおっしゃいません。
１３私は、献金を受ける人たちが、あなたがたの犠牲によって楽をするのは当然だと言っているのではなく、　１４両者が分け合うべきだと言っているのです。　現在あなたがたは豊かなので、彼らを援助できます。　そして、今度いつか、あなたがたに助けが必要な時は、彼らが助けてくれるでしょう。　こうして、互いに、必要なものを受け取るのです。
１５このことについて、旧約聖書に何と書いてあるか、覚えていますか。　「多く集めた者も余ることがなく、少ししか集めなかった者も足りないことがなかった」とあります。　ですから、困っている人たちと分け合いなさい。
１６テトスも私と同じように、心からあなたがたのことを思っています。　テトスをこのような気持ちにさせてくださった神様に感謝します。　１７彼は私の勧めに喜んで従い、もう一度あなたがたのところへ行こうとしています。――もっとも、私が勧めなくても、彼はやはり行くことにしたでしょう。　心から、あなたがたに会いたがっているのですから。　１８もう一人の、よく知られている友人を同行させます。　この人は、キリスト様

の良い知らせを宣べ伝える者として、どこの教会でも大いに賞賛されている人です。　１９その上、私と共にエルサレムに献金を届ける役目に、諸教会から選出された人です。　この働きは、主の栄光を現わし、また、互いに助け合おうとする、私たちの熱意を示すものです。　２０このように同行者を連れて行くのは、だれにも、疑いをさしはさむ余地を与えないためです。　この多額の献金の取り扱いについては、一点の非難も受けてはならないと、気を配っているのです。　２１私たちの公明正大さを、神様はご存じですが、それが他のすべての人にも明らかになってほしいので、このように取り計らいました。
２２また、もう一人の友人にも行ってもらいます。　実に多くの点で、この人が熱心なクリスチャンだとわかります。　あなたがたが献金に熱心であることを話したところ、彼は特別関心を持った様子で、今度の旅行を心待ちにしています。
２３もしだれかにテトスのことを聞かれたら、あなたがたのために働く私の協力者だ、と答えてください。　また、ほかの二人の友人については、こちらの教会の代表で、クリスチャンのすばらしい模範だ、と言ってください。
２４どうか、私にと同様、この人たちにも愛を示してください。　そして、私が公の場で、「コリント教会の人たちなら、きっとこうします」と誇ってきたことを裏づけてください。
九
１神の民である人々を援助することについては、今さらとやかく言う必要はありません。
２その件についての、あなたがたの熱心さを知っているからです。　一年も前から献金を送る準備を進めてくれていることを、私はマケドニヤの友人たちに誇ってきました。　実際、その影響を受けて、多くの人が、他者への援助を始めたい気持ちに駆り立てられたのです。　３ところで、今度、この友人たちに行ってもらうことにしたのは、私の誇りどおり、あなたがたが、ほんとうに献金をすっかり集めて準備しているか確かめるためです。私の自慢が今度は当てはずれになった、などということのないよう願っているのです。　４もしマケドニヤの人たちが私といっしょに行って、あなたがたが、まだ準備していないのを見たら、どうでしょう。　あれだけ信じきっていた私は、赤恥をかくことになるでしょう。　そしてもちろん、あなたがたも、恥ずかしい思いをするでしょう。
５そこで、あなたがたが前に約束した贈り物の準備が、すっかり整っているかどうか見るために、この友人たちにお願いして、先発隊として行ってもらうことにしました。　それが真心からの贈り物であって、強制されたものでないようにと願っています。　６しかし、次のことは心にとめておいてください。　すなわち、少ししか与えない者は、少ししかもらえない、ということです。　少ししか種をまかない農夫は、わずかの収穫しかあげられません。　たくさんまけば、たくさん刈り取ります。　７いくらささげたらよいかは、各自が決めるべきです。　自分はこれだけささげようと思っている人に、もっとたくさんささげるように強制してはいけません。　神様にとっては、喜んで与えるかどうかが大事なのです。　８神様は、必要なものは何でもあり余るほど与えて、不足がないようにしてくださいます。　それで、必要が満たされたあと、なお十分な余裕があるので、他の人々に

喜んで分けることができるのです。　９聖書にこう書いてあるとおりです。
「神を敬う人は、貧しい人々に惜しみなく与える。
その良い行ないは、永遠に名誉となる。」
１０農夫にまく種を与え、そのあとに、食べるための収穫物をふんだんに与えてくださる神様は、あなたがたにも、まく種をもっとたくさん下さり、それをふやしてくださいます。　すると、あなたがたはその収穫の実をもっともっとたくさん、人に与えることができるのです。
１１そうです。　神様からたっぷりいただいたあなたがたは、人にもたくさん贈ることができるのです。　そして、私たちが、その贈り物を必要としている人々に届ける時、そこには感謝が満ちあふれ、あなたがたの援助のゆえに神様への賛美がわき上がるのです。　１２そういうわけで、その贈り物は、二つのすばらしい結果を生み出します。　すなわち、困っている人々が助けられること、そして、彼らの神様に対する感謝の念が満ちあふれることです。　１３援助を受けた人々は、自分たちや他の人々に対する気前のよい贈り物に大喜びするだけでなく、あなたがたが教えに忠実に行動している証拠を見て、神様をあがめることでしょう。　１４また、あなたがたを通して神様のすばらしい恵みを知り、熱心に真心から、あなたがたのために祈るようになるでしょう。
１５神様のひとり息子という、言い表わせないほどすばらしい神様の贈り物を感謝します。
一〇
１お願いがあります。　このパウロが、キリスト様の態度にならって、おだやかにお願いします。　あなたがたの中には、今でも、「パウロは遠く離れていると、ずいぶん強気じゃないか。　ところが面と向かうと、大きな声も出せないほど、弱気になるんだからなあ」と言っている人がいます。
２私がそちらに行って、わざわざ、きびしく大胆にふるまってみせなくてもすむように、と願っています。　もっとも、私の言動が普通の人間と少しも変わらないと、たかをくくっている人々に対しては、きびしく大胆にふるまうつもりですが……。　３私がごくあたりまえの弱い人間であることは事実です。　しかし私は、戦いに勝つために、人間的な計画や方策を用いません。　４悪魔の要塞を打ち破るために、人間の手によらない、神様の強力な武器を使います。　５この武器は、神様に逆らう、あらゆる高慢な議論と、人々の目から神様を隠している、あらゆる壁を打ち砕きます。　この武器を用いて、私は、反抗する者を捕虜として神様に連れ戻し、回心させて、キリスト様に従わせます。　６まず、あなたがたにこの武器を向け、キリスト様に従わせたあとで、残りのすべての反抗する者に、挑戦するのです。
７あなたがたは私を、弱々しく無力な人間だと思っています。　それが問題なのです。　うわべしか見ていません。　けれども、もし必要があれば、私だってキリスト様の力と権威を見せることができるのです。　８あなたがたに対する権威――それは人を助けるためのものであり、傷つけるためではありません――を、必要以上に誇っているように見えるか

もしれません。　しかし、それについては多少誇りすぎても、恥とはならないでしょう。
９こう言うのも、手紙での叱責が、ただの脅しと受け取られたくないからです。
１０こう言う人もいます。　「パウロの手紙なんか気にするな。　偉そうなことを言っても、口先だけさ。　実際に会ってみればよくわかるよ。　いかにも頼りなげで、あれほどへたな説教者はいないな。」　１１こんな人たちに対しては、今度そちらに行ったら、手紙の文面どおり、きびしくふるまうつもりです。
１２よく、自分はたいへんすぐれた人物だと、自己宣伝をする人がいますが、私は、そのまねをするつもりはありません。　彼らは、ただ、お互いに比較し合ったり、つまらない尺度で、自分を評価したりするのです。　なんてばかげたことでしょう！
１３しかし私たちは、持ってもいない権威を誇るようなことはしません。　私たちの目標は、神様が立ててくださった計画を実行することです。　それには、そちらであなたがたのために働くことも含まれています。　１４私たちは、自分の分もわきまえずに、権威をふり回しているわけではありません。　キリスト様についての良い知らせを、最初にあなたがたに伝えたのは、私たちなのですから。　１５ほかの人の業績を、自分のものだと主張しているのではありません。　ただ、あなたがたの信仰が成長し、〔私たちに許された限度内であっても〕あなたがたの間での私たちの働きが、大いに広がることを望んでいるのです。
１６そして、さらに遠くの町々、まだだれも働いていない町々にまで、良い知らせを宣べ伝えることができるのです。　そうすれば、だれかの活動領域を荒らしたというような問題は、起きないでしょう。　１７「誇りたい者は、主のなさったことを誇れ。　自分を誇るな」と旧約聖書にあるとおりです。　１８自分を誇り、その業績を自慢する人は、つまらない人間です。　しかし、主の推薦を受ける人は、真に価値ある人です。
一一
１私が愚か者のように話し続けるのを、こらえてください。　私の心のうちを、我慢して聞いてください。　２神様の深い思いやりをもって、あなたがたのことを心にかけています。　ちょうど清純なおとめが、やがて夫となる人に愛をささげるように、あなたがたが、ただキリスト様だけをひたむきに愛するよう願っているのです。　３しかし、エバがエデンの園でサタンに惑わされたように、キリスト様に対する、きよい純真な献身の思いが消えてしまうのではないかと、心配でたまりません。　４あなたがたときたら、どうもだまされやすくて……。　だれかが、私たちの伝えたのとは違う教えを伝えたり、あなたがたが受けた聖霊様とは違う霊を伝えたり、あなたがたが救われたのとは違う救いの道を教えたりしようものなら、それを信じてしまうのですから。
５けれども、そんなお偉い自称「神の使者たち」が私よりすぐれているとは思いません。
６たとい口べたであっても、少なくとも、自分が話している内容は、よく知っています。
それは何度も証明してきたことなので、もうよくわかっていることと思います。
７あなたがたから何の報酬も受けずに、神様の良い知らせを宣べ伝えたことは、まちがい

だったのでしょうか。　そのために自分を安っぽく見せて、見下げられてしまったのでしょうか。　８９何の負担もかけないで奉仕したいと、あなたがたのところにいる間、他の諸教会から送ってもらって、つまり「奪い取って」、その費用をひねり出していたのです。それが底をついて、食べる物に事欠いた時も、あなたがたにはいっさい要求しませんでした。　マケドニヤのクリスチャンたちが、別の贈り物を持って来てくれたからです。　あなたがたに、ただの一円も求めたことのないこれまでと同様、今後もそのつもりでいます。
１０このことは、あらん限りの真実にかけて、ギリシヤに住むすべての人に約束します。
１１なぜそうするのでしょう。　あなたがたを愛していないからだとでも？　とんでもない。　どれほど愛していることか！　神様がご存じです。　１２しかし、今のやり方を、これからも続けるつもりです。　それは、私たちと同じように神様のために働いている、と誇る人たちの根拠を、くつがえすためです。
１３彼らは、決して神様から遣わされた者ではありません。　「ぺてん師」です。　人をだまして、てっきりキリスト様の使徒だと思い込ませるのです。　１４しかし、今さら驚きもしません。　サタンでさえ、光の御使いに変装できるのです。　１５ですから、サタンの手下どもがまねして、敬虔な牧師になりすましたとしても、別段、驚くことはありません。　最後には、その悪事にふさわしい罰を、徹底的に受けるのです。
１６もう一度お願いします。　こんなことを言う私が、理性を失ったなどとは、思わないでください。　しかしまた、それならそれで、「理性を失った愚か者」のことばに、とにかく耳を傾けてください。　あの人たちみたいに、私も少しばかり誇ってみせます。　１７こんな自慢話は、主に命じられてするのではありません。　私は、知恵のない愚か者のつもりなのですから。　１８自分の偉さをしきりに言いふらす、ほかの人のまねを、してみましょう。　１９〔りこうさを誇るあなたがたなのに、よくも、ほくほく顔で、あの愚か者たちの言うことを聞いていますね。　２０奴隷にされても、持ち物を奪われても、利用されても、いばられても、顔をたたかれても、よく平気でいられますね。　２１口にするのも恥ずかしいことですが、私は弱くて、とてもそんなまねはできません。　しかし、彼らが誇るくらいのことは何でも――またもや愚か者に甘んじますが――私だって誇れるのです。〕
２２彼らは、ヘブル人だと自慢しているのですか。　私もヘブル人です。　神様の選びの民、イスラエル人だと言うのですか。　私もそうです。　アブラハムの子孫ですか。　私もそうです。
２３彼らは、キリスト様に仕えていると言うのですか。　しかし、私はもっと仕えてきました。　〔こんなに自慢をする私は、気でも狂ったのでしょうか。〕　彼らよりずっと苦労して働いてきました。　投獄されたこともかなりの回数に及び、むち打たれたことは数えきれず、何度も何度も死に直面しました。　２４ユダヤ人から、三十九回の恐ろしいむち打ちの刑を受けたことが五度あります。　２５それから、むちで打たれたことが三度、石で打たれたことが一度、難船したことが三度、一昼夜、海上を漂ったことが一度あります。

２６幾度も長い苦しい旅をし、川がはんらんしたり、強盗に襲われたり、同国人からも外国人からも迫害されたりして、何度も危険な目に会いました。　町々では暴徒に取り囲まれ、荒野や嵐の海でやっと命びろいしたこともあります。　クリスチャンだと自称しながら、実はそうでない人たちに苦しめられたこともあります。　２７疲れ果て、苦しみ、たびたび眠れない夜を過ごしました。　飢え渇き、食べ物もなく過ごしたことも、しょっちゅうです。　また服もなく、寒さに震えていたこともありました。
２８こんなことのほかに、絶えず、諸教会がどうなるかという心配をかかえています。　２９誤った道を進んでいる人を見て、悲しまないでいられるでしょうか。　倒れている人を見て、知らん顔ができるでしょうか。　精神的に痛手を受けている人を見て、傷つけた相手を激しく怒らずにいられるでしょうか。
３０しかし、もしどうしても誇る必要があるなら、私はむしろ、自分を弱く見せる事柄を誇ります。　３１主イエス・キリストの父なる神、永遠にほめたたえられる方は、私が真実を語っているのをご存じです。　３２一つ例をあげましょう。　ダマスコで、アレタ王の代官が、私をつかまえようと、町の門を厳重に見張っていました。　３３しかし私は、町の城壁の穴から、綱のついたかごでつり降ろされ、逃げることができたのです。　これは、よく知られている出来事です。
一二
１こんな自慢話は全くばかげていますが、もう少し我慢してください。　私の見た幻と、主から示されたことについてお話ししたいのです。
２３十四年前、私は天に引き上げられました。　肉体のままか、それとも霊だけがか、なんてことは、聞かないでください。　私にはわからないのです。　答えられるのは、神様お一人です。　しかしいずれにしても、私はパラダイスに引き上げられたのです。　４そこで、人間にはとうてい表現できない、驚くべきことを耳にしました。　〔とにかく、その内容を人に話すことは、禁じられています。〕　５こんな経験こそ、自慢するに値します。　しかし、自慢しようとは思いません。　私が誇ろうとしているのは、自分の弱さと、そして、こんなに弱い私を、ご自分の栄光のために使ってくださる、神様の偉大さだけです。
６私には誇るべきことが、たくさんあるのですから、たとい誇っても、愚か者にはならないでしょう。　しかし私は、だれにも、私の生活やことばから実際に見聞きする以上に、買いかぶってほしくないのです。
７このことも、つけ加えておきましょう。　この経験があまりにすばらしかったので、神様は、私が高ぶってはいけないと心を配られました。　それで、肉体に一つのとげを与えられたのです。　それは、高慢にならないように、苦痛を与え、悩ますための、サタンの使いです。　８私は、もとどおりに回復させてくださいと、三度も神様にお願いしました。　９そのつど返ってくる答えは、こうでした。　「いや、治すまい。　しかし、わたしはあなたと共にいる。　それで十分ではないか。　わたしの力は弱い人にこそ、最もよく現われるのだから。」　今では、私は、自分の弱さを喜んで誇ります。　力や才能を見せびらか

すのではなく、喜んでキリスト様の力の生き証人になりたいのです。　１０すべてはキリスト様のためであることを知っているので、その「とげ」も、侮辱も、苦しみも、迫害も、困難も、大いに喜んでいます。　なぜなら、弱い時にこそ、私は強いからです。――無力であればあるほど、それだけしっかりと、キリスト様によりすがるようになるからです。
１１結局、私を、自慢ばかりする愚か者にしてしまいましたね。　ほんとうは、こんなに私に書かせるべきではなく、あなたがたが私のことを書くべきなのです。　たとい私が全く価値のない者であるとしても、あのお偉い先生方と比べて、劣る点は何一つありません。
１２私はあなたがたのところで、自分がほんとうに神様から遣わされた使徒である証拠を、すべて明示したではありませんか。　つまり、多くの驚くべきこと、しるし、力ある働きを、忍耐強く行なったのです。　１３私がほかのどの教会の場合とも違って、あなたがたには、しなかったことが、一つだけあります。　負担をかけなかったことです。　食物や住む場所のことで、何一つやっかいになりませんでした。　この不公平については、どうか赦してください。
１４今、私はあなたがたのところに行こうと、三度目の計画を立てています。　今度も、あなたがたには負担をかけないつもりです。　私がほしいのは、お金ではなく、あなたがた自身だからです。　いずれにしても、あなたがたは私の子供です。　小さな子供は親を食べさせる必要はありません。　その逆です。　親が子供を食べさせるのです。　１５私はあなたがたを霊的に養うためなら、喜んで自分自身でも持ち物すべてでも、すっかり差し出します。　たとい、私が愛すれば愛するほど、ますます、うとまれるようになっても、そうします。
１６あなたがたの中には、こう言っている人がいます。「確かに、パウロは来ても、何の負担もかけなかったように見える。　だが、あいつは卑劣なやつだから、きっと陰で、うまいこと金をまきあげていたに違いない。」
１７どうして、そんなことができたでしょう。　私が行かせた人たちのうち、だれか、あなたがたを利用しましたか。　１８私はテトスにコリント行きを勧め、また、ほかの友人を同行させました。　彼らがあなたがたをだまして、何かもうけ仕事をしたでしょうか。もちろん、そんなことはしませんでした。　私たちは、同じ聖霊様をいただき、同じ歩調で歩いて、同じ方法で行動しているのですから。
１９よく思われたいばかりに、こう書くのだ、と思っていることでしょう。　でもそれは、全く見当違いです。　神様の前で、宣言しておきます。　愛する皆さん。　私がこう書いてきたのは、あなたがたを助けるため、その信仰を成長させるためであって、自分のためではありません。　２０心配なことがあります。　私がそちらに着いてみると、期待はずれの状態で、そのため、あなたがたの望まないような行動をとらざるをえない事態が生じないかということです。　もしかしたら、そちらでは、争い、ねたみ、怒り、横暴、悪口、陰口、高慢がいっぱいで、秩序がすっかり乱れているのではないでしょうか。　２１実際、あなたがたの面前で、神様が私を、穴があったら入りたい思いにされるのではないでしょ

うか。　そして、前々から罪を犯していながら、その邪悪で汚れた行ない――好色、不道徳、他人の妻の横取りなど　――　を全く気にもかけていない多くの者を見て、悲嘆にくれるのではないでしょうか。　このことが、ほんとうに心配なのです。
一三
１あなたがたのところへ行こうとするのは、これで三度目です。　旧約聖書には、「二人か三人に目撃された悪事は罰せられなければならない」とあります。　〔ところで、これは、今度の訪問にあたっての、三度目の警告です。〕　２私は、前回の滞在中、前から罪を犯していた人たちに、すでに警告しておいたはずですが、今また、彼らばかりか、あなたがた全員にも、同様に警告します。　今度あったら、きびしく罰するつもりです。　容赦はしません。
３あなたがたは、キリスト様がほんとうに私を通して語っておられるかどうか、知りたいのでしょうから、その証拠を示します。　キリスト様は、あなたがたに弱い態度をとられるのではなく、あなたがたの内部で強大な力を発揮なさいます。　４キリスト様の人間としての弱い体は、十字架上で死にました。　しかし今や、キリスト様は、神様の偉大な力を受けて生きておられます。　私たちもキリスト様同様、肉体的には弱い者でしたが、今はまた、キリスト様に似て、強く生きる者となっています。　そして、あなたがたに対処するに十分な神の力を、いただいているのです。
５よくよく自分を吟味しなさい。　ほんとうにクリスチャンだと言えますか。　クリスチャンとしてのテストに合格していますか。　自分の内に住まれるキリスト様と、そのあふれる力とを、いよいよ強く実感していますか。　それとも、事実とは裏腹に、ただクリスチャンのふりをしているだけですか。　６私たちはこのテストに合格し、確実に主のものとなっています。　このことを、あなたがたに認めてほしいのです。
７あなたがたが正しい生活をするように祈っています。　それは、私たちの教えの正しさが証明され、面目を施したいからではありません。 たとい私たちは軽べつされようとも、あなたがたには、正しい行ないをしてもらいたいからです。　８私たちの務めは、いついかなる時にも、正しいことを勧めることであって、悪を望むことではありません。　９自分は弱くて軽べつされても、あなたがたがほんとうに強くなってくれれば、うれしいのです。 最大の願いと祈りは、あなたがたが一人前のクリスチャンになってくれることです。
１０今この手紙を、そちらに行って、しかったり罰したりしないですむようにと願いつつ、書いています。　私に託されている主の権威を、あなたがたを罰するためにではなく、強くするために使いたいからです。
１１最後に、次のように書いて、筆を置きます。
喜びなさい。
キリスト様に属する者として成長しなさい。
私のことばを心にとめなさい。
互いに仲よく、平和に過ごしなさい。

どうか、愛と平和の神様が、あなたがたと共にいてくださいますように。
１２主にあって、互いに親しみをこめて、あいさつを交わしなさい。　こちらのクリスチャン全員が、心からよろしくと言っています。　１３どうか、主イエス・キリストの恵みが、あなたがた一同にありますように。　神様の愛と聖霊様との交わりが、あなたがたのものとなりますように。
パウロ
▪

ガラテヤ人への手紙（ガラテヤ教会の皆さんへ）
「……らしく」ということばがあります。　その場合、心の内側より、外面を整えようとしがちではないでしょうか。　それは、そのほうが容易だからです。　著者パウロが生きていた二千年前もやはり同じでした。　ガラテヤのクリスチャンにとって、これは大きな問題でした。彼らは規則を守り、評判のよい生活をする人が正しい人間だと、思い違いをしていたのです。　著者は自分の経験から、人は心が変われば、自然に正しい行ないができることに気づいていたのです。

一
１２伝道者パウロと､こちらにいるクリスチャン全員から､ガラテヤの諸教会の皆さんへ。私は、どこかの団体から伝道者に任命されたのではありません。　イエス・キリストと、彼を死人の中から復活させた父なる神から、直接任命されたのです。　３どうか、父なる神と主イエス・キリストが、平安と祝福をあなたがたに与えてくださいますように。　４キリスト様は、父なる神の計画どおり、私たちの罪のために死に、この悪の世界から、救い出してくださいました。　５この神様に、すべての栄光が世々かぎりなくありますように。　アーメン。
６私は、こんなにも早く、あなたがたが神様から離れていくことに驚いています。　神様はあなたがたに、キリスト様を通して永遠のいのちを与えようと、愛と恵みをもって招いてくださったのではありませんか。　それなのに、もうあなたがたは、別の「天国への道」に踏み込んでいます。　そんなものは、全く天国への道からかけ離れています。　７私が教えた道が、唯一の天国への道なのですから。　あなたがたはキリスト様に関する真理をゆがめ、変質させる者たちに、だまされているのです。
８私たちが伝えた救いの道以外の道を説くような者は、だれでも――この私であろうと――神様にのろわれるべきです。　そうです。　天から下って来た御使いであっても、永遠にのろわれるべきです。９もう一度言います。　だれであっても、あなたがたが受けた良い知らせとは違うものを伝えるなら、神様にのろわれるべきです。
１０おわかりと思いますが、私は、甘いことばやおせじで、人の歓心を買おうとはしません。　ただ、神様に喜ばれようとしているのです。　もし私が今もなお、人の歓心を買いたがっているのなら、キリスト様に仕える者とはなれません。
１１愛する皆さん。　これは厳粛なことなのですが、私が伝えた天国への道は、単なる人間の思いつきや夢に基づくものではありません。　１２イエス・キリストから示された教えにほかなりません。　語るべきことは、イエス・キリストが教えてくださったのです。この方以外のだれからも、指示されたわけではありません。
１３以前、ユダヤ教徒であったころの私については、よくご存じのことでしょう。　情け容赦なくクリスチャンを追い回して迫害し、その壊滅に全力を尽くしました。　１４国中捜しても、同年輩で、私ほど熱心なユダヤ教徒はいなかったでしょう。　とにかく、古く

からある、先祖伝来のユダヤ教の規則を全部守ろうと、やっきになっていました。
１５ところがその時、あることが起こったのです。　生まれる前から、私をご自分のものとして選んでおられた神様が､驚くべき愛と恵みをもって､召し出してくださったのです。
１６そして私に、神の子イエス様を示してくださいました。　それは、私にユダヤ人以外の外国人を訪ねて、イエス様についての良い知らせを伝えさせるためです。
この体験後、私はすぐだれかに相談するようなことはしませんでした。　１７私より前から使徒に任命されていた人々の意見を聞くために、エルサレムに上ろうともしませんでした。　私は、アラビヤの荒野に出て行き、それからダマスコの町に戻ったのです。　１８ペテロに会うために、エルサレムを訪問したのは、三年後のことです。　その時、十五日間ペテロのところに滞在しました。　１９その間、ペテロのほかに会った使徒と言えば、主の兄弟ヤコブだけです。　２０〔私のことばをよく聞いてください。　実に神様の前で、こう述べているのですから。　これは、実際に起こったことなのです。　うそではありません。〕　２１エルサレム訪問のあと、私はシリヤとキリキヤに出かけました。　２２ですから、ユダヤのクリスチャンは、私の顔さえ知らなかったのです。　２３ただ、彼らの間には､「以前われわれの信仰をつぶそうとした敵が､今はそれを宣べ伝えている」といううわさだけは広まっていました。 ２４それで､私のことで神様をほめたたえていたのです。
二
１それから十四年たって、私はもう一度、エルサレムに上りました。　その時はバルナバもいっしょで、テトスも同行させました。　２このエルサレム行きは、神様からの明確な指示に基づいたもので、私が外国人に伝えている教えについて、エルサレムのクリスチャンと話し合うのが、目的でした。　私は、教会の指導者たちと個人的に話し合いました。それは、私の教えてきた内容を、正しく理解してもらい、また、その正統性を認めてもらいたかったからです。　３彼らは、それを承認してくれました。　そればかりでなく、私の仲間のテトスにも――彼は外国人であったのに――割礼（男子の生殖器の包皮を切り取る儀式）を強要しませんでした。
４だいたいこの問題は、いわゆる「クリスチャン」の連中――ほんとうは偽クリスチャンなのですが――さえ、もぐり込んで来なければ、生じなかったはずです。　実は、彼らはスパイのように偵察し、私たちがキリスト・イエスを信じて得た自由がどんなものか、また、はたしてユダヤ教のおきてに従っているかどうかを、探ろうとしていたのです。　奴隷を鎖でつなぐように、彼らの規則で私たちをがんじがらめにしようと、たくらんだわけです。　５しかし私たちは、ほんの一時も、連中に耳を貸しませんでした。　「割礼を受け、ユダヤ教のおきてを守ることによって救われる」などという考えで、あなたがたを混乱させたくなかったからです。
６エルサレム教会のおもだった指導者たちも、私の宣べ伝えている内容に、何もつけ加えたりしませんでした。〔ついでに言えば、彼らがおもだった偉い指導者であることは、問題ではありません。　神様の前では、みな同等だからです。〕　７－９事実、教会の柱として

知られている、ヤコブとペテロとヨハネは、外国人を救いに導くために、神様がどんなにすばらしく、私を役立ててくださったか〔ちょうど、ユダヤ人伝道のために、ペテロが大いに祝福され、役立てられたように〕を認めてくれました。　というのも、同一の神様が、私たちに特別の賜物を与えてくださるからです。　彼らは、バルナバと私に握手を求めました。　そして、「われわれは、ユダヤ人を対象として伝道します。　あなたがたは、外国人への伝道をそのまま続けてください」と、励ましてくれました。　１０ただ一つ、貧しい人たちを援助することをいつも忘れないように、との申し出がありましたが、そのことなら、私も熱心に努めてきたところです。
１１ところが、そのペテロがアンテオケに来た時、非常に誤った行動をとったので、私は面と向かって激しく非難しました。　１２実は、ペテロは、初めのうち、割礼にもユダヤ教のさまざまなおきてにも煩わされない外国人のクリスチャンと共に、食事をしていたのです。　ところが、あとからヤコブの友人であるユダヤ人が何人かやって来ると、彼らにとやかく言われるのを恐れて、外国人と食事をするのをやめてしまいました。　そのユダヤ人たちは、おきてを守ることを重んじる形式主義者で、救われるためには割礼を受けなければならない、と主張していたからです。　１３すると、ほかのユダヤ人クリスチャンも、心中うしろめたさを感じるくせに、ペテロのまねをして、本心を偽った行動をし、バルナバまでが、その偽りの行動に巻き込まれてしまいました。
１４私はそれを見て、彼らが自分の信じていることに対して不誠実であり、福音の真理に従っていないことを知りました。　そこで、皆の面前で、ペテロに言ったのです。　「あなたは生まれながらのユダヤ人なのに、もうずっと前から、ユダヤ教のおきてに束縛されないで生きてきたではありませんか。　そのくせ、どうして急に、ここの外国人にそれを守らせようとするんですか。　１５もちろんあなたも私も、生まれながらのユダヤ人で、外国人のような罪人ではありません。１６けれども、私たちユダヤ人クリスチャンだって、ユダヤ教のおきてを守ることによって、神様の前で正しい者と認められたのではなく、ただ、罪を取り除いてくださるキリスト・イエスを信じる信仰によってのみ、認められたのではありませんか。　だからこそ、私たちもキリスト・イエスを信じたのです。　それは、おきてによってではなく、信仰によって、神様に認められるためです。　おきてを守って救われる人など、一人もいないのですから。」
１７しかし、もし、キリスト様の救いを信じた私たちに、あとになって、それはまちがいだった、やっぱり割礼を受け、ユダヤ教のおきてもみな守らなければ救われない、とわかったとしたら、どうなるでしょうか。　キリスト様を信じたおかげで、さんざんな目に会ったことになるわけです。　しかし、私たちの主に関するかぎり、そんなことは、絶対にありえないのです。　１８もし、前に打ちこわした方法――ユダヤ教のおきてを守ることで救われようとする方法――をもう一度打ち建てようとするなら、むしろ、それこそ罪なのです。　１９というのは、おきてに従おうと努力しても――それは失敗以外にないのです――神様の恵みは決して受けられないことが、聖書を読んでわかったからです。　キリ

スト様を信じてはじめて、神様に受け入れられることが、はっきりわかったのです。
２０私はキリスト様と共に十字架につけられました。　もはや、私自身が生きているのではありません。　キリスト様が、私のうちに生きておられるのです。　私のためにご自身をささげてくださった神の子を信じた結果、今、私の体のうちには、ほんとうのいのちが与えられています。　２１私は、キリスト様の死にはしません。　もし私たちが、ユダヤ教のおきてを守ることによって救われるなら、キリスト様が死ぬ必要など、なかったはずですから。
三
１ああ、ガラテヤの皆さん。　なんと物わかりが悪いのでしょう。　いったいどんな魔術師にだまされて、魔法にかけられたのですか。私は、十字架上で死なれたキリスト様の姿を、絵のようにありありと目の前に示して、その死の意味をはっきりと教えたではありませんか。　２一つだけ聞いておきます。　あなたがたは、なぜ聖霊様をいただくことができたのですか。　ユダヤ教のおきてを守ろうと努力したからですか。　もちろん、そんなはずはありません。　キリスト様のことを聞き、その救いを信じてはじめて、聖霊様はあなたがたのところに来てくださったのです。　３とすると、あなたがたの頭がおかしくなったとしか考えられません。　信仰生活の出発点は、ユダヤ教のおきてを守ろうと努力する点にはありませんでした。　それなのに、どうして、もっと強いクリスチャンになるために、おきてに従おうと努力するのですか。　４福音のために、あれほど多くの苦しみを経験したあなたがたが、今は、その福音をあっさりと投げ捨ててしまうのですか。　とても信じられないことです。
５もう一度聞きます。　なぜ神様は、あなたがたに聖霊様の力を与え、奇蹟を見せてくださったのですか。　ユダヤ教のおきてを守ろうと努力したからですか。　絶対にそうではありません。　キリスト様を信じ、全くお任せしたからです。
６アブラハムも同じ経験をしました。　彼は神様の約束を信じたというだけで、天国へ入る資格を与えられたのです。　７このことから、心から神様に信頼する人はだれでも、アブラハムの真の子孫となることがわかります。
８聖書は、信仰を持った外国人が救われる、この時のことを、予告してきたのです。　神様がずっと昔、アブラハムに、「どこの国の人であろうと、あなたのようにわたしを信頼する人を、祝福しよう」と宣言された時、このことを意味しておられたのです。　９そういうわけで、キリスト様に信頼する人はみな、アブラハムと同じ祝福をいただくのです。
１０ユダヤ教のおきてに頼って救われようとする者は､神様にのろわれます。 なぜなら、聖書には､「神の律法の書にあるおきてを一つでも破る者は､のろわれる」とはっきり書いてあるからです。 １１したがって､ユダヤ教のおきてを守ろうと努力したからといって、だれ一人、神様の恵みを受けることはできないわけです。　なぜなら、神様の前で正しい者と認められる道は、信仰による以外にない、と神様が言っておられるからです。　預言者ハバククが「正しい人は信仰によって生きる」と語ったとおりです。　１２この信仰に

よる道は、おきてによる道とは、なんと違うことでしょう。　おきてによる道は、おきてを一つ残らず完全に守ることによって救われる、と教えているのですから。　１３ところが、本来なら、私たちが自分の悪い行ないゆえに受けなければならないのろいを、キリスト様は、自分の身に引き受けてくださったのです。　そして、滅びる以外にない状態から、私たちを救い出してくださいました。　なぜなら、聖書に、〔イエスが木の十字架にかけられたように〕「木にかけられる者はだれでも、のろわれた者である」と書いてあるからです。
１４今では、神様は、アブラハムへの約束と同様の祝福を、外国人にも与えておられます。そして、私たちはみなクリスチャンとして、この信仰によって、約束の聖霊様をお迎えできるのです。　１５愛する皆さん。　日常生活で人間同士が約束をかわす場合でも、文書にして署名したら、もう変更はできません。　あとになって、約束を破ることはできないのです。
１６ところで、神様は一つの約束を、アブラハムとその「子」にお与えになりました。　ここで「子ら」にではなく、「子」に与えられたと言われている点に、注意してください。「子ら」と言えば、アブラハムの子孫であるユダヤ人全部を指すことになります。　しかし、「子」と言えば、もちろんキリスト様を意味するのです。　１７私の言わんとすることはこうです。　つまり、信仰によって救うという神様の約束――神様はそれを文書にし、署名されました――は、その後四百三十年たって、神様が「十戒」をお与えになった時にも、無効とされたり、変更されたりはしなかったということです。　１８もしおきてによる救いが可能であれば、それは明らかに、アブラハムが恵みを受けた方法とは別ものだとわかります。　アブラハムは、ただ神様の約束を信じただけなのですから。
１９では、そもそもおきては、何のために与えられたのでしょうか。　それは、神様の約束につけ加えられたものであり、おきてを破ることがどんなに罪深いことかを、人々に示したのです。　ただし、このおきての有効期間は、その約束の指し示す「子」、すなわち、キリスト様が来られる時まででした。　さらにこのほか、次のような点も指摘できます。神様はおきてを、御使いたちを通してモーセにお与えになり、モーセがそれを、民に告示したのです。　２０しかしアブラハムは、約束を、御使いやモーセのような仲介者を通してではなく、神様から直接与えられたのです。
２１とすると、神様のおきてと約束とは、互いに対立するのでしょうか。　もちろん、そんなことはありません。　もし私たちが、おきてによって救われることができたのであれば、それで事はすんだはずです。　罪の力から逃れるための、別の道が開かれる必要など、なかったのです。　２２聖書は、私たちはみな、その罪の力に閉じ込められている、と宣告しています。　そこから解放されるには、イエス・キリストを信じる信仰による以外にありません。　この脱出の道は、キリスト様を信じるすべての人に開かれています。
２３キリスト様が来られるまでは、私たちはおきてに監視されていました。　やがて来られる救い主を信じることができるようになるまで、いわば、保護と監督を受けていたのです。

２４言い替えてみましょう。　ユダヤ教のおきては、キリスト様が来て、信仰によって、神様の前での正しい身分を与えてくださるまでの間、私たちの教師であり、案内役だったのです。　２５しかし、キリスト様が来られた今となっては、もう、私たちを監視し、キリスト様に導くおきては不要です。　２６私たちはみな、すでに、イエス・キリストを信じる信仰によって、神様の子供となったからです。　２７バプテスマ（洗礼）を受けてキリスト様と一体とされた今は、キリスト様に包み込まれているのです。　２８もはや、ユダヤ人とギリシヤ人、奴隷と自由人、男と女というような区別はありません。　みな同じクリスチャンであり、キリスト・イエスにあって一つなのです。　２９そして、キリスト様のものとなった今、私たちは、ほんとうの意味でアブラハムの子孫であり、アブラハムに与えられた神様の約束を、すっかり手に入れたのです。

四

１しかし、次の点に心をとめてください。　ある父親が、小さな子供にばく大な財産を残して死んだとします。　その場合、子供は、実際には父の全財産の持ち主ではあっても、大きくなるまで、奴隷とほとんど変わらない立場にあります。　２つまり、父の定めた年齢に達するまでは、後見人や管理者に従う義務があるのです。

３キリスト様が来られるまでは、私たちもそれとよく似た立場にありました。　ユダヤ教のおきてや儀式によって救われると考えて、その奴隷となっていたのです。　４しかし、ちょうどよい時が来ると、神様は自分のひとり息子を、女から生まれた者、ユダヤ人として生まれた者として、お遣わしになりました。　５それは、おきての奴隷になっていた私たちを買い戻して、自由の身とするためであり、神様の子供として迎えてくださるためなのです。　６このように、神様は、子としての私たちの心に、神の子の御霊を送ってくださいました。それで今、神様を「お父さん」とお呼びできるのです。　７私たちは、もはや奴隷ではありません。　神様の子供です。　子供であるからには、神様の持っておられるものはすべて、私たちのものです。　それが神様の計画だからです。

８あなたがた外国人は、神様を知らなかった時、実際には存在しない、神々と呼ばれているものの奴隷でした。　９ところが今は、神様を知っているのに〔というより、むしろ神様に知られているのに〕、どうして、もとの状態に逆戻りしたがるのですか。　おきてを守って天国に入ろうとする、あの貧弱で、無力で、役立たずの宗教の奴隷に逆戻りしようとするのですか。　１０あなたがたは、ある特定の日や月や季節や年についての定めを守り、それで神様を喜ばせようとしています。　１１そんなあなたがたが、気がかりでなりません。　私があれほど、あなたがたのために一生懸命尽くしてきたのは、全部むだだったのでしょうか。

１２愛する皆さん。　この点について、どうか私と同じ考えでいてください。　私も、以前のあなたがたのように、このような鎖からは自由になっているのですから。　私が初めて伝道した時、あなたがたは私を軽べつしたりはしませんでした。　１３初めてキリスト様の良い知らせを宣べ伝えた時の私は病気であったのに……、　１４そして、その病気は、

人に不快感を与えるものであったにもかかわらず、あなたがたは、私を拒んだり、追い返したりしませんでした。　それどころか、まるで神様からの御使いか、キリスト・イエスであるかのように、迎え入れ、気づかってくれました。
１５あの時、お互いに味わった幸福感は、どこに行ってしまったのでしょう。　あなたがたは、私を助けるためなら、自分の目をえぐり出してもかまわないとさえ、思ったではありませんか。
１６それが今、真理を告げたために、私はあなたがたを敵に回したのでしょうか。
１７一生懸命あなたがたに取り入っている偽教師たちは、ほんとうに、あなたがたのためを思っているのではありません。　ただ、もっと自分たちの取り巻きをふやすために、私たちから人々を引き離そうとしているだけです。　１８人が正しい動機と真実な心から親切にするなら、何も文句はありません。　私がその場に居合わせる時だけでなく、いない時にも、そんな態度を示してくれるなら、なおさら、すばらしいことです。　１９ああ、私の子供たちよ。　私はどんなに心配していることか。　あなたがたがキリスト様に完全に支配される時をひたすら待ちながら、生まれて来る子供を待つ母親の苦しみを、もう一度味わっているのです。　２０今あなたがたのそばにいられたら、そしてこんな言い方をしなくてすんだらと、どんなに願うことでしょう。　これほど離れていては、正直言って、なすすべがないといった感じです。
２１ユダヤ教のおきてを守らなければ救われない、と考えている皆さん。　私のことばに耳を傾けてください。　どうして、おきてのほんとうの意義を理解しないのですか。　２２アブラハムに二人の子供があって、一人は奴隷である妻から生まれ、もう一人は自由人である妻から生まれた、と書いてあります。　２３奴隷である妻の子供の誕生の場合、取り立てて変わった点はありませんでした。　しかし、自由人である妻の子供は、まずその子供の誕生に関する特別な神様の約束が先行し、それから生まれたのです。
２４２５ところで、この実話は、神様が人間を助けるために開かれた二つの道を示しています。　一つは、おきてを提示して、それを守るようにとお命じになった道です。　神様は、シナイ山でこの道をお示しになりました。　その時、モーセに「十戒」をお与えになったのです。　ちなみに、このシナイ山を、アラビヤ人は「ハガル山」と呼んでいます。このたとえでは、アブラハムの奴隷である妻ハガルは、戒めに従うことによって神様に喜ばれようとする生き方の象徴、ユダヤ人の母なる都、エルサレムを表わしています。　そして、この生き方に賛同するユダヤ人は、すべてハガルが産んだ奴隷の子供なのです。　２６しかし、私たちの母なる都は、天にあるエルサレムで、それはユダヤ教のおきてに属していません。
２７イザヤの次の預言は、このことを言おうとしたのです。
「喜べ、子供のいない女よ。
喜びの声をあげよ、子供を産んだことのない女よ。
あなたに多くの子供を、

女奴隷の子供より多くを授けよう。」
２８愛する皆さん。　あなたがたにしろ私にしろ、イサクと同じ、神様の約束に基づく子供です。　２９約束の子イサクは、奴隷である妻の子、イシュマエルにいじめられました。　とすれば、聖霊様によって生まれた私たちが、ユダヤ教のおきてを守るように強要する人々から迫害される現状も、うなずけます。
３０しかし、聖書には、神様がアブラハムにこう言われたと記されています。　「奴隷である妻と子供を追い出せ。　その女の子供は、自由人である妻の子供といっしょに、アブラハムの跡継ぎにはなれない。」　３１愛する皆さん。　私たちは、ユダヤ教のおきてに縛られた奴隷の子供ではありません。　信仰によって神様に受け入れられる、自由の女の子供です。
五
１このように、キリスト様は私たちを自由の身にしてくださいました。　ですから、この自由をしっかり握っていなさい。　もう二度と、ユダヤ教のおきてや儀式にがんじがらめにされた奴隷とならないよう、細心の注意をはらいなさい。　２よく聞いてください。　これは大切なことなのですから。　もしあなたがたが、神様の前で正しい者と認められるには、割礼（男子が生まれて八日目にその生殖器の包皮を切り取る儀式）を受け、ユダヤ教のおきてを守りさえすればいいと考えているなら、キリスト様に救っていただくことはあきらめなさい。　３もう一度言います。　割礼を受けて、神様の恵みを手に入れるつもりなら、それ以外のユダヤ教のおきてをも、完璧に守るべきです。　そうしなければ、死あるのみです。　４もしあなたがたが、おきてを守ることによって、神様への負債を帳消しにするつもりなら、キリスト様は、あなたがたにとって全く無意味な存在です。　あなたがたは、神様の恵みから、すべり落ちてしまったのです。
５しかし私たちは、キリスト様の死によってこそ、罪が取り除かれ、神様の前で正しい者と認められることを、聖霊様の助けによって確信しています。　６キリスト様から永遠のいのちをいただいた私たちは、割礼を受けたかどうか、ユダヤ教の儀式を守っているかどうか、などと心配する必要はありません。　私たちに必要なのは、愛によって働く信仰だけです。
７皆さんは、順調に走っていました。　それを妨害したのはだれですか。　真理に逆らわせたのは、だれですか。　８もちろん、神様のはずはありません。　あなたがたを、キリスト様に基づく自由へと招いてくださったのは、神様なのですから。　９とにかく、あなたがたの中に悪い人が一人でもいるなら、その悪影響は全体に及ぶのです。
１０主はこの点について、あなたがたを私と同じ信仰に立ち返らせてくださるものと、確信しています。　人を惑わし、かき乱す者には、だれであろうと、神様のさばきが下るのです。
１１よりによってこの私が、割礼やユダヤ教のおきてが救われるための必要条件だと教えている、と言う者がいます。　しかし、もしそうなら、もはや私は迫害されることなどな

いはずではありませんか。そんな教えには、だれも腹を立てませんから。　私が今なお迫害されているという事実こそ、私が今も、ただキリスト様の十字架を信じる信仰によって救われる、と教えている証拠なのです。
１２割礼を受けさせて、あなたがたの肉体の一部を切り取りたいと思っている教師たちには、いっそのこと、自分自身をあなたがたから、切り離してもらいたいものです。　とにかく、手を引いてくれればよいがと、私はそればかり願っています。
１３愛する皆さん。　あなたがたは自由を手にしているのです。　それは、悪を行なうための自由ではなく、互いに愛し合い、仕え合うための自由です。　１４なぜなら、おきての全体は、「自分を愛するように他の人を愛しなさい」という一つの命令に要約されるからです。　１５しかし、互いに愛し合わず、いつもいがみ合ったり、非難し合ったりしているなら、結局、共倒れになってしまいます。　気をつけなさい。
１６あなたがたにお勧めします。　ただ聖霊様の導きに従いなさい。　聖霊様は、どこへ行くべきか、何をなすべきか教えてくださいます。　そうすれば、自分の悪い性質のおもむくままに悪事に走ることがありません。　１７私たちの生まれながらの性質は、聖霊様がお命じになることとは正反対の悪事を好みます。　一方、聖霊様の導きのままに歩んでいる時に行ないたくなる善は、生まれながらの願望とは正反対のものです。　内面のこの二つの力は、どちらも私たちを思いどおりに動かそうと、いつも格闘しています。　そして私たちは、この二つの力の板ばさみになって、したいと思うことが自由にできない状態なのです。　１８しかし、聖霊様に導かれている時には、あなたがたはもう、自分を強制的に、ユダヤ教のおきてに従わせる必要はありません。
１９ところが、生まれながらの悪い性質に従っている時、あなたがたの生活は、次のような悪い実をつけます。　すなわち、汚れた思い、肉欲的な快楽を求める心、　２０偶像礼拝、心霊術〔悪霊の働きを助長するもの〕、憎しみ、争い、嫉妬、怒り、利己心、不平、あら捜し、排他主義と、そこから出て来るまちがった教え、　２１ねたみ、人殺し、泥酔、どんちゃん騒ぎ、そんなあらゆる種類のものです。　前にも言いましたが、もう一度言いましょう。　そのような生活を続ける者は、一人として神の国を相続できません。
２２しかし、聖霊様が生活を支配してくださる時、私たちのうちに、次のような実を結んでくださいます。　それは、愛、喜び、平安、忍耐、親切、善意、誠実、　２３柔和、自制です。　そこには、ユダヤ教のおきてに反するものは何もありません。
２４キリスト様に属する者は、生まれながらの悪い欲望を、その十字架につけてしまったのです。
２５もし私たちが今、聖霊様の力を受けて生きているなら、生活全般に渡って、その導きに従おうではありませんか。　２６そうすれば、名声や人気を得たいあまりに、ねたみ合ったり、いがみ合ったりする必要はなくなります。
六
１愛する皆さん。　一人のクリスチャンが何かあやまちを犯した場合、神様を敬っている

あなたがたは、やさしく謙そんな気持ちでその人を助け、正しい道に立ち返らせてやりなさい。　同時に、今度は自分が悪の道に落ち込むかもしれないと、心を引きしめなさい。
２相手の悩みを共に背負い、そのようにして、キリスト様の命令に従いなさい。　３ひとかどの人物の自分が、なにもそこまで身を低くする必要はないと思う人は、自分自身をあざむいているのです。　そんな人は全く取るに足りない人間です。
４ほんとうに最善を尽くしているかどうか、もう一度、点検しなさい。　そうすれば、よくやれたと自分で満足でき、他人と、とやかく比較することもなくなるでしょう。　５人はみな、それぞれ自分の欠点や悩みを背負っています。　一人として、完全な人間はいないのです。
６神様のことばを教えてくれる人には、報酬を払い、援助しなさい。
７思い違いをしてはいけません。　いいですか。　神様を無視することなど実際には不可能であり、種をまいた人は、必ずその刈り取りもすることになるのです。　８自分の悪い欲望を満足させるために種をまく者は、その結果、きっと霊的な滅びと死とを刈り取るはめになります。　しかし、聖霊様のよい種をまく者は、聖霊様が与えてくださる永遠のいのちを刈り取ります。　９正しい行ないをすることに疲れ果ててしまわないようにしましょう。　失望せず、あきらめずにいれば、やがて祝福を刈り取る日が来るからです。　１０ですから、機会さえあれば、だれに対しても、特にクリスチャンには、親切にしましょう。
１１この最後のことばは自筆でしたためます。　見てください、この大きな字を。　１２何のために、例の教師たちがあなたがたをくどいて割礼（男子が生まれて八日目にその生殖器の包皮を切り取る儀式）を受けさせようと図るのか、わかりますか。　その理由は、ただ一つです。　すなわち、そのようにして人気を得、迫害を免れたいのです。　その迫害とは、キリスト様の十字架が唯一の救いの道であると認めるなら、必ず受けるものなのです。　１３そうした割礼を主張する教師たちも、それ以外のユダヤ教のおきては守ろうとしません。　そのくせ、あなたがたに割礼を強要するのは、弟子をふやして誇るためなのです。
１４しかし私に関するかぎり、主イエス・キリストの十字架のほかに、誇るものなど、決してあってはなりません。　この十字架によって、私は、この世の魅力的なものすべてに対して、ずっと以前に興味を失ってしまいました。　そしてこの世も、私に対する興味をすっかり失ってしまったのです。　１５割礼を受けているかいないかは、今や、全然問題ではありません。　大切なのは、私たちがほんとうに別の新しい人に造り変えられているかどうか、ということです。
１６どうか、この原則に従って生きるあなたがたに、また、真に神様のものとなった、至る所のクリスチャンにも、神様のあわれみと平安がありますように。　１７二度と、こんな問題で論じ合わないようにしたいものです。　私の体には、イエス様に敵対する者からむち打たれ、傷つけられた跡が残っていますが、それこそ、キリスト様の奴隷であること

の、しるしなのですから。
１８愛する皆さん。　どうか、主イエス・キリストの恵みが、あなたがた一同と共にありますように。　アーメン。
パウロ
▪

エペソ人への教会（エペソ教会の皆さんへ）
私たちの心には、自分と違った人々をなかなか受け入れないものがあるようです。　差別（家柄、学歴、職業、社会的地位、貧富の差等による）は、古くて新しい問題です。　人よりも、少しでも自分が優れていると思いたい心が、差別をつくりあげるのでしょうか。
パウロは獄中から、各地の教会に手紙を送りました。　その一通がこの手紙です。　初めのころの教会には、まだユダヤ人と、それ以外の外国人との間に意見の対立があり、なかなかしっくりいきませんでした。

一
１エペソに住む、いつも主に忠実な、愛するクリスチャンの方々へ。
神様に選ばれて、キリスト・イエスの使者となったパウロが、この手紙を送ります。　２どうか、父なる神と、主イエス・キリストから与えられる恵みと平安が、あなたがたのものとなりますように。３さて、主イエス・キリストの父なる神を、どのようにほめたたえたらよいでしょう。　神様は、天上のあらゆる祝福で、私たちを祝福してくださいました。　それは、私たちがキリスト様のものとなっているからです。
４神様は、この世界をお造りになる前から、私たちを、ご自分のものとして選んでくださいました。　それは、キリスト様が私たちのためにしてくださることに、基づいています。　そして、神様は私たちを、ご自分の目から見て、何一つ欠点のない、きよい者にしようとお定めになりました。　神様の前に立つ私たちは、その愛に包まれているのです。　５神様の不変の計画とは、イエス・キリストを遣わし、その死によって、私たちを神様の家族の一員として迎えることでした。　それが、神様のお考えでした。
６神様こそ、いっさいの賞賛を受けるべきお方です。　神様は、驚くばかりの恵みと愛とを、豊かに注いでくださったのです。　それは、私たちが、神様の最愛のひとり息子につながる者となったからです。　７神の子の血を流してまで、私たちの罪を帳消しにしてくださるほど、神様の愛は大きいのです。　この神の子によって、私たちは救われました。
８神様は、豊かな恵みを、あふれるほど注いでくださいました。　私たちをよく理解し、何が最善であるか、常にご存じだからです。
９神様は、キリスト様を遣わしたことの隠れた理由を、私たちに知らせてくださいました。　その計画は、ずっと昔から、神様の愛のうちに決定ずみでした。　１０その目的はこうです。　すなわち、機が熟せば、私たちを、天でも地でも、あらゆる所から集めて、いつまでも、キリスト様のものとして神様のそばで過ごせるようにすることです。　１１そればかりでなく、キリスト様が成し遂げてくださったことのおかげで、私たちは、神様への喜ばしいささげ物とされています。　というのは、神様の主権的な計画の一部として、私たちは、神様のものとなるように、最初から選ばれていたのであり、すべては、ずっと昔からの、神様のお考えどおりになるからです。　１２なぜ神様は、このようになさったのでしょう。　それは、最初にキリスト様を信じた私たちに対する、こんなにもすばらしい恵

みを見て、私たちが神様をほめたたえるためなのです。
１３キリスト様が成し遂げてくださったことのおかげで、あなたがたも、救いを約束する良い知らせを聞き、キリスト様を信じるようになりました。　そして、キリスト様に属する者であるという証印を、聖霊様に押していただきました。　この聖霊様については、ずっと以前から、クリスチャン全部に約束されていたことです。　１４私たちのうちに住まわれる聖霊様は、神様が約束のものを全部ほんとうに与えてくださる、という保証です。それで、私たちに押された聖霊の証印は、神様がすでに私たちを買い上げ、ご自分のもとに引き取ってくださることを、保証するのです。　これが、栄光の神様をほめたたえる、もう一つの理由です。
１５こういうわけで、私は、主イエスに対するあなたがたの信仰と、ほかのクリスチャンに対する愛とを耳にして以来、　１６絶えず神様に感謝してきました。　いつも、あなたがたのために、こう祈り求めています。　１７どうか、主イエス・キリストの神様、すなわち栄光の父が、あなたがたに知恵を与えて、キリスト様がどのようなお方か、また何をしてくださったかを、正しく、はっきりと理解させてくださいますように。　１８また、心にあふれるほどの光が与えられて、神様が、あなたがたを召して与えようとされる将来を、はっきり見きわめることができますように。　そして、キリスト様のものとして、私たちが神様にささげられた結果、神様の豊かさがいっそう明らかになったことも、知ってほしいのです。　１９また、信じる者を助ける神様の力が、信じられないほど絶大であることを、理解してくれるようにと祈っています。　２０２１この同じ絶大な力が、キリスト様を死人の中から復活させ、ほかのどんな王、支配者、権力者、指導者よりもはるかに高い、天の神様の右の座につかせたのです。　実に、このキリスト様の栄誉は、この世だけでなく、次に来る世でも、他のすべてに、はるかにまさって輝かしいものです。　２２そして神様は、すべてをキリスト様の足の下に従わせ、キリスト様を教会の最高の頭とされました。　２３教会は、キリスト様の体であって、すべてを造り、すべてを満たすキリスト様の霊が満ちあふれる場所です。
二
１以前、あなたがたは神様からのろわれた存在であり、罪のために永遠に滅びる運命でした。　２世間一般の人と同じ生き方をし、別に変わったところもありませんでした。　罪にまみれ、空中の権威を持つ、力ある支配者サタンの言うままになっていたのです。　このサタンは、主に反抗する人の心に、今も働きかけています。　３私たちもみな、以前はほかの人たちと全く同じでした。　その生活ぶりは、心にある悪を反映したものでした。欲望や悪意のおもむくままに、あらゆる悪事を重ねていたのです。　私たちは、生まれつきの悪い性質で悪へと突っ走り、他のすべての人と同様、神様の怒りを受けて当然の者でした。
４しかし神様は、なんとあわれみに満ちたお方でしょう。　こんな私たちを深く愛してくださったのです。　５それゆえ、罪のために霊的に死に果て、滅びる運命にあった私たち

をも、キリスト様の復活と同時に生き返らせてくださいました。　〔救われる価値などない私たちに、ただ一方的な恵みが注がれたのです。〕　６そして、キリスト様と共に、墓の中から栄光へと、引き上げてくださいました。　その天の領域で、私たちはキリスト様と共に、席に着いているのです。　これはすべて、キリスト・イエスが成し遂げてくださったわざに基づいているのです。　７神様がキリスト・イエスを通して成してくださった、すべてのことからも、神様の恵みのすばらしさがわかります。私たちは今、その恵みがどんなに豊かであるかを示す、見本となれるのです。
８あなたがたは、神様の寛容さのゆえに、キリスト様を信じることによって救われたのです。　しかも、そのキリスト様を信じることすらも、あなたがたから自発的に出たことではありません。　それもまた、神様からの贈り物なのです。　９救いは、私たちの良い行ないに対する報酬ではありません。　ですから、だれ一人、それを手柄として誇ることはできません。　１０私たちをこのように造り、キリスト・イエスによる新しい生活に入れてくださったのは、神様です。　この新しい生活は、神様がずっと以前から計画してくださったものであり、私たちが互いに助け合って過ごすためのものです。
１１あなたがたも、以前は異教徒として、ユダヤ人からは、神様を信じない「汚れた者」と呼ばれていた自分を、決して忘れてはなりません。〔もっとも、そういうユダヤ人も、神様を敬うしるしとしての割礼（男子が生まれて八日目にその生殖器の包皮を切り取る儀式）を受けて、信心深そうに儀式や礼拝を守っていたとはいえ、心は汚れたままだったのですが。〕　１２思い出してもごらんなさい。　そのころのあなたがたは、キリスト様とは全く無縁な生き方をしていました。　神様の子供となった人々には敵対し、神様から、何の助けも約束されていませんでした。　神様もなく、望みもない、滅びる以外にない存在でした。
１３しかし今では、キリスト・イエスに属する者となっています。以前は、神様から遠く離れていたあなたがたも、キリスト・イエスがその血によって成し遂げてくださったことのゆえに、今では、神様のそば近くに引き寄せられているのです。
１４キリスト様こそ、私たちの平和の道です。　この方は、私たちユダヤ人とあなたがた外国人とを一つの家族とし、両者を隔てていた軽べつという壁を打ちこわして、平和をつくり出してくださいました。　１５つまり、ご自分の死によって、相互の激しい敵意を、除いてくださったのです。　その敵意の原因とは、ユダヤ人を特別扱いし、外国人をのけ者にする、ユダヤ教のおきてでした。　そのおきて制度全体を無効にするために、キリスト様は死んでくださったのです。　そして、それまで互いに対立していた二つのグループを、それぞれ自分の手とし、足とされました。　こうして、私たちを融合させて、新しい一人の人間をつくられたのです。　ついに平和が実現しました。　１６私たちが同じ体のそれぞれの器官になったので、互いの怒りは消え去りました。　両者とも、神様と和解したからです。　こうして、反目は、十字架によって、ついに終わりを告げたのです。　１７そして、キリスト様は、遠く離れていたあなたがた外国人にも、近くにいた私たちユダ

ヤ人にも、この平和の良い知らせを、もたらしてくださいました。　１８キリスト様が成し遂げてくださったことのゆえに、ユダヤ人も外国人もみな、聖霊様に助けられつつ、父なる神のもとに行けるのです。
１９今、あなたがたは、もはや神様にとって見知らぬ他国人でも、天国に縁のないよそ者でもありません。　神の家族の一員であり、神の国の市民なのです。　すべてのクリスチャンと共に、神の一家を構成しているのです。
２０あなたがたは今、使徒と預言者という土台の上に立っています。　しかも、この建物の最も重要な土台石は、キリスト・イエスです。２１私たち信じる者は、常にりっぱな神殿を目指す建物の一部分として､共に､注意深くキリスト様に組み合わされているのです。
２２そして、あなたがたもまたお互いに、御霊によって、キリスト様に組み合わされ、神の家の一部となるのです。
三
１キリスト様の奴隷である私パウロは、今、あなたがたのために投獄されています。　あなたがた外国人も、神の家族の一員だと告げたからです。　２３私は、外国人に神様の恵みを示すためのこの特別の任務を、神様から受けています。　このことについては、前の手紙でも簡単にふれましたから、もうすでにご存じと思います。　外国人もまた神様の恵みの対象とされているという、この神様の特別の計画を、神様が私に明かしてくださったのです。　４このように申し上げるのも、これらについて私がどう理解しているかを、わかっていただくためです。　５以前には、神様はこの計画を、自分の民に隠しておられました。　しかし今では、聖霊様を通して、使徒や預言者たちに、はっきりと示しておられます。
６その特別の計画とは、こうです。　すなわち、神様の子供とされた者たちが全財産を相続する時、外国人もユダヤ人と共に、十分にその分け前にあずかるということです。　ユダヤ人も外国人も、共に神の教会の一員として招かれています。　そして、キリスト様についての良い知らせと、この方が成し遂げてくださったこととを受け入れる時、キリスト様によって大いに祝福するという神様の約束に、両者ともあずかるのです。　７神様は、この計画をすべての人に伝える光栄ある特権を、私に与えてくださいました。　また、その務めを果たすに十分な、神の力と特別な才能をも、与えてくださったのです。
８考えてもごらんなさい。　私はそんな資格の全くない者です。クリスチャンの中で最も役立たずの人間です。　それにもかかわらず、キリスト様のうちにある無限の富が外国人にも分け与えられる､という喜ばしい知らせを伝える者として､特に選ばれたのです。　９それはまた、万物を造られた神様が、世の初めからの特別な計画どおりに、ご自分が外国人の救い主でもあることを、すべての人に説き明かすためでもありました。
１０神様がそうなさる理由は何でしょうか。　それは、天上のもろもろの支配者たちに対して、神の全家族――ユダヤ人も外国人も――が神の教会の中で一丸となっている姿を見せ、神様の完全な知恵を示すためです。　１１これこそ、神様が主キリスト・イエスを通

して、かねてから計画しておられたことなのです。
１２キリスト様と共に、また、キリスト様に頼って神様に近づけば、きっと喜んで迎えていただけることを確信して、私たちは今、恐れることなく、大胆に神様の前に出ることができます。
１３ですから、どうか、私がいま体験している苦しみを知って落胆しないでください。　この苦しみは、あなたがたのためであり、それは、あなたがたにとって名誉となり、励ましとなるはずです。　１４１５神様のご計画の知恵深さと広大さを思う時、私はひざをかがめて、神の大家族〔その中のある者はすでに天国におり、ある者はまだ地上にいます〕の父なる方に祈ります。　１６どうか、父なる神が、その栄光に満ちた無限の富の中から、聖霊様を通して人を内面から強くする力を、あなたがたに与えてくださいますように。　１７また、こうも祈ります。　どうか、キリスト様が、信じるあなたがたの心に住み、喜んでそこに住み続けてくださいますように。　どうか、この上なくすばらしい神様の愛という土壌に、あなたがたが深く根を張れますように。　１８１９そして、〔神様の子供とされた者にとっては当然のことですが〕神様の愛が実際にどれほど長く、どれほど広く、どれほど深く、どれほど高いかを知り、また理解できますように。　さらに、それを身をもって経験できますように。　もっとも、この愛はあまりにも大きいので、それを見極め、完全に把握することは、とても無理ですが。　こうして、あなたがたはついに、神ご自身によって満たされるのです。
２０どうか、私たちのなしうるかぎりの祈り、願い、考え、望みを無限に超えて、つまり、私たちが大胆に願い求め、夢見ることもはるかに及ばないすばらしいことを、その偉大な力でなされる神様に、栄光がありますように。　２１どうか、キリスト・イエスによって、教会に救いの計画をもたらしてくださった神様に、栄光が永遠にありますように。　アーメン。
四
１主に仕えたために、今こうして牢獄につながれている私から、お願いします。　このようにすばらしい祝福を受けるべくして選ばれたあなたがたは、それにふさわしく生活し、行動してください。　２謙そんで柔和な人になってください。　愛をもって互いの欠点を思いやり、互いに忍耐してください。　３聖霊様によって心を一つにされるよう常に努力し、互いに仲良く暮らしなさい。
４私たちはみな、一つの体の各器官です。　だれもが同じ御霊様を与えられ、同じ輝かしい未来へと招かれています。　５また、私たちの主はただ一人であり、信仰も一つであり、バプテスマ（洗礼）も一つだけです。　６そして、私たちすべての上に立ち、すべての中に宿り、各器官である私たちを貫いて生きておられる、神であり父である方を、知っているのです。　７けれども、キリスト様は私たち一人一人に、それぞれ特別の能力を与えてくださいました。　自分の豊かな賜物の宝庫から、お心のままに与えてくださったのです。
８旧約聖書の詩篇の作者は、このことについて

「キリストは、復活してサタンに打ち勝ち、
勝利を得て天に帰られた時、
人々に惜しみなく賜物をお与えになった。」
と言っています。　９ここで、キリスト様が天に帰られたという点に注意してください。それは、最初は天の一番高い所におられたのに、地の一番低い所に下られたことを意味します。　１０この下って来られた方が、天に帰られたのです。　それは、キリスト様が、底辺から頂点に至るまで、あらゆる点であらゆるものを満たすためなのです。
１１さてこうして、ある者には使徒としての特別な能力が与えられ、ある者にはすぐれた説教者としての才能が与えられました。　また、キリスト様を救い主として信じるようにと人々を指導する、特別な能力を受けた者もいれば、羊を見守る羊飼いのように、神の民となった人たちの世話をし、神様のお考えにそって導き教える力を受けた者もいます。
１２なぜこのように、最善を尽くせる能力がそれぞれに与えられたのでしょうか。　それは、神の民となった人々が、神様のためにより良く働けるよう整え、キリスト様の体である教会を、力にあふれた、完成した状態へと建て上げるためです。　１３そしてついに、私たちはみな、救いについて、また救い主である神の子について、同じ信仰を持つに至り、主にあって完全に成長した者となるのです。――そうです、キリスト様に完全に満たされた状態にまで、成長するのです。
１４そこで、もはや、だれかから間違ったことを教えられたり、うそを真実のように、たくみに見せかけられたりしても、そのたびに、子供みたいにふらふらと、信じるものを変えてはいけません。　１５むしろ、誠実に語り、誠実にふるまい、誠実に生きて、常に真理に従うのを喜び、あらゆる点で、キリスト様〔教会の頭なる方〕にますます似た者となるのです。　１６このキリスト様の指揮下で、体全体がみごとに組み合わされ、各器官はそれぞれ特別な方法で他を助けます。　それは、体全体が健康になり、成長して、愛にあふれるためです。
１７そこで私は、主のために、このことを言わせていただきます。もうこれから先、救われていない人と同じ生き方をしてはなりません。　彼らは分別を失い、混乱しているのです。　１８その閉ざされた心の中は真っ暗です。　神様に対して心を閉ざしているので、神様のいのちから遠く離れています。　もちろん、神様のお気持ちなど理解できません。
１９彼らは、善悪の区別など、気にもとめません。　不潔な生き方にひたりきっています。悪だくみと無分別な欲望に押し流され、それを食い止めるすべはありません。
２０しかし、キリスト様が教えてくださった生き方は、全く違います。　２１もしあなたがたが、ほんとうにキリスト様の声を聞き、キリスト様に関する真理を学んでいるなら、２２古い邪悪な性質をかなぐり捨てなさい。　古い性質とは、悪い生き方の道連れであった、以前のあなたがた自身のことです。　それは、肉欲とごまかしにまみれ、骨の髄まで腐りきっていました。
２３今や、あなたがたの態度や考えをみな、より良い方向へ転換しなければなりません。

２４そうです、あなたがたは、全くの別人、きよく善良な人になるべきです。　この新しい性質を身にまといなさい。
２５私たちは互いに体の一部分なのですから、ごまかし合いをやめ、真実を語りなさい。うそをつき合えば、自分自身を傷つけることになるのです。　２６腹を立てることがあっても、恨みをいだいて罪を犯してはなりません。　日暮れまで、怒ったままでいてはいけません。　すぐに冷静さを取り戻しなさい。　２７腹を立てていると、悪魔につけ込むすきを与えるからです。
２８盗みを働いていた人は、すぐにやめなさい。　まともに働きなさい。　そうすれば、困っている人に施すこともできます。　２９悪意あることばを口にしてはいけません。 ただ相手に益となり、助けとなること、また、祝福を与えることだけを話しなさい。
３０聖霊様を悲しませるような生き方をしてはいけません。　この聖霊様は、罪からの救いが完成する日のために、救いの確かな証印を押してくださる方であることを、忘れてはなりません。
３１意地悪、不きげん、怒りを捨てなさい。　けんか、とげのあることば、えこひいきが日常生活に巣くっていてはなりません。　３２むしろ、互いに親切にし、心のやさしい人になりなさい。　そして、あなたがたを、キリストのものとなったということで赦してくださった神様にならい、お互いに赦し合いなさい。
五
１子供が、かわいがってくれる父親を見ならうように、何をするにも神様を模範としなさい。　２キリスト様の模範にならって、他人への思いやりに満ちあふれていなさい。　キリスト様の愛は、あなたがたの罪を取り除くために、ご自身をいけにえとして神様にささげるほど、深かったのです。　このキリスト様の愛の香ばしいかおりを、神様はお喜びになったのです。
３あなたがたの間に、性的な罪や、不潔な行ない、貪欲があってはなりません。　そんなことで、だれからも非難されないようにしなさい。　４汚らわしい話や、みだらな会話、下品な冗談は、あなたがたにふさわしくありません。　むしろ、互いに神様の恵みを心にとめて、感謝しなさい。
５もうよくご存じと思いますが、キリスト様と神様との国に、汚れた人や貪欲な人は入れません。　貪欲な人は、実は偶像礼拝者であって、神様よりもこの世のものを愛して拝んでいるのです。　６これらの罪の言いわけをする者たちに、だまされてはなりません。　神様の恐ろしい怒りは、こんな行ないをする者に片っぱしから下るからです。　７彼らとのつき合いすら禁じます。　８あなたがたの心は以前は暗やみにおおわれていましたが、今は主からの光にあふれています。　そのことを態度で示しなさい。　９内面がこの光で輝いているのですから、良いこと、正しいこと、真実なことだけを行なうべきです。
１０日々の生活で、何が主に喜ばれることかを、わきまえなさい。１１悪と暗やみの無意味な快楽に身を任せてはいけません。　むしろそれを非難し、明るみに出しなさい。　１

２神様を敬わない者たちが暗やみでふけっている快楽は、口にするのも恥ずかしいことです。　１３しかし、あなたがたがそれを明るみに出す時、光がその罪を照らし出して、正体をあばきます。　その実態の醜さに気づいて、そのうちの何人かは光の子供となるでしょう。　１４だからこそ、聖書にこう言われているのです。
「眠っている者よ。　目を覚ませ。
死人の中から起き上がれ。
そうすれば、キリストがあなたを照らされる。」
１５１６ですから、自分の行動によくよく注意しなさい。　今は困難な時代です。　愚か者にならないで、賢くなりなさい。　あらゆる機会を十分に生かして、正しい行ないをしなさい。　１７軽率に行動せず、主が望んでおられることを実行しなさい。　１８酒を飲みすぎてはいけません。　そこには多くの悪が潜んでいるからです。　むしろ、聖霊様に満たされ、支配していただきなさい。
１９詩篇と賛美歌を引用し、聖なる歌をうたい、心の中で主に向かって音楽をかなでつつ、互いに主について存分に語り合いなさい。　２０常に、あらゆることを、主イエス・キリストの名によって、父なる神に感謝しなさい。
２１互いに従順になって、キリスト様をたたえなさい。　２２妻は、主に従うのと同様に、夫に従いなさい。　２３なぜなら、キリスト様の体である教会がキリスト様にゆだねられているのと同じように、妻は夫にゆだねられているからです。　〔キリスト様は教会のために心を配り、その救い主となるために、実にいのちさえも投げ出されたのです。〕　２４そういうわけですから、妻は、教会がキリスト様に従うのと同じように、どんなことでも、喜んで夫に従わなければなりません。
２５また、夫は、教会のためにいのちを捨てるほどの愛を示されたキリスト様にならって、妻を愛しなさい。　２６キリスト様のその行為は、バプテスマ（洗礼）と神のことばで教会を洗いきよめ、きよく、汚れのないものとするためでした。　２７こうして、一点のしみも、しわも、何の傷もない、きよく完全な栄光の教会として、迎え入れようとされたのです。　２８これこそ、夫が妻に対してとるべき態度です。　つまり、夫は妻を、自分の体の一部のように愛さなければなりません。二人は一体なのですから、夫が妻を愛する時、実は自分自身を愛しているのです。　２９３０自分の体を憎む者はいません。　愛し、いたわるのが普通です。　それは、キリスト様が自分の体である教会をいたわってくださるのと同じです。　私たちは、その体の各部分なのです。
３１夫と妻が一体であることは、聖書もはっきり証言しています。「人は結婚する時、父母のもとを離れなければならない。　それは、完全に結びついて、二人が一心同体となるためである。」　３２これは、なかなか理解しにくいことですが、私たちがキリスト様の体の各部分であることを説明するには適切な例です。
３３そこで、もう一度言います。　夫は妻を、自分の体の一部のように愛しなさい。　そして妻は、夫を心から尊敬し、従いなさい。

六

１子供は両親に従いなさい。　神様は､親が子供を監督する権威を認めておられるのです。　従うのは正しいことです。　２「あなたの父と母とを敬え。」　これは、神様の「十戒」では筆頭のもので、一つの約束がついています。　３つまり、「父母を敬うなら、あなたは幸せになり、長生きする」とあるのです。

４両親にもひとこと言っておきます。　子供を、いつもがみがみしかりつけ、小言を並べ立てて、反抗心を起こさせたり、恨みをいだかせたりしてはいけません。　かえって、主がお認めになる愛のこもった訓練と、助言や忠告を与えて育てなさい。

５奴隷は主人に従い、最善を尽くしなさい。　キリスト様に仕えるのと同じようにしなさい。　６７主人の目の前でだけ一生懸命に働き、隠れて怠けるようではいけません。　神様が望まれることを、心を尽くして行ない、キリスト様のために働くのと同様、いつも熱心に喜んで働きなさい。　８あなたがたが、奴隷であろうと自由人であろうと、良い行ないには、一つ一つ主が報いてくださることを忘れないように。

９主人たる者も、いま私が奴隷たちに勧めたのと同じ態度で、奴隷を正しく扱いなさい。　脅すばかりではいけません。　自分もキリスト様の奴隷であることを忘れないように。　あなたがたの主も、奴隷の主も同じお方なのです。　主は人を差別したりはなさいません。

１０最後に、覚えておいてほしいことがあります。　あなたがたは、自分のうちにある主の超自然的な力によって強められるべきだということです。　１１悪魔のどんな戦略や策略にも立ち向かえるように､神様のすべての武具で身をかためなさい。　１２戦う相手は、血や肉を持った人間ではなく、肉体のない者たちです。　すなわち、目に見えない世界の支配者たち、強大な悪魔的存在、この世を支配する暗やみの大王たち、それに、霊界にいる無数の悪霊どもです。

１３ですから、いついかなる攻撃にも対抗できるように、神様の武具の一つ一つを役立てなさい。　そうすれば、すべてが終わった時も、なおしっかり立てるでしょう。

１４しかし、そのためには、腰に真理の帯をしめ、神の承認という胸当てをつけなければなりません。　１５次に、神との平和の知らせを伝えるために直ちに出発できる、丈夫なくつをはきなさい。　１６どんな戦いにも、守りの盾として必要なのは信仰です。　これがあれば、ねらい定めて射かけてくるサタンの火矢を、消し止めることができます。　１７また、救いのかぶとをかぶり、御霊の剣〔神のことば〕を手にしなければなりません。

１８いかなる場合にも祈りなさい。　どんなことでも、聖霊様の考えにそって神様に求めなさい。　必要なものをひたすら願い求めなさい。　各地に散らばったすべてのクリスチャンのために、熱心に祈り続けなさい。　１９また、私のためにも祈ってください。　主のことを大胆に告げる時に、また、主の救いは外国人にも及ぶと説明する時に、適切なことばが与えられるよう祈ってください。　２０私は今、神様からのこの知らせを伝えたために、鎖につながれています。　しかし、この牢獄の中でも、語るべきことを、主のために大胆に絶えず語れるよう祈ってください。

２１心から愛する信仰の友、主の仕事のための忠実な協力者テキコが、あなたがたに私の近況を残らず知らせてくれるでしょう。　２２テキコをそちらへ送るのは、私たちの様子を知ってもらい、それを励みにしてほしいからです。
２３どうか、クリスチャンの皆さんに、父なる神と主イエス・キリストからくる、信仰に伴う平安と愛とが注がれますように。　２４どうか、神様の恵みと祝福が、主イエス・キリストを心から愛する、すべての人にありますように。
パウロ
▪

ピリピ人への手紙（ピリピ教会の皆さんへ）
ピリピは、今のギリシヤの北部にあり、ローマの植民都市として栄えた町でした。　ここはまた、パウロにとっても思い出深い町で、彼がヨーロッパに最初の教会をつくったのもこの町でした。　それも、捕らえられ、むちで打たれながらつくったのです。　それにこたえて、ピリピ教会のクリスチャンも、パウロのために献身的に尽くし、彼の経済的必要を満たしたこともしばしばでした。　その教会に、パウロは、キリストを信じる者の喜びを、真実こめて語ります。

一

１キリスト･イエスの奴隷であるパウロとテモテから､ピリピの町にいる牧師と執事たち、およびクリスチャンの皆さんへ。
２どうか、神様の祝福があなたがた一同にありますように。　父なる神と主イエス・キリストが、一人一人を、あふれるばかり祝福し、心にも生活にも、平安を満たしてくださいますように。　３あなたがたを思う私の祈りは、いつも神様への賛美にあふれています。
４そして、私の心は喜びに満たされるのです。　５それは、あなたがたが、キリスト様についての良い知らせを、初めて聞いた日から今日まで、全力をあげて、その知らせを宣べ伝える働きに協力してくれたからです。 ６あなたがたの内面に良い働きを始めた神様は、引き続き、必ずそれを恵みのうちに成長させ、やがてキリスト・イエスが帰って来られる日に、ついに完成してくださると、私は堅く信じています。
７こう考えるのも、きわめて当然です。　あなたがたは、私にとって特別な存在なのですから。　私が獄中にある時も、自由の身で真理を弁明し、キリスト様のことを語っている時も、あなたがたは、私と共に神様の祝福をいただいたのです。　８私がキリスト・イエスのやさしさをもって、どんなに深くあなたがたを愛し、慕っているかをご存じなのは神様だけです。　９私はこう祈っています。　どうか、あなたがたの他の人々への愛が、もっともっと満ちあふれますように。　同時に、霊的な知識と洞察力も、さらに深められますように。　１０それは、あなたがたに、善悪をはっきり見分ける力がいつも備わり、主が来られる日までずっと、だれからも非難されることなく、心がきよく保たれるよう、願うからです。　１１どうか、常に神の子供にふさわしく、親切な良い行ないができますように。　それは、大いに主をほめたたえ、主の栄光を現わすことになるのです。
１２愛する皆さん。　このことは、わきまえていてほしいものです。　つまり、ここで私の身に起こることはすべて、キリスト様についての良い知らせを広めるのに、たいへん役立っているという事実です。　１３周囲の人たちはみな、兵営の兵士に至るまで、私が、ただクリスチャンであるというだけの理由で投獄されていることを､知っているからです。
１４また、私を見て、ここにいる多くのクリスチャンは、投獄など恐れなくなりました。
ともかく、彼らは耐え忍んでいる私の姿に勇気づけられ、ますます大胆に、キリスト様のことを人々に語るようになったのです。

１５もっとも、中には、神様が私をこのように役立ててくださるのをねたんで、この良い知らせを宣べ伝えている人もいます。 彼らは､勇敢な伝道者という名声がほしいのです。しかしこのほか、もっと純粋な動機から伝道している人もいます。　１６私を愛する気持ちから、そうしているのです。　つまり、私をこのような状況下におかれた主の目的が、真理を弁明させる点にあることを知っているからです。　１７ところが、別の人たちは、自分たちの成功によって、獄中にある私の苦痛がもっと増すだろうと考えて、つまり、私にねたませようとして､伝道しているのです。　１８しかし､どのような動機からであれ､キリスト様についての良い知らせが宣べ伝えられるのは事実であり、私は喜んでいます。１９これからも喜び続けるでしょう。　なぜなら、あなたがたの祈りや、聖霊様の助けによって、このことがすべて私に益となることが、わかっているからです。　２０というのも、私は、次のような熱心な期待と希望とをいだいて生きているからです。　すなわち、自分で恥じるようなことは一つもせず、かえって、この試練の時も、今まで同様、常にキリスト様のために、大胆に語り、また、生きるにしても、死ぬにしても、いつもキリスト様のすばらしさを身をもって現わしたい、と思っているのです。　２１なぜなら、私にとって、生きることは、キリスト様のために良い機会を得たことを意味し、死ぬことは、さらにすばらしいことを意味するからです。　２２しかし、生きているからこそ、人々をキリスト様に導く機会に恵まれるとすれば、生と死のどちらがよいのか、ほんとうはわかりません。　２３ある時は生きていたいと思い､また､ある時には反対の気持ちになります。というのも、この世を去ってキリスト様のそばにいることほど、願わしいことはないからです。　そのほうが、地上にとどまっているより、どれだけ幸せかわかりません。　２４しかし、地上では、もっとあなたがたの役に立てることも事実です。
２５そうです。　私にはまだ、この世で生きる使命があるのです。　それで、あなたがたの信仰の成長を助け、もっと喜びにあふれさせるために、きっと、もうしばらくの間、地上に長らえることになるでしょう。　２６私が生き延びて、もう一度そちらに行った時、あなたがたのうちに喜びがわき上がり､私を無事に守ってくださったイエス･キリストを、心から賛美するようになるのです。
２７しかし、たとい私の身にどんなことが降りかかろうと、あなたがたは、いつもクリスチャンらしく生活するよう心がけてください。　そうすれば、もう一度会えるにしても、会えないにしても、あなたがたについて、いつでもうれしい報告を聞けるでしょうから。つまり、あなたがたが、キリスト様の良い知らせを宣べ伝えるという、一つの目標に向かって、しっかり協力して立っており、　２８敵対する者たちのどんなしわざにも、たじろぐことがないと。　実際、このことは、彼らの滅びを暗示するのですが、あなたがたにとっては､神様が共にいて､永遠のいのちを与えてくださることの､確かな証拠となります。２９あなたがたは、ただキリスト様を信じるだけでなく、キリスト様のために苦しむという特権をも与えられているのです。　３０私たちは、共に戦っているのです。　あなたがたは、先にキリスト様のために苦しんでいる私の姿を見ました。　そして、今なお、激し

く大きな戦いの真っただ中にいる私のことを、よく知っているはずです。
二
１あなたがたの間には、クリスチャンとして互いに励まし合う気持ちが、少しでもありますか。　私を助けたいと思うほどの愛がありますか。　私たちは同じ御霊様を共にいただいており、主にあって互いに兄弟であるということの、ほんとうの意味がわかっているでしょうか。　やさしい心と思いやりが、少しでもあるでしょうか。　２もしそうなら、互いに愛し合い、心からうちとけ合い、心と思いと目的とを一つにして共に働き、私を心から喜ばせてください。
３自己中心的になったり、見栄を張ったりしてはいけません。　謙そんになって、他の人を自分よりもすぐれた者とみなしなさい。　４身の回りのことばかりに、とらわれるのではなく、他人にも目を向け、その行動にも関心を持ちなさい。
５私たちに対するキリスト・イエスの態度を、見ならいなさい。　６キリスト様は神様なのに、神様としての権利を要求したり、それに執着したりはなさいませんでした。　７かえって、その偉大な力と栄光を捨てて、奴隷の姿をとり、人間と同じになられました。　８そればかりか、さらに自分を低くし、まさに犯罪人同様、十字架上で死なれたのです。
９しかし、それだからこそ、神様はキリスト様を高く天に引き上げ、最高の名をお与えになりました。　１０それは、そのお名前のもとに、すべてのものが天でも地上でも地下でもひざまずき、　１１すべての口が「イエス・キリストは主です」と告白して、父なる神がほめたたえられるためです。
１２心から愛する皆さん。　私がそちらにいた時、あなたがたはいつも、私の教えに細心の注意をはらって従ってくれました。　離れている今はなおさら、注意深く善行に励んでください。　救われているのなら、当然そうすべきなのです。　深い尊敬の思いをこめて神様に従い、神様をお喜ばせできないことからは手を引きなさい。　１３神様は人の心に働きかけて、従おうとする思いを起こさせ、神様が望まれる行ないができるよう、助けてくださるのです。
１４何事においても、不平を言ったり、理屈をこねてはいけません。　１５１６だれからも非難されないためです。　心の曲がった頑固な人がひしめいている暗い世の中で、あなたがたは、神様の子供として、汚れのない、きよらかな生活を送らなければなりません。
世の人々の間で、いのちのことばを高く掲げ、燈台のように輝きなさい。
そうすれば、キリスト様が帰って来られる時、私は、あなたがたに対する労苦がむだでなかったことを知り、どんなに喜ぶことでしょう。　１７あなたがたの信仰を、供え物として神様にささげる時、その上に、たとい私の血を注がなければならないとしても――あなたがたのために、いのちを捨てなければならないとしても――私はうれしいのです。　そして、あなたがた一人一人にも、この喜びを分けてあげたいのです。　１８このことは、当然、あなたがたにとっても喜びなのですから。　私があなたがたのために、いのちを捨てる特権を持っていることを、共に喜んでください。

１９主のお許しがありしだい､テモテをそちらへやりたいと思っています。　そうなれば、彼から、あなたがたのことや、そちらの様子を報告してもらい、元気づけられると期待しています。　２０テモテほど親身になって、あなたがたのことを心配している人はいません。　２１ほかの人はみな、自分の計画に心を奪われ、キリスト・イエスのことなど気にかけていないようです。　２２しかし、テモテは違います。　よくご存じのとおり、まるで私の息子のように、キリスト様の良い知らせを宣べ伝えるのを助けてくれました。　２３それで、ここでの私の取り扱いがどうなるかわかりしだい、テモテを行かせるつもりです。　２４私も、近いうちに主がそちらを訪ねさせてくださる、と確信しています。
２５それはさておき、エパフロデトを、あなたがたのもとに帰さなければ、と考えています。　よくぞ、困っていた私を助けるために、エパフロデトをよこしてくれました。　まことに､彼と私は､血を分けた兄弟のように、手を取り合って働き、戦ってきました。　２６いま彼に、そちらへ帰ってもらいます。　彼は、あなたがた一同のことを思ってホームシックにかかっており、その上、自分の病気のことがそちらに知れたのを、ひどく気にしているからです。　２７病気のことは、ほんとうです。　実際、危うく、いのちを落とすところでした。　しかし神様は､エパフロデトをあわれんでくださったのです。　それは、もうこれ以上、悲しみが重ならないようにとの、私へのあわれみでもありました。
２８それで、エパフロデトを帰してやりたいと、心から願っています。　あなたがたが彼に会って感謝にあふれる姿が､目に浮かぶからです。　それは私にもうれしいことですし、心配も軽くなります。　２９どうか喜びにあふれ､主にあって迎えてやってください。　また、その労をねぎらい、感謝の気持ちを表わしてください。　３０なぜなら、彼はいのちがけでキリスト様のために働き、今にも死にそうな目に会ったからです。　彼は離れているあなたがたに代わって、私に尽くしてくれたのです。
三
１愛する皆さん。　どんなことが起ころうと、主にあって喜びなさい。　こう何度も言いますが、それを私は、別にわずらわしくは思いませんし、あなたがたも聞かされたほうがいいのです。
２救われるためには割礼（男子の生殖器の包皮を切り取る儀式）を受ける必要があると教える、あの悪い連中を警戒してください。　危険な犬ですから。　３肉体の一部を切り取りさえすれば、神様の子供になれるのではありません。　霊をもって神様を礼拝する者こそ、神様の子供なのです。　その礼拝こそが、ただ一つの真の「割礼」です。　クリスチャンの誇れることと言ったら、キリスト・イエスが成し遂げてくださったわざだけです。自分で自分を救うことなどとてもできないと、よく知っているはずです。
４しかし、万一、自分を救える見込みがある人間をあげるとしたら、それは私だ、と言ってもいいでしょう。　もし、人間的に見て救われる人がいるとしたら、私には、確かにその可能性があります。　５生粋のユダヤ人として、由緒あるベニヤミンの家系に生まれた私は、八日目に、ユダヤ人のしるしとしての儀式である、割礼を受けました。　つまり、

だれにも引けを取らない、正真正銘のユダヤ人です。　その上、ユダヤ教のおきてや習慣のすべてを守る点にかけては、最もきびしいパリサイ派に属していました。　６熱心さの点ではどうだったかと言うと、もちろん、熱心なあまり、教会を激しく迫害したほどです。そして、ユダヤ教のささいな規則や規定にも徹底的に従おうと、懸命に努力しました。
７しかし、以前、非常に価値があると思っていたこれらのものを、今ではことごとく捨ててしまいました。　それは、ただキリスト様だけに信頼し、キリスト様だけに望みをかけるためです。　８そうです。　主であるキリスト・イエスを知っているという、途方もなくすばらしい特権と比べれば、ほかのものはみな、色あせて見えるのです。　私は、キリスト様以外のものは、がらくた同然にみなし、全部捨ててしまいました。　それは、キリスト様を自分のものとするためであり、　９また、もはや、良い人間になろうとか、おきてに従って救われようとか考えるのはやめて、ただキリスト様を信じることによって救われ、キリスト様と結ばれるためです。 神様が、私たちを正しい者と認めてくださるのは、信仰――ただキリスト様だけに頼ること――を持っているかどうかで、決まるからです。
１０私は今、ほかのことはいっさい考えず、ただこのことだけを求めています。　つまり、真にキリスト様を知ること、キリスト様を復活させた超自然的な力を、身をもって体験すること、そして、キリスト様と共に苦しみ、また死ぬとは、どういうことかを知ることです。　１１死人の中から復活した者特有の、生き生きとした新しいいのちに生きる者となるためには、どんな犠牲もいといません。
１２なにも、自分が完全な人間だ、などと主張するつもりはありません。　学ぶべきことも、まだたくさん残っています。　ただ、キリスト様が何のために救ってくださったかを知り、私に与えられている目標に到達する日を目指して、努力しているのです。
１３愛する皆さん。　私は、まだその目標に達してはいません。　ただこの一事に、全力を注いでいます。　すなわち、過去に執着せず、前にあるものを望み見、　１４ゴールに到着してほうびを得るために、一生懸命努力しているのです。 このほうびを与えようと、神様は、私たちを天へと召しておられます。　それは、キリスト・イエスが成し遂げてくださったことに基づくのです。
１５私は、一人前のクリスチャンである、あなたがたがみな、この点について、私と同じ考え方をするようにと願います。　もし何かの点でこの考え方からはずれているなら、神様はきっと指摘してくださるでしょう。――１６もちろん、あなたがたが、与えられた真理に完全に従っているならば、の話です。
１７愛する皆さん。　どうか私の生き方を見ならってください。　また、私を手本として生きている人たちに目をとめてください。　１８というのは、今までも、しばしば注意してきたことですし、今また、涙ながらに訴えたいのですが、クリスチャンとして歩みながら、実はキリスト様の十字架に敵対している者が大ぜいいるからです。　１９彼らの行き着く先は永遠の滅びです。　自分の欲望を神とし、ほんとうは恥じるべきことを誇っているからです。　頭は、この地上の生活のことでいっぱいになっています。　２０しかし、

私たちのふるさとは天にあります。　そこには救い主である主イエス・キリストがおられます。　私たちは、キリスト様がそこから帰って来られるのを、ひたすら待ち望んでいるのです。　２１その時、キリスト様は、あらゆる所の、あらゆるものを従わせる超自然的な力で、私たちの死ぬべき体を、ご自身と同じ栄光の体に変えてくださるのです。
四
１愛するクリスチャンの皆さん。　私はあなたがたに、ぜひ会いたいと願っています。　あなたがたは私の喜びであり、私の働きが結んだ実なのですから。　愛する皆さん。　どうかいつまでも、主に対して真実であってください。
２ここで今、愛する二人の婦人ユウオデヤとスントケにお願いします。　どうか、主の助けによってけんかをやめ、もとどおり仲よくなってください。　３私の真実の協力者である皆さん。　あなたがたにもお願いします。　彼女たちを助けてやってください。　キリスト様についての良い知らせを宣べ伝えるために、私と手を組んで働いてくれた人たちだからです。　それに、いのちの書に名前が記されているクレメンスやほかの協力者たちとも、力を合わせて働いてくれたのです。
４いつも、主にあって喜びに満たされていなさい。　もう一度言います。　喜びなさい。
５自己中心的でなく、思いやりにあふれていることを、だれからも認められますように。
主がもうすぐ来られると、いつも意識していなさい。　６何事も心配してはなりません。
むしろ、どんなことでも祈りなさい。　神様にお願いしなさい。　そして、祈りに答えてくださる神様に感謝するのを、忘れてはなりません。　７そうすれば、人間の理解をはるかに超えた、すばらしい神様の平安を経験できます。　キリスト・イエスに頼る時、その平安は、あなたがたの心と思いとを静め、安らかにしてくれるのです。
８さて、皆さん、筆をおく前に、もう一つ申し上げたいことがあります。　真実なこと、良いこと、正しいことに注目しなさい。　きよいこと、愛すべきことについて思いめぐらし、他人の長所に目をとめなさい。　神様を喜び、賛美することばかりを考えなさい。　９私から学んだこと、その行動から教えられたことがあれば、みな実行しなさい。　そうすれば、平和の神が、共にいてくださいます。
１０あなたがたが、また助けてくれるようになって、どんなに感謝し、また、主を賛美しているか知れません。　あなたがたはいつも、できるかぎりのものを私に送ろうと心がけていたのに、機会に恵まれなかったのです。　１１生活に困っていたから、こう言うのではありません。　私は、物が豊富にあろうとなかろうと、楽しく生きていくすべを学びました。　１２文なしの時にも、何でもそろっている時にも、どのように生活すべきか知っています。　満腹の時にも空腹の時にも、豊かな時にも貧しい時にも、どんな境遇でも満足する秘訣を身につけたのです。　１３なぜなら、力を与え、強めてくださるキリスト様に助けられて、私は、神様の要求を、何でも成し遂げることができるからです。　１４しかし、それにしても、よくぞ今、困難な状況下にある私を助けてくれました。
１５よくご存じのとおり、キリスト様についての良い知らせを携え、初めてあなたがたを

訪問した私が、その後マケドニヤを離れて他の地方に向かった時、物をやり取りして協力してくれたのは、あなたがたピリピの教会だけでした。　ほかに、そんな教会はありませんでした。　１６テサロニケ滞在中でさえ、二度までも、物資を援助してくれました。　１７贈り物を感謝するのはもちろんのこと、何よりもうれしいのは、その親切な行ないのゆえにあなたがたが受ける、豊かな報いのことです。
１８今のところ、必要な物は何でもそろっています。　それどころか、必要以上に満たされています。　エパフロデトにことづけてくれた贈り物をいただいて、十分すぎるほどです。　その贈り物は、神様が喜んで受け入れてくださる、香ばしいかおりの供え物です。
１９この神様は、キリスト・イエスが成し遂げてくださったことに基づいて、ご自身の栄光の富の中から、あなたがたに必要なものをすべて満たしてくださる方です。　２０父なる神に、栄光が、とこしえに限りなくありますように。　アーメン。
パウロ
追伸
２１そちらのクリスチャン全員によろしくお伝えください。　こちらにいる兄弟たち（信仰を同じくする人々）がよろしくとのことです。　２２また、他のクリスチャンもみな、特にカイザル（ローマ皇帝）の宮廷に仕えている人々が、よろしくと言っています。　２３どうか、主イエス・キリストの祝福が、あなたがたの霊と共にありますように。
▪

コロサイ人への手紙（コロサイ教会の皆さんへ）
この手紙は、エペソ教会への手紙と同じ時に書かれました。　コロサイは、今のトルコにあたる地方にあった町です。　その教会に、キリストは神であるという真理をあいまいにする教えが、はびこったのです。　そこで、この事態をどう解決したらよいか、パウロに問い合わせることになり、エパフラスが代表に選ばれました。　彼の報告を聞いたパウロが、その教えのどこがまちがっているかをはっきり指摘し、キリストは確かに神であることを書き送ったのがこの手紙です。

一
１神様に選ばれて、キリスト・イエスの使者となったパウロと、信仰の友テモテから、　２コロサイの町に住む、神の民とされた、忠実なクリスチャンの皆さんへ。
どうか、父なる神が、あなたがたに祝福を豊かに注ぎ、すばらしい平安を、あふれるほどに与えてくださいますように。　３私たちは、あなたがたのために祈る時、いつも、まず主イエス・キリストの父なる神に感謝します。　４それは、あなたがたの主に対する深い信頼と、神の民となった人々に対する深い愛とを耳にしているからです。　５また、あなたがたは、キリスト様の良い知らせを初めて聞いた時からずっと、天国にある喜びを早く味わいたいと、首を長くして待ちこがれています。　６今ではこの同じ良い知らせが、世界中に行き渡り、至る所で人々の人生が変えられています。　それはちょうど、あなたがたが初めて、この良い知らせを聞いたその日に、罪人に対する神様の豊かな恵みを真に理解して、人生が全く変えられたのと同じです。
７この良い知らせをあなたがたに伝えたのは、私たちと共に働いている、愛するエパフラスでした。　彼は、イエス・キリストに忠実に仕えており、今ここで、あなたがたに代わって私たちを助けてくれています。　８彼はまた、あなたがたが、どんなに他の人々を愛しているかを知らせてくれました。　そのような愛は、聖霊様が与えてくださったものです。　９そういうわけで、私たちは、そのことを聞いた時から、絶えずこう祈り求めています。　どうか、神様が何を望んでおられるか、はっきり、あなたがたにわかりますように。　また、霊的なことに対する理解力が与えられますように。　１０いつも主に喜ばれる生き方をして、主の評判を高めることができますように。　常に他の人々に善意と親切とを示し、神様をますます深く知るに至りますように。
１１また、こうも祈っています。　あなたがたが、神様の栄光ある偉大な力に満たされて、どんなことが起ころうとも常に前進し、いつも、主の喜びにあふれていることができますように。　１２また、私たちを、光の国のすばらしい居住権を得るにふさわしい者としてくださった父なる神に、いつも感謝できますように。　１３父なる神は、私たちを、サタンの支配する暗黒から救い出して、愛するひとり息子キリスト様の支配下に、移してくださいました。　１４この神の子は、自分の血という代価を払って、私たちの自由を買い取ってくださり、すべての罪を赦してくださったのです。

１５キリスト様は、目には見えない神様に生き写しの方であり、神様がまだ何もお造りにならない前から、生きておられました。　１６事実、キリスト様は、すべてのものの創造者なのです。　天にあるものも地にあるものも、目に見えるものも見えないものも、霊の世界の王座や主権や支配や権威もすべて、この方がご自分の目的と栄光のために、お造りになったのです。　１７キリスト様は他のすべてのものに先立って存在し、すべてのものは、キリスト様によって成り立っています。　１８キリスト様は、ご自分に属する人々からなる体――すなわち、キリストの教会――の頭です。　教会はキリスト様から始まったのです。　キリスト様は、死人の中から、だれよりも先に復活された方です。　それは、あらゆる点で、第一の地位を占めるためです。　１９なぜなら、神様は、ご自分のすべてが、ひとり息子の中に宿ることを望まれたからです。
２０神様は、実に、キリスト様の成し遂げられた働きに基づいて、天と地のすべてのものが神様のもとに行く道を、開いてくださいました。　というのは、神の子キリスト様が十字架の上で死なれたことにより、その血によって、すべてのものが、神様との平和な関係を持つに至ったからです。　２１そのすべてのものの中には、かつて神様から遠く離れていた、あなたがたも含まれています。　あなたがたは、以前は神様の敵であり、神様を憎み、悪い考えや行ないによって、神様から離れていました。　２２しかし今は、キリスト様が人間として十字架上で死なれたことにより、神様と和解させていただいたのです。　その結果、キリスト様はあなたがたを、神様の前に連れ出してくださいました。　少しも非難されるところのない、きよい者として、立たせるためです。　２３ただしあなたがたは、真理を堅く信じ、その真理にしっかり根ざしてゆるがず、主によって強くされなければなりません。　また、イエス様があなたがたのために死んでくださったという良い知らせを、はっきりと確信し、この救いに対する信頼を、決して失わないことです。　あなたがた一人一人にもたらされた、このすばらしい知らせは、今や世界中に広がっています。　そして、私パウロは、これをほかの人々に伝える働きに、いそしんでいるのです。
２４しかし、あなたがたのために苦しむことも、私の務めです。　私は喜んでいます。　なぜなら、キリスト様の体、すなわち教会のために、キリスト様の苦しみの残された部分の仕上げを、手伝わせていただいているからです。
２５神様が私を遣わされたのは、教会を助け、あなたがた、ユダヤ人以外の外国人に、その救いの計画を知らせるためです。　２６２７神様はこれまで何世紀何世代にもわたって、この救いの計画を秘密にしてこられました。　しかし今ついに、神様を愛し、神様のために生きる人人に、この計画を明かされたのです。　この栄光に富んだ計画は、あなたがた外国人のためのものでもあり、その深い意味は、「栄光を実現する唯一の希望は、あなたがたの心の中に住むキリストである」ということです。
２８ですから、私たちはどこへ行っても、耳を傾けるすべての人にキリスト様のことを話し、できるかぎり手を尽くして、警告を与えたり教えたりしています。　そして、キリスト様が成し遂げてくださったことのゆえに、彼ら一人一人を、完全な者として神様の前に

立たせることができるよう、願っています。　２９これが私の務めです。　キリスト様が私のうちに力強く働いてくださるからこそ、この務めを果たせるのです。
二
１あなたがたとラオデキヤの教会とのために、またほかにも、直接には会ったことのない多くの友人のために、私がどんなに祈りながら苦闘しているか、知っていただきたいのです。　２私はこう祈り求めています。　あなたがたが心に励ましを受け、強い愛のきずなで互いに結ばれますように。　また、ゆるぎない確信と鋭い理解力をもって、ますます深く、キリスト様を知ることができますように。　というのは、今ついに明らかにされた神様の特別の計画とは、キリストご自身にほかならないからです。　３このキリスト様のうちには、まだ手がつけられていない、すばらしい知恵と知識の宝が、そっくり隠されているのです。
４私がこう言うのは、あなたがたが、だれかの巧みなことばでだまされはしないか、と心配するからです。　５遠く離れていても、私の心は共にあり、あなたがたの秩序ある生活と、キリスト様に対する強い信仰とを見て喜んでいます。　６すでにキリスト様の救いを信じたあなたがたは、日常の問題についてもキリスト様に信頼し、キリスト様と共に生き生きと生活しなさい。　７キリスト様に根を深く下ろし、養分を吸収しなさい。　主にあって成長し続け、真理に立って、強くたくましくなりなさい。　キリスト様が成し遂げてくださったすべてに感謝し、喜びにあふれて生活しなさい。
８あのむなしい、だましごとの哲学によって、だれからも信仰と喜びとを奪われないように、注意しなさい。　あんな哲学は、キリスト様のことばに基づくものではなく、人間の考えや思いつきから出た、まちがいだらけの浅薄な解答でしかありません。　９なぜなら、キリスト様のうちにこそ、神様の性質のすべてが、肉体をとって宿っているからです。　１０ですから、キリスト様を自分のものとしているなら、すべてを手に入れたことになります。　そして、キリスト様と結びつくことによって、神様に満たされているのです。　キリスト様は、すべての力を従えた、権威ある、最高の支配者です。
１１あなたがたがクリスチャンになった時、キリスト様は、悪い欲望から解放してくださいました。　それは、割礼（男子が生まれて八日目にその生殖器の包皮を切り取る儀式）という肉体の手術によってではなく、心のバプテスマ（洗礼）という霊的な手術によってなされたことです。　１２ですから、古い、悪い性質は、キリスト様と共に死に、共に葬られたのです。　そして、キリスト様を死人の中から復活させた、力ある神様のことばを信じたあなたがたは、キリスト様と共に、新しいいのちへと復活させていただいたのです。
１３あなたがたは、以前は罪の中で死んでおり、罪深い欲望を断ち切ることもできませんでした。　そんなあなたがたに、神様はキリスト様のいのちそのものを、分け与えてくださったのです。　それは、すべての罪を赦し、　１４あなたがたに不利な証書――神のおきてに違反したことを記す明細書――を、塗りつぶしてしまわれたからです。　この罪の明細書は、キリスト様の十字架に釘づけにされて、無効となったのです。　１５こうして

神様は、罪を犯したあなたがたを責め立てる、サタンの力をくじかれました。　そして、十字架上でのキリスト様の勝利を、公然と示されたのです。　この十字架によって、罪はすべて取り除かれました。
１６そういうわけですから、あなたがたは、食べ物や飲み物のことで、あるいはユダヤ教の祭り、新月の儀式、安息日などを守らない、などという問題で、人からとやかく言われてはなりません。　１７というのは、これらの取り決めは、キリスト様が来られる前にだけ有効であった、一時的な規則にすぎないからです。　つまり、本体――キリストご自身――の影でしかなかったのです。　１８御使いを礼拝すべきだと言われて拒否する時、「今に罰があたるぞ」などと、相手に言わせてはなりません。　彼らは、幻を見たと言って、正当性を主張します。　この高慢な人々〔しかし、謙そんだと自認しているのですが〕は、実に想像をたくましくしているのです。　１９けれども彼らは、キリスト様につながっていません。　しかし、キリスト様の体を構成する私たちはみな、キリスト様を頭として結びついています。　というのは、私たちは、キリスト様の強力な筋肉によって、互いにしっかり結び合わされており、神様から養分と力とをいただく時にのみ、成長するからです。
２０２１言わばキリスト様と共に死んだあなたがたは、「善行をし、さまざまな規則を守ることによって救われる」というような、この世の考えから解放されたのです。　それならなぜ、「あれは食べるな、なめるな、さわってもいけない」などという規則にいつまでも縛られ、結局、この世の考えに従う生活を続けているのですか。　２２そんな規則は、人間の教えにすぎません。　食物は食べるためにあり、食べればなくなります。　２３こんな規則は、自分に強制するきびしい礼拝とか、謙そんとか、肉体の苦行などを伴うので、いかにもすぐれたもののように思われがちです。　しかし、それによって、人の心に忍び込む、悪い思いや欲望に打ち勝つことはできないのです。　それはただ、その人を高慢にするだけです。
三
１キリスト様が死人の中から復活された時、あなたがたも、いわば共に生き返ったのですから、天にある無尽蔵の富と喜びに、目を向けなさい。　そこでは、キリスト様が栄誉と力とを帯びて、神様の右の座についておられます。　２天国のことで心が満たされていなさい。　地上のことをあれこれ気に病んではいけません。　３一度死んだわけですから、この世に何の未練もないはずです。　あなたがたの真のいのちは、キリスト様と共に天の神様のもとにあるのです。　４真のいのちであるキリスト様が再び戻って来られる時、あなたがたも彼と共に輝き、そのすべての栄光にあずかるのです。
５ですから、罪深い肉欲を捨てなさい。　心の中に巣くう、悪い欲望を抹殺しなさい。　性的な罪、汚れ、情欲、恥ずべき欲望などと縁を切りなさい。　この世の富や快楽を慕い求めてはいけません。　それは、神でないものを神とする、偶像礼拝だからです。　６そんなことをする人に、神様の恐ろしい怒りは下るのです。　７あなたがたも、この世的な人間として生きていた時には、そんなことをしていました。　８けれども今は、怒り、憎し

み、ののしり、口ぎたない悪口などの、汚れた服をみな脱ぎ捨てる時なのです。
９だまし合いはやめなさい。　うそは、あらゆる悪にまみれた古いいのちの特徴でした。　しかし今では、その古いいのちは死んだのです。　１０あなたがたは真新しいいのちに生きています。　ということは、正しいことへの探究心が旺盛で、この新しいいのちを与えてくださったキリスト様に、ますます似た者になりたいと、絶えず努めているのです。　１１この新しいいのちに生きる者には、国籍、人種、教育、社会的地位の違いなどは、全く問題ではありません。　そんなものには何の意味もないのです。　大切なのは、キリスト様を、しっかりつかんでいるかどうかです。　そして、キリスト様を自分のものにする機会は、だれにも平等に与えられているのです。
１２神様に選ばれて、この新しいいのちを与えられたあなたがたは、神様の深い愛と思いやりに包まれているのですから、他の人々に対して情け深く、やさしく親切でなければなりません。　謙そんな態度で、どんな時にも、おだやかに忍耐強く行動してほしいものです。　１３寛容の精神を身につけ、いつでも人を赦しなさい。　いつまでも恨んでいてはいけません。　主があなたがたを赦してくださったのですから、あなたがたも、人を赦すべきではありませんか。
１４何よりも大切なことは、愛にあふれて生きることです。　そうすれば、教会全体が、完全な調和を保てるのです。　１５キリスト様からくる平安が、いつもあなたがたの心と生活を満たすようにしなさい。　そうすることが、キリスト様の体の一部とされたあなたがたの責任であり、特権でもあるからです。　また、いつも感謝していなさい。
１６キリスト様の教えを心にとめ、そのことばによって、人生が豊かに潤されるようにしなさい。　知恵を尽くして、そのことばを互いに教え合い、忠告し合い、感謝にあふれて、詩篇と賛美歌と霊の歌を、主に向かって高らかに歌いなさい。　１７何をするにも、何を語るにも、主イエス様の代理人として行動し、主イエス様と共に、父なる神の前に出て、心から感謝しなさい。
１８妻は夫に従いなさい。　それは、主が人々のためにお定めになったことだからです。
１９夫は妻を愛し、いたわりなさい。　つらく当たったり、邪険な態度をとったりしてはいけません。
２０子供は常に両親に従いなさい。　それは、主に喜ばれることだからです。　２１父親は、子供がしょげ返って、やる気をなくすほど、がみがみしかってはなりません。
２２奴隷はいつも地上の主人に従いなさい。　主人が見ている時だけ、気に入られようと一生懸命に働くのではなく、陰日向なく仕えなさい。　主を愛しているのですから、主に喜んでいただけるよう､真心から主人に従いなさい。　２３地上の主人のためだけでなく、主ご自身のために尽くしているように、何事においても、喜んで精一杯働きなさい。　２４報酬を下さるのは主キリストであることを、忘れてはなりません。　キリスト様は、所有しておられるものの中から、有り余るほどの相続分を与えてくださいます。　あなたがたは、実は、この主キリストのために働いているのです。　２５主のために最善を尽くさ

ない者は、その報いを受けます。　主はずるい横着者を、特別、大目に見たりはなさらないからです。
四
１奴隷の主人は、奴隷全員を正しく、公平に扱いなさい。　あなたがたにも天に主人がいて、その行動は全部見られていることを、忘れてはなりません。
２祈りに飽いてはいけません。　熱心に祈り続けなさい。　神様は祈りに答えてくださると信じて待ち、それが聞き入れられたら、感謝するのを忘れてはなりません。　３また、私たちのことも忘れないでください。　キリスト様の良い知らせを伝える機会が多く与えられるように、祈ってほしいのです。　この良い知らせのために、いま私は投獄されているのです。　４どうか、私がこの良い知らせを、勇気をもって、自由に、完全に、しかもわかりやすく〔当然そうすべきなのですが〕語れるように祈ってください。
５与えられた機会を最大限に生かして、あなたがたも、この良い知らせを人々に伝えなさい。　彼らとは、いつも賢く慎重に接しなさい。　６あなたがたの会話が、良識的であり、善意にあふれるよう心がけなさい。　そうすれば、相手の一人一人に適切な答えができます。
７愛する信仰の友テキコが、私の様子を知らせてくれるでしょう。　テキコは共に主に仕えている、熱心な働き人です。　８彼に行ってもらうのは、そちらの様子も知りたいし、また、あなたがたを慰め、力づけもしたいからです。　９彼に、あなたがたの仲間の一人、忠実な愛する信仰の友オネシモを同行させます。　オネシモとテキコが、こちらの現状をみな知らせることでしょう。
１０私といっしょに牢につながれているアリスタルコと、バルナバの親類のマルコが、よろしくとのことです。　前にもお願いしたように、もしマルコがそちらへ行ったら、心から歓迎してやってください。　１１イエス・ユストもまた、よろしくと言っています。　以上が、こちらで共に神の国のために働く、ユダヤ人のクリスチャンです。　彼らから、どんなに励まされたことでしょう。
１２あなたがたの町から来た、キリスト・イエスのしもべエパフラスも、よろしくと言っています。　彼はいつも、あなたがたが強く完全な者となり、何事においても、神様が望まれるとおりに行動できるようにと、熱心に祈り求めています。　１３あなたがたのために、またラオデキヤやヒエラポリスのクリスチャンのために祈る彼の熱意のほどは、私がよく知っています。
１４愛する医者ルカ、それにデマスが、よろしくとのことです。
１５どうか、ラオデキヤに住むクリスチャンの友人たちに、また、ヌンパと、礼拝のためにヌンパの家に集まっている人たちに、よろしく伝えてください。　１６それから、この手紙を読み終えたら、ラオデキヤの教会にも回してください。　また、ラオデキヤの教会あての私の手紙も、そちらに回覧されたら読んでください。　１７アルキポに、「主から命じられたことをすべて、忠実に果たすように」と伝えてください。

１８このあいさつは、私の自筆です。　私が獄中にいることを忘れないでください。　どうか神様の祝福が、あなたがたに満ちあふれますように。
パウロ
▪

テサロニケ人への手紙Ｉ（テサロニケ教会の皆さんへＩ）
テサロニケは、今なおサロニカという名で繁栄している町で、紀元一世紀には、マケドニヤ地方の主要な町の一つでした。 パウロはこの町でも、キリストの教えを伝えましたが、彼に反対するユダヤ人が暴動を起こし、彼を町から追い出してしまったのです。 しかし、キリストを信じたギリシヤ人も大ぜいいました。 ユダヤ人の迫害に会いながら、信仰を守り続けるこれらの人たちに、パウロは、きよく正しい生活をして、キリストの再来を待つよう励まします。

一
１パウロとシルワノとテモテから、父なる神と主イエス・キリストに属するテサロニケ教会の皆さんへ。 どうか、父なる神と主イエス・キリストからの祝福と平安が、あなたがたにありますように。
２私たちは、あなたがたのために欠かさず祈り、神様に感謝しています。 ３そして、いつも忘れずに、あなたがたの愛にあふれた労苦と、強い信仰、それに主イエス・キリストのおいでを熱心に待ち望む態度を、父なる神に申し上げているのです。
４愛する皆さん。 あなたがたが神様から選ばれ、愛されている事実を、私たちはよく知っています。 ５それは、私たちが伝えたイエス・キリストの良い知らせを、無関係だと聞き流さず、非常な関心をもって迎え入れた、あの態度から明らかです。 私たちが語った教えは、あなたがたの人生に重大な影響を与えました。 それは、聖霊様によって、これこそ真理だという不動の確信が与えられたからです。 また、私たちの生活態度そのものも、語ったことばの正しさを、あなたがたに実証したと言えるでしょう。 ６こうして、あなたがたも、私たちや主ご自身のあとに続く者となりました。 多くの試練や悲しみにもめげず、聖霊様からいただいた喜びにあふれて、私たちの教えを受け入れたからです。
７こうしてあなたがたは、マケドニヤとアカヤ中の、クリスチャンの模範となりました。
８その働きのおかげで、今では、主のことばはマケドニヤ、アカヤは言うにおよばず、あらゆる地域の人々に知れ渡っています。 どこへ行っても、神様に対するあなたがたの目ざましい信仰を賞賛する声を耳にします。 ですから、そのことについて、これ以上、何も語る必要がないくらいです。 ９人々のほうで、あなたがたの、私たちへのすばらしい歓迎ぶりや、偶像を捨てて神様に立ち返り、今では真の生ける神にのみ仕える者となったいきさつ、 １０また、神の子の到来を待ち望む熱心さについて、話してくれるからです。
この神の子こそ、神様が死人の中から復活させたイエス様であり、罪に対する神様の恐るべき怒りから救い出してくださる、唯一の救い主なのです。
二
１愛する皆さん。 私たちの訪問が、あなたがたに及ぼした大きな意義については、認めてくれることでしょう。 ２そちらに行く前に、私たちがピリピでどんな目に会い、どれほど苦しんだか、よく知っているはずです。 しかし、神様から勇気を与えられた私たち

は、四方八方、敵に囲まれながらも、大胆に、神様からの良い知らせを、伝えることができました。　３ですから、私たちが不純な動機や悪い目的からではなく、まじめで誠実な気持ちから伝道したことを、確認してほしいものです。
４私たちは、神様から任命された伝道者として、真理だけを語るのであって、聞く者の好みに合わせて内容を変えることなど、絶対にしません。　なぜなら、私たちは神様お一人に仕えているのであり、神様は、人の心の奥底に潜む思いまでも、鋭く見抜くお方だからです。　５よくご存じのとおり、私たちはこれまで、へつらって人に気に入られようとしたことなど、一度もありません。　また、お金がほしくて、必要以上になれなれしくしたこともありません。　それは神様がご存じです。　６また名誉という点では、キリスト様の使徒として、当然賞賛されてもいい権利を持っています。　しかし、あなたがたからはもちろん、ほかのだれからも、そんな名誉を求めたことはありませんでした。　７それどころか、子供を養い、世話をする母親のように、やさしくふるまってきました。　８心から、あなたがたを愛していた私たちは、ただ、神様の教えを伝えるだけでなく、いのちさえ喜んで与えたいと思うほどでした。　それほどまでに、深く愛したのです。
９愛する皆さん。　私たちが、生活費のためにも、どれほど苦労して働いたか、覚えているでしょう。　そちらにいた時も、夜昼休みなく、汗水流して働きました。　それは、神様の良い知らせを伝える時､だれにも金銭上の負担をかけさせまいとする配慮からでした。
１０一人一人に対して、私たちが純粋な気持ちで、正直に、だれからも非難されないように行動したことは、神様だけでなく、あなたがたも、証人となってくれるはずです。　１１父親が子供をさとすように、一人一人に勧め、また、励ましてきました。　よもや、それを忘れてはいないでしょうね。　１２また、日々の生活が、あなたがたをご自分の国とその栄光とに招いてくださった神様の御心にそい、喜ばれるものとなるように、と教えてきました。
１３私たちは、神様に感謝せずにはおられません。　それは、私たちが伝道した時、あなたがたはそのことばを、ただ人間の口から出たものと見なさず、神様のことばとして聞いてくれたからです。　これは事実、神様のことばであって、信じる者の生活を一変させるのです。
１４さて､愛する皆さん。 あなたがたはユダヤの諸教会と同じ苦しみを味わっています。つまり、同胞のユダヤ人に苦しめられた彼らのように、あなたがたも同国人に迫害されているからです。　１５ユダヤ人たちは、自分たちの預言者を殺したばかりか、主イエス様すらも手にかけてしまいました。　そして今は、私たちにも激しい迫害の手を伸ばし、追い出してしまったのです。　その上、神様にも人間にも敵対して、　１６外国人への伝道を妨害しようとしました。　彼らは、一人の外国人も救われてほしくないのです。　このようにして罪に罪を重ねた彼らに向かって、神様の怒りは、ついに爆発しました。
１７愛する皆さん。　あなたがたのもとを離れてから、かなりになるので〔もっとも、心はいつもそばにいるのですが〕、もう一度、ぜひ会いたいものと思っていました。　１８そ

れで、何とかしてそちらへ行こうと努力したのです。　特にこのパウロは、何度も試みたのですが、そのつど、悪魔にじゃまされて果たせませんでした。　１９私たちに希望と喜びとを与え、誇りの冠となってくれるものは、いったい何でしょうか。　それはまさに、あなたがたなのです。　そうです、主イエス・キリストが再び来られる時、その前で、大きな喜びをもたらしてくれるのは、あなたがたなのです。　２０あなたがたこそ、私たちの勝利のしるしであり、また喜びです。
三
１もうこれ以上、我慢できなくなったので、私だけがアテネにとどまることにして、　２３兄弟（信仰を同じくする人）であり、協力者であり、また神様の伝道者でもあるテモテを、そちらへ行かせました。それは、あなたがたの信仰を強め、励まし、どんな困難の中ででも、失望せずにしっかり立ってくれることを願ったからです。　〔しかし、ご存じでしょうが、クリスチャンにとって、困難とは、神様の計画の範囲内の出来事なのです。　４私がそちらにいた時、やがてきっと苦難が訪れると警告しておきましたが、それが、いま事実となったのです。〕
５私はもうこれ以上、不安な気持ちに耐えきれず、あなたがたの信仰が、以前のようにしっかりしているかどうか確かめたくて、テモテに行ってもらいました。　悪魔に誘惑されて信仰を奪い取られ、これまでの苦労が水のあわになったのではないか、と心配だったからです。　６ところが、今こちらに帰って来たテモテから、あなたがたの信仰と愛が、変わらずにしっかりしているとの報告を受け、どんなに喜んでいることでしょう。　またあなたがたは、私たちの訪問を昨日のことのように覚えていて、同じように会いたがってくれているそうですね。　７愛する皆さん、私たちは、身も心も押しつぶされそうな困難と苦しみの中にありながらも、あなたがたの、主へのまごころが変わらない事実を知って、ほんとうに慰められました。　８主にあって堅く立っていてくれるなら、それだけで、私たちはどんな困難にも耐えていけるのです。
９あなたがたが与えてくれた喜びを、どれほど神様に感謝して祈ったらよいでしょう。　１０ぜひ、もう一度会って、あなたがたの信仰の不足分を補いたいと、昼も夜も神様に求めています。　１１どうか、父なる神と主イエスが、再会の機会を与えてくださいますように。　１２また、どうか主が、あなたがたを思う私たちの愛のように、あなたがた相互の愛と、他の人々への愛を深め、満ちあふれさせてくださいますように。　１３そして、どうか父なる神が、あなたがたの心を強くし、きよめて、主イエス・キリストがご自分に属する、すべての人と共に再び来られる時、父なる神の前で、あなたがたに無罪を宣告してくださいますように。
四
１２愛する皆さん。　さらに付け加えます。　あなたがたは日々の生活で、どうしたら神様をお喜ばせできるかを、すでに知っているはずです。　そのために、私たちは主イエス様からの戒めを知らされたのですから。　そこでお願いします。　というより、これは主

イエス様の命令と思ってほしいのですが。　どうか、この目標に向かって、さらに熱心に励んでください。　３４なぜなら、神様が望んでおられることは、あなたがたがきよくなることだからです。　つまり、あらゆる不品行の罪を避けて、きよらかな品位ある結婚生活を送ってほしいのです。　５神様を知らず、そのお心も知らない異教徒のように、汚れた肉欲におぼれてはいけません。
６また、他人の妻を横取りして、その人をあざむくようなことをしてはいけません。　前もって厳重に警告しておいたように、主はこれらについて、恐ろしい刑罰を下されるからです。　７私たちが神様に召されたのは、汚れた思いや欲情のとりこになったりするためではなく、きよく清潔な生活を送るためです。　８もし、これらの戒めに従うことを拒むなら、人間の規則に違反したというより、聖霊様を与えてくださった神様に、そむいたことになるのです。
９ところで、クリスチャン同士の純粋な兄弟愛については、とやかく言う必要もない、と確信しています。　なぜなら、神様みずから、あなたがたに、互いに愛し合うことを教えてくださったからです。１０実に、あなたがたの愛は、国中のすべてのクリスチャンをおおうほど強いものだ、と聞いています。　そうであればこそ、心からお願いしたいのです。ますます兄弟愛を深めなさい。　１１そして、以前にも教えたように、静かな生活を送り、仕事に身を入れ、喜んで働きなさい。　１２そうすれば、クリスチャンではない人たちからも信用され、尊敬されることでしょう。　また、お金の問題で人の世話にならなくなるでしょう。
１３それから、愛する皆さん。　クリスチャンが死んだらどうなるか、よく知っておいてほしいのです。　それは、悲しみのあまり取り乱して、何の希望もない人たちと同じようにならないためです。　１４私たちは、イエス様の死後の復活を、確かなことと信じています。　ですから、イエス様が帰って来られる時、すでに死んで世を去ったすべてのクリスチャンを、神様が共に連れ戻してくださると信じてよいのです。
１５私は、主から直接聞いたとおりを伝えるのですが、主が再び来られる時に、私たちが生きていたとしても、すでに墓の中にいる人たちをさしおいて主にお会いすることは、断じてありません。　１６主は、大号令と、天使長の声と、神の召集ラッパの響きと共に、天から下って来られます。　その時、まず最初に復活して主にお会いできるのは、すでにこの世を去っているクリスチャンです。　１７それから、なお生きて地上に残っている私たちが、いっしょに雲に包まれて、空中で主とお会いするのです。　そして、いつまでも主と共に過ごすことになります。　１８ですから、このことをわきまえて、互いに慰め合い、励まし合いなさい。
五
１もちろん、それらがいつ起こるかという質問には、愛する皆さん、私は何も答える必要がありません。　２その時を言い当てることができる人などいないことは、よくご存じのはずです。　主の日は、夜中にこっそり忍び込むどろぼうのように、思いがけない時に来

ます。３人々が、「万事順調で、何もかも平穏無事だ……」と、たかをくくっている時、突然、災いが襲いかかるのです。　それはちょうど、出産の時、母親に陣痛が襲うのに似ています。　その災いから逃れうる人はいません。　身を隠す場所など、どこにもないからです。
４しかし、愛する皆さん。　あなたがたは、このことについて皆目わからない、暗やみにいるわけではありません。　ですから、主の日が来ても、強盗に襲われた時のように、あわてふためくことはないはずです。　５あなたがたはみな、光の子供、真昼の子供であって、暗やみや夜に属する者ではないからです。　６ですから、ほかの人たちのように眠りこけないで、目を覚まして見張っていなさい。　主が再び来られる日に備えて、慎重に行動しなさい。　７夜、人々は眠り、また酔いつぶれます。　８しかし、私たちは、昼の世界に生きる者らしく、信仰と愛のよろいで身を守り、すばらしい救いの望みのかぶとをかぶり、慎しみ深くふるまいましょう。
９なぜなら、神様は、怒りをぶちまけるために私たちをお選びになったのではなく、主イエス・キリストによって救うために、選んでくださったからです。　１０主イエス・キリストの死は、主が再び来られる時に、私たちを、その生死の状態にかかわりなく、永遠に主と共に生かすためでした。　１１そういうわけですから、すでに実行していることでしょうが、互いに励まし合い、助け合いなさい。
１２愛する皆さん。　あなたがたの間で一生懸命働き、まちがいがあれば親身になって忠告してくれる、教会の役員たちを尊敬しなさい。　１３その人たちは、何とかしてあなたがたの手助けをしようと、真剣なのですから、彼らを高く評価して、心から愛しなさい。くれぐれも言っておきますが、争いなど起こさないようにしてください。
１４愛する皆さん。　なまけ者や手に負えない乱暴者は、きびしく注意しなさい。　臆病な人を励まし、弱い人を思いやりなさい。　そして、だれに対しても忍耐しなさい。　１５悪をもって悪に仕返ししないように、気をつけなさい。　かえって、お互いに、またどんな人にも、常に善意を示すよう心がけなさい。　１６いつも喜びにあふれていなさい。１７いつも祈りに励みなさい。　１８どんなことがあっても、感謝を忘れないように。　これこそ、神様が、キリスト・イエスに属するあなたがたに、望んでおられることだからです。
１９聖霊様の恵みを無にしてはいけません。　２０預言する者を軽べつしてはいけません。２１万事よく調べて、それがほんとうに良いものかどうかを確かめなさい。　そして、ほんとうに良いものであれば、受け入れなさい。　２２あらゆる種類の悪から遠ざかりなさい。　２３どうか、平和の神様が、あなたがたを完全にきよめてくださいますように。　霊とたましいと体とが、いつも健全で、主イエス・キリストが再び来られる時に、少しも非難されない者としてくださいますように。　２４あなたがたを招いて自分の子供としてくださった神様は、約束どおり、きっとそうしてくださいます。　２５愛する皆さん。　私たちのために祈ってください。　２６全員に、心からのあいさつを送ります。２７この手

紙を、すべてのクリスチャンが読むようにしてください。それは主の命令です。　２８どうか、主イエス・キリストから、あふれるほどの祝福が、あなたがたに注がれますように。
パウロ
▪

テサロニケ人への手紙Ⅱ（テサロニケ教会の皆さんへⅡ）
パウロは、最初の手紙のあと、すぐにこの手紙を書きました。　前回と同様、キリストがもう一度来られることが、その主題です。　テサロニケの教会では、このことが大きな問題だったからです。　それというのも、キリストはもう来てしまったと言いふらして、人々をあわてさせる者がいたからです。　中には、それをいいことに、仕事もせず、毎日ぶらぶらするだけの者もいました。　そうしたデマにのせられたり、怠惰に流れることを、パウロはきつく戒めています。

一
１パウロとシルワノとテモテから、私たちの父なる神と主イエス・キリストに守られている、テサロニケの教会の皆さんへ。
２どうか、父なる神と主イエス・キリストが、あふれるばかりの祝福と平安とを、あなたがたに与えてくださいますように。
３愛する皆さん。　私は、神様にたいへん感謝しています。　それは、あなたがたの信仰がめざましく成長し,お互いがますます深い愛で結ばれているからです。 それを思うと、自然に神様に対する感謝の思いがわき上がってきます。　もちろん感謝して当たり前のことですが。　４激しい迫害と困難の真っただ中にあるにもかかわらず、あなたがたが忍耐しつつ、神様への完全な信仰を守っていることを、他の教会に大いに誇っています。　５それは、神様のさばきが公平に、また正しく行なわれている証拠です。　なぜなら、神様は、苦しみを経験させることによって、あなたがたに神の国に入る資格を与え、　６同時に、迫害する者たちには、その報いとして、さばきと刑罰とを下されるからです。
７そういうわけで、困難のただ中にある、あなたがたに言っておきます。　主イエス・キリストが、力ある御使いたちを従えて、燃え立つ炎の中に、突如として天から姿を現わされる時、神様はあなたがたにも私たちにも、休息を与えてくださるのです。　８その時、神様には目もくれなかった者や、主イエス・キリストによる神様の救いの計画を拒んだ者には、恐るべきさばきが下ります。　９彼らは、永遠の地獄で刑罰を受け、主の前から追放されて、二度と栄光に輝く主の力を見ることはないのです。　１０その日、おいでになった主は、ご自分に属するクリスチャンのために成し遂げたそのお働きのゆえに、誉れと賞賛とをお受けになります。　そして、私たちが伝えた神様のことばを信じ抜いたあなたがたは、主と共に生きる者となるのです。
１１そのためにも、いつも、あなたがたのことを思って祈っています。　どうか、神様が、あなたがたの信仰を評価して、神様のおめがねにかなう、良い子供としてくださいますように。　１２そうすれば、神様によって変えられたあなたがたを見て、すべての人が主イエス・キリストの名を賛美するようになるでしょう。　そして、あなたがたも、主のものになるという、願ってもない栄光を受けます。　神様と主イエス・キリストの恵みによって、そうしていただけるのです。

二
１２さて、主イエス・キリストがもう一度来られることと、その時、一堂に集められた私たちが、主にお会いすることについては、どう考えていますか。　愛する皆さん。　主の日はもう来たなどという、うわさを耳にして、興奮したり、あわてたりしないでください。たとい、このことについて幻を見たとか、神様から特別のお告げを受けたとか言う人が現われても、また、私たちからのもののように偽造した手紙をちらつかされても、信用してはいけません。　３どんなことを言われても、惑わされたり、だまされたりしないように気をつけなさい。
なぜなら、主の日は、次の二つの現象が起こるまでは実現しないからです。　まず、世をあげて神様に逆らう時代が来ます。　それから、反逆の人、すなわち地獄の子が現われます。　４彼は、神と名のつくものには、ことごとく反抗し、また、礼拝の対象をすべて打ちこわします。　そして神殿に入って、神の座につき、自分こそ神だと宣言します。　５このことについては、そちらに滞在中、口をすっぱくして話しておいたはずですが、覚えていないのですか。　６あなたがたは、姿を現わそうとする彼を引き止めている者がだれであるかを知っているはずです。 彼は定められた時が来るまで、出て来られないのです。７この反逆と地獄の子が現われるきざしは、すでにあちこちに見られます。　しかし、引き止めている者が身を引くまでは、姿を現わせません。　８時が来れば、いよいよこの悪の張本人が飛び出すことになりますが、主イエス様が来られ、御口の息によって、彼を焼き滅ぼしてしまわれます。　９この罪の子は、悪魔の手先であり、悪魔のあらゆる力を与えられて、やって来ます。　不思議なわざを披露しては人々をだまし、すばらしい奇蹟を行なう者であるかのように見せかけるのです。　１０こうして、真理を拒んで地獄への道を突っ走る者たちを、すっかり、とりこにしてしまいます。　そのような人たちは、真理を信じることも愛することもせず、まして救われようなどとは考えもしなかったのです。１１そこで神様は、彼らがうそで丸め込まれるままに放っておかれるのです。　１２真理を捨てて、うそを信じ、罪を犯すことを楽しむ彼らに、さばきが下るのは、当然のことです。
１３しかし、主に愛されている皆さん。　あなたがたのことを考えると、神様に感謝せずにはおられません。　なぜなら、神様は初めから、あなたがたを救おうとしてお選びになり、聖霊様の働きと、真理に対するあなたがたの信仰によって、きよめてくださったからです。　１４神様は私たちの口を通して、あなたがたに、このすばらしい知らせを語ってくださいました。　それればかりか、主イエス・キリストの栄光を分け与えようと、招いてくださったのです。
１５愛する皆さん。　これらのことを深く心にとめて、しっかり立ちなさい。　そして、私たちが手紙で伝え、またそちらに滞在中に教えた真理を、失わないようにしなさい。
１６どうか、私たちを愛し、何の値打もない者に永遠の慰めと希望とを与えてくださった、主イエス・キリストと父なる神が、　１７あらゆる励ましをもって、あなたがたを勇気づ

け、ことばと行ないとで、善を追い求めさせてくださいますように。
三
１愛する皆さん。　この手紙を書き終えるにあたって、お願いしたいことがあります。　どうか、私たちのために祈ってください。　主のことばが至る所で急速に広まって勝利を収め、あなたがたのところと同様、各地でも救われる人が続出するように祈ってください。
２また、私たちが悪い連中の手から救い出されるように祈ってください。　すべての人が、主を愛しているわけではありませんから。　３しかし、主は真実な方ですから、あなたがたに力を与え、悪魔のどんな攻撃からも守ってくださいます。　４私たちは主に信頼しているので、あなたがたが、私たちの教えを現に実行しており、これからもその態度は変わらないと確信しています。　５どうか、主の導きによって、神様の愛と、キリスト様の忍耐とを、あなたがたが、ますます深く理解しますように。
６愛する皆さん。　ここで主イエス・キリストの名により、その権威を受けて命令します。　私たちが身をもって示した教えに従わず、ぶらぶらと日を過ごしているクリスチャンとは、絶交しなさい。　７どういう生活をすればよいかは、もうよくわかっているはずです。　私たちは、そちらで、だらしのない生活をしたことがありません。　それを手本にしてください。
８私たちは、だれからも、ただでパンをもらいませんでした。　人に負担をかけたくなかったので、必要な物は、昼夜働いて得た収入で手に入れました。　９私たちに、それを要求する権利がなかったからではなく、自分の生活は自分で支えるという模範を、身をもって示したかったからです。　１０そちらででも、「働かない者は食べる資格がない」という鉄則を、教えたはずです。
１１ところが、聞くところによると、あなたがたの中には、働くのをいやがり、一日中ぶらぶらして、うわさ話に花を咲かせている人がいるらしいですね。　１２そういう人たちに、主イエス・キリストの名によって忠告し、また命じます。　じっくり腰を落ち着けて、まじめに仕事に精を出し、自活できるようになりなさい。　１３それから、愛する皆さん。　あなたがたには、いつでも、生き生きと正しい行ないをしてほしいものです。
１４もし、この手紙の教えに聞き従わない者があれば、特に注意して、そんな人とは絶交しなさい。　自らそのことに気づいて恥じ入らせるためです。　１５その人を敵視してはいけません。　彼には、兄弟に対するような忠告が必要です。　１６どうか、どんな場合にも、平和の主が、あなたがたに平安を与えて、共にいてくださいますように。
１７この最後のあいさつは、私の自筆です。　どの手紙にもそうしています。　１８どうか、主イエス・キリストの祝福が、あなたがた一同にありますように。
パウロ
▪

テモテへの手紙　Ｉ
パウロが、息子のようにかわいがっていたテモテに送った手紙です。テモテは、パウロの勧めでキリストを信じ、以後行動を共にし、献身的に協力した青年です。　パウロも、手足となって働く彼を信頼し、やがてエペソの教会の指導を一手に任せるようになりました。しかし、年若くして責任ある立場におかれたテモテには、それなりの苦労もありました。そうしたことを思いやり、パウロは、父親のようなやさしさで、指導者としてのあり方を教えています。

一
１私たちの救い主である神様と、唯一の希望である主イエス・キリストから遣わされた、イエス・キリストの宣教者パウロから、　２テモテへ。
あなたは、信仰の面から言えば、私の息子みたいなものです。　どうか、父なる神と主イエス・キリストの、恵みとあわれみによって、あなたの心と思いとが、豊かな平安で満たされますように。
３４私がマケドニヤに出発する際、指示しておいたように、あなたは引き続き、エペソの教会にとどまり、まちがった教えを言い広めている者の口を封じてください。　彼らの作り話や伝説、また、くだらない系図論争に、とどめを刺しなさい。　このような教えは、信仰によって救われるという神様の計画を、人々が受け入れるのを妨げるばかりか、かえって、さまざまの疑問と議論を巻き起こすもとになります。　５私がひたすら願い求めるのは、すべてのクリスチャンが純粋な愛の心になり、その思いがきよめられ、信仰が強められることです。
６しかし、まちがった教えを広める教師たちは、この目標を見失い、議論やくだらない話で時間をつぶしています。　７彼らは、モーセのおきての教師としての名声を得たがるのですが、そのおきての本質は、少しもわかっていないのです。　８おきては、神様の意志にかなって用いられるなら、ほんとうに良いものです。　９しかし、神様に救われた私たちのためのものではありません。　それは、神様を憎み、反抗心をいだき、罰あたりなことばを吐き、父母に逆らい、人殺しをする罪人のためにあるのです。　１０１１おきては、不道徳で不潔な者たち、すなわち、同性愛にふける者、子供を誘拐する者、うそをつく者、そのほか、祝福を約束する神様の良い知らせにそむく者の罪を、はっきり指摘するためにあるのです。　私は、この良い知らせを伝える使者として任命されました。
１２私は、主キリスト・イエスに、どう感謝したらよいかわかりません。　主は私を使者の一人に選び、忠実に奉仕する者となる力を下さいました。　１３以前の私は、キリスト様の名をあざけり、主を信じる者たちを追い回し、あの手この手で迫害しました。　しかし主は、そんな私さえ、あわれんでくださったのです。　その時はまだ、キリスト様を知らず、自分のしていることの恐ろしさもわからなかったからです。　１４主は、なんと恵み深いお方でしょう。　どのように主に信頼すべきか、どうしたらキリスト・イエスの愛

に満たされるかを、教えてくださったのです。
１５「キリスト・イエスは、罪人を救うために、この世に来てくださった」ということばは真実です。　このことをだれもが知ってくれるようにと、心から願っています。　私は、その罪人の中でも首領格の人間です。　１６それにもかかわらず、神様は私をあわれんでくださいました。　キリスト・イエスは、どうにも手がつけられない罪人に対してさえ、自らの忍耐深さを教えようと、私みたいな者を選ばれたのです。　それによって、だれにも永遠のいのちを持つ希望が与えられるのです。　１７どうか、永遠の王であり、決して死ぬことのない、目には見えない、ただ一人の、知恵に満ち満ちた神様に、栄光と誉れとが、永遠にありますように。　アーメン。
１８息子テモテよ。　あなたに命じます。　主が預言者たちを通して言われたように、主のための戦いをりっぱに戦い抜きなさい。　１９キリスト様を信じる信仰を、しっかり守りなさい。　また、正しいと思うことは進んで行ない、いつも良心に恥じない歩みをしなさい。　悪いことと知りながら、良心に逆らって、あえて行動に移す人がいます。　神様をないがしろにするような人が、たちまちキリスト様への信仰を失ったとしても、少しも不思議はありません。　２０ヒメナオとアレキサンデルの二人は、その悪い見本です。　私は、彼らを罰するために、悪魔の手に引き渡さざるをえませんでした。　それは、キリスト様の名を辱しめてはならないことを、身をもって学ばせるためです。
二
１さて、次のことを勧めます。　すべての人のために、神様のあわれみが注がれるよう熱心に祈り、とりなしなさい。　そして、やがて彼らにも恵みが与えられると信じて、感謝しなさい。
２王のため、また権威と重い責任を負っているすべての人のために祈りなさい。　それは、主を敬い、主を深く思いながら、平安のうちに落ち着いた一生を過ごすためです。　３そうすることはたいへん良いことで、救い主である神様に喜んでいただけることです。　４神様はすべての人が救われて、真理を理解するに至ることを、切に望んでおられるからです。　５６その真理とは、こうです。　神と人間とは、それぞれ別の岸に立っています。そして、人となられたキリスト・イエスがその間に立ち、ご自分のいのちを、全人類のために差し出すことによって、両者の橋渡しをされたのです。
これこそ、神様が時にかなって私たちに示された教えにほかなりません。　７この真理を外国人に教え、救いは信仰によって与えられるという、神様の計画を伝えるために、私は宣教者また使徒として選ばれました。　これは、うそ偽りのない真実です。　８そこで勧めます。　男は、罪を犯したり、怒ったり、恨みをいだいたりせずに、どこででも、きよい手を上げて祈りなさい。　９１０同じように、女も、控え目な服装や態度で、品位を保つように心がけなさい。　クリスチャンの女性は、はでなヘアスタイルや宝石や高価な着物によって人の注意を引こうとはせず、良い行ないとやさしく親切なふるまいによって身を飾りなさい。　１１女は、物静かに、謙そんな心で教えを聞き、また学ぶべきです。

１２女が男にものを教えたり、権力をふるったりするようなことが、決してあってはなりません。　女は、教会の集会では黙っていなさい。　１３なぜなら、神様は最初にアダムを、そのあとでエバをお造りになったからです。　１４アダムは悪魔にだまされませんでしたが、エバはだまされ、罪を犯してしまいました。　１５そこで神様は、女に子を産む時の苦しみをお与えになったのです。　しかし、もし女が神様を信じ、控え目な態度で愛にあふれた生活を送るなら、そのたましいは救われます。
三
１「人がもし牧師になりたいと願うなら、それはすばらしいことです」ということばは、真実です。　２牧師になる人は、だれからもうしろ指をさされたりしない人でなければなりません。　ちゃんとした結婚をしており、勤勉で思慮深く、折り目正しい生活をして、善行に励む人であるべきです。　また、客をよくもてなし、有能な聖書の教師でなければなりません。　３酒飲みでも、けんか好きでもなく、やさしく親切で、金銭にこだわらず、４子供たちのしつけも行き届いた、良い家庭の主人でなければなりません。　５自分の小さな家庭すら取りしきれない人が、どうして神様の教会を指導できるでしょう。
６また、牧師となる者は、クリスチャンになって、まだ日の浅い人ではいけません。　早く牧師に選ばれたというので、高慢になる危険性があるからです。　高慢は堕落の前ぶれです〔悪魔がその良い例です〕。　７また、クリスチャンでない教会外の人からも、評判の良い人でなければなりません。　そうでないと、悪魔のわなにはまって、訴える口実を与えたり、自由に教会員を指導する力を奪われたりするからです。
８教会の執事も、牧師と同じように、善良でまじめな人でなければなりません。　大酒飲みや、お金に執着する人でなく、　９信仰の、秘められた源であるキリスト様に、真心から仕える人でなければなりません。　１０ですから、正式に執事として任命する前に、その人柄や能力をテストするため、教会で何かほかの仕事をさせてみなさい。　もしそれをりっぱにやり遂げたら、執事として任命しなさい。
１１執事の妻も、思慮深く、酒におぼれず、陰口をきかず、すべてに忠実な人でなければなりません。　１２執事は、ちゃんとした結婚をしており、家族のだれからも慕われる円満な家庭の主人であるべきです。　１３執事の務めをりっぱに果たす人は、人からは尊敬され、また、自ら主への確信と信頼もますます強められて、二重の報いを受けることになります。
１４私は、近いうちに、そちらを訪問したいとは思っていますが、念のために、この手紙を書いています。　１５もしその訪問がしばらく実現しなくても、生ける神の教会のために、どのような人を役員として選ぶべきかを、あなたに知ってもらいたいからです。　教会は、真理を高く掲げるとりでなのです。
１６神様を敬う生涯を送ることは、決して、なまやさしいものではない、と言われますが、まさにそのとおりです。　しかし、その解決はキリスト様のうちにあるのです。
キリストは人として地上に来られ、

その霊において汚れなく、
きよらかであることが証明され、
御使いたちに仕えられ、
諸国民の間に宣べ伝えられ、
至る所で信じられ、
再び栄光のうちに天に引き上げられたのです。
四
１しかし、聖霊様がはっきりと予告されたように、終末の時代には、教会の中からも、キリスト様から離れ、悪霊の教えを広める教師の熱心な弟子になる者が現われます。　２そのような教師は、平気でうそをつき、しかもそれを何度もくり返すので、良心が完全に麻痺しています。　３彼らは、結婚や肉を食べることを禁じたりします。　しかし、神様はそれらを、よく訓練されたクリスチャンが喜び楽しむようにと、備えてくださったのです。４神様がお造りになったものはみな良い物で、感謝して受ければ、何一つ捨てる必要はありません。　５それらは、神様に祝福を求める祈りと、神様のことばとによって、きよめられるからです。
６このことを、ほかの人たちに、はっきり教えなさい。　そうすれば、あなたは牧師の義務をりっぱに果たしたことになるのです。　牧師は、自らの信仰と、従ってきた真理の教えとによって成長するのです。
７ばかばかしい理論や、くだらない作り話を、あれこれ議論し、むだに時間を費やしてはなりません。　むしろ、時間と労力とを有効に使って、いつも霊的に高められるよう、自分を訓練しなさい。　８体の訓練も大いにけっこうですが、霊の訓練はさらに大切であり、あらゆる行動の原動力になるのです。　ですから、あなたは霊の訓練に励み、もっとすぐれたクリスチャンを目指しなさい。 そうすることは、今の地上の生活のためだけでなく、未来の生活にも役立つからです。　９これは、万人に共通の真理です。　１０私たちは、これを人々が信じるようにと、多くの苦しみに会いながらも一心に励んできました。　それは私たちが、生ける神に希望を託しているからです。　神様はすべての人のために、特にその救いを受け入れた人たちのために死に、復活されたお方なのです。
１１これらのことを、どんな人でも十分理解できるように教えなさい。　１２年が若いからといって、軽く見られてはいけません。　かえって人々の模範になりなさい。　あなたが、ことばと実践によって教えていることを、人々にも実行させなさい。　愛、信仰、きよらかな思いの、良い模範を示しなさい。　１３私がそちらに行くまで、教会で聖書を朗読し、その内容を教え、神様のことばを伝えなさい。
１４かつて教会の長老たちがあなたの頭に手を置いて祈ってくれた時、神様が預言を通して与えてくださった特別な能力を大切にしなさい。　１５その能力を十分に活用して、今の仕事に全身全霊、打ち込みなさい。　そうすれば、だれの目にも、あなたの進歩と向上が明らかになるでしょう。　１６自分の思想と行動全般に、いつも気を配っていなさい。

正しいことには、あくまでも忠実でありなさい。　そうすれば、神様はあなたを祝福し、他の人たちを助けるのに役立つ者としてくださいます。
五
１年上の人に、きついことば使いをしてはいけません。　むしろ、父親に対するように、尊敬の念をこめて話しかけなさい。　年下の人には、弟に対するように話しなさい。　２年上の婦人には母親のように、若い女性には、少しも不純な気持ちをいだかないで、妹のように接しなさい。
３夫に先立たれて、だれにも面倒をみてもらえない婦人がいたら、教会は親身になって世話すべきです。　４しかし、もしその人に子供か孫がいる場合は、その責任は彼らにあるのです。　なぜなら、親切は、まず自分の家庭から、つまり、困っている親の面倒をみることから始まるのです。　神様はそのことを、たいへんお喜びになります。
５教会が世話すべき人は、身寄りのない貧しい未亡人たちです。　中でも、ひたすら神様に信頼し、多くの時間を祈りに費やす人たちです。　６あちこち遊び歩いて、うわさ話に花を咲かせ、おもしろおかしく暮らしている未亡人は、世話する必要がありません。　そんな人は、たましいが死んでいるのです。　７このことを、教会規則に明記しておきなさい。　そうすれば、教会員は何が正しいかを知り、進んでそれを実行するでしょう。
８自分の親類、ことに家族の苦しみを見て見ぬふりをするような人は、クリスチャンの風上にも置けません。　神様を知らない人よりも悪いのです。
９教会の特別な働き人になりたいと願う未亡人には、一定の条件をつけるべきです。　すなわち、少なくとも六十歳以上で、結婚歴は一度に限らなければなりません。　１０また、これまで善行を積み、評判のよかった人でなければなりません。　次のことを調べる必要があります。　子供をりっぱに育て上げたかどうか。　クリスチャンに限らず、見知らぬ旅人をも親切にもてなしたかどうか。　病人や困っている人に助けの手を差し伸べたかどうか。　常にだれにでも、やさしくふるまう心がまえでいたかどうか。
１１若い未亡人を、そのような特別な婦人たちと同列に扱ってはいけません。　それというのも、若い人はキリスト様への誓いを無視して、再婚したがるからです。　１２その結果、初めの約束を破ったというので、きびしい非難にさらされることになります。　１３その上、彼女たちときたら、怠けやすく、あちこちの家を遊び歩いては、うわさ話に花を咲かせ、やたらに、おせっかいをやきたがるのです。　１４それで私は、そういう若い未亡人には再婚を勧め、子供を産み、家庭を大切にするよう指導するのが一番だと思います。そうなれば、だれにも非難されずにすむでしょう。　１５実際、すでに教会に背を向け、悪魔の誘いに乗って道を踏みはずした未亡人が、何人かいるからです。
１６もう一度念を押しますが、親類に未亡人をかかえている場合は、その面倒を見るべきです。　教会に余計な負担をかけてはいけません。　そうでないと、ほんとうに一人ぼっちで身寄りのない未亡人を援助するお金が、なくなってしまいますから。
１７与えられた仕事を忠実に果たしている牧師は、それに見合う十分な報酬を受け、心か

ら尊敬されるべきです。　説教と教育の両方に熱心に励んでいる牧師の場合は、特にそうでなければなりません。　１８なぜなら、旧約聖書に「穀物を踏んで脱穀している牛に口輪をかけ、その穀物を食べるのを禁じてはいけない」とか、「働く者が報酬を受けるのは当然である」とか書いてあるからです。
１９牧師への不満の訴えは、二、三人の証人がいなければ、取り上げてはいけません。　２０万一、牧師が実際に罪を犯した場合は、教会員全員の前で責めなさい。　その悪い例にならう人を一人も出さないためです。
２１私は、神様と主イエス・キリストと聖なる御使いたちの前で、厳粛な思いで命じます。あなたがその牧師と親しい間柄であろうとなかろうと、公平に対処しなければなりません。
２２牧師を選ぶ時は、慎重を期しなさい。　そうでないと、その人の罪を見のがす結果になり、あなたもその罪を黙認したことになるからです。　あなたも、いっさいの罪から離れ、きよい生活をしなさい。　２３だからといって、ぶどう酒を全く断つ必要はありません。　病気がちのあなたには、むしろ胃の薬として、時々は少量を飲むように勧めます。
２４中には、牧師でありながら、罪の生活から足を洗えず、しかも、そのことが、だれの目にも明らかな人がいます。　そんな場合は、直ちに何らかの手を打ちなさい。　しかし中には、最後のさばきの日に初めて、その恐るべき真相があばかれる場合もあるのです。
２５こうも言えます。　ある牧師のりっぱな行ないが、現にだれにも知れ渡っている場合もあれば、反対に、ずっとあとにならないと、その業績が認められない場合もあるということです。
六
１クリスチャンである奴隷は、主人を心から尊敬して、一生懸命働きなさい。　キリスト様に従う者となりながら、怠け者だと非難されてはなりません。　そんなことで、神様の名と教えとが笑いものにされてはたまりませんから。　２主人が、たまたまクリスチャンの場合でも、それをいいことに気をゆるめたりせず、むしろ、いっそう熱心に働きなさい。その結果、益を受けるのは、信仰を同じくする、あなたの兄弟なのですから。
テモテよ。　すべての人にこれらの真理をよく教え、心から従うように勧めなさい。　３中には、これらを無視する人がいるかもしれません。　しかしこれは、主イエス・キリストの健全な教えであり、神様を敬う生活の、基礎となるものです。　４違った教えを広める人がいれば、それは高慢のなせるわざであり、自分の無知をさらけ出す行為だとみなしなさい。　つまり、キリスト様のことばをいい加減に解釈し、ねたみや怒りにかられて議論を果てしなく続け、その結果、悪口や非難、不信感のとりこになるのです。　５こうして議論に明け暮れ、心が罪にゆがんでいる人は、真理をどう表現すればよいのか知りません。　彼らにとって、真理とは、金もうけの手段にすぎないのです。　そんな人から遠ざかりなさい。
６ほんとうの金持ちになりたいと思いますか。　もし今、幸福で、心が満ち足りているなら、あなたはすでに金持ちなのです。　７私たちは、一円たりとも身につけてこの世に生

まれたわけではありません。　また、この世を去る時にも、一円も持って行けません。　８ですから、食べる物と着る物があれば、満足すべきです。　９しかし、金持ちになりたがる人は、もうけ話には見境がなく、すぐ悪に走ってしまいます。　その結果、ひどい目に会い、心を汚し、ついには、地獄へ送り込まれることになります。　１０お金を愛することは、あらゆる悪の根源です。　中にはお金を愛するあまり、信仰を捨て、神様から離れてしまった人もいます。　おかげで、そんな人はわが身を刺し通す、激しい悲しみに襲われるのです。
１１テモテよ。　あなたは神に仕える者です。　ですから、これらすべての悪から逃れて、正しく良いことを熱心に励みなさい。　神様を信頼し、人を愛し、忍耐強く、ものやわらかな態度を身につけ、　１２神様のために戦い続けなさい。　神様から与えられた、永遠のいのちをしっかり握っていなさい。　あなたは、この永遠のいのちについて、多くの証人の前で、堂々と告白したのです。
１３私は、すべてのいのちの創造者である神様と、ポンテオ・ピラトの前での大胆な証人キリスト・イエスとの前で、あなたに命じます。　１４主イエス・キリストが再び来られる時まで、主が命じられたことをすべて成し遂げ、だれからも非難されるところのない者になりなさい。　１５その時が来ると、キリスト様は、祝福に満ちた、ただ一人の力ある神から遣わされて、天から姿を現わします。　この力ある神は、王の王、主の主として、１６死ぬことのない、ただ一人の方であり、だれも近づけない、まばゆい光の中に住んでおられます。　普通の人は、だれ一人、神様を見たことがありませんし、これからも、決して見ることはできません。　どうか、このまことの神様に、誉れと、永遠の権威と支配とが、世々かぎりなくありますように。　アーメン。
１７金持ちには、高慢にならないように、そして、すぐになくなるお金に望みをかけないように教えなさい。　また、必要なものをいっさい備えて、私たちの人生を楽しませてくださる生ける神様を誇りとし、この方だけを信頼するように忠告しなさい。　１８また、お金の生きた使い道を教えてやりなさい。　自分の持ち物はすべて神様からいただいた物だとわきまえて,困っている人には喜んで分けてやるように心がけなさい。 そうすれば、神様の前でたくさんの善行をほどこす者となり、　１９自分のために、ほんとうの宝を天に積むことになるのです。 これこそ、未来に備える、ただ一つの絶対に安全な投資です。また、そうする人は、この地上でも、実りあるクリスチャン生活を送れるのです。
２０テモテよ。　神様から託された任務を完全に果たしなさい。　知識を鼻にかけ、かえって無知をさらけ出しているような人と、くだらない議論にふけらないよう、気をつけなさい。　２１彼らの中には、人生で最も大切なものを見失った者、すなわち神様を知らない者がいるのです。
どうか、神様のあわれみが、あなたがたにありますように。
パウロ
▪

テモテへの手紙　Ⅱ
囚われの身であり、処刑を間近にひかえたパウロが、最愛の弟子テモテに送った遺書とも言える手紙です。　自分は犯罪人という最もみじめな境遇におかれ、しかも、エペソの教会では、大ぜいの信者が造反運動を起こすという悲しい出来事に直面して、パウロはテモテに、どんなにつらい時も、正しい教えを伝えることだけは忘れないように、と訴えます。　そして、自分の一生は、まさにそうした戦いの連続であり、それを勇敢に戦い抜いたことを語ります。

一
１２キリスト・イエスを信じる者に神様が約束された永遠のいのちを、人々に伝えるために遣わされた、キリスト・イエスの宣教者パウロから、愛するテモテへ。　どうか、父なる神と主キリスト・イエスが、恵みとあわれみと平安とを、あなたに注いでくださいますように。
３テモテよ。　私はあなたのことを、どんなに神様に感謝しているか知れません。　毎日、あなたのために祈り、長い夜も、何度となく思い出しては、どうかあなたに祝福があるように、と願い求めています。　神様は、先祖代々の神であり、また、私の神です。　そして、この神様に喜んでいただくことだけが、私の生きがいなのです。
４私は、ぜひもう一度あなたに会いたい、と願っています。　この願いがかなえられたら、跳び上がって喜ぶことでしょう。　今でも、あの別れの時の、涙にくれたあなたの姿が、まぶたに焼きついているのです。
５あなたの主に対する熱心な信仰は、お母さんのユニケやおばあさんのロイスに少しも劣らないことを、私はよく知っています。　そして、今でもその信仰は変わらないと信じています。
６ですから、お願いしたいのです。　私があなたの頭に手を置いて祈った時、うちに注ぎ込まれた力と勇気を、もう一度、奮い起こしなさい。　７なぜなら、神様が遣わされた聖霊様は、人を恐れず、知恵と力とをみなぎらせ、人を愛し、喜んで人と共に歩むことを、要求なさるからです。　８もしあなたが、この力を奮い起こすなら、主について人前で語るのをためらったり、キリスト様のゆえに牢獄につながれている私のことを、恥じたりしなくなるでしょう。　それどころか、私と共に苦しむ覚悟ができるはずです。　神様は、苦しみのただ中にあっても、力を与えてくださるのですから。
９神様は私たちを救い、そのきよい仕事に任命するため、選んでくださいました。　それは、私たちにその仕事をする資格があったからではなく、何もかも、この世が始まる前から、神様によって決められていたことなのです。　それによって、愛とあわれみを、キリスト様を通して私たちに示そうとされたのです。　１０そして、救い主キリスト・イエスが地上に来られた今、神様は、その計画の全貌を明らかにしてくださいました。　キリスト様は死の力を打ち破り、ご自分を信頼する者に、永遠のいのちに至る道を切り開いてく

ださったのです。　１１そして神様は私を、この良い知らせを外国人に宣べ伝え、教える使者にお選びになったのです。
１２そのため、私はいま獄中で苦しんでいるのです。　しかし、それを少しも恥とは思いません。　なぜなら、自分が、どなたを信頼しているのかよく知っており、またその方は、お任せしたものをみな、再び来られるその日まで、安全に守ってくださる、と確信しているからです。
１３私が教えた真理、特にキリスト・イエスが与えてくださった信仰と愛とを、しっかり握っていなさい。　１４あなたのすばらしい才能は、うちに住んでおられる聖霊様からの贈り物ですから、十分に注意して守りなさい。
１５ご存じのとおり、アジヤから来たクリスチャンは、みな私を捨てて行きました。　フゲロとヘルモゲネでさえ、離れて行ったのです。　１６どうか主が、オネシポロとその家族とを、祝福してくださいますように。　彼は、たびたび私を訪ね、励ましてくれました。彼が来るたびに、新鮮な空気を胸いっぱい吸い込んだように、たいそう元気づけられたのです。　しかも彼は、私が獄中にいることを、少しも恥ずかしいこととは思いませんでした。　１７その証拠に、彼はローマに着くとすぐ、あちこち捜し歩いて、ついに私を訪ねあててくれたのです。　１８どうか、再びキリスト様のおいでになる日に、主が、彼を特別に祝福してくださいますように。　エペソでの彼の献身ぶりは、あなたのほうがよく知っています。
二
１私の子テモテよ。　キリスト・イエスから力をいただいて、強くなりなさい。　２なぜなら、あなたには、多くの証人の前で、私から聞いたことを、ほかの人に伝える使命があるからです。　この偉大な真理を、信頼のおける人、すなわち、自分が信じるだけでなく、人にも伝えることのできる人に教えなさい。
３キリスト・イエスのりっぱな兵士として、私と共に苦しんでください。　４キリスト様の兵士となった以上、この世のさまざまな事に、うしろ髪を引かれてはなりません。　そんなことでは、キリスト様の軍隊に入隊させてくださった方を、悲しませるだけです。　５ルールに違反した競技者は失格し、賞を得ることができません。　同様に、主の仕事に携わる人も、主の規則に従うべきです。　６身を粉にして働いた農夫が、多くの収穫をあげるのは当然です。　ですから、あなたも一生懸命働きなさい。　７以上の三つの例を、よく考えなさい。これらのたとえの意味を理解する力が、主から与えられますように。
８　イエス・キリストが、人間としてダビデ王の家系から生まれ、同時にまた神であること〔それは、死人の中からの復活という、驚くべき事実によって証明されました〕を、いつも覚えていなさい。　９私が今こんなつらい目に会い、犯罪者のように牢獄に放り込まれているのは、ほかでもありません。　このすばらしい真理を人々に伝えたからです。　しかし、私は鎖でつながれていても、神様のことばは、つながれてはいません。　１０私は喜んで、どんな苦しみも耐え忍びます。それは、神様に選ばれた人に、キリスト・イエス

の救いと、永遠の栄光とをもたらすためです。
１１私は、次の真理を知っているので慰められます。　すなわち、キリスト様のために苦しみを受けて死ぬ時が、天で、キリスト様と共に生きる時の始まりを意味する、ということです。　１２もしも、主に仕える現状をつらいと思うことがあれば、いつの日か必ず主と共に王座につき、共に治めるようになることを思い起こして、がんばりなさい。　もし、私たちが苦しみに耐えかねて、キリスト様を拒むようなことがあれば、キリスト様も、私たちを拒まれるに違いありません。　１３たとい、信仰をなくしたかと思えるほど、私たちが弱くなっても、キリスト様は真実を貫き、私たちを助けてくださいます。　私たちは主の一部分になっているので、切り捨てられることはないのです。　そして、主はいつも約束を果たしてくださいます。
１４このすばらしい事実を、教会員の心にしっかり植えつけなさい。　そして、つまらない問題で議論するのを、主の名によって禁じなさい。　そんな議論は混乱を招くだけで、百害あって一利なしだからです。　１５あなたは、神様から「よくやった」と、おほめのことばがいただけるように、熱心に励みなさい。　神様に仕事ぶりを評価される時、胸を張っていられるような、りっぱな働き人になりなさい。　そのために、聖書が教えていること、意味することを学びなさい。　１６人々を憎しみの渦に巻き込むような、くだらない議論を避けなさい。　１７そんな議論は、火のように、どんどん燃え広がって、人々を傷つけるばかりです。　議論好きのヒメナオとピレトは、まさしくこの種の人間です。　１８あの連中は真理の道を踏みはずし、死人の復活など、もうすんだことだとして偽りの教えを言い広め、それを真に受けた人の信仰を、台なしにしています。
１９しかし神様の真理は、巨大な岩のようにしっかり立っていて、だれも揺るがすことはできません。　この土台となる石には、次のようなことばが刻まれています。　「主は、真に自分に属する者を知っておられる。」　また、「自らクリスチャンだと名のる人は、悪から遠ざかりなさい。」
２０裕福な家では、金銀の高価な器だけでなく、木や土の粗末な器も備えてあります。　高価な器は客をもてなすために使い、粗末な器は台所用か、残飯入れに使います。　２１あなたがいつも、罪を犯さないように注意しているなら、家中で一番高価な純金の器になれるでしょう。　つまり、キリスト様の最高の目的のために、用いていただけるのです。
２２若者がいだきがちな情欲を避け、遠ざかりなさい。　反対に、いつも正しいことをしたいという気持ちをいだいていなさい。　信仰と愛とを保ち、主を純粋な心で愛している人々とのつき合いを、大切にしなさい。
２３くり返しますが、人々の心を乱し、怒らせるだけの、くだらない議論に巻き込まれないように、注意しなさい。　２４クリスチャンは争ってはなりません。　過ちを犯している人を、やさしく忍耐をもって正せるようになりなさい。　２５真理に逆らう人たちを、謙そんな心で教え、さとしなさい。　おだやかに、思いやりをもって話せば、あるいは神様の助けによって、その人はまちがった考え方を改め、真理を信じるかもしれません。　２

６こうして正気に戻った人たちは、罪の奴隷として、思うままにあやつる悪魔のわなから逃れ、神様のみこころに従うでしょう。
三
１テモテよ。　これから書くことを、よく心にとめておきなさい。　終末の時代には、クリスチャンになることが非常にむずかしくなります。　２自分だけを愛し、また、お金だけがすべてだと考える風潮が、はびこるからです。　高慢な者、大風呂敷を広げる者、神様をあざける者、両親にそっぽを向き、感謝することを知らない者、手がつけられない、ならず者が現われます。　３また、頑固で、決して他人を理解しようとしない者、うそつきの常習犯で、問題ばかり起こし、頭はみだらな思いでいっぱい、といった連中が増えます。　彼らは乱暴で残忍な行動をし、善良であろうとする人をあざ笑います。　４友を裏切り、怒りっぽく、すぐに思い上がり、神様を礼拝するひまがあったら、もっとおもしろいことをして過ごそうと考えます。　５教会に出席する者がいたとしても、聞いたことを何一つ信じようとしないのです。　目をしっかり開けて、そんな人たちには近寄らないようにしなさい。
６中には、うまく他人の家に入り込み、だらしのない愚かな女たちにつけ入って、新しい教えを吹き込む者がいます。　７このような女は、目新しい教師にはすぐ飛びつきますが、いつまでたっても真理がわかりません。　８また、こうした教師も、モーセに逆らった、ヤンネとヤンブレのように、真理に逆らっているのです。　その心は汚れ、ねじけていて、クリスチャンの信仰に刃向かってくるのです。
９しかし、いつまでもそんなことが続くわけではありません。　ヤンネとヤンブレの罪がだれの目にも明らかになったように、いつかは、彼らの、うそでこり固まった行為も、明白になるのです。
１０私がそんな人間でないことは、わかってもらえるはずです。　あなたは、私が何を信じ、何を望み、どのように生活しているか、よく知っています。　キリスト様に対する私の信仰も、苦しみも、そして、あなたへの愛と忍耐も知っています。　１１神様の良い知らせを伝えたために、私がどれだけ痛めつけられたかも知っています。　アンテオケ、イコニオム、ルステラで受けた迫害の一部始終も、知っているはずです。　しかし主は、私を守ってくださいました。　１２確かに、キリスト・イエスのお考えにそって、神様を敬う生活を送ろうとする人はみな、敵対する者から苦しめられ、迫害されます。　１３しかし、大ぜいの人をだます悪人や偽教師は、自分も悪魔にだまされて、ますます悪の深みにはまり込むのです。
１４けれども、あなたは、真理を教えた私たちを信頼していなさい。　１５また、小さな子供のころから、自分がどのように聖書を教えられてきたか、覚えているでしょう。　この聖書こそ、キリスト・イエスを信じることによって救われるための知恵を、与えてくれたのです。１６全体が神様の霊感によって書かれた聖書は、何が真理であり、何が悪であるかをよく教えてくれます。　また、私たちの生活をまっすぐにし、正しいことを行なう

力を与えてくれます。　１７こうして神様は、私たちをあらゆる点で整え、すべての人に善を行なう力を、十分に授けてくださるのです。
四
１それで私は、神様とキリスト・イエスとの前で、厳粛な思いで忠告します。　〔キリスト様は、いつの日か神の国を完成させるために現われて、生きている者と死んだ者とをさばかれるお方です。〕　２どんな時にも、神様のことばを熱心に伝えなさい。　機会があろうとなかろうと、つごうの良し悪しにかかわらず、励みなさい。　過ちを犯している教会員には、忠告して、正しい道に引き戻してやりなさい。　そして善を行なうよう励まし、たゆまず神様のことばを教え続けなさい。　３なぜなら、人々が真理のことばは耳ざわりだと敬遠し、自分につごうのよい話をする教師を求めて歩き回る時代が来るからです。　４彼らは聖書の教えに耳を傾けようとせず、まちがった教えにしっぽを振ってついて行くのです。
５ですから、危機感をいだき、絶えず目を覚まして警戒していなさい。　主のために受ける苦しみを、恐れてはいけません。　他の人たちをキリスト様へ導きなさい。　なすべきことを、一つ残らず成し遂げなさい。
６こう言うのも、私の最期が迫っているからです。　いつまでも助けてあげるわけにはいきません。　もうすぐ天国へ旅立ちます。　７主のために、長いあいだ困難な戦いを続けてきた私は、主への真実を守り通しました。　しかし今ついに、休む時が来たのです。　８天では、冠が待っています。　正しい裁判官である主が再び来られる日に、いただく冠です。　もちろん私だけにではなく、主を熱心に待ち望む日々を過ごす人々全員に、授けられるのです。
９できるだけ早く、こちらへ来てください。　１０１１デマスは私を捨てて、テサロニケに行ってしまいました。　この世の楽しみに心を奪われてしまったのです。　クレスケンスはガラテヤへ、テトスはダルマテヤへと、それぞれ出かけ、私のもとに残ったのはルカだけです。　こちらへは、マルコも連れて来てください。　彼に頼みたいことがあるのです。　１２〔テキコも、今はここにいません。　エペソへ使いにやりましたから。〕　１３ついでに、私がトロアスのカルポの家に置いてきた上着を、忘れずに持って来てください。それから羊皮紙の書物も、お願いします。
１４銅細工人アレキサンデルが、私にひどい仕打ちをしました。　主が罰してくださることでしょうが、　１５彼には気をつけなさい。　とにかく、私たちのことばに、ことごとく逆らったのですから。
１６私が初めて、裁判官の前に連れ出された時、弁護してくれる人は一人もいませんでした。　だれもが見捨てて、逃げてしまったのです。　どうかそのことで、彼らが神様から責められませんように。　１７しかし主は共にいて、私を助けてくださいました。　神様のことばがあらゆる国の人に伝えられるため、大胆に説教する機会を与えてくださいました。　また、あわやライオンのえじきとなるところを、助け出してくださいました。　１

１８主は、いつもあらゆる悪から救い出し、ついには、天国に導き入れてくださるのです。神様に、栄光がいつまでも限りなくありますように。　アーメン。
１９プリスカとアクラに、またオネシポロの家族に、よろしく伝えてください。　２０エラストはコリントにとどまり、トロピモは病気のため、ミレトに残して来ました。
２１冬になる前に、何とかこちらへ来てください。　ユブロがよろしくとのことです。　プデス、リノス、クラウデヤ、そのほかのクリスチャンもみんな、よろしくと言っています。
２２どうか、主イエス・キリストが共におられますように。
パウロ
▪

テトスへの手紙
クレテ島にある教会を指導していた、テトスあてのパウロの手紙です。テトスは有能な青年で、パウロもその力を高く評価し、たいせつな役目につかせたことも何度かありました。この手紙で取り上げているクレテ島も、道徳水準が低く、なかなか大変なところでした。このような教会には、特にしっかりした指導者が必要です。　どのような人を選んだらよいか、また、教会の責任者として、人々をどのように教え、訓練したらよいか、適切な助言がなされています。

一
１－４神様の奴隷であり、イエス・キリストの使者であるパウロから、同じ主を信じる信仰によって、私の真実の息子となった、愛するテトスへ。
どうか、父なる神と救い主キリスト・イエスが、あなたに祝福と平安とを注いでくださいますように。
私は、神様に選ばれた人たちに信仰を与え、真理を教えるために、遣わされた者です。　神様の真理には、信じる人の生活を全く変える力があり、また、永遠のいのちを与える力もあります。　これは、世界が造られる前からの、神様の約束です。　神様は、うそをつくことができないお方です。　それで今、約束どおり、最善の時を選んで、この良い知らせを公表し、それをすべての人に告げ知らせる特権を、私におゆだねになったのです。　こうして私は、救い主である神様によって、この働きに任命されたのです。
５ところで、あなたをクレテ島に残して来たのは、島の教会を強めるため、思う存分働いてもらいたかったからです。　前もってお願いしておいたように、私の指示どおり、牧師を町ごとに任命してください。　６牧師として選ぶ人は、正しい生活を送っていて、世間的にも評判のよい人でなければなりません。　すなわち、ちゃんとした結婚をしており、子供も、主を愛するクリスチャンでなければなりません。　かりにも、子供が親に反抗的だとか、乱暴者だとか、とかくのうわさのある人は避けなさい。
７牧師は神様に仕える者ですから、だれからも非難されない人であるべきです。　高慢な人、短気な人、大酒飲み、けんか好き、金銭欲の強い人に、その資格はありません。　８心から客をもてなし、善意にあふれ、考え深く、だれにでも公平で、良識ある、きよらかな心の持ち主でなければならないのです。　９また、教えられた真理にしっかりと立つ、信仰の強い人であることも大切な条件です。　なぜなら、彼らの使命は、人々に真理を教え、反対する者に、その誤りを、はっきり指摘することにあるからです。
１０こう言うのは、真理に従わない人が大ぜいいるからです。　特に、「クリスチャンはみな、ユダヤ人のおきてを守るべきだ」と主張する連中は、その代表的な例だと言えます。これはまた、なんとばかげた議論でしょう。　彼らは、人の目をくらませて、真理を見いだすのを阻むのです。　１１そんな議論は、直ちにやめさせなさい。　おかげで、すでに何家族かが、神様の恵みから離れてしまいました。 そんなことを教える連中の目当ては、

一にも二にも金もうけです。　１２彼らのことを、同じクレテ出身の預言者は、いみじくもこう言いました。　「クレテ人はみな、うそつきで悪いけだもの。　なまけ者で食いしんぼう。」　１３まさにそのとおりです。　ですから、人々を甘やかさず、その信仰を強めるように、びしびし教育しなさい。　１４そして、ユダヤ人の作り話や、真理に逆らう者の言い分に耳を傾けることなど、きっぱりやめさせなさい。
１５きよい心の持ち主には、すべてのものがきよく、良いものに見えます。　しかし、心の曲がった不真実な者には、すべてが曲がって見えるのです。　それは、その汚れた思いと反抗的な心が、見るもの聞くものすべてを、ゆがめるからです。　１６そういう連中は、口先では神様を知っていると言うのですが、行ないを見れば、そのうそは一目瞭然です。心は腐れきっていて不従順で、何一つ良いことをする資格がありません。
二
１しかし、あなたは、真のキリスト教にふさわしい生き方を、教会員に教えなさい。　２老人には、まじめで落ち着いた生活をするように勧めなさい。　年輪を重ねた者は、考え深く、真理を信じ、すべての点で愛と忍耐とをもって行動しなければなりません。
３老婦人には、何事にも静かで、ていねいな物腰を忘れないように教えなさい。　陰口をたたいたり、大酒を飲んだりせず、人生経験を積んだ婦人にふさわしく、良いお手本となるべきです。　４５そうすれば、若い女性に、落ち着いた生活を送り、夫と子供とを愛し、考え深く、きよらかな心で、家事に精を出し、夫にやさしく従順でいるようにさとせるのです。　そうなれば、クリスチャンの信仰が、身近な人たちから、けなされることもないでしょう。
６同様に、青年にも、思慮深く、まじめに生活するように勧めなさい。　７まずあなたが、正しい模範を示すことです。　真理を愛し、何事にも真剣に取り組んでいることが、だれの目にもはっきりわかるようにしなさい。　８良識的に、筋道を立てて話しなさい。　そうすれば、反対する者たちも、けちをつけることができず、かえって恥じ入るでしょう。
９奴隷には、主人に喜ばれるよう、言いつけを守り、一生懸命働くように勧めなさい。　口答えはいけません。　１０こそこそと物を盗んだりするのはやめて、自分が全く信頼に値する人間だということを、身をもって示すべきです。　その誠実な態度を見て、ほかの人々も、救い主である神様を信じる気を、起こすかもしれません。
１１というのも、永遠の救いという神様からの贈り物が、今、だれにでも、ただで提供されているからです。　１２しかも、この贈り物をいただくと同時に、神様が私たちに望んでおられることが実現するのです。　それは、神様を認めない生き方と、罪にまみれた快楽とを捨て去って、日々、神様を敬う正しい生活を送ることであり、　１３偉大な神様と救い主イエス・キリストとの栄光が現われる日を、待ち望むようになることです。　１４キリスト様は、私たちの罪のために、神様のさばきを受けて死んでくださいました。　それは、罪のどろ沼にはまり込んで、どうにも動きのとれない私たちを助け出して、ご自分の民とし、心のきよい、熱心な、善意の人と変えてくださるためでした。

１５以上のことを教会員に教えて、実行するように励ましなさい。　必要とあれば、きびしく戒め、誤りを正してやりなさい。　あなたには、当然その権威があるのですから。　あなたの教えが、だれからも軽んじられないように、気をつけなさい。
三
１支配者の権威に服従し、いつも従順で、良いことは何でも進んで行なうよう、教会員を指導しなさい。　２また、人の悪口を言ったり、けんかをしたりせず、やさしい態度で、すべての人に礼儀正しく接するように教えなさい。
３以前は私たちも、分別の足りない、不従順な者であり、人に迷わされ、さまざまな快楽や欲望のとりこになっていました。　心は悪意とねたみの固まりで、憎んだり憎まれたりという、罪の生活に明け暮れていました。
４しかし、救い主である神様が、恵みと愛とを示してくださる時が、ついに来たのです。
５神様は、私たちの罪のよごれを洗い落とし、心に聖霊様を遣わして、新しい喜びで満たし、以前の悲惨な生活から救い出してくださいました。　それは、私たちに、救われる資格があったからではなく、ただ、神様の恵みとあわれみのおかげなのです。　６聖霊様は、私たちの心をしっかり占領してくださいました。　これはみな、救い主イエス・キリストが成し遂げてくださった救いがあるからこそ、実現したのです。　７こうして神様は、私たちを、ご自分の目にかなった正しい者と宣言してくださいます。　これは、神様の恵み以外の何ものでもありません。　私たちは今、永遠のいのちの相続権を認められ、実際にそれをいただく日を、心から待ち望んでいるのです。
８これまで話してきたことは、すべて真実です。　ですから、確信をもって、クリスチャンはいつも良い行ないに励むべきだ、と教えなさい。　そういう生き方は、正しいだけでなく、すばらしい結果を生むことにもなるからです。
９堂々巡りの議論にふけったり、あやしげな神学論争に巻き込まれたりしてはいけません。ユダヤ人のおきてを守ることについての議論や論争も避けなさい。　そんなものは、何の益にもならず、むしろ害をまき散らします。　１０教会を分裂させる人がいたら、一度か二度、きびしく警告しなさい。　それでも聞き入れなければ、きっぱり縁を切ってしまいなさい。　１１そんな人は、正しい価値判断ができず、悪いとわかっていながら、罪を犯しているのです。
１２ところで、アルテマスかテキコを、そちらへ派遣しようと思っています。　二人のどちらかが着きしだい、あなたは、ニコポリの私のもとに来てください。　私は、そこで冬を過ごすことにしましたから。　１３アポロと法律の専門家ゼナスとが旅立てるように、あなたも、できるだけ骨折り、必要な物が全部そろうよう、気を配ってやってください。
１４私たち一同は、助けが必要な人々を進んで援助する習慣を、もっと身につけなければなりません。　そうすれば、実を結ぶ生活を送れるでしょう。
１５こちらの人がみな、よろしくと言っています。 そちらのクリスチャンの友人たちに、よろしく伝えてください。　神様の祝福が、あなたがたと共にありますように。

パウロ

-

ピレモンへの手紙
ピレモンは､パウロの指導を受けてキリストを信じた､信望のあついクリスチャンでした。裕福な人で、彼の家がコロサイの信者たちの集会場になっていました。　この人のところから逃げ出したオネシモという奴隷が、ローマで監禁中のパウロと出会い、クリスチャンになったのです。 一度は主人を裏切ったものの､今では同じ信仰にはいったオネシモを、ピレモンのもとに帰そうと決心したパウロは、快く迎えてやってほしいという執りなしの手紙を持たせます。

１２イエス・キリストの良い知らせを伝えたことで投獄されたパウロと、信仰の友テモテから、愛する同労の友ピレモンへ。　また、礼拝のために、あなたの家に集まっている皆さんと私たちの姉妹アピヤ､それに私同様､キリストの十字架の兵士となったアルキポに、この手紙を送ります。
３　父なる神と主イエス・キリストが、あなたがたに、祝福と平安とを与えてくださいますように。
４愛するピレモンよ。 あなたのことを､私はいつも神様に感謝しています。 ５それは、主イエス・キリストとすべてのクリスチャンに対する、あなたの愛と信頼とを、いつも耳にするからです。　６それで、他人との交際において、クリスチャンとしてのあなたのりっぱな態度が、相手の心をとらえ、その生活までも変えることができるように、と祈っています。　７愛する友よ。　こう言う私も、あなたの愛によってどれだけ慰められ、励まされたか知れません。　ほんとうに、あなたの親切は多くのクリスチャンを元気づけました。
８９そんなあなたを見込んで、ぜひ、お願いしたいことがあるのです。　もっとも、正しいことをしてもらおうというのですから､キリスト様の名によって命令してもよいのです。しかし、私たちの間には愛がありますから、あえて命令はしません。　年老いた今、キリスト・イエスのために投獄されている、この私からのお願いです。　１０どうか、鎖につながれた獄中で、私が主に導いたオネシモを、愛の心でやさしく迎えてやってください。私はオネシモを、わが子のように思っているのです。　１１オネシモ〔「役に立つ」という意味〕は、以前あなたのもとにいたころは、役立たずの奴隷であったかもしれません。　しかし、クリスチャンとなった今、あなたにとっても私にとっても、その名のとおり、役立つ者となりました。　１２そのオネシモを、そちらへ帰します。　その時、私の心もいっしょに行くでしょう。
１３内心、私は、キリストの良い知らせを伝えたことで捕らわれの身となっている間は、彼をそばにおいて、あなたの代わりに世話してもらいたいと思いました。　１４しかし、あなたの同意なしに、そんなことはしたくなかったのです。　親切は、無理じいされてするものではなく､心から喜んでするものですから。　１５こう考えてはどうでしょう。 オネシモが、しばらくのあいだ逃亡していたのは、永久にあなたのものとなるために、ほか

ならなかったのだ、というふうに。　１６それも奴隷としてではなく、はるかにまさった者、つまり、私にとって特にそうなのですが、愛するクリスチャンの兄弟としてです。　あなたの感慨もひとしおでしょう。　単なる奴隷と主人の関係を超えて、キリスト様を信じる兄弟同士になったのですから。
１７もしほんとうに私を友と思ってくれるなら、私を歓迎するように、オネシモをも、心から迎えてやってください。　１８もし彼が、何か損害をかけたり、物を盗み出していたりしたら、その請求は、こちらに回してください。　１９私が支払いましょう。　〔その保証として、自筆でこの個所をしたためます。〕　この際、あなたの私に対する借りについては、とやかく言いますまい。　あなたのたましいが救われたのも、私の助けがあったればこそ、なのですが……。　２０愛する友よ。　どうか、愛にあふれたすばらしい態度で、私の弱っている心を喜ばせ、主を賛美させてください。
２１この手紙は、あなたが期待以上のことをしてくれる、と確信して書いたのです。
２２それから、私の泊まる部屋を用意しておいてくれませんか。　神様があなたがたの祈りに答えてくださり、まもなく私もそちらへ行けるようになる、と期待しているからです。
２３キリスト・イエスのことを語ったために、共に囚人の身となっているエパフラスが、よろしくと言っています。　２４それから、私といっしょに働いているマルコ、アリスタルコ、デマス、ルカも、よろしくとのことです。
２５主イエス・キリストの祝福が、ご一同と共にありますように。
パウロ
▪

ヘブル人への手紙
ヘブル人とはユダヤ人のことです。　ユダヤ人は神殿をとても重要なものと考えていました。　ですから、そこではいつも、いろいろな宗教儀式が行なわれ、事あるごとに動物の犠牲がささげられていました。たとい、クリスチャンになっても、神殿での儀式を熱心に守る習慣は変わりませんでした。　このようなユダヤ人に、ほんとうにたいせつなのは、儀式を守ることではなく、身代わりとなって死んでくださったキリストを信じることだと、この手紙は教えています。

一
１ずっと昔、神様は、幻や夢や、時には直接の語りかけなどの、いろいろな方法で、預言者を通して先祖たちに、ご自分の計画を少しずつ明らかになさいました。
２しかし今の時代には、ご自分のひとり息子を通して語っておられます。　神様はその子にすべてを受け継がせ、彼によって、世界とその中のすべてのものをお造りになったのです。
３神の子は、神様の栄光を受けて、まばゆいばかりに輝いています。　また、その人格と行動すべてにおいて、神であることを示し、力あることばによって、宇宙を統御しておられます。　それぱかりか、私たちのいっさいの罪の記録を消し去ってきよめるために、死んでくださいました。　そして今は、最高の栄誉を受けて、天におられる偉大な神様のそばに、座っておられるのです。
４こうしてこの方は、御使いより、はるかにすぐれた存在となられました。　それは、父なる神がおつけになった「神の子」という名が、御使いたちの名や肩書きとは比べ物にならないほど、すぐれていたからです。　５神様はどの御使いに対しても、「あなたはわたしの子だ。　今日あなたに、その名にふさわしい栄誉を与えた」などと言われたことはありません。　しかし、イエス様に対しては、そう言われたのです。　さらに、「わたしは彼の父であり、彼はわたしの子である」と宣言されました。　６それから、長子であるイエス様を地上に送る時、「御使いはみな、彼を拝め」と言われました。
７御使いたちについて、神様は、「風のように速い使者、燃える炎のような力を持つしもべ」と紹介しておられます。　８しかし、神の子については、全く違っています。
「神よ。
あなたの国は永遠に続く。
その支配は、いつも公平で正しい。
９あなたは正義を愛し、悪を憎む。
それであなたの神は、
ほかのだれよりも多く、
あなたに喜びを注がれた。」
１０それぱかりか、神の子を「主」と呼んで、こう言われました。

「主よ。　あなたは世の初めに地を造った。
天も、あなたの手による作品である。
１１これらは、やがて無に帰す。
しかしあなたは、いつまでも変わらない。
すべてのものは、古着のようにすり切れる。
１２いつかあなたは、それらを捨て、
別のものと取り替える。
しかしあなたは、決して変わらず、
あなたの年齢には終わりがない。」
１３神様が御使いに、次のようなことばを、おかけになったことがありますか。
「わたしがあなたの敵を
完全に征服するまで、
わたしの右に座っていなさい。」
１４御使いは、救われる人々を助け、守るために遣わされた、霊の使者にすぎないのです。
二
１そういうわけですから、私たちは、すでに聞いた真理を、ますますしっかり心にとめなければなりません。　そうでないと、真理から離れて、漂流することになります。　２御使いのことばでさえ、いつも真理と認められ、そのことばに従わない人は、例外なく罰せられました。　３そうであれば、主イエス自身の口から語られ、それを聞いた人たちが伝えてくれた、このすばらしい救いを無視した場合、どうして、罰を免れることができるでしょう。
４神様は、この救いのことばの真実さを、多くのしるしと、目をみはる出来事と、さまざまの奇蹟によって示し、聖霊様が、信じる者に与えてくださる特別の能力によって、はっきり証明してくださいました。　神様は、この特別の才能を、一人一人に下さったのです。
５私たちがいま話題にしている未来の世界は、御使いが支配する世界ではありません。　６なぜなら、ダビデは旧約聖書の詩篇の中で、こう神様に語りかけているからです。
「あなたが、こんなにも大きな関心をお寄せになる人間とは、
いったい何者でしょう。
こんなにも高い栄誉をお与えになった人の子とは、
いったいどなたでしょう。
７あなたはその方を、しばらくの間、
御使いよりも低いものとなさいましたが、
今は、栄光と誉れの冠をお授けになりました。
８それればかりか、この世に存在するものすべてを
支配する権威を、お与えになったのです。」
その支配を逃れるものは、何一つありません。　私たちはまだ、このことばの完全な実現

を見てはいません。　９しかし、しばらくの間、御使いよりも低くされ、私たちのために死の苦しみを味わうことにより、今は栄光と誉れの冠を授けられた、イエス様を見ています。　まことに、イエス様は、神様の大いなる恵みのゆえに、全人類のために死なれたのです。　１０栄光を現わすために、すべてのものをお造りになった神様が、ご自分を信じる者たちを天まで引き上げるため、イエス様を苦しみに会わせたのは、まことに正しいことでした。　この苦しみをくぐり抜けて、イエス様は人々を救いに導くにふさわしい、完全な指導者となられたのです。
１１イエス様によってきよめられた私たちは、今では、イエス様と同じ父を持っています。だからこそ、イエス様は、私たちを兄弟と呼ぶのを、恥とはされないのです。　１２イエス様は、旧約聖書の詩篇の中で、こう言っておられます。　「わたしは、父なる神のことを、兄弟たちに語ろう。　そして、声を合わせて神を賛美しよう。」　１３また別の個所で、「兄弟たちと共に、神を信じよう」と言い、さらに「さあ、わたしはここにいる。　神が与えてくださった子供たちといっし
ょに」と述べておられます。
１４神様の子供である私たちは、血も肉もある人間です。　そこでイエス様も、血肉を持った人間の姿でお生まれになりました。　それは、人間として死ぬことにより、死の権力をふるう悪魔の力を打ち砕くためです。　１５これだけが、死を恐れて、一生涯、恐怖の奴隷となっている人々を、救い出す方法だったのです。
１６私たちはみな、イエス様が、御使いとしてではなく、一人の人間、一人のユダヤ人として来られたことを知っています。　１７イエス様には、あらゆる点で、兄弟である私たちと同じになることが、どうしても必要だったのです。　そうしてはじめて、イエス様は、私たちにとってはあわれみ深く、神様にとっては忠実な大祭司として、私たちの罪を取り除くことができたのです。　１８自ら、試練と非常な苦しみを体験された主イエス様は、試練にあえいでいる私たちの苦しみをよく理解して、実にみごとに助けてくださるのです。
三
１そういうわけですから、神様の手で、天国の市民として選び出された、愛する皆さん。お願いです。　どうか、神の使者であり、私たちの信仰の大祭司であるイエス様に、目をとめてください。
２神の家で忠実に奉仕したモーセ同様、イエス様も、自分を大祭司に任命された神様に忠実な方です。　３しかしイエス様は、モーセより、はるかにまさった栄光を、お受けになりました。　豪華な家よりも、その家を建てる人のほうが賞賛されるのと同じです。　４家を建てることができる人は大ぜいいますが、すべてのものを造られたのは、神様です。
５確かにモーセは、神の家のために、賞賛に値する仕事をしました。　しかし彼は、単なる神の召使にすぎません。　モーセの果たした主要な役割は、後に起こることを暗示することでした。　６しかしキリスト様は、神様の忠実な息子として、神の家のいっさいの管理を任されました。　もし私たちが、最後まで、揺るがぬ確信を持ち続け、喜びと主への

信頼を失わなければ、その神の家となれるのです。　そして神様が、そこに住んでくださるのです。
７８ですから、聖霊様はこう警告します。　キリスト様の声に注意深く耳を傾けなさい。今日その声を聞いたら、昔のイスラエル人のように、心を閉ざしてはいけません。　彼らは荒野で試練を与えられた時、神様の愛にそむき、心を鋼鉄のように堅くして、文句を言い続けたのです。　９彼らは神様が忍耐強いので図にのり､何度も何度も反抗しましたが、四十年の間、神様はそれを忍び通されました。　それればかりか、彼らの目の前で驚くべき奇蹟を行ない続けられました。　１０しかし、とうとう神様が、こう宣言される時が来たのです。　「わたしの怒りは極に達した。　彼らはわたしに心を向けたことがなく、いつもほかを見ていた。　そんな彼らに、わたしの用意した道が見いだせるはずがない。」
１１神様は怒り、決して人々を休息の地に導かないと、誓いを立てられたのです。
１２愛する皆さん。　心が悪に染まり、不信仰にこりかたまって、生ける神様から離れることがないように、自分の心を見張りなさい。　１３まだ時間があるうちに、日々、互いにこのことを確かめ合いなさい。　そうすれば、一人も罪の魅力に惑わされて、神様に心を閉ざす人が出ないでしょう。　１４もし私たちが、初めてキリスト様を信じた時と同じ気持ちで、神様に信頼し、最後まで忠実であれば、キリスト様にあるいっさいの祝福を、受けることができるのです。
１５ですから、今この時が、かんじんなのです。　次の警告を、かた時も忘れてはなりません。　「今日、語りかけてくださる神様の声を聞いたなら、荒野で反抗したイスラエル人のように、心をかたくなにしてはいけない。」
１６神様の声を聞きながら、逆らった人たちとは、いったいだれでしょう。　指導者モーセに率いられて、エジプトを脱出した人たちです。　１７四十年もの間、終始神様の怒りを買ったのは、いったいだれでしたか。　罪のために荒野で死に果てた、あのイスラエル人ではありませんか。　１８神様が誓って、約束の地に入らせないと断言されたのは、だれに対してでしたか。　従うことを拒んだ、あの人たち全員に対してです。　１９約束の地に入れなかったのは、神様を信頼しなかったからです。
四
１とはいえ、だれでも、神様の用意された休息の地に入れるという約束は、今でも有効です。　ですから、あなたがたの中で、万一にも入りそこなう者が出ないように、警戒しようではありませんか。　２なぜなら、モーセの時代の人たちと同様、私たちにも、救いをもたらす、すばらしい知らせが伝えられているからです。　ところが、モーセの時代の人たちには、この知らせは何の役にも立ちませんでした。　彼らは聞いても信じなかったからです。　３休息の地に入れるのは、神様を信じる私たちだけです。　世の初めから、受け入れ態勢を整えて待っておられた神様は、「わたしは怒って誓う。 わたしを信じない者を決して入らせない」とも宣言されたのです。
４私たちは、神様が準備万端ととのえて、待っておられることを知っています。　神様は

創造の七日目に、計画どおりにすべてをなし終えて休まれた、と書いてあるからです。
５にもかかわらず、彼らは閉め出されてしまいました。　神様がついに、「彼らを決してわたしの休息に入れない」と言われたからです。　６しかし、休息の地への約束はまだ有効であり、中には、そこに入ることが許されている人もいます。　それは、不従順のため、最初に与えられた機会を失った人たちではありません。
７しかし神様は、新しい機会を与えてくださいました。　それが今なのです。　最初の人たちの失敗の後、長い年月が過ぎたころ、神様はダビデ王を通して、このことを知らせてくださいました。　すでに引用したように、「今日、語りかけてくださる神様の声を聞いたら、心をかたくなにしてはいけない」と。
８ここでの新しい休息の地とは、ヨシュアに率いられて入った、パレスチナの地ではありません。　もしそうなら、ずっとあとになって、今日がそこに入る時だ、などと言われるはずがないからです。　９そういうわけで、完全な休息が、今なお、神様を信じる人たちを待ち受けているのです。　１０キリスト様は、もうすでに、そこにお入りになりました。　神様が創造の働きを終えて休まれたように、キリスト様も、任務を果たして、今はゆっくり休んでおられるのです。　１１ですから私たちも、この休息の地に入れるように、最善を尽くしましょう。　イスラエルの人たちが、神様に不従順であったために、入りそこねたことを肝に銘じて、くれぐれも注意しようではありませんか。
１２神様のことばは生きていて、力にあふれています。　それは、鋭い刃物みたいに切れ味がよく、心の奥深くに潜んでいる思いや欲望にまでメスを入れ、私たちの赤裸々な姿をさらけ出します。　１３神様はすべての人の心を、その人がどこにいようと、探り知るお方です。神様に造られたもので、その目から隠れおおせるものは、一つもありません。　今も生きて、すべてを見抜かれる神様の前に、裸のままさらけ出されているのです。　私たちはこの方に対して、自分のした、いっさいのことを、弁明しなければなりません。
１４しかし、私たちを助けるために、天にのぼられた偉大な大祭司、神の子イエス様が味方です。　ですから、イエス様への信仰を、決して失うことがありませんように。　１５この大祭司は、私たちと同じ試練に会われたので、人間の弱さをよく知っておられます。　しかしただの一度も、誘惑に負けて罪を犯したことはありません。　１６ですから、躊躇せず、思いきって、神の王座に近づいてあわれみを請い、必要な時に必ず与えられる恵みを、いただこうではありませんか。
五
１－３ユダヤの大祭司は、人々の代表として、いろいろな供え物をささげ、神様に仕えます。　しかし、大祭司といえども同じ人間なので、人々のためだけでなく、自分の罪が取り除かれるためにも、いけにえの動物の血をささげます。　また、彼も人間なので、愚かで無知な人人を、やさしくいたわることができます。　彼自身も同じ試練にさらされているので、他の人々の問題をわが事のように理解し、同情できるのです。
４もう一つ大祭司について言えるのは、自分の意志では大祭司になれないということです。

アロンが選ばれた時のように、大祭司となる者は、神様から直接、その務めに任命される必要があります。
５キリスト様も、名誉ある大祭司の地位につかれましたが、自分の意志で、そうなさったのではありません。　神様がお選びになったのです。　神様はこの方に、「わが子よ。　今日、わたしはあなたに栄誉を授けた」と言われました。　６またさらに、「あなたは、メルキゼデクと同じ位にある、永遠の祭司に選ばれた」と告げました。
７キリスト様はこの地上におられた時、神様に願い、死から救いうるただ一人の方に、たましいのうめきと涙とをもって祈られました。　この祈りは、どんな場合にも神様に従おうとする、キリスト様の切なる願いのゆえに、聞き入れられたのです。
８イエス様は神の子であられたのに、神様に従うことには多くの苦しみが伴うことを、身をもって学びました。　９この体験を通して、ご自分の完全さを実証し、その上で、ご自分に従うすべての人に永遠の救いを与える者となられたのです。　１０ここで、神がキリスト様を、メルキゼデクと同じ位に立つ大祭司としてお選びになったことを、思い起こしなさい。
１１このことについては、まだまだ話し足りません。　しかし、聞く意志がないあなたがたに、理解してもらうのはむりです。
１２１３あなたがたは、もう長い間、クリスチャンとして生きてきました。　もうほかの人を教えても当然なのに、もう一度、神様のことばのイロハから手ほどきしてもらわなければならないほど、だめになっています。　まるで、固形物を食べるまでには成長していないので、いつもミルクばかり飲んでいる赤ん坊みたいです。　クリスチャン生活のごく初歩のところを行きつ戻りつして、善悪の区別さえ、おぼつかない状態なのです。　要するに、まだ赤ん坊のクリスチャンです。　１４あなたがたがもっと成長し、正しい行ないをすることによって、善悪の区別がつくようになるまでは、堅い霊の食べ物を食べることも、神様のことばの深い意味を悟ることも、むりでしょう。
六
１ですから、キリスト教の初歩の教えをいつまでも卒業できずに、堂々巡りをするのはやめましょう。　むしろ、もっと理解力を高め、さらにすぐれた教えを目指して進みましょう。　善行によって救われようとするまちがいや、神様を信じる信仰の必要性などを、これ以上聞くには及びません。　２バプテスマ（洗礼）、聖霊様を受けること、死人の復活、永遠のさばきについても、これ以上教えられる必要はありません。
３主のお許しがあれば、次の段階に進もうではありませんか。
４－６あなたがたが、いったん、神様の良い知らせを理解し、天からの恵みを味わい、聖霊様をいただく特権を与えられ、また、神様のことばのすばらしさを知り、未来の世界の超自然的力をはだで感じ取ったとします。　しかし、それでもなお、神様に背を向けるとしたら、もう一度、主に立ち返ることはできません。　キリスト様を拒絶することは、神様のひとり息子をもう一度十字架につけ、人前でさらしものにすることだからです。　そ

んな人は、もはや悔い改めようにも、改めようがありません。
７十分に雨を吸い込んでよく潤った畑が、農夫に大豊作をもたらしたとしたら、その畑は、神様の祝福をむだにしなかったことになります。　８しかし、いばらやあざみばかりを生えさせるなら、その畑は役立たずとして、焼き払われてしまいます。
９愛する皆さん。　とはいえ、すべてが、あなたがたに当てはまるわけではないでしょう。私は、あなたがたが救いにふさわしい実を結んでいるものと、確信しています。　１０神様は、決して不公平な方ではありません。　あなたがたが、神様のために熱心に働いてきたことや、クリスチャンの同胞に、ずっと援助の手を差し伸べてきた愛を、決してお忘れにはなりません。　１１そこで私たちは、あなたがたがこの世にあるかぎり、いつも人を愛し続けて、十分な報いを受けることができるようにと、ひたすら願っています。
１２前途に希望をいだいているかぎり、クリスチャンであることに飽き飽きしたり、信仰生活が怠惰に流れたり、無関心に陥ったりすることはありません。　かえって、強い信仰を持ち、忍耐し続けることによって、神様の約束なさったものを余すところなく受けた人たちの模範に、ならう者となるでしょう。
１３アブラハムに与えられた約束を思い出しなさい。　神様は、自分以上にすぐれた存在はありえないので、自分の名を指して誓われました。　１４すなわち、幾度もアブラハムを祝福し、子供を与え、偉大な国民の父とする、と言われたのです。　１５そこでアブラハムは、その約束を忍耐して待ち望み、ついに約束どおり、息子のイサクを授かりました。
１６人は何かを約束した場合、それを必ず実行する意志と、万一破った時には、どんな罰にも甘んじる覚悟を示すために、自分よりもすぐれた者の名にかけて誓います。　いったん誓ってしまえば、もうだれも、とやかく言うことはできません。　１７そういうわけで、神様からの助けを約束された人たちが、その約束の絶対的な確かさを知り、その計画の変更を気づかう必要がないように、神様も誓いによって約束の確かさを保証されたのです。
１８神様は、約束と誓いの両方を与えてくださいました。　この二つは、全面的に信頼できます。　神様はうそをつかないからです。　そのため、救いを求めて神様のもとに逃れて来る人たちは、確かな保証をいただいて、新たな勇気を奮い起こすことができます。　そして、神様の救いの約束を、少しの疑いもなく確信できるのです。
１９必ず救われるという確かな望みは、私たちのたましいにとって、信頼できる不動の錨です。　そして、この望みこそ、私たちを、天の神聖な幕の内側におられる神様と結び合わせるものなのです。　２０キリスト様はすでに幕の内側に入られました。　そこで、メルキゼデクの位を持つ名誉ある大祭司として、私たちのために、とりなしていてくださるのです。
七
１メルキゼデクは、サレムの町の王で、すぐれて高い神様の祭司でした。　アブラハムが多くの王たちとの戦いに勝って凱旋した時、メルキゼデクは出迎えて祝福しました。　２その時アブラハムは、戦利品の十分の一をメルキゼデクに差し出しました。

メルキゼデクという名前の意味は「正義」であり、サレムという町の名は「平和」を意味していました。　ですから、彼は正義の王であり、平和の王です。　３メルキゼデクには父も母もなく、先祖の記録もありません。　また誕生も死もなく、そのいのちは、神の子のいのちに似ています。　それゆえ、彼は永遠に祭司なのです。
４メルキゼデクがどんなに偉大な人物であるか、考えてみましょう。
神様がお選びになった人の中で、最も尊敬されていたアブラハムでさえ、メルキゼデクには、王たちからの戦利品の十分の一を与えました。　５メルキゼデクがユダヤ人の祭司であったなら、確かにアブラハムのこの行為も、うなずけます。　というのは、後に、神様の民は、血のつながった親族である祭司のために献金することを、おきてによって義務づけられたからです。　６ところが､メルキゼデクはアブラハムの親族ではなかったのです。しかし、アブラハムは彼に献金しました。
メルキゼデクもまた、偉大なアブラハムを祝福しました。　７言うまでもなく、祝福を与える人は祝福を受ける人よりも、常に偉大なはずです。
８また、ユダヤ人の祭司たちは、やがては死ぬべき人間であるにもかかわらず、一般から十分の一のささげ物を受けましたが、メルキゼデクは、永遠に生きている、と言われています。
９さらに、十分の一を受けるユダヤ人祭司の先祖であるレビ自身も、アブラハムを通してメルキゼデクに十分の一をささげたと言って差しつかえないでしょう。　１０レビは、まだ生まれてはいませんでしたが、メルキゼデクに十分の一をささげた、アブラハムの直系の子孫だからです。
１１もしユダヤ人の祭司とおきてに、私たちを救う力があるとしたら、なぜ神様は、あえてアロンの位に等しい祭司〔ユダヤ人の祭司はすべてアロンの位を受け継いでいる〕ではなく､メルキゼデクの位に等しい祭司である､キリスト様をお立てになったのでしょうか。
１２－１４新しい系統の祭司が立てられる時、それを受け入れるために、神様のおきても改められなければなりません。　キリスト様がレビ族とは全く無関係の、しかも、モーセが祭司として任命したこともない、ユダ族から出られたことは、周知の事実です。　１５そういうわけで、私たちは、これまでの神様の秩序に大きな変更があったことを、認めざるをえません。　キリスト様が、メルキゼデクの位に等しい、新しい大祭司として立てられたからです。　１６この新しい大祭司は、古いおきてに属するレビ族からではなく、尽きることのない、いのちからほとばしる力を基として、立てられたのです。　１７旧約聖書の詩篇の作者は､はっきりキリスト様を指して､「あなたは､永遠にメルキゼデクの位に等しい祭司です」と証言しています。
１８家系を重んじる古い祭司職の制度は、廃止されました。　それは人々を救う力のない無益な制度でした。　１９だれも､神様との正しい関係を結べなかったのです。　しかし、今は違います。　私たちは、もっとすぐれた希望を与えられています。　キリスト様のおかげで神様に受け入れられた私たちは、神様に近づくことができるからです。

２０神様は誓いをもって、キリスト様を永遠の大祭司としてお立てになりました。　２１かつて祭司たちをお立てになるのに、そんな誓いをされたことは、一度もありません。　しかしキリスト様に対してだけは、次のように誓われたのです。　「主は、いったん立てた誓いを変えることは決してない。　あなたは、永遠にメルキゼデクの位に等しい祭司である。」　２２この誓いのゆえに、キリスト様は、新しいすぐれた約束の確かさを、いつまでも保証してくださるのです。
２３古い契約のもとでは、大ぜいの祭司が必要でした。　祭司が年老いて死ぬと、跡継ぎを立てて、祭司制度を絶やさないようにしたのです。
２４しかし、イエス様は不滅のお方なので、いつまでも祭司であられます。　２５また、ご自分を通して神様のもとに来る人々を、一人残らず、完全に救うことがおできになります。　永遠に生きておられるイエス様は、いつも神様のそばで、ご自分の血によって彼らの罪が帳消しになっていることを、神様に思い起こさせてくださるのです。
２６このような大祭司こそ、私たちが必要としていたお方です。　彼はきよく、少しの欠点も罪のしみもなく、罪人によって汚されることもないからです。この大祭司のために、天では、名誉ある特別席が設けられているのです。　２７普通の祭司は、神様の前に出る時、まず自分の罪をきよめるために、そして人々の罪のために、毎日、動物のいけにえの血をささげる必要がありました。　しかしキリスト様には、その必要が全くありません。なぜなら、十字架にかかって自分をいけにえとしてささげ、ただその一度の行為で、すべてを成し遂げてしまわれたからです。　２８古い祭司制度のもとでは、大祭司といえども、自らを悪から守ることのできない、罪ある弱い人間でした。　しかし後に、神様は誓いをもって、自分のひとり息子という完全なお方を、永遠の大祭司に任命されたのです。
八
１以上書いてきたことを要約すると、次のようになります。　私たちの大祭司はキリスト様であり、現在、天で、神様の次に名誉ある地位についておられます。　２このお方は、人間の手によらず、主によって建てられた天の神殿で、祭司の仕事をしておられます。
３大祭司の務めは、供え物といけにえとをささげることです。　ですからキリスト様も、その務めをなさいます。　４この方のいけにえは、地上の祭司たちがささげるいけにえより、はるかにまさっています。　〔しかし、もしキリスト様が、今なお地上におられるとしたら、決して祭司にはなられなかったでしょう。　この地上には、ユダヤ人の古いいけにえの制度を守る祭司がいるからです。〕　５地上の祭司が奉仕する神殿は、天にある本物の神殿をまねて造ったものにすぎません。　幕屋を建てようとしたモーセは、シナイ山で神様から指示を受け、天にある幕屋の型に寸分違わぬものを造るように、と警告されたからです。　６しかし今、キリスト様は天における祭司として、古いおきてに従っている祭司たちより、はるかに重要な任務をゆだねられています。　なぜなら、キリスト様が私たちに伝えてくださる神様の新しい契約には、さらにすばらしい約束が含まれているからです。

７古い契約は、もはや無効になりました。　もし効力があれば、別の新しい契約を立てる必要はなかったでしょう。　８しかし神様は、古い契約の欠陥を指摘して、次のように宣言されたのです。「わたしが、イスラエルやユダの人と、新しい契約を結ぶ日が来ます。９この契約は、彼らの先祖の手を引いて、エジプトの地から導き出した日に与えた古い契約とは、全く異なるものです。　彼らはそれを守らなかったので、わたしは無効にしなければなりませんでした。　１０しかし、ここにわたしは、イスラエルの人と新しい契約を結びます。　わたしはこのおきてを、彼らの心に刻みます。　そうすれば、たとい何も言わなくても、彼らに、わたしの思いが、はっきりわかるようになるのです。　心の中におきてがあるので、彼らは喜んで従うようになるでしょう。　こうして、わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となるのです。　１１その日にはだれも、友人や隣人、兄弟に向かって、『君も、主を知りなさい』と言う必要がなくなります。　なぜなら、どんな人でも、わたしを知るようになるからです。　１２わたしは、彼らの悪い行ないに対してあわれみを示し、その罪を二度と思い出しません。」
１３神様は古い契約に代えて、この新しい契約について語っておられます。　古いものは今や時代遅れとなり、全くいらなくなったからです。
▪
九
１２ところで、神様と人間との間に交わされた最初の契約にも、礼拝についての規定があり、そのために建てられた神聖な幕屋がありました。　この幕屋には二つの部屋があり、第一の部屋は聖所と呼ばれ、金の燭台と、特別なきよいパンを載せる机が置いてありました。　３聖所の奥に、幕で仕切られた第二の部屋があって、至聖所と呼ばれていました。４至聖所には、金の香壇と、全面を純金でおおわれた契約の箱がありました。　その箱には、「十戒」を記した二枚の石の板、マナを入れた金のつぼ、芽を出したアロンの杖が納めてあったのです。　５この箱の上には、ケルビム〔神の栄光の守護者たち〕と呼ばれる御使いの像があって、黄金のふたをおおうように、大きな翼を広げていました。　このふたは、「恵みの座」と呼ばれます。　しかし、これ以上くわしく述べる必要はないでしょう。６さて、これらが全部ととのえられた上で、祭司は必要があれば第一の部屋に出入りして、務めを果たしました。　７ただし、奥の第二の部屋には、大祭司だけが、年に一度だけ、一人で入って行きました。　そのとき彼は、血を携えて行かなければなりません。　その血は、彼と民全体があやまって犯した罪をきよめるための供え物として、「恵みの座」にふりかけられました。
８聖霊様はこのことを通して、次のことを教えておられます。　古い制度のもとでは、第一の部屋と、それに代表される、しきたりがあるかぎり、一般の人たちは至聖所に入ることができない、ということです。
９これは、現在の私たちへの大切な教訓となっています。　なぜなら、古い制度のもとでは、供え物といけにえが幾度ささげられても、それを携えて来る人たちの心まで、きよめ

ることはできないからです。　１０つまり、古い制度は、飲み食いや、体の洗いきよめなどの、こまごました規則からなる、一定の儀式を取り扱っているにすぎないからです。　それでも人々は、キリスト様が、神様のもっとすぐれた新しい道をお示しになるまで、その規則に縛られていました。　１１キリスト様は、すでに私たちのものとなった、この格段にすぐれた制度の大祭司として、来られました。　そして、人間やこの世の手を借りる必要の全くない、天にある、さらに偉大で完全な幕屋に入られました。１２しかも、ただ一度、血を携えて奥の至聖所に入り、それを「恵みの座」にふりかけました。　それも、やぎや子牛の血ではなく、自分の血をです。　この方は自らそうすることによって、私たちの永遠の救いを保証してくださいました。
１３もし、古い制度のもとで、雄牛ややぎの血、あるいは若い雌牛の灰が、人々の体を罪からきよめることができるとすれば、　１４ましてキリスト様の血は、どれほど確実に、私たちの心と生活を変えることでしょう。　キリストご自身のいけにえは、古い規則に縛られる悩みから、私たちを解放し、生ける神様にお仕えしたい気持ちに駆り立てるのです。それは、不滅の方である聖霊様の助けによって、一つの罪も欠点もない完全なお方が、自分を喜んで神様にささげ、私たちの罪のために死んでくださったからです。　１５キリスト様は、この新しい契約を携えて来られました。　それで、神様に招かれる人はみな、約束されたすばらしい祝福に、いつまでもあずかることができるのです。　なぜなら、古い制度のもとで犯した罪の刑罰から救い出すために、キリスト様は死んでくださったからです。
１６さて、ある人が財産の相続人を指定し、遺言状を残して死んだとします。　しかしその被相続人の死が証明されなければ、だれもその財産に手出しできません。　１７遺言は、被相続人の死後に、初めて有効になるのです。　その人が生きている間は、いくら、それが自分に関するものでも、どうにもなりません。
１８そういうわけで、最初の契約も、効力を発揮するために、〔キリスト様の死の証拠として〕血がふりかけられなければなりませんでした。　１９すなわち、モーセは、民に神様のおきてをことごとく語り聞かせてから、水と共に子牛とやぎの血を取り、ヒソプの枝と紅色の羊毛とにつけて、おきての書と民全体にふりかけました。　２０そして、厳かに宣言しました。　「この血は、今や神様とみんなとの契約が、効力を発したしるしだ。　この契約は、神様が私に命じて、みんなとの間に立てられたものだ。」　２１またモーセは、神聖な幕屋にも、礼拝用のすべての器具にも、同じように血をふりかけました。　２２古い契約のもとで、すべてのものは、血をふりかけることによってきよめられた、と言えます。　血を流すことなしに、罪の赦しはありえないからです。
２３それで、天上のものにかたどって造られた地上の神聖な幕屋とその中のすべてのものは、このようにモーセによって、すなわち、動物の血をふりかけることによって、きよめられる必要がありました。しかし、その原型である天の本物の幕屋は、はるかにすぐれたいけにえによって、きよめられたのです。

２４キリスト様は、天にあるものの模型にすぎない、地上の神殿に入られたのではありません。　天そのものに入られ、今は、私たちの友として、神様の前におられます。　２５しかもこの方は、地上の大祭司が、毎年きまって動物の血を至聖所にささげたように、自分を何度もささげるようなことは、なさいませんでした。　２６もしそうであれば、世の初めから、何度も死ななければならなかったでしょう。　しかし、そうではありません。この方は、この時代の終わりに、死によって罪の力を永遠に無効とするため、ただ一度、おいでになったのです。
２７人間には、一度だけ死んで、その後さばきを受けることが定められているように、　２８キリスト様も、多くの人の罪のためにご自身をささげて、一度だけ死なれました。　そして、もう一度おいでになりますが、今度は罪を取り除くためではありません。
その時の目的は、彼を熱心に、忍耐して待ち望んでいるすべての人に、完全な救いを与えることなのです。
一〇
１ユダヤ人のおきてによる古い制度は、やがてキリスト様が与えてくださるもののすばらしさを、かすかに味わわせてくれるにすぎません。　いけにえは、年ごとに何度もくり返されましたが、その制度下にある人たちを救えませんでした。　２もし救う力があるのなら、一度だけのいけにえで十分なはずであり、礼拝する人々はみなきよめられ、その罪意識も消えてしまったことでしょう。
３ところが、事実は反対でした。　年ごとのいけにえは、人々の心をなごませるどころか、かえって、不従順と罪とを思い起こさせたのです。　４雄牛とやぎの血では、実際に罪を取り除けないからです。
５それゆえキリスト様は、この世に来られた時、次のように言われたのです。　「神よ。雄牛や、やぎの血は、あなたの心にかないません。　それで、わたしに肉の体を与え、祭壇の上のいけにえとなさいました。　６罪のためのささげ物として、あなたの前で殺されて焼かれる動物のいけにえでは、あなたは満足されませんでした。　７そこでわたしは、『まさに、聖書に書いてあるとおり、わたしはあなたの御心を行ない、いのちを捨てるためにまいりました』と申し上げたのです。」
８すなわち、キリスト様は、古い制度が要求する、さまざまのいけにえやささげ物では、神様は満足されない、と語ったあとで、　９「わたしはいのちを捨てるために来ました」とつけ加えたのです。
キリスト様は、はるかにすぐれた制度を打ち立てるために、最初の制度を廃止されます。
１０この新しい計画にそって、ただ一度死なれ、それによって、私たちは罪を赦され、きよくされているのです。　１１古い契約のもとでは、祭司たちは毎日、祭壇にいけにえをささげますが、それらは、決して罪を取り除くことができません。
１２しかしキリスト様は、いつまでも有効な、ただ一つのいけにえとして、私たちの罪のために、自分を神様にささげてくださり、そのあと、最も名誉ある神様の右の座について、

１３敵が足の下に踏みつけられる、その日を待っておられます。　１４キリスト様は、この一度かぎりの行為によって、ご自分がきよめる人々をみな、永遠に、神様の目からも完全なものとしてくださったのです。
１５聖霊様も同じ証言をなさいます。　１６「イスラエルの人たちは最初の契約を破りましたが、わたしが新たに彼らと結ぼうとしている契約は、これです。　わたしは、常にわたしの意志を知らせるために、おきてを彼らの心に書き記します。　そして、おきてを彼らの思いの中に据えるので、彼らは喜んでこれに従うようになります。」　１７さらに聖霊様は、こうも言われます。　「わたしは、二度と彼らの罪と不法行為を思い出しません。」
１８このように、罪が永久に赦され、また、忘れ去られてしまうなら、罪を取り除くためのいけにえを、これ以上ささげる必要はありません。　１９ですから、愛する皆さん。　今や私たちは、血を流されたイエス様のおかげで、神様のおられる至聖所に、堂々と入って行けるのです。　２０この新しいいのちに至る道は、キリスト様が、ご自分の体という幕を引き裂くことによって、切り開いてくださいました。　私たちはこの道を通って、きよい神様の前に進み出ることができるのです。
２１また、偉大な大祭司が神様の家を支配しておられるのですから、　２２私たちは、まちがいなく受け入れられるという確信と、真実な心をもって、神様の前にまっすぐ進み出ようではありませんか。　私たちの心は、キリスト様の血を注がれてきよめられ、体は、きよい水で洗われているのですから。
２３いま私たちは、神様が約束してくださった救いを、希望をいだいて待ち望むことができます。　今や私たちは、一点の疑いもなく、救いが確実であることを、だれにでも話せます。　神様のことばは、必ず実現するからです。
２４神様が成し遂げてくださった、すべてのことにこたえて、私たちも互いに助け合い、親切にし合い、善行に励もうではありませんか。
２５教会員としての義務を怠ったり､集会を休んだりする人たちにならってはいけません。主が再びおいでになる日は、もう間近なのですから、互いに励まし合い、忠告し合いましょう。
２６もし罪の赦しの真理を知ってから、ことさらに救い主を拒否して、罪を犯し続ける人がいるとしたら、そんな罪は、キリスト様の死によっても赦されません。　もはや、そんな罪を消す方法は、どこにもないのです。　２７その人には、敵対する者を一人残らず焼き尽くす、神様の激しい怒りと恐ろしい刑罰が待っているだけです。　２８モーセのおきてに従わなかった者たちは、その罪に対する二、三人の証言が得られれば、容赦なく殺されました。　２９それならなおさら、神様のひとり息子を踏みつけ、罪をきよめるキリスト様の血を汚れたものとみなし、神様のあわれみを人々にもたらす聖霊様を侮辱し、はずかしめる者には、どんなに恐ろしい刑罰が下るか、胸に手をあて、よく考えてみなさい。
３０私たちは、「正義はわたしのものである。　復讐はわたしがする」、また「主がその民をさばかれる」と断言された方を、よく知っています。　３１生ける神の御手に陥ること

は、なんと恐ろしいことでしょう。
３２初めてキリスト様を知ったころの、祝福されたすばらしい日々を、いつまでも忘れないようにしなさい。　また、死ぬほどの苦しみに会いながらも、主と共に戦い抜いてきた事実を、いつも心にとめていなさい。　３３時には、あなたがた自身があざけられたり、打ちのめされたりもしました。　また時には、同じ苦しみをなめている人たちに、心からの同情を寄せたりしました。　３４牢獄に捕らわれの身となった人たちと共に苦しみ、また全財産を奪われても、喜んで、それを耐え抜いた日々もありました。　その秘訣は、天にある、もっとすぐれたものを永遠に獲得できると、わかっていたからです。
３５このような、すばらしい祝福が待っているのですから、どんなことがあっても、主を信じ続けなさい。　やがて主から受ける報酬を、いつも思い起こしなさい。　３６神様の約束されたものを、そっくりいただきたいと願うなら、神様の御心を、忍耐強く実行しなければなりません。　３７キリスト様のおいでになる日が、これ以上遅れることはありません。　３８信仰によって、神様の前に正しいと認められた人たちは、どんなことででも主を信じ、信仰によって生きなければなりません。　しりごみするような人を、神様は喜ばれません。
３９しかし私たちは、神様に背を向けたり、みじめな結果を見たりしたことは、これまで一度もありませんでした。　かえって、神様を信じる信仰が、たましいの救いを確実にしてくれるのです。
一一
１信仰を、どう定義したらよいでしょう。　それは、願い事が必ずかなえられるという、不動の確信です。　また、何が起こるかわからない行く手にも、望みどおりのことが必ず待ち受けていると信じて、疑わないことです。　２神様を信じた昔の人たちは、この信仰で名高いのです。
３信仰によって、すなわち神様を信じることによって、私たちは、この世界と天体のすべてが神様のことばによって造られ、しかもそれらはみな、無から創造されたことを知るのです。
４アベルが神様の命令に従い、カインより、はるかに神様に喜ばれる供え物をささげたのは、信仰があったからです。　アベルの供え物が喜ばれたのは、神様が彼を受け入れてくださったことの証明にほかなりません。　アベルは、はるか昔に死にましたが、今なお彼から、神様への信頼について、多くの教訓を学べます。
５エノクも、神様に信頼しました。　それで神様は、死を経験させずに、彼を、天に引き上げてくださいました。　神様が連れ去ったので、彼は、突然、姿を消したのです。　神様は、ご自分がどんなにエノクを大切に思っているかを、前々から告げておられました。
６信仰がなければ、神様に喜ばれることはできません。　神様のもとに来ようとする人はだれでも、神様の存在と、熱心に神様を求めれば必ず報いられることとを、信じなければなりません。

７ノアも、神様を信じた人です。　将来の出来事について、神様から警告を受けた時、洪水のきざしなど何一つなかったにもかかわらず、そのことばを信じました。　そして、時をむだにせず、すぐに箱舟の建造に取りかかり、家族を洪水から救いました。　神様を信じたノアの態度は、当時の人たちの罪や不信仰と比べて、ひときわ輝いています。　この信仰のゆえに、ノアは、神様に受け入れられたのです。
８アブラハムは神様を信じました。　ですから神様に、生まれ故郷を離れて、新しく与えられる地に向かうようにと指示された時、そのことばに従いました。　彼は、行く先も知らずに出て行ったのです。　９そして、神様の約束された地に入ったあとも、外国からの旅行者のように、天幕生活を送りました。　神様から同じ約束を受けた息子のイサクと孫のヤコブも、この地で、同様に天幕生活を送りました。１０アブラハムがこうした生活に耐えられたのは、揺るがぬ土台を基とした天の都に、神様は必ず連れて行ってくださると確信して、待ち望んでいたからです。　その天の都を設計し、建設されたのは、神ご自身にほかなりません。
１１アブラハムの妻サラの信仰も、すばらしいものでした。　サラはすでに年老いていたにもかかわらず、母親になることができました。　神様の約束は必ず実現すると、堅く信じていたからです。　１２このようにして、年を取りすぎ、子供を生むことなど、全く絶望と思われていたアブラハムから、天の星や海辺の砂のように、数えきれないほどの子孫が生まれたのです。
１３信仰に生きたこの人たちは、神様が約束されたものを手にしてから、死んだのではありません。　しかし彼らは、約束のものが待ち受けているのを見て、心から喜びました。　この地上がほんとうの故郷ではなく、自分がほんのつかの間、ここに滞在する旅人にすぎないことを、自覚していたのです。　１４そう認めた時、彼らは心から、天にある故郷を慕い求めました。
１５もし彼らに、この世の魅力ある生活に帰る気があったら、いつでも帰れました。　１６しかし彼らは、そんなものには目もくれず、神様が用意された天の都を一心に見つめて生活しました。　それで神様は、彼らの神と呼ばれることを誇りとされたのです。
１７神様がアブラハムの信仰を試された時にも、アブラハムは最後まで、神様とその約束とを信じました。　彼は、息子のイサクを神様にささげ、祭壇の上で殺そうとまでしたのです。　１８そうです。　まさにアブラハムは、イサクに刀を振りおろそうとしたのです。　このイサクを通して一つの国民となる子孫を与えるという、神様の約束があったにもかかわらず、少しもためらいませんでした。　１９たといイサクが死んでも、神様はもう一度生き返らせてくださると信じていたのです。　まさに、そのとおりのことが起こりました。　イサクは確かに死ぬ運命にあったのに、生きたまま、再びアブラハムの手に戻されたのです。　２０イサクが二人の息子ヤコブとエサウに、神様が将来、必ず祝福を与えてくださると確信したのも、信仰によることでした。
２１年老い、死を目前にしたヤコブは、信仰によって、杖にすがりながら立ち、神様に祈

りをささげました。　そして、息子ヨセフの二人の子を、かわるがわる祝福しました。
２２死期が迫ったと感じたヨセフは、信仰によって、神様がイスラエルの人たちをエジプトから脱出させてくださることを、確信に満ちて語りました。　それを信じきっていた彼は、エジプト脱出の際に、自分の骨をも携えて行くことを約束させました。
２３モーセの両親も信仰者でした。　優秀な子供が授けられたことを知った彼らは、神様がエジプト王の手から、その子を救い出してくださると信じました。　それで、子供を殺せという王の命令にもひるまず、その子を、三か月のあいだ隠しておいたのです。
２４２５信仰によって、モーセは成人した時、王子として扱われることを拒みました。　むなしい罪の快楽にふけるよりは、神の民と共に苦しむ道を選んだのです。　２６彼は、エジプト全土の宝をわがものにすることよりも、やがて来ると約束されていたキリスト様のために苦しむほうが、はるかにすぐれていると考えました。　その目は、神様からの大きな報いに注がれていたのです。　２７神様を信じていた彼は、王の怒りをも恐れず、エジプトの地をあとにしました。　わき目もふらずに、まるで、いっしょに歩まれる神様の姿を見ているかのように、前進しました。　２８信仰によって、モーセは神様の指示どおり、人々に小羊を殺させ、その血を家々の門柱に注ぎかけました。　こうして、その家の長子は、神様から遣わされた恐ろしい死の使いから守られました。　しかしエジプト人の長子は、この死の使いによって全滅したのです。
２９イスラエルの人たちは、神様を信じて、紅海を、まるで、かわいた陸地を歩むように、まっすぐ渡りました。　しかし、追跡して来たエジプト人は、続いて渡ろうとして、一人残らずおぼれ死んだのです。
３０信仰によって、イスラエル人が、神様の命令どおり、七日間エリコの町の城壁を回ると、城壁はくずれ落ちました。　３１売春婦ラハブは、神様とその力とを信じていたので、イスラエルのスパイを、自分の家にかくまいました。　その信仰によって、彼女は、神様への服従を拒んだエリコの住民が滅ぼされた時にも、救い出されたのです。
３２これ以上、何をつけ加える必要があるでしょう。　ギデオン、バラク、サムソン、エフタ、またダビデ、サムエル、そのほかの多くの預言者の信仰について話し始めたら、いくら時間があっても足りません。　３３彼らはみな、神様を信じました。　その信仰によって、戦いに勝ち、国々を征服し、正義の政治を行ない、神様が約束されたものを受け取ることができました。　ライオンの穴に投げ込まれても危害を受けず、　３４燃えさかる炉に投げ込まれても、やけど一つしませんでした。　ある人は、危うく刀で切り殺されるところを救われました。　ある人は病弱の身であったのに、健康な体に変えられました。ある人は、戦いでめざましい力を与えられ、攻め寄せる敵の軍隊をことごとく退散させ、大勝利を収めました。　３５また中には、信仰によって、愛する者を死人の中から生き返らせていただいた女たちもいました。　また、さらにすぐれたいのちに復活するために、釈放など願わず、むち打ちや、死刑に甘んじた人たちもいました。　彼らは、神様を捨てて自由の身となるよりも、むしろ死を望んだのです。

３６またある人たちは、あざけられ、むち打たれ、さらに鎖につながれ、投獄されました。
３７３８また石を投げつけられたり、のこぎりで真っ二つにされたりして死ぬ人もいました。　また、信仰を捨てて自由になるより、刀で切り殺されることを選んだ人、羊や、やぎの皮を着て荒野や山をさまよい、穴や洞窟に隠れた人もいます。　彼らは飢えと病気に悩まされ、苦しめられ、ひどい仕打ちを受けました。――彼らが正しい生き方を追求したからです。　３９神様を信じた彼らのすばらしい信仰は、神様から賞賛されるほどでした。ところが、だれ一人、神様が約束されたものを全部、手に入れたわけではありません。　４０彼らが待ち望んでいたのは、もっとすぐれた報いであり、神様も、やがて、それを与えるつもりでした。　それは、神様が今、私たちのために用意しておられる報いと同じです。
一二
１このように、数えきれないほどの信仰の勇者が、競技場の正面観覧席で、私たちの競技を見つめているのです。　だから、スピードを落とさせたり、うしろへ引き戻そうとする力に目を光らせなさい。特に、足にうるさくまつわりついて、つまずかせようとする罪をふり捨てなさい。　そして、神様の用意された特別のコースを、忍耐して走り抜こうではありませんか。
２私たちの指導者であり教師であるイエス様から、目を離さないようにしなさい。　イエス様は十字架の死のあとの喜びを知って、恥をもいとわず十字架にかかられました。　そして今は、神様の王座の隣、名誉ある座についておられるのです。　３気力を失い、弱り果てることがないように、いつも、罪人の恐ろしい仕打ちを忍ばれた、イエス様のことを思っていなさい。　４あなたがたは、罪や誘惑と戦っています。　けれどもまだ、血を流すほどのきびしい戦いを、経験したことはありません。　５その上、あなたがたは、神様の激励のことばを、すっかり忘れてはいませんか。　神様は、こう声をかけてくださるのです。
「わたしの子よ。
主に懲らしめられて、腹を立ててはなりません。
主にあやまちを指摘されて、気落ちしてはなりません。
６主が懲らしめるのは、あなたが憎いからではなく、
あなたを愛しているからです。
主がむち打つのは、
あなたが真に神の子供だからです。」
７進んで神様の訓練を受けなさい。　神様は、父親として当然のことを、子供のあなたがたに、しておられるのです。　父親から一度も懲らしめを受けたことのない子供が、どこにいるでしょうか。　８神様は、ほんとうの子どもであればこそ、必要に応じて懲らしめるのです。　もしそうでなければ、あなたがたは、ほんとうは神様の家族でないことになります。　９この世では父親が子供を罰しても、子供から尊敬されなくなるようなことはありません。　だとしたら、私たちは真に生きることを学ぶために、喜んで神様の訓練を

受けるべきではないでしょうか。
１０肉親の父親は、私たちの将来のために、ほんの短い間だけ、それも、限られた知識に基づいて、訓練してくれます。　ところが神様は、私たちの最善を願って、神様のきよさを共有させようと、いつも、正当な懲らしめを与えてくださるのです。　１１罰を受けた当初は、だれも気持ちがいいはずはなく、むしろ、傷つけられたと感じるものです。　しかしあとになれば、それが自分の益となり、信仰の面でも、性格の面でも、プラスとなっていることが、わかるのです。
１２ですから、弱った手をしっかり握りしめ、震えるひざをまっすぐにして、立ち上がりなさい。　１３そして、自分の前に、まっすぐで平らな道を切り開きなさい。　そうすれば、あとに続く人たちが、たとい弱くて足が不自由でも、倒れたり、けがをしたりせず、かえって、丈夫になるでしょう。
１４争いは努めて避け、きよい生活を追い求めなさい。　きよくない人は主を見ることができないからです。　１５あなたがたのうちのだれも、神様の最高の祝福を見失わないように、互いに注意し合いなさい。　あなたがたの間に、苦々しい思いの根がはびこらないように、十分に警戒しなさい。　その根から出た芽は悩みの花を咲かせ、大ぜいの人の信仰生活に、害を及ぼすからです。　１６またたれも、性的な罪にのめり込んだり、エサウのように神様に無関心にならないように、よく注意しなさい。　エサウは、ただ一度の食事のために、神様の祝福のしるしである、長子の権利を売りました。　１７あとになって、後悔し、涙ながらにその権利を取り戻したいと願いましたが、遅すぎたのです。　このことを、決して忘れないようにしなさい。
１８あなたがたは、イスラエルの人たちが、シナイ山で神様からおきてを授けられた時のように、恐怖、燃える火、黒雲、暗やみ、たけり狂う嵐に、面と向かう必要はありません。
１９そこでは、すさまじいラッパの音が響き、また神様の声がとどろきました。　それを聞いた人たちは、あまりの恐ろしさに、それ以上何もお語りにならないでくださいと、必死に頼んだのです。　２０彼らは、「たとい動物でも、山に触れるものは殺されなければならない」という神様の命令におびえ、あとずさりしました。　２１モーセさえ、この光景を目のあたりにして、恐怖に震えおののいたのです。
２２しかしあなたがたは、シオンの山に近づいているのです。　そこは生ける神の都、天にあるエルサレムであり、無数の御使いたちが楽しげに集う所です。　２３またあなたがたは、天に登録されている人たちの教会、すべてをさばく神様、すでに完全なものとされて天にいる、救われた者たちの霊に近づいているのです。　２４またさらに、新しい契約をもたらしたイエスご自身、復讐を叫ぶアベルの血ではなく、恵みに満ちた罪の赦しを与える血に、近づいているのです。
２５そこで、あなたがたに語りかけてくださる方に、ぜひとも、聞き従いなさい。　イスラエルの人たちにとって、指導者モーセに従うことを拒んだ時、さばきは決定的なものとなりました。　ましてや、天からの神様の声を拒む時、どんなに恐ろしい罰が下ることで

しょう。　２６シナイ山から語られた神様の声は、大地を揺り動かしました。　しかし、「今度は地だけでなく、天をも揺り動かす」と、神様は宣言しておられます。　２７つまり、土台の弱いものをすべてふるいにかけ、決して動じないものだけを、残そうとしておられるのです。
２８私たちは､何ものにも滅ぼされない御国を与えられているのですから､感謝の思いと、きよい恐れとをいだいて仕え、神様をお喜ばせしようではありませんか。　２９神様は、すべてを焼きつくす火だからです。
一三
１真実の兄弟愛をもって、愛し合いなさい。　２よそから来た人を、親切にもてなしなさい。　中には、そうして、気づかないうちに御使いをもてなした人もいます。　３獄中にある人たちのことを忘れてはいけません。　その境遇を思って、同じ気持ちになり、苦しみを共に分け合いなさい。　また、しいたげられている人たちの悲しみを、思いやりなさい。　あなたがたは、その苦しみがどんなものか経験ずみなのですから。
４結婚とその誓約を尊びなさい。　純潔を保ちなさい。　神様は不品行な者、姦淫する者を、まちがいなく、さばかれるからです。
５お金を愛する心を捨て、現在、与えられているもので満足しなさい。　神様は、こう約束しておられるからです。　「わたしはどんな場合にも、あなたの期待にそむかず、あなたを見捨てない。」　６ですから､私たちは確信をもって､こう答えることができます。「主は私を助けてくださいます。　だから、何もこわくありません。　ただの人間が、私にどんな手出しができましょう。」
７神様のことばを教えてくれた指導者たちのことを、思い出しなさい。　その生活からにじみ出た、すべての良いものに心をとめなさい。　そして、彼らに見ならって、主を信じなさい。
８イエス・キリストは、昨日も今日も、いつまでも変わることがありません。　９ですから、いろいろの珍しい教えに心を奪われてはなりません。　あなたがたの霊的な力は、神様からの贈り物であって、ある特定の物を食べる、儀式上の規則によって得られるものではありません。　そのような規則は、たとい厳守しても、その人を助けてくれません。
１０私たちには、キリスト様がいけにえとなられた十字架という祭壇があります。　ユダヤ人のおきてにしがみついて、救いを見いだそうとする人は、この祭壇から助けを受けることはできません。　１１ユダヤ人のおきてによると、大祭司は罪のためのいけにえとして、殺された動物の血を携えて聖所に入りますが、動物の体は、町の外で焼かれることになっています。　１２イエス様も、町の外で苦しみを受けて死なれました。　この、町の外で流された血によって、私たちの罪は洗いきよめられたのです。
１３だから私たちは、町の外に出て〔この世の人たちの関心事をあとにし、人々からさげすまれることも覚悟して〕、キリスト様のはずかしめを身に受け、共に苦しむために、この方のもとに行こうではありませんか。　１４この世は、私たちの住む所ではなく、私たち

は、天にある永遠の住まいを待ち望んでいるからです。
１５イエス様に助けられながら、神様のすばらしい御名を宣べ伝えることによって、常に、賛美の供え物をささげましょう。　１６いつも、良い行ないをすることと、困っている人たちに持ち物を分けることとを心がけなさい。　神様はこのような供え物を、とても喜んでくださるのです。
１７教会の指導者たちに服従し、喜んでその教えを実行しなさい。彼らの職務は、あなたがたのたましいを見守ることだからです。　しかも彼らは、この役目をどれだけ忠実に果たしたか、神様に報告する義務があるのです。　彼らが、悲しみながらではなく、喜んで報告できるようにしてやりなさい。　そうするのが、あなたがたの身のためでもあるのです。　１８私たちのために祈ってください。　私たちの良心は純粋であり、いつもそうありたいと願っているからです。　１９そして今は、できるだけ早くあなたがたのところへ帰れるように、特に祈ってほしいのです。
２０２１偉大な羊飼いである主イエス様を、死人の中から復活させてくださった平和の神様が、どうか、あなたがたに、神様の意志にそった行ないをするのに必要な、すべてのものを満たしてくださいますように。　神様とあなたがたとの間に立てられた永遠の契約の血によって、このことが可能となりますように。　また、キリスト様の力によって、主に喜ばれるものだけを、あなたがたのうちに造り出してくださいますように。　どうか、キリスト様に、栄光がいつまでもありますように。　アーメン。
２２皆さん。　私がこの手紙で語ってきたことを、どうか忍耐して聞いてください。　これは要点だけを手短に書いたものです。　２３なお、同志テモテが、牢獄から釈放されました。　もし彼が早く来れば、いっしょにあなたがたを訪問できるでしょう。　２４あなたがたの指導者たち、またクリスチャンの皆さんに、よろしく伝えてください。　私といっしょにいるイタリヤのクリスチャンも、よろしくと言っています。　２５神様の恵みが、あなたがたと共にありますように。
敬具
▪

ヤコブの手紙
この手紙が書かれた当時、大ぜいのユダヤ人が世界各地に散らばっていました。　その中のクリスチャンにあてて、ヤコブはこの手紙を送ったのです。　彼はエルサレム教会の指導者で、人々から尊敬されるりっぱな人物でした。　信仰の面でも行ないの面でも、すばらしい模範を示していた彼が、正しい生活をすることがどんなにたいせつか、キリストを信じていると言いながら、行ないが伴わなければいかに無意味であるかを、例をあげて具体的に説明しています。

一
１神様と主イエス・キリストに仕えているヤコブから、国外にいるユダヤ人のクリスチャンに、ごあいさつ申し上げます。
２愛する皆さん。　あなたがたの人生は、多くの困難と誘惑に満ちていますか。　そうであれば、喜びなさい。　３行く道の険しさは、忍耐を養う良いチャンスとなるからです。
４忍耐力を十分に養いなさい。　さまざまな問題が持ち上がった時、そこから逃げ出そうと、もがいてはいけません。　忍耐力が十分身につけば、完全に成長した、どんなことにもビクともしない、ねばり強い性格の持ち主になれるでしょう。
５神様が何を望んでおられるか知りたいなら、遠慮なく、直接たずねなさい。　神様は喜んで教えてくださいます。　願い求める人には、いつでも惜しみなく、あふれるばかりの知恵を授けてくださるからです。　そのことで、決してとがめ立てはなさいません。　６ただし、その場合、神様は必ず答えてくださると確信して、願い求めなさい。　疑う心は、風に波立つ水面のようで、少しの落ち着きもありません。　７８そんな状態でなした決心は、猫の目のように、くるくる変わる不安定なものです。　必ず与えられるという信仰がなければ、主に何を期待してもむだです。
９クリスチャンの中で、この世で見下されている人は、かえって、そのことを喜びなさい。主の目からは、高く評価されているからです。　１０１１また裕福な人は、財産が主にとっては無一文に等しいことを知って、喜びなさい。　金持ちの一生は、真夏の太陽の下で色あせ、美しさを失い、ついには枯れてしまう花のように、はかなく過ぎ去ってしまうからです。　忙しく飛び回っていても、その働きの完成を見ないうちに死ぬことになるのです。
１２誘惑に負けて悪に走らない人は幸いです。 なぜなら、神様を愛する人に約束された、いのちの冠を、ほうびにいただけるからです。　１３悪事に手を出したくなった時、神様から誘惑されたなどと、言ってはなりません。　神様が悪事を望まれるはずはありませんし、また、悪事へ誘ったりもなさるわけもないのです。　１４人は自分の悪い考えや願いに引きずられて、誘惑されるのです。　１５その悪い考えが悪事へと駆り立て、ついには、神様から永遠に引き離される、死の刑罰へと追いやるのです。　１６ですから、愛する皆さん、決して道を誤ってはいけません。

１７すべて良いもの、完全なものは、光を造られた神様から来るのです。　神様には、わずかの変化もくもりもなく、いつまでも輝いているのです。　１８神様は、思いのままに、真理のことばによって、新しいいのちを与えてくださいました。　こうして私たちは、いわば、神様の新しい家族の、最初の子供とされたのです。
１９愛する皆さん。　人のことばには耳を傾け、口数を少なくし、しかも腹を立てないのが一番だ、と心得なさい。　２０怒りは、神様の標準から、私たちを遠く引き離すからです。
２１ですから、生活を総点検して、どんな悪をも、すっかり取り除いてしまいなさい。　そして、すばらしい神様のことばを受け入れて、謙虚に喜びなさい。　そのことばには、私たちの心をしっかりとらえ、たましいを救う力があるからです。
２２また、聞くだけでなく、神様の教えに従うことも、忘れてはなりません。　聞くだけは聞いて、その実、良心を偽った行動をとることなどありませんように。　２３聞いただけで、実行に移さない人は、鏡に映る顔をながめているようなものです。　２４しばらくして鏡から離れると、自分がどんな表情をしていたか、すっかり忘れてしまいます。　２５しかし、罪から解放する神様のおきてを一心に見つめて離れない人は、すぐに忘れたりしないばかりか、その命令を実行します。　神様は、そんな人の行ないに対して、大きな祝福を与えてくださるのです。
２６もし、「私はクリスチャンです」と言いながら、平気で、とげのあることばを口にする人がいれば、そんな人は自分をあざむいていることになります。　そんな信仰には何の値打ちもありません。　２７父なる神の目から見て、純粋で欠点のないクリスチャンとは、みなしごや未亡人の世話をする人のことです。　このような人のたましいこそ、この世で生活していても悪に染まることなく、いつも神様に対して真実なのです。
二
１愛する皆さん。　人をえこひいきし、相手が金持ちか貧しいかによって、態度をがらりと変えながら、どうして臆面もなく、「私は主イエス・キリストを信じています」などと言えるでしょう。
２たとえば、教会に、りっぱな身なりで高価な金の指輪をはめた金持ちと、みすぼらしい身なりの貧乏人とが、同時に入って来たとします。　３その時、金持ちには、ちやほやして、教会の特等席へ案内し、貧しい人には、「あんたはあそこに立つか、床にでも座るがいい」と言うなら、どうでしょう。　４そんな態度は、あなたがたのクリスチャンとしての信仰を、根本から疑わせるものであり、悪い動機にふり回されている証拠です。
５愛する皆さん、よく聞きなさい。　神様は貧しい人を選んで、豊かな信仰を持つ者としてくださいました。　天国は、そういう人のものです。　それは、神様を愛する者に約束された贈り物だからです。　６それなのに、あなたがたは、貧しい人を軽べつしたのです。
あなたがたをひどい目に会わせ、裁判所に訴えるのは、金持ち連中ではありませんか。　７また、あなたがたが仕える、イエス・キリストの尊い名をあざ笑うのも、彼らだと知って

いるでしょう。
８「自分を愛し、気遣うように、隣人を愛し、親身になって世話をしなさい」という主の命令を、ほんとうに守っているなら、けっこうなことです。　９しかし、えこひいきして、金持ちにはおせじを言うなら、主のおきてを破り、罪を犯していることになります。
１０神様のおきて全体を、注意深く守っていても、一点ででもつまずけば、全部破った人と同罪です。　１１なぜなら、「他人の妻と結婚してはならない」と言われた神様は、「殺してはならない」とも要求されるのです。　ですから、ちゃんとした結婚生活を送っていても、だれかを殺せば、それで、おきての全部を破ったことになります。　そして、明らかに罪ある者として、神様の前に立たせられます。
１２あなたがたは、キリスト様の言いつけを守ったかどうかで、判決を下されるのです。ですから、よくよく注意してものを考え、行動しなさい。　１３思いやりのない人には、容赦なくさばきが下ります。　しかし、情け深い人は、神様にあわれんでいただけるのです。
１４愛する皆さん。　クリスチャンの信仰を持っていると主張しても、他人を見捨てていたら、どうしてその信仰を実証できるでしょう。　そんな信仰では、一人も救えません。
１５あなたがたの中に、着る物ばかりか、その日の食べ物にも事欠いている人がいたとします。　１６その人に、「それはお困りですね。　でも神様が、祝福してくださいますよ。暖まって、お腹いっぱい食べてください。　では、さようなら」と言うだけで、実際に何もしないなら、そんな信仰が何の役に立つでしょう。
１７これでわかるように、信仰を持っていると言う人は、それを善行によって証明しなければなりません。　そうでなければ、信仰は死んだも同然で、全く無用の長物です。
１８ある人が、こう言っています。「神様に近づく道は信仰以外にないと主張する人よ。私はあえて、行ないも同様に重要だと言いたい。　そうでなければ、自分に信仰があるかないかを、どうして証明するのか。　しかし私は、私の行ないを見る人々に、私の信仰を理解させることができる。」
１９信じればそれで事足れりと考える人が、まだいるでしょう。　あなたは、神様はただ一人だと信じていますか。　よろしい。　しかし、覚えておきなさい。　悪魔も、そう信じて疑わないのです。　そのために、身の毛もよだつ思いで恐れているのです。　２０ああ、あなたは、なんと愚かであわれな人でしょう。　神様の命令を実行しなければ、「信じる」ことなど、全くむだであることを、いつになったら悟るのですか。　良い行ないをしてはじめて、信仰は本物と言えるのです。
２１先祖アブラハムでさえ、その行ないによって、神様の前に正しい者と認められたではありませんか。　彼は、息子イサクを供え物として祭壇にささげよと、神様に命令された時、いさぎよく従いました。　２２アブラハムは、心から神様を信じていたので、どんなおことばにも、喜んで従ったのです。　こうしてアブラハムの信仰は、実際の行動によって、完全なものと認められました。　２３ですから、「アブラハムは神様を信じた。　それ

で神様の目に正しい者と認められた」という旧約聖書のことばどおりとなり、彼は「神の友」と呼ばれるまでになったのです。　２４このことから、人は信仰だけではなく、行ないによって救われることが、よくわかると思います。
２５売春婦ラハブも、その一例です。　彼女はイスラエルの使者たちをかくまい、別の道から、安全に逃がしてやりました。　この行為によって、彼女は救われたのです。　２６たましいのない体が、もぬけのからであるように、良い行ないをする力のない信仰は死んだも同然です。
三
１愛する皆さん。　人の欠点をあばくのに、やっきになってはいけません。　自分だって、欠点だらけではありませんか。　たとえば、人よりもすぐれた判断力を持つべき私たち宗教の教師が、もし悪を行なうなら、ほかの人より、はるかにきびしいさばきが下るのは当たり前です。
２舌を思いどおりコントロールできる人は、すべての点で、自分を完全に制することができる人です。　３馬を意のままに引き回したい時は、口に、小さなくつわをかけるだけでよいのです。　４また大きな船も、小さなかじ一つで、どんな嵐の中でも、思いのままに進路を変えることができます。
５同様に、舌もちっぽけなものですが、使い方を誤ると、途方もなく大きな害を生じます。小さな火でも、大森林を焼き尽くすのです。　６舌は炎です。　それは悪のかたまりで、体全体を毒します。　舌には地獄そのものの火が燃えさかり、私たちの人生を、滅びと災いの炎で包み込むのです。
７人間は、あらゆる獣、鳥、魚、地をはうものをも、思いのままに支配できます。　８しかし、自分の舌だけは思いどおりにできません。　舌はいつでも、死の毒を吐き出そうと身構えているのです。　９私たちは、この舌で、ある時は天の父なる神をほめたたえ、またある時は神様に似せて造られた人間をのろいます。　１０つまり、祝福とのろいが、同じ人の口から出ているのです。　愛する皆さん。　こんなことがあっていいでしょうか。
１１同じ泉の水が甘くなったり、苦くなったりするでしょうか。　１２いちじくの木にオリーブの実がなったり、ぶどうの木にいちじくの実がなったりするでしょうか。　もちろん、ありえないことです。　塩水の池から、真水を汲むこともできません。
１３たくさんの善行を施している人は、賢い人です。　しかもその善行を鼻にかけなければ、真の意味での賢さを、身につけていると言えるでしょう。　１４もし自分に、苦々しい思いやねたみや利己心があるとわかれば、決して善人ぶったり、賢さをひけらかしたりしてはいけません。　それは、最もたちの悪いうそをつくことです。　１５ねたみや利己心は、神様からの知恵ではなく、地上のものであり、真理に逆らえとたきつける、悪霊のものです。　１６ねたみや、野心のうず巻くところには、秩序がなく、あらゆる悪がはびこっています。
１７しかし天からの知恵は、第一に純粋であり、おだやかなやさしさに満ちています。　そ

して、平和を愛し、だれにも礼儀正しくふるまいます。　独善的でなく、人のことばに喜んで耳を傾けます。　また、思いやりと善意にあふれた態度をとります。　それには真心がこもっており、単純率直で、誠実さにあふれています。　１８ほんとうに平和を願う人は、平和の種をまいて、善行の実を刈り取るのです。
四
１あなたがたの口論や争いは、いったい何が原因ですか。　心にうず巻く、悪い欲望から出たものではありませんか。　２あなたがたときたら、人殺しをしてでも、欲しいものを手に入れたがります。　うらやんでも手に入れることができないと、力ずくででも取ろうとして、けんかになるのです。　結局、原因は、神様に願い求めることを忘れている点にあります。　３いくら願い求めても、手に入らない場合は、その目的や動機が、まちがっていると考えなさい。 ともすれば､自分を楽しませるだけのものを求めがちだからです。４あなたがたは、まるで、夫の敵に媚びるふしだらな妻みたいです。　この世の快楽という、神様の敵と馴れ合うのは、神様を敵に回すことを意味します。　念を押しますが、もし不信仰なこの世の快楽を第一に求めるなら､神様の友になど､なれっこありません。　５「神様が私たちのうちに住まわせてくださった聖霊様は、ねたむほどの愛をもって、私たちを見守っておられる」と書いてある聖書のことばを、どう理解しているのですか。　６神様は私たちに、すべての悪い欲望に立ち向かうための強い力を、さらに与えてくださいます。　聖書に約束されているように､神様は、謙そんな者には力をお与えになりますが、高慢な者は敵視なさるのです。
７ですから、神様の前に謙そんになりなさい。　そして、悪魔に立ち向かいなさい。　悪魔はしっぽを巻いて逃げるでしょう。　８神様に近づきなさい。　そうすれば、神様も近づいてくださいます。　罪ある人たちよ。　罪の生活から足を洗いなさい。　純粋で真実な心の持ち主だと認めていただけるように、神様への思いで、心を満たしなさい。　９悪いことをした時には、涙を流して、心から悲しみなさい。　笑いを悲しみに、喜びを憂いに変えなさい。　１０こうして、主の前で、自分がいかにつまらない存在か、いやというほど思い知らされる時、主はあなたがたを助け起こし、力づけてくださるのです。
１１愛する皆さん。 批判や悪口に明け暮れてはいけません。 これが守れないようなら、「互いに愛し合いなさい」という神様のおきてを踏みにじるだけでなく、恐れ多くも、おきてのほうがまちがっていると、さばくことになるのです。　あなたがたのなすべきことは、おきての良し悪しを決めることではなく、それに従うことです。　１２正しくさばくことのできる方は、おきてを造られた神様お一人です。　神様だけが、意のままに、私たちを救ったり、滅ぼしたりなさるのです。　それなのに、あなたは何の権威によって、人をさばいたり、批判したりするのですか。
１３「今日か明日、あの町に出かけ、一年ぐらい腰をすえて、一もうけしてやろう」ともくろむ人よ。　よく聞きなさい。　１４明日どんなことがわが身に起こるか、どうしてわかるでしょう。　あなたがたのいのちは、朝霧のように、はかないものです。　今は見え

ても、次の瞬間、消えてしまいます。　１５ですから、こう言うべきです。　「もし主がお許しくださるなら、私は、あのこと、このことをしよう。」１６ところが、あなたがたときたら、自分の計画に夢中なのです。　このように自分に頼っていては、決して神様をお喜ばせできません。
１７また、何をすべきかわかっていながら、手をこまぬいているのも罪だということを、自覚しなさい。
五
１金持ちよ、よく聞きなさい。　今や、迫り来るさまざまの恐ろしい災いのために、声をあげて泣き叫びなさい。　２あなたがたの富は腐り、せっかくの美しい着物も虫に食われて、ぼろぼろになるからです。　３手持ちの金銀は、たちまち値打を失います。　しかも、そのことが、かえってあなたがたに不利な証拠となり、まるで火のように全身をなめ尽くすでしょう。　今まで後生大事にしてきたものがすべて、やがて到来する審判の日には、このような運命をたどるのです。　４聞きなさい。　農場労働者の叫び声を。　あなたがたはその労賃を搾取したではありませんか。　彼らの叫びは、万軍の主の耳に達しているのです。
５この地上でぜいたく三昧に暮らし、ありとあらゆる快楽にふけったあなたがた。　まるで、屠殺場送りになるために、心を肥え太らせてきたようなものです。　６あなたがたは、自分を守るすべもない善良な市民に、罪をかぶせて殺してきたのです。
７８ですから、愛する皆さん。　主が再び来られる時まで、忍耐していなさい。　貴重な秋の収穫を期待する、農夫の忍耐に学びなさい。　勇気を出しなさい。　主は、もうすぐ帰って来られるのですから。
９皆さん。　互いにぶつぶつ文句を言ってはいけません。　自分だけは、人から非難されない自信でもあるのですか。　見なさい。　偉大な裁判官である主が、すぐそこまで来ておられます。　だから、非難は主にお任せしなさい。
１０どんな苦難の中でもじっと忍耐した、主の預言者を見ならいなさい。　１１彼らは、地上で非常な苦しみに会いましたが、最後まで忠実に主に従いました。　それで今、天国で幸福に満ちあふれているのです。　ヨブは、悲しみの中で主を信じ続けた模範です。　私たちは、ヨブの生き方から、主のご計画の結末には必ず祝福が伴うことを知ったのです。　主は、恵みとあわれみにあふれたお方だからです。
１２しかし、愛する皆さん。　何よりも大切なことは、天にしろ地にしろ、とにかく何を指しても、いっさい誓わないことです。　ただ「はい」、または「いいえ」とだけ言えばいいのです。　誓ったばかりに、罪を犯して、神様のさばきを受けないためです。
１３悩んでいる人がいますか。　その人は、神様に祈り続けなさい。　また、喜んでいる人がいたら、昼も夜も、主を賛美しなさい。
１４病気の人はいませんか。　その人は教会の長老を招き、主が治してくださるように、油を注いで祈ってもらいなさい。　１５その祈りが、信仰によってささげられたものなら、

病気は治るでしょう。　主が、病状を回復させてくださるからです。　もし病気の原因が罪によるものなら、主はその罪をも赦してくださいます。
１６ですから、互いに罪を告白し、祈り合いなさい。　正しい人の熱心な祈りには、大きな力があり、驚くほどの効果があります。　１７エリヤは、取り立てて、私たちと変わったところもない人でしたが、雨が降らないようにと熱心に祈りました。　すると、三年半ものあいだ一滴も降りませんでした。　１８そしてまた、雨が降るようにと祈ると、今度は滝のように降って、草木の緑も回復し、農作物も生き生きと生長するようになりました。
１９愛する皆さん。　たとえば、ある人が神様から離れて、もはや主を信じなくなったとします。　その時、だれかが彼を助け、もう一度真理をよく理解させて連れ戻したとしたら、どうでしょう。　２０その人は、迷子になった、たましいを死から救い出し、人の犯した多くの罪を神様に赦してもらう働きをしたことになるのです。
ヤコブ
▪

ペテロの手紙　Ｉ（ペテロからの手紙　Ｉ）
現在のトルコにあたる地方に点在していた教会に、ペテロが出した手紙です。　キリストが選んだ十二人の弟子たちの中で、ペテロは中心的存在でした。　のちに、各地に教会ができ、大ぜいの人がキリストを信じるようになってからも、彼はやはり第一人者として、すべての教会とクリスチャンを指導しました。　その彼が、いよいよ激しく燃え上がる迫害の火の手の中で、そういう時にこそ神様を信じ、希望をもって戦い抜くように、励ましのことばをかけています。

一
１イエス・キリストの宣教者ペテロから、エルサレムを追われて、ポント、ガラテヤ、カパドキヤ、アジヤ、ビテニヤの各地方に分散したユダヤ人のクリスチャンへ。
２愛する皆さん。　父なる神は、ずっと昔からあなたがたを選び、自分の子供にしようと、決めておられました。　そして、聖霊様の働きかけにより、あなたがたの心は、イエス・キリストの血によってきよめられ、神様に喜ばれるものと変わったのです。　どうか、神様があなたがたを祝福し、すべての不安と恐れから、解放してくださいますように。
３主イエス・キリストの父なる神こそ、すべての賞賛を受けるにふさわしい方です。　私たちは、神様の測り知れないあわれみによって、新しく生まれ変わる特権を与えられ、今では神様の家族の一員として、迎えられたのです。　キリスト様が死人の中から復活してくださったおかげで、私たちは永遠のいのちの希望にあふれています。　４神様は自分の子供たちのために、お金では買えない永遠のいのちを贈る、と約束してくださいました。それは純粋で、しみ一つない完全な状態で、天に保管されており、絶対に変質したり、腐敗したりしません。　５神様は超自然的な力によって、あなたがたが、まちがいなく天で永遠のいのちをいただけるよう、守ってくださいます。　あなたがたが、神様を信じているからです。　やがて来る終わりの日に、この永遠のいのちは、あなたがたのものとして、だれの目にも、はっきり示されるでしょう。　６ですから、心から喜びなさい。　今しばらくの間、地上での苦しみが続きますが、行く手には、すばらしい喜びが待ち受けているからです。
７これらの試練は、あなたがたの信仰をテストするためにあるのです。　それによって、信仰が、どれほど強く、純粋であるかが量られます。　それはちょうど、金が火によって精錬され、不純物が取り除かれるのに似ています。　しかも神様には、あなたがたの信仰は、金などより、はるかに貴重なのです。　ですから、信仰が火のような試練のるつぼの中で鍛えられ、なお強化されるなら、あなたがたは、イエス・キリストの再び来られる日に、多くの賞賛と栄光と名誉とを、受けることになるでしょう。
８あなたがたは、イエス・キリストに一度も会ったことがないのに、愛しています。　今、姿を見ているわけでもないのに、信じています。　地上に生きている今も、天からの、ことばに表わせない喜びに満たされ、幸福感に浸っているのです。　９それだけではありま

せん。　主を信じれば、たましいの救いが与えられるのです。
１０この救いについては、預言者も完全に知っていたわけではありません。　救いの預言はしましたが、それが実際には何を意味しているのか、自分でも、よくわからなかったのです。　１１心の中のキリスト様の霊が、何を語っておられるのか、納得できませんでした。　聖霊様は、やがてキリスト様の身にふりかかる苦難と、それに続く大きな栄光とを書きとめるように、命じられたのです。　彼らは、いったいそれが、いつ、だれに実現するのだろう、といぶかったのです。
１２彼らは、これらが自分たちの時代にではなく、ずっとあとに、すなわち、この時代に実現することを、あとになって知らされました。　そして今やついに、このすばらしい知らせは、私たち全員に、はっきり告げ知らされたのです。　これは、預言者に語られた時と同様、天から遣わされた聖霊様の力によって、伝えられたのでした。　それは、またとない、すばらしいものだったので、天の御使いでさえ、何とかして知りたいと願ったほどでした。　１３そういうわけですから、あなたがたは、イエス・キリストが再び来られる時を、これまで以上の恵みを期待して、真剣に、身を慎んで、ひたすら待ち望むことができるのです。
１４あなたがたは、神様の子供なのですから、神様に従いなさい。　何も知らずに悪事を重ねた昔の生活に、舞い戻ってはいけません。　１５かえって、子供として招いてくださった、きよい神様にならい、あらゆる点できよい行ないをしなさい。　１６主みずから、「わたしはきよい者であるから、あなたがたも、きよくなければならない」と言われました。
１７あなたがたが祈りをささげる天の父なる神は、公平な方で、さばきの時に、決してえこひいきなどなさいません。　人の行ないをすべて、正しく公平にさばかれます。　ですから、天に行くその日まで、主を恐れ、慎み深く生活しなさい。　１８神様は、あなたがたの先祖が、天国へ行こうとして迷い込み、むなしい努力を重ねた迷路から、あなたがたを救い出すために、身の代金を支払ってくださいました。　ありきたりの金や銀を積まれたのではありません。　１９一点の罪も、しみもない神様の小羊、キリスト様の尊い血が支払われたのです。　２０神様はこのために、世の始まる前から、キリスト様を選んでおられました。　そして、この終わりの時代に、あなたがたへの祝福として、だれの目にも見える形で、キリスト様を遣わされたのです。
２１こういうわけで、キリスト様を死人の中から復活させ、栄光をお与えになった神様を、心から信頼してまちがいありません。　あなたがたの信仰と希望とは、ただ神様にかかっているのです。　２２今や、キリスト様を信じたあなたがたは、たましいが利己心と憎しみからきよめられたので、だれをも、真実に愛することができます。　ですから、互いに心から熱く愛し合いなさい。
２３あなたがたには、新しいいのちがあります。　そのいのちは、両親から受け継いだものではありません。　両親がくれた肉体のいのちは、やがて朽ち果てますが、新しいいの

ちは永遠に続きます。　このいのちは、今も生きて働く神様のことばであるキリスト様から出ているのです。　２４生まれながらの古いいのちは、枯れてしまう草のようです。　どんな栄誉も、やがてはしぼみ、散っていく花と同じです。　２５しかし、主のことばは、いつまでも変わりなく続きます。　これこそ、あなたがたへの良い知らせです。
二
１ですから、憎むこと、善人ぶること、不正直、ねたみ、陰口をきくことなどはやめなさい。　２３すでに、主の恵みといつくしみを経験したのですから、泣いてミルクを欲しがる赤ん坊のように､熱心に救いの完成を祈り求めなさい。　４キリスト様に近づきなさい。キリスト様は生ける土台石となり、神様はその上に、神の家をお建てになるのです。　キリスト様を、人々は拒絶しましたが、神様は最も重要な存在として選ばれたのです。
５そして今、あなたがたは、神の家を建て上げるための生ける石となったのです。　それればかりか、神様のきよい祭司となりました。　イエス・キリストによって、神様に受け入れられたあなたがたは、喜ばれる供え物を神様にささげなさい。　６旧約聖書にこう書いてあります。　「見よ。　わたしはキリストを、教会の尊い土台石とするために、特に選んで遣わした。　彼に信頼する者は、決して失望しない。」
７そうです。　キリスト様は、信じる者にとって、何よりも尊いお方です。　しかし、キリスト様を拒絶する者にとっては、どうでしょう。　聖書に、「建築士たちの投げ捨てた石が、家を建てる時になくてはならない土台石となった」と書いてあるとおりです。　８また、聖書には、キリスト様は彼らにとって、「つまずきの石、妨げの岩」となられた、ともあります。　彼らのつまずきの原因は、神様のことばに耳を傾けず、従おうとしないことです。　それで彼らは、罰を受けて倒れるほかなかったのです。
９しかし、あなたがたは、そうではありません。　あなたがたは、神様から選ばれた王なる祭司であり、きよい民として、神様のものとされた人たちです。　それはすべて、どうして自分が、暗やみから神様のまばゆいばかりの光へと招き入れられたかを、人々に語り伝えるためなのです。　１０あなたがたは、以前は全くなきに等しい者でしたが、今は神様のものとされています。　以前は神様のいつくしみからは縁遠い者でしたが、今はそのいつくしみによって、生活そのものを変えられています。
１１愛する皆さん。　この地上では、あなたがたは単なる旅人にすぎません。　ほんとうの故郷は天にあるのですから、この世の快楽から遠ざかりなさい。　そんな快楽は、身のためにならず、かえって、あなたがたのたましいに戦いをいどむのです。
１２救われていない人の前では、日常のふるまいに、くれぐれも注意しなさい。　そうすれば、今はあなたがたを疑いの目で見たり、悪口を言ったりしている彼らも、やがて、キリスト様が来られる時には、あなたがたのりっぱな行ないを認めて、神様をほめたたえるでしょう。　１３１４主のために、国家の定めたすべての法律に従いなさい。　主権者である王が定めた法律にはもちろん、王の役人が定めた法律にも、従うべきです。　なぜなら、王に任命された役人の使命は、悪い者を罰し、正しい者に栄誉を与えることだからで

す。
１５神様が望まれることは、あなたがたの行ないが、良い知らせのすばらしい影響力に目をつぶってあざ笑う者どもに、うむを言わせないほど、りっぱなものとなることです。　１６あなたがたは、法律からも解放された自由人です。　しかし、だからといって、好き勝手なまねをしていいわけではありません。　ただ神様に従うという一点で、自由人であるべきなのです。
１７だれをも尊敬しなさい。　クリスチャンはお互いに深く愛し合いなさい。　神様を恐れ、国家を尊びなさい。
１８召使は主人を尊敬し、どんな言いつけにも従いなさい。　親切で物わかりのいい主人だけにでなく、残忍で乱暴な主人にも、従いなさい。　１９正しい者だというのに罰を受けるとしたら､その時は主をほめたたえなさい。 ２０悪いことをしてなぐられる場合は、たといどんなに我慢してみせても、りっぱだとは言えません。　しかし、正しいことをしたばかりに、かえって苦しみを受け、それをじっと耐える場合には、神様に喜んでいただけます。
２１この苦しみは、神様が与えてくださった務めでもあるのです。　あなたがたのために苦しまれたキリスト様が、模範です。　この方について行きなさい。　２２キリスト様は一度も、罪を犯したり、うそをついたりなさいませんでした。　２３侮辱されても口答えせず、苦しめられても仕返しをせず、公平にさばかれる神様に、自分をお任せになりました。　２４キリスト様は、自分の体に私たちの罪を負い、十字架上で死んでくださいました。　そのおかげで、私たちは、罪ときっぱり手を切り、正しい生活を始めることができたのです。　キリスト様が傷つくことによって、私たちの傷が治ったのです。　２５あなたがたは神様から離れて、迷子の羊のように、さまよっていました。　しかし今は、どんな敵の攻撃からも、たましいを安全に守ってくださる羊飼いのもとに帰ったのです。
三
１２妻は夫に歩調を合わせなさい。　そうすれば、今は、あなたがたが語る主のことばに耳を傾けようとしない夫であっても、その敬虔な態度に打たれて、やがては信仰を持つようになるからです。　神様を敬う生活は、どんなことばよりも影響力があります。
３宝石や、ぜいたくな着物や、ヘアスタイルなどで、外見を美しく見せようと夢中になってはいけません。　４むしろ、やさしく、おだやかな心の持ち主となり、いつまでも色あせのしない魅力で､内面を美しく飾りなさい。 これこそ､神様の目に価値あるものです。
５このように崇高な美しさを、昔の敬虔な婦人たちは身につけていました。　心から神様を信じ、夫に歩調を合わせていたのです。
６たとえばサラは、夫アブラハムを一家の主人として尊敬し、従いました。　このサラに見ならいなさい。　そうすれば、サラの信仰を受け継ぎ、正しい行ないをすることになるのです。　これで、夫のきげんを損ねる心配もなくなるでしょう。
７同様に、夫も、妻を心にかけてやりなさい。　いつも妻の気持ちを察し、女が男よりも

弱い者であることを意識して、いたわってやりなさい。　神様の祝福は、妻と共に受け継ぐべきものだと心得なさい。　もし妻に対する態度が誤っていれば、あなたがたの祈りは、むなしくなってしまいます。
８さて、あなたがた一同に言っておきます。　お互いに家族の一員として、心から思いやりなさい。　やさしい心と、謙そんな思いで愛し合いなさい。　９害を受けたからといって、仕返しをするのはやめなさい。　侮辱されたからといって、口ぎたなく、ののしり返してはいけません。　かえって、その人のために、神様の助けを祈り求めなさい。　だれに対しても親切にしなさい。　そうすれば、神様から祝福していただけます。
１０幸福で正しい生涯を送りたいなら、舌を制し、くちびるからうそが出ないようにしなさい。　１１悪から遠ざかって、善を行ないなさい。　平和な生涯を送りたいと願うなら、熱心に追い求めて、手に入れなさい。　１２主は常に、自分の子供たちを見守り、その祈りに耳を傾けてくださいます。　しかし、悪事を働く者には、主のきびしい顔が向けられているのです。
１３善を行ないたいと願うあなたがたに、だれが害を加えるでしょう。　１４かりに、そのような事があっても、かえって、うらやましがられるでしょう。　神様があなたがたに報いてくださるからです。　１５心を動揺させないで、ただ主キリスト様を信じなさい。　もしだれかに、「なぜキリスト様を信じるのか」と尋ねられたら、いつでもその理由を話せるようにしていなさい。　それも、おだやかに、親切な態度で説明すべきです。
１６正しいことを行ないなさい。　そうすれば、悪者呼ばわりする人たちも、やがては、あなたがたの正しい生き方に気づいて、自分たちの行為を恥じるでしょう。　１７いいですか。　あなたがたが苦しむことが神様の望みであれば、悪いことをして苦しみを受けるよりも、正しいことをして苦しみを受けるほうが、はるかにいいのです。
１８キリスト様も苦しまれました。　一度も罪を犯したことのない、潔白な方であったにもかかわらず、私たち罪人のために一たび死なれたのです。　それは、私たちを確実に神様のもとに導くためでした。　キリスト様の体は死にましたが、その霊は生きて、　１９牢獄につながれている霊を訪ね、神様のことばを伝えました。　２０これらの霊とは、ずっと昔の、ノアの時代の者たちを指します。　彼らは、ノアが箱舟を造っている間、神様が忍耐して待っておられたにもかかわらず、神様のことばを拒否しました。　結局、当時の大洪水から助かったのは、たったの八人でした。　２１〔このことから、バプテスマ（洗礼）が、ありありと浮かんでくるではありませんか。　私たちの受けるバプテスマは、キリスト様の復活による、死と滅びの運命からの救出を意味します。　それは、体が水できれいに洗われるからではなく、バプテスマを受けることによって、神様に立ち返った私たちが、心が罪からきよめられるようにと願うからです。〕　２２今、キリスト様は天で、神様の次に名誉ある座につき、すべての御使いと天の軍勢を従えておられます。
四
１キリスト様は、苦しみを受け、苦痛を忍ばれました。　ですから、あなたがたも、いつ

苦しみに会ってもいい心がまえでいなさい。　肉体が苦しめば苦しむほど、罪はその力を失うことを覚えておきなさい。　２こうして、あなたがたは残る生涯を、人間的な欲望の追求に費やすことなく、神様の御心のままに生きようと、細心の注意をはらうようになるのです。　３あなたがたの過去は、性的な罪、みだらな肉欲、泥酔、乱交パーティー、酒宴、偶像礼拝など、神様を恐れない快楽に満ちていました。　もうそれで十分です。
４昔の仲間は、もうどんなに誘っても、あなたがたが悪い遊びに応じないのを見て、ずいぶん驚くことでしょう。　あるいは、ばかにし、笑いものにするかもしれません。　５しかし、覚えておきなさい。　彼らは、生きている者と死んだ者すべてをさばく、偉大な裁判官の前で、そのすべての行為について、まちがいなく罰を受けることになるのです。　６だからこそ、この良い知らせは、洪水で滅ぼされた人々にも、伝えられたのです。　それは、たとい肉体には死の罰が下されても、霊においては、神様にならって生きるためでした。
７世の終わりが近づいています。　ですから、真剣で、分別のある、祈りの人となりなさい。　８何よりも大切なことは、どんな時にも、深く愛し合うことです。　愛は、多くの欠点を補うからです。　９食べる物にも事欠き、宿にも困っている人がいたら、気持ちよく家に迎え入れてやりなさい。
１０神様はあなたがた一人一人に、何らかの特別な能力を授けておられます。　その能力によって、互いに助け合い、神様からのあふれる祝福をひとり占めにはせず、他の人と分かち合いなさい。　１１説教するために選ばれた人は、あたかも、神様があなたを通してじかにお語りになるように、語りなさい。　人を助けるために選ばれた人は、神様が下さる力とエネルギーに満たされて、人々を助けなさい。　それは、イエス・キリストを通して、神様がほめたたえられるためです。　どうか、栄光と力が、いついつまでも、キリスト様にありますように。　アーメン。
１２愛する皆さん。　炎のように燃えさかる試練に出会っても、あわてたり、おじけづいたりしてはいけません。　ふりかかる試練は、決して思いがけないものでも、異常なものでもないからです。　１３むしろ、その試練によって、キリスト様と苦しみを分かち合えるのですから、喜びなさい。　やがて、キリスト様の栄光が輝きわたる時、あなたがたは、その栄光を共に受けて、すばらしい喜びを味わうのです。
１４クリスチャンであるばかりに、ののしられ、侮辱されるなら、ほんとうに幸せです。そんな時には、神の御霊が大いなる栄光で包んでくださるからです。　１５どうか皆さん。人殺しや盗みの罪に問われたり、問題を引き起こしたり、みだりに他人の事柄に首を突っ込んだりして、そのために苦しむことがないよう気をつけてください。　そんなニュースが、私の耳に入らないようにしてください。　１６しかし、クリスチャンだからというので苦しみを受けるなら、少しも恥じることはありません。　それは、キリスト様の家族の一員とされ、キリスト様の名で呼ばれる特権を受けた証拠ですから、神様をほめたたえなさい。　１７なぜなら、さばきの時が、すでに来ているからです。　しかもそのさばきは、

神様の子供たちから始まるのです。　このように、クリスチャンの私たちでさえ、さばかれるのなら、主を信じたことのない人々には、どんなに恐ろしい運命が、待ち受けていることでしょう。　１８正しい人が、かろうじて救われるのであれば、神様を信じない人々は、いったい、どんなことになるのでしょう。
１９ですから、あなたがたの今の苦しみが、神様のお心にそうものであるなら、なお続けて善を行ないなさい。 そして、あなたがたを造られた神様に、すべてをお任せしなさい。神様から見捨てられることは、決してありません。
五
１さて、教会の長老に、私も同じ長老の職にある者として、ひとこと言っておきます。　私は、キリスト様の十字架上の死の目撃者として、また、再び来られるキリスト様の栄光を共に受ける者として、ぜひとも、次のことをお願いしたいのです。　２神様の羊の群れを養いなさい。　いやいやながらではなく、喜んで、その務めに当たりなさい。　利益を求める気持ちからでなく、熱心に、喜んで、羊の群れを飼いなさい。　３ワンマンぶりを発揮せず、りっぱな模範を示して、彼らを指導するよう心がけなさい。　４そうすれば、偉大な羊飼い、キリスト様がおいでになる時、永遠に朽ちない栄光の冠を、ほうびとしていただけるのです。
５次に、青年は長老たちの指導に従いなさい。　みな、謙そんな思いで互いに仕え合うべきです。　神様は、謙そんな者を特別、祝福してくださいますが、高慢な者には容赦なさいませんから。　６もしあなたがたが、神様の力強い手の下で慎み深くしているなら、ちょうどよい時に、神様は高く引き上げてくださるでしょう。
７思いわずらいや心配事をすべて、神様にお任せしなさい。　というのも、神様のほうで万事、心にかけていてくださるからです。
８最大の敵である悪魔の攻撃に備えて、くれぐれも警戒しなさい。　悪魔は、飢えて、ほえたけるライオンのように、引き裂くべき獲物を求めて、うろつき回っているのです。　９主を信じ、悪魔の攻撃に立ち向かいなさい。　そして、世界中のクリスチャンが、同じ苦しみを通って来たことを、忘れないようにしなさい。
１０キリスト様を通して、あふれるほど恵みを注いでくださる神様は、あなたがたに、しばらくの苦しみのあとで、永遠の栄光を与えてくださるのです。　神様がじきじきにあなたがたを力づけ、堅く立たせて、今まで以上に強めてくださいます。　１１どうか、すべてのものを支配する絶対的な力が、永遠に神様にありますように。　アーメン。
１２この手紙を筆記してくれたのは、忠実な信仰の友シルワノです。　私は、この手紙があなたがたを力づけるよう、期待しています。　なぜなら、どうしたら神様から確実に祝福していただけるかを、記したからです。　この手紙が、あなたがたを、神様の愛のうちにしっかりと立たせるのに役立つと信じます。
１３ローマにある教会〔共に主を信じる、クリスチャンの皆さん〕が、よろしくと申しております。　私の息子マルコも、よろしくとのことです。　１４クリスチャンとして、互

いに愛に満ちたあいさつを交わしなさい。　キリスト様を信じる皆さんに、平安がありますように。
ペテロ
▪

ペテロからの手紙　Ⅱ
自分の信条を、最後まで守り続けるのは容易なことではありません。そのために、つらい思いや苦しい思いをし、損をすることもあるからです。　かつてイエスに「たとい、みんながあなた様を見捨てようと、私だけは、この私だけは絶対に、見捨てなどいたしません」と言いはったペテロも、いざという時はだめでした。　そのペテロが、生涯を閉じるにあたって、迫害を受けて苦しんでいるクリスチャンを勇気づける人となりました。　そして最後には殉教したのです。

一

１イエス・キリストの召使であり、宣教者であるシモン・ペテロから、同じ信仰の持ち主である皆さんへ。　ここで言う信仰とは、神であり救い主であるイエス・キリストから与えられたものです。　それは、なんと尊いものでしょう。　また、その信仰を与えてくださるキリスト様は、なんと正しく、なんと恵み深いお方でしょう。
２あなたがたも、神様のいつくしみと平安とを、もっとたくさんいただきたいと願うでしょう。　それなら、もっと深くイエス・キリストについて学びなさい。　３キリスト様を知れば知るほど、その偉大な力を通して、神様に従う正しい生活を送るために必要なすべてのものが、いただけるのです。　そればかりか、キリスト様は、自分の栄光と、みがかれた品性をも、私たちに与えてくださるのです。　４さらに、かねてお約束のすばらしい祝福をも、余すところなく注いでくださっています。　この約束のゆえに、私たちは陥りやすい肉欲や腐敗から守られ、キリスト様のご性質をそなえた者となれるのです。
５ところで、これらの贈り物をいただくために、信仰はもちろん、それとは別に必要なものがあります。　まず神様に喜ばれるために、一生懸命励まなければなりません。　しかし、それだけではだめです。　さらによく神様を理解し、神様が何を望んでおられるかを、知らなければなりません。　６そして次に、自分の欲を捨て、忍耐と敬虔さを身につけ、喜んで、神様にすべてをゆだねなさい。　７そうすれば、次の段階に進むことができます。すなわち、人に好意を示し、気持ちよく交際し、深い愛で結ばれるようになります。　８こうなれば、あなたがたは霊的な面でますます強められ、主イエス・キリストのために、多くの有益な働きができるのです。　９しかし、信仰さえあればよいと考え、それ以上のものを追い求めない人は、盲目か、ひどい近眼です。　そんな人は、神様が、これからは主のために、正しく、りっぱな生活を送るようにと、過去の罪から救ってくださったことなど、すっかり忘れているのです。
１０ですから、愛する皆さん。　ますます熱心に、自分がほんとうに神様に招かれ、選ばれた者であることを、身をもって証明しなさい。　そうすれば、人生で、決してつまずいたり、倒れたりしないでしょう。　１１そして神様は、あなたがたを、主であり、救い主であるイエス・キリストの永遠の国に迎え入れるために、門を広く開けてくださるでしょう。

１２もちろん、こんなことは、すでによくわかって、一歩一歩着実に歩んでいるでしょうが、それでもなお、常にこれらのことを思い起こしてもらいたいのです。　１３１４もう、私の生涯も残り少なく、まもなく死ぬことを、主イエス・キリストから示されています。それで、この世にあるかぎり、これらの注意書きを送ろうと、決心したのです。　１５私が死んだあとにも、これらのことを忘れないように、あなたがたの心に、はっきりと刻み込んでおきたいからです。
１６私たちは、主イエス・キリストの力と、再び地上へ来られることについて話してきましたが、それは、うまく考え出した作り話ではありません。　私はこの目で、キリスト様の輝きと栄光とを、はっきり見たのです。　１７１８キリスト様が、聖なる山の上で、父なる神から誉れと栄光とを受けて輝かれた時、私はその場に居合わせました。　その時、栄光にあふれる厳かな声が天から響くのを、はっきり聞いたのです。　「これこそわたしの愛する子、わたしの大いなる喜び。」
１９こうして、預言者のことばが現実となるのを、目のあたりにしたのです。　これら預言者のことばに、今まで以上の関心を寄せるのは、たいへん良いことです。　そのことばは、暗い部屋のすみずみまでも照らし出す明かりのようなもので、難解なまま、暗やみの中に放りっぱなしにされかねない多くのことに光をあて、理解させてくれたのです。　このことばの真理に思いをはせる時、あなたがたのたましいに、夜明けの光が差し込み、明けの明星であるキリスト様が、心を照らしてくださるのです。　２０２１なぜなら、聖書にある預言者のことばは、預言者がかってに考え出したものではないからです。 それは、これら神様を敬う人の心に住まれる聖霊様がお授けになった、混じりけのない神様からのことばなのです。
二
１しかし、これらの預言者の活躍していた時代にも、偽預言者は現われました。 同様に、あなたがたの中にも偽教師が現われます。彼らは神様について、巧妙なうそをつき、自分を買い取ってくださった主に対してさえ、逆らおうとします。　しかし、彼らを待っているのは、突然襲いかかる恐ろしい最期です。　２性的な罪のどこが悪いと、居直る彼らの教えに、多くの人がつり込まれることでしょう。そして、ひいては、キリスト様とその教えとが、笑いものにされるでしょう。
３偽教師連中は貪欲で、人のふところをねらうためには、手段を選ばないのです。　しかし神様は昔から、そんな連中をきびしく罰してこられました。　連中の滅びは、目前に迫っています。　４神様は、御使いでさえ、罪を犯した場合は少しも手加減せず、地獄に投げ落とし、審判の日まで、無気味なほら穴の暗やみに、鎖につないで閉じ込めました。　５また、大昔、洪水前の人たちにも、神様のことばを語ったノアとその家族七人を除いて、少しの容赦もされなかったではありませんか。 そして、神様を恐れない者の住む世界を、大洪水によって滅ぼしてしまいました。６また神様は、ソドムとゴモラの町を灰の山と変え、地上から消し去りました。　それは、後世の、神様を無視する者へのみせしめであり、

それによって、彼らが神様を恐れるようになるためです。
７８しかし、同時に主は、ロトをソドムから無事に救い出してくださいました。　ロトが正しい人だったからです。　ソドムに住んでいた彼は、来る日も来る日も、身の毛もよだつ恐ろしい悪事を見て、心を痛めていたのです。　９このように、主は私たちを、さまざまな誘惑から必ず救い出してくださいます。　しかし、神様を恐れない人々には、最後の審判の日まで、次々と罰が下るのです。　１０汚れた欲望に身を任せている者や、高慢で自己中心で、栄誉を受けた人たちを少しも恐れず、かえってあざけるような者には、主は特にきびしい態度で臨まれるのです。　１１主の前に仕える御使いでさえ、これら偽教師より、はるかにまさった力と権威とを持つにもかかわらず、不正な者に、主の前で非難を浴びせたりはしません。
１２しかし、偽教師連中は畜生にも劣るのです。　彼らは、したいほうだいのことをしています。　まるで、捕らえられ、殺されるために生まれてきたようなものです。　何も知らずに、見えない世界の恐るべき力をあざ笑っているのです。　彼らが、悪霊や地獄の勢力と共に滅ぼされるのは、目に見えています。
１３それが、偽教師たちを待つ運命です。　彼らの罪からすれば、当然のことです。　来る日も来る日も、悪の楽しみにふけっているのですから。　彼らがあなたがたの間にもぐり込んでいることは、不名誉な面汚しです。　つまり、彼らは正直者を装って、愛の交わりに加わりながら、一方では、胸のむかつくような罪の生活を送って、あなたがたをだましているのです。　１４その罪に濁った視線は、どんな女性をも逃がしません。　しかも、彼らのみだらな行為は底なし沼で、うわついた女を誘惑するゲームに熱中しています。　そして、ますます貪欲になり、ついには、わが身を滅ぼしてしまうのです。　まさにのろわれた者たちです。　１５進むべき道を踏み誤った彼らは、不正によって得た金を愛したベオルの子バラムのように、さまよい続けています。　１６もっともバラムは、狂った道をそれ以上進まないようにと、警告を受けました。　自分のろばに、人間の声でしかられた、という旧約聖書の記事を、読んだことがあるでしょう。
１７このような偽教師は、干上がった泉のように、何の役にも立ちません。　口約束を重ねるばかりで、何一つ実行しようとしないのです。　まるで嵐に吹き飛ばされる雲のように、少しも落ち着きがありません。　その行く手に待ちかまえているのは、暗やみにおおわれた、永遠の落とし穴です。　１８彼らは臆面もなく、自分の罪と誘惑の手柄話を語ります。　つまり、肉欲をえさにして、やっとの思いで罪の生活から足を洗った人たちを、もう一度、罪へ誘い込もうとしているのです。
１９彼らはこう言います。「善人になったからって、救われるもんじゃないんだよ。　それなら、いっそのこと、悪いことをしたほうが、ましじゃないか。　やりたいことは、やればいい。それが自由というもんだ。」
しかし、このように、おきてからの「自由」を教えながら、実は自分が、罪と滅びの奴隷になっているのです。　何かに支配された人は、その奴隷です。　２０主であり、救い主

であるイエス・キリストについて学び、この世の悪い生活から、いったん足を洗った人が、またもとの罪の生活に舞い戻り、その奴隷になるなら、その状態は以前より、もっと悪くなるでしょう。　２１キリスト様を知ったあとで、目の前のきよい戒めに背を向けるくらいなら、キリスト様について何にも知らなかったほうが、はるかにましです。　２２古いことわざに、「犬は自分が吐いた物をなめ、豚はいくら洗ってやっても、どろの中をころげ回る」というのがありますが、まさに罪の生活に舞い戻る人々に、ぴったりのことばではありませんか。
三
１２愛する皆さん。　これは二通目の手紙です。　私はこの二通の手紙で、あなたがたがすでに知っている事柄を、もう一度、思い起こさせようとしたのです。　あなたがたはそれを、昔の聖なる預言者から、また、主であり、救い主である方のことばを伝えた、私たち使徒から学びました。
３まず第一に思い出してほしいことは、終末の時代には、あざける者どもが現われ、真理をあざ笑い、思いつくかぎりの悪を行なうということです。　４彼らはこんな議論のベテランです。　「ほんとうにイエスは、また帰って来ると約束したのかい。　それじゃ今、イエスはどこにいるんだい。　この世界は造られた最初の日から、何一つ変わってないじゃないか。　イエスが帰って来るなんて、ありっこないよ。」
５６彼らは、神様がかつて、この世界を大洪水によって滅ぼされたという事実には、わざと目をつぶっています。　洪水が起こったのは、神様が命令して天と地とを造り、周囲に水をめぐらされてから、ずっとあとのことでした。　７神様は、今の天と地とを、最後の審判の日に火で焼き滅ぼすために、そのまま残しておくように、お命じになったのです。その日には、神様を恐れない者は、すべて滅ぼされます。
８愛する皆さん。　いいですか。　主にとって、一日は千年のようであり、千年は一日のようです。　９それで、再び主がおいでになるという約束が、なかなか実現しないので、時には、いったいどうしたのかと、じれったく思うかもしれません。　しかし主は、いたずらに日を延ばしておられるのではありません。　かえって、一人でも滅びないように、罪人が悔い改めるために必要な時間を与えようと、待っておられるのです。　１０しかし主の日は、どろぼうのように、思いがけない時に来ます。　その時、天は恐ろしい響きをたてて消えうせ、天体は火だるまとなって崩れ落ち、地と地上のすべてのものは、跡形もなく焼き滅ぼされてしまいます。
１１このように、私たちの周囲のものいっさいが、溶けてなくなる運命にあるのです。　そうであれば、私たちはどれほど神様を敬い、きよい生活を送らなければならないことでしょう。　１２その日を今か今かと待ち望むだけでなく、その日を早めるようにしなければなりません。――その日、神様は天に火を放たれ、天体は火に包まれ、溶け去ります。　１３しかし私たちは、そのあと、新しい天と地を造るという、神様の約束をいただいています。　そこには、神様の目にかなう正しい人だけが住むのです。

１４愛する皆さん。　あなたがたはこれらの出来事と、主が再び来られることとを、待ち望んでいるのですから、罪を避けて生きることに精一杯励みなさい。　また、再びおいでになった主に喜んでいただけるよう、すべての人と平和に過ごしなさい。
１５１６なぜ主が、こんなにも長く待っておられるのか、よく考えてみなさい。　主は、私たちが救いの教えを伝える時間を与えておられるのです。　学識の深さで知られる、愛する兄弟パウロも、多くの手紙の中で、同じことを書いています。　しかし彼の手紙には、むずかしいところがあるので、中には、それをいいことに、わざと的はずれの解釈をする人がいます。　彼らは、聖書のほかの個所でもそうするのですが、パウロが言おうとしていることとは、全く別の意味を引き出しているのです。　それは、自分で滅びを招いているようなものです。
１７愛する皆さん。　前もって警告しておきます。　このような不正な者の、誤った考えに引き込まれないように、よくよく注意しなさい。　そうでないと、あなたがた自身も混乱するからです。　１８むしろ、霊的な面で成長しなさい。　そして、主であり、救い主であるイエス・キリストを、もっと深く知りなさい。　このキリスト様に、すべての栄光と輝かしい名誉が、今も、後も、永遠までもありますように。アーメン。
ペテロ
▪

ヨハネの手紙Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（ヨハネからの手紙Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）
漁師あがりのヨハネは、兄弟ヤコブと共に、キリストから「雷の子」とあだ名されるほど、激しい気性の持ち主でした。　ところが、キリストはこのヨハネに、弟子たちの中でも特に目をかけたのです。　こうして、キリストの愛を知ったヨハネは、晩年には「愛の人」と呼ばれるほどの人物になりました。　彼の口から出ることばは、いつも決まって、「愛し合いなさい」でした。　この手紙でも、神様の愛を知ること、互いに愛し合うことのすばらしさが語られています。

一

１私は、この世界が造られる前から存在しておられたキリスト様を、この目で見、そのことばをこの耳で聞き、その体にこの手でさわりました。　キリスト様は、神様のいのちのことばです。　２このいのちである方を、神様は私たちに紹介してくださいました。　私たちは、確かにこの方を見ました。　私が伝えたいのは、永遠のいのちである、このキリスト様のことです。　この方は初め、父なる神と共におられましたが、やがて、私たちの前に姿を現わされました。　３もう一度言いますが、私たちは実際に見聞きしたことを、伝えているのです。それは、あなたがたも私たち同様、父なる神やそのひとり息子イエス・キリストと交際できる者とされ、喜びにあふれるためです。　４もしこの手紙の忠告どおりに実行すれば、あなたがたは喜びに満たされ、私たちも共に喜ぶことになるのです。
５神様は光であり、少しも暗い部分がありません。　これが、神様から私たちにゆだねられた、あなたがたへの教えです。　６神様の友だと言いながら、霊の暗やみと罪にはまり込んで生活しているなら、私たちは、うそをついているのです。　７しかし、神様の光の中におられるキリスト様にならって、私たちも光の中で生活すれば、互いにすばらしい交際と喜びとを味わうことができます。　そして、神の子イエス様の血が、私たちをすべての罪からきよめてくださるのです。
８もし、自分には罪がないと言いはるなら、それは、自分をだましているのであって、真理を受け入れようとしない証拠です。　９しかし、もし自らの罪を神様に告白するなら、神様はまちがいなくそれを赦し、すべての悪からきよめてくださいます。　〔なぜなら、キリスト様は、私たちの罪を帳消しにするために、死んでくださったからです。〕　１０潔白だと言いはる人は、自分がうそつきになるばかりか、神様まで、うそつき呼ばわりすることになります。　なぜなら、神様は「人間は罪を犯した」と、はっきり宣言しておられるからです。
二
１私の幼い子供たちよ。　私がこう言うのも、あなたがたに、いつも罪から離れていてほしいからです。　しかし、もし罪を犯したとしても、父なる神の前で弁護してくださる方がおられます。　その方は、イエス・キリストです。　キリスト様は、すべての点で正しく、完全に神様のお心にかなった方です。　２そして、私たちの罪に対する神様の怒りを

一身に引き受け、私たちを、神様と交際できる者としてくださいました。　私たちの罪が赦されるために、自らを神様に差し出されたのです。　それは、私たちのためばかりでなく、全世界のためでもあります。
３私たちがこの方に属していることを、どうすれば確かめられるでしょう。　それには、神様の要求を実行するほかありません。
４ある人は、「私はクリスチャンだ。　天国を目指して歩んでいるし、まちがいなくキリスト様のものだ」と主張するでしょう。　しかし、もしその人がキリスト様の命令に従っていなければ、うそをついているのです。　５キリスト様の教えを実行している人は、ますます神様を愛します。　これが、クリスチャンであるかどうか、見分ける方法です。　６自分はクリスチャンだと言う人は、キリスト様と同じ生き方をすべきです。
７愛する兄弟たち。　私は今、新しい戒めをつくり出しているのではありません。　これは、初めからある古い戒めであり、すでに何度も聞いたものです。　８にもかかわらず、この戒めは、常に新しいのです。　これは、キリスト様にとって真理であり、あなたがたにとっても、そうです。　「互いに愛し合いなさい」という戒めを守る時、私たちの生活から暗やみは逃げ去り、キリスト様のうちにある、新しいいのちの光が輝き渡ります。
９キリスト様の光の中を歩んでいると言いながら、仲間のクリスチャンを憎む人は、相変わらず暗やみにとどまるのです。　１０仲間のクリスチャンを愛する人は、光の中を歩む者であり、罪と暗やみにつまずくことなく、行く手をはっきりと見渡せます。　１１しかし、仲間を憎む人は、霊の暗やみをあてどなくさまよい、行く先もわかりません。　暗やみのために足下さえ、よく見えないのです。
１２幼い子供たちよ。　このように書き送るのは、あなたがたの罪が、すでに救い主イエス様の名によって、赦されているからです。　１３年長者たちよ。　私がこう書き送るのは、あなたがたが、世の初めから生きておられるキリスト様を、実際に知っているからです。　青年たちよ。　私がこう語りかけるのは、あなたがたが悪魔との戦いに勝ったからです。　少年少女たちよ。　私がこう書き送るのは、あなたがたが父なる神を知ったからです。　１４このように私は、永遠に生きておられる神様を知っている父親や、神様のことばを心にとめて悪魔との激戦に打ち勝つ強い青年にも、語っているのです。
１５この世と、その中のすべてのものに、心を奪われてはなりません。　もし、それらを愛するなら、実際には、神様を愛していないのです。　１６すべて世的な事柄――性欲におぼれたり、ほしいものを何でも手に入れたがったり、財産や地位を鼻にかけたりする悪い願望――は、神様から出たものではないからです。　それらはみな、この不正な世の生み出したものです。　１７この世は、やがて滅び去ります。　同時に、これらの禁じられた悪い欲望も消滅します。　しかし、常に神様に従って歩む者は、永遠に生きるのです。
１８愛する子供たちよ。　この世の終わりが近づいています。　すでに耳にしていたとおり、今や多くの反キリスト〔キリスト様に敵対する者〕が姿を現わしました。　このことからも、終末の近いことは確かです。　１９この、キリスト様に敵対する者は、これまで

ずっと私たちの教会の会員のふりをしていましたが、ほんとうの意味で、仲間ではなかったのです。　そうでなければ、教会にとどまり続けたはずです。　彼らが出て行った時、私たちの仲間でなかったことが証明されたのです。
２０しかし、あなたがたは違います。　聖霊様が与えられて、すでに真理を知る者となっていますから。　２１ですから、私は、あなたがたに真理を知らせなくてはと考えて、この手紙を書いているわけではありません。　そうではなく、本物と偽物との区別ができる者となるよう、なおいっそうの注意を促しているのです。
２２一番のうそつきとは、だれでしょう。　イエス様はキリスト（救い主）ではない、と言う者です。　父なる神と神の子とを信じない者、それが反キリストです。　２３神の子キリスト様を信じない人は、父なる神を自分の父とすることができません。　しかし、信じる人は、父なる神をも自分の父とできるのです。
２４ですから、あなたがたのなすべきことは、初めから教えられてきたことを、信じ続けることです。　そうすれば、常に父なる神や神の子と親しく交際できるのです。　２５これこそ、キリスト様から与えられた約束であり、永遠のいのちです。
２６これまで、私が反キリストについて注意を促したのは、あなたがたの目をごまかし、まちがった教えに引きずり込もうとたくらむ者に、だまされてほしくないからです。　２７しかし、今やあなたがたは、聖霊様をいただきました。　聖霊様が心のうちに生きておられます。　ですから、何が正しいかを判断するのに、だれからも教えてもらう必要がありません。　聖霊様が、すべてを指示してくださるからです。　聖霊様は真理であって、決してうそをつきません。　あなたがたは聖霊様の指示に従って、キリスト様のうちに生きるべきで、絶対に離れ出てはいけないのです。
２８そこで、幼い子供たちよ。　いつまでも、主との親しい友好関係を保ちなさい。　そうすれば、キリスト様が帰って来られる時、ちゃんと用意ができていて、主にお会いするのをためらったり、恥じたりしないですむでしょう。　２９私たちは、神様が正しい方であり、正しいことだけを行なわれると知っています。　ですから、正しい行ないをする者はみな、神様の子供だと判断できるのです。
三
１天の父は、どんなに、私たちを愛しておられることでしょう。　私たちを、ご自分の子供として受け入れてくださいました。　考えてもごらんなさい。　神様の子供とされたのです。　ところが、神様を知らない多くの人は、当然、私たちが神様の子供であることを、理解できません。　２愛する友よ。　私たちは、もうすでに神様の子供です。　これから先のことは想像もつきませんが、ただこの一事だけは、わかっています。　つまり、キリスト様がお帰りになる時、私たちがキリスト様に似た者となるということです。　というのは、キリスト様のありのままの姿を目のあたりにするからです。　３このことをほんとうに信じる人はみな、自分の身を、いつもきよく保とうと心がけます。　キリスト様はきよい方だからです。

４しかし、罪を犯し続ける人は、神様に逆らうのです。　罪はすべて、神様の心に反する行為だからです。　５あなたがたは、キリスト様が人間となられたのは、私たちの罪を取り除くためであったことを、よく知っています。　また、キリスト様は何の罪も犯さず、どんな時にも、神様の心からそれなかったことも、知っているはずです。　６ですから、もし私たちが、いつもキリスト様のそば近くにおり、従順に従うなら、罪を犯し続けたりしないですみます。　彼らが罪を犯すのは、真の意味でキリスト様を知らず、キリスト様のものとなっていないからです。
７愛する子供たちよ。　このことで、だれにもだまされてはいけません。　もし、あなたがたが、いつも善を行なっているなら、キリスト様と同じように、正しく歩んでいるのです。　８しかし、もし依然として罪を犯し続けるなら、それは、悪魔の一味になり下がった証拠です。　悪魔は、初めの罪以来、ずっと罪を重ねてきました。　しかし神の子は、この悪魔のしわざを打ち破るために来られたのです。　９神様の家族の一員として新しく生まれた人には、神様のいのちが宿っているので、もはや罪を犯す習慣はありません。　新しいいのちに支配されているので、罪を犯し続けることができないのです。――その人は二度目の誕生を迎えたのです。
１０そこで今、私たちは、神様の子供と悪魔の仲間とを、はっきり見分けることができます。　罪の生活を送り、兄弟であるクリスチャンを愛さない者は、自分から神様の家族ではないと、証明しているようなものです。　１１私たちは初めから、「互いに愛し合いなさい」と教えられていたからです。
１２カインのようになってはいけません。 カインは悪魔の仲間になって弟を殺しました。なぜでしょう。　弟の正しい生活と比べて、自分の生活があまりにも悪いと自覚していたからです。　１３ですから、愛する友よ。　たとい全世界があなたがたを憎んでも、驚いてはいけません。
１４ほかのクリスチャンを愛しているなら、私たちは、地獄から救い出され、永遠のいのちを与えられたと確信できます。　そうでない者は、永遠の死にとどまっているのです。
１５だれでもクリスチャンの仲間を憎む者は、心の中で人殺しをしているのです。　言うまでもないことですが、人殺しに、永遠のいのちはありません。　１６キリスト様は、私たちのために、進んでいのちを捨ててくださいました。　そのことによって、私たちはほんとうの愛を知ったのです。　ですから、私たちも、兄弟であるクリスチャンのために、いのちを捨てるべきです。
１７クリスチャンが、自分ではぜいたくに暮らしていながら、困っているクリスチャンがいても、見て見ぬふりをしたとしたら、どうでしょう。　どうして、その人に神様の愛があると言えるでしょう。　１８幼い子供たちよ。　口先だけで人を愛するのではなく、真実をこめて愛し、実践によって、神様の愛を示そうではありませんか。　１９そうすれば、自分が神様の側に立っていることを、ますます強く確信できるでしょう。　そして、良心にみじんもやましいところがなく、主の前に立てるのです。　２０もし、悪いことをした

と、良心の責めを感じても、それ以上に、主は強く感じておられるはずです。　主は私たちのすることを、何もかもご存じだからです。
２１しかし、愛する友よ。　もし私たちの良心が潔白であれば、完全な確信と信頼をいだいて主の前に出ることができます。　２２また願い求めるものは何でも、いただけるのです。　なぜなら、私たちは主に従い、主に喜ばれる行ないをしているからです。　２３神様の命令には、喜んで従わなければなりません。　つまり、神の子イエス・キリストの名を信じ、互いに愛し合わなければなりません。　２４神様の命令に喜んで従う人は、神様と共にいるのです。　そして、神様もその人のそばにいてくださるのです。　これは、神様が遣わしてくださった聖霊様から教えていただいたことで、そのとおりだと確信できる事実です。
四
１心から愛する友よ。　だれかが「これこそ神様の教えです」とふれ回っても、それをうのみにして、何もかも信じてはなりません。まず、それが確かに神様から出たものかどうかを、試しなさい。　多くの偽教師があちこちに現われているからです。　２彼らのことばが聖霊様から出たものかどうかを確かめる方法があります。　つまり、神の子イエス・キリストが、現実に生身の人間となられたことを、その人が認めるかどうかで決まるのです。　もしそのことを認めるなら､彼のことばは神様から出たものと信じていいでしょう。
３しかし、そうでなければ、神様から出たものではなく、明らかに「反キリスト」と同じく、キリスト様に敵対する者から出ているのです。　この反キリストが出現することは、以前から聞かされていたはずです。彼らは今、至る所で、キリスト様への敵意をむき出しにしています。
４愛する友よ。 あなたがたは神様の側につく者として､キリスト様に敵対する者と戦い、すでに勝利を収めてきました。　それは、心のうちに、この不正な世に巣くう、どんなに悪い教師よりも、はるかに強い方がおられたからです。　５その教師連中は、この世につく者であり、この世のことにのみ心を奪われています。　ですから、この世の人たちは、彼らに関心を寄せるのです。　６しかし、私たちは神様
の子供です。　ですから、いつも神様と共にいて、親しく語り合っている人だけが、私たちのことばに耳を傾けるのです。　そうでない人は、耳を貸そうともしません。　このことからも、ほんとうに神様から出たことばを語っている人かどうかを、見分けることができるのです。　神様から出た教えに、この世は耳を傾けないからです。
７愛する友よ。　互いに愛し合いましょう。　愛は神様から出ています。　ですから、人を愛する親切な人は、その行ないによって、自分が神様の子供であることを証明すると同時に、ますます深く、神様を知るようになるのです。　８反対に、人を愛さない不親切な人は、神様を知らないことを暴露しています。　なぜなら、神様は愛だからです。
９神様は、かけがえのないひとり息子を、この不正な世に遣わし、その方の死によって、私たちに永遠のいのちを与えてくださいました。　そのようにして、どんなに私たちを愛

しておられるかを、証明されたのです。　１０この神様の行為によって、私たちは、何がほんとうの愛か、知ることができました。　真の愛とは、神様に対する私たちの愛ではなく、私たちに対する神様の愛なのです。　それは、私たちの罪を責める自らの怒りをなだめるために、神様がひとり息子を差し出された愛に尽きるのです。
１１愛する友よ。　神様がこれほど愛してくださったのですから、私たちもまた、互いに愛し合おうではありませんか。　１２私たちは、これまで一度も神様を見たことがありません。　しかし、互いに愛し合う時、神様は、私たちの心の中に住んでくださり、心の中の神様の愛を、なおいっそう強めてくださるのです。　１３神様は、私たちの心に聖霊様を遣わしてくださいました。　そのことが、私たちが神様と共に生き、神様も私たちと共に歩んでくださる証拠です。　１４さらに私たちは、神様がひとり息子を世の救い主として遣わされたのを、この目で見、それを、いま全世界に伝えています。　１５イエス様を神の子と信じ、それをはっきり告白する人のうちには、神様が生きておられます。　そして、その人も神様と共に歩んでいると言えるのです。
１６私たちは、どんなに神様に愛されているか、知っています。　現に、神様の愛を身近に感じ、また、私たちを心から愛すると言われた神様を、信じているからです。　神様は愛です。　愛のうちに生きる人は神様と共に生きるのであり、神様もまた、その人のうちに生きておられるのです。　１７キリスト様と共に歩む時、私たちの愛は成長して、いっそう完全なものとなっていきます。　そうすれば、さばきの日に、恥じ入ったり、うろたえたりしないですみます。　それどころか、確信と喜びにあふれて、主の顔を見ることができるのです。　なぜなら、私たちは、キリスト様と愛で結ばれているからです。
１８私たちを心から愛してくださる方を、どうして恐れる必要がありましょう。　もし恐れがあるなら、それは神様が私たちに何をなさるかと、不安をいだいている証拠です。　神様の完全な愛は、そんな恐れを、すべて取り除きます。　恐れている人は、神様の愛をまだ十分理解していないのです。　１９これでわかるように、私たちが神様を愛せるのは、神様がまず愛してくださったからなのです。
２０もし「私は神様を愛しています」と言いながら、兄弟であるクリスチャンを憎み続ける人がいれば、その人はうそつきです。　目の前の兄弟を愛せない人が、どうして、見たこともない神様を愛せるでしょう。　２１ですから、神様を愛する者は、兄弟をも愛すべきです。　これは、神様が命じておられることです。
五
１イエス様はキリスト、すなわち、神の子であり救い主であると信じるなら、その人は神様の子供です。　父なる神を愛する人はみな、神様の子供たちを愛するはずです。　２そういうわけで、あなたがたが、どれだけ神様を愛し、従っているかで、神様の子供たちをどれだけ愛しているかがわかるのです。　３神様を愛するとは、そのご命令を守ることです。　決して、むずかしいことではありません。　４神様の子供たちはみな、神様に従います。　そして、キリスト様に信頼することによって助けを受け、罪と悪との楽しみに、

打ち勝つことができるのです。
５イエス様がほんとうに神の子であると信じる人以外に､この戦いに勝てる人はいません。
６－８私たちは、イエス様が神の子であると知っています。　なぜなら、イエス様がバプテスマ（洗礼）を受けられた時、また、死を目前にされた時、天からの神様の声が、そのことを証言したからです。　さらに、永遠に真実であられる聖霊様も、そう証言しておられます。　ですから、私たちには三つの証言があるわけです。　すなわち、私たちの心の中で語られる聖霊様の声と、キリスト様がバプテスマを受けられた時の天からの声と、キリスト様の死の前に聞こえてきた声の、三つです。　この三つが一致して、イエス・キリストは神の子である、と証言しているのです。　９私たちは、法廷での証人のことばを信じます。　では、なおさら、神様のことばを確信できるはずです。　神様自身がはっきりと、イエス様は神の子である、と宣言しておられるのですから。　１０このことを信じる人はみな、心でそう確信しています。　信じない人は、神様をうそつき呼ばわりしているのです。　神の子についての神様の証言を、信じようとしないからです。
１１神様の言われたこととは、何でしょう。　それは、神様が私たちに、永遠のいのちを与えてくださったこと、また、永遠のいのちが神の子のうちにあるということです。　１２そういうわけで、神の子を信じる人には、いのちがあり、信じない人にはないのです。
１３すでに神の子を信じているあなたがたに、このように書き送るのは、あなたがたには永遠のいのちがあることを自覚させたいからです。　１４私たちは、神様の心にかなうことを願い求めるなら､いつでもその願い事は聞き届けていただけると確信しています。１５ですから、願い事をする時に、確かに神様が耳を傾けてくださっているとわかれば、神様は必ずその祈りに答えてくださる、と確信できるのです。
１６もし、罪を犯しているクリスチャンを見かけたら、その人が赦していただけるよう、祈ってやりなさい。　それが取り返しのつかない罪でなければ、神様は、彼のいのちを助けてくださいます。　しかし、死に至る罪があります。　そんな罪にはまり込んでいる人のためには、祈っても無意味です。　１７もちろん、すべての悪が罪であることに違いはありません。　しかし、私がここで取り上げているのは、いわゆる一般的な罪ではなく、死に至る罪のことです。
１８神様の家族の一員とされている人には、罪を犯す習慣はありません。　神の子キリスト様に、しっかりと支えられているので、悪者は手出しできないのです。　１９私たちは神様の子供ですが、周囲の世界は、悪魔の力の支配下にあることを、知っています。　２０また、神の子キリスト様が来られたことで、私たちに真の神様を知る力が与えられたことも、知っています。　ですから今、私たちは、ただ一人の真の神であり、永遠のいのちである神の子イエス・キリストのうちにいるのです。　２１愛する子供たちよ。　心の中に、神様に取って代わる何かがあるなら、すぐ取り除きなさい。
ヨハネ
▪

１教会の長老ヨハネから、神様を信じ、神様のものとなりきっている、愛する夫人キュリアと、その子供たちへ。　私は、あなたがたを心から愛しています。　そして、あなたがたは、教会員にも心から慕われています。　２私たちの心のうちには、いつも真理が宿っているので、　３父なる神とそのひとり息子イエス・キリストが、真実と愛と、測り知れないあわれみと平安とを注いで、私たちを祝福してくださるのです。
４こちらにいるあなたの子供たちの中に、真理に従って歩み、神様の命令どおりに正しく生活している者がいるのを見て、非常にうれしく思っています。
５そこで、キュリアよ。　もう一度、思い起こしてほしいことがあります。　それは、当初から与えられていた、「クリスチャンは互いに愛し合いなさい」という、神様の戒めです。
６もし私たちがほんとうに神様を愛しているなら、その命令には喜んで従うはずです。　神様は最初から、互いに愛し合うように、と命じておられるのです。
７偽教師があちこちに出現していますから、くれぐれも注意しなさい。　あの連中は、イエス・キリストが、私たちと同じ肉体を持った人間として世に来られたことを、信じないのです。　彼らは、真理にそむく者であり、キリスト様に敵対する者です。　８彼らと同じ道をたどって、賞を得るためのこれまでの労苦が、水のあわとならないよう、くれぐれも注意しなさい。　あなたがたには、ぜひとも、主から十分な報いを受けてもらいたいのです。　９キリスト様の教えからはずれて、それを守ろうとしない者は、神様をないがしろにしているのです。　しかし、キリスト様の教えに忠実な者は、真の意味で、父なる神とそのひとり息子とを理解していると言えます。
１０あなたがたを訪問する人の中で、まちがった教えを説こうとたくらんでいる連中を、絶対に迎え入れてはいけません。　まして、励ますようなまねは、いっさいやめなさい。
１１そんなことをすれば、自分から悪の仲間入りをするはめになるのです。
１２忠告したいことは、まだまだありますが、この手紙には書きますまい。　一日も早くそちらへ行って、直接これらのことについて語り合い、共に楽しい時を過ごしたいからです。
１３神様に選ばれているあなたの姉妹の子供たちから、よろしくとのことです。
ヨハネ
▪

１長老ヨハネから、愛するガイオへ。
２ガイオよ。　私は、あなたがすべての点で栄え、たましいも体も健全であるように、と祈っています。　３旅行の途中で、こちらに立ち寄ったクリスチャンが、あなたのうれしい消息を聞かせてくれたので、とても喜んでいます。　彼らは、あなたが、いつもきよく、真実にあふれ、神様の良い知らせにふさわしく生活している、と報告してくれました。　４私の子供たちのことで、こんな知らせを聞くことほど、大きな喜びはありません。
５ガイオよ。　あなたは、旅行中の教師や伝道者を、もてなしてくれているそうですね。　さぞかし、神様はお喜びでしょう。　６世話になった人たちが、こちらの教会に立ち寄って、あなたの友情と愛にあふれたもてなしについて、話してくれました。　あなたが物惜しみせず、心からもてなし、彼らを次の旅へ送り出してくれることは、私にとっても、たいへんうれしいことです。　７それは主のための旅行であり、信者でない人々に、ひたすらこの良い知らせを伝えているのです。　そのために必要な食物も衣服も、泊まる所もお金も、信者でない人々から受け取るわけにはいきません。　８ですから、私たちが協力して、そのめんどうを見るべきです。　そうすれば、いっしょに主の働きに参加していることになりますから。
９この件について、私は教会あてに短い手紙を送っておきました。　ところが、自分を指導者として売り込もうとねらっている、高慢なデオテレペスが、私の権威を認めず、私の忠告を聞き入れようとしないのです。　１０今度そちらに行ったら、彼の行ないを指摘するつもりです。　そうすれば、彼がどんなにひどいことばで私を中傷しているか、わかるでしょう。　彼は、自分が、旅行中の伝道者を歓迎しないばかりか、ほかの人をも抱き込んで、そうさせないのです。　そして言うことを聞かない人々を、教会から追い出そうとしています。
１１ガイオよ。　デオテレペスのような悪い手本に影響されず、ひたすら、良い行ないをするよう心がけなさい。　正しいことを行なう人は、神様の子供であることを、自ら証明しており、いつも悪の道を歩む者は、神様から遠く離れていることを、自ら証明しているのです。　１２しかしデメテリオは、だれにも評判のよい人です。　真理そのものから高く評価されているのです。　私も彼を高く買っています。　私のことばに、うそはないことを、よくご存じのはずです。
１３言いたいことは山ほどありますが、今回は、これだけにします。　１４まもなくそちらで、あなたに会い、思う存分語り合うつもりですから。　１５では、ひとまず筆を置きます。　こちらの友人たちから、よろしくとのことです。　ご一同に、くれぐれもよろしくお伝えください。
ヨハネ
▪

ユダの手紙（ユダからの手紙）
いろいろな人がキリストを信じるようになり、キリスト教がしだいに広まると、残念なことに、まちがった教えも語られるようになりました。　そのために、正しい信仰を捨てる人や、何を信じたらいいのかさえ、わからなくなる人も出るしまつです。　こうした状態を憂えて、ユダはこの手紙を書いたのです。　人々を指導する立場にありながら、かえって、人々の心を惑わすことばを語る者たちの誤りを、遠慮なく指摘し、正しい信仰を守り抜くよう勧めています。

１イエス･キリストに仕えているヤコブの兄弟ユダから､各地のクリスチャンの皆さんへ。あなたがたは、神様に選ばれ、イエス・キリストに守られている人たちです。　２どうか、神様の恵みと平安と愛とが、ますます豊かに与えられますように。
３愛する皆さん。　私は前々から、神様が与えてくださった救いについて、幾つかのことを手紙で書き送りたいと願っていました。　ところが、今、それとは別のことを書き送らなければならなくなったのです。　それは、かつて、神様を信じるすべての者に与えられた真理のことばを守るために、勇敢に戦ってほしいということです。　４こう言うのも、実は、神様を恐れない教師連中が、あなたがたの中に忍び込んで来たからです。　彼らの主張はこうです。　「クリスチャンとなったからには、もう神様のさばきなど、くよくよ考える必要はない。　何でも自由に、やりたいことをやればいい。」　こんな連中は、ずっと昔から、聖書に書かれているとおりの運命をたどるのです。彼らは、私たちのただ一人の支配者であり主である、イエス・キリストに、背を向けてしまったのです。
５私の答えはこうです。　あなたがたには、とっくに、わかりきっていることでしょうが、念のためにくり返します。――主は、イスラエルの全民衆をエジプトから救い出し、そのあとで、主に信頼せず従いもしなかった者を、一人残らず殺してしまわれた、という事実です。　６また、もう一つ、心にとめてほしいことがあります。　それは、かつては汚れなく、きよい存在であったにもかかわらず、自ら堕落し、罪に落ちていった、あの御使いたちのことです。　神様は、そんな御使いを、審判の日まで鎖につなぎ、暗黒の牢獄に閉じ込めてしまわれました。　７それからまた、ソドムとゴモラ、およびその周辺の町々に起こったことも、忘れてはなりません。　この町々は、同性愛など、あらゆる種類の肉欲でいっぱいの、悪徳の町であり、そのため、刑罰の火で焼き滅ぼされたのです。　そしてこのことは、罪人を罰するための地獄が実在することを、後世の人々に知らせる警告となったのです。
８それにもかかわらず､偽教師は臆面もなく､邪悪で不道徳な生活にふけっています。　みだらな行為によって自分の肉体を汚し、上に立てられている権威ある者をあざ笑い、さらに、栄誉を受けた者をさえ、ばかにしているのです。　９御使いとして最高の権威を持つミカエルでさえ､モーセの体について悪魔と言い争った時､あえて､悪魔をののしったり､あざけったりはせず､｢主が､おまえを戒めてくださるように｣と言っただけではありませ

んか。　１０それなのに、あの偽教師たちときたら、自分にもわからないことを、片っぱしからあざけったり、ののしったりしています。　まるで動物のように、したいほうだいのことをして、自分のたましいを、永遠の滅びへと追いやっているのです。
１１災いが､彼らに下りますように。弟殺しのカインと同じ道をたどっているからです。また、バラムと似て、金のためなら、どんなことでも平気でするからです。　彼らはコラのように、神様に従わず、そののろいを受けて死ぬのです。
１２こういう連中が、教会での愛の会食に加われば、大きな汚点を残します。　彼らは、他人のことなどおかまいなしに、大声で笑ったり、ふざけたりしながら、むさぼり食うのです。　まるで、からからに乾ききった大地の上を、一滴の雨も降らせずに通り過ぎる、雲みたいです。　おおいに期待させるだけで、何の役にも立たないのです。　また、収穫の時期になっても、実一つつけない木に似ています。　その状態は、ただの死ではなく、二重の死を意味します。 彼らは、根こそぎ引き抜かれて、焼かれるしかないのですから。
１３彼らがあとに残すものと言えば、海岸に打ち寄せる荒波が残していく、汚ないあぶくのような、恥と不名誉だけです。　彼らは、一見、夜空に輝く星のように見えますが、その行く手には、神様が用意された永遠の暗やみがあるだけです。
１４最初の人アダムとは近い年代に生きたエノクも、こういう連中のことを知っていて、「ごらんなさい。　主が幾百万の聖なる者と共に来られます。　１５主は、全世界の人を自分の前に立たせて、正当な刑罰を宣告されます。　その時、彼らの神様に対する恐るべき反逆行為の数々と、神様に刃向かうことばのいっさいが、明るみに出されるのです」と言っています。　１６このような連中は､いつも不平を言うだけで､決して満足しません。ただ欲望のままに、どんな悪事でも平気で行ない、大口をたたいて、自慢ばかりに明け暮れます。　もし、彼らが少しでも人を敬うとすれば、相手から何かをもらおうという魂胆がある時だけです。
１７愛する皆さん。　主イエス・キリストの使徒たちから教えられたことを、思い出しなさい。　１８つまり､終末の時代には､あざける者たちが現われるはずではありませんか。彼らの生きがいは、思いつくかぎりの悪を行なうことです。　１９彼らはこの世の悪を愛し、人々をあおりたてて議論をしかけ、分裂させます。　彼らの心の中には、聖霊様が住んでおられないのです。
２０しかし、愛する皆さん。　あなたがたは、今のきよい信仰を土台として、自分の生活を、いっそうしっかりと打ち立てなければなりません。　そして、聖霊様の力と励ましを受けて、祈る習慣を身につけなさい。
２１いつも、神様の愛のうちにいなさい。　そうすれば、神様から祝福がいただけます。主イエス･キリストが下さろうとしておられる永遠のいのちを､忍耐強く待ち望みなさい。
２２逆らって議論をしかけてくる人々を、あたたかく迎え、疑う人々に、心から同情しなさい。　２３ある人々を、地獄の火からつかみ出すようにして、救ってやりなさい。　あるいは、親切にして、人々が主を見いだすよう、助けてやりなさい。　ただし、彼らの罪

に引きずられてしまっては、元も子もありません。　罪人である彼らには同情しても、罪そのものは、たとい、粒ほどのものでも憎みなさい。
２４２５ただ一人の神様であられ、私たちを主イエス・キリストによって救ってくださる方に、すべての栄光がありますように。　偉大さと尊厳と、あらゆる力と権威とは、初めから神様のものです。　今も、これから後も、いついつまでも、神様のものです。　神様はまた、あなたがたを、つまずいたり、倒れたりしないように守り、罪のない完全な者とし、永遠の喜びの声をあげて、栄光に輝く神様の前に立てるようにしてくださるのです。
アーメン。
ユダ
▪

この世の終わりに

聖書の最後は、迫害の渦中にあるクリスチャンへの慰めと、将来起こる出来事の予告とでしめくくられています。教会は、今はこの世の権力のもとで、多くの苦しみを味わわされることでしょう。しかし、やがて神様が世界をまったく新しくし、正義をもって、完全に支配なさる時がくるのです。その時を望み見て、どんな時にも絶望することなく、あくまで信仰を貫き、神様に忠実に生きるようにと励ましながら、輝かしい未来の約束を与えて、聖書は終わります。

ヨハネの黙示録（ヨハネの見た幻）
紀元一世紀の後半、クリスチャンは激しい迫害を受けていました。ヨハネも、教会の指導者ということで、地中海のパトモスという島に流されました。　そこで神様が、これから起こることを幻の中で教えてくださったのです。　今は、クリスチャンであるばかりに苦しい目に会わされていても、必ず報われる時が来る、悲しみも苦しみもない新しい世界ができる、と慰めてくださったのでした。　このことを、すべてのクリスチャンに知らせようと書かれたのが、本書です。

一
１この書物は、イエス・キリストについて、すぐにも起ころうとする出来事を書いたものです。　それらは、今までベールにおおわれていましたが、神様のお許しを得て、キリストが神様の召使ヨハネに、幻によって示したのです。　その時、天から遣わされた御使いが、この幻の意味を説き明かしたので、　２ヨハネは、それを一つ残らず書きとめました。すなわち、神様とイエス・キリストのことばと、自分が見聞きした、すべてのことを書きとめたのです。
３この預言のことばを教会で朗読する人と、それを聞いて、その内容に心をとめる人は、主から特別の祝福をいただきます。　この預言が、もうすぐ実現しようとしているからです。
４ヨハネから、
トルコにある七つの教会の、愛する皆さんへ。

今も昔も存在し、やがて来られる神様から、またその王座の前におられる七つの霊から、５さらに、私たちにすべての真理を忠実に示してくださる、イエス・キリストから、恵みと平安とが、あなたがたに注がれますように。　このイエス・キリストは、死人の中から最初に復活された方であり、二度と死ぬことのない方です。　この方は、地上のどの王よりもはるかに偉大で、私たちに変わらぬ愛を注ぎ、罪から解放するために、自分の血を流してくださいました。　６この方は私たちを、神の国の民として集め、父なる神に仕える祭司としてくださいました。 イエス･キリストが永遠にほめたたえられますように。 その支配は永遠に続きますように。　アーメン。
７見なさい。　この方が、雲に乗っておいでになります。　すべての人の目が、特に、この方を突き刺して殺した者たちの目が、この方に注がれるでしょう。　その時、人々はみな、恐れと悲しみのあまり、激しく泣きます。　うそではありません。　アーメン。　そのとおりになりますように。
８今も昔も存在し、やがて来られる全能の主なる神が、こう言われます。　「わたしは、あらゆることの初めであり、終わりである。」
９この手紙を書いているのは、あなたがた同様、主のために苦しんでいる、兄弟ヨハネです。　私もまた、イエス様から忍耐することを教えられました。　そして、私たちは、イエス様の国に入る権利をいただいているのです。
ヨハネの見た幻
私は、神様のことばを宣べ伝え、また、イエス・キリストが成し遂げてくださったことを告げ知らせたために、パトモス島に流されているのです。　１０さて、主の日のことでした。　私が礼拝をしていると、突然、うしろから大きな声が聞こえたのです。　まるでラッパの響きのようで、　１１こう語りかけました。　「わたしは初めであり、終わりである。　これからあなたの目に映ることを、一つ残らず書きとめ、トルコにあるエペソ、スミルナ、ペルガモ、テアテラ、サルデス、フィラデルフィヤ、ラオデキヤの七つの教会に、手紙を送りなさい。」
１２いったいだれだろう、とふり向くと、私のうしろに七つの金の燭台がありました。　１３そして、その燭台の真ん中に、一人の人が立っていました。　その方は「人の子」と呼ばれるイエス様のようであり、長い衣をまとって、胸には金の帯を締めていました。　１４その髪は、羊毛か雪のように真っ白で、目は燃える炎のように、鋭く光っていました。
１５足は、みがきあげられた真鍮のように輝き、声は、海岸に押し寄せる大波のとどろきのようでした。　１６この方は、右手に七つの星をつかみ、口には、切れ味のいい両刃の剣をくわえ、顔は、澄みきった青空の太陽のように輝いていました。
１７１８それを見た時、その足もとに倒れて、私は死んだようになりました。　しかし彼は、私に右手を置いて、こう言われたのです。　「恐れてはいけない。　わたしは初めであり、終わりです。　死んでのち復活し、今は永遠に生きる者となり、死と地獄とのかぎを持っています。　１９いま見たこと、また引き続き示されることを、書きとめなさい。

２０わたしの右手にある七つの星と、七つの金の燭台の意味を教えましょう。　七つの星は七つの教会の指導者たち、七つの燭台は七つの教会を指します。
二
１エペソにある教会の指導者あてに、次のような手紙を送りなさい。
『各教会を巡り、右手で教会の指導者を支えておられる方が、こう言われます。
２「わたしは、あなたの多くの良い行ないと、わたしのための労苦と忍耐とを、ずっと見てきました。　また、教会内の罪に目をつぶらず、使徒だと自称しながら、実はそうでない者のうそを注意深く調べて、見破った事実を知っています。　３あなたはわたしのために、どんな時にも、じっと耐え、決してくじけませんでした。　４しかし、一つだけ非難すべき点があります。　それは、あなたがわたしを、初めのころほど愛していないことです。　５どうしてそうなったのか、胸に手を当てて考え、初めの愛に立ち返って、以前のように励みなさい。　さもないと、わたしは行って、あなたの燭台を、諸教会の中から取り除きます。
６しかし、ほめるところもあります。　あなたが、わたしと同じように、ニコライ派の人々のみだらな行ないを、憎んでいることです。
７聞く耳のある人は、聖霊様の諸教会へのお告げを、よく聞きなさい。　わたしは勝利を得る人に、神様のパラダイスにある、いのちの木の実を食べさせます。」』
８スミルナにある教会の指導者に、次のような手紙を送りなさい。
『この手紙は、初めであり、終わりであり、死んでのち、復活された方からのものです。
９「わたしは、あなたが、主のためにどんなにひどい苦しみと貧しさに耐えてきたかを、知っています。　〔しかし、実際は天の宝を得ているのです。〕　さらに、自分こそユダヤ人〔神様に選ばれた者〕だと主張する人々から、白い眼で見られ、非難されてきたことも知っています。　しかし、あの連中は悪魔の仲間であって、真のユダヤ人ではありません。
１０これから先、出会うことになる苦しみを、少しも恐れてはなりません。　悪魔は、信仰を試そうとして、まもなく、あなたがたのうちの何人かを、牢獄に投げ込むでしょう。そして、あなたがたは十日間、苦しむことになります。　しかし、たとい死に直面するようなことになっても、最後まで、わたしに忠実でありなさい。　そうすれば、いのちの冠〔終わりのない栄光の未来〕をあげましょう。　１１聞く耳のある人は、聖霊様の諸教会へのお告げを、よく聞きなさい。勝利を得る人は、決して第二の死によって危害を受けません。」』
１２ペルガモにある教会の指導者に、次のような手紙を送りなさい。
『この手紙は、切れ味のいい両刃の剣をふるう方からのものです。
１３「わたしは、あなたを取り巻く環境をよく知っています。　そこには憎むべき悪魔の王座があり、悪魔礼拝が盛んです。　それでも、あなたはいつも、わたしに従順でした。わたしの忠実な証人アンテパスが、悪魔の弟子の手にかかって殉教した時も、あなたは、わたしを捨てませんでした。

１４しかしなお、二、三の非難すべき点があります。　教会の中で、バラムの信奉者を、見過ごしにしているではありませんか。　バラムは昔バラクに入れ知恵し、イスラエルの民を性的な罪に巻き込み、偶像礼拝に走らせて、滅びに追いやろうとたくらみました。　１５あなたの教会にも、そのバラムに従う者が巣くっています。
１６心と態度を改めなさい。　さもないと、わたしはすぐにでも行って、口の剣で、彼らと戦うでしょう。
１７聞く耳のある人は、聖霊様の諸教会へのお告げを、よく聞きなさい。　勝利を得る人は、天から下る秘密のマナを食べることができます。　また、めいめいに白い石が与えられます。　その石には、本人以外はだれも知らない、新しい名前が刻まれているのです。」』
１８テアテラにある教会の指導者に、次のような手紙を送りなさい。
『この手紙は、燃える炎のような目と、真鍮のように輝く足を持つ、神の子からのものです。
１９「わたしは、あなたが貧しい人々に親切にし、物資を援助し、めんどうを見てやったことを知っています。　また、あなたの愛と信仰と忍耐とを知っています。　そして、これらの点で、たゆまず成長していることも、認めています。
２０しかしなお、非難すべき点があります。　あのイゼベルという女を放任しているではありませんか。 女預言者だと自称しているあの女は､性的な罪など大した罪ではないと、クリスチャンをそそのかしています。　しかもそう口にするだけでなく、実際にその罪を犯させ、また、偶像への供え物の肉を食べさせようとしているのです。　２１わたしは、その考えと態度を改める機会を与えましたが、あの女は拒みました。　２２さあ、今、わたしのことばに耳を傾けなさい。　この女を、激痛を伴う病気にします。　彼女の不道徳にならう者も全員、罪を悔い改めてわたしのもとへ戻らなければ、同じ目に会います。　２３次に、この女の子供たちをも、打ちのめして殺します。　こうしてすべての教会は、わたしが、人の心と思いの奥深くまで探ることを知るのです。　わたしは一人一人に、それぞれの行ないに応じて報います。
２４テアテラの教会の中で、この誤った教え〔この教えの支持者たちは、これを「深い真理」と呼んでいますが、実際には悪魔の落とし穴です〕に、まだ毒されていない人々については、これ以上、何も問いただすつもりはありません。　２５ただ、わたしが行くまで、いま手にしているものを、しっかり握りしめていなさい。
２６勝利を得る者、すなわち、最後までわたしを喜ばせてくれる者に、諸国民を支配する権威を与えます。　２７父なる神から支配権をいただいたわたしにならって、あなたは、鉄の杖で人々を治めるのです。 彼らは､砕けた陶器のように､粉みじんになるでしょう。
２８また、あなたに明けの明星を与えます。
２９聞く耳のある人は、聖霊様の諸教会へのお告げに、耳を傾けなさい。」』
三
１サルデスにある教会の指導者に、次のような手紙を送りなさい。

『この手紙は、神様の七つの霊と七つの星を持つ方からのものです。
「わたしは、あなたが、生き生きした活動的な教会だという評判とは裏腹に、実際には、死んだ状態にあることを知っています。　２だから目を覚ましなさい。　残された一握りの者たちを力づけなさい。　死の一歩手前まで来ている人たちをです。　あなたの今までの行ないは、どう見ても、神様の前に正しくありません。　３最初に聞いたこと、また、信じたことを思い出しなさい。　それをしっかり守って、もう一度、わたしに心を向けなさい。　さもないと、わたしはどろぼうのように、思いがけない時に、あなたを襲って、罰します。
４しかしなお、サルデスの教会には、この世の汚れに衣を染めていない少数の人々がいます。　その人々は白い衣を着て、わたしと共に歩きます。　その資格があるからです。　５勝利を得る人はみな、白い衣をまといます。　わたしは、その人の名をいのちの書から消し去りはせず、父と御使いの前で、彼らはわたしのものであると、はっきり宣言するでしょう。
６聞く耳のある人は、聖霊様の諸教会へのお告げに、耳を傾けなさい。」』
７フィラデルフィヤにある教会の指導者に、次のような手紙を送りなさい。
『この手紙は、きよく真実な方、ダビデのかぎを持つ方からのものです。　この方が、そのかぎで開くと、だれも閉じることができず、閉じると、だれも開くことができません。
８「わたしは、あなたをよく知っています。　あなたは、決して強くはありませんが、わたしの教えを守ろうと努力し、わたしの名を否定しませんでした。　それで、あなたの前に、だれも閉じることのできない門を、開いておきました。
９とくと、ごらんなさい。　クリスチャンだと自称しながら〔実は、うそをついているのです〕、悪魔に味方する者を、わたしがどんな目に会わせるかを。　あなたの足もとにひれ伏させ、わたしのあなたに対する愛を、わからせてやります。
１０あなたは迫害にもめげず、じっと忍耐して、わたしの教えに従ってきました。　それで、いのちあるすべての人間を試すために、全世界に襲いかかる大きな悩みと試練の時に、わたしもあなたを守ります。　１１見なさい。　わたしはすぐに来ます。　いま手にしているわずかなものを、しっかり握りしめていなさい。　自分の冠をだれにも奪われないためです。
１２わたしは、勝利を得る人を、わたしの神様の神殿の柱とします。　そこは安全で、もはや追い出されたりはしません。　わたしはその人に、神様の名を刻みます。　そして、神様の都、すなわち、天の神様のもとから下って来る、新しいエルサレムの市民とします。　こうして、彼は、わたしの新しい名を刻まれるのです。
１３聞く耳のある人は、聖霊様の諸教会へのお告げに、耳を傾けなさい。」』
１４ラオデキヤにある教会の指導者に、次のような手紙を送りなさい。
『この手紙は、確固として立つ方、忠実で、過去、現在、未来にわたって存在する万物の、真の証人である方、神様に造られたものの根源である方からのものです。

１５「わたしは、あなたをよく知っています。　あなたは冷たくもなく熱くもありません。むしろ、冷たいか熱いかの、どちらかであってほしいのです。　１６しかし、なまぬるいだけなので、わたしは口から吐き出します。
１７あなたは、『私は金持ちだ。　ほしいものは何でも手に入るし、もうこれ以上望むものはない』とうそぶいています。　しかし、そんなあなたが、霊的には、この上なくあわれで、みじめで、貧しくて、盲目で、おまけに裸同然であることに、気づいていないのです。
１８忠告しておきます。　ほんとうの金持ちになるために、火で精錬された純金を、わたしから買いなさい。　また、裸の恥をさらさないために、しみ一つない清潔な白い衣を、わたしから買いなさい。　また、見えるようになるために、わたしから目薬を買いなさい。
１９わたしは愛する者を絶えず訓練し、しかったり、懲らしめたりします。　ですから、もし、あなたが今の冷淡さを捨て、神様に対して熱心な態度をとらなければ、当然、わたしの罰を受けることになります。
２０ごらんなさい。　わたしは戸の外で、しきりにたたいています。　その呼びかけにこたえて戸を開ける人なら、だれとでも、わたしは中に入って、親しく語り合います。　そして、お互いに楽しい時を過ごすのです。　２１勝利を得る人を、わたしといっしょに王座につかせましょう。　ちょうど、わたしが勝利を得た時、父から、王座に共に座ることを許されたように。　２２聞く耳のある人は、聖霊様の諸教会へのお告げに、耳を傾けなさい。」』」
四
開かれた門
１それから、私が見ていると、天にある開かれた門が見えました。　すると、聞き覚えのある、あの大きなラッパの響きみたいな声がして、こう語りかけました。　「さあ、ここに上って来なさい。　将来、必ず起こることを見せてあげましょう。」
２あっという間にわたしは、聖霊様によって天に引き上げられました。　そこで目にしたものは、王座とそこに座っておられる方でしたが、私はその栄光に圧倒されてしまいました。　３その方から、ダイヤモンドやルビーのようにきらめく光が、輝きわたっていました。　またエメラルドのように光る虹が、王座を取り巻いていました。　４王座の回りには二十四の座があり、二十四人の長老が座っていました。　全員が白い衣をまとい、金の冠をかぶっていました。　５王座からいなずまと雷鳴が鳴りわたり、その中に、声も聞こえました。　王座の正面には、神様の七つの霊を意味する七つの明かりが、燃えさかっていました。　６その前に、きらきらと水晶のような海が広がり、王座の四方には、前後に目のついている生き物が四つ、立っていました。　７第一の生き物はライオンの姿で、第二の生き物は雄牛のように見えました。　第三の生き物の顔は人間のようでした。　第四の生き物は、大空に翼を広げたわしの姿をしていました。　８この四つの生き物は、それぞれ六つの翼を持ち、その翼にも、おびただしい目がついていました。　そして、昼も夜も、絶えずこう叫び続けているのです。「聖なる、聖なる、聖なる全能の神、主よ。　昔も、

今も存在し、やがて来られる方。」
９これらの生き物が、王座にざして永遠に生きておられる方に、栄光と誉れと感謝とをささげた時、　１０二十四人の長老はこの方の前にひれ伏して礼拝し、冠を王座の前に投げ出して賛美しました。１１「おお主よ。　あなたは栄光と誉れと力とを受けるにふさわしい方です。　すべてのものをお望みどおりに造り、存在させておられるのですから。」
五
小羊と巻物
１また私は、王座にざす方の右手に、巻物が握られているのを見ました。　その巻物には、表にも裏にも文字があり、七つの封印で閉じてありました。　２一人の力ある神様の御使いが、大きな声で、「この巻物の封印を破り、それを開く資格のある方は、どなたですか」と尋ねていました。　３しかし、天にも地にも死人の中にも、だれ一人、その巻物を開いて読むことのできる者はいませんでした。
４どこを捜しても、巻物を開くのにふさわしい人が見あたらないので、私は、がっかりして泣き出してしまいました。　巻物の内容を、教えてもらえないからです。
５ところが、二十四人の長老の一人が、慰めてくれたのです。「泣くのはやめなさい。　ごらんなさい。　ユダ族から出たライオン、ダビデの根である方がおられます。　その方が勝利を得て、あの巻物を開き、七つの封印を破る資格を得られたのです。」
６それから私は、二十四人の長老と王座と四つの生き物との間に、小羊が立っているのを見ました。　小羊には、かつて直接の死因となった傷跡がありました。　この方は、七つの角と七つの目を持っていました。 その目は、全世界に遣わされる神様の七つの霊です。
７小羊は前に進み出て、王座にざす方の右手から、巻物を受け取りました。８その時、四つの生き物と二十四人の長老は、小羊の前にひれ伏したのです。　彼らはそれぞれ、ハープと香のたちこめる金の鉢とを手にしていました。　この香は、神様の民の祈りを意味します。
９彼らは新しい歌を、高らかに歌っていました。　「あなたこそ、巻物を受け取って封印を破り、それを開くのにふさわしい方。　あなたは殺されましたが、その血によって、あらゆる民族の中から、神様のために、人々を買い取ってくださいました。　１０そして、その人々を神の国に集め、神様の祭司、地上の支配者とされました。」
１１それからまた、私は幻によって、王座と生き物と長老たちとの回りで歌う、幾千万もの御使いの声を聞きました。　１２彼らは大声で、「小羊こそ、ふさわしい方。　殺された小羊こそ、力と、富と、知恵と、強さと、誉れと、栄光と、祝福とを受けるにふさわしい方」と歌っていました。
１３それからまた、私は、天地のすべての者、地下や海中に眠る死者全員の叫び声を聞きました。　「祝福と誉れと栄光と力とが、王座にざす方と小羊とに、永遠にありますように。」　１４すると、四つの生き物は「アーメン」と言い、二十四人の長老はひれ伏して礼拝しました。

六
馬の幻
１さらに見ていると、小羊は第一の封印を破って、巻物を開き始めました。　すると、四つの生き物の一つが、雷のようにとどろく声で「来なさい」と呼びました。
２目をこらしていると、一頭の白い馬が現われました。　馬上の人は、弓を持ち、冠をかぶっていました。　そして、次々と勝利を収めながら、なお勝利を求めて、出て行きました。
３それから、小羊は第二の封印を破り、巻物を開きました。　すると、第二の生き物が「来なさい」と呼ぶのが聞こえました。
４次に現われたのは、赤い馬です。　その馬上の人には、長い剣と、平和を奪って地上に混乱を招く権威が与えられました。　こうして、戦争と殺害が各地で勃発しました。
５小羊が第三の封印を破った時、第三の生き物が「来なさい」と呼ぶのを聞きました。　すると、黒い馬が現われました。　その馬にまたがる人は、秤を手にしていました。　６すると、四つの生き物の間から、こんな声が聞こえました。　「パン一個も、大麦一キロも六千円。　オリーブ油もぶどう酒もない。」
７第四の封印が破られた時、第四の生き物が「来なさい」と呼ぶのを聞きました。　８今度は、青ざめた馬が姿を現わしました。　その馬にまたがる人の名は死でした。　そのあとに、地獄という名の人の乗っている馬が続きました。　彼らには、戦争とききんと伝染病と獣とによって、地上の人々の四分の一を殺す権威が与えられました。
９小羊が第五の封印を破った時、私は祭壇を見ました。　そしてその祭壇の下に、神様のことばを伝え、自分たちの証言に忠実であったために殉教した人全員の、たましいが見えました。　１０彼らは大声で、主に、こう叫んでいました。　「おお、きよく、真実で、絶対者なる主よ。　地上の人々のひどい仕打ちを、さばいては、くださらないのですか。いったいいつ、私たちの血の復讐をしてくださるのですか。」　１１すると、その一人一人に白い衣が与えられ、こう言い渡されました。　「もうしばらく休むがよい。　まだ、お前たち同様、殉教する者が、イエスに仕える同胞の中から出るからだ。」
１２小羊が第六の封印を破るのを見ていると、突然、大地震が起こりました。　太陽は黒布でおおわれたように暗くなり、月は血のように赤く変わりました。　１３そして、星が地上に落ちたのです。　まるで、いちじくの青い実が、大風にバラバラと振り落とされるようでした。　１４星をちりばめていた天は、巻物が巻き取られるように消え去り、すべての山や島は、激しい揺れのために、あちこちへその場所を変えました。　１５地上の王、指導者、金持ち、将軍、身分の高い人も低い人も、奴隷も自由人も、人々はこぞって、ほら穴や山の岩陰に身を隠し、１６山々に向かって、大声で叫びました。「私たちの上に倒れかかれ！　王座にざしておられる方の顔から、小羊の怒りから、私たちを隠してくれ。　１７神様と小羊の怒りの日がついに来たのだ。　だれがそれに耐えられよう。」
七

神様に選ばれた人
１それから私は、四人の御使いが地の四すみに立っているのを見ました。　彼らは、四方からの風をしっかりと押さえていたので、木の葉一枚そよがず、海面は鏡のようになめらかになりました。　２次に、もう一人の御使いが、生ける神の大きな印を持って、東から来るのが見えました。　彼は、地と海とを破壊する権限を与えられた四人の御使いに、大声でこう叫びました。　３「お待ちなさい。　私たちが、神様に仕える人々の額に神様のしるしをつけ終わるまでは、手出しをしてはなりません。　地にも海にも木にも、害を加えてはいけません。」
４－８それから私が、「いったい、何人の人に、神様のしるしはつけられたのでしょうか」と尋ねると、「十四万四千人」という答えが返ってきました。　その人々は、イスラエルの全十二部族から選ばれていました。　内訳は次のとおりです。
ユダの部族一万二千人
ルベンの部族一万二千人
ガドの部族一万二千人
アセルの部族一万二千人
ナフタリの部族一万二千人
マナセの部族一万二千人
シメオンの部族一万二千人
レビの部族一万二千人
イッサカルの部族一万二千人
ゼブルンの部族一万二千人
ヨセフの部族一万二千人
ベニヤミンの部族一万二千人
９その後、私の目には、おびただしい群衆が映りました。　あらゆる国民、民族、言語の人々で、とても数えきれたものではありません。　彼らは白い衣をまとい、しゅろの枝を手にして、王座と小羊との前に立っていました。　１０そして、声を張り上げ、「救いは、王座にざしておられる神様と、小羊とから来ます」と叫んでいました。
１１御使いはみな、王座と長老、それに四つの生き物の回りに集まり、ひれ伏して神様を礼拝してから、　１２こう言いました。「アーメン。　祝福と、栄光と、知恵と、感謝と、誉れと、力と、勢いとが、永遠に神様にありますように。　アーメン。」
１３その時、二十四人の長老の一人が、私に尋ねました。　「この白い衣の人たちがだれだか、わかりますか。　どこから来たか知っていますか。」
１４「わかりません。　どうか教えてください」と答えると、こんな答えが返ってきました。　「あの人たちは、激しい迫害をくぐり抜け、小羊の血でその衣を洗って、白くした人たちです。　１５だから、こうして神様の王座の前にいて、昼も夜も、神殿で奉仕しているのです。　そして、王座にざしておられる方によって、安全にかくまわれています。

１６もう二度と飢えることがなく、また渇くこともありません。　彼らは灼熱の太陽からも、完全に守られているのです。　１７それは、王座の正面に立たれる小羊が、羊飼いとして彼らを養い、いのちの水の泉に導いてくださるからです。　また神様は、彼らの目から、あふれる涙を、すっかり、ぬぐい取ってくださるのです。」
八
１小羊が第七の封印を破った時、天に、およそ半時間ほどの静けさがありました。　２それから私は、神様の前に立つ七人の御使いを見ました。　その御使いに七つのラッパが与えられました。
襲いかかる災い
３すると、金の香炉を手にした、もう一人の御使いが現われて、祭壇のそばに立ちました。彼に多量の香が与えられましたが、それは、クリスチャンの祈りと共に、王座の前にある金の祭壇にささげるためのものでした。　４香のかおりは、クリスチャンの祈りと混じり合って、祭壇から、神様の前に立ちのぼりました。
５それから御使いは、その香炉に、祭壇から取った火をいっぱいに盛って、それを地に投げつけました。　そのとたん、雷鳴がとどろき、いなずまが走り、激しい地震が起こったのです。
６すぐさま、七つのラッパを手にした七人の御使いが、ラッパを口に当てました。
７第一の御使いがラッパを吹き鳴らしました。　すると、血の混じった雹と火が、すごい勢いで地上に突き刺さりました。　そのため、地上の三分の一が火に包まれ、木の三分の一と、青草がすべて灰になりました。
８９第二の御使いがラッパを吹き鳴らしました。　すると、炎に包まれた巨大な山のようなものが、海に投げ込まれました。　そのため、船の三分の一が破壊され、また、海の三分の一が血のように赤く染まって、魚の三分の一が死にました。
１０第三の御使いがラッパを吹き鳴らしました。　すると、燃えさかるたいまつのような大きな星が、天から落ちて来て、川と泉の三分の一に、ばらまかれました。　１１この星は「苦よもぎ」と呼ばれました。　川の水の三分の一が苦よもぎのように苦くなり、その水を飲んだ人が大ぜい死んだからです。
１２第四の御使いがラッパを吹き鳴らしました。　するとたちまち、太陽の三分の一と、月の三分の一と、星の三分の一が、打たれて暗くなりました。　そのため、昼間は三分の二の明るさしかなく、夜もいっそう暗くなりました。　１３また見ていると、一羽のわしが大空高く舞いながら、鋭い叫び声をあげていました。「ああ、災いが来る。　災いが地上の人々に襲いかかる。　あと三人の御使いがラッパを吹き鳴らせば、恐るべきことが起こるのだ。」
九
底なしの穴
１第五の御使いがラッパを吹き鳴らしました。 すると、私は、天から地上に落ちて来る、

一人の人を見ました。　その人には、底なしの穴を開くかぎが与えられていました。　２彼が底なしの穴を開くと、大きな炉から立ちのぼるような煙が、吹き上げました。　そのため、太陽も空も、黒ずんでしまいました。
３すると、煙の中からいなごが飛び出し、地上を駆け巡りました。　そのいなごには、さそりのように人を刺す力が与えられていました。　４いなごは、草や木には見向きもしないで、ただ、額に神様のしるしのない人々にだけ害を加えよと、命令されていたのです。
５しかし、人間を殺すことは禁じられ、ただ、さそりに刺されたと同じ、激しい痛みで苦しめることが、五か月間だけ許されていました。　６その間、人々は苦しさのあまり自殺をはかりますが、どうしても死にきれません。　どんなに死にたいと願っても、死は逃げて行くのです。
７このいなごは、まるで、戦闘の構えが整った馬のような姿をしていました。　頭には金の冠をかぶり、顔は人間そっくりでした。　８毛は女の髪のように長く、鋭いライオンのような歯をむき出していました。　９また、鉄製の胸当てのようなものを着け、その羽音は、戦場になだれ込む戦車隊の響きを思わせました。　１０また、さそりのように鋭く刺す尾には、五か月のあいだ人々を激痛で苦しめる力がありました。　１１彼らの王は、底なしの穴の支配者で、その名をヘブル語でアバドン（破壊）、ギリシヤ語でアポリュオン（破壊者）と呼ばれていました。
１２第一の災いは過ぎ去りました。　しかし、あと二つの災いが待っているのです。
四人の悪霊
１３第六の御使いがラッパを吹き鳴らしました。　すると、神様の王座の前にある金の祭壇の四すみから、声が響いてきました。　１４その声が、第六の御使いに命じました。「大ユーフラテス川のほとりにつながれている、四人の強い悪霊を解き放ちなさい。」　１５この悪霊は、定められた年、月、日、時が来るまで、つながれていたのでした。　そして今や、人類の三分の一を殺すため、解き放たれたのです。　１６彼らは、総勢二億もの大軍団を率いていました。　私はその数を聞きました。
１７１８私は幻の中で、彼らが馬に乗って出て来る有様を見ました。　兵士たちの胸当ては、火のような赤色や、空色や、黄色でした。　馬の頭は、ライオンの頭そっくりで、その口から吐き出される煙と火と燃える硫黄とで、人類の三分の一は殺されてしまいました。
１９人間を殺す武器は、その口だけでなく、尾にもありました。　尾は蛇の頭に似ており、それで打たれると、人間は致命傷を負うのです。
２０しかし、これらの災害にも生き残った人々は、それでもなお、神様を礼拝しようとはしませんでした。　相変わらず悪霊礼拝を続け、金、銀、銅、石、木で作られた偶像を捨てませんでした。　これらの偶像は、見ることも、聞くことも、歩くこともできないものです。　２１また彼らは、殺人、魔術、不道徳、盗みに対する考えと態度を、改めようとはしませんでした。
一〇

秘密の計画
１それから、もう一人の強い御使いが、雲に包まれ、天から下って来ました。　その頭上には虹がかかり、顔は太陽のように輝き、足は火のように光っていました。　２彼は開かれた小さな巻物を持っていました。　そして、右足を海上に、左足を陸上に置き、　３大声で叫びました。　それはライオンのほえる声そっくりでした。　すると、答えるかのように、七つの雷が私の耳をつんざいたのです。
４私は、雷のことばを書きとめようとしましたが、天からの声に、押しとどめられました。「書きとめてはいけない。　公表すべきものではないのだから。」
５それから、海と陸地にまたがる強い御使いは、右手を高く天にさしのべ、　６天とその中のすべてのもの、地とそれに満ちるすべてのもの、海とその中に住むすべてのものを造られた、永遠に生きておられる神様を指して誓いました。　「もうこれ以上、延期されません。　７いよいよ、第七の御使いがラッパを吹き鳴らす時、神様に仕える預言者に告げ知らせてからこのかた、ずっと秘密にされていた神様の特別の計画が、ついに実行に移されるのです。」
８すると、再び天からの声が、こう語りかけました。「さあ行って、海と陸地にまたがる強い御使いから、開かれた巻物を受け取りなさい。」
９そこで私は、その御使いに近寄って、「巻物をいただきたいのです」と頼みました。　すると彼は、「よろしい。　さあ、この巻物を取って食べなさい。　初めは蜜のように甘いのですが、飲み下すと、腹の中で苦くなります」と答えました。　１０そこで私は、巻物を受け取って食べました。　すると言われたとおり、口の中では甘かったのに、飲み下すと苦くなり、腹が痛くなりました。
１１すると、彼はこう言いました。　「あなたは、多くの人々、国民、民族、王について、もっと預言しなければなりません。」
一一
預言者殺害
１そして私は、杖のような物差しを手渡されたのです。　それで神様の神殿と祭壇のある内庭を測り、また、そこで礼拝している人の数を調べるように、と命令されました。　２さらに、こう注意されました。　「神殿の外庭は測る必要はありません。　そこは、外国人に任せられるからです。　彼らは四十二か月の間、この聖なる都を踏みにじって荒らします。　３それからわたしは、二人の証人を任命し、特別な力を授けて、荒布を着たまま、千二百六十日間、預言させます。」
４この二人の預言者とは、全地の神様の前にある、二本のオリーブの木、また二つの燭台のことです。　５もし彼らに害を加えようとする者があれば、彼らの口から吹き出した火で、焼き滅ぼされてしまいます。
６彼らは、その三年半の預言のあいだ中、大空を閉じて雨を降らせない力を与えられます。また、川や海を血に変えたり、思いのままに何度でも、あらゆる災害を地上に下す力も持

っています。
７しかし、三年半にわたる証言の期間が終わると、底なしの穴から出て来る独裁者の挑戦を受け、殺されることになります。　８９その死体は、三日半、都エルサレムの大通りにさらしものにされます。　〔この都は、あのいまわしい「ソドム」や「エジプト」と、並び称される所です。〕 またここは、主が十字架につけられて殺された所でもあります。 さて、彼らの死体を葬る人など一人も出ず、諸国からエルサレムを訪れた人々が、そのむくろに群がって見物します。　１０彼らが殺されたことで、世界中が喜び、その日を記念して、プレゼントの交換や、パーティーが行なわれるでしょう。　なぜなら、この二人の預言者によって、非常に痛めつけられたからです。
１１ところが、どうでしょう。　三日半たって、神様からのいのちの霊が、その二つの死体に入ると、彼らは立ち上がるのです。 それを見て、すべての人が恐怖におののきます。
１２その時、天から「のぼって来なさい」という大きな声が響くのです。　すると二人の預言者は、敵の目の前で雲に包まれ、天にのぼって行きました。
１３ちょうどその時刻に、恐ろしい地震が起こって、都の十分の一の建物がこわれ、死者は、七千人にのぼります。　生き残った人も、恐怖に打ちひしがれて、天の神様をあがめるようになるのです。
１４第二の災いが過ぎ去りました。　しかし、第三の災いが待ちかまえています。
１５第七の御使いがラッパを吹き鳴らすと、天から大きな声が響きました。　「世界はすべて、主とキリスト様の手に渡った。　主は永遠に支配者である。」
１６すると、神様の前の席にいた二十四人の長老が、地にひれ伏して礼拝し、声をそろえて、神様を賛美しました。　１７「今も、昔も存在される全能の神、主に、心から感謝します。　あなたが、偉大な力を発揮して、世界を支配する王となられたからです。　１８諸国の民はあなたに怒りを燃やしましたが、今度は、あなたの怒りが下される番です。 今や、地を滅ぼす原因となった人々が、滅ぼされる時が来たのです。　死人がさばかれ、あなたに忠実に仕えた者が報いを受ける時です。　預言者も、一般の人々も、すべてあなたの名をほめたたえる者は、小さい者も大きい者も、あなたから報いを受けるのです。」
１９その時、天にある神様の神殿が開け放たれ、中に契約の箱が見えました。　いなずまが走り、雷鳴がとどろき、大粒の雹が降って、全世界は大地震で揺れ動きました。
▪
一二
女とその子
１また、やがて何かが起こることを暗示する、大きなしるしが天に描き出されました。 一人の女が太陽をまとい、月を踏みつけ、十二の星の冠をかぶっている姿が見えました。 ２この女は妊娠していましたが、出産を間近に控え、陣痛の苦しみに、大声でうめいていました。
３すると、突然、巨大な赤い竜が現われました。　七つの頭と十本の角を持ち、七つの冠

をかぶっていました。　４そして、しっぽで、天の星の三分の一を払い落とし、地上にばらまきました。　また、子供を産もうとしている女の前に立ちはだかり、生まれおちた子を、すぐに食べようと、待ちかまえていました。　５女は男の子を産みました。　将来、その子は強大な権力を握り、すべての国の王になると約束されていました。　その子は神様のそばの王座へ引き上げられ、６女は荒野に逃げのびました。　そこには、神様の用意された場所があり、彼女は千二百六十日の間、かくまわれたのです。
７やがて、天で戦争が始まりました。　ミカエルと部下の御使いたちは、竜とその手下の堕落した御使いたち相手に戦いました。　８とうとう竜は敗れ、天から追放されることになりました。　９こうして、この巨大な竜、悪魔とかサタンとか呼ばれ、全世界をだまし続けてきた、古い大蛇は、手下もろとも、地上に投げ落とされてしまったのです。
１０そのとき私は、天のすみずみにとどろき渡る、大声を聞きました。　「ついに時が来た。　神様の救いと力と支配と、キリスト様の権威とが、完全に現わされる時が来た。　クリスチャンを、昼となく夜となく、神様の前で非難してきた者が、地上に投げ落とされたから。　１１クリスチャンは、小羊の血と自らの証言によって、打ち勝った。　いのちを惜しまず、小羊のために投げ出したのである。　１２天よ、喜べ。　天に住む者よ、喜べ。　しかし、地上の人々には災いがのぞむ。　悪魔が、自分の時の残り少ないことを知って、怒りに燃え、あなたがたのところに下って行ったからだ。」
１３竜は、自分が地上に投げ落とされたことに気づくと、男の子を産んだ女を追いかけました。　１４しかし女は、大わしのような翼を二つ与えられ、荒野へ飛んで行きました。　そこには、彼女のために場所が用意されており、そこで三年半の間、竜である大蛇を避けて、安全に暮らすことができるのです。
１５ところが、大蛇は水を洪水のように吐き出し、女を殺そうと迫りました。　１６しかし、大地は口を大きく開けて水を飲み干し、危機一髪で女を助けたのです。　１７怒り狂った竜は、今度は女の子孫の生存者、すなわち神様のおきてを守り、自分はイエス様に属する者だと、はっきり告白した者たちに、攻撃のほこ先を向けました。　１８そして、海辺の砂の上で、待ちかまえていました。
一三
竜の奇蹟
１私は幻の中で、今度は海の中から、一匹の不思議な獣がはい上がって来るのを見ました。　その獣には七つの頭と十本の角があり、角には十の冠がついています。　そして、それぞれの頭には、神様を汚し、あざける名前が書いてありました。　２その姿はひょうに似ていましたが、足は熊、口はライオンのようでした。　竜はこの獣に、自分の力と地位と大きな権威とを授けました。
３私は、獣の七つの頭のうちの一つが、回復の見込みがないほど傷ついているのに気がつきました。　ところが、その致命傷が治ったではありませんか。　すると、世界中の人が、この奇蹟に驚き、獣に従うようになったのです。　４そして、その獣を礼拝するばかりか、

そんな不思議な力を授けた竜をも拝み始めました。 彼らは大声で、「これほど偉大な方を見たことがない。 この方にたち打ちできる者などいないだろう」と、喝采を送りました。
５それから、竜は獣に、主をののしるようにけしかけ、四十二か月間、地上を思うままに支配する権威を与えました。 ６そこで獣は、そのあいだ中、神様の名と神殿、および天に住むすべての人を、ののしり続けました。 ７竜はまた、獣に、クリスチャンを向こうに回して打ち勝つ力を与えました。 さらに、世界のあらゆる人々を支配する権威も授けました。 ８殺された小羊のいのちの書に、世の初めから名前が書き込まれていない人々は、こぞって、この悪い獣を礼拝しました。
９聞く耳のある人は、よく聞きなさい。 １０クリスチャンの中で、投獄される運命にある人は、逮捕され、連行されるでしょう。 また、死ぬように定められている人は、殺されます。 しかし何があろうと、あわてではいけません。 こんな時こそ、あなたがたの忍耐と信仰が、試されるからです。
１１さて、私の目に、もう一匹、奇怪な獣が地からのぼって来る姿が映りました。 小羊のように二本の小さな角をつけていましたが、その声は、竜のようにすごみを帯びていました。 １２この獣は、あの致命傷が治った獣の権威をそっくり行使して、全世界の人に、むりやり、その獣を礼拝させました。 １３また、多くの人の目の前で、燃える火を天から降らせるといった不思議な奇蹟を行ない、あっと言わせたりしました。 １４こうして、地上のすべての人々をだましたのです。 このような不思議なわざができたのは、最初の獣のうしろだてがあったからです。 それでこの獣は、全世界の人々に、致命傷を負いながらも生き返った、最初の獣の大きな像を作れ、と命令しました。 １５出来上がった像に、この獣が息を吹き込むと、像は、しゃべることさえ、できるようになりました。 するとその像は、自分を拝まない者は一人残らず殺してしまえ、と命令しました。
１６また獣は、大きい者にも小さい者にも、金持ちにも貧乏人にも、奴隷にも自由人にも、片っぱしから右手か額に、いれずみを彫らせました。 １７つまり、獣の名か、あるいは、その名を意味する数字を彫らせ、そのマークがなければ、仕事につくことも、店で買物をすることも、できないようにしたのです。 １８これは、細心の注意をはらって解くべきなぞです。 この数字の意味を解ける人は、解いてごらんなさい。 獣の名前の文字を数字になおすと、六百六十六になるのです。
一四
新しい歌
１それから私は、エルサレムのシオンの山の頂に立っている、小羊の姿を見ました。 また、そのそばに、額に小羊と小羊の父の名とが刻まれている、十四万四千人がいるのを見たのです。 ２そのとき私は、滝のとどろきか激しい雷鳴のような、天からの音を耳にしました。 ハープに合わせて歌う大合唱でした。
３それは、十四万四千人の大合唱であり、彼らは神様の王座と、四つの生き物および二十四人の長老の前で、今まで聞いたこともない、すばらしい新しい歌をうたいました。 地

上から救い出された、この十四万四千人を除いて、だれも、その合唱に加われませんでした。４彼らは童貞で、汚れを知らず、小羊のあとを、どこまでもついて行くのです。　神様と小羊とにささげるきよい供え物として､地上の人々の中から買い取られた者なのです。５彼らは、非難されるような偽りを口にしません。　少しも、とがめられない人々なのです。
６また私は、もう一人の御使いが天を飛ぶ姿を見ました。　それは､地上のあらゆる民族、部族、国語の人々に、永遠の、すばらしい知らせを運ぶところでした。
７彼は大声で叫びました。　「神様を恐れ、その偉大さをほめたたえなさい。　神様が裁判官として、審判の座に着かれる時が来たのだ。　天と、地と、海と、その源を造られた方を礼拝しなさい。」
８次に、もう一人の御使いが天を飛んで来て、こう言いました。｢大いなる都、バビロンが倒れた。　世界中の人々を惑わして、不純な行為と罪とのぶどう酒を飲ませた報いだ。」
９続いて第三の御使いが飛んで来て、大声で叫びました。｢海から上がって来た獣と､その像を拝み、額か手にいれずみを彫った者よ。　１０あなたがたは一人残らず、神様の怒りの杯にあふれるぶどう酒を、飲まなければならない。　それも､水で割らないものを。　そして、聖なる御使いと小羊との前で、火と、燃える硫黄とで苦しめられるのだ。　１１その苦しみの煙は、昼も夜も、ひと息入れるひまもなく永遠に立ちのぼる。　獣とその像とを拝み､獣の名のいれずみをしたからだ。　１２このことによって励まされ､神様の民が、襲いかかるどんな試みや迫害にも、耐えるように。　彼らは、最後までしっかりと神様の戒めを守り、イエス様に信頼するクリスチャンだから。」
１３また私は､頭上で､次のように語る天からの声を聞きました。｢さあ､書きとめなさい。主のために殉教した人々が、その報酬を受ける時が、ついに来たのです。　聖霊様は言われます。『そのとおり。　彼らには十分な祝福が注がれる。　今こそ、いっさいの労苦と試みから解放されて休む時なのだ。　その良い行ないが、彼らといっしょに天まで立ちのぼるから。』」　１４その時、急にあたりの様子が変わって、白い雲がわき上がり、その雲に乗ったお方が見えました。イエス様のようでした。　その方は「人の子」と呼ばれ、純金の冠をかぶり、よく切れるかまを手にしていました。
さばきの時は来た！
１５そこへ、もう一人の御使いが神殿から現われ、その方に叫びました。　「どうぞ、かまで刈り取りをお始めください。　地上の穀物は実って、刈り入れを待っています。」　１６そこで、雲に乗っておられる方が、かまを入れ始めると、刈り取られたものは一個所に集められました。　１７そのあと、もう一人の御使いが天の神殿から出て来ました。　彼もまた、鋭いかまを持っていました。
１８同時に、火で世界を滅ぼす権威を授かっている御使いが現われて、かまを持った御使いに、大声で叫びました。　「さあ、そのかまで、地上のぶどう畑から実を刈り集めなさい。　もう十分に熟して、さばかれる時を待っている。」　１９そこで御使いは、言われた

とおりにかまを入れ、ぶどうを刈り集めて、神様の怒りの大きな酒ぶねに投げ込みました。
２０酒ぶねの中のぶどうは、都の郊外で踏まれました。　すると、酒ぶねからあふれ出た血は、三百二十キロもの流れになり、その深さは、馬のくつわに届くほどでした。
一五
モーセと小羊の歌
１また私は、天に、これからの出来事を暗示する、もう一つの巨大なしるしを見ました。最後の七つの災害を地上に下す任務が、七人の御使いに与えられたのです。　こうして、ついに神様の怒りが頂点に達しました。
２目の前に、火とガラスの海のようなものが広がっていました。そのほとりには、あの悪い獣とその像、またその数字のいれずみとに打ち勝った、すべての人が立っていました。彼らはみな神様のハープを手にして、　３４神様に仕えたモーセの歌と小羊の歌とをうたっていました。
「全能の神、主よ。
目を見張るべきものは、
あなたの偉大なみわざです。
世々生きておられる永遠の王よ。
ただ、あなたの道だけが
正しく真実なのです。
ああ、主よ。
あなたを恐れず、
その名をほめたたえない者は、一人もおりません。
ただ、あなただけがきよいお方です。
すべての国々の民は来て、
あなたを礼拝します。
あなたの正しさが、
明らかにされたからです。」
５それから、さらに見ていると、天にある神殿の聖所が大きく開かれました。
６七つの災害を地上に下すよう任命された七人の御使いが、その聖所から姿を現わしました。　彼らは、しみも傷もない、真っ白な亜麻布の衣服をまとい、胸には金の帯を締めていました。　７それから、四つの生き物の一つが、永遠に生きておられる神様の、激しい怒りで満ちた金の鉢を、七人の御使いに、一つずつ手渡しました。　８聖所には、神様の栄光と力とから立ちのぼる煙が一面に漂い、七人の御使いが七つの災害を下し終えるまで、だれも、そこに入ることが許されませんでした。
一六
七人の御使い
１また私は、神殿から大きな声が、七人の御使いに呼びかけるのを聞きました。　「さあ、

出かけて行って、神様の怒りで満ちた七つの鉢を、地上にぶちまけなさい。」
２そこで、第一の御使いが神殿から出て行き、鉢を地上にぶちまけました。　すると、獣のいれずみをして、その像を拝む者全員に、恐ろしい悪性のはれものができました。
３第二の御使いが鉢を海にぶちまけると、海は死人の血のようになり、海中のすべての生物が死に絶えました。
４第三の御使いは、鉢を川と泉にぶちまけました。　すると、水はたちまち血に変わりました。　５私は、水を支配している御使いのことばを聞きました。　「今も昔も存在される聖なる方。　あなたの、このようなさばきは、ほんとうに正しいものです。　６あなたのきよい民や預言者は、殉教を遂げ、この地上に血を流しました。　今度はあなたが、彼らを殺した者たちの血をしたたらせる番です。　これは、当然の報いなのです。」
７また私は、祭壇の御使いの、こんな声を聞きました。　「全能の神、主よ。　あなたのさばきは正しく、真実です。」
８次に、第四の御使いが、鉢を太陽にぶちまけました。　すると、太陽は、すべての人を火で焼く力を得ました。　９人々は、その激しい炎熱に焼かれながらも、なおその心や態度を改めて、神様の栄光を恐れようとはせず、かえって、災害を与えた神様の名をのろいました。
１０それから、第五の御使いは、海からはい上がった獣の王座に鉢をぶちまけました。　すると、獣の国は暗やみでおおわれ、その民は苦しさのあまり、舌をかみ切って自殺をはかりました。　１１そして、苦痛とはれものとのために、天の神様をのろいましたが、自分の悪い行ないを悔い改める気は、さらさらありませんでした。
１２第六の御使いは、鉢を大ユーフラテス川にぶちまけました。　すると、川の水がすっかり干上がり、東方の王がいつでも軍隊を率いて、西方に攻め入る道ができました。　１３また私は、竜と獣と偽預言者の口から、かえるに似た三つの悪霊が飛び出すのを見ました。　１４この奇蹟を行なう力を持った悪霊たちは、全世界の支配者に相談をもちかけました。　迫っている全能の神様の恐ろしい審判の日に備えて、一丸となって主と戦おう、とけしかけるためです。
１５「用心していなさい。　わたしはどろぼうのように、思いがけない時に来ます。　目を覚まして待っている人は幸いです。　そのような人は、着物をきちんと着ているので、裸で外を歩くような恥はかきません。」
１６こうして彼らは、ヘブル語でハルマゲドン〔メギドの山〕と呼ばれる場所の近くに、世界の全軍隊を結集させました。
１７次に、第七の御使いが、鉢を空中にぶちまけました。　すると、「すべてが終わった」という大きな声が、天の神殿の王座から響き渡りました。　１８すると、雷鳴がとどろき、いなずまが走り、史上最大の大地震が発生しました。　１９大いなる都「バビロン」は三つに裂け、世界各地の都市もすべて破壊されて、瓦礫の山と化しました。　「バビロン」の罪を、神様は一つ残らずご存じであり、そのために、「バビロン」は神様の激しい怒りの

ぶどう酒のあふれる杯を、最後の一滴まで飲み干す罰を受けたのです。　２０島々は消え去り、山々は平地に変わりました。　２１また、なんと三十五キロもの重さの雹が降って、多くの被害が出、人々は、この恐ろしい雹のことで神様をのろいました。
一七
悪名高い女
１災害をぶちまけた七人の御使いの一人が、私に近づき、こう話しかけました。　「ついて来なさい。　地の大水の上に座っている悪名高い大淫婦がどんな目に会うか、見せましょう。　２世の王たちは、この女とみだらな関係を結び、世界中の人々が、この女の不正のぶどう酒に酔いしれました。」
３そして御使いは、私を幻の中で荒野へ連れて行きました。　そこには、赤い獣にまたがる一人の女の姿がありました。　その獣には七つの頭と十本の角があり、体中に、神様を冒涜することばが書き込まれていました。　４女は紫と赤の服をまとい、金や宝石や真珠の、きらびやかな飾りを身につけていました。　また、みだらな行為であふれた、金の杯を抱えていました。
５そして、額には「世界中のみだらな女と偶像礼拝者の母、大いなるバビロン」という、なぞめいたことばが刻まれていたのです。
６彼女は血に酔っているようでした。　しかもその血は、彼女が殺したクリスチャンの血だったので、私は背筋が凍りつく思いでした。
７すると御使いが、こう語りかけました。　「なぜ、そんなに驚いているのですか。　この女と獣の正体を教えましょう。　８この獣は、昔は生きていましたが、今はいません。しかし、やがて底なしの穴から現われて、永遠の滅びに突っ走るでしょう。　地上に住む人々のうち、世の初めから、いのちの書に名前が書かれていない人は、その絶滅したと思われていた獣が、もう一度姿を現わすのを見て、血の気を失うほど驚くでしょう。
９さあ、よく考えなさい。　この獣の七つの頭とは、女の住む七つの丘に建てられた都のことです。　１０それはまた七人の王を意味します。　そのうち五人の王は、すでに倒れました。　第六の王は現在、王位についており、第七の王は、まもなく姿を現わすでしょう。　しかし、その王座も長くはありません。　１１赤い獣そのものは、第八の王であり、彼が一度死んだということは、七人の中の一人として、以前、王座に君臨していたことを意味します。　彼は二度目に王となってから、最後の滅びに向かうのです。　１２十本の角は、これから王位につこうとしている、十人の王を表わします。　彼らは、赤い獣と共に支配するため、一時的に王座につくのです。　１３彼らは同盟を結んで、自分たちの力と権威とを、その獣に与えます。　１４そして、一致団結して小羊と戦いますが、結局、小羊の勝利に終わります。　なぜなら、小羊は主の主、王の王であり、その配下も、特別にえり抜きの、忠実な者だからです。
１５あの女の座っている海や湖や川は、あらゆる人種や国民からなる、おびただしい人々を表わしています。

１６やがて、赤い獣と十本の角は、その女を憎み、襲いかかって裸にし、あげくの果ては、火で焼き殺すことになります。　１７というのも、それらは神様の計画にあることで、神様は、彼らの思いを支配し、目的を達成なさるのです。　彼らは赤い獣に権威を与えることで一致します。　これも神様のお考えどおりです。　１８あなたが幻で見たあの女は、地上の王を支配する大いなる都のことです。」

一八

大いなる都の最後

１これらのことの後、私はもう一人の御使いが、大きな権威を授けられて、天から下って来るのを見ました。　地上は、その輝きで明るくなりました。

２彼は大声で叫びました。「バビロンが倒れた。　あの大いなるバビロンが倒れた。　そこは悪魔の巣窟、悪霊や、あらゆる汚れた霊のたまり場となった。　３あらゆる国の人々が、彼女のみだらな毒ぶどう酒に酔いしれたからだ。　また、地上の支配者は彼女と快楽にふけり、全世界の商人は、彼女のぜいたくな浪費のおかげで、大もうけをしたからだ。」

４それから私は、天から別の声を聞きました。「クリスチャンよ。　あの女から遠ざかりなさい。　その罪に関係してはなりません。　そうでないと、いっしょに罰を受けることになります。　５あの女の罪は数えきれず、積み上げられて天にまで達したので、神様の罰がいよいよ下るのです。　６彼女から受けた仕打ちをそっくりそのまま、いや、それ以上の仕返しをしなさい。　悪事に対しては、二倍の罰を与えなさい。　彼女は人々に、多くの災いの飲み物を飲ませようとたくらみました。それを倍にして飲ませなさい。　７ぜいたく三昧に遊び暮らした彼女に、それに見合うだけの苦しみと悲しみとを与えなさい。彼女はうぬぼれています。『私は女王で、身寄りのない未亡人とは違う。　悲しみなど知らない。』　８おかげで、たった一日のうちに、死の悲しみと嘆きと飢えとに襲われ、彼女は焼き滅ぼされてしまうのです。さばきをなさる主は、力ある偉大なお方だからです。」

９彼女の不純な行為に手を貸し、多くの分け前をもらって、ぜいたくの限りを尽くした地上の支配者は、その焼けこげの死体から立ちのぼる煙を見て、涙にくれるでしょう。　１０そして、恐怖に震えながら、遠巻きにして立ち、「ああ、悲しいことだ。　力ある都バビロンよ。　あなたへのさばきは、あっという間に下った」と叫ぶでしょう。

１１また、地上の商人も泣き悲しむでしょう。もはや、お得意先がなくなったからです。

１２彼女ほどの客は、またとなかったのです。　納めた商品は、金、銀、宝石、真珠、上等の麻布、紫色の絹、紅色の絹、いろいろな香木、象牙細工、高価な木彫り、青銅、鉄、大理石、　１３肉桂、香水、香料、香油、乳香、ぶどう酒、オリーブ油、上質の小麦粉、小麦、牛、羊、馬、戦車、奴隷に及び、さらには人の命までも商ったのです。

１４彼らは叫びます。「あなたの秘蔵のものは、全部その手から奪い去られました。　あれほどご自慢だった、豪華で、粋をこらしたぜいたくは、もう二度とできません。　すべては永久に失われたのですから。」

１５これらの品を納めて、ぼろもうけをしていた商人は、わが身への危険を恐れて、遠く

離れて立ち、泣き悲しむでしょう。　１６１７「ああ、悲しいことだ。　あんなに美しかった大いなる都が、あっという間に荒れ果ててしまった。　最高級の紫色の布と紅色の麻布をまとい、金や宝石や真珠で飾りたてていた都よ。　そのすべての富も、一瞬のうちに消えてしまった。」
また、各国の船主や商船の船長、乗組員も遠くから、　１８彼女が焼かれる煙を見て、涙ながらに、「これほどすばらしい都が、この世にあっただろうか」と嘆くでしょう。　１９そして、頭にちりをかぶって、悲しむのです。　「ああ、ああ、大いなる都よ。　その有り余る富のおかげで、われわれは大金持ちになれたのに。　それが何もかも、一瞬のうちに失われてしまった。」
２０しかし、天よ、神の子供よ、預言者よ、使徒よ。　彼女の最後を喜びなさい。　ついに神様は、あなたがたのために、彼女へのさばきを下されたのです。
２１その時、一人の強い御使いが、ひき臼のような丸い石を持ち上げ、海に放り投げて叫びました。　「大いなる都バビロンは、この石のように投げ捨てられ、もはや、永久に浮かび上がりません。　２２もう楽しげな音楽はとだえ、ピアノ、サキソホン、トランペットの音も聞こえません。　種々の産業はすたれ、ひき臼をひく人影も、二度と見ることはありません。　２３夜は真っ暗やみで、窓からは明かりももれず、結婚式の喜びの鐘も、花婿と花嫁の楽しそうな声も聞こえません。その名を世界に鳴りとどろかせた商人たちも、鳴りをひそめます。彼らはすべての国の人々をたぶらかす、彼女の魔術のおかげで、もうけていたのです。　２４彼女は、殉教したすべての預言者や神のきよい民の、血の責任を問われるのです。」
一九
天の大群衆
１この後、私は、天からおびただしい群衆の叫び声を聞きました。　「ハレルヤ、主を賛美せよ。　救いは神様からの贈り物、誉れと権威は神様だけのものです。　２その審判は正しく、真実だからです。神様は、姦淫によって地上に悪をはびこらせた、あの大淫婦を処罰し、神様に仕える者たちが殺されたことに復讐されたのです。」
３彼らは、くり返しくり返し主を賛美しました。　「主をほめたたえよ。　彼女の焼かれる煙は、永遠に立ちのぼる。」
４すると、二十四人の長老と四つの生き物はひれ伏し、王座におられる神様を礼拝して、「アーメン、ハレルヤ。　主を賛美せよ」と言いました。
５また、王座から声がしました。　「神様を恐れ、神様に仕えているすべての者よ。　小さい者も大きい者も、神様をほめたたえよ。」
６そのとき私は、ちょうど大群衆の叫び声か、海岸に打ち寄せる大波、あるいは、激しい雷鳴のとどろきのような声を聞きました。「主を賛美せよ。 主である全能の神様が支配なさる時が来たのです。　７さあ、大いに喜び楽しみ、神様をほめたたえましょう。　小羊の結婚の時が来て、花嫁のしたくも整いました。　８花嫁衣装は、輝くばかりの、きよく

真っ白な最上の麻布で作られています。」　この麻布は、クリスチャンの正しい行ないを表わしているのです。
９御使いは、次のことばを書きとめるよう、促しました。　「小羊の結婚披露宴に招かれた人は幸いです。」　御使いはまた、こう付け加えました。　「これは神様の口から出たことばです。」
１０そのとき私は、御使いの足もとにひれ伏して、礼拝しようとしました。　すると御使いは、「何をするのです。　そんなことはやめなさい。　私も、神様に仕える者にすぎません。　あなたや、イエス様への信仰を証言しているクリスチャンたちと同等なのです。　すべての預言も、いま私が告げたすべてのことばも、その目的は、ただイエス様を証言することです。」
王の王
１１それから天が開かれ、私は、そこに白い馬を見ました。　その馬に乗っているのは「忠実、また真実」と呼ばれ、正しいさばきをし、戦いをなさる方です。　１２目は炎のように輝き、頭にはたくさんの冠をかぶっていました。　額には名前が記されていましたが、その意味を知っているのは本人だけでした。　１３この方は血に浸した衣を着て、「神様のことば」という肩書きをつけておられました。　１４天の軍隊は、きよく真っ白な最上の麻布を身につけ、白馬にまたがって、彼に従いました。
１５この方は、諸国民を切り倒す、鋭い剣をくわえておられました。　そして、鉄のような手で、国々を完全に支配なさるのです。　また、全能の神様の激しい怒りに満たされた酒ぶねを踏まれるのです。　１６衣と、ももには、「王の王、主の主」という肩書きが記されていました。
１７そのとき私は、光の中に立つ一人の御使いが、大声ですべての鳥に呼びかけるのを見ました。　「さあ、集まりなさい。　偉大な神様の宴会の始まりです。　１８さあ、王、司令官、偉大な将軍、馬と乗り手、それから大きい者と小さい者、奴隷と自由人のすべての肉を食べなさい。」
１９それから私は、悪い獣が地の支配者と軍隊とを召集し、馬に乗っておられる方とその軍隊とに、戦いをいどんでいるのを見ました。２０しかし、悪い獣は捕らえられ、続いて偽預言者も縛り上げられました。　この偽預言者は、悪い獣と手を組んで、人々を奇蹟であっと言わせ、いれずみをした悪い獣の礼拝者たちを、だましていたのです。　結局、悪い獣も偽預言者も、硫黄の燃えさかる火の池に、生きたまま投げ込まれました。　２１彼らに従った軍隊もまた、白い馬にまたがる方の鋭い剣で殺されました。　すると、天の鳥が、むさぼるように、その肉をついばんでしまいました。
二〇
悪魔、底なしの穴へ
１そのとき私は、底なしの穴のかぎと太い鎖とを手にした御使いが、天から下って来るのを見ました。　２彼は、悪魔とかサタンとか呼ばれている、あの古い蛇である竜をつかま

え、鎖で縛って、千年の間、　３底なしの穴に閉じ込めてしまいました。　こうして竜は、定められた千年が過ぎるまでは、世界の国々をだますことが、できなくなりました。　しかし、その期間が終われば、しばらくの間だけ自由な活動が許されるのです。
４それから私は、数多くの王座を見ました。　そこには、さばく権威を神様から授けられた人々が、座っていました。　私はまた、イエス様について証言し、神様のことばを伝えたために首をはねられた人々のたましいと、獣をもその像をも拝まず、額や手にいれずみをしなかった人々のたましいとを見ました。　その人々はみな生き返って、キリスト様と共に千年間、世界を支配しました。
５これが第一の復活です。〔残りの死者は、千年が過ぎるまで、　死んだままでした。〕　６第一の復活を経験する人は幸いな人であり、　きよい人です。　彼らには、第二の死など、恐ろしくありません。神様とキリスト様の祭司になった彼らは、キリスト様と共に、千年間、支配するからです。
７千年の後、悪魔は閉じ込められていた場所から出されます。　８悪魔は、地上の国々をだまそうと行き巡り、戦いのために、人々をゴグとマゴグともども駆り立てます。　それは、海辺の砂のように数えきれない大軍です。　９彼らは、地上の広々とした大平原に攻め上り、クリスチャンと都エルサレムとを取り囲みます。　ところが、天の神様のもとから、敵軍めがけて火が下り、彼らを焼き滅ぼしてしまいます。
１０その後、人々をだましていた悪魔は、獣や偽預言者と同じく、硫黄の燃える火の池へ投げ込まれます。　そこで、昼も夜も、永遠に苦しむのです。
１１また私は、大きな白い王座と、そこに座しておられるお方とを見ました。　地も空も、そのお方の顔を避けて逃げ出し、影も形もなくなってしまいました。　１２私はすべての死者が、大きい者も小さい者も、神様の前に立つのを見ました。　いのちの書をはじめ、さまざまな書物が開かれました。　死者は、これらの書物の規定に従い、それぞれの行ないに応じて、さばかれました。　１３海も地も地下の世界も、その中の死者を吐き出しました。　そして各自が、その行ないに応じて、さばかれました。　１４死も地獄も、火の池に投げ込まれました。　この火の池が、第二の死です。　１５いのちの書に名前の記されていない者はみな、火の池に投げ込まれたのです。
二一
新しい世界
１それから私は、新しい地と新しい空とを見ました〔そこには海はありません〕。　今までの地も空も、消え去ってしまいました。　２また、私ヨハネは、神様のもとを出て天から下って来る、聖なる都、新しいエルサレムに目を奪われました。　その眺めのすばらしさは、まるで、結婚式に美しく着飾った花嫁のようでした。
３私は、王座から大声で叫ぶ声を聞きました。　「ごらんなさい。　神様の住まいが人々の間にあります。　神様は人々と共に住み、人々は神様の国民となります。　神様自ら人々の中に住み、　４その目から涙をぬぐってくださるのです。　もはや、死も悲しみも叫び

も苦痛もありません。　それらはみな、永遠に姿を消したからです。」
５王座におられる方が宣言されました。「ごらんなさい。　わたしはすべてを新しくします。」　そして、続いてこう言われました。　「これらのことを書きとめなさい。　わたしが伝えることは、真実で、信頼できるからです。　６いっさいのわざが成し遂げられました。　わたしは初めであり、終わりです。　のどの渇いている者には、いのちの水の泉をあげましょう。　７勝利を得る人はだれでも、すべての祝福を相続できるのです。　わたしはその人の神となり、その人はわたしの息子となります。　８しかし、わたしに従うのをやめるような臆病者、不忠実な者、堕落した者、人殺し、不道徳な者、魔術を行なう者、偶像礼拝者、うそをつく者――こんな連中の行き着く先は、火と硫黄が燃えさかる池です。これが第二の死なのです。」
９その時、最後の七つの災害の鉢をぶちまけた、七人の御使いの一人が来て、私に言いました。　「ついて来なさい。　小羊の妻となる花嫁を紹介しましょう。」
栄光の都
１０幻の中で、御使いは私を、高い山の頂上に連れて行きました。そこで私は、すばらしい都、きよいエルサレムが、神様のもとを出て、天から下って来るのを見ました。　１１都は神様の栄光に包まれ、宝石のように光り輝き、碧玉のように透き通っていました。　１２都には、分厚い城壁が高くそびえ、十二人の御使いの守る十二の門があり、それぞれに、イスラエルの十二部族の名が記されていました。　１３また、門は東西南北の方角に、三つずつ設けられていました。　１４城壁には十二の土台石があって、それぞれに、小羊の十二使徒の名が書き込まれていました。
１５御使いは、都と門と城壁とを測るために、金の物差しを手にしていました。　１６実際に測ってみると、都は縦横長さの等しい正方形であることがわかりました。　おまけに高さも同じで、立方体をなしているのです。　それぞれの長さは二千四百キロでした。　１７次に城壁の厚さを測ってみると、六十六メートルありました。　〔御使いは、これらの数字を読み上げました。〕
１８１９都そのものは、ガラスのように透き通る純金でできていました。 城壁は碧玉で、さまざまの宝石がちりばめてある、十二の土台石の上に築かれていました。
第一の土台石は碧玉、
第二はサファイヤ、
第三は玉髄、
第四はエメラルド、
第五は赤縞めのう、
２０第六は赤めのう、
第七は貴かんらん石、
第八は緑柱石、
第九はトパーズ、

第十は緑玉髄、
第十一はヒヤシンス石、
第十二は紫水晶です。
２１十二の門は、それぞれ、一つの大きな真珠でできていました。　大通りは、ガラスのように透き通る純金でした。
２２それにしても、都には、どこにも神殿が見あたらないのです。　というのも、全能の神である主と小羊とを、都のどこででも、自由に礼拝できるからです。　２３都には、太陽も月もいりません。　神様と小羊との栄光が、明るく照らしていたからです。　２４その光は全世界に及ぶのです。　世界中の支配者たちが、それぞれの栄光を携えてやって来ます。　２５都の門は決して閉じられず、一日中、開かれたままです。　ここには夜がないからです。　２６あらゆる国の栄光と誉れが、都に運ばれて来ます。　２７汚れた者は、入れてもらえません。　不道徳な者、不正直な者は、一人たりとも入れません。　小羊のいのちの書に名前が記されている人々だけが、ここに入れるのです。
二二
いのちの水の川
１それから御使いは、いのちの水の川を、見せてくれました。　それは水晶のように透き通り、神様と小羊との王座から流れ出て、　２都の大通りの中央を貫いていました。　川の両岸には、十二種の実をつける、いのちの木が生えていました。　その木には、それぞれひと月ごとに実がなりました。　その葉は、世界中の病気に効く薬草として使われました。
３都の中に、のろわれたものは何一つありません。　神様と小羊との王座があって、神様に仕える者たちが礼拝しているからです。　４彼らは、神様と顔を合わせることができます。　その額には、神様の名が書き込まれていますから。　５また、都には夜がありません。　ですから、明かりも太陽もいりません。　神である主が、光そのものだからです。人々は永遠に支配し続けるのです。
６７御使いは、私にこう告げました。　「『わたしはすぐに来る』という約束は真実で、信じるに足ることばです。　預言者に、将来の出来事を予告された神様は、それがいよいよ実現するのを知らせようと、御使いをあなたに遣わされたのです。　このことを信じ、この書物に記されているすべてを信じる人は幸いです。」
８以上の一連の出来事を見聞きした私ヨハネは、それらを示してくれた御使いの前にひれ伏して、礼拝しようとしました。　９ところが彼は、前回同様、それを拒んだのです。「そんなことをしてはいけません。　私は、イエス様に仕える者にすぎません。　あなたや、あなたの兄弟である預言者たちや、この書物の真理に心をとめるすべての人々と同じなのです。　ただ神様だけを礼拝しなさい。」
１０それから御使いは、私に指示しました。　「あなたが書きとめたことを隠しておいてはいけません。　いよいよ、それらが現実となるからです。　１１その時が来ると、不正

な者はますます不正を重ね、汚れた者はますます汚れるでしょう。　反対に、正しい者はますます正しい行ないに励み、きよい者はますますきよくなるのです。」
わたしはすぐに来る！
１２「ごらんなさい。　わたしはすぐに戻って来ます。　同時に、各自の行ないにふさわしい報いをもたらします。　１３わたしは初めであり、終わりです。　最初であり、最後です。　１４都の門から入る資格と、いのちの木の実を食べる権利とを受けたいと、自分の衣服を洗っている人は幸いです。
１５都の外には、神様から離れた者、魔術師、不道徳な者、人殺し、偶像礼拝者、好んでうそをつく者、偽りを行なう者がうごめいています。　１６わたし、イエスは、これらすべてを諸教会に知らせるため、あなたがたに使者を送りました。　わたしはダビデの根であり、その子孫です。　また、ひときわ輝く明けの明星です。　１７聖霊様と花嫁は、『来てください』と言っています。　これを聞く人々は、同じように『来てください』と言いなさい。　のどが渇いている人〔求めている人〕は、だれでも来なさい。　そして、いのちの水を、ただで飲みなさい。
１８わたしは、この書物を読むすべての人に、厳かに宣言します。ここに書かれていることに、一語でも書き加える人がいれば、神様はその人に、この書物にあるとおりの災いを下されます。　１９また反対に、この預言の書物から一語でも取り除く人がいれば、神様はその人から、いのちの木の実を食べる権利ばかりか、きよい都に入る権利をも取り上げるでしょう。
２０これらを知らせてくださった方が、はっきり宣言します。　『そうです。　わたしはすぐに戻って来ます。』」
アーメン、主イエスよ。　来てください。
２１主イエス・キリストの恵みが、あなたがた一同と共にありますように。　アーメン。
▪